東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科年報

2023年



巻　頭　言

東京医科歯科大学としては最後の年報かもしれません。長年親しんできた「イカシカ」がなくなるのは寂しいものですが、きっと、時の経過とともに新大学名も慣れ親しんで来るのでありましょう。

東京工業大学との統合を目の前にして、統合後の大学院と学部の組織体制について考える機会がありました。東工大は学部と大学院が縦串一本の学院体制を取っております。例えば工学院であれば学部から大学院を通して一つの部局です。教員の所属も単純ですし、大学からの予算配分も単純です。一方、本学では、学部は医学部と歯学部の２学部ですが、大学院は歯学部と看護学専攻以外の医学部は医歯学総合研究科となり、医学部の看護学専攻だけは、大学院になると分離して保健衛生学研究科となります。それぞれが部局ですので、学部２と大学院２の４つの部局があります。また、医歯学総合研究科の方には、他の部局である難治疾患研究所と生体材料研究所の大学院生も含まれます。つまり、医歯学総合研究科は４つの部局を横断した部局ということになります。また、4年の博士課程（医歯学専攻）と、2年の修士（医歯理工保健学専攻)、3年の博士課程（生命理工医療科学専攻）などを包括します。教員の所属部局がどうなるかというと、東工大ではどこか一つの部局に所属ですが、本学では、例えば、医学部の部局員であるA教員は医歯学総合研究科の部局員でもあり、さらに臨床系分野ですと大学病院の部局員でもあります。大学からの予算配分は医歯学総合研究科にはなく、学部や研究所に配分されますので、例えば歯学部予算から大学院歯系の各分野に再配分される仕組みです。縦串と横串が複雑に絡み合っていて、それぞれの会議体制も複雑です。

大学が統合すると、規模が大きくなり、キャンパスも分散するため、部局の自治、あり方がより重要になるはずです。統合を機に、大学院と学部の組織体制について見直すことも必要かと思います。ただし、医学科、歯学科では学部と大学院の間に研修医も入りますので、必ずしも、東工大のような学部と大学院が一貫となる学院体制に統一する必要はないと思います。統合は異文化融合ですが、異文化が融合するから意義がるので、同文化になっては面白みがありません。

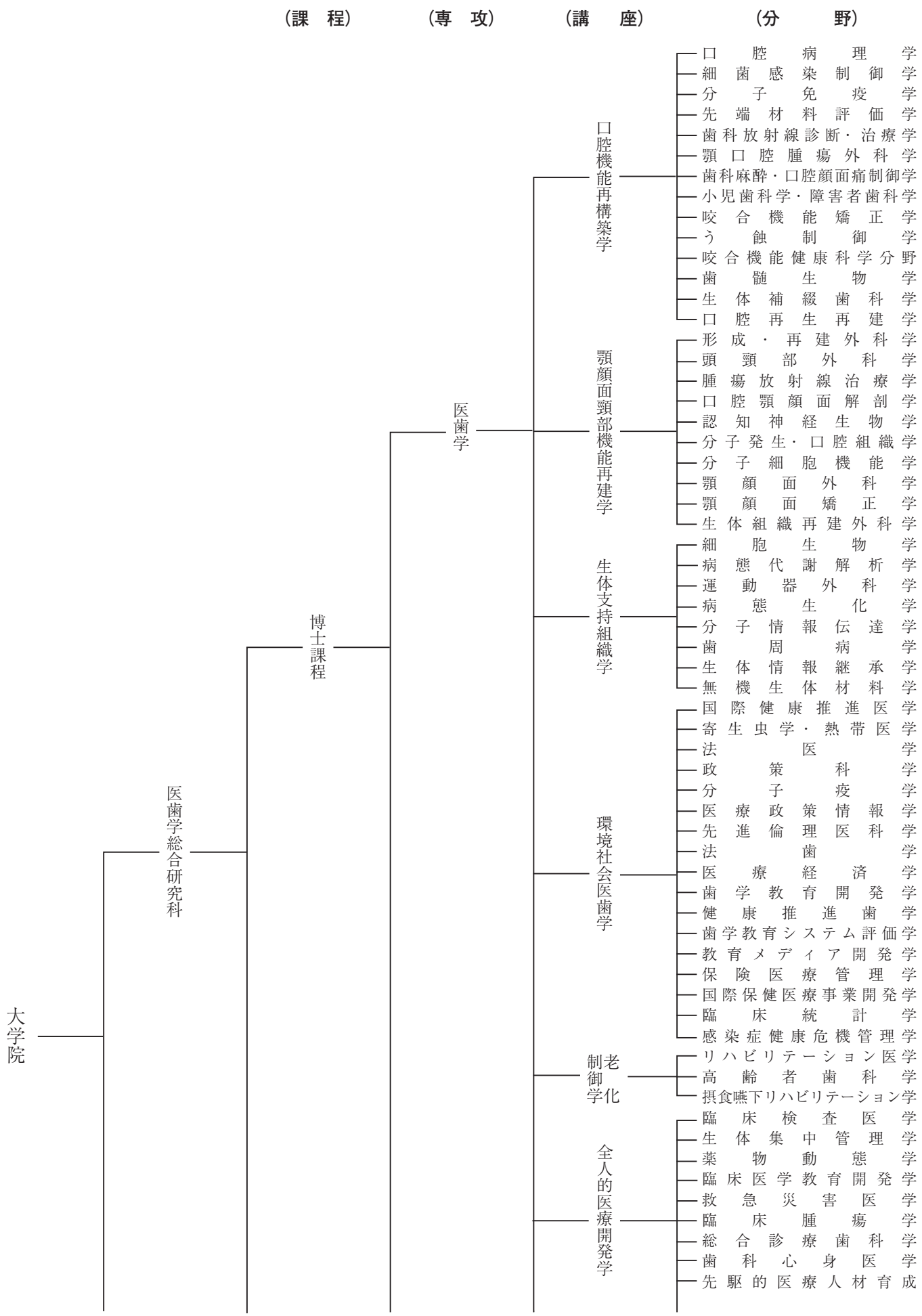
伝統を守るためには変革しなければなりません。伝統を引き継ぎながら新たな伝統を築き上げていきましょう。

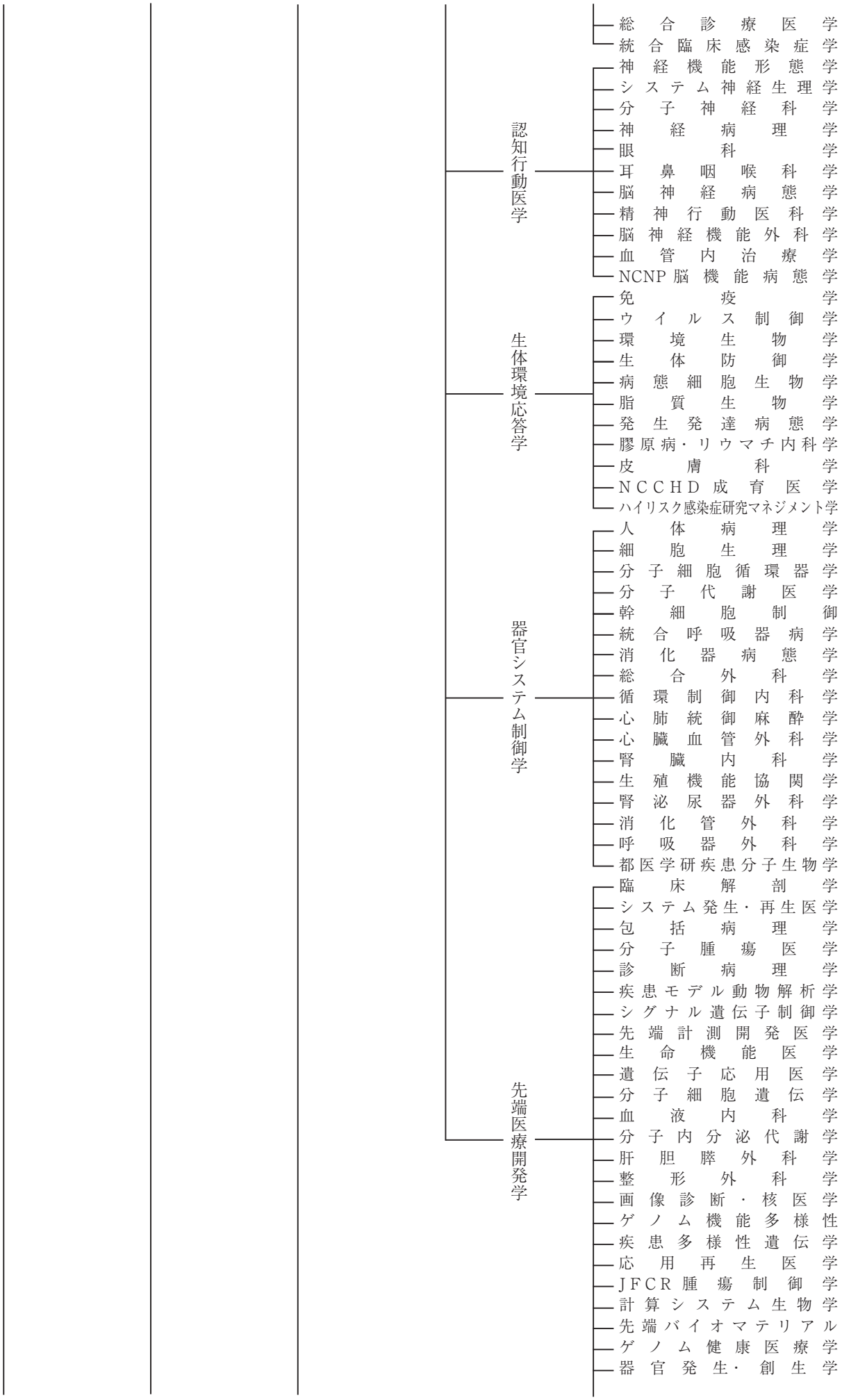
2025年3月吉日

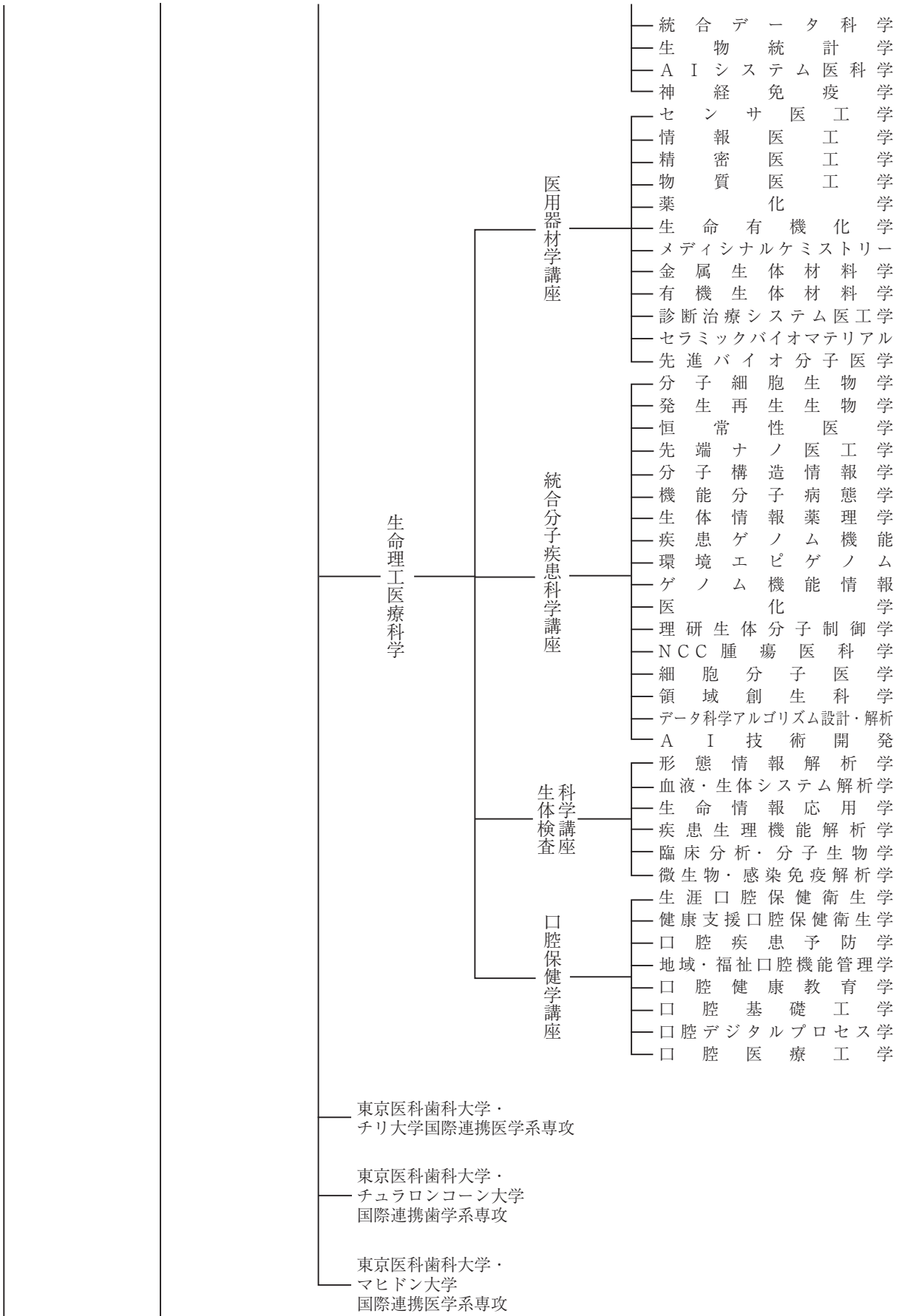
医歯学総合研究科長

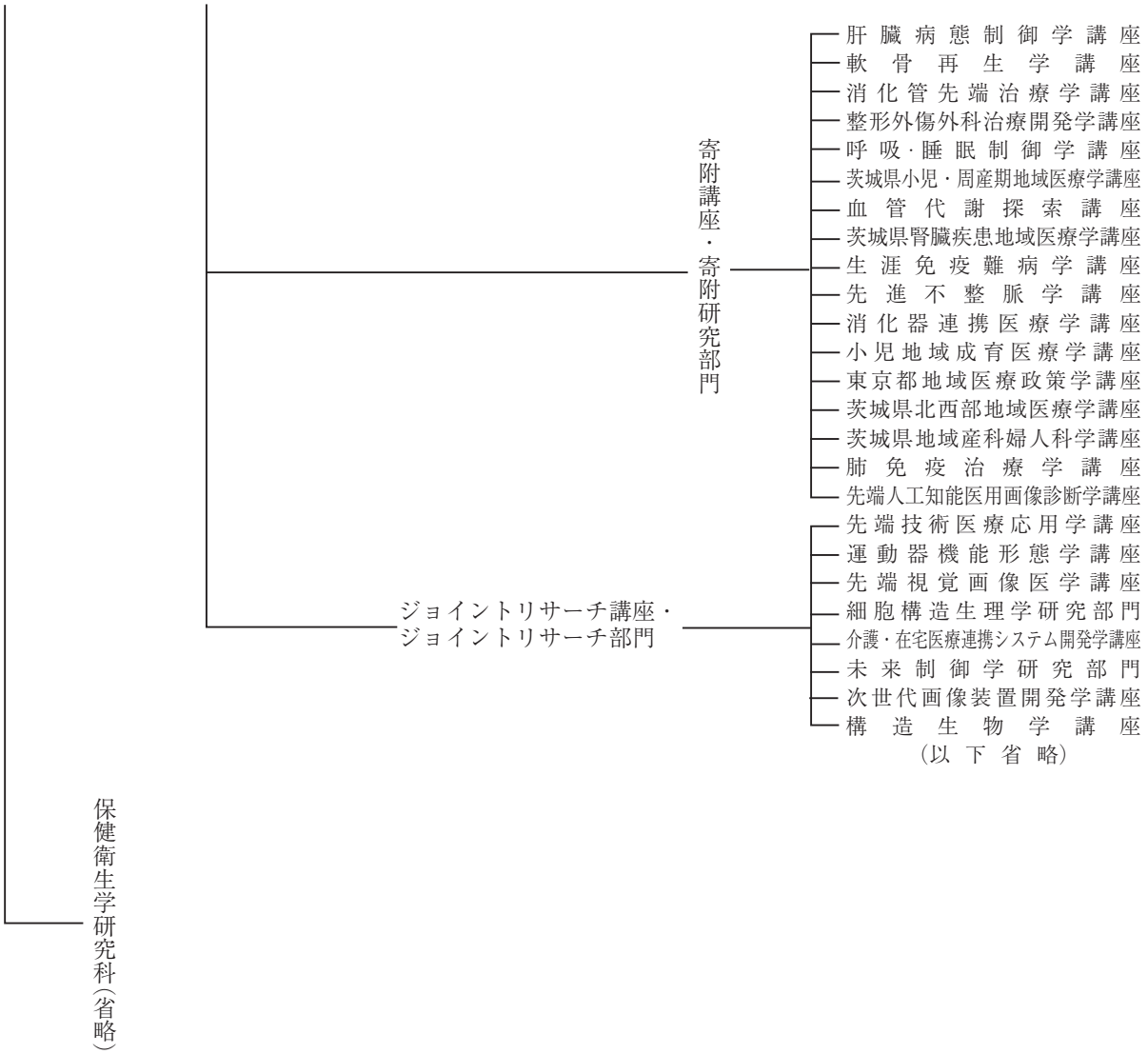
依田哲也

大学院医歯学総合研究科機構図




認知行動医学
総合診療医学
統合臨床感染症学
神経機能形態学
システム神経生理学
分子神経科学
神経病理学
眼科学
耳鼻咽喉科学
脳神経病態学
精神行動医科学
脳神経機能外科学
血管内治療学
NCNP脳機能病態学
生体環境応答学
免疫学
ウイルス制御学
環境生物学
生体防御学
病態細胞生物学
脂質生物学
発生発達病態学
膠原病・リウマチ内科学
皮膚科学
NCCHD成育医学
ハイリスク感染症研究マネジメント学
器官システム制御学
人体病理学
細胞生理学
分子細胞循環器学
分子代謝医学
幹細胞制御
統合呼吸器病学
消化器病態学
総合外科学
循環制御内科学
心肺統御麻酔学
心臓血管外科学
腎臓内科学
生殖機能協関学
腎泌尿器外科学
消化管外科学
呼吸器外科学
都医学研疾患分子生物学
先端医療開発学
臨床解剖学
システム発生・再生医学
包括病理学
分子腫瘍医学
診断病理学
疾患モデル動物解析学
シグナル遺伝子制御学
先端計測開発医学
生命機能医学
遺伝子応用医学
分子細胞遺伝学
血液内科学
分子内分泌代謝学
肝胆膵外科学
整形外科学
画像診断・核医学
ゲノム機能多様性
疾患多様性遺伝学
応用再生医学
JFCR腫瘍制御学
計算システム生物学
先端バイオマテリアル
ゲノム健康医療学
器官発生・創生学


生命理工医療科学
医用器材学講座
統合データ科学
生物統計学
ＡＩシステム医科学
神経免疫学
センサ医工学
情報医工学
精密医工学
物質医工学
薬化学
生命有機化学
メディシナルケミストリー
金属生体材料学
有機生体材料学
診断治療システム医工学
セラミックバイオマテリアル
先進バイオ分子医学
統合分子疾患科学講座
分子細胞生物学
発生再生生物学
恒常性医学
先端ナノ医工学
分子構造情報学
機能分子病態学
生体情報薬理学
疾患ゲノム機能
環境エピゲノム
ゲノム機能情報
医化学
理研生体分子制御学
ＮＣＣ腫瘍医科学
細胞分子医学
領域創生科学
データ科学アルゴリズム設計・解析
ＡＩ技術開発
生体検査科学講座
形態情報解析学
血液・生体システム解析学
生命情報応用学
疾患生理機能解析学
臨床分析・分子生物学
微生物・感染免疫解析学
口腔保健学講座
生涯口腔保健衛生学
健康支援口腔保健衛生学
口腔疾患予防学
地域・福祉口腔機能管理学
口腔健康教育学
口腔基礎工学
口腔デジタルプロセス学
口腔医療工学
東京医科歯科大学・
チリ大学国際連携医学系専攻
東京医科歯科大学・
チュラロンコーン大学
国際連携歯学系専攻
東京医科歯科大学・
マヒドン大学
国際連携医学系専攻


寄附講座・寄附研究部門
肝臓病態制御学講座
軟骨再生学講座
消化管先端治療学講座
整形外傷外科治療開発学講座
呼吸・睡眠制御学講座
茨城県小児・周産期地域医療学講座
血管代謝探索講座
茨城県腎臓疾患地域医療学講座
生涯免疫難病学講座
先進不整脈学講座
消化器連携医療学講座
小児地域成育医療学講座
東京都地域医療政策学講座
茨城県北西部地域医療学講座
茨城県地域産科婦人科学講座
肺免疫治療学講座
先端人工知能医用画像診断学講座
ジョイントリサーチ講座・ジョイントリサーチ部門
先端技術医療応用学講座
運動器機能形態学講座
先端視覚画像医学講座
細胞構造生理学研究部門
介護・在宅医療連携システム開発学講座
未来制御学研究部門
次世代画像装置開発学講座
構造生物学講座
（以下省略）
保健衛生学研究科（省略）

目　　次

巻頭言…… i

大学院医歯学総合研究科機構図…… ii

医歯学

口腔機能再構築学講座

口腔病理学分野…… 3
細菌感染制御学分野…… 7
分子免疫学分野…… 10
先端材料評価学分野…… 14
歯科放射線診断・治療学分野…… 17
歯科麻酔・口腔顔面痛制御学分野…… 21
小児歯科・障害者歯科学分野…… 24
咬合機能矯正学分野…… 30
う蝕制御学分野…… 38
咬合機能健康科学分野…… 45
歯髄生物学分野…… 51
生体補綴歯科学分野…… 59
口腔再生再建学分野…… 72

顎顔面頸部機能再建学講座

形成・再建外科学分野…… 79
頭頸部外科学分野…… 84
腫瘍放射線治療学分野…… 92
認知神経生物学分野…… 95
分子発生学分野→分子発生・口腔組織学分野を参照（P.98）
分子発生・口腔組織学分野…… 98
分子細胞機能学分野…… 100
顎顔面外科学分野…… 102
顎顔面矯正学分野…… 109
生体組織再建外科学…… 116

生体支持組織学講座

細胞生物学分野…… 121
病態代謝解析学分野…… 123
運動器外科学分野…… 125
病態生化学分野…… 136
分子情報伝達学分野…… 141
歯周病学分野…… 143
生体情報継承学分野…… 154
無機生体材料学分野…… 156

環境社会医歯学講座

国際健康推進医学分野…… 163
寄生虫学・熱帯医学分野…… 170
法医学分野…… 175
医療政策情報学分野…… 179
先進倫理医科学分野…… 190
法歯学分野…… 194
歯学教育開発学分野…… 198
健康推進歯学分野…… 200
教育メディア開発学分野…… 213
国際保健医療事業開発学分野…… 216

老化制御学講座

高齢者歯科学分野…… 223
摂食嚥下リハビリテーション学分野…… 232

全人的医療開発学講座

臨床検査医学分野…… 249
生体集中管理学分野…… 254
薬物動態学分野…… 260
臨床医学教育開発学分野…… 262
救急災害医学分野…… 267
総合診療歯科学分野…… 272

歯科心身医学分野…… 280
総合診療医学分野…… 285
統合臨床感染症学分野…… 291

認知行動医学講座
神経機能形態学分野…… 301
分子神経科学分野…… 304
神経病理学分野…… 306
眼科学分野…… 313
耳鼻咽喉科学分野…… 327
脳神経病態学分野…… 336
精神行動医科学分野…… 354
NCNP 脳機能病態学分野 …… 363

生体環境応答学講座
生体防御学分野…… 371
発生発達病態学分野…… 374
皮膚科学分野…… 399
NCCHD 成育医学分野…… 406
ハイリスク感染症研究マネジメント学分野…… 416

器官システム制御学講座
人体病理学分野…… 419
細胞生理学分野…… 431
幹細胞制御分野…… 436
統合呼吸器病学分野…… 439
消化器病態学分野…… 454
総合外科学分野…… 470
循環制御内科学…… 475
心臓血管外科学分野…… 506
腎臓内科学分野…… 517
生殖機能協関学分野…… 527
腎泌尿器外科学分野…… 541
消化管外科学分野…… 551
呼吸器外科学分野…… 565
都医学研疾患分子生物学分野…… 569

先端医療開発学講座
臨床解剖学分野…… 579
システム発生・再生医学分野…… 588
包括病理学分野…… 593
分子腫瘍医学分野…… 598
診断病理学分野…… 604
疾患モデル動物解析学分野→実験動物センターを参照（P955）
シグナル遺伝子制御学分野…… 609
血液内科学分野…… 611
分子内分泌代謝学分野…… 617
肝胆膵外科学分野…… 625
整形外科学分野…… 642
画像診断・核医学分野…… 678
ゲノム機能多様性分野…… 686
疾患多様性遺伝学分野…… 688
応用再生医学分野…… 690
JFCR 腫瘍制御学分野 …… 696
器官発生・創生学分野…… 706
生物統計学分野…… 711
AI システム医科学 …… 715

生命理工医療科学

医用器材学講座
センサ医工学分野…… 719
情報医工学分野…… 725
バイオデザイン…… 727
物質医工学分野…… 729
生命有機化学分野…… 735
メディシナルケミストリー分野…… 739
バイオメカニクス分野…… 745
セラミックバイオマテリアル分野→無機生体材料学分野を参照（P156）

統合分子疾患科学講座
分子細胞生物学分野…… 751
先端ナノ医工学分野…… 753
分子構造情報学分野…… 756
機能分子病態学…… 758
ゲノム機能情報分野…… 761
理研生体分子制御学分野…… 763
NCC 腫瘍医科学分野 …… 767
細胞分子医学分野…… 774
領域創成科学分野…… 776
データ科学アルゴリズム設計・解析分野…… 779
医化学分野…… 781

生体検査科学講座
形態情報解析学分野…… 785
血液・生体システム解析学分野…… 788
生命情報応用学分野…… 792
疾患生理機能解析学分野…… 796
臨床分析・分子生物学分野…… 802
微生物・感染免疫解析学分野…… 811

口腔保健学講座
生涯口腔保健衛生学分野…… 819
健康支援口腔保健衛生学分野…… 823
口腔疾患予防学分野…… 826
地域・福祉口腔機能管理学分野…… 829
口腔健康教育学分野…… 833
口腔基礎工学分野…… 838
口腔デジタルプロセス学分野…… 842
口腔医療工学分野…… 849

寄附講座・寄附研究部門
肝臓病態制御学講座…… 855
消化管先端治療学講座…… 860
茨城県小児・周産期地域医療学講座…… 862
血管代謝探索講座…… 879
生涯免疫難病学講座…… 882
消化器連携医療学講座…… 892
小児地域成育医療学講座…… 900
肺免疫治療学講座…… 909

ジョイントリサーチ講座・ジョイントリサーチ部門
先端技術医療応用学講座→整形外科学分野内に記載（P642）
運動器機能形態学講座→整形外科学分野内に記載（P642）
分子生命医学講座→整形外科学分野内に記載（P642）

診療科・中央診療施設等
（医系診療部門）
高気圧治療部…… 917
（歯系診療部門）
義歯科（専）スポーツ歯科外来…… 921
（基盤診療部門）
検査部…… 923
スポーツ医学診療センター…… 926
輸血・細胞治療センター…… 931
歯科衛生保健部…… 940

スポーツサイエンス機構
スポーツ医歯学診療センター…… 945

統合研究機構
実験動物センター…… 955

口腔機能再構築学講座

口腔病理学

Oral Pathology

教授
池田　通

講師
栢森　高

助教
布川　裕規

大学院生
HERDIANTOPUTRI RANNY RAHANINGRUM

(1) 分野概要

口腔病理学は歯学部組織においては基礎分野に所属しているが、教育職スタッフは学部・大学院教育の他、日本病理学会が認定する口腔病理専門医の資格のもと、病院内で口腔領域疾患の病理組織診断という臨床業務も行っている。年間約 3,000 の診断件数があり、口腔病理診断件数では日本最多となっている。
一方、基礎分野として研究にも力を入れており、教室の開祖である宮崎吉夫教授に始まり、石川梧朗教授、山本肇教授、高木　實教授、山口　朗教授に至る 80 年余りの期間に数々の業績を挙げてきた。
平成 29 年より池田　通教授が着任し、教室の伝統を受け継いで、坂本　啓講師、栢森　高助教とともに先端的な細胞生物学研究から臨床病理学研究まで包括する幅広い研究活動を行っている。このような環境の中で、将来日本の口腔病理学分野を担うべく、若い人材が大学院生として東京医科歯科大学のみならず全国から集っている。これら大学院生は、医学部病理学分野との垣根がない環境でトレーニングを受けながら口腔病理専門医の取得を目指すとともに、博士（歯学）の学位取得のために口腔疾患の先端的病理学研究に従事している。

(2) 研究活動

- 硬組織関連疾患に関わる病因・病態に関する研究
- 口腔疾患（特に口腔癌及び歯原性腫瘍）の病因・病態に関する研究
- 悪性腫瘍の浸潤・転移に関わるがん微小環境に関する研究
- 口腔病理診断を基礎とした臨床病理学研究

(3) 教育活動

学部教育では病理学総論及び口腔病理学のユニットを担当する。病理学総論では全身疾患の理解に不可欠な病理学の基本を、口腔病理学では、病理学総論で学んだ知識を基礎に、各論として口腔領域の疾患に関する病理学を歯学部 3 年生に教えている。

大学院教育では博士の学位論文研究の指導を行うとともに、口腔病理専門医の資格取得に必要な全身の病理解剖

及び病理組織診断の指導を、医学系大学院生と同じ環境で行っている。

(4) 研究業績

[原著]

1. Naoya Kinoshita, Hideaki Hirai, Yuki Fukawa, Yuko Yamagata, Yoshihisa Kashima, Masaru Sato, Tohru Ikeda, Hiroyuki Harada.. A case of dentinogenic ghost cell tumor of the mandible with a review of the literature Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2023.11; 35(6); 545-549

2. Kinoshita N, Tomioka H, Oikawa Y, Fukawa Y, Ikeda T, Harada H.. A case of sclerosing odontogenic carcinoma of the mandible with a review of the literature JOURNAL OF ORAL SCIENCE. 2023.10; 65(4); 281-283

3. Takuma Kugimoto, Naoto Nishii, Yu Oikawa, Takeshi Kuroshima, Hideaki Hirai, Hirofumi Tomioka, Yasuyuki Michi, Kou Kayamori, Junichiro Sakamoto, Joe Iwanaga, R Shane Tubbs, Tohru Ikeda, Masahiko Miura, Hiroyuki Harada. Invasion of the bucco-mandibular space by oral squamous cell carcinoma: histopathological analysis of invasion pattern. Front Oncol. 2023.10; 13; 1168376

4. Kou Kayamori, Ken-Ichi Katsube, Hideaki Hirai, Hiroyuki Harada, Tohru Ikeda.. Role of Stromal Fibroblast-Induced WNT7A Associated with Cancer Cell Migration Through the AKT/CLDN1 Signaling Axis in Oral Squamous Cell Carcinoma. Laboratory investigation; a journal of technical methods and pathology. 2023.08; 103(10); 100228

5. Shiori Watabe, Yukari Aruga, Ryoko Kato, Genji Kawade, Yuki Kubo, Anna Tatsuzawa, Iichiroh Onishi, Yuko Kinowaki, Sachiko Ishibashi, Masumi Ikeda, Yuki Fukawa, Keiichi Akahoshi, Minoru Tanabe, Morito Kurata, Kenichi Ohashi, Masanobu Kitagawa, Kouhei Yamamoto. Regulation of 4-HNE via SMARCA4 Is Associated with Worse Clinical Outcomes in Hepatocellular Carcinoma. Biomedicines. 2023.08; 11(8);

6. Akaike Yu, Morita Kei-ichi, Sakamoto Kei, Tsushima Fumihiko, Kayamori Kou, Maruta Noboru, Yamazaki Kotaro, Anzai Eri, Tonouchi Erina, Harada Hiroyuki, Ikeda Tohru, Yoda Tetsuya. Automatic detection of spongiosis associated with oral lichenoid lesions using machine learning Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2023.07; 35(4); 368-374

7. Cangyou Xie, Fatma Rashed, Yosuke Sasaki, Masud Khan, Jia Qi, Yuri Kubo, Yoshiro Matsumoto, Shinichi Sawada, Yoshihiro Sasaki, Takashi Ono, Tohru Ikeda, Kazunari Akiyoshi and Kazuhiro Aoki. Comparison of Osteoconductive Ability of Two Types of Cholesterol-Bearing Pullulan (CHP) Nanogel-Hydrogels Impregnated with BMP-2 and RANKL-Binding Peptide: Bone Histomorphometric Study in a Murine Calvarial Defect Model 2023.06; 24(11);

8. Pissacha Daroonpan, Ryo Ouchi, Chenyang Zhang, Shigenori Nagai, Naoto Nishii, Yoshihisa Kashima, Fumihiko Tsushima, Hiroyuki Harada, Miwako Hamagaki, Tohru Ikeda, Jun Aida, Ruchadaporn Kaomongkolgit, Miyuki Azuma. Personal immune profiles: Diversity and prognostic value for oral tongue squamous cell carcinoma evaluated by comprehensive immune parameter analyses with multiplex immunofluorescence. Oral Oncol. 2023.06; 143; 106458

9. Herdiantoputri R.R., Komura D., Ikeda T., Ishikawa S. . Head and Neck Tumor Histopathological Image Representation with Pre- Trained Convolutional Neural Network and Vision Transformer Journal of Dentistry Indonesia. 2023.05; 30(1); 41-47

10. Hideaki Hirai, Naoto Nishii, Yu Oikawa, Toshimitsu Ohsako, Takuma Kugimoto, Takeshi Kuroshima, Hirofumi Tomioka, Yasuyuki Michi, Kou Kayamori, Tohru Ikeda, Hiroyuki Harada. Buccinator muscle invasion is a risk factor for cervical lymph node metastasis in squamous cell carcinoma of the buccal mucosa: A retrospective study. Oncol Lett. 2023.04; 25(6); 226

11. Herdiantoputri RR, Komura D, Fujisaka K, Ikeda T, Ishikawa S. Deep texture representation analysis for histopathological images. STAR protocols. 2023.03; 4(2); 102161

12. Natnicha Wamasing, Supasith Yomtako, Hiroshi Watanabe, Junichiro Sakamoto, Kou Kayamori, Tohru Kurabayashi. The magnetic resonance imaging characteristics of radicular cysts and granulomas Dentomaxillofac Radiol. 2023.02; 52(3); 20220336

13. Hata C, Fukawa Y, Motoi T, Kinowaki Y, Akashi T, Ohashi K, Ishikawa Y, Waseda Y, Fujii Y, Kakuta R, Ikeda S, Onishi I. A Primary Kidney Giant Cell Tumor of Soft Tissue Caused Peritoneal Dissemination, Considered to Be Malignant Transformation: A Case Report. Diagnostics (Basel, Switzerland). 2023.02; 13(4);

14. Komura D, Onoyama T, Shinbo K, Odaka H, Hayakawa M, Ochi M, Herdiantoputri RR, Endo H, Katoh H, Ikeda T, Ushiku T, Ishikawa S. Restaining-based annotation for cancer histology segmentation to overcome annotation-related limitations among pathologists. Patterns (New York, N.Y.). 2023.02; 4(2); 100688

15. Tanaka H., Fukawa Y., Yamamoto K., Tanimoto K., Takemoto A., Hasumi H., Hirakawa A., Ishikawa Y., Fukuda S., Waseda Y., Yoshida S., Yokoyama M., Campbell S. C., Fujii Y.. Renal parenchymal infiltration or micronodular spread in non-metastatic clear cell renal cell carcinoma: Prognostic impact and genomic backgrounds EUROPEAN UROLOGY. 2023.02; 83; S668-S669

16. Hirai Hideaki, Kayamori Kou, Noji Rika, Kuroshima Takeshi, Ikeda Tohru, Harada Hiroyuki. A rare case of solitary intraoral superficial angiomyxoma arising in the soft palate Journal of Oral Science. 2023.01; 65(1); 69-71

17. Yuki Fukawa, Kou Kayamori, Maiko Tsuchiya, Tohru Ikeda. IL-1 Generated by Oral Squamous Cell Carcinoma Stimulates Tumor-Induced and RANKL-Induced Osteoclastogenesis: A Possible Mechanism of Bone Resorption Induced by the Infiltration of Oral Squamous Cell Carcinoma. Int J Mol Sci. 2023.01; 24(1);

18. M Shibata, H Yoshitake, K Kayamori, T Ikeda, M Seki, T Yoda. Challenges in Diagnosis and Management of Palatal Hemangioma in an Infant: A Case Report Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2023.01; 36; 67-70

[講演・口頭発表等]

1. ヘルヂアントプテリ　ランニー、河村　大輔、池田　通、石川　俊平. 深層学習を用いた口腔組織病理診断支援のための大規模な画像検索システム. 第 34 回日本臨床口腔病理学会 2023.08.25

2. 布川　裕規、田中　一、明石　巧、池田　通、大橋　健一、山本　浩平. 淡明細胞型腎細胞癌における腫瘍-腎実質境界部の浸潤様式における臨床病理学的検討. 第 112 回日本病理学会総会 2023.04.15 下関市

3. ヘルジアントプテリ　ランニー、河村　大輔、池田　通、石川　俊平. Luigi-Oral: 口腔腫瘍のための類似組織画像検索システム. 第 112 回日本病理学会総会 2023.04.14 下関

4. Tohru Ikeda. The mechanism of bone resorption induced by infiltration of oral squamous cell carcinoma. KPPIKG 2023 2023.02.03 Jakarta

5. Tohru Ikeda. Oral pathology interpretation on odontogenic tumor, OPMD and OSCC cases. KPPIKG 2023 2023.02.03

6. Herdiantoputri R.R., Komura D., Ikeda T., Ishikawa S.. Head and neck tumour histopathological image representation with pre-trained convolutional neural network and vision transformer. KPPIKG 2023 2023.02.02 Jakarta

1. 大内　崚、 蘇　郁雅、 池田　通、 原田　浩之、 東　みゆき. 舌扁平上皮癌における PD-1 免疫チェックポイント阻害剤投与症例の免疫プロファイリング解析. 第 33 回口腔内科学会学術大会 2023.09.23 宇都宮

2. Pissacha Daroonpan, Ryo Ouchi, Naoto Nishii, Fumihiko Tsushima, Hiroyuki Harada, Miyuki Azuma. 舌扁平上皮癌のパーソナル免疫プロファイル　—包括的免疫パラメーター解析と予後予測—. 第 82 回日本癌学会 2023.09.21 横浜

3. 布川　裕規、栢森　高、池田　通. 下顎に発生した歯原性癌腫の一例. 第 34 回日本臨床口腔病理学会 2023.08.25

4. 布川 裕規, 山本 浩平, 栢森 高, 大迫 利光, 黒嶋 雄志, 原田 浩之, 池田 通. アミロイド沈着と形質細胞分化を伴った Low-grade B-cell lymphoma の一例. 第 34 回 日本臨床口腔病理学会 総会・学術大会 2023.08.25 大阪

5. Pissacha Daroonpan, Ryo Ouchi, Hiroyuki Harada, Tohru Ikeda, Miyuki Azuma. Personal immune profile for oral tongue squamous cell carcinoma. 第 9 回　International summer program2023 2023.08.02 東京

6. 田中 一, 布川 裕規, 山本 浩平, 平川 晃弘, 中村 祐基, 内田 裕將, 福田 翔平, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 松岡 陽, 藤井 靖久. 局所進行腎細胞癌を再考する　病理学的腎実質内浸潤/進展の意義. 腎癌研究会会報 2023.07.01

7. 大内　崚、　ダルンパン　ピサッチャー、　野地　理夏、加納　嘉人、　西井　直人、　野口　誠、　濱垣　美和子、　池田　通、　原田　浩之、　東　みゆき. 舌扁平上皮癌における PD-1 免疫チェックポイント阻害剤投与症例の免疫プロファイリング解析. 第 77 回日本口腔科学会 2023.05.11 岡山

8. 謝 倉右, 池田 通, 青木 和広. 2 種のコレステロール含有プルラン (CHP) ナノゲルを足場材料とした骨伝導能の骨形態計測学的解析. 日本骨形態計測学会雑誌 2023.05.01

9. Tanaka H, Fukawa Y, Yamamoto K, Tanimoto K, Takemoto A, Hasumi H, Hirakawa A, Ishikawa Y, Fukuda S, Waseda Y, Yoshida S, Yokoyama M, Fujii Y. Renal parenchymal infiltration or micronodular spread in clear cell renal cell carcinoma: prognostic impact and genomic background. 第 110 回日本泌尿器科学会総会 2023.04.20

10. 河村　大輔、ヘルジアントプテリ　ランニー、池田　通、石川　俊平. deeptexture: デジタル病理組織画像からの歯式発見を支援するツール. 第 112 回日本病理学会総会 2023.04.14 下関

11. 込山 拓也, 黒嶋 雄志, 栢森 高, 原田 浩之. 口腔扁平上皮癌における Sam68 の役割. 口腔病学会雑誌 2023.03.01

[受賞]

1. Basic Research Award, 1st place, 2023 年 02 月

[社会貢献活動]

1. 大阪大学非常勤講師, 2017 年 04 月 01 日 - 現在

2. 昭和大学非常勤講師, 2017 年 04 月 01 日 - 現在

3. Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine and Pathology 誌 Pathology Associate Editor, 2022 年 04 月 01 日 - 現在

4. 医療系大学間共用試験実施評価機構歯学系 CBT 実施管理委員会委員, 2023 年 04 月 01 日 - 現在

5. 医療系大学間共用試験実施評価機構歯学系 CBT 問題管理委員会副委員長, 2023 年 04 月 01 日 - 現在

6. 医療系大学間共用試験実施評価機構歯学系 CBT 派遣監督者 · 実施責任者専門部会委員, 2023 年 04 月 01 日 - 現在

細菌感染制御学

Bacterial Pathogenesis

教　授　　鈴木　敏彦
准教授　　芦田　浩
助　教　　岡野　徳壽
大学院生　BOONYALEKA Kotchakorn
大学院生　許宸瑋
大学院生　ONSOI Poramed
大学院生　高橋　裕人
大学院生　瀧野　央誉
技術補佐員　飯田　真珠子
事務補佐員　櫻木 理紗

(1)　分野概要

細菌感染制御学分野では、病原体の感染の分子メカニズムとこれらの感染に対する宿主の応答機構を明らかにし、感染や発症の制御に必要な技術的基盤を構築するための新しい知見を取得することを目指しています。多くの人間が罹患するいわゆる「伝染病」から、免疫が落ちている方が発症する日和見感染、さらにヒトと共生する口腔内、腸内細菌までそれぞれがホットな学問領域になっています。

本分野の研究テーマとしては、まず、自然炎症機構のひとつインフラマゾームの活性化のメカニズムの解明と、各種疾患への関与について研究を行っております。また、細菌性下痢症を起こす細菌と腸管常在細菌叢との相互作用の解明、歯周炎関連細菌の感染と宿主応答についても研究を行っています。さらに、琉球大学と共同で病原性レプトスピラの感染機構の研究を引き続き行っています。また、AMED 海外拠点研究領域で本学の拠点がおかれているガーナ大学野口記念医学研究所との共同研究にも参画しています。

現在の細菌学領域の研究は、いわゆる感染症を起こす病原細菌のみならず、生体の正常な免疫維持や慢性疾患にも関わる広がりをみせています。本分野では、熱意のある大学院生を募集しています。

(2)　研究活動

主な研究テーマ
1) 細菌の宿主認識、定着、増殖等の感染メカニズムの解明
2) インフラマゾームをはじめとする宿主自然免疫機構の活性化と制御機構の解明
3) 比較ゲノム・遺伝子発現解析による病原性遺伝子の解析
4) 細菌の定着が与える慢性疾患への影響に関する解析

(3)　教育活動

学部教育：
歯学部歯学科の第３学年（D3）感染と生体防御モジュール、講義および実習　ユニット１：感染と生体防御概論、ユニット 3：病原性細菌と感染症、 ユニット 4：病原性ウイルスと感染症。病態科学演習モジュール：感染症担当
D4 研究実習分野配属
歯学部口腔保健学科・口腔保健衛生学専攻の第２学年「病原微生物と生体防御」
歯学部口腔保健学科・口腔保健工学専攻の第２学年「感染予防」

医学部医学科第２学年「感染・基礎」
琉球大学医学科第３学年（M3）医科学研究

大学院教育：
大学院医歯学総合研究科・博士課程、大学院医歯学総合研究科・修士課程での研究指導

(４) 教育方針

学部教育：
感染症の現状を理解する：感染症はあらゆる疾患グループのうちで最大の罹患頻度と死亡率を示している。現在、医療現場は新興・再興感染症、院内感染症、耐性菌の増加、日和見感染症などの問題を抱えている。また、抗生物質は感染症に対して万能ではないことを理解する。感染症に対処できる能力を獲得する：医歯学における感染症学の核心は感染と病原性の機序の理解である。医療従事者にとって必要な細菌学・ウイルス学・真菌学の知識および技術を習得し、臨床を学ぶための基盤を確立する。

大学院教育：
病原体の感染メカニズムおよび宿主の応答を分子から個体レベルで理解し、感染症およびそれに関連する疾患の治療へつながる基礎研究を展開する。自ら研究課題を設定し、研究を遂行できる能力を身につける。

(５) 研究業績

[原著**]**

1. Doan YH, Dennis FE, Takemae N, Haga K, Shimizu H, Appiah MG, Lartey BL, Damanka SA, Hayashi T, Suzuki T, Kageyama T, Armah GE, Katayama K. Emergence of Intergenogroup Reassortant G9P[4] Strains Following Rotavirus Vaccine Introduction in Ghana. Viruses. 2023.12; 15(12);

2. Suzuki, T; Boonyaleka, K; Okano, T; Iida, T; Yoshida, M; Fukano, H; Hoshino, Y; Iwakura, Y; Ablordey, AS; Ashida, H. Inflammasome-triggered IL-18 controls skin inflammation in the progression of Buruli ulcer PLOS Pathogens. 2023.11; 19(11); e1011747

3. Umeda S, Sujino T, Miyamoto K, Yoshimatsu Y, Harada Y, Nishiyama K, Aoto Y, Adachi K, Hayashi N, Amafuji K, Moritoki N, Shibata S, Sasaki N, Mita M, Tanemoto S, Ono K, Mikami Y, Sasabe J, Takabayashi K, Hosoe N, Suzuki T, Sato T, Atarashi K, Teratani T, Ogata H, Nakamoto N, Shiomi D, Ashida H, Kanai T. D-amino Acids Ameliorate Experimental Colitis and Cholangitis by Inhibiting Growth of Proteobacteria: Potential Therapeutic Role in Inflammatory Bowel Disease. Cellular and molecular gastroenterology and hepatology. 2023.08; 16; 1011-1031

4. Miyamoto K, Sujino T, Harada Y, Ashida H, Yoshimatsu Y, Yonemoto Y, Nemoto Y, Tomura M, Melhem H, Niess JH, Suzuki T, Suzuki T, Suzuki S, Koda Y, Okamoto R, Mikami Y, Teratani T, Tanaka K, Yoshimura A, Sato T, Kanai T. The gut microbiota-induced kynurenic acid recruits GPR35-positive macrophages to promote experimental encephalitis. Cell reports. 2023.08; 42(8); 113005

5. Boonyaleka K, Okano T, Iida T, Leewananthawet A, Sasai M, Yamamoto M, Ashida H, Suzuki T. Fusobacterium nucleatum infection activates the noncanonical inflammasome and exacerbates inflammatory response in DSS-induced colitis. European journal of immunology. 2023.07; e2350455

6. Boonyaleka K, Okano T, Iida T, Leewananthawer A, Sasai M, Yamamoto M, Ashida H, Suzuki T. Fusobacterium nucleatum infection activates the noncanonical inflammasome to exacerbate inflammatory response in acute colitis mice Eur. J. Immunol. 2023.07; e2350455;

[講演・口頭発表等**]**

1. Toshihiko Suzuki. Advanced collaborative research in infectious diseases in Ghana. Annual Research Meeting 2023 in Noguchi Memorial Institute for Medical Research 2023.11.24 Accra

1. Chenwei Hsu, 岡野徳壽, 鈴木敏彦. Tannerella forsythia induces inflammasome activation by triggering both NLRP3 and caspase-4. 第 88 回口腔病学会学術集会 2023.12.02

2. 星野仁彦, 吉田光範, 深野華子, 鈴木敏彦. 抗酸菌が保有する唯一の外毒素マイコラクトンと IL-18. 第 34 回日本生体防御学会学術総会 2023.09.29 京都
3. 芦田浩, 鈴木敏彦. 病原細菌による宿主細胞死制御機構の解明. 第 34 回日本生体防御学会学術総会 2023.09.29 京都
4. 鈴木 敏彦. 海外拠点からの報告: 世界各地で生の感染症に立ち向かう　西アフリカガーナ拠点における感染症基盤研究. 第 96 回日本細菌学会総会 2023.03.16 姫路
5. 岡野 徳壽, 鈴木 敏彦. P.gingivalis の口腔内感染によるマウス神経症状の増悪. 第 96 回日本細菌学会総会 2023.03.16 姫路

[その他業績**]**

1. 「　インターロイキン 18 がブルーリ潰瘍の病態進行を抑制することを発見　」 —マイコラクトン毒素の生物活性と宿主応答の攻防を解明—, 2023 年 11 月
   PLoS Pathogens

分子免疫学

Molecular Immunology

教授　　東　みゆき
准教授　永井　重徳
助教　　張　晨陽
特任助教　池田　恵莉 (〜3 月)
非常勤講師 (研究)
　　西井　慧美
　　奥原　滋（4 月〜）

大学院生（博士課程）
　　Pissacha Droonpan （〜9 月）
　　Farzana Sultana
　　大内　崚（富山大学）
　　Yi Lu
　　Yuya Su(顎口腔腫瘍外科学分野)（4 月〜）
　　(修士課程)
　　長友　優斗（〜3 月）
　　青島　萌乃歌（〜3 月）
大学院研究生
　　Jin Lu (〜3 月)

(1)　分野概要

免疫システムは、生体防御の基本であり、生命現象を考える医歯学研究にますます不可欠なものとなりつつあります。口腔の免疫応答は、口腔由来の抗原に対する全身免疫と腸管を主体とする粘膜免疫の２つの融合免疫システムにより担われています。歯や歯槽骨などの硬組織と歯肉 · 口腔粘膜などの軟組織が混在し、日々の生活の中で多くの病原性および共生細菌や食餌性抗原に曝されている口腔は、他の臓器と比べてユニークな環境におかれています。免疫学はこの 30 年間に大きな進歩を遂げてきましたが、生体のしくみには、まだまだ解明されていない“不思議”がたくさんあります。当分野では、口腔と全身のネットワークを追求しながら、医歯学 · 生物学の幅広い観点から免疫システムの“不思議”の解明に取り組み、病態解明と治療法開発を目指しています。

(2)　研究活動

研究目標：
生体防御において重要な役割を果たしている免疫システムは、リンパ球上の膜分子と可溶性分子の相互反応により巧みに制御され維持されています。なかでも、抗原特異的な適応免疫を担う T 細胞と B 細胞は、抗原受容体を介した刺激のみならず、共刺激分子 (Co-signal molecules) と呼ばれる細胞表面機能分子の働きにより免疫応答の質と量が決定されています。先天免疫と適応免疫システムは、別々に働いているわけではなく、お互いに強くリンクしています。T 細胞および B 細胞、マクロファージ、樹状細胞などの抗原提示細胞を含む免疫担当細胞はもちろんのこと、各種臓器における組織細胞上の多種多様な補助シグナル分子の発現制御や機能的役割を明らかにし、これらの分子を標的とした、骨髄移植 · 臓器移植 · 自己免疫疾患 · 癌 · 炎症 (歯髄炎，歯周炎を含む) およびアレルギー性疾患における免疫治療法を開発することを目的としています。
　口腔粘膜や歯における口腔免疫応答は、全身性免疫と共通な部分と口腔独自のユニークな部分から成り立っています。全身性免疫および腸管粘膜免疫と口腔独自のユニークな点を分子レベルで明らかにしていくことで、全

身性疾患と口腔疾患の関連が明らかになり、これらの研究成果を基盤に、口腔疾患の治療法および口腔から全身疾患の治療法開発へ繋げます。

研究テーマ
1．新規免疫チェックポイント分子 IADR2 の発現および機能解析
2．口腔粘膜に出現する免疫寛容マクロファージの解析
3．舌扁平上皮癌の免疫プロファイル解析と複合免疫療法の最適化
4．Tr1 細胞分化における FoxO1 の役割解明
5．多発性脳脊髄炎の慢性病態における免疫チェックポイント分子の関与

(3) 教育活動

学部教育：
歯学部歯学科;　第３学年 感染と生体防御モジュール モジュールサブコーディネーター、講義および実習　ユニット 1 感染と生体防御概論、ユニット 5 生体免疫応答
病態科学演習モジュール　口腔粘膜疾患担当、第 4 学年 研究実習分野配属
歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻;　第２学年「病原微生物と生体防御」
歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻;　第２学年「感染予防」
医学部医学科;　第２学年「免疫学 I: 共受容体による免疫調節」

大学院教育：
修士課程（医歯理工学専攻)「免疫学 T 細胞の活性化と免疫応答」講義
博士課程（医歯学総合研究科）分子免疫学特論 · 演習 · 実験
大学院特別講義（医歯学 · 生命理工学先端研究特論)「がん免疫療法の歴史と現状、将来展望」玉田耕治、「歯肉縁下マイクロバイオームにおける細菌間相互作用と歯周病原性」石原和幸

(4) 教育方針

学部教育：生体防御機構において免疫システムがどのようにかかわっているかを理解させる。また、免疫システムが関与する全身性および臓器特異的疾患の発症メカニズムを理解させる。
大学院教育：免疫応答を細胞 · 分子 · 遺伝子レベルで理解し、免疫関連疾患の病態および免疫制御による疾患治療の可能性を考えられる能力を身につける。

(5) 研究業績

[原著]

1. Daroonpan P, Ouchi R, Zhang C, Nagai S, Nishii N, Kashima Y, Tsushima F, Harada H, Hamagaki M, Ikeda T, Aida J, Kaomongkolgit R, Azuma M. Personal immune profiles: Diversity and prognostic value for oral tongue squamous cell carcinoma evaluated by comprehensive immune parameter analyses with multiplex immunofluorescence. Oral oncology. 2023.08; 143; 106458

2. Yin Y, Sakakibara R, Honda T, Kirimura S, Daroonpan P, Kobayashi M, Ando K, Ujiie H, Kato T, Kichizo Kaga, Mitsumura T, Nakano R, Sakashita H, Matsuge S, Ishibashi H, Akashi T, Hida Y, Morohoshi T, Azuma M, Okubo K, Miyazaki Y. High density and proximity of $CD8^+$ T cells to tumor cells are correlated with better response to nivolumab treatment in metastatic pleural mesothelioma. Thorac Cancer. 2023.07; 14; 1991-2000

3. Nishi W, Wakamatsu E, Machiyama H, Matsushima R, Saito K, Yoshida Y, Nishikawa T, Takehara T, Toyota H, Furuhata M, Nishijima H, Takeuchi A, Azuma M, Suzuki M, Yokosuka T. Evaluation of therapeutic PD-1 antibodies by an advanced single-molecule imaging system detecting human PD-1 microclusters. Nature communications. 2023.06; 14; 3157

4. Zhang C, Raveney B, Takahashi F, Yeh T, Hohjoh H, Yamamura T, Oki S. Pathogenic microglia orchestrate neurotoxic properties of Eomes-expressing helper T cells. CELLS. 2023.03; 12(6); 868

5. Namangkalakul W, Nagai S, Jin C, Nakahama KI, Yoshimoto Y, Ueha S, Akiyoshi K, Matsushima K, Nakashima T, Takechi M, Iseki S. Augmented effect of fibroblast growth factor 18 in bone morphogenetic protein 2-induced calvarial bone healing by activation of CCL2/CCR2 axis on M2 macrophage polarization. Journal of tissue engineering. 2023.01; 14; 20417314231187960

[書籍等出版物]

1. 東 みゆき. イラストレイテッド免疫学 原書 3 版. 分担執筆; 第Ⅳ-17: 移植 . 監訳; 矢田　純一, 高橋　秀美, 藤尾　圭志. 丸善出版, 2023.03 (ISBN : 978-4-621-30801-1)

[総説]

1. 東　みゆき. 多彩な CD28-B7 ファミリー共刺激分子による時空間的免疫応答制御 炎症と免疫. 2023.10; 31(6); 2-7

[講演 · 口頭発表等]

1. 東　みゆき. 免疫に魅せられて-共刺激分子研究の 40 年-. 第 88 回　口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京

2. 大内　崚、 蘇　郁雅、 池田　通、 原田　浩之、 東　みゆき. 舌扁平上皮癌における PD-1 免疫チェックポイント阻害剤投与症例の免疫プロファイリング解析. 第 33 回口腔内科学会学術大会 2023.09.23 宇都宮

3. 蘇　郁雅, ダルンパン ピサッチャー, 津島 文彦, 原田　浩之, 東　みゆき. マルチプレックス免疫染色による口腔扁平苔癬の組織レジデントメモリー T 細胞解析 . 第 33 回口腔内科学会 2023.09.23 宇都宮

4. Chenyang Zhang, Yuto Nagatomo, Yi Lu, Miyuki Azuma. Immune checkpoint molecule ILDR2 inhibits anti-tumor immune responses via the accelerated recruitment of monocytes. 第 82 回日本癌学会学術大会 2023.09.21 横浜

5. Pissacha Daroonpan, Ryo Ouchi, Naoto Nishii, Fumihiko Tsushima, Hiroyuki Harada, Miyuki Azuma. 舌扁平上皮癌のパーソナル免疫プロファイル　—包括的免疫パラメーター解析と予後予測—. 第 82 回日本癌学会 2023.09.21 横浜

6. Farzana Sultana, Chenyang Zhang, Miyuki Azuma, Shigenori Nagai. ILDR2, a new immune checkpoint molecule, is expressed on CD206+ macrophages in sublingual mucosa.. 第 65 回歯科基礎医学会学術大会 2023.09.18 東京

7. 東　みゆき. 口腔の免疫制御機構　—共刺激分子研究から—. 第 65 回歯科基礎医学会　先端歯学シンポジウム「エキスパート研究の承継」 2023.09.17 東京

8. Pissacha Daroonpan, Ryo Ouchi, Hiroyuki Harada, Tohru Ikeda, Miyuki Azuma. Personal immune profile for oral tongue squamous cell carcinoma. 第 9 回　International summer program2023 2023.08.02 東京
9. 大内　崚、　ダルンパン　ピサッチャー、　野地　理夏、加納　嘉人、　西井　直人、　野口　誠、　濱垣　美和子、　池田　通、　原田　浩之、　東　みゆき. 舌扁平上皮癌における PD-1 免疫チェックポイント阻害剤投与症例の免疫プロファイリング解析. 第 77 回日本口腔科学会 2023.05.11 岡山
10. 東　みゆき. 免疫チェックポイント分子の基礎から最新知見まで. 山梨県皮膚病態研究会 2023.03.30 山梨
11. 東　みゆき. 舌がんの免疫プロファイリング解析. お茶の水 SC クラブ第 15 回学術集会 2023.03.17 東京
12. 永井重徳. 免疫総論〜医用材料開発のために知っておくべきこと〜. 第 73 回医用高分子研究会〜免疫とアダプティブポリマー〜 2023.03.06 東京
13. Sultana Farzana, Zhang Chenyang, Okuhara Shigeru, Nagai Shigenori, Azuma Miyuki. A novel immune checkpoint molecule, ILDR2 is upregulated in the inflammatory brain. 口腔病学会雑誌 90;20-22 2023.03.01

[その他業績]

1. 東京医科大学 · 熊本大学 · 東京医科歯科大学の共同研究チーム 「免疫チェックポイント阻害抗体の新たな効果判定方法を開発」 〜実際の抗体の至適濃度や複数種抗体併用など in vitro 効果判定に期待〜, 2023 年 06 月
-
2. 「舌癌の組織定量イメージ解析でパーソナル免疫プロファイル評価が可能に」 —　予後予測や有効な治療法選択に有用　—, 2023 年 06 月
Oral Oncology
3. 「FGF18 がマクロファージを介して骨修復を増強するメカニズムを発見」 —　骨欠損の治療への応用に期待　—, 2023 年 08 月
Journal of Tissue Engineering

先端材料評価学

Advanced Biomaterials

教授　宇尾 基弘
講師　和田 敬広
助教　宮安 杏奈
大学院生　WANG Liwei
大学院生　HA Roubing
大学院生　塚田早穂
大学院生　岡嶌夏輝 (–2023/3)
大学院生　野口隼輔 (2023/4–)
大学院生　Saleh Sherif Adel Abdelfattah（歯髄生物学） (–2023/3)

(1) 分野概要

歯科材料には安全性 · 機能性 · 審美性を兼ね備えることが求められている。当分野ではガラス · セラミックス、ポリマーおよびそれらの複合材料による新たな歯科材料の開発を行う他、微量分析技術を診断や歯科 · 生体材料の安全性評価に応用している。

(2) 研究活動

審美性と安全性に優れた歯科修復用材料の開発を目的として、ガラス · セラミックス，ポリマーおよびそれらの複合材料による新たな歯科材料の開発を行っている。加えて生体組織に含まれる微量元素の分布や化学状態を放射光を用いた蛍光 X 線分析や XAFS により調査し、診断や歯科 · 生体材料の安全性評価に応用している。
1) 放射光を用いた生体中微量元素の検出と診断 · 医療用材料評価への応用
2) X 線吸収微細構造解析 (XAFS) の歯科材料の特性評価への応用
3) ガラス · セラミックスを中心とした、新たな機能を持つ歯科材料の開発
4) エンジニアリングプラスチックを用いたメタルフリー歯科矯正材料の開発
5) コンポジットレジン用の機能性ガラス · セラミックスフィラーの開発

(3) 教育活動

様々な材料や器械 · 器具を用いて治療を行う歯科医学にとって、それらの原理を理解する歯科理工学は重要な項目の一つである。当分野は歯学科の歯科理工学（モジュール名「生体材料」）の講義 · 実習を担当するほか、関連の臨床医学とも連携した講義、大学院講義を行っている。

(4) 研究業績

[原著]

1. [先端材料評価学 : 宇尾　基弘] Liwei WANG, Tomoya KONISHI, Miki INADA, Takahiro WADA, Motohiro UO. Preparation and properties of the fine ground strontium-based endodontic cements Dental Materials Journal. 2023.12; 42(6); 818-825

2. [先端材料評価学 : 宇尾　基弘] Takahiro Wada, Upendar Kashaboina, Yuta Nishikawa, Yuki Wakisaka, Deling Bao, Satoru Takakusagi, Yuta Inami, Fumiya Kuriyama, Arnoldus Lambertus Dipu, Hitoshi

Ogihara, Shoji Iguchi, Ichiro Yamanaka, Daiki Kido, Masao Kimura, Motohiro Uo, Kiyotaka Asakura. The Effect of Structural Change during the Activation Process on the Catalysis of In/SiO2 Nonoxidative Coupling of Methane: An Operando XAFS Study The Journal of Physical Chemistry C. 2023.12; 127(50); 24211-24222

3. [高齢者歯科学：駒ヶ嶺　友梨子] Komagamine Y, Kanazawa M, Miyayasu A, Uehara Y, Watanabe M, Sahaprom N, Huyen TBN, Iwaki M, Sato D, Minakuchi S. The effect of single-implant overdentures on cognitive function in older adults: A 3-year follow-up report. Journal of dentistry. 2023.09; 136; 104632

4. [口腔デジタルプロセス学分野：土田　優美] Chaiamornsup P, Katheng A, Ha R, Tsuchida Y, Kanazawa M, Uo M, Minakuchi S, Suzuki T, Takahashi H. Effects of build orientation and bar addition on accuracy of complete denture base fabricated with digital light projection: An in vitro study. J Prosthodont Res. 2023.04;

5. [先端材料評価学：宇尾　基弘] Naoaki Mikami, Ikuo Yonemitsu, Hiroshi Takemura, Mark Kondou, Kouhei Soga, Kazuhiro Suga, Zuisei Kanno, WeiJen Lai, Motohiro Uo, Takashi Ono. Mechanical analysis of the improved superelastic Ni-Ti alloy wire using the orthodontic simulator with high-precision sensors Journal of the Mechanical Behavior of Biomedical Materials. 2023.04; 142; 105861

6. [先端材料評価学：和田　敬広] Daiki Kido, Takahiro Wada, Kiyotaka Asakura. Automatic Collection and Visualization of the Models Given by Thorough Search Analysis and Its Application to the MoO_3 EXAFS Analysis e-Journal of Surface Science and Nanotechnology. 2023.03; 21(3); 231-235

1. [先端材料評価学：宮安　杏奈] 宮安 杏奈. 上顎多数歯欠損に対してブリッジと可撤性義歯を用いて咬合回復を行った症例. 日本補綴歯科学会誌. 2023.10; 15(4); 503-506

[総説]

1. [先端材料評価学：宮安　杏奈] 宮安　杏奈，岩城　麻衣子，金澤　学. 超高齢社会における IOD の現在と未来. 日本義歯ケア学会誌. 2023.12; (15); 9-15

2. [先端材料評価学：宮安　杏奈] 宮安　杏奈，岩城　麻衣子，金澤　学. インプラントオーバーデンチャー（IOD）の臨床とエビデンス. 東京都歯科医師会雑誌. 2023.08; 71(8); 395-402

[講演・口頭発表等]

1. [先端材料評価学：和田　敬広] Shunsuke Noguchi, Takahiro Wada, Shogo Matsushita, Motohiro Uo. Fabrication of a Novel 3D Printed Three-Point Bending Jig with a Water Bath for Shape Memory Polymer Measurement. 3rd International Symposium on Design & Engineering by Joint Inverse Innovation for Materials Architecture -DEJI2MA 2023- 2023.10.20 Tokyo, Japan

2. [先端材料評価学：和田　敬広] K. Asakura, K.Dong, T. Wada, D. Kido, S. Takakusagi. Bent Crystal Laue Analyser Combined with Polarization-dependence Total Reflection Fluorescence X-ray Absorption Fine Structure (BCLA-TRFXAFS) and its Application to Electrode Surface. INTERNATIONAL UNION OF CRYSTALLOGRAPHY (IUCr 2023) 2023.08.22 Melbourne Convention and Exhibition Centre, Australia

3. [口腔デジタルプロセス学分野：土田　優美] Nakayama M, Li H, Hayashi M, Tsuchida Y, Kanamori Y, Noritake K, Nitta H, Miyayasu A, Iwaki M, Kanazawa M. Quantitative analysis of visual evaluation in abutment tooth for full metal crown. International Summer Program (ISP) 2023, TMDU. 2023.08.02 Tokyo, Japan

4. [先端材料評価学：和田　敬広] Wang Liwei, Tomoya konishi, Miki Inada, Takahiro Wada, Motohiro Uo. Effect of particle size on the mechanical properties of strontium based endodontic cements. The 81nd General Session of the Japanese Society for Dental Materials and Devices 2023.04.15 Tokyo, Japan

1. [歯科放射線科：野島　瞳] 野島瞳、戒田篤志、宇尾基弘、三浦雅彦. 新規小線源治療 Diffusing Alpha-Emitters Radiation Therapy (DaRT) による in vitro における DNA 損傷応答. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京

2. [高齢者歯科学分野：羽田　多麻木] 川上 ひかる，LI HAOYU，羽田 多麻木，宮安 杏奈，金澤 学. エナメルコンポジットレジンのカスタムディスク法への有効性の評価. 第 88 回 口腔病学会学術大会. 2023.12.01 東京

3. [咬合機能健康科学分野：林　海里] 李 晨媛，和田敬広，土田優美，林 海里，田邊 元，上野俊明，中禮宏. サイクル荷重耐久性疲労試験を用いた 3D 多層マウスガードと従来型マウスガードの保持力比較. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

4. [先端材料評価学：和田　敬広] 富所聡一, Kaiyue DONG, Chenghao YANG, 和田敬広, 宇尾基弘, 城戸大貴, 木村正雄, 高草木達, 朝倉清高. PTRF-XAFS による Au(111) 上の Pd 薄膜の安定性に関する研究. 第 26 回 XAFS 討論会 2023.09.04 岐阜

5. [口腔デジタルプロセス学分野：土田　優美] 中山 魅来, 林 七夏, 土田 優美, 金森 ゆうな, 則武 加奈子, 新田 浩, 宮安 杏奈, 岩城 麻衣子, 金澤 学. 支台歯形成における指導歯科医師による評価傾向の定量化. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会． 2023.05.21 神奈川

6. [口腔デジタルプロセス学分野：土田　優美] 林 七夏, 土田 優美, 安齋 達彦, 髙橋 邦彦, 岩城 麻衣子, 宮安 杏奈, 金澤 学. 深層学習を用いた画像認識技術による支台歯形態の評価. 日本デジタル歯科学会第 14 回学術大会． 2023.04.22 神奈川

7. [先端材料評価学：宇尾　基弘] 宇尾 基弘. 歯科理工学教育の現状と課題、未来に向けた提言：総合的な課題と未来. 第 81 回日本歯科理工学会学術講演会 2023.04.15 東京

8. [先端材料評価学：和田　敬広] 城戸 大貴, 和田 敬広, 江澤 元太, Wang Qing, 木村 正雄, 朝倉 清高. 3D プリンターを利用したオペランド XAFS セルの作製. 2022 年度量子ビームサイエンスフェスタ 2023.03.13 茨城

9. [先端材料評価学：宇尾　基弘] 宇尾 基弘. 審美歯科材料とデジタルデンティストリー. 国際 · 産学連携インヴァースノベーション材料創出プロジェクト —DEJI2MA プロジェクト—2022 年度公開討論会 2023.03.11 東京

10. [先端材料評価学：和田　敬広] 和田敬広, 村田歩夢, 足立桃子, 髙村彩, 中禮宏, 塩沢真穂, 宇尾基弘. 光造形 3D プリンタを用いたスポーツ用フェイスガードのコア材 · クッション材の研究. 国際 · 産学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト —DEJI2MA プロジェクト—2022 年度公開討論会 2023.03.11 東京

[特許]

1. [先端材料評価学：宇尾　基弘] 歯科用複合硬化性組成物, 特許番号：特開 2010-202560

2. [先端材料評価学：宇尾　基弘] 歯科用蛍光体ガラスフィラー、歯科材料、及び歯科情報の記録読取方法, 特許番号：特開 2005-041825

3. [先端材料評価学：宇尾　基弘] 微生物の固定化方法及び固定化物, 特許番号：特開平 5-76363

4. [先端材料評価学：宇尾　基弘] 微量水銀の連続測定方法, 特許番号：特開平 5-23198

[受賞]

1. [咬合機能健康科学分野：林　海里] 研究奨励賞（ネオ製薬工業賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月

歯科放射線診断・治療学分野

Department of Dental Radiology and Radiation Oncology

教　　授	三浦　雅彦
准 教 授	渡邊　裕
講　　師	大林　尚人　(～２月)
	戒田　篤志　（４月～）
助　　教	中村　伸
	戒田　篤志　（～３月）
	栗林　亜実
	坂本　潤一郎 (～８月)
	今泉　晶子　（４月～）
特任助教	野島　瞳
医　　員	能村　嘉一
	川島　桜子　(～３月)
	田口　美晴
	遠山　皓基　（４月～）
大学院生	Esther NG FENG YING (～３月)
	遠山　皓基（～３月）
	Wamashing NATNICHA (～９月)
	Yomtako SUPASITH
	隠岐　安利紗
	Carulina MESQUITA
大学院研究生	久米　咲子　（１２月～）

(１)　分野概要

口腔顎顔面領域における画像診断ならびに放射線治療に関する教育、研究、臨床を行っている。

(２)　研究活動

・断面画像による顎口腔領域病変の鑑別診断、拡散強調 MRI や Dynamic MRI、MR sialography 等を用いた唾液腺疾患の診断、神経血管系疾患や顎関節疾患等を対象とした新しい MRI 診断法の開発。
・口腔領域悪性腫瘍患者の予後予測に関する CT 画像診断の役割に関する研究。
・口腔がんの放射線治療に関連した臨床研究ならびに新たな治療法の開発。
・シグナル伝達機構、DNA 損傷修復機構の観点から見た分子生物学的、細胞生物学的、放射線生物学的研究。

(３)　教育活動

歯科放射線学は、口腔・顎・顔面領域の疾患を主な対象とする放射線の医学的利用について体系づけた臨床歯科医学の専門分野である。学部学生に対しては、疾患の診断と治療に関係する理論と知識及び基本的技術を身につけることを目標として、講義と実習を行う。一方、大学院における教育では、最新の画像診断技術の歯科領域への応用や生物学的基礎に基づく口腔がんの放射線治療に関する専門的教育を中心として教育を行う。

(4) 教育方針

最近の放射線医学の進歩は著しく、現在の医療技術も将来の科学や技術的進歩に応じて変化することから、自己の生涯学習の基盤となる様な教育に配慮する事を重視している。自分で問題点を抽出し、それを解決するための発想、方法論を導きだせる研究者としての資質を涵養する。

(5) 臨床活動および学外活動

当分野の臨床部門として、画像診断および放射線治療が挙げられる。
1. 画像診断
64 列マルチスライス CT スキャナおよび 3 テスラ MRI 撮像装置を用いた顎顔面領域の診断は、当分野における画像診断業務の中核をなしている。前者では通常の断面画像に加えて、顎顔面骨や歯列の三次元画像表示、顎骨の多断面画像表示等の画像処理を行なっており、後者では特に三叉神経痛や唾液腺疾患、顎関節疾患に対して新しい撮像法を開発しこれを臨床症例に適用している。また本学 PET 核医学センターにおいても、主に口腔悪性腫瘍の PET-CT 診断に携わっている。
2. 放射線治療
医系診療部門の放射線治療科と密接に連携しながら、口腔領域悪性腫瘍の放射線治療に携わっている。具体的には、小線源治療による根治的放射線療法、術前 · 術後照射等の診療を行い、治療後の組織欠損や機能障害がほとんどない QOL の高いがん治療を実施している。さらに、歯科の専門外来（口腔外科外来、顎顔面補綴外来）と連携をとりながら、患者個人の病態ならびに要望に最も適した診療となるよう取組んでいる。

(6) 臨床上の特色

64 列マルチスライス CT スキャナ、歯科用コーンビーム CT および 3 テスラ MRI 撮像装置を用いた精度の高い診断を歯科放射線専門医が行っている。
切らずに治す唯一の方法である口腔がんの小線源治療を大きな特色として、歯科放射線専門医、口腔放射線腫瘍認定医が、医系診療部門の放射線腫瘍医と連携しながら実施している。

(7) 研究業績

[原著]

1. Wamasing N, Nakamura S, Watanabe H, Kuribayashi A, Miura M. Potential of preoperative fluorodeoxyglucose-positron emission tomography/computed tomography to diagnose contralateral lymph node metastases in patients with oral cancer. Nucl Med Commun. 2023.12; 44(12); 1168-1175

2. Takuma Kugimoto, Naoto Nishii, Yu Oikawa, Takeshi Kuroshima, Hideaki Hirai, Hirofumi Tomioka, Yasuyuki Michi, Kou Kayamori, Junichiro Sakamoto, Joe Iwanaga, R Shane Tubbs, Tohru Ikeda, Masahiko Miura, Hiroyuki Harada. Invasion of the bucco-mandibular space by oral squamous cell carcinoma: histopathological analysis of invasion pattern. Front Oncol. 2023.10; 13; 1168376

3. Atul Ranjan, Elizabeth A Thoenen, Atsushi Kaida, Stephanie Wood, Terry Van Dyke, Tomoo Iwakuma. Hypomorphic Allele in a Diethylnitrosamine-Induced Liver Carcinogenesis Model. Cancers (Basel). 2023.09; 15(18);

4. Nakamura S, Watanabe H, Kurabayashi T, Miura M. Risk factors for posttreatment mastoid cellulitis in patients with oral malignancy Oral Radiology. 2023.07; 39(3); 528-535

5. Ito K, Tokura S, Takazawa I, Yoshida N, Nakanishi T, Akiyama K, Onuma Y, Adachi T, Harada H, Nojima H, Miura M, Yoshimura R, Kabasawa Y. Clinical investigation of use of Episil® oral solution in oral mucositis during radiotherapy for head and neck cancer. Heliyon. 2023.06; 9(6); e15869

6. Yoshikazu Nomura, Hiroshi Watanabe, Hiroshi Tomisato, Sakurako Kawashima, Masahiko Miura. Gumbel distribution-based technique enables quantitative comparison between streak metal artifacts of multidetector row CT and cone-beam CT: a phantom study. Phys Eng Sci Med. 2023.06; 46(2); 801-812

7. Natnicha Wamasing, Supasith Yomtako, Hiroshi Watanabe, Junichiro Sakamoto, Kou Kayamori, Tohru Kurabayashi. The magnetic resonance imaging characteristics of radicular cysts and granulomas Dentomaxillofac Radiol. 2023.02; 52(3); 20220336

[書籍等出版物]

1. 三浦雅彦　他. 口腔癌. 医歯薬出版株式会社, 2023.09 (ISBN : 978-4-263-42315-8)

[講演 · 口頭発表等]

1. Katarzyna A. Inoue, Kazuki Takahashi, Maki Saito, Shintaro Sakakitani, Keita Iida, Sadahiro Iwabuchi, Daizo Koinuma, Toru Konishi, Susumu Tanaka, Atsushi Kaida, Masahiko Miura, Shinichi Hashimoto, Mariko Okada, Toshihiro Uchihashi, Kohei Miyazono, Tetsuro Watabe. TGF-β confers cancer cells with the high motility and metastatic potential via induction of Slug/HMGA2-independent EMT. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2023.09.23 Yokohama

2. Wamasing N, Nakamura S,, Watanabe H, Kuribayashi A, Miura M. PET.CT diagnosing contralateral lymph node metastasis in oral cancer patients. Tokyo Medical and Dental University, International Summer Program 2023.08.02 Tokyo

3. Yomtako S, Watamabe H, Kuribayashi A, Miura M. Differentiation of radicular cysts and granulomas by texture analysis on computed tomography images.. Tokyo Medical and Dental University, International Summer Program 2023.08.02 Tokyo

4. Wamasing N, Nakamura S, Watanabe H, Kuribayashi A, Miura M. Interpretation of fluorodeoxyglucose accumulation on contralateral lymph nodes in position emission tomography /computed tomography images for patients with oral cancer. The 63th General assembly and annual scientific congress of Japanese Society for Oral and Maxillofacial Radiology 2023.05.28 Fukuoka

1. 野島瞳、戒田篤志、宇尾基弘、三浦雅彦. 新規小線源治療 Diffusing Alpha-Emitters Radiation Therapy (DaRT) による in vitro における DNA 損傷応答. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京

2. 中村伸. 歯科放射線学における PET/CT. 第 63 回日本核医学会学術総会 2023.11.18 大阪

3. 野島瞳、戒田篤志、原田美穂子、三浦雅彦. Au-198 grain を用いたモールド療法の早期口腔がんへの有効性. 第 68 回日本口腔外科学会学術大会 2023.11.11 大阪

4. Supasith Yomtako, 渡邊　裕, 栗林亜実, 坂本潤一郎, 三浦雅彦. CT 画像における歯根嚢胞と歯根肉芽種のテクスチャー解析の試み. NPO 法人日本歯科放射線学会第 4 回秋季学術大会 2023.11.04

5. 隠岐安利紗, 中村伸 , 坂本潤一郎 , 田口美晴 , 栗林亜実 , 渡邊裕 , 三浦雅彦. 舌扁平上皮癌患者における MRI テクスチャー特徴量と頸部転移及び腫瘍再発との関連性. NPO 法人 日本歯科放射線学会 第 4 回秋季学術大会 2023.11.04 大阪

6. 能村嘉一、渡邊裕、富里博、浅井 (川島) 桜子、三浦雅彦. Gumbel 分布を用いると、cone-beam CT と multidetector row CT の筋状の金属アーチファックトの強さを特異的かつ定量的に比較できる. 日本歯科放射線学会第 4 回秋季学術大会 2023.11.04 大阪

7. 遠山皓基、栗林亜実、中村伸、渡邊裕、原田浩之、本多隆行、池田通、三浦雅彦. 転移性と考えられた下顎骨関節突起悪性腫瘍の 2 症例. 日本歯科放射線学会第 4 回秋季学術大会 2023.11.04 大阪

8. 三浦雅彦、伊川裕明、武者篤、戒田篤志、森川貴迪. 最新ガイドラインに学ぶ！ 超高齢化社会の口腔癌治療　高齢者口腔癌患者に対する放射線治療　. 第 61 回日本癌治療学会学術集会 2023.10.20 横浜

9. 今泉　晶子, 平山　亮一, 長谷川　純崇, 生駒　洋子,Jeff Kershaw, 柴田　さやか, 新田　展大, 鵜澤　玲子, 東　達也, 栗林　亜実, 三浦　雅彦, 小畠　隆行. 2 コンパートメントモデル拡散強調 MRI による放射線照射後腫瘍の定量的評価. 第 51 回日本磁気共鳴医学会大会 2023.09.23 軽井沢

10. 戒田篤志、三浦雅彦. 変異 p53 の安定化に寄与し得る新規 HSP40 タンパク質の探索. 第 26 回癌治療増感研究会 2023.07.01 石垣

11. 三浦雅彦. 国際癌治療増感研究協会との関わりを振り返って（第 22 回国際癌治療増感研究協会菅原賞受賞講演）. 第 26 回癌治療増感研究会 2023.07.01 石垣

12. 野島瞳、戒田篤志、三浦雅彦. 細胞周期可視化マウス腫瘍モデルを用いた 1 回大線量分割照射における再分布の意義. 第 60 回日本放射線腫瘍学会生物部会学術大会 · 第 51 回放射線による制癌シンポジウム 2023.06.23 京都

13. 三浦雅彦. 放射線治療と医療安全. 第 7 回国際歯科医療安全機構学術大会 2023.06.04 松戸

14. 野島瞳、戒田篤志、三浦雅彦. 口腔癌に対する小線源治療後に Au-198grain の顎下腺への逆行性移動がみられた一例. 日本歯科放射線学会第 63 回学術大会 2023.05.27 福岡

15. 田口美晴、Supasith Yomtako、渡邊裕、田中礼、Yeung Wai Kan Andy、三浦雅彦. 口内法撮影における平行法の適応について、香港大学歯学部患者における解剖学的検討. 日本歯科放射線学会第 63 回学術大会 2023.05.27 福岡

16. 隠岐安利紗、栗林亜実、中村伸、 原田浩之、渡邊裕、三浦雅彦. 頬部に生じた内部壊死を伴う MTX-LPD の 1 例. NPO 法人日本歯科放射線学会第 235 回関東地方会 2023.02.18 Web 開催

17. 野島瞳、戒田篤志、三浦雅彦. DNA 損傷応答と α 線粒子の分布からみた新規小線源治療 DaRT の特性. 第 23 回菅原 · 大西記念癌治療増感シンポジウム 2023.02.05 京都市

18. 三浦雅彦. 放射線感受性の細胞周期依存性を再考する. 第 23 回菅原 · 大西記念癌治療増感シンポジウム 2023.02.04 京都市

19. 三浦雅彦、伊川裕明、武者篤、戒田篤志、森川貴迪. 超高齢者社会の口腔癌治療の現状　高齢者口腔がんに対する放射線治療. 第 41 回日本口腔腫瘍学会学術大会 2023.01.26 WEB 開催

20. 野島瞳、戒田篤志、三浦雅彦. α 線源を用いた新規小線源治療 DaRT における生物学的効果の検討. 第 41 回日本口腔腫瘍学会学術大会 2023.01.26 WEB 開催

[特許]

1. 口内X線撮影用器具, 特許番号：7356093

[受賞]

1. 第 41 回日本口腔腫瘍学会優秀ポスター賞（野島瞳） , 2023 年 01 月

2. 国際癌治療増感研究会 菅原賞（三浦雅彦）, 国際癌治療増感研究会, 2023 年 02 月

3. Best Reviewer Award, Oral Radiology, 2023 年 11 月

[社会貢献活動]

1. 「放射線生物学」2023 医学物理士ミニマム講習会（資格認定講習） , 日本医学物理学会 · 日本医学物理士会, オンデマンド配信, 2023 年 06 月 17 日 - 2023 年 07 月 07 日

歯科麻酔・口腔顔面痛制御学分野

Department of Dental Anesthesiology and Orofacial Pain Management

教授	前田　茂
准教授	脇田　亮
講師	松村　朋香
助教	馬場　有希子, 山﨑　陽子，伊藤 孝哉
特任助教	鈴木　千裕，井村　紘子, 佐藤　裕，島田　奈緒美
医員	高橋　賢, 岡部　紗季, 安部　勇志, 市橋　有希子, 栗栖　諒子，坂元　麻耶, 千葉　真子, 沓水　千
大学院生	阿部　桂子, 内沼　琴美, 内海　希，　横山　実希，中山　歩, 冨永　光莉
大学院研究生	橘　英将, 山田　聡, 久家　章宏

(1)　分野概要

当分野は歯科麻酔学と口腔顔面痛制御学の両者を担当する。臨床業務では，年間の麻酔管理症例数が全身麻酔約900 例，鎮静法 1800 例であり，国公立大学の中では圧倒的な数の麻酔管理を行っている。口腔外科手術は悪性腫瘍と外科的矯正手術の他に，歯科医院では困難な埋伏歯の抜歯などが中心であり，当分野では集中治療部および麻酔科と協力して業務に当たっている。外来では鎮静法の他に，小児の集中歯科治療や，埋伏歯抜歯を目的とした日帰り全身麻酔を年間 150 例ほど行なっている。鎮静法を行う目的はインプラント関連手術や口腔外科手術が中心であるが，口腔顔面痛制御学は，全国的にも多くない専門診療科を有し，ペインクリニックの専従スタッフにより業務が行われている。
歯科麻酔学に関わる領域では，安全で苦痛が少ない歯科治療が受けられることを目的としている。教育では局所麻酔，全身麻酔，鎮静法，モニタリングについて講義と実習を行う。また，上記の目的を達成するための基礎ならびに臨床的な研究を行っている。

(2)　研究活動

1）顎顔面領域での神経障害性疼痛の病因と治療法について
2）新しい局所麻酔薬の開発
3）精神鎮静法の満足度を高めるための管理方法について
4）周術期脳虚血の病態の解明

(3)　教育活動

当分野の教育目的は日常の歯科診療で必要な局所麻酔の他に，専門的な麻酔管理としての鎮静法と全身麻酔，合併症を有する患者の全身管理，顎顔面痛治療についての主に知識と基本的な技術を授けることにある。講義は歯科麻酔に関わる事項（全身麻酔，局所麻酔，鎮静法，心肺蘇生法）の他にペインクリニックに関わる事柄を担当している。全身麻酔の項では学生は呼吸，循環の生理，吸入麻酔薬，静脈麻酔薬，筋弛緩薬の薬理作用とメカニズム

を学ぶ。鎮静法は全身麻酔との違いを中心に学習する。救命処置については，一次救命処置だけでなく，心肺蘇生訓練システムを用いて 2 次救命処置に関わる実習も行なっている。ペインクリニックでは神経科学の一つの領域として，生理学および薬理学を基礎に指導している。

(4) 教育方針

歯科麻酔という領域の専門性は安全で苦痛のない歯科医療を提供することにある。そのために患者の健康状態についての情報収集とその評価を行うが，このことは麻酔薬の投与にかかわらず歯科医療の前提として重要な要件である。学部学生にはこのような患者の評価の重要性を強調している。また歯科医師が麻酔管理を行うことの意味について，学生とともに考えるようにしている。大学院では基礎的および臨床的な研究手法と考え方を学ぶことが最大の目的と考えており，卒業後は研究費の獲得とめざしてもらい，教員候補として臨床，研究，教育に携わってもらう。

(5) 臨床活動および学外活動

口腔外科手術は悪性腫瘍と外科的矯正手術の他に，歯科医院では困難な埋伏歯の抜歯などが中心であり，当分野では集中治療部および麻酔科と協力して業務に当たっている。外来では鎮静法の他に，小児の集中歯科治療や，埋伏歯抜歯を目的とした日帰り全身麻酔を年間 150 例ほど行なっている。鎮静法を行う目的はインプラント関連手術や口腔外科手術が中心であるが，口腔顔面痛制御学は，全国的にも多くない専門診療科を有し，ペインクリニックの専従スタッフにより業務が行われている。また，月平均数例発生する本院の緊急事態に速やかに対応し，必要に応じて，医学部附属病院の ER との連携を図っている。ペインクリニックと顎関節治療部は全国でも数少ない専従スタッフによる専門外来となっており，院内院外からの紹介患者を受け入れている。ペインクリニックでは神経障害性疼痛や三叉神経痛などを主な対象疾患としており，投薬と神経ブロック，また東洋医学的治療や物理療法を取り入れて集学的な治療を行っている。

(6) 臨床上の特色

中央手術室では，あらゆる口腔外科手術に対し全身麻酔をはじめとした適切な管理を提供している．長時間手術に対しては ICU と連携して術後管理を行なっている。外来では，智歯などの抜歯やインプラント手術に対して，静脈内鎮静法を行い，安全でストレスの少ない歯科治療が行えるようにしている。また歯科治療に対して恐怖心が強い患者や，知的障害などのために通常では診療が受けられない患者に対して，全身麻酔および静脈内鎮静法による麻酔管理を行っている。歯科ペインクリニック外来では，顎口腔顔面領域のあらゆる疼痛，異常感覚，神経麻痺等に対して投薬，理学療法，東洋医学的また心身医学療法を取り入れた全人的医療を行っている，

(7) 研究業績

[原著]

1. Ryo Wakita, Yukiko BaBa, Haruhisa Fukayama, Shigeru Maeda. Factors associated with transient bradycardia during local anesthesia administration to the oral cavity under intravenous sedation: A retrospective cohort study Journal of Dental Sciences. 2023.08;

2. Sumphaongern T, Yamahara E, Wakita R. Sudden Cardiac Arrest in a Dental Patient Awaiting Examination. Anesthesia progress. 2023.03; 70(1); 25-30

1. 秦 史子，木下 樹，大嶋 瑛，前田 茂. 側貌エックス線写真で術前評価をした眼 · 歯 · 指症候群患児の全身麻酔経験 日本歯科麻酔学会雑誌. 2023.04; 51(2); 42-44

2. 藤澤 俊明, 水田 健太郎, 望月 亮, 松村 朋香, 立浪 康晴, 杉村 光隆. 歯科医院で常備すべき救急薬 · 機器等についての提言 日本歯科医学会誌. 2023.03; 42; 51-57

[総説]

1. Takaya Ito, Nozomi Utsumi, Yukiko Baba, Tomoka Matsumura, Ryo Wakita, Shigeru Maeda. Considerations for Satisfactory Sedation during Dental Implant Surgery Journal of Personalized Medicine. 2023.02; 13(3); 461

[講演 · 口頭発表等]

1. Takaya Ito, Motoyo Maruyama, Hirotoshi Iwasaki, Yoshitaka Miyagawa, Hidenori Suzuki, Shigeru Maeda, Atsushi Sakai. Involvement of long noncoding RNAs (lnkRNAs) containing ultraconserved regions expressed in primary sensory neurons in a rat neuropathic pain model. Neuroscience 2023 2023.11.15 Washington DC

2. Ryoko Kurisku, Yoko Yamazaki, Shigeru Maeda. Involvement of Lysophospholipids in trigeminal ganglion in neuropathic pain of orofacial region. Neuroscience 2023 2023.11.14 Washington DC

3. Shigeru MAEDA. General anesthesia in dentistry for patients with intellectual disabilities. General Meeting of Korean Association for Dentistry and Oral Health 2023.04.16 Seoul

1. 久家章宏，安部勇志，佐藤　裕，前田　茂. 歯科麻酔外来で静脈内鎮静法を行った患者への満足度調査. 口腔病学会 2023.12.02 東京

2. 栗栖諒子，山﨑陽子，前田 茂. 口腔顔面の神経障害性疼痛に対する三叉神経節内リゾリン脂質の関与. 第 51 回日本歯科麻酔学会 2023.10.08 長崎

3. 高橋 賢，馬場 有希子，島田 奈緒美，鈴木 千裕，佐藤 裕，伊藤 孝哉，松村 朋香，脇田 亮， 前田 茂. 筋電図式および加速度感知式筋弛緩モニターの使用によるスガマデクス投与の比較. 第 51 回日本歯科麻酔学会 2023.10.08 長崎

4. 中山 歩，伊藤 孝哉，長谷川 真巳，横山 実希，千葉 真子，脇田 亮，前田 茂. 重度大動脈弁閉鎖不全症合併自閉症スペクトラム障害患者の静脈内鎮静法に対し，非侵襲連 続推定心拍出量測定で管理した一症例. 第 51 回日本歯科麻酔学会 2023.10.08 長崎

5. 伊藤 孝哉，坂井 敦，前田 茂. シュワン細胞における H19 長鎖非コード RNA の神経障害性疼痛への関与. 第 51 回日本歯科麻酔学会 2023.10.07 長崎

6. 内海 希，横山 実希，脇田 亮，前田 茂. 局所麻酔による esCCO と観血的動脈圧変動の検討. 第 51 回日本歯科麻酔学会 2023.10.07 長崎

7. 冨永 光莉，伊藤 孝哉，山原 えりか，栗栖 諒子，池田 七菜子，前田 茂. 好酸球性多発血管炎性肉芽症 (EGPA) 患者に対する口腔外科処置の全身麻酔管理経験. 第 51 回日本歯科麻酔学会 2023.10.07 長崎

8. 木村浩子, 石山裕之, 宮園敬資, 秋本悌助, 西山暁. 桂枝加朮附湯と立効散が有効であった顎関節症と舌痛症の併存症例. 第 36 回日本顎関節学会 2023.07.08 東京

9. 久家章宏，横山実希，佐藤裕，伊藤孝哉，馬場有希子，前田茂. 全身麻酔中に漏水のため手術室を移動した 1 症例. 第 39 回 関東臨床歯科麻酔懇話会学術集会 2023.06.24

10. 川島正人, 木村浩子, 山﨑陽子. 立効散、食事指導で改善した舌痛症の 1 症例. 第 52 回日本慢性疼痛学会 2023.03.10

11. 高橋 賢, 中川 泰宏, 佐藤 裕, 脇田 亮, 生駒 俊之, 前田 茂. 溶媒の pH 変化による局所麻酔薬の放出特性. 口腔病学会雑誌 2023.03.01

12. 川島 正人, 木村 浩子, 山崎 陽子. 立効散、食事指導で改善した舌痛症の 1 症例. 日本慢性疼痛学会プログラム · 抄録集 2023.02.01

[社会貢献活動]

1. 高齢者の歯科治療の悩み, 毎日新聞社, 毎日新聞, 2023 年 02 月 28 日 - 2023 年 03 月 08 日

小児歯科学 · 障害者歯科学分野

Department of Pediatric Dentistry / Special Needs Dentistry

教授　岩本勉

講師　柿野聡子

助教　楠本康香、和田奏絵（研究休職-3 月）、大石敦之、
杉本明日菜、小樋香織（-3 月）

医員　長弘茂樹（-3 月）、岩田こころ、黒厚子璃佳、内藤悠、
井上佳怜、小樋香織（4 月-）、高橋玄（4 月-）、
豊村友賀（4 月-）、平和田智佳（4 月-）、山木奏（4 月-）
相田貴絵（-3 月）、林佳奈（-3 月）、岩淵佑介、為永里紗、
真藤裕基（4 月-）

大学院生　李朝 (-3 月)、申侑定（-3 月）、大木宏晃、田中眞実、
中島結美子、山中柚衣香、浜島美咲（4 月-）

大学院研究生　斎藤大嗣（-3 月）、高橋玄（-3 月）、
豊村友賀（-3 月）、平和田智佳（-3 月）、
山木奏（-3 月）、武永嶺、新田瑠璃子、李朝（4 月-）、
申侑定（4 月-）

大学院特別研究生　星合愛子（-9 月）

非常勤講師　松原龍、高橋昌司、Asiri Jayawardena、松村木綿子、
関矢多希、三浦謙一、土橋なつみ（4 月-）、
熊倉杏奈（-3 月）、稲田　穣、木下陽介、桜井誠治、
篠塚修、鈴木朋、中村盛幸、星合泰治（4 月-）、
相田貴絵（4 月-）

(1)　分野概要

小児歯科学分野は 1956 年 5 月に本邦初の小児歯科学講座として発足し，我が国における日本の小児歯科医療 · 教育 · 研究を牽引してきた伝統ある教室である。小児期の健全な口腔育成に必要な発育支援とその過程で生じる疾患や問題に対する診断 · 治療 · 予防に関する教育 · 研究を行う臨床歯学を実践してきた。障害者歯科学分野は，1982 年に障害者歯科治療部を出発点とし発足し，1987 年に歯学部附属病院顎口腔機能治療部と統合し障害者歯科学講座となり，1999 年に障害者歯科学分野となった。小児から成人まで，障害のある方，病気により特別な対応が必要な方の歯科診療を行ってきた。それぞれ小児歯科外来，スペシャルケア外来を構える。2020 年より，定型発達児，障害児，有病児等の隔てなく，小児の口腔疾患全般に関する教育 · 研究 · 診療体制の再編を目的として両分野が統合された。

(2) 研究活動

研究テーマとして,
（1）歯および顎顔面の発生メカニズムの解明
歯および顎顔面の発生過程の理解は小児歯科臨床を実践する上で必須の知識である。しかしながら未だに発生過程で働く遺伝子や分子間相互作用の機構について不明な点が多い。再生医療が次世代の医療と期待されている今日，歯の再生は究極の歯科治療の１つとなる。再生医療は幹細胞を用いる方法と人為的に作られた再生器官に置換する方法があるが，これらを最終ゴールとして，発生メカニズムの理解と，幹細胞の応用方法，再生器官作成法の開発を目指す。
（2）小児の歯と歯髄の診査法 · 診断 · 治療法の開発
乳歯および幼若永久歯の歯内療法学と外傷歯科学は，歯根吸収や歯根形成など成長発育への理解が求められる。このような観点で乳歯および幼若永久歯に望ましい歯内療法，歯髄再生療法を研究する。さらに，歯髄血流測定による非侵襲的 · 定量的歯髄診断法の開発を目指す。
（3）小児の顎 · 口腔機能に関する研究
口腔は，話す，食べる，呼吸するといった生命活動にとって極めて重要な器官である。これらの機能の獲得 · 熟達の過程についての理解とその機構を解明し，正常な発達過程へ導く支援方法の開発を目指す。
（4）新規齲蝕予防法および修復法の開発
100 年後を意識した新たな歯質強化法，口腔清掃手段，歯科修復材料を創造していく。また，口腔バイオフィルムの生成メカニズムの解明とその除去法の開発を目指す。
（5）障害者の口腔内環境と歯科治療
障害者の口腔状態は形態的，機能的にさまざまな特徴があり，さらに合併症を伴っていることが多く歯科治療が困難なこともあるため健常者より歯科疾患の予防が重要となる。そこで，染色体異常，自己免疫疾患，その他疾患に関連した口腔内環境への影響因子を検索し，より有効な口腔内管理について検討する。
（6）身体障害児 · 者への口腔保持型自助具の設計 · 製作
安定した顎位を失っていることの多い脳性麻痺の患者に対し，顎顔面補綴学分野の知識を応用し口腔保持型自助具の設計 · 製作について。患者及び介助者による取扱の簡便さを追求した開発を目指す。

(3) 教育活動

担当科目：小児歯科学，口腔小児医学，障害者歯科学，障害と歯科医療

(4) 教育方針

生命誕生の発生過程の胎児期から，小児期，そして成人に至るまでのそれぞれの発育段階の理解と，その過程で生じる疾患や障害に対する理解を通して，口腔領域の健康の維持 · 増進に必要な診断法ならびに治療法，予防法，そして継続的な健康管理方法について，その理論と実践能力を修得させる。また，成育過程における社会や家庭などの児を取り巻く環境問題についても理解を深め，全人的医療を実践できる医療人育成を目指す。さらに，障害者歯科学，有病者歯科学についても理解を深め，将来予想されるさまざまな歯科医療状況に対応できる人材育成を目指す。

(5) 臨床活動および学外活動

歯学部附属病院において，小児歯科ならびに障害者歯科を担う。
岩本　勉：日本小児歯科学会専門医 · 専門医指導医，日本小児歯科学会常務理事 、
日本口蓋裂学会 · 認定師（小児歯科分野）
柿野　聡子：日本小児歯科学会専門医 · 専門医指導医
楠本　康香：日本障害者歯科学会認定医 · 認定医指導医 · 専門医
和田　奏絵：日本小児歯科学会専門医 · 専門医指導医，日本障害者歯科学会認定医
大石　敦之：日本小児歯科学会専門医
杉本　明日菜：日本小児歯科学会専門医，日本障害者歯科学会認定医
星合　泰治：日本障害者歯科学会認定医，日本顎顔面補綴学会認定医
長弘　茂樹：日本小児歯科学会専門医
小樋　香織：日本小児歯科学会専門医
岩淵　佑介：日本障害者歯科学会認定医
真藤　裕基：日本障害者歯科学会認定医

(6) 臨床上の特色

生涯を心身ともに健やかに過ごすために，小児期に健康意識，健康行動，口腔健康増進を育むことが大切になる。当科では，新生児期から成人になるまでの健康児，障害児，および有病児，すなわちすべての小児を対象に，下記の診療内容と育児支援を行っている。小児の歯科治療不安や恐怖を，小児の行動科学に基づき予防 · 軽減し診療を実施している。また，医学部附属病院との連携医療として、小児科病棟入院患者の口腔ケアや周術期管理も充実させ，オンライン診療の導入も進めている。周産女性診療科のマタニティクラスにおいては，妊婦や乳幼児への口腔ケア方法等の歯科指導を行っている。また，身体的，精神的，医学的，情緒的およびこれらの重複した障害のために，歯科医療上，通法治療に困難を伴う患者に適切な行動調整および全身管理を行いつつ，長期の口腔管理と咀嚼能力の改善を図る取り組みを行っている。種々の先天的，後天的な障害を有する患者に対しては成人後もライフステージに応じて顎口腔領域に後遺した機能的，形態的障害の再建 · 回復並びに長期にわたる保存を図ることを目的とする。

主な診療内容
1）う蝕 · 歯周疾患の予防 · 治療 · 管理
2）歯列 · 咬合育成
3）小児の歯 · 口腔の外傷処置
4）小児の顎関節症の治療
5）埋伏過剰歯 · 歯牙腫 · 含歯性嚢胞 · 粘液嚢胞などの摘出、
　上唇小帯 · 舌小帯の伸展術などの外科的治療
6）成長発達期の口腔筋機能訓練
7）欠損歯の補綴

(7) 研究業績

[原著]

1. Sugimoto A, Iwata K, Kurogoushi R, Tanaka M, Nakashima Y, Yamakawa Y, Oishi A, Yoshizaki K, Fukumoto S, Yamamoto A, Ishimaru N, Iwamoto T. C-terminus of PIEZO1 governs Ca(2+) influx and intracellular ERK1/2 signaling pathway in mechanotransduction. Biochemical and biophysical research communications. 2023.11; 682; 39-45

2. Yuta Chiba, Keigo Yoshizaki, Hiroshi Sato, Tomoko Ikeuchi, Craig Rhodes, Mitsuki Chiba, Kan Saito, Takashi Nakamura, Tsutomu Iwamoto, Aya Yamada, Yoshihiko Yamada, Satoshi Fukumoto. Deficiency of G protein-coupled receptor Gpr111/Adgrf2 causes enamel hypomineralization in mice by alteration of the expression of kallikrein-related peptidase 4 (Klk4) during pH cycling process. FASEB J. 2023.04; 37(4); e22861

3. Wada J, Wada K, Uctasli S, Wakabayashi N, Iwamoto T, Vallittu PK, Lassila L. Effect of splinting material type and location on resistance against deflection force of splinted periodontally compromised teeth with hypermobility. Journal of the mechanical behavior of biomedical materials. 2023.04; 142; 105873

4. Yao Fu, Kanako Miyazaki, Yuta Chiba, Keita Funada, Tomomi Yuta, Tian Tian, Kanji Mizuta, Jumpei Kawahara, Ling Zhang, Daniel Martin, Tsutomu Iwamoto, Ichiro Takahashi, Satoshi Fukumoto, Keigo Yoshizaki. Identification of GPI-anchored protein LYPD1 as an essential factor for odontoblast differentiation in tooth development. J Biol Chem. 2023.03; 104638

5. Junichiro Wada, Kanae Wada, Sufyan Garoushi, Akikazu Shinya, Noriyuki Wakabayashi, Tsutomu Iwamoto, Pekka K. Vallittu, Lippo Lassila. Effect of 3D printing system and post-curing atmosphere on micro- and nano-wear of additive-manufactured occlusal splint materials Journal of the Mechanical Behavior of Biomedical Materials. 2023.03; 142; 105799

6. Li Zhao, Kakino Satoko, Iwamoto Tsutomu. A Characteristic Analysis of the Pulse Transit Time to Dental Pulp: An Attempt at a New Approach to Dental Pulp Diagnoses Based on the Microcirculatory System Journal of Oral Health and Biosciences. 2023.03; 35(2); 61-70

7. Anrizandy Narwidina, Aya Miyazaki, Kokoro Iwata, Rika Kurogoushi, Asuna Sugimoto, Yasusei Kudo, Keita Kawarabayashi, Yoshihito Yamakawa, Yuki Akazawa, Takamasa Kitamura, Hiroshi Nakagawa, Kimiko Yamaguchi-Ueda, Tomokazu Hasegawa, Keigo Yoshizaki, Satoshi Fukumoto, Akihito Yamamoto, Naozumi Ishimaru, Tomonori Iwasaki, Tsutomu Iwamoto. Iroquois homeobox 3 regulates odontoblast

proliferation and differentiation mediated by Wnt5a expression. Biochem Biophys Res Commun. 2023.02; 650; 47-54

8. Fumiya Kano, Noboru Hashimoto, Yao Liu, Linze Xia, Takaaki Nishihara, Wakana Oki, Keita Kawarabayashi, Noriko Mizusawa, Keiko Aota, Takayoshi Sakai, Masayuki Azuma, Hideharu Hibi, Tomonori Iwasaki, Tsutomu Iwamoto, Nobuyasu Horimai, Akihito Yamamoto. Therapeutic benefits of factors derived from stem cells from human exfoliated deciduous teeth for radiation-induced mouse xerostomia. Sci Rep. 2023.02; 13(1); 2706

9. Shin Yujeong, Wada Kanae, Tsuchida Yumi, Ijbara Manhal, Ikeda Masaomi, Takahashi Hidekazu, Iwamoto Tsutomu. Wear behavior of materials for additive manufacturing after simulated occlusion of deciduous dentition JOURNAL OF THE MECHANICAL BEHAVIOR OF BIOMEDICAL MATERIALS. 2023.02; 138; 105627

10. Tomomi Yuta, Tian Tian, Yuta Chiba, Kanako Miyazaki, Keita Funada, Kanji Mizuta, Yao Fu, Jumpei Kawahara, Tsutomu Iwamoto, Ichiro Takahashi, Satoshi Fukumoto, Keigo Yoshizaki. Development of a novel ex vivo organ culture system to improve preservation methods of regenerative tissues. Sci Rep. 2023.02; 13(1); 3354

11. Junichiro Wada, Kanae Wada, Mona Gibreel, Noriyuki Wakabayashi, Tsutomu Iwamoto, Pekka K. Vallittu, Lippo Lassila. Effect of Surface Polishing on Physical Properties of an Occlusal Splint Material for Additive Manufacturing under Protection Gas Post-Curing Condition Polymers. 2023.01; 15(3); 625

12. Wada Kanae, Ijbara Manhal, Salim Nesreen A., Wada Junichiro, Iwamoto Tsutomu. Three-dimensional microscopic comparison of wear behavior between immature and mature enamel: an in vitro study BMC ORAL HEALTH. 2023.01; 23(1); 40

13. Zhao LI, Satoko KAKINO, Tsutomu IWAMOTO. A Characteristic Analysis of the Pulse Transit Time to Dental Pulp: An Attempt at a New Approach to Dental Pulp Diagnoses Based on the Microcirculatory System Journal of Oral Health and Biosciences. 2023.01; 35(2); 33-42

[書籍等出版物]

1. 鷹岡竜一，河井　聡，鎌田征之，稲垣伸彦. 臨床の玉手匣. デンタルダイヤモンド社, 2023.02 (ISBN : 978-4-88510-555-5)

[講演・口頭発表等]

1. Kanae Wada. Use of Bioactive Materials in the Paediatric Dentistry Clinic: From Prevention to Rehabilitation. 29 Congresso Brasileiro de Odontopediatria 2023.10.21 Brazil, Rio de Janeiro

2. Merve Uctasli, Mine Betul Uctasli, Kanae Wada, Junichiro Wada, Lippo Lassila. Surface Topography of Different Types of CAD/CAM Restorative Materials. 2023 CED/NOF –IADR Oral Health Research Congress 2023.09.21 Rhodes, Greece

3. Kokoro Iwata, Rika Kurogoushi, Tsutomu Iwamoto. von Willebrand factor D and EGF domains regulates ameloblast differentiation, abnormalities of which result in enamel cracks . International Association of Pediatric Dentistry 2023 2023.06.16

4. Rika Kurogoushi, Kokoro Iwata, Tsutomu Iwamoto. Regulation of cytokine expression by FGF2 in dental pulp-derived mesenchymal stem cells and a consideration on relevance to inflammation and regeneration. IAPD Congress 2023 2023.06.16 Maastricht, The Netherlands

5. Merve Uctasli, Kanae Wada, Junichiro Wada, Lippo Lassila, Mine Betul Uctasli. Surface morphology hybrid ceramic material after different etching protocol. The 7th International Congress on Adhesive Dentistry 2023.06.03 Konya, Turkey

6. Manami Tanaka,Asuna Sugimoto,Yumiko Nakashima,Rei Takenaga,Tsutomu Iwamoto. Odontogenic maxillary sinusitis caused by deciduous molar: A Case Report . 2023.05.18

7. Anrizandy Narwidina, Aya Miyazaki, Kokoro Iwata, Rika Kurogoushi, Tomonori Iwasaki, Tsutomu Iwamoto. Iroquois 3 plays an essential role in odontogenesis. Genome Scientific Conference 2023.02.14 Australia

8. Kanae Wada . Nano-mechanical Properties of Primary Molar Enamel with Enamel Hypoplasia, Early Enamel Demineralized and Sound Enamel. 4th Turku Midwinter Meeting 2023.02.03

1. 岩淵 佑介 , 楠本 康香 , 岩本 勉. Streptococcus mutans の産生するメンブレンベシクルの性質に及ぼす pH の影響. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02

2. 岩淵 佑介, 楠本 康香, 相田 貴絵, 林 佳奈, 鈴木 朋, 星合 泰治, 中村 盛幸, 渡邊 麻里子, 星合 愛子, 篠塚 修, 樺沢 勇司, 前田 茂, 岩本 勉. 齲蝕が感染源となり感染性心内膜炎を発症したダウン症候群患者の 1 例. 第 40 回日本障害者歯科学会 2023.11.11

3. 武永 嶺，和田奏絵，大石敦之，杉本明日菜，小樋香織, 岩田こころ，黒厚子璃佳，岩本 勉. 小児歯科の未来 · 人工知能の予測とわれわれの予測の比較. 日本小児歯科学会　第 38 回関東地方会 2023.10.01 川口市

4. 岩田こころ, 岩本　勉. 歯の硬組織形成における細胞外マトリックス分子の機能. 小児歯科学会第 38 回関東地方会大会 2023.10.01 川口総合文化センター · リリア

5. 黒厚子璃佳, 岩本　勉. 上顎第一大臼歯に生じた双生歯の 1 例. 第 38 回日本小児歯科学会関東地方会 2023.10.01 埼玉県川口市

6. 平和田智佳, 楠本康香, 岩淵祐介, 真藤祐基, 爲永里紗, 杉本明日菜, 岩田こころ, 黒厚子璃佳, 井上佳怜, 田中眞実, 武永嶺, 相田貴絵, 篠塚修, 前田茂, 岩本 勉. 当院障害者歯科における近年の初診患者の実態調査. 日本障害者歯科学会総会および学術大会プログラ ム · 抄録集 2023.10.01

7. 井上佳怜, 杉本明日菜, 黒厚子璃佳, 和田奏絵, 岩本　勉. 粘膜下口蓋裂を伴う Hajdu Cheney Syndrome の 1 例. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.26 一橋講堂

8. 岩田こころ, 岩本　勉. エナメル芽細胞の分化初期に発現する Vwde による細胞-細胞間, 細胞-細胞外基質間接着の発現制御機構の解析. 第 61 回日本小児歯科学会大会 2023.05.19 出島メッセ長崎

9. 小樋香織，和田奏絵，中島結美子，山中柚衣香，岩本勉. 切削加工によって製作した審美性を考慮した可撤保隙装置を装着した 1 例. 第 61 回日本小児歯科学会大会 2023.05.18 出島メッセ長崎

10. 新田 瑠璃子, 大石 敦之, 内藤 悠, 岩田 こころ, 黒厚子 璃佳, 山本 奏, 岩本 勉. 当院 · 小児歯科へ来院する初診患者の実態調査. 第 61 回　日本小児歯科学会大会 2023.05.18

11. 黒厚子 璃佳，田中 眞実，中島 結美子，岩本 勉. 下顎左側第二乳臼歯に生じた歯根嚢胞の 1 例. 第 61 回日本小児歯科学会大会 2023.05.18 長崎

12. 井上 佳怜, 杉本 明日菜, 黒厚子 瑠佳, 和田 奏絵, 岩本 勉. 粘膜下口蓋裂を伴う Hajdu-Cheney Syndrome の 1 例. 日本口蓋裂学会雑誌 2023.04.01

13. 岩田 こころ, 岩本 勉. von Willebrand factor D and EGF domains(Vwde) の異常は歯冠破折をもたらす. 口腔病学会雑誌 2023.03.01

14. 中尾 龍馬, 岩淵 佑介, 川原 一芳, 明田 幸宏, 大西 真. プロバイオティクス大腸菌キメラ由来メンブレンヴェシクルによる莢膜保有病原体に対するワクチン. 日本細菌学雑誌 2023.02.01

15. 幸平 若奈, 北村 尚正, 黒厚子 璃佳, 岩本 勉, 岩崎 智憲. 先天性表皮水疱症の小児で, 歯肉炎の治療に難渋した一例. 小児歯科学雑誌 2023.02.01

[受賞]

1. SHOFU AWARD（小樋香織）, 第 61 回日本小児歯科学会大会, 2023 年 05 月

2. 第 61 回日本小児歯科学会大会「若手の会　最優秀発表賞」田中　眞実, 2023 年 05 月

3. Prof. Dr. Fatma KORAY Award, The 7th International Congress on Adhesive Dentistry (Mine Betul Uctasli), 2023 年 06 月

[その他業績]

1. 文部科学省科学研究費助成金　基盤研究（B）代表, 2023 年
「細胞—細胞間および細胞—細胞外コミュニケーションによる器官形成メカニズムの解読」課題番号 20H03898
2020-2022 年度　研究代表者　岩本　勉

2. 文部科学省/日本学術振興会：国際共同研究強化 B , 2023 年
先天性頭頸部—心臓—上肢疾患解明に向けたエピゲノム因子の制御機構の理解 2022 年〜2024 年　岩田こころ

3. 文部科学省/日本学術振興会：研究活動スタート支援, 2023 年
von Willebrand factor D and EGF domain の歯の発生段階における役割解明　2022 年〜2023 年　岩田こころ

4. 文部科学省/日本学術振興会：研究活動スタート支援, 2023 年 S.mutans の membrane vesicles を対象とした感染性心内膜炎の予防法の開発　2022 年〜2023 年　岩淵佑介, 2023 年

5. 和田奏絵 · 乳歯修復に適した CAD/CAM 治療用デジタル歯科材料の摩耗の検討, 2023 年 03 月
スカンジナビア · ニッポン ササカワ財団, 研究助成，202204-202303

6. 科学研究費助成事業　若手研究, 2023 年 04 月
22k17247 可撤保隙装置製作におけるフルデジタル化ならびに機能形態付与の新たなシステム構築（小樋香織）
補助事業期間：令和 4 年度〜令和 6 年度

7. 杉本明日菜：科学研究費助成事業　若手研究, 2023 年 04 月
細胞外圧環境を融合した新規リプログラミング法の開発 /23K16178/2023-2024

8. 黒厚子璃佳：科学研究費助成事業 2022 年度 研究活動スタート支援, 歯の再生を目指したスーパーエンハンサーの同定と機能解析/ 22K21033/ 2022 年度‐ 2023 年度, 2023 年 04 月

9. 科学研究費助成事業　若手研究,2023 年 唾液腺の発生期に副交感神経が筋上皮細胞の分化に及ぼす作用の検討　2022-2024 年　真藤裕基, 2023 年 04 月

10. 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））,2023 年 唾液腺発生における神経-器官相互作用の分子機構の解明と機能再生技術への応用 2021-2025 年 研究分担者　真藤裕基, 2023 年 10 月

11. 歯の延命に貢献する大気圧低温プラズマを用いた安全な歯根の新規洗浄 · 殺菌法の開発（大石敦之）, 2023 年 12 月
東京医科歯科大学 · 東京工業大学マッチングファンド

[社会貢献活動]

1. 調布市歯科医師会小島町歯科診療所　指導医（楠本　康香）, 2007 年 04 月 01 日 - 現在

2. 日本小児歯科学会関東地方会モニター委員（大石敦之）, 日本小児歯科学会関東地方会, 2020 年 01 月 01 日 - 現在

3. 和田奏絵 · 日本小児歯科学会男女共同参画委員会小児歯科医連携協力ネットワーク委員, 日本小児歯科学会, 2021 年 06 月 01 日 - 現在

4. 和田奏絵 · 東京都こどもスマイルムーブメント, 東京都 · 官民推進チーム, 妊婦や親子に向けて「お口のこと」を発信する小児歯科, 2022 年 03 月 - 現在

5. 館林邑楽歯科保健医療センター指導医（岩淵佑介）, 一般 社団法人館林邑楽歯科医師会, 群馬県館林市苗木町字南近藤 2622-1, 2022 年 04 月 01 日 - 現在

6. 東京都八南歯科医師会障害者歯科八王子市診療所指導医（岩淵佑介）, 公益社団法人東京都八南歯科医師会, 2023 年 04 月 01 日 - 現在

7. 館林邑楽歯科保健医療センター 指導医（真藤裕基）, 一般 社団法人館林邑楽歯科医師会, 群馬県館林市苗木町字南近藤 2622-1, 2023 年 4 月 01 日 - 現, 2023 年 04 月 01 日 - 現在

咬合機能矯正学

Orthodontic Science

教　　授　小野卓史
准 教 授　細道純
講　　師　松本芳郎
助　　教　渡一平、米満郁男、石田雄之、臼見莉沙
特任助教　加藤千帆、大森浩子、間邊安寿雅
医　　員　石原聖子、石崎愛子、三上直晃、田中裕香（快眠）
大学院生　高田愛子、濱田義之
Alsulaili Ahmad F J M SH（クウェート、私費留学生）
Dong Thi Kim（ベトナム、国費留学生）
Lou Yixin（中国、国費留学生）、石塚啓太、三澤英里
Li Ruixin（中国、私費留学生）、黄淳碩
菅浩（中国、国費留学生）、Sun Weiqian（中国、私費留学生）
赤倉正人、岩木舜太郎、鈴木拓望、谷川萌、外山奈緒美
Jiratchaya Srisutha（JDP 留学生）
Kim Doyoon（韓国、国費留学生）、Qi Jia（中国、国費留学生）
久保順沙、桑原里佳、和田緑、毛呂愛香
石坂瑠音、河崎万鈴、菊池仁香
木下佑理、武内優、渡辺美南
Chen Yaosen、Korkuan Jariyatheerawong(JDP 留学生）
青柳佳斉、稲葉はる香、中村圭吾、南部歩乃佳
浜原健太、久田桃歌、Liu Mengke

大学院研究生　清水千代、中野夢実、綿屋早織
杉田伊織、溝口縁
田口元貴、渡邊真由華
伊藤慶顕、三石咲希奈

(1)　分野概要

咬合機能矯正学は、歯科矯正学はもとより、関連臨床分野との連携に基づき、顎顔面頭蓋と全身の諸構造とが均衡のとれた状態で咬合機能を発育させ、また病態もしくはそれに移行する咬合状態を矯正し、さらに増齢に伴う最適な機能を獲得維持させるような制御の機構の解明と医療技術の開発を追求する臨床歯学の一分野である。

(2)　研究活動

本分野では、主に以下のテーマを研究対象としている。

1) 咬合機能に関する生力学的研究
　不正咬合の客観的評価方法の確立や正常咬合の生物学的意義とその科学的根拠の解明を目的として、主に計算力学的手法を適用した生力学的検討を推し進めている。その結果、咬合することによりかかるエネルギーを指標とした咬合状態の定量的評価法、および流体力学的手法により咀嚼時の食塊の流れからみた咀嚼機能評価法を確立した。また、咀嚼時における下顎第一大臼歯の変位の食塊破壊に対する意義を検討した。さらに、実際に摂取される食品の物理的性状を測定し、これに併せて不正咬合患者に対して食品摂取アンケートを実施することによ

り、咀嚼機能を客観的および主観的の両面から評価している。くわえて、下顎側方偏位症例の顎関節症状について臨床的調査を行い、その発症メカニズムについて、上下顎骨 · 歯列 · 顎関節構造からなる稠密なシミュレーションモデルを構築することにより、生力学的に検証している。

2) 矯正力 · 咬合力に対する生物学的反応と機能的適応に関する研究
矯正力 · 咬合力に対する生物学的反応ならびに機能的適応を明らかにすることを目的として、形態学的、酵素 · 免疫組織化学的、分子生物学的ならびに電気生理学的解析を進めている。その結果、咬合機能低下による歯根膜における機械受容器、血管、細胞外マトリックス、一酸化窒素、神経ペプチドの変化や歯槽骨の変化を明らかにした。さらに、機能回復による影響も明らかにした。歯の移動に関して、矯正力の大きさ、作用様式 · 時間の違いや咬合力の影響、さらにオステオポンチン、Cbfa1、レプチン、PTH、インスリンの関与を解明した。また、機械的刺激の大きさや時間の違いによる歯根膜細胞および骨系細胞の反応や各種遺伝子発現に及ぼす影響を明らかにした。

3) 歯の自家移植の術式の開発と矯正臨床への応用
成功率の高い根完成歯の自家移植の術式の開発を目的として、組織化学的、分子生物学的手法を用い、移植歯歯根膜の治癒のメカニズムについて検討してきた。その結果、適切な時期に与えられる咬合刺激が歯根膜細胞の増殖活性を高め、さらには、一酸化窒素や神経ペプチドを介しての移植歯の歯根吸収や骨性癒着が抑制されることを明らかにした。また、移植前における移植歯への矯正力の負荷と移植後の歯根膜治癒との関連性についても明らかにした。

4) 不正咬合と顎関節に関する研究
不正咬合と顎関節との関連を解明することを目的として、酵素 · 免疫組織化学的、生力学的、電気生理学的解析を進めている。下顎骨偏位や咬筋切除による咬合力低下が、顎関節の形態ならびに機能変化を引き起こすことを明らかにした。また、それらの咬合状態の変化に対する顎関節受容器や咀嚼筋筋紡錘の適応についても見出してきた。さらに、歯根膜機械受容器から咀嚼筋、頚部筋群への反射機構について明らかにした。
くわえて、多因子性疾患である顎関節症発症のメカニズムを解明することを目的として、分子生物学的手法を用い、エストロゲンやその他の因子と滑膜炎症との関連性について明らかにした。

5) 咬合の変化および増齢に伴う歯 · 頭蓋顎顔面の形態と機能の変化に関する研究
成長発育を含めた歯 · 頭蓋顎顔面の形態と機能の増齢変化を解明することを目的として、免疫組織化学的、分子生物学的手法、電気生理学的手法を用い、歯根膜機械受容器の応答性や歯肉血管網の増齢変化を解明してきた。一方、生理学的手法を用いて、非作業側の側頭筋活動に対する作業側臼歯部歯根膜機械受容器の役割、小臼歯部の咬合状態と咬合力との関連を明らかにしてきた。また、開咬症例における歯の動揺度や咀嚼筋筋活動の変化を検討している。動物においては、咬合高径を変化させたときの閉口筋筋紡錘応答特性の変化や、下顎を側方偏位させたときの、左右顎関節機械受容器の応答特性の変化を検討している。さらに、機械受容器の成長発育についての検討も行っている。

6) 頭蓋顎顔面と全身との関連に関する研究
頭蓋顎顔面の形態ならびに機能の形成 · 維持と全身の形態ならびに機能との関連性を解明することを目的として、下顎骨偏位患者や外科的矯正治療患者における治療前後の体重心動揺様相の変化、咬みしめ時の胸鎖乳突筋にみられる筋疲労、咀嚼時の下顎運動に伴う頭頚部の能動的運動の存在、歯根膜機械受容器および顎関節機械受容器の入力による頚部モーターユニットの活動を明らかにしてきた。また、咀嚼時の下顎運動に伴う頭部運動と食品性状との関連の解析、下顎運動時における頭頚部有限要素モデルの作製とその動解析も行っている。

7) 歯科材料学の矯正臨床への応用
より安全で効率のよい矯正歯科治療の術式を開発することを目的として、超弾性型チタンニッケル合金ワイヤーの改良およびその臨床応用、それらの生物学的、生力学的背景について検討してきた。また、コイルスプリングの改良、チタンニッケル合金と異種合金との接合法開発および臨床応用、中空型の超弾性型チタンニッケル合金ワイヤーの開発および臨床応用を行ってきた。さらに、チタンニッケル合金角型ワイヤーの振動減衰能に着目した材料力学的、生物学的ならびに生力学的検討、矯正用接着材および前処理方法の改良も進めている。

8) 睡眠呼吸障害の病態生理学的研究
睡眠呼吸障害と頭蓋顎顔面の形態ならびに機能との関連を解明することを目的として、睡眠時無呼吸症候群をはじめとする睡眠呼吸障害を呈する小児および成人矯正治療患者における矯正治療前後における睡眠状態と睡眠中の呼吸機能ならびに身体機能の変化について明らかにしてきた。また、成長期の睡眠呼吸障害における慢性的間欠的低酸素血症と頭蓋顎顔面の成長遅延および生理機能の障害との関連について解明することを目的に、睡眠呼吸障害の病態モデル動物をもとに、骨形態計測学的、組織学的および分子生物学的手法を用い、疾患の分子病態の解析を進めている。

9) 呼吸機能の頭蓋顎顔面および全身との関連に関する研究
　頭蓋顎顔面さらには全身の形態ならび機能の形成・維持と呼吸機能との関連性を解明することを目的として、成長期不正咬合患者や外科的矯正治療患者における治療前後の顎顔面形態と呼吸機能、身体機能の変化について、生理学的に明らかにしてきた。また、成長発育を含めた頭蓋顎顔面の増齢変化への呼吸機能の関与を生物学的観点から解明することを目的に、病態モデル動物をもとに、免疫組織化学的、分子生物学的手法、電気生理学的手法を用い、解析を進めている。

(3) 教育活動

担当科目：
咬合機能矯正学、不正咬合病態学、機能適応生物学

(4) 教育方針

顎顔面頭蓋と全身の諸構造とが均衡のとれた状態で咬合機能を発育させ、また病態もしくはそれに移行する咬合状態を矯正し、さらに増齢に伴う最適な機能を獲得維持させるような制御の機構と方法を下記の項目に分けて教授する。

咬合機能矯正学
1) 不正に陥っている咬合系の生理学的機構を病態学的に解説し、矯正歯科治療に関する科学的根拠の理解を深める。
2) 咬合力や矯正力等の外力に対する咬合系の反応性と適応性について、また、増齢に伴うそれらの変化についても解説し、生物現象への関心を高める。
3) 矯正歯科治療を主とする咬合系の形態や機能を制御する術式について、生力学的ならびに材料学的に解説し、術式開発への意識向上を図る。
4) 矯正歯科治療に対する歯科医師が考える必要度と、一般人が考える要求度について解説し、社会歯科学の認識を高める。

不正咬合病態学
　咬合に関与する機能と形態の変異を増齢に伴って把握し、不正咬合の位置づけとその病態としての客観的な認識について、生理学、生力学、生物学および社会学の見地から教育を行う。

機能適応生物学
　咬合を中心とした環境的な制御を目的として、矯正刺激を付与した際に惹起される、増齢要素を含めた生物学的な応答過程を、一次的な反応性と二次的な適応性とから、その機構について教育を行う。

(5) 臨床活動および学外活動

臨床活動
　本分野では、材料および治療技術を開発することにより、常に世界に先駆けて矯正歯科治療技術の二大転換期をリードしてきた。すなわち、矯正用ブラケットを歯に直接つける接着方法を開発することによる、古くから用いられてきた矯正用バンドを用いない治療システムを展開してきた。またステンレススチールなどの剛性の高いワイヤーを用いる治療から、超弾性型のチタンニッケル合金ワイヤー、さらには近年開発した改良超弾性型チタンニッケル合金角型ワイヤーを用いることにより、弱い持続的な矯正力で効率よく安全に行う画期的な治療技術を発展させてきた。その結果、矯正歯科治療単独では限界と考えられていた数多くの難症例に対しても良好な臨床成績を収めている。一方、不正咬合の病態生理を解明することにより、矯正歯科治療の必要性を裏付ける科学的根拠を明らかにし、さらには研究結果をいち早く臨床にフィードバックさせることにより、新たな術式開発を目指している。
　大学院生には、基礎研究の他に卒後臨床教育カリキュラムに則って、歯科矯正学の高度な専門知識と診療態度および技能を習得させ、論理的思考力を研鑽していくことにより、臨床研究者となる次世代のリーダーを育成している。大学院卒業後もグループ診療体制により、多角的な視点から診療を行っている。

(6) 臨床上の特色

本分野の臨床活動は、主に以下の臨床上の特色をもつ。

1) 改良超弾性型チタンニッケル合金ワイヤーを用いた矯正歯科治療
本分野で自主開発した、衝撃吸収能、振動減衰特性、耐摩耗性の特性を持つ改良超弾性型チタンニッケル合金ワイヤーを用いて、弱い持続的な矯正力で効率よく安全に行う画期的な矯正歯科治療を提供する。

2) 関連分野との連携による包括的歯科診療
唇顎口蓋裂やその他の先天性疾患、顎変形症、顎機能異常、歯周疾患等を有する症例や、埋伏歯、欠損歯を伴う症例に対する歯の移植、さらには矯正治療用のインプラント固定源等において、関連分野との連携により包括的歯科治療を提供する。

(7) 研究業績

[原著]

1. Haruki Imai, Yosuke Yamashita, Hikaru Takasu, Koichi Fujita, Takashi Ono, Makoto Hirota, Kenji Mitsudo. Accuracy and influencing factors of maxillary and mandibular repositioning using pre-bent locking plates: a prospective study. Br J Oral Maxillofac Surg. 2023.12; 61(10); 659-665

2. Eri Misawa-Omori, Hidemasa Okihara, Takuya Ogawa, Yasunori Abe, Chiho Kato, Hideyuki Ishidori, Akiyo Fujita, Satoshi Kokai, Takashi Ono. Reduced mastication during growth inhibits cognitive function by affecting trigeminal ganglia and modulating Wnt signaling pathway and ARHGAP33 molecular transmission Neuropeptides. 2023.08;

3. Hao Guan, Ikuo Yonemitsu, Yuhei Ikeda, Takashi Ono. Reversible Effects of Functional Mandibular Lateral Shift on Masticatory Muscles in Growing Rats. Biomedicines. 2023.07; 11(8); 2126

4. Cangyou Xie, Fatma Rashed, Yosuke Sasaki, Masud Khan, Jia Qi, Yuri Kubo, Yoshiro Matsumoto, Shinichi Sawada, Yoshihiro Sasaki, Takashi Ono, Tohru Ikeda, Kazunari Akiyoshi and Kazuhiro Aoki. Comparison of Osteoconductive Ability of Two Types of Cholesterol-Bearing Pullulan (CHP) Nanogel-Hydrogels Impregnated with BMP-2 and RANKL-Binding Peptide: Bone Histomorphometric Study in a Murine Calvarial Defect Model 2023.06; 24(11);

5. Ruixin Li, Chiho Kato, Akiyo Fujita, Yasunori Abe, Takuya Ogawa, Hideyuki Ishidori, Eri Misawa, Hidemasa Okihara, Satoshi Kokai, Takashi Ono. Effect of Obesity on Masticatory Muscle Activity and Rhythmic Jaw Movements Evoked by Electrical Stimulation of Different Cortical Masticatory Areas. J Clin Med. 2023.06; 12(11);

6. Sasin Sritara, Yoshiro Matsumoto, Yixin Lou, Jia Qi, Jun Aida, Takashi Ono. Association between the Temporomandibular Joint Morphology and Chewing Pattern. Diagnostics (Basel). 2023.06; 13(13);

7. Takashi Ono. Pediatric obstructive sleep apnea: Insights and current research Seminars in Orthodontics. 2023.06; 29(2); 204-206

8. Wenqian Sun, Hidemasa Okihara, Takuya Ogawa, Hideyuki Ishidori, Eri Misawa, Chiho Kato, Takashi Ono. Pre-Adolescent Diet Normalization Restores Cognitive Function in Young Mice. J Clin Med. 2023.05; 12(11);

9. Takumi Suzuki, Jun Hosomichi, Naoyuki Miyasaka, Yasunari Miyazaki, Atsuko Taki, Takashi Zaitsu, Chikako Morioka, Noriko Sato, Manaka Moro, Takashi Ono. Characteristics of obstructive sleep apnea among pregnant Japanese woman and their birth outcomes SLEEP. 2023.05; 46; A229

10. Karin Harumi Uchima Koecklin, Chiho Kato, Yasunori Abe, Tadachika Yabushita, Satoshi Kokai, Takashi Ono. Histological and contractile changes in the genioglossus muscle after nasal obstruction in growing rats. Sci Rep. 2023.04; 13(1); 6245

11. Naoaki Mikami, Ikuo Yonemitsu, Hiroshi Takemura, Mark Kondou, Kouhei Soga, Kazuhiro Suga, Zuisei Kanno, WeiJen Lai, Motohiro Uo, Takashi Ono. Mechanical analysis of the improved superelastic Ni-Ti alloy wire using the orthodontic simulator with high-precision sensors Journal of the Mechanical Behavior of Biomedical Materials. 2023.04; 142; 105861

12. Saranya Serirukchutarungsee, Ippei Watari, Masataka Narukawa, Katarzyna Anna Podyma-Inoue, Pornchanok Sangsuriyothai, Takashi Ono. Two-generation exposure to a high-fat diet induces the change of salty taste preference in rats. Sci Rep. 2023.04; 13(1); 5742

13. Seiko Ishihara, Risa Usumi-Fujita, Yuki Kasahara, Shuji Oishi, Kana Shibata, Yasuhiro Shimizu, Yuji Ishida, Sawa Kaneko, Makoto Sugiura-Nakazato, Makoto J Tabata, Jun Hosomichi, Yoshiaki Taniyama, Takashi Ono. Periostin splice variants affect craniofacial growth by influencing chondrocyte hypertrophy. J Bone Miner Metab. 2023.03; 41(2); 171-181

14. Lou Yixin, Matsumoto Yoshiro, Iseki Sachiko, Ono Takashi. Difference in apical resorption activity during rat molar root formation in response to mechanical force EUROPEAN JOURNAL OF ORTHODONTICS. 2023.02;

15. Albert Chun-Shuo Huang, Yuji Ishida, Kai Li, Duantawan Rintanalert, Kasumi Hatano-Sato, Shuji Oishi, Jun Hosomichi, Risa Usumi-Fujita, Hiroyuki Yamaguchi, Hiroyuki Tsujimoto, Aiko Sasai, Ayaka Ochi, Hajime Watanabe, Takashi Ono. NF-κB Decoy ODN-Loaded Poly(Lactic-co-glycolic Acid) Nanospheres Inhibit Alveolar Ridge Resorption. Int J Mol Sci. 2023.02; 24(4); 3699

16. Saranya Serirukchutarungsee, Ippei Watari, Pornchanok Sangsuriyothai, Masato Akakura, Takashi Ono. The Effect of Two-Generation Exposure to a High-Fat Diet on Craniofacial Morphology in Rats. J Clin Med. 2023.02; 12(5); 1903

17. Wirongrong Wongkitikamjorn, Eiji Wada, Jun Hosomichi, Hideyuki Maeda, Sirichom Satrawaha, Haixin Hong, Ken-Ichi Yoshida, Takashi Ono, Yukiko K Hayashi. Metabolic dysregulation and decreased capillarization in skeletal muscles of male adolescent offspring rats exposed to gestational intermittent hypoxia. Front Physiol. 2023.01; 14; 1067683

[書籍等出版物]

1. 西井康，新井一仁，小野卓史，須田直人，友成博，不島健持，槇宏太郎，本吉満，森山啓司，山口徹太郎 編集. 歯科矯正学エッセンシャルテキスト. 永末書店, 2023.02 (ISBN：978-4-8160-1422-2)

[総説]

1. Takashi Ono, Valmy Pangrazio-Kulbersh, Letizia Perillo, Flavia Artese, Ewa Czochrowska, M Ali Darendeliler, Steven Dugoni, William E Fayad Bajaire, Eric Liou, Jae Hyun Park, David Rice, Abbas Zaher, Athanasios E Athanasiou, Lee W Graber, Nikhilesh R Vaid. World Federation of Orthodontists guidelines for postgraduate orthodontic education. J World Fed Orthod. 2023.04; 12(2); 41-49

2. Ikuo Yonemitsu, Shusaku Ozaki, Takashi Ono. The Improved Superelastic Ni-Ti Alloy Wire in Orthodontic Treatment: Characteristics and Clinical Application SEMINARS IN ORTHODONTICS. 2023.03; 29(1); 43-50

[講演・口頭発表等]

1. Saori Wataya,Takashi Ono. Involvement of maxillary occlusal plane inclination on postoperative relapse in patients with facial asymmetry. The 56th Annual Scientific Congress Of Korean Association Of Orthodontists 2023.10.25 Jeju Island Korea

2. Yuri Kinoshita, Keiko Fukino, Yoshiro Matsumoto, Joe Iwanaga, Takashi Ono, Keiichi Akita. Structure of the muscle layers and direction of the muscle bundles in the soft palate for clarification of the velopharyngeal closure. oint Congress of European Association of Clinical Anatomy (EACA) and International Symposium of Clinical and Applied Anatomy (ISCAA) 2023.09.14 Carolinum, Prague

3. Jia Qi, Yoshiro Matsumoto, Cangyou Xie, Fatma Rashed, Takashi Ono , Kazuhiro Aoki. Local delivery of bone anabolic agents protects the thin alveolar bone in the murine mechanical orthodontic force model. The 41st Annual Meeting of the Japanese Society for Bone and Mineral Research 2023.07.27 Tokyo

4. Shuntaro Iwaki, Ikuo Yonemitsu, Makoto Tabata, Mirei Keitoku, Takashi Ono . Unilateral nasal obstruction and nitric oxide mediate reversible morphological and phenotypic changes in masticatory muscles in growing rats. 2023 Annual Congress of the European Orthodontic Society 2023.06.11 Oslo, Norway

5. Takumi Suzuki, Jun Hosomichi, Naoyuki Miyasaka, Yasunari Miyazaki, Atsuko Taki, Takashi Zaitsu, Manaka Moro, Chikako Morioka, Noriko Sato, Takashi Ono. Characteristics of obstructive sleep apnea among pregnant Japanese woman and their birth outcomes.. SLEEP 2023 2023.06.05 Indiana, USA

6. MoeTanigawa, Chiho Kato, Takashi Ono, Naofumi Uesaka. Effects of unilateral nasal obstruction during the growth period on cerebellar neural circuit and function. The 100th Anniversary Annual Meeting of The Physiological Society of Japan 2023.03.11 Kyoto, Kyoto

1. 三澤英里, 加藤千帆, 小川卓也, 小海暁, 石通秀行, 藤田秋世, 小野卓史. 成長期咀嚼刺激低下が三叉神経節、Wnt signaling pathway および ARHGAP33 の分子伝達に与える影響について. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.01 東京

2. 細道純, 小野卓史. 埋伏第三大臼歯を活用して咬合平面を変化させ外科的矯正治療の手術負担を軽減した 2 症例. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.02 新潟市

3. 赤倉正人, 小野卓史. 2 型糖尿病モデルマウスにおける顎下腺 GLP-1 受容体発現に関する予備的研究. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.02 新潟市

4. 間邊安寿雅, 小野卓史. Antegonial notch の形態解析から顔面形態の成長予測は可能か？ . 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.02 新潟市

5. 三上直晃, 米満 郁男, 竹村 裕, 頼 威任, 簡野 瑞誠, 宇尾 基弘, 小野 卓史. 高精度 Orthodontic simulator 用いた空隙閉鎖時における改良型超弾性 Ni-Ti 合金ワイヤーの力学的解析. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.02 新潟市

6. . 米満郁男, 間邊安寿雅, 小野卓史. 成長期下顎側方偏位に対して計画的に decompensation し機能的矯正装置を用いることで顔面の対称性を得た一症例. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.02 新潟市

7. 今井治樹, 藤田紘一, 石通秀行, 間邊安寿雅, 本田康二, 清水千代, 米満郁男, 廣田誠, 光藤健司, 小野卓史. 顎矯正手術計画立案時の CT· 歯列位置合わせ誤差検証：メタルアーチファクトによる影響.. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.02 新潟市

8. 田中裕香, 小野卓史. ポリロタキサン表面のゼータ電位および分子可動性はマクロファージ免疫応答に影響を与えるか. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.02 新潟市

9. 加藤千帆, 渡一平, 小野卓史. 下顎第二大臼歯抜歯に伴う第三大臼歯排列による歯槽骨吸収及び歯根吸収へ与える臨床的特徴. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.02 新潟市

10. 本田康二, 岩井俊憲, 矢島康治, 南山周平, 村田正人, 光藤健司. Le FortI 型骨切り時に経上顎洞底的歯根端切除術を行った大臼歯歯根嚢胞を有する顎変形症患者の 1 例. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.02 新潟市

11. 藤田秋世, 小野卓史. シート状グミを用いた舌トレーニングが閉塞性睡眠時無呼吸に与える影響. 第 22 回日本睡眠歯科学会総会 · 学術集会 2023.10.07 京都市

12. 武内優, 細道純, 前田秀将, Hong Haixin, Chidsanu Changsiripun, 小野卓史. 乳児期の間欠的低酸素曝露がもたらす学習記憶機能障害および行動変容の分子病態の解明. 日本睡眠学会第 45 回定期学術集会 · 第 30 回日本時間生物学会学術大会合同大会 2023.09.15 横浜市

13. 吹野恵子, 木下佑理, 小野卓史, 岩永譲, 秋田恵一. 口蓋咽頭筋の形態学的解析から筋が中咽頭形態に与える影響を考える. 日本睡眠学会第 45 回定期学術集会 · 第 30 回日本時間生物学会学術大会合同大会 2023.09.15 横浜市

14. 田中崇嗣, 臼見莉沙, 米満郁男, 鈴木康弘, 河邊浩明, 堤剛, 小野卓史. 骨格性下顎前突患者の術前後における睡眠呼吸動態の変化、手術安定性と口蓋扁桃肥大との関連. 日本睡眠学会第 45 回定期学術集会 · 第 30 回日本時間生物学会学術大会合同大会 2023.09.15 横浜市

15. 鈴木拓望, 細道純, 小野卓史. 日本人妊婦の閉塞性睡眠時無呼吸症の病態と出生児への影響. 第 47 回日本女性栄養 · 代謝学会学術集会 2023.08.24 岡山市

16. 石塚啓太, 加藤千帆, 小野卓史. 先天性欠如を伴う晩期残存下顎第二乳臼歯の歯根長に影響を与える因子の解明: 横断的研究. 第 82 回東京矯正歯科学会学術大会 2023.07.13 東京

17. 高田愛子, 石井知浩, 中浜健一, 浅野豪文, 小野卓史, 中田隆夫. オプトジェネティクスを用いた破骨細胞分化の光制御. 第 75 回日本細胞生物学会大会 2023.06.28 奈良市

18. 間邊 安寿雅, 小野 卓史. 成長期に矯正歯科治療を行った下顎前突症患者における成長後の治療法選択予測因子. 第 33 回日本顎変形症学会総会 · 学術大会 2023.06.08 東京

19. 小野 卓史. 顎変形症治療に伴う呼吸機能の変化　An Overview. 第 33 回日本顎変形症学会総会 · 学術大会 2023.06.08 東京

20. 綿屋 早織, 米満 郁男, 臼見 莉沙, 小野 卓史. 顔面非対称患者の術後後戻りに対する上顎咬合面傾斜の関与. 第 33 回日本顎変形症学会総会 · 学術大会 2023.06.08 東京

21. 外内 えり奈, 森田 圭一, 原園 陽介, 小川 卓也, 森山 啓司, 米満 郁男, 小野 卓史, 依田 哲也. 口蓋形成術後の咬合状態に関する検討. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術大会 2023.05.25 東京

22. 中野 夢実, 財津 崇, 相田 潤, 米満 郁男, 小野 卓史. 口臭測定結果の告知による矯正歯科治療患者におけるブラッシングモチベーションの変化. 第 72 回口腔衛生学会学術大会 2023.05.19 東京

23. 中野夢実, 財津崇, 相田潤, 米満郁男, 小野卓史. 矯正歯科治療における口臭測定とブラッシングモチベーション. 第 72 回日本口腔衛生学会学術大会 2023.05.19 大阪市

24. 大森 浩子, 青柳 美咲, 石坂 瑠音, 藤田 紘一, 今井 治樹, 山下 陽介, 高須 曜, 廣田 誠, 光藤 健司, 小野 卓史. MAC surgery による骨格性上顎前突症の改善に対する咀嚼筋形態および機能評価を行った 1 例. 日本顎変形症学会雑誌 2023.05.01

25. 青柳 美咲, 大森 浩子, 石坂 瑠音, 藤田 紘一, 今井 治樹, 岩井 俊憲, 廣田 誠, 光藤 健司, 小野 卓史. 骨格性上顎前突症に対する異なる外科的矯正治療法における術前後の咀嚼筋の形態変化比較. 日本顎変形症学会雑誌 2023.05.01

[受賞]

1. 第 7 回日本矯正歯科学会論文賞, 2023 年

2. 優秀発表賞, 東京矯正歯科学会, 2023 年 07 月

[その他業績]

1. 妊娠時の間欠的低酸素曝露による成長期仔ラット 骨格筋における代謝異常と血管密度の減少を発見 ～胎児期における低酸素環境への曝露が、成長後の骨格筋に影響を及ぼす～, 2023 年 01 月
   —

2. 「　NF- k B デコイ核酸医薬による抜歯窩歯槽骨の治癒促進効果を発見　」 —　NF- k B デコイ核酸医薬含有 PLGA ナノ粒子を用いた新規歯科治療法の開発　—, 2023 年 03 月
   International Journal of Molecular Sciences

3. The “wishbone” charm that restores the hope for bone regeneration, 2023 年 03 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

4. 「胎生期 · 発達期の栄養状態が味覚に影響を与えることを発見」 —　妊娠 · 授乳期の高脂肪食摂取が子の塩味嗜好性を増加させる　—, 2023 年 04 月
   Scientific Reports

5. Maternal and early-life high-fat diets result in a taste for salty food, 2023 年 04 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. 一般社団法人日本学校歯科医会生涯研修制度運営委員会アドバイザー, 一般社団法人日本学校歯科医会, 2020 年 10 月 01 日 - 現在
2. 全日本歯科学生体育連盟理事, 全日本歯科学生体育連盟, 2020 年 10 月 01 日 - 現在
3. 公益社団法人東京都学校歯科医会学術研究委員会学識委員, 公益社団法人東京都学校歯科医会, 2021 年 04 月 01 日 - 現在
4. 一般社団法人日本学校歯科医会 ICT 委員会アドバイザー, 一般社団法人日本学校歯科医会, 研修制度（基礎研修 · 専門研修 · 更新研修等）, 2021 年 09 月 01 日 - 現在
5. 大人の矯正歯科治療, 株式会社毎日が発見, 毎日が発見, 2023 年 01 月 25 日 - 2023 年 02 月 28 日
6. ８０２０活動, NHK 出版, きょうの健康, 2023 年 04 月 12 日 - 2023 年 05 月 21 日
7. 小児の口呼吸, 株式会社モリタ, デンタルマガジン, 2023 年 08 月 21 日 - 現在
8. 呼吸における舌機能の重要性について, ＮＨＫ, あしたが変わるトリセツショー, 2023 年 10 月 20 日

う蝕制御学

Cariology and Operative Dentistry

教授　島田康史
准教授 大槻 昌幸
講師　平石 典子（研究教授　6 月から）
助教 吉川 孝子, 井上 剛, 高橋 礼奈（講師（キャリアアップ）4 月から）, 佐藤 隆明（5 月まで）,
畑山 貴志（7 月から）
特任助教 MATIN NHM KHAIRUL, 畑山 貴志（6 月まで）, 田端 倫子, 土山 奈美, 中川 寿一 (8 月まで)
医員 中元 絢子（3 月まで）, 高橋 基（3 月まで）, 湊 洋祐, 土肥 啓太郎 (4 月から), 中村 莉子 (4 月から)
レジデント　安部 俊太郎
事務補佐員 杉山 吏慰子（9 月まで）, 穴井 智美（10 月から）
大学院生
佐藤 綾香（3 月まで）, 秋谷 聡（3 月まで），小川 友子（3 月まで），古澤 聖佳（3 月まで），
元山 裕太郎（3 月まで），山下 亜子（3 月まで），QI Feng（3 月まで），Kittisak SANON（3 月まで），
TAGHREED ABDULRAHMAN ALREFAIE（3 月まで），MURTUZA SYED ALI（3 月まで），
Soe Kay Thwe Than Naing（9 月まで）, 赤羽根 広大，石原 洋樹，木部 航太，下島 美夏，陳 雪霏，
WEI Diantong，YANG Yi，Panchanit UBOLSA-ARD, 岩渕 裕俊, 牛島 啓, 権藤 理夢, 高野 隼輔, 辻 悠貴子,
ZENG Chen, ZHAO Mengtian, Abu Hasan Mohammad KHALED, Kyaw Htet, DU Zijuan, Khin Myanmar,
小林 昴太, 竹内 梓, 藤森 亮平, Shamima JAHAN, ZENG Siqi, 宮城　和彦（4 月から）,
FAN LIN（4 月から）, FENG SHUO（4 月から）, HE YUZHENGQIU（4 月から）,
NADER AHMED ABDELAZIZ MAHMOUD ELSEOUDY（4 月から）, WANG XINYU（4 月から）
大学院研究生 木島 峯雄，ZHU TIANMAO, FENG Shuo （3 月まで）, 中村 莉子 (3 月まで),
ELSEOUDY Nadar Ahmed Abdelaziz （3 月まで), HE Yuzhengqiu （3 月まで）,
FAN Lin （3 月まで）, 土肥 啓太郎 (3 月まで), WANG Xinyu （3 月まで）,
Mustafa Ata Cakaloglu （3 月まで）, 橋谷 怜奈（4 月から）,
ABDULQADER HADEEL HUSAM ABDULQADER（4 月から）, ZHANG JIAMING（4 月から）,
NING BOYU（10 月から）, HU QIAO（10 月から）, JIANG JINJUAN（10 月から）,
ZUHRA FATIMA TUJ（10 月から）
特別研究学生　高木 仲人, 山本 麻美（10 月から）

(1)　分野概要

1928 年の本学創立時、当分野は檜垣麟三教授が主宰する保存療法学として発足、1960 年には総山孝雄教授、1982 年からは細田裕康教授が教室を主宰した。当分野では一貫してう蝕学、保存修復学についての研究、教育を推進し、今日の保存修復治療、接着歯科治療の確立に中心的な役割を果たし、う蝕 治療の世界的潮流の形成に貢献してきた。
今日では当分野は、活動の基本は臨床であり、臨床に関連した研究テーマを優先し、教育においても理想論ではなく、臨床現場の 感覚を重視している。伝統的に「材料学と生物学との両面からのアプローチ」により、接着歯学とう蝕学を基盤に歯質保存的なう蝕治療法を世界に先駆けて確立、高度化した。現在では、「Minimal Intervention」という概念に基づく低侵襲の接着性審美修復治療開発講座として世界でも認知されている。

2003 年からは、COE プロプログラム「歯と骨の分子破壊と再構築」、そして 2008 年からグローバ ル COE プログラム「歯と骨の分子疾患科学の国際教育拠点 —デントメドミクスのインテリジェンスハブ—」の推進に基幹講座の一つとして貢献した。従来の保存修復学にとらわれない、歯の硬組織の破壊予防と再 構築に関する広範な内容に取り組み、最新のテクノロジーの応用も積極的に図っている。これらの活動により歯科医学研究、歯科医療において世界をリードす る創造的な人材育成を目指している。

(2) 研究活動

1) ボンディングシステムの歯質接着性の評価
接着性修復材料の歯質（エナメル質、象牙質、セメント質）への接着性について、各種接着試験法（当分野で開発した微小引張接着試験や微小せん断接着試験など）を用いて検討し、歯種や部位の違い、う蝕や歯牙フッ素症、各種切削法、治療用放射線の照射、根管治療歯などの影響について評価する。さらに各種接着システムの接着耐久性について検討する。
2) Super Tooth に関する研究
生体材料を歯質に応用することによって、健全歯質よりも物理的、化学的、生物学的に強固な歯質（Super Tooth）を形成することをめざし、歯の強化、長寿化に貢献する。Super Tooth の形成機序の解析や各種接着性モノマー、フッ化物含有リン酸カルシウムを添加した材料による歯の石灰化誘導についても検討する。
3) 歯科用 OCT の開発と臨床導入
光干渉断層画像計（OCT）は、生体組織の断層構造を、電離放射線による被曝を伴わずに光学組織切片に近い精度で画像化することができる。う蝕や歯の亀裂などの歯科疾患を高い精度で診断できる歯科用 OCT の開発と臨床導入をめざし、研究を行う。
4) 接着性修復の非破壊適合性試験
口腔内の接着修復物のギャップや二次う蝕を非破壊で検出する方法を確立するため、OCT を用いて検討する。
5) コンポジットレジンの重合挙動特性評価
コンポジットレジンの重合収縮応力緩和効果を有する臨床技法の確立のため、接着材、コンポジットレジンの組成、照射光の種類、光照射法および窩洞形態（C-factor）がレジンの重合収縮応力に与える影響を、歯質に対する窩壁適合性や接着強さ、Micro X 線 CT 画像と 3D visualization 法によるレジンの重合挙動解析により評価する。
6) レジンコーティングによる接着性間接修復物の適合性、接着強さの向上
窩洞面へのレジンコーティング処理後のレジンセメントの接着性や修復物の適合性、術式の検討などを行う。さらに、レジンコーティング法の間接法支台築造への応用についても検討する。
7) 歯の光学的特性の測定
エナメル質や象牙質など、光の屈折率と減衰係数の計測を行い、脱灰と再石灰化による変化を検討する。
8) レジンコアによる無髄歯支台築造
無髄歯に対するレジンコアによる支台築造の際の、コア用レジンの根管象牙質への接着性能、ファイバーポストの応用などについて評価 · 検討する。
9) 咬 · 摩耗症の検討
Tooth wear を引き起こす要因となる、酸性の薬や飲料、食品などによるエナメル質酸蝕を調べるため、エナメル質ブロックを、pH 値の異なる各種溶液に浸漬し、全焦点 3 D表面形状測定装置を使用して浸漬後の表面性状変化や表層 pH 値について検討する。
10) カリエスリスクの判定
被検者から採取した唾液サンプルについて pH 値を測定し、カリエスリスクの簡易で客観的な診断法の確率をめざす。さらにう蝕原因菌と pH 値との関係について明らかにする。
11) う蝕原性細菌の歯質への初期付着能の評価
バイオフィルム形成の初期過程である S.mutans などの齲蝕原性細菌の歯質への初期付着能とその遺伝的因子についてモデル実験により検討する。
12) 接着性修復材料の生態適合性の評価
各種接着性材料および修復法の歯髄に対する影響について免疫組織学的な検討を行い、評価する。
13) フッ素徐放性修復材料、CPP-ACP と二次う蝕抑制効果
フッ素徐放性修復材料や CPP-ACP ペーストの塗布によるエナメル質、象牙質の脱灰抑制効果について、非破壊的にマイクロ CT により観察し、二次う蝕との関連性について評価する。
14) う蝕除去法の評価
う蝕歯質領域を同定し、従来の回転切削の他、器械 - 化学的なう蝕除去、レーザー、エアーアブレイシブなどの新しいう蝕除去法について、う蝕象牙質の除去効果やその後の修復への影響について評価を行う。
15) 審美歯科材料の開発、評価
コンポジットレジンの色調と光特性に関する評価研究を行う。また、審美歯科、歯のホワイトニングに関連する材料について臨床応用に関する研究を行う。
16) 臨床評価
病院むし歯科に来院した患者に施行した修復処置の術後の経過についてプロトコールを作成し、材料や術式についての短期的および長期的評価を行う。

(3) 教育活動

1) 第 3 学年では、保存修復治療に必要な歯の形態と機能の回復について理解を深めるため、歯型彫刻実習を行う。また、臨床での基礎理論を理解するため、臨床イントロダクションの講義と実習を行う。さらに臨床現場はどのようなものか身をもって感じさせるために、むし歯科にて病院体験実習を行う。
2) 第 4 学年では、保存修復学の講義および基礎模型実習を行う。講義では、う蝕および歯牙硬組織疾患の病態の把握とその診断法ならびに予防法、切削器具の種類とその使用法、修復材料の種類、窩洞形成法と修復処置法についての最新の知識 · 術式を教授する。また、基礎模型実習では講義と有機的に関連させながら、抜去歯および人工歯を組み合わせて各種修復法について、特に必要最小限の歯質削除と接着を応用した歯質保存的な修復方法を習得させる。また、基礎選択実習で当分野を選択した学生に対し、接着修復についての知識をより深めるため、基礎的もしくは臨床的な実験を計画し、研究指導を行う。
3) 第 5 学年では、臨床予備実習では臨床総合実習への導入として、病院むし歯科において診断および保存修復の相互実習を行う。
4) 第 6 学年では、包括臨床実習を通じて、う蝕をはじめとする歯牙硬組織疾患に対する保存修復に関する幅広い学問的知識とそれに裏付けられた技術を体得し、近年要望が高まってきている審美歯科修復処置についても指導し、口腔の健康保持 · 増進のため、患者の立場に立って医療を行える、また、社会的要求にあった歯科医師の育成を計る。
5) 研修医および専攻生の卒後教育のためには、臨床現場において保存修復治療が適切に行えるよう最新の知識 · 技術の習得を目指し、指導を行い、良質な歯科医師の育成を計る。
6) 大学院生に対しては、先端的、国際的な研究を目指し、世界をリードする基礎研究者となりえるような教育を行うと同時に、臨床研究者および歯科医学教育者としての育成を計る。

(4) 教育方針

う蝕や咬耗 · 磨耗、歯牙破折、酸蝕症、変色歯など、歯の硬組織疾患に対する診査 · 診断、治療を行うにあたり、必要となる保存修復学の原理と技能について、理解 · 習得させることを目標とする。現在の保存修復治療は、歯質接着性材料を用いることなしに行うことはできない。したがって、歯質接着のメカニズムおよび歯質接着性材料に関する深い知識とその修復術式について習得する必要がある。これらのことを考慮し、教育 · 実習を行う。

(5) 臨床活動および学外活動

本学の病院において、う蝕制御学分野は歯髄生物学分野とともに、「むし歯科」を担当している。
「むし歯科」においては患者に対する人権を最大限に配慮しながら、卒前 · 卒後の学生、研修医の臨床教育を行い、さらに新規器材 · 器具などの臨床治験も実施している。専門性の高い診療としては、う蝕の診断およびリスク診断、各種切削器具によるう蝕の除去、接着性材料を応用した歯冠色修復法、歯牙漂白などの処置が挙げられる。一方で、診療内容が専門性の高い治療に偏ることなく、患者のニーズに合わせた一口腔単位の包括的な診療を心がけている。診療は、基本的には、担当医制であるが、必要に応じて症例検討を行い、他の専門外来とも連携して治療を行っている。また、新患については患者の希望に応じて、地域の歯科医師への紹介も行っている。

(6) 臨床上の特色

う蝕制御学分野では、前身の歯科保存学第一講座から、う蝕治療の研究を行っており、う蝕に対して最小限の歯質の削除と、接着性材料を用いたコンポジットレジン修復技術を確立し、最小限の侵襲（minimal intervention）によるう蝕治療を実践している。また、患者の審美的な要求の高まりとともに歯冠色材料を応用した審美的歯冠修復法や変色歯に対する処置についても対応している。

(7) 研究業績

[原著]

1. Kouta Kibe, Takashi Hatayama, Yasushi Shimada. In vitro performance of an autocured universal adhesive system in bonding to dentin BMC ORAL HEALTH. 2023.11; 23(1); 933

2. Nami Tsuchiyama, Yukihiko Tamura, Tadamu Gondo, Masaomi Ikeda, Yasushi Shimada. The effect of ions used in bioactive dental materials on proliferation and differentiation of MC3T3-E1 cells Asian Pacific Journal of Dentistry. 2023.10; 23(2); 15-19

3. Tabata T, Nakagawa H, Kobayashi K, Takeuchi A, Fujimori R, Dohi K, Nakamura R, Iwabuchi H, Gondo T, Tsuji Y, Chen X, Sato T, Inoue G, Shimada Y. Diagnosis of occlusal caries using optical coherence tomography in a real clinical situation. Asian Pacific Journal of Dentistry. 2023.10; 23(2); 24-27

4. Takaaki Sato, Tomoko Tabata, Koudai Akabane, Mengtian Zhao, Abu Hasan Mohammad Khaled, Noriko Hiraishi, Yasunori Sumi, Junji Tagami, Yasushi Shimada. Noninvasive diagnostic method using optical coherence tomography detected a vulnerable dentin enamel junction created by phosphoric acid etching. Dental Materials Journal. 2023.08; 42(4); 552-558

5. Seung-Hoon Han, Yasushi Shimada, Alireza Sadr, Tomoko Tabata, Hisaichi Nakagawa, Takaaki Sato, Ji-Eun Byun, Sung-Ho Park. Effect of Attenuated Light Through Translucent Zirconia on the Interfacial Adaptation and Polymerization of Resin Cements. The Journal of Adhesive Dentistry. 2023.08; 25(1); 219-230

6. Mika Shimojima, Noriko Hiraishi, Kodai Akabane, Mohannad Nassar, Masayuki Otsuki, Yasushi Shimada. Effect of an In-Office Bleaching Agent with Surface Pre-Reacted Glass-Ionomer Filler on the Enamel Surface: A In-Vitro Study. J Funct Biomater. 2023.07; 14(7); 386

7. Kodai Akabane, Noriko Hiraishi, Mika Shimojima, Mohannad Nassar, Feng Qi, Masayuki Otsuki, Yasushi Shimada. The bleaching effect of office bleaching agents containing S-PRG filler evaluated by pH value and electron spin resonance. Clin Oral Investig. 2023.07; 27(7); 4051-4059

8. SoeKayThwe ThanNaing, Noriko Hiraishi, Xuefei Chen, Richard Foxton, Yasushi Shimada. In vitro remineralization assessment of enamel subsurface lesions using different percentages of surface reaction-type pre-reacted glass-ionomer containing gum-based material. Journal of dentistry. 2023.06; 135; 104602

9. Ayaka Sato, Takaaki Sato, Masaomi Ikeda, Tomohiro Takagaki, Toru Nikaido, Junji Tagami, Yasushi Shimada. Influence of different tooth etchants on bur-cut and uncut enamel. Dental Materials Journal. 2023.05; 42(3); 311-318

10. Satoshi Akiya, Kento Sato, Kouta Kibe, Antonin Tichy, Noriko Hiraishi, Taweesak Prasansuttiporn, Keiichi Hosaka, Richard M Foxton, Yasushi Shimada, Masatoshi Nakajima. Polymerization shrinkage of light-cured conventional and bulk-fill composites -The effect of cavity depth and post-curing. Dent Mater J. 2023.05; 42(3); 426-432

11. Kiyoka Furusawa, Shun Kobayashi, Ako Yamashita, Antonin Tichy, Keiichi Hosaka, Yasushi Shimada, Masatoshi Nakajima. Effect of filler load on structural coloration and color adjustment potential of resin composites. Dent Mater J. 2023.05; 42(3); 343-350

12. Go Inoue, Yasushi Shimada. Effect of F:Ca:P ratio on fluoride deposition by fluoride-calcium-phosphate complex Asian Pacific Journal of Dentistry. 2023.04; 23(1); 5-8

13. Ako Yamashita, Shun Kobayashi, Kiyoka Furusawa, Antonin Tichy, Rena Oguro, Keiichi Hosaka, Yasushi Shimada, Masatoshi Nakajima. Does the thickness of universal-shade composites affect the ability to reflect the color of background dentin? Dent Mater J. 2023.03; 42(2); 255-265

14. Chen X, Inoue G, Ikeda M, Sadr A, Shimada Y. Time-dependent structural changes and hypermineralisation of artificially demineralised dentine following treatment with silver diammine fluoride and glass ionomer cement. Journal of dentistry. 2023.02; 131; 104452

15. Go Inoue, Xuefei Chen, Yasushi Shimada. Transverse Microradiography Evidence on the Effect of Phosphoryl Oligosaccharides of Calcium (POs-Ca) in Toothpaste on Decalcified Enamel Crystals. 2023.01; 13(2); 206

16. Takaaki Sato, Jirun Sun, Xiaohong Wang, Shozo Takagi, Yoshikazu Teranishi, Go Inoue, Tomohiro Takagaki, Toru Nikaido, Junji Tagami, Yasushi Shimada. Analysis of reaction products on hydroxyapatite created by tooth etchants with different compositions. Journal of Oral Science. 2023.01; 65(1); 53-56

17. Diantong Wei, Ayako Nakamoto, Noriko Hiraishi, Akira Nakane, Gabriel Abuna, Masayuki Otsuki, Yasushi Shimada. Effect of Er: YAG laser irradiation with additional low energy on resin-dentin bonding and morphology of bonded interface. J Mech Behav Biomed Mater. 2023.01; 140; 105692

18. Takako Yoshikawa, Alireza Sadr, Yasushi Shimada. Polymerization behavior of bulk-fill and hybrid-type resin composites using different light curing mode Asian Pacific Journal of Dentistry. 2023.02; 23(1); 1-4

1. 田端 倫子. 【ハイエンドな Skill & Knowledge を活かしたワンランク上のコンポジットレジン修復】ここまでできる CR 修復-見るだけでレベルアップする CR 修復の使いこなし　光干渉断層撮影 (OCT) による非破壊診断から見えてきた CR 修復の真実 日本歯科評論. 2023.10; (増刊 2023); 120-123

2. 高橋　基,　高橋　礼奈,　島田　康史. 上顎前歯部の審美 · 機能障害に対してデジタルワークフローを活用した直接法コンポジットレジン修復を行った 1 症例 日本歯科保存学雑誌. 2023.08; 66(4); 224-232

3. 井上 剛 、水谷 幸嗣 、三上 理沙子、島田 康史、 青木 章. 歯肉のメラニン沈着の審美治療として Er：YAG レーザーをマイクロサージェリーで応用した長期経過 日本歯科保存学会誌. 2023.05; 66(2); 147-153

[書籍等出版物]

1. 島田康史　他. 歯科衛生士講座　保存修復学歯内療法学. 永末書店, 2023.04

2. 島田康史　他. 保存修復学専門用語集　第３版. 医歯薬出版, 2023.03

[総説]

1. 田 端　倫 子 , 中 川　寿 一, Khairul MATIN, 大 槻　昌 幸, 青 木　章, 島 田　康 史. バイオフィルムに関する光干渉断層計（Optical Coherence Tomography：OCT）の研究：総説 日本レーザー歯学会誌. 2023.09; 33(1); 11-17

[講演 · 口頭発表等]

1. Diantong WEI, Jianfeng CHEN, Noriko HIRAISHI, Masayuki OTSUKI, Masaomi IKEDA, Yasushi SHIMADA. Effect of Er:YAG laser debonding of zirconia restorations on bond strength, temperature increase and surface properties of zirconia and dentin. The 88th meeting of the Stomatological Society 2023.12.01 Tokyo

2. Xuefei Chen, Go Inoue, Yasushi Shimada. Remineralization effect of silver diammine fluoride and glass ionomer cement for artificial caries and natural caries under the combination usage in vitro. The 71st Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research 2023.11.25 Sendai, Japan

3. Go Inoue, Masaomi Ikeda, Yasushi Shimada. Composite resin restoration with injection technique on severe eroded teeth. The 71st Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research 2023.11.25 Sendai

4. Rena Takahashi, Saki Uchiyama, Yuna Kanamori, Junichi Shinagawa, Toru Nikaido, Yasushi Shimada. Dentin bonding performance of resin cement using resin coating technique and different cleaning protocols. The 25th KACD-JSCD Joint Scientific Meeting 2023.11.04 Seoul, Korea

5. Noriko Hiraishi. Bioactive Effect of S-PRG released ions on mineral precipitation and reaction with enamel and dentin. Academy Dental Materials Meeting 2023.10 USA

6. Xu K, Inokoshi M, Yoshihara K, Kakehata M, Yashiro H, Takahashi R, Yamatomo M, Kamijo S, Ikeda M, Minakuchi S. Bonding efficacy to femtosecond laser irradiated lithium disilicate glass-ceramic. IADR-ANZ Conference 2023 2023.09.29 Sydney

7. Tomoko Tabata, Hisaichi Nakagawa, Takaaki Sato, Go Inoue, Masaomi Ikeda,Yasushi Shimada. Clinical evaluation of optical coherence tomography in the diagnosis of occlusal enamel caries using ICDAS codes. the 2nd General Meeting of Asian-Oceanian Federation of Conservative Dentistry 2023 (ConsAsia 2023) 2023.09.02 Taipei, Taiwan

8. Go Inoue, Hisaichi Nakagawa, Takaaki Sato, Tomoko Tabata, Masaomi Ikeda,Yasushi Shimada . Clinical assessment of diagnosis of enamel caries ICDAS codes using optical coherence tomography. the 2nd General Meeting of Asian-Oceanian Federation of Conservative Dentistry 2023 2023.09.02 Taipei

9. Soe Kay Thwe Than Naing, Noriko Hiraishi, Xuefei Chen, Yasushi Shimada. In vitro remineralization assessment of enamel subsurface lesions using gum-base material containing surface pre-reacted glass-ionomer filler. The 158th Meeting of the Japanese Society of Conservative Dentistry 2023.06.23 Shimane, Japan

10. Mustafa Ata ÇAKALOĞLU, Takaaki SATO, Noriko HIRAISHI, Yasushi SHIMADA. NON-INVASIVE EVAULATION OF MARGINAL ADAPTATION OF DENTIN-GLASS IONOMER CEMENT INTERFACE USING SWEPT SOURCE OPTICAL COHERENCE TOMOGRAPHY . The 7th International Congress on Adhesive Dentistry 2023.06.01 Konya, Turkey

11. Hitoshi Miki, Hirofumi Tashiro, Junji Tagami, Tomohiro Takagaki, Keiichi Hosaka, Takaaki Sato, Takashi Hatayama, Yasushi Shimada. Clinical effectiveness of the mono-block direct composite crown restoration. The 7th International Congress on Adhesive Dentistry 2023.06.01 Konya, Turkey

12. Takako Yoshikawa, Alireza Sadr, Yasushi Shimada. Polymerization Behavior of Various-Composites at Top/Bottom of Cavity using Different-Irradiance-Light. 7th, The International Congress on Adhesive Dentistry 2023.06.02 Konya, TURKEY

1. 佐藤隆明, 中川寿一, 島田康史, 池田正臣. イオン注入法による表面改質効果がジルコニア接着にもたらす影響. 第 88 回 口腔病学会学術大会 2023.12.02

2. 平石典子, 牛島 啓, 池田正臣, 島田康史. Zirconia adhesion of phosphoric acid ester monomers: A solid-state NMR investigation . 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02

3. 島田康史. 新しい齲蝕の診断とモニタリング技術の開発. 第 14 回日本メタルフリー歯科医学会 2023.11.19

4. 畑山 貴志, 田端 倫子, 木部 航太, 池田 正臣, 角 保徳, 島田 康史. 新規低重合収縮レジンコアシステムに対する SS-OCT を用いた接着界面解析と根管象牙質への接着性能評価. 第 159 回日本歯科保存学会 2023 年度秋季学術大会 2023.11.12 静岡県浜松市

5. 田代 浩史, 保坂 啓一, 田上 順次, 畑山 貴志, 島田 康史. 重度歯周病患者の口腔機能回復治療として直接法コンポジットレジン修復で対応し 3 年経過した 1 症例. 第 159 回日本歯科保存学会 2023 年度秋季学術大会 2023.11.12 静岡県浜松市

6. 高橋　礼奈, 金森　ゆうな, 高野　隼輔, 品川　淳一, 湊　洋祐, 高橋　基, 津田　優香, 島田　康史. 新規 1 ステップ接着システムのレジンコーティング法における評価. 第 159 回日本歯科保存学会 2023 年度秋季学術大会 2023.11.11 静岡県浜松市

7. 陳 雪霏, 井上 剛, 関澤 央輝, 新田 清文, 島田 康史. グラスアイオノマーセメント併用フッ化ジアンミン銀処置後根面齲蝕歯内の歯質評価. 第 45 回日本バイオマテリアル学会大会 2023.11.06 兵庫, 神戸

8. 宮本奈生、今村隼大、足立哲也、平石典子、山本俊郎、Giuseppe Pezzotti、金村成智. Er:YAG レーザー照射によるハイドロキシアパタイトの分子構造変化に対するラマン分光解析化 in vitro 評価. 日本歯科保存学会 2023 年度春季学術大会（第 158 回） 2023.06.23 島根，日本

9. 木部 航太, 畑山 貴志, 島田 康史. 新規化学重合型ボンディング材の接着強さと窩洞適合性の評価. 第 158 回日本歯科保存学会 2023 年度春季学術大会 2023.06.22 島根県松江市

10. 佐藤　隆明,　島田　康史. 1 歯欠損に対する接着ブリッジの生存率とその関連因子の検証：直接法コンポジットレジンと間接法ジルコニアブリッジの比較. 第 77 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会 2023.05.12 岡山

11. 梅森　幸，石丸美穂、内村祐之、礪波健一，則武加奈子，須永昌代，木下淳博，島田康史、新田　浩、相田　潤.. 歯のコンポジットレジン修復の予後に影響する要因. 第 33 回日本疫学会学術総会 2023.01 浜松

[受賞]

1. Hitoshi Miki, Hirofumi Tashiro, Junji Tagami, Tomohiro Takagaki, Keiichi Hosaka, Takaaki Sato, Takashi Hatayama, Yasushi Shimada. Prof. Dr. Nobuo Nakabayashi Award, International congress on adhesive dentistry, 2023 年 06 月

2. 高橋圭，吉山知宏，横山章人，島田康史，吉山昌宏. 2023 年度日本接着歯学会論文賞, 日本接着歯学会, 2023 年 09 月

[その他業績]

1. 1st KAU-TMDU Joint Meeting , 2023 年 03 月
   サウジアラビア国 King Abdulaziz University とシンポジウムを開催

2. 根面う蝕治療における 自己接着性を有する歯科充填用コンポジットレジンの 有効性 · 安全性に関する単群臨床研究, 2023 年 03 月
   特定臨床研究【2023 年〜2026 年】
   研究費：4,900,000 円
   研究責任者：島田康史
   研究代表者：井上剛

3. UP College of Dentistry – Tokyo Medical and Dental University Research Mini-Symposium, 2023 年 05 月
   フィリピン大学マニラ校にてシンポジウムを開催

4. The 7th International Congress on Adhesive Dentistry, 2023 年 06 月
   トルコ国コンヤ市にて第 7 回国際接着歯学会にて、Scientific Member として協力

[社会貢献活動]

1. Materials Guest Editor (島田康史）, MDPI, Materials, 2021 年 01 月 - 2023 年 03 月 10 日

2. 公益財団法人ライオン歯科衛生研究所評議委員（島田康史）, 公益財団法人ライオン歯科衛生研究所, 2022 年 06 月 - 現在

3. 日本歯科医学会連合大型研究推進委員会（島田康史）, 日本歯科医学会連合, 2022 年 08 月 - 現在

4. Doctor’s Insight　世界初の検査 OCT, NHK, Doctor’s Insight, 2022 年 09 月 21 日 - 現在

5. 放射線を使わない検査機器について（島田康史）, 朝日新聞社, 朝日新聞デジタル, 2023 年 03 月 09 日

6. 子どもの虫歯について, 朝日新聞社, 医療面「どうしました」, 2023 年 07 月 13 日 - 2023 年 07 月 31 日

7. 悩み、迷いは医療者が成長するカギ！（高橋礼奈）, 読売新聞, 未来の医療を創る君へ, 2023 年 11 月 03 日

咬合機能健康科学分野

Masticatory Function and Health Science

教授：笛木賢治
准教授：駒田 亘
講師：中禮 宏
助教：大竹志保，稲用友佳，林 海里，石山裕之
特任助教：瀧田美奈，松村茉由子，木村浩子
医員：大石晋也，秋本悌助，尾崎太亮，外川海斗，宮園敬資，
小若泰之，三原朋之，殷悦，大石弥生，根本 拓，太田原美穂

(1) 分野概要

補綴治療による口腔機能の回復と健康との関連を中心とした研究，歯科補綴学，スポーツ歯学，顎関節症の教育と診療を行う．

(2) 研究活動

補綴臨床研究，口腔と健康との相関，人工知能とデ—タサイエンス，歯学教育，クラウンブリッジと生体材料，歯科アレルギー，スポーツ歯学，顎関節症に関する研究

(3) 教育活動

歯科補綴学（冠橋義歯学，部分床義歯学），スポーツ歯学，顎関節症に関する基礎と臨床教育

(4) 教育方針

エビデンスに基づく実践的な臨床教育

(5) 臨床活動および学外活動

義歯科，先端歯科診療センター，歯科アレルギー外来，スポーツ歯科外来，顎関節症外来における歯科診療

(6) 臨床上の特色

デジタル技術を用いた補綴治療，歯科材料に対するアレルギー検査，スポーツ外傷に対するマウスガードとフェイスガード，顎関節症の診断と治療

(7) 研究業績

[原著]

1. Yue Yin, Kosuke Nozaki, Reina Nemoto, Omnia Saleh, Yayoi Oishi, Mayuko Matsumura, Wataru Komada, Hiroyuki Miura, Kenji Fueki. Marginal fit and retention force of zirconia resin-bonded fixed dental prostheses in the posterior region with different designs Journal of Dental Sciences. 2023.12;

2. Shinya Oishi, Wataru Komada, Ruri Tsukahara, Shu Yoshimatsu, Daiki Kondo, Satoshi Omori, Kosuke Nozaki, Hiroyuki Miura, Kenji Fueki. A composite resin core with a new zirconia tube reduces the surface strain at the cervical area of a mandibular molar: A model tooth study. J Prosthodont Res. 2023.01; 67(1); 70-76

3. Kanamori Y, Seki N, Foxton R, Moross J, Komagamine Y, Mizutani K, Hosaka K, Kanazawa M, Hatayama T, Komada W, Yonemitsu I, Akiyama M, Kaewmanee PC, Kaewsutha N, Nitta H, Wakabayashi N, Morio I. Fostering globally competent dental students through virtual team-working, problem-solving and person-centred multi-disciplinary care planning. Journal of Dental Sciences. 2023.01; 18(1); 95-104

4. Oishi Shinya, Komada Wataru, Tsukahara Ruri, Yoshimatsu Shu, Kondo Daiki, Omori Satoshi, Nozaki Kosuke, Miura Hiroyuki, Fueki Kenji. A composite resin core with a new zirconia tube reduces the surface strain at the cervical area of a mandibular molar: A model tooth study Journal of Prosthodontic Research. 2023.01; 67(1); 70-76

1. 駒田 亘. モノリシックジルコニアレストレーションの臨床 UPDATE(第 5 回)　ジルコニア技工の Key point 歯界展望. 2023.05; 141(5); 918-930

2. 稲用 友佳. 過度な咬耗による咬合高径の低下に対しオーバーデンチャーで対応し た症例 日本補綴歯科学会誌. 2023.04; 15(2); 219-222

[書籍等出版物]

1. 石神 元，笛木賢治，駒田 亘　他.　冠橋義歯補綴学テキスト　第 5 版.　末永書店，2023（ISBN：978-4-8160-1388-1)

[総説]

1. Tanabe G, Ueno T, Li C, Manka-Malara K, K Janicka J, Togawa K, Hayashi K, Churei H, Gonda T, Suzuki H, Nakajima K, Mizuhashi F, Matsumura H, Maeda Y, Yasui T.. Literature review on the advances and applications of digital dentistry in sports mouthguard fabrication. International Journal of Sports Dentistry. 2023.11; 16(1); 15-23

2. Yuka Inamochi, Yoichiro Ogino, Kae Harada, Kenji Fueki, Yasunori Ayukawa, Masahiro Nishimura, Kenji Maekawa, Youngnam Kang, Toshihiro Hirai, Takuo Kuboki. Do oral care and rehabilitation improve cognitive function? A systematic review of clinical studies Journal of Evidence-Based Dental Practice. 2023.10;

3. Li Yajie, Inamochi Yuka, Wang Zuo, Fueki Kenji. Clinical application of robots in dentistry: A scoping review JOURNAL OF PROSTHODONTIC RESEARCH. 2023.06;

1. 笛木賢治，稲用友佳. 歯科 · 口腔機能の改善は認知症の予防につながるのか？　—歯科研究のエビデンスと今後の研究展開— 日本認知症学会誌. 2023.09; 37(3); 401-410

2. 笛木賢治，稲用友佳. NMCD の臨床エビデンスに基づく検証 日本歯科理工学会誌. 2023.09; 42(3); 141-144

3. 笛木賢治，稲用友佳. システマティックレビュー実践のための基礎知識 日本補綴歯科学会誌. 2023.04; 15(2); 169-174

4. 笛木賢治，佐々木　啓一，眞鍋雄太，木本克彦, 窪木拓男, 上田貴之，安部友佳，稲用友佳，釘宮嘉浩，白石　成，齋藤　壮，小林琢也，橋本　衛，石川智久，内海　久美子，池田　学，馬場一美. 認知機能と口腔機能の相関に関する探索的研究（ECCO）プロジェクト: 活動の趣旨と内容 日本補綴歯科学会誌. 2023.01; 15(1); 72-78

[講演 · 口頭発表等]

1. Sentaro Koshida, Takanori Ishii, Hiroshi Churei, Hiroshi Kubota. MEASUREMENT OF HEAD IMPACTS DURING ACTUAL JUDO PRACTICE IN COLLEGE JUDOKAS: A PRELIMINARY STUDY. International Society of Biomechanics Congress 2023 2023.07.31 Fukuoka

2. Shimizu S, Hayashi K, Takeuchi Y, Tanabe G, Churei H, Kobayashi H, Ueno T, Fueki K. Effect of Administration of Sonicated P. gingivalis on skeletal muscle injury healing using a rat model. . ECSS Paris 2023 2023.07.04 Paris

1. 林 海里，清水慎太郎，竹内康雄，小林宏明，中禮 宏，笛木賢治. 歯周病原細菌の全身波及がスポーツに関連する骨格筋反応に及ぼす影響について. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京

2. 田邊 元, Li Chenyuan, 林 海里, 中禮 宏, 上野 俊明. スポーツマウスガードの 3 次元デジタル造形技術に関する文献レビュー. 日本歯科理工学会誌 2023.12.01

3. 駒澤柚希，田邊 元，蓮沼哲哉，外川海斗，林 海里，中禮 宏， 森谷直樹，安井利一，上野俊明. アスリート疲労感と顎口腔領域の自覚症状の連動類似性. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

4. 堀田葉子，林 海里，外川海斗，藤野祥子，高橋優美，清水慎太郎，熊谷彰人，平田憲雄，渡辺和志，根来武史，田邊 元，上野俊明，中禮 宏. 水球中における顎顔面外傷経験に関する分析調査 . 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

5. 中禮 宏，吉田浩美，杉井麻耶，柘植昂太，佐瀬裕子，永田将司，林 海里，外川海斗，藤野祥子，柳下和慶. 糖質コルチコイドの口腔内局所使用に関する情報共有について. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

6. 劉 暢、Thida Aung、Kaung Si Thu、外川海斗，林 海里，田 邊元，上野俊明，佐藤 亮，佐々木幸生，中禮宏. 顎顔面骨折領域の特定における CT スライス厚の影響. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

7. 李 晨媛，和田敬広，土田優美，林 海里，田邊 元，上野俊明，中禮 宏. サイクル荷重耐久性疲労試験を用いた 3D 多層マウスガードと従来型マウスガードの保持力比較. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

8. 林 海里，清水慎太郎，竹内康雄，小林宏明，朱秋爽，李泽群，田邊元，中禮 宏，上野俊明. P. gingivalis 投与が持久性運動後の骨格筋 PGC-1 α および TNF α 発現に与える影響. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

9. 大原 庸子, 中禮 宏, 牧野 さつき, 林 海里, 田邊 元, 近藤 剛史, 永井 晃, 市原 千恵, 小口 亘, 上野 俊明. ブラインドサッカー選手のマウスガード作製前後の意識調査. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

10. 松村茉由子, 松村光明, 北崎祐之, 馬場史郎, 笛木賢治. 掌蹠膿疱症患者に対し、口腔内金属除去療法を実施した症例. 第 14 回日本メタルフリー歯科学会学術大会 2023.11.19

11. 外川海斗，中禮 宏，林 海里，高橋優美，清水慎太郎，堀田葉子，原口貴久，立石智彦，柳下知慶，田邊 元，上野俊明. カスタムメイドフェイスガード使用により競技生活を継続できているプロフットサル選手の一例. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜

12. 石山裕之. OA 治療の副作用. 睡眠歯科医学基礎講座 2023 2023.10.08 京都

13. 石山裕之. 顎関節症と睡眠障害の関連性. 日本睡眠学会第 45 回定期学術集会 · 第 30 回日本時間生物学会学術大会 合同大会 2023.09.16 横浜

14. 清水慎太郎，田邊 元，安齋達彦，外川海斗，林 海里，中禮 宏，髙橋邦彦，上野俊明. 学校スポーツ事故事例のテキストマイニング手法を用いたコレスポンデンス分析　歯牙障害発生の学校種別 · 性別の傾向. 日本安全教育学会 第 24 回奈良大会 2023.09.09 奈良

15. 石山裕之. 併発症（副作用）への対応. 歯科タイトレーションセミナー 2023 2023.09 オンライン開催

16. 駒田 亘. シンポジウム「歯根破折を再考する」残存歯質保護を考慮した支台築造. 第 44 回日本歯内療法学会学術大会 The 21st KAE-JEA Joint Meeting 2023.07.09 東京

17. 石山裕之. 顎関節症治療における, 開口訓練の強度に関したランダム化比較試験. 第 36 回日本顎関節学会総会 · 学術大会 2023.07.08 東京

18. 和気裕之, 澁谷智明, 和気創, 石山裕之, 金田隆. 咬合違和感を主訴に来院した閉塞性睡眠時無呼吸を伴う顎関節症の 1 例. 第 36 回日本顎関節学会総会 · 学術大会 2023.07.08 東京

19. 木村浩子, 石山裕之, 宮園敬資, 秋本悌助, 西山暁. 桂枝加朮附湯と立効散が有効であった顎関節症と舌痛症の併存症例. 第 36 回日本顎関節学会 2023.07.08 東京

20. 駒田 亘. 歯根破折を再考する　残存歯質保護を考慮した支台築造. 日本歯内療法学会学術大会プログラム・抄録集 2023.07.01

21. 松村茉由子. 掌蹠膿疱症における歯科治療の位置づけ. 掌蹠膿疱症のチーム医療を考える会 2023.06.14

22. 石山裕之. 睡眠時無呼吸の口腔内装置療法-治療効果及び副作用について-. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会-90 周年記念大会- 2023.05.21 横浜

23. 松村茉由子，谷中　航，野崎浩佑，駒田　亘，北崎祐之，馬場史郎，松村光明，笛木賢治. パッチテストを元にレジン及び金属アレルギーを有する患者の治療方法を検討した症例. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.21

24. 近藤大貴，駒田　亘，大石晋也，笛木賢治. 小臼歯におけるジルコニアチューブによる歯頸部補強効果を考慮した支台築造法の検討. 日本補綴歯科学会　第 132 回記念学術大会 2023.05.21 神奈川

25. 稲用　友佳. 臨床研究論文の作成の基本　観察研究の論文作成. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.21 横浜

26. 笛木賢治，稲用友佳, 李　雅杰，張　凌波, Saleh Omnia . 被引用状況からみた客観的咀嚼能力の研究動向に関する文献調査. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.21 横浜

27. 石山裕之. 睡眠時無呼吸の口腔内装置についてリスク & ベネフィットの視点から適切な下顎位を考える . 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会-設立 90 周年記念大会- 2023.05.20 横浜

28. 河野英子，井上瑤子，上野剛史，笛木賢治，七丈直弘，白井俊行. 歯科インプラント研究の動向：内閣府 e-CSTI の開発ツールを用いた Bibliometric 分析. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.20 神奈川県横浜市

29. 松本彩花，松村茉由子，Saleh Omnia，谷中　航，紅谷龍一郎，野崎浩佑，松村光明，若林則幸，笛木賢治. 前歯部 CAD/CAM 冠の色彩学的研究　金属支台築造歯に対するオペーク色セメントの効果. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.20

30. 稲用友佳, 笛木賢治，李　雅杰，張　凌波. ノンメタルクラスプデンチャー装着者の口腔関連 QoL：ランダム化比較試験のメタ解析. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.20 横浜

31. 安部友佳，稲用友佳，濵 洋平，楠本友里子，上田貴之，佐々木啓一，窪木拓男，眞鍋雄太，木本克彦，笛木賢治，馬場一美. 咀嚼機能検査法と健康関連パラメータとの相関についての スコーピングレビュー. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.20 横浜

32. 殷悦，根本怜奈，駒田亘，野崎浩佑，笛木賢治. 歯科用ジルコニアを用いた D 字型臼歯部接着ブリッジの適合性. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.20

33. 大石弥生，根本怜奈，駒田亘，野崎浩佑，笛木賢治. 歯槽骨吸収症例におけるカンチレバー型接着ブリッジと歯周組織の応力解析. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.20

34. 松村 茉由子, 谷中 航, 野崎 浩佑, 駒田 亘, 北崎 祐之, 馬場 史郎, 松村 光明, 笛木 賢治. パッチテストを元にレジン及び金属アレルギーを有する患者の治療方法を検討した症例. 日本補綴歯科学会誌 2023.05.01

35. 近藤 大貴, 駒田 亘, 大石 晋也, 笛木 賢治. 小臼歯におけるジルコニアチューブによる歯頸部補強効果を考慮した支台築造法の検討. 日本補綴歯科学会誌 2023.05.01

36. 大石 弥生, 根本 怜奈, 駒田 亘, 野崎 浩佑, 笛木 賢治. 歯槽骨吸収症例におけるカンチレバー型接着ブリッジと歯周組織の応力解析. 日本補綴歯科学会誌 2023.05.01

37. 殷 悦, 根本 怜奈, 駒田 亘, 野崎 浩佑, 笛木 賢治. 歯科用ジルコニアを用いた D 字型臼歯部接着ブリッジの適合性. 日本補綴歯科学会誌 2023.05.01

38. 尾崎 太亮, 大竹 志保, 駒田 亘, 大石 晋也, 笛木 賢治. 表面処理の違いが根管象牙質に対するレジンセメントの接着強さと界面に及ぼす影響. 日本補綴歯科学会誌 2023.05.01

39. 駒田 亘.　歯科治療における金属アレルギーへの対応.　バイオインテグレーション学会第 12 回学術大会 2023.04.23 オンライン

40. 松村茉由子，野崎浩佑，谷中　航，Omnia Saleh，松村光明，笛木賢治.　支台歯と合着材の種類が前歯部 CAD/CAM 冠の色調に及ぼす影響. 日本デジタル歯科学会 第 14 回学術大会 2023.04.23

41. 野崎浩佑，松村茉由子，松本彩花，紅谷龍一郎，谷中航，松村光明，山下仁大，若林則幸．支台築造材料が前歯部 CAD/CAM 冠用コンポジットレジンの色調に及ぼす影響．第 81 回日本歯科理工学会学術講演会 2023.04.16

42. 和田敬広, 村田歩夢, 足立桃子, 髙村彩, 中禮宏, 塩沢真穂, 宇尾基弘. 光造形 3D プリンタを用いたスポーツ用フェイスガードのコア材 · クッション材の研究. 国際 · 産学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト-DEJI2MA プロジェクト- 第 1 回公開討論会 2023.03.11

43. 笛木賢治. 補綴臨床研究における口腔関連 QoL と今後の展望. Prosthodontic Meeting for Next Generation 2022 2023.03.10 神奈川

44. 川島正人, 木村浩子, 山﨑陽子．立効散、食事指導で改善した舌痛症の 1 症例．第 52 回日本慢性疼痛学会 2023.03.10

45. Liu Chang, 林 海里, 外川 海斗, 高橋 優美, 清水 慎太郎, 熊谷 彰人, 中禮 宏. 患者教育のための歯科疾患と治療. 第 7 回　日本メディカルイラストレーション学会学術集会 · 総会 2023.03.05 川崎

46. Liu Chang, 林 海里, 外川 海斗, 高橋 優美, 清水 慎太郎, 熊谷 彰人, 中禮 宏. スポーツ用のマウスガードとフェイスガード. 第 7 回　日本メディカルイラストレーション学会学術集会 · 総会 2023.03.05 川崎

47. 林 海里. 大学から関わるスポーツ歯科 —臨床 · 教育 · 研究における本学の取り組み—. 令和 4 年度 愛知県歯科医師会 臨床スポーツ歯科医認定講習会 2023.03.04 愛知

48. 鶴田 潤，大竹志保，大石晋也，尾崎太亮，駒田 亘，笛木賢治. 支台歯形成とくぼみを調製するために製作した人工歯の三次元計測システムによる評価法に関するパイロット研究. 口腔病学会雑誌 2023.03.01

49. 大竹 志保, 大石 晋也, 尾崎 太亮, 池田 正臣, 駒田 亘, 笛木 賢治. 齲蝕影響象牙質の除去方法が根管壁象牙質に対するコンポジットレジンの接着強さに及ぼす影響. 口腔病学会雑誌 2023.03.01

50. 松村茉由子．掌蹠膿疱症と金属アレルギーへの歯科治療における対応．大鵬薬品工業株式会社社内研修会 2023.01.17

51. 駒田 亘. 歯科における金属アレルギーへの対応. 令和 4 年度　東京都アレルギー疾患治療専門研修 2023.01.17 オンライン

52. 石山裕之, 秀島雅之, 犬飼周佑, 玉岡明洋, 西山暁, 宮﨑泰成, 笛木賢治. 下顎前方移動時に伴う呼吸抵抗の減少率が, 閉塞性睡眠時無呼吸の口腔内装置の効果に及ぼす影響. 第 22 回日本睡眠歯科学会学術集会 2023.10.08 京都

[受賞]

1. 奨励論文賞, 日本補綴歯科学会, 2023 年 05 月
2. 最優秀研究賞（菊池賞）, 第 22 回日本睡眠歯科学会学術集会, 2023 年 10 月
3. 学会賞（日本メディカルテクノロジー賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月
4. 研究奨励賞（ネオ製薬工業賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月
5. 学会賞（モリタ賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月
6. 研究奨励賞（大榮歯科産業賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月

[社会貢献活動]

1. 日本補綴歯科学会東京支部代議員, 2013 年 04 月 - 現在
2. 日本睡眠歯科学会診療ガイドライン委員会, 日本睡眠歯科学会, 2017 年 - 現在
3. ストップ · ザ · いびき—補綴医が教える効果的な Oral Appliance の作り方—, 東京医科歯科大学　歯科同窓会学術部 , 東京医科歯科大学, 2018 年 06 月 24 日 - 現在
4. 日本顎関節学会若手部会委員, 日本顎関節学会 , 2019 年 - 現在
5. 日本睡眠歯科学会評議員, 日本睡眠歯科学会, 2019 年 - 現在

6. 日本睡眠歯科学会専門機構委員会, 日本睡眠歯科学会, 2019 年 - 現在
7. 日本睡眠歯科学会医療安全委員会委員, 日本睡眠歯科学会, 2019 年 - 現在
8. TMD を診断する TCH をコントロールする, 東京医科歯科大学歯科同窓会学術部, 東京医科歯科大学, 2019 年 02 月 14 日 - 現在
9. TMD を診断する TCH をコントロールする, 東京医科歯科大学　歯科同窓会学術部 , 東京医科歯科大学, 2019 年 02 月 24 日 - 現在
10. マラヤ大学紀要 編集委員, マラヤ大学, 2019 年 04 月 - 現在
11. Journal of Prosthodontic Research 編集委員, 日本補綴歯科学会, 2019 年 07 月 - 現在
12. 日本生活共同組合理事, 2020 年 07 月 - 現在
13. 日本補綴歯科学会東京支部代議員, 2021 年 04 月 01 日 - 現在
14. 日本顎関節学会診療ガイドライン委員会委員, 日本顎関節学会 , 2022 年 - 現在
15. 日本顎関節学会学術委員会委員, 日本顎関節学会, 2022 年 - 現在
16. 日本顎関節学会社会連携 · 広報委員会委員, 日本顎関節学会, 2022 年 - 現在
17. 日本顎関節学会 COI 委員会委員, 日本顎関節学会, 2022 年 - 現在
18. 日本睡眠歯科学会教育委員会（地域教育、各種教育セミナー企画運営部会）委員, 日本睡眠歯科学会, 2022 年 - 現在
19. 日本スポーツ歯科医学会 代議員, 日本スポーツ歯科医学会, 2022 年 04 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
20. 認知症の方の歯科診療について, 読売新聞社, 医療ルネサンス, 2022 年 12 月 23 日 - 現在
21. 歯科医が知っておくべき, 睡眠時無呼吸の臨床 ー口腔内装置の設計, および副作用の対応についてー, WHITE CROSS 株式会社, オンライン, 2023 年 08 月 - 現在

歯髄生物学

Pulp Biology and Endodontics

教　　授
興地隆史

准 教 授
川島伸之

講　　師
渡辺聡，海老原新 (12 月～)

助　　教
海老原新 (～11 月), 田澤建人, 橋本健太郎 (～3 月),
飯野由子 (クリーンルーム歯科外来兼任) (～2 月), 牧圭一郎 (3 月～), 木村俊介 (9 月～)

特任助教
野田園子 (～3 月), 牧圭一郎 (～2 月), 木村俊介 (～8 月)

医　　員
星原康宏, 添田比呂子 (～3 月), 岡田大和 (4 月～) ， 大森智史 (4 月～), 川村拓也 (4 月～) ， 小牧令昂 (4 月～),
星野陽子 (9 月～)

大学院生
雲野颯 (～3 月), 大森智史 (～3 月), 奥田大樹, 劉嘉懿 (～3 月), Aseel Alchawoosh (～3 月), Han Peifeng ,
Moe Sandar Kyaw (～9 月), 春日柚香, 望月綜太, Nyein Chan Ko, 伊藤遼太, 平野恵子,
佐竹和久 (社会人大学院生), Yu Ziniu, Wang Shihan, 山本里沙子, Khaing Nyein Pwint, Ren Chunmei,
名取健太郎, 豊田康氣, 大島理紗, Bai Xiyuan, Phu Yadanar Aung Myint, Alghamdi Faisal Turki A,
石通昌治 (4 月～), 齋藤隆馬 (4 月～), 岩井郁 (社会人大学院生 (4 月～), Luo Yanshan (4 月～), Chen Yanyan (4 月～）

大学院研究生
川村拓也（～3 月), 小牧令昂 (～3 月), 星野陽子 (～8 月), Luo Yanshan（～3 月）, Chen Yanyan (～3 月) ,
末吉峻幸 (4 月～), 中野奏美 (4 月～) ， 森大朗 (4 月～), 吉田麻莉 (4 月～), 汪叙彤 (10 月～)

(1) 分野概要

歯髄生物学分野は，歯髄および根尖歯周組織の疾患の予防，診断ならびに治療を考究する歯内療法学を専攻する分野である．歯髄は周囲を硬組織に囲まれた特殊な環境下に置かれている．歯を保存し，口腔内で十分に機能させるためには，歯髄の構造的・機能的特徴をよく理解し，歯髄の保護に努める必要がある．他方，歯髄疾患を放置すれば，やがて歯髄死を招き根尖歯周組織疾患を生ずるに至るが，その治療に際しては，複雑な根管系における細菌感染の入念な排除が必要となる．歯内療法学は，歯髄疾患や根尖性歯周疾患の予防や治療により，歯を保存し永くその機能を営ませることを目的としている．

(2) 研究活動

1. 象牙質/歯髄複合体のバイオロジーと歯髄組織の再生

歯髄炎における microRNAの役割と炎症制御

近年，各種 microRNAが様々な生体反応において重要な役割を担っていると報告されている．そこで，我々は予備実験により microRNAの一つである miR-146b-5pがLPS刺激したヒト歯髄細胞において発現が増加することを見出し，歯髄炎発症過程における miR-146b-5pの役割について評価した．miR-146b-5pは LPS刺激ヒト歯髄細胞において，LPS刺激に伴い産生される IL-6により活性化されるJAK/STATシグナルを介して産生が誘導されることが明らかになった．miR-146b-5pはLPS刺激で活性化される NFkBシグナルを介する炎症性メディエーター発現を抑制するが，その時 TRAF6，IRAK1，RELAをターゲットとすることが明らかになった．特に，3'-UTRにRELAのmiR-146b-5pの結合配列が存在することを今回初めて明らかにした．miR-146b-5pはラット実験的歯髄炎においても発現の増加が確認され，LPS刺激ラット切歯歯髄組織においても miR-146b-5p は炎症性メディエーター発現を抑制した．以上の結果，miR-146b-5pが歯髄炎の進展において，その炎症反応の進行を抑制するメカニズムの一つとして機能している可能性が示唆された．さらに miR-27aも同様に LPS刺激ヒト歯髄細胞において発現が増加することを見出し，その機能について解析を行っている．

2. 歯科用レーザーを用いた根管洗浄の安全性および清掃性に関する検討

歯内療法における新たな根管洗浄法として，歯科用Er:YAGレーザー照射装置を用いたLAI (laser-activated irrigation)の臨床応用が期待されている．そこで，LAIでのキャビテーション挙動，根尖孔外への溢出リスク，および複雑な根管形態への洗浄効果を解析した．その結果，LAIは超音波洗浄法等と比較して，照射チップ先端から遠位に位置する模擬根管側枝内の水酸化カルシウム除去効率に優れることが判明した．また，LAI の水酸化カルシウム除去能は照射エネルギーやチップの先端径の増加によって有意に増加した．さらにレーザー照射条件が，根管内蒸気泡の挙動および根尖孔外に生じる圧力に及ぼす影響を解析したところ，蒸気泡数と最大径は，照射エネルギー，繰り返しパルス数，チップ径増加により有意に増加した．蒸気泡速度は繰り返しパルス数の増加に伴い上昇したが，照射エネルギーとチップ径による有意差を認めなかった．根尖孔外に生じた圧力は，上記全ての照射条件の増加で有意に増加した．またレッジや破折ファイル片を有する根管形態に対する LAI の挙動を評価したところ，レッジや破折ファイル片を越えた根尖部においても洗浄効果を認め，超音波洗浄と比較して有意に高い洗浄液の活性化挙動を示していた．

3-1 水硬性ケイ酸カルシウム系シーラーの特性

水硬性ケイ酸カルシウム系シーラーであるBio-C sealer (BioC），Well-Root ST（WST）およびEndoSequence BC sealer（BC）が，骨芽細胞の分化/石灰化とマクロファージからの炎症性サイトカイン産生に与える影響について検討した．BioC, WSTおよびBC抽出液は，Kusa-A1細胞におけるオステオカルシンおよびオステオポンチンのmRNA発現および石灰化結節形成を有意に促進した．またBioC，WST，BCは，RAW264.7細胞においてインターロイキン (IL)-1α, IL-1β, IL-6, 腫瘍壊死因子（TNF）-αのmRNA発現，IL-6およびTNF-αのタンパク質レベルを有意に低下させた．BioC，WST，BC は生体適合性が高く，骨芽細胞分化/石灰化を促進し，炎症性サイトカイン発現を抑制することが明らかになった．また，これらのシーラーから放出される Ca^{2+}が骨芽細胞分化/石灰化の誘導に関与する可能性が示された．

3-2 新規水硬性歯内療法用セメントとしてのセリウム酸二ストロンチウムおよびアルミン酸ストロンチウム

セリウム酸二ストロンチウム (S2Ce)およびアルミン酸ストロンチウム（S3A）を新たに合成し,その硬化時間,圧縮強度,相対流動性, X 線造影性を評価した. S2Ceおよび S3Aの硬化時間は121および91分で, 市販 MTAセメントより早い硬化を示した. 練和1日後の S2Ceの圧縮強さは混水比 0.4において最大 72.1MPaと市販MTAより高い値を示したが, 28日後には混水比 0.30～0.40で有意に圧縮強さが低下した. S3Aの圧縮強さは練和1日後で10MPa, 28日後で 13MPaだった. 溶出特性では両者とも浸漬 1 日後がら Sr溶出が認められた. S2Ceの X 線造影性は市販 MTAの約 3倍, S3AはMTAとほぼ同等のX線造影性を示した.

3-3 MTAセメントへのセルロースナノファイバー（CNFs）の添加

ポルトランドセメントを主成分とする Mineral Trioxide Aggregate (MTA)セメントは優れた封鎖性や生体親和性から直接覆髄などの処置において使用されている．MTAセメントに限らずケイ酸カルシウムを主成分とするポルトランドセメントは硬化中の冠水により硬化が阻害されるという欠点があり，水中で硬化させる場合には増粘剤などの添加が必要である．実際，MTAセメントは充填直後に血液等の体液に接触すると，セメントの硬化阻害が起こることが報告されている．今回，建築分野のセメントの増粘剤として近年注目されているセルロースナノファイバー（CNFs）の添加による MTAセメント硬化体の機械的特性について検討した．その結果,CNFs添加がNEX MTAに水中硬化性を付与し得ることが明らかになった．水中硬化性の付与は同セメントの臨床において，特に逆根管充填など体液･血液に接触しやすい環境下でも安定して硬化し得ることにつながり，同セメントの臨床応用の拡大に寄与するものと期待される．

4. ニッケルチタン（NiTi）ロータリーファイルを用いた安全で効率的な根管形成
4-1 熱処理加工されたニッケルチタン製ロータリーファイルの室温および体温での相変態と機械的特性
先端径とテーパーが同一で熱処理加工が異なる NiTi ファイル（Hyflex EDM，Hyflex CM，Vortex Blue，RE file· CT，JIZAI）と，従来型の非熱処理の NiTi ファイル（Mtwo）の相変態温度を測定するとともに，曲げ特性と回転疲労耐性を室温（25 ± 1 ℃）および体温（37 ± 1 ℃）で評価した．結果として熱処理加工 NiTi ファイルは，非熱処理の Mtwoよりも曲げ荷重値が低く回転疲労耐性が高かったが，体温では室温と比べてこの傾向は弱くなることが示された．
4-2 異なる熱処理を施された NiTi ファイルの理工学的特性
4種類の異なる熱処理を施された同一先端径，テーパーの NiTiファイル（Hyflex EDM，Hyflex CM，Twisted File，K3）を用いて回転疲労試験，曲げ試験，DSC試験を行った．熱処理型ファイルの HyFlex EDMは他のファイルと比較し，高い相変態温度および高い柔軟性，高い回転疲労耐性を示した．

4-3 2種類の彎曲した根管に対する 4 種類のグライドパスファイルのトルクとスクリューインフォース
4 種類のグライドパスファイルTruNatomy (TN), Hyflex EDM (EDM), ProGlider (PG), Dent Craft RE (RE) におけるトルクとスクリューインフォースの発生について，単彎曲あるいは 二重彎曲を有する根管模型を用いて検討した．その結果，トルクは単彎曲根管ではTNがREと比較して、また二重彎曲根管ではTNがPGと比較して有意に大きかった。また，スクリューインフォースは単彎曲根管ではREが他と比較して有意に小さかったが、二重彎曲根管ではファイル間で差がなかった。根管形態はトルクに対して影響しなかったが、スクリューインフォースはEDMが単彎曲根管で二重彎曲根管と比較して有意に小さい値を示した。

4-4 NiTi ファイルを用いた静的·動的トルク試験に回転様式が与える影響
通常の NITi ファイルの静止状態でのトルク試験方法は臨床条件を十分反映しておらず, 正回転·逆回転での有効性には検討の余地がある．そこで，JIZAI (#25/.04) を用いて静的・動的試験を行い，異なる回転様式の影響を検討した。静的試験では JIZAI の先端 5 ㎜を固定し，オートトルクリバースによる正回転（CR），OTR モーション（OTR），レシプロケーション (REC) の 3 種類の回転様式で破折するまで回転させた．動的試験では直線·彎曲根管を用いて 3種類の回転様式で根管形成した．静的試験では破折時トルク，破折までの時間 (Tf)，動的試験ではトルク，スクリューインフォースを記録した．静的試験·動的試験で回転様式による影響は認められなかった．しかし，直線根管ではスクリューインフォースに回転様式による相違が認められた．REC では Tf が有意に長く，彎曲根管では CRでトルクとスクリューインフォースが大きかった．OTRによる動的なトルクとスクリューインフォースは他の回転様式に類似しており，根管の彎曲に影響されなかった．

4-5 彎曲の異なる根管に対するトルクセッティングがトルク・荷重、根管形成能、NiTiファイル表面性状に与える影響
ヒト抜去歯の異なる彎曲の根管を用いて、NiTiファイル（ProGliderおよびProTaper NEXT）を用いて3種類のトルクセッティングで根管形成を行った。高トルク群の強彎曲根管でファイル破折が起こった。彎曲位置はトルク・荷重に影響しなかった。トルクセッティングと彎曲位置は根管形成能に影響を与えなかった。

(3) 教育活動

当分野では，歯内療法領域をリードする研究者，臨床医の育成を教育目標としている．近年における歯髄生物学や歯内療法学の進展は目覚ましいことから，その最先端の内容を教授するのみならず，神経生理学，分子生物学，免疫学，生体材料学，画像診断学などの関連領域の知識，さらには最新の治療技法の修得に関する教育も行っている．独自の研究に基づき歯内療法領域における新知見を得ることが大学院の修了要件となる．

(4) 臨床活動および学外活動

歯髄生物学分野は，本学歯学部附属病院においてう蝕制御学分野と共にむし歯外来を担当しており，グローバルスタンダードな歯内療法を提供することを目的として診療にあたっている．以下にその代表的な処置内容を挙げる．

· 生活歯髄の処置（覆髄法，象牙質知覚過敏症処置）
· 非外科的歯内療法
· 再根管治療
· マイクロサージェリー
· 無髄歯の漂白
· 歯内療法後の歯の修復

(5) 臨床上の特色

歯内療法は近年大きく変化しており，Ni-Ti ロータリーファイルによる根管形成，歯科用コーンビーム CT による診断，手術用実体顕微鏡下の非外科的・外科的歯内療法（microendodontics）などの導入が図られている．特に microendodontics は，明るい拡大視野下で確実な診断や精密な施術を行うことを可能とするため，今までの「手探りで行ってきた」歯内療法をより確実な歯内療法へと劇的に変化させている．また，本分野における基礎的実験や臨床的研究に基づき，科学的根拠に立脚した歯内療法の提供に努めている．

(6) 研究業績

[原著]

1. Yahata Y, Handa K. Ohkura N, Okamoto M, Ohshima I, Itoh S, Kawashima N, Tanaka T, Sato N, Noiri Y, Hayashi M, Okiji T, Saito M. M. Autologous concentrated growth factor mediated accelerated bone healing in root-end microsurgery: A multicenter randomized clinical trial. Regenerative therapy. 2023.12; 24; 377-38

2. Kasuga Y, Kimura S, Maki K, Unno H, Omori S, Hirano K, Ebihara A, Okiji T. Phase transformation and mechanicalpropertiesofheat-treatednickel- titaniumrotaryendodontic instruments at roomand body temperatures. BMC Oral Health. 2023.10; 23(1); 825

3. Alchawoosh A, Hashimoto K, Kawashima N, Noda S, Nozaki K, Okiji T. Hydraulic calciumsilicate-based root canal sealers mitigate proinflammatory cytokine synthesis and promote osteogenesis in vitro. Journal of Dental Sciences. 2023.10; 18(4); 1731-1739

4. Thu M, Ebihara A, Kyaw MS, Omori S, Maki K, Kimura S, Unno H, Okiji T. Influence of different kinematics on stationary and dynamic torsional behavior of JIZAI nickel-titanium rotary instruments: An in vitro study. Journal of Dental Sciences. 2023.07; 18(3); 1170-1176

5. Liu J, Watanabe S, Mochizuki S, Kouno A, Okiji T. Comparison of vapor bubble kinetics and cleaning efficacy of different root canal irrigation techniques in the apical area beyond the fractured instrument. Journal o f Dental Sciences. 2023.07; 18(3); 1141-1147

6. Han P, Sunada-Nara K, Kawashima N, Fujii M, Wang S, Kieu TQ, Yu Z, Okiji T. MicroRNA-146b-5p Suppresses Pro-Inflammatory Mediator Synthesis via Targeting TRAF6, IRAK1, and RELA in Lipopolysaccharide-Stimulated Human Dental Pulp Cells. International Journal of Molecular Sciences. 2023.04; 24(8);

7. Ohkura N, Yoshiba K, Yoshiba N, Oda Y, Edanami N, Ohshima H, Takenaka S, Okiji T, Noiri Y. Prostaglandin E2-transporting pathway and its roles via EP2/ EP4 in cultured human dental pulp. Journal of Endodontics. 2023.04; 49(4); 410-418

8. Okihata R, Michi Y, Sunakawa M, Tagashira Y. Pharmacist-led multifaceted intervention in an antimicrobial stewardship programme at a university dental hospital in Japan. Journal of Hospital Infection. 2023.04; 136;30-37

9. Thu M, Ebihara A, Maki K, Kimura S, Kyaw MS, Kasuga Y, Nishijo M, Okiji T. Dynamic torque and screw- in force of four different glide path instruments assessed in simulated single- and double-curved canals: An in vitro study. Journal of Dental Sciences. 2023.10; 18(4); 1598-1603

10. Tazawa K, Sasaki H. Three-dimensional cellular visualization in mouse apical periodontitis using combined whole-mount staining and optical tissue clearing. Journal of Oral Biosciences, 2023.05; 65(1);132-135

11. Tazawa K, Jadhav R, Azuma MM, Fenno JC, McDonald NJ, Sasaki H. Hypochlorous acid inactivates oral pathogens and a SARS- CoV-2-surrogate. BMC Oral Health, 2023.02; 23(1); 111

[書籍等出版物]

1. 川村拓也，渡辺聡，高野晃，興地隆史. 歯内療法を再考する. クインテッセンス出版, 2023.10
2. 興地隆史. Ni-Ti ファイル自由自在. デンタルダイヤモンド社, 2023.10 (ISBN : 978-4-88510-573-9)
3. 興地隆史.日本学術会議歯学委員会 基礎系歯学分科会 病態系歯学分科会 臨床系歯学分科会. 歯学･口腔科学分野の課題と展望 2023 保存治療. 日本学術会議, 2023.09
4. 砂川光宏. 一般社団法人 日本歯科医学界連合監修 エビデンスに基づく歯科医療における医療関連感染対策実践マニュアル. 永末書店, 2023.06 (ISBN : 978-4-8160-1430-7)
5. 橋本健太郎，興地隆史. 根管充填. 医歯薬出版, 2023.01
6. 興地隆史. 歯科衛生学シリーズ 保存修復学 · 歯内療法学. 医歯薬出版, 2023.01 (ISBN :978-4-263-42632-6)

[総説]

1. 豊田康氣，渡辺聡，興地隆史. 6 %テーパーと 4 %テーパーによる根管形成の比較：デンジャーゾーンへの影響. ザ･クインテッセンス. 2023.11; 42(11); 194-195
2. 興地隆史. 2022 年（令和 4 年）版 新歯科医療機器 · 歯科医療技術産業ビジョンについて. 日本歯科医師会雑誌. 2023.10; 76(7); 510-511
3. 大島理紗，牧圭一郎，興地隆史. 選択的再根管治療の治療成績の後向き評価. 日本歯科評論. 2023.09; 83(9). 128-129.
4. 渡辺聡，興地隆史. 大きな嚢胞様根尖病変に対する非外科的根管治療の治療成績および関連因子：CBCTに基づいた前向きコホート研究. ザ･クインテッセンス. 2023.07; 42(7); 204-206
5. 山本理沙子，牧圭一郎，興地隆史. 根尖病変を伴う既根管治療歯に対する再根管治療の成功率 -ランダム化比較試験による即日根管充填と二回治療の比較. 日本歯科評論. 2023.05; 83(5); 122-123
6. 大島理紗，渡辺聡，興地隆史. MTA にて修復された穿孔の予後因子と初期治癒：14年間の前向き研究. ザ･クインテッセンス. 2023.04; 42(4); 222-223
7. 瀧本晃陽，橋本健太郎，木村俊介，大森智史，興地隆史. 歯内療法に必要な生物学的知識とその臨床的意義～「科学」と「臨床」のトランスレーション～ Endodontic Microbiology. 歯界展望. 2023.02; 141(2). 282-294
8. 平野恵子，渡辺聡，興地隆史. 改良した無菌的処置法が大臼歯の根管治療の成績に与える影響に関するランダム化比較研究. ザ･クインテッセンス. 2023.05; 41(5); 219-221
9. 興地隆史. 単一ポイント根管充填法を再考する：ケイ酸カルシウム系根管用シーラーとのコンビネーション.千葉県歯科医学会誌. 2023.12; 10(1); 19-22
10. 牧圭一郎，興地隆史. 逆根管治療は観察がすべて-Endodontic Surgical Inspection- ザ･クインテッセンス. 2023.12; 42(12); 2640-2662
11. 豊田康氣，牧圭一郎，興地隆史. 症候性不可逆性歯髄炎の根完成永久歯に対する歯頸部断髄と部分断髄の評価：ランダム化比較試験. 日本歯科評論. 2023.01; 83(1);122-123

[講演・口頭発表等]

1. 興地隆史.外傷歯の歯内療法：MTAセメントの応用.日本外傷歯学会認定医研修会 2023.12.03 東京
2. Yu Z, Kawashima N, Wang S, Okiji T. MicroRNA-27a promotes osteo-/odontoblastic differentiation of human dental pulp stem cells by targeting dickkopf homolog 3. 第88回口腔病学会学術大会 2023.12.01東京
3. Wang S, Kawashima N, Yu Z, Okiji T. MicroRNA-27a downregulates proinflammatory cytokines expression in LPS-stimulated human dental pulp cells. 第88回口腔病学会学術大会 2023.12.01 東京
4. 興地隆史. 現代の歯内療法の潮流. 小金井歯科医師会学術講演会 2023.11.28 小金井
5. Myint P, Watanabe S, Mochizuki S, Natori K, Okiji T. Efficacy of Er:YAG laser-activated irrigation i n cleaning root canals with simulated internal resorption cavities. 第35回日本レーザー歯学会総会・学術大会 2023.11.25 東京
6. 興地隆史. 活髄保存疗法. 大連医科大学口腔医学院特別講演 2023.11.24 大連
7. 岡田大和, 川島伸之, 野田園子, Nyein CK, 村野浩気, 砂川光宏, 興地隆史. ラット臼歯歯髄への MO 貼付に伴う視床における Sostdc1 mRNA 発現の低下. 日本歯科保存学会 2023 年度秋季学術大会（第159回） 2023.11.11 浜松
8. Nyein CK, 野田園子, 岡田大和, 田澤健人, 川島伸之, 興地隆史. Biocompatibility and pro-mineralization effects of premixed calcium silicate-based materials on human dental pulp stem cells. 日本歯科保存学会2023年度秋季学術大会 (第159回) 2023.11.11 浜松
9. Myint P, 渡辺聡, 川村拓也, 名取健太郎, 高野晃, 興地隆史. 各種水酸化カルシウム材の除去性の比較. 日本歯科保存学会 2023 年度秋季学術大会 (第159回) 2023.11.11 浜松
10. 牧圭一郎, 黒嶋雄志, 岡田大和, 興地隆史. 滲出液の抑制困難な歯根嚢胞に根管充塡前外科的歯内療法を行った一例. 日本歯科保存学会2023年度秋季学術大会 (第159回) 2023.11.11 浜松
11. Mochizuki S, Watanabe S, Liu J, Okiji T. Smear layer removal efficacy of different irrigation techniques in conservatively instrumented root canals. The 25th KACD-JSCD Joint Scientific Meeting 2 023.11.04 Seoul, Korea
12. Ito R, Watanabe S , Satake K, Okiji T. Accuracy and efficiency of fiber post removal using surgical guides: An ex vivo study. The 25th KACD-JSCD Joint Scientific Meeting 2023.11.04 Seoul, Korea
13. Ohshima R, Kawashima N, Okiji T. Induction of odontoblasts in MTA-applied exposed mol ar pulp tissues is disturbed in osteopontin knockout mice. The 2 5th KACD-JSCD Joint Scientific Meeting 2023.11.04 Seoul, Korea
14. 興地隆史. 歯内療法の潮流を日常臨床に活かす-超高齢社会への対応-. 足利歯科医師会学術講演会 2023.10.07 足利
15. 興地隆史. 歯の外傷と歯内療法 歯と歯髄の保存のための考え方と実際. White Cross 講演会 2023.10 Web開催
16. 興地隆史. 外傷歯の歯内療法：歯と歯髄の保存を考える. 日本外傷歯学会認定医研修会 2023.09.10 東京
17. 金成学, 足立礼孝, 吉本由紀, 川島伸之, 太田正人, 井関祥子. FGF18 シグナルは歯根形成を制御する. 第65回歯科基礎医学会学術大会 2023.09.17 東京
18. 興地隆史. エビデンスに基づくベーシックエンド+α. 令和 5 年度東京都歯科医師会卒後研修 2023.08.27東京
19. Kawashima N, Okiji T . Effects o fhypoxic condition o nmineralization and inflammation i nthe pulp tissue. Asian Pacific Endodontic Confederation (APEC) 2023.08.25 Taipei, Taiwan
20. Okada Y, Kawashima N , Okiji T . Endodontic retreatment of a maxillary first molar with multiple iatrogenic complications. Asian Pacific Endodontic Confederation (APEC) 2 023.08.25 Taipei, Taiwan
21. 興地隆史. 歯内療法の潮流を日常臨床に活かす―Science と Art のコンビネーション―. 富士見会講演会 2023.08.19 松山
22. 渡辺聡. Er:YAG レーザーを用いた洗浄能力の考察と展開. 第 24 回 Er:YAG レーザー臨床研究会 2023.08.06 京都
23. 興地隆史. TMDU 興地教室のエンド臨床 ーマイクロスコープと NiTi ファイルと MTA ー . 東京医科歯科大学歯科同窓会 C.D.E. 第 59 期 Part II 2023.07.30 東京
24. 興地隆史. 根未完成外傷歯への歯内療法学的対応. 第 23 回日本外傷歯学会学術大会 2023.07.23 高松

20. 興地隆史. 歯の外傷と歯内療法-診断とマネジメントのポイント-. 日本外傷歯学会認定医研修会 2023.07.16東京

21. 礪波健一, 梅森幸, 則武加奈子, 秀島雅之, 海老原新, 曹日丹, 須永昌代, 木下淳博, 新田浩. 歯科保険請求教育方略の検討 -自学自習アプリに対する学生評価-. 第 42 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 2023.07.15 WEB 開催

22. 則武加奈子, 樺沢勇司, 濱洋平, 礪波健一, 海老原新, 秀島雅之, 梅森幸, 金森ゆうな, 三木裕仁, 城戸大輔, 西山暁, 新田浩. 東京医科歯科大学病院歯科医師臨床研修プログラムに新たに導入した研修内容.第42回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 2023.07.15 福岡（オンライン）

23. 平野恵子，牧圭一郎, 木村俊介, 雲野颯, 大森智史, 春日柚香, 山本里沙子, 豊田康氣, 海老原新, 興地隆史.根管形成法の相違が NiTi ファイル臨床使用経験のない術者による根管形成に及ぼす影響. 第44回日本歯内療法学会学術大会 2023.07.09 東京

24. Moe SK, Iino Y, Kimura S, Maki K, Ebihara A, Okiji T. Effect of repetitive pecking motions on torque/forcegeneration and shaping ability of NiTi rotary instruments: An ex vivo study. 第44回日本歯内療法学会学術大会 2023.07.09 東京

25. Chunmei R, Tazawa K, Kawashima N, Okiji T. Metformin suppresses pro-inflammatory cytokine expression in LPS-stimulated human dental pulp stem cells . 第 44 回日本歯内療法学会学術大会 2023.07.09 東京

26. 渡辺聡，藪本園子，二階堂七実，添田比呂子，興地隆史. コーンビームＣＴを用いた全歯種における根管形態評価. 第44回日本歯内療法学会学術大会 2023.07.08 東京

27. 奥田大樹，川島伸之，興地隆史. セルロースナノファイバー添加による MTA セメントの水中硬化性の向上.第44回日本歯内療法学会学術大会 2023.07.08 東京

28. 興地隆史. 新たなる歯内療法の幕開け-歯髄保存を考える-. 第44回日本歯内療法学会学術大会2023.07.08 東京

29. 平野恵子, 牧圭一郎, 雲野颯, 大森智史, 春日柚香, 海老原新, 興地隆史. 術者の経験がニッケルチタン製ロータリーファイルおよびステンレススチール製手用 K ファイルの根管形成に及ぼす影響. 日本歯科保存学会 2023 年度春季学術大会（第158 回） 2023.06.23 松江

30. 伊藤遼太, 渡辺聡, 高野晃, 山内慎也，興地隆史. 加熱によるケイ酸カルシウム系シーラーの理工学的性質への影響. 日本歯科保存学会 2023 年度春季学術大会（第158 回） 2023.06.22 松江

31. 興地隆史. 水酸化カルシウム製剤を用いた根管貼薬を再考する . 日本歯科保存学会 2023 年度春季学術大会（第158 回） 2023.06.22 松江

32. 田澤建人 藤村朗, 興地隆史, 佐々木元. マウス歯髄におけるリンパ管の存在および細胞外液排出経路の組織学的観察. 日本歯科保存学会 2023 年度春季学術大会（第158回）2023.06.22 松江

33. 興地隆史. MTA セメント－生体材料としての現状と展望－. 千葉市歯科医師会令和５年度第１回学術講演会 2023.05.17 Web 開催

34. 興地隆史. 日常臨床に活かす 歯内療法の最新コンセプト. 倉敷歯科医師会学術講演会 2023.05.14 倉敷

35. 興地隆史. MTA セメントの臨床展開. 倉敷歯科医師会学術講演会 2023.05.14 倉敷

36. 興地隆史. エンドの一般的な症例から難症例まで–再根管治療 Part II. 歯友会講演会 2023.04.26 東京

37. 渡辺聡. Er:YAG レーザーを用いた根管洗浄. 百瀬歯科勉強会 2023.04.15 東京

38. 興地隆史. エンドの一般的な症例から難症例まで–再根管治療. 歯友会講演会 2023.03.29 東京

39. 興地隆史. Microendodontic Retreatment. 東京医科歯科大学生体補綴歯科学分野同門会講演会 2023.03.26 Web開催

40. 興地隆史. 歯髄保存の現在 ―バイオロジーとバイオマテリアルと臨床―. 第2回 SanaCanalis 総会・講演会 2023.03.19 仙台

41. 興地隆史. エンドの一般的な症例から難症例まで. 歯友会講演会 2023.02.22 東京

42. 興地隆史. Vital Pulp Therapy の動向. 関東歯内療法学会第 21 回学術大会・総会 2023.02.05 東京

43. 渡辺聡. Er:YAG レーザーを用いた LAI. E-school Japan Coaching alumni オフ会 2023.01.29 東京

[受賞]

1. 興地隆史. 令和4年度日本歯科医学会会長賞, 日本歯科医学会, 2023年02月
2. 渡辺聡. 第44回日本歯内療法学会理事長賞, 第44回日本歯内療法学会, 2023年07月
3. 奥田大樹. 第44回日本歯内療法学会ワカイ賞, 第44回日本歯内療法学会 2023年07月
4. Phu Yadanar Aung Myint. 第35回日本レーザー歯学会最優秀発表賞, 第35回日本レーザー歯学会, 2023年11月

[社会貢献活動]

1. Alghamdi Faisal Turki A, 田澤健人, 興地隆史. 世界におけるサウジアラビア留学生の生活特集 取材協力, リサーラ・メディア・プロダクション, サウジアビア王国営テレビ, 2023年07月26日-2023年08月31日

生体補綴歯科学分野

Advanced Prosthodontics

教　授：若林則幸

准教授：上野剛史 (〜10 月)，隅田由香 (〜5 月)

講　師：高市敦士 (6 月〜)，野崎浩佑，服部麻里子 (キャリアアップ) (6 月〜)，和田淳一郎 (12 月〜)

助　教：高市敦士 (〜5 月)，高草木謙介，服部麻里子 (〜5 月)，村上奈津子，村瀬　舞 (6 月〜)，
和田淳一郎 (〜11 月)

日本学術振興会特別研究員：加嶋祐佳

特任助教：原口美穂子，村瀬　舞 (〜5 月)，山﨑俊輝

医　員：大河原久実 (〜3 月)，金　應烈 (〜3 月)，坂本一生 (〜3 月)，佐藤裕和，鈴木進太郎，谷　皇子，
辻　美余 (4 月〜)，長山富治，藤田　遥 (〜3 月)，松野　瞳 (4 月〜)

言語聴覚士 (技官)：正木啓太 (言語治療外来)

大学院生：Ali Ahmed Sameir Mohamed，Ali Islam Elsayed，Alkrayem Bilal Lukman，石岡由理佳，
内田裕爾，内海澪奈，Qu Wenri，Wu Huaze，Gao Yuan (〜3 月)，小林義夫，小峰広平，小山進祐，
Jiang Mengtian，Zhiwei Zhou，Zou Shiqi，Huichuan Xu，田中五月，谷本深雪，Zhang Yihui，Zhang Fan，
Zhang Maorui，Zheng Jingpu，Ding Zhiyuan，Thida Phyo，Chugh Anshul，Dong Jialin，
Towithelertkul Cheewin (〜3 月)，Han Xuewei，Bai Ziyi，平田明日香，Pradhan Nehasha，
Miao Menghan (4 月〜)，毛利有紀，Yang Shiyi，Yu Hongli，李　彬，Wang Jiangyu，Wang Yujia (〜3 月)

大学院研究生：
Arwa Hammam Melhem (10 月〜)，中根一輝，Pang Xinyu，Miao Menghan (〜3 月)，森　一真，依田照之

登録研修医：佐藤　哲

特命教授：隅田由香 (6 月〜)

臨床教授：谷田部優

歯学部非常勤講師：荒井隆行，井川泰葉，磯島慧悟，稲川英明，犬飼周佑，岩城有希，上野剛史 (11 月〜)，
内倉慶一郎，内田博文，Elbashti Mahmoud Ellarousi，大河原久実（4 月〜)，大坪岳史，小奈正弘，
笠井大平，風間龍之輔，金　應烈（4 月〜)，熊谷勇人，小竹雅人，佐藤浩史，鈴木奈月，隅田由香，関西崇史，
照山裕子，豊嶋悠輔，中島康雄，永田浩司，中村一寿，鍋島　玄，波田野典子，林　葉子，葉山博工，
半田和之，日比志郎，平澤正洋，藤木健吾，
藤田　遥 (4 月〜)，南　一郎，山下仁大，Yesiboli Yeerken (〜3 月)，渡邉知恵

大学院非常勤講師：新井祐貴，猪原　健，尾澤昌悟，谷川千尋，日比英晴，堀　一浩，向山　仁

(1) 分野概要

当分野は，一貫して部分床義歯による補綴学を専攻してきた歯科補綴学第一講座，摂食機能構築学分野を経て，2021 年の研究課題を重視した補綴系分野再編成により，生体補綴歯科学分野となりました．2022 年には，顎顔面補綴学分野の廃止に伴って医局員と大学院生の受け入れを行い，今後は補綴材料と診療技術に関する基礎研究と臨床研究の橋渡し，およびそのための人材育成を担い，新しい技術の開発と評価を目指します．

(2) 研究活動

1. 補綴治療の診断，治療学と治療効果の評価
2. 補綴用生体材料の設計最適化
3. 補綴装置と口腔組織に関する生物学
4. 補綴臨床の教育開発学

（研究助成）
＜科学研究費助成事業＞
基盤研究 C：ハイフレックス型授業の補綴学習効果を解明するランダム化比較試験（研究代表者：若林則幸）
基盤研究 C：表面電荷制御された生体活性型インプラントの臨床応用に向けた基礎的研究（研究代表者：上野剛史）
基盤研究 C：ナイトデンチャーは多数歯欠損歯列を睡眠時ブラキシズムによるストレスから守れるか？（研究代表者：犬飼 周佑，研究分担者：和田淳一郎）
基盤研究 C：高次構造制御チタニアナノシートを用いた抗菌性歯科補綴装置の開発（研究代表者：野崎浩佑）
基盤研究 C：超高密度度表面電荷の付与によるポーラス β-TCP の骨形成能の制御（研究代表者：山下仁大，研究分担者：野崎浩佑）（～３月）
基盤研究 C：オールセラミック修復における熱刺激に対するリスク予測システムの構築（研究代表者：小奈正弘）（～３月）
若手研究：単一構造型 FRC を用いた新しい支台築造方法の開発（研究代表者：永田浩司）（～３月）
若手研究：インプラント周囲顎骨の形成 · 吸収を制御する骨細胞とローカルストレス閾値の解明（研究代表者：豊嶋悠輔）（～３月）
若手研究：歯槽骨内部の応力 · ひずみが方向依存的に形成と吸収を制御するメカニズムの解明（研究代表者：大河原久実）
基盤研究 C：区画化型スキャンストラテジーを駆使した歯科補綴装置の高機能 · 長寿命化（研究代表者：高市敦士）
若手研究：マルチマテリアル造形による三次元物性カスタム化技術の確立と歯科補綴装置への応用（研究代表者：加嶋祐佳）
若手研究：義歯への微生物の付着抑制がフレイルの予防に与える効果についての前向き介入研究（研究代表者：高草木謙介）（～３月）
若手研究：405nm 波長光および光触媒を利用した双方向からの義歯清掃方法の開発（研究代表者：高草木謙介）
若手研究：咬合支持を失った患者に対する咀嚼訓練と栄養指導の効果についてのランダム化比較研究（研究代表者：鍋島玄）（～３月）
若手研究：高血糖値が象牙質の材料特性に及ぼす影響　—糖尿病モデルマウスを用いた検討—（研究代表者：稲川英明）
若手研究：モノアミン系神経伝達物質に関連した睡眠時ブラキシズムの神経生理学的検討（研究代表者：井川泰葉）（～３月）
基盤研究 B：有床義歯補綴における臨床と教育のデジタルトランスフォーメーション（研究分担者：若林則幸）
基盤研究 C：人工知能を活用した部分床義歯設計システムの開発研究（研究分担者：若林則幸）
基盤研究 C：歯周組織再生療法 · インプラント治療に血糖コントロールが与える影響（研究分担者：上野剛史）（～３月）
基盤研究 C：咽喉部機能維持のための発話訓練法—音声認識 · 深層学習を用いた評価訓練プログラム—（研究分担者：和田淳一郎）
基盤研究 C：積層造形を応用した理想的な表面形状を持つ次世代ジルコニアインプラントの開発（研究分担者：野崎浩佑）（～３月）
基盤研究 C：CAD/CAM 冠の加工精度を向上させる切削加工条件の最適化（研究分担者：野崎浩佑）
基盤研究 C：咬合調整フリー歯冠補綴装置の作製を可能にする革新的診療プロセスの構築（研究分担者：野崎浩佑）
基盤研究 C：応力-電気誘起物質拡散解析を用いた力学負荷による骨形成機序解明と骨接合術への応用（研究分担者：山下仁大）
基盤研究 C：オールセラミック修復における熱刺激に対するリスク予測システムの構築（研究分担者：村上奈津子）（～３月）
基盤研究 C：金属ナノ粒子担持チタニアナノシートを用いた抗菌性ジルコニア歯科補綴装置の開発（研究代表者：野崎浩佑）（４月～）

基盤研究 C：カルシウムイオン電導を起因とする超高密度表面電荷誘起 β-TCP の骨再生制御（研究代表者：山下仁大）（4 月～）
AMED 橋渡し研究プログラム：シーズ A：定位放射線治療を目指した舌吸引固定型スペーサーとマーカー開発（研究分担者：原口美穂子）（4 月～）

＜民間助成＞
株式会社ニッシン：CAD/CAM 切削加工用義歯用ポリマーにおける機械的性質と適合精度に関する研究（研究代表者：若林則幸）
株式会社ニッシン：新規硬化型裏装材の評価（研究代表者：若林則幸）
三井物産株式会社：問診による歯科診断ロジックの開発（研究代表者：若林則幸）
トクヤマデンタル株式会社：歯科用補綴系材料の評価に関する研究（研究代表者：若林則幸）
トクヤマデンタル株式会社：歯科補綴系材料等の評価に関する研究（研究代表者：野﨑浩佑）
ヤマハ株式会社：音楽歯科の提起 (研究責任者：隅田由香) (～5 月)
ヤマハ株式会社，ヤマハ音楽振興会：音楽体操の顎口腔機能への影響 (研究責任者：隅田由香 (～5 月), 服部麻里子 (6 月～))
御器谷科学技術財団研究助成：医療診断現場への AI 技術応用のための熟練技能の構造化基盤構築 (研究責任者：隅田由香) (～3 月)
東京都：がん治療と就労の両立に向けた支援事業 (研究責任者：隅田由香)
イノベーションアイデアコンテスト (IIC) 2022：発話検査機 Speech-EX の開発 (研究責任者：服部麻里子) (～3 月)
イノベーションアイデアコンテスト (IIC) 2023：災害時や訪問診療に役立つ，型抜き即席入れ歯キット (研究責任者：服部麻里子) (4 月～)

＜卓越大学院制度＞
Huichuan Xu，李　彬，内海澪奈，趙　茜，小峰広平，Zhang Maorui，Yu Hongli，Jiang Mengtian，Miao Menghan

(3) 教育活動

歯学科
1 年
早期臨床体験実習（モジュール：歯学入門）
歯学概説
3 年
歯型彫刻（ユニット：人体の構造と機能）
臨床歯学イントロダクション（モジュール：臨床歯学イントロダクション）
臨床歯学イントロダクション「顎義歯」,「補綴系 TBL」
各診療科における診療の補助 I，II（モジュール：臨床予備実習）
咬合回復基礎（モジュール：咬合回復）
選択コース 1-C：研究論文作成 · 特許取得（モジュール：学年混合選択セミナー）
4 年
研究実習
部分床義歯補綴（モジュール：咬合回復）
咬合回復統合（モジュール：咬合回復Ⅱ）
咬合回復統合「特殊な義歯 (即時義歯，治療用義歯，顎義歯)」
臨床体験実習
5 年
課題統合セミナー (歯科と色)「色の基本」
課題統合セミナー (ことばの世界)「ことばの世界 1. 発声 · 発語機能 2. ことばの音響学 3. 発声 · 発語の評価法」,「ことばの世界 筆記試験」
課題統合セミナー (口唇口蓋裂)「口唇口蓋裂の言語治療」,「口唇口蓋裂の補綴治療」
課題統合セミナー (オクルージョン)「顎欠損 · 舌欠損患者のオクルージョン」
共用試験歯学系 OSCE
包括臨床実習 2023 年度 D5—教員合同研修
ケーススタディ（モジュール：発展歯科臨床）
包括臨床実習 Phase I（モジュール：包括臨床実習）
包括臨床実習 Phase II(A)（モジュール：包括臨床実習）
包括臨床実習 Phase II(B)（モジュール：包括臨床実習）
包括臨床実習 Phase II

包括臨床実習 Phase III（モジュール：包括臨床実習）
6 年
包括臨床実習 Phase II

口腔保健学科口腔保健衛生学専攻
２年
臨床歯科医学（ユニット：歯科補綴学）
３年
歯科診療補助論 III「顎顔面補綴学 顎顔面補綴治療の実際 1」,「顎顔面補綴学 顎顔面補綴治療の実際 2」
障害者歯科学「言語聴覚療法」
歯科衛生臨床実習（ユニット：歯科衛生臨床実習）
４年
歯科衛生臨床実習（ユニット：歯科衛生臨床実習）
歯科衛生臨床実習 III (臨床 · 臨地実習)

口腔保健学科口腔保健工学専攻
２年
有床義歯工学（ユニット：部分床義歯工学）
歯冠修復工学
造形美術概論実習
３年
再建工学包括臨床実習 I (歯科臨床見学実習)

（外部からの実習受け入れ）
臨地実習 III．神奈川歯科大学東京歯科衛生専門学校 3 年生
臨地実習．首都医校歯科医療分野歯科衛生学科 1 年生

（臨床研修医）
研修医基礎研修「顎顔面補綴外来の症例」
研修医プログラム 3 ローテーション

（大学院特別講義）
日比英晴．2023 年 2 月 22 日．
猪原　健．2023 年 10 月 26 日．
谷川千尋．2023 年 11 月 16 日．
堀一浩．2023 年 11 月 17 日．
尾澤昌悟．2023 年 11 月 22 日．
向山　仁．2023 年 12 月 20 日．

（大学院講義）
向山　仁．2023 年 3 月 29 日．
生体補綴歯科学大学院講義：2023 年 11 月～12 月

（公開講義）
TMDU International Faculty Development Course (IFDC)．2023 年 4 月 7 日，4 月 14 日，4 月 21 日，10 月 6 日．

(4) 教育方針

主に歯学部の学生を対象として，歯を失った患者の治療に関する臨床教育を行います．教育は講義，テュートリアル，個別指導，シミュレーション，臨床実習を通して行います．

歯の欠損を有する患者の医療面接，口腔内検査，診断，治療方針の立案，印象採得，咬合採得，義歯の設計と製作，装着，さらにメインテナンスに至る，すべての診療行為を実施する能力が歯科診療には不可欠です．

学習の目的は，最新の有床義歯を学習，実践し，将来，臨床医，口腔保健の専門的職業人として向上 · 発展するのに必要な基盤的な知識と技術を身に付けることです．

(5) 臨床活動および学外活動

すべての教員と医員が診療に従事し，義歯科，顎顔面補綴外来，言語治療外来で専門性の高い補綴治療を行っています．我が国において歯の喪失は減少している一方で，部分床義歯の適応となる患者は増加しています．医局員は他の外来や学外から依頼された困難な症例を中心に，難易度の高い症例を多く診療しています．また，その専門性に基づく新しい材料の開発と臨床応用，治験の実施，治療方法の普及への活動も重要な使命です．

(6) 臨床上の特色

義歯科では部分床義歯を用いた治療を専門とします．顎口腔の形態回復，咬合，咀嚼，嚥下，発語の生理的機能の向上，口腔内感覚の保全，および審美性の回復を目的として行っています．部分床義歯の治療方法，材料，設計は個々の患者の病歴と訴えに基づいて決定し，最終的には患者の日常生活に質的な向上がもたらされることが目標です．

顎顔面補綴外来と言語治療外来では，口唇裂口蓋裂患者の言語治療ならびに補綴的再建，上顎，下顎，顔面欠損に対する補綴治療, 放射線治療補助装置およびそれらの患者の歯科的問題に対する治療を行っています．

(7) 研究業績

[原著]

1. Huaxin Lyu, Natsuko Murakami, Toshiki Yamazaki, Junichiro Wada, Miona Utsumi, Noriyuki Wakabayashi. Evaluation of PEEK and zirconia occlusal rest designs for removable partial dentures based on finite element analysis J Prosthodont Res. 2023.04; 67(2); 196-205

2. Yue Yin, Kosuke Nozaki, Reina Nemoto, Omnia Saleh, Yayoi Oishi, Mayuko Matsumura, Wataru Komada, Hiroyuki Miura, Kenji Fueki. Marginal fit and retention force of zirconia resin-bonded fixed dental prostheses in the posterior region with different designs Journal of Dental Sciences. 2023.12;

3. Yurika Ishioka, Junichiro Wada, Eung-Yeol Kim, Kazuki Sakamoto, Yuki Arai, Natsuko Murakami, Toshiki Yamazaki, Kensuke Takakusaki, Hironari Hayama, Miona Utsumi, Shunsuke Inukai, Noriyuki Wakabayashi. Morphological Comparison of Residual Ridge in Impression for Removable Partial Denture between Digital and Conventional Techniques: A Preliminary In-Vivo Study Journal of Clinical Medicine. 2023.11; 12(22); 7103

4. Bai Z, Hattori M, Sumita YI, Wakabayashi N. Case report of a patient with mandibulectomy followed up for 11 years. Journal of oral science. 2023.11;

5. Wu, HZ; Ueno, T; Nozaki, K; Xu, HC; Nakano, Y; Chen, P; Wakabayashi, N. Lithium-Modified TiO< sub> 2< /sub> Surface by Anodization for Enhanced Protein Adsorption and Cell Adhesion ACS APPLIED MATERIALS & INTERFACES. 2023.11; 15(48); 55232-55243

6. Gao Y, Hattori M, Sumita YI, Wakabayashi N. Creating and analyzing digital scans of a mandibulectomy cast with simulated trismus. J Prosthet Dent. 2023.10;

7. Thant SW, Takaichi A, Kajima Y, Mohamed A, Nozaki K, Takahashi H, Chen P, Hanawa T, Wakabayashi N. Effect of ultraviolet irradiation treatment on shear bond strength between polymethyl methacrylate and cobalt-chromium-molybdenum alloy. Dental materials journal. 2023.09; 42(5); 748-755

8. Tanabe G, Towithelertkul C, Fukutome M, Sumita YI, Wakabayashi N. All-in-one-piece type prosthesis combining an obturator, a facial prosthesis, and glasses for the rehabilitation of midfacial defect and its speech evaluation: A clinical report. Int J Maxillofac Prosthetics. 2023.09; 6(1); 20-24

9. Amr Mohamed, Atsushi Takaichi, Yuka Kajima, Takao Hanawa, Noriyuki Wakabayashi. Reusing the Co–Cr–Mo support structures of selective laser melted parts: Evaluation of mechanical properties and microstructures Sustainable Materials and Technologies. 2023.07; 36; e00608

10. Linn Htat H, Takaichi A, Kajima Y, Kittikundecha N, Kamijo S, Hanawa T, Wakabayashi N. Influence of stress-relieving heat treatments on the efficacy of Co-Cr-Mo-W alloy copings fabricated using selective laser melting. Journal of prosthodontic research. 2023.07;

11. Watanabe C, Wada J, Mizutani K, Nagayama T, Uchida H, Shibata Y, Wakabayashi N. Radiographic predictive factors for 10-year survival of removable partial denture abutment teeth: Alveolar bone level and density Journal of Prosthodontic Research. 2023.07; 67(3); 437-443

12. Mohamed, A; Takaichi, A; Kajima, Y; Hanawa, T; Wakabayashi, N. Reusing the Co-Cr-Mo support structures of selective laser melted parts: Evaluation of mechanical properties and microstructures SUSTAINABLE MATERIALS AND TECHNOLOGIES. 2023.07; 36;

13. Murase M, Pradhan N, Sumita YI, Wakabayashi N. Use of digital technology in prosthesis fabrication for an elderly patient with a maxillectomy and severe trismus: A clinical report. J Prosthet Dent. 2023.06; online.;

14. Ali IE, Enomoto K, Sumita Y, Wakabayashi N. Combined digital-conventional workflow to fabricate a definitive obturator from an interim obturator for a patient with an anterior maxillectomy defect. J Prosthet Dent. 2023.06; online.;

15. Wada, J; Wada, K; Garoushi, S; Shinya, A; Wakabayashi, N; Iwamoto, T; Vallittu, PK; Lassila, L. Effect of 3D printing system and post-curing atmosphere on micro- and nano-wear of additive-manufactured occlusal splint materials JOURNAL OF THE MECHANICAL BEHAVIOR OF BIOMEDICAL MATERIALS. 2023.06; 142; 105799

16. Gao Y, Hattori M, Zhang M, Elbashti ME, Sumita YI. Evaluating the feasibility and accuracy of digitizing a maxillary defect model simulating various trismus conditions. Int J Prosthodont. 2023.05; 36(3); 366-374

17. Wang Y, Hattori M, Masaki K, Sumita YI. Detailed speech evaluation including formant 3 analysis and voice visualization in maxillofacial rehabilitation: A clinical report. J Prosthet Dent. 2023.05; online.;

18. Yu H, Fujita H, Akiyama M, Sumita YI, Wakabayashi N. Prevalence of Possible Dementia in Patients with Maxillofacial Defects and Difficulty of Inserting Obturator in Maxillectomy Patients: Toward Better Provision of Supportive Care. Journal of clinical medicine. 2023.04; 12(7);

19. Ali IE, Sumita YI, Hatano N, Kosaka M, Hoshi K, Wakabayashi N. Interdisciplinary management of a patient with medication-related osteonecrosis of the jaw: A clinical report. Int J Maxillofac Prosthetics. 2023.04; 6(1); 16-19

20. Mohamed A, Takaichi A, Kajima Y, Takahashi H, Wakabayashi N. Physical Properties of Additively Manufactured Tooth-Colored Material Attached to Denture Base-Colored Material in a Printed Monolithic Unit. Polymers. 2023.04; 15(9); 2134

21. Wada J, Wada K, Uctasli S, Wakabayashi N, Iwamoto T, Vallittu PK, Lassila L. Effect of splinting material type and location on resistance against deflection force of splinted periodontally compromised teeth with hypermobility. Journal of the mechanical behavior of biomedical materials. 2023.04; 142; 105873

22. Matsushita Y, Liu J, Chu AKY, Tsutsumi-Arai C, Nagata M, Arai Y, Ono W, Yamamoto K, Saunders TL, Welch JD, Ono N. Bone marrow endosteal stem cells dictate active osteogenesis and aggressive tumorigenesis. Nature communications. 2023.04; 14(1); 2383

23. Junichiro Wada, Kanae Wada, Sufyan Garoushi, Akikazu Shinya, Noriyuki Wakabayashi, Tsutomu Iwamoto, Pekka K. Vallittu, Lippo Lassila. Effect of 3D printing system and post-curing atmosphere on micro- and nano-wear of additive-manufactured occlusal splint materials Journal of the Mechanical Behavior of Biomedical Materials. 2023.03; 142; 105799

24. Yo Akiyama, Manabu Kanazawa, Maiko Iwaki, Tamaki Hada, Yumika Soeda, Ryosuke Otake, Kenta Kashiwazaki, Yuriko Komagamine, Natsuko Murakami, Atsushi Takaichi, Noriyuki Wakabayashi, Shunsuke Minakuchi. Fabrication of milled removable partial dentures using a custom plate with prefabricated artificial teeth. J Prosthodont Res. 2023.02;

25. Kazuki Sakamoto, Junichiro Wada, Yuki Arai, Hironari Hayama, Yurika Ishioka, Eung-Yeol Kim, Ryunosuke Kazama, Yusuke Toyoshima, Noriyuki Wakabayashi. Effect of abutment tooth location on the accuracy of digital impressions obtained using an intraoral scanner for removable partial dentures Journal of Prosthodontic Research. 2023.02;

26. Ali IE, Sumita YI, Wakabayashi N. Comparison of Praat and Computerized Speech Lab for formant analysis of five Japanese vowels in maxillectomy patients. Front Neurosci. 2023.02; 17; 1098197

27. Hattori M, Patzelt SBM, Itoh M, Sumita YI, Wakabayashi N. Case Report: Dental treatment for an oboist: Post-trauma prosthetic rehabilitation and evaluation of musical performance. Front Psychol. 2023.02; 13; 1022205

28. Hitomi Matsuno, Bin Li, Hisami Okawara, Yusuke Toyoshima, Cangyou Xie, Masud Khan, Natsuko Murakami, Kazuhiro Aoki, Noriyuki Wakabayashi. Effect of tension and compression on dynamic alveolar histomorphometry Journal of the Mechanical Behavior of Biomedical Materials. 2023.02;

29. Hitomi Matsuno, Bin Li, Hisami Okawara, Yusuke Toyoshima, Cangyou Xie, Masud Khan, Natsuko Murakami, Kazuhiro Aoki, Noriyuki Wakabayashi. Effect of tension and compression on dynamic alveolar histomorphometry Journal of the Mechanical Behavior of Biomedical Materials. 2023.02;

30. Zhang M, Hattori M, Akiyama M, Elbashti ME, Liu R, Sumita YI. Three-dimensional evaluation of the dental arch in cleft lip and palate after prosthetic treatment. J Prosthodont Res. 2023.01; 67(1); 87-92

31. Kanamori Y, Seki N, Foxton R, Moross J, Komagamine Y, Mizutani K, Hosaka K, Kanazawa M, Hatayama T, Komada W, Yonemitsu I, Akiyama M, Kaewmanee PC, Kaewsutha N, Nitta H, Wakabayashi N, Morio I. Fostering globally competent dental students through virtual team-working, problem-solving and person-centred multi-disciplinary care planning. Journal of Dental Sciences. 2023.01; 18(1); 95-104

32. Wang J, Murase M, Towithelertkul C, Tani H, Sumita YI. Custom-made radiotherapy prosthesis for external and internal radiotherapy in a patient with lip cancer. J Oral Sci. 2023.01; 65(1); 65-68

33. Kamel A, Yamazaki T, Murakami N, Lyu H, Komine K, Badr A, Fekry G, Takahashi H, Wakabayashi N. Retentive force of a conical crown with CAD/CAM-fabricated PEEK and zirconia secondary crowns on titanium implant abutments. Dental materials journal. 2023.01; 42(3); 336-342

34. Junichiro Wada, Kanae Wada, Mona Gibreel, Noriyuki Wakabayashi, Tsutomu Iwamoto, Pekka K. Vallittu, Lippo Lassila. Effect of Surface Polishing on Physical Properties of an Occlusal Splint Material for Additive Manufacturing under Protection Gas Post-Curing Condition Polymers. 2023.01; 15(3); 625

35. Wada Kanae, Ijbara Manhal, Salim Nesreen A., Wada Junichiro, Iwamoto Tsutomu. Three-dimensional microscopic comparison of wear behavior between immature and mature enamel: an in vitro study BMC ORAL HEALTH. 2023.01; 23(1); 40

36. Mohamed A, Takaichi A, Kajima Y, Takahashi H, Wakabayashi N. Bond strength of CAD/CAM denture teeth to a denture base resin in a milled monolithic unit. Journal of prosthodontic research. 2023.01;

37. Towithelertkul C, Sumita YI, Haraguchi M, Murase M, Fujita H, Tanabe G, Kanazaki A, Yoshi S, Kosaka M, Hattori M. A 20-year clinical survey of radiotherapy prostheses at the Clinic for Maxillofacial Prosthetics of Tokyo Medical and Dental University Hospital. J Oral Sci. 2023.01; 65(1); 6-9

38. Yasuyuki Kowaka, Kosuke Nozaki, Tomoyuki Mihara, Kimihiro Yamashita, Hiroyuki Miura, Zhenquan Tan, Satoshi Ohara. Development of Nanosheets with High Dye Degradation Performance by Regulating Crystal Growth. Materials (Basel). 2023.01; 16(3);

39. Ali IE, Otomaru T, Sumita YI. Refabrication of an implant-retained obturator using the denture duplication technique in a bilateral maxillectomy patient with a free fibula osteocutaneous flap. J Prosthodont Res. 2023.01; 67(1); 157-160

40. Liu R, Hattori M, Zhang M, Sumita YI. Use of an occlusal ramp for rehabilitation after a mandibulectomy and its effects on mastication. J Prosthet Dent. 2023.01; 129(1); 234-238

41. Alchawoosh A, Hashimoto K, Kawashima N, Noda S, Nozaki K, Okiji T. Hydraulic calcium silicate-based root canal sealers mitigate proinflammatory cytokine synthesis and promote osteogenesis in vitro Journal of Dental Sciences. 2023;

1. Zhao Qian, Ueno Takeshi, Wakabayashi Noriyuki. A review in titanium-zirconium binary alloy for use in dental implants: Is there an ideal Ti-Zr composing ratio? JAPANESE DENTAL SCIENCE REVIEW. 2023.12; 59; 28-37

2. Zhang Maorui, Fukushima Yuta, Nozaki Kosuke, Nakanishi Hideyuki, Deng Jia, Wakabayashi Noriyuki, Itaka Keiji. Enhancement of bone regeneration by coadministration of angiogenic and osteogenic factors using messenger RNA INFLAMMATION AND REGENERATION. 2023.06; 43(1);

3. Matsuno Hitomi, Li Bin, Okawara Hisami, Toyoshima Yusuke, Xie Cangyou, Khan Masud, Murakami Natsuko, Aoki Kazuhiro, Wakabayashi Noriyuki. Effect of tension and compression on dynamic alveolar histomorphometry JOURNAL OF THE MECHANICAL BEHAVIOR OF BIOMEDICAL MATERIALS. 2023.02; 138; 105666

[書籍等出版物]

1. 三浦雅彦　他. 口腔癌. 医歯薬出版株式会社, 2023.09 (ISBN : 978-4-263-42315-8)

[総説]

1. Elbashti ME. Tokyo 2nd edition of the international workshop for Young Maxillofacial Prosthetic Educators (yMPE): Building educators' skills and making impact. Int J Maxillofac Prosthetics. 2023.04; 6(1); 2-7

1. 隅田由香. 下顎欠損症例における顎義歯の製作と顎補綴治療の展望. 日本歯科医学会連合雑誌. 2023.12; 2; 44-53

2. 隅田由香，山瀬　勝，西脇恵子. 症例と対応「話すこと」に対する訴えに対する検査 · 診断 · 治療法. 歯学. 2023.11; 111(秋季特集); 23-27

3. 隅田由香. 歯科用切削機器が発する作動音の心理音響学的分析. 日本官能評価学会誌. 2023.04; 27(1); 17-19

4. 和田淳一郎，水谷幸嗣，若林則幸. ペリオ×パーシャルデンチャー　支台歯をどう守り，どう活用するのか？　第 4 回　補綴治療後のフォローアップ ザ · クインテッセンス. 2023.02; 42(2); 66-91

5. 長山富治，和田 淳一郎，佐藤浩史. 【保険の有床義歯 臨床＆請求 虎の巻】保険の局部義歯の基礎知識 保険の有床義歯 臨床＆請求 虎の巻. 2023.01; 8-17

6. 和田 淳一郎，佐藤浩史. 【保険の有床義歯 臨床＆請求 虎の巻】磁性アタッチメント 保険の有床義歯 臨床＆請求 虎の巻. 2023.01; 112-120

7. 隅田由香. 上顎顎補綴装置の臨床と歯科技工. 日本歯科技工学会雑誌. 2023.01; 44(1); 20-26

[講演 · 口頭発表等]

1. Atsushi Takaichi, Yuka Kajima, San Win Thant, Noriyuki Wakabayashi . Effect of ultraviolet treatment on shear bond strength between polymethyl methacrylate and cobalt–chromium–molybdenum alloy fabricated by selective laser melting . Ninth International Conference on Mechanics of Biomaterials and Tissues 2023.12.17 Waikoloa

2. Yuka Kajima, Atsushi Takaichi, Hein Linn Htat, Noriyuki Wakabayashi. Effect of beam spot size on the microstructural and mechanical properties of selective laser melted Co–Cr–Mo alloys. Ninth International Conference on Mechanics of Biomaterials and Tissues 2023.12.17 Waikoloa

3. Chugh A. Exploring Life Opportunities: A Voyage from India to Japan. International College of Dentitstry 2023.12.16 帝国ホテル東京

4. 白 子儀, 服部 麻里子, 隅田 由香. 上顎骨切除術と下顎骨切除術を行った患者に対して obturator と occlusal ramp を併用した下顎義歯を使用した 1 例 (A case report of the use of an ohturator and a mandibular prosthesis combined with the occlusal ramp for a patient with maxillectomy and mandibulenome). 顎顔面補綴 2023.12.01

5. 于 紅莉, 藤田 遥, 隅田 由香. 頭頸部欠損患者における顎顔面補綴物挿入困難の有病率　より良い補綴治療の提供に向けて (Prevalence of the difficulty of inserting maxillofacial prostheses in patients with head and neck defects: toward better provision of supprtive care). 顎顔面補綴 2023.12.01

6. Chugh A, Hattori M, Sumita YI, Wakabayashi N. Color stability of two pigmented silicone elastomers for maxillofacial prostheses with exposure to cold beverages: An in vitro study. The 70th Annual Meeting of the American Academy of Maxillofacial Prosthetics 2023.10.21 San Diego (USA)

7. Haraguchi M, Ali IE, Takada A, Sumita YI. Prosthetic rehabilitation in a severe case of MRONJ with total sequestration of the entire dentoalveolar segment. The 70th Annual Meeting of the American Academy of Maxillofacial Prosthetics 2023.10.21 San Diego (USA)

8. Ali IE, Sumita YI, Wakabayashi N. Advancing maxillofacial prosthodontics using pretrained convolutional neural networks: Image-based classification of the maxilla. The 70th Annual Meeting of the American Academy of Maxillofacial Prosthetics 2023.10.21 San Diego (USA)

9. Han X, Hattori M, Sumita YI, Haraguchi M, Wakabayashi N. Factors related to masticatory rhythm in patients with head and neck tumors. The 70th Annual Meeting of the American Academy of Maxillofacial Prosthetics 2023.10.21 San Diego (USA)

10. Yu H, Sumita YI, Wakabayashi N. 3D mandibular analysis following iatrogenic mandibular fracture associated with mandibulectomy: case report. The 70th Annual Meeting of the American Academy of Maxillofacial Prosthetics 2023.10.21 San Diego (USA)

11. Wang J, Murase M, Sumita YI, Wakabayashi N. Radiological protectivity of conventional heat-cured PMMA and 3D-printed PMMA for radiotherapy prostheses. The 70th Annual Meeting of the American Academy of Maxillofacial Prosthetics 2023.10.21 San Diego (USA)

12. Miao M, Sumita YI, Wakabayashi N. Using a convolutional neural network for image-based classification of the mandible in maxillofacial prosthodontics. The 70th Annual Meeting of the American Academy of Maxillofacial Prosthetics 2023.10.21 San Diego (USA)

13. Yoshio Kobayashi, Yuka Kajima, Atsushi Takaichi, and Noriyuki Wakabayashi. The effect of scanning strategies on the fitness accuracy and residual stress of SLM-fabricated 3-unit fixed dental prostheses. The 3rd International Symposium on Design & Engineering by Joint Inverse Innovation for Materials Architecture (DEJI2MA-3) 2023.10.20 Tokyo

14. Jiang Mengtian, Kosuke Nozaki, Takeshi Ueno, Satoshi Ohara, Takayuki Mokudai, Noriyuki Wakabayashi. Influence of three kinds of ionic antibacterial agents on the antibacterial effect of titania. The 3rd International Symposium on Design & Engineering by Joint Inverse Innovation for Materials Architecture (DEJI2MA-3) 2023.10.20

15. Bai Z, Han X, Sumita YI, Hattori M, Maki K, Aboelez MA, Wakabayashi N. Predicting maximum occlusal force and tongue pressure in head and neck cancer patients using decision tree analysis. The 20th Biennial Meeting of the International College of Prosthodontists 2023.10.15 Shanghai (China)

16. Merve Uctasli, Mine Betul Uctasli, Kanae Wada, Junichiro Wada, Lippo Lassila. Surface Topography of Different Types of CAD/CAM Restorative Materials. 2023 CED/NOF –IADR Oral Health Research Congress 2023.09.21 Rhodes, Greece

17. Jiang Mengtian, Kosuke Nozaki, Takeshi Ueno, Noriyuki Wakabayashi. Development of metal nanoparticle-modified titanium dioxide nanosheets through photodeposition. 9th International Summer Program, Tokyo Medical and Dental University 2023.08.01

18. Maorui Zhang，福島雄大，野崎浩佑，中西秀之，若林則幸，位高啓史. Enhancement of bone regeneration by coadministration of angiogenic and osteogenic factors using messenger RNA. 第 44 回日本炎症・再生医学会 2023.07.12

19. Merve Uctasli, Kanae Wada, Junichiro Wada, Lippo Lassila, Mine Betul Uctasli. Surface morphology hybrid ceramic material after different etching protocol. The 7th International Congress on Adhesive Dentistry 2023.06.03 Konya, Turkey

20. Mohamed Ahmed Sameir, 正木 啓太, 服部 麻里子, 隅田 由香, 若林 則幸. 話者非依存型自動音声認識における上顎欠損患者の発話の影響 (The impact of maxillectomy patients' speech on contemporary speaker-independent automatic speech recognition platforms). 日本補綴歯科学会誌 2023.05.01

21. Maorui Zhang, Yuta Fukushima, Kosuke Nozaki, Noriyuki Wakabayashi, Keiji Itaka. Co-delivery of Runx2 and VEGF Messenger RNA by Polyplex Nanomicelles Improves the Process of Mandibular Bone Regeneration. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.24

22. Xu Huichuan, Ueno Takeshi, Wu Haze, Nozaki Kosuke, Wkabayashi Noriyuki. Modified-Glutathione coating immobilized on titanium surface enhances its biocompatibility. . The 2023 AADOCR/CADR Annual Meeting & Exhibition 2023.03.16 Portland, Oregon, USA

23. Wu Haze, Ueno Takeshi, Xu Huichuan, Nozaki Kosuke, Wkabayashi Noriyuki. Lithium-immobilized titanium surface by anodization with enhanced biological activity . The 2023 AADOCR/CADR Annual Meeting & Exhibition 2023.03.16

24. Junichiro Wada. Physical properties of additive-manufactured occlusal splints. Turku mid-winter meeting 2023.02.03 Turku, Finland

1. 石山裕之, 秀島雅之, 犬飼周佑, 玉岡明洋, 西山暁, 宮﨑泰成, 笛木賢治. 下顎前方移動時に伴う呼吸抵抗の減少率が, 閉塞性睡眠時無呼吸の口腔内装置の効果に及ぼす影響. 第 22 回日本睡眠歯科学会学術集会 2023.10.08 京都

2. 石岡由理佳，和田淳一郎，金應烈，坂本一生，村上奈津子，山﨑俊輝，内海澪奈，犬飼周佑，若林則幸. 部分床義歯製作のためのデジタル印象法で得られる顎堤形態の従来印象法との比較. 令和 5 年度 公益社団法人日本補綴歯科学会 東京支部学術大会 2023.12.03 東京

3. 李　彬，村瀬　舞，山谷雄一，正木啓太，服部麻里子，若林則幸. 舌切除患者に対しデジタル技術を利用した中空型舌接触補助床で機能回復を図った一例. 令和 5 年度公益社団法人日本補綴歯科学会東京支部学術大会 2023.12.03 日本大学歯学部本館（東京 · 千代田区）

4. 村瀬　舞，立川敬子，長谷川勇一，塘田健人，丸川恵理子. 左側上顎欠損症例に対し広範囲顎骨支持型補綴装置を適用した一例. 第 27 回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会 · 学術大会 2023.12.02 国際医療福祉大学大学院東京赤坂キャンパス（東京 · 港区）

5. Chugh A, Hattori M, Murase M, Haraguchi M, Sumita YI, Wakabayashi N. Evaluation of the color stability of three maxillofacial silicone materials after exposure to beverages: An in vitro study. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.01 東京医科歯科大学歯科棟南 4 階特別講堂（東京 · 文京区）+Web 開催

6. 乙丸 貴史, 藤田 遥, 照山 裕子, 隅田 由香. 上顎骨切除患者に対し, ジルコニア人工歯を配列したコバルトクロム金属床を装着した 1 例. 顎顔面補綴 2023.12.01

7. 福留 美由紀, 大木 明子, 藤田 遥, 隅田 由香. 放射線性骨滑死による下顎骨切除後に露出した再建プレートに維持を求めた顔面エピテーゼの 1 例. 顎顔面補綴 2023.12.01

8. 村瀬 舞, Pradhan Nehasha, 隅田 由香. 薬剤関連顎壊死に対しデジタル技術を応用して下顎顎義歯を製作した症例. 顎顔面補綴 2023.12.01

9. 青 藍一郎, 中根 一輝, 和田 淳一郎, 若林 則幸, 萩原 芳幸. 口腔内スキャナーを応用した複製義歯の製作. 日本補綴歯科学会誌 2023.12.01

10. 山谷 雄一, 笠原 拓海, 中村 穂乃香, 服部 麻里子, 正木 啓太, 隅田 由香. デジタル技術を用いた舌接触補助床製作. 顎顔面補綴 2023.12.01

11. 東山 香織, 原口 美穂子, 宮本 洋子, 小澤 晴菜, 足達 淑子, 隅田 由香. 口腔がん術後陽子線治療後に左頬部が口腔と交通した患者へ口腔衛生管理を行なった 1 例. 顎顔面補綴 2023.12.01

12. 原口 美穂子, トーウィティラート · チーウィン , 服部 麻里子, 村瀬 舞, 藤田 遥, 隅田 由香. 東京医科歯科大学病院顎顔面補綴外来で 20 年間に製作された放射線治療補助装置の臨床的調査. 顎顔面補綴 2023.12.01

13. Chugh Anshul, Hattori Mariko, Murase Mai, Haraguchi Mihoko, Sumita Yuka, Wakabayashi Noriyuki. Assessment of the color stability of two silicone elastomers for maxillofacial prostheses upon exposure to cold beverages (Evaluation of the color stability of three maxillofacial silicone materials after exposure to beverages: An in vitro study). 口腔病学会雑誌 2023.12.01

14. 田村　聡，村瀬　舞，笠原拓海，中村穂乃香，李　施恩. 顎義歯製作における光学印象の有用性　デジタル技術を活用した栓塞部天蓋開放型部分床顎義歯の製作法. 第 25 回日本口腔顎顔面技工学会学術大会 2023.11.26 東京 · 両国 KFC ホールアネックス（東京 · 墨田区）

15. 野島　瞳，戒田篤志，原口美穂子，三浦雅彦. Au-198 grain を用いたモールド療法の早期口腔がんへの有効性. 第 68 回公益社団法人日本口腔外科学会総会 · 学術大会 2023.11.11 大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）（大阪 · 大阪市）

16. 服部麻里子，村瀬　舞，毛利有紀，松井　慧，和田淳一郎，若林則幸. 口唇口蓋裂患者のスピーチエイドの維持に磁性アタッチメントを用いた一症例. 第 33 回日本磁気歯科学会学術大会 2023.11.11 東京医科歯科大学 M&D タワー 鈴木章夫講堂（文京区 · 東京）

17. 松井　慧，村瀬　舞，毛利有紀，李　彬，服部麻里子，和田淳一郎，若林則幸. 上顎洞癌術後に磁性アタッチメントを適用した一症例. 第 33 回日本磁気歯科学会学術大会 2023.11.11 東京医科歯科大学 M&D タワー鈴木章夫講堂（文京区 · 東京）

18. 鈴木進太郎，和田淳一郎，若林則幸. 重度歯周炎罹患患者に対し磁性アタッチメントを用いたオーバーデンチャーで対応した症例. 第 33 回日本磁気歯科学会学術大会 2023.11.11 東京，日本

19. Qu Wenrui, Takaichi Atsushi, Kajima Yuka, Kamijo Shingo, Wakabayashi Noriyuki. Effect of build orientation on trueness and adaptation of maxillary complete denture frameworks fabricated by selective laser melting. 令和 5 年度 日本歯科理工学会近畿 · 中四国地方会セミナー 2023.10.29 大阪

20. 和田淳一郎. 咬合高径および咬合平面を変更する必要性の判断および臨床手技. 第 22 回咬合フォーラム 2023.10.15 大阪，日本

21. 和田淳一郎. 歯周炎罹患歯保護の観点から部分床義歯を再考する. 第 9 回日本国際歯科大会 2023 2023.10.01 横浜，日本

22. 八木原 一博, 桂野 美貴, 炭野 淳, 角谷 宏一, 石井 純一, 原口 美穂子, 出雲 俊之, 柳下 寿郎, 石川 文隆. T4 下顎歯肉癌の検討. 日本口腔科学会雑誌 2023.07.01

23. 原口美穂子，小村　健，釘本琢磨，隅田由香. ビスフォスフォネート関連下顎骨壊死術後に下顎偏位が生じオクルーザルランプで機能回復を図った 1 例. 第 47 回日本頭頸部癌学会総会 · 学術講演会 2023.06.16 大阪国際会議場（グランキューブ大阪）（大阪 · 大阪市）

24. 白　子儀，服部麻里子，隅田由香. A case report of the use of an obturator and a mandibular prosthesis combined with the occlusal ramp for a patient with maxillectomy and mandibulectomy. 日本顎顔面補綴学会第 40 回総会 · 学術大会 2023.06.03 愛知学院大学楠元キャンパス（愛知 · 名古屋市）

25. 山谷雄一，笠原拓海，中村穂乃香，服部麻里子，正木啓太，隅田由香. デジタル技術を用いた舌接触補助床製作. 日本顎顔面補綴学会第 40 回総会 · 学術大会 2023.06.03 愛知学院大学楠元キャンパス（愛知 · 名古屋市）

26. 東山香織，原口美穂子，宮本洋子，小澤晴菜，足達淑子，隅田由香. 口腔がん術後陽子線治療後に左頬部が口腔と交通した患者へ口腔衛生管理を行なった 1 例. 日本顎顔面補綴学会第 40 回総会 · 学術大会 2023.06.03 愛知学院大学楠元キャンパス（愛知 · 名古屋市）

27. 乙丸貴史，藤田　遥，照山裕子，隅田由香. 上顎骨切除患者に対し，臼歯部にジルコニア人工歯を用いたコバルトクロム金属床を装着した 1 例. 日本顎顔面補綴学会第 40 回総会 · 学術大会 2023.06.03 愛知学院大学楠元キャンパス（愛知 · 名古屋市）

28. 東山 香織, 原口 美穂子, 宮本 洋子, 小澤 晴菜, 足達 淑子, 隅田 由香. 口腔がん術後陽子線治療後に左頬部が口腔と交通した患者へ口腔衛生管理を行なった 1 例. 顎顔面補綴 2023.06.03 愛知学院大学楠元キャンパス（愛知 · 名古屋市）

29. 原口美穂子，トーウィティラート　チーウィン，服部麻里子，村瀬　舞，藤田　遥，隅田由香. 東京医科歯科大学病院顎顔面補綴外来で 20 年間に製作された放射線治療補助装置の臨床的調査. 日本顎顔面補綴学会第 40 回総会 · 学術大会 2023.06.02 愛知学院大学楠元キャンパス（愛知 · 名古屋市）

30. 福留美由紀，大木明子，藤田　遥，隅田由香. 放射線性骨壊死による下顎切除後に露出した再建プレートに維持を求めた顔面エピテーゼの 1 例. 日本顎顔面補綴学会第 40 回総会 · 学術大会 2023.06.02 愛知学院大学楠元キャンパス（愛知 · 名古屋市）

31. 于　紅莉，藤田　遥，隅田由香 . Prevalence of the difficulty of inserting maxillofacial prostheses in patients with head and neck defects -toward better provision of supportive care- . 日本顎顔面補綴学会第 40 回総会 · 学術大会 2023.06.02 愛知学院大学楠元キャンパス（愛知 · 名古屋市）

32. 村瀬　舞，Pradhan N，隅田由香. 薬剤関連顎骨壊死に対しデジタル技術を応用して下顎顎義歯を製作した症例. 日本顎顔面補綴学会第 40 回総会 · 学術大会 2023.06.02 愛知学院大学楠元キャンパス（愛知 · 名古屋市）

33. 原口美穂子，トーウィティラート　チーウィン，服部麻里子，村瀬　舞，藤田　遥，隅田由香. 東京医科歯科大学病院顎顔面補綴外来で 20 年間に製作された放射線治療補助装置の臨床的調査. 日本顎顔面補綴学会第 40 回総会 · 学術大会 2023.06.02

34. 韓　雪薇，原口美穂子，隅田由香. Effect of wearing a denture for masticatory rhythm in mandibulectomy patients. 日本顎顔面補綴学会第 40 回総会 · 学術大会 2023.06.02 愛知学院大学楠元キャンパス（愛知 · 名古屋市）

35. 原口美穂子，牧繪　陽，韓　雪薇，隅田由香. 顎裂部前歯の形態不良に対しクラウン · ブリッジにて咬合および審美性の回復を図った唇顎口蓋裂患者 2 例. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.26 一橋講堂（東京 · 千代田区）

36. 正木啓太，隅田由香，外内えり奈，原園陽介，森田圭一. 自閉スペクトラム症を併存する舌小帯短縮症のある児に構音訓練および手術を行った 1 例. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.26 一橋講堂（東京 · 千代田区）

37. 隅田由香. 第 6 回口唇裂 · 口蓋裂認定師申請単位取得セミナー 1：補綴的支持療法を用いた口唇口蓋裂患者の長期経過症例. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.26 一橋講堂（東京 · 千代田区）

38. 乙丸貴史，服部麻里子，隅田由香. 左側唇顎口蓋裂患者の前歯部にマグネットアタッチメントを装着しスピーチエイドの維持安定を図った 1 症例. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.26 一橋講堂（東京 · 千代田区）

39. 服部麻里子，村瀬　舞，原口美穂子，隅田由香. 唇顎口蓋裂患者の補綴治療にデジタル技術を応用した一例. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.26 一橋講堂（東京 · 千代田区）

40. 村瀬　舞，正木啓太，田村　聡，服部麻里子，隅田由香. 右側唇顎口蓋裂患者に対しスピーチエイド付き義歯および連結冠の再製作により口腔機能回復を図った 1 症例. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.26 一橋講堂（東京 · 千代田区）

41. 松村茉由子，谷中　航，野崎浩佑，駒田　亘，北崎祐之，馬場史郎，松村光明，笛木賢治. パッチテストを元にレジン及び金属アレルギーを有する患者の治療方法を検討した症例. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.21

42. 和田淳一郎. 介入研究を実施する上での注意点　—研究計画立案から論文執筆まで—. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.21 横浜，日本

43. 河野英子，井上瑤子，上野剛史，笛木賢治，七丈直弘，白井俊行. 歯科インプラント研究の動向：内閣府 e-CSTI の開発ツールを用いた Bibliometric 分析. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.20 神奈川県横浜市

44. 松本彩花，松村茉由子，Saleh Omnia，谷中　航，紅谷龍一郎，野崎浩佑，松村光明，若林則幸，笛木賢治. 前歯部 CAD/CAM 冠の色彩学的研究　金属支台築造歯に対するオペーク色セメントの効果. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.20

45. 殷悦，根本怜奈，駒田亘，野崎浩佑，笛木賢治. 歯科用ジルコニアを用いた D 字型臼歯部接着ブリッジの適合性. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.20

46. 大石弥生，根本怜奈，駒田亘，野崎浩佑，笛木賢治. 歯槽骨吸収症例におけるカンチレバー型接着ブリッジと歯周組織の応力解析. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.20

47. 高市敦士，モハメドアムール，加嶋祐佳，高橋英和，若林則幸. CAD/CAM 技術を用いて製作した人工歯と義歯床の接着強さ. 第 132 回日本補綴歯科学会学術大会 2023.05.20 横浜

48. Nehasha Pradhan, 村瀬　舞, 谷　皇子, 隅田由香. Evaluation of nutritional status by brief type diet history questionnaire among head and neck cancer patients. 第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 2023.05.09 神戸コンベンションセンター（兵庫 · 神戸市）

49. 松野 瞳, 李 彬, 毛利 有紀, 大河原 久実, 豊嶋 悠輔, 謝 倉右, 村上 奈津子, 若林 則幸. 固有歯槽骨に生じた引張り · 圧縮応力が局所の骨吸収および骨形成に及ぼす影響. 日本補綴歯科学会誌 2023.05.01

50. 松村茉由子，野崎浩佑，谷中　航，Omnia Saleh，松村光明，笛木賢治. 支台歯と合着材の種類が前歯部 CAD/CAM 冠の色調に及ぼす影響. 日本デジタル歯科学会 第 14 回学術大会 2023.04.23

51. 野崎浩佑，松村茉由子，松本彩花，紅谷龍一郎，谷中航，松村光明，山下仁大，若林則幸. 支台築造材料が前歯部 CAD/CAM 冠用コンポジットレジンの色調に及ぼす影響. 第 81 回日本歯科理工学会学術講演会 2023.04.16

52. Qu W, Kajima Y, Takaichi A, Wakabayashi N. Preliminary research on the trueness of complete denture framework fabricated with contactless support by selective laser melting. 81 回日本歯科理工学会学術講演会 2023.04.15 船堀

53. 小峰 広平, 村上 奈津子, 山崎 俊輝, 若林 則幸. 冷熱刺激が歯冠修復材料の熱応力に与える影響　数値モデル解析. 一般社団法人 日本歯科理工学会 2023 年度第 81 回日本歯科理工学会学術講演会 2023.04.15 タワーホール船堀，東京

54. 八木原一博，石井純一，炭野　淳，桂野美貴，角谷宏一，松木繁男，原口美穂子，石川文隆，出雲俊之，柳下寿郎，濱畑淳盛，原　彰，安井光彦，別府　武，影山幸雄. 顎骨中心性癌の臨床病理学検討. 第 60 回埼玉県医学会総会 2023.02.26 埼玉県県民健康センター（埼玉 · さいたま市）

55. 隅田由香. 下顎顎補綴装置の臨床と歯科技工. 2022 年度第 3 回専門歯科技工士講習会 2023.02.18 （オンライン開催）

[受賞]

1. 令和 4 年度事業提案制度（大学研究者による事業提案制度）感謝状（隅田由香）, 東京都, 2023 年 02 月

2. Prof. Dr. Fatma KORAY Award, The 7th International Congress on Adhesive Dentistry (Mine Betul Uctasli), 2023 年 06 月

3. The 2023 AAMP Student Poster Competition, Research-2nd Place (Ali IE), The 70th Annual Meeting of the American Academy of Maxillofacial Prosthetics, 2023 年 10 月

[その他業績]

1. 2nd International Workshop for Young Maxillofacial Prosthetics Educators (yMPE), 2023 年 03 月
   2nd International Workshop for Young Maxillofacial Prosthetics Educators (yMPE) 開催　2023 年 3 月 7-10 日

2. Dysphagia Diet Awareness Workshop, 2023 年 03 月
   Dysphagia Diet Awareness Workshop 開催　2023 年 3 月 9 日

3. 隅田由香：「絆」と「和」で結ぶ校友の輪, 2023 年 04 月
   日本歯科大学生命歯学部学校案内 2024 (P62)

4. 「メッセンジャー RNA 医薬の再生医療への新しい展開」 —　複数の治療用因子を組み合わせた骨再生治療 —, 2023 年 06 月
   Inflammation and Regeneration

5. A novel bone regeneration technique with clinical potential, 2023 年 07 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. 部分入れ歯とインプラントの選択, 株式会社毎日が発見, 毎日が発見, 2023 年 11 月 21 日 - 2024 年 01 月 28 日

口腔再生再建学分野

Department of Regenerative and Reconstructive Dental Medicine

教授　　丸川　恵理子
助教　　中田　秀美、下岸　将博、山本　麻衣子、柴崎　真樹
医員　　塘田　健人、中村　慎太郎、横田　香織、高橋　明寛、
津野　美香、窪内　友哉、遠山　康之輔、和久田　澪、石川　芽依

(1) 分野概要

歯を失った患者さんに対する治療法として、歯科インプラントを用いた補綴治療（インプラント治療）は極めて効果的である。我々は、インプラント臨床に関わる手法と材料、組織再生に関する研究および教育をおこなっており、さらに東京医科歯科大学病院口腔インプラント科においてインプラント治療をおこなっている。

(2) 研究活動

骨形成を促進する骨補填材の開発、骨形成を促進すると同時に感染に対して抵抗性を示すインプラント表面の開発、軟組織細片による骨形成促進作用、吸収性の GBR 膜の開発、ビスフォスフォネートのクロドロネートを含有するリポゾームが骨芽細胞の分化に及ぼす影響に関する研究をおこなった。

(3) 教育活動

歯学部学生に対してインプラント治療に必要な基礎的知識の講義をおこなった。インプラント治療におけるインプラント埋入計画についての実習をおこなった。口腔インプラント科において、インプラント治療に必要な検査、インプラント埋入手術、補綴治療とメインテナンスについて教育した。博士課程の学生に対しては、インプラント治療および再生医療についてのより深い内容の教育をおこなった。

(4) 教育方針

基礎的知識を習得し、常に考察する姿勢を身に付ける。

(5) 臨床活動および学外活動

口腔インプラント科において、歯を失った患者さんに対する歯科インプラント治療を用いた審美的かつ機能的な回復、インプラント治療をおこなった患者さんのメインテナンスをおこなった。

(6) 臨床上の特色

当分野が臨床を担当している東京医科歯科大学病院口腔インプラント科は、我国の 29 の歯科大学および歯学部において、最もインプラント治療の症例数が多い施設の一つである。他の医療機関でインプラント治療が難しい症例、他の医療機関でインプラント治療を受けたが問題がある症例が増加している。我々は、難症例そして問題症例への対応が可能である。

(7) 研究業績

[原著]

1. Nasuh S, Balci SO, Bozgeyik I, Ikeda MA, Tekayev M, Saadat KASM. ARID3A and ARID3B exert direct regulatory control over the long non-coding RNAs (lncRNAs) MALAT1 and NORAD within the context of non-small cell lung cancer (NSCLC). Pathology, research and practice. 2023.12; 252; 154948

2. Joseph Deering, Dalia Mahmoud, Elyse Rier, Yujing Lin, Anna Cecilia do Nascimento Pereira, Silvia Titotto, Qiyin Fang, Gregory R. Wohl, Feilong Deng, Kathryn Grandfield, Mohamed A. Elbestawi, Jianyu Chen. Osseointegration of functionally graded Ti6Al4V porous implants: Histology of the pore network Biomaterials Advances. 2023.11; 155;

3. Shedin Nasuh, Sibel Oguzkan Balci, Ibrahim Bozgeyik, Masa-Aki Ikeda, Muhammetnur Tekayev, Khandakar A.S.M. Saadat. . ARID3A and ARID3B exert direct regulatory control over the long non-coding RNAs (lncRNAs) MALAT1 and NORAD within the context of non-small cell lung cancer (NSCLC) Pathol. Pathology - Research and Practice. 2023.11; 252;

4. Karen Kuroyama, Ryuichi Fujikawa, Tomoyo Goto, Tohru Sekino, Fumiya Nakamura, Hiromi Kimura-Suda, Peng Chen, Hiroyasu Kanetaka, Tomoka Hasegawa, Kaname Yoshida, Masaru Murata, Hidemi Nakata, Masaya Shimabukuro, Masakazu Kawashita, Tetsuya Yoda & Taishi Yokoi.. Development of bioinspired damage-tolerant calcium phosphate bulk materials Science and Technology of Advanced Materials.. 2023.10; 2261836;

5. Kyaw TT, Abdou A, Arunjaroensuk S, Nakata H, Kanazawa M,. Effect of chemical and electrochemical decontamination protocols on single and multiple-used healing abutments: A comparative analysis of contact surface area, micro-gap, micro-leakage, and surface topography. Clin Implant Dent Relat Res.. 2023.09; 25(6); 1207-1215

6. Thiha Tin Kyaw , Ahmed Abdou, Sirida Arunjaroensuk, Hidemi Nakata, Manabu Kanazawa, Atiphan Pimkhaokham.. Effect of chemical and electrochemical decontamination protocols on single and multiple-used healing abutments: A comparative analysis of contact surface area, micro-gap, micro-leakage, and surface topography. Clin Implant Dent Relat Res.. 2023.09; 25(6); 1207-1215

7. Reziwanguli Aili, Hidemi Nakata, Munemitsu Miyasaka, Shinji Kuroda, Yukihiko Tamura, Taishi Yokoi, Masakazu Kawashita, Yasushi Shimida, Shohei Kasugai, Eriko Marukawa. Evaluation of a hydroxyapatite-crosslinked fish gelatin membranes. Journal of Dental Sciences.. 2023.08;

8. Masahiro Shimogishi, Sawako Kawakami, Noriko Tachikawa. Clinical Evaluation of Short (6 mm) and Longer Implants Placed Side by Side in Posterior Partially Edentulous Area: A 3-Year Observational Study. International Journal of Dentistry. 2023.07; 2023; 9086628

9. Yamazaki S, Lin Y, Marukawa E, Ikeda MA. Integrated Bone Formation Through In Vivo Endochondral Ossification Using Mesenchymal Stem Cells. Journal of visualized experiments : JoVE. 2023.07; (197);

10. Yamazaki, S; Lin, YJ; Marukawa, E; Ikeda, MA. Integrated bone formation through in vivo endochondral ossification using mesenchymal stem cells JOVE-JOURNAL OF VISUALIZED EXPERIMENTS. 2023.07; (197);

11. Shiba T, Komatsu K, Watanabe T, Takeuchi Y, Nemoto T, Ohsugi Y, Katagiri S, Shimogishi M, Marukawa E, Iwata T. Peri-implantitis management by resective surgery combined with implantoplasty and Er:YAG laser irradiation, accompanied by free gingival graft: a case report. Therapeutic advances in chronic disease. 2023.06; 14; 20406223231174816

12. Kang J, Shibasaki M, Terauchi M, Oshibe N, Hyodo K, Marukawa E. Comparative analysis of the in vivo kinetic properties of various bone substitutes filled into a peri-implant canine defect model. Journal of periodontal & implant science. 2023.06;

13. Jingyang Kang, Masaki Shibasaki, Masahiko Terauchi, Narumi Oshibe, Katsuya Hyodo, Eriko Marukawa. . Comparative analysis of the in vivo kinetic properties of various bone substitutes filled into a peri-implant canine defect model J. Periodontal Implant Sci. . 2023.06; 53;

14. Eskandar Fereiduni, Mohamed Balbaa, Dalia Mahmoud, Mohamed Elbestawi, Guichuan Li, Jianyu Chen, Lin Yujing. Processing of hydroxyapatite (HA)eTie6Ale4V composite powders via laser powder bed fusion (LPBF): effect of HA particle size and content on the microstructure and mechanical properties Journal of Materials Research and Technology. 2023.05; 24;

15. Yamazaki S, Hirayama R, Ikeda Y, Iseki S, Yoda T, Ikeda MA. Hyaluronic acid hydrogels support to generate integrated bone formation through endochondral ossification in vivo using mesenchymal stem cells. PloS one. 2023.02; 18(2); e0281345

16. Yujing Lin, Mohamed Balbaa, Wenyi Zeng, Yang Yang, Dalia Mahmoud, Mohamed Elbestawi, Feilong Deng, and Jianyu Chen. Osteogenic Properties of Titanium Alloy Ti6Al4V-Hydroxyapatite Composites Fabricated by Selective Laser Melting Journal of Materials Engineering and Performance. 2023; 1059-9495;

17. Kang J, Shibasaki ,M Meng S, Marukawa E. The kinetics of growth factors secreted from tissue membranes induced in the process of applying Masquelet technique to various aged rats. Journal of Bio-integration. 2023; 13;

1. 下岸 将博, 丸川 恵理子. 最近の歯学　口腔再生再建　インプラント周囲疾患の予防と治療 口腔病学会雑誌. 2023.11; 90(2-3); 47

2. 村瀬 舞, 立川 敬子 , 長谷川 勇一, 塘田 健人, 丸川 恵理子. 左側上顎欠損症例に対し広範囲顎骨支持型補綴装置を適用した一例 日本顎顔面インプラント学会雑誌. 2023.11; 22;

3. 佐藤 壮将, 丸川 恵理子.　きっと得意になる歯の移植入門　歯の移植の脱落症例と最適症例 DENTAL DIAMOND. 2023.08; 48(11); 68-72

4. 佐藤 壮将, 丸川 恵理子. きっと得意になる歯の移植入門　インプラントシミュレーションソフトを応用した歯の移植 DENTAL DIAMOND. 2023.07; 48(9); 90-93

5. 川上 紗和子, 塩田 真, 加藤 しおり, 今北 千春, 田子内 道徹, 丸川 恵理子. 東京医科歯科大学病院口腔インプラント科における新来患者の 25 年間の動向 日本口腔インプラント学会誌. 2023.06; 36(2); 134-139

6. 丸川 恵理子. きっと得意になる歯の移植入門　再植の有用性 DENTAL DIAMOND. 2023.05; 48(7); 76-79

7. 丸川 恵理子. きっと得意になる歯の移植入門　歯の移植における難症例とその対応 DENTAL DIAMOND. 2023.04; 48(5); 86-89

8. 丸川 恵理子.　きっと得意になる歯の移植入門　移植にすべきか、インプラントにすべきか DENTAL DIAMOND. 2023.03; 48(4); 82-85

9. 丸川 恵理子. 低侵襲を目指したインプラント治療と口腔組織再生医療における今後の課題 口腔病学会雑誌. 2023.03; 90(1); 6-11

10. 丸川 恵理子. きっと得意になる歯の移植入門　適応症の見分け方 DENTAL DIAMOND. 2023.02; 48(3); 86-89

11. Tsuno Mika, Nakata Hidemi, Kuroda Shinji, Miyasaka Munemitsu, Sasaki Takahiro, Kasugai Shohei, Marukawa Eriko. A modal analysis of implant-supported overdentures installed on differently positioned sets of dental implants JOURNAL OF THE MECHANICAL BEHAVIOR OF BIOMEDICAL MATERIALS. 2023.01; 137; 105492

[書籍等出版物]

1. 大学での研究について. 四谷学院, 2023.11

2. きっと得意になる歯の移植入門　再植の有用性. (株) デンタルダイヤモンド社, 2023.05

3. きっと得意になる歯の移植入門　歯の移植における難症例とその対応. (株) デンタルダイヤモンド社, 2023.04

4. 低侵襲を目指したインプラント治療と口腔組織再生医療における今後の課題 . 口腔病学会, 2023.03

5. きっと得意になる歯の移植入門　移植にすべきか、インプラントにすべきか . (株) デンタルダイヤモンド社, 2023.03

6. 全身の診察と検査. 医学書院, 2023.02
7. きっと得意になる歯の移植入門　適応症の見分け方. (株) デンタルダイヤモンド社, 2023.02
8. 塩田　真　他. 口腔インプラント治療とリスクマネジメント 2015. 医歯薬出版,

[講演 · 口頭発表等]

1. Yamamoto Maiko,Shibasaki Masaki,Ogura Motohiro,Terauchi Masahiko,Marukawa Eriko. Comparative Study of Bone Grafting Materials Filled in Maxillary Implant-Adjacent Bone Defects . 9th Asian Biomaterials Congress 2023.11.21
2. 佐藤壮将、柴崎真樹、兵頭克也、窪内友也、寺内正彦、丸川恵理子. Clinical application of hydroxyapatite collagen nano composite for sinus augmentation in combination with/without guided bone regeneration. 9th Asian Biomaterial Congress 2023.11.21
3. Development of Amorphous Mg-Ca Coating for Protecting Hydrophilic Dental Implant Surfaces in the Atmosphere. 3rd International Symposium on Design & Engineering by Joint Inverse Innovation for Materials Architecture -DEJI2MA 2023- 2023.10.20
4. 佐藤壮将、柴崎真樹、兵頭克也、窪内友也、寺内正彦、丸川恵理子. Evaluation of the Efficacy of Applying Hydroxyapatite/Collagen Nano Composite in Sinus Augmentation. 30th annual meeting of European Association for Osseointegration 2023.09.30
5. Masahiko TERAUCHI, KengoNARITA, Shigeru YAMANAKA, Tetsuya YODA, Eriko MARUKAWA. Surface Hydrophilic Modification of Dental Implant by Amorphous Mg-Ca coating. 25th The International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery 2023.06.08
6. Masaki Shibasaki, Katsuya Hyodo, Masahiko Terauchi, Masataka Sato, Lin Yujing, Eriko Marukawa . Efficacy of hydroxyapatite/collagen nano composite in ridge augmentation and guided bone regeneration with/without sinus augmentation :5-year follow-up. International Osteology Symposium 2023.04.27

1. 加藤しおり, 山本麻衣子, 山本愛, 國分大潤, 和久田澪, 窪内友哉, 下岸将博, 丸川恵理子. 上顎洞底挙上術後長期経過症例における治療時期がインプラント喪失に及ぼす影響. 第 27 回日本顎顔面インプラント学会　総会 · 学術大会 2023.12.03
2. 中田秀美, 立川敬子,Daniel Beier, 和久田澪, 窪内友哉, 安達和可奈, 宮坂宗充, 黒田真司, 丸川恵理子. 唇顎口蓋裂を伴う多数歯欠損に対しインプラント治療で顎義歯の安定を図った 1 症例-13 年経過報告. 第 28 回日本顎顔面インプラント学会　総会 · 学術大会 2023.12.03
3. 高橋雄三, 立川敬子, 津野美香, 河野章江, 大庭容子, 笹倉裕一. インプラント治療のためのスプリット下顎骨ブロック（SBB）を用いた歯槽骨造成. 第 27 回日本顎顔面インプラント学会総会 · 学術大会 2023.12.03
4. 村瀬　舞，立川敬子，長谷川勇一，塘田健人，丸川恵理子. 左側上顎欠損症例に対し広範囲顎骨支持型補綴装置を適用した一例 . 第 27 回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会 · 学術大会 2023.12.02 国際医療福祉大学大学院東京赤坂キャンパス（東京 · 港区）
5. 川面理紗, 原祐介, 立川敬子, 中濱健一. 骨芽細胞間ギャップ結合が骨芽細胞の破骨細胞分化支持能に及ぼす影響. 第 4 4 回日本分子生物学会 2023.12.01
6. 高橋明寛，藤森達也，丸川恵理子. チタンベースの各表面処理の違いによるジルコニアフレームとの接着力評価. 日本補綴歯科学会（東海支部学術大会） 2023.11.26
7. 寺内正彦、丸川恵理子、成田健吾、山中茂、依田哲也. 歯科インプラント体の親水性表面の長期保護を可能にしたアモルファス MgCa 膜の開発. 第 68 回 (公社) 日本口腔外科学会総会 · 学術大会 2023.11.11
8. 早期 Osseointegration を目指したアモルファス Mg-Ca 膜による歯科インプラント体表面の開発. 第 45 回日本バイオマテリアル学会大会 2023.11.07
9. 三宅 理沙, 寺内 正彦, 成田 健吾, 丸川 恵理子. 早期 Osseointegration を目指したアモルファス Mg-Ca 膜による歯科インプラント体表面の開発. 第 45 回日本バイオマテリアル学会大会 2023.11.06
10. 小島麻里江　中田秀美　津野美香 丸川恵理子. インプラント埋入模型を用いた歯間ブラシによる清掃効率の比較検討. 第 53 回日本口腔インプラント学会学術大会　2023.09.16

11. 窪内友哉，山本麻衣子，國分大潤，下岸将博，丸川恵理子. ビスフォスフォネート製剤服用患者におけるインプラント体脱落症例の検討. 第 53 回日本口腔インプラント学会学術大会 2023.09.16
12. TENGER KHANGARID, 小倉基寛, 柴崎真樹, 丸川恵理子. 下顎遊離端 3 歯欠損に対する 3 ユニットインプラント補綴における辺縁骨吸収量の比較検討. 第 53 回日本口腔インプラント学会学術大会　2023.09.16
13. 小倉基寛, TENGER KHANGARID, 下岸将博, 丸川恵理子. 下顎臼歯部遊離端 3 歯欠損に対するインプラントブリッジにおけるインプラント直径の違いによる辺縁骨吸収への影響. 第 53 回日本口腔インプラント学会学術大会 2023.09.16
14. 和久田澪, 山本麻衣子, 加藤しおり, 丸川恵理子. メインテナンス時における歯科衛生士介入による口腔衛生指導の有効性評価. 第 53 回日本口腔インプラント学術大会 2023.09.16
15. 横田香織，立川敬子，安達和可奈，田村夏帆，丸川恵理子. 当外来における上顎第一大臼歯中間欠損に対するインプラント治療の臨床的検討. 第 53 回日本口腔インプラント学会学術大会 2023.09.16
16. 津野美香, 髙橋雄三, 立川敬子, 河野章江, 大庭容子, 笹倉裕一. インプラント治療におけるスプリット下顎骨ブロックを用いた歯槽骨増生法. 第 53 回日本口腔インプラント学会学術大会 2023.09.16
17. 髙橋明寛. ベーシックインプラントロジー. StraumannWEB セミナー 2023.06.18
18. 安達 和可奈, 立川 敬子, 樺沢 勇司, 丸川 恵理子. 多数歯の永久歯先天性欠如と顎変形症をともなう患者にインプラント治療を行った 1 症例. 日本口腔インプラント学会誌 2023.06.01
19. 石川 芽依, 立川 敬子, 高橋 明寛, 丸川 恵理子. 大きな含歯性嚢胞除去後に β-TCP を用いて骨造成しインプラント治療を行った 15 年経過症例. 日本口腔インプラント学会誌 2023.06.01
20. 岡 篤志, 中田 秀美, 黒田 真司, 青木 章, 丸川 恵理子. インプラント周囲炎周囲組織における VEGF/HGF シグナル阻害の効果. 口腔病学会雑誌 2023.03.01
21. 石川芽依, 立川敬子,　髙橋明寛,　丸川恵理子. . 大きな含歯性嚢胞除去後に β-TCP を用いて骨造成しインプラント治療を行った 15 年経過症例. . 日本口腔インプラント学会関東甲信越支部学術大会 2023.02.19
22. 安達和可奈, 立川敬子, 樺沢勇司, 伊藤洋介, 丸川恵理子. 多数歯の永久歯先天欠如と顎変形症を伴う患者にインプラント治療を行った 1 症例. 第 42 回関東 · 甲信越支部学術大会 2023.02.19
23. 石川芽依, 立川敬子, 髙橋明寛, 丸川恵理子. 大きな含歯性嚢胞除去後に β-TCP を用いて骨造成しインプラント治療を行なった 1 5 年経過症例. 第 42 回関東 · 甲信越支部学術大会 2023.02.19
24. 丸川恵理子，下岸将博，柴崎真樹，髙橋明寛. C.D.E. コース第 60 期 Part1 インプラント経験者のためのシミュレーションと GBR . 東京医科歯科大学同窓会 2023.02.05

[受賞]

1. 優秀研究発表賞, 第 53 回日本口腔インプラント学会学術大会　, 2023 年 09 月
2. 優秀ポスター発表賞, 第 53 回日本口腔インプラント学会学術大会　, 2023 年 09 月

[社会貢献活動]

1. 生涯研修指導, 東京医科歯科大学歯学部付属病院, 2005 年 04 月 01 日 - 現在
2. 公開講座, 2005 年 04 月 01 日 - 現在
3. 企業との連携活動, 2005 年 04 月 01 日 - 現在
4. ITI Study Club 取りまとめ, 2007 年 04 月 01 日 - 現在
5. インプラント関連一般向けホームページの作成, 2014 年 04 月 01 日 - 現在
6. 脱タバコ社会に向けた社会活動の支援, 2014 年 04 月 01 日 - 現在
7. マスコミへの対応, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
8. 大学での研究について, 四谷学院, 四谷学院の学部学科がわかる本, 2023 年 11 月 16 日 - 2024 年 01 月 31 日

顎顔面頸部機能再建学講座

形成· 再建外科学

Plastic and Reconstructive Surgery

教授 森 弘樹
講師 植村法子
大学院生　山本真魚, 羽賀義剛, 加藤小百合, 小島原知大, 赤澤 聡

(1) 分野概要

形成外科は、体表の先天性または後天性の形や色の変化を治し、個人を社会に適応させる外科学である。組織移植、再生医療、非外科的治療などを駆使する、整容と機能を「創造する外科」である。
生体組織再建外科学と連携し、臨床 · 教育 · 研究を行っている。

(2) 研究活動

形成外科的手技に則した臨床研究を行っており、創傷治癒、末梢神経再生、脂肪移植、組織工学などの実験研究も行っている。
形成 · 再建外科学担当：森 弘樹
1. 3D カメラを用いた乳房形態 · 顔面形態の研究
2. 皮膚温存乳房切除後の知覚回復の検討
3. 眼瞼下垂/痙攣の分類と形成法のアルゴリズムの開発
4. 外陰圧リンパ浮腫モデルでの脂肪増生の検討-スキャフォールド移植の新たな可能性-
5. マルチスライス CT と ICG 蛍光造影を用いた各種皮弁の血行動態の解明
6. adipogenesis の視点から女性化乳房の機序を解明する研究
7. 神経吻合部の早期機能回復に対する多血小板血漿の効果の検討

(3) 教育活動

形成外科は、診療科としては、主として体表の形態 · 機能の再建を担当し、その領域には全身が含まれる。診断学より治療学（そのほとんどが手術）の比重が高く、顔面 · 頸部、手足など人目につく部位を扱うことが多いため、外見にも配慮した治療結果が求められるのが特徴である。医学生にとって、形成外科は外科系診療科の最も基本となる診療科であり、将来進む専門分野が何であるかにかかわらず、創傷治癒の機序、組織の愛護的な扱い方を学ぶことや、外傷や熱傷に対するプライマリーケアを習得することは、医者として必須事項であると考えている。また、病院内における形成外科の位置づけと、各科との連携によるチーム医療の重要性を理解してもらいたい。まずは、学生が形成外科に興味を持ち、講義や実習が感動の場となるような、教育を目指している。

(4) 教育方針

[学習目標]
1：形成外科の意味あいを知り、外科学における位置づけを理解する。特に他の外科系各科との関連性、競合性、合同性について認識する。

2：形成外科の歴史的背景を知り、社会的必要性を理解する。
3：形成外科的基本手技（皮切縫合，植皮，皮弁，その他の組織移植）における器械、手技を理解し、その結果、どこまで機能的、整容的に修復できるかを知る。
4：形成外科的疾患（皮膚の形成外科，頭部頭蓋の形成外科，顔面，躯幹，四肢の形成外科，整容外科）を認識し理解する。
5：将来的に可能な形成外科的な臓器移植、ならびに組織移植について理解する。
6：生体組織に代用できる人工物質について認識し、将来における代用組織開発への洞察力を養う。
［修得すべき知識・技術に関する目標］
1：形成外科とは何であるか、どうして必要であるかを説明できる。
2：どんな疾患が形成外科に含まれるかを患者または各科の医師に助言でき、適切な対応ができる。
3：それぞれの患者についてどの様な治療方法がとられるべきかの判断ができる。
4：形成外科的基本手技に用いられる器具の取り扱い、縫合糸の選択ができ、どの様な手技が用いられるべきか科学的に論述できる。
卒後教育では、初期臨床研修後の 4 年間の形成外科研修後、日本形成外科学会認定医の資格が取得できるよう研修プログラムを組み、更に一定の臨床経験を積んだ後に以下に述べるような研究活動に取り組み、形成外科学の最前線を開拓する臨床医であると同時に、研究者としても研鑽を積むことを目標としている。

(5) 臨床上の特色

形成外科は外表に表われるすべての醜形を取り扱うため、疾患は多岐にわたり、その対象は全年代に及ぶ。また形成外科医療は全人的なものであり、形成外科医個人によって成り立つものではなく、関連各科との密接な連携が必要である。具体的には小児先天異常は小児科と、また腫瘍切除後の再建では、耳鼻科、頭頸部外科、口腔外科、婦人科、整形外科、一般外科などと関連が深い。特に本学においては今後、歯学部各科と連携することにより、唇、顎、口蓋裂などの先天異常の治療ならびに腫瘍切除後組織欠損の再建についてより総合的に検討していく予定である。

(6) 研究業績

[原著]

1. Ogiya A, Nagura N, Shimo A, Nogi H, Narui K, Seki H, Mori H, Sasada S, Ishitobi M, Kondo N, Yamauchi C, Akazawa K, Shien T, Collaborative Study Group of Scientific Research of the Japanese Breast Cancer Society. ASO Visual Abstract: Long-Term Outcomes of Breast Cancer Patients with Local Recurrence After Mastectomy Undergoing Immediate Breast Reconstruction-A Retrospective, Multi-institutional Study of 4153 Cases. Annals of surgical oncology. 2023.10; 30(11); 6543-6544

2. Ishida N, Tanaka K, Homma T, Mori H. Necessity of infraorbital wall reconstruction in patients with residual periosteum after total maxillectomy. Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery : JPRAS. 2023.10; 85; 195-201

3. Usami S, Kawahara S, Inami K, Hirase Y. Reconstructive Timing of Nail Preserved Fingertip Injury With Reverse Digital Artery Island Flap Hand (N Y). 2023.09; 18(6); 1012-1018

4. Ogiya A, Nagura N, Shimo A, Nogi H, Narui K, Seki H, Mori H, Sasada S, Ishitobi M, Kondo N, Yamauchi C, Akazawa K, Shien T. ASO Author Reflections: Long Term Outcomes of Breast Cancer Patients with Local Recurrence After Mastectomy Undergoing Immediate Breast Reconstruction. Annals of surgical oncology. 2023.07; 30(11); 6541-6542

5. Ogiya A, Nagura N, Shimo A, Nogi H, Narui K, Seki H, Mori H, Sasada S, Ishitobi M, Kondo N, Yamauchi C, Akazawa K, Shien T, Collaborative Study Group of Scientific Research of the Japanese Breast Cancer Society. Long-Term Outcomes of Breast Cancer Patients with Local Recurrence After Mastectomy Undergoing Immediate Breast Reconstruction: A Retrospective Multi-institutional Study of 4153 Cases. Annals of surgical oncology. 2023.07; 30(11); 6532-6540

6. Haga Y, Yasunaga Y, Araki J, Nakano J, Mori H, Nakagawa M, Mukaigawa T. Perioperative Factors Aggravating Pharyngocutaneous Fistula After Total Laryngectomy HEAD AND NECK SURGERY. 2023.07; 91((1)); 84-89

7. Hidaka T, Tanaka K, Minami M, Mori H, Okazaki M. Risk Factors for Postoperative Infection After Maxillary Reconstruction Using Skeletal Grafts. The Journal of craniofacial surgery. 2023.06; 34(7); e649-e651

8. Nakagawa T, Mori H, Uemura N, Onishi I, Oda G. A Case of Breast Cancer With Ulceration of a Reconstructed Nipple Due to Local Recurrence. Cureus. 2023.05; 15(5); e39563

9. Takeaki Hidaka, Kentaro Tanaka, Hiroki Mori. An Artificial Intelligence-Based Cosmesis Evaluation for Temporomandibular Joint Reconstruction. Laryngoscope. 2023.04; 133(4); 841-848

10. Usami S, Minamikawa Y, Kinoshita Y, Ohira K, Hamada Y. Intramedullary Insetting of Silicone Implant for Lateral Stability in Distal Interphalangeal Joint Arthroplasty Plast Reconstr Surg Glob Open. 2023.04; 11(4); e4930

11. Yamakado R, Ishitobi M, Kondo N, Yamauchi C, Sasada S, Nogi H, Saiga M, Ogiya A, Narui K, Seki H, Nagura N, Shimo A, Sakurai T, Niikura N, Mori H, Shien T, . Physicians' perception about the impact of breast reconstruction on patient prognosis: a survey in Japan. Breast Cancer. 2023.03; 30(2); 302-308

1. 生坂圭輔, 植村法子, 本間　勉, 田中顕太郎, 森　弘樹. 【形成外科】外視鏡の形成外科領域における有用性 形成外科. 2023.12; 66(12); 1490-1495

2. 笹田 伸介, 近藤 直人, 石飛 真人, 野木 裕子, 山内 智香子, 森 弘樹, 荻谷 朗子, 成井 一隆, 名倉 直美, 志茂 彩華, 関 大仁, 櫻井 照久, 寺田 かおり, 雜賀 美帆, 枝園 忠彦. 乳癌術後乳房再建の現状と課題　第 26 回日本乳癌学会班研究「乳房再建の安全性と予後に関する研究」全国アンケート調査 乳癌の臨床. 2023.08; 38(4); 325-335

3. Hidaka Takeaki, Tanaka Kentaro, Mori Hiroki. Outcome evaluation using an artificial intelligence-based facial measurement software for facial nerve grafting in head and neck and skull base surgery HEAD AND NECK-JOURNAL FOR THE SCIENCES AND SPECIALTIES OF THE HEAD AND NECK. 2023.04; 45(6); 1572-1580

4. Kato Sayuri, Mori Hiroki, Koga Haruka, Uemura Noriko, Tanaka Kentaro. The triangular prism approximation method for volume estimation of deep inferior epigastric artery perforator flap in breast reconstruction MICROSURGERY. 2023.02; 43(2); 125-130

5. 井上牧子, 植村法子, 田中顕太郎, 森　弘樹. 内胸血管を用いた遊離腹部皮弁再建例における第 3 肋軟骨下での内胸静脈径 · 本数 · 吻合形態の検討 Oncoplastic Breast Surgery. 2023; 8(4); 114-120

[書籍等出版物]

1. 森　弘樹.【乳腺外科の要点と盲点】形成外科医からのアドバイス. 文光堂, 2023.06 (ISBN : 978-4-8306-2346-2)

[総説]

1. 栗原 美紗樹, 森 弘樹. 【腋臭症 · 多汗症の治療とケア】腋臭症 · 多汗症の外科的治療法 美容皮膚医学 Beauty. 2023.07; 6(7); 37-46

2. 宇佐美聡, 河原三四郎, 稲見浩平, 平瀬雄一, 森　弘樹. 【整形外科】指尖部切断再接着術後の末節骨偽関節にかかわる危険因子 整形外科. 2023.07; 74(8); 923-927

3. 森　弘樹. 【形成外科】随想　整理整頓 形成外科. 2023.06; 66(6); 645

4. 植村法子. 【形成外科】NEXT-次世代の本音- 4 名の教授に指導を受けて 形成外科. 2023.05; 66(5); 608-609

5. 森 弘樹.【BIA-ALCL 特集】乳房インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫の現状と対策 Oncoplastic Breast Surgery. 2023.03; 8(1); 16-21

[講演 · 口頭発表等]

1. Usamai S, Minamikawa Y, Hamada Y, Sonoki K. Distal and proximal interphalangeal joint arthroplasty for the symptomatic hand osteoarthritis. Annual meeting of APOA Hand & Upper Limb Society 2023.07.01 Seoul

2. Mori H, Uemura N, Kato S, Kurihara M, Kojimahara T, Tanaka K. Inframammary fold fixation in the DIEP flap breast reconstruction. 15th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery 2023.05.29 Kitakyushu

3. Kojimahara T, Uemura N, Minami M, Kato S, Oda G, Nakagawa T, Mori H. Evaluation of body composition after deep inferior epigastric artery perforator flap breast reconstruction by bioelectrical impedance analysis.. The 15th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery 2023.05.29 小倉市

1. 小島原知大, 羽賀義剛, 植村法子, 石田直也, 田中顕太郎, 森　弘樹. 麻酔方法と抗血栓薬内服数から見た当院下腿切断症例の周術期合併症の評価. 第 4 回 日本フットケア・足病医学会 年次学術集会 2023.12.23

2. 羽賀義剛, 森　弘樹, 小島原知大, 立花　岳, 上野麻由, 濱崎七海, 石田直也, 加藤小百合, 植村法子, 田中顕太郎, 工藤敏文. 低密度リポ蛋白アフェレーシス施行症例と非施行症例における費用対効果に関する検討. 第 4 回日本フットケア・足病医学会年次学術集会 2023.12.22

3. 羽賀義剛, 森　弘樹, 小島原知大, 立花　岳, 上野麻由, 濱崎七海, 石田直也, 加藤小百合. 低密度リポ蛋白アフェレーシス施行症例と非施行症例における費用対効果に関する検討. 第 4 回日本フットケア・足病医学会年次学術集会 2023.12.22

4. 濱崎七海, 羽賀義剛, 植村法子, 加藤小百合, 石田直也, 田中顕太郎, 森　弘樹. 深下腹壁動脈穿通枝皮弁採取後の腹直筋の脂肪化に関する検討. 第 50 回日本マイクロサージャリー学会学術集会 2023.12.08 名古屋市

5. 宇佐美聡, 稲見浩平, 園木謙太郎, 村上響一. Perforator-base の血管柄付き神経を用いる手指の神経損傷治療. 第 50 回日本マイクロサージャリー学会学術集会 2023.12.07 名古屋市

6. 宇佐美聡, 稲見浩平, 園木謙太郎, 村上響一. 再接着壊死後の断端骨を再利用する指長温存の試み. 第 50 回日本マイクロサージャリー学会学術集会 2023.12.07 名古屋市

7. 加藤小百合, 宇佐美聡, 植村法子, 森　弘樹. FACE-Q Aesthetics© 〓　日本語版による眼瞼下垂症手術の術後評価. 2023.11.09

8. 加藤 小百合, 宇佐美 聡, 植村 法子, 森 弘樹. 「FACE-Q Aesthetic」日本語版による眼瞼下垂症の術後評価. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会プログラム・抄録集 2023.11.01

9. 宇佐美聡, 稲見浩平, 村上響一. 術後機能に直結する手指の骨・関節の機能解剖. 第 32 回日本形成外科学会基礎学術集会 2023.10.19 千代田区

10. 加藤小百合, 宇佐美聡, 植村法子, 田中顕太郎, 森　弘樹. FACE-Q—Aesthetics© 〓 日本語版の作成. 第 32 回日本形成外科学会基礎学術集会 2023.10.19

11. 小島原知大, 生坂圭輔, 加藤小百合, 羽賀義剛, 植村法子, 田中顕太郎, 森　弘樹. スキャフォールド構造による脂肪前駆細胞の 3D 培養の比較. 第 32 回 日本形成外科学会 基礎学術集会 2023.10.13

12. 森 弘樹. BIA-ALCL と BIA-SCC の現状と対策. 第 11 回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会 2023.09.22 つくば市

13. 森　弘樹, 植村法子, 羽賀義剛, 加藤小百合, 上野麻由, 濱崎七海, 栗原美紗樹, 田中顕太郎. 深下腹壁動脈穿通枝皮弁での一期・二期乳房再建における下溝線固定の成績. 第 11 回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会 2023.09.21 つくば市

14. 栗原美紗樹, 森　弘樹. 輝度を用いた自家組織乳房再建における深下腹壁動脈穿通枝皮弁 (DIEP) と広背筋皮弁. 第 11 回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会 2023.09.21 つくば市

15. 宇佐美聡, 園木謙太郎, 稲見浩平. 血管柄付き尺骨神経背側枝で修復した挫滅後固有指神経損傷の 3 例. 第 34 回日本末梢神経学会学術集会 2023.09.08 京都市

16. 関 大仁, 荻谷 朗子, 名倉 直美, 志茂 彩華, 成井 一隆, 笹田 伸介, 石飛 真人, 野木 裕子, 近藤 直人, 櫻井 照久, 山内 智香子, 森 弘樹, 雜賀 美穂, 新倉 直樹, 枝園 忠彦. 一次乳房再建術後局所再発乳癌の予後　日本乳癌学会班研究 (枝園班). 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2023.06.01

17. 山本 豊, 森 弘樹.　乳房再建に関するワーキンググループの活動.　日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2023.06.01

18. 野木 裕子, 荻谷 朗子, 志茂 彩華, 名倉 直美, 関 大仁, 成井 一隆, 櫻井 照久, 雜賀 美穂, 近藤 直人, 笹田 伸介, 石飛 真人, 山内 智香子, 森 弘樹, 枝園 忠彦. 術前後の化学療法を併用した一次乳房再建は外科的腫瘍学的危険因子ではない　日本乳癌学会班研究 (枝園班). 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2023.06.01

19. 宇佐美聡, 河原三四郎, 武光真志, 山岸正明, 南川義隆, 木下有紀子, 浜田佳孝. ヘバーデン結節に対する人工関節置換術：シリコンインプラントの選択について. 第 95 回日本整形外科学会学術総会 2023.05.19 横浜市

20. 加藤小百合, 植村法子, 森　弘樹. 当院における AYA 世代乳がん患者の乳房再建の変遷. 2023.04.28

21. 宇佐美聡, 稲見浩平, 石田直也. 指動脈穿通枝プロペラ皮弁による固有指部再建. 第 66 回日本形成外科学会総会 · 学術集会 2023.04.27 長崎市

22. 宇佐美聡, 稲見浩平, 河原三四郎, 武光真志, 平瀬雄一, 森　弘樹. 指尖部再接着においては神経縫合が生着率に寄与する. 第 66 回日本形成外科学会総会 · 学術集会 2023.04.27 長崎市

23. 森　弘樹, 植村法子, 加藤小百合, 南　宗敬, 田中顕太郎. 美しい乳房の形を作る -自家組織- 遊離腹部皮弁による再建で心がけていること. 2023.04.27

24. 小島原知大, 南　宗敬, 加藤小百合, 植村法子, 森　弘樹, 田中顕太郎. DPC レセプトデータを用いた当科の下肢難治性潰瘍手術例の平均在院日数と入院患者単価の分析. 第 66 回 日本形成外科学会 学術集会 2023.04.26 長崎市

25. 宇佐美聡, 稲見浩平, 河原三四郎, 武光真志, 石田直也. 耳介軟骨移植による母指 CM 関節形成術：Suture-Button Suspension の有無が与える影響. 第 66 回日本手外科学会学術集会 2023.04.20 新宿区

26. 宇佐美聡, 稲見浩平, 河原三四郎, 武光真志, 石田直也. 手掌部の mini flap を用いた整容的かつ機能的再建. 第 66 回日本手外科学会学術集会 2023.04.20 新宿区

27. 栗原美紗樹, 森　弘樹, 植村法子, 加藤小百合, 南　宗敬, 日高剛朗, 田中顕太郎. 自家組織乳房再建における腹部皮弁と広背筋皮弁のカラーマッチの比較. 第 28 回日本形成外科手術手技学会 2023.03.04 川崎市

28. 森 弘樹. 乳房形成と画像診断. 第 32 回 日本乳癌画像研究会 2023.02.05 文京区

29. 宇佐美聡. 人工神経を用いた末梢神経損傷の治療. 日本手外科学会 2022 年度教育研修会 2023.01.20 WEB

[社会貢献活動]

1. 森　弘樹　パネルディスカッション: 患者視点からの乳房再建, Allergan Aesthetics ウェビナー, Allergan Aesthetics ウェビナー, 2023 年 12 月 06 日

頭頸部外科学

Head and Neck Surgery

教　　授：　朝蔭孝宏
講　　師：　有泉陽介、大野十央
助　　教：　田崎彰久
特任助教：　岡田隆平、立石優美子、河邊浩明
医　　員：　高橋亮介（〜2023.3）大野貴史（2023.4〜）
大学院生：　富岡利文（〜2023.3）、岸下定弘、高橋亮介、横村優、星裕太、渡邊愛、永久泰斉

(1) 分野概要

頭頸部外科の対象は，頭蓋顔面および頸部のうち頭蓋内，眼窩内および頸椎を除いた全ての領域の疾患である．主に頭頸部領域の腫瘍の診断と治療に関しての研究 · 臨床 · 教育を行っている。

(2) 研究活動

大きなテーマは機能と形態を考慮した頭頸部 (悪性) 腫瘍の治療である．具体的には以下の研究があげられる．
· 顔面深部 · 頭蓋底手術における新しいアプローチ法の開発
· 頭蓋底外科のための臨床解剖
· 頭頸部癌の頸部リンパ節転移に対する標準的治療法の確立
· 小児頭頸部腫瘍に対する外科的治療
· 頭頸部癌に対する化学放射線療法
· 頭蓋底手術に対するナビゲーション手術と 3D 実態モデルの臨床応用
· 頭頸部表在癌の診断と治療
· 新しい頭頸部用デジタル内視鏡の開発
· 頭頸部癌におけるヒトパピローマウィルスの研究
· 飲酒関連遺伝子多型と頭頸部癌の研究

(3) 教育活動

医学部 · 歯学部学生の卒前教育として、医歯学融合教育の頭頸部ブロックを担当している。また、医学部学生の臨床実習を耳鼻咽喉科と共同で病棟，外来，手術室で実際の診療を指導している。
卒後教育として、頭頸部外科学を初期研修医および後期研修医 · レジデントを対象に臨床教育を中心として行い、さらに学会発表や論文作成の指導を行っている。

(4) 教育方針

卒前教育は，系統講義では主として頭頸部腫瘍の診断と治療について，本教室のスタッフのみならず，学内他科あるいは学外の臨床病院の第一線で頭頸部腫瘍の治療に携わる医師を講師として招き，その概念から最新の知見に至るまで横断的に学ぶ．
臨床実習では耳鼻咽喉科とともに病棟，外来，手術室で実際の診療を体験する．
卒後教育は耳鼻咽喉科頭頸部外科全般について研修することから始まる．学内および関連病院における実地医療を通して外来診療から手術に至るまでを学ぶ．さらに一年目から積極的に研究，学会発表を行い，論文作成をするよう指導している

(5) 臨床活動および学外活動

東京医科歯科大学病院頭頸部外科において、頭頸部癌を中心とした疾患の診断と治療を行っている。
対象は、上咽頭、中咽頭、下咽頭、喉頭、唾液腺、口腔、鼻副鼻腔、甲状腺、聴器、副咽頭間隙、頸部、頭蓋底の腫瘍全般である。

(6) 臨床上の特色

頭頸部領域は生命維持に最低限必要な呼吸と嚥下機能，あるいは社会生活に欠かすことのできない重要なコミュニケーション手段である発声構音，聴覚といった機能を受け持つ.
また，顔面 · 頸部は審美的にも重要である.
頭頸部領域の疾患の治療に際しては，単に根治性を目指すだけでなくこれらの機能と形態の保持，回復をはかるべく各疾患，各症例ごとにきめの細かな対応が要求される.
特に，最近では小児の頭頸部腫瘍の症例が多く紹介されるようになり，より形態や機能の温存を目指した手術が要求されるようになってきている.
当科では、関連各科と協力して頭頸部頭蓋底腫瘍センターを担当し、幅の広い診療体制を構築している。

(7) 研究業績

[原著]

1. Shigeru Kondo, Ryuhei Okada, Yosuke Ariizumi, Takashi Kurita, Hiroshi Shintaku, Takahiro Asakage. A Case of Syphilis Suspected Preoperatively as a Case of Tongue Cancer. Case Rep Otolaryngol. 2023.11; 2023; 9469814

2. Naoyuki Sakihama, Ryuhei Okada, Naoto Takahashi, Naoki Fushimi, Tomoki Ooka, Hiroaki Kawabe, Yosuke Ariizumi, Kazuchika Ohno, Yutaka Ueki, Niro Tayama, Takeshi Tsutsumi, Takahiro Asakage. Post-intubation laryngeal injury after COVID-19 treatment causing dyspnea: A report of six cases. Auris Nasus Larynx. 2023.10; 50(5); 816-820

3. Sakihama Naoyuki, Okada Ryuhei, Takahashi Naoto, Fushimi Naoki, Ooka Tomoki, Kawabe Hiroaki, Ariizumi Yosuke, Ohno Kazuchika, Ueki Yutaka, Tayama Niro, Tsutsumi Takeshi, Asakage Takahiro. Post-intubation laryngeal injury after COVID-19 treatment causing dyspnea: A report of six cases(タイトル和訳中) Auris· Nasus· Larynx. 2023.10; 50(5); 816-820

4. Yuta Hoshi, Satoshi Shirakura, Masato Yamada, Tomonori Sugiyama, Nobuaki Koide, Satoru Tamii, Kyohei Kamata, Masaru Yokomura, Sotaro Osaki, Takafumi Ohno, Kazuhiro Yagihara, Hiroki Hara, Takeshi Beppu. Site of distant metastasis affects the prognosis with recurrent/metastatic head and neck squamous cell carcinoma patients treated with Nivolumab. Int J Clin Oncol. 2023.09; 28(9); 1139-1146

5. Takumi Kumai, Hirotaka Shinomiya, Hirofumi Shibata, Hideaki Takahashi, Toshihiro Kishikawa, Ryuhei Okada, Shigeharu Fujieda, Masafumi Sakashita. Translational research in head and neck cancer: Molecular and immunological updates. Auris Nasus Larynx. 2023.08; 51(2); 391-400

6. Ryuhei Okada. [V. Future Prospects of Photoimmunotherapy] . Gan To Kagaku Ryoho. 2023.07; 50(7); 794-798

7. Kota Yokoyama, Junichi Tsuchiya, Hiroaki Kawabe, Takahiro Asakage, Ukihide Tateishi. A rare case of primary intraosseous carcinoma of the mandible with perineural extension mimicking neurolymphomatosis on [18F] -FDG PET/CT Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2023.05; 50(6); 1835-1836

8. Toshifumi Tomioka, Takeshi Beppu, Tetsuro Onitsuka, Yasushi Fujimoto, Kazuyoshi Kawabata, Kazuto Matsuura, Takashi Fujii, Ryuichi Hayashi, Takahiro Asakage. Post-operative progress of arm abduction function and rate of lymph node metastasis around the region of the accessory nerve: a multicentre prospective observational study. Jpn J Clin Oncol. 2023.04; 53(5); 401-409

9. Fuyuki F Inagaki, Hiroaki Wakiyama, Aki Furusawa, Ryuhei Okada, Takuya Kato, Daiki Fujimura, Shuhei Okuyama, Hiroshi Fukushima, Seiichiro Takao, Peter L Choyke, Hisataka Kobayashi. Near-infrared photoimmunotherapy (NIR-PIT) of bone metastases. Biomed Pharmacother. 2023.04; 160; 114390

10. Takuya Kato, Aki Furusawa, Ryuhei Okada, Fuyuki Inagaki, Hiroaki Wakiyama, Hideyuki Furumoto, Hiroshi Fukushima, Shuhei Okuyama, Peter L Choyke, Hisataka Kobayashi. Near-Infrared Photoimmunotherapy Targeting Podoplanin-Expressing Cancer Cells and Cancer-Associated Fibroblasts. Mol Cancer Ther. 2023.01; 22(1); 75-88

11. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Yasunari Miyazaki, Takahiro Asakage, Shohei Fukuda, Takeshi Namiki, Yoshito Kano, Masashi Nagata, Jun Tsuchiya, Masato Miyoshi, Fukiko Kitahata-Kawai, Sayuri Nitta, Yasuhiro Itsui, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto. Factors associated with liver injury and prognosis in advanced cancer patients treated with immune checkpoint inhibitors. Hepatol Res. 2023.01;

12. Atsumori Hamahata, Takeshi Beppu, Miho Kirita, Hisato Konoeda, Hiroyuki Sakurai. Gemini Anastomosis for Dual Venous Anastomosis in Head and Neck Reconstruction. Plast Reconstr Surg Glob Open. 2023.01; 11(1); e4775

13. Masahiro Kishikawa, Atsunobu Tsunoda, Yoji Tanaka, Seiji Kishimoto. Large nasopharyngeal inverted papilloma presenting with rustling tinnitus. Am J Otolaryngol. 35(3); 402-404

1. 佐藤 尊陽, 木村 真緒, 清川 佑介. 頸部食道に発生した duplication cyst 例 耳鼻咽喉科臨床. 2023.11; 116(11); 1131-1136

2. 坂田 慎一郎, 大嶋 宏一, 森 麻希子, 荒川 ゆうき, 水島 喜隆, 金子 綾太, 石川 貴大, 入倉 朋也, 本田 護, 窪田 博仁, 三谷 友一, 福岡 講平, 生田 稔, 別府 武, 康 勝好. 造血幹細胞移植後に舌癌を発症した Fanconi anemia の 2 例 埼玉小児医療センター医学誌. 2023.11; 40; 15-20

3. 大崎 聡太郎, 杉本 太郎, 久米 雄一郎, 上條 朋之, 近藤 律男, 谷 美有紀. 術前内視鏡所見で悪性が疑われた下咽頭 glycogenic acanthosis の一例 頭頸部癌. 2023.10; 49(3); 267-272

4. 久保木 諒, 野村 文敬, 渡邊 愛. 頸部病変に対して脂肪切除を行った多発性対称性脂肪腫症例 耳鼻咽喉科臨床. 2023.09; 116(9); 913-917

5. 川島 慶之, 瀬越 空人, 伊藤 卓, 有泉 陽介, 大野 十央, 藤川 太郎, 田崎 彰久, 西尾 綾子, 本田 圭司, 岡田 隆平, 立石 優美子, 河邊 浩明, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 外耳道癌 79 症例の早期臨床像 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.09; 126(9); 1052-1060

6. 川田 研郎, 河邊 浩明, 春木 茂男, 藤原 尚志, 小郷 泰一, 坂野 正佳, 奥野 圭祐, 谷岡 利朗, 徳永 正則, 大野 十央, 田崎 彰久, 岡田 隆平, 伊藤 崇, 朝蔭 孝宏, 絹笠 祐介. 【知っておくべき口腔・咽喉頭病変】咽喉頭表在癌の内視鏡的診断　経鼻内視鏡の立場から 胃と腸. 2023.09; 58(9); 1120-1127

7. 柳橋 賢, 稲葉 雄一郎, 野村 文敬. 発熱と咽頭痛で発症した成人 Still 病例 耳鼻咽喉科臨床. 2023.07; 116(7); 711-716

8. 大久保 耀生, 菅原 貴志, 山岡 寛人, 清水 一秀, 有泉 陽介, 伊藤 卓, 朝蔭 孝宏, 前原 健寿. 脳神経外科手術シミュレーション・教育における Mixed Reality 技術の応用 CI 研究. 2023.06; 45(1); 23-29

9. 福島 亮, 白倉 聡, 苦瓜 治彦, 島崎 幹夫, 大野 貴史, 吉田 祥徳, 民井 智, 小出 暢章, 別府 武. 嚥下障害が初発症状であった irAE 筋炎の 1 例 耳鼻と臨床. 2023.05; 69(3); 243-248

10. 栗山将一，齊藤祐毅，坂井利彦，　小村豪，福岡修，明石健，吉田昌史，安藤瑞生，朝蔭孝宏，山岨達也. p16 陽性中咽頭癌 Stage III の初回治療と予後因子の検討 頭頸部外科. 2023.02; 32(3); 245-250

11. 朝蔭孝宏. 治療法の再整理とアップデートのために　専門家による私の治療　口腔癌 日本医事新報. 2023.01; (5152); 48-49

12. 有泉 陽介. 【コロナ時代の新たな耳鼻咽喉科診療】パンデミックにおける耳鼻咽喉科医の役割　COVID-19 重症例の気道管理における耳鼻咽喉科医の役割 JOHNS. 2023.01; 39(1); 45-47

[書籍等出版物]

1. 朝蔭孝宏　他. 国民のための名医ランキング 2024〜2026 — いざという時の頼れる医師ガイド 全国名医 1020 人厳選. 桜の花出版, 2023.11 (ISBN : 9784434328848)

2. 角卓郎, 岸本誠司. 外科的気道確保マニュアル 第 2 版. 日本気管食道科学会, 2023.08 (ISBN : 978-4991305917)

3. 朝蔭孝宏. 今日の治療指針 2023 年版　喉頭癌. 医学書院, 2023.01 (ISBN : 978-4-260-05035-7)

[総説]

1. 岡田 隆平. 【新たに注目される頭頸部癌治療】光免疫療法　光免疫療法の原理と基礎 JOHNS. 2023.11; 39(11); 1374-1377

2. 岡田 隆平. Head and Neck Tumor 頭頸部腫瘍　頭頸部癌の光免疫療法 (アルミノックス治療)　光免疫療法の将来展望 癌と化学療法. 2023.07; 50(7); 794-798

3. 杉本 太郎. 【最新版 見てわかる! 喉頭・咽頭に対する経口手術】《悪性腫瘍に対する手術》　下咽頭がん内視鏡的咽喉頭手術 (ELPS) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 2023.06; 95(7); 544-549

[講演・口頭発表等]

1. Ryuhei Okada. Near-infrared Photoimmunotherapy: Clinical application and translational research. 16th Taiwan-Japan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery 2023.12 Taichung, Taiwan

2. Ryuhei Okada. Near-infrared Photoimmunotherapy: Translational research and clinical application. 23rd National Conference, Foundation for Head & Neck Oncology 2023.12 Daman, India

3. Ryuhei Okada, Hiroaki Kawabe, Takahiro Asakage. Near-infrared Photoimmunotherapy against Head and Neck Cancers. The 8th Conference of the Asian Society of the Head and Neck Oncology 2023.11 Bangkok, Thailand

4. Takahiro Asakage. Chairman： AOS Oral Session 39　Up to Date Head and Neck Cancer/Brain Tumor/Oral Cancer. 3rd Asian Oncology Society 2023.10.23 横浜

5. Ryuhei Okada. Local depletion of immune suppressor cells using near-infrared potoimmunotherapy. 7th World Congress of the International Federation of Head and Neck Oncologic Societies 2023.06 Rome, Italy

6. Takahiro Asakage. Instructional Course Surgical Management of Paraganglioma Diagnosis/Imaging. 7th World congress of the International Federation of Head and Neck Oncologic Societies 2023.06 Rome

1. 水野雄介，岡田隆平，朝蔭孝宏. ペムブロリズマブが著効した再発性呼吸器乳頭腫症悪性転化の一例. 第 42 回御茶の水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会 2023.12.09 東京

2. 岡田隆平，河邊浩明，朝蔭孝宏. 当院における頭頸部アルミノックス治療施行例. 第 42 回御茶の水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会 2023.12.09 東京

3. 田崎彰久. 座長：第Ⅱ群. 第 42 回御茶の水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会 2023.12.09 東京

4. 岡田隆平. 座長：Ⅲ群. 第 42 回御茶の水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会 2023.12.09 東京

5. 杉本太郎，大崎聡太郎，久米雄一郎，松崎理樹，大岡知樹，近藤律男，上條朋之. 咽喉頭癌の経口的切除術における内腔からの臨床解剖（筋肉と筋膜）. 第 42 回御茶の水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会 2023.12.09 東京

6. 田村 文乃, 有泉 陽介, 田崎 彰久, 朝蔭 孝宏. 顎関節腫瘍が疑われた肺癌下顎骨転移の 1 例. 第 42 回 御茶の水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会 2023.12.09 東京

7. 小島史也，白倉聡，小出暢章，塩水紀香，福島亮，苦瓜治彦，島崎幹夫，久保木諒，別府武. 頭頸部癌遊離空腸再建例における移植空腸腸間膜リンパ節腫大に対する後方視的検討. 第 42 回お茶の水耳鼻咽喉科頭頸部外科研究会 2023.12.09 東京

8. 松崎理樹，杉本太郎，大崎聡太郎，大岡知樹，近藤律男，上條朋之. 診断に難渋した複視の一例. 第 42 回御茶の水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会 2023.12.09 東京

9. 朝蔭孝宏. 座長：首都圏エリアセミナー 2023 @東京. 首都圏エリアセミナー 2023 @東京 2023.12.08 東京

10. 別府武. 座長：頭頸部癌導入化学療法の現状と展望. Erbitux HN Seminar 2023.12.01 上尾

11. 朝蔭孝宏. 領域講習 13 明日は我が身　医事紛争の事案と予防　頸部術後出血による窒息事故を防ぐ. 第 37 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会 2023.11.19 横浜

12. 朝蔭孝宏. 座長：領域講習 9　頭頸部癌薬物療法 up to date. 第 37 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会 2023.11.18 横浜

13. 朝蔭孝宏. 座長：パネルディスカッション２　高齢者のがん医療：これからの高齢者のがん治療に求められること. 第 74 回日本気管食道科学会 2023.11.15 福岡

14. 河邊浩明，大野十央，川田研郎，藤原尚志，立石優美子，岡田隆平，有泉陽介，朝蔭孝宏. 内視鏡下咽頭喉頭手術で切除後に空腸再建術を行なった下咽頭癌再発の 1 例. 第 74 回日本気管食道科学会 2023.11.15 福岡

15. 杉本太郎，朝蔭孝宏，久米雄一郎，川田研郎. 咽喉頭癌に対する経口的鏡視下手術のピットフォール及びその適応と限界. 第 74 回日本気管食道科学会 2023.11.15 福岡

16. 別府武. 座長：第 17 群　頭頸部 · 食道. 第 74 回日本気管食道科学会総会学術講演会 2023.11.15 福岡

17. 大野十央，川田研郎，峯真司，松居秀敏，馬場祥史，安田卓司，佐久間淳，池田賢一郎，丸尾貴志，奥田匠，朝蔭孝宏. 頸部食道癌治療全国調査から見る喉頭温存治療戦略. 第 74 回日本気管食道科学会 2023.11.14 福岡

18. 水野雄介，岡田隆平，朝蔭孝宏. ペムブロリズマブが著効した再発性呼吸器乳頭腫症悪性転化の一例. 第 74 回日本気管食道科学会 2023.11.14 福岡

19. 朝蔭孝宏. 頸部手術後の気道トラブルを回避する. 第７０回札幌 ENT カンファレンス 2023.10.31 札幌

20. 朝蔭孝宏. 座長：臓器別ワークショップ７　どう攻める？ 咽頭癌の外科的治療. 第 61 回日本癌治療学会 2023.10.19 横浜

21. 高橋佑輔，野村文敬，柳橋賢. 当科で診断した IgG4 関連疾患の検討. 第 144 回日耳鼻埼玉県地方部会学術講演会 2023.10.15 浦和

22. 野村文敬. 座長：第 3 群「咽喉頭 · 頸部」. 第１４４回日耳鼻埼玉県地方部会学術講演会 2023.10.15 浦和

23. 大野　貴史，有泉　陽介，朝蔭　孝宏. 当科における鼻副鼻腔悪性腫瘍症例の臨床的検討. 第 62 回日本鼻科学会 2023.09.28 三重

24. 朝蔭孝宏. 座長：一般演題３　悪性腫瘍２. 第 62 回日本鼻科学会 2023.09.28 三重

25. 河邊　浩明，朝蔭　孝宏. 下咽頭 · 頸部食道表在癌に対する内視鏡手術の検討. 第 36 回日本口腔 · 咽頭科学会 2023.09.15 高知

26. 朝蔭孝宏. 座長：第 18 群　唾液腺悪性腫瘍２. 第 36 回日本口腔 · 咽頭科学会 2023.09.15 高知

27. 清川佑介. 内科診療に役立つ耳鼻科領域の Tips　～アレルギー性鼻炎から腫瘍まで～. 武蔵野市医師会学術講演会 2023.09 東京

28. 柳橋賢，野村文敬，高橋祐輔，渡邊愛，根木真理子. 出血源に副甲状腺が疑われた深頸部血腫の 2 症例. 第 41 回御茶の水耳鼻咽喉科 · 頭頸部外科研究会 2023.07.08 東京

29. 大久保航太，河邊浩明，伊藤卓，尾形麻斗，本田圭司，朝蔭孝宏. 3D プリンタを用いてカスタムプロテーゼを作製した気管食道瘻例. 第 41 回御茶の水耳鼻咽喉科 · 頭頸部外科研究会 2023.07.08 東京

30. 白倉聡，別府武，小出暢章，吉田祥徳，福島亮，苦瓜治彦，久保木諒，島崎幹夫，小島史也. 下咽頭に浸潤した頸部気管腺様嚢胞癌症例. 第 41 回御茶の水耳鼻咽喉科 · 頭頸部外科研究会 2023.07.08 東京

31. 松崎理樹，大崎聡太郎，大岡知樹，近藤律男，上條朋之，杉本太郎. 両側外転神経麻痺を来した扁桃周囲膿瘍の一例. 第 41 回御茶の水耳鼻咽喉科 · 頭頸部外科研究会 2023.07.08 東京

32. 朝蔭孝宏. 座長：理事長講演. 第 35 回日本頭蓋底外科学会 2023.07.06 東京

33. 有泉陽介，高橋亮介，河邊浩明，岡田隆平，立石優美子，田崎彰久，大野十央，田中顕太郎，菅原貴志，朝蔭孝宏. 当科における嗅神経芽細胞腫の再発例の検討 —硬膜播種例を中心に—. 第 35 回日本頭蓋底外科学会 2023.07.06 東京

34. 岡田隆平. 頭頸部アルミノックス治療の現状と発展. 第 35 回日本頭蓋底外科学会 2023.07.06 東京

35. 別府武. 上顎全摘術～上顎洞手術の基本的な考え方と手技. 第 15 回教育セミナー 2023.06.24 Web 開催

36. 水野雄介，有泉陽介，高橋亮介，河邊浩明，立石優美子，岡田隆平，田崎彰久，大野十央，朝蔭孝宏. 鼻腔腺癌 6 症例の臨床病理組織学的検討. 第 47 回日本頭頸部癌学会 2023.06.16 大阪

37. 有泉陽介，高橋亮介，河邊浩明，立石優美子，岡田隆平，田崎彰久，大野十央，朝蔭孝宏. 当科で頭蓋底手術を行った前頭洞癌 9 症例における臨床病理学的検討. 第 47 回日本頭頸部癌学会 2023.06.16

38. 大野貴史，苦瓜治彦，島崎幹夫，福島亮，吉田祥徳，小出暢章，白倉聡、別府武. 当院におけるプロヴォックス挿入例の検討. 第 47 回日本頭頸部癌学会総会学術講演会 2023.06.16 大阪

39. 朝蔭孝宏. 座長：頭頸部イルミノックス治療（光免疫療法）の現状と今後の展望. 第 4 7 回日本頭頸部癌学会　共催ランチョンセミナー 2023.06.15 大阪

40. 水野 雄介, 有泉 陽介, 高橋 亮介, 河邊 浩明, 立石 優美子, 岡田 隆平, 田崎 彰久, 大野 十央, 朝蔭 孝宏. 鼻腔腺癌 6 症例の臨床病理組織学的検討. 第 47 回　日本頭頸部癌学会 2023.06.15 大阪

41. 朝蔭孝宏. 座長：シンポジウム２　局所進行口腔癌に対する新規治療戦略. 第 47 回日本頭頸部癌学会 2023.06.15 大阪

42. 市川椋雅，河邊浩明，高橋亮介，立石優美子，岡田隆平，田崎彰久，大野十央，有泉陽介，朝蔭孝宏. Sclerosing odontogenic carcinoma に対して，下顎骨区域切除及び 遊離腓骨皮弁再建を施行した一例. 第 47 回日本頭頸部癌学会 2023.06.15 大阪

43. 杉本太郎，久米雄一郎，大崎聡太郎，谷美有紀，近藤律男，上條朋之，朝蔭孝宏. 中 · 下咽頭癌に対する経口的切除術における術後出血のマネージメント. 第 47 回日本頭頸部癌学会 2023.06.15 大阪

44. 白倉聡，別府武，小出暢章，吉田祥徳，大野貴史，福島亮，苦瓜治彦，島崎幹夫，工藤滋弘，牛島弘毅. 当科における頭頸部扁平上皮癌骨転移症例の臨床検討. 第 47 回日本頭頸部癌学会 2023.06.15 大阪

45. 島崎幹夫，白倉聡，苦瓜治彦，福島亮，大野貴史，吉田祥徳，小出暢章，別府武. 当科における局所進行非 HPV 関連中咽頭癌の治療成績. 第 47 回日本頭頸部癌学会 2023.06.15 大阪

46. 小出暢章，島崎幹夫，苦瓜治彦，福島亮，大野貴史，吉田祥徳，白倉聡，別府武. 当科における頭頸部領域の肉腫症例の検討. 第 47 回日本頭頸部癌学会 2023.06.15 大阪

47. 有泉 陽介. 根拠と経験に基づいた頸部郭清術. 耳鼻咽喉科臨床 補冊 2023.06.01

48. 大野 十央, 川田 研郎, 杉本 太郎, 清川 佑介, 河邊 浩明, 高橋 亮介, 小出 暢章, 立石 優美子, 田崎 彰久, 有泉 陽介, 朝蔭 孝宏. ANL Secondary Publication　内視鏡的喉頭咽頭手術を施行した頭頸部同時性多重表在癌の検討. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.06.01

49. 苦瓜治彦，白倉聡，別府武，小出暢章，吉田祥徳，大野貴史，福島亮，島崎幹夫. 当科における原発不明頸部リンパ節転移治療例に対 する臨床検討. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 2023.05.20 福岡

50. 福島亮，白倉聡，島崎幹夫，苦瓜治彦，大野貴史，吉田祥徳，小出暢章、別府武. 当科で加療した腺様嚢胞癌の臨床検討. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 2023.05.20 福岡

51. 別府武. 座長：第 35 群　薬物化学療法. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 2023.05.19 福岡

52. 朝蔭孝宏. 座長：パネルディスカッション 02 症例から学ぶ医療安全. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 2023.05.18 福岡

53. 柳英成，田崎彰久，市川椋雅，高橋亮介，大野十央，河邊浩明，立石優美子，岡田隆平，有泉陽介，朝蔭孝宏. 鼻腔内 Seromucinous Hamartoma（漿液粘液性過誤 腫）の一例. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 2023.05.18 福岡

54. 萩原 理彩子, 立石 優美子, 有泉 陽介, 高橋 亮介, 河邊 浩明, 岡田 隆平, 田崎 彰久, 大野 十央, 朝蔭 孝宏. 前頭洞原発ユーイング肉腫の一例. 第 124 回　日本耳鼻咽喉科学会総会学術講演会 2023.05.17 福岡

55. 金子 昌行, 中村 美代子, 荒木 直人, 成澤 健, 有泉 陽介, 朝蔭 孝宏. 前頭洞原発の NUT midline carcinoma の 1 例. 頭頸部癌 2023.05.01

56. 有泉 陽介, 高橋 亮介, 河邊 浩明, 立石 優美子, 岡田 隆平, 田崎 彰久, 大野 十央, 朝蔭 孝宏. 当科で頭蓋底手術を行った前頭洞癌 9 症例における臨床病理学的検討. 頭頸部癌 2023.05.01

57. 水野 雄介, 有泉 陽介, 高橋 亮介, 河邊 浩明, 立石 優美子, 岡田 隆平, 田崎 彰久, 大野 十央, 朝蔭 孝宏. 鼻腔腺癌 6 症例の臨床病理組織学的検討. 頭頸部癌 2023.05.01

58. 朝蔭孝宏. 特別講演　頭蓋底手術 121 例の検討. 慈恵医大耳鼻科総会 2023.05 東京

59. 朝蔭孝宏. 座長 · 講師：適応判断の方針について、要約集の改訂について. 第 1 回頭頸部アルミノックス治療運営委員会（令和 5· 6 年度）総会 2023.04.23

60. 加藤 秀, 山本 くらら, 桐村 進, 有泉 陽介, 立石 優美子, 神谷 尚宏, 明石 巧, 大橋 健一. 鼻腔に発生した Ewing 肉腫の 2 例. 第 112 回日本病理学会総会 2023.04.13 下関

61. 朝蔭孝宏. 座長：頭頸部アルミノックス治療セミナー～副作用マネジメント：疼痛管理編～. 頭頸部アルミノックス治療 WEB 講演会 2023.04.06 WEB 開催

62. 萩原 理彩子, 立石 優美子, 有泉 陽介, 高橋 亮介, 河邊 浩明, 岡田 隆平, 田崎 彰久, 大野 十央, 朝蔭 孝宏. 前頭洞原発ユーイング肉腫の一例. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

63. 大岡 知樹, 近藤 景介, 本田 圭司, 西尾 綾子, 藤川 太郎, 有泉 陽介, 大野 十央, 伊藤 卓, 川島 慶之, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 単施設における外耳道癌 80 例の後方視的検討. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

64. 岡田隆平. 光免疫療法の基礎と臨床データ解説. 第 3 回東海エリア頭頸部アルミノックス治療カンファレンス 2023.03.22

65. 朝蔭孝宏. 座長：第 17 群悪性腫瘍 2. 第 35 回日本喉頭科学会 2023.03.10 京都

66. 朝蔭孝宏. 座長：シンポジウム 1　頭頸部再建. 第 46 回日本嚥下医学会 2023.03.03 名古屋

67. 別府武. 座長：第 4 群　頭頸部癌 1. 第 46 回日本嚥下医学会 2023.03.03 名古屋

68. 朝蔭孝宏. 特別講演　頸部手術後の気道トラブルを回避する. 第 76 回愛知県耳鼻咽喉科手術手技懇話会 2023.02.09

69. 杉本太郎. 座長：第 46 群　経口的切除 2. 第 32 回日本頭頸部外科学会総会 2023.01.20 金沢

70. 朝蔭孝宏. 座長：シンポジウム 2　鼻科学の挑戦：経鼻内視鏡下頭蓋底悪性腫瘍手術　—合併症の回避と対応—. 第 32 回日本頭頸部外科学会総会 2023.01.19 金沢

71. 杉本太郎，久米雄一郎，大崎聡太郎，谷美有紀，近藤律男，上條朋之. 新型コロナ罹患直後に ELPS を施行し遅発性の術後出血を来たした下咽頭癌の 1 例. 第 32 回日本頭頸部外科学会総会 2023.01.19 金沢

72. 市川椋雅，柳英成，高橋亮介，河邊浩明，立石優美子，岡田隆平，田崎彰久，大野十央，有泉陽介，新宅洋，朝蔭孝宏. 術後病理診断にて異所性髄膜腫の診断となった頸部腫瘤の 1 例. 第 32 回日本頭頸部外科学会総会 2023.01.19 金沢

73. 小島史也, 大野十央, 伏見直樹, 高橋亮介, 田崎彰久, 朝蔭孝宏. 褐色細胞腫術後 15 年で副咽頭間隙にカテコールアミン産生腫瘍を認め手術を施行した 1 例. 第 32 回　日本頭頸部外科学会総会 2023.01.19 金沢

74. 河邊浩明, 岡田隆平, 高橋亮介, 立石優美子, 田崎彰久, 大野十央, 有泉陽介, 朝蔭孝宏. 動脈塞栓術を施行後にアルミノックス治療を行なった下咽頭癌再発の 1 例. 第 32 回　日本頭頸部外科学会総会 2023.01.19

75. 別府武. 座長：第 4 群　中下咽頭 1 . 第 32 回頭頸部外科学会 2023.01.19 金沢

[その他業績]

1. 第 35 回日本頭蓋底外科学会, 2023 年 07 月
   第 35 回日本頭蓋底外科学会会長を務める

2. 第 35 回日本頭蓋底外科学会, 2023 年 07 月
   事務局長を担当

[社会貢献活動]

1. 岸川正大　ICT を活用した禁煙支援プログラムの実施及び汎用モデル構築事業, 厚生労働省, 2018 年 11 月 - 現在

2. 「咽頭がん」に関する記事監修（更新）について, 株式会社メディカルノート, Medical Note, 2023 年 03 月 23 日

3. 禁煙のススメ, 三菱商事株式会社, 東京, 2023 年 06 月 29 日

4. 喉頭がん　声を失うって！ どういうこと？ , 日耳鼻埼玉県地方部会, 2023 年頭頸部外科月間 市民公開講座, 埼玉県県民健康センター, 2023 年 07 月 23 日

5. 頭頸部がんについて, 日本経済新聞, 日経 Gooday, 2023 年 08 月 09 日 - 現在

6. 頭頸部アルミノックス治療実施にかかる医療機器、並びに補助器具等の開発へのアドバイス, 楽天メディカル株式会社, 2023 年 11 月 01 日 - 2024 年 10 月 31 日
7. 「舌がん」に関する記事監修（更新）について , 株式会社メディカルノート, Medical Note, 2023 年 12 月 07 日

腫瘍放射線治療学

Radiation Therapeutics and Oncology

教授　　吉村亮一
助教　　桑原宏文，長野拓也，松原大五郎
医員　　三木谷智範，荒井茜音
大学院生　　篠村一磨，吉田匡宏，上原悠治
（教官は併任を含む）

(1) 分野概要

腫瘍放射線治療学分野では放射線という手段を用いて横断的にがん治療に関わり、診療および研究、教育を行っている。

(2) 研究活動

放射線治療に関わる臨床研究を主体に行っている。

(3) 教育活動

医学部生、大学院生に対する講義、およびクリニカルクラークシップを通しての実習を行う。入局後、専門医認定試験合格までは画像診断・核医学分野と共同で臨床研修を行う。

(4) 教育方針

学生および研修医は放射線腫瘍医のがん診療の考え方を学ぶ。
教室員の放射線腫瘍医は全員、放射線治療専門医を取得することを必須とし、また学位取得を目指す。

(5) 臨床活動および学外活動

教室員全員が病院の放射線治療科にて放射線治療に従事し、強度変調放射線治療（IMRT）や定位照射（SRT）を含めた外部照射、および低線量率・高線量率小線源治療を施行している。
2022 年の実患者数は 763 名で頭頸部癌 233 名、泌尿器系腫瘍 167 名、乳癌 83 名、肺癌 67 名、婦人科腫瘍 51 名等となっている。

(6) 臨床上の特色

頭頚部領域の放射線治療患者数が多いのが特徴で、特に口腔癌の小線源治療は歯科放射線科とも連携して行っており、現在国内では最も多くの症例経験を有する。
また、子宮癌や乳癌に対する小線源治療も実施しており、それらの治療を目的とした他院からの紹介もある。

(7) 研究業績

[原著]

1. Fujiwara M, Tanaka H, Kobayashi M, Nakamura Y, Fan B, Ishikawa Y, Fukuda S, Toda K, Yoshida S, Yokoyama M, Yoshimura R, Fujii Y. Neoadjuvant Chemoradiotherapy Followed by Radical Cystectomy for Muscle-Invasive Bladder Cancer: Analysis of Efficacy and Safety in 119 Patients. Clinical genitourinary cancer. 2023.11;

2. Yoshida Soichiro, Takahara Taro, Tanaka Hajime, Yokoyama Minato, Yoshimura Ryoichi, Fujii Yasuhisa. The role of prostate-specific antigen changes in predicting overall survival after progressive-site directed therapy for oligoprogressive castration-resistant prostate cancer International Journal of Urology. 2023.07; 30(7); 616-617

3. Ito K, Tokura S, Takazawa I, Yoshida N, Nakanishi T, Akiyama K, Onuma Y, Adachi T, Harada H, Nojima H, Miura M, Yoshimura R, Kabasawa Y. Clinical investigation of use of Episil® oral solution in oral mucositis during radiotherapy for head and neck cancer. Heliyon. 2023.06; 9(6); e15869

4. Kimura K, Yoshida S, Tsuchiya J, Kitazume Y, Waseda Y, Tanaka H, Yokoyama M, Toda K, Yoshimura R, Masaya I, Koga F, Tateishi U, Fujii Y. Novel utility of Vesical Imaging-Reporting and Data System in multimodal treatment for muscle-invasive bladder cancer. European radiology. 2023.04;

5. Saito AI, Hirai T, Inoue T, Hojo N, Kawai S, Kato Y, Ito K, Kato M, Ozawa Y, Shinjo H, Toda K, Yoshimura RI. Time to Pain Relapse After Palliative Radiotherapy for Bone Metastasis: A Prospective Multi-institutional Study. Anticancer research. 2023.02; 43(2); 865-873

6. Yoshida Soichiro, Takahara Taro, Arita Yuki, Toda Kazuma, Kimura Koichiro, Fujiwara Motohiro, Tanaka Hajime, Yokoyama Minato, Matsuoka Yoh, Yoshimura Ryoichi, Fujii Yasuhisa. Patterns of recurrence in genuine and induced oligometastatic castration-resistant prostate cancer treated with progressive sitedirected therapy International Journal of Urology. 2023.02; 30(2); 204-210

1. Murakami Naoya, Watanabe Miho, Uno Takashi, Sekii Shuhei, Tsujino Kayoko, Kasamatsu Takahiro, Machitori Yumiko, Aoshika Tomomi, Kato Shingo, Hirowatari Hisako, Kaneyasu Yuko, Nakagawa Tomio, Ikushima Hitoshi, Ando Ken, Murata Masumi, Yoshida Ken, Yoshioka Hiroto, Murata Kazutoshi, Ohno Tatsuya, Okonogi Noriyuki, Saito Anneyuko I., Ichikawa Mayumi, Okuda Takahito, Tsuchida Keisuke, Sakurai Hideyuki, Yoshimura Ryoichi, Yoshioka Yasuo, Yorozu Atsunori, Kunitake Naonobu, Okamoto Hiroyuki, Inaba Koji, Kato Tomoyasu, Igaki Hiroshi, Itami Jun. Phase I/II prospective clinical trial for the hybrid of intracavitary and interstitial brachytherapy for locally advanced uterine cervical cancer JOURNAL OF GYNECOLOGIC ONCOLOGY. 2023.05; 34(3);

2. Yoshida Soichiro, Takahara Taro, Arita Yuki, Ito Masaya, Hayakawa Sara, Oguchi Tomohiko, Komai Yoshinobu, Numao Noboru, Yuasa Takeshi, Inoue Masaharu, Ushijima Hiroki, Kudo Shigehiro, Shimano Yasumasa, Nakamura Yuki, Uchida Yusuke, Uehara Sho, Tanaka Hajime, Yaegashi Hiroshi, Izumi Kouji, Yokoyama Minato, Matsuoka Yoh, Yoshioka Yasuo, Konishi Koji, Nakanishi Katsuyuki, Nagahara Akira, Hirakawa Akihiro, Koike Ryuji, Koga Fumitaka, Nishimura Kazuo, Mizokami Atsushi, Yonese Junji, Kageyama Yukio, Yoshimura Ryoichi, Fujii Yasuhisa. A phase II randomized trial of metastasis-directed therapy with alpha emitter radium-223 in men with oligometastatic castration-resistant prostate cancer (MEDAL) BMC UROLOGY. 2023.03; 23(1); 33

3. Yoshida Soichiro, Takahara Taro, Tanaka Hajime, Yokoyama Minato, Yoshimura Ryoichi, Fujii Yasuhisa. The role of prostate-specific antigen changes in predicting overall survival after progressive-site directed therapy for oligoprogressive castration-resistant prostate cancer INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY. 2023.03;

[講演・口頭発表等]

1. Yoshida Souichirou, Takahara Taro, Arita Yuki, Toda Kazuma, Kimura Koichiro, Fujiwara Motohiro, Tanaka Hajime, Yokoyama Minato, Matsuoka Yoh, Yoshimura Ryoichi, Fujii Yasuhisa. Patterns of recurrence in genuine and induced oligometastatic castration-resistant prostate cancer treated with progressive site-directed therapy. The 110th Annual Meeting of the Japanese Urological Association 2023.04.01

1. 田中 一, 藤原 基裕, 吉富 香澄, 小林 正貴, 中村 祐基, 范 博, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 吉田 宗一郎, 吉村 亮一, 藤井 靖久. 筋層浸潤性膀胱癌に対する膀胱温存療法の至適対象の探索　膀胱切除検体を用いた検討. 日本癌治療学会学術集会抄録集 2023.10.01

2. 吉村 亮一, 戸田 一真, 野武 亮一, 新城 秀典, 宮浦 和徳, 川中 崇, 志賀 淑子, 兼安 祐子, 吉尾 浩太郎, 桑山 隆志, 中川 剛士, 枝園 忠彦, 中村 清吾, 伊丹 純. SAVI を用いた乳房温存術後小線源治療の治療効果に関する多施設共同観察研究　放射線量評価と急性期有害事象. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2023.06.01

3. 桑山 隆志, 吉村 亮一, 中川 剛士, 加藤 正子, 枝園 忠彦, 戸田 一真, 野武 亮一, 宮浦 和徳, 川中 崇, 志賀 淑子, 兼安 祐子, 吉尾 浩太郎, 山下 年成, 中村 清吾, 伊丹 純. Strut Adjusted Volume Implant(SAVI) を用いた小線源治療による乳房温存療法の多施設共同観察研究. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2023.06.01

認知神経生物学

Cognitive Neurobiology

教授　上阪　直史
講師　田中　大介
助教　竹内 敦也
谷川萌（咬合機能矯正学分野）
内海　希（歯科麻酔・口腔顔面痛制御学分野）
劉 孟軻 （咬合機能矯正学分野）
和田　緑（咬合機能矯正学分野）
孫　洋
韓　依彬
稲葉　志築
邵 賢植
呉　偉達
程　永嘉
合田　匡助

(1) 分野概要

当分野では各脳細胞や脳細胞グループがどのようにして複雑な脳機能を生み出しているのか、また各細胞の機能障害がどのように脳疾患を引き起こすのか、を解明することを目指している。これらの問いに答えるために、神経生理学、発生工学、分子生物学、遺伝学などの多様な手法を用いている。研究を推進し、脳発達、脳機能、脳疾患における新奇概念を打ち出すことを目指している。

(2) 研究活動

1. 脳の機能発達
生後発達期におこるシナプスの選択的強化・除去（シナプス刈り込み）のメカニズムを研究しています。

2. グリア機能
グリア細胞の新規機能を見出すことを目指しています。

3. 口腔と脳のクロストーク
口腔感覚の脳内情報処理機構や口腔運動の脳による制御機構の解明を目指しています。

4. 脳疾患
脳疾患が発症・悪性化するメカニズムの解明を目指しています。

(3) 教育活動

1.「神経系の機能 I（神経生理学総論、運動機能）」ユニットの講義
感覚、知覚、運動にかかわる末梢、中枢神経系の機能についての講義を行う。活動電位の発生・伝導の機序、シナプスの伝達機序、骨格筋収縮メカニズム、筋伸展受容器および脊髄・脳幹・小脳・大脳基底核・皮質運動野の機能

について学習する。

2.「神経系の機能 II（知覚、情動、本能、睡眠、高次機能)」ユニットの講義
感覚、知覚、運動にかかわる末梢、中枢神経系の機能についての講義を行う。感覚系の機能、情動 · 本能 · 睡眠の神経機構、高次脳機能について学習する。

3.「生命維持のための生体機能」ユニットの講義
人体生命維持システムの機能を習得する。自律神経の構造と機能、循環、呼吸、消化 · 吸収、体液 · 体温調節 · 代謝、排泄 · 体液調節、内分泌と生殖の機能について学習する。

4.「生理学実習」ユニット
人体が正常に機能する「しくみ」について実験を通して実体験し、得られたデータを正確な解釈のもとに組み立てて現象を論理的に考察する。

5.　頭頸部基礎　感覚器
顎顔面領域の筋肉や骨の働きとその神経基盤を学習する。

(4)　教育方針

学問分野にこだわらず、生物学、工学、歯学、医学など様々なバックグラウンドを持った多様な人材を積極的に受け入れて行く予定です。革新的な方法の開発、革新的な仮説の設定、革新的な発見のいずれかをできるように教育します。そのため、日々の議論、勉強会でスタッフや学生が活発に意見を出しあえるような環境づくりや雰囲気づくりを大切にしています。わたしたちの論文や最新の研究知見の論文を一緒に読み、スタッフや先輩の学生と一緒に研究することで、データの獲得 · 解析や研究の進め方 · 論文のまとめ方を習得できるようにします。脳発達、脳機能、脳疾患の解明という大きな目標に向かって互いに協力し合い、日々研究に励むことで革新的な発見を一緒にしましょう。

(5)　研究業績

[原著]

1. Shizuki Inaba, Naofumi Uesaka, Daisuke H. Tanaka. Automatic quantification of disgust taste reactivity in mice using machine learning bioRxiv. 2023.04;

1. Walter Alexander, Uesaka Naofumi, Midorikawa Mitsuharu. Editorial: Functional and molecular insights of neural circuit adaptation, refinement, and remodeling FRONTIERS IN CELLULAR NEUROSCIENCE. 2023.05; 17; 1213640

[講演 · 口頭発表等]

1. 上阪 直史. Developmental oligodendrocytes as a key player in developmental synchrony and the modulation of brain functionality. 第 38 回熊本医学 · 生物科学国際シンポジウム「機能的脳神経回路システムの構築メカニズム」 2023.12.14

2. 谷川萌、加藤千帆、小野卓史、上阪直史. 成長期の鼻呼吸障害が小脳の発達と機能に与える影響. 第 14 回三叉神経領域の感覚運動統合機構研究会　抄録__谷川 1026 2023.12.10 千葉、日本

3. 上阪 直史. 神経細胞とシナプスによる脳腫瘍進展メカニズム. 第 4 6 回日本神経組織培養研究会 2023.12.02

4. Naofumi Uesaka, Daisuke Kawauchi. Neuronal and Synaptic Influences on Brain Tumors. シナプス研究会 2023 2023.10.19

5. 上阪 直史. 発達期小脳オリゴデンドロサイトはシナプス刈り込みと脳機能を制御する. 第 46 回日本神経科学大会 2023.08.04

6. Naofumi Uesaka, Daisuke Kawauchi. Conditional expression and activation of DREADDs reveals novel impact of neuron-tumor communications on brain tumor progression. 1st Heidelberg Conference on Cancer Neuroscience 2023.07.18 Germany

7. Uesaka Naofumi, Masumura Ryo, Sekiguchi Mariko. Development of cell-type specific AAV vectors in the mouse brain(タイトル和訳中). The Journal of Physiological Sciences 2023.05.01

8. Masumura Ryo, Uesaka Naofumi. Developmental oligodendrocytes contribute to cerebellar maturation(タイトル和訳中). The Journal of Physiological Sciences 2023.05.01

9. Tanigawa Moe, Kato Chiho, Ono Takashi, Uesaka Naofumi. Effects of unilateral nasal obstruction during the growth period on cerebellar neural circuit and function(タイトル和訳中). The Journal of Physiological Sciences 2023.05.01

10. 上阪　直史、増村　嶺、関口　真理子. 脳における細胞タイプ特異的な AAV ベクターの開発. 日本生理学会第 100 回記念大会 2023.03.15

11. 増村　嶺、上阪　直史. 発達期オリゴデンドロサイトが小脳の成熟に貢献する. 日本生理学会第 100 回記念大会 2023.03.15

12. 谷川 萌 1、加藤 千帆 1、小野 卓史 1、上阪 直史. 成長期の鼻呼吸障害が小脳の神経回路と機能に及ぼす影響. 日本生理学会　第１００回記念大会 2023.03.15

1. 大杉 勇人, 今井 千尋, 片桐 さやか, 廣田 朝光, 芝 多佳彦, 豊嶋 啓汰, 上阪 直史, 岩田 隆紀. 結紮誘導歯周炎
モデルマウスを用いた口腔-脳-腸連関の解明. 日本歯周病学会会誌 2023.10.01

2. 上阪 直史. 細胞タイプ特異的遺伝子操作法の確立と結節性硬化症の治療戦略への応用. 第 11 回日本結節性硬化症学会学術総会 2023.09.16 高松、香川、日本

3. 上阪 直史. 働き (口腔機能). 口腔病学会雑誌 2023.03.01

4. 田中大介. 絶水下で活動する視床下部の神経細胞が水に対する快楽的な 「好き」反応を誘導する. 統合的脳神経科学 · SIMo 研究会 2023.02.03 熊本

分子発生 · 口腔組織学分野

Department of Molecular Craniofacial Embryology and Oral Histology

教授　　井関 祥子
准教授　田畑 純
講師　　吉本 由紀
助教　　足立 礼孝
非常勤講師　竹内 純、倉谷 滋、武智 正樹、二宮 洋一郎、小薮 大輔、荒木 啓吾、太田 正人、星野 裕紀子
大学院生（博士）　金 成学、王 語嫣、王 漢洋、笹淵 愛乃
派遣大学院生　　于 雅軒（顎顔面外科学）
大学院研究生　　NAMANGKALAKUL Worachat（Chulalongkorn University）、
竹内 理華（慈恵会医科大学）、高 雪瑩

(1) 分野概要

(1) 分野概要
本分野は、口腔顎顔面の細胞増殖 · 分化、形態形成等の発生機構の解明と、これら研究成果の再生医療への展開を研究領域とする。この領域内で大学院生は自らの研究テーマを、指導教官の助言のもとに可能な限り独力で見つけ出し、問題を設定する。さらに、この問題を解決するために分子生物学および分子発生学の知識と手法、ならびに細胞 · 組織 · 器官培養法、全胚培養法等を含む哺乳類胚操作技術を必要に応じて修得するとともに、感性を磨き、論理構築力を養い、英語で論文を書きあげる力を育成する。

(2) 研究活動

(2) 研究活動
本分野では以下のようなテーマを対象として研究している。

1. 哺乳類口腔顎顔面発生の分子機構の解明
哺乳類の口腔顎顔面は脊椎動物の中でも複雑に構成されている。この領域の原基から器官形成の分子的機構について記述し、他の脊椎動物と比較する。

2. 硬組織再生への発生メカニズムの応用
顔面口腔領域の再生の中心は硬組織再生である。上記研究によって得られた歯牙や骨の発生メカニズムとナノテクノロジーを組み合わせ、硬組織再生医療への応用の可能性について検討する。

3. 口腔領域の組織幹細胞の同定および組織幹細胞維持に関わる分子機構の解析
口腔領域の組織は比較的修復能が高く、細胞の代謝回転も盛んであることが知られているが，それに関わる組織幹細胞の局在領域や維持機構、さらに組織幹細胞からの細胞の分化機構などについての情報は非常に少ない。本研究では、味蕾や歯集組織を材料として組織幹細胞の維持に関わる候補遺伝子を探索し，その遺伝子破壊マウスを解析することにより組織幹細胞の局在や維持機構を明らかにし、さらにこれを基盤にした cell-based therapy への展開を目標としている。

4. 軟骨内骨化の過程を再現させる骨再生療法の開発
最近、軟骨内骨化の過程を再現させる骨移植再生療法が注目されている。この骨再生療法を実現させるための鍵は、軟骨内骨化を引き起こす肥大軟骨の分化誘導法の開発である。そこで本研究は、成人間葉系幹細胞を細胞の供給源とし、生体材料と組み合わせることによって、生体内で軟骨内骨化を誘導する方法を開発することを目標としている。

(3) 教育活動

(3) 教育活動

学部教育
歯学部 1 年生を対象に「歯学入門」において基礎情報医歯学の講義を行なっている。
歯学部 2 年生を対象に「人体の構造と機能」モジュールにおいて「人体の発生」「人体の発生」「組織学総論」「組織学各論」「口腔組織 · 発生学」の講義を担当している。他に「医歯学融合カリキュラム」における講義を行なっている。

大学院教育
　本分野は哺乳類口腔顎顔面などの細胞増殖 · 分化 · 形態形成の分子機構の解明ならびに、これら研究成果の再生医療への展開を研究領域とする。この領域内で大学院生は自らの研究テーマを、指導教官の助言のもとに見出し、問題を設定する。さらにこの問題を解決するために必要な知識と手法を習得するとともに、論理構成力を養い、学位論文を書き上げる力を育成する。

(4) 研究業績

[原著]

1. Chengxue Jin, Noritaka Adachi, Yuki Yoshimoto, Aino Sasabuchi, Nobuyuki Kawashima, Masato S. Ota, Sachiko Iseki. Fibroblast growth factor signalling regulates the development of tooth root Journal of Anatomy. 2024.01;

[Works]

1. SeaMonkey 教室　（田畑純）, Web サービス, 2016 年 02 月 - 現在
2. 喉頭 · 咽頭の立体紙模型, 教材, Web サイト　「オフィス TB」, 2018 年 08 月 - 現在

[社会貢献活動]

1. 解説 辰の歯, 日本歯科新聞社, 日本歯科新聞, 2023 年 11 月 07 日 - 2024 年 01 月 01 日

分子細胞機能学

Cellular Physiological Chemistry

准教授　　中浜　健一

非常勤講師
藤田　浩 (都立墨東病院)，亀田　秀人 (東邦大学),
篠原　正浩（国立リハビリテーションセンター）

大学院生　郷地　慶　　（2022.4 より）

研究協力者
笠原　由紀（矯正非常勤講師）

(1)　分野概要

分子細胞機能学分野では骨代謝、がん、血管石灰化における細胞間コミュニケーションの役割を解明すべく分子細胞学的手法から遺伝子改変マウスを用いた個体による解析まで様々な手法を用いてその生理的役割と病態における機序について研究を行っている。

(2)　研究活動

本分野では三大老年病（動脈硬化、ガン、骨粗鬆症）の成因解明のための基礎的研究を行っている。主としてノックアウトマウスの解析および各種細胞培養系を用いて、
１、細胞間コミュニケーションと細胞機能について
２、細胞間コミュニケーションを介した骨形成、骨吸収機構の解明
３、がん細胞における細胞間コミュニケーションの役割解明
４、動脈硬化における石灰化メカニズムの解明
を行っている。

(3)　教育活動

学部学生については歯学科１年生を対象に生命の分子的基盤（生化学）の講義を行っている。大学院生の教育については、当研究室の研究プロジェクトの一つに参加させ、研究を遂行するために必要な手法や技術を習得させると同時に、研究に対する真摯な態度を身につけさせる。週一回の教室全体セミナーや、週２～３回行われる各個プロジェクトセミナーへの参加を義務づけている。

(4)　教育方針

学部学生、大学院生の教育に関しては、自ら考え答えを導き出せるよう指導するとともに当該領域における世界の最先端の研究レベルについて認識させる。

(5) 研究業績

[原著]

1. Namangkalakul W, Nagai S, Jin C, Nakahama KI, Yoshimoto Y, Ueha S, Akiyoshi K, Matsushima K, Nakashima T, Takechi M, Iseki S. Augmented effect of fibroblast growth factor 18 in bone morphogenetic protein 2-induced calvarial bone healing by activation of CCL2/CCR2 axis on M2 macrophage polarization. Journal of tissue engineering. 2023.01; 14; 20417314231187960

[講演 · 口頭発表等]

1. 中浜 健一, 日高 志穂, 後藤 樺捺子, 多田 真悠 , 穐山 雅子, 篠原 正浩. 破骨細胞分化シグナルである RANK-RANKL 結合の生細胞での可視化. 第 46 回日本分子生物学会総会 2023.12.07 神戸

顎顔面外科学

Maxillofacial Surgery

教 授：依田哲也
准教授：森田圭一、佐々木好幸
講 師：儀武啓幸、高原楠旻
助 教：友松伸允、原園陽介、倉沢泰浩、柴田真里
特任助教：加地博一、外内えり奈、佐久間朋美、星礼子（4 月～）、金裕純、金丸智紀（～7 月）、川俣綾（8 月～）
医 員：山本大介、兵頭克弥、益田洋輝、久保田真子（～9 月）
大学院：田島理那、黒山かれん、山崎功太郎、郭侑加、蕭明遠、Vu Viet Duc、
于雅軒、THAI THANH HUY（9 月～）
社会人大学院：岩崎拓也、中村大志
大学院研究生：六島聡一、香月祐子、新雄太（4 月～）、荒川真（4 月～）、菅省吾（4 月～）、松本晋（4 月～）
臨床教授：佐藤文明、三島木節
非常勤講師：山城正司、佐藤仁、小林明子、八木原一博、佐藤豊、黒原一人、愛甲勝哉、大山厳雄、熊谷順也、
長岡亮介、蔦木洋平、山田峻之、北村智久、稲田大佳輔、押部成美

(1) 研究活動

当分野では多岐にわたる顎顔面口腔領域の疾患に対し、以下のテーマを中心に研究を行っている。
1) 顎変形症：手術精度の向上と術後の顎骨の安定性を目的とした研究を行っている。特に上顎骨後方挙上について安全確実な術式の改良や、術前後の下顎頭の形態、安定性と後戻りとの関係、関節円板転位との関係についての検討をしている。シミュレーションソフト（Proplan ®）を用いた 3 次元的な骨干渉の確認、顎骨の移動様式の検討、CAD/CAM splint を用いた上顎位置決めバイトの作成を行い、手術精度の向上に努めている。さらには、顎骨や軟組織など術前術後の変化などを 3 次元的に評価 · 研究を行っている。骨接合の際に用いる吸収性プレートの力学的強度の研究を企業との産学連携研究として行っている。また、閉塞性睡眠時無呼吸症との関連、自己血貯血の実態調査、外科手術前後の栄養調査、意識調査 · 口腔衛生に対する評価を行い、実際の臨床に反映させている。三次元超音波振動切削機（ピエゾサージェリー®、ソノペット®）を導入し、神経血管 · 骨膜損傷を抑える骨切り等を行っている。また、クリニカルパスにより安全、確実な入院加療、術後入院期間の短縮を実現して患者に優しい医療を目指している。
2) 口唇口蓋裂：口唇口蓋裂患者の初回手術前より口蓋床を用い、術前顎発育誘導による歯列弓形態の経時的な変化について評価を行っている。口唇形成や口唇修正においては、解剖学的サブユニットに最大限配慮した手術を行っている。口蓋形成では、言語機能や顎発育の両面を考慮したよりよい術式を選択し、成長期における咬合状態と言語機能について評価を行っている。上顎劣成長、下顎前突に対しては、上下顎移動術のみならず上顎延長を適応する場合もあり、術後の後戻りや長期術後安定性について検討を行っている。　これら顔面の形態評価については、これまでの 2 次元解析に加えて CT を利用した 3 次元解析を行っている。また、口唇口蓋裂を伴う症候群を中心として遺伝子解析を行い、病態解明や疾患概念の再構成、予防法の確立等を目指した研究を行っている。
3) 顎関節疾患：重度の開口障害を呈する咀嚼筋腱 · 腱膜過形成症の治療と、発症原因、重症化に関する臨床研究、基礎研究を進めている。また、顎関節に発生する滑膜軟骨腫症についての外科治療を行うとともに発症原因や病態解明についての検索を行っている。さらに、開発と実用化を実現した新しい型式の開口訓練器と開口度測定器について、臨床経験をもとに改良を行うとともにさらなる研究開発を進めている。また、人工顎関節の国内導入に積極的に関わり、臨床実績も着実に積み重ねている。
4) 口腔再建（顎骨再建、骨移植、インプラント、歯の移植）：重度歯周病、顎骨における腫瘍、嚢胞、外傷（骨折や歯の脱落）、先天異常などにより歯を失い、顎骨が失われる場合がある。失われた顎骨を機能的、審美的に回復させるために、自家骨や人工骨を用いてより低侵襲な顎骨再生を目指している。使用する人工骨においては新規材料を用いた臨床研究を行い、最適で安全な使用方法の確立を検討している。また、顎骨が再生された後にはデンタルインプラントや顎義歯を用いて咬合機能を回復させ、それによる影響についての検討も行なっている。さらに咬合機能の回復においては、適応であれば歯の移植も積極的に行い、生着率に与える予後因子の検討を行い、

より確実な移植方法の開発や術式の標準化を目指している。
5) 口腔粘膜疾患：白板症、扁平苔癬などの口腔粘膜疾患に対する治療のために専門外来を設置している。また粘膜疾患の病態に対する原因の調査を、全身疾患、局所、心因性のものにわたって行い、治療には一部東洋医学も導入している。
6) 骨組織再生に関する研究：自家骨に代わる骨補填材料の開発が望まれており、その新規材料の開発のため、自家骨移植や既存の様々な骨補填材料との比較検討を行い臨床応用を目指している。 その再生骨のアパタイト、コラーゲン配向性を評価することで、より詳細な骨質評価を行い、骨補填材料の使用方法の最適化を検討している。また、歯根膜細胞や脂肪組織由来幹細胞を用いた骨再生にも取り組んでおり、さらに血管新生 · 骨再生を促進させる成長因子の DDS を付与した足場材料の開発も行なっている。
7) 口腔癌に対する基礎的研究：唾液腺悪性腫瘍の検体を利用した、腫瘍特異的遺伝子異常としての融合遺伝子に関する研究を行っている。また、舌扁平上皮癌における密着結合タンパク質の発現と、その浸潤先端部位における動態についての研究を行っている。

(2) 教育方針

口腔外科学においては口腔、顎、顔面領域に現れる先天性および後天性疾患について、その病因、病理、症状、診断、処置ならびに予後を理解させ、かつ、各種疾患の予防および治療に応用させるように教育する。口腔外科学で取り扱う範囲は非常に広く歯科と医科との重なり合った領域を扱うため、内科学、外科学ならびに隣接臨床医学とは密接な関係を有している。口腔外科学は一般に、歯およびその周囲組織を中心とした疾患を対象とする歯科口腔外科学と、顎口腔顔面領域にわたる疾患を対象とする顎口腔外科学に区分することができ、顎顔面外科学分野は顎口腔外科学分野と分担して教育する。

1-1　第 5 学年前期において，次の内容について講義を行う。
顎口腔医療（内容については顎口腔外科学分野と分担して行う）
1) 顎口腔顔面領域の奇形，特に唇顎口蓋裂
2) 顎口腔顔面領域の変形症
3) 顎口腔顔面領域の損傷
4) 顎口腔顔面領域の炎症 · 感染症
5) 顎口腔顔面領域の嚢胞
6) 口腔粘膜疾患
7) 顎口腔顔面領域の良性，悪性腫瘍
8) 顎関節疾患
9) 唾液腺疾患
10) 系統的骨疾患
11) その他
以上の疾患の成因、症状、診断、処置および予後について講義を行う。
1-2　第 5 学年前期に次の内容について実習を行う。
1) 臨床検査とその評価
(1) 一般簡易検査（血液型、赤血球数、白血球数、血色素量、血球容積、血球沈降速度、血液像、尿検査）
(2) 血液検査手技（静脈採血、動脈採血）
(3) 血清生化学検査、尿生化学検査（付、薬剤アレルギー検査、皮内反応）
(4) 頸部の診察
2) 滅菌および消毒法
手指の消毒，手術野の消毒，器械 · 器具の消毒など
3) 抜歯の基本手技
抜歯鉗子 · 挺子の使い方
4) 切開と縫合の基本手技
手術訓練用皮膚オペスキンを用いた切開と縫合など
1-3　第 6 学年臨床実習
外来実習では抜歯およびその他外来小手術の基本手技、投薬など、病棟実習では入院患者に対する手術を理解し、術前 · 術後管理の基本などを修得する。
1-4　歯学部第 6 学年の特別講義を行っている。
1-5　医学部医学科第３学年および歯学部歯学科第３学年の頭頸部臨床ブロックの講義を担当している。
1-6　医学部医学科第 4 学年、口腔外科の講義、医学部医学科第 5 学年、口腔外科実習を担当している。
1-7　医学部保健衛生看護学科の講義を担当している。
1-8 医歯学総合研究科医歯科学専攻修士課程の講義を担当している。

(3) 臨床上の特色

臨床上の特色: 近年の口腔外科疾患に対する治療法の進歩により最新かつ専門化した集学的治療体系が必要とされてきている。これに対応して当科では顎変形症、口腔悪性腫瘍、唇顎口蓋裂、顎関節、口腔粘膜疾患に対して専門外来を設け個々の患者へのきめ細かい対応ができる態勢を整えている。同時に集学的治療の実践のため、顎変形症や唇顎口蓋裂では症例検討会を矯正歯科外来と合同で行っており、口腔外科医と矯正歯科医が十分な検討を行った上で治療計画を立てている。また、悪性腫瘍に限らず病態が複雑な疾患や稀少な疾患を対象に口腔病理科、歯科放射線科と合同で臨床病理カンファレンス（CPC）を行い、症例について総合的に検討することにより、診断、治療に関わる知識を深め臨床に役立てている。

(4) 研究業績

[原著]

1. Iwanaga J, Kitagawa N, Fukino K, Kikuta S, Tubbs RS, Yoda T. Perforation of the temporomandibular joint disc: cadaveric anatomical study. International journal of oral and maxillofacial surgery. 2023.11;

2. Ohyama Y, Inaba Y, Kubota M, Kanemaru T, Hasegawa K. CT-assessed sarcopenia and prognostic nutritional index are associated with poor prognosis in oral squamous cell carcinoma. Oral and Maxillofacial Surgery. 2023.11;

3. Kuroyama K, Fujikawa R, Goto T, Sekino T, Nakamura F, Kimura-Suda H, Chen P, Kanetaka H, Hasegawa T, Yoshida K, Murata M, Nakata H, Shimabukuro M, Kawashita M, Yoda T, Yokoi T. Development of bioinspired damage-tolerant calcium phosphate bulk materials. Science and technology of advanced materials. 2023.10; 24(1); 2261836

4. Shibata M, Takahara N, Kaneko T, Oki M, Sasaki Y, Tomomatsu N, Kurasawa Y, Nakakuki K, Yoda T.. Risk factors for postoperative facial swelling at 1 week after bimaxillary orthognathic surgery in Class III patients. Journal of Stomatology, Oral and Maxillofacial Surgery. 2023.10; 124(5); 101516

5. Takahara N, Shibata E, Tonouchi E, Kachi H, Tomomatsu N, Yoda T. Nasolabial soft tissue changes associated with posterior maxillary movement following anterior segmental osteotomy in skeletal Class II patients: A case series Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2023.10;

6. Nobuyoshi Tomomatsu, Taishi Nakamura, Namiaki Takahara, Yasuhiro Kurasawa, Hirokazu Kachi, Tetsuya Yoda. Study of Anatomical Changes of the Inferior Nasal Passage After Le Fort I Osteotomy With Superior Repositioning. The Journal of Craniofacial Surgery. 2023.08;

7. Kitamura T, Tsugawa N, Ogasawara H, Matsumoto M, Itaka K, Okubo M, Yoda T, Suda T, Sato T. Vitamin D(3) Promotes Not Motor Coordination but Motor Skill Learning without Influence on Muscle Function. Journal of nutritional science and vitaminology. 2023.08; 69(4); 229-236

8. Shi Y, Ren X, Cao S, Xi Chen, Yuan B, Brasil da Costa FH, Rodriguez-Rosario AE, Corona A, Michikawa C, Osman AA, Xie T, Wang W, Sikora SG, Myers JN, Rangel R. TP53 gain-of-function mutation modulates the immunosuppressive microenvironment in non-HPV associated oral squamous cell carcinoma. Journal for ImmunoTherapy of Cancer. 2023.08; 11(8); e006666

9. Rina Tajima, Atsuko Okazaki, Tsuyoshi Sato, Kokoro Ozaki, Daisuke Motooka, Yasushi Okazaki, Tetsuya Yoda. Genetic Landscape of Masticatory Muscle Tendon-Aponeurosis Hyperplasia Genes. 2023.08; 14(9);

10. Chieko Michikawa , Toshiyuki Izumo , Tetsuya Yoda , Narikazu Uzawa . Small tumor invasion of metastatic lymph node can develop extranodal extension in oral cancer Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology Supports open access. 2023.07;

11. Takahara Namiaki, Nakagawa Satoshi, Sumikura Kanako, Yoda Tetsuya. Comparison of magnetic resonance imaging findings in patients with intermittent closed lock and acute closed lock of the temporomandibular joint: a cross-sectional retrospective study Oral Radiology. 2023.07; 39(3); 475-481

12. Noboru Maruta, Kei-ichi Morita, Yosuke Harazono, Eri Anzai, Yu Akaike, Kotaro Yamazaki, Erina Tonouchi, Tetsuya Yoda. Automatic machine learning-based classification of mandibular third molar impaction status Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2023.07; 35(4); 327-334

13. Nobuyoshi Tomomatsu, Namiaki Takahara, Yu Akaike, Yudai Sato, Yasuhiro Kurasawa, Tetsuya Yoda. Postoperative stability of bioresorbable plates made of 85:15 poly (L-lactide-co-glycolide) in Le Fort Ⅰ osteotomy Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology and Oral Radiology. 2023.05;

14. Osman AA, Arslan E, Bartels M, Michikawa C, Lindemann A, Tomczak KJ, Yu W, Sandulache V, Ma W, Shen L, Wang J, Singh A, Frederick MJ, Wallace N, Kovacs J, Heffernan T, Symmans WF, Rai K, Myers JN. Dysregulation and epigenetic reprogramming of NRF2 signaling axis promote acquisition of cisplatin resistance and metastasis in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma. Clinical Cancer Research. 2023.04; 29(7); 1344-1359

15. Otsuru M, Yanamoto S, Yamada SI, Nakashiro K, Harazono Y, Kohgo T, Nakamura M, Nomura T, Kasamatsu A, Tanaka S, Kirita T, Kioi M, Ogawa M, Sasaki M, Ota Y, Umeda M. Radiotherapy Plus Cetuximab for Squamous Cell Carcinoma of the Oral Cavity: A Multicenter Retrospective Study of 79 Patients in Japan. International journal of environmental research and public health. 2023.03; 20(5);

16. Masuda H, Arisaka Y, Hakariya M, Iwata T, Yoda T, Yui N. Molecular mobility of polyrotaxane surfaces alleviates oxidative stress-induced senescence in mesenchymal stem cells. Macromolecular bioscience. 2023.03; e2300053

17. Yamazaki S, Hirayama R, Ikeda Y, Iseki S, Yoda T, Ikeda MA. Hyaluronic acid hydrogels support to generate integrated bone formation through endochondral ossification in vivo using mesenchymal stem cells. PloS one. 2023.02; 18(2); e0281345

18. Ito Ko, Go Yasuhiro, Tatsumoto Shoji, Usui Chika, Mizuno Yosuke, Ikami Eiji, Isozaki Yuta, Usui Michihiko, Kajihara Takeshi, Yoda Tetsuya, Inoue Ken-ichi, Takada Masahiko, Sato Tsuyoshi. Gene expression profiling of the masticatory muscle tendons and Achilles tendons under tensile strain in the Japanese macaque Macaca fuscata PLOS ONE. 2023.01; 18(1); e0280649

19. Akaike Y, Morita KI, Sakamoto K, Tsushima F, Kayamori K, Maruta N, Yamazaki K, Anzai E, Tonouchi E, Harada H, Ikeda T, Yoda T. Automatic detection of spongiosis associated with oral lichenoid lesions using machine learning Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2023.01; 35(4); 368-374

20. M Shibata, H Yoshitake, K Kayamori, T Ikeda, M Seki, T Yoda. Challenges in Diagnosis and Management of Palatal Hemangioma in an Infant: A Case Report Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2023.01; 36; 67-70

1. 大山 厳雄, 長谷川 和樹, 鵜澤 成一, 山城 正司, 道 泰之, 稲葉 好則, 久保田 真子, 金丸 智紀, 岩崎 拓也, 依田 哲也. 「日本におけるフルカスタムデバイスの展望 (最精度顎再建から咬合再建最適化に向けて)」 下顎骨切除後の硬性再建について 3 種類のプレートの使用経験の報告と考察 日本口腔外科学会雑誌. 2023.11; 69(11); 493-498

2. 大山 厳雄, 長谷川 和樹, 鵜澤 成一, 山城 正司, 道 泰之, 稲葉 好則, 久保田 真子, 金丸 智紀, 岩崎 拓也, 依田 哲也. 下顎骨切除後の硬性再建について －3 種類のプレートの使用経験の報告と考察－ 日本口腔科学会雑誌. 2023.11; 69(11); 493-498

3. 和気 創, 儀武 啓幸, 依田 哲也. 筋突起過形成症の臨床的特徴と鑑別診断 日本顎関節学会雑誌. 2023.04; 35(1); 3-11

[書籍等出版物]

1. 口腔癌診療ガイドライン改訂合同委員会. 口腔癌診療ガイドライン. 金原出版, 2023.11

2. 依田哲也. 見逃さない！ 口腔粘膜疾患 ～ビジュアル Q & A～. 株式会社ジーシー, 2023.08

[総説]

1. 大山厳雄、長谷川和樹、鵜沢成一、山城正司、道泰之、稲葉好則、久保田真子、金丸智紀、岩崎拓也、依田哲也. 下顎骨切除後の硬性再建について—3 種類のプレートの使用経験の報告と比較ー 日本口腔外科学会誌. 2023.11; 69(11); 493-498

2. 依田哲也. 若年層における顎関節症 第 1 回顎関節症とはどのような症状か 少年写真新聞 高校保険ニュース. 2023.08; (792); 2-3

[講演・口頭発表等]

1. Nobuyoshi Tomomatsu, Namiaki Takahara, Yu Akaike, Yudai Sato, Yasuhiro Kurasawa, and Tetsuya Yoda. Postoperative stability of bioresorbable plate made of 85:15 poly (L-lactide-co-glycolide) in Le Fort Ⅰ osteotomy. 25th ICOMs 2023.06.08 Vancouver

1. 大山厳雄. 病診連携の有効利用のために～どんな抜歯や粘膜病変は紹介したほうが良い？ . 2023.12.09

2. 高原楠旻，柴田真里，岩崎拓也，丸川恵理子，依田哲也. 歯槽骨造成における生体吸収性メッシュシート（Rapidsorb®）の使用経験. 第 27 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会 2023.12.02 東京

3. 外内えり奈、森田圭一、原園陽介、依田哲也. 神経線維腫症 1 型患者の新規原因遺伝子変異の同定. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京

4. 田島理那、佐藤毅、佐久間朋美、儀武啓幸、依田哲也. 咀嚼筋腱・腱膜過形成症の遺伝的要因の解明. 口腔病学会 2023.12.02 東京

5. 依田哲也. 歯科医院でもできる国際基準に準拠した顎関節症の診断と治療. 浅草歯科医師会学術講演会 2023.11.28

6. 依田哲也. 国際基準に準拠した顎関節症の病態診断と病態別治療法（歯科医院等編）. 目黒歯科医師会学術講演会 2023.11.22

7. 原園陽介、山崎功太郎、外内えり奈、森田圭一、原田浩之、依田哲也. Gorlin 症候群に対する臨床的検討. 第 68 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2023.11.10 大阪

8. 柴田真里、高原楠旻、友松伸允、倉沢泰浩、依田哲也. 顎矯正術後 1 週間の術後顔面腫脹の寄与因子について. 第 68 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2023.11.10 大阪

9. 中里 桂一郎、新中 康史、藤井 英治、星 礼子、友松 伸允、依田 哲也. 水平的・垂直的位置分類を用いた上顎正中過剰埋伏歯の臨床的検討. 第 68 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2023.11.10 大阪

10. 友松伸允. 術後の合併症を軽減させる工夫～Le Fort Ⅰ 型骨切り後の鼻腔内通気を維持するために～. 第 68 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2023.11.10 大阪

11. 森田 圭一. 顎裂部への骨移植手術 –基本型から発展型まで–. 第 68 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2023.11.10 大阪

12. 大山厳雄、長谷川和樹、鵜澤成一、山城正司、道泰之、稲葉好則、岩崎拓也、依田哲也. 遊離肩甲骨再建における Pull-through 法による血流遮断時間の短縮. 第 68 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2023.11.10

13. 大山厳雄. 口腔がんの診断と治療～口腔がん早期診断のために～. 第 149 回静岡病診がんカンファレンス 2023.11.07 静岡

14. 依田哲也. Q & A で学ぶ！ 口腔粘膜を診るポイント 舌病変を中心に. GC 友の会 学術講演会 オンライン講演会 2023.11.01

15. 長岡 亮介. わかりにくい粘膜病変. 日立歯科医師会口腔軟組織疾患研修会 2023.09.30 茨城

16. 依田哲也. 歯科医院で行う 顎関節症の病態診断と病態別治療法. 東京松風歯科クラブ講演会 2023.09.20 東京

17. 山崎 功太郎、柴田 真里、儀武 啓幸、池田 通、依田 哲也. 乳頭状病変とよく似た所見を呈した周辺性エナメル上皮腫の 1 例. 第 57 回日本口腔科学会関東地方部会 2023.09.16 Web 開催

18. 田島理那、佐藤毅、佐久間朋美、儀武啓幸、依田哲也. 咀嚼筋腱・腱膜過形成症の全ゲノムシークエンスを用いた遺伝要因の検討. 2023.09.16 Web 開催

19. 山内健介, 森山雅文, 今井智章, 菅原圭亮, 友松伸允. S.O.R.G. アカデミー下顎骨骨折・顎変形症ハンズオンセミナー. 日本口腔外科学会 第 1 回若手口腔外科医交流会 2023.07.30

20. 津田晋平、大山厳雄、稲葉好則、久保田真子. 頭蓋底骨折を伴い経口挿管下に観血的整復固定術を施行した下顎骨骨折の一例. 第一回若手口腔外科医交流会 2023.07.29 大阪

21. 大山厳雄. 国際顎顔面外科学口腔がん・再建専門医について～IBCSOMS fellow 取得して 7 年経って～. 第一回若手口腔外科医交流会 2023.07.29 大阪

22. 中村大志, 友松伸允, 高原楠旻, 儀武啓幸, 加地博一, 依田哲也. 経時的に下顎頭の形態変化を観察した 舌癌術後の陳旧性両側顎関節脱臼の一例. 第 36 回日本顎関節学会総会 · 学術大会 2023.07.08

23. 佐久間朋美，高原楠旻，儀武啓幸，依田哲也. 開口訓練と上関節腔洗浄療法により改善した閉口障害の 1 例. 第 36 回日本顎関節学会総会 2023.07.07 東京

24. 儀武 啓幸. 顎関節人工関節全置換術の実際. 日本顎関節学会雑誌 2023.07.01

25. 儀武 啓幸. 顎関節円板の復位 · 整位を再考する　外科的な関節円板整位について再考する. 日本顎関節学会雑誌 2023.07.01

26. 儀武 啓幸. 顎関節構造の再建と機能回復を目指して. 日本顎関節学会雑誌 2023.07.01

27. 中村 大志、友松 伸允、高原 楠旻、倉沢 泰弘、岩崎 哲也、依田 哲也. Le Fort I 型骨切り術挙上症例における下鼻道領域の形態変化の検討. 第 33 回 日本顎変形症学会総会 · 学術大会 2023.06.08 東京

28. 稲田大佳輔, 友松伸允, 中村大志 倉沢泰浩, 高原楠旻, 依田哲也. 上下顎骨切り術において自己血貯血を要する因子の検討. 第 33 回 日本顎変形症学会総会 · 学術大会 2023.06.08 東京

29. 依田哲也. 顎関節脱臼の対応. 講演会 2023.05.30 東京

30. 正木 啓太、隅田 由香、外内 えり奈、原園 陽介、森田 圭一. 自閉スペクトラム症を併存する舌小帯短縮症のある児に構音訓練及び手術を行った 1 例. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.25 東京

31. 外内 えり奈, 森田 圭一, 原園 陽介, 小川 卓也, 森山 啓司, 米満 郁男, 小野 卓史, 依田 哲也. 口蓋形成術後の咬合状態に関する検討. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.25

32. 鳥飼勝行，開田恵理子，木島毅，長岡亮介，小池智之，長西裕樹，林礼人. 片側唇顎口蓋裂における初回唇裂鼻形成手術の手術手技. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.25 東京

33. 鳥飼勝行，開田恵理子，木島毅，長岡亮介，小池智之，長西裕樹，林礼人. 片側唇顎口蓋裂に対する初回口蓋形成手術の手術手技. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.25 東京

34. 依田哲也. 安全な顎矯正手術と最近の顎矯正手術の実態. 2023 年度春のプレスセミナー顎矯正手術を併用する矯正歯科治療 2023.05.22 東京

35. 安西 絵梨，森田 圭一，外内 えり奈，依田 哲也. 頬粘膜に発生した骨性分離腫の 1 例. 第 215 回日本口腔外科学会 関東支部学術集会 2023.05.20 東京

36. 佐久間朋美、倉沢泰浩、高原楠旻、友松伸允、金　裕純、依田哲也. 手術後に嚥下障害が出現した顎変形症の 1 例. 第 215 回日本口腔外科学会関東支部学術集会 2023.05.20 東京

37. 田島理那、依田哲也. 咀嚼筋腱 · 腱膜過形成症の遺伝的基盤の解明〜正常ブタにおける咀嚼筋腱 · 腱膜とアキレス腱の遺伝子発現の比較検討〜. 日本口腔科学会学術集会 2023.05.13 岡山

38. 依田哲也. 陳旧性顎関節脱臼に対する手術方法. 第 25 回顎顔面手術手技研究会 2023.05.12 岡山

39. 大山巌雄、稲葉好則、道泰之、金丸智紀、久保田真子、岩崎拓也、長谷川和樹. 頬粘膜癌に対し全層植皮を行った症例の臨床的検討. 第 77 回口腔科学会総会 2023.05.11 岡山

40. 久保田　真子、稲葉　好則、津田　晋平、大山　厳雄. COVIT-19 に感染し、LeFort II 型骨折を受傷した患者に対し隔離期間を考慮して加療を行い、良好な経過をたどった 1 例. 第 77 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会 2023.05.11 岡山

41. 大山巌雄、稲葉好則 、久保田真子 、金丸智紀、長谷川和樹. 口腔扁平上皮癌におけるサルコペニア及び栄養評価と予後との関係について「歯科 · 口腔外科疾患と栄養管理」. 第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 2023.05.09 兵庫

42. 中村 大志, 友松 伸允, 高原 楠旻, 倉沢 泰浩, 加地 博一, 岩崎 拓也, 依田 哲也. Le Fort I 型骨切り術挙上症例における下鼻道領域の形態変化の検討. 日本顎変形症学会雑誌 2023.05.01

43. 稲田 大佳輔, 友松 伸充, 中村 大志, 高原 楠旻, 倉沢 泰浩, 依田 哲也. 上下顎骨切り術において自己血貯血を要する因子の検討. 日本顎変形症学会雑誌 2023.05.01

44. 柴田 真里, 外内 えり奈, 森田 圭一, 依田 哲也. Galectin 7 は CDK2 を介して細胞周期を制御する. 口腔病学会雑誌 2023.03.01

45. 丸田 上, 原園 陽介, 安西 絵梨, 赤池 優, 山崎 功太郎, 外内 えり奈, 森田 圭一, 依田 哲也. 機械学習を用いた下顎智歯埋伏状態の自動分類の試み. 口腔病学会雑誌 2023.03.01

46. 稲葉好則、久保田真子、津田晋平、長谷川和樹、大山厳雄. 当科における上顎歯肉癌に対する臨床的検討. 第41回日本口腔腫瘍学会総会 2023.01.26 Web 開催

47. 山城 正司、茹生田 整治、猪俣 徹、大山 厳雄、長谷川 温. 高齢者口腔がん診療ガイドライン総論 CQ—治療目的、スクリーニング、意思決定能力の評価—. 第 41 回日本口腔腫瘍学会総会 2023.01.26

48. 大山厳雄. 頸部郭清術. 第 10 回岡山大学臨床解剖口腔外科手術手技研修会 2023.01.04 岡山

[社会貢献活動]

1. 南極派遣医師に対する歯科トレーニング, 国立極地研究所、東京医科歯科大学, 東京医科歯科大学, 2019 年 - 現在

顎顔面矯正学

Maxillofacial Orthognathics

教　授	森山啓司
准教授	小川卓也
講　師	東堀紀尚
助　教	辻美千子，小林起穂，上園将慶，門田千穂，小笠原毅
特任助教	吉澤英之，宮崎貴行
医　員	松本英和，仁木佑紀，井上貴裕，大河原愛奈
大学院生	会坂善也，清水美里，町田亮人，Aye Chan Myo，荒井英絵，鈴木彩子，高際友里，武内聡佳，浮田奈穂，千田寿々，寺島実貴子，山原大吾，米満由奈帆，Liu Yinan，Lu Yeming，Aung Thet Khine，Ye Thiha，別府葵，Pyae Phyo Htun，Wang Junyan，Liu Lu，加藤彩花，齋藤穂乃果，佐々木悠亮，高田万理奈
JDP 大学院生	Nicha Kositkittiwanit，Waspol Sodsook，Ploysongsang Kwanrat
大学院研究生	堀夏菜子，大岩真由，大森雄一朗，綱島安望，有方伸太朗，大久保汐栞，吉谷幸之助，石関柚希，林良樹，佐野夢乃，長島尚輝，野村碧生，Hung Chia Yu，松村健二郎
非常勤講師	鈴木聖一，川元龍夫，須田直人，加藤嘉之，石渡靖夫，馬場祥行，天願俊泉，横関雅彦，檜山成寿，高橋滋樹，高橋巧，荻原祐二，新井マリステラ小百合，宮本順，高田潤一，疋田理奈，松本力，保田裕子，紙本裕幸，稲垣有美，狩野桜子，佐川夕季

(1)　分野概要

顎顔面矯正学は、成長発育異常や各種先天異常に起因した歯、咬合、顎骨および顔面の不調和に対して歯科矯正学はもとより、他の関連臨床分野とともに総合的な治療計画に基づいて形態的、機能的な口腔環境の不調和を除去し、限りなく健常な状態に近付けるための臨床歯学の一分野である。顎顔面矯正学における研究は、これらの不調和が生じる原因の解明と予防法の確立、患者の診断や治療法の改良、開発を目的としている。近年の顎骨手術や骨延長治療などを併用した顎顔面矯正治療の進歩により、従来は矯正治療の対象となり得なかった上下顎の不調和や各種先天異常に伴う重篤な不正咬合に対して、咬み合せの改善や咬合の再建を図ることが可能となってきた。しかしながら未だ病態が不明で治療法が確立できない疾患も数多く存在し、先天異常や成長発育異常の原因や予防についてはようやく研究の端緒についたばかりである。顎顔面矯正学は、これらの異常を改善し、調和のとれた顎口腔機能を営しめるとともに、顔貌の改善を図り、心理・社会的に個人の福祉に寄与することを目的とする。

(2)　研究活動

顎顔面矯正学分野では、種々の先天的あるいは後天的原因によって引き起こされる不正咬合に対し、多角的な観点から研究が行われている。各疾患の病態成立機構の解明、診断法の改良・開発、新規治療法の確立等を目的として構成された各研究グループによって研究活動が行われている。その内容は基礎的研究から臨床的研究まで多岐にわたり、基礎的研究成果を効果的な治療・診断・予防法へと還元することを目的としている。

当分野における主な研究課題を以下に示す。

1）顎顔面の成長発育疾患および先天性疾患の発症機構ならびに診断・治療法開発に関する研究
2）新規歯科矯正用装置の開発に向けた生体材料工学的研究
3）顎口腔成長ならびに不正咬合発症に関する疫学的研究

4）メカニカルストレスと骨代謝に関する研究
5）顎口腔機能と中枢神経系に関する研究

(3) 教育活動

顎顔面頭蓋の成長発育構造とその異常、正常咬合の成立に必要な要件と不正咬合の原因および矯正力や顎整形力に対する歯・骨・軟組織の生体応答性など、矯正治療のメカニズムを習得する上で必要な生体の構造と機能について理解を深めることを目的とした教育活動を行っている。つまり、歯、歯周組織、顎顔面頭蓋およびこれに付随する筋軟組織系の正常な成長発育とその機能について教授し、併せて、これら諸構造の不正により生じた咬合異常、形態異常等の改善ならびに、それらの発生の予防を教育する。

兼務となる歯学部専門課程教育として、5 年次を対象として、講義ならびに模型実習、5 年次、6 年次には、臨床実習による教育が行われている。また、講義ならびに実習における学生の理解を深めるよう、チュートリアル形式の実習を取り入れるなど、講義で学んだ内容を実習に応用出来るよう工夫している。

大学院医歯学総合研究科としての講義内容は、口腔顎顔面頭蓋における骨格系、筋軟組織系の先天異常、成長発育異常のメカニズムを分子遺伝学的、細胞工学的、生体計測学的手法を用いて解明し、疾病の予防法、外科手術ならびに補綴治療などと連携した包括治療法に関する教育研究を行う。

(4) 教育方針

基本的教育方針は、顎口腔系の正常な形態と機能に対する理解を深め、咬合異常、顎顔面形態異常の病態の正しい把握とその治療の実践に資する知識を、講義、実習を通して教授することにある。

顎顔面頭蓋の形態的、機能的異常を発現する先天異常、成長発育異常症例の病態、これらの症例に見られる不正咬合の特徴について理解させるとともに、それら症例の矯正学的分析、診断および治療法について教授する。さらに包括治療における顎顔面矯正治療の重要性について併せて教授する。

(5) 臨床活動および学外活動

成長発育異常や各種先天異常に起因した歯、咬合、顎骨および顔面の不調和に対し、歯科矯正学、口腔外科学、形成外科学ならびに補綴学等の総合的な治療計画のもとに形態的、機能的な口腔環境の改善をはかり、不調和な状態を限りなく健常な状態に改善することを目的とした臨床活動を行っている。また、学外活動として、各種先天異常を有する患者の会に出席し、患者だけでなくその家族に対しても、専門的な立場から疾患に対する情報を提供し心理的な支援も行っている。

(6) 臨床上の特色

当分野では、それぞれ 6〜7 名からなる臨床グループによる診療体制をとっており、各グループにおいて週一回の症例検討会や症例発表を行うことにより顎顔面矯正臨床の研鑽に励んでいる。特に顎変形症、ならびに口唇裂・口蓋裂をはじめとする種々の先天異常に関しては、専門グループによる診断前、手術前の事前検討会に加え、口腔外科、補綴科等との合同カンファレンスを行い、チームアプローチによる綿密な連携ならびに協力体制を確立している。さらに、先天異常症例においては、治療開始前に母親、患者に対してカウンセリングを行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Takada JI, Higashihori N, Kadota-Watanabe C, Kawamoto T, Toyofuku A, Moriyama K. Case report: Long-term management of occlusion after surgical-orthodontic treatment for a patient with drug-induced open bite developed after the onset of schizophrenia. Frontiers in Psychiatry. 2023.12; 14; 1304215

2. Myo AC, Kobayashi Y, Niki Y, Kamimoto H, Moriyama K. Exosome-mediated small interfering RNA delivery inhibits aberrant osteoblast differentiation in Apert syndrome model mice. Archives of Oral Biology. 2023.09; 153; 105753

3. Yogi A, Iemura R, Nakatani H, Takasawa K, Gau M, Yamauchi T, Yoshida M, Moriyama K, Ishii T, Hosokawa S, Yamada M, Suzuki H, Kosaki K, Kashimada K, Morio T. BMP2 is a potential causative gene for isolated dextrocardia situs solitus. European journal of medical genetics. 2023.08; 66(9); 104820

4. Jindarojanakul P, Kobayashi Y, Kamimoto H, Niki Y, Chan Myo A, Satrawaha S, Moriyama K. Changes in superoxide dismutase 3 (SOD3) expression in periodontal tissue during orthodontic tooth movement of rat molars and the effect of SOD3 on in vitro hypoxia-exposed rat periodontal ligament cells. European Journal of Orthodontics. 2023.07; 45(4); 430-437

5. Methawit P, Uezono M, Ogasawara T, Techalertpaisarn P, Moriyama K. Cortical bone microdamage affects primary stability of orthodontic miniscrew. Journal of the World Federation of Orthodontists. 2023.07; 12(5); 229-236

6. Faisal A, Yoshizawa H, Matsumoto T, Miyamoto JJ, Moriyama K. Three-dimensional evaluation of orofacial movements during articulation in patients with skeletal Class III malocclusion with mandibular asymmetry clinical and investigative orthodontics. 2023.05; 82(1); 21-31

7. Kadota-Watanabe C, Higashihori N, Kawamoto T, Moriyama K. Long-term stability of surgical orthodontic treatment for patients with asymmetric mandibular prognathism: a retrospective comparison study on surgical methods Clinical and Investigative Orthodontics. 2023.05; 82(3); 137-145

8. Matsumoto H, Tomoto K, Kawase G, Iitani K, Toma K, Arakawa T, Mitsubayashi K, Moriyama K. Real-Time Continuous Monitoring of Oral Soft Tissue Pressure with a Wireless Mouthguard Device for Assessing Tongue Thrusting Habits. Sensors (Basel). 2023.05; 23(11); 5027

9. Pravitharangu N, Miyamoto JJ, Yoshizawa H, Matsumoto T, Suzuki S, Chantarawaratit P, Moriyama K . Vowel sound production and its association with cephalometric characteristics in skeletal Class III subjects. European Journal of Orthodontics. 2023.02; 45(1); 20-28

1. 上園将慶. 治療効率を高めるアンカースクリュー矯正治療のポイント：最新のアンカースクリュー矯正治療 STUD Anchor システム 日本歯科評論. 2023.12; 83(12); 87-95

2. 森山啓司. 治療効率を高めるアンカースクリュー矯正治療のポイント：アンカースクリュー矯正治療の現在 日本歯科評論. 2023.06; 83(6); 26-36

3. 東堀紀尚. 治療効率を高めるアンカースクリュー矯正治療のポイント：知っておきたい歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正治療の基本の「き」 日本歯科評論. 2023.06; 83(6); 37-47

[講演・口頭発表等]

1. Arai H, Uezono M, Kikuchi M, Moriyama K. Investigation of the factors inducing rapid subperiosteal new bone formation by hydroxyapatite/collagen nanocomposite . The 88th Annual Meeting of Stomatological Society, Japan 2023.12.02 Tokyo

2. Arai H, Uezono M, Kikuchi M, Moriyama K. Investigation of the factors inducing rapid subperiosteal new bone formation by hydroxyapatite/collagen nanocomposite . TMDU-WISE Retreat 2023 2023.11.29 Shizuoka

3. Liu L, Kobayashi Y, Moriyama K. SASP senescent cells induces FGR/FGFR2 binding in coronal suture of Apert syndrome mice. TMDU-WISE Retreat 2023 2023.11.29 Shizuoka

4. Takagiwa Y, Higashihori N, Moriyama K. Roles of the histone methyltransferase SET domain bifurcated 1 in epithelial cells during tooth development. TMDU-WISE Retreat 2023 2023.11.29 Shizuoka

5. Yamahara D, Uezono M, Moriyama K. Biological response to miniscrew-induced bone injury in the surrounding tissue . TMDU-WISE Retreat 2023 2023.11.29 Shizuoka

6. Ukita N, Ogawa T, Moriyama K. Molecular characterization of SATB2 mutations causing SATB2-associated syndrome. TMDU-WISE Retreat 2023 2023.11.29 Shizuoka

7. Chida S, Kurimoto R, Takagi J, Moriyama K, Asahara H. Analyze the function of Mohawk homeobox during Orthodontic Tooth Movement via local control of gene expression. TMDU-WISE Retreat 2023 2023.11.29 Shizuoka

8. Suzuki A, Matsuyama Y, Tani Y, Anzai T, Izumi A, Doi S, Ogawa T, Fujiwara T, Moriyama K. Association between short stature in first grade and permanent teeth caries in sixth grade among elementary school children in Japan: a population-based cohort study. The 71st Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research 2023.11.25 Miyagi

9. Moriyama K. management of Residual Alveolar Cleft from An Orthodontic Point of View. 2023 APCA, APCLPC & Chang Gung Forum: the 13th Biennial Congress of Asian Pacific Craniofacial Association (APCA) combined with the 10th Asian Pacific Cleft Lip-Palate & Craniofacial Congress (APCLPC) and the 9th International Workshop on Surgery-First Orthognathic Surgery (Chang Gung Forum) 2023.11.06 Taipei, Taiwan

10. Omori Y, Ogawa T, Kang J, Yokouchi R, Funahashi K, Uezono M, Moriyama K. Association between gender and tooth agenesis patterns in patients with non-syndromic cleft palate. 2023 APCA, APCLPC & Chang Gung Forum: the 13th Biennial Congress of Asian Pacific Craniofacial Association (APCA) combined with the 10th Asian Pacific Cleft Lip-Palate & Craniofacial Congress (APCLPC) and the 9th International Workshop on Surgery-First Orthognathic Surgery (Chang Gung Forum) 2023.11.06 Taipei, Taiwan

11. Jahangir Si S, Kadota-Watanabe C, Eisinger U, Hong C. Investigating p75NTR role in the TMJ Cartilage of Mice using bulk RNA Sequencing. Pacific Coast Orthodontic Society Annual session 2023 2023.11.02 Anaheim, CA, USA

12. Sodsook W, Kobayashi Y, Kamimoto H, Niki Y, Chantarawaratit P, Moriyama K. Roles of B-cell lymphoma 6 (BCL6) in orthodontic tooth movement of rat molars. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Orthodontic Society 2023.11.01 Niigata

13. Lu Y, Kobayashi Y, Niki Y, Moriyama K. Analysis of SOD3 expression patterns under hypoxia during tooth development in mice. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Orthodontic Society 2023.11.01 Niigata

14. Kositkittiwanit N, Ogasawara T, Uezono M, techalertpaosarn P, Moriyama K. Biomechanical evaluation of surgical-orthodontic treatment for facial asymmetry with reverse occlusal cant. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Orthodontic Society 2023.11.01 Niigata

15. Yin E, Kadota C, Hui P, Hong C. Characterizing p75NTR role on osteocytic/chondrogenic function in TMJ using CRISPR-Cas9.. UCSF Research and Clinical Excellence Day 2023 2023.10.11 San Francisco, USA

16. Sagawa Y, Ogawa T, Sudo T, Nagata Y, Moriyama K, Tanaka T. Exome analysis of short root anomaly in Japanese population. 68th Annual Meetings of the Japan Society of Human Genetics 2023.10.11 Tokyo

17. Ogawa T. Basic research on congenital anomalies with abnormal tooth development at Department of Maxillofacial Orthognathics. International Summer Program（ISP）2023 Symposium 2023.08.01 Tokyo

18. Moriyama K. Epigenetic regulation of palatal development via histone methyltransferase SETDB1. CLEFT SEOUL 2023 2023.06.16 Seoul, Korea

19. Myo AC, Kobayashi Y, Niki Y, Kamimoto H, Moriyama K. Exosome-mediated small interfering RNA delivery inhibits aberrant osteoblast differentiation caused by FGFR2 activation in Apert syndrome model mice. The 98th Congress of the European Orthodontic Society 2023.06.11 Oslo, Norway

20. Myo AC, Kobayashi Y, Niki Y, Kamimoto H, Moriyama K. Exosome-mediated siRNA inhibits aberrant osteoblast differentiation in Apert syndrome model mice. The 47th Annual Meeting of Japanese Cleft Palate Association 2023.05.25 Tokyo

21. Uezono M, Takakuda K, Moriyama K. New miniscrew-type absolute anchorage device for orthodontic treatment; a case report. AAO 2023 Annual Session 2023.04.21 Chicago, IL

1. 小笠原毅、上園将慶、POOKTUANTONG Ornnicha 、CHANTARAWARATIT Pintu-on、森山啓司. 口蓋正中アンカースクリュー連結型エクステンションアームによる上顎大臼歯圧下における最適荷重条件の検討. 第 3 回歯科矯正用アンカースクリュー研究会学術大会 2023.11.26 東京

2. 鈴木彩子、谷友香子、小川卓也、藤原武男、森山啓司. 歯磨きは貧困状態にある子どものレジリエンスを高める：足立区子どもの健康 · 生活実態調査. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.01 新潟

3. 小川卓也. 顎顔面先天異常を呈する希少遺伝性疾患レジストリ構築に向けた取り組み. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.01 新潟

4. 小川卓也. 東京医科歯科大学顎顔面矯正学分野における卒後教育. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.01 新潟
5. 高際友里、東堀紀尚、森山啓司. 上皮細胞におけるヒストンメチル化酵素 SETDB1 が歯の発生に及ぼす影響. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.01 新潟
6. 米満由奈帆、上園将慶、小笠原毅、清水美里、杉野貴明、中島義和、森山啓司. 曲率による位置合わせを用いた下顎骨の特徴点自動抽出手法開発の試み. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.01 新潟
7. 井上貴裕、東堀紀尚、森山啓司. 顔面非対称患者に対する上下顎移動術が軟組織の厚みに与える影響. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.01 新潟
8. 石関柚希、小笠原毅、宮崎貴行、林良樹、別府葵、辻美千子、森山啓司. 当院矯正歯科を受診した症候性部分無歯症患者の臨床的特徴. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.01 新潟
9. 吉谷幸之助、小川卓也、浮田奈穂、清水美里、松本英和、吉澤英之、福本裕、小牧宏文、森山啓司. 当科における筋疾患患者に対する矯正歯科治療に関する実態調査. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.01 新潟
10. 宮崎貴行、辻　美千子、有方伸太郎、小林起穂、森山啓司. 矯正歯科治療を行った Stickler 症候群患者 2 症例の咬合 · 顎関節の長期経過. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.01 新潟
11. 上園将慶、高久田和夫、森山啓司. 新型歯科矯正用アンカースクリューを用いて上顎大臼歯の加強固定および上顎切歯の圧下を行った一症例. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.01 新潟
12. 小林起穂、米満由奈帆、高原楠旻、依田哲也、東堀紀尚、森山啓司. Le Fort Ⅰ型骨切り術およびオトガイ形成術を施行した閉塞性睡眠時無呼吸症候群を伴う下顎後退症例. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.01 新潟
13. 林良樹、小笠原毅、宮崎貴行、石関柚希、別府葵、辻美千子、森山啓司. 当科を受診した色素失調症 2 症例の矯正歯科的臨床所見について. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.01 新潟
14. 大森雄一朗、小笠原毅、別府葵、山原大吾、 佐川夕季、森山啓司. 非外科的矯正治療により咬合の改善を行った片側性鋏状咬合を伴う骨格性上顎前突症例. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11.01 新潟
15. 有方伸太朗、辻美千子、宮崎貴行、小林起穂、森山啓司. 出生時 Pierre Robin syndrome と診断され、後に Stickler syndrome と判明した矯正歯科治療症例. 第 63 回日本先天異常学会学術集会 2023.07.23 茨城
16. 大河原愛奈、松山祐輔、吉澤（荒木）美祐、雲内（保田）裕子、小川卓也、藤原武男、森山啓司. 口腔習癖と児童虐待との関連について：モンゴル国における思春期児童の実態調査. 第 82 回東京矯正歯科学会学術大会 2023.07.13 東京
17. 吉澤英之、仁木佑紀、井上貴裕、針生夏菜子、大岩真由、吉谷幸之助、Aung Thet Khine、東堀紀尚、森山啓司. 骨格性 II 級患者に対する外科的矯正治療が下顎頭運動に与える影響. 第 33 回特定非営利活動法人 日本顎変形症学会総会 · 学術大会 2023.06.08 東京
18. 仁木佑紀、東堀紀尚、井上貴裕、針生夏菜子、大岩真由、吉谷幸之助、吉澤英之、森山啓司. 外科的矯正治療に伴う硬軟組織の変化が骨格性Ⅱ級患者の睡眠時呼吸動態に及ぼす影響. 第 33 回特定非営利活動法人 日本顎変形症学会総会 · 学術大会 2023.06.08 東京
19. 東堀紀尚. 顎機能から考察する顎変形症治療. 第 33 回特定非営利活動法人 日本顎変形症学会総会 · 学術大会 2023.06.08 東京
20. 外内えり奈、森田圭一、原園陽介、小川卓也、森山啓司、米満郁男、小野卓史、依田哲也. 口蓋形成術後の咬合状態に関する検討. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.25 東京
21. 辻美千子、大森雄一朗、森山啓司. 上顎歯列拡大により被蓋を改善し保定終了後 10 年以上が経過した片側性唇顎口蓋裂 2 症例の長期経過. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.25 東京
22. 浮田奈穂、小川卓也、森山啓司. AMOTL1 病的バリアントを有する両側性口唇口蓋裂の 1 例. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.25 東京
23. 小川卓也. 矯正歯科における頭蓋顎顔面異常を呈する遺伝性疾患の患者レジストリ構築へ向けた取り組み. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.25 東京
24. 上園将慶. 安全性の高い新たな歯科矯正用アンカースクリュー形状への挑戦. 第 47 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2023.05.25 東京

[受賞]

1. AAO 2023 Annual Session Table Clinic Award First Place（Uezono M, Takakuda K, Moriyama K）, American Association of Orthodontists, 2023 年 04 月
2. 第 33 回日本顎変形症学会最優秀発表賞（仁木佑紀、東堀紀尚、井上貴裕、針生夏菜子、大岩真由、吉谷幸之助、吉澤英之、森山啓司）, 日本顎変形症学会, 2023 年 06 月
3. The 98th Congress of the European Orthodontic Society Best scientific poster award（Myo AC, Kobayashi Y, Niki Y, Kamimoto H, Moriyama K）, European Orthodontic Society, 2023 年 06 月
4. First Prize（Yin E, Kadota C, Hui P, Hong C）, UCSF Research and Clinical Excellence Day 2023, 2023 年 10 月
5. People's choice Award（Yin E, Kadota C, Hui P, Hong C）, UCSF Research and Clinical Excellence Day 2023, 2023 年 10 月
6. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会優秀演題賞（高際友里、東堀紀尚、森山啓司）, 日本矯正歯科学会, 2023 年 11 月
7. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会優秀演題賞（米満由奈帆、上園将慶、小笠原毅、清水美里、杉野貴明、中島義和、森山啓司）, 日本矯正歯科学会, 2023 年 11 月
8. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会優秀演題賞（石関柚希、小笠原毅、宮崎貴行、林良樹、別府葵、辻美千子、森山啓司）, 日本矯正歯科学会, 2023 年 11 月
9. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会優秀演題賞（宮崎貴行、辻美千子、有方伸太郎、小林起穂、森山啓司）, 日本矯正歯科学会, 2023 年 11 月
10. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会優秀演題賞（上園将慶、高久田和夫、森山啓司）, 日本矯正歯科学会, 2023 年 11 月
11. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会優秀演題賞（小林起穂、米満由奈帆、高原楠旻、依田哲也、東堀紀尚、森山啓司）, 日本矯正歯科学会, 2023 年 11 月
12. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会優秀演題賞（Sodsook W, Kobayashi Y, Kamimoto H, Niki Y, Chantarawaratit P, Moriyama K）, 日本矯正歯科学会, 2023 年 11 月
13. TMDU-WISE Poster Award for Best Presentation at TMDU-WISE Retreat 2023（Liu L, Kobayashi Y, Moriyama K）, TMDU (Tokyo Medical and Dental University), 2023 年 11 月
14. TMDU-WISE Poster Award for Best Research at TMDU-WISE Retreat 2023（Liu L, Kobayashi Y, Moriyama K）, TMDU (Tokyo Medical and Dental University), 2023 年 11 月
15. the First prize PCSO Scientific Western Orthodontics Conference（Jahangir Si S, Kadota-Watanabe C, Eisinger U, Hong C）, Pacific Coast Orthodontic Society Annual session 2023, 2023 年 11 月

[社会貢献活動]

1. 混合歯列期の反対咬合の診かた 治しかた—被蓋改善から前歯部配列まで—, 東京医科歯科大学歯科同窓会, 東京医科歯科大学歯科同窓会 CDE 第 60 期 PART1, 2023 年 02 月 19 日
2. 先天異常患者に対する矯正歯科治療, 岡山大学歯学部講義, 岡山大学, 2023 年 04 月 05 日
3. 先天異常患者に対する矯正歯科治療, 鹿児島大学大学歯学部講義, 鹿児島大学, 2023 年 07 月 03 日
4. Ｌｉｖｉｎｇ　ｉｎ　Ｊａｐａｎ, NHK, ＮＨＫラジオ第２（国内） NHK WORLD JAPAN（国際）, 2023 年 07 月 07 日 - 2023 年 08 月 27 日
5. 歯科矯正学（臨床実習）, 東京歯科衛生専門学校実習, 東京歯科衛生専門学校, 2023 年 09 月 - 2023 年 10 月
6. 歯列矯正のトラブル　避けるために, NHK, きょうの健康, 2023 年 10 月 02 日 - 2023 年 11 月 02 日
7. 女性と身体ー歯の健康, 日本女子大学講義, 日本女子大学, 2023 年 11 月
8. 歯科矯正学（口唇口蓋裂・先天異常、矯正臨床、矯正治療）, 東京歯科衛生専門学校講義, 東京歯科衛生専門学校, 2023 年 11 月 - 2023 年 12 月

9. 先天異常患者に対する矯正歯科治療, 九州歯科大学歯学部講義, 九州歯科大学, 2023 年 11 月 10 日
10. 歯科矯正トラブル　避けるには？ , NHK テキストきょうの健康, 2023 年 12 月
11. 顎変形症患者の外科的矯正治療における舌の形態 · 位置 · 運動変化様相, 九州大学大学院講義, 九州大学, 2023 年 12 月 12 日
12. 混合歯列期の反対咬合の診かた 治しかた—被蓋改善から前歯部配列まで—, 東京医科歯科大学歯科同窓会, 東京医科歯科大学歯科同窓会 CDE 第 61 期 PART1, 2023 年 12 月 17 日

生体組織再建外科学分野

Department of Reconstructive Plastic Surgery

教授：田中顕太郎
助教 (病院)：石田直也
大学院生：石田直也、村上響一、上野麻由

(1) 分野概要

本分野は病院診療科としては再建形成外科を標榜し、頭頸部頭蓋底再建を中心とするマイクロサージャリー（顕微鏡下微細手術）を用いた各種再建手術を主に担当する。典型的な切除症例に対する標準的な再建手術を行うことは当然であるが、症例数が少なく標準的治療が確立されていない困難症例に対しても、安全で質の高い再建手術を提供する。また腫瘍切除と同時に行う一次再建だけではなく、術後に残存する変形や麻痺に対する二次再建手術にも積極的に取り組んでいる。
学部の枠を超えた頭頸部領域を中心とする関連各分野と連携し、術後の患者様の QOL を重視した形態と機能を両立させる新しい術式開発を中心とした研究を推進していく。

(2) 研究活動

1. 機能と形状を重視した頭頸部頭蓋底再建術式の開発
2. 神経移植手術後の神経再生メカニズムの解明
3. 新しい動物モデルを用いた組織移植の術後容量変化の計測
4. 末梢毛細血管開存率の向上は移植脂肪組織容量の維持に貢献するか？
5. 自家移植組織の”質”に迫る First Step ～汗腺の術後機能回復に着目して
6. 顔面神経麻痺に対する新しい再建術式および機能評価法の開発
7. 糖尿病性足壊疽症例に対する歩行機能を重視した患肢温存術式の開発

(3) 教育活動

形成外科としての卒前教育、卒後教育を、形成 · 再建外科学分野と協力して行っている。

形成外科は、診療科としては、主として体表の形態 · 機能の再建を担当し、その領域には全身が含まれる。診断学より治療学（そのほとんどが手術）の比重が高く、顔面 · 頸部、手足など人目につく部位を扱うことが多いため、外見にも配慮した治療結果が求められるのが特徴である。医学生にとって、形成外科は外科系診療科の最も基本となる診療科であり、将来進む専門分野が何であるかにかかわらず、創傷治癒の機序、組織の愛護的な扱い方を学ぶことや、外傷や熱傷に対するプライマリーケアを習得することは、医者として必須事項であると考えている。また、病院内における形成外科の位置づけと、各科との連携によるチーム医療の重要性を理解してもらいたい。まずは、学生が形成外科に興味を持ち、講義や実習が感動の場となるような教育を目指している。

(4) 教育方針

形成外科としての卒前教育、卒後教育を、形成 · 再建外科学分野と協力して行っている。

［学習目標］

1：形成外科の意味あいを知り、外科学における位置づけを理解する。特に他の外科系各科との関連性、競合性、合同性について認識する。
2：形成外科の歴史的背景を知り、社会的必要性を理解する。
3：形成外科的基本手技（皮切縫合，植皮，皮弁，その他の組織移植）における器械、手技を理解し、その結果、どこまで機能的、整容的に修復できるかを知る。
4：形成外科的疾患（皮膚の形成外科，頭部頭蓋の形成外科，顔面，躯幹，四肢の形成外科，整容外科）を認識し理解する。
5：将来的に可能な形成外科的な臓器移植、ならびに組織移植について理解する。
6：生体組織に代用できる人工物質について認識し、将来における代用組織開発への洞察力を養う。

［修得すべき知識・技術に関する目標］
1：形成外科とは何であるか、どうして必要であるかを説明できる。
2：どんな疾患が形成外科に含まれるかを患者または各科の医師に助言でき、適切な対応ができる。
3：それぞれの患者についてどの様な治療方法がとられるべきかの判断ができる。
4：形成外科的基本手技に用いられる器具の取り扱い、縫合糸の選択ができ、どの様な手技が用いられるべきか科学的に論述できる。

卒後教育では、初期臨床研修後の 4 年間の形成外科研修後、日本形成外科学会認定医の資格が取得できるよう研修プログラムを組み、更に一定の臨床経験を積んだ後に以下に述べるような研究活動に取り組み、形成外科学の最前線を開拓する臨床医であると同時に、研究者としても研鑽を積むことを目標としている。

(5) 臨床活動および学外活動

顕微鏡下手術の技術を駆使して高いレベルの再建手術を実践する。頭頸部再建の症例数が多く、2007 年からの 15 年間で 1000 症例を超える診療実績を持つ。特に頭蓋底再建手術については全国でも有数の施設である。これらの経験を活かし、他院では対応できない治療困難症例に対しても安全で質の高い再建手術を提供することができる。診療研究実績について国内外の学会で積極的に発表し、また英文和文論文により印刷媒体として情報発信している。他大学やセンター病院とも幅広く交流し、多施設共同研究にも積極的に参加している。

(6) 臨床上の特色

東京の中心に立地し医学部・歯学部から成る本学は、頭頸部領域の診療のスペシャリストたる責務を社会から期待されていると考える。当科はマイクロサージャリーによる血管や神経の縫合技術を駆使する再建手術を日常的に行う高い技術を持つ形成外科専門医で構成され、頭頸部頭蓋底再建を中心とする再建手術を行う。
定型的な切除症例に対する標準的な各種再建手術を行うだけでなく、標準的治療が確立されていない困難症例、全国的に見ても当院でしか行われていない手術症例に対して、安全で質の高い再建手術を提供し続けている。また腫瘍切除と同時に行う一次再建だけではなく、術後に残存する変形や麻痺に対する二次再建手術にも積極的に取り組んでいる。
さらに高い再建手術手技を生かして、頭頸部領域のみならず身体各部位の治療困難症例の再建手術にも進んで対応している。いままでに合同で治療を行った診療科は、頭頸部外科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、呼吸器外科、食道胃外科、大腸肛門外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、末梢血管外科、整形外科、泌尿器科、眼科、皮膚科、周産女性科、歯科口腔外科、顎顔面補綴科、インプラント科などと、非常に多岐にわたる。

(7) 研究業績

[原著]

1. Naoya Ishida, Kentaro Tanaka, Tsutomu Homma, Hiroki Mori. Necessity of infraorbital wall reconstruction in patients with residual periosteum after total maxillectomy. J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2023.07; 85; 195-201

2. Hidaka T, Tanaka K, Minami M, Mori H, Okazaki M. Risk Factors for Postoperative Infection After Maxillary Reconstruction Using Skeletal Grafts. The Journal of craniofacial surgery. 2023.06; 34(7); e649-e651

3. Takeaki Hidaka, Kentaro Tanaka, Hiroki Mori. An Artificial Intelligence-Based Cosmesis Evaluation for Temporomandibular Joint Reconstruction. Laryngoscope. 2023.04; 133(4); 841-848

4. Kato S, Mori H, Koga H, Uemura N, Tanaka K. The triangular prism approximation method for volume estimation of deep inferior epigastric artery perforator flap in breast reconstruction Microsurgery. 2023.02; 43(2); 125-130

1. Hidaka Takeaki, Tanaka Kentaro, Mori Hiroki. Outcome evaluation using an artificial intelligence-based facial measurement software for facial nerve grafting in head and neck and skull base surgery HEAD AND NECK-JOURNAL FOR THE SCIENCES AND SPECIALTIES OF THE HEAD AND NECK. 2023.04; 45(6); 1572-1580

[総説]

1. 森 弘樹. 【BIA-ALCL 特集】乳房インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫の現状と対策 Oncoplastic Breast Surgery. 2023.03; 8(1); 16-21

[講演 · 口頭発表等]

1. 田中顕太郎, 岡崎　睦, 菅原貴志, 堤　剛, 朝蔭孝宏. 頭頸部腫瘍手術時に合併切除された顔面神経一次再建の術後長期成績. 第 50 回 日本マイクロサージャリー学会学術集会 2023.12.07 名古屋市

2. 田中顕太郎. 皮膚悪性腫瘍の外科的切除. 第 32 回日本形成外科学会基礎学術集会 2023.10.20 千代田区

3. 石田直也, 田中顕太郎. 新しい動物実験モデルを用いた移植脂肪組織容量を維持するための手術手技の開発. 第 32 回日本形成外科学会基礎学術集会 2023.10.19 千代田区

4. 田中顕太郎, 菅原貴志, 堤　剛, 朝蔭孝宏. 頭頸部再建手術時の顔面神経一次再建. 第 34 回 日本末梢神経学会学術集会 2023.09.08 京都市

5. 田中顕太郎, 森　弘樹, 並木　剛, 沖山奈緒子. 遊離組織移植を用いた皮膚悪性腫瘍切除後の再建. 第 39 回 日本皮膚悪性腫瘍学会 2023.08.05 名古屋市

6. 田中顕太郎, 岡崎　睦, 菅原貴志, 朝蔭孝宏. 前頭蓋底手術時に合併切除される周囲組織の再建術式. 第 35 回 日本頭蓋底外科学会 2023.07.07 文京区

7. 田中顕太郎, 岡崎　睦, 菅原貴志, 堤　剛, 朝蔭孝宏. 頭蓋底手術時に合併切除される顔面神経の一期的再建. 第 35 回 日本頭蓋底外科学会 2023.07.06 文京区

8. 有泉陽介，高橋亮介，河邊浩明，岡田隆平，立石優美子，田崎彰久，大野十央，田中顕太郎，菅原貴志，朝蔭孝宏. 当科における嗅神経芽細胞腫の再発例の検討 —硬膜播種例を中心に—. 第 35 回日本頭蓋底外科学会 2023.07.06 東京

9. 田中顕太郎. 上顎全摘後の二次手術症例から考察する上顎一次再建術式. 第 66 回 日本形成外科学会総会 · 学術集会 2023.04.28 長崎市

10. 田中顕太郎. 顔面神経の縫合 · 即時再建. 第 66 回日本形成外科学会総会学術集会 2023.04.27 長崎市

11. 石田直也, 宇佐美聡, 稲見浩平. 母指掌側前進皮弁による指先部再建：術後関節拘縮に関する要因の検討. 第 66 回日本形成外科学会総会 · 学術集会 2023.04.26 長崎市

12. 村上響一, 中尾淳一, 安永能周. ２期人工乳房再建における Musculocapsular flap の有用性. 第 28 回日本形成外科手術手技学会 2023.03.04 川崎市

生体支持組織学講座

細胞生物学

Cell Biology

教授　　中田隆夫
講師　　石井智浩
助教　　浅野豪文
助教　　吉原壮悟
技術職員　中村里子

(1) 分野概要

2009 年 4 月に研究室をスタートした。細胞、個体レベルで、時間空間的に異なるシグナルの活性化が、どのような細胞の応答の違いを引き起こすかについて研究している。その手段として、光によって制御できるシグナル分子を開発している。

(2) 研究活動

光遺伝学を用いて、細胞個体等様々なレベルでのシグナルの活性化がどのような応答を起こすかについて研究している。我々はこの方法によって細胞や個体における新しい法則の発見を目指している。そのために新しいシグナル分子の開発も行っている。しかしその目標はあくまで生物の機能を分子レベルで解明することである。

(3) 教育活動

本分野は医学部 1 年の細胞生物学、2 年の組織学 · 組織学実習を担当し、研究実践プログラム、プロジェクトセメスター、他大学からの研究実習など医学部学生の研究指導を多数行うほか、研究生や歯学分野からの大学院生も受け入れ、教育を行っている。

（細胞生物学）
細胞生物学は後期に講義が行われる。前半で細胞生物学の歴史及び基本事項について教育し、後半ではやや進んだ内容として本学教員あるいは学外非常勤講師にお話しいただいている。細胞生物学の基礎については教養でも習っているので、それらと重複することがあまりないように配慮している。本講義では新しい事項を暗記することが目的ではなく、それぞれの分野での考え方の違いあるいは研究者一人一人によるスタンスの違いのようなものを感じてもらうことを目標としている。

（組織学 · 組織学実習）
春から夏にかけ組織学総論と各論を一体として講義し、さらに組織学実習をペアとして行うことにより、講義の中で実習上の問題も理解できるようにしている。この組織学では、臨床に進んでから各科の病気についての講義あるいは病理での講義を理解できるようになるための、基本的な細胞や構造を理解することを目標としている。総論では、臨床でもよく使う HE 染色切片の作成から上皮、筋、神経、結合組織の 4 つの体の細胞を分類し、その特徴について学ぶ。後半はさらに細かく頭の毛から骨について続けて学ぶことにより、それぞれの組織の違いや共通点を理解することが目標である。
2021 年から組織学講義 · 実習解説は録画されたものをいつでも見られるというオンデマンド化を行ったことにより、学生が自由に何度でも復習できるようにした。また本学が保有する貴重な標本をデジタルデータ化し、バーチャルスライド標本を作製した。このバーチャルスライド標本と Zoom を活用し、実習時間内では教員が遠隔操作により学生一人一人からの質問に答えディスカッションを行っている。実習の節目には学生のモチベーションを高める工夫をし、グループワークや画像分類 AI の作製を体験するというアクティブラーニングや、対面で顕微

鏡操作の基礎を身に着けスケッチを行うという昔ながらの方法も実施している。標本の中でよい部分を探し、その中のどのような構造を抽出するかという点を評価するという意味では従来のような顕微鏡観察法にバーチャルスライドが劣っているとは思えない。そのため成績評価としてはレポート提出と情報検索室 PC での試験およびペーパーテストを行っている。

2023 年はさらに Teams を実習に導入し、チャットやスクリーンショットを活用できるようにしたことで、より効果的に質問できる体制を整えた。AI 作成体験においては、統合教育機構の専門教員とも連携してアクティブラーニングを行った。

（2023 年学生受け入れ実績）
博士課程大学院生：1 名
博士課程大学院生（咬合機能矯正学分野より受け入れ）：1 名
修士課程大学院生：2 名
医学部生：1 名

(4) 研究業績

[講演・口頭発表等]

1. 吉原壮悟, 中田隆夫, 野田直紀, 柏崎隼, 馬渕一誠. 分裂酵母細胞質抽出液を用いた収縮環の in vitro 再構成の試み. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.07 神戸コンベンションセンター
2. 高田愛子, 石井智浩, 中浜健一, 浅野豪文, 小野卓志, 中田隆夫. オプトジェネティクスを用いた破骨細胞分化の光制御. 第 75 回日本細胞生物学会大会 2023.06.30 奈良県コンベンションセンター
3. 浅野豪文, 中田隆夫. 筋管形成過程の可視化と細胞内カルシウムシグナルの制御. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.24 国立京都国際会館
4. Li Kun, 浅野 豪文, 中田 隆夫. カルシウム変動による骨格筋芽細胞融合の光遺伝学を用いた解析. 第 128 回日本解剖学会総会・全国学術集会 2023.03.18 東北大学

病態代謝解析学

Medical Biochemistry

教授　大石　由美子
准教授　小池　博之
助教　松崎　京子

(1) 分野概要

病態代謝解析学分野（旧生化学第二講座に相当）は、臨床から大学院生 · 研究生を受け入れ、優れた臨床研究者を育ててきた伝統ある教室です。

医学科教育としては、第 2 学年の生化学/分子生物学講義 · 実習を担当し、医学生に分子レベルでの医学の基礎とその臨床的意義を教育し、将来、医師として必須の知識と考え方を身につけることを目指しています。

大学院医歯学総合研究科 · 病態代謝解析学分野としては、生活習慣病やサルコペニアをはじめとした加齢関連疾患の病態の解明を主軸に研究を進めています。エピゲノム · トランスクリプトームのグローバル解析や、シングルセル解析などの最新の手法を駆使し、新しい治療 · 予防標的を見いだすことによって、人類の健康と福祉に貢献することを目的としています。

(2) 研究活動

①マクロファージによる生体/組織の恒常性の維持と、その変調や破綻による病態の分子機構　②骨格筋をはじめとした組織の再生修復機構を分子レベルで理解し、治療標的となる機序を見いだすことを目的としています。
詳しい内容は、分野 HP　http://www.tmd.ac.jp/mbc/index.html をご覧ください。

(3) 教育活動

学部教育

個々の細胞のいのちは、巧妙かつ洗練された機序で成り立っています。生化学を学ぶ最大の目的は、この生命現象を分子レベルで理解することであり、学修を通じてあらゆる臨床医学の基礎を身につけていただきたいと願っています。

「生化学 · 分子生物学」講義では、生体構成物質の構造と機能、代謝の動態を中心にして、代謝異常の病態の基本を理解することを目標としています。また、実習を通して生体を構成分子や生命現象を司る生化学反応について方法論を含めた理解を目指しています。

大学院教育

生命科学領域や実臨床では、未解決の課題が数多く残されています。大学院では、これらの課題に気づき、問題点や「疑問」を仮説に変換して検証し、結果を論文にまとめるという一連の活動を通して、独立して研究を遂行できる能力を身につけることを目指します。さらに、次代を担う physician scientist あるいは医学研究者として活躍できる人材を育てることを目標としています。

(4) 研究業績

[原著]

1. Takahisa Matsuzaki, Yuma Kawano, Momoka Horikiri, Yuko Shimokawa, Takashi Yamazaki, Nao Okuma, Hiroyuki Koike, Masaki Kimura, Ryuzo Kawamura, Yosuke Yoneyama, Yasuro Furuichi, Fumihiko

Hakuno, Shin-Ichiro Takahashi, Seiichiro Nakabayashi, Satoshi Okamoto, Hiromitsu Nakauchi, Hideki Taniguchi, Takanori Takebe, Hiroshi Y Yoshikawa. Preparation of mechanically patterned hydrogels for controlling the self-condensation of cells. STAR Protocols. 2023.07; 4(3); 102471

2. Aiko Watanabe, Hiroyuki Koike, Naoki Kumagami, Shigeki Shimba, Ichiro Manabe, Yumiko Oishi. Arntl deficiency in myeloid cells reduces neutrophil recruitment and delays skeletal muscle repair. Scientific Reports. 2023.04; 13(1); 6747

3. Caspase-11 contributes to site-1 protease cleavage and SREBP1 activation in the inflammatory response of macrophages 2023.01; 14; 1009973

1. Characteristic impairment of progesterone response in cultured cervical fibroblasts obtained from patients with refractory cervical insufficiency 2023.07; 13(1);

[総説]

1. Yuki Yoshimoto, Yumiko Oishi. Mechanisms of skeletal muscle-tendon development and regeneration/healing as potential therapeutic targets. Pharmacol Ther. 2023.03; 243; 108357

2. Rie Ouchi, Hiroyuki Koike. Modeling human liver organ development and diseases with pluripotent stem cell-derived organoids. Frontiers in Cell and Developmental Biology. 2023.02; 11; 1133534

[講演・口頭発表等]

1. Oishi Yumiko. 健康と疾病における多様な免疫代謝コミュニケーション　日米免疫学プログラム共催セッション　筋肉の修復と再生を制御するマクロファージの新規サブセットの同定 (Diverse immunometabolic communication in health and disease: US-Japan Immunology Program Co-organized Session Identification of a novel subset of macrophage that regulate muscle repair and regeneration). 日本免疫学会総会・学術集会記録 2023.12.01

2. 成 英瀾, 眞鍋 一郎, 早川 清雄, 遠藤 裕介, 大石 由美子. 炎症性カスパーゼ 11 は、マクロファージの炎症応答において、site-1 プロテアーゼの切断と SREBP1 の活性化に寄与する. 日本生化学会大会プログラム・講演要旨集 2023.10.01

3. Cell-cell interactions of post-injury muscle regeneration and tissue repair. 2023.09.14

1. 本田 梓, 小池 博之, 早川 清雄, 大石 由美子, 土肥 輝之, 小川 令. CD206 陽性マクロファージは創傷治癒を制御する. 日本医科大学医学会雑誌 2023.12.01

2. 本田 梓, 小池 博之, 早川 清雄, 大石 由美子, 土肥 輝之, 小川 令. CD206 陽性マクロファージは創傷治癒を制御する. 日本医科大学医学会雑誌 2023.12.01

3. 松田 繁, 桑原 慶充, 杉田 洋佑, 大石 由美子, 鈴木 俊治. 炎症誘導性 Placenta-Mediated Pregnancy Complications における多価不飽和脂肪酸のインパクト. Reproductive Immunology and Biology 2023.11.01

4. 大石 由美子. 細胞内環境変化の臓器・生体への伝達と疾病　細胞内脂質代謝によるマクロファージ機能制御. 日本生化学会大会プログラム・講演要旨集 2023.10.01

5. 小池 博之. 骨格筋再生を主導する多細胞間相互作用ネットワークの解析. 日本応用酵素協会誌 2023.03.01

6. 早川 清雄, 成 英瀾, 大石 由美子. マクロファージにおけるコレステロールを介した炎症応答と制御メカニズム. 日本栄養・食糧学会大会講演要旨集 2023.03.01

[社会貢献活動]

1. 日本生物学オリンピック運営委員, 2018 年 - 現在

運動器外科学

Joint Surgery and Sports Medicine

分野長　教授　古賀英之
准教授　中村智祐
講師　　宮武和正
助教　　片倉麻衣

軟骨再生学講座
Department of Cartilage Regeneration
寄付講座准教授　中川裕介
寄付講座講師　　高田亮平

大学院生
天野祐輔、長谷川翔一、橘哲也、朱凌、曲テイ、楊暘
山下理子、吉田龍、池田達宣
石畑知沙、關良太、白畑航、勝又豊啓
徳本泰將、萩原怜奈、渡邉紗矢
大学院研究生
高一傑

技術補佐員　尾島美代子
特定業務職員 岡田美穂

(1)　分野概要

運動器外科学は、整形外科学を母体にした大学院の教室で、2000 年の本学大学院化への移行に伴って設立されました。整形外科教室の専門班である「膝スポーツ班」を中心に構成されており、関節症の保存加療、人工関節のみならず、「前十字靱帯損傷」等スポーツ傷害に起因する運動器疾患を対象としています。教室内に寄付講座（軟骨再生学）を持ち共同で臨床 · 研究を実践 (下記項目) することにより、運動器疾患の克服を目指しています。

1. 下肢の疾患について小児から高齢者まで広い範囲の患者を扱い、それぞれのニーズに合わせた治療法の推進
2. 人工股関節 · 人工膝関節置換術の早期社会復帰をめざしたプログラムの実践
3. よりよい膝関節 · 股関節術式の開発
4. 患者の自己評価を重視した合理的治療体系をめざした関節外科治療
5. 専門部位別の高度な治療システムの実践
6. スポーツの現場に対応できる実践的な治療法の開発と教育
7. 軟骨を代表とする関節組織に対する再生医療
8. 原因が十分に解明されていない関節痛のメカニズムの研究と新しい関節疼痛改善法の開発

整形外科は外科のため、どうしても外科手術で治療することに目的が偏りがちです。運動器の痛みについて近年ようやく注目度が高まってきました。消炎鎮痛剤一辺倒の保存治療から、痛みのメカニズムを考慮した薬物療法、運動療法の重要性が認識されつつあります。関節痛の研究はまだ始まったばかりです。運動器外科学がこの領域のパイオニア的な活動ができることを期待しています。

(2) 研究活動

基礎的研究
1. 間葉系組織由来幹細胞の分離・増殖方法の確立
2. 間葉系組織由来幹細胞の生物学的特性の解明
3. 間葉系幹細胞による関節軟骨損傷治療法の開発と改良
4. 間葉系幹細胞による関節組織の治癒促進法の実践
5. 軟骨・骨の人工材料の開発
6. 骨・軟骨代謝改善を目的とした新規治療薬の開発
7. 骨・軟骨代謝因子の遺伝子的アプローチ
8. 外傷・手術後関節炎のメカニズムの解明とコントロール
9. 関節痛のメカニズムと治療法
10. 二次性股関節症の遺伝子解明

臨床的研究
1. 膝関節構成体の新しい機能的再建法の開発
2. 日本人により適合する人工膝・股関節の開発
3. 解剖学的前十字靱帯再建術の成績向上のための工夫
4. 外傷・手術後の疼痛に対する新しいアプローチ
5. 膝関節・股関節術、術前術後の動作解析
6. 下肢関節手術におけるナビゲーションシステムの開発
7. 臼蓋の解剖学的解析
8. 変形性関節症マーカー
9. 関節痛に対する新しい保存治療の開発と臨床的な効果の検証
10. 他施設共同研究による膝関節手術の新たなエビデンスの構築

(3) 教育活動

診療科としては、医学部整形外科として大学院整形外科学と共同して活動を行っています。
　幅広い整形外科臨床的知識と技能を持った整形外科専門医の育成
　特に運動器外科学（膝スポーツ班）として、関節系整形外科の専門的研修（スポーツ外傷の治療、関節鏡手術、変形性関節症に対する治療、人工関節置換術など）

大学院運動器外科学として
　上記基礎研究、臨床研究における大学院生の研究指導
　世界に通用する整形外科系基礎研究者の育成

(4) 教育方針

　診療科としては、「医学部整形外科」として大学院整形外科学と共同して活動を行っています。臨床教育制度の発足により、2 年間の初期研修で基本的な医師としての知識と技量を身に付けたのちに大学を中心とした整形外科研修プログラムにそって整形外科研修を開始します。医学部整形外科関連施設で整形外科、外傷学の基本的教育をうけ、その間に幅広い整形外科臨床的知識と技能を獲得し、整形外科医師としての基本的な態度や技量を磨きます。さらに最低 2 年間、専門班病院にて関節系と神経系整形外科の専門的研修を受けます。6 年間の基礎研修期間を終えた時点で、日本整形外科学会認定専門医を取得することを義務づけています。大学院への入学については、教育期間の 4 年を終えた時点で、個人の希望と実績の評価、また人数的なバランスに応じて受験を許可しています。
また学外からの応募、留学生の受け入れ、大学院研究に興味のある医師、獣医師、理学療法士などの受け入れも実施しています。

(5) 臨床活動および学外活動

スポーツ外傷の治療
　スポーツ外傷に対する予防、保存的治療、リハビリテーション

膝前十字靱帯損傷に対する解剖学的２重束再建術
膝複合靱帯損傷に対する手術的治療
半月板損傷に対する機能温存を目的とした手術的治療
治癒困難な半月板損傷や軟骨損傷に対する再生医療

変形性関節症に対する治療
初期の関節炎、変形性関節症に対する保存的アプローチ
中等度の関節症に対する骨切り術などの関節温存手術
重度の関節症に対する人工関節置換術

上記に対する臨床研究、臨床成績を国内外の学会で発表、また論文で報告しています。

(６) 臨床上の特色

スポーツ外傷
膝前十字靱帯再建術は世界に先駆けて 1994 年より 2 重束再建術を施行しており、膝安定性、スポーツ復帰率、患者満足度ともに良好な成績を収めています。半月板手術は可能な限り縫合し、半月板機能の温存を試みます。また半月板切除後や円板状半月板手術後に生じる半月板機能不全に対し、半月板の機能を修復する新たな術式を開発し行っています。
前十字靱帯損傷に対する予防・メカニズムの解明をノルウェーの Oslo Sports Trauma Research Center との共同研究で行い、世界で初めて前十字靱帯損傷の詳細なメカニズムを明らかにしました。これに基づきその予防、また手術後の患者さんに対するリハビリ、再受傷の予防に対する様々なアプローチを行っています。

人工膝関節置換術
独自に日本人向け人工膝関節 Actiyas を開発し用いている。開発に当たっては日本人の骨形態を分析してインプラントデザインにも工夫を凝らし、より機能的で Active な動きに対応でき、また痛みなく患者さんが癒される膝を目指しています。大腿骨側にはセラミックを用い、より摩耗の少なく長期の安定した成績が期待できます。両膝の悪い患者さんに対しては両側同時の手術を行っており、これによって入院やリハビリが一度で済むために患者さんの早期社会復帰に役立っています。

滑膜細胞を用いた軟骨・半月板の再生医療
我々の研究室で行った多くの基礎研究の成果をもとに、膝関節の軟骨欠損に対して、外来手術で滑膜を採取し、本学細胞治療センターで幹細胞を培養、関節鏡視下で幹細胞を移植する再生医療を平成 20 年 4 月より開始し、安全性と有効性を確認しています。本学再生医療センターと共同で平成 26 年 8 月からは縫合の困難な半月板損傷に対する滑膜細胞移植の臨床治験を開始しました。

(７) 研究業績

[原著]

1. Naoto Watanabe, Takahisa Ogawa, Ryohei Takada, Yusuke Amano, Tetsuya Jinno, Hideyuki Koga, Toshitaka Yoshii, Atsushi Okawa, Kazumasa Miyatake. Association of osteoporosis and high serum homocysteine levels with intraoperative periprosthetic fracture during total hip arthroplasty: a propensity-score matching analysis. Arch Orthop Trauma Surg. 2023.12; 143(12); 7219-7227

2. Hao Ding, Hideyuki Koga, Hiroki Katagiri, Shoichi Hasegawa, Tatushiko Anzai, Mai Katakura, Aritoshi Yoshihara, Masaki Amemiya, Takashi Hoshino, Nobutake Ozeki, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa. Low central sensitisation inventory score is associated with better post-operative outcomes of osteotomy around the knee. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023.12; 31(12); 5896-5904

3. Tetsuya Tachibana, Hiroki Katagiri, Hideyuki Koga, Takahisa Ogawa, Moe Suzuki, Tetsuya Jinno. Comparison of the cost analysis in total hip arthroplasty of anterior versus posterior approaches: A propensity score-matched cohort study in a single center Comparison of the cost analysis in total hip arthroplasty of anterior versus posterior approaches: A propensity score-matched cohort study in a single center. 2023.12; 1(1); 222-227

4. Yusuke Nakagawa, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Masafumi Horie, Hiroki Katagiri, Nobutake Ozeki, Toshiyuki Ohara, Ichiro Sekiya, Takeshi Muneta, Toshifumi Watanabe. Mid-term clinical outcomes

of a posterior stabilized total knee prosthesis for Japanese patients: A minimum follow-up of 5 years. J Orthop Sci. 2023.11; 28(6); 1325-1330

5. Zhen Qu, Hideyuki Koga, Kunikazu Tsuji, Guo Tang, Yang Yang, Aritoshi Yoshihara, Mai Katakura, Hiroki Katagiri, Kazumasa Miyatake, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Yusuke Nakagawa. Hyaluronic acid sheet transplantation attenuates infrapatellar fat pad fibrosis and pain in a rat arthritis model. J Orthop Res. 2023.11; 41(11); 2442-2454

6. Ichiro Sekiya, Hisako Katano, Ali Guermazi, Yugo Miura, Noriya Okanouchi, Makoto Tomita, Jun Masumoto, Yoshio Kitazume, Hideyuki Koga, Nobutake Ozeki. Association of AI-determined Kellgren-Lawrence grade with medial meniscus extrusion and cartilage thickness by AI-based 3D MRI analysis in early knee osteoarthritis. Sci Rep. 2023.11; 13(1); 20093

7. Tetsuya Tachibana, Hideyuki Koga, Hiroki Katagiri, Takahisa Ogawa, Ryohei Takada, Kazumasa Miyatake, Tetsuya Jinno. Analysis of survivorship following periacetabular osteotomy for hip dysplasia based on three-dimensional acetabular coverage Analysis of survivorship following periacetabular osteotomy for hip dysplasia based on three-dimensional acetabular coverage. 2023.11; 2023(00); 1-8

8. Jae-Sung An, Ahmed Mabrouk, Raghbir Khakha, Kristian Kley, Hideyuki Koga, Christophe Jacquet, Matthieu Ollivier. Assessment of return to sport and functional outcomes following distal femoral, double level and high tibial osteotomies for active patients with symptomatic varus malalignment. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023.10; 31(10); 4285-4291

9. Hisako Katano, Nobutake Ozeki, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Noriya Okanouchi, Jo Fujita, Jun Masumoto, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya. Morphological analysis of three-dimensional MR images of patellofemoral joints in asymptomatic subjects. Sci Rep. 2023.10; 13(1); 16750

10. Zhu Ling, Hailati Aini, Shuhei Kajikawa, Jumpei Shirakawa, Kunikazu Tsuji, Yoshinori Asou, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya, Akira Nifuji, Masaki Noda, Yoichi Ezura. Mutation Are Treatable by Alendronate. Pharmaceuticals (Basel). 2023.10; 16(10);

11. Aritoshi Yoshihara, Renaud Siboni, Yusuke Nakagawa, Caroline Mouton, Christophe Jacquet, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Romain Seil, Hideyuki Koga. Lateral-medial asymmetry of posterior tibial slope and small lateral tibial plateau articular surface depth are morphological factors of lateral meniscus posterior root tears in ACL-injured patients. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023.09; 31(9); 3594-3603

12. Shoichi Hasegawa, Yusuke Nakagawa, Aritoshi Yoshihara, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Masaya Hayashi, Hideya Yoshimura, Tsuyoshi Nagase, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Older Age, Poor Preoperative Quadriceps Muscle Strength, and Residual Pain as Risk Factors for Poor Quadriceps Muscle Strength Recovery at 1 Year After ACL Reconstruction: A TMDU MAKS Study of 402 Patients. Orthop J Sports Med. 2023.09; 11(9); 23259671231194593

13. Shunsuke Ohji, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Takehiro Ohmi, Sho Mitomo, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. Kinesiophobia Is Negatively Associated With Psychological Readiness to Return to Sport in Patients Awaiting Anterior Cruciate Ligament Reconstruction. Arthroscopy. 2023.09; 39(9); 2048-2055

14. Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Yusuke Amano, Yoshiko Shirakawa, Nobutake Ozeki, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Decision regret following opening wedge high tibial osteotomy: Older age as a risk factor. Knee. 2023.06; 43; 62-69

15. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Yusuke Nakagawa, Hiroki Katagiri, Hisako Katano, Makoto Tomita, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. Association between knee cartilage thickness determined by magnetic resonance imaging three-dimensional analysis and the International Cartilage Repair Society (ICRS) arthroscopic grade. Knee. 2023.06; 42; 90-98

16. Shoichi Hasegawa, Jae-Sung An, Jun Hino, Yusuke Amano, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake, Hiroki Katagiri, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga, Kunikazu Tsuji. Therapeutic effect of C-type natriuretic peptide on persistent pain in a rat knee arthritis model. J Orthop Surg (Hong Kong). 2023.06; 31(2); 10225536231181708

17. Hong CC, Lee JC, Tsuchida A, Katakura M, Jones M, Mitchell AW, Dalmau-Pastor M, Calder J. Individual fascicles of the ankle lateral ligaments and the lateral fibulotalocalcaneal ligament complex can be identified on 3D volumetric MRI. Knee surgery, sports traumatology, arthroscopy : official journal of the ESSKA. 2023.06; 31(6); 2192-2198

18. Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake, Nobutake Ozeki, Yuji Kohno, Masaki Amemiya, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Comparison of Clinical Outcomes after Revision Anterior Cruciate Ligament Reconstruction using a Bone-patellar Tendon-bone Autograft and that Using a Double-Bundle Hamstring Tendon Autograft. J Knee Surg. 2023.05; 36(6); 613-621

19. Amano Y, Ozeki N, Matsuda J, Nakamura T, Nakagawa Y, Sekiya I, Koga H. Augmentation of a Nonanatomical Repair of a Medial Meniscus Posterior Root Tear With Centralization Using Three Knotless Anchors May Be Associated With Less Meniscal Extrusion and Better Compressive Load Distribution in Mid-Flexion Compared With Non-Anatomical Root Repair Alone in a Porcine Knee Model. Arthroscopy : the journal of arthroscopic & related surgery : official publication of the Arthroscopy Association of North America and the International Arthroscopy Association. 2023.05; 39(12); 2487-2498

20. Kei Sato, Atsuko Sato, Naoki Okuda, Matsubara Masaaki, Hideyuki Koga. A propensity score-matched comparison between Mako robotic arm-assisted system and conventional technique in total hip arthroplasty for patients with osteoarthritis secondary to developmental dysplasia of the hip. Arch Orthop Trauma Surg. 2023.05; 143(5); 2755-2761

21. Shunsuke Ohji, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Takehiro Ohmi, Sho Mitomo, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. Association between landing biomechanics, knee pain, and kinesiophobia in athletes following anterior cruciate ligament reconstruction: A cross-sectional study. PMR. 2023.05; 15(5); 552-562

22. Yusuke Nakagawa, Kunikazu Tsuji, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Nobutake Ozeki, Mikio Shioda, Jae-Sung An, Ryu Yoshida, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Association of Infrapatellar Fat Pad Fibrosis at 3 Months After ACL Reconstruction With Short-term Clinical Outcomes and Inflammatory Cytokine Levels in the Synovial Fluid. Orthop J Sports Med. 2023.04; 11(4); 23259671231164122

23. M Isono, H Koga, Y Nakagawa, T Nakamura, I Sekiya, H Katagiri. Inferior Healing Rate in Isolated Meniscal Repair than that in Meniscal Repair with Concomitant ACL Reconstruction Evaluated with MRI. Malays Orthop J. 2023.03; 17(1); 61-69

24. Nobutake Ozeki, Mitsuru Mizuno, Shinobu Yanada, Takuya Okada, Rei Kubota, Yoshihisa Kushida, Hideto Furuoka, Kentaro Endo, Hisako Katano, Kentaro Nakamura, Shoji Ohya, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya. Autologous Synovial Mesenchymal Stem Cell Transplantation Suppresses Inflammation Caused by Synovial Harvesting and Promotes Healing in a Micro Minipig Repaired Meniscus Model. Transplant Proc. 2023.03; 55(2); 470-480

25. Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake, Toshiyuki Ohara, Mikio Shioda, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Short-Term Outcomes after High Tibial Osteotomy Aimed at Neutral Alignment Combined with Arthroscopic Centralization of Medial Meniscus in Osteoarthritis Patients. J Knee Surg. 2023.02; 36(3); 261-268

26. Naoki Yamamoto, Ryohei Takada, Tetsuya Jinno, Kazumasa Miyatake, Naoto Watanabe, Hideyuki Koga, Toshitaka Yoshii, Kazuyoshi Yagishita, Atsushi Okawa. Wear rate and osteolysis in two types of second-generation annealed highly cross-linked polyethylene in total hip arthroplasty: A retrospective comparative study with a minimum of five years. Orthop Traumatol Surg Res. 2023.02; 109(1); 103147

27. Mai Katakura, Angela E Kedgley, Joseph W Shaw, Adam M Mattiussi, Shane Kelly, Richard Clark, Nick Allen, James D F Calder. Epidemiological Characteristics of Foot and Ankle Injuries in 2 Professional Ballet Companies: A 3-Season Cohort Study of 588 Medical Attention Injuries and 255 Time-Loss Injuries. Orthop J Sports Med. 2023.02; 11(2); 23259671221134131

28. Akane Ariga, Yuji Kohno, Yusuke Nakagawa, Toshifumi Watanabe, Hiroki Katagiri, Toshiyuki Ohara, Mikio Shioda, Nobutake Ozeki, Masaki Amemiya, Atsushi Okawa, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Simultaneous bilateral total knee arthroplasty is safe and effective for patients in different ages. J Orthop Sci. 2023.01; 28(1); 173-179

29. Sho Mitomo, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Shunsuke Ohji, Takehiro Ohmi, Toshiyuki Ohara, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. Association Between Knee Extension Strength at 3 and 6 Months After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction. J Sport Rehabil. 2023.01; 32(1); 76-84

30. Ryuichi Nakamura, Masaki Amemiya, Tomoyuki Shimakawa, Masaki Takahashi, Kazunari Kuroda, Yasuo Katsuki, Akira Okano. Femoral-varus tibial-valgus osteotomy (FVTVO) for neutrally-aligned knee osteoarthritis with severe joint line obliquity enables return to sports activities: A case series study. Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2023.01; 31; 11-17

31. Koji Murofushi, Daisuke Yamaguchi, Koji Kaneoka, Tomoki Oshikawa, Hiroki Katagiri, Kenji Hirohata, Hidetaka Furuya, Sho Mitomo, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. The effectiveness of corrective exercises on the KOJI AWARENESS score and activity-related pain intensity. J Med Invest. 2023; 70(1.2); 208-212

1. 中川 裕介, 渡邊 敏文, 中村 智祐, 関矢一郎, 古賀英之. ジルコニアセラミック大腿骨コンポーネントを用いた日本人向け後方安定型人工膝関節インプラント ACTIYAS の中期成績：5 年以上のフォローアップ 別冊整形外科. 2023.04; 1(83); 108-117

2. 黒田都, 宮武和正, 吉井俊貴, 若林良明, 大川淳. 肺血栓塞栓症を契機に診断された Osler-Weber-Rendu syndrome の 1 例 関東整形災害外科学会誌. 2023.03; 54(2); 46-49

[書籍等出版物]

1. 古賀英之. 国立大学教授 · ひざの世界的名医が教える 運動を頑張らなくてもひざ痛がよくなる 1 分ほぐし大全. 文響社, 2023.10 (ISBN：978-4866516790)

2. 大関 信武, 古賀 英之, 関矢 一郎. 変形性膝関節症の発症 · 進行予防の可能性—滑膜幹細胞移植による半月板の再生医療. 株式会社南江堂, 2023.06

3. 大関信武, 星野傑, 大原敏之, 古賀英之. プロ野球選手の腰椎分離症症例，臨床スポーツ医学 40（5）. 文光堂, 2023.05

4. 古賀英之他. Stryker's infors sports medicine. 2023

[総説]

1. 中川 裕介, 古賀 英之. 膝蓋下脂肪体の痛みの可視化 臨床スポーツ医学. 2023.10; 40(10); 1032-1036

2. 河野 佑二, 古賀英之, 関矢一郎. 【バイオ時代におけるリウマチ性疾患の診療】関節リウマチの病態　基礎研究　関節リウマチ膝の滑膜由来間葉系幹細胞 別冊整形外科. 2023.10; 84; 14-20

3. 吉原有俊, 古賀英之. 卒後研修講座 半月板損傷に対する手術的治療 整形外科. 2023.10; 74(11); 1189-1195

4. 吉原有俊, 古賀英之. 整形外科最新トピックス　内側半月板後根断裂手術　内側半月板後根損傷に対する鏡視下 Centralization 法を組み合わせた経脛骨 pull-out 修復 整形外科 Surgical Technique. 2023.10; 13(5); 652-659

5. 大見武弘, 古賀英之. 【スポーツ活動と装具】膝関節装具 膝蓋骨不安定症の装具療法 臨床スポーツ医学. 2023.09; 40(9); 942-945

6. 中村智祐他. 半月板再損傷を減らすための半月板縫合術の工夫 臨床スポーツ医学. 2023.06; 40(6); 622-627

7. 中村智祐. Respect the Past, Embrace the Future JOSKAS. 2023.06; 48(2); 197-203

8. 宮武　和正. 骨欠損を伴った寛骨臼側の人工股関節再置換術　サポートリングを用いた再置換術 整形外科 Surgical technique. 2023.04; 13(2); 82-89

9. 古賀英之. 人工関節にならないための膝関節温存術 岐阜人工関節フォーラム誌. 2023; 27; 11-18

[講演 · 口頭発表等]

1. Hideyuki Koga. Innovation of treatment for meniscus injury. 1st Annual Congress of The Japanese Knee Society 2023.12.08 Yokohama, Japan

2. Hideyuki Koga. Meniscal centralization. 67th Korean Orthopaedic Association Annual Meeting 2023.10.12 Seoul, Korea

3. Hideyuki Koga. Management of MMPRT with extrusion using centralization. 1st The Asian Meniscus Summit 2023.10.05 Seoul, Korea

4. Hideyuki Koga. How to improve root repair?. 1st The Asian Meniscus Summit 2023.10.05 Seoul, Korea
5. Yusuke Nakagawa, Aritoshi Yoshihara, Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga. How to manage lateral meniscus posterior root tears. 1st The Asian Meniscus Summit 2023.10.05 Seoul, Korea
6. Hideyuki Koga. Medial Meniscus preservation strategies in knee osteotomies. Aix-Marseille university Ground Round 2023.09.14 Marseilles, France
7. Hideyuki Koga. Meniscus centralization -Solution to reduce meniscus extrusion-. 40th AGA Congress 2023.09.14 Berlin, Germany
8. Hideyuki Koga. How do we improve meniscus repair?. 17th International Cartilage Research Society World Congress 2023.09.10 Barcelona, Spain
9. Tetsuya Tachibana, Hiroki Katagiri, Tetsuya Jinno. Femoral Morphology in Developmental Dysplasia of the hip based on three-dimensional analysis with CT. 4th Annual congress of the ASHA 2023.09.09 Taiwan
10. Hideyuki Koga. FiberStitch & Meniscal Centralization. Arthrex Innovation Summit 2023.07.13 Singapore
11. Mai Katakura. MRI findings of the foot and ankle in asymptomatic professional ballet dancers. ISAKOS annual meeting 2023.06.18 Boston
12. Tomomasa Nakamura. Mechanical axis changes and its related factors on the whole leg preoperative planning x-rays under bilateral and unilateral weight-bearing in HTO patients. 2023 ISAKOS annual meeting 2023.06.18 Boston
13. Ryohei Takada, Naoto Watanabe, Kazumasa Miyatake, Naohiko Sugita, Tetsuya Jinno, Toshitaka Yoshii, Hideyuki Koga. Development of non-invasive augmented reality-based navigation system for total hip arthroplasty. The22th Annual Meeting of CAOS 2023.06.07 Pattaya (Thailand)
14. Hideyuki Koga. Meniscal Centralization, Root repair and complex meniscal pathologies. Arthrex Medical Education Program-Knee 2023.05.19 Singapore
15. Yusuke Nakagawa, Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya. Stem cell therapy using synovial MSCs for knee osteoarthritis. JOA annual meeting 2023.05.10 Yokohama, Japan
16. Hideyuki Koga. ACL injury mechanisms-lessons learned from video analyses. Sports Biomechanics Research Summit 2023.04.15 HongKong
17. Hideyuki Koga. Centralization & ramp lesion repair. Arthrex Knee Cadaver Training 2023.03.26 Singapore
18. Tetsuya Jinno, Gaku Koyano, Masanobu Hirao, Ryota Shinada, Tetsuya Tachibana, Moe Suzuki, Ryohei Takada, Kazumasa Miyatake. Preventive strategies for early and late periprosthetic femoral fracture after cementless total hip arthroplasty. The 53rd Annual Meeting of the Japanese Society for Replacement Arthroplasty 2023.02.17
19. Hideyuki Koga. Patients in Which Lateral Meniscus Repair Contributes to Controlling Pivot Shift Show Low Body Mass Index and Particular Bony Morphologies. ACL Study Group Meeting 2023.01.28 St. Kitts, Saint Christopher and Nevis
20. Hideyuki Koga. How to preserve meniscal function. Santy Center Orthopedique Invited lecture 2023.01.12 Lyon, France
21. Tomomasa Nakamura. Meniscus Functional Preservation using Centralization. Meniscus Centralization International Conference 2023.01.08 Changsha, China

1. 雨宮　正樹. あなたは HTO 派？ DTO 派？ 内側開大式高位脛骨骨切り術における膝蓋大腿関節への対応. 第 1 回日本膝関節学会 2023.12.09 横浜市
2. 古賀英之. ACL graft failure に対する治療戦略 〜ACL はどう再建するの？ 治すのは ACL だけ？ 〜 re-injury と failure, failure case の問題点. 第 1 回 日本膝関節学会 2023.12.08
3. 古賀英之. 膝関節機能温存に対する半月板を中心としたアプローチ. 第 1 回 日本膝関節学会 2023.12.08

4. 中川 裕介, 中村智祐, 大関信武, 星野 傑, 片倉麻衣, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 関矢 一郎, 片桐 洋樹, 古賀 英之. 前外側構成体補強術 · LET の併用は骨付き膝蓋腱を用いた ACL 再再建術の成績を向上させる. 第 1 回 日本膝関節学会 2023.12.08

5. 中村智祐. 円板状外側半月板に対する形成術 · 縫合術. 第 1 回 日本膝関節学会 2023.12.08

6. 中川裕介, 中村智祐, 大関信武, 星野傑, 片倉麻衣, 雨宮正樹, 吉原有俊, 関矢一郎, 古賀英之. TKA 後の合併症（感染 · 神経血管損傷）に対する治療戦略. 2023 年度 お茶の水膝 · スポーツ懇話会 2023.11.30

7. 中川裕介, 大関信武, 中村智祐, 片倉 麻衣, 星野傑, 雨宮正樹, 吉原有俊, 吉井俊貴, 古賀英之, 関矢一郎 . 人工膝関節周囲感染におけるエコーガイド下滑膜生検の有用性. 第 50 回 関東膝を語る会 2023.11.25

8. 古賀英之. ACL 受傷メカニズムから考える ACL 損傷予防. 第 34 回　日本臨床スポーツ医学会学術集会 2023.11.11

9. 中川裕介, 中村智祐, 大関信武, 星野傑, 片倉麻衣, 雨宮正樹, 吉原有俊, 関矢一郎, 古賀英之. 人工膝関節全置換術後のスポーツ活動. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術集会 2023.11.11

10. 吉田　龍, 大関 信武, 安斎 健太朗, 池田 達宣, 秀 恵輔, 柳下 和慶, 古賀　英之. ラグビーリーグワン Division3 の 1 チームにおける脳振盪の発生率. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術集会 2023.11.11

11. 宮武和正, 神野哲也, 小谷野岳, 谷口直史, 富沢一生, 羽山哲生, 渡曾恵介. 変形性股関節症診療ガイドライン改訂に向けて 第 2 章『病態』改訂のポイント. 第 50 回　日本股関節学会学術集会 2023.10.26

12. 天野祐輔, 高田亮平, 宮武和正, 神野哲也, 吉井俊貴, 古賀英之. 3D ポーラスカップを用いた人工股関節全置換術における術中の寛骨臼側インプラント周囲骨折の発生頻度. 第 50 回　日本股関節学会学術集会 2023.10.26

13. 片倉麻衣. 英国で学んだバレエ団のヘルスケアサポートと日本での応用の可能性. 第 48 回 日本足の外科学会学術集会 2023.10.26

14. 片倉麻衣. Lapidus 術後に長母趾伸筋腱皮下断裂を生じた SAPHO 症候群の 1 例. 第 48 回 日本足の外科学会学術集会 2023.10.26

15. 高田亮平, 天野祐輔, 宮武和正, 神野哲也, 吉井俊貴, 古賀英之. 前側方進入法による人工股関節全置換術におけるエクセターショートステムの短期成績. 第 50 回 日本股関節学会学術集会 2023.10.26

16. 瀬川裕子, 神野哲也, 柿﨑潤, 宮武和正, 及川泰宏, 高田亮平, 橘哲也, 天野祐輔. 思春期の寛骨臼形成不全に対する手術治療の適応と成績. 第 50 回 日本股関節学会学術集会 2023.10.26

17. 古賀英之. 膝 OA 進行を予防する Centralization 法. 第 38 回 日本整形外科基礎学術集会 2023.10.19

18. 楊　暘, 宮武 和正, 中川 裕介, 中村 智祐, 片桐 洋樹, 高田 亮平, 片倉 麻衣, 辻 邦和, 関矢 一郎, 古賀　英之. 異なる骨形態の変形性股関節症患者における滑膜組織との関連. 第 38 回 日本整形外科基礎学術集会 2023.10.19

19. 白畑　航, 高田 亮平, 渡部 直人, 宮武 和正, 佐藤 彩美, 峯岸 香奈子, 吉井 俊貴, 古賀 英之. 経頭蓋電気運動誘発電位モニタリングを用いた仰臥位と側臥位における人工股関節全置換術中の大腿神経電位の比較. 第 38 回 日本整形外科基礎学術集会 2023.10.19

20. 吉田 龍, 中川 裕介, 中村 智祐, 宮武 和正, 片桐 洋樹, 片倉 麻衣, 山下 理子, 關 良太, 関矢 一郎, 辻 邦和, 古賀　英之. グラフトバンコマイシンプレソークはグラフト骨孔治癒に悪影響を与えなかった -ラット前十字靭帯再建モデルでの検討-. 第 38 回 日本整形外科基礎学術集会 2023.10.19

21. 大関 信武, 星野 傑, 古賀 英之, 山下 茂雄, 荒川 玲, 長橋 光行. プロ野球選手の運動機能低下における医師とトレーナーの連携. 第 50 回日本肩関節学会学術集会 2023.10.13

22. 古賀英之. 半月板損傷に対する外科的治療の発展. 秋田県整形外科医会 2023.10.07

23. 古賀英之. meniscus centralization. 第 1 回 旭川スポーツ医科学カンファレンス 2023.09.23

24. 片倉麻衣. 足関節内側の靱帯や関節包の解剖学的特徴. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.22

25. 德本泰將, 雨宮 正樹, 中村 智祐, 大関 信武, 中川 裕介, 片倉 麻衣, 星野 傑, 吉原 有俊, 関矢 一郎, 吉井 俊貴, 古賀 英之. 内側開大式高位脛骨骨切り術後に著明な膝蓋骨低位と屈曲制限が 生じ脛骨粗面移行術を施行した 1 例. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.22

26. 高田亮平, 杉田直彦, 天野祐輔, 宮武和正, 神野哲也, 吉井俊貴, 古賀英之. 非侵襲ピンレス AR ナビゲーション OrthoPanther の成績 · 利点 · 欠点. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.22

27. 古賀英之. 半月板縫合術の実際. JSOA カダバーセミナー 2023.08.24

28. 中川裕介. 膝関節手術と骨粗しょう症治療　- Make it better? - . 第 1 回 名古屋運動器セミナー 2023.08.09

29. 古賀英之.　初期変形性膝関節症に対する関節温存のためのアプローチ.　第 117 回　高知整形外科集談会 2023.07.15

30. 大関 信武, 古賀 英之, 中村 智佑, 中川 裕介, 星野 傑, 片倉 麻衣, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 関矢 一郎. Osgood-Schlatter 病に対する fusion imaging を用いた超音波アシスト下骨片摘出術.　第 34 回日本整形外科超音波学会 2023.07.08 港区

31. 吉原 有俊 , 中村 智祐, 大関 信武, 中川 裕介, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 德本 泰將, 関矢 一郎, 古賀 英之. 当院における半月板再建治療. 第 21 回 膝と歩む会 2023.07.04

32. 吉原 有俊 , 中村 智祐, 大関 信武, 中川 裕介, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 古賀 英之.　後外側支持機構 (PLC) 再建、後斜走靱帯 (POL) 再建を併用した後十字靭帯 (PCL) 再建術の臨床成績 . 第 1 回　日本スポーツ整形外科学会 2023.07.01

33. 星野傑. ラット筋挫傷モデルにおいて高気圧酸素療法は、アイシングと温熱療法の効果を同時に達成する. 日本スポーツ整形外科学会 2023 2023.06.30 広島市

34. 雨宮　正樹. 外側半月板切除後のスポーツ復帰に向けた再手術例の治療成績. 日本スポーツ整形外科学会 2023 2023.06.30 広島市

35. 中村智祐. 半月板機能温存を支える鏡視下 centralization 法. 第 1 回　日本スポーツ整形外科学会 2023.06.30

36. 片倉麻衣. 無症状プロバレエダンサーの足部足関節 MRI 所見とその後 1 年の症状との関連の検討. 第 1 回 日本スポーツ整形外科学会 2023.06.30

37. 古賀英之. 半月板損傷治療の伝承と革新. 第 1 回　日本スポーツ整形外科学会 2023.06.29

38. 中川 裕介, 長谷川翔一, 吉原 有俊, 中村 智祐, 林 将也, 吉村 秀哉, 長瀬 寅, 古賀 英之, TMDU MAKS group. ACL 再建術後 1 年の患者立脚型評価によるスポーツパフォーマンスに与える因子の検討—東京医科歯科大学多施設共同研究. 第 1 回　日本スポーツ整形外科学会 2023.06.29

39. 星野傑. PJI シリコンモールド鋳型を使用した抗生剤入りセメントインプラントによる人工膝関節骰換 術後感染例の治療成績. 第 46 回日本骨 · 関節感染症学会 2023.06.24 津市

40. 古賀英之. 初期変形性膝関節症に対する外科的治療の最前線. 第 18 回 佐賀関節外科研究会 2023.06.23

41. 瀬川裕子, 柿﨑潤, 及川泰宏, 佐久間昭利, 宮武和正, 山口玲子, 山本皓子, 都丸洋平, 亀ヶ谷真琴, 西須孝. 大腿骨近位部の変形矯正治療に難渋している線維性骨異形成症の 2 例. 第 62 回 日本小児股関節研究会 2023.06.22

42. 宮武和正. APS 療法の基礎的知見と当院における変形性股関節症に対する導入の工夫. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.13

43. 高田亮平, 渡部直人, 宮武和正, 杉田直彦, 神野哲也, 吉井俊貴, 大川淳, 古賀英之. 非侵襲 AR ナビゲーションシステム Ortho Panther を用いた人工股関節全置換術のカップ設置精度. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.13

44. 吉田 龍, 中川 裕介,　吉原 有俊,　雨宮 正樹,　片倉 麻衣,　星野 傑,　大関 信武,　中村 智祐,　吉井 俊貴,　関矢 一郎,　古賀　英之. 前十字靱帯再建術後の膝蓋下脂肪体線維化は短期臨床成績を悪化させる. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.13

45. 古賀 英之, 中村智祐, 中川裕介, 大関信武, 吉井俊貴, 関矢一郎. 逸脱半月板に対する centralization 法の効果と問題点. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11

46. 片倉麻衣, Clark Richard,　Lee Justin,　Mitchell Adam,　Shaw Joseph,　Kelly Shane,　Calder James. 無症状プロバレエダンサーの足部足関節 MRI 所見の検討. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11

47. 片倉麻衣, 古賀英之, 吉井俊貴. 試行錯誤のイギリス留学　足の外科とダンス医学の出会いと学び. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11

48. 中村智祐, 關 良太, 吉原 有俊, 雨宮 正樹, 星野 傑, 片倉 麻衣, 中川 裕介, 大関 信武, 関矢 一郎, 吉井 俊貴, 古賀 英之. ACL 再建術時の LM centralization による膝関節回旋制動効果 —3 軸加速度計を用いた検討—. 第 96 回　日本整形外科学会学術総会 2023.05.11

49. 白畑　航, 中川 裕介, 中村 智祐, 大関 信武, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀　英之. 人工膝関節置換術患者における術前 CSI 高値は術後 1 年の遺残疼痛に関連する因子である. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11

50. 吉原有俊, 雨宮 正樹, 星野 傑, 片倉 麻衣, 中川 裕介, 大関 信武, 中村 智祐, 関矢 一郎, 吉井 俊貴, 大川 淳, 古賀 英之. 術前 MRI 画像所見の組み合わせによる LMPRT の診断精度. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11

51. 中川 裕介, 長谷川翔一, 吉原 有俊, 大原 敏之, 中村 智祐, 林 将也, 吉村 秀哉, 長瀬 寅, 大川淳, 古賀 英之 . ACL 再建術後 1 年の膝伸展筋力に関わる因子の検討—東京医科歯科大学多施設共同研究（TMDU MAKS Study）. 第 1 回　Meet up ビッグデータ活用に係る研究提案の 研究成果報告会 2023.04.26

52. 古賀英之. 半月板損傷に対する治療の最前線. 神奈川東部整形外科医療連携の会 2023.03.30

53. 白畑　航, 中川裕介, 宮武和正, 中村智祐, 片倉麻衣, 星野傑, 雨宮正樹, 吉原有俊, 吉井俊貴, 大川淳, 古賀英之. 人工関節周囲感染の治療. 第 63 回 関東整形災害外科学会 2023.03.24

54. 片倉麻衣. バレエダンサーの足部足関節傷害と治療の工夫. 第 13 回 日本ダンス医科学研究会 2023.03.19

55. 古賀英之. 初期変形性膝関節症患者のスポーツ復帰. 舞鶴整形外科エキスパートセミナー 2023.03.03

56. 古賀英之. 初期変形性膝関節症に対するスポーツ復帰を目指したアプローチ. 第 21 回 徳島スポーツ整形外科研究会 2023.02.18

57. 宮武和正, 高田亮平, 渡部直人, 天野祐輔, 瀬川裕子, 神野哲也, 吉井俊貴, 大川淳, 古賀英之. 人工股関節全置換術術後における転院予測因子. 第 53 回 日本人工関節学会 2023.02.17

58. 高田亮平, 渡部直人, 宮武和正, 神野哲也, 瀬川裕子, 吉井俊貴, 大川淳, 古賀英之.　非侵襲 AR ナビゲーションシステム Ortho Panther を用いた人工股関節全置換術のカップ設置精度. 第 53 回 日本人工関節学会 2023.02.17

59. 高田亮平. 仰臥位前側方進入法におけるセメントステム導入のノウハウ. 第 53 回 日本人工関節学会 2023.02.17

60. 白畑　航, 中川 裕介, 中村 智祐, 大関 信武, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 関矢 一郎, 古賀　英之. 人工膝関節置換術患者における術前 CSI 高値は術後 1 年の遺残疼痛に関連する因子である. 第 53 回 日本人工関節学会 2023.02.17

61. 中川裕介, 中村智祐, 大関信武, 星野 傑, 片倉 麻衣, 雨宮正樹, 吉原有俊, 関矢一郎, 古賀英之. 新規人工膝関節再置換術用インプラント Persona Revision Knee System を用いた人工膝関節再置換術の短期成績. 第 53 回 日本人工関節学会 2023.02.17

62. 中川裕介, 中村智祐, 大関信武, 星野 傑, 片倉麻衣, 雨宮正樹, 吉原有俊, 関矢一郎, 古賀英之 . Initia Total Knee System の短期成績. 第 53 回 日本人工関節学会 2023.02.17

63. 渡部直人, 小川貴久, 高田亮平, 天野祐輔, 神野哲也, 吉井俊貴, 大川淳, 古賀英之, 宮武和正. 傾向スコアマッチングを用いた骨粗鬆症および高ホモシステイン血症が人工股関節全置換術術中の人工股関節周囲骨折に与える影響. 第 53 回　日本人工関節学会 2023.02.17

64. 古賀英之. 変性半月板損傷に対する治療戦略 -変形性関節症進行を予防するために-. 第 45 回 神奈川県西湘地区整形外科研究会 2023.02.16

65. 雨宮 正樹. 外側支帯解離術併用の有無による開大式高位脛骨骨切り術後の膝蓋大腿関節の比較. 第 8 回関東 Knee Osteotomy 研究会 2023.01.21 千代田区

66. 片倉麻衣. 診察室できっと役立つダンス医学の知識. 第 19 回 足の病気の専門家 web セミナー 2023.01.20

67. 中川裕介. Initia を用いた TKA 患者満足度向上の為の手術手技. Knee セミナー 2023.01.13

[その他業績]

1. 日本スポーツ医学財団　2022 年度助成（片倉麻衣）, 2023 年
   日本スポーツ医学財団　2022 年度助成（片倉麻衣）

2. Tears in Tokyo: Muscle–tendon injuries during Olympic competition can spell heartbreak(Hideyuki Koga), 2023 年 01 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

3. 東京五輪出場選手の肉離れ 東京医科歯科大など精査 腱実質部損傷で成績急降下　(古賀英之, 片桐洋樹）, 2023 年 01 月
   科学新聞

4. 東京２０２０夏季五輪出場選手の肉離れの発生率と成績を調査 筋損傷が腱実質部に至るか至らないかが競技結果に影響　（古賀英之, 片桐洋樹）, 2023 年 01 月
   官庁通信社

5. Athletes unable to continue competing in the Olympic Games when they sustain muscle-tendon injuries　（Hideyuki Koga), 2023 年 01 月
   News-Medical.net

6. 科学研究費助成事業 基盤 C (中村智祐）, 2023 年 04 月
   「大動物を用いた膝屈筋腱による半月板再建の関節内成熟過程の解明」

7. 科学研究費助成事業 若手（B）（高田亮平）, 2023 年 04 月
   「人工股関節のための最新非侵襲スマートフォン型手術ナビゲーションの開発と検証」

8. 科学研究費助成事業 若手（磯野正晶）, 2023 年 04 月
   「膝滑膜に存在する間葉系幹細胞の微小環境における CD44 分子の生理機能解析」

9. 名医が選んだ最強の名医　（古賀英之）, 2023 年 06 月
   週刊ポスト

10. 研究費獲得　東工大 · 医科歯科大学マッチングファンド （中川裕介）, 2023 年 07 月
    装着型の腕振りアシストロボット WALK-MATE ROBOT を用いた人工膝関節置換術患者の歩行トレーニング

11. 東工大 · 医科歯科大学マッチングファンド（片倉麻衣）, 2023 年 08 月
    MRI 高分解能 3 D-T1 強調像を用いたバレエダンサーの足関節底屈動作の骨運動 3 D 解析

病態生化学分野

Department of Biochemistry

教授 渡部 徹郎
准教授 横山 三紀
助教 井上 Katarzyna Anna、小林 美穂
技術補佐員 内藤 恵
非常勤講師 吉松 康裕、石原 純、井神 優太、弓削 進弥
連携研究員 高橋 和樹、寺澤 和恵
大学院生 齋藤 万樹、藤原 花汐、勝又 寿枝、芝尾 法子、廣瀬 穂香、Qianqian Miao, Lu Jin

(1) 分野概要

がんは依然として日本における死因のトップであり、有効な治療法の開発は急務であるす。近年では腫瘍ががん細胞を中心として血管や間質などの多種類の細胞から微小環境を形成していることが明らかになり、治療の標的も多岐にわたりつつある。我々はがん細胞が悪性化して遠隔臓器へと転移する機構を明らかにすることにより、新規分子標的治療法の開発を目指している。さらに、がん微小環境におけるがん細胞以外の腫瘍血管・リンパ管やが ん間質の形成の機構を解明することによって、がんの複合的な新規治療法の開発を試みている。

(2) 研究活動

(1) 内皮間葉移行 (EndMT) によるがん間質の形成機構の解明 腫瘍組織における「がん間質」に存在する「がん関連線維芽細胞 (CAF)」にはがん細胞の増殖と悪性化を誘導 することが明らかとなっているため、その生成機構の解明は重要な意義を持つ。近年 CAF の約 3 割が血管内皮 細胞から内皮間葉移行 (endothelial-to-mesenchymal transition: EndMT) という過程を経て生成することが報告 されたことから、がんの悪性化における EndMT の重要性に注目が集まっている。私たちはさまざまな種類の血 管内皮細胞が腫瘍微小環境において豊富に存在する transforming growth factor (TGF)-β により間葉系細胞へと 分化することを見出してきた (第 75 回日本癌学会にて発表)。本分野においては、TGF-β による EndMT の誘導 を調節する新たな因子の同定を試みるとともに、EndMT により生成した間葉系細胞において発現するマーカーの 系統的探索を行う。EndMT はがん以外でも心疾患や糖尿病など患者数が多い疾患の悪性化因子であることが明 らかとなっているので、得られた知見はこうした疾患の治療法の開発に役立つことが期待される。
(2) 腫瘍血管・リンパ管を標的としたがんの進展と転移の抑制への試み 血管は全身に分布し、末梢組織へ酸素と栄養分を供給したり、組織の老廃物の廃棄などという重要な役割を果 たしている。この血管系とは別に組織液の排水路を形成するものがリンパ管であり、末梢組織において毛細リン パ管は血管から漏出した間質液などを吸収し，血管へと戻すことにより体液の恒常性の維持を行っている。一方、 がん細胞が増殖する際に必要な酸素や栄養分を供給するために、腫瘍血管の新生は必須である。また、がん細胞 が肺や肝臓などの遠隔臓器へ転移する際に血管とリンパ管は主要な経路となる。以上の理由から血管・リンパ管 はがん治療の重要な標的となっており、すでに血管内皮増殖因子 (VEGF) に対する抗体などは臨床応用されてい る。しかし、腫瘍によっては VEGF シグナルの阻害が腫瘍血管抑制に有効でない場合もあり、血管・リンパ管 形成を調節するシグナルの解明は重要な意義を持っている。我々は TGF-β や骨形成因子 (bone morphogenetic protein: BMP) が血管・リンパ管の形成を調節することを報告してきた。本分野では BMP シグナルを抑制する ツールの開発などを通じて、これまでの基礎研究の成果を応用に活かしていくことを試みている。加えて我々は、 血管・リンパ管新生の負の調節因子である vasohibin-1(VASH1) が、血管新生を抑制する分子メカニズムを解明 した。本分野では VASH1 の機能解析を通じて、腫瘍進展の抑制を目指した基礎研究を進めている。
(3) がん細胞の悪性化機構の解明
生体支持組織学講座
生体支持組織学講座

がん微小環境において豊富に存在する TGF-β は、がん細胞の上皮間葉移行 (Epithelial-Mesenchymal Transition: EMT) を引き起こすことにより、がんの悪性化、特にがん細胞の浸潤・転移を促進することが明らかとなっている。口腔がんにおいても、遠隔臓器への転移が予後不良因子であるが、その悪性化機構には未解明な部分が多く残されている。我々は、様々な培養細胞そして個体レベルの解析を通じて、口腔がんの悪性化機構を明らかにしてきた。現在、TGF-β シグナルにより発現が変動する遺伝子の解析を通じて、新たな治療標的の同定を試みている。

(4) 脱チロシン化酵素 VASH1 の生理的役割の解明

VEGF 刺激により内皮細胞において発現が誘導される VASH1 が、脱チロシン化酵素であるとして再同定され た。脱チロシン化は微小管の翻訳後修飾の一つであり、細胞分裂時のクロモゾーム分配や心筋の機能的拍動など 様々な生理現象において重要な役割を果たすことが分かっている。我々は、VASH1 の生理的機能における脱チロ シン化酵素としての役割を分子的に解明することを目指して基礎研究を進めている。

(5) シャペロン依存性オートファジーの分子機構: 非天然アミノ酸導入を用いた LAMP2A のアセンブリの解析 細胞内の恒常性維持には不要なタンパク質が適切に除去されるしくみが不可欠である。細胞内におけるタンパク 質分解反応には大別するとリソソームを介する経路とプロテアソームを介する経路がある。リソソームを介する 経路では多くの場合、分解されるタンパク質を含んだ小胞 (エンドソーム・ファゴソーム・オートファゴソームなど) とリソソームが融合する。これに対してシャペロン依存性オートファジー (Chaperone-mediated autophagy, 以下 CMA と略記) は分解されるタンパク質がシャペロンによってリソソーム膜上に運ばれ直接リソソーム内に取 り込まれるというユニークな様式をもつ。CMA は血清除去に伴い活性化される現象として発見されたが、近年で は胚性幹細胞の多分化能維持や造血幹細胞の機能維持に CMA が重要な役割を果たすことが報告されている。一 方 CMA の機能不全は神経変性疾患や筋疾患の原因となり、逆にがんでは過度な CMA が悪性化を引き起こすこ とが指摘されている。しかし CMA の機能的重要性の研究は進展しているのに対して CMA の分子機構には未解 明な部分が多く残されている。

Lysosomal-associated membrane protein 2A (LAMP2A) は CMA において基質タンパク質・シャペロンがリソソーム膜に結合する足場となる。LAMP2A はリソソーム膜に豊富に存在する 1 回膜貫通型の糖タンパク質である。LAMP2A のタンパク質の大部分はリソソームの内腔側に存在し、細胞質側に突き出したわずか 11 アミノ酸残基の短いペプチド部分が足場となる。LAMP2A の内腔側は二つの相同なサブドメインから構成されており、私達は結晶構造解析によりサブドメインがユニークな三角柱の構造をとることを報告した (BBRC, 2016)。しかし LAMP2A の分子全体がどのような構造をとって足場を提示するかは不明だった。

CMA における LAMP2A の役割の構造基盤を得るために、拡張遺伝暗号を用いた部位特異的な非天然型アミノ酸導入技術 (理化学研究所との共同研究) を用いて LAMP2A 同士のリソソーム膜上での相互作用の解析をおこなった。その結果 LAMP2A は膜に近いサブドメインの三角柱の特定の面を向かい合わせた構造をとること、この構造がとれない場合には CMA 活性が低下すること、を明らかにした。この結果はリソソーム内腔側での LAMP2A 同士の相互作用が足場となる短いペプチド部分を一定の配置でリソソーム膜上に提示することを示唆し、LAMP2A を軸とした CMA の分子機構解明の大きな手がかりとなると考えている (Autophagy, 2021)。

また CMA において直接の相互作用が証明されていなかった LAMP2A とシャペロン Hsc70 との架橋形成を示すことに成功した (ECR, 2022)。

(6) ヘパラン硫酸プロテオグライカン、エクソソーム、上皮間葉移行 がんの転移は生命予後を決める最も重要な因子である。がんに由来する細胞外小胞 (エクソソーム) は転移の異な る段階において重要な役割を果たす。がん由来エクソソームは上皮間葉移行の誘導、浸潤、運動、血管新生の亢進 を介してがんの悪性化に関与する。ヘパラン硫酸プロテオグライカン (HSPGs) は細胞表面に存在して細胞外から のリガンドに対する受容体となる。HSPG に依存するシグナルはがんの増殖、血管新生、転移を制御する。HSPG はがん由来エクソソームの形成と細胞内への取り込みに関与することが示唆されているが詳細は明らかになってい ない。そこで HSPG の関与に注目してがん由来エクソソームに含まれる分子を明らかにし、がん由来エクソソー ムと標的細胞との相互作用・細胞内移行に関与するタンパク質の同定を目指す。

(3) 教育活動

学部教育では、歯学部歯学科の第 2 学年のモジュール「生命の分子的基盤」のユニットの中で、「細胞機能の分子的基盤」および「生命の分子的基盤実習」を担当した。「細胞機能の分子的基盤」では生体膜の構造と機能および膜輸送、細胞内物質輸送、細胞外マトリックス、細胞骨格に関わる分子の構造・機能および制御についての講義を おこなった。また「生命の分子的基盤実習」を指導した。ボーダレス講義「がん制御の基礎からのアプローチ」を おこなった。口腔保健衛生専攻の 1 年生「栄養と代謝」の講義 (生体の構成要素、糖質と脂質の代謝、生体におけ る恒常性の維持) を担当した。

大学院教育では博士課程講義として研究の進め方について、さまざまな実例を示すことを目的とし、細胞外マトリックスに関連した講義をおこなった。

(4) 教育方針

学部教育では学生が生体高分子の構造と機能に基づいて細胞機能を理解できるよう、生化学の基礎知識を習得させる。大学院教育においては、細胞機能を分子レベルで理解するために必要な実験手法と能力をもつ人材を育成する。

(5) 研究業績

[原著]

1. Kazue Terasawa, Tatsuro Seike, Kensaku Sakamoto, Kazumasa Ohtake, Tohru Terada, Takanori Iwata, Tetsuro Watabe, Shigeyuki Yokoyama, Miki Hara-Yokoyama. Site-specific photo-crosslinking/cleavage for protein-protein interface identification reveals oligomeric assembly of lysosomal-associated membrane protein type 2A in mammalian cells. Protein Sci. 2023.12; 32(12); e4823

2. Shiori Tokizaki, Katarzyna A Podyma-Inoue, Takehisa Matsumoto, Kazuki Takahashi, Miho Kobayashi, Haruka Ibi, Shizuka Uchida, Sadahiro Iwabuchi, Hiroyuki Harada, Shinichi Hashimoto, Kohei Miyazono, Mikako Shirouzu, Tetsuro Watabe. Inhibition of transforming growth factor-β signals suppresses tumor formation by regulation of tumor microenvironment networks. Cancer Sci. 2023.11;

3. Kazuki Takahashi*, Miho Kobayashi*, Hisae Katsumata, Shiori Tokizaki, Tatsuhiko Anzai, Yukinori Ikeda, Daniel M. Alcaide, Kentaro Maeda, Makoto Ishihara, Katsutoshi Tahara, Yoshiaki Kubota, Fumiko Itoh, Jihwan Park, Kunihiko Takahashi, Yukiko T. Matsunaga, Yasuhiro Yoshimatsu, Katarzyna A. Podyma-Inoue, Tetsuro Watabe (*: equally contribution). CD40 is expressed in the subsets of endothelial cells undergoing partial endothelial-mesenchymal transition in tumor microenvironment. Cancer Science. 2023.11; 115(2); 490-506

4. Tetsuro Watabe, Kazuki Takahashi, Kristian Pietras, Yasuhiro Yoshimatsu. Roles of TGF-β signals in tumor microenvironment via regulation of the formation and plasticity of vascular system. Seminars in Cancer Biology. 2023.07; 92; 130-138

5. Saranya Serirukchutarungsee, Ippei Watari, Masataka Narukawa, Katarzyna Anna Podyma-Inoue, Pornchanok Sangsuriyothai, Takashi Ono. Two-generation exposure to a high-fat diet induces the change of salty taste preference in rats. Sci Rep. 2023.04; 13(1); 5742

[総説]

1. 小林 美穂, 藤原 花汐, 高橋 和樹, 吉岡 祐亮, 落谷 孝広, 井上 カタジナアンナ, 渡部 徹郎. 口腔がん細胞由来エクソソームによる内皮不安定化機構 リンパ学. 2023.06; 46(1); 7-12

[講演・口頭発表等]

1. Tetsuro Watabe. Targeting tumor microenvironment networks for developing novel therapeutic strategies. FAOPS 2023 (The 10th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies Congress) 2023.11.01 Daegu

2. Halder Semanti, Yasuyuki Hanada, Yuka Ozeki, Honami Ogo, Yumi Omine, Katarzyna Inoue, Tetsuro Watabe, Akiyoshi Uemura and Koichi Nishiyama. Endothelial cell-pericyte interaction facilitates the establishment of vascular basement membrane with type-4 collagen deposition via Tgfb2-Alk5 in angiogenesis. The 96th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society 2023.11.01 Fukuoka

3. Katarzyna A. Inoue, Kazuki Takahashi, Maki Saito, Shintaro Sakakitani, Keita Iida, Sadahiro Iwabuchi, Daizo Koinuma, Toru Konishi, Susumu Tanaka, Atsushi Kaida, Masahiko Miura, Shinichi Hashimoto, Mariko Okada, Toshihiro Uchihashi, Kohei Miyazono, Tetsuro Watabe. TGF-β confers cancer cells with the high motility and metastatic potential via induction of Slug/HMGA2-independent EMT. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2023.09.23 Yokohama

4. Miho Kobayashi, Honoka Hirose, Masanori Nakayama, Tetsuro Watabe. Attenuation of the stress response is involved in the age-related reduction of microvascular density. Asia-Australia Vascular Biology Meeting 2023 (AAVBM2023) 2023.09.14 Korea

5. Kazuki Takahashi, Miho Kobayashi, Hisae Katsumata, Yukinori Ikeda, Tatsuhiko Anzai, Katarzyna A. Podyma-Inoue, Daniel M Alcaide, Kentaro Maeda, Jihwan Park, Kunihiko Takahashi, Yukiko Matsunaga, Yasuhiro Yoshimatsu, Tetsuro Watabe. Endothelial-mesenchymal transition (EndoMT) reporter cells visualized multiple groups of cells during progression of TGF-β induced EndoMT. Asia-Australia Vascular Biology Meeting 2023 (AAVBM 2023) 2023.09.14 Seoul, Korea

6. Tetsuro Watabe. Characterization of TGF-β-induced partial endothelial-mesenchymal transition (EndoMT) using EndoMT reporter cells.. TGF β meeting 2023 2023.08.17 Uppsala

7. Katarzyna Inoue. Inhibition of TGF-β signals by a chimeric Fc receptor suppresses tumor formation by regulation of tumor microenvironment networks. TGF β Meeting 2023.08.17 Uppsala, Sweden

1. 小林 美穂, 廣瀬 穂香, 中山 雅敬, 渡部 徹郎. 加齢に伴う微小血管密度の低下におけるストレス応答性の役割. 第 31 回日本血管生物医学会学術集会（CVMW2023） 2023.12.10

2. 宮本　佑馬、山口　昇真、清家　達朗、渡部　徹郎、横山　三紀、鳥越　秀峰. シャペロン介在性オートファジー機構を利用した標的蛋白質を人工的に分解する新規手法の開発. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.08

3. 廣瀬 穂香, 小林 美穂, 中山 雅敬, 渡部 徹郎. 加齢に伴う微小血管密度減少と血管内皮細胞のストレス耐性の関係. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.07

4. 小林 美穂, 藤原 花汐, 廣瀬 穂香, 鈴木 康弘, 小林 ゆめ, 中山 雅敬, 佐藤 靖史, 渡部 徹郎. α-チューブリンの脱チロシン化によるシグナル伝達調節がもたらす生理的役割 . 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.06

5. 小林 美穂, 高橋 和樹, 藤原 花汐, 吉岡 祐亮, 落谷 孝広, 井上 カタジナアンナ, 渡部 徹郎. 口腔がん細胞が放出する細胞外小胞を介した血管不安定化の分子機構. 第 96 回日本生化学会大会 2023.11.02

6. 清家　達朗、寺澤　和恵、坂本　健作、大竹　和正、寺田　透、渡部　徹郎、横山　茂之、横山　三紀. シャペロン依存性オートファジーの必須因子である LAMP2A 分子の多量体形成. 第 96 回日本生化学会大会 2023.11.02 福岡国際会議場

7. 渡部　徹郎. がん微小環境ネットワークを制御するシグナルを標的とした治療法の開発. 第 64 回日本脈管学会学術総会 2023.10.26 横浜

8. 小林 美穂. 口腔がん細胞由来細胞外小胞による血管不安定化の分子機構. 第 10 回日本細胞外小胞学会学術集会 2023.10.23

9. 渡部　徹郎. がんの進展における内皮間葉移行の役割. 第 82 回日本癌学会学術総会 2023.09.22 横浜

10. 高橋 和樹、勝又 寿枝、小林 美穂、時崎 詩織、池田 行徳、前田 健太郎、井上 カタジナアンナ、松永 行子、吉松 康裕、渡部 徹郎. TGF-βによる内皮間葉移行 (EndoMT) の段階的遷移を EndoMT レポーター内皮細胞は可視化した. 第 82 回日本癌学会学術総会 2023.09.21 横浜市

11. 時崎 詩織、井上 カタジナアンナ、高橋 和樹、小林 美穂、松本 武久、白水 美香子、内田 靖哉、岩淵 禎弘、橋本 真一、原田 浩之、宮園 浩平、渡部 徹郎. TGF-βシグナルの阻害による腫瘍微小環境ネットワークの制御による腫瘍形成の抑制. 第 82 回日本癌学会学術総会 2023.09.21 横浜市

12. 飯田　さくら、渡部　徹郎、横山　三紀. ラクトシルセラミドによるタイトジャンクション構成因子クローディン-11 の制御. 第 65 回歯科基礎医学会学術大会 2023.09.16 日本大学歯学部

13. 渡部　徹郎. がん進展における血管恒常性破綻が果たす役割. 日本血管生物医学会 第 3 回血管研究会 2023.07.30 東京

14. 渡部　徹郎. がん進展における血管恒常性破綻が果たす役割 . 第 3 回動的恒常性研究会 2023.07.14 京都

15. 渡部　徹郎. 脈管の恒常性維持とその破綻における TGF-βシグナルの役割. 第 55 回日本動脈硬化学会総会 · 学術集会 2023.07.09 宇都宮

16. 小林 美穂, 廣瀬 穂香, 小林 ゆめ, 渡部 徹郎. 微小管の翻訳後修飾と細胞内輸送のダイナミクス. 第 75 回 日本細胞生物学会大会 2023.06.28 奈良

17. 渡部　徹郎. 健康寿命延伸におけるリンパ管制御の意義. 第 23 回日本抗加齢医学会総会 2023.06.10 東京

18. 小林 美穂. 加齢に伴う脈管減少の分子機構. 第 47 回 日本リンパ学会総会 2023.06.10 浜松

19. 高橋 和樹, 勝又 寿枝, 小林 美穂, 前田 健太郎, 吉松 康裕, 松永 行子, 渡部 徹郎. 内皮間葉移行 (EndoMT) レポーター内皮細胞を用いた EndoMT 遷移段階の可視化. 第 47 回 日本リンパ学会総会 2023.06.09 浜松
20. 小林 美穂. 健康寿命延伸における血管と微小管との関係. 第 8 回 血管生物医学会 若手研究会 2023.05.27 浜松
21. 渡部徹郎. がん微小環境の制御による新規治療法の開発. 第 31 回日本医学会総会 2023.04.23 東京
22. 寺澤　和恵、清家　達朗、坂本　健作、大竹　和正、寺田　透、渡部　徹郎、横山　茂之、横山　三紀. シャペロン依存性オートファジーの必須因子である LAMP2A 分子がリソソーム膜で形成する複合体の構造. 第 96 回　日本生化学会大会 2023.11.02 福岡国際会議場

[特許]

1. 老化抑制剤のスクリーニング方法, 特許番号：特許第 7232441 号

[受賞]

1. 第 8 回 血管生物医学会若手研究会 発展型セッション 優秀賞, 日本血管生物医学会, 2023 年 05 月

[その他業績]

1. Stopping the spread: targeting tumor metastasis , 2023 年 03 月
   TMDU Research Activities 2022-2023 (Research video)
   TMDU YouTube Channel
2. 学会員の論文紹介「TGF- β 刺激により転移能を持ったがん細胞が 細胞外小胞を介して正常血管の不安定化を誘導する」, 2023 年 09 月
   日本血管生物医学会　機関誌サーキュラー 19 号 p40-41
3. 「がん微小環境ネットワークを遮断することで腫瘍形成が阻害されることを発見」 —　副作用が少ない新規がん治療薬の開発に期待　—, 2023 年 11 月
   Cancer Science
4. 「　タンパク質が別のタンパク質と相互作用する部位を特定する新しい方法を開発　」 —ダノン病の治療やシャペロン依存性オートファジーのメカニズム解明への新知見—, 2023 年 11 月
   Protein Science
5. Protein secrets unveiled: Newl molecular insight of protein–protein interactions, 2023 年 12 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
6. 「がんの進展に伴う血管内皮細胞の変容（内皮間葉移行）を検出できるマーカーを発見」 —　がん微小環境を標的とした新規がん治療法の開発に期待　—, 2023 年 12 月
   Cancer Science

[社会貢献活動]

1. リンパの最新研究等について, NHK, あしたが変わるトリセツショー, 2023 年 02 月 10 日 - 2023 年 05 月 11 日
2. リンパの最新研究について, NHK, あしたが変わるトリセツショー, 2023 年 09 月 08 日 - 現在

分子情報伝達学

Cell Signaling

教授（分野長）中島友紀
助教　林幹人
助教　小野岳人

(1) 研究活動

骨代謝は、内分泌系だけでなく、免疫系のような他の生体制御系とも深く関連しながら制御されている。本分野では、骨構成細胞による骨リモデリング制御の解明、骨と多臓器の連環システムの解明を目指した研究を推進している。特にゲノムワイドなスクリーニング法や遺伝子改変マウスを用いた解析を展開し、分子生物学的な基礎研究から臨床応用研究まで幅広いテーマで研究を行っている。

1. 骨リモデリングの制御機構の解明
骨は、破壊と形成の動的な恒常性により、常に新しく作り替えている。この再構築は骨リモデリングと呼ばれ、強靭な骨組織の維持のみならず、生命維持に必須なミネラルの代謝器官である骨を巧妙に制御している。骨を構成する細胞、破骨細胞、骨芽細胞、骨細胞は、細胞間コミュニケーションによって骨リモデリングを制御しており、この制御機構の解明が様々な骨疾患を理解する上で重要な鍵となる。我々はトランスクリプトームやプロテオーム解析を展開し網羅的な遺伝子 · タンパク発現を明らかにし、骨構成細胞の分化、機能発現の解明に取り組んでいる。

2. 骨が産生するオステオカインの同定とその機能解析
これまで、骨は、主として単純に生体を支え、運動を可能にする硬い組織という認識であった。しかし、近年の研究によって、骨は能動的に全身の機能を制御している事が示唆されるようになってきた。我々は、骨産生分子が、全身性の生体システムに連関することを実証し、責任分子 (ホルモンやサイトカイン等) の同定とその機能解析を行っている。これらの解析によって、骨が多臓器を制御するネットワーク「オステオネットワーク」の全貌解明を目指している。

3. メカニカルストレス感受 · 応答分子の同定と骨制御機構の解明
「骨は力学的環境に適した形状と量に調節される」（Wolff の法則）と提唱されているが、外界からのメカニカルストレスを感受し骨形態と骨量を決定する分子機構は、殆ど解明されていない。また、骨構成細胞の 1 つである骨細胞は、その形態学的な特徴から、骨代謝を制御する指令細胞としての可能性が示唆されているが、その機能は不明である。我々は骨細胞の機能の解明、さらに骨細胞のメカニカルストレス感受 · 応答機構の解明を行っている。

4. 病態モデルを用いた治療応用の検討
細胞内シグナル伝達経路の研究の重要性は単に科学的な意義だけではない。この中から、新たな治療標的分子を見つけ、分子標的治療のモデル実験を行うことで、創薬への手がかりがつかめる。関節リウマチや骨粗鬆症のモデルマウスに対して、siRNA やウイルスベクターを用いた治療実験を行うことで、基礎研究にとどまらず臨床応用を視野にいれた研究を推進している。

(2) 教育活動

分子細胞生物学を基盤として、生体高次機能や組織形成を司る細胞内および細胞相互のシグナル伝達機構について講義する。特に、硬組織を担う骨構成細胞（破骨細胞、骨芽細胞、骨細胞）の分化機構や細胞間クロストークの制御、骨と多臓器の連環システムに焦点をあてる。また、臨床的な視点も重視し、歯周病や関節リウマチなどの炎症性骨破壊疾患や骨粗鬆症への治療応用を視野に入れたシグナル伝達についての教育を行う。

(3) 研究業績

[原著]

1. Naomi Toyama, Takehito Ono, Takashi Ono, Tomoki Nakashima. The interleukin-6 signal regulates orthodontic tooth movement and pain. Biochem Biophys Res Commun. 2023.12; 684; 149068

1. 小野 岳人. 歯科矯正治療における力学刺激と骨リモデリング 日本薬理学雑誌. 2023.05; 158(3); 258-262

2. 小野 岳人, 中島 友紀. 【最新の骨粗鬆症学 (第 2 版)-骨粗鬆症学の最新知見-】骨研究フロンティア　骨の構造と機能　骨粗鬆症における骨代謝回転 日本臨床. 2023.01; 81(増刊 1 最新の骨粗鬆症学); 58-63

[総説]

1. 小野 岳人, 中島 友紀. 骨のメカノバイオロジー BIO Clinica. 2023.04; 38(4); 303-307

2. 小野岳人、中島友紀. 骨のメカノバイオロジー BIO Clinca. 2023.04; 38(4); 21-25

3. 小野岳人、中島友紀. 骨粗鬆症における骨代謝回転 日本臨牀. 2023.01; 81(1); 58-63

[講演 · 口頭発表等]

1. Takehito Ono, Naomi Toyama, Takashi Ono, Tomoki Nakashima. IL-6 regulates orthodontic tooth movement and pain. The 71st Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research 2023.11.26 Sendai

2. Takehito Ono. Augmentation of musculoskeletal tissues by locomomimetism. The 19th Bone Biology Forum 2023.08.18 Makuhari

1. 外山 奈緒美, 小野 岳人, 中島 友紀, 小野 卓史. IL-6 シグナルは矯正歯科治療における歯の動きと痛みを制御する. 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会 2023.11 新潟

2. 劉 安豪, 林 幹人, 大杉勇人, 片桐さやか, 中島友紀, 岩田隆紀. 改良型マウス歯周炎モデルによる歯周炎発病過程の高解像度解析. 第 66 回秋季日本歯周病学会学術大会 2023.10.13 長崎

3. 劉安豪、林幹人、大杉勇人、片桐さやか、岩田隆紀、中島 友紀. 新規マウス歯周炎モデルによる歯周炎発病過程の時空間解析. 第 41 回日本骨代謝学会 2023.07.29

4. 小野 岳人. 骨が心を守るメカニズムの解明. 第 41 回日本骨代謝学会学術集会 2023.07.29 東京

5. 小野 岳人. 骨や筋の強化を介した全身の健康の向上の可能性. 第 41 回日本骨代謝学会学術集会 2023.07.28 東京

6. 劉安豪, 林幹人, 片桐さやか, 大杉勇人, 岩田隆紀, 中島友紀. 新規マウス歯周炎モデルによる歯周炎発病過程の時空間解析. 第 41 回日本骨代謝学会学術集会 2023.07.28

7. 中島 友紀. 骨リモデリングの制御機構の解明. 第 43 回日本骨形態計測学会 2023.07.01

8. 林幹人, 劉安豪, 岩田隆紀, 中島友紀. 新規マウス歯周炎モデルの時空間的解析と治療標的の同定. 第 8 回日本骨免疫学会 2023.06.26

9. 中島 友紀. 運動器リモデリングの制御機構. 第 3 回 SAMURAI 研究会 2023.03.18

10. 中島 友紀. 骨リモデリングの制御機構の解明. 第 48 回長崎骨粗鬆症研究会 2023.03.15 長崎

[受賞]

1. 生命科学研究助成, 武田科学振興財団, 2023 年 08 月

歯周病学

Periodontology

2023 年 1 月より
【主任教授】 岩田 隆紀
【歯周光線治療学担当 教授】 青木 章
【准教授】　片桐さやか
【講師】 竹内 康雄 (〜3 月), 水谷 幸嗣 (4 月〜)
【特任講師】　志村 大輔 (7 月〜)
【助教】 前川 祥吾, 三上理沙子 (4 月〜), 大杉 勇人
【特任助教】 土谷 洋輔, 岡田 宗大 (〜3 月)
【医員】 斎藤 夏実, 新見 ひろみ (〜3 月), 宮田 和樹 (〜 3 月), 伊藤 裕理 (〜3 月), 藤野 愛子 (〜3 月),
下平 剛 (4 月〜), 秤屋 雅弘 (4 月〜), 木内佑実音, 濱田 悠也, 川本 櫻子 (4 月〜), 中島 啓恵 (4 月〜),
伊藤 悠吾 (4 月〜), 五藤 早希 (4 月〜)
【学振特別研究員 PD】 吉田 澄子 (4 月〜)
【大学院生】 三神 亮 (〜3 月), 竹内 俊介 (〜3 月), 畑佐 将宏 (〜3 月), 劉 安豪, 竹村 修, 中川 佳太, 長井 貴彦,
横瀬 真子, 森田 和機 (〜3 月), 矢ヶ﨑 理紗, 林 桜, 王 嘉程, 林 培雅, 孫 士偉, 小林 龍太, 坂庭 愛理,
清家 達朗, 田畑 寛治, 豊嶋 啓汰, 山木 大地, 今井 千尋, 渡部 準也, 豊田直氣 (〜3 月), 滑文睿 (4 月〜),
清水 梓 (4 月〜), 松村 俊佑 (4 月〜), Chen Lu, Akinaga Moreira Bruna, 張 茗然, 高　婧仪,
Ye Yint Kaung Myint, Wang Wenli (10 月〜) , Jiang Hui (10 月〜)
【社会人大学院生】 木村 文彦, 平澤 以冬
【外国人特別研究員】 林 泰誠
【大学院研究生】 落合 茜, 内藤 貴大 (4 月〜), 杉本 麻里 (4 月〜) , 黄 竣揚 (4 月〜) , 渡邉 愛 (4 月〜)
【臨床教授】小林 宏明, 菊池 重成, 土岡 弘明
【非常勤講師】47 名
【研修登録医】74 名
【事務補佐員】尾高 慶子 (〜3 月), 須賀 じゅん（7 月〜）
【技術補佐員】竹下 理歳 (4 月〜)

(1) 分野概要

歯周病学とは歯周病の研究、予防及び治療を取り扱う歯科学の一部門である。歯周疾患または歯周病とは、歯の支持組織である歯肉、歯根膜、セメント質及び歯槽骨よりなる歯周組織に発症する全ての病気の総括的疾患名であるが、現在では主として慢性及び急性の炎症性疾患を指している。歯周病に関する原因論、生体応答、口腔細菌、全身との関係および組織再生等についてより深く教育する。また、歯周組織の破壊過程に関する研究成果を通じて、新しい治療法の開発を行う。

(2) 研究活動

「歯周炎における免疫炎症にかかわる研究」
　歯周疾患は、個体によりその罹患進行度は異なるがその理由はいまだよく分かっていない。歯周病原細菌の感染から発症までのメカニズム、そして、その過程にある PAMPs、DAMPs に対する免疫応答と炎症反応は複雑であり、不明な点が多い。歯周炎において、反応の個体差を論じる上で大きなものは遺伝的な要因であるため、当分野では歯周炎患者における遺伝子研究を進めている。また唾液や血液などを用いて歯周炎をモニタリングし。唾液中の歯周病原細菌量の定量と血液中の血漿抗体価測定により、歯周炎患者のメインテナンスの状況の把握を試みている。また、唾液のみで歯周炎患者のスクリーニングが出来ないかという発想のもと歯周病の進行度を測定できるロジックを開発した。さらに、歯周炎の発症進行に係わる因子や抗体による交差反応について研究を進め、

バージャー病との関連、早期低体重児との関連などを明らかにしている。

「歯周病 · インプラント周囲疾患における細菌の関与」
Red Complex（*P. gingivalis*、*T. forsythia*、*T. denticola*）など数種の特定細菌種が歯周病の発症や進行に強く関わる因子として注目されてきた。しかし近年では、細菌叢内の共生バランスの乱れや細菌間の相互作用によりその発症や進行が規定されるとの考え方（Polymicrobial synergy and dysbiosis）が提唱されはじめた。
· 歯周病における Red complex の関わり
わが国において歯周病原細菌の保菌率に関し大規模な疫学的研究データはこれまでなかったが、大規模な患者群に対し qPCR 法を用いて Red Complex 細菌の検索を行い、Red complex と歯周組織破壊を示す臨床パラメータと関連が高いことが明らかとなった。また Red complex 3 菌種のもつ病原遺伝子機能は宿主に抵抗する協力関係にあること、さらに代謝経路物産生系の遺伝子を 3 菌種で補完するという協力関係が、歯周病態の増悪に関わる酪酸合成経路を含め、多数の代謝経路で認められることを明らかにしている。
· 歯周病 · インプラント周囲疾患関連細菌叢の網羅的解析
シークエンス技術を用いて歯周炎やインプラント周囲炎における細菌 DNA 塩基配列を網羅的に解析したところ、両疾患で細菌叢組成に多くの共通点が認められた一方で、コアとなる細菌種の一部に相違が認められた。さらに、よりリアルタイムに炎症を反映する細菌種を捕らえるため細菌 RNA を用いて同様の解析を行ったところ、両疾患で関連する細菌種に相違があることが明らかとなった。
· 機能水を用いた細菌制御
細菌バイオフィルムの破壊をより効果的に行う目的で、オゾンナノバブル水（NBW）の歯周治療への応用を試みている。

「歯周病と循環器疾患の関わり 」
歯周病と循環器疾患の関連が指摘されて久しい。しかしながら、両疾患の因果関係は証明されておらず歯周病と循環器疾患の間に介在する病理学的な機序の解析は、現代医学の課題である。様々な動物実験モデルを行い、腹部大動脈瘤病変に多種の歯周病原細菌がすること存在を認め、無兆候性に進行する大動脈瘤について *P. gingivalis* 感染が Toll 様受容体を介して悪化させること、心筋梗塞マウスモデルでは、*P. gingivalis* や *A. actinomycetemcomitans* により壊死範囲の拡大や心破裂につながることを示した。た。さらに、バージャー病の病変に歯周病原細菌が存在することを突き止め、*P. gingivalis* 菌による血小板凝集を介した血管疾患悪化を明らかにしていった。さらに臨床研究では、脳梗塞と腎不全の患者では *A. actinomycetemcomitans* 感染が多いこと、腹部大動脈瘤患者では歯周病の有病率が高いこと、マルファン症候群で特徴的に見られる歯周病菌感染、末梢動脈疾患を有する患者では歯の喪失が多いこと、コントロール不良の糖尿病患者での高い *P. gingivalis* 感染率などが明らかになった。

「歯周病と糖尿病、早産 · 低体重出産との関わり 」
糖尿病は慢性代謝性疾患であり、歯周病との発症メカニズムは異なるが、相互に影響すると考えられている。しかしながら、詳細なメカニズムに関しては不明の部分が多い。また近年、妊産婦の切迫早産、早産、低体重児出産と歯周病との関わりについても注目を浴びている 。
＜糖尿病＞
歯周炎を有する 2 型糖尿病患者に対して、歯周治療を行うと HbA1c が有意に低下したことを報告し、適切な歯周治療が血糖コントロールに有効であることを報告した。また、2 型糖尿病患者において内科的な治療により HbA1c が低下すると、歯周治療を行っていなくても BOP が減少することも示した。動物実験においてはインスリン欠乏性糖尿病マウスでは歯周炎の進行が早期に発生し、*A. actinomycetemcomitance* 感染マウスでは、腸内細菌叢が変化し、耐糖能異常およびインスリン抵抗性が引き起こされ、非アルコール性脂肪性肝疾患の悪化にもつながること、高血糖状態は歯肉の創傷治癒遅延を引き起こすことを報告している。
＜早産 · 低体重出産＞
切迫早産妊婦では口腔内から *P. gingivalis* が高い頻度で検出されている。また *P. gingivalis* を静脈内注射し菌血症を模した妊娠マウスでは、胎盤の形成異常を伴う低体重出産となることを報告している。

「再生治療」
歯周組織の再生は歯周治療の究極のゴールとされているが、現状の歯周組織再生治療では適応が限られており、すべての症例で理想的な再生が得られるわけではない。本学歯周病学分野では、組織工学的手法を用いて歯周組織の再生、インプラント周囲の顎骨の形成、再生を行うことを目的として基礎研究、トランスレーショナルリサーチ、臨床研究を行っている。
· 新規骨補填材を用いた歯周組織再生 · 顎堤増大
欠損の大きい歯周組織欠損の歯周組織の再生には、骨補填材の使用が有効であるが、理想的な人工骨補填材の開発がいまだ求められている。小さなトンネル状の β-TCP をランダムに組み合わせてブロック状にした「RT-B-TCP」や PET 製のケースに β - TCP、HA、細粒化自家骨を転入する技術を発表している。
· 成長因子を用いた歯周組織再生 · 顎堤増大
成長因子としては、トランスレーショナルリサーチとして rhFGF-2 を用いた顎堤増大、根面被覆への応用につ

いて研究を行っている。β-TCP 含有スポンジと rhFGF-2 の併用で歯周組織再生が得られたことを報告しており、rhFGF-2 製剤の適応拡大の可能性を示唆されている。
· 細胞シートを用いた歯周組織再生
温度応答性培養皿を用いた歯根膜細胞シートに関する研究、羊膜細胞シートなどを行っている。歯根膜シートについてはイヌを用いた自家移植、再生の報告から始まり、臨床応用に向けた歯根膜細胞、細胞シートの評価法に関する研究を発表、そのご女子医科大学において臨床試験を行っている。羊膜を用いた細胞シートは、ラットを用いた骨形成について発表している。その後、ラットを用いて歯根膜由来細胞上清を用いることで歯周組織の再生が促進されることを報告し、より簡便な自己由来因子による再生の可能性を示唆した。

「光によるレーザー治療の現在」
歯周治療において、もっとも標準的な治療は機械的手段であるが、器具のアクセスなどの治療の限界があり、光を用いた治療法が注目を集めている。当分野で最も長く研究が行なわれ、実用性が最も高いものがエルビウム · ヤグ（Er:YAG）レーザーである。レーザーを低出力照射（Low Level Laser Irradiation：LLLI）することで生体刺激効果があることは知られていたものの、その詳細やメカニズムは不明なことが多い。その他のレーザーの応用として、光断層診断（Optical Coherence Tomography: OCT）の開発と改良が進み、また、光を色素と反応させて殺菌を行う抗菌光線力学療法も今後の歯周炎治療、インプラント周囲炎治療に有効と考えられ、その研究がなされている。
· Er:YAG レーザーの歯周治療、インプラント周囲炎治療への応用
Er:YAG レーザーは照射根面に熱傷害はほとんどなく、特徴的な微細構造が細胞付着性に優れており、さらに根面への照射が除菌にも有効であるため、治癒に有利である。また軟組織に対しての処置も電気メスに比べて良好な治癒を示し、骨の蒸散も安全にできることを長期経過により確認している。このような背景から、新規の包括的歯周ポケット治療法として Er:YAG Laser-assisted Comprehensive Periodontal Pocket Therapy: Er-LCPT を開発 · 提案した。またエムドゲインと自家骨移植の併用療法において、Er:YAG レーザーを併用して血餅保持効果を高める新規の術式を考案した。インプラント周囲炎治療においても、Er:YAG レーザーは適正な照射条件でインプラント体のデブライドメントに応用でき、さらにインプラント体の歯石を効果的に除去でき、臨床応用での有効性が今後期待されている。
· 低出力照射 (LLLI) による生体刺激効果
低出力照射 (LLLI) により骨芽細胞や歯肉線維芽細胞の増殖と分化を促進することを示した。高パルス半導体レーザーの LLLI は in vivo において抜歯窩の治癒を促すことを報告している。
· 光線力学療法（antimicrobial photodynamic therapy：aPDT）
レーザーの殺菌効果を高める方法として、photodynamic therapy の応用がある。青色 LED は歯周病原細菌の増殖を抑制し、青色 LED とローズベンガルによる aPDT が殺菌に有効であることを明らかにし、さらに短時間で殺菌効果を示す。また赤色 LED とトルイジンブルーによる aPDT は臨床的にプラーク形成を抑制することを報告している。
· 光断層診断（optical coherence tomography：OCT）
非侵襲的な検査方法として眼科をはじめ様々な医療分野で OCT が応用されており、歯周治療にもおいても歯石の検出が可能であることや 、また硬組織と軟組織、さらに付着の状態も識別できることから生物学的幅径の計測も可能であることを明らかにしている

(3) 教育活動

1. 教育

歯周病の代表的なものは歯周炎で、口腔内の不潔によるプラーク中の細菌の蓄積、歯石の沈着、その他の多くの原因により歯肉炎として発病し、歯周病原細菌と呼ばれるポケット内のグラム陰性嫌気性細菌の増殖により歯周組織の炎症性病変が起こる。この際、歯を支える歯根膜や歯槽骨の喪失が起こり、歯の支持組織を破壊しながら進行し、最終的には歯は支えを失い脱落する。歯周炎は現在、慢性歯周炎、侵襲性歯周炎と全身疾患に伴う歯周炎に分類され、その中で侵襲性歯周炎の原因としての生体因子についての研究も進んできている。
歯周病はいくつかの全身疾患（心臓血管系疾患、糖尿病、呼吸器系疾患、早産 · 低体重出産、骨粗鬆症など）との関連性が示唆されており、歯周治療を行うことは全身の健康に寄与し得ることについても学習する。

(4) 教育方針

教育方針
教育の基本方針として、『歯周組織の構造、機能、病理さらに正常な口腔状態を維持するための生理的な因子を

まず理解させて、歯周組織に起こる病変の検査、診断力を養う。次に歯周病の病因について理解させ、歯周病の原因がプラーク中の細菌によるものであるとの認識を深めさせ、歯周治療の基本がプラークコントロールであることを徹底させる。また、単に知識や技術の修得だけでなく、患者自身にその大切さを認識させる動機付けや信頼関係の確立という心理的および倫理的な点も学ばせる。』ということを掲げている。

歯学部学生に対する講義と実習は、第 4 学年後期に行われ、講義時間は 37 時間、チュートリアル 15 時間、実習は 38 時間が割り当てられている。基礎実習としては、相互実習による口腔内の観察と検査法および口腔清掃法の実習、人工歯模型とマネキンを用いたスケーリング · ルートプレーニングの方法と暫間固定法の実習、豚の下顎を用いた歯周外科手術の実習、咬合器と石膏模型を用いた咬合調整法とナイトガード作製の実習を行っている。第 5 学年前期終了時、コアーカリキュラムに基づき共用試験の OSCE と CBT を受験させ、合格者のみ第 5 学年後期〜第 6 学年の包括臨床実習に進む。およそ 1 年間で、実際の歯周病患者の治療法を修得できるように指導している。

歯周治療は、患者の口腔内での歯周病の進行状態を十分に把握した上で診断し、治療方針をたてて予後を予測しながら治療を進めていかなければならない。 1 年間で治療を終了させメインテナンスまで到達させることは難しい症例もあるが、その場合は次年度の学生に治療を引継ぎ、終了させるように指導を行っている。歯周治療を行う場合には、初診時の検査、診断終了後、再評価後、治療終了時に教員が指導し、また、歯周外科処置は教員の指導の下で行っている。

以上、学部学生に対する卒前教育の他に、主に専攻生、歯科研修医を対象にして卒後教育を行っている。卒直後の研修は極めて大切であり、歯周治療の基本を身につける好機でもあるので、臨床経験を深められるように配慮している。

(5) 臨床上の特色

歯周病により失われた歯周組織を再生することは歯周治療の最終目標である。自己歯根膜細胞シートを応用した歯周組織再生療法等を中心に臨床に直結した基礎研究を展開中である。また、レーザーを歯周治療に応用するためのプロジェクトも推進中で、フラップ手術のデブライドメントにレーザーを応用することが保険に認められた。また、歯周再生療法の一つであるエムドゲイン®応用によるバイオ · リジェネレーション法や、日本発の再生材料であるリグロスを用いた再生療法を行っている。PCR 法を利用した細菌検索、血清抗体価やフローサイトメーターを利用した免疫学的診断、歯周病感受性検査のための遺伝子診断等なども行っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Strauss FJ, Fukuba S, Naenni N, Jung R, Jonker B, Wolvius E, Pijpe J. Alveolar ridge changes 1-year after early implant placement, with or without alveolar ridge preservation at single-implant sites in the aesthetic region: A secondary analysis of radiographic and profilometric outcomes from a randomized controlled trial. Clinical Implant Dentistry Related Research. 2023.12;

2. Fukuba S, Okada M, Iwata T. Clinical outcomes of periodontal regenerative therapy with carbonate apatite granules for treatments of intrabony defects, Class II and Class III furcation involvements: A 9-month prospective pilot clinical study. Regenerative Therapy. 2023.12; 24; 343-350

3. Matsuura, T; Mikami, R; Mizutani, K; Shioyama, H; Aoyama, N; Suda, T; Kusunoki, Y; Takeda, K; Izumi, Y; Aida, J; Aoki, A; Iwata, T. Assessment of bone defect morphology for the adjunctive use of bone grafting combined with enamel matrix derivative: A 3-year cohort study JOURNAL OF PERIODONTOLOGY. 2023.11;

4. Takemura S, Mizutani K, Mikami R, Nakagawa K, Hakariya M, Sakaniwa E, Saito N, Kominato H, Kido D, Takeda K, Aoki A, Iwata T. Enhanced periodontal tissue healing via vascular endothelial growth factor expression following low-level erbium-doped: yttrium, aluminum, and garnet laser irradiation: In vitro and in vivo studies. Journal of periodontology. 2023.11;

5. Lin P, Niimi H, Hirota T, Ohsugi Y, Shimohira T, Toyoshima K, Katagiri S, Iwata T, Aoki A. Effects of low-level Er:YAG laser irradiation on proliferation and gene expression in primary gingival fibroblasts isolated from mouse maxilla Journal of biophotonics. 2023.11; e202300166

6. Tokuda K, Tanaka A, Tobe A, Shirai Y, Kurobe M, Kubota Y, Kunieda T, Miyazaki T, Mizutani K, Furusawa K, Ishii H, Murohara T. Impact of C-Reactive Protein on Long-Term Cardiac Events in Stable Coronary Artery Disease Patients with Chronic Kidney Disease Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2023.11; 30(11); 1635-1643

7. Aoki A, Mizutani K, Mikami R, Ohsugi Y, Kobayashi H, Akizuki T, Taniguchi Y, Takeuchi Y, Katagiri S, Sasaki Y, Komaki M, Meinzer W, Izumi Y, Iwata T. Er:YAG laser-assisted comprehensive periodontal pocket therapy for residual periodontal pocket treatment: A randomized controlled clinical trial Journal of Periodontology. 2023.10; 94(10); 1187-1199

8. Toyoshima K, Ohsugi Y, Lin P, Komatsu K, Shiba T, Takeuchi Y, Hirota T, Shimohira T, Tsuchiya Y, Katagiri S, Iwata T, Aoki A. Blue LED irradiation without a photosensitizer alters oral microbiome composition of ligature-induced periodontitis in mice Photobiomodulation, Photomedicine, and Laser Surgery. 2023.10;

9. Hayashi S, Takeuchi Y, Hiratsuka K, Kitanaka Y, Toyoshima K, Nemoto T, Aung N, Hakariya M, Ikeda Y, Iwata T, Aoki A. Effects of various light-emitting diode wavelengths on periodontopathic bacteria and gingival fibroblasts: An in vitro study. Photodiagnosis and Photodynamic Therapy. 2023.10; 44;

10. Mikami R, Komagamine Y, Aoyama N, Mizutani K, Sasaki Y, Iwata T, Minakuchi S, Kanazawa M. Association between occlusal supports and nutritional status in older adults: A systematic review Journal of Dental Sciences. 2023.09;

11. Katagiri S, Ohsugi Y, Shiba T, Yoshimi K, Nakagawa K, Nagasawa Y, Uchida A, Liu A, Lin P, Tsukahara Y, Iwata T, Tohara H. Homemade blenderized tube feeding improves gut microbiome communities in children with enteral nutrition Frontiers in Microbiology. 2023.08; 14; 1215236

12. Takeuchi Y, Nemoto T, Kitanaka Y, Aoki A, Izumi Y, Iwata T, Arakawa S. Antibacterial activity of lysozyme-chitosan oligosaccharide conjugates on two periodontal bacteria Oral diseases. 2023.08;

13. Takeda K, Mizutani K, Mikami R, Fujino A, Ito Y, Takeuchi S, Saito N, Iwata T. Morphological analysis of the impact of diabetes on gingival capillaries with non-invasive blood flow scope - A preliminary study. Journal of dental sciences. 2023.07; 18(3); 1134-1140

14. Mikami R, Mizutani K, Gohda T, Matsuyama Y, Gotoh H, Nakagawa K, Takemura S, Aoyama N, Matsuura T, Kido D, Takeda K, Saito N, Izumi Y, Iwata T. Malnutrition- inflammation- atherosclerosis (MIA) syndrome associates with periodontitis in end-stage renal disease patients undergoing hemodialysis: a cross-sectional study. Scientific reports. 2023.07; 13(1); 11805

15. Watanabe C, Wada J, Mizutani K, Nagayama T, Uchida H, Shibata Y, Wakabayashi N. Radiographic predictive factors for 10-year survival of removable partial denture abutment teeth: Alveolar bone level and density Journal of Prosthodontic Research. 2023.07; 67(3); 437-443

16. Shiba T, Komatsu K, Watanabe T, Takeuchi Y, Nemoto T, Ohsugi Y, Katagiri S, Shimogishi M, Marukawa E, Iwata T. Peri-implantitis management by resective surgery combined with implantoplasty and Er:YAG laser irradiation, accompanied by free gingival graft: a case report. Therapeutic advances in chronic disease. 2023.06; 14; 20406223231174816

17. Kataoka A, Shiba T, Katagiri S, Koyama S, Kito K, Ota T, Katayama T, Ohsugi Y, Nagai T, Kobayashi R, Komatsu K, Urata M, Imazuru T, Iwata T, Kozuma K. Novel and efficient method for diagnosing infective endocarditis using 16S ribosomal RNA gene amplicon sequence JACC Case Reports. 2023.04; 11; 101793

18. Lin, TC; Ng, MY; Aoki, A; Yu, CH. Er:YAG laser-assisted comprehensive periodontal pocket therapy (Er-LCPT) under microscope in a severe periodontitis with type 2 diabetes mellitus patient: A case report JOURNAL OF DENTAL SCIENCES. 2023.04; 18(2); 924-926

19. Lu HC, Ng MY, Liao YW, Maekawa S, Lin T, Yu CC. Bromelain inhibits the inflammation and senescence effect in diabetic periodontitis: A preliminary in vitro study. Journal of dental sciences. 2023.04; 18(2); 659-665

20. Takeuchi S, Fukuba S, Okada M, Nohara K, Sato R, Yamaki D, Matsuura T, Hoshi S, Aoki K, Iwata T. Preclinical evaluation of the effect of periodontal regeneration by carbonate apatite in a canine one-wall intrabony defect model. Regenerative Therapy. 2023.03; 22; 128-135

21. Masuda H, Arisaka Y, Hakariya M, Iwata T, Yoda T, Yui N. Molecular mobility of polyrotaxane surfaces alleviates oxidative stress-induced senescence in mesenchymal stem cells. Macromolecular bioscience. 2023.03; e2300053

22. Ogawa, Y; Maekawa, S; Imamura, K; Ishikawa, T. Supra-Alveolar Periodontal Tissue Reconstruction in a Case with Severe Periodontitis: Case Report with a 2-Year Follow-up INTERNATIONAL JOURNAL OF PERIODONTICS & RESTORATIVE DENTISTRY. 2023.03; 43(2); 212-221

23. Kanamori Y, Seki N, Foxton R, Moross J, Komagamine Y, Mizutani K, Hosaka K, Kanazawa M, Hatayama T, Komada W, Yonemitsu I, Akiyama M, Kaewmanee PC, Kaewsutha N, Nitta H, Wakabayashi N, Morio I. Fostering globally competent dental students through virtual team-working, problem-solving and person-centred multi-disciplinary care planning. Journal of Dental Sciences. 2023.01; 18(1); 95-104

24. Tashiro A, Yonetsu T, Aoyama N, Shiheido-Watanabe Y, Niida T, Miyazaki S, Maejima Y, Goya M, Isobe M, Iwata T, Sasano T. Periodontitis was associated with worse clinical outcomes after catheter ablation for paroxysmal atrial fibrillation Frontiers in Cardiovascular Medicine. 2023.01; 9; 1061243

25. Hirasawa I, Odagiri H, Park G, Sanghavi R, Oshita T, Togi A, Yoshikawa K, Mizutani K, Takeuchi Y, Kobayashi H, Katagiri S, Iwata T, Aoki A. Anti-inflammatory effects of cold atmospheric plasma irradiation on the THP-1 human acute monocytic leukemia cell line. PloS one. 2023; 18(10); e0292267

26. Yuichi Ikeda, Otofumi Chigasaki, Koji Mizutani, Yoshiyuki Sasaki, Norio Aoyama, Risako Mikami, Misa Gokyu, Makoto Umeda, Yuichi Izumi, Akira Aoki, Yasuo Takeuchi. The Potential of a Saliva Test for Screening of Alveolar Bone Resorption healthcare. 2023.06; 11(13); 1822

1. Aoki A, Mizutani K, Mikami R, Ohsugi Y, Kobayashi H, Akizuki T, Taniguchi Y, Takeuchi Y, Katagiri S, Sasaki Y, Komaki M, Meinzer W, Izumi Y, Iwata T. Er:YAG laser-assisted comprehensive periodontal pocket therapy for residual periodontal pocket treatment: A randomized controlled clinical trial Journal of Periodontology. 2023.10; 94(10); 1187-1199

2. 水谷 幸嗣. スマホ動画で学ぶ!精度を上げる治療手技 Er-LCPT による垂直性骨欠損の治療 The Quintessence. 2023.10; 42(10); 2169-2171

3. Shinjo T, Onizuka S, Zaitsu Y, Ishikado A, Park K, Li Q, Yokomizo H, Zeze T, Sato K, St-Louis R, Fu J, I-Hsien W, Mizutani K, Hasturk H, Van Dyke TE, Nishimura F, King GL. Dysregulation of CXCL1 Expression and Neutrophil Recruitment in Insulin Resistance and Diabetes-Related Periodontitis in Male Mice Diabetes. 2023.07; 72(7); 986-998

4. Hamaya R, Yonetsu T, Aoyama N, Shiheido-Watanabe Y, Tashiro A, Niida T, Isobe M, Maejima Y, Iwata T, Sasano T. Contribution of periodontal health in cardiovascular secondary prevention: Analyses on hospitalized patients in cardiology units Journal of Clinical Periodontology. 2023.06; 50(6); 708-716

5. 井上 剛 、水谷 幸嗣 、三上 理沙子、島田 康史、 青木 章. 歯肉のメラニン沈着の審美治療として Er：YAG レーザーをマイクロサージェリーで応用した長期経過 日本歯科保存学会誌. 2023.05; 66(2); 147-153

6. 水谷 幸嗣. 歯肉の審美を改善するレーザー照射 DENTAL DIAMOND. 2023.05; 48(7); 113-114

7. 井上 剛, 水谷 幸嗣, 三上 理沙子, 島田 康史, 青木 章. 歯肉のメラニン沈着の審美治療として Er:YAG レーザーをマイクロサージェリーで応用した長期経過 日本歯科保存学雑誌. 2023.04; 66(2); 147-153

8. 前川 祥吾, 岩田 隆紀. 【歯周病の新分類対応 アップデート・ザ・ペリオ～超高齢社会へのアプローチ～】(1 章) 歯周病の新分類の解説 日米の比較 DENTAL DIAMOND. 2023.04; 48(6); 22-23

9. 前川 祥吾, 岩田 隆紀. 【歯周病の新分類対応 アップデート・ザ・ペリオ～超高齢社会へのアプローチ～】(1 章) 歯周病の新分類の解説 歯周病の新分類と臨床での使用法 DENTAL DIAMOND. 2023.04; 48(6); 10-21

10. 水谷 幸嗣. 【歯周病の新分類対応 アップデート・ザ・ペリオ～超高齢社会へのアプローチ～】(3 章) 歯周外科治療 糖尿病患者における歯周組織再生療法 DENTAL DIAMOND. 2023.04; 48(6); 112-114

11. 福場 駿介. 【歯周病の新分類対応 アップデート・ザ・ペリオ～超高齢社会へのアプローチ～】(2 章) 歯周基本治療 SRP の効果とその限界 DENTAL DIAMOND. 2023.04; 48(6); 68-75

12. 森田 和機, 前川 祥吾. 【歯周病の新分類対応 アップデート・ザ・ペリオ～超高齢社会へのアプローチ～】(5 章) メインテナンス・SPT エアアブレージョン DENTAL DIAMOND. 2023.04; 48(6); 146-147

13. 水谷 幸嗣. my Recommendation 患者さんにやさしい PMTC を効率的に! デンタルハイジーン. 2023.03; 43(3); 310-312

14. Mikami R, Mizutani K, Aoyama N, Matsuura T, Suda T, Takeda K, Saito N, Arakawa S, Izumi Y, Iwata T, Aida J. Income-related inequalities in the association of smoking with periodontitis: a cross-sectional analysis in Tokyo Metropolitan Districts Clinical Oral Investigations. 2023.02; 27(2); 519-528

15. 和田 淳一郎, 水谷 幸嗣, 若林 則幸. 【ペリオ×パーシャルデンチャー　支台歯をどう守り, どう活用するのか?】(第 4 回)(最終回) 補綴治療後のフォローアップ The Quintessence. 2023.02; 42(2); 0312-0337

[書籍等出版物]

1. 斎田寛之、鎌田征之、芝多佳彦、福場駿介. 新ベーシックペリオ　ここから始める歯周治療の基本と実践. 医歯薬出版株式会社, 2023.10

2. 青木　章，谷口陽一，水谷幸嗣. 歯周治療 · インプラント周囲治療のための Er:YAG レーザーパーフェクトガイド. ヒョーロン · パブリッシャーズ, 2023.09 (ISBN : 978-4-86432-081-8)

3. 青木　章. Er:YAG レーザーの歯周治療における臨床例（動画）. 都歯オンライン研修, 2023.08

4. 吉田澄子、片桐さやか. DOHaD　先制医療への展開. 2023.05

5. 岩田隆紀 · 多部田康一 · 土岡弘明. 「デンタルダイヤモンド」増刊号　歯周病の新分類対応　アップデート · ザ · ペリオ　超高齢社会へのアプローチ. デンタルダイヤモンド社, 2023.04

6. 岩田隆紀、多部田康一、土岡弘明. 歯周病の新分類対応　アップデート · ザ · ペリオ　～超高齢社会へのアプローチ～. デンタルダイヤモンド社, 2023.04 (ISBN : 978-4-88510-557-9)

7. 青木章, 水谷幸嗣, 岩田隆紀. レーザー，沼部幸博, 齋藤淳, 梅田誠, 山本松男、岩田隆紀編，ザ · ペリオドントロジー 第 4 版. 永末書店, 2023.02

[総説]

1. Lin P, Liu A, Tsuchiya Y, Noritake K, Ohsugi Y, Toyoshima K, Tsukahara Y, Shiba T, Nitta H, Aoki A, Iwata T, Katagiri S. Association between periodontal disease and chronic obstructive pulmonary disease Japanese Dental Science Review. 2023.12; 59; 389-402

2. Takeuchi Y, Aoki A, Hiratsuka K, Chui C, Ichinose A, Aung N, Kitanaka Y, Hayashi S, Toyoshima K, Iwata T, Arakawa S. Application of different wavelengths of LED lights in antimicrobial photodynamic therapy for the treatment of periodontal disease. Antibiotics (Basel, Switzerland). 2023.11; 12(12);

3. Buranasin P, Kominato H, Mizutani K, Mikami R, Saito N, Takeda K, Iwata T. Influence of Reactive Oxygen Species on Wound Healing and Tissue Regeneration in Periodontal and Peri-Implant Tissues in Diabetic Patients. Antioxidants (Basel). 2023.09; 12(9); 1787

4. Nashimoto Y, Hori T, Ostrovidov S, Katagiri S, Kaji H. Engineering oral microenvironments using microphysiological systems Sensors and Materials. 2023.04; 35(4); 1293-1299

5. Kanako Toda, Koji Mizutani, Kayoko Shinada. Oral Health Instruction Improves glycaemic Control as Minimally Invasive Periodontal Therapy in Patients with Diabetes: A Systematic Review Research & Reviews: Journal of Dental Sciences. 2023.01; 10(7); 1-15

1. 田 端　倫 子 , 中 川　寿 一, Khairul MATIN, 大 槻　昌 幸, 青 木　章, 島 田　康 史. バイオフィルムに関する光干渉断層計（Optical Coherence Tomography : OCT）の研究：総説 日本レーザー歯学会誌. 2023.09; 33(1); 11-17

2. 青木章. スケーラーと Er:YAG レーザーを併用した包括的歯周ポケット治療法について 日本歯科保存学雑誌. 2023.04; 66(2); 105-113

3. 和田淳一郎，水谷幸嗣，若林則幸. ペリオ×パーシャルデンチャー　支台歯をどう守り，どう活用するのか？　第 4 回　補綴治療後のフォローアップ ザ · クインテッセンス. 2023.02; 42(2); 66-91

4. 大杉勇人, 豊嶋啓汰, 畑佐将宏, 下平 剛, 芝 多佳彦, 駒津匡二, 土谷洋輔, 福場駿介, 新見ひろみ, 片桐さやか, 岩田隆紀, 青木 章. 低出力半導体レーザーの photobiomodulation 効果による歯周組織の細胞学的応答 日本レーザー歯学会誌. 2023.02; 32(3); 33-38

[講演 · 口頭発表等]

1. Aoki A. Development of flapless periodontal surgery using Er:YAG laser. The 22nd congress of Iranian Academy of Periodontology (IAP) 2023.11 Virtual
2. Shimizu S, Hayashi K, Takeuchi Y, Tanabe G, Churei H, Kobayashi H, Ueno T, Fueki K. Effect of Administration of Sonicated P. gingivalis on skeletal muscle injury healing using a rat model. . ECSS Paris 2023 2023.07.04 Paris
3. Aoki A. The State of the Art of Lasers in Periodontology. Master of Laser in Dentistry of Sapienza University of Rome in partnership with the EMDOLA Project 2023.06.14 Sapienza University of Rome, Vertial
4. Franz J. Strauss, Shunsuke Fukuba, Nadja Naenni, Eppo Wolfius, Justin Pijpe, Ronald Jung, Brend Jonker. Alveolar ridge changes after early implant placement with or without alveolar ridge preservation at single implant sites in the aesthetic region: a one-year radiographic and profilometric analysis of a randomized controlled trial. International Osteology Symposium Barcelona 2023.04.28 Barcelona, Spain
5. Fukuba S. Pushing the limit of periodontal regeneration -Give the hope to the hopeless tooth-. International Osteology Symposium 2023.04.28 Barcelona, Spain
6. Lin P, Niimi H, Hirota T, Ohsugi Y, Shimohira T, Toyoshima K, Katagiri K, Iwata T, Aoki A. Effect of low-level Er:YAG laser irradiation on proliferation and gene expression changes of primary gingival fibroblasts isolated from mouse maxilla. The 17th Congress of WFLD, Faculty of Pharmacy 2023.04.16 Wrocław Medical University, Wroclaw
7. Aoki A. Er:YAG laser-assisted comprehensive periodontal pocket therapy (Er-LCPT). The 17th Congress of WFLD, Faculty of Pharmacy 2023.04.15 Wrocław Medical University, Wroclaw
8. Aoki A (Chair). Grzech-Lesniak K, Shibli J, Dominiak M, Romanos G, Vescovi P, Romeo U, Arnabat J, Nammour S, Zeinoun T. Round Table on Periodontal and Peri-Implant Therapy Using Lasers. The 17th Congress of WFLD, Faculty of Pharmacy 2023.04.15
9. Aoki A. Periodontal and peri-implant therapy using Er:YAG laser. Morita corporation forum. The 17th Congress of WFLD, Faculty of Pharmacy 2023.04.14 Wrocław Medical University, Wroclaw
10. Aoki A. Esthetic soft tissue management with Er:YAG Laser. The 17th Congress of WFLD, Faculty of Pharmacy 2023.04
11. Kunieda T, Tanaka A, Shirai Y, Kurobe M, Tokuda K, Tobe A, Mizutani K, Miyazaki T, Kubota Y, Furusawa K, Ishii H, Murohara T. Incidence of Cardiac Events Following Non-cardiac Surgery among the Patients with or without Coronary Artery Stenosis by Pre-operative Coronary Angiography. The 87th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society 2023.03.11

1. 志村大輔. Promote Gap junction formation by GJA1-20k for Arrhythmogenic Cardiomyopathy. 第 40 回国際心臓研究学会 日本部会 (CVMW2023) 2023.12.09 神戸
2. 青木 章. Er:YAG レーザーに関する基礎知識. レーザーハンズオンセミナー 2023.12.06 神奈川歯科大学
3. 林 海里，清水慎太郎，竹内康雄，小林宏明，中禮 宏，笛木賢治. 歯周病原細菌の全身波及がスポーツに関連する骨格筋反応に及ぼす影響について. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京
4. 清水　慎太郎，林　海里，田邊　元，中禮　宏，竹内康雄，小林宏明，上野俊明，笛木賢治. 歯周病原細菌投与がラット骨格筋損傷治癒期間に与える影響の検討. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京
5. Maalouf M, Gonzalez JJ, Hong TT, Shaw RM, Shimura D. GJA1-20k is a mediator between mitochondria and phosphoinositides for mitochondrial morphological regulation. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12 神戸
6. 林 桜，竹内 康雄，平塚 浩一，北中 祐太郎，豊嶋 啓汰，秤屋 雅弘，岩田 隆紀，青木 章. 各種波長の LED 光照射が Porphyromonas gingivalis および歯肉線維芽細胞に及ぼす影響. Laser Week IV in Tokyo，第 35 回日本レーザー歯学会総会 · 学術大会 2023.11.26 東京
7. 宮田 和樹，水谷 幸嗣，大杉 勇人，三上 理沙子，髙木 徹，小田 茂，岩田 隆紀，青木 章. Er:YAG レーザー照射歯根面の性状解析および歯周組織付着の組織学的解析. 第 35 回日本レーザー歯学会総会 · 学術大会 2023.11.25 京王プラザホテル

8. 青木 章. インプラント周囲炎治療における Er:YAG レーザーの応用. 第 35 回日本レーザー歯学会総会 · 学術大会 2023.11.25 京王プラザホテル

9. 林 海里，清水慎太郎，竹内康雄，小林宏明，朱秋爽，李泽群，田邊元，中禮 宏，上野俊明. P. gingivalis 投与が持久性運動後の骨格筋 PGC-1 α および TNF α発現に与える影響. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

10. Shimura D, Maalouf M, Nguyen VD, Hunter J, Shaw RM. GJA1-20k mediates mitochondrial contact and actin sheet formation to achieve mitochondrial protection. 第 22 回日本ミトコンドリア学会年会 2023.11.14 つくば

11. 青木 章. 低侵襲フラップレスポケット手術における Er:YAG レーザーの応用. 中日口腔医学フォーラム 2023.10.30 中日友好病院

12. 青木 章. インプラント周囲炎の治療法と Er:YAG レーザーの応用. 第 21 回大会レーザー · ライト学会 2023.10.21

13. 林 桜，竹内 康雄，平塚 浩一，北中 祐太郎，豊嶋 啓汰，根本 昂，秤屋 雅弘，池田 裕一，岩田 隆紀，青木 章. 各種波長の LED 光照射が Porphyromonas gingivalis に及ぼす影響. 第 66 回秋季日本歯周病学会学術大会 2023.10.14 長崎

14. 劉 安豪, 林 幹人, 大杉勇人, 片桐さやか, 中島友紀, 岩田隆紀. 改良型マウス歯周炎モデルによる歯周炎発病過程の高解像度解析. 第 66 回秋季日本歯周病学会学術大会 2023.10.13 長崎

15. 大杉勇人, 今井千尋, 片桐さやか, 廣田朝光, 芝 多佳彦, 豊嶋啓汰, 上阪直史, 岩田隆紀. 結紮誘導歯周炎モデルマウスを用いた口腔-脳-腸連関の解明. 第 66 回秋季日本歯周病学会学術大会 2023.10.13 長崎

16. 平澤 以冬, 小田切 悠, 朴 起里, サンガヴィ · ルタヴィ , 東儀 彰子, 大下 貴也, 吉川 勝徳, 水谷 幸嗣, 竹内 康雄, 小林 宏明, 片桐 さやか, 岩田 隆紀, 青木 章. ヒト由来単球細胞株 THP-1 に対する大気圧プラズマの抗炎症効果. 日本歯周病学会会誌 2023.10.01

17. 知念 慶樹, 前川 祥吾, 渥美 研太, 宮坂 宗永. 2 型糖尿病を有する歯周炎患者の行動変容と HbA1c の改善が認められた一症例. 日本歯周病学会会誌 2023.10.01

18. 平澤 以冬, 小田切 悠, 朴 起里, サンガヴィ · ルタヴィ , 東儀 彰子, 大下 貴也, 吉川 勝徳, 水谷 幸嗣, 竹内 康雄, 小林 宏明, 片桐 さやか, 岩田 隆紀, 青木 章. ヒト由来単球細胞株 THP-1 に対する大気圧プラズマの抗炎症効果. 日本歯周病学会会誌 2023.10.01

19. 平澤 以冬, 小田切 悠, 朴 起里, サンガヴィ · ルタヴィ , 東儀 彰子, 大下 貴也, 吉川 勝徳, 水谷 幸嗣, 竹内 康雄, 小林 宏明, 片桐 さやか, 岩田 隆紀, 青木 章. ヒト由来単球細胞株 THP-1 に対する大気圧プラズマの抗炎症効果. 日本歯周病学会会誌 2023.10.01

20. 青木　章. 低侵襲フラップレスポケット手術における Er:YAG レーザーの応用. 第 9 回日本国際歯科大会 2023 2023.09.30 横浜

21. 長澤 祐季，中川 量晴，吉見 佳那子，内田 有俊，山口 浩平，片桐 さやか，戸原 玄. 「胃ろう食」の摂取が小児嚥下障害患者のおよび口腔 · 腸内細菌叢に与える影響. 第 29 回日本摂食嚥下 リハビリテーション学会学術大会 2023.09.02

22. 水谷 幸嗣. Er:YAG レーザーによる最小侵襲の歯周組織再生. 日本レーザー医学会誌 2023.09.01

23. 宮田 和樹, 水谷 幸嗣, 大杉 勇人, 三上 理沙子, 高木 徹, 小田 茂, 岩田 隆紀, 青木 章. Er:YAG レーザー照射歯根面の性状解析および歯周組織付着の組織学的解析. 日本レーザー医学会誌 2023.09.01

24. 水谷 幸嗣. 歯周病を取り巻く最新の話題と医科歯科連携　慢性腎臓病との関連からみる糖尿病関連歯周炎. 糖尿病合併症 2023.09.01

25. 水谷 幸嗣. Er:YAG レーザーによる最小侵襲の歯周組織再生. 日本レーザー医学会誌 2023.09.01

26. 宮田 和樹, 水谷 幸嗣, 大杉 勇人, 三上 理沙子, 高木 徹, 小田 茂, 岩田 隆紀, 青木 章. Er:YAG レーザー照射歯根面の性状解析および歯周組織付着の組織学的解析. 日本レーザー医学会誌 2023.09.01

27. 水谷 幸嗣. 歯周病を取り巻く最新の話題と医科歯科連携　慢性腎臓病との関連からみる糖尿病関連歯周炎. 糖尿病合併症 2023.09.01

28. 片桐さやか. 口腔内細菌叢破綻による生涯の代謝異常の病態解明. 融合の場 2023.07.29 東京

29. LIU ANHAO, 林　幹人, 片桐さやか, 大杉勇人, 岩田 隆紀, 中島　友紀. 新規マウス歯周炎モデルによる歯周炎発病過程の時空間解析. 第 41 回日本骨代謝学会学術集会 2023.07.27

30. 青木章. 歯周炎 · インプラント周囲炎における Er:YAG レーザーの応用と最新の歯周治療. 九州お茶の水会 2023.07.23 TKP 博多駅筑紫口ビジネスセンター

31. 青木章. 歯学部入試情報. 夢ナビライブ 2023 in summer 2023.07.12 東京医科歯科大学歯学部

32. 青木章. レーザーを活用した歯周治療. 令和 5 年度 東京都歯科医師会卒後研修会 2023.06.29

33. 岩田 隆紀. 令和時代の口腔プロフェッショナルケアとセルフケア. 日本臨床歯周病学会第 41 回年次大会 2023.06.24 福岡

34. 大杉勇人. Bioinformatics 解析で広がるレーザーの生物学的効果の可能性. 第 34 回日本レーザー治療学会 2023.06.18 宇都宮

35. 青木章. 歯周炎治療とインプラント周囲炎治療の進め方. 本インプラント臨床研究会 2023 年認定講習会, インプラント 100 時間コース 2023.06.18 ビーブラウンエースクラップ社 6F 研修室

36. 片桐さやか. 口腔内細菌叢破綻の糖 · 脂質代謝異常への影響. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会 2023.05.27 高松

37. 松田真司, 菅谷 勉, 加藤幸紀, 根本英二, 竹内康雄, 山下慶子, 沼部幸博, 西田哲也, 小方頼昌, 申 基哲, 長野孝俊, 両角俊哉, 小松康高, 出分 菜々衣, 後藤亮真, 北村正博, 田口 洋一郎, 高柴正悟, 湯本浩通, 山下明子, 吉永泰周, 吉村篤利, 河口浩之. 全身性疾患への影響を考慮した新たな歯周病重症度検査項目の策定　学会主導型多施設臨床研究 (第二報). 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会 2023.05.27 高松

38. 前川 祥吾, 福場 駿介, 岩田 隆紀. 広汎型侵襲性歯周炎 Stage III Grade C 患者に歯周組織再生療法を行なった一症例. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会 2023.05.27 高松

39. 竹村修、水谷幸嗣、三上理沙子、中川佳太、秤屋雅弘、坂庭愛理、齋藤夏実、城戸大輔、武田浩平、小湊広美、青木章、岩田隆紀. 低出力 Er:YAG レーザー照射の血管内皮細胞への影響. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会 2023.05.26 高松

40. 中川佳太, 水谷幸嗣, 渡辺数基, 齋藤夏実, 竹村修, 坂庭愛理, 三上理沙子, 城戸大輔, 武田浩平, 小湊広美, 服部淳彦, 岩田隆紀. 糖尿病モデルラットにおける実験的歯周炎の治癒期の網羅的遺伝子発現解析. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会　2023.05.26 高松

41. 宮田 和樹, 水谷 幸嗣, 大杉 勇人, 三上 理沙子, 髙木 徹, 川勝 紀子, 白方 良典, 土岡 弘明, 小田 茂, 木下 淳博, 岩田 隆紀, 青木 章. ビーグル犬における Er:YAG レーザー照射歯根面に対する歯周組織付着の組織学的解析. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会 2023.05.26 レグザムホール, 香川

42. 坂庭愛理, 三上理沙子, 水谷幸嗣, 齋藤夏実, 小湊広美, 竹村 修, 中川佳太, 秤屋雅弘, 城戸大輔, 武田浩平, 美馬晶, 岩田隆紀. Porphyromonas gingivalis 由来 LPS による高血糖状態でのメサンギウム細胞の線維化への影響. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会 2023.05.26 高松

43. 水谷 幸嗣. 糖尿病 · 慢性腎臓病と歯周病の関連　そのメカニズム解析と歯周治療への応用を目指して. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会 2023.05.26 高松

44. 山木 大地, 福場 駿介, 岡田 宗大, 竹内 俊介, 星 嵩, 松浦 孝典, 岩田 隆紀. リン酸オクタカルシウム/コラーゲン複合材料の歯周組織再生効果　イヌ 1 壁性骨欠損モデル. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会 2023.05.26 高松

45. 前川 祥吾, 福場 駿介, 岩田 隆紀. 広汎型侵襲性歯周炎 Stage III Grade C 患者に歯周組織再生療法を行なった一症例. 日本歯周病学会会誌 2023.04.01

46. 青木章. フォトペリオドンティクス.「TMDU 歯周病学教室のニューペリオドントロジー」—最先端の知見とテクノロジー—. 2023.02.05 東京医科歯科大学

47. 川村 梨恵, 水谷 幸嗣, 濱田 和典, 岩田 隆紀, 青木 章. 小帯切除術における Er:YAG レーザーのコンタクトチップの評価. 日本レーザー歯学会誌 2023.02.01

[受賞]

1. 小林育英会奨学生, 小林育英会, 2023 年 03 月
2. 日本歯周病学会奨励賞（大杉勇人）, 日本歯周病学会, 2023 年 05 月
3. 日本歯周病学会若手研究者育成ファンド （福場駿介）, 日本歯周病学会, 2023 年 05 月
4. 優秀ポスター賞 (矢ヶ﨑　理紗)　, 日本骨代謝学会学術集会, 2023 年 07 月
5. 第 35 回日本レーザー歯学会学術大会優秀発表賞 (林 桜), 日本レーザー歯学会, 2023 年 11 月
6. 学会賞（日本メディカルテクノロジー賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月
7. 第 22 回日本ミトコンドリア学会年会最優秀発表賞 (志村大輔), 日本ミトコンドリア学会, 2023 年 11 月
8. 第 35 回日本レーザー歯学会優秀発表賞 （宮田和樹）, 日本レーザー歯学会, 2023 年 11 月

[その他業績]

1. 東京医科歯科大学　次世代研究者育成ユニット 5 期生, 2023 年 07 月
2. 人工透析患者の死亡リスクを高める MIA 症候群に歯周炎が関与している可能性 —　歯周炎が人工透析患者の低栄養と炎症に加担　—, 2023 年 08 月
   Scientific reports
3. 人工透析患者の死亡リスクを高める MIA 症候群に歯周炎が関与している可能性 —　歯周炎が人工透析患者の低栄養と炎症に加担　—, 2023 年 08 月
   Scientific reports
4. 「手作りの胃ろう食が小児の腸内細菌叢と口腔内細菌叢の組成に寄与する」 —胃ろうから手作りの食事で楽しく健康に—, 2023 年 08 月
   Frontiers in microbiology
5. 「手作りの胃ろう食が小児の腸内細菌叢と口腔内細菌叢の組成に寄与する」 —胃ろうから手作りの食事で楽しく健康に—, 2023 年 08 月
   Frontiers in microbiology

[社会貢献活動]

1. サンスター 文化の泉 ラジオで語る昭和のはなし　歯とお口のお悩み, 株式会社 シマ · クリエイティブハウス, サンスター 文化の泉 ラジオで語る昭和のはなし, 2022 年 12 月 21 日 - 2023 年 02 月 26 日
2. 高齢者の歯科治療の悩み, 毎日新聞社, 毎日新聞, 2023 年 02 月 28 日 - 2023 年 03 月 08 日
3. 歯周病について（チョイス＠病気になったとき）, NHK, チョイス＠病気になったとき, 2023 年 03 月 17 日 - 2023 年 06 月 30 日
4. 歯周病について, ＮＨＫ, チョイス＠病気になったとき, 2023 年 04 月 05 日 - 現在
5. 放っておかない　口内環境, 株式会社サンライフ企画, UBS ホームページ　コネクト, 2023 年 04 月 20 日 - 2023 年 05 月 20 日
6. 歯周病について（きょうの健康）, NHK, きょうの健康, 2023 年 05 月 10 日 - 2023 年 08 月 10 日
7. 「わかるデンタル」コメント監修, NHK, NHK 健康チャンネル, 2023 年 07 月 14 日 - 2023 年 08 月 31 日
8. MIA 症候群について, 株式会社メディカルトリビューン, 地方紙, 2023 年 08 月 25 日 - 2023 年 11 月 01 日
9. 胃ろう食と口や便の細菌について, 読売新聞社, 読売新聞, 2023 年 09 月 06 日 - 現在
10. 胃ろう食と口や便の細菌について, 読売新聞社, 読売新聞, 2023 年 09 月 06 日 - 現在
11. 歯周病の影響および最新治療について, 文藝春秋, スーパードクターに教わる最新治療　2024, 2023 年 10 月 05 日 - 2023 年 11 月 30 日
12. 歯周病が全身に与える影響について, NHK, ニュース LIVE!ゆう 5 時, 2023 年 10 月 27 日 - 2023 年 11 月 01 日

生体情報継承学分野

Department of Biosignals and Inheritance

(1) 研究業績

[原著]

1. Xu Y, Kusuyama J, Osana S, Matsuhashi S, Li L, Takada H, Inada H, Nagatomi R. Lactate promotes neuronal differentiation of SH-SY5Y cells by lactate-responsive gene sets through NDRG3-dependent and -independent manners. The Journal of biological chemistry. 2023.05; 299(6); 104802

1. Seong CH, Chiba N, Fredy M, Kusuyama J, Ishihata K, Kibe T, Amir MS, Tada R, Ohnishi T, Nakamura N, Matsuguchi T. Early induction of Hes1 by bone morphogenetic protein 9 plays a regulatory role in osteoblastic differentiation of a mesenchymal stem cell line. Journal of cellular biochemistry. 2023.08; 124(9); 1366-1378

[講演 · 口頭発表等]

1. 楠山 譲二. 臓器連関の観点から肥満を考える　胎盤を介した運動情報の次世代伝播による子の肥満予防機構. 肥満研究 2023.11.01

2. 楠山 譲二. DOHaD 学説の生化学的基盤研究　ビタミン D とプラセントカインを介した運動情報の次世代伝播機構. 日本生化学会大会プログラム · 講演要旨集 2023.10.01

3. 楠山 譲二. 胎盤における運動とビタミン D の協調シグナルは子の糖代謝能を制御する. DOHaD 研究 2023.08.01

4. 楠山 譲二. メタボリックシンドローム　研究と診療の最前線　妊娠期運動による肥満予防効果の次世代伝播機構. 糖尿病 2023.04.01

5. 楠山 譲二. 運動が多臓器に誘導する多彩なエピジェネティクス調節機構　妊娠期運動による子の肥満予防効果を規定するエピジェネティクス調節機構. 体力科学 2023.02.01

1. 楠山 譲二. 胎盤における運動とビタミン D の協調シグナルによる運動情報の次世代伝播. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.07

2. 楠山 譲二. 胎盤を介した運動情報の次世代伝播による子の肥満予防機構. 第 44 回日本肥満学会学術集会 2023.11.25

3. 楠山 譲二. 胎盤における運動とビタミン D の協調シグナルは子の糖代謝能を制御する. 第 31 回日本胎盤学会学術集会 2023.11.04

4. 楠山 譲二. ビタミン D とプラセントカインを介した運動情報の次世代伝播機構. 第 96 回日本生化学会大会 2023.11.02

5. Joji Kusuyama. Placental transmission of maternal information to offspring. Children's Hospital Colorado Research Seminar 2023.08.22

6. 楠山 譲二. 胎盤における運動とビタミン D の協調シグナルは子の糖代謝能を制御する. 第 11 回日本 DOHaD 学会学術集会 2023.08.04

7. 楠山 譲二. 母親の生活習慣の次世代伝播機構. 第 30 回西日本肥満研究会 2023.07.23

8. 楠山 譲二. 妊娠期運動効果の次世代伝播機構. 第 2 回 昭和大学薬理科学研究センター主催セミナー, 昭和大学学士会後援セミナー 2023.06.06
9. 楠山 譲二. ビタミン D による運動情報の次世代伝播機構. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.11
10. 楠山 譲二. ビタミン D による運動情報の次世代伝播機構. 第 5 回がんと代謝研究会 · 若手の会 2023.04.26
11. 楠山 譲二. 胎盤を介した運動情報の次世代伝播機構. 東京都立大学人間健康科学研究科ヘルスプロモーション学域特別講義 2023.04.17
12. 楠山 譲二. 運動惹起性プラセントカインの発現調節と経世代情報伝達. 第 27 回日本心血管内分泌代謝学会学術総会 2023.02.08
13. 楠山 譲二. 両親と子の性差から考える運動情報の次世代伝播機構. 第 16 回日本性差医学 · 医療学会学術集会 2023.02.05

[受賞]

1. 令和 5 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞, 2023 年 04 月
2. 第 5 回がんと代謝研究会 · 若手の会 優秀賞, 2023 年 04 月
3. 第 11 回日本 DOHaD 学会学術集会 優秀演題賞, 2023 年 08 月

無機生体材料学

Inorganic Biomaterials

教　授　　川下　将一
准教授　　横井　太史
助　教　　島袋　将弥

(1) 分野概要

当分野では、がんや骨疾患の治療に貢献するバイオマテリアル（特にセラミックバイオマテリアル）に関する研究を行っている。具体的には、ゾル-ゲル法などの種々の材料合成手法を用いて、がん治療用材料（特に微粒子）や骨補填材料を合成し、その化学的 · 物理的 · 生物学的特性を評価することによって、臨床応用に繋がる知見を得ることを目指す。

(2) 研究活動

1. 低侵襲がん治療用材料に関する研究
β線などの飛程の短い放射線を放射する、直径 20〜30 μ m の微小球を患部に送り込めば、周囲の正常組織を傷めることなく、がんを局部的に直接放射線照射して治療できる可能性があります。また、直径 20〜30 μ m の強磁性微小球を上記と同様に患部に送り込み、患部を交流磁場の下に置くと、同微小球が磁気ヒステリシス損により発熱するので、がんを局所的に加温して治療できる可能性もあります。そこで当分野では、そのようながんの低侵襲治療に有用なセラミック微小球の創製を試みています。

2. 生体活性骨修復用材料に関する研究
セラミックスやガラス等の人工材料の中には、骨欠損部に埋入されると、周囲の骨と自然に結合し、一体化する（生体活性を示す）ものがあります。これらは「生体活性セラミックス」と呼ばれ、重要な骨修復材料として既に実用化されています。しかし、臨床現場では、より骨結合性に優れた骨修復材料が求められています。そこで本研究室では、材料工学に基づいた種々の合成プロセスにより、骨修復に有用な生体活性材料の創製を試みています。

3. 水酸アパタイトの骨伝導機構の解明
水酸アパタイト（HAp）は骨と結合する（骨伝導性を示す）ため、人工骨や医用金属材料のコーティング材料として広く用いられています。しかし、その骨伝導性の発現機構の詳細は未だ明らかでありません。当分野では、血清タンパク質の HAp への初期吸着に注目し、「HAp に特異的に吸着する血清タンパク質が骨伝導性を引き起こすのではないか？」との仮説を立て、その検証を進めています。

4. 有機修飾型リン酸八カルシウムに関する研究
　リン酸八カルシウム（OCP）はヒトの硬組織中に存在する水酸アパタイト（HAp）の前駆体と考えられており、硬組織に対して高い親和性を持つことから生体吸収性人工骨の素材として用いられています。OCP は層状の結晶構造を持ち、その層間に様々な有機分子を導入することができます。この性質を利用した機能性骨修復材料や、診断と治療を両立するセラノスティックマテリアルの開発を進めています。

(3) 教育方針

セラミックバイオマテリアルの構造、物理的性質、化学的性質、生体分子や細胞との反応などを総合的 · 俯瞰的に理解できるようになることを目指す。最終的には、セラミックバイオマテリアルに関する最先端の科学技術を学び、医療に役立つセラミックバイオマテリアルを提案 · 設計できる能力を得ることを目標とする。

(4) 研究業績

[原著]

1. Aoki S, Shimabukuro M, Kishida R, Kyuno K, Noda K, Yokoi T, Kawashita M. Electrochemical Deposition of Copper on Bioactive Porous Titanium Dioxide Layer: Antibacterial and Pro-Osteogenic Activities. ACS applied bio materials. 2023.11; 6(12); 5759-5767

2. Kuroyama K, Fujikawa R, Goto T, Sekino T, Nakamura F, Kimura-Suda H, Chen P, Kanetaka H, Hasegawa T, Yoshida K, Murata M, Nakata H, Shimabukuro M, Kawashita M, Yoda T, Yokoi T. Development of bioinspired damage-tolerant calcium phosphate bulk materials. Science and technology of advanced materials. 2023.10; 24(1); 2261836

3. Kubota, M; Furuya, M; Yokota, K; Kanetaka, H; Ogawa, T; Saito, S; Jeyadevan, B; Shimabukuro, M; Yokoi, T; Kawashita, M. Proliferation and differentiation of MC3T3-E1 cells on polymethyl methacrylate cements containing Fe3O4 and TiO2 for hyperthermic treatment of metastatic bone tumors JOURNAL OF BIOMATERIALS APPLICATIONS. 2023.10; 38(5); 605-613

4. Taishi Yokoi, Masahiro Watanabe, Yuejun Wang, Tomoyo Goto, Tohru Sekino, Masaya Shimabukuro, Masakazu Kawashita. Synthesis and fluorescence properties of octacalcium phosphate with incorporated pyridinedicarboxylate ions Journal of the Ceramic Society of Japan. 2023.10; 131(10); 701-707

5. Tan, JLT; Shimabukuro, M; Kobayashi, M; Kishida, R; Kawashita, M; Ishikawa, K. Ant ‐ nest type porous scaffold with micro ‐ struts consisting of carbonate apatite for promoting bone formation and scaffold resorption Journal of biomedical materials research. Part A. 2023.09; 112(1); 31-43

6. Masaya Shimabukuro, Mamiko Kobayashi, Masakazu Kawashita. Metallic Substrate Influences on the Osteogenic Cell Compatibility and Antibacterial Activity of Silver-Incorporated Porous Oxide Layers Formed by Micro-Arc Oxidation 2023.08; 1(8); 2288-2294

7. K. Suzuki, M. Iwatsu, T. Mokudai, H. Kanetaka, M. Shimabukuro, T. Yokoi, M. Kawashita. Visible-light-enhanced antibacterial activity of silver and copper co-doped titania formed on titanium via chemical and thermal treatments Molecules. 2023.01; 28(2); 650

8. Yokoi T, Watanabe M, Nakamura F, Kimura-Suda H, Shimabukuro M, Kawashita M. Formation of octacalcium phosphate with incorporated dicarboxylate ions containing disulfide bonds. Dalton transactions (Cambridge, England : 2003). 2023; 52(45); 16586-16590

1. バイオマテリアル研究を振り返って バイオマテリアル—生体材料—. 2023.07; 41(3); 249

[講演 · 口頭発表等]

1. L. Chang, P. Chen, T. Mokudai, M. Kawashita, H. Kanetaka, I. Mizoguchi. Enhancing osteoconductivity of titanium by alkali-hot-water pretreatment. 第 6 回日本金属学会第 7 分野講演会 2023.12.23

2. S. Usuki, T. Ogawa, M. Shimabukuro, T. Yokoi, M. Kawashita. ε -$Fe_{2-3}N$ nanoparticles for magnetic hyperthermia. The 21st Asian BioCeramics Symposium (ABC2023) 2023.12.17

3. Y. Tsutsumi, H. Tsutsumi, M. Shimabukuro, P. Chen, M. Kawashita, H. Katayama, T. Hanawa. Development of novel titanium surface with both long-term antibacterial property and hard-tissue compatibility by two-step micro arc oxidation process. 11th Pacific Rim International Conference on Advanced Materials and Processing (PRICM11) 2023.11.20

4. T. Yokoi, K. Kuroyama, T. Goto, T. Sekino, P. Chen, H. Kanetaka, M. Shimabukuro, M. Kawashita, T. Yoda. Development of bioinspired highly damage-tolerant calcium phosphate-based bulk ceramic materials for biomedical applications. the 37th International Korea-Japan Seminar on Ceramics 2023.11.16

5. L. Chang, P. Cheng, T. Mokudai, M. Kawashita, H. Kanetaka, I. Mizoguchi. Evaluation of ostetogenic properties of bioactive porous titanium for orthodontic applications. TACT 2023 International Thin Films Conference 2023.11.13

6. S. Usuki, T. Ogawa, M. Shimbukuro, T. Yokoi, M. Kawashita. Magnetic and heat-generation properties of ε -$Fe_{2-3}N$ nanoparticles for magnetic hyperthermia therapy. The 3rd International Symposium on Design & Engineering by Joint Inverse Innovation for Materials Architecture (DEJI2MA 2023) 2023.10.20

7. T. Yokoi, K. Kuroyama, T. Goto, T. Sekino, P. Chen, H. Kanetaka, M. Shimabukuro, M. Kawashita, T. Yoda. Development of bioinspired damage tolerant calcium phosphate/pyrolytic carbon composite materials. The 3rd International Symposium on Design & Engineering by Joint Inverse Innovation for Materials Architecture (DEJI2MA 2023) 2023.10.20

8. P.-C. Sung, M. Shimabukuro, T. Yokoi, M. Kawashita. Preparation of bioactive titanium with visible light-enhanced antibacterial activity by hydrogen peroxide, copper acetate, and heat treatments. Biomaterials International 2023 2023.08.01

9. M. Shimabukuro, M. Kawashita, K. Ishikawa. ANTIBACTERIAL CARBONATE APATITE ARTIFICIAL BONE FOR BONE REGENERATION AND INFECTION PREVENTION. Biomaterial international 2023 (BMI2023) 2023.07.31

1. 臼杵壮一朗, 小川智之, 島袋将弥, 横井太史, 川下将一. 磁気温熱療法用窒化鉄ナノ粒子の合成と細胞毒性評価. 第 45 回日本バイオマテリアル学会大会 2023.11.06

2. 江田悠月, 島袋将弥, 横井太史, 川下将一. 結晶面を制御した水酸アパタイトに吸着した血清タンパク質のプロテオーム解析. 第 45 回日本バイオマテリアル学会大会 2023.11.06

3. 島袋 将弥, 川下 将一, 石川 邦夫. 細胞 · 組織応答に基づく抗菌性炭酸アパタイト骨補填材の創製. 第 45 回日本バイオマテリアル学会大会 2023.11.06

4. 横井 太史. リン酸塩系層状物質による新規生体活性材料の開発. 日本バイオマテリアル学会大会 2023.11.06

5. 横井太史, 島袋将弥, 川下将一. ピリジンジカルボン酸を層間に導入したリン酸八カルシウムの合成と蛍光特性. 第 32 回無機リン化学討論会 2023.09.21

6. 横井太史, 後藤知代, 関野徹, 島袋将弥, 川下将一. 芳香族カルボン酸含有リン酸八カルシウムの湿式合成と蛍光特性. 日本セラミックス協会第 36 回秋季シンポジウム 2023.09.08

7. 臼杵壮一朗, 小川智之, 島袋将弥, 横井太史, 川下将一. 磁気温熱治療用 ε -Fe2-3N ナノ粒子の磁気特性および発熱特性. 日本セラミックス協会第 36 回秋季シンポジウム 2023.09.06

8. 島袋将弥, 川下将一, 石川邦夫. 骨再生 · 感染予防のための抗菌性炭酸アパタイト骨補填材の開発. DEJI2MA 第 1 回公開討論会 2023.03.11

9. 橋本雅美, 大矢根綾子, 菊池正紀, 大槻主税, 石川邦夫, 宮崎敏樹, 川下将一. 擬似体液を用いたアパタイト形成能評価に関する国際規格の改定. 日本セラミックス協会 2023 年年会 2023.03.10

10. 黒江 晴彦, 梶原 奨平, 板谷 清司, 佐々木 哲朗, Davies Ian J., 横井 太史. 可視光応答光触媒複合繊維リン酸カルシウムの合成とウィルス感染防止効果. 令和 4 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2023.03.03

11. 中村 仁, 横井 太史, 大槻 主税. 水溶性ケイ酸イオン種の In Vitro 分子構造解析と細胞応答. 令和 4 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2023.03.03

12. 薮塚 武史, 高井 茂臣, 藤林 俊介, 赤澤 敏之, 横井 太史. 生体活性ポリエーテルエーテルケトンの高機能化. 令和 4 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2023.03.03

13. 宮崎 敏樹, 宮本 樹奈, 中村 仁, 横井 太史, 川下 将一. 磁性ナノ粒子の骨組織親和性及び発熱特性に与える合成プロセスの効果. 令和 4 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2023.03.03

14. 黒山かれん, 藤川竜一, 後藤知代, 関野徹, 中村郁哉, 木村-須田廣美, 長谷川智香, 依田哲也, 島袋将弥, 川下将一, 横井太史. 有機修飾リン酸八カルシウムを用いた特異な機械的性質を発現するリン酸カルシウム系複合材料の創製. 第 35 回代用臓器 · 再生医学研究会総会 · 日本バイオマテリアル学会北海道ブロック第 7 回研究会 2023.02.18

[受賞]

1. Best Poster Paper Award, 2023 年 08 月
2. 日本バイオマテリアル学会科学奨励賞, 日本バイオマテリアル学会, 2023 年 11 月

[その他業績]

1. 「高損傷許容性リン酸カルシウム系材料の作製に成功」 — 安心 · 安全な割れないセラミックス人工骨を目指して —, 2023 年 10 月
   Science and Technology of Advanced Materials

環境社会医歯学講座

国際健康推進医学

Global Health Promotion

教　授　　藤原 武男
准教授　　那波 伸敏
准教授　　森田 彩子（キャリアアップ）
講　師　　谷 友香子
助　教　　西村 久明
プロジェクト助教　山岡 祐衣
特任助教　　小山 佑奈

(1) 分野概要

人々が病気にならないようにするにはどうすればいいのか、という疑問を実証データにより解決できるようになることを目的とする。
そのために、疾患罹患のリスクについて正しく理解することができることを目標とする。
具体的には、疾患になるリスクを高める個体としての要因（遺伝子等）と環境要因、特に社会的環境要因は何か、その交互作用とは何か、胎児期や幼少期の長期的影響といったライフコースの視点も用いて因果推論を行うことができるようにする。
また、疫学調査にまつわる様々なバイアスを補正するために、高度な統計解析手法を身につける。
さらに、得られたデータを論文化し、国際学術誌に発表することでエビデンスを蓄積し、世界に貢献する姿勢を身につける。
最終的には、本授業を通じて、具体的な政策やプログラムを立案し、実際にフィールドで展開することで疾病予防のエビデンスを構築できるようになることを目標とする。

(2) 研究活動

当分野の主な研究テーマは以下の通り。
１．社会疫学 (社会格差、ソーシャルキャピタル、社会的ネットワーク、社会的サポートの健康影響)
２．ライフコース疫学（子ども期の貧困および逆境体験の健康影響）と国際比較研究
３．子ども虐待の予防
４．メンタルヘルス（特に妊娠期、育児期の親のメンタルヘルス、被災地のメンタルヘルス、子どものメンタルヘルス）
５．栄養疫学（妊娠期から子ども期における栄養、食環境）
６．環境保健（物理的環境、気候変動）
７．産業保健（職場の人間関係と健康に関する研究）
８．感染症疫学（新型コロナウイルス感染症に関する記述疫学、行動変容に関する研究）

(3) 教育活動

以下のコース・授業を担当しています。

【医学部】
医学科１年　「医学導入　Medical Introductory Course」
医学科３年　「行動科学」
医学科３年　「公衆衛生学」（科目責任者）

医学科 4 年　「公衆衛生学実習」（科目責任者）
研究実践プロジェクト
プロジェクトセメスター

【大学院医歯学総合研究科】
修士課程（グローバル健康医学（Master of Public Health in Global Health (MPH)）コース）「疫学 I、生物統計Ⅱ、医療システム、医療ビジネス、グローバルヘルス、母子保健学、行動科学、環境保健学」（科目責任者）、「疫学 II、公衆衛生学実習 I、公衆衛生学実習 II」
修士課程（医歯理工保健学専攻）「環境社会医歯学」
博士課程（医歯学系専攻）　「公衆衛生学：特論、演習、研究実習」
博士課程（医歯学系専攻）　「疾患予防パブリックヘルス医学概論」
博士課程（共同災害看護学専攻）「グローバルヘルスと政策」
修士 · 博士課程（臨床疫学プログラム（Clinical Epidemiology Program（CEP））「疫学基礎」「疫学応用」

【統合研究機構】
教職員対象　「臨床研究論文執筆コース（観察研究）」（科目責任者）

(4) 教育方針

人々が病気にならないようにするにはどうすればいいのか、という疑問を実証データにより解決できるようになることを目的とする。
そのために、疾患罹患のリスクについて正しく理解することができることを目標とする。
具体的には、疾患になるリスクを高める個体としての要因（遺伝子等）と環境要因、特に社会的環境要因は何か、その交互作用とは何か、胎児期や幼少期の長期的影響といったライフコースの視点も用いて因果推論を行うことができるようにする。
また、疫学調査にまつわる様々なバイアスを補正するために、高度な統計解析手法を身につける。
さらに、得られたデータを論文化し、国際学術誌に発表することでエビデンスを蓄積し、世界に貢献する姿勢を身につける。
最終的には、本授業を通じて、具体的な政策やプログラムを立案し、実際にフィールドで展開することで疾病予防のエビデンスを構築できるようになることを目標とする。
授業の到達目標：
（1）疾病罹患のリスクについて正しく説明できる
（2）自らのリサーチクエスチョンを言語化し、疾病リスクに関する仮説を立てることができる
（3）リサーチクエスチョンを解決するために、フィールドを開拓することができる、または既存のデータにアクセスすることができる
（4）疫学研究のデザインについて説明できる
（5）必要なサンプルサイズを計算できる
（6）一般的な統計解析（多変量解析、ロジスティック解析等）や高度な統計解析（マルチレベル解析、傾向スコア法、多重補完法等）を行うことができる
（7）論理的にリサーチクエスチョンを正当化することができ、英語で論文を執筆することができる
（8）介入政策、プログラムを立案し、その効果を検証する研究計画を立案することができる

(5) 研究業績

[原著]

1. Akaishi Y, Nawa N, Kashimada A, Itsui Y, Okada E, Yamawaki M. Association between Grit and depressive symptoms at the timing of job start among medical residents during the COVID-19 pandemic in Japan: a cross-sectional study. Medical education online. 2023.12; 28(1); 2225886

2. Morita A*, Fujiwara T, Murayama H, Machida M, Inoue S, Shobugawa Y. Association between trajectory of socioeconomic position and regional brain volumes related to dementia: Results from the NEIGE study. J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2023.12;

3. Segawa Y*, Jinno T, Matsubara M, Mastuyama Y, Fujiwara T, Okawa A. A cross-sectional study evaluating patients' preferences for Salter innominate osteotomy. J Orthop Sci. 2023.11; 28(6); 1298-1302

4. Morimoto M, Nawa N, Okada E, Itsui Y, Kashimada A, Yamamoto K, Akaishi Y, Yamawaki M. Elucidation of the needs for telecritical care services in Japan: A qualitative study. BMJ Open. 2023.11;

13(11); e072065

5. Sadachi R, Sato H, Fujiwara T, Hirakawa A. Enhancement of Bayesian optimal interval design by accounting for overdose and underdose errors trade-offs. J Biopharm Stat. 2023.11; 1-20

6. Tani Y*, Fujiwara T, Anzai T, Kondo K. Cooking skills, living alone, and mortality: JAGES cohort study. Int J Behav Nutr Phys Act. 2023.11; 20(1); 131

7. Matsukura H, Yamaoka Y, Matsuyama Y, Kondo K, Fujiwara T*. Association between adverse childhood experiences and marital status among Japanese older adults. Child Abuse Negl. 2023.10; 144; 106340

8. Matsuyama Y, Isumi A, Doi S, Fujiwara T*. Persistent poverty and child dental caries: time-varying exposure analysis. J Epidemiol Community Health. 2023.10; 77(10); 670-675

9. Terada S, Fujiwara T*, Sugawara J, Maeda K, Satoh S, Mitsuda N. Association of severe maternal morbidity with bonding impairment and self-harm ideation: A multicenter prospective cohort study. J Affect Disord. 2023.10; 338; 561-568

10. Nawa N, Nishimura H, Matsuyama Y, Doi S, Isumi A and Fujiwara T*. Association between the number of convenience stores and caries status in permanent teeth among elementary school children: results from the A-CHILD population-based longitudinal cohort study. 2023.10; 11; 1228197

11. Tani Y, Isumi A, Doi S, Fujiwara T*. Number of siblings and social capital among parents rearing schoolchildren: Results from the A-CHILD study. J Epidemiol. 2023.09; 33(9); 478-483

12. Tani Y*, Matsuyama Y, Yamaoka Y, Matsukura H, Kawahara T, Fujiwara T. Change of human flourishing during the COVID-19 pandemic in Japan: Results from population-based U-CORONA study. SSM Popul Health. 2023.09; 23; 101430

13. Mizusawa J, Sato H, Rubinstein LV, Fujiwara T, Yonemori K*, Hirakawa A*. Racial differences in longitudinal toxicities of anticancer agents in early phase cancer clinical trials. Cancer Med. 2023.09; 12(17); 18098-18109

14. Ishii T, Nawa N, Doi S, Morio T, Fujiwara T*. Association between the initiation of insurance coverage for fetal echocardiography and mortality from congenital heart disease in infants: An interrupted time series analysis. Paediatr Perinat Epidemiol. 2023.09; 37(7); 607-617

15. Tani Y*, Yamamoto T, Kusama T, Kinugawa A, Aida J, Fujiwara T, Kondo K. Cooking skills modify the association between oral health and mortality. Age Ageing. 2023.09; 52(9); afad180

16. Ogawa T, Onuma R, Kristensen MT, Yoshii T, Fujiwara T, Fushimi K, Okawa A, Jinno T. Association between additional weekend rehabilitation and in-hospital mortality in patients with hip fractures. Bone Joint J. 2023.08; 105-B(8); 872-879

17. Nishimura H, Nawa N, Yamaoka Y, Koyama Y, Kuramochi J, Fujiwara T. Association between residential greenness and severe psychological distress and the moderating role of 'stay-at-home' status: a population-based cross-sectional study during the COVID-19 pandemic in Japan. BMJ Public Health. 2023.08; e000093

18. Kanda K, Nishimura H, Koiso T, Takemoto K, Nakagoe K, Yamada T, Takahashi M, Hanafusa M, Kawahara T, Yanagida Y, Kuramochi J, Fujiwara T. Applying negative ions and an electric field to countermeasure droplets/aerosol transmission without hindering communication. Scientific reports. 2023.08; 13(1); 13965

19. Sasaki N, Tabuchi T, Fujiwara T, Nishi D*. Adverse childhood experiences and living in the socially deprived areas in adulthood: a cross-sectional study of the nationwide data in Japan. BMC Public Health. 2023.08; 23(1); 1616

20. Fujiwara T*, Koyama Y, Isumi A, Matsuyama Y, Tani Y, Ichida Y, Kondo K, Kawachi I. "What did you do in the War, Daddy?" : Paternal military conscription during WWII, economic hardship and family violence in childhood and health in late life in Japan. J Interpers Violence. 2023.07; 38(13-14); 8114-8135

21. Doi SK, Isumi A, Yamaoka Y, Shakagori S, Yamazaki J, Ito K, Shiomi M, Sumioka H, Fujiwara T*. The effect of breathing relaxation to improve poor sleep quality in adults using a huggable human-shaped device: a randomized controlled trial. Sleep Breath. 2023.07;

22. Ito Y, Okamoto K*, Mizuno Y, Ogino K, Fujiwara T, Nakagawa T, Ishikawa T, Kubo T, Uetake H. Double-lumen catheter is a risk factor for complications of peripherally inserted central venous catheters in children Journal of Pediatric Surgery Open. 2023.07; 2; 100023

23. Mizoguchi M, Kizuki M, Iwata N, Tokunaga M, Fushimi K, Kinugasa Y, Fujiwara T*. Comparison of short-term outcomes between robot-assisted and laparoscopic rectal surgery for rectal cancer: A propensity score-matched analysis using the Japanese Nationwide diagnosis procedure combination database. Annals of Gastroenterological Surgery. 2023.07;

24. Fukuya Y, Nawa N, Morita A, Fujiwara T*. Association of revision of Money Lending Business Act and suicide rate in Japan: An interrupted time series analysis. Suicide Life Threat Behav. 2023.06; 53(3); 372-384

25. Soma T, Fukuda S*, Matsuyama Y, Ikeda R, Inoue M, Waseda Y, Tanaka H, Yoshida S, Yokoyama M, Matsuoka Y, Fujiwara T, Kageyama Y, Fujii Y. Peritoneal closure and the processus vaginalis transection method to prevent inguinal hernia after robot-assisted radical prostatectomy. Int J Urol. 2023.06; 30(6); 532-538

26. Ashida T*, Fujiwara T, Kondo K. Association between adverse childhood experiences and social integration among older people in Japan: Results from the JAGES study. Arch Gerontol Geriatr. 2023.06; 114; 105099

27. Abe E*, Kobayashi M, Horikawa R, Morisaki N, Tanaka H, Sago H, Ogawa K, Fujiwara T. The Association Between Eating Quickly and Excessive Gestational Weight Gain. Womens Health Rep (New Rochelle). 2023.06; 4(1); 280-287

28. Zeng Z, Nawa N, Hirama C, Fujiwara T*. Hedonic Risk Preference Associated with High-Risk Behaviors under COVID-19 Pandemic among Medical Students in Japan. Int J Environ Res Public Health. 2023.06; 20(12);

29. Khin YP, Yamaoka Y, Abe A, Fujiwara T*. Association of child-specific and household material deprivation with depression among elementary and middle school students in Japan. Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2023.06; 1-11

30. Ohata M*, Nawa N, Minami K, Uchida T, Fujiwara T. Impact of preoperative intervention for smoking cessation on postoperative length of stay and cost for spine surgery patients: Propensity score matching analysis. Anaesth Crit Care Pain Med. 2023.06; 42(6); 101270

31. Aduhadra BD*, Doi S, Fujiwara T. The prevalence of post-traumatic stress disorder, depression, and anxiety in Libya: a systematic review Middle East Current Psychiatry. 2023.06; 30(1); 49

32. Isumi A, Doi S, Ochi M, Kato T, Fujiwara T*. School- and community-level protective factors for resilience among chronically maltreated children in Japan. Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2023.05; 58(3); 477-488

33. Koyama Y*, Fujiwara T. Competitiveness, country economic inequality and adolescent well-being: Analysis of 60 countries. Soc Sci Med. 2023.05; 325; 115892

34. Kawahara T, Doi S, Isumi A, Ochi M, Fujiwara T*. Interventions to change parental parenting behaviour to reduce unintentional childhood injury: a randomised controlled trial. Inj Prev. 2023.04; 29(2); 126-133

35. Ishii E, Nawa N, Hashimoto S, Shigemitsu H, Fujiwara T*. Development, validation, and feature extraction of a deep learning model predicting in-hospital mortality using Japan's largest national ICU database: a validation framework for transparent clinical Artificial Intelligence (cAI) development. Anaesth Crit Care Pain Med. 2023.04; 42(2); 101167

36. Fujiwara T, Doi S, Isumi A. Detecting intimate partner violence during pregnancy using municipal pregnancy registration records: An administrative data analysis. J Interpers Violence. 2023.04; 38(7-8); 5682-5698

37. Osako M, Yamaoka Y, Takeuchi C, Fujiwara T, Mochizuki Y*. Benefits and challenges of pediatric-to-adult health care transition in childhood-onset neurological conditions. Neurol Clin Pract. 2023.04; 13(2); e200130

38. Uchida Y, Yokoyama M*, Fujiwara M, Nakamura Y, Ishikawa Y, Fukuda S, Waseda Y, Tanaka H, Yoshida S, Fujiwara T, Fujii Y. Preservation of erectile and ejaculatory functions after tetramodal bladder-sparing therapy incorporating consolidative partial cystectomy against muscle invasive bladder cancer. Urology Research and Practice. 2023.04;

39. Maeda Y, Doi S, Isumi A, Terada S, Sugawara J, Maeda K, Satoh S, Mitsuda N, Fujiwara T*. Association between poor parent-daughter relationships and the risk of hyperglycemia in pregnancy: a hospital-based prospective cohort study in Japan. BMC Pregnancy Childbirth. 2023.04; 23(1); 227

40. Terada S, Isumi A, Doi S, Fujiwara T*. Association of maternal pre-pregnancy body mass index with resilience and prosociality of the offspring aged 6-7 years old: a population-based cohort study in Japan. Eur Child Adolesc Psychiatry. 2023.04;

41. Isamu K, Takamiya T*, Amagasa S, Machida M, Kikuchi H, Fukushima N, Inoue S, Murayama H, Fujiwara T, Shobugawa Y. The association of subjective vision with objectively measured intensity-specific physical activity and bout-specific sedentary behavior among community-dwelling older adults in Japan. Jpn J Ophthalmol. 2023.03; 67(2); 164-174

42. Hanafusa M, Ito Y, Ishibashi H, Nakaya T, Nawa N, Sobue T, Okubo K, Fujiwara T*. Association between socioeconomic status and net survival after primary lung cancer surgery: a tertiary university hospital retrospective observational study in Japan. Jpn J Clin Oncol. 2023.03; 53(4); 287-296

43. Wakai H, Nawa N*, Yamaoka Y, Fujiwara T. Stressors and coping strategies among single mothers during the COVID-19 pandemic. PLoS One. 2023.03; 18(3); e0282387

44. Hosoya S, Maeda Y, Ogawa K, Umehara N, Ozawa N and Sago H. Predictive factors for vaginal delivery by induction of labor in uncomplicated pregnancies at 40-41 gestational weeks: A Japanese prospective single-center cohort study. J Obstet Gynaecol Res. 2023.03; 49(3); 920-929

45. Tani Y, Fujiwara T, Kondo K. Associations of Cooking Skill with Social Relationships and Social Capital among Older Men and Women in Japan: Results from the JAGES. International journal of environmental research and public health. 2023.03; 20(5);

46. Tani Y, Isumi A, Doi S, Fujiwara T*. Food categories for breakfast and mental health among children in Japan: Results from the A-CHILD study. Nutrients. 2023.02; 15(5);

47. Miyamura K, Nawa N, Isumi A, Doi S, Ochi M, Fujiwara T*. Association between skipping breakfast and prediabetes among adolescence in Japan: Results from A-CHILD study. Front Endocrinol (Lausanne). 2023.02; 14; 1051592

48. Matsuyama Y*, Fujiwara T, Aida J. Tap water natural fluoride and parent-reported experience of child dental caries in Japan: Evidence from a nationwide birth cohort survey. Community Dent Oral Epidemiol. 2023.02;

49. Ogawa T, Fukushima K, Niimi M, Schermann H, Motoyoshi T, Moross J, Hashimoto M, Hirai T, Fujiwara T, Okawa A, Kurosa Y, Yoshii T*. A comparison of spinopelvic alignment and quality of life between farmers and non-farmers: A cross-sectional population-based study in Japanese rural area J Clin Med. 2023.02; 12(4);

50. Miyake R, Komatsu H, Ihira K, Hasegawa A, Maeda Y, Takemori S, Noguchi M, Dofutsu M, Onodera Y, Shinagawa M, Suemitsu T, Sugita Y, Higuchi Y, Izaki N, Kodera C, Nagase Y, Odawara K, Ogura J, Osaku D, Ohsuga T, Enomoto N, Kanai T, Mishima S, Morita K, Otsuka S, Suzuki K, Miura K, Yoshida Y. "Welcome to OBGYN World!" A novel recruitment event for medical students organized by the Japan Society of Obstetrics and Gynecology. J Obstet Gynaecol Res. 2023.02; 49(2); 487-492

51. Miyamura K, Nawa N, Isumi A, Doi S, Ochi M, Fujiwara T. Impact of exposure to secondhand smoke on the risk of obesity in early adolescence. Pediatric research. 2023.01; 93(1); 260-266

52. Hanafusa M, Nawa N, Goto Y, Kawahara T, Miyamae S, Ueki Y, Nosaka N, Wakabayashi K, Tohda S, Tateishi U, Fujiwara T*. Effectiveness of remdesivir with corticosteroids for COVID-19 patients in intensive care unit: a hospital-based observational study. J Med Virol. 2023.01; 95(1); e28168

53. Nawa N, Numasawa M, Yamaguchi K, Morita A, Fujiwara T, Akita K. Association between the social network of medical students and their academic performance on the anatomy written examination. Anatomical Sciences Education. 2023.01; 16(4); 654-665

54. Mishima Y, Nawa N, Asada M, Nagashima M, Aiso Y, Nukui Y, Fujiwara T, Shigemitsu H. Impact of Antibiotic Time-Outs in Multidisciplinary ICU Rounds for Antimicrobial Stewardship Program on Patient Survival: A Controlled Before-and-After Study. Critical care explorations. 2023.01; 5(1); e0837

55. Shimazu A*, Fujiwara T, Iwata N, Kato Y, Kawakami N, Maegawa N, Nakao M, Nomiyama T, Takahashi M, Tayama J, Watai I, Arima M, Hasegawa T, Matsudaira K, Matsuyama Y, Miyazawa Y, Shimada K, Takahashi M, Watanabe M, Yamaguchi A, Adachi M, Tomida M, Chen D, Doi S, Hirano S, Isokawa S, Kamijo T, Kobayashi T, Matsuzaki K, Moridaira N, Nitto Y, Ogawa S, Sakurai M, Sasaki N, Tobayama M, Yamauchi K, Obikane E, Odawara M, Sakka M, Takeuchi K, Tokita M. Effects of work-family life support program on the work-family interface and mental health among Japanese dual-earner couples with a preschool child: A randomized controlled trial. J Occup Health. 2023.01; 65(1); e12397

56. Koyama Y, Cortes Hidlgo AP, Lacy RE, White T, Jansen PW, Fujiwara T, Tiemeier H*. Poverty from fetal life onward and child brain morphology. Sci Rep. 2023.01; 13(1); 1295

57. Nagamine Y*, Shobugawa Y, Sasaki Y, Takagi D, Fujiwara T, Khin YP, Nozaki I, Shirakura Y, Kay Thi L, Poe Ei Z, Thae Z, Win HH. Associations between socioeconomic status and adherence to hypertension treatment among older adults in urban and rural areas in Myanmar: a cross-sectional study using baseline data from the JAGES in Myanmar prospective cohort study. BMJ Open. 2023.01; 13(1); e065370

58. Ishikawa N, Koyama Y, Doi S, Isumi A, Fujiwara T. Association between subjective degree of influence in class and thinness among adolescents in Japan. Frontiers in pediatrics. 2023.01; 10; 938139

1. 山北 満哉, 辻 大士, 金森 悟, 谷 友香子, 藤原 武男, 近藤 尚己, 近藤 克則. 運動・スポーツのライフコースと認知症の関連　高齢者を対象とした大規模地域コホート研究 若手研究者のための健康科学研究助成成果報告書. 2023.07; (37); 101-110

[書籍等出版物]

1. 藤原　武男. とよなか都市創造 2023 VOL.1. 豊中市, 2023.03

[講演・口頭発表等]

1. 藤原　武男. 四大学連合によるポストコロナ社会コンソーシアムの取組等について. 第 7 回社会科学の発展を考える円卓会議 2023.01.26 オンライン

1. 那波伸敏. 日本社会における子どもの貧困 第 2 章. 子どもの貧困と健康 (総合シンポジウム 7 シンポジスト). 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.16 東京

2. 谷 友香子, 花里 真道, 藤原 武男, 鈴木 規道, 近藤 克則. 歩道の多いウォーカブルな地域では認知症リスク減　JAGES コホートデータ. Journal of Epidemiology 2023.02.01

3. 藤原 武男.　子どもの貧困と健康.　母子保健研修会 令和 4 年度「健やか親子 21(第 2 次)」強化推進事業 2023.01.21 オンライン

[その他業績]

1. 「 成人における睡眠の質改善を目的とした抱き枕型通信メディアを用いた呼吸法の効果 」 , 2023 年 07 月
Sleep and Breathing

2. イオンと電界を利用した、コミュニケーションを阻害しない飛沫／エアロゾル感染対策 —異分野融合の感染症対策を四大学連合が学生主体で開発— 【, 2023 年 10 月
Scientific Reports

3. 「暑すぎても寒すぎても赤ちゃんが早く産まれる」 —　10 年間 190 万件の全国規模の出産データの解析から　—, 2023 年 11 月
BJOG-AN INTERNATIONAL JOURNAL OF OBSTETRICS AND GYNAECOLOGY

4. 「　Doctor to Doctor （D to D）の遠隔集中治療のニーズを解明 」 —　医学科学生の研究室配属実習での研究成果　—, 2023 年 12 月
BMJ Open

[社会貢献活動]

1. 【委員】文京区地域保健推進協議会, 文京区, 文京区, 2021 年 07 月 01 日 - 2023 年 06 月 30 日
2. 【委員】文京区地域福祉推進協議会保健部会員, 文京区, 文京区, 2021 年 07 月 01 日 - 2023 年 06 月 30 日
3. 【委会】日本公衆衛生学会 ライフコース · ビックデータ検討委員会, 一般社団法人日本公衆衛生学会, 2021 年 11 月 10 日 - 2023 年 10 月 30 日
4. 【委員】日本公衆衛生学会 選挙管理委員会, 一般社団法人日本公衆衛生学会, 2021 年 11 月 10 日 - 2023 年 10 月 30 日
5. 【委員】足立区ガイドライン及びカリキュラムの活用促進委員会, 足立区, 2022 年 08 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
6. 「Pediatr Res」誌ご発表論文（2022 Aug 13;1-7）について, ヘルスデージャパン, 2022 年 09 月 21 日 - 現在
7. 【委員】日本疫学会 日本医学会医学用語委員, 一般社団法人日本疫学会, 2022 年 10 月 - 2024 年 10 月
8. ソーシャル · キャピタルと子どもの健康, 豊中市役所, 機関誌『とよなか都市創造 vol.1』, 2022 年 10 月 20 日 - 2023 年 03 月
9. 受動喫煙と子どもの肥満について, メディカルトリビューン, 地方紙, 2022 年 11 月 28 日 - 現在
10. 出産費用の国際比較について, 東京新聞, 東京新聞, 2023 年 01 月 17 日
11. International Day of Women and Girls in STEM に向けたコメントについて, EDANZ, EdanzYoutube, 2023 年 02 月 09 日
12. My career story, 東京医科歯科大学, TMDUYouTube, 2023 年 03 月
13. 買い物難民の健康について, 読売テレビ, かんさい情報ネット ten., 2023 年 03 月 14 日
14. 「Front Endocrinol」誌掲載論文について, ヘルスデージャパン, 媒体各社, 2023 年 03 月 27 日
15. 「Front Pediatr」誌発表論文について, 一般社団法人日本スポーツ栄養協会, スポーツ栄養 Web, 2023 年 05 月 24 日
16. 「BMC Pregnancy Childbirth」誌発表論文について, ヘルスデージャパン, 「ケアネット」「m3」「毎日新聞（Web）」「ダイヤモンド」「小学館」など, 2023 年 06 月 12 日
17. 「BMC Pregnancy Childbirth」誌ご発表論文について, ヘルスデージャパン, 「ケアネット」「m3」「毎日新聞（Web）」「ダイヤモンド」「小学館」など, 2023 年 06 月 12 日
18. 「American Journal of Preventive Medicine」誌発表論文について, ワシントンポスト, 2023 年 08 月 05 日
19. プレスリリース研究成果の詳細について, 産経新聞社, 産経新聞／産経ニュース, 2023 年 08 月 17 日
20. 「scientific reports」誌発表論文について, 日本歯科新聞, 日本歯科新聞, 2023 年 10 月 31 日
21. 「多趣味な高齢者は死亡リスクが低い」という研究について, BS 朝日, 草野仁の名医が寄りそう！ カラダ若返り TV, 2023 年 11 月 19 日
22. 気温と早産の関係, 時事通信社, 地方紙ほか, 2023 年 11 月 29 日 - 現在
23. 「Int J Behav Nutr Phys Act」掲載論文について, ヘルスデージャパン, HealthDay News, 2023 年 11 月 30 日 - 2024 年 01 月 31 日
24. 社会的孤立の抑制と調理技術について, 朝日新聞社, 朝日新聞, 2023 年 12 月 01 日 - 現在

寄生虫学・熱帯医学分野

Department of Parasitology & Tropical Medicine

教授 石野 智子
助教（学内講師） 熊谷 貴
講師 新澤 直明
プロジェクト講師　長岡 ひかる
助教　馬場 みなみ
非常勤講師 鳥居 本美
非常勤講師 山岡 昇司
非常勤講師 中村 ふくみ
非常勤講師 下河原 理江子
非常勤講師 小林 大介
非常勤講師 菅沼 眞澄
大学院生 有本 翔
大学院生 窪田理恵
大学院生 AZERIGYIK FAUSTUS AKANKPER
大学院生 LADZEKPO DANIELLE
大学院生 MAHAZU SAMIRATU
大学院生 OWUSU KOFI BAFFOUR—AWUAH
大学院生 Oundavong Sunti
大学院生 Mark Tetteh-Tsifoanya
大学院生 Quratul-ain Issahaque
大学院生 関根 崇
大学院生 Peter Bolah
大学院生 Frederick Ofosu Appiah
大学院生 Amanor Ivy Brago
大学院生 Eric Coffie
大学院生 篠崎 桃歌
大学院生 岡田 玲那
技術補佐員 村山 比佐子
技術補佐員 岡村 登喜子

(1) 分野概要

寄生虫疾患は、今なお世界各地で人々の生活に大きな影響を与え続け、その対策は保健衛生における重要な課題である。世界三大感染症の1つであるマラリアは、世界中で2億人を超える人が感染し、アフリカを中心に年間60万人が亡くなる寄生虫疾患である。特に5歳以下の乳幼児の死亡率が高く2分に1人の子供が亡くなる現状である。住血吸虫症も世界中に2億人を超える感染者がいるものの、「顧みられない熱帯病」として、有効な対策が十分に取られていない。私たちは、このような寄生虫疾患に対し、病原寄生体の感染機構の解明や、宿主との相互作用を解明する事を目標に研究を継続的に実施する。これらの基礎研究は、寄生虫の生物学的な理解を深めることに留めることなく、感染流行地を含め世界の研究者たちと連携し、ワクチンや薬剤の開発へと展開させていく。

本分野は、衛生動物学の研究を主として開設され、その後寄生虫疾患の中でも蠕虫をテーマに活発な研究を展開してきた歴史がある。2021年に石野が着任し、前任の岩永教授に続き、マラリア原虫をメインのテーマとしながら、これまでの蓄積を活かし、住血吸虫など重要な寄生虫疾患を対象に研究を進める。マラリアについては、宿主細胞感染機構を、特に宿主と寄生体の相互作用に着目して解明するために、ネズミマラリア原虫、ヒトの熱帯熱

マラリア原虫を用い、逆遺伝学的およびライブイメージング等の手法を活用して研究を進める。これに加え、薬剤耐性獲得のメカニズムや、新規ワクチン開発なども実施する。一方、住血吸虫症では small RNA を内包する細胞外小胞による寄生虫間情報伝達機構について研究を進めている。また、ガーナやラオスなどの感染流行地におけるフィールド研究を実施し、寄生虫疾患の新規診断ツールやワクチン開発への展開も目指している。

(2) 研究活動

(1) マラリア原虫の宿主細胞感染機構の解明：
マラリア原虫はその生活環の中で、様々に異なる細胞に効率よく侵入 · 感染する。特に、蚊からヒトへのマラリア伝搬を担うスポロゾイトが肝細胞に到達、感染する機構の解明に力を注ぐ。これまでに、マラリア原虫の遺伝子改変技術により、スポロゾイト感染に関わる原虫の分泌型タンパク質を複数同定し、その機序の一部を解明し報告してきた。今後は、これらのタンパク質と相互作用する宿主細胞側分子の同定を通じて、宿主ー寄生体の相互作用の観点から感染機構を包括的に理解したいと考える。同様の手法で、赤血球の感染機構や蚊の体内での原虫の有性生殖などのメカニズムの解明へと繋げる。得られた基礎的な知見を元に、感染流行地や他分野の研究者と共同で、感染阻止法などの開発への展開を目指している。

(2) マラリア原虫の薬剤耐性機構に関する研究：
マラリアの薬物治療はアルテミシニンを主薬剤として作用機序 · 半減期が異なるパートナードラッグを組み合わせた併用療法 (Artemisinin combination therapy) が第一選択となっている。しかし、マラリア流行地ではアルテミシニンやパートナードラッグに対する耐性原虫が蔓延しており、マラリア根絶に向けて大きな障害になっている。私達は、次世代シーケンサーを用いて、流行地で得られた臨床分離株の全ゲノム解析や遺伝子発現解析を行い、薬剤耐性遺伝子を探索してきた。さらにゲノム編集技術を活用し、それらの薬剤耐性遺伝子の機能解析を行い、薬剤耐性機構の解明を目指している。得られた知見は、マラリア流行地における薬物治療戦略の開発に役立つことが期待される。

(3) 住血吸虫の細胞外小胞を通した産卵誘導機構の解明：
雌雄異体である吸虫類の住血吸虫は血管内で雌雄が抱合することで、産卵を行う。この雌雄での生殖のための情報交換として細胞外小胞に着目し研究を行っている。細胞外小胞の分泌阻害剤であるカルパインインヒビター (calpeptin) で処理した虫体では細胞外小胞の分泌とともに、産卵数の減少が見られた。このことから、現在、カルパイン遺伝子ファミリーの RNAi によるノックダウンを行い、細胞外小胞の分泌と産卵誘導におけるカルパインの機能を解析している。

(4) ガーナ拠点の研究支援：
東京医科歯科大学のガーナ · 野口記念医学研究所拠点活動の一員として、マラリアを中心とした寄生虫研究を実施する。ガーナでは全人口の 1/6 に相当する約 500 万人もの人々が、毎年マラリアに感染する。社会的に大きなインパクトを与える問題に取り組むために、特に蚊に媒介されるステージの原虫に着目し、基礎研究で得られた知見をベースに応用展開を目指す。また、流行地でしか得られない知見 · 経験を、基礎研究および医学生の教育へと還元する。野口研の若手研究者を博士課程の学生として受け入れ共に研究を行う事で、継続的な連携に向けて尽力している。

(3) 教育活動

日本における寄生虫感染症例は、地域、学校、職場などによる検査の実施、および薬剤投与など、さまざまな努力によって戦後大きく減少した。一方で、近年の社会環境の劇的な変化、ペットブーム、食習慣の変化、冷蔵技術の進歩などに伴って、国内で認められる寄生虫疾患の種類や発生動向が大きく変化してきた。それに加えて、物流および人間の出入国の増加に伴い、寄生虫症が流行する地域からの輸入症例の増加がわが国の安全 · 安心に重大な影響をもたらすようになった。2019 年末から始まった、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを例に挙げるまでもなく、医療者にとって感染症の知識、対応を常に最新のものにし、さらに新興感染症に備えることは極めて重要である。さらに 21 世紀になってクローズアップされてきた「顧みられない熱帯感染症；Neglected Tropical Diseases」の大半が寄生虫病である事実は、寄生虫病が国際的に取り組むべき課題であることを顕著に示している。本分野では、世界の様々な地域における健康と福祉を理解し、思考し議論できる人材育成を進めるために、以下の事項を中心に教育している。医学部医学科の医動物学、社会医学、感染症学の他に、保健学科、歯学科においても講義を担当する。また、医学科のプロジェクトセメスターにおいては、基礎研究の考え方を指導するとともに、ガーナ派遣学生の指導も担当している。これらの教育を通じて、これからの保健医療分野で国際的に指導的

立場に立てる人材の育成を目指している。

1. 日本国内における寄生虫病の実態と診断 · 治療など
2. 世界の寄生虫感染症流行の実態と予防対策
3. 寄生体の宿主への感染機構、さらに生活環の生物学的理解
4. 熱帯感染症の基礎知識と国際保健の取り組み
5. 顧みられない熱帯病の現状と国際社会による対策

(4) 教育方針

寄生虫および寄生虫感染症、衛生動物学の知識を系統的に教授する。その際に、それぞれの寄生虫症の発見や克服の歴史を紹介することで、今後の新興 · 再興感染症への対応ができる素地を育成する。実際の寄生虫標本を自ら観察することで、自発的に生物学的視点からの寄生虫の理解を促進するとともに、各疾患と診断法をリンクさせて定着を図る。実習を通じて、課題を自ら拾いだして問題解決にあたる能力を涵養することを目指している。座学だけにとどまらず、実習や野外調査になるべく多く参加させて、リアリティをもった課題設定とその解決能力の涵養を心がけている。

(5) 臨床活動および学外活動

学内外の医療機関と連携し、寄生虫症診断のアドバイスを積極的に実施している。関東のみならず日本中から問い合わせを頂き、正しい診断に貢献する。
寄生虫感染症を対象とした診断法、治療薬やワクチン開発を目指した研究を実施している。また、国際共同研究として、流行地の調査研究に参加し、疾病コントロールや、ワクチン効果の評価、あるいは薬剤耐性の獲得メカニズムの解明などを通じて、感染流行地への貢献を目指した研究を行っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Kunkeaw, N; Nguitragool, W; Takashima, E; Kangwanrangsan, N; Muramatsu, H; Tachibana, M; Ishino, T; Lin, PJC; Tam, YK; Pichyangkul, S; Tsuboi, T; Pardi, N; Sattabongkot, J. A Pvs25 mRNA vaccine induces complete and durable transmission-blocking immunity to < i> Plasmodium vivax< /i> NPJ VACCINES. 2023.12; 8(1); 187

2. Maartje R Inklaar, Roos M de Jong, Ezra T Bekkering, Hikaru Nagaoka, Felix L Fennemann, Karina Teelen, Marga van de Vegte-Bolmer, Geert-Jan van Gemert, Rianne Stoter, C Richter King, Nicholas I Proellochs, Teun Bousema, Eizo Takashima, Takafumi Tsuboi, Matthijs M Jore. Pfs230 Domain 7 is targeted by a potent malaria transmission-blocking monoclonal antibody. NPJ Vaccines. 2023.12; 8(1); 186

3. Thongpoon, S; Roobsoong, W; Nguitragool, W; Chotirat, S; Tsuboi, T; Takashima, E; Cui, LW; Ishino, T; Tachibana, M; Miura, K; Sattabongkot, J. Naturally Acquired Transmission-Blocking Immunity Against Different Strains of Plasmodium vivax in a Malaria-Endemic Area in Thailand JOURNAL OF INFECTIOUS DISEASES. 2023.11; 229(2); 567-575

4. Occurrence and prevalence of third-stage larvae of the Anisakidae family in Macrouridae species captured from bathyal depths of Sagami Bay, Japan 2023.10;

5. Ladzekpo Danielle, Kwofie Kofi Dadzie, Kawada Hayato, Mikami Fusako, Tsuji Naotoshi, Iwanaga Shiroh, Dadzie Samuel Kweku, Hatta Takeshi, Ishino Tomoko. A possible circulation of a dominant Dibothriocephalus nihonkaiensis haplotype in Japan revealed by molecular analysis of clinical tapeworm samples Parasitology International. 2023.10; 96; 1-9

6. Nishida T, Hiramatsu Y, Shinzawa N, Horino A, Mori S, Horiguchi Y. Complete genome sequences of nine Burkholderia pseudomallei strains. Microbiology resource announcements. 2023.09; 12(9); e0040023

7. Ifra Hassan, Bernard N Kanoi, Hikaru Nagaoka, Jetsumon Sattabongkot, Rachanee Udomsangpetch, Takafumi Tsuboi, Eizo Takashima. High-Throughput Antibody Profiling Identifies Targets of Protective Immunity against P. falciparum Malaria in Thailand Biomolecules. 2023.08; 13(8);

8. Somphou Sayasone, Phonepadith Khattignavong, Sengdeuane Keomalaphet, Phoyphaylinh Prasayasith, Pheovaly Soundala, Sonesimmaly Sannikone, Takashi Kumagai, Souk Phomhaksa, Phouth Inthavong, Emilie Louise Akiko Matsumoto-Takahashi, Bouasy Hongvanthong, Paul T Brey, Shigeyuki Kano, Moritoshi Iwagami. Low Prevalence of Schistosoma mekongi Infection and High Prevalence of Other Helminth Infections among Domestic Animals in Southern Lao People's Democratic Republic Trop Med Infect Dis. 2023.07; 8(7); 372

9. Matsumoto-Takahashi ELA, Kumagai T, Oyoshi K, Sasaki Y, Mizukami Y, Hongvanthong B, Brey PT, Kano S, Iwagami M. Impact of precipitation on the prevalence of schistosomiasis mekongi in Lao PDR: Structural equation modelling using Earth observation satellite data One health (Amsterdam, Netherlands). 2023.06; 16; 100563

10. Baba M, Nozaki M, Tachibana M, Tsuboi T, Torii M, Ishino T. Rhoptry neck protein 4 plays important roles during Plasmodium sporozoite infection of the mammalian liver. mSphere. 2023.06; 8(4); e0058722

11. Baba Minami, Nozaki Mamoru, Tachibana Mayumi, Tsuboi Takafumi, Torii Motomi, Ishino Tomoko. Rhoptry neck protein 4 plays important roles during Plasmodium sporozoite infection of the mammalian liver MSPHERE. 2023.06; 8(4); e0058722

12. Kohdai Yamada, Fumiya Soga, Soh Tokunaga, Hikaru Nagaoka, Tatsuhiko Ozawa, Hiroyuki Kishi, Eizo Takashima, Tatsuya Sawasaki. GATS tag system is compatible with biotin labelling methods for protein analysis. Sci Rep. 2023.06; 13(1); 10243

13. Otsuki H, Kaneko O, Ito D, Kondo Y, Iriko H, Ishino T, Tachibana M, Tsuboi T, Torii M. Cysteine Residues in Region 6 of the Plasmodium yoelii Erythrocyte-Binding-like Ligand That Are Related to Its Localization and the Course of Infection. Biomolecules. 2023.03; 13(3);

14. Azerigyik FA, Faizah AN, Kobayashi D, Amoa-Bosompem M, Matsumura R, Kai I, Sasaki T, Higa Y, Isawa H, Iwanaga S, Ishino T. Evaluating the mosquito host range of Getah virus and the vector competence of selected medically important mosquitoes in Getah virus transmission. Parasites & vectors. 2023.03; 16(1); 99

15. Kumagai Takashi, Shiozaki Akira, Tajima Yuko. Molecular characterization of the parasitic nematode genus Crassicauda; larvae parasitic on the firefly squid and adults on beaked whales off the coast of Japan INTERNATIONAL JOURNAL FOR PARASITOLOGY-PARASITES AND WILDLIFE. 2023.01; 20; 56-62

16. Ramin Mazhari, Eizo Takashima, Rhea J Longley, Shazia Ruybal-Pesantez, Michael T White, Bernard N Kanoi, Hikaru Nagaoka, Benson Kiniboro, Peter Siba, Takafumi Tsuboi, Ivo Mueller. Identification of novel Plasmodium vivax proteins associated with protection against clinical malaria. Front Cell Infect Microbiol. 2023; 13; 1076150

1. Ladzekpo Danielle, Kwofie Kofi Dadzie, Kawada Hayato, Mikami Fusako, Tsuji Naotoshi, Iwanaga Shiroh, Dadzie Samuel Kweku, Hatta Takeshi, Ishino Tomoko. A possible circulation of a dominant Dibothriocephalus nihonkaiensis haplotype in Japan revealed by molecular analysis of clinical tapeworm samples PARASITOLOGY INTERNATIONAL. 2023.10; 96;

2. Arimoto Sho, Inagaki Katsuhiro, Todokoro Daisuke, Suzuki Takashi, Makimura Koichi, Ishino Tomoko. Antifungal Efficacy of Luliconazole in an Experimental Rabbit Model of Fungal Keratitis Caused by Fusarium solani MYCOPATHOLOGIA. 2023.08; 188(5); 775-782

[講演・口頭発表等]

1. 熊谷 貴. SNS を利用したアニサキスリスクマップの有効性. 日本臨床寄生虫学会大会プログラム・講演要旨 2023.06.01

2. 熊谷貴，宮本雅彰，篠崎桃歌，石野智子. マンソン住血吸虫幼虫を殺滅する巻貝用飼料の開発. 第 92 回日本寄生虫学会大会 2023.03.31 金沢

3. 石野 智子, 馬場 みなみ, 野崎 守, 橘 真由美, 新澤 直明, 鳥居 本美. マラリア原虫スポロゾイトにおけるRAMA の役割の解析. 第 92 回日本寄生虫学会大会 2023.03.30 石川県金沢市

4. 橘 真由美, 鳥居 本美, 新澤 直明, 馬場 みなみ, Richard Culleton, 石野 智子 . オーキネートのクリスタロイドタンパク質 PyCryPH2 は唾液腺侵入に関与する. 第 92 回日本寄生虫学会大会 2023.03.30 石川県金沢市

5. Thant Tun, Chaiyawong Nattawat, Takahiro Ishizaki, Masahito Asada, Kazuhide Yahata, Minami Baba, Osamu Kaneko. The critical role of Pleckstrin Homology domain-containing protein 1 (PH1) in the asexual blood stage of Plasmodium yoelii. 第 92 回日本寄生虫学会大会 2023.03.30 石川県金沢市

[特許]

1. 特許発明等「新規抗住血吸虫剤」, 特許番号：特願 2008-172663

[その他業績]

1. 世界でのマラリアの流行とワクチンの開発, 2023 年 09 月
株式会社日経ラジオ社

[社会貢献活動]

1. J-GRID 海外拠点事業, 文部科学省　AMED, 日本国およびガーナ共和国, 2010 年 04 月 01 日 - 現在

法医学

Forensic Medicine

教授　上村 公一
准教授　秋 利彦
　　鵜沼 香奈
助教　船越 丈司
特任助教　渡邊 嶺
　　温 書恒

大学院生
青木 奨
野村 萌夏
小松 美結
長野 修太郎
立花 光
松本 くるみ

研究生
木村 将俊

(1) 研究活動

研究

当教室では、研究は法医学的な応用を視野に入れながら、科学の発展に寄与できるように取り組んで行きたいと考えている。
1. 中毒学
中毒は法医学領域において、重要な死因であり、その薬毒物の作用機序を解明し、中毒の治療・予防に寄与することをめざす。薬毒物によりその作用機序はことなり、死につながる病態も様々である。現在、細胞死の機序を生化学・分子生物学的手法を用いて研究している。心臓、神経、肺上皮等由来の培養細胞に、薬毒物（一酸化炭素、シアン、ヒ素）を作用させ、細胞死に関与する細胞内情報伝達系について研究している。特にミトコンドリアの機能、細胞保護的なオートファジーの関与を中心に研究している。適宜、動物モデルを用いる。
2. アルコール医学
アルコールは急性中毒のみならず、アルコールが関与した事故、犯罪、家庭崩壊、労働能力低下など社会的、経済的に重要な薬物である。法医学領域においては、酩酊度の評価が重要である。アルコールによる細胞毒性機序について研究している。
３．法医病理
　法医診断の精度向上のため、免疫組織化学、動物モデルを作成して、研究している。

(2) 教育活動

教育

法医学とは医学的解明助言を必要とする法律上の案件，事項について，科学的で公正な医学的判断を下すことに

よって，個人の基本的人権の擁護，社会の安全，福祉の維持に寄与することを目的とする医学である。

法律上問題となる医学的事項は多岐で、司法分野に限らず、行政、立法の分野にも及ぶが、司法的分野の問題が最も多い。従って、法医学は法治国家には不可欠な学問であり、制定法の整った民主主義国家においては臨床医学のあらゆる領域に跨って法医学的な問題が存在する。例えば死亡診断書の作成、医事紛争防止などは法医学専門家よりはむしろ臨床医に身近な問題であるが、これらの問題の解決には法医学的な基本知識が必要である。特に医学を倫理、法律、行政、社会、訴訟などと関連づけて見る目を養う必要がある。臨床医に必要な法医学的常識と心構えを医師になるまでに身に付けさせることを目標として、講義と実習を行っている。
系統的講義としては、主として死体に関するものである。死体現象、損傷の見方 · 所見の取り方、窒息、中毒、内因性急死につき、死体検案に必要な知識を中心に講義を行う。応用的講義は、生体に関する法医学的事項も交えて、主として実務問題の解決に必要な知識を中心に講義する。法医学を専門としない医師にとっても、診断書作成、医事紛争の防止、死体検案などは必ず遭遇する身近な法医学的事項である。
実習では、法医学特有の事項を体験することを主な目標として、血液型検査、アルコール検査、法医解剖の見学などがある。

当分野では法医学者および法医学検査実務専門家の養成を目指している。

(3) 臨床活動および学外活動

実務

法医学は社会医学系講座なので種々の鑑定業務を担当し、これが応用医学の臨床に相当する。裁判により、加害者ないしは被告側には相応の責任が科せられるので、鑑定者の責任は重い。従って、法医学ではこれらの鑑定業務を遺漏なく円滑に行うための研究に力が注がれている。
1. 死体に関する鑑定
　犯罪の被害者と思われる死体について、刑事訴訟法に基づき、検察または司法警察員の嘱託により、裁判所の許可を得て解剖検査するもので、一般に司法解剖と呼ばれている。司法解剖では、「鑑定書」として嘱託者に回答する。鑑定書は刑事裁判での証拠となり、場合により、鑑定者は裁判所で証人として死因等について証言することもある。これらは、裁判の有罪 · 無罪の判断にもつながり、公正な裁判制度の維持に貢献し、社会的にきわめて重要であり、責任の重い業務である。最近は医療関連死の解剖も多くなり、最新の臨床知識も必要である。また、平成 21 年 5 月から裁判員制度も開始され、わかりやすい鑑定書の作成も求められている。平成 25 年 4 月から「警察等が取り扱う死体の死因又は身元の調査等に関する法律（死因 · 身元調査法）」に基づく解剖が開始された。これは事件性の有無が不明であり、主に死因究明および個人識別のために行われる解剖である。当分野は、東京 23 区および茨城県の日曜日 · 月曜日 · 火曜日の解剖を担当している。
2. 生体に関する鑑定
検察または司法警察員の嘱託により、生体の損傷の程度や成傷時期についての鑑定を行っている。

2023 年
法医解剖　187 件
（司法解剖 81 件、死因 · 身元調査法に基づく解剖 106 件）

(4) 研究業績

[原著]

1. Moeka Nomura, Shuheng Wen, Kana Unuma, Takeshi Funakoshi, Toshihiko Aki, Koichi Uemura. Increased fatty acid synthesis and disturbed lipid metabolism in Neuro2a cells after repeated cocaine exposure: A preliminary study. Biochem Biophys Res Commun. 2023.12; 695; 149438

2. Kana Unuma, Shuheng Wen, Toshihiko Aki, Koichi Uemura. Ectopic myogenesis and fibrosis accompany adipogenesis during thymic involution induced by repeated cocaine administration. Biochem Biophys Res Commun. 2023.12; 686; 149201

3. Shuheng Wen, Kana Unuma, Ryoichi Hanazawa, Shutaro Nagano, Ryo Watanabe, Akihiro Hirakawa, Koichi Uemura. Alcohol and toxicological factors influencing fatal falls from height in the Greater Tokyo Area: a retrospective study. Int J Legal Med. 2023.11;

4. Shuheng Wen, Kana Unuma, Koichi Uemura, Kazuki Harada. Revisiting the canonical definition of heat hematoma: A rare case of postmortem subdural heat hematoma. J Forensic Leg Med. 2023.07; 98; 102563

5. Shuheng Wen, Kana Unuma, Takeshi Funakoshi, Toshihiko Aki, Koichi Uemura. Cocaine induces vascular smooth muscle cells proliferation via DRP1-mediated mitochondrial fission and PI3K/HIF-1 α signaling. Biochem Biophys Res Commun. 2023.07; 676; 30-35

6. Toshihiko Aki, Hiroki Tanaka, Takeshi Funakoshi, Kana Unuma, Koichi Uemura. Excessive N-acetylcysteine exaggerates glutathione redox homeostasis and apoptosis during acetaminophen exposure in Huh-7 human hepatoma cells. Biochem Biophys Res Commun. 2023.07; 676; 66-72

7. Kana Unuma, Hiroyuki Sato, Shuheng Wen, Yohsuke Makino, Akihiro Hirakawa, Koichi Uemura. The proportion of false-positives in positive Seratec® prostate-specific antigen SemiQuant test results in postmortem screening for seminal fluid. Leg Med (Tokyo). 2023.05; 62; 102243

8. Toshihiko Aki, Mitsuki Kukita, Mao Takata, Takeshi Funakoshi, Kana Unuma, Koichi Uemura. Induction of filamin-C and its involvement in the regulation of cellular senescence and apoptosis in Huh-7 hepatoma cells during arsenic trioxide exposure. Biochem Biophys Res Commun. 2023.04; 651; 92-97

9. Kana Unuma, Dan Tomomasa, Kosuke Noma, Kouhei Yamamoto, Taka-Aki Matsuyama, Yohsuke Makino, Atsushi Hijikata, Shuheng Wen, Tsutomu Ogata, Nobuhiko Okamoto, Satoshi Okada, Kenichi Ohashi, Koichi Uemura, Hirokazu Kanegane. Case Report: Molecular autopsy underlie COVID-19-associated sudden, unexplained child mortality. Front Immunol. 2023.04; 14; 1121059

10. Miyu Komatsu, Takeshi Funakoshi, Toshihiko Aki, Kana Unuma, Koichi Uemura. Aristolochic acid induces an inflammatory response with prostaglandin E2 production and apoptosis in NRK-52E proximal tubular cells. Toxicol Lett. 2023.03; 378; 39-50

11. Shuheng Wen, Kana Unuma, Motoki Inaji, Yohsuke Makino, Shutaro Nagano, Kazuki Harada, Nobutaka Arai, Koichi Uemura. Case report: Fatal ischemic stroke induced by unruptured traumatic intracranial vertebral artery dissection. Front Neurol. 2023; 14; 1202698

[講演・口頭発表等]

1. 小松美結, 船越丈司, 上村公一. アリストロキア酸による近位尿細管急性毒性と DNA 損傷の検討. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12 神戸

2. 峰岸 沙希、鵜沼 香奈、上村 公一、櫻田 宏一. 身元不明遺体の歯科所見と厚労省歯科疾患実態調査との比較・検討. 第 60 回 日本犯罪学会 総会 2023.11.25 東京

3. 上村 公一、鵜沼 香奈. 調査法解剖から司法解剖に切り替えになった例. 第 60 回 日本犯罪学会 総会 2023.11.25 東京

4. 鵜沼 香奈 . 法医鑑定の意義を考える ～丁寧な法医解剖により予期せぬ真実を見出すことがある～The Significance of Forensic Examinations ～Careful forensic autopsy may reveal unexpected truths～. 第 60 回 日本犯罪学会 総会 2023.11.25 東京

5. 松本くるみ, 秋利彦, 船越丈司, 鵜沼香奈, 上村公一. 三酸化二ヒ素 (ATO) 曝露下のヒト結腸腺癌由来 HT29 細胞における Keratin8 の変化. 第 92 回 日本法医学会学術関東地方集会 2023.10.14 東京

6. 立花光, 野村萌夏, 船越丈司, 鵜沼香奈, 秋利彦, 上村公一. 合成カンナビノイド CP-55,940 がマウス神経芽細胞腫 Neuro2A に及ぼす細胞毒性. 第 92 回 日本法医学会学術関東地方集会 2023.10.14 東京

7. 温書恒、鵜沼香奈、船越丈司、秋利彦、上村公一. Contraction Band and Dephosphorylated Cardiac Connexin 43 after Daily Cocaine Administration. 第 107 次日本法医学会学術全国集会 2023.06.08

8. 長野 修太郎、鵜沼 香奈、秋 利彦、上村 公一. ラットにおける三酸化二ヒ素による酸化ストレス及び抗酸化防御機構の検討. 第 107 次日本法医学会学術全国集会 2023.06.08

9. 鵜沼 香奈、秋 利彦、温 書恒、船越 丈司、上村 公一. コカイン投与によるラット胸腺の組織学的検討. 第 107 次日本法医学会学術全国集会 2023.06.08

10. 青木 奨、船越 丈司、秋 利彦、上村 公一. 野生型および変異型の α -synuclein に対するメタンフェタミンの毒性の影響. 第 107 次日本法医学会学術全国集会 2023.06.08

11. 峰岸 沙希, 櫻田 宏一, 鵜沼 香奈, 上村 公一. 身元不明死体の歯科所見と死体状況等における関連性についての検討. 犯罪学雑誌 2023.06.01
12. 原田 一樹, 細谷 直, 矢野 航, 鵜沼 香奈, 金武 潤. 臨床医に役立つ頭部銃創のあれこれ　法医病理医からの情報提供. 日本脳神経外傷学会プログラム・抄録集 2023.02.01

[その他業績]

1. 鵜沼香奈 、金兼弘和.「COVID-19 に関連した小児突然死の背景にある希少疾患の診断に成功」 —　世界初の分子剖検による LZTR1 変異を有する Noonan 症候群の診断例　—, 2023 年 04 月
Frontiers in Immunology
2. Kana Unuma, Hirokazu Kanegane.　Molecular autopsy sheds light on cause of sudden death of a child with COVID-19, 2023 年 04 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. 上村公一. 台本に書かれている法医学部分の精査, 株式会社スイッチ, 教場０, 2023 年 01 月 - 2023 年 02 月
2. 上村公一、鵜沼香奈. 映画内での法医学部分に関する取材・監修について, TBS スパークル, 映画「ラストマイル」, 2023 年 03 月 11 日
3. 上村公一. 水死体の状態について, ホリプロ, 朽ちないサクラ（映画）, 2023 年 04 月 10 日
4. 上村公一.　WOWOW ドラマ内の医療監修について, WOWOW, 白暮のクロニクル, 2023 年 08 月 03 日 - 2023 年 10 月 30 日

医療政策情報学

Health Policy and Informatics

教　　授：伏見清秀
准 教 授 ：新城大輔
大学院生：本間明、太田美穂子、吉田祥子、近藤景介、森君枝、柴田俊明、小泉聖人、塚尾祐貴子、大高弘道、新城藍、竹内智紀、宮本憲一、山元佳、布施田泰之
研究生：遠藤一茂

(1) 分野概要

○当研究室での研究テーマ
· 情報技術の活用による医療実態の実証的分析から，医療の向上のための政策提言を行うことが研究目的の一つです．
· また，どのような情報技術を医療の向上のため活用するべきか，その社会的，技術的要因を，医療経済学，医療管理学等の広範な視点から調査，研究することも当教室の研究テーマです．
· 研究の対象は，医療提供体制，医療保険等の社会医療システムから，クリニカルパス，病院経営分析，危機管理等の病院管理，医療管理分野までを含む医療全般です．
具体的には：
１．診断群分類（DPC) と包括評価に関する制度設計、医療評価、医療経済分析
２．厚生医療統計分析による医療機関の機能分化等の我が国の医療のあり方に関する研究
３．医療の標準化と医療情報共有のための情報技術に関する研究
などのテーマで研究を進めています．

○当教室の特徴
· 情報技術を用いて今の医療システムに関する疑問点を分析し，解決策を見いだすことに主眼をおいています．実施臨床あるいは医療関連の職業に従事して，問題意識を持った方の研究の場を提供したいと考えています．もちろん，医歯学部卒直後の人でも，医療全般に問題意識を持ち，情報技術にその解決策を期待している人は歓迎いたします．情報工学の研究室ではありません．
· 学内各教室および厚生労働省，国立病院機構、他研究施設等との共同研究を実施していきます．

(2) 研究活動

本分野では以下のようなテーマを対象として研究を進めている．
１．医療機関の機能分化と分担連携のあり方について
２．本邦の医療提供体制に即した診断群分類の開発
３．医療の標準化と医療情報共有のための情報技術について

(3) 教育活動

医療政策情報学特論、医療政策情報学演習、医療政策情報学実験、診療情報管理学を担当、医療において必要な情報分析基礎能力と情報技術を応用した医療各分野での研究遂行能力の会得を目標とする。

(4) 教育方針

○大学院教育の目標
· 豊富な最新データを用いた実証的な研究を進めながら、医療データ分析、医療評価、政策評価などの方法論を体得し、原著論文を完成すること

○社会人大学院の研究プログラムの例
· 実地臨床の経験を積みながら，臨床に密接に関連したテーマについて情報技術を用いて医療システムの実証的分析を行う．
· 行政 · 医療機関管理者等の立場から，統計資料，経営分析データを活用して医療システムの分析を行う．

○必要とされる知識 · 技術 · 条件等
基本的なデータ分析技術（エクセル等の表解析程度ができれば充分）
医療に関する興味と一般的な常識
年間 300〜500 時間程度の研究時間

○教育カリキュラム
セミナー、演習等随時
国内研究会等（年数回）、海外学会等（年 1 回以上）

(5) 研究業績

[原著]

1. Hisazumi Matsuki, Taku Genma, Shintaro Mandai*, Tamami Fujiki, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Takayasu Mori, Koichiro Susa, Soichiro Iimori, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Tatemitsu Rai, Kiyohide Fushimi, Shinichi Uchida. National Trends in Mortality and Urgent Dialysis after Acute Hypertension in Japan From 2010 Through 2019. Hypertension. 2023.10;

2. Yusuke Okubo, Kazuhiro Uda, Isao Miyairi, Nobuaki Michihata, Ryosuke Kumazawa, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Nationwide epidemiology and clinical practice patterns of pediatric urinary tract infections: application of multivariate time-series clustering. Pediatr Nephrol. 2023.12; 38(12); 4033-4041

3. Hiroshi Hidaka, Kunio Tarasawa, Kenji Fujimori, Taku Obara, Kiyohide Fushimi, Akihiro Shimamura, Hiroshi Iwai. Identification of Risk Factors for Mortality and Prolonged Hospitalization in Patients Treated With Surgical Drainage for Otogenic Intracranial Complications: A Nationwide Study Using a Japanese Inpatient Database. Otol Neurotol. 2023.12; 44(10); 1027-1032

4. Satoko Kameda, Yusuke Sasabuchi, Nobuaki Michihata, Hayato Yamana, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Takahide Kohro. Prednisolone versus cyclosporine as initial treatment for Kawasaki disease. Pediatr Int. 2023.12; 65(1); e15658

5. Daisuke Miyazaki, Kunio Tarasawa, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori. Risk factors of readmission and the impact of outpatient management in heart failure patients: A national study in Japan. ESC Heart Fail. 2023.12; 10(6); 3299-3310

6. Yujiro Hattori, Shigeyuki Tahara, Shotaro Aso, Kanako Makito, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Akio Morita. Comparison of prophylactic antibiotics for endonasal transsphenoidal surgery using a national inpatient database in Japan. J Antimicrob Chemother. 2023.12; 78(12); 2909-2914

7. Yudai Iwasaki, Hiroyuki Ohbe, Mikio Nakajima, Yusuke Sasabuchi, Saori Ikumi, Yu Kaiho, Masanori Yamauchi, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Association Between Intraoperative Landiolol Use and In-Hospital Mortality After Coronary Artery Bypass Grafting: A Nationwide Observational Study in Japan. Anesth Analg. 2023.12; 137(6); 1208-1215

8. Tomohiko Ukai, Takaya Maruyama, Shinichi Tomioka, Takumi Fukui, Shinya Matsuda, Kiyohide Fushimi, Hiroyasu Iso. Predictors of hospital mortality and multidrug-resistant pathogens in hospitalized pneumonia patients residing in the community. Heliyon. 2023.12; 9(12); e22303

9. Saori Ikumi, Takuya Shiga, Takuya Ueda, Eichi Takaya, Yudai Iwasaki, Yu Kaiho, Kunio Tarasawa, Kiyohide Fushimi, Yukiko Ito, Kenji Fujimori, Masanori Yamauchi. Intensive care unit mortality and cost-effectiveness associated with intensivist staffing: a Japanese nationwide observational study. J Intensive Care. 2023.12; 11(1); 60

10. Chikako Iwai, Taisuke Jo, Takaaki Konishi, Asahi Fujita, Nobuaki Michihata, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Thrombotic risk of platinum combination chemotherapy with and without immune checkpoint inhibitors for advanced non-small cell lung cancer: a nationwide inpatient database study. Cancer Immunol Immunother. 2023.11; 72(11); 3581-3591

11. Naohiro Takamoto, Takaaki Konishi, Michimasa Fujiogi, Mai Kutsukake, Kaori Morita, Yohei Hashimoto, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Jun Fujishiro. Outcomes Following Laparoscopic Versus Open Surgery for Pediatric Intussusception: Analysis Using a National Inpatient Database in Japan. J Pediatr Surg. 2023.11; 58(11); 2255-2261

12. Wei Chen, Minato Yokoyama, Yuma Waseda, Masaki Kobayashi, Bo Fan, Shohei Fukuda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Masumi Ai, Kiyohide Fushimi, Yasuhisa Fujii. Surgical outcomes of robot-assisted radical cystectomy in octogenarian or older patients: A Japanese nationwide study. Int J Urol. 2023.11; 30(11); 1014-1019

13. Hideaki Watanabe, Hayato Yamana, Akira Okada, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Therapeutic plasma exchange for anti-glomerular basement membrane disease with dialysis-dependent kidney failure without diffuse alveolar hemorrhage. J Nephrol. 2023.11; 36(8); 2317-2325

14. Nobuyasu Awano, Taisuke Jo, Takehiro Izumo, Minoru Inomata, Yu Ito, Yohei Hashimoto, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hirokazu Urushiyama, Takahide Nagase, Hideo Yasunaga. Hospital volume and outcomes following bronchoscopy in patients with interstitial lung disease: A retrospective observational study using a national inpatient database in Japan. Respir Investig. 2023.11; 61(6); 720-728

15. Shigeyuki Tahara, Yujiro Hattori, Shotaro Aso, Kazuaki Uda, Ryosuke Kumazawa, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Akio Morita. Endoscopic surgery versus craniotomy for spontaneous intracerebral hemorrhage in the late elderly patients. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2023.11; 32(11); 107327

16. Masako Mizoguchi, Masashi Kizuki, Noriko Iwata, Masanori Tokunaga, Kiyohide Fushimi, Yusuke Kinugasa, Takeo Fujiwara. Comparison of short-term outcomes between robot-assisted and laparoscopic rectal surgery for rectal cancer: A propensity score-matched analysis using the Japanese Nationwide diagnosis procedure combination database. Ann Gastroenterol Surg. 2023.11; 7(6); 955-967

17. Mio Ikeda, Kazuhiro Kikuta, Shin Hamada, Tetsuya Takikawa, Ryotaro Matsumoto, Takanori Sano, Akira Sasaki, Misako Sakano, Kunio Tarasawa, Kenji Fujimori, Kiyohide Fushimi, Atsushi Masamune. Trends and clinical characteristics of pediatric acute pancreatitis patients in Japan: A comparison with adult cases based on a national administrative inpatient database. Pancreatology. 2023.11; 23(7); 797-804

18. Akira Yokoyama, Taisuke Jo, Yukiyo Sakamoto, Hirokazu Urushiyama, Hiroyuki Tamiya, Goh Tanaka, Ryosuke Kumazawa, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Takahide Nagase. Effectiveness and safety of the co-administration of Yokukan-San (Japanese herbal medicine) with antipsychotics in hospitalized older patients with pneumonia. Geriatr Gerontol Int. 2023.11; 23(11); 849-854

19. Hiroyuki Nagano, Jung-Ho Shin, Susumu Kunisawa, Kiyohide Fushimi, Miki Nagao, Yuichi Imanaka. Corrigendum to "Impact of the cefazolin shortage on the selection and cost of parenteral antibiotics during the supply disruption period in Japan: A controlled interrupted time series analysis" J Infect Public Health 16 (2023) 467-473. J Infect Public Health. 2023.11; 16(11); 1892

20. Satoshi Kodama, Taisuke Jo, Hideo Yasunaga, Hiroyuki Ohbe, Nobuaki Michihata, Hiroki Matsui, Akira Okada, Yuichiro Shirota, Kiyohide Fushimi, Tatsushi Toda, Masashi Hamada. Perioperative Use of Intravenous Levodopa as an Anti-Parkinsonian Drug: A Propensity Score Analysis. Mov Disord Clin Pract. 2023.11; 10(11); 1650-1658

21. Tetsuya Ishimaru, Daisuke Shinjo, Michimasa Fujiogi, Nobuaki Michihata, Kaori Morita, Kentaro Hayashi, Hisateru Tachimori, Hiroshi Kawashima, Jun Fujishiro, Hideo Yasunaga. Risk factors for postoperative anastomotic leakage after repair of esophageal atresia: a retrospective nationwide database study. Surg Today. 2023.11; 53(11); 1269-1274

22. Shinjo D, Ozawa N, Nakadate N, Kanamori Y, Matsumoto K, Noguchi T, Ohtera S, Kato H. Development of a set of quality indicators in paediatric and perinatal care in Japan with a modified Delphi method. BMJ paediatrics open. 2023.11; 7(1);

23. Ishimaru Tetsuya, Shinjo Daisuke, Fujiogi Michimasa, Michihata Nobuaki, Morita Kaori, Hayashi Kentaro, Tachimori Hisateru, Kawashima Hiroshi, Fujishiro Jun, Yasunaga Hideo. Risk factors for postoperative anastomotic leakage after repair of esophageal atresia: a retrospective nationwide database study(タイトル和訳中) Surgery Today. 2023.11; 53(11); 1269-1274

24. Kentaro Yamada, Toshitaka Yoshii, Mikayo Toba, Atsushi Kudo, Satoru Egawa, Yu Matsukura, Takashi Hirai, Hiroyuki Inose, Kiyohide Fushimi, Atsushi Okawa. Risk Factors for Postoperative Unfavorable Ambulatory Status After Spinal Surgery for Metastatic Spinal Tumor. Spine (Phila Pa 1976). 2023.10; 48(20); 1419-1426

25. Tsuyoshi Hamada, Nobuaki Michihata, Tomotaka Saito, Takuji Iwashita, Hideyuki Shiomi, Mamoru Takenaka, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hiroyuki Isayama, Ichiro Yasuda, Hideo Yasunaga, Yousuke Nakai, . Inverse association of hospital volume with in-hospital mortality rate of patients receiving EUS-guided interventions for pancreatic fluid collections. Gastrointest Endosc. 2023.10; 98(4); 597-606.e2

26. Kei Saito, Nobuaki Michihata, Tsuyoshi Hamada, Taisuke Jo, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Yousuke Nakai, Hideo Yasunaga, Mitsuhiro Fujishiro. Gemcitabine plus nab-paclitaxel for pancreatic cancer and interstitial lung disease: A nationwide longitudinal study. Cancer Sci. 2023.10; 114(10); 3996-4005

27. Tomohiro Akaba, Taisuke Jo, Masao Iwagami, Yohei Hashimoto, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Etsuko Tagaya, Hideo Yasunaga. Reduced Asthma Exacerbations in Adult Patients Treated With Bronchial Thermoplasty. J Allergy Clin Immunol Pract. 2023.10; 11(10); 3076-3083.e3

28. Yuki Hirano, Takaaki Konishi, Hidehiro Kaneko, Hidetaka Itoh, Satoru Matsuda, Hirofumi Kawakubo, Kazuaki Uda, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hiroyuki Daiko, Osamu Itano, Hideo Yasunaga, Yuko Kitagawa. Proportion of early extubation and short-term outcomes after esophagectomy: a retrospective cohort study. Int J Surg. 2023.10; 109(10); 3097-3106

29. Hiromichi Otaka, Shinobu Imai, Kiyohide Fushimi. Epidemiology of progressive multifocal leukoencephalopathy in Japan and effectiveness of mefloquine: A retrospective analysis of a nationwide inpatient database. J Neurol Sci. 2023.10; 453; 120774

30. Shintaro Mandai, Takaaki Koide, Tamami Fujiki, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Koichiro Susa, Takayasu Mori, Soichiro Iimori, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Shinichi Uchida, Kiyohide Fushimi, Tatemitsu Rai. Association of Admission Functional Status and Body Mass Index with Mortality in Patients Receiving Chronic Dialysis: A Nationwide Observational Cohort Study. JMA J. 2023.10; 6(4); 404-413

31. Akira Honda, Yoichi Iizuka, Nobuaki Michihata, Kojiro Morita, Tokue Mieda, Eiji Takasawa, Sho Ishiwata, Yohei Kakuta, Yusuke Tomomatsu, Shunsuke Ito, Kazuhiro Inomata, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Hirotaka Chikuda. Risk factors for early mortality in elderly patients with unstable isolated C2 odontoid fracture treated with halo-vest or surgery. Sci Rep. 2023.10; 13(1); 17962

32. Hiroyuki Ohbe, Takashi Tagami, Akira Endo, Shigeki Miyata, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Shigeki Kushimoto, Hideo Yasunaga. Trends in massive transfusion practice for trauma in Japan from 2011 to 2020: a nationwide inpatient database study. J Intensive Care. 2023.10; 11(1); 46

33. Nobuyasu Awano, Taisuke Jo, Takehiro Izumo, Minoru Inomata, Yu Ito, Kojiro Morita, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hirokazu Urushiyama, Takahide Nagase, Hideo Yasunaga. Polymyxin B-immobilised fibre column treatment for acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis patients with mechanical ventilation: a nationwide observational study. J Intensive Care. 2023.10; 11(1); 45

34. Shingo Morishita, Toshitaka Yoshii, Hiroyuki Inose, Takashi Hirai, Masato Yuasa, Yu Matsukura, Takahisa Ogawa, Kiyohide Fushimi, Junya Katayanagi, Tetsuya Jinno, Atsushi Okawa, Takeo Fujiwara. Perioperative Complications of Laminoplasty in Degenerative Cervical Myelopathy -A Comparative Study Between Ossification of Posterior Longitudinal Ligament and Cervical Spondylotic Myelopathy Using a Nationwide Inpatient Database. Global Spine J. 2023.09; 13(7); 1956-1963

35. Kojiro Morita, Yoshihisa Miyamoto, Atsushi Mizuno, Sachie Shirane, Hiroyuki Ohbe, Yohei Hashimoto, Hidehiro Kaneko, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Impact of a financial incentive scheme for team-based palliative care in patients with heart failure in Japan: A nationwide database study. Int J Cardiol. 2023.09; 387; 131145

36. Tetsuya Akaishi, Kunio Tarasawa, Yuki Matsumoto, Pulukool Sandhya, Tatsuro Misu, Kiyohide Fushimi, Toshiyuki Takahashi, Juichi Fujimori, Tadashi Ishii, Kenji Fujimori, Nobuo Yaegashi, Ichiro Nakashima, Kazuo Fujihara, Masashi Aoki. Associations between neuromyelitis optica spectrum disorder, Sjögren's syndrome, and conditions with electrolyte disturbances. J Neurol Sci. 2023.09; 452; 120742

37. Kohei Funatsu, Ryutaro Matsugaki, Hanaka Imamura, Masaru Takenaka, Fumihiro Tanaka, Kiyohide Fushimi, Shinya Matsuda, Satoru Saeki. Association of Preoperative Rehabilitation With Postoperative Length of Hospital Stay for Elderly Lung Cancer Patients. J UOEH. 2023.09; 45(3); 155-160

38. Toshiaki Isogai, Hiroki Matsui, Hiroyuki Tanaka, Kanako Makito, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Incidence, management, and prognostic impact of arrhythmias in patients with Takotsubo syndrome: a nationwide retrospective cohort study. Eur Heart J Acute Cardiovasc Care. 2023.09; 15; zuad110

39. Yuichiro Matsuo, Taisuke Jo, Kanako Makito, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Association between use of transdermal tulobuterol and short-term outcomes in patients with stroke and underlying chronic obstructive pulmonary disease: A retrospective cohort study. Medicine (Baltimore). 2023.09; 102(38); e35032

40. Susumu Urata, Nobuaki Michihata, Ryo Inuzuka, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Miho Ishimaru, Motohiro Kato, Hideo Yasunaga. Factors affecting in-hospital mortality among pediatric patients with myocarditis treated with mechanical circulatory support. J Cardiol. 2023.08; 82(2); 108-112

41. Akira Okada, Hayato Yamana, Rui Pan, Satoko Yamaguchi, Ryosuke Kumazawa, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Yasushi Honda, Masaomi Nangaku, Toshimasa Yamauchi, Hideo Yasunaga, Takashi Kadowaki, Yoonhee Kim. Effect modification of the association between temperature variability and hospitalization for cardiovascular disease by comorbid diabetes mellitus: A nationwide time-stratified case-crossover analysis. Diabetes Res Clin Pract. 2023.08; 202; 110771

42. Shuto Higuchi, Ryutaro Matsugaki, Ikko Tomisaki, Kiyohide Fushimi, Shinya Matsuda, Satoru Saeki. Effect of Early Postoperative Rehabilitation on Length of Hospital Stay after Robot-assisted Radical Prostatectomy. Prog Rehabil Med. 2023.08; 8; 20230023

43. Takahisa Ogawa, Ryo Onuma, Morten T Kristensen, Toshitaka Yoshii, Takeo Fujiwara, Kiyohide Fushimi, Atsushi Okawa, Tetsuya Jinno. Association between additional weekend rehabilitation and in-hospital mortality in patients with hip fractures. Bone Joint J. 2023.08; 105-B(8); 872-879

44. Senda A, Endo A, Fushimi K, Otomo Y. Effectiveness of Intravenous Immunoglobulin Therapy for Invasive Group A Streptococcus Infection: A Japanese Nationwide Observational Study. International journal of infectious diseases : IJID : official publication of the International Society for Infectious Diseases. 2023.08;

45. Hisayuki Shuto, Kosaku Komiya, Yuko Usagawa, Mari Yamasue, Kiyohide Fushimi, Kazufumi Hiramatsu, Jun-Ichi Kadota. Corticosteroid Therapy for Patients With Severe Fever With Thrombocytopenia Syndrome: A Nationwide Propensity Score-Matched Study in Japan. Open Forum Infect Dis. 2023.08; 10(8); ofad418

46. Anna Kiyomi, Fukiko Koizumi, Shinobu Imai, Hayato Yamana, Hiromasa Horiguchi, Kiyohide Fushimi, Munetoshi Sugiura. Bevacizumab-induced proteinuria and its association with antihypertensive drugs: A retrospective cohort study using a Japanese administrative database. PLoS One. 2023.08; 18(8); e0289950

47. Kondo Keisuke, Hata Yuko. Vertigo with upbeat nystagmus shortly after exposure to a small amount of organic solvent. Acta Oto-Laryngologica Case Reports . 2023.08;

48. Soichiro Ishimaru, Nobuaki Michihata, Yoshiki Kawamura, Kazuaki Uda, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Tetsushi Yoshikawa. Trend in the Numbers of Hospitalized Patients With Varicella, Herpes Zoster, and Ischemic Stroke in Japanese Individuals < 20 Years of Age Before and After Implementation of Universal Varicella Vaccination. Pediatr Infect Dis J. 2023.07; 42(7); 626-628

49. Shoya Matsumoto, Hiroyuki Tamiya, Hayato Yamana, Tatsuya Hosoi, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Masahiro Akishita, Hideo Yasunaga, Sumito Ogawa. Association between the type of hypnotic drug and in-hospital fractures in older patients with neurocognitive disorders: A case-control study using a nationwide database. Geriatr Gerontol Int. 2023.07; 23(7); 500-505

50. Satoru Koga, Takahiro Takazono, Takashi Kido, Keiji Muramatsu, Kei Tokutsu, Takatomo Tokito, Daisuke Okuno, Yuya Ito, Hirokazu Yura, Kazuaki Takeda, Naoki Iwanaga, Hiroshi Ishimoto, Noriho Sakamoto, Kazuhiro Yatera, Koichi Izumikawa, Katsunori Yanagihara, Yoshihisa Fujino, Kiyohide Fushimi, Shinya Matsuda, Hiroshi Mukae. Agents for Aspiration Pneumonia in Older Patients Using a Nationwide Japanese Administrative Database. Microorganisms. 2023.07; 11(8); 1905

51. Shota Myojin, Nobuaki Michihata, Kensuke Shoji, Jun-Ichi Takanashi, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Isao Miyairi, Hideo Yasunaga. Prognostic factors among patients with Shiga toxin-producing Escherichia coli hemolytic uremic syndrome: A retrospective cohort study using a nationwide inpatient database in Japan. J Infect Chemother. 2023.06; 29(6); 610-614

52. Shigeyuki Tahara, Yujiro Hattori, Shotaro Aso, Kazuaki Uda, Ryosuke Kumazawa, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Akio Morita. Outcomes After Endoscopic Evacuation Versus Evacuation Using Craniotomy or Stereotactic Aspiration for Spontaneous Intracerebral Hemorrhage: Analysis Using a Japanese Nationwide Database. Neurocrit Care. 2023.06; 38(3); 667-675

53. Hideaki Miyachi, Takaaki Konishi, Yohei Hashimoto, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Takashi Inozume, Hiroyuki Matsue, Hideo Yasunaga. Trends in mortality and morbidity in patients with bullous pemphigoid before and after approval of intravenous immunoglobulin in Japan: an interrupted time-series analysis. Clin Exp Dermatol. 2023.06; 48(6); 667-673

54. Ryuichi Yamazaki, Hiroyuki Ohbe, Yuki Matsuda, Shinsuke Kito, Masahiro Shigeta, Kojiro Morita, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Effectiveness of medical fee revisions for psychotropic polypharmacy in patients with mood disorders in Japan: An interrupted time-series analysis using a nationwide inpatient database. Asian J Psychiatr. 2023.06; 84; 103581

55. Kazuya Okushin, Hayato Yamana, Ryosuke Tateishi, Masaya Sato, Takeya Tsutsumi, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Kazuhiko Koike, Mitsuhiro Fujishiro. Treatment and outcome of hepatorenal syndrome in Japan: a retrospective cohort study using a national inpatient database. BMC Gastroenterol. 2023.06; 23(1); 218

56. Kenta Minato, Jung-Ho Shin, Susumu Kunisawa, Kiyohide Fushimi, Yuichi Imanaka. The total number of patients with any of four major fragility fractures decreased during the first wave of the COVID-19 epidemic in Japan, commencing before the state of emergency declaration, which was not as enforceable as lockdown. Arch Osteoporos. 2023.06; 18(1); 86

57. Yuki Hirano, Takaaki Konishi, Hidehiro Kaneko, Hidetaka Itoh, Satoru Matsuda, Hirofumi Kawakubo, Kazuaki Uda, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hiroyuki Daiko, Osamu Itano, Hideo Yasunaga, Yuko Kitagawa. Impact of Prophylactic Corticosteroid Use on In-hospital Mortality and Respiratory Failure After Esophagectomy for Esophageal Cancer: Nationwide Inpatient Data Study in Japan. Ann Surg. 2023.06; 277(6); e1247-e1253

58. Rui Pan, Akira Okada, Hayato Yamana, Hideo Yasunaga, Ryosuke Kumazawa, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Yasushi Honda, Yoonhee Kim. Association between ambient temperature and cause-specific cardiovascular disease admissions in Japan: A nationwide study. Environ Res. 2023.05; 225; 115610

59. Kentaro Hayashi, Yusuke Sasabuchi, Hiroki Matsui, Mikio Nakajima, Masayuki Otawara, Hiroyuki Ohbe, Kiyohide Fushimi, Kazuyuki Ono, Hideo Yasunaga. Does early excision or skin grafting of severe burns improve prognosis? A retrospective cohort study. Burns. 2023.05; 49(3); 554-561

60. Takashi Shigeno, Masashi Kizuki, Masanori Tokunaga, Kiyohide Fushimi, Yusuke Kinugasa, Takeo Fujiwara. A comparison of the short-term outcomes between laparoscopic and robotic distal gastrectomy: A retrospective study using a nationwide inpatient database. Surgery. 2023.05; 173(5); 1169-1175

61. Chikamasa Ichita, Mikio Nakajima, Hiroyuki Ohbe, Richard H Kaszynski, Akiko Sasaki, Yuki Miyamoto, Yutaka Kondo, Yusuke Sasabuchi, Kiyohide Fushimi, Hiroki Matsui, Hideo Yasunaga. Effectiveness of early colonoscopy in patients with colonic diverticular hemorrhage: Nationwide inpatient analysis in Japan. Dig Endosc. 2023.05; 35(4); 520-528

62. Yuki Miyamoto, Hiroyuki Ohbe, Ryosuke Kumazawa, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Bon Ohta. Evaluation of Plasmapheresis vs Immunoglobulin as First Treatment After Ineffective Systemic Corticosteroid Therapy for Patients With Stevens-Johnson Syndrome and Toxic Epidermal Necrolysis. JAMA Dermatol. 2023.05; 159(5); 481-487

63. Chikako Iwai, Taisuke Jo, Takaaki Konishi, Ryosuke Kumazawa, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Comparative Safety and Effectiveness of Direct Oral Anticoagulants and Warfarin during Chemotherapy in Cancer Patients with Venous Thromboembolism Aged 75 Years or Older: A Nationwide Inpatient Database Study. Gerontology. 2023.05; 69(5); 561-570

64. Takatomo Tokito, Takashi Kido, Keiji Muramatsu, Kei Tokutsu, Daisuke Okuno, Hirokazu Yura, Shinnosuke Takemoto, Hiroshi Ishimoto, Takahiro Takazono, Noriho Sakamoto, Yasushi Obase, Yuji Ishimatsu, Yoshihisa Fujino, Kazuhiro Yatera, Kiyohide Fushimi, Shinya Matsuda, Hiroshi Mukae. Impact of Administering Intravenous Azithromycin within 7 Days of Hospitalization for Influenza Virus Pneumonia: A Propensity Score Analysis Using a Nationwide Administrative Database. Viruses. 2023.05; 15(5); 1142

65. Masato Tashiro, Shuntaro Sato, Akira Endo, Ryosuke Hamashima, Yuya Ito, Nobuyuki Ashizawa, Kazuaki Takeda, Naoki Iwanaga, Shotaro Ide, Ayumi Fujita, Takahiro Takazono, Kazuko Yamamoto, Takeshi Tanaka, Akitsugu Furumoto, Katsunori Yanagihara, Hiroshi Mukae, Kiyohide Fushimi, Koichi Izumikawa. Decreased community-acquired pneumonia coincided with rising awareness of precautions before governmental containment policy in Japan. PNAS Nexus. 2023.05; 2(5); pgad153

66. Yasuhisa Mori, Makoto Okawara, Kazunori Shibao, Shiro Kohi, Toshihisa Tamura, Norihiro Sato, Yoshihisa Fujino, Kiyohide Fushimi, Shinya Matsuda, Keiji Hirata. Changes in operative trends and short-term outcomes of surgery for congenital biliary dilatation in adults using real-world data: A multilevel analysis based on a nationwide administrative database in Japan. Ann Gastroenterol Surg. 2023.05; 7(3); 471-478

67. Takuya Oba, Norihiro Sato, Makoto Otani, Keiji Muramatsu, Kiyohide Fushimi, Jun Nagata, Takayuki Torigoe, Kazunori Shibao, Shinya Matsuda, Keiji Hirata. Mechanical and oral antibiotics bowel preparation for elective rectal cancer surgery: A propensity score matching analysis using a nationwide inpatient database in Japan. Ann Gastroenterol Surg. 2023.05; 7(3); 450-457

68. Yuki Hirano, Hidehiro Kaneko, Takaaki Konishi, Hidetaka Itoh, Satoru Matsuda, Hirofumi Kawakubo, Kazuaki Uda, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Osamu Itano, Hideo Yasunaga, Yuko Kitagawa. Impact of Body Mass Index on Major Complications, Multiple Complications, In-hospital Mortality, and Failure to Rescue After Esophagectomy for Esophageal Cancer: A Nationwide Inpatient Database Study in Japan. Ann Surg. 2023.04; 277(4); e785-e792

69. Ryutaro Matsugaki, Keiji Muramatsu, Kiyohide Fushimi, Shinya Matsuda. Dementia and acute care of ischemic stroke in Japan: A retrospective observational study using the Japanese Diagnosis Procedure Combination database. Geriatr Gerontol Int. 2023.04; 23(4); 270-274

70. Yuki Hirano, Takaaki Konishi, Hidehiro Kaneko, Hidetaka Itoh, Satoru Matsuda, Hirofumi Kawakubo, Kazuaki Uda, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hiroyuki Daiko, Osamu Itano, Hideo Yasunaga, Yuko Kitagawa. Weight loss during neoadjuvant therapy and short-term outcomes after esophagectomy: a retrospective cohort study. Int J Surg. 2023.04; 109(4); 805-812

71. Takuaki Tani, Shinobu Imai, Kiyohide Fushimi. Increasing daily duration of rehabilitation for inpatients with sporadic inclusion body myositis may contribute to improvement in activities of daily living: A nationwide database cohort study. J Rehabil Med. 2023.04; 55; jrm00386

72. Hiroyuki Nagano, Jung-Ho Shin, Susumu Kunisawa, Kiyohide Fushimi, Miki Nagao, Yuichi Imanaka. Impact of the cefazolin shortage on the selection and cost of parenteral antibiotics during the supply disruption period in Japan: A controlled interrupted time series analysis. J Infect Public Health. 2023.03; 16(3); 467-473

73. Kojiro Morita, Hiroki Matsui, Sachiko Ono, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Association between better night-shift nurse staffing and surgical outcomes: A retrospective cohort study using a nationwide inpatient database in Japan. J Nurs Scholarsh. 2023.03; 55(2); 494-505

74. Wei Chen, Minato Yokoyama, Masaki Kobayashi, Bo Fan, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Masumi Ai, Kiyohide Fushimi, Norio Nonomura, Yasuhisa Fujii. Trends of radical cystectomy and comparisons of surgical outcomes among surgical approaches focusing on robot-assisted radical cystectomy: A Japanese nationwide database study. Int J Urol. 2023.03; 30(3); 258-263

75. Takaaki Konishi, Aki Sakata, Haruhi Inokuchi, Ryosuke Kumazawa, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Masahiko Tanabe, Yasuyuki Seto, Hideo Yasunaga. Treatments and outcomes of adult parapharyngeal and retropharyngeal abscess: 1882 cases from a Japanese nationwide database. Am J Otolaryngol. 2023.03; 44(2); 103770

76. Rintaro Moroi, Kota Yano, Kunio Tarasawa, Yusuke Shimoyama, Takeo Naito, Hisashi Shiga, Shin Hamada, Yoichi Kakuta, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori, Yoshitaka Kinouchi, Atsushi Masamune. The Impact of Concomitant Ulcerative Colitis on the Clinical Course in Patients with Primary Sclerosing Cholangitis: An Investigation Using a Nationwide Database in Japan. Inflamm Intest Dis. 2023.03; 7(3-4); 147-154

77. Tetsuji Morishita, Daisuke Takada, Jung-Ho Shin, Susumu Kunisawa, Kiyohide Fushimi, Yuichi Imanaka. Impact of policy alterations on elective percutaneous coronary interventions in Japan. Heart. 2023.03; 109(8); 612-618

78. Masashi Kuwabara, Fusao Ikawa, Nobuaki Michihata, Shigeyuki Sakamoto, Takahito Okazaki, Masahiro Hosogai, Yuyo Maeda, Nobutaka Horie, Kaoru Kurisu, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. The 5-Factor Modified Frailty Index as a More Useful Associated Factor Than Chronological Age After Unruptured Cerebral Aneurysm Surgery: A Nationwide Registry Study. Neurosurgery. 2023.02; 92(2); 329-337

79. Yuya Kimura, Taisuke Jo, Norihiko Inoue, Maho Suzukawa, Goh Tanaka, Hidenori Kage, Ryosuke Kumazawa, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Hirotoshi Matsui. Association Between Systemic Corticosteroid Use and Mortality in Patients with Epiglottitis. Laryngoscope. 2023.02; 133(2); 344-349

80. Kaori Morita, Michimasa Fujiogi, Nobuaki Michihata, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Jun Fujishiro. Oral Antibiotics and Organ Space Infection after Appendectomy and Intravenous Antibiotics Therapy for Complicated Appendicitis in Children. Eur J Pediatr Surg. 2023.02; 33(1); 74-80

81. Hideaki Miyachi, Takaaki Konishi, Yohei Hashimoto, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Takashi Inozume, Hideo Yasunaga. Clinical course and outcomes of pemphigus vulgaris and foliaceus: A retrospective study using a nationwide database in Japan. J Dermatol. 2023.02; 50(2); 212-221

82. Kentaro Hayashi, Yusuke Sasabuchi, Hiroki Matsui, Mikio Nakajima, Hiroyuki Ohbe, Kiyohide Fushimi, Kazuyuki Ono, Hideo Yasunaga. Additive effectiveness of acrylonitrile-co-methallyl sulfonate surface-treated membranes in the treatment of pneumonia: A propensity score-matched retrospective cohort study. Artif Organs. 2023.02; 47(2); 408-416

83. Takuaki Tani, Shinobu Imai, Norihiko Inoue, Natsuko Kanazawa, Kiyohide Fushimi. Association between volume of patients undergoing stroke rehabilitation at acute care hospitals and improvement in activities of daily living. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2023.02; 32(2); 106872

84. Toshikazu Hidaka, Fusao Ikawa, Nobuaki Michihata, Shumpei Onishi, Shingo Matsuda, Iori Ozono, Shinichiro Oku, Shunsaku Takayanagi, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Kaoru Kurisu, Nobutaka Horie. Perioperative Surgical Risks in Patients With Hemangioblastomas: A Retrospective Nationwide Review in Japan. World Neurosurg. 2023.02; 170; e21-e27

85. Yoshito Hirota, Jung-Ho Shin, Noriko Sasaki, Susumu Kunisawa, Kiyohide Fushimi, Yuichi Imanaka. Development and validation of prediction models for the discharge destination of elderly patients with aspiration pneumonia. PLoS One. 2023.02; 18(2); e0282272

86. Wataru Mimura, Daisuke Shinjo, Kensuke Shoji, Kiyohide Fushimi. Prescribed daily-dose-based metrics of oral antibiotic use for hospitalized children in Japan. Antimicrob Steward Healthc Epidemiol. 2023.02; 3(1); e24

87. Shinya Miura, Nobuaki Michihata, Yohei Hashimoto, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Descriptive statistics and risk factor analysis of children with community-acquired septic shock. J Intensive Care. 2023.02; 11(1); 6

88. Kenji Fujimori, Kunio Tarasawa, Kiyohide Fushimi. Cost-effectiveness of polymyxin B hemoperfusion for septic shock: an observational study using a Japanese nationwide administrative database. J Anesth Analg Crit Care. 2023.02; 3(1); 4

89. Toshiaki Shibata, Daisuke Shinjo, Junichi Takahashi, Kiyohide Fushimi. Pandemic-resilient target setting in colorectal cancer screening for vulnerable older population. Cancer Med. 2023.01; 12(1); 619-630

90. Takaaki Konishi, Masahiko Tanabe, Nobuaki Michihata, Hiroki Matsui, Kotoe Nishioka, Kiyohide Fushimi, Yasuyuki Seto, Hideo Yasunaga. Risk factors for arm lymphedema following breast cancer surgery: a Japanese nationwide database study of 84,022 patients. Breast Cancer. 2023.01; 30(1); 36-45

91. Satoshi Shoji, Shun Kohsaka, Hiraku Kumamaru, Shiori Nishimura, Hideki Ishii, Tetsuya Amano, Kiyohide Fushimi, Hiroaki Miyata, Yuji Ikari. Risk prediction models in patients undergoing percutaneous coronary intervention: A collaborative analysis from a Japanese administrative dataset and nationwide academic procedure registry. Int J Cardiol. 2023.01; 370; 90-97

92. Y Okubo, A Nishi, K Uda, I Miyairi, N Michihata, R Kumazawa, H Matsui, K Fushimi, H Yasunaga. Financial incentives for infection prevention and antimicrobial stewardship to reduce antibiotic use: Japan's nationwide observational study. J Hosp Infect. 2023.01; 131; 89-98

93. Yamashita S, Okamoto T, Kawahara T, Tateishi T, Anzai T, Takahashi K, Fushimi K, Miyazaki Y. Database analysis of hypersensitivity pneumonitis in Japan. Respiratory investigation. 2023.01; 61(2); 172-180

94. Akira Okada, Kayo Ikeda Kurakawa, Yutaka Harita, Akira Shimizu, Satoko Yamaguchi, Shotaro Aso, Sachiko Ono, Yohei Hashimoto, Ryosuke Kumazawa, Nobuaki Michihata, Taisuke Jo, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Masaomi Nangaku, Toshimasa Yamauchi, Hideo Yasunaga, Takashi Kadowaki. Comparison of bleeding complications after pediatric kidney biopsy between intravenous sedation and general anesthesia: a nationwide cohort study. BMC Pediatr. 2023.01; 23(1); 33

95. Rintaro Moroi, Kunio Tarasawa, Mio Ikeda, Ryotaro Matsumoto, Yusuke Shimoyama, Takeo Naito, Tetsuya Takikawa, Hisashi Shiga, Shin Hamada, Yoichi Kakuta, Kazuhiro Kikuta, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori, Yoshitaka Kinouchi, Atsushi Masamune. Severity of acute pancreatitis in patients with inflammatory bowel disease in the era of biologics: A propensity-score-matched analysis using a nationwide database in Japan. JGH Open. 2023.01; 7(1); 40-47

96. Tetsuya Akaishi, Kunio Tarasawa, Kiyohide Fushimi, Hirotaka Hamada, Masatoshi Saito, Natsuko Kobayashi, Saya Kikuchi, Hiroaki Tomita, Tadashi Ishii, Kenji Fujimori, Nobuo Yaegashi. Risk Factors Associated With Peripartum Suicide Attempts in Japan. JAMA Netw Open. 2023.01; 6(1); e2250661

97. Takehiko Oami, Taro Imaeda, Taka-Aki Nakada, Toshikazu Abe, Nozomi Takahashi, Yasuo Yamao, Satoshi Nakagawa, Hiroshi Ogura, Nobuaki Shime, Yutaka Umemura, Asako Matsushima, Kiyohide Fushimi. Mortality analysis among sepsis patients in and out of intensive care units using the Japanese nationwide medical claims database: a study by the Japan Sepsis Alliance study group. J Intensive Care. 2023.01; 11(1); 2

98. Daisuke Miyazaki, Kunio Tarasawa, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori. Risk Factors with 30-Day Readmission and the Impact of Length of Hospital Stay on It in Patients with Heart Failure: A Retrospective Observational Study Using a Japanese National Database. Tohoku J Exp Med. 2023.01; 259(2); 151-162

99. Yuki Hirano, Takaaki Konishi, Hidehiro Kaneko, Hidetaka Itoh, Satoru Matsuda, Hirofumi Kawakubo, Kazuaki Uda, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hiroyuki Daiko, Osamu Itano, Hideo Yasunaga, Yuko Kitagawa. Early postoperative non-steroidal anti-inflammatory drugs and anastomotic leakage after oesophagectomy. Br J Surg. 2023.01; 110(2); 260-266

100. Yoneda Kota, Amari Shoichiro, Mikami Masashi, Uchida Keiichi, Yokoi Akiko, Okawada Manabu, Furukawa Taizo, Toyoshima Katsuaki, Inamura Noboru, Okazaki Tadaharu, Yamoto Masaya, Masumoto Kouji, Terui Keita, Okuyama Hiroomi, Hayakawa Masahiro, Taguchi Tomoaki, Usui Noriaki, Isayama Tetsuya. Development of mortality prediction models for infants with isolated, left-sided congenital diaphragmatic hernia before and after birth. Pediatr Pulmonol. 2023.01; 58(1); 152-160

101. Hayato Yamana, Seyune Lee, Yi-Chieh Lin, Nan-He Yoon, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Shou-Hsia Cheng, Hongsoo Kim. Institutional Variance in Mortality after Percutaneous Coronary Intervention for Acute Myocardial Infarction in Korea, Japan, and Taiwan. Int J Health Policy Manag. 2023.01; 12; 6796

102. Nozomu Sugimoto, Ryutaro Matsugaki, Satoshi Kuhara, Hanaka Imamura, Hideaki Itoh, Masaru Araki, Kiyohide Fushimi, Shinya Matsuda, Satoru Saeki. The Relationship Between Preoperative Frailty Risk as Assessed by the Hospital Frailty Risk Score and the Outcome at Discharge in Coronary Artery Bypass Grafting (CABG) Patients: A Retrospective Observational Study Using the Diagnosis Procedure Combination Database. J UOEH. 2023.01; 45(4); 209-216

1. 畑 裕子, 近藤 景介, 北川 智介, 田中 祥兵, 坂田 将一, 高雄 夕貴, 大村 真也. 柳原法麻痺スコアと ENoG 値の関連について Facial Nerve Research. 2023.03; 42; 131-133

[総説]

1. 伏見清秀. DPC データと包括評価制度 医学のあゆみ. 2023.08; 286(7); 675-680

[講演 · 口頭発表等]

1. 高江明日香, 森脇睦子, 鳥羽三佳代, 佐々木美樹, 緒方泰子, 尾林聡, 伏見清秀.. 発症直前の患者状態に基づく入院中の大腿骨近位部骨折リスクスコアの検討：DPC データを用いた後方視的コホート研究. ポスター. 第 18 回医療の質 · 安全学会 2023.11.25 神戸

2. 本田 圭司, 青木 夏姫, 山崎 あやめ, 竹田 貴策, 近藤 景介, 西尾 綾子, 堤 剛. Virtual Reality ヘッドセット型眼球運動検査装置を用いた vHIT の性能評価. Equilibrium Research 2023.10.01

3. 畑 裕子, 田中 祥兵, 古賀 千佳子, 近藤 景介, 北川 智介, 野本 綾子, 高松 美紀, 福島 梓. 入院時診断が前庭神経炎の症例について. Equilibrium Research 2023.10.01

4. 山崎 あやめ, 青木 夏姫, 竹田 貴策, 大岡 知樹, 近藤 景介, 西尾 綾子, 本田 圭司, 堤 剛. 持続性知覚性姿勢誘発めまい患者における視線収束性の検討. Equilibrium Research 2023.10.01

5. 山田賢太郎, 吉井俊貴, 鳥羽三佳代, 江川聡, 松倉遊, 平井高志, 猪瀬弘之, 伏見清秀, 大川淳. がん診療拠点病院では非がん診療拠点病院より転移性脊椎腫瘍に対する術後合併症は少ないか?. 第 96 回日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

6. 山田賢太郎, 吉井俊貴, 鳥羽三佳代, 江川聡, 松倉遊, 平井高志, 猪瀬弘之, 伏見清秀, 大川淳. 転移性脊椎腫瘍に対する脊椎手術後の退院時歩行能力不良の危険因子. 第 96 回日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

7. 山田賢太郎, 吉井俊貴, 鳥羽三佳代, 江川聡, 松倉遊, 平井高志, 猪瀬弘之, 伏見清秀, 大川淳. 転移性脊椎腫瘍に対する脊椎手術後の退院時歩行能力不良の危険因子. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術総会 2023.04.13 札幌

8. 山田賢太郎, 吉井俊貴, 鳥羽三佳代, 江川聡, 松倉遊, 平井高志, 猪瀬弘之, 伏見清秀, 大川淳. がん診療拠点病院では非がん診療拠点病院より転移性脊椎腫瘍に対する術後合併症は少ないか?. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術総会 2023.04.13 札幌

9. 近藤 景介, 畑 裕子, 北川 智介. ELPS 技術の応用により切除可能であった食道脂肪腫の一例. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

10. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 大岡 知樹, 近藤 景介. 側頭骨の外視鏡手術. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

11. 大岡 知樹, 近藤 景介, 本田 圭司, 西尾 綾子, 藤川 太郎, 有泉 陽介, 大野 十央, 伊藤 卓, 川島 慶之, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 単施設における外耳道癌 80 例の後方視的検討. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

12. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 倉田 奈都子, 大岡 知樹, 近藤 景介. 大学病院における医師の働き方改革への対応について. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

13. 畑 裕子, 田中 祥兵, 古賀 千佳子, 近藤 景介, 野本 綾子, 高松 美紀, 横溝 聖, 福島 梓, 吉田 仁保, 中岡 奈月, 後関 里美. 高気圧酸素治療と音響耳管機能検査について. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

14. 伏見清秀. 漢方薬の適正使用推進と、漢方医学教育について論ずるセミナー . 漢方薬の適正使用推進と、漢方医学教育について論ずるセミナー 2023.03.14

15. 福井 加奈, 新城 大輔, 伊藤 裕司, 伊藤 秀一, 諫山 哲哉. ナショナルデータベースを用いた 18 トリソミーにおける手術歴と死亡の関連についての検討. 日本小児科学会雑誌 2023.02.01
16. 新城 大輔, 小澤 伸晃, 金森 豊, 中舘 尚也, 松本 公一, 野口 貴史, 賀藤 均. 小児周産期医療における臨床指標 (Quality Indicator) の開発. 日本小児科学会雑誌 2023.02.01
17. 福井 加奈, 新城 大輔, 伊藤 裕司, 伊藤 秀一, 諫山 哲哉. ナショナルデータベースを用いた 18 トリソミーにおける手術歴と死亡の関連についての検討. 日本小児科学会雑誌 2023.02.01
18. 新城 大輔, 小澤 伸晃, 金森 豊, 中舘 尚也, 松本 公一, 野口 貴史, 賀藤 均. 小児周産期医療における臨床指標 (Quality Indicator) の開発. 日本小児科学会雑誌 2023.02.01

[社会貢献活動]

1. 病院経営について学ぶ全国の大学院の取り組みについて, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2023 年 10 月 18 日

先進倫理医科学

Life Sciences and Bioethics

吉田　雅幸
江花　有亮
甲畑　宏子
我有　茉希

(1)　分野概要

生命倫理 · 研究倫理に関する教育 · 研究 · 診療を展開するための支援体制を構築し、本学の医学研究の進展に貢献することが目的である。我が国の研究倫理に関する規制環境にも助言しながら、学内の倫理審査委員会のサポートを行い、全国医学系大学における研究倫理委員会のとりまとめを担っている。研究の科学性と倫理性を担保するため、全学の医療者、研究者を対象とした研究倫理講習会の実施や学内における研究倫理における啓蒙活動を続けている。臨床領域においては、主に遺伝子診療科としてがん、難病 · 希少疾患の遺伝学的診断や治療を行うとともに、患者、家族を含めたクライアントに対して遺伝カウンセリングを提供する診療体制を構築している。また、病院における臨床業務実施に伴って発生する様々な倫理的課題に対応するための臨床倫理委員会や臨床倫理コンサルテーションチームの支援も行っている。

(2)　研究活動

遺伝子診療科の臨床業務に関連して、種々の遺伝性疾患の原因遺伝子解明に関する検査手法の開発、遺伝疾患の個別性と共通性に注目し、職種 · 領域を超えたチーム医療を実践するためのツール開発としての種々の研究を展開している。
また、実践的研究領域として生活習慣病とくに動脈硬化症や脂質異常症、遺伝性不整脈の病因解明 · 治療法の開発に関わる基礎 · 臨床研究も行っている。

(3)　教育活動

遺伝カウンセリングにおいては、実践を通して医療における倫理的側面を考察することで、医療者に関する教育を展開することに意義がある。従って学部においては、実際の最先端医療における倫理的課題について、遺伝子診療科における遺伝カウンセリング症例などを元に講義を担当している。
研究倫理に関しては、昨今の社会状況も鑑み、基礎教育の段階から研究倫理に関する教育を展開する必要性を重視し、学部教育では卒業研究 · 論文などにおける研究倫理を、大学院教育では、研究者としての第一歩を踏み出す大学院生を対象に、研究倫理について講義を行っている。

(4)　臨床活動および学外活動

遺伝子診療科として、様々な遺伝性疾患の原因検索や疾患の診断 · 治療についての患者 · クライアントからの相談に対応している。当科は臨床遺伝専門医の研修施設に指定され、現在も 14 名の医師 · 歯科医師が研修を行っている。

(5) 研究業績

[原著]

1. Okamura T, Tsukamoto K, Arai H, Fujioka Y, Ishigaki Y, Koba S, Ohmura H, Shoji T, Yokote K, Yoshida H, Yoshida M, Deguchi J, Dobashi K, Fujiyoshi A, Hamaguchi H, Hara M, Harada-Shiba M, Hirata T, Iida M, Ikeda Y, Ishibashi S, Kanda H, Kihara S, Kitagawa K, Kodama S, Koseki M, Maezawa Y, Masuda D, Miida T, Miyamoto Y, Nishimura R, Node K, Noguchi M, Ohishi M, Saito I, Sawada S, Sone H, Takemoto M, Wakatsuki A, Yanai H. Japan Atherosclerosis Society (JAS) Guidelines for Prevention of Atherosclerotic Cardiovascular Diseases 2022. Journal of atherosclerosis and thrombosis. 2023.12;

2. Yogi A, Iemura R, Nakatani H, Takasawa K, Gau M, Yamauchi T, Yoshida M, Moriyama K, Ishii T, Hosokawa S, Yamada M, Suzuki H, Kosaki K, Kashimada K, Morio T. BMP2 is a potential causative gene for isolated dextrocardia situs solitus. European journal of medical genetics. 2023.08; 66(9); 104820

3. Yusuke Ebana, Lian Liu, Kensuke Ihara, Keiko Abe, Chikashi Terao, Yoichiro Kamatani, Tetsuo Sasano, Tetsushi Furukawa. Genetic risk score of cerebral infarction in atrial fibrillation genome-wide association study. Eur J Clin Invest. 2023.08; e14084

4. Egawa M, Kanda E, Ohtsu H, Nakamura T, Yoshida M. Number of Children and Risk of Cardiovascular Disease in Japanese Women: Findings from the Tohoku Medical Megabank. Journal of atherosclerosis and thrombosis. 2023.02; 30(2); 131-137

5. Egawa M, Kanda E, Ohtsu H, Nakamura T, Yoshida M. Hypertensive Disorders of Pregnancy are Associated with Cardiovascular Disease in Middle- and Older-Aged Japanese Women. Journal of atherosclerosis and thrombosis. 2023.01; 30(10); 1420-1426

6. Shizuka Kirino, Analia Yogi, Eriko Adachi, Hisae Nakatani, Maki Gau, Ryosei Iemura, Haruki Yamano, Toru Kanamori, Takayasu Mori, Eisei Sohara, Shinichi Uchida, Kentaro Okamoto, Tomohiro Udagawa, Kei Takasawa, Tomohiro Morio, Kenichi Kashimada. Phenotypic Variation in 46,XX Disorders of Sex Development due to the Fourth Zinc Finger Domain Variant of WT1: A Familial Case Report. Sex Dev. 2023; 17(1); 51-55

[書籍等出版物]

1. あなたの知らない研究グレーの世界. 中外医学社, 2023.10 (ISBN : 978-4-498-14848-2)

2. 認定遺伝カウンセラー制度委員会 (監修)、三宅秀彦 · 甲畑宏子 (責任編集). 遺伝カウンセリング標準テキスト. 診断と治療者, 2023.10 (ISBN : 978-4-7878-2596-4)

[総説]

1. 甲畑宏子. 遺伝カウンセリングとわが国の医療制度 医学のあゆみ. 2023.11; 287(7); 539-543

2. 江花有亮. 改正個人情報保護法を巡る問題について 日本病院薬剤師会雑誌. 2023.06; 59(6); 589-592

[講演 · 口頭発表等]

1. Eriko Adachi, Ryuichi Nakagawa, Atsumi Tsuji-Hosokawa, Maki Gau, Shizuka Kirino, Analia Yogi, Hikase Nakatani, Tomomi Yamaguchi, Masanori Murakami, Toshihiro Tajima, Tomonobu Hasegawa, Tetsuya Yamada, Tomohiro Morino, Osamu Ohara, Kenichi Kashimada. Development of a clinically applicable one-step PCR-based CYP21A2 analysis using long read sequences.. Human Genetics Asia 2023(68th Annual Meeting of Japan Society of Human Genetics/ 14th Asia Pacific Conference on Human Genetics/ 22nd Annual meeting of East Asian Union of human Genetics Societies) 2023.10.14 Tokyo Japan

2. Suzuka Kato, Yusuke Ebana. Exploratory study for patient and public involvement in genomic researchers. 14th Asia Pacific Conference on Human Genetics (APCHG) 2023.10.11 Tokyo

3. Shizuka Kirino, Ryuichi Nakagawa, Kei Takasawa, Maki Gau, Atsumi Tsuji-Hosokawa, Liang Zhao, Josephine Bowles, Peter Koopman, Tomohiro Morio, Kenichi Kashimada.. Application of Cap analysis of gene expression (CAGE) in genetic analysis of mouse sex differentiation. Ninth International Symposium on the Biology of Vertebrate Sex Determination 2023.04.19 Kailua-Kona, HAWAII

4. Yusuke Ebana. How to solve research ethics issues? -Role of Certified Research Ethics Professionals (CReP) as an Ethical Review Expert-. ENRIO2023 (European Network of Research Integrity Offices) 2023.09.07

5. Mariko Komine, Yusuke Ebana. The current status and issues of genetic counseling and testing with inherited cardiac arrhythmia at our hospital. 14th Asia Pacific Conference on Human Genetcs (APCHG) 2023.10.11 Tokyo

6. Yusuke Ebana. Role of Certified Research Ethics Professionals (CReP) as an Ethical Review Expert. Asia Pacific Research Integrity Network Meeting 2023.03.21 Tokyo

1. 上田日和、甲畑宏子、吉田雅幸. 小児のゲノムデータ共有における倫理的課題 ー再同意に関するバイオバンクの現状と意見ー. 日本生命倫理学会第 35 回年次大会 2023.12.09 東京

2. 石原恵依子, 甲畑宏子, 小峯真理子, 荒井裕国, 長岡英気, 宮﨑泰成, 大友康裕, 鵜川豊世武, 増田孝広, 神里彩子, 吉田雅幸. COVID-19 の治療に関するインフォームド・コンセントにおける倫理的課題についての実態調査. 日本生命倫理学会第 35 回年次大会 2023.12.09 東京

3. 江花有亮. 【教育講演】医学系研究における個人情報の使用について. 横浜市立大学 倫理講習会 2023.11.28

4. 江花有亮. 生命・医学系指針遵守のための CReP 版統一書式について. 第 12 回「臨床研究を実施・支援するための研修会」 2023.11.18 東京

5. 江花有亮. 【教育講演】臨床研究と個人情報. 第 40 回日本障害者歯科学会 2023.11.12 札幌

6. 江花有亮. 【教育講演】大阪医科薬科大学・倫理講習会. 倫理講習会 2023.10.28 大阪医科薬科大学

7. 桐野玄, 中川竜一, 高澤啓, 我有茉希, 鹿島田健一. 機能活性をもつエンハンサーの塩基配列解析は新規性腺発生における転写制御機構を明らかにする. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.21 埼玉

8. 白川詩織, 山野春樹, 家村綾正, 安達恵利子, 中谷久恵, 桐野玄, 我有茉希, 勝屋恭子, 酢谷明人, 市川知則, 森尾友宏, 高澤啓, 鹿島田健一. 双胎同胞の診断を契機に早期介入しえた 21 水酸化酵素欠損症の男児例. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

9. 安達恵利子, 中川竜一, 辻敦美, 我有茉希, 桐野玄, Analia Yogi, 中谷久恵, 高澤啓, 山口智美, 古庄知己, 村上正憲, 田島敏弘, 長谷川泰延, 山田哲也, 森尾友宏, 小原収, 鹿島田健一. 臨床応用可能な One-step PCR を用いた Long read sequence による CYP21A2 解析法の開発と新規構造異常の同定. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

10. 江花有亮. 【教育講演】医学系研究における個人情報の保護 . 第 17 回山口県「人を対象とする医学系研究等推進セミナー」 2023.10.14 山口

11. 甲畑宏子. 遺伝カウンセラー養成課程における「遺伝カウンセリング標準テキスト」の活用方法. 日本人類遺伝学会第 68 回大会 第 14 回アジア太平洋人類遺伝学会 東アジア人類遺伝学会連合第 21 回大会合同開催 2023.10.12 東京

12. 江花有亮. 【教育講演】臨床研究で留意すべき個人情報の保護. 第 25 回日本骨粗鬆症学会 2023.09.29 名古屋

13. 江花有亮. 【教育研修】科学的審査の視点（研究デザイン、統計学的解析等）. 第 1 回臨床研究審査委員会・委員研修 2023.09.21 東京

14. 江花有亮. 研究責任者が抑えるべき研究倫理の要点. 日本骨粗鬆症学会サマーセミナー 2023.08.06 千葉

15. 桐野玄, 中川竜一, 高澤啓, 我有茉希, 鹿島田健一. 機能活性をもつエンハンサーの塩基配列解析から明らかとなる性腺発生における新規転写制御機構. 第 26 回小児分子内分泌研究会 2023.07.01 北海道

16. 江花有亮. 第 18 回倫理委員会委員・事務局向け研修会. 医学系大学倫理委員会連絡会議 2023.06.22 山梨

17. 甲畑宏子. 遺伝性腫瘍を一歩から -家系図の書き方-. 第 29 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会 2023.06.17 高知

18. 安達 恵利子, 辻 敦美, 中川 竜一, 我有 茉希, 桐野 玄, Yogi Analia, 中谷 久恵, 高澤 啓, 森尾 友宏, 小原 収, 鹿島田 健一. Target Long read sequence による CYP21A2 の新しい解析手法の開発. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.03 名古屋

19. 我有 茉希, 高澤 啓, 山内 泰輔, 水野 朋子, 石渡 久子, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. SGLT2 阻害薬はミトコンドリア糖尿病の治療選択肢になる. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.02 名古屋

20. 桐野 玄, 高澤 啓, 中川 竜一, 山内 建, 我有 茉希, 齋藤 洋子, 安達 恵利子, 中谷 久恵, 神谷 尚宏, 磯田 健志, 梶原 道子, 金兼 弘和, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. 先天性免疫異常症における膵島自己免疫の実態および造血細胞移植の効果. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.02 名古屋

21. 仲 なつき, 甲畑 宏子, 江花 有亮, 吉田 雅幸. 医師-患者関係がゲノム研究のインフォームド・コンセントに与える影響に関する文献検討. 日本遺伝カウンセリング学会誌 2023.06.01

22. 江花有亮. 【教育研修】迷宮化する生命・医学系指針. 千葉大学病院・臨床研究セミナー 2023.03.20 千葉

23. 江花有亮. 倫理審査専門職 CReP の目指すもの. 第 8 回研究倫理を語る会 2023.03.04 東京

24. 江花有亮. 第 17 回倫理委員会委員・事務局向け研修会. 医学系大学倫理委員会連絡会議・委員講習会 2023.02.17

25. 江花有亮. 【教育研修】人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針. 2022 年度 東京工業大学 倫理講習会 2023.01.31 東京

26. 江花有亮. 医療ＡＩ（人工知能）における倫理的フレームワーク. 第 5 回日本メディカル AI 学会学術集会 2023.06.17 東京

[Works]

1. CoDP, データベース, 2013 年 04 月 - 現在

[社会貢献活動]

1. 倫理審査専門職 CReP 認定試験, 倫理審査専門職 CReP 協会, 倫理審査専門職 CReP 協会, 2019 年 01 月 01 日 - 現在

2. 2024 年改訂版 心臓血管疾患における遺伝学的検査と遺伝カウンセリングに関するガイドライン, 日本循環器学会, 2021 年 12 月 01 日 - 現在

3. DNA の日「ゲノム診療の今とこれから」, AMED_PPI 事業, DNA の日, 東京大学・福武ホール, 2023 年 04 月 23 日

4. 薬物療法について, ラジオ NIKKEI, 杏林シンポジア, 2023 年 05 月 12 日 - 2023 年 07 月 10 日

5. NIPT の認証制度について, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2023 年 06 月 20 日

法歯学

Forensic Dentistry

教　　授　櫻田　宏一
准 教 授　斉藤　久子
特任講師　宇都野　創
助　　教　峰岸　沙希
大学院生　並木　修司
大学院生　戸谷　麻衣子
大学院生　壽美　望
大学院生　ムハンマド ギャリー シャフリザル ハナフィ
大学院生　青木　奈々美
大学院生　山田　明佳

(1) 分野概要

法歯学（歯科法医学）は、犯罪に関連するご遺体や生体試料からの個人識別はもとより、近年多発する大事故や大災害での歯科所見による身元確認という、社会的に重要な任務を担っている。特に、平成 24 年 6 月に死因究明二法といわれる法律が成立して以降、個人識別に関する研究、鑑定および教育の推進がさらに求められるようになった。当教室では、最新の分子生物学的手法や画像解析技術を用いた、歯や骨などの硬組織、軟組織や体液、あるいは顔画像からの個人識別を主な業務としている。

(2) 研究活動

1. 個人識別に関する研究
- 歯科所見を用いた身元確認に関する研究
- 歯 · 骨等の硬組織、軟組織および体液等を用いた研究
- 復顔 · 顔画像解析に関する研究

2. 虐待とネグレクト
3. 歯科医療事故と医療訴訟
4. 歯科医療制度問題
5. 法中毒

(3) 教育活動

学部学生に対しては、死因究明制度と歯科医師との関連を理解させ、その上で、歯科所見を用いた身元確認が歯科医師として社会から求められている大きな役割の一つであることを理解させる。また、学生の多くは、やがて地域で警察行政に携わる機会を持つことが想定され、死者の人権、そして公衆衛生の向上に寄与するためにも、その基礎となる死体現象や死因の特定など、法医学を理解させる。大学院生に対しては、歯科法医学の研究領域を理解させ、自ら研究課題を立案し、研究を進められる能力を養う。また法医解剖を通した実践的な個人識別法を学び、その重要性を理解させる。

(4) 教育方針

実務と研究の両輪を実践できる環境の中でこそ、学生にとってより効果的な教育が達成できるものと考えている。

(5) 臨床活動および学外活動

法医解剖における身元不明死体の個人識別や関連する鑑定実務。事故や災害時での身元確認作業。各種自治体等が行う防災訓練や身元確認研修への参加。

(6) 研究業績

[原著]

1. Hajime Utsuno, Yohsuke Makino, Shuuji Namiki, Saki Minegishi, Maiko Toya, Hirotarao Iwase, Koichi Sakurada. Morphological Observation of the Alar Region between the Piriform Aperture and the Alar Soft Tissue for Facial Approximation (Reconstruction) Forensic Anthropology. 2023.11;

2. Saitoh H, Takeyama M, Moriya T, Yusa K, Minegishi S, Torimitsu S, Chiba F, Hoshioka Y, Nagasawa S, Iino M, Sakurada K, Iwase H, Tokanai F. Usefulness of powdered crown of mandibular first premolars in birth year estimation by radiocarbon dating. Journal of forensic and legal medicine. 2023.10; 100; 102607

3. Namiki S, Utsuno H, Makino Y, Minegishi S, Toya M, Iwase H, Sakurada K. Estimation of missing mandible from the skull using postmortem CT images. Legal medicine (Tokyo, Japan). 2023.09; 65; 102321

4. Sumi N, Minegishi S, Ohta J, Utsuno H, Sakurada K. Study on the Mechanism of the Pink Tooth Phenomenon Using Bovine Teeth: A Pilot Study. Diagnostics (Basel, Switzerland). 2023.08; 13(16);

5. Ohta J, Minegishi S, Noda N, Sakurada K. Estimating the way of deposition of saliva stains using quantitative analysis of forensic salivary biomarkers. Legal medicine (Tokyo, Japan). 2023.06; 64; 102277

6. Mirei Takeyama, Toru Moriya, Hisako Saitoh, Hiroko Miyahara, Fusa Miyake, Motonari Ohyama, Rimi Sato, Rie Shitara, Hirohisa Sakurai, Fuyuki Tokanai. Present status of the YU-AMS system and its operation over the past 10 years Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section B: Beam Interactions with Materials and Atoms. 2023.05; 538; 30-35

7. Saki Minegishi, Hajime Utsuno, Jun Ohta, Shuuji Namiki, Maiko Toya, Nozomi Sumi, Hisako Saitoh, Koichi Sakurada. Comparison of racemization rates between vital and endodontically treated teeth for age estimation. Leg Med (Tokyo). 2023.03; 61; 102189

8. Kei Kira, Fumiko Chiba, Yohsuke Makino, Suguru Torimitsu, Rutsuko Yamaguchi, Shigeki Tsuneya, Ayumi Motomura, Maiko Yoshida, Naoki Saitoh, Go Inokuchi, Yumi Hoshioka, Hisako Saitoh, Daisuke Yajima, Hirotaro Iwase. Stature estimation by semi-automatic measurements of 3D CT images of the femur International journal of legal medicine. 2023.03; 137(2); 359-377

9. Hisako Saitoh, Yuko Sakai-Tagawa, Sayaka Nagasawa, Suguru Torimitsu, Kazumi Kubota, Yuichiro Hirata, Kiyoko Iwatsuki-Horimoto, Ayumi Motomura, Namiko Ishii, Keisuke Okaba, Kie Horioka, Hiroyuki Abe, Masako Ikemura, Hirofumi Rokutan, Munetoshi Hinata, Akiko Iwasaki, Yoichi Yasunaga, Makoto Nakajima, Rutsuko Yamaguchi, Shigeki Tsuneya, Kei Kira, Susumu Kobayashi, Go Inokuchi, Fumiko Chiba, Yumi Hoshioka, Aika Mori, Isao Yamamoto, Kimiko Nakagawa, Harutaka Katano, Shun Iida, Tadaki Suzuki, Shinji Akitomi, Iwao Hasegawa, Tetsuo Ushiku, Daisuke Yajima, Hirotaro Iwase, Yohsuke Makino, Yoshihiro Kawaoka. High titers of infectious SARS-CoV-2 in COVID-19 corpses. International journal of infectious diseases : IJID : official publication of the International Society for Infectious Diseases. 2023.02; 129; 103-109

10. Kiyoko Iwatsuki-Horimoto, Hiroshi Ueki, Mutsumi Ito, Sayaka Nagasawa, Yuichiro Hirata, Kenichiro Hashizume, Kazuho Ushiwata, Hirotaro Iwase, Yohsuke Makino, Tetsuo Ushiku, Shinji Akitomi, Masaki Imai, Hisako Saitoh, Yoshihiro Kawaoka. SARS-CoV-2 Transmission from Virus-Infected Dead Hamsters mSphere. 2023.01; e0041122

11. Yuichiro Hirata, Shun Iida, Takeshi Arashiro, Sayaka Nagasawa, Hisako Saitoh, Hiroyuki Abe, Masako Ikemura, Yohsuke Makino, Rintaro Sawa, Hirotaro Iwase, Tetsuo Ushiku, Tadaki Suzuki, Shinji Akitomi. Impact of the COVID-19 pandemic on pathological autopsy practices in Japan Pathology international. 2023.01; 73(3); 120-126

1. 斉藤 久子 , 中久木 康一, 石井 名実子, 飯田 哲也, 山田 良広, 岩瀬 博太郎, 清水 惠子. 遺体の歯科所見採取におけるスキャン画像の有用性の検討—災害時身元確認における口腔内スキャナーの活用— 日本災害医学会雑誌 . 2023.12; 28(3); 124-127

2. 櫻田 宏一. 【歯科医学教育白書 2021 年版 (2018～2021 年)】(第 4 章) 歯科医学教育プログラム (学士課程教育)　法歯学教育 日本歯科医学教育学会雑誌. 2023.02; 別冊; 77-78

[総説]

1. Koichi Sakurada. Effects on oral tissues of asphyxiation caused by cervical compression: The pink teeth phenomenon in Kato's studies (1941). Leg Med (Tokyo). 2023.06; 64; 102284

[講演・口頭発表等]

1. Shuuji Namiki, Hjime Utusno, Yosuke Makino, Saki Minegishi, Maiko Toya, Nozomi Sumi, Hirotaro Iwase, Koichi Sakurada. Method for estimating missing mandible from the skull using postmortem CT images . The 107th Congress of the Japanese Society of Legal Medicine 2023.06.08 Odawara City

2. Hanafi Muhammad Garry Syahrizal, Hajime Utsuno, Saki Minegishi, Koichi Sakurada . Forensic Odontology in Indonesia. 17th Annual Meeting of Japanese Society of Forensic Dental Science 2023.05.14 Tokyo Medical and Dental University

1. 峰岸沙希、鵜沼香奈、上村公一、櫻田宏一. 身元不明遺体の歯科所見と厚労省歯科疾患実態調査との比較・検討. 第 60 回日本犯罪学会総会 2023.11.26 東京都文京区

2. 大田 隼、峰岸沙希、野田菜央、谷本幸介、宇都野創、斉藤久子、櫻田宏一. 細菌叢解析による劣化試料からの唾液の識別に有用な細菌 DNA マーカー の探索. 日本 DNA 多型学会第 32 回学術集会 2023.11.17 下関市

3. 壽美望、峰岸沙希、宇都野創、並木修司、戸谷麻衣子、大田隼、斉藤久子、櫻田宏一. ウシの歯を用いたピンク歯現象のメカニズムに関する予備的検討. 第 92 回日本法医学会学術関東地方集会 2023.10.14 川崎市

4. 戸谷麻衣子、峰岸沙希、宇都野創、大田隼、並木修司、壽美望、斉藤久子、鵜沼香奈、上村公一、櫻田宏一 . 通所介護事業所における高齢者の身体的虐待の外傷所見と関連機関との連携についての調査研究. 第 92 回日本法医学会学術関東地方集会 2023.10.14 川崎市

5. 斉藤久子. エンバーミング（遺体衛生保全処置）によるご遺族へのグリーフケア効果. 第 65 回歯科基礎医学会学術大会 2023.09.18 東京

6. 斉藤久子. FFPE サンプルを用いた DNA 型鑑定. 第 65 回歯科基礎医学会学術大会 2023.09.17 東京

7. 斉藤久子、勝村聖子、岡広子、小菅栄子、山口里恵、熊谷章子. . 歯科所見を用いた身元確認作業に関するデジタル教材の活用. 第 42 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 2023.07.15 完全 WEB 開催

8. 岡広子，斉藤久子，峰岸沙希，長尾正崇. ベトナムで歯科治療に使用されている材料の検証. 第 107 次日本法医学会学術全国集会 2023.06.09 小田原市

9. 永澤明佳，平田雄一郎，恒矢重毅，吉良圭，小林漸，秋冨慎司，鈴木忠樹，岩瀬博太郎，槇野陽介，斉藤久子. SARS-CoV-2 感染遺体におけるウイルス力価の経時的変化の検討. 第 107 次日本法医学会学術全国集会 2023.06.08 小田原市

10. 石井名実子，齋藤直樹，水野聡美，小林漸，咲間彩香，本村あゆみ，猪口剛，矢島大介，岩瀬博太郎，斉藤久子. 児童虐待対応事例における歯科的評価. 第 107 次日本法医学会学術全国集会 2023.06.08

11. 宇都野創，並木修司，槇野陽介，斉藤久子，峰岸沙希，戸谷麻衣子，壽美 望，大田 隼，岩瀬博太郎，櫻田宏一.. 日本人頭蓋骨の復顔における耳介部の形態推定に関する検討. 第 107 次日本法医学会学術全国集会 2023.06.08 小田原市

12. 阿久津智子，峰岸沙希，渡邊 賢，櫻田宏一. 月経血の検査法開発のための月経血マーカーの探索および評価. 第 107 次日本法医学会学術全国集会 2023.06.08 小田原市

13. 壽美　望、峰岸　沙希、宇都野　創、並木　修司、戸谷　麻衣子、大田　隼、斉藤　久子、 櫻田　宏一. ピンク歯現象における発色機序に関する研究 - ヘモグロビン及び分解物、並びに紅色色素産生菌との関与の検討 - . 日本法歯科医学会第 17 回学術大会 2023.05.14 東京医科歯科大学

14. 斉藤久子，永澤明佳，平田雄一郎，槇野陽介，鳥光優，小林漸，石井名実子，山本伊佐夫，中川貴美子，長谷川巖，矢島大介，岩瀬博太郎，河岡義裕. 遺体に残存する新型コロナウイルスの感染性評価. 日本法歯科医学会第 17 回学術大会 2023.05.14 東京

15. 熊谷章子，大林由美子，岡広子，波田野悠夏，勝村聖子，小菅栄子，山口里恵，斉藤久子. JUMP（日本身元不明 · 行方不明者対策チーム）が提供する遺族対応を含めた身元確認訓練用デジタル教材の紹介. 日本法歯科医学会第 17 回学術大会 2023.05.14 東京

16. 小林漸，山口るつ子，槇野陽介，鳥光優，千葉文子，永澤明佳，吉田真衣子，斉藤久子，岩瀬博太郎. 石膏に埋められた 50 年前の乳児遺体の歯牙による月齢推定. 日本法歯科医学会第 17 回学術大会 2023.05.14 東京

17. 斉藤久子，中久木康一，石井名実子，中川貴美子，藤田紗英子，大平寛，山本伊佐夫，岩瀬博太郎，長谷川巖，山田良広，清水惠子. 身元不明遺体における口腔内スキャナーを用いた歯科所見採取の検討. 第 28 回日本災害医学会総会 · 学術集会 2023.03.10 岩手

18. 藤田紗英子，山本伊佐夫，中川貴美子，大平寛，池野正典，長谷川巖，斉藤久子，槇野陽介，岩瀬博太郎，山田良広. 歯科所見採取作業における PPE（Personal protective equipment）による作業効率の検討. 第 28 回日本災害医学会総会 · 学術集会 2023.03.10 岩手

[その他業績]

1. 日本法歯科医学会第 17 回学術大会（櫻田宏一）, 2023 年 05 月
日本法歯科医学会第 17 回学術大会を主催

[社会貢献活動]

1. 個人識別鑑定 · 検査等（101 件） , 2023 年 01 月 01 日 - 2023 年 12 月 31 日

2. 令和 4 年度身元確認に関する歯科医師研修会（第 2 回）（櫻田宏一） , 東京都歯科医師会, 日本歯科医師会館, 2023 年 03 月 12 日

3. 法医学 · 法歯学領域で求められる多職種連携について考える, 宮崎県歯科医師会　警察歯科及び災害時対策会議（斉藤久子）, 宮崎県歯科医師会館, 2023 年 08 月 19 日

4. 東京都 · 東村山市合同総合防災訓練（櫻田宏一、並木修司）, 東京都 · 東村山市, 東村山市, 2023 年 09 月 03 日

5. 令和 5 年度身元確認に関する歯科医師研修会（第 1 回）（櫻田宏一）, 東京都保健医療局, 歯科医師会館, 2023 年 10 月 15 日

6. 令和 5 年度神奈川県警察協力歯科医研修会（櫻田宏一、斉藤久子） , 神奈川県歯科医師会, 鶴見大学 , 2023 年 11 月 19 日

7. 今後の大規模災害で求められる身元確認システム, 山形県歯科医師会（斉藤久子）, 山形県歯科医師会館, 2023 年 12 月 03 日

8. 荒川区歯科医師会講演会（櫻田宏一） , 荒川区歯科医師会, 警察協力医会講習会 , 荒川区歯科医師会館 , 2023 年 12 月 06 日

9. 岩手県歯科医師会法歯学セミナー（櫻田宏一） , 岩手県歯科医師会 , セミナー, 岩手県歯科医師会館 , 2023 年 12 月 09 日

歯学教育開発学

Dental Education Development

准教授　關奈央子

(1)　研究活動

1．医療専門職業人教育のためのカリキュラム研究
2．歯科医学教育の国際比較
3．医療専門職業人教育における教育手法の研究 · 開発
4．医療専門職業人教育における英語教育に関する研究 · 開発

(2)　教育活動

【学部教育】
· 海外留学派遣前教育 (海外派遣英語準備コース) BRIDgE (Be Ready for International Dental Externships) course
· 「科学英語 I 」（口腔保健学科口腔保健衛生学専攻 2 年生）
· Health Sciences Leardership Program
· International Course for Clinical Dentistry（歯学部生対象）

【博士課程】
· 歯学教育開発学特論 · 演習
· Essential Expertise for Clinical Dentistry

(3)　臨床活動および学外活動

【国際セミナー · 学内セミナー · ワークショップ · 学会等開催 · 補助等】
1. International Faculty Development Course (IFDC) 運営（東京医科歯科大学）
2. International Course for Clinical Dentistry (ICCD) 運営（東京医科歯科大学）
3. メルボルン大学歯学部との生涯教育コース運営

(4)　研究業績

[原著]

1. Liao SR, Seki N, Akiyama M, Shinada K, Morio I. Perceived stress and career planning awareness of Japanese and Taiwanese undergraduate dental hygiene students Journal of Dental Sciences. 2023.07; 18(3); 1094-1102

2. Pravitharangu N, Miyamoto JJ, Yoshizawa H, Matsumoto T, Suzuki S, Chantarawaratit P, Moriyama K . Vowel sound production and its association with cephalometric characteristics in skeletal Class III subjects. European Journal of Orthodontics. 2023.02; 45(1); 20-28

3. Kanamori Y, Seki N, Foxton R, Moross J, Komagamine Y, Mizutani K, Hosaka K, Kanazawa M, Hatayama T, Komada W, Yonemitsu I, Akiyama M, Kaewmanee PC, Kaewsutha N, Nitta H, Wakabayashi N, Morio I. Fostering globally competent dental students through virtual team-working, problem-solving and person-centred multi-disciplinary care planning. Journal of Dental Sciences. 2023.01; 18(1); 95-104

4. Seki N, Sreerat K, Foxton R, Liao SR, Morio I. Critical thinking education for dental schools in Asia: Perceptions of educators Journal of Dental Sciences. 2023.01; 18(1); 443-447

健康推進歯学

Oral Health Promotion

教授	相田潤
准教授	松山祐輔
講師（キャリアアップ）	木野志保
助教	財津崇
医員	有冨理左
特任研究員	井上裕子
連携研究員	木内桜
技術補佐員	伊藤寿実
大学院生	斉藤智也
	奥田章子
	Ho Sy Minh Duc
	島田怜実
	増子紗代
	Sharmin Farzana
	王 柯煒
	増子竣也
	Aishwarya Gaikwad

(1) 分野概要

「臨床」では患者さんの診断をして治療を行いますが、社会の人々の診断をするために用いられるのが「疫学」であり、これを通じて社会の人々の健康の維持・増進をはかるのが「公衆衛生学」です。健康推進歯学分野では、疫学、公衆衛生学、息さわやか外来の臨床やフィールドでの活動を通じ、人々の健康を推進することを目指しています。

「疫学」は将来臨床医になる人にも役立ちます。自分の診療所の特徴や患者さんたちの状態を客観的にデータから判断し、エビデンスに基づいた予防や治療を行うために疫学は欠かせません。

「公衆衛生学」は国、都道府県、市町村といった行政で働くためには必要不可欠な学問です。行政は人々の集団である社会の健康を維持・増進するための活動を行います。地域の人々の健康に貢献するために、公衆衛生的素養を身につけることは重要です。

また、本分野では保健センターや企業などでの健診、口臭の治療に特化した「息さわやか外来」での診療も行っています。口臭は歯や口の悩みごとの第 3 位と多い悩みであり、職場や地域で人々のコミュニケーションを阻害する要因です。世界的にも稀有な口臭治療を専門とする大学病院の診療科として、日本で数少ない測定機材などを備えた最先端の口臭治療を行い、幸福に貢献する診療を行っています。ここでは歯科医師・歯科衛生士として、数少ない特別な技能を身につけることができます。

このような、特殊な専門性を身につけることで、オンリーワンの人材として、人々の健康の推進に「疫学研究者」、「行政の専門職」、「自身の患者さんの状態の把握や最良の治療を、疫学を用いてデータとエビデンスで判断でき、口臭治療も行える臨床医」として寄与できる人材の育成を行っています。

(2) 研究活動

分野としての主な研究テーマ
- 口腔と全身の健康の因果推論の研究
- 健康格差と社会的決定要因の研究
- 口臭症の診断と治療システム構築に関する研究

(3) 教育活動

1) 大学院教育

博士課程　健康推進歯学　　特論（1年次)、演習（1―2年次)、研究実習（2―3年次）
医歯学総合研究科コース特論　健康科学コース

修士課程　環境社会医歯学

2) 学部教育

歯学科1年生対象
モジュール01「歯学入門」：ユニット03「最新の歯学」、ユニット04「早期臨床体験実習」

歯学科2年生対象
モジュール04「社会と環境」：ユニット02「ライフスタイルと健康」

歯学科3年生対象
モジュール10「予防と健康管理」：ユニット01「口腔疾患の予防（講義・演習)」、ユニット02「口腔疾患の予防(実習)」

歯学科4年生対象
モジュール19「研究体験実習」

歯学科5、6年生対象
モジュール29「包括臨床実習」

口腔保健学科4年生対象
「臨床実習」

(4) 教育方針

1) 大学院教育

疫学統計を用いて研究や地域診断を行える歯科専門職を養成する。そのために、国際的に最先端の研究を、国際的なネットワークの中でコンテキストを理解して行っていく。
特論では口腔疾患の予防およびオーラルヘルスプロモーションに関する基礎、臨床、疫学研究について概説する。口腔疾患の予防、歯科公衆衛生、口腔疾患の疫学、口腔疾患の社会的側面、プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション、保健医療システムや教育制度とオーラルヘルスプロモーションとの関連などについて講義やディスカッションを行う。

2) 学部教育

「ライフスタイルと健康」：学生が健康と社会制度や環境との関連を理解し、人々の健康推進を支援できる歯科医師となるために必要な知識、技術、態度を修得すること。
「口腔疾患の予防Ⅰ・Ⅱ」：学生が口腔疾患の予防と健康管理を実践していく歯科医師となるために必要な知識、技術、態度を修得すること。

(5) 臨床活動および学外活動

東京医科歯科大学歯学部附属病院の「息さわやか外来」において、口臭に関する診断、治療、予防を行う専門外来を担当している。当外来を受診する口臭症患者は、歯学部附属病院内の他の診療科や外部の歯科診療所等からの紹介患者が約半数を占め、インターネットや新聞 · テレビなどのマスメディアにより当外来の存在を知り、来院する者も多い。
当外来では、ガスクロマトグラフィーおよびガスセンサー口臭測定器による揮発性硫化物 (VSC) 濃度の測定と官能試験により、口臭の検査を行っている。正確な口臭の検査および口腔内診査に基づき診断を行い、患者の心理面も配慮し、口臭症の治療を行っている。また、口臭の治療には継続した歯周疾患の管理や口腔ケアが必要であり、当病院の口腔ケア外来やかかりつけ歯科医との連携を図っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Kinumi Yamamoto-Kuramoto, Taro Kusama, Sakura Kiuchi, Katsunori Kondo, Ken Osaka, Kenji Takeuchi, Jun Aida. Lower socio-economic status in adolescence is associated with poor oral health at an older age: Mediation by social and behavioural factors. Gerodontology. 2023.12; 40(4); 509-517

2. Taro Kusama, Kenji Takeuchi, Sakura Kiuchi, Jun Aida, Ken Osaka. Poor oral health and dementia risk under time-varying confounding: A cohort study based on marginal structural models. J Am Geriatr Soc. 2023.12;

3. Anna Kinugawa, Taro Kusama, Kenji Takeuchi, Jun Aida, Sakura Kiuchi, Ryoko Katagiri, Hiroyuki Hikichi, Satoshi Sasaki, Katsunori Kondo, Ken Osaka. Association between dietary pattern and insomnia symptoms among independent older adults: A cross-sectional study based on JAGES. Sleep Med. 2023.12; 112; 70-76

4. Yuko Segawa, Tetsuya Jinno, Masaaki Matsubara, Yusuke Matsuyama, Takeo Fujiwara, Atsushi Okawa. A cross-sectional study evaluating patients' preferences for Salter innominate osteotomy. J Orthop Sci. 2023.11; 28(6); 1298-1302

5. Ishimaru, M; Zaitsu, T; Kino, S; Inoue, Y; Taira, K; Takahashi, H; Tamiya, N. Recent dental visits and family caregiving among individuals with dental symptoms: A nationwide cross-sectional study in Japan COMMUNITY DENTISTRY AND ORAL EPIDEMIOLOGY. 2023.11;

6. Shuji Hibiya, Takashi Fujii, Toshimitsu Fujii, Shinji Suzuki, Mayumi Kondo, Shinya Ooka, Yohei Furumoto, Seishin Azuma, Kei Tanaka, Hitoshi Kurata, Shohei Tanaka, Masayuki Kurosaki, Kazuyoshi Nagayama, Fumihiko Kusano, Yasuhiro Iizuka, Takahiro Kawamura, Hidekazu Ikemiyagi, Shinya Sakita, Tsunehito Yauchi, Hideki Watanabe, Ami Kawamoto, Yusuke Matsuyama, Kazuo Ohtsuka, Ryuichi Okamoto. COVID-19 severity is associated with the risk of gastrointestinal bleeding. BMJ Open Gastroenterol. 2023.11; 10(1);

7. Yusuke Matsuyama, Takahiro Tabuchi. Does Tobacco Smoking Increase Social Isolation? A Mendelian Randomization Study. Am J Epidemiol. 2023.11;

8. Matsuura, T; Mikami, R; Mizutani, K; Shioyama, H; Aoyama, N; Suda, T; Kusunoki, Y; Takeda, K; Izumi, Y; Aida, J; Aoki, A; Iwata, T. Assessment of bone defect morphology for the adjunctive use of bone grafting combined with enamel matrix derivative: A 3-year cohort study JOURNAL OF PERIODONTOLOGY. 2023.11;

9. Shiho Kino, Jun Aida J, Katsunori Kondo, Ichiro Kawachi. Do disasters exacerbate socioeconomic inequalities in health among older people? International Journal of Disaster Risk Reduction. 2023.11; 98(104071);

10. Matsukura H, Yamaoka Y, Matsuyama Y, Kondo K, Fujiwara T*. Association between adverse childhood experiences and marital status among Japanese older adults. Child Abuse Negl. 2023.10; 144; 106340

11. Yoshinaka S, Yamaguchi K, Yanagida R, Ishii M, Nakagawa K, Yoshimi K, Nakane A, Matsuyama Y, Aida J, Tohara H . Tongue Strength of Older Adults Requiring Long-Term Care Varies throughout the Day Geriatrics. 2023.10;

12. Yudai Tamada, Kenji Takeuchi, Taro Kusama, Masashige Saito, Tetsuya Ohira, Kokoro Shirai, Chikae Yamaguchi, Katsunori Kondo, Jun Aida, Ken Osaka. Reduced number of teeth with and without dental prostheses and low frequency of laughter in older adults: Mediation by poor oral function. J Prosthodont Res. 2023.10;

13. Tani Y*, Matsuyama Y, Yamaoka Y, Matsukura H, Kawahara T, Fujiwara T. Change of human flourishing during the COVID-19 pandemic in Japan: Results from population-based U-CORONA study. SSM Popul Health. 2023.09; 23; 101430

14. Hiroyuki Hikichi, Koichiro Shiba, Jun Aida, Katsunori Kondo, Ichiro Kawachi. Association between sense of coherence and health and well-being among older survivors of a natural disaster: a prospective outcome-wide study. Sci Rep. 2023.09; 13(1); 16385

15. Yukako Tani, Takafumi Yamamoto, Taro Kusama, Anna Kinugawa, Jun Aida, Takeo Fujiwara, Katsunori Kondo. Cooking skills modify the association between oral health and mortality. Age Ageing. 2023.09; 52(9);

16. Kinumi Yamamoto-Kuramoto, Sakura Kiuchi, Kenji Takeuchi, Taro Kusama, Noriko Nakazawa, Yudai Tamada, Jun Aida, Katsunori Kondo, Ken Osaka. Oral status and incident functional disability: A 9-year prospective cohort study from the JAGES. Arch Gerontol Geriatr. 2023.08; 111; 105009

17. Sakura Kiuchi, Jun Aida, Upul Cooray, Ken Osaka, Angelique Chan, Rahul Malhotra, Marco A Peres. Education-related inequalities in oral health among older adults: Comparing Singapore and Japan. Community Dent Oral Epidemiol. 2023.08; 51(4); 671-679

18. Hiroyuki Hikichi, Yasuyuki Sawada, Jun Aida, Katsunori Kondo, Ichiro Kawachi. Association between housing damage, present bias and delayed-onset post-traumatic stress symptoms among older adults 9 years after a natural disaster. J Epidemiol Community Health. 2023.08; 77(8); 494-500

19. Shiho Kino, Keiko Ueno, Daisuke Nishioka, Naoki Kondo, Jun Aida. Prevalence of dental visits in older Japanese adults receiving public assistance. Community Dent Oral Epidemiol. 2023.08;

20. Shiho Kino, Yudai Tamada, Kenji Takeuchi, Atsushi Nakagomi, Koichiro Shiba, Taro Kusama, Takafumi Yamamoto, Jun Aida. Exploring the relationship between oral health and multiple health conditions: An outcome-wide approach. J Prosthodont Res. 2023.08;

21. L. H. Matsunaga, D. Aldrich, C. Faiad, T. Aoki, P.-H. Tseng, J. Aida. The Psychological Determinants of Avoiding Crowded Areas: An International and Political Investigation Journal of Social and Political Psychology. 2023.08; 11(2); 458-477

22. Keiko Ueno, Daisuke Nishioka, Junko Saito, Shiho Kino, Naoki Kondo. Identifying meaningful subpopulation segments among older public assistance recipients: a mixed methods study to develop tailor-made health and welfare interventions International Journal for Equity in Health. 2023.08; 22(1);

23. Shiho Kino, Yudai Tamada, Kenji Takeuchi, Atsushi Nakagomi, Koichiro Shiba, Taro Kusama, Takafumi Yamamoto, Jun Aida. Exploring the relationship between oral health and multiple health conditions: An outcome-wide approach Journal of prosthodontic research. 2023.08;

24. Takeo Fujiwara, Yuna Koyama, Aya Isumi, Yusuke Matsuyama, Yukako Tani, Yukinobu Ichida, Katsunori Kondo, Ichiro Kawachi. "What Did You Do in the War, Daddy?": Paternal Military Conscription During WWII, Economic Hardship and Family Violence in Childhood, and Health in Late Life in Japan J Interpers Violence. 2023.07; 38(13-14); 8114-8135

25. Risako Mikami, Koji Mizutani, Tomohito Gohda, Yusuke Matsuyama, Hiromichi Gotoh, Keita Nakagawa, Shu Takemura, Norio Aoyama, Takanori Matsuura, Daisuke Kido, Kohei Takeda, Natsumi Saito, Yuichi Izumi, Takanori Iwata. Malnutrition- inflammation- atherosclerosis (MIA) syndrome associates with periodontitis in end-stage renal disease patients undergoing hemodialysis: a cross-sectional study. Sci Rep. 2023.07; 13(1); 11805

26. Yusuke Matsuyama, Aya Isumi, Satomi Doi, Takeo Fujiwara. Persistent poverty and child dental caries: time-varying exposure analysis. J Epidemiol Community Health. 2023.07;

27. T Yamamoto, M Hanazato, H Hikichi, K Kondo, K Osaka, I Kawachi, J Aida. Change in Geographic Accessibility to Dental Clinics Affects Access to Care. J Dent Res. 2023.07; 102(7); 719-726

28. Satomi Shimada, Takashi Zaitsu, Akiko Oshiro, Shiho Kino, Jun Aida. Association of oral health with various work problems: a cross-sectional study of Japanese workers. BMC Oral Health. 2023.07; 23(1); 488

29. Taro Kusama, Kenji Takeuchi, Sakura Kiuchi, Jun Aida, Hiroyuki Hikichi, Satoshi Sasaki, Katsunori Kondo, Ken Osaka. Dental prosthesis use is associated with higher protein intake among older adults with tooth loss. J Oral Rehabil. 2023.07;

30. S Kiuchi, U Cooray, J Aida, K Osaka, A Chan, R Malhotra, M A Peres. Effect of Tooth Loss on Cognitive Function among Older Adults in Singapore. J Dent Res. 2023.07; 102(8); 871-878

31. U Cooray, G Tsakos, A Heilmann, R G Watt, K Takeuchi, K Kondo, K Osaka, J Aida. Impact of Teeth on Social Participation: Modified Treatment Policy Approach. J Dent Res. 2023.07; 102(8); 887-894

32. Miho Ishimaru, Takashi Zaitsu, Shiho Kino, Kento Taira, Yuko Inoue, Hideto Takahashi, Nanako Tamiya. Dental Utilization Stratified by the Purpose of Visit: A Population-Based Study in Japan. International dental journal. 2023.07;

33. Satomi Shimada, Takashi Zaitsu, Akiko Oshiro, Shiho Kino, Jun Aida. Association of oral health with various work problems: a cross-sectional study of Japanese workers BMC Oral Health. 2023.07;

34. Manami Hoshi-Harada, Jun Aida, Upul Cooray, Noriko Nakazawa, Katsunori Kondo, Ken Osaka. Difference of income inequalities of denture use by co-payment rates: A JAGES cross-sectional study. Community Dent Oral Epidemiol. 2023.06; 51(3); 557-564

35. Yusuke Matsuyama. Time-varying exposure analysis of the relationship between sustained natural dentition and cognitive decline. J Clin Periodontol. 2023.06; 50(6); 727-735

36. Pissacha Daroonpan, Ryo Ouchi, Chenyang Zhang, Shigenori Nagai, Naoto Nishii, Yoshihisa Kashima, Fumihiko Tsushima, Hiroyuki Harada, Miwako Hamagaki, Tohru Ikeda, Jun Aida, Ruchadaporn Kaomongkolgit, Miyuki Azuma. Personal immune profiles: Diversity and prognostic value for oral tongue squamous cell carcinoma evaluated by comprehensive immune parameter analyses with multiplex immunofluorescence. Oral Oncol. 2023.06; 143; 106458

37. Sasin Sritara, Yoshiro Matsumoto, Yixin Lou, Jia Qi, Jun Aida, Takashi Ono. Association between the Temporomandibular Joint Morphology and Chewing Pattern. Diagnostics (Basel). 2023.06; 13(13);

38. Keiko Murakami, Jun Aida, Shinichi Kuriyama, Hideki Hashimoto. Associations of health literacy with dental care use and oral health status in Japan. BMC Public Health. 2023.06; 23(1); 1074

39. Yuki Arakawa, Maho Haseda, Kosuke Inoue, Daisuke Nishioka, Shiho Kino, Daisuke Nishi, Hideki Hashimoto, Naoki Kondo. Effectiveness of mHealth consultation services for preventing postpartum depressive symptoms: a randomized clinical trial BMC Medicine. 2023.06; 21(1);

40. Maki Nii, Nobuhiro Yoda, Ramadhan Hardani Putra, Jun Aida, Keiichi Sasaki. Evaluation of the optimal hardness and thickness of music splints for wind instrument players. J Prosthet Dent. 2023.05; 129(5); 754-762

41. Suzuki Takumi, Hosomichi Jun, Miyasaka Naoyuki, Miyazaki Yasunari, Taki Atsuko, Zaitsu Takashi, Morioka Chikako, Sato Noriko, Moro Manaka, Ono Takashi. CHARACTERISTICS OF OBSTRUCTIVE SLEEP APNEA AMONG PREGNANT JAPANESE WOMAN AND THEIR BIRTH OUTCOMES SLEEP. 2023.05; 46; A229

42. Hazem Abbas, Jun Aida, Sakura Kiuchi, Katsunori Kondo, Ken Osaka. Oral status and homebound status: A 6-year bidirectional exploratory prospective cohort study. Oral Dis. 2023.04; 29(3); 1291-1298

43. Hazem Abbas, Jun Aida, Upul Cooray, Takaaki Ikeda, Shihoko Koyama, Katsunori Kondo, Ken Osaka. Does remaining teeth and dental prosthesis associate with social isolation? A six-year longitudinal study from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES). Community Dent Oral Epidemiol. 2023.04; 51(2); 345-354

44. Takaaki Ikeda, Yoshimune Hiratsuka, Natsuyo Yanagi, Yasunori Komaki, Masayasu Murakami, Jun Aida, Katsunori Kondo, Ken Osaka. Health-related quality of life in various health conditions: two consecutive surveys of older Japanese adults. Qual Life Res. 2023.04; 32(4); 1209-1219

45. Lucas Heiki Matsunaga, Toshiaki Aoki, Cristiane Faiad, Daniel P Aldrich, Po-Hsing Tseng, Jun Aida. Why People Stayed Home During the COVID-19 Pandemic: Implications for Health Communication Across Four Countries. J Health Commun. 2023.04; 28(4); 218-230

46. Kousuke Iwai-Saito, Koryu Sato, Jun Aida, Katsunori Kondo. Association of frailty with influenza and hospitalization due to influenza among independent older adults: a longitudinal study of Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES). BMC Geriatr. 2023.04; 23(1); 249

47. Masanori Iwasaki, Akihiro Yoshihara, Kana Suwama, Takashi Zaitsu, Seitaro Suzuki, Hikaru Ihira, Norie Sawada, Jun Aida. A cross-sectional study of the association between periodontitis and physical activity in the Japanese population. J Periodontal Res. 2023.04; 58(2); 350-359

48. Yusuke Matsuyama, Takahiro Tabuchi. Stepwise Tobacco Price Increase and Smoking Behavioral Changes in Japan: The Japan "Society and New Tobacco" Internet Survey 2017-2021 Longitudinal Study. Nicotine Tob Res. 2023.03; 25(4); 657-664

49. Shiho Kino, Andrew Stickley, Yuki Arakawa, Masashige Saito, Tami Saito, Naoki Kondo. Social isolation, loneliness, and their correlates in older Japanese adults. Psychogeriatrics. 2023.03;

50. Takaaki Ikeda, Yusuke Matsuyama, Masayasu Murakami, Ken Osaka. Duration of Education and Back Pain: Lessons From English Schooling Reforms. Am J Epidemiol. 2023.02; 192(2); 195-204

51. Yusuke Matsuyama, Takeo Fujiwara, Jun Aida. Tap water natural fluoride and parent-reported experience of child dental caries in Japan: Evidence from a nationwide birth cohort survey. Community Dent Oral Epidemiol. 2023.02;

52. Koichiro Shiba, Adel Daoud, Hiroyuki Hikichi, Aki Yazawa, Jun Aida, Katsunori Kondo, Ichiro Kawachi. Uncovering Heterogeneous Associations Between Disaster-Related Trauma and Subsequent Functional Limitations: A Machine-Learning Approach. Am J Epidemiol. 2023.02; 192(2); 217-229

53. Noriko Nakazawa, Taro Kusama, Upul Cooray, Takafumi Yamamoto, Sakura Kiuchi, Hazem Abbas, Tatsuo Yamamoto, Katsunori Kondo, Ken Osaka, Jun Aida. Large Contribution of Oral Status for Death Among Modifiable Risk Factors in Older Adults: The Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES) Prospective Cohort Study. J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2023.01; 78(1); 167-173

54. Y Matsuyama, H Jürges, S Listl. Causal Effect of Tooth Loss on Cardiovascular Diseases. J Dent Res. 2023.01; 102(1); 37-44

55. T Kusama, K Takeuchi, S Kiuchi, J Aida, K Kondo, K Osaka. Weight Loss Mediated the Relationship between Tooth Loss and Mortality Risk. J Dent Res. 2023.01; 102(1); 45-52

56. Noriko Nakazawa, Taro Kusama, Kenji Takeuchi, Sakura Kiuchi, Tatsuo Yamamoto, Katsunori Kondo, Ken Osaka, Jun Aida. Co-Payments and Inequality in Gingival Bleeding and Dental Visits. Int Dent J. 2023.01; 73(5); 628-635

57. Tanemura Takashi, Zaitsu Takashi, Oshiro Akiko, Inoue Yuko, Kawaguchi Yoko, Aida Jun. Association of overtime work duration with oral health-related quality of life in Japanese workers JOURNAL OF ORAL SCIENCE. 2023.01; 65(1); 44-47

58. Rikuya Hosokawa, Toshiyuki Ojima, Tomoya Myojin, Jun Aida, Katsunori Kondo, Naoki Kondo. Association between the Standardized Mortality Ratio and Healthy Life Expectancy in Japan. JMA J. 2023.01; 6(1); 27-35

59. Jin Aoki, Takashi Zaitsu, Akiko Ohshiro, Jun Aida. Association of Stressful Life Events with Oral Health Among Japanese Workers. J Epidemiol. 2023.01;

60. A Yazawa, K Shiba, H Hikichi, S S Okuzono, J Aida, K Kondo, S Sasaki, I Kawachi. Post-Disaster Mental Health and Dietary Patterns among Older Survivors of an Earthquake and Tsunami. J Nutr Health Aging. 2023; 27(2); 124-133

61. Sayo Masuko, Takashi Zaitsu, Akiko Oshiro, Miho Ishimaru, Jun Aida. Association between place of dental check-ups and work absenteeism among Japanese workers. J Occup Health. 2023; 65(1); e12415

62. Association between the number of convenience stores and caries status in permanent teeth among elementary school children: results from the A-CHILD population-based longitudinal cohort study. 2023; 11; 1228197

63. Inoue Y, Cooray U, Ishimaru M, Saito K, Takeuchi K, Kondo K, Aida J. Oral self-care, pneumococcal vaccination, and pneumonia among Japanese older people, assessed with machine learning. The journals of gerontology. Series A, Biological sciences and medical sciences. 2023.07;

1. Soma Takahiko, Fukuda Shohei, Matsuyama Yusuke, Ikeda Riko, Inoue Masaharu, Waseda Yuma, Tanaka Hajime, Yoshida Soichiro, Yokoyama Minato, Matsuoka Yoh, Fujiwara Takeo, Kageyama Yukio, Fujii Yasuhisa. Peritoneal closure and the processus vaginalis transection method to prevent inguinal hernia after robot-assisted radical prostatectomy INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY. 2023.06; 30(6); 532-538

2. Mikami R, Mizutani K, Aoyama N, Matsuura T, Suda T, Takeda K, Saito N, Arakawa S, Izumi Y, Iwata T, Aida J. Income-related inequalities in the association of smoking with periodontitis: a cross-sectional analysis in Tokyo Metropolitan Districts Clinical Oral Investigations. 2023.02; 27(2); 519-528

3. 細川陸也, 友澤里穂, 尾島俊之, 明神大也, 相田潤, 近藤克則, 近藤尚己. 国民健康保険保険者努力支援制度の事業評価スコアと健康寿命との関連 厚生の指標. 2023; 70(11); 22-27

[書籍等出版物]

1. 相田潤. シンプル衛生公衆衛生学 2023 (分担執筆). 南江堂, 2023.03

2. 相田潤. 口腔保健・予防歯科学 (分担執筆). 2023.03

3. 日本疫学会. 疫学の事典. 朝倉書店, 2023.01 (ISBN : 9784254310979)

4. 相田潤. 疫学の辞典 (分担執筆). 朝倉書店, 2023.01

[総説]

1. Jun Aida, Miho Ishimaru, Shiho Kino. Reconsidering economic interventions to reduce oral health inequalities. Community Dent Oral Epidemiol. 2023.08; 51(4); 600-605

1. 丸岡三紗, 相田潤. αの視点でみえる　ホントの予防歯科 (その 12)　「最近急にむせやすくなって……」オーラルフレイルの 疑いのある患者さん!? エビデンス Behind 外出頻度が週一回未満の高齢者は咀嚼が困難になる 歯科衛生士. 2023.08; 47(8); 83-86

2. 相田潤. なぜ、今フッ化物応用が注目？ 歯磨剤やインプラント指導に役立つ最新知識 仙歯会報. 2023.08; 442(8); 4-7

3. 相田潤. いつまでも「みがけばいい」の指導をしていませんよね？ エビデンスとフッ化物 歯界展望. 2023.08; 142(2); 335-344

4. 財津崇. 宇宙や南極など特殊環境における歯や口の健康管理支援 へるすあっぷ２１　８月号. 2023.08; 28-29

5. 丸岡三紗, 相田潤. αの視点でみえる　ホントの予防歯科 (その 11)　「地域高齢者の通いの場で講話してください」と頼まれたら!? エビデンス Behind 通いの場は、介護予防やフレイル予防に役立つ 歯科衛生士. 2023.07; 47(7); 79-82

6. 相田潤. ニコな社会を目指して ニュースキーワードで知る地域社会 第５回 コロナ禍がもたらした影響 nico. 2023.05; 5; 56

7. 松山 祐輔, 相田 潤. ４学会合同フッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法の解説 DENTAL DIAMOND. 2023.04; 48(5); 148-152

8. 相田潤. ニコな社会を目指して ニュースキーワードで知る地域社会 第４回 健康格差 nico. 2023.04; 4; 56

9. 相田潤. ニコな社会を目指して ニュースキーワードで知る地域社会 第３回 ベーシックインカム nico. 2023.03; 3; 56

10. 相田潤. ニコな社会を目指して ニュースキーワードで知る地域社会 第２回 ソーシャルキャピタル nico. 2023.02; 2; 56

11. 相田潤. ニコな社会を目指して ニュースキーワードで知る地域社会 第 1 回 ヤングケアラー nico. 2023.01; 1; 56
12. 吉田美智子, 相田潤. ここが変わる!フッ化物配合歯磨剤の利用方法 デンタルハイジーン. 2023; 43(6); 587-589
13. 松山 祐輔, 相田 潤. 4 学会合同フッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法の解説 DENTAL DIAMOND. 2023; 48(5); 148-152
14. 相田潤. 健康格差への社会的サポートの基となるソーシャル · キャピタル 日本医師会雑誌. 2023; 151(10); 1774
15. 相田潤. 超高齢社会で口腔機能を今後どう考え, どう対応するか　口腔機能へ着目させた政策の意図とその問題点　歯科の「社会的評価」は向上したか? 日本歯科評論. 2023; 83(12); 22-27
16. 相田潤. 災害時にも大切なお口のケア さかえ. 2023; (12); 19
17. 相田潤. 歯科における健康格差縮小の重要性　社会的決定要因を考慮した対策を 保団連. 2023; (1408); 25-31

[講演 · 口頭発表等]

1. Wang K, Kino S, Matsuyama Y, Shiba K, Nakagomi A, Shirai K, Fueki K, Aida J. Association between oral condition and multidimensional flourishing: A cross-sectional study from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES). 第 88 回 口腔病学会学術大会 2023.12
2. 相田潤. Oral and cognitive function in the real world: evidence from the JAGES project. The 71st Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research 2023.11.25 Sendai
3. Suzuki A, Matsuyama Y, Tani Y, Anzai T, Izumi A, Doi S, Ogawa T, Fujiwara T, Moriyama K. Association between short stature in first grade and permanent teeth caries in sixth grade among elementary school children in Japan: a population-based cohort study. 2023.11.25
4. 相田潤. PDCA を PdCa にせず、pDcA ですすめる健康日本 21（第三次）. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 2023.11.02 筑波
5. 木野志保、相田潤. 社会ネットワークの多様性と死亡との関連：前向きコ ホートを用いた 9 年間の縦断研究. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 2023.11.02
6. 島田怜実、松山祐輔、木野志保、木内桜、近藤克則、 相田潤. 所得と認知症の関連における喫煙の媒介効果 JAGES 2010-2019 縦断研究. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 2023.11.02
7. 財津崇、井上祐子、相田潤. 労働者の口腔保健状況と EQ-5D との関連について. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 2023.11.02
8. 島田怜実, 松山祐輔, 木野志保, 木内桜, 近藤克則, 相田潤. 所得と認知症の関連における喫煙の媒介効果 JAGES 2010-2019 縦断研究. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 2023.11.02
9. Keiko Ueno, Daisuke Nishioka, Shiho Kino, Naoki Kondo. Identifying segments of support for children in households on public assistance: An explanatory sequential mixed methods research design. 5th Regional Mixed Methods Conference 2023.09
10. Takashi Zaitsu. Oral Health Promotion in Space and Antarctic Environment. Stovit Summer Course 2023 2023.08.08 Airlangga University
11. 相田潤. Oral health, general health, and social relations. International Social Capital Conference 2023.06.30 Spain

1. 相田潤. 他職種連携による健康格差縮小の社会環境の創造アプローチ：う蝕予防を例に. 川崎市歯科医師会　フッ化物応用に関する講演会 2023.12.21 川崎
2. 相田潤. 口腔の健康と社会参加と全身の健康. 第 30 回日本未病学会学術総会 2023.12.16
3. 相田潤. なぜ今、子どものむし歯予防が必要なのか？ この 10 年で新しく分かった最新情報. 愛媛県　令和５年度歯科口腔保健担当者研修会 2023.12.14 オンライン
4. 相田潤. 健康の観点から注目されるベーシックインカム：ベーシックインカムと健康（第 2 報）. 日本ベーシックインカム学会 第 6 回年次大会 2023.12.10 大阪 · オンライン

5. 相田潤. フッ化物における最新情報. 東京都特別区 令和 5 年度専門研修　歯科保健 2023.12.04 東京
6. 相田潤. オーラルヘルスプロモーション: ヘルスプロモーションと口腔疾患の重要性. 静岡社会健康医学大学院大学講義 2023.11.18
7. 相田潤. 令和の健口戦略、フッ化物応用のアップデートを！ ～フッ化物洗口マニュアル 2022 年度版の解説とともに～. 愛知県 令和 5 年度 子どもの歯と口の健康格差対策研修会 2023.11.16
8. 相田潤. データから見る健康格差と口腔保健. 東京歯科大学同窓会 医療教養フォーラム 2023.11.12
9. 石丸美穂、黒田直明、大野幸子、佐藤美寿々、 小宮山潤、相田潤、田宮菜奈子. 地域歯科検診事業が成人住民の歯科利用促進に与える効 果の検証: 差分の差解析. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 2023.11.02
10. 増子紗代、木野志保、近藤克則、相田潤. 今趣味が無くても、趣味を持てば死亡率が減少するか： JAGES 前向きコホート研究. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 2023.11.02
11. 相田潤. 明日からできる！ 歯科系データサイエンス論文のアクセプトのコツ. 歯学部データサイエンス研究会 2023.10.30
12. 相田潤. データに基づき、予防歯科を考える. 岡山大学歯学部　4 年生 予防歯科学 2023.10.25
13. 相田潤. 歯科医学統計. MID-G 論文執筆コース 2023.10.21 東京
14. 相田潤. 日常臨床に疫学の視点を：日本、世界の口腔疾患を俯瞰する. OralStudio Meeting 2023 2023.10.14 札幌
15. 相田潤. データと論文からみる歯科口腔のユニバーサルヘルスカバレッジ. 深井保健科学研究所 第 22 回コロキウム 2023.10.09 東京
16. 相田潤. 世界で最も多い病気！？ 健康格差と、日本でも注目される歯科疾患の重要性. 第 33 回 石川県小児保健学会 2023.10.07 金沢
17. 相田潤. SDH（健康の社会的決定要因）から考える地域住民のヘルスプロモーション. 令和 5 年度国保直診口腔保健研修会 2023.10.05 福井
18. 相田潤. 行動や健康を決める意外なファクター ～健康の社会的決定要因と社会的処方～. 第 9 回日本国際歯科大会 2023 2023.10.01 横浜
19. 相田潤. データからみる、国際的に注目される歯科疾患の重要性と公衆衛生対策. 令和 5 年度 第 1 回成人歯科保健推進研修会 2023.09.28 埼玉
20. 相田潤. 知っておきたいデータから見る近年注目の歯科疾患の重要性. 令和 5 年度 福井県歯科医師会 学術講演会 2023.09.03 福井
21. 木野志保. 歯科衛生研究の進め方. 日本歯科衛生学会第 1 8 回学術大会 2023.09
22. 相田潤. 今あらためて注目される歯科口腔疾患. 歯科衛生士専任教員講習会Ⅲ 2023.08.29 東京
23. 相田潤. 歯科疾患の健康格差. 2022 年　公衆衛生セミナー　日本における健康の社会決定要因 2023.08.05 オンライン
24. 相田潤. 世界で最も多い病気！？ 再注目される歯科疾患の重要性. 第 7 4 回関東甲信越静学校保健大会歯科職域部会 2023.08.03 埼玉
25. 相田潤. 成人で最も医療費がかかる疾患とは？：注目される口腔疾患の負担. 令和 5 年度秋田県健康づくり県民運動推進協議会総会 2023.08.01 秋田
26. 鈴木 拓望, 細道 純, 宮坂 尚幸, 宮崎 泰成, 滝 敦子, 財津 崇, 毛呂 愛香, 森丘 千夏子, 佐藤 憲子, 小野 卓史. 日本人妊婦の閉塞性睡眠時無呼吸症の病態と出生児への影響について. 日本女性栄養・代謝学会誌 2023.08.01
27. 相田潤. 厳しい社会状況と子どもたちの健康：口腔の健康から考える. フッ化物応用研修会 2023.07.27 三重
28. 相田潤. 健康の観点から注目されるベーシックインカム. 日本ベーシックインカム学会北海道地区第 2 回研究会 2023.07.22 オンライン
29. 相田潤. インプラント患者さんにしてはいけない指導をしていませんか—疫学データを見直すー. 2023 年度歯科研究会 2023.06.18 オンライン

30. 相田潤. なぜ、今フッ化物応用が注目？ 歯磨剤やインプラント指導に役立つ最新知識. 仙台市歯科医師会学術講演会 2023.06.10 オンライン

31. 相田潤. 心地よい口腔環境の大切さ：口腔の健康の全身の健康への意外な影響とは. 歯科保健講演会 2023.06.03 佐賀

32. 深谷　あゆ香, 財津　崇, 有冨　理左, 足達　淑子, 相田　潤. 口臭症国際分類と口臭診療前後での不安の変化について. 第 72 回日本口腔衛生学会学術大会 2023.05.20 大阪国際交流センター

33. 中野 夢実, 財津 崇, 相田 潤, 米満 郁男, 小野 卓史. 口臭測定結果の告知による矯正歯科治療患者におけるブラッシングモチベーションの変化. 口腔衛生学会雑誌 2023.05.20

34. 財津 崇, 永井 雅人, 有冨 理左, 大城 暁子, 相田 潤. 機械学習による舌写真を用いた口臭判定モデルの開発. 口腔衛生学会雑誌 2023.05.20

35. 高瀬 雅大, 山田 毅, 財津 崇, 海老沢 政人. 砕氷艦「しらせ」における南極地域観測隊に対する新たな歯科支援. 口腔衛生学会雑誌 2023.05.20

36. 相田 潤. アップデート!フッ化物応用. 口腔衛生学会総会 2023.05.20 大阪

37. 持田 悠貴, 山本 龍生, 入江 浩一郎, 渕田 慎也, Altanbagana Nandin Uchral, 相田 潤, 竹内 研時, 藤田 美枝子, 近藤 克則. オーラルフレイルの地域差と地域差に関連する要因　横断研究. 口腔衛生学会総会 2023.05.20 大阪

38. 中野 夢実, 財津 崇, 相田 潤, 米満 郁男, 小野 卓史. 口臭測定結果の告知による矯正歯科治療患者におけるブラッシングモチベーションの変化. 口腔衛生学会総会 2023.05.20 大阪

39. 佐藤 美寿々, 石丸 美穂, 木野 志保, 松山 祐輔, 相田 潤. 東日本大震災被災者における震災後の外出頻度低下とオーラルフレイルに繋がる口腔機能低下との関連. 口腔衛生学会総会 2023.05.20 大阪

40. 財津 崇, 永井 雅人, 有冨 理左, 大城 暁子, 相田 潤. 機械学習による舌写真を用いた口臭判定モデルの開発. 口腔衛生学会総会 2023.05.20 大阪

41. 木内 桜, 竹内 研時, 草間 太郎, 中澤 典子, 相田 潤, 小坂 健, 近藤 克則, 斉藤 雅茂. 歯科受診の有無と 8 年間の累積介護費用との関連　JAGES コホート研究. 口腔衛生学会総会 2023.05.20 大阪

42. 相田 潤. 歯科口腔保健医療のエビデンスと政策を考える　公衆衛生に結びつく歯科口腔保健のエビデンスを再考する. 口腔衛生学会総会 2023.05.20 大阪

43. 島田 怜実, 松山 祐輔, 相田 潤. 認知症の健康格差を残存歯数は媒介するか. 口腔衛生学会総会 2023.05.20 大阪

44. 伊藤 奏, 相田 潤. 高齢者における新型タバコと全身疾患との関連について. 口腔衛生学会総会 2023.05.20 大阪

45. 木野志保. 口腔健康格差の是正を目指す政策の検討. 第 72 回日本口腔衛生学会学術大会 2023.05.20

46. 相田潤. データからみる乳幼児期の歯科保健～乳幼児健診の場におけるう蝕予防対策について～. 令和 5 年度　乳幼児歯科健康診査従事者研修会 2023.05.19 東京

47. 相田潤. 意外に知られていない、歯科疾患の職域での大きな負担をデータから見る. 第 96 回日本産業衛生学会 2023.05.11 宇都宮

48. 財津崇. 南極 · 宇宙等の特殊環境における口腔保健. 2023.05.11 栃木県宇都宮市ライトキューブ宇都宮

49. 佐藤美寿々, 石丸美穂, 木野志保, 松山祐輔, 相田潤. 東日本大震災被災者における震災後の外出頻度低下 とオーラルフレイルに繋がる口腔機能低下との関連. 第 72 回日本口腔衛生学会学術大会 2023.05

50. 松山祐輔. 歯科口腔保健医療のエビデンスと政策を考える　観察研究による因果推論と公衆衛生施策のエビデンス. 第 72 回日本口腔衛生学会学術大会 2023.05

51. 松山祐輔. 地域のウェルビーイングと行政歯科　健康の社会的決定要因とウェルビーイング. 第 72 回日本口腔衛生学会学術大会 2023.05

52. 島田怜実, 松山祐輔, 相田潤. 認知症の健康格差を残存歯数は媒介するか. 第 72 回日本口腔衛生学会学術大会 2023.05

53. 相田潤. 第 74 回 WHO 総会の歴史的な口腔保健の決議の日本での意義とは？ . 第 31 回日本医学会総会 2023.04.22 東京

54. 相田潤. 口腔の健康と全身の健康：国際的な疫学研究と因果推論. ヘルスケア · スプリングセミナー 2023 2023.03.12 東京

55. 相田潤. 社会につながる口腔の健康：口腔と全身の健康とその先へ . 第 9 回東海口腔ケアフォーラム 2023.03.12 オンライン

56. 梅森 幸, 石丸 美穂, 内村 祐之, 礪波 健一, 則武 加奈子, 須永 昌代, 木下 淳博, 島田 康史, 新田 浩, 相田 潤. Data Ware house システムを用いたコンポジットレジン修復の予後に影響する要因の分析. 口腔病学会雑誌 2023.03.01

57. 相田潤. 今見直す、根拠に基づいた医療（EBM）とフッ化物応用. 第 3 回 HaBon 特別オンラインセミナー 2023.02.23 東京、オンライン

58. 相田潤. ヘルスプロモーションとしてう蝕の健康格差の縮小を考える. 令和 4 年度自主運営業務研究会 2023.02.21 東京

59. 相田潤. フッ化物を応用したむし歯予防. 熊本市地域歯科保健研修会 2023.02.16 オンライン

60. 相田潤. 社歯サー：口腔の健康とソーシャルキャピタル. ワンディー株式会社　社歯サー 2023.02.13 東京、オンライン

61. 相田潤. ソーシャルキャピタルと口腔の健康の役割：高齢者疫学研究より. 第 24 回日本口腔ケア協会学術大会並びに日本口腔ケア学会春季大会 2023.02.11 東京

62. 相田潤. データから見る近年の歯科の重要性や定期受診、チタン製歯科材料への指導まで. 上越歯科医師会　地域保健研修会 2023.02.02 オンライン

63. 相田 潤, 井上 裕子, 田淵 貴大, 近藤 尚己. NDB データを用いた脳卒中、心疾患、高血圧の健康格差とその媒介要因の検討. 日本疫学会総会 2023.02.01

64. 石丸 美穂, 大野 幸子, 岩上 将夫, 宮本 佳尚, 三上 理沙子, 相田 潤. 人工透析患者と健常者 · 慢性腎臓病患者を比較した抜歯後の局所 · 全身感染の発症. 日本疫学会総会 2023.02.01

65. 梅森 幸, 石丸 美穂, 内村 祐之, 礪波 健一, 則武 加奈子, 須永 昌代, 木下 淳博, 島田 康史, 新田 浩, 相田 潤. 歯のコンポジットレジン修復の予後に影響する要因. 日本疫学会総会 2023.02.01

66. 木野 志保, 玉田 雄大, 竹内 研時, 中込 敦士, 芝 孝一郎, 草間 太郎, 山本 貴文, 相田 潤. 高齢者における口腔の健康と健康状態 · ウェルビーイングとの関連：アウトカムワイド縦断研究. 日本疫学会総会 2023.02.01

67. 荒川 裕貴, 井上 浩輔, 長谷田 真帆, 西岡 大輔, 木野 志保, 西 大輔, 近藤 尚己. オンライン健康医療相談による産後うつ予防の長期効果および孤独感低下による媒介効果. 第 33 回日本疫学会学術集会 2023.02

68. 相田潤. 歯科疾患の重要性および健康格差と対策. 令和 4 年度 8020 県民運動推進特別事業研修会 2023.01.29 群馬

69. 相田潤. 私たちの健康は自分の意思だけで決められない：健康の社会的決定要因とは. 東工大未来社会 DESIGN 機構　Dialog Days 2023.01.28 東京

70. 相田潤. 国民皆歯科健診は歯科界に何をもたらす？ 公衆衛生と歯科医院経営の視点から. 第 7 回　Greater Nagoya Dental Meeting 2023.01.22 愛知

71. 相田潤. 近年の歯科の重要性から定期受診や歯科衛生士の確保までデータから考える. 愛知県支部学術講演会 2023.01.15 愛知

72. 相田潤. コロナ禍におけるむし歯の健康格差とフッ化物洗口. 長野県令和 4 年度フッ化物応用推進研修会 2023.01.13 長野

73. 梅森　幸，石丸美穂、内村祐之、礪波健一，則武加奈子，須永昌代，木下淳博，島田康史、新田　浩、相田　潤.. 歯のコンポジットレジン修復の予後に影響する要因. 第 33 回日本疫学会学術総会 2023.01 浜松

74. 松山祐輔. 観察研究からの因果推論 たばこ研究から学ぶ 繰り返し測定データ分析による、段階的なタバコ値上げの喫煙行動への影響. 第 33 回日本疫学会学術集会 2023.01

75. 増子紗代、松山祐輔、木野志保、近藤克則、相田潤. 今趣味が無くても、趣味を持てば死亡率が減少するか：JAGES 前向きコホート研究. 2023
76. 上野恵子、西岡大輔、木野志保、近藤尚己. 生活保護世帯の子どもの小集団（セグメント）の特定と効果的な支援策の検討：混合研究. 2023
77. 松岡洋子、木野志保、長谷田真帆、尾島俊之、花里真道、近藤克則、近藤尚己. 高齢者における震災直後の転居と精神的健康の推移：熊本地震前後の中長期追跡調査. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 2023
78. 木野志保、相田潤. 社会ネットワークの多様性と死亡との関連：前向きコホートを用いた 9 年間の縦断研究. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 2023
79. 木野志保. アウトカムワイド疫学：口腔の健康と全身の健康との関連を検証した実証研究. 第 82 回日本公衆衛生学会総会. 2023

[その他業績]

1. 「　日本の労働者における日常生活のストレスと口腔の健康の関係性　」 —　日常生活のストレスと口腔の健康の問題との間には、明確な用量反応的な関係が認められた　—, 2023 年 03 月
Journal of Epidemiology
2. 「日本の労働者における日常生活のストレスと口腔の健康の関係性」 —　日常生活のストレスと口腔の健康の問題との間には、明確な用量反応的な関係が認められた　—, 2023 年 03 月
Journal of Epidemiology
3. 「 水道水中の天然フッ化物濃度が 0.1 ppm 高いと子どものう蝕が 3 %少ない 」 —　日本の出生コホート研究で明らかに　—, 2023 年 05 月
Community Dentistry and Oral Epidemiology
4. 「 水道水中の天然フッ化物濃度が 0.1 ppm 高いと子どものう蝕が 3 %少ない 」 —　日本の出生コホート研究で明らかに　—, 2023 年 05 月
Community Dentistry and Oral Epidemiology
5. 「口腔の健康格差の縮小のために、経済的な介入の必要性を再考」 —　歯科公衆衛生の国際誌の 50 周年記念の健康格差特集号にナラティブレビューが採択　—, 2023 年 06 月
Community Dentistry and Oral Epidemiology
6. 虫歯の子ども　水道水のフッ化物濃度が高い地域ほど少なく, 2023 年 06 月
朝日新聞デジタル 6/29
7. 「　職場で歯科検診を受けた労働者は歯科受診による欠勤が少ない傾向　」 —　職場での歯科検診機会の提供の有用性を示唆　—, 2023 年 07 月
Journal of Occupational Health
8. 「　職場で歯科検診を受けた労働者は歯科受診による欠勤が少ない傾向　」 —　職場での歯科検診機会の提供の有用性を示唆　—, 2023 年 07 月
Journal of Occupational Health
9. 水道のフッ化物多 虫歯の子少, 2023 年 07 月
朝日新聞 7 月 18 日
10. 水道水中の天然フッ化物濃度が 0.1ppm 高いと, 子どものう蝕が 3% 少ない (東医歯大), 2023 年 08 月
日本歯科評論 8 月号
11. 「歯みがきが一部の高齢者の肺炎の発症を減少させる可能性」 —　機械学習を用いた高齢者の疫学データ解析　—, 2023 年 09 月
The Journals of Gerontology Series　A
12. 「歯みがきが一部の高齢者の肺炎の発症を減少させる可能性」 —　機械学習を用いた高齢者の疫学データ解析　—, 2023 年 09 月
The Journals of Gerontology Series　A
13. 「高齢生活保護受給者の歯科受診率は受給していない者よりも低い」 —　歯科受診には経済的要因以外の障壁か　—, 2023 年 09 月
Community Dentistry and Oral Epidemiology

14. 「高齢生活保護受給者の歯科受診率は受給していない者よりも低い」 ― 歯科受診には経済的要因以外の障壁か ―, 2023 年 09 月
Community Dentistry and Oral Epidemiology

15. 「口腔の健康と健康状態 · ウェルビーイングとの関連の網羅的な検証研究」 ― アウトカムワイド · アプローチを用いた縦断研究による解明―, 2023 年 09 月
Journal of Prosthodontic Research

16. 「口腔の健康と健康状態 · ウェルビーイングとの関連の網羅的な検証研究」 ― アウトカムワイド · アプローチを用いた縦断研究による解明―, 2023 年 09 月
Journal of Prosthodontic Research

17. 「震災被害は健康格差を拡大させなかった」 ― 社会的サポートが上手く機能したか ―, 2023 年 11 月
International Journal of Disaster Risk Reduction

[社会貢献活動]

1. 南極越冬医師歯科研修, 2015 年 04 月 01 日 - 現在
2. 宇宙飛行士定期歯科健康診査, 宇宙航空研究開発機構, 遊佐歯科口腔外科クリニック、茨城, 2015 年 04 月 01 日 - 現在
3. 南極遠隔歯科医療会議, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
4. 厚生労働省　医政局歯科保健課　歯科医療技術参与, 2018 年 04 月 01 日 - 現在
5. ４学会合同のフッ化物配合歯磨剤の推奨される利用法, TBS, THE TIME, 2023 年 01 月 25 日 - 2023 年 01 月 26 日
6. 歯みがきの新常識, ＮＨＫ, ニュース LIVE！ ゆう 5 時, 2023 年 01 月 29 日 - 2023 年 01 月 31 日
7. 口内環境の改善, 聖教新聞社, 聖教新聞本紙、電子版, 2023 年 01 月 31 日 - 2023 年 02 月 28 日
8. 働く世代の口臭予防対策, 株式会社法研, 月刊『へるすあっぷ 21』, 2023 年 03 月 17 日 - 2023 年 06 月 30 日
9. 特殊環境における口腔健康管理, 株式会社法研, 『へるすあっぷ 21』2023 年 8 月号, 2023 年 05 月 19 日 - 2023 年 08 月 01 日
10. 健康格差, 読売新聞社, 読売新聞夕刊, 2023 年 06 月 13 日 - 2023 年 06 月 24 日
11. 「 水道水中の天然フッ化物濃度が 0.1 ppm 高いと子どものう蝕が３％少ない 」について, 朝日新聞社, 朝日新聞／朝日新聞デジタル, 2023 年 06 月 20 日 - 現在
12. 「 水道水中の天然フッ化物濃度が 0.1 ppm 高いと子どものう蝕が３％少ない 」について, 朝日新聞社, 朝日新聞／朝日新聞デジタル, 2023 年 06 月 20 日 - 現在
13. 虫歯のこども　水道水のフッ化物の濃度が高い地域ほど 少ない結果に, TBS, N スタ, 2023 年 07 月 04 日
14. 虫歯のこども　水道水のフッ化物の濃度が高い地域ほど 少ない結果に, TBS, N スタ, 2023 年 07 月 04 日
15. 水道水で虫歯予防？ 天然のフッ化物濃度が好影響か, TBS, ひるおび,THE TIME,, 2023 年 07 月 05 日
16. 日本口腔衛生学会の「乳幼児期における親との食器共有について」, 読売新聞社, 読売新聞, 2023 年 09 月 07 日 - 2023 年 09 月 10 日
17. 歯磨きで肺炎予防, 株式会社メディカルトリビューン, 地方紙, 2023 年 09 月 21 日 - 2023 年 12 月 01 日
18. 歯磨きで肺炎予防, 株式会社メディカルトリビューン, 地方紙, 2023 年 09 月 21 日 - 2023 年 12 月 01 日
19. 乳幼児の口腔衛生, 講談社, 講談社コクリコ, 2023 年 10 月 10 日 - 2023 年 10 月 31 日
20. 親子の食器の共有と虫歯の関係について, 毎日放送, MBS NEWS, 2023 年 11 月 10 日 - 2023 年 11 月 13 日
21. 親子の食器共有について, 日本経済新聞, 日本経済新聞, 2023 年 12 月 19 日 - 2024 年 01 月 23 日

教育メディア開発学

Educational Media Development

教授　木下淳博
助教　須永昌代
大学院生　秋山恭子（～3 月）

(1)　研究活動

1）コンピュータシミュレーション教育システムの開発と活用に関する研究
本学では、特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP) 採択取組「医歯学シミュレーション教育システムの構築」、さらに大学教育 · 学生支援推進事業【テーマ A】大学教育推進プログラム採択取組 「コンピュータによる診療模擬実習の展開」の取組として、大学病院の豊富な臨床資料を活用し、臨床教育に関するコンピュータシミュレーション教材を独自に作成してきた。作成した教材を医学部医学科、医学部保健衛生学科、歯学部歯学科、歯学部口腔保健学科の学生等に活用し、その教育効果を評価 · 解析するとともに、全学的なシミュレーション教育システムを開発する。

2）医療系教育における e ラーニングシステムの活用に関する研究
本学では、現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）採択取組「ICT 活用教育と従来型臨床現場実習の連携」により、実際の臨床で行われる手技を講義室にいる学生に術者の視点から解説し、「治療の流れ」を同時進行で学ばせるシステムを開発してきた。このシステムにより、臨床現場と講義室を同時中継したライブ講義を行い、多くの学生に同じ症例を見学させ、学生同士に共通の症例について討論させることが可能となった。2021 年より、zoom を用いて、臨床現場-学生の自宅 PC でのライブ講義を実施している。
臨床現場における処置 · 手術、模型実習室でのデモ、講義室での講義、学生が行う模型実習 · 臨床実習手技等を映像自動収録装置によって日常的にもれなく収録、蓄積、評価できるように ICT 活用コンテンツを充実させ、それらのコンテンツをオンデマンド配信し、現行の教育との連携を図り、学年進行に合わせたフィードバック、自己評価、自己研鑽を推進できるようシステムの開発を行う。

3）医療系教育における教育メディアの開発と活用に関する研究
· 歯科実習用顎模型の研究 · 開発：様々な歯周ポケットを経験でき、ポケット底の触知、探査を含めた測定訓練ができる歯周ポケット測定訓練用顎模型を開発してきた。本模型が測定者の訓練に有効か否か、および測定者の正確度の評価や標準化に応用可能か否かを研究する。
· ヒト型患者ロボットの活用 · 評価方法の検討：歯学教育における患者への態度教育やコミュニケーション教育のために市販されているヒト型患者ロボット（シムロイド）を実習や研修に用いて、その有効な活用方法と学習効果の評価方法を検討する。

4）口腔内写真から歯式および状態を判別する解析ソフトウェアの開発
企業との共同研究で、口腔内写真から歯式を識別し、う蝕 · インプラントなどの状態を判別する深層学習モデルを開発し、その有効性を検証する。

(2)　教育活動

コンピュータシミュレーション教育システム、e ラーニングシステム、通信講義システム等、情報通信技術を活用した新しい教育システムおよび教育メディアの特徴を理解させ、関連する教育メディアを独自に作成する方法を修得させるとともに、それらを医療系大学の卒前、卒後教育や、職種間連携に必要な教育に応用する方法を修

得させる。
歯学部歯学科 1 年次、口腔保健学科 1 年次では、コンピュータによるメディア情報処理、コンテンツ作成の基礎を修得させ、インターネットとコンピュータを利用した学習、および研究活動に必要な情報検索の方法を修得させる。また、各種データベースの利用の仕方を修得させることを目標とする。
歯学部歯学科 4 年次では、医療現場を体験させることにより、将来の歯科医師としての自覚を高めさせ、歯科臨床に必要な基本的態度と知識を身につけることを目標とする。ユニット「コンピュータシミュレーション実習」では、コンピュータを用いて歯科臨床のシミュレーションを行わせることにより、歯科臨床の知識、技能を自己学習する能力を身につけることを目標とする。ユニット「D6 体験実習」では、歯科における治療計画立案の重要性を理解させ、症例分析能力 · 治療計画立案能力を修得させる。包括臨床実習現場において、実際の患者さんに医療面接を行わせ、将来の歯科医師としての自覚を高めさせ、医療面接に必要な基本的態度と知識を身につけることを目標とする。
全学科 · 専攻の学生を対象とした「医療と AI· ビッグデータ入門」および「医療と AI· ビッグデータ応用」の科目では、学生にデータサイエンスの基礎理解を身につけさせることを目的としている。これらの科目では、講義形式で最先端の研究事例を教え、Python を用いたプログラミング演習や各種データを使った機械学習の演習を行う。

担当科目：
教育メディア開発学特論、教育メディア開発学演習、教育メディア開発学研究実習、Essential Expertise for Clinical Dentistry (EECD)、環境社会医歯学、初期研究研修、臨床統計 I、基礎情報医歯学、メディア情報学基礎、臨床予備実習、臨床体験実習、医療と AI· ビッグデータ入門、医療と AI· ビッグデータ応用

(3) 研究業績

[原著]

1. Kyoko Akiyama, Masayo Sunaga, Ridan Cao, Megumi Arai, Atsuhiro Kinoshita. Development, application, and evaluation of interactive simulation materials for learning the dental hygiene process of care Journal of Medical and Dental Sciences. 2023.03; 70(0); 1-9

[書籍等出版物]

1. 木下淳博. SRP まるわかり BOOK. クインテッセンス出版株式会社, 2023.06 (ISBN : 978-4-7812-0945-6)
2. 木下淳博. ザ · ペリオドントロジー 第 4 版. 永末書店, 2023.02 (ISBN : 978-4-8160-1421-5)

[講演 · 口頭発表等]

1. 礪波健一，梅森　幸，則武加奈子，秀島雅之，海老原　新，曹　日丹，須永昌代，木下淳博，新田　浩. 保険算定トレーニングアプリ　ゲーミフィケーションの応用. 第 88 回口腔病学会学術大会，プログラム · 抄録集，p33，2023 年 12 月 1-2 日 2023.12.02 東京医科歯科大学（東京都文京区），ハイブリッド開催
2. 関口絢子，曹日　丹，礪波健一，梅森　幸，則武加奈子，須永昌代，木下淳博，新田　浩. スマートグラスを用いた遠隔歯科臨床指導の教育効果　—概形印象採得—. 第 88 回口腔病学会学術大会，プログラム · 抄録集，p33，2023 年 12 月 1-2 日 2023.12.02 東京医科歯科大学（東京都文京区），ハイブリッド開催
3. 木下淳博，須永昌代，足達淑子，鈴木　瞳，戸田花奈子，曹　日丹. 歯科衛生士が担う歯周基本治療の最前線—院長も納得！「SRP の要点と限界」—. 東京医科歯科大学歯科同窓会学術部コンティニュイング · デンタル · エデュケーション第 61 期 Part Ⅰ 2023.11.23 東京医科歯科大学（東京都文京区）
4. 木下淳博. 歯周治療における歯科衛生士の業務範囲とその判断基準. 東京医科歯科大学同窓会 長野県支部講演会 2023.09.02 モンターニュホテル松本（長野県松本市）
5. 木下淳博. 歯科衛生士の力で変わる歯周治療：歯科診療の補助と SRP. WHITE CROSS　歯科セミナー 2023.08.02 Web セミナー（2023.8.3 〜2023.9.3 公開）
6. 沼沢益行，須永昌代，中川美奈，中林　潤，木下淳博. 教学 IR における統計解析を支援する、Excel 上の簡便な操作で R と連動するツールの開発. 第 55 回日本医学教育学会大会，医学教育第 54 巻 · 補冊 p220，2023 年 7 月 29-29 日 2023.07.29 出島メッセ長崎（長崎県長崎市）
7. 礪波健一，梅森　幸，則武加奈子，秀島雅之，海老原　新，曹　日丹，須永昌代，木下淳博，新田　浩. 歯科保険請求教育方略の検討　-自学自習アプリに対する学生評価-. 第 42 回日本歯科医学教育学会，プログラム · 抄録集 p53，2023 年 7 月 15-31 日 2023.07.15 Web 開催

8. 関口絢子，曹日　丹，礪波健一，梅森　幸，則武加奈子，須永昌代，木下淳博，新田　浩. 歯科臨床教育に利用可能なスマートグラスの要件. 第 42 回日本歯科医学教育学会，プログラム · 抄録集 p622023 年 7 月 15-31 日 2023.07.15 Web 開催

9. 木下淳博. ニーズに応える TBI. WHITE CROSS　歯科セミナー 2023.07.05 Web セミナー（2023.7.6 〜 2023.9.3 公開）

10. 木下淳博，須永昌代，足達淑子，伊藤　奏，曹　日丹，日高玲奈. 歯科衛生士が担う歯周基本治療の最前線—院長も納得！「SRP の要点と限界」—. 東京医科歯科大学歯科同窓会学術部コンティニュイング · デンタル · エデュケーション第 60 期 Part Ⅱ 2023.06.25 東京医科歯科大学（東京都文京区）

11. 宮田和樹，水谷幸嗣，大杉勇人，三上理沙子，川勝紀子，白方良典，土岡弘明，小田 茂，木下淳博，岩田隆紀，青木 章. ビーグル犬における Er:YAG レーザー照射歯根面に対する歯周組織付着の組織学的解析. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会，日本歯周病学会会誌 65（春季特別号）p125，2023 年 5 月 26-27 日 2023.05.26 レクザムホール（香川県高松市）

12. 梅森　幸，石丸美穂，内村祐之，礪波健一，則武加奈子，須永昌代，木下淳博，島田康史，新田　浩，相田　潤. 歯のコンポジットレジン修復の予後に影響する要因. 第 33 回日本疫学会学術総会，Vol.33, Supp，p116，2023 年 2 月 1-3 日 2023.02.03 アクトシティ浜松（静岡県浜松市）

[その他業績]

1. 木下淳博，角　勇樹（座長）：第 55 回日本医学教育学会大会, 2023 年 07 月
医療系学部における AI 教育「python で実践：医療と AI· ビッグデータ入門」. 第 55 回日本医学教育学会大会，医学教育第 54 巻 · 補冊 p127，2023 年 7 月 29-29 日，7 月 29 日，ワークショップ，出島メッセ長崎（長崎県長崎市）

2. 須永昌代，木下淳博（座長）：教育システム情報学会第 48 回全国大会　企画セッション, 2023 年 08 月
近未来の医療者教育

3. 木下淳博（座長）：第 9 回日本国際歯科大会 2023【併催】World Young Dental Innovators’ Meeting 2023, 2023 年 09 月
基礎を固めるインスツルメンテーション．2023 年 9 月 29 日〜10 月 1 日，9 月 30 日，パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

[社会貢献活動]

1. 厚生労働省受託事業「歯科衛生士に対する復職支援 · 離職防止等推進事業」, 厚生労働省／東京医科歯科大学歯学部附属病院, 厚生労働省受託事業「歯科衛生士に対する復職支援 · 離職防止等推進事業」, 東京医科歯科大学歯学部附属病院, 2017 年 10 月 01 日 - 現在

2. 「SRP まるわかり BOOK」紹介動画出演, クインテッセンス出版株式会社, クイントハウス, 2023 年 06 月 27 日

国際保健医療事業開発学分野

Department of Global Health Entrepreneurship

教授　　中村　桂子
講師　　清野　薫子
特任助教　　Alemi Sharifullah
技術補佐員　　田代　百合,　Saber Al-Sobaihi,

大学院学生
赤星　昴己，宮下　彩乃, 櫻本　恭司,
里　英子, Anderson Bendera, Kamila Dost,
Eugene Meshi, Zia-ul-haq Safi,
Minh Tri Tran Xuan, Thao Vi,
Iftikhar Halimzai, Angelica Latorre, Ana Kriselda Rivera
Prangkhwan Jiaranaisilawong,

(1) 分野概要

本分野は、人々の健康水準に影響をもたらす様々な要因の系統的な分析をとおして、世界各地の公衆衛生の向上をはかる手段を提案する研究を行い、保健医療分野における国際貢献を担う人材を育成するための教育研究を目指している。特に、開発途上国の保健医療水準の向上に寄与する総合的統合的な研究の推進、国際的指導力を発揮できる研究者の育成、国際保健医療を体系的に理解し研究開発と実践を融合できる国際保健医療専門家の育成に重点をおいている。

(2) 研究活動

人口と疾病の構造の変化、地球環境条件の変化と、国境を越えた社会経済活動の拡大とにより、保健医療の国際的な展開が加速されている。本分野では、医薬品や医療技術、医療システム、人材育成にかかわる国際保健のフィールド研究、保健医療プロジェクト実施している。人々の健康水準に影響をもたらす様々な要因の系統的な分析を通じて、世界各地の保健医療と健康水準の向上に資することを目的とした研究を行っている。

現在取り組んでいる主たる研究テーマは、
（1）地球環境、生態系の変容とその健康影響評価
（2）社会文化的健康決定要因の作用機序の解明
（3）健康開発地域プログムをふまえた社会事業開発
（4）情報通信技術を活用した保健医療福祉プログラムの開発とその評価
（5）保健医療人材の国際的流動性と保健医療サービスの国際化
（6）長寿社会におけるユニバーサルヘルスカバレッジ
である。

(3) 教育活動

博士課程の教育プログラムは、個々の大学院生の関心、個性や経験に応じて研究テーマを選び、効果的に目標が達成できるよう個別プログラムをたてている。国際的な保健医療課題の多くが開発途上国に存在することをふまえて、国際機関とも協力し、研修プログラム、実習、国際共同研究への参加の機会を用意している。「疾患予防グローバルリーダー養成プログラム」を通じて、医療の国際化のプロジェクトを推進する人材を育成している。授業は、外国人留学生と環境社会医歯学系の博士課程大学院生が同時に参加し、英語により講義、演習、研究指導を行なっている。各国の公的機関やＷＨＯとの連携をはかり、国際的な視野で能力を発揮できる人材の養成をめざしている。

医科学修士課程の教育プログラムは、国際保健医療協力の研究と実践に必要な基礎的技能と、国際保健医療協力における総合的な判断力の養成をめざしている。

卒前教育では、研究実践プログラム、ならびにプロジェクトセメスターの学生を受け入れている。国際社会における保健医療、様々な国や地域における健康に関わる諸課題とその解決、保健医療分野における国際交流、援助についての知識、技術、態度を獲得し、国際社会の中で自らの行う医療を理解できる医師の輩出をめざし、指導を行っている。

(4) 教育方針

国内外の疾病および健康課題をふまえ、保健医療サービスの国際化に関わる研究開発、国際協力、社会事 業及び医療の国際展開プロジェクトを担う人材を育成する。

（1）パブリックヘルスおよび疾患予防の専門的知識
（2）国際保健医療課題の分析能力
（3）フィールド研究の立案、計画、実施能力
（4）保健医療事業を国際的に展開する企画運営技能
を身につけ、研究活動ならびに実践を通じて、人々の健康の維持および向上に貢献できる広い視野とすぐれたコミュニケーション能力を有する人材の養成を目指す。

(5) 研究業績

[原著]

1. Tran XMT, Nakamura K, Al-Sobaihi S, Seino K. Parental engagement in caregiving activities and its association with socioeconomic and child-rearing environment at home in Vietnam. Early Child Development and Care. 2023.12;

2. Hemat S, Almei S, Ahmady S, Nakamura K. Increase in institutional delivery and child immunisation coverage through an appreciative inquiry-based community dialogue intervention in Afghanistan. Public Health in Practice. 2023.10; 6; 100436

3. Vo MTH, Nakamura K, Seino K, Moncatar TRT, Han TDT, Siongco KLL, Tashiro Y, Vo TV. Can collaboration among health and social care workers play a role in addressing geriatric care challenges? A qualitative case study in Central Vietnam International Health. 2023.09;

4. Sato F, Nakamura K. Exploration of the relationships between men’s healthy life expectancy in Japan and regional variables by integrating statistical learning methods Int. J. Environ. Res. Public Health . 2023.09; 20(18); 6782

5. Latorre AAE, Nakamura K, Seino K, Hasegawa T.. Vector autoregression for forecasting the number of COVID-19 cases and analyzing behavioral indicators in the Philippines: an ecologic time-trend study, JMIR Form Res . 2023.06; 7; e46357

6. Akahoshi K, NakamuraI K, Kondo H, Wakai A, Koido Y. Containment of COVID-19 outbreaks with lower incidence and case fatality rates in long-term care facilities by early intervention of emergency response teams. Plos ONE. 2023.06; 18(6); e0287675

7. Latorre AAE, Nakamura K, Seino K, Hasegawa T. Vector Autoregression for Forecasting the Number of COVID-19 Cases and Analyzing Behavioral Indicators in the Philippines: Ecologic Time-Trend Study. JMIR formative research. 2023.06; 7; e46357

8. Sato H, Nakamura K, Kibusi S, Seino K, Maro II, Tashiro Y, Bintabara D, Shayo FK, Miyashita A, Ohnishi M. Patient trust and positive attitudes maximize non-communicable diseases management in rural Tanzania. Health promotion international. 2023.04; 38(2);

9. Rivera AKB, Latorre AAE, Nakamura K, Seino K.. Using complete blood count parameters in the diagnosis of iron deficiency and iron deficiency anemia in Filipino women. Journal of Rural Medicine. 2023.04; 18(2); 79-86

10. Rivera AKB, Latorre AAE, Nakamura K, Seino K. Using complete blood count parameters in the diagnosis of iron deficiency and iron deficiency anemia in Filipino women. Journal of rural medicine : JRM. 2023.04; 18(2); 79-86

11. Rivera Ana Kriselda B., Latorre Angelica Anne E., Nakamura Keiko, Seino Kaoruko. フィリピン人女性での鉄欠乏症および鉄欠乏性貧血の診断における全血球計算測定値の使用 (Using complete blood count parameters in the diagnosis of iron deficiency and iron deficiency anemia in Filipino women) Journal of Rural Medicine. 2023.04; 18(2); 79-86

12. Sato H, Nakamura K, Kibusi S, Seino K, Maro II, Tashiro Y, Bintabara D, Shayo FK, Miyashita A, Ohnishi M.. Patient trust and positive attitudes maximize noncommunicable diseases management in rural Tanzania. Health Promotion International. 2023.03; 38(2); daad007

13. Alemi S, Nakamura K, Arab AS, Mashal MO, Tashiro Y, Seino K, Hemat S.. Prevalence, determinants, and association of overweight/obesity with non-communicable disease-related biomedical indicators: a cross-sectional study in schoolteachers in Kabul, Afghanistan. PLOS Glob Public Health. 2023.03; 3(3); e0001676

14. Sharifullah Alemi,Keiko Nakamura, Ahmad Shekib Arab,Mohammad Omar Mashal,Yuri Tashiro,Kaoruko Seino,Shafiqullah Hemat. Prevalence, determinants, and association of overweight/obesity with non-communicable disease-related biomedical indicators: A cross-sectional study in schoolteachers in Kabul, Afghanistan PLOS Global Public Health. 2023.03;

15. Alemi S, Nakamura K, Arab AS, Mashal MO, Tashiro Y, Seino K, Hemat S. Prevalence, determinants, and association of overweight/obesity with non-communicable disease-related biomedical indicators: A cross-sectional study in schoolteachers in Kabul, Afghanistan. PLOS global public health. 2023; 3(3); e0001676

1. 佐藤文哉，中村桂子，赤星昴己. 価値に基づく都市住民の健康水準の多元的評価と統合手法の検討 計画行政. 2023.05; 46(2); 54-61

[総説]

1. Vo MTH, Thonglor R, Moncatar TR, Han TDT, Tejativaddhana P, Nakamura K. Fear of falling and associated factors among older adults in Southeast Asia: a systematic review. Public Health. 2023.08; 222; 215-228

[講演・口頭発表等]

1. Nakamura K. Healthy Cities around the world. WHO European Healthy Cities Annual Conference 2023 2023.11.22 Utrecht, Netherlands

2. Nakamura K. The Alliance for Healthy Cities: agenda for the future: Sustainable Health City: Health in all Policy.. WORLD HEALTH CITY FORUM 2023.11.20 Incheon, Republic of Korea

3. Nakamura K.. Healthy Cities in Blue and Green Zones.. Building Healthy Cities Together: Study Tour For Healthy Cities Mayors of EURO to WPRO 2023.11.08 Tokyo

4. Nakamura K.. Community mHealth Integrated Care (ComHIC) to manage hypertension/diabetes in Tanzania’s overburdened health system.. ComHIC Third Stakeholders Meeting 2023.10.23 Dodoma, Tanzania

5. 中村桂子、赤星昴己、佐藤文哉. 持続可能な健康都市の展開のための指標の活用に関する研究：総合指標の開発. 2023 年健康都市連合日本支部総会 2023.07.15

6. Nakamura K. Promoting the Health of Urban Popluations: Healthy Cities. Young Leaders Program Special Lecture, Nagoya University 2023.06.12
7. Nakamura K. Global efforts in planetary health education for transdisciplinary research. The University Panel Symposium on Planetary Health for the G7 Hiroshima Summit 2023.04.21 HIroshima

1. 中村桂子. 健康都市パネルトーク. かめやま健康都市大学創設記念イベント 2023.10.07
2. 中村桂子. WHO 健康都市：市民の快適で心地よく健康なくらしを支えるまちづくり　世界の潮流は地域から”. 亀山市職員研修 2023.10.06
3. 中村桂子. 持続可能な開発目標 (SDGs) とグローバル · ヘルス. 第 31 回日本医学会総会 2023.04.23

[受賞]

1. Adjunct Professor, Mahidol University ASEAN Institute for Health Development, 2023 年 01 月

[社会貢献活動]

1. 東京公衆衛生支援, 2020 年 04 月 01 日 - 現在

老化制御学講座

高齢者歯科学

Gerodontology and Oral Rehabilitation

教授
水口　俊介

准教授
猪越　正直

講師
駒ヶ嶺　友梨子

助教
本村　一朗，濵　洋平，鈴木　啓之，添田　ひとみ，副田　弓夏，大沼　啓

医員
上田　圭織，清水　健登，山口　皓平，秋山　洋，上田　圭織，岡田　光純
柏﨑　健汰，深瀬　円香，早川　和花子，

大学院生
片田　治子，柳原　有依子，NAMANO SAHAPROM，KHIN PYAE SONE，
QI KEYU，XU KAIQI，二ッ谷　龍大，菊田　美穂，角南　明歩，関本　愉，
張　君瑋，WU SHANGLIN，OKKAR KYAW，REN ZIANGYU，岩瀬　りさ，
松崎　真友子，向井　マリコ，BA HTOO CHIT，NGUYEN THI KHANH AN，
WANG BOHUA，ZHOU WENMING，AUNG SOE MYINT，LWIN PHYO AUNG，TANG BOHAN，

大学院研究生
國澤　輝子，WU DI，千原　美由紀，長田　裕也，下窪　真子，石垣　裕理，
LI CHENGZE，LU YIBING，THEIN SOE，KHIN MOE THU，井上　裕貴，
吉田　凌，廣瀬美萌

事務補佐員
寺田　未登

非常勤講師
池邉　一典，趙　慧子，中野田　紳一，清水畑　誠，河相　安彦，安藤　一夫，
大渡　凡人，小松　美彦，阪口　英夫，飛田　綾子，平野　滋三，伊藤　淳二，
井上　実，上原　容子，内田　達郎，大竹　涼介，長田　英治，小林　章二，
佐藤　佑介，高橋　登，竹内　智，竹内　周平，田上　真理子，寺中　智，
冨岡　栄二，羽田　多麻木，波多野　恵太，馬場　優也，平塚　智裕，
平野　恭吉，平山　大輔，山賀　栄次郎，山本　真央，吉嵜　太朗，米山　武義，
渡辺　一騎，渡辺　昌崇，小川　貴彦，河合　陽介，

(1)　分野概要

現在の高齢者歯科学分野は、平成 25 年度に全部床義歯補綴学分野と高齢者歯科学分野を統合したものである。加速度的に進行する社会の高齢化に歯科医学の立場から素早くかつ力強く対応できる人材を生み出し、必要なエビ

デンスを創出するためである。統合前からの教育研究臨床はそのまま継続しているが統合による付加的な効果も生み出している。すなわち全部床義歯に関連する研究、歯科治療時の全身管理に関する研究、加齢による高齢者の口腔の変化に関する研究、高齢者の口腔機能と栄養状態に関する研究など健康長寿社会の実現に大きく寄与する研究を実施している。

(2) 研究活動

(2) 研究活動
1) 有病高齢者の侵襲的歯科治療における全身的偶発症の予防と予測を目的とした一連の研究　有病高齢者は生理的および病的老化により歯科治療において循環器系偶発症が起きやすい．そこで，有病高齢 者の循環器系偶発症の非侵襲的な予測手段を開発するために，①病歴，薬剤，理学的検査データ等の疫学的調査，②開心術前高齢者の歯科治療における循環動態変動解析，③ホルター心電図による不整脈発生の解析，④循環系 偶発症予測を目的とした生体信号の線形 · 非線形解析，⑤血圧変動予測のためのシステム同定を用いた数学的手法 による解析，⑥発生した全身的偶発症に関する病因論やリスクファクター等に関する研究，等を行っている．
2) 口腔乾燥症の新しい診断方法の確立 高齢者に多く発症する口腔乾燥症の新たな診断方法として，光ファイバーを用いた口腔内計測用の光学的水分計 システムの構築，および口腔内湿度計測装置の開発を行っている．
3) 高齢者の口腔立体認知能力に関する研究 近赤外線分光法（NearInfra-RedSpectroscopy: NIRS）を用いて口腔内認知能力テスト（OralStereognosisAbility: OSA テスト）における高齢者の脳活動を計測した．さらに，OSA テストを改良し，認知症スクリーニングテスト としての実用性について検討している．
4) 高齢者の口腔粘膜における義歯床下粘膜の閾値に関する研究 Semmes-Weinstein monofilaments を用いて，義歯床下粘膜の疼痛閾値を計測し，残存歯数または，咬合様式によ る疼痛閾値変化を検討した．さらに，口腔内閾値変化に影響を与える因子について検討している．
5) 最先端レーザーを用いたジルコニア補綴物加工および無痛治療応用 「セラミッククラウンのデジタルプロセス」の確立を目的に，クラウンの 3 次元 CAD データを作製し，ナノ秒 レーザーとフェムト秒レーザーを組み合わせて完全焼結ジルコニア材の３ D 高速レーザー加工を行っている．ま た，加工反力が非常に小さく熱加工ではないフェムト秒レーザーによる天然歯の加工の有効性についても検討を 行っている．
6) 機能時の全部床義歯の動揺に関する研究　咬合診査のために義歯の動揺量を測定する場合，不動点の確保が困難のため，歪ゲージ式やインダクタンス式 変位変換器は使用できない．そのため 不動点がいらない慣性計測装置（IMU）を設置することにより，変位量を 測定することが可能となる．そこで慣性測量装置を用いた変位計の開発を行っている．
7) インプラントオーバーデンチャーの応力解析 下顎の無歯顎症例においては義歯の安定を得ることが難しく，これは特に顎堤が著しく吸収した症例において顕著 である．義歯の支持 · 維持にインプラントを用いることによって義歯の安定の改善が期待できるが，インプラント に過大な応力が生じた場合にはオッセオインテグレーションを阻害する可能性がある．インプラントオーバーデン チャーの応力解析を行い，義歯の維持とインプラント周囲骨の応力緩和の点で望ましい補綴デザインを模索する．
8) 全部床義歯補綴の臨床データの蓄積と補綴効果 · 予後を左右する要因の解析と予測 全部床義歯はその維持安定を被圧縮性に富む顎堤粘膜に負うため，これらの条件によってその難易度が大きく変 化する．さらに，上下顎堤間の大きな空間の中に人工歯の配列位置や研磨面，床縁の位置が設定されるため，義 歯の形態は各患者間で，あるいは術者の技量によって非常にバリエーションが大きいものとなり，それらが義歯 の予後に大きく関わる．加えて，全身状態の影響や認知症など全部床義歯補綴の難易度や予後を左右する要因は 多様で，その要因の変動幅も大きい．これらの多数の要因を整理し，相互関係を明確にし，全部床義歯補綴の効果や予後を正確かつ定量的に予測できる手法を確立することを最終目的とする．
9) 軟質裏装材の開発 軟質裏装材の使用によって，床下粘膜の失われた弾性を補い咬合時の衝撃を吸収緩和し，疼痛を軽減するとされ ているが，市販されている材料には理工学的性質，汚れの付着などの面で課題を残しており，長期の使用に十分 ではない．義歯の機能を向上させ，材質的にも安定し，長期の使用に耐えられる軟質裏装材を開発することを目 的として，材料や表面処理剤を試作し，理工学的に検討を行う．
10) 無歯顎補綴の新しいデザイン · 製作手法の確立 全部床義歯では口唇 · 頬 · 舌などの周囲軟組織との機能的協調，適切な顔面形態の回復を考慮した義歯形態を付与 することが重要である．そして床縁形態，人工歯配列や研磨面形態を上下顎堤間の自由度の大きい空間の中に口腔 機能や顔面形態に合致して設定しなければならない．しかしながら現状では，義歯形態決定は文章で表現された 教科書的なガイドラインはあるものの，術者の技術経験によってなされるため，たとえ同じガイドラインに沿っ たとしても作成される義歯の形態 · 品質は患者間，術者間で非常にバリエーションが大きい．これは今後の社会の ニーズに応え，教育を的確に行うためにも許容できることではない．我々は義歯形態決定の指標を定量的なデー タとして得ることを目的とし，さらには義歯形状決定のための参照をより具体的な形で，数値データとして提供 くれるような，マン-マシンシステムとしての義歯製作支援システムの製作を試みている．
11) 色変わりチューイングガムを用いた咀嚼能力評価法の確立 現在，さまざまな咀嚼能力評価法が存在するが，簡便かつ客観的な評価法は少ない．当講座では，咀嚼によって 緑から赤に変色する色変わりチューイングガムを開発した．色変わりチューイングガムによる咀嚼能力評価を行 うために，色変わりガムに対応したカラースケール

を作成し，ガムの色変わりに影響する要因の分析を行い，残 存歯数に関わらずさまざまな年齢層からガムの色変わりデータを取得する．これにより，歯科医師だけでなく一般人であっても簡便かつ客観的に咀嚼能力評価が可能な手段の確立を目指す．
12) 根面う蝕に対する新規修復材料の開発　近年、高齢者における一人平均喪失歯数は徐々に減少しており、残存歯数は増加している。しかしながら、高 齢者においては、加齢変化や薬剤の副作用による唾液分泌能の低下、プラークコントロール不良などから、残存 歯の根面う蝕が増加している。根面う蝕の進行は歯冠破折を誘発し、補綴物周囲の根面う蝕は補綴物の不適合・脱 離の原因となり、最悪の場合抜歯に繋がるため、高齢者の根面う蝕に対して有効な処置法を確立することは非常 に重要な課題であることに疑いの余地はない。　本研究では、イオン放出能と酸緩衝能を持つ機能性フィラーを用いたセメントを使用し、その圧縮強さ、イオ ン徐放量、酸緩衝能、実際の抜去歯を用いた根面う蝕再現実験により、最適な修復材料の開発を目指すことを目 的とする。
13) 審美性と強度・耐劣化性を両立した次世代歯科用ジルコニアの開発　ジルコニアは従来の歯科用金属の代替材料として注目されている。中でも高透光型ジルコニアは、審美性が良 好で今後の普及が期待されるが、審美性と物性の両立は困難であった。　本研究では、安定化材の他に添加物による透光性と強度の改善を目指し、審美性と強度・耐劣化性を両立した全 く新しい積層型の高透光型ジルコニアの開発を目的とする。
14) ジルコニア・陶材界面のナノスケール解析による陶材破折の原因究明とその制御　ジルコニアを用いたオールセラミック修復物は、従来の陶材焼付冠に代わる修復物として多用されるようになっ ているが、前装用陶材の破折・剥離（チッピング）が多く、修理または修復物の再製作を余儀なくされる場合が非 常に多い。しかしながら、前装用陶材の破折の原因については研究が進んでおらず、破折を防ぐための具体的な 対策が全く講じられていない。　本研究の目的は、ジルコニアを用いたオールセラミック修復物に多く見られる、前装用陶材の破折・剥離（チッ ピング）の原因をナノスケールの解析によって明らかにし、チッピングの少ないオールセラミック修復物を製作するための手法を確立することである。
15) 咀嚼能力判定用チューイングガムの色変わり評価アプリケーションの開発　当分野とロッテで共同開発、研究を進めてきた色変わりガムは未就学児から無歯顎者まで幅広い対象に適応することが可能であること、視覚的評価が可能であり誰でも簡単に咀嚼能力評価のために使用できること等が報告されている。さらに一般的に誤差なく評価できるツールとしてスマートフォン用のアプリケーションを開発する。
16) 口腔機能低下症前段階の改善のための介入法についての研究 超高齢社会を迎えた我が国では、歯科領域からも介護予防に貢献することが強く求められている。本研究では多人数を対象とした口腔機能および全身健康に関する観察研究、およびその際に口腔機能低下症の前段階であった者を対象とし、簡便に実施できる介入方法を検討する。
17) 義歯不適合の程度のよる義歯安定剤の効果の違いに関する研究　義歯安定剤を使う場合は適合の良い義歯にのみ使用すべきであると言われているが、適合状態の違いによる義歯安定剤の効果の違いを調べた研究はこれまでにない。本研究では CADCAM 技術を応用し、実験用の不適合義歯を製作した上で、測定を行う。

(3) 教育活動

高齢社会における人間の健康維持を目的に，人間として避けてとおることのできない老化という現象を中心に捉え，高齢者の歯科医療に関連する臨床各科目の総合化と基礎領域を包括した学問の教育を目指している．疾病単位で患者を診るのではなく，日常生活を含めて包括的に診ることに力点を置いている．また，無歯顎という特殊な口腔内状態を理解し，歯の喪失により生じた形態的，機能的変化を全部床義歯によりいかに回復し維持するかを理解するとともに，全部床義歯製作法の基礎技術を習得することを目指し，講義，模型実習および臨床実習を通して指導を行っている．

(4) 臨床上の特色

高齢者歯科外来：有病高齢者の包括的な歯科治療を行っている．また，医学部附属病院から様々な全身疾患を合併する高齢者も数多く紹介されている．なかでも心臓弁膜疾患や先天性心疾患などで開心術を要する重篤な患者の紹介が多い．このような患者の包括的な歯科治療を安全に行うために，循環系偶発症の予防と対応に重点を置いている．すなわち，医学的知見に基づいた予防措置，ホルター心電図などを用いたモニタリング，全身的偶発症発生時の対応などの専門的な医学的管理を行っている．また，観血的処置を行うハイリスク患者については，毎朝の術前カンファレンスを通して，チーム全員でリスクマネジメントを徹底している．

義歯科：無歯顎という特殊な口腔内状態に生じた形態的，機能的変化を全部床義歯によって回復し維持するためには，独自な口腔内診査と義歯設計を行わなければならない．具体的には，全部床義歯は口腔内への維持を歯に求められないので，口腔粘膜と義歯床面との唾液を介する付着力に頼らなければならない．全部床義歯にかかる咬合力は義歯床を介して床下粘膜によって支持されるため，義歯床の安定をはかるために上下顎堤の対向関係を考慮し，顎運動と調和した人工歯の配列と咬合様式の付与を行う必要がある．歯および歯の支持組織の欠損によ

る無歯顎者の顔貌の大きな変化を全部床義歯によって回復するにあたり，義歯周囲の筋および関連軟組織の形態や動態との調和を図り，義歯の維持を向上させる形態とする．また歯の喪失および大きな補綴物が口腔内に装着されることによる患者の心理的負担を考慮して応対に注意する必要がある．このような精神状態を含めた全身状態の変化は，口腔粘膜においても変化を生じる可能性が高く，それが義歯の維持，安定の変化，ならびに回復された機能の変化につながる．そのため，定期的リコールを行い，問診や VAS により得られた義歯と機能に対する患者の主観的評価の調査を継続して行い，回復された機能が長期にわたり維持されさらに改善されるよう心がけている．また，当分野独自の評価基準を設け，患者の主観的意見だけでなく EBM に基づいた補綴処置効果の客観的評価も行っている．

(5) 研究業績

[原著]

1. Liu H, Inokoshi M, Xu K, Tonprasong W, Minakuchi S, Van Meerbeek B, Vleugels J, Zhang F. Does speed-sintering affect the optical and mechanical properties of yttria-stabilized zirconia? A systematic review and meta-analysis of in-vitro studies. Jpn Dent Sci Rev. 2023.12; 59; 312-328

2. Ueda K, Inokoshi M, Kubota K, Yamaga E, Minakuchi S. Factors influencing postoperative bleeding after dental extraction in older adult patients receiving anticoagulation therapy. Clin Oral Investig. 2023.12; 28(1); 22

3. Akiyama Y, Iwaki M, Komagamine Y, Minakuchi S, Kanazawa M. Effect of spindle speed and feed rate on surface roughness and milling duration in the fabrication of milled complete dentures: an in vitro study. Appl Sci. 2023.12; 13(24); 13338

4. Okada M, Hama Y, Futatsuya R, Sasaki Y, Noritake K, Yamaguchi K, Matsuzaki M, Kubota C, Hosoda A, Minakuchi S. Association between Masticatory Performance, Nutritional Intake, and Frailty in Japanese Older Adults. Nutrients. 2023.12; 15(24);

5. Kashiwazaki K, Komagamine Y, Namano S, Park JM, Iwaki M, Minakuchi S, Kanazawa M. Prediction accuracy of incisal points in determining occlusal plane of digital complete dentures. J Adv Prosthodont. 2023.12; 15(6); 281-289

6. Yanagihara Y, Suzuki H, Furuya J, Nakagawa K, Yoshimi K, Seto S, Shimizu K, Tohara H, Minakuchi S. Usefulness of oral health assessment performed by multiple professionals using a short video recording acquired with a tablet device Journal of Dental Sciences . 2023.11;

7. Yoshinaka S, Yamaguchi K, Yanagida R, Ishii M, Nakagawa K, Yoshimi K, Nakane A, Matsuyama Y, Aida J, Tohara H . Tongue Strength of Older Adults Requiring Long-Term Care Varies throughout the Day Geriatrics. 2023.10;

8. Kashiwazaki K, Komagamine Y, Shanglin W, Ren X, Hayashi N, Nakayama M, Namano S, Kanazawa M, Minakuchi S. Improvements in Maximum Bite Force with Gum-Chewing Training in Older Adults: A Randomized Controlled Trial. J Clin Med. 2023.10; 12(20);

9. Komagamine Y, Kanazawa M, Miyayasu A, Uehara Y, Watanabe M, Sahaprom N, Huyen TBN, Iwaki M, Sato D, Minakuchi S. The effect of single-implant overdentures on cognitive function in older adults: A 3-year follow-up report. Journal of dentistry. 2023.09; 136; 104632

10. Risako Mikami, Yuriko Komagamine, Norio Aoyama, Koji Mizutani, Yoshiyuki Sasaki, Takanori Iwata, S Association between occlusal supports and nutritional status in older adults: A systematic review Journal of Dental Sciences. 2023.09;

11. Suzuki H, Furuya J, Nakagawa K, Hidaka R, Nakane A, Yoshimi K, Shimizu Y, Saito K, Itsui Y, Tohara H, Minakuchi S. Factors influencing the selection of oral healthcare providers in multidisciplinary Nutrition Support Team for malnourished inpatients: A cross-sectional study. Journal of oral rehabilitation. 2023.08; 50(12); 1446-1455

12. Komagamine, Y; Suzuki, H; Iwaki, M; Minakuchi, S; Kanazawa, M. Effect of New Complete Dentures and Simple Dietary Advice on Cognitive Screening Test among Edentulous Older Adults: A Randomized Controlled Trial JOURNAL OF CLINICAL MEDICINE. 2023.07; 12(14);

13. Kashiwazaki K, Komagamine Y, Uehara Y, Yamamoto M, Nakai H, Trang BNH, Liu H, Namano S, Tonprasong W, Kanazawa M, Minakuchi S. Effect of gum-chewing exercise on maintaining and improving oral function in older adults: A pilot randomized controlled trial. J Dent Sci. 2023.07;

14. Trang BNH, Kanazawa M, Murakami N, Wakabayashi N, Hada T, Sahaprom N, Komagamine Y, Minakuchi S. Stress distribution of one-piece and two-piece mini-Implant overdentures with various attachment systems and diameters: A finite element analysis. J Prosthodont Res. 2023.07; 67(3); 430-436

15. Shimizu K, Suzuki H, Isoyama N, Yanagihara Y, Minakuchi S. Influence of wearing complete dentures on control of head position during walking in edentulous older adults. J Oral Rehabil. 2023.05;

16. Inokoshi M, Liu H, Yoshihara K, Yamamoto M, Tonprasong W, Benino Y, Minakuchi S, Vleugels J, Van Meerbeek B, Zhang F. Layer characteristics in strength-gradient multilayered yttria-stabilized zirconia. Dent Mater. 2023.03; 39(4); 430-441

17. Tonprasong W, Inokoshi M, Tamura M, Hatano K, Minakuchi S. Impact of surface pre-reacted glass ionomer filler eluate on lipase gene expression in Candida albicans: An in vitro study. Dent Mater J. 2023.01; 42(1); 49-54

18. Kanamori Y, Seki N, Foxton R, Moross J, Komagamine Y, Mizutani K, Hosaka K, Kanazawa M, Hatayama T, Komada W, Yonemitsu I, Akiyama M, Kaewmanee PC, Kaewsutha N, Nitta H, Wakabayashi N, Morio I. Fostering globally competent dental students through virtual team-working, problem-solving and person-centred multi-disciplinary care planning. Journal of Dental Sciences. 2023.01; 18(1); 95-104

19. Kohei Yamaguchi, Yohei Hama, Hitomi Soeda, Keita Hatano, Mitsuzumi Okada, Ryota Futatsuya, Shunsuke Minakuchi. Factors Associated with Selection of Denture Adhesive Type: A Cross-Sectional Survey. J Clin Med. 2023.01; 12(3); 873

20. Akiyama Y, Kanazawa M, Iwaki M, Hada T, Soeda Y, Otake R, Kashiwazaki K, Komagamine Y, Murakami N, Takaichi A, Wakabayashi N, Minakuchi S. Fabrication of milled removable partial dentures using a custom plate with prefabricated artificial teeth. J Prosthodont Res. 2023.10; 67(4); 647-651

1. 猪越正直, 水口俊介. 歯科訪問診療で知っておきたい全身疾患とその注意点. 日本補綴歯科学会誌. 2023.04; 15(2); 189-194

2. 鈴木啓之，日高玲奈，中川量晴，吉見佳奈子，中根綾子，戸原玄，水口俊介，古屋純一. 多職種連携医療における動画を用いた口腔内評価の有効性の検証 はち・まる・にい・まる. 2023.03; (22); 143-145

3. 濵　洋平. 著しい咬合平面不正をクラウン・ブリッジ，オーバーデンチャーを用いて是正した症例. 日本補綴歯科学会誌. 2023.01; 15(1); 101-104

[書籍等出版物]

1. 佐藤裕二, 水口俊介, 小笠原正, 菊谷武 監修. 猪越正直, 樺沢勇司, 古屋純一 分担執筆. よくわかる歯科訪問診療. 永末書店, 2023.06 (ISBN：978-4-8160-1426-0)

2. 佐藤裕二，水口俊介，鈴木啓之他. よくわかる訪問歯科. 永末書店, 2023.06

[総説]

1. Onuma H, Inokoshi M, Minakuchi S. Smoothed particle hydrodynamics method applied to oral region: A narrative review. Dent Mater J. 2023.11; 42(6); 759-765

1. 猪越正直. 使いこなそう！ セラミックス材料 二ケイ酸リチウムとジルコニア. デンタルダイヤモンド. 2023.11; 48(15); 25-42

2. 羽田 多麻木, 岩城 麻衣子, 金澤 学. 【「デジタルデンチャーの今」】カスタムディスク法によるデジタルデンチャーの製作. 日本歯科技工学会雑誌. 2023.07; 44(2); 77-80

3. 林 七夏, 秋山 洋, 岩城 麻衣子, 金澤 学. カスタムプレート法による部分床義歯の新製. DENTAL DIAMOND 6 月号. 2023.06; 105-106

4. 羽田 多麻木, 岩城 麻衣子, 金澤 学. 【IOS 時代の歯科技工　口腔内スキャナーの基礎知識から補綴装置製作の実際まで】(CHAPTER 4)IOS を用いた補綴治療の実際　IOS を使用したデジタルデンチャーの製作. 歯科技工　別冊. 2023.05; 別冊 (IOS 時代の歯科技工); 131-139

[講演 · 口頭発表等]

1. Inokoshi M. Contemporary dental ceramics – Recent topics based on material research. 51st Indian Prosthodontic Society Conference 2023.12.09 Goa
2. Yohei Hama, Yuriko Komagamine, Kohei Yamaguchi, Mitsuzumi Okada, Y, Ryota Futatsuya, Mayuko Matsuzaki, Shunsuke Minakuchi. Utility of the chewing gum method to evaluate the masticatory performance and general health in older adults. IAGG-AOR 2023 Satellite symposium 2023.10.26 Kyoto
3. Onuma H, Inokoshi M, Minakuchi S. Introduction and application of the smoothed particle hydrodynamics method in dentistry. Andaman Dental Congress 2023 2023.10.19 Phuket
4. Sunami A, Inokoshi M, Tamura M, Hatano K, Minakuchi S. Flexural Strength of Novel Hard Relining Material Containing S-PRG filler. IADR-ANZ Conference 2023 2023.09.29 Sydney
5. Xu K, Inokoshi M, Yoshihara K, Kakehata M, Yashiro H, Takahashi R, Yamatomo M, Kamijo S, Ikeda M, Minakuchi S. Bonding efficacy to femtosecond laser irradiated lithium disilicate glass-ceramic. IADR-ANZ Conference 2023 2023.09.29 Sydney
6. Inokoshi M. Recent updates of dental zirconia ceramics. IADR-ANZ Conference 2023 2023.09.27 Sydney
7. Ueda K, Inokoshi M, Kubota K, Yamaga E, Minakuchi S. Factors affecting postoperative bleeding in older adults on anticoagulation therapy. IADR-ANZ Conference 2023 2023.09.27 Sydney
8. Watanabe I. Digital Consideration in Prosthesis .. The 2023 Ministry of Health and Welfare - Curriculum for Advanced Digital Dentistry at Taipei 2023.09.21 Taipei
9. Hada T, Kanazawa M, Iwaki M, Minakuchi S. Effects of printed layer thickness and infill rate on mechanical properties of shape memory materials used in 4D-printed sports mouthguard. International College of Prosthodontists (ICP) 2023, London Symposium. 2023.08.31 London
10. Wang B, Inokoshi M, Liu H, Minakuchi S. Influence of surface treatments on the low-temperature degradation behavior of speed-sintered zirconia. The 38th Annual Meeting of Japanese Society for Dental Product/2023 Kanto Regional Meeting of the Japanese Society for Dental Materials and Devices 2023.08.05 Tokyo
11. Qi K, Kanazawa M, Hada T, Sahaprom N, Ren X, Akiyama Y, Minakuchi S. Effect of silanization on SLA resin enhanced by 3Y-TZP nanoparticles. The 101st General Session & Exhibition of the IADR 2023.06.23 Bogota
12. Hayashi N, Akiyama Y, Kashiwazaki K, Komagamine Y, Iwaki M, Minakuchi S, Kanazawa M. Effects of the offset values of fixed part of metal framework on accuracy in milled removable partial denture using custom plate. IAGG Asis/Oceania Regional Congress 2023. 2023.06.14 Yokohama
13. Yohei Hama. Impact of masticatory performance on general health in older adults. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023 2023.06.14 Yokohama
14. Hitomi Soeda, Yohei Hama, Kohei Yamaguchi, Mitsuzumi Okada, Ryota Futatsuya, Tomokazu Yoshida, Kazumi Yamaguchi, Shunsuke Minakuchi.. Differences in Tongue Coating Index and Masticatory Performance by Denture Adhesive Type: Investigation using Propensity Score Matching. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023 2023.06.14 Pacifico Yokohama North, Yokohama, Japan
15. Chieko Kubota, Yohei Hama, Yoko Uchida. Characteristics of Japanese community-dwelling older adults using interdental brush. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023 2023.06.14 Pacifico Yokohama North, Yokohama, Japan
16. Xu K, Inokoshi M, Yoshihara K, Liu H, Minakuchi S. Influence of femtosecond laser irradiation on biaxial flexural strength of highly translucent dental zirconia. The 132nd Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society 2023.05.21 hybrid (web, Yokohama)
17. Qi K, Kanazawa K, Soeda Y, Akiyama Y, Hada T, Sahaprom N, Komagamine Y, Iwaki M, Shibata S, Mizokoshi N, Takeyama J, Shinpo H, Okubo C, Minakuchi S. The oral health-related quality of life and patient satisfaction of 3D-printed and conventional complete denture: The interim report of the randomized cross-over clinical trial. The 132nd Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society 2023.05.19 Yokohama

18. Wu S, Kanazawa M, Akiyama Y, Soeda Y, Hada T, Qi K, Sahaprom N, Komagamine Y, Iwaki M, Shibata S, Mizokoshi N, Takeyama J, Shinpo H, Okubo C, Minakuchi S. Comparison of the occlusal contact area and masticatory function between 3D-printed and conventional complete dentures: a randomized, cross-over clinical trial evaluating. the 14th Japan Academy of Digital Dentistry 2023.04.22 Kanagawa

19. Xu K, Inokoshi M, Yoshihara K, Ikeda M, Liu H, Minakuchi S. Influence of femtosecond laser irradiation on biaxial flexural strength of lithium disilicate glass-ceramic. The 81st General Session of the Japanese Society for Dental Materials and Devices (JSDMD) 2023.04.15 Tokyo

20. Qi K, Kanazawa M, Hada T, Akiyama Y, Minakuchi S. Evaluation of Degree of Conversion and Mechanical Properties of Modified 3Y-TZP Nanoparticles Reinforced SLA Resin at Different Post-polymerization Conditions. The 81st General Session of the Japanese Society for Dental Materials and Devices 2023.04.15 Tokyo

1. 川上 ひかる，LI HAOYU，羽田 多麻木，宮安 杏奈，金澤 学. エナメルコンポジットレジンのカスタムディスク法への有効性の評価. 第 88 回 口腔病学会学術大会. 2023.12.01 東京

2. 猪越正直. 医歯連携と歯科訪問診療から歯科医師と歯科技工士の連携を考える. 第 25 回日本口腔顎顔面技工学会学術大会 2023.11.26 東京

3. 濵　洋平，岡田光純，二ッ谷龍大，松崎真友子，水口俊介. 咀嚼能力判定用色変わりガムを用いたフレイル，サルコペニア，口腔機能低下症のスクリーニングの検討. 日本咀嚼学会 第 34 回学術大会 2023.10.28 大阪

4. 柏﨑 健汰, 駒ヶ嶺 友梨子, Wu Shanglin, Xiangyu Ren, 林 七夏, 中山 魅来, Sahaprom Namano, 安藤 智教, 江村 耕司, 小巻 翔, 菅野 範, 金澤 学, 水口 俊介. ガム咀嚼トレーニングにより高齢者の咬合力が向上するか？ . 2023.10.28

5. 猪越正直. ジルコニアへの接着法：セラミックス関連材料研究の舞台裏. 第 42 回日本接着歯学会学術大会 2023.10.01 東京

6. 片田治子，猪越正直，劉 恒毅，水口俊介. ステイン用陶材の焼成条件が高透光性ジルコニアの透光性と結晶構造に与える影響. 第 38 回日本歯科産業学会学術講演会/2023 年度日本歯科理工学会関東地方会セミナー 2023.08.05 東京

7. 則武 加奈子, 樺沢 勇司, 濱 洋平, 礪波 健一, 海老原 新, 秀島 雅之, 梅森 幸, 金森 ゆうな, 三木 裕仁, 城戸 大輔, 西山 暁, 新田 浩. 東京医科歯科大学病院歯科医師臨床研修プログラムに新たに導入した研修内容. 第 42 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 2023.07.15 福岡（オンライン）

8. 寺中　智. 診療所や施設で活用する摂食嚥下リハビリテーションの基本的視点. 令和 4 年度 栃木県歯科衛生士会 第 1 回生涯研修会 2023.07.13

9. 野原　佳織，鬼木　隆行，小林　利彰，二ッ谷　龍大，駒ヶ嶺　友梨子，金澤　学，水口　俊介. 機械的刺激による口腔乾燥の新たな改善方法に関する研究. 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023.06.18 横浜

10. 柳原有依子. タブレット端末を用いて撮影した口腔内動画上での多職種による口腔環境評価の有用性. 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023.06.17 横浜

11. 岡田光純，濵洋平，二ツ谷龍大，山口皓平，添田ひとみ，細田明美，水口俊介. 高齢者における口腔機能，摂取エネルギー，たんぱく質とフレイルの関連．．日本老年歯科医学会　第 34 回学術大会 2023.06.17 横浜

12. 猪越正直. 二ケイ酸リチウムガラスとジルコニアへの接着と注意点. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.20 hybrid (web, 横浜)

13. 秋山 洋，金澤 学，岩城 麻衣子，羽田 多麻木，副田 弓夏，駒ヶ嶺 友梨子，水口 俊介. ミルドデンチャーの切削加工における回転数と送り速度が加工精度と時間に与える影響. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会. 2023.05.20 神奈川

14. 柏﨑 健汰, 駒ヶ嶺 友梨子, Namano Sahaprom, 岩城 麻衣子, 金澤 学, 水口 俊介. 全部床義歯の咬合平面予測における切歯点の予測精度評価. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.20 神奈川

15. 岡田光純，濵洋平，細田明美，水口俊介. 健常/フレイル高齢者における口腔機能とたんぱく質、肉類摂取の関連. 第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 2023.05.09 神戸

16. 山口皓平, 濵 洋平, 添田ひとみ, 岡田光純, 二ッ谷龍大, 吉田智和, 山口知美, 水口俊介. 義歯安定剤タイプごとの咀嚼能力への影響 -傾向スコアマッチングを用いた検討 -. 日本義歯ケア学会 第 15 回学術大会 2023.01.22

[特許]

1. 有床義歯の製造方法、有床義歯及び有床義歯の製造装置, 特許番号：特許第 7209375 号

[受賞]

1. 優秀口演賞, 日本義歯ケア学会, 2023 年 01 月
2. 猪越正直．日本歯科理工学会学術賞, 日本歯科理工学会, 2023 年 04 月
3. 第 4 回学術奨励賞（羽田多麻木）, 日本デジタル歯科学会, 2023 年 04 月
4. 最優秀発表賞 , 日本デジタル歯科学会, 2023 年 04 月
5. 公益社団法人日本補綴歯科学会 第 132 回学術大会　優秀ポスター賞（デンツプライシロナ賞 · カボデンタル賞）, 2023 年 05 月
6. 課題口演賞（柳原有依子）, 日本老年歯科医学会, 2023 年 06 月
7. 日本老年歯科医学会　優秀課題口演賞（岡田）, 2023 年 06 月
8. 片田治子，猪越正直，劉 恒毅，水口俊介．日本歯科理工学会関東地方会研究奨励賞, 日本歯科理工学会, 2023 年 08 月
9. Wang B, Inokoshi M, Liu H, Minakuchi S. 日本歯科理工学会関東地方会研究奨励賞, 日本歯科理工学会, 2023 年 08 月
10. Onuma H, Inokoshi M, Minakuchi S. Andaman Dental Congress 2023 Poster Presentation Winner (1st Prize), Andaman Dental Congress, 2023 年 10 月
11. 日本咀嚼学会第 34 回学術大会（大阪）優秀口演賞, 2023 年 10 月

[その他業績]

1. 羽田多麻木（代表）.『抗菌性 · 高強度 · 審美性を兼ね備えたデジタル義歯用 3D プリント光硬化性樹脂の開発』, 2023 年
   科学研究費（2023 年度　若手研究）, 2023 年 - 2025 年
2. 「フルデジタルワークフローでの新規部分床義歯製作方法の開発」 —デジタル技術を用いた新しい部分入れ歯の製作方法—, 2023 年 02 月
   Journal of prosthodontic research
3. 「フルデジタルワークフローでの新規部分床義歯製作方法の開発」 —デジタル技術を用いた新しい部分入れ歯の製作方法—, 2023 年 02 月
   Journal of prosthodontic research
4. 基盤研究 (C)　一般　濵洋平, 2023 年 04 月
   口腔機能低下症とフレイルの縦断調査　口腔機能におけるフレイルリスク因子の解明
5. ロッテ財団奨励研究助成　濵洋平, 2023 年 04 月
   介護予防のためのスクリーニング法の開発 - 咀嚼チェックガムを用いた自己評価
6. 鈴木啓之　公益財団法人 8020 推進財団　令和 5 年度 8020 公募研究課題, 2023 年 04 月
   癌終末期患者に対する多職種連携型の口腔管理の効果の検討
7. 猪越正直. 世界で最も影響力のある研究者トップ 2% (October 2023 data-update), 2023 年 10 月

[社会貢献活動]

1. 猪越正直. タイ　チュラロンコーン大学との国際交流実務担当, 2017 年 07 月 01 日 - 現在
2. 水口俊介．日本補綴歯科学会　監事, 2020 年 - 現在
3. 猪越正直. 日本老年歯科医学会　代議員, 日本老年歯科医学会, 2020 年 06 月 20 日 - 現在
4. 水口俊介．日本老年歯科医学会理事長, 2020 年 06 月 20 日 - 現在

5. 猪越正直. 日本デジタル歯科学会　代議員, 日本デジタル歯科学会, 2020 年 06 月 24 日 - 現在
6. 水口俊介. 日本咀嚼学会　理事, 2021 年 - 現在
7. 猪越正直. 日本補綴歯科学会　学術委員会委員, 日本補綴歯科学会, 2021 年 06 月 18 日 - 現在
8. 猪越正直. 日本デジタル歯科学会　教育問題委員会委員, 日本デジタル歯科学会, 2022 年 05 月 - 現在
9. 猪越正直. 日本歯科理工学会　和文誌編集委員会委員, 日本歯科理工学会, 2022 年 05 月 22 日 - 現在
10. 濵　洋平. 咀嚼チェックガム　アプリ監修, 株式会社ロッテ, 咀嚼チェックアプリ, 2022 年 10 月 03 日 - 現在
11. コロナ後の口の健康, NHK, マイあさ！ , 2023 年 05 月 01 日 - 2023 年 05 月 26 日

摂食嚥下リハビリテーション学分野

Department of Dysphagia Rehabilitation

教授　　戸原　玄（トハラ　ハルカ）
准教授　中川　量晴 (ナカガワ　カズハル)
講師　山口　浩平（ヤマグチ　コウヘイ）
助教 吉見　佳那子 (ヨシミ　カナコ)
医員　長澤　祐季（ナガサワ　ユウキ）
医員　柳田　陵介 (ヤナギダ　リョウスケ)
医員　森豊　理英子 (モリトヨ　リエコ)
大学院生　山田　大志（ヤマダ　タイシ）
大学院生 齋木　章乃 (サイキ　アキノ)
大学院生 有瀧　航太 (アリタキ　コウタ)
大学院生 齊藤　美都子 (サイトウ　ミツコ)
大学院生　内田　有俊（ウチダ　アリトシ）
大学院生　Amornsuradech, Sirinthip
大学院生 村瀬　玲奈 (ムラセ　レナ)
大学院生 吉﨑　怜子 (ヨシザキ　レイコ)
大学院生　真山　達也（マヤマ　タツヤ）
大学院生　金井　亮太（カナイ　リョウタ）
大学院生　堀家　彩音（ホリケ　アヤネ）
大学院生　吉中　晋（ヨシナカ　シン）
大学院生　宮地　舞（ミヤジ　マイ）
大学院研究生　田村　厚子（タムラ　アツコ）
大学院研究生　原　　良子（ハラ　ヨシコ）
大学院研究生　中澤　貴士　(ナカザワ　タカシ）
大学院研究生　亀田　千津子（カメダ　チヅコ）
大学院研究生　八尾　有紀　(ヤオ　ユキ)
大学院研究生　章　　晋躍　（ショウ　シンヤク）
大学院研究生　趙　　茜睿　（チョウ　シエイ）

(1)　分野概要

摂食嚥下リハビリテーション学分野は、2020 年 4 月高齢者歯科学分野から独立する形で設立された。超高齢社会日本において、摂食嚥下リハビリテーションを軸とした高齢者医療および障害者医療を実践できる人材の育成を目指している。臨床の対象者は高齢者のみならず成人や小児にも対応し、診療形態は外来患者および在宅や施設療養者への訪問、医学部および歯学部附属病院入院患者への対応、そして近年オンライン診療も開始した。研究は、摂食嚥下機能やその訓練方法に関わるものだけではなく、口腔周囲筋（舌、咀嚼筋、嚥下関連筋）の加齢変化や全身との関連、経口摂取と経管栄養が全身にもたらす影響の違い、質的研究なども行っている。

(2)　研究活動

1) 嚥下障害、口腔機能低下症、オーラルフレイルの評価を目的とした機器の開発
摂食嚥下機能を定量的に評価する機器の開発し、臨床応用を進めている。過去に嚥下機能や口腔機能低下症の簡便な評価を目的とした開口力計を開発し、特許を取得した。現在は、咀嚼時の下顎運動や、噛む力、舌の力といった摂食嚥下に関わる筋肉の力など、これまで評価することが困難であった部分を計測する機器の開発を進めている。また、これらの機器は、嚥下障害のみならず近年重要視されるようになったオーラルフレイルや口腔機能低

下症の評価についても応用可能である。

2) 胃ろうモデルラットを用いた栄養学的な検討
高齢者や摂食嚥下障害患者では、誤嚥性肺炎や低栄養を予防するために胃ろうなどの経腸栄養を選択することがある。胃ろうは利点の多い栄養摂取法ですが、一方で慢性的な消化管障害などを生じることがある。そこで、胃ろうモデルラットを作製し、さまざまな種類の栄養剤で飼育し、栄養価、腸内細菌叢などに変化が生じるか探索している。

3) 頚椎疾患患者の嚥下機能の画像解析
頚椎疾患患者においては、比較的多くの術後嚥下障害に関する研究報告がされている。しかしながら、嚥下障害の原因を運動学的に解析した研究は少ない。そこで、本学医学部整形外科学分野との共同研究として、頚椎疾患患者の手術前後の舌骨運動等を嚥下造影検査の画像をもとに解析し、術後嚥下障害の原因を検索している。

4) 脳卒中患者に対する医科歯科連携における総合的研究
脳卒中患者において、医科歯科連携によるその介入効果や口腔機能管理における手法の確立がいまだなされていなかった。そこで本大学医学部附属病院に入院をした脳卒中患者に対し入院後早期に口腔機能管理の介入を行い、急性期肺炎合併率を減少させた。また、脳卒中急性期患者に対するケアマニュアルや医科歯科連携ガイドブックも完成させ、現在は共同研究において多施設における介入効果を検証し、オールジャパンで医科歯科連携における口腔機能管理方法の確立を目指している。

5) 喉頭全摘患者に対する革新的な口腔内装置型代用発声法の開発
喉頭全摘患者は話す機能が大きく障害されることで生活の質を著しく損なわれる。これまで電気式人工喉頭や食道発声法などによる代用発声法が用いられてきたが、手術の必要性や高いコストなど問題点もあった。我々は口腔内に取り外し可能な、従来法とは全く異なる代用発声法の開発、効果検証を進めている。

6) 口腔周囲筋に着目した高齢者の虚弱の解明と新しい機能評価法の確立
フレイルやサルコペニアといった高齢者の虚弱は、すでに世界中で広く認知されている。虚弱の評価は筋量、筋力、身体機能に着目しているが、これまで口腔周囲筋に対して同様の検討は進んでいない。我々は超音波診断装置による筋量評価、専用の計測機器を用いた口腔周囲筋力、機能評価を組み合わせて、口腔周囲筋に生じる虚弱を明らかにし、簡易で臨床応用可能な口腔・嚥下機能評価法の確立を目指している。

7) 嚥下障害患者に対する炭酸とろみの効果検証や 2 段階アングルの内視鏡の開発
嚥下障害患者は水分誤嚥のリスクにより炭酸飲料を摂取できないことが多々ある。一方で、炭酸には嚥下に良い効果があることが報告されているが、炭酸にとろみをつけて摂取させた研究は報告されていない。我々は、とろみをつけた炭酸飲料における炭酸が嚥下動態に与える影響について検証している。また、嚥下機能評価に用いる内視鏡は 30 年近くその形を変えていない。当分野では、従来 1 段階しか屈曲しないシャフト部を改良し、2 段階屈曲可能な内視鏡を開発し、その効果検証をしている。それにより気管後壁の観察が可能となり、誤嚥の検出の精度向上などの有用性が期待される。

8) 蛍光物質を利用した非侵襲の嚥下機能評価機器
嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査は様々な臨床場面で実施されるが、いずれも侵襲性があり、術者の熟練度が検査の正確性や診断に影響する。そのため、簡便で侵襲なく、繰り返し実施可能な新たな検査手法の実用化が求められる。現在、本学と他大学との共同研究として、食品中の蛍光物質の蛍光計測を応用した非侵襲の誤嚥リスク検出システムの開発を進めている。

9) オンライン診療や口腔内スキャナーなど摂食嚥下リハビリテーションのデジタル化の研究
歯科における、デジタル化は着実に進んでる。摂食嚥下リハビリテーションや歯科訪問診療の現場でもその有用性は高いと考えられるが、現在、広く活用されていない。摂食嚥下リハビリテーションや訪問診療におけるオンライン診療やデジタル機器（特に、口腔内スキャナー）の有用性の検証、臨床に適した新たな機器開発などに取り組んでいる。

(3) 教育活動

今後、ますます進む高齢社会において、摂食嚥下リハビリテーションなどを通じて、医療や介護、そして世間に貢献できる人材の輩出に取り組んでいる。学部教育では、摂食嚥下に関わる座学はもちろんのこと、在宅、施設、または病院への訪問診療の同行を通じて、現場での多職種連携などについて学ぶ機会を提供している。その他、コロナ対策で学生や研修医の動向見学が困難な訪問診療の場面にはオンラインを生かした教育を開始した。

(4) 臨床活動および学外活動

嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査による摂食嚥下機能評価、また、評価に基づくリハビリテーションを実施している。当分野では、訪問診療による在宅医療に力を入れている。経口摂取の可否の評価のみならず、食形態や姿勢、患者の環境調整などを通じて、患者さんに最後まで楽しさを失わない生活を送っていただくための臨床に日々取り組んでいる。また外来診療では、口腔癌術後患者のリハビリテーションを中心に、大学病院ならではの様々な疾患による嚥下障害患者さんにも対応している。その他、当該医療の過疎地に在住している嚥下障害への対応を目的としてオンライン診療が可能な環境を整えたが、オンライン診療はコロナ対策で対面が不可能な場合にも有効利用できた。

(5) 臨床上の特色

当科は、在宅医療における摂食嚥下リハビリテーションの提供を専門的にしている。そのため、歯科訪問診療において、口腔衛生管理、口腔機能管理を担当されるかかりつけ歯科医師などとも効果的な連携が十分に可能である。また、オンライン診療は国内に限らず、国外の対象者にも提供可能である。

(6) 研究業績

[原著]

1. Matsubara C, Yamaguchi K, Imada R, Yoshizawa A, Bando Y, Kusaka T, Furuya J, Tohara H. Factors associated with the oral health status of patients with schizophrenia: A cross-sectional study. Journal of oral rehabilitation. 2023.12;

2. Rieko Moritoyo, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Kohei Yamaguchi, Miki Ishii, Ryosuke Yanagida, Chizuru Namiki, Haruka Tohara. Relationship between the jaw-closing force and dietary form in older adults without occlusal support requiring nursing care. Scientific Reports. 2023.12; 13(1); 22551

3. Yanagihara Y, Suzuki H, Furuya J, Nakagawa K, Yoshimi K, Seto S, Shimizu K, Tohara H, Minakuchi S. Usefulness of oral health assessment performed by multiple professionals using a short video recording acquired with a tablet device Journal of Dental Sciences . 2023.11;

4. Yoshinaka S, Yamaguchi K, Yanagida R, Ishii M, Nakagawa K, Yoshimi K, Nakane A, Matsuyama Y, Aida J, Tohara H . Tongue Strength of Older Adults Requiring Long-Term Care Varies throughout the Day Geriatrics. 2023.10;

5. Mori H, Nakane A, Tohara H, Nakayama T. Evaluation of preventive care for swallowing difficulty through policy changes in Japanese long-term care insurance: analysis of a nationwide claims dataset for long-term care insurance. BMC health services research. 2023.10; 23(1); 1053

6. Shimizu A, Yamaguchi K, Tohara H. Impact of pureed and liquidised diets on health-related quality of life scores in older patients during postacute rehabilitation: A pilot study Journal of Human Nutrition and Dietetics. 2023.10;

7. Mori H, Nakane A, Tohara H, Nakayama T. Evaluation of preventive care for swallowing difficulty through policy changes in Japanese long-term care insurance: analysis of a nationwide claims dataset for long-term care insurance. BMC health services research. 2023.10; 23(1); 1053

8. Saito, M; Nakane, A; Asaumi, R; Kagifuku, Y; Ishii, M; Hasegawa, S; Yoshimi, K; Yamaguchi, K; Nakagawa, K; Hirai, H; Kuroshima, T; Tomioka, H; Tohara, H. Free-flap volume correlates with body mass index in patients with tongue squamous cell carcinoma LARYNGOSCOPE INVESTIGATIVE OTOLARYNGOLOGY. 2023.10; 8(5); 1210-1216

9. Yoshinaka S, Yamaguchi K, Yanagida R, Ishii M, Nakagawa K, Yoshimi K, Nakane A, Matsuyama Y, Aida J, Tohara H. Tongue Strength of Older Adults Requiring Long-Term Care Varies throughout the Day. Geriatrics (Basel, Switzerland). 2023.10; 8(6); 107

10. Kimura, A., Yamaguchi, K., Tohara, H., Sato, Y., Sawada, N., Nakagawa, Y., Matsuda, Y., Inoue, M., Wada, Y., Tamaki, K.. Exploring whether weight-related cues affect food intake in older adults with dementia Clinical Interventions in Aging. 2023.09; 18; 1453-1461

11. Uchida M, Yamaguchi K, Tamai T, Kobayashi K, Tohara H. Effects of simulated kyphosis posture on swallowing and respiratory functions. Journal of physical therapy science. 2023.08; 35(8); 593-597

12. Suzuki H, Furuya J, Nakagawa K, Hidaka R, Nakane A, Yoshimi K, Shimizu Y, Saito K, Itsui Y, Tohara H, Minakuchi S. Factors influencing the selection of oral healthcare providers in multidisciplinary Nutrition Support Team for malnourished inpatients: A cross-sectional study. Journal of oral rehabilitation. 2023.08; 50(12); 1446-1455

13. Suzuki H, Furuya J, Nakagawa K, Hidaka R, Nakane A, Yoshimi K, Shimizu Y, Saito K, Itsui Y, Tohara H, Minakuchi S. Factors influencing the selection of oral healthcare providers in multidisciplinary Nutrition Support Team for malnourished inpatients: A cross-sectional study. J Oral Rehabil. 2023.08;

14. Katagiri S, Ohsugi Y, Shiba T, Yoshimi K, Nakagawa K, Nagasawa Y, Uchida A, Liu A, Lin P, Tsukahara Y, Iwata T, Tohara H.. Homemade blenderized tube feeding improves gut microbiome communities in children with enteral nutrition Frontiers in Microbiology. 2023.08; 23(14); 1214236

15. Mitsuko Saito, Ayako Nakane, Rieko Asaumi, Yuko Kagifuku, Miki Ishii, Shohei Hasegawa, Kanako Yoshimi, Kohei Yamaguchi, Kazuharu Nakagawa, Hideaki Hirai, Takeshi Kuroshima, Hirofumi Tomioka, Haruka Tohara. Free-flap volume correlates with body mass index in patients with tongue squamous cell carcinoma Laryngoscope Investigative Otolaryngology. 2023.08;

16. Uchida Manabu, Yamaguchi Kohei, Tamai Tomoe, Kobayashi Kensuke, Tohara Haruka. Effects of simulated kyphosis posture on swallowing and respiratory functions(タイトル和訳中) Journal of Physical Therapy Science. 2023.08; 35(8); 593-597

17. Katagiri, S; Ohsugi, Y; Shiba, T; Yoshimi, K; Nakagawa, K; Nagasawa, Y; Uchida, A; Liu, AH; Lin, PY; Tsukahara, Y; Iwata, T; Tohara, H. Homemade blenderized tube feeding improves gut microbiome communities in children with enteral nutrition FRONTIERS IN MICROBIOLOGY. 2023.08; 14; 1215236

18. Manabu Uchida, Kohei Yamaguchi, Tomoe Tamai, Kensuke Kobayashi, Haruka Tohara. Effects of simulated kyphosis posture on swallowing and respiratory functions Journal of Physical Therapy Science. 2023.07; 35(8); 593-597

19. Yoshimi K, Nakagawa K, Yamaguchi K, Nakane A, Hayashi M, Miyata R, Chiba Y, Tohara H. Factors Related to Oral Problems in Patients with Prolonged Disorders of Consciousness in Long-Term Care: A Cross-Sectional Study. Healthcare. 2023.06; 11(11); 1622

20. Tomoe Tamai, Kanako Yoshimi, Kazuharu Nakagawa, Ryosuke Yanagida, Takuma Okumura, Kohei Yamaguchi, Miki Ishii, Yuki Nagasawa, Haruka Tohara. Usefulness of a newly developed endoscope for the observation of the posterior tracheal wall Laryngoscope Investigative Otolaryngology. 2023.06; 8(4); 963-969

21. Yoshimi K, Nakagawa K, Yamaguchi K, Nakane A, Hayashi M, Miyata R, Chiba Y, Tohara H. Factors Related to Oral Problems in Patients with Prolonged Disorders of Consciousness in Long-Term Care: A Cross-Sectional Study. Healthcare (Basel, Switzerland). 2023.06; 11(11);

22. Yamaguchi K, Nakagawa K, Yoshimi K, Chantaramanee A, Nakane A, Ishii M, Hasegawa S, Tohara H . Association between characteristics of swallowing related muscles and trunk muscle mass Scientific Reports. 2023.05; 13(1);

23. Yamaguchi K, Nakagawa K, Yoshimi K, Ariya C, Nakane A, Ishii M, Hasegawa S, Tohara H. Association between characteristics of swallowing-related muscles and trunk muscle mass. Scientific reports. 2023.05; 13(1); 7814

24. Yamaguchi Kohei, Nakagawa Kazuharu, Yoshimi Kanako, Ariya Chantaramanee, Nakane Ayako, Okumura Takuma, Tohara Haruka. Higher extracellular water/total body water ratio is associated with lower tongue and grip strength: A cross-sectional study(タイトル和訳中) Journal of Prosthodontic Research. 2023.04; 67(2); 231-237

25. Yamaguchi Kohei, Nakagawa Kazuharu, Yoshimi Kanako, Ariya Chantaramanee, Nakane Ayako, Okumura Takuma, Tohara Haruka. Higher extracellular water/total body water ratio is associated with lower tongue and grip strength: A cross-sectional study(タイトル和訳中) Journal of Prosthodontic Research. 2023.04; 67(2); 231-237

26. Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Akira Yoshizawa, Kota Aritaki, Kohei Yamaguchi, Ayako Nakane, Haruka Tohara. The safety of oral rehydration solution jelly for water and electrolyte intake in patients with dysphagia Therapeutics and Clinical Risk Management. 2023.02;

27. Yanagida R, Hara K, Namiki C, Okumura T, Saiki A, Nakagawa K, Yamaguchi K, Yoshimi K, Nakane A, Mauclaire JM, Tohara H. Effects of tongue right positioner use on tongue pressure: a pilot study. Scientific reports. 2023.02; 13(1); 3289

28. Yamaguchi K, Nakagawa K, Yoshimi K, Ariya C, Nakane A, Ishii M, Hasegawa S, Tohara H. Associations of swallowing-related muscle quantity and quality with sarcopenic parameters. European geriatric medicine. 2023.02; 14(1); 195-201

29. Saiki A, Yoshimi K, Nakagawa K, Nagasawa Y, Yoshizawa A, Yanagida R, Yamaguchi K, Nakane A, Maeda K, Tohara H. Author Correction: Effects of thickened carbonated cola in older patients with dysphagia. Scientific reports. 2023.02; 13(1); 3015

30. Saiki A, Yoshimi K, Nakagawa K, Nagasawa Y, Yoshizawa A, Yanagida R, Yamaguchi K, Nakane A, Maeda K, Tohara H. Author Correction: Effects of thickened carbonated cola in older patients with dysphagia. Scientific reports. 2023.02; 13(1); 3015

31. Yamaguchi K, Nakagawa K, Yoshimi K, Chantaramanee A, Nakane A, Ishii M, Hasegawa S, Tohara H. Associations of swallowing related muscle quantity and quality with sarcopenic parameters European Geriatric Medicine. 2023.01;

32. Yamaguchi K, Nakagawa K, Yoshimi K, Ariya C, Nakane A, Ishii M, Hasegawa S, Tohara H. Associations of swallowing-related muscle quantity and quality with sarcopenic parameters. European geriatric medicine. 2023.01; 14(1); 195-201

33. 中根綾子、戸原玄. 口腔ケアで改善する嚥下機能（2） マウスピュアブランドサイト掲載コラム. 2023.01;

34. Akira Yoshizawa, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Motonori Hashimoto, Kota Aritaki, Miki Ishii, Kohei Yamaguchi, Ayako Nakane, Atsuyuki Kawabata, Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Masaomi Ikeda, Atsushi Okawa, Haruka Tohara. Analysis of swallowing function after anterior/posterior surgery for cervical degenerative disorders and factors related to the occurrence of postoperative dysphagia The Spine Journal. 2023;

35. Ozaki, K; Tohara, H; Baba, M; Teranaka, S; Kawai, Y; Komatsumoto, S. A Dentist-Led Oral Care System Can Prevent Stroke-Associated Pneumonia: The Effects of Early Intervention by Dental Team JOURNAL OF MULTIDISCIPLINARY HEALTHCARE. 2023; 16; 2937-2945

36. Kimura A, Yamaguchi K, Tohara H, Sato Y, Sawada N, Nakagawa Y, Matsuda Y, Inoue M, Wada Y, Tamaki K. Exploring Whether Weight-Related Cues Affect Food Intake in Older Adults with Dementia. Clinical interventions in aging. 2023; 18; 1453-1461

37. Kota Aritaki, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Akira Yoshizawa, Shohei Hasegawa, Ryosuke Yanagida, Motonori Hashimoto, Takashi Hirai, Kohei Yamaguchi, Ayako Nakane, Toshitaka Yoshii, Atsushi Okawa, Haruka Tohara . Kinematic analysis of chewing and swallowing function after cervical spine surgery European Spine Journal. 2023;

1. 山口浩平、三浦由佳、戸原玄. 嚥下エコー（筋量、筋質、咽頭残留、誤嚥） 日本ディサースリア臨床研究. 2023.12; 13(1); 48-53

2. 山口 浩平, 三浦 由佳, 戸原 玄. 【摂食嚥下障害の最新のトピックス: 機器を用いたアプローチ】総説　嚥下エコー (筋量, 筋質, 咽頭残留, 誤嚥) ディサースリア臨床研究. 2023.12; 13(1); 48-53

3. 宮地 舞. 臨床に役立つすぐれモノ　リング型パルスオキシメータ　チェックミーリング DENTAL DIAMOND. 2023.10; 48(13); 146-150

4. 宮地舞. My Way UCLA で学んだ「睡眠歯科」を実践 日本歯科新聞. 2023.10; (2271); 5

5. 宮地舞. さあ、睡眠歯科をはじめましょう！　第 3 回　睡眠×自費診療　睡眠歯科での自費口腔内装置の適応と実際 歯界展望. 2023.09; 142(3); 502-515

6. 宮地舞. 歯科に期待される閉塞性睡眠時無呼吸のスクリーニングと治療成功に導くコミュニケーションのポイント デンタルマガジン. 2023.09; 50-53

7. 宮地 舞, 葭澤 秀一郎, 奥野 健太郎. さあ, 睡眠歯科をはじめましょう!睡眠×○○で語る, 睡眠歯科の実際のところ (第 3 回)　睡眠×自費診療　睡眠歯科での自費口腔内装置の適応と実際 歯界展望. 2023.09; 142(3); 502-515

8. 宮地舞. 急成長を遂げる睡眠時無呼吸治療 ザクインテッセンス. 2023.08; (500); 224-225

9. Saito Mitsuko, Nakane Ayako, Asaumi Rieko, Kagifuku Yuko, Ishii Miki, Hasegawa Shohei, Yoshimi Kanako, Yamaguchi Kohei, Nakagawa Kazuharu, Hirai Hideaki, Kuroshima Takeshi, Tomioka Hirofumi, Tohara Haruka. Free-flap volume correlates with body mass index in patients with tongue squamous cell carcinoma LARYNGOSCOPE INVESTIGATIVE OTOLARYNGOLOGY. 2023.08;

10. 宮地舞. 睡眠歯科医に教わる　あご筋ケアで快眠に 日経ヘルス. 2023.07; 27(10); 44-49

11. Yoshimi Kanako, Nakagawa Kazuharu, Yamaguchi Kohei, Nakane Ayako, Hayashi Masaharu, Miyata Rie, Chiba Yumi, Tohara Haruka. Factors Related to Oral Problems in Patients with Prolonged Disorders of Consciousness in Long-Term Care: A Cross-Sectional Study HEALTHCARE. 2023.06; 11(11); 1622

12. Tamai Tomoe, Yoshimi Kanako, Nakagawa Kazuharu, Yanagida Ryosuke, Okumura Takuma, Yamaguchi Kohei, Ishii Miki, Nagasawa Yuki, Tohara Haruka. Usefulness of a newly developed endoscope for the observation of the posterior tracheal wall LARYNGOSCOPE INVESTIGATIVE OTOLARYNGOLOGY. 2023.06; 8(4); 963-969

13. Yamaguchi Kohei, Nakagawa Kazuharu, Yoshimi Kanako, Ariya Chantaramanee, Nakane Ayako, Ishii Miki, Hasegawa Shohei, Tohara Haruka. Association between characteristics of swallowing-related muscles and trunk muscle mass SCIENTIFIC REPORTS. 2023.05; 13(1); 7814

14. Nakayama Enri, Tohara Haruka, Sakai Mayu, Iida Masato, Abe Kimiko, Ueda Koichiro. Kinematic Features of Mandibular Movement during Mastication in Geriatric Individuals Who Are Provided with a Dysphagia Diet at Long-Term Care Facilities NUTRIENTS. 2023.05; 15(10); 2273

15. 山口 浩平, 戸原 玄. 【高齢者呼吸器疾患-診断 · 治療の最新動向-】歯科検診と高齢者口腔ケアの実際 日本臨床. 2023.05; 81(5); 675-679

16. 宮地舞. 留学記　カリフォルニア大学ロサンゼルス校　歯学部 東京医科歯科大学　歯科東京同窓会報. 2023.05; 39-43

17. 伊藤 加代子, 岩渕 博史, 土井田 誠, 戸原 玄, 戸谷 収二, 中川 洋一, 中村 誠司, 服部 佳功, 山内 智博, 山本 一彦, 渡部 茂, 4 学会合同口腔乾燥症用語 · 分類検討委員会. 2022 年口腔乾燥症の新分類　4 学会合同口腔乾燥症用語 · 分類検討委員会作成 (日本歯科薬物療法学会, 日本口腔内科学会, 日本老年歯科医学会, 日本口腔ケア学会) 歯科薬物療法. 2023.04; 42(1); 17-19

18. Ozaki Kenichiro, Nosaka Nobuyuki, Wakabayashi Kenji, Tohara Haruka. Intensive care education for dental students through online visits to ICU rounds JOURNAL OF DENTAL EDUCATION. 2023.04; 87 Suppl 3; 1822-1824

19. 鈴木啓之，日高玲奈，中川量晴，吉見佳奈子，中根綾子，戸原玄，水口俊介，古屋純一. 多職種連携医療における動画を用いた口腔内評価の有効性の検証 はち · まる · にい · まる. 2023.03; (22); 143-145

20. 鈴木 啓之, 日高 玲奈, 中川 量晴, 吉見 佳奈子, 中根 綾子, 戸原 玄, 水口 俊介, 古屋 純一. 多職種連携医療における動画を用いた口腔内評価の有効性の検証 8020: はち · まる · にい · まる. 2023.03; (22); 143-145

21. 長谷川 翔平, 戸原 玄. 【嚥下機能に着目した理学療法】フレイルとオーラルフレイル 理学療法ジャーナル. 2023.02; 57(2); 136-141

22. 戸田 花奈子, 山口 浩平. 連載最終回　思わず食べたくなる??　心理学 · 行動経済学の視点から考える”食”の支援 (第 5 回)　未来志向の歯科衛生士になろう　より活躍できる歯科衛生士になるための Tips デンタルハイジーン. 2023.02; 43(2); 199-201

23. Nakagawa Kazuharu, Yoshimi Kanako, Yoshizawa Akira, Aritaki Kota, Yamaguchi Kohei, Nakane Ayako, Tohara Haruka. The Safety of Oral Rehydration Solution Jelly for Water and Electrolyte Intake in Patients with Dysphagia THERAPEUTICS AND CLINICAL RISK MANAGEMENT. 2023; 19; 219-227

[書籍等出版物]

1. 石井美紀，中川量晴，戸原玄. 脳神経内科疾患の摂食嚥下 · 栄養ケアハンドブック　患者 · 家族とケアスタッフのための手引きと Q & A. 医歯薬出版株式会社, 2023.11

2. 一般社団法人日本老年歯科医学会. 吉見佳那子, よくわかる歯科訪問診療. 永末書店, 2023.06

3. 倉田なおみ. 吉見佳那子, 中川量晴, 戸原 玄, 介護施設 · 在宅医療のための 食事状況から導く、薬の飲み方ガイド. 株式会社社会保険研究所, 2023.05

4. 倉田なおみ. 吉見佳那子, 中川量晴, 戸原玄, 介護施設 · 在宅医療のための「食事状況から導く、薬の飲み方ガイド」. 株式会社社会保険研究所, 2023.05

5. 倉田なおみ. 中川量晴, 吉見佳那子, 戸原 玄, 介護施設 · 在宅医療のための「食事状況から導く、薬の飲み方ガイド」. 株式会社社会保険研究所, 2023.05

6. 長澤　祐季, 中川量晴, 戸原玄. 介護施設 · 在宅医療のための食事状況方導く、薬の飲み方ガイド. 社会保険研究所, 2023.05

7. 一般社団法人　日本臨床栄養代謝学会. 日本臨床栄養代謝学会　栄養療法ポケットブック. 2023.05

8. 戸原玄. よくわかる高齢者歯科学. 永末書店, 2023.02

9. 戸原玄. 歯科衛生学シリーズ高齢者歯科　第 1 版. 医歯薬出版, 2023.02

10. 吉見佳那子, 松原ちあき, 戸原玄, 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修. 高齢者歯科学. 医歯薬出版株式会社, 2023.01

11. 吉見佳那子, 中川量晴, 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修. 高齢者歯科学. 医歯薬出版株式会社, 2023.01

12. 中川量晴, 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会. 医歯薬出版, 2023

13. 中川量晴. 令和 3 年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健増進事業），介護保険施設における歯科専門職による口腔管理に関する調査研究事業. 日本老年歯科医学会, 2023

14. 中川量晴. 令和 3 年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健増進事業），施設系サービス利用者等の口腔衛生等の管理に関する調査研究事業. . 日本老年歯科医学会, 2023

15. 松尾浩一郎編著，原豪志，戸原玄. 若手歯科医師のための高齢者歯科ハンドブック. 医歯薬出版,

16. 戸原玄，須佐千明. 歯科衛生士のための口腔機能管理マニュアル高齢者編. 医歯薬出版,

[総説]

1. Yoshimi K, Nakagawa K, Yamaguchi K, Nagasawa Y, Tohara H. Effect of Combined Oral Management, Rehabilitation, and Nutrition Interventions on Improving Systemic Problems in Older Adults Current Oral Heath Report. 2023.07; 10; 81-87

1. 中川量晴. 摂食嚥下診療における遠隔診療 JOHNS. 2023.09; 39(10); 1241-1244

2. 発声支援デバイスの制御を目的とした手のジェスチャに関する社会的受容性の調査 DICOMO,2023. 2023.07; 1319 -1327

3. 吉見佳那子, 中川量晴. 嚥下障害患者へのリハビリテーションと支援 リハビリテーション · エンジニアリング. 2023.05; 38(2); 54-57

4. 中川量晴. 摂食嚥下障害とリハビリテーション最前線 月刊糖尿病ライフさかえ, 公益社団法人日本糖尿病協会. 2023.04; 63(4); 17-21

5. 長谷川　翔平，戸原　玄. フレイルとオーラルフレイル 理学療法ジャーナル. 2023.02; 57(2); 136-141

[講演・口頭発表等]

1. Rieko Moritoyo, Kazuharu Nakagawa, Kohei Yamaguchi, Kanako Yoshimi, Ryosuke Yanagida, Chizuru Namiki, Haruka Tohara. Effects of Telemedicine in Dysphagia Rehabilitation in the Period of Discontinued of Home-Visit Medical Care during the COVID-19 Pandemic. ESSD 2023 13th Annual Congress 2023.12.01 Toulouse, France

2. Chizuru Namiki, Koji Hara, Ryosuke Yanagida, Kenichiro Kobayashi, Kazuharu Nakagawa, Kohei Yamaguchi, Kanako Yoshimi, Yuuki Nagasawa, Rieko Moritoyo, Haruka Tohara. Development of a saliva suction system using a dental mouthpiece to prevent saliva aspiration : a case report. European society for Swallowing Disorders 2023.12.01 Toulouse France

3. Sirinthip Amornsuradech, Kohei Yamaguchi, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Rieko Moritoyo , Haruka Tohara. Aging and oral function relate to masseter muscle quality, and quantity but not stiffness . European Society of Swallowing Disorder 13th Annual Congress 2023.12.01 Toulouse, France

4. Ryota Kanai, Kazuharu Nakagawa, Tomoe Tamai, Sirinthip Amornsuradech, Yui Yoshizumi, Kanako Yoshimi, Kohei Yamaguchi, Haruka Tohara. Thorough observation of posterior tracheal wall with a flexible two-step angulated endoscope- three case reports. European Society for Swallowing Disorders 2023.12.01 Toulouse,France

5. Kanako Yoshimi, Kazuharu Nakagawa, Toru Yamada, Takahiro Shinohara, Shuji Ouchi, Mitsuko Saito, Ayane Horike, Haruka Tohara. Relationship between respiratory and swallowing function in older patients with dysphagia . ESSD 2023 13th Annual Congress 2023.11.30 Toulouse, France

6. Ryosuke Yanagida, Kohei Yamaguchi, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Yuki Nagasawa, Takami Hino, Ayumi Kisara, Haruka Tohara. Association between obstructive sleep apnea and oral health status in post-stroke patients with dysphagia. The 1st International Conference of Asian Dysphagia Society 2023.11.10 Suwon, Korea

7. Rieko Moritoyo, Kohei Yamaguchi, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Ryosuke Yanagida, Sirinthip Amornsuradech, Ryota Kanai, Haruka Tohara. Relationship between Oral Hypofunction and masseter muscle characteristics. ADS 2023 International Conference 2023.11.09 Suwon Convention Center, Vicinity of Seoul, Korea

8. Yamaguchi K, Yanagida R, Nakagawa K,Yoshimi K, Nagasawa Y, Hino T, Kisara A, Tohara H. Prevalence and Correlation of Dysphagia and Obstructive Sleep Apnea In Post-Stroke Patients at a Rehabilitation Hospital. Asian Dysphagia Society 2023.11.09

9. Sirinthip Amornsuradech,Kohei Yamaguchi, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Rieko Moritoyo, Haruka Tohara. Relationship between age, geniohyoid and trunk muscle characteristics. ADS 2023 The 1st International Conference of the Asian Dysphagia Society 2023.11.09 Suwon, Korea

10. Komori Sayaka, Yamaguchi Kohei, Nakagawa Kazuharu, Yoshimi kanako, Yanagida Ryosuke, Amornsuradech Sirinthip, Tohara Haruka. Six-month change in oral intake scale of older people requiring long-term care who underwent videoendoscopic evaluation of swallowing in home-visit dental care. The 1st International Conference of Asian Dysphagia Society 2023.11.08 Venue Suwon Convention Center, Vicinity of Seoul, Korea

11. Kazuharu Nakagawa, Sirinthip Amornsuradech. Role of dentists in dysphagia management :Exchanges between Thailand and Japan. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.03 横浜

12. 住吉幸子, 吉見佳那子, 中川量晴, 山口浩平, 雨宮輝美, 有本正子, 戸原 玄. 訪問診療での胃ろう患者への食支援から、外出支援に繋げられた症例. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.02 横浜

13. 今田良子, 山口浩平, 柳田陵介, 長澤祐季, 中川量晴, 吉見佳那子, 戸原玄. 高齢誤嚥性肺炎患者における、入院時の口腔衛生状態が在院期間に与える影響. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.02 パシフィコ横浜

14. Ryosuke Yanagida. Sleep apnea is a complication in post-stroke patients with dysphagia. . 第 18 回先端歯学スクール 2023 2023.08.25 Tokushima, Japan

15. Ryosuke Yanagida, Kohei Yamaguchi, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Ayako Nakane, Haruka Tohara. Sleep-disordered breathing is a complication in post-stroke patients with dysphagia.. 101st General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research 2023.06.22 Bogota, Columbia

16. Ryosuke Yanagida, Kohei Yamaguchi, Kazuharu Nakagawa, Chantaramanee Ariya, Patcharaphol Samnieng, Sirinthip Amorsuradech, Kanako Yoshimi, Ayako Nakane, Haruka Tohara. Investigations and activities on Oral Hypofunction in Thailand. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023 2023.06.14

17. Ryosuke Yanagida, Kohei Yamaguchi, Kazuharu Nakagawa, Chantaramanee Ariya, Patcharaphol Samnieng, Rieko Moritoyo, Sirinthip Amornsuradech, Kanako Yoshimi, Haruka Tohara. International comparison of oral function among community-dwelling older adults between Thailand and Japan.. FDCU International Symposium 2023 2023.05.23 Bangkok, Thailand

18. Ryosuke Yanagida;Kohei Yamaguchi;Kazuharu Nakagawa;Kanako Yoshimi;Ayako Nakane;Haruka Tohara. Association between sleep-disordered breathing and oral problem in post-stroke patients with dysphagia. The 3rd Annual Meeting of the International Society of Oral Care 2023.04.21 Tokyo, Japan

19. Yanagida Ryosuke, Yamaguchi Kohei, Nakagawa Kazuharu, Yoshimi Kanako, Nakane Ayako, Tohara Haruka. 脳卒中後の嚥下障害患者における睡眠呼吸障害と口腔内問題の関連性 (Association between sleep-disordered breathing and oral problem in post-stroke patients with dysphagia). 日本口腔ケア学会雑誌 2023.04.01

20. Yanagida Ryosuke, Yamaguchi Kohei, Nakagawa Kazuharu, Yoshimi Kanako, Nakane Ayako, Tohara Haruka. 脳卒中後の嚥下障害患者における睡眠呼吸障害と口腔内問題の関連性 (Association between sleep-disordered breathing and oral problem in post-stroke patients with dysphagia). 日本口腔ケア学会雑誌 2023.04.01

21. Yamada Taishi, Yamaguchi Kohei, Nakagawa Kazuharu, Horike Ayane, Hasegawa Shohei, Ishii Miki, Tohara Haruka. 新規のマウスピース型電気式人工喉頭である「ボイスリトリーバー」は発声に関連した生活の質を改善する (A novel mouthpiece-shaped electrolarynx "Voice Retriever" improves voice-related quality of life). 口腔病学会雑誌 2023.03.01

22. Yamada Taishi, Yamaguchi Kohei, Nakagawa Kazuharu, Horike Ayane, Hasegawa Shohei, Ishii Miki, Tohara Haruka. 新規のマウスピース型電気式人工喉頭である「ボイスリトリーバー」は発声に関連した生活の質を改善する (A novel mouthpiece-shaped electrolarynx "Voice Retriever" improves voice-related quality of life). 口腔病学会雑誌 2023.03.01

1. 真山達也, 中川量晴, 吉見佳那子, 長澤祐季, 森豊理英子, 山口浩平, 戸原 玄. 発酵漬物による腸内細菌叢変化の解析. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京医科歯科大学　歯学部特別講堂

2. 宮地舞. 閉塞性睡眠時無呼吸の改善に向けた口腔内装置による睡眠歯科治療. 東京医科歯科大学歯科同窓会　令和 5 年度第 3 回学術講演会 2023.11.14

3. 長澤祐季. 経口摂取と腸内細菌の可能性. 第 23 回日本訪問歯科医学会 2023.11.12 東京

4. 玉井斗萌. 気管後壁の観察が可能となった新たな嚥下内視鏡. 第 23 回日本訪問歯科医学会 2023.11.12 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

5. 吉見佳那子, 中川量晴, 石井美紀, 戸原 玄. 在宅で経管栄養管理をする医療ケア児の「胃ろう食」に関する報告. 第 40 回日本障害者歯科学会学術大会 2023.11.11 札幌

6. 真山達也, 中川量晴, 吉見佳那子, 森豊理英子, 戸原 玄. 障害者が摂取しやすい発酵漬物を用いた腸内細菌叢の解析. 第 40 回日本障害者歯科学会学術大会 2023.11.11 ロイトン札幌

7. 宮地舞. 患者の QOL 向上に貢献する！ OSA 閉塞性睡眠時無呼吸の睡眠歯科治療. 令和 5 年度第 2 回浦和歯科医師会学術講演会 2023.11.10

8. 宮地舞. 臨床に役立つ閉塞性睡眠時無呼吸セミナー. 2023.10.22

9. 宮地舞. 睡眠呼吸障害の改善に向けた口腔内装置による最前線の歯科的治療. 第 9 回日本国際歯科大会 2023.09.23 パシフィコ横浜

10. 宮地舞. 実地歯科における睡眠歯科遠隔診療の臨床と実際. 日本睡眠学会第 45 回定期学術集会 · 第 30 回日本時間生物学会学術大会　合同大会 2023.09.15 パシフィコ横浜　ノース

11. 小池奈歩, 坂本裕彦, 西田明子, 中川量晴. 食道がん 2 期手術に向けたリハビリテーションの指標の作成. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.03 横浜

12. 中川量晴. 歯科領域でのオンライン診療の実際　東京-静岡間での摂食嚥下支援. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.03 横浜

13. 金井亮太、山口浩平、元木康介、森豊理英子、吉見佳那子、 中川量晴、戸原玄. 健常高齢者における視覚-味覚の 感覚間協応 . 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.03 パシフィコ横浜ノース

14. 柳田陵介, 山口浩平, 中川量晴, 吉見佳那子,Sirinthip Amornsuradech, 戸原 玄. タイへの短期留学で得られたもの. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.03 横浜

15. 有瀧航太，中川量晴，吉澤 彰，齋木章乃，柳田陵介，吉見佳那子，山口浩平，中根綾子，戸原 玄. 頸椎前方手術を受けた患者の咀嚼嚥下機能に関する運動学的解析 . 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.03 神奈川県横浜市

16. 内田　有俊、中川　量晴、長澤　祐季、吉見　佳那子　、山口　浩平、戸原　玄. 社会的孤立モデル動物の活動性、筋量変化に影響する因子の検討　. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 2023.09.03 パシフィコ横浜ノース

17. 新井 慎, 鈴木瑞恵, 橋本幸成, 中川量晴. 口腔ケア自立者の口腔衛生状態は良好に保持できているのか—BDR 指標を用いた後方視点的検討—. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.03 横浜

18. 金 志純, 小山珠美, 高橋瑞保, 小森彩加, 中川量晴. 食べる事を禁止されたパーキンソン病高齢者が包括的支援によりステップアップできた一例. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.03

19. 真山達也, 中川量晴, 吉見佳那子, 中村優一, 長澤祐季, 森豊理英子, 山口浩平, 戸原 玄. 発酵漬物による腸内細菌叢変化の解析. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.02 パシフィコ横浜

20. 戸田花奈子, 山口浩平, 佐々木周作, 戸原玄, 品田佳世子. 地域在住高齢者を対象とした「先延ばし」傾向と口腔衛生および口腔機能との関連. 医療経済学会第 18 回研究討論会 2023.09.02 千葉

21. 吉見佳那子, 中川量晴, 長澤祐季, 内田有俊, 石井美紀, 山口浩平, 久保詩織, 戸原 玄. 医療的ケアが必要な児の「胃ろう食」に関する調査報告. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.02 横浜

22. 中澤貴士, 吉見佳那子, 中川量晴, 大原里子, 高田健人, 梶井文子, 吉池信男, 戸原 玄. 咬む力が低下した人に適切な食事形態は何か. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.02 横浜

23. 長澤 祐季，中川 量晴，吉見 佳那子，内田 有俊，山口 浩平，片桐 さやか，戸原 玄. 「胃ろう食」の摂取が小児嚥下障害患者のおよび口腔 · 腸内細菌叢に与える影響. 第 29 回日本摂食嚥下 リハビリテーション学会学術大会 2023.09.02

24. 齋木章乃, 吉見佳那子, 長澤祐季, 山田大志, 内田有俊, 金井亮太, 住吉幸子, 中川量晴, 戸原玄. 上口唇癌術後患者に対する摂食嚥下リハビリテーション介入により健康関連 QOL が改善した 1 例. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.02

25. 並木千鶴, 原豪志, 小林健一郎, 柳田陵介, 戸原玄. 唾液持続吸引マウスピースの効果と介護者の使用感. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 2023.09.02 鉾浜

26. 小西恵巳, 戸原玄. 食べることが困難な在宅療養児の親の経験（中間報告）. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2023.09.02 神奈川県横浜市

27. 宮地 舞. 「気道を考慮した口腔内装置作製へ向けて」　睡眠歯科臨床における咬合採得の実際. 睡眠口腔医学 2023.09.01

28. 宮地 舞. これからの睡眠遠隔医療を議論する～コロナ禍に進んだ遠隔医療の体制と課題～　実地歯科における睡眠歯科遠隔診療の臨床と実際. 日本睡眠学会定期学術集会 · 日本時間生物学会学術大会合同大会プログラム · 抄録集 2023.09.01

29. 宮地 舞. 閉塞性睡眠時無呼吸の改善に向けた口腔内装置による睡眠歯科治療. 歯界月報 2023.08.01

30. 宮地舞. 睡眠歯科医療導入実践編医科からの紹介後から口腔内装置のメインテナンスまで. 2023.08.01

31. 中川量晴. 人と生活を支える訪問での摂食嚥下の診療. 一般社団法人日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023.06.18 横浜

32. 内田　有俊、中川　量晴、長澤　祐季、吉見　佳那子、山口　浩平、戸原　玄. 社会的孤立モデル動物の活動性、筋量変化に影響する因子の検討. 2023.06.18 パシフィコ横浜ノース

33. 中川量晴. 人と生活を支える訪問での摂食嚥下の診療. 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023.06.18 横浜

34. 森豊 理英子、中川 量晴、山口 浩平、長谷川 翔平、吉見 佳那子、石井 美紀、柳田 陵介、戸原 玄. 機能的咬合支持のない要介護高齢者の閉口力と食事形態分類の関連. 一般社団法人 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023.06.17 パシフィコ横浜 (ノース)

35. 柳原有依子. タブレット端末を用いて撮影した口腔内動画上での多職種による口腔環境評価の有用性. 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023.06.17 横浜

36. 山口浩平, 今田良子, 中川量晴, 吉見佳那子, 長谷川翔平, 戸原玄. 高齢誤嚥性肺炎患者における、繰り返す肺炎が経口摂取度に与える影響. 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023.06.17

37. 堀家彩音, 中根綾子, 山田大志, 山口浩平, 吉見佳那子, 中川量晴, 戸原玄. アプリ版 Voice Retriever 使用前後の V-RQOL の変化と使用感に関する症例報告. 2023.06.17

38. 長澤祐季, 中川量晴. 多系統萎縮症患者に対して在宅で看取るまで食を通して支援した症例. 老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023.06.16 パシフィコ横浜

39. 並木千鶴. 認知症高齢者が入院により経管栄養管理となったが 退院後 3 食経口摂取可能となり栄養状態を回復した症例. 一般社団法人日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023.06.16 パシフィコ横浜

40. 原　良子. 複数回にわたる窒息既往の高齢者が 摂食嚥下リハビリテーションおよび多職種連携により, 安全に経口摂取可能となった一例 . 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023.06.16 パシフィコ横浜

41. 宮地舞. 歯科臨床における口腔内装置を利用した閉塞性睡眠時無呼吸治療概論. 日本臨床歯科医学会東京支部第 1 回例会 2023.06.04 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター Hall WEST

42. 尾崎 研一郎, 野坂 宜之, 三島 有華, 鵜川 豊世武, 山内 英雄, 奥村 拓真, 吉澤 彰, 雨宮 輝美, 若林 健二, 戸原玄. ICU での多職種回診を用いた歯学部学生への臨床実習. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01

43. 堀家 彩音, 中根 綾子, 山田 大志, 山口 浩平, 吉見 佳那子, 中川 量晴, 戸原 玄. アプリ版 Vioce Retriever 使用前後の V-RQOL の変化と使用感に関する症例報告. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2023.06.01

44. 柳原 有依子, 鈴木 啓之, 古屋 純一, 中川 量晴, 中根 綾子, 吉見 佳那子, 戸原 玄, 水口 俊介. タブレット端末を用いて撮影した口腔内動画上での多職種による口腔環境評価の有用性. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2023.06.01

45. 尾崎 研一郎, 野坂 宜之, 三島 有華, 鵜川 豊世武, 山内 英雄, 奥村 拓真, 吉澤 彰, 雨宮 輝美, 若林 健二, 戸原玄. ICU での多職種回診を用いた歯学部学生への臨床実習. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01

46. 堀家 彩音, 中根 綾子, 山田 大志, 山口 浩平, 吉見 佳那子, 中川 量晴, 戸原 玄. アプリ版 Vioce Retriever 使用前後の V-RQOL の変化と使用感に関する症例報告. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2023.06.01

47. 柳原 有依子, 鈴木 啓之, 古屋 純一, 中川 量晴, 中根 綾子, 吉見 佳那子, 戸原 玄, 水口 俊介. タブレット端末を用いて撮影した口腔内動画上での多職種による口腔環境評価の有用性. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2023.06.01

48. 並木千鶴，中川量晴，佐川俊彦， 中根綾子，山口浩平，吉見佳那子， 戸原玄，早田邦康. 療養型病床にて歯科介入により経口摂取可能となり配偶者と同じ施設への入所が実現できた症例. 第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 2023.05.10 神戸国際会議場

49. 森豊理英子，中川量晴，長谷川翔平， 石井美紀，山口浩平，吉見佳那子，中根綾子，戸原 玄. 閉口力は機能的咬合支持のない要介護高齢者の食事形態の決定に有用か. 第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 2023.05.09 神戸コンベンションセンター

50. 石橋 尚基, 小串 健志, 日野 多加美, 大嶋 晶子, 山口 浩平, 戸原 玄, 松元 秀次. オンラインでのミールラウンド支援を含む遠隔教育プログラムの活動報告. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2023.05.01

51. 石橋 尚基, 小串 健志, 日野 多加美, 大嶋 晶子, 山口 浩平, 戸原 玄, 松元 秀次. オンラインでのミールラウンド支援を含む遠隔教育プログラムの活動報告. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2023.05.01

52. 柳田 陵介, 山口 浩平, 中川 量晴, 吉見 佳那子, 中根 綾子, 戸原 玄. 脳卒中後の嚥下障害患者における睡眠呼吸障害と口腔問題の関連. 日本口腔ケア学会雑誌 2023.04.01
53. 大橋 三広, 戸原 玄, 奥村 拓真, 阿部 仁子, 大久保 勝久, 角田 愛美. 訪問リハ療法士と訪問歯科医の連携に関する一考察. 日本口腔ケア学会雑誌 2023.04.01
54. 柳田 陵介, 山口 浩平, 中川 量晴, 吉見 佳那子, 中根 綾子, 戸原 玄. 脳卒中後の嚥下障害患者における睡眠呼吸障害と口腔問題の関連. 日本口腔ケア学会雑誌 2023.04.01
55. 村瀬 玲奈, 中根 綾子, 中川 量晴, 山口 浩平, 石井 美紀, 原 良子, 戸原 玄. 頭部単純 CT 所見と咳テストの結果の関連性. 口腔病学会雑誌 2023.03.01
56. 村瀬 玲奈, 中根 綾子, 中川 量晴, 山口 浩平, 石井 美紀, 原 良子, 戸原 玄. 頭部単純 CT 所見と咳テストの結果の関連性. 口腔病学会雑誌 2023.03.01
57. 石井 美紀, 中川 量晴, 長谷川 翔平, 山口 浩平, 吉見 佳那子, 中根 綾子, 戸原 玄. 高齢のど自慢出演者は食べる機能が維持されているか. 口腔病学会雑誌 2023.03.01
58. 宮地舞. 気道に対する睡眠歯科的アプローチ！ 口腔内装置製作のための術前検査と咬合採得. 2023.02.14
59. 吉見佳那子. 多職種連携への AI や ICT の活用と口腔ケア. 第 24 回日本口腔ケア協会学術大会 2023.02.11 東京
60. 戸原 玄. 摂食嚥下機能の診断とリハビリテーション. 大阪府歯科医師会雑誌 2023.01.01

[特許]

1. Voice Retriever(ロゴ（図形商標＋文字商標）), 特許番号：商標登録第 6677430 号
2. Voice Retriever（文字商標）, 特許番号：商標登録第 6679676 号

[Works]

1. 摂食嚥下関連医療資源マップ, データベース

[受賞]

1. 令和 4 年度浜松市医療奨励賞, 浜松市, 2023 年 01 月
2. 課題口演賞（柳原有依子）, 日本老年歯科医学会, 2023 年 06 月
3. 優秀論文賞, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 2023 年 09 月
4. Oral Presentation Award, 2023 年 11 月
5. Travel Award, 2023 年 11 月

[その他業績]

1. 「　高齢嚥下障害患者に対するとろみ付き炭酸飲料の効果の検証　」 -とろみ付き炭酸飲料には嚥下改善効果がある-, 2023 年 02 月
   Scientific Reports
2. 「　高齢嚥下障害患者に対するとろみ付き炭酸飲料の効果の検証　」 -とろみ付き炭酸飲料には嚥下改善効果がある-, 2023 年 02 月
   Scientific Reports
3. 「　高齢嚥下障害患者に対するとろみ付き炭酸飲料の効果の検証　」 -とろみ付き炭酸飲料には嚥下改善効果がある-, 2023 年 02 月
   Scientific Reports
4. 「　高齢嚥下障害患者に対するとろみ付き炭酸飲料の効果の検証　」 -とろみ付き炭酸飲料には嚥下改善効果がある-, 2023 年 02 月
   Scientific Reports

5. 摂食嚥下障害を持つ子どもを起点に開発 誰もが食事を楽しめる「インクルーシブフード」の完成披露会を開催, 2023 年 02 月
—

6. 中根綾子　在宅療養患者の摂食嚥下機能と他者との交流や笑いの頻度とストレ スの関係について, 2023 年 03 月
在宅医療等推進のための調査研究等への助成（後期）【論文枠】一般公募「在宅医療推進のための研究」

7. 「頸椎変性疾患術後に起こる嚥下障害の要因を検討」 —　頸椎疾患に対する前方 · 後方アプローチ術前後の嚥下動態解析　—, 2023 年 03 月
The Spine Journal

8. 「頸椎変性疾患術後に起こる嚥下障害の要因を検討」 —　頸椎疾患に対する前方 · 後方アプローチ術前後の嚥下動態解析　—, 2023 年 03 月
The Spine Journal

9. 「頸椎変性疾患術後に起こる嚥下障害の要因を検討」 —　頸椎疾患に対する前方 · 後方アプローチ術前後の嚥下動態解析　—, 2023 年 03 月
The Spine Journal

10. 「タング · ライト · ポジショナーの舌圧に対する影響を解明」 —　舌の新たなトレーニング方法として期待　—, 2023 年 03 月
Scientific Reports

11. 「タング · ライト · ポジショナーの舌圧に対する影響を解明」 —　舌の新たなトレーニング方法として期待　—, 2023 年 03 月
Scientific Reports

12. 吉見佳那子, 回復期リハビリテーション病院入院患者に対する歯科口腔管理のエビデンス構築, 2023 年 04 月

13. 鈴木啓之　公益財団法人 8020 推進財団　令和 5 年度 8020 公募研究課題, 2023 年 04 月
癌終末期患者に対する多職種連携型の口腔管理の効果の検討

14. 「手作りの胃ろう食が小児の腸内細菌叢と口腔内細菌叢の組成に寄与する」 —胃ろうから手作りの食事で楽しく健康に—, 2023 年 08 月
Frontiers in microbiology

15. 「手作りの胃ろう食が小児の腸内細菌叢と口腔内細菌叢の組成に寄与する」 —胃ろうから手作りの食事で楽しく健康に—, 2023 年 08 月
Frontiers in microbiology

[社会貢献活動]

1. 医科—歯科連携実証検討委員会委員, 厚生労働省, 2020 年 - 現在

2. 医科—歯科連携実証検討委員会委員, 厚生労働省, 2020 年 - 現在

3. 外からではわかりにくい嚥下障害を見極める, 免疫力＆歯みがき入門, プレジデント社, PRESIDENT MOOK, 2021 年 09 月 21 日 - 現在

4. 外からではわかりにくい嚥下障害を見極める, 免疫力＆歯みがき入門, プレジデント社, PRESIDENT MOOK, 2021 年 09 月 21 日 - 現在

5. とろみ調整食品の基礎知識　監修, 株式会社フードケア, 小冊子シリーズ, 2022 年 09 月 16 日 - 2023 年 03 月 31 日

6. 日本のイノベーションの火を消さないために, 株式会社メディアジーン, Business Insider Japan, 2022 年 10 月 19 日 - 2023 年 02 月 28 日

7. 「摂食嚥下障害とリハビリテーション最前線」への執筆, 株式会社時事通信出版局, 月間糖尿病ライフさかえ, 2022 年 10 月 28 日 - 2023 年 04 月 01 日

8. ドクターごとうの“熱血訪問クリニック”, 株式会社メディア · アート · ラッシュ, ドクターごとうの“熱血訪問クリニック”, 2022 年 11 月 30 日 - 2023 年 01 月 15 日

9. とろみ付き炭酸飲料の試飲, メディバンクス株式会社, ナースマガジン 42 号, 2022 年 12 月 23 日 - 2023 年 01 月 25 日
10. 中川量晴, 吉見佳那子, 戸原 玄, 嚥下リハを生活の中に取り入れる, （株）大塚製薬工場, Otsuka Nutrition Webinar, web, 2023 年
11. 中川量晴, 乳児期から幼児期の食べる機能, 日本咀嚼学会, （株）LOTTE, 第 29 回咀嚼と健康ファミリーフォーラム, オンデマンド配信, 2023 年
12. 中川量晴, 「口腔衛生等管理」の実施について, 一般社団法人日本摂食支援協会, オンデマンド配信, 2023 年 - 現在
13. Voice Retriever について, テレビ東京, 2023 年 01 月 15 日 - 2023 年 03 月 12 日
14. 中川量晴, 障害のある方の摂食嚥下および食べ方の発達支援について, 東京都多摩府中保健所, web, 2023 年 02 月 01 日
15. 誰もが外食も楽しめる社会に。インクルーシブフードの最前線, 編集プロダクション ムーブ, TOKYO UPDATES, 2023 年 02 月 07 日 - 2023 年 03 月 31 日
16. 3D フードプリンターで実現する食のダイバーシティー, 角川アスキー総合研究所, InnoUvators, 2023 年 02 月 13 日 - 2023 年 03 月 31 日
17. 中川量晴, 嚥下機能を保つための新展開 在宅介護の食支援に役立つ新しい知見, 在宅介護研修会, 伊賀, 2023 年 02 月 19 日
18. 訪問診療における摂食嚥下治療の重要性について, 一般社団法人　日本訪問歯科協会, 一般社団法人　日本訪問歯科協会ホームページ, 2023 年 02 月 20 日 - 現在
19. 吉見佳那子, これからの摂食嚥下のあり方とは？ Part 2, ワンディ株式会社, 戸原ゼミ, 2023 年 03 月 - 現在
20. 中川量晴, 摂食嚥下診療の極意, ワンディー株式会社, 戸原ゼミ, オンデマンド配信, 2023 年 03 月 - 現在
21. 「飲み込みがしづらい」記事改定　監修依頼, メディカルノート, Medical Note, 2023 年 03 月 10 日 -2023 年 03 月 17 日
22. 中川量晴, 歯科訪問診療での嚥下障害診療の新展開, 一般社団法人横浜市歯科医師会, 2023 年 03 月 23 日
23. 吉見佳那子, KG 関東栄養科第 27 回定期勉強会, 一般社団法人巨樹の会, web, 2023 年 03 月 29 日
24. 「Voice Retriever」開発者インタビュー, BS フジ, 知りたい　SDGs, 2023 年 04 月 18 日 - 現在
25. 「Voice Retriever」インタビュー, BS フジ, 知りたい　SDGs, 2023 年 04 月 18 日 - 現在
26. 子供向けの嚥下食について, 読売新聞社, 中部支社の社会面、もしくは県内版, 2023 年 05 月 02 日 - 2023 年 05 月 03 日
27. 摂食嚥下障害の現状と課題について, NHK, 未定, 2023 年 05 月 08 日 - 現在
28. 「Voice Rrtriever」の開発状況について, 読売新聞社, 読売新聞, 2023 年 05 月 17 日 - 2023 年 06 月 30 日
29. 中川量晴, 「口腔機能の管理-食べる機能を維持するために」「高齢者の心身の特性」, 一般社団法人日本摂食支援協会, 東京, 2023 年 06 月 18 日
30. Voice Retriever について, 日本テレビ, 博士は今日も嫉妬する, 2023 年 06 月 26 日 - 2023 年 08 月 06 日
31. 摂食嚥下機能が落ちた人の食事, 朝日新聞, 朝日新聞, 2023 年 06 月 27 日 - 2023 年 07 月 31 日
32. 噛む力と飲み込む力の低下兆候とその予防, 株式会社日経 BP, 日経 Gooday, 2023 年 06 月 29 日 - 2023 年 09月 21 日
33. 高齢者の嚥下機能の衰えについて, BS 朝日, 草野仁の名医が寄りそうカラダ若返り TV, 2023 年 07 月 10 日 - 2023 年 07 月 24 日
34. オーラルフレイルを防ぎ摂食嚥下障害に対処, 株式会社ドラッグマガジン, 月刊ことぶき 9 月号, 2023 年 07 月 13 日 - 2023 年 08 月 20 日

35. 声帯を失った方に対する取組, 株式会社 The Elements, Inclusive Hub, 2023 年 07 月 27 日 - 2023 年 08 月 31 日
36. 声帯を失った方に対する取組, 株式会社 The Elements, Inclusive Hub, 2023 年 07 月 27 日 - 現在
37. Voice Retriever の現状, 時事通信社, 地方紙, 2023 年 07 月 28 日 - 2023 年 08 月 31 日
38. 中川量晴, 摂食嚥下リハビリテーションの新しい形, 一般社団法人福島県歯科衛生士会, web, 2023 年 07 月 30 日
39. 中川量晴, 摂食嚥下臨床の基本, 一般社団法人日本摂食支援協会, オンデマンド配信, 2023 年 08 月 01 日 - 現在
40. 嚥下障害について（堀江貴文の『金を使うならカラダに使え』）, 株式会社 幻冬舎, GOETHE, 2023 年 08 月 23 日 - 2023 年 09 月 25 日
41. 中川量晴, 「生活」の中に食べる機能を維持するリハビリを取り入れよう, 公益社団法人三重県歯科医師会, 三重県歯科医師会館, 2023 年 08 月 27 日
42. 吉見佳那子, 一般社団法人日本摂食支援協会施設基準研修会, 一般社団法人日本摂食支援協会, 2023 年 09 月 03 日
43. 胃ろう食と口や便の細菌について, 読売新聞社, 読売新聞, 2023 年 09 月 06 日 - 現在
44. 吉見佳那子, 胃ろう食と口や便の細菌について, 読売新聞社, 読売新聞, 2023 年 09 月 06 日 - 現在
45. 長澤祐季, 2025 年待ったなし！ 地域包括ケアに必要な歯科医療スキルを学-口腔機能低下症 · 摂食嚥下障害にどう対応するか-, 特定非営利活動法人　日本 · アジア健康科学支援機構, 日本歯科大学生命歯学部 7 階臨床実習室, 2023 年 09 月 10 日
46. 吉見佳那子, 中川量晴, 嚥下障害患者への新たなアプローチ-生活の中で継続できる嚥下障害の対策、より安全な水分摂取について考える-, 株式会社大塚製薬工場, Otsuka Nutrition Webinar, web, 2023 年 10 月 19 日
47. 中川量晴, 乳幼児の食事指導 子どもの誤嚥窒息防止, 適切な介助の仕方, 日野市役所子ども部保育課研修会, 日野, 2023 年 10 月 24 日

全人的医療開発学講座

臨床検査医学

Laboratory Medicine

教　授　東田修二
講　師　叶内匡
講　師　伊藤真以
助　教（キャリアアップ講師）　野上彩子
大学院生　颯田稔久、熊田春香、瀬筒ほの夏

(1) 分野概要

臨床検査医学は、臨床検査を応用した病態の解析、新しい臨床検査法の開発と応用、あるいは臨床検査を中心にした診断支援システムの構築などを行う学問である。臨床検査は、現代医療の実践において不可欠の手段となっており、その有用性をさらに高めると同時に、絶えず改良して新たな手法を開発していくことが臨床検査医学に課せられた使命である。当分野では、白血病を始めとする悪性腫瘍の分子病態解析、ＤＮＡ診断を用いた感染症や悪性腫瘍の新しい臨床検査法の開発の研究に取り組んでいる。

(2) 研究活動

研究では、臨床検査医学を応用した各種疾患の病態解析、新たな臨床検査法の開発と応用が主なテーマである。以下に現在行っている研究プロジェクトを紹介する。

１）白血病細胞の増殖機序の特性の検査法とそれに対する分子標的治療薬の感受性検査法の開発
白血病は、白血病細胞の無制限の増殖と正常造血機構の障害により、そフ病態が形成される。白血病細胞の増殖は、その細胞集団の中のごく少数の白血病幹細胞によって維持されている。私たちは、白血病の細胞増殖のメカニズムを細胞・分子レベルで明らかにすることにより、患者さんごとの白血病細胞の特徴を明らかにする検査法と、それに応じた治療法とを開発することを目指している。われわれは、白血病幹細胞の増殖機構をサイトカインの作用という観点から研究を続けてきた。具体的には、サイトカインの白血病細胞培養系における自己複製能や分化増殖能への作用、白血病細胞に発現するサイトカインやサイトカイン受容体の解析、サイトカイン受容体のシグナル伝達系の解析などである。現在は造血幹細胞の自己複製に重要な役割を持つ Notch シグナルの、白血病細胞の増殖における役割に焦点を当てて研究している。Notch とは、造血幹細胞表面に発現している蛋白である。われわれは世界に先駆けて、患者白血病細胞に Notch 蛋白や Notch リガンド蛋白が発現していることを報告し、Notch リガンド反応性のヒト細胞株を樹立した。さらに当研究室の大学院生らが、白血病細胞の増殖や分化に対する Notch リガンド蛋白や Notch 阻害薬の作用やその分子機序に関する興味深い発見をし、報告してきた。Notch シグナルの制御は、再生医療や白血病に対する分子標的治療への応用が期待されており、臨床応用に向けて、国内研究機関や企業研究部門との共同研究も進めている。最近は、Notch シグナルと同様に幹細胞の制御に重要な Wnt シグナル、mTOR シグナル、HIF シグナル、Sirtuin シグナルなどについても研究している。

２）腫瘍の新たな遺伝子検査法や微量残存腫瘍細胞の検出法の開発
癌治療の目標は、腫瘍細胞を根絶し患者を治癒に導くことにある。種々の有効な治療の後にも、微量腫瘍細胞の残存や再発の問題が残されている。この微量腫瘍細胞の検出は、追加治療の必要性の判断や、再発の早期発見に有用である。われわれは遺伝子検査を用いて、微量腫瘍細胞を適格に検出する検査法の開発に取り組んでいる。

３）悪性リンパ腫細胞の増殖機構の解析
当研究室で樹立したび漫性大細胞型 B 細胞リンパ腫由来細胞株を用いて、B 細胞受容体から NF-κ B に至る増殖シグナルの機序、シグナル抑制薬の効果、抑制薬の薬剤感受性検査の研究を行っている。

4）感染症の遺伝子検査の開発
真菌 · ウイルス · 原虫など従来の検査法では検出が難しい病原体の核酸検査による検出法や、細菌の院内感染伝播の監視のための細菌の遺伝子型解析の研究を行なっている。

5）骨髄不全症における標的オトリ人工抗体開発に向けたネオエピトープ反応性 T 細胞の検出
血液内科学分野の協力のもと、上記の開発に取り組んでいる。

6）筋萎縮性側索硬化症の臨床 · 神経生理学的研究、末梢神経障害の新しい電気生理学的診断 · 評価法
病院検査部の神経生理検査室や脳神経内科の協力のもと、上記の研究と開発に取り組んでいる。

(3) 教育活動

大学院博士課程学生に対して、白血病細胞の増殖機序の分子生物学的解析と、それを応用した診断法や病態解析の検査法の開発の研究を指導している。修士課程学生に対しては、医歯学概論の臨床検査医学の講義を通して、臨床検査の意義とその実際について概説し、特に遺伝子検査について実例を示して解説している。また、修士課程の病院検査部実習も分担している。
医学部医学科学生に対しては、系統講義（臨床医学導入ブロック）、臨床検体を用いての細菌検査実習、プレクリニカルクラークシップでのシミュレーターを用いての採血手技の指導などを通して、血液検査、感染症検査など臨床検査の目的 · 原理 · 方法 · 手技 · 解釈を教授している。これらにより、医師として臨床検査を活用できる知識と能力を養うことを目標としている。また、プロジェクトセメスターとして、医学科 4 年の学生を受け入れ、研究活動の指導を行っている。
保健衛生学科学生に対しては、血液検査学講義と病院検査部臨地実習（血液検査、細菌検査）を分担している。
大学病院の研修医に対しては、検査部をローテートする研修医に検査の実技や解釈の仕方を指導している。

(4) 教育方針

臨床検査医学の大学院教育の目的は、疾患の病態生理の解析法、新たな検査法や診断支援システムを開発する能力を養うことにある。当分野では、特に血液腫瘍の病態解析法、癌や感染症の遺伝子検査法の開発に重点を置いている。

(5) 臨床活動および学外活動

大学病院において、検査部スタッフとともに、血液学的検査、生化学検査、免疫学的検査、細菌検査などの検査業務を行っている。また、検査関連学会などを通じて、臨床検査に関する研修会やセミナーで講演を行っている。

(6) 臨床上の特色

臨床各科との協力のもとに、臨床検査の解釈、精度管理、新しい検査法の開発などを行っている。また、臨床検査に関わる各診療科からの問い合わせや相談に応じ、診療支援を行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Azusa Yamazaki, Yoko Nukui, Takahiro Kameda, Ryoichi Saito, Yuki Koda, Naoya Ichimura, Shuji Tohda, Ryunosuke Ohkawa. Variation in presepsin and thrombomodulin levels for predicting COVID-19 mortality. Sci Rep. 2023.12; 13(1); 21493

2. Motomura, Y; Yoshifuji, K; Tachibana, T; Takase, H; Arai, A; Tanaka, K; Okada, K; Nogami, A; Umezawa, Y; Sakashita, C; Yamamoto, M; Mori, T; Nagao, T. Clinical factors for central nervous system progression and survival in primary vitreoretinal lymphoma BRITISH JOURNAL OF HAEMATOLOGY. 2023.12;

3. Keisuke Tanaka, Ayako Ichikawa, Natsuka Umezawa, Kouhei Yamamoto, Kota Yoshifuji, Keigo Okada, Ayako Nogami, Yoshihiro Umezawa, Toshikage Nagao, Chizuko Sakashita, Takehiko Mori, Shuji Tohda, Ryuji Koike, Shinsuke Yasuda, Masahide Yamamoto. Lymphoproliferative disorder risk after methotrexate treatment for rheumatoid arthritis. Cancer Sci. 2023.09; 114(9); 3719-3727

4. Kotomi Noguchi, Mai Itoh, Chisuzu Ito, Shuji Tohda. Effects of MYC Inhibitors on the Growth of Acute Leukaemia Cells. Anticancer Res. 2023.07; 43(7); 3023-3028

5. Noguchi K, Itoh M, Ito C, Tohda S. Effects of MYC Inhibitors on the Growth of Acute Leukaemia Cells. Anticancer research. 2023.07; 43(7); 3023-3028

1. Tanaka Keisuke, Ichikawa Ayako, Umezawa Natsuka, Yamamoto Kouhei, Yoshifuji Kota, Okada Keigo, Nogami Ayako, Umezawa Yoshihiro, Nagao Toshikage, Sakashita Chizuko, Mori Takehiko, Tohda Shuji, Koike Ryuji, Yasuda Shinsuke, Yamamoto Masahide. Lymphoproliferative disorder risk after methotrexate treatment for rheumatoid arthritis CANCER SCIENCE. 2023.06;

2. 福島 紘子, 渡部 芽以, 古城 京花, 阿部 広輝, 松本 大志, 大野 一彦, 市村 直也, 東田 修二. シカリキッド ALP-IFCC 改良試薬の基礎的性能及び酸性ホスファターゼの影響の評価 医療検査と自動化. 2023.06; 48(3); 197-203

3. Takatsuki Yuna, Takahashi Yuta, Nakajima Jun, Iwasaki Yumi, Nagano Katsutoshi, Tani-Sassa Chihiro, Yuasa Sonoka, Kanehira Saki, Sonobe Kazunari, Nukui Yoko, Takeuchi Hiroaki, Tanimoto Kousuke, Tanaka Yukie, Kimura Akinori, Ichimura Naoya, Tohda Shuji. Viral load of SARS-CoV-2 Omicron BA.5 is lower than that of BA.2 despite the higher infectivity of BA.5 IMMUNITY INFLAMMATION AND DISEASE. 2023.02; 11(2); e783

4. 甲田 祐樹, 東田 修二. 骨髄系疾患　反応性 · 腫瘍性の鑑別ポイント 日本検査血液学会雑誌. 2023.02; 24(1); 180-187

5. Hanafusa Mariko, Nawa Nobutoshi, Goto Yuki, Kawahara Tomoki, Miyamae Shigeru, Ueki Yutaka, Nosaka Nobuyuki, Wakabayashi Kenji, Tohda Shuji, Tateishi Ukihide, Fujiwara Takeo. Effectiveness of remdesivir with corticosteroids for COVID-19 patients in intensive care unit: A hospital-based observational study JOURNAL OF MEDICAL VIROLOGY. 2023.01; 95(1); e28168

[書籍等出版物]

1. 東田　修二　他. 標準臨床検査医学. 医学書院, 2023.02

[講演 · 口頭発表等]

1. Miyakoshi T., Horiuchi Y., Araki M., Yonetsu T., Watanabe M., Nakamura M., Kameda T., Yoshimoto A., Ichimura N., Tohda S., Tozuka M., Sasano T., Ohkawa R. Association between CEC measured by immobilized liposome-bound gel beads method and the size of lipid-rich coronary artery plaque. Scientific Session of the American Heart Association 2023.11.09

2. Haruka Kumada, Mai Itoh, and Shuji Tohda. Effects of ferroptosis inducers and inhibitors on growth of acute leukemia cells. 52nd annual scientific meeting, International Society of Experimental Hematology 2023.08.19

3. Mai Itoh, Shuji Tohda. Renin-angiotensin system inhibitors suppress the growth of leukemia cells. 52nd annual scientific meeting, International Society of Experimental Hematology 2023.08.19 New York

4. Haruka Kumada, Mai Itoh, Shuji Tohda. Effects of ferroptosis inducers and inhibitors on the growth of acute leukemia cells.. 52nd Annual Science meeting, International Society for Experimental Hematology 2023.08.18 New York, USA

5. Miyakoshi T., Mutsuda Y., Horiuchi Y., Kameda T., Tozuka M., Ohkawa R. Application of bilirubin oxidase for improvement of false positive error caused by bilirubin on cholesterol efflux capacity assay by immobilize liposome-bound gel beads method. American Association for Clinical Chemistry (AACC) 2023 AACC Annual Scientific Meeting & Clinical Lab Expo 2023.07.24 Anaheim

6. Satoru Aoyama, Ayako Nogami, Sadakatsu Ikeda, Takehiko Mori. Novel protease-mediated double antigen recognizing Chimeric Antigen Receptor (CAR) enhances the directionality of CAR-T cell activity and improves target cell specificity.. Keystone symposia A4: Emerging Cellular Therapies at the Forefront of Cancer Immunotherapy 2023.01.31

7. Mai Itoh, Shuji Tohda. Renin-angiotensin system inhibitors suppress the growth of leukemia cells.. 52nd Annual Science meeting, International Society for Experimental Hematology 2023.08.19 New York, USA

1. 山崎 あずさ，市村 直也，東田 修二，大川 龍之介. 新たな測定法による赤血球コレステロール含有量と他の検査項目との関連. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.18 長崎

2. 宮腰 恒広，堀内 優奈，荒木 誠，米津 太志，渡部 芽以，中村 元紀，亀田 貴寛，吉本 明，市村 直也，東田 修二，戸塚 実，笹野 哲郎，大川 龍之介. HDL サブクラスおよび冠動脈内プラークのサイズと無細胞系測定法によるコレステロール引き抜き能の関連. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.18 長崎

3. 野上　彩子、青山　慧、北浦　萌、山本　正英、東田　修二. CAR-T 細胞療法後の遷延性血球減少症における免疫学的機構の解明. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.16 長崎

4. 堀内 優奈，戸塚 実，大川 龍之介. 無細胞系コレステロール引き抜き能の開発 · 改良とその臨床応用. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会　シンポジウム 7 2023.10.29 東京

5. 山崎 あずさ，渡部 芽以，市村 直也，東田 修二，大川 龍之介. 赤血球コレステロール含有量直接測定法の評価およびヘモグロビン濃度による補正の検討. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会 2023.10.27

6. 野上　彩子、倉田　盛人、田口　登和子、小山　祥美、永野 勝稔、田中　圭祐、吉藤康太、梅澤　佳央、市村　直也、東田　修二、森　毅彦. 尿セルブロックを用いた出血性膀胱炎起因ウィルスの病理学的同定法の有用性. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.13 東京

7. 岡田啓五、齋藤真貴子、本村鷹多朗、吉藤康太、青山慧、長尾俊景、野上彩子. FLT3-ITD は PDK1 を活性化し、Rsk の N 末端リン酸化と Bim の阻害により AML 細胞の生存を強化する. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.13 東京

8. Satoru Aoyama, Ayako Nogami, Sadakatsu Ikeda, Takehiko Mori. Establishment of novel Chimeric Antigen Receptor (CAR) improving the target-cell-specificity.. The 85th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology 2023.10.13

9. 山崎 あずさ，市村 直也，東田 修二，大川 龍之介. 赤血球コレステロール含有量を測定するための試料の前処理および安定性に関する検討. 第 55 回日本医療検査科学会年次学術集会 2023.10.06 横浜

10. 宮腰 恒広，山崎 あずさ，川口 莉奈，渡部 芽以，堀内 優奈，亀田 貴寛，吉本 明，市村 直也，東田 修二，戸塚 実，大川 龍之介. 加温処理による血清中 HDL 構造変化と細胞法および無細胞系測定法を用いたコレステロール引き抜き能の解析. 第 55 回日本医療検査科学会年次学術集会 2023.10.06 横浜

11. 藤代瞳，甲田祐樹，赤羽あゆみ，市村直也，東田修二，大川龍之介. 大学院生に対する採血手技及び接遇教育の効果. 第 55 回日本医療検査科学会年次学術集会 2023.10.06 横浜

12. 小川槙子, 田中圭祐, 吉藤康太, 梅澤佳央, 野上彩子, 坂下千瑞子, 長尾俊景, 山本正英, 森毅彦. チロシンキナーゼ阻害薬のみで長期に分子遺伝学的奏功を維持している急性期で発症した慢性骨髄性白血病. 日本血液学会関東甲信越地方会 2023.07.15 山梨

13. 田中　圭祐、金井　光、桑原　宏哉、吉藤　康太、岡田　啓五、梅澤　佳央、野上　彩子、長尾　俊景、坂下　千瑞子、森　毅彦 、山本　正英. Fingolimod 内服中に発生したびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫. 第 63 回　日本リンパ網内系学会学術集会 2023.06.24 大宮

14. 本村 鷹多朗, 吉藤 康太, 貞任 大地, 野上 彩子, 齊藤 真貴子, 岡田 啓五, 青山 慧, 森 毅彦, 長尾 俊景. 新規 GCB-DLBCL 細胞株 TMD13 の樹立と特性評価. 第 63 回日本リンパ網内系学会学術集会 · 総会 2023.06.22 埼玉

15. 山崎 あずさ，貫井 陽子，亀田 貴寛，甲田 祐樹，市村 直也，齋藤 良一，東田 修二，大川 龍之介. COVID-19 患者のプレセプシン測定における腎機能の影響. 第 31 回日本臨床化学会関東支部総会 2023.06.03

16. 千葉桃子, 田中圭祐, 大内史彦, 八木真梨絵, 金井光, 原田拓実, 初澤紘生, 吉藤康太, 岡田啓吾, 梅澤佳央, 野上彩子, 東田修二, 坂下千瑞子, 長尾俊景, 森毅彦, 山本正英. 中枢神経リンパ腫に対するブスルファンを含む前処置を用いた自家移植の検討. 第 45 回日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.11 名古屋

[その他業績]

1. 日本学術振興会令和 4 年度科学研究費助成事業（学術研究助成金）(継続), 2023 年 04 月
   研究種目：若手研究（研究代表者：野上彩子）
   研究課題名：骨髄不全症における標的オトリ人工抗体開発に向けたネオエピトープ反応性 T 細胞の検出
   課題番号：22K15599

2. 一般社団法人日本血液学会 2023 年度研究助成, 2023 年 09 月
   (研究代表者：野上彩子)
   研究課題名：CAR-T 療法後遷延性血球減少症における免疫病態の解明

生体集中管理学

Intensive Care Medicine

主任教授
　若林健二 (2021.10.1〜)

特任教授
　高橋英夫 (2017.4.1〜)

准教授
　山内英雄 (2023.4.1〜)

特任准教授
　鵜川豊世武 (集中治療部) (2021.4.1〜2023.1.31)

講師
　山内英雄 (集中治療部) (2021.4.1〜2023.3.31)
　野坂宜之 (2022.4.1〜)
　野口綾子 (集中治療部) (2023.4.1〜)

助教
　増田孝広（集中治療部) (2014.4.1〜)
　丸山　史 (集中治療部) (2017.2.1〜)
　三島有華 (2023.4.1〜)

特任助教
　塩田修玄 (集中治療部) (2017.4.1〜)
　三島有華 (集中治療部) (2017.4.1〜2023.3.31)
　壹岐陽一 (集中治療部) (2023.10.1〜)
　内御堂亮 (集中治療部) (2020.4.1〜)
　桑原佑典 (集中治療部) (2023.4.1〜)
　久保俊裕 (集中治療部) (2019.10.1〜)

医員
　木山晃希 (2022.4.1〜)
　本郷智伎 (2023.4.1〜)

大学院生
　塩田修玄 (2017.4.1〜)
　壹岐陽一 (2018.4.1〜)
　三島有華 (2019.4.1〜2023.3.31)
　阿部迪子 (2019.4.1〜)
　内御堂亮 (2020.4.1〜)
　久保俊裕 (2021.4.1〜)
　大澤一郎 (2021.4.1〜)

特別講師
　氏家良人 (2017.4.1〜)

非常勤講師
　橋本悟 (2022.10.1〜)
　松本正太 (2022.10.1〜)

(1) 分野概要

集中治療医学／医療に特化して取り組んでいる。集中治療部における集中治療専門医の役割は、多専門分野にわたる重症病態の治療を調整し、指導することにある。重症病態に陥ると、呼吸、循環、代謝を中心として原因疾患にかかわらず共通の病態を示す。このような重症患者は、絶えざる監視 · 評価により状態の変化をすばやくとらえ、即応した治療を行なうことが重要である (minute-to-minute titration of therapy)。集中治療専門医はこの titration therapy を行ない、統合的な治療の一環を担うために、多職種連携を行って治療にあたることが重要である。重症病態に対して、各患者の最適な生理的状態を維持するように治療を行ない、生命維持が確保されている間に原因疾患の治療、改善を図ることが集中治療医学の目的である。

集中治療医学が取り組んできた病態／疾患／治療法を具体的にあげると、各種ショック、急性呼吸不全、人工呼吸、敗血症、多臓器不全症候群、酸塩基平衡異常、電解質異常、急性腎不全、急性中枢神経障害（意識障害）に対する集中治療、薬理学的／機械的循環補助、栄養管理、血液浄化法、院内感染症防止策／治療、等である。

(2) 研究活動

当分野では後方視的なビッグデータ解析と、translational research の手法を用いて、集中治療領域の疾患における病態解明に迫る事を目標にしている。また、実臨床における課題解決型の研究を数多く手掛け、医学教育研究にも取り組んでいる。

1)COVID-19 における細胞外小胞の臨床的意義と現場実装に向けた新規検出技術の基盤確立（若林）
2）小児患者の全身麻酔時の脳波変 (若林分担)
3）ECMO 回路内における Microvesicles の動態の解明（若林）
4）集中治療領域における課題解決に基づく新規ソリューション検討（若林）
5）収納式トイレのユーザーエクスペリエンスと臨床上の効果に対する検討（若林）
6）遠隔応対ソリューションをつかった集中治療室入院患者とその家族のコミュニケ—ション改善（野坂）
7）COVID-19 感染者における健康と回復（野坂）
8) 経時的遺伝子発現解析を用いた敗血症慢性重症経過の病態解明と予測モデル構築（内御堂）
9)ICU における抗菌薬適正使用支援プログラム手法の開発（三島）
10)ICU における栄養療法と ICUAW の関連についての前向き観察研究（増田）
11）小児急性脳症マウスモデルの確立と低体温 · 平温療法の効果の比較検討（野坂）
12）メタボロミクスによる重症新型コロナウイルス（SARS-CoV2）肺炎（COVID-19）における炎症性代謝障害の解明と臨床応用への探索的前向き観察研究（内御堂）
13）重症症例に対する意識下挿管と合併症発生割合との関連についての後方視的研究（増田）
14）日本集中治療医学会主催の ICU 入室患者登録システム事業への参画（三島　内御堂）
15）入院患者に対する院内迅速対応システムの効果の検討（三島）
16）集中治療領域での抗菌薬選択に関する後方視研究（三島）
17）RRS への EWS 自動計算システム導入が病棟患者の急変および ICU 緊急入室に及ぼす影響の検討（野口）
18）クリティカルアケア領域で人工呼吸器を装着する患者のコンフォートに関する調査（野口）
19）急性肝不全における microvesicle の動態と役割の解明（若林）
20）重症コロナウイルス感染症患者の家族における「家族の集中治療後症候群」に関する調査（野坂）
21）集中治療室に入室する小児患者の体格と転帰に関する研究（野坂）
22）集中治療室における多職種回診の遠隔化による患者転帰ならびに医療スタッフへの影響に関する研究（野坂）
23）クエンチ抗体を用いた実サンプルからの SARS—CoV-2 検出に関する基礎的検討
（野坂）
24）動線 · 環境 · 生体計測データの時空間解析に基づく集中治療室の QI 評価手法の構築：東京医科歯科大学病院新旧両棟の比較を例に（若林　野坂　野口）

(3) 教育活動

卒前教育
救急 · 麻酔ブロック講義：4 年生対象
山内：人工呼吸器 · ARDS
増田：急性期栄養学
三島：ICU における終末期医療 · 緩和ケア
野坂：ICU における合併症予防 · PICS—F

クリニカルクラークシップ：5年生（1週間）6年生（2週間）集中治療実習を担当している。
集中治療部の患者 1-2 人に関して、朝夕の回診を中心として教育を実施する。朝、8:15 からの多職種回診参加を経てその日に行なうべきことをチェックし、一日かけて受け持ち医、集中治療部指導医と共に患者 の治療、検査を担当する。夕方に指導医を中心とした教育回診において、受け持ち患者の presentation を行う。

研修医の集中治療部実習：
2 ヶ月間、集中治療部での実習を行っている。重症患者の呼吸 · 循環 · 代謝管理を学び、エコーや気管支鏡の 操作、カテーテル挿入などを学習している。

(4) 教育方針

毎週火曜日は academic day と名付け学生 · 研修医のみならず全スタッフを各種の教育カンファレンスを行う。
卒前教育：集中治療を知る · 興味を持つ
卒後教育：集中治療に取り組む · 誘う
専門医教育：集中治療を極める

(5) 臨床活動および学外活動

中央診療部門の一つである集中治療部において、集中治療部専任医師、集中治療専門医が専従で集中治療部に常駐 し、重症患者さんの呼吸 · 循環 · 代謝管理および治療を担当している。これらの集中治療部医師は、主治医グルー プ · 薬剤師 · 管理栄養士 · リハビリスタッフ · 臨床工学技士 · 入院時重症患者対応メディエーターと共に平日毎朝、多職種回診を実施し、各患者にとって最適な管理および治療の方針をたて、それを実践している。RAS (Risk Assessment System) は平日日中に全病棟を回診し院内の急変事象を予防するユニークな取組みを 2017 年 3 月より開始し、年間のべ 400 件の相談を受けている。

(6) 臨床上の特色

多職種回診を基盤とした早期離床プログラム、早期栄養の開始を実施し、重症患者の転帰改善に努めている。
また、各診療科の集中治療管理を昼夜を問わずサポートし、医師の働き方改革にも貢献している。さらに今年度はクラウドファンディングに挑戦し、集中治療後症候群（PICS）の啓発活動の一環として啓発漫画の作成に取り組んだ。

(7) 研究業績

[原著]

1. Nakanishi, N; Liu, KB; Kawauchi, A; Okamura, M; Tanaka, K; Katayama, S; Mitani, Y; Ota, K; Taito, S; Fudeyasu, K; Masuka, Y; Yoshihiro, S; Utsumi, S; Nishikimi, M; Masuda, M; Iida, Y; Kawai, Y; Hatakeyama, J; Hifumi, T; Unoki, T; Kawakami, D; Obata, K; Katsukawa, H; Sumita, H; Morisawa, T; Takahashi, M; Tsuboi, N; Kozu, R; Takaki, S; Haruna, J; Fujinami, Y; Nosaka, N; Miyamoto, K; Nakamura, K; Kondo, Y; Inoue, S; Nishida, O. Instruments to assess post-intensive care syndrome assessment: a scoping review and modified Delphi method study CRITICAL CARE. 2023.11; 27(1); 430

2. Mishima Y, Saito K, Nosaka N. ”Stuffy nose” in a case of Guillain-Barré syndrome with an esophageal bezoar under enteral nutrition. The American journal of the medical sciences. 2023.05;

3. Hosoya T, Oba S, Komiya Y, Kawata D, Kamiya M, Iwai H, Miyamoto S, Kataoka M, Tobiume M, Kanno T, Ainai A, Sato H, Hirakawa A, Mitsui Y, Satoh T, Wakabayashi K, Yamada T, Otomo Y, Miyazaki Y, Hasegawa H, Suzuki T, Yasuda S. Apple-shaped obesity: A risky soil for cytokine-accelerated severity in COVID-19. Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America. 2023.05; 120(22); e2300155120

4. Nosaka N, Anzai T, Uchimido R, Mishima Y, Takahashi K, Wakabayashi K. An anthropometric evidence against the use of age-based estimation of bodyweight in pediatric patients admitted to intensive care units. Scientific reports. 2023.03; 13(1); 3574

5. Hanafusa M, Nawa N, Goto Y, Kawahara T, Miyamae S, Ueki Y, Nosaka N, Wakabayashi K, Tohda S, Tateishi U, Fujiwara T*. Effectiveness of remdesivir with corticosteroids for COVID-19 patients in intensive care unit: a hospital-based observational study. J Med Virol. 2023.01; 95(1); e28168

6. Mishima Y, Nawa N, Asada M, Nagashima M, Aiso Y, Nukui Y, Fujiwara T, Shigemitsu H. Impact of Antibiotic Time-Outs in Multidisciplinary ICU Rounds for Antimicrobial Stewardship Program on Patient Survival: A Controlled Before-and-After Study. Critical care explorations. 2023.01; 5(1); e0837

1. Kocaturk Begum, Lee Youngho, Nosaka Nobuyuki, Abe Masanori, Martinon Daisy, Lane Malcolm E., Moreira Debbie, Chen Shuang, Fishbein Michael C., Porritt Rebecca A., Franklin Bernardo S., Rivas Magali Noval, Arditi Moshe. Platelets exacerbate cardiovascular inflammation in a murine model of Kawasaki disease vasculitis JCI INSIGHT. 2023.07; 8(14);

2. 野坂 宜之, 山内 英雄, 高田 和生, 若林 健二. スマートグラスが拓く重症 COVID-19 患者を対象にした ICU における学生臨床実習　単施設質問紙調査 日本集中治療医学会雑誌. 2023.07; 30(4); 261-263

3. 野坂 宜之, 溝江 亜紀子, 曾根田 ますみ, 塚田 容子, 山内 英雄, 鵜川 豊世武, 若林 健二. タブレット貸出による ICU オンライン家族面会システムの構築とその効果 ICU と CCU. 2023.07; 47(7); 479-484

4. 森脇 睦子, 高橋 千尋, 鳥羽 三佳代, 若林 健二, 伏見 清秀. 有効な人員配置のための探索的研究　COVID-19 感染症対応の経験に基づいた人員管理に資する分析手法の一例 日本医療マネジメント学会雑誌. 2023.06; 24(1); 31-38

5. 土屋 一成, 横江 亮, 内御堂 亮, 若林 健二. 【FIX PICS　集中治療後症候群の予防と治療】PICS を理解する　PICS とその関連病態 (PIICS) 救急医学. 2023.06; 47(6); 648-655

6. 野坂 宜之, 鶴田 潤, 高田 和生, 若林 健二. 私のアイディア　What's New　Web 会議システムとスマートグラスの併用による超音波ガイド下血管穿刺法の教育 ICU と CCU. 2023.05; 47(5); 347-349

7. Ozaki Kenichiro, Nosaka Nobuyuki, Wakabayashi Kenji, Tohara Haruka. Intensive care education for dental students through online visits to ICU rounds JOURNAL OF DENTAL EDUCATION. 2023.04; 87 Suppl 3; 1822-1824

8. 斎藤 恵子, 増田 孝広. 【管理栄養士が知っておきたい　重症患者の栄養管理 Q&A 厳選 15】新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を含めた呼吸不全の栄養管理で注意すべき点は? Nutrition Care. 2023.02; 16(2); 155-158

9. 杉原 華織, 増田 孝広, 斎藤 恵子. 【管理栄養士が知っておきたい　重症患者の栄養管理 Q&A 厳選 15】重症患者の循環管理と呼吸管理はなぜ重要なの? Nutrition Care. 2023.02; 16(2); 106-108

[講演 · 口頭発表等]

1. 野坂宜之. 身長発育不良は小児 ICU 死亡の危険因子である. 2023.07.01 東京

2. 若林 健二. クリティカルケア領域における橋渡し研究の今とこれから. 日本クリティカルケア看護学会学術集会抄録集 2023.07.01

3. 尾崎 研一郎, 野坂 宜之, 三島 有華, 鵜川 豊世武, 山内 英雄, 奥村 拓真, 吉澤 彰, 雨宮 輝美, 若林 健二, 戸原 玄. ICU での多職種回診を用いた歯学部学生への臨床実習. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01

4. 野坂 宜之, 溝江 亜紀子, 野口 綾子, 竹内 崇, 若林 健二. PICS のエビデンスをもとめて　重症 COVID-19 患者家族の 2 割超に遠隔期 PTSD 関連症状が残存する. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01

5. 鵜川 豊世武, 野坂 宜之, 三島 有華, 若林 健二. シームレス ICU〜診療の一貫性や質の担保をどうするか (2)　ハイブリッド多職種回診とゴールシート活用による ICU チームの情報共有. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01

6. 阿部 靖子, 丸山 史, 福岡 ほのか, 伊藤 亜希, 諏訪辺 久子, 三島 有華, 野坂 有華, 野坂 宜之, 古川 文子, 井津井 康浩, 若林 健二. 入院時重症患者対応メディエーターを ICU 病棟に配置した効果と今後の課題. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01

7. 尾池 健児, 石橋 修, 濱野 一平, 内御堂 亮, 野坂 宜之, 遠藤 彰. 重症 COVID-19 における退院時自立歩行獲得症例の特徴. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01

8. 三島 有華, 野口 綾子, 野坂 宜之, 丸山 史, 岡 晃司, 諏訪辺 久子, 古川 文子, 山内 英雄, 高橋 英夫, 若林 健二. 集中治療医主導型 Risk Assessment System の活動. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01

9. 斎藤 恵子, 増田 孝広, 飯田 遥, 三島 有華, 野坂 宜之, 若林 健二. 多職種回診を通じた早期栄養管理に対する栄養士と薬剤師のコラボレーション　栄養士の立場から. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01

10. 久保 俊裕, 野坂 宜之, 増田 孝広, 若林 健二. 当院 ICU で人工呼吸管理を要した Guillain-Barre 症候群患者のその後　単施設後方視的解析. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01

11. 野口 綾子, 山田 知明, 内村 祐之, 藍 真澄, 小野 和代, 鳥羽 三佳代, 内御堂 亮, 若林 健二. RRS はじめました!!〜そしてどうなった?　EWS 自動計算アプリを用いたスコアリングの根源的課題. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01

12. 若林 健二. 専門医も取ったしそろそろ研究しようかな, どこ行ったらいいかな?(2)　集中治療におけるトランスレーショナルリサーチと多領域連携. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01

13. 野田 浩太郎, 田中 智貴, 阿部 宗一郎, 碓井 遼, 貴田 浩之, 乾 遼磨, 新垣 慶人, 若林 健二, 猪原 匡史. 神経集中治療における瞳孔記録計 (NPi-200) の有用性　現在地と将来の展望. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01

14. 若林 健二. 防衛医学研究: シーズとニーズのマッチング　コロナ禍における汎用型人工呼吸器開発と Frugal innovation. 防衛医科大学校雑誌 2023.06.01

15. 斎藤 恵子, 増田 孝広, 飯田 遥, 三島 有華, 野坂 宜之, 若林 健二. 多職種回診を通じた早期栄養管理に対する栄養士と薬剤師のコラボレーション：栄養士の立場から. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会 2023.03.04

16. 阿部 靖子, 丸山 史, 福岡 ほのか, 伊藤 亜希, 諏訪辺 久子, 三島 有華, 野坂 宜之, 古川 文子, 井津井 康浩, 若林 健二. 入院時重症患者対応メディエーターを ICU 病棟に配置した効果と今後の課題. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会 2023.03.03

17. 三島有華, 野口綾子, 野坂宜之, 丸山史, 岡晃司, 諏訪辺久子, 古川文子, 山内英雄, 高橋英夫, 若林健二 . 集中治療医主導型 Risk Assessment System の活動. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会 2023.03.02

18. 鵜川 豊世武, 野坂 宜之, 三島 有華, 若林 健二. ハイブリッド多職種回診とゴールシート活用による ICU チームの情報共有. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会 2023.03.02

19. 尾崎 研一郎, 野坂 宜之, 三島 有華, 鵜川 豊世武, 山内 英雄, 奥村 拓真, 吉澤 彰, 雨宮 輝美, 若林 健二, 戸原 玄. ICU での多職種回診を用いた歯学部学生への臨床実習. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会 2023.03.02

20. 田代 共生, 三島 有華, 宮武 和正, 飯田 遥, 栗田 崇史, 松元 一明, 野坂 宜之, 吉井 俊貴, 具 芳明, 若林 健二. リネゾリド長期投与中に術後乳酸アシドーシスを来した 1 例. 日本内科学会関東地方会 684 回 2023.02.12

21. 田代 共生, 三島 有華, 宮武 和正, 飯田 遥, 栗田 崇史, 松元 一明, 野坂 宜之, 吉井 俊貴, 具 芳明, 若林 健二. リネゾリド長期投与中に術後乳酸アシドーシスを来した 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.02.01

22. 阿久津智洋、谷口あやめ、大森敬文、山本雄大、増田孝広、篠田健、丸山史、三高千恵子、中沢弘一. 抗 GBM 抗体症候群に対する持続透析 · 血漿交換目的の vascular access catheter が上大静脈を穿通し、右胸腔へ迷入した一例. 第 23 回日本集中治療医学会関東甲信越地方会

[受賞]

1. 最優秀演題賞, 日本集中医療医学会関東甲信越地方会, 2023 年 07 月

[その他業績]

1. ICU で救える命が増え新たな課題となっている集中治療後症候群（PICS) の認知を広げ予防を促すマンガパンフレット／動画を公開, 2023 年 09 月
クラウドファンディング「集中治療後症候群ー PICS の認知を広げ ICU 退院後の生活を守りたい」でご支援を募り作成に取り組んだ、集中治療後症候群（PICS) の認知を広め、予防につなげるマンガパンフレットと動画を一般公開します

2. 集中治療室（ＩＣＵ）入院患者のＡＤＬとＱＯＬの 維持 · 向上が期待される収納式トイレを設置, 2023 年 10 月
-

[社会貢献活動]

1. ＰＩＣＳパンフレットについて, 読売新聞東京本社, 読売新聞夕刊 · 医療情報, 2023 年 09 月 06 日 - 現在
2. Ｃ棟で実現させた工夫やポイント, 朝日新聞社, 朝日新聞, 2023 年 10 月 19 日 - 2023 年 10 月 31 日
3. 早期リハビリ介入について, 日本経済新聞社, 日経産業新聞、日経電子版, 2023 年 11 月 17 日

薬物動態学

Pharmacokinetics and Pharmacodynamics

准教授（教授代理）　永田　将司
大学院生　野田　円、水野　正太郎、赤星　樹、日下部　由奈、鈴岡　拓也

(1) 分野概要

薬物動態学分野は、1999 年 4 月に医学部附属病院薬剤部が担当する協力講座として発足し、有効かつ安全な薬物療法の確立に向けて、薬物動態学を基盤として医療薬剤学の基礎と臨床を研究対象とする。

その研究成果は、薬物血中濃度モニタリング、薬物間相互作用の機構解明や薬効 · 副作用の定量的予測に基づく処方の評価 · 提言など、患者個別の薬物療法にフィードバックされる。

教育面では、医学部学生に対して、吸収 · 分布 · 代謝 · 排泄といった薬物動態の基礎を講述し、薬物血中濃度に基づく薬物投与設計を実習する。大学院生や薬剤師には、薬物速度論演習を通して、薬物療法の適正化に必須の知識および技能を教授している。

(2) 研究活動

有効かつ安全な薬物療法の確立に向けて、臨床に発して臨床に帰るという研究展開を基本に、医療薬剤学の基礎と臨床を研究対象とする。

1）病態時における薬物動態と薬効の速度論解析：

薬物治療における個体差の原因として、患者固有の病態が薬物の体内動態や薬効発現に大きな影響を及ぼすことが考えられる。腎疾患、肝疾患、甲状腺機能異常、心筋梗塞など各種病態モデル動物を用い、薬物血中濃度や薬効の経時変化を精査し速度論解析を加えることにより、病態に伴う薬効発現の変動要因を解明し、薬物投与後の薬効発現過程を定量的に予測できる速度論モデルの構築をめざす。

2）治療薬物モニタリング（ＴＤＭ）に基づく臨床薬物動態解析：

薬物投与後の患者血中濃度測定を通して合理的な薬物投与設計を行うことが、治療薬物モニタリングの目的である。具体的には、血中の薬物および代謝物の高感度微量分析法や臨床データ解析法の開発を進め、患者個別の合理的薬物投与設計システムを確立する。

(3) 教育活動

医学部学生に対し、薬物の物性や吸収、分布、代謝、排泄といった体内動態をふまえた薬物療法の基礎理論を講述する。大学院では、基礎的な実験技術のトレーニングの後、速度論などコンピュータのシミュレーションなども交えて薬物動態の解析法を修得させる。

(4) 研究業績

[原著]

1. Yokoyama K, Yakuo T, Mamada M, Nagata M. Olanzapine Overdose in a Two-Year-Old Girl Resulting in Both High Serum and Plasma Levels. Cureus. 2023.08; 15(8); e43002

2. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Yasunari Miyazaki, Takahiro Asakage, Shohei Fukuda, Takeshi Namiki, Yoshito Kano, Masashi Nagata, Jun Tsuchiya, Masato Miyoshi, Fukiko Kitahata-Kawai, Sayuri Nitta, Yasuhiro Itsui, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto. Factors associated

with liver injury and prognosis in advanced cancer patients treated with immune checkpoint inhibitors. Hepatol Res. 2023.01;

[総説]

1. 小田　洋美，廣瀬　藍子，石渡　泰芳，永田　将司. Let’s！ 服薬コミュニケーション　歯周病と全身疾患 スズケンファーマ. 2023.10; 26(5); 2-5
2. 藤田　早織，永田　将司. ドラッグコンサルテーション　シタフロキサシン スズケンメディカル. 2023.10; 26(5); 11-12
3. 武田　浩文，永田　将司. ドラッグコンサルテーション　レンボレキサント スズケンメディカル. 2023.06; 26(3); 11-12
4. 前　つかさ，廣瀬　藍子，石渡　泰芳，永田　将司. Let’s！ 服薬コミュニケーション　睡眠障害 スズケンファーマ. 2023.06; 26(3); 2-5
5. 河野　未来，永田　将司. ドラッグコンサルテーション　ビレーズトリエアロスフィア スズケンメディカル. 2023.02; 26(1); 11-12
6. 柳本　絵理，廣瀬　藍子，石渡　泰芳，永田　将司. Let’s！ 服薬コミュニケーション　慢性閉塞性肺疾患（COPD） スズケンファーマ. 2023.02; 26(1); 2-5

[講演・口頭発表等]

1. Noda T., Mizuno S., Hase T., Mogushi K., Iida Y., Ishiwata Y., Nagata M.. Using machine learning algorithm to predict the occurrence of nephrotoxicity with tacrolimus. 81st FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2023.09.27
2. Kawano Y., Kawasumi K., Mano Y., Matsui R., Maeda-Minami A., Yamamoto Y., Negishi K., Shimada S., Nagata M., Aoyama T.. Risk factors associated with unplanned acute care in outpatient chemotherapy with oral anticancer drugs as monotherapy or combination therapy with injectable anticancer drugs. 81st FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2023.09.26

1. 野田円，水野正太郎，茂櫛薫，長谷武志，飯田頼嗣，竹内勝之，石渡泰芳，永田将司. タクロリムスによる腎機能障害の発現を患者個別に予測する機械学習モデルの構築. 第 44 回日本臨床薬理学会学術集会 2023.12.14 東京
2. 中禮 宏，吉田浩美，杉井麻耶，柘植昂太，佐瀬裕子，永田将司，林 海里，外川海斗，藤野祥子，柳下和慶. 糖質コルチコイドの口腔内局所使用に関する情報共有について. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会・学術大会 2023.11.19 福岡
3. 杉井麻耶，山本理紗子，相曽啓史，永田将司，井出聡，栗田崇史，具芳明，田頭保彰. 抗菌薬適正使用支援チーム活動と感染症コンサルテーション連携における当院での静注抗菌薬適正使用に及ぼす効果の検討. 第 33 回日本医療薬学会年会 2023.11 仙台
4. 中禮宏，吉田浩美，杉井麻耶，柘植昂太，佐瀬裕子，永田将司，林海里，外川海斗，藤野祥子，柳下和慶. 糖質コルチコイドの口腔内局所使用に関する情報共有について. 一般社団法人日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会・学術大会 2023.11 仙台
5. 永田将司. 当院における薬薬連携に向けた取り組み. 文京区薬剤師会学術講演会 2023.07.04 千葉
6. 森川亮，末永光邦，新田健太郎，安田俊太郎，野地理夏，青山慧，加納嘉人，佐藤信吾，池田貞勝，永田将司，森毅彦. 当院における免疫関連消化管毒性のリスク因子の同定. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術大会 2023.03 福岡

[受賞]

1. FIP’s Board of Pharmaceutical Sciences 2023 poster award, 2023 年 10 月
2. 学会賞（モリタ賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月

[社会貢献活動]

1. 抗不整脈薬、抗菌薬、抗がん剤の TDM について, 富士経済, 2023 年 01 月 19 日

臨床医学教育開発学

Medical Education Research and Development

教授　山脇　正永
准教授（キャリアアップ）　岡田英理子 (総合教育研修センター兼任)
助教　赤石　雄 (総合教育研修センター兼任)
助教　鹿島田彩子 (総合教育研修センター兼任)

(1)　分野概要

本講座は「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」という本学のミッションを、教育及び教育面の管理運営の視点から遂行してゆく分野である。本講座は教室 · 診療科 · 部門 · 職種などの分野を超えた協調を通じて、本学の教育、研究、臨床、管理運営に貢献することを理念としている。医学医療教育は卒前教育のみで終わるものでなく、連続性をもって生涯を通じて継続するものである。本講座は、医学部医学科では卒前 6 年間と臨床研修 2 年間の教育の“調整と支援”を担当し、将来の Clinician Scientist 及び Scientific Clinician となるために、医学者 · 医療者として基盤的な能力を涵養することを目的としている。
本講座の起源は 2000 年発足の医学部附属病院総合診療部にさかのぼり、「”調整と支援”を通じて高度先進医療の推進に貢献する」の理念に基づき、①卒後臨床研修プログラムの策定、②医療福祉支援体制の整備、③細胞治療センターの創設、④卒前教育の横断的教育課程の充実、⑤病棟業務の改善、⑥医療安全の管理、⑦セカンドオピニオン外来などに取り組んできた。これらのうち、卒前教育（カリキュラム改訂、臨床実習の改革、ハーバード大等との提携など）や卒後教育（総合教育研修センターの運営）など教育および研修に関わる活動が主たるものとなり、2006 年度に臨床医学教育開発学分野に改組し現在に至っている。なお、2011 年発足の医歯学融合教育支援センター（その後統合教育機構に改組）とも密接な連携をとっている。

(2)　研究活動

各教員の専門性を加味し医学医療教育という視点から下記の研究を展開している。

· 段階的な臨床能力獲得のための評価に関する研究
卒前臨床実習と卒後臨床研修においていかに学びいかに実践し続けていくかについて教育 · 評価技法を研究している。「ICT を基盤とした卒前卒後のシームレスな医師の臨床教育評価システム構築のための研究（厚生労働科研）分担：山脇正永、岡田英理子、那波伸敏」、「医師臨床研修と連携可能な卒前の臨床教育評価システムの開発 · 運用 · 評価とデータ分析（基盤研究 A）分担：岡田英理子」において、臨床研修でのオンライン臨床教育評価システム（EPOC2）の開発に携わるなど臨床現場での教育 · 評価方法の研究を行っている。
· VR を用いた新たな学修手法、試験方法開発に関する研究
「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（文科省）分担：山脇正永」「日本漢方医学教育財団研究補助事業　代表：山脇正永」において、VR を用いた新たな学修手法、試験方法開発に関する研究を行っている。
· 医学生 · 研修医の研究倫理教育に関する研究
「学際的アプローチによる研究倫理教育のモデル評価プログラムの開発と検証（日本医療研究開発機構 (AMED)）分担：山脇正永」において、医学教育学の観点からの教育効果のモデル評価尺度 · 評価プログラムの開発とその有用性の検証並びに改良についての研究を行っている。
· デザイン思考を用いた患者服薬 · 薬剤嚥下に関する研究
「服薬時嚥下障害への新規治療戦略（基盤研究 C）代表：山脇正永」、「デザインに拠るリスクマネジメント（基盤研究 B）分担：山脇正永」において、デザイン思考を用いた患者服薬 · 薬剤嚥下に関する集学的アプローチの研究を行っている。
· チーム医療及び多職種連携教育に関する研究
「超高齢社会において重要な医科歯科連携のための教育教材と評価尺度の開発（文科省）分担：那波伸敏」におい

て、チーム医療及び多職種連携教育に関する研究を行っている。
· 健康予防と患者教育に関する研究
「真の社会イノベーションを実現する革新的「健やか力」創造拠点 弘前大学 COI.（文科省 COI STREAM）研究協力者：山脇正永」における京丹後長寿コホート研究、及び産学連携研究 Green FarmRehabilitation（京都大原記念病院、株式会社タキイ種苗及び京都府立医科大学と共同）に参画し、超高齢者の健康予防に関する患者教育プログラム開発の研究を行っている。
· その他医学教育に関する研究
臨床推論における認知メカニズム · 脳内処理に関する研究、卒前 · 卒後の臨床医学教育における competence 評価に関する研究、医療面接教育における多面的評価方法に関する研究、在宅医療 · 地域医療教育に関する研究などを行っている。

(3) 教育活動

· 卒前教育
大学医学部附属病院の重要な使命である臨床研修を病院長のもと管理 · 運営する部門として、「患者中心の視点を有する専門医」「高度先進医療を担える家庭医」の養成を目的に、医学生の診療参加型臨床実習、研修医教育、指導医教育、および生涯教育に関する診療科を横断した教育体制の確立を目標としている。「患者中心の視点を有する専門医」には基盤教育が重要であり、この視点に立ち入学初期からの継続的な卒前臨床教育を教育委員会に企画 · 提案するばかりでなく、MIC（Medical Introductory Course）の企画運営にも関与している。また、学生 · 研修医教育に資するため、東京大学国際医学教育センター、本学統合教育機構と共同して模擬患者養成に関わっている（模擬患者つつじの会)。臨床実習においては、低学年の早期臨床体験 · 高学年の医療面接および系統的診療法の実習 · 診療所実習を実施している。臨床実習自体の質を向上させるため、指導教員の評価体制の整備をし、かつ運営に参画している。
· 卒後教育
卒後臨床研修においては、2004 年度の卒後臨床研修必修化に対応した研修 · 指導体制の構築を図り、2005 年以来、2012 年、2019 年を除いてフルマッチであり、わが国で最も competitive な大学附属病院プログラムを運営している。また、臨床研修の全国共用評価方法であるオンライン卒後臨床研修評価システム（EPOC）の開発でも中心的役割を果たしている。
後期研修については、2007 年度より当院各診療科の後期研修プログラムを管理している。2018 年度から新専門医制度が発足し、大学病院内の内科専門プログラムのとりまとめ役を果たし、またその他の診療科のプログラムでの講習会開催やとりまとめ作業等に貢献している。
· 大学院教育
2004 年度に開始された修士課程医療管理政策学（MMA）コースにおいても開講当初より科目を担当し、2019 年度も「系名：８．人的資源管理と人材開発」の中の「２．人材の開発と活用」および「３．医療におけるリーダーシップ（実践論)」の 2 科目を担当している。

(4) 臨床活動および学外活動

医学部附属病院総合教育研修センターとして、初期研修医の採用、研修管理、各協力病院とのたすきがけ研修の運営、イブニングセミナーなどの各種講習会の開催などを通じて、初期研修の充実に貢献している。またより良い指導体制の充実のための指導医教育に対しては、臨床研修指導医講習会を開催している。全職員に対する医療安全や感染対策、医療情報などの職員研修を年間を通じて計画し、運営、実行している。国立大学附属病院長会議の EPOC 運営委員会でも中心的役割を果たし、「ICT を活用した卒前 · 卒後のシームレスな医学教育の支援方策の策定のための研究（2019 年度厚労科研)」において、新しい EPOC（E-Portfolio of Clinical training : EPOC2）の開発を行っている。
また、わが国の医学教育関連団体及び関連学会でも各種委員会委員として活動している。

(5) 研究業績

[原著]

1. Akaishi Y, Nawa N, Kashimada A, Itsui Y, Okada E, Yamawaki M. Association between Grit and depressive symptoms at the timing of job start among medical residents during the COVID-19 pandemic in Japan: a cross-sectional study. Medical education online. 2023.12; 28(1); 2225886

2. Akaishi Y, Nawa N, Kashimada A, Itsui Y, Okada E, Yamawaki M. Association between Grit and depressive symptoms at the timing of job start among medical residents during the COVID-19 pandemic in Japan: a cross-sectional study. Medical education online. 2023.12; 28(1); 2225886

3. Morimoto M, Nawa N, Okada E, Itsui Y, Kashimada A, Yamamoto K, Akaishi Y, Yamawaki M. Elucidation of the needs for telecritical care services in Japan: A qualitative study. BMJ Open. 2023.11; 13(11); e072065

4. Morimoto M, Nawa N, Okada E, Itsui Y, Kashimada A, Yamamoto K, Akaishi Y, Yamawaki M. Elucidation of the needs for telecritical care services in Japan: a qualitative study. BMJ open. 2023.11; 13(11); e072065

5. Morimoto M, Nawa N, Okada E, Itsui Y, Kashimada A, Yamamoto K, Akaishi Y, Yamawaki M. Elucidation of the needs for telecritical care services in Japan: a qualitative study. BMJ open. 2023.11; 13(11); e072065

6. Morimoto M, Nawa N, Okada E, Itsui Y, Kashimada A, Yamamoto K, Akaishi Y, Yamawaki M. Elucidation of the needs for telecritical care services in Japan: a qualitative study. BMJ open. 2023.11; 13(11); e072065

7. Suzuki H, Furuya J, Nakagawa K, Hidaka R, Nakane A, Yoshimi K, Shimizu Y, Saito K, Itsui Y, Tohara H, Minakuchi S. Factors influencing the selection of oral healthcare providers in multidisciplinary Nutrition Support Team for malnourished inpatients: A cross-sectional study. J Oral Rehabil. 2023.08;

8. Akaishi Y, Nawa N, Kashimada A, Itsui Y, Okada E, Yamawaki M. Association between Grit and depressive symptoms at the timing of job start among medical residents during the COVID-19 pandemic in Japan: a cross-sectional study. Medical education online. 2023.06; 28(1); 2225886

9. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Yasunari Miyazaki, Takahiro Asakage, Shohei Fukuda, Takeshi Namiki, Yoshito Kano, Masashi Nagata, Jun Tsuchiya, Masato Miyoshi, Fukiko Kitahata-Kawai, Sayuri Nitta, Yasuhiro Itsui, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto. Factors associated with liver injury and prognosis in advanced cancer patients treated with immune checkpoint inhibitors. Hepatol Res. 2023.01;

1. 鹿島田 彩子, 赤石 雄, 井津井 康浩, 岡田 英理子, 山脇 正永. 【COVID-19 パンデミック後の医学 · 医療者教育】COVID-19 パンデミックの模索から生まれたハイブリッド型臨床研修指導医講習会 医学教育. 2023.12; 54(6); 654-656

2. 鹿島田 彩子, 赤石 雄, 井津井 康浩, 岡田 英理子, 山脇 正永. 【COVID-19 パンデミック後の医学 · 医療者教育】COVID-19 パンデミックの模索から生まれたハイブリッド型臨床研修指導医講習会 医学教育. 2023.12; 54(6); 654-656

3. 小笠原 啓祐, 水野 朋子, 神谷 尚宏, 平田 航, 田村 友美恵, 山内 泰輔, 鈴木 智典, 鹿島田 彩子, 水野 裕貴, 岡本 健太郎, 田中 陽典, 小林 大輔, 高木 正稔, 森尾 友宏. 低ガンマグロブリン血症に対し免疫グロブリン療法を行っている乳児全身性ヒアリン症 日本小児科学会雑誌. 2023.10; 127(10); 1299-1305

4. 小松 弘幸, 山脇 正永, 生坂 政臣, 江頭 正人, 小西 靖彦, 鈴木 敬一郎, 島田 昌一, 野村 理, 松山 泰, 矢野 晴美, 山本 憲, 尾上 剛史, 長谷川 仁志, 高見 秀樹, 岡崎 仁昭. 【Making of 医学教育モデル · コア · カリキュラム】医学教育モデル · コア · カリキュラム (令和 4 年度改訂版) と医師国家試験出題基準との整合 医学教育. 2023.04; 54(2); 157-163

5. 伊藤 彰一, 岡崎 仁昭, 小松 弘幸, 錦織 宏, 松山 泰, 山脇 正永, 菊川 誠, 清水 郁夫, 中村 真理子, 三谷 昌平. 【Making of 医学教育モデル · コア · カリキュラム】学修評価と Good Practice(2) 医学教育. 2023.04; 54(2); 182-186

6. 鈴木 敬一郎, 島田 昌一, 中山 健夫, 山脇 正永, 鯉沼 代造, 山口 久美子. 【Making of 医学教育モデル · コア · カリキュラム】研究者育成の視点 医学教育. 2023.04; 54(2); 171-176

7. 馬渕 卓, 山田 徹, 大内 修司, 篠原 孝宏, 吉田 尚子, 赤石 雄, 後藤 夕輝, 鈴木 里彩, 橋本 正良. COVID-19 診療体制の構築と総合診療科の役割に関する後方視的検討 日本内科学会雑誌. 2023.02; 112(臨増); 165

8. Gau Maki, Suga Ryota, Hijikata Atsushi, Kashimada Ayako, Takagi Masatoshi, Nakagawa Ryuichi, Takasawa Kei, Shirai Tsuyoshi, Kashimada Kenichi, Morio Tomohiro. A novel variant of NR5A1, p.R350W implicates potential interactions with unknown co-factors or ligands FRONTIERS IN ENDOCRINOLOGY. 2023.01; 13; 1033074

9. 松原 慎, 丹羽 文俊, 入江 仁, 横井 大祐, 石野 秀岳, 山脇 正永. ゾルピデム誘発性睡眠関連食行動障害を呈した高齢者の 1 例 日本病院総合診療医学会雑誌. 2023.01; 19(1); 12-16

[書籍等出版物]

1. 岡田　英理子, 渡辺　守. 緊急度 · 重症度からみた　症状別看護過程＋病態関連図　第 4 版. 株式会社　医学書院, 2023.11

[講演 · 口頭発表等]

1. Manabu Sugie, Yusuke Noguchi, Nobutoshi Nawa, Ayako Kashimada, Kazuyuki Ito, Tsutomu Kondo, Satoshi Kusuda, Chikako Morioka, Tomohiro Morio, Kenichi Kashimada. Implication of Acquiring Oxidative Stress Resistance in Chorioamnionitis Leading to Reduced Risk of Severe Retinopathy of Prematurity. FAOPS 2023; The 22nd Congress of the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies 2023.10.09 Tokyo

2. Masanaga Yamawaki, Eriko Okada, Nobutoshi Nawa, Makoto Takahashi, Ayako Kashimada, Yu Akaishi, Shouko Yoshida, Yujiro Tanaka. Development of evaluation system from undergraduate to postgraduate clinical training : a nation wide EPOC (E POrtfolio of Clinical training) in Japan. AMEE(the International association for Health Professions Education)2023 2023.08.28 Glasgow

3. Mina Nakagawa, Kumiko Yamaguchi, Mitsuyuki Numasawa, Kanako Noritake, Eriko Okada, Eiji Kaneko, Janelle Moross, Jun Tsuruta, Keiichi Akita, Masanaga Yamawaki. Patients as teachers: a novel IPE curriculum . AMEE2023 2023.08.28

1. 岡田英理子, 山脇正永. CC-EPOC をどのように導入 · 活用するか. 第 55 回医学教育学会 2023.07.27

2. 宮 真里, 赤石 雄, 沼沢 益行, 鹿島田 彩子, 岡田 英理子, 鈴木 健嗣, 山脇 正永. AI を活用した表情分析における瞬目頻度と講義満足度との関連. 医学教育 2023.07.01

3. 赤石 雄, 山脇 正永, 宮 真里. 「解った!」を測る:non-verbal signals の工学的分析と学修評価への応用 Learning signal としてのまばたきの可能性. 医学教育 2023.07.01

4. 山脇 正永, 赤石 雄, 宮 真理. 「解った!」を測る:non-verbal signals の工学的分析と学修評価への応用　学修者の理解度を測る Learning signal はあるか. 医学教育 2023.07.01

5. 鹿島田 彩子, 赤石 雄, 井津井 康浩, 岡田 英理子, 山脇 正永. 当院におけるポストコロナ時代に向けたハイブリッド型オンライン臨床研修指導医講習会の試み. 医学教育 2023.07.01

6. 宮 真里, 赤石 雄, 沼沢 益行, 鹿島田 彩子, 岡田 英理子, 鈴木 健嗣, 山脇 正永. AI を活用した表情分析における瞬目頻度と講義満足度との関連. 医学教育 2023.07.01

7. 鹿島田 彩子, 赤石 雄, 井津井 康浩, 岡田 英理子, 山脇 正永. 当院におけるポストコロナ時代に向けたハイブリッド型オンライン臨床研修指導医講習会の試み. 医学教育 2023.07.01

8. 宮 真里, 赤石 雄, 沼沢 益行, 鹿島田 彩子, 岡田 英理子, 鈴木 健嗣, 山脇 正永. AI を活用した表情分析における瞬目頻度と講義満足度との関連. 医学教育 2023.07.01

9. 鹿島田 彩子, 赤石 雄, 井津井 康浩, 岡田 英理子, 山脇 正永. 当院におけるポストコロナ時代に向けたハイブリッド型オンライン臨床研修指導医講習会の試み. 医学教育 2023.07.01

10. 宮 真里, 赤石 雄, 沼沢 益行, 鹿島田 彩子, 岡田 英理子, 鈴木 健嗣, 山脇 正永. AI を活用した表情分析における瞬目頻度と講義満足度との関連. 医学教育 2023.07.01

11. 赤石 雄, 山脇 正永, 宮 真里. 「解った!」を測る:non-verbal signals の工学的分析と学修評価への応用 Learning signal としてのまばたきの可能性. 医学教育 2023.07.01

12. 山脇 正永, 赤石 雄, 宮 真理. 「解った!」を測る:non-verbal signals の工学的分析と学修評価への応用　学修者の理解度を測る Learning signal はあるか. 医学教育 2023.07.01

13. 鹿島田 彩子, 赤石 雄, 井津井 康浩, 岡田 英理子, 山脇 正永. 当院におけるポストコロナ時代に向けたハイブリッド型オンライン臨床研修指導医講習会の試み. 医学教育 2023.07.01

14. 渡壁 慶也, 三好 正人, 柿沼 晴, 稲田 賢人, 持田 知洋, 志水 太郎, 土屋 淳, 金子 俊, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 村川 美也子, 井津井 康浩, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 肝星細胞における TNFAIP3 の機能解析. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16

15. 鹿島田彩子, 水野朋子, 宇田川智宏, 細川奨, 内田佳介, 田中絵里子, 小崎健次郎, 高木正稔. 新規 RNF213 遺伝子 de novo バリアントは全身性の血管縮窄症に関与する. 第 65 回日本小児神経学会学術集会 2023.05.27 岡山

16. 山脇 正永. 卒前 · 卒後のシームレスな医療人養成について. 日本医学会総会会誌 2023.04.01

[その他業績]

1. 「 研修開始時点での抑うつ症状を緩和する非認知スキルの解明 」 — 初期研修医の Grit と抑うつ症状の関連について —, 2023 年 07 月
Medical education online

2. 「 研修開始時点での抑うつ症状を緩和する非認知スキルの解明 」 — 初期研修医の Grit と抑うつ症状の関連について —, 2023 年 07 月
Medical education online

3. 「　Doctor to Doctor （D to D）の遠隔集中治療のニーズを解明 」 —　医学科学生の研究室配属実習での研究成果　—, 2023 年 12 月
BMJ Open

4. 「　Doctor to Doctor （D to D）の遠隔集中治療のニーズを解明 」 —　医学科学生の研究室配属実習での研究成果　—, 2023 年 12 月
BMJ Open

[社会貢献活動]

1. 地域医療への貢献, 2013 年 04 月 01 日 - 現在

2. 松戸市介護認定審査会委員, 2020 年 04 月 01 日 - 現在

3. 2022 年度東京医科歯科大学オープンキャンパス　女子高校生に向けた講演会, 2022 年 07 月 - 現在

救急災害医学

Acute Critical Care and Disaster Medicine

教授　大友 康裕
准教授　森下 幸治
講師　森 周介
助教　高山 渉
助教　植木 穣
助教　宮川 赳平
助教　千田 篤
助教　中堤 啓太
助教　藤江 聡
助教　末金 彰
特任助教　安達 朋宏
特任助教　岩崎 陽平
特任助教　伊藤 慧
特任助教　松井 宏樹
特任助教　藤田 晃浩
医員　朝田 慎平
医員　古口 葉月
医員　河原 直毅
救急救命士　加藤 渚
救急救命士　北原 嶺
救急救命士　原島 瑞葵

(1) 分野概要

過大侵襲による生体の免疫能はダイナミックな変化を遂げる。人体を害する重大な過大侵襲は外傷や重症感染症によっても与えられ，それらによる多臓器 · 遠隔臓器不全が生じた時，様々な炎症性メディエーターが関与していると考えられており，これらをどのように制御するかが外傷，重症感染症の治療には重要である．　我々の教室では外傷や重症感染症による炎症性メディエーターの機能，動態解明を目的に，他大学，学内他医局との共同研究を行い，動物実験，基礎研究を行っている．また，統計的観点より外傷による死亡を減ずることを目的として，積極的に研究を行っている．

(2) 研究活動

· 重症感染症時の炎症性メディエーターの分析
· 質量分析による脂質メディエーターの解析（お茶の水女子大学との共同研究）
· 大量出血症例に対するフィブリノーゲン濃縮製剤投与と輸血量に関する介入研究
· 重症敗血症における好中球機能解明
· 日本外傷データバンクを利用した統計学的検討

(3) 研究業績

[原著]

1. Keita Nakatsutsumi, Koji Morishita, Todd W Costantini, Tomohiro Adachi, Akira Suekane, Keisuke Suzuki, Mitsuaki Kojima, Makoto Arita, Yasuhiro Otomo. Analysis of lipid metabolites derived from gut microbiota in ischemia-reperfusion model. J Trauma Acute Care Surg. 2023.12;

2. Yánez Benítez C, Lorente-Aznar T, Labaka I, Soteras I, Baselga M, Morishita K, Ribeiro M, Güemes A.. EXTREMITY TOURNIQUET SELF-APPLICATION BY ANTARCTICA ZODIAC CREW MEMBERS. Disaster Med Public Health Prep.. 2023.11; 8; 1-22

3. Suekane A, Takayama W, Hashimoto R, Morishita K, Otomo Y. Risk factors for recurrence of suicide attempt via overdose: A prospective observational study. The American journal of emergency medicine. 2023.10; 75; 1-6

4. Hatakeyama T, Kiguchi T, Sera T, Nachi S, Urushibata N, Ochiai K, Kitamura T, Ogura S, Otomo Y, Iwami T. Pre-hospital airway management and neurological status of patients with out-of-hospital cardiac arrest: A retrospective cohort study. Resuscitation plus. 2023.09; 15; 100422

5. Akutsu T, Endo A, Sonobe H, Suzuki K, Murata K, Otomo Y. A case of fulminant myocarditis with full recovery after a 38-h sustained asystole. Clinical case reports. 2023.08; 11(8); e7722

6. Morishita K, Coimbra R, Ito K, Otomo Y. The American Association for the Surgery of Trauma-European Society of Trauma and Emergency Surgery Emergency Surgery Course: Initial experience in Japan. The journal of trauma and acute care surgery. 2023.08; 95(2); e3-e5

7. Nakatsutsumi K, Endo A, Todd W C, Takayama W, Morishita K, Otomo Y, Inoue A, Hifumi T, Sakamoto T, Kuroda Y, Save-J Ⅱ study group. Time-saving effect of real-time ultrasound-guided cannulation for extracorporeal cardiopulmonary resuscitation: A multicenter retrospective cohort study. Resuscitation. 2023.08; 109927

8. Carlos Yánez Benítez, Teófilo Lorente-Aznar, Idurre Labaka, Marcelo A. F. Ribeiro Jr, Yosu Viteri, Koji Morishita, Marta Baselga, Antonio Güemes. Tourniquet self-application assessment in cold weather conditions 2023.08; 23(101);

9. Takayama W, Endo A, Morishita K, Otomo Y. Manual Chest Compression versus Automated Chest Compression Device during Day-Time and Night-Time Resuscitation Following Out-of-Hospital Cardiac Arrest: A Retrospective Historical Control Study. Journal of personalized medicine. 2023.07; 13(8);

10. Hosoya T, Oba S, Komiya Y, Kawata D, Kamiya M, Iwai H, Miyamoto S, Kataoka M, Tobiume M, Kanno T, Ainai A, Sato H, Hirakawa A, Mitsui Y, Satoh T, Wakabayashi K, Yamada T, Otomo Y, Miyazaki Y, Hasegawa H, Suzuki T, Yasuda S. Apple-shaped obesity: A risky soil for cytokine-accelerated severity in COVID-19. Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America. 2023.05; 120(22); e2300155120

11. Nakatsutsumi Keita, Endo Akira, Asano Hiroshi, Shinohara Shoichi, Kurosaki Ryo, Kawashima Shuji, Ishii Wataru, Nozawa Masashi, Tagaya Nobumi, Otomo Yasuhiro. Prophylactic effect of negative-pressure wound therapy and delayed sutures against incisional-surgical site infection after emergency laparotomy for colorectal perforation: A multicenter retrospective cohort study(タイトル和訳中) Annals of Gastroenterological Surgery. 2023.05; 7(3); 441-449

12. Wada Takeshi, Yamakawa Kazuma, Kabata Daijiro, Abe Toshikazu, Fujishima Seitaro, Kushimoto Shigeki, Mayumi Toshihiko, Ogura Hiroshi, Saitoh Daizoh, Shiraishi Atsushi, Otomo Yasuhiro, Gando Satoshi. Sepsis-related coagulopathy treatment based on the disseminated intravascular coagulation diagnostic criteria: a post-hoc analysis of a prospective multicenter observational study(タイトル和訳中) Journal of Intensive Care. 2023.03; 11; 1 of 11-11 of 11

13. Haruta Koichi, Endo Akira, Shiraishi Atsushi, Otomo Yasuhiro. Usefulness of resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta compared to aortic cross-clamping in severely injured trauma patients: Analysis from the Japan Trauma Data Bank(タイトル和訳中) Acute Medicine & Surgery. 2023.03; 10(1); 1 of 8-8 of 8

14. Mori Shusuke, Ai Tomohiko, Taguchi Towako, Negi Mariko, Otomo Yasuhiro. Aggressive diffuse large B-cell lymphoma manifested by splenic rupture progressed 2 months after transverse myelitis: an autopsy case report(タイトル和訳中) Acute Medicine & Surgery. 2023.02; 10(1); 1 of 5-5 of 5

15. Mori S, Ai T, Taguchi T, Negi M, Otomo Y. Aggressive diffuse large B-cell lymphoma manifested by splenic rupture progressed 2 months after transverse myelitis: an autopsy case report. Acute medicine & surgery. 2023.01; 10(1); e822

16. Akutsu T, Endo A, Okuzawa H, Suzuki K, Yonekawa C, Hoshi H, Otomo Y. Gastric tube perforation penetrating the pericardium after esophagectomy that needed surgical repair. Acute medicine & surgery. 2023.01; 10(1); e861

17. Asada S, Mori S, Takemoto A, Tamura K, Ito G, Otomo Y. Spontaneous splenic rupture due to occult signet-ring cell gastric cancer accompanied by a bulky splenic vein thrombosis and postoperative brain infarction: A case report. Acute medicine & surgery. 2023.01; 10(1); e879

18. Akutsu T, Endo A, Sonobe H, Saida F, Miyakawa K, Takedatsu F, Suzuki K, Murata K, Otomo Y. Surgical strategy for airway management and bleeding control in penetrating neck injury in zone II: A case report. Clinical case reports. 2023.01; 11(1); e6862

19. Haruta K, Endo A, Shiraishi A, Otomo Y. Usefulness of resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta compared to aortic cross-clamping in severely injured trauma patients: Analysis from the Japan Trauma Data Bank. Acute medicine & surgery. 2023.01; 10(1); e830

20. Inoue H, Tanaka H, Sakanashi S, Kinoshi T, Numata H, Yokota H, Otomo Y, Masuno T, Nakano K, Sugita M, Tokunaga T, Sugimoto K, Inoue J, Kato N, Nakagawa K, Tanaka S, Sagisaka R, Miyamoto T, Akama T. Incidence and factor analysis for the heat-related illness on the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games. BMJ open sport & exercise medicine. 2023; 9(2); e001467

1. 森下幸治、大友康裕. 東京医科歯科大学における重症 COVID-19 感染患者の対応 ICU と CCU. 2023.12; 47; S102-S105

2. 藤田晃浩、森下幸治. ハルトマン手術：開腹手術 臨床外科. 2023.10; 78(11); 172-175

3. 深見 達弥, 北野 文将, 近本 亮, 生野 芳博, 林 達哉, 中村 京太, 大徳 和之, 小林 和幸, 大友 千賀, 小沼 利光, 前田 光男, 渡谷 祐介, 嶋田 沙織, 吉松 裕子, 田中 和美, 原田 直樹, 岡本 博幸, 鈴木 純, 森下 幸治, 川勝 美樹, 荒神 裕之, 江本 晶子, 松本 早苗, 安田 ちえ, 森山 秀樹, 小田 浩美, 森岡 浩一. 国立大学附属病院における全死亡事例把握に関するアンケート結果 医療の質・安全学会誌. 2023.10; 18(4); 420-427

4. Nakatsutsumi Keita, Endo Akira, Asano Hiroshi, Shinohara Shoichi, Kurosaki Ryo, Kawashima Shuji, Ishii Wataru, Nozawa Masashi, Tagaya Nobumi, Otomo Yasuhiro. Prophylactic effect of negative-pressure wound therapy and delayed sutures against incisional-surgical site infection after emergency laparotomy for colorectal perforation: A multicenter retrospective cohort study ANNALS OF GASTROENTEROLOGICAL SURGERY. 2023.05; 7(3); 441-449

5. Hida Koya, Hirano Satoshi, Poudel Saseem, Kurashima Yo, Stefanidis Dimitrios, Hashimoto Daisuke, Akiyama Hirotoshi, Eguchi Susumu, Fukui Toshihiro, Hagiwara Masaru, Izaki Tomoko, Kawamoto Shunsuke, Otomo Yasuhiro, Nagai Eishi, Takami Hideki, Takeda Yuko, Toi Masakazu, Yamaue Hiroki, Yoshida Motofumi, Yoshida Shigetoshi, Kodera Yasuhiro, Saito Mitsue. The degree of satisfaction and level of learning in male and female surgical residents: a nationwide questionnaire survey of graduating residents in Japan SURGERY TODAY. 2023.05;

6. 八木 雅幸, 冨田 夏子, 森下 幸治. 【気道管理”気導道”免許皆伝を目指して (後編)】生理学的・病理学的困難気道に備えられる麻酔科医を目指す　重症外傷診療からのヒント LiSA. 2023.05; 30(5); 546-551

7. Tanaka Hideharu, Tanaka Shota, Yokota Hiroyuki, Otomo Yasuhiro, Masuno Tomohiko, Nakano Kousuke, Sugita Manabu, Tokunaga Takahiko, Sugimoto Katsuhiko, Inoue Junichi, Kato Nagisa, Kinoshi Tomoya, Sakanashi Syuji, Inoue Hironori, Numata Hiroto, Nakagawa Koshi, Miyamoto Tetsuya, Akama Takao. Acute in-competition medical care at the Tokyo 2020 Olympics: a retrospective analysis BRITISH JOURNAL OF SPORTS MEDICINE. 2023.04;

8. Senda Atsushi, Kojima Mitsuaki, Watanabe Arisa, Kobayashi Tetsuyuki, Morishita Koji M., Aiboshi Junichi M., Otomo Yasuhiro M.. Profiles of lipid, protein and microRNA expression in exosomes derived from intestinal epithelial cells after ischemia-reperfusion injury in a cellular hypoxia model PLOS ONE. 2023.03; 18(3); e0283702

9. Wada Takeshi, Yamakawa Kazuma, Kabata Daijiro, Abe Toshikazu, Fujishima Seitaro, Kushimoto Shigeki, Mayumi Toshihiko, Ogura Hiroshi, Saitoh Daizoh, Shiraishi Atsushi, Otomo Yasuhiro, Gando Satoshi. Sepsis-related coagulopathy treatment based on the disseminated intravascular coagulation diagnostic criteria: a post-hoc analysis of a prospective multicenter observational study JOURNAL OF INTENSIVE CARE. 2023.03; 11(1); 8

10. 中久木 康一, 笠岡 宜代 [坪山] , 原田 浩美, 服部 希世子, 大友 康裕. 【大規模災害の”食べる”支援-多職種による実践報告と今後の展望】(第 2 部)”食べる”支援の transdisciplinary approach　みえてきた課題と多職種で結ぶ未来 臨床栄養. 2023.03; 142(3); 356-371

11. 遠藤　彰, 白石　淳, 久志本　成樹, 大友　康裕, 他. 治療指針としての『外傷死の三徴』の有用性の検証と新基準の提案 日本外傷学会雑誌.

[講演 · 口頭発表等]

1. Koji Morishita. Japan Trauma System and Education System. Trauma System Development Exchange Meeting & Trauma Core Technology Training Course The 3rd National Center for Trauma Medicine Life Trauma Care Training Course 2023.11.04 Shenzhen, China

2. Koji Morishita. Real Action!! Trauma Ultrasound!!. Annual Congress of KSS 2023, 75th Congress of The Korean Surgical Society 2023.11.04 Seoul, Korea

3. Kosuke Sekiya ,Keisuke Suzuki, Keita Nakatsutusmi, Wataru Takayama, Koji Morishita, Jyunichi Aiboshi, Masahito kaji, Yasuhiro Otomo. Challenges and Issues at the Closing Abdomen in Japan. World Trauma Congress 2023 2023.08.12 Tokyo

4. Yohei Iwasaki, Akira Endo, Koji Morishita1, Atsushi Shiraishi, Yasuhiro Otomo . Gunshot Wounds Experiences and Protocols in Japan - A Nationwide Web-based Survey for Tertiary Emergency Medical Centers. World Trauma Congress 2023 2023.08.12 Tokyo

5. Koji Morishita, Yasuhiro Otomo, Kazuhide Matsuhima, Tomohisa Shoko, Junichi Inoue, Eiji Hira, Takaaki Nakada, Yasumitsu Mizobata, Hiroaki Watanabe, Satoshi Hirano, Hirohisa Matsubara . The current problems related to the institutional trauma care system in Japan and potential solutions: A survey. World Trauma Congress 2023 2023.08.11 Tokyo

6. Wataru Takayama, Koji Morishita, Yasuhiro Otomo. The impact of blood type on the mortality of patients with severe ABdOminal trauma: A multicenter observational study . World Trauma Congress 2023 2023.08.11 Tokyo

7. Hazuki Koguchi,Wataru Takayama, Koji Morishita, Yasuhiro Otomo. Age-related differencesin the impact of coagulopathy in patients with traumatic brain injury. World Trauma Congress 2023 2023.08.10 Tokyo

1. 北原 嶺, 森下 幸治, 加藤 渚, 原島 瑞葵, 服部 恭平, 大友 康裕. 四肢血管損傷に対する病院前ターニケット使用に関する地域の実情 (1)　都心におけるターニケットの使用状況と今後の取り組みについて. 日本外傷学会雑誌 2023.05.01

2. 和田 剛志, 白石 淳, 丸藤 哲, 加葉田 大志朗, 山川 一馬, 藤島 清太郎, 齋藤 大蔵, 久志本 成樹, 小倉 裕司, 真弓 俊彦, 大友 康裕. 外傷性凝固障害におけるアンチトロンビンの動態と DIC 発症, 予後との関係. 日本血栓止血学会誌 2023.05.01

3. 大友 康裕. 政府要人の銃撃を経験し, わが国の外傷診療体制を再検証する. 日本外傷学会雑誌 2023.05.01

4. 森下 幸治, 大友 康裕, 庄古 知久, 松島 一英, 井上 潤一, 比良 英司, 中田 孝明, 溝端 康光, 渡部 広明, 平野 聡, 松原 久裕. 本邦における外傷センター構想　厚生労働省外傷外科医養成事業における院内体制調査を通して外傷センターを考える. 日本外傷学会雑誌 2023.05.01

5. 藤田 晃浩, 高山 渉, 中堤 啓太, 北原 嶺, 森下 幸治, 大友 康裕. 重症外傷患者に対する, より安全な CT 撮影時間効率, 移動効率を意識した重症外傷初期診療当院での取り組み. 日本外傷学会雑誌 2023.05.01

6. 藤田 晃浩, 高山 渉, 中堤 啓太, 北原 嶺, 森下 幸治, 大友 康裕. 重症外傷患者に対する, より安全な CT 撮影時間効率, 移動効率を意識した重症外傷初期診療当院での取り組み. 日本外傷学会雑誌 2023.05.01
7. 溝端 康光, 比良 英司, 伊澤 祥光, 内野 隼材, 森下 幸治, 佐藤 徹, 井上 貴昭, 中尾 彰太, 松村 洋輔, 本間 宙, 井上 尚美. JETEC 第 3 版におけるチームアプローチおよび Simulation training の改訂について. 日本外傷学会雑誌 2023.05.01
8. 岩崎 陽平, 漆畑 直, 本藤 憲一, 相星 淳一, 大友 康裕. COVID-19 パンデミック下の救急医療を護るために-できたこと、できなかったこと、次にやるべきこと　重症 COVID-19 患者対応でできたこと、できなかったこと、次にやるべきこと　多職種アンケート調査から見えたこと. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2023.02.01
9. 下田 遥, 朝田 慎平, 久下 晶子, 森下 幸治, 大友 康裕. 保存的加療により改善した広範な胃十二指腸蜂窩織炎の一例. 日本腹部救急医学会雑誌 2023.02.01
10. 森下 幸治, 高山 渉, 大友 康裕. 働き方改革 2024　腹部救急診療現場での課題と対応　働き方改革に向けた都心部の救命救急センターの腹部救急に対応のための勤務体制の検討. 日本腹部救急医学会雑誌 2023.02.01
11. 伊藤 慧, 大友 康裕. 当院における外傷性膵損傷例の検討. 日本腹部救急医学会雑誌 2023.02.01
12. 田中 今日子, 木下 舞, 酒井 達也, 藤田 晃浩, 中堤 啓太, 大友 康裕. 救急外来におけるチーム医療に関する当院の取り組み　Team Managemen Team. 日本腹部救急医学会雑誌 2023.02.01
13. 阿部 大数, 稲次 基希, 長谷 武志, 大友 康裕, 田中 洋次, 前原 健寿. 脳神経外科救急におけるデジタル技術の活用　機械学習を用いた外傷性頭蓋内出血患者の搬送前トリアージシステム. Neurosurgical Emergency 2023.02.01
14. 朝田 慎平, 中堤 啓太, 高山 渉, 大友 康裕. 軟部組織感染 · 深部 SSI に対するベストプラクティス　陰圧閉鎖療法施行困難症例に対する当院の工夫. 日本腹部救急医学会雑誌 2023.02.01
15. 大西 悠汰, 岩崎 陽平, 松井 宏樹, 高山 渉, 千田 篤, 大友 康裕. 重症 COVID-19 患者における後遺症の実態調査. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2023.02.01
16. 森下 幸治, 高山 渉, 大友 康裕. 働き方改革 2024　腹部救急診療現場での課題と対応　働き方改革に向けた都心部の救命救急センターの腹部救急に対応のための勤務体制の検討. 日本腹部救急医学会雑誌 2023.02.01
17. 朝田 慎平, 中堤 啓太, 高山 渉, 大友 康裕. 軟部組織感染 · 深部 SSI に対するベストプラクティス　陰圧閉鎖療法施行困難症例に対する当院の工夫. 日本腹部救急医学会雑誌 2023.02.01
18. 大西 悠汰, 岩崎 陽平, 松井 宏樹, 高山 渉, 千田 篤, 大友 康裕. 重症 COVID-19 患者における後遺症の実態調査. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2023.02.01

[社会貢献活動]

1. 重症病床について, TBS, News23 ほか, 2023 年 01 月 12 日 - 2023 年 01 月 13 日
2. 銃創治療と国内の事情について, 読売新聞東京本社, 読売新聞, 2023 年 06 月 21 日
3. 救命センターに運ばれた患者のその後について, 読売新聞東京本社, 読売新聞, 2023 年 07 月 07 日
4. サウナの注意点について, 読売新聞社, 教えて！ ヨミドック, 2023 年 11 月 22 日 - 2023 年 12 月 02 日
5. 医局紹介, 旭化成ファーマ株式会社, 旭化成 PharmaDIGITAL, 2023 年 12 月 11 日 - 現在
6. ハイブリッド ER システムについてインタビュー, シーメンスヘルスケア株式会社, Future of Healthcare, 2023 年 12 月 26 日 - 現在

総合診療歯科学分野

Department of General Dentistry

教　授　　新田 浩
准教授　　西山 暁
講　師　　秀島 雅之
講　師　　礪波 健一
講　師　　則武 加奈子
助　教　　梅森 幸
特任助教　金森 ゆうな（10 月まで）
特任助教　城戸 大輔
特任助教　曹 日丹
特任助教　原田 直子（３月まで）
医　員　　戒田 梢子
医　員　　北中 祐太郎（３月まで）
医　員　　高松 秀行
医　員　　戸邉 昌子
医　員　　服部 旭威
医　員　　三木 裕仁
医　員　　三間 裕子
大学院生・医員 関口 絢子
大学院生　　原田 芽衣 (4 月から）

(1) 分野概要

現在の歯科学は様々な研究・教育領域に専門分化しているが、歯科医師が General Practitioner として職務を全うするには、それらの領域を統合した知識と技術を身に着け、さらに個々の患者に適切にあてはめ実践する能力が必要である。総合診療歯科学分野は、そのような総合的、全人的歯科医療実践のための研究・教育を行なっている。上記研究領域は学生・研修歯科医の包括臨床教育・情意教育と密接に関連するため、診断・治療に関する研究の他に歯学教育に関する研究を歯学教育システム評価学分野、教育メディア開発学分野と共同で行っている。また、睡眠時無呼吸症候群に関する研究を快眠歯科外来と共同で行っている。総合診療歯科学分野が担当する病院診療科は、予診業務と総合診療を行う歯科総合診療科, 学生が臨床実習を行う第一総合診療室，および研修医が臨床研修を行う第二総合診療室である。

(2) 研究活動

現在、主として以下のテーマについて研究活動を行っている。
1. 歯科を訪れる患者の健康問題の構造と歯科治療計画に関する研究
2. 歯科領域における診断法の検証と改良に関する研究
3. 学生・研修医の教育に関する研究

(3) 教育活動

総合診療歯科学分野の教育方針は歯学的知識・技術の「統合」と「個別化」を学生・研修医に修得させることである。すなわち、歯科の診断・治療について専門領域を横断・統合した学問体系を学生に教授する。また、一般化さ

れた知識 · 技術である学問体系をいかに個別の患者に応用するかについて、学生に実践させ教育する。

(4) 教育方針

1. 行動科学基礎：歯学科２年生対象：学外福祉施設で学生が体験学習を行う。本授業は医療従事者の基本となる人間観を学生が習得することを目的としている。
2. 全人的総合診断：歯学科５年生対象：各専門領域を統合した総合的な診察を行う能力を習得することを目的とした講義を行う。
3. 包括臨床実習 Phase Ⅰ，Phase Ⅱ：歯学科５年生、６年生対象：病院（歯科棟）４階の第一総合診療室では、臨床実習全体の総括 · マネージメントを行う。病院（歯科棟）１階の歯科総合診療科では医療面接，口腔診察，口腔総合診断，総合治療計画の立て方などの基本を臨床の現場で学生に実戦的に経験させながら教育する。
4. 歯科臨床研修指導：卒後一年目の研修歯科医の臨床指導を行う。病院（歯科棟）４階の第二総合診療室で診療を行う卒後二年目のレジデントに対しても臨床指導を行う。

(5) 臨床活動および学外活動

総合診療歯科学の診療科である歯科総合診療科は、午前中は予診業務として病院歯科を初めて訪れる新来患者の全身評価と口腔診察を行い，対応診療科の決定 · 手配を行う．午後は各科横断的 · 包括的な診療が必要な症例を有する患者、専門性のそれほど高くない症例を有する患者、および教育協力を得られなかった患者について総合診療を実践している。

(6) 臨床上の特色

予診業務では歯科総合診療科が本病院（歯科）を受診した患者が最初に訪れる外来であることに留意し、良好な患者—医療者関係を構築するために患者の心理 · 社会的側面に配慮している。医療面接 · 口腔内診察を経て行われる診療科の決定では、初期の診療計画を立案することが求められる。この診療計画の立案に際しては、常に患者を中心に考え、できるだけ患者の希望に沿った治療法の選択を行い、インフォームド · コンセントを得ることが大切である。本院は大学附属病院としての専門性を求めて来院する患者が多い一方で、地域医療で一般的に行われている総合診療を必要とする患者も少なくない。歯科総合診療科では、こうした多様な患者のニーズに対する受け皿のひとつとして総合歯科診療を行い、患者満足度の向上に努めている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Okada M, Hama Y, Futatsuya R, Sasaki Y, Noritake K, Yamaguchi K, Matsuzaki M, Kubota C, Hosoda A, Minakuchi S. Association between Masticatory Performance, Nutritional Intake, and Frailty in Japanese Older Adults. Nutrients. 2023.12; 15(24);

2. Shu Takemura, Koji Mizutani, Risako Mikami, Keita Nakagawa, Masahiro Hakariya, Eri Sakaniwa, Natsumi Saito, Hiromi Kominato, Daisuke Kido, Kohei Takeda, Akira Aoki, Takanori Iwata. Enhanced periodontal tissue healing via vascular endothelial growth factor expression following low-level erbium-doped: yttrium, aluminum, and garnet laser irradiation: In vitro and in vivo studies. J Periodontol. 2023.11;

3. Hayashi S, Takeuchi Y, Hiratsuka K, Kitanaka Y, Toyoshima K, Nemoto T, Aung N, Hakariya M, Ikeda Y, Iwata T, Aoki A. Effects of various light-emitting diode wavelengths on periodontopathic bacteria and gingival fibroblasts: An in vitro study. Photodiagnosis and Photodynamic Therapy. 2023.10; 44;

4. Komagamine Y, Kanazawa M, Miyayasu A, Uehara Y, Watanabe M, Sahaprom N, Huyen TBN, Iwaki M, Sato D, Minakuchi S. The effect of single-implant overdentures on cognitive function in older adults: A 3-year follow-up report. Journal of dentistry. 2023.09; 136; 104632

5. Takeuchi Y, Nemoto T, Kitanaka Y, Aoki A, Izumi Y, Iwata T, Arakawa S. Antibacterial activity of lysozyme-chitosan oligosaccharide conjugates on two periodontal bacteria. Oral diseases. 2023.08;

6. Nakamura S, Watanabe H, Kurabayashi T, Miura M. Risk factors for posttreatment mastoid cellulitis in patients with oral malignancy Oral Radiology. 2023.07; 39(3); 528-535

7. Kimura-Ono Aya, Maekawa Kenji, Kuboki Takuo, Nawachi Kumiko, Fujisawa Masanori, Sato Hironobu, Aita Hideki, Koyama Shigeto, Hideshima Masayuki, Sato Yuji, Wake Hiroyuki, Nagao Kan, Kodaira-Ueda Yorika, Tamaki Katsushi, Sadamori Shinsuke, Tsuga Kazuhiro, Nishi Yasuhiro, Sawase Takashi, Koshino Hisashi, Masumi Shin-ichi, Sakurai Kaoru, Ishibashi Kanji, Ohyama Takashi, Akagawa Yasumasa, Hirai Toshihiro, Sasaki Keiichi, Koyano Kiyoshi, Yatani Hirofumi, Matsumura Hideo, Ichikawa Tetsuo, Ohkawa Shuji, Baba Kazuyoshi. Prosthodontic treatment can improve the ingestible food profile in Japanese adult outpatients Journal of Prosthodontic Research. 2023.04; 67(2); 189-195

8. Okihata R,Michi Y,Sunakawa M,Tagashira Y. Pharmacist-led multifaceted intervention in an antimicrobial stewardship programme at a university dental hospital in Japan. Journal of Hospital Infection . 2023.04; 136; 30-37

9. Natnicha Wamasing, Supasith Yomtako, Hiroshi Watanabe, Junichiro Sakamoto, Kou Kayamori, Tohru Kurabayashi. The magnetic resonance imaging characteristics of radicular cysts and granulomas Dentomaxillofac Radiol. 2023.02; 52(3); 20220336

10. Kanamori Y, Seki N, Foxton R, Moross J, Komagamine Y, Mizutani K, Hosaka K, Kanazawa M, Hatayama T, Komada W, Yonemitsu I, Akiyama M, Kaewmanee PC, Kaewsutha N, Nitta H, Wakabayashi N, Morio I. Fostering globally competent dental students through virtual team-working, problem-solving and person-centred multi-disciplinary care planning. Journal of Dental Sciences. 2023.01; 18(1); 95-104

11. Akiyama Kyoko, Sunaga Masayo, Cao Ridan, Arai Megumi, Kinoshita Atsuhiro. 歯科衛生ケアのプロセスを学ぶためのインタラクティブシミュレーション教材の開発、適用、評価 (Development, application, and evaluation of interactive simulation materials for learning the dental hygiene process of care) Journal of Medical and Dental Sciences. 2023; 70; 1-9

12. Daisuke Kido, Keiji Komatsu, Toshikatsu Suzumura, Takanori Matsuura, James Cheng, Jeong Kim, Wonhee Park, Takahiro Ogawa. Influence of Surface Contaminants and Hydrocarbon Pellicle on the Results of Wettability Measurements of Titanium International Journal of Molecular Sciences. 2023.09; 24(19);

1. 秀島 雅之, 石山 裕之, 奥野 健太郎. さあ, 睡眠歯科をはじめましょう!睡眠×○○で語る, 睡眠歯科の実際のところ (第 5 回)　睡眠×補綴　補綴医からみた口腔内装置　適切な下顎位設定と咬合への副作用 歯界展望. 2023.11; 142(5); 914-925

2. 新田　浩. 「国民皆歯科健診」が検討されています ばらんす. 2023.06; 10-11

3. 秀島 雅之. 研究者の最新動向　コロナ禍での睡眠障害と閉塞性睡眠時無呼吸症の口腔内装置療法の治療効果予測モデル Precision Medicine. 2023.05; 6(5); 401-405

[書籍等出版物]

1. 砂川　光宏. 一般社団法人　日本歯科医学界連合監修　エビデンスに基づく歯科医療における医療関連感染対策実践マニュアル. 永末書店, 2023.06 (ISBN : 978-4-8160-1430-7)

2. 森　雅亮. 今日の治療薬 2023　解説と便覧. 南江堂, 2023.01 (ISBN : 978-4-524-20334-5)

[総説]

1. Lin P, Liu A, Tsuchiya Y, Noritake K, Ohsugi Y, Toyoshima K, Tsukahara Y, Shiba T, Nitta H, Aoki A, Iwata T, Katagiri S. Association between periodontal disease and chronic obstructive pulmonary disease Japanese Dental Science Review. 2023.12; 59; 389-402

2. Takeuchi Y, Aoki A, Hiratsuka K, Chui C, Ichinose A, Aung N, Kitanaka Y, Hayashi S, Toyoshima K, Iwata T, Arakawa S. Application of different wavelengths of LED lights in antimicrobial photodynamic therapy for the treatment of periodontal disease. Antibiotics (Basel, Switzerland). 2023.11; 12(12);

1. 吉田直美、新田　浩　他. マンガで学ぶはじめよう MI 最終回「言葉だけでなく、心の変化を見逃さない」歯科衛生士. 2023.07; 47(7); 73-77

2. 吉田直美、新田　浩　他. マンガで学ぶはじめよう MI 第 15 回「計画も患者さんから引き出そう」 歯科衛生士. 2023.06; 47(6); 75-79

3. 吉田直美、新田　浩　他. マンガで学ぶはじめよう MI 第 14 回「変わりたいのに変われない」 歯科衛生士. 2023.05; 47(5); 75-79
4. 吉田直美、新田　浩　他. マンガで学ぶはじめよう MI 第 13 回「チェンジトークが出にくいときは」 歯科衛生士. 2023.04; 47(4); 81-85
5. 吉田直美、新田　浩　他. マンガで学ぶはじめよう MI 第 12 回「不協和から抜け出したい・・・・・・」 歯科衛生士. 2023.03; 47(3); 65-69
6. 吉田直美、新田　浩　他. マンガで学ぶはじめよう MI 第 11 回「焦らず上ろう、MI の丘」 歯科衛生士. 2023.02; 47(2); 69-73
7. 秀島 雅之. ぐっすり眠れていますか？　睡眠中のいびき・無呼吸とマウスピース治療. 歯科衛生だより. 2023.02; (73); 1-3
8. 礪波健一. 正確で効率的な歯科総合診断 日本歯科医師会雑誌. 2023.01; 75(10); 33-40
9. 吉田直美、新田　浩　他. マンガで学ぶはじめよう MI 第 10 回「どこかにあるはず・・・変わりたい気持ち」 歯科衛生士. 2023.01; 47(1); 75-79

[講演・口頭発表等]

1. 関口絢子，曹　日丹，礪波健一，梅森　幸，則武加奈子，須永昌代，木下淳博，新田　浩. スマートグラスを用いた遠隔歯科臨床指導の教育効果 -概形印象採得-. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02
2. 岡田大和, 川島伸之, 野田園子, Nyein Chan Ko, 村野浩気, 砂川光宏, 興地隆史. ラット臼歯歯髄への MO 貼付に伴う視床における Sostdc1 mRNA 発現の低下. 日本歯科保存学会 2023 年度秋季学術大会（第 159 回） 2023.11.11 浜松
3. Rena Takahashi, Saki Uchiyama, Yuna Kanamori, Junichi Shinagawa, Toru Nikaido, Yasushi Shimada. Dentin bonding performance of resin cement using resin coating technique and different cleaning protocols. The 25th KACD-JSCD Joint Scientific Meeting 2023.11.04 Seoul, Korea
4. Mina Nakagawa, Kumiko Yamaguchi, Mitsuyuki Numasawa, Kanako Noritake, Eriko Okada, Eiji Kaneko, Janelle Moross, Jun Tsuruta, Keiichi Akita, Masanaga Yamawaki. Patients as teachers: a novel IPE curriculum . AMEE2023 2023.08.28
5. Nakayama M, Li H, Hayashi M, Tsuchida Y, Kanamori Y, Noritake K, Nitta H, Miyayasu A, Iwaki M, Kanazawa M. Quantitative analysis of visual evaluation in abutment tooth for full metal crown. International Summer Program (ISP) 2023, TMDU 2023.08.02 Tokyo, Japan
6. Daisuke Kido, Keiji Komatsu, Toshikatsu Suzumura, Takanori Matsuura, Takahiro Ogawa. Clinical Determinants of Hydrophilic State of Titanium Surfaces. the 2023 IADR/LAR General Session & Exhibition with WCPD 2023.06.24 Bogota Colombia

1. 礪波 健一, 梅森 幸, 則武 加奈子, 金森 ゆうな, 葛西 美樹, 小西 富代, 佐川 かおり, 下山 和弘, 新田 浩. 東京医科歯科大学病院歯科ドックの運用状況. ジャパンオーラルヘルス学会誌 2023.12.09 東京
2. 木村康之，則武加奈子，礪波健一，新田浩，豊福明. 歯科医療安全教育が臨床研修の質と安全に与える影響について. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京
3. 林 桜，竹内 康雄，平塚 浩一，北中 祐太郎，豊嶋 啓汰，秤屋 雅弘，岩田 隆紀，青木 章. 各種波長の LED 光照射が Porphyromonas gingivalis および歯肉線維芽細胞に及ぼす影響. Laser Week IV in Tokyo，第 35 回日本レーザー歯学会総会・学術大会 2023.11.26 東京
4. 高橋　礼奈, 金森　ゆうな, 高野　隼輔, 品川　淳一, 湊　洋祐, 高橋　基, 津田　優香, 島田　康史. 新規 1 ステップ接着システムのレジンコーティング法における評価. 第 159 回日本歯科保存学会 2023 年度秋季学術大会 2023.11.11 静岡県浜松市
5. 永田和裕, 秀島雅之, 大久保力廣, 鈴木恭典, 栗原大介, 反町謙太. 臨床評価委員会報告；健康保険収載後の磁性アタッチメントの使用状況の調査研究．. 日本磁気歯科学会第 33 回学術大会 2023.11.11 東京　(東京医科歯科大学)
6. 山本裕明，秀島雅之. 磁石構造体の取り付けに新手法を用いた Implant-assisted removable partial denture (IRPD) の経過報告. 日本磁気歯科学会第 33 回学術大会 2023.11.11 東京　(東京医科歯科大学)

7. 林 桜，竹内 康雄，平塚 浩一，北中 祐太郎，豊嶋 啓汰，根本 昂，秤屋 雅弘，池田 裕一，岩田 隆紀，青木 章. 各種波長の LED 光照射が Porphyromonas gingivalis に及ぼす影響. 第 66 回秋季日本歯周病学会学術大会 2023.10.14 長崎

8. 藤田 秋世, 秀島 雅之, 山口 浩平, 葛西 美樹, 佐川 かおり, 足達 淑子, 鈴木 達, 臼見 莉沙, 中河原 毅, 立石 知也. シート状グミを用いた舌トレーニングが閉塞性睡眠時無呼吸に与える影響. 睡眠口腔医学 2023.09.01

9. 石山 裕之, 秀島 雅之, 犬飼 周佑, 玉岡 明洋, 西山 暁, 宮崎 泰成, 笛木 賢治. 下顎前方移動時に伴う呼吸抵抗の減少率が, 閉塞性睡眠時無呼吸に対する口腔内装置治療の効果に及ぼす影響. 睡眠口腔医学 2023.09.01

10. 秀島雅之. 本学の歯科シミュレーション実習の現状と展望；シンポジウム「シミュレーション歯学教育の現状」. 日本医用歯科機器学会第 33 回研究発表大会 2023.07.29 朝日大学（岐阜市穂積）

11. 礪波健一, 梅森幸, 則武加奈子, 金森ゆうな, 新田浩. 行動科学基礎オンライン授業における人間関係に関する認識の変化の特徴. 第 55 回日本医学教育学会大会 2023.07.28 長崎

12. 則武加奈子，　山口久美子，　菊川　誠，　金森ゆうな，　新田　浩. 日本の研修歯科医が考える優れた指導歯科医の特徴（第 2 報）. 第 55 回日本医学教育学会学術大会 2023.07.27 長崎

13. 金森ゆうな, 則武加奈子, 土田優美, 岩城麻衣子, 金澤学, 新田浩. 東京医科歯科大学病院研修歯科医による支台歯形成に対する自己評価と定量評価. 第 42 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 2023.07.17 Web 開催

14. 礪波健一，梅森　幸，則武加奈子，秀島雅之，海老原新，　曹　日丹，須永昌代，木下淳博，新田　浩. 歯科保険請求教育方略の検討-自学自習アプリに対する学生評価-. 第 42 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 2023.07.15 WEB 開催

15. 三木 裕仁, 則武 加奈子, 梅森 幸, 礪波 健一, 新田 浩. 東京医科歯科大学歯学部学生の包括臨床実習における初診時医療面接能力の経時的変化. 第 42 回日本歯科医学教育学会 2023.07.15 Web 開催

16. 則武 加奈子, 樺沢 勇司, 濱 洋平, 礪波 健一, 海老原 新, 秀島 雅之, 梅森 幸, 金森 ゆうな, 三木 裕仁, 城戸 大輔, 西山 暁, 新田 浩. 東京医科歯科大学病院歯科医師臨床研修プログラムに新たに導入した研修内容. 第 42 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 2023.07.15 福岡（オンライン）

17. 関口 絢子, 曹 日丹, 礪波 健一, 梅森 幸, 則武 加奈子, 須永 昌代, 木下 敦博, 新田 浩. 歯科臨床教育に利用可能なスマートグラスの要件. 第 42 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 2023.07.15 福岡

18. 礪波 健一, 梅森 幸, 則武 加奈子, 秀島 雅之, 海老原 新, 曹 日丹, 須永 昌代, 木下 淳博, 新田 浩. 歯科保険請求教育方略の検討　自学自習アプリに対する学生評価. 日本歯科医学教育学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2023.07.01

19. 新田　浩. 卒前臨床実習，卒後臨床研修および歯周病学分野 新人研修における歯周病専門医に関わる取り組み. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会 2023.05.27 高松市

20. 竹村修、水谷幸嗣、三上理沙子、中川佳太、秤屋雅弘、坂庭愛理、齋藤夏実、城戸大輔、武田浩平、小湊広美、青木章、岩田隆紀. 低出力 Er:YAG レーザー照射の血管内皮細胞への影響. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会 2023.05.26 レグザムホール（香川県県民ホール）

21. 中川佳太、水谷幸嗣、渡辺数基、齋藤夏実、竹村修、坂庭愛理、三上理沙子、城戸大輔、武田浩平、小湊広美、服部淳彦、岩田隆紀. 糖尿病モデルラットにおける実験的歯周炎の治癒期の網羅的遺伝子発現解析. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会　2023.05.26 レグザムホール（香川県民ホール）

22. 宮田 和樹，水谷 幸嗣，大杉 勇人，三上 理沙子，髙木 徹，川勝 紀子，白方 良典，土岡 弘明，小田 茂，木下 淳博，岩田 隆紀，青木 章. ビーグル犬における Er:YAG レーザー照射歯根面に対する歯周組織付着の組織学的解析. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会 2023.05.26 レグザムホール, 香川

23. 坂庭愛理, 三上理沙子, 水谷幸嗣, 齋藤夏実, 小湊広美, 竹村修, 中川佳太, 秤屋雅弘, 城戸大輔, 武田浩平, 美馬晶, 岩田隆紀. Porphyromonas gingivalis 由来 LPS による高血糖状態でのメサンギウム細胞の線維化への影響. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会 2023.05.26 高松

24. 中山 魅来, 林 七夏, 土田 優美, 金森 ゆうな, 則武 加奈子, 新田 浩, 宮安 杏奈, 岩城 麻衣子, 金澤 学. 支台歯形成における指導歯科医師による評価傾向の定量化. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.21 神奈川

25. 則武加奈子. 東京医科歯科大学の女性上位職登用制度. 2022 年度 シンポジウム「グローバル女性リーダーの双発 · 飛翔をめざして ～ダイバーシティ · インクルージョンの創成にむけて～」 2023.02.24 東京（オンライン）

26. 梅森　幸，石丸美穂、内村祐之、礪波健一，則武加奈子，須永昌代，木下淳博，島田康史、新田　浩、相田　潤.. 歯のコンポジットレジン修復の予後に影響する要因. 第 33 回日本疫学会学術総会 2023.01 浜松

[その他業績]

1. 梅森　幸（分担）. 科学研究費（基盤研究（C））, 2023 年
ニューノーマル時代の臨床推論能 20220401-20260331

2. 梅森　幸（分担）. 科学研究費（基盤研究（B））, 2023 年
AR スマートグラスを用いた双方向 20220401-20260331

3. 城戸大輔（代表）. 科学研究費（若手研究）,2020 年., 2023 年 01 月
糖尿病モデル動物の歯周組織の創傷治癒に経口糖尿病治療薬が与える効果. 2020-2023

4. 砂川光宏　科学研究費　基盤研究（C）2023 年, 2023 年 01 月
歯内療法対象疾患に伴う疼痛制御因子の解明とその疼痛緩和に向けた実験モデルの構築
JSPS 研究助成事業　 2021 ー 2023

5. 城戸大輔（代表）. 短中期海外滞在助成金, 2023 年, 2023 年 01 月

6. 咽喉部機能維持のための発話訓練法―音声認識 · 深層学習を用いた評価訓練プログラム―, 2023 年 04 月
秀島雅之（分担）
科学研究費（基盤研究（C））2020 年
課題番号： 20K11894
研究期間： 2020～2024 年度
研究代表者： 松浦 博
配分額： 3300 千円

7. 顎変形症の術後の長期経過患者における睡眠時無呼吸症の発症リスクと顎骨移動の関係, 2023 年 04 月
秀島雅之（分担）
科学研究費（基盤研究（C））2021 年
課題番号： 21K10086
研究期間： 2021～2023 年度
研究代表者： 友松伸允

8. 令和 4～6 年度　科学研究費補助金 · 基盤研究（C）「睡眠時無呼吸症の口腔内装置療法の治療効果予測と検証―予測モデルと内視鏡での判定―」, 2023 年 04 月
秀島雅之
科学研究費（基盤研究（C））2022 年
課題番号： 22K10051
研究期間： 2022～2024 年度
研究代表者： 秀島雅之
配分額： 3200 千円

9. 新あいち創造研究開発補助金「シート状グミを用いた舌筋力トレーニングによる誤嚥性肺炎予防および美容研究効果の研究開発」, 2023 年 04 月
研究者：立石知也，宮崎泰成，秀島雅之，臼見莉沙，山口浩平，藤田秋世，足達淑子，葛西美樹，佐川かおり，石山裕之，松原 恒，鈴木 達
課題：シート状グミを用いた舌筋力トレーニングによる誤嚥性肺炎予防および美容研究効果の研究開発
研究期間：2022～2024 年
配分額：5,000 千円

10. 礪波健一, 2023 年度生体医歯工学共同研究拠点共同研究, 2023 年 04 月
スモールデータ AI によるう蝕画像診断支援システムの開発, 2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

11. 金森ゆうな（分担）. 2023 年度生体医歯工学共同研究拠点共同研究, 2023 年 04 月
スモールデータ AI によるう蝕画像診断支援システムの開発. 2023-2024.

12. 則武加奈子（代表）. 文部科研（若手研究）, 2023 年 04 月
質の高い日本版臨床研修指導歯科医評価表の開発. 2019-2023.

13. 則武加奈子（分担）. 文部科研基盤研究（B）, 2023 年 04 月
AR スマートグラスを用いた双方向性同期型遠隔歯科臨床技能教育システムの開発. 2022-2026.

14. 則武加奈子（分担）．文部科研基盤研究（C）, 2023 年 04 月
ニューノーマル時代の臨床推論能力育成システムの開発と評価．2022-2026.

15. 城戸大輔（代表）. 科学研究費（若手研究）,2023 年, 2023 年 04 月
糖尿病モデルラットの歯周組織の治癒にメトホルミンが与える影響.2023-2025

16. 金森ゆうな（分担）．文部科研基盤研究（B）, 2023 年 04 月
AR スマートグラスを用いた双方向性同期型遠隔歯科臨床技能教育システムの開発．2022-2026.

17. 礪波　健一，WhiteCross WEB セミナー, 2023 年 06 月
感情労働にならない医療面接の極意

18. 礪波　健一，1 D セミナー, 2023 年 07 月
誤診の科学

19. 「口腔内カメラと管理用スマートフォンアプリケーションを利用した口腔内ヘルス管理サービス」に用いる画像認識 AI 基盤構築のためのアノテーションデータ作成および当該データを基に作成した学習済みモデルの精度検証 · 改善検討, 2023 年 12 月
共同研究 · キヤノンマーケティングジャパン株式会社
2,878,751 円
（うち直接経費 2,214,424 円、間接経費 664,327 円

[社会貢献活動]

1. 臨床研修指導歯科医, 厚生省（厚生労働省）, 2000 年 03 月 02 日 - 現在

2. 口腔病学会 · 評議員, 2000 年 04 月 01 日 - 現在

3. インフェクションコントロールドクター, ICD 制度協議会, 2003 年 01 月 01 日 - 現在

4. 砂川光宏．日本大学歯内療法学特別講義「歯の痛みの基礎と臨床」．日本大学歯学部 4 年生対象, 日本大学歯学部, 2011 年 04 月 01 日 - 現在

5. 国公立大学附属病院感染対策協議会 · 構成員 · 歯科医療部会 · ガイドライン作業部会, 2014 年 04 月 01 日 - 現在

6. 日本歯内療法学会 · 代議員, 2015 年 04 月 01 日 - 現在

7. 新田　浩，日本歯科医学会タイムスタディ WG 委員, 2016 年 04 月 01 日 - 現在

8. 日本歯科保存学会評議員, 2016 年 04 月 01 日 - 現在

9. 新田　浩，国民健康保険診療報酬審査委員会委員, 2017 年 01 月 01 日 - 現在

10. 新田　浩，日本歯科医学会歯科医療協議会委員, 2017 年 04 月 01 日 - 現在

11. 原田　直子，日本歯科材料器械研究協議会 ISO/TC106/WG　10 & SC8/WG2 合同分科会委員, 日本歯科材料器械研究協議会 , 2017 年 04 月 01 日 - 現在

12. 砂川光宏　国公私立大学附属病院医療安全 · 感染対策に関する祖語チェックワーキンググループ座長, 国立大学歯学部長 · 附属病院長会議, 2017 年 07 月 01 日 - 現在

13. 原田　直子，歯科医療機器試験ガイドライン検討委員会委員, 日本歯科医師会, 2017 年 07 月 01 日 - 現在

14. 東京医科歯科大学歯科同窓会　実習コース　ストップ · ザ · いびき—補綴医が教える効果的な Oral Appliance の作り方—, 東京医科歯科大学　歯科同窓会学術部, 東京医科歯科大学, 2018 年 - 現在

15. 原田　直子,「OCT を活用した歯科検査技術開発」検討委員会委員, 2018 年 04 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日

16. 厚生労働省関東信越厚生局東京事務所保険指導医, 2018 年 04 月 01 日 - 現在

17. 東京都国民健康保険診療報酬審査委員会。再審査部会長, 2019 年 01 月 01 日 - 現在

18. 東京都国民健康保険診療報酬審査委員会。面接懇談委員会委員長, 2019 年 01 月 01 日 - 現在

19. 則武　加奈子,「歯科医療提供体制等に関する検討会」構成員, 厚生労働省医政局, 2020 年 02 月 01 日 - 現在

20. 梅森　幸，日本歯科医学教育学会委員会富士研実行部会, 日本歯科医学教育学会, 2020 年 04 月 01 日 - 現在
21. 原田　直子，医療機器産業研究所客員研究員, 公益財団法人医療機器センター, 2020 年 06 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
22. 則武　加奈子,　日本歯科医学教育学会　教育一貫性員会副委員長, 2021 年 07 月 - 現在
23. 則武　加奈子，歯学教育モデル · コア · カリキュラム臨床実習ガイドライン WG　構成員, 2021 年 11 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
24. 則武　加奈子，臨床研修活性化推進事業　指導歯科医講習会の講師養成のための研修会実行部会 副部会長, 一般社団法人日本歯科医学教育学会, 2021 年 12 月 01 日 - 2024 年 03 月 31 日
25. 医療関連感染対策について, 永末書店, エビデンスに基づく一般歯科診療における医療関連感染対策実践マニュアル（仮）, 2022 年 - 2023 年 06 月 01 日
26. 金森　ゆうな，モデル · コア · カリキュラム改訂等に関する「調査研究チーム」（歯学教育）協力者, 2022 年 04 月 - 2023 年 03 月
27. 金森　ゆうな，文部科学省高等教育局医学教育課技術参与（歯科医師）, 2022 年 04 月 01 日 - 現在
28. コロナ禍での睡眠障害 - 歯科からみた睡眠時無呼吸症 -, 府中市福祉保健部健康推進課, 府中市健康教育講演会「睡眠から生活を整えよう」, オンライン, 2023 年 01 月 14 日
29. 四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアム, 2023 年 01 月 17 日 - 2023 年 03 月 23 日
30. 閉塞性睡眠時無呼吸症 Obstrutive Sleep Apnea) の口腔内装置 (Oral Appliance) 療法 (秀島雅之), 伊勢崎歯科医師会, 伊勢崎歯科医師会講演会, 群馬県伊勢崎市境総合文化センター, 2023 年 02 月 17 日
31. 新田　浩，口腔ケアの重要性について, 株式会社予防健康社, 季刊誌『ばらんす』夏号, 2023 年 03 月 27 日 - 2023 年 06 月 01 日
32. 則武加奈子,　令和 5 年度歯学教育モデル · コア · カリキュラム改訂を踏まえた調査研究の委員, 日本歯科医学教育学会　, 2023 年 04 月 01 日 - 2024 年 03 月 31 日
33. 則武加奈子, 神奈川県における歯科保健医療提供体制の検討委員, 神奈川県, 2023 年 07 月 11 日 - 2025 年 03 月 31 日
34. 則武加奈子,　令和 5 年度 医学 · 歯学教育指導者のためのワークショップ モデレーター, 文部科学省, 2023 年 07 月 26 日
35. シート状グミを用いた舌トレーニングについて, 日本歯科新聞社, 日本歯科新聞, 2023 年 10 月 18 日
36. 則武加奈子, お口の健康を保つ「子どもと大人の歯肉」の話, 新宿区保健センター, 親子で学ぶデンタルセミナー 2023, Web 配信, 2023 年 11 月 08 日 - 2023 年 11 月 30 日
37. 歯磨きと感染症, TBS, N スタ, 2023 年 11 月 29 日
38. 歯磨きでインフル予防, テレビ朝日, スーパー J チャンネル, 2023 年 12 月 06 日 - 2023 年 12 月 07 日

歯科心身医学

Psychosomatic Dentistry

教授	豊福　明
講師	渡邉素子
助教	木村康之
医員	高尾千紘
医員	前田智寿古
医員	富永梨沙
大学院生	伊藤篤史
大学院生	高尾千紘
大学院生	岩脇清一
大学院生	Liu Zhenyan
大学院生	Gayatri Nayanar
大学院生	前田智寿古

非常勤講師　本村春彦、倉田二郎、長嶺敬彦

(1)　分野概要

当分野は、歯科口腔領域の慢性疼痛や咬合の異常感、味覚障害や口腔内の多彩な不快感 · 異常感など種々の原因不明の症状が長期的に持続する、いわゆる「歯科心身症」の診断 · 治療法の開発 · 改良および病態の解明を目指している。
わが国では唯一の歯科心身医学を専門とする講座として、「中枢から見た歯科医学」を研究テーマに、日々よりよい歯科心身医療の提供と、そのための研究 · 教育を行っている。

(2)　研究活動

歯科領域における“medically unexplained oral symptoms”。これが当分野が真に対象とする病態である。歯科治療を契機に慢性疼痛や咬合の異常感、味覚障害や口腔内の異常感など様々な原因不明の症状が出現し、苦しんでいる患者が大勢いる。このような患者は、歯科に行けば「心療内科へ行け」と一蹴され、心療内科や精神科では「歯の事は分からない」と匙を投げられ、医療難民化しているのが現状である。当分野では、このような「医療の隙間」に陥ってしまい、「どこへ行ったら良いのか分からなくなった」患者の病態解明と、より効果的で効率的な治療法の開発を目指している。
当分野では「中枢からみた歯科学」をテーマに、「歯科心身症の治療技法の開発 · 改良および本症の病態解明」を目指し、臨床と直結した研究を志向している。日々の診療の中で試行錯誤を繰り返しながら、病態の本質に迫るような治療技法の工夫を続け、そこから得られた知見を元に本症の病態解明に取り組んでいる。
本症の病態に脳内神経回路の構造やそれらの接続パターンの関与していることは間違いないと思われる。ところが酷似しているようで本症の症状には微妙なバリエーションがあり、薬剤の反応性、忍容性、副作用の出現にも個人差が大きいことがわかってきた。症状と責任病巣が必ずしも 1 対 1 対応ではなく、脳内のニューロンの異なる別個の活動状態が、主観的には判別不能であるため酷似した訴えとして表出されるのかもしれない。臨床の段階でこのような個人差を可及的に減らしてから脳機能画像研究に結び付けられるよう、臨床的評価の工夫を重ねている。
豊富な症例数を活かし、歯科心身症と精神疾患 · 内科疾患との comorbidity に関する疫学的研究を継続している。本年は特に咬合の愁訴で難渋させられる PBS の脳機能画像解析や非定型歯痛の治療転帰を検討し、Oral Dis

や J Pain Res などに掲載されている。DPA や NaSSA など新規向精神薬の歯科領域への応用なども積極的に行い、多数例の治療成績を解析し、より良い治療を検討している。さらに医療コストも勘案し、古い薬の限界を知悉した上で新規開発薬とのより効果的な併用療法の開発も視野に入れている。まずは各歯科心身症の病態の詳細を調べ、三環系抗うつ薬のより安全でより効果的な使い方の発見を試みている。特に高齢者に対する薬物療法のデータを Neuropsychiatr Dis Treat, Front Pain Res などに報告した。脳機能画像研究も軌道に乗り、口腔内セネストパチーや Phantom bite syndrome を題材にした、本学医学部精神科ならびに放射線科と共同研究の成果が、Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci や BMC Psychiatry などに掲載されている。また北海道医療大学と共同で、認知行動療法に関する実践的研究や歯科心身症の心理社会的側面からの解析も継続している。

歯科心身症は、器質的な所見に乏しく、主観的な訴えが前面に表出されるという特性から、現時点では病態は不明な点が多く動物実験による検証が困難である。しかし、実は末梢神経レベルの病態も未だ不明な点が多い。院生が日大歯学部口腔生理学教室とミネソタ大学に留学し、帰国後も日本大学や大阪大学との共同研究を継続するなど、これまで“心因性”と看做されがちであった三叉神経領域の慢性疼痛の生物学的基盤を神経グリア連関の視点から見直すことも試みている。これらの基礎研究の成果が、臨床では三叉神経の Neurovascular Compression と関連づけられないかと、本学口腔放射線医学分野と共同研究を開始し、Pain Med, Front Neurol などに成果発表している。

(3) 教育活動

従来、歯科における心身医学の卒前教育の重要性が強調されてきた。しかし、全国的にも精々わずかな座学のみの大学がほとんどで、とても十分とは言えないのが現状である。精神医学や内科領域の心身医学の単なる抜粋ではなく、歯科特有の心身医学の体系が求められている。

当分野では学部学生の教育においては、講義や本でかじった生半可な知識だけではなく、実体験を通じて本症を肌で感じ取ってもらうことに主眼を置いている。早期体験実習で実際の診療場面を見学させ、6 年生の包括臨床実習では、外来新患の予診を担当し、教授診察の場でプレゼンテーションを課している。生の患者を眼前にし、当人から直接話を聞くことで、歯科医師が担当すべき歯科心身症患者が実在すること、治療可能な疾患であること、安易に「心因性」「治らない」などと片付けることの弊害、患者や家族の深刻な苦痛などに理解を深めさせている。また精神科に紹介すべき疾患の鑑別もできるように Psychiatry In Primary Care（PIPC）を導入し、実践的な指導を心掛けている。

ローテートしてきた臨床研修歯科医師には、治療過程まで含めもう一歩踏み込んだ指導を行った。地道な取り組みではあるが、将来的には歯科心身医学の素養を備えた本学卒業生が「こころも診れる歯科医師」に育っていくことで、本症の受療可能性の均てん化、難症例の対応能力の向上、ひいては歯科医療トラブルの減少が期待される。

歯科心身医学に、歯科医師としてのアイデンティティは重要である。しっかりした歯科医師としての考え方、知識、技術に基づき、なおかつ技術偏重に陥らずに「病める人」として患者を深く理解できる歯科医師の育成を目指している。一方、他科医師との連携を通じて、関連科の発想や技術も取り入れられる点を参考にするように指導している。

大学院教育においても、臨床における実践を重視し、歯科心身症を専門的に診れる歯科医師の育成とともに臨床現場で生まれた問題提起をテーマに研究指導している。初発の関心をいかにして研究可能な問いに変換していけるか、「問いの立て方と展開」の仕方を個別に指導している。患者データを用いた臨床的研究を中心に展開し、考える材料として週 2 回の英文抄読会の他にも外部講師を招いての勉強会を重ねている。論文を鵜呑みにするのではなく、臨床での現実と対比する習慣を涵養し、講読した論文への疑問や意見は letter to editor として投稿することも推奨している。

患者数の多さに流されず、毎日夕方の新患カンファレンスを英語で行ない、年々増加する高齢者多疾患併存にも対応すべく医歯連携の緊密化と慎重かつ緻密な症例検討を日々積み重ねている。1 例 1 例を注意深く観察し、豊かな語彙で適確に描写できることを目指し、カルテ記載や紹介状 · 返書の書き方にも工夫を求めている。英語論文だけでなく、きちんとした和文も書けるように、症例報告も積極的に論文化するよう指導している。

(4) 教育方針

大学院教育においては、臨床における実践を重視し、歯科心身症をきちんと診れる歯科医師の育成とともに臨床現場で生まれた問題提起をテーマに研究指導を行っている。新入生に対して、まずは当科外来にて実際に患者の診療を体験し、歯科心身症とはどのようなものかを肌で体得させている。「良い臨床から良い研究が生まれる」をモットーに、診療室で自分の目で見た現象を素材に、歯科臨床で有用性の高い臨床研究を志向している。臨床の場から自らが興味を持った課題を抽出させ、「どのように問いを立てるか」「どのように問いを展開していくか」など研究テーマを話し合って決めていくこととしている。

基礎研究を志向する者には、有力な生理学研究室へ指導委託を行い、最新の知見をフィードバックしてもらうようにしている。また、大学院特論の他、外部講師による特別講義なども企画を工夫し、臨床現場を重視しながらも最先端の脳科学に触れ、自由闊達な発想を育む機会を作っている。海外も含め各種学会へも積極的に発表を

促したり、各種研修会などで見聞を広めたりするよう指導している。
大学院卒業後は、学会認定医取得とアカデミックポジションの獲得にむけて手厚くサポートしている。

(5) 臨床活動および学外活動

東京医科歯科大学病院の「歯科心身医療科」にて、歯科心身症（Medically Unexplained Oral Symptom/Syndrome）の専門的診断 · 治療を担当している。舌痛症、非定型顔面痛（非定型歯痛）、口腔異常感症（口腔セネストパチーを含む）、顎関節症（咬合異常感 · Phantom Bite Syndrome）など歯科特有の患者群に力を入れている。特に歯列矯正治療や義歯関連の不定愁訴は歯科特有の問題と捉え、さらに近年大きな問題となってきたインプラント関連症例にも最善を尽くしている。
治療は TCA、SSRI、SNRI、NaSSA や DPA などによる薬物療法に、適切な生活指導（生活リズムの適正化や症状への対処法など）を組み合わせたり、必要に応じて各種心理療法を適用するなどして口腔症状の改善を図っている。難治例も増加傾向にあるが、1 例 1 例を大事にし、約 70 %の患者で比較的良好な経過が得られている。近年は医療経済学的な面も考慮し、古い薬でも上手に工夫して満足な治療効果を得られないか、特に高齢で多疾患併存の患者により安全で効果的な治療ができないかという試みも始めている。
やはり歯科医師が担当すべき「歯科心身症」という守備範囲が存在する。歯科を受診してきても精神科 · 心療内科で治療すべき患者は鑑別し、適切な治療ルートに導くようにしている。なお精神疾患に継発する口腔症状 Functional somatic symptoms secondary to psychiatry disorders に関して精神科より依頼があれば、同科主治医と協力してその解決に努力するというスタンスをとっている。本学のメンタルヘルス · リエゾンセンターの開設により、さらに医歯連携が密になっている。特に口腔セネストパチーに関しては、本学医学部精神神経科と連携を深め、難治性病態に対するより良い治療法の開発と病態解明を目指している。
当科外来では年間約 5 － 600 名の新患を受け入れているが、再来患者が 10000 名を越すこともありマンパワー不足や外来の狭隘が顕著となった。病院機能維持のため、やむを得ず完全紹介 · 予約制とさせて頂いている。決して多くはないが、必要に応じて入院治療にも対応できる体勢を構築している。首都圏はもちろん中部 · 関西、果ては北海道や九州といった遠方からもご紹介頂いている。本学医学部附属病院はもとより他の大学病院や基幹病院の精神科からの紹介も増え、症状が安定すれば逆紹介を促進し医療連携を深めている。
歯科心身症は各科の専門医が集まり、それぞれの担当部分を分担治療すれば制圧できるという疾患ではない。中枢を巻き込んだ歯科的症状、いわばこころと歯が複雑に絡み合った病態に対応しうる総合的歯科医療の実践を目指している。
既存の保険診療の枠決めに安住せず、患者から学ぶ姿勢を保ちつつ先駆的な治療を取り入れる努力を続けている。昨今急増している高齢者多疾患併存に対応した精度の高い診断と安全かつ効率的な心身医療を心がけ、より多くのニーズに応えるべく医療連携の推進と共に、医療経済面も考慮した、さらなる治療成績と治療効率の向上が課題である。

(6) 臨床上の特色

当院「歯科心身医療科」は、歯科心身症に特化した、わが国では数少ない専門外来である。症例数の豊富さのみならず、対話を大切にした診療を心がけ、歯科的見識のもと 1 人 1 人の患者に丁寧に寄り添うことをモットーにし、高齢者多疾患併存に対応した精度の高い診断と安全かつ効率的な心身医療を心がけ、良好な治療成績を上げている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Chihiro Takao, Motoko Watanabe, Gayatri Nayanar, Trang Tu, Yojiro Umezaki, Miho Takenoshita, Haruhiko Motomura, Takahiko Nagamine, Akira Toyofuku. Clinical Features and Variations of Pain Expressions in 834 Burning Mouth Syndrome Patients With or Without Psychiatric Comorbidities. Cureus. 2023.12; 15(12); e51139

2. Chizuko Maeda, Motoko Watanebe, Trang Thi Huyen Tu, Chihiro Takao, Gayatri Krishnakumar Nayanar, Risa Tominaga, Yasuyuki Kimura, Takahiko Nagamine, Akira Toyofuku . Psychiatric comorbidities in chronic orofacial pain during COVID-19 pandemic Journal of psychosomatic research. 2023.09;

3. Satoshi Kasahara, Yuichi Kato, Kaori Takahashi, Ko Matsudaira, Naoko Sato, Ken-Ichi Fukuda, Akira Toyofuku, Shin-Ichi Niwa, Kanji Uchida. Improvement in persistent idiopathic facial pain with comorbid ADHD using the combination of a dopamine system stabilizer and psychostimulant: A case report. Clin Case Rep. 2023.06; 11(6); e7552

4. Chizuko Maeda, Motoko Watanebe, Trang Thi Huyen Tu, Chihiro Takao, Gayatri Krishnakumar Nayanar, Risa Tominaga, Yasuyuki Kimura, Takahiko Nagamine, Akira Toyofuku. Psychiatric comorbidities in chronic orofacial pain during COVID-19 pandemic. J Psychosom Res. 2023.06; 172; 111420

5. Motoko Watanabe, Trang Thi Huyen Tu, Chihiro Takao, Chizuko Maeda, Gayatri Krishnakumar Nayanar, Risa Tominaga, Yasuyuki Kimura, Miho Takenoshita, Tatsuya Yoshikawa, Koji Sumi, Satoko Sumi, Haruhiko Motomura, Takahiko Nagamine, Akira Toyofuku. Case series of drug-induced open bite: Extrapyramidal symptoms related to psychotropic medications. Front Psychiatry. 2023.04; 14; 1137917

6. Yojiro Umezaki, Haruhiko Motomura, Rui Egashira, Akira Toyofuku, Toru Naito. A Case of Oral Cenesthopathy Treated With the Combination of Brexpiprazole and Mirtazapine. Clin Neuropharmacol. 2023.03;

7. Mitsuhiro Asami, Yasuyuki Kimura, Miho Takenoshita, Risa Tominaga, Chizuko Maeda, Chihiro Takao, Motoko Watanabe, Trang Thi Huyen Tu, Takahiko Nagamine, Akira Toyofuku. Dental conditions in patients with medically unexplained oral symptoms Journal of Dental Sciences. 2023.01;

8. Ayano Katagiri, Kazuo Tsubota, Lou Mikuzuki, Shigeru Nakamura, Akira Toyofuku, Takafumi Kato, David A Bereiter, Koichi Iwata. Tear secretion by Diquafosol suppresses the excitability of trigeminal brainstem nuclear complex neurons by reducing excessive P2Y2 expression in the trigeminal ganglion in dry eye rats Neurosci Res. 2023.01;

9. Satoshi Kasahara, Kaori Takahashi, Ko Matsudaira, Naoko Sato, Ken-Ichi Fukuda, Akira Toyofuku, Tatsuya Yoshikawa, Yuichi Kato, Shin-Ichi Niwa, Kanji Uchida. Diagnosis and treatment of intractable idiopathic orofacial pain with attention-deficit/hyperactivity disorder. Sci Rep. 2023.01; 13(1); 1678

10. Maeda C, Nagamine T, Takao C, Tominaga R, Kimura Y, Watanabe M, Toyofuku A.. Are the Effects of Amitriptyline and Aripiprazole on Pain Catastrophizing in Patients with Burning Mouth Syndrome Associated with Changes in QTc and Prolactin Levels? Int Med J.. 2023; 30(4); 178-182

11. Jun-Ichi Takada, Norihisa Higashihori, Chiho Kadota-Watanabe, Tatsuo Kawamoto, Akira Toyofuku, Keiji Moriyama. Case report: Long-term management of occlusion after surgical-orthodontic treatment for a patient with drug-induced open bite developed after the onset of schizophrenia. Front Psychiatry. 2023; 14; 1304215

1. 富永梨沙、渡邉素子、高尾千紘、前田智寿古、岩脇清一、木村康之、Tu　Trang、長嶺敬彦、豊福　明. 年齢別に見た歯科心身医療科受診患者の臨床統計的検討 未病と抗老化. 2023.11; 32; 45-48

[総説]

1. M Watanabe, R Tominaga, A Toyofuku, T T H Tu. Pandemic OPSD woes. Br Dent J. 2023.12; 235(12); 914

2. G K Nayanar, T Thi Huyen Tu, T Nagamine, A Toyofuku. The assessment of the long-term prognosis of burning mouth syndrome following treatment necessitates a reappraisal. Int J Oral Maxillofac Surg. 2023.02;

1. 豊福. 舌痛症 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 2023.04; 95(5); 285-287

[講演・口頭発表等]

1. Akira Toyofuku. Psychosomatic Dentistry: Treatment Approach and Research. The 3rd Indonesia dental exhinition and conference 2023.09.17 Jackarta、Indonesia,

2. Motoko Watanabe, Chihiro Takao, Chizuko Maeda, Risa Tominaga, Yasuyuki Kimura, Akira Toyofuku. Careful multidisciplinary consideration for psychiatric comorbidities in the patients with jaw deformities. The 3rd Annual Congress of Korean Society of Psychosomatic Dentistry 2023.08.19 Soul、Korea,

3. Motoko Watanabe, Trang Thi Huyen Tu, Chihiro Takao, Chizuko Maeda, Gayatri Krishnakumar Nayanar, Risa Tominaga, Yasuyuki Kimura, Miho Takenoshita, Tatsuya Yoshikawa, Koji Sumi, Satoko Sumi, Haruhiko Motomura, Takahiko Nagamine, Akira Toyofuku. Case series of drug-induced open bite; extrapyramidal symptoms related to psychotropic medications. The 3rd Annual Congress of Korean Society of Psychosomatic Dentistry 2023.08.19 Soul、Korea,

4. 松岡紘史、宇都宮雅史、Paudel Durga、吉田光希、渡邉素子、森谷満、三浦宏子、豊福明、安彦善裕. 舌痛症患者の労働状態に、痛みの重症度、気分状態、破局的思考が及ぼす影響. 第 38 回日本歯科心身医学会総会・学術大会 2023.07.01

1. 木村康之，則武加奈子，礪波健一，新田浩，豊福明. 歯科医療安全教育が臨床研修の質と安全に与える影響について. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京

2. 富永梨沙、木村康之、髙尾千紘、道康之、豊福明. 舌痛症を併発し診断に苦渋した中咽頭がん患者の一例. 第 33 回日本口腔内科学会 2023.09.22 栃木・宇都宮市

3. 髙尾千紘、富永梨沙、木村康之、豊福明. IgG4 関連疾患が疑われた舌痛症の再発例. 第 33 回日本口腔内科学会 2023.09.22

4. 富永梨沙、渡邉素子、木村康之、髙尾千紘、前田智寿古、豊福明. アミトリプチリンと少量のアリピプラゾールの併用療法が奏功した舌痛症と口腔セネストパチーの合併症例の一例. 第 38 回日本歯科心身医学会総会・学術大会 2023.07.01

5. Liu Zhenyan、渡邉素子、髙尾千紘、前田智寿古、岩脇清一、富永梨沙、木村康之、豊福明. 身体症状スケールからみた歯科心身症. 第 38 回日本歯科心身医学会総会・学術大会 2023.07.01

6. 木村康之、富永梨沙、前田智寿古、高尾千紘、渡邉素子、豊福明. 自己客観視が治療転機となったうつ病を合併した舌痛症の一例. 第 38 回日本歯科心身医学会総会・学術大会 2023.06.30 郡山

7. 髙尾千紘、渡邉素子、富永梨沙、前田智寿古、木村康之、豊福明. 外来面接での支持的精神療法が奏功した、思春期口臭恐怖症の 1 例. 第 38 回日本歯科心身医学会総会・学術大会 2023.06.30 福島・郡山市

8. 前田智寿古、渡邉素子、木村康之、髙尾千紘、富永梨沙、豊福明. 非定型歯痛を疑われ当科紹介となった三叉神経痛の 1 例. 第 38 回日本歯科心身医学会総会・学術大会 2023.06.30

9. 岩脇清一、渡邉素子、髙尾千紘、前田智寿古、Liu Zhenyan、富永梨沙、木村康之、豊福明. 三叉神経痛と非定型歯痛との鑑別診断に寄与する因子の検討. 第 38 回日本歯科心身医学会総会・学術大会 2023.06.30

10. 渡邉素子、髙尾千紘、前田智寿古、Liu Zhenyan、岩脇清一、富永梨沙、木村康之、豊福明. 口腔内疼痛がレビー小体型認知症に先行して認められた舌痛症の 1 例. 第 38 回日本歯科心身医学会総会・学術大会 2023.06.30

[社会貢献活動]

1. 舌痛症について, 株式会社メディカルトリビューン, 地方紙, 2023 年 07 月 28 日 - 2023 年 10 月 31 日

総合診療医学分野

Department of General Medicine

教授　　橋本　正良
教授　　石田　岳史
教授　　木村　琢磨
講師　　別府　正志
講師　　山田　徹
助教　　羽田野　義郎
助教　　馬渕　卓
特任助教　酒井　和久
特任助教　福原　真理
非常勤講師
　　阿部　庸子
非常勤講師
　　別府　正志
非常勤講師
　　下園　尚志
非常勤講師
　　鈴木　里彩
大学院生　安藤　悠哉
大学院生　伊達岡　要
大学院生　二見　茜
大学院生　葉田　甲太
大学院生　清水　宙
大学院生　大内　修司
大学院生　篠原　孝宏
大学院生　杉原　正子
大学院生　山田　紘理
医員（医病）
　　任　洋輝
医員（医病）
　　吉川　裕章

(1)　分野概要

総合診療医は general と言う名の specialist です。全人医療を行い日本の医療 · 医学に貢献します。症状や疾患にかかわらず様々な身体や心の問題に対して、患者さんとその家族中心の医療を提供します。必要とあれば臓器別診療科や多職種専門家と提携して継続医療を提供します。患者さん一人一人の専門医を目指します。
2018 年度より開始された日本専門医機構が認定する「新専門医制度」において、「総合診療専門医」が新設されました。時を同じくして東京医科歯科大学病院 医科（医系診療部門）に当時の老年内科から引継ぎ当科が設立されました。医学生や初期 · 後期先生方の教育や研究の場ともなります。患者さんのみならず、家族や地域も考慮し、日本の医療に必要な理想的医療体系を模索しています。

(2) 研究活動

特定領域に限ることなく、以下の様な疾患や疾病に関する研究から健康増進や医学教育に関係する研究など多方面の研究を行っています。
1. 臨床的動脈硬化
2. 高齢者診療
3.Telemedicine を用いた訪問診療
4. 医学教育
5. 超音波を〓いた多職種シミュレーション教育
6. フレイルやサルコペニアと横隔膜機能
7. 患者診療における効率的医療連携
8. 在宅診療でのスキル研究
9. 呼吸機能とフレイルの関連
10. 性差医学
11. 未病の管理

(3) 教育活動

卒前 · 卒後を通じて全人医療の臨床教育を行っています。初期臨床研修はもちろんの事、総合内科専門医、総合診療専門医の受け入れを行っています。更に病院総合診療専門医、新家庭医療専門医、老年科専門医取得が可能です。

(4) 教育方針

病人は文字通り「病を持つ人」としてとらえ、Bio· Psycho· Social の観点から診療を実施します。どんなことでも相談を受け、断らない医療を実践できる医師の養成を行っています。同時に EBM に準拠した医療を実践し、新たな evidence を発信する研究を行います。

(5) 臨床活動および学外活動

東京都、茨城県並びに私企業から助成を受け地域医療向上のための診療 · 教育 · 研究を実施しています。
総合診療セミナー in お茶の水を月 1 回実施中 (2022 年 5 月で計 30 回)

(6) 臨床上の特色

プライマリ · ケア全般。高血圧 · 脂質異常症 · 糖尿病を含め Common disease 全般。診断がつかない、または多くの疾患がある、多臓器に係るような疾患。年齢や性別、臓器を問わず診療させていただいています。

(7) 研究業績

[原著]

1. Yuya Ando, Atit Suwannathot. Melioidosis in a 38-year-old Thai Woman Caused by Burkholderia pseudomallei. Intern Med. 2023.12;

2. Yamada T, Minami T, Yoshino S, Emoto K, Mabuchi S, Hanazawa R, Hirakawa A, Hashimoto M. Diaphragm Ultrasonography: Reference Values and Influencing Factors for Thickness, Thickening Fraction, and Excursion in the Seated Position. Lung. 2023.11;

3. Toru Yamada, Taro Minami, Yuka Kitano, Shunpei Yoshino, Suguru Mabuchi, Nilam Soni. Development of a national point-of-care ultrasound training course for physicians in Japan: A 3-year evaluation MedEdPublish. 2023.10; 13; 223

4. Ando Y, Ono Y, Ono S, Tanaka Y. Restrictive Ventilatory Impairment Due to Severe Scoliosis with a Large Cobb Angle. JMA journal. 2023.10; 6(4); 539-540

5. Miyagami T, Shimizu T, Kosugi S, Kanzawa Y, Nagasaki K, Nagano H, Yamada T, Fujibayashi K, Deshpande GA, Flora Kisuule, Tazuma S, Naito T. Roles considered important for hospitalist and non-hospitalist generalist practice in Japan: a survey study. BMC primary care. 2023.07; 24(1); 139

6. Yamada T, Ehara J, Funakoshi H, Endo K, Kitano Y. Effectiveness of point of care ultrasound (POCUS) simulation course and skills retention for Japanese nurse practitioners. BMC nursing. 2023.01; 22(1); 21

7. Hayashi Toshiyuki, Ai Masumi, Goto Satoshi, Nakamura Marie, Nagaike Hiroe, Suzuki Risa, Abe Yasuko, Ohta Motoko, Ito Yasuki, Hirano Tsutomu. Circadian Rhythm of Subspecies of Low-Density Lipoprotein-Cholesterol and High-Density Lipoprotein-Cholesterol in Healthy Subjects and Patients with Type 2 Diabetes(タイトル和訳中) Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2023.01; 30(1); 3-14

8. Yuya Ando, Masato Kadoya, Tsutomu Kodera. Involuntary Movements During Treatment for Hyperglycemia. AACE Clin Case Rep. 2023; 9(1); 21-22

9. the Japanese Circulation Society/ the Japanese Association of Cardiac Rehabilitation Joint Working Group. JCS/JACR 2021 Guideline on Rehabilitation in Patients With Cardiovascular Disease Circulation Journal. 2023; 87; 155-235

1. 鈴木 里彩. 病棟で活かしたい!!フィジカルアセスメント入門 (第 3 回)(最終回)　胸部 · 腹部の観察 臨床栄養. 2023.08; 143(2); 148-152

2. 鈴木 里彩. 病棟で活かしたい!!フィジカルアセスメント入門 (第 2 回)　食事の様子と口腔の観察 臨床栄養. 2023.05; 142(5); 648-652

3. 鈴木 里彩. 病棟で活かしたい!!　フィジカルアセスメント入門 (第 1 回)　全体の印象と手足の観察 臨床栄養. 2023.03; 142(3); 308-312

4. 山田 徹. 【総合診療と老年医学】総合診療と老年医学の融合 · 共生　大学における老年医学と総合診療　高齢化社会における両分野の卒前教育と卒後教育 Geriatric Medicine. 2023.02; 61(2); 117-122

5. 鈴木 里彩. 【”じゃないほう”の消化器症状-潜んでいる他領域疾患を見逃さない】[Chapter 4] 便秘で受診した患者の……?　甲状腺機能低下症 内科. 2023.01; 131(1); 106-109

[書籍等出版物]

1. 鈴木里彩、山田徹. レジデントの為の腹部エコーの鉄則. 医学書院, 2023.09

2. 亀田　徹. レジデントのための腹部エコーの鉄則. 医学書院, 2023.09 (ISBN : 978-4-260-05085-2)

3. 山田徹. 日本語版翻訳　サンフォード感染症治療ガイド 2023. 2023.08

4. 川越　正平, 鈴木　里彩　他. 医師アウトリーチから学ぶ 地域共生社会実現のための支援困難事例集 . 長寿社会開発センター , 2023.06 (ISBN : 978-4911113004)

5. 片山正夫、山田徹. 周術期管理に役立つ Point of Care 超音波. 克誠堂出版, 2023.06

6. 片山　正夫、山田　徹. 周術期に役に立つ Point of care 超音波. 克誠堂出版, 2023.05

7. 篠原　孝宏、山田　徹. 総合診療のエビデンスをぎゅうっとまとめました. Medical view 社, 2023.03

8. 西崎祐史、鋪野紀好. 総合診療のエビデンスをぎゅうっとまとめました. メジカルビュー社, 2023.03

[総説]

1. Nanako Hashido, Masanori Kobayashi, Ami Kawamoto, Suguru Mabuchi, Hiromune Katsuda, Kazuo Ohtsuka, Yasuhiro Asahina, Masayoshi Hashimoto, Ryuichi Okamoto. Sphincter of Oddi dysfunction that could not be diagnosed with Rome IV: a case report. Clin J Gastroenterol. 2023.12; 16(6); 913-918

1. 吉野雄大, 石田岳史. 高齢者の急性期医療の問題点 Geriat. Med . 2023; 61(2); 147-150

[講演 · 口頭発表等]

1. Kanako Yoshimi, Kazuharu Nakagawa, Toru Yamada, Takahiro Shinohara, Shuji Ouchi, Mitsuko Saito, Ayane Horike, Haruka Tohara. Relationship between respiratory and swallowing function in older patients with dysphagia . ESSD 2023 13th Annual Congress 2023.11.30 Toulouse, France
2. 黒木平、木村琢磨、石田哲久、鶴若莉央、関口大樹、大内修司、山田徹、馬渕卓、橋本正良. 両側多発深部静脈血栓を契機に横行結腸癌が発見された一例。. 2023.09.30 関東甲信越地方会
3. Dr. Risa Suzuki, Ms. Ayuko Umezawa, Dr. Chieko Sumiya , Dr. Yamato Hoshino, Dr. Yoshiyuki Numasawa, Dr. Shohei Kawagoe. Survey of nutritional management of patients receiving tube feeding in home medical care. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023 2023.06.13 Yokohama
1. 山田　徹. 第 19 回 Point of care Ultrasound コース. 2023.12.09
2. 高齢者との医療面接をどう行うか. 2023.12.07
3. 池田 瞭, 古橋 廣崇, 筒井 真太郎, 織田 在, 日野 晃輔, 安藤 悠哉, 樋口 泰亮, 吉岡 幹士, 村原 なみ, 和田 晃典, 井上 悌仁, 丸田 紘史, 又木 紀和, 伊藤 実, 武智 千津子, 青野 茂昭. 粘膜筋板由来の直腸平滑筋腫の 1 例. Progress of Digestive Endoscopy 2023.12.01
4. 安藤 悠哉, 丸田 紘史, 池田 瞭, 筒井 慎太郎, 織田 在, 日野 晃輔, 吉岡 幹生, 樋口 泰亮, 村原 なみ, 和田 晃典, 井上 悌仁, 古橋 廣崇, 又木 紀和, 伊藤 実, 武智 千津子, 阿尾 理一, 西川 誠, 吉川 英治, 青野 茂昭. 血栓症に対し長期留置されていた IVC フィルターの十二指腸穿通を内視鏡で診断し、外科的に除去した 1 例. Progress of Digestive Endoscopy 2023.12.01
5. 石田岳史. ポストコロナ時代の地域医療連携. 第 23 回　日本クリニカルパス学会学術集会 2023.11.10 埼玉
6. 鈴木　里彩. NDB のデータ利活用に向けたデータリンケージの方向性及び最近の動向. 第 82 回日本公衆衛生学会 2023.11.01 つくば国際会議場
7. 石田岳史. アラーム削減に関する取り組みについて. 聖マリアンナ医科大学病院 医療安全講演会 2023.09.12 神奈川
8. 木山 晃希, 畠山 彩乃, 山田 紘理, 大内 修司, 鈴木 里彩, 篠原 孝宏, 小林 正典, 馬渕 卓, 山田 徹, 橋本 正良. ふらつきで受診し慢性トルエン中毒の診断に至った 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.09.01
9. 石田岳史. 地域密着型病院に欠かせないホスピタリストという生き方. 第 44 回　総合診療セミナー in お茶の水 2023.08.24 オンライン
10. 山田　徹、南　太郎, Nilam J Soni. 第 18 回 Point of care Ultrasound コース. 2023.08.19
11. 安藤 悠哉, 中山 聡, 本多 新, 村島 直哉. 特発性門脈圧亢進症の長期経過をみた 4 例の検討. 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2023.08.01
12. 石田岳史. チームで取り組む心電図モニターの安全管理 . 第 29 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会　2023.07.15 横浜
13. 吉田 鈴, 大内 修司, 畠山 彩乃, 山田 紘理, 篠原 孝宏, 馬渕 卓, 山田 徹, 橋本 正良. 糖尿病性足壊疽に対する下肢切断術後に熱源精査に難渋した薬剤熱の 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.07.01
14. 山田　徹. 最新論文紹介 20 選 2023 年 忙しいあなたのために. ACP Japan 年次総会 2023 2023.06.24
15. 山田 徹. 内科医のための肝疾患の基本 over view. ACP Japan 年次総会 2023 2023.06.24 京都市
16. 福原 慧, 福原 真理, 久我 真智子, 長島 夏海, 竹下 昌代, 長瀬 典子, 山本 翔太, 市原 岳, 馬渕 卓, 大田 和枝, 橋本 正良. 介入が困難であったネグレクトを背景に死亡に至った症例の検討. 日本在宅医療連合学会大会プログラム · 講演抄録集 2023.06.01
17. 井上 華子, 沼沢 祥行, 住谷 智恵子, 鈴木 里彩, 村山 慎一, 川越 正平. 心房細動を有する在宅患者に対する抗凝固薬使用の現状把握と適正使用化の検討 (単施設後ろ向き調査)　適応外過少投与の原因と対策について. 日本在宅医療連合学会大会プログラム · 講演抄録集 2023.06.01
18. 高齢者における過小医療 · 過剰医療の背景と対応. 2023.05.29
19. 山田　徹. 卒前 · 卒後の超音波研修：医師の超音波離れをどうするか. 第 96 回日本超音波医学会学術集会 2023.05.28

20. 山田　徹. プライマリケア領域における FOCUS の現状. 第 96 回日本超音波医学会学術集会 2023.05.27

21. 山田　徹, Nilam J Soni, 南　太郎, 北野　夕佳, 吉野　俊平. 第 4 回 POCUS online course. ケアネット TV 2023.05.21

22. 山田　徹. 遠隔診療デバイスの今後〜超音波検査デバイスとの連携について〜. 第 14 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2023.05.12 名古屋市

23. 山田　徹. 訪問診療から病棟まで！ POCUS の実践的活用法とそのエビデンス. 第 14 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2023.05.12

24. 山田　徹. 病院総合診療部門で行う総合診療 II 研修の特色と総合診療 I 研修との連携. 第 14 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2023.05.12

25. 山田 徹. 専攻医・病院総合医・診療所家庭医と共に考える総合診療研修における総合診療 II　病院総合診療部門で行う総合診療 II 研修の特色と総合診療 I 研修との連携. 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2023.05.01

26. 畠山 彩乃, 馬渕 卓, 山田 紘理, 篠原 孝宏, 佐藤 元彦, 梅澤 夏佳, 竹本 暁, 大内 修司, 吉田 尚子, 山田 徹, 橋本 正良. 臨床スコアで組織球性壊死性リンパ節炎が疑われ、生検にて確定診断に至った一例. 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2023.05.01

27. 山田 徹. 遠隔診療デバイスの今後　超音波検査デバイスとの連携について. 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2023.05.01

28. 伊達岡 要, 馬渕 卓, 長嶺 由衣子, 新井 隆成, 安田 豊, 宮田 康一, 橋本 正良. 親の出生時の情報は、妊娠中の情報よりも児の将来的リスク予測に有用である可能性がある。. 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2023.05.01

29. 山田　徹、亀田　徹、吉野　俊平. ポイントオブケア超音波講習会 〜必修！ 内科医のためのベッドサイドエコー〜. 第 120 回日本内科学会総会 2023.04.14 東京都千代田区

30. 山田 徹. Point-of-Care の心臓超音波検査 (FoCUS) の普及に向けて　プライマリ・ケア領域における FoCUS 教育. 超音波医学 2023.04.01

31. 山田 徹. 卒前・卒後の超音波研修: 医師の超音波離れをどうするか　卒前教育における POCUS の可能性. 超音波医学 2023.04.01

32. 石田岳史，百村伸一，鈴木英彦，藤田英雄，松本雅彦. 郡市医師会が主導する心不全共本の運用と多職種情報パスの試み. 第 267 回日本循環器学会関東甲信越支部　2023.02.25 東京

33. 馬渕 卓, 山田 徹, 大内 修司, 篠原 孝宏, 吉田 尚子, 赤石 雄, 後藤 夕輝, 鈴木 里彩, 橋本 正良. COVID-19 診療体制の構築と総合診療科の役割に関する後方視的検討. 日本内科学会雑誌 2023.02.01

34. 橋渡 七奈子, 小林 正典, 馬渕 卓, 金子 俊, 村川 美也子, 福田 将義, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 橋本 正良, 岡本 隆一. 胆道シンチグラフィーでのみ診断可能であった乳頭括約筋機能不全の 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.02.01

35. 木山 晃希, 鈴木 里彩, 篠原 孝宏, 小林 正典, 山田 徹, 橋本 正良. ふらつきを主訴に慢性トルエン中毒の診断に至った 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.02.01

36. 木山 晃希, 鈴木 里彩, 篠原 孝宏, 小林 正典, 山田 徹, 橋本 正良. 【撤回論文】ふらつきを主訴に慢性トルエン中毒の診断に至った 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.02.01

37. 馬渕　卓、山田　徹、橋本　正良. 総合診療科の周術期管理に関する取り組み. 8th Geriatric Innovation Forum 2023.01.21 名古屋市

[その他業績]

1. けんこう実践セミナー in 埼玉, 2023 年 02 月
埼玉新聞主催でアクティブな暮らしで血管の若返りをはかる方法の市民公開講座を行った、

2. 「　新しい骨組織透明化技術の開発による骨内神経の 3 次元構造の可視化　」 —　骨内神経による骨代謝調節機構の解明　—, 2023 年 03 月
Scientific Reports

[社会貢献活動]

1. 中医学系統講義の実践, 2006 年 07 月 04 日 - 現在
2. 日本中医学会理事, 日本中医学会, 2014 年 09 月 01 日 - 現在
3. グローバル看護七転び八起き, 日経 BP 社, 日経メディカルオンライン, 2017 年 11 月 29 日 - 現在
4. 日本東洋医学会辞書編纂委員会　委員, 2017 年 12 月 14 日 - 現在
5. 医療通訳研修, ランゲージワン 株式会社, 2018 年 06 月 22 日 - 現在
6. 共用試験実施委員会 · 委員, 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構, 2022 年 04 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
7. 内閣府先端的サービスの開発 · 構築等に関する調査事業：ポータブル超音波診断装置の活用による在宅ケアでの看護アセスメント, 内閣府事業, 2022 年 11 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
8. 起立性調節障害を識り、子どもの気持ちに寄り添う, 埼玉県立大宮光陵高校, PTA での講演, 埼玉県立大宮光陵高校講堂, 2023 年 05 月 27 日
9. 内閣府先端的サービスの開発 · 構築や先端的サービス実装のためのデータ連携等に関する調査事業：AI 診断支援ソフト搭載のエコーを活用した地域医療 · 介護におけるタスク · シフト/シェア推進, 2023 年 10 月 01 日 - 2024 年 03 月 31 日
10. 高齢者の方の靴下選びついて, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2023 年 11 月 01 日

統合臨床感染症学分野

Department of Infectious Diseases

教授　具　芳明
准教授　岡本　耕
講師 田頭　保彰
助教　栗田　崇史
助教（感染制御部）　井手　聡
助教（感染制御部）　佐藤　ルブナ
医員　大井　真里奈
特任研究員 縣　智香子
特任研究員 坂口　みきよ
大学院生　堀内　弘司
医局秘書　舩田　慧里子

(1)　分野概要

統合臨床感染症学分野は感染症の臨床を中心に研究と教育を担当しています。大学病院では感染症内科と感染制御部を担当しています。感染症に関する疫学研究を中心とした研究や感染症全般の教育活動を行っています。
また、東京医科歯科大学の「感染症パンデミックを複層的に征圧するプラットフォーム事業」の中核として、本学の感染症研究 · 教育を推進する役割を担っています。当分野は、2023 年に設立された TMDU 感染症センターの臨床医学部門を担当しています。

(2)　研究活動

抗菌薬適正使用や院内感染の制御に関する研究を中心に感染症に関する臨床 · 疫学研究をさまざまな視点から行っています。
なかでも、国内外で大きな問題となっている薬剤耐性（AMR）に関連する病院疫学研究や、医療従事者 · 一般市民の意識を探り行動変容をめざす研究に力を入れて取り組んでいます。
東京都と連携し、医療機関や公衆衛生の COVID-19 パンデミックに対する対応についての研究も行っています。

(3)　教育活動

私たちは将来を担う感染症専門家を育成することに力を注いでいます。感染症は医療全般に関わることから、感染症診療や感染制御の基本的な対応を身につけた医師を増やしていくことも重要な課題です。多職種を対象とした教育も重要です。私たちはさまざまな段階に応じた教育を提供し、人材育成に取り組んでいます。

卒前教育
医学科 3 年生の講義（臨床 · 感染）や医学科 5,6 年生の臨床実習を中心に感染症診療 · 感染制御に関する講義や実習を担当しています。あらゆる医師 · 医療従事者が身につけておくべき感染症診療や感染対策の基本を、興味をもって学ぶことができるよう工夫しています。

卒後教育
初期研修医（ローテート）、専攻医、専門医をめざすフェローシップなど、それまでの経験やキャリアプランに応じたプログラムを提供します。

大学院教育
臨床感染症や感染症疫学を中心に多角的に感染症に取り組む専門家の育成を目指しています。
AMR 対策、病院疫学、病院感染症のコントロールなどをテーマとしています。

生涯教育
臨床のどの分野においても多かれ少なかれ感染症の診療に関わることになります。感染症の診断と治療に関する情報を提供し、生涯教育に貢献しています。
薬剤師や看護師、臨床検査技師など多職種を対象とした教育にも取り組んでいます。

(4) 教育方針

臨床感染症や感染症疫学を中心に多角的に感染症に取り組む専門家の育成を目指しています。

(5) 臨床活動および学外活動

東京医科歯科大学病院では感染症内科と感染制御部を担当しています。
感染症内科は 2021 年 10 月に開設された新しい診療科です。各科からの相談に対応した診療を中心とし、主に入院患者さんに発生するさまざまな感染症の診断と治療を行っています。発熱など感染症が疑われる症状の原因となっている微生物を突き止め、その微生物や患者さんの状態に合わせて最適な治療法を選択しています。
感染制御部は、病院内で発生する感染症を予防するとともに広がりを防ぎ、患者さんが安心して医療を受けられる環境を整えています。関係各部門と連携を取りながら多職種のチームで取り組んでいます。
私たちは近年大きな問題となっている薬剤耐性（AMR）対策のため、抗菌薬適正使用の推進に取り組んでいます。感染症内科と感染制御部が一体となり、抗菌薬使用状況を把握するとともに、感染症治療の適正化を通じて AMR の抑制と治療成績の向上をめざしています。
学外では、東京都に事業提案を行い、2022 年度から 3 カ年の計画で「中小病院におけるポストコロナ時代の感染症健康危機への対応能力強化事業」を行っています。その他にも学会活動や公的な活動などさまざまな活動を行っています。

(6) 臨床上の特色

感染症内科は各科からの相談に応じたコンサルテーション診療を行っています。臓器を問わずさまざまな感染症への対応を通じて各診療科を支援し、大学病院全体の感染症診断と治療に貢献しています。感染制御部は感染症の予防を中心に取り組んでいます。これらの活動を通じ、大学病院の高度医療を支える役割を担っています。
外来診療では HIV 感染症を含む感染症診療や、感染症を予防するためのワクチン接種を行っています。

(7) 研究業績

[原著]

1. Haruki Mito, Ryota Hase, Hideki Ueda, Nobuaki Tsuyama, Motoki Fujii, Naoya Matsuda, Emiri Muranaka, Takashi Kurita, Yudai Yano. A pitfall of cognitive bias during the pandemic: Two cases of Plasmodium falciparum malaria coinfected or misdiagnosed with COVID-19. J Infect Chemother. 2023.09; 29(9); 916-918

2. Noguchi Atsushi, Kurita Takashi, Matsuzawa Katsura. Clinical features of atlantoaxial involvement in patients with rheumatoid arthritis using F-18-fluorodeoxyglucose-positron emission tomography with computed tomography CLINICAL RHEUMATOLOGY. 2023.07; 42(7); 1875-1884

3. Ide Satoshi, Ishikane Masahiro, Aoyagi Kensuke, Ono Akane, Asai Yusuke, Tsuzuki Shinya, Kusama Yoshiki, Gu Yoshiaki, Kodama Eiichi, Ohmagari Norio. Investigation of oral macrolide prescriptions in Japan using a retrospective claims database, 2013-2018 PLOS ONE. 2023.06; 18(6); e0287297

4. Abe Keishi, Abe Sarah Krull, Fujita Takanori, Gu Yoshiaki, Hashizume Masahiro, Ikeda Chieko, Inaba Masaki, Jindai Kazuaki, Kondo Naoki, Kunii Osamu, Matsuo Makiko, Nakatani Hiroki, Nishino Yoshitaka, Nomura Shuhei, Sakamoto Haruka, Shiroyama Hideaki, Suzuki Tomoko, Takemi Ayako, Takuma Kayo. Promote global solidarity to advance health-system resilience: proposals for the G7 meetings in Japan LANCET. 2023.04; 401(10385); 1319-1321

5. Nomoto Hidetoshi, Ishikane Masahiro, Gu Yoshiaki, Yamamuro Ryosuke, Osawa Ryosuke, Hosokawa Naoto, Sahara Toshinori, Nakamura-Uchiyama Fukumi, Fukushima Kazuaki, Sekiya Noritaka, Imamura Akifumi, Fujikura Yuji, Kawana Akihiko, Nagata Kaoru, Tamura Kaku, Kutsuna Satoshi, Ohmagari Norio. Nationwide Descriptive Epidemiological Study of Patients with COVID-19 Evacuated from Wuhan, China to Japan from January to February, 2020 Japanese Journal of Infectious Diseases. 2023.01; 76(1); 20-26

6. Ota Y, Prah I, Mahazu S, Gu Y, Nukui Y, Koike R, Saito R. Novel insights into genetic characteristics of bla(GES)-encoding plasmids from hospital sewage. Frontiers in microbiology. 2023; 14; 1209195

7. Sako A, Gu Y, Masui Y, Yoshimura K, Yanai H, Ohmagari N. Prescription of anti-influenza drugs in Japan, 2014-2020: A retrospective study using open data from the national claims database. PloS one. 2023; 18(10); e0291673

1. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 36 回) 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン 2023-2027 を読む (3) J-IDEO. 2023.11; 7(6); 931-933

2. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 36 回)　薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン 2023-2027 を読む (3) J-IDEO. 2023.11; 7(6); 931-933

3. 具 芳明. 基礎 · 臨床の両面からみた耐性菌の現状と対策 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン 2023-2027 の概要 Modern Media. 2023.11; 69(11); 277-283

4. 具 芳明. 基礎 · 臨床の両面からみた耐性菌の現状と対策　薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン　2023-2027 の概要 Modern Media. 2023.11; 69(11); 277-283

5. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 35 回) 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン 2023-2027 を読む (2) J-IDEO. 2023.09; 7(5); 782-785

6. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 35 回)　薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン 2023-2027 を読む (2) J-IDEO. 2023.09; 7(5); 782-785

7. 松林 俊佑, 宇賀神 つかさ, 飯田 忠恒, 竹下 八菜, 白井 剛, 具 芳明, 並木 剛. びまん浸潤型のサルコイドーシスに骨病変の合併が疑われた 1 例 臨床皮膚科. 2023.07; 77(8); 616-622

8. 具 芳明. ワンヘルスシンポジウム～多角的に考える耐性菌対策～ 市中で広がる薬剤耐性とその対策 日本化学療法学会雑誌. 2023.07; 71(4); 408-409

9. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 34 回) 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン 2023-2027 を読む (1) J-IDEO. 2023.07; 7(4); 572-575

10. 藤友 結実子, 具 芳明, 森岡 慎一郎, 都築 慎也, 添田 博, 中浜 力, 長谷川 直樹, 前崎 繁文, 前田 真之, 松本 哲哉, 宮入 烈, 山岸 由佳, 大曲 貴夫, 日本化学療法学会 · 日本感染症学会合同外来抗菌薬適正使用調査委員会. 全国の診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関するアンケート調査 (第 3 回) 日本化学療法学会雑誌. 2023.07; 71(4); 476-477

11. 吉盛 奈津美, 藤本 裕子, 今井 清隆, 一幡 結, 長谷川 香織, 具 芳明, 妹尾 充敏, 加藤 はる. PCR-ribotype 027 株による Clostridioides difficile 感染症アウトブレイクの経験 日本環境感染学会誌. 2023.05; 38(3); 90-98

12. 吉盛 奈津美, 藤本 裕子, 今井 清隆, 一幡 結, 長谷川 香織, 具 芳明, 妹尾 充敏, 加藤 はる. PCR-ribotype 027 株による Clostridioides difficile 感染症アウトブレイクの経験 日本環境感染学会誌. 2023.05; 38(3); 90-98

13. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 33 回) ワンヘルスの今 J-IDEO. 2023.05; 7(3); 458-459

14. 具 芳明. ワンヘルスシンポジウム～多角的に考える耐性菌対策～ 市中で広がる薬剤耐性とその対策 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集. 2023.03; 97 回 · 71 回; シンポジウム 5

15. 藤友 結実子, 具 芳明, 森岡 慎一郎, 都築 慎也, 添田 博, 中浜 力, 長谷川 直樹, 前崎 繁文, 前田 真之, 松本 哲哉, 宮入 烈, 山岸 由佳, 大曲 貴夫, 日本化学療法学会 · 日本感染症学会合同外来抗菌薬適正使用調査委員会. 全国の診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関するアンケート調査 (第 3 回) 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集. 2023.03; 97 回 · 71 回; 外来抗菌薬適正使用調査委員会報告

16. 太田 悠介, 具 芳明, 小池 竜司, 齋藤 良一. 病院排水より分離された GES 型カルバペネマーゼ産生菌のゲノム解析 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集. 2023.03; 97 回 · 71 回; O-285

17. 具 芳明. 薬剤耐性 (AMR) 対策のこれまでとこれから 日本化学療法学会雑誌. 2023.03; 71(2); 134-135

18. 田代 共生, 三島 有華, 宮武 和正, 飯田 遥, 栗田 崇史, 松元 一明, 野坂 宜之, 吉井 俊貴, 具 芳明, 若林 健二. リネゾリド長期投与中に術後乳酸アシドーシスを来した 1 例 日本内科学会関東地方会. 2023.02; 684 回; 39

19. 具 芳明. 抗菌薬適正使用の考え方 日本細菌学雑誌. 2023.02; 78(1); 13

[書籍等出版物]

1. 薬剤師のための感染制御マニュアル . 薬事日報社, 2023.04 (ISBN : 9784840816120)

2. 今日の治療指針 : 私はこう治療している . 医学書院, 2023.01 (ISBN : 9784260050357)

[総説]

1. 具 芳明. 技術講座　微生物　薬剤耐性 (AMR) ワンヘルスプラットフォームの使い方 検査と技術. 2023.07; 51(7); 736-741

2. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 34 回)　薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン 2023-2027 を読む (1) J-IDEO. 2023.07; 7(4); 572-575

3. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 33 回)　ワンヘルスの今 J-IDEO. 2023.05; 7(3); 458-459

4. 具 芳明. 【ポストコロナ時代の感染症診療】(第 V 章) ポストコロナ時代に重要な薬剤耐性菌 · 微生物　薬剤耐性 (AMR) 対策のこれまでとこれから 診断と治療. 2023.03; 111(Suppl.); 306-310

5. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 32 回)　抗菌薬のリバイバル J-IDEO. 2023.03; 7(2); 233-235

6. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 31 回)　日本が AMR 対策において国際社会で果たすべき役割 J-IDEO. 2023.01; 7(1); 130-133

7. 具 芳明. 【COVID-19 パンデミック 振り返りと将来への備え】未来のパンデミック対策　多剤耐性菌 総合診療. 2023.01; 33(1); 65-68

8. 山中 克郎, 谷口 清州, 具 芳明, 鎌田 一宏. ゲストライブ　Improvisation(第 21 回)　次なるパンデミックはきっと来る　COVID-19 が教えてくれた今すべきこと 総合診療. 2023.01; 33(1); 1-12

9. 栗田 崇史. 【Priority Pathogen List(PPL) に取り上げられる耐性菌】カルバペネム耐性腸内細菌目細菌 臨床と微生物. 2023.01; 50(1); 021-027

[講演 · 口頭発表等]

1. 具芳明. 日本の AMR 対策. 国立国際医療研究センター国際医療協力局 2023 年度 JICA 課題別研修「薬剤耐性 (AMR)· 医療関連感染管理」 2023.11.06

1. 具 芳明. AMR 対策と多職種で進める抗菌薬適正使用. 日本臨床微生物学会雑誌 2023.12.01

2. 具 芳明. 多職種の視点で JANIS· J-SIPHE データを読む · 活かす　病院における J-SHIPE の活用. 日本臨床微生物学会雑誌 2023.12.01

3. 具 芳明. 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン 2023-2027 の概要. 日本臨床微生物学会雑誌 2023.12.01

4. 太田 悠介, 齋藤 良一, 安永 慶, Isaac Prah, Mahazu Samiratu, 長井 敏, 具 芳明. 16SrRNA アンプリコン解析におけるショート及びロングリード解析パイプラインの比較評価. 日本臨床検査医学会誌 2023.10.01

5. 具　芳明. 薬剤耐性（AMR）対策と抗菌薬適正使用. 一般社団法人熊本県保険医協会学術研究部会 2023.09.21

6. 具　芳明. 感染対策における多職種チーム · 地域連携と臨床検査技師の役割. 2023 年度日本臨床衛生検査技師会　中四国支部医学検査学会　ランチョンセミナー 2023.09.16

7. 具　芳明. 感受性試験結果の読み方. 佐久感染症セミナー 2023.09.02

8. 具　芳明. パンデミック後の AMR 対策と抗菌薬適正使用（院内、地域）. 石巻赤十字病院院内講演会 2023.08.18

9. 具　芳明. イブニングセミナー 1「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2023-2027」の概要とポイント. 第 38 回日本環境感染学会総会 · 学術集会 2023.07.21

10. 具　芳明. 感染症対策と地域連携〜ポストパンデミックに求められること〜. 首都圏感染症予防 · 対策フォーラム 2023.07.11

11. 具　芳明. 感染症アウトブレイク時の対応. 令和 5 年度実地疫学調査研修 2023.07.10

12. 具 芳明. ワンヘルスシンポジウム〜多角的に考える耐性菌対策〜　市中で広がる薬剤耐性とその対策. 日本化学療法学会雑誌 2023.07.01

13. 藤友 結実子, 具 芳明, 森岡 慎一郎, 都築 慎也, 添田 博, 中浜 力, 長谷川 直樹, 前崎 繁文, 前田 真之, 松本 哲哉, 宮入 烈, 山岸 由佳, 大曲 貴夫, 日本化学療法学会 · 日本感染症学会合同外来抗菌薬適正使用調査委員会. 全国の診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関するアンケート調査 (第 3 回). 日本化学療法学会雑誌 2023.07.01

14. 具　芳明. コロナの先の感染対策に求められること. 足立区救急業務連絡協議会講演会 2023.06.23

15. 具　芳明. 「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2023-2027」の概要. 2023.06.08

16. 田頭 保彰, 高橋 洋子, 渡邉 由香, 鶴岡 広美, 具 芳明. Google ワークスペースを使っての職員の有症状報告管理と作業効率の改善の取り組み. 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集 2023.06.01

17. 田頭 保彰, 具 芳明. 入院前スクリーニング PCR の病院感染対策に与える影響. 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集 2023.06.01

18. 逢坂 啓莉, 具 芳明, 田頭 保彰. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) オミクロン株流行下で発生した内科病棟におけるクラスターの調査研究. 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集 2023.06.01

19. 具　芳明. AMR 対策と抗菌薬適正使用. 第 37 回鹿児島感染制御ネットワーク学術講演会 2023.05.27

20. 具　芳明. 薬剤耐性（AMR）対策のこれまでとこれから. Nakatsu 抗菌薬適正使用研究会 2023.03.22

21. 具　芳明. 抗菌薬適正使用の考え方. 第 411 回 ICD 講習会 2023.03.18

22. 具 芳明. 薬剤耐性 (AMR) 対策のこれまでとこれから. 日本化学療法学会雑誌 2023.03.01

23. 具 芳明. ワンヘルスシンポジウム〜多角的に考える耐性菌対策〜　市中で広がる薬剤耐性とその対策. 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集 2023.03.01

24. 藤友 結実子, 具 芳明, 森岡 慎一郎, 都築 慎也, 添田 博, 中浜 力, 長谷川 直樹, 前崎 繁文, 前田 真之, 松本 哲哉, 宮入 烈, 山岸 由佳, 大曲 貴夫, 日本化学療法学会 · 日本感染症学会合同外来抗菌薬適正使用調査委員会. 全国の診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関するアンケート調査 (第 3 回). 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集 2023.03.01

25. 太田 悠介, 具 芳明, 小池 竜司, 齋藤 良一. 病院排水より分離された GES 型カルバペネマーゼ産生菌のゲノム解析. 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集 2023.03.01

26. 具　芳明. 感染症対策と地域連携〜ポストパンデミックを見据えて〜. 日本赤十字社北海道東北ブロック感染管理ネットワーク研修 2023.02.22

27. 田代 共生, 三島 有華, 宮武 和正, 飯田 遥, 栗田 崇史, 松元 一明, 野坂 宜之, 吉井 俊貴, 具 芳明, 若林 健二. リネゾリド長期投与中に術後乳酸アシドーシスを来した 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.02.01

28. 具 芳明. 抗菌薬適正使用の考え方. 日本細菌学雑誌 2023.02.01

29. 田代 共生, 三島 有華, 宮武 和正, 飯田 遥, 栗田 崇史, 松元 一明, 野坂 宜之, 吉井 俊貴, 具 芳明, 若林 健二. リネゾリド長期投与中に術後乳酸アシドーシスを来した 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.02.01

30. 具　芳明. 日本と世界での AMR. 集中治療スタッフのための感染対策セミナー 2023.01.28

31. 具　芳明. 多職種で取り組む薬剤耐性 (AMR) 対策. 茨城県立中央病院院内感染対策講演 2023.01.28

32. 具　芳明. 薬剤耐性（AMR）対策のこれまでとこれから. 令和 4 年度いばらき予防医学プラザ特別講演会 2023.01.13

1. 具芳明. これからの COVID-19 感染対策の考え方. 埼玉県これからの新型コロナ WEB セミナー 2023.12.12
2. 具芳明. 中小病院における感染対策の課題. 令和 5 年（2023 年）度第 4 回中小病院における感染症対策講習会 2023.12.02
3. 具芳明. これからの感染対策の考え方と薬剤耐性（AMR）対策. 高山市国保診療所感染対策研修会 2023.11.25
4. 具芳明. 感染症サーベイランスとこれからの感染対策. 令和 5 年度奈良県感染症発生動向調査事業感染症関連講演会 兼 令和 5 年度第 2 回院内感染対策カンファレンス 2023.11.19
5. 具芳明. AMR 対策と抗菌薬適正使用. 第 22 回東北臨床感染症研究会 2023.11.18
6. 具芳明. 中小病院における感染対策の課題. 令和 5 年（2023 年）度第 3 回中小病院における感染症対策講習会 2023.11.17
7. 具芳明. これからの COVID-19 感染対策の考え方. 長野県 COVID-19 WEB Seminar 2023.11.16
8. 具芳明. 中小病院における感染対策の課題. 令和 5 年（2023 年）度 保健所 · 支援者向け感染症対策講習会 2023.11.08
9. 具芳明. 中小病院における感染対策の考え方. 令和 5 年（2023 年）度 第 2 回 中小病院における感染症対策講習会 2023.10.21
10. 具芳明. AMR 対策と抗菌薬適正使用. 第 15 回九州臨床感染症セミナー 2023.10.14
11. 具芳明. 中小病院における感染対策の考え方. 令和 5 年（2023 年）度 第 1 回 中小病院における感染症対策講習会 2023.10.06
12. 具芳明. 薬剤耐性（AMR）対策と抗菌薬適正使用. 一般社団法人熊本県保険医協会学術研究部会 2023.09.21
13. 具芳明. 感染対策における多職種チーム · 地域連携と臨床検査技師の役割. 2023 年度日本臨床衛生検査技師会 中四国支部医学検査学会 ランチョンセミナー 2023.09.16
14. 具芳明. 感受性試験結果の読み方. 佐久感染症セミナー 2023.09.02
15. 具芳明. 新興再興感染症 · 輸入感染症、国内外の HAI サーベイランス · J-SIPHE. 日本看護協会看護研修学校 認定看護師教育課程 感染管理学科講義 2023.08.30
16. 具芳明. パンデミック後の AMR 対策と抗菌薬適正使用（院内、地域）. 石巻赤十字病院院内講演会 2023.08.18
17. 具芳明. 「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2023-2027」の概要とポイント. 第 38 回日本環境感染学会総会 · 学術集会イブニングセミナー 1 2023.07.21
18. 具芳明. 感染症対策と地域連携～ポストパンデミックに求められること～. 首都圏感染症予防 · 対策フォーラム 2023.07.11
19. 具芳明. 感染症アウトブレイク時の対応. 東京都健康安全研究センター令和 5 年度実地疫学調査研修 2023.07.10
20. 具芳明. コロナの先の感染対策に求められること. 足立区救急業務連絡協議会講演会 2023.06.23
21. 具芳明. 「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2023-2027」の概要. 感染症 Virtual Meeting 2023.06.08
22. 具芳明. AMR 対策と抗菌薬適正使用. 第 37 回鹿児島感染制御ネットワーク学術講演会 2023.05.27
23. 具芳明. 薬剤耐性（AMR）対策のこれまでとこれから. Nakatsu 抗菌薬適正使用研究会 2023.03.22
24. 具芳明. 抗菌薬適正使用の考え方. 第 411 回 ICD 講習会 2023.03.18
25. 具芳明. COVID-19 のこれまでとこれから. 東京工業大学化学生命科学研究所安全衛生講演会 2023.02.24
26. 具芳明. 感染症対策と地域連携～ポストパンデミックを見据えて～. 日本赤十字社北海道東北ブロック感染管理ネットワーク研修 2023.02.22
27. 具芳明. 多職種で取り組む薬剤耐性 (AMR) 対策. 茨城県立中央病院院内感染対策講演 2023.02.08
28. 具芳明. 日本と世界での AMR. 集中治療スタッフのための感染対策セミナー 2023.01.28
29. 具芳明.　薬剤耐性（AMR）対策のこれまでとこれから.　令和 4 年度いばらき予防医学プラザ特別講演会 2023.01.13

[Works]

1. かしこく治して、明日につなぐ ～抗菌薬を上手に使って AMR 対策～, Web サービス, 2017 年 09 月 - 現在

[その他業績]

1. 「　薬剤師による抗菌薬適正使用プログラム導入による歯科外来における 内服抗菌薬処方の質の変化　」— 継続的なフィードバックで経口第 3 世代セフェム系抗菌薬の処方が減少—, 2023 年 05 月
   Journal of Hospital Infection
2. Red pill or blue pill? The critical decision to control the superbugs, 2023 年 07 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
3. 感染症に強い社会づくりに貢献する研究 · 教育 · 診療を推進する 「TMDU 感染症センター」が 2023 年 11 月 1 日に設立, 2023 年 11 月
   —

[社会貢献活動]

1. 2023 年 G7 に向けたグローバルヘルスに関する提〓, 東京大学未来ビジョン研究センター, 2023 年 03 月
2. より強靭な保健医療体制のためのグローバルな連帯の促進：2023 年 G7 への提言（日本語要旨）, 2023 年 G7 グローバルヘルス · タスクフォース, 2023 年 04 月
3. （より強靭な保健医療体制のためのグローバルな連帯の促進：2023 年 G7 への提言）, 2023 年 G7 グローバルヘルス · タスクフォース, 2023 年 04 月
4. 抗菌薬の適正使用について, 読売新聞, 読売新聞, 2023 年 04 月 09 日 - 現在
5. 薬剤耐性菌の対策について, NHK, NHK ニュースなど, 2023 年 04 月 17 日 - 2023 年 04 月 24 日
6. 薬剤耐性対策について, 共同通信, 地方紙（予定）, 2023 年 04 月 18 日
7. プレスリリース「薬剤師による抗菌薬適正使用プログラム導入による歯科外来における内服抗菌薬処方の質の変化」について, 日本歯科新聞社, 日本歯科新聞, 2023 年 05 月 23 日 - 2023 年 06 月 06 日
8. プレスリリース「薬剤師による抗菌薬適正使用プログラム導入による歯科外来における内服抗菌薬処方の質の変化」について, 薬事日報社, 薬事日報, 2023 年 05 月 30 日 - 2023 年 06 月 19 日
9. コロナ患者の入院状況、入院者の症状や年代の変化について, 東京新聞社, 東京新聞, 2023 年 06 月 21 日 - 2023 年 06 月 23 日
10. 感染症対応を踏まえた都保健所のあり方検討会報告書, 感染症対応を踏まえた都保健所のあり方検討会, 2023 年 08 月
11. 呼吸器感染症のウイルス · 細菌図鑑, ビオメリュー · ジャパン株式会社, 2023 年 11 月

認知行動医学講座

神経機能形態学

Neuroanatomy and Cellular Neurobiology

教 授　寺 田 純 雄
講 師　齊 藤 健 太
助 教　川 岸 将 彦
助 教　佐 藤 啓 介
大学院生　花 岡 美 穂
連携研究員　杉 崎 綾 奈
連携研究員　池 滝 慶 記

(1) 分野概要

私たちの分野は、1966 年 7 月に萬年 甫 教授によって開設された解剖学第三講座に由来し、1990 年 5 月着任の中村 泰尚 教授のあとを引き継ぐ形で 2005 年 9 月に発足しました。数多くの有為な人材を輩出してきた、良き伝統を誇っています。解剖学担当教室の一つとして、神経系のみならず広く形態学的な観点から、新しい分子や現象を見つける、観察法（新規プローブ · 新規測光法にもとづく顕微鏡やイメージング手法）を開発する、という姿勢で研究を進めています。研究テーマは可視化による細胞骨格動態や細胞間コミュニケーションの検出 · 解明を中心としていますが、世界に先駆けて本質的な学問的課題を解決するためには、基盤となる独自の観察技術開発は欠かせません。私たちはさまざまな顕微測光技術とプローブを活用し、形態変化 · 機能変化を追う新たな“顕微鏡”を開発することにより、特定の領域にとどまらない未知の現象を発見し、その生物学的意義を解明することを目指しています。

(2) 研究活動

現行の主な研究プロジェクトは以下の通りです。

A. 細胞骨格動態調節機構の解明
B. 細胞間コミュニケーションの検出
C. 新規測光法、イメージング手法の開発

細胞の形態はその機能をしばしば反映します。細胞骨格タンパク質は細胞の形態を支える機能素子であり、特に神経細胞など特徴的な形態を呈する細胞において果たす役割は、形態学的な興味の対象となります。しかし代表的な細胞骨格タンパク質について、中間径フィラメントタンパク質はもちろん、比較的解析の進んでいるとされるアクチンやチュブリンでさえ、動態はもちろん正確な細胞内形態についても理解は不十分です。形態観察に汎用される化学固定法は（一般に考えられている以上に）構造に大きく影響を与え、凍結による物理固定法では固定可能な領域が制限されます。更にそもそも固定してしまっては動態を追うことはできません。進展著しい超解像蛍光顕微鏡を利用すれば動態を追うことは可能になりますが、精密に取得可能なのは蛍光分子の点としての位置情報の集合体です。点像変換の合理的なアルゴリズムが存在しない以上、「像」と解釈されている画像データは厳密にいえば想「像」に過ぎません。細胞骨格タンパク質に限らず生体分子の細胞内動態を正確に捉えるためには、光顕、電顕を問わず現在の顕微鏡技術では不十分です。

この状況を打開するために私たちは新規プローブ開発と測光法開発の両面から試行を重ねてきました（プロジェクト A, C）。その過程で開発に成功した蛍光偏光技術が、細胞骨格タンパク質の動態解析に極めて有効な技術であり、イメージングを含む顕微測光法を一新するインパクトを有することがわかってきています。神経疾患の病理過程のさまざまな局面で細胞骨格関連分子の異常が指摘されていますが、神経細胞における細胞骨格蛋白質の輸送メカニズムと動態制御機構は全くわかっていません。話を神経系に限っても、私たちの研究成果は神経疾患

のプロセスの理解に直結する可能性があります。

神経系は環境と生体内との間の出・入力処理、および出入力情報間の統合処理を担う仲介役細胞群から構成されています。神経細胞がその代表ですが、神経系を構成する仲介役細胞の最も重要な機能は、細胞間コミュニケーションです。神経細胞でいえば、シナプスから神経伝導路に至る細胞間相互作用の理解が、神経系の理解に直結します。私たちのグループは、細胞間コミュニケーションを可逆的に検出可能な蛍光プローブと、生体内で機能的な神経伝導路を検出する新規手法の開発を進めています（プロジェクト B）。

顕微測光技術は蛍光技術だけではありません。蛍光標識を前提とする計測には限界があり、可能な限り染色や標識を行わず、生きた状態に近い標本を、できる限り高分解能で観察する手法の開発も必要です。ラマン分光法や質量分析法を利用した新規検出手法の開発も進行中です（プロジェクト C）。

研究室で進行中のプロジェクトは上記に留まりませんが、その多くは学内外の研究室、企業との共同研究です。（例えばラマン分光法では、東京農工大学（三沢和彦教授）、ワイヤード株式会社と共同で科学技術振興機構 研究成果展開事業先端計測分析技術・機器開発プログラム「分子構造指標を用いた生体関連分子の細胞内動態観察装置の開発」の支援を受けてきました。） 国内のみならず、国際共同研究も積極的に推進しています。特に米国ウッズホール海洋生物学研究所とは継続的かつ密接な協力関係にあり、定期的な交流があります。（過去には日本学術振興会 オープンパートナーシップ 二国間交流事業（共同研究）：「先進的顕微分光法による顕微鏡開発と応用に関する共同研究」から、現在は日本学術振興会国際共同研究加速基金 国際共同研究強化（B）：「生命現象に迫るユニバーサルな蛍光偏光顕微観測法開発」から支援を受けています。）

（3） 教育活動

１．大学院教育
　博士・修士課程大学院生の研究指導
　神経機能形態学特論・演習・研究実習（博士課程）
　人体形態学・口腔形態学（科目責任者）講義（修士課程）
　大学院特別講義の開催
　研究者養成コース（大学院）

２．学部教育
　神経解剖学の講義及び実習（医学科第二学年）
　プロジェクトセメスター（医学科第四学年時の研究室配属）
　研究者養成コース（医学科）
　研究実践プログラム（医学科）

以上のほか、本学以外でも複数の大学で非常勤講師、客員教授として最新の形態学研究の紹介を行っています。

（4） 教育方針

博士・修士課程大学院生の研究指導をはじめとする大学院教育（神経機能形態学特論・演習・研究実習）、プロジェクトセメスター（医学科第四学年時の研究室配属、2007 年から 2022 年までにのべ 12 名の学生の教育を担当）、研究者養成コース、研究実践プログラム（プロジェクトセメスター配属以外に 5 名の医学科学生を指導）など、実際に研究活動を行う機会では、分子細胞生物学や生物物理学を含めた最新かつユニークな高等教育の場をつくるよう心掛けています。これまでの本学医学科出身の大学院生 2 名はいずれも MD-PhD コースに在籍し、学振 DC1 に採用されています。このほか英国 Imperial College London からの交換留学生や保健衛生学科検査技術学専攻からの卒業研究生、大学院生、他大学からの大学院生、研究生を受け入れてきました。常時複数の熱意ある学生、大学院生がたむろし、スタッフが丁寧に各々を指導する環境ができあがっています。また学外講師の招聘による大学院特別講義を開催し、学術交流の機会としている（2019 年度までにのべ 22 回開催）ほか、修士課程向け人体形態学・口腔形態学（科目責任者）の講義の一部を担当しています。

学部教育としては、医学科第二学年の神経解剖学の講義及び実習、保健衛生学科検査技術学専攻第二学年の人体構造学の実習の一部を担当してきました。内容は肉眼から組織レベルにいたる神経解剖学です。スポットではいる特別講義以外はなるべく寺田が全体の講義をカバーし、神経系の構造の体系的な理解を促進するように努力しています。一度で理解するのが困難な場合でも、後で振り返ってもらって理解する機会をつくるために、教材作成に注力してきました。（関連して 2009 年 1 月より、防衛医大の小林靖教授と共著で、中外医学社発行の月刊誌「クリニカルニューロサイエンス」誌に『神経解剖学の見方，考え方』と題する連載記事を担当してきました。メ

ディカルイラストレーターの佐藤良孝氏（(有）彩考）と試行錯誤しつつ、わかりやすい図説を目指してきましたが、2019 年 12 月をもって 11 年に亘るシリーズが完結しました。単行本化を準備しています。）また実習を重要視しています。既知の構造を要領よく確認、記憶してもらうよりも、むしろ構造を探すプロセスそのものを体験し、複雑さを整理する試行を繰り返すこと、更に構造の意義を理解することの方が重要と考え、指導しています。特に実習時のスタッフの指導には定評があり、学生から毎年高い評価を受けています。また田口技術員と共に神経組織標本の充実に努力を継続し、その水準は質、量共に有数のものと自負しています。医学科対象の特別講義では大竹一嘉（医療法人社団プラタナス 青葉アーバンクリニック)、八木沼洋行（福島県立医大教授)、武井陽介（筑波大教授）の各先生方にご助力をいただいています。更に特別講義の一つとして最新の顕微測光法を利用した新しい形態学研究の紹介を行っています。本学以外でも複数の大学で非常勤講師、客員教授として最新の形態学研究の紹介を行ってきました。

(5) 研究業績

[講演 · 口頭発表等]

1. 佐藤 啓介, 杉﨑 綾奈, 鎌田 勝彦, 久野 玉雄, 桂 一茂, 白水 美香子, 寺田 純雄. F-actin 配向プローブ POLArISact と F-actin 複合体のクライオ電子顕微鏡解析と、それに基づく改良型 POLArISact の開発. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.20

1. 寺田純雄. 動的なアクチン構造を可視化する改良型 POLArISact（F-actin 配向プローブ）の開発. 2023.09.03

2. 佐藤 啓介. 生体分子の配向を可視化する蛍光標識技術の開発と応用. 第 10 回 蛍光イメージング ミニシンポジウム 2023.05.25

[特許]

1. 共焦点スキャナユニットおよび共焦点顕微鏡, 特許番号：I534473

[その他業績]

1. ONSA/CBIR セミナー（大学院特別講義）, 2023 年 01 月
木村 宏 先生（東京工業大学 科学技術創成研究院 細胞制御工学研究センター 教授）
転写とクロマチン修飾のライブイメージング

分子神経科学

Molecular Neuroscience

教　授　田中　光一
助　教　平岡　優一

大学院生（博士）
Zhao Di

(1) 分野概要

種々の分子や細胞の機能及びこれらの異常がどのように動物の個体レベルでの行動及び行動異常に関与するかについて遺伝子改変動物を用いて研究する。これらの解析を通して、記憶 · 学習などの脳高次機能及び機能異常の機構を、分子 · 細胞および個体レベルで理解する。

(2) 研究活動

1．グルタミン酸トランスポーターの脳機能における役割
中枢神経系の興奮性シナプス伝達は主にグルタミン酸により担われており、グルタミン酸シグナル伝達の解明は脳機能解明の基礎となる。我々の分野では、神経回路網の形成 · 脳高次機能におけるグルタミン酸シグナリングの機能的役割を分子、細胞、個体レベルで明らかにすることを目指す。また、過剰なグルタミン酸は神経毒性を示し、様々な精神神経疾患の原因と考えられている。精神神経疾患におけるグルタミン酸シグナル伝達の病態生理学的役割を解明し、それら疾患の新しい治療法の開発を目指す。グルタミン酸シグナル伝達に中心的な役割を果たすグルタミン酸トランスポーターを中心に研究を行っている。
グルタミン酸トランスポーターは、神経終末から放出されたグルタミン酸を取り込み、神経伝達物質としての作用を終わらせ、細胞外グルタミン酸濃度を低く保つ機能的分子である。現在まで脳のグルタミン酸トランスポーターには、グリア型２種類 (GLT1, GLAST) と神経型２種類 (EAAC1, EAAT4) の計４種類のサブタイプが知られている。グリア型グルタミン酸輸送体の機能障害は、多くの精神神経疾患（筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病、脳梗塞 · 脳外傷、てんかん、統合失調症、うつ病、自閉症など）で報告されており、神経細胞の機能障害および変性 · 脱落に関与する共通した機序だと考えられています。

2. グリア細胞の記憶形成過程における役割
記憶が成立する過程には、経験を積んでいる最中に即座に上達するオンライン学習と、休憩中や翌日にかけて、知らず知らずのうちにじわじわと身に着くオフライン学習の二つの過程がある。本研究では、水平視機性眼球運動 (HOKR）の運動学習を用い、グリア細胞のオンライン学習やオフライン学習の形成過程における役割を解析した。HOKR に重要な小脳のバーグマングリア細胞からのグルタミン酸放出を抑制 · 促進すると、オンライン学習は亢進 · 阻害された。一方、訓練後の休息期間のオフライン学習は、オンライン学習の成果とは関係なく、独立して進行することを明らかにした。これらの結果は、オンライン学習とオフライン学習は並行に進行する、独立した学習過程であることを示している。さらに、オンライン学習の成立のしやすさは、グリア細胞からのグルタミン酸の放出の多寡により影響を受けること示唆している。本研究成果は、効率的な学習法の開発などにつながることが期待される。

3. Prok2 陽性神経細胞の概日リズム形成における役割を解析する新規ツールの開発
視交叉上核 (SCN) は哺乳類の中枢時計として機能する。SCN は、様々なタイプのニューロンにより構築され、Prolineticin2 (Prok2) 産生ニューロン (Prok2 ニューロン) もその一つである。Prok2 ニューロンは、SCN の出力

系として機能し、概日行動リズムを制御する可能性が考えられている。しかし、Prok2 ニューロンの神経活動の概日リズムは明らかになっておらず、概日行動との関係性も不明である。本研究では、Prok2 ニューロンの個体レベルでの機能解析に役立つ新しいツールを開発した。Prok2 の転写開始コドンの下流にテトラサイクリン依存性転写因子 (tTA) をノックインしたマウスを、クローニングフリー CRISPR/Cas9 法を用いて作成した。作成した Prok2tTA マウスとレポータマウスである Actb-tetO-EGFP マウスと交配し、EGFP の発現を調べたが、Prok2 ニューロンが局在する SCN において EGFP 陽性ニューロンが観察された。SCN Prok2 ニューロンの細胞内 Ca2+ 濃度を計測するため、Prok2tTA マウスの SCN に tTA 依存性の AAV ウイルスベクターを注入し、Prok2 ニューロン特異的にカルシウムセンサーである jGCaMP7s を発現させた。Prok2 ニューロンの細胞内 Ca2+濃度は、行動リズムの活動期には低く、休息期にピークに達することが明らかになった。この結果から、休息期では Prok2 ニューロンが活性化することでマウスの行動を抑制すると考えられる。

4. アストロタクチン 2（ASTN2）遺伝子欠損マウスの表現型解析
　精神疾患のゲノム解析から、ASTN2 遺伝子の欠失は、統合失調症 · 双極性障害 · 自閉スペクトラム症 · 注意欠陥／多動性傷害などの精神疾患リスクと関連することが報告されている。ASTN2 遺伝子は、グリア細胞誘導性の神経細胞移動に関与する。本研究では、ASTN2 欠損マウスを作成し、ASTN2 の欠損がどのように精神疾患の発症に関与するのかを解析した。Astn2 遺伝子欠失マウスの行動学的解析を行った結果、新規環境下自発運動活性、衝動性の亢進、あるいは不安様行動の減弱が認められた。さらに Astn2 遺伝子欠失マウスでは、神経細胞の数に変化はなかったが、神経細胞の大きさ · スパインの数は減少していた。また、Astn2 遺伝子欠失マウスでは、線状体におけるドーパミン量の減少、側座核／扁桃体におけるセロトニン／ドーパミンの代謝の亢進が見られた。これらの結果は、ASTN2 の欠損は、統合失調症 · 双極性障害 · 自閉スペクトラム症 · 注意欠陥／多動性傷害などの精神疾患の発症に関与することを示している。

(3) 教育活動

研究実習
認知のメカニズムを分子から個体行動レベルまで統一的に解析するため、遺伝子改変動物、キメラ動物の作成を行う。また、作成したモデル動物の認知異常の解析およびその異常が発生した分子メカニズムに関して解析してもらう。

参加可能プログラム
研究グループへの参加　　随　時
細胞生物学実験　　年 5 回　13：00—16：00
実験内容
1. 遺伝子の単離とターゲティングベクターなどの作成
2. 遺伝子改変マウスの作成
3. 動物の行動解析法
4. 中枢神経系の形態学的解析法

(4) 教育方針

認知のメカニズムを分子から個体行動レベルまで統一的に解析するため、遺伝子改変動物、キメラ動物の作成を行う。また、作成したモデル動物の認知異常の解析およびその異常が発生した分子メカニズムに関して解析してもらう。

(5) 研究業績

神経病理学分野

Department of Neuropathology

教授：岡澤 均
特任講師/非常勤講師：井上 治久、曽根 雅紀、藤田 慶大
プロジェクト准教授：本間 秀典
講師：田中 ひかり
助教：猪爪 舞子
事務補佐員：張 雪梅、佐藤しげみ
秘書：田中 麻里絵
大学院生：吉岡 優希、黄 勇、高山 すみれ、金 美花 (〜2023.3)、金 暁岑 (〜2023.3)

(1) 分野概要

本分野では神経変性疾患の発症分子メカニズムの解明と治療法の開発を研究目的としています。特に遺伝性脊髄小脳変性症、ハンチントン病、アルツハイマー病において、原因遺伝子変異によって生じる異常蛋白が神経細胞機能異常と最終的な細胞死を引き起こす分子過程の詳細な解明を目指して研究しています。また、発症メカニズムの研究で明らかになった知見を基に、これらの変性疾患をターゲットとした分子治療の開発を試みています。

(2) 研究活動

研究内容
当分野は、1）神経変性疾患の分子機構の包括的理解とこれに基づいた治療開発を目指した研究、2）神経変性疾患研究の過程で発見した PQBP1 分子機能解析を通じた精神遅滞の研究、3）Oct-3/4 の機能解析を通じた幹細胞分化機能の研究、を行っています。

研究紹介
1. パーキンソン病原因タンパク質 · α シヌクレインの新しい伝播様式
—脳内リンパ系による非凝集 α シヌクレインの速い拡散 —

パーキンソン病は、代表的な神経変性疾患であり、日本には約２０万人の患者さんがいると言われています。病理学的には脳の中の神経細胞の中に α シヌクレインというタンパク質が沈着 · 凝集することが特徴です。α シヌクレインは腸の神経細胞に発症早期から沈着 · 凝集することから、腸から脳に α シヌクレインが伝播していくのではないかという仮説があります。2008 年には、Nature Medicine に掲載された２つの論文 (Jia-Yi Li et al, Nat Med 2008; Jeffrey H Kordower et al, Nat Med 2008) が、パーキンソン病患者に移植した胎児ニューロンに α シヌクレインの大きな凝集体（封入体：レヴィー小体）が見られることから、患者の細胞から移植された胎児細胞に α シヌクレインが伝わったのではないかという仮説（伝播仮説もしくはプリオン様伝播仮説）を提示しました。また 2012 年には、ペンシルバニア大学の Virginia Lee 教授のグループが体外で α シヌクレインの凝集体 (preformed fibril, PPF) を作成し、正常なマウスの脳に注入したところ、レヴィー小体が形成され、パーキンソン病様症状を発症したことも、伝播仮説の根拠とされています。その後に行われた多くの研究も、Lee 教授の方法に習って、体の外で凝集物 (PFF) を作ってモデル動物に注射する実験を採用し、これらの結果は、凝集物が神経細胞（ニューロン）から次のニューロンへ伝わるとの仮説を支持してきました。しかし、PFF 以外の実験系での伝播に関する研究は極めて稀でした。
今回、私たちは脳内の狭い領域に AAV ウィルスベクターを感染させて、特定の場所に長期間 α シヌクレインを発現させるマウスモデルを作成して、α シヌクレインがどのように脳内で拡散するかを調べました。AAV ウィルスベクター自体が、脳の離れた部位には伝わっていないことも確認しました。その結果、予想に反して、２週間後

には感染領域から遠く離れた脳部位にαシヌクレインが広がっていること、拡散したαシヌクレインは凝集体ではなくモノマーであること、αシヌクレインは脳内リンパ系により拡散していること、遠位の脳神経細胞においてαシヌクレインはモノマー状態で取り込まれた後に凝集体を細胞内で形成することを、超解像顕微鏡や免疫電子顕微鏡などの技術を用いて示しました。この結果は、ウィルスベクターではない、蛍光標識したαシヌクレインの注入実験でも再確認できました。
今回の研究成果は、従来言われてきた『凝集状態の疾患タンパク質がニューロンからニューロンへと伝播する』という様式以外に、『非凝集状態（モノマー状態）の疾患タンパク質が脳内リンパ系により離れた場所のニューロンへと伝播する』という新たな様式が存在することを示したものです。ヒト脳において、そしてそれぞれの神経変性疾患において、どちらの様式がより優位に機能しているかは、今後に解決するべき問題ですが、少なくとも今回のマウス実験では、脳内リンパ系のモノマーαシヌクレインの伝播が優位でした。今後の治療を考える際に、特にプリオン様伝播をブロックする抗体や低分子などの薬剤開発において、今回の知見は非常に重要な研究成果と言えます。

2. 脊髄小脳失調症の DNA 損傷修復における２つの仕組み
—RpA1 による遺伝子治療の基盤メカニズムを解明　—
脊髄小脳失調症 1 型は、常染色体優性の家族性の神経変性疾患です。Ataxin-1(Atxn1) という遺伝子の中の CAG 塩基配列の繰り返し数 (CAG リピート数) が多くなる（CAG リピート伸長）が、大元の原因であることがわかっています。日本では非常に稀な疾患で７００人から２, ０００人程度の患者さんが罹患しているのではと言われていますが、欧米では頻度がより高いことが知られています。小脳ニューロンの変性のために、小脳失調がおきて歩行や日常動作が困難になる、あるいは一部の患者さんには、脊髄運動ニューロンの変性のために、筋力低下や筋萎縮がおきるなどの症状が知られています。現時点では、根本的な治療法は確立していませんが、私たちは、HMGB1 の遺伝子治療が有効であることを発見し (Qi et al, Nature Cell Biol 2007; Ito et al, EMBO Mol Med 2015)、東京医科歯科大学において特許を取得して、これらを基に北海道大学の矢部教授、自治医大の村松教授らと共に開発を進めています。
　さらに、脊髄小脳失調症 1 型の原因遺伝子 (変異 Atxn1) を発現する疾患モデルショウジョウバエに、病態に影響を及ぼす可能性がある DNA 損傷修復遺伝子を同時に発現させて、寿命、運動機能などへの影響を調べる、病態修飾遺伝子スクリーニングを 2011-2014 年にかけて行い、RpA1 が最も強力な寿命延長ならびに症状改善効果を持つことを発見しました (Barclay et al, Hum Mol Genet 2014)。さらに、変異 Atxn1 ノックインマウスにおいて AAV-RpA1 が症状改善効果を持つことを報告しています (Taniguchi et al, Hum Mol Genet 2016) 。一方、RpA1 は RpA2, 3, 4 と３量体（複合体）を形成することが知られており、今後の治療開発のためにも、RpA1 の関与する病態機能のさらに詳細な解析が待たれていました。
今回、私たちは、トロント大学・小児病院の Christopher Pearson 教授グループらと共同研究を行い、RpA1 が他の RpA ファミリー分子とともに形成する複合体において、正規型 RpA1 複合体 (canonical RpA) と代替型 RpA1 複合体 (Alternative-RpA1) の間で機能が異なること、すなわち、正規型 RpA1 は DNA 損傷修復を促進して脊髄小脳失調症の原因である CAG リピートを維持もしくは短縮するのに対して、代替型 RpA1 は DNA 損傷修復を阻害して CAG リピート伸長につながることを明らかにしました。
また、変異 Atxn1 ノックインマウス小脳において AAV-RpA1 が CAG リピートを短縮し、症状改善につながることも改めて確認されました。
加えて、Pearson 教授グループが中心となって、RpA ファミリー (RpA1, 2, 3, 4) の病態下の遺伝子発現、インタラクトームについても詳細な解析を行いました。その結果、正規型 RpA1 複合体と代替型 RpA1 複合体では、DNA 損傷認識後の一連の複合体形成に違いがあり、最終的に CAG リピートへの影響が異なると考えられました。
今回の研究成果は、主に二つの点で意義があると考えられます。第一には、RpA1 による DNA 損傷修復と CAG リピート体細胞変異の関係がより明確になったことです。正規型 RpA1 複合体と代替型 RpA1 複合体では、DNA 損傷認識後の一連の複合体形成に違いがあり、最終的に CAG リピートへの影響が異なると考えられました。第二には、RpA1 の治療効果が再度確認されたということです。AAV-RpA1 による遺伝子治療は、主に正規型 RpA1 複合体を活性化し、これによって CAG リピート伸長を抑制することが改めて確認されました。私たちは、RpA1 の治療応用に関する特許をすでに取得しており、今後の実用化が期待されます。

3. シャルコー・マリー・トゥース病のゲノム編集による治療法シーズを開発」
— ゲノム編集で PMP22 遺伝子領域の重複を正常化する　—

シャルコー・マリー・トゥース病（CMT1A）は、代表的な末梢神経変性疾患であり、日本には 1 万人に 1 人程度の患者さんがいると言われています。厚生労働省の指定難病（指定難病１０）にもなっています。１７番染色体上にある PMP22（peripheral myelin protein 22）という遺伝子を含む長いゲノム領域（1.5Mb ゲノム領域）が重複して２つ存在するために、 PMP22 タンパク量が増加し、このタンパクの機能が必要であるシュワン細胞が機能失調を起こすのではないかと考えられています。シュワン細胞は、脳脊髄から手足の筋肉に運動の指令を伝えたり、手足の感覚を脳脊髄に伝える末梢神経の働きに必須な細胞であり、シュワン細胞の機能失調は手足の運動感覚障害につながることになります。ゆっくりではありますが、患者さんは手足の機能が衰えて生活上の支障を

感じることがあります。
現時点では、根本的な治療法はなく、近年では、shRNA、miRNA あるいは核酸医薬などの治療法も実験的に提案されています。しかし、1.5 倍程度の PMP22 の発現増加を適切なレベルに正常化することは難しく、根本的治療薬の開発が待たれていました。ちなみに、PMP22 の遺伝子変異による機能低下も同様に常染色体優性の遺伝性末梢神経疾患（Hereditary neuropathy with liability to pressure palsies, HNPP）を発症させることから、治療による過度な PMP22 発現抑制は症状悪化につながると考えられます。これまでの shRNA などの治療法開発では、実験的治療対象として１０倍近く PMP22 が過剰発現しているトランスジェニックマウスを用いるなど、研究に用いるモデルの適切性にも疑問がありました。今回の研究では患者さん由来の iPS 細胞を用いることで、この問題を解消しました。
今回、私たちは、ノーベル賞の受賞対象にもなったゲノム編集技術を用いて、患者さんのシュワン細胞では３つある 1.5Mb ゲノム領域を、２つに戻して正常化することができないかと考えました。そこで、重複する２つのゲノム領域に共通する特異配列（guide RNA：gRNA）を選び、異常なゲノムでは２箇所に切れ目を入れて、その間にある余分なゲノム領域が切り出されることを狙いました。その結果、１５－４０％の確率で、重複ゲノムの切り出しが狙い通りに生じることを見いだしました。
次に、その特異配列 gRNA とゲノム編集酵素を同時に発現する遺伝子治療ベクターを作成し、これをシャルコー · マリー · トゥース病患者さん由来の iPS 細胞あるいは iPS 細胞由来シュワン細胞に投与して、治療効果を検討しました。特に、正常者からの iPS 細胞由来ニューロンとシャルコー · マリー · トゥース病患者 iPS 細胞由来シュワン細胞を合わせた培養（normal iPSC-derived neuron と CMT1A-iPSC derived Schwann cell の共培養）では、シュワン細胞が減少して髄鞘化が抑制されていましたが、遺伝子治療ベクターを iPS 細胞由来シュワン細胞に投与することで、これらの病的変化が軽減しました。
今回の研究成果は、シャルコー · マリー · トゥース病について、これまで開発が試みられてきた治療法とは全く異なる、ゲノム正常化という新しいコンセプトの治療法の可能性を示したものと言えます。ゲノム編集技術は、現在さまざまな疾患治療への応用が試みられています。その多くは、1 から数個、あるいは数 10 個の塩基変異を正常化することを目的とするものですが、今回の研究から 1.5Mb(1500,000 塩基) ゲノム領域の正常化にも用いうることが可能であると示すことができました。今後の技術改良によって、さらにリスクを低減するなどして、本コンセプトあるいは本技術の実用化を目指します。

(3) 教育活動

医歯学総合研究科大学院学生に対して神経病理学の講義、実習、および研究指導を行っています。また、医学部学生に対して神経病理学の講義と実習を行っています。また保健衛生学科の学生に対しては、病理学と神経病理学各論の講義を担当しています。

(4) 教育方針

当分野の専攻生に対しては臨床病理解剖学 · 病理診断学、並びに神経病理学的研究のための技術習得の指導と研究指導を行っています。大学院生 · 専攻生に対しては変性疾患の病理診断学、並びに神経病理学的研究のための技術習得の指導を行っています。

(5) 研究業績

[原著]

1. Yoshioka Y, Taniguchi JB, Homma H, Tamura T, Fujita K, Inotsume M, Tagawa K, Misawa K, Matsumoto N, Nakagawa M, Inoue H, Tanaka H, Okazawa H. AAV-mediated editing of PMP22 rescues Charcot-Marie-Tooth disease type 1A features in patient-derived iPS Schwann cells. Commun Med (Lond). 2023.11; 3(1); 170

2. Gall-Duncan T, Luo J, Jurkovic CM, Fischer LA, Fujita K, Deshmukh AL, Harding RJ, Tran S, Mehkary M, Li V, Leib DE, Chen R, Tanaka H, Mason AG, Lévesque D, Khan M, Razzaghi M, Prasolava T, Lanni S, Sato N, Caron MC, Panigrahi GB, Wang P, Lau R, Castel AL, Masson JY, Tippett L, Turner C, Spies M, La Spada AR, Campos EI, Curtis MA, Boisvert FM, Faull RLM, Davidson BL, Nakamori M, Okazawa H, Wold MS, Pearson CE. Antagonistic roles of canonical and Alternative-RPA in disease-associated tandem CAG repeat instability. Cell. 2023.10; 186(22); 4898-4919.e25

3. Fujita K, Homma H, Jin M, Yoshioka Y, Jin X, Saito Y, Tanaka H, Okazawa H. Mutant α-synuclein propagates via the lymphatic system of the brain in the monomeric state. Cell Rep. 2023.08; 42(8); 112962

4. Shiwaku H, Katayama S, Gao M, Kondo K, Nakano Y, Motokawa Y, Toyoda S, Yoshida F, Hori H, Kubota T, Ishikawa K, Kunugi H, Ikegaya Y, Okazawa H, Takahashi H. Analyzing schizophrenia-related phenotypes in mice caused by autoantibodies against NRXN1 α in schizophrenia. Brain Behav Immun. 2023.07; 111; 32-45

5. Jin X, Tanaka H, Jin M, Fujita K, Homma H, Inotsume M, Yong H, Umeda K, Kodera N, Ando T, Okazawa H. PQBP5/NOL10 maintains and anchors the nucleolus under physiological and osmotic stress conditions. Nat Commun. 2023.01; 14(1); 9

[総説]

1. 岡澤 均. 脊髄小脳失調症 1 型における遺伝子治療 脳神経内科. 2023.10; 99(4); 542-550

2. 岡澤 均. DNA 損傷と修復の疾患病態における役割 BIOClinica. 2023.08; 38(9); 4-5

3. 田中 ひかり, 岡澤 均. DNA 損傷と神経疾患 BIOClinica. 2023.08; 38(9); 12-16

4. 田中 ひかり, 岡澤 均. 神経変性疾患における自然免疫応答 臨床免疫・アレルギー科. 2023.07; 80(1); 56-62

5. 藤田 慶大, 岡澤 均. 脊髄小脳失調症 1 型 遺伝子治療開発研究ハンドブック第 2 版. 2023.04; 524-530

6. 金 美花, 岡澤 均. ウイルス感染症と類似する神経変性疾患の炎症応答メカニズム 炎症と免疫. 2023.04; 31(3); 26-33

[講演・口頭発表等]

1. Hitoshi Okazawa. Development of HMGB1 antibody therapy against neurodegenerative dementias. The 42nd Annual Meeting of Japan Society for Dementia Research 2023.11.24 Nara Prefectural Convention Center(Nara)

2. Hikari Tanaka, Xiaocen Jin, Meihua Jin, Kyota Fujita, Hidenori Homma, Miako Inotsume, Huang Yong, Kenichi Umeda, Noriyuki Kodera, Toshio Ando, Hitoshi Okazawa. PQBP5/NOL10 maintains and anchors the nucleolus under physiological and osmotic stress conditions. 2023.08.04 Sendai International Center (Miyagi Sendai)

3. Kyota Fujita, Hitoshi Okazawa. DNA damage repair and neurodegeneration. 64th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology 2023.06.02 MakuhariMesse(Chiba)

4. Hitoshi Okazawa. Neuroinflammation and neurodegeneration. 64th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology 2023.06.02 MakuhariMesse(Chiba)

5. Xiaocen Jin, Hikari Tanaka, Meihua Jin, Kyota Fujita, Hidenori Homma, Maiko Inotsume, Huang Yong, Kenichi Umeda, Noriyuki Kodera, Toshio Ando, Hitoshi Okazawa. PQBP5/NOL10 maintains and anchors the nucleolus under physiological and osmotic stress conditions. The 15th CBIR Symposium Inspiring the Next Generation (online) 2023.02.17

1. 岡澤 均. PQBP5/NOL10 は生理的状態およびストレス状態において核小体の構造と位置を維持する. 第 96 回日本生化学会大会 2023.10.31 福岡国際会議場 (福岡県 福岡市)

2. 岡澤 均. Tau による自然免疫受容体を通じた神経炎症誘導. 第 35 回日本神経免疫学会学術集会 2023.09.14 東京国際フォーラム (東京)

3. 岡澤 均. 培養細胞から学ぶ生命原理と神経変性原理. 第 64 回日本神経病理学会総会学術研究会/第 66 回日本神経化学会大会合同大会 2023.07.06 神戸国際会議場 (兵庫県 神戸市)

4. 岡澤 均. 認知症を科学する. 世界脳週間イベント (オンライン) 2023.01.07

[特許]

1. アルツハイマー病及び前頭側頭葉変性症の診断方法、診断薬、治療薬、及びこれら薬剤のスクリーニング方法, 特許番号：11623946
2. ＭＡＲＣＫＳのリン酸化を指標にしたＡＤ（アルツハイマー病）、ＦＴＬＤ（前頭側頭葉変性症）、ＡＬＳ（筋萎縮性側索硬化症）、ＰＤ（パーキンソン病）およびＤＬＢ（レビー小体型認知症）の検出, 特許番号：特許第 7329497 号

[その他業績]

1. 「核小体の構造形成の仕組みを解明」 —核小体を形作るための必須分子 “PQBP5” を発見！ —, 2023 年 01 月
   Nature Communications
2. Mind your Qs: polyQ-binding protein 5 scaffolds the nucleolus, 2023 年 01 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
3. Mind your Qs: PolyQ-binding protein 5 scaffolds the nucleolus, 2023 年 01 月
   2023.1.12 Phys.org
4. Mind your Qs: PolyQ-binding protein 5 scaffolds the nucleolus, 2023 年 01 月
   2023.1.12 Bioengineer.org
5. 生命維持に必須の核小体　PQBP5 の働きで形成　細胞の本質的理解へ前進, 2023 年 01 月
   2023.1.13 科学新聞
6. PQBP5/NOL10 能在生理和渗透胁迫条件下维持和锚定核仁, 2023 年 01 月
   2023.1.16 eBiotrade
7. アルツハイマー、新薬登場も解明途上「仮説は一部証明」, 2023 年 07 月
   2023.7.14 日本経済新聞 (電子版)
8. パーキンソン病の発症に関わる α シヌクレイン、新しい伝播様式発見—東京医歯大ほか, 2023 年 08 月
   2023.8.18QLifePro
9. 「パーキンソン病原因タンパク質 · α シヌクレインの新しい伝播様式」 —脳内リンパ系による非凝集 α シヌクレインの速い拡散　—, 2023 年 08 月
   Cell Reports
10. 原因物質除去、進行抑制へ　検査体制などに課題も　認知症新薬レカネマブ, 2023 年 08 月
    2023.8.22Yahoo ニュース
11. 原因物質除去、進行抑制へ＝検査体制などに課題も—認知症新薬レカネマブ, 2023 年 08 月
    2023.8.21goo ニュース
12. 原因物質除去、進行抑制へ　検査体制などに課題も—認知症新薬レカネマブ, 2023 年 08 月
    2023.8.22 時事ドットコムニュース
13. 原因物質除去、進行抑制へ＝検査体制などに課題も—認知症新薬レカネマブ, 2023 年 08 月
    2023.8.21excite ニュース
14. 原因物質除去、進行抑制へ＝検査体制などに課題も—認知症新薬レカネマブ, 2023 年 08 月
    2023.8.21BIGLOBE ニュース
15. 原因物質除去、進行抑制へ＝検査体制などに課題も—認知症新薬レカネマブ, 2023 年 08 月
    2023.8.21 時事通信ニュース
16. 原因物質除去、進行抑制へ＝検査体制などに課題も—認知症新薬レカネマブ, 2023 年 08 月
    2023.8.23 メディカル一光グループ医療ニュース
17. 原因物質除去、進行抑制へ＝検査体制などに課題も—認知症新薬レカネマブ, 2023 年 08 月
    2023.8.21Yahoo ファイナンス
18. パーキンソン病原因タンパク質 α シヌクレイン新たな伝搬様式, 2023 年 09 月
    2023.9.1 科学新聞

19. A secret passage for mutant protein to invade the brain, 2023 年 09 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

20. Examining a secret passage mutant proteins　use to invade the brain, 2023 年 09 月
2023.9.7MedicalXpress

21. Mutant Protein's Secret Passage to Brain Revealed, 2023 年 09 月
2023.9.8MirageNews

22. Examining a secret passage mutant proteins　use to invade the brain, 2023 年 09 月
2023.9.7HEADTOPICS

23. How a Mutant Protein Sneaks In To Invade the Brain, 2023 年 09 月
2023.9.7TechnologyNetworks

24. A secret passage for mutant protein to invade the brain, 2023 年 09 月
2023.9.7Press-News.org

25. A Secret Passage for Mutant Protein to Invade the Brain, 2023 年 09 月
2023.9.7BioQuickNews

26. A secret passage for mutant protein to invade the brain, 2023 年 09 月
2023.9.7ScienceDaily

27. A secret passage for mutant protein to invade the brain, 2023 年 09 月
2023.9.7IBCCES

28. Alpha-Synuclein Propagation Via Brain Lymphatic System in Parkinson's Disease, 2023 年 09 月
2023.9.8Medindia

29. Glymphatic System Key to Parkinson's Protein Spread and Aggregation, 2023 年 09 月
2023.9.7NeuroscienceNews

30. Study reveals how mutated protein invades the brain in Parkinson's, 2023 年 09 月
2023.9.7NEWATLAS

31. A secret passage for mutant protein to invade the brain, 2023 年 09 月
2023.9.7Bioengineer

32. 「脊髄小脳失調症の DNA 損傷修復における 2 つの仕組み」 —RpA1 による遺伝子治療の基盤メカニズムを解明　—, 2023 年 10 月
Cell

33. New propagation mode of α-Synuclein, a protein that causes Parkinson's disease, discovered by researchers at TMDU - Rapid transportation via the lymphatic system in the brain, 2023 年 10 月
2023.10.26ScienceJapan

34. 脊髄小脳失調症、AAV-RpA1 遺伝子治療による DNA 修復機構を解明—東京医歯大ほか, 2023 年 10 月
2023.10.13QLifePro

35. Antagonistic roles of canonical and Alternative-RPA in disease-associated tandem CAG repeat instability, 2023 年 10 月
2023.10.11ALZFORUM

36. 「シャルコー・マリー・トゥース病のゲノム編集による治療法シーズを開発」 — ゲノム編集で PMP22 遺伝子領域の重複を正常化する　—, 2023 年 11 月
Communications Medicine

37. シャルコー・マリー・トゥース病、ゲノム編集による治療法開発—東京医歯大ほか, 2023 年 12 月
2023.12.4QLifePro

38. Promising new treatment for a common hereditary nerve disease, 2023 年 12 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. アルツハイマー治療, 読売新聞社, 読売新聞, 2023 年 02 月 08 日 - 2023 年 04 月 01 日
2. アルツハイマー病について, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2023 年 06 月 02 日 - 2023 年 06 月 30 日
3. レカネマブに関する評価, 時事通信社, 地方紙, 2023 年 08 月 09 日 - 2023 年 08 月 22 日

眼科学

Ophthalmology and Visual Science

教授 大野　京子
准教授　吉田　武史（特任）
講師　高瀬　博、鴨居　功樹、堀江　真太郎（特任、医局長）
助教　五十嵐　多恵（外来医長）、浦本　賢吾（病棟医長）、高橋　知成、杉澤　啓吾（特任）
大学院生　宗 源、熊 建萍、陳 昶羽、盧 紅双、周 楠、王 依凝、張 晶、楊 明明、王 子夜

(1)　分野概要

当科は昭和 19 年に東京医歯学専門学校眼科として設立され、昭和 21 年就任の大塚任教授、昭和 52 年就任の所敬教授により一貫して近視を中心とした研究活動を行ってきた。平成 10 年に望月學教授が就任して以降はぶどう膜炎に対する診療と研究を開始し、現在に至っている。平成 26 年に大野京子教授が就任し、近視およびぶどう膜炎の診療 · 研究に加え、緑内障、白内障、糖尿病網膜症、網膜硝子体疾患、黄斑部疾患など、幅広い分野に対する診療を行っている。

(2)　研究活動

1. 強度近視
日本人に多い強度近視の発症機序や進行に関する研究および発症原因遺伝子の解析を行っている。発症機序については、強膜伸展の分子機構を動物モデルと細胞レベルで研究する。また、脈絡膜血管新生の分子機構を細胞レベルで研究している。

2. 眼免疫 · 炎症
眼の局所防御機構の解明、各種ぶどう膜炎の診断法と治療の開発とその発症機構の解明に関する免疫学的 · 分子生物学的研究を行っている。主な研究テーマは、1）眼内液による免疫調節作用の分子機構、2）ぶどう膜炎発症の分子機構、3）ぶどう膜炎のサイトカイン療法、4）ぶどう膜炎の治療法の開発、5）感染性ぶどう膜炎の網羅的 PCR 診断などである。

3. 神経眼科
視覚に関連する神経としての視覚系を研究対象としている。主な研究テーマは 1）視覚誘発電位（VEP）の新たな測定装置の開発と各疾患での変化の検討、 2）Positron Emmission Tomography (PET) を用いた脳内視覚領の血行動態や代謝の研究、3）視覚系の発達と弱視の形成機序の基礎的研究などである。

4. 網膜 · 硝子体疾患
裂孔原性網膜剥離、増殖性硝子体網膜症、増殖糖尿病網膜症、黄斑円孔の病態解明と新しい治療法の開発を行っている。

5. 斜視 · 弱視
両眼視と眼位におよぼす視覚背景の影響、弱視や斜視と動体視力に関する研究を行っている。

(3) 教育活動

卒前教育では、まず医歯学融合総合教育の頭頸部ブロックで眼科学講義を担当し、視覚の生理と病理、眼科疾患の診断と治療、視覚障害についての幅広く深い知識を教育する。コンビネーションブロックでは頭頸部ブロックを担当し、各種眼科検査の実践と習得、またケーススタディーを用いた眼疾患の診断プロセスをグループで習得する。プレクラークシップでは主に白内障患者の術前診察と問診、手術への参加、術後診察を通じて、白内障手術の周術期診療と管理を実践的に学ぶ。また、カンファレンスにおけるプレゼンテーション、ポリクリによる患者への問診と診察などを行う。クラークシップでは、網膜硝子体疾患、眼内炎症性疾患など、より今度な疾患を担当し、それらに対する診療への参加を通じて眼科診療を実践的に学ぶ。

卒後臨床教育は、日本眼科学会専門医制度カリキュラムに準じた眼科臨床研修プログラムをとっている。即ち、厚労省が定めた２年間の初期臨床研修の後に、４年間の眼科臨床研修を大学病院と関連教育病院とで行う。この間に各種眼科手術をはじめ、眼科臨床経験を積み、眼科専門医試験を受験して眼科専門医資格を取得する。

大学院生の教育は、高度先進医療を開発推進することの出来るアカデミック・ドクターの育成と高度に専門化している医学研究を担える研究者の育成を目指し、その教育研究指導の充実をはかっている。

(4) 教育方針

眼科の対象となる研究領域と診療領域は、視覚の受容体である眼と視覚伝導路および視覚中枢である。なかでも、眼球の各組織の生理と病理、および、それらの組織に生じる疾患の診断、治療、発症機構が診療と研究の主な対象である。卒前教育では、これらについて幅広い知識の習得を目指す。卒後教育では高い専門知識と診療技術を持つと同時に、臨床に根ざした医学研究の行える人材の育成を目指している。

(5) 臨床活動および学外活動

一般眼科診療と専門外来スタッフによる診療が有機的に組織され、大学病院眼科に求められる高度先進医療と全人的医療を推進している。一般眼科外来でスクリーニングされた症例の診断と治療方針の決定を各専門外来が行い、主治医と専門外来が共同で診療にあたる。専門外来としては、強度近視外来、ぶどう膜炎外来、緑内障外来、網膜剥離外来、糖尿病網膜症外来、神経眼科外来、黄斑外来などがある。手術に関しては、白内障、網膜剥離、増殖糖尿病網膜症、緑内障、斜視などを中心に年間約 1300 例の手術が行われる。

(6) 研究業績

[原著]

1. Tomonari Takahashi, Tae Igarashi-Yokoi, Noriko Nakao, Kengo Uramoto, Takeshi Yoshida, Kyoko Ohno-Matsui. Dome-shaped macula with protrusion of inner part of sclera. Am J Ophthalmol Case Rep. 2023.12; 32; 101926

2. Motomura, Y; Yoshifuji, K; Tachibana, T; Takase, H; Arai, A; Tanaka, K; Okada, K; Nogami, A; Umezawa, Y; Sakashita, C; Yamamoto, M; Mori, T; Nagao, T. Clinical factors for central nervous system progression and survival in primary vitreoretinal lymphoma BRITISH JOURNAL OF HAEMATOLOGY. 2023.12;

3. Mingming Yang, Koju Kamoi, Yuan Zong, Jing Zhang, Yaru Zou, Kyoko Ohno-Matsui. Ocular Manifestations of Human Immunodeficiency Virus Infection in the Combination Antiretroviral Therapy Era. Pathogens. 2023.12; 12(12);

4. Takeshi Yoshida, Sota Yoshimoto, Takuhei Nomura, Taiju Ito, Motohisa Ohno, Shintaro Yasuda, Yuto Shiotani, Kyoko Ohno-Matsui. Intraocular pressure-lowering effects of ripasudil on open-angle glaucoma in eyes with high myopia and pathological myopia. Sci Rep. 2023.12; 13(1); 22888

5. Shih-Wen Wang, Tae Igarashi-Yokoi, Shiho Mochida, Kaoru Fujinami, Kyoko Ohno-Matsui. Prevalence and Clinical Features of Radial Fundus Autofluorescence in High Myopic Women. Retina. 2023.11;

6. Hongshuang Lu, Changyu Chen, Jianping Xiong, Yining Wang, Ziye Wang, Muka Moriyama, Koju Kamoi, Kengo Uramoto, Tomonari Takahashi, Takeshi Yoshida, Kyoko Ohno-Matsui. Longitudinal Changes of Posterior Vortex Veins in Highly Myopic Eyes determined by Retrospective Analyses of Indocyanine Green Angiograms. Retina. 2023.11;

7. Shiqi Xie, Hongshuang Lu, Changyu Chen, Jianping Xiong, Yining Wang, Kengo Uramoto, Koju Kamoi, Yuka Onishi, Kyoko Ohno-Matsui. MORPHOLOGIC CHARACTERISTICS AND PROGRESSION PATTERNS OF MACULAR NEOVASCULARIZATION-RELATED ATROPHY IN EYES WITH PATHOLOGIC MYOPIA. Retina. 2023.10; 43(10); 1662-1672

8. Yining Wang, Ran Du, Shiqi Xie, Changyu Chen, Hongshuang Lu, Jianping Xiong, Daniel S W Ting, Kengo Uramoto, Koju Kamoi, Kyoko Ohno-Matsui. Machine Learning Models for Predicting Long-Term Visual Acuity in Highly Myopic Eyes. JAMA Ophthalmol. 2023.10;

9. Jingwen Jiang, Yunhe Song, Kangjie Kong, Peiyuan Wang, Fengbin Lin, Xinbo Gao, Zhenyu Wang, Ling Jin, Meiling Chen, Dennis S C Lam, Robert N Weinreb, Jost B Jonas, Kyoko Ohno-Matsui, Shida Chen, Xiulan Zhang, . Optic Nerve Head Abnormalities in Nonpathologic High Myopia and the Relationship With Visual Field. Asia Pac J Ophthalmol (Phila). 2023.10; 12(5); 460-467

10. Kyoko Ohno-Matsui, Masahiro Akiba, Tatsuro Ishibashi, Akito Hirakata. EVALUATION OF MORNING GLORY SYNDROME BY SWEPT SOURCE OPTICAL COHERENCE TOMOGRAPHY. Retin Cases Brief Rep. 2023.09; 17(5); 542-547

11. Cherng-Ru Hsu, Tae Igarashi-Yokoi, I-Chia Liang, Kyoko Ohno-Matsui. Ten-year longitudinal morphological changes in dome-shaped maculas in highly myopic eyes. Retina. 2023.09;

12. Izabela P Klaska, Tian Yu, Rosie Fordyce, Koju Kamoi, Richard J Cornall, Cristina Martin-Granados, Lucia Kuffova, John V Forrester. Targeted delivery of autoantigen to dendritic cells prevents development of spontaneous uveitis. Front Immunol. 2023.09; 14; 1227633

13. Kyoko Ohno-Matsui. Evaluating the Entire Shape of the Eye With Pathologic Myopia. JAMA Ophthalmol. 2023.08; 141(8); 774-775

14. Yunhe Song, Fei Li, Rachel S Chong, Wei Wang, An Ran Ran, Fengbin Lin, Peiyuan Wang, Zhenyu Wang, Jingwen Jiang, Kangjie Kong, Ling Jin, Meiling Chen, Jian Sun, Deming Wang, Clement C Tham, Dennis S C Lam, Linda M Zangwill, Robert N Weinreb, Tin Aung, Jost B Jonas, Kyoko Ohno-Matsui, Ching-Yu Cheng, Neil M Bressler, Xiaodong Sun, Carol Y Cheung, Shida Chen, Xiulan Zhang, . High Myopia Normative Database of Peripapillary Retinal Nerve Fiber Layer Thickness to Detect Myopic Glaucoma in a Chinese Population. Ophthalmology. 2023.07;

15. Takeshi Yoshida, Takuhei Nomura, Sota Yoshimoto, Motohisa Ohno, Taiju Ito, Shintaro Horie, Kyoko Ohno-Matsui. Outcomes of standalone ab interno trabeculotomy in the treatment of open-angle glaucoma in eyes with high myopia. BMC Ophthalmol. 2023.06; 23(1); 261

16. Kyoko Ohno-Matsui, Hiroyuki Takahashi, Zaixing Mao, Noriko Nakao. Determining posterior vitreous structure by analysis of images obtained by AI-based 3D segmentation and ultrawidefield optical coherence tomography. Br J Ophthalmol. 2023.05; 107(5); 732-737

17. Hitomi Saito, Mitsuki Kambayashi, Makoto Araie, Hiroshi Murata, Nobuko Enomoto, Tsutomu Kikawa, Kazuhisa Sugiyama, Tomomi Higashide, Atsuya Miki, Aiko Iwase, Goji Tomita, Toru Nakazawa, Makoto Aihara, Kyoko Ohno-Matsui, Tae-Woo Kim, Christopher Kai Shun Leung, Linda M Zangwill, Robert N Weinreb. Deep Optic Nerve Head Structures Associated With Increasing Axial Length in Healthy Myopic Eyes of Moderate Axial Length. Am J Ophthalmol. 2023.05; 249; 156-166

18. Rosie Clark, Samantha Sze-Yee Lee, Ran Du, Yining Wang, Sander C M Kneepkens, Jason Charng, Yu Huang, Michael L Hunter, Chen Jiang, J Willem L Tideman, Ronald B Melles, Caroline C W Klaver, David A Mackey, Cathy Williams, Hélène Choquet, Kyoko Ohno-Matsui, Jeremy A Guggenheim, , . A new polygenic score for refractive error improves detection of children at risk of high myopia but not the prediction of those at risk of myopic macular degeneration. EBioMedicine. 2023.05; 91; 104551

19. Ian Flitcroft, John Ainsworth, Audrey Chia, Susan Cotter, Elise Harb, Zi-Bing Jin, Caroline C W Klaver, Anthony T Moore, Ken K Nischal, Kyoko Ohno-Matsui, Evelyn A Paysse, Michael X Repka, Irina Y Smirnova, Martin Snead, Virginie J M Verhoeven, Pavan K Verkicharla. IMI-Management and Investigation of High Myopia in Infants and Young Children. Invest Ophthalmol Vis Sci. 2023.05; 64(6); 3

20. Keigo Sugisawa, Hiroshi Takase, Takahiko Sugihara, Tetsuya Saito, Yuko Iwasaki, Koju Kamoi, Tatsushi Kawaguchi, Shinsuke Yasuda, Kyoko Ohno-Matsui. Granulomatosis with Polyangiitis Complicated by Severe Exudative Retinal Detachment and Orbital Granuloma Successfully Controlled with Rituximab: A Case Report. Case Rep Ophthalmol. 2023.05; 14(1); 214-222

21. Xiu Juan Zhang, Duncan Ka Shun Chau, Yu Meng Wang, Cynthia Sze Hang Cheung, Hei-Nga Chan, Jian Shi, Ka Ming Nip, Shumin Tang, Ryan C F Chan, Alistair Lau, Sit Hui Kei, Ka Wai Kam, Alvin L Young, Li Jia Chen, Clement C Tham, Kyoko Ohno-Matsui, Chi Pui Pang, Jason C Yam. Prevalence and Characteristics of Peripapillary Gamma Zone in Children With Different Refractive Status: The Hong Kong Children Eye Study. Invest Ophthalmol Vis Sci. 2023.04; 64(4); 4

22. Changyu Chen, Ran Du, Shiqi Xie, Hongshuang Lu, Jianping Xiong, Yining Wang, Noriko Nakao, Hiroyuki Takahashi, Tae Igarashi-Yokoi, Koju Kamoi, Kengo Uramoto, Kyoko Ohno-Matsui. LONGITUDINAL STUDY OF CHANGES IN INNER SCLERAL CURVATURE PATTERNS AND DEVELOPMENT OF POSTERIOR STAPHYLOMAS IN HIGHLY MYOPIC EYES OF CHILDREN AND ADOLESCENTS. Retina. 2023.03; 43(3); 454-463

23. Takeshi Yoshida, Yasutaka Takagi, Tae Igarashi-Yokoi, Kyoko Ohno-Matsui. Efficacy of lutein supplements on macular pigment optical density in highly myopic individuals: A randomized controlled trial. Medicine (Baltimore). 2023.03; 102(12); e33280

24. Andrew Chang, William F Mieler, Kyoko Ohno-Matsui, Chi-Chun Lai. Retina Update: Entering an Era of Personalized Medicine in Ophthalmology. Asia Pac J Ophthalmol (Phila). 2023.03; 12(2); 111-112

25. Shintaro Horie, Corradetti Giulia, Houri Esmaeilkhanian, SriniVas R Sadda, Chui Ming Gemmy Cheung, Yeji Ham, Andrew Chang, Tomonari Takahashi, Kyoko Ohno-Matsui. Microperimetry in Retinal Diseases. Asia Pac J Ophthalmol (Phila). 2023.03; 12(2); 211-227

26. Sharon Ho, Angelica Ly, Kyoko Ohno-Matsui, Michael Kalloniatis, Gordon S Doig. Diagnostic accuracy of OCTA and OCT for myopic choroidal neovascularisation: a systematic review and meta-analysis. Eye (Lond). 2023.01; 37(1); 21-29

27. Hongshuang Lu, Shiqi Xie, Jianping Xiong, Changyu Chen, Yining Wang, Muka Moriyama, Koju Kamoi, Kengo Uramoto, Kyoko Ohno-Matsui. Complex hemodynamics of intervortex vein anastomoses in highly myopic eyes. Retina. 2023.01;

28. Masaru Takeuchi, Yoshihiko Usui, Kenichi Namba, Hiroshi Keino, Masaki Takeuchi, Hiroshi Takase, Koju Kamoi, Keitaro Hase, Takako Ito, Kei Nakai, Kazuichi Maruyama, Eri Kobayashi, Hisashi Mashimo, Tomohito Sato, Nobuyuki Ohguro, Junko Hori, Annabelle A Okada, Koh-Hei Sonoda, Nobuhisa Mizuki, Hiroshi Goto. Ten-year follow-up of infliximab treatment for uveitis in Behçet disease patients: A multicenter retrospective study. Front Med (Lausanne). 2023.01; 10; 1095423

29. Yuan Zong, Koju Kamoi, Hisako Kurozumi-Karube, Jing Zhang, Mingming Yang, Kyoko Ohno-Matsui. Safety of intraocular anti-VEGF antibody treatment under in vitro HTLV-1 infection Front Immunol. 2023.01; 13; 1089286

30. Yuta Yasaka, Eiichi Hasegawa, Hiroshi Keino, Yoshihiko Usui, Kazuichi Maruyama, Yuki Yamamoto, Toshikatsu Kaburaki, Daiju Iwata, Masaru Takeuchi, Sentaro Kusuhara, Hiroshi Takase, Kenji Nagata, Ryoji Yanai, Yutaka Kaneko, Chiharu Iwahashi, Atsuki Fukushima, Nobuyuki Ohguro, Koh-Hei Sonoda, . A multicenter study of ocular inflammation after COVID-19 vaccination. Jpn J Ophthalmol. 2023.01; 67(1); 14-21

1. 畠陵馬、相馬亮子、竹内弥生、大野京子. 急性網膜色素上皮炎のステロイド内服治療中に中心性漿液性脈絡網膜症を発症した 1 例 眼科臨床紀要. 2023.12; 16(12); 856-860

2. 久保田 茉莉子, 高瀬 博, 輕部 央子, 杉澤 啓吾, 鴨居 功樹, 大野 京子. 多発消失性白点症候群に類似した眼底所見を呈した硝子体網膜リンパ腫の一例 眼科臨床紀要. 2023.08; 16(8); 585-589

3. 久保田 茉莉子、高瀬 博、輕部 央子、杉澤 啓吾、鴨居 功樹、大野 京子. 多発消失性白点症候群に類似した眼底所見を呈した硝子体網膜リンパ腫の一例 眼科臨床紀要. 2023.08; 16(585); 589

4. 高橋知成、五十嵐多恵、大野京子. 詳細な血管走行画像解析を行なった病的近視を伴う脈絡膜コロボーマの一例 臨床眼科紀要. 2023.06; 16(6); 413-417

5. 金井秀美、五十嵐多恵、久保田茉莉子、持田潮帆、齋藤令名、中尾紀子、金子祐一郎、倉田あゆみ、宮後博美、野村仁登三、大野京子. COVID-19 に伴う自宅待機の学童近視への影響と Clouclip を用いた近視進行予防指導の効果 臨床眼科. 2023.02; 77(2); 259-265

6. 小川早紀、五十嵐多恵. 近視性脈絡膜新生血管との鑑別が困難であった炎症性脈絡膜新生血管の一例 眼科臨床紀要. 2023.01; (16); 12-17

[書籍等出版物]

1. 大野京子. 認知症知らずの脳活生活 · 脳活ごはん. さくら舎, 2023.12 (ISBN : 978-4-86581-409-5)

2. 五十嵐多恵. 近視治療へのレッドライトの適応. 日本オプトメカトロニクス協会, 2023.11

3. 大野京子. 緊急度 · 重症度からみた症状別看護過＋病態関連図程 第 4 版. 医学書院, 2023.11 (ISBN : 978-4-260-05305-1)

4. 五十嵐多恵. Optimal and timely vision care for children Myopia control 最適かつタイムリーな小児の視覚ケア 近視編 . 日本コンタクトレンズ学会誌 , 2023.10

5. 五十嵐多恵. 近視性網脈絡膜萎縮病変の長期マネージメント . 金原出版 , 2023.10

6. 大野京子. 小児の近視 第 2 版. 三輪書店, 2023.10 (ISBN : 978-4-89590-797-2)

7. 宮後 宏美 、五十嵐多恵. コロナ禍の子どもたち 第 4 回 子どもの視力低下. 教育開発研究所 月刊「教職研修」, 2023.06

8. 鴨居 功樹. HU/HAU の治療法は. HAM と診断された患者様へ. 厚生労働省研究班, 2023.05

9. 鴨居 功樹. HU/HAU の初期症状. HAM と診断された患者様へ. 厚生労働省研究班, 2023.05

10. 鴨居 功樹. HU/HAU とは. HAM と診断された患者様へ. 厚生労働省研究班, 2023.05

11. 鴨居 功樹. サルコイドーシス. マルチモーダルイメージングでとらえる広角眼底アトラス. 三輪書店, 2023.04

12. サイトメガロウイルス網膜炎. マルチモーダルイメージングでとらえる広角眼底アトラス. 三輪書店, 2023.04

13. 鴨居 功樹. 急性網膜壊死. マルチモーダルイメージングでとらえる広角眼底アトラス. 三輪書店, 2023.04

14. 鴨居 功樹. 眼トキソプラズマ症. マルチモーダルイメージングでとらえる広角眼底アトラス. 2023.04

15. 鴨居 功樹. HTLV-1 関連ぶどう膜炎. マルチモーダルイメージングでとらえる広角眼底アトラス. 三輪書店, 2023.04

16. 鴨居 功樹. 眼内悪性リンパ腫. マルチモーダルイメージングでとらえる広角眼底アトラス. 三輪書店, 2023.04

17. 鴨居 功樹. 網膜血管増殖性腫瘍. マルチモーダルイメージングでとらえる広角眼底アトラス. 三輪書店, 2023.04

18. 鴨居 功樹. 脈絡膜骨腫. マルチモーダルイメージングでとらえる広角眼底アトラス. 三輪書店, 2023.04

19. 鴨居 功樹. 脈絡膜母斑. マルチモーダルイメージングでとらえる広角眼底アトラス. 三輪書店, 2023.04

20. 鴨居 功樹. 視神経乳頭毛細血管腫. マルチモーダルイメージングでとらえる広角眼底アトラス. 三輪書店, 2023.04

21. 大野京子、吉田武史、堀江真太郎、鴨居功樹. マルチモーダルイメージでとらえる広角眼底アトラス. 2023.04 (ISBN : 978-4-89590-775-0)

22. 五十嵐多恵. Topics 子どもの視力低下の実態と対策. チャイルドヘルス 診断と治療社, 2023.01

23. 鴨居 功樹. 悪性リンパ腫以外の眼原発腫瘍. 新篇 眼科プラクティス. 文光堂, 2023.03

24. 鴨居 功樹. ベーチェット病. マルチモーダルイメージングでとらえる広角眼底アトラス. 三輪書店, 2023.04

25. 鴨居 功樹. Vogt· 小柳 · 原田病. マルチモーダルイメージングでとらえる広角眼底アトラス. 三輪書店, 2023.04

[総説]

1. Sunao Sugita, Hiroshi Takase, Satoko Nakano. Role of Recent PCR Tests for Infectious Ocular Diseases: From Laboratory-Based Studies to the Clinic. Int J Mol Sci. 2023.05; 24(9);

2. Tetsuaya Muto, Shinichiro Imaizumi, Koju Kamoi. Viral Conjunctivitis. Viruses. 2023.03; 15(3);

3. Mingming Yang, Koju Kamoi, Yuan Zong, Jing Zhang, Kyoko Ohno-Matsui. Human Immunodeficiency Virus and Uveitis. Viruses. 2023.02; 15(2);

4. Yuan Zong, Koju Kamoi, Jing Zhang, Mingming Yang, Kyoko Ohno-Matsui. Mpox (Monkeypox) and the Eye: Ocular Manifestation, Diagnosis, Treatment and Vaccination. Viruses. 2023.02; 15(3);

5. Jing Zhang, Koju Kamoi, Yuan Zong, Mingming Yang, Kyoko Ohno-Matsui. Cytomegalovirus Anterior Uveitis: Clinical Manifestations, Diagnosis, Treatment, and Immunological Mechanisms. Viruses. 2023.01; 15(1);

6. Koju Kamoi. Current challenges facing the clinical treatment for HTLV-1 ocular manifestations. Expert Review of Ophthalmology. 2023.11;

7. Yaru Zou, Koju Kamoi, Yuan Zong, Jing Zhang, Mingming Yang, Kyoko Ohno-Matsui. Ocular Inflammation Post-Vaccination. Vaccines (Basel). 2023.10; 11(10);

1. 五十嵐多恵. 小児の近視の進行抑制 レッドライト治療法 小児の近視ー診断と治療　第２版. 2023.10; 194-199

2. 五十嵐多恵. 眼軸長の値を近視の診断と管理に使用する方法 小児の近視ー診断と治療　第２版. 2023.10; 63-70

3. 五十嵐多恵. 「屈折矯正法」眼鏡処方 小児の近視ー診断と治療　第２版. 2023.10; 103-128

4. 五十嵐多恵. 小児の近視の定義・診断基準 小児の近視ー診断と治療　第２版. 2023.10; 29-38

5. 五十嵐多恵. 早期診断と早期介入の可能性 小児の近視ー診断と治療　第２版. 2023.10; 211-224

6. 鴨居 功樹. HTLV-1 による眼疾患 あたらしい眼科. 2023.09; 40(9); 29-36

7. 鴨居 功樹. 小児ぶどう膜炎に対するバイオ治療薬と治療戦略 あたらしい眼科. 2023.08; 40(8); 39-46

8. 高瀬　博. 治療法のアップデートのために　専門家による私の治療　眼サルコイドーシス 日本医事新報. 2023.07; (5177); 52-53

9. 鴨居 功樹. レトロウイルスと眼疾患 Bio Clinica . 2023.06; 38(6); 86-88

10. 大野京子、五十嵐多恵. 近視外来の最前線 あたらしい眼科. 2023.03; 40(2); 139-140

11. 鴨居 功樹. HTLV-1 感染と炎症：最新の臨床知見 Bio Clinica. 2023.02; 38(2); 148-150

12. 大野京子、五十嵐多恵. 近視外来の最前線 あたらしい眼科. 2023.02; 40(2); 139-140

13. 五十嵐多恵. 連載 国際スタンダードを理解しよう！ 近視診療の最前線・29—小児の近視をみたらどうすればよいか？ —小児の近視に対するレッドライト治療法—赤色光が近視を救う 臨床眼科. 2023.02; 77(2); 36-41

14. 齊藤令名、五十嵐多恵. 連載 国際スタンダードを理解しよう！ 近視診療の最前線・28—小児の近視をみたらどうすればよいか？ —小児の近視に対する特殊なレンズデザインの眼鏡 臨床眼科. 2023.01; 77(1); 91-95

[講演・口頭発表等]

1. Ohno-Matsui K. Pathologic myopia. International Summit on High Myopia & Complications 2023 2023.12.23 web

2. Tae Igarashi-Yokoi . Scleral Imaging of DSM. APVRS DSM 発表 2023.12.09 香港

3. Ohno-Matsui K. Imaging of pathologic myopia. Johns Hopkins University Wilmer Eye Institute, Fourth Annual Retinal Festival 2023.12.02 web

4. Masahiro Yamanari, Tae Igarashi-Yokoi, Keigo Sugisawa, Jianping Xiong, Michiaki Okamoto, Suchandra Banerjee, Nobuyori Aoki, Atsushi Otani, Sasuke Ichinose, Satoshi Sugiyama, Kota Totani, Kyoko Ohno-Matsui. Optic axis imaging and visualization of the scleral birefringence using polarization-sensitive optical coherence tomography. 日本光学会年次学術講演会 Optics & Photonics Japan 2023 —Sapporo— 2023.11.28 札幌

5. Yamanari M, Igarashi-Yokoi T, Sugisawa T, Xiong J, Okamoto M, Banerjee S, Aoki N, Otani A, Ichinose S, Sugiyama S, Totani K, Ohno-Matsui K. Optic axis imaging and visualization of the scleral birefringence using polarization sensitive optical coherence tomography. Optics & Photonics Japan 2023 2023.11.28 札幌市 (北海道大学百年記念会館)

6. Zong Y, Kamoi K, Yang M, Zhang J, Zou Y, Ohno-Matsui K. In vitro evaluation of the effects of nicotine for the eye under HTLV-1 infection status. 第 9 回日本 HTLV—1 学会 2023.11.11 京都府京都市 (京都テルサ)

7. Zhang J, Kamoi K, Zong Y, Yang M, Zou Y, Ohno-Matsui K. In vitro assessment of the safety of tocilizumab for the eye under HTLV-1 infected conditions. 第 9 回日本 HTLV—1 学会 2023.11.11 京都府京都市 (京都テルサ)

8. Yang M, Kamoi K, Zong Y, Zhang J, Zou Y, Ohno-Matsui K. Effects of Ripasudil (K115) on Human Trabecular Meshwork Cells in HTLV1 Secondary Glaucoma Mode. 第 9 回日本 HTLV-1 学会 2023.11.11 京都府京都市 (京都テルサ)

9. Ohno-Matsui K. Vitreous-macular-choroidal and peripheral OCT imaging: Cross-sectional, angiographic, widefield, navigated, en face, 3-D and intraoperative. AAO 2023 2023.11.06 San Francisco, USA

10. Ohno-Matsui K. Myopia Management: Global perspectives, digital innovation and AI. AAO 2023 2023.11.05 San Francisco, USA

11. Yasuda S, Shiotani Y, Yoshimoto S, Ito T, Xiong J, Yoshida T, Ohno-Matsui K. Retromode imaging of the optic nerve changes in patients with myopic and glaucomatous optic neuropathy. AAO 2023 2023.11.05 San Francisco, USA

12. Ohno-Matsui K. Polarization-sensitive imaging of scleral abnormalities in myopia and dome-shaped macula. AAO 2023 2023.11.04 San Francisco, USA

13. Kyoko Ohno-Matsui,Tae Igarashi-Yokoi (equally contributing first author),Takeshi Azuma,Keigo Sugisawa,Jiang Xiong,Tomonari Takahashi,Kengo Uramoto,Koju Kamoi,Michiaki Okamoto, Suchandra Banerjee, Masahiro Yamanari. Polarization-Sensitive Imaging of Scleral Abnormalities in Myopia and Dome-Shaped Macula. アメリカ眼科学会 網膜サブスペシャルティデイ 2023.11.03 サンフランシスコ

14. Nan Zhou, Takeshi Yoshida, Kyoko Ohno-Matsui. The association of lamina cribrosa defects and γ-zone parapapillary atrophy with the central visual field in patients with high myopia. 第 77 回臨床眼科学会 2023.10.08 東京都千代田区 (国際フォーラム)

15. Ohno-Matsui K. High myopia and how to avoid it in 2023. High myopia and its complications. EURETINA 2023 2023.10.06 Amsterdam, Nederland

16. Ohno-Matsui K. When and how staphylomas develop? Myopia. EURETINA 2023 2023.10.06 Amsterdam, Nederland

17. Hiroshi Takase. Usage of biologics in the management of non-infectious uveitis. TMS 2023 Taiwan Macula Society Annual Meeting 2023.09.24 台湾　台北市

18. Hiroshi Takase. Molecular diagnosis of vitreoretinal lymphoma. TMS 2023 Taiwan Macula Society Annual Meeting 2023.09.24 台湾　台北市

19. Takahashi H, Tanaka N, Shinohara K, Uramoto K, Yokoi T, Yoshida T, Ohno-Matsui K. Importance of paravascular vitreal adhesions for development of myopic macular retinoschisis detected by ultra-widefield OCT. 37 回東京医科歯科大学眼科学教室同門会集談会プログラム 2023.07.17 東京都文京区 (東京医科歯科大学、web)

20. Takahashi H, Tanaka N, Shinohara K, Uramoto K, Yokoi T, Yoshida T, Ohno-Matsui K. Importance of Paravascular Vitreal Adhesions for Development of Myopic Macular Retinoschisis Detected by Ultra-Widefield OCT. Ophthalmology. 37回東京医科歯科大学眼科学教室同門会集談会プログラム 2023.07.15 東京都文京区 (東京医科歯科大学、web)

21. Ohno-Matsui K. Novel paravascular lesions with abnormal autofluorescence in eyes with pathologic myopia. Asia Pacific Retinal Imaging Society(APVRS) 2023.06.30 Korea, Seoul 、web

22. Ohno-Matsui K. Pathologic Myopia. シンガポール国立大学 web 講演会 2023.06.13 web

23. Ohno-Matsui K. Pathologic Myopia. RCOphth Congress 2023 2023.05.23 Birmingham, England (Royal College of London)

24. Wang Y, Ohno-Matsui K, Du R, Xie S, Xiong J, Chen C, Lu H. A nomogram predicting the risk of visual impairment in high myopic eyes. 第 5 回日本近視学会総会 2023.05.14 福岡県福岡市（九州大学医学部百年講堂 ）

25. Lu H, Xie S, Xiong J, Chen C, Wang Y, Moriyama M, Kamoi K, Uramoto K, Ohno-Matsui K. Analysis of long-term changes of posterior vortex vein in highly myopic eyes. 第 5 回日本近視学会総会 2023.05.13 福岡県福岡市（九州大学医学部百年講堂 ）

26. Chen C, Xie S, Lu H, Xiong J, Wang Y, Nakao N, Uramoto K, Igarashi-Yokoi T,Kamoi K Takahashi H, Ohno-Matsui K. The Development of posterior staphyloma and changes of scleral shape in pathologic myopia. 第 5 回日本近視学会総会 2023.05.13 福岡県福岡市（九州大学医学部百年講堂 ）

27. Hsu C, Igarashi-Yokoi T, Liang I, Ohno-Matsui K. Ten-year follow-up of dome-shaped macula in Highly Myopic Eyes. 第 5 回日本近視学会総会 2023.05.13 福岡県福岡市（九州大学医学部百年講堂 ）

28. Changyu Chen, Shiqi Xie, Hongshuang Lu, Jianping Xiong, Yining Wang, Noriko Nakao, Hiroyuki Takahashi, Tae Igarashi-Yokoi, Koju Kamoi, Kengo Uramoto, Kyoko Ohno-Matsui.. The development of posterior staphyloma and changes of scleral shape in pathologic myopia.. 第 5 回日本近視学会総会 2023.05.13 東京国際フォーラム,webinar

29. Ohno-Matsui K. Intervortex vein anastomoses in pathologic myopia. 30th Anniversary of The Retina Center at Pali Momi & Hawaii Macula and Retina Institute 2023.04.29 Hawaii, USA

30. Tae Igarashi-Yokoi . International Symposium 5 Optimal and timely vision care for children." Optimal and timely vision care for children Myopia control.". 第 127 回日本眼科学会 2023.04.08 東京国際フォーラム,webinar

31. Xiong J, Xie S, Lu H, Chen C, Wang Y, Yoshida T, Ohno-Matsui K.. Retro-mode scanning laser ophthalmoscopy of optic disc abnormalities.. 第 127 回日本眼科学会 2023.04.07 東京都千代田区 (国際フォーラム)、web

32. Wang Y, Du R, Xie S, Lu H, Chen C, Xiong J, Ohno-Matsui K.. Prediction Models for Vision Outcome with Machine Learning in Highly Myopic Eyes. 第 127 回日本眼科学会 2023.04.07 東京都千代田区 (国際フォーラム)、web

33. Chen C, Xie S, Lu H, Xiong J, Wang Y, Nakao N, Takahashi H, Igarashi-Yokoi T, Kamoi K, Uramoto K, Ohno-Matsui K.. The Development of posterior staphyloma and changes of scleral shape in pathologic myopia. 第 127 回日本眼科学会 2023.04.06 東京都千代田区 (国際フォーラム)、web

1. 西迫広貴、今井彩乃、大野明子、大野京子. 抗アクアポリン 4 抗体視神経脊髄炎スペクトラム障害にサルコイドーシスを併発した 1 例. 第 61 回日本神経眼科学会総会 2023.12.01 東京都新宿区 (ベルサ―ル新宿)

2. 大野京子. 孤独で辛い戦いから見えてくるもの. 第 62 回日本網膜硝子体学会 2023.11.25 横浜市 (パシフィコ横浜）

3. 野村仁登美、深町雅子、関根宏美、西山友貴、倉田あゆみ、小林知世、江本博文、江本有子、 大野京子. 外傷性滑車神経麻痺と失神. 第 64 回日本視能強制学会 2023.11.18 香川県高松市 (レクザムホール）

4. 鴨居 功樹. HTLV-1 関連眼疾患の治療戦略. 第 9 回 日本 HTLV-1 学会学術集会 2023.11.11

5. 小児の近視 、眼科医ができること. 第 814 回東京眼科集談会　　2023.11.09 東京、webinar

6. 今井彩乃, 高瀬博, 井出光広, 田川泰寛, 杉原潤, 柴田翔, 中村祐基, 横山みなと, 藤井靖久, 木脇祐子, 鴨居功樹, 大野京子. IgG4 関連疾患に生じた両眼性肉芽腫性ぶどう膜炎の 1 例. 第 814 回東京眼科集談会 2023.11.09 web

7. 塩谷悠斗, 吉田武史, 伊藤大樹, 好本壮太, 大野元久, 安田慎太郎, 杉澤啓吾, 大西由花, 大野京子. 強度近視眼における水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術の短期手術成績. 第 814 回東京眼科集談会 2023.11.09 web

8. 五十嵐多恵. 学童の近視管理 Up to Date. 弘前大学大学院医学研究科 眼科学講座　日本眼科 Web セミナー 2023.11.08 webinar

9. 五十嵐多恵. 小児の近視管理 UP-to-DATE. 兵庫県東部眼科学術講演会 2023.10.28 兵庫県

10. 五十嵐多恵.　これは知っておきましょう　近視と治療の最前線 . トーメー社員向けセミナー 2023.10.27 名古屋

11. 吉藤康太, 貞任大地, 遠矢嵩, 本村鷹多朗, 高瀬博, 原田結花, 森毅彦, 長尾俊景〓. 原発性眼球内リンパ腫の遺伝子異常は中枢神経浸潤リスクの層別化につながる. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.14 東京

12. 高瀬　博. ぶどう膜炎診療におけるアンメットニーズとその展望. 第 77 回日本臨床眼科学会 2023.10.08 東京

13. 小寺 結子、五十嵐 多恵、中尾 紀子、持田 潮帆、金井 秀美、久保田茉莉子、Rong Li、大野 京子 . 0.01 および 0.025%アトロピンと焦点深度拡張型 SCL 併用療法の眼軸伸展抑制効果の比較 . 第 77 回日本臨床眼科学会東京国際フォーラム 2023.10.08 東京

14. 三木 隆之, 堀江 真太郎, 吉田 武史, 大野 京子. ピット黄斑症候群におけるレトロモード撮影で特徴的所見を認めた 1 例. 第 77 回臨床眼科学会 2023.10.08 東京都千代田区 (国際フォーラム)

15. 小寺 結子, 五十嵐 多恵, 中尾 紀子, 持田 潮帆, 金井 秀美, 久保田 茉莉子, Rong Li, 大 野 京子. 0.01 および 0.025%アトロピンと焦点深度拡張型 SCL 併用療法の眼軸伸展抑制効果の比較. 第 77 回臨床眼科学会 2023.10.08 東京都千代田区 (国際フォーラム)

16. 五十嵐多恵.　屈折矯正法の利点 · 欠点と将来像 眼鏡編 .　第 77 回日本臨床眼科学会東京国際フォーラム 2023.10.07 東京

17. 五十嵐多恵. 近視進行抑制の特殊眼鏡の話題. 第 77 回日本臨床眼科学会東京国際フォーラム 2023.10.07 東京

18. 大野京子. 小児の近視をどのように管理 · 治療すべきか. 第 77 回臨床眼科学会 2023.10.07 東京都千代田区 (国際フォーラム)

19. 大野京子. 徹底解説！ 近視の最新治療. 第 77 回臨床眼科学会 2023.10.07 東京都千代田区 (国際フォーラム)

20. 大野京子. 楽しい大学勤務医生活. 第 77 回臨床眼科学会 2023.10.07 東京都千代田区 (国際フォーラム)

21. 鈴木 悠大, 鴨居 功樹, 浦本 賢吾, 大野 京子. 眼軸長 28 .0m m 以上の長眼軸長眼における眼内レンズ計算式の屈折誤差の精度の検討. 第 77 回臨床眼科学会 2023.10.07 東京都千代田区 (国際フォーラム)

22. 尤 俊博, 高瀬 博, 北口 由季, 今井 彩乃, 堀口 乃恵, 鴨居 功樹, 宮永 将, 小宮 陽仁, 大 野 京子. 漿液性網膜剥離によって診断された再発性多発軟骨炎. 第 77 回臨床眼科学会 2023.10.07 東京都千代田区 (国際フォーラム)

23. 五十嵐多恵. 外来検査の向こうへ マルチモダル診療最前線 「OCULUS Myopia Master® を用いた小児の近視診 Up to date] . 第 77 回日本臨床眼科学会東京国際フォーラム 2023.10.06 東京

24. 大野京子. レッドライトは近視を救う！ 近視の新しいともだち. 第 77 回臨床眼科学会 2023.10.06 東京都千代田区 (国際フォーラム)

25. 村瀬裕香, 高瀬 博, 清水 玄, 尤 俊博, 北口 由季, 今井 彩乃, 堀口 乃恵, 井出 光直, 宮 永 将, 鴨居 功樹, 川口龍史, 大野 京子. 梅毒性ぶどう膜炎の臨床像. 第 77 回臨床眼科学会 2023.10.06 東京都千代田区 (国際フォーラム)

26. 高瀬　博. ぶどう膜炎診療の現状と問題点. 第 51 回日本臨床免疫学会総会 2023.10.05

27. 鴨居 功樹. 脊椎関節炎と眼疾患. 日本脊椎関節炎学会 2023.09.10

28. 塩谷悠斗、吉田武史、伊藤大樹、好本壮太、大野元久、安田慎太郎、杉澤啓吾、大西由花、大野京子. 強度近視眼における水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術の短期手術成績. 第 34 回日本緑内障学会 2023.09.08 東京都港区 (虎の門ヒルズフォーラム)

29. 鴨居 功樹. HTLV-1 関連眼疾患の発症リスク. 日本医療研究開発機構 班会議 2023.09.07

30. 大野京子. 所敬先生メモリアルセッション. 第 59 回日本眼光学学会総会 2023.09.02 山形県山形市 (やまぎん県民ホール)

31. 大野京子. 近視の眼底病変をきちんと診断 · 治療する. 眼科臨床実践講座 2023 2023.08.20 東京都中央区 (ベルーサ東京日本橋、web)

32. 鴨居 功樹. HTLV-1 ぶどう膜炎と水平感染 . 日本医療研究開発機構 班会議 2023.08.11 長崎

33. 鴨居 功樹. ぶどう膜炎のアップデート. 第 15 回福島眼科シンポジウム 2023.08.05

34. 五十嵐多恵. 小児の近視に対するレッドライト治療法. リフラクティブアップデートセミナー 2023.07.29 京都

35. 小寺結子、Rong Li、五十嵐多恵、中尾紀子、大野京子. 焦点深度拡張型 SCL 単独療法と 0.01 %または 0.025 %アトロピン点眼併用療法の眼軸伸展制御効果の比較. 第 37 回東京医科歯科大学眼科学教室同門会集談会プログラム 2023.07.17 東京都文京区 (東京医科歯科大学、web)

36. 塩谷悠斗、吉田武史、好本壮太、大野元久、安田慎太郎、杉澤啓吾、大西由花、大野京子. 強度近視眼における水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術の手術成績. 第 37 回東京医科歯科大学眼科学教室同門会集談会プログラム 2023.07.17 東京都文京区 (東京医科歯科大学、web)

37. 大野京子. アメリカで人気ナンバーワン。君も眼科医になってみないか？ . 日本眼科学会眼科 ONLINE SESSION 2023 2023.07.15 web

38. 大野京子. 病的近視の眼底病変. 姫路市近視医療の会 2023 2023.07.14 web

39. 大野京子. 病的近視の眼底病変. 第 72 回湘西眼科臨床フォーラム 2023.07.13 web

40. 高瀬　博. 土曜サスペンス　眼科診療最前線 “難症例に潜む罠” 3 ぶどう膜炎. 第 59 回日本眼感染症学会 2023.07.08 大阪

41. 高瀬　博. 糖尿病患者におけるぶどう膜炎診療. 第 56 回日本眼炎症学会 2023.07.08 大阪

42. 五十嵐多恵. 近視予防における最近の話題. HOPE meeting Vol2 2023.07.07 webinar 参加 (札幌)

43. 塩谷悠斗、吉田武史、好本壮太、大野元久、安田慎太郎、杉澤啓吾、大西由花、大野京子. 強度近視眼における水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術の手術成績. 第 37 回東京医科歯科大学眼科学教室同門会集談会プログラム 2023.07.07 東京都文京区 (東京医科歯科大学、web)

44. 大野京子. 病的近視の眼底病変. 第 2 回ゐのはな Network 2023.06.28 千葉県千葉市 (京成ホテルミラマーレ)

45. 五十嵐多恵. 病的近視患者における遺伝子スクリーニング法の開発と遺伝解析～令和 4 年度至誠会賞学術研究医学部門～. 至誠会 令和 5 年度定時社員総会前年度受賞者研究発表 2023.06.24 東京

46. 高瀬　博. ぶどう膜炎および糖尿病に対する白内障手術の問題点と対策. 第 38 回 JSCRS 学術総会 2023.06.23

47. 五十嵐多恵. 小児の近視管理　. 第 23 回 水道橋眼科フォーラム 2023.06.15 東京　グランドハイアット東京

48. 大野京子. 病的近視の眼底病変. 日本大学眼科症例検討会 2023.05.20 東京都板橋区（日本大学医学部板橋病院 ）

49. 佐倉達朗、五十嵐多恵、藤波　芳、大野京子. 病的近視の眼合併症を伴う完全型先天停在性夜盲の原因遺伝子. 第 5 回日本近視学会総会 2023.05.14 福岡県福岡市（九州大学医学部百年講堂 ）

50. 大野京子. レッドライトが近視を救う！ 赤い光の持つ力. 第 5 回日本近視学会総会 2023.05.13 福岡県福岡市（九州大学医学部百年講堂）

51. 中尾紀子、浦本賢吾、大西由花、石田友香、大野京子. 強度近視の Lacquer Cracks 検出における En 窓 Face OCT Angiography 網膜厚マップの有用性. 第 5 回日本近視学会総会 2023.05.13 福岡県福岡市（九州大学医学部百年講堂 ）

52. 菅原結子、五十嵐多恵、中尾紀子、持田潮帆、金井秀美、久保田茉莉子、大野京子. オルソケラトロジーと 0.01 %アトロピン併用の眼軸伸展抑制効果と眼球収差との関連. 第 5 回日本近視学会総会 2023.05.13 福岡県福岡市（九州大学医学部百年講堂 ）

53. 菅原結子、五十嵐多恵、中尾紀子、持田潮帆、金井秀美、久保田茉莉子、大野京子. オルソケラトロジーと0.01%アトロピン併用の眼軸伸展抑制効果と眼球収差との関連. 第 5 回日本近視学会総会 2023.05.13 福岡 九州大学医学部、Webinar

54. 中尾紀子、五十嵐多恵、高橋洋如、謝詩琪、篠原宏成、大野京子. 超広角光干渉断層計による強度近視眼の後部ぶどう腫の定量的評価. 第 5 回日本近視学会総会 2023.05.13 福岡 九州大学医学部、Webinar

55. 五十嵐多恵. 近視進行抑制の特殊眼鏡とレッドライト治療の話題. 第 5 回日本近視学会総会 2023.05.13 福岡 九州大学医学部、Webinar

56. 五十嵐多恵. OCULUS Myopia Master® を用いた小児の近視管理. 第 5 回日本近視学会総会 2023.05.13 福岡 九州大学医学部、Webinar

57. 高瀬　博. 非感染性ぶどう膜炎〜感染症との鑑別ポイント〜. 日本眼科医会第 83 回生涯教育講座 2023.04.16 愛知県　名古屋市

58. 五十嵐多恵. 学童の近視抑制について. 令和 5 年度静岡県眼科医会総会 2023.04.15 静岡

59. 高瀬　博. 眼科医からみた小児炎症性疾患〜他科連携を考える. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.15 東京

60. 鴨居 功樹. コロナ禍における都市部の病院の現状と問題点. 第 127 回日本眼科学会総会 2023.04.09 東京

61. 高瀬　博. 眼内リンパ腫の病診連携〜適切な診断と紹介のために. 第 127 回 日本眼科学会総会 2023.04.09 東京

62. 鈴木悠大、堀江慎太郎、大野京子. 糖尿病網膜症における後部硝子体構造の超広角光干渉断層計による観察. 第 127 回日本眼科学会 2023.04.07 東京都千代田区 (国際フォーラム)、web

63. 大野元久、五十嵐多恵、杉山聡、岡本道明、山成正宏、大野京子. Polarization-sensitive optical coherence tomography を用いた病的近視眼の dome-shaped macula の質的評価. 第 127 回日本眼科学会 2023.04.07 東京都千代田区 (国際フォーラム)、web

64. 五十嵐多恵. 小児の近視 「病的近視になる小児の特徴と予後」. 第 127 回日本眼科学会 2023.04.07 東京国際フォーラム,webinar

65. 大野元久、五十嵐多恵、杉山聡、岡本道明、山成正宏、大野京子. Polarization-sensitive optical coherence tomography を用いた病的近視眼の dome-shaped macula の質的評価. 第 127 回日本眼科学会 2023.04.06 東京国際フォーラム,webinar

66. 大野京子. 病的近視の眼底病変. 第 22 回有明眼科懇談会 2023.03.11 福岡県久留米市 (ホテルマリターレ創世久留米)

67. 高瀬　博. 非感染性ぶどう膜炎〜感染症との鑑別ポイント〜. 日本眼科医会第 83 回生涯教育講座 2023.03.05 福岡県　博多市

68. 高瀬　博. 非感染性ぶどう膜炎〜感染症との鑑別ポイント〜. 日本眼科医会第 83 回生涯教育講座 2023.02.19 東京

69. 高瀬　博. 最新のぶどう膜炎治療トピックス. 免疫疾患クロストーク 2023.02.17 北海道　札幌市

70. 鴨居 功樹. HTLV-1 ぶどう膜炎（HU）レジストリの構築について. 厚生労働省 · 日本医療研究開発機構 合同班会議 2023.02.12

71. 五十嵐多恵. 小児の近視の取り扱い　. 第 16 回東北眼科フォーラム 2023.02.12 webinar

72. 大野京子. 小児の近視の進行抑制. 第 4 回 TAMA Ophthalmic Seminar 2023.01.14 東京都立川市 (ホテル日航立川)

[受賞]

1. The 2023 APAO Jose Rizal Medal, 2023 年 02 月
2. The 1st Asia-Pacific Eye 100 Most Influential Ophthalmologists 2022, Asia-Pacific Journal of Ophthalmology, 2023 年 02 月
3. 公益財団法人 高齢者眼疾患研究財団 (鴨居 功樹）, 2023 年 04 月
4. The Power List 2023, The Ophthalmologist, 2023 年 04 月
5. Senior Achievement Award, 米国眼科学会, 2023 年 07 月
6. 武田科学振興財団 ハイリスク新興感染症研究 (鴨居 功樹), 2023 年 11 月

[その他業績]

1. 「　VEGF 阻害薬を HTLV-1 感染者の眼内に投与することは安全か？　」 —　HTLV-1 感染者における抗 VEGF 治療の検証　—, 2023 年 01 月
   Frontiers in Immunology
2. 健康寿命の延伸を目指したアイフレイル対策活動, 2023 年 01 月
   座長. 第 9 回 TMDU 眼科病診連携の会、2023.1.26（web ）
3. A sight for sore eyes: Anti-VEGF treatment in an ocular model of viral infection, 2023 年 02 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
4. 新たな眼の難治疾患を発見 —　mRNA 形成の障害によっておこる多彩な眼の先天形成異常　—, 2023 年 03 月
   Human Molecular Genetics
5. 令和 5 年度児童生徒の近視実態調査 実行委員会 実行委員, 2023 年 04 月
   文部科学省初等 中等教育局健康教育 · 食育課長
6. Repeated low-level red-right therapy for myopia control : from clinical evidence to possible mechanism, 2023 年 05 月
   座長．第 5 回日本近視学会、2023.5.13、福岡県福岡市（九州大学医学部百年講堂 ）
7. 近視抑制治療の最前線〜私たちが切り開く近視治療の未来〜, 2023 年 05 月
   座長、第 5 回日本近視学会総会、2023.5.14、福岡県福岡市（九州大学医学部百年講堂 ）
8. 東邦大学大森病院近視外来の取り組み〜シンガポール留学の経験を通して〜, 2023 年 06 月
   座長、第 24 回御茶ノ水眼科先進医療セミナー、2023.6.23(web)
9. 【近視】国内で受けられる治療と期待の最新医療　専門家「大人になる前の治療が重要」の理由, 2023 年 06 月
   インターネット．東洋経済オンライン、2023.6.11
10. 情熱大陸眼科医／大野京子　母の言葉で諦めなかった医学の道　世界の近視医療を牽引する“クイーン”, 2023 年 07 月
    インターネット．毎日新聞、2023.7.14
11. ［眼科医］vol.1260 大野京子, 2023 年 07 月
    テレビ．情熱大陸、2023.7.16
12. Intraocular immunology, iritis, and uveitis, 2023 年 09 月
    座長、第 25 回御茶ノ水眼科先進医療セミナー、2023.9.15、東京都文京区 (東京ガーデンパレス)
13. 近くでばっかりモノを見ると目が悪くなるのはなぜ？…そのとき私たちの眼球に恐るべき変化が！？ , 2023 年 09 月
    テレビ．チコちゃんに叱られる！ NHK、2023.9.22
14. 一般講演 65【屈折視機能: 診断 · 治療】, 2023 年 10 月
    第 77 回日本臨床眼科学会東京国際フォーラム 座長

15. 第 42 回総集会プログラム委員会全体会議, 2023 年 10 月
第 42 回総集会プログラム委員会全体会議

16. なんでも健康相談〔眼科〕, 2023 年 10 月
雑誌. 今日の健康 11 月号、2023.10.21

17. 近視医療の女王 · 大野京子医師　特別インタビューその①大野京子医師「近視の進行抑制治療は、大事な子どもの視力を守る先行投資」, 2023 年 10 月
インターネット. 「アスコム」子どもの近視ナビ、2023.10.25

18. 近視医療の女王 · 大野京子医師　特別インタビューその②赤い光を見るだけで近視を抑制できる!?「レッドライト治療法」, 2023 年 10 月
インターネット. アスコム」子どもの近視ナビ、2023.10.25

19. 近視医療の女王 · 大野京子医師　特別インタビューその③大野京子先生、子どもの近視治療について教えてください！ , 2023 年 10 月
インターネット. 「アスコム」子どもの近視ナビ、2023.10.25

20. 情熱大陸 · MediaJack15, 2023 年 10 月
雑誌. 東京医科歯科大学医科同窓会ニュースレター 10 月、2023.10.30

21. 視覚障害のリスクを予測 東京医科歯科大グループが開発, 2023 年 10 月
新聞. 点字毎日活字版、2023.10.30

22. 「 強度近視患者の長期的な視力と視力障害リスクを予測する機械学習モデルを開発 」 — 失明リスクの高い患者の早期診断 · 早期治療を可能にする —, 2023 年 11 月
JAMA Ophthalmology

23. 強度近視から将来的に失明など視覚障害となるか AI で高精度予測, 2023 年 11 月
インターネット. NHK News Web、2023.11.12

24. 強度近視リスクを AI で予測　失明予防に期待, 2023 年 11 月
インターネット. Yahoo ニュース、2023.11.10

25. 強度近視リスクを AI で予測＝失明予防治療に期待ー東京医科歯科大, 2023 年 11 月
インターネット. 時事通信、2023.11.10

26. 視力障害リスク予測_強度近視 AI モデル開発, 2023 年 11 月
新聞. 日刊新聞、2023.11.15

27. レーザー（経営ひと言）大野教授, 2023 年 11 月
新聞. 日刊新聞、2023.11.16

28. 重い近視患者の症状進行妨げるか大人では初の臨床研究始まる, 2023 年 11 月
インターネット. NHK Web News、2023.11.17

29. 赤色の光で近視を治療, 2023 年 11 月
ラジオ. N らじ ニュースアップ (NHK ラジオ). 2023.11.28

30. APMS-APVRS Symposium: High Myopia, 2023 年 12 月
座長. APMS-APVRS Symposium: High Myopia. 第 16 回 Asia-Pacific Vitreo-retina Society. 2023.12.9

31. 眼の症状チェックリスト, 2023 年 12 月
テレビ (監修). 四国らしんばん. NHK 松山放送局、2023.12.22

[社会貢献活動]

1. 大人の近視について, 日本経済新聞, 日本経済新聞 · 電子版, 2022 年 12 月 09 日 - 2023 年 01 月 29 日

2. 子どもの視力について, Gakken, GAKKEN こそだてまっぷ, 2023 年 02 月 01 日

3. 児童向け絵本「からだはすごいよ！ キラキラ元気な　めのひみつ」, 少年写真新聞社, からだはすごいよシリーズ絵本の「目」, 2023 年 02 月 27 日

4. 【小 1 の 4 人に 1 人が裸眼視力 1.0 未満!?】視覚障害のリスクも!? 低年齢で進む子どもの近視の実態とは [医師監修] , Gakken, GAKKEN こそだてまっぷ, 2023 年 03 月 04 日

5. 【1 日 2 時間の屋外活動で近視を予防！】子どもの視力を守る毎日の習慣、最新事情 [医師監修] , Gakken, GAKKEN こそだてまっぷ, 2023 年 03 月 08 日
6. 子どもの近視について, 東洋経済オンライン, 東洋経済オンライン, 2023 年 04 月 26 日
7. 子どもの視力低下について, (株) 朝日新聞出版, アエラ AERA, 2023 年 06 月 19 日
8. 近視について, NHK, チコちゃんに叱られる！ , 2023 年 06 月 20 日
9. コミュニケーション対策【認知症へのリスクを上げる白内障などの障害】について, さくら舎, 単行本書籍：46 判並製, 2023 年 07 月 10 日
10. 子どもの近視について, NHK, あさイチ, 2023 年 07 月 25 日
11. 子どもの近視とレッドライトの研究について, 株式会社アスコム, 子どもの近視ナビ, 2023 年 07 月 26 日
12. 子どもの近視について, NHK, あさイチ, 2023 年 08 月 21 日
13. 「ドクターの肖像」に関して, (株) メディカル · プリンシプル社, DOCTOR’S MAGAZINE, 2023 年 09 月 05 日 - 現在
14. 近視治療の最前線について, NHK, ニュース７，ニュースウォッチ９など, 2023 年 09 月 25 日 - 現在
15. 子どもの目の 1 分体操（仮）のコーナーの監修について, NHK エデュケーショナル, 子ども向け番組「へんテナ：視る」, 2023 年 10 月 19 日
16. 視力低下 · 近視について, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2023 年 11 月 14 日
17. 近視治療の最前線（「レッドライト治療法」成人への有効性検証）について, NHK, おはよう日本, 2023 年 11 月 22 日 - 2023 年 11 月 27 日
18. レッドライト治療の臨床研究について, NHK ラジオセンター, N らじ, 2023 年 11 月 28 日
19. Clouclip やメガネの過矯正について, NHK, あしたが変わるトリセツショー, 2023 年 12 月 14 日 - 2024 年 04 月 15 日
20. 小児の近視抑制治療, NHK, チョイス, 2023 年 12 月 18 日
21. 小児の近視抑制治療, NHK, チョイス, 2023 年 12 月 28 日 - 2024 年 02 月 13 日

耳鼻咽喉科学

Otorhinolaryngology

教授：堤　剛
准教授：川島慶之
講師：伊藤卓
助教：藤川太郎、本田圭司、西尾綾子
医員：竹田貴策、丸山絢子、近藤景介
大学院生：丸山絢子、白静、山崎あやめ、渡邊浩基、青木夏姫、大岡知樹、毛利香織

(1) 分野概要

耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、ならびに、気管 · 食道も含め、脳神経外科、眼科、歯科が扱う領域も含めて広範な頭頸部領域の疾患を扱い、対象疾患の診断ならびに外科的 · 内科的治療による治療を目標に研究、教育を行う。外耳道癌では国内屈指の手術件数を持ち、中耳手術においては内視鏡や外視鏡の導入による低侵襲な手術を行っている。人工内耳 · 人工中耳やめまいに対する手術も数多く行なっている。めまい · 平衡障害、難聴については、その病態について分子メカニズム、比較発生、神経機能解析等と種々の手法による基礎研究を行っており、また外耳道癌に対するマーカーの研究や術中ナビゲーションを含む手術支援機器の開発なども行なっている。鼻の領域では内視鏡手術やアレルギー性鼻炎の診療に力を注いでおり、頭蓋底手術を含む高難度手術にも取り組んでいる。口腔 · 咽頭領域では、口蓋扁桃摘出による IgA 腎症の腎障害の進行阻止ならびに、移植された腎臓が再び IgA 腎症を発症した際にも扁桃摘出術の有効性を証明し，治療を行っている。嚥下障害の評価とリハビリ/手術加療にも力を入れている。

(2) 研究活動

平衡神経科学領域でのクリニカルリサーチ
三次元眼球運動と重力認知機能評価
マウスの眼球運動の三次元解析
聴覚領域での分子生物学/電気生理学/形態学的研究
外耳道癌の予後に関するマーカーの研究
内視鏡下鼻科手術の新たな術式の開発
睡眠時無呼吸症候群の臨床研究
VR を利用した教育 · 手術支援機器開発

(3) 教育活動

解剖/生理学的な基礎領域を含めたクルズス
側頭骨削開実習

(4) 教育方針

特定の専門領域に偏りすぎることなく、幅広い診療能力を有した医師を育成する。
臨床症例の理解の深化および将来の臨床に資する研究教育をおこなう。

(5) 臨床上の特色

· 中枢性疾患を含む平衡障害の専門的診療
· 遺伝性難聴を含む聴覚領域の診療
· 外耳道癌に対する頭蓋底手術を含む診療
· 中耳手術への内視鏡の導入と低侵襲手術
· 内耳の手術治療（人工内耳手術、めまい手術等）
· 高難度内視鏡下鼻科手術（頭蓋底手術を含む）
· リハビリテーション部/歯科と連携した嚥下診療、嚥下手術
· 睡眠時無呼吸症候群の快眠センターと連携した診療

(6) 研究業績

[原著]

1. Sakihama Naoyuki, Okada Ryuhei, Takahashi Naoto, Fushimi Naoki, Ooka Tomoki, Kawabe Hiroaki, Ariizumi Yosuke, Ohno Kazuchika, Ueki Yutaka, Tayama Niro, Tsutsumi Takeshi, Asakage Takahiro. Post-intubation laryngeal injury after COVID-19 treatment causing dyspnea: A report of six cases(タイトル和訳中) Auris· Nasus· Larynx. 2023.10; 50(5); 816-820

2. Yamazaki A, Aoki N, Ooka T, Takeda T, Honda K, Yabunaka S, Tsutsumi T. Sustained deviation of torsional eye position associated with transient semicircular canal stimulation. Acta oto-laryngologica. 2023.10; 143(10); 849-855

3. Kurata N, Kawashima Y, Ito T, Fujikawa T, Nishio A, Honda K, Kanai Y, Terasaki M, Endo I, Tsutsumi T. Advanced Magnetic Resonance Imaging Sheds Light on the Distinct Pathophysiology of Various Types of Acute Sensorineural Hearing Loss. Otology & neurotology : official publication of the American Otological Society, American Neurotology Society [and] European Academy of Otology and Neurotology. 2023.08; 44(7); 656-663

4. Kurata N, Kawashima Y, Ito T, Fujikawa T, Nishio A, Honda K, Kanai Y, Terasaki M, Endo I, Tsutsumi T. Advanced Magnetic Resonance Imaging Sheds Light on the Distinct Pathophysiology of Various Types of Acute Sensorineural Hearing Loss. Otology & neurotology : official publication of the American Otological Society, American Neurotology Society [and] European Academy of Otology and Neurotology. 2023.08; 44(7); 656-663

5. Kurata N, Kawashima Y, Ito T, Fujikawa T, Nishio A, Honda K, Kanai Y, Terasaki M, Endo I, Tsutsumi T. Advanced Magnetic Resonance Imaging Sheds Light on the Distinct Pathophysiology of Various Types of Acute Sensorineural Hearing Loss. Otology & neurotology : official publication of the American Otological Society, American Neurotology Society [and] European Academy of Otology and Neurotology. 2023.08; 44(7); 656-663

6. Kurata, N; Kawashima, Y; Ito, T; Fujikawa, T; Nishio, A; Honda, K; Kanai, Y; Terasaki, M; Endo, I; Tsutsumi, T. Advanced Magnetic Resonance Imaging Sheds Light on the Distinct Pathophysiology of Various Types of Acute Sensorineural Hearing Loss OTOLOGY & NEUROTOLOGY. 2023.08; 44(7); 656-663

7. Watanabe H, Ito T, Aoki N, Bai J, Honda K, Kawashima Y, Fujikawa T, Ikeda T, Tsutsumi T. Quantitative analysis and correlative evaluation of video-oculography, micro-computed tomography, and histopathology in Pendrin-null mice. Neurobiology of disease. 2023.07; 183; 106194

8. Watanabe H, Ito T, Aoki N, Bai J, Honda K, Kawashima Y, Fujikawa T, Ikeda T, Tsutsumi T. Quantitative analysis and correlative evaluation of video-oculography, micro-computed tomography, and histopathology in Pendrin-null mice. Neurobiology of disease. 2023.07; 183; 106194

9. Watanabe H, Ito T, Aoki N, Bai J, Honda K, Kawashima Y, Fujikawa T, Ikeda T, Tsutsumi T. Quantitative analysis and correlative evaluation of video-oculography, micro-computed tomography, and histopathology in Pendrin-null mice. Neurobiology of disease. 2023.07; 183; 106194

10. Quantitative analysis and correlative evaluation of video-oculography, micro-computed tomography, and histopathology in Pendrin-null mice 2023.07; 183;

11. Watanabe H, Ito T, Aoki N, Bai J, Honda K, Kawashima Y, Fujikawa T, Ikeda T, Tsutsumi T. Quantitative analysis and correlative evaluation of video-oculography, micro-computed tomography, and histopathology in Pendrin-null mice. Neurobiology of disease. 2023.07; 183; 106194

12. Quantitative analysis and correlative evaluation of video-oculography, micro-computed tomography, and histopathology in Pendrin-null mice. 2023.07; 183; 106194

13. Bai Jing, Ito Taku, Fujikawa Taro, Honda Keiji, Kawashima Yoshiyuki, Watanabe Hiroki, Kurata Natsuko, Tsutsumi Takeshi. Three-dimensionally visualized ossification and mineralization process of the otic capsule in a postnatal developmental mouse LARYNGOSCOPE INVESTIGATIVE OTOLARYNGOLOGY. 2023.06; 8(4); 1036-1043

14. Ayako Maruyama, Atsunobu Tsunoda, Masatoki Takahashi, Seiji Kishimoto, Masami Suzuki. Nasopharyngeal pleomorphic adenoma presenting as otitis media with effusion: case report and literature review. Am J Otolaryngol. 35(1); 73-76

1. 堤 剛. 【めまい · 耳鳴りへの適切なアプローチ】各種疾患によるめまい　メニエール病 臨牀と研究. 2023.11; 100(11); 1316-1322

2. 川島 慶之, 瀬越 空人, 伊藤 卓, 有泉 陽介, 大野 十央, 藤川 太郎, 田崎 彰久, 西尾 綾子, 本田 圭司, 岡田 隆平, 立石 優美子, 河邊 浩明, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 外耳道癌 79 症例の早期臨床像 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.09; 126(9); 1052-1060

3. 川島 慶之, 瀬越 空人, 伊藤 卓, 有泉 陽介, 大野 十央, 藤川 太郎, 田崎 彰久, 西尾 綾子, 本田 圭司, 岡田 隆平, 立石 優美子, 河邊 浩明, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 外耳道癌 79 症例の早期臨床像 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.09; 126(9); 1052-1060

4. 堤 剛. 【高齢者の疑問にどう答えるか】耳領域　急に回転性のめまいが生じたときはどうすればいいのでしょうか? JOHNS. 2023.09; 39(9); 938-944

5. 川島 慶之, 瀬越 空人, 伊藤 卓, 有泉 陽介, 大野 十央, 藤川 太郎, 田崎 彰久, 西尾 綾子, 本田 圭司, 岡田 隆平, 立石 優美子, 河邊 浩明, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 外耳道癌 79 症例の早期臨床像 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.09; 126(9); 1052-1060

6. 溝口 由丸, 伊藤 卓, 山田 雅人, 井上 剛志, 塚本 咲, 柳橋 賢, 小島 史也, 梶野 晃雅, 堤 剛. 鼓膜画像からの深層学習による耳疾患診断の試み 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.07; 126(7); 852-858

7. 溝口 由丸, 伊藤 卓, 山田 雅人, 井上 剛志, 塚本 咲, 柳橋 賢, 小島 史也, 梶野 晃雅, 堤 剛. 鼓膜画像からの深層学習による耳疾患診断の試み 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.07; 126(7); 852-858

8. 堤 剛. 側頭骨の外視鏡手術 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.07; 126(7); 832-837

9. Bai Jing, Ito Taku, Fujikawa Taro, Honda Keiji, Kawashima Yoshiyuki, Watanabe Hiroki, Kurata Natsuko, Tsutsumi Takeshi. Three-dimensionally visualized ossification and mineralization process of the otic capsule in a postnatal developmental mouse LARYNGOSCOPE INVESTIGATIVE OTOLARYNGOLOGY. 2023.06; 8(4); 1036-1043

10. 本田 圭司, 堤 剛.【聴覚とその異常-up to date】正常構造とメカニズム　内リンパの機能 Clinical Neuroscience. 2023.06; 41(6); 765-767

11. Bai Jing, Ito Taku, Fujikawa Taro, Honda Keiji, Kawashima Yoshiyuki, Watanabe Hiroki, Kurata Natsuko, Tsutsumi Takeshi. Three-dimensionally visualized ossification and mineralization process of the otic capsule in a postnatal developmental mouse LARYNGOSCOPE INVESTIGATIVE OTOLARYNGOLOGY. 2023.06;

12. 伊藤 卓, 倉田 奈都子, 川島 慶之, 藤川 太郎, 堤 剛. 内耳遅延造影 MRI にて内リンパ水腫を認めた迷路内神経鞘腫例 Equilibrium Research. 2023.06; 82(3); 209-215

13. 大久保 耀生, 菅原 貴志, 山岡 寛人, 清水 一秀, 有泉 陽介, 伊藤 卓, 朝蔭 孝宏, 前原 健寿. 脳神経外科手術シミュレーション · 教育における Mixed Reality 技術の応用 CI 研究. 2023.06; 45(1); 23-29

14. 伊藤 卓, 倉田 奈都子, 川島 慶之, 藤川 太郎, 堤 剛. 内耳遅延造影 MRI にて内リンパ水腫を認めた迷路内神経鞘腫例 Equilibrium Research. 2023.06; 82(3); 209-215

15. 伊藤 卓, 倉田 奈都子, 川島 慶之, 藤川 太郎, 堤 剛. 内耳遅延造影 MRI にて内リンパ水腫を認めた迷路内神経鞘腫例 Equilibrium Research. 2023.06; 82(3); 209-215

16. Ooka Tomoki, Honda Keiji, Tsutsumi Takeshi. Static cervico-ocular reflex in healthy humans ACTA OTO-LARYNGOLOGICA. 2023.04; 143(5); 387-391

17. Ooka Tomoki, Honda Keiji, Tsutsumi Takeshi. Static cervico-ocular reflex in healthy humans ACTA OTO-LARYNGOLOGICA. 2023.04; 143(5); 387-391

18. 溝口 平恵, 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 本田 圭司, 竹田 貴策, 野口 佳裕, 喜多村 健, 堤 剛. KTP または CO2 レーザーを用いたアブミ骨手術におけるレーザーの種類による手術成績の比較 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 676

19. 倉田 奈都子, 伊藤 卓, 川島 慶之, 藤川 太郎, 山本 桂, 西尾 綾子, 渡邊 愛, 堤 剛. NLRP3 遺伝子変異を認めた 2 症例の遅延造影 MRI 所見および人工内耳手術の治療経験 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 553

20. 峰松 深月, 溝口 由丸, 伊藤 卓, 堤 剛. セマンティックセグメンテーション技術を用いた 3D モデル作成 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 610

21. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 大岡 知樹, 近藤 景介. 側頭骨の外視鏡手術 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 458

22. 川島 慶之, 渡邊 浩基, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 大岡 知樹, 堤 剛. 内視鏡下手術における Fat-Plug Myringoplasty の有用性 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 570

23. 大岡 知樹, 近藤 景介, 本田 圭司, 西尾 綾子, 藤川 太郎, 有泉 陽介, 大野 十央, 伊藤 卓, 川島 慶之, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 単施設における外耳道癌 80 例の後方視的検討 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 665

24. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 倉田 奈都子, 大岡 知樹, 近藤 景介. 大学病院における医師の働き方改革への対応について 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 663

25. 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 本田 圭司, 竹田 貴策, 堤 剛. 真珠腫性中耳炎の進行にかかわる黄色ブドウ球菌感染の可能性について 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 545

26. 溝口 平恵, 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 本田 圭司, 竹田 貴策, 野口 佳裕, 喜多村 健, 堤 剛. KTP または CO2 レーザーを用いたアブミ骨手術におけるレーザーの種類による手術成績の比較 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 676

27. 倉田 奈都子, 伊藤 卓, 川島 慶之, 藤川 太郎, 山本 桂, 西尾 綾子, 渡邊 愛, 堤 剛. NLRP3 遺伝子変異を認めた 2 症例の遅延造影 MRI 所見および人工内耳手術の治療経験 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 553

28. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 大岡 知樹, 近藤 景介. 側頭骨の外視鏡手術 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 458

29. 川島 慶之, 渡邊 浩基, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 大岡 知樹, 堤 剛. 内視鏡下手術における Fat-Plug Myringoplasty の有用性 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 570

30. 大岡 知樹, 近藤 景介, 本田 圭司, 西尾 綾子, 藤川 太郎, 有泉 陽介, 大野 十央, 伊藤 卓, 川島 慶之, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 単施設における外耳道癌 80 例の後方視的検討 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 665

31. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 倉田 奈都子, 大岡 知樹, 近藤 景介. 大学病院における医師の働き方改革への対応について 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 663

32. 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 本田 圭司, 竹田 貴策, 堤 剛. 真珠腫性中耳炎の進行にかかわる黄色ブドウ球菌感染の可能性について 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.04; 126(4); 545

33. 亀井 真緒, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 川島 慶之, 渡邊 浩基, 堤 剛. 顔面神経鞘腫との鑑別を要した迷路上型錐体部真珠腫例 耳鼻咽喉科臨床. 2023.03; 116(3); 207-211

34. 亀井 真緒, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 川島 慶之, 渡邊 浩基, 堤 剛. 顔面神経鞘腫との鑑別を要した迷路上型錐体部真珠腫例 耳鼻咽喉科臨床. 2023.03; 116(3); 207-211

35. 亀井 真緒, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 川島 慶之, 渡邊 浩基, 堤 剛. 顔面神経鞘腫との鑑別を要した迷路上型錐体部真珠腫例 耳鼻咽喉科臨床. 2023.03; 116(3); 207-211

36. 亀井 真緒, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 川島 慶之, 渡邊 浩基, 堤 剛. 顔面神経鞘腫との鑑別を要した迷路上型錐体部真珠腫例 耳鼻咽喉科臨床. 2023.03; 116(3); 207-211

37. 亀井 真緒, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 川島 慶之, 渡邊 浩基, 堤 剛. 顔面神経鞘腫との鑑別を要した迷路上型錐体部真珠腫例 耳鼻咽喉科臨床. 2023.03; 116(3); 207-211

38. 亀井 真緒, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 川島 慶之, 渡邊 浩基, 堤 剛. 顔面神経鞘腫との鑑別を要した迷路上型錐体部真珠腫例 耳鼻咽喉科臨床. 2023.03; 116(3); 207-211

39. 川島 慶之, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 堤 剛. 内視鏡下アブミ骨手術において Malafronte 法が有用であった 2 症例 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.02; 126(2); 139-145

40. 堤 剛, 水島 豪太, 本田 圭司, 山崎 あやめ, 大岡 知樹, 青木 夏姫. 視線追跡機能搭載型 VR ヘッドセットによる眼球運動検査装置の開発 Equilibrium Research. 2023.02; 82(1); 34-42

41. 川島 慶之, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 堤 剛. 内視鏡下アブミ骨手術において Malafronte 法が有用であった 2 症例 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.02; 126(2); 139-145

42. 堤 剛, 水島 豪太, 本田 圭司, 山崎 あやめ, 大岡 知樹, 青木 夏姫. 視線追跡機能搭載型 VR ヘッドセットによる眼球運動検査装置の開発 Equilibrium Research. 2023.02; 82(1); 34-42

43. 川島 慶之, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 堤 剛. 内視鏡下アブミ骨手術において Malafronte 法が有用であった 2 症例 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.02; 126(2); 139-145

44. 川島 慶之, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 堤 剛. 内視鏡下アブミ骨手術において Malafronte 法が有用であった 2 症例 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.02; 126(2); 139-145

45. 川島 慶之, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 堤 剛. 内視鏡下アブミ骨手術において Malafronte 法が有用であった 2 症例 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.02; 126(2); 139-145

46. 川島 慶之, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 堤 剛. 内視鏡下アブミ骨手術において Malafronte 法が有用であった 2 症例 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2023.02; 126(2); 139-145

1. Bai, J; Ito, T; Fujikawa, T; Honda, K; Kawashima, Y; Watanabe, H; Kurata, N; Tsutsumi, T. Three-dimensionally visualized ossification and mineralization process of the otic capsule in a postnatal developmental mouse LARYNGOSCOPE INVESTIGATIVE OTOLARYNGOLOGY. 2023; 8(4); 1036-1043

[講演 · 口頭発表等]

1. Tsutsumi Takeshi, Aoki Natsuki, Yamazaki Ayame, Takeda Takamori, Honda Keiji. ヘッドマウントディスプレイをベースとした VOG 装置の開発 (Development of head mounted display-based VOG device). Equilibrium Research 2023.10.01

2. Takeshi Tsutsumi. Short-term outcome of 98 external auditory canal cancer treated at a single institution . 7th World Congress of the International Federation of Head and Neck Oncologic Societies (IFHNOS) 2023.06.23

1. 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 西尾 綾子, 本田 圭司, 竹田 貴策, 丸山 絢子, 堤 剛. ANCA 関連血管炎性中耳炎の造影 MRI 所見. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

2. 川島 慶之, 渡邊 浩基, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 竹田 貴策, 丸山 絢子, 堤 剛. Pretragal Superficial Musculoaponeurotic System Fascia を用いた内視鏡下 Fat-Plug Myringoplasty. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

3. 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 倉田 奈都子, 竹田 貴策, 堤 剛. キヌタ · アブミ関節固着の 5 症例. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

4. 伊藤 卓, 藤川 太郎, 川島 慶之, 本田 圭司, 竹田 貴策, 丸山 絢子, 堤 剛. リン酸カルシウム系骨ペースト, ダイレクトインジェクトを用いた乳突腔充填. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

5. 本田 圭司, 梶野 晃雅, 伊藤 卓, 川島 慶之, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 丸山 絢子, 竹田 貴策, 堤 剛. 内耳ペンドリン発現細胞の遺伝子プロファイル比較. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

6. 丸山 絢子, 川島 慶之, 福永 陽子, 西尾 綾子, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 堤 剛. 幼若マウスへのシスプラチン全身投与により惹起される蝸牛有毛細胞障害における MET チャネルの関与. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

7. 梶野 晃雅, 溝口 由丸, 伊藤 卓. 鼓室形成術後に発症した浅側頭動脈瘤例. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

8. 溝口 由丸, 伊藤 卓, 堤 剛. 鼓膜画像からの深層学習による耳疾患診断, および鼓膜画像生成の試み. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

9. 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 西尾 綾子, 本田 圭司, 竹田 貴策, 丸山 絢子, 堤 剛. ANCA 関連血管炎性中耳炎の造影 MRI 所見. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

10. 川島 慶之, 渡邊 浩基, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 竹田 貴策, 丸山 絢子, 堤 剛. Pretragal Superficial Musculoaponeurotic System Fascia を用いた内視鏡下 Fat-Plug Myringoplasty. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

11. 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 倉田 奈都子, 竹田 貴策, 堤 剛. キヌタ · アブミ関節固着の 5 症例. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

12. 伊藤 卓, 藤川 太郎, 川島 慶之, 本田 圭司, 竹田 貴策, 丸山 絢子, 堤 剛. リン酸カルシウム系骨ペースト, ダイレクトインジェクトを用いた乳突腔充填. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

13. 本田 圭司, 梶野 晃雅, 伊藤 卓, 川島 慶之, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 丸山 絢子, 竹田 貴策, 堤 剛. 内耳ペンドリン発現細胞の遺伝子プロファイル比較. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

14. 川島 慶之. 外耳癌　診断から治療 · 術後管理まで　耳科手術専門医が知っておきたい技術　外耳道癌の早期診断に向けて　外耳道癌新鮮例 79 例の診断確定までの臨床像. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

15. 丸山 絢子, 川島 慶之, 福永 陽子, 西尾 綾子, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 堤 剛. 幼若マウスへのシスプラチン全身投与により惹起される蝸牛有毛細胞障害における MET チャネルの関与. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

16. 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 西尾 綾子, 本田 圭司, 竹田 貴策, 丸山 絢子, 堤 剛. ANCA 関連血管炎性中耳炎の造影 MRI 所見. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

17. 川島 慶之, 渡邊 浩基, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 竹田 貴策, 丸山 絢子, 堤 剛. Pretragal Superficial Musculoaponeurotic System Fascia を用いた内視鏡下 Fat-Plug Myringoplasty. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

18. 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 倉田 奈都子, 竹田 貴策, 堤 剛. キヌタ · アブミ関節固着の 5 症例. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

19. 伊藤 卓, 藤川 太郎, 川島 慶之, 本田 圭司, 竹田 貴策, 丸山 絢子, 堤 剛. リン酸カルシウム系骨ペースト, ダイレクトインジェクトを用いた乳突腔充填. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

20. 本田 圭司, 梶野 晃雅, 伊藤 卓, 川島 慶之, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 丸山 絢子, 竹田 貴策, 堤 剛. 内耳ペンドリン発現細胞の遺伝子プロファイル比較. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

21. 丸山 絢子, 川島 慶之, 福永 陽子, 西尾 綾子, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 堤 剛. 幼若マウスへのシスプラチン全身投与により惹起される蝸牛有毛細胞障害における MET チャネルの関与. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

22. 溝口 由丸, 伊藤 卓, 堤 剛. 鼓膜画像からの深層学習による耳疾患診断, および鼓膜画像生成の試み. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2023.11.01

23. 本田 圭司, 青木 夏姫, 山崎 あやめ, 竹田 貴策, 近藤 景介, 西尾 綾子, 堤 剛. Virtual Reality ヘッドセット型眼球運動検査装置を用いた vHIT の性能評価. Equilibrium Research 2023.10.01

24. 竹田 貴策, 太治野 純一, 堤 剛, Merfeld Daniel. 周波数別のヒトの認知と VOR 閾値の解析比較. Equilibrium Research 2023.10.01

25. 溝口 由丸, 本田 圭司, 堤 剛. 大規模言語モデルを用いためまいの自動問診アプリケーション. Equilibrium Research 2023.10.01

26. 山崎 あやめ, 青木 夏姫, 竹田 貴策, 大岡 知樹, 近藤 景介, 西尾 綾子, 本田 圭司, 堤 剛. 持続性知覚性姿勢誘発めまい患者における視線収束性の検討. Equilibrium Research 2023.10.01

27. 梶野 晃雅, 本田 圭司, 堤 剛. 胎生期マウス内リンパ嚢のシングルセル遺伝子発現解析. Equilibrium Research 2023.10.01

28. 伊藤 卓, 川島 慶之, 藤川 太郎, 山本 桂, 西尾 綾子, 丸山 絢子, 堤 剛. 貼付型骨導補聴器 ADHEAR および軟骨伝導補聴器の購入に至った一側性外耳道閉鎖症 9 例. Audiology Japan 2023.09.01

29. 伊藤 卓, 川島 慶之, 藤川 太郎, 山本 桂, 西尾 綾子, 丸山 絢子, 堤 剛. 貼付型骨導補聴器 ADHEAR および軟骨伝導補聴器の購入に至った一側性外耳道閉鎖症 9 例. Audiology Japan 2023.09.01

30. 山本 桂, 堤 剛. 一側性重度難聴患者の大脳における神経線維の変化について　SPM による拡散テンソル解析. Audiology Japan 2023.09.01

31. 伊藤 卓, 川島 慶之, 藤川 太郎, 山本 桂, 西尾 綾子, 丸山 絢子, 堤 剛. 貼付型骨導補聴器 ADHEAR および軟骨伝導補聴器の購入に至った一側性外耳道閉鎖症 9 例. Audiology Japan 2023.09.01

32. 田中 崇嗣, 臼見 莉沙, 米満 郁男, 鈴木 康弘, 河邊 浩明, 堤 剛, 小野 卓史. 骨格性下顎前突症患者の顎矯正手術前後における睡眠呼吸動態の変化, 手術安定性と口蓋扁桃肥大との関連. 睡眠口腔医学 2023.09.01

33. 堤　剛. 外耳道癌手術を極める　当科における外耳道癌の術式選択と治療成績. 第 35 回日本頭蓋底外科学会 2023.07.06 東京

34. 溝口 平恵, 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 本田 圭司, 竹田 貴策, 野口 佳裕, 喜多村 健, 堤 剛. KTP または CO2 レーザーを用いたアブミ骨手術におけるレーザーの種類による手術成績の比較. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

35. 倉田 奈都子, 伊藤 卓, 川島 慶之, 藤川 太郎, 山本 桂, 西尾 綾子, 渡邊 愛, 堤 剛. NLRP3 遺伝子変異を認めた 2 症例の遅延造影 MRI 所見および人工内耳手術の治療経験. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

36. 本庄 需, 鈴木 猛司, 杉本 晃, 河合 優一, 鈴木 雅明, 堤 剛. VAS、VHI-10 の連日記録を用いた痙攣性発声障害に対するボツリヌストキシンの薬効評価. 日本気管食道科学会会報 2023.04.01

37. 青木 夏姫, 山崎 あやめ, 本田 圭司, 大岡 知樹, 堤 剛. コリオリ刺激による眼球回旋位と乗り物酔い感受性との検討. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

38. 峰松 深月, 溝口 由丸, 伊藤 卓, 堤 剛. セマンティックセグメンテーション技術を用いた 3D モデル作成. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

39. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 大岡 知樹, 近藤 景介. 側頭骨の外視鏡手術. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

40. 川島 慶之, 渡邊 浩基, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 大岡 知樹, 堤 剛. 内視鏡下手術における Fat-Plug Myringoplasty の有用性. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

41. 大岡 知樹, 近藤 景介, 本田 圭司, 西尾 綾子, 藤川 太郎, 有泉 陽介, 大野 十央, 伊藤 卓, 川島 慶之, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 単施設における外耳道癌 80 例の後方視的検討. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

42. 小島 史也, 大野 慶子, 溝口 平恵, 堤 剛. 外傷性顔面神経麻痺の 2 症例. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

43. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 倉田 奈都子, 大岡 知樹, 近藤 景介. 大学病院における医師の働き方改革への対応について. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

44. 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 本田 圭司, 竹田 貴策, 堤 剛. 真珠腫性中耳炎の進行にかかわる黄色ブドウ球菌感染の可能性について. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

45. 溝口 平恵, 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 本田 圭司, 竹田 貴策, 野口 佳裕, 喜多村 健, 堤 剛. KTP または CO2 レーザーを用いたアブミ骨手術におけるレーザーの種類による手術成績の比較. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

46. 倉田 奈都子, 伊藤 卓, 川島 慶之, 藤川 太郎, 山本 桂, 西尾 綾子, 渡邊 愛, 堤 剛. NLRP3 遺伝子変異を認めた 2 症例の遅延造影 MRI 所見および人工内耳手術の治療経験. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

47. 峰松 深月, 溝口 由丸, 伊藤 卓, 堤 剛. セマンティックセグメンテーション技術を用いた 3D モデル作成. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

48. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 大岡 知樹, 近藤 景介. 側頭骨の外視鏡手術. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

49. 川島 慶之, 渡邊 浩基, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 大岡 知樹, 堤 剛. 内視鏡下手術における Fat-Plug Myringoplasty の有用性. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

50. 大岡 知樹, 近藤 景介, 本田 圭司, 西尾 綾子, 藤川 太郎, 有泉 陽介, 大野 十央, 伊藤 卓, 川島 慶之, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 単施設における外耳道癌 80 例の後方視的検討. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

51. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 倉田 奈都子, 大岡 知樹, 近藤 景介. 大学病院における医師の働き方改革への対応について. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

52. 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 本田 圭司, 竹田 貴策, 堤 剛. 真珠腫性中耳炎の進行にかかわる黄色ブドウ球菌感染の可能性について. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

53. 溝口 平恵, 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 本田 圭司, 竹田 貴策, 野口 佳裕, 喜多村 健, 堤 剛. KTP または CO2 レーザーを用いたアブミ骨手術におけるレーザーの種類による手術成績の比較. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

54. 倉田 奈都子, 伊藤 卓, 川島 慶之, 藤川 太郎, 山本 桂, 西尾 綾子, 渡邊 愛, 堤 剛. NLRP3 遺伝子変異を認めた 2 症例の遅延造影 MRI 所見および人工内耳手術の治療経験. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

55. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 大岡 知樹, 近藤 景介. 側頭骨の外視鏡手術. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

56. 川島 慶之, 渡邊 浩基, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 大岡 知樹, 堤 剛. 内視鏡下手術における Fat-Plug Myringoplasty の有用性. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

57. 大岡 知樹, 近藤 景介, 本田 圭司, 西尾 綾子, 藤川 太郎, 有泉 陽介, 大野 十央, 伊藤 卓, 川島 慶之, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 単施設における外耳道癌 80 例の後方視的検討. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

58. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 倉田 奈都子, 大岡 知樹, 近藤 景介. 大学病院における医師の働き方改革への対応について. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

59. 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 本田 圭司, 竹田 貴策, 堤 剛. 真珠腫性中耳炎の進行にかかわる黄色ブドウ球菌感染の可能性について. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

60. 溝口 平恵, 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 本田 圭司, 竹田 貴策, 野口 佳裕, 喜多村 健, 堤 剛. KTP または CO2 レーザーを用いたアブミ骨手術におけるレーザーの種類による手術成績の比較. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

61. 倉田 奈都子, 伊藤 卓, 川島 慶之, 藤川 太郎, 山本 桂, 西尾 綾子, 渡邊 愛, 堤 剛. NLRP3 遺伝子変異を認めた 2 症例の遅延造影 MRI 所見および人工内耳手術の治療経験. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

62. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 大岡 知樹, 近藤 景介. 側頭骨の外視鏡手術. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

63. 川島 慶之, 渡邊 浩基, 本田 圭司, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 大岡 知樹, 堤 剛. 内視鏡下手術における Fat-Plug Myringoplasty の有用性. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

64. 大岡 知樹, 近藤 景介, 本田 圭司, 西尾 綾子, 藤川 太郎, 有泉 陽介, 大野 十央, 伊藤 卓, 川島 慶之, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 単施設における外耳道癌 80 例の後方視的検討. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

65. 堤 剛, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 本田 圭司, 倉田 奈都子, 大岡 知樹, 近藤 景介. 大学病院における医師の働き方改革への対応について. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

66. 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 本田 圭司, 竹田 貴策, 堤 剛. 真珠腫性中耳炎の進行にかかわる黄色ブドウ球菌感染の可能性について. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2023.04.01

[その他業績]

1. 「 難聴遺伝子 SLC26A4 の機能不全によって引き起こされる前庭障害の病態解明 」 — モデルマウスの形態異常と眼球運動解析 —, 2023 年 06 月
2. 「 難聴遺伝子 SLC26A4 の機能不全によって引き起こされる前庭障害の病態解明 」 — モデルマウスの形態異常と眼球運動解析 —, 2023 年 06 月
   Neurobiology of Disease

[社会貢献活動]

1. 「前庭神経炎」に関する記事監修について, 株式会社メディカルノート, Medical Note, 2023 年 03 月 23 日
2. 医師の働き方改革、2024 年 4 月の勤務医の時間外労働規制の受け止めと対策について, 日本経済新聞, 日本経済新聞本紙／電子版記事, 2023 年 04 月 13 日
3. シニアのめまい　原因と治療について, 婦人之友社, 明日の友, 2023 年 05 月 11 日 - 現在
4. コミュニケーション対策【認知症へのリスクを上げる難聴】について, さくら舎, 単行本書籍（46 判並製）, 2023 年 07 月 10 日
5. 車酔いが起こるしくみについて, 朝日学生新聞社, 朝日小学生新聞, 2023 年 07 月 25 日

脳神経病態学

Neurology and Neurological Science

教授	横田隆徳
准教授	西田陽一郎
講師	桑原宏哉、服部高明
助教	石黒太郎、八木洋輔、小野大介、鈴木基弘
特任教授	三條伸夫、内原俊記
プロジェクト教授	永田哲也
プロジェクト准教授	中山東城
プロジェクト講師	原　倫太朗
プロジェクト助教	平田浩聖、浅見裕太郎
特任助教	東美和、坂上史佳、吉岡耕太郎、大原正裕
特任研究員	天野晶子、スースーレイモン、友利貴人
大学院生	長谷川樹里、宮下彰子、佐野達彦、市野瀬慶子、丸岡浩之、西李依子、山田茜、喜納里子、佐藤武文、三浦元輝、松田さきの、柳平貢、大谷泰、新谷晶子、戸出のぞみ、玉木香菜、岩瀬遼、松林泰毅、島野薫、天野永一郎、福島明子、保浦明日香、野田浩太郎、黒田隆之黒岩伸明、夏井洋和、青山尚史、矢野由絹、勝山真帆、園原照隆賈春燕、陳清夢、タンヤラートバナワンシル、安田和真、山本尚汰、小山佳奈子
医員	木塚成美、三宅亮、河合ほなみ、渡辺由衣、吉浜れい
レジデント	松本仁圭、和泉貴生、高島良子、三條佑太

(1)　分野概要

脳神経病態学分野（脳神経内科）は、ヒトにとってそのアイデンティティを決定する最も大切な脳を含む神経 · 筋の疾患を扱う分野です。 その診療は問診と全身の神経診察からの情報が診断の中心となる内科の中でも最も内科らしい診療科です。
脳神経内科は頭痛 · めまい · しびれ · ふらつき · 物忘れなどの日常よくある症状の初期診療を行い、脳卒中（脳血管障害）、認知症、てんかんなどの頻度の多い疾患（コモンディジーズ）から、多発性硬化症などの神経免疫疾患、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患を含む神経難病や、筋ジストロフィー症などの筋疾患など多岐に渡る疾患を担当しています。今後もこれらの神経内科の多種 · 多様な疾患を広くカバーし 、バランスのとれた良質の診療を提供していきます。
当科は初代塚越廣教授、2 代目宮武正教授、3 代目水澤英洋教授、4 代目横田隆徳教授の時代を通じて臨床の充実を何よりも重視し、その研究は臨床から見出した問題点を解決する臨床問題解決型の研究を行って参りました。その結果、数々の世界トップクラスの研究成果を発信すると共に優れた人材を輩出してきました。今後もその姿勢を堅持していきつつ、さらに新時代の研究理念として、分子生物学 · 化学 · 神経科学などの基礎科学を出発点として疾患の病因究明 · 根本治療を目指す科学解決型の研究も併せて行っていきたいと思います。
研究科としては最も複雑で高度に分化した臓器である脳を対象とした神経科学を研究する一方、「リサーチユニバーシティ」や「オープンイノベーション機構」として認定された東京医科歯科大学の中核として、研究成果を臨床

へ応用するトランスレーショナルリサーチを実践していきます。21 世紀は基礎科学と臨床医学が融合し、革新的治療の生まれる「治療の世紀」になるものと予測されます。内科の研究の最終目標の 1 つは創薬であり、次世代の治療戦略は単一分子を標的としたバイオ医薬の開発と細胞治療を含む再生医療であることは間違いありません。私どもは、次世代バイオ医薬開発を含めた神経疾患の新規治療でも社会に貢献していきたいと考えております。本格的な少子高齢化社会を迎え、アルツハイマー病や脳卒中の診療の担い手となる脳神経内科医への期待はますます高まっております。時代の要請に応えるべく、「神経疾患の克服」を教室の目標として神経内科学を発展させていきたいと思います。

(2) 研究活動

当研究室は、本学脳統合機能研究センター (CBIR) で認知症研究部門の基礎研究室を合わせて運営しており、アルツハイマー病などの神経変性疾患の新規核酸医薬（ヘテロ核酸）や抗体医薬を用いた分子標的治療、診断の研究を行っています。現在、文科省科学研究費基盤 S や AMED の先端的バイオ事業や脳科学研究戦略推進プログラム（脳プロ、融合脳）の 3 つの国家プロジェクトや複数の大手製薬企業との大型共同研究によって、継続的にかつ基礎から臨床に及ぶ広範囲の研究を行い、発展させています。
当教室の研究テーマは下記のように多岐にわたっています。
(1) 核酸グループ
(2) 先端的脳画像による病態解明、多モダリティー学習を行う「人工知能」の開発
(3) 神経疾患の体液バイオマーカーの検索
(4) アルツハイマー病の病態解明と治療薬の開発
(5) 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の原因究明と治療法開発研究
(6) 脳血管障害
(7) 脊髄小脳変性症の分子遺伝学的方法による病態解明、及び治療法開発
(8) 血液脳関門の機能制御を目指した研究
(9) 神経生理学的な臨床研究
(10) 脱髄性中枢神経疾患における神経変性プロセスの解析
(11) 神経病理

各論
(1) 核酸グループ
1．第 3 の核酸医薬の創生
次世代の創薬は分子標的治療が中核になることは間違いありませんが、核酸医薬とは 6-30 塩基の短い天然型または非天然型の核酸 (オリゴヌクレオチド) を基本骨格として利用する医薬品です。細胞膜表面のある分子しか標的にできない抗体医薬と異なって、noncoding RNA など細胞内のあらゆる RNA 分子が標的になり、さらに RNA 編集や RNA-タンパク結合制御などが可能となる優位性から次世代医薬として大きく期待されています。現在特に盛んに臨床応用が進められている核酸医薬はアンチセンス核酸医薬 (ASO)、small interfering RNA(siRNA) の 2 種類ですが、一方で肝臓以外への標的臓器への導入効率や遺伝子制御の有効性において不十分であることが課題となっていました。
我々の教室では、「第 3 の核酸医薬」として DNA/RNA ヘテロ 2 本鎖核酸を考案しました。ヘテロ核酸は従来の核酸医薬の 20-300 倍の飛躍的な有効性の向上とともに、神経系を含むあらゆる臓器や細胞への導入が可能とした革新的な新規核酸医薬で、1 本鎖 DNA である ASO や 2 本鎖 RNA である siRNA と異なる作用機序を有しています。
その革新性から既に 28 の特許プールを確保し、CREST· 革新的バイオ · 先端的バイオ事業の大型研究費を獲得し、AMED から今後の我が国の核酸医薬の創薬の中核基盤技術に指定され、医科歯科大が核酸医薬創薬の日本の拠点になりました。
さらに、2015 年 1 月にはヘテロ核酸の臨床応用を目的とした医科歯科大発のバイオベンチャー企業も立ち上がって、一部は大手製薬企業にライセンスされました。
今後、現在治療法が確立されていないパーキンソン病、ALS などの神経難病の根本治療薬開発や急性期脳梗塞の遺伝子治療などにおいて画期的な最先端の治療薬創生を目指しています。

2．ヘテロ核酸の特徴
2 本鎖ヘテロ核酸は標的 mRNA に結合するアンチセンス gapmer (LNA-DNA-LNA) の主鎖と、主鎖に相補的な RNA (cRNA) からなる非天然機能核酸です。この主鎖は両端が LNA、中央部が DNA で、2 本鎖の中央部が DNA-RNA ヘテロ核酸になるため、この部分が細胞内のエンドヌクレアーゼである RNase H によって相補鎖 RNA が切断されます。その結果、単独となった主鎖が標的 mRNA に結合して再び RNase H が標的 mRNA を切断して遺伝子抑制効果を発揮するデザインです。すなわち、RNase H が相補鎖 RNA と標的 mRNA の切断の一人二役を果たすことにより、主鎖の結合親和性に影響を与えることなく相補鎖 RNA に誘導分子を結合することが可能と

なった点が特徴の分子技術です。
２本鎖ヘテロ核酸の特徴である内在型の薬剤送達システムの導入分子として、我々の特許であるビタミン E (VE) をリガンド分子として結合させることにより、静脈投与で従来の ASO や、VE 結合 siRNA(VE-siRNA) より標的遺伝子抑制効果の飛躍的な上昇に成功し、さらにその抑制率も低投与量 (0.75mg/kg) でも 99%以上と今までにない劇的な抑制率を達成しました。その有効性は現状の核酸医薬で最高水準です。我々その新規の分子設計と投与方法によって肝臓以外の心筋、肺などほとんどの腹部臓器に到達されました。その結果、東京医科歯科大学発の 5 番目のバイオベンチャー企業として RENA Therapeutics 社が創立されましたが、本年同社が日本触媒に M&A され、確かな経営基盤が構築されて、新規の核酸修飾技術の開発を共同で行っています。

３． ヘテロ核酸の中枢神経での効果
　ヘテロ核酸においては、その効果は肝臓に限定されており、その投与ルートも静脈投与のみで有効でした。さらに最近血液脳関門を越えて中枢神経の標的遺伝子制御が可能になりました。これは大きなブレイクスルー技術となり知財を確保するとともに、大型国家プロジェクトで基盤技術のさらなる開発と主要な神経変性疾患を標的に大手製薬企業と大規模共同研究を行っています。さらに当分野が原因遺伝子を同定した SCA31 のヘテロ核酸を含む核酸医薬により原因治療も AMED の支援を受けて大手製薬企業と取り組んでいます。

その成果から既に 30 を超える多数の特許、年間 5 億円におよぶ高額の研究資金を獲得しており、今後は現在治療法が確立されていない難病の克服や更なる最先端の治療薬創生を目指しています。

（2） 先端的脳画像による病態解明、多モダリティー学習を行う「人工知能」の開発
1. 脳画像解析を用いた病態、神経ネットワーク、治療効果の可視化
私たちは、先端的な脳画像を用いることで、患者さんの脳で実際に起きている病態を「見える」ようにする研究活動、臨床応用を進めています。複数の MRI 撮像法を組み合わせることで、多彩な脳機能、構造を非侵襲的に評価するマルチモーダル脳画像を実用化しています。
具体的には、機能的 MRI を用いて、神経ネットワークを同定する機能的結合（functional connectivity）（図 A）、拡散テンソル画像を用いて白質による線維経路を同定する構造的結合（structural connectivity）（図 B）、脳のシナプス活動を反映する血流量を評価する Arterial Spin Labelling（ASL）法（図 C）によって、神経ネットワークの視覚化、定量化を行っています。
これまでに、パーキンソン病患者さんの運動機能、認知機能に関わる神経ネットワークの異常（OHBM, 2015）、灰白質や白質の異常、血流変化（Hum Brain Mapp, 2012）、ワーキングメモリー施行時の脳賦活の異常（OHBM, 2018, 図 D）、特発性正常圧水頭症（AJNR, 2011, 2012）の白質障害（図 E）、半側空間無視に関わる空間性注意の構造的結合（Brain Imaging and Behavior, 2018）（図 F）などを明らかにしてきました。
現在、画像解析を専門とする医師、大学院生、病棟医が協力して、下記の疾患の患者さんを対象に画像解析、歩行解析（両足首と腰に加速度計を装着し、治療前後や経時的に評価）、包括的認知機能評価（認知ドメインごとに評価）を行っています。
歩行解析は、単純歩行のみではなくて、7 の連続引き算をしながらの歩行（dual task）、トレーとワイングラスを持ちながらの歩行 (dual task)、その両者を当時に行いながらの歩行（triple task）なども合わせて行っています。このように、認知タスク、運動タスク、その両者の負荷が歩行に加わることで、脳内で干渉が起きて、代償機転などが取り除かれることでより病態が顕在化するのではないかと考えています。
私たちは、神経心理士によって、記憶機能（短期）、記憶機能（遅延）、視空間認知、言語機能、注意機能、遂行機能の 6 つの認知機能ドメインを、それぞれ異なる側面を評価する 2 つ以上のバッテリーで定量的に評価しています。検査結果は、同じ年齢の健常データと比較して正規化 (z-score) し、グラフにすることで可視化し、その患者で障害されている認知機能ドメインが一目瞭然となります。
A.　パーキンソン病、パーキンソン症候群
パーキンソン病やパーキンソン症候群は、ドパミン神経の変性、脱落の結果、無動、筋強剛、振戦、姿勢反射障害といった運動症状を呈し、レボドパなどの抗パーキンソン病薬によって症状が改善しうる疾患です。一方で、各症状の詳細な神経基盤や、薬剤の投与が脳の神経ネットワークにどのような変化を与えるかは十分に分かっていません。本研究では、マルチモーダル脳画像、脳内のドパミン節前細胞の神経終末を画像化する SPECT 検査、歩行解析、認知機能評価を組み合わせることで、運動症状の神経基盤を解明し、レボドパ投与による神経ネットワークの変化を明らかにすることを目指しています。また、複数の感覚入力を用いたリハビリテーションを行うことで、脳の可塑性を活用しながら運動症状の改善を目指す新たな治療法も確立してゆきます。
こうした研究の成果として、症状に対応する神経基盤が同定できるようになり、より正確な診断が可能となり、治療の効果も可視化できることで、各患者さんに適した治療選択が可能となることが期待されます。
B.　筋萎縮性側索硬化症
筋萎縮性側索硬化症 (Amyotrophic Lateral Sclerosis, ALS) は、大脳の運動野と脊髄の前角細胞という運動神経に選択的な障害がおきる運動ニューロン疾患として知られています。今日、ALS では運動野以外の脳領域にも障害が進展してゆくことが知られてきています。一方、通常の MRI では、ALS による脳の異常を捉えることは困難で、診断に苦慮することがあります。そこで、我々は、神経ネットワークの評価、灰白質の体積、白質の微小構

造、脳血流などのマルチモーダル脳画像、電気生理検査、歩行解析を組み合わせることで、ALS 患者さんの脳内の構造的、機能的な異常の可視化を目指しています。
こうした研究の成果として、ALS における上位運動ニューロン障害を含む脳の障害が可視化され、正確な診断、進行度の評価、治療法の効果判定が可能となることが期待されます。

C.　特発性正常圧水頭症とその類縁疾患

特発性正常圧水頭症（idiopathic normal pressure hydrocephalus, iNPH）は、歩行障害、認知機能障害、尿失禁を特徴とする症候群です。iNPH は治療可能な認知症と位置づけられており、超高齢化社会の到来を受けて iNPH の診断の重要性はさらに高まっていますが、その神経基盤は未だに明らかではありません。そこで、我々は髄液除去テスト前後でマルチモーダル脳画像、歩行解析、認知機能評価を行うことで、髄液除去テストによって改善する iNPH の症状の神経基盤を同定しようとしています。
一方で、これまでの先行研究では、iNPH との診断のもとでシャント手術を施行されたが、のちになって症状が悪化し、剖検にて別の中枢神経疾患であったとする症例も報告されています。こうした報告より、我々は中枢神経疾患を基盤に二次的に髄液除去テスト陽性となる iNPH に類似した病態があるのではないかと考えています。そのために、中枢神経疾患を有する患者さんに髄液除去テストを行い、症状とマルチモーダル脳画像の変化を比較検討する前向き研究を開始しております。
こうした研究の成果として、iNPH や髄液除去テスト陽性となる中枢神経疾患の疫学、病態、神経基盤が明らかになり、正確な診断に基づいたより適切な治療選択が可能となることが期待されます。

D.　多発性硬化症、視神経脊髄炎

多発性硬化症（multiple sclerosis, MS）は、若年の患者さんに好発し、多彩な神経症状を発症しながら、脳や脊髄に多発した病変が蓄積していくことで、症状が進行してゆく疾患です。その根本的治療法はまだ確立されていませんが、疾患の病勢をコントロールするための複数の疾患修飾療法（disease modifying therapy, DMT）が使用可能となっています。MS の疾患活動性や DMT への応答は、患者さんごとに大きく異なっていますが、これらを短期間で正確に評価することは現状では困難です。
一方、MS に似ているが異なる疾患として視神経脊髄炎（Neuromylelitis Optica, NMO）があります。NMO では、視神経や脊髄のみならず、脳内にも炎症が起き、中枢神経に病変が蓄積していきます。NMO の治療として免疫抑制療法が使用されることが一般的ですが、NMO の疾患活動性や免疫抑制療法への反応性を、短期間に正確に評価することは現状では困難です。
我々は、MS や NMO の疾患活動性を正確に評価し、かつ、日常臨床の一環としても実施可能で実用的なバイオマーカーの確立を目指しています。そのために、MS や NMO の患者さんを対象にマルチモーダル脳画像、歩行解析、認知機能評価などを用いた詳細な臨床評価をおこなうデータベースを確立しようとしています。
こうした研究の成果として、MS や NMO の疾患活動性がより正確に把握できるようになり、適切に DMT や免疫抑制療法を使用することで、疾患の再発を抑え、症状の進行を抑止できるようになることが期待されます。

E.　脳のシステムとしてのネットワーク解析：グラフ理論

我々は、脳全体のネットワークを包括的に解析しています。具体的には、MRI などから得られる 3 次元 T1 強調像、拡散テンソル画像、機能的 MRI 画像、脳血流などのデータからそれぞれ脳の各領域間の解剖学的、機能的な結合度 (connectivity) の情報を抽出します。
ネットワークを解析する手法として、主にグラフ理論を用いています。グラフ理論とは、脳を数百の細かい領域（ノード）に分割をして、その領域間が結合しているときには線分（エッジ）で結ぶことで作り出される幾何学的図形を数学的に解析します。その結果、ネットワークとしての機能を、機能的分離の程度、機能的統合の程度、ネットワークのクラスター化の程度などの観点から、定量的に評価することが可能となります。
神経変性疾患では、病気の原因となる異常タンパク質が、特定の進展パターンをとりながら、脳領域特異的に蓄積して行きます。したがって、全脳の構造的な障害パターンには、原因となる異常タンパク質の進展、蓄積が反映されていると推測しています。具体的には、アルツハイマー病やパーキンソン病の患者の 3 次元 T1 強調画像を用いて、脳の構造的ネットワークの変化をグラフ理論によって解析し、障害されている領域群をネットワーク論の観点から同定しようとしています。その障害パターンには、アミロイド、タウ、シヌクレインといった疾患特異的なタンパク質の進展、蓄積が反映されていると考えており、その証明を試みています。
将来的には、グラフ理論などのネットワーク解析を、マルチモーダル脳画像の解析に応用し、病態把握、治療によるネットワークの変化の把握、人工知能による学習と判断、へと応用していきます。

2. 多モダリティーの情報から統合的に学習できる「人工知能」の開発

私たちは、先端的脳画像（神経ネットワーク、白質や灰白質の構造の評価、脳ドパミン前終末の画像など）に加えて、歩行解析、動画解析、包括的認知機能評価を、脳の各システムが障害された疾患群を対象に行っており、薬剤の投与前後の評価も含むデータベースを構築し、脳の障害されたシステムの同定や薬剤による治療効果を推定する「マルチモーダル学習」を実装した人工知能の基盤を開発しています。

A.　マルチモーダル脳画像の深層学習による病態把握

我々が集積している先端的脳画像の中には、障害された脳のシステム、発症前の顕在化しない病態、治療効果などの膨大な情報が含まれていることが想定されます。
近年、人工知能が急速に発達し、なかでも特に深層学習を利用した画像分類の精度が飛躍的に向上しています。そ

こで私たちは、先端的脳画像を入力データとして、疾患名、行動学的指標などを教師データとして与える「教師あり」学習モデルを構築し、未知の患者の先端的脳画像を入力すると、高い精度での病態把握が可能となる人工知能の確立を目指しています。
深層学習に脳 MRI 画像に適用して解析するには、複数の課題がありますが、下記のように解決しながら進めています。
① 限られたデータ数からの深層学習：転移学習
深層学習は複雑な画像のようなデータを入力とし、高い精度での予測を実現していますが、その性能を発揮するには大量のデータが学習に必要となります。しかしながら医療施設では、そのように大量のデータを集めることは簡単ではありません。そこで、「転移学習」という手法を利用して、目的の画像とは異なる画像を用いて事前に学習させたモデルを用いて、目的の画像を後で追加学習させています。
② 深層学習の可視化：Grad-CAM
畳み込みニューラルネットワークを利用した深層学習は、画像認識の領域で高い性能を発揮していますが、判断の過程が不透明であることが課題となっています。そこで、人工知能の判断根拠を可視化するために、私たちは、Grad-CAM (Gradient-weighted Class Activation Mapping) 技術を採用しています。これによって、深層学習が MRI 画像でどの領域に注目して判断をしたかを可視化しています。

(3) 神経疾患の体液バイオマーカーの検索
当教室では、神経疾患のバイオマーカーとなるマイクロ RNA（miRNA）の検索を行ってまいりました。2014〜2018 年度まで独立行政法人新エネルギー · 産業技術総合開発機構（NEDO）における「体液中マイクロ RNA 測定技術基盤開発」に参加し，同開発事業で得られたバイオマーカー候補の miRNA について、各種の神経疾患における比較検討を行い、疾患特異度の検討を行うこと、病態生理上の意義付けを検討する役割を担当いたしました。
神経疾患では血液と脳脊髄液中の miRNA の対比が重要であると考えられますが、脳脊髄液中の miRNA はその発現量が少ないため、網羅的なアレイ解析方法や定量的評価方法がいまだ確立されていません。私たちは、神経疾患のバイオマーカーとしての脳脊髄液中 miRNA の網羅的解析方法を確立することを目標の一つとしています。
さらに、今後は次世代シークエンサー (NGS) 等のツールを用いて、miRNA 以外の small RNA, lncRNA (long noncoding RNA), circular RNA (circRNA) といった新しいタイプの RNA バイオマーカーの開発を展開していく予定です。
臨床の教室としての強みを活かし、運動ニューロン疾患やアルツハイマー病をはじめとする神経変性疾患、多発性硬化症、免疫介在性ニューロパチーなど多様な神経疾患を対象に、臨床情報と RNA データベースを有機的に統合し、神経疾患の診断、治療に有用な RNA バイオマーカーの研究を進めています。

(4) アルツハイマー病の病態解明と治療薬の開発
厚生労働省の発表によると、日本国内において、2012 年時点で 65 歳以上の高齢者の 15%が認知症であり、認知症の高齢者は約 462 万人（7 人に 1 人）であり、前段階である軽度認知機能障害が約 400 万人です。その約半数がアルツハイマー病であると考えられています。アルツハイマー病は 65 歳以降にその発症率が急増するため、効果的な開発が急務となっています。アルツハイマー病はアミロイド β タンパク質 (A β) の凝集 · 沈着した老人班、異常タウタンパク質からなる神経原線維変化、神経細胞の脱落を病理学的特徴としています。近年、アミロイド β 蛋白 (A β) の低分子重合体であるオリゴマー (A β O) が強い神経毒性を有し、アルツハイマー病発症前の初期病態に強く関わっていることが明らかとなりました。そこで、当グループでは、我々の開発した画期的な高分子の BBB の通過技術（以下（8）参照）や抗体の遺伝子工学的技術を用いて、A β O に対する特異的抗体を脳内に導入し A β O を画像化することで、アルツハイマー病発症前リスクを評価し、同じ抗体に A β O 毒性緩和効果を担わせることで治療効果も実現する「theranostics」医療の実現を目指しています（脳プロ、融合脳プロジェクト）。
強い毒性を有する A β O は不安定なため、ウエスタンブロッティングなどの一般的な生化学的解析方法では定量評価することができず、これまでの研究報告では、安定な老人斑の数を測定するなどの方法で抗体薬のアミロイド除去効果を測定していました。我々は、A β O の新たな測定方法を開発し、脳内の可溶性 A β O を測定する技術の開発に成功しました。
さらに、我々はアルツハイマー病に関係深い酸化ストレスによる病態メカニズムについても研究をすすめています。我々が独自に作製した慢性酸化ストレスモデルマウスである a-TTP ノックアウトマウスを用いて、2006 年にアルツハイマー病モデル · マウスの症状が酸化ストレスにより増悪すること (Nishida et al, BBRC 2006)、2009 年にはその増悪する機序がアミロイド β 蛋白の脳内からのクリアランス低下によることを報告しました (Nishida et al, JBC 2009)。さらにマイクロアレイ解析などダイナミックに進化し続ける遺伝子や蛋白の網羅的な解析技術を駆使し、老化や酸化ストレスに着目したアルツハイマー病の病態メカニズムに関与する新役者として、Phospholipase A2 group 3 (Pla2g3) を発見しました。Pla2g3 が増加することによりアミロイド β 分解酵素である IDE が減ることを報告しました (Yui et al, PLoS One 2015)。
以上のように社会からの要望に応えるべく、我々は新たなアルツハイマー病の治療法開発に向けて基礎研究に励んでいます。

(5) 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の原因究明と治療法開発研究

1. ALS 病変の進展形式　multifocal hits and local propagation hypothesis

代表的な神経変性疾患であるアルツハイマー病やパーキンソン病では、プリオン病のように疾患に関連するタンパク (タウや α シヌクレイン) がある一定のパターンをもって隣接した領域へ広がっていくことが報告されています。我々は ALS 患者を対象に経時的な電気生理学的検査を行い、ALS における病変の進展形式を評価し、その特徴を考察しました。その結果、ALS においては、隣接した領域への単純な進展 (single seed and simple propagation hypothesis) のみでなく、遠隔領域への非連続的な進展 (multifocal hits and local propagation hypothesis) を示す患者群が存在することが明らかになりました (Sekiguchi T. et al. J Neurol Neurosurg Psychiatry 2013)。

ALS における特徴的な病変の進展を担う因子として、我々は細胞外小胞 (Extracellular vesicles: EVs、特に exosome) という微小胞に着目して研究を行っています。Exosome は細胞表面から放出される微小胞であり、その内部にはタンパクだけでなく脂質、microRNA や mRNA などの核酸が存在することが分かっており、細胞間の情報伝達や不要物の排泄を担っていると考えられています。我々はこの EV の中に TDP-43 断片が含まれていることを培養細胞レベルで証明しました。また培養細胞から回収した EV をマウス大脳に接種すると、EV 内に存在する TDP-43 は神経細胞に取り込まれるだけでなく、神経回路に沿って別の部位へ伝播されることが判明しました。この研究により ALS の疾患進行の機序が明らかになれば、ALS ひいてはその他の神経変性疾患の進行を抑制する新たな治療方法の開発が可能となると我々は考えています。

2. ALS の治療法開発

ALS の原因遺伝子の一つである TDP-43 を過剰に発現させると細胞質内に異常な凝集体が形成され、ショウジョウバエでは複眼変性を引き起こします。このモデルに、TDP-43 に結合する RNA を共発現させると複眼変性が改善されたことから、正常な神経細胞の維持には、RNA と RNA 結合タンパク質である TDP-43 のバランスが重要であり、この破綻が ALS を引き起こしている可能性を見出しました（Ishiguro T et al. Neuron 2017）。このバランスの不均衡を是正する新規治療薬の開発を目指しています。さらもこの知見から TDP-43 に結合する bait アンチセンス核酸を創生して、ALS のモデルマウスの治療実験を行っています。

(6) 脳血管障害

１．臨床研究

急性期脳梗塞を対象に、連携病院の協力のもと画像解析、臨床スコアの開発などを行っています。特に、ESUS（Embolic Stroke of Undetermined Source; 塞栓源不明の脳梗塞) における心房細動検出手段の開発 (Yoshioka K, et al. JSCVD 24; 2263-9, 2015)、及び、脳梗塞での側副血行路の画像サインや関連する因子の解析 (Ichijo M, et al. Stroke. 44: 512-5, 2013、Yoshioka K, et al. Neuroradiology 55:165-9, 2013、Ichijo M, et al. AJNR. 36; 1839-45, 2015 など) を行い、より良い急性期脳梗塞治療の開発を目指しています。最近では、血圧の管理によって脳梗塞発症時の側副血行路の発達が良好になることも発見しました (Fujita K, et al. Stroke 50: 1751-57, 2019)。これらの臨床研究で得られた新たな知見を、当院血管内治療科と共同で行なっている脳梗塞の急性期血行再建手術時の側副血行路評価などにも応用することによって、脳梗塞の最適な血行動態制御を目指しています。

２．基礎研究

日本で最も受療率が高く寝たきりの最大の原因となっている脳血管疾患の根本的な治療法開発に取り組んでいます。主に脳梗塞モデルマウス及び、細胞脳虚血モデルを使って臨床応用へむけた新たな治療法を開発しています。

a. 虚血用ライガンド結合型ヘテロ核酸を用いた脳保護療法の開発

急性期脳梗塞において、ペナンブラ領域の細胞死の病態は大分解明されつつありますが、臨床的に病態制御効果を証明出来た治療法はありません。急性期脳梗塞では脳血管関門の破綻が生じるのは発症 24 時間以降で、病態制御が大きな効果を発揮すると期待される超急性期（発症 24 時間以内）には、薬剤が虚血脳に到達しないことが大きな問題と考えられます。我々は、抜群の遺伝子抑制効果を持つヘテロ核酸に脳梗塞超急性期であっても脳内に到達することの出来るライガンドを結合することで、虚血部位選択的に超急性期の病態を制御することに成功しました。

現在、虚血用ライガンド結合型ヘテロ核酸を用いて、脳梗塞の新規治療の開発を行なっています。

b. 神経及び血管再生治療の開発

神経幹細胞、間葉系幹細胞を障害された脳を蘇らせる有用なリソースとして考えて、これらの細胞の移植あるいは、Galectin-1 などの幹細胞制御因子の投与により脳梗塞による神経症状の改善効果があることを見出してきました。一方で、それらの細胞の生存に必須な脳血流を維持すること、あるいは臨床的に見出した側副血行路による脳保護効果を人為的に発揮させるための手段の開発として、軟膜動脈による側副血行路発達を目指した研究を行っています。我々は、S1PR1(Sphingosine 1-phosphate receptor 1) シグナルに注目しています。この受容体関連シグナルを制御することにより、側副血行路の発達を促すことが出来ることを見出しました。

(7) 脊髄小脳変性症の分子遺伝学的方法による病態解明、及び治療法開発

１．脊髄小脳変性症の病態解明と治療法開発のための研究

当研究グループは 1997 年 4 月に発足し、α 1A-カルシウムチャネル遺伝子の 3 塩 (CAG) 繰り返し配列の異常伸長で起きる SCA6 と、非コード型 5 塩基繰り返し配列が 2 方向に転写されて起きる SCA31 という 2 つの疾患について研究をしてきました。 SCA6 については、遺伝子座解明と臨床症状と遺伝子変異との関係 (Ishikawa et al. AJHG, 1997; Takahashi H. et al. J Hum Genet, 2003)、患者脳内でカルシウムチャネルが凝集することの世界的発見 (Ishikawa K. et al. Hum Mol Genet, 1999; Ishikawa K. et al. Neurology, 2001; Ishiguro T. et al. Acta Neuropathol, 2010) などを行い、脳統合機能研究センター渡瀬啓准教授と共同して動物モデル作製 · 解析にも貢献しました (Watase K. et al. PNAS, 2008; Unno T. et al. PNAS, 2012)。現在でも患者脳で蛋白凝集が起こす病態の研究を継続しており (Takahashi M et al, 2013, PLoS One)、世界中から SCA6 の標本を受け入れて独自の特異抗体で免疫染色を行っております。 SCA31 については、2000 年に原因遺伝子座を発見し (Nagaoka U, et al. Neurology, 2000)、ヒトゲノムがまだ未解読の時代に独自で物理地図絞り込みを行い (Li M, et al. J Hum Genet, 2003), 候補遺伝子 puratrophin-1 の発見と創始者ハプロタイプの解明 (Ishikawa K & Toru S et al. AJHG, 2005; Amino T et al. J Hum Genet, 2007) を経て、遂に 2009 年に原因が 2 つの遺伝子 BEAN と TK2 の共有するイントロン内に存在する 5 塩基繰り返し配列であることを突き止めることができました (Sato N & Amino T et al, AJHG, 2009)。その成果はＮＨＫニュース「おはよう日本」でも報道されました。SCA31 の病態は、SCA6 と異なり非コード型 RNA リピートの存在が重要です。患者脳では RNA の異常凝集が見えます。なぜこのような凝集体が形成され、それがどのような意味を持つのか、異常 RNA の配列や RNA に結合する蛋白の解明などについてモデルマウスやモデル培養細胞を用いて研究し、培養細胞でも RNA の高次構造異常が確認され、それが細胞寿命に影響することも報告しました (Niimi Y. et al., Neuropathology，2013)。ショウジョウバエモデルでは ALS に深く関係する蛋白 TDP43 が SCA31 の遺伝子毒性を緩和することを発見し (Ishiguro T et al. Neuron 2017)、患者で類似の病態が起きているかを今後検証する計画です。
共同研究の体制は、国内だけでなく、海外 (アメリカ、ドイツ、フランス、カナダなど) の一流研究者とも盛んに行っております。さらに当分野が開発したヘテロ核酸を含む核酸医薬による治療開発も AMED の支援を受けて大手製薬企業と取り組んでいます。今後も私たちはこれらの疾患の根本的な治療法開発を目指して研究を進めたいと思っております。

2. 臨床試験
2015 年度より多系統萎縮症についての多施設共同研究を行っています。そのほか、脊髄小脳変性症の一部についての臨床試験の計画もございます。詳細は、本学医学部付属病院臨床試験センターホームページで公開しております。

3. バイオインフォマティクスを活用した分子遺伝学的な病態研究
現代は、情報過多とも言えるデータベースなどの充実とともに、情報科学的な病態研究の方法が分子生物学のデータ解釈におけるあらゆる局面において重要性を増してきております。まだこれ単独では具体的な業績につながっておりませんが今後も継続して注力していきます。

(8) 血液脳関門の機能制御を目指した研究
多くの中枢神経疾患の治療を困難にしている大きな原因の 1 つとして、血液から脳への物質輸送を厳密に制御する生体内バリア機構としての血液脳関門（blood brain barrier：BBB）の存在があげられます。BBB では脳微小血管内皮細胞がバリア機能の中核を成し、脳の活動に必須な栄養成分を選択的に輸送する一方で、多くの薬剤の脳への送達を著しく制限しています。
我々は、脳の主要なエネルギー源であるグルコースの、脳微小血管内皮細胞におけるグルコーストランスポーター 1（glucose transporter-1：GLUT1）を介した生理学的な輸送経路を活用し、血液脳関門を効率的に通過する薬剤送達技術を開発しました（Anraku Y, Kuwahara H, et al. Nat Commun 2017)。本技術は、生体側のコンディショニングとしての血中グルコース濃度の変化に応答して、静脈内投与したグルコース修飾ナノ粒子が脳微小血管内皮細胞の内部を通過するもので、既存の技術と比較して桁違いに高い効率での脳内への集積を実現します。本技術を基に、大学発バイオベンチャー「株式会社 Braizon Therapeutics」が設立され、抗体医薬や核酸医薬などの様々な中〜高分子薬剤を脳へと送達する基盤技術としての発展に向けて、研究開発を進めています。
また、脳微小血管内皮細胞の間隙を通過する新規の薬剤送達技術も開発しました（Zeniya S, Kuwahara H, et al. J Control Release 2018)。血液脳関門のバリア機能に大きく寄与するタイトジャンクションの中でも、最近になってその特性が分かり始めてきた三細胞間のタイトジャンクションを調整することで、静脈内投与したアンチセンス核酸が血液脳関門を通過して中枢神経系に到達し、標的 RNA の発現抑制をもたらすことを実証しました。
他方、BBB は、多発性硬化症、アルツハイマー病、脳梗塞といった様々な疾患において、病態形成に関わる多くの分子を発現していることから、BBB の機能を制御する技術は、これらの疾患の新しい治療法や病態解明のツールとして大きく展開する可能性を秘めています。
我々は、siRNA（small interfering RNA）を静脈内投与して BBB に送達し、標的遺伝子の発現を制御する研究において、世界で先駆的な成果を遂げました（Kuwahara H, et al. Mol Ther 2011)。その後、我々が独自に開発したヘテロ核酸の静脈内投与にて、BBB におけるさらに効率的かつ安全な標的遺伝子の発現制御を実現しました（Kuwahara H, Song J, Shimoura T, et al. Sci Rep. 2018)。本研究においては、標的遺伝子の産物としての蛋白

の発現量低下および機能低下をもたらすことにも成功しました。
BBB の通過技術および制御技術のいずれについても、今後は各種の神経疾患のモデル動物での治療効果を検証し、難治性の様々な中枢神経疾患に対する臨床応用へと発展させることを視野に入れています。

(9) 神経生理学的な臨床研究
小脳は、バランスを取る機能だけでなく、「体で覚える」ことや「体が記憶する」ことを可能にしている脳です。たとえば、昔乗れた自転車に、何十年経っても体が覚えている、というのも小脳が関わっていると言われています。そのため、どんな人にも小脳の働きが必須です。
私達は、このような「秘められた脳機能」の一つである小脳の運動学習機能 (別名：適応機能) を正確に定量的に評価できる装置を、理研脳科学 (BSI) と共同開発しました (特許出願済；文部科学省受託研究　脳科学研究戦略推進プログラム (課題 E))。
この研究成果は PLoS ONE 誌より 2015 年 3 月に公開されました (Hashimoto Y. & Honda T. et al. PLoS ONE, 2015)。 この機器を用いて、小脳のどの部分で学習しているのかを明らかにし、例えば薬でどのように改善するかを明らかにしたいと考えています。

(10) 脱髄性中枢神経疾患における神経変性プロセスの解析
多発性硬化症 (Multiple sclerosis, MS) や視神経脊髄炎 (Neuromyelitis Optica Spectrum Disorders, NMOSD) における脳萎縮に関して、脳の萎縮、記憶力障害、注意障害などを、日本人の患者さんにおいて評価し、関連性を調べています。
近年、MS ／ NMOSD 分野では次々に新薬が開発、発売され、no evidence of disease activity-3（NEDA-3; 再発なし、MRI 活動なし、障害進行なし）とよばれる状態をゴールとして治療を行うことが提唱されています。しかしながら、これらを満たしていても脳萎縮が進行しうることが知られてきています。我々は、日本人患者さんにおいても NEDA-3 を満たしていても脳萎縮がみられることが高率にあることを日本人のデータとしてはじめて示しました（Yokote et al, 2018)。また、脳萎縮を予測するバイオマーカーとしては血液中ニューロフィラメント軽鎖（neurofilament light）が有望ですが、神経細胞の破壊があれば他の神経変性疾患でも上昇がみられ疾患特異性が低いことが問題です。我々は、免疫調整能をもつレチノールに注目し、血液中レチノール濃度（レチノール結合蛋白で代用）が低いほど年間脳萎縮率が高くなることを示しました (Yokote et al. 2017)。
さらに、最近では MS における脳萎縮の病態の根底にある“inflammation”に注目し様々なサイトカインやケモカイン、リンパ球サブタイプとの関連を調べています。

他施設とも共同研究を進めており、脳細胞の変性を写すことのできる脳 MRI 撮影や、脳脊髄液や血液中のバイオマーカーを測定 · 解析することにより、脳萎縮のリスク因子の解析を行っています。また、多発性硬化症の患者さんにおける簡易型認知機能評価である Brief International Cognitive Assessment for MS (BICAMS) の日本語版のバリデーションに協力しています (Niino ら, 2017)。

(11) 神経病理
病理部門では大きく 2 つの役割を担っています。1 つは臨床診断で、当研究室では大学病院をはじめ、関連施設から年間 100〜150 例の末梢神経 · 筋生検組織が届けられ、標本作製から診断までという大変重要な部分を行っています。もう 1 つは実験病理や剖検脳の検討で、難治性疾患の多い神経疾患の病態を解明し、新たな治療法開発を目指しています。
アルツハイマー病のタウやパーキンソン病の α シヌクレイン等の疾患関連蛋白が神経細胞体内に凝集物を作り、神経細胞死を起こすという Proteinopathy パラダイムは神経変性疾患の分子病態の理解を深めてきました。我々は凝集体形成や細胞死が起こる前に樹状突起や軸索に病変や機能障害が起こることを明らかにしています。細胞死に先行する突起病変に注目するこの「神経突起病理学」は突起病変に関連する疾患特異的な早期症状に基づく、特異度の高い診断に結びつき、細胞死が起こる前の治療介入へと道を拓く新たな視点を提供します。

(3) 教育活動

前期臨床トレーニング
初期臨床研修 （1,2 年目）
研修医として医学部附属病院の卒後臨床研修センターに所属し、センターのプログラムに則って、連携病院および関連する研修指定病院で内科、脳神経内科および他科の研修を行う。
詳しくは卒後臨床研修センタ—のホームページ参照。
シニア · レジデント（3,4 年目）
初期研修終了後、医学部附属病院ないし連携病院の脳神経内科に所属し、臨床神経学を中心に電気生理学、神経病理学、神経放射線を含めた、より専門的な研修を行う。医学部附属病院では、病棟担当教員、チーフ · レジデントの下、1〜2 名の研修医（ジュニア · レジデント）とチームを組み、彼らを指導するとともに、自らも何人かの

患者を受け持ち研修する。また数ヶ月単位で神経生理、神経病理、神経放射線などの専任研修を行う。
他科、他院での初期研修後の入局も可能であり、随時相談に応じている。
シニア・レジデントの期間中からその後にかけて大学院に入学する道もある。

初期研修プログラム
a. 診療科の特徴
基準病床数 32 床と内科系で最大規模の診療科。その対象となる疾患も脳神経内科に特有な神経変性疾患、脱髄疾患、てんかんや片頭痛などの発作性・機能性疾患をはじめ、単一臓器としては死因第一位の脳血管障害、感染症、腫瘍、自己免疫性・傍腫瘍性疾患、脊椎疾患や内科疾患に伴う神経障害、代謝性疾患、栄養障害、中毒、自律神経疾患、人体において最大の”臓器”である骨格筋の疾患など極めて多彩であることが特徴として挙げられる。
b. プログラムの特徴
研修医（ジュニア・レジデント）は、卒後 3 年目以降のシニア・レジデントクラスの脳神経内科医と共に 5〜7 人程度の入院患者を受け持ち、患者さんやコ・メディカル・スタッフ、同僚とのコミュニケーションなど医師としての基本能力を高めるとともに、神経疾患の基本的な診察、診断、治療・ケアなどについて研修する。シニア・レジデントは神経生理、神経放射線、神経病理などの専任研修を各 2-3 ヶ月ローテーションする。卒後 5 年目以降のチーフ・レジデントおよび病棟教官がこれをサポートするとともに、より専門的な意見や最新の知見等につきアドバイスし、症例に対するより深い考察と理解を助ける。神経生理、神経病理、神経放射線のカンファレンスが定期的に行われており、脳神経内科に特有の検査について詳しく学ぶ機会が得られる。症例から得られた貴重な知見に関しては、研修医にも積極的に学会、論文等による発表を行う。
c. 研修内容及び到達目標
医療面接を含めた神経学的診察がきちんとできることを第一目標とする。そこから問題点を抽出、整理し、どこがどのように悪いのか考える力を身につける。画像や電気生理検査、病理検査など諸検査の意味をよく理解し、これらを総合した診断へのプロセスを学ぶ。各症候、疾患の特徴を理解し、基本的な治療法について習得する。脳神経内科は脳卒中をはじめとする救急疾患も多いため、救急に関する知識、技術の習得も可能である。疾患に関しては、脳卒中や頭痛などの common disease のみならず、神経変性疾患や免疫性神経疾患をはじめとする脳神経内科特有の神経難病、内科疾患に伴う神経障害なども経験できるようにプログラムされている。
d. 研修医に対する要望
単に知識や技術の習得に止まらず、常になぜかを問いかけ、論理的かつ真摯に考察し、自ら問題を発見し解決していく積極的な姿勢を望む。

後期臨床トレーニング （5 年目以降）
医学部附属病院でチーフ・レジデントとして脳神経内科病棟の全入院患者を把握して、全レジデントを統括・指導したり、連携病院の脳神経内科責任者として診療に当たり、さらに臨床能力を飛躍させつつ、臨床研究を行う。
最短 5 年間の研修後に日本神経学会認定の脳神経内科専門医資格を取得する。

大学院について
教育目標 21 世紀の神経学と神経科学を担う研究者、脳神経内科医、教育者を養成する。
教育方針 臨床神経学の教室として、神経疾患の病態の解明・診断法や治療法の開発に関する研究テーマを中心とする。臨床的発想を中心にすえた上で、分子からシステムまでをターゲットに分子遺伝学や分子・細胞生物学、あるいは PET, fMRI, MEG などの最新の手法を駆使した研究を展開できるようにする。
研究テーマ 本人の希望により主任教授と話し合って決定される。
当教室での主な研究内容に関しては研究のページを参照。
募集概要 学年若干名（今までの実績では 2-8 名）を大学院生として採用する。
一般内科および脳神経内科の前期研修を終えた卒後 4-5 年目で入学するのを標準とするが、医学部卒業直後あるいは初期研修修了直後の早期の大学院入学も可能である。
医学部以外の大学卒業者や留学生の受験も可能。

(4) 教育方針

上記の教育活動欄を参照。

(5) 研究業績

[原著]

1. Kawai H, Matsubayashi T, Yokota T, Sanjo N. Serial changes in regional cerebral blood flow in Gerstmann-Sträussler-Scheinker disease caused by a Pro-to-Leu mutation at codon 105 in the prion protein gene. Prion. 2023.12; 17(1); 138-140

2. Hirata K, Matsuoka K, Tagai K, Endo H, Tatebe H, Ono M, Kokubo N, Oyama A, Shinotoh H, Takahata K, Obata T, Dehghani M, Near J, Kawamura K, Zhang MR, Shimada H, Yokota T, Tokuda T, Higuchi M, Takado Y. Altered Brain Energy Metabolism Related to Astrocytes in Alzheimer's Disease. Annals of neurology. 2023.09;

3. Noda K, Hattori Y, Hori M, Nakaoku Y, Tanaka A, Yoshimoto T, Nishimura K, Yokota T, Harada-Shiba M, Ihara M. Amplified Risk of Intracranial Artery Stenosis/Occlusion Associated With RNF213 p.R4810K in Familial Hypercholesterolemia. JACC. Asia. 2023.08; 3(4); 625-633

4. Iida S, Kanouchi T, Hattori T, Kanai K, Nakazato T, Hattori N, Yokota T. Verification of propagation hypothesis in patients with sporadic hand onset amyotrophic lateral sclerosis. Acta neurologica Belgica. 2023.08; 123(4); 1511-1517

5. Yuhei Takahashi, Kiyoshi Kakuta, Yukichi Namioka, Ayumi Igarashi, Taiichi Sakamoto, Rintaro Iwata Hara, Kazuki Sato, Takeshi Wada. Synthesis of P-Modified DNA from Boranophosphate DNA as a Precursor via Acyl Phosphite Intermediates The Journal of Organic Chemistry. 2023.07; 88(15); 10617-10631

6. Motoki Miura, Fumika Sakaue, Hirokazu Matsuno, Kento Morita, Akiko Yoshida, Rintaro Iwata Hara, Ren Nishimura, Yurika Nishida, Mariko Yokogawa, Masanori Osawa, Takanori Yokota. TDP‐43 N‐terminal domain dimerisation or spatial separation by RNA binding decreases its propensity to aggregate FEBS Letters. 2023.06; 597(12); 1667-1676

7. Nakamura R, Tohnai G, Nakatochi M, Atsuta N, Watanabe H, Ito D, Katsuno M, Hirakawa A, Izumi Y, Morita M, Hirayama T, Kano O, Kanai K, Hattori N, Taniguchi A, Suzuki N, Aoki M, Iwata I, Yabe I, Shibuya K, Kuwabara S, Oda M, Hashimoto R, Aiba I, Ishihara T, Onodera O, Yamashita T, Abe K, Mizoguchi K, Shimizu T, Ikeda Y, Yokota T, Hasegawa K, Tanaka F, Nakashima K, Kaji R, Niwa JI, Doyu M, Terao C, Ikegawa S, Fujimori K, Nakamura S, Ozawa F, Morimoto S, Onodera K, Ito T, Okada Y, Okano H, Sobue G, Japanese Consortium for Amyotrophic Lateral Sclerosis research (JaCALS) study group. Genetic factors affecting survival in Japanese patients with sporadic amyotrophic lateral sclerosis: a genome-wide association study and verification in iPSC-derived motor neurons from patients. Journal of neurology, neurosurgery, and psychiatry. 2023.05; 94(10); 816-824

8. Kazuki Sato, Kazumasa Muramoto, Tomoya Hagio, Rintaro I. Hara, Takeshi Wada. Solid-Phase Synthesis of Glycosyl Phosphate Repeating Units via Glycosyl Boranophosphates as Stable Intermediates Organic Letters. 2023.05; 25(21); 3927-3931

9. Mitsui J, Matsukawa T, Uemura Y, Kawahara T, Chikada A, Porto KJL, Naruse H, Tanaka M, Ishiura H, Toda T, Kuzuyama H, Hirano M, Wada I, Ga T, Moritoyo T, Takahashi Y, Mizusawa H, Ishikawa K, Yokota T, Kuwabara S, Sawamoto N, Takahashi R, Abe K, Ishihara T, Onodera O, Matsuse D, Yamasaki R, Kira JI, Katsuno M, Hanajima R, Ogata K, Takashima H, Matsushima M, Yabe I, Sasaki H, Tsuji S. High-dose ubiquinol supplementation in multiple-system atrophy: a multicentre, randomised, double-blinded, placebo-controlled phase 2 trial. EClinicalMedicine. 2023.05; 59; 101920

10. Yanagidaira M, Yoshioka K, Nagata T, Nakao S, Miyata K, Yokota T. Effects of combinations of gapmer antisense oligonucleotides on the target reduction. Molecular biology reports. 2023.04; 50(4); 3539-3546

11. Li F, Ichinose K, Ishibashi S, Yamamoto S, Iwasawa E, Suzuki M, Yoshida-Tanaka K, Yoshioka K, Nagata T, Hirabayashi H, Mogushi K, Yokota T. Preferential delivery of lipid-ligand conjugated DNA/RNA heteroduplex oligonucleotide to ischemic brain in hyperacute stage. Molecular therapy : the journal of the American Society of Gene Therapy. 2023.04; 31(4); 1106-1122

12. Honda T, Matsumura K, Hashimoto Y, Yokota T, Mizusawa H, Nagao S, Ishikawa K. Temporal Relationship between Impairment of Cerebellar Motor Learning and Deterioration of Ataxia in Patients with Cerebellar Degeneration. Cerebellum (London, England). 2023.04;

13. Ohara M, Hirata K, Hallett M, Matsubayashi T, Chen Q, Kina S, Shimano K, Hirakawa A, Yokota T, Hattori T. Long-term levodopa ameliorates sequence effect in simple, but not complex walking in early Parkinson's disease patients. Parkinsonism & related disorders. 2023.03; 108; 105322

14. Jia C, Lei Mon SS, Yang Y, Katsuyama M, Yoshida-Tanaka K, Nagata T, Yoshioka K, Yokota T. Change of intracellular calcium level causes acute neurotoxicity by antisense oligonucleotides via CSF route. Molecular therapy. Nucleic acids. 2023.03; 31; 182-196

15. Miyashita A, Kobayashi M, Yokota T, Zochodne DW. Diabetic Polyneuropathy: New Strategies to Target Sensory Neurons in Dorsal Root Ganglia. International journal of molecular sciences. 2023.03; 24(6);

16. Tomomi Shiraishi, Kazuki Sato, Rintaro Iwata Hara, Takeshi Wada. Properties of artificial cationic oligodiaminosaccharides and oligopeptides that bind to A-type oligonucleotide duplexes Nucleosides, Nucleotides & Nucleic Acids. 2023.02; 619-636

17. Hattori T, Ohara M, Yuasa T, Azuma R, Chen Q, Hanazawa R, Hirakawa A, Orimo S, Yokota T. Correlation of callosal angle at the splenium with gait and cognition in normal pressure hydrocephalus. Journal of neurosurgery. 2023.01; 139(2); 1-11

18. Amano A, Sanjo N, Araki W, Anraku Y, Nakakido M, Matsubara E, Tomiyama T, Nagata T, Tsumoto K, Kataoka K, Yokota T. Peripheral administration of nanomicelle-encapsulated anti-A β oligomer fragment antibody reduces various toxic A β species in the brain. Journal of nanobiotechnology. 2023.01; 21(1); 36

19. Aiba I, Hayashi Y, Shimohata T, Yoshida M, Saito Y, Wakabayashi K, Komori T, Hasegawa M, Ikeuchi T, Tokumaru AM, Sakurai K, Murayama S, Hasegawa K, Uchihara T, Toyoshima Y, Saito Y, Yabe I, Tanikawa S, Sugaya K, Hayashi K, Sano T, Takao M, Sakai M, Fujimura H, Takigawa H, Adachi T, Hanajima R, Yokota O, Miki T, Iwasaki Y, Kobayashi M, Arai N, Ohkubo T, Yokota T, Mori K, Ito M, Ishida C, Tanaka M, Idezuka J, Kanazawa M, Aoki K, Aoki M, Hasegawa T, Watanabe H, Hashizume A, Niwa H, Yasui K, Ito K, Washimi Y, Mukai E, Kubota A, Toda T, Nakashima K, J-VAC study group. Clinical course of pathologically confirmed corticobasal degeneration and corticobasal syndrome. Brain communications. 2023; 5(6); fcad296

20. Takaaki Koide, Shintaro Mandai*, Reo Kitaoka, Hisazumi Matsuki, Motoko Chiga, Kouhei Yamamoto, Kotaro Yoshioka, Yohsuke Yagi, Soichiro Suzuki, Tamami Fujiki, Fumiaki Ando, Takayasu Mori, Koichiro Susa, Soichiro Iimori, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Tatemitsu Rai, Takanori Yokota, Shinichi Uchida. Circulating Extracellular Vesicle-Propagated microRNA Signature as a Vascular Calcification Factor in Chronic Kidney Disease. Circ Res. 2023.01;

1. 赤座 実穂, 大谷 泰, 夏井 洋和, 叶内 匡, 横田 隆徳. 【生体磁界計測による脊髄 · 神経 · 筋活動の評価】磁場測定による運動単位の電気活動評価 臨床神経生理学. 2023.12; 51(6); 674-681

2. 西田 陽一郎. 【重症筋無力症　update】治療　カルシニューリン阻害薬 Clinical Neuroscience. 2023.11; 41(11); 1454-1456

3. 大谷木 正貴, 横田 隆徳. 【RNA 制御と免疫疾患 · 感染症】核酸医薬による免疫細胞の制御 臨床免疫 · アレルギー科. 2023.10; 80(4); 460-466

4. 坂上 史佳, 横田 隆徳. 【いま新薬で加速する　神経変性疾患研究　異常タンパク質の構造、凝集のしくみから根本治療の真の標的に迫る】(第 4 章) 治療法の現状と展望　神経変性疾患に対する核酸医薬 実験医学. 2023.08; 41(12); 2013-2019

5. 中山 東城, 横田 隆徳. 希少疾病の核酸医薬による超個別化医療 (N of 1 治療) の展開　核酸医薬を用いた神経希少疾患に対する個別化医療の展望と課題　米国で先行する超希少疾病の個別化医療 神経治療学. 2023.07; 40(4); 526-530

6. 中山 東城, 桑原 宏哉, 横田 隆徳. 【核酸医薬の最近の進歩】神経疾患に対する核酸医薬　超希少疾病の核酸医薬による個別化医療 脳神経内科. 2023.06; 98(6); 881-885

7. 横田 隆徳. 【核酸医薬の最近の進歩】血液脳関門通過型ヘテロ 2 本鎖核酸医薬 脳神経内科. 2023.06; 98(6); 873-880

8. 吉岡 耕太郎, 横田 隆徳. 【核酸医薬と神経疾患】核酸医薬による分子標的メカニズム Clinical Neuroscience. 2023.05; 41(5); 604-607

9. 勝山 真帆, 吉岡 耕太郎, 横田 隆徳. 神経・筋疾患を標的とした核酸医薬の基礎と臨床 神経治療学. 2023.05; 40(3); 237-241
10. 中山 東城, 横田 隆徳.【ALS-どこまでわかり, どこまで治るか】開発中の治療　核酸医薬 Clinical Neuroscience. 2023.03; 41(3); 414-416
11. 中山 東城, 桑原 宏哉, 横田 隆徳. 産業と行政　核酸医薬による N-of-1+創薬の動向 バイオサイエンスとインダストリー. 2023.03; 81(2); 166-169
12. 八木　洋輔. 特集　しびれ Q & A ――ビビッとシビれるクリニカルパール付き！　Q9　血液疾患、膠原病に合併したニューロパチーの診断は？　総合診療. 2023.02; 33(2); 178-180
13. 夏井 洋和, 叶内 匡, 横田 隆徳. 【しびれ Q&A-ビビッとシビれるクリニカルパール付き!】しびれ診療の Q に答えます!　small fiber neuropathy って、何? 総合診療. 2023.02; 33(2); 181-184
14. 河合 ほなみ, 横田 隆徳. 【しびれ Q&A-ビビッとシビれるクリニカルパール付き!】しびれ診療の Q に答えます!　しびれ症状から脊髄障害を見極める方法は? 総合診療. 2023.02; 33(2); 185-189
15. 中山 東城, 桑原 宏哉, 横田 隆徳. 今月の Topic　開発　希少疾患に対する核酸医薬による N-of-1+創薬の課題と展望 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. 2023.02; 54(1); 51-54
16. 永田 哲也, 横田 隆徳. 【DDS で拓く創薬モダリティイノベーション】リガンド結合による核酸医薬の標的指向化 Drug Delivery System. 2023.01; 38(1); 8-14
17. 浅見 裕太郎, 横田 隆徳. 【日本がリードする神経難病のゲノム創薬・遺伝子治療薬開発】DNA/RNA ヘテロ核酸を用いた難病に対する遺伝子治療薬開発 遺伝子医学. 2023.01; 13(1); 35-42

[書籍等出版物]

1. 坂上史佳, 横田隆徳.　実験医学増刊 いま新薬で加速する神経変性疾患研究.　羊土社, 2023.07 (ISBN : 978-4-7581-0412-8)

[総説]

1. 原倫太朗. 核酸分解酵素 CLINICAL NEUROSCIENCE. 2023.05; 41(5); 681-683
2. 西田 陽一郎.　【しびれ Q&A-ビビッとシビれるクリニカルパール付き!】しびれ診療の Q に答えます! Guillain-Barre 症候群と COVID-19 やワクチン接種 総合診療. 2023.02; 33(2); 177

[講演・口頭発表等]

1. Matsubayashi Taiki, Ae Ryusuke, Kosami Koki, Tsukamoto Tadashi, Satoh Katsuya, Hamaguchi Tsuyoshi, Furukawa Fumiko, Takao Masaki, Kitamoto Tetsuyuki, Nakamura Yosikazu, Mizusawa Hidehiro, Yamada Masahito, Yokota Takanori, Sanjo Nobuo. Clinicopathological analysis in prion disease with PRNP P105L mutation(タイトル和訳中). Dementia Japan 2023.10.01
2. Matsubayashi Taiki, Ae Ryusuke, Kosami Koki, Tsukamoto Tadashi, Satoh Katsuya, Hamaguchi Tsuyoshi, Furukawa Fumiko, Takao Masaki, Kitamoto Tetsuyuki, Nakamura Yosikazu, Mizusawa Hidehiro, Yamada Masahito, Yokota Takanori, Sanjo Nobuo. PRNP 遺伝子に P105L 変異を認めるプリオン病の臨床病理学的解析 (Clinicopathological analysis in prion disease with PRNP P105L mutation). Dementia Japan 2023.10.01
3. Matsubayashi Taiki, Ae Ryusuke, Kosami Koki, Tsukamoto Tadashi, Satoh Katsuya, Hamaguchi Tsuyoshi, Furukawa Fumiko, Takao Masaki, Kitamoto Tetsuyuki, Nakamura Yosikazu, Mizusawa Hidehiro, Yamada Masahito, Yokota Takanori, Sanjo Nobuo. PRNP 遺伝子に P105L 変異を認めるプリオン病の臨床病理学的解析 (Clinicopathological analysis in prion disease with PRNP P105L mutation). Dementia Japan 2023.10.01
4. Matsubayashi Taiki, Ae Ryusuke, Kosami Koki, Tsukamoto Tadashi, Satoh Katsuya, Hamaguchi Tsuyoshi, Furukawa Fumiko, Takao Masaki, Kitamoto Tetsuyuki, Nakamura Yosikazu, Mizusawa Hidehiro, Yamada Masahito, Yokota Takanori, Sanjo Nobuo. PRNP 遺伝子に P105L 変異を認めるプリオン病の臨床病理学的解析 (Clinicopathological analysis in prion disease with PRNP P105L mutation). Dementia Japan 2023.10.01

5. Matsubayashi Taiki, Ae Ryusuke, Kosami Koki, Tsukamoto Tadashi, Satoh Katsuya, Hamaguchi Tsuyoshi, Furukawa Fumiko, Takao Masaki, Kitamoto Tetsuyuki, Nakamura Yosikazu, Mizusawa Hidehiro, Yamada Masahito, Yokota Takanori, Sanjo Nobuo. PRNP 遺伝子に P105L 変異を認めるプリオン病の臨床病理学的解析 (Clinicopathological analysis in prion disease with PRNP P105L mutation). Dementia Japan 2023.10.01

6. Matsubayashi Taiki, Ae Ryusuke, Kosami Koki, Tsukamoto Tadashi, Satoh Katsuya, Hamaguchi Tsuyoshi, Furukawa Fumiko, Takao Masaki, Kitamoto Tetsuyuki, Nakamura Yosikazu, Mizusawa Hidehiro, Yamada Masahito, Yokota Takanori, Sanjo Nobuo. PRNP 遺伝子に P105L 変異を認めるプリオン病の臨床病理学的解析 (Clinicopathological analysis in prion disease with PRNP P105L mutation). Dementia Japan 2023.10.01

7. Matsubayashi Taiki, Ae Ryusuke, Kosami Koki, Tsukamoto Tadashi, Satoh Katsuya, Hamaguchi Tsuyoshi, Furukawa Fumiko, Takao Masaki, Kitamoto Tetsuyuki, Nakamura Yosikazu, Mizusawa Hidehiro, Yamada Masahito, Yokota Takanori, Sanjo Nobuo. PRNP 遺伝子に P105L 変異を認めるプリオン病の臨床病理学的解析 (Clinicopathological analysis in prion disease with PRNP P105L mutation). Dementia Japan 2023.10.01

8. Ishihara Tomohiko, Ikenaka Kensuke, Takahashi Yuji, Yokota Takanori, Ishikawa Kinya, Hirano Makito, Nagai Yoshitaka, Onodera Osamu. AJA030-002　ポリグルタミン病に対するタンパク質凝集阻害剤の第 II 相試験 (AJA030-002:Phase II Study of a Protein Aggregation Inhibitor for Polyglutamine Disease). 臨床神経学 2023.09.01

9. Amano Eiichiro, Raveney Ben, Yokota Takanori, Yamamura Takashi, Oki Shinji. NRP-1+Th 細胞は CD11c+B 細胞を増殖させ脳反応性自己抗体の強力な供給源となる (NRP-1+Th cells expand CD11c+B cells that are potent source of brain reactive autoantibodies). 臨床神経学 2023.09.01

10. Yanagidaira Mitsugu, Nagata Testuya, Hasegawa Juri, Ishii Satoshi, Ebihara Satoe, Yokota Takanori. PMO/RNA ヘテロ 2 本鎖を用いた CNS におけるスプライス制御の新規技術 (Novel technology for splice modulation in CNS by PMO/RNA heteroduplex). 臨床神経学 2023.09.01

11. Iwase Ryo, Ishiguro Taro, Hasegawa Juri, Iwata Hara Rintaro, Nagata Tetsuya, Yokota Takanori. RNA-DNA ヘテロ G4 構造誘導 ASO を用いた DMD エクソンスキッピングに対する新戦略 (A new strategy for DMD exon skipping with RNA-DNA hetero-G4 structure inducing ASOs). 臨床神経学 2023.09.01

12. Kuroda Takayuki, Yoshioka Kotaro, Su Su Lei Mon , Sakamoto Toshihiro, Katsuyama Maho, Yoshida-Tanaka Kie, Iwata-Hara Rintaro, Yamaguchi Takao, Nagata Tetsuya, Obika Satoshi, Yokota Takanori. アンチセンスオリゴヌクレオチドの神経毒性を克服するための化学的改良の開発 (Development of chemical modifications to overcome neurotoxicity of antisense oligonucleotide). 臨床神経学 2023.09.01

13. Yokote Hiroaki, Miyazaki Yusei, Toru Shuta, Nishida Yoichiro, Hattori Takaaki, Niino Masaaki, Sanjo Nobuo, Yokota Takanori. 日本人多発性硬化症患者の脳容積減少を抑制する有効性の高い治療法 (High-efficacy therapy reduces brain volume loss in Japanese patients with multiple sclerosis). 臨床神経学 2023.09.01

14. Miura Motoki, Sakaue Fumika, Matsuno Hirokazu, Morita Kento, Hara Rintaro, Yokota Takanori. 核酸結合による TDP-43 の空間分布を介した溶解性の制御 (Regulation of TDP-43 solubility via its spatial organization by nucleic acid binding). 臨床神経学 2023.09.01

15. Ono Daisuke, Kawai Honami, Kuwahara Hiroya, Yokota Takanori. 機械学習アプリケーションによる腓腹神経生検の自動 whole slide 解析 (Automated Whole Slide Analysis of Sural Nerve Biopsy by Machine Learning Application). 臨床神経学 2023.09.01

16. Hattori Takaaki, Kitsuka Narumi, Sanjo Nobuo, Oyama Jun, Yoshii Toshitaka, Okawa Atsushi, Yokota Takanori. 硬膜閉鎖後の表在性シデローシスにおける前側頭葉の逆説的な MRI 増悪 (Paradoxical MRI exacerbation in anterior temporal lobe in superficial siderosis after dural closure). 臨床神経学 2023.09.01

17. Yokota Takanori. 神経疾患に関する遺伝子治療と細胞療法　神経疾患を標的とした DNA/RNA ヘテロ 2 本鎖オリゴヌクレオチド (Gene and cell therapy for neurological diseases　DNA/RNA heteroduplex oligonucleotides for neurological diseases). 臨床神経学 2023.09.01

18. 常 詩晨, 田中 敏博, 稲澤 譲治, 水澤 英洋, 三條 伸夫, 横田 隆徳, 石川 欽也. 神経疾患の遺伝的リスク評価. 臨床神経学 2023.09.01

19. Ichinose Keiko, Li Fuying, Ishibashi Satoru, Iwasawa Eri, Suzuki Motohiro, Yoshida Kie, Yoshioka Kotaro, Nagata Tetsuya, Mogushi Kaoru, Yokota Takanori. 脂質結合 DNA/RNA ヘテロ 2 本鎖オリゴヌクレオチドの急性虚血脳への効果的な送達 (Effective delivery of lipid conjugated DNA/RNA heteroduplex oligonucleotide to acute ischemic brain). 臨床神経学 2023.09.01

20. Miura Motoki, Sakaue Fumika, Matsuno Hirokazu, Morita Kento, Hara Rintaro, Yokota Takanori. 核酸結合による TDP-43 の空間分布を介した溶解性の制御 (Regulation of TDP-43 solubility via its spatial organization by nucleic acid binding). 臨床神経学 2023.09.01

21. Yokote Hiroaki, Miyazaki Yusei, Toru Shuta, Nishida Yoichiro, Hattori Takaaki, Niino Masaaki, Sanjo Nobuo, Yokota Takanori. 日本人多発性硬化症患者の脳容積減少を抑制する有効性の高い治療法 (High-efficacy therapy reduces brain volume loss in Japanese patients with multiple sclerosis). 臨床神経学 2023.09.01

22. Motoki Miura. Nucleic acid binding regulates TDP-43 solubility via its spacial arrangement. 2023.09 Malaysia

23. Motoki Miura. Regulation of TDP-43 solubility via its spatial organization by nucleic acid binding.. 2023.06.01

1. 服部 高明, 木塚 成美, 佐野 達彦, 三宅 亮, 青山 尚史, 赤座 実穂, 村川 美也子, 横田 隆徳. 左腋窩痛、発熱後に左上肢と右下肢の筋力低下を呈し E 型肝炎ウイルス陽性であった 44 歳女性. 臨床神経学 2023.11.01

2. 天野 晶子, 三條 伸夫, 荒木 亘, 永田 哲也, 中木戸 誠, 松原 悦朗, 安楽 泰孝, 津本 浩平, 片岡 一則, 横田 隆徳. 抗 A βオリゴマー抗体の持続的な A β凝集抑制作用の検討. Dementia Japan 2023.10.01

3. 藤野 淳也, 高橋 直, 柳井 健作, 石黒 太郎, 山本 浩平, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. 痙性対麻痺と感覚障害で発症し, 慢性脊髄炎と末梢神経障害を呈した神経サルコイドーシスの 65 歳男性例. 日本内科学会関東地方会 2023.10.01

4. 岡本 智子, 佐藤 和貴郎, 林 幼偉, 木村 有喜男, 佐藤 典子, 清水 優子, 西田 陽一郎, 横田 隆徳, 石塚 量見, 中村 治雅, 三宅 幸子, 高橋 祐二, 山村 隆. NKT 細胞標的糖脂質 OCH-NCNP1 第 II 相医師主導治験の解析. 神経治療学 2023.10.01

5. 黒田 隆之, 吉岡 耕太郎, スーレイモンスー , 阪本 敏浩, 勝山 真帆, 吉田 規恵 [田中] , 原 倫太朗 [岩田] , 山口 卓男, 永田 哲也, 小比賀 聡, 横田 隆徳. アンチセンス核酸による遅発性中枢神経毒性を人工修飾核酸を用いて克服する. 神経治療学 2023.10.01

6. 横田 隆徳. 核酸医薬 · 生物学的製剤と医療経済　神経内科領域における核酸医薬の展望と医療経済的インパクト. 神経治療学 2023.10.01

7. 中山 東城, 横田 隆徳. 神経希少難病疾病に対する核酸 · 遺伝子治療実用化への展望　核酸医薬による神経疾患に対する個別化治療モデルの確立　日本における展望と課題. 神経治療学 2023.10.01

8. 岩瀬 遼, 三條 伸夫, 川島 慶之, 吉井 俊貴, 横田 隆徳. 脳表ヘモジデリン沈着症の病型分類の試み. 神経治療学 2023.10.01

9. 岡本 智子, 佐藤 和貴郎, 林 幼偉, 木村 有喜男, 佐藤 典子, 清水 優子, 西田 陽一郎, 横田 隆徳, 石塚 量見, 中村 治雅, 三宅 幸子, 高橋 祐二, 山村 隆. NKT 細胞標的糖脂質 OCH-NCNP1 第 II 相医師主導治験の解析. 神経治療学 2023.10.01

10. 藤野 淳也, 高橋 直, 柳井 健作, 石黒 太郎, 山本 浩平, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. 痙性対麻痺と感覚障害で発症し, 慢性脊髄炎と末梢神経障害を呈した神経サルコイドーシスの 65 歳男性例. 日本内科学会関東地方会 2023.10.01

11. 鈴木 基弘, 三條 伸夫, 石黒 太郎, 吉濱 れい, 木塚 成美, 叶内 匡, 内山 由美子, 山田 正仁, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. COVID-19 感染に伴う脊髄炎の病態生理. NEUROINFECTION 2023.10.01

12. 河合 ほなみ, 松林 泰毅, 横田 隆徳, 三條 伸夫. プリオン蛋白遺伝子コドン 105 変異による Gerstmann-Straeussler-Scheinker 病症例の脳血流 SPECT の長期変化の解析. NEUROINFECTION 2023.10.01

13. 横田 隆徳. ヘテロ核酸の開発. NEUROINFECTION 2023.10.01

14. 鈴木 基弘, 三條 伸夫, 石黒 太郎, 吉濱 れい, 木塚 成美, 叶内 匡, 内山 由美子, 山田 正仁, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. COVID-19 感染に伴う脊髄炎の病態生理. NEUROINFECTION 2023.10.01

15. 河合 ほなみ, 松林 泰毅, 横田 隆徳, 三條 伸夫. プリオン蛋白遺伝子コドン 105 変異による Gerstmann-Straeussler-Scheinker 病症例の脳血流 SPECT の長期変化の解析. NEUROINFECTION 2023.10.01

16. 横田 隆徳. ヘテロ核酸の開発. NEUROINFECTION 2023.10.01

17. 八木洋輔. シンポジウム 8：「COVID-19 感染と神経免疫疾患」：現行の COVID-19 対策下における神経免疫疾患治療. 第 35 回日本神経免疫学会学術集会 2023.09.14 東京

18. 坂上 史佳, 三浦 元輝, 松野 弘和, 吉田 明子, 永田 哲也, 大澤 匡範, 横田 隆徳. ALS/FTLD における TDP-43 の凝集を制御するベイト核酸の開発. 日本神経精神薬理学会年会プログラム・抄録集 2023.09.01

19. 坂上 史佳, 三浦 元輝, 松野 弘和, 吉田 明子, 永田 哲也, 大澤 匡範, 横田 隆徳. ALS/FTLD における TDP-43 の凝集を制御するベイト核酸の開発. 日本神経精神薬理学会年会プログラム・抄録集 2023.09.01

20. 八木 洋輔, 横田 隆徳. COVID-19 罹患後や新型コロナワクチン接種後の一過性の片頭痛の症状増悪についての検討. 臨床神経学 2023.09.01

21. 岡本 智子, 佐藤 和貴郎, 林 幼偉, 清水 優子, 西田 陽一郎, 横田 隆徳, 石塚 量見, 中村 治雅, 三宅 幸子, 高橋 祐二, 山村 隆. NKT 細胞標的糖脂質 OCH-NCNP1 第 II 相医師主導治験の解析. 神経免疫学 2023.09.01

22. 鈴木 基弘, 石黒 太郎, 木塚 成美, 吉濱 れい, 西田 陽一郎, 三條 伸夫, 横田 隆徳. SARS-CoV-2 感染症後に発症した脊髄炎に対して、免疫グロブリン療法を繰り返し施行した 2 症例. 神経免疫学 2023.09.01

23. 飯田 真太朗, 叶内 匡, 服部 高明, 金井 数明, 中里 朋子, 服部 信孝, 横田 隆徳. 上肢遠位筋発症 ALS 患者における propagation 仮説の検証. 臨床神経学 2023.09.01

24. 三宅 亮, 石黒 太郎, 河合 ほなみ, 金兼 弘和, 江本 博文, 服部 高明, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. 分類不能型免疫不全症 (CVID) を背景に両側視神経炎を発症した 26 歳女性例. 臨床神経学 2023.09.01

25. 横田 隆徳. 将来のシームレスな神経科学の醸成をめざして 血液脳関門通過性ヘテロ核酸の開発. 日本神経精神薬理学会年会プログラム・抄録集 2023.09.01

26. 村松 良子, 三條 伸夫, 河合 ほなみ, 石黒 太郎, 赤座 実穂, 西田 陽一郎, 叶内 匡, 横田 隆徳. 抗体陰性の Stiff-person spectrum disorder(SPSD) の電気生理学的検査の特徴. 神経免疫学 2023.09.01

27. 河合 ほなみ, 小野 大介, 桑原 宏哉, 横田 隆徳. 機械学習アプリによる筋病理 whole slide image の網羅的測解析. 臨床神経学 2023.09.01

28. 横田 隆徳. 神経免疫疾患に対するヘテロ核酸の開発. 神経免疫学 2023.09.01

29. 石川 欽也, 東 美和, 青木 華古, 岩瀬 遼, 石黒 太郎, 永田 哲也, 水澤 英洋, 横田 隆徳. 神経遺伝学がひらくリピート病の新展開 SCA31 の病態解明と治療開発. 臨床神経学 2023.09.01

30. 山本 尚汰, 浅見 裕太郎, 永田 哲也, 横田 隆徳. 経鼻投与による核酸医薬の脳内分布の検討. 臨床神経学 2023.09.01

31. 天野 永一朗, 横田 隆徳, 山村 隆, 大木 伸司. 膠原病モデルマウスの自己反応性 B 細胞分化と Nrp-1 陽性ヘルパー T 細胞の機能. 神経免疫学 2023.09.01

32. 西田 陽一郎. MG ガイドライン発刊から 1 年～どうする治療の使い分け!? どうする使い分け!? タクロリムス vs. シクロスポリン. 臨床神経学 2023.09.01

33. 岡本 智子, 佐藤 和貴郎, 林 幼偉, 清水 優子, 西田 陽一郎, 横田 隆徳, 石塚 量見, 中村 治雅, 三宅 幸子, 高橋 祐二, 山村 隆. NKT 細胞標的糖脂質 OCH-NCNP1 第 II 相医師主導治験の解析. 神経免疫学 2023.09.01

34. 鈴木 基弘, 石黒 太郎, 木塚 成美, 吉濱 れい, 西田 陽一郎, 三條 伸夫, 横田 隆徳. SARS-CoV-2 感染症後に発症した脊髄炎に対して、免疫グロブリン療法を繰り返し施行した 2 症例. 神経免疫学 2023.09.01

35. 三宅 亮, 石黒 太郎, 河合 ほなみ, 金兼 弘和, 江本 博文, 服部 高明, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. 分類不能型免疫不全症 (CVID) を背景に両側視神経炎を発症した 26 歳女性例. 臨床神経学 2023.09.01

36. 村松 良子, 三條 伸夫, 河合 ほなみ, 石黒 太郎, 赤座 実穂, 西田 陽一郎, 叶内 匡, 横田 隆徳. 抗体陰性の Stiff-person spectrum disorder(SPSD) の電気生理学的検査の特徴. 神経免疫学 2023.09.01

37. 西田 陽一郎. 重症筋無力症-basics and update　MG における免疫抑制剤の効果と使い分け. 神経免疫学 2023.09.01

38. 谷脇 香, 茶谷 洋行, 内藤 瑞, 藤 加珠子, 福島 重人, 張 賢, 峰岸 かつら, 青木 吉嗣, 永田 哲也, 横田 隆徳, 片岡 一則, 宮田 完二郎. 1 分子核酸内包ユニットポリイオンコンプレックスを用いた骨格筋への核酸医薬送達. 日本 DDS 学会学術集会プログラム予稿集 2023.07.01

39. 牧口 夏輝, 吉岡 志剛, 草森 浩輔, 山本 俊輔, 岩崎 慎治, 平林 英樹, 楠原 洋之, 永田 哲也, 横田 隆徳, 西川元也. アンチセンス核酸およびヘテロ二本鎖核酸の細胞取り込みに及ぼす血清アルブミン結合の影響. 日本 DDS 学会学術集会プログラム予稿集 2023.07.01

40. 横田 隆徳. 血液脳関門 (BBB) 通過の DDS 技術開発. 日本 DDS 学会学術集会プログラム予稿集 2023.07.01

41. 田中　圭祐、金井　光、桑原　宏哉、吉藤　康太、岡田　啓五、梅澤　佳央、野上　彩子、長尾　俊景、坂下　千瑞子、森　毅彦 、山本　正英. Fingolimod 内服中に発生したびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫. 第 63 回　日本リンパ網内系学会学術集会 2023.06.24 大宮

42. 横田 隆徳. ここまで来ている新規治療法開発: 期待と課題　中枢神経を標的にしたヘテロ核酸医薬の現状. 精神神経学雑誌 2023.06.01

43. 黒田 隆之, 吉岡 耕太郎, Su Su Lei Mon , 阪本 敏浩, 勝山 真帆, 吉田 規恵 [田中] , 原 倫太朗 [岩田] , 山口 卓男, 永田 哲也, 小比賀 聡, 横田 隆徳. 人工修飾核酸による核酸医薬 (ギャップマー型アンチセンス医薬) の遅発性中枢神経毒性の克服. The Journal of Toxicological Sciences 2023.06.01

44. 八木洋輔, 横田隆徳. COVID-19 罹患後や新型コロナワクチン接種後の一過性の片頭痛の症状増悪についての検討. 第 64 回日本神経学会学術大会 2023.05.31 千葉

45. 横田 隆徳. DNA/RNA2 本鎖ヘテロ核酸の開発. 脳と発達 2023.05.01

46. 河合 ほなみ, 小野 大介, 八木 洋輔, 西田 陽一郎, 叶内 匡, 三條 伸夫, 横田 隆徳. 亜急性に進行する経静脈的免疫グロブリン療法に反応性の伝導遅延を伴わないニューロパチーを呈した 88 歳女性例. 臨床神経学 2023.04.01

47. 河合 ほなみ, 小野 大介, 八木 洋輔, 西田 陽一郎, 叶内 匡, 三條 伸夫, 横田 隆徳. 亜急性に進行する経静脈的免疫グロブリン療法に反応性の伝導遅延を伴わないニューロパチーを呈した 88 歳女性例. 臨床神経学 2023.04.01

48. 八木洋輔. 片頭痛と鑑別すべき疾患～神経障害性疼痛に対する治療も含めて～. 先生、頭が痛いです。～天気？ 後頭神経痛？ 頭痛にまつわるエトセトラ～（Web 開催） 2023.03.15 つくば

49. 吉濱 れい, 鈴木 基弘, 川島 瑞希, 赤座 実穂, 桑原 宏哉, 服部 高明, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. COVID-19 感染症と同時に発症した対麻痺型ギラン・バレー症候群 (GBS) の一例. 臨床神経学 2023.03.01

50. 吉濱 れい, 鈴木 基弘, 川島 瑞希, 赤座 実穂, 桑原 宏哉, 服部 高明, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. COVID-19 感染症と同時に発症した対麻痺型ギラン・バレー症候群 (GBS) の一例. 臨床神経学 2023.03.01

51. 八木洋輔. 日常診療において注意すべき頭痛～二次性頭痛の鑑別を中心に～. Migraine Web Conference 2023.01.18 東京

52. 坂上史佳, 三浦元輝, 松野弘和, 吉田明子, 永田哲也, 大澤匡範, 横田隆徳. ALS/FTLD における TDP-43 の凝集を制御するベイト核酸の開発. 2023.09.07 東京

[特許]

1. 薬剤送達用のキャリア、コンジュゲートおよびこれらを含んでなる組成物並びにこれらの投与方法, 特許番号：2931056

2. 薬剤送達用のキャリア、コンジュゲートおよびこれらを含んでなる組成物並びにこれらの投与方法, 特許番号：2931056

3. 虚血病変部位特異的な遺伝子治療法, 特許番号：特許第 7360170 号

4. 虚血病変部位特異的な遺伝子治療法, 特許番号：11674141

5. 虚血病変部位特異的な遺伝子治療法, 特許番号：11674141

6. ヘテロ核酸のＢＢＢ通過脂質リガンド, 特許番号：特許第 7262816 号
7. 核酸複合体, 特許番号：特許第 7394392 号
8. 核酸複合体, 特許番号：11597928
9. 毒性が軽減した核酸, 特許番号：US11851654
10. 毒性が軽減した核酸, 特許番号：US11851654
11. 毒性が軽減した核酸, 特許番号：特許第 7333079 号
12. 毒性が軽減した核酸, 特許番号：特許第 7333079 号
13. 虚血病変部位特異的な遺伝子治療法, 特許番号：EP 3760209
14. ＴＤＰ―４３凝集阻害剤, 特許番号：特許第 7383298 号
15. ＴＤＰ―４３凝集阻害剤, 特許番号：特許第 7383298 号

[受賞]

1. 第 7 回せりか基金賞　1 位, せりか基金, 2023 年 12 月
2. 第 7 回せりか基金賞　1 位, せりか基金, 2023 年 12 月

[その他業績]

1. 「抗アミロイドβオリゴマー抗体を内包した血液脳関門通過型ナノマシンによる 脳内毒性アミロイド種の除去効果」 ―　アルツハイマー病治療の更なる進歩　―, 2023 年 01 月
Journal of Nanobiotechnology
2. 「抗アミロイドβオリゴマー抗体を内包した血液脳関門通過型ナノマシンによる 脳内毒性アミロイド種の除去効果」 ―　アルツハイマー病治療の更なる進歩　―, 2023 年 01 月
Journal of Nanobiotechnology
3. 「抗アミロイドβオリゴマー抗体を内包した血液脳関門通過型ナノマシンによる 脳内毒性アミロイド種の除去効果」 ―　アルツハイマー病治療の更なる進歩　―, 2023 年 01 月
Journal of Nanobiotechnology
4. 「脂質結合型 DNA /RNA ヘテロ２本鎖核酸による、脳梗塞病巣への効果的な薬剤送達と遺伝子抑制を達成」 ―　脳梗塞の新たな治療法への一歩―, 2023 年 03 月
Molecular Therapy
5. 「脂質結合型 DNA /RNA ヘテロ２本鎖核酸による、脳梗塞病巣への効果的な薬剤送達と遺伝子抑制を達成」 ―　脳梗塞の新たな治療法への一歩―, 2023 年 03 月
Molecular Therapy
6. 「脂質結合型 DNA /RNA ヘテロ２本鎖核酸による、脳梗塞病巣への効果的な薬剤送達と遺伝子抑制を達成」 ―　脳梗塞の新たな治療法への一歩―, 2023 年 03 月
Molecular Therapy
7. Transporting antibodies across the blood–brain barrier to treat Alzheimer’s disease, 2023 年 03 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
8. Transporting antibodies across the blood–brain barrier to treat Alzheimer’s disease, 2023 年 03 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
9. Transporting antibodies across the blood–brain barrier to treat Alzheimer’s disease, 2023 年 03 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
10. Calcium: A key player for a promising and safe brain treatment?, 2023 年 03 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
11. Calcium: A key player for a promising and safe brain treatment?, 2023 年 03 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

12. Calcium: A key player for a promising and safe brain treatment?, 2023 年 03 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
13. Lipid molecules help to get stroke therapies into the brain, 2023 年 04 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
14. Lipid molecules help to get stroke therapies into the brain, 2023 年 04 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. 他大学（近畿大、大阪大）の研究成果に関する識者談話について, 読売新聞, 読売新聞, 2023 年 02 月 06 日
2. アルツハイマー病について, ＮＨＫ, ＮＨＫニュース, 2023 年 03 月 17 日
3. 核酸医薬開発と ALS 治療薬について, ＮＨＫ, ＮＨＫニュース, 2023 年 04 月 21 日
4. ALS 治療薬承認に関する取材について, 読売新聞, 読売新聞, 2023 年 04 月 24 日
5. ALS 新薬「トフェルセン」について, 共同通信社, 地方紙など共同通信社に加盟する各社の紙面やウェブサイト, 2023 年 04 月 26 日
6. MG ガイドライン発行から 1 年「どうする使い分け！？ ～タクロリムス vs. シクロスポリン」について, メディカルトリビューン, MedicalTribune, 2023 年 05 月 21 日 - 2023 年 05 月 31 日
7. 核酸医薬による神経疾患に対する個別化医療の取り組みと展望について, メディカルトリビューン, MedicalTribune, 2023 年 05 月 31 日 - 2023 年 06 月 03 日
8. 家族性 ALS の薬のドラッグ・ラグについて, 朝日新聞社, 朝日新聞／朝日新聞デジタル, 2023 年 07 月 14 日
9. 中分子創薬コンソーシアムについて, 読売新聞東京本社, 読売新聞, 2023 年 07 月 26 日 - 2023 年 08 月 27 日
10. 中分子創薬コンソーシアムについて, 読売新聞東京本社, 読売新聞, 2023 年 07 月 26 日 - 2023 年 08 月 27 日
11. 中分子創薬コンソーシアムについて, 読売新聞東京本社, 読売新聞, 2023 年 07 月 26 日 - 2023 年 08 月 27 日
12. ブドウ糖輸送体分子に関する書籍監修について, 筑摩書房, 『数字が示す日本の「危機」と「希望」 —この国の、今とこれからを考える』 （仮題）, 2023 年 08 月 21 日 - 現在
13. 第 35 回日本神経免疫学会学術集会の開催にあたって, メディカルノート, メディカルノート News & Journal ／メディカルノート エキスパート, 2023 年 08 月 25 日
14. 第 35 回日本神経免疫学会学術集会の開催にあたって, メディカルノート, メディカルノート News & Journal ／メディカルノート エキスパート, 2023 年 08 月 25 日
15. 第 35 回日本神経免疫学会学術集会の開催にあたって, メディカルノート, メディカルノート News & Journal ／メディカルノート エキスパート, 2023 年 08 月 25 日
16. Ｎｏｆ 1 創薬について, 朝日新聞, 朝日新聞／アサヒコム, 2023 年 09 月 03 日
17. 核酸医薬 Nof1 患者の治療等、今後の取り組みについて, NHK, 各ニュース番組、ウェブサイト, 2023 年 09 月 04 日
18. 核酸医薬を用いた神経希少疾患に対する個別化医療について, 読売新聞, 朝刊科学面, 2023 年 10 月 19 日
19. ＡＬＳ患者の日光街道走破, 日本テレビ, news every., 2023 年 12 月 12 日 - 2024 年 03 月 01 日

精神行動医科学

Psychiatry and Behavioral Sciences

主任教授 高橋英彦
担当教授（犯罪精神医学）
岡田幸之
准教授 杉原玄一
担当准教授（リエゾン精神医学・精神腫瘍学）
竹内崇
准教授（テニュアトラック）
塩飽裕紀
特任准教授（ジョイントリサーチ講座：サイバー精神医学講座）
治徳大介
講師 藤野純也，高木俊輔
講師（キャリアアップ）
宮島美穂
助教 田村赳紘，中村啓信，佐々木祥乃，四手井友紀
特任助教（ジョイントリサーチ講座：サイバー精神医学講座）
小林七彩
特任助教 半田剛久
医員 森田麗奈，西岡遥，金澤慧
レジデント 恩田光基，貝沼晃成，松野陽介，磯部琴絵，今田真理子
研修登録医 村田 さくら，森智裕，成田友加里，石田喬士朗
臨床心理士 村上一徳，用松涼子，草野絢子，服部亜紀，山﨑さゆり
精神保健福祉士 金子慈史，門田昇憲，工藤舞，中西真枝
作業療法士 佐藤優衣
特任研究員 Jongyun Park，久保 理恵子
大学院生・博士 大矢雅樹，中村啓信，川元茉莉乃，平川和重，金井貴夫，四手井友紀，砂原真理子，田畑光一，丸尾享司，長尾賢太朗，野口詩織，飯田頼嗣，銭晨鈺，清水正彬，市橋雅典，本川友紀子，豊田早織，小泉友紀暁，奥住祥子，五島隆太，山口湧声，山本祐輝，大竹眞央，上田光人，阿部周平，荒川育子，茨木丈博，岡村麻梨佳，中川渉，久保彩子，尾阪咲弥花，田中裕之，坂東ゆかり，松井仁美

(1) 分野概要

当教室の研究テーマは、統合失調症や気分障害、依存症をはじめとする精神疾患の脳科学に基づく病態研究、客観的な診断法および新規の治療法の開発。および、客観的・科学的手法やエビデンスに基づいた心理社会学的治療法の開発である。fMRI や核医学的検査法などを用いて精神疾患の脳を調べ、それを様々な手法で解析していくことで病態を明らかとしていく試みを行うとともに、ニューロフィードバックを用いて精神疾患を治療していく研究も行っている。さらに、機械学習や計算論的精神医学の手法を用いて大量の脳データを処理していき新しい発見につなげていくことやモデリングを行って病態を予想していくことにも挑戦している。また、臨床から生まれる日常的な疑問を解決していくアプローチでの研究立案も積極的に行なう。

(2) 研究活動

1）生物学的精神医学研究
(i) 精神神経疾患の病因 · 病態の解明に向けた分子生物学的研究：
患者 DNA、血清、髄液、死後脳などから精神疾患に関連した病態を検索し、それらを精神疾患の動物モデルを用いて、分子レベル · 神経細胞機能レベル · 行動レベルで、実際に病態に関連するかを明らかにする、トランスレーショナル · リバーストランスレーショナル研究を行っている。
(ii) 精神神経疾患の睡眠研究：
独自に開発した睡眠ポリグラフィー自動解析装置を用いた研究、fMRI を用いた睡眠研究を行っている。
(iii) 精神神経疾患の脳画像研究：
人工知能技術も積極的に取り入れ、精神疾患の病態解明、サブタイプの同定、治療反応性予測のため MRI や PET を用いて脳構造、脳機能、分子イメージング研究を行う。
(iv) 電気けいれん療法（ECT）に関する多施設共同による後方視観察研究：
日本総合病院精神医学会の認定する多施設の「ECT 研修施設」から実績報告として提出される ECT に関する情報を後方視的に調査、解析する観察研究である。わが国の精神科臨床において ECT は長い歴史があるにもかかわらず、実臨床における ECT の実施状況がなかなか明確にされていない問題があったが、本研究によって一定の実績のある全国の医療施設における ECT の実態を明らかにすることができる。

2）精神病理学的研究
精神障害について現象学的、人間学的、言語論的方法等によって心理学的側面から本態の解明に当たり、同時に精神療法的アプローチを行っている。また精神医学の基本概念の検討及び今日の課題である精神障害の分類と診断の基礎づけも試みている。対象とする主要な精神障害は統合失調症、躁うつ病のいわゆる内因性精神病であるが、更に、神経症、現在関心をひいている境界例などについても精神分析的指向の研究および精神療法が行われている。

3）リエゾン精神医学 · 精神腫瘍学に関する研究
(i) リエゾン精神医学領域：
歯学部附属病院と協働して、術後せん妄の予防に関する研究を行っている。また、他施設との協働で、身体科に入院している患者を対象としたせん妄の予防研究も行っている。今後は、周産期メンタルヘルスに関する研究を行う予定である。
(ii) 精神腫瘍学領域：
がんの疾病概念は、子どもが本人や家族のがん罹患を受容し適応する過程で重要な要素である。そこで、がんの疾患概念の形成に影響があると考えられる小中学校の教科書の分析し、それに基づいて精神腫瘍学の視点から学校教育を補完する親向けの家庭用がん教育教材を開発し，その効果を検証する研究を進めている。

4）司法精神医学的研究
犯罪精神医学をはじめとする司法精神医学の領域の研究を行っている。たとえば、刑事責任能力判断のための公正な精神鑑定の方法論に関する研究、心神喪失者等医療観察法における治療の効果検証研究、司法精神医療におけるリスク · アセスメント、リスク · マネジメントの手法の開発研究、成年後見制度における鑑定のための行為能力の評価方法の開発研究など多岐にわたる研究を進めている。

5）サイバー精神医学に関する研究
ゲーム行動症、スマホ · ネット依存症といった行動嗜癖に関する研究を、KDDI 株式会社 · 株式会社 KDDI 総合研究所と共同で行っている。ゲーム行動症やスマホ · ネット依存症などの行動嗜癖患者に対して、ログアプリに基づく行動解析を行い、行動ログを医療情報と比較することで行動嗜癖に関する病態解明を進めている。さらにこれらの知見をもとに、ゲーム行動症患者の診断支援および治療支援アプリとしての実用化を目指した臨床研究を進めている。

(3) 教育活動

義務化された 2 年間の臨床研修の後、後期研修では、神経精神科専門医としての知識および臨床経験を積むとともに、精神保健指定医の資格を得るために主に学内及び学外の関連施設で研修を行う。卒前教育については、自主的に問題を解決する能力を高め神経精神医学に対する学生の主体的な学習姿勢を引き出すため、クリニカルクラークシップに重点を置いており、その準備段階として、系統的な講義を行っている。

(4) 教育方針

卒後研修の前期2年間は、精神神経疾患に生物—心理—社会—倫理的側面からアプローチするために必要となる基本的な検査法・診断技術や、精神療法・薬物療法などの治療法、実際の臨床に関わる法律の理解などを総合的に修得することを目的としている。

(5) 臨床活動および学外活動

当科の外来新患数は、ICD-10分類ではF3「気分障害」が最も多く、約3割を占める。ついで、F4「神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害」、F2「統合失調症、分裂病型障害および妄想性障害」と続く。また、他科入院中の患者に対するコンサルテーションリエゾン精神医療にも取り組んでいる。認知症、児童思春期特有の障害、物質依存、集中的精神療法の適応のある神経症などに対しては、より専門性の高い関連の専門施設への紹介が行われることも多い。一方、入院患者では、総合病院精神科および教育・研修期間としてのニーズに対応して、F2が比較的多くなり、ついでF4、F3の順となっており、その他てんかんや認知症などの神経疾患、睡眠リズム障害の診断や治療を行っている。治療は、薬物療法を中心として、入院患者に対するmECT(全身麻酔下における電気けいれん療法)、入院・外来あるいはデイケアセンターにおける個人・集団精神療法などを積極的に導入しており、地域の社会復帰施設とも密接に連携しながら進めている。 デイケアは入院と外来の移行的なプロセスとして位置づけられ、治療チームは医師1名、看護師2名，精神保健福祉士あるいは臨床心理士1名から構成される。デイケアの対象となる疾患は、統合失調症、うつ病、双極性障害、適応障害、パーソナリティー障害など幅広い。治療目標はメンバーによって多様であるが、治療チームは各メンバーにあわせて異なる枠組みのケアーを提供している。当科のデイケアでは、グループにおける対人関係が治療的効果を生む側面を重視しており、その経験から、人と交流し社会で快適に生活していく力がついて行くようプログラムを工夫した上、働きかけと支援を行っている。

(6) 臨床上の特色

難治性統合失調症に対する治療薬であるクロザピンによる治療を積極的に取り組んでいる。ネット依存外来を開き、患者本人及び家族への支援を行っている。本学の特色でもある歯科との連携により、口腔内の疼痛や異常感覚を訴える患者の診療にも携わっている。てんかんと睡眠領域両者の専門医を取得した医師がおりこの境界領域で高いレベルでの診療を行なっている。また、精神科リエゾンチームの活動として、外科病棟を中心にせん妄の予防活動、救急現場における自殺企図患者に対する早期介入、周産期スタッフとの連携による妊産婦のメンタルヘルスの支援にも関わり、他科との連携による活動が増えている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Kawamoto M, Takagishi H, Ishihara T, Takagi S, Kanai R, Sugihara G, Takahashi H, Matsuda T. Hippocampal volume mediates the relationship of parental rejection in childhood with social cognition in healthy adults. Scientific reports. 2023.11; 13(1); 19167

2. Nagao K, Yoshiike T, Okubo R, Matsui K, Kawamura A, Izuhara M, Utsumi T, Hazumi M, Shinozaki M, Tsuru A, Sasaki Y, Takeda K, Komaki H, Oi H, Kim Y, Kuriyama K, Hidehiko Takahashi, Miyama T, Nakagome K. Association between health anxiety dimensions and preventive behaviors during the COVID-19 pandemic among Japanese healthcare workers. Heliyon. 2023.11; 9(11); e22176

3. Toyoda S, Handa T, Yong H, Takahashi H, Shiwaku H. IMPDH2 forms spots at branching sites and distal ends of astrocyte stem processes. Genes to cells : devoted to molecular & cellular mechanisms. 2023.11;

4. Yoshinori Sasaki, Yuki Hakosima, Kumi Inazaki, Yuki Mizumoto, Takayuki Okada, Katsunaka Mikami, Noa Tsujii, Masahide Usami. Clinical characteristics of child and adolescent psychiatric outpatients engaging in fireplay or arson: a case-control study. Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health. 2023.10; 17(1); 119

5. Matsuki H, Mandai S, Shiwaku H, Koide T, Takahashi N, Yanagi T, Inaba S, Ida S, Fujiki T, Mori Y, Ando F, Mori T, Susa K, Iimori S, Sohara E, Takahashi H, Uchida S. Chronic kidney disease causes blood-brain barrier breakdown via urea-activated matrix metalloproteinase-2 and insolubility of tau protein. Aging. 2023.10; 15(20); 10972-10995

6. Sasaki Y, Hakosima Y, Inazaki K, Mizumoto Y, Okada T, Mikami K, Tsujii N, Usami M. Clinical characteristics of child and adolescent psychiatric outpatients engaging in fireplay or arson: a case-control study. Child and adolescent psychiatry and mental health. 2023.10; 17(1); 119

7. Nakamura H, Sugihara G, Hara K, Inaji M, Noha M, Takumi I, Watanabe M, Takahashi H, Maehara T, Yamamoto H, Takagi S. Seizure-related stress and arousal responses mediate a relationship between anxiety trait and state in epilepsy. Epilepsy & behavior : E&B. 2023.09; 147; 109442

8. Ikuko Arakawa, Yosuke Sekiguchi, Koji Takeda, Kazumi Watanabe, Noriomi Kuroki, Toshiaki Kono, Hidetoshi Kinoshita, Takako Enokida, Takao Suzuk, Hidehiko Takahashi, Takayuki Okada. Assessing attribution in the criminal behavior of mentally disordered offenders: Developing a Japanese version of the Gudjonsson Blame Attribution Inventory-Revised Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports. 2023.08;

9. Oya M, Matsuoka K, Kubota M, Fujino J, Tei S, Takahata K, Tagai K, Yamamoto Y, Shimada H, Seki C, Itahashi T, Aoki YY, Ohta H, Hashimoto RI, Sugihara G, Obata T, Zhang MR, Suhara T, Nakamura M, Kato N, Takado Y, Takahashi H, Higuchi M. Increased glutamate and glutamine levels and their relationship to astrocytes and dopaminergic transmissions in the brains of adults with autism. Scientific reports. 2023.07; 13(1); 11655

10. Kota Kanda, Shisei Tei, Hidehiko Takahashi, Junya Fujino. Neural basis underlying the sense of coherence in medical professionals revealed by the fractional amplitude of low-frequency fluctuations. PLoS One. 2023.06; 18(6); e0288042

11. Shisei Tei, Takashi Itahashi, Yuta Y Aoki, Manabu Kubota, Ryu-Ichiro Hashimoto, Motoaki Nakamura, Shoko Okuzumi, Hidehiko Takahashi, Haruhisa Ohta, Junya Fujino. Neural correlates of perceptual switching and their association with empathy and alexithymia in individuals with and without autism spectrum disorder. J Psychiatr Res. 2023.06; 164; 322-328

12. Tanaka H, Nishina K, Shou Q, Takahashi H, Sakagami M, Matsuda T, Inoue-Murayama M, Takagishi H. Association between arginine vasopressin receptor 1A (AVPR1A) polymorphism and inequity aversion. Proceedings. Biological sciences. 2023.06; 290(2000); 20230378

13. Okamura M, Okada T, Okumura Y. Recidivism among prisoners with severe mental disorders. Heliyon. 2023.06; 9(6); e17007

14. Miyashita Tomotaka, Takagi Shunsuke, Ishii Sayuri, Kobayashi Nanase, Jitoku Daisuke, Sugihara Genichi, Takahashi Hidehiko. Moderation effect of the eveningness chronotype on the relationship between ADHD tendency and Internet addiction(タイトル和訳中) Psychiatry and Clinical Neurosciences. 2023.06; 77(5-6); 366-367

15. Rikumo Ode,Koichi Fujiwara,Miho Miyajima,Toshikata Yamakawa,Manabu Kano,Kazutaka Jin,Nobukazu Nakasato,Yasuko Sawai,Toru Hoshida,Masaki Iwasaki,Yoshiko Murata,Satsuki Watanabe,Yutaka Watanabe,Yoko Suzuki,Motoki Inaji,Naoto Kunii,Satoru Oshino,Hui Ming Khoo,Haruhiko Kishima,Taketoshi Maehara. Development of an epileptic seizure prediction algorithm using R–R intervals with self-attentive autoencoder Artificial Life and Robotics. 2023.05; 28(2); 403-409

16. Koshimoto S, Kuboki N, Gunji C, Fujiwara M, Hayashi H, Moriya H, Oyake Y, Murata I, Takeuchi T, Matsushima E, Ohta K. Nutritional counseling needs of patients with mental disorders in psychiatric care: A cross-sectional survey. The International journal of social psychiatry. 2023.05; 69(7); 207640231174366-1703

17. Tei S, Fujino J. Adverse effects of empathy and cognitive inflexibility on social trauma. Frontiers in psychology. 2023.05; 14; 1090297

18. Itahashi T, Yamashita A, Takahara Y, Yahata N, Nakamura M, Aoki Y, Aoki R, Fujino J, Ohta H, Yoshihara Y, Sakai Y, Takamura M, Ichikawa N, Okada G, Okada N, Kasai K, Tanaka S, Imamizu H, Kato N, Okamoto Y, Takahashi H, Kawato M, Yamashita O, Hashimoto R. Generalizable neuromarker for autism spectrum disorder across imaging sites and developmental stages: A multi-site study. Research square. 2023.05;

19. Yuki Mizumoto, Yoshinori Sasaki, Hikaru Sunakawa, Shuichi Tanese, Rena Shinohara, Toshinari Kurokouchi, Kaori Sugimoto, Manao Seto, Masahiro Ishida, Kotoe Itagaki, Yukino Yoshida, Saori Namekata, Momoka Takahashi, Ikuhiro Harada, Shoko Sasaki, Kiyoshi Saito, Yusuke Toguchi, Yuki Hakosima, Kumi Inazaki, Yuta Yoshimura, Masahide Usami. Current situation and clinical burden of pediatricians for children with eating disorders during the COVID-19 pandemic. Global Health & Medicine. 2023.04; 5(2); 122-124

20. Abe D, Inaji M, Hashimoto S, Takagi S, Maehara T. Epilepsy surgery for dominant-side mesial temporal lobe epilepsy without hippocampal sclerosis. Journal of clinical neuroscience : official journal of the Neurosurgical Society of Australasia. 2023.03; 111; 16-21

21. Miyashita T, Takagi S, Ishii S, Kobayashi N, Jitoku D, Sugihara G, Takahashi H. Moderation effect of the eveningness chronotype on the relationship between ADHD tendency and Internet addiction. Psychiatry and clinical neurosciences. 2023.03; 77(6); 366-367

22. Ishii S, Takagi S, Kobayashi N, Jitoku D, Sugihara G, Takahashi H. Hyperfocus symptom and internet addiction in individuals with attention-deficit/hyperactivity disorder trait. Frontiers in psychiatry. 2023.03; 14; 1127777

23. Ishida T, Nakamura Y, Tanaka SC, Mitsuyama Y, Yokoyama S, Shinzato H, Itai E, Okada G, Kobayashi Y, Kawashima T, Miyata J, Yoshihara Y, Takahashi H, Morita S, Kawakami S, Abe O, Okada N, Kunimatsu A, Yamashita A, Yamashita O, Imamizu H, Morimoto J, Okamoto Y, Murai T, Kasai K, Kawato M, Koike S. Aberrant Large-Scale Network Interactions Across Psychiatric Disorders Revealed by Large-Sample Multi-Site Resting-State Functional Magnetic Resonance Imaging Datasets. Schizophrenia bulletin. 2023.03; 49(4); 933-943

24. Shiwaku H, Katayama S, Gao M, Kondo K, Nakano Y, Motokawa Y, Toyoda S, Yoshida F, Hori H, Kubota T, Ishikawa K, Kunugi H, Ikegaya Y, Okazawa H, Takahashi H. Analyzing schizophrenia-related phenotypes in mice caused by autoantibodies against NRXN1 α in schizophrenia. Brain, behavior, and immunity. 2023.03; 111; 32-45

25. Takahiro Kawata, Genichi Sugihara, Yoichi Kakibuchi, Midori Tomitaka, Miho Miyajima, Eisuke Matsushima, Takashi Takeuchi, Hidehiko Takahashi. Attention-deficit hyperactivity symptoms and risk of alcohol use relapse. Neuropsychopharmacology reports. 2023.03; 43(1); 103-111

26. Nakamura Y, Ishida T, Tanaka SC, Mitsuyama Y, Yokoyama S, Shinzato H, Itai E, Okada G, Kobayashi Y, Kawashima T, Miyata J, Yoshihara Y, Takahashi H, Aoki R, Nakamura M, Ota H, Itahashi T, Morita S, Kawakami S, Abe O, Okada N, Kunimatsu A, Yamashita A, Yamashita O, Imamizu H, Morimoto J, Okamoto Y, Murai T, Hashimoto RI, Kasai K, Kawato M, Koike S. Distinctive alterations in the mesocorticolimbic circuits in various psychiatric disorders. Psychiatry and clinical neurosciences. 2023.03; 77(6); 345-354

27. Itahashi T, Yamashita A, Takahara Y, Yahata N, Aoki YY, Fujino J, Yoshihara Y, Nakamura M, Aoki R, Ohta H, Sakai Y, Takamura M, Ichikawa N, Okada G, Okada N, Kasai K, Tanaka SC, Imamizu H, Kato N, Okamoto Y, Takahashi H, Kawato M, Yamashita O, Hashimoto RI. Generalizable neuromarker for autism spectrum disorder across imaging sites and developmental stages: A multi-site study. bioRxiv : the preprint server for biology. 2023.03;

28. Miyashita T, Takagi S, Ishii S, Kobayashi N, Jitoku D, Genichi S, Takahashi H. Moderation effect of the eveningness chronotype on the relationship between ADHD tendency and Internet addiction. Psychiatry and clinical neurosciences. 2023.03; 77(6); 366-367

29. Yawata Takumi, Takagi Shunsuke, Tamura Takehiro, Sugihara Genichi, Takahashi Hidehiko. Psychosis treatment in a patient with Parkinsonian type multiple system atrophy using modified electroconvulsive therapy: a case report PSYCHOGERIATRICS. 2023.03; 23(2); 364-367

30. Vibert B, Segura P, Gallagher L, Georgiades S, Pervanidou P, Thurm A, Alexander L, Anagnostou E, Aoki Y, Birken CS, Bishop SL, Boi J, Bravaccio C, Brentani H, Canevini P, Carta A, Charach A, Costantino A, Cost KT, Cravo EA, Crosbie J, Davico C, Donno F, Fujino J, Gabellone A, Geyer CT, Hirota T, Kanne S, Kawashima M, Kelley E, Kim H, Kim YS, Kim SH, Korczak DJ, Lai MC, Margari L, Marzulli L, Masi G, Mazzone L, McGrath J, Monga S, Morosini P, Nakajima S, Narzisi A, Nicolson R, Nikolaidis A, Noda Y, Nowell K, Polizzi M, Portolese J, Riccio MP, Saito M, Schwartz I, Simhal AK, Siracusano M, Sotgiu S,

Stroud J, Sumiya F, Tachibana Y, Takahashi N, Takahashi R, Tamon H, Tancredi R, Vitiello B, Zuddas A, Leventhal B, Merikangas K, Milham MP, Di Martino A. CRISIS AFAR: an international collaborative study of the impact of the COVID-19 pandemic on mental health and service access in youth with autism and neurodevelopmental conditions. Molecular autism. 2023.02; 14(1); 7

31. Sami H, Tei S, Takahashi H, Fujino J. Association of cognitive flexibility with neural activation during the theory of mind processing. Behavioural brain research. 2023.02; 443; 114332

32. Fujimoto G, Ubukata S, Sugihara G, Oishi N, Aso T, Murai T, Ueda K. A model for estimating the brainstem volume in normal healthy individuals and its application to diffuse axonal injury patients. Scientific reports. 2023.01; 13(1); 33

33. Takahashi H, Kato T. The start of a new journey of Psychiatry and Clinical Neurosciences. Psychiatry and clinical neurosciences. 2023.01; 77(1); 1

34. Ishii S, Takagi S, Kobayashi N, Jitoku D, Sugihara G, Takahashi H. Hyperfocus symptom and internet addiction in individuals with attention-deficit/hyperactivity disorder trait. Frontiers in psychiatry. 2023; 14; 1127777

35. Kanda K, Tei S, Takahashi H, Fujino J. Neural basis underlying the sense of coherence in medical professionals revealed by the fractional amplitude of low-frequency fluctuations. PloS one. 2023; 18(6); e0288042

36. Shisei Tei, Junya Fujino. Phantasm and suicide The British Journal of Psychiatry . 2023; 223; 517

37. Takagi S, Sugihara G, Takahashi H, Inoue Y. The optimal dose of Ramelteon for the better treatment adherence of delayed sleep-wake phase disorder: a dropout rate study. Frontiers in neurology. 2023; 14; 1280131

1. 高尾 真友子, 市倉 加奈子, 松岡 志帆, 深瀬 裕子, 竹内 崇, 松島 英介, 田ヶ谷 浩邦. がん患者における精神療法の受診希望と関連要因の検討 総合病院精神医学. 2023.10; 35(4); 353-364

2. 竹内 崇. 周産期のメンタルヘルス支援　わが国における周産期メンタルヘルスの現状と課題 自殺予防と危機介入. 2023.09; 43(2); 30-34

3. 腰本 さおり, 城田 直子, 西村 美帆子, 市倉 加奈子, 山崎 智子, 宮島 美穂, 松島 英介, 竹内 崇. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大による緩和ケアに携わる管理栄養士の業務の変化 東京家政学院大学紀要. 2023.08; (63); 49-57

4. 治徳　大介. インターネット依存と攻撃性 臨床精神医学. 2023.06; 52(6); 675-680

5. Shiwaku H, Takahashi H. [Autoantibody-Related Pathology in Schizophrenia] . Brain and nerve = Shinkei kenkyu no shinpo. 2023.06; 75(6); 763-767

6. Koshimoto Saori, Yamazaki Tomoko, Amano Koji, Kako Jun, Arimoto Masako, Saitou Keiko, Hashizume Akiko, Takeuchi Takashi, Matsushima Eisuke. Psychosocial Factors and the Need for Multidisciplinary Support in Nutrition Counselling for Cancer Chemotherapy Patients NUTRIENTS. 2023.06; 15(12);

7. 大木 絵美梨, 小倉 龍也, 二井矢 峻, 塩飽 裕紀, 田村 赳紘, 高木 俊輔, 藤野 純也, 杉原 玄一, 高橋 英彦. レビー小体型認知症に伴う重症抑うつ状態に右片側性 ECT が著効した 1 例 精神神経学雑誌. 2023.05; 125(5); 448

8. 治徳 大介.【発達障害とゲーム】ゲーム · ゲーム症をめぐって　e スポーツとゲーム症 そだちの科学. 2023.04; (40); 30-35

9. Ichikura Kanako, Matsuoka Shiho, Chiba Hiroki, Ishida Hina, Fukase Yuko, Murase Hanako, Tagaya Hirokuni, Takeuchi Takashi, Matsushima Eisuke. Health care providers' perspectives on providing end-of-life psychiatric care in cardiology and oncology hospitals: a cross-sectional questionnaire survey BMC PALLIATIVE CARE. 2023.03; 22(1); 23

10. 岡田 幸之. 性犯罪被害者の精神鑑定　司法精神医学からみた性犯罪被害者の精神鑑定　性犯罪被害者の鑑定の 4 つの特殊性と対応のポイント 司法精神医学. 2023.03; 18(1); 61-64

11. Koshimoto Saori, Amano Koji, Mori Naoharu, Oyamada Shunsuke, Arakawa Sayaka, Ishiki Hiroto, Satomi Eriko, Morita Tatsuya, Takeuchi Takashi. Perspectives of registered dietitians and factors associated with their personal accomplishment in the management of cancer cachexia SUPPORTIVE CARE IN CANCER. 2023.02; 31(2); 124

12. 高木俊輔. てんかん患者の睡眠中の呼吸状態に注目したてんかん患者における突然死のリスクと機構の解明 てんかん治療研究振興財団研究年報. 2023; 34;

[書籍等出版物]

1. 竹内　崇. 向精神薬と妊娠・授乳. 南山堂, 2023.04 (ISBN : 978-4-525-38233-9)

2. 臨床精神医学. 臨床精神医学第 52 巻増刊号. 2023.02

[総説]

1. Shunsuke Takagi. Sports and epilepsy: A comprehensive review in the Japanese context 2023.11;

1. 竹内　崇. 周産期リエゾン 精神科治療学. 2023.12; 38(12); 1393-1397

2. 竹内　崇. 精神疾患のある保護者への支援 小児保健研究. 2023.09; 82(5); 430-435

3. 宮島　美穂. てんかんのウェアラブルモニタリング 精神科 Resident. 2023.07; 4(2);

4. 佐々木 祥乃, 宇佐美 政英. 神経発達症 (ASD,ADHD) と攻撃性 臨床精神医学. 2023.06; 52(6); 653-658

5. 腰本　さおり、竹内　崇. 精神疾患患者の低栄養 ニュートリションケア. 2023.05; 春季増刊; 80-86

6. 中村 啓信, 高木 俊輔. 【てんかん　レジデントが知っておきたい診断や治療のコツ!】Vignette 2　診断　診断　脳波検査 精神科 Resident. 2023.05; 4(2); 99-102

7. 岡田　幸之. 司法精神医学からみた性犯罪被害者の精神鑑定ー性犯罪被害者の鑑定の 4 つの特殊性と対応のポイント 司法精神医学. 2023.03; 18(1); 61-64

8. 竹内　崇、吉田　敬子. 産後うつ病に関する基礎知識 ペインクリニック. 2023.02; 44(2); 162-168

9. 竹内　崇、松島英介. リエゾンで診るうつ病 臨床精神医学. 2023.01; 52(1); 97-102

10. 岡田　幸之. 法律家による刑事責任能力判断のための機序読解方法論-8 ステップ構造モデル理論を超えて 判例時報. 2023.01; (2537); 74-92

11. 高木俊輔. ASD,ADHD 診療における運動機能と運動 (スポーツ) の役割 スポーツ精神医学. 2023; 20;

[講演・口頭発表等]

1. Nanase Kobayashi, Daisuke Jitoku, Toshitaka Hamamura, Akio Yoneyama, Masaru Honjo, Genichi Sugihara, Hidehiko Takahashi.. Difficulty in switching attention and its neural basis in problematic smartphone use; validation using a smartphone log application and brain MRI.. International Behavioral Neuroscience Society 2023 2023.06.27 Niagara

2. Kiwamu Matsuoka, Masaki Oya, Manabu Kubota, Junya Fujino, Shisei Tei, Keisuke Takahata, Kenji Tagai, Yasuharu Yamamoto, Hitoshi Shimada, Chie Seki, Takashi Itahashi, Yuta Y. Aoki, Haruhisa Ohta, Ryu-ichiro Hashimoto, Genichi Sugihara, Takayuki Obata, Ming-Rong Zhang, Tetsuya Suhara, Motoaki Nakamura, Nobumasa Kato, Yuhei Takado, Hidehiko Takahashi, Makoto Higuchi. Elevated glutamine levels and activation of astrocytes involved in excessive excitatory neurotransmissions in autism spectrum disorder. ISMRM & ISMRT Annual Meeting & Exhibition 2023.06

3. Furusawa S, Hamamura T, Yoneyama A, Honjo M, Kobayashi N, Jitoku D, Uchida M.. Visualization Methods to Support the Medical Treatment of the Problematic Use of Smartphones.. The 7th International Conference on Medical and Health Informatics 2023.05.12 Kyoto

4. Yoshinori Sasaki. Current status of juvenile delinquency and Treatment of juvenile delinquents in Japan. The Program for International Promotion of Japan ‘s Healthcare Technologies and Services in 2022 2023.02.14 Manila, Philippines

1. 高木 俊輔. Wide-band EEG と神経科学　リップル波と意思決定. 臨床神経生理学 2023.10.01
2. 竹内 崇. 多職種で支える周産期リエゾンのバトン. 日本周産期メンタルヘルス学会学術集会抄録集 2023.10.01
3. 新井 佳奈, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 竹内 崇, 宮坂 尚幸. 当院における精神疾患合併妊娠の検討. 日本周産期メンタルヘルス学会学術集会抄録集 2023.10.01
4. 上里 彰仁, 坂本 幸平, 丸谷 美紀, 竹内 崇. 訪問時に携帯端末で使用可能な多言語版エジンバラ産後うつ病質問票アプリ開発. 日本周産期メンタルヘルス学会学術集会抄録集 2023.10.01
5. 腰本さおり, 城田直子, 西村美帆子, 宮島美穂, 竹内崇. 管理栄養士業務に対する新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の影響： 緩和ケア施設への質問紙調査. 第 70 回日本栄養改善学会学術総会 2023.09.02 名古屋国際会議場
6. 齊藤 誠人, 塩飽 裕紀, 治徳 大介, 松本 有紀子, 田村 赳紘, 杉原 玄一, 高橋 英彦. 夜間の不安焦燥を主訴に入院後, 癒着性腸閉塞に起因するせん妄と診断し加療した 1 例. 精神神経学雑誌 2023.09.01
7. 山口 湧声, 塩飽 裕紀, 松本 有紀子, 治徳 大介, 杉原 玄一, 高橋 英彦. 血漿交換療法が著効した自己免疫性脳症の 1 例. 精神神経学雑誌 2023.09.01
8. 高木 俊輔. 「運動やスポーツの精神科臨床への応用」　ASD、ADHD 診療における運動機能と運動 (スポーツ) の役割. スポーツ精神医学 2023.08.01
9. 竹内　崇. コロナ禍での周産期メンタルヘルス. 日本ストレス学会 · 学術総会 2023.07.21 仙台
10. 高木俊輔. 精神科医が脳波を学ぶために 睡眠脳波、PSG. 精神神経学会 2023.06.23
11. 高木俊輔. 精神科医が脳波を臨床に生かすために 睡眠に関連した脳波所見. 精神神経学会 2023.06.23
12. 竹内　崇. 認知症 · せん妄患者への対応. 第 68 回日本透析医学会学術集会 · 総会 2023.06.18
13. 竹内　崇. 周産期メンタルヘルスと精神疾患の理解、精神科と地域連携. 地域母子保健研修会 2023.06.09 東京
14. 野坂 宜之, 溝江 亜紀子, 野口 綾子, 竹内 崇, 若林 健二. PICS のエビデンスをもとめて　重症 COVID-19 患者家族の 2 割超に遠隔期 PTSD 関連症状が残存する. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01
15. 腰本 さおり, 天野 晃滋, 小山田 隼佑, 森 直治, 荒川 さやか, 石木 寛人, 里見 絵理子, 森田 達也, 竹内 崇. がん悪液質への多職種ケアに対する認識と実践についての全国調査のサブグループ解析　がん悪液質ケアで役割を果たしているという管理栄養士の認識に関連する因子. Palliative Care Research 2023.06.01
16. 荒川 さやか, 天野 晃滋, 腰本 さおり, 森 直治, 森田 達也, 小山田 隼佑, 石木 寛人, 里見 絵理子, 竹内 崇. がん悪液質への多職種ケアに対する認識と実践についての全国調査のサブグループ解析　医師と看護師における専門領域での比較. Palliative Care Research 2023.06.01
17. 岡田 幸之. 高齢者精神科診療に必要な多様な視点を探る　高齢者の認知機能低下とトラブルの間に目を向ける　司法精神医学的視点. 精神神経学雑誌 2023.06.01
18. 藤野純也. 意思決定の観点から検証する自閉スペクトラム症の特性：行動経済学的手法を用いた試み. 第 119 回日本精神神経学会学術総会 2023.06
19. 里元麻衣子, 足立裕史, 宮島美穂. 待機的心臓手術を受ける患者の術前の心拍変動から術後せん妄の出現を予測する. 第 27 回日本神経麻酔集中治療学会 2023.05.20 栃木県足利市
20. 竹内 崇. 認知症, せん妄患者の透析室での対応　認知症 · せん妄患者への対応. 日本透析医学会雑誌 2023.05.01
21. 大木 絵美梨, 小倉 龍也, 二井矢 峻, 塩飽 裕紀, 田村 赳紘, 高木 俊輔, 藤野 純也, 杉原 玄一, 高橋 英彦. レビー小体型認知症に伴う重症抑うつ状態に右片側性 ECT が著効した 1 例. 精神神経学雑誌 2023.05.01
22. 鈴木 貴久, 山口 湧声, 松本 有紀子, 塩飽 裕紀, 田村 赳紘, 杉原 玄一, 高橋 英彦. 多彩な視覚症状を呈したもやもや病の 1 例. 精神神経学雑誌 2023.05.01
23. 宮島美穂. 脳腫瘍におけるサイコオンコロジー. 第 150 回日本脳神経外科学会 関東支部学術集会イブニングセミナー 2023.04.06 東京　TRUST CITY CONFERENCE· 神谷町
24. 古澤 瞬, 浜村 敏隆, 米山 暁夫, 本庄 勝, 小林 七彩, 治徳 大介, 内田 真人.. 隠れマルコフモデルによるスマートフォン依存患者の利用状態推定.. 情報処理学会 第 85 回全国大会 2023.03.02 東京

25. 金 慧英, 浜村 敏隆, 米山 暁夫, 本庄 勝, 小林 七彩, 治徳 大介, 内田 真人.. A Statistical Analysis of Smartphone Addiction Usage Patterns.. 情報処理学会 第 85 回全国大会 2023.03.02 東京
26. 舟橋 侑矢, 浜村 敏隆, 米山 暁夫, 本庄 勝, 小林 七彩, 治徳 大介, 内田 真人.. スマートフォン依存患者の操作姿勢推定と睡眠習慣分析への応用.. 情報処理学会 第 85 回全国大会 2023.03.02 東京

[受賞]

1. 湯島精神医学賞ー島崎記念賞ー, 東京医科歯科大学　精神行動医科学分野同窓会, 2023 年 12 月

[その他業績]

1. Evidence showing the ‘loosening of associations’ found in schizophrenia, 2023 年 01 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
2. 「　統合失調症でシナプスへの新しい自己抗体を発見　」 —　統合失調症の自己抗体病態に基づく新しい治療法へ　—, 2023 年 04 月
   Brain, Behavior, and Immunity
3. Further link identified between autoimmunity and schizophrenia, 2023 年 05 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
4. 東京医科歯科大学と VIE STYLE、精神 · メンタルヘルス領域での共同研究を開始 —イヤホン型脳波計を用いて健常者を対象とした不安 · 緊張状態の把握に着手、将来的な臨床応用を目指す—, 2023 年 06 月
   -
5. 塩飽裕紀テニュアトラック准教授が第 6 回日本医療研究開発大賞 日本医療研究開発機構（AMED）理事長賞を受賞, 2023 年 08 月
6. KDDI、KDDI 総合研究所、東京医科歯科大学、 スマホ · ネット依存、ゲーム行動症の改善へ「サイバー精神医学講座」開設, 2023 年 10 月
   —

[社会貢献活動]

1. ネット依存の現状について, 読売新聞, 読売新聞, 2023 年 02 月 08 日
2. 共同研究に関するスマホ依存対策について, KDDI 株式会社, KDDI トビラ, 2023 年 03 月 10 日
3. 子どものスマホの使い方について, 毎日新聞, 毎日小学生新聞, 2023 年 03 月 15 日
4. ゲーム依存の治療現状、課題と解決策の提示について, 日本経済新聞社, 日本経済新聞 · 日経電子版, 2023 年 04 月 11 日
5. ショート動画の依存症について, 読売新聞, 読売新聞, 2023 年 05 月 02 日
6. うつ対策【うつと認知症の関連性】について, さくら舎, 単行本書籍（46 判並製）, 2023 年 07 月 10 日
7. てんかんについて, NHK　E テレ, きょうの健康, 2023 年 08 月 10 日 - 現在
8. 中高生からの超絵解本『スマホ脳と運動脳』の監修について, ニュートンプレス, 超絵解本『スマホ脳と運動脳』, 2023 年 08 月 23 日 - 現在
9. 別冊『心の病（仮)』の校閲について, ニュートンプレス, 別冊『心の病（仮)』 旧版『精神の病気　増補第 2 版』の改訂版）, 2023 年 09 月 07 日 - 現在
10. ジョイントリサーチ講座の開設について, KDDI 総合研究所, KDDI 総合研究所イベントにて, 2023 年 09 月 28 日 - 現在
11. 周産期メンタルヘルス学会学術集会に向けて, メディカルノート, メディカルノート Expert, 2023 年 10 月 13 日 - 2023 年 10 月 25 日
12. ポジティブサイコロジーについて, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2023 年 12 月 06 日 - 2024 年 01 月 05 日

NCNP 脳機能病態学分野

NCNP Brain Physiology and Pathology

分野長・連携教授　星野　幹雄
連携教授　橋本　唯史
連携教授　一戸　紀孝
連携教授　青木　吉嗣
連携准教授　山下　祐一
連携准教授　大木　伸司

(1)　分野概要

脳神経系および筋系は精巧な生体制御装置であるが、それが破綻すると様々な精神神経筋疾患が惹起される。本分野では、脳神経系の発生、解剖学、そして各種精神神経筋疾患の病理について研究する。NCNP 脳機能病態学分野は、連携大学院である国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター（NCNP）内に設置されている。

(2)　研究活動

1. 神経回路網形成の分子機構とその破綻による精神神経疾患の研究

（神経研究所　病態生化学研究部　部長　星野幹雄）

高度な脳機能を司る複雑な神経ネットワークは、精巧な遺伝子プログラムの基に、様々な発生段階を経て創り上げられる。一方で、神経ネットワーク形成の過程で異常が生じると、てんかん、精神遅滞、自閉症などの様々な精神・神経疾患が惹起されうる。以上の問題意識を持ちながら、病態生化学研究部では神経系の発生機構を研究し、さらにその破綻による精神神経疾患の発症・病態進展機構を明らかにしていこうとしている。その一環として、ダウン症の精神症状、統合失調症、自閉スペクトラム症に関連する DSCAM 分子/遺伝子が、シナプスにおける余剰グルタミン酸の細胞内回収を促進することによって、正常なシナプス活動と発達に関わることを見出した（論文掲載自体は 2024 年 2 月 1 日, Nat Commun, 15(1), 458)。

2. 認知症の発症機序解明、及び病因に基づく予防・治療法研究

（神経研究所　疾病研究第四部　部長　橋本唯史）

初老期に発症し、認知症を主症状とするアルツハイマー病 (Alzheimer’s Disease; AD) や前頭側頭葉変性症 (Frontotemporal lobar degeneration; FTLD)では、病因タンパク質が脳内で凝集・蓄積すると共に進行性の神経変性を引き起こすことが、認知症発症の原因と考えられている。しかし未だその詳細な分子メカニズムは明らかではなく、認知症の根

本治療法開発の大きな障害となっている。疾病研究第四部では、AD や FTLD の病因タンパク質である Aβ、タウ、TDP-43、FUS 等に焦点を当て、これら病因タンパク質が凝集・蓄積し、神経変性を発揮する分子メカニズムを患者脳やマウス・ショウジョウバエモデル等を用いて明らかにすることで、病因に基づく認知症の予防・治療法開発を目指している。本年度はアルツハイマー病発症最大の遺伝的危険因子 *APOEε4* に着目し、神経細胞とヒト iPS 由来アストロサイトの共培養実験系を用い、*APOEε3* を持つアストロサイトと共培養した場合に比べ*APOEε4* を持つアストロサイトと共培養した神経細胞のスパイン密度が低下することを見出し (Watanabe et al., 2023, Stem Cell Rep)、*APOEε4* が神経細胞に与える影響を明らかにした。

3. 霊長類モデルによる自閉症研究

（神経研究所　微細構造研究部　部長　一戸紀孝）

自閉症は社会性の障害と固執性を特徴とする発達障害である。これまで自閉症はげっ歯類モデルを用いて研究がなされてきたが、自閉症の治療法の開発にいたっていない。新世ザル・マーモセットはヒトと進化的に近く、高度な社会性、よく発達した前頭前野をもち自閉症研究に適していると期待されている。我々はバルプロ酸の母体投与により新世界ザルマーモセットの自閉症モデルを開発し自閉症の病態解明および治療法の開発を行っている。とりわけ我々は分子・細胞生物学的手法、システム神経科学的アプローチ（電気生理学、構造 MRI など）、行動学的手法を用いて自閉症モデルマーモセットを多角的に解析している。本年度は、マーモセットの脳病態を解明する上で不可欠なマーモセットの構造 MRI と機能的 MRI のデータベースの整備(Hata et al., 2023, Scientific Data, Okuno et al., 2023, Front NeuroImaging)、およびマーモセットの前頭前野の解剖学的結合に関する研究(Watakabe et al., 2023, Neuron)を行った。ヒトの自閉症のトランスクリプトームの結果とバルプロ酸を母体に投与したマーモセットのそれとの比較から、ヒトの自閉症の 1/4 を占める 1 つのサブタイプとバルプロ酸マーモセットが相同であることが明らかになった。これは、バルプロ酸マーモセットが、将来的にヒトの自閉症の病態解明やバイオマーカーの開発に大きく貢献することが期待される。

5. ヒト 3D 組織モデルを駆使した神経・筋難病の最先端遺伝子治療研究

（神経研究所　遺伝子疾患治療研究部　部長　青木吉嗣）

デュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）は、DMD 遺伝子の変異によって引き起こされる指定難病である。当研究部は、DMD に対する基礎研究成果を基に、DMD 患者の 8%を治療対象とし得る国産初の核酸医薬品であるエクソン 53 スキップ薬「ビルトラルセン」の開発に成功した（2020 年 3 月、早期条件付き承認）。また、DMD 患者の 6%を治療対象とし得る、世界初の核酸医薬品であるエクソン 44 スキップ薬「ブロギディルセン」の開発も進め（Mol Ther Nucleic Acids. 2023;34:102034.）、第 2 相グローバル試験の準備を進めている。さらに、DMD の約 3 割に見られる自閉スペクトラム症につい

ても、mRNA 医薬によるジストロフィンの補充治療は、マウス扁桃体の E/I バランスを正常化させ、症状の改善に寄与する可能性があることを報告した（Prog Neurobiol. 2022;216:102288）。

治療効果が期待されるアンチセンス核酸の塩基配列デザインの予測には、従来、膨大な時間と労力が必要であった。その課題を解決するため、我々はエクソン・スキップ効率を予測する機械学習モデルを開発し、eSkip-Finder に搭載して世界で初めて公開した（Nucleic Acids Res. 2021;49:W193-W198.）。本研究により、DMD だけでなく、様々な神経・筋難病を対象とした治療効果が期待されるアンチセンス核酸医薬の塩基配列を迅速にデザインできるようになった。最近では、DMD 患者から得た尿由来細胞（Sci Rep. 2024;14:2329.）を使用して筋や脳の 3D 組織モデル（オルガノイド）を作製し、疾患病態を再現した上で、エクソン・スキップを含む新規治療法の効果を検証している。

こうした研究成果は、神経・筋難病の克服を目指す層別化医療の重要な基盤となることが期待される。我々は今後も神経・筋難病の克服に向けた研究を全力で推進する。

5. 脳の計算理論を用いた精神障害の病態理解

（神経研究所　疾病研究第七部　室長　山下祐一）

脳における情報処理を，何らかの“計算”と捉え，数理的なモデルとして表現することで精神障害の病態理解を試みる研究手法は，計算論的精神医学と総称され，近年活発な研究領域を形成している。当研究部では，人の柔軟で多様な認知・行動を可能にする脳の情報処理メカニズムを，予測と予測誤差最小化に基づく計算原理（予測情報処理，自由エネルギー原理）の観点から研究している。2023 年の研究では，神経ネットワークにおける確率性と，階層的な表現の学習，行動・認知の柔軟性との関係を，予測情報処理をモデル化した神経ロボティクスシミュレーションにより網羅的に検討し，認知発達の多様性（neuro-diversity）のメカニズムについて明らかにした（Soda et al. Front Psych, 2023）．また，予測情報処理における予測シグナルの遅延が，統合失調症における意思作用感の障害に帰結する，との仮説をシミュレーションと実際の患者の行動データを用いて検証した（Okimura et al. npj Schizophrenia, 2023）.

6. 免疫細胞の機能異常に起因する中枢神経疾患の病態解明

（神経研究所　免疫研究部　室長　大木伸司）

中枢神経疾患の病態形成に関わる２種類の病原性ヘルパーT 細胞サブセットの性状解析と、これに基づく治療標的分子の探索を進めている。とくに２種類の神経変性疾患モデルマウスの中枢神経系に集積した Eomes 陽性 Th 細胞が、グランザイム B 依存性の神経細胞死を引き起こすことを示した昨年度の発表を受けて、本年度は筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者およびアルツハイマー型認知症(AD)患者における Eomes 陽性 Th 細胞の挙動を解析した。その結果、ALS 患者および AD 患者の双方で末梢血中の Eomes 陽性 Th 細胞頻度(Eomes 頻度)の増加を認め、それらの細胞の大部分がグランザイム B 陽性であ

ることを確認した。AD 患者の Eomes 頻度が HDS-R スコアと逆相関すること、ALS 患者のうち進行が早い発症後５年以内の患者で、Eomes 頻度が顕著に高値を取ることが示された（Kanazawa et al. Ann Neurol in press）。Eomes 陽性 Th 細胞とヒト神経変性疾患との相関が示されたことから、この免疫依存性神経細胞障害が神経変性疾患の病態形成に及ぼす作用の全体像の理解に向けた研究を進行中である。

(3)　教育活動

各大学院生は、各スーバーバイザーのアドバイスの基に、研究テーマを設定し、研究計画を立てて、実験手法を学びつつ実験を遂行しているところである。また各大学院生は、Journal Club で論文紹介し、プログレスで研究の進捗状況を報告している。

(4)　教育方針

本分野では、正常な脳神経系の構造・発生・機能について理解した上で、発達障害・精神疾患・神経疾患・筋疾患の病理を学ぶ。また最近の高度先進医療にも触れる。各学生は独立した一つの研究テーマを担当し、研究計画の立案、実験の遂行、実験結果の解釈と研究計画の微調整、学会発表、論文の作成から受理までの諸過程を、スーバーバイザーのアドバイスの元に、本人が責任を持ってやり遂げる。これによって、将来的に自立した研究者として研究を遂行する能力を身につけていく。

(5)　研究業績

[原著]

1. Tran DM, Yoshioka N, Bizen N, Mori-Ochiai Y, Yano M, Yanai S, Hasegawa J, Miyashita S, Hoshino M, Sasaki J, Sasaki T, Takebayashi H. Attenuated cerebellar phenotypes in Inpp4a truncation mutants with preserved phosphatase activity. Dis Model Mech. 2023 Jul 1;16(7): dmm050169
2. Watanabe H, Murakami R, Tsumagari K, Morimoto S, Hashimoto T, Imaizumi K, Sonn I, Yamada K, Saito Y, Murayama S, Iwatsubo T, Okuno H. Astrocytic *APOE4* genotype-mediated negative impacts on synaptic architecture in human pluripotent stem cell mode. Stem Cell Rep. 2023 Sep 12; 18(9): 1854-1869.
3. Okuno, T., Ichinohe N., & Woodward, A. (2024). A reappraisal of the default mode and frontoparietal networks in the common marmoset brain. Frontiers in neuroimaging, 2, 1345643. https://doi.org/10.3389/fnimg.2023.1345643
4. Hata, J., Nakae, K., Tsukada, H., Woodward, A., Haga, Y., Iida, M., Uematsu, A., Seki, F., Ichinohe N., Gong, R., Kaneko, T., Yoshimaru, D., Watakabe, A., Abe, H., Tani, T., Hamda, H.

T., Gutierrez, C. E., Skibbe, H., Maeda, M., Papazian, F., … Okano, H. (2023). Multi-modal brain magnetic resonance imaging database covering marmosets with a wide age range. Scientific data, 10(1), 221. https://doi.org/10.1038/s41597-023-02121-2

5. Watakabe, A., Skibbe, H., Nakae, K., Abe, H., Ichinohe N., Rachmadi, M. F., Wang, J., Takaji, M., Mizukami, H., Woodward, A., Gong, R., Hata, J., Van Essen, D. C., Okano, H., Ishii, S., & Yamamori, T. (2023). Local and long-distance organization of prefrontal cortex circuits in the marmoset brain. Neuron, 111(14), 2258–2273.e10. https://doi.org/10.1016/j.neuron.2023.04.028
6. Yamauchi N, Tamai K, Kimura I, Naito A, Tokuda N, Ashida Y, Motohashi N, Aoki Y, Yamada T. High-intensity interval training in the form of isometric contraction improves fatigue resistance in dystrophin-deficient muscle. J Physiol. 2023 Jul;601(14):2917-2933.
7. Watanabe N, Tone Y, Nagata T, Masuda S, Saito T, Motohashi N, Takagaki K, Aoki Y, Takeda S. Exon 44 skipping in Duchenne muscular dystrophy: NS-089/NCNP-02, a dual-targeting antisense oligonucleotide. Mol Ther Nucleic Acids. 2023 Sep 20;34:102034.
8. Motohashi N, Minegishi K, Aoki Y. Inherited myogenic abilities in muscle precursor cells defined by the mitochondrial complex I-encoding protein. Cell Death Dis. 2023 Oct 19;14(10):689.
9. Zhu A, Chiba S, Shimizu Y, Kunitake K, Okuno Y, Aoki Y, Yokota T. Ensemble-Learning and Feature Selection Techniques for Enhanced Antisense Oligonucleotide Efficacy Prediction in Exon Skipping. Pharmaceutics. 2023 Jun 24;15(7):1808.
10. Tominari T, Takatoya M, Matsubara T, Matsunobe M, Arai D, Matsumoto C, Hirata M, Yoshinouchi S, Miyaura C, Itoh Y, Komaki H, Takeda S, Aoki Y, Inada M. Establishment of a Triple Quadrupole HPLC-MS Quantitation Method for Dystrophin Protein in Mouse and Human Skeletal Muscle. Int J Mol Sci. 2023 Dec 25;25(1):303.
11. Sakai-Takemura F, Saito F, Nogami K, Maruyama Y, Elhussieny A, Matsumura K, Takeda S, Aoki Y, Miyagoe-Suzuki Y. Antioxidants restore store-operated Ca2+ entry in patient-iPSC-derived myotubes with tubular aggregate myopathy-associated Ile484ArgfsX21 STIM1 mutation via upregulation of binding immunoglobulin protein. FASEB Bioadv. 2023 Oct 26;5(11):453-469.
12. Preethy S, Aoki Y, Minegishi K, Iwasaki M, Senthilkumar R, Abraham SJK. Resolution of fibrosis in mdx dystrophic mouse after oral consumption of N-163 strain of Aureobasidium pullulans produced β-glucan. Sci Rep. 2023 Oct 9;13(1):17008.
13. Takahashi Y, Murata S, Ueki M, Tomita H, Yamashita Y. Interaction between Functional Connectivity and Neural Excitability in Autism: A Novel Framework for Computational Modeling and Application to Biological Data. Comput Psychiatry. 2023;7(1):14–29. DOI: 10.5334/cpsy.93
14. Soda T, Ahmadi A, Tani J, Honda M, Hanakawa T, Yamashita Y. Simulating developmental

diversity: Impact of neural stochasticity on atypical flexibility and hierarchy. Front Psychiatry. 2023;14:1080668. doi: 10.3389/fpsyt.2023.1080668

15. Okimura T, Maeda T, Mimura M, Yamashita Y. Aberrant sense of agency induced by delayed prediction signals in schizophrenia: a computational modeling study. npj Schizophr. 2023;9:72. https://doi.org/10.1038/s41537-023-00403-7
16. Pathogenic Microglia Orchestrate Neurotoxic Properties of Eomes-Expressing Helper T Cells. Chenyang Zhang, Ben JE Raveney, Fumio Takahashi, Tu-wen Yeh, Hirohiko Hohjoh, Takashi Yamamura, Shinji Oki. Cells. 2023 12(6): 868. doi: 10.3390/cells12060868.

[総説・著書]

1. Ishizuka T, Komaki H, Asahina Y, Nakamura H, Motohashi N, Takeshita E, Shimizu-Motohashi Y, Ishiyama A, Yonee C, Maruyama S, Hida E, Aoki Y. Systemic administration of the antisense oligonucleotide NS-089/NCNP-02 for skipping of exon 44 in patients with Duchenne muscular dystrophy: Study protocol for a phase I/II clinical trial. Neuropsychopharmacol Rep. 2023 Jun;43(2):277-286.
2. Motohashi N, Minegishi K, Imamura M, Aoki Y. Techniques for Injury, Cell Transplantation, and Histological Analysis in Skeletal Muscle. Methods Mol Biol. 2023;2640:193-205.
3. Motohashi N, Minegishi K, Imamura M, Aoki Y. Techniques for Injury, Cell Transplantation, and Histological Analysis in Skeletal Muscle. Methods Mol Biol. 2023;2640:193-205.
4. Aoki Y. Mr. Takashi Onaka Memorial Oration: I. Updates on solutions to DMD. J Stem Cells Regen Med. 2023 Apr 30;19(1):19-21.
5. 山下祐一(2023)計算論的精神医学, 精神医学領域の論文を読みこなすキーワード 100！, 新興医学出版社
6. 山口博行、山下祐一（2023）自己教師あり深層学習を用いた精神疾患脳画像研究，精神医学 65，1604-1074.
7. 山下祐一（2023）計算論的精神医学 -統合失調症の病態理解のための新たなフレームワーク，医学のあゆみ 286 号, p588-593.
8. 出井 勇人, 宗田 卓史, 山下 祐一（2023）自由エネルギー原理と計算論的精神医学，人工知能 38: p833-840.
9. 吉田 正俊, 宮園 健吾, 西尾 慶之, 山下 祐一, 鈴木 啓介 (2023) 自由エネルギー原理，能動的視覚，サリエンス，人工知能 38, p787-795.

生体環境応答学講座

生体防御学分野

Department of Biodefense Research

教　　授　樗木　俊聡
准 教 授　佐藤　卓 (9/30 まで)
非常勤講師　小内　伸幸
助　　教　金山　剛士 (9/30 まで 10/1〜准教授)
大学院生　秋山　めぐみ
大学院生　佐藤　元
大学院生　藤内　城
大学院生　山田　悠貴
大学院生　石川　駿 (3/31 まで　4/1〜研究生)
大学院生　泉　湧太 (3/31 まで)
大学院生　中川　舞 (3/31 まで)
大学院生　大梁　恵梨子 (3/31 まで)
技術補佐員　始関　紀彰 (10/31 まで)
技術補佐員　林　富貴 (3/31 まで)
事務補佐員　上岡　寿子

(1) 分野概要

私たちの分野では「生体の防御と恒常性維持機構の解明」に焦点をあて、それらを担う免疫細胞や組織幹細胞の分化 · 機能を、正常および疾患病態において理解することを目的としている。樹状細胞 · マクロファージなどのミエロイド系細胞や、血液 · 腸 · 皮膚などの組織幹細胞を研究対象として、免疫系、組織幹細胞系、さらにはそれら異系間相互作用による恒常性維持機構とその破綻による病態構築機序の解明に取り組んでいる。また、それら成果に基づき、難治性疾患の予防法 · 治療法の開発へ繋がる応用研究への糸口が得られるよう研究を推進している。

(2) 研究活動

1. ミエロイド系細胞の分化 · 機能研究
1）樹状細胞 · マクロファージ前駆細胞の同定と関連病態解明 · 治療法開発
樹状細胞（Dendritic Cell, DC）は、抗原提示能に優れた従来型樹状細胞（cDC）と、ウィルスや自己の核酸に応答して大量のインターフェロンを産生する形質細胞様樹状細胞（pDC）に分類される。私たちの研究グループは、DC だけを大量に産みだす“DC 前駆細胞”をマウスで同定し、共通 DC 前駆細胞（Common DC Progenitor, CDP）として報告した（Immunity 2013; Nat Immunol 2007）。CDP は、M-CSF 受容体（M-CSFR）発現の有無を指標に 2 種類に分類される。M-CSFR+CDP は主に cDC を生み出すが、M-CSFR-CDP は pDC への分化能に優れていた。
単球は、定常状態においても腸や真皮に異動して組織マクロファージに分化するが、感染や損傷に伴い、それ以外の組織にも積極的に流入してマクロファージに分化、炎症や組織修復に関与する。単球の源である共通単球前駆細胞（Common Monocyte Progenitor, cMoP）は、マウスにおいて最初に同定されたが、ヒト cMoP は未同定であった。私たちの研究グループは、ヒト臍帯血や骨髄を用いてヒト cMoP の同定に成功し、ヒト単球分化経路を明らかにした（Immunity 2017; Int Immunol 2018）。ヒト cMoP は、単球 · マクロファージへの優れた分化能を示す一方、他の血液細胞へは分化しなかった。単球は、慢性骨髄単球性白血病（CMML）に関与するため、製薬企業との共同研究として、ヒト cMoP を効果的に除去できる抗体—薬剤複合体（ADC）を作製して、CMML PDX モデルに投与したところ、骨髄や末梢血中から白血病細胞がほぼ完全に消滅した。また、単球は腫瘍の増殖進展を促す腫瘍関連マクロファージ（TAM）に分化するため、担がんヒト化マウスに ADC を投与したところ、末梢血単球に加えて腫瘍内 TAM が消滅し、腫瘍塊の有意な縮小が認められた（Front Immunol 2021）。単球は様々な

炎症性疾患にも関与するため、ヒト単球系列特異的な ADC の適応拡大も期待される。

２）ミクログリアによる脳恒常性維持 · 低下機構の解明
脳のマクロファージであるミログリアは、若齢期には神経組織形成 · 再生や貪食能に優れ恒常性維持に積極的に貢献しているが、加齢に伴い徐々に炎症形質が顕著になり、脳機能が徐々に低下していく。私たちの研究グループは、当該ミクログリア形質転換プロセスの原因となる転写制御変容を、細胞機能変化の最も初期に起こるエンハンサーの活性化を指標に解明することを目指している。理化学研究所で開発された一塩基レベルで活性化エンハンサー領域を計測可能な新技術 NET-CAGE 法を用いて、新規ミクログリア活性化エンハンサー 36,320 領域、加齢に伴い発現が増減するエンハンサー 937 領域の同定に成功、さらにクロマチン高次構造解析により当該エンハンサーにより調節されるコード領域を解析中である。エンハンサーの活性化は細胞種特異的であるため、プロモーターやコード領域を標的にする場合と異なり、ミクログリア特異的機能制御法の開発につながる可能性が期待される。

２. 組織幹細胞の研究
１） 免疫系―組織幹細胞系の連関による組織恒常性の維持と破綻
何ら感染の起きていない個体においても、I 型インターフェロン（IFN）は微量ではあるが持続的に産生されている。私たちの研究グループは、この生理レベルの I 型 IFN シグナルが造血幹細胞（Hematopoietic Stem Cell, HSC）ストレスとして働き、同細胞の幹細胞性低下の原因になることを報告した（Nat Med 2009）。この成果に基づき、当該 I 型 IFN シグナルの小腸上皮幹細胞（Intestinal Stem Cell, ISC）への影響を検討したところ、HSC 同様、ISC の数や機能を低下させること、その結果、分泌系前駆細胞への分化が促されることが判明した（Nat Cell Biol 2020）。大腸上皮幹細胞（Colonic Stem Cell, CSC）でも同様に幹細胞性が低下しており、DSS 腸炎モデルにおいて全個体が死亡した（Sci Rep 2020）。
腸上皮損傷後の再生起点細胞が数種類報告されているが、それらの上皮再生における貢献度の軽重は不明である。私たちの研究グループは、細胞運命追跡技術を用いて、放射線照射による腸損傷後に生き残った細胞のシングルセル解析を行い、腸損傷後の主たる再生起点細胞の同定に成功した（Sci Rep 2020）。

２）ヒト舌癌オルガノイドバイオバンクの構築と治療法開発
扁平上皮がんは、口腔、食道、肺、子宮頸部などの扁平上皮組織に生じるがんである。舌がんは口腔がんのおよそ 6 割を占め、進行がんでは 5 年生存率が 42%と極めて低く、根治治療後の再発率も高い。同様に、日本を含むアジア諸国に特徴的な食道扁平上皮がんも、根治治療後の再発率は非常に高い。私たちの研究グループは、多施設共同研究として、これまでに報告のないヒト舌がん及びヒト食道扁平上皮がんに特化したオルガノイドライブラリーの構築に成功している（舌がん 34 症例、食道がん 18 症例、継続中）。また、実際に臨床治療に用いられる抗がん剤に抵抗性を示すがんオルガノイドを各々 4 症例樹立している。これら独自のリソースを用いて、抗がん剤耐性獲得機構の解明と創薬探索を進めている。

(3) 教育活動

医学部医学科免疫学講義、生命情報科学教育部修士課程講義、大学院医歯学総合研究科博士課程生体防御学特論、演習、実習、さらに他大学非常勤講師として大学院セミナーを担当している。また大学院博士課程の学生に免疫学、組織幹細胞学の教育研究指導を行っている。

(4) 研究業績

[原著]

1. Shinya Abe, Takuma Asahi, Takahiro Hara, Guangwei Cui, Akihiro Shimba, Shizue Tani-Ichi, Kohei Yamada, Kazuko Miyazaki, Hitoshi Miyachi, Satsuki Kitano, Naotoshi Nakamura, Junichi Kikuta, Alexis Vandenbon, Masaki Miyazaki, Ryo Yamada, Toshiaki Ohteki, Masaru Ishii, Veronika Sexl, Takashi Nagasawa, Koichi Ikuta. Hematopoietic cell-derived IL-15 supports NK cell development in scattered and clustered localization within the bone marrow. Cell Rep. 2023.09; 42(9); 113127

2. Masashi Kanayama, Yuta Izumi, Megumi Akiyama, Toyoki Hayashi, Koji Atarashi, Axel Roers, Taku Sato, Toshiaki Ohteki. Myeloid-like B cells boost emergency myelopoiesis through IL-10 production during infection. J Exp Med. 2023.04; 220(4); e20221221

[書籍等出版物]

1. リッピンコットシリーズ　イラストレイテッド免疫学　原書 3 版. 2023.03

2. 樗木　俊聡, 金山　剛士. イラストレイテッド免疫学. 丸善出版, 2023.03 (ISBN : 978-4-621-30801-1)

[総説]

1. Ziegler-Heitbrock L, Ohteki T, Ginhoux F, Shortman K, Spits H.. Reply to 'Reclassifying plasmacytoid dendritic cells as innate lymphocytes is premature'. Nat Rev Immunol. 2023.05; 23(5); 338-339

1. 樗木　俊聡. プラズマサイトイド樹状細胞は何者か？　臨床免疫・アレルギー科. 2023.07; 80(1); 43-48

[講演・口頭発表等]

1. Masashi Kanayama, Toshiaki Ohteki. A novel B cell subset boosts myelopoiesis during infection. The 85th Annual Meeting of the Japanease Society of Hematology 2023.10.13 Tokyo

2. Masashi Kanayama, Toshiaki Ohteki. Myeloid-like B cells protect the host by boosting myelopoiesis during infection. JSICR/MMCB 2023 Joint Symposium 2023.05.25 Wakayama

1. 金山 剛士, 樗木 俊聡. 全身的な感染症における自然免疫細胞の産生と挙動. 第 96 回日本生化学会大会 シンポジウム　2023.10.01

2. 金山剛士, 樗木俊聡. 感染症における B 細胞を介した自然免疫細胞産生の強化. 第 32 回 KTCC (京都 T 細胞カンファレンス) 2023.06.16 京都大学

3. 金山　剛士. 感染症における造血系のダイナミズム. 盛和スカラーズソサエティ (3S) 交流会 2023.04.15 京都

4. 金山 剛士. ミエロイド系細胞産生を誘導する新たな因子の発見とその応用. 先進医薬研究振興財団研究成果報告集 2023.03.01

5. 佐藤　卓, 樗木　俊聡. I 型インターフェロノパチーの病態形成に関与する組織マクロファージの特徴付け. 第 6 回日本免疫不全・自己炎症学会 2023.02.11

6. Masashi Kanayama, Toshiaki Ohteki. Myeloid-like B cells boost emergency myelopoiesis through IL-10 production during infection. 東京医科歯科大学　Meets up 2023.01.25

[その他業績]

1. 「感染時に出現する調節性 B 細胞が自然免疫細胞の供給を高めることを発見」 —　まったく新しい獲得免疫と自然免疫相互作用の存在　—, 2023 年 01 月
Journal of Experimental Medicine

2. A call for action mounts an emergent attack against invaders, 2023 年 02 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

発生発達病態学

Pediatrics and Developmental Biology

教授 森尾友宏
准教授 鹿島田健一
講師 清水正樹、磯田健志
助教 水野朋子、高澤啓、石井卓（～2023 年 9 月）、杉江学、山口洋平、伊藤一之、宮本智史、伊良部仁、山内泰輔、大坂渓、下山輝義（2023 年 10 月～）
プロジェクト助教　尾崎富美子、高田紗奈美
特任助教　井上久美
大学院生　阿久津裕子、友田昂宏、櫻井牧人、奥津美夏、金森透、安達恵利子、野口優輔、金子修也、桐野玄、友政弾、勝碕静香、中谷久恵、真保麻実、江口詩織、新里大毅、Analia Gisela Yogi、山野春樹、Riski Muhaimin、浪川結衣

小児地域成育医療学講座（寄附講座）
教授 金兼弘和
講師 星野顕宏

茨城県小児・周産期地域医療学講座（寄附講座）
教授 高木正稔
講師 細川奨（～2023 年 9 月）、石井卓（2023 年 10 月～）
助教 森丘千夏子

生涯免疫難病学講座（寄附講座）
教授 森雅亮

(1) 分野概要

発生発達病態学分野は小児の総合内科である一方、免疫・血液・腫瘍、循環器、神経、内分泌・代謝、腎臓・リウマチ膠原病、新生児、アレルギーの各分野に分かれて特色ある専門診療を行い、それぞれの分野で先進的な医療を提供している。研究面においても基礎から臨床まで幅広い研究を行っているが、共通課題は小児難治性疾患の発症機構を解明し 治療に結びつけることである。幅広い生命現象全般に関する研究および治療介入により、小児疾患の予後改善を 目指している。

(2) 研究活動

小児疾患、特に難治性疾患の発症機構を解明し、治療に結びつけることを共通課題とし、幅広い生命現象全般を対照として研究を目指している。
現在の主なテーマは
1. 「先天性免疫異常症の責任遺伝子解明」
2. 「先天性免疫異常症の治療法開発」
3. 「移植後の感染症制御を目的とした細胞治療法の開発」
4. 「小児肺高血圧症患者レジストリ研究（先天性心疾患（JACPHR）, 特発性/遺伝性（JAPHR）」
5. 「冠動脈瘤をともなう川崎病患者のレジストリ研究」
6. 「子宮内環境による臍帯血および臍帯由来間葉系幹細胞のプロファイル変化についての基礎的研究」
7. 「脳室周囲白質軟化症による脳性麻痺児における乳歯歯髄幹細胞プロファイル変化の検討」

8. 「性分化の分子機構の研究」
9. 「副腎疾患、性分化疾患の分子病態の解明」
10. 「21 水酸化酵素欠損症のレジストリ研究」
11. 「先天性高インスリン血症の治療法と診断法確立」
12. 「インスリン受容体異常による糖尿病発症の病態解明」
13. 「オプソクローヌス ミオクローヌス症候群の自己免疫病態解明」
14. 「毛細血管拡張性運動失調症に対する遺伝子治療法開発」
15. 「全身性血管狭窄症の病態解明」
16. 「白血病発症にかかわる遺伝的素因に関する研究」
17. 「単一細胞解析技術を用いた小児白血病発症機構の解明」
18. 「小児がんに対する新規 CAR-NK 細胞療法の開発」
19. 「白血病におけるゲノムの 3 次元構造と病態解明」
20. 「T 細胞系列決定とスーパーエンハンサー活性化機構の解明」
21. 「てんかん症候群の原因解明と治療法開発」
22. 「自己免疫疾患患者に内在化する先天性免疫異常症の探索」
23. 「サイトカインストーム症候群をきたす基礎疾患の鑑別診断法の開発」
24. 「脊髄性筋萎縮症等治療可能な新生児期 小児期疾患に対する新生児マススクリーニング法の確立に関する研究」
25. 「自己免疫疾患患者における新規 T 細胞および B 細胞サブセットの動態および機能解析」
26. 「腎炎 ネフローゼ症候群における予後予測因子の探索」
27. 「先天性免疫異常症に伴う腎疾患や遺伝性腎疾患の病理 分子生物学的発症機序の解明」

東京医科歯科大学難治疾患研究所、東京大学医科学研究所、広島大学、韓国延世大学、長寿医療センター、ソニーライフサイエンスラボラトリー、理化学研究所統合生命医科学研究センター、かずさ DNA 研究所、成育医療研究センター、東京都医学総合研究所、順天堂大学、京都大学、東京大学など、国内外の研究施設 研究室と共同研究、情報交換を行いながら、先端的な研究を行っている。

●血液腫瘍 免疫グループ
血液腫瘍 免疫グループが扱う研究テーマは多岐に亘り、スタッフ 10 名、医員 1 名、大学院生 10 名、共同研究者、及び数名の技術補佐員により研究が行われている。
先天性免疫異常症（IEI）の病態解析、治療法開発
次世代シークエンサーを用いた全エクソン解析（WES）の手法を用いて IEI 候補遺伝子の探索を進め、いくつかの未知の疾患責任遺伝子の変異候補を同定し、さらなる病態の解析を行っている。MRE11-RAD50-MRN 複合体は DNA 損傷応答に重要な役割を果たしている。RAD50 の複合ヘテロ接合変異が骨髄不全と B 細胞免疫不全と関連していることを報告しました（高木、星野、金兼）。国際調査を行い、造血細胞移植が免疫グロブリン補充療法が従来治療である X 連鎖無ガンマグロブリン血症 (XLA) に対して、代替的な根治治療となりえることを報告しました（西村、金兼）。先天性免疫異常症患者に伴うリンパ組織腫大、腸炎、血球減少症に対するシロリムスの有効性および安全性を評価する II 相臨床試験を行っている（磯田）。その他、移植後の免疫学的再構築促進手段として養子免疫療法の研究において、難治性ウイルス感染症に対するウイルス特異的 T 細胞療法の臨床試験へと展開した（森尾、神谷）。

腫瘍関連
骨髄/NK 前駆細胞性急性白血病に対して、1 細胞解析を中心としたマルチオミクス解析を行い白血病の起源を明らかにし、一つの独立した疾患概念であることを報告した（西村、高木）。

●循環器グループ
＜基礎研究＞
肺高血圧症の病態解明：BMP9 遺伝子変異患者の機能解析を行うなかで、TGF β/BMP シグナル伝達の機構解明を目指している（櫻井、細川）

＜臨床研究＞
先天性心疾患を伴う肺動脈性肺高血圧症例の多施設 前向き症例登録研究（研究代表者）、および小児特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧症に関する症例登録研究（研究分担者）を進めている。

●神経グループ
＜基礎研究＞
毛細血管拡張性運動失調症に対するウイルスベクターを用いた遺伝子治療法開発に向けての研究、脊髄性筋萎縮症 の早期発見、早期治療に向けた診断法確立のための研究、もやもや病類縁疾患の病態解析研究、を行っている。

また東京都医学総合研究所との共同研究で、低酸素低栄養状態におけるアストロサイトの細胞保護作用についての 研究を進めており、murine astrocyte-enriched cultures を用いて、hypoxic-induced factor 1 alpha(HIF-1 α) に関連する
nuclear receptor 4A (NR4A) subfamily の役割やその他の細胞保護作用を持つ転写因子を探索している。
＜臨床研究＞
「てんかん症候群の原因解明と治療法開発」（昭和大学小児科との共同研究）
「希少てんかんに関する調査研究」（静岡てんかん神経医療センターとの共同研究）
「免疫性神経疾患における自己抗体の系統的測定と機能解析」（東京都医学総合研究所との共同研究）
「ACTH 療法を施行した West 症候群患者の副腎皮質機能評価」
「脊髄性筋萎縮症等治療可能な新生児期 小児期疾患に対する新生児マススクリーニング法の確立に関する研究」
「プリズムを用いた小脳運動学習評価システムにおける小児の基準値の確立と中枢神経疾患での応用」

●内分泌代謝グループ
性分化 性腺発生の分子機構の解明
性腺発生における転写ネットワーク制御の網羅的な解析を、transcriptome 解析などを用いて行っている。成育医療研究センターのシステム発生 再生医学研究部高田修治部長、理化学研究所との共同研究である。性腺発生に重要と思われる転写因子の発見や、その転写制御の epigenetic な制御機構についてさらなる検索を行うことを視野に入れいてる。現（鹿島田、高澤、安達、桐野、山野、中谷、A. Yogi）

21 水酸化酵素欠損症 (21OHD) の新たな診断法、治療法およびバイオマーカーの確率
簡便な遺伝子検査法や成人期に発症する生活習慣病を低減できる治療法、およびそれに寄与する至適なバイオマーカーの探索をするために、五施設共同（慶應義塾大学、東京都立小児総合医療センター、あいち小児保健医療総合センター、大阪母子医療センター）でのレジストリ研究を研究代表者として行なっている。

先天性内分泌疾患の分子レベルでの病態の解明
インスリン受容体異常症などを中心に、新規遺伝子変異をもつ患者の変異解析や、新たな分子病態機構の同定を目的とし、インスリン抵抗性の分子機構の解明について研究を行っている (高澤、鹿島田)

●膠原病 リウマチグループ
若年性特発性関節炎 (juvenile idiopathic arthritis: JIA) を主とした小児リウマチ性疾患の診断基準 重症度分類の標準化とエビデンスに基づいたガイドラインの策定、JIA データベース CoNinJa（Children’s version of National Database of Rheumatic Diseases by iR-net in Japan）の開発、自己免疫疾患患者に内在化する原発性免疫不全症の探索、サイトカインストーム症候群をきたす基礎疾患の鑑別診断法の開発、自己免疫疾患患者における新規 T 細胞および B 細胞サブセットの動態および機能解析などを行っている。また膠原病 リウマチ内科との共同研究で、膠原病疾患における小児期発症と成人発症各々の治療の現状と有効性について解析を進めている。

●新生児グループ
子宮内環境による臍帯由来間葉系幹細胞プロファイル変化の研究
関連病院との共同臨床研究により、ヒトにおける子宮内環境による臍帯由来間葉系幹細胞プロファイル変化についての研究を行っている。早産児疾患に対する臍帯由来間葉系幹細胞治療の機序と効果を解明するとともに、早産児疾患成立における間葉系幹細胞の関与について明らかにし、臍帯由来間葉系幹細胞を用いた早産児の合併症予測バイオマーカーの同定を目指している。

脳室周囲白質軟化症による脳性麻痺児における乳歯歯髄幹細胞プロファイル変化の検討
早産児の合併症である脳室周囲白質軟化症に対する歯髄幹細胞治療の可能性を模索するための基礎的データとして、脳室周囲白質軟化症による脳性麻痺児の乳歯から歯髄幹細胞を培養し、そのプロファイルを解析している。

●アレルギーグループ
食物アレルギーに関して学外施設と連携して免疫学、栄養学的アプローチによる発症および寛解の機序に関する研究および疫学的研究を行っている。食物アレルギー経口免疫療法における特異的 IgE 抗体などに関する免疫学的パラメーターの解析を行っている。

●腎臓グループ
腎炎 ネフローゼ症候群の発症時点での予後予測因子の探索研究を関連病院との多施設共同研究により行っている。発症原因が未解明な疾患の重症度、治療反応性、長期予後に関連するバイオマーカーを明らかにし、上 記疾患の診療向上に貢献することを目標とする。

(3) 教育活動

2023 年度の臨床医学分野の系統講義はブロックごとに行われ、発生発達病態学（小児科）は PCC と同様、生殖機能協関学（周産 女性診療科）と合同のもと「生殖 発達ブロック」講義を担当した。
前年度に引き続きアクティブ ラーニングを中心とした系統講義をおこなった。本年度は学生が復習をしやすいように非同期授業を 19 コマ、アクティブラーニングは 9 コマ、TBL 2 コマが行われた。アクティブ ラーニングのみでは小児科の全領域をカバーすることはできないが、学生の応用力を高める観点から有用であると考えている。

医学科 4 年生て行われた「臨床導入実習 PCC」では、生殖機能協関学（周産 女性診療科）と「生殖発達コース」を担当した。
医学科 5 年生の小児科臨床実習、クリニカルクラークシップ (CC) は COVID-19 流行の遷延により 2 週間に短縮され同様の期間で実施した。それぞれの学生は 2 週間学内診療グループ（血液 免疫、循環器、神経、内分泌、腎臓、膠原病、新生児） のいずれか 2 つで実習を行った。
月曜日と金曜日は全学生を対象にレクチャー（診断学、先天性心疾患、新生児、輸液、脳波、内分泌、白血病、免疫不全 感染症、Child Life Specialist の小児科における役割のうち 6 コマ）を行い、毎週金曜日は Web による学生カンファレンスを行って臨床実習の理解を深めるような実習プログラムとした。
医学科 6 年生の小児科臨床実習は今年度も 2 名を受け入れ、学内でアドバンスト プログラムとして、希望する診療グループで 2 週間継続して実習する形式とした。
卒後教育としては、初期臨床研修医 1 2 年生には最低 1 か月間の基礎的臨床教育を学内施設で行った。大学での後期臨床研修医は、小児科専門医取得のためのより専門的な臨床教育を幅広く行った。

(4) 教育方針

医学部学生に対しては、講義はアクティブラーニングを中心とし、小児のプライマリケア、臓器別の専門疾患、基礎科学に十分配慮した教育プログラムを作成している。この中で最先端の基礎医学への深い理解にも対応できる教育プログラムとなるよう配慮している。
一方研修医に対しては、プライマリケアから基礎医学までを総合的に行うことができる、いわゆるフィジシャンサイエンティストの育成を中心に教育プログラムを作成している。

(5) 臨床活動および学外活動

●血液腫瘍 免疫グループ対象疾患、診療内容：
先天性免疫異常症 (IEI)、血液悪性腫瘍、非悪性血液疾患、悪性固形腫瘍の診断および治療を提供している。聖路加国際病院および順天堂大学順天堂医院との診療および専門研修の連携システムがあり、2013 年度から 3 施設による相互研修派遣が開始されている。
東京小児がん研究グループ（TCCSG）および日本小児がん研究グループ（JCCG）に属して、小児悪性腫瘍疾患の標準的治療法確立に貢献している。臨床試験や先進医療について IRB 承認を得て、参加の機会を提供している。
診療実績：
先天性免疫異常症や難治性血液悪性腫瘍、進行性悪性固形腫瘍に対して造血幹細胞移植を行っている。近年は PTCY 療法を用いた血縁 HLA 半合致移植にも取り組んでいる。
2023 年度は、8 件の造血細胞移植（同種移植 6 件、自家移植 2 件）を施行した。2 例の血液内科での移植を連携して実施した。
これまで 200 例以上に対して造血細胞移植を行い、先天性免疫異常症に対する移植例は 100 例を越え、日本で屈指の症例数、治療成績である。
臨床試験：
主に以下の３つの自主臨床試験を行っている
「原発性免疫不全症患者を対象としたシロリムスの有効性および安全性を検討する第 II 相臨床試験」東京医科歯

科大学小児科が主導して行う医師主導治験である
「HLA 半合致以上の血縁ドナーから作成した複数ウイルスに対する抗原特異的 T 細胞を用いた造血細胞移植後の治療抵抗性ウイルス感染症に対する細胞療法」
再生医療等安全確保法に基づく GCTP 準拠の第 1 種再生医療等技術としての臨床試験（第 I /II 相試験）である
「毛細血管拡張性運動失調症 (AT) およびその類縁疾患である DNA 損傷応答異常症に対する同種造血幹細胞移植第 II 相臨床試験」

小児がん生存者（CCS）の長期フォローアップ：
CCS の長期 QOL の維持に勤めるため、他小児臓器別専門医、CLS(child life specialist)、非常勤臨床心理士などによる多職種医療チームによる診療体制を整えている。

●循環器グループ
対象疾患、診療内容：
小児循環器疾患全般を取り扱っており、先天性心疾患では診断から手術（〜リスクカテゴリ 3）まで、後天性心疾患では冠動脈病変を有する重症川崎病の治療 (血漿交換療法を含む) や、特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧症の診断からエポプロステノールによる治療まで、不整脈疾患では頻拍性不整脈のカテーテル アブレーションや、遺伝性不整脈の診断から治療まで多岐にわたっている。上記のうち特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧症 (IPAH/HPAH) に関しては治療実績が評価され、多施設からの紹介患者が多い。また小児 IPAH/HPAH、および先天性心疾患に伴う肺高血圧症の患者レジストリの登録施設として全国約 10 施設の一つに認定されている。
診療実績：
日本小児循環器学会認定専門医修練施設群の主施設であり、 1 年間の延べ入院患者数は 103 名、内訳は先天性心疾患 42 名、肺高血圧 17 名、川崎病急性期治療 8 名、川崎病性冠動脈瘤フォローアップ 11 名、不整脈 7 名などであった。心臓カテーテル検査数は 56 件、心臓手術症例数は 16 例であった。

●神経グループ
対象疾患、診療内容：
幅広い神経疾患の診療を行っているが、特に難治てんかん患者の診療には、学内のてんかんセンターと連携し重点的に行っている。ビデオ脳波同時記録や高磁場 MRI、核医学検査 (PET など) による評価、および薬物療法、ACTH 療法、ケトン食療法などを行い、必要に応じて外科的治療を脳神経外科との協力のもとに行っている。また脊髄性筋萎縮症に対し、核酸医薬品、遺伝子治療薬の投与を行っている。希少神経疾患の診断、遺伝学的解析、治療にも力を入れている。

●内分泌代謝グループ
対象疾患、診療内容：
小児内分泌代謝疾患全般を対象とするが、特に先天性副腎過形成 (21OHD)、性分化疾患に重点をおいている。また小児 1
型糖尿病の患者会を主催するなど、重要な疾患と位置づけている。
東京都予防医学協会の母子保健専門委員として，先天性副腎過形成症のマススクリーニングの指導を行っている。近年はこれらの臨床経験を疫学的に解析し、いくつかの臨床研究論文として発表を行っている。性分化疾患中核施設についても高い専門性のもと、集約的に診療していく方針である。

●腎臓グループ
対象疾患、診療内容：
年間約 30 例の腎生検を行い、先天性ネフローゼ症候群、難治性ネフローゼ症候群や治療抵抗性の IgA 腎症、紫斑病性腎炎などの診療を行っている。低体重児に対する腹膜透析療法や、他疾患に合併した急性腎障害および膠原病疾患に対する急性血液浄化療法および血漿交換療法も施行している。

国立成育医療研究センター腎臓リウマチ膠原病科に国内留学し、難治性腎疾患の診療、腎臓移植や透析療法の診療などを研修している。

●膠原病 リウマチグループ対象疾患、診療内容：
小児膠原病、リウマチ疾患全般を対象とするが、さらにそれらに限らず、不明熱、関節痛をはじめとした診断未確定な症例や周期性発熱で代表される自己炎症性症候群の診療 治療を行っている。また、小児リウマチ性疾患の現状と実態に即し、小児リウマチ性疾患の成人期における移行期医療の問題点と課題に重点をおいている。

●新生児グループ
対象疾患、診療内容：
大学病院 NICU という特徴を生かして、ほかの診療科や小児科の専門診療グループと連携し、24 時間体制で早産児（在胎 27 週以上、出生体重 800g 以上）や合併症のある新生児、合併症母体から出生した児の診療に当たっている。また小児心臓外科、小児外科と協力し、先天性心疾患、外科疾患の児の早期手術も受け入れている。

●アレルギーグループ対象疾患、診療内容：
大学のアレルギー疾患先端治療センターの小児科部門および学外の関連施設を中心に小児気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎などの小児アレルギー疾患の診療に当たっている。

(6) 臨床上の特色

●血液腫瘍 免疫グループ
血液腫瘍疾患や先天性免疫異常症の診断 治療、病態解析を行い、難治疾患に対しては造血細胞移植を実施している。特に先天性免疫異常症では日本で最多の患者を診療している。多施設共同研究による標準的治療法の確立、治験参加による新規医薬品の開発および適応拡大にも貢献している。

●循環器グループ
小児循環器領域のあらゆる疾患に対して、幅広く適切な診断と治療を迅速に行っている。中でも厚労省の難病指定疾患である肺動脈性肺高血圧症の診断と治療に先進的に取り組んでおり、現在までに重症特発性/遺伝性肺動脈肺高血圧患児 8 名に対して非経口 PGI2 製剤の持続療法（静脈内 7 名、皮下 1 名）を含む初期併用療法（upfront combination therapy）を行ってきた。

●神経グループ
難治てんかん、小脳失調症、神経免疫疾患、脊髄性筋萎縮症、不随意運動症、周産期障害、急性脳炎脳症、神経変性疾患などの初期診断、特殊検査、治療から慢性期の全身管理などを幅広く行っている。

●内分泌代謝グループ
東京都における新生児マススクリーニングの専門医療機関として、先天性副腎過形成 (CAH) のスクリーニング要精査者の確定診断 治療を行っている。性分化疾患および Childhood Cancer Survivor(CCS) の診療にも力を入れている。また、患者サポートとして小児 1 型糖尿病患者会である“東京わかまつ会”の活動に指導医として協力している。

●腎臓グループ
扱う疾患は多岐にわたっており、年間約 30 例以上の腎生検を行い、先天性ネフローゼ症候群、難治性ネフローゼ症候群、治療抵抗性の慢性糸球体腎炎の治療などを行っている。体重が 10kg 未満の低体重児に対する緊急透析療法や腹膜透析療法も血液浄化療法部の協力を得て行っている。

●膠原病 リウマチグループ
小児リウマチ疾患全般の診療（生物学的製剤を含む）に限らず、不明熱、関節痛をはじめとした診断未確定な症例や周期性発熱で代表される自己炎症性症候群の診療治療を行っている。治験参加やガイドライン策定などを通して治療の適応拡大や標準化にも積極的に関与している。また、小児から成人への「移行期医療」に重点を置き、小児リウマチ性疾患のスムースな成人科への橋渡しについて患者のニーズに重きをおいて実践に取り掛かっている。

●新生児グループ
東京都地域周産期母子医療センターの指定を受け、周産・女性診療科との連携により、近隣だけでなく多摩地区など遠方からも母体搬送・新生児搬送を受け入れ、東京都の周産期医療に貢献している。

●アレルギーグループ
小児アレルギー疾患全般を扱うが、特に食物アレルギー診療に重点をおき、アナフィラキシーなどの強い誘発症状を伴う食物アレルギー、多抗原が関与する重症かつ複雑な食物アレルギー、食物依存性運動誘発アナフィラキシーなどの特殊な症例の診断 治療をおこなう。食物アレルギーの食物経口負荷試験や経口減感作療法を、関連病院施設と合わせて多数実施している。重症気管支喘息に対して新しい生物学的製剤による長期治療管理を導入している。

(7) 研究業績

[原著]

1. Kunihiko Moriya, Kanako Mitsui-Sekinaka, Yujin Sekinaka, Akifumi Endo, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Kohsuke Imai, Shigeaki Nonoyama. Clinical practice guideline for activated phosphatidyl inositol 3-kinase-delta syndrome in Japan. Immunol Med. 2023.12; 46(4); 153-157

2. Akira Nishimura, Kazuaki Yokoyama, Takuya Naruto, Chika Yamagishi, Toshihiko Imamura, Hiroto Nakazono, Shunsuke Kimura, Mieko Ito, Maiko Sagisaka, Yukie Tanaka, Jinhua Piao, Yui Namikawa, Masakatsu Yanagimachi, Takeshi Isoda, Akinori Kanai, Hirotaka Matsui, Tomoya Isobe, Aiko Sato-Otsubo, Naoko Higuchi, Akiko Takada, Haruna Okuno, Shoji Saito, Shuhei Karakawa, Shogo Kobayashi, Daisuke Hasegawa, Hiroyuki Fujisaki, Daiichiro Hasegawa, Kazutoshi Koike, Takashi Koike, Shinya Rai, Katsutsugu Umeda, Hideki Sano, Yujin Sekinaka, Atsushi Ogawa, Akitoshi Kinoshita, Norio

Shiba, Mizuka Miki, Fumihiko Kimura, Hideki Nakayama, Yozo Nakazawa, Takashi Taga, Tomohiko Taki, Souichi Adachi, Atsushi Manabe, Katsuyoshi Koh, Yasushi Ishida, Junko Takita, Fumihiko Ishikawa, Hiroaki Goto, Tomohiro Morio, Shuki Mizutani, Arinobu Tojo, Masatoshi Takagi. Myeloid/natural killer (NK) cell precursor acute leukemia as a distinct leukemia type. Sci Adv. 2023.12; 9(50); eadj4407

3. Shuya Kaneko, Yusuke Noguchi, Maho Hatano, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Kenji Furuno, Naomi Iwata, Junya Fujimura, Keiji Akamine, Anna Kobayashi, Takuya Endo, Tomohiro Morio, Masaki Shimizu. Clinical usefulness of T-Cell Receptor V β Repertoire analysis for differentiating multisystem inflammatory syndrome in Japanese children from Toxic Shock Syndrome and Kawasaki Disease. Pediatr Infect Dis J. 2023.12;

4. Aidé Tamara Staines-Boone, Pandiarajan Vignesh, Miyuki Tsumura, Germán de la Garza Fernández, Reva Tyagi, Amit Rawat, Jhumki Das, Dan Tomomasa, Takaki Asano, Atsushi Hijikata, Yuridia Salazar-Gálvez, Hirokazu Kanegane, Satoshi Okada, Saul O Lugo Reyes. Fatal COVID-19 Infection in Two Children with STAT1 Gain-of-Function. J Clin Immunol. 2023.12; 44(1); 20

5. Takuro Nishikawa, Takahiro Tomoda, Aki Nakamura, Jun Nagahama, Akihito Tanaka, Shuji Kanmura, Mari Kirishima, Akihide Tanimoto, Tsubasa Okano, Takahiro Kamiya, Kentaro Okamoto, Susumu Kirimura, Tomohiro Morio, Yasuhiro Okamoto, Hirokazu Kanegane. Case Report: The leopard sign as a potential characteristic of chronic granulomatous disease-associated colitis, unrelated to colitis severity. Front Immunol. 2023.12; 14; 1208590

6. Akira Nishimura, Ramya Uppuluri, Revathi Raj, Venkateswaran Vellaichamy Swaminathan, Yifei Cheng, Rolla F Abu-Arja, Bin Fu, Alexandra Laberko, Michael H Albert, Fabian Hauck, Giorgia Bucciol, Venetia Bigley, Suzanne Elcombe, Gaurav Kharya, Cornelis Jan H Pronk, Claudia Wehr, Bénédicte Neven, Klaus Warnatz, Isabelle Meyts, Tomohiro Morio, Andrew R Gennery, Hirokazu Kanegane. An International Survey of Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for X-Linked Agammaglobulinemia. J Clin Immunol. 2023.11; 43(8); 1827-1839

7. Takuji Itakura, Hirokazu Sasaki, Tadashi Hosoya, Taiki Yamaguchi, Erika Mimori, Yukino Saimon, Hideyuki Iwai, Natsuka Umezawa, Daisuke Kawata, Naoki Kimura, Morito Kurata, Masaki Shimizu, Shinsuke Yasuda. A novel gain-of-function missense variant in PLCG2 associated with autoinflammation and hypergammaglobulinaemia. Rheumatology (Oxford). 2023.11; 62(11); e319-e321

8. Masatoshi Takagi, Akihiro Hoshino, Kristine Bousset, Jule Röddecke, Hanna Luisa Martin, Iulia Folcut, Dan Tomomasa, Xi Yang, Junya Kobayashi, Naoki Sakata, Kenichi Yoshida, Satoru Miyano, Seishi Ogawa, Seiji Kojima, Tomohiro Morio, Thilo Dörk, Hirokazu Kanegane. Bone Marrow Failure and Immunodeficiency Associated with Human RAD50 Variants. J Clin Immunol. 2023.11; 43(8); 2136-2145

9. Rintaro Ono, Kenichi Sakamoto, Takehiko Doi, Ryu Yanagisawa, Akira Morimoto, Hirokazu Kanegane, Yozo Nakazawa, Yoko Shioda. Dexamethasone palmitate as an etoposide-free treatment for children with hemophagocytic lymphohistiocytosis after hematopoietic cell transplantation. Bone Marrow Transplant. 2023.11; 58(11); 1286-1288

10. Keisuke Ogasawara, Makoto Ono, Keita Tamanuki, Ryosuke Wakatsuki, Kento Inoue, Yoshinori Tateishi, Rentaro Oda, Shogo Shirane, Hiraku Funakoshi, Hirokazu Kanegane, Yoshiho Hatai. Respiratory Symptoms are the First Presentation of Liver Abscess. Pediatr Infect Dis J. 2023.11;

11. Shuya Kaneko, Fumiaki Sakura, Kay Tanita, Asami Shimbo, Ryusuke Nambu, Masashi Yoshida, Shuichiro Umetsu, Ayano Inui, Chizuru Okada, Miyuki Tsumura, Mamiko Yamada, Hisato Suzuki, Kenjiro Kosaki, Osamu Ohara, Masaki Shimizu, Tomohiro Morio, Satoshi Okada, Hirokazu Kanegane. Janus kinase inhibitors ameliorate clinical symptoms in patients with STAT3 gain-of-function. Immunotherapy Advances. 2023.11;

12. Daisuke Kurita, Norio Shiba, Takashi Ohya, Ayako Murase, Yuko Shimosato, Masahiro Yoshitomi, Seira Hattori, Koji Sasaki, Kenichi Nishimura, Shin-Ichi Tsujimoto, Masanobu Takeuchi, Reo Tanoshima, Hirokazu Kanegane, Norihiko Kitagawa, Shuichi Ito. Severe RAS-Associated Lymphoproliferative Disease Case with Increasing α β Double-Negative T Cells with Atypical Features. J Clin Immunol. 2023.11; 43(8); 1992-1996

13. Asuka Kono, Manabu Wakamatsu, Yoshihiro Umezawa, Hideki Muramatsu, Hiroki Fujiwara, Dan Tomomasa, Kento Inoue, Keiichiro Hattori, Tetsuo Mitsui, Hidetoshi Takada, Yoshiyuki Minegishi,

Yoshiyuki Takahashi, Masahide Yamamoto, Takehiko Mori, Hirokazu Kanegane. Successful treatment of DOCK8 deficiency by allogeneic hematopoietic cell transplantation from alternative donors. Int J Hematol. 2023.10; 118(4); 519-525

14. Analia Yogi, Kenichi Kashimada. Current and future perspectives on clinical management of classic 21-hydroxylase deficiency. Endocr J. 2023.10; 70(10); 945-957

15. Susumu Yamazaki, Asami Shimbo, Yuko Akutsu, Hiroshi Takase, Tomohiro Morio, Masaaki Mori. Correction: Importance of pediatric rheumatologists and transitional care for juvenile idiopathic arthritis-associated uveitis: a retrospective series of 9 cases. Pediatr Rheumatol Online J. 2023.10; 21(1); 132

16. Tomoko Mizuno, Tadashi Kanouchi, Yumie Tamura, Ko Hirata, Runa Emoto, Tomonori Suzuki, Kenichi Kashimada, Tomohiro Morio. Changes in electrophysiological findings of spinal muscular atrophy type I after the administration of nusinersen and onasemnogene abeparvovec: two case reports. BMC Neurol. 2023.10; 23(1); 392

17. Salim Ferrani, Thierry Prazuck, Stéphane Béchet, Fabien Lesne, Robert Cohen, Corinne Levy. Diagnostic accuracy of a rapid antigen triple test (SARS-CoV-2, respiratory syncytial virus, and influenza) using anterior nasal swabs versus multiplex RT-PCR in children in an emergency department. Infect Dis Now. 2023.10; 53(7); 104769

18. Taku Ishii, Nobutoshi Nawa, Shozaburo Doi, Tomohiro Morio, Takeo Fujiwara. Association between the initiation of insurance coverage for fetal echocardiography and mortality from congenital heart disease in infants: An interrupted time series analysis. Paediatr Perinat Epidemiol. 2023.09; 37(7); 607-617

19. Toshihiro Yamaguchi, Masao Iwagami, Chieko Ishiguro, Souichirou Kitao, Masashi Tetsuhashi, Masato Izumi, Shingo Yoshihara, Hiroshi Kobatake, Yoshifumi Banzai, Natsumi Kinoshita, Toyotaka Iguchi, Akira Oka, Tomohiro Morio, Kiyohito Nakai, Shuichiro Hayashi, Ryo Takagi. Updated report of COVID-19 vaccine safety monitoring in Japan: booster doses for Omicron variants and vaccinations for infants and young children. Lancet Reg Health West Pac. 2023.09; 38; 100885

20. Jae-Seung Moon, Chun-Chang Ho, Jong-Hyun Park, Kyungsoo Park, Bo-Young Shin, Su-Hyeon Lee, Ines Sequeira, Chin Hee Mun, Jin-Su Shin, Jung-Ho Kim, Beom Seok Kim, Jin-Wook Noh, Eui-Seon Lee, Ji Young Son, Yuna Kim, Yeji Lee, Hee Cho, SunHyeon So, Jiyoon Park, Eunsu Choi, Jong-Won Oh, Sang-Won Lee, Tomohiro Morio, Fiona M Watt, Rho Hyun Seong, Sang-Kyou Lee. Lrig1-expression confers suppressive function to CD4+ cells and is essential for averting autoimmunity via the Smad2/3/Foxp3 axis. Nat Commun. 2023.09; 14(1); 5382

21. Yogi A, Iemura R, Nakatani H, Takasawa K, Gau M, Yamauchi T, Yoshida M, Moriyama K, Ishii T, Hosokawa S, Yamada M, Suzuki H, Kosaki K, Kashimada K, Morio T. BMP2 is a potential causative gene for isolated dextrocardia situs solitus. European journal of medical genetics. 2023.08; 66(9); 104820

22. Nishiyama Y, Mizuki K, Hoshino A, Hirabayashi S, Magara T, Ashiarai M, Miyamoto S, Ono R, Takahashi S, Hosoya Y, Niizato D, Yoshihara H, Nishimura A, Mitsuiki N, Kamiya T, Takasawa K, Kajiwara M, Kanegane H, Morio T, Manabe A, Isoda T, Hasegawa D, Takagi M. Hematopoietic cell transplantation for hematological malignancies in Bloom syndrome. Pediatric blood & cancer. 2023.08; 70(11); e30655

23. Niiyama S, Fukuda H, Hirata A, Takenaka S, Isoda T. Recalcitrant multiple warts in GATA2 deficiency treated with systemic etretinate. The Journal of dermatology. 2023.08;

24. Athimalaipet V Ramanan, Pierre Quartier, Nami Okamoto, Ivan Foeldvari, Alberto Spindler, Šárka Fingerhutová, Jordi Antón, Zhongkai Wang, Gabriella Meszaros, Joana Araújo, Ran Liao, Stuart Keller, Hermine I Brunner, Nicolino Ruperto, , . Baricitinib in juvenile idiopathic arthritis: an international, phase 3, randomised, double-blind, placebo-controlled, withdrawal, efficacy, and safety trial. Lancet. 2023.08; 402(10401); 555-570

25. Akira Morimoto, Yoko Shioda, Kazuko Kudo, Hirokazu Kanegane, Toshihiko Imamura, Katsuyoshi Koh, Yoshiyuki Kosaka, Yuki Yuza, Atsuko Nakazawa, Akiko M Saito, Tomoyuki Watanabe, Yozo Nakazawa. Intensification of treatment with vinca alkaloid does not improve outcomes in pediatric patients with Langerhans cell histiocytosis: results from the JPLSG LCH-12 study. Int J Hematol. 2023.07; 118(1); 107-118

26. Masafumi Onodera, Toru Uchiyama, Tadashi Ariga, Masafumi Yamada, Takako Miyamura, Hironori Arizono, Tomohiro Morio. Safety and efficacy of elapegademase in patients with adenosine deaminase deficiency: A multicenter, open-label, single-arm, phase 3, and postmarketing clinical study. Immun Inflamm Dis. 2023.07; 11(7); e917

27. Yamamoto Keiko Shimojima, Tamura Takeaki, Okamoto Nobuhiko, Nishi Eriko, Noguchi Atsuko, Takahashi Ikuko, Sawaishi Yukio, Shimizu Masaki, Kanno Hitoshi, Minakuchi Yohei, Toyoda Atsushi, Yamamoto Toshiyuki. Identification of small-sized intrachromosomal segments at the ends of INV-DUP-DEL patterns JOURNAL OF HUMAN GENETICS. 2023.07;

28. Mariko Mouri, Toru Kanamori, Eriko Tanaka, Kanako Hiratoko, Mariko Okubo, Michio Inoue, Tomohiro Morio, Masaki Shimizu, Ichizo Nishino, Naoko Okiyama, Masaaki Mori. Hepatic veno-occlusive disease accompanied by thrombotic microangiopathy developed during treatment of juvenile dermatomyositis and macrophage activation syndrome: A case report. Mod Rheumatol Case Rep. 2023.06; 7(2); 404-409

29. Motoi Yamashita, Masae Kuroha, Yuko Kinowawki, Nao Kashiwagi, Kotaro Watanabe, Mika Nagase, Daiki Niizato, Noriko Mitsuiki, Takeshi Isoda, Takahiro Kamiya, Atsuko Arisaka, Motoki Inaji, Kenichi Ohashi, Kohsuke Imai, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi. A SAMD5-SASH1 fusion in solitary infantile myofibromatosis. Pediatr Blood Cancer. 2023.06; 70(6); e30278

30. Shuya Kaneko, Masaki Shimizu, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Koji Yokoyama, Kenji Furuno, Takayuki Tanaka, Kazuyuki Ueno, Shuhei Fujita, Naomi Iwata, Junya Fujimura, Keiji Akamine, Mao Mizuta, Yasuo Nakagishi, Toshinori Minato, Kenichi Watanabe, Anna Kobayashi, Takuya Endo, Katsuhiko Tabata, Masaaki Mori, Tomohiro Morio. Clinical significance of serum cytokine profiles for differentiating between Kawasaki disease and its mimickers. Cytokine. 2023.06; 169; 156280

31. Mao Mizuta, Natsumi Inoue, Masaki Shimizu, Naoto Sakumura, Tadafumi Yokoyama, Rie Kuroda, Yasuhiro Ikawa, Naotoshi Sugimoto, Kenichi Harada, Akihiro Yachie, Taizo Wada. Distinct roles of IL-18 and IL-1 β in murine model of macrophage activation syndrome. J Allergy Clin Immunol. 2023.06;

32. Haruka Hiroki, Koshi Akahane, Takeshi Inukai, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi. Synergistic effect of combined PI3 kinase inhibitor and PARP inhibitor treatment on BCR/ABL1-positive acute lymphoblastic leukemia cells. Int J Hematol. 2023.05; 117(5); 748-758

33. Takahiro Kido, Sho Hosaka, Kazuo Imagawa, Hiroko Fukushima, Tomohiro Morio, Shigeaki Nonoyama, Hidetoshi Takada. Initial manifestations in Patients with Inborn Errors of Immunity Based on Onset Age: a Study from a Nationwide Survey in Japan. J Clin Immunol. 2023.05; 43(4); 747-755

34. Ryosuke Wakatsuki, Yoshiho Hatai, Kentaro Okamoto, Shuya Kaneko, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Masaki Shimizu, Hirokazu Kanegane, Makoto Ono. An infant with A20 haploinsufficiency presenting with periodic fever syndrome: A case report. Int J Rheum Dis. 2023.05; 26(5); 973-976

35. Yohei Yamaguchi, Susumu Hosokawa, Go Haraguchi, Yusuke Kajikawa, Makito Sakurai, Taku Ishii, Noboru Ando, Tomohiro Morio, Shozaburo Doi, Tetsushi Furukawa. The Anti-Inflammatory Effects and Clinical Potential of Dexmedetomidine in Pulmonary Arterial Hypertension. J Pharmacol Exp Ther. 2023.05; 385(2); 88-94

36. Ana García-García, Rebeca Pérez de Diego, Carlos Flores, Darawan Rinchai, Jordi Solé-Violán, Àngela Deyà-Martínez, Blanca García-Solis, José M Lorenzo-Salazar, Elisa Hernández-Brito, Anna-Lisa Lanz, Leen Moens, Giorgia Bucciol, Mohamed Almuqamam, Joseph B Domachowske, Elena Colino, Juan Luis Santos-Perez, Francisco M Marco, Claudio Pignata, Aziz Bousfiha, Stuart E Turvey, Stefanie Bauer, Filomeen Haerynck, Javier Gonzalo Ocejo-Vinyals, Francisco Lendinez, Seraina Prader, Nora Naumann-Bartsch, Jana Pachlopnik Schmid, Catherine M Biggs, Kyla Hildebrand, Alexandra Dreesman, Miguel Ángel Cárdenes, Fatima Ailal, Ibtihal Benhsaien, Giuliana Giardino, Agueda Molina-Fuentes, Claudia Fortuny, Swetha Madhavarapu, Daniel H Conway, Carolina Prando, Laire Schidlowski, María Teresa Martínez de Saavedra Álvarez, Rafael Alfaro, Felipe Rodríguez de Castro, , , Isabelle Meyts, Fabian Hauck, Anne Puel, Paul Bastard, Bertrand Boisson, Emmanuelle Jouanguy, Laurent Abel, Aurélie Cobat, Qian Zhang, Jean-Laurent Casanova, Laia Alsina, Carlos Rodríguez-Gallego. Humans with inherited MyD88 and IRAK-4 deficiencies are predisposed to hypoxemic COVID-19 pneumonia. J Exp Med. 2023.05; 220(5); e20220170

37. Satoshi Miyamoto, Kevin Y Urayama, Yuki Arakawa, Katsuyoshi Koh, Yuki Yuza, Daisuke Hasegawa, Yuichi Taneyama, Yasushi Noguchi, Masakatsu Yanagimachi, Takeshi Inukai, Setsuo Ota, Hiroyuki Takahashi, Dai Keino, Daisuke Toyama, Junko Takita, Daisuke Tomizawa, Tomohiro Morio, Kazutoshi Koike, Koichi Moriwaki, Yuya Sato, Junya Fujimura, Daisuke Morita, Yujin Sekinaka, Kozue Nakamura, Kazuo Sakashita, Hiroaki Goto, Atsushi Manabe, Masatoshi Takagi. Rare TCF3 variants associated with pediatric B cell acute lymphoblastic leukemia. Pediatr Hematol Oncol. 2023.05; 41(1); 1-7

38. Carolin Escherich, Wenan Chen, Satoshi Miyamoto, Yui Namikawa, Wenjian Yang, David T Teachey, Zhenhua Li, Elizabeth A Raetz, Eric Larsen, Meenakshi Devidas, Paul L Martin, W Paul Bowman, Gang Wu, Ching-Hon Pui, Stephen P Hunger, Mignon L Loh, Masatoshi Takagi, Jun J Yang. Identification of TCF3 germline variants in pediatric B-cell acute lymphoblastic leukemia. Blood Adv. 2023.05; 7(10); 2177-2180

39. Haruka Hiroki, Yuko Ishii, Jinhua Piao, Yui Namikawa, Mitsuko Masutani, Hiroaki Honda, Koshi Akahane, Takeshi Inukai, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi. Targeting Poly(ADP)ribose polymerase in BCR/ABL1-positive cells. Sci Rep. 2023.05; 13(1); 7588

40. Masaki Shimizu, Kenichi Nishimura, Naomi Iwata, Takahiro Yasumi, Hiroaki Umebayashi, Yasuo Nakagishi, Yuka Okura, Nami Okamoto, Noriko Kinjo, Mao Mizuta, Masato Yashiro, Junko Yasumura, Hiroyuki Wakiguchi, Tomohiro Kubota, Mariko Mouri, Utako Kaneko, Masaaki Mori. Treatment for macrophage activation syndrome associated with systemic juvenile idiopathic arthritis in Japan. Int J Rheum Dis. 2023.05; 26(5); 938-945

41. Jennifer W Leiding, Tiphanie P Vogel, Valentine G J Santarlas, Rahul Mhaskar, Madison R Smith, Alexandre Carisey, Alexander Vargas-Hernández, Manuel Silva-Carmona, Maximilian Heeg, Anne Rensing-Ehl, Bénédicte Neven, Jérôme Hadjadj, Sophie Hambleton, Timothy Ronan Leahy, Kornvalee Meesilpavikai, Charlotte Cunningham-Rundles, Cullen M Dutmer, Svetlana O Sharapova, Mervi Taskinen, Ignatius Chua, Rosie Hague, Christian Klemann, Larysa Kostyuchenko, Tomohiro Morio, Akaluck Thatayatikom, Ahmet Ozen, Anna Scherbina, Cindy S Bauer, Sarah E Flanagan, Eleonora Gambineri, Lisa Giovannini-Chami, Jennifer Heimall, Kathleen E Sullivan, Eric Allenspach, Neil Romberg, Sean G Deane, Benjamin T Prince, Melissa J Rose, John Bohnsack, Talal Mousallem, Rohith Jesudas, Maria Marluce Dos Santos Vilela, Michael O'Sullivan, Jana Pachlopnik Schmid, Štěpánka Průhová, Adam Klocperk, Matthew Rees, Helen Su, Sami Bahna, Safa Baris, Lisa M Bartnikas, Amy Chang Berger, Tracy A Briggs, Shannon Brothers, Vanessa Bundy, Alice Y Chan, Shanmuganathan Chandrakasan, Mette Christiansen, Theresa Cole, Matthew C Cook, Mukesh M Desai, Ute Fischer, David A Fulcher, Silvanna Gallo, Amelie Gauthier, Andrew R Gennery, José Gonçalo Marques, Frédéric Gottrand, Bodo Grimbacher, Eyal Grunebaum, Emma Haapaniemi, Sari Hämäläinen, Kaarina Heiskanen, Tarja Heiskanen-Kosma, Hal M Hoffman, Luis Ignacio Gonzalez-Granado, Anthony L Guerrerio, Leena Kainulainen, Ashish Kumar, Monica G Lawrence, Carina Levin, Timi Martelius, Olaf Neth, Peter Olbrich, Alejandro Palma, Niraj C Patel, Tamara Pozos, Kahn Preece, Saúl Oswaldo Lugo Reyes, Mark A Russell, Yael Schejter, Christine Seroogy, Jan Sinclair, Effie Skevofilax, Daniel Suan, Daniel Suez, Paul Szabolcs, Helena Velasco, Klaus Warnatz, Kelly Walkovich, Austen Worth, , Mikko R J Seppänen, Troy R Torgerson, Georgios Sogkas, Stephan Ehl, Stuart G Tangye, Megan A Cooper, Joshua D Milner, Lisa R Forbes Satter. Monogenic early-onset lymphoproliferation and autoimmunity: Natural history of STAT3 gain-of-function syndrome. J Allergy Clin Immunol. 2023.04; 151(4); 1081-1095

42. Kento Inoue, Satoshi Miyamoto, Dan Tomomasa, Eriko Adachi, Shohei Azumi, Yasuo Horikoshi, Takashi Ishihara, Shinya Osone, Yuta Kawahara, Ko Kudo, Zenichiro Kato, Hidenori Ohnishi, Kenichi Kashimada, Kohsuke Imai, Osamu Ohara, Menno C van Zelm, Morton J Cowan, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Clinical and Genetic Characterization of Patients with Artemis Deficiency in Japan. J Clin Immunol. 2023.04; 43(3); 585-594

43. Dan Tomomasa, Motoi Yamashita, Takahiro Kamiya, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Maternal Gonosomal Mosaicism Causes XIAP Deficiency. J Clin Immunol. 2023.04; 43(3); 525-527

44. Daniela Matuozzo, Estelle Talouarn, Astrid Marchal, Peng Zhang, Jeremy Manry, Yoann Seeleuthner, Yu Zhang, Alexandre Bolze, Matthieu Chaldebas, Baptiste Milisavljevic, Adrian Gervais, Paul Bastard, Takaki Asano, Lucy Bizien, Federica Barzaghi, Hassan Abolhassani, Ahmad Abou Tayoun, Alessandro Aiuti, Ilad Alavi Darazam, Luis M Allende, Rebeca Alonso-Arias, Andrés Augusto Arias, Gokhan Aytekin, Peter Bergman, Simone Bondesan, Yenan T Bryceson, Ingrid G Bustos, Oscar Cabrera-Marante, Sheila Carcel, Paola Carrera, Giorgio Casari, Khalil Chaïbi, Roger Colobran, Antonio Condino-Neto,

Laura E Covill, Ottavia M Delmonte, Loubna El Zein, Carlos Flores, Peter K Gregersen, Marta Gut, Filomeen Haerynck, Rabih Halwani, Selda Hancerli, Lennart Hammarström, Nevin Hatipoğlu, Adem Karbuz, Sevgi Keles, Christèle Kyheng, Rafael Leon-Lopez, Jose Luis Franco, Davood Mansouri, Javier Martinez-Picado, Ozge Metin Akcan, Isabelle Migeotte, Pierre-Emmanuel Morange, Guillaume Morelle, Andrea Martin-Nalda, Giuseppe Novelli, Antonio Novelli, Tayfun Ozcelik, Figen Palabiyik, Qiang Pan-Hammarström, Rebeca Pérez de Diego, Laura Planas-Serra, Daniel E Pleguezuelo, Carolina Prando, Aurora Pujol, Luis Felipe Reyes, Jacques G Rivière, Carlos Rodriguez-Gallego, Julian Rojas, Patrizia Rovere-Querini, Agatha Schlüter, Mohammad Shahrooei, Ali Sobh, Pere Soler-Palacin, Yacine Tandjaoui-Lambiotte, Imran Tipu, Cristina Tresoldi, Jesus Troya, Diederik van de Beek, Mayana Zatz, Pawel Zawadzki, Saleh Zaid Al-Muhsen, Mohammed Faraj Alosaimi, Fahad M Alsohime, Hagit Baris-Feldman, Manish J Butte, Stefan N Constantinescu, Megan A Cooper, Clifton L Dalgard, Jacques Fellay, James R Heath, Yu-Lung Lau, Richard P Lifton, Tom Maniatis, Trine H Mogensen, Horst von Bernuth, Alban Lermine, Michel Vidaud, Anne Boland, Jean-François Deleuze, Robert Nussbaum, Amanda Kahn-Kirby, France Mentre, Sarah Tubiana, Guy Gorochov, Florence Tubach, Pierre Hausfater, , , , , , , , , Isabelle Meyts, Shen-Ying Zhang, Anne Puel, Luigi D Notarangelo, Stephanie Boisson-Dupuis, Helen C Su, Bertrand Boisson, Emmanuelle Jouanguy, Jean-Laurent Casanova, Qian Zhang, Laurent Abel, Aurélie Cobat. Rare predicted loss-of-function variants of type I IFN immunity genes are associated with life-threatening COVID-19 Genome Med. 2023.04; 15(1); 22

45. Kana Unuma, Dan Tomomasa, Kosuke Noma, Kouhei Yamamoto, Taka-Aki Matsuyama, Yohsuke Makino, Atsushi Hijikata, Shuheng Wen, Tsutomu Ogata, Nobuhiko Okamoto, Satoshi Okada, Kenichi Ohashi, Koichi Uemura, Hirokazu Kanegane. Case Report: Molecular autopsy underlie COVID-19-associated sudden, unexplained child mortality. Front Immunol. 2023.04; 14; 1121059

46. Fumiaki Sakura, Kosuke Noma, Takaki Asano, Kay Tanita, Etsushi Toyofuku, Kentaro Kato, Miyuki Tsumura, Hiroshi Nihira, Kazushi Izawa, Kanako Mitsui-Sekinaka, Ryo Konno, Yusuke Kawashima, Yoko Mizoguchi, Shuhei Karakawa, Seiichi Hayakawa, Hiroshi Kawaguchi, Kohsuke Imai, Shigeaki Nonoyama, Takahiro Yasumi, Hidenori Ohnishi, Hirokazu Kanegane, Osamu Ohara, Satoshi Okada. A complementary approach for genetic diagnosis of inborn errors of immunity using proteogenomic analysis. PNAS Nexus. 2023.04; 2(4); pgad104

47. Kento Souma, Junya Fujimura, Atushi Nishiyama, Yoshinobu Oyazato, Shuya Kaneko, Masaki Shimizu, Takeshi Morisawa. Serum interleukin-18 level as a possible early diagnostic marker of systemic juvenile idiopathic arthritis. Int J Rheum Dis. 2023.03; 26(3); 551-553

48. Maiko Hirai, Hiroshi Yagasaki, Koji Kanezawa, Masaru Ueno, Katsuyoshi Shimozawa, Kohsuke Imai, Tomohiro Morio, Motohiro Kato, Yoshihiro Gocho, Satoshi Narumi, Yasuhiro Ebihara, Ichiro Morioka. Cord Blood Transplantation in 2 Infants Presenting Monosomy 7 Clonal Hematopoiesis: SAMD9 / SAMD9L Germline Mutation. J Pediatr Hematol Oncol. 2023.03; 45(2); e290-e293

49. Dan Tomomasa, Takeshi Isoda, Noriko Mitsuiki, Kento Inoue, Akira Nishimura, Kazuhiro Uda, Toru Uchiyama, Motoi Yamashita, Takahiro Kamiya, Akifumi Endo, Masatoshi Takagi, Kohsuke Imai, Michiko Kajiwara, Morton J Cowan, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Successful TCR $\alpha\beta$/CD19-Depleted Hematopoietic Cell Transplantation for a Patient With Artemis Deficiency. J Pediatr Hematol Oncol. 2023.03; 45(2); e285-e289

50. Dirk Roos, Karin van Leeuwen, Manisha Madkaikar, Priyanka M Kambli, Maya Gupta, Vikram Mathews, Amit Rawat, Douglas B Kuhns, Steven M Holland, Martin de Boer, Hirokazu Kanegane, Nima Parvaneh, Myriam Lorenz, Klaus Schwarz, Christoph Klein, Roya Sherkat, Mahbube Jafari, Baruch Wolach, Johan T den Dunnen, Taco W Kuijpers, M Yavuz Köker. Hematologically important mutations: Leukocyte adhesion deficiency (second update). Blood Cells Mol Dis. 2023.03; 99; 102726

51. Shuya Kaneko, Masaki Shimizu, Futaba Miyaoka, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Mao Mizuta, Yasuo Nakagishi, Naomi Iwata, Junya Fujimura, Masaaki Mori, Tomohiro Morio. The dynamics of laboratory markers reflecting cytokine overproduction in macrophage activation syndrome complicated with systemic juvenile idiopathic arthritis. Clin Immunol. 2023.03; 248; 109270

52. Rintaro Ono, Miyuki Tsumura, Saho Shima, Yusuke Matsuda, Kenji Gotoh, Yurina Miyata, Yuko Yoto, Dan Tomomasa, Takanori Utsumi, Hidenori Ohnishi, Zenichiro Kato, Naruhiko Ishiwada, Aki Ishikawa, Taizo Wada, Hisashi Uhara, Ryuta Nishikomori, Daisuke Hasegawa, Satoshi Okada, Hirokazu Kanegane. Novel STAT1 Variants in Japanese Patients with Isolated Mendelian Susceptibility to Mycobacterial Diseases. J Clin Immunol. 2023.02; 43(2); 466-478

53. Ryosuke Wakatsuki, Masaki Shimizu, Asami Shimbo, Eriko Adachi, Toru Kanamori, Susumu Yamazaki, Tomohiro Udagawa, Kei Takasawa, Kenichi Kashimada, Tomohiro Morio, Masaaki Mori. Atrophic autoimmune thyroiditis complicated with systemic lupus erythematosus. Mod Rheumatol Case Rep. 2023.01; 7(1); 65-67

54. Aoi Morishita, Tzu-Wen Yeh, Kouki Tomari, Mihoko Furuichi, Kenichi Kashimada, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi, Kohsuke Imai. Transient immune deficiency accompanied with homozygous CBL rare variant. Pediatr Int. 2023.01; 65(1); e15439

55. Irabu H, Shimizu M. A Bone-on-Bone Appearance in Chronic Nonbacterial Osteomyelitis. Journal of clinical rheumatology : practical reports on rheumatic & musculoskeletal diseases. 2023.01; 29(1); e5

56. Shuya Kaneko, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Toshiyuki Yamamoto, Masaki Shimizu. Inverted-duplication-deletion of chromosome 10q identified in a patient with systemic lupus erythematosus. Pediatr Int. 2023.01; 65(1); e15396

57. Hirokazu Kanegane. Patient-derived induced pluripotent stem cells underlie the pathogenesis of the diseases. Pediatr Int. 2023.01; 65(1); e15463

58. Takeru Kanazawa, Tatsuyuki Ishida, Madoka Shirai, Daiki Niizato, Takeshi Isoda, Yoshifusa Abe, Hirokazu Kanegane. Wiskott-Aldrich syndrome with normal-sized platelets. Pediatr Int. 2023.01; 65(1); e15453

59. Arisa Nakamura, Eriko Adachi, Yohei Matsubara, Taku Ishii, Susumu Hosokawa, Kenichi Kashimada, Kei Takasawa. Monitoring hypoparathyroidism in long QT syndrome detected by ECG screening. Pediatr Int. 2023.01; 65(1); e15481

60. Anita C S Hokken-Koelega, Manouk van der Steen, Margaret C S Boguszewski, Stefano Cianfarani, Jovanna Dahlgren, Reiko Horikawa, Veronica Mericq, Robert Rapaport, Abdullah Alherbish, Debora Braslavsky, Evangelia Charmandari, Steven D Chernausek, Wayne S Cutfield, Andrew Dauber, Asma Deeb, Wesley J Goedegebuure, Paul L Hofman, Elvira Isganatis, Alexander A Jorge, Christina Kanaka-Gantenbein, Kenichi Kashimada, Vaman Khadilkar, Xiao-Ping Luo, Sarah Mathai, Yuya Nakano, Mabel Yau. International Consensus Guideline on Small for Gestational Age (SGA): Etiology and Management from Infancy to Early Adulthood. Endocr Rev. 2023.01;

61. Masaki Shimizu, Hitoshi Irabu, Asami Shimbo, Shuya Kaneko, Masaaki Mori. Monthly intravenous immunoglobulin for refractory intestinal IgA vasculitis. Pediatr Int. 2023.01; e15470

62. Moriyama K, Mizuno T, Suzuki T, Inaji M, Maehara T, Fujita A, Kato M, Matsumoto N. ATP1A3-related early childhood onset developmental and epileptic encephalopathy responding to corpus callosotomy: A case report. Brain & development. 2023.01; 45(1); 77-81

63. Nakamura A, Adachi E, Matsubara Y, Ishii T, Hosokawa S, Kashimada K, Takasawa K. Monitoring hypoparathyroidism in long QT syndrome detected by electrocardiogram screening. Pediatrics international : official journal of the Japan Pediatric Society. 2023.01; 65(1); e15481

64. Shizuka Kirino, Analia Yogi, Eriko Adachi, Hisae Nakatani, Maki Gau, Ryosei Iemura, Haruki Yamano, Toru Kanamori, Takayasu Mori, Eisei Sohara, Shinichi Uchida, Kentaro Okamoto, Tomohiro Udagawa, Kei Takasawa, Tomohiro Morio, Kenichi Kashimada. Phenotypic Variation in 46,XX Disorders of Sex Development due to the Fourth Zinc Finger Domain Variant of WT1: A Familial Case Report. Sex Dev. 2023; 17(1); 51-55

65. Hirokazu Kobushi, Katsutsugu Umeda, Eitaro Hiejima, Kentaro Kato, Mayumi Sugimoto, Hirokazu Kanegane, Junko Takita. Alemtuzumab-based reduced-intensity conditioning for XIAP deficiency. Pediatr Int. 2023; 65(1); e15576

66. Sara Konishi, Rintaro Ono, Miyuki Tanaka, Ken-Ichi Imadome, Yozo Nakazawa, Hirokazu Kanegane, Daisuke Hasegawa. Cytokine-based disease monitoring in refractory HLH with primary EBV infection. Pediatr Int. 2023; 65(1); e15590

67. Hirokazu Kanegane, Masataka Ishimura, Toshinao Kawai, Satoshi Okada, Nobuaki Okamatsu, Madoka Go, Shinichi Noto. Patient-reported outcomes in patients with primary immunodeficiency diseases in Japan: baseline results from a prospective observational study. Front Immunol. 2023; 14; 1244250

68. Jumpei Kuroda, Kenichi Kashimada, Kaoru Okazaki. Neonatal alloimmune thrombocytopenia associated with fetomaternal hemorrhage. Pediatr Int. 2023; 65(1); e15619

69. Chida-Nagai A, Masaki N, Maeda K, Sasaki K, Sato H, Muneuchi J, Ochiai Y, Murayama H, Tahara M, Shiono A, Shinozuka A, Kono F, Machida D, Toyooka S, Sugimoto S, Nakamura K, Akagi S, Kondo M, Kasahara S, Kotani Y, Koizumi J, Oda K, Harada M, Nakajima D, Murata A, Nagata H, Yatsunami K, Kobayashi T, Matsunaga Y, Inoue T, Yamagishi H, Nakagawa N, Ohtani K, Yamamoto M, Ito Y, Hokosaki T, Kuwahara Y, Masutani S, Nomura K, Wada T, Sawada H, Abiko M, Takahashi T, Ishikawa Y, Okada S, Naitoh A, Toda T, Ando T, Masuzawa A, Hoshino S, Kawada M, Nomura Y, Ueno K, Ohashi N, Tachibana T, Cao Y, Ueda H, Yanagi S, Koide M, Mitsushita N, Higashi K, Minosaki Y, Hayashi T, Okamoto T, Kuraishi K, Ehara E, Ishida H, Horigome H, Murakami T, Takei K, Ishii T, Harada G, Hirata Y, Maeda J, Tatebe S, Ota C, Hayabuchi Y, Sakazaki H, Sasaki T, Hirono K, Suzuki S, Yasuda M, Takeda A, Sawai M, Miyaji K, Kitagawa A, Nakai Y, Kakimoto N, Agematsu K, Manabe A, Saiki Y. Use of the index of pulmonary vascular disease for predicting long-term outcome of pulmonary arterial hypertension associated with congenital heart disease. Frontiers in cardiovascular medicine. 2023; 10; 1212882

70. Kei Takasawa, Hiroyo Mabe, Fusa Nagamatsu, Naoko Amano, Yuichi Miyakawa, Akito Sutani, Reiko Kagawa, Satoshi Okada, Yusuke Tanahashi, Shigeru Suzuki, Shota Hiroshima, Keisuke Nagasaki, Sumito Dateki, Shigeru Takishima, Ikuko Takahashi, Kenichi Kashimada. Growth Hormone Injection Log Analysis with Electronic Injection Device for Qualifying Adherence to Low-Irritant Formulation and Exploring Influential Factors on Adherence. Patient Prefer Adherence. 2023; 17; 1885-1894

1. 鹿島田健一. 性分化疾患とは 小児外科. 2023.12; 55(12); 1264-1269
2. 鹿島田健一. 序文　成長曲線を書こう 小児科診療. 2023.11; 86(11); 1283
3. 小笠原啓祐, 水野朋子, 神谷尚宏, 平田航, 田村友美恵, 山内泰輔, 鈴木智典, 鹿島田彩子, 水野裕貴, 岡本健太郎, 田中陽典, 小林大輔, 高木正稔, 森尾友宏. 低ガンマグロブリン血症に対し免疫グロブリン療法を行っている乳児全身性ヒアリン症 日本小児科学会雑誌　. 2023.10; 127(10); 1299-1305
4. 金兼弘和, 友政弾, 谷田けい. Monogenic IBD に対する造血細胞移植 臨床血液. 2023.09; 64(9); 361-369
5. 金兼弘和. 成人における先天性免疫不全症の診察 臨床血液. 2023.08; 64(８); 772-781
6. 金兼弘和. 原発性免疫不全症の最新知見 小児感染免疫. 2023.08; 35(3); 246-257
7. 坂川由里歌, 友田昴宏, 森下あおい, 井上健斗, 岡野翼, 山下基, 神谷尚宏, 水野朋子, 磯田健志, 栁町昌克, 高木正稔, 金兼弘和, 今井耕輔, 森尾友宏. 造血細胞移植後に生じた選択的低 IgG2 血症の 2 例 日本小児科学会雑誌. 2023.04; 127(4); 599-604
8. 清水正樹. 小児の全身性エリテマトーデス 皮膚科. 2023.04; 3(4); 483-489
9. 清水正樹. 【”思春期内科”-大人でも子どもでもない患者を診る】[Chapter 2] 思春期に発症しうる疾患　若年性特発性関節炎 内科. 2023.03; 131(3); 391-393
10. 清水正樹. 【これでよくわかる自己炎症性疾患】知っておきたい自己炎症性疾患　遺伝性自己炎症性疾患にみられるマクロファージ活性化症候群 小児科診療. 2023.03; 86(3); 325-329
11. 森有弥香, 山下基, 友政弾, 友田昂宏, 岡野翼, 満生紀子, 磯田健志, 神谷尚宏, 高木正稔, 今井耕輔, 金兼弘和, 森尾友宏. NEMO 異常症に対する骨髄移植後の二次性生着不全に対する移植後シクロホスファミド法を用いた HLA 半合致サルベージ骨髄移植 日本小児血液・がん学会雑誌. 2023.02; 59(5); 420-425
12. 大林三裕佳 (春日井市民病院/皮膚科), 中村賢人, 古橋卓也, 岩月啓氏, 三宅智子, 平井陽至, 谷田けい, 金兼弘和, 西田徹也, 木村宏, 森田明理. CD8+ α β T 細胞優位型種痘様水疱症リンパ増殖異常症の 1 例 皮膚科の臨床. 2023.02; 65(2); 273-278
13. 清水正樹. 【分子標的薬を極める】膠原病・自己炎症症候群　関節炎　全身型 JIA・成人発症スチル病 小児内科. 2023.02; 55(2); 201-204
14. 森尾友宏. PFAPA 症候群 ドクターサロン. 2023.02; 67(3); 151-154
15. 伊良部仁, 真保麻実, 金子修也, 清水正樹, 森尾友宏. 繰り返す口内炎を呈し Behcet 病と鑑別を要した歯科金属アレルギーの 1 例 小児科. 2023.02; 64(2); 188-192
16. 清水正樹. 【小児 COVID-19 関連多系統炎症性症候群 (MIS-C/PIMS) の診療】MIS-C/PIMS の診断 医学のあゆみ. 2023.01; 284(4); 277-282

[書籍等出版物]

1. 梶原　道子. 小児臨床検査ガイド　第 3 版. 文光堂, 2023.12 (ISBN : 978-4-8306-3047-7)
2. 多田歩末, 金兼弘和. 子どもの検査値の判断に困ったら. 金原出版株式会社, 2023.12
3. 多田歩末, 金兼弘和. 子どもの検査値の判断に困ったら . 金原出版株式会社, 2023.12
4. 清水正樹. 小児臨床検査ガイド　第 3 版. 文光堂, 2023.12
5. 星野顕宏, 金兼弘和. 原発性免疫不全症候群. 診断と治療社, 2023.10 (ISBN : 978-4-7878-2630-5)
6. 金兼弘和, 森尾友宏. 日本臨牀 (別冊)：「血液症候群（第 3 版）Ⅱ」. 日本臨牀, 2023.10
7. 友政弾, 金兼弘和. 日本臨牀 (別冊)：「血液症候群（第 3 版）Ⅱ」. 日本臨牀, 2023.10
8. 友政弾, 金兼弘和. 日本臨牀 (別冊)：「血液症候群（第 3 版）Ⅱ」. 日本臨牀, 2023.10
9. 友政弾, 金兼弘和. 日本臨牀 (別冊)：「血液症候群（第 3 版）Ⅱ」 . 日本臨牀, 2023.10
10. 森丘千夏子. 乳児の成長をみる（乳児健診）__小児科診療 86 巻 11 号　成長曲線を書こう__Ⅱ. 成長曲線__さまざまな活用を！ . 診断と治療社, 2023.10
11. 河井昌彦. 目的 · 基準値 · 進め方がわかる　新生児の検査 AtoZ. 株式会社　メディカ出版, 2023.09 (ISBN : 978-4-8404-7956-1)
12. 河井昌彦. 目的 · 基準値 · 進め方がわかる　新生児の検査 AtoZ . 株式会社　メディカ出版, 2023.09
13. 鹿島田健一（分担執筆）, 性と生殖に関する健康と権利編. 自分を生きるための＜性＞のこと　第 1 章　思春期のからだの変化　さまざまな発達. 少年写真新聞社, 2023.07 (ISBN : 978-4-87981-777-8)
14. 清水正樹. 小児科専門医受験のための最速トレーニング 144 問. 総合医学社, 2023.07 (ISBN : 9784883789474)
15. 清水正樹. 小児 IgA 血管炎診療ガイドライン 2023. 診断と治療社, 2023.07 (ISBN : 9784787825636)
16. 渡邉健一郎, 金兼弘和.　遺伝性骨髄不全症診療ガイドライン 2023.　診断と治療社, 2023.06 (ISBN : 978-4-7878-2559-9)
17. 金兼弘和. ネルソン小児科学　原書第 21 版（日本語版）. エルゼビアジャパン株式会社, 2023.06
18. 清水正樹. 専門医のための腎臓病学　第 3 版. 医学書院, 2023.06 (ISBN : 9784260051002)
19. 金兼弘和, 谷田けい. 小児科学　第 11 版. 文光堂, 2023.04 (ISBN : 978-4-8306-3046-0)
20. 清水正樹. 小児リウマチ性疾患 トシリズマブ治療の理論と実際. メディカルレビュー社 , 2023.03 (ISBN : 978-4-7792-2675-5)
21. 森尾友宏 (監修). からだがみえる　第 1 版. メディックメディア, 2023.02 (ISBN : 978-4-89632-896-7)
22. 清水正樹. 今日の治療指針 2023 年版［デスク判］私はこう治療している. 医学書院, 2023.01

[総説]

1. Saki Kanda, Asami Shimbo, Yoshitaka Nakamura, Ryosuke Matsuno, Shuya Kaneko, Hitoshi Irabu, Kazunari Kaneko, Masaki Shimizu.　Anti-Ku antibody-positive systemic sclerosis and idiopathic inflammatory myopathies overlap syndrome in children: a report of two cases and a review of the literature. Clin Rheumatol. 2023.12; 42(12); 3411-3417
2. Holm H Uhlig, Claire Booth, Judy Cho, Marla Dubinsky, Anne M Griffiths, Bodo Grimbacher, Sophie Hambleton, Ying Huang, Kelsey Jones, Jochen Kammermeier, Hirokazu Kanegane, Sibylle Koletzko, Daniel Kotlarz, Christoph Klein, Michael J Lenardo, Bernice Lo, Dermot P B McGovern, Ahmet Özen, Lissy de Ridder, Frank Ruemmele, Dror S Shouval, Scott B Snapper, Simon P Travis, Dan Turner, David C Wilson, Aleixo M Muise. Precision medicine in monogenic inflammatory bowel disease: proposed mIBD REPORT standards. Nat Rev Gastroenterol Hepatol. 2023.12; 20(12); 810-828
3. 黒石奈保, 金津真一, 高園貴弘, 岡本晃直, 冨田章裕, 山永成美, 剣持敬, 江川裕人, 井上健斗, 金兼弘和, 谷口俊文, 奥健志, 菊地勘, 四柳宏. 免疫不全患者における COVID-19 疾病負担 THERAPEUTIC RESEARCH. 2023.12; 44(12); 881-897

4. Motoi Yamashita, Tomohiro Morio. Germline STAT6 gain-of-function variants cause severe allergy. J Allergy Clin Immunol. 2023.05; 151(5); 1252-1254

5. Hirokazu Kanegane, Atsuko Noguchi, Yuki Yamada, Takahiro Yasumi. Rare diseases presenting with hemophagocytic lymphohistiocytosis. Pediatr Int. 2023; 65(1); e15516

1. 鹿島田健一. 特集　成長曲線を書こう　Ⅰ. 成長曲線 改めて考える, い, ろ, は　成長の”しくみ” 小児科診療. 2023.11; 86(11); 21-27

2. 山内泰輔, 水野朋子. 【腫瘍随伴症候群】免疫学的機序によるもの　オプソクローヌス · ミオクローヌス症候群 臨床検査. 2023.11; 67(11); 1272-1277

3. 水野 朋子. 【日常診療で見落としたくない神経疾患】新たな診断 · 治療が可能となった疾患　脊髄性筋萎縮症 小児科. 2023.10; 64(10); 1012-1018

4. 清水正樹. 【腎 · 泌尿器疾患-血尿から移植まで】腎 · 泌尿器疾患診療の進歩 紫斑病性腎炎 (IgA 血管炎関連腎炎) 小児内科. 2023.07; 55(7); 1141-1145

5. 渡辺和弘, 鹿島田健一 . 液体クロマトグラフィー質量分析法を用いた２１水酸化酵素欠損症スクリーニングアルゴリズムの作成 日本マス · スクリーニング学会誌. 2023.06; 33(1); 9-18

6. 鹿島田健一. 【時間の流れと産婦人科生物学-早すぎること, 遅すぎること, 長すぎること, 短かすぎること-】時間の流れと生殖内分泌学　思春期早発症 産科と婦人科. 2023.05; 90(5); 486-493

7. 鹿島田健一. 治療法の再整理とアップデートのために　専門家による私の治療　家族性高コレステロール血症 (小児) 日本医事新報. 2023.05; 5170; 50-51

8. 清水正樹. 【小児の治療方針】リウマチ · 膠原病 若年性特発性関節炎 小児科診療. 2023.04; 86(春増刊); 284-289

[講演 · 口頭発表等]

1. Kenichi Kashimada. Faculty Presentation: Nuances in the management of different types of CAH. ISPAE 2023 (Indian Society for Pediatric and Adolescent Endocrinology) 2023.11.17 Bengaluru, India

2. Hirokazu Kanegane. Flow cytometry use in Primary Immunodeficiency disorders. Mini-symposium: Inborn errors of immunity 2023.10.27 Bangkok

3. Hirokazu Kanegane. NK cell assays. APSID 2023 2023.10.26 Singapore

4. Hirokazu Kanegane. Diagnosis and Management of Primary Atopic Disorder. APAAACI 2023 2023.10.25 Singapore

5. Morio T. Dissection of the molecular pathogenesis of transcription factor defects using model mice/cell systems. Chang Gung University 2023.10.20 Taipei

6. Masatoshi Takagi, Motoi Yamashita, Takahiro Tomoda, Takeshi Isoda, Makiko Egawa, Masayuki Yoshida, Tsutomu Toki, Ko Kudou, Kiminori Terui, Etsuro Ito, Tomohiro Morio. Transient erythroblastopenia by GATA1 variant in female. . Human Genetics Asia 2023 2023.10.14 Tokyo

7. Eriko Adachi, Ryuichi Nakagawa, Atsumi Tsuji-Hosokawa, Maki Gau, Shizuka Kirino, Analia Yogi, Hikase Nakatani, Tomomi Yamaguchi, Masanori Murakami, Toshihiro Tajima, Tomonobu Hasegawa, Tetsuya Yamada, Tomohiro Morino, Osamu Ohara, Kenichi Kashimada . Development of a clinically applicable one-step PCR-based CYP21A2 analysis using long read sequences. Human Genetics Asia 2023(68th Annual Meeting of Japan Society of Human Genetics/ 14th Asia Pacific Conference on Human Genetics/ 22nd Annual meeting of East Asian Union of human Genetics Societies) 2023.10.14 Tokyo, Japan

8. Manabu Sugie, Yusuke Noguchi, Nobutoshi Nawa, Ayako Kashimada, Kazuyuki Ito, Tsutomu Kondo, Satoshi Kusuda, Chikako Morioka, Tomohiro Morio, Kenichi Kashimada. Implication of Acquiring Oxidative Stress Resistance in Chorioamnionitis Leading to Reduced Risk of Severe Retinopathy of Prematurity. FAOPS 2023; The 22nd Congress of the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies 2023.10.09 Tokyo

9. Ryo Aoki, Chikako Morioka, Kikuko Oku, Shigeru Takishima, Yoshihiro Minosaki, Tomonori Ichikawa. Pressure Evaluation of Nasal Continuous Positive Airway Pressure Cannula Using a New Connector and Respiratory Simulator. FAOPS 2023; The 22nd Congress of the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies 2023.10.09 Tokyo

10. Hirokazu Kanegane. Rare diseases presenting with hemophagocytic lymphohistiocytosis. IEI SCAC 2023 2023.09.15 重慶

11. Satoshi Miyamoto, Daiki Niizato, Takahiro Kamiya, Takeshi Isoda, Masatoshi Takagi, Shohei Azumi, Shinsuke Hirabayashi, Kenichi Sakamoto, Kenji Kishimoto, Takako Miyamura, Katsutsugu Umeda, Masakatsu Yanagimachi, Kaori Kanda, Yasuhiro Ikawa, Kenichiro Watanabe, Tatsuo Ichinohe, Hirotoshi Sakaguchi, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Allogenic hematopoietic cell transplantation with alemtuzumab in Asian patients with inborn errors of immunity. ICBMT2023 2023.09.01 Busan

12. Taku Ishii, Keiko Uchida, Susumu Hosokawa, Hidekazu Ishida, Shinichi Takatsuki, Shigetoyo Kogaki, Kei Inai, Hiroyuki Fukushima, Hiroyuki Yamagishi, Shozaburo Doi. Baseline characteristic of pulmonary hypertension patients with congenital heart disease in Japan: Insights from Japanese association of congenital heart disease with pulmonary hypertension registry (JACPHR). PH Korea 2023 with 3rd EASOPH 2023.07.14 Incheon, Korea

13. Kenichi Kashimada, Taninee Sahakitrungruang. 21OHD/CAH (clinical management, molecular biology, neonatal screening) . APPES-TSPE CME MEETING 2023 2023.06.06 Bangkok, THAILAND

14. Kenichi Kashimada. Neonatal screening of 21-hydroxylase deficiency using LC-MS/MS. The 52nd Korean Society of Pediatric Endocrinology 2023.05.19 Soul, Korea

15. Dan Tomomasa, Tasuku Suzuki, Ichiro Takeuchi, Kimitoshi Goto, Shin-Ichiro Hagiwara, Dai Keino, Satoshi Saida, Takashi Ishige, Takahiro Kudo, Masataka Ishimura, Motohiro Kato, Yoji Sasahara, Tomohiro Morio, Katsuhiro Arai, Hirokazu Kanegane. Clinical and genetic characteristics of IL10RA deficiency patients in Japan. The 2nd International Symposium of Clinical Immunology 2023.05.19 神奈川

16. Kaneko S, Shimbo A,Irabu H, Shimizu M, Mori M, Morio T. Clinical significance of serum cytokine profiling for the differentiation of underlying diseases in cytokine storm syndrome. The 2nd International Symposium of Clinical Immunology 2023.05.19 Kanagawa

17. Hirokazu Kanegane. HLH associated with inborn errors of metablism and familial hemophagocytic lymphohistiocytosis in adult. 2nd National Congress of Inborn Errors of Immunity and National Forum on Pediatric Immunology (IEI China 2023 and FOPI) 2023.04.26 Web 開催

18. Tomohiro Morio. Novel Gene Discovery. Asia Pacific Society for Immunodeficiencies (APSID) 2023.04.23 Hong Kong

19. Mahnaz Jamee, Hirokazu Kanegane. Lung Surgery in STAT3 loss-of-function mutation: is it advisable?. APSID 2023 2023.04.22 香港

20. Shizuka Kirino, Ryuichi Nakagawa, Kei Takasawa, Maki Gau, Atsumi Tsuji-Hosokawa, Liang Zhao, Josephine Bowles, Peter Koopman, Tomohiro Morio, Kenichi Kashimada. Application of Cap analysis of gene expression (CAGE) in genetic analysis of mouse sex differentiation. Ninth International Symposium on the Biology of Vertebrate Sex Determination 2023.04.19 Kailua-Kona, HAWAII

1. 森尾友宏. 先端の治療・技術・価値を国民に適切に伝えていく取組. 第 5 回再生医療で描く日本の未来研究会 2023.12.22 東京

2. 樗木幹久, 家村綾正, 高澤啓, 大森多恵, 打田優美, 九島令子, 鹿島田健一, 森尾友宏. 新生児期に複合型下垂体機能低下症を呈し中隔視神経形成異常症の診断に至った 1 例. 第 694 回日本小児科学会東京都地方会講和会 2023.12.09 東京

3. 金兼弘和. 10 の徴候からいかに原発性免疫不全症を診断するか. 京都免疫不全フォーラム 2023.12.08 Web 開催

4. 鹿島田健一. ロジックで考える DSD(性分化疾患) の診療. 第 1 6 回滋賀小児内分泌代謝研究会 2023.12.02 滋賀

5. 金兼弘和, 遠藤明史, 岡田賢, 大西秀典, 石村匡崇, 西小森隆太, 村松英城, 和田泰三, 今井耕輔, 野々村恵章, 久我敦, 坂本航, Russo-Schwarzbaum Sharon, Liang-Hui Chu, McCoy Barbara, Li Zhaoyang, Yel Leman. 原発性免疫不全症症候群 (PID) 日本人患者を対象に 20%皮下注免疫グロブリン製剤を毎週または遠隔投与した第三相試験. 第 55 回日本小児感染症学会 · 学術集会 2023.11.26 愛知

6. 新里大毅, 磯田健志, 友政弾, 森尾友宏, 武内寛明, 金兼弘和. 先天性免疫異常症患者における COVID-19 持続感染の過程で異なる変異を認めた SARS-CoV-2 のウイルス学的特徴. 第 55 回日本小児感染症学会 · 学術集会 2023.11.26 愛知

7. 井上健斗, 友政弾, 中釜悠, 大西秀典, 岡田賢, 武内寛明, 城戸康年, 森尾友宏, 金兼弘和. 抗体産生不完全症患者に対するチキサゲビマブ · シルガビマブの予防効果. 第 55 回日本小児感染症学会 · 学術集会 2023.11.25 愛知

8. 金兼弘和. 明日へと繋ぐ IEI 診療と研究. PID Web Seminar 2023.11.17 北海道

9. 清水正樹. AYA 世代の SLE 患者の最適の治療を考える. 第 3 回 AYA 世代 SLE 患者の将来展望を考える会 2023.11.13 大阪

10. 森尾友宏. Inborn Errors of Immunity：成人診療における様々な点. 第 4 回大阪免疫不全症セミナー 2023.11.10 WEB

11. 鹿島田健一. 性分化疾患の分子基盤の Update. 第 33 回　臨床内分泌代謝 Update 2023.11.03 神奈川

12. 滝島茂, 松田望, 佐藤薫, 高澤啓, 鹿島田健一, 長谷川毅. FGF23 上昇を伴わない重症低リン血症性くる病の 1 例. 第 33 回　臨床内分泌代謝 Update 2023.11.03 神奈川

13. 折本竜太, 山野春樹, 家村綾正, 桐野玄, 斎藤洋子, 安達恵利子, 増江道哉, 酢谷明人, 森尾友宏, 高澤啓, 鹿島田健一. 臨床 Tips の集積から提唱する先天性高インスリン血症の新治療戦略. 第 33 回　臨床内分泌代謝 Update 2023.11.03 神奈川

14. 中川竜一, 磯田健志, 高澤啓, 鹿島田健一, 森尾友宏. 自己抗体陰性の後天性甲状腺機能低下症を合併した STA1 GOF の 1 例. 第 33 回　臨床内分泌代謝 Update 2023.11.03 神奈川

15. 金兼弘和. 原発性免疫不全症における感染予防と管理. PID 全国 Web 講演会 2023.11.01 Web 開催

16. 鹿島田健一. 小児内分泌疾患におけるプレコンセプションケアの考え方. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

17. 安達恵利子, 中川竜一, 辻敦美, 我有茉希, 桐野玄, ヨギ アナリア, 中谷久恵, 高澤啓, 山口智美，古庄知己，村上正憲，田島敏弘，長谷川泰延，山田哲也，森尾友宏, 小原収，鹿島田健一. 臨床応用可能な One-step PCR を用いた Long read sequence による CYP21A2 解析法の開発と新規構造異常の同定. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

18. 鹿島田健一, 宮田一郎，窪田拓生，森潤，尾崎佳代，野中洋介，中村義一，大橋十也，大薗恵一. 軟骨無形成症の小児患者を対象とした抗 FGF2-RNA アプタマー前期第Ⅱ相試験. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

19. 山野春樹, 家村綾正, 桐野玄, 秀野公美, 斎藤洋子, 安達恵利子, 田嶋華子, 森尾友宏, 鹿島田健一, 高澤啓　. ランレオチド、持続血糖モニタリングを用いた先天性高インスリン血症の新たな治療戦略. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

20. 桐野玄, 中川竜一, 高澤啓, 我有茉希, 鹿島田健一. 機能活性をもつエンハンサーの塩基配列解析は新規性腺発生における転写制御機構を明らかにする. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

21. 岩山秀之, 杉本宰輝, 小野真, 北川幸子, 河原幸平, 山川紀世志, 宮本亮佑, 金子健一朗, 中野正吾, 藤本保志, 高木潤子, 奥村彰久, 城田千代栄, 田井中貴久, 内田広夫, 滝島茂, 高澤啓, 長妻美沙子, 鹿島田健一. 単純性急性化膿性甲状腺炎の原因菌とその薬剤感受性. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

22. 三善陽子, 橘真紀子, 長井直子, 赤尾正, 安達昌功, 伊藤純子, 鹿島田健一, 菅野潤子, 佐藤武志, 長井静世, 堀友博, 堀川玲子, 室谷浩二, 森川俊太郎, 岡田賢. 小児 · AYA 世代がん患者の栄養管理に関する小児内分泌医の診療実態調査. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

23. 赤星祥伍, 永田知裕, 友常雅子, 端慶覧宏彰, 池側研人, 今野麻里絵, 森川和彦, 滝島茂, 鹿島田健一, 長谷川行洋. 1 型糖尿病診療用フィードバックシート：中間報告（導出研究）と共同研究のお誘い（検証研究）. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

24. 南谷幹史, 志賀健太郎, 田嶼朝子, 鹿島田健一, 河田泰定, 福田謙, 小谷裕美子, 喜多村美幸, 三浦順之助, 高橋郁子. 小児劇症 1 型糖尿病の診断時における甲状腺機能. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

25. 松田希, 滝島茂, 佐藤薫, 鹿島田健一, 長谷川毅. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行前後における中枢性思春期早発症. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

26. 家村綾正, 山野春樹, 岩田はる香, 伊藤一之, 杉江学, 森丘千夏子, 高澤啓, 鹿島田健一, 森尾友宏　. 新生児期に診断しえた Xp21 欠失症候群の一例. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

27. 水野朋子, 布施譲嗣, 山内泰輔, 森田俊平, 平田航, 田村友美恵, 池野充. West 症候群を発症した結節性硬化症 3 例に対するビガバトリンの使用経験. 第 56 回日本てんかん学会 2023.10.19 東京

28. 森尾友宏. 周期性発熱を呈する成人の自己炎症疾患 家族性地中海熱などの鑑別と診療. 第 163 回 梶ヶ谷 腎 · 膠原病研究会 2023.10.18 東京

29. 遠藤琢也, 畠野真帆, 宮岡双葉, 金子修也, 真保麻実, 大阪渓, 林祐子, 伊良部仁, 清水正樹, 森雅亮, 森尾友宏. COVID-19 関連小児多系統炎症症候群 (MIS-C) との鑑別を要した全身性若年性特発性関節炎 (sJIA) の 2 例. 第 32 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.10.15 埼玉

30. 清水正樹. 小児科からみた全身型若年性特発性関節炎/成人発症スティル病の病態と移行医療. 第 32 回日本小児リウマチ学会総会 2023.10.14 埼玉

31. 古賀友紀, 金兼弘和. Monogenic IBD に対する造血細胞移植. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.14 東京

32. 伊良部仁, 畠野真帆, 宮岡双葉, 林祐子, 金子修也, 真保麻実, 阿久津裕子, 清水正樹, 森雅亮, 森尾友宏. 慢性非化膿性骨髄炎に潰瘍性大腸炎, 仙腸関節炎を合併した女児例. 第 32 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.10.14 埼玉

33. 畠野真帆, 真保麻実, 伊良部仁, 金子修也, 林祐子, 清水正樹, 森尾友宏. カナキヌマブによる早期治療を開始できた CINCA 症候群/ NOMID の乳児例 その有効性と問題点 . 第 32 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.10.14 埼玉

34. 林祐子, 畠野真帆, 金子修也, 真保麻実, 伊良部仁, 阿久津裕子, 清水正樹, 森尾友宏. 高安動脈炎を合併しトシリズマブが有効であった若年性サルコイドーシスの一例. 第 32 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.10.14 埼玉

35. 清水正樹. 若年性特発性関節炎の病態からみた治療戦略 TNF α の役割とアダリムマブ治療の実際. 第 32 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.10.13 埼玉

36. 金子修也, 畠野真帆, 真保麻実, 伊良部仁, 清水正樹, 森雅亮, 森尾友宏. サイトカインストーム症候群の背景疾患の分類における血清サイトカインプロファイルの有用性. 第 32 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.10.13 埼玉

37. 金子詩子, 宮前多佳子, 濱口儒人, 清水正樹, 植田郁子, 藤本学. 小児期発症全身性強皮症の成人例と小児例の比較 全国疫学調査による検討. 第 32 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.10.13 埼玉

38. 水田麻雄, 金子修也, 西川宏樹, 合田由香利, 真保麻実, 伊良部仁, 中岸保夫, 清水正樹. カナキヌマブ投与中の全身型若年性特発性関節炎におけるマクロファージ活性化症候群の病態解析. 第 32 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.10.13 埼玉

39. 真保麻実, 金子修也, 伊良部仁, 阿久津裕子, 今井耕輔, 金兼弘和, 清水正樹, 森尾友宏. 小児期発症全身性エリテマトーデスの免疫学的フェノタイプ解析一既存治療への不応性と IL-12/IL-23-Th17 axis の関連について. 第 32 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.10.13 埼玉

40. 清水正樹, 畠野真帆, 宮岡双葉, 林祐子, 伊良部仁, 瀬川裕子, 森尾友宏. TNF 阻害薬開始後に皮疹の憎悪を認め乾癬を合併した慢性非感染症骨髄炎の女児例. 第 51 回日本臨床免疫学会総会 2023.10.05 東京

41. 金兼弘和, 友政弾, 谷田けい. Monogenic IBD に対する造血細胞移植. 第 65 回日本小児血液 · がん学会学術集会 2023.09.30 北海道

42. 三上貴司, 加藤格, 西村聡, 神鳥達哉, 宮村能子, 冨澤大輔, 今村俊彦, 小川誠司, 高木正稔, 滝田順子. 系統転換で再発した KMT2A-AFF1 陽性 AML に特徴的に認められる単球性 MDSC 様の免疫抑制形質. 第 65 回日本小児血液 · がん学会学術集会 2023.09.29 北海道

43. 新里大毅, 磯田健志, 星野顕宏, 西村聡, 友政弾, 鷲尾佳奈, 神谷尚宏, 金兼弘和, 森尾友宏, 高木正稔. 急性骨髄性白血病細胞に RUNX1 バリアントを認めた DNA リガーゼ 4 欠損症. 第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会 2023.09.29 北海道

44. 三上貴司, 加藤格, 西村聡, 神鳥達哉, 宮村能子, 冨澤大輔, 今村俊彦, 小川誠司, 高木正稔 , 滝田順子. 系統転換で再発した KMT2A-AFF1 陽性 AML に特徴的に認められる単球性 MDSC 様の免疫抑制形質. 第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会 2023.09.29 北海道

45. 浪川結衣, 宮本智史, 浦山ケビン, 真部淳, Yang Jung, 高木正稔. 転写因子 TCF3 のバリアントと小児 B-ALL の関連性の解析. 第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会 2023.09.29 北海道

46. 友政弾, 西村聡, 坂田尚己, 坂本謙一, 伊川泰広, 吉田健一, 小川誠司, 高木正稔, 森尾友宏, 金兼弘和. SAP 欠損症に伴うリンパ増殖症における体細胞バリアントの検索. 第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会 2023.09.29 北海道

47. 金兼弘和. 全ゲノム解析によって明らかとなった染色体構造異常による Wiskott-Aldrich 症候群. 令和 5 年度エビデンス班会議 「原発性免疫不全症の診断率向上に向けた CD45 陽性細胞を用いたマルチオミックス解析の開発」班 2023.09.27 Web 開催

48. 小林杏珠, 友政弾, 佐倉文祥, 浅野孝基, 土方敦司, 内山徹, 岡田賢, 森尾友宏, 高木正稔, 金兼弘和. 成人期に診断された ADA 欠損症. 第 14 回関東甲信越免疫不全症研究会 2023.09.24 東京

49. 三上貴司, 加藤格, 西村聡, 神鳥達哉, James B.Wing, 浜田聡, 辻本信一, 井上翔太郎, 宮村能子, 富澤大輔, 今村俊彦, 小川誠司, 高木正稔, 滝田順子. 系統転換した KMT2A-AFF1 陽性 AML は単球性 MDSC 様の免疫学的特徴を有する. 第 82 回日本癌学会学術総会 2023.09.23 神奈川

50. 浪川結衣, 宮本智史, 浦山ケビン, 真部淳, Jang Yang, 高木正稔. TCF3 のバリアントは小児 B-ALL 発症の素因となる. 第 82 回日本癌学会学術総会 2023.09.23 神奈川

51. 清水正樹. 全身型若年性特発性関節炎およびマクロファージ活性化症候群の病態と治療. Novartis Web Live 講演会 2023.09.22 WEB

52. 清水正樹. JIA の病態からみた TNF α 阻害の意義. エンブレル全国講演会 2023.09.09 大阪

53. 星野顕宏, 高木正稔, 友政弾, 小林純也, 坂田尚己, 森尾友宏, 金兼弘和. RAD50 欠損症による骨髄不全と免疫異常症. 第 162 回小児血液腫瘍免疫懇話会 2023.09.08 東京 (Web)

54. 東條真有、中村虹輝、金子千夏、山口洋平、石井卓、細川奨、森尾友宏. 高血圧を契機に単純型大動脈縮窄症の診断に至った 10 歳児. 第 692 回日本小児科学会東京都地方会講和会 2023.09.08 東京、WEB

55. 鹿島田健一, 渡辺和宏. LC-MS による先天性副腎過形成のスクリーニング導入で明らかになったこと. 第 50 回日本マススクリー二ング学会学術集会 2023.08.26 新潟

56. 鈴木拓望, 細道純, 宮坂尚幸, 宮崎泰成, 滝敦子, 財津崇, 毛呂愛香, 森丘千夏子, 佐藤憲子, 小野卓史. 日本人妊婦の閉塞性睡眠時無呼吸症の病態と出生児への影響について. 第 47 回日本女性栄養・代謝学会学術集会 2023.08.24 岡山

57. 金兼弘和. 低ガンマグロブリン血症に対する 免疫グロブリン補充療法の新展開. 第 58 回中部日本小児科学会 2023.08.20 愛知

58. 清水正樹. SLE 診療の現状. Tokyo SLE Symposium 2023 August 2023.08.08 東京

59. 清水正樹. 若年性突発性関節炎への挑戦. TeMPRA 2023 2023.07.16 山口

60. 野口優輔, 杉江学, 森丘千夏子, 滝敦子, 伊藤一之, 本多泉, 岡崎薫, 鹿島田健一. 臍帯由来間葉系幹細胞 (UCMSCs) を用いた胎児発育不全におけるプログラミングの時期特異性に関する解析. 第 59 回日本周産期・新生児医学会 2023.07.11 愛知

61. 小川和乃, 森丘千夏子, 杉江学, 伊藤一之, 羅ことい, 宮坂尚幸, 関口将軌. Gitelman 症候群が疑われた母体から出生し, 偽性 Bartter 症候群を呈した新生児の一例. 第 59 回日本周産期・新生児医学会 2023.07.11 愛知

62. 伊藤一之, 野口優輔, 勝碕静香, 杉江学, 森丘千夏子. 生物学的製剤を使用した母体から出生した新生児における免疫能評価. 第 59 回日本周産期・新生児医学会 2023.07.10 愛知

63. 横井碧, 高瀬千尋, 宮原奏, 宮原宏幸, 山内建, 杉江学, 森丘千夏子, 近藤乾. 在胎 22 週出生児の生命予後に関わる因子の検討. 第 59 回日本周産期・新生児医学会 2023.07.09 愛知

64. 古野秀裕, 星野顕宏, 西山洋平, 西村聡, 宮本智史, 神谷尚宏, 磯田健志, 高木正稔, 梶原道子, 金兼弘和, 森尾友宏. 合併症の有無で対照的な管理を要した重症複合免疫不全症の 2 例. 第 691 回日本小児科学会東京都地方会講話会 2023.07.08 東京

65. 金兼弘和. IEI を疑う 10 の徴候を紐解く. 東北 IEI Web Seminar 2023.07.07 Web 開催

66. 高月晋一, 石井卓, 細川奨, 石田秀和, 内田敬子, 稲井慶, 石崎怜奈, 福島裕之, 小垣滋豊, 山岸敬幸, 土井庄三郎. JACPHR registry における小さな欠損孔を伴う肺動脈性高血圧症患者の解析. 第 59 回 日本小児循環器学会学術集会 2023.07.07 神奈川

67. 内田敬子, 住友直文, 石崎怜奈, 福島裕之, 石井卓, 石田秀和, 高月晋一, 小垣滋豊, 稲井慶, 土井庄三郎, 山岸敬幸. 先天性心疾患に伴う区域性肺高血圧症に対する薬物治療効果の検討. 第 59 回 日本小児循環器学会学術集会 2023.07.07 神奈川

68. 住友直文, 石崎怜奈, 内田敬子, 高月晋一, 石井卓, 石田秀和, 福島裕之, 小垣滋豊, 稲井慶, 土井庄三郎, 山岸敬幸. 二心室修復術後に残存する肺高血圧症の臨床像に関する検討　from Japan CHD-PH registry. 第 59 回 日本小児循環器学会学術集会 2023.07.07 神奈川

69. 池田翔, 高井詩織, 山口洋平, 石井卓, 細川奨. 治療経過中に結腸狭窄を認めた軽度大動脈弁狭窄症を伴う心室中隔欠損症例. 第 59 回 日本小児循環器学会学術集会 2023.07.07 神奈川

70. 高井詩織, 池田翔, 山口洋平, 石井卓, 細川奨. 当院における小児期発症の肺動脈性肺高血圧症の中 · 長期予後. 第 59 回 日本小児循環器学会学術集会 2023.07.07 神奈川

71. 石井良, 石田秀和, 石井卓, 内田敬子, 高月晋一, 細川奨, 稲井慶, 福島裕之, 小垣滋豊, 山岸敬之, 土井庄三郎. 高肺血管抵抗の Fontan 術後患者に対する肺血管拡張薬使用の検討. 第 59 回 日本小児循環器学会学術集会 2023.07.07 神奈川

72. 石井卓、山口洋平、細川奨. 分割時系列分析による public-access defibrillation の導入と心臓突然死数の関係の検討. 第 59 回日本小児循環器学会学術集会 2023.07.06 神奈川

73. 石井卓、内田敬子、石田秀和、細川奨、高月晋一、石崎怜奈、小垣滋豊、福島裕之、稲井慶、山岸敬幸、土井庄三郎. 先天性心疾患を伴う肺高血圧症例の多施設症例登録研究 JACPHR. 第 59 回日本小児循環器学会学術集会 2023.07.06 神奈川

74. 細川奨, 石井卓, 永井礼子, 内田敬子, 石田秀和, 小垣滋豊, 山岸敬幸, 土井庄三郎. 我が国における小児特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧症 (IPAH/HPAH) 患者の治療の現状　Japan PH Registry(JAPHR). 第 59 回日本小児循環器学会学術集会 2023.07.06 神奈川

75. 桐野玄, 中川竜一, 高澤啓, 我有茉希, 鹿島田健一. 機能活性をもつエンハンサーの塩基配列解析から明らかとなる性腺発生における新規転写制御機構. 第 26 回小児分子内分泌研究会 2023.07.01 北海道

76. 金兼弘和. 日常診療に潜む IEI. 千葉先天性免疫異常症 Web Seminar 2023.06.30 Web 開催

77. 清水正樹. 小児 SLE の診断と治療について. 旭化成ファーマ株式会社　社内講演会 2023.06.07 東京

78. 石井卓, 中村虹輝, 金子千夏, 山口洋平, 細川奨, 土井庄三郎. 小児肺動脈性肺高血圧症に対する標的治療薬の短期治療効果. 第 8 回日本肺高血圧 · 肺循環学会, 第 28 回日本小児肺循環研究会 2023.06.04 兵庫

79. 内田敬子, 住友直文, 石崎怜奈, 福島裕之, 石井卓, 石田秀和, 高月晋一, 小垣滋豊, 稲井慶, 土井庄三郎, 山岸敬幸. 区域性肺高血圧症に対する肺高血圧治療薬の効果の違い. 第 8 回日本肺高血圧 · 肺循環学会学術集会 2023.06.04 兵庫

80. 土井庄三郎, 石井卓, 内田敬子, 細川奨, 石田秀和, 高月晋一, 小垣滋豊, 稲井圭, 福島裕之, 山岸敬幸. 本邦から世界へ向けた All-Japan 肺高血圧症レジストリの展望　先天性心疾患を伴う肺高血圧症例の多施設症例登録研究 JACPHR. 第 8 回日本肺高血圧 · 肺循環学会学術集会 2023.06.04 兵庫

81. 安達恵利子, 辻敦美, 中川竜一, 我有茉希, 桐野玄, Analia Yogi, 中谷久恵, 高澤啓, 森尾友宏, 小原収, 鹿島田健一. Target Long read sequence による CYP21A2 の新しい解析手法の開発. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.03 愛知

82. 家村綾正, 鈴木友梨, 鎌田悠子, 水野裕貴, 山本くらら, 酢谷明人, 高澤啓, 高木正稔, 西岡正人, 明石巧, 岡本健太郎, 鹿島田健一, 森尾友宏 . 生殖細胞系列 VHL 遺伝子異常による遺伝性褐色細胞腫の小児例. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.03 愛知

83. 山野春樹, 香川礼子, 家村綾正, 中川竜一, 山内建, 高澤啓, 森尾友宏, 岡田賢, 鹿島田健一 . 非肥満ながら糖尿病を発症する小児期がん経験者における肝線維化の検討. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.02 愛知

84. 桐野玄, 高澤啓, 中川竜一, 山内建, 我有茉希, 齋藤洋子, 安達恵利子, 中谷久恵, 神谷尚宏, 磯田健志, 梶原道子, 金兼弘和, 鹿島田健一, 森尾友宏. 先天性免疫異常における膵島自己免疫の実態および造血細胞移植の効果. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.02 愛知

85. 南谷幹史, 田嶼朝子, 鹿島田健一, 河田泰定, 福田謙, 小谷裕美子, 喜多村美幸, 三浦順之助, 横田一郎, 杉原茂孝, 菊池透. 診断時に nonthyroidal illness を呈する幼児 1 型糖尿病では内因性インスリン分泌が早期に枯渇する. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.02 愛知

86. 鹿島田健一. 多のう胞性卵巣症候群ー早期診断と管理. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.02 愛知

87. 我有茉希, 高澤啓, 山内泰輔, 水野朋子, 石渡久子, 鹿島田健一, 森尾友宏. SGLT2 阻害薬はミトコンドリア糖尿病の治療選択肢になる. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.01 愛知/WEB

88. 増永陽平, 西村玄, 高橋孝治, 鹿島田健一, 岡本伸彦, 大場大樹, 大橋博文, 池野充, 深見真紀, 才津浩智, 緒方勤. NANS-CDG 3 例の臨床および遺伝学的所見. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.01 愛知/WEB

89. 鹿島田彩子, 水野朋子, 宇田川智宏, 細川奨, 内田佳介, 田中絵里子, 小崎健次郎, 高木正稔. 新規 RNF213 遺伝子 de novo バリアントは全身性の血管縮窄症に関与する. 第 65 回日本小児神経学会学術集会 2023.05.27 岡山

90. 山内泰輔, 水野朋子, 布施譲嗣, 田村友美恵, 森山剣光, 鈴木智典, 宮冬樹, 加藤光広, 松本直通. 網羅的遺伝子解析を行ったてんかん症候群の臨床的検討. 第 65 回日本小児神経学会 2023.05.25 岡山

91. 金兼弘和. 原発性免疫不全症と免疫グロブリンに関する講演. 第 2 回国際臨床免疫シンポジウム ランチョンセミナー 2023.05.19 神奈川

92. 清水正樹. 小児全身性エリテマトーデスと移行期医療. 第 67 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.04.24 福岡

93. 井上祐三朗, 酒井良子, 井上永介, 光永可奈子, 清水正樹, 杉原毅彦, 田中孝之, 杉下雅和, 森雅亮, 吉藤元, 西小森隆太, 宮前多佳子. 指定難病データを用いた関節型若年性特発性関節炎および高安動脈炎の医療実態の検討. 第 67 2023.04.24 福岡

94. 伊良部仁, 宮岡双葉, 金子修也, 真保麻実, 瀬川裕子, 磯田健志, 清水正樹, 森尾友宏. 急性単関節炎で発症した急性白血病の幼児例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.16 東京

95. 山下基, 柏木菜緒, 神谷尚宏, 江口詩織, 新里大毅, 満生紀子, 磯田健志, 木脇裕子, 稲次基希, 今井耕輔, 金兼弘和, 高木正稔, 森尾友宏. 全エクソン解析が診断に有用であった軟部組織腫瘍の一例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.16 東京

96. 布施譲嗣, 山内泰輔, 水野朋子, 村越未希, 西村聡, 宇田川智宏, 高澤啓, 神谷尚宏, 森尾友宏. 当科で経験した PRES の臨床的特徴. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.16 東京

97. 中島啓介, 木口智之, 梅原真帆, 長妻美沙子, 金兼弘和, 森尾友宏. 小児新型コロナワクチン接種後の本人および家族の日常生活への影響. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.15 東京

98. 遠藤琢也, 宮岡双葉, 伊良部仁, 清水正樹, 岡本美穂, 森尾友宏. 脊椎関節炎を合併した不全型ベーチェット病の 1 例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.15 東京

99. 吉野明日香、小笠原啓祐、鎌田悠子、山野春樹、池田翔、高井詩織、下山輝義、伊藤一之、水野裕貴、山口洋平、石井卓、杉江学、森丘千夏子、岡本健太郎、細川奨、小野真、畠井芳穂、森尾友宏. 先天性嚢胞性肺疾患に一側肺動脈欠損を合併した新生児の一例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.15 東京

100. 保志ゆりか, 市川知則, 勝屋恭子, 早田茉莉, 青木龍, 森丘千夏子, 高澤啓, 鹿島田健一, 箕面崎至宏. 四肢形成異常を伴う Baller-Gerold 症候群の一例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.15 東京

101. 山田拓人, 池田翔, 高井詩織, 山口洋平, 石井卓, 細川奨. 若年発症の心筋症例における致死性不整脈の発生状況の検討. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.15 東京

102. 石橋佑脩, 神谷尚宏, 村越未希, 宇田川智宏, 遠藤明史, 磯田健志, 高木正稔, 金兼弘和, 今井耕輔, 森尾友宏. GATA2 異常症に対する同種造血細胞移植後に膜性腎症を発症し，リツキシマブ治療が奏功した 1 例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京

103. 佐藤健, 滝島茂, 村山哲, 田中里奈, 中溝智也, 佐藤薫, 松田希, 石橋奈保子, 高澤啓, 岡智一郎, 染谷雄一, 藤井克樹, 村上耕介, 長谷川毅, 村松正道, 森尾友宏 . 乳幼児のウイルス性胃腸炎に関する分子疫学的研究（第一報）. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京

104. 宮岡双葉, 金子修也, 真保麻実, 伊良部仁, 村越未希, 西村聡, 宇田川智宏, 神谷尚宏, 磯田健志, 清水正樹, 金兼弘和, 森尾友宏. 全身型若年性特発性関節炎に合併したマクロファージ活性化症候群に対し，ルキソリチニブが有効であった一例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京

105. 金子修也, 宮岡双葉, 真保麻実, 伊良部仁, 高澤啓, 清水正樹, 森雅亮, 森尾友宏. 組織球性壊死性リンパ節炎の診断における血清中インターフェロンアルファ値の有用性. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京

106. 鈴木友梨, 家村綾正, 水野裕貴, 山本くらら, 星野顕宏, 野村敏大, 酢谷明人, 前田佳真 , 鎌田悠子, 屋富祖大騎, 高澤啓, 磯田健志, 高木正稔 , 西岡正人, 明石巧, 岡本健太郎, 鹿島田健一 , 森尾友宏 . 若年発症褐色細胞腫例における遺伝学的解析の重要性. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京

107. 笹原洋二, 和田泰三, 森尾友宏. Wiskott-Aldrich 症候群および白血球接着不全症 1 型における免疫学的シナプス形成後のサイトカイン産生異常. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京

108. 金兼弘和. PID とは。PID での診断における課題. PID メディアラウンドテーブル 2023.04.06 東京

109. 森毅彦, 金兼弘和. 日常診療に潜む希少疾患 その症状、本当に感染症だけ？ 「PID は小児だけの病気ではない」. PID エリア講演会 2023.03.29 Web 開催

110. 金兼弘和. 日常診療に潜む希少疾患 〜その症状、本当に感染症だけ？ 〜. PID は小児だけの病気ではない 2023.03.29 東京

111. 森尾友宏. 細胞治療による治療オプションの拡充. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都

112. 鹿島田健一. 興味深い症例から成長を考える . 湯島性分化勉強会 2023 2023.03.23 東京

113. 金兼弘和. 免疫不全症の診断と治療の Tips. 第 9 回 BUNKYO P.C.C. 2023.03.22 東京

114. 木島英美, 村越未希, 宮岡双葉, 伊良部仁, 宇田川智宏, 清水正樹, 森尾友宏. 学校検尿から診断に至ったぶどう膜炎を伴う尿細管間質性腎炎 (TINU) 症候群の 1 例. 第 689 回日本小児科学会東京都地方会講話会 2023.03.11 東京

115. 和田泰三, 金兼弘和. Lessons learned from Burton. 第 11 回北陸免疫不全症セミナー 2023.03.10 金沢及び Web 開催

116. 布施譲嗣, 大口郁夫, 山内泰輔, 村越未希, 野村敏大, 鈴木智典, 水野朋子. 早期に血漿交換療法を行った抗アクアポリン 4 抗体陽性視神経脊髄炎スペクトラムの 1 例. 第 78 回日本小児神経学会関東地方会 2023.03.04 Web

117. 鹿島田健一. 発症者への初期対応：副腎過形成を中心に. 2022 年度「日本マススクリーニング学会研修会」2023.03.03 Web

118. 金兼弘和. 明日からの診療に役立つ PID の診断と治療の Tips. 鹿児島 PID Web Seminar 2023.03.03 Web 開催

119. 森尾友宏. 最先端の治療法の社会普及に向けて. アドボカシー ラウンドテーブル 2023.03.01 WEB

120. 石井卓. 先天性心疾患を伴う肺高血圧症の病態と治療. 第 267 回日本循環器学会関東甲信越地方会 2023.02.25 東京

121. 清水正樹. 全身型 JIA とマクロファージ活性化症候群. 第 34 回北海道小児リウマチ性疾患研究会 2023.02.18 群馬

122. 宮本智史, 新里大毅, 神谷尚宏, 磯田健志, 安積昌平, 平林真介, 坂本謙一, 岸本健治, 宮村能子, 梅田雄嗣, 栁町昌克, 神田香織, 伊川泰広, 渡邉健一郎, 坂口大俊, 森尾友宏, 金兼弘和. 小児先天性免疫異常症におけるアレムツズマブを用いた同種造血細胞移植の後方視解析. 第 45 回 日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.12 愛知

123. 真保麻実, 宮岡双葉, 金子修也, 伊良部仁, 阿久津裕子, 森尾友宏, 清水正樹. 少関節炎型 JIA としてフォロー中に発熱 · 嘔吐発作を反復し、A20 ハプロ不全症の診断に至った 1 例. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会総会 · 学術総会 2023.02.12 東京

124. 平田浩聖, 堅田有宇, 佐川博貴, 服部高明, 今井耕輔, 豊福悦史, 金子修也, 清水正樹, 宮本尚幸, 八角高裕, 山本正英, 森尾友宏, 横田隆徳, 笹原洋二, 金兼弘和. CLIPPERS 症候群様の脳 MRI 所見を呈した遅発性家族性血球貪食症性リンパ組織球症 3 型の 2 例. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.12 東京

125. 花田彩加, 豊福悦史, 山下基, 友田昴宏, 磯田健志, 神谷尚宏, 高木正稔, 金兼弘和, 今井耕輔, 森尾友宏. 染色体構造異常による Wiskott-Aldrich 症候群. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.12 東京

126. 友政弾, 金兼弘和. 造血細胞移植で治療可能な IBD. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 · 学術総会 2023.02.12 東京

127. 金兼弘和. エバシェルドによる COVID-19 発症抑制. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 · 学術総会 2023.02.12 東京

128. 長濱潤, 西川拓朗, 中村達郎, 中川俊輔, 児玉祐一, 友政弾, 金兼弘和, 岡本康裕. 発症年齢、発症症状が異なる X 連鎖慢性肉芽腫症の 2 例. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 · 学術総会 2023.02.12 東京

129. 岩田直也, 荻野諒, 西谷真彦, 仁平寛士, 井澤和司, 本田吉孝, 加藤健太郎, 宮本尚幸, 才田聡, 渋谷真美, 加来洋, 神戸直智, 竹内康英, 藤本正数, 横山宏司, 濱畑啓悟, 金子修也, 清水正樹, 八角高裕, 滝田順子. 皮下脂肪織炎様 T 細胞性リンパ腫の二例. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 · 学術総会 2023.02.12 東京

130. 清水正樹. マクロファージ活性化症候群を合併する自己炎症性疾患. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 · 学術総会 2023.02.12 東京

131. 尾崎富美子, 清水正樹, 森尾友宏. 疾患特異的 iPS 細胞を用いた PAMI 症候群の病態モデルを用いたカルプロテクチン抑制療法の検討. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.12 東京

132. 金兼弘和. エバシェルドによる COVID-19 発症抑制. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.12 東京

133. 清水正樹. マクロファージ活性化症候群を合併する自己炎症性疾患. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会総会 · 学術集会 ランチョンセミナー 4 2023.02.12 東京

134. 大口郁夫, 西村聡, 山下基, 星野顕宏, 磯田健志, 神谷尚宏, 金兼弘和, 高木正稔, 森尾友宏. 再発急性骨髄性白血病に対してクロファラビンを用いた再移植で寛解を維持した 1 例. 第 45 回 日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.11 愛知

135. 石塚潤子, 持田靖子, 有川淑恵, 石川智則, 神谷尚宏, 磯田健志, 西村聡, 星野顕宏, 高木正稔, 梶原道子, 金兼弘和, 森尾友宏. 思春期の患者 · 家族の妊孕性温存療法における造血細胞移植コーディネーターによる支援. 第 45 回 日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.11 愛知

136. 仁紙千尋, 遠藤明史, 神谷尚宏, 磯田健志, 金兼弘和, 森尾友宏, 今井耕輔. STAT3 機能喪失型高 IgE 症候群の成人例、小児例の比較. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.11 東京

137. 金子修也, 佐倉文祥, 清水正樹, 宮岡双葉, 真保麻実, 岡田千鶴, 伊良部仁, 小崎健次郎, 福島啓太郎, 森雅亮, 岡田賢, 金兼弘和, 森尾友宏. JAK 阻害薬が有効であった機能獲得型 STAT3 変異. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.11 東京

138. 山崎晋, 清水正樹, 金子修也, 伊良部仁, 真保麻実, 阿久津裕子, 瀬川裕子, 柿崎潤, 宮本尚幸, 井澤和司, 八角高裕, 森雅亮, 森尾友宏. バリシチニブが奏功した Aicardi-Goutiēres 症候群 7 群の 1 例. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.11 東京

139. 宮本智史, 西村聡, 星野顕宏, 神谷尚宏, 磯田健志, 梶原道子, 高木正稔, 今井耕輔, 金兼弘和, 森尾友宏 . 先天性免疫異常症に対する同種造血細胞移植. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.11 東京

140. 友政弾, 平田悠樹, 馬嶋秀考, 今中雄介, 井上祐三朗, 渡邉哲, 亀井克彦, 岡田賢, 金兼弘和. 表在性ならびに侵襲性真菌感染症を診た場合に何を考えるか？ CARD9 欠損症の成人 2 例. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 · 学術総会 2023.02.11 東京

141. 仁平寛士, 日衛嶋栄太郎, 村本雄哉, 塩川雅広, 新井勝大, 工藤孝広, 岩間達, 水落建輝, 十河剛, 梶恵美里, 河合利尚, 笹原洋二, 大西英典, 岡田賢, 金兼弘和, 西小森隆太, 本田吉孝, 滝田順子, 井澤和司, 八角高裕. 抗 integrin $\alpha v \beta 6$ 抗体の小児 IBD における多施設検討. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 · 学術総会 2023.02.11 東京

142. 金兼弘和. 先天性免疫異常症をどのように診断するか. 第 1 回小児感染症ハイレベルコース「先天性免疫異常症」 2023.01.14 Web 開催

143. 土井庄三郎, 石井卓, 山岸敬幸, 内田敬子, 細川奨, 石崎怜奈, 石田秀和, 高月晋一, 福島裕之, 稲井慶, 小垣滋豊. 先天性心疾患を伴う肺高血圧症レジストリ JACPHR. 第 24 回日本成人先天性心疾患学会　総会 · 学術集会 2023.01.13 愛媛

144. 石井卓. 肺高血圧に関する新しい情報. 第 24 回日本成人先天性心疾患学会　総会 · 学術集会 2023.01.13 愛媛

[その他業績]

1. 第 29 回小児血液 · SCT 研究会 世話人会, 2023 年 04 月
講演会世話人【金兼弘和】

2. 原発性免疫不全症に関する NHK の取材, 2023 年 04 月
取材対応【金兼弘和】

3. 「COVID-19 に関連した小児突然死の背景にある希少疾患の診断に成功」 —　世界初の分子剖検による LZTR1 変異を有する Noonan 症候群の診断例　—（金兼弘和） , 2023 年 04 月
Frontiers in Immunology

4. Molecular autopsy sheds light on cause of sudden death of a child with COVID-19, 2023 年 04 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

5. 第二回国際臨床免疫学会 教育セミナー, 2023 年 05 月
PLEASURE-J, a representative nationwide registry for patients with SLE　座長【清水正樹】

6. 「 X 連鎖無ガンマグロブリン血症（XLA）に対する造血細胞移植の国際調査結果 」 —造血細胞移植が XLA の代替的な根治治療となりうる—, 2023 年 06 月
Journal of Clinical Immunology

7. 「 X 連鎖無ガンマグロブリン血症（XLA）に対する造血細胞移植の国際調査結果 」 —造血細胞移植が XLA の代替的な根治治療となりうる—（金兼弘和） , 2023 年 07 月
Journal of Clinical Immunology

8. 「 X 連鎖無ガンマグロブリン血症（XLA）に対する造血細胞移植の国際調査結果 」 —造血細胞移植が XLA の代替的な根治治療となりうる—, 2023 年 07 月
Journal of Clinical Immunology

9. 「COVID-19 中和抗体薬 AZD3152 Advisory Board Meeting」における指導 · および助言, 2023 年 07 月
アドバイザー【金兼弘和】

10. 第 14 回関東甲信越免疫不全症研究会「免疫異常症に対する最近の知見について」, 2023 年 09 月
研究会海外招聘講演　座長【金兼弘和】

11. 骨髄不全と免疫不全に関わる RAD50 の異常を発見 —　新奇先天性免疫不全症として RAD50 欠損症を提唱　—（金兼弘和） , 2023 年 10 月
Journal of Clinical Immunology

12. 「骨髄不全と免疫不全に関わる RAD50 の異常を発見」 —　新奇先天性免疫不全症として RAD50 欠損症を提唱　—, 2023 年 10 月
Journal of Clinical Immunology

13. sJIA 座談会, 2023 年 10 月
アドバイザー

14. 「ロングリードシークエンス法を用いた 21 水酸化酵素欠損症の遺伝子検査法の開発」 — 遺伝学的診断を研究レベルから診断目的の検査応用へ道を開く —, 2023 年 10 月
Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism

15. 「ロングリードシークエンス法を用いた 21 水酸化酵素欠損症の遺伝子検査法の開発」 — 遺伝学的診断を研究レベルから診断目的の検査応用へ道を開く —, 2023 年 10 月
Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism

16. Researchers identify the variants responsible for a rare and serious disorder（金兼弘和） , 2023 年 11 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

17. PID 新規治療薬開発に関する現状および課題のヒアリング, 2023 年 12 月
アドバイザー【金兼弘和】

18. JISEDAI の会, 2023 年 12 月
全身型 JIA と MAS に対する治療【清水正樹】

19. 骨髄/ナチュラルキラー（NK）前駆細胞性急性白血病は新規の独立した白血病である — 希少白血病の分子遺伝学的基盤の理解と治療法開発 —, 2023 年 12 月
Science Advances

[社会貢献活動]

1. 筑波大学附属小学校（児童の健康管理及び保健指導）（細川奨）, 2020 年 04 月 01 日 - 2023 年 09 月 30 日
2. NPO 法人 PID つばさの会 代表医療顧問, PID つばさの会, 2022 年 04 月 01 日 - 現在
3. 思春期早発症について（鹿島田健一）, メディカルノート, Medical Note, 2023 年 01 月 18 日
4. 希少疾患および PID(原発性免疫不全症) について（金兼弘和）, 読売新聞, 読売新聞夕刊, 2023 年 04 月 06 日
5. 希少疾患および PID(原発性免疫不全症) について （金兼弘和） , 日刊現代, 日刊現代, 2023 年 04 月 06 日
6. 新型コロナに関連した小児突然死の背景について（金兼弘和） , NHK, おはよう日本、NHK ニュースなど, 2023 年 04 月 18 日 - 2023 年 04 月 26 日
7. 希少疾患および PID(原発性免疫不全症) について（金兼弘和） , 希少疾患および PID(原発性免疫不全症) について, アピタル, 2023 年 04 月 21 日
8. 希少疾患および PID(原発性免疫不全症) について（金兼弘和） , 株式会社 QLife, Qlife, 2023 年 04 月 21 日
9. Child Nursing 子どもに寄り添う看護サポートブック（監修 鹿島田健一，村瀬有紀子）, JCR ファーマ株式会社, 2023 年 05 月 01 日
10. 希少疾患および PID(原発性免疫不全症) について （金兼弘和） , 時事通信社, 時事メディカル, 2023 年 05 月 10 日 - 2023 年 05 月 16 日
11. X 連鎖重症複合免疫不全症（X-SCID）における今回の事案の位置づけ、今後の展望について（金兼弘和）, 読売新聞東京本社, 読売新聞, 2023 年 05 月 11 日
12. 原発性免疫不全症（PID）の疾患特性について（金兼弘和） , アサジョ, アサジョ, 2023 年 06 月 07 日
13. 原発性免疫不全症（PID）の疾患特性について（金兼弘和） , CA Media, CA Media, 2023 年 06 月 07 日
14. 付き添い入院する保護者の環境改善について（髙澤啓）, 読売新聞社, 読売新聞, 2023 年 06 月 23 日 - 2023 年 06 月 28 日
15. 文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会 委員 (細川奨), 文京区役所, 2023 年 07 月 24 日 - 2025 年 07 月 23 日
16. ゲノム編集 · 遺伝子治療について（森尾友宏）, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2023 年 08 月 10 日
17. 筑波大学附属小学校 校医（児童の健康管理及び保健指導）(石井卓) , 筑波大学附属小学校, 2023 年 10 月 01 日 - 現在
18. 再生医療について（森尾友宏） , NHK, NHK（各ニュース番組、ウェブサイト）, 2023 年 10 月 13 日
19. 新生児マススクリーニングについて（金兼弘和） , NHK, NHK（各ニュース番組、ウェブサイト）, 2023 年 11 月 01 日
20. 拡大新生児マススクリーニングについて（金兼弘和） , NHK, NHK（各ニュース番組、ウェブサイト）, 2023 年 11 月 13 日
21. 連載企画「大学の国際化最前線」（森尾友宏） , 国際開発ジャーナル社, 国際開発ジャーナル, 2023 年 11 月 14 日 - 現在

皮膚科学

Dermatology

教　　授　　沖山　奈緒子
准 教 授　　並木　剛
医 局 長　　竹下　八菜
助 教　　飯田　忠恒, 岩本　雄太郎, 金澤　あずさ，小田　充思
医　　員　　山本　美月, 島　英輝, 藤原　美香
レジデント　　張野　優文, 杉田　一毅, 森本　健太
非常勤講師　　市村　裕輝, 小西　里沙, 藤本　智子, 西田　真紀子, 稲澤　美奈子
大学院生（博士）生田目　拓, 内田　千恵
研究員　　雷　雨
技　　官　　宮岸千谷子
事務補佐員　　三輪　美砂, 阪田昌江, 林真由子

(1)　分野概要

当講座は、皮膚に表現されるすべての疾患を対象とした教育、診療、研究を担当している。

1）教育
卒前教育では、一般医として必要な皮膚の解剖学、生理学、免疫学、薬理学などの基礎知識とそれに基づく皮膚疾患の理解に重点をおき、外来での見学、ベットサイドティーチングを中心とした教育を行う。特に医学部３年生のブロック講義では「皮膚 · アレルギー · 膠原病ブロック」「免疫学 II」を担当している。
卒後教育は、専門医としての皮膚科学の基礎的知識の修得と臨床医としての技術 · 手技の習熟を行い、「皮膚科学から見る人間学」の研鑽をつむことを目標としている。

2）臨床
皮膚科学の臨床は、皮膚に表現される微細な変化から全身の生体状態を把握し、疾病の早期診断 · 早期治療を行うことにある。外来 · 入院患者を通じて皮膚徴候の検出と理解の訓練、皮膚徴候からの内臓諸器官の機能の推測とその証明、皮膚疾患の原因 · 誘因の検出方法、外用療法、外科的手技を用いた治療、内科的治療を駆使して疾病の治療を行っている。

3）研究
皮膚に表現される疾患の全てを対象とする皮膚科学では、その研究対象が多岐にわたる。当教室では種々の皮膚疾患の病因 · 病態を免疫学的アプローチにより解明することに努力している。当教室のこれまでの研究業績を基盤として、免疫アレルギー疾患、腫瘍等の研究を行っている。
（1）皮膚筋炎の研究
特異的皮疹を伴う炎症性筋疾患である皮膚筋炎では、筋炎特異的自己抗体が複数同定され、抗体ごとに臨床像がサブグループ分類されることが分かってきた。当教室では、この自己抗体ごとの臨床像解析や分子生物学的解析を多数発表している。さらに、自己抗体ごとの新規モデルマウスを世界で初めて作出し、病態解明と至適治療法開発にも取り組んでいる。
（2）皮膚苔癬反応（皮膚移植片対宿主病や扁平苔癬、重症薬疹、膠原病の皮疹）の研究
病理組織学的に苔癬反応を示す場合には、表皮角化細胞が免疫反応の標的となっており、角化細胞死を来すため、皮疹は重症化する。キラー T 細胞がその病態の本態であり、モデルマウスを用いて治療標的を探索し、産学共同研究にて治療法開発に取り組んでいる。

（3）免疫チェックポイント分子の基礎的解析
がん免疫療法の標的として注目される、PD-1 やそのライガンド PD-L1, PD-L2 をはじめとした免疫チェックポイント分子は、そのシグナル遮断薬によってがん免疫を増強し、一方で白斑や乾癬、扁平苔癬といった皮膚症状を含む全身臓器での免疫関連副作用を呈して来る。臨床検体解析やモデルマウス研究によって、この免疫関連副作用の病態解明と対処法の開発を行ってる。
（4）アトピー性皮膚炎の研究
好塩基球の炎症における役割が最近あらためて注目されてきている。現在、アトピー性皮膚炎などのアレルギー性皮膚疾患における好塩基球の分布やその役割について解析を行っている。
（5）発汗異常の研究
指定難病でもある後天性特発性無汗症の症例が集積している当科では、臨床統計的解析と共に、モデルマウスを作出して病態メカニズムの研究をおこなっており、有効な治療法の開発を目指している。

(2) 研究業績

[原著]

1. Takahashi Y, Takamiya M, Ichimura Y, Okiyama N, Nishino I, Morimoto N.. [Two cases of anti-nuclear matrix protein 2 antibody-positive dermatomyositis sine dermatitis with severe diffuse subcutaneous edema and dysphagia] Rinsho Shinkeigaku. 2023.11; 63(11); 737-742

2. Ebisawa Yuka(Department of General Medicine and Primary Care, Faculty of Medicine, University of Tsukuba), Masumoto Shoichi, Okiyama Naoko, Yoshimoto Hisashi, Maeno Tetsuhiro. 高齢患者における食物依存性運動誘発アナフィラキシーの発症 (The Onset of Food-dependent Exercise-induced Anaphylaxis in an Elderly Patient)(原著論文/英語) Internal Medicine. 2023.10; 62(19); 2907-2909

3. Oyama M, Ohnuki Y, Uruha A, Saito Y, Nishimori Y, Suzuki S, Inoue M, Tanboon J, Okiyama N, Shiina T, Nishino I, Suzuki S.. Association Between HLA Alleles and Autoantibodies in Dermatomyositis Defined by Sarcoplasmic Expression of Myxovirus Resistance Protein A. Journal of Rheumatology. 2023.09; 50(9); 1159-1164

4. Namiki Takeshi, Makiguchi Moe, Wada Shogo, Al-Busani Hind, Nishida Makiko, Ugajin Tsukasa, Miura Keiko, Yokoyama Kota, Okiyama Naoko. The potential value of thallium-201 scintigraphy in the diagnosis of squamous cell carcinoma arising from extensive pyoderma(タイトル和訳中) The Journal of Dermatology. 2023.07; 50(7); 942-945

5. Tanboon J, Inoue M, Hirakawa S, Tachimori H, Hayashi S, Noguchi S, Okiyama N, Fujimoto M, Suzuki S, Nishino I.. Muscle pathology of antisynthetase syndrome according to antibody subtypes. Brain Pathology. 2023.07; 33(4); e13155

6. Inaba M, Fukushima H, Hara M, Hosaka S, Fujiyama S, Maruo K, Nomura T, Okiyama N, Takada H.. Antigen-specific T cell balance reveals Why patients with atopic dermatitis fail to achieve immune tolerance. Clinical Immunology. 2023.07; 252; 109649

7. Mariko Mouri, Toru Kanamori, Eriko Tanaka, Kanako Hiratoko, Mariko Okubo, Michio Inoue, Tomohiro Morio, Masaki Shimizu, Ichizo Nishino, Naoko Okiyama, Masaaki Mori. Hepatic veno-occlusive disease accompanied by thrombotic microangiopathy developed during treatment of juvenile dermatomyositis and macrophage activation syndrome: A case report. Mod Rheumatol Case Rep. 2023.06; 7(2); 404-409

8. Ichimura Y, Ikei H, Konishi R, Zeniya M, Okai T, Nomura T, Negishi K, Okiyama N.. Relevance of leukaemia inhibitory factor to anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-positive interstitial lung disease Rheumatology (Oxford. 2023.06; 62(6); 2267-2271

9. Oya K, Nakamura Y, Watanabe R, Tanaka R, Ichimura Y, Kubota N, Matsumura Y, Tahara H, Okiyama N, Fujimoto M, Nomura T, Fujisawa Y.. Eribulin mesylate exerts antitumor effects via CD103. Oncoimmunology. 2023.05; 12(1); 2218782

10. Iwata Masahiro, Ogawa Tatsuya, Anju Keisuke, Okiyama Naoko, Nomura Toshifumi. Adult-onset Still's disease following mRNA-1273 Moderna COVID-19 vaccination: A case report(タイトル和訳中) Journal of Cutaneous Immunology and Allergy. 2023.04; 6(2); 66-67

11. Iwata Masahiro(Department of Dermatology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba), Ogawa Tatsuya, Anju Keisuke, Okiyama Naoko, Nomura Toshifumi. mRNA-1273 モデルナによる COVID-19 ワクチン接種後にみられた成人発症型 Still 病　1 症例報告 (Adult-onset Still's disease following mRNA-1273 Moderna COVID-19 vaccination: A case report)(レター/英語) Journal of Cutaneous Immunology and Allergy. 2023.04; 6(2); 66-67

12. Konishi Risa, Ichimura Yuki, Okiyama Naoko. Murine models of idiopathic inflammatory myopathy(タイトル和訳中) Immunological Medicine. 2023.03; 46(1); 9-14

13. Kubota N, Tanaka R, Ichimura Y, Konishi R, Tso JY, Tsurushita N, Nomura T, Okiyama N.. Blockade of CD122 on memory T cells in the skin suppresses sclerodermatous graft-versus-host disease. Journal of Dermatological Science. 2023.03; 109(3); 127-135

1. 飯田　忠恒, 小笹　静佳, 和田　昇悟, 生田目　拓, 若佐　卓矢, 片桐　正博, 稲澤　美奈子, 藤本　智子, 並木　剛, 横関　博雄, 沖山　奈緒子. アナフィラキシーに至るコリン性蕁麻疹を合併した特発性後天性全身性無汗症の 1 例 皮膚科の臨床. 2023.12; 65(13); 2062-2065

2. 飯田 忠恒, 小笹 静佳, 和田 昇悟, 生田目 拓, 若佐 卓矢, 片桐 正博, 稲澤 美奈子, 藤本 智子, 並木 剛, 横関 博雄, 沖山 奈緒子. アナフィラキシーに至るコリン性蕁麻疹を合併した特発性後天性全身性無汗症の 1 例 皮膚科の臨床. 2023.12; 65(13); 2062-2065

3. 小西 里沙, 沖山 奈緒子. 【内科医が遭遇する皮膚疾患フロントライン-「皮疹」は現場で起きている!】実践ケーススタディ　よく遭遇する皮膚の困りゴト　下肢に「赤い発疹」が出た　先行して上気道症状がみられる Medicina. 2023.11; 60(12); 2047-2050

4. 沖山 奈緒子. 治療法の再整理とアップデートのために　専門家による私の治療　金属アレルギー 日本医事新報. 2023.09; (5185); 45-46

5. 川上 民裕, 有村 義宏, 池田 高治, 石黒 直子, 石津 明洋, 伊藤 吹夕, 猪原 登志子, 沖山 奈緒子, 小野 さち子, 要 伸也, 岸部 麻里, 小寺 雅也, 渋谷 倫太郎, 菅原 弘二, 鈴木 和男, 清島 真理子, 田中 麻衣子, 辻本 康, 長谷川 稔, 張田 豊, 古川 福実, 宮脇 義亜, 山口 由衣, 吉崎 歩, 皮膚血管炎・血管障害診療ガイドライン策定委員会. 皮膚血管炎・血管障害診療ガイドライン 2023　IgA 血管炎, クリオグロブリン血症性血管炎, 結節性多発動脈炎, リベド様血管症の治療の手引き 2023 日本皮膚科学会雑誌. 2023.08; 133(9); 2079-2134

6. 飯田 忠恒, 沖山 奈緒子. 【多汗症・無汗症診療マニュアル】特発性後天性全身性無汗症に対するステロイドパルス療法 Derma.. 2023.06; (335); 79-84

7. 小西 里沙, 沖山 奈緒子. 【皮膚疾患のバイオマーカー】膠原病のバイオマーカー 皮膚科. 2023.05; 3(5); 540-545

8. 沖山 奈緒子. 新・皮膚科セミナリウム　診断力を磨こう　診断困難例の診断プロセスに学ぶ　診断困難な膠原病?膠原病は診断困難! 日本皮膚科学会雑誌. 2023.05; 133(6); 1465-1470

9. 乾 恵子, 西田 真紀子, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 【埋もれた症例に光をあてる〜潰瘍底から掘り起こすさまざまな皮膚潰瘍〜I】皮膚潰瘍のさまざまな原因 (Part1.)　細胞傷害性 (case(8))　ミュンヒハウゼン症候群による難治性腹部潰瘍 Visual Dermatology. 2023.01; 22(2); 138-140

10. 小西 里沙, 沖山 奈緒子.【皮膚筋炎とその周辺】疾患動物モデルからみた炎症性筋疾患の病態 皮膚科. 2023.01; 3(1); 6-11

[総説]

1. Ebisawa Yuka, Masumoto Shoichi, Okiyama Naoko, Yoshimoto Hisashi, Maeno Tetsuhiro. The Onset of Food-dependent Exercise-induced Anaphylaxis in an Elderly Patient(タイトル和訳中) Internal Medicine. 2023.10; 62(19); 2907-2909

2. Mouri Mariko, Kanamori Toru, Tanaka Eriko, Hiratoko Kanako, Okubo Mariko, Inoue Michio, Morio Tomohiro, Shimizu Masaki, Nishino Ichizo, Okiyama Naoko, Mori Masaaki. Hepatic veno-occlusive disease accompanied by thrombotic microangiopathy developed during treatment of juvenile dermatomyositis and macrophage activation syndrome: A case report(タイトル和訳中) Modern Rheumatology Case Reports. 2023.07; 7(2); 404-409

3. Konishi R, Ichimura Y, Okiyama N. Murine models of idiopathic inflammatory myopathy. Immunological medicine. 2023.03; 46(1); 9-14

4. Kubota Noriko, Tanaka Ryota, Ichimura Yuki, Konishi Risa, Tso J.Yun, Tsurushita Naoya, Nomura Toshifumi, Okiyama Naoko. Blockade of CD122 on memory T cells in the skin suppresses sclerodermatous graft-versus-host disease(タイトル和訳中) Journal of Dermatological Science. 2023.03; 109(3); 127-135

1. 高橋 義秋, 高宮 資宜, 市村 裕輝, 沖山 奈緒子, 西野 一三, 森本 展年. 著明なびまん性皮下浮腫と嚥下障害を呈した抗 nuclear matrix protein 2 抗体陽性皮膚炎欠如型皮膚筋炎の 2 例 臨床神経学. 2023.11; 63(11); 737-742

2. 小西 里沙, 沖山 奈緒子. 【内科医が遭遇する皮膚疾患フロントライン-「皮疹」は現場で起きている!】実践ケーススタディ　よく遭遇する皮膚の困りゴト　下肢に「赤い発疹」が出た　先行して上気道症状がみられる (解説) Medicina. 2023.11; 60(12); 2024-2050

3. 沖山 奈緒子. 治療法の再整理とアップデートのために　専門家による私の治療　金属アレルギー (解説) 日本医事新報. 2023.09; (5185); 45-46

4. 川上 民裕, 有村 義宏, 池田 高治, 石黒 直子, 石津 明洋, 伊藤 吹夕, 猪原 登志子, 沖山 奈緒子, 小野 さち子, 要 伸也, 岸部 麻里, 小寺 雅也, 渋谷 倫太郎, 菅原 弘二, 鈴木 和男, 清島 真理子, 田中 麻衣子, 辻本 康, 長谷川 稔, 張田 豊, 古川 福実, 宮脇 義亜, 山口 由衣, 吉崎 歩,. 皮膚血管炎・血管障害診療ガイドライン 2023 IgA 血管炎, クリオグロブリン血症性血管炎, 結節性多発動脈炎, リベド様血管症の治療の手引き 2023(解説) 日本皮膚科学会雑誌. 2023.08; 133(9); 2079-2134

5. 乾 恵子, 西田 真紀子, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 【埋もれた症例に光をあてる〜潰瘍底から掘り起こすさまざまな皮膚潰瘍〜I】皮膚潰瘍のさまざまな原因 (Part1.)　細胞傷害性 (case(8))　ミュンヒハウゼン症候群による難治性腹部潰瘍 (解説) Visual Dermatology. 2023.07; 22(2); 138-140

6. 飯田 忠恒, 沖山 奈緒子. 【多汗症・無汗症診療マニュアル】特発性後天性全身性無汗症に対するステロイドパルス療法 (解説) Derma.. 2023.06; (335); 79-84

7. 飯田 忠恒, 沖山 奈緒子. 【多汗症・無汗症診療マニュアル】特発性後天性全身性無汗症に対するステロイドパルス療法 (解説) Derma.. 2023.06; (335); 79-84

8. 小西 里沙, 沖山 奈緒子. 【皮膚疾患のバイオマーカー】膠原病のバイオマーカー (解説) 皮膚科. 2023.05; 3(5); 540-545

9. 沖山 奈緒子. 新・皮膚科セミナリウム　診断力を磨こう　診断困難例の診断プロセスに学ぶ　診断困難な膠原病?膠原病は診断困難!(解説) 日本皮膚科学会雑誌. 2023.05; 133(6); 1465-1470

10. 小西 里沙, 沖山 奈緒子. 【皮膚筋炎とその周辺】疾患動物モデルからみた炎症性筋疾患の病態 (解説) 皮膚科. 2023.01; 3(1); 6-11

[講演・口頭発表等]

1. Oyama Munenori, Ohnuki Yuko, Uruha Akinori, Saito Yoshihiko, Nihimori Yukako, Suzuki Shingo, Inoue Michio, Tanboon Jantima, Okiyama Naoko, Shiina Takashi, Nishino Ichizo, Suzuki Shigeaki. 皮膚筋炎における HLA 対立遺伝子と自己抗体の密接な関連性 (Tight association between HLA alleles and autoantibodies in dermatomyositis). 臨床神経学 2023.09.01

1. 千貫 祐子, 天野 博雄, 沖山 奈緒子, 矢上 晶子, 谷崎 英昭, 松尾 裕彰. 食物アレルギー専門部会報告 (会議録). 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム・抄録集 53 回 2023.12.10

2. 杉田 一毅, 生田目 拓, 藤原 美香, 小田 充思, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 原発性胆汁性胆管炎を合併した抗セントリオール抗体陽性限局皮膚硬化型全身性強皮症の 1 例 (会議録). 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム・抄録集 53 回 2023.12.08

3. 沖山 奈緒子. 蕁麻疹治療のトピックス. 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム・抄録集 53 回 2023.12.08

4. 沖山 奈緒子. 全身性強皮症皮膚病変の病態と治療方針. 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム・抄録集 2023.12.01

5. 杉田 一毅, 生田目 拓, 藤原 美香, 小田 充思, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 原発性胆汁性胆管炎を合併した抗セントリオール抗体陽性限局皮膚硬化型全身性強皮症の 1 例. 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム・抄録集 2023.12.01

6. 杉田 一毅, 生田目 拓, 藤原 美香, 小田 充思, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 原発性胆汁性胆管炎を合併した抗セントリオール抗体陽性限局皮膚硬化型全身性強皮症の 1 例. 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム · 抄録集 2023.12.01

7. 小畠 里奈, 大霜 智子, 鶴田 大輔, 桑本 智弘, 橋本 求, 難波 広人, 西野 一三, 沖山 奈緒子. 生検における病理組織検査で確定診断し, 後に抗 SAE 抗体陽性と判明した皮膚筋炎の 1 例. 皮膚の科学 2023.12.01

8. 山本 俊幸, 沖山 奈緒子, 小寺 雅也, 宮川 史, 茂木 精一郎. 膠原病 · 血管炎　最近のトピックス 2023. 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム · 抄録集 2023.12.01

9. 沖山 奈緒子. 蕁麻疹治療のトピックス. 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム · 抄録集 2023.12.01

10. 千貫 祐子, 天野 博雄, 沖山 奈緒子, 矢上 晶子, 谷崎 英昭, 松尾 裕彰. 食物アレルギー専門部会報告. 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム · 抄録集 2023.12.01

11. 川邊 智宏, 谷 諭美, 市村 裕輝, 今井 憲, 小西 里沙, 生田目 拓, 山本 薫, 沖山 奈緒子, 針谷 正祥, 宮前 多佳子. Interferonopathy を来す自己炎症疾患との鑑別に苦慮した抗 NXP2 抗体陽性小児例. 日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2023.10.01

12. 生田目 拓, 杉田 一毅, 藤原 美香, 小田 充思, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 原発性胆汁性胆管炎を合併した抗セントリオール抗体陽性限局皮膚硬化型全身性強皮症の 1 例. 日本臨床免疫学会総会プログラム · 抄録集 2023.10.01

13. 小西 里沙, 市村 裕輝, 田中 亮多, 久保田 典子, 乃村 俊史, 沖山 奈緒子. 悪性腫瘍合併皮膚筋炎のモデルマウス確立と新規治療標的探索. 日本臨床免疫学会総会プログラム · 抄録集 2023.10.01

14. 二階堂 まり子, 川口 純之介, 山本 晧平, 村田 壱大, 鈴木 民夫, 五十嵐 朗, 井上 純人, 渡辺 昌文, 佐藤 裕康, 太田 康之, 西野 一三, 沖山 奈緒子. 肺癌を合併した抗 TIF1- γ 抗体陽性皮膚筋炎の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2023.10.01

15. 朴 崇娟, 園田 素史, 石村 匡崇, 足立 俊一, 木下 恵志郎, 矢田 裕太郎, 江口 克秀, 白石 暁, 市村 裕輝, 沖山 奈緒子, 大賀 正一. 若年性皮膚筋炎患者における筋炎特異的自己抗体別の臨床像と免疫学的プロファイル　単一施設後ろ向き研究. 日本臨床免疫学会総会プログラム · 抄録集 2023.10.01

16. 朴 崇娟, 園田 素史, 石村 匡崇, 足立 俊一, 木下 恵志郎, 矢田 裕太郎, 江口 克秀, 白石 暁, 市村 裕輝, 沖山 奈緒子, 大賀 正一. 難治性皮膚免疫、アレルギー疾患　若年性皮膚筋炎患者における筋炎特異的自己抗体別の臨床像と免疫学的プロファイル　単一施設後ろ向き研究. 日本臨床免疫学会総会プログラム · 抄録集 2023.10.01

17. 二階堂 まり子, 川口 純之介, 山本 晧平, 村田 壱大, 鈴木 民夫, 五十嵐 朗, 井上 純人, 渡辺 昌文, 佐藤 裕康, 太田 康之, 西野 一三, 沖山 奈緒子. 肺癌を合併した抗 TIF1- γ 抗体陽性皮膚筋炎の 1 例 (会議録). 日本皮膚科学会雑誌 2023.10

18. 小西 里沙, 市村 裕輝, 田中 亮多, 久保田 典子, 乃村 俊史, 沖山 奈緒子. 悪性腫瘍合併皮膚筋炎のモデルマウス確立と新規治療標的探索 (会議録). 日本臨床免疫学会総会プログラム · 抄録集 51 回 2023.10

19. 朴 崇娟, 園田 素史, 石村 匡崇, 足立 俊一, 木下 恵志郎, 矢田 裕太郎, 江口 克秀, 白石 暁, 市村 裕輝, 沖山 奈緒子, 大賀 正一. 若年性皮膚筋炎患者における筋炎特異的自己抗体別の臨床像と免疫学的プロファイル　単一施設後ろ向き研究 (会議録). 日本臨床免疫学会総会プログラム · 抄録集 51 回 2023.10

20. 川邊 智宏, 谷 諭美, 市村 裕輝, 今井 憲, 小西 里沙, 生田目 拓, 山本 薫, 沖山 奈緒子, 針谷 正祥, 宮前 多佳子. Interferonopathy を来す自己炎症疾患との鑑別に苦慮した抗 NXP2 抗体陽性小児例 (会議録). 日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会プログラム · 抄録集 32 回 2023.10

21. 竹下 八菜, 島 英輝, 小笹 静佳, 飯田 忠恒, 稲澤 美奈子, 藤本 智子, 沖山 奈緒子. 無汗を主訴に受診し悪性リンパ腫と診断された 1 例. 日本発汗学会総会プログラム · 抄録集 2023.09.01

22. 名取 直俊, 横田 優樹, 廣瀬 聡, 原 誠, 石原 正樹, 西野 一三, 沖山 奈緒子, 中嶋 秀人. 顕著な嚥下障害を呈した抗 nuclear matrix protein(NXP)-2 抗体陽性皮膚筋炎の 70 代男性例. 臨床神経学 2023.09.01

23. 沖山 奈緒子. 自己免疫性筋炎-どこまで分かったのか?　皮膚筋炎の病態は自己抗体ごとに異なるのか?. 臨床神経学 2023.09.01

24. 沖山 奈緒子. 自己免疫性筋炎-どこまで分かったのか?　皮膚筋炎の病態は自己抗体ごとに異なるのか?(会議録). 臨床神経学 2023.09

25. 名取 直俊, 横田 優樹, 廣瀬 聡, 原 誠, 石原 正樹, 西野 一三, 沖山 奈緒子, 中嶋 秀人. 顕著な嚥下障害を呈した抗 nuclear matrix protein(NXP)-2 抗体陽性皮膚筋炎の 70 代男性例 (会議録). 臨床神経学 2023.09

26. 竹下 八菜, 島 英輝, 小笹 静佳, 飯田 忠恒, 稲澤 美奈子, 藤本 智子, 沖山 奈緒子. 無汗を主訴に受診し悪性リンパ腫と診断された 1 例 (会議録). 日本発汗学会総会プログラム · 抄録集 31 回 2023.09

27. 沖山 奈緒子. 自己免疫疾患とアレルギー　自己免疫性疾患の皮膚病変から自己免疫性皮膚疾患までのトピックス. アレルギー 2023.08.01

28. 沖山 奈緒子. 自己免疫疾患とアレルギー　自己免疫性疾患の皮膚病変から自己免疫性皮膚疾患までのトピックス (会議録). アレルギー 2023.08

29. 杉田 一毅, 小田 充思, 並木 剛, 沖山 奈緒子. デュピルマブ投与を行った尋常性疣贅合併アトピー性皮膚炎の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2023.07.01

30. 巻口 萌, 小笹 静佳, 沖山 奈緒子, 山本 正英, 西澤 綾, 比島 恒和. 皮下結節 · リベドを契機に診断された真性多血症の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2023.07.01

31. 巻口 萌, 小笹 静佳, 沖山 奈緒子, 山本 正英, 西澤 綾, 比島 恒和. 皮下結節 · リベドを契機に診断された真性多血症の 1 例 (会議録). 日本皮膚科学会雑誌 2023.07

32. 藤原 美香, 小田 充思, 大竹 里奈, 並木 剛, 沖山 奈緒子, 三守 恵里加, 保田 晋助. ヒドロキシクロロキンにより誘発された膿疱性乾癬の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2023.05.01

33. 田沼 剛, 巻口 萌, 金澤 あずさ, 大竹 里奈, 宇賀神 つかさ, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 急性外陰潰瘍の 2 例. 日本皮膚科学会雑誌 2023.05.01

34. 飯田 忠恒, 沖山 奈緒子. 特発性後天性全身性無汗症の病態解析　無汗症になぜステロイドが効くのか. 日本皮膚科学会雑誌 2023.05.01

35. 河野 真菜, 川上 隆太郎, 金丸 和樹, 中里 祐毅, 沖山 奈緒子, 西野 一三, 塩見 一剛. 皮疹がなくリウマチ性多発筋痛症として治療されていた抗 NXP-2 抗体陽性皮膚筋炎の一例. 臨床神経学 2023.05.01

36. 小西 里沙, 市村 裕輝, 田中 亮多, 奥根 真里, 原 モナミ, 清水 正樹, 中岸 保夫, 西野 一三, 乃村 俊史, 沖山 奈緒子. 皮膚筋炎において血清 IL-8 値は筋炎の病勢に相関する. 日本皮膚科学会雑誌 2023.05.01

37. 沖山 奈緒子. 皮膚筋炎の自己抗体によるサブグループ分類. 日本皮膚科学会雑誌 2023.05.01

38. 沖山 奈緒子. 膠原病: 最近の進歩と臨床への還元　皮膚筋炎の自己抗体別トピックス. 日本臨床皮膚科医会雑誌 2023.05.01

39. 河野 真菜, 川上 隆太郎, 金丸 和樹, 中里 祐毅, 沖山 奈緒子, 西野 一三, 塩見 一剛. 皮疹がなくリウマチ性多発筋痛症として治療されていた抗 NXP-2 抗体陽性皮膚筋炎の一例 (会議録). 臨床神経学 2023.05

40. 田沼 剛, 巻口 萌, 金澤 あずさ, 大竹 里奈, 宇賀神 つかさ, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 急性外陰潰瘍の 2 例 (会議録). 日本皮膚科学会雑誌 2023.05

41. 藤原 美香, 小田 充思, 大竹 里奈, 並木 剛, 沖山 奈緒子, 三守 恵里加, 保田 晋助. ヒドロキシクロロキンにより誘発された膿疱性乾癬の 1 例 (会議録). 日本皮膚科学会雑誌 2023.05

42. 巻口 萌, 和田 昇悟, 大竹 里奈, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 尋常性乾癬に併発し診断 · 治療に難渋した乳房外パジェット病の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2023.04.01

43. 巻口 萌, 大竹 里奈, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 抗体薬物複合体 Enfortumab Vedotin による皮膚障害の早期疹. 日本皮膚科学会雑誌 2023.04.01

44. 田沼 剛, 金澤 あずさ, 宇賀神 つかさ, 沖山 奈緒子. 水蕁麻疹の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2023.04.01

45. 藤原 美香, 小田 充思, 飯田 忠恒, 竹下 八菜, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 特発性分節性無汗症の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2023.04.01

46. 沖山 奈緒子. 皮膚筋炎プラクティス. 日本皮膚科学会雑誌 2023.04.01

47. 巻口 萌, 竹下 八菜, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 若年女性に発症した膿瘍性穿掘性頭部毛包周囲炎の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2023.04.01

48. 巻口 萌, 竹下 八菜, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 若年女性に発症した膿瘍性穿掘性頭部毛包周囲炎の 1 例 (会議録). 日本皮膚科学会雑誌 2023.04

49. 巻口 萌, 大竹 里奈, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 抗体薬物複合体 Enfortumab Vedotin による皮膚障害の早期疹 (会議録). 日本皮膚科学会雑誌 2023.04

50. 沖山 奈緒子. 日常診療における全身性強皮症 · 皮膚筋炎のマネジメントのコツ　皮膚科医による皮膚筋炎のマネジメント　皮膚症状を中心に. 日本リウマチ学会総会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2023.03.01

51. 藤原 美香, 小田 充思, 竹下 八菜, 並木 剛, 沖山 奈緒子, 三浦 圭子, 後藤 啓介. 右下腿黒色結節を契機に診断された Carney complex の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2023.01.01

52. 田沼 剛, 金澤 あずさ, 沖山 奈緒子, 石井 文人. 血清学的にラミニン γ 1 と VII 型コラーゲンに対する自己抗体を検出した類天疱瘡の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2023.01.01

1. 沖山 奈緒子. 蕁麻疹治療のトピックス (会議録). 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム · 抄録集 53 回 2023.12

2. Oyama Munenori, Ohnuki Yuko, Uruha Akinori, Saito Yoshihiko, Nihimori Yukako, Suzuki Shingo, Inoue Michio, Tanboon Jantima, Okiyama Naoko, Shiina Takashi, Nishino Ichizo, Suzuki Shigeaki. 皮膚筋炎における HLA 対立遺伝子と自己抗体の密接な関連性 (Tight association between HLA alleles and autoantibodies in dermatomyositis)(会議録/英語). 臨床神経学 2023.09

3. 藤原 美香, 小田 充思, 竹下 八菜, 並木 剛, 沖山 奈緒子, 三浦 圭子, 後藤 啓介. 右下腿黒色結節を契機に診断された Carney complex の 1 例 (会議録). 日本皮膚科学会雑誌 2023.01

[受賞]

1. 高木賞, マルホ · 高木皮膚科学振興財団, 2023 年 04 月

[その他業績]

1. 「 白血病阻止因子 LIF は抗 MDA5 抗体陽性皮膚筋炎関連間質性肺疾患の 新規疾患マーカーとなりうる 」 — 世界初の皮膚筋炎関連間質性肺炎トランスクリプトーム解析 —, 2023 年 04 月
Rheumatology

2. アトピー性皮膚炎患者に特徴的なダニ特異的 T 細胞の免疫バランスを解明, 2023 年 05 月
—

3. 「 活性型 Akt は悪性黒色腫の再発に強く関与する 」 — 新規術後療法開発への応用に期待 —, 2023 年 09 月
Activated Akt expression is associated with the recurrence of primary melanomas and further refines the prognostic and predictive values for relapse in acral melanomas

[社会貢献活動]

1. これまでの皮膚科医キャリアについて, 日本皮膚科学会 キャリア支援委員会, Derma’s Lounge, 2023 年 02 月 07 日

2. 表皮の免疫細胞について, 株式会社ライトニックス, lightnix, 2023 年 06 月 22 日

3. 「多汗症」について, メディカルノート, Medical Note Expert, 2023 年 07 月 04 日

4. 第 72 回日本アレルギー学会学術大会ご発表内容について, メディカルトリビューン, Medical Tribune Web, 2023 年 10 月 21 日

5. 大学での研究について, 四谷学院, 四谷学院の学部学科がわかる本, 2023 年 11 月 16 日 - 2024 年 01 月 31 日

NCCHD 成育医学分野

NCCHD Child Health and Development

連携教授　阿久津英憲
連携教授　深見真紀
連携教授　小野寺雅史
連携教授　高田修治
連携教授　松本健治
連携教授　秦健一郎

(1)　分野概要

これまでの臨床医学的枠にとらわれず、ヒト生命の誕生から発達までを最新の分子生物学、遺伝学レベルで教育する。受精から始まり、発生・発育し次世代へつながる「人のライフサイクル」に関連する様々な健康問題を包括的に捉えるのが成育医学であり、NCCHD では、様々な機能やツールを活かした教育プログラムを提供する。生命科学を生殖発生学、周産期・胎児発生学、そして発生・発達医学の視点を基盤とし実践的な発生学的知識を身につけ、成育医療へ派生するダイナミズムについて学ぶとともに実践的知識を身につける。

(2)　研究分野別内容

NCCHD 成育医学分野は、6 名の異なる分野の連携教官から構成されている。以下、それぞれの連携教授の研究分野を紹介する。

1．受精卵の全能性獲得、リプログラミング、多能性幹細胞を対象に発生、生殖医学、疾患、再生医学研究（国立成育医療研究センター研究所　再生医療センター生殖医療研究部　部長　阿久津英憲）

受精卵の全能性獲得、リプログラミング、多能性幹細胞を活用した成育期疾患研究、疑似臓器（オルガノイド）研究そして再生医療への応用等の研究を行う。

2．フローサイトメトリーにより細胞表面マーカー解析と細胞性質や免疫不全症病態の解明に関する研究（国立成育医療研究センター研究所　成育遺伝研究部　部長　小野寺雅史）

小児の難治性遺伝性疾患に関わる原因遺伝子を同定し、その機能を解析することで遺伝子ベースでの新たな治療法の開発を目指す研究を行っている。具体的には、疾患 iPS 細胞の樹立とその解析ならびに臨床用ベクターの開発を行っている。フロー

サイトメトリーにより細胞表面マーカーを調べ、細胞の性質や患者の病態等を解析する。

3．メタゲノム・エピゲノム解析と遺伝子異常の解明による先天性疾患分子基盤に関する研究（国立成育医療研究センター研究所　分子内分泌研究部　部長　深見真紀）
先天性疾患の分子基盤の解明。臨床サンプルの遺伝子解析（シークエンス、コピー数解析、メチル化解析など）によって、疾患発症に関与する遺伝子異常を解明する。

4．メタゲノム・エピゲノム解析を駆使したシステムバイオロジーにより周産期病態の分子機構に関する研究（国立成育医療研究センター研究所　周産期病態研究部　部長　秦　健一郎）
胎児と胎児付属物（胎盤）の発生・分化異常およびそれに伴う周産期の病気解明を目指す。ゲノム解析、エピジェネティクス等を駆使したシステムバイオロジーにより周産期病態の分子機構を解明する。

5．発生遺伝学、発生工学、エピゲノム解析と性分化、生殖腺形成、ゲノムインプリントの分子機構に関する研究（国立成育医療研究センター研究所　システム発生・再生医学研究部　部長　高田修治）
発生遺伝学、分子生物学、発生工学、エピジェネティクス等を駆使し、性分化、生殖腺形成、ゲノムインプリントなどの分子機構を明らかにすることにより、疾患の原因同定やモデルマウス作成を目指す。

6．分子生物学、オミックス統合解析を駆使した難治アレルギー病態の分子機構に関する研究（国立成育医療研究センター研究所　免疫アレルギー・感染研究部　部長　松本健治）
アレルギー疾患を発症する小児の割合は近年増加傾向にあり、このようなアレルギー疾患の増加には、主として環境因子が大きく関与していると考えられる。アレルギー研究室では、近年新たに同定された免疫細胞である自然リンパ球に着目しアレルギー疾患の発症や重症化の仕組みを明らかにし、それを応用した新たな発症予防法の開発を目指して研究を行っています。消化管アレルギーは乳幼児に好発する、食物に対する免疫応答によって消化器症状を呈するアレルギーです。IgE 抗体を介さないために診断が難しく、臨床での課題となっています。免疫療法研究室では、患者の早期診断や治療効果判定に有用なバイオマーカーを同定し、成育センター病院での治療に活用しています。

(5) 研究業績

[原著]

1. Isono W, Kawasaki T, Ichida JK, Nagasaka K, Hiraike O, Umezawa A, Akutsu H*. ranscriptomic analysis of feeder-free culture system for maintaining naïve-state pluripotency in human pluripotent stem cells. Stem Cell Investig. 2023 Apr 19;10:10.
2. Ite K, Toyoda M, Akiyama S, Enosawa S, Yoshioka S, Yukitake T, Yamazaki-Inoue M, Tatsumi K, Akutsu H, Nishina H, Kimura T, Otani N, Nakazawa A, Fukuda A, Kasahara M, Umezawa A. Stem cell challenges and opportunities. Prog Mol Biol Transl Sci. 2023; 199: 379-395.
3. Takeuchi I, Tanase-Nakao K, Ogawa A, Sugawara T, Migita O, Kashima M, Yamazaki T, Iguchi A, Naiki Y, Uchiyama T, Tamaoki J, Maeda H, Shimizu H, Kawai T, Taniguchi K, Hirata H, Kobayashi M, Matsumoto K, Naruse K, Hata K, Akutsu H, Kato T, Narumi S, Arai K, Ishiguro A. Congenital anaemia associated with loss-of-function variants in DNA polymerase epsilon 1. J Med Genet. 2023 Oct 13:jmg-2023-109444.
4. Tanuma-Takahashi A, Inoue M, Kajiwara K, Takagi R, Yamaguchi A, Samura O, Akutsu H, Sago H, Kiyono T, Okamoto A, Umezawa A. Restoration of keratinocytic phenotypes in autonomous trisomy-rescued cells. Stem Cell Res Ther. 2021 Aug 25;12(1):476.
5. Ogawa Y, Terao M, Tsuji-Hosokawa A, Tsuchiya I, Hasegawa M, Takada S: SOX9 and SRY binding sites on mouse mXYSRa/Enh13 enhancer redundantly regulate Sox9 expression to varying degrees. Human Molecular Genetics, 32(1):55-64 (2023).
6. Richard Albert J, Kobayashi T, Inoue A, Monteagudo-Sánchez A, Kumamoto S, Takashima T, Miura A, Oikawa M, Miura F, Takada S, Hirabayashi M, Korthauer K, Kurimoto K, Greenberg MVC, Lorincz M, Kobayashi H: Conservation and divergence of canonical and non-canonical imprinting in murids. Genome Biology, 24(1):48 (2023).
7. Azuma N, Yokoi T, Tanaka T, Matsuzaka E, Saida Y, Nishina S, Terao M, Takada S, Fukami M, Okamura K, Maehara K, Yamasaki T, Hirayama J, Nishina H, Handa H, Yamaguchi Y: Integrator complex subunit 15 controls mRNA splicing and is critical for eye development. Human Molecular Genetics, 32(12):2032-2045 (2023).
8. Yamada S, Ko T, Ito M, Sassa T, Nomura S, Okuma H, Sato M, Imasaki T, Kikkawa S, Zhang B, Yamada T, Seki Y, Fujita K, Katoh M, Kubota M, Hatsuse S, Katagiri M, Hayashi H, Hamano M, Takeda N, Morita H, Takada S, Toyoda M, Uchiyama M, Ikeuchi M, Toyooka K, Umezawa A, Yamanishi Y, Nitta R, Aburatani H, Komuro I: TEAD1 trapping by the Q353R-Lamin A/C causes dilated cardiomyopathy. Science Advances, 9(15):eade7047 (2023).
9. Katoh-Fukui Y, Hattori A, Zhang R, Terao M, Takada S, Nakabayashi K, Hata K, Yamada Y, Matsuura N, Fukami M: Chromosomal microdeletion leading to pituitary gigantism through hormone-gene overexpression. Human Molecular Genetics, 32(14):2318-2325 (2023).
10. Mashima R, Ohira M, Okuyama T, Onodera M, Takada S: A novel mucopolysaccharidosis type II mouse model with an iduronate-2-sulfatase-P88L mutation. Scientific Reports, 13(1):7865 (2023).
11. Abe T, Kanno S, Niihori T, Terao M, Takada S, Aoki Y: LZTR1 deficiency exerts high metastatic potential by enhancing sensitivity to EMT induction and controlling KLHL12-mediated collagen secretion. Cell Death & Disease, 14(8):556 (2023).
12. Uchiyama T, Kawai T, Nakabayashi K, Nakazawa Y, Goto F, Okamura K, Nishimura T, Kato K, Watanabe N, Miura A, Yasuda T, Ando Y, Minegishi T, Edasawa K, Shimura M, Akiba Y, Sato-Otsubo A, Mizukami T, Kato M, Akashi K, Nunoi H, Onodera M.

Myelodysplasia after clonal hematopoiesis with APOBEC3-mediated CYBB inactivation in retroviral gene therapy for X-CGD. Mol Ther. 31: 3424-3440, 2023.
13. Yamazaki N, Ohira M, Takada S, Ohtake A, Onodera M, Nakanishi M, Okuyama T, Mashima R. Enhanced osteoblastic differentiation of parietal bone in a novel murine model of mucopolysaccharidosis type II. Mol Genet Metab Rep. 2023 Nov 11;37:101021.
14. Yasuda T, Uchiyama T, Watanabe N, Ito N, Nakabayashi K, Mochizuki H, Onodera M. Peripheral immune system modulates Purkinje cell degeneration in Niemann-Pick disease type C1. Life Sci Alliance. 2023 Jun 27;6(9):e202201881
15. Onodera M, Uchiyama T, Ariga T, Yamada M, Miyamura T, Arizono H, Morio T. Safety and efficacy of elapegademase in patients with adenosine deaminase deficiency: A multicenter, open-label, single-arm, phase 3, and postmarketing clinical study. Immun Inflamm Dis. 2023 Jul;11(7):e917.
16. Irikura R, Nishizawa H, Nakajima K, Yamanaka M, Chen G, Tanaka K, Onodera M, Matsumoto M, Igarashi K. Ferroptosis model system by the re-expression of BACH1. J Biochem. 2023 Apr 24:mvad036.
17. Mashima R, Ohira M, Okuyama T, Onodera M, Takada S. A novel mucopolysaccharidosis type II mouse model with an iduronate-2-sulfatase-P88L mutation. Sci Rep. 13:7865, 2023.
18. Ishikawa T, Uejima Y, Okai M, Shiga K, Shoji K, Miyairi I, Kato M, Morooka S, Kubota M, Tagaya T, Tsuji S, Aoki S, Ide K, Niimi H, Uchiyama T, Onodera M, Kawai T. Melting temperature mapping method in children: Rapid identification of pathogenic microbes. J Infect Chemother. 2023 Nov 28:S1341-321X(23)00301-X.
19. Urakawa T, Ozawa J, Tanaka M, Narusawa H, Matsuoka K, Fukami M, Nagasaki K, Kagami M. Beckwith-Wiedemann syndrome with long QT caused by a deletion involving KCNQ1 but not KCNQ1OT1:TSS-DMR. Eur J Med Genet 2023;66(1):104671.
20. Tamaoka S, Saito K, Yoshida T, Nakabayashi K, Tatsumi K, Kawamura T, Matsuzaki T, Matsubara K, Ogata-Kawata H, Hata K, Kato-Fukui Y, Fukami M. Exome-based genome-wide screening of rare variants associated with the risk of polycystic ovary syndrome. Reprod Med Biol 2023;22(1):e12504.
21. Saito-Abe M, Nishizato M, Yamamoto-Hanada K, Yang L,Fukami M, Ito Y, Ihara K, Iwabuchi A, Okamoto S, Naiki Y, Ohya Y, Horikawa R. Comparison of physician- and self-assessed pubertal onset in Japanese children. Front Pediatr 2023;11:950541.
22. Morikawa H, Nishina S, Torii K, Hosono K, Yokoi T, Shigeyasu C, Yamada M, Kosuga M, Fukami M, Saitsu H, Azuma N, Hori Y, Hotta Y. A pediatric case of congenital stromal corneal dystrophy caused by the novel variant c.953del of the DCN gene. Hum Genome Var 2023;10(1):9.
23. Hara-Isono K, Matsubara K, Nakamura A, Sano S, Inoue T, Kawashima S, Fuke T, Yamazawa K, Fukami M, Ogata T, Kagami M. Risk assessment of assisted reproductive technology and parental age at childbirth for the development of uniparental disomy-mediated imprinting disorders caused by aneuploid gametes. Clin Epigenetics 2023;15(1):78.
24. Azuma N, Yokoi T, Tanaka T, Matsuzaka E, Saida Y, Nishina S, Terao M, Takada S, Fukami M, Okamura K, Maehara K, Yamasaki T, Hirayama J, Nishina H, Handa H, Yamaguchi Y. Integrator complex subunit 15 controls mRNA splicing and is critical for eye development. Hum Mol Genet 2023;32(12):2032-2045.
25. Katoh-Fukui Y, Hattori A, Zhang R, Terao M, Takada S, Nakabayashi K, Hata K, Yamada Y, Matsuura N, Fukami M. Chromosomal microdeletion leading to pituitary gigantism through hormone-gene overexpression. Hum Mol Genet 2023;32(14):2318-2325.

26. Torii K, Nishina S, Morikawa H, Mizobuchi K, Takayama M, Tachibana N, Kurata K, Hikoya A, Sato M, Nakano T, Fukami M, Azuma N, Hayashi T, Saitsu H, Hotta Y. The structural abnormalities are deeply involved in the cause of RPGRIP1-related retinal dystrophy in Japanese patients. Int J Mol Sci 2023;24(18):13678.
27. Masunaga Y, Fujisawa Y, Massart F, Spinelli C, Kojima Y, Mizuno K, Hayashi Y, Sasagawa I, Yoshida R, Kato F, Fukami M, Kamatani N, Saitsu H, Ogata T. Microdeletion at ESR1 intron 6 (DEL_6_75504) is a susceptibility factor for cryptorchidism and hypospadias. J Clin Endocrinol Metab 2023;108(10):2550-2560.
28. Tamaoka S, Fukuda A, Nakabayashi K, Matsubara K, Ogata-Kawata H, Muranishi Y, Hata K, Kato-Fukui Y, Sakamoto S, Kasahara M, Fukami M. Rare sequence variants associated with the risk of non-syndromic biliary atresia. Hepatol Res 2023;53(11):1134-1141.
29. Yoshida T, Matsubara K, Ogata-Kawata H, Miyado M, Ishiwata K, Nakabayashi K, Hata K, Kageyama I, Tamaoka S, Shimada Y, Fukami M, Sasaki S. Variations in gender identity and sexual orientation of university students. Sex Med 2023;11(5):qfad057.
30. Fujisawa Y, Masunaga Y, Tanikawa W, Nakashima S, Ueda D, Sano S, Fukami M, Saitsu H, Yazawa T, Ogata T. Serum steroid metabolite profiling by LC-MS/MS in two phenotypic male patients with HSD17B3 deficiency. implications for hormonal diagnosis. J Steroid Biochem Mol Biol 2023;234:106403.
31. Urakawa T, Sano S, Kawashima S, Nakamura A, Shima H, Ohta M, Yamada Y, Nishida A, Narusawa H, Ohtsu Y, Matsubara K, Dateki S, Maruo Y, Fukami M, Ogata T, Kagami M. (Epi)genetic and clinical characteristics in 84 patients with pseudohypoparathyroidism type 1B. Eur J Endocrinol 2023;189(6):590-600.
32. Kram YE, Sato M, Yamamoto-Hanada K, Toyokuni K, Uematsu S, Kudo T, Yamada Y, Ohtsuka Y, Matsumoto K, Arai K, Fukuie T, Nomura I, Ohya Y. Development of an action plan for acute food protein-induced enterocolitis syndrome in Japan. World Allergy Organ J. 2023 May 9;16(5):100772.
33. Watanabe S, Sato A, Uchida H, Kusuda R, Suzuki H, Nagashima S, Yauchi T, Matsumoto K, Ohya Y, Nomura I. Comparison of adult food protein-induced enterocolitis syndrome to crustaceans and immediate-type food allergy. Ann Allergy Asthma Immunol. 2023 Oct;131(4):487-493.e2.
34. Saito K, Orimo K, Kubo T, Tamari M, Yamada A, Motomura K, Sugiyama H, Matsuoka R, Nagano N, Hayashi Y, Arae K, Hara M, Ikutani M, Fukuie T, Sudo K, Matsuda A, Ohya Y, Fujieda S, Saito H, Nakae S, Matsumoto K, Akdis CA, Morita H. Laundry detergents and surfactants-induced eosinophilic airway inflammation by increasing IL-33 expression and activating ILC2s. Allergy. 2023 Jul;78(7):1878-1892.
35. Motomura K, Morita H, Okada N, Matsuda A, Nakae S, Fujieda M, Sago H, Saito H, Matsumoto K. Comprehensive Analysis of the Expression and Functions of Pattern Recognition Receptors in Differentiated Cytotrophoblasts Derived from Term Human Placentas. J Immunol. 2023 May 15;210(10):1552-1563.
36. Hara M, Morimoto N, Watabe T, Morisaki N, Matsumoto K. Can the effectiveness of tonsillectomy for PFAPA syndrome be predicted based on clinical factors. Int J Rheum Dis. 2023 Mar;26(3):480-486.
37. Takeuchi I, Yanagi K, Takada S, Uchiyama T, Igarashi A, Motomura K, Hayashi Y, Nagano N, Matsuoka R, Sugiyama H, Yoshioka T, Saito H, Kawai T, Miyaji Y, Inuzuka Y, Matsubara Y, Ohya Y, Shimizu T, Matsumoto K, Arai K, Nomura I, Kaname T, Morita H. STAT6 gain-of-function variant exacerbates multiple allergic symptoms. J Allergy Clin Immunol. 2023 May;151(5):1402-1409.e6.

38. Ando T, Kitaura J, Maruyama N, Narita M, Miura K, Takasato Y, Nogami K, Nagao M, Okumura K, Ogawa H, Onishi H, Watanabe T, Ito K, Fujisawa T, Ebisawa M, Kawakami T, Matsumoto K, Hasegawa S, Ohya Y, Yasudo H. Sensitization to macadamia 7S globulin amino-terminus with clinical relevance in Japanese children with macadamia nut allergy. Allergol Int. 2023 Apr;72(2):351-353.
39. Furuta A, Shima T, Yoshida-Kawaguchi M, Yamada K, Yasuda I, Tsuda S, Yamaki-Ushijima A, Yoneda S, Higashisaka K, Cheng SB, Matsumoto K, Tsutsumi Y, Sharma S, Saito S, Nakashima A. Chloroquine is a safe autophagy inhibitor for sustaining the expression of antioxidant enzymes in trophoblasts. J Reprod Immunol. 2023 Feb;155:103766.
40. Nagashima S, Yamamoto M, Inuzuka Y, Irahara M, Miyaji Y, Tadaki H, Ito S, Masuda S, Ito Y, Saito Y, Kobayashi S, Morita H, Yoshioka T, Shimizu H, Arai K, Ohya Y, Saito H, Matsumoto K, Nomura I. Tolerability and safety of a new elimination diet for pediatric eosinophilic gastritis and duodenitis. Allergol Int. 2023 Apr;72(2):306-315.
41. Okada N, Yazu H, Shimizu E, Fukagawa K, Nunomura S, Saito H, Matsumoto K, Kawaguchi A, Izuhara K, Fujishima H. Biomarkers enable prediction of tacrolimus resistance in patients with severe allergic conjunctivitis. Allergy. 2023 Jan;78(1):319-321.
42. Oshina K, Kuroda K, Nakabayashi K, Tomikawa J, Kitade M, Sugiyama R, Hata K, Itakura A. Gene expression signatures associated with chronic endometritis revealed by RNA sequencing. Front Med (Lausanne). 2023 Jul 20;10:1185284.
43. Hasegawa K, Nakabayashi K, Ishiwata K, Kasuga Y, Hata K, Tanaka M. A capture methyl-seq protocol with improved efficiency and cost-effectiveness using pre-pooling and enzymatic conversion. BMC Res Notes. 2023 Jul 6;16(1):141.
44. Kawai T, Iwasaki Y, Ogata-Kawata H, Kamura H, Nakamura K, Hata K, Takano T, Nakabayashi K. Identification of a KDM6A somatic mutation responsible for Kabuki syndrome by excluding a conflicting KMT2D germline variant through episignature analysis. Eur J Med Genet. 2023 Aug;66(8):104806.
45. Hasegawa K, Kumasaka N, Nakabayashi K, Kamura H, Maehara K, Kasuga Y, Hata K, Tanaka M. Genome-wide association study of preterm birth and gestational age in a Japanese population. Hum Genome Var. 2023 Jun 13;10(1):19.
46. Yoshida M, Nakabayashi K, Yang W, Sato-Otsubo A, Tsujimoto SI, Ogata-Kawata H, Kawai T, Ishiwata K, Sakamoto M, Okamura K, Yoshida K, Shirai R, Osumi T, Kiyotani C, Shioda Y, Terashima K, Ishimaru S, Yuza Y, Takagi M, Arakawa Y, Imamura T, Hasegawa D, Inoue A, Yoshioka T, Ito S, Tomizawa D, Koh K, Matsumoto K, Kiyokawa N, Ogawa S, Manabe A, Niwa A, Hata K, Yang JJ, Kato M. Prevalence of pathogenic variants in cancer-predisposing genes in second cancer after childhood solid cancers. Cancer Med. 2023 May;12(10):11264-11273.
47. Shirai R, Osumi T, Keino D, Nakabayashi K, Uchiyama T, Sekiguchi M, Hiwatari M, Yoshida M, Yoshida K, Yamada Y, Tomizawa D, Takae S, Kiyokawa N, Matsumoto K, Yoshioka T, Hata K, Hori T, Suzuki N, Kato M. Minimal residual disease detection by mutation-specific droplet digital PCR for leukemia/lymphoma. Int J Hematol. 2023 Jun;117(6):910-918.
48. Onizuka M, Imanishi T, Harada K, Aoyama Y, Amaki J, Toyosaki M, Machida S, Kikkawa E, Yamada S, Nakabayashi K, Hata K, Higashimoto K, Soejima H, Ando K. Donor cord blood aging accelerates in recipients after transplantation. Sci Rep. 2023 Feb 14;13(1):2603.
49. Nakabayashi K, Yamamura M, Haseagawa K, Hata K. Reduced Representation Bisulfite Sequencing (RRBS). Methods Mol Biol. 2023;2577:39-51.

[総説]

1. Mashima R, Takada S, Miyamoto Y: RNA-Based Therapeutic Technology. International Journal of Molecular Sciences, 24:15230 (2023).
2. Suzuki E, Miyado M, Kuroki Y, Fukami M. Genetic variants of G-protein coupled receptors associated with pubertal disorders. Reprod Med Biol 2023;22(1):e12515.
3. Hattori A, Fukami M. Nuclear receptor gene variants underlying disorders/differences of sex development through abnormal testicular development. Biomolecules 2023;13(4):691.
4. Kuroki Y, Fukami M. Y Chromosome genomic variations and biological significance in human diseases and health. Cytogenet Genome Res 2023;163(1-2):5-13.
5. Motomura K, Hara M, Ito I, Morita H, Matsumoto K. Roles of human trophoblasts' pattern recognition receptors in host defense and pregnancy complications. J Reprod Immunol. 2023 Mar;156:103811.
6. 深見真紀. PGT-A と性染色体異数性. 倉橋浩樹 監修 着床前遺伝学的検査（PGT）の最前線と遺伝カウンセリング. 株式会社メデイカルドウ. 2023.
7. 小野寺雅史. 慢性肉芽腫症（CGD）. 137-141 原発性免疫不全症候群 診療の手引き（改訂第 2 版） 2023 年
8. 小野寺雅史. 9) プリンヌクレオシド・ホスホリラーゼ欠損症. 265-268 別冊日本臨床 血液症候群（第 3 版） 2023 年
9. 小野寺雅史. 11) アデノシン・デアミナーゼ欠損症. 2279-283 別冊日本臨床 血液症候群（第 3 版） 2023 年
10. 小野寺雅史. 第 IV 章 遺伝子治療とは. 210-215 小児科学 日本医師会雑誌 152 巻 特別号（1）2023 年
11. 小野寺雅史. 患者細胞採取における医療機関での実施体制 - 原材料採取・調製時の品質担保について -. 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス 54:100-105. 2023
12. 小野寺雅史. 第 52 章 遺伝子治療. 1194-1207 小児科学 第 11 版 加藤元博編、2023 年
13. 小野寺雅史. 我が国の遺伝子治療の現状と課題、そしてその対策について. バイオサイエンスとインダストリー 81, 52-58, 2023

[講演・口頭発表等]

1. Fukami M. Chromosomal abnormalities leading to congenital disorders. 28th Annual Meeting of Chinese Pediatric Society Chengdu, China 2023.10.27-29
2. 阿久津英憲 : 第 78 回日本消化器外科学会総会 特別講演「ES 細胞による肝移植橋渡し再生医療，そして新たな細胞治療モダリティを創る」阿久津英憲、函館、2023/07/13
3. 阿久津英憲 : 第 41 回日本受精着床学会総会・学術講演会 教育講演「ヒト ES 細胞による再生医療、そして新たな Stemcell-Embryology への展開」 阿久津英憲、仙台、2023/07/27
4. 阿久津英憲: 日本農芸化学会 2023 シンポジウム 2FS「iPS 由来「ミニ腸」による in vitro ヒト消化管免疫系モデルの構築」場所 : オンライン開催, 2023/03/15
5. 阿久津英憲 : 第 22 回日本再生医療学会総会 シンポジウム SY「腸管再生への腸管オルガノイド機能性獲得」場所 : 国立京都国際会館, 2023/03/23
6. 阿久津英憲 : 日本再生医療学会総会 市民公開講座「ヒト胚研究の現状と未来」 場所 : 国立京都国際会館, 2023/03/25

7. Hidenori Akutsu, 28th Congress of Chinese Pediatric Society symposium-Rare disease session, “Recent advances in the functional applications of human intestinal organoids, Mini-Gut as a new modality for gastrointestinal study”, Hidenori Akutsu, 成都・中国, 2023/10/27
8. 深見真紀. ヒト性染色体の新知見. 特別講演 第 5 回 Chube Cytogenitics Conference 2023.2.19
9. 深見真紀. 低身長症の遺伝学的診断-SHOX 異常症を含めて. 特別講演 第 7 回東日本小児内分泌次世代リサーチミーティング 東京 2023.3.18
10. 深見真紀. ヒト性研究の最前線. JES We Can 講演 第 96 回日本内分泌学会学術集会 名古屋 2023.6.2
11. 深見真紀. Human Sex Chromosomes and Environmental Conditions. 教育講演 第 50 回日本毒性学会学術年会 横浜 2023.6.19
12. 深見真紀:ヒト染色体のトピックス. 教育講演 第 24 回日本検査血液学会学術集会 2023.7.29 名古屋
13. 深見真紀. SHOX 異常症の遺伝子診断. 特別講演 Forum on Growth Hormone Research. 大阪 2023.10.7
14. 深見真紀. SHOX 異常症-その基礎と臨床について.イブニングセミナー 第 33 回臨床内分泌代謝 Update 横浜 2023.11.3
15. 深見真紀. 遺伝学的検査を外注するときに気を付けたいこと. 教育講演 第 33 回臨床内分泌代謝 Update 横浜 2023.11.3
16. 深見真紀. 中枢性性成熟疾患の分子基盤. シンポジウム 中枢性生殖内分泌学の魅力と意義を語ろう. 第 68 回日本生殖医学会学術講演会 金沢 2023.11.8
17. 深見真紀. 先天性疾患の遺伝学的検査 update. 日本小児科学会甲信地方会 甲府 2023.11.12
18. 深見真紀. 低身長の診療に役立つ遺伝学の知見. 栃木県子どもの成長を考えるフォーラム宇都宮 2023.11.29
19. Masafumi ONODERA. Safety and efficacy evaluation for gene therapy products. 2023 Korea-Japan Joint Symposium on Gene Therapy in Inborn Errors of Immunity. Soul. 2023.2.25 (口頭)
20. Masafumi ONODERA, Current status of gene therapy in Japan. The 6th international forum of lysosomal diseases: workshop 6: gene therapy for LSD. Tokyo. 2023.4.1 (口頭)
21. Masafumi ONODERA. Current Status and Future Prospects of Gene Therapy for Inherited Diseases. Human Genetics Asia 20023. Tokyo. 2023.10.12（口頭）
22. 小野寺 雅史. 遺伝子治療用製品の安全性・有効性に対する特異的評価系とは. 再生医療産業化フォーラム 2023 in 日本橋. 東京. 2023.1.25.
23. 小野寺 雅史. アデノシン・デアミナーゼ欠損症の最新の診断と治療法. 第 6 回日本免

疫不全・自己炎症学会総会 学術集会 モーニングセミナー. 東京. 2023.2.12

24. 小野寺　雅史.　In vivo 遺伝子治療ウイルスベクターから非ウイルスベクターへ. 第 22 回 日本再生医療学会総会. 京都. 2023.3.23
25. 小野寺　雅史.　血液・免疫・代謝疾患に対する ex vivo 遺伝子治療. 第 31 回 日本医学界総会 2023 東京. 東京. 2023.4.23
26. 小野寺 雅史. どうする日本の遺伝子治療.　Link-J&成育共催セミナー vol.2 成育（小児・周産期）医療分野のビジネスマッチング. 東京. 2023.7.14
27. 小野寺 雅史. 遺伝子細胞治療の定義と歴史. JSGCT 教育プログラム. 大阪. 2023.9.10
28. 小野寺 雅史. ゲノム組み込み型ウイルスベクター. JSGCT 教育プログラム. 大阪. 2023.9.10
29. 小野寺 雅史. 国内の遺伝子治療を俯瞰して思うこと. 第 29 回日本遺伝子細胞治療学会学術集会 教育講演 2. 大阪.　2023.9.12
30. 小野寺雅史, 内山徹.　遺伝子治療用ベクター製造プロセスのプラットフォーム化プロジェクト 日本版 PaVe-GT. BioJapan2023 スポンサーセミナー.　東京.　2023.10.13
31.

[社会貢献活動]

1. 阿久津英憲. 特定胚及びヒト ES 細胞研究専門委員会（文部科学省）（委員）
2. 阿久津英憲. 国立成育医療研究センター特定認定再生医療等委員会（委員）
3. 阿久津英憲. 東海大特定認定再生医療等委員会（委員）
4. 阿久津英憲.　AMED 「幹細胞・再生医学イノベーション創出プログラム」プログラムオフィサー（PO）
5. 阿久津英憲. 科学技術・学術審議会生命倫理・安全部会　ヒト受精胚へのゲノム編集技術等を用いる研究に関する専門委員会（文部科学省・厚生労働省）（委員）
6. 阿久津英憲. 理化学研究所バイオリソース研究センター細胞材料検討委員会（委員）
7. 阿久津英憲. 理化学研究所バイオリソース研究センター研究開発チームレビュー委員会（委員）
8. 阿久津英憲. The International Commission on the Clinical Use of Human Germline Genome Editing
9. 高田修治. NEDO 分野横断的公募事業に係る事前書面審査員（ピアレビュア）.
10. 高田修治. Scientific Reports Editorial Board.
11. 深見真紀. Molecular Syndromology, Associate editor
12. 深見真紀. Molecular Cellular Pediatrics, Editorial board member
13. 深見真紀. Hormone Research in Pediatrics, Editorial board member
14. 深見真紀. Clinical Pediatric Endocrinology, Vice Editor-in-Chief
15. 深見真紀. Cytogenetic Genome Research, Associate editor
16. 小野寺雅史. 厚生科学審議官遺伝子治療臨床研究作業委員会 委員

17. 小野寺雅史.薬事・食品衛生審議会 再生医療等製品・生物由来技術部会臨時委員
18. 小野寺雅史.大阪大学第二特定認定再生医療等委員会委員
19. 小野寺雅史.日本免疫不全自己炎症学会（副理事長）
20. 小野寺雅史. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 課題評価委員

ハイリスク感染症研究マネジメント学分野

Department of High-risk Infectious Disease Control

(1) 研究業績

[原著]

1. Tatsuya Iida, Jun Ando, Hajime Shinoda, Asami Makino, Mami Yoshimura, Kazue Murai, Makiko Mori, Hiroaki Takeuchi, Takeshi Noda, Hiroshi Nishimasu, Rikiya Watanabe. Compact wide-field femtoliter-chamber imaging system for high-speed and accurate digital bioanalysis. Lab on a Chip. 2023.02; 23(4); 684-691

2. Takatsuki Y., Takahashi Y., Nakajima J., Iwasaki Y., Nagano K., Tani-Sassa C., Yuasa S., Kanehira S., Sonobe K., Nukui Y., Takeuchi H., Tanimoto K., Tanaka Y., Kimura A., Ichimura N., and Tohda S.. Viral load of SARS-CoV-2 Omicron BA.5 is lower than that of BA.2 despite higher infectivity of BA.5. Immunity, Inflammation and Disease. 2023.02; 11(2); e783

3. Kitamura H., Sukegawa S., Matsuda K., Tanimoto K., Kobayakawa T., Takahashi K., Tamamura H., Tsuchiya K., Gatanaga H., Maeda K., and Takeuchi H.. 4-phenylquinoline-8-amine induces HIV-1 reactivation and apoptosis in latently HIV-1 infected cells. Biochemical and Biophysical Research Communications. 2023.01; 641; 139-147

[講演・口頭発表等]

1. 武内 寛明. Cutting Edge in HIV CureResearch〜latent reservoir 克服への新規戦略　HIV 潜伏感染維持再活性化相克の分子メカニズム. 日本エイズ学会誌 2023.11.01

2. 大倉 定之, 石野 孔祐, 清水 真澄, 武内 寛明, 森田 林平. HIV-1 capsid core に結合するコウモリ宿主因子の網羅的プロテオーム解析. 日本エイズ学会誌 2023.11.01

3. 新里 大毅, 磯田 健志, 友政 弾, 森尾 友宏, 武内 寛明, 金兼 弘和. 先天性免疫異常症患者における COVID-19 持続感染の過程で異なる変異を認めた SARS-CoV-2 のウイルス学的特徴. 日本小児感染症学会総会・学術集会プログラム・抄録集 2023.11.01

4. 多賀 佳, 武内 寛明. 単球系リザーバ細胞におけるプロウイルス活性制御因子 SCP の解析. 日本エイズ学会誌 2023.11.01

5. 井上 健斗, 友政 弾, 中釜 悠, 大西 秀典, 岡田 賢, 武内 寛明, 城戸 康年, 森尾 友宏, 金兼 弘和. 抗体産生不全症患者に対するチキサゲビマブ・シルガビマブの予防効果. 日本小児感染症学会総会・学術集会プログラム・抄録集 2023.11.01

[その他業績]

1. 感染症に強い社会づくりに貢献する研究・教育・診療を推進する 「TMDU 感染症センター」が 2023 年 11 月 1 日に設立, 2023 年 11 月
-

[社会貢献活動]

1. 新型コロナ　変異ウイルス「XBB.1.5」は, ＮＨＫ, NHK NEWS WEB, 2023 年 01 月 20 日 - 2023 年 01 月 23 日

器官システム制御学講座

人体病理学分野

Department of Human Pathology

教　　授　　大橋　健一
講　　師　　山本　浩平
助　　教　　伊藤　崇、山本　くらら
技術職員　　古川　あすか
大学院生
（博士課程）加藤　祐巳, 田村　一洋, 畑　千菜, 加藤　秀, 屋富祖　大騎
（修士課程）富田　嘉信, 宮代　梨花
秘　　書　　岩満　美保

(1) 分野概要

病理学 Pathology とは、言葉が病気（pathos 苦難）＋理論 (logus 理ことわり) を示すように、病気を理論立てて理解する学問分野である。その後、病気の原因となる研究対象が細分化し、研究手法が進歩することによって、細菌学 (微生物学)、寄生虫学 (医動物学)、免疫学、分子生物学などが病理学の範疇から分離独立していった。近年、従来の学問分野の枠組を越えた再編が進行し、学問分野は目的、研究対象、研究方法によってさらに細分化する傾向にある。現在、病理学は形態学を基盤として、病気の原因（病因 etiology)、病変の成り立ち（組織発生 hisitogenesis)、病態（発生機序 pathogenesis）を理解、整理する学問とされている。病理学の中では、実験動物、培養細胞を用いて実験的に仮説を証明していく実験病理学、細胞生物学的な分野と、臨床と密接に関連した病理診断学、臨床病理学的な分野が分離する傾向にあり、人体組織を取り扱う後者に携わる病理学者が多くなっている。本学人体病理学分野ではヒトの病気の病理学的診断を正確になし得る病理専門医を育成すると同時に、ヒトの病気の病因、組織発生、発生機序の解明を目指し、研究結果が臨床、病理診断の向上に結びつく研究を遂行できるリサーチマインドに富んだ病理学研究医の育成を目指している。

(2) 研究活動

1. ヒト癌について
大きく 3 つのことを目的としている。(1) 癌の成り立ち、組織発生について: 食道癌、胃癌、大腸癌、潰瘍性大腸炎など炎症性腸疾患に合併する大腸癌 、肺癌を対象として、病理組織学的解析、臨床病理学的解析、遺伝子解析などによって前癌病変を明らかにし、前癌病変から癌が発生する過程、分子基盤を明らかにする。(2) 癌に関わる病理診断の客観化について:　あらゆる臓器から発生する癌は、その臓器に発生する良性腫瘍との鑑別が問題となり、良性悪性の境界領域腫瘍も存在する。また、臨床的な重要な意義を持つ病理学的所見についても主観的な判断に基づくものが多く、所見の客観性、再現性、観察者間の一致率が問題になっている。病理診断においてもコンピューター、Ai、画像解析技術を応用する事は重要であり、近年進歩が著しいゲノム情報、様々なマーカー発現等の情報を総合した新しい病理診断学の確立が求められている。(3) 悪性腫瘍の進展、転移機序について:
ヒト食道癌、胃癌、大腸癌、肺癌において、早期癌が多く見つかり、内視鏡的切除など縮小した手術、治療が多く行われているが、早期の段階から転移を示す高悪性度例もあり、それを早期の段階で診断し、適切な治療法を選択できるようにする必要がある。早期の癌の浸潤過程において、転移、再発に関係した病理学的な所見を明らかにして、それらに密接に関与する分子基盤を明らかにする事が重要である。病理診断に応用できるマーカーを確立することによって、より精度の高い病理診断が可能になると考えられる。

2. 慢性炎症について
原因不明の慢性炎症性疾患について、病変部局所を病理学的立場から徹底的に解析し、その病気の病因、成り立ちを明らかにする。また、診断に役立つマーカーなどについても開発し、実際の病理診断に応用する。 1 ）サ

ルコイドーシスに関しては、Propionibacterium acnes（アクネ菌）の深部臓器における細胞内潜伏感染と、その内因性活性化に伴う急激な autophagy の活性化および Th1 免疫反応の誘導が肉芽腫形成の原因となっている可能性につき免疫病理学的な観点から研究している。アクネ菌感染がサルコイドーシス以外の疾患にも関与しているとの報告が蓄積されているが、他疾患との関係についても研究を進める。２）Helicobacter pylori（ピロリ菌）の胃粘膜表層での感染が慢性胃炎を生じる病理発生機構に関して、本菌が粘膜表層上皮障害に起因して粘膜固有層に進入し胃所属リンパ節に translocate することが判明したことから、これが粘膜内の免疫担当細胞を直接刺激することで胃粘膜の慢性炎症に寄与するとともに、リンパ節に流入後は傍皮質領域において免疫系を慢性的に刺激している可能性につき研究している。また、ピロリ菌についてはその構造の違いによって、胃癌発生のリスクが異なることが知られている。ピロリ菌の構造と発癌リスクの関係を解明し、ピロリ菌の発癌リスクを評価できる検査キットの開発も行っている。３）　潰瘍性大腸炎、クローン病など炎症性大腸炎に見られる特徴的な病理学的所見を解析し、それらの発生機序、意義を検証している。また、生検材料を用いた腸炎の活動性についての評価、分子マーカーの発現について研究している。４）全身性アミロイドーシスの病型診断は患者の治療方針を決定するためには非常に重要であるが、有用な診断用抗体が十分には揃っていない。病理診断の精度を向上できる診断用抗体の開発、応用について研究を行っている。

3. 新規細胞死に着目した病態解析とがん治療戦略について
　従来細胞には“アポトーシス”というプログラムされ制御された細胞死のメカニズムが複数備わっており、ヒトの発生やリンパ球分化など様々な現象に深くかかわっている。がんにおける放射線 · 化学療法などではこのアポトーシスのシグナルを惹起することでがん細胞の細胞死を引き起こすが、一部のがん細胞では種々のアポトーシスシグナルを抑制するメカニズムがはたらき、がんの治療抵抗性や再発を引き起こし、ひいては予後不良な病態を形成する。近年、“フェロトーシス”という新規細胞死が発見された。この細胞死はアポトーシス抵抗性のがん細胞にも引き起こすことができる鉄イオン依存性かつ脂質過酸化によって引き起こされる細胞死であり、現存の種々の治療に抵抗性の難治性がんに対する新たな治療戦略として注目されている。フェロトーシスを制御する主な遺伝子として GPX4, FSP1, GCH1 などが知られており、これらはいずれもフェロトーシスを負に制御する遺伝子として知られている。当該研究室ではヒトのがん組織においてこれらの発現や脂質過酸化マーカーである 4-HNE の蓄積の検討を行ってきた。結果はがんの種類によって様々であり、これらの因子の過剰な発現や蓄積、あるいは発現 · 蓄積の減少ががんの予後不良予測因子となっていることを報告している。これらの知見にさらに異なるがんのデータを統合し、さらに培養細胞等を用いた分子生物学的手法により新たな治療戦略の分子基盤の確立を行っていく。

(3)　教育活動

　大学院博士課程では学位取得とともに日本専門医機構認定の病理専門医資格の取得も目標にしている。まずは、人体病理解剖、生検組織診断、迅速組織診断、手術標本の組織診断などの研修を行い、診断病理学分野（病院病理部 · 病理診断科）ならびに関連病院病理診断科で診断病理学（外科病理学）の研鑽を積み、病理学者としての基盤を形成する。研修中は臨床各科との合同症例検討会に参加し病理診断を発表すると共に、各臨床分野における現時点での問題点を把握し、それについて臨床医と討論あるいは共同研究を行う。病理学者としての基盤を形成しつつ、ヒトの病気の原因、診断、治療などに直接関わっている問題点をテーマとして臨床病理学的、免疫組織学的、分子病理学的方法を用いて研究をすすめる。成果は国内外の学会、英文学術雑誌に発表を行う。

(4)　教育方針

　社会が医療に要請していることは、正しい診断のもとに適切な治療がなされることである。従って、人体病理学分野では、生検組織 · 手術標本の病理組織診断および病理解剖など、いわゆる臨床病理学の研鑽を積むことに重点を置くと共に、ヒトの病気の原因、成り立ち、診断、治療に直接関係する多くの問題について、“強い問題意識と深い思索”のもとに研究することを目指している。研究の成果は病気の理解を深めるとともに、臨床、病理診断に直接役立つものが求められる。

(5)　臨床活動および学外活動

　医師免許を有する大学院生は原則全員が病院病理部 · 病理診断科の業務を兼務し、病理診断、病理解剖の研修を行い、病理専門医資格の取得を目指す。また、スタッフ、大学院生は東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県内において、地域医療を支える中核的な東京医科歯科大学の関連病院の非常勤医として、病理診断をサポートし、共同研究を行っている。人体病理学分野では病理診断の精度を向上させることによって、地域医療、社会に貢献していきたいと思っている。また、地域の病院等における各種講演会、カンファレンスでの発表、参加にも積極

的に協力している。日本病理学会をはじめ各種の学会の活動には積極的に参加、協力しており、特に病理学会においては運営に携わり、中核的な役割を担っている。厚生労働省など省庁の各種委員会等にも積極的に参加、協力している。

(6) 臨床上の特色

明治時代以来、医学部に於ける人体病理学分野は基礎医学に属していたが、近年の病院における病理学の役割は実質的に臨床医学の一部になっている。すなわち、臨床各科の患者の病気診断に際しては、内視鏡的外科的に病変組織の一部を採取 (生検組織) あるいは病変部から細胞を採取し、それを基に顕微鏡で直接病変を眺め病理組織学的診断 (生検組織診断、細胞診) を行い臨床各科へ報告する。手術で除去された臓器 · 組織については、病理組織学的に病変の拡がりとその性質を検索すると共に、手術の適切性を判断し、手術後の治療方針決定のための資料とする。また、患者の治療過程においては、病変部から経時的に採取された組織を病理組織学的に検索し、治療効果を判定する。患者が不幸にも鬼籍に入った場合、生前の検査所見と治療法の選択及びその効果を検討する為に主治医とともに病理解剖を行い、以後の診断と治療に役立たせる。いわば、人体病理学分野は本学の組織体制上では診断病理学分野と別分野になってはいるが、実際的には一心同体である。人体病理学分野は直接患者に接することはないが、患者の診断 · 治療の点において直接的に深く関わっている。一人の患者を中心とした臨床各科の医師と臨床病理医間の意志疎通と強い連携診療は、最良の診療を行うための必須条件であり、これを現代社会は特定機能病院としての大学病院に要請している。それ故に、人体病理学分野の医師は”doctor of doctors”とも云われている良き臨床病理医であるべく、日々、診断病理学分野と一体となって人体病理学の研鑽に努め、患者のための病理学の実践と研究を遂行している。

(7) 研究業績

[原著]

1. Suenaga A, Sawa N, Oba Y, Ikuma D, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Mizuno H, Suwabe T, Hayashi N, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Miyazono M, Yamaguchi Y, Ubara Y. A case of bullous pemphigoid and renal disease after dipeptidyl peptidase 4 inhibitor administration. CEN case reports. 2023.12;

2. Iijima Takashi, Sawa Naoki, Wake Atsushi, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ubara Yoshifumi, Ohashi Kenichi. Linear discriminant analysis on electrocardiogram achieved classification of cardiac involvement status in amyloid light-chain amyloidosis Journal of Cardiology. 2023.12; 82(5-6); 349-355

3. Morimoto M, Nawa N, Okada E, Itsui Y, Kashimada A, Yamamoto K, Akaishi Y, Yamawaki M. Elucidation of the needs for telecritical care services in Japan: a qualitative study. BMJ open. 2023.11; 13(11); e072065

4. Katayama Y, Sawa N, Kurihara S, Ikuma D, Oba Y, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Suwabe T, Wada T, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Tsuchiya Y, Ubara Y. A Case of Glomerular Microangiopathy-like Nephropathy Caused by Hyperthyroidism. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2023.11;

5. Iijima Takashi, Sawa Naoki, Oba Yuki, Ikuma Daisuke, Mizuno Hiroki, Yamanouchi Masayuki, Suwabe Tatsuya, Wake Atsushi, Kono Kei, Ubara Yoshifumi, Ohashi Kenichi. Cardiac and renal AL amyloidosis controlled by autologous stem cell transplantation for 17 years accompanying late onset atrial fibrillation and complete atrioventricular block CEN Case Reports. 2023.11; 12(4); 362-367

6. Tanabe N, Inoshita N, Ishida A, Kato M, Yoshimoto H, Shiramizu H, Suga H, Tateno T, Ohashi K, Yamada S. Touch imprint cytology is useful for the intraoperative pathological diagnosis of PitNETs' surgical margins. Brain tumor pathology. 2023.10; 40(4); 215-221

7. Nakayama Y, Yamanouchi M, Mizuno H, Suwabe T, Sekine A, Ikuma D, Hasegawa E, Oba Y, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Wada T, Sawa N, Ubara Y. Syphilis-related Membranous Nephropathy in a 35-year-old Woman. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2023.10;

8. Takahashi K, Miyake K, Ito J, Shimamura H, Suenaga T, Karasuyama H, Ohashi K. Topical application of a PDE4 inhibitor ameliorates atopic dermatitis through inhibition of basophil IL-4 production. The Journal of investigative dermatology. 2023.10;

9. Hashimoto J, Oh Y, Yamamoto K, Yoshii T, Fukushima K, Kitagawa M, Okawa A. Frequency and pathogenesis of periprosthetic atypical femoral fractures associated with total knee arthroplasty: A multicenter prospective study with complementary histopathological and biomechanical analysis. Injury. 2023.10; 111136

10. Suenaga A, Sawa N, Oba Y, Ikuma D, Sekine A, Hasegawa E, Mizuno H, Suwabe T, Ikeda S, Tsujimoto T, Kono K, Shintani-Domoto Y, Kinowaki K, Ohashi K, Miyazono M, Yamaguchi Y, Ubara Y. Dipeptidyl peptidase-4 inhibitor-related renal disease. Journal of diabetes and its complications. 2023.09; 37(10); 108590

11. Keisuke Tanaka, Ayako Ichikawa, Natsuka Umezawa, Kouhei Yamamoto, Kota Yoshifuji, Keigo Okada, Ayako Nogami, Yoshihiro Umezawa, Toshikage Nagao, Chizuko Sakashita, Takehiko Mori, Shuji Tohda, Ryuji Koike, Shinsuke Yasuda, Masahide Yamamoto. Lymphoproliferative disorder risk after methotrexate treatment for rheumatoid arthritis. Cancer Sci. 2023.09; 114(9); 3719-3727

12. Suenaga A, Sawa N, Miki K, Yokoyama T, Ishii Y, Mizuno H, Ikuma D, Oba Y, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Suwabe T, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Honda K, Miyazono M, Nakamura Y, Ubara Y. Antiphospholipid Syndrome Nephropathy with Acute Thrombotic Microangiopathy after Renal Transplantation. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2023.09; 62(18); 2707-2713

13. Yuka Saeki, Hideaki Miyachi, Keiko Miura, Daijiro Okazaki, Makoto Yamamoto, Yumika Yuki, Michiyo Nakano. Mycosis fungoides with pseudocarcinomatous hyperplasia masquerading as verrucous carcinoma. JAAD Case Rep. 2023.09; 39; 130-134

14. Suenaga Atsuhiko, Sawa Naoki, Ikuma Daisuke, Oba Yuki, Sekine Akinari, Yamanouchi Masayuki, Hasegawa Eiko, Mizuno Hiroki, Suwabe Tatsuya, Kono Kei, Shintani-Domoto Yukako, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Suzuki Yoshiyuki, Miyazono Motoaki, Takemura Tamiko, Yamaguchi Yutaka, Ubara Yoshifumi. Immunoglobulin G4-related Tubulointerstitial Nephritis with Simultaneous Resolution of Plasma Cell Infiltration and Fibrosis after Steroid Treatment Internal Medicine. 2023.09; 62(18); 2699-2706

15. Suzuki Y, Nomura K, Kikuchi D, Iizuka T, Koseki M, Kawai Y, Okamura T, Ochiai Y, Hayasaka J, Mitsunaga Y, Odagiri H, Yamashita S, Matsui A, Ohashi K, Hoteya S. Diagnostic Performance of Endoscopic Ultrasonography with Water-Filled Balloon Method for Superficial Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Digestive diseases and sciences. 2023.08; 68(10); 3974-3984

16. Watabe S, Aruga Y, Kato R, Kawade G, Kubo Y, Tatsuzawa A, Onishi I, Kinowaki Y, Ishibashi S, Ikeda M, Fukawa Y, Akahoshi K, Tanabe M, Kurata M, Ohashi K, Kitagawa M, Yamamoto K. Regulation of 4-HNE via SMARCA4 Is Associated with Worse Clinical Outcomes in Hepatocellular Carcinoma. Biomedicines. 2023.08; 11(8);

17. Nakayama Yuki, Mizuno Hiroki, Sawa Naoki, Suwabe Tatsuya, Yamanouchi Masayuki, Ikuma Daisuke, Hasegawa Eiko, Hoshino Junichi, Sekine Akinari, Oba Yuki, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Suzuki Kodai, Sato Yasuharu, Shimizu Akira, Yamaguchi Yutaka, Ubara Yoshifumi. Adolescent-onset TAFRO Syndrome with Malignant Nephrosclerosis-like Lesions Internal Medicine. 2023.08; 62(15); 2223-2229

18. Tanimizu Hikaru, Hara Risa, Sekine Akinari, Inoue Noriko, Hasegawa Eiko, Tanaka Kiho, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Okubo Minoru, Yamaguchi Yutaka, Kang Dedong, Honda Kazuho, Saito Takao, Sawa Naoki, Ubara Yoshifumi, Hoshino Junichi. Apolipoprotein E-associated Lipoprotein Glomerulo-tubulopathy Internal Medicine. 2023.08; 62(15); 2209-2214

19. Soma T, Yoshida S, Wakejima R, Taguchi T, Fukuda S, Tanaka H, Yokoyama M, Ohashi K, Okubo K, Fujii Y. A case of repeat oligoprogressive castration-resistant prostate cancer treated with pulmonary metastasectomy. IJU case reports. 2023.07; 6(4); 216-218

20. Oba Y, Mizuno H, Taneda S, Sawai T, Oda T, Ikuma D, Yamanouchi M, Suwabe T, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Sawa N, Ubara Y. Anti-factor H antibody-positive C3 glomerulonephritis secondary to poststreptococcal acute glomerulonephritis with diabetic nephropathy. CEN case reports. 2023.07;

21. Suzuki Yugo, Ohkura Yu, Koseki Mako, Nomura Kosuke, Matsui Akira, Ueno Masaki, Kikuchi Daisuke, Ohashi Kenichi, Hoteya Shu. Clinical predictors of special type of esophageal cancer Esophagus. 2023.07; 20(3); 484-491

22. Yoshimura Yusuke, Watanabe Shun, Yamanouchi Masayuki, Ikuma Daisuke, Mizuno Hiroki, Sekine Akinari, Hasegawa Eiko, Suwabe Tatsuya, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Ubara Yoshifumi, Sawa Naoki. Tocilizumab Attenuates Anti-neutrophil Cytoplasmic Antibody-associated Nephritis Occurring during Abatacept and Adalimumab Therapy for Rheumatoid Arthritis Internal Medicine. 2023.07; 62(14); 2099-2102

23. Sugita K, Onishi I, Nakayama R, Ishibashi S, Ikeda M, Inoue M, Narita R, Oshima S, Shimizu K, Saito S, Sato S, Moriarity BS, Yamamoto K, Largaespada DA, Kitagawa M, Kurata M. Indirect CRISPR screening with photoconversion revealed key factors of drug resistance with cell-cell interactions. Communications biology. 2023.06; 6(1); 582

24. Kato Y, Ito T, Yamamoto K, Furukawa A, Shintaku H, Yamamoto K, Sakai M, Tomita Y, Chino Y, Uchida K, Kawada K, Ohashi K. Invasive features of superficial oesophageal squamous cell carcinoma-analysis of risk factors for lymph node metastasis. Virchows Archiv : an international journal of pathology. 2023.06; 483(5); 645-653

25. Iijima T, Sawa N, Wake A, Kono K, Kinowaki K, Ubara Y, Ohashi K. Linear discriminant analysis on electrocardiogram achieved classification of cardiac involvement status in amyloid light-chain amyloidosis. Journal of cardiology. 2023.06; 82(5); 349-355

26. Sugimoto Hisashi, Sawa Naoki, Yamagiwa Hajime, Kawada Masahiro, Ikuma Daisuke, Oba Yuki, Mizuno Hiroki, Sekine Akinari, Yamanouchi Masayuki, Hasegawa Eiko, Suwabe Tatsuya, Nishida Aya, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Yamaguchi Yutaka, Ubara Yoshifumi. Focal Segmental Glomerulosclerosis Associated with Essential Thrombocythemia Internal Medicine. 2023.06; 62(12); 1789-1794

27. Yuki Kato, Takashi Ito, Kouhei Yamamoto, Asuka Furukawa, Hiroshi Shintaku, Kurara Yamamoto, Momoka Sakai, Yoshinobu Tomita, Yusuke Chino, Keisuke Uchida, Kenro Kawada, Kenichi Ohashi. Invasive features of superficial oesophageal squamous cell carcinoma-analysis of risk factors for lymph node metastasis. Virchows Arch. 2023.06;

28. Sugawara S, Tanaka K, Imamura F, Yamamoto N, Nishio M, Okishio K, Hirashima T, Tanaka H, Fukuhara T, Nakahara Y, Kurata T, Katakami N, Okada M, Horinouchi H, Udagawa H, Kasahara K, Satouchi M, Saka H, Tokito T, Hosomi Y, Aoe K, Kishi K, Ohashi K, Yokoyama T, Adachi N, Noguchi K, Schwarzenberger P, Kato T. Pembrolizumab plus chemotherapy in Japanese patients with metastatic squamous non-small-cell lung cancer in KEYNOTE-407. Cancer science. 2023.05; 114(8); 3330-3341

29. Shintaku H, Gokita K, Oshima T, Suzuki K, Fujii K, Sugaya N, Tomii S, Onishi I, Shimada K, Ohashi K. Pancreatic hamartoma: Possibility of a preoperative diagnosis via endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration biopsy. Diagnostic cytopathology. 2023.05; 51(9); E267-E272

30. Hirai T, Yoshii T, Inose H, Matsukura Y, Funauchi Y, Egawa S, Utagawa K, Hashimoto J, Nishizawa M, Yamamoto K, Okawa A. Intraosseous Aggressive Schwannoma in the Lumbar Spine: A Case Report. Spine surgery and related research. 2023.05; 7(3); 288-292

31. Okubo N, Suwabe T, Oba Y, Ikuma D, Mizuno H, Sekine A, Hasegawa E, Yamanouchi M, Hoshino J, Kitajima I, Shiba M, Uruga K, Takeshi F, Ohashi K, Sawa N, Ubara Y. A Half-Century Dialysis Survivor: Clinical and Autopsy Findings. Kidney medicine. 2023.04; 5(4); 100612

32. Suzuki Y, Ohkura Y, Koseki M, Nomura K, Matsui A, Ueno M, Kikuchi D, Ohashi K, Hoteya S. Clinical predictors of special type of esophageal cancer. Esophagus : official journal of the Japan Esophageal Society. 2023.04; 20(3); 484-491

33. Morimoto N, Mori T, Shioji S, Taguchi T, Watanabe H, Sakai K, Mori K, Yamamura A, Hanioka A, Akagi Y, Fujiki T, Mandai S, Mori Y, Ando F, Susa K, Iimori S, Naito S, Sohara E, Ohashi K, Uchida S. Rapidly progressive IgA nephropathy with membranoproliferative glomerulonephritis-like lesions in an elderly man following the third dose of an mRNA COVID-19 vaccine: a case report. BMC nephrology. 2023.04; 24(1); 108

34. Kana Unuma, Dan Tomomasa, Kosuke Noma, Kouhei Yamamoto, Taka-Aki Matsuyama, Yohsuke Makino, Atsushi Hijikata, Shuheng Wen, Tsutomu Ogata, Nobuhiko Okamoto, Satoshi Okada, Kenichi Ohashi, Koichi Uemura, Hirokazu Kanegane. Case Report: Molecular autopsy underlie COVID-19-associated sudden, unexplained child mortality. Front Immunol. 2023.04; 14; 1121059

35. Matsushita Y, Liu J, Chu AKY, Tsutsumi-Arai C, Nagata M, Arai Y, Ono W, Yamamoto K, Saunders TL, Welch JD, Ono N. Bone marrow endosteal stem cells dictate active osteogenesis and aggressive tumorigenesis. Nature communications. 2023.04; 14(1); 2383

36. Hara Risa, Hasegawa Eiko, Inoue Noriko, Sekine Akinari, Tanaka Kiho, Ikuma Daisuke, Mizuno Hiroki, Oba Yuki, Yamanouchi Masayuki, Suwabe Tatsuya, Sawa Naoki, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Ubara Yoshifumi, Hoshino Junichi. Crescentic Glomerulonephritis with Fibrinoid Vasculitis after Administration of Influenza Vaccine Internal Medicine. 2023.04; 62(7); 1077-1080

37. Sawamura Masato, Sawa Naoki, Ikuma Daisuke, Oba Yuki, Yamanouchi Masayuki, Sekine Akinari, Mizuno Hiroki, Hasegawa Eiko, Suwabe Tatsuya, Hoshino Junichi, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Ubara Yoshifumi. Successful Discontinuation of Glucocorticoid Treatment after Administration of a Calcineurin Inhibitor for Nephrotic Syndrome in a Patient with Lupus Nephritis Internal Medicine. 2023.04; 62(7); 1037-1041

38. Suenaga Atsuhiko, Sawa Naoki, Oshima Yoichi, Ikuma Daisuke, Oba Yuki, Yamanouchi Masayuki, Hasegawa Eiko, Mizuno Hiroki, Sekine Akinari, Suwabe Tatsuya, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Takemura Tamiko, Yamaguchi Yutaka, Miyazono Motoaki, Atsumi Tatsuya, Ubara Yoshifumi. Antiphospholipid Syndrome Nephropathy Related Disease Diagnosed by Assessing Phosphatidylserine-dependent Antiprothrombin Antibodies. Intern Med. 2023.03; 62(5); 757-761

39. Yamashita M, Kuroha M, Kinowawki Y, Kashiwagi N, Watanabe K, Nagase M, Niizato D, Mitsuiki N, Isoda T, Kamiya T, Arisaka A, Inaji M, Ohashi K, Imai K, Kanegane H, Morio T, Takagi M. A SAMD5-SASH1 fusion in solitary infantile myofibromatosis. Pediatric blood & cancer. 2023.03; 70(6); e30278

40. Miyake N, Tsurusaki Y, Fukai R, Kushima I, Okamoto N, Ohashi K, Nakamura K, Hashimoto R, Hiraki Y, Son S, Kato M, Sakai Y, Osaka H, Deguchi K, Matsuishi T, Takeshita S, Fattal-Valevski A, Ekhilevitch N, Tohyama J, Yap P, Keng WT, Kobayashi H, Takubo K, Okada T, Saitoh S, Yasuda Y, Murai T, Nakamura K, Ohga S, Matsumoto A, Inoue K, Saikusa T, Hershkovitz T, Kobayashi Y, Morikawa M, Ito A, Hara T, Uno Y, Seiwa C, Ishizuka K, Shirahata E, Fujita A, Koshimizu E, Miyatake S, Takata A, Mizuguchi T, Ozaki N, Matsumoto N. Molecular diagnosis of 405 individuals with autism spectrum disorder. European journal of human genetics : EJHG. 2023.03;

41. Koide T, Mandai S, Kitaoka R, Matsuki H, Chiga M, Yamamoto K, Yoshioka K, Yagi Y, Suzuki S, Fujiki T, Ando F, Mori T, Susa K, Iimori S, Naito S, Sohara E, Rai T, Yokota T, Uchida S. Circulating Extracellular Vesicle-Propagated microRNA Signature as a Vascular Calcification Factor in Chronic Kidney Disease. Circulation research. 2023.02; 132(4); 415-431

42. Tanaka H, Fukuda S, Kimura K, Fukawa Y, Yamamoto K, Fukushima H, Moriyama S, Yasuda Y, Uehara S, Waseda Y, Yoshida S, Yokoyama M, Matsuoka Y, Saito K, Tateishi U, Campbell SC, Fujii Y. Defining Tumour Shape Irregularity for Preoperative Risk Stratification of Clinically Localised Renal Cell Carcinoma. European urology open science. 2023.02; 48; 36-43

43. Tzavlaki K, Ohata Y, Morén A, Watanabe Y, Eriksson J, Tsuchiya M, Kubo Y, Yamamoto K, Sellin ME, Kato M, Caja L, Heldin CH, Moustakas A. The liver kinase B1 supports mammary epithelial morphogenesis by inhibiting critical factors that mediate epithelial-mesenchymal transition. Journal of cellular physiology. 2023.02;

44. Takeshi Namiki, Moe Makiguchi, Shogo Wada, Hind Al-Busani, Makiko Nishida, Tsukasa Ugajin, Keiko Miura, Kota Yokoyama, Naoko Okiyama. The potential value of thallium-201 scintigraphy in the diagnosis of squamous cell carcinoma arising from extensive pyoderma. J Dermatol. 2023.02;

45. Sawamura Masato, Sawa Naoki, Oshima Yoichi, Ikuma Daisuke, Yamanouchi Masayuki, Hayami Noriko, Sekine Akinari, Mizuno Hiroki, Hasegawa Eiko, Suwabe Tatsuya, Hoshino Junichi, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Ubara Yoshifumi. A case of malignant nephrosclerosis occurring with serum renin in the normal range. CEN Case Rep. 2023.02; 12(1); 116-121

46. Naiki Hironobu, Yamaguchi Aina, Sekijima Yoshiki, Ueda Mitsuharu, Ohashi Kenichi, Hatakeyama Kinta, Ikeda Yoshihiko, Hoshii Yoshinobu, Shintani-Domoto Yukako, Miyagawa-Hayashino Aya, Tsujikawa Hanako, Endo Jin, Arai Tomio, Ando Yukio. Steep increase in the number of transthyretin-positive cardiac biopsy cases in Japan: evidence obtained by the nation-wide pathology consultation for the typing diagnosis of amyloidosis. Amyloid. 2023.02; 30(3); 1-6

47. Nakayama Yuki, Sawa Naoki, Suwabe Tatsuya, Yamanouchi Masayuki, Ikuma Daisuke, Mizuno Hiroki, Hasegawa Eiko, Hoshino Junichi, Sekine Akinari, Oba Yuki, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Yamaguchi Yutaka, Nozu Kandai, Ubara Yoshifumi. Kidney Histology Findings in a Patient with Autosomal Dominant Tubulointerstitial Kidney Disease Subtype Hepatocyte Nuclear Factor 1 β. Intern Med. 2023.02; 62(3); 419-422

48. Suenaga A, Sawa N, Ikuma D, Oba Y, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Mizuno H, Suwabe T, Kono K, Shintani-Domoto Y, Kinowaki K, Ohashi K, Suzuki Y, Miyazono M, Takemura T, Yamaguchi Y, Ubara Y. A Case of Immunoglobulin G4-related Tubulointerstitial Nephritis with Simultaneous Resolution of Plasma Cell Infiltration and Fibrosis after Steroid Treatment. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2023.02; 62(18); 2699-2706

49. Hata C, Fukawa Y, Motoi T, Kinowaki Y, Akashi T, Ohashi K, Ishikawa Y, Waseda Y, Fujii Y, Kakuta R, Ikeda S, Onishi I. A Primary Kidney Giant Cell Tumor of Soft Tissue Caused Peritoneal Dissemination, Considered to Be Malignant Transformation: A Case Report. Diagnostics (Basel, Switzerland). 2023.02; 13(4);

50. Iijima T, Sawa N, Oba Y, Ikuma D, Mizuno H, Yamanouchi M, Suwabe T, Wake A, Kono K, Ubara Y, Ohashi K. Cardiac and renal AL amyloidosis controlled by autologous stem cell transplantation for 17 years accompanying late onset atrial fibrillation and complete atrioventricular block. CEN case reports. 2023.02; 12(4); 362-367

51. Suzuki Yugo, Nomura Kosuke, Matsui Akira, Kikuchi Daisuke, Ohashi Kenichi, Hoteya Shu. Long-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for special type of esophageal cancer. DIGESTIVE DISEASES. 2023.02; 41(4); 533-542

52. Suzuki Y, Ochiai Y, Hosoi A, Okamura T, Hayasaka J, Mitsunaga Y, Tanaka M, Odagiri H, Nomura K, Yamashita S, Matsui A, Kikuchi D, Ohashi K, Hoteya S. Mucosal and Submucosal Thickening of Esophageal Wall Is a Promising Factor in the Development of Symptoms in Eosinophilic Esophagitis. Gut and liver. 2023.02; 18(1); 50-59

53. Sawamura Masato, Sawa Naoki, Oshima Yoichi, Ikuma Daisuke, Yamanouchi Masayuki, Hayami Noriko, Sekine Akinari, Mizuno Hiroki, Hasegawa Eiko, Suwabe Tatsuya, Hoshino Junichi, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Ubara Yoshifumi. A case of malignant nephrosclerosis occurring with serum renin in the normal range CEN Case Reports. 2023.02; 12(1); 116-121

54. Tanaka H., Fukawa Y., Yamamoto K., Tanimoto K., Takemoto A., Hasumi H., Hirakawa A., Ishikawa Y., Fukuda S., Waseda Y., Yoshida S., Yokoyama M., Campbell S. C., Fujii Y.. Renal parenchymal infiltration or micronodular spread in non-metastatic clear cell renal cell carcinoma: Prognostic impact and genomic backgrounds EUROPEAN UROLOGY. 2023.02; 83; S668-S669

55. Toshiyuki Yamamoto, Keiko Miura, Yoshinobu Eishi. Detection of Propionibacterium acnes in cutaneous lichenoid sarcoidosis in a patient with Blau syndrome. Int J Dermatol. 2023.01;

56. Fukuda Makoto, Sawa Naoki, Ikuma Daisuke, Oba Yuki, Mizuno Hiroki, Yamanouchi Masayuki, Sekine Akinari, Hasegawa Eiko, Suwabe Tatsuya, Hoshino Junichi, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Tamaki Hiromichi, Miyazono Motoaki, Ubara Yoshifumi. Endothelial Damage-dominant Nephritis Related to IgA Vasculitis after 11 Years' Use of Infliximab for Rheumatoid Arthritis. Intern Med. 2023.01; 62(1); 81-85

57. Unuma K, Tomomasa D, Noma K, Yamamoto K, Matsuyama TA, Makino Y, Hijikata A, Wen S, Ogata T, Okamoto N, Okada S, Ohashi K, Uemura K, Kanegane H. Case Report: Molecular autopsy underlie COVID-19-associated sudden, unexplained child mortality. Frontiers in immunology. 2023; 14; 1121059

58. Sawamura M, Sawa N, Mizuno H, Oba Y, Ikuma D, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Suwabe T, Suzuki M, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Ehara T, Ikeda Y, Sawai T, Ubara Y. Immunoelectron microscopy findings in a patient with C3 glomerulonephritis. Clinical nephrology. Case studies. 2023; 11; 87-94

59. Tanimizu H, Hara R, Sekine A, Inoue N, Hasegawa E, Tanaka K, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Okubo M, Yamaguchi Y, Kang D, Honda K, Saito T, Sawa N, Ubara Y, Hoshino J. Apolipoprotein E-associated Lipoprotein Glomerulo-tubulopathy. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2023; 62(15); 2209-2214

60. Yoshimura Y, Ikuma D, Mizuno H, Kono K, Kinowaki K, Sugimoto H, Kamido H, Sawada Y, Mizuta M, Kurihara S, Oba Y, Yamanouchi M, Suwabe T, Ohashi K, Ubara Y, Sawa N. Efficacy of SGLT2 inhibitors in IgA nephropathy associated with alcoholic liver cirrhosis accompanied by nephrotic syndrome: a case report. Frontiers in nephrology. 2023; 3; 1331757

[総説]

1. 川田 研郎, 大友 真由子, 藤原 尚志, 春木 茂男, 伊藤 崇. 【「胃と腸」式 読影問題集 2023 応用と発展-考える画像診断が身につく】咽頭 · 食道 (Case 9) 胃と腸. 2023.10; 58(10); 1242-1245

2. 川田 研郎, 河邊 浩明, 春木 茂男, 藤原 尚志, 小郷 泰一, 坂野 正佳, 奥野 圭祐, 谷岡 利朗, 徳永 正則, 大野 十央, 田崎 彰久, 岡田 隆平, 伊藤 崇, 朝蔭 孝宏, 絹笠 祐介. 【知っておくべき口腔 · 咽喉頭病変】咽喉頭表在癌の内視鏡的診断　経鼻内視鏡の立場から 胃と腸. 2023.09; 58(9); 1120-1127

3. 大橋 健一, 小池 淳樹, 冨田 茂樹, 原 重雄. 「非腫瘍性疾患病理アトラス　腎」刊行記念　面白いと苦手は表裏一体　腎生検病理診断の魅力 病理と臨床. 2023.04; 41(4); 0434-0439

4. 大橋 健一. 【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 5 章) 食道 · 胃　類基底細胞癌 病理と臨床. 2023.04; 41(臨増); 69

5. 田口 登和子, 山本 浩平. 【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 16 章) 血液 · 骨髄　急性前骨髄球性白血病 [AML(M3)]　病理と臨床. 2023.04; 41(臨増); 240

6. 田口 登和子, 山本 浩平. 【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 16 章) 血液 · 骨髄　慢性リンパ性白血病 病理と臨床. 2023.04; 41(臨増); 242

7. 田口 登和子, 山本 浩平. 【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 16 章) 血液 · 骨髄　慢性骨髄性白血病 病理と臨床. 2023.04; 41(臨増); 241

8. 木脇 祐子, 山本 浩平. 【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 16 章) 血液 · 骨髄　成人 T 細胞白血病/リンパ腫 病理と臨床. 2023.04; 41(臨増); 243

9. 木脇 祐子, 山本 浩平. 【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 16 章) 血液 · 骨髄　骨髄異形成症候群 病理と臨床. 2023.04; 41(臨増); 244

10. 川田 研郎, 大友 真由子, 春木 茂男, 坂野 正佳, 山口 和哉, 藤原 尚志, 谷岡 利朗, 佐藤 雄哉, 徳永 正則, 伊藤 崇, 絹笠 祐介. 【食道 ESD 瘢痕近傍病変の診断と治療】食道 ESD 瘢痕近傍病変に対する APC 治療 胃と腸. 2023.03; 58(3); 318-323

11. 川田 研郎, 春木 茂男, 藤原 尚志, 大友 真由子, 山口 和哉, 坂野 正佳, 伊藤 崇, 徳永 正則, 絹笠 祐介. 【進化し続ける IEE】IEE を使いこなす　上部消化管内視鏡　経鼻内視鏡による咽頭 · 食道表在癌診断　IEE をどのように活用するか? 消化器内視鏡. 2023.03; 35(3); 299-305

[講演 · 口頭発表等]

1. 大西 威一郎, 倉田 盛人, 大橋 健一. CRISPR screening データベースを用いた、遺伝性乳癌の新たな合成致死因子の探索 (Identification of synthetic lethal genes of hereditary breast cancer using CRISPR screening database). 日本癌学会総会記事 2023.09.01

2. 小笠原 暢彦, 加納 嘉人, 小林 桜子, 渡辺 諭, 桐野 桜, 大西 威一郎, 山内 慎一, 平栗 優衣, 伊藤 剛, 渡辺 守, 絹笠 祐介, 大橋 健一, 岡本 隆一, 油井 史郎. 大腸癌における細胞外基質依存性の可塑性誘導と高悪性度形質の関係 (ECM-niche dependent plasticity controls the acquisition of invasive phenotype in colorectal cancer). 日本癌学会総会記事 2023.09.01

3. 田中 一, 布川 裕規, 山本 浩平, 谷本 幸介, 竹本 暁, 蓮見 壽史, 平川 晃弘, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 藤井 靖久. 淡明細胞型腎細胞癌における腎実質浸潤/進展の意義　予後への影響と遺伝学的背景 (Renal parenchymal infiltration or micronodular spread in clear cell renal cell carcinoma: prognostic impact and genomic backgrounds). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

4. 田村 一洋, 山本 浩平, 渡部 紫織, 川出 玄二, 大西 威一郎, 木脇 祐子, 石橋 佐知子, 池田 真住, 倉田 盛人, 大橋 健一. 肝細胞癌 (HCC) における 4-hydroxynonenal(4-HNE) の臨床病理学的および分子生物学的検討 (Clinicopathological and molecular analysis of 4-hydroxynonenal(4-HNE) in Hepatocellular carcinoma). 日本病理学会会誌 2023.03.01

5. 村島隆之、米永昭智、井上梨紗子、三浦圭子. 苔癬様型皮膚サルコイドーシスの 1 例. 日本皮膚科学会第 905 回東京地方会 2023.02.18 WEB

6. Keiko Miura, Junichi Shiraishi, Yuriko Yukino, Takayuki Fusumae, Mika Fujiwara, Atsushi Oda, Takeshi Namiki. Two cases of heavily pigmented melanocytic neoplasm mimicking pigmented epithelioiid melanocytoma. 第 39 回日本皮膚病理組織学会 2023.04.15 東京 · 両国

1. 大山 節子, 大庭 悠貴, 栗原 重和, 関根 章成, 山内 真之, 長谷川 詠子, 諏訪部 達也, 河野 圭, 大橋 健一, 和田 健彦, 乳原 善文, 澤 直樹. MPO-ANCA 値弱陽性ながらアバコパン単剤にて腎炎の再燃なく寛解維持されている顕微鏡的多発血管炎の一例. 日本リウマチ学会関東支部学術集会プログラム · 抄録集 2023.12.01

2. 吉本 雅俊, 大庭 悠貴, 井熊 大輔, 諏訪部 達也, 長谷川 詠子, 河野 圭, 大橋 健一, 金子 駿太, 三森 明夫, 乳原 善文, 和田 健彦, 澤 直樹. 溶血性貧血や補体低下をきたした TAFRO 症候群の一例. 日本リウマチ学会関東支部学術集会プログラム · 抄録集 2023.12.01

3. 石原 健作, 藤原 基裕, 山本 浩平, 横山 みなと, 廣瀬 航平, 相馬 貴彦, 小林 正貴, 中村 祐基, 范 博, 石川 雄大, 内田 裕將, 福田 翔平, 上原 翔, 田中 一, 吉田 宗一郎, 松岡 陽, 明石 巧, 藤井 靖久. 出産 1 ヵ月後に膀胱タンポナーデを契機に発見され, 自然退縮した膀胱原発炎症性筋線維芽細胞腫瘍の 1 例. 泌尿器外科 2023.10.01

4. 藤野 淳也, 高橋 直, 柳井 健作, 石黒 太郎, 山本 浩平, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. 痙性対麻痺と感覚障害で発症し, 慢性脊髄炎と末梢神経障害を呈した神経サルコイドーシスの 65 歳男性例. 日本内科学会関東地方会 2023.10.01

5. 壷谷 友宏, 萬代 新太郎, 森本 靖久, 藤木 珠美, 内藤 省太郎, 飯盛 聡一郎, 蘇原 映誠, 大西 威一郎, 大橋 健一, 内田 信一. 骨髄組織で PAC3 染色陽性類上皮細胞肉芽腫を認めたことで診断に至ったサルコイドーシスの 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.10.01

6. 河内 理, 倉田 盛人, 小澤 瑞稀, 新谷 実咲, 石橋 玄, 草野 和生, 進藤 重雄, 大橋 健一. セルブロック作成が診断に有用であった胞巣状軟部肉腫の一例. 共済医報 2023.10.01

7. 地野 祐輔, 中嶋 裕, 坂田 泰子, 安藤 登, 水口 祐未, 木村 あずさ, 齋藤 ひかり, 櫻井 聖, 桐村 進, 新宅 洋, 伊藤 崇, 大西 威一郎, 國枝 純子, 明石 巧, 大橋 健一. 腺様嚢胞癌、基底細胞腺腫の鑑別困難例における転写因子 EN1 細胞染色の有用性の検討. 日本臨床細胞学会雑誌 2023.10.01

8. 桑原 宏哉, 上野 太郎, 遠藤 明史, 平井 高志, 山本 浩平, 榛澤 義明, 田中 佑美, 石橋 恵理, 萬 巴里子, 坂巻 泰則, 矢島 祐介, 黒木 大陽, 小池 竜司. ブロックチェーン技術の導入による脊椎症の臨床研究の効率化. 臨床神経学 2023.09.01

9. 春原 涼, 島田 翔, 佐藤 万瑛, 村川 美也子, 山本 浩平, 園田 史朗, 青木 光, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 岡本 師, 宮崎 泰成. 肺癌治療中に繰り返す免疫介在性肝機能障害 (IMH) にミコフェノール酸モフェチル (MMF) 併用治療が奏功した 1 例. 日本結核 · 非結核性抗酸菌症学会関東支部学会 · 日本呼吸器学会関東地方会合同学会プログラム · 抄録集 2023.09.01

10. 吉本 雅俊, 長谷川 詠子, 原 理沙, 井上 典子, 関根 章成, 田中 希穂, 河野 圭, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹, 和田 健彦. 腎生検で典型的な TAFRO 症候群の腎病理像をとるもステロイドのみで軽快した非典型的な臨床経過を示した一例. 日本腎臓学会誌 2023.09.01

11. 諏訪部 達也, 乳原 善文, 澤 直樹, 和田 健彦, 大橋 健一. 腎生検電子顕微鏡診断のこれから (現状と課題) 腎生検電子顕微鏡診断の診療への有益性について. 日本腎臓学会誌 2023.09.01

12. 伴光 幸大, 大庭 悠貴, 井熊 大輔, 諏訪部 達也, 河野 圭, 大橋 健一, 野津 寛大, 乳原 善文, 澤 直樹. 32 年間経過を追えた常染色体優性 Alport 症候群の 1 例. 日本腎臓学会誌 2023.09.01

13. 片山 由梨, 栗原 重和, 大庭 悠貴, 井熊 大輔, 山内 真之, 諏訪部 達也, 河野 圭, 大橋 健一, 土谷 吉樹, 乳原 善文, 澤 直樹. Basedow 病を契機に高度の血尿 · 蛋白尿がみられ glomerular microangiopathy の診断に至った 1 症例. 日本腎臓学会誌 2023.09.01

14. 吉村 祐輔, 井熊 大輔, 河野 圭, 木脇 圭一, 水野 裕基, 大庭 悠貴, 山内 真之, 諏訪部 達也, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹. SGLT2 阻害薬導入後にネフローゼ症候群が軽快したアルコール性肝硬変合併 IgA 腎症の一例. 日本腎臓学会誌 2023.09.01

15. 栗原 重和, 水野 裕基, 大庭 悠貴, 井熊 大輔, 山内 真之, 諏訪部 達也, 乳原 善文, 河野 圭, 大橋 健一, 澤 直樹. TAFRO 症候群を呈し急性期に死亡した 1 剖検例の報告. 日本腎臓学会誌 2023.09.01

16. 谷水 暉, 星野 純一, 関根 章成, 長谷川 詠子, 和田 健彦, 河野 圭, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹. テノホビルで著明な尿蛋白改善を認めた HIV 関連 FGS の 1 例. 日本腎臓学会誌 2023.09.01

17. 角田 進, 井熊 大輔, 山内 真之, 長谷川 詠子, 和田 健彦, 乳原 善文, 大橋 健一, 中島 塁, 澤 直樹. マルチターゲット療法に抵抗性を示した二血球減少・倦怠感がベリムマブで改善したループス腎炎の一例. 日本腎臓学会誌 2023.09.01

18. 末永 敦彦, 大庭 悠貴, 井熊 大輔, 水野 裕基, 山内 真之, 諏訪部 達也, 河野 圭, 木脇 圭一, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹. ラムシルマブによる糸球体病変機序の紹介. 日本腎臓学会誌 2023.09.01

19. 上戸 壽, 渡邉 駿, 河野 圭, 大橋 健一, 金綱 友木子, 土谷 良樹, 和田 健彦, 乳原 善文, 澤 直樹. 乳酸/ピルビン酸代謝異常が血液透析導入後に顕在化し脳症の病態関与が疑われたミトコンドリア異常症の一例. 日本腎臓学会誌 2023.09.01

20. 竹内 俊博, 中山 祐樹, 大庭 悠貴, 諏訪部 達也, 河野 圭, 大橋 健一, 山口 裕, 乳原 善文, 澤 直樹. 低補体血症を認め尿細管間質性腎炎が主体の MPO-ANCA 関連血管炎の一例. 日本腎臓学会誌 2023.09.01

21. 師田 まりえ, 原 理沙, 関根 章成, 井上 典子, 田中 希穂, 長谷川 詠子, 乳原 善文, 河野 圭, 大橋 健一. 急性腎不全で発症し, 化学療法により腎機能が回復した Light chain proximal tubulopathy(LCPT) の一例. 日本腎臓学会誌 2023.09.01

22. 末永 敦彦, 大庭 悠貴, 井熊 大輔, 水野 裕基, 山内 真之, 諏訪部 達也, 河野 圭, 木脇 圭一, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群を合併した TAFRO 症候群の一例. 日本腎臓学会誌 2023.09.01

23. 谷水 暉, 星野 純一, 関根 章成, 大庭 悠貴, 井上 典子, 井熊 大輔, 山内 真之, 諏訪部 達也, 田中 希穂, 長谷川 詠子, 和田 健彦, 芥田 憲夫, 河野 圭, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹. テノホビルで著明な尿蛋白改善を認めた HIV 関連 FGS の 1 例. 神奈川腎炎研究会抄録集 2023.09.01

24. 三浦圭子. 教育講演 33 『肉芽腫性疾患にもっと強くなるには』4. 肉芽腫性血管炎. 第 122 回日本皮膚科学会総会 2023.06.03 横浜

25. 三浦圭子. 教育講演 25『みえない皮下脂肪織疾患を極める』1. 脂肪織炎の病理診断を極める. 第 122 回日本皮膚科学会総会 2023.06.02 横浜

26. 常井 薫時, 清水 寛路, 北野 尚樹, 河本 亜美, 竹中 健人, 日比谷 秀爾, 金子 俊, 小林 正典, 福田 将義, 藤井 俊光, 齊藤 詠子, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 木脇 祐子, 小柳 杏莉, 田村 一洋, 大橋 健一, 岩田 乃理子, 山内 慎一, 絹笠 祐介, 岡本 隆一. 反復する嘔吐を契機に小腸内視鏡にて診断した若年小腸腺癌の 2 例. Progress of Digestive Endoscopy 2023.06.01

27. 川田 研郎, 伊藤 崇, 大友 真由子, 坂野 正佳, 山口 和哉, 春木 茂男. ESD を行った表在性の食道小細胞型神経内分泌細胞癌の 6 例. 第 105 回日本消化器内視鏡学会総会 2023.05.26 東京

28. 大友 真由子, 川田 研郎, 芥田 壮平, 谷田部 悠介, 山崎 嘉美, 谷岡 利朗, 佐藤 雄哉, 伊藤 崇, 春木 茂男. 吐血を契機に発見された LSBE 由来の表在型 Barrett 食道腺癌の一例. 第 105 回日本消化器内視鏡学会総会 2023.05.26

29. 末永 敦彦, 山内 真之, 大庭 悠貴, 井熊 大輔, 水野 裕基, 井上 典子, 関根 章成, 長谷川 詠子, 諏訪部 達也, 河野 圭, 木脇 圭一, 大橋 健一, 山口 裕, 乳原 善文, 澤 直樹. DPP-4 阻害薬使用中に TMA-like の糸球体内皮細胞傷害を呈した 13 症例の検討. 日本腎臓学会誌 2023.05.01

30. 飯島 桃子, 関根 章成, 諏訪部 達也, 山内 真之, 井熊 大輔, 水野 裕基, 大庭 悠貴, 井上 典子, 田中 希穂, 師田 まりえ, 河野 圭, 堂本 裕加子, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹, 長谷川 詠子. 治療予後から検討した TAFRO 症候群 14 例. 日本腎臓学会誌 2023.05.01

31. 青木 悠, 芥田 壮平, 高岡 亜弓, 井川 勇人, 大友 真由子, 谷田部 悠介, 山崎 嘉美, 花岡 まりえ, 岩田 乃理子, 山内 慎一, 伊藤 崇, 若菜 公雄, 春木 茂男, 川田 研郎, 徳永 正則, 絹笠 祐介. 直腸狭窄による腸閉塞症状で発見された婦人科臓器由来の粘液腺癌に対しロボット支援下手術を施行した一例. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.28 東京

32. 加藤 祐己, 伊藤 崇, 新宅 洋, 古川 あすか, 坂井 桃華, 大橋 健一. 粘膜下浸潤食道扁平上皮癌のリンパ節転移危険因子に関する臨床病理学的検討. 第 112 回日本病理学会総会 2023.04.15 下関

33. 畑 千菜, 伊藤 崇, 阿部 大数, 田中 洋次, 梅澤 佳央, 大内 史彦, 内田 諭, 明石 巧, 大橋 健一. 下垂体ラトケ嚢胞摘出術を契機に発見された慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫の一例. 第 112 回日本病理学会総会 2023.04.13 下関

34. 河野 圭, 澤 直樹, 乳原 善文, 堂本 裕加子, 藤井 丈士, 高澤 豊, 大橋 健一. AL アミロイドーシス患者における腎臓へのアミロイド沈着と腎機能 · 腎予後に関しての病理組織学的検討. 日本病理学会会誌 2023.03.01

35. 木脇 祐子, 福村 由紀, 倉田 盛人, 杉田 佳祐, 山本 浩平, 大西 威一郎, 田口 登和子, 工藤 篤, 橋本 雅司, 大橋 健一. nCounter を用いた膵神経内分泌癌の遺伝子発現解析. 日本病理学会会誌 2023.03.01

36. 韓 知佑, 大西 威一郎, 倉田 盛人, 大橋 健一. データベースを用いた、遺伝性乳がんの新たな合成致死因子の探索. 日本病理学会会誌 2023.03.01

37. 明石 巧, 古川 あすか, 内田 佳介, 大橋 健一. パラガングリオーマの病理診断における GATA3、サイトケラチン、転写因子 PHOX2B の有用性の比較検討. 日本病理学会会誌 2023.03.01

38. 嶋田 有里, 吉村 聡一郎, 曽根 莉彩, 田村 佳菜子, 稲田 祐也, 和泉 清隆, 桜井 孝規, 大橋 健一, 伊東 友好. 悪性リンパ腫, サルコイドーシスを繰り返し発症した一例. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

39. 布川 裕規, 田中 一, 明石 巧, 池田 通, 大橋 健一, 山本 浩平. 淡明細胞型腎細胞癌における腫瘍-腎実質境界部の浸潤様式における臨床病理学的検討. 日本病理学会会誌 2023.03.01

40. 加藤 祐己, 伊藤 崇, 新宅 洋, 古川 あすか, 坂井 桃華, 大橋 健一. 粘膜下浸潤食道扁平上皮癌のリンパ節転移危険因子に関する臨床病理学的検討. 日本病理学会会誌 2023.03.01

41. 富田 嘉信, 山本 浩平, 田村 一洋, 坂野 正佳, 篠原 元, 西村 悠, 大森 祐哉, 菊元 沢世, 大橋 健一. 胃癌における GPX4 と FSP1 発現,4-HNE 蓄積の臨床病理学的検討. 日本病理学会会誌 2023.03.01

42. 川出 玄二, 山本 浩平, 倉田 盛人, 大西 威一郎, 松木 裕子, 北川 昌伸, 大橋 健一. 脂質過酸化代謝産物の蓄積による DLBCL での Doxorubicin への抵抗性を介した予後不良の誘導. 日本病理学会会誌 2023.03.01

43. 屋富祖 大騎, 山本 くらら, 伊藤 崇, 田中 陽典, 福田 将義, 山口 和哉, 川田 研郎, 春木 茂男, 明石 巧, 大橋 健一. 食道 lymphoepithelioma-like carcinoma の 1 例. 日本病理学会会誌 2023.03.01

44. 新宅 洋, 安達 彩織, 松木 裕子, 布川 裕規, 北川 昌伸, 廣川 勝いく, 大橋 健一. 食道大動脈瘻の原因として食道憩室炎が疑われた一剖検例. 日本病理学会会誌 2023.03.01

45. 加藤 秀, 山本 くらら, 桐村 進, 有泉 陽介, 立石 優美子, 神谷 尚宏, 明石 巧, 大橋 健一. 鼻腔に発生した Ewing 肉腫の 2 例. 日本病理学会会誌 2023.03.01

[受賞]

1. 卓越博士賞　最優秀賞, TMDU 卓越大学院生制度事業統括, 2023 年 11 月

2. 卓越博士ポスター賞（発表部門）, 23 年度 TMDU-WISE リトリート, 2023 年 12 月

[その他業績]

1. 「COVID-19 に関連した小児突然死の背景にある希少疾患の診断に成功」 —　世界初の分子剖検による LZTR1 変異を有する Noonan 症候群の診断例　—, 2023 年 04 月
Frontiers in Immunology

2. 「希少な免疫細胞の好塩基球がアトピー性皮膚炎治療薬の標的細胞であると判明」 —　PDE4 阻害薬のターゲットの一つとして好塩基球の産生する IL-4 が浮上　— , 2023 年 10 月
Journal of Investigative Dermatology

3. 「希少な免疫細胞の好塩基球がアトピー性皮膚炎治療薬の標的細胞であると判明」 —　PDE4 阻害薬のターゲットの一つとして好塩基球の産生する IL-4 が浮上　— , 2023 年 10 月
Journal of Investigative Dermatology

4. アトピー性皮膚炎薬ジファミラスト、好塩基球の IL-4 産生阻害で効果—東京医歯大ほか, 2023 年 10 月
医療ニュース Qlife Pro

[社会貢献活動]

1. 皮膚病理診断研究会, 福岡大学　病理学講座, コンパニオンミーティングおよび皮膚病理診断セミナー, 2005 年 04 月 17 日 - 現在
2. お茶の水皮膚病理勉強会, 三浦　圭子　, 医学部附属病院 B 棟 5 階症例検討室, 2009 年 04 月 - 現在
3. 経済産業省ヘルスケア産業課 Healthcare Innovation Hub アドバイザー, 2021 年 08 月 01 日 - 現在
4. 医学生がベンチャー企業でインターンシップを行う意義について, 医学書院, 週刊医学界新聞, 2022 年 10 月 05 日 - 現在
5. 免疫ふしぎ未来 2023, 2023 年 07 月

細胞生理学

Physiology and Cell Biology

教　授：礒村 宜和
准教授：平 理一郎
助　教：リオス アライン
助　教：川端 政則
プロジェクト助教：藤田 恭平

(1)　分野概要

細胞生理学分野では、げっ歯類の行動発現を担う脳回路の基本原理を解明することを大きな研究目標として掲げています。特定の行動課題を遂行するラットの大脳皮質、海馬、大脳基底核、視床の神経回路を対象として、多点電極をもちいたマルチニューロン記録技術を中心に、2 光子多細胞イメージング、遺伝子改変動物やアデノ随伴ウイルス（AAV）ベクターを活用したオプトジェネティクス（光遺伝学）技術や理論的解析技術も組み合わせて、神経生理学的研究を推進しています。

(2)　研究活動

【謎に包まれた、行動を生み出す脳の仕組み】
私たちの研究室では、動物の行動発現を担う大脳の神経回路における情報処理の仕組みを、独自の電気生理学的 · 光遺伝学的手法を駆使して探っています。例えば、私たちが手を伸ばして物を掴（つか）むとき、いったい脳の中では何が起こっているのでしょうか？　実は、随意運動の発現を担うとされる大脳皮質の一次運動野の中でさえ、どのような神経細胞が、どのような信号をやり取りして、どうやって「運動指令」を形成するのか、まだほとんど解明されていないのです。ラットなどのげっ歯類は、長い指のついた手を意外にも器用に動かしてエサをしっかりと掴むことができます。つまり、げっ歯類の単純な脳にも、このような巧緻な前肢運動を発現する基本的な回路機能が備わっているはずなのです。
そこで私たちは、ラットの前肢運動による行動を制御する大脳皮質や大脳基底核の神経回路の仕組みを明らかにすることを研究目標に掲げています。　· · · そして、いつかは、脳の神経回路が動作するための「基本原理」を解明したいと願っています。

【研究目標　～何を知りたいか～】
大脳皮質の感覚野や連合野や運動野では、興奮性の錐体細胞と抑制性の介在細胞が「皮質内回路」を形成しています。これらの脳領域は相互に連絡するとともに、海馬、線条体、黒質、視床などを介して、皮質間と皮質下の結合が複雑に組み合わさった「多領域間回路」を形成し、適切な行動の発現に大切な役割を担っています。20 世紀中は、単一ユニット記録法をもちいて、行動に関連する脳内の単一の神経細胞の発火活動（ユニット）が活発に調べられました。ところが、この方法では記録細胞の細胞型や軸索結合を調べることは技術的に極めて困難でした。そこで私たちは、新しい実験技術を開発導入して、大脳皮質を中心とする神経回路がどのような作動原理に基づいて行動情報を形成するのかを探る研究を開始しました。

【研究手法　～どうやって知るのか～】
1．オペラント学習課題
従来、前肢でレバーを押すと報酬を得るオペラント学習課題を訓練するのには、数週間～数か月を要しました。私たちは、レバーとスパウト（飲み口）を合一化した「スパウトレバー」を考案し、わずか数日でラットに前肢の運動課題を学習させることに成功しました。この行動実験系を活用すると、行動を発現するラットを効率よく生理学的実験に供給できます。また、実験目的に応じて、Go/No-go 弁別課題や報酬に基づく行動選択課題などに幅広

く応用することもできます。

２．傍細胞（ジャクスタセルラー）記録
単一神経細胞の発火活動を記録し、その記録細胞の形態を可視化できる画期的な実験技術です。記録細胞を可視化すると、細胞型を同定し、細胞体の存在部位を決め、軸索結合を追い、各種分子マーカーの発現を調べることができます。私たちは、世界に先駆けて、行動している動物を対象とした傍細胞記録実験に挑戦し、ラットの運動野細胞や線条体細胞からの傍細胞記録に成功しました。

３．マルチニューロン（＋局所フィールド電位）記録
シリコンプローブ（多点電極）を介して、多数の神経細胞の発火活動を一挙に記録することができる実験技術です。各電極から得られた信号は、スパイク・ソーティングという解析技術をもちいて、個々の神経細胞由来の発火活動（ユニット）に分離していきます。スパイク・ソーティングには、共同研究者が開発した ETоS という高精度のソフトウェアを使用しています。
　マルチニューロン記録では、記録細胞の可視化同定はできませんが、大脳皮質ではスパイク形状によりＲＳ細胞（主に興奮性細胞）とＦＳ細胞（主に抑制性細胞）に分類できます。この方法によって、行動の発現に関連するＲＳ細胞やＦＳ細胞の間にみられる同期的発火を解析することができます。
　マルチニューロン記録では、局所フィールド電位（LFP）も同時に記録できます。行動発現に関連して大脳皮質や海馬にみられるガンマ波やリップル波などの同期的集団活動も調べています。

４．光遺伝学（オプトジェネティクス）
神経回路の情報処理の仕組みを理解するためには、そこを流れる信号を光遺伝学的に操作して、神経活動の「因果性」を示すことが有用です。私たちは、チャネルロドプシン２（青色光で膜電位が脱分極する）を発現するトランスジェニック・ラットや経路特異的発現ウイルスベクターを使った実験を実施しています。
　さらに、多領域間のスパイク信号を探るために、マルチニューロン記録と光遺伝学を組み合わせて、スパイク・コリジョン試験を並行的に実施し、記録細胞の軸索投射先を効率よく同定する新技術「マルチリンク法」の共同開発にも取り組んでいます。

５．理論的解析・シミュレーション・モデル化
酒井裕教授（玉川大学・神経計算論）などの協力を得て、マルチニューロン記録データの高度かつ効率的な理論的解析を進めています。シミュレーションやモデル化の手法も取り入れて、「実験と理論の融合」の具現化を目指しています。

６．2 光子多細胞イメージング
世界最大視野を有する 2 光子顕微鏡の構築を行っています。この顕微鏡を用いることで、課題遂行中の脳から 10 万個以上の神経細胞活動を記録し、神経細胞が協調的に脳機能を発現する仕組みを明らかにします。

７．ウイルスベクターを用いたファイバーフォトメトリー法による神経活動および神経伝達物質放出の測定
この方法では、まず特定の神経細胞集団に機能的指示分子を標的発現させるための遺伝子組換えウイルスベクターを注入しておきます。神経細胞の集団活動をリアルタイム測定するためには細胞内カルシウム指示分子 GCaMP を使用します。また、局所的なドーパミン放出変化を正確に測定するためにはドーパミン感受性蛍光プローブである dLight を使用します。ウイルスベクターを用いることで、これらの指示分子が対象とする神経細胞に選択的に発現されることが保証され、特定の神経活動または神経伝達物質放出の局所的な測定を可能にします。

【研究の方向性　～オリジナリティの追及～】
　私たちは、脳の本質的な原理を理解するために、ラットの行動発現を担う脳回路の仕組みを研究対象として取り上げています。これまで多くの脳科学研究は、脳活動を「平均」することにより、脳機能の「局在性」をあぶり出す方向に進んできました。しかし、脳活動は時々刻々とダイナミックに変化していますし、単一領域ごとではなく多領域ネットワーク全体が情報処理を担っているのは今や疑いありません。このような「静から動へ」「点から線へ」という視点を大切にして、研究手法を洗練し、学際分野に進出し、失敗を恐れずに、真のオリジナリティを追究したいと考えています。

最新の研究業績は、Researchmap をご覧ください。
https://researchmap.jp/yoshikazuisomura/

(3) 教育活動

当分野では、脳回路の基本原理の解明を目指す研究活動を通じて、次世代の優秀な研究者（ポスドク研究員 · 大学院生など）を応援します。基本方針として、将来像に合せた研究テーマの設定、実験セットアップは 1 台につき 1 ～ 2 名まで、実験技術を一通り習得するカリキュラム、知識よりも論理力を育むディスカッション、研究室内外の効果的な共同研究、を念頭に置いて指導しています。

医学部生の教育では、一般生理学を中心とする「生理学」の授業と実習を受け持っています。また、プロジェクトセメスター、研究実践プログラム、研究者養成コース、MD-PhD コース、歯学科研究実習における学生に対する研究指導も行い、早期からの基礎研究者の育成を目指しています。身体の機能を統合的に理解する生理学は、医師となる基盤を築くためにも極めて大切な学問です。ぜひ自主的かつ積極的に当分野の活動に参加して生理学の醍醐味を味わってください。

(4) 教育方針

各自の自主性と積極性を尊重し、社会的な協調性と責任感を育みます。

(5) 研究業績

[原著]

1. Koji Ikezoe, Naoki Hidaka, Satoshi Manita, Masayoshi Murakami, Shinichiro Tsutsumi, Yoshikazu Isomura, Masanobu Kano, Kazuo Kitamura. Cerebellar climbing fibers multiplex movement and reward signals during a voluntary movement task in mice. Commun Biol. 2023.09; 6(1); 924

2. Rios A, Nonomura S, Kato S, Yoshida J, Matsushita N, Nambu A, Takada M, Hira R, Kobayashi K, Sakai Y, Kimura M, Isomura Y. Reward expectation enhances action-related activity of nigral dopaminergic and two striatal output pathways. Commun Biol. 2023.09; 6(1); 914

3. Riichiro Hira, Leah B. Townsend, Ikuko T. Smith, Che-Hang Yu, Jeffrey N. Stirman, Yiyi Yu, Spencer LaVere Smith. Mesoscale functional architecture in medial posterior parietal cortex. bioRxiv (preprint). 2023.08;

4. Shogo Soma, Shinya Ohara, Satoshi Nonomura, Naofumi Suematsu, Junichi Yoshida, Eva Pastalkova, Yutaka Sakai, Ken-Ichiro Tsutsui, Yoshikazu Isomura. Rat hippocampal CA1 region represents learning-related action and reward events with shorter latency than the lateral entorhinal cortex. Commun Biol. 2023.05; 6(1); 584

5. Tomohiko Yoshizawa, Yuuto Miyamura, Yuta Ochi, Riichiro Hira, Makoto Funahashi, Yutaka Sakai, Yilong Cui, Yoshikazu Isomura. Working memory-based and -free reward prediction in a dual dopamine system in the basal ganglia. bioRxiv (preprint). 2023.03;

[書籍等出版物]

1. 平理一郎、丸山隆一. 生成 AI の科学　「人間らしさ」の正体に迫る. 日経サイエンス, 2023.10 (ISBN : 978-4-296-11796-3)

[講演 · 口頭発表等]

1. Hikaru Sugino, Tatsumi Yoshida, Yoshikazu Isomura, Riichiro Hira. Layer specific temporal activity patterns in superior colliculus in response to cortical input. 第 253 回生理学東京談話会 2023.12.09 帝京大学（板橋）

2. 持増亜依里, 川端政則, 礒村宜和. 待ち時間課題を用いた精神疾患モデルラットにおける認知機能変化の探索. 日本動物心理学会 第 83 回大会 2023.10.08 帝京科学大学 (北千住)

3. 川端政則, 平山由香, 蝦名鉄平, 礒村宜和, 松崎政紀. 巧緻運動を伴うマーモセット用新規認知行動課題の構築 . 日本動物心理学会 第 83 回大会 2023.10.08 帝京科学大学 (北千住)

4. Yoshikazu Isomura. Action-outcome signaling in hippocampus and entorhinal cortex . Diverse approaches to understanding learning and memory 2023.09.26 NIPS, Okazaki

5. Riichiro Hira. Holism in neuroscience: Large-scale recording and simulation. 6TH JP-EU WORKSHOP ON NEUROROBOTICS 2023.09.15 Univ. of Tokyo, Tokyo

6. 宮村裕人, 吉澤知彦, 平理一郎, 礒村宜和. A hierarchical structure of reservoir model enables flexible behavior based on the presence of regularity without synaptic plasticity. 第 33 回日本神経回路学会 2023.09.05 東京大学（文京区）

7. Yoshizawa T, Miyamura Y, Ochi Y, Hira R, Funahashi M, Sakai Y, Cui Y, Isomura Y. Parallel processing of working memory-based and -free reward prediction in dual dopamine system of the basal ganglia . 第46 回日本神経科学大会 2023.08.03 仙台国際センター（宮城県仙台市）

8. Sakairi T, Kawabata M, Alain R, Kaneko S, Sakai Y, Isomura Y. Hippocampal sharp-wave ripples disappear during consummatory licking in head-fixed rodents . 第 46 回日本神経科学大会 2023.08.03 仙台国際センター（宮城県仙台市）

9. Fukabori R, Isomura Y, Kobayashi K. Intermanual transfer between both forelimbs of lever-push motion procedural memory in rodents . 第 46 回日本神経科学大会 2023.08.03 仙台国際センター（宮城県仙台市）

10. Alain Rios, Satoshi Nonomura, Shigeki Kato, Junichi Yoshida, Natsuki Matsushida, Atsushi Nambu, Masahiko Takada, Riichiro Hira, Kazuto Kobayashi, Yutaka Sakai, Minoru Kimura, Yoshikazu Isomura. Integration of Reward Expectation and Action Selection in the Nigrostriatal System. The 46th annual meeting 2023.08.01 Sendai International Center

11. Sunahara M, Rios A, Kawabata M, Takahashi H, Isomura Y. The functional role of thalamic reticular nucleus in motor execution . 第 46 回日本神経科学大会 2023.08.01 仙台国際センター（宮城県仙台市）

12. 川端政則, 礒村宜和. げっ歯類大脳皮質における感覚 · 運動関連情報分布の広域電気生理学的解析 . 第 46 回日本神経科学大会 2023.08.01 仙台国際センター（宮城県仙台市）

13. Yoshikazu Isomura. The basal ganglia predicting and responding to action outcome . 南部篤教授退官記念国際研究会「Multi disciplinary approach to understand neuronal network architecture to control motor actions」 2023.03.18 愛知県岡崎市

14. Yoshikazu Isomura. Adaptive circuit dynamics for operant learning of optimal behavior . ACC International Symposium 2023 2023.02.22 理化学研究所、埼玉県和光市

1. 川端政則. 脳の内部状態を定量化する新規行動課題の確立 . 数学と脳科学の連携に向けたワークショップ 2023.12.28 日本橋

2. 川端政則, 礒村宜和. 広域電気生理学的記録によるげっ歯類大脳皮質における感覚 · 運動情報分布の解明 . 第 253 回日本生理学会東京談話会 2023.12.09 帝京大学 (板橋)

3. 持増亜依里, 川端政則, 礒村宜和. 待ち時間課題における動物のタイミング予測と準備の機構の定量化 . 第 253 回日本生理学会東京談話会 2023.12.09 帝京大学 (板橋)

4. 平　理一郎. 脳を数理で解き明かそう ～実験的アプローチとの融合～. ASCONE2023 2023.11.28 ホテル一宮シーサイドオーツカ（千葉県）

5. 平理一郎. 神経回路学会シンポジウム 1 若手が切り開く脳科学の未来. 第 33 回日本神経回路学会 2023.09.04 東京大学（文京区）

6. 礒村 宜和. 随意運動発現における大脳基底核の役割 ～行動の最適化を実現する～ . 第 37 回日本大脳基底核研究会 JBAGS2023 2023.08.19 アートホテル旭川, 旭川

7. 平理一郎. 大脳領野間の機能相関と解剖学的入力相関の一致. 第 46 回 日本神経科学大会サテライトシンポジウム 2023.08.04 仙台国際センター（宮城県仙台市）

8. 平理一郎, 堤新一郎, オーガナイザー. 大規模計測とシミュレーションの統合による脳の全体性の解明. 第 46 回 日本神経科学大会 2023.08.03 仙台国際センター（宮城県仙台市）

9. 今村 啓人, 今村 文哉, 藤岡 修, 鴨志田 敦史, 船水 章大, 礒村 宜和, 平 理一郎. FPGA を用いた高速アナログサンプリングソフトウェアの開発と大規模 2 光子カルシウムイメージングへの応用. 第 46 回日本神経科学大会 2023.08.01 仙台国際センター（宮城県仙台市）

10. 坂入 朋美, 川端 政則, Rios Alain, 金子 聡, 酒井 裕, 礒村 宜和. Hippocampal spike activity and sharp-wave ripples augmented and attenuated during reward expectation and acquisition respectively . 日本生理学会 第 100 回記念大会 2023.03.16 国立京都国際会館（京都市）

11. 宮村 裕人, 吉澤 知彦, 平 理一郎, 礒村 宜和. A multi-reservoir model enabling flexible behavior based on the presence of rule without reorganization of neural circuits . 日本生理学会 第 100 回記念大会 2023.03.16 国立京都国際会館（京都市）

12. Oota Satoshi, Mori Hiroki, Yoshiki Atsushi, Himeno Ryutaro, Hira Riichiro, Yokota Hideo. 結合組織特異的遺伝子発現パターンを用いた実験用マウス筋骨格モデルの開発. 日本生理学会第 100 回記念大会 2023.03.15 国立京都国際会館（京都市）

13. 杉野 光, 吉田 達見, 礒村 宜和, 平 理一郎. High-throughput mapping of multi-synaptic functional pathways from the cerebrum to the SNr.. 日本生理学会 第 100 回記念大会 2023.03.15 国立京都国際会館（京都市）

14. 山本 日菜子, 五十嵐 潤, 礒村 宜和, 平 理一郎. げっ歯類の大脳皮質-大脳基底核-小脳回路を用いた中規模スパイ キングニューラルネットワークモデルの構築.. 日本生理学会 2023.03.15 国立京都国際会館（京都市）

15. 杉崎 えり子, 亀井 和久, 門傳 忠叡, 礒村 宜和, 相原 威. 海馬歯状回における内側貫通路と外側貫通路シナプスの連合可塑 性に対するアセチルコリン効果 . 日本生理学会 第 100 回記念大会 2023.03.14 国立京都国際会館（京都市）

16. 吉澤 知彦, 宮村 裕人, 越智 祐太, 平 理一郎, 舩橋 誠, 酒井 裕, 崔 翼龍, 礒村 宜和. 大脳基底核の二重ドーパミン系による作業記憶依存性 · 非依存性 の報酬予測 . 日本生理学会 第 100 回記念大会 2023.03.14 国立京都国際会館（京都市）

17. 今村 文哉, 今村 啓人, 池田 大雄, 礒村 宜和, 平 理一郎. In-house manufacture of Diesel2p mesoscope and demonstration of large field-of-view two-photon calcium imaging during a conditioning task.. 日本生理学会 第 100 回記念大会 2023.03.14 国立京都国際会館（京都市）

18. Tomohiko Yoshizawa, Yuuto Miyamura, Yuta Ochi, Riichiro Hira, Makoto Funahashi, Yutaka Sakai, Yilong Cui, Yoshikazu Isomura. Working memory-based and -free reward prediction in dual dopamine system of the basal ganglia . 脳と心のメカニズム冬のワークショップ 2023 2023.01.06 北海道ルスツ

1. 平理一郎, オーガナイザ. 神経回路学会シンポジウム 2 意識と数理. 第 33 回日本神経回路学会 2023.09.04

[受賞]

1. 優秀演題賞, 日本生理学会, 2023 年 12 月

[その他業績]

1. 「最近の成功を活かして適切な行動を選択する脳の仕組みを解明」— 成功への期待が大脳基底核の活動を高める —, 2023 年 09 月
   Reward expectation enhances action-related activity of nigral dopaminergic and two striatal output pathways

2. 「最近の成功を活かして適切な行動を選択する脳の仕組みを解明」 — 成功への期待が大脳基底核の活動を高める —, 2023 年 09 月
   Reward expectation enhances action-related activity of nigral dopaminergic and two striatal output pathways

[社会貢献活動]

1. ドーパミン細胞の働きについて, 株式会社ニューズピックス, NewsPicks, 2023 年 04 月 29 日

幹細胞制御分野

Department of Stem Cell Regulation

教　　授　田賀　哲也
講　　師　楢　　康一
助　　教　室田　吉貴
事務補佐員　牧野　まや
技術補佐員　野寺　真理花

(1) 分野概要

個体発生において、各組織 · 器官を構成する多細胞集団を生み出すもととなるそれぞれの組織 · 器官特異的な幹細胞が重要な役割を担っている。それら幹細胞の発生、多分化能の維持、おのおのの細胞系譜への分化の各過程には、細胞増殖分化因子群や細胞表面分子群等を介した細胞外来性シグナルと、エピジェネティック修飾や転写因子存在プロファイルなどに基づく細胞内在性プログラムが深く関わっている。当分野では、このように生体内各組織の形成 · 維持 · 再生に重要な役割を果たす幹細胞に焦点をあてて、正常組織幹細胞 (体性幹細胞) としては主に神経幹細胞や造血幹細胞を研究対象として、幹細胞制御の分子基盤を明らかにすることを目的とした研究を実施している。また、癌幹細胞およびその生存に寄与する微小環境である癌幹細胞ニッチの特性解明にも取り組んでおり、総合的に得られた知見が、神経幹細胞 · 造血幹細胞のみならず広く生体内各組織の発生 · 再生に関わる正常幹細胞や、癌の再発に関与する癌幹細胞を制御する機構の普遍的理解ならびに、医療応用への糸口となるよう研究を推進している。

(2) 研究活動

生体内各組織の形成 · 維持 · 再生に重要な役割を果たす幹細胞は、それぞれの組織を構成する多細胞集団を生み出す一方で、そのような多分化能を維持した自己複製も行う。それら組織幹細胞（体性幹細胞）の発生や多分化能維持、あるいは組織内各細胞系譜への分化といった過程においては、増殖分化因子や細胞外マトリクスなどによる細胞外来性のシグナルと、エピジェネティック修飾や転写因子存在プロファイルに基づく細胞内在性のプログラムが深く関わっている。幹細胞制御分野における組織幹細胞に焦点を当てた研究は、主として神経幹細胞や造血幹細胞を研究対象として幹細胞制御の分子基盤を明らかにすることを目的として実施している。また癌幹細胞に焦点を当てた研究では、癌幹細胞の特性解明とともに、癌幹細胞の維持に寄与する微小環境（ニッチ）の分子基盤解明にも取り組んでいる。総合的に得られた知見が、神経幹細胞や造血幹細胞のみならず広く生体内組織の発生 · 再生に関わる正常幹細胞や、癌の再発に関与する癌幹細胞を制御する機構の普遍的理解ならびに、医療応用への開発的研究の手がかりとなるよう研究を推進している。

(3) 教育活動

個体発生における器官形成過程では、組織 · 器官を構成する多細胞集団を生み出すもととなる組織 · 器官特異的幹細胞の発生、多分化能維持、ならびに各細胞系譜への分化機構が重要である。それらの機構には増殖分化因子群や細胞表面分子群等を介した細胞外来性シグナルと、エピジェネティック修飾や転写因子存在プロファイル等に基づく細胞内在性プログラムが深く関わっている。幹細胞を制御する知識 · 技術の習得および基礎的 · 応用開発的研究の推進は、幹細胞に派生する各種組織 · 臓器の発生と再生の理解に結びつく重要な意義がある。当分野ではこれらを念頭にして、主として中枢神経系や造血系の幹細胞および、癌幹細胞を対象とした教育に取り組んでいる。

(4) 教育方針

組織の発生と修復を理解する上で、それぞれの組織を構成する多細胞集団を生み出すもととなる組織特異的幹細胞の制御機構を学ぶことは重要な意義がある。当分野の教育においては、主として中枢神経系や造血系、その他の組織特異的幹細胞だけでなく、癌組織における幹細胞（癌幹細胞）も対象として、幹細胞制御について学ぶ。その際、増殖分化因子群等を介した細胞外来性シグナルと、エピジェネティック修飾等に基づく細胞内在性プログラムなど多角的観点から取り組むことで、広く生体内の正常組織幹細胞や、病態における幹細胞の制御機構が理解できるよう努める。

(5) 研究業績

[原著]

1. Melig G, Nobuhisa I, Saito K, Tsukahara R, Itabashi A, Kanai Y, Kanai-Azuma M, Osawa M, Oshima M, Iwama A, Taga T. A Sox17 downstream gene Rasip1 is involved in the hematopoietic activity of intra-aortic hematopoietic clusters in the midgestation mouse embryo. Inflamm Regen. 2023.08; 43(1); 41

2. Yoshitaka Murota, Mariko Nagane, Mei Wu, Mithun Santra, Seshasailam Venkateswaran, Shinji Tanaka, Mark Bradley, Tetsuya Taga, Kouichi Tabu . A niche-mimicking polymer hydrogel-based approach to identify molecular targets for tackling human pancreatic cancer stem cells Inflammation and Regeneration. 2023.09; 43(1); 46

3. Murota Y, Nagane M, Wu M, Santra M, Venkateswaran S, Tanaka S, Bradley M, Taga T, Tabu K. A niche-mimicking polymer hydrogel-based approach to identify molecular targets for tackling human pancreatic cancer stem cells. Inflammation and regeneration. 2023.09; 43(1); 46

4. Kashiwagi Taichi, Takazawa Yuuki, Kagawa Tetsushi, Taga Tetsuya. Organization of self-advantageous niche by neural stem/progenitor cells during development via autocrine VEGF-A under hypoxia INFLAMMATION AND REGENERATION. 2023.02; 43(1); 8

[講演 · 口頭発表等]

1. Tarapongpun Tanakorn, Chuthapisith Suebwong, Onlamoon Nattawa, Kouichi Tabu, Yoshitaka Murota, Tetsuya Taga. Combinatorial Use of EGF and FGFs to Prime Human Adipose-derived Mesenchymal Stem Cells for Pre-adipocyte Commitment. 第 18 回生命医科学研究所ネットワーク国際シンポジウム 2023.10.06 Tokyo Medical and Dental University (TMDU), Tokyo

2. Wenyu Liu, Kouichi Tabu, Yoshitaka Murota, Tetsuya Taga. Differential susceptibility of mouse adult neural stem cells and astrocytes to oncogenic transformation. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2023.09.23 PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan

3. Yoshitaka Murota, Shinji Tanaka, Tetsuya Taga, Kouichi Tabu. Niche-mimicking polymer hydrogel-based identification of fetuin-B as a potential target for pancreatic cancer. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2023.09.22 PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan

4. Tarapongpun Tanakorn, Chuthapisith Suebwong, Onlamoon Nattawa, Kouichi Tabu, Tetsuya Taga. Effect of Growth Factors on Priming Human Adipose-Derived Mesenchymal Stem Cells to Committed Preadipocytes Before Lipofilling. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2023.09.22 PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan

5. Gerel Melig, Ikuo Nobuhisa, Kiyoka Saito, Ryota Tsukahara, Ayumi Itabashi, Yoshiakira Kanai, Masami Kanai-Azuma, Tetsuya Taga. Rasip1 helps maintenance of hematopoietic activities of mouse embryonic intra-aortic hematopoietic clusters.. The 44th Annual Meeting of the Japanese Society of Inflammation and Regeneration 2023.07.12

6. Norihisa Bizen, Kouichi Tabu, Mei Wu, Christian Mangani, Rong Zhang, Mark Bradley, Tetsuya Taga . Development of synthetic polymer scaffolds mimicking a niche that maintains neural stem cells in a growth factor- and serum-free system. The 20th Stem Cell Research Symposium 2023.05.19 Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji, Japan

7. Gerel Melig, Ikuo Nobuhisa, Kiyoka Saito, Ryota Tsukahara, Ayumi Itabashi, Yoshiakira Kanai, Masami Kanai-Azuma, Tetsuya Taga. Rasip1 gene functioning downstream of Sox17 maintains the hematopoietic cluster-forming cells in E10.5 mouse embryos.. The 20th Stem Cell Research Symposium 2023.05.19

8. Taichi Kashiwagi, Yuuki Takazawa, Tetsushi Kagawa, Tetsuya Taga. Self-maintenance strategies of neural stem/progenitor cells via autocrine VEGF-A under hypoxia in the developing brain.. The 20th Stem Cell Research Symposium 2023.05.19

1. 室田吉貴, 坂井優太, 楠康一, 田賀哲也 . 免疫適合性マウスグリオーマモデルを用いた末梢血免疫細胞の経時的プロファイリング. 第 44 回日本炎症 · 再生医学会 2023.07.12 Osaka

[その他業績]

1. 「胎生期の神経幹細胞が低酸素環境に適応して自己複製する仕組みを解明」 — 神経幹細胞が自己維持のための因子を分泌する生存戦略が明らかに —, 2023 年 02 月
Inflammation and Regeneration

2. 「胎生期の神経幹細胞が低酸素環境に適応して自己複製する仕組みを解明」 — 神経幹細胞が自己維持のための因子を分泌する生存戦略が明らかに —, 2023 年 02 月
Inflammation and Regeneration

3. Filling a niche: Neural stem cells help maintain their microenvironment, 2023 年 03 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

4. Filling a niche: Neural stem cells help maintain their microenvironment, 2023 年 03 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

5. 「胎生期の造血幹細胞の増殖 · 維持に寄与する新規遺伝子の同定」 — 造血幹細胞を生体外で増殖する技術開発への期待 —, 2023 年 08 月
Inflammation and Regeneration

6. 「胎生期の造血幹細胞の増殖 · 維持に寄与する新規遺伝子の同定」 — 造血幹細胞を生体外で増殖する技術開発への期待 —, 2023 年 08 月
Inflammation and Regeneration

7. The origins of blood: researchers identify a gene critical to blood production, 2023 年 09 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

8. The origins of blood: researchers identify a gene critical to blood production, 2023 年 09 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

9. 「膵がん幹細胞の生存環境を擬態するバイオ機能性ハイドロゲルの開発に成功」 —がん微小環境の新たな標的探索手法として様々ながん種への応用に期待—, 2023 年 10 月
Inflammation and Regeneration

10. 「膵がん幹細胞の生存環境を擬態するバイオ機能性ハイドロゲルの開発に成功」 —がん微小環境の新たな標的探索手法として様々ながん種への応用に期待—, 2023 年 10 月
Inflammation and Regeneration

11. Finding your niche: A synthetic cancer stem cell microenvironment, 2023 年 11 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

12. Finding your niche: A synthetic cancer stem cell microenvironment, 2023 年 11 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. Inflammation and Regeneration 誌　Editorial Board, 2002 年 07 月 01 日 - 現在

2. Genes to Cells 誌　Editorial Board, 2005 年 04 月 01 日 - 現在

統合呼吸器病学

Respiratory Medicine

教授：宮崎泰成
講師：古澤春彦
助教：白井剛、本多隆行、柴田翔、榊原里江
特任助教：園田史朗、島田翔、青木光
医員：加藤里奈、春原涼、安井渉、花輪俊弥、澤田淳、甲斐文彬
レジデント：安田朋加、石川氷介
大学院生：安東敬大、遠藤駿、杉原潤、望月晶史、島村貴史、伊藤優、藤井伸哉、近藤信幸、安部豪眞、朝尾菜津美、井上渉

保健衛生学科教授：角勇樹
保健管理センター教授：田澤立之
保健管理センター助教：高澤聖子
呼吸 · 睡眠制御学准教授：立石知也
長寿 · 健康人生推進センター准教授：岡本師
肺免疫制御学助教：石塚聖洋
特任教授：瀬戸口靖弘

(1) 分野概要

肺は呼吸をするために外界と接しており、細菌 · ウイルス感染、喫煙、粉塵曝露など外的因子の影響を受けやすい臓器である。そのため呼吸器疾患は腫瘍、感染症、アレルギー疾患、その他の炎症、先天異常まで多岐にわたる。当分野では科学的視点を持ちながら、幅広い呼吸器疾患の病態生理を理解し、疾患発生のメカニズムに迫る研究の構築が可能な研究者を育てる。

(2) 研究活動

1. 過敏性肺炎の病態解明、環境における原因抗原の同定
2. 肺線維化の病態解明
3. 間質性肺炎における急性増悪の病態の解明
4. 肺線維化と気腫性変化の病態解明
5. 中皮腫における腫瘍免疫
6. 口腔アレルギー症候群と喘息　減感作の検討
2. 喘息モデルにおける気道リモデリング機序の解明
6. 睡眠時無呼吸症の病態生理
7. 抗菌薬耐性菌の治療開発

(3) 教育活動

卒前および卒後初期の教育では、基本的な知識の習得はもちろんプロフェッショナルな医師としての自覚と責任を培うことを重視して教育にあたっている。その後は内科医として幅広い知識と技術を身につけた上で呼吸器内科専門医としてさらに研鑽を積むこととなる。呼吸器疾患は多岐にわたり、呼吸器内科医としての修練は生涯続

くといえる。

(4) 教育方針

幅広い呼吸器疾患の病態を科学的視点から理解し、呼吸器疾患の臨床 · 研究において未解決の問題の解決に向けて適切な研究計画を立て実践する。

(5) 臨床活動および学外活動

内科各科の中でも常に多くの入院患者を担当しており、患者の QOL 改善にも留意して最短の入院期間で最大限の治療効果をあげるべく診療を行っている。教授を中心として教員により連日診療内容の確認が行われ、他科や他施設からのコンサルテーションも多い。外来においても肺癌化学療法，在宅酸素療法，睡眠時無呼吸外来、臨床試験の実施など専門性の高い診療が行われている。

(6) 臨床上の特色

間質性肺炎や過敏性肺炎を含むびまん性肺疾患の診療経験が豊富であり全国からの紹介も多い。過敏性肺炎の診療においては特異抗体測定、吸入誘発試験など免疫学的検査を行っており、適切な診断を実践している。

(7) 研究業績

[原著]

1. Funaita C, Furuie W, Koike F, Oyama S, Endo J, Otani Y, Ichikawa Y, Ito M, Nakamura Y, Komatuzaki K, Hirata A, Miyazaki Y, Sumi Y. Pattern recognition of forced oscillation technique measurement results using deep learning can identify asthmatic patients more accurately than setting reference ranges. Scientific reports. 2023.12; 13(1); 21608

2. Endo S, Okamoto T, Kawahara T, Anzai T, Takahashi K, Miyazaki Y. Effect of warm and humid days on the positivity rate of anti-Trichosporon asahii antibody test for the diagnosis of summer-type hypersensitivity pneumonitis. Respiratory investigation. 2023.12; 62(1); 150-156

3. Takahiro Ando, Sho Shimada, Jun Sugihara, Koji Takayama, Masayoshi Kobayashi, Yoshihiro Miyashita, Tatsuya Ito, Kaori Okayasu, Shun Tsuyuki, Takehiko Ohba, Masafumi Doi, Hiroaki Saito, Toshihide Fujie, Tomoshige Chiaki, Atsushi Nakagawa, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Sho Shibata, Tomoya Tateishi, Yasunari Miyazaki. Impairment of Social-Related Quality of Life in COVID-19 Pneumonia Survivors: A Prospective Longitudinal Study. J Clin Med. 2023.12; 12(24);

4. Okamoto M, Fujimoto K, Johkoh T, Kawaguchi A, Mukae H, Sakamoto N, Ogura T, Ikeda S, Kondoh Y, Yamano Y, Komiya K, Umeki K, Nishikiori H, Tanino Y, Tsuda T, Arai N, Komatsu M, Sakamoto S, Yatera K, Inoue Y, Miyazaki Y, Hashimoto S, Shimizu Y, Hozumi H, Ohnishi H, Handa T, Hattori N, Kishaba T, Kato M, Inomata M, Ishii H, Hamada N, Konno S, Zaizen Y, Azuma A, Suda T, Izuhara K, Hoshino T. A prospective cohort study of periostin as a serum biomarker in patients with idiopathic pulmonary fibrosis treated with nintedanib. Scientific reports. 2023.12; 13(1); 22977

5. Kondo N, Utsumi T, Shimizu Y, Takemoto A, Oh-Hara T, Uchibori K, Subat-Motoshi S, Ninomiya H, Takeuchi K, Nishio M, Miyazaki Y, Katayama R. MIG6 loss confers resistance to ALK/ROS1 inhibitors in NSCLC through EGFR activation by low-dose EGF. JCI insight. 2023.11; 8(24);

6. Tomioka H, Miyazaki Y, Inoue Y, Egashira R, Kawamura T, Sano H, Johkoh T, Takemura T, Hisada T, Fukuoka J, committee of Japanese Respiratory Society for Japanese clinical practice guide 2022 for hypersensitivity pneumonitis. Japanese clinical practice guide 2022 for hypersensitivity pneumonitis. Respiratory investigation. 2023.11; 62(1); 16-43

7. Komatsuzaki K, Kageshima H, Sekino Y, Suzuki Y, Ugajin T, Tamaoka M, Hanazawa R, Hirakawa A, Miyazaki Y. Local nasal immunotherapy with birch pollen-galactomannan conjugate-containing ointment in mice and humans. Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology. 2023.11;

8. Shiraishi K, Takahashi A, Momozawa Y, Daigo Y, Kaneko S, Kawaguchi T, Kunitoh H, Matsumoto S, Horinouchi H, Goto A, Honda T, Shimizu K, Torasawa M, Takayanagi D, Saito M, Saito A, Ohe Y, Watanabe SI, Goto K, Tsuboi M, Tsuchihara K, Takata S, Aoi T, Takano A, Kobayashi M, Miyagi Y, Tanaka K, Suzuki H, Maeda D, Yamaura T, Matsuda M, Shimada Y, Mizuno T, Sakamoto H, Yoshida T, Goto Y, Yoshida T, Yamaji T, Sonobe M, Toyooka S, Yoneda K, Masago K, Tanaka F, Hara M, Fuse N, Nishizuka SS, Motoi N, Sawada N, Nishida Y, Kumada K, Takeuchi K, Tanno K, Yatabe Y, Sunami K, Hishida T, Miyazaki Y, Ito H, Amemiya M, Totsuka H, Nakayama H, Yokose T, Ishigaki K, Nagashima T, Ohtaki Y, Imai K, Takasawa K, Minamiya Y, Kobayashi K, Okubo K, Wakai K, Shimizu A, Yamamoto M, Iwasaki M, Matsuda K, Inazawa J, Shiraishi Y, Nishikawa H, Murakami Y, Kubo M, Matsuda F, Kamatani Y, Hamamoto R, Matsuo K, Kohno T. Identification of telomere maintenance gene variations related to lung adenocarcinoma risk by genome-wide association and whole genome sequencing analyses. Cancer communications (London, England). 2023.10;

9. Honda T, Seto K, Endo S, Takemoto A, Tanimoto K, Kobayashi M, Kitano M, Sakakibara R, Mitsumura T, Ishibashi H, Inazawa J, Tanaka T, Miyazaki Y, Okubo K. The possibility of mutations of RAS signaling genes and/or TP53 in combination as a negative prognostic impact on pathological stage I non-small cell lung cancer. Cancer medicine. 2023.09;

10. Saito Sho, Kutsuna Satoshi, Imamura Akifumi, Hase Ryota, Oda Rentaro, Terada Junko, Shimizu Yosuke, Uemura Yukari, Takamatsu Yuki, Yasuhara Akemi, Shiratori Katsuyuki, Satake Masahiro, Sakamoto Naoya, Miyazaki Yasunari, Shimizu Hidefumi, Togano Tomiteru, Matsunaga Akihiro, Okuma Kazu, Hamaguchi Isao, Fujisawa Kyoko, Nagashima Maki, Ashida Shinobu, Terada Mari, Kimura Akiko, Morioka Shinichiro, Matsubayashi Keiji, Tsuno Nelson Hirokazu, Kojima Makiko, Kuramitsu Madoka, Tezuka Kenta, Ikebe Emi, Ishizaka Yukihito, Maeda Kenji, Hangaishi Akira, Mikami Ayako, Sugiura Wataru, Ohmagari Norio, Mitsuya Hiroaki. Efficacy of convalescent plasma therapy for COVID-19 in Japan: An open-label, randomized, controlled trial(タイトル和訳中) Journal of Infection and Chemotherapy. 2023.09; 29(9); 869-874

11. Maruyama S, Furusawa H, Endo S, Kumagai T, Mitsumura T, Shimada S, Yamana T, Sakakibara R, Iijima Y, Shibata S, Honda T, Shirai T, Okamoto T, Tateishi T, Tamaoka M, Kinowaki Y, Ishibashi H, Okubo K, Miyazaki Y. Pulmonary Artery Aneurysm in a Patient with Nontuberculous Mycobacteria Infection. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2023.08;

12. Endo S, Honda T, Sato K, Kubota N, Kamoshida T, Mochizuki A, Fujii M, Ochi J, Miyazaki Y, Tsukada Y. Evaluating the potential of immunotherapy and chemoimmunotherapy in the treatment of elderly non-small cell lung cancer patients: A real-world study. Cancer treatment and research communications. 2023.08; 37; 100755

13. Kataoka K, Oda K, Takizawa H, Ogura T, Miyamoto A, Inoue Y, Akagawa S, Hashimoto S, Kishaba T, Sakamoto K, Hamada N, Kuwano K, Nakayama M, Ebina M, Enomoto N, Miyazaki Y, Atsumi K, Izumi S, Tanino Y, Ishii H, Ohnishi H, Suda T, Kondoh Y. Cohort study to evaluate prognostic factors in idiopathic pulmonary fibrosis patients introduced to oxygen therapy. Scientific reports. 2023.08; 13(1); 13664

14. Nishioka Y, Homma S, Ogura T, Sato S, Arai N, Tomii K, Kamio K, Sakamoto S, Miyazaki Y, Tomioka H, Hisata S, Handa T, Azuma A. Exploratory phase 2 study of the novel oral multi-kinase inhibitor TAS-115 in patients with idiopathic pulmonary fibrosis. Respiratory investigation. 2023.07; 61(4); 498-507

15. Mitsui Y, Suzuki T, Kuniyoshi K, Inamo J, Yamaguchi K, Komuro M, Watanabe J, Edamoto M, Li S, Kouno T, Oba S, Hosoya T, Masuhiro K, Naito Y, Koyama S, Sakaguchi N, Standley DM, Shin JW, Akira S, Yasuda S, Miyazaki Y, Kochi Y, Kumanogoh A, Okamoto T, Satoh T. Expression of the readthrough transcript CiDRE in alveolar macrophages boosts SARS-CoV-2 susceptibility and promotes COVID-19 severity. Immunity. 2023.07; 56(8); 1939-1954.e12

16. Yin Y, Sakakibara R, Honda T, Kirimura S, Daroonpan P, Kobayashi M, Ando K, Ujiie H, Kato T, Kaga K, Mitsumura T, Nakano R, Sakashita H, Matsuge S, Ishibashi H, Akashi T, Hida Y, Morohoshi T, Azuma M, Okubo K, Miyazaki Y. High density and proximity of CD8(+) T cells to tumor cells are

correlated with better response to nivolumab treatment in metastatic pleural mesothelioma. Thoracic cancer. 2023.07; 14(20); 1991-2000

17. Shirai T, Tanino Y, Nikaido T, Takaku Y, Hashimoto S, Taguchi Y, Baba T, Ogura T, Kataoka K, Nakayama M, Yamada Y, Matsushima S, Minami K, Miyazaki Y. Utility of budgerigar/pigeon/parrot-specific IgG antibody with ImmunoCAP® in bird-related hypersensitivity pneumonitis caused by other bird species and duvet. Respiratory investigation. 2023.07; 61(4); 520-526

18. Nishioka Yasuhiko, Homma Sakae, Ogura Takashi, Sato Seidai, Arai Naoki, Tomii Keisuke, Kamio Koichiro, Sakamoto Susumu, Miyazaki Yasunari, Tomioka Hiromi, Hisata Shu, Handa Tomohiro, Azuma Arata. Exploratory phase 2 study of the novel oral multi-kinase inhibitor TAS-115 in patients with idiopathic pulmonary fibrosis(タイトル和訳中) Respiratory Investigation. 2023.07; 61(4); 498-507

19. Shirai Tsuyoshi, Tanino Yoshinori, Nikaido Takefumi, Takaku Yotaro, Hashimoto Seishu, Taguchi Yoshio, Baba Tomohisa, Ogura Takashi, Kataoka Kensuke, Nakayama Masayuki, Yamada Yoshihito, Matsushima Sayomi, Minami Keiichiro, Miyazaki Yasunari. Utility of budgerigar/pigeon/parrot-specific IgG antibody with immunoCAP in bird-related hypersensitivity pneumonitis caused by other bird species and duvet(タイトル和訳中) Respiratory Investigation. 2023.07; 61(4); 520-526

20. Hosoya T, Oba S, Komiya Y, Kawata D, Kamiya M, Iwai H, Miyamoto S, Kataoka M, Tobiume M, Kanno T, Ainai A, Sato H, Hirakawa A, Mitsui Y, Satoh T, Wakabayashi K, Yamada T, Otomo Y, Miyazaki Y, Hasegawa H, Suzuki T, Yasuda S. Apple-shaped obesity: A risky soil for cytokine-accelerated severity in COVID-19. Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America. 2023.05; 120(22); e2300155120

21. Okayasu K, Kawasaki T, Kumagai J, Miyazaki Y. Clinicoradiological course of abemaciclib-induced pneumonitis with histology findings. BMJ case reports. 2023.05; 16(5);

22. Saito S, Kutsuna S, Akifumi I, Hase R, Oda R, Terada J, Shimizu Y, Uemura Y, Takamatsu Y, Yasuhara A, Shiratori K, Satake M, Sakamoto N, Miyazaki Y, Shimizu H, Togano T, Matsunaga A, Okuma K, Hamaguchi I, Fujisawa K, Nagashima M, Ashida S, Terada M, Kimura A, Morioka S, Matsubayashi K, Tsuno NH, Kojima M, Kuramitsu M, Tezuka K, Ikebe E, Ishizaka Y, Kenji M, Hangaishi A, Mikami A, Sugiura W, Ohmagari N, Mitsuya H. Efficacy of convalescent plasma therapy for COVID-19 in Japan: An open-label, randomized, controlled trial. Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy. 2023.05; 29(9); 869-874

23. Tateishi Tomoya, Shimada Sho, Yamana Takashi, Iijima Yuki, Sakakibara Rie, Mitsumura Takahiro, Shibata Sho, Honda Takayuki, Shirai Tsuyoshi, Okamoto Tsukasa, Tamaoka Meiyo, Sasai Tsuneo, Miyazaki Yasunari. COVID-19 Pneumonia Followed by Anti-signal Recognition Particle Antibody-positive Fibrosing Interstitial Lung Disease(タイトル和訳中) Internal Medicine. 2023.05; 62(9); 1323-1328

24. Shi J, Shiraishi K, Choi J, Matsuo K, Chen TY, Dai J, Hung RJ, Chen K, Shu XO, Kim YT, Landi MT, Lin D, Zheng W, Yin Z, Zhou B, Song B, Wang J, Seow WJ, Song L, Chang IS, Hu W, Chien LH, Cai Q, Hong YC, Kim HN, Wu YL, Wong MP, Richardson BD, Funderburk KM, Li S, Zhang T, Breeze C, Wang Z, Blechter B, Bassig BA, Kim JH, Albanes D, Wong JYY, Shin MH, Chung LP, Yang Y, An SJ, Zheng H, Yatabe Y, Zhang XC, Kim YC, Caporaso NE, Chang J, Ho JCM, Kubo M, Daigo Y, Song M, Momozawa Y, Kamatani Y, Kobayashi M, Okubo K, Honda T, Hosgood DH, Kunitoh H, Patel H, Watanabe SI, Miyagi Y, Nakayama H, Matsumoto S, Horinouchi H, Tsuboi M, Hamamoto R, Goto K, Ohe Y, Takahashi A, Goto A, Minamiya Y, Hara M, Nishida Y, Takeuchi K, Wakai K, Matsuda K, Murakami Y, Shimizu K, Suzuki H, Saito M, Ohtaki Y, Tanaka K, Wu T, Wei F, Dai H, Machiela MJ, Su J, Kim YH, Oh IJ, Lee VHF, Chang GC, Tsai YH, Chen KY, Huang MS, Su WC, Chen YM, Seow A, Park JY, Kweon SS, Chen KC, Gao YT, Qian B, Wu C, Lu D, Liu J, Schwartz AG, Houlston R, Spitz MR, Gorlov IP, Wu X, Yang P, Lam S, Tardon A, Chen C, Bojesen SE, Johansson M, Risch A, Bickeböller H, Ji BT, Wichmann HE, Christiani DC, Rennert G, Arnold S, Brennan P, McKay J, Field JK, Shete SS, Le Marchand L, Liu G, Andrew A, Kiemeney LA, Zienolddiny-Narui S, Grankvist K, Johansson M, Cox A, Taylor F, Yuan JM, Lazarus P, Schabath MB, Aldrich MC, Jeon HS, Jiang SS, Sung JS, Chen CH, Hsiao CF, Jung YJ, Guo H, Hu Z, Burdett L, Yeager M, Hutchinson A, Hicks B, Liu J, Zhu B, Berndt SI, Wu W, Wang J, Li Y, Choi JE, Park KH, Sung SW, Liu L, Kang CH, Wang WC, Xu J, Guan P, Tan W, Yu CJ, Yang G, Sihoe ADL, Chen Y, Choi YY, Kim JS, Yoon HI, Park IK, Xu P, He Q, Wang CL, Hung HH, Vermeulen RCH, Cheng I, Wu J, Lim WY, Tsai FY, Chan JKC, Li J, Chen H, Lin HC, Jin L, Liu J, Sawada N, Yamaji T, Wyatt K, Li SA, Ma H, Zhu M, Wang Z, Cheng S, Li X, Ren Y, Chao A,

Iwasaki M, Zhu J, Jiang G, Fei K, Wu G, Chen CY, Chen CJ, Yang PC, Yu J, Stevens VL, Fraumeni JF Jr, Chatterjee N, Gorlova OY, Hsiung CA, Amos CI, Shen H, Chanock SJ, Rothman N, Kohno T, Lan Q. Genome-wide association study of lung adenocarcinoma in East Asia and comparison with a European population. Nature communications. 2023.05; 14(1); 3043

25. Kaneko Shun, Asahina Yasuhiro, Nakagawa Mina, Murakawa Miyako, Miyazaki Yasunari, Asakage Takahiro, Fukuda Shohei, Namiki Takeshi, Kano Yoshihito, Nagata Masashi, Tsuchiya Jun, Miyoshi Masato, Kitahata-Kawai Fukiko, Nitta Sayuri, Itsui Yasuhiro, Kakinuma Sei, Okamoto Ryuichi. Factors associated with liver injury and prognosis in advanced cancer patients treated with immune checkpoint inhibitors(タイトル和訳中) Hepatology Research. 2023.05; 53(5); 450-459

26. Hasegawa T, Yoshida M, Watanabe S, Kondo T, Asada H, Nakagawa A, Tomii K, Kameda M, Otsuka M, Kuronuma K, Chiba H, Katayanagi S, Miyazaki Y, Mori A. Development of a new HISCL automated CXCL9 immunoassay. Scientific reports. 2023.04; 13(1); 5342

27. Ikeda Tokuji, Ichiba Shingo, Sasaki Takashi, Sato Masaaki, Konoeda Chihiro, Okamoto Tsukasa, Miyazaki Yasunari, Nakajima Jun, Sakamoto Atsuhiro. A case of severe respiratory failure due to interstitial pneumonia successfully bridged to lung transplantation from a brain-dead donor using 109-day veno-arterial extracorporeal membrane oxygenation(タイトル和訳中) Journal of Artificial Organs. 2023.03; 26(1); 84-88

28. Yamashita Shohei, Okamoto Tsukasa, Kawahara Tatsuo, Tateishi Tomoya, Anzai Tatsuhiko, Takahashi Kunihiko, Fushimi Kiyohide, Miyazaki Yasunari. Database analysis of hypersensitivity pneumonitis in Japan(タイトル和訳中) Respiratory Investigation. 2023.03; 61(2); 172-180

29. Tateishi T, Shimada S, Yamana T, Iijima Y, Sakakibara R, Mitsumura T, Shibata S, Honda T, Shirai T, Okamoto T, Tamaoka M, Sasai T, Miyazaki Y. COVID-19 Pneumonia Followed by Anti-signal Recognition Particle Antibody-positive Fibrosing Interstitial Lung Disease: A Case Report. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2023.02; 62(9); 1323-1328

30. Okuda R, Ogura T, Hisata S, Baba T, Kondoh Y, Suda T, Johkoh T, Iwasawa T, Tomioka H, Bando M, Azuma A, Inoue Y, Arai T, Nakamura Y, Miyamoto A, Miyazaki Y, Chiba H, Ishii H, Hamada N, Terasaki Y, Kuwahira I, Sato S, Kato S, Suzuki T, Sakamoto S, Nishioka Y, Hattori N, Hashimoto N, Morita S, Ichihara N, Miyata H, Hagiwara K, Nukiwa T, Kobayashi K. Design and rationale of the Japanese Idiopathic Interstitial Pneumonias (JIPS) Registry. Respiratory investigation. 2023.01; 61(1); 95-102

31. Kaneko S, Asahina Y, Nakagawa M, Murakawa M, Miyazaki Y, Asakage T, Fukuda S, Namiki T, Kano Y, Nagata M, Tsuchiya J, Miyoshi M, Kitahata-Kawai F, Nitta S, Itsui Y, Kakinuma S, Okamoto R. Factors associated with liver injury and prognosis in advanced cancer patients treated with immune checkpoint inhibitors. Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology. 2023.01; 53(5); 450-459

32. Peljto AL, Blumhagen RZ, Walts AD, Cardwell J, Powers J, Corte TJ, Dickinson JL, Glaspole I, Moodley YP, Vasakova MK, Bendstrup E, Davidsen JR, Borie R, Crestani B, Dieude P, Bonella F, Costabel U, Gudmundsson G, Donnelly SC, Egan J, Henry MT, Keane MP, Kennedy MP, McCarthy C, McElroy AN, Olaniyi JA, O'Reilly KMA, Richeldi L, Leone PM, Poletti V, Puppo F, Tomassetti S, Luzzi V, Kokturk N, Mogulkoc N, Fiddler CA, Hirani N, Jenkins G, Maher TM, Molyneaux PL, Parfrey H, Braybrooke R, Blackwell TS, Jackson PD, Nathan SD, Porteous MK, Brown KK, Christie JD, Collard HR, Eickelberg O, Foster EE, Gibson KF, Glassberg M, Kass D, Kropski JA, Lederer D, Linderholm AL, Loyd J, Mathai SK, Montesi SB, Noth I, Oldham JM, Palmisciano AJ, Reichner CA, Rojas M, Roman J, Schluger N, Shea BS, Swigris JJ, Wolters PJ, Zhang Y, Prele CMA, Enghelmayer JI, Otaola M, Ryerson CJ, Salinas M, Sterclova M, Gebremariam TH, Myllärniemi M, Carbone R, Furusawa H, Hirose M, Inoue Y, Miyazaki Y, Ohta K, Ohta S, Okamoto T, Kim DS, Pardo A, Selman M, Aranda AU, Park MS, Park JS, Song JW, Molina-Molina M, Planas-Cerezales L, Westergren-Thorsson G, Smith AV, Manichaikul AW, Kim JS, Rich SS, Oelsner EC, Barr RG, Rotter JI, Dupuis J, O'Connor G, Vasan RS, Cho MH, Silverman EK, Schwarz MI, Steele MP, Lee JS, Yang IV, Fingerlin TE, Schwartz DA, NHLBI Trans-Omics for Precision Medicine (TOPMed) Consortium. Idiopathic Pulmonary Fibrosis Is Associated with Common Genetic Variants and Limited Rare Variants. American journal of respiratory and critical care medicine. 2023.01; 207(9); 1194-1202

33. Ikeda M, Okugawa S, Kashiwabara K, Moritoyo T, Kanno Y, Jubishi D, Hashimoto H, Okamoto K, Tsushima K, Uchida Y, Mitsumura T, Igari H, Tsutsumi T, Araoka H, Yatera K, Yamamoto Y, Nakamura Y, Otani A, Yamashita M, Wakimoto Y, Shinohara T, Adachi-Katayama M, Oyabu T, Kanematsu A, Harada S, Takeshita Y, Nakano Y, Miyazaki Y, Sakao S, Saito M, Ogura S, Yamasaki K, Kawasuji H, Hataji O, Inoue JI, Seto Y, Moriya K. Multicenter, Single-Blind, Randomized Controlled Study of the Efficacy and Safety of Favipiravir and Nafamostat Mesilate in Patients with COVID-19 Pneumonia. International journal of infectious diseases : IJID : official publication of the International Society for Infectious Diseases. 2023.01; 128; 355-363

34. Yamashita S, Okamoto T, Kawahara T, Tateishi T, Anzai T, Takahashi K, Fushimi K, Miyazaki Y. Database analysis of hypersensitivity pneumonitis in Japan. Respiratory investigation. 2023.01; 61(2); 172-180

35. Okuda Ryo, Ogura Takashi, Hisata Shu, Baba Tomohisa, Kondoh Yasuhiro, Suda Takafumi, Johkoh Takeshi, Iwasawa Tae, Tomioka Hiromi, Bando Masashi, Azuma Arata, Inoue Yoshikazu, Arai Toru, Nakamura Yutaro, Miyamoto Atsushi, Miyazaki Yasunari, Chiba Hirofumi, Ishii Haruyuki, Hamada Naoki, Terasaki Yasuhiro, Kuwahira Ichiro, Sato Shinji, Kato Shingo, Suzuki Takuji, Sakamoto Susumu, Nishioka Yasuhiko, Hattori Noboru, Hashimoto Naozumi, Morita Satoshi, Ichihara Nao, Miyata Hiroaki, Hagiwara Koichi, Nukiwa Toshihiro, Kobayashi Kunihiko. Design and rationale of the Japanese Idiopathic Interstitial Pneumonias(JIPS) Registry(タイトル和訳中) Respiratory Investigation. 2023.01; 61(1); 95-102

36. Oba S, Hosoya T, Kaneshige R, Kawata D, Yamaguchi T, Mitsumura T, Shimada S, Shibata S, Tateishi T, Koike R, Tohda S, Hirakawa A, Yoko N, Otomo Y, Nojima J, Miyazaki Y, Yasuda S. Thrombosis and antiphospholipid antibodies in Japanese COVID-19: based on propensity score matching. Frontiers in immunology. 2023; 14; 1227547

37. Okada K, Sakakibara R, Honda T, Mitsumura T, Shibata S, Shirai T, Okamoto T, Furusawa H, Tateishi T, Miyazaki Y. Tolerability of sotorasib for KRAS positive lung adenocarcinoma patient with pre-existing interstitial pneumonia; A case report. Respiratory medicine case reports. 2023; 46; 101929

38. Chida-Nagai A, Masaki N, Maeda K, Sasaki K, Sato H, Muneuchi J, Ochiai Y, Murayama H, Tahara M, Shiono A, Shinozuka A, Kono F, Machida D, Toyooka S, Sugimoto S, Nakamura K, Akagi S, Kondo M, Kasahara S, Kotani Y, Koizumi J, Oda K, Harada M, Nakajima D, Murata A, Nagata H, Yatsunami K, Kobayashi T, Matsunaga Y, Inoue T, Yamagishi H, Nakagawa N, Ohtani K, Yamamoto M, Ito Y, Hokosaki T, Kuwahara Y, Masutani S, Nomura K, Wada T, Sawada H, Abiko M, Takahashi T, Ishikawa Y, Okada S, Naitoh A, Toda T, Ando T, Masuzawa A, Hoshino S, Kawada M, Nomura Y, Ueno K, Ohashi N, Tachibana T, Cao Y, Ueda H, Yanagi S, Koide M, Mitsushita N, Higashi K, Minosaki Y, Hayashi T, Okamoto T, Kuraishi K, Ehara E, Ishida H, Horigome H, Murakami T, Takei K, Ishii T, Harada G, Hirata Y, Maeda J, Tatebe S, Ota C, Hayabuchi Y, Sakazaki H, Sasaki T, Hirono K, Suzuki S, Yasuda M, Takeda A, Sawai M, Miyaji K, Kitagawa A, Nakai Y, Kakimoto N, Agematsu K, Manabe A, Saiki Y. Use of the index of pulmonary vascular disease for predicting long-term outcome of pulmonary arterial hypertension associated with congenital heart disease. Frontiers in cardiovascular medicine. 2023; 10; 1212882

1. 本多 隆行, 望月 晶史, 河野 隆志, 宮崎 泰成. 間質性肺炎合併肺がんの発症機構 呼吸器内科. 2023.09; 44(3); 322-328

2. 浅野 浩一郎, 宮崎 泰成. 呼吸器内科　室内環境と気管支喘息の関連について【小児喘息ではダニ, 成人喘息では真菌が重要な室内環境アレルゲンである】 日本医事新報. 2023.08; (5180); 46

3. 望月 晶史, 本多 隆行, 白石 航也, 吉田 幸弘, 渡辺 俊一, 堀之内 秀仁, 谷田部 恭, 浜本 隆二, 宮崎 泰成, 河野 隆志. 肺発生系譜上の転写因子 TTF-1/NKX2-1 の変異と間質性肺炎合併肺腺がんの関連性 日本肺サーファクタント・界面医学会雑誌. 2023.08; 54; 24-26

4. 丸山 総一, 高橋 太郎, 早瀬 ヨネ子, 小林 大輔, 本多 隆行, 杉山 幸比古. タクロリムス使用中に急速増大した ROS1 融合遺伝子陽性肺腺癌の 1 例 日本呼吸器学会誌. 2023.07; 12(4); 210-214

5. 高澤 聖子, 岡本 師, 細谷 龍作, 榊原 里江, 石塚 聖洋, 宮崎 泰成. CEA が異常高値を呈した嚢胞を伴う濾胞性細気管支炎の 1 例 日本呼吸器学会誌. 2023.05; 12(3); 154-159

6. 丸山 総一, 岡本 師, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 玉岡 明洋, 宮崎 泰成. 進行性線維化を伴う間質性肺疾患におけるニンテダニブ投与量の違いによる安全性と有効性 呼吸臨床. 2023.04; 7(4); 1/8-8/8

7. 高澤 聖子, 白井 剛, 河原 達雄, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. 冬季に再燃した抗 Trichosporon asahii 抗体陽性の過敏性肺炎の 1 例 日本呼吸器学会誌. 2023.03; 12(2); 69-73

[総説]

1. 宮崎 泰成, 須田 隆文. 呼吸器内科　過敏性肺炎の診断のポイントについて【(1) 曝露評価が重要,(2) 抗原の大きさが 3〜5 μ m, 呼吸細気管支領域に病変ができる,(3) 進行すると特発性肺線維症と鑑別困難, 経時的な画像で診断】 日本医事新報. 2023.06; (5173); 56

2. 宮崎 泰成, 飯島 裕基, 惠島 將, 白井 剛. 【一般臨床医が知っておくべき過敏性肺炎】 日本医事新報. 2023.04; (5166); 18-37

3. 飯島 裕基, 宮崎 泰成. 【在宅でみる呼吸器疾患のリハビリテーション診療】過敏性肺炎における呼吸器リハビリテーション MEDICAL REHABILITATION. 2023.04; (286); 55-58

4. 白井 剛, 宮崎 泰成. 【呼吸器診療に役立つ検査法】びまん性肺疾患診療におけるイムノキャップ特異的 IgG 鳥の活用法 呼吸器内科. 2023.03; 43(3); 280-286

[講演 · 口頭発表等]

1. Yuko Kawamoto, Nana Oga, Haruhiko Furusawa, Satoshi Hanzawa, Yasunari Miyazaki, Makoto Tanaka. The experience of patients' families in the process of implementing antigen avoidance for patients with hypersensitivity pneumonitis: A qualitative study. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023.03.10 Tokyo

2. Yuko Kawamoto, Yuka Nakahama, Nana Oga, Haruhiko Furusawa, Satoshi Hanzawa, Yasunari Miyazaki, Makoto Tanaka. Healthcare needs in implementing antigen avoidance as perceived by patients with hypersensitivity pneumonitis: A qualitative research. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023.03.10 Tokyo

1. 春原 涼, 柴田 翔, 島田 翔, 園田 史朗, 青木 光, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 岡本 師, 荒井 茜音, 小澤 茜, 桐村 進, 宮崎 泰成. 潰瘍性大腸炎に対してメサラジンで治療中に間質性肺炎を発症し, クライオ生検で NSIP with OP overlap パターンを認めた 1 例. 気管支学 2023.11.01

2. 井上 渉, 古澤 春彦, 島田 翔, 園田 史朗, 榊原 理江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. サルコイドーシス患者の心病変発症様式の検討. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 2023.10.01

3. 甲斐 文彬, 榊原 里江, 島田 翔, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. EGFR 遺伝子陽性肺扁平上皮癌に対してオシメルチニブが奏功した 1 例. 肺癌 2023.10.01

4. 井上 渉, 古澤 春彦, 島田 翔, 園田 史朗, 榊原 理江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. サルコイドーシス患者の心病変発症様式の検討. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 2023.10.01

5. 甲斐 文彬, 榊原 里江, 島田 翔, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. EGFR 遺伝子陽性肺扁平上皮癌に対してオシメルチニブが奏功した 1 例. 肺癌 2023.10.01

6. 渡邊 洋子, 高橋 知音, 田島 祐奈, 横田 夏葉, 平井 伸英, 岡田 英里子, 高田 和生, 宮崎 泰成. 医療実習における支援ニーズ把握質問紙開発の試み　質問項目選定の検討. 全国大学保健管理研究集会プログラム · 抄録集 2023.10.01

7. 丸田 竜介, 古澤 春彦, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 立石 和也, 根岸 美帆, 宮崎 泰成. アミオダロンによる肺障害に対して PMX-DHP を施行した 1 例. アレルギー 2023.09.01

8. 石山 裕之, 秀島 雅之, 犬飼 周佑, 玉岡 明洋, 西山 暁, 宮崎 泰成, 笛木 賢治. 下顎前方移動時に伴う呼吸抵抗の減少率が, 閉塞性睡眠時無呼吸に対する口腔内装置治療の効果に及ぼす影響. 睡眠口腔医学 2023.09.01

9. 春原 涼, 島田 翔, 佐藤 万瑛, 村川 美也子, 山本 浩平, 園田 史朗, 青木 光, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 岡本 師, 宮崎 泰成. 肺癌治療中に繰り返す免疫介在性肝機能障害 (IMH) にミコフェノール酸モフェチル (MMF) 併用治療が奏功した 1 例. 日本結核 · 非結核性抗酸菌症学会関東支部学会 · 日本呼吸器学会関東地方会合同学会プログラム · 抄録集 2023.09.01

10. 立石 知也, 園田 史朗, 新関 久一, 今井 洋志, 鐘ヶ江 正巳, 玉岡 明洋, 宮崎 泰成. 非接触性生体センサによる睡眠状態評価の試み. 日本睡眠学会定期学術集会 · 日本時間生物学会学術大会合同大会プログラム · 抄録集 2023.09.01

11. 丸田 竜介, 古澤 春彦, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 立石 和也, 根岸 美帆, 宮崎 泰成. アミオダロンによる肺障害に対して PMX-DHP を施行した 1 例. アレルギー 2023.09.01

12. 春原 涼, 島田 翔, 佐藤 万瑛, 村川 美也子, 山本 浩平, 園田 史朗, 青木 光, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 岡本 師, 宮崎 泰成. 肺癌治療中に繰り返す免疫介在性肝機能障害 (IMH) にミコフェノール酸モフェチル (MMF) 併用治療が奏功した 1 例. 日本結核 · 非結核性抗酸菌症学会関東支部学会 · 日本呼吸器学会関東地方会合同学会プログラム · 抄録集 2023.09.01

13. 瀬戸口 靖弘, 片柳 真司, 宮崎 泰成. SFTPA1/SFTPA2 変異を有する間質性肺炎の臨床像と病態. 日本肺サーファクタント · 界面医学会雑誌 2023.08.01

14. 宮崎 泰成. 肺構成細胞からみた肺環境の恒常性と再生修復　過敏性肺炎における免疫反応と線維化. 日本肺サーファクタント · 界面医学会雑誌 2023.08.01

15. 丸田 竜介, 柴田 翔, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成, 桐村 進. 肺腺癌術後再発に対して化学療法中に肺扁平上皮癌を発症した 1 例. 肺癌 2023.08.01

16. 遠藤 駿, 柴田 翔, 山名 高志, 宮崎 泰成. CD11b 陽性樹状細胞が鳥関連過敏性肺炎マウスモデルの病態に関与する. アレルギー 2023.08.01

17. 小松崎 恵子, 影島 宏紀, 関野 有紀, 鈴木 康弘, 宇賀神 つかさ, 玉岡 明洋, 宮崎 泰成. 免疫療法 · 薬物療法 (基礎)　花粉多糖結合体軟膏による局所鼻腔免疫療法 (LNIT) の試み. アレルギー 2023.08.01

18. 高澤 聖子, 三宅 健介, 杉原 潤, 柴田 翔, 立石 知也, 烏山 一, 宮崎 泰成. 増悪と抑制を司るアレルギーメディエーター　好塩基球由来 IL-4 は急性呼吸促迫症候群モデルの肺炎症を抑制する. アレルギー 2023.08.01

19. 岡本 師, 坂東 政司, 須田 隆文, 冨岡 洋海, 島村 貴史, 安部 豪眞, 花房 真理子, 藤原 武男, 小田嶋 博, 吉原 重美, 高瀬 眞人, 宮崎 泰成. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 · 過敏性肺炎　過敏性肺炎の全国疫学調査 (一次調査) の集計結果. アレルギー 2023.08.01

20. 宮崎 泰成. 職業 · 環境アレルギーの現状と対策　職業性過敏性肺炎. アレルギー 2023.08.01

21. 伊藤 優, 岡本 師, 大場 岳彦, 小林 正芳, 齋藤 弘明, 島田 裕之, 千秋 智重, 筒井 俊晴, 宮崎 泰成. 膠原病 · 自己免疫疾患 · 自己炎症性疾患　関節リウマチ未発症の抗 CCP 抗体陽性間質性肺疾患における臨床的検討. アレルギー 2023.08.01

22. 島村 貴史, 山名 高志, 柴田 翔, 岡本 師, 宮崎 泰成. 鳩糞抽出物による感作を行った過敏性肺炎回復期モデルマウスの作製. アレルギー 2023.08.01

23. 柴田 翔, 高澤 聖子, 小松崎 恵子, 立石 知也, 大谷 義夫, 宮崎 泰成. 重症喘息一般　喘息における 3 成分配合吸入薬への切り替えは増悪を抑制し,1 秒量を改善した. アレルギー 2023.08.01

24. 岡本 師, 坂東 政司, 須田 隆文, 冨岡 洋海, 島村 貴史, 安部 豪眞, 花房 真理子, 藤原 武男, 小田嶋 博, 吉原 重美, 高瀬 眞人, 宮崎 泰成. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 · 過敏性肺炎　過敏性肺炎の全国疫学調査 (一次調査) の集計結果. アレルギー 2023.08.01

25. 丸田 竜介, 柴田 翔, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成, 桐村 進. 肺腺癌術後再発に対して化学療法中に肺扁平上皮癌を発症した 1 例. 肺癌 2023.08.01

26. 伊藤 優, 岡本 師, 大場 岳彦, 小林 正芳, 齋藤 弘明, 島田 裕之, 千秋 智重, 筒井 俊晴, 宮崎 泰成. 膠原病 · 自己免疫疾患 · 自己炎症性疾患　関節リウマチ未発症の抗 CCP 抗体陽性間質性肺疾患における臨床的検討. アレルギー 2023.08.01

27. 島村 貴史, 山名 高志, 柴田 翔, 岡本 師, 宮崎 泰成. 鳩糞抽出物による感作を行った過敏性肺炎回復期モデルマウスの作製. アレルギー 2023.08.01

28. 鈴木 拓望, 細道 純, 宮坂 尚幸, 宮崎 泰成, 滝 敦子, 財津 崇, 毛呂 愛香, 森丘 千夏子, 佐藤 憲子, 小野 卓史. 日本人妊婦の閉塞性睡眠時無呼吸症の病態と出生児への影響について. 日本女性栄養 · 代謝学会誌 2023.08.01

29. 安井 渉, 本多 隆行, 青木 光, 島田 翔, 園田 史朗, 榊原 里江, 柴田 翔, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. SMARCA4 欠損腫瘍の 1 切除例. 気管支学 2023.07.01

30. 安井 渉, 本多 隆行, 青木 光, 島田 翔, 園田 史朗, 榊原 里江, 柴田 翔, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. SMARCA4 欠損腫瘍の 1 切除例. 気管支学 2023.07.01

31. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

32. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

33. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

34. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

35. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

36. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

37. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

38. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

39. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

40. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

41. 岡田 康平, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. 間質性肺炎合併 KRAS G12C 変異陽性肺癌に Sotorasib を使用した 1 例. 肺癌 2023.04.01

42. 岡田 康平, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. 間質性肺炎合併 KRAS G12C 変異陽性肺癌に Sotorasib を使用した 1 例. 肺癌 2023.04.01

43. 岡田 康平, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. 間質性肺炎合併 KRAS G12C 変異陽性肺癌に Sotorasib を使用した 1 例. 肺癌 2023.04.01

44. 岡田 康平, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. 間質性肺炎合併 KRAS G12C 変異陽性肺癌に Sotorasib を使用した 1 例. 肺癌 2023.04.01

45. 遠藤 駿, 岡本 師, 河原 達雄, 安齋 達彦, 高橋 邦彦, 宮崎 泰成. 抗トリコスポロン · アサヒ抗体を用いた夏型過敏性肺炎と高温多湿との関連の解析. 日本職業 · 環境アレルギー学会雑誌 2023.04.01

46. 宮崎 泰成. 過敏性肺炎診療指針 2022 と今後の課題. 日本職業 · 環境アレルギー学会雑誌 2023.04.01

47. 遠藤 駿, 岡本 師, 河原 達雄, 安齋 達彦, 高橋 邦彦, 宮崎 泰成. 抗トリコスポロン · アサヒ抗体を用いた夏型過敏性肺炎と高温多湿との関連の解析. 日本職業 · 環境アレルギー学会雑誌 2023.04.01

48. 岡田 康平, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. 間質性肺炎合併 KRAS G12C 変異陽性肺癌に Sotorasib を使用した 1 例. 肺癌 2023.04.01

49. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

50. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

51. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

52. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

53. 杉原 潤, 柴田 翔, 安東 敬大, 飯島 裕基, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 岡本 師, 島田 翔, 立石 知也, 宮崎 泰成. COVID-19　後遺症　COVID-19 回復期血清におけるサイトカインマルチプレックス解析結果と後遺症の関連. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

54. 久保田 夏史, 島田 翔, 安東 敬大, 杉原 潤, 飯島 裕基, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 柴田 翔, 立石 知也, 宮崎 泰成. COVID-19　後遺症　COVID-19 肺炎罹患 6 ヵ月後の肺野陰影残存と呼吸器後遺症状との関連性の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

55. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 安齋 達彦, 高橋 邦彦, 田上 隆, 宮崎 泰成. COVID-19　治療　レムデシビルとデキサメタゾンの併用は COVID-19 症例の予後に影響を与えたか. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

56. 阿部 瑛子, 榊原 里江, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 柴田 翔, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. KRAS 変異陽性肺癌の臨床病理学的特徴と治療経験. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

57. 山下 将平, 岡本 師, 河原 達雄, 立石 知也, 伏見 清秀, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　疫学 · 統計　DPC データベース解析結果から分かった日本における過敏性肺炎の疫学. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

58. 島村 貴史, 古澤 春彦, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 小松崎 恵子, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　膠原病関連肺疾患 · 血管炎 2　顕微鏡的多発血管炎 (MPA) 発症の有無による MPO-ANCA 陽性間質性肺炎の臨床的特徴. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

59. 井上 渉, 立石 知也, 島村 貴史, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　線維性過敏性肺炎に対する抗線維化薬使用例の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

60. 安部 豪眞, 岡本 師, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 祐基, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　線維性過敏性肺炎の肺機能低下と治療反応性を予測する因子の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

61. 大森 隆広, 花房 真理子, 安東 敬大, 島田 翔, 近藤 信幸, 山下 将平, 岡本 師, 園田 史朗, 宮崎 泰成, 藤原 武男, 倉持 仁. 当院での COVID-19 後遺症の検討　2022 年 7 月から 9 月の発熱外来約 22,000 名の診療の経験から. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

62. 古川 佳奈子, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 過敏性肺炎における小気道病変に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

63. 石川 氷介, 白井 剛, 宮崎 泰成, 立石 知也, 岡本 師, 古澤 春彦, 三ツ村 隆弘, 本多 隆行, 柴田 翔, 榊原 里江, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 古川 佳奈子. 間質性肺炎に合併した気胸 37 例の臨床的検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

64. 岡田 康平, 古澤 春彦, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 立石 知也, 岡本 師, 宮崎 泰成. 間質性肺炎診断における Multi-disciplinary discussion(MDD) 再評価の有用性について. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

65. 副島 将史, 岡本 師, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 本多 隆行, 柴田 翔, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. 間質性肺疾患における動態 X 線検査の有用性. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

66. 杉原 潤, 柴田 翔, 安東 敬大, 飯島 裕基, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 岡本 師, 島田 翔, 立石 知也, 宮崎 泰成. COVID-19　後遺症　COVID-19 回復期血清におけるサイトカインマルチプレックス解析結果と後遺症の関連. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

67. 久保田 夏史, 島田 翔, 安東 敬大, 杉原 潤, 飯島 裕基, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 柴田 翔, 立石 知也, 宮崎 泰成. COVID-19　後遺症　COVID-19 肺炎罹患 6 ヵ月後の肺野陰影残存と呼吸器後遺症状との関連性の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

68. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 安齋 達彦, 高橋 邦彦, 田上 隆, 宮崎 泰成. COVID-19　治療　レムデシビルとデキサメタゾンの併用は COVID-19 症例の予後に影響を与えたか. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

69. 阿部 瑛子, 榊原 里江, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 柴田 翔, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. KRAS 変異陽性肺癌の臨床病理学的特徴と治療経験. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

70. 島村 貴史, 古澤 春彦, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 小松崎 恵子, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　膠原病関連肺疾患 · 血管炎 2　顕微鏡的多発血管炎 (MPA) 発症の有無による MPO-ANCA 陽性間質性肺炎の臨床的特徴. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

71. 井上 渉, 立石 知也, 島村 貴史, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　線維性過敏性肺炎に対する抗線維化薬使用例の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

72. 安部 豪眞, 岡本 師, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 祐基, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　線維性過敏性肺炎の肺機能低下と治療反応性を予測する因子の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

73. 北野 正剛, 本多 隆行, 丸田 竜介, 蝶名林 賢, 西山 直樹, 増尾 昌宏, 小林 正芳, 宮崎 泰成. 免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) 投与後に晩期出現する免疫関連有害事象 (irAE) の特徴. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

74. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

75. 伊藤 優, 本多 隆行, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 足立 拓也, 藤岡 友之, 宮崎 泰成. 画像診断　間質性肺疾患合併肺癌における薬剤性肺障害の CNN モデルによる予測可能性. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

76. 古川 佳奈子, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 過敏性肺炎における小気道病変に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

77. 石川 氷介, 白井 剛, 宮崎 泰成, 立石 知也, 岡本 師, 古澤 春彦, 三ツ村 隆弘, 本多 隆行, 柴田 翔, 榊原 里江, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 古川 佳奈子. 間質性肺炎に合併した気胸 37 例の臨床的検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

78. 岡田 康平, 古澤 春彦, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 立石 知也, 岡本 師, 宮崎 泰成. 間質性肺炎診断における Multi-disciplinary discussion(MDD) 再評価の有用性について. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

79. 副島 将史, 岡本 師, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 本多 隆行, 柴田 翔, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. 間質性肺疾患における動態 X 線検査の有用性. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

80. 遠藤 智, 本多 隆行, 瀬戸 克年, 北野 正剛, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 石橋 洋則, 大久保 憲一, 宮崎 泰成. 非小細胞肺癌病理学的 I 期の再発に関連するがん関連遺伝子プロファイルの探索. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

81. 杉原 潤, 柴田 翔, 安東 敬大, 飯島 裕基, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 岡本 師, 島田 翔, 立石 知也, 宮崎 泰成. COVID-19　後遺症　COVID-19 回復期血清におけるサイトカインマルチプレックス解析結果と後遺症の関連. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

82. 久保田 夏史, 島田 翔, 安東 敬大, 杉原 潤, 飯島 裕基, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 柴田 翔, 立石 知也, 宮崎 泰成. COVID-19　後遺症　COVID-19 肺炎罹患 6 ヵ月後の肺野陰影残存と呼吸器後遺症状との関連性の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

83. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 安齋 達彦, 高橋 邦彦, 田上 隆, 宮崎 泰成. COVID-19　治療　レムデシビルとデキサメタゾンの併用は COVID-19 症例の予後に影響を与えたか. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

84. 阿部 瑛子, 榊原 里江, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 柴田 翔, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. KRAS 変異陽性肺癌の臨床病理学的特徴と治療経験. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

85. 島村 貴史, 古澤 春彦, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 小松崎 恵子, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　膠原病関連肺疾患 · 血管炎 2　顕微鏡的多発血管炎 (MPA) 発症の有無による MPO-ANCA 陽性間質性肺炎の臨床的特徴. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

86. 井上 渉, 立石 知也, 島村 貴史, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　線維性過敏性肺炎に対する抗線維化薬使用例の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

87. 安部 豪眞, 岡本 師, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 祐基, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　線維性過敏性肺炎の肺機能低下と治療反応性を予測する因子の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

88. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

89. 伊藤 優, 本多 隆行, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 足立 拓也, 藤岡 友之, 宮崎 泰成. 画像診断　間質性肺疾患合併肺癌における薬剤性肺障害の CNN モデルによる予測可能性. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

90. 古川 佳奈子, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 過敏性肺炎における小気道病変に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

91. 石川 氷介, 白井 剛, 宮崎 泰成, 立石 知也, 岡本 師, 古澤 春彦, 三ツ村 隆弘, 本多 隆行, 柴田 翔, 榊原 里江, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 古川 佳奈子. 間質性肺炎に合併した気胸 37 例の臨床的検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

92. 岡田 康平, 古澤 春彦, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 立石 知也, 岡本 師, 宮崎 泰成. 間質性肺炎診断における Multi-disciplinary discussion(MDD) 再評価の有用性について. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

93. 副島 将史, 岡本 師, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 本多 隆行, 柴田 翔, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. 間質性肺疾患における動態 X 線検査の有用性. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

94. 遠藤 智, 本多 隆行, 瀬戸 克年, 北野 正剛, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 石橋 洋則, 大久保 憲一, 宮崎 泰成. 非小細胞肺癌病理学的 I 期の再発に関連するがん関連遺伝子プロファイルの探索. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

95. 杉原 潤, 柴田 翔, 安東 敬大, 飯島 裕基, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 岡本 師, 島田 翔, 立石 知也, 宮崎 泰成. COVID-19　後遺症　COVID-19 回復期血清におけるサイトカインマルチプレックス解析結果と後遺症の関連. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

96. 久保田 夏史, 島田 翔, 安東 敬大, 杉原 潤, 飯島 裕基, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 柴田 翔, 立石 知也, 宮崎 泰成. COVID-19　後遺症　COVID-19 肺炎罹患 6 ヵ月後の肺野陰影残存と呼吸器後遺症状との関連性の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

97. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 安齋 達彦, 高橋 邦彦, 田上 隆, 宮崎 泰成. COVID-19　治療　レムデシビルとデキサメタゾンの併用は COVID-19 症例の予後に影響を与えたか. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

98. 安東 敬大, 島田 翔, 杉原 潤, 高山 幸二, 小林 正芳, 宮下 義啓, 伊藤 達哉, 岡安 香, 露木 俊, 大場 岳彦, 土井 将史, 齋藤 弘明, 藤江 俊秀, 千秋 智重, 中川 淳, 柴田 翔, 立石 知也, 宮崎 泰成. COVID-19 罹患後の健康関連 QOL の実態と低値に関わる背景因子の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

99. 立石 知也, 安東 敬大, 杉原 潤, 島田 翔, 柴田 翔, 宮崎 泰成. COVID-19 肺炎後の後遺症に関わる因子の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

100. 磯部 和順, 富井 啓介, 井上 義一, 宮崎 泰成, 松本 優, 仲村 泰彦, 須田 隆文, 伊達 洋至, 岸 一馬. IP 合併肺癌における ICI の安全性と有効性を検討する多施設後方視的研究. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

101. 阿部 瑛子, 榊原 里江, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 柴田 翔, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. KRAS 変異陽性肺癌の臨床病理学的特徴と治療経験. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

102. 山下 将平, 岡本 師, 河原 達雄, 立石 知也, 伏見 清秀, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　疫学 · 統計　DPC データベース解析結果から分かった日本における過敏性肺炎の疫学. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

103. 瀬戸口 靖弘, 島村 貴史, 伊藤 優, 片柳 真司, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　病因 · 病態 1　SFTPA1/SFTPA2 変異を有する間質性肺炎の臨床像と分子病態の特徴. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

104. 藤井 伸哉, 宮崎 泰成, 立石 知也, 古澤 春彦. びまん性肺疾患　病因 · 病態 1　上葉優位型肺線維症 (PPFE) のエクソーム解析. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

105. 島村 貴史, 古澤 春彦, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 小松崎 恵子, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　膠原病関連肺疾患 · 血管炎 2　顕微鏡的多発血管炎 (MPA) 発症の有無による MPO-ANCA 陽性間質性肺炎の臨床的特徴. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

106. 井上 渉, 立石 知也, 島村 貴史, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　線維性過敏性肺炎に対する抗線維化薬使用例の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

107. 安部 豪眞, 岡本 師, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 祐基, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　線維性過敏性肺炎の肺機能低下と治療反応性を予測する因子の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

108. 遠藤 駿, 柴田 翔, 山名 高志, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　鳥関連過敏性肺炎マウスモデルにおける樹状細胞と T 細胞分化の解析. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

109. 北野 正剛, 本多 隆行, 丸田 竜介, 蝶名林 賢, 西山 直樹, 増尾 昌宏, 小林 正芳, 宮崎 泰成. 免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) 投与後に晩期出現する免疫関連有害事象 (irAE) の特徴. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

110. 高澤 聖子, 三宅 健介, 杉原 潤, 柴田 翔, 立石 知也, 烏山 一, 宮崎 泰成. 喘息　動物モデル　好塩基球由来 IL-4 は急性呼吸促迫症候群モデルの肺炎症を抑制する. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

111. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

112. 大森 隆広, 花房 真理子, 安東 敬大, 島田 翔, 近藤 信幸, 山下 将平, 岡本 師, 園田 史朗, 宮崎 泰成, 藤原 武男, 倉持 仁. 当院での COVID-19 後遺症の検討　2022 年 7 月から 9 月の発熱外来約 22,000 名の診療の経験から. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

113. 宮崎 泰成. 慢性線維化性間質性肺疾患 (ILDs) の診断と治療のフロントライン　過敏性肺炎の診断 · 治療を巡る問題点 (国際ガイドライン · 日本の指針). 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

114. 伊藤 優, 本多 隆行, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 足立 拓也, 藤岡 友之, 宮崎 泰成. 画像診断　間質性肺疾患合併肺癌における薬剤性肺障害の CNN モデルによる予測可能性. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

115. 古川 佳奈子, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 過敏性肺炎における小気道病変に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

116. 石川 氷介, 白井 剛, 宮崎 泰成, 立石 知也, 岡本 師, 古澤 春彦, 三ツ村 隆弘, 本多 隆行, 柴田 翔, 榊原 里江, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 古川 佳奈子. 間質性肺炎に合併した気胸 37 例の臨床的検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

117. 岡田 康平, 古澤 春彦, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 立石 知也, 岡本 師, 宮崎 泰成. 間質性肺炎診断における Multi-disciplinary discussion(MDD) 再評価の有用性について. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

118. 副島 将史, 岡本 師, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 本多 隆行, 柴田 翔, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. 間質性肺疾患における動態 X 線検査の有用性. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

119. 遠藤 智, 本多 隆行, 瀬戸 克年, 北野 正剛, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 石橋 洋則, 大久保 憲一, 宮崎 泰成. 非小細胞肺癌病理学的 I 期の再発に関連するがん関連遺伝子プロファイルの探索. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

120. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

121. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

122. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

123. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

124. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

125. 後藤 夕輝, 高橋 由衣子, 藤原 武男, 宮崎 泰成. COVID-19 入院患者における内臓脂肪過多と死亡率増加の関係. 日本内科学会雑誌 2023.02.01

126. 古川 佳奈子, 立石 知也, 榊原 里江, ミツ村 隆弘, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 間質性肺炎の進行に対する治療開始直後に血球貪食症候群を呈した混合性結合組織病 (MCTD) の一例. アレルギー 2023.02.01

127. 遠藤 駿, 岡本 師, 河原 達雄, 安齋 達彦, 高橋 邦彦, 宮崎 泰成. 高温多湿の気象が夏型過敏性肺炎の発症に与える影響に関する全国の抗トリコスポロン・アサヒ抗体の結果を用いた解析. 日本内科学会雑誌 2023.02.01

128. 副島 将史, 本多 隆行, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 柴田 翔, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. Sotorasib 投与中にビリルビン著明高値を認め薬剤性肝障害が疑われた 1 例. 日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・日本呼吸器学会関東地方会合同学会プログラム・抄録集 2023.02.01

129. 古川 佳奈子, 立石 知也, 榊原 里江, ミツ村 隆弘, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 間質性肺炎の進行に対する治療開始直後に血球貪食症候群を呈した混合性結合組織病 (MCTD) の一例. アレルギー 2023.02.01

130. 副島 将史, 本多 隆行, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 柴田 翔, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. Sotorasib 投与中にビリルビン著明高値を認め薬剤性肝障害が疑われた 1 例. 日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・日本呼吸器学会関東地方会合同学会プログラム・抄録集 2023.02.01

131. 副島 将史, 本多 隆行, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 柴田 翔, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. Sotorasib 投与中にビリルビン著明高値を認め薬剤性肝障害が疑われた 1 例. 日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・日本呼吸器学会関東地方会合同学会プログラム・抄録集 2023.02.01

132. 古川 佳奈子, 立石 知也, 榊原 里江, ミツ村 隆弘, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 間質性肺炎の進行に対する治療開始直後に血球貪食症候群を呈した混合性結合組織病 (MCTD) の一例. アレルギー 2023.02.01

133. 遠藤 駿, 岡本 師, 河原 達雄, 安齋 達彦, 高橋 邦彦, 宮崎 泰成. 高温多湿の気象が夏型過敏性肺炎の発症に与える影響に関する全国の抗トリコスポロン・アサヒ抗体の結果を用いた解析. 日本内科学会雑誌 2023.02.01

134. 副島 将史, 本多 隆行, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 柴田 翔, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. Sotorasib 投与中にビリルビン著明高値を認め薬剤性肝障害が疑われた 1 例. 日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・日本呼吸器学会関東地方会合同学会プログラム・抄録集 2023.02.01

135. 古川 佳奈子, 立石 知也, 榊原 里江, ミツ村 隆弘, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 間質性肺炎の進行に対する治療開始直後に血球貪食症候群を呈した混合性結合組織病 (MCTD) の一例. アレルギー 2023.02.01

136. 古川 佳奈子, 立石 知也, 榊原 里江, ミツ村 隆弘, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 間質性肺炎の進行に対する治療開始直後に血球貪食症候群を呈した混合性結合組織病 (MCTD) の一例. アレルギー 2023.02.01

137. 副島 将史, 本多 隆行, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 柴田 翔, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. Sotorasib 投与中にビリルビン著明高値を認め薬剤性肝障害が疑われた 1 例. 日本結核 · 非結核性抗酸菌症学会関東支部学会 · 日本呼吸器学会関東地方会合同学会プログラム · 抄録集 2023.02.01

138. 古川 佳奈子, 立石 知也, 榊原 里江, ミツ村 隆弘, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 間質性肺炎の進行に対する治療開始直後に血球貪食症候群を呈した混合性結合組織病 (MCTD) の一例. アレルギー 2023.02.01

139. 石山裕之, 秀島雅之, 犬飼周佑, 玉岡明洋, 西山暁, 宮﨑泰成, 笛木賢治. 下顎前方移動時に伴う呼吸抵抗の減少率が, 閉塞性睡眠時無呼吸の口腔内装置の効果に及ぼす影響. 第 22 回日本睡眠歯科学会学術集会 2023.10.08 京都

[その他業績]

1. 肺腺がんリスクを決める遺伝子の個人差を同定 非喫煙者の肺腺がんリスクの予測に期待, 2023 年 06 月
—

2. 「サルコイドーシスと悪性リンパ腫を鑑別する AI モデルを開発」 — Deep Learning を用いた画像鑑別 —, 2023 年 08 月
Deep convolutional neural network for differentiating
between sarcoidosis and lymphoma based on [18F] FDG
maximum 〓 intensity projection images

3. 非喫煙者に多い EGFR 変異肺腺がんへのかかりやすさを解明　肺腺がんの予防 · 早期発見にむけた手がかりとして期待, 2023 年 11 月
-

4. 非喫煙者に多い EGFR 変異肺腺がんへのかかりやすさを解明　肺腺がんの予防 · 早期発見にむけた手がかりとして期待, 2023 年 11 月
—

[社会貢献活動]

1. 市民公開講座 2022, 2022 年 08 月 01 日 - 現在

2. 「過敏性肺炎」「マイコプラズマ肺炎」について, NHK エデュケーショナル, NHK E テレ, 2022 年 11 月 09 日 - 2023 年 02 月 01 日

3. 睡眠対策【認知症がもたらす危険 · ＳＡＳ (睡眠時無呼吸症候群)】について, さくら舎, 単行本書籍（46 判並製）, 2023 年 07 月 10 日

4. シート状グミを用いた舌トレーニングについて, 日本歯科新聞社, 日本歯科新聞, 2023 年 10 月 18 日

消化器病態学
Gastroenterology and Hepatology

消化器病態学 教授　　岡本隆一

教授　（関連部門）
朝比奈康浩（肝臓病態制御学）
大塚和朗（光学医療診療部）
柿沼　晴（疾患生理機能解析学）
大島　茂（統合研究機構）

准教授
根本泰宏（消化器病態学）
永石宇司（消化管先端治療学）
藤井俊光（消化器連携医療学講座）
長堀正和（臨床試験管理センター）
中川美奈（統合教育機構）
岡田英理子（臨床医学教育開発分野）
油井史郎（再生医療研究センター）
松沢　優（疾患生理機能解析学）

講師
清水寛路（消化器内科）
水谷知裕（消化器病態学）
福田将義（光学医療診療部）
竹中健人（消化器連携医療学講座）
加納嘉人（臨床腫瘍科）

助教
齊藤詠子（長寿・健康人生推進センター）
村川美也子（消化器内科）
三好正人（消化器病態学）
小林正典（消化器内科）
金子　俊（消化器内科）
北畑富貴子（検査部）
河本亜美（光学医療診療部）
日比谷秀爾（光学医療診療部）

プロジェクト助教
藤井　悟（消化器病態学）
高橋純一（消化器病態学）

特任助教
伊藤　剛（高等研究院）
田村皓子（消化器内科）

医員
遠藤　南, 森川　亮, 渡辺　諭, 延澤　翼
緒方香菜子, 齊藤一真（消化器内科）
早川優香, 石堂　舜（光学医療診療部）
藤原　俊（臨床腫瘍科）
小林桜子（総合教育研修センター）

レジデント
勝又理沙, 中村遼太（消化器内科）

プロジェクト研究員
土屋　淳（消化器病態学）

大学院生
志水太郎, 米本有輝, 小笠原暢彦,
渡壁慶也, 持田知洋, 武藤智弘, 桐野　桜,
稲田賢人, 加藤　周, 杉原ハディ優樹, 勝田景統, 関口修平

(1) 分野概要

本分野では、我が国の疾病構造の中で、極めて頻度の高い疾患群を構成する上・下部消化管疾患および肝・胆・膵疾患に関する優れた臨床研究者を育成することを目的とする。大学院における臨床教室の意義は次世代の医学・医療のための基礎を確立することにあり、これら先進性の確保のためには臨床に基づく研究の推進および基礎研究に基づく画期的な治療法の開発以外にない。臨床情報に基づいた臨床医にしかできない疾患病態の解明と新規治療法の開発、基礎研究者とは異なる視点の研究を目指すことにより、広い視野に立ち次世代の消化器内科学領域をリードする臨床研究者を育成することが本分野における大学院教育のゴールである。

(2) 研究活動

研究（主要テーマ）
・炎症性腸疾患病態解明とそれを基盤にした免疫統御療法の開発
・腸管粘膜免疫の特殊性を応用した炎症、アレルギーに対する新規治療法の開発
・体外培養を用いた消化管機能制御機構の解析
・消化管・肝における再生機構の解析と再生医療
・消化管上皮細胞内シグナル制御機構の解析
・消化器疾患における疾患関連遺伝子の検討

(3) 教育活動

毎週火曜日　抄読会、リサーチカンファレンス

(4) 教育方針

大学院における臨床教室の意義は次世代の医学・医療のための基礎を確立することにあり、これら先進性の確保のためには臨床に基づく研究の推進および基礎研究に基づく画期的な治療法の開発以外にないとの考えに立ち、我が国の疾病構造の中で極めて頻度の高い疾患群を構成する上・下部消化管疾患および肝・胆・膵疾患に関する優れた臨床研究者を育成することを目的とする。臨床においては、内視鏡を含む、医用工学を駆使した種々の診断技術の開発・実施に加え、高度な先端技術を用いた治療法の開発を目指している。研究面では、消化管粘膜免疫制御機構と組織再生機構に関わる独自の基礎研究に基づいた炎症性腸疾患の新規治療開発、ウイルス学・免疫学的アプローチによる基礎研究と慢性肝炎の進展阻止を目指した臨床研究、および新規抗癌剤治療による消化器癌治療に関わる臨床研究など、臨床の場から課題を抽出して研究を展開し、最終的には臨床現場に還元する「クリニカル・サイエンス」を追求する。国内外の交流および留学の機会を積極的に設け、広い視野に立ち次世代の消化器内科学領域をリードする臨床研究者を育成することが本分野における大学院教育のゴールである。

(5) 臨床活動および学外活動

臨床（主要テーマ）
・免疫異常の是正を基盤とした炎症性腸疾患の治療
・ウイルス学的新知見を踏まえた慢性肝炎、肝癌の進展阻止
・肝癌に対する新しい治療の試み
・バルーン内視鏡、カプセル内視鏡を用いた小腸疾患の診断、治療
・大腸内視鏡、治療内視鏡
・MR エンテログラフィなどの低侵襲的消化管検査
・膵癌、胃癌に対する化学療法の検討

(6) 臨床上の特色

消化器病学は消化管および肝臓、胆道、膵臓など、臓器として多くの領域をカバーするだけでなく、解剖、生理、病理学を基礎として、免疫学（炎症、感染症、自己免疫など）、腫瘍学、遺伝学、栄養学などの幅広い病態学に及びます。また、診断学においても内視鏡検査などの画像診断の進歩は目覚ましく、治療学の進歩も華々しいものがあります。また、消化器内科では、外科や小児科との境界領域も多いため、これらに関する知識も必須であり、また、救急医学においても消化器病学は大きな比重を占めています。
当教室では、指導体制の整った各地域の拠点病院の関連病院において、これら広範な領域について研修する機会を提供する一方で、大学病院では、専門性を生かした大学病院ならではの診療を行うなど、関連病院と大学病院

の連携が非常にバランスよく保たれています。さらに当教室では、臨床研究だけでなく基礎研究でも実績があり、臨床と研究両面からよりよい医療を目指す事ができます。

＜炎症性腸疾患＞
当教室は、厚生労働省「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班」の班長施設を長年務めるなど、我が国の炎症性腸疾患診療の中心となっています。2012 年に潰瘍性大腸炎 · クローン病先端治療センターを設置以降すでに 1300 人以上の新規紹介を受け入れ、特に難治例の紹介が多いのが特徴です。診療において、小腸内視鏡や MR エンテログラフィーといった最新の画像診断で、苦痛や負担を最小限に抑えかつ精度の高い診断および疾患活動性評価を行っています。それに加え、免疫調節薬や、抗 TNF α 抗体製剤など生物学的製剤による治療を積極的に行うことで、長期入院例は皆無で、患者 QOL を損なうことなく外来を中心に治療をしております。外科 · 放射線科 · 病理部 · 看護師 · 栄養士 · 薬剤師とも連携し、患者中心のチーム医療を実践し、また、臨床試験管理センターとも密に連携し数多くの治験を実施することでも、最新の医療を提供しています。リサーチクエスチョンをもちながら日々の診療を行っており、国内外の消化器関連学会にておいても、良質の臨床研究を発表し続けています。

＜慢性肝炎 · 肝癌＞
専門外来として「肝炎 · 肝癌撲滅外来」を開設し、慢性肝炎、肝硬変、肝癌の診療を肝臓専門医が行っています。特にウイルス性肝炎の治療については豊富な治療経験をもち、「お茶の水 liver カンファレンス共同研究」では多くの関連病院の協力も得て、2000 例以上の症例経験を蓄積し、我が国有数の臨床研究として認知されています。この研究により治療効果の正確な予測が可能となることが明らかとなり、さらに、発癌メカニズムと発癌リスクの詳細を解明し、肝硬度測定検査（Fibroscan）やバイオマーカーを組み合わせた抗ウイルス療法後の肝癌スクリーニングプログラムの開発を行っています。
肝癌診療においては、造影超音波検査や Real-time virtual sonography (RVS: MRI/CT のボリュームデータから施行中の超音波画像と同一断面を表示するシステム）を用いて、多角的に肝細胞癌を評価し、安全で確実なラジオ波焼灼療法を行っており、これらの有用性についても報告してきました。さらに放射線科や肝臓外科と緊密な連携をもち、様々な選択肢の中から病態に応じた最適な集学的治療を提供しています。

＜特殊内視鏡（小腸バルーン内視鏡、カプセル内視鏡）＞
小腸バルーン内視鏡検査の進歩は目覚ましく、当科では早くも２００４年９月にはダブルバルーン内視鏡検査を開始し、出血や術後胆道結石を中心に、広く関東一円から紹介患者を受け入れています。さらにシングルバルーン内視鏡を用いてクローン病を中心とした炎症性腸疾患の診断 · 病状把握 · 狭窄治療に非常に有用であることを世界に発信しています。小腸バルーン内視鏡症例数は年間 300 件を超え、日本の約 5 %を担っています。またカプセル内視鏡を用いた原因不明消化管出血の診断についても、多くの紹介患者を受け入れています。

＜食道 · 胃 · 膵癌化学療法＞
当科での消化器進行癌に対する化学療法の特徴は、いわゆる癌専門施設とは異なり、大学病院という性質から、基礎疾患を有する治療困難な患者が多い点にあります。癌専門施設の治験等からは除外されてしまうような患者に対しても、患者の基礎疾患等を熟慮した QOL を損ねない治療を心がけています。

(7) 研究業績

[原著]

1. Sylvia Leo, Yusuke Kato, Yu Meng Wu, Mutsumi Yokota, Masato Koike, Shiro Yui, Kiichiro Tsuchiya, Nobuaki Shiraki, Shoen Kume. The effect of Vitamin D3 and Valproic Acid on the maturation of human induced pluripotent stem cell-derived enterocyte-like cells. Stem Cells. 2023.05;

2. Kirino Sakura, Tamaki Nobuharu, Kurosaki Masayuki, Takahashi Yuka, Higuchi Mayu, Itakura Yoshie, Tanaka Yuki, Inada Kento, Ishido Shun, Yamashita Koji, Nobusawa Tsubasa, Matsumoto Hiroaki, Hayakawa Yuka, Kakegawa Tatsuya, Takaura Kenta, Tanaka Shohei, Maeyashiki Chiaki, Kaneko Shun, Yasui Yutaka, Tsuchiya Kaoru, Nakanishi Hiroyuki, Okamoto Ryuichi, Izumi Namiki. Detecting advanced liver fibrosis using ultrasound shear wave velocity measurement in the general population QUANTITATIVE IMAGING IN MEDICINE AND SURGERY. 2023.10; 13(10); 6493-6502

3. Takeshi Ueda, Fumikazu Koyama, Akira Sugita, Hiroki Ikeuchi, Kitaro Futami, Kouhei Fukushima, Riichiro Nezu, Hideki Iijima, Tsunekazu Mizushima, Michio Itabashi, Kazuhiro Watanabe, Keisuke Hata, Takahide Shinagawa, Katsuyoshi Matsuoka, Kento Takenaka, Makoto Sasaki, Manabu Nagayama, Hironori Yamamoto, Masaru Shinozaki, Mikihiro Fujiya, Jun Kato, Yoshitaka Ueno, Shinji Tanaka, Yoshiki Okita, Yoshinari Hashimoto, Taku Kobayashi, Kazutaka Koganei, Motoi Uchino, Hisao Fujii,

Yasuo Suzuki, Tadakazu Hisamatsu. Endoscopic Lesions of Postoperative Anastomotic Area in Patients With Crohn's Disease in the Biologic Era: A Japanese Multi-Centre Nationwide Cohort Study. J Crohns Colitis. 2023.12; 17(12); 1968-1979

4. Haruki Uojima, Kadzuki Nakabayashi, Kazumi Yamasaki, Masaya Sugiyama, Norihiro Ishii, Ken Shirabe, Takuya Kyoutou, Koji Ueda, Yoichi Takahama, Nobuharu Tamaki, Masayuki Kurosaki, Hisashi Hidaka, Chika Kusano, Keisuke Amano, Takumi Kawaguchi, Akinobu Taketomi, Satoru Joshita, Takeji Umemura, Miyako Murakawa, Yasuhiro Asahina, Takanori Suzuki, Kentaro Matsuura, Takashi Nishimura, Hiroko Iijima, Kazumasa Sakamoto, Kiyoaki Ito, Sohji Nishina, Keisuke Hino, Hidenori Toyoda, Hiroshi Yatsuhashi, Masayoshi Kage, Masashi Mizokami. New chemiluminescent enzyme immunoassay for quantitative measurement of Mac-2 binding protein glycosylation isomer in chronic liver disease. J Gastroenterol. 2023.12; 58(12); 1252-1260

5. Yuki Tahata, Hayato Hikita, Satoshi Mochida, Nobuyuki Enomoto, Akio Ido, Hidekatsu Kuroda, Daiki Miki, Masayuki Kurosaki, Yoichi Hiasa, Ryotaro Sakamori, Norifumi Kawada, Taro Yamashita, Goki Suda, Hiroshi Yatsuhashi, Hitoshi Yoshiji, Naoya Kato, Taro Takami, Kazuhiko Nakao, Kentaro Matsuura, Yasuhiro Asahina, Yoshito Itoh, Ryosuke Tateishi, Yasunari Nakamoto, Eiji Kakazu, Shuji Terai, Masahito Shimizu, Yoshiyuki Ueno, Norio Akuta, Masanori Miyazaki, Yasutoshi Nozaki, Masayuki Kabayama, Satoshi Sobue, Akihiro Moriuchi, Tomokatsu Miyaki, Takahiro Kodama, Tomohide Tatsumi, Tomomi Yamada, Tetsuo Takehara. Posttreatment liver function, but not baseline liver function stratifies patient survival after direct-acting antiviral treatment in decompensated cirrhosis with hepatitis C virus. J Gastroenterol. 2023.12; 58(12); 1211-1221

6. Makoto Naganuma, Taku Kobayashi, Reiko Kunisaki, Katsuyoshi Matsuoka, Shojiro Yamamoto, Ami Kawamoto, Daisuke Saito, Kosaku Nanki, Kazuyuki Narimatsu, Hisashi Shiga, Motohiro Esaki, Shinichiro Yoshioka, Shingo Kato, Masayuki Saruta, Shinji Tanaka, Eriko Yasutomi, Kaoru Yokoyama, Kei Moriya, Yoshikazu Tsuzuki, Makoto Ooi, Mikihiro Fujiya, Atsushi Nakazawa, Takayuki Abe, Tadakazu Hisamatsu, . Real-world efficacy and safety of advanced therapies in hospitalized patients with ulcerative colitis. J Gastroenterol. 2023.12; 58(12); 1198-1210

7. Laurent Peyrin-Biroulet, Jessica R Allegretti, David T Rubin, Brian Bressler, Matthew Germinaro, Kuan-Hsiang Gary Huang, Nicole Shipitofsky, Hongyan Zhang, Rebbecca Wilson, Chenglong Han, Brian G Feagan, William J Sandborn, Julian Panés, Tadakazu Hisamatsu, Gary R Lichtenstein, Bruce E Sands, Axel Dignass ; QUASAR Study Group. Guselkumab in Patients With Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis: QUASAR Phase 2b Induction Study. Gastroenterology. 2023.12; 165(6); 1443-1457

8. Tharathorn Suwatthanarak, Pariyada Tanjak, Thanawat Suwatthanarak, Onchira Acharayothin, Kullanist Thanormjit, Amphun Chaiboonchoe, Thikhamporn Tawantanakorn, Chainarong Phalanusitthepha, Atthaphorn Trakarnsanga, Asada Methasate, Manop Pithukpakorn, Ryuichi Okamoto, Vitoon Chinswangwatanakul. Exploring extracellular matrix and prostaglandin pathway alterations across varying resection margin distances of right-sided colonic adenocarcinoma. BMC Cancer. 2023.12; 23(1); 1202

9. Shuji Hibiya, Takashi Fujii, Toshimitsu Fujii, Shinji Suzuki, Mayumi Kondo, Shinya Ooka, Yohei Furumoto, Seishin Azuma, Kei Tanaka, Hitoshi Kurata, Shohei Tanaka, Masayuki Kurosaki, Kazuyoshi Nagayama, Fumihiko Kusano, Yasuhiro Iizuka, Takahiro Kawamura, Hidekazu Ikemiyagi, Shinya Sakita, Tsunehito Yauchi, Hideki Watanabe, Ami Kawamoto, Yusuke Matsuyama, Kazuo Ohtsuka, Ryuichi Okamoto. COVID-19 severity is associated with the risk of gastrointestinal bleeding. BMJ Open Gastroenterol. 2023.11; 10(1); e001199

10. Masanori Kobayashi, Hiromune Katsuda, Kazuo Ohtsuka, Ryuichi Okamoto. Comparison of guidewires for successful cannulation of biliary stenosis and targeting of biliary branches in ERCP. Endosc Int Open. 2023.09; 11(9); E805-E810

11. Morimoto K, Ueda H, Asano D, Ishikawa Y, Watanabe S, Akahoshi K, Ono H, Kobayashi M, Okamoto R, Tanaka S, Tanabe M. Incidence and Mechanism of Refractory Postoperative Cholangitis After Hepatectomy with Hepaticojejunostomy. J Gastrointest Surg. 2023.08; 27(8); 1668-1676

12. Kentaro Miyamoto, Tomohisa Sujino, Yosuke Harada, Hiroshi Ashida, Yusuke Yoshimatsu, Yuki Yonemoto, Yasuhiro Nemoto, Michio Tomura, Hassan Melhem, Jan Hendrik Niess, Toshihiko Suzuki, Toru Suzuki, Shohei Suzuki, Yuzo Koda, Ryuichi Okamoto, Yohei Mikami, Toshiaki Teratani, Kenji F. Tanaka, Akihiko Yoshimura, Toshiro Sato, Takanori Kanai. The gut microbiota-induced kynurenic acid

recruits GPR35-positive macrophages to promote experimental encephalitis. Cell Rep. 2023.08; 42(8); 113005

13. Takayuki Yamamoto, Hiroshi Nakase, Kenji Watanabe, Shinichiro Shinzaki, Noritaka Takatsu, Toshimitsu Fujii, Ryuichi Okamoto, Katsuyoshi Matsuoka, Akihiro Yamada, Reiko Kunisaki, Minoru Matsuura, Hisashi Shiga, Shigeki Bamba, Yohei Mikami, Takahiro Shimoyama, Satoshi Motoya, Takehiro Torisu, Taku Kobayashi, Naoki Ohmiya, Masayuki Saruta, Koichiro Matsuda, Takayuki Matsumoto, Atsuo Maemoto, Yoko Murata, Shinichi Yoshigoe, Shinya Nagasaka, Tsutomu Yajima, Tadakazu Hisamatsu, . Diagnosis and Clinical Features of Perianal Lesions in Newly Diagnosed Crohn's Disease: Subgroup Analysis from Inception Cohort Registry Study of Patients with Crohn's Disease (iCREST-CD). J Crohns Colitis. 2023.08; 17(8); 1193-1206

14. Katsuyoshi Matsuoka, Hajime Yamazaki, Masakazu Nagahori, Taku Kobayashi, Teppei Omori, Yohei Mikami, Toshimitsu Fujii, Shinichiro Shinzaki, Masayuki Saruta, Minoru Matsuura, Takayuki Yamamoto, Satoshi Motoya, Toshifumi Hibi, Mamoru Watanabe, Jovelle Fernandez, Shunichi Fukuhara, Tadakazu Hisamatsu. Association of ulcerative colitis symptom severity and proctocolectomy with multidimensional patient-reported outcomes: a cross-sectional study. J Gastroenterol. 2023.08; 58(8); 751-765

15. Yoshio Kitazume, Kento Takenaka, Kazuo Ohtsuka, Yasuo Ozawa, Koichiro Kimura, Ryosuke Watanabe, Junichi Tsuchiya, Toshimitsu Fujii, Masakazu Nagahori, Mamoru Watanabe, Ukihide Tateishi. Motility Mapping Quantification Using the Classical Optical Flow Algorithm for Small Bowel Crohn's Disease: Comparison with Balloon-assisted Enteroscopy Findings. Magn Reson Med Sci. 2023.07; 22(3); 325-334

16. Junichi Takahashi, Hady Yuki Sugihara, Shu Kato, Sayaka Nagata, Ryuichi Okamoto, Tomohiro Mizutani. Protocol to generate large human intestinal organoids using a rotating bioreactor. STAR Protocols. 2023.06; 4(3); 102374

17. Kento Takenaka, Ami Kawamoto, Yoshio Kitazume, Toshimitsu Fujii, Yumi Udagawa, Hiromichi Shimizu, Shuji Hibiya, Masakazu Nagahori, Kazuo Ohtsuka, Mamoru Watanabe, Ryuichi Okamoto. Transmural Remission Characterized by High Biologic Concentrations Demonstrates Better Prognosis in Crohn's Disease. J Crohns Colitis. 2023.06; 17(6); 855-862

18. Kento Takenaka, Yoshio Kitazume, Ami Kawamoto, Toshimitsu Fujii, Yumi Udagawa, Ryosuke Wanatabe, Hiromichi Shimizu, Shuji Hibiya, Masakazu Nagahori, Kazuo Ohtsuka, Hiroyuki Sato, Akihiro Hirakawa, Mamoru Watanabe, Ryuichi Okamoto. Serum Leucine-Rich α 2 Glycoprotein: A Novel Biomarker for Transmural Inflammation in Crohn's Disease. Am J Gastroenterol. 2023.06; 118(6); 1028-1035

19. Katsuyoshi Matsuoka, Toshimitsu Fujii, Ryuichi Okamoto, Akihiro Yamada, Reiko Kunisaki, Minoru Matsuura, Kenji Watanabe, Hisashi Shiga, Noritaka Takatsu, Shigeki Bamba, Yohei Mikami, Takayuki Yamamoto, Takahiro Shimoyama, Satoshi Motoya, Takehiro Torisu, Taku Kobayashi, Naoki Ohmiya, Masayuki Saruta, Koichiro Matsuda, Takayuki Matsumoto, Hiroshi Nakase, Atsuo Maemoto, Shinichiro Shinzaki, Yoko Murata, Shinichi Yoshigoe, Ayako Sasaki, Tsutomu Yajima, Tadakazu Hisamatsu, . Correction: Characteristics of adult patients newly diagnosed with Crohn's disease: interim analysis of the nation-wide inception cohort registry study of patients with Crohn's disease in Japan (iCREST-CD). J Gastroenterol. 2023.06; 58(6); 602-603

20. Kaneko Shun, Asahina Yasuhiro, Nakagawa Mina, Murakawa Miyako, Miyazaki Yasunari, Asakage Takahiro, Fukuda Shohei, Namiki Takeshi, Kano Yoshihito, Nagata Masashi, Tsuchiya Jun, Miyoshi Masato, Kitahata-Kawai Fukiko, Nitta Sayuri, Itsui Yasuhiro, Kakinuma Sei, Okamoto Ryuichi. Factors associated with liver injury and prognosis in advanced cancer patients treated with immune checkpoint inhibitors(タイトル和訳中) Hepatology Research. 2023.05; 53(5); 450-459

21. Fujiwara S, Kawamoto A, Motobayashi M, Hibiya S, Takenaka K, Shimizu H, Saito E, Fujii T, Nagahori M, Kawata D, Umezawa N, Hosoya T, Yasuda S, Ohtsuka K, Okamoto R. Hemorrhagic gastric ulcer in a patient with Behcet's disease successfully treated with infliximab. DEN open. 2023.04; 3(1); e196

22. Hayakawa Yuka, Tamaki Nobuharu, Nakanishi Hiroyuki, Kurosaki Masayuki, Tanaka Yuki, Inada Kento, Ishido Shun, Kirino Sakura, Yamashita Koji, Nobusawa Tsubasa, Matsumoto Hiroaki, Kakegawa Tatsuya, Higuchi Mayu, Takaura Kenta, Tanaka Shohei, Maeyashiki Chiaki, Kaneko Shun, Yasui Yutaka, Takahashi Yuka, Tsuchiya Kaoru, Okamoto Ryuichi, Izumi Namiki. 治療抵抗性肝性脳症に対するリファキシミン追加投与の効果 (Add-on Therapeutic Effects of Rifaximin on Treatment-resistant Hepatic Encephalopathy) Internal Medicine. 2023.04; 62(7); 973-978

23. Satoshi Watanabe, Nobuhiko Ogasawara, Sakurako Kobayashi, Sakura Kirino, Masami Inoue, Yui Hiraguri, Sayaka Nagata, Hiromichi Shimizu, Go Ito, Tomohiro Mizutani, Yasuhiro Nemoto, Kiichiro Tsuchiya, Ryuichi Okamoto, Mamoru Watanabe, Shiro Yui. Organoids transplantation as a new modality to design epithelial signature to create a membrane-protective sulfomucin-enriched segment. J Gastroenterol. 2023.04; 58(4); 379-393

24. Taisei Keitoku, Nobuharu Tamaki, Masayuki Kurosaki, Kento Inada, Sakura Kirino, Naoki Uchihara, Keito Suzuki, Yuki Tanaka, Haruka Miyamoto, Shun Ishido, Michiko Yamada, Tsubasa Nobusawa, Hiroaki Matsumoto, Mayu Higuchi, Kenta Takaura, Shohei Tanaka, Chiaki Maeyashiki, Shun Kaneko, Yutaka Yasui, Yuka Takahashi, Kaoru Tsuchiya, Hiroyuki Nakanishi, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto, Namiki Izumi. Effect of fatty liver and fibrosis on hepatocellular carcinoma development in patients with chronic hepatitis B who received nucleic acid analog therapy. J Viral Hepat. 2023.04; 30(4); 297-302

25. Tetsuro Shimakami, Hiroko Setoyama, Noriko Oza, Jun Itakura, Shun Kaneko, Masaaki Korenaga, Tadashi Toyama, Junko Tanaka, Tatsuya Kanto. Development of performance indicators for hepatitis countermeasures as a tool for the assessment and promotion of liver cancer prevention in Japan. J Gastroenterol. 2023.03; 58(3); 257-267

26. Daiki Yamada, Yudai Kojima, Akinori Hosoya, Masahiro Suzuki, Taro Watabe, Tadahiko Inoue, Naoya Tsugawa, Takehito Asakawa, Yuki Yonemoto, Michio Onizawa, Yasuhiro Nemoto, Shigeru Oshima, Motoyuki Shimonaka, Keiji Kuba, Junji Ishida, Akiyoshi Fukamizu, Josef M Penninger, Mamoru Watanabe, Ryuichi Okamoto, Takashi Nagaishi. Apelin expression is downregulated in T cells in a murine model of chronic colitis. Biochem Biophys Res Commun. 2023.03; 647; 72-79

27. Naoki Ikeda, Hiroaki Kubota, Risa Suzuki, Mitsuki Morita, Ayana Yoshimura, Yuya Osada, Keigo Kishida, Daiki Kitamura, Ayaka Iwata, Satoshi Yotsumoto, Daisuke Kurotaki, Koutarou Nishimura, Akira Nishiyama, Tomohiko Tamura, Takashi Kamatani, Tatsuhiko Tsunoda, Miyako Murakawa, Yasuhiro Asahina, Yoshihiro Hayashi, Hironori Harada, Yuka Harada, Asumi Yokota, Hideyo Hirai, Takao Seki, Makoto Kuwahara, Masakatsu Yamashita, Shigeyuki Shichino, Masato Tanaka, Kenichi Asano. The early neutrophil-committed progenitors aberrantly differentiate into immunoregulatory monocytes during emergency myelopoiesis. Cell Rep. 2023.03; 42(3); 112165

28. Shimakami Tetsuro, Setoyama Hiroko, Oza Noriko, Itakura Jun, Kaneko Shun, Korenaga Masaaki, Toyama Tadashi, Tanaka Junko, Kanto Tatsuya. 日本における肝癌予防の評価および推進ツールとしての肝炎対策のためのパフォーマンス指標の開発 (Development of performance indicators for hepatitis countermeasures as a tool for the assessment and promotion of liver cancer prevention in Japan) Journal of Gastroenterology. 2023.03; 58(3); 257-267

29. Satoshi Watanabe, Nobuhiko Ogasawara, Sakurako Kobayashi, Sakura Kirino, Masami Inoue, Yui Hiraguri, Sayaka Nagata, Hiromichi Shimizu, Go Ito, Tomohiro Mizutani, Yasuhiro Nemoto, Kiichiro Tsuchiya, Ryuichi Okamoto, Mamoru Watanabe, Shiro Yui. Organoids transplantation as a new modality to design epithelial signature to create a membrane-protective sulfomucin-enriched segment. J Gastroenterol. 2023.02;

30. Saito E, Ohtsuka K, Kawamoto A, Fujii T, Takenaka K, Hibiya S, Shimizu H, Nagahori M, Tomii S, Okamoto R. A case of venous stasis colitis possibly caused by eplerenone. Clinical journal of gastroenterology. 2023.02; 16(1); 69-72

31. Tsuchiya K, Nagahori M, Hanazawa R, Sasaki M, Sato H, Hirakawa A, Anzai T, Takahashi K, Kobayashi Y, Hibiya S, Takenaka K, Watanabe M. Serial daily recording of patient-reported outcomes (PRO2) might predict treatment change in the patients with Ulcerative Colitis. JOURNAL OF CROHNS & COLITIS. 2023.02; 17(1); I316-I317

32. Toshiaki Shibata, Daisuke Shinjo, Junichi Takahashi, Kiyohide Fushimi. Pandemic-resilient target setting in colorectal cancer screening for vulnerable older population. Cancer Med. 2023.01; 12(1); 619-630

33. Shun Kaneko, Masayuki Kurosaki, Toshie Mashiba, Hiroyuki Marusawa, Masahiko Kondo, Yuji Kojima, Yasushi Uchida, Hideki Fujii, Takehiro Akahane, Hitoshi Yagisawa, Atsunori Kusakabe, Haruhiko Kobashi, Takehiko Abe, Hideo Yoshida, Chikara Ogawa, Koichiro Furuta, Nobuharu Tamaki, Keiji Tsuji, Tomomichi Matsushita, Namiki Izumi, . Risk factors for hepatocellular carcinoma at baseline and 1 year after initiation of nucleos(t)ide analog therapy for chronic hepatitis B. J Med Virol. 2023.01; 95(1); e28210

34. Kaneko S, Asahina Y, Nakagawa M, Murakawa M, Miyazaki Y, Asakage T, Fukuda S, Namiki T, Kano Y, Nagata M, Tsuchiya J, Miyoshi M, Kitahata-Kawai F, Nitta S, Itsui Y, Kakinuma S, Okamoto R. Factors associated with liver injury and prognosis in advanced cancer patients treated with immune checkpoint inhibitors. Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology. 2023.01; 53(5); 450-459

35. Shun Ishido, Kaoru Tsuchiya, Yoshihito Kano, Yutaka Yasui, Kenta Takaura, Naoki Uchihara, Keito Suzuki, Yuki Tanaka, Haruka Miyamoto, Michiko Yamada, Hiroaki Matsumoto, Tsubasa Nobusawa, Taisei Keitoku, Shohei Tanaka, Chiaki Maeyashiki, Nobuharu Tamaki, Yuka Takahashi, Hiroyuki Nakanishi, Urara Sakurai, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto, Masayuki Kurosaki, Namiki Izumi. Clinical Utility of Comprehensive Genomic Profiling in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma. Cancers (Basel). 2023.01; 15(3); 719

36. Ryuichi Okamoto, Tomohiro Mizutani, Hiromichi Shimizu. Development and Application of Regenerative Medicine in Inflammatory Bowel Disease. Digestion. 2023; 104(1); 24-29

37. Shokichi Takahama, Sachiyo Yoshio, Yuji Masuta, Hirotomo Murakami, Ryotaro Sakamori, Shun Kaneko, Takashi Honda, Miyako Murakawa, Masaya Sugiyama, Masayuki Kurosaki, Yasuhiro Asahina, Tetsuo Takehara, Victor Appay, Tatsuya Kanto, Takuya Yamamoto. T cell quality. Front Immunol. 2023; 14; 1257113

1. 勝又 理沙, 金子 俊, 小林 正典, 中川 美奈, 勝田 景統, 加藤 祐己, 桐村 進, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 経口胆道鏡にて診断しえた再発肝細胞癌の 1 例 日本消化器内視鏡学会雑誌. 2023.12; 65(12); 2413-2420

2. 勝又 理沙, 金子 俊, 小林 正典, 中川 美奈, 勝田 景統, 加藤 祐己, 桐村 進, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 経口胆道鏡にて診断しえた再発肝細胞癌の 1 例 Gastroenterological Endoscopy. 2023.12; 65(12); 2413-2420

3. 前田 康晴, 工藤 進英, 小形 典之, 黒木 貴典, 高階 祐輝, 瀧島 和美, 小川 悠史, 一政 克朗, 森 悠一, 工藤 豊樹, 林 武雅, 宮地 英行, 石田 文生, 根本 哲生, 大塚 和朗, 三澤 将史. 潰瘍性大腸炎患者の大腸病変に対する内視鏡的質的診断　システマティック・レビュー Gastroenterological Endoscopy. 2023.09; 65(9); 1464-1478

4. 金子 俊, 村川 美也子, 朝比奈 靖浩. 【ウイルス性肝炎学 2023-最新の病態・診断・治療情報-】B 型肝炎　治療　新規抗 HBV 薬剤の開発状況 日本臨床. 2023.07; 81(増刊 7 ウイルス性肝炎学 2023); 417-424

5. 河本 亜美, 木脇 祐子, 大塚 和朗. 【分類不能腸炎 (IBDU) の現状と将来展望】潰瘍性大腸炎の治療経過中に IBDU と診断された 1 例 胃と腸. 2023.06; 58(6); 803-807

6. 中川 美奈, 村川 美也子, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. 【肝疾患-診療のチェックポイント 2023】(第 I 部) 診断のチェックポイント (第 7 章)　慢性肝疾患における肝細胞癌診断のチェックポイント 臨床消化器内科. 2023.06; 38(7); 853-859

7. 栗原 正道, 江川 隆英, 小林 正典, 大塚 和朗, 渡邊 秀一, 赤星 径一, 田邉 稔, 岡本 隆一. 金属ステント留置後の繰り返す逆行性胆管炎に対してダックビル型逆流防止金属ステントが奏効した 1 例 Gastroenterological Endoscopy. 2023.04; 65(4); 368-374

[総説]

1. Nanako Hashido, Masanori Kobayashi, Ami Kawamoto, Suguru Mabuchi, Hiromune Katsuda, Kazuo Ohtsuka, Yasuhiro Asahina, Masayoshi Hashimoto, Ryuichi Okamoto. Sphincter of Oddi dysfunction that could not be diagnosed with Rome IV: a case report. Clin J Gastroenterol. 2023.12; 16(6); 913-918

2. Hiroshi Nakase, Motohiro Esaki, Fumihito Hirai, Taku Kobayashi, Katsuyoshi Matsuoka, Minoru Matsuura, Makoto Naganuma, Masayuki Saruta, Kiichiro Tsuchiya, Motoi Uchino, Kenji Watanabe, Tadakazu Hisamatsu, . Treatment escalation and de-escalation decisions in Crohn's disease: Delphi consensus recommendations from Japan, 2021. J Gastroenterol. 2023.04; 58(4); 313-345

3. Mina Nakagawa, Yasuhiro Asahina, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto. Impact of eradication of hepatitis C virus on liver-related and -unrelated diseases: morbidity and mortality of chronic hepatitis C after SVR. J Gastroenterol. 2023.04; 58(4); 299-310

1. 岡本 隆一, 水谷 知裕, 清水 寛路. 【消化器領域における再生医療の現状と展望】オルガノイド治療 日本消化器病学会雑誌. 2023.12; 120(12); 964-972

2. 藤井 俊光, 岡本 隆一. 【炎症性腸疾患に対する検査法の進歩】Cross-sectional imaging としての MRI と transmural healing 日本消化器病学会雑誌. 2023.11; 120(11); 888-897
3. 竹中 健人, 藤井 俊光, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 【小腸画像診断のトピックス】MR enterography 胃と腸. 2023.11; 58(11); 1491-1498
4. 大塚 和朗, 竹中 健人, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 齊藤 詠子, 田村 皓子, 張 肇豐, 岡本 隆一. 【小腸画像診断のトピックス】新しい小腸画像診断のトピックス 像強調観察 シングルバルーン内視鏡 (NBI,TXI,RDI) 胃と腸. 2023.11; 58(11); 1531-1536
5. 井上 忠彦, 永石 宇司. 炎症性腸疾患モデルにおける炎症性発癌機構の解析 細胞. 2023.10; 55(12); 1005-1009
6. 金子 俊, 村川 美也子, 朝比奈 靖浩. 【ウイルス性肝炎学 2023-最新の病態 · 診断 · 治療情報-】B 型肝炎 治療新規抗 HBV 薬剤の開発状況 日本臨床. 2023.07; 81(増刊 7); 417-424
7. 中川 美奈, 朝比奈 靖浩. 【ウイルス性肝炎学 2023-最新の病態 · 診断 · 治療情報-】C 型肝炎　ウイルス排除をめざした臨床研究　C 型肝炎の治療と生命予後 日本臨床. 2023.07; 81(増刊 7); 122-128
8. 永石 宇司, 井上 忠彦, 伏見 萌音, 山田 大貴, 岡本 隆一, 安達 貴弘. 【腸管 IgA の最先端〜明らかになりつつある IgA による腸管微生物叢制御機構とその重要性〜】IgA による回腸免疫恒常性の維持 消化器病学サイエンス. 2023.06; 7(2); 86-89
9. 中川 美奈, 村川 美也子, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. 【肝疾患-診療のチェックポイント 2023】(第 I 部) 診断のチェックポイント (第 7 章)　慢性肝疾患における肝細胞癌診断のチェックポイント 臨床消化器内科. 2023.06; 38(7); 853-859
10. 山田 大貴, 永石 宇司. 【慢性下痢を深く理解する!】慢性下痢の原因となる薬剤 IBD Research. 2023.06; 17(2); 112-115
11. 油井　史郎. オルガノイドによる疾患研究の俯瞰 メディカル · サイエンス · ダイジェスト. 2023.05; 49(5);
12. 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎　新しい治療の展開 SRL 宝函. 2023.04; 44(1); 26-33
13. 根本 泰宏. S1P1 受容体を知る 消化器病学サイエンス. 2023.03; 7(1); 28-32
14. 大塚 和朗, 竹中 健人, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 齊藤 詠子, 岡本 隆一. 【進化し続ける IEE】IEE を使いこなす小腸内視鏡/カプセル内視鏡 バルーン内視鏡 IEE をどう活用するか 消化器内視鏡. 2023.03; 35(3); 369-372
15. 岡本 隆一, 水谷 知裕, 清水 寛路. 【真の実臨床応用をめざした再生医療 2023　リバーストランスレーショナルリサーチのいまと産業化のための技術開発】(第 3 章) 新規の細胞, 組織の再生技術, 疾患モデル作成　腸上皮オルガノイドを用いた炎症性腸疾患に対する治療 実験医学. 2023.02; 41(2); 258-262
16. 岡本 隆一. 【消化管疾患 update】炎症性腸疾患　基礎と臨床における話題 BIO Clinica. 2023.01; 38(1); 16-20
17. 岡本 隆一, 水谷 知裕, 清水 寛路. 【多角的アプローチによる炎症性腸疾患の最新治療】幹細胞からみた炎症性腸疾患の病態と治療 日本消化器病学会雑誌. 2023; 120(7); 562-570

[講演 · 口頭発表等]

1. Ryuichi Okamoto. Clinical Application of Patient-derived Organoids. World Bio Innovation Forum Invitation 2023.12.06 WEB
2. Ryuichi Okamoto, Yasuhiro Nemoto, Tomohiro Mizutani, Hiromichi Shimizu. Recent Progress in the Treatment of Tissue Specific Immunological Diseases. The 2nd International Symposium of Clinical Immunology 2023.05.19 Kamakura_JAPAN
3. Ryuichi Okamoto. Bench-to-bedside research: Patient-derived organoid transplantation for treatment of intractable ulcerative colitis. SIDDS 2023 2023.04.08 Grand Walkerhill Seoul_Korea
4. Kento Takenaka. Deep neural network for video colonoscopy of ulcerative colitis. JDDW2023 2023.11.04 Kobe_Japan
5. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Miyako Murakawa, Ryuichi Okamoto. Liver stiffness stratify the disease progression and hepatocellular carcinoma predictive risk score on chronic hepatitis B patients. JDDW2023 2023.11.03 Kobe_Japan

6. Marla C. Dubinsky, Geert D’ Haens, Olivier Dewit, Pascal Juillerat, Remo Panaccione, Toshimitsu Fujii, Ana P Lacerda, Elena Dubcenco, Samuel Anyanwu, Chirag Doshi, John Liu, Andrew Garrison, Edward V Loftus Jr. Corticosteroid-Sparing Effect of Upadacitinib in Patients With Moderately to Severely Active Crohn’ s Disease. ACG 2023 - American College of Gastroenterology 2023.10.20 Vancouver_Canada

7. B.Bressler, L.Peyrin-Biroulet, J.R.Allegretti, K.G.Huang, M.Germinaro, N.Shipitofsky, Y.Miao, H.Zhang, M.Bortlik, T.Hlavaty, T.Fujii, B.G.Feagan, B.E.Sands, A.Dignass on behalf of the QUASAR Investigators. The Efficacy of Induction Treatment With Guselkumab in Patients with Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis: Phase 3 QUASAR Induction Study Results at Week 12 by Prior Advanced Therapy History. ACG 2023 - American College of Gastroenterology 2023.10.20 Vancouver_Canada

8. T. Fujii , S. Hibiya , H. Shimizu , A. Kawamoto , K. Takenaka , E. Saito , M. Nagahori , K. Ohtsuka , R. Okamoto. DUAL THERAPY WITH CAROTEGRAST (AJM300: ORAL α 4 INTEGRIN ANTAGONIST) AND BIOLOGICS FOR REFRACTORY ULCERATIVE COLITIS. UEGW2023 2023.10.15 Copenhagen_Denmark

9. Mone Fushimi, Tadahiko Inoue, Daiki Yamada, Taro Watabe, Mamoru Watanabe, Ryuichi Okamoto, Takashi Nagaishi. APL downregulation in T cells in the setting of chronic colitis. UEGW2023 2023.10.15 Copenhagen_Denmark

10. Minhu Chen, Xiang Gao, Kenji Watanabe, Toshimitsu Fujii, Jae Hee Cheon, Shu-Chen Wei, Dennis Teng, Ana P Lacerda, Valencia P Remple, Hiroshi Nakase. Efficacy of Induction Upadacitinib Therapy in East Asian Patients With Moderately to Severely Active Crohn’ s Disease. UEGW2023 2023.10.15 Copenhagen_Denmark

11. B.Bressler, L.Peyrin-Biroulet, J.R.Allegretti, K.G.Huang, M.Germinaro, N.Shipitofsky, Y.Miao, H.Zhang, M.Bortlik, T.Hlavaty, T.Fujii, B.G.Feagan, B.E.Sands, A.Dignass on behalf of the QUASAR Investigators. The Efficacy of Induction Treatment With Guselkumab in Patients with Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis: Phase 3 QUASAR Induction Study Results at Week 12 by Prior Advanced Therapy History. UEGW2023 2023.10.15 Copenhagen_Denmark

12. Hiromune Katsuda, Go Ito, Yui Hiraguri, Tomohiro Muto, Shun Ishido, Masanori Kobayashi, Hironari Yamashita, Akira Ito, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Mamoru Watanabe, Minoru Tanabe, Ryuichi Okamoto. Analysis of gene expression to elucidate the pathogenesis of pancreatic solid pseudopapillary neoplasm. UEGW2023 2023.10.14 Copenhagen_Denmark

13. Shuij Hibiya, Takashi Fujii, Toshimitsu Fujii, Kazuo Ohtsuka, Ryuichi Okamoto. Severe COVID-19 is associated with risk of lower gastrointestinal bleeding. UEGW2023 2023.10.14 Copenhagen_Denmark

14. A. Kawamoto, K. Takenaka, S. Hibiya, Y. Kitazume, K. Ito, H. Shimizu, T. Fujii, E. Saito, K. Ohtsuka, R. Okamoto. COMBINING LEUCINE-RICH ALPHA-2 GLYCOPROTEIN AND FAECAL BIOMARKERS FOR ACCURATE MONITORING OF SMALL BOWEL ACTIVITY IN CROHN’ S DISEASE. UEGW2023 2023.10.14 Copenhagen_Denmark

15. Shiro Yui. Fetal-like reprogramming is the key to understand the heterogeneity of colorectal cancer. SICS-OMICS2023, The 41st Sapporo International Cancer Symposium 2023.10.13 Tokyo, Japan

16. Marc Ferrante, Laurent Peyrin-Biroulet, Axel Dignass, David T. Rubin, Silvio Danese, Geert D’Haens, Kristina Kligys, Sofie Berg, Jasmina Kalabic, Javier Zambrano, Yafei Zhang, Toshimitsu Fujii, and Remo Panaccione. Clinical and Endoscopic Improvements with Risankizumab Induction and Maintenance Dosing Versus Placebo are Observed Irrespective of Number of Prior Failed Biologics. UEGW2023 2023.10.11 Copenhagen_Denmark

17. Marla C. Dubinsky, Geert D’ Haens, Olivier Dewit, Pascal Juillerat, Remo Panaccione, Toshimitsu Fujii, Ana P Lacerda, Elena Dubcenco, Samuel Anyanwu, Chirag Doshi, Madhuja Mallick, Andrew Garrison, John Liu, Edward V Loftus Jr. Corticosteroid discontinuation and clinical outcomes in patients with moderately to severely active Crohn’ s disease treated with upadacitinib. SGG Swiss congress 2023 2023.09.23 Interlaken_Switzerland

18. Nobuhiko Ogasawara, Shiro Yui et al. ECM-niche dependent plasticity controls the acquisition of invasive phenotype in colorectal cancer. 第 82 回日本癌学会学術総会 2023.09.21 Yokohama

19. Nobuhiko Ogasawara, Yoshihito Kano, Sakurako Kobayashi, Satoshi Watanabe, Sakura Kirino, Iichiroh Onishi, Shinichi Yamauchi, Yui Hiraguri, Go Ito, Mamoru Watanabe, Yusuke Kinugasa, Kenichi Ohashi, Ryuichi Okamoto, Shiro Yui. ECM-niche dependent plasticity controlsthe acquisition of invasive phenotype in colorectal cancer. The 82nd Annual Meeting Of The Japanese Cancer Association 2023.09.21 Yokohama_Japan

20. Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Masato Miyoshi, Shun Kaneko, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Sei Kakinuma, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto. Factors associated with HCC development and patients' survival in patients with an SVR. The 3rd JSH International Liver Conference 2023.09.07

21. Marla C. Dubinsky, Geert D'Haens, Olivier Dewit, Pascal Juillerat, Remo Panaccione, Toshimitsu Fujii, Ana P Lacerda, Elena Dubcenco, Samuel Anyanwu, Chirag Doshi, Madhuja Mallick, Andrew Garrison, John Liu, Lena Thin, Edward V Loftus Jr. Corticosteroid discontinuation and clinical outcomes in patients with moderately to severely active Crohn's disease treated with upadacitinib. AGW2023 2023.09.02 Brisbane_Australia

22. Kaneko Shun, Asahina Yasuhiro, Murakawa Miyako, Okamoto Ryuichi. 慢性B型肝炎患者において肝スティフネスは疾患進行と肝細胞癌予測リスクスコアを層別化する (Liver stiffness stratify the disease progression and hepatocellular carcinoma predictive risk score on chronic hepatitis B patients). 肝臓 2023.09.01

23. Kazuo Ohtsuka. Endoscopic and imaging diagnosis and assessment of inflammatory bowel disease. 7th TASSID TSIBD Joint Symposium 2023.08.05 Tainan_Taiwan

24. Kazuo Ohtsuka, Kento Takenaka, Ryuichi Okamoto. Cutting-edge of clinical practice in SBE. The 105th Congress of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society 2023.05.26 Tokyo_Japan

25. Nobuhiko Ogasawara, Yoshihito Kano, Sakurako Kobayashi, Satoshi Watanabe, Sakura Kirino, Shinichi Yamauchi, Yui Hiraguri, Go Ito, Tomohiro Mizutani, Mamoru Watanabe, Yusuke Kinugasa, Ryuichi Okamoto, Shiro Yui. Unveiling the gene network behind cell plasticity provides a novel insight into the therapeutic approach for human colorectal cancer. Keystone Symposia 2023.05.11 Vancouver_Canada

26. Marla C. Dubinsky, Geert D'Haens, Olivier Dewit, Pascal Juillerat, Remo Panaccione, Toshimitsu Fujii, Ana P. Lacerda, Elena Dubcenco, Samuel Anyanwu, Chirag Doshi, Madhuja Mallick, Andrew Garrison, John Liu, Edward V. Loftus Jr. Corticosteroid Discontinuation and Clinical Outcomes in Patients With Moderately to Severely Active Crohn's Disease Treated With Upadacitinib. DDW2023 2023.05.09 Washington,D.C._USA

27. Marc Ferrante, Qian Cao, Toshimitsu Fujii, Astrid Rausch, Ezequiel Neimark, Alexandra Song, Kori Wallace, Kristina Kligys, Qing Zhou, Jasmina Kalabic, Brian Feagan. Patients with Moderate-to-Severe Crohn's Disease with and without Prior Biologic Failure Demonstrate Improved Endoscopic Outcomes with Risankizumab: Results from Phase 3 Induction and Maintenance Trials Marc. DDW2023 2023.05.09 Washington,D.C._USA

28. M.C. Dubinsky, G. D'Haens, O. Dewit, P. Juillerat, R. Panaccione, T. Fujii, A.P. Lacerda, E. Dubcenco, S.Anyanwu, C. Doshi, M. Mallick, A. Garrison, J. Liu, E.V. Loftus Jr.. Corticosteroid discontinuation and clinical outcomes in patients with moderately to severely active Crohn's disease treated with upadacitinib. 18th Congress of ECCO 2023.03.02 Copenhagen_Denmark

29. Junichi Takahashi, Tomohiro Mizutani, Ryuichi Okamoto. A suspension method for efficient induction and maturation of human intestinal organoids using a rotational bioreactor. 2023 RIKEN BDR-CuSTOM Joint Organoid Symposium 2023.02.17 Kobe_Japan

30. Junichi Takahashi, Tomohiro Mizutani, Ryuichi Okamoto. A suspension method for efficient induction and maturation of human intestinal organoids using a rotational bioreactor. 2023 RIKEN BDR-CuSTOM Joint Organoid Symposium 2023.02.15 Kobe_Japan

1. 岡本 隆一. 炎症性腸疾患と腸粘膜再生. 第 22 回日本抗加齢医学会 2023.06.09 東京国際フォーラム

2. 土屋 淳, 三好 正人, 柿沼 晴, 志水 太郎, 渡壁 慶也, 持田 知洋, 稲田 賢人, 金子 俊, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. B 型肝炎ウイルスゲノムの KMT2B 領域への integration による発癌プロセスの解析. 第 8 回 Gastro-PLUS 2023.12.16 東京コンファレンスセンター・品川

3. 持田 知洋, 三好 正人, 朝比奈 靖浩, 柿沼 晴. 細胞間相互作用の解析を目的とした iPS 由来星細胞と Hepatocyte による共培養 Spheroid の開発. 第 37 回肝類洞壁細胞研究会学術集会 2023.12.15 順天堂大学本郷お茶の水キャンパス 7 号館小川秀興講堂

4. 大塚 和朗. 主題 5「炎症性腸疾患の薬剤選択と内視鏡診断 · 診療の進歩」_統括発言. 第 117 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2023.12.10 シェーンバッハ · サボー

5. 竹中 健人, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 生物学的製剤によるクローン病狭窄性病変の変化. 第 117 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2023.12.10 シェーンバッハ · サボー

6. 福田 将義. ハンズオンセミナー「下部」_インストラクター. 第 117 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2023.12.10 シェーンバッハ · サボー

7. 齊藤 一真, 小林 正典, 勝田 景統, 村川 美也子, 福田 将義, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一, 田口 登和子, 明石 巧. 直視コンベックス型超音波内視鏡を用いた穿刺生検でのみ診断可能であった超多血性後腹膜腫瘍の 1 例. 第 117 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2023.12.10 シェーンバッハ · サボー

8. 青鹿 奈南子, 延澤 翼, 金子 俊, 河本 亜美, 村川 美也子, 小林 正典, 福田 将義, 山本 浩平, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 分類不能型免疫不全症に合併した門脈圧亢進症の一例. 日本消化器病学会関東支部第 377 回例会 2023.12.09 海運クラブ

9. 小林 正典, 勝田 景統, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 胆道処置における狭窄突破と胆管選択に有用なガイドワイヤーの比較. 第 117 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2023.12.09 シェーンバッハ · サボー

10. 河本 亜美. ランチョンセミナー 2「クローン病診療におけるバイオマーカーを用いたモニタリングと治療」. 第 117 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2023.12.09 海運クラブ

11. 岡本 隆一. ランチョンセミナー 3 _座長. 第 117 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2023.12.09 海運クラブ

12. 岡本 隆一. 一般演題 23（口頭）_座長. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.02 海運クラブ

13. 大塚 和朗. 一般演題 24（口頭）_座長. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.02 海運クラブ

14. 早川 優香, 福田 将義, 田村 皓子, 森川 亮, 小林 桜子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 藤井 俊光, 大塚 和朗, 山本 くらら, 伊藤 崇, 大橋 健一, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎罹患粘膜に発生した腫瘍における術前生検診断能の検討. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.02 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

15. 田村 皓子, 清水 寛路, 森川 亮, 小林 桜子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 藤井 俊光, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎治療におけるウパダシチニブの使用成績. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.02 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

16. 藤井 俊光, 田村 皓子, 河本 亜美, 森川 亮, 小林 桜子, 日比谷 秀爾, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎における upadacitinib 投与に伴う尋常性痤瘡の解析. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.02 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

17. 藤井 俊光, Brian Bressler, Laurent Peyrin-Biroulet, Jessica R. Allegretti, Kuan-Hsiang G.Huang, Matthew Germinaro, Nicole Shipitofsky, Ye Miao, Hongyan Zhang, 宮崎 由実, Martin Bortlik, Tibor Hlavaty, Brian G.Feagan, Bruce E.Sands, Axel Dignass. 潰瘍性大腸炎患者に対する GUS 導入療法の有効性：QUASAR 第 3 相試験 前治療歴別評価. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.02 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

18. 藤井 俊光, 幡井 裕乙, 新山 勇人, 仲瀬 裕志. ウパダシチニブを投与した中等症から重症の活動性クローン病患者での副腎皮質ステロイドの中止と転帰. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.02 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

19. 藤井 俊光, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 田村 皓子, 森川 亮, 小林 桜子, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎に対するカロテグラストのリアルワールドと biologics との dual therapy. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.02 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

20. 藤井 俊光. 【イブニングセミナー 2】IBD Advanced Therapy の study を紐解く. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.01 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

21. 竹中 健人, 河本 亜美, 藤井 俊光, 日比谷 秀爾, 田村 皓子, 森川 亮, 小林 桜子, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. クローン病肛門病変の生物学的製剤に対する内視鏡評価. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.01 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

22. 日比谷 秀爾, 藤井 俊光, 田村 皓子, 小林 桜子, 森川 亮, 河本 亜美, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 5-ASA 不耐をきたした潰瘍性大腸炎患者の臨床的特徴の検討. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.01 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

23. 森川 亮, 藤井 俊光, 田村 皓子, 小林 桜子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. リアルワールドにおける risankizumab のクローン病に対する有効性及び安全性の検討. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.01 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

24. 青鹿 奈南子, 延澤 翼, 金子 俊, 河本 亜美, 村川 美也子, 小林 正典, 福田 将義, 山本 浩平, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 分類不能型免疫不全症に合併した門脈圧亢進症の一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2023.12.01

25. 竹中 健人. IBD の分子標的治療総論. 2023 年度日本炎症性腸疾患学会医師向け教育セミナー 2023.12 WEB

26. 河本 亜美, 竹中 健人, 岡本 隆一. 血中 · 便中バイオマーカーを用いたクローン病小腸病変の予後予測. JDDW2023 2023.11.04 神戸コンベンションセンター

27. 藤井俊光. 経口 α 4 インテグリン阻害剤のポジショニングと期待. JDDW2023 2023.11.03 神戸コンベンションセンター

28. 早川優香, 福田将義, 岡本隆一. 潰瘍性大腸炎罹患粘膜に発生した腫瘍に対する術前生検診断能の検討. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

29. 土屋 淳, 柿沼 晴, 朝比奈 靖浩. B 型肝炎ウイルスゲノムの MLL4 領域への integration による発癌プロセスの解析. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

30. 村川美也子, 中川美奈, 朝比奈靖浩. C 型慢性肝疾患における SVR 後の肝発癌および生命予後リスク因子の解析. 第 27 回日本肝臓学会大会（JDDW2023） 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

31. 志水 太郎, 三好 正人, 朝比奈 靖浩. 再生医療への応用に向けたヒト iPS 細胞由来肝細胞オルガノイド長期培養系の確立. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

32. 日比谷秀爾, 村川美也子, 岡本隆一. クローン病小腸病変に対する小腸内視鏡と腸管超音波の検出能の検討. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

33. 藤井 俊光, 青沼 優子, 清水 寛路, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 齊藤 詠子, 竹中 健人, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎に対する carotegrast および biologics の dual therapy の検討. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

34. 藤井 俊光, 佐藤 真弘, 大野 浩太, 久松 理一. クローン病患者における過去に無効であった生物学的製剤数別のリサンキズマブの有効性. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

35. 藤井俊光. 炎症性腸疾患における両立支援の実際と課題. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

36. 岡本 隆一. 【デジタルポスターセッション】小腸（基礎 · 臨床）_座長. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

37. 志水 太郎, 三好 正人, 朝比奈 靖浩. 肝疾患に対する再生医療の New normal　再生医療への応用に向けたヒト iPS 細胞由来肝細胞オルガノイド長期培養系の確立. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

38. 根本 泰宏, 森川 亮, 米本 有輝, 渡辺 守, 岡本 隆一. CD4-CD8 $\alpha\beta$-TCR $\alpha\beta$+T 細胞はアナジー誘導性抗原提示細胞として腸管免疫の恒常性を維持する. 第 60 回日本消化器免疫学会総会 2023.10.06 ホテルイースト 21 東京

39. 米本 有輝, 森川 亮, 根本 泰宏, 永石 宇司, 大島 茂, 岡本 隆一. 腸管粘膜免疫系老化フェノタイプの同定とその制御因子の探索. 第 60 回日本消化器免疫学会総会 2023.10.05 ホテルイースト 21 東京

40. 早川 優香, 福田 将義, 和田 祥城, 大塚 和朗, 山本 くらら, 伊藤 崇, 大橋 健一, 岡本 隆一. 腫瘍径 6mm の 0-Ⅱc 型 SM 癌の 1 例. 第 32 回大腸 IIc 研究会 2023.09.17 ベルサール半蔵門

41. 中村 遼太, 森川 亮, 竹中 健人, 清水 寛路, 延澤 翼, 田村 皓子, 藤井 俊光, 齊藤 詠子, 小林 正典, 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 福田 将義, 大塚 和朗. 入院中の難治性潰瘍性大腸炎に対してウパダシチニブが有効であった 3 症例. 日本消化器病学会関東支部第 376 回例会 2023.09.02 海運クラブ

42. 哲翁 春貴, 遠藤 南, 小林 正典, 勝又 理沙, 齊藤 一真, 金子 俊, 村川 美也子, 岡本 隆一, 赤星 径一, 田邊 稔, 石堂 舜, 福田 将義, 大塚 和朗, 勝田 景統, 朝比奈 靖浩. 膵頭部癌の重粒子線治療後に胆道出血を来した一例. 日本消化器病学会関東支部第 376 回例会 2023.09.02 海運クラブ

43. 中村 遼太, 森川 亮, 竹中 健人, 清水 寛路, 延澤 翼, 田村 皓子, 藤井 俊光, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 齊藤 詠子, 小林 正典, 金子 俊, 福田 将義, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 入院中の難治性潰瘍性大腸炎に対してウパダシチニブが有効であった 3 症例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2023.09.01

44. 哲翁 春貴, 遠藤 南, 小林 正典, 勝又 理沙, 齊藤 一真, 石堂 舜, 勝田 景統, 金子 俊, 福田 将義, 村川 美也子, 赤星 径一, 田邊 稔, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 膵頭部癌の重粒子線治療後に胆道出血を来した一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2023.09.01

45. 北畑 富貴子, 朝比奈 靖浩, 柿沼 晴, 稲田 賢人, 持田 知洋, 渡壁 慶也 , 志水 太郎, 土屋 淳, 三好 正人, 金子 俊, 新田 沙由梨, 村川 美也子, 中川 美奈, 田中 真二, 田邊 稔, 前川 伸哉, 榎本 信幸, 岡本 隆一. 代謝要因が関連する肝細胞癌遺伝子変異プロファイルの解析. 第 59 回肝癌研究会 2023.07.28 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)

46. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 村川 美也子, 稲田 賢人, 持田 知洋, 渡壁 慶也, 志水 太郎, 土屋 淳, 三好 正人, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 中川 美奈, 柿沼 晴, 岡本 隆一. 肝細胞癌への応用を目指した抗 CTLA-4 抗体薬における免疫関連有害事象肝障害の特徴と生存期間の解析. 第 59 回日本肝癌研究会 2023.07.27 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)

47. 森本 紗生, 田村 皓子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 建人, 清水 寛路, 藤井 俊光, 小林 正典, 金子 俊, 村川 美也子, 福田 将義, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. COVID-19 罹患後にクローン病を新規発症した一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2023.07.01

48. 大塚 和朗. 第 46 回日本消化器内視鏡学会関東セミナー_会長. 2023.07 WEB

49. 大塚 和朗. 【モーニングセミナー】進化する内視鏡機器と手技. 第 46 回日本消化器内視鏡学会関東セミナー 2023.07 WEB

50. 岡本 隆一. 【モーニングセミナー】進化する内視鏡機器と手技_司会. 第 46 回日本消化器内視鏡学会関東セミナー 2023.07 WEB

51. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 進行癌免疫チェックポイント阻害剤治療例における免疫関連有害事象肝障害の特徴と生存期間への影響. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16 奈良県コンベンションセンター

52. 志水 太郎, 三好 正人, 柿沼 晴. 肝疾患モデルへの応用に向けたヒト iPS 細胞由来肝細胞オルガノイド培養系の確立. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16 奈良県コンベンションセンター

53. 村川 美也子, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. 門脈圧亢進症/肝線維化に関連するメトトレキサート治療前リスク因子の検討. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16 奈良県コンベンションセンター

54. 渡壁 慶也, 三好 正人, 柿沼 晴, 稲田 賢人, 持田 知洋, 志水 太郎, 土屋 淳, 金子 俊, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 村川 美也子, 井津井 康浩, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 肝星細胞における TNFAIP3 の機能解析. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16 奈良県コンベンションセンター

55. 柿沼 晴, 朝比奈 靖浩. ヒト iPS 細胞疾患モデルを利用した先天性肝線維症の治療標的の探索. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16 奈良県コンベンションセンター

56. 朝比奈 靖浩. パネルディスカッション 6 ウイルス肝炎制御（基礎 · 臨床）の未来予想図_司会. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.15 奈良県コンベンションセンター

57. 土屋 淳, 三好 正人, 朝比奈 靖浩. MLL4 領域への B 型肝炎ウイルスゲノム挿入による肝発癌のメカニズムの解析. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.15 奈良県コンベンションセンター

58. 朝比奈 靖浩. B 型肝炎，C 型肝炎の肝発がんと最新の話題. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.15 奈良県コンベンションセンター

59. 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩. SVR 後の肝発癌および生命予後リスク因子の解析. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.15 奈良県コンベンションセンター

60. 日比谷 秀爾, 青沼 優子, 村川 美也子, 大塚 和朗, 岡本 隆一. クローン病小腸病変に対する小腸内視鏡 · 腸管超音波検査の検出能の比較. 第 116 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2023.06.11 シェーンバッハ · サボー

61. 髙橋純一. 腸を創る〜短調症候群への Recovery Shot を目指して〜. 第 1 回お茶の水消化器内科セミナー 2023.06.02 TKP 東京駅カンファレンスセンター

62. 常井 薫時, 清水 寛路, 北野 尚樹, 河本 亜美, 竹中 健人, 日比谷 秀爾, 金子 俊, 小林 正典, 福田 将義, 藤井 俊光, 齊藤 詠子, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 木脇 祐子, 小柳 杏莉, 田村 一洋, 大橋 健一, 岩田 乃理子, 山内 慎一, 絹笠 祐介, 岡本 隆一. 反復する嘔吐を契機に小腸内視鏡にて診断した若年小腸腺癌の 2 例. Progress of Digestive Endoscopy 2023.06.01

63. 竹中 健人, 大塚 和朗. 当施設での PowerSpiral 内視鏡の使用経験. 第 105 回日本消化器内視鏡学会総会 2023.05.26 グランドプリンスホテル新高輪

64. 山本 博徳, 大塚 和朗. 小腸内視鏡による診断、治療の最前線（下部）_司会. 第 105 回 日本消化器内視鏡学会総会 2023.05.26 グランドプリンスホテル新高輪

65. 竹中 健人. 一般演題口演 13「下部：クローン病」_座長. 第 105 回日本消化器内視鏡学会総会 2023.05.25 グランドプリンスホテル新高輪

66. 日比谷 秀爾, 藤井 俊光, 河本 亜美, 竹中 健人, 福田 将義, 金子 俊, 小林 正典, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 初回治療より 13 年後に再発しクローン病との鑑別を要したアメーバ腸炎の一例. 日本消化器病学会関東支部第 374 回例会 2023.04.22 海運クラブ

67. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 治療前肝障害は免疫関連有害事象肝障害の因子となりうるか？ 〜免疫関連有害事象肝障害の特徴とその予測因子に関する検討〜. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.08 出島メッセ長崎

68. 藤井 俊光，佐藤 真弘，池田 公俊，仲瀬 裕志. 潰瘍性大腸炎におけるウパダシチニブ 30mg 及び 15mg 維持療法のベネフィット比較: 第 III 相 U-ACHIEVE 試験. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.08 出島メッセ長崎

69. 日比谷 秀爾, 藤井 崇, 藤井 俊光. 大規模電子カルテデータを用いた COVID-19 重症度と消化管出血リスク因子の関連. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.08 出島メッセ長崎

70. 勝田 景統, 小林 正典, 岡本 隆一. 10mm 以下の膵神経内分泌腫瘍における超音波内視鏡下穿刺生検の有用性の検討. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.08 出島メッセ長崎

71. 清水 寛路, 水谷 知裕, 岡本 隆一. 炎症性腸疾患に対する再生医療の現状. 第 109 回消化器病学会総会 2023.04.08 出島メッセ長崎

72. 小林 正典, 田邉 稔, 岡本 隆一. 高齢者 IPMN の手術適応判断における嚢胞径と主膵管拡張の意義. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.07 出島メッセ長崎

73. 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 生物学的製剤治療中のクローン病における Transmural remission の重要性. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.07 出島メッセ長崎

74. 大島 茂, 松田 浩紀, 水谷 知裕. 消化器診療へのゲノムワイド研究のインパクト ゲノム解析による monogenic IBD の同定から個別化医療への展開. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.07 出島メッセ長崎

75. 青沼 優子, 日比谷 秀爾, 藤井 俊光, 河本 亜美, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎における 5-ASA 不耐症の臨床的特徴の探索. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.06 出島メッセ長崎

76. 渡辺 雅人, 藤原 俊, 村川 美也子, 金子 俊, 小林 正典, 福田 将義, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 山本 浩平, 岡本 隆一. ミコフェノール酸モフェチルが有効であった亜急性昏睡眠型急性肝不全を呈した免疫関連肝障害の一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2023.04.01

77. 新井 啓介, 日比谷 秀爾, 藤井 俊光, 河本 亜美, 竹中 健人, 福田 将義, 金子 俊, 小林 正典, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 初回治療より 13 年後に再発しクローン病との鑑別を要したアメーバ腸炎の一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2023.04.01

78. 渡壁 慶也, 三好 正人, 柿沼 晴, 稲田 賢人, 持田 知洋, 志水 太郎, 土屋 淳, 金子 俊, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 村川 美也子, 井津井 康浩, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 肝星細胞における TNFAIP3 の機能解析. 肝臓 2023.04.01

79. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 肝疾患における有害事象をめぐる諸問題 (薬物性肝障害を含めて)　進行癌免疫チェックポイント阻害剤治療例における免疫関連有害事象肝障害の特徴と生存期間への影響. 肝臓 2023.04.01
80. 村川 美也子, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. 門脈圧亢進症診療の未来予想図 (現状と課題)　門脈圧亢進症/肝線維化に関連するメトトレキサート治療前リスク因子の検討. 肝臓 2023.04.01
81. 岡本隆一. 炎症性腸疾患に対する再生医療. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 国立京都国際会館
82. 油井　史郎. 腸上皮細胞の時相調整における ECM-Niche の役割解明. 第 22 回日本再生医療学会 2023.03.23 京都
83. 藤井 俊光, 藤原 俊, 岡本 隆一. 重症潰瘍性大腸炎に対する内科治療と広域内科外科連携の試み . 第 59 回日本腹部救急医学会総会 2023.03.09 沖縄コンベンションセンター
84. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 免疫チェックポイント阻害剤による消化器系臓器障害　治療前肝障害は免疫関連有害事象肝障害の因子となりうるか?　免疫関連有害事象肝障害の特徴とその予測因子に関する検討. 日本消化器病学会雑誌 2023.03.01
85. 鈴木 達也, 早川 優香, 金子 俊, 竹中 健人, 村川 美也子, 小林 正典, 福田 将義, 木脇 祐子, 竹本 暁, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. クローン病に合併した肉芽腫性肝炎の一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム・抄録集 2023.02.01
86. 橋渡 七奈子, 小林 正典, 馬渕 卓, 金子 俊, 村川 美也子, 福田 将義, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 橋本 正良, 岡本 隆一. 胆道シンチグラフィーでのみ診断可能であった乳頭括約筋機能不全の 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.02.01
87. 岡 瑛子, 杉山 勇太, 河本 亜美, 竹中 健人, 日比谷 秀爾, 小林 正典, 金子 俊, 村川 美也子, 福田 将義, 小田 豊士, 岩田 乃里子, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 腸管狭窄症状で発症した 20 代の原発性小腸癌の一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム・抄録集 2023.02.01

[受賞]

1. 東京都医師会医学研究奨励賞「Immunoglobulin A-specific deficiency induces spontaneous inflammation specifically in the ileum」 受賞者：永石 宇司, 2023 年 02 月
2. 日本消化器病学会 関東支部第 374 回例会 研修医奨励賞「ミコフェノール酸モフェチルが有効であった亜急性昏睡型急性肝不全を呈した免疫関連肝障害の一例」受賞者：渡辺雅人, 2023 年 04 月
3. 土田直樹研究助成金「再生期間細胞期限の同定」　研究代表者　油井　史郎, 2023 年 04 月
4. 文部科学省科学研究費補助金　基盤研究 B：23H02887「腸オルガノイドによる大腸組織再生の最適化」研究代表者：油井　史郎　分担研究者　土屋　輝一郎, 2023 年 04 月
5. JSIBD 一般研究助成（カテゴリー C2)「新規イメージング技術を用いたニッチにおける腸炎惹起性メモリー T 細胞ダイナミクスの時空間解析」受賞者：根本 泰宏, 日本炎症性腸疾患学会, 2023 年 04 月
6. JSIBD 若手研究助成（カテゴリー C1)「クローン病患者における生物学的製剤による部位別治療効果の解析」受賞者：河本 亜美, 日本炎症性腸疾患学会, 2023 年 04 月
7. UEG week 2023 Travel Grant「APL downregulation in T cells in the setting of chronic colitis」 受賞者：伏見 萌音, 2023 年 10 月
8. JDDW2023 若手奨励賞「B 型肝炎ウイルスゲノムの MLL4 領域への integration による発癌プロセスの解析」受賞者：土屋 淳, 2023 年 11 月
9. JDDW2023 若手奨励賞「再生医療への応用に向けたヒト iPS 細胞由来肝細胞オルガノイド長期培養系の確立」受賞者：志水 太郎, 2023 年 11 月
10. JDDW2023 優秀演題賞「難治性潰瘍性大腸炎に対する carotegrast および biologics の dual therapy の検討」受賞者：藤井 俊光, 2023 年 11 月
11. The Best Presenter Award in International Session (JDDW2023)「Liver stiffness stratify the disease progression and hepatocellular carcinoma predictive risk score on chronic hepatitis B patients」受賞者：金子 俊, 2023 年 11 月
12. 第 117 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 優秀演題賞「直視コンベックス型超音波内視鏡を用いた穿刺生検でのみ診断可能であった超多血性後腹膜腫瘍の 1 例」受賞者：齊藤 一真, 2023 年 12 月

[その他業績]

1. From grave to cradle: Collagen-induced gut cell reprogramming, 2023 年 01 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

2. From grave to cradle: Collagen-induced gut cell reprogramming, 2023 年 01 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

3. From grave to cradle: Collagen-induced gut cell reprogramming, 2023 年 01 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. 亜細亜大学 · 田中幹也さんの病状と治療について, TBS, 速報！ ドラフト会議２０２１ The 運命の 1 日, 2022 年 09 月 30 日 - 現在

2. 大学とそのキャンパスの紹介, 読売新聞社, 読売新聞, 2022 年 11 月 09 日 - 現在

3. 「潰瘍性大腸炎における「ミニ臓器」について」岡本 隆一, INCLUSIVE 株式会社, ZERONICHI, 2022 年 11 月 10 日 - 現在

4. 講座クローズアップについて, 関東医事新報, 株式会社東海医事新報社, 2023 年 06 月 22 日

総合外科学

Specialized Surgeries

准教授　岡本健太郎（小児外科）
講　師　小田　剛史（医療情報部/乳腺外科）
助　教　石場　俊之（乳腺外科）
　　水野　裕貴（国際医療部/小児外科）
　　熊木　裕一（乳腺外科）
特任助教　足立　未央（乳腺外科）
医　員　伊藤　圭史（小児外科）
　　林　久美子（乳腺外科）
　　原　正武　（乳腺外科）
　　岡本　将太（小児外科）

(1) 分野概要

総合外科学分野は、本学消化器 · 一般外科学部門の改編に伴い、2015 年 4 月に発足しました。
現在、乳腺外科および小児外科の 2 診療科で構成されています。

(2) 研究活動

乳腺外科領域の研究課題として、①がん遺伝子パネルを用いたドライバー遺伝子や新しいバイオマーカーの探索、② AI を用いた画像診断（放射線診断科と共同）、③乳腺手術後の皮膚血流の評価、④免疫多重染色法を用いた乳癌 TIL の局在に関する研究、などがあります。
小児外科領域の研究課題として、①上肢の血管の解剖学的解析、②スマートフォンを用いた遠隔診療を行っています。①は、新規に開発された血管透過装置を用いて非侵襲的に行っています。これは、末梢挿入式中心静脈カテーテルの安全な挿入へと臨床応用していきます。②は、日帰り手術に取り入れていき、他教室や看護部とも協力して行っています。

(3) 教育活動

「豊かな人間性のあふれる、国際人としての外科臨床医、医学研究者の育成」をモットーに、若手医師、大学院生の教育に取り組んでいます。

(4) 臨床活動および学外活動

乳腺外科では、年間 130-160 症例の手術を行っております。全乳癌症例に関して、外科、放射線科、形成外科、病理科の 4 科合同で合同カンファレンス（毎週水曜日）を行い、治療方針を決定しております。
小児外科では、新生児からキャリーオーバーした成人まで、心臓と頭部以外の広範囲な小児の外科的疾患を対象に治療を行っています。新規デバイスである血管透過装置を用いて患児への安全な中心静脈カテーテル挿入等も行い、低侵襲治療を心がけています。

(5) 研究業績

[原著]

1. Kamata Y, Mizuno Y, Okamoto K, Okamoto S, Ito Y, Nishigata A. Peripherally inserted central catheters can be an alternative to tunneled central venous catheters in chemotherapy for hematological and oncological pediatric patients. Pediatric surgery international. 2023.09; 39(1); 264

2. Ryosuke Kikuchi, Kazuhito Sasaki, Hiroaki Nozawa, Koji Murono, Shigenobu Emoto, Shinichi Yamauchi, Kenichi Sugihara, Soichiro Ishihara. Prognosis of Inferior Mesenteric and Para-aortic Lymph Node Metastases in Rectal Cancer: A Multicenter Study Anticancer research. 2023.09; 43(9); 4213-4219

3. Sasada Shinsuke, Kondo Naoto, Hashimoto Hiroya, Takahashi Yuko, Terata Kaori, Kida Kumiko, Sagara Yasuaki, Ueno Takayuki, Anan Keisei, Suto Akihiko, Kanbayashi Chizuko, Takahashi Mina, Nakamura Rikiya, Ishiba Toshiyuki, Tsuneizumi Michiko, Nishimura Seiichiro, Naito Yoichi, Hara Fumikata, Shien Tadahiko, Iwata Hiroji. Prognostic impact of adjuvant endocrine therapy for estrogen receptor-positive and HER2-negative T1a/bN0M0 breast cancer. Breast Cancer Res Treat. 2023.09;

4. Tsuyoshi Nakagawa, Hiroki Mori, Noriko Uemura, Iichiro Onishi, Goshi Oda. A Case of Breast Cancer With Ulceration of a Reconstructed Nipple Due to Local Recurrence. Cureus. 2023.05; 15(5); e39563

5. Honda M, Shimojima N, Maeda Y, Ito Y, Miyaguni K, Tsukizaki A, Abe K, Hashimoto M, Ishikawa M, Tomita H, Shimotakahara A, Hirobe S. Factors predicting surgical difficulties in congenital biliary dilatation in pediatric patients. Pediatric surgery international. 2023.01; 39(1); 79

6. Ishiba Toshiyuki, Nishibuchi Ikuno, Hara Fumikata, Shikama Naoto, Shien Tadahiko, Iwata Hiroji. Metastasis-directed therapy for oligometastases in breast cancer. Jpn J Clin Oncol. 2023.07;

7. Mori M, Fujioka T, Hara M, Katsuta L, Yashima Y, Yamaga E, Yamagiwa K, Tsuchiya J, Hayashi K, Kumaki Y, Oda G, Nakagawa T, Onishi I, Kubota K, Tateishi U. Deep Learning-Based Image Quality Improvement in Digital Positron Emission Tomography for Breast Cancer. Diagnostics (Basel, Switzerland). 2023.02; 13(4);

8. Sato A, Fujioka T, Mori M, Oda G, Nakagawa T, Kubota K, Tateishi U. A case in which ultrasonography was useful in differentiating between rib fracture due to compression after biopsy and rib metastasis of breast cancer. Journal of medical ultrasonics (2001). 2023.02; 50(2); 265-266

9. Yashima Y, Fujioka T, Kubota K, Mori M, Sato A, Oda G, Nakagawa T, Onishi I, Tanaka M, Tateishi U. Comparison of the clinical and pathological characteristics of ultrasound-guided biopsy for breast masses and non-mass lesions between 16-gauge spring-loaded core needle biopsy and 12-gauge spring-loaded vacuum-assisted biopsy. Journal of medical ultrasonics (2001). 2023.01; 50(2); 205-212

1. Kamata Yuko, Mizuno Yuki, Okamoto Kentaro, Okamoto Shota, Ito Yoshifumi, Nishigata Aya. Peripherally inserted central catheters can be an alternative to tunneled central venous catheters in chemotherapy for hematological and oncological pediatric patients PEDIATRIC SURGERY INTERNATIONAL. 2023.09; 39(1); 264

2. 高橋 正貴, 岡本 健太郎, 前川 貴伸, 米田 光宏. 【希少固形がんの診断と治療】食道がん 小児外科. 2023.08; 55(8); 883-886

3. Kobayashi Taira, Takahara Mitsuyoshi, Fujimura Naoki, Ichihashi Shigeo, Kudo Toshifumi, Okadome Jun, Obara Hideaki, Nakama Tatsuya, Suzuki Kenji, Yamaoka Terutoshi. Comparison of Clinical Outcomes in Patients Undergoing Common Femoral Thromboendarterectomy With or Without Patch Angioplasty EUROPEAN JOURNAL OF VASCULAR AND ENDOVASCULAR SURGERY. 2023.06; 65(6); 870-877

4. 鎌田 悠子, 岡本 健太郎, 水野 裕貴, 伊藤 佳史, 西潟 綾. 【共有したい術式および手術経験: 手術のポイントや工夫】リアルタイムエコー下穿刺による PICC 挿入 小児外科. 2023.03; 55(3); 255-260

5. 鎌田 悠子, 岡本 健太郎, 水野 裕貴, 伊藤 佳史, 西潟 綾. 【共有したい術式および手術経験: 手術のポイントや工夫】リアルタイムエコー下穿刺による PICC 挿入 小児外科. 2023.03; 55(3); 255-260

6. 鎌田 悠子, 岡本 健太郎, 水野 裕貴, 伊藤 佳史, 西潟 綾. 【共有したい術式および手術経験: 手術のポイントや工夫】リアルタイムエコー下穿刺による PICC 挿入 小児外科. 2023.03; 55(3); 255-260

7. 足立 未央, 有賀 智之, 熊木 裕一, 才田 千晶, 中津川 智子, 岩本 奈織子, 米倉 利香, 石場 俊之, 本田 弥生, 井ノ口 卓彦, 山口 達郎. BRCA1/2 病的バリアント保持者の乳房サーベイランスの実際 遺伝性腫瘍. 2023.02; 22(3); 85-90

8. 足立 未央, 有賀 智之, 熊木 裕一, 才田 千晶, 中津川 智子, 岩本 奈織子, 米倉 利香, 石場 俊之, 本田 弥生, 井ノ口 卓彦, 山口 達郎. BRCA1/2 病的バリアント保持者の乳房サーベイランスの実際 遺伝性腫瘍. 2023.02; 22(3); 85-90

9. Tanaka Yuko, Inage Eisuke, Matsumoto Megumi, Murano Yayoi, Endo Akifumi, Nakabayashi Yosuke, Yokoya Susumu, Iwama Itaru, Suzuki Yasuyuki, Oyama Shoichi, Baba Yosuke, Kudo Takahiro, Ohtsuka Yoshikazu, Shimizu Toshiaki. Low billing rates for pediatric sedation fee on magnetic resonance imaging PEDIATRICS INTERNATIONAL. 2023.01; 65(1); e15532

10. 脊山 泰治, 長 晴彦, 原田 匡彦, 三浦 昭順, 中野 大輔, 石場 俊之, 加藤 剛, 堀尾 裕俊. 外科発展の礎　外科志望者増加のための取り組み　外科医志望者増加のためのマーケティング, 実践, 発信の取り組み 日本外科学会雑誌. 2023.01; 124(1); 86-89

11. Mizuno Yuki, Yoshida Soichiro, Okamoto Kentaro, Fujii Yasuhisa. Utility of an endoscopic image processing system for framing laparoscopic images using surgeon's gaze point and voice commands during laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure of inguinal hernia in children VIDEOSURGERY AND OTHER MINIINVASIVE TECHNIQUES. 2023; 18(2); 372-377

[総説]

1. Kumaki Y, Oda G, Ikeda S. Targeting MET Amplification: Opportunities and Obstacles in Therapeutic Approaches. Cancers. 2023.09; 15(18);

[講演・口頭発表等]

1. A Randomized Controlled Trial of Metastasis-directed Therapy for Oligometastases in Breast Cancer OLIGAMI trial; JCOG2110. San Antonio Breast Cancer Symposium 2023 2023.12.07 San Antonio 米国

2. 石場　俊之. HER2 陽性乳癌 医科歯科流 HER の扱い方 . 第 20 回城東乳癌カンファレンス 2023.09.26 東京

3. 川島 瑞希, 小田 剛史, 原 正武, 林 久美子, 熊木 裕一, 范 博, 中川 剛士. 膀胱転移をきたした浸潤性乳管癌の一例. 日本臨床外科学会雑誌 2023.06.01

4. 中津川 智子, 井ノ口 卓彦, 足立 未央, 奈良 美也子, 才田 千晶, 神尾 英則, 宮原 か奈, 岩本 奈織子, 米倉 利香, 石場 俊之, 有賀 智之, 山口 達郎. BRCA 血縁者診断の現況. 日本遺伝カウンセリング学会誌 2023.06.01

5. 小田 剛史, 原 正武, 林 久美子, 熊木 裕一, 森 美央, 藤岡 友之, 土屋 純一, 中川 剛士, 立石 宇貴秀. 乳がん術前化学療法 non-pCR 症例において残存病変の SUVmax は予後予測因子として有用である. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2023.06.01

6. 岡本 健太郎, 岡本 将太, 鎌田 悠子, 伊藤 佳史, 水野 裕貴, 村瀬 有紀子. チャイルドライフスペシャリストの小児外科手術・処置への介入. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

7. 鎌田 悠子, 水野 裕貴, 岡本 健太郎, 伊藤 佳史, 西潟 綾. 小児血液・固形腫瘍の化学療法は PICC で完遂可能である. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

8. 水野 裕貴, 鎌田 悠子, 西潟 綾, 岡本 健太郎. 遺伝性両側副腎褐色細胞腫に対して両側副腎部分切除を施行した小児例. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

9. 岡本 健太郎, 岡本 将太, 鎌田 悠子, 伊藤 佳史, 水野 裕貴, 村瀬 有紀子. チャイルドライフスペシャリストの小児外科手術・処置への介入. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

10. 鎌田 悠子, 水野 裕貴, 岡本 健太郎, 伊藤 佳史, 西潟 綾. 小児血液・固形腫瘍の化学療法は PICC で完遂可能である. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

11. 水野 裕貴, 吉田 宗一郎, 鎌田 悠子, 西潟 綾, 岡本 健太郎. 当院小児外科開設後 7 年の経過と今後の展望. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

12. 家村 綾正, 鈴木 友梨, 鎌田 悠子, 水野 裕貴, 山本 くらら, 酢谷 明人, 高澤 啓, 高木 正稔, 西岡 正人, 明石 巧, 岡本 健太郎, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. 生殖細胞系列 VHL 遺伝子異常による遺伝性褐色細胞腫の小児例. 日本内分泌学会雑誌 2023.05.01

13. 岡本 健太郎, 岡本 将太, 鎌田 悠子, 伊藤 佳史, 水野 裕貴, 村瀬 有紀子. チャイルドライフスペシャリストの小児外科手術・処置への介入. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

14. 鎌田 悠子, 水野 裕貴, 岡本 健太郎, 伊藤 佳史, 西潟 綾. 小児血液・固形腫瘍の化学療法は PICC で完遂可能である. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

15. 川口 皓平, 下島 直樹, 下高原 昭廣, 富田 紘史, 石川 未来, 阿部 陽友, 森 禎三郎, 月崎 絢乃, 伊藤 佳史, 広原 和樹, 熊谷 知子. 当センターにおける臍帯ヘルニアの治療法の検討. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

16. 石川 未来, 富田 紘史, 小山 知秀, 伊藤 佳史, 月崎 絢乃, 阿部 陽友, 下高原 昭廣, 下島 直樹, 廣部 誠一. 当院で経験した小児外傷性十二指腸壁内血腫 6 例の検討. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

17. 月崎 絢乃, 富田 紘史, 熊谷 知子, 広原 和樹, 川口 皓平, 伊藤 佳史, 阿部 陽友, 森 禎三郎, 石川 未来, 下高原 昭廣, 下島 直樹. 当院における Morgagni ヘルニア (胸骨後ヘルニア)4 例の検討. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

18. 石川 未来, 富田 紘史, 伊藤 佳史, 月崎 絢乃, 阿部 陽友, 下高原 昭廣, 下島 直樹, 廣部 誠一. 当院における先天性食道閉鎖症の治療成績　long gap の定義に関する検討. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

19. 下高原 昭廣, 熊谷 知子, 広原 和樹, 川口 皓平, 伊藤 佳史, 月崎 絢乃, 阿部 陽友, 森 禎三郎, 石川 未来, 富田 紘史, 下島 直樹. 心膜欠損を伴い, 左肺門部過剰肺に生じる気管支閉鎖症の一群. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

20. 富田 紘史, 下島 直樹, 下高原 昭廣, 石川 未来, 阿部 陽友, 森 禎三郎, 月崎 絢乃, 川口 皓平, 伊藤 佳史, 広原 和樹, 熊谷 知子. 日齢 66 で肝硬変に陥っていた胆道閉鎖症の 1 例　術後早期肝移植は予測可能か?. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

21. 伊藤 佳史, 下島 直樹, 熊谷 知子, 広原 和樹, 川口 皓平, 月崎 絢乃, 森 禎三郎, 阿部 陽友, 石川 未来, 富田 紘史, 下高原 昭廣. 短腸症候群の中心静脈カテーテルへのクロルヘキシジングルコン酸塩ドレッシング材使用. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

22. 広原 和樹, 富田 紘史, 熊谷 知子, 川口 皓平, 伊藤 佳史, 月崎 絢乃, 森 禎三郎, 阿部 陽友, 石川 未来, 下高原 昭廣, 下島 直樹. 腸管位置異常を伴わない腸捻転症の臨床像　単施設の経験. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

23. 中村 俊貴, 槇殿 文香理, 伊藤 佳史, 下高原 昭廣, 巷岡 祐子, 榎園 美香子, 下島 直樹, 河野 達夫. 診断に苦慮した左副卵巣捻転の一例. 日本小児放射線学会雑誌 2023.05.01

24. 水野 裕貴, 吉田 宗一郎, 鎌田 悠子, 西潟 綾, 岡本 健太郎. 当院小児外科開設後 7 年の経過と今後の展望. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

25. 家村 綾正, 鈴木 友梨, 鎌田 悠子, 水野 裕貴, 山本 くらら, 酢谷 明人, 高澤 啓, 高木 正稔, 西岡 正人, 明石 巧, 岡本 健太郎, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. 生殖細胞系列 VHL 遺伝子異常による遺伝性褐色細胞腫の小児例. 日本内分泌学会雑誌 2023.05.01

26. 水野 裕貴, 鎌田 悠子, 西潟 綾, 岡本 健太郎. 遺伝性両側副腎褐色細胞腫に対して両側副腎部分切除を施行した小児例. 日本小児外科学会雑誌 2023.05.01

27. 山内慎一、芥田壮平、井川勇人、大友真由子、小田豊士、坂井義博、鈴木悠太、中川真理、藤井友夏里、谷田部悠介、山崎嘉美、大和美寿々、髙岡亜弓、花岡まりえ、岩田乃理子、徳永正則、絹笠祐介、杉原健一. 下部直腸癌に対する予防的側方郭清の意義について. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

28. 岡村亮輔、肥田侯矢、板谷喜朗、奥村慎太郎、笠原桂子、岡本拓也、藤田悠介、西山和宏、前川久雄、星野伸晃、錦織達人、久森重夫、角田茂、山内慎一、杉原健一、小濱和貴. 高齢大腸癌患者に対する術後再発サーベイランスの意義. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.28 東京

29. 植木 里乃, 鎌田 悠子, 水野 裕貴, 岡本 健太郎. 先天性心疾患術後に虚血性腸炎による高度上行結腸狭窄を生じた 1 例. 日本小児外科学会雑誌 2023.04.01

30. 伊藤 佳史, 下高原 昭廣, 下島 直樹, 熊谷 知子, 広原 和樹, 月崎 絢乃, 阿部 陽友, 森 禎三郎, 石川 未来, 富田 紘史, 廣部 誠一. 副卵巣捻転の 1 例. 日本小児外科学会雑誌 2023.04.01

31. 下島 直樹, 橋本 真, 月崎 絢乃, 下高原 昭廣, 富田 紘史, 熊谷 知子, 広原 和樹, 伊藤 佳史, 阿部 陽友, 森 禎三郎, 石川 未来, 松岡 健太郎, 廣部 誠一. 縦隔膿瘍との鑑別に難渋した食道重複症の 1 例. 日本小児外科学会雑誌 2023.04.01

32. 植木 里乃, 鎌田 悠子, 水野 裕貴, 岡本 健太郎. 先天性心疾患術後に虚血性腸炎による高度上行結腸狭窄を生じた 1 例. 日本小児外科学会雑誌 2023.04.01

33. 神尾 英則, 清水口 卓也, 奈良 美也子, 中津川 智子, 足立 未央, 才田 千晶, 宮原 か奈, 岩本 奈織子, 米倉 利香, 石場 俊之, 有賀 智之. 術前腋窩リンパ節転移陽性乳癌に対する,NAC 後の PMRT の有用性の検討. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2023.04.01

34. 足立 未央, 奈良 美也子, 才田 千晶, 中津川 智子, 神尾 英則, 宮原 か奈, 岩本 奈織子, 米倉 利香, 石場 俊之, 有賀 智之. 高齢者乳癌における補助療法実施率の検討. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2023.04.01

35. 堀口 慎一郎, 新井 秀雄, 内藤 裕, 関本 隆太郎, 櫻井 奈津子, 元井 亨, 石場 俊之, 有賀 智之, 比島 恒和. 当院におけるトリプルネガティブ乳癌の PD-L1 検査の現状について. 日本病理学会会誌 2023.03.01

36. 吉野 明日香, 小笠原 啓祐, 鎌田 悠子, 山野 春樹, 池田 翔, 高井 詩織, 下山 輝義, 伊藤 一之, 水野 裕貴, 山口 洋平, 石井 卓, 杉江 学, 森丘 千夏子, 岡本 健太郎, 細川 奨, 小野 真, 畠井 芳穂, 森尾 友宏. 先天性嚢胞性肺疾患に一側肺動脈欠損を合併した新生児の一例. 日本小児科学会雑誌 2023.02.01

37. 鈴木 友梨, 家村 綾正, 水野 裕貴, 星野 顕宏, 鎌田 悠子, 磯田 健志, 高木 正稔, 高澤 啓, 岡本 健太郎, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. 若年発症褐色細胞腫例における遺伝子学的解析は世代を超えて治療選択に影響しうる. 日本内分泌学会雑誌 2023.02.01

38. 鈴木 友梨, 家村 綾正, 水野 裕貴, 山本 くらら, 星野 顕宏, 野村 敏大, 酢谷 明人, 前田 佳真, 鎌田 悠子, 屋富祖 大騎, 高澤 啓, 磯田 健志, 高木 正稔, 西岡 正人, 明石 巧, 岡本 健太郎, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. 若年発症褐色細胞腫例における遺伝学的解析の重要性. 日本小児科学会雑誌 2023.02.01

39. 下高原 昭廣, 前田 悠太郎, 伊藤 佳史, 宮國 憲昭, 月崎 絢乃, 上山 未来, 阿部 陽友, 橋本 真, 本田 正樹, 富田 紘史, 下島 直樹, 松岡 健太郎, 廣部 誠一. 最終診断に迷う縦隔嚢胞性病変の 1 例. 日本小児外科学会雑誌 2023.02.01

40. 下高原 昭廣, 橋本 真, 熊谷 知子, 広原 和樹, 伊藤 佳史, 月崎 絢乃, 阿部 陽友, 石川 未来, 森 禎三郎, 富田 紘史, 下島 直樹, 廣部 誠一. 食道起始肺を気管支吻合して温存した BPFM の 1 例. 日本小児外科学会雑誌 2023.02.01

41. 吉野 明日香, 小笠原 啓祐, 鎌田 悠子, 山野 春樹, 池田 翔, 高井 詩織, 下山 輝義, 伊藤 一之, 水野 裕貴, 山口 洋平, 石井 卓, 杉江 学, 森丘 千夏子, 岡本 健太郎, 細川 奨, 小野 真, 畠井 芳穂, 森尾 友宏. 先天性嚢胞性肺疾患に一側肺動脈欠損を合併した新生児の一例. 日本小児科学会雑誌 2023.02.01

42. 鈴木 友梨, 家村 綾正, 水野 裕貴, 星野 顕宏, 鎌田 悠子, 磯田 健志, 高木 正稔, 高澤 啓, 岡本 健太郎, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. 若年発症褐色細胞腫例における遺伝子学的解析は世代を超えて治療選択に影響しうる. 日本内分泌学会雑誌 2023.02.01

43. 鈴木 友梨, 家村 綾正, 水野 裕貴, 山本 くらら, 星野 顕宏, 野村 敏大, 酢谷 明人, 前田 佳真, 鎌田 悠子, 屋富祖 大騎, 高澤 啓, 磯田 健志, 高木 正稔, 西岡 正人, 明石 巧, 岡本 健太郎, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. 若年発症褐色細胞腫例における遺伝学的解析の重要性. 日本小児科学会雑誌 2023.02.01

44. 鈴木悠太、山内慎一、小田豊士、坂井義博、中川真理、藤井友夏里、大和美寿々、高岡亜弓、花岡まりえ、岩田乃理子、杉原健一、絹笠祐介. StageⅣ若年性大腸癌に対する術後の長期予後に関する検討（他施設共同研究）. 第 98 回大腸癌研究会 2023.01.27 東京

[社会貢献活動]

1. 子供の鎖肛の合併症および鎖肛の子供を育てる親について, KADOKAWA, 青山文平先生新作小説「父というひと（仮）」, 2023 年 02 月 08 日

循環制御内科学

Cardiovascular Medicine

教授	笹野 哲郎
准教授	前嶋 康浩、合屋 雅彦　(-3 月)、金子 英司（統合教育機構）
寄付講座准教授	宮崎 晋介（先進不整脈学講座）
特任准教授	米津 太志
講師	江花 有亮（遺伝子診療科）
助教	梅本 朋幸、田尾 進、杉山 知代、重田 貞俊（-3 月）、高宮 智正（4 月-）、 西村 卓郎、平澤 憲祐、荒木 誠、松田 祐治、山本 佑、 落田 美瑛（検査部）、山口 純司（疾患生理機能解析学） 高橋 健太郎（疾患バイオリソースセンター）
寄付講座助教	滝川 正晃（先進不整脈学講座）、後藤 健太朗（先進不整脈学講座）
特任助教	山上 洋介（4 月-）、池ノ内 孝、井原 健介（4 月-）、中釜 瞬（10 月-）、 河村 岩成（6 月-）
医員	菅野 義典、大森 真理、根岸 美帆、吉川 宏、吉光寺 直哉（4 月-）、 岸上 哲也（4 月-）、野崎 小百美（4 月-）、酒井 瑛子（-3 月）、 渡邉 匠（-6 月）
レジデント	中島 聡良（-3 月）、野田 誠之（-3 月）、益本 寛之（-3 月）、 小山 拓人（4 月-）、中田 光宥（4 月-）、柳原 奈桜（4 月-）
大学院生 (一般)	岩宮 賢、新田 義一、Nyo Zin Lei Mon、Fan Qintao、川尻 紘平、Wei Lai、 Niu Yaqianqian、土方 禎裕、雨宮 未季、矢賀 玲鵬、Ikhtiyorjon Khamdamov、 Wang Yongjie、中村 峻（- 3 月）、石川 紗佳（- 3 月）
研究生	Ummatalieva Nurjahon Muhiddin Kizi

(1) 分野概要

循環制御内科学分野（診療科：循環器内科）では、虚血性心疾患 · 不整脈 · 心不全といった循環器疾患の克服を目的として、研究 · 臨床 · 教育に取り組んでいる。特に、基礎研究と臨床をつなぐトランスレーショナル研究、および AI や生体モニタリングデバイスを用いた医工連携研究に注力しているほか、冠動脈イメージングや冠血流の生理学的評価、臨床電気生理学検査とカテーテルアブレーション、重症心不全に対する集学的治療などの臨床活動と、それに立脚した臨床研究を展開している。これらの活動をもとに、日本ばかりでなく世界で活躍できる人材を教育することを目的として、physician scientist を要請するべく教育を行う。

(2) 研究活動

心血管疾患の成因や病態を明らかにするために、モデル動物や臨床検体を用いて病理学 · 細胞生物学 · 分子生物学 · 免疫学などの手法により解析を行う。特に基礎電気生理学と不整脈の発生基盤に関する研究、心不全の病態解明と新規治療法に関する研究、遠隔生体モニタリングと ·AI を用いた精密医療 · 先制医療に関する研究を展開している。

(3) 教育活動

当分野では、心血管疾患に関して幅広く診療を行っており、教育活動についても循環器疾患全般を担当している。特に、虚血性心疾患 · 不整脈 · 心臓弁膜症 · 心筋症など多岐にわたる疾患やその終末像としての心不全を包含しており、血管における病変も動脈硬化性疾患や血管炎など多彩である。さらに、画像診断や電気生理を中心にし

た新しい診断手法や、血管内カテーテルを用いた先進的治療、重症心不全に対する集学的治療を行っており、これらに関する教育体制を確立している。

(4) 教育方針

技術や知識の習得のみにとどまらず、病態解明や治療法の開発に関する研究マインドを備えた physician scientist を養成する。

(5) 臨床活動および学外活動

心血管病の診断、治療法について演習を行い、必要な手技を取得する。特殊検査法には心臓超音波、心臓カテーテル、血管造影、電気生理学的検査、心臓病理、シンチグラフィー、などが含まれており、総合的な診断演習、治療方針についての思考論理を学ぶ。治療法としては薬物療法の他、カテーテルインターベンション、アブレーション等の適応と手技を修得する。

(6) 臨床上の特色

おもな診断 · 治療法：虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心不全、不整脈（頻脈性不整脈 · 徐脈性不整脈）、後天性心臓弁膜症、心筋症（心サルコイドーシスなどの二次性心筋症を含む）、高安動脈炎（国内最多の症例数）、先天性心疾患、肺高血圧症、高血圧症 · 血圧調節異常（神経調節性失神）など。
高度な先進医療：冠動脈複雑病変に対するカテーテル治療、エキシマレーザー冠動脈形成術、難治性不整脈に対するカテーテルアブレーション、感染ペースメーカー抜去、高安動脈炎に対する診断 · 治療、心臓移植を必要とする重症心不全に対する補助人工心臓治療、心臓移植適応検討など。

(7) 研究業績

[原著]

1. Katherine-Sofia Candray-Medina, Yu Nakagama, Masamichi Ito, Shun Nakagama, Evariste Tshibangu-Kabamba, Norihiko Takeda, Yuki Sugiura, Yuko Nitahara, Yu Michimuko-Nagahara, Natsuko Kaku, Yoko Onizuka, Carmen-Elena Arias, Maricela Mejia, Karla Alas, Susana Peña, Yasuhiro Maejima, Issei Komuro, Junko Nakajima-Shimada, Yasutoshi Kido. Differential cardiomyocyte transcriptomic remodeling during in vitro Trypanosoma cruzi infection using laboratory strains provides implications on pathogenic host responses. Trop Med Health. 2023.12; 51(1); 68

2. Yamada E, Umemoto T, Taguchi T, Onishi I, Yamamoto A, Tsukamoto A, Ibara T, Sasaki T, Kaburagi H, Maejima Y, Sasano T, Ohashi K, Yoshii T, Nimura A, Fujita K.. Prevalence of amyloid deposition and cardiac amyloidosis in shoulder disease compared to carpal tunnel syndrome JSES International . 2023.12;

3. Iwanari Kawamura, Bingyan J Wang, Moritz Nies, Keita Watanabe, Hina W Chaudhry, Yasuhiro Maejima, Tetsuo Sasano, Ronald Gordon, Srinivas R Dukkipati, Vivek Y Reddy, Jacob Koruth. Ultrastructural Insights from Myocardial Ablation Lesions from Microsecond Pulsed Field vs Radiofrequency Energy. Heart Rhythm. 2023.12;

4. Araki M, Park SJ, Dauerman HL, Uemura S, Kim JS, Di Mario C, Johnson TW, Guagliumi G, Kastrati A, Joner M, Holm NR, Alfonso F, Wijns W, Adriaenssens T, Nef H, Rioufol G, Amabile N, Souteyrand G, Meneveau N, Gerbaud E, Opolski MP, Gonzalo N, Tearney GJ, Bouma B, Aguirre AD, Mintz GS, Stone GW, Bourantas CV, Räber L, Gili S, Mizuno K, Kimura S, Shinke T, Hong MK, Jang Y, Cho JM, Yan BP, Porto I, Niccoli G, Montone RA, Thondapu V, Papafaklis MI, Michalis LK, Reynolds H, Saw J, Libby P, Weisz G, Iannaccone M, Gori T, Toutouzas K, Yonetsu T, Minami Y, Takano M, Raffel OC, Kurihara O, Soeda T, Sugiyama T, Kim HO, Lee T, Higuma T, Nakajima A, Yamamoto E, Bryniarski KL, Di Vito L, Vergallo R, Fracassi F, Russo M, Seegers LM, McNulty I, Park S, Feldman M, Escaned J, Prati F, Arbustini E, Pinto FJ, Waksman R, Garcia-Garcia HM, Maehara A, Ali Z, Finn AV, Virmani R, Kini AS, Daemen J, Kume T, Hibi K, Tanaka A, Akasaka T, Kubo T, Yasuda S, Croce K, Granada JF, Lerman A, Prasad A, Regar E, Saito Y, Sankardas MA, Subban V, Weissman NJ, Chen Y, Yu B, Nicholls SJ, Barlis P, West NEJ, Arbab-Zadeh A, Ye JC, Dijkstra J, Lee H, Narula J, Crea F, Nakamura S,

Kakuta T, Fujimoto J, Fuster V, Jang IK. Author Correction: Optical coherence tomography in coronary atherosclerosis assessment and intervention. Nature reviews. Cardiology. 2023.12;

5. Hanyu Y, Hoshino M, Usui E, Sugiyama T, Kanaji Y, Hada M, Nagamine T, Nogami K, Ueno H, Sakamoto T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Combined Assessment of Fractional Flow Reserve and Coronary Flow Velocity Reserve after Drug-eluting Stent Implantation. Journal of the American Society of Echocardiography : official publication of the American Society of Echocardiography. 2023.12;

6. Misawa T, Hoshino M, Sugiyama T, Kanaji Y, Hada M, Nagamine T, Ueno H, Nogami K, Sayama K, Matsuda K, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Detection of unrecognized myocardial infarction by Preprocedural transthoracic echocardiography in patients undergoing elective percutaneous coronary intervention. Journal of clinical ultrasound : JCU. 2023.12;

7. Hada M, Hoshino M, Sugiyama T, Kanaji Y, Usui E, Hanyu Y, Nagamine T, Nogami K, Ueno H, Matsuda K, Sakamoto T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Diagnostic value of computed tomography myocardial perfusion imaging to detect coexisting microvascular dysfunction in patients with obstructive epicardial coronary artery disease. Quantitative imaging in medicine and surgery. 2023.12; 13(12); 8423-8434

8. Ikenouchi, T; Miyazaki, S; Nitta, J; Sekiguchi, Y; Kobori, A; Nakamura, K; Inamura, Y; Murakami, M; Sagawa, Y; Sasaki, Y; Inaba, O; Yamauchi, Y; Naito, S; Hirakawa, A; Sasano, T. Characteristics of two different cryoballoon systems for treatment of paroxysmal atrial fibrillation: study protocol for a multicenter randomized controlled trial (CONTRAST-CRYO Trial) JOURNAL OF INTERVENTIONAL CARDIAC ELECTROPHYSIOLOGY. 2023.12; 67(1); 5-12

9. Hanyu Y, Hoshino M, Usui E, Sugiyama T, Kanaji Y, Hada M, Nagamine T, Nogami K, Ueno H, Sakamoto T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Combined Assessment of Fractional Flow Reserve and Coronary Flow Velocity Reserve after Drug-eluting Stent Implantation. Journal of the American Society of Echocardiography : official publication of the American Society of Echocardiography. 2023.12;

10. Misawa T, Hoshino M, Sugiyama T, Kanaji Y, Hada M, Nagamine T, Ueno H, Nogami K, Sayama K, Matsuda K, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Detection of unrecognized myocardial infarction by Preprocedural transthoracic echocardiography in patients undergoing elective percutaneous coronary intervention. Journal of clinical ultrasound : JCU. 2023.12;

11. Hada M, Hoshino M, Sugiyama T, Kanaji Y, Usui E, Hanyu Y, Nagamine T, Nogami K, Ueno H, Matsuda K, Sakamoto T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Diagnostic value of computed tomography myocardial perfusion imaging to detect coexisting microvascular dysfunction in patients with obstructive epicardial coronary artery disease. Quantitative imaging in medicine and surgery. 2023.12; 13(12); 8423-8434

12. Suzuki A, Hamada S, Oono A, Hasegawa Y, Yamauchi Y, Okishige K, Hirao K, Sasano T. Edoxaban eliminates hypercoagulability evoked by transient temperature changes in human whole blood. Journal of arrhythmia. 2023.12; 39(6); 901-908

13. Ikenouchi T, Takigawa M, Goya M, Kudo T, Sasano T. Refractory Deep Vein Thrombosis Caused by Femoral Vein Stenosis Due to Suture-Medicated Vascular Closure Device. The International journal of angiology : official publication of the International College of Angiology, Inc. 2023.12; 32(4); 288-291

14. Yamaguchi J, Takigawa M, Goya M, Yamamoto T, Ikenouchi T, Iwakawa H, Negishi M, Goto K, Shigeta T, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Miyazaki S, Sasano T. Safety verification of a novel irrigation catheter with flexible tip of laser-cut kerfs and contact force sensor. Pacing and clinical electrophysiology : PACE. 2023.12; 46(12); 1536-1545

15. Nishimura T, Goya M, Takigawa M, Negishi M, Ikenouchi T, Yamamoto T, Kawamura I, Goto K, Shigeta T, Takamiya T, Tao S, Yonetsu T, Miyazaki S, Sasano T. Transcoronary mapping with an over-the-wire multielectrode catheter in scar-related ventricular tachycardia patients. Europace : European pacing, arrhythmias, and cardiac electrophysiology : journal of the working groups on cardiac pacing, arrhythmias, and cardiac cellular electrophysiology of the European Society of Cardiology. 2023.12; 26(1);

16. Kawamura I, Wang BJ, Nies M, Watanabe K, Chaudhry HW, Maejima Y, Sasano T, Gordon R, Dukkipati SR, Reddy VY, Koruth J. Ultrastructural Insights from Myocardial Ablation Lesions from Microsecond Pulsed Field vs Radiofrequency Energy. Heart rhythm. 2023.12;

17. Tateishi R, Suzuki M, Shimizu M, Shimada H, Tsunoda T, Miyazaki H, Misu Y, Yamakami Y, Yamaguchi M, Kato N, Isshiki A, Kimura S, Fujii H, Nishizaki M, Sasano T. Risk prediction of inappropriate implantable cardioverter-defibrillator therapy using machine learning. Scientific reports. 2023.11; 13(1); 19586

18. Iwakawa Hidehiro, Takigawa Masateru, Yamaguchi Junji, Martin Claire A, Goya Masahiko, Yamamoto Tasuku, Amemiya Miki, Ikenouchi Takashi, Negishi Miho, Kawamura Iwanari, Goto Kentaro, Shigeta Takatoshi, Nishimura Takuro, Takamiya Tomomasa, Tao Susumu, Miyazaki Shinsuke, Watanabe Hiroyuki, Sasano Tetsuo. Superiority of the Combination of Imput and Output Parameters to the Single Parameter for Lesion Size Estimation(タイトル和訳中) Circulation Journal. 2023.11; 87(12); 1757-1764

19. Iwakawa H, Takigawa M, Yamaguchi J, Martin CA, Goya M, Yamamoto T, Amemiya M, Ikenouchi T, Negishi M, Kawamura I, Goto K, Shigeta T, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Miyazaki S, Watanabe H, Sasano T. Superiority of the Combination of Input and Output Parameters to the Single Parameter for Lesion Size Estimation. Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2023.11; 87(12); 1757-1764

20. Ikenouchi T, Takigawa M, Goya M, Yamaguchi J, Martin CA, Yamamoto T, Negishi M, Kawamura I, Goto K, Shigeta T, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Miyazaki S, Sasano T. The effect of half-normal saline irrigation on lesion characteristics in temperature-flow-controlled ablation. Journal of interventional cardiac electrophysiology : an international journal of arrhythmias and pacing. 2023.11;

21. Shun Nakagama, Yasuhiro Maejima, Qintao Fan, Yuka Shiheido-Watanabe, Natsuko Tamura, Kensuke Ihara, Tetsuo Sasano. Endoplasmic Reticulum Selective Autophagy Alleviates Anthracycline-Induced Cardiotoxicity. JACC CardioOncol. 2023.10; 5(5); 656-670

22. Kondo S, Mizukami T, Kobayashi N, Wakabayashi K, Mori H, Yamamoto MH, Sambe T, Yasuhara S, Hibi K, Nanasato M, Sugiyama T, Kakuta T, Kondo T, Mitomo S, Nakamura S, Takano M, Yonetsu T, Ashikaga T, Dohi T, Yamamoto H, Kozuma K, Yamashita J, Yamaguchi J, Ohira H, Mitsumata K, Namiki A, Kimura S, Honye J, Kotoku N, Higuma T, Natsumeda M, Ikari Y, Sekimoto T, Matsumoto H, Suzuki H, Otake H, Sugizaki Y, Isomura N, Ochiai M, Suwa S, Shinke T, TACTICS investigators. Diagnosis and Prognostic Value of the Underlying Cause of Acute Coronary Syndrome in Optical Coherence Tomography-Guided Emergency Percutaneous Coronary Intervention. Journal of the American Heart Association. 2023.10; 12(20); e030412

23. Ohtani H, Ueshima D, Kawakami T, Hanyu Y, Yoshioka K, Mizukami A, Matsumura A, Sasano T. A novel coronary angiographic index for predicting correlation between fractional flow reserve and resting full-cycle ratio. Coronary artery disease. 2023.10; 34(8); 545-554

24. Shigeta T, Miyazaki S, Inaba O, Inamura Y, Nitta J, Sekiguchi Y, Takahashi A, Hachiya H, Nagata Y, Yamauchi Y, Hayashi T, Iwai S, Mizukami A, Ono Y, Handa K, Suzuki M, Suzuki A, Nakajima J, Hirao K, Okada H, Negishi M, Ikenouchi T, Yamamoto T, Goto K, Nishimura T, Tao S, Takigawa M, Hirakawa A, Goya M, Sasano T. Adjunctive posterior wall isolation for the treatment of persistent and longstanding persistent atrial fibrillation (CORNERSTONE AF) trial: Design and rationale. Clinical cardiology. 2023.10; 47(1);

25. Goto K, Miyazaki S, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Takigawa M, Sasano T. Can phrenic nerve injury be anticipated by larger cryoballoons? Pacing and clinical electrophysiology : PACE. 2023.10; 47(1); 124-126

26. Kujiraoka H, Hojo R, Arai T, Takahashi M, Fukamizu S, Sasano T. Modification of the pulmonary vein antrum is associated with recurrence after durable pulmonary vein isolation for paroxysmal atrial fibrillation. Journal of interventional cardiac electrophysiology : an international journal of arrhythmias and pacing. 2023.10;

27. Suzuki T, Tsurane K, Umemoto T, Sasano T, Ushiki E, Fudono A, Hirose A, Sekiguchi M, Miyasaka N. PCSK9 inhibitor use during pregnancy in a case of familial hypercholesterolemia complicated with coronary artery disease. The journal of obstetrics and gynaecology research. 2023.10; 50(1); 128-132

28. Ueno H, Hoshino M, Usui E, Sugiyama T, Kanaji Y, Hada M, Misawa T, Nagamine T, Hanyu Y, Nogami K, Sayama K, Matsuda K, Sakamoto T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Prognostic Implications of Fractional Flow Reserve and Coronary Flow Reserve After Drug-Eluting Stent Implantation. Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2023.10;

29. Ueno H, Hoshino M, Usui E, Sugiyama T, Kanaji Y, Hada M, Misawa T, Nagamine T, Hanyu Y, Nogami K, Sayama K, Matsuda K, Sakamoto T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Prognostic Implications of Fractional Flow Reserve and Coronary Flow Reserve After Drug-Eluting Stent Implantation. Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2023.10;

30. Nakagama S, Maejima Y, Fan Q, Shiheido-Watanabe Y, Tamura N, Ihara K, Sasano T. Endoplasmic Reticulum Selective Autophagy Alleviates Anthracycline-Induced Cardiotoxicity. JACC. CardioOncology. 2023.10; 5(5); 656-670

31. Hada M, Usui E, Wakasa N, Sasano T, Kakuta T. Impact of Impella on Coronary Flow Assessed by Transthoracic Doppler Echocardiography. Cureus. 2023.10; 15(10); e46604

32. Shimizu Masato, Kimura Shigeki, Fujii Hiroyuki, Suzuki Makoto, Nishizaki Mitsuhiro, Sasano Tetsuo. Machine Learning for Multi-Vessel Coronary Artery Disease Prediction of Electrocardiogram Gated Single-Photon Emission Computed Tomography(タイトル和訳中) Annals of Nuclear Cardiology. 2023.10; 9(1); 11-18

33. Sasano T, Ihara K, Tanaka T, Furukawa T. Risk stratification of atrial fibrillation and stroke using single nucleotide polymorphism and circulating biomarkers. PloS one. 2023.10; 18(10); e0292118

34. Yuka Shiheido-Watanabe, Yasuhiro Maejima, Shun Nakagama, Qintao Fan, Natsuko Tamura, Tetsuo Sasano. Porphyromonas gingivalis, a periodontal pathogen, impairs post-infarcted myocardium by inhibiting autophagosome-lysosome fusion. Int J Oral Sci. 2023.09; 15(1); 42

35. Seegers LM, Yeh DD, Wood MJ, Yonetsu T, Minami Y, Araki M, Nakajima A, Yuki H, Ako J, Soeda T, Kurihara O, Higuma T, Kimura S, Adriaenssens T, Nef HM, Lee H, McNulty I, Sugiyama T, Kakuta T, Jang IK. Cardiovascular Risk Factors and Culprit Plaque Characteristics in Women With Acute Coronary Syndromes. The American journal of cardiology. 2023.09; 207; 13-20

36. Yonetsu T, Wakabayashi K, Mizukami T, Yamamoto MH, Yasuhara S, Kondo S, Oishi Y, Okabe T, Sugiyama T, Araki M, Takano M, Kobayashi N, Kimura S, Yamakami Y, Suwa S, Nakamura S, Mitomo S, Kakuta T, Usui E, Higuma T, Ako J, Minami Y, Iwasaki M, Shite J, Kozuki A, Saito S, Shishido K, Okura H, Naruse G, Uemura S, Kume T, Nanasato M, Dohi T, Ashikaga T, Otake H, Mori H, Sekimoto T, Sugizaki Y, Shinke T, ATLAS-OCT Investigators. Optical Coherence Tomography-Guided Percutaneous Coronary Intervention for ST-Segment Elevation Myocardial Infarction: Rationale and Design of the ATLAS-OCT Study. The American journal of cardiology. 2023.09; 203; 466-472

37. Sayama K, Sugiyama T, Kanaji Y, Hoshino M, Misawa T, Hada M, Nagamine T, Hanyu Y, Nogami K, Ueno H, Matsuda K, Sakamoto T, Yonetsu T, Kakuta T. Prognostic utility of the pericoronary fat attenuation index in patients with takotsubo cardiomyopathy. Journal of cardiovascular computed tomography. 2023.09; 17(6); 413-420

38. Shiheido-Watanabe Y, Maejima Y, Nakagama S, Fan Q, Tamura N, Sasano T. Porphyromonas gingivalis, a periodontal pathogen, impairs post-infarcted myocardium by inhibiting autophagosome-lysosome fusion. International journal of oral science. 2023.09; 15(1); 42

39. Hanyu Y, Hoshino M, Usui E, Sugiyama T, Kanaji Y, Hada M, Nagamine T, Nogami K, Ueno H, Sayama K, Matsuda K, Sakamoto T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. LTE: Scientific basis for retraction of article "microvascular resistance reserve in the presence of functionally significant epicardial stenosis and changes after revascularization". Physiological reports. 2023.09; 11(18); e15807

40. Isonaga Y, Inamura Y, Sato A, Inaba O, Goya M, Sasano T. Challenging lead extraction with quadripolar active fixation of coronary sinus with severe adhesion. HeartRhythm case reports. 2023.09; 9(9); 614-617

41. Shigeta T, Okishige K, Murata K, Oda A, Arai H, Sagawa Y, Kurabayashi M, Goya M, Sasano T, Yamauchi Y. How to perform effective cryoballooon ablation of the left atrial roof: Considerations after experiencing more than 1000 cases. Journal of cardiovascular electrophysiology. 2023.09; 34(12); 2484-2492

42. Hanyu Y, Hoshino M, Usui E, Sugiyama T, Kanaji Y, Hada M, Nagamine T, Nogami K, Ueno H, Sayama K, Matsuda K, Sakamoto T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. LTE: Scientific basis for retraction of article "microvascular resistance reserve in the presence of functionally significant epicardial stenosis and changes after revascularization". Physiological reports. 2023.09; 11(18); e15807

43. Okishige K, Tachibana S, Shigeta T, Yamauchi Y, Tanno K, Hirao K, Sasano T. Novel method to avoid serious injurious effects on the atrioventricular nodal (AVN) conduction during catheter ablation of the AVN slow pathway utilizing cryofreezing energy. Journal of cardiology. 2023.09;

44. Shiheido-Watanabe Y, Maejima Y, Nakagama S, Fan Q, Tamura N, Sasano T. Porphyromonas gingivalis, a periodontal pathogen, impairs post-infarcted myocardium by inhibiting autophagosome-lysosome fusion. International journal of oral science. 2023.09; 15(1); 42

45. Takeshi Yamamoto, Kazumasa Harada, Hideaki Yoshino, Masato Nakamura, Yoshinori Kobayashi, Tsutomu Yoshikawa, Yasuhiro Maejima, Toshiaki Otsuka, Ken Nagao, Morimasa Takayama. Impact of the COVID-19 pandemic on incidence and mortality of emergency cardiovascular diseases in Tokyo. J Cardiol. 2023.08; 82(2); 134-139

46. Takigawa M, Kamakura T, Martin C, Derval N, Cheniti G, Duchateau J, Pambrun T, Sacher F, Cochet H, Hocini M, Negishi M, Yamamoto T, Ikenouchi T, Goto K, Shigeta T, Nishimura T, Tao S, Miyazaki S, Goya M, Sasano T, Haissaguierre M, Jais P. Detailed analysis of tachycardia cycle length aids diagnosis of the mechanism and location of atrial tachycardias. Europace : European pacing, arrhythmias, and cardiac electrophysiology : journal of the working groups on cardiac pacing, arrhythmias, and cardiac cellular electrophysiology of the European Society of Cardiology. 2023.08; 25(9);

47. Yamashita S, Mizukami A, Ono M, Hiroki J, Miyakuni S, Ueshima D, Matsumura A, Miyazaki S, Sasano T. Higher power achieves greater local impedance drop, shorter ablation time, and more transmural lesion formation in comparison to lower power in local impedance guided radiofrequency ablation of atrial fibrillation. Journal of cardiovascular electrophysiology. 2023.08; 34(9); 1869-1877

48. Takigawa M, Sacher F, Martin C, Cheniti G, Duchateau J, Pambrun T, Derval N, Cochet H, Hocini M, Yamamoto T, Nishimura T, Tao S, Miyazaki S, Goya M, Sasano T, Haissaguierre M, Jais P. Impact of filter configurations on bipolar EGMs: An optimal filter setting for identifying VT substrates. Journal of cardiovascular electrophysiology. 2023.08; 34(8); 1708-1717

49. Kanaji Y, Hoshino M, Hada M, Ozcan I, Sugiyama T, Matsuda K, Sayama K, Nogami K, Nagamine T, Teng Y, Misawa T, Araki M, Usui E, Murai T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Prognostic implications of unrecognized myocardial infarction and periprocedural myocardial injury on cardiac magnetic resonance imaging in patients with chronic coronary syndrome. Scientific reports. 2023.08; 13(1); 13567

50. Osamu Inaba, Yukihiro Inamura, Takamitsu Takagi, Akira Sato, Masahiko Goya, Tetsuo Sasano. First experience of temperature-controlled bipolar radiofrequency ablation of ventricular tachycardia originating from the anterior left ventricle using a diamond-embedded-tip catheter. HeartRhythm Case Rep. 2023.08; 9(8); 529-533

51. Yusuke Ebana, Lian Liu, Kensuke Ihara, Keiko Abe, Chikashi Terao, Yoichiro Kamatani, Tetsuo Sasano, Tetsushi Furukawa. Genetic risk score of cerebral infarction in atrial fibrillation genome-wide association study. Eur J Clin Invest. 2023.08; e14084

52. Ebana Y, Liu L, Ihara K, Abe K, Terao C, Kamatani Y, Sasano T, Furukawa T. Genetic risk score of cerebral infarction in atrial fibrillation genome-wide association study. European journal of clinical investigation. 2023.08; 53(12); e14084

53. Nishimura T, Shatz N, Weiss P, Zawaneh M, Bai R, Beaser AD, Upadhyay GA, Aziz ZA, Nayak HM, Shatz DY, Miyazaki S, Goya M, Sasano T, Su W, Raiman M, Tung R. Identification of Human Ventricular Tachycardia Demarcated by Fixed Lines of Conduction Block in a 3-Dimensional Hyperboloid Circuit. Circulation. 2023.08; 148(18); 1354-1367

54. Kanaji Y, Hoshino M, Hada M, Ozcan I, Sugiyama T, Matsuda K, Sayama K, Nogami K, Nagamine T, Teng Y, Misawa T, Araki M, Usui E, Murai T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Prognostic implications of unrecognized myocardial infarction and periprocedural myocardial injury on cardiac magnetic resonance imaging in patients with chronic coronary syndrome. Scientific reports. 2023.08; 13(1); 13567

55. Seegers LM, DeFaria Yeh D, Yonetsu T, Sugiyama T, Minami Y, Soeda T, Araki M, Nakajima A, Yuki H, Kinoshita D, Suzuki K, Niida T, Lee H, McNulty I, Nakamura S, Kakuta T, Fuster V, Jang IK. Sex Differences in Coronary Atherosclerotic Phenotype and Healing Pattern on Optical Coherence Tomography Imaging. Circulation. Cardiovascular imaging. 2023.08; 16(8); e015227-629

56. Kanaji Y, Hoshino M, Hada M, Ozcan I, Sugiyama T, Matsuda K, Sayama K, Nogami K, Nagamine T, Teng Y, Misawa T, Araki M, Usui E, Murai T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Prognostic implications of unrecognized myocardial infarction and periprocedural myocardial injury on cardiac magnetic resonance imaging in patients with chronic coronary syndrome. Scientific reports. 2023.08; 13(1); 13567

57. Nakagama S, Maejima Y, Fan Q, Shiheido-Watanabe Y, Tamura N, Ihara K, Sasano T. . Endoplasmic Reticulum Selective Autophagy Alleviates Anthracycline-Induced Cardiotoxicity. J Am Coll Cardiol CardioOnc.. 2023.07;

58. Hoshino M, Sugiyama T, Kanaji Y, Hada M, Nagamine T, Nogami K, Ueno H, Sayama K, Matsuda K, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Multimodality coronary imaging to predict non-culprit territory unrecognized myocardial infarction in Non-ST-Elevation acute coronary syndrome. The international journal of cardiovascular imaging. 2023.07;

59. Lee T, Ashikaga T, Nozato T, Kaneko M, Miyazaki R, Okata S, Nagase M, Horie T, Terui M, Kishigami T, Nagata Y, Misawa T, Taomoto Y, Kachi D, Naito M, Yonetsu T, Sasano T. Predictors of coronary artery injury after orbital atherectomy as assessed by optical coherence tomography. The international journal of cardiovascular imaging. 2023.07; 39(7); 1367-1374

60. Rikuta Hamaya, Taishi Yonetsu, Norio Aoyama, Yuka Shiheido-Watanabe, Akira Tashiro, Takayuki Niida, Mitsuaki Isobe, Yasuhiro Maejima, Takanori Iwata, Tetsuo Sasano. Contribution of periodontal health in cardiovascular secondary prevention: Analyses on hospitalized patients in cardiology units. J Clin Periodontol. 2023.06; 50(6); 708-716

61. Takigawa M, Yamamoto T, Amemiya M, Martin CA, Ikenouchi T, Yamaguchi J, Negishi M, Goto K, Shigeta T, Nishimura T, Tao S, Miyazaki S, Goya M, Sasano T. Impact of baseline pool impedance on lesion metrics and steam pops in catheter ablation. Journal of cardiovascular electrophysiology. 2023.06; 34(8); 1671-1680

62. Shun Fujiwara, Yoshihito Kano, Yasuhiro Maejima, Tomoyuki Fujioka, Kazuhiro Tamura, Susumu Kirimura, Satoshi Miyake, Ryuichi Okamoto. Clinical Response of Primary Malignant Pericardial Mesothelioma with Peritoneal Dissemination to Nivolumab. Intern Med. 2023.06;

63. Nakamura Tomofumi, Aiba Takeshi, Shimizu Wataru, Furukawa Tetsushi, Sasano Tetsuo. Prediction of the Presence of Ventricular Fibrillation From a Brugada Electrocardiogram Using Artificial Intelligence(タイトル和訳中) Circulation Journal. 2023.06; 87(7); 1007-1014

64. Sayama K, Hoshino M, Kanaji Y, Sugiyama T, Misawa T, Hada M, Nagamine T, Nogami K, Teng Y, Ueno H, Matsuda K, Yonetsu T, Kakuta T. Prognostic implications of non-infarct-related territory unrecognized myocardial infarction in patients with non-ST-segment-elevation acute coronary syndrome. Journal of cardiology. 2023.06;

65. Nogami K, Sugiyama T, Hoshino M, Kakuta T. Progression from Nodular Calcification to Calcified Nodules Leading to Acute Myocardial Infarction. CJC open. 2023.06; 5(6); 490-492

66. Natsuka Umezawa, Fumitaka Mizoguchi, Yasuhiro Maejima, Naoki Kimura, Hisanori Hasegawa, Tadashi Hosoya, Minoru Fujimoto, Hitoshi Kohsaka, Tetsuji Naka, Shinsuke Yasuda. Leucine-rich alpha-2 glycoprotein as a potential biomarker for large vessel vasculitides. Front Med (Lausanne). 2023.05; 10; 1153883

67. Yoshinori Kanno, Taishi Yonetsu, Norio Aoyama, Yuka Shiheido-Watanabe, Hiroshi Yoshikawa, Mari Ohmori, Akira Tashiro, Takayuki Niida, Yuji Matsuda, Makoto Araki, Eisuke Usui, Hiroto Hada, Tomoyuki Umemoto, Yasuhiro Maejima, Mitsuaki Isobe, Takanori Iwata, Tetsuo Sasano. Association between periodontal disease and pericardial adipose tissue in patients with cardiovascular disease American Heart Journal Plus: Cardiology Research and Practice. 2023.05; 30; 100298

68. Takahiko Sugihara, Hajime Yoshifuji, Haruhito A Uchida, Yasuhiro Maejima, Yoshiko Watanabe, Kazuo Tanemoto, Natsuka Umezawa, Yusuke Manabe, Jun Ishizaki, Tsuyoshi Shirai, Hiroko Nagafuchi, Hitoshi Hasegawa, Hiroaki Niiro, Tomonori Ishii, Yoshikazu Nakaoka, Masayoshi Harigai. Establishing clinical remission criteria for giant cell arteritis: Results of a Delphi exercise carried out by an expert panel of the Japan Research Committee of the Ministry of Health, Labour, and Welfare for Intractable Vasculitis. Mod Rheumatol. 2023.05;

69. Nishimura T, Goya M, Negishi M, Ikenouchi T, Yamamoto T, Goto K, Shigeta T, Tao S, Takigawa M, Miyazaki S, Sasano T. Delineation of the right ventricular septal activation during a right bundle branch origin accelerated idioventricular rhythm. Clinical case reports. 2023.05; 11(5); e7392

70. Nagamine T, Hoshino M, Yonetsu T, Sugiyama T, Kanaji Y, Matsuda K, Sayama K, Ueno H, Nogami K, Hanyu Y, Misawa T, Hada M, Usui E, Sasano T, Kakuta T. Identification of Optical Coherence Tomography-Defined Coronary Plaque Erosion by Preprocedural Computed Tomography Angiography. Journal of the American Heart Association. 2023.05; 12(10); e029239

71. Nagamine T, Hoshino M, Yonetsu T, Sugiyama T, Kanaji Y, Matsuda K, Sayama K, Ueno H, Nogami K, Hanyu Y, Misawa T, Hada M, Usui E, Sasano T, Kakuta T. Identification of Optical Coherence Tomography-Defined Coronary Plaque Erosion by Preprocedural Computed Tomography Angiography. Journal of the American Heart Association. 2023.05; 12(10); e029239

72. Eisuke Usui, Eiki Nagaoka, Hiroshi Ikeda, Mari Ohmori, Susumu Tao, Taishi Yonetsu, Yasuhiro Maejima, Hirokuni Arai, Kisaki Amemiya, Yoshihiko Ikeda, Tetsuo Sasano. Fulminant myocarditis with COVID-19 infection having normal C-reactive protein and serial magnetic resonance follow-up. ESC Heart Fail. 2023.04; 10(2); 1426-1630

73. Suzuki Keishi, Kinoshita Daisuke, Sugiyama Tomoyo, Yuki Haruhito, Niida Takayuki, Dey Damini, Lee Hang, McNulty Iris, Ferencik Maros, Kakuta Tsunekazu, Jang Ik-Kyung. Coronary Computed Tomography Angiography Findings of Plaque Erosion. Am J Cardiol. 2023.04; 196; 52-58

74. Sugiyama Tomoyo, Sayama Kodai, Hoshino Masahiro, Kakuta Tsunekazu. Optical coherence tomography-guided percutaneous coronary intervention using a 4 Fr system. AsiaIntervention. 2023.03; 9(1); 56-57

75. Hanyu Yoshihiro, Hoshino Masahiro, Usui Eisuke, Sugiyama Tomoyo, Kanaji Yoshihisa, Hada Masahiro, Nagamine Tatsuhiro, Nogami Kai, Ueno Hiroki, Sayama Kodai, Matsuda Kazuki, Sakamoto Tatsuya, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. Microvascular resistance reserve in the presence of functionally significant epicardial stenosis and changes after revascularization. Physiol Rep. 2023.03; 11(5); e15627

76. Yuki Haruhito, Sugiyama Tomoyo, Suzuki Keishi, Kinoshita Daisuke, Niida Takayuki, Nakajima Akihiro, Araki Makoto, Dey Damini, Lee Hang, McNulty Iris, Nakamura Sunao, Kakuta Tsunekazu, Jang Ik-Kyung. Coronary Inflammation and Plaque Vulnerability: A Coronary Computed Tomography and Optical Coherence Tomography Study. Circ Cardiovasc Imaging. 2023.03; 16(3); e014959

77. Hara S, Miwa N, Hachiya H, Sasano T. Inflammatory process of the COVID-19 fulminant myocarditis in the multimodality imaging: a case report. European heart journal. Case reports. 2023.03; 7(3); ytad125

78. Hanyu Y, Hoshino M, Usui E, Sugiyama T, Kanaji Y, Hada M, Nagamine T, Nogami K, Ueno H, Sayama K, Matsuda K, Sakamoto T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Microvascular resistance reserve in the presence of functionally significant epicardial stenosis and changes after revascularization. Physiological reports. 2023.03; 11(5); e15627

79. Ikenouchi Takashi, Takigawa Masateru, Martin Claire, Miyazaki Shinsuke, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. The pitfalls of automatic point acquisition with high-resolution mapping(タイトル和訳中) Journal of Cardiology Cases. 2023.03; 27(3); 97-100

80. Ikenouchi T, Takigawa M, Martin C, Miyazaki S, Goya M, Sasano T. The pitfalls of automatic point acquisition with high-resolution mapping. Journal of cardiology cases. 2023.03; 27(3); 97-100

81. Stassen J, Singh GK, Pio SM, Chimed S, Butcher SC, Hirasawa K, Marsan NA, Bax JJ. Incremental value of left ventricular global longitudinal strain in moderate aortic stenosis and reduced left ventricular ejection fraction. International journal of cardiology. 2023.02; 373; 101-106

82. Galloo X, Stassen J, Hirasawa K, Mertens BJA, Cosyns B, van der Bijl P, Delgado V, Ajmone Marsan N, Bax JJ. Prognostic Implications of Right Ventricular Size and Function in Patients Undergoing Cardiac Resynchronization Therapy. Circulation. Arrhythmia and electrophysiology. 2023.02; 16(2); e011676

83. Ihara K, Sasano T. Extracellular Vesicles for the Treatment of Atrial Fibrillation. JACC. Clinical electrophysiology. 2023.02; 9(2); 159-160

84. Mizuno Tomohiro, Goya Masahiko, Fujiwara Tatsuki, Oishi Kiyotoshi, Takeshita Masashi, Yashima Masafumi, Nagaoka Eiki, Oi Keiji, Sasano Tetsuo. Surgical extraction of cardiac implantable electronic device leads based on a heart team approach(タイトル和訳中) Journal of Cardiology. 2023.02; 81(1-2); 111-116

85. Mizukami Akira, Miyakuni Shota, Nakada Ryo, Kobayashi Tetsuya, Kawakami Takuya, Takegawa Koki, Arai Hirofumi, Hiroki Jiro, Yoshioka Kenji, Otani Hirofumi, Ono Maki, Yamashita Shu, Ueshima Daisuke, Suzuki Makoto, Matsumura Akihiko, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. The angle of the tines before the pull and hold test predicts engagement of the tines in Micra leadless pacemaker implantation(タイトル和訳中) Journal of Arrhythmia. 2023.02; 39(1); 10-17

86. Mizukami A, Miyakuni S, Nakada R, Kobayashi T, Kawakami T, Takegawa K, Arai H, Hiroki J, Yoshioka K, Otani H, Ono M, Yamashita S, Ueshima D, Suzuki M, Matsumura A, Goya M, Sasano T. The angle of the tines before the pull and hold test predicts engagement of the tines in Micra leadless pacemaker implantation. Journal of arrhythmia. 2023.02; 39(1); 10-17

87. Ihara Kensuke, Sasano Tetsuo. Extracellular Vesicles for the Treatment of Atrial Fibrillation JACC-CLINICAL ELECTROPHYSIOLOGY. 2023.02; 9(2); 159-160

88. Akira Tashiro, Taishi Yonetsu, Norio Aoyama, Yuka Shiheido-Watanabe, Takayuki Niida, Shinsuke Miyazaki, Yasuhiro Maejima, Masahiko Goya, Mitsuaki Isobe, Takanori Iwata, Tetsuo Sasano. Periodontitis was associated with worse clinical outcomes after catheter ablation for paroxysmal atrial fibrillation. Front Cardiovasc Med. 2023.01; 9; 1061243

89. Nabeta T, Myagmardorj R, Hirasawa K, Singh GK, van der Kley F, de Weger A, Knuuti J, Bax JJ, Marsan NA, Delgado V. Prognostic Value of Nonalcoholic Fatty Liver Disease in Patients With Severe Aortic Stenosis Who Underwent Transcatheter Aortic Valve Implantation. The American journal of cardiology. 2023.01; 186; 176-180

90. Laenens D, Stassen J, Galloo X, Ewe SH, Singh GK, Ammanullah MR, Hirasawa K, Sia CH, Butcher SC, Chew NWS, Kong WKF, Poh KK, Ding ZP, Marsan NA, Bax JJ. The impact of atrial fibrillation on prognosis in aortic stenosis. European heart journal. Quality of care & clinical outcomes. 2023.01;

91. Sugiyama T, Kanaji Y, Hoshino M, Hada M, Misawa T, Nagamine T, Teng Y, Nogami K, Ueno H, Matsuda K, Sayama K, Usui E, Murai T, Lee T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Relationship of OCT-defined plaque characteristics with CCTA-derived coronary inflammation and CMR-derived global coronary flow reserve in patients with acute coronary syndrome. PloS one. 2023; 18(5); e0286196

92. Sugiyama T, Kanaji Y, Hoshino M, Hada M, Misawa T, Nagamine T, Teng Y, Nogami K, Ueno H, Matsuda K, Sayama K, Usui E, Murai T, Lee T, Yonetsu T, Sasano T, Kakuta T. Relationship of OCT-defined plaque characteristics with CCTA-derived coronary inflammation and CMR-derived global coronary flow reserve in patients with acute coronary syndrome. PloS one. 2023; 18(5); e0286196

93. Shun Nakagama, Yasuhiro Maejima, Qintao Fan, Yuka Shiheido-Watanabe, Natsuko Tamura, Tetsuo Sasano. Endoplasmic Reticulum Selective Autophagy Alleviates Anthracycline-Induced Cardiotoxicity J Am Coll Cardiol CardioOnc. 2023;

94. Sasano T, Ihara K, Tanaka T, Furukawa T. Risk stratification of atrial fibrillation and stroke using single nucleotide polymorphism and circulating biomarkers. PloS one. 2023; 18(10); e0292118

95. Shimizu M, Kimura S, Fujii H, Suzuki M, Nishizaki M, Sasano T. Machine Learning for Multi-Vessel Coronary Artery Disease Prediction on Electrocardiogram Gated Single-Photon Emission Computed Tomography. Annals of nuclear cardiology. 2023; 9(1); 11-18

96. Takada Kayoko, Yamamoto Isamu, Sasano Tetsuo, Sumi Yuki. Single nucleotide polymorphisms in paraoxonase 1 and adiponectin are associated with atherosclerotic effects in young healthy subjects(タイトル和訳中) Journal of Medical and Dental Sciences. 2023; 70; 37-47

97. Miyazaki S, Kobori A, Jo H, Keida T, Yoshitani K, Mukai M, Sagawa Y, Asakawa T, Sato E, Yamao K, Horie T, Manita M, Fukaya H, Hayashi H, Tanimoto K, Iwayama T, Chiba S, Sato A, Sekiguchi Y, Sugiura K, Iwai S, Isonaga Y, Miwa N, Kato N, Inaba O, Hirota T, Nagata Y, Ono Y, Hachiya H, Yamauchi Y, Goya M, Nitta J, Tada H, Sasano T. Symptomatic periesophageal vagal nerve injury by different energy sources during atrial fibrillation ablation. Frontiers in cardiovascular medicine. 2023; 10; 1278603

1. 笹野 哲郎. 【不整脈　内科医として知っておきたい基本と実際】不整脈診療のためのミニマル知識　不整脈発生のメカニズムを知る Medical Practice. 2023.10; 40(10); 1508-1512

2. Lee Tetsumin, Ashikaga Takashi, Nozato Toshihiro, Kaneko Masakazu, Miyazaki Ryoichi, Okata Shinichiro, Nagase Masashi, Horie Tomoki, Terui Mao, Kishigami Tetsuya, Nagata Yasutoshi, Misawa Toru, Taomoto Yuta, Kachi Daigo, Naito Michihito, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Predictors of coronary artery injury after orbital atherectomy as assessed by optical coherence tomography INTERNATIONAL JOURNAL OF CARDIOVASCULAR IMAGING. 2023.07; 39(7); 1367-1374

3. Hoshino Masahiro, Sugiyama Tomoyo, Kanaji Yoshihisa, Hada Masahiro, Nagamine Tatsuhiro, Nogami Kai, Ueno Hiroki, Sayama Kodai, Matsuda Kazuki, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. Multimodality coronary imaging to predict non-culprit territory unrecognized myocardial infarction in Non-ST-Elevation acute coronary syndrome INTERNATIONAL JOURNAL OF CARDIOVASCULAR IMAGING. 2023.07; 39(10); 2051-2061

4. Hayasaka Kazuto, Sasaki Takeshi, Shirai Yasuhiro, Shimosato Hikaru, Tahara Tomohiro, Segami Shota, Nagasawa Ryo, Akimoto Ko, Yabe Kento, Toya Chisashi, Watanabe Keita, Yamashita Shu, Suzuki Masahito, Sugiyama Koji, Yamauchi Yasuteru, Okishige Kaoru, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. A novel catheter ablation strategy for non-paroxysmal atrial fibrillation combining cryoballoon, radiofrequency, and Marshall-vein ethanol ablations PACE-PACING AND CLINICAL ELECTROPHYSIOLOGY. 2023.06; 46(6); 475-486

5. Takigawa Masateru, Martin Claire A. A., Yamamoto Tasuku, Nakatani Yosuke, Duchateau Josselin, Pambrun Thomas, Derval Nicolas, Sacher Frederic, Hocini Meleze, Nishimura Takuro, Tao Susumu, Miyazaki Shinsuke, Goya Masahiko, Haissaguerre Michel, Sasano Tetsuo, Jais Pierre. Demonstration of the discrepancy between AT-wave morphology on 12-lead ECG and AT mechanism in scar-related AT PACE-PACING AND CLINICAL ELECTROPHYSIOLOGY. 2023.06; 46(6); 515-518

6. 笹野 哲郎. 【AI を搭載した医療機器の臨床応用】AI と遠隔モニタリングを用いた心房細動の早期発見 Precision Medicine. 2023.06; 6(7); 520-524

7. Takigawa Masateru, Ikenouchi Takashi, Goya Masahiko, Shigeta Takatoshi, Miyazaki Shinsuke, Sasano Tetsuo. Arrhythmogenic epicardial LA-PV connection at the peri-oesophageal posterior LA is safely and effectively blocked by ethanol infusion to the vein of Marshall EUROPACE. 2023.04; 25(5);

8. Ikenouchi Takashi, Takigawa Masateru, Goya Masahiko A., Martin Claire, Yamamoto Tasuku, Yamaguchi Junji, Goto Kentaro, Shigeta Takatoshi, Nishimura Takuro, Tao Susumu, Miyazaki Shinsuke, Sasano Tetsuo, other members Study Grp. Comparison of lesion characteristics using temperature-flow-controlled versus conventional power-controlled ablation with fixed ablation index JOURNAL OF CARDIOVASCULAR ELECTROPHYSIOLOGY. 2023.04; 34(4); 908-917

9. Yamaguchi Junji, Takigawa Masateru, Goya Masahiko, Martin Claire A., Yamamoto Tasuku, Ikenouchi Takashi, Shigeta Takatoshi, Nishimura Takuro, Tao Susumu, Miyazaki Shinsuke, Sasano Tetsuo. Comparison of three different approaches to very high-power short-duration ablation using the QDOT-MICRO catheter JOURNAL OF CARDIOVASCULAR ELECTROPHYSIOLOGY. 2023.04; 34(4); 888-897

10. 後藤 健太朗, 笹野 哲郎. 【病態生理と症例から学ぶ　薬物療法 · 治療ガイド　実地医家必須の 54 疾患】第 I 章　循環器疾患　徐脈性不整脈 (洞不全症候群, 房室ブロック) Medical Practice. 2023.04; 40(臨増); 41-45

11. 滝川 正晃, 合屋 雅彦, 池ノ内 孝, 清水 悠輝, 雨宮 未来, 鎌田 龍明, 西村 卓郎, 田尾 進, 宮崎 晋介, 笹野 哲郎. オムニポーラー技術に基づく Activation Vector 機能を利用し, リアルタイムに線状焼灼の作成を評価し得た 1 例 心電図. 2023.04; 43(1); 36-43

12. 笹野 哲郎. 不整脈学研究ノススメ　不整脈学 · 心電学の発展のために 心電図. 2023.04; 43(1); 54-57

13. Myagmardorj Rinchyenkhand, Nabeta Takeru, Hirasawa Kensuke, Singh Gurpreet K., Van der Kley Frank, de Weger Arend, Marsan Nina Ajmone, Bax Jeroen J., Delgado Victoria. Association Between Chronic Obstructive Pulmonary Disease and All-Cause Mortality After Aortic Valve Replacement for Aortic Stenosis AMERICAN JOURNAL OF CARDIOLOGY. 2023.03; 190; 41-47

14. Yamamoto Tasuku, Miyazaki Shinsuke, Tanaka Yasuaki, Kono Toshikazu, Nakata Tadanori, Mizukami Akira, Aoyama Daisetsu, Arai Hirofumi, Taomoto Yuta, Horie Tomoki, Hojo Rintaro, Kawamoto Shiho, Yabe Kento, Akiyoshi Kikou, Kato Nobutaka, Ono Yuichi, Suzuki Atsushi, Fukamizu Seiji, Nagata Yasutoshi, Yamauchi Yasuteru, Tada Hiroshi, Hachiya Hitoshi, Inaba Osamu, Takahashi Atsushi, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Peri-procedural anticoagulation in patients with end-stage kidney disease undergoing atrial fibrillation ablation: results from the multicentre end-stage kidney disease-atrial fibrillation ablation registry EUROPACE. 2023.03; 25(4); 1400-1407

15. Miyazaki Shinsuke, Kobori Atsushi, Jo Hikari, Keida Takehiko, Yoshitani Kazuyasu, Mukai Moe, Sagawa Yuichiro, Asakawa Tetsuya, Sato Eiji, Yamao Kazuya, Horie Tomoki, Manita Mamoru, Fukaya Hidehira, Hayashi Hidemori, Tanimoto Kojiro, Iwayama Tadateru, Chiba Suguru, Sato Akinori, Sekiguchi Yukio, Sugiura Kenta, Iwai Shinsuke, Isonaga Yuhei, Miwa Naoyuki, Kato Nobutaka, Inaba Osamu, Hirota Takayoshi, Nagata Yasutoshi, Ono Yuichi, Hachiya Hitoshi, Yamauchi Yasuteru, Goya Masahiko, Nitta Junichi, Tada Hiroshi, Sasano Tetsuo. Symptomatic Gastroparesis After Cryoballoon-Based Atrial Fibrillation Ablation: Results From a Large Multicenter Registry CIRCULATION-ARRHYTHMIA AND ELECTROPHYSIOLOGY. 2023.03; 16(3); e011605

16. 佐久間 一郎, 笹野 哲郎, 瀬戸 泰之. 【医療におけるロボット・AI の活用】医療用ロボット・医療用 AI の将来 カレントテラピー. 2023.03; 41(3); 274-282

17. 笹野 哲郎. 遺伝性不整脈研究の進歩と臨床応用　人工知能 (AI) を用いた遺伝性不整脈疾患へのアプローチ 心臓. 2023.03; 55(3); 368-377

18. Hada Masahiro, Hoshino Masahiro, Sugiyama Tomoyo, Nagamine Tatsuhiro, Hanyu Yoshihiro, Nogami Kai, Ueno Hiroki, Sayama Kodai, Matsuda Kazuki, Sakamoto Tatsuya, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. DIAGNOSTIC PERFORMANCE OF OPTICAL COHERENCE TOMOGRAPHY FOR DETECTING NEAR-INFRARED SPECTROSCOPY-DERIVED LIPID RICH PLAQUES IN PATIENTS WITH CHRONIC CORONARY SYNDROME JOURNAL OF THE AMERICAN COLLEGE OF CARDIOLOGY. 2023.03; 81(8); 978

19. Hamaya Rikuta, Yonetsu Taishi, Aoyama Norio, Shiheido-Watanabe Yuka, Tashiro Akira, Niida Takayuki, Isobe Mitsuaki, Maejima Yasuhiro, Iwata Takanori, Sasano Tetsuo. Contribution of periodontal health in cardiovascular secondary prevention: Analyses on hospitalized patients in cardiology units JOURNAL OF CLINICAL PERIODONTOLOGY. 2023.02; 50(6); 708-716

20. Arai Hirofumi, Nakamura Rena, Sagawa Yuichiro, Oda Atsuhito, Murata Kazuya, Okishige Kaoru, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo, Aonuma Kazutaka, Yamauchi Yasuteru. Retrograde fast pathway cryoablation inside the coronary sinus for slow-fast atrioventricular nodal reentrant tachycardia in a patient with persistent left superior vena cava JOURNAL OF CARDIOVASCULAR ELECTROPHYSIOLOGY. 2023.02; 34(2); 478-482

21. Hoshino Masahiro, van de Hoef Tim P., Lee Joo Myung, Hamaya Rikuta, Kanaji Yoshihisa, Boerhout Coen K. M., de Waard Guus A., Jung Ji-Hyun, Lee Seung Hun, Mejia-Renteria Hernan, Echavarria-Pinto Mauro, Meuwissen Martijn, Matsuo Hitoshi, Madera-Cambero Maribel, Eftekhari Ashkan, Effat Mohamed A., Marques Koen, Doh Joon-Hyung, Christiansen Evald H., Banerjee Rupak, Nam Chang-Wook, Niccoli Giampaolo, Murai Tadashi, Nakayama Masafumi, Tanaka Nobuhiro, Shin Eun-Seok, Sasano Tetsuo, Appelman Yolande, Beijk Marcel, Knaapen Paul, van Royen Niels, Escaned Javier, Koo Bon Kwon, Piek Jan J., Kakuta Tsunekazu. Abnormal physiological findings after FFR-based revascularisation deferral are associated with worse prognosis in women SCIENTIFIC REPORTS. 2023.01; 13(1); 1027

22. Tashiro Akira, Yonetsu Taishi, Aoyama Norio, Shiheido-Watanabe Yuka, Niida Takayuki, Miyazaki Shinsuke, Maejima Yasuhiro, Goya Masahiko, Isobe Mitsuaki, Iwata Takanori, Sasano Tetsuo. Periodontitis was associated with worse clinical outcomes after catheter ablation for paroxysmal atrial fibrillation FRONTIERS IN CARDIOVASCULAR MEDICINE. 2023.01; 9; 1061243

[書籍等出版物]

1. Onco‐cardiology ガイドライン. 南江堂, 2023.03

[総説]

1. Yasuhiro Maejima, Daniela Zablocki, Jihoon Nah, Junichi Sadoshima. The role of the Hippo pathway in autophagy in the heart. Cardiovasc Res. 2023.01; 118(17); 3320-3330

1. 福島 琢, 櫻井 馨, 米津 太志. 【未解決の冠動脈疾患残余リスクに迫る】冠動脈疾患と歯周病 心臓. 2023.04; 55(4); 409-413

[講演 · 口頭発表等]

1. Shiomi M, Nagata Y, Sudo T, Ichikawa T, Ihara K, Asada K, Tanaka Y, Yamauchi Y, Sasaki T, Hachiya H, Imai Y, Fujita H, Sasano T, Furukawa T, Tanaka T. . Genome-wide association analysis and construction of polygenic risk score model for predicting paroxysmal atrial fibrillation using LightGBM model.. The 7th JCS Council Forum on Basic CardioVascular Research. 2023.12.09

2. Miyakoshi T., Horiuchi Y., Araki M., Yonetsu T., Watanabe M., Nakamura M., Kameda T., Yoshimoto A., Ichimura N., Tohda S., Tozuka M., Sasano T., Ohkawa R. Association between CEC measured by immobilized liposome-bound gel beads method and the size of lipid-rich coronary artery plaque. Scientific Session of the American Heart Association 2023.11.09

3. 大方 信一郎, 内藤 倫人, 岸上 哲也, 加地 大悟, 照井 麻央, 堀江 知樹, 長瀬 将, 垰本 優太, 三澤 透, 宮崎 亮一, 金子 雅一, 李 哲民, 永田 恭敏, 野里 寿史, 足利 貴志, 笹野 哲郎. de novo 冠動脈病変に対する DCB 治療直後の FFR 値と退院後の FFRCT との関連性. 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

4. Hishikari Keiichi, Hikita Hiroyuki, Watanabe Takahiro, Takahashi Ken, Cho Shunnmo, Ito Aki, Yano Hirotaka, Murai Tadashi, Takahashi Atsushi, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. HFpEF を認める PAD 患者における心臓バイオマーカーと心エコー検査で評価した心臓リモデリングに対する EVT の効果 (Effects of EVT on Cardiac Remodeling as Assessed by Cardiac Biomarkers and Echocardiography in Patients with PAD with HFpEF). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

5. Masumoto Hiroyuki, Kanno Yoshinori, Yonezu Taishi, Watanabe Takumi, Yoshikawa Hiroshi, Omori Mari, Matsuda Yuji, Araki Makoto, Sugiyama Tomoyo, Umemoto Tomoyuki, Sasano Tetsuo. IgG4 関連冠動脈瘤を合併した ST 上昇型心筋梗塞患者における冠血管内視鏡を含むマルチモダリティ冠動脈イメージング (Multimodality coronary imaging including coronary angioscopy in patients with ST elevated myocardial infraction associated with IgG4-relate coronary aneurysm). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

6. 菅野 義典, 米津 太志, 酒井 瑛子, 吉川 宏, 大森 麻理, 松田 祐治, 荒木 誠, 杉山 知代, 梅本 朋幸, 笹野 哲郎. INOCA における angio IMR の測定. 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

7. 坂本 達哉, 星野 昌弘, 臼井 英祐, 羽田 昌浩, 長嶺 竜宏, 羽生 佳弘, 野上 開, 上野 弘貴, 松田 和樹, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角田 恒和. Myocardial Bridge が PCI 前後で経胸壁ドップラー心エコーの指標に与える影響. 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

8. 長嶺 竜宏, 星野 昌弘, 臼井 英祐, 羽田 昌浩, 羽生 佳弘, 野上 開, 上野 弘貴, 松田 和樹, 坂本 達哉, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角田 恒和. NIRS で定義される Lipid-rich plaque の冠動脈 CT での予測因子. 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

9. Mineo Takashi, Hada Masahiro, Nogami Kai, Usui Eisuke, Nagamine Tatsuhiro, Ueno Hiroki, Setoguchi Mirei, Tahara Tomohiro, Sakamoto Tatsuya, Sugiyama Tomoyo, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. Nodular calcification から calcified nodule へと進行した急性心筋梗塞の 1 例 (A Case of Acute Myocardial Infarction Caused by Progression from Nodular Calcification to Calcified Nodules). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

10. Hada Masahiro, Kakuta Tsunekazu, Sugiyama Tomoyo, Hoshino Masahiro, Usui Eisuke, Nagamine Tatsuhiro, Hanyu Yoshihiro, Nogami Kai, Ueno Hiroki, Matsuda Kazuki, Sakamoto Tatsuya, Kobayashi Nobuaki, Takano Masamichi, Kondo Seita, Wakabayashi Kohei, Suwa Satoru, Dohi Tomotaka, Mori Hiroyoshi, Kimura Shigeki, Mitomo Satoru, Nakamura Sunao, Higuma Takumi, Yamaguchi Junichi, Natsumeda Makoto, Ikari Yuji, Yamashita Jun, Mizukami Takuya, Yamamoto Myong Hwa, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Shinke Toshiro. Primary PCI 後、OCT で責任病変の石灰化結節が確認された患者の予後は特に進行した慢性腎臓病患者において不良である　TACTICS Registry のサブスタディ (Poor Prognosis in Patients After Primary Percutaneous Coronary Intervention with OCT-defined Culprit Lesion Calcified Nodule Particularly in Those With Advanced Chronic Kidney Disease: TACTICS Registry substudy). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

11. Matsuda Yuji, Yonetsu Taishi, Kurihara Ken, Kakuta Tsunekazu, Shimizu Shigeo, Matsumura Akihiko, Inagaki Hiroshi, Onishi Yuko, Sakurai Kaoru, Tsuchiyama Takaaki, Ashikaga Takashi, Fujii Hiroyuki, Kobayashi Kazuo, Sasano Tetsuo. ST 上昇型心筋梗塞患者におけるエキシマレーザーアテレクトミーの有効性の検討　STELA registry からの報告 (The Efficacy of Excimer Laser Coronary Atherectomy in ST-elevation Myocardial Infarction: Report from the STELA Registry). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

12. Yamaguchi Masao, Shimizu Masato, Tsunoda Takahiro, Shimizu Atsuya, Sakai Eiko, Misu Yoshiki, Tateishi Ryo, Kato Nobutaka, Shimada Hiroshi, Issiki Ami, Suzuki Hidetoshi, Fujii Hiroyuki, Suzuki Makoto, Sasano Tetsuo. VP 診断のすべて　近赤外分光法で検出された Lipid Rich Plaque に対する冠動脈 CT 血管造影所見を用いた機械学習の適中率 (Everything you need to know about VP diagnosis　Predictive Value of Machine Learning on Coronary Computed Tomography Angiography for Near-infrared Spectroscopy-Defined Lipid Rich Plaque). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

13. Iiya Munehiro, Kashiwa Ryonosuke, Nishio Yoshiro, Yasui Yumi, Sumino Yohei, Kobayashi Issi, Onishi Yuko, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. エキシマレーザー冠動脈アテレクトミーによる経皮的冠動脈インターベンションを施行した急性冠症候群患者の治療成績 (Outcome of patients with acute coronary syndrome who underwent percutaneous coronary intervention with excimer laser coronary atherectomy). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

14. Araki Makoto, Yonetsu Taishi, Horiuchi Yuna, Miyakoshi Tsunehiro, Nakashima Akira, Noda Masayuki, Masumoto Hiroyuki, Sakai Eiko, Yoshikawa Hiroshi, Omori Mari, Kanno Yoshinori, Matsuda Yuji, Hirasawa Kensuke, Sugiyama Tomoyo, Umemoto Tomoyuki, Totsuka Minoru, Okawa Ryunosuke, Sasano Tetsuo. 光干渉断層法で評価した冠動脈プラークにおけるコレステロール排出能と脂質リッチプラークとの関連性 (Association between cholesterol efflux capacity and lipid-rich plaque in coronary plaques assessed by optical coherence tomography). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

15. Sakai Eiko, Usui Eisuke, Watanabe Takumi, Yoshikawa Hiroshi, Omori Mari, Kanno Yoshinori, Araki Makoto, Matsuda Yuji, Sugiyama Tomoyo, Umemoto Tomoyuki, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. 光干渉断層計で評価した回転性粥腫切除術を用いた経皮的冠動脈インターベンション施行時の一過性 slow flow 現象を予測する因子 (Predictors of transient slow flow phenomenon during percutaneous coronary intervention with rotational atherectomy assessed with optical coherence tomography). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

16. 坂本 達哉, 星野 昌弘, 臼井 英祐, 羽田 昌浩, 長嶺 竜宏, 羽生 佳弘, 野上 開, 上野 弘貴, 松田 和樹, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角田 恒和. 冠動脈 CT で検出した Myocardial bridge が待機的 PCI 後の FFR に与える影響. 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

17. 村井 典史, 疋田 浩之, 伊藤 諒, 高橋 健, 池田 博, 菱刈 景一, 矢野 弘崇, 張 峻模, 渡邊 崇弘, 高橋 淳, 米津 太志, 笹野 哲郎. 冠動脈の動脈硬化の程度の違いによる CFR の予後予測能の違いについて. 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

18. 藤井 洋之, 宮崎 紘子, 角田 貴大, 三須 彬生, 立石 遼, 山口 正男, 山上 洋介, 加藤 信孝, 島田 博史, 一色 亜美, キムラ 茂樹, 清水 雅人, 鈴木 誠, 笹野 哲郎. 冠攣縮性狭心症における冠微小循環と致死的不整脈基質との関連. 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

19. Hanyu Yoshihiro, Hoshino Masahiro, Usui Eisuke, Hada Masahiro, Nagamine Tatsuhiro, Nogami Kai, Ueno Hiroki, Matsuda Kazuki, Sakamoto Tatsuya, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. 待機的経皮的冠動脈インターベンションを施行した患者における経胸壁ドップラー心エコー検査で算出した術後の coronary flow velocity reserve が予後へ及ぼす影響 (Prognostic impact of postprocedural coronary flow velocity reserve obtained by transthoracic Doppler echocardiography in patients undergoing elective percutaneous coronary intervention). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

20. Umemoto Tomoyuki, Omori Mari, Matsuda Yuji, Hirasawa Kensuke, Ochida Mie, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. 心房細動を有する新規導入透析患者に対する抗凝固薬 (抗凝固薬と左心耳閉鎖術が本当に必要なのは誰なのか?)(Anticoagulants for Newly Introduced Dialysis Patients with Atrial Fibrillation: Who really needs anticoagulants and left appendage closure?). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

21. Misu Yoshiki, Yamaguchi Masao, Shimizu Masato, Tsunoda Takahiro, Miyazaki Hiroko, Tateishi Ryo, Yamakami Yosuke, Kato Nobutaka, Shimada Hiroshi, Isshiki Ami, Kimura Shigeki, Fujii Hiroyuki, Suzuki Makoto, Sasano Tetsuo. 急性冠症候群患者における非責任病変の Lipid Rich Plaque に対する機械学習による予測値 (Predictive Value of Machine Learning on Non-culprit Lipid-Rich Plaque in Patients with Acute Coronary Syndrome). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

22. Nagamine Tatsuhiro, Hoshino Masahiro, Usui Eisuke, Hada Masahiro, Hanyu Yoshihiro, Nogami Kai, Ueno Hiroki, Matsuda Kazuki, Sakamoto Tatsuya, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. 慢性冠症候群患者における CT 冠動脈造影にて評価した calcium burden と lipid-core burden の関連 (Lipid-core burden in relation to calcium burden assessed by computed tomographic coronary angiography in patients with chronic coronary syndrome). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

23. Ueno Hiroki, Hoshino Masahiro, Usui Eisuke, Hada Masahiro, Nagamine Tatsuhiro, Hanyu Yoshihiro, Nogami Kai, Matsuda Kazuki, Sakamoto Tatsuya, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. 慢性冠症候群患者における冠動脈血行再建術が経胸壁心エコーで評価した coronary flow capacity に対して及ぼす影響 (The Impact of Coronary Revascularization on Coronary Flow capacity by a Serial Transthoracic Echocardiography in Patients with Chronic Coronary Syndrome). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

24. Usui Eisuke, Hoshino Masahiro, Hada Masahiro, Nagamine Tatsuhiro, Hanyu Yoshihiro, Nogami Kai, Ueno Hiroki, Matsuda Kazuki, Sakamoto Tatsuya, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. 慢性冠症候群患者における選択的ステント留置後に近赤外分光法で検出される残余脂質量を予測する因子 (Predictors of residual lipid content detected by near-infrared spectroscopy after elective stenting in patients with chronic coronary syndrome). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

25. Matsuda Kazuki, Hoshino Masahiro, Usui Eisuke, Hada Masahiro, Nagamine Tatsuhiro, Hanyu Yoshihiro, Nogami Kai, Ueno Hiroki, Sakamoto Tatsuya, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. 経皮的冠動脈インターベンション後の冠血流予備能と変化を評価するための非侵襲的な経胸壁ドップラーによる血流速度検出と侵襲的熱希釈法 (Noninvasive Transthoracic Doppler-derived Flow Velocity and Invasive Thermodilution to Assess Coronary Flow Reserve and Changes After Percutaneous Coronary Intervention). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

26. Usui Eisuke, Hoshino Masahiro, Hada Masahiro, Nagamine Tatsuhiro, Hanyu Yoshihiro, Nogami Kai, Ueno Hiroki, Matsuda Kazuki, Sakamoto Tatsuya, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. 経胸壁ドップラー心エコー図により評価した選択的経皮的冠動脈インターベンション後の充血性冠血流速度低下の形態学的決定因子 (Morphological determinants of a decrease in hyperemic coronary flow velocity after elective percutaneous coronary intervention assessed by transthoracic Doppler echocardiography). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

27. Kou Megumi, Hada Masahiro, Usui Eisuke, Nagamine Tatsuhiro, Nogami Kai, Ueno Hiroki, Setoguchi Mirei, Tahara Tomohiro, Sakamoto Tatsuya, Mineo Takashi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. 緊急経皮的冠動脈インターベンション施行時に冠動脈生理学的評価と血管内超音波画像により診断された急性大動脈解離の 1 例 (A case of acute aortic dissection diagnosed by coronary physiological evaluation and intravascular ultrasound imaging at emergent percutaneous coronary intervention). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

28. Hikita Hiroyuki, Takahashi Atsushi, Hishikari Keiichi, Ito Aki, Takahashi Ken, Murai Tadashi, Ikeda Hiroshi, Yano Hirotaka, Watanabe Takahiro, Cho Shyunmo, Sasano Tetsuo. 血液透析患者における包括的高度慢性下肢虚血と間欠性跛行で比較した冠動脈疾患重症度とバイオマーカーの特徴 (Differential Characteristics of Coronary Artery Disease Severity and Biomarker between Critical Limb-threatening Ischemia and Intermittent Claudication in Hemodialysis Population). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

29. Kashiwa Ryonosuke, Iiya Munehiro, Nishio Yoshiro, Yasui Yumi, Sumino Youhei, Akiyoshi Kikou, Iwai Shinsuke, Muramoto Hirotaka, Higuchi Koji, Kobayashi Isshi, Onishi Yuko, Sato Yasuhiro, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. 重症石灰化冠血管に対する回転性粥腫切除術と薬剤コーティングバルーン使用の臨床成績 (Clinical outcome of drug-coated balloon combined with rotational atherectomy in severely calcified coronary vessels). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

30. Misawa Toru, Ashikaga Takashi, Nozato Toshihiro, Lee Tetsumin, Nagata Yasutoshi, Kaneko Masakazu, Miyazaki Ryoichi, Taomoto Yuta, Okata Shinichiro, Nagase Masashi, Horie Tomoki, Kachi Daigo, Terui Mao, Kishigami Tetsuya, Naito Michihito, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. 高度石灰化冠動脈狭窄病変に対する intravascular lithotripsy の臨床経験 (Clinical experience of intravascular lithotripsy for the treatment of severely calcified stenotic coronary artery lesions). 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

31. 岩宮賢、井原健介、古川哲史、笹野哲郎.. 心不全モデルマウスにおけるサクビトリル・バルサルタンの心房への抗不整脈効果.. 心電学関連春季大会 2023. 2023.04.22

32. Yasuhiro Maejima. Chemical Proteomics-Guided Identification of a Novel Target of Empagliflozin in Cardiomyocytes.. 第 87 回日本循環器学会学術集会 2023.03.11 福岡県福岡市

33. 栗原 顕, 伊志嶺 百々子, 菅原 祥子, 阿部 史征, 田仲 明史, 矢部 顕人, 山尾 一哉, 宮崎 徹, 鈴木 麻美, 小野 裕一, 大友 建一郎, 笹野 哲郎. A Case of Dialysis Patient with Repeated In-stent Restenosis Due to Calcified Nodules Successfully Controlled by Anticoagulation Therapy(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

34. Ishimine Momoko, Suzuki Asami, Sugahara Shoko, Abe Fumiyuki, Tanaka Akifumi, Yabe Kento, Yamao Kazuya, Miyazaki Toru, Kurihara Ken, Ono Yuichi, Ohtomo Kenichiro, Sasano Tetsuo. A Case of Pulmonary Tumor Thrombotic Microangiopathy Diagnosed by Pulmonary Wedge Aspiration Cytology(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

35. 田仲 明史, 小野 裕一, 伊志嶺 百々子, 菅原 祥子, 阿部 史征, 矢部 顕人, 山尾 一哉, 宮崎 徹, 鈴木 麻美, 栗原 顕, 合屋 雅彦, 大友 建一郎, 笹野 哲郎. A Case of Transthyretin Cardiac Amyloidosis Led to Diagnosis by Extensively Spotted Low Voltage Areas in the Left Atrium(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

36. Inamura Yukihiro, Minegishi Masayo, Meguro Shin, Nakata Kentaro, Narita Gaku, Isonaga Yuhei, Kato Shunichi, Kono Toshikazu, Ohya Hiroaki, Hada Yasuaki, Kanoh Miki, Takagi Takamitsu, Negi Ken, Satoh Akira, Yamato Tsunehiro, Inaba Osamu, Matsumura Yutaka, Nitta Junichi, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. A Novel Octaray Multielectrode Catheter for High-resolution Atrial Mapping: Electrogram Characteristics Compared to a Pentaray Catheter(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

37. Saito Ippei, Sagawa Yuichirou, Shimizu Atsuya, Yamaguchi Yudai, Takahashi Ryo, Oda Atsuhito, Arai Hirofumi, Murata Kazuya, Manno Tomoko, Asano Mitsutoshi, Suzuki Hidetoshi, Shimabuku Tsukasa, Arima Hideki, Kurabayashi Manabu, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo, Matsui Yumie, Nakagawa Kazuya, Asakawa Tetsuya, Yamauchi Yasuteru. Ablation for Premature Ventricular Contraction Originating from Para-Hisian Region(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

38. Kaneko Masakazu, Nagata Yasutoshi, Naito Michihito, Kishigami Tetsuya, Kachi Daigo, Terui Mao, Horie Tomoki, Okata Shinichiro, Nagase Masashi, Taomoto Yuta, Misawa Toru, Miyazaki Ryoichi, Lee Tetsumin, Nozato Toshihiro, Ashikaga Takashi, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Ablation Therapy in Atrial Fibrillation Patients with Heart Failure(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

39. Sakamoto Tatsuya, Sugiyama Tomoyo, Hoshino Masahiro, Hada Masahiro, Nagamine Tatsuhiro, Hanyu Yoshihiro, Ueno Hiroki, Nogami Kai, Sayama Kodai, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. Abnormal Physiological Findings after FFR-based Revascularisation Deferral are Associated with Worse Prognosis in Women(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

40. Sagawa Yuichirou, Yamauchi Yasuteru, Saito Ippei, Shimizu Atsuya, Yamaguchi Yudai, Takahashi Ryo, Oda Atsuhito, Arai Hirofumi, Murata Kazuya, Manno Tomoko, Asano Mitsutoshi, Suzuki Hidetoshi, Shimabuku Tsukasa, Arima Hideki, Kurabayashi Manabu, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Additional Cryoballoon-Based Ablation beyond Pulmonary Vein Isolation for Non-Paroxysmal Atrial Fibrillation: Can Left Atrial Roof Line Ablation be Sufficient Treatment?(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

41. 酒井 瑛子, 根岸 美帆, 池ノ内 孝, 山本 佑, 後藤 健太朗, 重田 卓俊, 西村 卓郎, 田尾 進, 滝川 正晃, 宮崎 晋介, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Arrythmogenic Epicardial LA-PV Connection at the Periesophageal Posterior-LA is Effectively Blocked by Ethanol Infusion to the Vein of Marshall(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

42. Takahashi Yoshihide, Akimoto Ko, Sato Hironori, Kikkoji Naoya, Maeno Ryota, Hijikata Sadahiro, Fukushima Taku, Sakurai Kaoru, Azegami Koji, Sasano Tetsuo. Artificial Intelligence-Based New Module to Create 3D Left Atrial Geometry from Intracardiac Echocardiography for Pulmonary Vein Isolation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

43. Hikita Hiroyuki, Yoshikawa Hiroshi, Hishikari Keiichi, Murai Tadashi, Takahashi Atsushi, Sasano Tetsuo. Assessment of Target Vessel Failure in Hemodialysis Patients with Fractional Flow Reserve-Guided Deferral of Percutaneous Coronary Intervention(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

44. Okata Shinichiro, Naito Michihito, Kishigami Tetsuya, Kachi Daigo, Terui Mao, Horie Tomoki, Nagase Masashi, Taomoto Yuta, Misawa Toru, Miyazaki Ryoichi, Kaneko Masakazu, Lee Tetsumin, Nagata Yasutoshi, Nozato Toshihiro, Ashikaga Takashi, Sasano Tetsuo. Association between Drug Coated Balloon Treatment and Post-treatment Coronary Computed Tomography Angiography-Derived Fractional Flow Reserve(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

45. Kanno Yoshinori, Yonetsu Taishi, Aoyama Norio, Sakai Eiko, Yoshikawa Hiroshi, Ohmori Mari, Matsuda Yuji, Araki Makoto, Usui Eisuke, Hirasawa Kensuke, Umemoto Tomoyuki, Maejima Yasuhiro, Isobe Mitsuaki, Iwata Takanori, Sasano Tetsuo. Association between Peri-coronary Inflammation Assessed by Coronary Computed Tomography and Periodontal Disease in Patients with Cardiovascular Disease(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

46. Usui Eisuke, Sakai Eiko, Yoshikawa Hiroshi, Ohmori Mari, Kanno Yoshinori, Araki Makoto, Matsuda Yuji, Hirasawa Kensuke, Umemoto Tomoyuki, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Association between Pericoronary Adipose Tissue Inflammation, Lesion Complexity, and Procedural Outcomes in Patients with Chronic Total Occlusion(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

47. 山上 洋介, 藤井 洋之, 木村 茂樹, 角田 貴大, 宮崎 紘子, 三須 彬生, 立石 遼, 山口 正男, 加藤 信孝, 島田 博史, 一色 亜美, 清水 雅人, 鈴木 誠, 笹野 哲郎. Association of Coronary Microvascular Dysfunction with Left Atrial Enlargement and Left Ventricular Hypertrophy in Non-obstructive Coronary Artery Disease(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

48. 佐藤 弘典, 高橋 良英, 吉光寺 直哉, 秋元 耕, 前野 遼太, 土方 禎裕, 福島 琢, 櫻井 馨, 畔上 幸司, 笹野 哲郎. Association of Epicardial Adipose Tissue with Heart Rate Increase after Pulmonary Vein Isolation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

49. 重田 卓俊, 滝川 正晃, 池ノ内 孝, 野田 誠之, 酒井 瑛子, 根岸 美帆, 山本 佑, 後藤 健太朗, 西村 卓郎, 田尾 進, 宮崎 晋介, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Atrial Substrate can be Assessed during Pacing instead of Sinus Rhythm?: Advantage and Limitation of Sinus-node Pacing Map(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

50. 山内 康照, 関田 学, 横山 泰廣, 佐川 雄一朗, 村田 和也, 新井 紘史, 小田 惇仁, 齊藤 一平, 清水 厚哉, 山口 雄大, 高橋 怜, 萬野 智子, 浅野 充寿, 鈴木 秀俊, 志村 吏左, 有馬 秀紀, 倉林 学, 青沼 和隆, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎, 中川 和也, 浅川 哲也. Atrioventricular Simultaneous Pacing both during Basic Drive and Programmed Extrastimulation in Patients with Dual Atrioventricular Nodal Reentrant or Non-reentrant Tachycardias(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

51. Sakai Eiko, Negishi Miho, Ikenouchi Takashi, Yamamoto Tasuku, Goto Kentaro, Shigeta Takatoshi, Nishimura Takuro, Tao Susumu, Takigawa Masateru, Miyazaki Shinsuke, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Better Clinical Outcome of Anatomical and Electrophysiological Linear-Lesions in Addition to Ethanol-infusion to the VOM in Very Long-standing Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

52. 羽田 泰晃, 峯岸 昌代, 目黒 眞, 中田 健太郎, 成田 岳, 磯長 祐平, 加藤 駿一, 高野 寿一, 大屋 寛章, 狩野 実希, 高木 崇光, 稲村 幸洋, 根木 謙, 佐藤 明, 大和 恒博, 稲葉 理, 松村 穣, 笹野 哲郎. Blood Urea Nitrogen to Serum Albumin Ratio as a New Prognostic Indicator in ROSC Patients Due to Presumed Cardiac Causes(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

53. Araki Makoto, Yonetsu Taishi, Nakashima Akira, Noda Masayuki, Masumoto Hiroyuki, Sakai Eiko, Yoshikawa Hiroshi, Ohmori Mari, Kanno Yoshinori, Matsuda Yuji, Usui Eisuke, Hirasawa Kensuke, Umemoto Tomoyuki, Sasano Tetsuo. Categorization of Layered Coronary Plaque: An Optical Coherence Tomography and Near-infrared Spectroscopy Study(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

54. Maejima Yasuhiro, Nakagama Shun, Fan Qintao, Watanabe Yuka, Sasano Tetsuo. Chemical Proteomics-Guided Identification of a Novel Target of Empagliflozin in Cardiomyocytes(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

55. 西尾 祥郎, 飯谷 宗弘, 柏 良之輔, 安井 由美, 住野 陽平, 秋吉 基光, 岩井 慎介, 村本 容崇, 樋口 晃司, 小林 一士, 大西 祐子, 佐藤 康弘, 米津 太志, 笹野 哲郎. Clinical Characteristics and Outcome of Patients with Acute Coronary Syndrome Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention with Excimer Laser Coronary Atherectomy(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

56. Murata Kazuya, Yamauchi Yasuteru, Saito Ippei, Shimizu Atsuya, Yamaguchi Yudai, Takahashi Ryo, Oda Atsuhito, Arai Hirofumi, Sagawa Yuichirou, Manno Tomoko, Asano Mitsutoshi, Suzuki Hidetoshi, Shimabuku Tsukasa, Arima Hideki, Kurabayashi Manabu, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Clinical Investigation of the Durability of the Lesions Created by Left Atrial Roof Line Ablation with a Cryoballoon(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

57. 池ノ内 孝, 笹野 哲郎, 小林 義典, 丹野 郁, 深水 誠二, 村田 広茂, 片岡 翔平, 上野 亮, 東邦 康智, 稲垣 大, 古屋 貴宏, 合屋 雅彦, 山本 剛, 高山 守正, 長尾 建, 東京都 CCU ネットワーク学術委員会. Clinical Manifestations and Long-term Prognosis of Ventricular Arrhythmias with Preserved Left Ventricular Systolic Function: Multicenter Registry from Tokyo CCU Network(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

58. Oda Atsuhito, Saito Ippei, Shimizu Atsuya, Yamaguchi Yudai, Takahashi Ryo, Arai Hirofumi, Murata Kazuya, Sagawa Yuichirou, Manno Tomoko, Asano Mitsutoshi, Suzuki Hidetoshi, Shimabuku Tsukasa, Arima Hideki, Kurabayashi Manabu, Yamauchi Yasuteru, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Clinical Outcome of Cryoballoon-based Ablation beyond Pulmonary Vein Isolation for Nonparoxysmal Atrial Fibrillation in Elderly Patients(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

59. 小田 惇仁, 齊藤 一平, 清水 厚哉, 山口 雄大, 高橋 怜, 新井 紘史, 村田 和也, 佐川 雄一朗, 萬野 智子, 浅野 充寿, 鈴木 秀俊, 志村 吏左, 有馬 秀紀, 倉林 学, 山内 康照, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Clinical Outcome of Intra-box Ablation during Cryoballoon Based Posterior Wall Isolation for Persistent Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

60. Sasaki Takeshi, Shirai Yasuhiro, Saito Yoko, Nagasawa Ryo, Shimosato Hikaru, Tahara Tomohiro, Segami Shota, Tsuchiya Ken, Hayasaka Kazuto, Tsuchiya Yusuke, Sakakibara Atsushi, Watanabe Keita, Ohmi Tetsuo, Ohno Masakazu, Shimizu Shigeo, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Clinical Outcomes of Percutaneous Left Atrial Appendage Occlusion after Catheter Ablation in Patient with Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

61. 松田 祐治, 米津 太志, 栗原 顕, 角田 恒和, 清水 茂雄, 松村 昭彦, 稲垣 裕, 大西 祐子, 櫻井 馨, 土山 高明, 足利 貴志, 藤井 洋之, 小林 和郎, 中島 聡良, 野田 誠之, 益本 寛之, 酒井 瑛子, 吉川 宏, 大森 真理, 菅野 義典, 荒木 誠, 臼井 英祐, 平澤 憲祐, 梅本 朋幸, 前嶋 康浩, 笹野 哲郎. Comparison between Optical Coherence Tomography and Intravascular Ultrasound for the Guidance of Percutaneous Coronary Intervention in ST-segment Elevation Myocardial Infarction(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

62. Murata Kazuya, Yamauchi Yasuteru, Saito Ippei, Shimizu Atsuya, Yamaguchi Yudai, Takahashi Ryo, Oda Atsuhito, Arai Hirofumi, Sagawa Yuichirou, Manno Tomoko, Asano Mitsutoshi, Suzuki Hidetoshi, Shimabuku Tsukasa, Arima Hideki, Kurabayashi Manabu, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Comparison of Balloon Surface Temperatures of Novel and Established Cryoballoon Systems(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

63. Murata Kazuya, Yamauchi Yasuteru, Saito Ippei, Shimizu Atsuya, Yamaguchi Yudai, Takahashi Ryo, Oda Atsuhito, Arai Hirofumi, Sagawa Yuichirou, Manno Tomoko, Asano Mitsutoshi, Suzuki Hidetoshi, Shimabuku Tsukasa, Arima Hideki, Kurabayashi Manabu, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Comparison of Cryoballoon and Radiofrequency Ablation with Left Atrial Roofline Ablation for Persistent Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

64. Teng Yun, Hara Yuichi, Ohhigashi Hirokazu, Handa Keita, Kobayashi Kazuo, Miyazaki Shinsuke, Sasano Tetsuo. Comparison of Diaphragmatic Compound Motor Action Potential Recordings with Three Different Methods(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

65. 藤井 洋之, 角田 貴大, 宮崎 紘子, 三須 彬生, 立石 遼, 山口 正男, 山上 洋介, 加藤 信孝, 島田 博史, 一色 亜美, 木村 茂樹, 清水 雅人, 鈴木 誠, 笹野 哲郎. Correlation between Myocardial Perfusion and Arrythmogenesis in Coronary Spastic Angina by Using Wire-derived CFR and Dynamic 99mTc SPECT(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

66. Shimizu Masato, Tsunoda Takahiro, Miyazaki Hiroko, Misu Yoshiki, Tateishi Ryo, Yamaguchi Masao, Yamakami Yosuke, Kato Nobutaka, Shimada Hiroshi, Isshiki Ami, Kimura Shigeki, Fujii Hiroyuki, Suzuki Makoto, Nishizaki Mitsuhiro, Sasano Tetsuo. Diagnosis of Left Ventricular Hypertrophy on 12-leads Electrocardiogram by Historical Criterion and Artificial Intelligence(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

67. 羽田 昌浩, 星野 昌弘, 杉山 知代, 長嶺 竜宏, 羽生 佳弘, 上野 弘貴, 野上 開, 左山 耕大, 坂本 達哉, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角田 恒和. Diagnostic Performance of Optical Coherence Tomography for Detecting Near-Infrared Spectroscopy-Derived Lipid Rich Plaques in Patients with Chronic Coronary Syndrome(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

68. Arai Hirofumi, Saito Ippei, Shimizu Atsuya, Yamaguchi Yudai, Takahashi Ryo, Oda Atsuhito, Murata Kazuya, Sagawa Yuichirou, Asano Mitsutoshi, Manno Tomoko, Suzuki Hidetoshi, Shimabuku Tsukasa, Arima Hideki, Kurabayashi Manabu, Okishige Kaoru, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo, Yamauchi Yasuteru. Difference of Separate Freezing Technique to Large Diameter Pulmonary Vein in Pulmonary Vein Isolation between Novel and Conventional Cryoballoon System(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

69. 内藤 倫人, 堀江 知樹, 野里 寿史, 岸上 哲也, 加地 大悟, 照井 麻央, 大方 信一郎, 長瀬 将, 垰本 優太, 三澤 透, 宮崎 亮一, 金子 雅一, 李 哲民, 永田 恭敏, 新田 義一, 笹野 哲郎, 足利 貴志. Differences in Clinical Presentation between Patients with and without Cardiac Amyloidosis among Suspected Elderly Patients(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

70. 伊藤 諒, 村井 典史, 疋田 浩之, 渡邊 崇弘, 高橋 健, 池田 博, 張 峻模, 矢野 弘崇, 橘 伸一, 菱刈 景一, 川口 直彦, 三ッ堀 永美子, 高木 克昌, 大久保 健史, 田中 泰章, 高橋 淳, 米津 太志, 笹野 哲郎. Differences of the Background and Physiological Characteristics in Patients with Left Ventricular Diastolic Dysfunction(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

71. Kawaguchi Naohiko, Tanaka Yasuaki, Okubo Kenji, Watanabe Takahiro, Takahashi Ken, Ikeda Hiroshi, Cho Shummo, Yano Hirotaka, Ito Aki, Tachibana Shinichi, Hishikari Keiichi, Mitsubori Emiko, Murai Tadashi, Takagi Katsumasa, Hikita Hiroyuki, Sasano Tetsuo, Takahashi Atsushi. Differential Pacing Maneuver from the Vein of Marshall(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

72. Takigawa Masateru, Goya Masahiko, Negishi Miho, Ikenouchi Takashi, Yamamoto Tasuku, Goto Kentaro, Shigeta Takatoshi, Nishimura Takuro, Tao Susumu, Miyazaki Shinsuke, Sasano Tetsuo. Effect of Activation Direction on Peak-Frequency of Local Electrograms(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

73. Hishikari Keiichi, Hikita Hiroyuki, Takahashi Ken, Watanabe Takahiro, Ikeda Hiroshi, Cho Shummo, Ito Aki, Yano Hirotaka, Tachibana Shinichi, Kawaguchi Naohiko, Mitsubori Emiko, Murai Tadashi, Takagi Katsumasa, Okubo Kenji, Tanaka Yasuaki, Takahashi Atsushi, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Effect of Evolucumab in End Stage Renal Disease Ratients with Polyvascular Disease after Percutaneous Coronary Intervention(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

74. 下里 光, 佐々木 毅, 齊藤 洋子, 長澤 領, 田原 智大, 瀬上 将太, 土谷 健, 早坂 和人, 土屋 勇輔, 渡辺 敬太, 榊原 温志, 白井 康大, 近江 哲生, 大野 正和, 清水 茂雄, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Effect of Sacubitril/Valsartan on Cardiac and Renal Function in Patients with Atrial Fibrillation and Chronic Heart Failure(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

75. 木村 茂樹, 角田 貴大, 宮崎 紘子, 三須 彬生, 立石 遼, 山口 正男, 山上 洋介, 加藤 信孝, 島田 博史, 一色 亜美, 清水 雅人, 藤井 洋之, 鈴木 誠, 笹野 哲郎. Effectiveness of Angiotensin Receptor-Neprilysin Inhibitor in the Treatment for Japanese Patients with Heart Failure(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

76. Hishikari Keiichi, Hikita Hiroyuki, Takahashi Ken, Watanabe Takahiro, Ikeda Hiroshi, Cho Shummo, Ito Aki, Yano Hirotaka, Tachibana Shinichi, Kawaguchi Naohiko, Mitsubori Emiko, Murai Tadashi, Takagi Katsumasa, Okubo Kenji, Tanaka Yasuaki, Takahashi Atsushi, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Effects of EVT on Cardiac Remodeling as Assessed by Cardiac Biomarkers and Echocardiography in Patients with PAD with HFpEF(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

77. Oda Atsuhito, Saito Ippei, Shimizu Atsuya, Yamaguchi Yudai, Takahashi Ryo, Arai Hirofumi, Murata Kazuya, Sagawa Yuichirou, Manno Tomoko, Asano Mitsutoshi, Suzuki Hidetoshi, Shimabuku Tsukasa, Arima Hideki, Kurabayashi Manabu, Yamauchi Yasuteru, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Effects of Operator Experience on the Outcome of Left Atirial Roof Line Ablation with Cryoballoon for Non Paroxysmal Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

78. 立石 遼, 木村 茂樹, 角田 貴大, 宮崎 紘子, 三須 彬生, 山口 正男, 山上 洋介, 加藤 信孝, 島田 博史, 一色 亜美, 清水 雅人, 藤井 洋之, 鈴木 誠, 笹野 哲郎. Efficacy and Safety of Lesion Preparation with Cutting- or

Scoring-balloon during Percutaneous Coronary Intervention in Patients with Coronary Artery Lesions(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

79. Akiyoshi Kikou, Iwai Shinsuke, Higuchi Koji, Muramoto Hirotaka, Nishio Yoshiro, Yasui Yumi, Sumino Yohei, Kobayashi Isshi, Onishi Yuko, Satoh Yasuhiro, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Efficacy of Pressure-guided Cryoballoon Pulmonary Vein Isolation in Patients with Paroxysmal Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

80. 稲葉 理, 佐藤 明, 稲村 幸洋, 高木 崇光, 大屋 寛章, 高野 寿一, 磯長 祐平, 成田 岳, 中田 健太郎, 目黒 眞, 峯岸 昌代, 加藤 駿一, 羽田 泰晃, 狩野 実希, 根木 謙, 大和 恒博, 松村 穣, 新田 順一, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Entrainment Pacing from Para Hisian Region. A Novel Maneuver for Diagnosis of Paroxysmal Supraventricular Tachycardias(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

81. Takahashi Yoshihide, Akimoto Ko, Sato Hironori, Kikkoji Naoya, Maeno Ryota, Hijikata Sadahiro, Fukushima Taku, Sakurai Kaoru, Azegami Koji, Sasano Tetsuo. Epicardial Adipose Tissue Accumulation and Local Atrial Electrophysiologic Properties in Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

82. 中村 峻, 沼田 玄理, 山口 敏弘, 常盤 洋之, 東邦 康智, 野村 征太郎, 笹野 哲郎, 瀧本 英樹, 小室 一成. ER Stress-Activated Nf-κ B Signaling Pathway Induces the Upregulation of Cardiomyocyte Dopamine D1 Receptor in Heart Failure(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

83. 立石 遼, 清水 雅人, 島田 博史, 角田 貴大, 宮崎 紘子, 三須 彬生, 山口 正男, 山上 洋介, 加藤 信孝, 一色 亜美, 木村 茂樹, 藤井 洋之, 鈴木 誠, 西崎 光弘, 笹野 哲郎. Evaluation of the Risk of Inappropriate Implantable Cardioverter-Defibrillator Therapy Using Machine Learning(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

84. 川尻 紘平, ニョ ジン, 井原 健介, 古川 哲史, 笹野 哲郎. Exosomes in Patients with Atrial Fibrillation may Regulate Adipocyte Differentiation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

85. Shigeta Takatoshi, Takigawa Masateru, Ikenouchi Takashi, Noda Masayuki, Sakai Eiko, Negishi Miho, Yamamoto Tasuku, Goto Kentaro, Nishimura Takuro, Tao Susumu, Miyazaki Shinsuke, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Feasibility of Utilizing Diaphragm Movement Sensor for the Prediction of Phrenic Nerve Injury(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

86. Goto Kentaro, Tao Susumu, Miyazaki Shinsuke, Maeda Shingo, Suzuki Atsushi, Sasaki Takeshi, Otomo Kenichiro, Mizukami Akira, Handa Keita, Yamauchi Yasuteru, Yoshiwara Hirotaka, Suzuki Makoto, Inaba Osamu, Onishi Yuko, Nagata Yasutoshi, Azegami Koji, Yamaguchi Hiroaki, Goya Masahiko, Hirao Kenzo, Sasano Tetsuo. Fibrin Degradation Products Aid Risk Stratification of Subsequent Strokes and Thromboembolic Events in Patients Undergoing Anticoagulation Therapy for Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

87. 松田 隼治, 米津 太志, 笹野 哲郎, 米本 直裕, 田原 良雄, 池田 隆徳. Gender-based Analysis with the All-Japan Utstein Registry: The Outcomes of Successfully Resuscitated Female Patients with Out-of-hospital Cardiac Arrest(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

88. Kodama Tatsumi, Yamaguchi Masao, Shimizu Masato, Tsunoda Takahiro, Miyazaki Hiroko, Misu Yoshiki, Tateishi Ryo, Yamakami Yosuke, Kato Nobutaka, Shimada Hiroshi, Isshiki Ami, Kimura Shigeki, Fujii Hiroyuki, Suzuki Makoto, Sasano Tetsuo. Giant Multi Aneurysm: Coronary-Pulmonary Artery Fistula and Dissecting Aorta(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

89. Yamashita Shu, Mizukami Akira, Ono Maki, Hirok Jiro, Miyakuni Shota, Nakada Ryo, Matsumura Akihiko, Sasano Tetsuo, Goya Masahiko. Higher Power can Achieve Transmural Lesion More Frequently than Conventional Power in Radiofrequency Ablation of Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

90. 長嶺 竜宏, 杉山 知代, 星野 昌弘, 羽田 昌浩, 羽生 佳弘, 上野 弘貴, 野上 開, 左山 耕大, 坂本 達哉, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角田 恒和. Identification of Optical Coherence Tomography-Defined Coronary Plaque Erosion by Preprocedural Computed Tomography Angiography(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

91. Inamura Yukihiro, Minegishi Masayo, Meguro Shin, Nakata Kentaro, Narita Gaku, Isonaga Yuhei, Kato Shunichi, Kono Toshikazu, Ohya Hiroaki, Hada Yasuaki, Kanoh Miki, Takagi Takamitsu, Negi Ken, Satoh Akira, Yamato Tsunehiro, Inaba Osamu, Matsumura Yutaka, Nitta Junichi, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Impact of Catheter Ablation for Persistent Atrial Fibrillation with Heart Failure, Compared to Preserved and Reduced Ejection Fraction(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

92. 阿部 史征, 伊志嶺 百々子, 菅原 祥子, 田仲 明史, 矢部 顕人, 山尾 一哉, 宮崎 徹, 鈴木 麻美, 栗原 顕, 小野 裕一, 大友 建一郎, 笹野 哲郎. Impact of COVID-19 Pandemic on Onset-to-Balloon Time and Door-to-Balloon Time for Emergent Percutaneous Coronary Intervention(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

93. 阿部 史征, 伊志嶺 百々子, 菅原 祥子, 田仲 明史, 矢部 顕人, 山尾 一哉, 宮崎 徹, 鈴木 麻美, 栗原 顕, 小野 裕一, 大友 建一郎, 笹野 哲郎. Impact of Diabetes on Outcomes with Drug-Coated Balloon for Coronary Artery Diseases(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

94. Takegawa Koki, Ueshima Daisuke, Mitsuishi Kazunari, Shinozaki Tomoya, Nakada Ryo, Miyakuni Shota, Kobayashi Tetsuya, Yoshioka Kenji, Ohtani Hirofumi, Iwatsuka Ryota, Mizukami Akira, Matsumura Akihiko, Sasano Tetsuo. Impact of Left Ventricular Hypertrophy on Brain Natriuretic Peptide Changes in Patients Undergoing Transcatheter Aortic Valve Replacement(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

95. 佐川 雄一朗, 山内 康照, 齊藤 一平, 清水 厚哉, 山口 雄大, 高橋 怜, 小田 惇仁, 新井 紘史, 村田 和也, 萬野 智子, 浅野 充寿, 鈴木 秀俊, 志村 吏左, 有馬 秀紀, 倉林 学, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Impact of Recurrence within the Blanking Period after Cryoballoon-Based Ablation on Clinical Outcome in Non-Paroxysmal Atrial Fibrillation Patients(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

96. Takigawa Masateru, Goya Masahiko, Negishi Miho, Ikenouchi Takashi, Yamamoto Tasuku, Goto Kentaro, Shigeta Takatoshi, Nishimura Takuro, Tao Susumu, Miyazaki Shinsuke, Sasano Tetsuo. Impact of the Internal Close Unipolar Reference Electrode on Electrograms(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

97. 山口 純司, 滝川 正晃, 山本 佑, 池ノ内 孝, 重田 卓俊, 後藤 健太朗, 西村 卓郎, 田尾 進, 宮崎 晋介, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Impact of the Tip Design on the Efficacy and Safety of Radio Frequency Application(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

98. 大森 真理, 平澤 憲祐, 出雲 昌樹, 塩川 則子, 落田 美瑛, 佐藤 如雄, 小林 芳邦, 桑田 真吾, 奥山 和明, 有馬 秀紀, 笹野 哲郎, 明石 嘉浩. Influence of Device Generations on Alternations of Mitral Annulus after Transcatheter Edge-to-Edge Repair: A Real-time Three-dimensional Transesophageal Echocardiography Study(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

99. 梅本 朋幸, 益本 寛之, 野田 誠之, 中島 聡良, 酒井 瑛子, 吉川 宏, 根岸 美帆, 大森 真理, 菅野 義典, 池ノ内 孝, 山本 佑, 松田 祐治, 荒木 誠, 後藤 健太朗, 重田 卓俊, 臼井 英祐, 平澤 憲祐, 西村 卓郎, 落田 美瑛, 田尾 進, 滝川 正晃, 米津 太志, 宮崎 晋介, 前嶋 康浩, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Investigation of the Association between Cardiac Amyloidosis and Amyloid Deposition in Upper Extremity Joints and Soft Tissues(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

100. Tao Susumu, Negishi Miho, Yamamoto Tasuku, Ikenouchi Takashi, Goto Kentaro, Nishimura Takuro, Takigawa Masateru, Tezuka Daisuke, Miyazaki Shinsuke, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Left Ventricular Extracellular Volume Assessed Using CMR Associated with Heart Failure Admissions and Ventricular Arrhythmias in Patients with Non-ischemic Cardiomyopathy(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

101. Yamaguchi Junji, Takigawa Masateru, Yamamoto Tasuku, Ikenouchi Takashi, Shigeta Takatoshi, Goto Kentaro, Nishimura Takuro, Tao Susumu, Miyazaki Shinsuke, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Lesion Characteristics of Steam-pops in Very High-power and Short-duration Ablation with QDOT-MICRO Catheter(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

102. 岸上 哲也, 李 哲民, 内藤 倫人, 加地 大悟, 照井 麻央, 堀江 知樹, 大方 信一郎, 長瀬 将, 垰本 優太, 三澤 透, 宮崎 亮一, 金子 雅一, 永田 恭敏, 野里 寿史, 足利 貴志, 笹野 哲郎. Long-Term Clinical Courses of Five Myocarditis Patients Accompanied by COVID-19 mRNA Vaccination(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

103. 高野 寿一, 稲葉 理, 峯岸 昌代, 目黒 眞, 中田 健太郎, 成田 岳, 磯長 祐平, 加藤 駿一, 大屋 寛章, 羽田 泰晃, 狩野 実希, 高木 崇光, 稲村 幸洋, 根木 謙, 佐藤 明, 大和 恒博, 松村 穣, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Long-term Clinical Outcome of Catheter Ablation in Elderly with Non-Paroxysmal Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

104. 中田 健太郎, 稲村 幸洋, 峯岸 昌代, 目黒 眞, 成田 岳, 磯長 祐平, 加藤 駿一, 高野 寿一, 大屋 寛章, 羽田 泰晃, 狩野 実希, 高木 崇光, 根木 謙, 佐藤 明, 大和 恒博, 稲葉 理, 松村 穣, 新田 順一, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Long-Term Outcomes of Cryoballoon Ablation for Patients with Persistent Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

105. 中島 聡良, 滝川 正晃, 根岸 美帆, 池ノ内 孝, 山本 佑, 後藤 健太朗, 重田 卓俊, 西村 卓郎, 田尾 進, 宮崎 晋介, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. LUMIPOINT Highlights the Residual Epicardial Conduction over PV Lesion(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

106. 山崎 麻衣, 清水 雅人, 角田 貴大, 宮崎 紘子, 三須 彬生, 立石 遼, 山口 正男, 山上 洋介, 加藤 信孝, 島田 博史, 一色 亜美, 木村 茂樹, 藤井 洋之, 鈴木 誠, 西崎 光弘, 笹野 哲郎. Machine Learning on 12-lead Electrocardiogram for Predicting Multi-vessel Coronary Vasospastic Angina(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

107. 羽生 佳弘, 杉山 知代, 星野 昌弘, 羽田 昌浩, 長嶺 竜宏, 上野 弘貴, 野上 開, 左山 耕大, 坂本 達哉, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角田 恒和. Microvascular Resistance Reserve in the Presence of Functionally Significant Epicardial Stenosis and Its Change after Revascularization(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

108. Takagi Takamitsu, Minegishi Masayo, Meguro Shin, Nakata Kentaro, Narita Gaku, Isonaga Yuhei, Kato Shunichi, Kono Toshikazu, Ohya Hiroaki, Hada Yasuaki, Kanoh Miki, Inamura Yukihiro, Negi Ken, Satoh Akira, Yamato Tsunehiro, Matsumura Yutaka, Inaba Osamu, Sasano Tetsuo. Misdiagnosis of the Posterior Wall Transection after the Roofline Ablation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

109. 宮崎 徹, 栗原 顕, 伊志嶺 百々子, 菅原 祥子, 阿部 史征, 田仲 明史, 矢部 顕人, 山尾 一哉, 鈴木 麻美, 小野 裕一, 大友 建一郎, 笹野 哲郎. Modified HAS-BLED Score and Risk of Major Bleeding after Treatment with Second and Third Generation Drug-Eluting Stents(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

110. 垰本 優太, 永田 恭敏, 内藤 倫人, 岸上 哲也, 加地 大悟, 照井 麻央, 堀江 知樹, 大方 信一郎, 長瀬 将, 三澤 透, 宮崎 亮一, 金子 雅一, 李 哲民, 野里 寿史, 足利 貴志, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. New Findings of Local Potential in Outflow Tract Premature Ventricular Contraction during Sinus Rhythm(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

111. Amemiya Miki, Suzuki Atsushi, Kawakatsu Saki, Yamakawa Yuma, Kawamoto Shiho, Masuda Ryo, Murakami Tasuku, Watanabe Shingo, Yoshikawa Shunji, Yamamoto Yasuhito, Usui Michio, Yamauchi Yasuteru, Miyazaki Shinsuke, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. No Anchor Technique Using Cryoballoon in the Left Atrial Posterior Wall Isolation for Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

112. Noda Masayuki, Takigawa Masateru, Nakashima Akira, Masumoto Hiroyuki, Sakai Eiko, Negishi Miho, Ikenouchi Takashi, Yamamoto Tasuku, Goto Kentaro, Shigeta Takatoshi, Nishimura Takuro, Tao Susumu, Miyazaki Shinsuke, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Normal Distribution of Omnipolar Voltages and Peak-Frequency of Right Ventricle(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

113. Noda Masayuki, Takigawa Masateru, Masumoto Hiroyuki, Nakashima Akira, Sakai Eiko, Negishi Miho, Ikenouchi Takashi, Yamamoto Tasuku, Goto Kentaro, Shigeta Takatoshi, Nishimura Takuro, Tao Susumu, Miyazaki Shinsuke, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Normal Distribution of Peak-frequencies and Voltages Measured by Omnipolar Technology in Right Atrium and Superior Vena Cava(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

114. 川勝 紗樹, 雨宮 未季, 鈴木 篤, 山川 祐馬, 河本 梓帆, 増田 怜, 村上 輔, 渡部 真吾, 吉川 俊治, 山本 康人, 薄井 宙男, 宮崎 晋介, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Notable Complications Due to Vascular Closure Devices after Catheter Ablation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

115. Arai Hirofumi, Saito Ippei, Shimizu Atsuya, Yamaguchi Yudai, Takahashi Ryo, Oda Atsuhito, Murata Kazuya, Sagawa Yuichirou, Asano Mitsutoshi, Manno Tomoko, Suzuki Hidetoshi, Shimabuku Tsukasa, Arima Hideki, Kurabayashi Manabu, Okishige Kaoru, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo, Yamauchi

Yasuteru. Novel and Conventional Cryoballoon Ablation for Longstanding Persistent Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

116. 伊藤 諒, 村井 典史, 疋田 浩之, 渡邊 崇弘, 高橋 健, 池田 博, 張 峻模, 矢野 弘崇, 橘 伸一, 菱刈 景一, 川口 直彦, 三ッ堀 永美子, 高木 克昌, 大久保 健史, 田中 泰章, 高橋 淳, 米津 太志, 笹野 哲郎. Obesity would Contribute to Abnormal Index of Microvascular Resistance(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

117. Sakai Eiko, Negishi Miho, Ikenouchi Takashi, Yamamoto Tasuku, Goto Kentaro, Shigeta Takatoshi, Nishimura Takuro, Tao Susumu, Takigawa Masateru, Miyazaki Shinsuke, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Outcome of Anatomical and Electrophysiological Linear Lesions in Addition to Ethanol-Infusion to the Vein of Marshall in Complex AF Patients(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

118. Iiya Munehiro, Kashiwa Ryonosuke, Nishio Yoshiro, Yasui Yumi, Sumino Yohei, Akiyoshi Kikou, Iwai Shinsuke, Muramoto Hirotaka, Higuchi Koji, Kobayashi Isshi, Onishi Yuko, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Outcome of Patients with Acute Myocardial Infarction after Percutaneous Coronary Intervention Who Need Long Time from Onset to Medical Contact(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

119. Sasaki Takeshi, Shirai Yasuhiro, Saito Yoko, Nagasawa Ryo, Shimosato Hikaru, Tahara Tomohiro, Segami Shota, Tsuchiya Ken, Tsuchiya Yusuke, Sakakibara Atsushi, Watanabe Keita, Ohmi Tetsuo, Ohno Masakazu, Shimizu Shigeo, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Outcomes of Comprehensive Catheter Ablation Strategies Including Epicardial, Bipolar or Ethanol Ablations for Refractory Ventricular Arrhythmias(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

120. 川端 美穂子, 前田 真吾, 鎌田 龍明, 川島 朋之, 仲宗根 卓, 米内 竜, 沖重 薫, 新 博次, 笹野 哲郎, 平尾 見三. Paradigm Shift of Catheter Ablation of Atypical Atrioventricular Nodal Tachycardia: Importance of 3D Recognition of Exit Sites of Slow Pathway(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

121. 下里 光, 佐々木 毅, 齊藤 洋子, 長澤 領, 田原 智大, 瀬上 将太, 土谷 健, 早坂 和人, 土屋 勇輔, 渡辺 敬太, 榊原 温志, 白井 康大, 近江 哲生, 大野 正和, 清水 茂雄, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Patient Characteristics of Intolerability to Sacubitril/Valsartan for the Treatment of Chronic Heart Failure and Hypertension(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

122. Yamamoto Tasuku, Miyazaki Shinsuke, Tanaka Yasuaki, Kono Toshikazu, Nakata Tadanori, Mizukami Akira, Aoyama Daisetsu, Arai Hirofumi, Taomoto Yuta, Horie Tomoki, Hojo Rintaro, Kawamoto Shiho, Yabe Kento, Akiyoshi Kikou, Kato Nobutaka, Ono Yuichi, Suzuki Atsushi, Fukamizu Seiji, Nagata Yasutoshi, Yamauchi Yasuteru, Tada Hiroshi, Hachiya Hitoshi, Inaba Osamu, Takahashi Atsushi, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Peri-procedural Anticoagulation in Patients with End Stage Kidney Disease Undergoing Atrial Fibrillation Ablation: Results from the Multicenter ESKD-AF Ablation Registry(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

123. Yamaguchi Yudai, Sagawa Yuichirou, Saito Ippei, Shimizu Atsuya, Takahashi Ryo, Oda Atsuhito, Arai Hirofumi, Murata Kazuya, Manno Tomoko, Asano Mitsutoshi, Suzuki Hidetoshi, Shimabuku Tsukasa, Arima Hideki, Kurabayashi Manabu, Yamauchi Yasuteru, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Phrenic Nerve Injury when Using a Novel Cryoballoon Technology Compared to the Standard Cryoballoon(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

124. 山上 洋介, 木村 茂樹, 清水 雅人, 角田 貴大, 宮崎 紘子, 三須 彬生, 立石 遼, 山口 正男, 加藤 信孝, 島田 博史, 一色 亜美, 藤井 洋之, 鈴木 誠, 笹野 哲郎. Prediction of Lipid Rich Plaque in NIRS-IVUS by OCT Findings of Coronary Plaques Using Machine Learning(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

125. Iiya Munehiro, Kashiwa Ryonosuke, Nishio Yoshiro, Yasui Yumi, Sumino Yohei, Akiyoshi Kikou, Iwai Shinsuke, Muramoto Hirotaka, Higuchi Koji, Kobayashi Isshi, Onishi Yuko, Satoh Yasuhiro, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Prediction of Slow-Flow/No-Reflow Phenomenon among Patients with Acute Coronary Syndrome Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

126. Shimizu Masato, Tsunoda Takahiro, Miyazaki Hiroko, Misu Yoshiki, Tateishi Ryo, Yamaguchi Masao, Yamakami Yosuke, Kato Nobutaka, Shimada Hiroshi, Isshiki Ami, Kimura Shigeki, Fujii Hiroyuki, Suzuki Makoto, Nishizaki Mitsuhiro, Sasano Tetsuo. Predictive Value of Clustering by Artificial Intelligence for

Multi-vessel Coronary Artery Disease on Electrocardiography Gated Single Photon Emission Computed Tomography(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

127. 三須 彬生, 山口 正男, 清水 雅人, 角田 貴大, 宮崎 紘子, 立石 遼, 山上 洋介, 加藤 信孝, 島田 博史, 一色 亜美, 木村 茂樹, 藤井 洋之, 鈴木 誠, 笹野 哲郎. Predictive Value of Machine Learning on Echocardiography for the Death in Patients with Severe Aortic Valve Stenosis(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

128. 星野 昌弘, 杉山 知代, 羽田 昌浩, 長嶺 竜宏, 羽生 佳弘, 上野 弘貴, 野上 開, 左山 耕大, 坂本 達哉, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角田 恒和. Predictors and Prognostic Value of Reduced Global Coronary Sinus Flow Reserve Derived by Coronary Computed Tomography Angiography(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

129. Usui Eisuke, Sakai Eiko, Yoshikawa Hiroshi, Ohmori Mari, Kanno Yoshinori, Araki Makoto, Matsuda Yuji, Hirasawa Kensuke, Umemoto Tomoyuki, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Predictors of Slow Flow Phenomenon after Rotational Atherectomy in Heavily Calcified Coronary Lesions(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

130. Sayama Kodai, Sugiyama Tomoyo, Hoshino Masahiro, Hada Masahiro, Nagamine Tatsuhiro, Hanyu Yoshihiro, Ueno Hiroki, Nogami Kai, Sakamoto Tatsuya, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. Predictors of the Extent of Myocardial Fibrosis Detected by Cardiac Magnetic Resonance Imaging Using Coronary Computed Tomography Angiographic Findings(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

131. Oda Atsuhito, Saito Ippei, Shimizu Atsuya, Yamaguchi Yudai, Takahashi Ryo, Arai Hirofumi, Murata Kazuya, Sagawa Yuichirou, Manno Tomoko, Asano Mitsutoshi, Suzuki Hidetoshi, Shimabuku Tsukasa, Arima Hideki, Kurabayashi Manabu, Yamauchi Yasuteru, Shigeta Takatoshi, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Prevalence of Gastrichypomtility after Novel Cryoballoon Ablation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

132. Hijikata Sadahiro, Yamaguchi Tetsuo, Ueshima Daisuke, Umemoto Tomoyuki, Kikkoji Naoya, Akimoto Ko, Maeno Ryota, Fukushima Taku, Sato Hironori, Takahashi Yoshihide, Mizuno Atsushi, Matsui Akihiro, Kaneko Nobuhito, Ozaki Shunsuke, Doijiri Tatsuki, Juhjoh Kentaro, Kodama Takahide, Sakurai Kaoru, Azegami Koji, Higashitani Michiaki, Sasano Tetsuo. Prognostic Impact of Atrial Fibrillation on the Outcomes of Peripheral Artery Disease According to Preoperative Symptoms for Endovascular Revascularization(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

133. Kato Nobutaka, Shimizu Masato, Tsunoda Takahiro, Miyazaki Hiroko, Misu Yoshiki, Tateishi Ryo, Yamaguchi Masao, Yamakami Yosuke, Shimada Hiroshi, Isshiki Ami, Kimura Shigeki, Fujii Hiroyuki, Suzuki Makoto, Nishizaki Mitsuhiro, Sasano Tetsuo. Prognostic Value of Clustering by Artificial Intelligence in Patients with Atrial Fibrillation after Pulmonary Vein Isolation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

134. Yamaguchi Masao, Shimizu Masato, Tsunoda Takahiro, Miyazaki Hiroko, Misu Yoshiki, Tateishi Ryo, Yamakami Yosuke, Kato Nobutaka, Shimada Hiroshi, Isshiki Ami, Kimura Shigeki, Fujii Hiroyuki, Yonetsu Taishi, Suzuki Makoto, Sasano Tetsuo. Prognostic Value of Clustering by Artificial Intelligence on Echocardiographic Parameters in Patients with Severe Aortic Valve Stenosis(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

135. Miyazaki Hiroko, Shimizu Masato, Tsunoda Takahiro, Misu Yoshiki, Tateishi Ryo, Yamaguchi Masao, Yamakami Yosuke, Kato Nobutaka, Shimada Hiroshi, Isshiki Ami, Kimura Shigeki, Fujii Hiroyuki, Suzuki Makoto, Nishizaki Mitsuhiro, Sasano Tetsuo. Prognostic Value of Clustering by Artificial Intelligence on Initial Clinical Data in Patients with Acute Heart Failure(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

136. 角田 貴大, 清水 雅人, 宮崎 紘子, 三須 彬生, 立石 遼, 山口 正男, 山上 洋介, 加藤 信孝, 島田 博史, 一色 亜美, 木村 茂樹, 藤井 洋之, 鈴木 誠, 笹野 哲郎. Prognostic Value of Clustering by Artificial Intelligence on Ultrasound Echocardiography in Patients with Low Left Ventricular Ejection Fraction(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

137. 杉山 知代, 金地 嘉久, 星野 昌弘, 羽田 昌浩, 羽生 佳弘, 長嶺 竜宏, 野上 開, 上野 弘貴, 松田 和樹, 左山 耕大, 坂本 達哉, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角野 恒和. Prognostic Value of CMR-derived Global Coronary Flow

Reserve and CPX-derived Peak O2 Pulse in Patients with Acute Myocardial Infarction(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

138. 左山 耕大, 杉山 知代, 星野 昌弘, 羽田 昌浩, 長嶺 竜宏, 羽生 佳弘, 上野 弘貴, 野上 開, 坂本 達哉, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角田 恒和. Prognostic Value of Pericoronary Fat Attenuation Index in Patients with Takotsubo Cardiomyopathy(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

139. 酒井 瑛子, 吉川 宏, 大森 真理, 菅野 義典, 荒木 誠, 松田 祐治, 臼井 英祐, 梅本 朋幸, 米津 太志, 笹野 哲郎. Relationship between GRACE Score and Underlying Pathologies of Non-ST-segment Elevation Acute Coronary Syndrome(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

140. 山上 洋介, 木村 茂樹, 角田 貴大, 宮崎 紘子, 三須 彬生, 立石 遼, 山口 正男, 加藤 信孝, 島田 博史, 一色 亜美, 清水 雅人, 藤井 洋之, 鈴木 誠, 笹野 哲郎. Relationships between Serum Lipoprotein (a) Values and Coronary Plaque Components in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

141. Horie Tomoki, Nagata Yasutoshi, Naito Michihito, Kishigami Tetsuya, Kachi Daigo, Terui Mao, Okata Shinichiro, Nagase Masashi, Taomoto Yuta, Misawa Toru, Miyazaki Ryoichi, Kaneko Masakazu, Lee Tetsumin, Nozato Toshihiro, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo, Ashikaga Takashi. Rs Pattern in Synthesized-V5R as a Specific Marker for Diagnosing Unintentional Free-wall Pacing during Right Ventricular Septum Lead Placement(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

142. 磯長 祐平, 峯岸 昌代, 目黒 眞, 中田 健太郎, 成田 岳, 加藤 駿一, 高野 寿一, 大屋 寛章, 羽田 泰晃, 狩野 実希, 高木 崇光, 稲村 幸洋, 根木 謙, 佐藤 明, 大和 恒博, 稲葉 理, 松村 穣, 新田 順一, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Safety and Efficacy of Cryoballoon versus Radiofrequency Ablation for Atrial Fibrillation in Very Elderly Patients(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

143. 浅野 充寿, 倉林 学, 齊藤 一平, 清水 厚哉, 山口 雄大, 高橋 怜, 小田 惇仁, 新井 紘史, 村田 和也, 佐川 雄一朗, 萬野 智子, 鈴木 秀俊, 志村 吏左, 有馬 秀紀, 山内 康照, 笹野 哲郎. Safety and Efficacy of Switching Therapy from Low Dose Loop Diuretic to Dapagliflozin for Patients with Congestive Heart Failure(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

144. 益本 寛之, 田尾 進, 中島 聡良, 野田 誠之, 酒井 瑛子, 吉川 宏, 根岸 美帆, 山本 佑, 池ノ内 孝, 後藤 健太朗, 重田 卓俊, 西村 卓郎, 滝川 正晃, 米津 太志, 宮崎 晋介, 前嶋 康浩, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Safety and Feasibility of Leadless Pacemaker Implantation after System Removal for Pacemaker Infection(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

145. 吉川 宏, 菅野 義典, 中島 聡良, 野田 誠之, 益本 寛之, 大森 真理, 松田 祐治, 荒木 誠, 臼井 英祐, 平澤 憲祐, 梅本 朋幸, 米津 太志, 前嶋 康浩, 笹野 哲郎. Serial Change in Computed Tomography Attenuation of Periaortic Adipose Tissue in Patients with Takayasu Arteritis(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

146. 河本 梓帆, 増田 怜, 川勝 紗樹, 山川 祐馬, 雨宮 未季, 村上 輔, 渡部 真吾, 山本 康人, 吉川 俊治, 鈴木 篤, 薄井 宙男, 平澤 憲祐, 笹野 哲郎. Serial Changes in Echocardiographic Parameters for Recurrence of Atrial Fibrillation after Pulmonary Vein Isolation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

147. 田代 燦, 東山 陽子, 工藤 侃, 戸舎 稚詞, 須藤 悠太, 古浦 賢二, 岡田 寛之, 稲垣 裕, 笹野 哲郎. Sex Differences in Clinical Characteristics and Outcomes after Endovascular Treatment for Lower Extremity Peripheral Artery Disease(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

148. 清水 厚哉, 佐川 雄一朗, 山内 康照, 齊藤 一平, 山口 雄大, 高橋 怜, 小田 惇仁, 新井 紘史, 村田 和也, 萬野 智子, 浅野 充寿, 鈴木 秀俊, 志村 吏左, 有馬 秀紀, 倉林 学, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Sex Differences in the Clinical, Procedural Characteristics and Outcomes of Cryoballoon-Based Ablation for Non-Paroxysmal Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

149. 山川 祐馬, 鈴木 篤, 雨宮 未季, 川勝 紗樹, 河本 梓帆, 増田 怜, 村上 輔, 渡部 真吾, 山本 康人, 吉川 俊治, 薄井 宙男, 山内 康照, 宮崎 晋介, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Strategic Determination of Additional Left Atrial Posterior Wall Isolation Using ExTRa Mapping for Non-Paroxysmal Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

150. 近藤 紫織, 野田 誠之, 酒井 瑛子, 根岸 美帆, 池ノ内 孝, 山本 佑, 重田 卓俊, 後藤 健太朗, 西村 卓郎, 田尾 進, 滝川 正晃, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Successful Substrate Elimination during Sinus Rhythm in Incessant, Unmappable, MultipleATs(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

151. Akiyoshi Kikou, Iwai Shinsuke, Higuchi Koji, Muramoto Hirotaka, Kashiwa Ryonosuke, Nishio Yoshiro, Yasui Yumi, Sumino Yohei, Iiya Munehiro, Kobayashi Isshi, Onishi Yuko, Satoh Yasuhiro, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. The Acute Lesion Sets after Pressure-Guided Cryoballoon Pulmonary Vein Isolation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

152. Negishi Miho, Tao Susumu, Maeda Shingo, Suzuki Atsushi, Sasaki Takeshi, Ohtomo Kenichiro, Mizukami Akira, Handa Keita, Yamauchi Yasuteru, Yoshiwara Hirotaka, Suzuki Makoto, Inaba Osamu, Onishi Yuko, Nagata Yasutoshi, Azegami Koji, Yamaguchi Hiroaki, Miyazaki Shinsuke, Goya Masahiko, Hirao Kenzo, Sasano Tetsuo. The Association between Stroke Lesions Detected by Imaging Modalities and New-onset Symptomatic Strokes under Anticoagulation Therapy(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

153. 高橋 健, 村井 典史, 疋田 浩之, 渡邊 崇弘, 池田 博, 張 峻模, 矢野 弘崇, 伊藤 諒, 橘 伸一, 菱刈 景一, 川口 直彦, 三ッ堀 永美子, 田中 泰章, 大久保 健史, 高木 克昌, 高橋 淳, 米津 太志, 笹野 哲郎. The Background and Physiological Characteristics in Patients with Normal Fractional Flow Reserve and Abnormal Coronary Flow Reserve(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

154. Takigawa Masateru, Negishi Miho, Ikenouchi Takashi, Yamamoto Tasuku, Goto Kentaro, Shigeta Takatoshi, Nishimura Takuro, Tao Susumu, Miyazaki Shinsuke, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. The Best Index to Predict Lesion Size Created by a Novel Lasercut Catheter: Tactiflex Catheter(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

155. 村井 典史, 疋田 浩之, 高橋 健, 渡邊 崇弘, 池田 博, 張 峻模, 伊藤 諒, 矢野 弘崇, 菱刈 景一, 橘 伸一, 川口 直彦, 三ッ堀 永美子, 田中 泰章, 大久保 健史, 高木 克昌, 高橋 淳, 米津 太志, 笹野 哲郎. The Characteristics of Functional and Structural Coronary Microvascular Dysfunction(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

156. Tachibana Shinichi, Tanaka Yasuaki, Watanabe Takahiro, Takahashi Ken, Ikeda Hiroshi, Cho Shummo, Ito Aki, Yano Hirotaka, Hishikari Keiichi, Kawaguchi Naohiko, Mitsubori Emiko, Murai Tadashi, Takagi Katsumasa, Okubo Kenji, Hikita Hiroyuki, Takahashi Atsushi, Sasano Tetsuo. The Clinical Impact of the Electrocardiogram Recording with Smartwatches to Detect Paroxysmal Atrial Fibrillation with Rare Attacks(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

157. Takigawa Masateru, Yamamoto Tasuku, Goya Masahiko, Negishi Miho, Ikenouchi Takashi, Goto Kentaro, Shigeta Takatoshi, Nishimura Takuro, Tao Susumu, Miyazaki Shinsuke, Sasano Tetsuo. The Effect of Baseline Local Impedance on Lesion Formation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

158. 大野 正和, 下里 光, 田原 智大, 瀬上 将太, 土谷 健, 早坂 和人, 土屋 勇輔, 渡辺 敬太, 榊原 温志, 白井 康大, 近江 哲生, 佐々木 毅, 清水 茂雄, 笹野 哲郎. The Embolic Source in Patients with Acute Peripheral Artery Embolism(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

159. Ueno Hiroki, Sugiyama Tomoyo, Hoshino Masahiro, Hada Masahiro, Nagamine Tatsuhiro, Hanyu Yoshihiro, Nogami Kai, Sayama Kodai, Sakamoto Tatsuya, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. The Impact of Coronary Revascularization on Coronary Flow Capacity Assessed by Serial Transthoracic Echocardiography in Patients with Chronic Coronary Syndrome(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

160. 矢部 顕人, 小野 裕一, 伊志嶺 百々子, 菅原 祥子, 阿部 史征, 田仲 明史, 山尾 一哉, 宮崎 徹, 鈴木 麻美, 栗原 顕, 合屋 雅彦, 大友 建一郎, 笹野 哲郎. The Impact of the Left Atrial Posterior Wall Isolation as an Adjunctive Procedure for Persistent Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

161. 有馬 秀紀, 山内 康照, 萬野 智子, 浅野 充寿, 鈴木 秀俊, 志村 吏左, 倉林 学, 笹野 哲郎. The Pressure Gradient and Valve Morphology at Handgrip Stress Test Relate to the Presence of Symptoms in Post-MV Plasty Cases(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

162. 坂元 裕一郎, 高橋 良英, 新田 順一, 小堀 敦志, 永田 恭敏, 谷本 耕司郎, 松尾 征一郎, 山根 禎一, 森田 典成, 里見 和浩, 稲葉 理, 村田 和也, 佐々木 康博, 吉本 大祐, 金子 雅一, 谷本 陽子, 磯谷 亮太, 山下 省吾, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. The Relationship between Alcohol Consumption and the Efficacy of beyond PVI in Patients with Persistent or Longstanding Persistent Atrial Fibrillation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

163. Ohya Hiroaki, Inaba Osamu, Minegishi Masayo, Meguro Shin, Nakata Kentaro, Narita Gaku, Isonaga Yuhei, Kato Shunichi, Kono Toshikazu, Hada Yasuaki, Kanoh Miki, Takagi Takamitsu, Inamura Yukihiro, Negi Ken, Satoh Akira, Matsumura Yutaka, Sasano Tetsuo. The V1 Transition Ratio: Electrocardiographic Criterion for Predicting the Success of Ablation for Outflow Tract Premature Ventricular Contractions(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

164. Nishimura Takuro, Goya Masahiko, Miyazaki Shinsuke, Negishi Miho, Ikenouchi Takashi, Yamamoto Tasuku, Goto Kentaro, Shigeta Takatoshi, Tao Susumu, Umemoto Tomoyuki, Takigawa Masateru, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Transcoronary Mapping and Anatomical Approach in Scar-related Ventricular Tachycardia(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

165. 池ノ内 孝, 滝川 正晃, 酒井 瑛子, 根岸 美帆, 山本 佑, 後藤 健太郎, 重田 俊, 西村 卓郎, 田尾 進, 宮崎 晋介, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Unmasking Multiple Interatrial Connections from Different Pacing Sites(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

166. Hayasaka Kazuto, Sasaki Takeshi, Shimosato Hikaru, Tahara Tomohiro, Segami Shota, Nagasawa Ryo, Watanabe Keita, Shirai Yasuhiro, Goya Masahiko, Sasano Tetsuo. Usefulness of Current of Injury Measurement in Predicting Pacing Threshold Improvement during SelectSecure Lead Implantation(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

167. Hishikari Keiichi, Hikita Hiroyuki, Takahashi Ken, Watanabe Takahiro, Ikeda Hiroshi, Cho Shummo, Ito Aki, Yano Hirotaka, Tachibana Shinichi, Kawaguchi Naohiko, Mitsubori Emiko, Murai Tadashi, Takagi Katsumasa, Okubo Kenji, Tanaka Yasuaki, Takahashi Atsushi, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Vericiguat in Patients with Heart Failure with Reduced Ejection Fraction with End-stage of Renal Disease(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

168. 倉林 学, 浅野 充寿, 山内 康照, 笹野 哲郎. 大動脈緊急症からいかに患者を救命するか?: 最新の知見と集学的診療体制 (Patients with Out-of-Hospital Cardiac Arrest Caused by Aortic Emergency are Difficult to Resuscitate and Frequently Result in Pre-Hospital Death). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

169. Sakamoto Tatsuya, Sugiyama Tomoyo, Hoshino Masahiro, Hada Masahiro, Nagamine Tatsuhiro, Hanyu Yoshihiro, Ueno Hiroki, Nogami Kai, Sayama Kodai, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. Abnormal Physiological Findings after FFR-based Revascularisation Deferral are Associated with Worse Prognosis in Women(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

170. Kanno Yoshinori, Yonetsu Taishi, Aoyama Norio, Sakai Eiko, Yoshikawa Hiroshi, Ohmori Mari, Matsuda Yuji, Araki Makoto, Usui Eisuke, Hirasawa Kensuke, Umemoto Tomoyuki, Maejima Yasuhiro, Isobe Mitsuaki, Iwata Takanori, Sasano Tetsuo. Association between Peri-coronary Inflammation Assessed by Coronary Computed Tomography and Periodontal Disease in Patients with Cardiovascular Disease(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

171. Usui Eisuke, Sakai Eiko, Yoshikawa Hiroshi, Ohmori Mari, Kanno Yoshinori, Araki Makoto, Matsuda Yuji, Hirasawa Kensuke, Umemoto Tomoyuki, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Association between Pericoronary Adipose Tissue Inflammation, Lesion Complexity, and Procedural Outcomes in Patients with Chronic Total Occlusion(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

172. Araki Makoto, Yonetsu Taishi, Nakashima Akira, Noda Masayuki, Masumoto Hiroyuki, Sakai Eiko, Yoshikawa Hiroshi, Ohmori Mari, Kanno Yoshinori, Matsuda Yuji, Usui Eisuke, Hirasawa Kensuke, Umemoto Tomoyuki, Sasano Tetsuo. Categorization of Layered Coronary Plaque: An Optical Coherence Tomography and Near-infrared Spectroscopy Study(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

173. 西尾 祥郎, 飯谷 宗弘, 柏 良之輔, 安井 由美, 住野 陽平, 秋吉 基光, 岩井 慎介, 村本 容崇, 樋口 晃司, 小林 一士, 大西 祐子, 佐藤 康弘, 米津 太志, 笹野 哲郎. Clinical Characteristics and Outcome of Patients with Acute Coronary Syndrome Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention with Excimer Laser Coronary Atherectomy(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

174. 松田 祐治, 米津 太志, 栗原 顕, 角田 恒和, 清水 茂雄, 松村 昭彦, 稲垣 裕, 大西 祐子, 櫻井 馨, 土山 高明, 足利 貴志, 藤井 洋之, 小林 和郎, 中島 聡良, 野田 誠之, 益本 寛之, 酒井 瑛子, 吉川 宏, 大森 真理, 菅野 義典, 荒木 誠, 臼井 英祐, 平澤 憲祐, 梅本 朋幸, 前嶋 康浩, 笹野 哲郎. Comparison between Optical Coherence Tomography and Intravascular Ultrasound for the Guidance of Percutaneous Coronary Intervention in ST-segment Elevation Myocardial Infarction(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

175. 米津 太志. COVID-19-Associated Myocarditis and Myocarditis Following COVID-19 Vaccine(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

176. 羽田 昌浩, 星野 昌弘, 杉山 知代, 長嶺 竜宏, 羽生 佳弘, 上野 弘貴, 野上 開, 左山 耕大, 坂本 達哉, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角田 恒和. Diagnostic Performance of Optical Coherence Tomography for Detecting Near-Infrared Spectroscopy-Derived Lipid Rich Plaques in Patients with Chronic Coronary Syndrome(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

177. 伊藤 諒, 村井 典史, 疋田 浩之, 渡邊 崇弘, 高橋 健, 池田 博, 張 峻模, 矢野 弘崇, 橘 伸一, 菱刈 景一, 川口 直彦, 三ッ堀 永美子, 高木 克昌, 大久保 健史, 田中 泰章, 高橋 淳, 米津 太志, 笹野 哲郎. Differences of the Background and Physiological Characteristics in Patients with Left Ventricular Diastolic Dysfunction(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

178. Hishikari Keiichi, Hikita Hiroyuki, Takahashi Ken, Watanabe Takahiro, Ikeda Hiroshi, Cho Shummo, Ito Aki, Yano Hirotaka, Tachibana Shinichi, Kawaguchi Naohiko, Mitsubori Emiko, Murai Tadashi, Takagi Katsumasa, Okubo Kenji, Tanaka Yasuaki, Takahashi Atsushi, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Effect of Evolucumab in End Stage Renal Disease Ratients with Polyvascular Disease after Percutaneous Coronary Intervention(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

179. Hishikari Keiichi, Hikita Hiroyuki, Takahashi Ken, Watanabe Takahiro, Ikeda Hiroshi, Cho Shummo, Ito Aki, Yano Hirotaka, Tachibana Shinichi, Kawaguchi Naohiko, Mitsubori Emiko, Murai Tadashi, Takagi Katsumasa, Okubo Kenji, Tanaka Yasuaki, Takahashi Atsushi, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Effects of EVT on Cardiac Remodeling as Assessed by Cardiac Biomarkers and Echocardiography in Patients with PAD with HFpEF(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

180. 松田 隼治, 米津 太志, 笹野 哲郎, 米本 直裕, 田原 良雄, 池田 隆徳. Gender-based Analysis with the All-Japan Utstein Registry: The Outcomes of Successfully Resuscitated Female Patients with Out-of-hospital Cardiac Arrest(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

181. 長嶺 竜宏, 杉山 知代, 星野 昌弘, 羽田 昌浩, 羽生 佳弘, 上野 弘貴, 野上 開, 左山 耕大, 坂本 達哉, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角田 恒和. Identification of Optical Coherence Tomography-Defined Coronary Plaque Erosion by Preprocedural Computed Tomography Angiography(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

182. Yamamoto Myong Hwa, Mori Hiroyoshi, Mizukami Takuya, Okabe Toshitaka, Isomra Naoei, Kobayashi Nobuaki, Takano Masamichi, Kondo Seita, Sugiyama Tomoyo, Kakuta Tsunekazu, Wakabayashi Kohei, Suwa Satoru, Dohi Tomotaka, Kimura Shigeki, Mitomo Satoru, Nakamura Sunao, Higuma Takumi, Yamaguchi Junichi, Yonetsu Taishi, Natsumeda Makoto, Ikari Yuji, Yamashita Jun, Ochiai Masahiko, Shinke Toshiro. Impact of Admission Hyperglycemia and Underlying Causes of Acute Coronary Syndrome on Prognosis: A Substudy from the TACTICS Registry(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

183. 若林 公平, 鈴木 敏晃, 佐藤 千聡, 西藏 天人, 丹野 郁, 近藤 誠太, 森 敬善, 小林 宣明, 高野 雅充, 米津 太志, 樋熊 拓未, 杉山 知代, 角田 恒和, 諏訪 哲, 土肥 智貴, 木村 茂樹, 三友 悟, 中村 淳, 山口 淳一, 棗田 誠, 伊苅 裕二, 山下 淳, 水上 拓也, 山本 明和, 新家 俊郎. Impact of Precritical Exercise Habit on Underlying Cause and Clinical Outcomes in Patients with Acute Coronary Syndrome(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

184. 梅本 朋幸, 益本 寛之, 野田 誠之, 中島 聡良, 酒井 瑛子, 吉川 宏, 根岸 美帆, 大森 真理, 菅野 義典, 池ノ内 孝, 山本 佑, 松田 祐治, 荒木 誠, 後藤 健太朗, 重田 卓俊, 臼井 英祐, 平澤 憲祐, 西村 卓郎, 落田 美瑛, 田尾 進, 滝川 正晃, 米津 太志, 宮崎 晋介, 前嶋 康浩, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Investigation of the Association between Cardiac Amyloidosis and Amyloid Deposition in Upper Extremity Joints and Soft Tissues(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

185. 羽生 佳弘, 杉山 知代, 星野 昌弘, 羽田 昌浩, 長嶺 竜宏, 上野 弘貴, 野上 開, 左山 耕大, 坂本 達哉, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角田 恒和. Microvascular Resistance Reserve in the Presence of Functionally Significant Epicardial Stenosis and Its Change after Revascularization(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

186. 伊藤 諒, 村井 典史, 疋田 浩之, 渡邊 崇弘, 高橋 健, 池田 博, 張 峻模, 矢野 弘崇, 橘 伸一, 菱刈 景一, 川口 直彦, 三ッ堀 永美子, 高木 克昌, 大久保 健史, 田中 泰章, 高橋 淳, 米津 太志, 笹野 哲郎. Obesity would Contribute to Abnormal Index of Microvascular Resistance(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

187. Iiya Munehiro, Kashiwa Ryonosuke, Nishio Yoshiro, Yasui Yumi, Sumino Yohei, Akiyoshi Kikou, Iwai Shinsuke, Muramoto Hirotaka, Higuchi Koji, Kobayashi Isshi, Onishi Yuko, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Outcome of Patients with Acute Myocardial Infarction after Percutaneous Coronary Intervention Who Need Long Time from Onset to Medical Contact(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

188. Iiya Munehiro, Kashiwa Ryonosuke, Nishio Yoshiro, Yasui Yumi, Sumino Yohei, Akiyoshi Kikou, Iwai Shinsuke, Muramoto Hirotaka, Higuchi Koji, Kobayashi Isshi, Onishi Yuko, Satoh Yasuhiro, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Prediction of Slow-Flow/No-Reflow Phenomenon among Patients with Acute Coronary Syndrome Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

189. 星野 昌弘, 杉山 知代, 羽田 昌浩, 長嶺 竜宏, 羽生 佳弘, 上野 弘貴, 野上 開, 左山 耕大, 坂本 達哉, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角田 恒和. Predictors and Prognostic Value of Reduced Global Coronary Sinus Flow Reserve Derived by Coronary Computed Tomography Angiography(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

190. Usui Eisuke, Sakai Eiko, Yoshikawa Hiroshi, Ohmori Mari, Kanno Yoshinori, Araki Makoto, Matsuda Yuji, Hirasawa Kensuke, Umemoto Tomoyuki, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Predictors of Slow Flow Phenomenon after Rotational Atherectomy in Heavily Calcified Coronary Lesions(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

191. Sayama Kodai, Sugiyama Tomoyo, Hoshino Masahiro, Hada Masahiro, Nagamine Tatsuhiro, Hanyu Yoshihiro, Ueno Hiroki, Nogami Kai, Sakamoto Tatsuya, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. Predictors of the Extent of Myocardial Fibrosis Detected by Cardiac Magnetic Resonance Imaging Using Coronary Computed Tomography Angiographic Findings(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

192. Yamaguchi Masao, Shimizu Masato, Tsunoda Takahiro, Miyazaki Hiroko, Misu Yoshiki, Tateishi Ryo, Yamakami Yosuke, Kato Nobutaka, Shimada Hiroshi, Isshiki Ami, Kimura Shigeki, Fujii Hiroyuki, Yonetsu Taishi, Suzuki Makoto, Sasano Tetsuo. Prognostic Value of Clustering by Artificial Intelligence on Echocardiographic Parameters in Patients with Severe Aortic Valve Stenosis(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

193. 杉山 知代, 金地 嘉久, 星野 昌弘, 羽田 昌浩, 羽生 佳弘, 長嶺 竜宏, 野上 開, 上野 弘貴, 松田 和樹, 左山 耕大, 坂本 達哉, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角野 恒和. Prognostic Value of CMR-derived Global Coronary Flow Reserve and CPX-derived Peak O2 Pulse in Patients with Acute Myocardial Infarction(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

194. 左山 耕大, 杉山 知代, 星野 昌弘, 羽田 昌浩, 長嶺 竜宏, 羽生 佳弘, 上野 弘貴, 野上 開, 坂本 達哉, 米津 太志, 笹野 哲郎, 角田 恒和. Prognostic Value of Pericoronary Fat Attenuation Index in Patients with Takotsubo Cardiomyopathy(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

195. 酒井 瑛子, 吉川 宏, 大森 真理, 菅野 義典, 荒木 誠, 松田 祐治, 臼井 英祐, 梅本 朋幸, 米津 太志, 笹野 哲郎. Relationship between GRACE Score and Underlying Pathologies of Non-ST-segment Elevation Acute Coronary Syndrome(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

196. 益本 寛之, 田尾 進, 中島 聡良, 野田 誠之, 酒井 瑛子, 吉川 宏, 根岸 美帆, 山本 佑, 池ノ内 孝, 後藤 健太朗, 重田 卓俊, 西村 卓郎, 滝川 正晃, 米津 太志, 宮崎 晋介, 前嶋 康浩, 合屋 雅彦, 笹野 哲郎. Safety and Feasibility of Leadless Pacemaker Implantation after System Removal for Pacemaker Infection(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

197. 吉川 宏, 菅野 義典, 中島 聡良, 野田 誠之, 益本 寛之, 大森 真理, 松田 祐治, 荒木 誠, 臼井 英祐, 平澤 憲祐, 梅本 朋幸, 米津 太志, 前嶋 康浩, 笹野 哲郎. Serial Change in Computed Tomography Attenuation of Periaortic Adipose Tissue in Patients with Takayasu Arteritis(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

198. 高橋 健, 村井 典史, 疋田 浩之, 渡邊 崇弘, 池田 博, 張 峻模, 矢野 弘崇, 伊藤 諒, 橘 伸一, 菱刈 景一, 川口 直彦, 三ッ堀 永美子, 田中 泰章, 大久保 健史, 高木 克昌, 高橋 淳, 米津 太志, 笹野 哲郎. The Background and Physiological Characteristics in Patients with Normal Fractional Flow Reserve and Abnormal Coronary Flow Reserve(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

199. 村井 典史, 疋田 浩之, 高橋 健, 渡邊 崇弘, 池田 博, 張 峻模, 伊藤 諒, 矢野 弘崇, 菱刈 景一, 橘 伸一, 川口 直彦, 三ッ堀 永美子, 田中 泰章, 大久保 健史, 高木 克昌, 高橋 淳, 米津 太志, 笹野 哲郎. The Characteristics of Functional and Structural Coronary Microvascular Dysfunction(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

200. Ueno Hiroki, Sugiyama Tomoyo, Hoshino Masahiro, Hada Masahiro, Nagamine Tatsuhiro, Hanyu Yoshihiro, Nogami Kai, Sayama Kodai, Sakamoto Tatsuya, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo, Kakuta Tsunekazu. The Impact of Coronary Revascularization on Coronary Flow Capacity Assessed by Serial Transthoracic Echocardiography in Patients with Chronic Coronary Syndrome(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

201. Nishimura Takuro, Goya Masahiko, Miyazaki Shinsuke, Negishi Miho, Ikenouchi Takashi, Yamamoto Tasuku, Goto Kentaro, Shigeta Takatoshi, Tao Susumu, Umemoto Tomoyuki, Takigawa Masateru, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Transcoronary Mapping and Anatomical Approach in Scar-related Ventricular Tachycardia(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

202. Hishikari Keiichi, Hikita Hiroyuki, Takahashi Ken, Watanabe Takahiro, Ikeda Hiroshi, Cho Shummo, Ito Aki, Yano Hirotaka, Tachibana Shinichi, Kawaguchi Naohiko, Mitsubori Emiko, Murai Tadashi, Takagi Katsumasa, Okubo Kenji, Tanaka Yasuaki, Takahashi Atsushi, Yonetsu Taishi, Sasano Tetsuo. Vericiguat in Patients with Heart Failure with Reduced Ejection Fraction with End-stage of Renal Disease(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

203. Maejima Yasuhiro, Nakagama Shun, Fan Qintao, Watanabe Yuka, Sasano Tetsuo. Chemical Proteomics-Guided Identification of a Novel Target of Empagliflozin in Cardiomyocytes(タイトル和訳中). 日本循環器学会学術集会抄録集 2023.03.01

204. 中釜 悠, 伊藤 正道, Candray Katherine, 中釜 瞬, 嶋田 淳子, Arias Carmen-Elena, 城戸 康年. シャーガス病における宿主-病原体相互作用の見張り役としての心筋細胞の役割 (Role of cardiomyocytes as host-parasite inter-action sentinels in Chagas disease). 日本小児科学会雑誌 2023.02.01

1. 倉田農、松沢優、柿沼晴、山口純司、井原健介、川尻紘平、新田義一、中釜瞬、 岩宮賢、前嶋康浩、笹野哲郎.. 酸化ストレス負荷下において心筋細胞より放出される細胞外小胞の持つ脂肪分化抑制作用について. 第 270 回日本循環器学会関東甲信越地方会. 2023.12.16 東京.

2. 宮腰 恒広, 堀内 優奈, 荒木 誠, 米津 太志, 渡部 芽以, 中村 元紀, 亀田 貴寛, 吉本 明, 市村 直也, 東田 修二, 戸塚 実, 笹野 哲郎, 大川 龍之介. HDL サブクラスおよび冠動脈内プラークのサイズと無細胞系測定法によるコレステロール引き抜き能の関連. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.18 長崎

3. 前嶋康浩. 高安動脈炎の病態形成における MLX 転写因子の関わり. 第 64 回日本脈管学会学術総会: シンポジウム 13 2023.10.27 神奈川県横浜市

4. 前嶋康浩. MLX 遺伝子が高安動脈炎の病状進展に及ぼす影響についての検討. 第 64 回日本脈管学会学術総会: 学術委員会企画シンポジウム 5 2023.10.27 神奈川県横浜市

5. 前嶋康浩. 糖尿病併存心不全の病態メカニズム ～ミトコンドリア機能障害を中心に～. 第 38 回日本糖尿病合併症学会 2023.10.20 岡山県岡山市

6. 岩宮賢、井原健介、古川哲史、笹野哲郎.. ネプリライシン阻害による CNP を介した心房細動発症抑制効果の検討. 第 11 回 Heart Science Club. 2023.10.14 東京

7. 前嶋康浩. がん治療関連心機能障害を克服するための 基礎研究および臨床における取り組み . 第 28 回国際個別化医療学会学術集会 2023.10.09 東京都千代田区

8. 前嶋康浩. 糖尿病性心筋症の病態における選択的オートファジーの関わり. 第 27 回日本心不全学会学術集会 2023.10.08 神奈川県横浜市

9. 前嶋康浩. メカニズムからみた心血管疾患と高尿酸血症の関わり. 第 27 回日本心不全学会学術集会 2023.10.06 神奈川県横浜市

10. 前嶋康浩. がんプロフェッショナル養成プランが腫瘍循環器学の普及に及ぼす影響についての期待 . 第 6 回日本腫瘍循環器学会学術集会 2023.10.01 兵庫県神戸市

11. ドキソルビシン心筋症モデルにおける小胞体選択的オートファジーの心保護作用の解明. 第 6 回日本腫瘍循環器学会 2023.09.30 神戸

12. 山口 正男, 清水 雅人, 角田 貴大, 三須 彬生, 立石 遼, 加藤 信孝, 島田 博史, 一色 亜美, 藤井 洋之, 鈴木 誠, 笹野 哲郎. 心エコーの機械学習による重症大動脈弁狭窄症患者の予後予測. 日本心臓病学会学術集会抄録 2023.09.01

13. 前嶋康浩. SGLT2 阻害薬の心筋への影響を考える. 日本腎臓学会若手基礎研究フォーラム 2023 2023.08.26 東京都千代田区

14. 渡邉 匠, 荒木 誠, 松田 祐治, 山上 洋介, 平澤 憲祐, 杉山 知代, 梅本 朋幸, 米津 太志, 笹野 哲郎. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA) による劇症型心筋炎に対して VA-ECMO+Impella CP を含む集学的治療を行い救命し得た 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.07.01

15. 渡邉 匠, 荒木 誠, 松田 祐治, 山上 洋介, 平澤 憲祐, 杉山 知代, 梅本 朋幸, 米津 太志, 笹野 哲郎. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA) による劇症型心筋炎に対して VA-ECMO+Impella CP を含む集学的治療を行い救命し得た 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.07.01

16. 前嶋康浩. 高安動脈炎の診療における PET-CT の役割. 第 33 回日本心臓核医学会総会 · 学術大会 2023.06.24 長崎県長崎市

17. 前嶋康浩. MLX 遺伝子が高安動脈炎の病状進展に及ぼす影響についての検討. 第 64 回日本脈管学会学術総会 2023.06.24 神奈川県横浜市

18. 前嶋康浩. CTRCD の分子機序解明の現状. 第 9 回日本心筋症研究会 2023.05.13 大阪府吹田市

19. 西村 卓郎, 合屋 雅彦, 田尾 進, 滝川 正晃, 宮崎 晋介, 笹野 哲郎. Purkinje 伝導を High-Density Map で解析し最早期興奮部位より末梢で治療に成功した His 束直下右脚起源の促進心室固有調律の 1 例. 臨床心臓電気生理 2023.05.01

20. 沓水 里穂, 波野 史典, 齊藤 旬平, 小川 晋平, 笹野 哲郎. 左室収縮能が保たれた心不全患者における音響特徴量の指標探索. 日本循環器病予防学会誌 2023.05.01

21. 新田義一、辰己ことね、川尻紘平、井原健介、笹野哲郎. . レーザー回析散乱法による血漿中細胞外小胞の直接定量的測定.. 心電学関連春季大会 2023. 2023.04.22

22. 大方 信一郎, 照井 麻央, 加地 大悟, 宮崎 亮一, 金子 雅一, 李 哲民, 永田 恭敏, 野里 寿史, 足利 貴志, 笹野 哲郎. 部分肺静脈還流異常による肺高血圧の評価に運動負荷心エコー図検査が有用であった一例. 超音波医学 2023.04.01

23. 笹野 哲郎. 脳梗塞と寝たきりを防ぐ、スマート心房細動検診. 日本医学会総会会誌 2023.04.01

24. 田中 正純, 伊志嶺 百々子, 宮崎 徹, 鈴木 麻美, 栗原 顕, 小野 裕一, 大友 建一郎, 笹野 哲郎. 後天性全身性脂肪萎縮症を背景とした左冠動脈主幹部病変の急性心筋梗塞の 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.02.01

[受賞]

1. 若手研究奨励賞, 第 6 回日本腫瘍循環器学会, 2023 年 09 月

[その他業績]

1. 「 アントラサイクリン誘発性心筋症に対する小胞体選択的オートファジーの心保護作用を解明 」 — がん治療関連心筋障害を克服する端緒として期待 —, 2023 年 07 月
   JACC: CardioOncology

2. 「 アントラサイクリン誘発性心筋症に対する小胞体選択的オートファジーの心保護作用を解明 」 — がん治療関連心筋障害を克服する端緒として期待 —, 2023 年 07 月
   JACC: CardioOncology

3. Intracellular recycling: the key to surviving potent anti-cancer drugs, 2023 年 08 月
   AAAS EurekAlert! The Global Souce for Science News

4. 「歯周病原細菌 Porphyromonas gingivalis がオートファジーを抑制することにより 心筋梗塞後リモデリングの悪化を促進する分子メカニズムを解明」 – 歯周病に起因する他臓器疾患に対する治療法を開発する端緒として期待 –, 2023 年 09 月
   International Journal of Oral Science

5. 東京医科歯科大学と「カプセルホテルにおける不整脈検出」の共同研究を開始, 2023 年 09 月
—

6. Killer smile? An oral pathogen increases heart attack damage, 2023 年 10 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. Reviewer（査読）：American Journal of Physiology - Heart and Circulatory Physiology, 2012 年 06 月 - 現在
2. Reviewer（査読）：Autophagy, 2013 年 06 月 - 現在
3. Reviewer（査読）：Circulation Research, 2013 年 10 月 - 現在
4. Reviewer（査読）：Journal of Cardiology, 2013 年 11 月 - 現在
5. Reviewer（査読）：Circulation Journal, 2014 年 01 月 - 現在
6. Reviewer（査読）：Journal of Molecular and Cellular Cardiology, 2014 年 05 月 - 現在
7. Reviewer（査読）：PLoS One, 2014 年 11 月 - 現在
8. Reviewer（査読）：Scientific Reports, 2015 年 10 月 - 現在
9. Reviewer（査読）：International Heart Journal, 2016 年 02 月 - 現在
10. Reviewer（査読）：Biochemistry and Biophysics Repotrs, 2016 年 04 月 - 現在

心臓血管外科学

Cardiovascular Surgery

教授　　藤田知之（2 月～）
担当教授　工藤敏文（9 月～）
准教授　　水野友裕（～4 月）　長岡英気（7 月～）
講師　　大井啓司 · 長岡英気（～6 月）、八島正文 · 藤原立樹（7 月～）
院内講師　八島正文 · 藤原立樹（～6 月）
助教　　大石清寿、竹下斉史（～3 月）、山本洋平（9 月～）、鍋島惇也（4 月～）、櫻井啓暢（7 月～）、
田原禎生（7 月～）

大学院生
竹下斉史 · 櫻井啓暢 · 関晴永（～3 月）横山賢司、田原 禎生、鍋島惇也
医員
鍋島 惇也（～3 月）、田原 禎生（4 月～7 月）伊澤朗（～3 月）、板東哲史（～1 月）、卓馬紳之介（4 月～）

(1) 研究活動

循環器病の外科治療の成績を一層安定、向上させるため、1）冠動脈バイパス術の安全性と質の向上を目的とした臨床評価、2）虚血性心筋症に対する新しい術式開発、3) 弁膜症における心拍動下弁形成術の開発、4）心臓 · 肺移植の研究、5）重症不全心に対する心機能改善を目的とした再生医療の研究、を研究課題として基礎的および臨床的に取り組んでいる。

1）冠動脈バイパス術の安全性と質の向上を目的とした臨床評価
(1) 当教室において施行された冠動脈バイパス症例の長期遠隔予後評価。
(2) 手術用デバイスの開発と基礎実験および臨床研究。

2）虚血性心筋症に対する新しい術式開発
(1) 虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対する新しい僧帽弁複合体再建術の術式開発。
(2) 僧帽弁複合体再建術による周術期 · 術後中期 · 遠隔期における左室形態の Reverse Remodeling 効果に関する研究。
(3) 左室形成術における至適手術法の開発と研究。

3）弁膜症手術における心拍動下弁形成術の術式開発
(1) 弁形成術を心拍動下で安全に行うための工夫と対策。
(2) 心拍動下弁形成術における至適人工腱索決定方法の研究。

4）補助人工心臓 · 心臓肺移植の研究
(1) 体外式補助人工心臓の臨床研究。
(2) 植込み型補助人工心臓の臨床研究。
(3) 異種心臓移植。

5）重症不全心に対する心機能改善を目的とした再生医療の研究
(1) 心筋シート移植法の研究。
(2) 補助人工心臓と再生医療のハイブリッド治療による心機能改善法の研究。

(2) 教育活動

学生教育は、心臓 · 血管の手術症例の術前準備 · 手術 · 術後管理を主治医チームと共に体験する事により、循環器系に関する臨床解剖、臨床生理、臨床薬理等の基礎的知識の理解と臨床外科治療への理解を深められるように指導している。卒後教育に関しては、初期研修医には、心臓血管外科治療を通して、循環器疾患の理解を深め、循環器疾患患者への基本的対応を経験してもらうとともに、基本的外科手技を経験してもらうように心掛けている。後期研修以降、心臓血管外科を専攻した場合は、心臓血管外科専門医制度に沿った臨床研修プログラムに従って研修を受けてもらっている。

(3) 臨床上の特色

近年、症例の重症化 · 高齢化に伴いハイリスク症例が増加しており、手術の低侵襲化と安全性向上を目的とした外科治療手技の工夫を行っている。同時に、従来は手術適応限界とされた重症心不全症例に対する新しい術式の開発と臨床応用を行っている。植込み型補助人工心臓認定施設であるため、補助人工心臓治療とともに各種循環呼吸補助治療を積極的に行い、大学病院ならではの先端的医療を行っている。ER との連携で心 · 大血管の緊急手術も積極的に行っている。

(4) 研究業績

[原著]

1. [消化管外科学 : 絹笠　祐介] Yuriko Matsumiya, Mitsukuni Suenaga, Toshiaki Ishikawa, Toshifumi Kudo, Tsuyoshi Nakagawa, Kentaro Okamoto, Masanori Tokunaga, Claudia Hurtado, Yuki Yamada, Kentaro Oka, Motomichi Takahashi, Luis Francisco Lopez Kostner, Miguel Luis O'Ryan Gallardo, Hiroyuki Uetake, Yusuke Kinugasa. Clinical significance of Bacteroides fragilis as a potential prognostic factor in colorectal cancer Anaerobe. 2023.12; 84:102784;

2. [循環制御内科学 : 笹野　哲郎] Ikenouchi T, Takigawa M, Goya M, Kudo T, Sasano T. Refractory Deep Vein Thrombosis Caused by Femoral Vein Stenosis Due to Suture-Medicated Vascular Closure Device. The International journal of angiology : official publication of the International College of Angiology, Inc. 2023.12; 32(4); 288-291

3. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] Tomura Nobunari, Kataoka Yu, Morris Kensuke, Kiyoshige Eri, Nishimura Kunihiro, Yagi Nobuhito, Murai Kota, Iwai Takamasa, Sawada Kenichiro, Matama Hideo, Honda Satoshi, Fujino Masashi, Takagi Kensuke, Yoneda Shuichi, Otsuka Fumiyuki, Tahara Yoshio, Asaumi Yasuhide, Satow Tetsu, Kataoka Hiroharu, Fukushima Satsuki, Fujita Tomoyuki, Noguchi Teruo. Bypass failure of internal mammary artery caused by subclavian artery stenosis: its clinical characteristics and cardiovascular outcomes in patients receiving coronary artery bypass graft surgery. Cardiovasc Diagn Ther. 2023.12; 13(6); 956-967

4. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] Noda Kazuki, Fukushima Satsuki, Kakuta Takashi, Kainuma Satoshi, Kawamoto Naonori, Tadokoro Naoki, Ikuta Ayumi, Fujita Tomoyuki. Short- and Midterm outcomes of modified robotic tricuspid annuloplasty for secondary tricuspid regurgitation. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2023.12; 71(12); 692-699

5. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] Hada Tasuku, Seguchi Osamu, Mochizuki Hiroki, Watanabe Takuya, Tadokoro Naoki, Kainuma Satoshi, Fukushima Satsuki, Tsukamoto Yasumasa, Noguchi Teruo, Fujita Tomoyuki, Fukushima Norihide. Prognostic impact of lung computed tomography density in cardiogenic shock patients with veno-arterial extracorporeal membrane oxygenation. Artif Organs. 2023.11; 47(11); 1742-1751

6. [心臓血管外科学 : 大石　清寿] Oishi Kiyotoshi, Arai Hirokuni, Kuroki Hidehito, Fujioka Tomoyuki, Tomita Makoto, Tasaki Dai, Oi Keiji, Nagaoka Eiki, Fujiwara Tatsuki, Takeshita Masashi, Yoshizaki Tomoya, Someya Takeshi, Mizuno Tomohiro. A prospective randomized controlled study to assess the effectiveness of super FIXSORB WAVE for sternal stabilization after sternotomy(タイトル和訳中) General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2023.11; 71(11); 665-673

7. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] Arai Marina, Fujino Masashi, Fujita Tomoyuki, Noguchi Teruo. Left Coronary Artery Aneurysm Causing a Third Mogul. Circ Cardiovasc Imaging. 2023.10; 16(10); e015441

8. [心臓血管外科学 ： 藤田　知之] Kunioka Shingo, Seguchi Osamu, Hada Tasuku, Mochizuki Hiroki, Shimojima Masaya, Watanabe Takuya, Tsukamoto Yasumasa, Tadokoro Naoki, Kainuma Satoshi, Fukushima Satsuki, Fujita Tomoyuki, Kamiya Hiroyuki, Fukushima Norihide. Successful echocardiography-guided medical management of severe early post-implant right ventricular failure in a patient with left ventricular assist device support: a case report. J Cardiothorac Surg. 2023.10; 18(1); 269

9. [心臓血管外科学 ： 藤田　知之] Kakuta Takashi, Fukushima Satsuki, Minami Kimito, Kainuma Satoshi, Kawamoto Naonori, Tadokoro Naoki, Ikuta Ayumi, Tonai Kohei, Saiki Yoshikatsu, Fujita Tomoyuki. Outcomes and residual gap analysis after the modified cryomaze procedure performed via right minithoracotomy versus sternotomy. JTCVS Open. 2023.09; 15; 176-187

10. [心臓血管外科学 ： 藤田　知之] Kakuta Takashi, Fukushima Satsuki, Minami Kimito, Kawamoto Naonori, Tadokoro Naoki, Saiki Yoshikatsu, Fujita Tomoyuki. Incidence of and risk factors for pacemaker implantation after the modified Cryo-Maze procedure for atrial fibrillation. J Thorac Cardiovasc Surg. 2023.09; 166(3); 755-766.e1

11. [心臓血管外科学：藤田　知之] Kunioka Shingo, Watanabe Takuya, Mochizuki Hiroki, Nakaya Takako, Hori Yumiko, Miyoshi Eri, Konishi Nobuaki, Arizono Ayaka, Kitahata Nana, Hada Tasuku, Shimojima Masaya, Tsukamoto Yasumasa, Seguchi Osamu, Kamiya Hiroyuki, Tonai Kohei, Tadokoro Naoki, Kainuma Satoshi, Fukushima Satsuki, Fujita Tomoyuki, Fukushima Norihide. Efficacy of catheter cleaning methods using intravenous indwelling catheter, 10% silver nitrate solution and a monofilament nylon thread for deeply progressed superficial driveline infections: case series. J Surg Case Rep. 2023.08; 2023(8); rjad443

12. [心臓血管外科学：藤田　知之] Minami Kimito, Tadokoro Naoki, Fukushima Satsuki, Fujita Tomoyuki, Ohnishi Yoshihiko. Use of cardiopulmonary bypass is associated with chronic postsurgical pain among patients undergoing coronary artery bypass graft surgery: follow-up of a randomized, clinical trial. J Anesth. 2023.08; 37(4); 555-561

13. [心臓血管外科学：藤田　知之] Shimahara Yusuke, Fukushima Satsuki, Kawamoto Naonori, Tadokoro Naoki, Nakai Michikazu, Kobayashi Junjiro, Fujita Tomoyuki. Additional survival benefit of bilateral in situ internal thoracic artery grafting with composite radial artery graft in total arterial off-pump coronary artery bypass grafting. J Thorac Cardiovasc Surg. 2023.08; 166(2); 519-529.e4

14. [心臓血管外科学：藤田　知之] Okada Atsushi, Kakuta Takashi, Tadokoro Naoki, Tateishi Emi, Morita Yoshiaki, Kitai Takeshi, Amaki Makoto, Kanzaki Hideaki, Ohta-Ogo Keiko, Ikeda Yoshihiko, Fukushima Satsuki, Fujita Tomoyuki, Kusano Kengo, Noguchi Teruo, Izumi Chisato. Transthyretin derived amyloid deposits in the atrium and the aortic valve: insights from multimodality evaluations and mid-term follow up. BMC Cardiovasc Disord. 2023.06; 23(1); 281

15. [心臓血管外科学：藤田　知之] Kakuta Takashi, Fukushima Satsuki, Minami Kimito, Kainuma Satoshi, Kawamoto Naonori, Tadokoro Naoki, Ikuta Ayumi, Tonai Kohei, Saiki Yoshikatsu, Fujita Tomoyuki. What Is the Optimal Mitral Valve Repair for Isolated Posterior Leaflet Prolapse to Achieve Long-Term Durability? J Am Heart Assoc. 2023.06; 12(11); e028607

16. [心臓血管外科学 ： 藤田　知之] Tadokoro Naoki, Tonai Kohei, Kainuma Satoshi, Kawamoto Naonori, Kakuta Takashi, Yanagino Yusuke, Shimojima Masaya, Tsukamoto Yasumasa, Shimizu Hideyuki, Fujita Tomoyuki, Fukushima Satsuki. A unique cuff-sewing method to implant heartmate3 LVAD for arrhythmogenic right ventricular cardiomyopathy, facilitated by 3D-printing heart model. J Artif Organs. 2023.06; 26(2); 151-155

17. [心臓血管外科学：長岡　英気] Yokoyama K, Yoshizaki T, Nagaoka E, Tasaki D, Arai H. Preoperative Computed Tomography of the Right Gastroepiploic Artery for Coronary Artery Bypass Grafting. Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2023.05;

18. [心臓血管外科学 ： 藤田　知之] Tanaka Hidekazu, Takegami Misa, Miyake Makoto, Amano Masashi, Kitai Takeshi, Fujita Tomoyuki, Koyama Tadaaki, Ando Kenji, Komiya Tatsuhiko, Izumo Masaki, Kawai Hiroya, Eishi Kiyoyuki, Yoshida Kiyoshi, Kimura Takeshi, Nawada Ryuzo, Sakamoto Tomohiro, Shibata Yoshisato, Fukui Toshihiro, Minatoya Kenji, Tsujita Kenichi, Sakata Yasushi, Kimura Tetsuya, Nishimura Kunihiro, Furukawa Yutaka, Izumi Chisato, BPV-AF Registry Group. Association of Left Atrial Size With Stroke or Systemic Embolism in Patients With Atrial Fibrillation Having Undergone Bioprosthetic Valve Replacement From the BPV-AF Registry. Circ Rep. 2023.05; 5(5); 210-216

19. [心臓血管外科学： 藤田　知之] Forrest John K, Deeb G Michael, Yakubov Steven J, Gada Hemal, Mumtaz Mubashir A, Ramlawi Basel, Bajwa Tanvir, Teirstein Paul S, DeFrain Michael, Muppala Murali, Rutkin Bruce J, Chawla Atul, Jenson Bart, Chetcuti Stanley J, Stoler Robert C, Poulin Marie-France, Khabbaz Kamal, Levack Melissa, Goel Kashish, Tchétché Didier, Lam Ka Yan, Tonino Pim A L, Ito Saki, Oh Jae K, Huang Jian, Popma Jeffrey J, Kleiman Neal, Reardon Michael J, Low Risk Trial Investigators. 3-Year Outcomes After Transcatheter or Surgical Aortic Valve Replacement in Low-Risk Patients With Aortic Stenosis. J Am Coll Cardiol. 2023.05; 81(17); 1663-1674

20. [循環制御内科学： 前嶋　康浩] Eisuke Usui, Eiki Nagaoka, Hiroshi Ikeda, Mari Ohmori, Susumu Tao, Taishi Yonetsu, Yasuhiro Maejima, Hirokuni Arai, Kisaki Amemiya, Yoshihiko Ikeda, Tetsuo Sasano. Fulminant myocarditis with COVID-19 infection having normal C-reactive protein and serial magnetic resonance follow-up. ESC Heart Fail. 2023.04; 10(2); 1426-1630

21. [心臓血管外科： 櫻井　啓暢] Sakurai, H., Someya, T., Yamamoto, S. et al.. Multiple cardiac calcified amorphous tumors with morphologically different characteristics complicated by aortic regurgitation: a case report Gen Thorac Cardiovasc Surg Cases. 2023.04;

22. [心臓血管外科学： 長岡　英気] Takeshita M, Arai H, Nagaoka E, Oi K, Fujiwara T, Oishi K, Mizuno T. Ring annuloplasty, optionally combined with edge-to-edge leaflet plications, should be amended with subvalvular repair techniques to efficaciously treat tricuspid regurgitation with severe tethering. European journal of cardio-thoracic surgery : official journal of the European Association for Cardio-thoracic Surgery. 2023.03;

23. [心臓血管外科学： 藤田　知之] Yoshioka Yuki, Yajima Shin, Sakaniwa Ryoto, Tadokoro Naoki, Kainuma Satoshi, Kawamoto Naonori, Kakuta Takashi, Matsuda Hitoshi, Fujita Tomoyuki, Fukushima Satsuki. Does the residual aorta dilate after replacement of the bicuspid aortic valve and ascending aorta? J Thorac Dis. 2023.03; 15(3); 994-1008

24. [心臓血管外科学： 藤田　知之] Hada Tasuku, Amano Masashi, Murata Shunsuke, Nishimura Kunihiro, Nakagawa Shoko, Irie Yuki, Moriuchi Kenji, Okada Atsushi, Kitai Takeshi, Amaki Makoto, Kanzaki Hideaki, Fukushima Satsuki, Kusano Kengo, Noguchi Teruo, Fujita Tomoyuki, Izumi Chisato. Prognostic Predictors of Tricuspid Regurgitation Worsening after Mitral Regurgitation Surgery with Mild Tricuspid Regurgitation. Semin Thorac Cardiovasc Surg. 2023.03;

25. [心臓血管外科学： 藤田　知之] Kunioka Shingo, Tadokoro Naoki, Fujita Tomoyuki, Fukushima Satsuki. Successful exclusion of left main trunk coronary artery aneurysm and concomitant HeartMate 3 implantation in a patient with a history of infective endocarditis: a case report. Eur Heart J Case Rep. 2023.03; 7(3); ytad080

26. [心臓血管外科学： 藤田　知之] Tadokoro Naoki, Fukushima Satsuki, Minami Kimito, Shimahara Yusuke, Kawamoto Naonori, Kakuta Takashi, Numata Satoshi, Yaku Hitoshi, Takemura Hirofumi, Iino Kenji, Ochi Masami, Ishii Yosuke, Wada Hideichi, Minematsu Noritoshi, Shimizu Hideyuki, Kobayashi Junjiro, Fujita Tomoyuki. 15-year outcomes of the JOCRI study (JOCRIED study): a randomised comparison of off-pump and on-pump multiple arterial coronary revascularisation. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2023.03; 71(3); 151-157

27. [心臓血管外科学： 長岡　英気] Sakota D, Kosaka R, Nagaoka E, Ohuchi K, Tahara T, Arai H, Sakanoue I, McCurry KR, Okamoto T. Left ventricular assist device mode: Co-pulse left ventricular unloading in a working mode of ex vivo heart perfusion. The Journal of heart and lung transplantation : the official publication of the International Society for Heart Transplantation. 2023.02; 42(6); 707-715

28. [循環制御内科学： 笹野　哲郎] Mizuno Tomohiro, Goya Masahiko, Fujiwara Tatsuki, Oishi Kiyotoshi, Takeshita Masashi, Yashima Masafumi, Nagaoka Eiki, Oi Keiji, Sasano Tetsuo. Surgical extraction of cardiac implantable electronic device leads based on a heart team approach(タイトル和訳中) Journal of Cardiology. 2023.02; 81(1-2); 111-116

29. [心臓血管外科学： 藤田　知之] Anegawa Eiji, Seguchi Osamu, Mochizuki Hiroki, Kuroda Kensuke, Doi Nakajima Seiko, Watanabe Takuya, Yanase Masanobu, Tadokoro Naoki, Fukushima Satsuki, Fujita Tomoyuki, Fukushima Norihide. Pulmonary Vascular Reverse Remodeling After Left Ventricular Assist Device Implantation in Patients With Pulmonary Hypertension. ASAIO J. 2023.02; 69(2); 151-158

30. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] Amemiya Kisaki, Yonemoto Yumiko, Ishibashi-Ueda Hatsue, Matsumoto Manabu, Ohta-Ogo Keiko, Ikeda Yoshihiko, Kobayashi Junjiro, Fukushima Satsuki, Fujita Tomoyuki, Hatakeyama Kinta. Morphological characteristics of cardiac myxoma causing embolism: a series of 40 years of experience at a single institute. Virchows Arch. 2023.02; 482(2); 377-384

1. [心臓血管外科学 : 工藤　敏文] 山本 洋平, 工藤 敏文. 【血管外科疾患の治療と手術手技-消化器 · 一般外科医が知りたい他科の技と工夫】他科との連携手術　腎癌腫瘍栓との戦い 手術. 2023.12; 77(13); 1939-1941

2. [心臓血管外科学 : 工藤　敏文] 山本 洋平, 工藤 敏文. 【-続 · 総合診療外来に”実装”したい-最新エビデンス My Best 3】下肢閉塞性動脈硬化症 総合診療. 2023.11; 33(11); 1310-1312

3. [心臓血管外科学 : 工藤　敏文] Kobayashi Taira, Takahara Mitsuyoshi, Fujimura Naoki, Ichihashi Shigeo, Kudo Toshifumi, Okadome Jun, Obara Hideaki, Nakama Tatsuya, Suzuki Kenji, Yamaoka Terutoshi. Comparison of Clinical Outcomes in Patients Undergoing Common Femoral Thromboendarterectomy With or Without Patch Angioplasty EUROPEAN JOURNAL OF VASCULAR AND ENDOVASCULAR SURGERY. 2023.06; 65(6); 870-877

4. [心臓血管外科学 : 藤原　立樹] Hatakenaka Kohei, Hijikata Wataru, Fujiwara Tatsuki, Ohuchi Katsuhiro, Inoue Yusuke. Prevention of thrombus formation in blood pump by mechanical circular orbital excitation of impeller in magnetically levitated centrifugal pump ARTIFICIAL ORGANS. 2023.02; 47(2); 425-431

5. [心臓血管外科学 : 工藤　敏文] Tanaka Yuko, Inage Eisuke, Matsumoto Megumi, Murano Yayoi, Endo Akifumi, Nakabayashi Yosuke, Yokoya Susumu, Iwama Itaru, Suzuki Yasuyuki, Oyama Shoichi, Baba Yosuke, Kudo Takahiro, Ohtsuka Yoshikazu, Shimizu Toshiaki. Low billing rates for pediatric sedation fee on magnetic resonance imaging PEDIATRICS INTERNATIONAL. 2023.01; 65(1); e15532

6. [心臓血管外科学 : 藤原　立樹] Sakurai Hironobu, Fujiwara Tatsuki, Ohuchi Katsuhiro, Hijikata Wataru, Inoue Yusuke, Maruyama Osamu, Tahara Tomoki, Yokota Sachie, Tanaka Yui, Takewa Yoshiaki, Mizuno Tomohiro, Arai Hirokuni. Innovative experimental animal models for real-time comparison of antithrombogenicity between two oxygenators using dual extracorporeal circulation circuits and indocyanine green fluorescence imaging ARTIFICIAL ORGANS. 2023.01; 47(1); 77-87

7. [心臓血管外科学 : 工藤　敏文] 工藤 敏文. EVT 後の抗血栓療法 日本血管内治療学会誌. 2023; 24(1); 1-5

[書籍等出版物]

1. [心臓血管外科 : 櫻井　啓暢] 日本心臓血管外科学会研修 · 教育委員会 (監修)　日本心臓血管外科学会 U-40(編著). 櫻井啓暢　心臓血管外科専門医認定試験 2016〜2020 解説編. 2023.11

[講演 · 口頭発表等]

1. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] Fujita Tomoyuki. Lessons learnt from 100 Heartmate3 implants. International Symposium of Left Ventricular Assist Device 2023.09.09 Web

2. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] Fujita Tomoyuki. SURGICAL EXPERT PROGRAM. APAC HEART FAILURE NETWORK OF EXCELLENCE 2023.04.06 Web

1. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. （座長）会長企画セッションⅡ　Up-to-date：重症心不全治療の最先端. 第 270 回日本循環器学会関東甲信越地方会 2023.12.16 東京

2. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. CABG の未来. テルモ講演会 2023.12.12 東京

3. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. Myxomatous change を観察する—FED から Barlow まで—. 第 34 回関東心臓外科手術手技研究会 2023.12.09 東京

4. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. （司会）ワークショップ 7　ロボット支援僧帽弁形成術—さらなる低侵襲手術を目指して—. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会 2023.12.07 横浜

5. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. プロクターが非ロボット手術に移動した場合の準備と成績. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会 2023.12.07 横浜

6. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. （座長）僧帽弁に対する外科治療、カテーテル治療の今. 重症心不全をあらゆる観点から考える 2023.12.06 Web

7. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 藤原立樹. (座長)Zenith Alpha thoracic ／ Zenith dissection 及びクックメディカル社製品の適正 · 安全使用に関する講演. 2023.12.02

8. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. ロボット僧帽弁形成術の進歩. 第 135 回日本循環器学会九州地方会 2023.12.02 福岡

9. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田 知之, 長岡 英気, 藤原 立樹, 大石 清寿, 櫻井 啓暢, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介. ロボット支援僧帽弁形成術-さらなる低侵襲手術を目指して-　プロクターが非ロボット手術に移動した場合の準備と成績. 日本内視鏡外科学会雑誌 2023.12.01

10. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. 大動脈弁閉鎖不全症（AR）に対する最適な治療戦略. ケアネットウェビナー「Lifetime Management を考慮した大動脈弁閉鎖不全症の治療戦略〜インスピリス RESILIA 大動脈弁を用いた SAVR〜」 2023.11.28 Web

11. [心臓血管外科：櫻井　啓暢] 櫻井啓暢, 長岡英気, 吉崎智也, 染谷毅, 大石清寿, 藤原立樹, 八島正文, 鍋島惇也, 田原禎生, 卓馬紳之介, 藤田知之. No-touch 法により採取した大伏在静脈グラフトの臨床成績と創部合併症に関する検証. 第 36 回日本冠疾患学会学術集会 2023.11.25

12. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 藤原 立樹. EF30%未満の虚血性重症心不全に対する新規治療戦略. 第 36 回日本冠疾患学会学術集会 2023.11.25 石川県金沢市

13. [心臓血管外科学分野：田原　禎生] 田原禎生. 虚血性心筋症による低心拍出症候群に対し Destination Therapy として HeartMate3 を導入した 3 例の検討. 第 36 回日本冠疾患学会学術集会 2023.11.24

14. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. （座長）外科シンポジウム 3　「Low EF (< 30%) の治療戦略」. 第 36 回日本冠疾患学会学術集会 2023.11.24 金沢

15. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. ここまで進化しているロボット心臓手術と TAVI. 大阪大学医学部学友会東京支部支部会 2023.11.23 東京

16. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. ここまで進化しているロボット心臓手術と TAVI. 東京医科歯科大学医師会主催 第 35 回市民公開講座 2023.11.18 東京

17. [心臓血管外科学：長岡　英気] 長岡 英気, 卓馬 慎之介, 藤原 立樹, 大石 清寿, 櫻井 啓暢、鍋島 惇也, 田原禎生, 八島 正文、藤田 知之. 胸骨後胃管再建による食道癌術後の MR に対する MICS MVP の経験. 第 13 回日本心臓弁膜症学会 2023.11.17 札幌

18. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. SAVR の日本の現状　”1st. Operation をどうするか”. 第 13 回日本心臓弁膜症学会学術集会 2023.11.17 札幌

19. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 藤原立樹. 非心臓移植施設における植込型補助人工心臓治療戦略の変遷. 第 61 回日本人工臓器学会大会 2023.11.11 東京都江東区

20. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 藤原立樹. 体外型補助人工心臓バイオフロートを使用して救命した小児拡張型心筋症の一例. 日本定常流ポンプ研究会学術集会 2023 2023.11.11 東京都江東区

21. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. もし私が AVR を受けるなら. 第 193 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2023.11.11 東京

22. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. （座長）パネルディスカッション 3 VA，VV，VAV-ECMO のそれぞれの tips and pitfall. 第 61 回日本人工臓器学会大会 2023.11.11 東京

23. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. （座長）ランチョンセミナー 4　MCS と右心機能評価. 第 61 回日本人工臓器学会大会 2023.11.10 東京

24. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. HeartMate 3. 第 17 回 JACVAS 補助人工心臓セミナー 2023.11.10 仙台

25. [心臓血管外科：櫻井　啓暢] 櫻井啓暢, 藤原立樹, 大内克洋, 土方亘, 戸田大輝, 岩永健裕, 藤田知之. 遠心ポンプにより創出される拍動流が人工肺内の血栓形成を抑制する効果に関する検証. 日本人工臓器学会大会 2023.11.09

26. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 星野 春奈 , 高濱 拓 , 野田 明里 , 藤原 立樹 , 藤田 知之. AI 機能を有したスマートフォンアプリを活用した植込型補助人工心臓学習ツールの検討. 第 29 回日本臨床補助人工心臓研究会学術集会 2023.11.09 東京都江東区

27. [心臓血管外科学 : 工藤　敏文] 和田 良樹, 佃 和樹, 風間 愛, 菊池 亨, 内山 大樹, 西澤 真人, 工藤 敏文. シャント肢に生じた腋窩動脈瘤に対して切除再建を施行した 1 例. 血管外科 2023.11.01

28. [心臓血管外科学 : 工藤　敏文] 和田 良樹, 佃 和樹, 風間 愛, 菊池 亨, 内山 大樹, 西澤 真人, 工藤 敏文. バイパス術施行困難な広範囲大腿膝窩動脈閉塞に対して拡大大腿深動脈形成術を施行した 1 例. 血管外科 2023.11.01

29. [心臓血管外科学 : 工藤　敏文] 佃 和樹, 風間 愛, 和田 良樹, 山本 洋平, 工藤 敏文. 下大静脈内腫瘍塞栓を伴う右腎癌手術において、ウシ心膜パッチによる下大静脈修復を行った 1 例. 血管外科 2023.11.01

30. [心臓血管外科学 : 工藤　敏文] 和田 良樹, 佃 和樹, 風間 愛, 菊池 亨, 内山 大樹, 西澤 真人, 工藤 敏文. 両側深部静脈血栓症を伴う広範囲大腿膝窩動脈閉塞症例. 血管外科 2023.11.01

31. [心臓血管外科学 : 大石　清寿] 奥村 祐輝, 長岡 英気, 鍋島 惇也, 大井 啓司, 八島 正文, 藤原 立樹, 大石 清寿, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. Redo MVP、TVP 術後の TR 単独再発に対して redo MICS-TVR を施行した一例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 2023.11.01

32. [心臓血管外科学 : 長岡　英気] 長岡 英気. 体外循環における治療戦略〜MICS· ECMO などの Peripheral cannulation、止血戦略など. 第 11 回北関東心不全研究会 2023.10.27 宇都宮 （ホテルマイステイズ宇都宮）

33. [心臓血管外科学 : 長岡　英気] 長岡英気. 心不全をテーマとした研究会. 第 11 回北関東心不全研究会 2023.10.27

34. [心臓血管外科学 : 藤原　立樹] 藤原立樹. 慢性 B 型大動脈解離に対する胸骨正中切開による偽腔エントリー閉鎖の検討. 第 64 回日本脈管学会学術総会 2023.10.26 神奈川県横浜市

35. [心臓血管外科学 : 工藤　敏文] 工藤敏文. 糖尿病に伴う動脈硬化性疾患（大血管障害）の基礎と臨床. 第 38 回　日本糖尿病合併症学会 2023.10.21 岡山

36. [心臓血管外科 : 鍋島　惇也] 鍋島惇也. 僧帽弁位感染性心内膜炎に対する自己心膜パッチを用いた形成術の成績. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 2023.10.21 仙台

37. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. （座長）【JATS】クリニカルビデオセッション心臓 3　閃きのクリニカルビデオ. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 2023.10.21 仙台

38. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. 心臓血管外科手術関連合併症対策. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 2023.10.20 仙台

39. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. （座長）イブニングセミナー 1　さらなる TAVI の進化と外科医に求められる役割〜SAPIEN 3 Ultra RESILIA の可能性〜. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 2023.10.20 仙台

40. [心臓血管外科学 : 長岡　英気] 長岡 英気、川嶋 健嗣、 大井 啓司 、 八島 正文、 藤原 立樹 、 大石 清寿 、 鍋島 惇也、田原 禎生 、 卓馬 紳之介 、 藤田 知之. 力覚センサーを有する手術ロボットの心臓手術への応用. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 2023.10.19 仙台

41. [心臓血管外科学 : 長岡　英気] 長岡英気. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会展示用 VTR 及びポスター監修. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会展示 2023.10.19

42. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. MITRIS で変わる僧帽弁置換術. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 2023.10.19 仙台

43. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. （座長）Session2. 心臓手術周術期 iNO フォーラム 2023.10.13 東京

44. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. 機能強化棟に期待する心臓血管外科治療. 取手循環器研究会 2023.10.11 茨城

45. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. （座長）シンポジウム 1　新規 DT 実施施設の取り組みの紹介. 第 14 回 Destination Therapy（DT）研究会 2023.10.07 横浜

46. [心臓血管外科学 : 工藤　敏文] 菊池 亨, 工藤 敏文, 内山 大樹, 風間 愛, 和田 良樹, 佃 和樹, 山本 洋平. 好中球-リンパ球比 (NLR) による EVAR 術後 Type 2 Endoleak の持続予測. 脈管学 2023.10.01

47. [心臓血管外科学 : 工藤　敏文] 山本 洋平, 佃 和樹, 風間 愛, 和田 良樹, 内山 大樹, 菊池 亨, 工藤 敏文. 非動脈硬化性末梢血管疾患の診断と治療　膝窩動脈外膜嚢腫に対する治療経験. 脈管学 2023.10.01

48. [心臓血管外科学：大石　清寿] 大石 清寿, 大井 啓司, 長岡 英気, 八島 正文, 藤原 立樹, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. MCS 関連脳合併症予防への戦略　抗凝固療法と凝固因子の適正化による出血性合併症の予防. 日本胸部外科学会定期学術集会 2023.10.01

49. [心臓血管外科学：大石　清寿] 藤原 立樹, 大石 清寿, 長岡 英気, 櫻井 啓暢, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 倉島 直樹, 藤田 知之. VA,VV,VAV-ECMO のそれぞれの tips and pitfall　当院での経験に基づいた VA,VV,VAV-ECMO の tips and pitfall の再考. 人工臓器 2023.10.01

50. [心臓血管外科学：大石　清寿] 岡 瑛子, 大石 清寿, 鍋島 惇也, 大井 啓司, 長岡 英気, 藤原 立樹, 八島 正文, 竹下 斉史, 伊澤 朗, 板東 哲史, 水野 友裕. 上行置換術後の慢性期に、人工血管側枝に仮性瘤形成をきたし再手術を行った 1 治験例. 日本胸部外科学会定期学術集会 2023.10.01

51. [心臓血管外科学：大石　清寿] 藤原 立樹, 長岡 英気, 大石 清寿, 八島 正文, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 大井 啓司, 藤田 知之. 心原性ショック症例に対する MERA 遠心ポンプを用いた両心補助使用経験からの提言. 日本胸部外科学会定期学術集会 2023.10.01

52. [心臓血管外科学：大石　清寿] 藤原 立樹, 大石 清寿, 長岡 英気, 八島 正文, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 大井 啓司, 藤田 知之. 慢性 B 型大動脈解離に対する胸骨正中切開による偽腔エントリー閉鎖の検討. 脈管学 2023.10.01

53. [心臓血管外科学：大石　清寿] 大井 啓司, 片山 郁雄, 松居 喜郎, 若狭 哲, 新宮 康栄, 鍋島 惇也, 大石 清寿, 藤原 立樹, 八島 正文, 長岡 英気, 藤田 知之. 次世代の外科治療: 外科医による新しい治療機器の開発を見てみよう!　ピールアウェイ式デバイスによる確実な人工腱索再建　僧帽弁形成術の新しいアプローチ. 日本胸部外科学会定期学術集会 2023.10.01

54. [心臓血管外科学：大石　清寿] 藤原 立樹, 櫻井 啓暢, 長岡 英気, 大井 啓司, 大石 清寿, 八島 正文, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. 臨床現場における問題点から着想する ECMO デバイスの研究開発. 日本胸部外科学会定期学術集会 2023.10.01

55. [心臓血管外科学：大石　清寿] 藤原 立樹, 大石 清寿, 長岡 英気, 櫻井 啓暢, 荒畑 美樹, 米丸 美穂, 野田 明里, 星野 春奈, 倉島 直樹, 藤田 知之. 非心臓移植施設での植込型補助人工心臓への取り組み～地域格差と地域連携～　非心臓移植施設における植込型補助人工心臓治療戦略の変遷. 人工臓器 2023.10.01

56. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. 私の OPCAB Tips について. CABG トレーニング 2023.09.30 東京

57. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. （座長）分野別シンポジウム [心 2]　心臓移植 allocation system は具体的にどのように変更すべきか. 第 59 回日本移植学会総会 2023.09.23 京都

58. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. （基調報告）日本における心移植のアロケーションシステムはどうあるべき. 第 59 回日本移植学会総会 2023.09.23 京都

59. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 藤原立樹. Patient Journey 心不全再生治療の連携. 第 71 回日本心臓病学会学術集会 2023.09.09 東京都新宿区西新宿

60. [心臓血管外科学：工藤　敏文] 工藤 敏文. 糖尿病大血管障害の基礎と臨床の最前線　糖尿病に合併する末梢動脈疾患. 糖尿病合併症 2023.09.01

61. [心臓血管外科学：工藤　敏文] 工藤 敏文. 外科医から見たこの論文　やっぱりバイパスでしょ?. 日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2023.08.01

62. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. （座長）Pre-operative：高リスク患者の手術予後最適化のための術前コンディショニング. Impella Surgical Summit 2023 2023.07.23 東京

63. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. ランチョンセミナー. 第 24 回相模原心臓血管外科懇話会 2023.07.22 東京

64. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. （コメンテーター）特別企画　若手心臓血管外科医のための実践手術指導（苦労した症例への先輩外科医たちからの助言）. 第 28 回日本 Advanced Heart & Vascular Surgery / OPCAB 学会 2023.07.15 名古屋

65. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. （座長）ランチョンセミナー 4　Advanced Minimally Invasive Coronary Artery Bypass Surgery Learned from the Experts. 第 27 回日本冠動脈外科学会学術大会 2023.07.14 名古屋

66. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. MICS-CABG の方法と役割. 第 27 回日本冠動脈外科学会学術大会 2023.07.14 名古屋

67. [心臓血管外科学 : 長岡　英気] 長岡英気. 心臓血管外科手術における止血の拘りに関するインタビュー. 2023.07.13

68. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. 東京医科歯科大学 心臓血管外科の次なる目標. 御茶ノ水胸部外科手術手技セミナー 2023 2023.07.09 東京

69. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. （座長）特別講演 3 「胸部大動脈瘤に対する治療戦略」. 御茶ノ水胸部外科手術手技セミナー 2023 2023.07.09 東京

70. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. （座長）ロボット心臓手術手技. 第 2 回ロボット心臓手術手技研究会 2023.07.02 大阪

71. [心臓血管外科学 : 長岡　英気] 長岡 英気, 菅野 義典, 米津 太志, 大井 啓司, 藤原 立樹, 大石 清寿, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 慎之介, 笹野 哲郎, 藤田 知之. MICS CABG の初期経験. 第 7 回日本低侵襲心臓手術学会学術集会 2023.07.01 大阪市中央公会堂

72. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. 僧帽弁と心腔内病変. 第 38 回経食道心エコー講習会 2023.07.01 大阪

73. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. （コメンテーター）アフターヌーンセッション Robotic MICS. 第 7 回日本低侵襲心臓外科学会学術集会 2023.07.01 大阪

74. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. さらなる TAVI の進化と外科医に求められる役割. 茨城県 TAVI User Meeting 2023.06.27 茨城

75. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. 10 年後の心臓外科はどうなっているのか？　. 第 9 回 鳥取心臓血管 · 胸部外科フォーラム 2023.06.16 鳥取

76. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. 心移植の限界と今後の戦略. 第 21 回徳島臓器移植研究会 2023.06.13 徳島

77. [心臓血管外科学 : 藤原　立樹] 卓馬 紳之介, 鍋島 惇也, 八島 正文, 竹下 斉史, 水野 友裕, 大井 啓司, 長岡 英気, 藤原 立樹, 大石 清寿, 伊澤 朗, 藤田 知之. サンドイッチ法による筋性部心室中隔欠損閉鎖を行い 2 心室修復しえた両大血管右室起始症、右室低形成の一例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 2023.06.01

78. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. （座長）心不全/心臓血管外科治療のレクチャー 1. 大阪ハートクラブ循環器学術 Web セミナー 2023.05.29 Web

79. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. 心臓手術の Topics. 六甲山カンファレンス 2023.05.27 神戸

80. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. 植込み型補助人工心臓 HeartMate3 サージカルトレーニング. HeartMate3 サージカルトレーニング 2023.05.21 岡山

81. [心臓血管外科学 : 藤原　立樹] 藤原立樹. 当院におけるハートシートの治療成績. 2023.05.19

82. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. 植込み型補助人工心臓 HeartMate3 サージカルトレーニング. HeartMate3 サージカルトレーニング 2023.04.22 大阪

83. [心臓血管外科学分野 : 竹下　斉史] 竹下斉史, 水野友裕, 大井啓司, 長岡英気, 八島正文, 藤原立樹, 大石清寿, 鍋島惇也, 伊澤朗, 板東哲史. (ワークショップ)Tethering TR に対する三尖弁追加手技と術式ごとの右室 · 三尖弁接合形態の検討. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会 2023.03.25 旭川

84. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. （座長）海外招請講演 11. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会 2023.03.25 旭川

85. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. ロボット僧帽弁形成術の遠隔成績から未来を考える. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会 2023.03.25 旭川

86. [心臓血管外科学 : 藤田　知之] 藤田知之. （座長）ランチョンセミナー 21　Lifetime Management と弁膜症治療戦略 〜Viewpoints of the Aortic Valve Selection as the Gatekeeper〜. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会 2023.03.25 旭川

87. [心臓血管外科：鍋島　惇也] 鍋島惇也. 長時間大動脈遮断を伴う心大血管手術における晶質液心筋保護液と血液心筋保護液. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会 2023.03.24

88. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. Aorta-no-touch、動脈グラフトを基本とした冠動脈バイパスのグラフト選択. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会 2023.03.24 旭川

89. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. （座長）ランチョンセミナー 10　 MICS AVR を考える〜大切なその POINTS〜. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会 2023.03.24 旭川

90. [心臓血管外科：八島　正文] 八島正文, 竹下斉史, 鍋島惇也, 大井啓司, 長岡英気, 藤原立樹, 大石清寿, 伊澤朗, 板東哲史, 水野友裕, . 右室流出路再手術時の注意点と工夫. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会 2023.03.23 北海道

91. [心臓血管外科学：水野　友裕] 水野友裕. (座長）体外循環・補助循環. 2023 年日本心臓血管外科学会 2023.03.23 旭川

92. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 藤原立樹. 非移植施設における心原性ショックに対する補助循環治療戦略の変遷. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会 2023.03.23 北海道旭川市

93. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. （座長）ランチョンセミナー 5. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会 2023.03.23 旭川

94. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. 僧帽弁形成術後の再手術症例からみた原因と今後の戦略. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会 2023.03.23 旭川

95. [心臓血管外科学：長岡　英気] 長岡 英気. 成人 ECMO におけるカニュレ選択. 人工臓器学会 PCPS/ECMO の安全管理 2023.03.20

96. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. 僧帽弁について. 第 7 回江東豊洲心血管カンファレンス 2023.02.18 東京

97. [心臓血管外科：櫻井　啓暢] 櫻井啓暢, 藤原立樹, 大内克洋, 土方亘, 畠中晃平, 戸田大輝, 水野友裕. 遠心ポンプにより創出される拍動流が体外循環回路の抗血栓性を向上する効果に関する検証. 第 51 回人工心臓と補助循環懇話会学術集会 2023.02.17

98. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 藤原立樹. ECMO 中長期使用に求められる ECMO デバイス内血栓予防・血栓検出技術の開発. 第 51 回人工心臓と補助循環懇話会学術集会 2023.02.17 千葉

99. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 藤原立樹. ハートシートの適応検討と治療成績についての講演. 2023.02.09

100. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之. （座長）領域横断シンポジウム 4「ロボット手術でどこまでできるか？ 〜 15 年後の未来像〜」 . 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会 2023.02.03 名古屋

101. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 川本 脩平, 大石 清寿, 鍋島 惇也, 大井 啓司, 長岡 英気, 八島 正文, 藤原 立樹, 竹下 斉史, 伊澤 朗, 板東 哲史, 水野 友裕. RNA 菌叢解析により原因菌同定に至った、大動脈解離術後人工血管感染に基部仮性瘤を合併した 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 2023.02.01

102. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 金 峰克, 大井 啓司, 鍋島 惇也, 板東 哲史, 長岡 英気, 八島 正文, 藤原 立樹, 大石 清寿, 竹下 斉史, 伊澤 朗, 水野 友裕. Sutureless technique で止血中に blow out した急性心筋梗塞後心破裂の一例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 2023.02.01

[受賞]

1. [心臓血管外科：櫻井　啓暢] 櫻井啓暢　若手研究者賞金賞, 第 51 回人工心臓と補助循環懇話会学術集会, 2023 年 02 月

[その他業績]

1. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 藤原立樹　研究協力, 2023 年 03 月
ECMO 血液ポンプおよび回路における血栓検出法の開発に関する研究打ち合わせおよび実験

2. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之　第 21 回日本心臓血管外科再生治療研究会 主催, 2023 年 03 月

3. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 藤原立樹　アドバイザー、コンサルタント, 2023 年 08 月
商品技術検討会 (弊社臨床開発技術担当者によるヒアリングおよびディスカッション)

4. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 藤原立樹　評議員, 2023 年 11 月
日本人工臓器学会

5. [心臓血管外科学：藤原　立樹] 藤原立樹　プログラム委員, 2023 年 11 月
第 61 回日本人工臓器学会大会

[社会貢献活動]

1. [心臓血管外科学：藤田　知之] 藤田知之　専門機関から大学病院への転身について, Ｍａｃ’ｓコミュニケーター合同会社, 美楽（びがく）, 2023 年 03 月 09 日

腎臓内科学

Nephrology

教　授	内田信一
准教授	蘇原映誠
	内藤省太郎（血液浄化療法部）
	飯盛聡一郎（寄附講座）
助　教	須佐紘一郎
	森崇寧 （血液浄化療法部）
	安藤史顕
	萬代新太郎（血液浄化療法部）
	森雄太郎（テニュアトラック助教）
	菊池寛昭（寄附講座）
	藤木珠美
特任助教	原悠, 塩路慎吾
大学院生	松木久住, 柳川英輝, 鈴木健文
	稲葉俊介, 長岡可楠子
医　員	森本靖久, 壷谷友宏, 戸張佑美（上期）
レジデント	田中佑樹（下期医員）, 熊谷彩花, 野城仁志
技　官	飯島千永子, 千賀宗子
秘　書	村野あさ, 伊藤由希子

(1) 分野概要

腎臓内科では「信頼される医療」と「優秀な医師の養成」を目標に掲げ、診療 · 教育 · 研究の活動を行っている。我々は腎疾患全般に対する長い臨床経験を持ち、また他の多くの医療機関とも緊密な連携をとることにより質の高い医療の提供はもちろん、これまでに多くの腎臓専門医を育成してきた。

近年は遺伝性腎疾患を含む様々な腎疾患の遺伝子異常や病態生理を解き明かし、その成果をもとに革新的治療法の開発も目指している。昨今の高齢化や生活習慣の変化に伴い慢性腎臓病の患者数は増加の一途にあり、腎臓専門医への期待に応えるべく、日々研鑽に努めている。

(2) 研究活動

我々の研究のテーマは、「腎臓による血圧 · 体液恒常性維持機構を明らかにし、それが破綻し全身に及ぼす病態を理解し、それに対する治療戦略を構築する」事にある。このことは腎臓病自体の治療法の開発とともに、慢性腎臓病 (CKD) における腎臓を出発点とした多臓器の障害に対応するための研究にもつながる。2020 年以降、COVID-19 感染拡大によって制約されていた学術 · 研究活動は 2023 年に入り感染の終息とともに徐々に従来に戻りつつある。2023 年度（1 月〜12 月）は、例年に引き続き学会研究会等で多くの受賞者を輩出し、積極的にプレスリリースも行われた。原悠先生は日本全国の腎臓研究を対象として、日本腎臓学会から 37 歳以下の優れた若手研究者に送られる 2022 年度 YIA (Young Investigator Award) を受賞した。原悠先生は第 32 回バソプレシン · オキシトシン研究会でも優秀演題賞を受賞した。森雄太郎助教は令和 4 年度東京都医師会医学研究賞奨励賞ならびに日本医師会医学研究奨励賞を受賞した。若手基礎研究フォーラム 2023 では松木久住先生が優秀演題賞を受賞した。論文報告では、萬代新太郎助教、小出高彰先生らの論文が Circulation Research 誌（IF: 23.1）に、また同萬代助教、松木久住先生、源馬拓先生らの論文が Hypertension 誌（IF: 8.3）に受理され、プレスリリースも行われた。留学から帰国した菊池寛昭助教の論文が Nature Communications 誌（IF: 17.7）に受理され、プレスリリースを行った。当科としては 2023 年 1 月から 12 月の間、症例報告を含め計 13 本の学術論文が受理された。プレスリリースは期間

内に当科から計 5 件行われた。
2023 年 2 月から 3 月にかけ、我々が積み重ねてきた遺伝性腎疾患の網羅的遺伝子解析に関わる研究についてのクラウドファンディングを行った。約 400 名にも及ぶ寄付者から、総計 1,950 万円ものご寄付と多くの応援メッセージを頂いた。お力添え頂いた方々にはこの場を借りて御礼申し上げたい。網羅的遺伝子診断やゲノム情報に関わる臨床研究も安定して運用を継続しており、2023 年は年間 91 名の解析を実施した。

(3) 教育活動

『卒前教育』
腎臓内科では、医学部学生の教育として医学科 3 年生を対象とした系統講義、4 年生を対象としたプロジェクトセメスター、5 年生と 6 年生の臨床実習を担当している。

＜系統講義＞
系統講義は、泌尿器科 · 病理部と合同で行い、3 週間かけて腎 · 泌尿器科領域の疾患について集中的に講義を行った。2023 年度は腎臓内科のすべての講義および PBL (Problem-Based Learning) を対面講義に戻して実施した。PBL とは学生が小グループ単位で自らディスカッションをしながらシナリオ症例の鑑別診断を行う講義方法で、腎臓内科のスタッフ · 大学院生を動員して 2 グループにチューター 1 人という配置で行った。学生からは、チューターの手厚いアドバイスのおかげで議論が発展しやすくとてもよかったという意見をいただいた。
＜プロジェクトセメスター＞
プロジェクトセメスターの履修学生については、例年 2 名ほどの受け入れを予定している。
＜臨床実習＞
臨床実習はプロジェクトセメスターが終了した 4 年生の 12 月から開始した。まず、11 月末から 2 月までプレクリニカルクラークシップ (PCC) として、実践的かつ総合的な学習を少人数の班ごとに行い、5 年生からクリニカルクラークシップ (CC) として病棟での実習に移行する。CC の学生には 1 グループ 2 週間の実習で実際の病棟の患者様を受け持ってもらい、腎臓内科疾患の勉強をしてもらった。学生には様々な腎臓内科疾患の病態についてより深く学んでもらうことができた。臨床実習中の鑑別診断演習（WoSAC（Workplace-based Student Assessment with Clinical reasoning focus)）は担当した医員の先生が患者さん役となり、診療技術を磨きながら鑑別診断と検査 · 治療方針を述べさせるトレーニングであり、これまでどおり行った。そして実習の最後には教員による総括を行っている。また 6 年生についても、1 クール 2 名までの 2 週間の実習を受けて入れている。アドバンスドコースとして、より高いレベルの到達目標と学習機会を設け意欲的に取り組んでもらっている。これらは学生指導を受け持っている医員とスタッフの先生たちの努力の賜物と考えている。
その他、歯学部、保健衛生学科、歯科衛生士、修士などの講義や試験も腎臓内科の教員によって行われた。

『卒後教育』
卒後 2 年間の初期研修後、後期研修として大学および関連病院にて腎臓内科専門医としての研修を行い、この間に臨床での未解決の問題について自覚を持つように指導、常にものの本質を見つけようとする姿勢を持ったアカデミック · ドクターの育成を目指している。大学院での研究活動は活発であり、最先端の研究を行うことにより、基礎と臨床の双方に秀でた医師の育成を行っている。

(4) 臨床活動および学外活動

2023 年 3 月には国のマスク原則解除指針が示され、大学の診療体制もコロナ感染対策の大幅な緩和措置がとられ、約 3 年の長きにわたって翻弄された新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せ始め、日常の姿を取り戻しつつある一年であった。大半の科で減少に転じていた紹介患者数も徐々に回復しつつあり、腎臓内科の入院 · 外来患者数、稼働額ともにコロナ前の水準には及ばないものの、近い水準までは戻りつつある。コロナ感染症流行時期に一度中止していた外来通院維持透析についても順次再開し、徐々に患者数も増加している。
大学正面にあり、長らく建設中であった「機能強化棟」も 10 月 1 日より正式にオープンし、救命救急センター、救急（ER）外来、ICU、ER 病棟の移転、ハイブリッド手術室の設置等により、救急患者の幅広い受け入れから最高水準の手術対応までが可能となった。2023 年末からはよりスムーズな専門外来予約を可能にすべく、全病院的に腎臓内科が先行して Office Bookings による web 予約システムを導入した。徐々に予約患者数も増加傾向にあり、さらなる集患を目指している。引き続き病診連携の強化、透析合併症外来の受診促進、腹膜透析件数の増加、日帰り入院 PTA の増加、希少腎臓難病の診断 · 治療策の拡充などを通じて診療体制を充実させていきたいと考えている。

(5) 研究業績

[原著]

1. Yanagawa H, Hara Y, Ando F, Suzuki S, Fujiki T, Oikawa D, Yui N, Mandai S, Mori Y, Susa K, Mori T, Sohara E, Tokunaga F, Uchida S. LRBA signalosomes activate vasopressin-induced AQP2 trafficking at recycling endosomes. The Journal of physiology. 2023.12; 601(23); 5437-5451

2. Ohkubo A, Sakurasawa T, Hoshikawa Y, Usui M, Hoshi M, Shiga T, Deushi M, Komori S, Itagaki A, Yamamoto H, Seshima H, Kurashima N, Iimori S, Naito S. Evaluation of the treatment volume and removal rate of Rheocarna: A novel adsorption-type blood purification device for patients with chronic limb-threatening ischemia. Therapeutic apheresis and dialysis : official peer-reviewed journal of the International Society for Apheresis, the Japanese Society for Apheresis, the Japanese Society for Dialysis Therapy. 2023.12; 27(6); 1017-1022

3. Yuta Nakano, Shintaro Mandai, Shotaro Naito, Tamami Fujiki, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Takayasu Mori, Koichiro Susa, Soichiro Iimori, Eisei Sohara, Shinichi Uchida. Effect of osteosarcopenia on longitudinal mortality risk and chronic kidney disease progression in older adults. Bone. 2023.11; 116975

4. Sakurada T, Kojima S, Yamada S, Koitabashi K, Taki Y, Matsui K, Murasawa M, Kawarazaki H, Shimizu S, Kobayashi H, Asai T, Hashimoto K, Hoshino T, Sugitani S, Maoka T, Nagase A, Sato H, Fukuoka K, Sofue T, Koibuchi K, Nagayama K, Washida N, Koide S, Okamoto T, Ishii D, Furukata S, Uchiyama K, Takahashi S, Nishizawa Y, Naito S, Toda N, Naganuma T, Kikuchi H, Suzuki T, Komukai D, Kimura T, Io H, Yoshikawa K, Naganuma T, Morishita M, Oshikawa J, Tamagaki K, Fujisawa H, Ueda A, Kanaoka T, Nakamura H, Yanagi M, Udagawa T, Yoneda T, Sakai M, Gunji M, Osaki S, Saito H, Yoshioka Y, Kaneshiro N. A multi-institutional, observational study of outcomes after catheter placement for peritoneal dialysis in Japan. Peritoneal dialysis international : journal of the International Society for Peritoneal Dialysis. 2023.11; 43(6); 457-466

5. Shintaro Mandai, Takaaki Koide, Tamami Fujiki, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Koichiro Susa, Takayasu Mori, Soichiro Iimori, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Shinichi Uchida, Kiyohide Fushimi, Tatemitsu Rai. Association of Admission Functional Status and Body Mass Index with Mortality in Patients Receiving Chronic Dialysis: A Nationwide Observational Cohort Study. JMA J. 2023.10; 6(4); 404-413

6. Kikuchi H, Chou CL, Yang CR, Chen L, Jung HJ, Park E, Limbutara K, Carter B, Yang ZH, Kun JF, Remaley AT, Knepper MA. Signaling mechanisms in renal compensatory hypertrophy revealed by multi-omics. Nature communications. 2023.06; 14(1); 3481

7. Ines P D Costa, Nicolas Hautem, Gugliemo Schiano, Shinichi Uchida, Tomoya Nishino, Olivier Devuyst. Fasting influences aquaporin expression, water transport and adipocyte metabolism in the peritoneal membrane. Nephrol Dial Transplant. 2023.05; 38(6); 1408-1420

8. Nobuhisa Morimoto, Takayasu Mori, Shingo Shioji, Towako Taguchi, Hatsumi Watanabe, Keigo Sakai, Katsuo Mori, Ayumi Yamamura, Asami Hanioka, Yuichiro Akagi, Tamami Fujiki, Shintaro Mandai, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Koichiro Susa, Soichiro Iimori, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Kenichi Ohashi, Shinichi Uchida. Rapidly progressive IgA nephropathy with membranoproliferative glomerulonephritis-like lesions in an elderly man following the third dose of an mRNA COVID-19 vaccine: a case report. BMC Nephrol. 2023.04; 24(1); 108

9. Madoka Kondo, Takayasu Mori, Tadashi Oshita, Atsuki Ohashi, Eisei Sohara, Shinichi Uchida, Yoshitaka Maeda. Case of hereditary kidney disease presenting thin basement membrane with a single heterozygous variant of Intersectin 2. J Rural Med. 2023.04; 18(2); 143-148

10. Nobuhisa Morimoto, Takayasu Mori, Shingo Shioji, Hatsumi Watanabe, Keigo Sakai, Katsuo Mori, Ayumi Yamamura, Asami Hanioka, Yuichiro Akagi, Tamami Fujiki, Shintaro Mandai, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Koichiro Susa, Soichiro Iimori, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Shinichi Uchida. Thrombocytopenia during avacopan administration: A case report. Int J Rheum Dis. 2023.03;

11. Bingham MA, Neijman K, Yang CR, Aponte A, Mak A, Kikuchi H, Jung HJ, Poll BG, Raghuram V, Park E, Chou CL, Chen L, Leipziger J, Knepper MA, Dona M. Circadian gene expression in mouse renal proximal tubule. American journal of physiology. Renal physiology. 2023.03; 324(3); F301-F314

12. Junki Kurimoto, Hiroshi Takagi, Takashi Miyata, Yohei Kawaguchi, Yuichi Hodai, Tetsuro Tsumura, Daisuke Hagiwara, Tomoko Kobayashi, Yoshinori Yasuda, Mariko Sugiyama, Takeshi Onoue, Shintaro Iwama, Hidetaka Suga, Ryoichi Banno, Takeshi Katsuki, Fumiaki Ando, Shinichi Uchida, Hiroshi Arima. Mineralocorticoids induce polyuria by reducing apical aquaporin-2 expression of the kidney in partial vasopressin deficiency. Endocr J. 2023.03; 70(3); 295-304

13. Yanagi T, Kikuchi H, Susa K, Takahashi N, Bamba H, Suzuki T, Nakano Y, Fujiki T, Mori Y, Ando F, Mandai S, Mori T, Takeuchi K, Honda S, Torii S, Shimizu S, Rai T, Uchida S, Sohara E. Absence of ULK1 decreases AMPK activity in the kidney, leading to chronic kidney disease progression. Genes to cells : devoted to molecular & cellular mechanisms. 2023.01; 28(1); 5-14

14. Park E, Yang CR, Raghuram V, Deshpande V, Datta A, Poll BG, Leo KT, Kikuchi H, Chen L, Chou CL, Knepper MA. Data resource: vasopressin-regulated protein phosphorylation sites in the collecting duct. American journal of physiology. Renal physiology. 2023.01; 324(1); F43-F55

15. Soichiro Suzuki, Fumiaki Ando, Sae Kitagawa, Yu Hara, Tamami Fujiki, Shintaro Mandai, Koichiro Susa, Takayasu Mori, Eisei Sohara, Tatemitsu Rai, Shinichi Uchida. ZNF185 prevents stress fiber formation through the inhibition of RhoA in endothelial cells. Commun Biol. 2023.01; 6(1); 29

16. Ohkubo A, Sakurasawa T, Naito S. Low-Density Lipoprotein Adsorption by Centrifugal Plasma Separation Can Shorten Treatment Time. Case reports in nephrology and dialysis. 2023.01; 13(1); 51-56

17. Shizuka Kirino, Analia Yogi, Eriko Adachi, Hisae Nakatani, Maki Gau, Ryosei Iemura, Haruki Yamano, Toru Kanamori, Takayasu Mori, Eisei Sohara, Shinichi Uchida, Kentaro Okamoto, Tomohiro Udagawa, Kei Takasawa, Tomohiro Morio, Kenichi Kashimada. Phenotypic Variation in 46,XX Disorders of Sex Development due to the Fourth Zinc Finger Domain Variant of WT1: A Familial Case Report. Sex Dev. 2023; 17(1); 51-55

18. Kurimoto Junki, Takagi Hiroshi, Miyata Takashi, Kawaguchi Yohei, Hodai Yuichi, Tsumura Tetsuro, Hagiwara Daisuke, Kobayashi Tomoko, Yasuda Yoshinori, Sugiyama Mariko, Onoue Takeshi, Iwama Shintaro, Suga Hidetaka, Banno Ryoichi, Katsuki Takeshi, Ando Fumiaki, Uchida Shinichi, Arima Hiroshi. Mineralocorticoids induce polyuria by reducing apical aquaporin-2 expression of the kidney in partial vasopressin deficiency ENDOCRINE JOURNAL. 2023; 70(3); 295-304

19. Susa K, Kobayashi K, Galichon P, Matsumoto T, Tamura A, Hiratsuka K, Gupta NR, Yazdi IK, Bonventre JV, Morizane R. ATP/ADP biosensor organoids for drug nephrotoxicity assessment. Frontiers in cell and developmental biology. 2023; 11; 1138504

20. Hisazumi Matsuki, Taku Genma, Shintaro Mandai*, Tamami Fujiki, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Takayasu Mori, Koichiro Susa, Soichiro Iimori, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Tatemitsu Rai, Kiyohide Fushimi, Shinichi Uchida. National Trends in Mortality and Urgent Dialysis after Acute Hypertension in Japan From 2010 Through 2019. Hypertension. 2023.10;

21. Hisazumi Matsuki, Shintaro Mandai*, Hiroki Shiwaku, Takaaki Koide, Naohiro Takahashi, Tomoki Yanagi, Shunsuke Inaba, Saaya Ida, Tamami Fujiki, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Takayasu Mori, Koichiro Susa, Soichiro Iimori, Eisei Sohara, Hidehiko Takahashi, Shinichi Uchida. Chronic kidney disease causes blood-brain barrier breakdown via urea-activated matrix metalloproteinase-2 and insolubility of tau protein. Aging (Albany NY). 2023.10; 15;

22. Hashimoto H, Mandai S*, Shikuma S, Kimura M, Toma H, Sakaguchi Y, Shiraishi S, Toshima N, Hoshino M, Kimura M, Ota J, Horiuchi S, Adachi S, Uchida S. The effect of antihypertensive therapy on skeletal muscle mass and bone mineral density in patients with end-stage kidney disease. J Ren Nutr. 2023.10;

23. Takaaki Koide, Shintaro Mandai*, Reo Kitaoka, Hisazumi Matsuki, Motoko Chiga, Kouhei Yamamoto, Kotaro Yoshioka, Yohsuke Yagi, Soichiro Suzuki, Tamami Fujiki, Fumiaki Ando, Takayasu Mori, Koichiro Susa, Soichiro Iimori, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Tatemitsu Rai, Takanori Yokota, Shinichi Uchida. Circulating Extracellular Vesicle-Propagated microRNA Signature as a Vascular Calcification Factor in Chronic Kidney Disease. Circ Res. 2023.01;

1. 有馬 寛, 大月 道夫, 蔭山 和則, 高橋 裕, 田原 重志, 西山 充, 槙田 紀子, 水野 晴夫, 山田 正信, 有安 宏之, 井下 尚子, 井野元 智恵, 内田 信一, 菅原 明, 杉野 法広, 椙村 益久, 高野 幸路, 伊達木 澄人, 中里 雅光, 西岡 宏, 堀川 玲子, 松野 彰, 山下 美保, 横山 徹爾, 浜中 奈美, 曽根田 瞬, 青山 幸平, 浅利 ゆう子, 安藤 史顕, 井

口 元三, 池谷 章, 石坂 栄太郎, 磯島 豪, 岩間 信太郎, 浦木 進丞, 大山 健一, 岡田 満夫, 尾上 剛史, 柿沢 圭亮, カロリナブゼン , 川口 頌平, 鞁嶋 有紀, 工藤 正孝, 小杉 理英子, 小林 朋子, 近藤 友里, 佐藤 潤一郎, 澤部 史一, 須賀 英隆, 菅原 大輔, 杉山 摩利子, 鈴木 敦詞, 鈴木 幸二, 蘇原 映誠, 高木 博史, 高見澤 哲也, 高安 忍, 竹下 章, 竹島 健, 辰島 啓太, 田村 功, 中野 依莉子, 祢津 昌広, 萩原 大輔, 服部 裕次郎, 坂東 弘教, 引間 雄介, 福岡 秀規, 福原 紀章, 藤沢 治樹, 藤本 正伸, 堀口 和彦, 前川 亮, 間中 勝則, 萬代 新太郎, 光井 悠人, 宮田 崇, 三善 陽子, 向井 康祐, 虫本 雄一, 村澤 真吾, 森 崇寧, 安田 康紀, 八ツ賀 秀一, 山田 早耶香, 山本 雅昭, 吉井 啓介, 綿貫 裕, 小川 佳宏, 柴田 洋孝, 下村 伊一郎, 間脳下垂体機能障害と先天性腎性尿崩症および関連疾患の診療ガイドライン作成委員会, 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業「間脳下垂体機能障害に関する調査研究」班, 一般社団法人日本内分泌学会. 間脳下垂体機能障害と先天性腎性尿崩症および関連疾患の診療ガイドライン 2023 年版 日本内分泌学会雑誌. 2023.07; 99(Suppl.); i-171

2. 原 悠, 安藤 史顕. 腎性尿崩症の新しい治療標的 糖尿病 · 内分泌代謝科. 2023.05; 56(5); 616-622

3. Ando Fumiaki, Hara Yu, Uchida Shinichi. Identification of protein kinase A signalling molecules in renal collecting ducts JOURNAL OF PHYSIOLOGY-LONDON. 2023.04;

4. 高野英実, 橋詰真衣, 西川雄人, 飯田達也, 田所梨枝, 大塚史子, 森崇寧, 蘇原映誠, 内田信一, 長坂昌一郎. 今月の症例　若年性高血圧で受診し原発性アルドステロン症が疑われたが Liddle 症候群の確定診断に至った 1 症例 日本内科学会雑誌. 2023.02; 112(2); 228-233

5. 岩瀬 正典, 井手 均, 牟田 大毅, 青谷 領一郎, 平田 詩乃, 高木 可南子, 木村 廣志, 伊禮 美央, 竹之下 博正, 森 崇寧. 著明な高血糖による入院を契機に診断された 2 型糖尿病合併 Gitelman 症候群の 1 例 糖尿病. 2023.02; 66(2); 162-170

6. Suzuki Soichiro, Ando Fumiaki, Kitagawa Sae, Hara Yu, Fujiki Tamami, Mandai Shintaro, Susa Koichiro, Mori Takayasu, Sohara Eisei, Rai Tatemitsu, Uchida Shinichi. ZNF185 prevents stress fiber formation through the inhibition of RhoA in endothelial cells COMMUNICATIONS BIOLOGY. 2023.01; 6(1); 29

7. 小野 敦史, 前田 亮, 陶山 和秀, 細矢 光亮, 藤丸 拓也, 森 崇寧, 蘇原 映誠, 内田 信一. 若年で腎機能低下を認めた TSC2 遺伝子および PKD1,PKD2 遺伝子異常のない多発性嚢胞腎合併の結節性硬化症 日本小児腎臓病学会雑誌. 2023; 36; 61-66

[書籍等出版物]

1. 篠遠　朋子、萬代　新太郎. こんなときどうする？ 腎疾患 —診療の悩みを解決する腎疾患テキスト. 中外医学社, 2023.06

2. 森崇寧, 蘇原映誠. 腎臓病の遺伝子診断の現状. 腎疾患 · 透析最新の治療 2023-2025. 南江堂, 2023.01 (ISBN : 978-4-524-23369-4)

[総説]

1. Fumiaki Ando, Yu Hara, Shinichi Uchida. Identification of protein kinase A signalling molecules in renal collecting ducts. J Physiol. 2023.04;

1. 須佐　紘一郎. 【ホメオスタシスと腎臓】WNK キナーゼと高血圧，低カリウム血症 腎と透析. 2023.11; 95(5); 641-645

2. 安藤 史顕. 腎性尿崩症と水再吸収制御機構 腎臓内科. 2023.05; 17(5); 590-596

3. 原 悠, 安藤 史顕. 腎性尿崩症の新しい治療標的 糖尿病 · 内分泌代謝科. 2023.05; 56(5); 616-622

4. 森 崇寧, 蘇原 映誠. 【腎臓病の最新診療】CKD に潜在する遺伝性腎疾患の重要性 日本内科学会雑誌. 2023.05; 112(5); 799-804

5. 森 崇寧. 遺伝性尿細管疾患と遺伝子解析 腎臓内科. 2023.05; 17(5); 604-612

6. 森 槙子, 仲尾 祐輝, 森 雄太郎. 新たな病態モデルとしての尿細管オルガノイド 月刊 細胞. 2023.04; 55(4); 76-79

7. 森 崇寧. 【Genetics in CKD】基礎編　サンガーシーケンサーと次世代シーケンサー 腎と透析. 2023.03; 94(3); 327-332

8. 萬代　新太郎. 血液中を循環する細胞外小胞を介した CKD による血管石灰化の新たな分子病態 月刊薬事. 2023.09;

9. 塩路　慎吾、萬代　新太郎. 心腎連関とサルコペニア　日本腎臓リハビリテーション学会誌. 2023.03; 2(1); 32-52

[講演・口頭発表等]

1. Takayasu Mori, Takuya Fujimaru, Chunyu Liu, Karynne Patterson, Kohei Yamamoto, Takefumi Suzuki, Motoko Chiga, Shintaro Mandai, Fumiaki Ando, Yutaro Mori, Koichiro Susa, Yue-Qiu Tan, Feng Zhang, Shinichi Uchida, Eisei Sohara. Discovery of a Novel Candidate Gene Implicated in X-Linked Polycystic Kidney Disease. Kidney Week 2023 2023.11.04
2. Amrendra K. Ajay, Yutaro Mori, Venkata Sabbisetti, Joseph V. Bonventre. Screening for Small-Molecule Inhibitor for KIM-1 and Its Functional Validation in Kidney Fibrosis. Kidney Week 2023 2023.11.04
3. Yuki Nakao, Yutaro Mori, Makiko Mori, Shintaro Mandai, Tamami Fujiki, Fumiaki Ando, Koichiro Susa, Takayasu Mori, Eisei Sohara, Shinichi Uchida. Tubuloids on Primary Human Renal Tubular Epithelial Cells (hRTECs) Recapitulates Cisplatin-Induced Kidney Injury. Kidney Week 2023 2023.11.04 Philadelphia
4. Takuya Fujimaru, Takayasu Mori, Motoko Chiga, Shintaro Mandai, Yu Hara, Tamami Fujiki, Hiroaki Kikuchi, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Koichiro Susa, Soichiro Iimori, Shotaro Naito, Shinichi Uchida, Eisei Sohara.. Monoallelic IFT140 Pathogenic Variants in Adult Polycystic Kidney Disease Patients Without Family History.. ASN Kidney Week 2023 2023.11.04 Philadelphia
5. Makiko Mori, Yutaro Mori, Corby Fink, Takaharu Ichimura, Keisuke Sako, Yuki Nakao, Astrid Weins, Shinichi Uchida, Joseph V. Bonventre. Kidney Injury Molecule-1 Is an Independent Receptor from ACE2 for SARS-CoV-2 in Lung and Kidney. Kidney Week 2023 2023.11.03 Philadelphia
6. Yu Hara, Fumiaki Ando, Hideki Yanagawa, Soichiro Suzuki, Tamami Fujiki, Shintaro Mandai, Yutaro Mori, Koichiro Susa, Takayasu Mori, Eisei Sohara, Shinichi Uchida.. LRBA Signalosomes Activate Vasopressin-Induced AQP2 Trafficking at Recycling Endosomes.. ASN Kidney Week 2023 2023.11.03 Philadelphia
7. Shunsuke Inaba, Shintaro Mandai, Yuta Nakano, Hisazumi Matsuki, Tamami Fujiki, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Takayasu Mori, Koichiro Susa, Soichiro Iimori, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Shinichi Uchida.. The Transcriptomic Landscape of microRNAs Encapsulated in Circulating Extracellular Vesicles and CKD Progression in Japanese Adults.. ASN Kidney Week 2023 2023.11.03 Philadelphia
8. Kikuchi H, Knepper MA.. PPAR α, as the key determinant of kidney size, Revealed by Multi-Omics.. The 56th Annual Meeting of American Society of Nephrology 2023. 2023.11.02 Philadelphia, PA
9. Yuta Nakano, Shintaro Mandai, Shotaro Naito, Tamami Fujiki, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Takayasu Mori, Koichiro Susa, Soichiro Iimori, Eisei Sohara, Shinichi Uchida.. Association Among Bone Mass, Muscle Mass and Strength, Mortality, and CKD Progression in Older Adults.. ASN Kidney Week 2023 2023.11.02 Philadelphia
10. Takayasu Mori, Takuya Fujimaru, Chunyu Liu, Karynne Patterson, Kohei Yamamoto, Takefumi Suzuki, Motoko Chiga, Shintaro Mandai, Fumiaki Ando, Yutaro Mori, Koichiro Susa, University of Washington Center for Rare Disease Research, Yue-Qiu Tan, Feng Zhang, Shinichi Uchida, Eisei Sohara. Discovery of a Novel Candidate Gene Implicated in X-Linked Polycystic Kidney Disease. ASN Kidney Week 2023 2023.11 Philadelphia
11. Takayasu Mori, Takuya Fujimaru, Chunyu Liu, Karynne Patterson, Kohei Yamamoto, Takefumi Suzuki, Motoko Chiga, Danny E Miller, Miranda PG Zalusky, Shintaro Mandai, Fumiaki Ando, Yutaro Mori, Hiroaki Kikuchi, Koichiro Susa, University of Washington Center for Rare Disease Research, Jessica X. Chong, Michael J. Bamshad, Yue-Qiu Tan, Feng Zhang, Shinichi Uchida, Eisei Sohara. Discovery of a novel responsible gene implicated in X-linked polycystic kidney disease. 第 7 回文京腎研究会 2023.10.19 東京/Web
12. Hara Yu. LRBA is essential for urinary concentration and body water homeostasis. 第 66 回日本腎臓学会総会 2023.06.11 横浜
13. Makiko Mori, Yutaro Mori, Takaharu Ichimura, Keisuke Sako, Shinichi Uchida, Joseph V. Bonventre. Kidney Injury Molecule-1 (KIM-1) is a Receptor for SARS-CoV-2 in Lung and Kidney. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.10 横浜

14. Shintaro Mandai. Signature Analyses for Circulating Extracellular Vesicle-Propagated MicroRNAs Reveal VEGFA as a Key Molecule for Vascular Calcification in Chronic Kidney Disease. The 66th Annual Meeting of the Japanese Society of Nephrology 2023.06.09 横浜

15. Hisazumi Matsuki, Shintaro Mandai, Takaaki Koide, Naohiro Takahashi, Tomoki Yanagi, Tamami Fujiki, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Takayasu Mori, Koichiro Susa, Soichiro Iimori, Eisei Sohara, Shinichi Uchida. A brain proteomic signature of chronic kidney disease uncovers blood-brain barrier breakdown via urea-activated matrix metalloproteinase-2. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.09 横浜

16. Yuta Nakano, Shintaro Mandai, Shotaro Naito, Tamami Fujiki, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Takayasu Mori, Koichiro Susa, Soichiro Iimori, Eisei Sohara, Tatemitsu Rai, Shinichi Uchida. Impact of Osteosarcopenia on Mortality and CKD Progression: A Prospective Observational Cohort Study. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.09 横浜

17. Kikuchi Hiroaki, Knepper Mark A., Chou Chun-Lin, Yang Chin-Rang, Chen Lihe, Jung Hyun Jun, Limbutara Kavee, Carter Benjamin. マルチオミクスが明らかにした腎代償性肥大の初期シグナル伝達イベント (Early Signaling Events in Renal Compensatory Hypertrophy Revealed by Multi-Omics). 第 66 回日本腎臓学会総会 2023.05.01 神奈川

1. 森崇寧. 麻痺してはいけない透析患者の高カリウム血症 ～即戦力としてのロケルマ適正使用～. Dialysis Online Symposium 2023.12.19 東京/Web

2. 仲尾 祐輝, 森 雄太郎, 森 槙子, 萬代 新太郎, 藤木 珠美, 安藤 史顕, 須佐 紘一郎, 森 崇寧, 蘇原 映誠, 内田 信一. 新たな病態モデルとしてのヒト患者由来腎尿細管オルガノイド. 第 13 回腎不全研究会 2023.12.09 東京

3. 中野 雄太, 萬代 新太郎, 内藤 省太郎, 藤木 珠美, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. 高齢保存期 CKD 患者において骨格筋-骨-腎臓連関に寄与する因子の検討. 第 13 回腎不全研究会 2023.12.09 東京

4. 森崇寧. なぜ ARNI なのか？ ～塩分排出の機序から見えた理想的な降圧治療の一手～. Hypertension Web Seminar 2023.12.07 東京/Web

5. 森崇寧. ARNI の「塩」排出力を生かした 一枚上手の高血圧治療へ. ARNI Web Seminar 2023.11.28 東京/Web

6. 萬代　新太郎. 慢性腎臓病とオステオサルコペニア —運動機能を意識した CKD 診療—. 第 6 回 CKD 医療連携ネットワーク Web セミナー 2023.11.16 東京

7. 森崇寧. 高カリウム治療の恩恵 ～腎臓を守るためにロケルマでできること～. LOKELMA Symposium 2023 2023.11.10 東京/Web

8. 安藤　史顕. 尿濃縮機構における PKA シグナルの解析法. 第 96 回日本生化学会大会 2023.11.02

9. 森崇寧.　高血圧治療は付加価値を見出す時代へ ～ARNI が真価を発揮する症例とは～.　ARNI 高血圧 Collaboration Web Seminar 2023.11.01 東京/Web

10. 萬代　新太郎.　細胞外微粒子と腎血管連関 —慢性腎臓病による血管石灰化の新メカニズム—.　第 20 回 Yokohama Parathyroid & Bone Forum (YPBF) 2023.10.27 横浜

11. 森崇寧. 網羅的遺伝子解析から見えたこと ～CKD における希少疾患の存在意義～. Sumitomo Pharma 遺伝性腎疾患フォーラム 2023.10.27 東京/Web

12. 森崇寧. 腎臓内科医からみた糖尿病患者に対する血圧治療 ～ARNI を用いた新たな一手～. ARNI 高血圧 Collaboration Web Seminar in Tokyo 2023.10.18 東京/Web

13. 森崇寧. 理想的な降圧治療に一筋の光明 ～ARNI を導入すべき症例と適切なタイミング～. 高血圧治療最前線 -ARNI は標準治療薬となりうるか？ - 2023.10.06 東京/Web

14. 渡邉 初実, 森 崇寧, 森本 靖久, 塩路 慎吾, 赤木 祐一朗, 藤木 珠美, 萬代 新太郎, 安藤 史顕, 森 雄太郎, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. COVID-19 mRNA ワクチン接種後に発症した PGNMID の一例. 第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 2023.09.17 仙台

15. 熊谷 彩花, 塩路 慎吾, 田中 佑樹, 野城 仁志, 戸張 佑美, 壷谷 友宏, 森本 靖久, 原 悠, 藤木 珠美, 菊池 寛昭, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 萬代 新太郎, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. 自然経過で軽快した 2 期梅毒に合併した膜性腎症の一例. 第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 2023.09.17 仙台

16. 原 裕樹, 吉野 かえで, 高野 敬佑, 遠藤 慶太, 北村 浩一, 森 崇寧, 蘇原 映誠, 内田 信一, 林 晃一, 鈴木 利彦. 肉眼的血尿の精査過程で診断のついた Gitelman 症候群の一例. 第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 2023.09.17

17. 野城 仁志, 森本 靖久, 塩路 慎吾, 赤木 祐一郎, 藤木 珠美, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 萬代 新太朗, 森 崇寧, 飯盛 総一郎, 須佐 紘一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. COVID-19mRNA ワクチン接種後に甲状腺中毒症と急性尿細管間質性腎炎を発症した一例. 第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 2023.09.16 仙台

18. 眞部 俊, 川嶋 萌, 川地 慧子, 金井 弘次, 森 崇寧, 種田 積子, 森山 能仁, 星野 純一. ADCK4 変異による COQ10 腎症の一卵性双生児. 第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 2023.09.16

19. 森崇寧. 腎臓内科医が考える NGS. FabryDisease 9/3 NGS 座談会 2023.09.03 東京

20. 森 剛, 添野 真嗣, 有吉 勇一, 岡 大祐, 小林 肇, 久保 隆史, 安藤 哲郎, 渕之上 昌平, 森 崇寧, 蘇原 映誠, 内田 信一. 生体腎移植後に進行性の腎機能障害を認め、原発性高シュウ酸尿症が明らかとなった 1 例. 移植 2023.09.01

21. 森崇寧. 日常臨床で遭遇する遺伝性カリウム 代謝異常症 ～高カリウム血症におけるロケルマの有用性と実際の治療～. 東京腎臓病ネットワーク研究会 ～腎領域の次世代を担う会～ 2023.08.14 東京/Web

22. 森崇寧. エンレスト投与例の実際 ～WNK キナーゼを介した塩排出メカニズムの考察～. ARNI Camp ～腎臓の視点から高血圧治療を再考する～ 2023.06.27 東京/Web

23. 境 桂吾, 塩路 慎吾, 赤木 祐一朗, 藤木 珠美, 森 雄太郎, 萬代 新太郎, 安藤 史顕, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. レオカーナにより救肢が得られた CLTI の一例. 第 68 回日本透析医学会学術集会 2023.06.18 神戸

24. 森 雄太郎, 渡邉 初実, 小山 紗佑実, 東山 揚, 赤木 祐一朗, 安藤 史顕, 内藤 省太郎, 内田 信一. 肝肺症候群を来した透析患者の症例. 第 68 回日本透析医学会学術集会 2023.06.18 神戸

25. 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎. 厳格な保存的加療により長期にわたり透析導入遅延し得た一例. 第 67 回日本透析医学会学術集会総会 2023.06.18 神戸

26. 森 雄太郎, 萬代 新太郎, 渡邉 初実, 星野 幹, 池下 佳秀, 小山 紗佑実, 東山 揚, 赤木 祐一朗, 内藤 省太郎, 内田 信一. 腎移植から 8 年後に筋萎縮性側索硬化症（ALS）を発症した症例. 第 68 回日本透析医学会学術集会 2023.06.16 神戸

27. 森 克夫, 萬代 新太郎, 塩路 慎吾, 赤木 祐一朗, 藤木 珠美, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. 透析拒否により晩期透析導入となった 2 例の転帰. 第 68 回日本透析医学会学術集会 2023.06.16 横浜

28. 安藤　史顕、内田　信一. 水 · 電解質 · 骨ミネラル代謝の最新知見　集合管における PKA 研究の進展. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.11

29. 池ノ内 健, 高橋 大栄, 萬代 新太郎, 小山 紗佑実, 高橋 直宏, 正田 若菜, 久山 環, 藤木 珠美, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 伏見 清秀, 内田 信一. COVID-19 透析患者の院内死亡，ADL 低下リスクの全国規模調査. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.11 横浜

30. 山村 あゆみ, 内藤 省太郎, 萬代 新太郎, 赤木 祐一朗, 森本 靖久, 塩路 慎吾, 藤木 珠美, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. COVID-19 患者における電解質異常と予後の検討. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.10 横浜

31. 藤丸 拓也, 森 崇寧, 蘇原 映誠, 千賀 宗子, 萬代 新太郎, 藤木 珠美, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 内田 信一. IFT140 のヘテロ接合性変異は家族歴のない成人多発性腎嚢胞の一因である. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.10 横浜

32. 藤丸 拓也, 蘇原 映誠, 森 崇寧, 千賀 宗子, 萬代 新太郎, 中野 雄太, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 須佐 紘一郎, 東海林 隆男, 福留 裕一郎, 稲葉 直人, 北村 健一郎, 中西 太一, 木村 寿宏, 田村 禎一, 小澤 潔, 内田 信一. 成人期に末期腎不全に至った患者の遺伝的背景の検討. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.10 横浜

33. 安藤　史顕、内田　信一. 遺伝性尿細管機能異常症 up to date 先天性腎性尿崩症. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.09

34. 柳 智貴, 蘇原 映誠, 菊池 寛昭, 竹内 恒, 須佐 紘一郎, 藤木 珠美, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 萬代 新太郎, 森 崇寧, 本田 真也, 鳥居 暁, 清水 重臣, 頼 建光, 内田 信一. AMP 感知機構をバイパスした AMPK 活性化による CKD の新規治療戦略の発見. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.09 横浜

35. 柳川 英輝, 安藤 史顕, 及川 大輔, 七松 東, 原 悠, 鈴木 聡一郎, 藤木 珠美, 萬代 新太郎, 森 雄太郎, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 蘇原 映誠, 徳永 文稔, 内田 信一. LRBA は尿細管における塩および水の再吸収を制御する. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.09 横浜

36. 森 雄太郎, 森 槙子. 尿細管 · 気道の上皮における KIM-1 を介した COVID-19 感染機構の解明. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.09 横浜

37. 柳 智貴, 蘇原 映誠, 菊池 寛昭, 竹内 恒, 須佐 紘一郎, 藤木 珠美, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 萬代 新太郎, 森 崇寧, 本田 真也, 鳥居 暁, 清水 重臣, 頼 建光, 内田 信一. AMP 感知機構をバイパスした AMPK 活性化による CKD の新規治療戦略の発見. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.09

38. 森崇寧. 高安動脈炎 · 両腎動脈狭窄による難治性高血圧への ARNI 奏功例紹介. Hypertension Expert Meeting ～腎臓内科医が考える ARNI の有用性～ 2023.06.07 東京/Web

39. 萬代　新太郎. 慢性腎臓病において循環細胞外小胞が伝播する microRNA シグネチャーと血管石灰化メカニズムの解明. 第 2 回　御茶ノ水腎研究会 2023.06.01 東京

40. 山村 あゆみ, 内藤 省太郎, 萬代 新太郎, 赤木 祐一朗, 森本 靖久, 塩路 慎吾, 藤木 珠美, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. COVID-19 患者における電解質異常と予後の検討. 第 2 回御茶ノ水腎研究会 2023.06.01 東京

41. 渡邉初実, 松永優里恵, 須佐紘一郎, 飯盛聡一郎, 塩路慎吾, 赤木祐一朗, 藤木珠美, 萬代新太郎, 安藤史顕, 森崇寧, 内藤省太郎, 蘇原映誠, 内田信一. ステロイドおよび血漿交換により透析を離脱し得た細動脈有意の ANCA 関連血管炎の一例. 第 68 回日本透析医学会学術集会 · 総会 2023.06 神戸

42. 萬代　新太郎. サルコペニアを意識した CKD 治療薬の選択. 第 31 回　東京御茶ノ水腎談話会 2023.05.23 東京

43. 森崇寧. 日常臨床で遭遇する遺伝性カリウム 代謝異常症 ～ロケルマの有用性と実際の治療～. Hyperkalemia Online Symposium 2023.05.13 東京/Web

44. 金森 透, 宇田川 智宏, 村越 未希, 奥津 美夏, 森 崇寧, 蘇原 映誠, 内田 信一. WT1 Zinc finger 4 変異のポドサイト制御機能解析. 日本腎臓学会誌 2023.05.01

45. 徳永 美菜子, 関 祐子, 堀口 達史, 三浦 希和子, 柿本 令奈, 森田 智, 溝田 美智代, 森 崇寧, 蘇原 映誠, 内田 信一. 低カリウム血症と濃厚な高血圧の家族歴から Liddle 症候群の診断に至った親子例. 日本内分泌学会雑誌 2023.05.01

46. 木村 彰吾, 根岸 美穂, 秋元 福太郎, 赤座 至, 森 崇寧, 泉山 肇. 高血圧症と低カリウム血症の精査で尿細管機能異常症が疑われた一例. 日本内分泌学会雑誌 2023.05.01

47. 森崇寧. 日常臨床で遭遇する遺伝性カリウム 代謝異常症 ～ロケルマの有用性と実際の治療～. Cardio Renal Online Symposium 2023.04.14 Web

48. 森崇寧. 腎臓内科医からみた Fabry 病　高齢患者の治療例紹介. ファブリー病カンファレンス 2023.01.20 東京/Web

[受賞]

1. 安藤史顕. 公益財団法人ソルト · サイエンス研究財団 ２０２３年度研究助成, 2023 年 02 月
2. 森雄太郎. 令和 4 年度東京都医師会医学研究賞奨励賞, 公益社団法人 東京都医師会, 2023 年 03 月
3. 原悠. Young Investigator Award, 日本腎臓学会, 2023 年 06 月
4. 森 雄太郎. 日本医師会医学研究奨励賞, 公益社団法人 日本医師会, 2023 年 11 月

[その他業績]

1. 安藤史顕「 ZNF185 は血管バリアを構築し血管外への過剰な物質の漏出を抑制する 」 —　PKA/RhoA のシグナル伝達を仲介する分子の発見　—, 2023 年 02 月
   Communications Biology
2. 萬代新太郎「慢性腎臓病において血管石灰化を引き起こす悪玉メッセージ物質を発見」 —循環細胞外小胞を標的とした慢性腎臓病、心血管病の新たな治療薬の開発に期待—, 2023 年 02 月
   Circulation Research

3. 森崇寧, 蘇原映誠. クラウドファンディング開催「腎臓病の遺伝子解析から、病気と遺伝子のかかわりを探り続けるために」, 2023 年 02 月
   2023 年 2 月 1 日から 3 月末日まで 2 カ月間、「腎臓病の遺伝子解析から、病気と遺伝子のかかわりを探り続けるために」というタイトルで、Readyfor 社のサポートのもと腎臓病遺伝子解析に関わる運用資金獲得のためのクラウドファンディングを実施。総勢 395 名のご支援、総額 1950 万円に及ぶご寄付をいただいた。
4. Shintaro Mandai. Link between chronic kidney disease and cardiovascular disease explained, 2023 年 03 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
5. 「　腎臓切除後の代償性腎肥大のメカニズムを網羅的解析で解明　」 —　世界初の単離尿細管を用いた ATAC-seq に成功　—, 2023 年 06 月
6. Shintaro Mandai. Science Japan by JST. Tokyo Medical and Dental University finds vascular calcification in chronic kidney disease caused by circulating extracellular vesicles — Arteriosclerosis can be suppressed with existing drugs, 2023 年 06 月
7. 萬代新太郎「 悪性高血圧の予後が判明 」 — 10 年間の急性高血圧症の死亡 · 緊急透析リスクとそのリスク因子が明らかに —, 2023 年 10 月
   Hypertension
8. 萬代新太郎「慢性腎臓病による“血液脳関門の機能障害”と”タウタンパク質の不溶化”を発見」 — 認知症のメカニズム解明に貢献しうる知見 —, 2023 年 10 月
   Aging (Albany NY)
9. 安藤史顕「LRBA 複合体はリサイクリングエンドソームにおいて AQP2 を活性化し尿量を調節する」— 様々なタンパク質のリサイクルを司る LRBA の詳細な役割を解明 —, 2023 年 11 月
   The Journal of Physiology

[社会貢献活動]

1. 萬代新太郎. 内科専攻医　査読委員（J-OSLER）, 2019 年 04 月 01 日 - 現在
2. 安藤史顕. 第 66 回日本腎臓学会学術総会　プログラム委員会, 2022 年 07 月 01 日 - 2023 年 06 月 30 日
3. 安藤史顕. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 一般演題査読委員, 2022 年 07 月 01 日 - 2023 年 06 月 30 日
4. 安藤史顕. 日本腎臓学会　基礎研究推進小委員会, 2022 年 08 月 01 日 - 現在
5. 森雄太郎. ベッドサイドとベンチを繋ぐ translational research を通して社会貢献を目指す, 独立行政法人 日本学術振興会, 卓越研究員の声, 2023 年 01 月
6. 内田信一. コロナ病床と補助金について, 日本テレビ, newsevery/newszero/N24 など, 2023 年 01 月 12 日 - 2023 年 01 月 13 日
7. 安藤史顕. 先天性腎性尿崩症について, 西日本新聞社, 西日本新聞, 2023 年 03 月 23 日
8. 森崇寧. セッション「遺伝子」. 第 66 回日本腎臓学会学術総会, 日本腎臓学会, 第 66 回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2023 年 06 月 10 日
9. 安藤史顕. 第 67 回日本腎臓学会学術総会 プログラム委員会, 2023 年 07 月 01 日 - 現在
10. 森雄太郎. Biomedicine & Pharmacotherapy 論文査読, Elsevier, 2023 年 09 月 03 日
11. 森雄太郎. Frontiers in Bioscience-Landmark 論文査読, IMR Press, 2023 年 11 月 01 日 - 2024 年 01 月 25 日
12. 森雄太郎. 大学模擬授業, 東京都立武蔵高等学校, 東京都立武蔵高等学校, 2023 年 11 月 15 日
13. 森雄太郎. 共用試験医学生臨床実習前客観的臨床能力試験外部評価者, 公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構, 2023 年 11 月 17 日
14. 森雄太郎. Physiology 論文査読, American Physiological Society, 2023 年 12 月 03 日 - 2024 年 01 月 04 日

生殖機能協関学

Comprehensive Reproductive Medicine

2023.1.1-2023.12.31

教授	宮坂尚幸
准教授	吉木尚之
寄附講座教授	寺内公一 [茨城県地域産科婦人科学講座]
講師	若菜公雄、大島乃里子
寄附講座准教授	石川智則 [小児 · 周産期地域医療学講座]
助教	岩原由樹、関口将軌、羅ことい（4 月-)、廣瀬明日香、不殿絢子、高尾茉希、嶋田未知（-3 月）
寄附講座助教	中筋貴史 [小児 · 周産期地域医療学講座] （-9 月） 齊藤和毅 [小児 · 周産期地域医療学講座] 郡悠介 [小児 · 周産期地域医療学講座] （10 月-） 尾臺珠美 [茨城県地域産科婦人科学講座]
特任助教	郡悠介（4 月-）
医員	羅ことい（-3 月)、郡悠介（-3 月)、石川郁乃（4 月-)、三浦貴大（4 月-)、倉富由理（4 月-)
大学院 (博士課程)	岩田みさ子（社会人)、木寺信之（社会人）(-3 月)、羅ことい（社会人）(-3 月)、伏木淳（社会人）(-3 月)、日高志穂（-3 月)、蓬田裕（-3 月)、袁方（-3 月)、光井潤一郎、江野口祐佳（社会人)、勝又翔子（社会人)、瀬賀雅康、寺本有里、吉野育典（4 月-）
大学院 (修士課程)	鳥海旭世（-3 月）

(1) 分野概要

国立大学大学院の臨床医学分野の一つとして診療、教育、研究を行い、また地域医療機関と密接な相互協力を維持することを目的に運営されている。診療においては、医療の向上を絶えず希求し、医の倫理と患者の人権を尊重しながら高度の医学知識と医療技術の修得を目指す。教育においては、思春期より更年期 · 老年期までの一連の流れの中での女性の生理的 · 病的現象の系統的な理解が得られるよう努めている。研究では、臨床教室での研究であることを常に念頭におき、独創的な発想と視点から問題の解決に取組み、研究の領域は生殖医学、腫瘍学、周産期医学および女性医学に及んでいる。

(2) 研究活動

1) 生殖生理 · 内分泌 · 代謝に関する研究
　生殖機能を卵胞の発育、雌雄の配偶子、受精 · 着床から妊娠、分娩 · 産褥に至るまでの生理および病態について、産婦人科診療における臨床研究を行うとともに、ヒトおよび実験動物の生殖臓器から得た細胞の培養系を用いて、内分泌学的 · 免疫学的 · 機能形態学的な解明を行っている。特に、局所ホルモンとしての各種成長因子、サイトカイン、血管内皮由来物質の女性生殖機能に対する調節機構について検討を行っている。
2) 加齢に伴う身体機能の変化に関する研究
　更年期の婦人科臨床で問題となる更年期障害や骨粗鬆症、動脈硬化症、脳機能の変化などの病態の解明と治療法の確立をめざした基礎 · 臨床の研究を多面的に行っている。
3) 婦人科悪性腫瘍の病理形態学的研究
　子宮癌、子宮肉腫、卵巣癌、絨毛癌などの新しい診断、治療法の開発を目的に、腫瘍細胞の増殖、転移に伴う機能 · 形態的変化を生化学と病理形態学的に追求している。
　また、婦人科腫瘍での血管新生に関する生化学的研究にも着手している。
4) 周産期医学に関する研究

子宮内胎児の発育、胎児治療に関する実験および臨床的研究と、子宮内の胎児環境を形成する胎児、胎盤、羊水系の内分泌学的検討並びに幼若ラット脳血流遮断による脳障害に対する MRI 及び病理組織学的検討を行っている。

特徴とする研究方法
1) 卵巣顆粒膜細胞、ヒト子宮内膜 · 脱落膜 · 絨毛細胞、ヒト子宮筋細胞 · 筋腫細胞、マウス卵や初期胚、婦人科腫瘍細胞、骨芽細胞、破骨細胞などを用いた細胞培養実験。
2) 卵巣顆粒膜細胞やヒト精子を用いた細胞内カルシウム濃度の測定（Fura-2AM 法、パッチクランプ法）。
3) 細胞内 DNA 合成能を測定（サイアミン取り込み実験）。
4) 血清、尿、卵胞液、羊水中の種々のホルモン測定（RIA 法、EIA 法）。
5) 種々のホルモンの膜受容体結合能の測定。
6) ABC 法による免疫組織学的検討。
7) 電子顕微鏡による細胞の超微形態学的な分析。
8) 細胞内カルシウムや pH の変動の解析（共焦点レーザー顕微鏡）。
9) ノーザン · プロット法、ウエスタン · プロット法や RT-PCR 法による分子生物学的検討。
10) ラット子宮筋や頸動脈血管の収縮能の検討（マグヌス装置）。
11) ラットの脳血流や脳障害における MRI による分析。
12) フローサイトメトリー法によるタンパク発現の解析
13) Matrigel-coated invasion chamber を用いた培養細胞の浸潤能の検討
14) タネル法などによる培養細胞のアポトーシスの検討

(3) 教育活動

医学部医学科の産科婦人科学、保健衛生学科の母性 · 婦人科学の教育を担当している。講義には系統講義のほかに症例を中心とした学生自身のプレゼンテーションも含んだ臨床講義、さらに学外の非常勤講師による特別講義を行っている。クリニカルクラークシップでは外来および病棟においてできるだけ early exposure を取り入れ、学生は外来担当指導医 · 病棟担当指導医 · 研修医からなる受け持ち医師チームの一員として行動し、積極的に分娩に立会い、婦人科的な処置や手術に出来るだけ参加する。
また、産婦人科領域での up date な知識 · 情報を小グループ学習にて提供し、教育関連病院での実地臨床を経験する機会を用意している。

(4) 臨床上の特色

難治性不妊症の治療には、内視鏡検査を積極的に導入し、体外受精 · 胚移植法により好成績が得られている。中高年女性の健康管理を専門とする外来を設け、QOL を主眼とした治療を行い、DEXA 法による骨量測定、血管機能検査、乳房検診、自律神経機能検査、ホルモン補充療法などを行っている。また、管理栄養士、臨床心理士による生活指導やカウンセリングを含む全人的なヘルスケアを行っている。産科ではＬＤＲを設置し分娩症例の増加を目指すとともに、NICU 開設に伴い、低体重出生児や合併症をもった妊娠例を管理している。悪性腫瘍患者の治療には、関連診療科と協力し根治性の高い手術療法に取り組み、化学療法、放射線療法を駆使して良好な治療成績を得ている。良性卵巣腫瘍や子宮内膜症には腹腔鏡下手術も積極的に施行し、手術症例が増加している。

(5) 研究業績

[原著]

1. Yamashita M, Tomoda T, Mizuo A, Isoda T, Egawa M, Yoshida M, Toki T, Kudo K, Terui K, Ito E, Morio T, Takagi M. Transient erythroblastopenia due to a GATA1 variant in an infant female. Pediatric blood & cancer. 2023.12; e30834

2. Aizawa R, Ibayashi M, Mitsui J, Tsukamoto S. Lipid droplet formation is spatiotemporally regulated in oocytes during follicular development in mice. The Journal of reproduction and development. 2023.12;

3. Ota, K; Mitsui, J; Katsumata, S; Takayanagi, Y; Nako, Y; Tajima, M; Komiya, A; Takahashi, T; Kawai, K. Seasonal Serum 25(OH) Vitamin D Level and Reproductive or Immune Markers in Reproductive-Aged Women with Infertility: A Cross-Sectional Observational Study in East Japan NUTRIENTS. 2023.12; 15(24);

4. Masakazu Terauchi, Tsuyoshi Higuchi. Women's Health Care Committee, Japan Society of Obstetrics and Gynecology: Annual report-2023. J Obstet Gynaecol Res. 2023.11; 49(11); 2602-2619

5. Yoshino Y, Yanai S, Sawada M, Sakate S, Kanno K, Hada T, Ueda T, Tabata T, Omori M, Andou M. Extraovarian Dysgerminoma Involving the Uterine Cervix: A Rare Case Report With Literature Review Int J Gynecol Pathol. 2023.11; 42(6); 544-549

6. Terauchi Masakazu, Higuchi Tsuyoshi. Women's Health Care Committee, Japan Society of Obstetrics and Gynecology: Annual report-2023(タイトル和訳中) The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2023.11; 49(11); 2602-2619

7. Takashi Takeda, Kana Yoshimi, Fumi Inoue, Tamami Odai, Nahoko Shirato, Zen Watanabe, Tempei Otsubo, Masakazu Terauchi. Gender Differences in Premenstrual Syndrome and Premenstrual Dysphoric Disorder Diagnosis and Treatment among Japanese Obstetricians and Gynecologists: A Cross-Sectional Study Tohoku J Exp Med. 2023.10; 261(2); 95-101

8. Takeda Takashi, Yoshimi Kana, Inoue Fumi, Odai Tamami, Shirato Nahoko, Watanabe Zen, Otsubo Tempei, Terauchi Masakazu. Gender Differences in Premenstrual Syndrome and Premenstrual Dysphoric Disorder Diagnosis and Treatment among Japanese Obstetricians and Gynecologists: A Cross-Sectional Study(タイトル和訳中) The Tohoku Journal of Experimental Medicine. 2023.10; 261(2); 95-101

9. Rika Murakami, Midori Natsume, Kentaro Ito, Shukuko Ebihara, Masakazu Terauchi. Effect of Flavanol-Rich Cacao Extract on the Profile of Mood State in HealthyMiddle-Aged JapaneseWomen: A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Pilot Study Nutrients. 2023.09; 15; 3843

10. Kidera N, Ishikawa T, Kawamura T, Miyasaka N. Maternal body mass index is not associated with assisted reproductive technology outcomes. Scientific reports. 2023.09; 13(1); 14817

11. Masakazu Terauchi, Jocelyn Y Cheng, Jane Yardley, Kate Pinner, Margaret Moline, Manoj Malhotra, Kanako Inabe, Maika Nishida, Elizabeth Pappadopulos. Efficacy and safety of lemborexant in midlife women with insomnia disorder. Menopause. 2023.08; 30(8); 839-848

12. Higashide R, Saito K, Hashido N, Ishikawa T, Miyasaka N. Step-by-step instructions for detecting whirlpool sign in adnexal torsion. Journal of rural medicine : JRM. 2023.07; 18(3); 189-193

13. Ochi Y, Yanai S, Yoshino Y, Sawada M, Sakate S, Kanno K, Andou M. Clinical use of mixed reality for laparoscopic myomectomy Int J Gynaecol Obstet. 2023.07; 162(1); 364-365

14. Asuka Hirose, Masakazu Terauchi, Tamami Odai, Ayako Fudono, Kotoi Tsurane, Masaki Sekiguchi, Misako Iwata, Tatsuhiko Ando, Kunihiko Takahashi, Miyasaka Naoyuki.. Investigation of exacerbating factors for postpartum hair loss: a questionnaire-based cross-sectional study International Journal of Women's Dermatology . 2023.06; (9(2)); e84

15. Naoyuki Yoshiki, Kaoru Kato, Junichi Sasaki. Laparoscopic Retrieval of a Retained Foreign Body Embedded in the Retroperitoneum. The Journal of Minimally Invasive Gynecology. 2023.06; 30(6); 431-432

16. Kana Yoshimi, Fumi Inoue, Tamami Odai, Nahoko Shirato, Zen Watanabe, Tempei Otsubo, Masakazu Terauchi, Takashi Takeda. Current status and problems in the diagnosis and treatment of premenstrual syndrome and premenstrual dysphoric disorder from the perspective of obstetricians and gynecologists in Japan J Obstet Gynaecol Res. 2023.05; 49(5); 1375-1382

17. Fang Yuan, Satoshi Obayashi, Ayumi Yamaguchi, Natsuki Yatabe, Chihiro Mano, Makoto Iizuka, Yoshinori Ohkura, Naoyuki Miyasaka. 17 α-ethinylestradiol modulates endothelial function in ovariectomized rat carotid arteries European Journal of Pharmacology. 2023.04; 944; 175525

18. Mitsui, J; Ota, K; Yamashita, H; Sujino, T; Hiraoka, K; Katsumata, S; Takayanagi, Y; Nako, Y; Tajima, M; Ohuchi, K; Hayashi, M; Ishikawa, T; Kawai, K. Predictive Factors for Empty Follicle Syndrome in Infertile Patients Undergoing Assisted Reproductive Technology Treatment: A Retrospective Cohort Study and Brief Literature Review CLINICAL AND EXPERIMENTAL OBSTETRICS & GYNECOLOGY. 2023.04; 50(4);

19. Ibayashi M, Aizawa R, Mitsui J, Tsukamoto S. Lipid droplet synthesis is associated with angiogenesis in mouse ovarian follicles †. Biology of reproduction. 2023.03; 108(3); 492-503

20. Mayuko Kazama, Masakazu Terauchi, Tamami Odai, Kiyoko Kato, Naoyuki Miyasaka. Associations of fat mass index with hot flashes and lean mass index with insomnia in middle-aged women. Climacteric. 2023.02; 26(2); 161-166

21. Yomogita Hiroshi, Ito Hikaru, Hashimoto Kento, Kudo Akihiko, Fukushima Toshiaki, Endo Tsutomu, Hirate Yoshikazu, Akimoto Yoshihiro, Komada Masayuki, Kanai Yoshiakira, Miyasaka Naoyuki, Kanai-Azuma Masami. A possible function of Nik-related kinase in the labyrinth layer of delayed delivery mouse placentas(タイトル和訳中) The Journal of Reproduction and Development. 2023.02; 69(1); 32-40

22. Yomogita H, Ito H, Hashimoto K, Kudo A, Fukushima T, Endo T, Hirate Y, Akimoto Y, Komada M, Kanai Y, Miyasaka N, Kanai-Azuma M. A possible function of Nik-related kinase in the labyrinth layer of delayed delivery mouse placentas. The Journal of reproduction and development. 2023.02; 69(1); 32-40

23. Mitsui, J; Ota, K; Takayanagi, Y; Nako, Y; Tajima, M; Fukui, A; Kawai, K. Successful Pregnancy and Delivery at Term Following Intravenous Immunoglobulin Therapy with Heparin for Unexplained Recurrent Pregnancy Loss Suspected of Immunological Abnormalities: A Case Report and Brief Literature Review JOURNAL OF CLINICAL MEDICINE. 2023.02; 12(4);

24. Tamaoka S, Saito K, Yoshida T, Nakabayashi K, Tatsumi K, Kawamura T, Matsuzaki T, Matsubara K, Ogata-Kawata H, Hata K, Kato-Fukui Y, Fukami M. Exome-based genome-wide screening of rare variants associated with the risk of polycystic ovary syndrome. Reproductive medicine and biology. 2023.01; 22(1); e12504

25. Egawa M, Kanda E, Ohtsu H, Nakamura T, Yoshida M. Hypertensive Disorders of Pregnancy are Associated with Cardiovascular Disease in Middle- and Older-Aged Japanese Women. Journal of atherosclerosis and thrombosis. 2023.01; 30(10); 1420-1426

26. Ryo Higashide, Kazuki Saito, Nanako Hashido , Tomonori Ishikawa, and Naoyuki Miyasaka. Step-by-step instructions for detecting whirlpool sign in adnexal torsion Journal of Rural Medicine. 2023; 189-193

1. 米良 健輝, 高尾 茉希, 嶋田 未知, 尾臺 珠美, 寺内 公一, 吉木 尚之, 宮坂 尚幸, 江川 真希子. 未分化胚細胞腫と性腺芽腫を認めた Swyer 症候群の 1 例 東京産科婦人科学会会誌. 2023.10; 72(4); 779-785

2. 米良 健輝, 高尾 茉希, 嶋田 未知, 尾臺 珠美, 寺内 公一, 吉木 尚之, 宮坂 尚幸, 江川 真希子. 未分化胚細胞腫と性腺芽腫を認めた Swyer 症候群の 1 例 東京産科婦人科学会会誌. 2023.10; 72(4); 779-785

3. 尾臺 珠美, 寺内 公一. 【ウィメンズヘルスと栄養素 · サプリメント】更年期障害　ビタミン B6 産科と婦人科. 2023.09; 90(9); 955-960

4. 寺内 公一. 【男性更年期を知る】女性の更年期障害 OPJ リエゾン. 2023.09; (15); 25

5. 勝又翔子, 小宮顕, 川井清考, 有川淑恵, 野中美幸, 村形佐知, 齊藤和毅, 中筋貴史, 岩原由樹, 加藤祐己, 木脇祐子, 明石巧, 石川智則, 宮坂尚幸. 精巣腫瘍根治術後 50 日で ICSI により生児獲得した一例とその課題 日本受精着床学会雑誌. 2023.09; 40(2); 293-298

6. 勝又 翔子, 小宮 顕, 川井 清考, 有川 淑恵, 野中 美幸, 村形 佐知, 齊藤 和毅, 中筋 貴史, 岩原 由樹, 加藤 祐己, 木脇 祐子, 明石 巧, 石川 智則, 宮坂 尚幸. 精巣腫瘍根治術後 50 日で ICSI により生児獲得した一例とその課題 日本受精着床学会雑誌. 2023.09; 40(2); 293-298

7. 山口美夕、中筋貴史、間野ちひろ、齊藤和毅、大島乃里子、石川智則、吉木尚之、宮坂尚幸. 子宮頸部筋腫に対して術前に尿管ステントを留置し全腹腔鏡下子宮全摘手術（TLH）を施行した 1 例 東京産科婦人科学会誌. 2023.07; 72(3); 495-500

8. 細井毬愛、嶋田未知、間野ちひろ、高尾茉希、尾臺珠美、大島乃里子、若菜公雄、宮坂尚幸. 画像診断に難渋した子宮頸部びまん性平滑筋腫症の 1 例 東京産科婦人科学会誌. 2023.07; 72(3); 529-534

9. 嶋田未知、大島乃里子、高尾茉希、尾臺珠美、郡悠介、若菜公雄、新宅洋、宮坂尚幸. 子宮体部と卵巣の類内膜癌でミスマッチ修復タンパクの染色性が異なった重複癌の 1 例 東京産科婦人科学会誌. 2023.07; 72(3); 547-553

10. 寺内公一，岡野浩哉，小川真里子，武田卓，安井敏之. 日本の更年期障害治療における補完代替療法使用の現状　—日本産科婦人科学会女性ヘルスケア委員会全国調査より— 日本女性医学学会雑誌. 2023.07; 30(4); 622-626

11. 嶋田 未知, 大島 乃里子, 高尾 茉希, 郡 悠介, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸, 尾臺 珠美, 新宅 洋. 子宮体部と卵巣の類内膜癌でミスマッチ修復タンパクの染色性が異なった重複癌の 1 例 東京産科婦人科学会会誌. 2023.07; 72(3); 547-553

12. 山口 美夕, 中筋 貴史, 間野 ちひろ, 齊藤 和毅, 大島 乃里子, 石川 智則, 吉木 尚之, 宮坂 尚幸. 子宮頸部筋腫に対して術前に尿管ステントを留置し全腹腔鏡下子宮全摘出術 (TLH) を施行した 1 例 東京産科婦人科学会会誌. 2023.07; 72(3); 495-500

13. 細井 毬愛, 嶋田 未知, 間野 ちひろ, 高尾 茉希, 尾臺 珠美, 大島 乃里子, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸, 田口 登和子. 画像診断に難渋した子宮頸部びまん性平滑筋腫症の 1 例 東京産科婦人科学会会誌. 2023.07; 72(3); 529-534

14. 佐藤 達也, 谷川 道洋, 水野 祥, 遅野井 彩, 川田 淑子, 吉野 育典, 中村 玲子, 喜納 奈緒. ポートサイト転移 (PSM) をきたした卵巣成熟奇形腫の悪性転化 (MT-MCT) の 1 例 東京産科婦人科学会会誌 (2186-0599). 2023.07; 72(3); 588-596

15. 山口美夕, 中筋貴史, 間野ちひろ, 齊藤和毅, 大島乃里子, 石川智則, 吉木尚之, 宮坂尚幸. 子宮頸部筋腫に対して術前に尿管ステントを留置し全腹腔鏡下子宮全摘出術 (TLH) を施行した 1 例 東京産科婦人科学会会誌. 2023.07; 72(3); 495-500

16. 尾臺 珠美, 寺内 公一. 【更年期症状への補完代替医療の最新知見-科学的根拠を踏まえて】補完代替医療それぞれの作用機序と効果　食事療法 · 運動療法 臨床婦人科産科. 2023.06; 77(6); 624-629

17. Takahashi Ken, Samura Osamu, Hasegawa Akihiro, Okubo Haruna, Morimoto Keiji, Horiya Madoka, Okamoto Aikou, Ochiai Daigo, Tanaka Mamoru, Sekiguchi Masaki, Miyasaka Naoyuki, Suzuki Yuto, Tabata Tsutomu, Hayata Eijiro, Nakata Masahiko, Suzuki Tomoo, Nishi Hirotaka, Toda Yumi, Tanigaki Shinji, Furuya Natsumi, Hasegawa Junichi, Tamaru Shunsuke, Kamei Yoshimasa, Sayama Seisuke, Nagamatsu Takeshi, Takahashi Yuka Otera, Kitagawa Michihiro, Arakaki Tatsuya, Sekizawa Akihiko. COVID-19 mRNA vaccination status and concerns among pregnant women in Japan: a multicenter questionnaire survey BMC PREGNANCY AND CHILDBIRTH. 2023.05; 23(1); 332

18. 大島乃里子、尾臺珠美、若菜公雄、寺内公一、宮坂尚幸. リスク低減卵管卵巣摘出術後の更年期症状に対する漢方療法についての検討 産婦人科　漢方研究のあゆみ. 2023.05; 39; 106-108

19. 大島乃里子、尾臺珠美、若菜公雄、寺内公一、宮坂尚幸 . リスク低減卵管卵巣摘出術後の更年期症状に対する漢方療法についての検討 産婦人科　漢方研究のあゆみ . 2023.05; 31; 106-108

20. 川井 清考, 光井 潤一郎, 佐藤 吉美. 【時間の流れと産婦人科生物学-早すぎること, 遅すぎること, 長すぎること, 短かすぎること-】時間の流れと生殖内分泌学　window of implantation(WOI) の細胞生物学 産科と婦人科. 2023.05; 90(5); 501-506

21. Yuan Fang, Obayashi Satoshi, Yamaguchi Ayumi, Yatabe Natsuki, Mano Chihiro, Iizuka Makoto, Ohkura Yoshinori, Miyasaka Naoyuki. 17?-ethinylestradiol modulates endothelial function in ovariectomized rat carotid arteries EUROPEAN JOURNAL OF PHARMACOLOGY. 2023.04; 944;

22. Imai Chihiro, Takimoto Hidemi, Kurotani Kayo, Fudono Ayako, Tarui Iori, Aoyama Tomoko, Yago Satoshi, Okamitsu Motoko, Miyasaka Naoyuki, Sato Noriko. Diet Quality and Its Relationship with Weight Characteristics in Pregnant Japanese Women: A Single-Center Birth Cohort Study NUTRIENTS. 2023.04; 15(8);

23. Imai Chihiro, Takimoto Hidemi, Kurotani Kayo, Fudono Ayako, Tarui Iori, Aoyama Tomoko, Yago Satoshi, Okamitsu Motoko, Miyasaka Naoyuki, Sato Noriko. Diet Quality and Its Relationship with Weight Characteristics in Pregnant Japanese Women: A Single-Center Birth Cohort Study NUTRIENTS. 2023.04; 15(8);

24. Kazama M., Terauchi M., Odai T., Kato K., Miyasaka N.. Associations of fat mass index with hot flashes and lean mass index with insomnia in middle-aged women CLIMACTERIC. 2023.03; 26(2); 161-166

25. 蓮井美帆, 大村直輝, 門前志歩, 名古満, 羽太優希, 高橋由香里, 向井直子, 遠藤美幸, 工藤祐輔, 小峰祝敏, 伊藤かほり, 有地あかね, 永井美和子, 福島治郎, 本間進, 寺岡香里, 竹村由里, 木寺信之, 佐々木博, 依光毅, 清水康史, 大原基弘, 石川智則, 河村寿宏. タイムラプスで観察された Direct Cleavage 胚 · Reverse Cleavage 胚の培養成績ならびに臨床成績ついての検討 日本受精着床学会雑誌. 2023.03; 40(1); 63-68

26. Yomogita Hiroshi, Ito Hikaru, Hashimoto Kento, Kudo Akihiko, Fukushima Toshiaki, Endo Tsutomu, Hirate Yoshikazu, Akimoto Yoshihiro, Komada Masayuki, Kanai Yoshiakira, Miyasaka Naoyuki, Kanai-Azuma Masami. A possible function of Nik-related kinase in the labyrinth layer of delayed delivery mouse placentas JOURNAL OF REPRODUCTION AND DEVELOPMENT. 2023.02; 69(1); 32-40
27. 光井 潤一郎. 【産婦人科漢方ステップアップ-三大処方の次なる一手とは?-】次なる一手の具体的処方　周産期妊娠中の慢性頭痛と呉茱萸湯 (31) 産科と婦人科. 2023.01; 90(1); 53-58

[書籍等出版物]

1. 寺内公一. シリーズ G ノート 骨粗鬆症の薬の使い方と治療の続け方. 羊土社, 2023.11
2. 宮坂尚幸. 内科診断学 第 4 版. 医学書院, 2023.10
3. 寺内公一. グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン 2023. 南山堂, 2023.08
4. 寺内公一. 産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編 2023. 日本産科婦人科学会 · 日本産婦人科医会, 2023.08
5. 寺内公一.　アンチエイジング医学の基礎と臨床　第 4 版.　メジカルビュー社, 2023.06 (ISBN : 978-4-7583-0496-2)
6. 江川真希子，寺内公一，若槻明彦. 動脈硬化性疾患予防のための脂質異常症診療ガイド 2023 年版. 日本動脈硬化学会, 2023.06
7. 宮坂尚幸. 5 章 DOHaD を基盤とする保健 · 医療（胎児発育の評価）. 金原出版, 2023.03
8. 寺内公一. 2023 年改訂版「冠動脈疾患の一次予防に関する診療ガイドライン」. 日本循環器学会, 2023.03
9. 寺内公一. 高齢女性診療 Q&A. 日本医事新報社, 2023.02 (ISBN : 978-4-7849-1393-0)
10. 寺内公一. 今日の治療指針　2023 年版. 医学書院, 2023.01 (ISBN : 978-4-260-05034-0)
11. 寺内公一. 研修ノート No.109　異常子宮出血 (AUB) —PALM-COEIN 分類に基づいた原因検索と対応—. 日本産婦人科医会, 2023.01
12. 寺内公一. 最新の骨粗鬆症学 (第 2 版) —骨粗鬆症の最新知見—. 日本臨床社, 2023.01
13. 寺内公一. 最新の骨粗鬆症学 (第 2 版) —骨粗鬆症の最新知見—. 日本臨床社, 2023.01

[総説]

1. 寺内公一. 更年期障害の評価法と治療指針 産科と婦人科. 2023.12; 90(12); 1372-1376
2. 寺内公一. 閉経関連泌尿生殖器症候群（GSM) に対してレイザー治療は有効か？　アンチ · エイジング医学. 2023.10; 19(5); 426
3. 寺内公一. ビタミン E 産科と婦人科. 2023.09; 90(9); 997-1001
4. 寺内公一. 更年期の不眠の特徴と漢方薬の使い方 Kampo Square. 2023.07; 20(13);
5. 寺内公一. 女性ヘルスケア領域における Gartner's Hype Cycle 更年期と加齢のヘルスケア. 2023.07; 22(1); 6-7
6. 寺内公一. 妊娠後骨粗鬆症 糖尿病 · 内分泌代謝科. 2023.06; 56(6); 693-695
7. 寺内公一. 「更年期」を過ぎても「更年期症状」は残存するか？　産科と婦人科. 2023.05; 90(5); 529-536
8. 寺内公一. 私の漢方診療日誌 No.511 【更年期障害の諸症状】番外編—月経前症候群と木防已湯 Kampo Square. 2023.05; 20(9);
9. 寺内公一. 妊娠後骨粗鬆症 日本骨粗鬆症学会雑誌. 2023.05; 9(2); 137-140
10. 寺内公一. 臨床研究をデザインする —研究デザインの「型」— 日本骨粗鬆症学会雑誌. 2023.05; 9(2); 211-214
11. 寺内公一. 更年期障害の治療　—天然型黄体ホルモンの HRT への応用— アンチ · エイジング医学. 2023.04; 19(2); 136-140

12. 寺内公一. 私の漢方診療日誌 No.509【更年期障害の諸症状】更年期の不眠と加味逍遙散 Kampo Square. 2023.04; 20(7);
13. 寺内公一. 閉経期ホルモン療法と補完代替療法 日本女性医学学会雑誌. 2023.04; 30(3); 462-464
14. 寺内公一. 私の漢方診療日誌 No.507【更年期障害の諸症状】更年期のドライマウスと麦門冬湯 Kampo Square. 2023.03; 20(5);
15. 寺内公一. 外陰腟萎縮 産科と婦人科. 2023.03; 90(S); 419-423
16. 寺内公一. 私の漢方診療日誌 No.505【更年期障害の諸症状】更年期のホットフラッシュと桃核承気湯 Kampo Square. 2023.02; 20(3);
17. 寺内公一. 婦人科漢方 薬局. 2023.01; 74(1); 104-110
18. 寺内公一. 私の漢方診療日誌 No.503【更年期障害の諸症状】更年期の頭痛と当帰芍薬散 Kampo Square. 2023.01; 20(1);

[講演・口頭発表等]

1. Masakazu Terauchi. Symposium 2. Cancer and Bone "Management manual for cancer treatment-induced bone loss (CTIBL): position statement of the JSBMR". 35th Fall Scientific Congress of the Korean Society for Bone and Mineral Research 2023.11.11 Seoul
2. Masakazu Terauchi. Special lecture "Psychological Aspects of the Menopause". 28th Annual Scientific Meeting of the Korean Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology 2023.10.22 Seoul, Korea
3. Masakazu Terauchi. Parallel Session 4 Lifestyle Management and Rehabilitative Aspect of Menopausal Women "Estrogen Deficiency, Oxidative Stress, and Bone Loss in Postmenopausal Women: Protection by Antioxidants". 9th Scientific Meeting of the Asia Pacific Menopause Federation 2023.10.08 Bali, Indonesia
4. Masakazu Terauchi. Parallel Session 7 MHT and Adjuvant Therapy for Menopausal Women "Isoflavones and S-Equol for Women's Midlife Health". 9th Scientific Meeting of the Asia Pacific Menopause Federation 2023.10.08 Bali, Indonesia
5. 寺内公一. 特別講演「月経困難症・子宮内膜症の薬物療法 Up to Date ～患者志向の治療戦略とは～」. 令和5年度群馬産科婦人科学会・群馬県産婦人科医会集談会 2023.07.15 前橋
6. Fang Yuan, Satoshi Obayashi, Naoyuki Miyasaka. 17 α-ethinylestradiol modulates endothelial function in ovariectomized rat carotid arteries. 第75回日本産科婦人科学会学術講演会 2023.05.12 東京国際フォーラム
7. Satoru Aoyama, Takashi Kamatani, Kousuke Tanimoto, Junko Yokobori, Eriko Takamine, Makiko Egawa, Yuki Kato, Susumu Kirimura, Ichiro Ohnishi, Kouichiro Kimura, Takahiro Asakage, Sadakatsu Ikeda. Case report: Myxofibrosarcoma in the head and neck region with rare TP53 aberration in the background of retinoblastoma.. 2023 the Japanese Society of Medical Oncology Annual Meeting 2023.03.17
8. Yuan Fang, Obayashi Satoshi, Miyasaka Naoyuki. 卵巣摘出ラット頸動脈における Ethinylestradiol(EE2) の内皮機能調節作用 (Ethynylestradiol(EE2) modulates endothelial function in ovariectomized rat carotid arteries). 日本産科婦人科学会雑誌 2023.02.01
9. Takahashi Ken, Samura Osamu, Hasegawa Akihiro, Ookubo Haruna, Morimoto Keiji, Horiya Madoka, Okamoto Aikou, Ochiai Daigo, Tanaka Mamoru, Sekiguchi Masaki, Miyasaka Naoyuki, Suzuki Yuto, Tabata Tsutomu, Hayata Eijiro, Nakata Masahiko, Suzuki Tomoo, Nishi Hirotaka, Toda Yumi, Tanigaki Shinji, Furuya Natsumi, Hasegawa Junichi, Tamaru Shunsuke, Kamei Yoshimasa, Sayama Seisuke, Nagamatsu Takeshi, Takahashi Yuka, Kitagawa Michihiro, Arakaki Tatsuya, Sekizawa Akihiko. 日本における妊婦の COVID-19 mRNA ワクチン接種状況と課題　多施設共同後ろ向き質問紙調査 (COVID-19 mRNA vaccination status and issues among pregnant women in Japan: a multicenter retrospective questionnaire survey). 日本産科婦人科学会雑誌 2023.02.01
10. Odai Tamami, Ohno Haruko, Nakamura Reiko, Tsukada Takafumi, Oshima Noriko, Wakana Kimio, Miyasaka Naoyuki. Primary pulmonary choriocarcinoma diagnosed by histopathologic and genetic examination(タイトル和訳中). The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 2023.01.01

11. Odai Tamami, Ohno Haruko, Nakamura Reiko, Tsukada Takafumi, Oshima Noriko, Wakana Kimio, Miyasaka Naoyuki. Primary pulmonary choriocarcinoma diagnosed by histopathologic and genetic examination(タイトル和訳中). The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 2023.01.01

12. Odai Tamami, Ohno Haruko, Nakamura Reiko, Tsukada Takafumi, Oshima Noriko, Wakana Kimio, Miyasaka Naoyuki. 組織病理学的および遺伝的検査により診断された原発性肺絨毛癌 (Primary pulmonary choriocarcinoma diagnosed by histopathologic and genetic examination). The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 2023.01.01

1. 寺内公一. 40 歳以降のホルモン治療を考える ～OC· LEP から HRT への以降の Tips～. Bayer Gynecology Expert‘s Webinar 2023.12.14 web

2. 寺内公一. 天然型黄体ホルモンの登場で日本の HRT はどう変わったのか？ —エヴィデンスから実臨床での使用経験へ—. 富士製薬工業 web 講演会 2023.12.13 web

3. 寺内公一, 三科祥理, 李拓海, 三木 隆司, 田中敬子. 40-64 歳の日本人女性における血管運動神経症状 (VMS) の実態および治療状況に関する横断的オンライン調査. 第 38 回日本女性医学学会学術集会 2023.12.03 徳島

4. 岡野浩哉、牧田和也、樋口毅、谷口久枝、大島乃里子、西ヶ谷順子、尾林聡. 対話型生成系 AI は更年期女性の疑問に正確に答えられるか？ 複数の専門医による客観的評価とその考察. 日本女性医学学会学術集会 2023.12.03

5. 寺内公一, Jocelyn Cheng, Jane Yardley, Kate Pinner, Margaret Moline, Manoj Malhotra, 井鍋佳菜子, 西田舞香, Elizabeth Pappadopulos. 更年期女性不眠症患者における不眠症治療薬レンボレキサントの有効性と安全性：第Ⅲ相試験 部分集団解析. 第 38 回日本女性医学学会学術集会 2023.12.02 徳島

6. 山本奈緒, 尾臺珠美, 郡悠介, 高尾茉希, 大島乃里子, 若菜公雄, 宮坂尚幸. 当院における卵巣上皮性境界悪性腫瘍の臨床的検討. 第 146 回 関東連合産科婦人科学会 総会 · 学術集会 2023.11.26 静岡

7. 寺内公一. 特別講演「働く女性の健康学 ～更年期障害への対応～」. 北区産婦人科医会 学術講演会 2023.11.14 東京

8. 寺内公一. スポンサードセミナー 2「更年期から始めるアンチエイジング · セルフケア —皮膚老化 · 肥満 · サルコペニア · 認知症を予防するために—」. 第 16 回抗加齢ウィメンズヘルス研究会 2023.11.12 web

9. 大島乃里子. がん. がん教育 2023.11.10 東京

10. 光井潤一郎, 石川智則, 宮坂尚幸, 塚本智史. 妊娠期のマウス黄体における脂肪滴の合成と分解に関する研究. 第 68 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2023.11.09 石川

11. 熊澤栞, 齊藤和毅, 石川郁乃, 中筋貴史, 岩原由樹, 石川智則. 卵巣過剰刺激症候群における血中 D-dimer 値上昇に関係する因子の解明. 第 68 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2023.11.09 石川

12. 野中美幸, 村形佐知, 石川郁乃, 齊藤和毅, 中筋貴史, 岩原由樹, 石川智則, 宮坂尚幸. 胚盤胞凍結前の胞胚腔人工収縮法の違いによる臨床成績の検討. 第 68 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2023.11.09 石川

13. 村形佐知, 石川智則, 野中美幸, 岩原由樹, 中筋貴史, 齊藤和毅, 石川郁乃, 有川淑恵, 宮坂尚幸. 化学療法後，低 AMH 値でも卵子または胚凍結できた 2 症例について. 第 68 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2023.11.09 石川

14. 山本 奈緒, 尾臺 珠美, 郡 悠介, 高尾 茉希, 大島 乃里子, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 当院における卵巣上皮性境界悪性腫瘍の臨床的検討. 関東連合産科婦人科学会誌 2023.11.01

15. 寺内公一. 区民公開講座「『プレコンセプションケア』ってなんだろう？」. 第 45 回日本母体胎児医学会学術集会 2023.10.15 東京

16. 市倉加奈子、池田みのり、石田陽菜、大島乃里子、藤江俊秀、山内慎一、中島康晃、深瀬裕子、田ヶ谷浩邦、宮島美穂、松島英介、竹内崇. がん患者の価値観を重視したクオリティ · オブ · ライフ指標（SEIQoL）の適用可能性. 日本サイコオンコロジー学会 2023.10.06 なら

17. 寺内公一. 基調講演「フェムケアにおける健康支援と食品の役割」. 第 9 回クリルオイル研究会 2023.10.05 web

18. 石川智則. 乳癌治療における妊孕性. 御茶ノ水 Oncology Forum 2023 2023.10.04 東京

19. 村形 佐知, 石川 智則, 野中 美幸, 岩原 由樹, 中筋 貴史, 齊藤 和毅, 石川 郁乃, 有川 淑恵, 宮坂 尚幸. 化学療法後, 低 AMH 値でも卵子または胚凍結できた 2 症例について. 日本生殖医学会雑誌 2023.10.01

20. 野中 美幸, 村形 佐知, 石川 郁乃, 齊藤 和毅, 中筋 貴史, 岩原 由樹, 石川 智則, 宮坂 尚幸. 胚盤胞凍結前の胞胚腔人工収縮法の違いによる臨床成績の検討. 日本生殖医学会雑誌 2023.10.01

21. 名古 ゆり恵, 光井 潤一郎, 太田 邦明, 勝又 翔子, 高柳 裕子, 田島 麻記子, 中條 隼大, 内田 のぞみ, 平岡 謙一郎, 川井 清考. 単一卵胞発育に対するフラッシングは有効か?. 日本生殖医学会雑誌 2023.10.01

22. 光井 潤一郎, 石川 智則, 宮坂 尚幸, 塚本 智史. 妊娠期のマウス黄体における脂肪滴の合成と分解に関する研究. 日本生殖医学会雑誌 2023.10.01

23. 寺内公一. シンポジウム 13 癌関連 CTIBL 「性ホルモンと骨代謝」 . 第 25 回日本骨粗鬆症学会 2023.09.30 名古屋

24. 寺内公一. シンポジウム 8 若年女性の骨粗鬆症を診る—病態と治療戦略— 「若年女性のグルココルチコイド誘発性性骨粗鬆症」 . 第 25 回日本骨粗鬆症学会 2023.09.29 名古屋

25. 吉野育典　古澤啓子　佐藤達也　水野祥　遅野井彩　川田淑子　中村玲子　谷川道洋　喜納奈緒. 子宮体癌の腹膜播種再発に対して腹腔鏡下再発腫瘍切除術を施行した 1 例. 第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会 2023.09.16 びわ湖大津プリンスホテル

26. 武村瞭子, 吉木尚之, 加藤薫, 佐々木純一. 腹腔鏡下手術後に判明した遺残金属片を腹腔鏡下に回収した 1 例. 第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2023.09.15 大津

27. 吉野育典　黒田浩. 最新シミュレーター使用による、TLH ハンズオンセミナー. 第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会 2023.09.15 びわ湖大津プリンスホテル

28. 郡悠介、吉木尚之、髙尾茉希、大島乃里子、宮坂尚幸. 腹腔鏡下手術で修復しえた ロボット支援下手術後ポートサイトヘルニアの 1 例. 2023.09.14 滋賀

29. 郡悠介、吉木尚之、髙尾茉希、大島乃里子、宮坂尚幸. 腹腔鏡下手術で修復しえた ロボット支援下手術後ポートサイトヘルニアの 1 例. 第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2023.09.14 滋賀

30. 鈴木拓望, 細道純, 宮坂尚幸, 宮崎泰成, 滝敦子, 財津崇, 毛呂愛香, 森丘千夏子, 佐藤憲子, 小野卓史. 日本人妊婦の閉塞性睡眠時無呼吸症の病態と出生児への影響について. 第 47 回日本女性栄養 · 代謝学会学術集会 2023.08.24 岡山

31. 寺内公一. 講演「食品 · 栄養素 · 食物由来機能性成分がミドルエイジ女性の健康パラメータに及ぼす効果について」. 健康食品セミナー 2023.08.21 web

32. 寺内公一. 特別講演「更年期女性と不眠　—その特徴と対処法について—」. 女性のためのうつと不眠セミナー in 渋谷 2023.08.09 東京

33. 寺内公一. 原発性卵巣機能不全 · 早発卵巣不全/月経前症候群. 医療教育研究所 メディカルナレッジ 2023.07.31 東京

34. 寺内公一. シンポジウム 12 グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症（ステロイド性骨粗鬆症）の管理と治療ガイドライン改訂 「妊娠可能年齢の女性に対するグルココルチコイド誘発性骨粗鬆症の予防と治療」. 第 41 回日本骨代謝学会 2023.07.29 東京

35. 寺内公一. 経口避妊薬/月経困難症. 医療教育研究所 メディカルナレッジ 2023.07.24 東京

36. 大島乃里子, 尾臺珠美, 高尾茉希, 郡悠介, 若菜公雄, 宮坂尚幸. 婦人科悪性腫瘍手術における全自己フィブリン糊の使用評価. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2023.07.15 松江

37. 郡悠介, 大島乃里子, 嶋田未知, 高尾茉希, 尾臺珠美, 若菜公雄, 宮坂尚幸. 当科で施行した初回婦人科悪性腫瘍手術における腹腔ドレーンの意義について. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2023.07.15 島根

38. 大島乃里子, 尾臺珠美, 高尾茉希, 郡悠介, 若菜公雄, 宮坂尚幸. 婦人科悪性腫瘍手術における全自己フィブリン糊の使用評価. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2023.07.15 島根

39. 高尾茉希, 大島乃里子, 郡悠介, 嶋田未知, 尾臺珠美, 若菜公雄, 宮坂尚幸, 桐村進. 子宮内膜および卵巣の重複癌におけるミスマッチ修復タンパクの免疫組織化学染色の検討. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2023.07.15 島根

40. 尾臺珠美, 郡悠介, 嶋田未知, 高尾茉希, 大島乃里子, 若菜公雄, 宮坂尚幸. 多発リンパ節転移を呈した漿液性卵管上皮内癌の 1 例. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2023.07.15 島根

41. 嶋田未知、若菜公雄、郡悠介、高尾茉希、尾臺珠美、大島乃里子、宮坂尚幸. 婦人科腫瘍として非典型的な子宮体部低分化腺癌の一例. 第 65 回婦人科腫瘍学会学術講演会 2023.07.14 松江

42. 嶋田未知, 若菜公雄, 郡悠介, 高尾茉希, 尾臺珠美, 大島乃里子, 宮坂尚幸, 加藤祐己. 婦人科腫瘍として非典型的な子宮体部低分化腺癌の一例. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2023.07.14 島根

43. 光井潤一郎. 産婦人科における一次性頭痛の診療実態調査 . 第 2 回 TMDU 産科 · 婦人科漢方セミナー 2023.07.12 東京都文京区

44. 小川和乃, 森丘千夏子, 杉江学, 伊藤一之, 羅ことい, 宮坂尚幸, 関口将軌. Gitelman 症候群が疑われた母体から出生し, 偽性 Bartter 症候群を呈した新生児の一例. 第 59 回日本周産期 · 新生児医学会 2023.07.11 愛知

45. 寺内公一. シンポジウム 10 働く女性の健康に関する非薬物的介入のシステマティックレビュー「働く女性における月経困難症 · 月経前症候群 · 更年期障害の二次予防 · 三次予防のための指針策定に関する研究開発」. 第 64 回日本心身医学会総会ならびに学術総会 2023.07.02 横浜

46. 寺内公一. ランチョンセミナー 4「更年期女性と不眠　—その特徴と対処法について—」. 第 64 回日本心身医学会総会ならびに学術総会 2023.07.01 横浜

47. 尾臺 珠美, 郡 悠介, 嶋田 未知, 高尾 茉希, 大島 乃里子, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 多発リンパ節転移を呈した漿液性卵管上皮内癌の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会プログラム · 抄録集 2023.07.01

48. 大島 乃里子, 尾臺 珠美, 高尾 茉希, 郡 悠介, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 婦人科悪性腫瘍手術における全自己フィブリン糊の使用評価. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会プログラム · 抄録集 2023.07.01

49. 嶋田 未知, 若菜 公雄, 郡 悠介, 高尾 茉希, 尾臺 珠美, 大島 乃里子, 宮坂 尚幸, 加藤 祐己. 婦人科腫瘍として非典型的な子宮体部低分化腺癌の一例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会プログラム · 抄録集 2023.07.01

50. 高尾 茉希, 大島 乃里子, 郡 悠介, 嶋田 未知, 尾臺 珠美, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸, 桐村 進. 子宮内膜および卵巣の重複癌におけるミスマッチ修復タンパクの免疫組織化学染色の検討. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会プログラム · 抄録集 2023.07.01

51. 郡 悠介, 大島 乃里子, 嶋田 未知, 高尾 茉希, 尾臺 珠美, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 当科で施行した初回婦人科悪性腫瘍手術における腹腔ドレーンの意義について. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会プログラム · 抄録集 2023.07.01

52. 大島乃里子. ロボット手術について. 第 3 回東京婦人科ロボット手術研究会 2023.07.01 東京

53. 神谷瑞希、郡悠介、大野晴子、大島乃里子、嶋田未知、高尾茉希、尾臺珠美、若菜公雄、宮坂尚幸. 胃癌 · 卵巣境界悪性腫瘍術後に FDG-PET/CT で高集積を呈し臍転移が疑われた異物肉芽種の 1 例. ダ 145 回関東連合産科婦人科学会学術集会 2023.06.17 東京

54. 神谷瑞希、郡悠介、大野晴子、大島乃里子、嶋田未知、 高尾茉希、尾臺珠美、若菜公雄、宮坂尚幸. 胃癌 · 卵巣境界悪性腫瘍術後に FDG-PET/CT で高集積を呈し, 臍転移が疑われた異物肉芽腫の 1 例. 第 145 回関東連合産科婦人科学会学術集会 2023.06.17 東京

55. 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 江川 真希子, 鳥羽 三佳代, 宮坂 尚幸. 当院における炎症性腸疾患合併妊娠の検討. 日本周産期 · 新生児医学会雑誌 2023.06.01

56. 諸隈 史香, 江川 真希子, 西垣 昌和, 浜之上 はるか, 増崎 英明, 三浦 清徳, 小林 朋子, 吉田 雅幸. 出生前検査を含む妊娠 · 出産に関する情報提供サイト「妊知る.jp」の有効性 · 使用感調査. 日本遺伝カウンセリング学会誌 2023.06.01

57. 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 江川 真希子, 鳥羽 三佳代, 宮坂 尚幸. 当院における炎症性腸疾患合併妊娠の検討. 日本周産期 · 新生児医学会雑誌 2023.06.01

58. 江川 真希子, 池田 まさみ, 斯波 真理子, 吉田 雅幸. 内科診療における女性患者の周産期歴情報に関する実態調査. 日本動脈硬化学会総会プログラム · 抄録集 2023.06.01

59. 寺内公一. 更年期障害. 医療教育研究所 メディカルナレッジ 2023.05.29 東京

60. 大島乃里子. 働く女性のからだマネジメント講座. 2023.05.29

61. 大村直輝, 大原基弘, 有地あかね, 小峰祝敏, 工藤祐輔, 永井美和子, 福島治朗, 本間進, 寺岡香里, 蓮井美帆, 竹村由里, 木寺信之, 佐々木博, 依光毅, 清水 康史, 石川智則, 河村寿宏. ヒト卵子における Centrally Located Cytoplasmic Granularity(CLCG) の有無が培養成績および臨床成績に与える影響. 第 64 回日本卵子学会学術集会 2023.05.21 茨城

62. 村形佐知, 石川智則, 野中美幸, 岩原由樹, 中筋貴史, 齊藤和毅, 有川淑恵, 宮坂尚幸. 多前核胚が多発した抗セントロメア抗体陽性の 2 症例について. 第 64 回日本卵子学会学術集会 2023.05.21 茨城

63. 大島乃里子. 女性の健康セミナー. 2023.05.15

64. 寺内公一. ランチョンセミナー 16「更年期の不眠の特徴と漢方薬の使い方」. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会 2023.05.13 東京

65. 嶋田 未知, 大島 乃里子, 高尾 茉希, 尾臺 珠美, 若菜 公雄, 吉木 尚之, 宮坂 尚幸. ロボット支援下腹腔鏡下骨盤リンパ節郭清術における術後ドレーン留置の有用性についての検討. 日本産科婦人科学会雑誌 2023.05.13

66. 尾臺 珠美, 郡 悠介, 嶋田 未知, 高尾 茉希, 大島 乃里子, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 性成熟期女性における子宮内膜異型増殖症と子宮体癌症例の臨床的検討. 日本産科婦人科学会雑誌 2023.05.13

67. 尾臺珠美, 郡悠介, 嶋田未知, 高尾茉希, 大島乃里子, 若菜公雄, 宮坂尚幸. 性成熟期女性における子宮内膜異型増殖症と子宮体癌症例の臨床的検討. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会 2023.05.13 東京

68. 大島 乃里子, 高尾 茉希, 尾臺 珠美, 若菜 公雄, 吉木 尚之, 宮坂 尚幸. ロボット支援下子宮全摘術を行った子宮体癌症例についての後方視的評価. 日本産科婦人科学会雑誌 2023.05.12 東京

69. 高尾 茉希, 大島 乃里子, 郡 悠介, 嶋田 未知, 尾臺 珠美, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 子宮内膜および卵巣に類内膜癌を同時に認めた症例の後方視的検討. 日本産科婦人科学会雑誌 2023.05.12

70. 高尾茉希, 大島乃里子, 郡悠介, 嶋田未知, 尾臺珠美, 若菜公雄, 宮坂尚幸. 子宮内膜および卵巣に類内膜癌を同時に認めた症例の後方視的検討. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会 2023.05.12 東京

71. 野中 美幸. 臨床検査技師が今後胚培養士として活躍することへの期待. 埼玉県立大学 検査管理演習 2023.05.11 埼玉県立大学

72. 藪田 薫理, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 宮坂 尚幸. 当院における無痛分娩と分娩時出血量との関連. 東京母性衛生学会誌 2023.05.01

73. 土屋 千夏, 宮坂 尚幸. 母国語以外で会話困難な初産婦の関わりから考える外国人妊婦への支援のあり方. 東京母性衛生学会誌 2023.05.01

74. 藪田 薫理, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 宮坂 尚幸. 当院における無痛分娩と分娩時出血量との関連. 東京母性衛生学会誌 2023.05.01

75. 神谷 瑞希, 郡 悠介, 大野 晴子, 大島 乃里子, 嶋田 未知, 高尾 茉希, 尾臺 珠美, 若葉 公雄, 宮坂 尚幸. 胃癌・卵巣境界悪性腫瘍術後に FDG-PET/CT で高集積を呈し, 臍転移が疑われた異物肉芽腫の 1 例. 関東連合産科婦人科学会誌 2023.05.01

76. 大島乃里子. 遺伝子パネル検査実施のタイミングと実施意義. 首都圏婦人科遺伝子パネルセミナー 2023.04.12 東京

77. 村形 佐知, 石川 智則, 野中 美幸, 岩原 由樹, 中筋 貴史, 齊藤 和毅, 有川 淑恵, 宮坂 尚幸. 多前核胚が多発した抗セントロメア抗体陽性の 2 症例について. Journal of Mammalian Ova Research 2023.04.01

78. 村形 佐知, 石川 智則, 野中 美幸, 岩原 由樹, 中筋 貴史, 齊藤 和毅, 有川 淑恵, 宮坂 尚幸. 多前核胚が多発した抗セントロメア抗体陽性の 2 症例について. Journal of Mammalian Ova Research 2023.04.01

79. 寺内公一. モーニングセミナー講演 2「天然型黄体ホルモンの HRT における役割と今後の展望」. 第 28 回日本女性医学学会ワークショップ 2023.03.18 宇都宮

80. 齊藤和毅. National database から見る ART と周産期合併症. フェリング・ファーマ株式会社主催 生殖医療専門医対象 Web live seminar 周産期合併症から ART 治療を再考する 2023.03.17 web

81. 寺内公一. Special Lecture II「女性更年期の多愁訴に対する漢方の役割」. 漢方 Symposium for Women's Health 2023.03.11 web

82. 嶋田未知、大島乃里子、髙尾茉希、郡悠介、尾臺珠美、若菜公雄、新宅洋、宮坂尚幸. 子宮体部と卵巣の類内膜癌でミスマッチ修復タンパクの染色性が異なった重複癌の 1 例. 第 404 回東京産科婦人科学会 2023.02.25 東京

83. 嶋田未知、大島乃里子、髙尾茉希、郡悠介、尾臺珠美、若菜公雄、新宅洋、宮坂尚幸. 子宮体部と卵巣の類内膜癌でミスマッチ修復タンパクの染色性が異なった重複癌の 1 例. 第 404 回東京産科婦人科学会 2023.02.25 東京

84. 石塚潤子, 持田靖子, 有川淑恵, 石川智則, 神谷尚宏, 磯田健志, 西村聡, 星野顕宏, 高木正稔, 梶原道子, 金兼弘和, 森尾友宏. 思春期の患者 · 家族の妊孕性温存療法における造血細胞移植コーディネーターによる支援. 第 45 回 日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.11 愛知

85. 大島 乃里子, 高尾 茉希, 尾臺 珠美, 若菜 公雄, 吉木 尚之, 宮坂 尚幸. ロボット支援下子宮全摘術を行った子宮体癌症例についての後方視的評価. 日本産科婦人科学会雑誌 2023.02.01

86. 嶋田 未知, 大島 乃里子, 高尾 茉希, 尾臺 珠美, 若菜 公雄, 吉木 尚之, 宮坂 尚幸. ロボット支援下腹腔鏡下骨盤リンパ節郭清術における術後ドレーン留置の有用性についての検討. 日本産科婦人科学会雑誌 2023.02.01

87. 高尾 茉希, 大島 乃里子, 郡 悠介, 嶋田 未知, 尾臺 珠美, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 子宮内膜および卵巣に類内膜癌を同時に認めた症例の後方視的検討. 日本産科婦人科学会雑誌 2023.02.01

88. 尾臺 珠美, 郡 悠介, 嶋田 未知, 高尾 茉希, 大島 乃里子, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 性成熟期女性における子宮内膜異型増殖症と子宮体癌症例の臨床的検討. 日本産科婦人科学会雑誌 2023.02.01

89. 鳥羽 三佳代, 尾林 聡, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 手術に関する事故等事案に関連する要因についての検討. 日本産科婦人科学会雑誌 2023.02.01

90. 津村 勇輝, 不殿 絢子, 廣瀬 明日香, 宮坂 尚幸. 推定胎盤体積で胎児発育が予測できるか. 日本産科婦人科学会雑誌 2023.02.01

91. 津村 勇輝, 不殿 絢子, 廣瀬 明日香, 宮坂 尚幸. 推定胎盤体積で胎児発育が予測できるか. 日本産科婦人科学会雑誌 2023.02.01

92. 寺内公一. 講義 2「女性ホルモンと脂質異常症の管理」. 健康保険組合連合会　令和 4 年度保健師 · 看護師等全国研修会 2023.01.30 web

93. 大島乃里子、高尾茉希、吉木尚之、宮坂尚幸. ロボット支援下手術後に腟壁再発した子宮体癌の 2 例. 第 11 回日本婦人科ロボット手術学会 2023.01.28

[その他業績]

1. 卵巣がん, 2023 年 02 月
   週刊女性への記事掲載

2. 【生理セルフチェックリスト】あなたの症状は大丈夫？ 20 代の「生理痛」のお悩みを、ドクターに相談, 2023 年 03 月
   ViVi への記事掲載

3. 結局ピルって何にいいの？ , 2023 年 06 月
   SPRiNG への記事掲載

4. 子宮トラブル, 2023 年 11 月
   美的への記事掲載

5. 婦人科ロボット手術　若手ワークショップ, 2023 年 11 月
   若手向け手術ワークショップ

6. 適切な妊娠中体重管理のための 大規模周産期データを用いたシミュレーションによる解析, 2023 年 12 月
   —

[社会貢献活動]

1. 産科医療補償制度　原因分析委員会 (江川真希子), 日本医療機能評価機構, 2018 年 04 月 01 日 - 現在
2. 一般社団法人日本癌治療学会（小児，思春期 · 若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドラインの改訂）委員（石川智則）, 一般社団法人日本癌治療学会, 2022 年 02 月 14 日 - 2023 年 02 月 13 日
3. 一般社団法人日本癌治療学会（小児，思春期 · 若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドラインのシステマティックレビュー) 委員 (中筋貴史）, 一般社団法人日本癌治療学会, 2022 年 02 月 14 日 - 2023 年 02 月 13 日
4. 一般社団法人日本癌治療学会（小児，思春期 · 若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドラインのシステマティックレビュー）委員　(齊藤和毅), 一般社団法人日本癌治療学会, 2022 年 02 月 14 日 - 2023 年 02 月 13 日
5. 「更年期と頭痛の関係」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 01 月 12 日
6. 女性の更年期に ついて（寺内公一）, 日経 BP, 日経 Gooday（グッデイ）, 2023 年 01 月 19 日
7. 妊婦および新生児臍帯静脈血における百日咳菌抗体保有率の評価について, メディカルトリビューン, メディカルトリビューンウェブ、医学界新聞, 2023 年 02 月 08 日
8. 「更年期と骨粗鬆症の関係」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 02 月 09 日
9. 更年期障害について（寺内公一）, 日本アルトマーク, ファーマスタイル, 2023 年 02 月 10 日
10. 生殖医療ガイドライン (改訂版）執筆（齊藤和毅） , 一般社団法人　日本生殖医学会, 2023 年 03 月 - 現在
11. 「女性ホルモンと脂質異常症について」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 03 月 09 日
12. 東京都がん対策推進協議会 AYA 世代がんワーキンググループ 委員 (石川智則), 東京都, 2023 年 03 月 09 日 - 2024 年 07 月 31 日
13. レコベル座談会　周産期合併症から ART 治療を再考する (齊藤和毅), フェリング · ファーマ株式会社, レコベル座談会　周産期合併症から ART 治療を再考する, 第一ホテル東京, 2023 年 03 月 23 日
14. 「更年期と認知機能の関係」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 04 月 13 日
15. 「LDL コレステロール値と女性ホルモンの関係＜前編＞」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 05 月 09 日
16. 「更年期とシミ、シワ、たるみについて」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 05 月 11 日
17. 産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編 2026 作成委員会　委員（齊藤和毅） , 公益社団法人　日本産科婦人科学会, 2023 年 05 月 17 日 - 2026 年 06 月 25 日
18. 「太らない」ために必要なこと（寺内公一） , NHK, あしたが変わるトリセツショー, 2023 年 05 月 22 日
19. 保険診療を踏まえた生殖医療リスクマネージメントに関する小委員会：委員（齊藤和毅） , 公益社団法人日本産科婦人科学会, 2023 年 06 月 - 2025 年
20. 本邦における多嚢胞性卵巣症候群の治療指針の検証に関する小委員会：委員（齊藤和毅） , 公益社団法人日本産科婦人科学会, 2023 年 06 月 - 2025 年
21. 「閉経後に増える膀胱炎の原因と対策について」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 06 月 08 日
22. 大豆成分「ゲニステイン」の解説について（寺内公一）, キッコーマン · ニュートリケアジャパン, オトナサローネ, 2023 年 06 月 12 日
23. 「LDL コレステロール値と女性ホルモンの関係＜後編＞」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 06 月 14 日

24. 高齢女性対策【認知症へのリスクを上げる閉経】について, さくら舎, 単行本書籍（46 判並製）, 2023 年 07 月 10 日
25. 「専門医に聞く、ホットフラッシュの原因と対処法」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 07 月 11 日
26. 「更年期と疲労感 · 倦怠感について」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 07 月 13 日
27. 「女性の不眠　更年期障害」（寺内公一）, ウェブサイト「相談 e-眠り」, 2023 年 07 月 24 日
28. 「ホットフラッシュと不眠には深い関係が？」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 08 月 15 日
29. 「更年期と食欲不振について」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 08 月 17 日
30. 骨粗しょう症について（寺内公一）, 有限会社ヴィット , オーガワールド, 2023 年 08 月 30 日 - 現在
31. 「女性の健康と社会　院内シンポジウム」（寺内公一）, 株式会社 PoliPoli, 女性の健康と社会　院内シンポジウム, 衆議院第二議員会館, 2023 年 09 月 04 日
32. 「ホットフラッシュの治療法。薬、心理療法、セルフケアの注意点」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 09 月 12 日
33. 「更年期は高血圧になりやすい？　対策も紹介！」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 09 月 14 日
34. 「更年期はいつからいつまで？ 治療法やサプリの飲み方は？」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 10 月 10 日
35. 「更年期障害は何歳から？　代表的な症状と原因を解説！」（寺内公一）, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2023 年 10 月 12 日
36. 若い世代が直面する更年期症状について, ＮＨＫ, ニュースウォッチ９ · ニュースウェブ, 2023 年 10 月 19 日
37. 「20 代 30 代で直面する更年期障害」, NHK, NHK WEB NEWS, 特集「医療 · 健康」, 2023 年 10 月 20 日

腎泌尿器外科学

Urology

教授: 藤井 靖久
准教授: 吉田 宗一郎
講師: 田中 一, 早稲田 悠馬（保険医療管理部講師）, 福田 翔平
助教: 石川 雄大, 中村 祐基, 藤原 基裕, 小林 正貴, 范 博, 吉富 香澄
医員: 松本 峻弥, 安嶋 陸人, 伊東 翼, 木村 知希, 鈴木 広太郎, 漆戸 まどか
レジデント: 田中 大樹, 長谷川 滉

(1) 分野概要

泌尿器科学は、悪性腫瘍（癌）、前立腺肥大症などの排尿障害、副腎腫瘍などの内分泌学、尿路結石、腎機能異常、泌尿器放射線学、神経泌尿器科、男性科、小児泌尿器科、女性泌尿器科、尿路感染、尿路外傷など広い領域を扱っている学問である。日本を筆頭に世界で超高齢社会が急速に進行しており、これに対応した医療の開発は世界の最重要課題の一つと考える。私たちは、超高齢社会にも対応した High quality, Affordable cost の医療の開発 · 実践を主な目標にしている。先端型ミニマム創内視鏡下手術、筋層浸潤膀胱癌に対する四者併用膀胱温存療法、筋層非浸潤膀胱癌の予後予測モデル、小径腎腫瘍の悪性良性の鑑別診断モデル、前立腺癌に対する部分小線源治療など多くのオリジナルな医療を開発、実践している。同時に、世界の標準的医療を提供することも重要で、MRI-超音波弾性融合画像ガイド下前立腺生検、主要な泌尿器科疾患に対するロボット支援手術、前立腺肥大症に対する新規低侵襲治療 (ツリウムレーザー前立腺蒸散術、ウロリフト) などの先端的検査、手術も積極的に導入、施行している。

(2) 研究活動

現在は、悪性腫瘍、画像診断、実践的バイオマーカーの開発を中心に臨床研究、基礎研究を行っている。研究は臨床と車の両輪をなすもので、臨床に立脚した研究を行うことによって臨床能力がより深められると確信している。具体的には、炭酸ガスを使用しない低侵襲手術であるミニマム創内視鏡下泌尿器手術、筋層浸潤膀胱癌に対する低侵襲 · 根治的膀胱温存療法、腫瘍の位置や画像所見を組み込んだ筋層非浸潤膀胱癌の予後予測モデル、根治性を損なうことなく性機能を維持できる密封小線源治療を用いた前立腺部分治療、腎血流を遮断しない無阻血腎部分切除、などのオリジナルな医療の開発、実践を進める。画像診断では、泌尿器科癌における拡散強調 MRI、全身 MRI の有用性を示してきたが、最近は人工知能（AI）や複合現実技術 (Mixed reality) のテクノロジーを導入し成果を上げている。泌尿器腫瘍のバイオマーカーとしての CRP についても多くの研究成果がある。また悪性腫瘍手術と腎機能を含めた機能学的アウトカムに関しても多くの新知見を見出している。
基礎研究では、“Bed to Bench, feedback to Bed”をモットーに、臨床の課題を克服するような研究を目指している。現在、尿路上皮癌の化学放射線療法における基礎的バイオマーカー開発、免疫チェックポイント阻害剤の基礎的バイオマーカー開発、耐性のメカニズム解明とその耐性克服などをテーマにした研究を行っている.

(3) 教育方針

腎泌尿器外科学講座の卒前卒後教育の目標は、高い倫理性を持ちかつ高度の医学知識と医療技術を身につけた泌尿器科専門医を育てることにあり、その中から臨床医学の教育研究者としての資質を備えた人材が育つことを期待している。卒前教育は基礎的な解剖、生理、病理の知識を土台として患者の訴える病状と徴候を把握する能力を養い、それに基づいて必要な検査を行い、そこで得た事実を体系づけて診断にいたる、問題解決型の思考を身につけ、これらの過程に必要な知識のネットワークを作ることを目的としている。
卒後教育、特に後期研修では、まずは泌尿器科学一般の知識と技術を身につけ、倫理性と責任感を養い、さらに国際性を高めることを目的とした 4 年間の研修を行う。私たちのプログラムでは、充実した連携施設を有しており、

質、量ともに充実した研修が受けられる。例えば、ロボット支援手術（ダビンチ手術）は、基幹施設である東京医科歯科大学病院を初め、４つのがんセンター（がん研究会有明病院、がん・感染症センター都立駒込病院、国立がん研究センター東病院、埼玉県立がんセンター）、６つの地域の中核病院（土浦協同病院、JA とりで総合医療センター、さいたま赤十字病院、公立昭和病院、多摩南部地域病院、草加市立病院）で実施している。三次救急を担う地域中核病院が３施設（公立昭和病院、さいたま赤十字病院、土浦協同病院）あり、また都立大塚病院での尿路結石治療など、それぞれの病院で特徴的で先進的な診療を行っている。
その後は泌尿器学の各専門分野領域に踏み込んだ臨床研修を行うとともに、その何れかの領域におけるテーマについて研究を行う。大学病院、大学院、関連病院、国内研究施設において研鑽し、この時期を経て海外施設への留学を行う。

(4) 臨床上の特色

「患者さん・社会に役に立つ新規医療を開発し、世界に発信すること 」を目標とし、泌尿器科臨床の多くで世界トップレベルの医療を提供できる診療体制をとっている。世界標準の先端的手術であるロボット支援手術や腹腔鏡下仙骨膣固定術に加え、泌尿器腫瘍に対する先端的ミニマム創内視鏡下手術、筋層浸潤膀胱癌に対するテトラモダリティー膀胱温存療法、腎癌に対する無阻血腎部分切除など新規医療の開発を行なっており、その高い有用性を示している。国際標準的な治療を重視する原則を守りながら、先端技術を駆使した方法を開発実用化し、従来の治療の壁をこえて治療成績を向上させる努力を続けている。オリジナルな先進的医療の例を挙げる。
●先端的ミニマム創内視鏡下泌尿器手術
●筋層浸潤性膀胱癌に対する四者併用膀胱温存療法（経尿道的膀胱腫瘍切除+導入化学放射線療法+膀胱部分切除）
●無阻血腎部分切除
●限局性前立腺癌に対する前立腺部分治療
●血清 CRP 値の泌尿器癌予後予測マーカーおよび手術侵襲マーカーとしての応用
●小径腎腫瘍および前立腺癌に対する精緻な画像診断の確立
● MRI-超音波融合画像前立腺標的針生検
●拡散強調 MRI 検査の臨床応用

(5) 研究業績

[原著]

1. Matsuoka Y, Ueno Y, Uehara S, Tanaka H, Kobayashi M, Tanaka H, Yoshida S, Yokoyama M, Kumazawa I, Fujii Y. Deep-learning prostate cancer detection and segmentation on biparametric versus multiparametric magnetic resonance imaging: Added value of dynamic contrast-enhanced imaging. International journal of urology : official journal of the Japanese Urological Association. 2023.12; 30(12); 1103-1111

2. Wei Chen, Minato Yokoyama, Yuma Waseda, Masaki Kobayashi, Bo Fan, Shohei Fukuda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Masumi Ai, Kiyohide Fushimi, Yasuhisa Fujii. Surgical outcomes of robot-assisted radical cystectomy in octogenarian or older patients: A Japanese nationwide study. Int J Urol. 2023.11; 30(11); 1014-1019

3. Ohba K, Monji K, Osawa T, Yamana K, Yasuda Y, Tanaka H, Nakagawa Y, Fukuyama T, Matsubara N, Uemura H, Sakai H, Eto M. Comprehensive investigation of clinicopathological and immunological features to determine prognostic impact in metastatic renal cell carcinoma: The JEWEL study. International journal of urology : official journal of the Japanese Urological Association. 2023.11; 30(11); 977-984

4. Sazuka T, Matsushita Y, Sato H, Osawa T, Hinata N, Hatakeyama S, Numakura K, Ueda K, Kimura T, Takahashi M, Tanaka H, Kawasaki Y, Kurahashi T, Kato T, Fujita K, Miyake M, Kojima T, Kitamura H, Miyake H, Ichikawa T. Efficacy and safety of second-line cabozantinib after immuno-oncology combination therapy for advanced renal cell carcinoma: Japanese multicenter retrospective study. Scientific reports. 2023.11; 13(1); 20629

5. Kataoka M, Yokoyama M, Waseda Y, Ito M, Kobayashi M, Fujiwara M, Nakamura Y, Ishikawa Y, Fukuda S, Tanaka H, Yoshida S, Masuda H, Fujii Y. Longitudinal deterioration in lower urinary tract symptoms after artificial urinary sphincter implantation in patients with a history of pelvic radiation therapy. Lower urinary tract symptoms. 2023.11;

6. Fujiwara M, Tanaka H, Kobayashi M, Nakamura Y, Fan B, Ishikawa Y, Fukuda S, Toda K, Yoshida S, Yokoyama M, Yoshimura R, Fujii Y. Neoadjuvant Chemoradiotherapy Followed by Radical Cystectomy for Muscle-Invasive Bladder Cancer: Analysis of Efficacy and Safety in 119 Patients. Clinical genitourinary cancer. 2023.11;

7. Yudai Ishikawa, Hajime Tanaka, Motohiro Fujiwara, Yuki Nakamura, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Soichiro Yoshida, Minato Yokoyama, Yasuhisa Fujii. Incidence and predictors of intraoperative hypotension during transurethral bladder tumor resection with oral 5-aminolevulinic acid. Int J Urol. 2023.11;

8. Fan B, Yokoyama M, Kobayashi M, Nakamura Y, Fujiwara M, Ishikawa Y, Fukuda S, Waseda Y, Tanaka H, Yoshida S, Fujii Y. Incidence, risk factors, and significance of 20% decrease from new baseline estimated glomerular filtration rate after radical and partial nephrectomy within 2〓years. International journal of urology : official journal of the Japanese Urological Association. 2023.10;

9. Takahiro Osawa, Mototsugu Oya, Tohru Okanishi, Ryohei Kuwatsuru, Haruna Kawano, Yoshihiko Tomita, Yo Niida, Norio Nonomura, Takashi Hatano, Yasuhisa Fujii, Masashi Mizuguchi, Nobuo Shinohara. Clinical Practice Guidelines for tuberous sclerosis complex-associated renal angiomyolipoma by the Japanese Urological Association: Summary of the update. Int J Urol. 2023.10; 30(10); 808-817

10. Arita Y, Kwee TC, Woo S, Shigeta K, Ishii R, Okawara N, Edo H, Waseda Y, Vargas HA. Biparametric versus Multiparametric Magnetic Resonance Imaging for Assessing Muscle Invasion in Bladder Urothelial Carcinoma with Variant Histology Using the Vesical Imaging-Reporting and Data System. European urology focus. 2023.08;

11. Julia H Yuan, Hajime Tanaka, Dattatraya Patil, Kevin Hakimi, Shady Soliman, Margaret F Meagher, Ava Saidian, Arman Walia, Sohail Dhanji, Franklin Liu, Jonathan Afari, Mimi Nguyen, Luke Wang, Yosuke Yasuda, Kazutaka Saito, Yasuhisa Fujii, Viraj Master, Ithaar H Derweesh. Age-Related Differences in Oncological Outcomes in Renal Cell Carcinoma: Impact of Functional Conservation as Measured by Postoperative eGFR. Clin Genitourin Cancer. 2023.08; 21(4); e219-e227

12. Yoshida Soichiro, Takahara Taro, Tanaka Hajime, Yokoyama Minato, Yoshimura Ryoichi, Fujii Yasuhisa. The role of prostate-specific antigen changes in predicting overall survival after progressive-site directed therapy for oligoprogressive castration-resistant prostate cancer International Journal of Urology. 2023.07; 30(7); 616-617

13. Soma Takahiko, Yoshida Soichiro, Wakejima Ryo, Taguchi Towako, Fukuda Shohei, Tanaka Hajime, Yokoyama Minato, Ohashi Kenichi, Okubo Kenichi, Fujii Yasuhisa. 肺転移切除術を施行した repeat oligoprogressive CRPC の 1 例 (A case of repeat oligoprogressive castration-resistant prostate cancer treated with pulmonary metastasectomy) IJU Case Reports. 2023.07; 6(4); 216-218

14. Takahiro Osawa, Yasuhisa Fujii, Go Kimura, Hiroshi Kitamura, Yoji Nagashima, Sakura Iizumi, Tsuyoshi Osaka, Ryoichi Tsubouchi, Nobuo Shinohara. Electronic patient-reported outcome (e-PRO) monitoring for adverse event management during cabozantinib treatment in patients with advanced renal cell carcinoma: protocol for a three-arm, randomised, multicentre phase II trial (e-PRO vs paper-PRO or usual care). BMJ Open. 2023.07; 13(7); e070275

15. Yonese I, Ito M, Waseda Y, Kobayashi S, Toide M, Takazawa R, Koga F. Impact of diagnostic ureteral catheterization on intravesical tumour recurrence following radical nephroureterectomy for upper tract urothelial carcinoma. World journal of urology. 2023.06;

16. Yamaguchi Y, Tanaka H, Kimura K, Fukuda S, Fukushima H, Waseda Y, Yoshida S, Yokoyama M, Hirakawa A, Tateishi U, Campbell SC, Fujii Y. Prognostic impact of the radiological infiltrative feature of primary renal tumor in metastatic renal cell carcinoma. International journal of urology : official journal of the Japanese Urological Association. 2023.06;

17. Hisamitsu Ide, Yuko Akehi, Shinichiro Fukuhara, Shin Ohira, Sumito Ogawa, Tomoya Kataoka, Hiroshi Kumagai, Ko Kobayashi, Akira Komiya, Kazuyoshi Shigehara, Takahiro Syuto, Jintetu Soh, Makito Tanabe, Hisanori Taniguchi, Koji Chiba, Kazuhito Matsushita, Yozo Mitsui, Takahiro Yoneyama, Tomoya Shirakawa, Yasuhisa Fujii, Hiroaki Kumano, Hajime Ueshiba, Toshiyasu Amano, Haruaki Sasaki, Seiji Maeda, Atsushi Mizokami, Kazuhiro Suzuki, Shigeo Horie. Summary of the clinical practice manual for late-onset hypogonadism. Int J Urol. 2023.05; 30(5); 422-430

18. Kimura K, Yoshida S, Tsuchiya J, Kitazume Y, Waseda Y, Tanaka H, Yokoyama M, Toda K, Yoshimura R, Masaya I, Koga F, Tateishi U, Fujii Y. Novel utility of Vesical Imaging-Reporting and Data System in multimodal treatment for muscle-invasive bladder cancer. European radiology. 2023.04;

19. Tamiya T, Takazawa R, Uchida Y, Waseda Y, Kobayashi M, Fuse H. Stone-event-free survival after ureteroscopic lithotripsy by age: comparison between young and older patients. Urolithiasis. 2023.04; 51(1); 74

20. Uchida Y, Yokoyama M*, Fujiwara M, Nakamura Y, Ishikawa Y, Fukuda S, Waseda Y, Tanaka H, Yoshida S, Fujiwara T, Fujii Y. Preservation of erectile and ejaculatory functions after tetramodal bladder-sparing therapy incorporating consolidative partial cystectomy against muscle invasive bladder cancer. Urology Research and Practice. 2023.04;

21. Toshiki Kijima, Shohei Fukuda, Hiroshi Fukushima, Sho Uehara, Yosuke Yasuda, Soichiro Yoshida, Minato Yokoyama, Yoh Matsuoka, Kazutaka Saito, Yasuhisa Fujii. The role of multimodal salvage therapy in the management of recurrent adrenocortical carcinoma. Jpn J Clin Oncol. 2023.04; 53(5); 436-442

22. Wei Chen, Minato Yokoyama, Masaki Kobayashi, Bo Fan, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Masumi Ai, Kiyohide Fushimi, Norio Nonomura, Yasuhisa Fujii. Trends of radical cystectomy and comparisons of surgical outcomes among surgical approaches focusing on robot-assisted radical cystectomy: A Japanese nationwide database study. Int J Urol. 2023.03; 30(3); 258-263

23. Fujiwara Motohiro, Yokoyama Minato, Toide Masahiro, Fujiwara Ryo, Tanaka Hajime, Oguchi Tomohiko, Komai Yoshinobu, Yoshida Soichiro, Matsuoka Yoh, Numao Noboru, Yamamoto Shinya, Fukui Iwao, Yonese Junji, Fujii Yasuhisa. 筋層浸潤性膀胱癌患者に対する最大限の経尿道的切除術、導入化学放射線療法、地固め部分膀胱切除術からなる選択的 4 者併用膀胱温存療法後の腎機能転帰と根治的膀胱全摘術後の腎機能転帰との比較　2 施設後ろ向き研究 (Renal function outcome after selective bladder-preserving tetramodality therapy consisting of maximal transurethral resection, induction chemoradiotherapy and consolidative partial cystectomy in comparison with radical cystectomy for patients with muscle-invasive bladder cancer: a two-centre retrospective study) Japanese Journal of Clinical Oncology. 2023.03; 53(3); 263-269

24. Hata C, Fukawa Y, Motoi T, Kinowaki Y, Akashi T, Ohashi K, Ishikawa Y, Waseda Y, Fujii Y, Kakuta R, Ikeda S, Onishi I. A Primary Kidney Giant Cell Tumor of Soft Tissue Caused Peritoneal Dissemination, Considered to Be Malignant Transformation: A Case Report. Diagnostics (Basel, Switzerland). 2023.02; 13(4);

25. Nguyen MV, Walia A, Saidian A, Puri D, Meagher MF, Hakimi K, Tanaka H, Patil D, Yasuda Y, Saito K, Dhanji S, Cerrato C, Narasimhan R, Perry J, Master V, Fujii Y, Derweesh IH. Impact of worsening surgically induced chronic kidney disease (CKD-S) in preoperative CKD-naïve patients on survival in renal cell carcinoma. BJU international. 2023.02; 131(2); 219-226

1. Kaneko Hiroki, Fujiwara Motohiro, Tanaka Hajime, Kimura Koichiro, Yoshida Soichiro, Fujii Yasuhisa. Texture feature analysis using dynamic computed tomography for preoperative risk stratification in upper urinary tract urothelial carcinoma INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY. 2023.07;

2. Soma Takahiko, Fukuda Shohei, Matsuyama Yusuke, Ikeda Riko, Inoue Masaharu, Waseda Yuma, Tanaka Hajime, Yoshida Soichiro, Yokoyama Minato, Matsuoka Yoh, Fujiwara Takeo, Kageyama Yukio, Fujii Yasuhisa. Peritoneal closure and the processus vaginalis transection method to prevent inguinal hernia after robot-assisted radical prostatectomy INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY. 2023.06; 30(6); 532-538

3. Fujiwara Motohiro, Yoshida Soichiro, Takahara Taro, Soma Takahiko, Nakamura Yuki, Ishikawa Yudai, Fukuda Shohei, Waseda Yuma, Tanaka Hajime, Yokoyama Minato, Fujii Yasuhisa. Prostate and metastasis diffusion volume based on apparent diffusion coefficient as a prognostic factor in Hormone-naive prostate Cancer CLINICAL & EXPERIMENTAL METASTASIS. 2023.04; 40(2); 187-195

4. Yoshida Soichiro, Takahara Taro, Arita Yuki, Ito Masaya, Hayakawa Sara, Oguchi Tomohiko, Komai Yoshinobu, Numao Noboru, Yuasa Takeshi, Inoue Masaharu, Ushijima Hiroki, Kudo Shigehiro, Shimano Yasumasa, Nakamura Yuki, Uchida Yusuke, Uehara Sho, Tanaka Hajime, Yaegashi Hiroshi, Izumi Kouji, Yokoyama Minato, Matsuoka Yoh, Yoshioka Yasuo, Konishi Koji, Nakanishi Katsuyuki, Nagahara Akira, Hirakawa Akihiro, Koike Ryuji, Koga Fumitaka, Nishimura Kazuo, Mizokami Atsushi, Yonese Junji,

Kageyama Yukio, Yoshimura Ryoichi, Fujii Yasuhisa. A phase II randomized trial of metastasis-directed therapy with alpha emitter radium-223 in men with oligometastatic castration-resistant prostate cancer (MEDAL) BMC UROLOGY. 2023.03; 23(1); 33

5. 石川 雄大, 上原 翔, 中村 祐基, 内田 裕將, 福田 翔平, 田中 一, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 松岡 陽, 藤井 靖久. アミノレブリン酸使用下における経尿道的膀胱腫瘍切除　術中低血圧の頻度と予測因子の検討 日本腎泌尿器疾患予防医学研究会誌. 2023.03; 31(1); 47-49

6. Nakamura Y., Yoshida S., Arita Y., Takeshita R., Kimura K., Aida Y., Asai S., Maezawa Y., Yoshitomi K., Chen W., Soma T., Kobayashi M., Fujiwara M., Fan B., Ishikawa Y., Fukuda S., Waseda Y., Tanaka H., Yokoyama M., Jinzaki M., Fujii Y.. Can we avoid second transurethral resection according to VI-RADS score in patients with high-risk non-muscle-invasive bladder cancer? EUROPEAN UROLOGY. 2023.02; 83; S854

7. Tanaka Hajime, Fukuda Shohei, Kimura Koichiro, Fukawa Yuki, Yamamoto Kouhei, Fukushima Hiroshi, Moriyama Shingo, Yasuda Yosuke, Uehara Sho, Waseda Yuma, Yoshida Soichiro, Yokoyama Minato, Matsuoka Yoh, Saito Kazutaka, Tateishi Ukihide, Campbell Steven C., Fujii Yasuhisa. Defining Tumour Shape Irregularity for Preoperative Risk Stratification of Clinically Localised Renal Cell Carcinoma EUROPEAN UROLOGY OPEN SCIENCE. 2023.02; 48; 36-43

8. Kaneko H., Kimura K., Tanaka H., Chen W., Yoshitomi K., Soma T., Kobayashi M., Fujiwara M., Nakamura Y., Fan B., Ishikawa Y., Fukuda S., Waseda Y., Yoshida S., Yokoyama M., Fujii Y.. Radiomics analysis using dynamic computed tomography for preoperative risk stratification in upper urinary tract urothelial carcinoma EUROPEAN UROLOGY. 2023.02; 83; S711-S712

9. Tanaka H., Fukawa Y., Yamamoto K., Tanimoto K., Takemoto A., Hasumi H., Hirakawa A., Ishikawa Y., Fukuda S., Waseda Y., Yoshida S., Yokoyama M., Campbell S. C., Fujii Y.. Renal parenchymal infiltration or micronodular spread in non-metastatic clear cell renal cell carcinoma: Prognostic impact and genomic backgrounds EUROPEAN UROLOGY. 2023.02; 83; S668-S669

10. Kobayashi M., Matsuoka Y., Fukuda S., Kimura K., Fujiwara M., Nakamura Y., Ishikawa Y., Waseda Y., Tanaka H., Yoshida S., Yokoyama M., Fujii Y.. Significance of MRI-ultrasound fusion targeted prostate biopsy for non-index PI-RADS $>=3$ lesions in combination with index lesion-targeted biopsy and systematic biopsy EUROPEAN UROLOGY. 2023.02; 83; S236-S237

11. Yoshida Soichiro, Takahara Taro, Arita Yuki, Toda Kazuma, Kimura Koichiro, Fujiwara Motohiro, Tanaka Hajime, Yokoyama Minato, Matsuoka Yoh, Yoshimura Ryoichi, Fujii Yasuhisa. Patterns of recurrence in genuine and induced oligometastatic castration-resistant prostate cancer treated with progressive site-directed therapy INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY. 2023.02; 30(2); 204-210

12. 早稲田 悠馬, 藤井 靖久. 【まとめて解説!糖尿病と泌尿器疾患】糖尿病と泌尿器がん　泌尿器がん診療における血糖コントロールの必要性 泌尿器外科. 2023.01; 36(1); 25-31

13. Mizuno Yuki, Yoshida Soichiro, Okamoto Kentaro, Fujii Yasuhisa. Utility of an endoscopic image processing system for framing laparoscopic images using surgeon's gaze point and voice commands during laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure of inguinal hernia in children VIDEOSURGERY AND OTHER MINIINVASIVE TECHNIQUES. 2023; 18(2); 372-377

[総説]

1. 小林正貴、松岡陽、藤井靖久. MRI/US fusion 前立腺生検の適応と実際 泌尿器外科. 2023.05; 36(5); 383-387

1. 田中 一、藤井 靖久. 【泌尿器科腫瘍の監視療法のすべて】小径腎癌に対する監視療法 泌尿器外科. 2023.11; 36(11); 1190-1195

2. 福田 翔平, 田中 一, 藤井 靖久. 【腎癌薬物療法を極める】イピリムマブ+ニボルマブ併用療法を極める 泌尿器外科. 2023.07; 36(7); 599-605

3. 田中 一. 【どこまで変わるの?　腎細胞癌診療の進歩】手術療法　Cytoreductive nephrectomy の現状 臨床泌尿器科. 2023.04; 77(5); 348-354

4. 田中 一, 藤井 靖久. 【最新版!　筋層浸潤性膀胱癌の診断と治療-アンメットニーズはどこまで埋まったか】治療　筋層浸潤性膀胱癌に対する膀胱温存療法 臨床泌尿器科. 2023.03; 77(3); 250-256

5. 田中 一. 【IO 時代における転移性腎癌に対する局所治療を考える】腫瘍減量腎摘除　upfront CN の適応は? 泌尿器外科. 2023.02; 36(2); 99-105

[講演 · 口頭発表等]

1. 松本 峻弥, 福田 翔平, 吉富 香澄, 范 博, 小林 正貴, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 古賀 文隆, 影山 幸雄, 藤井 靖久. コロナ禍における膀胱全摘除術前患者に対するオストミービジター遠隔面談の取り組み. 日本癌治療学会学術集会抄録集 2023.10.01

2. 田中 一, 藤原 基裕, 吉富 香澄, 小林 正貴, 中村 祐基, 范 博, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 吉田 宗一郎, 吉村 亮一, 藤井 靖久. 筋層浸潤性膀胱癌に対する膀胱温存療法の至適対象の探索　膀胱切除検体を用いた検討. 日本癌治療学会学術集会抄録集 2023.10.01

3. 陳 煒. Surgical outcomes of robot-assisted radical cystectomy in octogenarian or older patients: a Japanese nationwide study. 第 110 回日本泌尿器科学会総会 2023.04.22

4. 浅井 真太郎. Significance of atypical nodules upgraded to category 3 by abnormal DWI finding in PI-RADS version 2.1 for prostate cancer diagnosis. 第 110 回日本泌尿器科学会総会 2023.04.21

5. 吉田 宗一郎 . Patterns of recurrence in genuine and induced oligometastatic castration-resistant prostate cancer treated with progressive site-directed therapy. 第 110 回日本泌尿器科学会総会 2023.04.20

6. 小林 正貴. Value of MRI-ultrasound fusion targeted prostate biopsy for non-index lesions in combination with index lesion- targeted biopsy and systematic biopsy. 第 110 回日本泌尿器科学会総会 2023.04.20

7. 田中 一. Renal parenchymal infiltration or micronodular spread in clear cell renal cell carcinoma: prognostic impact and genomic backgrounds. 第 110 回日本泌尿器科学会総会 2023.04.20

8. 范 博 . ”Distribution of urinary diversion and surgical outcomes of robot-assisted radical cystectomy: a Japanese nationwide database study”. 第 110 回日本泌尿器科学会総会 2023.04.20

9. Yoshida Souichirou, Takahara Taro, Arita Yuki, Toda Kazuma, Kimura Koichiro, Fujiwara Motohiro, Tanaka Hajime, Yokoyama Minato, Matsuoka Yoh, Yoshimura Ryoichi, Fujii Yasuhisa. Patterns of recurrence in genuine and induced oligometastatic castration-resistant prostate cancer treated with progressive site-directed therapy(タイトル和訳中). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

10. Fujiwara Motohiro, Yoshida Soichiro, Takahara Taro, Soma Takahiko, Yoshitomi Kasumi, Nakamura Yuki, Fan Bo, Ishikawa Yudai, Fukuda Shohei, Waseda Yuma, Tanaka Hajime, Yokoyama Minato, Fujii Yasuhisa. Prostate and Metastasis Diffusion Volume Based on Apparent Diffusion Coefficient as a Prognostic Factor in Hormone-naieve Prostate Cancer(タイトル和訳中). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

11. Fukuda Shohei, Saito Kazutaka, Nakayama Akinori, Inoue Masaharu, Tanaka Hajime, Ito Masaya, Numao Noboru, Yuasa Takeshi, Koga Fumitaka, Yonese Junji, Kageyama Yukio, Fujii Yasuhisa. Significance of C-reactive protein flare-response in patient with metastatic renal cell carcinoma treated with first-line immuno-oncology combination therapy(タイトル和訳中). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

12. 前澤 祐弥, 福田 翔平, 中山 哲成, 井上 雅晴, 田中 一, 伊藤 将也, 沼尾 昇, 湯浅 健, 古賀 文隆, 齋藤 一隆, 米瀬 淳二, 影山 幸雄, 藤井 靖久. 転移性腎細胞癌に対するカボザンチニブの治療効果および有害事象におけるカボザンチニブ開始用量に関する検討 (Evaluation of efficacy and toxicity between full and reduced starting dose of cabozantinib in patients with metastatic renal cell carcinoma). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

13. 石川 雄大, 福田 翔平, 田中 一, 井上 雅晴, 伊藤 将也, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 沼尾 昇, 古賀 文隆, 湯浅 健, 米瀬 淳二, 影山 幸雄, 藤井 靖久. 転移性腎細胞癌に対する一次免疫チェックポイント阻害薬複合治療における血清アルブミン値による早期 PD の予測 (Impact of serum albumin level on initial progressive disease in metastatic renal cell carcinoma treated with first-line immuno-oncology combination therapy). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

14. 相馬 貴彦, 吉田 宗一郎, 吉富 香澄, 小林 正貴, 范 博, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 横山 みなと, 藤井 靖久. CRPC の予後予測因子としての ADC 値を考慮した腫瘍体積の検討 (Tumor diffusion volume according to apparent diffusion coefficient values as a prognostic factor for castration-resistant prostate cancer). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

15. Waseda Yuma, Yokoyama Minato, Yoshitomi Kasumi, Souma Takahiko, Kobayashi Masaki, Fan Bo, Fujiwara Motohiro, Nakamura Yuki, Ishikawa Yudai, Fukuda Shohei, Tanaka Hajime, Yoshida Souichirou, Fujii Yasuhisa. Longitudinal evaluation of lower urinary tract symptoms after artificial urinary sphincter implantation using the core lower urinary tract symptom score(タイトル和訳中). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

16. 小林 正貴, 松岡 陽, 福田 翔平, 木村 浩一郎, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 藤井 靖久. MRI/超音波融合画像ガイド下前立腺生検における non-index PI-RADS ≧ 3 病変への標的生検追加の意義 (Value of MRI-ultrasound fusion targeted prostate biopsy for non-index lesions in combination with index lesion-targeted biopsy and systematic biopsy). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

17. 浅井 真太郎, 小林 正貴, 福田 翔平, 木村 浩一郎, 范 博, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 藤井 靖久. PI-RADS version 2.1 における著明な拡散制限を有する atypical nodule の category 3 へのアップグレードの妥当性 (Significance of atypical nodules upgraded to category 3 by abnormal DWI finding in PI-RADS version 2.1 for prostate cancer diagnosis). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

18. Fujiwara Motohiro, Yoshida Soichiro, Takahara Taro, Soma Takahiko, Yoshitomi Kasumi, Nakamura Yuki, Fan Bo, Ishikawa Yudai, Fukuda Shohei, Waseda Yuma, Tanaka Hajime, Yokoyama Minato, Fujii Yasuhisa. Prostate and Metastasis Diffusion Volume Based on Apparent Diffusion Coefficient as a Prognostic Factor in Hormone-naieve Prostate Cancer(タイトル和訳中). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

19. Nakamura Yuki, Fujiwara Motohiro, Ishikawa Yudai, Fukuda Shohei, Waseda Yuma, Tanaka Hajime, Yoshida Soichiro, Yokoyama Minato, Fujii Yasuhisa. Significance of adrenal metastasectomy based on classification of oligometastasis(タイトル和訳中). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

20. Chen Wei, Yokoyama Minato, Waseda Yuma, Kobayashi Masaki, Fan Bo, Fukuda Shohei, Tanaka Hajime, Yoshida Soichiro, Ai Masumi, Fushimi Kiyohide, Fujii Yasuhisa. Surgical outcomes of robot-assisted radical cystectomy in octogenarian or older patients: a Japanese nationwide study(タイトル和訳中). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

21. 范 博, 横山 みなと, Chen Wei, 小林 正貴, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 藍 真澄, 伏見 清秀, 藤井 靖久. ロボット支援膀胱全摘除における尿路変向の割合および尿路変向ごとの手術成績　DPC データベースによる全国調査 (Distribution of urinary diversion and surgical outcomes of robot-assisted radical cystectomy: a Japanese nationwide database study). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

22. 米瀬 一朗, 伊藤 将也, 早稲田 悠馬, 金川 知憲, 宇根 みなみ, 関谷 健, 飯田 典之, 布施 洸, 田宮 嵩士, 戸出 真宏, 小林 秀一郎, 高沢 亮治, 古賀 文隆. 上部尿路上皮癌において尿管カテーテル挿入が腎尿管全摘除後の膀胱内再発に及ぼす影響の解析 (Impact of ureteral catheterization on intravesical recurrence after radical nephroureterectomy in upper tract urothelial carcinoma patients). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

23. 金子 香澄, 田中 一, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 藤井 靖久. 実臨床での淡明細胞型腎細胞癌患者における KEYNOTE-564 試験リスクカテゴリーの検証 (Evaluation of the risk categories in KEYNOTE-564 trial in patients with clear cell renal cell carcinoma treated in real-world practice). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

24. 会田 祐介, 石川 雄大, 田中 一, 吉富 香澄, 相馬 貴彦, 小林 正貴, 范 博, 藤原 基裕, 中村 祐基, 早稲田 悠馬, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 藤井 靖久. 当院における転移性尿路上皮癌に対するアベルマブを用いた維持療法の初期使用経験 (Initial experience of maintenance avelumab for metastatic urothelial carcinoma). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

25. 田中 一, 布川 裕規, 山本 浩平, 谷本 幸介, 竹本 暁, 蓮見 壽史, 平川 晃弘, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 藤井 靖久. 淡明細胞型腎細胞癌における腎実質浸潤/進展の意義　予後への影響と遺伝学的背景 (Renal parenchymal infiltration or micronodular spread in clear cell renal cell carcinoma: prognostic impact and genomic backgrounds). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

26. 古賀 文隆, 米瀬 一朗, 伊藤 将也, 早稲田 悠馬, 小林 秀一郎, 戸出 真宏, 高沢 亮治. 腎盂尿管鏡は上部尿路上皮癌症例の腎尿管全摘除後の生命予後に影響を及ぼすか?(Adverse prognostic impact of ureterorenoscopy in a subset of high-risk upper tract urothelial carcinoma patients undergoing radical nephroureterectomy). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

27. 横山 みなと, Chen Wei, 小林 正貴, 范 博, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 藍 真澄, 伏見 清秀, 藤井 靖久. 膀胱全摘除のトレンドと術式による手術成績の比較　DPC データベースに基づく全国調査 (Trends of radical cystectomy and comparisons of surgical outcomes among surgical approaches: A Japanese nationwide database study). 日本泌尿器科学会総会 2023.04.01

28. Masaki Kobayashi, Yoh Matsuoka, Shohei Fukuda, Koichiro Kimura, Motohiro Fujiwara, Yuki Nakamura, Yudai Ishikawa, Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Minato Yokoyama, Yasuhisa Fujii. Significance of MRI-ultrasound fusion targeted prostate biopsy for non-index PI-RADS 〓 3 lesions in combination with index lesion-targeted biopsy and systematic biopsy. European Association of Urology2023 2023.03.11

29. Nakamura Y., Yoshida S., Arita Y., Takeshita R., Kimura K., Aida Y., Asai S., Maezawa Y., Yoshitomi K., Chen W., Soma T., Kobayashi M., Fujiwara M., Fan B., Ishikawa Y., Fukuda S., Waseda Y., Tanaka H., Yokoyama M., Jinzaki M., Fujii Y.. Can we avoid second transurethral resection according to VI-RADS score in patients with high-risk non-muscle-invasive bladder cancer?. the 38th Annual European Association of Urology(EAU) Congress 2023.03.10 Milan

30. Kobayashi M., Matsuoka Y., Fukuda S., Kimura K., Fujiwara M., Nakamura Y., Ishikawa Y., Waseda Y., Tanaka H., Yoshida S., Yokoyama M., Fujii Y.. Significance of MRI-ultrasound fusion targeted prostate biopsy for non-index PI-RADS $>=3$ lesions in combination with index lesion-targeted biopsy and systematic biopsy. the 38th Annual European Association of Urology(EAU) Congress 2023.03.10 Milan

31. Kaneko H., Kimura K., Tanaka H., Chen W., Yoshitomi K., Soma T., Kobayashi M., Fujiwara M., Nakamura Y., Fan B., Ishikawa Y., Fukuda S., Waseda Y., Yoshida S., Yokoyama M., Fujii Y.. Radiomics analysis using dynamic computed tomography for preoperative risk stratification in upper urinary tract urothelial carcinoma. the 38th Annual European Association of Urology(EAU) Congress 2023.03.10 Milan

1. 小林 正貴、木村 浩一朗、吉富 香澄、范 博、藤原 基裕、中村 祐基、石川 雄大、福田 翔平、早稲田 悠馬、田中 一、吉田 宗一郎、藤井 靖久. 監視療法中の前立腺癌患者に対する MRI/US 融合標的生検の有用性. 前立腺シンポジウム 2023.12.10

2. 中村 祐基、石川 雄大、小林 正貴、藤原 基裕、范 博、福田 翔平、早稲田 悠馬、田中 一、吉田 宗一郎、藤井 靖久. 膀胱マッピング生検施行例における光力学診断（PDD）の診断能. 第 6 回 泌尿器光力学研究会/第 16 回 BCG 注入療法研究会 2023.11.24

3. 中村 祐基 . ロボット支援下前立腺全摘除術前の眼科受診 · 緑内障スクリーニングの意義 . 第 37 回日本泌尿器内視鏡 · ロボティクス学会総会 2023.11.11

4. 長谷川 滉 . 前立腺癌診断における MRI 超音波融合標的生検の有用性の検討. 第 37 回日本泌尿器内視鏡 · ロボティクス学会総会 2023.11.11

5. 鈴木 広太郎 . MRI 超音波融合前立腺標的生検におけるアプローチ法による臨床的有意癌の検 出能の比較. 第 37 回日本泌尿器内視鏡 · ロボティクス学会総会 2023.11.11

6. 范 博 . 鼠径ヘルニア修復術の既往を有する症例に対するロボット支援下前立腺全摘除 の治療成績. 第 37 回日本泌尿器内視鏡 · ロボティクス学会総会 2023.11.09

7. 小林 正貴. 淡明細胞型腎細胞癌根治術後の転移再発形式と人種の関係. 日本泌尿器腫瘍学会第 9 回学術集会 2023.10.22

8. 陳 煒. ”術前 CRP 値に基づく非転移性淡明細胞型腎細胞癌の予後予測ノモグラムの作成と検 証: 国際多施設共同研究”. 日本泌尿器腫瘍学会第 9 回学術集会 2023.10.22

9. 田中 一. 筋層浸潤性膀胱癌に対する四者併用膀胱温存療法の長期成績. 日本泌尿器腫瘍学会第 9 回学術集会 2023.10.22

10. 藤井 靖久. 膀胱癌の発生 · 再発のメカニズムから考える PDD-TURBT の役割. 日本泌尿器腫瘍学会第 9 回学術集会 2023.10.21

11. 吉田 宗一郎 . オリゴ転移癌に対し進む病態の理解と治療戦略. 第 88 回日本泌尿器科学会東部総会 2023.10.07

12. 藤原 基裕 . 上部尿路上皮癌における造影 CT Texture 解析の有用性についての検討 . 第 88 回日本泌尿器科学会東部総会 2023.10.07

13. 安嶋 陸人、石川 雄大、小林 正貴、松本 峻弥、吉富 香澄、藤原 基裕、范 博、中村 祐基、福田 翔平、早稲田 悠馬、田中 一、吉田 宗一郎、藤井 靖久. 高齢者に対する MRI 超音波融合前立腺生検の有用性. 第 88 回日本泌尿器科学会東部総会 2023.10.06

14. 伊東 翼 . 当院における転移性尿路上皮癌に対するエンホルツマブ ベドチン療法の初期治療経験 . 第 88 回日本泌尿器科学会東部総会 2023.10.06

15. 木村 知希 . 当院における BRCA 遺伝子変異検査の運用 . 第 88 回日本泌尿器科学会東部総会 2023.10.06

16. 田中 一. 転移性腎細胞癌に対する一次治療を考える. 泌尿器外科 2023.10.01

17. 石原 健作, 藤原 基裕, 山本 浩平, 横山 みなと, 廣瀬 航平, 相馬 貴彦, 小林 正貴, 中村 祐基, 范 博, 石川 雄大, 内田 裕將, 福田 翔平, 上原 翔, 田中 一, 吉田 宗一郎, 松岡 陽, 明石 巧, 藤井 靖久. 出産 1 ヵ月後に膀胱タンポナーデを契機に発見され, 自然退縮した膀胱原発炎症性筋線維芽細胞腫瘍の 1 例. 泌尿器外科 2023.10.01

18. 中谷 潤, 金山 絵理香, 廣瀬 藍子, 杉井 麻耶, 田頭 保彰, 早稲田 悠馬, 藍 真澄, クリニカルパス委員会. 抗菌薬適正使用に向けたクリニカルパス改訂における事務員の役割. 日本クリニカルパス学会誌 2023.10.01

19. 相馬 貴彦, 石川 雄大, 吉田 宗一郎, 会田 祐介, 浅井 真太郎, 前澤 祐弥, 吉富 香澄, 小林 正貴, 范 博, 中村 祐基, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 横山 みなと, 藤井 靖久. 肺転移巣切除を施行した oligoprogressive CRPC の 2 例. 泌尿器外科 2023.10.01

20. 前澤 祐弥, 小林 正貴, 村上 正憲, 山村 あゆみ, 内藤 省太郎, 吉富 香澄, 相馬 貴彦, 范 博, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 山田 哲也, 内田 信一, 藤井 靖久. 褐色細胞腫摘除後に低血糖が遷延した血液維持透析患者の 1 例. 泌尿器外科 2023.10.01

21. 吉田 宗一郎. メカニズムから考える新規画像診断: 泌尿器癌診療での使い分け. 第 10 回泌尿器画像診断 · 治療技術研究会 2023.08.05

22. 藤原 基裕. 上部尿路上皮癌における Texture 解析の有用性についての検討. 第 10 回泌尿器画像診断 · 治療技術研究会 2023.08.05

23. 田中 一, 藤井 靖久. Think different in metastatic RCC treatment　高齢 (80 歳以上) の転移性腎細胞癌症例における一次治療の選択. 泌尿器外科 2023.08.01

24. 遠藤 美幸, 高橋 佳子, 軽沢 博子, 早稲田 悠馬, 藍 真澄, 横山 みなと. DPC コーディング委員会の疑義症例検討から導く DPC/PDPS 傷病名コーディングテキストへの提言. 日本診療情報管理学会学術大会抄録集 2023.08.01

25. 小林 正貴, 松岡 陽, 上原 翔, 田中 宏, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 藤井 靖久. MRI 上被膜外浸潤を疑わない前立腺癌における病理学的被膜外浸潤の予測　MRI 超音波融合標的生検の有用性. 泌尿器外科 2023.08.01

26. 福田 翔平, 小林 正貴, 藤原 基裕, 中村 祐基, 范 博, 石川 雄大, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 古賀 文隆, 影山 幸雄, 藤井 靖久. コロナ禍における ICT を活用したオストミービジター遠隔面談の取り組み. 泌尿器外科 2023.08.01

27. 浅井 真太郎, 田中 一, 藤原 基裕, 吉富 香澄, 相馬 貴彦, 范 博, 中村 祐基, 小林 正貴, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 藤井 靖久. 筋層浸潤性膀胱癌に対する 4 者併用膀胱温存療法 (TeMT) 進展例における治療成績の検討. 泌尿器外科 2023.08.01

28. 会田 祐介, 小林 正貴, 吉富 香澄, 相馬 貴彦, 范 博, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 藤井 靖久. 胸椎転移巣に対する経カテーテル動脈塞栓術により疼痛コントロールが得られた腎細胞癌の 1 例. 泌尿器外科 2023.08.01

29. 小林 正貴. 淡明細胞型腎細胞癌根治術後の転移再発形式と人種の関係 . 第 53 回腎癌研究会 2023.07.08

30. 中村 祐基. 急性緑内障発作予防を目的としたロボット支援下前立腺全摘除術前の眼科受診の意義. 第 32 回日本腎泌尿器疾患予防医学研究会 2023.07.07

31. 田中 一, 布川 裕規, 山本 浩平, 平川 晃弘, 中村 祐基, 内田 裕將, 福田 翔平, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 松岡 陽, 藤井 靖久. 局所進行腎細胞癌を再考する　病理学的腎実質内浸潤/進展の意義. 腎癌研究会会報 2023.07.01

32. 范 博, 横山 みなと, 安田 庸輔, 中村 祐基, 内田 裕将, 福田 翔平, 田中 一, 吉田 宗一郎, 松岡 陽, 藤井 靖久. 根治的腎摘除または腎部分切除後の New baseline から 2 年以内の 20%以上の eGFR 低下. 腎癌研究会会報 2023.07.01

33. 福田 翔平, 齋藤 一隆, 中山 哲成, 井上 雅晴, 田中 一, 伊藤 将也, 沼尾 昇, 湯浅 健, 古賀 文隆, 米瀬 淳二, 影山 幸雄, 藤井 靖久. 転移性腎細胞癌に対するニボルマブ・イピリムマブ併用療法における C 反応性蛋白フレアレスポンスの意義. 腎癌研究会会報 2023.07.01

34. 石川 雄大, 田中 一, 山口 良友, 丸山 理子, 吉富 香澄, 藤原 遼, 井上 雅晴, 吉田 宗一郎, 横山 みなと, 沼尾 昇, 松岡 陽, 藤井 靖久. 転移性腎細胞癌に対するニボルマブ治療における Mixed response の頻度と意義. 腎癌研究会会報 2023.07.01

35. 吉富 香澄, 田中 一, 前沢 祐弥, 会田 祐介, 松本 峻弥, 相馬 貴彦, 小林 正貴, 范 博, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 吉田 宗一郎, 藤井 靖久. オリゴ転移腎細胞癌に対する転移巣切除　オリゴ転移の分類と完全切除後無再発生存の関係. 腎癌研究会会報 2023.07.01

36. 小林 正貴, 田中 一, 会田 祐介, 前澤 祐弥, 浅井 真太郎, 陳 い, 范 博, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 吉田 宗一郎, Derweesh Ithaar, 藤井 靖久. 淡明細胞型腎細胞癌根治術後の転移再発形式と人種の関係. 腎癌研究会会報 2023.07.01

37. 藤井 靖久、松岡 陽、田中 一. 筋層浸潤性膀胱癌、前立腺癌に対する臓器温存治療. 第 32 回骨盤外科機能温存研究会 2023.06.10

38. 藤井 靖久. 尿路上皮癌に対する周術期補助治療のアップデート. 第 20 回泌尿器科再建再生研究会 2023.06.03

39. 藤井 靖久. ”尿路上皮癌に対するペムブロリズマブ治療　リアルワールドデータから臨床的バイオマーカーを考える ”. 第 110 回日本泌尿器科学会総会 2023.04.21

40. Yuki Nakamura, Motohiro Fujiwara, Yudai Ishikawa, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Minato Yokoyama, Yasuhisa Fujii. Significance of adrenal metastasectomy based on classification of oligometastasis. 第 110 回日本泌尿器科学会総会 2023.04.20 神戸コンベンションセンター

41. 布川 裕規, 田中 一, 明石 巧, 池田 通, 大橋 健一, 山本 浩平. 淡明細胞型腎細胞癌における腫瘍-腎実質境界部の浸潤様式における臨床病理学的検討. 日本病理学会会誌 2023.03.01

42. 会田　祐介、相馬　貴彦、早稲田　悠馬、横山　みなと、浅井　真太郎、前澤　祐弥、石原　健作、吉富　香澄、小林　正貴、范　博、藤原　基裕、中村　祐基、石川　雄大、福田　翔平、田中　一、吉田　宗一郎、藤井　靖久. カボザンチニブで局所再発部および多発転移巣の縮小を得た転移性フマル酸ヒドラターゼ欠損性腎細胞案の 1 例. 第 640 回日本泌尿器科学会東京地方会 2023.02.09 東京

43. 吉田宗一郎. 拡散強調 MRI を用いた尿路上皮癌の質的診断。. Philips 前立腺 MRI Update 2016

44. 吉田宗一郎. 泌尿器癌に対する臓器温存を目指して。. 第 1 回 Philips radiology Seminar

[社会貢献活動]

1. 病院長就任の抱負等について, 株式会社東海医事新報社, 関東医事新報, 2023 年 04 月 07 日

2. 医師の働き方改革、2024 年 4 月の勤務医の時間外労働規制の受け止めと対策について, 日本経済新聞社, 日本経済新聞社本紙／電子版記事, 2023 年 04 月 17 日

3. Art in Hospital 患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる, 集中出版株式会社, 月刊『集中』, 2023 年 12 月 08 日 - 2024 年 01 月 30 日

消化管外科学

Gastrointestinal Surgery

教授　絹笠祐介
准教授　徳永正則、岡田卓也（国際医療部）
講師　春木茂男、川田研郎（光学診療部）
助教　藤原尚志、小郷泰一、谷岡利朗、奥野圭祐
山内慎一、花岡まりえ、佐々木惠、高岡亜弓
大学院生（医員含む）
金本栄美、梅林佑弥、齋藤稔史、山本雄大、井垣尊弘、
佐久間淳、富義明、山下大和、新井聡大、伊藤その、
角田龍太、滋野高史、田澤美也子、中島啓、南角哲俊、
溝口正子、石橋直弥、坂野正佳、塩原寛之、島野瑠美、
塚本史雄、中川俊作、松永史穂、米澤博貴、龍喬子、
大友真由子、坂井義博、鈴木悠太、藤井友夏里、山﨑嘉美、
芥田壮平、朝野紗稀子、有賀翔太、井川勇人、石原慶、
田所裕規、塚原啓司、辻啓明、中川真理、藤田孝尚、
布施匡啓、八尾健太、安井友梨奈、谷田部悠介

(1) 分野概要

食道外科，胃外科，大腸・肛門外科の３診療科を擁し，消化管全体を研究対象とする教室である．臨床活動に基盤を置く臨床研究と，分野内および学内外の専門研究室において基礎研究を行い，それを臨床の現場へ還元するとともに，最新でレベルの高い消化管外科診療と卒前・卒後教育を提供する．

(2) 研究活動

国内外における最新の外科技術を導入・実践するとともに，新たな技術の創出を行い，その普及を図る．消化管癌の内視鏡的早期診断・治療技術の開発，新たな低侵襲外科手術手技の開発，口腔・咽頭など関連臓器への技術移転，他施設との共同臨床試験など行う．また，分子生物学的手法を用いた癌関連の基礎研究を行っている．

(3) 教育活動

卒前と卒後初期研修は消化器・一般外科３分野（消化管外科学，肝胆膵外科学，総合外科学）と胸部外科２分野（心臓血管外科学，呼吸器外科学）とで協力して行い，外科の基本概念と基礎知識，基本技術の習得を図らせる．後期研修では消化器・一般外科医としての基本を学ばせ，外科専門医取得後は博士号取得（大学院）コースないし専門医コースで研究と外科修練を続けさせる．

(4) 教育方針

基本的な消化器・一般外科の知識と技術がすべての礎であり，臨床医としての技術に裏打ちされた優しさ，そして，論理的で客観性のある診療を素早く行える高い実地能力の涵養を図る．

(5) 臨床活動および学外活動

分野内での専門的な修練や研究活動に止まらず，関連病院において消化器 · 一般外科医としての能力を磨きつつ地域医療に貢献するとともに，国内外への留学，海外拠点勤務なども視野においた活動を心がける．

(6) 臨床上の特色

消化器 · 一般外科の基本的な診療力の上に，消化管外科の新しい診療技術を開発し広く国内外に普及させる活動を行う．優れた治療成績と共に，患者の QOL にも留意しての低侵襲治療から拡大手術までを幅広く担当する．

(7) 研究業績

[原著]

1. S Arai, Y Yamaoka, A Shiomi, H Kagawa, H Hino, S Manabe, K Chen, K Nanishi, C Maeda, A Notsu, Y Kinugasa. Efficacy of laparoscopic surgery for loop colostomy: a propensity-score-matched analysis Techniques in coloproctology. 2023.12; 27(12); 1319-1326
2. Yuriko Matsumiya, Mitsukuni Suenaga, Toshiaki Ishikawa, Toshifumi Kudo, Tsuyoshi Nakagawa, Kentaro Okamoto, Masanori Tokunaga, Claudia Hurtado, Yuki Yamada, Kentaro Oka, Motomichi Takahashi, Luis Francisco Lopez Kostner, Miguel Luis O'Ryan Gallardo, Hiroyuki Uetake, Yusuke Kinugasa. Clinical significance of Bacteroides fragilis as a potential prognostic factor in colorectal cancer Anaerobe. 2023.12; 84:102784;
3. Marie Hanaoka, Yusuke Kinugasa, Yoshihiro Sakai, Masanori Tokunaga. World's first report of sigmoidectomy for sigmoid cancer using the Saroa surgical system with tactile feedback Updates in surgery. 2023.12; 75(8); 2395-2401
4. Takashi Shigeno, Daisuke Kajiyama, Kazuma Sato, Naoto Fujiwara, Yusuke Kinugasa, Tomonori Yano, Hiroyuki Daiko, Takeo Fujita. The feasibility of post-photodynamic therapy salvage esophagectomy in patients with esophageal squamous cell carcinoma treated with definitive chemoradiotherapy Esophagus. 2023.10; 20(4); 643-650
5. Shunsuke Kasai, Hiroyasu Kagawa, Akio Shiomi, Hitoshi Hino, Shoichi Manabe, Yusuke Yamaoka, Kai Chen, Kenji Nanishi, Chikara Maeda, Yusuke Kinugasa. Long-term outcomes of upfront robotic rectal cancer surgery: a single-center, retrospective cohort study in Japan Surgery today. 2023.09; 53(9); 1028-1037
6. Ryosuke Kikuchi, Kazuhito Sasaki, Hiroaki Nozawa, Koji Murono, Shigenobu Emoto, Shinichi Yamauchi, Kenichi Sugihara, Soichiro Ishihara. Prognosis of Inferior Mesenteric and Para-aortic Lymph Node Metastases in Rectal Cancer: A Multicenter Study Anticancer research. 2023.09; 43(9); 4213-4219
7. Hiroyasu Kagawa, Yusuke Kinugasa, Tomohiro Yamaguchi, Masayuki Ohue, Kazushige Kawai, Junichiro Hiro, Seiichi Shinji, Hiroaki Nozawa, Yasumitsu Hirano, Koji Komori, Yasumasa Takii, Takeshi Suto, Shunsuke Tsukamoto, Yoshito Akagi, Heita Ozawa, Yuji Toiyama, Kazuhito Minami, Tomoharu Shimizu, Kay Uehara, Kazuhiro Sakamoto, Keita Mori, Kenichi Sugihara, Yoichi Ajioka. Impact of resection for ovarian metastases from colorectal cancer and clinicopathologic analysis: A multicenter retrospective study in Japan Annals of Gastroenterological Surgery. 2023.09; 14;8(2); 273-283
8. Keisuke Okuno, Muhammad Yogi Pratama, Jiang Li, Masanori Tokunaga, Xin Wang, Yusuke Kinugasa, Ajay Goel. Ginseng mediates its anti-cancer activity by inhibiting the expression of DNMTs and reactivating methylation-silenced genes in colorectal cancer Carcinogenesis. 2023.08; 10;44(5); 394-403
9. Guglielmo Niccolò Piozzi, Krunal Khobragade, Vusal Aliyev, Oktar Asoglu, Paolo Pietro Bianchi, Vlad-Olimpiu Butiurca, William Tzu-Liang Chen, Ju Yong Cheong, Gyu-Seog Choi, Andrea Coratti, Quentin Denost, Yosuke Fukunaga, Emre Gorgun, Francesco Guerra, Masaaki Ito, Jim S Khan, Hye Jin Kim, Jin Cheon Kim, Yusuke Kinugasa, Tsuyoshi Konishi, Li-Jen Kuo, Mehmet Ayhan Kuzu, Jeremie H Lefevre, Jin-Tung Liang, John Marks, Călin Molnar, Yves Panis, Philippe Rouanet, Eric Rullier, Avanish Saklani, Antonino Spinelli, Petr Tsarkov, Shunsuke Tsukamoto, Martin Weiser, Seon Hahn Kim. International standardization and optimization group for intersphincteric resection (ISOG-ISR): modified Delphi consensus on anatomy, definition, indication, surgical technique, specimen description and functional outcome Colorectal disease. 2023.08; 25(9); 1896-1909

10. Takahiro Igaki, Daichi Kitaguchi, Hiroki Matsuzaki, Kei Nakajima, Shigehiro Kojima, Hiro Hasegawa, Nobuyoshi Takeshita, Yusuke Kinugasa, Masaaki Ito. Automatic Surgical Skill Assessment System Based on Concordance of Standardized Surgical Field Development Using Artificial Intelligence JAMA surgery（Journal of the American Medical Association surgery）. 2023.08; 1;158(8); e231131

11. Toshiro Tanioka, Yusuke Yatabe, Toshifumi Saito, Kazuya Yamaguchi, Hisashi Fujiwara, Yuya Sato, Kenro Kawada, Shigeo Haruki, Masanori Tokunaga, Yusuke Kinugasa. Optimal placement of self-fixating mesh in the rectus abdominis muscle for ventral hernia repair when using the enhanced-view totally extraperitoneal Rives-Stoppa technique Asian journal of endoscopic surgery. 2023.07; 16(3); 653-657

12. Yutaka Tokairin, Yudai Kawamura, Satoru Muro, Kagami Nagai, Kenro Kawada, Takuya Okada, Suthasinee Tharnmanularp, Areeya Jiamjunyasiri, Keiichi Akita, Yusuke Kinugasa. Histological study of the thin membranous dense connective tissues around the curving portion of the bilateral recurrent laryngeal nerves Esophagus. 2023.07; 20(3); 410-419

13. Ryo Seishima, Koji Okabayashi, Hiroki Ikeuchi, Motoi Uchino, Kitaro Futami, Tatsuki Noguchi, Hiroki Ohge, Yasuhito Iseki, Kazuhiro Watanabe, Michio Itabashi, Kinya Okamoto, Yuji Toiyama, Takayuki Ogino, Masafumi Nakamura, Kazutaka Yamada, Toshifumi Wakai, Yu Sato, Hideaki Kimura, Kenichi Takahashi, Koya Hida, Yusuke Kinugasa, Fumio Ishida, Junji Okuda, Koji Daito, Fumikazu Koyama, Hideki Ueno, Takayuki Yamamoto, Seiichiro Yamamoto, Tsunekazu Hanai, Atsuo Maemoto, Junya Arakaki, Koji Komori, Yoshito Akagi, Dai Shida, Shigeki Yamaguchi, Keiji Matsuda, Kiyoshi Maeda, Toshihiro Noake, Riichiro Nezu, Shin Sasaki, Junichi Hasegawa, Eiji Sunami, Yukihide Kanemitsu, Kenji Katsumata, Kei Uehara, Tomomichi Kiyomatsu, Takeshi Suto, Shinsuke Kazama, Takeshi Yamada, Takenori Goi, Soichiro Ishihara, Yoichi Ajioka, Kenichi Sugihara. Effect of Biologics on the Risk of Advanced-Stage Inflammatory Bowel Disease-Associated Intestinal Cancer: A Nationwide Study The American journal of gastroenterology. 2023.07; 1;118(7); 1248-1255

14. Toshifumi Saito, Satoru Muro, Hisashi Fujiwara, Yuya Umebayashi, Yuya Sato, Masanori Tokunaga, Keiichi Akita, Yusuke Kinugasa. Histological study of the structural layers around the esophagus in the lower mediastinum World Journal of Gastrointestinal Surgery. 2023.07; 15(7); 1331-1339

15. Yudai Yamamoto, Shu Shimada, Yoshimitsu Akiyama, Shu Tsukihara, Raizo Sugimoto, Ayano Kabashima, Masanori Tokunaga, Yusuke Kinugasa, Yutaka Kawakami, Shinji Tanaka. RTP4 silencing provokes tumor-intrinsic resistance to immune checkpoint blockade in colorectal cancer Journal of gastroenterology. 2023.06; 58(6); 540-553

16. Tetsuo Sugishita, Masanori Tokunaga, Kenjiro Kami, Kozue Terai, Hiroyuki Yamamoto, Hajime Shinohara, Yusuke Kinugasa. Determination of the Minimum Sample Amount for Capillary Electrophoresis-Fourier Transform Mass Spectrometry (CE-FTMS)-Based Metabolomics of Colorectal Cancer Biopsies Biomedicines. 2023.06; 13;11(6); 1706

17. Megumi Sasaki, Yasumitsu Hirano, Kojun Okamoto, Isamu Koyama & Yusuke Kinugasa. Outcomes of Colorectal Cancer Surgery in Nonagenarian Patients Indian Journal of Surgery. 2023.06; published online:22 June 2023;

18. Takashi Shigeno, Masashi Kizuki, Masanori Tokunaga, Kiyohide Fushimi, Yusuke Kinugasa, Takeo Fujiwara. A comparison of the short-term outcomes between laparoscopic and robotic distal gastrectomy: A retrospective study using a nationwide inpatient database. Surgery. 2023.05; 173(5); 1169-1175

19. Marie Hanaoka, Hiroyasu Kagawa, Akio Shiomi, Hitoshi Hino, Shoichi Manabe, Yusuke Yamaoka, Yusuke Kinugasa. Risk factors for and longitudinal course of male sexual dysfunction after robotic rectal cancer surgery Colorectal disease. 2023.05; 25(5); 932-942

20. Shinichi Yamauchi, Akio Shiomi, Chu Matsuda, Ichiro Takemasa, Tsunekazu Hanai, Mamoru Uemura, Yusuke Kinugasa. Robotic-assisted colectomy for right-sided colon cancer: Short-term surgical outcomes of a multi-institutional prospective cohort study in Japan Annals of Gastroenterological Surgery. 2023.05; 2023(00); 1-8

21. Yuya Umebayashi, Satoru Muro, Masanori Tokunaga, Toshifumi Saito, Yuuya Sato, Toshiro Tanioka, Yusuke Kinugasa, Keiichi Akita. Distribution of splenic artery lymph nodes and splenic hilar lymph nodes World Journal of Gastrointestinal Surgery. 2023.05; 15(5); 812-824

22. Masako Mizoguchi, Masashi Kizuki, Noriko Iwata, Masanori Tokunaga, Kiyohide Fushimi, Yusuke Kinugasa, Takeo Fujiwara. Comparison of short-term outcomes between robot-assisted and laparoscopic rectal surgery for rectal cancer: A propensity score-matched analysis using the Japanese Nationwide diagnosis procedure combination database Annals of Gastroenterological Surgery. 2023.05; 2023(00); 1-13

23. Shunsuke Kasai, Shinichi Yamauchi, Miyako Tazawa, Ayumi Takaoka, Marie Hanaoka, Noriko Iwata, Taiki Masuda, Masanori Tokunaga, Yusuke Kinugasa. Advantages of preoperative counseling with video for robotic rectal cancer surgery compared with conventional counseling: A randomized controlled trial Asian journal of endoscopic surgery. 2023.04; 16(2); 248-254

24. Ryosuke Fukuyo, Masanori Tokunaga, Yuya Umebayashi, Toshifumi Saito, Keisuke Okuno, Yuya Sato, Katsumasa Saito, Naoto Fujiwara, Yusuke Kinugasa. Deep learning-based diagnostic model for predicting complications after gastrectomy Asian journal of endoscopic surgery. 2023.04; 16(2); 210-217

25. Keisuke Okuno, Shuichi Watanabe, Souvick Roy, Mitsuro Kanda, Masanori Tokunaga, Yasuhiro Kodera, Yusuke Kinugasa, Ajay Goel. A liquid biopsy signature for predicting early recurrence in patients with gastric cancer. Br J Cancer. 2023.04; 128(6); 1105-1116

26. Hirotoshi Kobayashi, Kenjiro Kotake, Masayasu Kawasaki, Yukihide Kanemitsu, Yusuke Kinugasa, Hideki Ueno, Kotaro Maeda, Takeshi Suto, Michio Itabashi, Kimihiko Funahashi, Heita Ozawa, Fumikazu Koyama, Shingo Noura, Hideyuki Ishida, Masayuki Ohue, Tomomichi Kiyomatsu, Soichiro Ishihara, Keiji Koda, Hideo Baba, Kenji Kawada, Yojiro Hashiguchi, Takanori Goi, Yuji Toiyama, Naohiro Tomita, Eiji Sunami, Yoshito Akagi, Jun Watanabe, Kenichi Hakamada, Goro Nakayama, Kenichi Sugihara, Yoichi Ajioka. A proposed new Japanese classification of synchronous peritoneal metastases from colorectal cancer: A multi-institutional, prospective, observational study conducted by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum Annals of Gastroenterological Surgery. 2023.04; 7(5); 765-771

27. Takahiro Igaki, Shin Takenaka, Yusuke Watanabe, Shigehiro Kojima, Kei Nakajima, Yuya Takabe, Daichi Kitaguchi, Nobuyoshi Takeshita, Masafumi Inomata, Hiroya Kuroyanagi, Yusuke Kinugasa, Masaaki Ito. Universal meta-competencies of operative performances: a literature review and qualitative synthesis Surgical endoscopy. 2023.02; 37(2); 835-845

28. Keisuke Okuno, Caiming Xu, Silvia Pascual-Sabater, Masanori Tokunaga, Tetsuji Takayama, Haiyong Han, Cristina Fillat, Yusuke Kinugasa, Ajay Goel. Andrographis Reverses Gemcitabine Resistance through Regulation of ERBB3 and Calcium Signaling Pathway in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma. Biomedicines. 2023.01; 11(1);

29. Keisuke Okuno, Raju Kandimalla, Marta Mendiola, Francesc Balaguer, Luis Bujanda, Carlos Fernandez-Martos, Jorge Aparicio, Jaime Feliu, Masanori Tokunaga, Yusuke Kinugasa, Joan Maurel, Ajay Goel. A microRNA signature for risk-stratification and response prediction to FOLFOX-based adjuvant therapy in stage II and III colorectal cancer. Mol Cancer. 2023.01; 22(1); 13

30. Kazushige Kawai, Akio Shiomi, Takuya Miura, Kay Uehara, Jun Watanabe, Shinsuke Kazama, Hideki Ueno, Kazuhiro Sakamoto, Yusuke Kinugasa, Keiichi Takahashi, Koya Hida, Madoka Hamada, Soichiro Ishihara, Kenichi Sugihara. Optimal diagnostic criteria for lateral lymph node dissection using magnetic resonance imaging: a multicenter prospective study. ANZ J Surg. 2023.01; 93(1-2); 206-213

[書籍等出版物]

1. 花岡まりえ、絹笠祐介. 腹腔鏡下大腸手術公式テキスト. 南江堂, 2023.11 (ISBN : 978-4-524-20414-4)

2. 高岡亜弓、絹笠祐介. 消化器外科手術の流儀　トップナイフのロジック＆テクニック. 金芳堂, 2023.11 (ISBN : 978-4-7653-1968-3)

3. 絹笠祐介、花岡まりえ、山内慎一、塚本史雄、馬場裕信、岩田乃理子、高岡亜弓、笠井俊輔、坂井義博、増田大機. 絹笠式 TMDU 大腸癌手術　WEB 動画付. 南江堂, 2023.07 (ISBN : 978-4-524-20413-7)

4. 絹笠祐介. 消化器外科専門医の心得　2023 年度版　下. 一般社団法人 日本消化器外科学会, 2023.07 (ISBN : 978-4-9911321-2-4)

5. 絹笠祐介. 第 4 版　大腸 · 肛門外科の要点と盲点. 文光堂, 2023.04 (ISBN : 978-4-8306-2345-5)

6. 岩田乃理子、絹笠祐介. 第 4 版　大腸 · 肛門外科の要点と盲点. 文光堂, 2023.04
7. 花岡まりえ, 絹笠祐介. 消化器内視鏡外科手術バイブル　動画で学ぶハイボリュームセンターの手. 医学書院, 2023.03 (ISBN：978-4-260-05052-4)

[総説]

1. Keisuke Okuno, Masanori Tokunaga, Daniel Von Hoff, Yusuke Kinugasa, Ajay Goel; The PDAC Biomarker Working Group. Intratumoral Malassezia globosa Levels Predict Survival and Therapeutic Response to Adjuvant Chemotherapy in Patients With Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Gastroenterology. 2023.04; Online ahead of print;

1. 絹笠祐介. 泌尿器外科医に役立つ骨盤外科解剖 日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会雑誌. 2023.12; 15; 57-60
2. 春木茂男、藤原尚志、小郷泰一、川田研郎、谷岡利朗、奥野圭祐、徳永正則、絹笠祐介. ハイボリュームセンターのオペ記事 (消化管癌編) 食道癌　開胸手術のオペ記事　術中写真を撮ろう 臨床外科. 2023.12; 78(13); 1426-1431
3. 芥田壮平、絹笠祐介. 特集　内視鏡下消化管手術における手術デバイスの使い方-腹腔鏡 · 胸腔鏡手術からロボット支援手術まで Ⅱ. 再建デバイスの適切な選択とその上手な使い方　(6) ロボット支援大腸癌手術 手術. 2023.11; 77(12); 1785-1793
4. 谷岡利朗、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 消化器外科医としてこれだけは押さえておきたい腹壁瘢痕ヘルニアの治療 腹壁瘢痕ヘルニアに対する新しい術式　Enhanced view totally extraperitoneal technique(eTEP)-transversus abdominis muscle release(TAR) 外科. 2023.11; 85(12); 1315-1320
5. 花岡まりえ、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、絹笠祐介. 特集　主題Ⅱ　ロボット支援下手術　Ⅴ. ロボット支援手術の教育と将来展望 日本大腸肛門病学会雑誌. 2023.10; 76(10); 641-649
6. 谷田部悠介、絹笠祐介. 総論　膜に焦点を当てた直腸の解剖 臨床外科. 2023.09; 78(9); 1039-1042
7. 井川勇人、絹笠祐介. 大腸癌に対する内視鏡手術の治療戦略と今後の展望 週刊医学のあゆみ. 2023.09; 286(14); 1142-1147
8. 高岡亜弓、絹笠祐介. 各論　保険術式　ロボット支援腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（左半切除） 臨床外科. 2023.08; 78(8); 990-993
9. 鈴木悠太、山内慎一、高岡亜弓、花岡まりえ、岩田乃理子、絹笠祐介. 術後急変！ —予知 · 早期発見のベストプラクティス　各論 2　疾患別の対応　直腸癌術後縫合不全の予防と治療戦略 臨床外科. 2023.07; 78(7); 832-837
10. 大和美寿々、絹笠祐介. 必携　ロボット支援下消化器外科手術ー基本手技とトラブルシューティング　Ⅲ. 下部消化管領域　5）ロボット支援下骨盤内蔵全摘術 手術. 2023.07; 77(8); 1203-1211
11. 坂井義博、絹笠祐介. 大腸癌　最新の治療戦略 臨牀と研究. 2023.06; 100(6); 46-52
12. 花岡まりえ、絹笠祐介. 特集　消化管手術での「困難例」対処法ーこんなとき、どうする？　大腸　PDM 症例の術前把握と術中の留意点 臨床外科. 2023.06; 78(6); 723-727
13. 谷岡利朗、山口和哉、藤原尚志、佐藤雄哉、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. eTEP の導入への準備と基本手技 臨床外科. 2023.04; 78(4); 417-422
14. 谷岡利朗、山口和哉、藤原尚志、佐藤雄哉、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 総特集　腹壁ヘルニア修復術の新潮流ー瘢痕ヘルニア · 臍ヘルニア · 白線ヘルニア　eTEP の導入への準備と基本手技 臨床外科. 2023.04; 78(4); 417-422
15. 大和美寿々、絹笠祐介. ロボット手術の新展開　結腸癌におけるロボット支援下手術 癌と化学療法. 2023.04; 50(4); 432-436
16. 花岡まりえ、絹笠祐介. ワークショップ 1　骨盤外科の解剖用語の違いを理解する　外科領域におけるロボット支援下骨盤リンパ節郭清 第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会記録. 2023.04; 41(2); 161-167
17. 山口 和哉, 春木 茂男, 坂野 正佳, 藤原 尚志, 谷岡 利朗, 佐藤 雄哉, 川田 研郎, 徳永 正則, 絹笠 祐介. 【最新医療機器 · 材料を使いこなす】上部消化管　ICG 蛍光法による胃管の血行動態評価 臨床外科. 2023.02; 78(2); 140-143

[講演 · 口頭発表等]

1. Yusuke Kinugasa. Lateral lymph node dissection, YES(JAPAN). 18th Scientific Conference (European Society of Coloproctology Vilnius 2023) 2023.09.29 Vilnus
2. Shinichi Yamauchi, Ayumi Takaoka, Megumi Sasaki, Marie Hanaoka, Kenichi Sugihara, Yusuke Kinugasa. Clinical significance of extended lateral lymoh node dissection for lower rectal cancer: A propensity score analysis in a multicenter retrospective study. 18th Scientific Conference (European Society of Coloproctology Vilnius 2023) 2023.09.29 Vilnus
3. Marie Hanaoka, Ayumi Takaoka, Megumi Sasaki, Shinichi Yamauchi, Yusuke Kinugasa. Methods and short-term outcomes of total colectomy: Short-term outcomes and evaluation of defectory function. 18th Scientific Conference (European Society of Coloproctology Vilnius 2023) 2023.09.29 Vilnus
4. Toshiro Tanioka, Ayumi Takaoka, Keisuke Okuno, Megumi Sasaki, Taichi Ogo, Marie Hanaoka, Hisashi Fujiwara, Kenro Kawada, Shigeo Haruki, Masanori Tokunaga, Yusuke Kinugasa. Enhanced view totally extraperitoneal approach (eTEP) for ventral and incisional hernia repair. 18th Annual International Congress of the Asia Pacific Hernia Society 2023 (APHS2023) 2023.09.22 Pennang
5. Yusuke Kinugasa. Current status of robotic colorectal cancer surgery in Japan. Minimally Invasive Surgery and Multidisciplinary Treatment for Colorectal Cancer 2023.08.26 Taipei
6. 渡辺秀一、奥野圭祐、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤篤、田中真二、絹笠祐介、田邉稔. マイクロ RNA と MSI で胃がん早期再発例を予測する. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館
7. Toshiro Tanioka, Kazuya Yamaguchi, Hisashi Fujiwara, Yuya Sato, Kenro Kawada, Shigeo Haruki, Masanori Tokunaga, Yusuke Kinugasa. Robotic-assisted gastrectomy for type 4 gastric cancer. International Gastric Cancer Congress 2023 (IGCC2023) 2023.06.17 Yokohama
8. Masanori Tokunaga, Yuya Sato, Toshiro Tanioka, Kazuya Yamaguchi, Hisashi Fujiwara, Kenro Kawada, Shigeo Haruki, Yusuke Kinugasa. Optimal treatment for patients with resectable gastric cancer. International Gastric Cancer Congress 2023 (IGCC2023) 2023.06.16 Yokohama
9. Yuya Sato, Masanori Tokunaga, Kazuya Yamaguchi, Hisashi Fujiwara, Toshiro Tanioka, Kenro Kawada, Shigeo Haruki, Yusuke Kinugasa. Development of prediction model of intra-abdominal infectious complication after gastrectomy with machine learning. International Gastric Cancer Congress 2023 (IGCC2023) 2023.06.15 Yokohama
10. Marie Hanaoka, Yusuke kinugasa. Robotic assisted lateral lymph node dissection: A gastrointestinal surgical perspective. The 110th Annual Meeting of the Japanese Urological Association 2023.04.21 Kobe
11. Hisashi Fujiwara, Yasuaki Nakajima, Kenro Kawada, Yutaka Tokairin, Masafumi Okuda, Taichi Ogo, Katsumasa Saito, Naoto Fujiwara, Tairou Ryoutokuji, Takuya Okada, Yutaka Miyawaki, Youichi Kumagai, Kagami Nagai, Tatsuyuki Kawano. . Efficacy of endoscopy for evaluating esophago-gastric anastomosis on post-esophagectomy day 1. . 14th World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus

1. 新井映美、石原慶、谷岡利朗、髙岡亜弓、佐々木恵、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、花岡まりえ、山内慎一、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 鼠経部リンパ節郭清を伴う尿道原発悪性黒色腫術後に発生した大腿ヘルニア嵌頓の一例. 第 870 回外科集談会（日本臨床外科学会東京支部会） 2023.12.16 東京
2. 絹笠祐介. ロボット支援直腸切除術における助手の役割-BirdView の使用経験-. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜
3. 絹笠祐介、山内慎一、花岡まりえ、髙岡亜弓、佐々木恵、春木茂男、徳永正則. 直腸がんに対するロボット手術の現状. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜
4. 奥野圭祐、谷岡利朗、小郷泰一、藤原尚志、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 術前血液検査を含む臨床学的因子を用いた、胃癌に対するロボット胃切除術の合併症予測モデルの開発. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜
5. 八尾健太、花岡まりえ、朝野紗稀子、有賀翔太、石原慶、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、柿崎奈々子、髙岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 腫瘍性大腸炎に対する経肛門内視鏡併用手術およびロボット支援手術の治療成績に関する比較. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜

6. 布施匡啓、高岡亜弓、朝野紗稀子、八尾健太、辻啓明、藤田孝尚、石原慶、塚原啓司、柿崎奈々子、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 大腸癌術後局所再発に対するロボット支援手術の短期手術成績の検討. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜

7. 田所裕規、小郷泰一、有賀翔太、安井友梨奈、石原慶、塚原啓司、奥野圭祐、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当院におけるロボット支援下鼠径ヘルニア修復術の短期成績の検討. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜

8. 藤原尚志、小郷泰一、春木茂男、川田研郎、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 頸部 · 縦隔における食道を中心とした同心円状の層構造を活用した食道亜全摘術. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜

9. 東海林裕、飯田聡、今井健一郎、鴈野秀明、天笠秀俊、村瀬秀明、溝口正子、塩原寛之、永井鑑、絹笠祐介. 食道周囲蜜生結合識を意識した鏡視下食道切除術. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜

10. 石原慶、奥野圭祐、有賀翔太、田所裕規、安井友梨奈、塚原啓司、小郷泰一、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. ダブルトラクト再建を用いた腹腔鏡下／ロボット支援下噴門側胃切除術の長期機能成績. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜

11. 山﨑嘉美、徳永正則、坂井義博、高岡亜弓、山口和哉、岩田乃理子、藤原尚志、谷岡利朗、佐藤雄哉、山内慎一、花岡まりえ、川田研郎、春木茂男、絹笠祐介. 力覚フィードバック機能を有する手術支援ロボットを用いた縫合手技の検討. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜

12. 坂井義博、徳永正則、山﨑嘉美、高岡亜弓、山口和哉、花岡まりえ、岩田乃理子、藤原尚志、谷岡利朗、佐藤雄哉、山内慎一、春木茂男、絹笠祐介. 手術支援ロボット Saroa を用いたロボット手術における接触力フィードバックの有用性の検討. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜

13. 花岡まりえ、朝野紗稀子、柿崎奈々子、辻啓明、布施匡啓、藤田孝尚、八尾健太、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、田所裕規、有賀翔太、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 局所進行直腸癌に対するロボット手術の定型化への工夫と短期 · 中期成績. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜

14. 朝野紗稀子、高岡亜弓、有賀翔太、田所裕規、八尾健太、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、柿崎奈々子、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. ロボット手術時代における若手外科医の手術修練の現状と今後について—アンケート調査よりー. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜

15. 朝野紗稀子、高岡亜弓、有賀翔太、田所裕規、八尾健太、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、柿崎奈々子、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. ロボット手術時代における若手外科医の手術修練の現状と今後について—アンケート調査よりー. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.09 横浜

16. 三代雅明、奥谷恵美、塩見明生、李相雄、福長洋介、廣純一郎、絹笠祐介、野村明成、大野吏輝、川合一茂、安井昌義、宇山一朗、坂井義治、竹政伊知朗. ロボット支援超低医前方切除術又は経肛門吻合を伴うロボット支援直腸切除術の短期成績. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.08 横浜

17. 高岡亜弓、朝野紗稀子、有賀翔太、柿崎奈々子、塚原啓司、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、八尾健太、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援下直腸切除術の長期手術成績の検討. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.08 横浜

18. 塚原啓司、春木茂男、有賀翔太、安井友梨奈、田所裕規、石原慶、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、徳永正則、絹笠祐介. バレット食道腺癌術後の残食道腺癌に対し胸腔鏡下食道切除術を施行した一例. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.08 横浜

19. 有賀翔太、谷岡利朗、石原慶、田所裕規、塚原啓司、安井友梨奈、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 上部進行胃癌に対する脾温存脾門リンパ節郭清の短期成績の検討. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.08 横浜

20. 藤原尚志、小郷泰一、春木茂男、川田研郎、坂野正佳、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 頸部正中アプローチと経皮ポートにより胸腔鏡と同様の手術操作を目指した縦隔鏡下食道亜全摘術. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.08 横浜

21. 辻啓明、山内慎一、朝野紗稀子、藤田孝尚、布施匡啓、八尾健太、柿崎奈々子、高岡亜弓、佐々木恵、花岡まりえ、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当院におけるクローン病に対す腹腔鏡下腸切除術の治療成績. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.08 横浜

22. 花岡まりえ、朝野紗稀子、柿崎奈々子、辻啓明、布施匡啓、藤田孝尚、八尾健太、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、塚原啓司、安井友梨奈、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 女性術者によるロボット支援手術の短期成績とアンケート調査からわかること. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.08 横浜

23. 小郷泰一、藤原尚志、春木茂男、川田研郎、坂野正佳、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 同心円状モデルに基づいた食道癌右上縦隔郭清手技. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.08 横浜

24. 谷岡利朗、坂野正佳、有賀翔太、石原慶、田所裕規、塚原啓司、安井友梨奈、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. ロボット手術におけるトラブルとトラブルシューティング. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.07 横浜

25. 絹笠祐介、山内慎一、花岡まりえ、高岡亜弓、佐々木恵、朝野紗稀子、有賀翔太、藤田孝尚、辻啓明、布施匡啓、八尾健太、春木茂男、徳永正則. 下部消化管領域の技術認定制度の現状と課題. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.07 横浜

26. 絹笠祐介. 大腸がんに対する手術戦略. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.07 横浜

27. 絹笠祐介. 骨盤外科医必見！！ 領域を超えて学ぶ骨盤リンパ節郭清の最新傾向. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.07 横浜

28. 藤田孝尚、花岡まりえ、朝野紗稀子、田所裕規、八尾健太、安井友梨奈、辻啓明、布施匡啓、柿崎奈々子、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科における下部進行直腸癌に対するロボット支援側方郭清の短期 · 中期成績の検討. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.07 横浜

29. 安井友梨奈、奥野圭祐、有賀翔太、田所裕規、石原慶、塚原啓司、小郷泰一、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 80 歳以上の高齢胃癌患者に対するロボット支援手術の有用性の検討. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.07 横浜

30. 佐々木恵、安井友梨奈、田所裕規、朝野紗稀子、八尾健太、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、柿崎奈々子、高岡亜弓、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援結腸切除術の短期成績-Laparoscopic Surgery との比較検討-. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.07 横浜

31. 藤原尚志、小郷泰一、春木茂男、川田研郎、坂野正佳、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 食道胃接合部癌に対する胸腔内吻合を伴う有茎回結腸間置 · 噴門部再建術. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.07 横浜

32. 山内慎一、朝野紗稀子、柿崎奈々子、塚原啓司、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、八尾健太、高岡亜弓、佐々木恵、花岡まりえ、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科における右側結腸癌に対するロボット支援手術と腹腔鏡下手術の比較検討. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会（JSES2023） 2023.12.07 横浜

33. 春木茂男、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、徳永正則、絹笠祐介. 当院における上部消化管外科診療の現状と問題. 第 85 回日本臨床外科学会 2023.11.18 岡山

34. 谷岡利朗、中川真理、中川俊作、高岡亜弓、佐々木恵、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 外科を魅力的にするためにやるべきこと. 第 85 回日本臨床外科学会 2023.11.17 岡山

35. 藤原尚志、小郷泰一、春木茂男、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 食道胃接合部癌に対する下部食道切除後に確実な逆流防止を実現する回結腸間置 · 噴門部再建術. 第 85 回日本臨床外科学会 2023.11.17 岡山

36. 東海林裕、福田晃、飯田聡、今井健一郎、鴈野秀明、天笠秀俊、村瀬秀明、渋谷豪、川口真智子、溝口正子、塩原寛之、後藤佳名子、永井鑑、絹笠祐介、安藤昌之. 当院での鏡視下食道切除術における反回神経麻痺防止の工夫. 第 85 回日本臨床外科学会 2023.11.17 岡山

37. 花岡まりえ、朝野紗稀子、柿崎奈々子、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、八尾健太、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 潰瘍性大腸炎に対する経肛門内視鏡併用手術およびロボット支援手術の治療成績の検討. 第 85 回日本臨床外科学会 2023.11.16 岡山

38. 河邊浩明，大野十央，川田研郎，藤原尚志，立石優美子，岡田隆平，有泉陽介，朝蔭孝宏. 内視鏡下咽頭喉頭手術で切除後に空腸再建術を行なった下咽頭癌再発の 1 例. 第 74 回日本気管食道科学会 2023.11.15 福岡

39. 杉本太郎，朝蔭孝宏，久米雄一郎，川田研郎. 咽喉頭癌に対する経口的鏡視下手術のピットフォール及びその適応と限界. 第 74 回日本気管食道科学会 2023.11.15 福岡

40. 中島康晃、荻谷一男、藤原尚志、三浦竣助、中田豊、山本雄大、岩田乃理子、遠藤晴久、佐伯伊知郎、高橋定雄、小郷泰一、岡田卓也、春木茂男、川田研郎. 術前／導入化学療法+咽頭回転法を用いた術野展開による咽頭温存を目指した頸部食道癌治療戦略. 第 74 回日本気管食道科学会 2023.11.15 福岡

41. 東海林裕、室生暁、永井鑑、川田研郎、Tharnmanularp Suthasinee、 Jiamjunyasiri Areeya、秋田恵一、絹笠祐介、鄭子文、安藤昌之. 食道周囲密性結合織についての組織発生学的研究. 第 74 回日本気管食道科学会 2023.11.15 福岡

42. 大野十央, 川田研郎, 峯真司, 松居秀敏, 馬場祥史, 安田卓司, 佐久間淳, 池田賢一郎, 丸尾貴志, 奥田匠, 朝蔭孝宏. 頸部食道癌治療全国調査から見る喉頭温存治療戦略. 第 74 回日本気管食道科学会 2023.11.14 福岡

43. 川田研郎、河邊浩明、大野十央、岡田隆平、有泉陽介、小郷泰一、藤原尚志、春木茂男、朝蔭孝宏. 中咽頭表在癌における HPV の関与についての検討. 第 74 回日本気管食道科学会 2023.11.14 福岡

44. 藤原尚志、小郷泰一、春木茂男、川田研郎、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 同心円状の筋膜構造に沿った鈍的 · 鋭的剥離を基本とした食道癌 · 反回神経周囲郭清の手術手技. 第 74 回日本気管食道科学会 2023.11.14 福岡

45. 高岡亜弓、朝野紗稀子、八尾健太、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、柿崎奈々子、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援下結腸切除術の短期手術成績の検討. 第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会 2023.11.11 熊本

46. 絹笠祐介. 鏡視下手術時代における解剖に則った直腸癌手術. 第 37 回日本泌尿器内視鏡 · ロボティクス学会総会 2023.11.10 米子

47. 花岡まりえ、朝野紗稀子、柿崎奈々子、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、八尾健太、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. 原発および再発直腸癌に対するロボット支援拡大手術の定型化への工夫と短期成績. 第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会 2023.11.10 熊本

48. 山内慎一、朝野紗稀子、有賀翔太、石原慶、柿崎奈々子、田所裕規、塚原啓司、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、八尾健太、安井友梨奈、高岡亜弓、佐々木恵、花岡まりえ、徳永正則、絹笠祐介. 当科における脾彎曲部癌に対するロボット支援結腸切除術の定型化の取り組み. 第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会 2023.11.10 熊本

49. 川田研郎. 頭頚部表在癌の内視鏡診断と治療. 第 31 回日本消化器関連学会週間　JDDW2023KOBE 2023.11.04 神戸

50. 藤原尚志、春木茂男、徳永正則. 安全性 · 機能性 · 根治性を備えた下部食道切除術後の胸腔内吻合を伴う有茎回結腸間置再建術. 第 31 回日本消化器関連学会週間　JDDW2023KOBE 2023.11.04 神戸

51. 高岡亜弓、徳永正則、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援下結腸切除術 113 例の短期手術成績の検討. 第 31 回日本消化器関連学会週間　JDDW2023KOBE 2023.11.03 神戸

52. 川田研郎. 高周波装置の活用術　ESD 設定と APC による主要焼灼. 第 31 回日本消化器関連学会週間　JDDW2023KOBE 2023.11.02 神戸

53. 絹笠祐介. 大腸癌ロボット支援手術の進歩. 第 31 回日本消化器関連学会週間　JDDW2023KOBE 2023.11.02 神戸

54. 絹笠祐介、山内慎一、花岡まりえ、高岡亜弓、布施匡啓、朝野紗稀子、八尾健太、辻啓明、藤田孝尚、春木茂男、徳永正則. 局所再発に対するロボット支援手術. 第 61 回日本癌治療学会学術集会 2023.10.21 横浜

55. 徳永正則. 進行胃癌に対する集学的治療. 第 61 回日本癌治療学会学術集会 2023.10.20 横浜

56. 藤原尚志、春木茂男、小郷泰一、川田研郎、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 胸腔内吻合を伴う有茎回結腸間置による、食道胃接合部癌手術の新しい再建方法. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 2023.10.20 仙台

57. 谷岡利朗. 胃癌手術におけるロボット手術教育の工夫. 10th Surgical Education Summit 2023.09.03

58. 藤原尚志、山口和哉、春木茂男、川田研郎、谷岡利朗、佐藤雄哉、徳永正則、絹笠祐介. 外科解剖に則った頸部正中アプローチ · 4 ポートでの縦隔鏡下食道亜全摘術. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.14 函館

59. 高岡亜弓、藤井友夏里、坂井義博、井川勇人、花岡まりえ、岩田乃理子、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援下結腸体腔内吻合 37 例の短期成績の検討. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.14 函館

60. 絹笠祐介. Saroa サージカルシステムの臨床経験ー Clinical Experience of Saroa Surgical System ー. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.14 函館

61. 徳永正則. 安全性を追求した PG 再建のコツとピットフォール. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.14 函館

62. 山内慎一、鈴木悠太、大和美寿々、中川真理、高岡亜弓、花岡まりえ、岩田乃理子、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科における重篤な併存症を有する高齢直腸癌患者に対するロボット支援下直腸切除術の治療成績. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.14 函館

63. 岩田乃理子、小田豊士、鈴木悠太、大和美寿々、高岡亜弓、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援下結腸切除術の手術手技と短期成績. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.14 函館

64. 東海林裕、福田晃、飯田聡、大木岳志、今井健一郎、鴈野秀明、塩原寛之、永井鑑、絹笠祐介、安藤昌之. 当院における縦隔鏡下食道切除術の適応およびその工夫. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.14 函館

65. 坂井義博、山内慎一、芥田壮平、谷田部悠介、高岡亜弓、花岡まりえ、岩田乃理子、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科における経肛門内視鏡併用腹腔鏡下大腸全摘術 · 回腸嚢肛門吻合の手術手技. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.14 函館

66. 芥田壮平、高岡亜弓、井川勇人、坂井義博、花岡まりえ、岩田乃理子、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科における colitis-associated cancer に対する手術の短期成績の検討. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.14 函館

67. 谷岡利朗、山口和哉、藤原尚志、佐藤雄哉、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 腹膜高位切開法を用いた腹腔鏡下/ロボット支援下鼠経ヘルニア修復術. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.13 函館

68. 花岡まりえ、小田豊士、中川真理、藤井友夏里、高岡亜弓、岩田乃理子、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 局所進行直腸癌に対する低侵襲手術の短期 · 長期成績　腹腔鏡手術 vs ロボット支援手術. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.13 函館

69. 大友真由子、藤原尚志、山口和哉、谷岡利朗、佐藤雄哉、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 食道癌手術における気管分岐部郭清の手術手技と同心円状モデルに基づく外科解剖による裏付け. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.13 函館

70. 渡邊秀一、奥野圭佑、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、絹笠祐介、田邉　稔. マイクロ RNA と MSI で胃がん早期再発例を予測する. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

71. 小郷泰一、藤原尚志、春木茂男、山口和哉、川田研郎、坂野正佳、谷岡利朗、佐藤雄哉、徳永正則、絹笠祐介. 安全性 · 根治性 · 機能性を兼ね備えた、食道胃接合部癌に対する下部食道切除後の新しい再建法. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

72. 山口和哉、春木茂男、坂野正佳、藤原尚志、谷岡利朗、佐藤雄哉、川田研郎、徳永正則、絹笠祐介. 頸部食道癌に対する頸部食道切除術の短期成績および長期成績の検討. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

73. 佐藤雄哉、徳永正則、山口和哉、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、絹笠祐介. アドバンスドバイポーラー/LCS を用いないロボット支援下胃切除術について. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

74. 鈴木悠太、花岡まりえ、坂井義博、井川勇人、高岡亜弓、岩田乃理子、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当院における直腸 NET の外科的治療成績とリンパ節転移 · 再発因子の検討. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

75. 谷田部悠介、山内慎一、芥田壮平、高岡亜弓、花岡まりえ、岩田乃理子、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. ロボット支援下手術の縫合手技におけるシミュレーターの有用性の検証. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

76. 井川勇人、高岡亜弓、鈴木悠太、大和美寿々、花岡まりえ、岩田乃理子、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. ロボット支援下側方郭清の短期成績. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

77. 山﨑嘉美、谷岡利朗、坂野正佳、山口和哉、藤原尚志、佐藤雄哉、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当院における大型 3 型/4 型胃癌に対する術前 DOS 療法の短期治療成績. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

78. 大和美寿々、花岡まりえ、芥田壮平、谷田部悠介、高岡亜弓、岩田乃理子、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 潰瘍性大腸炎に対する経肛門内視鏡併用大腸全摘術の治療成績および術後排便機能の比較. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

79. 溝口正子、山内慎一、高岡亜弓、花岡まりえ、岩田乃理子、藤原尚志、佐藤雄哉、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当教室におけるオンラインビデオカンファレンスの実施状況と今後の課題について. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

80. 佐々木恵、朝野紗稀子、八尾健太、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、柿崎奈々子、高岡亜弓、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当院における原発性虫垂癌症例の検討. 第 99 回大腸癌研究会学術集会 2023.07.07 尼崎

81. 川田研郎、春木茂男、藤原尚志. 全周性食道表在癌に対する ESD 計画的分割切除の有用性. 第 77 回日本食道学会学術集会 2023.06.30 大阪

82. 海藤章郎、冨井知春、齋藤稔史、柴野潤、本多正樹、八尾健太、春木茂男、伊藤浩次. 胸部食道癌における鎖骨上リンパ節は遠隔リンパ節である. 第 77 回日本食道学会学術集会 2023.06.30 大阪

83. 東海林裕、川村雄大、永井鑑、室生暁、川田研郎、岡田卓也、秋田恵一、絹笠祐介、安藤昌之. 発生学の観点から見た食道周囲密生結合織に関する組織学的研究. 第 77 回日本食道学会学術集会 2023.06.30 大阪

84. 藤原尚志、春木茂男、山口和哉、川田研郎、坂野正佳、谷岡利朗、佐藤雄哉、徳永正則、絹笠祐介. 安全性 · 機能性 · 根治性を兼ね備えた下部食道切除後の胸腔内吻合 · 回結腸間置再建術. 第 77 回日本食道学会学術集会 2023.06.29 大阪

85. 山口和哉、春木茂男、坂野正佳、藤原尚志、谷岡利朗、佐藤雄哉、川田研郎、徳永正則、絹笠祐介. 肺門リンパ節転移を伴う食道癌に対して ICI 併用 CF 療法後に根治手術を施行した 1 例. 第 77 回日本食道学会学術集会 2023.06.29 大阪

86. 大友真由子、藤原尚志、山口和哉、春木茂男、川田研郎、藤原直人、藤田武郎、大幸宏幸、徳永正則、絹笠祐介. 大動脈弓を新たな境界と設定した頚胸境界食道癌の下方リンパ節転移の検討. 第 77 回日本食道学会学術集会 2023.06.29 大阪

87. 熊谷洋一、田久保海誉、川田研郎. 食道におけるトルイジンブルー単染色による超拡大内視鏡観察　存在診断、範囲診断含めて. 第 105 回日本消化器内視鏡学会総会 2023.05.27 東京

88. 谷岡利朗、谷田部悠介、山口和哉、藤原尚志、佐藤雄哉、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. ロボット支援下鼠径ヘルニア修復術の現状と今後. 第 21 回日本ヘルニア学会学術集会 2023.05.26 大阪

89. 川田研郎、伊藤崇、大友真由子、坂野正佳、山口和哉、春木茂男. ESD を行った表在性の食道小細胞型神経内分泌細胞癌の 6 例. 第 105 回日本消化器内視鏡学会総会 2023.05.26 東京

90. 星野明弘、大橋直樹、藤井徹、山田衣里佳、榎本将也、三吉健太、岩崎謙一、太田喜洋、藤原直人、斎藤賢将、山口和哉、篠原元、塩原寛之、永川裕一. 直接指導による TAPP 法の若手教育　日帰りクリニックと連携した指導プログラム. 第 21 回日本ヘルニア学会学術集会 2023.05.26 大阪

91. 山口和哉、谷岡利朗、坂野正佳、藤原尚志、佐藤雄哉、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 膵体尾部切除術後の横隔膜ヘルニア嵌頓の 1 例. 第 21 回日本ヘルニア学会学術集会 2023.05.26 大阪

92. 谷田部悠介、谷岡利朗、山口和哉、藤原尚志、佐藤雄哉、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 人口尿道括約筋植込術後の患者における鼠径ヘルニアに対する治療成績. 第 21 回日本ヘルニア学会学術集会 2023.05.26 大阪

93. 大友真由子、川田研郎、芥田壮平、谷田部悠介、山﨑嘉美、谷岡利朗、佐藤雄哉、伊藤崇、春木茂男. 吐血を契機に発見された LSBE 由来の表在型 Barrett 食道癌の一例. 第 105 回日本消化器内視鏡学会総会 2023.05.26 東京

94. 藤原尚志、山口和哉、春木茂男、谷岡利朗、佐藤雄哉、川田研郎、徳永正則、絹笠祐介. 食道胃接合部癌に対する有茎回結腸間置および胸腔内吻合による下部食道 · 噴門再建術. 第 77 回手術手技研究会 2023.05.12 名古屋

95. 高岡亜弓、芥田壮平、井川勇人、大友真由子、谷田部悠介、山﨑嘉美、花岡まりえ、岩田乃理子、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援下直腸切除術の長期手術成績の検討. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

96. 山内慎一、芥田壮平、井川勇人、大友真由子、小田豊士、坂井義博、鈴木悠太、中川真理、藤井友夏里、谷田部悠介、山﨑嘉美、大和美寿々、髙岡亜弓、花岡まりえ、岩田乃理子、徳永正則、絹笠祐介、杉原健一. 下部直腸癌に対する予防的側方郭清の意義について. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

97. 小林竜太朗、上原圭、川合一茂、塩見明生、三浦卓也、渡邉純、風間伸介、上野秀樹、坂本一博、絹笠祐介、肥田侯矢、尾崎公輔、小倉淳司、村田悠記、味岡洋一. 1 mm-CT 画像と 3 mm MRI 画像による側方リンパ節転移診断能についての比較検討. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

98. 山口和哉、春木茂男、小田豊士、坂井義博、藤井友夏里、鈴木悠太、中川真理、大和美寿々、藤原尚志、谷岡利朗、佐藤雄哉、川田研郎、徳永正則、絹笠祐介. 76 歳以上の c Stage Ⅱ/Ⅲ食道癌への治療方針の選択と根治切除症例の予後の検討. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

99. 東海林裕、川村雄大、永井鑑、塩原寛之、川田研郎、岡田卓也、Suthasinee Tharnmanularp、Areeya Jiamjunyasiri、室生暁、秋田恵一、絹笠祐介、安藤昌之. 反回神経分岐部周囲の食道周囲密生結合織に関する解剖学的研究. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

100. 井川勇人、髙岡亜弓、芥田壮平、大友真由子、谷田部悠介、山﨑嘉美、花岡まりえ、岩田乃理子、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. 痔瘻癌 8 例の臨床病理と治療成績の検討. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

101. 岡村亮輔、肥田侯矢、板谷喜朗、奥村慎太郎、笠原桂子、岡本拓也、藤田悠介、西山和宏、前川久雄、星野伸晃、錦織達人、久森重夫、角田茂、山内慎一、杉原健一、小濱和貴. 高齢大腸癌患者に対する術後再発サーベイランスの意義. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.28 東京

102. 絹笠祐介. どうする再建〜ロボット支援結腸切除　保険収載から 1 年〜. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.28 東京

103. 岩田乃理子、絹笠祐介、徳永正則、山内慎一、花岡まりえ、髙岡亜弓、芥田壮平、井川勇人、大友真由子、谷田部悠介、山﨑嘉美. 当科におけるロボット支援下結腸切除術の短期成績；傾向スコア法を用いた後ろ向き解析. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.28 東京

104. 青木悠、芥田壮平、髙岡亜弓、井川勇人、大友真由子、谷田部悠介、山﨑嘉美、花岡まりえ、岩田乃理子、山内慎一、伊藤崇、若菜公雄、春木茂男、川田研郎、徳永正則、絹笠祐介. 直腸狭窄による腸閉塞症状で発見された婦人科臓器由来の粘液腺癌に対しロボット支援下手術を施行した一例. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.28 東京

105. 山﨑嘉美、花岡まりえ、石橋直弥、中川俊作、芥田壮平、井川勇人、大友真由子、谷田部悠介、髙岡亜弓、岩田乃理子、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援下括約筋間直腸切除術の短期 · 中期治療成績の検討. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.28 東京

106. 角田龍太、竹本暁、谷本康介、野地理夏、工藤亮、加納嘉人、大木美香、横堀順子、高嶺恵理子、絹笠祐介、池田貞勝. RNA 解析を含んだ新規遺伝子パネル検査の臨床的有用性の検討. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.28 東京

107. 谷岡利朗、坂野正佳、小田豊士、坂井義博、鈴木悠太、中川真理、藤井友夏里、大和美寿々、山口和哉、藤原尚志、佐藤雄哉、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 上部進行胃癌に対するロボット支援下胃切除術とリンパ節郭清. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.27 東京

108. 花岡まりえ、芥田壮平、井川勇人、大友真由子、谷田部悠介、山﨑嘉美、髙岡亜弓、岩田乃理子、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. 直腸癌に対するロボット他臓器合併切除/TPE の定型化への工夫と短期成績. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.27 東京

109. 徳永正則、谷岡利朗、佐藤雄哉、山口和哉、藤原尚志、川田研郎、春木茂男、絹笠祐介. 局所進行胃癌に対する術前化学療法. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.27 東京

110. 鈴木悠太、佐藤雄哉、坂野正佳、小田豊士、坂井義博、中川真理、藤井友夏里、大和美寿々、山口和哉、谷岡利朗、藤原尚志、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. Sureform を用いた、ロボット支援下幽門側胃切除後新三角吻合について. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.27 東京

111. 芥田壮平、髙岡亜弓、井川勇人、大友真由子、谷田部悠介、山﨑嘉美、花岡まりえ、岩田乃理子、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. 原発性直腸癌に対するロボット支援下骨盤内臓器全摘術の短期治療成績. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.27 東京

112. 大友真由子、高岡亜弓、芥田壮平、井川勇人、谷田部悠介、山﨑嘉美、花岡まりえ、岩田乃理子、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. 当院における原発性空腸 · 回腸癌 17 例の検討. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.27 東京

113. 坂井義博、谷岡利朗、坂野正佳、小田豊士、鈴木悠太、中川真理、藤井友夏里、大和美寿々、山口和哉、藤原尚志、佐藤雄哉、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 胃切除術後の腹壁瘢痕ヘルニア発生の検討. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.27 東京

114. 小田豊士、山口和哉、坂井義博、鈴木悠太、藤井友夏里、中川真理、大和美寿々、藤原尚志、谷岡利朗、佐藤雄哉、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科における CF 療法 · DCF 療法に不応な食道癌に対する CBDCA/PTX 併用化学放射線療法の検討. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.27 東京

115. 大和美寿々、花岡まりえ、小田豊士、坂井義博、鈴木悠太、藤井友夏里、中川真理、高岡亜弓、岩田乃理子、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. 当科における経肛門内視鏡併用大腸全摘術およびロボット支援下大腸全摘術の治療短期成績. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.27 東京

116. 藤井友夏里、佐藤雄哉、坂野正佳、小田豊士、坂井義博、鈴木悠太、中川真理、大和美寿々、山口和哉、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. ディープラーニングを用いた術前造影 CT 画像によるリンパ節転移予測について. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.27 東京

117. 谷岡利朗、山口和哉、藤原尚志、佐藤雄哉、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 上部胃癌に対するロボット支援下胃切除術とリンパ節郭清. 第 95 回日本胃癌学会総会 2023.02.25 札幌

118. 徳永正則、町田望、深川剛生、片井均、吉川貴己、朴成和、寺島雅典. 局所進行胃癌に対する周術期化学療法. 第 95 回日本胃癌学会総会 2023.02.24 札幌

119. 藤原尚志、山口和哉、谷岡利朗、佐藤雄哉、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 左腎筋膜前葉の筋膜剥離を先行させた噴門周囲 · 左胃動脈周囲郭清手技. 第 95 回日本胃癌学会総会 2023.02.24 札幌

120. 佐藤雄哉、徳永正則、坂野正佳、小田豊士、坂井義博、鈴木悠太、中川真理、藤井友夏里、大和美寿々、山口和哉、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、絹笠祐介. 機械学習を用いた、胃癌術後腹腔内感染性合併症の最良予測モデルの探索. 第 95 回日本胃癌学会総会 2023.02.24 札幌

121. 高岡亜弓、芥田壮平、井川勇人、大友真由子、谷田部悠介、山﨑嘉美、花岡まりえ、岩田乃理子、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 局所再発に対するロボット支援下手術の短期手術成績の検討. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会 2023.02.03 名古屋

122. 花岡まりえ、小田豊士、藤井友夏里、中川真理、大和美寿々、坂井義博、鈴木悠太、高岡亜弓、岩田乃理子、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援下側方郭清の短期成績. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会 2023.02.03 名古屋

123. 大友真由子、高岡亜弓、芥田壮平、井川勇人、谷田部悠介、山﨑嘉美、花岡まりえ、岩田乃理子、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. 医原性リンパ増殖性疾患により腸閉塞をきたし、ロボット支援下結腸切除術を施行した 1 例. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会 2023.02.03 名古屋

124. 山﨑嘉美、花岡まりえ、石橋直弥、中川俊作、芥田壮平、井川勇人、大友真由子、谷田部悠介、高岡亜弓、岩田乃理子、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. 多発リンパ節腫大を伴う直腸 · 前立腺の同時性重複癌に対しロボット支援下直腸切除術を施行した 1 例. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会 2023.02.03 名古屋

125. 芥田壮平、高岡亜弓、井川勇人、大友真由子、谷田部悠介、山﨑嘉美、花岡まりえ、岩田乃理子、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. 横行結腸癌を併発した潰瘍性大腸炎に対し、ロボット支援下大腸全摘術を施行した一例. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会 2023.02.03 名古屋

126. 岩田乃理子、芥田壮平、井川勇人、大友真由子、谷田部悠介、山﨑嘉美、高岡亜弓、花岡まりえ、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. ロボット支援下結腸右半切除術の短期成績　腹腔鏡下アプローチとの比較. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会 2023.02.03 名古屋

127. 絹笠祐介. 結腸癌に対するロボット手術. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会 2023.02.02 名古屋

128. 絹笠祐介. 切磋琢磨する骨盤外科手術ーエキスパートの手技ー. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会 2023.02.02 名古屋

129. 谷岡利朗、石橋直弥、坂野正佳、中川俊作、芥田壮平、井川勇人、谷田部悠介、山﨑嘉美、高岡亜弓、山口和哉、花岡まりえ、岩田乃理子、藤原尚志、佐藤雄哉、山内慎一、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. ロボット支援下鼠経ヘルニア修復術の導入. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会 2023.02.02 名古屋

130. 谷田部悠介、花岡まりえ、石橋直弥、中川俊作、芥田壮平、井川勇人、大友真由子、山﨑嘉美、高岡亜弓、岩田乃理子、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援下骨盤内臓器全摘術の短期成績. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会 2023.02.02

131. 鈴木悠太、山内慎一、小田豊士、坂井義博、中川真理、藤井友夏里、大和美寿々、高岡亜弓、花岡まりえ、岩田乃理子、杉原健一、絹笠祐介. Stage Ⅳ若年性大腸癌に対する術後の長期予後に関する検討（他施設共同研究）. 第 98 回大腸癌研究会 2023.01.27 東京

132. 谷岡利朗、芥田壮平、井川勇人、大友真由子、谷田部悠介、山﨑嘉美、山口和哉、藤原尚志、佐藤雄哉、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 腹壁ヘルニアに対する治療戦略. 第 10 回沖縄ヘルニア研究会 2023.01.08 沖縄

133. 川田研郎. 咽頭・食道癌の早期診断と内視鏡治療. 第 157 回南薩胃腸疾患検討会

134. 川田研郎. 頭頸部表在癌の診断と治療　明日から使える経鼻内視鏡活用術. 第 15 回県央消化器研究会

[その他業績]

1. 「 膵臓がん内に含まれる真菌マラセチア・グロボーサの量が膵臓がんの予後と関係があることを世界で初めて発見 」 — 今後の膵臓がんの発癌機序の解明や新規治療薬の開発に期待 —, 2023 年 09 月
Intratumoral Malassezia globosa Levels Predict Survival and
Therapeutic Response to Adjuvant Chemotherapy in Patients
With Pancreatic Ductal Adenocarcinoma

2. 「 膵臓がん内に含まれる真菌マラセチア・グロボーサの量が膵臓がんの予後と関係があることを世界で初めて発見 」 — 今後の膵臓がんの発癌機序の解明や新規治療薬の開発に期待 —, 2023 年 09 月
Intratumoral Malassezia globosa Levels Predict Survival and
Therapeutic Response to Adjuvant Chemotherapy in Patients
With Pancreatic Ductal Adenocarcinoma

3. 「 膵臓がん内に含まれる真菌マラセチア・グロボーサの量が膵臓がんの予後と関係があることを世界で初めて発見 」 — 今後の膵臓がんの発癌機序の解明や新規治療薬の開発に期待 —, 2023 年 09 月
Intratumoral Malassezia globosa Levels Predict Survival and
Therapeutic Response to Adjuvant Chemotherapy in Patients
With Pancreatic Ductal Adenocarcinoma

[社会貢献活動]

1. 亜細亜大学・田中幹也さんの病状と治療について, TBS, 速報！ ドラフト会議２０２１ The 運命の 1 日, 2022 年 09 月 30 日 - 現在

2. 医師としての人生について, （株）ケアネット, がん＠魅せ技, 2023 年 02 月 06 日 - 現在

3. 『大腸がんを考える』について, 産経新聞, 産経新聞多摩エリア版, 2023 年 02 月 20 日

4. 大腸がんに関する医療機関アンケートについて, 医療新聞社, 名医のいる病院 2024, 2023 年 04 月 12 日

5. 内視鏡手術支援ロボットの可能性について, テレビ東京, モーニングサテライト, 2023 年 05 月 19 日

6. 触覚の Saroa を用いた手術の進展について, 産経新聞社, 夕刊フジ, 2023 年 09 月 13 日 - 現在

7. 膵臓がんの予後と真菌量について, 共同通信社, 未定, 2023 年 09 月 26 日

呼吸器外科学

Thoracic Surgery

教　授	大久保　憲一	（オオクボ　ケンイチ）
准教授	石橋　洋則	（イシバシ　ヒロノリ）
助教	分島　良	（ワケジマ　リョウ）
助教	馬場　峻一	（ババ　シュンイチ）
助教	浅川　文香	（アサカワ　アヤカ）
助教	石川　祐也	（イシカワ　ユウヤ）
大学院生	栗原　泰幸	（クリハラ　ヤスユキ）
大学院生	杉田　裕介	（スギタ　ユウスケ）
大学院生	高原　弘知	（タカハラ　ヒロトモ）
大学院生	末吉　国誉	（スエヨシ　クニヨ）
大学院生	石沢　遼太	(イシザワ　リョウタ)

(1)　分野概要

呼吸器外科は呼吸器疾患の外科診断・治療に携わる診療科であり、呼吸器外科学分野は呼吸器外科に関わる診療・研究・教育を行う。

(2)　研究活動

・肺癌外科治療の低侵襲化
・難治性胸部悪性腫瘍に対する集学的治療
・転移性肺腫瘍に対する外科治療
・肺癌の臨床病理学的検討

(3)　教育活動

呼吸器外科医は主に原発性肺癌・転移性肺腫瘍・縦隔腫瘍・悪性胸膜中皮腫・気胸など肺・気管支・縦隔・胸壁疾患などに対する診断・治療のスペシャリストであり、一般外科の知識・技量を習得した後、呼吸器外科専門医を目指すことになる。
初期研修修了後、卒後３年目に１年間の一般外科研修を行い、日本外科学会専門医を取得できるだけの修練・経験を行う。その後、各コースにわかれるが、基本は呼吸器外科医の第一目標である呼吸器外科専門医を取得できるよう育成する（専門医コース）。
東京医科歯科大学医学部附属病院はこのようなスペシャリスト育成のためにも、完全胸腔鏡下手術などの低侵襲手術から高度な技術を必要とする拡大手術など豊富な症例を経験することができる。さらに大学関連病院および協力関係にある high volume center との連携により多彩な呼吸器外科の経験を積むことで専門性の高い知識・技量を習得する。専門医を目指しながら臨床を経験していく過程で様々な疑問に遭遇するが、それらを大学院にて呼吸器外科領域の研究テーマとし学位を取得する（専門医大学院コース）。
また都市・地方という医療事情の異なる多彩な臨床経験により、地域中核病院にても医療に貢献できる医師を養成できる（広域連携呼吸器外科専門医コース）。
呼吸器外科専門医を目指す場合、いずれかのコースを選択してもらうが、他のコースへの中途変更もいつでも自由に可能であり、記載されている以外にも海外を含め国内にも多彩な臨床研修を用意している。

(4) 教育方針

コースの概要：
呼吸器外科専門医大学院コースの１例
卒後３年目：一般外科研修を医科歯科大学外科関連病院で集中的に行う
卒後４年目：東京医科歯科大学呼吸器外科　医員として呼吸器外科修練
卒後５年目～６年目：東京医科歯科大学関連病院や協力関係にある high volume center の連携により多彩な呼吸器外科の経験
卒後７年目：大学院入学：この時点で呼吸器外科専門医コースから大学院コースへ移行
大学呼吸器外科医員として呼吸器外科のさらなる修練と後輩の指導
大学院卒業後は東京医科歯科大学呼吸器外科で医員・教員として、または関連病院にて後輩の指導に当たる

(5) 臨床活動および学外活動

外来：火・木・金
手術日：月・水・金
診療科カンファランス：月
呼吸器合同カンファランス：月
臨床病理カンファランス：水
病棟回診：毎朝
教授回診：火
Journal Club：火（隔週）
M&M カンファランス：火（隔週）
ラボミーティング：火（月１）
国内学会活動：日本外科学会、日本呼吸器外科学会、日本胸部外科学会、日本肺癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、および各地方会

(6) 臨床上の特色

肺・縦隔・胸膜・胸壁の呼吸器疾患に対する外科治療を担当し、大学病院として先進医療・高度医療を提供する。早期肺癌・良性肺疾患に対して、低侵襲の鏡視下呼吸器手術を提供し早期退院・早期社会復帰を図る。一方、局所進行肺癌・悪性胸膜中皮腫などの難治性胸部悪性腫瘍に対して、複数診療科の連携下で化学療法・放射線療法を組み合わせる集学的治療により治療成績・予後を改善する。これらを臨床研究として遂行し、成果を上げている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Shiraishi K, Takahashi A, Momozawa Y, Daigo Y, Kaneko S, Kawaguchi T, Kunitoh H, Matsumoto S, Horinouchi H, Goto A, Honda T, Shimizu K, Torasawa M, Takayanagi D, Saito M, Saito A, Ohe Y, Watanabe SI, Goto K, Tsuboi M, Tsuchihara K, Takata S, Aoi T, Takano A, Kobayashi M, Miyagi Y, Tanaka K, Suzuki H, Maeda D, Yamaura T, Matsuda M, Shimada Y, Mizuno T, Sakamoto H, Yoshida T, Goto Y, Yoshida T, Yamaji T, Sonobe M, Toyooka S, Yoneda K, Masago K, Tanaka F, Hara M, Fuse N, Nishizuka SS, Motoi N, Sawada N, Nishida Y, Kumada K, Takeuchi K, Tanno K, Yatabe Y, Sunami K, Hishida T, Miyazaki Y, Ito H, Amemiya M, Totsuka H, Nakayama H, Yokose T, Ishigaki K, Nagashima T, Ohtaki Y, Imai K, Takasawa K, Minamiya Y, Kobayashi K, Okubo K, Wakai K, Shimizu A, Yamamoto M, Iwasaki M, Matsuda K, Inazawa J, Shiraishi Y, Nishikawa H, Murakami Y, Kubo M, Matsuda F, Kamatani Y, Hamamoto R, Matsuo K, Kohno T. Identification of telomere maintenance gene variations related to lung adenocarcinoma risk by genome-wide association and whole genome sequencing analyses. Cancer communications (London, England). 2023.10;

2. Honda T, Seto K, Endo S, Takemoto A, Tanimoto K, Kobayashi M, Kitano M, Sakakibara R, Mitsumura T, Ishibashi H, Inazawa J, Tanaka T, Miyazaki Y, Okubo K. The possibility of mutations of RAS signaling genes and/or TP53 in combination as a negative prognostic impact on pathological stage I non-small cell lung cancer. Cancer medicine. 2023.09;

3. Kanda K, Nishimura H, Koiso T, Takemoto K, Nakagoe K, Yamada T, Takahashi M, Hanafusa M, Kawahara T, Yanagida Y, Kuramochi J, Fujiwara T. Applying negative ions and an electric field to countermeasure droplets/aerosol transmission without hindering communication. Scientific reports. 2023.08; 13(1); 13965

4. Shi J, Shiraishi K, Choi J, Matsuo K, Chen TY, Dai J, Hung RJ, Chen K, Shu XO, Kim YT, Landi MT, Lin D, Zheng W, Yin Z, Zhou B, Song B, Wang J, Seow WJ, Song L, Chang IS, Hu W, Chien LH, Cai Q, Hong YC, Kim HN, Wu YL, Wong MP, Richardson BD, Funderburk KM, Li S, Zhang T, Breeze C, Wang Z, Blechter B, Bassig BA, Kim JH, Albanes D, Wong JYY, Shin MH, Chung LP, Yang Y, An SJ, Zheng H, Yatabe Y, Zhang XC, Kim YC, Caporaso NE, Chang J, Ho JCM, Kubo M, Daigo Y, Song M, Momozawa Y, Kamatani Y, Kobayashi M, Okubo K, Honda T, Hosgood DH, Kunitoh H, Patel H, Watanabe SI, Miyagi Y, Nakayama H, Matsumoto S, Horinouchi H, Tsuboi M, Hamamoto R, Goto K, Ohe Y, Takahashi A, Goto A, Minamiya Y, Hara M, Nishida Y, Takeuchi K, Wakai K, Matsuda K, Murakami Y, Shimizu K, Suzuki H, Saito M, Ohtaki Y, Tanaka K, Wu T, Wei F, Dai H, Machiela MJ, Su J, Kim YH, Oh IJ, Lee VHF, Chang GC, Tsai YH, Chen KY, Huang MS, Su WC, Chen YM, Seow A, Park JY, Kweon SS, Chen KC, Gao YT, Qian B, Wu C, Lu D, Liu J, Schwartz AG, Houlston R, Spitz MR, Gorlov IP, Wu X, Yang P, Lam S, Tardon A, Chen C, Bojesen SE, Johansson M, Risch A, Bickeböller H, Ji BT, Wichmann HE, Christiani DC, Rennert G, Arnold S, Brennan P, McKay J, Field JK, Shete SS, Le Marchand L, Liu G, Andrew A, Kiemeney LA, Zienolddiny-Narui S, Grankvist K, Johansson M, Cox A, Taylor F, Yuan JM, Lazarus P, Schabath MB, Aldrich MC, Jeon HS, Jiang SS, Sung JS, Chen CH, Hsiao CF, Jung YJ, Guo H, Hu Z, Burdett L, Yeager M, Hutchinson A, Hicks B, Liu J, Zhu B, Berndt SI, Wu W, Wang J, Li Y, Choi JE, Park KH, Sung SW, Liu L, Kang CH, Wang WC, Xu J, Guan P, Tan W, Yu CJ, Yang G, Sihoe ADL, Chen Y, Choi YY, Kim JS, Yoon HI, Park IK, Xu P, He Q, Wang CL, Hung HH, Vermeulen RCH, Cheng I, Wu J, Lim WY, Tsai FY, Chan JKC, Li J, Chen H, Lin HC, Jin L, Liu J, Sawada N, Yamaji T, Wyatt K, Li SA, Ma H, Zhu M, Wang Z, Cheng S, Li X, Ren Y, Chao A, Iwasaki M, Zhu J, Jiang G, Fei K, Wu G, Chen CY, Chen CJ, Yang PC, Yu J, Stevens VL, Fraumeni JF Jr, Chatterjee N, Gorlova OY, Hsiung CA, Amos CI, Shen H, Chanock SJ, Rothman N, Kohno T, Lan Q. Genome-wide association study of lung adenocarcinoma in East Asia and comparison with a European population. Nature communications. 2023.05; 14(1); 3043

5. Hanafusa M, Nawa N, Goto Y, Kawahara T, Miyamae S, Ueki Y, Nosaka N, Wakabayashi K, Tohda S, Tateishi U, Fujiwara T*. Effectiveness of remdesivir with corticosteroids for COVID-19 patients in intensive care unit: a hospital-based observational study. J Med Virol. 2023.01; 95(1); e28168

6. Ayaka Asakawa, Hironori Ishibashi, Shunichi Baba, Katsutoshi Seto, Ryo Wakejima, Kenichi Okubo. Usefulness of the Global Leadership Initiative on malnutrition (GLIM) criteria in preoperative nutritional assessment of patients with primary lung cancer Clinical Nutrition ESPEN. 2023.12; Online first (Epub);

7. Yuya Ishikawa, Takaaki Sugino, Kenichi Okubo, Yoshikazu Nakajima. Detecting the location of lung cancer on thoracoscopic images using deep convolutional neural networks Surgery Today. 2023.12; 53(12); 1380-1387

8. Mariko Hanafusa, Yuri Ito, Hironori Ishibashi, Tomoki Nakaya, Nobutoshi Nawa, Tomotaka Sobue, Kenichi Okubo and Takeo Fujiwara. Association between socioeconomic status and net survival after primary lung cancer surgery: a tertiary university hospital retrospective observational study in Japan Japanese Journal of Clinical Oncology. 2023.04; 53(4); 287-296

9. Hironori Ishibashi, Ryo Wakejima, Yasuyuki Kurihara, Katsutoshi Seto, Shunichi Baba, Ayaka Asakawa, Satoshi Toyama, Tokujiro Uchida, Kenichi Okubo. Extubation by supraglottic airway after lobectomy prevents cough-associated air leaks and prolonged coughing or sore throat European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2023.05; 63(5); ezad158

10. Yuting Yin, Rie Sakakibara, Takayuki Honda, Susumu Kirimura, Pissacha Daroonpan, Masashi Kobayashi, Kohei Ando, Hideki Ujiie, Tatsuya Kato, Kichizo Kaga, Takahiro Mitsumura, Ryoji Nakano, Hiroyuki Sakashita, Shinichi Matsuge, Hironori Ishibashi, Takumi Akashi, Yasuhiro Hida, Takao Morohoshi, Miyuki Azuma, Kenichi Okubo, Yasunari Miyazaki. High density and proximity of CD8+ T cells to tumor cells are correlated with better response to nivolumab treatment in metastatic pleural mesothelioma Thorac Cancer. 2023.07; 14(20); 1991-2000

11. Kenichi Okubo, Hironori Ishibashi, Ryo Wakejima, Shunichi Baba, Ayaka Asakawa, Hiroshi Seshima. Extended pleurectomy/decortication and hyperthermic intraoperative intrapleural cisplatin perfusion for malignant pleural mesothelioma JTCVS Open. 2023.12; 16; 977-986

1. 石橋 洋則, 大久保 憲一. 未来の専門医を育てる!　近代教育発祥の地から発信するジェンダーレスな東京医科歯科大学呼吸器外科医教育 胸部外科. 2023.06; 76(6); 459-462

2. 石橋洋則、大久保憲一. 縦隔腫瘍に対する低侵襲手術—術式の変遷 胸部外科. 2023.07; 76(7); 534-539

[講演・口頭発表等]

1. 浅川 文香, 青木 美智, 壽美 友里, 高原 弘知, 馬場 峻一, 分島 良, 石橋 洋則, 大久保 憲一. 低栄養の評価は何を用いるか?GLIM 基準を中心として　原発性肺癌患者の術前評価における GLIM 基準の有用性　術前栄養評価としての InBody の活用. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2023.04.01

2. 遠藤 智, 本多 隆行, 瀬戸 克年, 北野 正剛, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 石橋 洋則, 大久保 憲一, 宮崎 泰成. 非小細胞肺癌病理学的 I 期の再発に関連するがん関連遺伝子プロファイルの探索. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

[その他業績]

1. 肺腺がんリスクを決める遺伝子の個人差を同定 非喫煙者の肺腺がんリスクの予測に期待, 2023 年 06 月
-

2. A case of repeat oligoprogressive castration-resistant prostate cancer treated with pulmonary metastasectomy, 2023 年 07 月
IJU Case Report. 2023 Jul; 6(4): 216–218.Takahiko Soma, Soichiro Yoshida, Ryo Wakejima, Towako Taguchi, Shohei Fukuda, Hajime Tanaka, Minato Yokoyama, Kenichi Ohashi, Kenichi Okubo, and Yasuhisa Fujii

3. Pulmonary Artery Aneurysm in a Patient with Nontuberculous Mycobacteria Infection, 2023 年 08 月
Internal Medicine. 2023 Aug 9. doi: 10.2169/internalmedicine.2199-23. Online ahead of print. Soichi Maruyama, Haruhiko Furusawa, Satoshi Endo, Takashi Kumagai, Takahiro Mitsumura, Sho Shimada, Takashi Yamana, Rie Sakakibara, Yuki Iijima, Sho Shibata, Takayuki Honda, Tsuyoshi Shirai, Tsukasa Okamoto, Tomoya Tateishi, Meiyo Tamaoka, Yuko Kinowaki, Hironori Ishibashi, Kenichi Okubo, Yasunari Miyazaki

4. 非喫煙者に多い EGFR 変異肺腺がんへのかかりやすさを解明　肺腺がんの予防・早期発見にむけた手がかりとして期待, 2023 年 11 月
—

5. Pulmonary Mucormycosis Involving the Left Main Bronchus and the Pulmonary Artery, 2023 年 12 月
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. December 2023, Vol.29(6):315-318. Katsutoshi Seto, Rika Nohara, Yusuke Sugita, Hironori Ishibashi, Kenichi Okubo

都医学研疾患分子生物学分野

Igakuken Disease-oriented Molecular Biology

連携教授　　原 孝彦
連携教授　　新井 誠
連携教授　　長谷川 成人
連携准教授　　宮岡 佑一郎
連携准教授　　丹野 秀崇
大学院生　　朝倉 舞、中村 朱里、飯野 響歌、中島 一徹、関 文哉、安藤 輝、高橋 陸、前田 湊、齋藤 杏梨、黄 嵐郁、篠崎 佳代子（４月～）、安田 有牙（４月～）、今村 哉太（４月～）

(1)　分野概要

健康長寿社会実現のためには、がんや糖尿病の発症を予防し、いまだ治療薬のない精神・神経難病に対する治療法を開発する必要がある。昨今、iPS 細胞を用いた機能細胞の作出や病態発症モデルの開発も、新しいアプローチとして期待されている。進展著しいこれらの医療研究分野に対して、高度な分子生物学的知識と研究力をもって貢献できる人材を育成する。その上で、がん、糖尿病、統合失調症、認知症、遺伝性難病などの発症原因の究明と治療法の開発に向けて、教官学生が一体となって取り組む。

(2)　研究活動

[原 孝彦]

組織幹細胞（造血幹細胞、骨格筋幹細胞等）がどのような分子機序によって発生し、成体内で維持されているのかについて、ES/iPS 細胞の *in vitro* 分化系やコンディショナル KO マウスを用いて解明する。また、肥満性糖尿病や癌の発症等に関与するケモカイン CXCL14 の分子生物学を進展させ、新たな分子標的薬の開発を目指す。

[新井 誠]

分子生物学的アプローチにより精神疾患の原因解明をはかり、根本的な治療・予防法を開発することを目的としている。血液や DNA などヒト検体を用いてゲノム解析やメタボローム解析を行う。同定した異常を細胞発現系実験により機能解析し、遺伝子改変マウスを用いてモデル実験を行う。

[長谷川 成人]
アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患の発症、進行の分子機構の解明を目的とする。効果的治療法をみつけるため、生化学、免疫組織学、分子生物学の手法を用いて、病態を再現する試験管、細胞、動物モデルの構築と解析を行う。

[宮岡 佑一郎]
ヒト iPS 細胞のゲノム編集を技術基盤として、遺伝性疾患の治療法開発を目指す。そのために、心疾患や肝疾患などの原因となる変異を持つ iPS 細胞を樹立し、免疫染色や PCR などの細胞生物学的、分子生物学的手法で解析することで、疾患の発症機序を探る。また、正確な遺伝子操作の達成のために、CRISPR-Cas9 を中心としたゲノム編集技術の改良も進める。

[丹野 秀崇]
高速 1 細胞解析技術をがん患者由来検体に適用することによって、がん患者体内の免疫反応を 1 細胞レベルで網羅的に解析する。得られた知見を活用することによって新規がん治療法、診断法の開発を行う。また、免疫学において役立つ新規ツールの開発も行っていく。

(3) 教育活動

がん、糖尿病、統合失調症、認知症、遺伝性難病などの発症原因を分子レベルで探索し、それらの難病に対する治療戦略を創出できる研究者を養成する体制を整えた。博士課程の大学院生 4 名、および新人 3 名を含む修士課程の大学院生 6 名に対して、上記の目的に沿って専門教育を施した。

(4) 教育方針

がん、糖尿病、統合失調症、認知症、遺伝性難病などの発症原因と治療法に関する最新の学術論文を読みこなせるよう指導する。患者に現れる疾患の予兆や進行具合を、遺伝子改変マウス等の動物モデル実験系や iPS 細胞の試験管内モデル系を用いて如何にして再現するか、最前線の研究実例から学んでもらう。次に、上記の疾患の発症原因について、正しい研究倫理に則った実験によって分子レベルで探索し、新しい治療戦略を一緒に考えていく。そして、研究成果を学会や学術誌に発表するための作法を伝授する。

(5) 研究業績

[原著]

1. K. Miyashita, T. Yagi, N. Kagaya, A. Takechi, C. Nakata, R. Kanda, H. Nuriya, K. Tanegashima, S. Hoyano, F. Seki, C. Yoshida, Y. Hachiro, T. Higashi, N. Kitada, T. Toya, T. Kobayashi, Y. Najima, S. Goyama, S. A. Maki, T. Kitamura, N. Doki, K. Shin-ya, and T. Hara. Identification of compounds that preferentially suppress the growth of T cell acute lymphoblastic leukemia-derived cells. ***Cancer Sci.***, 114: 4032-4040, 2023.
2. T. Higashi, C. Yoshida, Y. Hachiro, C. Nakata, A. Takechi, T. Yagi, K. Miyashita, N. Kitada, R. Obata, T. Hirano, T. Hara, and S. A Maki. Synthesis and anti-tumor activities in human leukemia-derived cells of polyenylpyrroles with a methyl group at the conjugated polyene terminus. ***Bioorg. Med. Chem. Lett.***, 95: 129471, 2023.
3. K. Toriumi, K. Iino, A. Ozawa, M. Miyashita, S. Yamasaki, K. Suzuki, H. Sugawa, K. Tabata, S. Yamaguchi, S. Usami, M. Itokawa, A. Nishida, R. Nagai, H. Kamiguchi, and M. Arai. Glucuronic acid is a novel source of pentosidine, associated with schizophrenia. ***Redox Biol***., 67: 102876, 2023.
4. S. Son, M. Arai, K. Toriumi, C. Andica, D. Matsuyoshi, K. Kamagata, S. Aoki, T. Kawashima, T. Kochiyama, T. Okada, Y. Fushimi, Y. Nakamoto, Y. Kobayashi, T. Mura, M. Itokawa, and J. Miyata. Association between enhanced carbonyl stress and decreased apparent axonal density in schizophrenia by multimodal white matter imaging. ***Sci. Rep***., 13: 12220, 2023.
5. R. Mizutani, R. Saiga, Y. Yamamoto, M. Uesugi, A. Takeuchi, K. Uesugi, Y. Terada, Y. Suzuki, V. De Andrade, F. De Carlo, S. Takekoshi, C. Inomoto, N. Nakamura, Y. Torii, I. Kushima, S. Iritani, N. Ozaki, K. Oshima, M. Itokawa, and M. Arai. Structural aging of human neurons is opposite of the changes in schizophrenia. ***PLoS One***, 18: e0287646, 2023.
6. Y. H. Hsu, G. Pintacuda, R. Liu, E. Nacu, A. Kim, K. Tsafou, N. Petrossian, W. Crotty, J. M. Suh, J. Riseman, J. M. Martin, J. C. Biagini, D. Mena, J. K. T. Ching, E. Malolepsza, T. Li, T. Singh, T. Ge, S. B. Egri, B. Tanenbaum, C. R. Stanclift, A. M. Apffel. Schizophrenia Working Group of the Psychiatric Genomics Consortium; Stanley Global Asia Initiatives; S. A. Carr, M. Schenone, J. Jaffe, N. Fornelos, H. Huang, K. C. Eggan, and K. Lage. Using brain cell-type-specific protein interactomes to interpret neurodevelopmental genetic signals in schizophrenia. ***iScience***, 26: 106701, 2023.
7. Y. Tomita, K. Suzuki, S. Yamasaki, K. Toriumi, M. Miyashita, S. Ando, K. Endo, A. Yoshikawa, K. Tabata, S. Usami, M. Hiraiwa-Hasegawa, M. Itokawa, H. Kawaji, K. Kasai, A. Nishida, and M. Arai. Urinary exosomal microRNAs as predictive biomarkers for persistent psychotic-like experiences. ***Schizophrenia (Heidelb)***, 9: 14, 2023.
8. D. Arseni, R. Chen, A. G. Murzin, S. Y. Peak-Chew, H. J. Garringer, K. L. Newell, F. Kametani, A. C. Robinson, R. Vidal, B. Ghetti, M. Hasegawa, and B. Ryskeldi-Falcon. TDP-43 forms amyloid filaments with a distinct fold in type A FTLD-TDP. ***Nature***, 620: 898-903, 2023.

9. A. Tarutani, F, Kametani, M. Tahira, Y. Saito, M. Yoshida, A. C. Robinson, D. M. A. Mann, S. Murayama, T. Tomita, and M. Hasegawa. Distinct tau folds initiate templated seeding and alter the post-translational modification profile. ***Brain***, 146: 4988-4999, 2023.
10. C. Qi, M. Hasegawa, M. Takao, M. Sakai, M. Sasaki, M. Mizutani, A. Akagi, Y. Iwasaki, H. Miyahara, M. Yoshida, S. H. W. Scheres, and M. Goedert. Identical tau filaments in subacute sclerosing panencephalitis and chronic traumatic encephalopathy. ***Acta. Neuropathol. Commun.***, 11: 74, 2023.
11. C. Qi, B. M. Verheijen, Y. Kokubo, Y. Shi, S. Tetter, A. G. Murzin, A. Nakahara, S. Morimoto, M. Vermulst, R. Sasaki, E. Aronica, Y. Hirokawa, K. Oyanagi, A. Kakita, B. Ryskeldi-Falcon, M. Yoshida, M. Hasegawa, S. H. W. Scheres, and M. Goedert. Tau Filaments from Amyotrophic Lateral Sclerosis/Parkinsonism-Dementia Complex (ALS/PDC) adopt the CTE Fold. ***Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A.***, 120: e2306767120, 2023.
12. I. Nakajima, T. Tsukimura, T. Ono, T. Shiga, H. Shitara, T. Togawa, H. Sakuraba, and Y. Miyaoka. In vivo delivery of therapeutic molecules by transplantation of genome-edited induced pluripotent stem cells. ***Cell Transplant.***, 32: 9636897231173734, 2023.
13. M. de Majo, M. Koontz, E. Marsan, N. Salinas, A. Ramsey, Y. M. Kuo, K. Seo, H. Li, N. Dräger, K. Leng, S. L. Gonzales, M. Kurnellas, Y. Miyaoka, J. R. Klim, M. Kampmann, M. E. Ward, E. J. Huang, and E. M. Ullian. Granulin loss of function in human mature brain organoids implicates astrocytes in TDP-43 pathology. ***Stem Cell Rep.***, 18: 706-719. 2023.
14. K Lee, J Park, H Tanno, G Georgiou, B Diamond, and S. J. Kim. Peripheral T cell activation, not thymic selection, expands the T follicular helper repertoire in a lupus-prone murine model. ***Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A.***, 120: e2309780120, 2023.

[総説]

1. 原 孝彦, 種子島幸祐. 体内時計とケモカイン.北隆館. ***Precision Medicine***, 6: 354-357, 2023.
2. 原 孝彦. マウス休眠期の皮膚で働く抗菌免疫システム. バイオインダストリー協会. ***Bioscience & Industry***, 81: 28-29, 2023.
3. 鳥海 和也, 新井 誠. 統合失調症におけるペントシジン蓄積の分子機序. ***日本生物学的精神医学会誌***, 34: 111‐116, 2023.
4. K. Iino, K. Toriumi, and M. Arai. Genetic Analysis of AKR1A1 in Patients with Schizophrenia with Pentosidine Accumulation. ***IMARS Highlights***, 18: 5-9, 2023.
5. T. Wang, K. Toriumi, K. Suzuki, M. Itokawa, and M. Arai. Long-lasting effects of prenatal methylglyoxal exposure on behavior and the neurotransmitter system in adult mice. ***IMARS***

Highlights, 18: 12-13, 2023.

6. 田畑 光一, 鳥海 和也, 新井 誠. 特集. 統合失調症診療のフロントライン Part2: 統合失調症のバイオマーカーの可能性. ***臨床精神医学***, 52: 497-504, 2023.
7. 新井 誠, 石田 裕昭, 鳥海 和也. 特集. わが国の若手による統合失調症研究最前線. カルボニルストレスと統合失調症. ***精神医学***, 65: 425-434, 2023.
8. 長谷川成人. 神経変性の原因となるタンパク質微粒子の形成と伝播機構. ***生化学***, 95(2): 144-150: 2023.
9. 亀谷富由樹, 長谷川成人. 神経変性疾患における異常蓄積タンパク質のクライオ電子顕微鏡による解析. ***実験医学***, 増刊. 41(12): 44-52: 2023.
10. 樽谷愛理, 長谷川成人. クライオ電子顕微鏡によるタウタンパク質の構造解析診断での有用性. ***Annual Review 神経 2023***, 2023.
11. 長谷川成人. 総論 プロテイノパチー研究の新時代. ***BIO Clinica***, 38(3): 4-5. 2023.
12. 樽谷愛理, 長谷川成人. タウオパチーの生化学的、構造学的分類. ***BIO Clinica***, 38(3): 6-10. 2023.
13. G. Takahashi, and Y. Miyaoka. Large-scale single-cell cloning of genome-edited cultured human cells by On-chip SPiS. ***STAR Protoc.***, 4: 102364. 2023.

[書籍等出版物]

1. 宮岡 佑一郎（分担執筆）他著者 40 名. ゲノム編集技術～実験上のポイント／産業利用に向けた研究開発動向と安全性周知. 情報機構 ISBN：978-4-86502-242-1. 2023.1.23.
2. 宮岡 佑一郎.（分担執筆）他著者 92 名. ゲノム編集の最新技術と医薬品・遺伝子治療・農業・水畜産物・有用物質生産への活用. 技術情報協会 ISBN：978-4-86104-978-1. 2023.8.31.

[講演・口頭発表等]

1 原 孝彦. 電気通信大学研究開発セミナー 招待講演. 新しい白血病治療薬の実現に向けて. 2023.6.9, 調布.

2 関 文哉, 保屋野翔太, 中田千尋, 東 智也, 北田 昇雄, 牧 昌次郎, 原 孝彦. 急性 T リンパ芽球性白血病細胞を特異的に死滅させる化合物の作用機序. 第 46 回日本分子生物学会年会シンポジウム, 2023.12.6-8, 神戸.

3 T. Wang, K. Toriumi, K. Suzuki, M. Miyashita, A. Ozawa, M. Masada, M. Itokawa, and M. Arai. Amyloban, extracted from Hericium erinaceus, recovers social defeat stress-mediated social deficits by suppressing the dopaminergic system. Society for Neuroscience. 2023.11.14, Washington.

4 Y. Tomita, K. Suzuki, S. Yamasaki, M. Miyashita, K. Toriumi, M. Itokawa, A. Nishida, and M. Arai. Urinary exosomal microRNAs as predictive biomarkers for persistent psychotic-like

experiences. Society for Neuroscience. 2023.11.13, Washington.

5 K. Tabata, H. Shiwaku, H. Takahashi, and M. Arai. Hypozincemia is associated with clinical severities of schizophrenia. The 5th UK-Japan Neuroscience Symposium. 2023.9.1, Wales.

6 H. Ishida, K. Oshima, M. Miyashita, E. Nagata, I. Nohara, K. Kondo, K. Sekiyama, M. Kounoe, N. Iguchi, M. Itokawa, and M. Arai. Pentosidine-accumulating brain pathology in schizophrenia: a preliminary study using patient postmortem brains and non-human primate models. The 46th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society. 2023.8.1, Sendai.

7 田畑 光一, 宮下 光弘, 鳥海 和也, 糸川 昌成, 高橋 英彦, 新井 誠. 低亜鉛血症を伴う統合失調症の臨床的特徴. 第 45 回生物学的精神医学会年会. 2023.11.6, 那覇.

8 新井 誠. グリケーション研究で病気がみえる. グリケーションと統合失調症. 第 96 回日本生化学会大会シンポジウム. 2023.11.2, 福岡.

9 荻原 禅, 小澤 有都菜, 鳥海 和也, 王 恬冉, 松田 憲之, 新井 誠. 統合失調症と関与するペントシジンの特性. 第 96 回日本生化学会大会. 2023.11.1, 福岡.

10 鳥海 和也, 飯野 響歌, 小澤 有都菜, 宮下 光弘, 鈴木 一浩, 須川 日加里, 田畑 光一, 糸川 昌成, 永井 竜児, 上口 英則, 新井 誠. 統合失調症に関連した新規ペントシジン合成経路の同定. 第 96 回日本生化学会大会. 2023.10.31, 福岡.

11 飯野 響歌, 鳥海 和也, 林 謙次郎, 糸川 昌成, 新井 誠. 統合失調症に関連した AKR1A1 機能賦活剤の探索. 第 96 回日本生化学会大会. 2023.10.31, 福岡.

12 田畑 光一, 山崎 修道, 勝田 奈那, 須川日 加里, 鳥海 和也, 宮下 光弘, 糸川 昌成, 高橋 英彦, 永井 竜児, 西田 淳志, 新井 誠. 思春期の精神病症状と周産期に蓄積した AGE の遡及的な関連. 第 33 回日本メイラード学会. 2023.10.12, 東京.

13 石田 裕昭, 新井 誠. 非ヒト霊長類のペントシジン脳内蓄積は易怒・興奮と鬱様・不活発行動と同期する. 第 33 回日本メイラード学会. 2023.10.13, 東京.

14 飯野 響歌, 鳥海 和也, 林 謙次郎, 糸川 昌成, 新井 誠. AKR1A1 を標的とした統合失調症の新規治療薬のスクリーニング. 第 33 回日本メイラード学会. 2023.10.12, 東京.

15 鳥海 和也, 飯野 響歌, 小澤 有都菜, 宮下 光弘, 鈴木 一浩, 田畑 光一, 糸川 昌成, 新井 誠. 統合失調症における新規ペントシジン前駆物質グルクロン酸についての臨床学的解析. 第 33 回日本メイラード学会. 2023.10.12, 東京.

16 田畑 光一, 宮下 光弘, 鳥海 和也, 糸川 昌成, 高橋 英彦, 新井 誠. 低亜鉛血症を伴う統合失調症の臨床的特徴. 第 34 回日本微量元素学会学術集会. 2023.9.15, 徳島.

17 長谷川成人. 「蓄積病」としての認知症疾患. 第 42 回 日本認知症学会学術集会 Plenary session 2. 2023.11.25, 奈良.

18 長谷川成人. 認知症研究の最前線. 第 70 回日本臨床検査医学緑学会学術集会 特別講演. 2023.11.18, 長崎.

19 M. Hasegawa. Molecular dissection of TDP-43 proteinopathies. 2nd Perry disease international conference in Fukuoka. 2023.10.21, Fukuoka.

20 丹野秀崇. 新規 1 細胞解析技術による抗体・TCR レパトアの高速解析. 東京大学 定量

生命科学研究所 招待講演. 2023.7.28, 東京.

21 丹野秀崇. 新規 1 細胞解析技術による獲得免疫の網羅的解析. 東京工業大学 細胞制御工学研究センター 招待講演. 2023.1.31, 長津田.

[特許]

1. 特許出願「MHC 遺伝子群欠損動物細胞」出願番号 2023-148710.（鈴木輝彦, 原 孝彦）
2. PCT 出願「MHC 遺伝子群ヒト化動物」出願番号 PCT/JP2023/010779.（鈴木輝彦, 原 孝彦）
3. 特許出願「倍加染色体を持つ多能性幹細胞」出願番号 2023-131333（宮岡 佑一郎, 中島 一徹）
4. 米国特許出願 ”METHOD OF PRODUCING A NOVEL DISEASE MODEL ANIMAL FOR TAUOPATHIES” 出願番号 16/805203 (M. Hosokawa, H. Shitara, and M. Hasegawa)

[受賞]

[その他業績]

[社会貢献活動]

1. がん細胞の研究を体験してみよう. 東京都北区スーパーサイエンススクール. 2023.7.31, 上北沢.（原 孝彦）
2. 健康に暮らすためのヒント. 東京都北区区民大学. 2023.9.29, 王子.（原 孝彦）
3. 正常細胞とがん細胞の違いを探してみよう. 東京都北区区民大学. 2023.10.6, 上北沢.（原 孝彦）
4. がん細胞の研究を体験してみよう. 香川県立観音寺第一高校 東京研修. 2023.12.14, 上北沢.（原 孝彦）
5. Maillard 反応発見 110 周年シンポジウム. 私とメイラード研究〜若い研究者へエールをこめて：グリケーション研究する若き研究者の方へ. JMARS News Letter vol.22, 2023.3.28.（新井 誠）
6. 胎児期メチルグリオキサール曝露が成体期マウスの行動と神経伝達系に与える長期的な影響. JMARS News Letter vol.22, 2023.3.28.（王 恬冉, 鳥海 和也, 鈴木 一浩, 糸川 昌成, 新井 誠）
7. ペントシジン蓄積型統合失調症における AKR1A1 の遺伝子解析. JMARS News Letter vol.22, 2023.3.28.（飯野 響歌, 鳥海 和也, 新井 誠）
8. 愛情ホルモン・オキシトシンは炎症も抑えてくれる. 都民講座. 2023.2.4.（新井 誠, 山本 靖彦）

9. 対談 続･宇宙兄弟がつなぐ難病･ALS への挑戦. 第 28 回日本難病看護学会学術集会 市民公開講座. 2023.10.1, 新潟.（長谷川 成人）
10. 認知症の神経病理と進行機序について. 第 11 回 近未来医療フォーラム 認知症：診断・治療の新展開 〜健康長寿社会実現への貢献〜. 2023.4.28, 東京 (ハイブリッド).（長谷川 成人）
11. 今語られる iPS 細胞誕生への道のり. 都民講座. 2023.7.24, 上北沢＋オンライン.（高橋和利, 宮岡 佑一郎）

先端医療開発学講座

臨床解剖学

Clinical Anatomy

教　授	秋田 恵一
教　授	二村 昭元 （運動器機能形態学講座）
准教授	山口 久美子（統合教育機構 事業推進部門）
講　師	藤田 浩二 （運動器機能形態学講座）
	（7 月〜12 月：教授 [統合イノベーション機構 医療デザイン部門] ）
講　師	原田 理代, 室生 暁 (1 月〜9 月：助教)
助　教	井原 拓哉 （運動器機能形態学講座）, 奥原 滋 (1 月)
技術職員	山本 凜太郎
事務補佐員	池田 麻由理
非常勤講師	衣袋 健司 (〜3 月), 奥田 逸子, 鈴木 志郎 (〜3 月), 近澤 研郎, 塚田 幸行, 堤 真大, 中澤 正孝, 矢野 智之, 星加　昭太 (4 月〜), 田中　基貴 (4 月〜)
大学院生	細野 周作, 馬上 頌子, 辛川 領, 吉松 英彦, Areeya Jiamjunyasiri(〜9 月), 深井 敦大 (〜3 月), Suthasinee Tharnmanularp(〜9 月), Isabella Georgina Djameh, 杉山 夕月, Tong Liu, Jennifer Edinam Danyo(4 月〜), 平野 仁菜 (4 月〜)
研究生	Weiyi Wang(4 月〜), 樫山 尚弘 (10 月〜)

(1) 分野概要

当分野は，手術や画像診断等の解剖学的発生学的基盤の形成を通じて臨床医学のサポートを行っています．人体解剖学の教育は全身をあつかうものであるため，領域による扱いの差というものはありません．よって研究においても，全身すべてを対象としております．手術法や技術ということに左右されることなく，古典的ではありますが，人体をありのままに観察することによって見えてくる形態を表現し，示説するということが重要だと考えています．それらの観察結果を臨床医が利用しやすい形に表現することにより，解剖学的な基盤つまりは共通言語のようなものを作り出すことを目指しています．さらには，それらの形態がどのようにして形成されたのかということを考えることも重要だと考えており，実験発生や発生生物学的手法を用いた解析も行っています．

(2) 研究活動

筋や靱帯といった運動器の設計図と末梢神経系ならびに脈管系といった人体に張りめぐらされた複雑な配線図を完成させるべく研究を行い，主として「神経支配による筋の形態学的研究」および「自律神経系を中心とした臨床解剖学的研究」をテーマとして取り組んで来た．

この中で重要視しているのは，臨床的問題点へのアプローチのための解剖学的基盤の形成ということである．臨床的問題点解決のための 1 つの基盤として，臨床解剖学的研究が求められている．通常，臨床解剖学は Clinical Anatomy の訳であるが，これを我々は Clinically oriented anatomy ととらえている．解剖学的研究として人体構造の理解という観点としても重要であるが，臨床応用を目指すという点で今後発展させていく必要があると考えている．

代表的な研究テーマを以下にあげる．

1. 関節およびその周囲筋の形態学的解析

関節鏡視下手術が一般的になるにつれ，関節周囲の詳細な解剖が求められるようになってきた．これに応じて，従来の解剖学的な常識を疑い，手術解剖ならびに機能解剖のためのデータ収集ならびに解析を始めた．これまでの教科書的な記述の多くに先入観による誤記や不十分な調査に基づく誤りがあることがわかってきた．今後，臨床応用できるような情報として整形外科医と共同研究を進めている．

2. 総排泄腔の分化と骨盤出口筋の発生の解析
マウス胚を用いて，総排泄腔が分化し，尿生殖洞ならびに肛門の発生過程を詳細に解析するとともに，骨盤内臓の形成過程に見られる apoptosis の分布を三次元的に解析し，その変化についても解析を行ってきた．また，それらの周囲に発生する筋ならびに神経を追っている．

3. 肛門領域の臨床解剖学的研究
肛門管の構造ならびに構成する平滑筋ならびに骨格筋の配置についての解析を行い, 肛門領域の外科臨床のために貢献することをめざす．

4. 婦人科癌手術における術式開発のための臨床解剖学的基盤
広汎子宮全摘術における神経温存術式開発についての解剖学的基盤を形成するため，骨盤内自律神経の分布についてのデータの収集，解析を行っている．

5. 咀嚼筋の神経支配に基づく層構造の解析
咀嚼にかかわる筋群の神経支配を精査することにより，各筋が完全に独立したものでなく，それぞれが移行的な部分をもちながら連続した形態であることがわかってきた．我々は，これらの連続的な形態や筋の層構造の解析および支配神経の分枝パターンについての解析を行ない，咀嚼システムの成り立ちについて検討を行なっている．

(3) 教育活動

医学部医学科の医学導入（1 学年）の PBL，人体構造総論（2 学年），人体解剖学（2 学年），呼吸器ブロック（3 学年），消化器ブロック（3 学年），プロジェクトセメスター（4 学年），臨床導入実習（4 学年）を担当する．医学科及び歯学科の頭頸部基礎（2 学年），歯学科の頭頸部臨床解剖学（5 学年）も担当する．
複雑な人体構造の立体的配置を様々な角度から理解することと医師 · 研究者として必要となる観察眼を養成することを目標としている．また，問題解決型学習（PBL：Problem-Based Learning）の運営を担当し，自主的な学習と討論，プレゼンテーションを促している．
人体構造総論では人体の成り立ち，とくに系統発生に重点を置き，人体の構造 · 配置を考える基礎を作る．また，比較解剖学的な見地から，脊椎動物の一般の basic body plan にも焦点をあてる．人体発生学は，個体発生の視点から各器官の発生およびその立体配置完成のプロセスについて理解する．
解剖学講義では神経，血管などの体内配線図を中心に，諸構造の相互位置関係を血管 · 神経とのつながりを通じて理解することに重点を置いている．このためには，解剖学実習を通じて，剖出-観察-所見の記録-討論という過程を反復することが望ましいと考え， WebClass を用いて試みている．実習の効果を高めるには事前の講義が重要である．学習を有機的に結びつけるため，講義 · 実習の中に臨床医学的要素も取り入れている．
臨床実習を開始した高学年の学生に対しては，具体的な診断 · 治療を理解するうえで必要になる臨床解剖学的な講義をグループ討論形式でおこなっている．

(4) 教育方針

記述解剖学，記述発生学から導かれた形態形成の理論や仮説は，実験発生学によって確かめられ修正が加えられてきました．さらに発生生物学の発展によって，形態形成にかかわる遺伝子やシグナル等が同定され，仮説を現実のものとして確かめられたり，モデルに修正が加えられるようになってきました．しかしこれらの議論の対象となっているモデルにおいて前提となるのは，あくまでも解剖学が完成した揺るぎのないものであるということであります．現実に解剖をし，検討をしていくと，決して解剖学が完結したものではなく，まだまだあいまいなままにされているということがわかってきます．解剖学とくに肉眼解剖学のように，手技としては非常に古典的なものを用いるものでは，すべてやりつくされ，新しいものなどないように思えるのですが，臨床上で必要とされなかったために検討が十分になされなかった部分も多く見られるのです．

(5) 研究業績

[原著]

1. Shintarou Kudo, Mizuki Hatanaka, Seiya Kanazawa, Keisuke Hirakawa, Shigeyuki Hara, Masahiro Tsutsumi. Effects of short foot exercises with ultrasound bio-feedback on motor learning and foot alignment: A double blinded randomized control trial. J Back Musculoskelet Rehabil. 2023.12;

2. Tharnmanularp S, Muro S, Nimura A, Ibara T, Akita K. Significant relationship between musculoaponeurotic attachment of the abdominal and thigh adductor muscles to the pubis: implications for the diagnosis of groin pain. Anatomical science international. 2023.11; 99(2); 190-201

3. Muro S, Moue S, Akita K. Twisted orientation of the muscle bundles in the levator ani functional parts in women: Implications for pelvic floor support mechanism. Journal of anatomy. 2023.10; 244(3); 486-496

4. Jiamjunyasiri A, Tsutsumi M, Muro S, Akita K. Origin, course, and distribution of the posterior femoral cutaneous nerve and the spatial relationship among its branches. Anatomical science international. 2023.09; 98(4); 540-547

5. Yamamoto A, Fujita K, Yamada E, Ibara T, Nihey F, Inai T, Tsukamoto K, Kobayashi Y, Nakahara K, Okawa A. Foot characteristics of the daily-life gait in postmenopausal females with distal radius fractures: a cross-sectional study. BMC musculoskeletal disorders. 2023.09; 24(1); 706

6. Masahiro Yamane, Yoshiya Ishikawa, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Yuzuki Sugiyama, Satoru Muro, Keiichi Akita, Minoru Tanabe. Surgical anatomy of the dorsal pancreatic artery: Considering embryonic development. Pancreatology. 2023.09; 23(6); 697-703

7. Kuroiwa T, Sarcon A, Ibara T, Yamada E, Yamamoto A, Tsukamoto K, Fujita K. The Potential of ChatGPT as a Self-Diagnostic Tool in Common Orthopedic Diseases: Exploratory Study. Journal of medical Internet research. 2023.09; 25; e47621

8. Kyosuke Kamijo, Kentaro Ishida, Shiho Oide, Keisuke Anan, Shunsuke Taito, Yuki Kataoka, Kenro Chikazawa. Efficacy and Safety of the Surgery-First Approach Compared to the Chemotherapy-First Approach for Treating Low-Risk Gestational Trophoblastic Neoplasia: A Systematic Review and Meta-Analysis. Cureus. 2023.09; 15(9); e45726

9. Sara Sugiura, Haruhiko Shimura, Koji Fujita, Takahisa Ogawa, Akimoto Nimura. Comparison of ceftriaxone and cefazolin as prophylactic antibiotics for surgical site infection in orthopedic upper extremity surgery: The nationwide shortage of cefazolin in March 2019. J Orthop Sci. 2023.09; 28(5); 1018-1022

10. Ibara T, Fujita K, Watanabe N, Takada R, Miyatake K, Nimura A, Akita K. Stabilization and compensation strategy of the hip angle during gait in hip-osteoarthritis patients from the perspective of whole-body movement synergy. Gait & posture. 2023.08; 106; 65-71

11. Ryo Karakawa, Hidehiko Yoshimatsu, Yuma Fuse, Tomoyuki Yano. Comparison of outcomes following pedicled and free flap transfers for the defect after shoulder sarcoma resection. J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2023.08; 83; 373-379

12. Fujishiro H, Nimura A, Azumaya M, Hattori S, Hoshi O, Akita K. Anatomical study of the bone morphology of the anterior talofibular ligament attachment. Anatomy & cell biology. 2023.07;

13. Nawa N, Numasawa M, Yamaguchi K, Morita A, Fujiwara T, Akita K. Association between the social network of medical students and their academic performance on the anatomy written examination. Anatomical sciences education. 2023.07; 16(4); 654-665

14. Fukino K, Iida K, Tsutsumi M, Iwanaga J, Akita K. Evaluation of morphological features of palatopharyngeus insertion into the thyroid cartilage. Anatomical science international. 2023.07; 98(3); 448-453

15. Tokairin Y, Kawamura Y, Muro S, Nagai K, Kawada K, Okada T, Tharnmanularp S, Jiamjunyasiri A, Akita K, Kinugasa Y. Histological study of the thin membranous dense connective tissues around the curving portion of the bilateral recurrent laryngeal nerves. Esophagus : official journal of the Japan Esophageal Society. 2023.07; 20(3); 410-419

16. Tsutsumi M, Nimura A, Tharnmanularp S, Kudo S, Akita K. Posteromedial capsular anatomy of the tibia for consideration of the medial meniscal support structure using a multidimensional analysis. Scientific reports. 2023.07; 13(1); 12030

17. Saito T, Muro S, Fujiwara H, Umebayashi Y, Sato Y, Tokunaga M, Akita K, Kinugasa Y. Histological study of the structural layers around the esophagus in the lower mediastinum. World journal of gastrointestinal surgery. 2023.07; 15(7); 1331-1339

18. Hidehiko Yoshimatsu, Ryo Karakawa, Mario F Scaglioni, Yuma Fuse, Tomoyuki Yano. Use of intraoperative indocyanine green angiography for detection and prediction of congestion in pedicled island flaps. Microsurgery. 2023.07; 43(5); 452-459

19. Kenro Chikazawa, Ken Imai, Tomoyuki Kuwata, Ryo Konno. infection on gastric cancer development. Int J Gynecol Cancer. 2023.07; 33(7); 1164

20. Yoshimatsu H, Karakawa R, Fuse Y, Yano T, Muro S, Akita K. The Use of the Deep Brachial Artery as the Recipient Artery for Free Perforator Flap Transfer: An Anatomic Study and Clinical Applications. Medicina (Kaunas, Lithuania). 2023.06; 59(6);

21. Yamada E, Fujita K, Watanabe T, Koyama T, Ibara T, Yamamoto A, Tsukamoto K, Kaburagi H, Nimura A, Yoshii T, Sugiura Y, Okawa A. A screening method for cervical myelopathy using machine learning to analyze a drawing behavior. Scientific reports. 2023.06; 13(1); 10015

22. Ibara Takuya, Matsui Ryota, Koyama Takafumi, Yamada Eriku, Yamamoto Akiko, Tsukamoto Kazuya, Kaburagi Hidetoshi, Nimura Akimoto, Yoshii Toshitaka, Okawa Atsushi, Saito Hideo, Sugiura Yuta, Fujita Koji. Screening for degenerative cervical myelopathy with the 10-second grip-and-release test using a smartphone and machine learning: A pilot study DIGITAL HEALTH. 2023.06; 9; 20552076231179030

23. Keisuke Anegawa, Kengo Kawanishi, Misaki Nakamura, Meika Izumi, Masahiro Tsutsumi, Shintarou Kudo. Tibial nerve dynamics during ankle dorsiflexion: The relationship between stiffness and excursion of the tibial nerve. J Biomech. 2023.06; 155; 111646

24. Umebayashi Y, Muro S, Tokunaga M, Saito T, Sato Y, Tanioka T, Kinugasa Y, Akita K. Distribution of splenic artery lymph nodes and splenic hilar lymph nodes. World journal of gastrointestinal surgery. 2023.05; 15(5); 812-824

25. Ryo Karakawa, Hidehiko Yoshimatsu, Kengo Nakatsuka, Yuma Fuse, Shohei Nishiyama, Tomohiro Kawahara, Tomoyuki Yano. ”Super-Microsurgical Anastomosis training using the chick embryos within the ”Egg-in-Cube” system.”. Plast Reconstr Surg. 2023.05;

26. Kengo Kawanishi, Akihiro Kakimoto, Keisuke Anegawa, Masahiro Tsutsumi, Isao Yamaguchi, Shintarou Kudo. Automatic Identification of Ultrasound Images of the Tibial Nerve in Different Ankle Positions Using Deep Learning. Sensors (Basel). 2023.05; 23(10);

27. Muro S, Nimura A, Ibara T, Chikazawa K, Nakazawa M, Akita K. Anatomical basis for contribution of hip joint motion by the obturator internus to defaecation/urinary functions by the levator ani via the obturator fascia. Journal of anatomy. 2023.04; 242(4); 657-665

28. Masayo Harada, Keiichi Akita. Mouse vaginal development with lateral enlargement at late embryonic stages and caudal elongation after birth. Congenit Anom (Kyoto). 2023.03; 63(2); 30-39

29. Okuda Itsuko, Akita Keiichi, Komemushi Takayoshi, Imaizumi Kazuhiko, Jinzaki Masahiro, Ohjimi Hiroyuki. Basic Consideration for Facial Aging: Age-Related Changes of the Bony Orbit and Orbicularis Oculi Muscle in East Asians AESTHETIC SURGERY JOURNAL. 2023.03; 43(4); 408-419

30. Haruhiko Shimura, Tatsunobu Ikeda, Koji Fujita, Hidetoshi Kaburagi, Akimoto Nimura. Radiation educational program significantly reduces intraoperative fluoroscopy time during locking plate fixation for distal radius fractures. J Orthop Sci. 2023.01; 28(1); 251-254

31. Hasegawa S, Yoshimura H, Mochizuki T, Arai R, Akita K, Nimura A. High diagnostic accuracy of magnetic resonance imaging in detecting subscapularis tendon tears by focusing on the most superior portion of the subscapularis tendon. Surgical and radiologic anatomy : SRA. 2023.01; 45(1); 17-24

32. Kenro Chikazawa. Four-step Technique on Ureteral Safety in Total Laparoscopic Hysterectomy. Gynecol Minim Invasive Ther. 2023; 12(4); 251-252

33. Kenro Chikazawa, Ken Imai, Naoki Ichi, Tomoyuki Kuwata. Easy and Standardized Technique for the Dissection of Severe Pouch of Douglas Obliteration Mainly by Blunt Dissection in Total Laparoscopic Hysterectomy for Deep Infiltrating Endometriosis. Gynecol Minim Invasive Ther. 2023; 12(3); 179-180

34. Kouki Samejima, Sachiho Netsu, Junji Mitsushita, Kenro Chikazawa, Tomoyuki Kuwata. Modified Laparoscopic Cornual Resection for Cornual Pregnancy. Gynecol Minim Invasive Ther. 2023; 12(2); 101-102

35. Ken Imai, Kenro Chikazawa, Tomoyuki Kuwata, Ryo Konno. Volume Index Measured Using Magnetic Resonance Imaging for Diagnosing Cervical Cancer Tumors < 2 cm. In Vivo. 2023; 37(4); 1786-1789

36. Kenro Chikazawa, Ken Imai, Masahiro Misawa, Tomoyuki Kuwata. A Safe and Standardized Strategy for Laparoscopic Hysterectomy in Patients with a History of Cesarean Section. Gynecol Minim Invasive Ther. 2023; 12(1); 46-47

37. Kengo Kawanishi, Daisuke Fukuda, Toshinori Miyashita, Takashi Kitagawa, Hiroyuki Niwa, Taisuke Okuno, Takashi Kinoshita, Masahiro Tsutsumi, Shintarou Kudo. Effects of Compression Intervention on the Thigh Using Elastic Bandage on Lateral Femoral Pain After Trochanteric Fractures: A Multicenter Randomized Controlled Trial. Gerontol Geriatr Med. 2023; 9; 23337214231214405

1. 志村 治彦, 藤田 浩二, 二村 昭元. 【上腕骨骨折の治療戦略】小児上腕骨遠位骨端離開の診断と治療 関節外科. 2023.10; 42(10); 1147-1152

2. 宇都宮 啓, 堤 真大, 二村 昭元. スポーツ外傷・障害診療のための解剖学 (第 7 回)　大腿骨寛骨臼インピンジメント 臨床スポーツ医学. 2023.07; 40(7); 764-768

3. 坂 なつみ, 二村 昭元. スポーツ外傷・障害診療のための解剖学 (第 5 回)　TFCC 損傷 臨床スポーツ医学. 2023.05; 40(5); 538-543

4. 井原 拓哉, 安川 詢, 辛島 良介, 藤田 浩二. 深度センサを用いた Scapular dyskinesis 検出手法の確立 デサントスポーツ科学. 2023.02; 44; 156-163

[総説]

1. Muro S, Akita K. Novel combination method of wide-range serial sectioning and 3D reconstruction visualizing both macro-level dynamics and micro-level interactions in an attempt to analyze the female pelvic floor. Anatomical science international. 2023.07; 98(3); 343-352

2. Muro S, Akita K. Pelvic floor and perineal muscles: a dynamic coordination between skeletal and smooth muscles on pelvic floor stabilization. Anatomical science international. 2023.07; 98(3); 407-425

1. 室生 暁, 二村 昭元, 秋田 恵一. 第 12 回　コアスタビリティー 臨床スポーツ医学. 2023.12; 40(12); 1296-1300

2. 二村 昭元, Tharnmanularp Suthasinee. 膝蓋骨支持機構の解剖 関節外科. 2023.07; 42(7); 710-715

3. 東海林 裕, 永井 鑑, 塩原 寛之, 安藤 昌之, 秋田 恵一, 絹笠 祐介. 【イラストで見る消化器癌手術アトラス】外科解剖　食道癌手術に必要な食道周囲の密性結合織の知識 手術. 2023.05; 77(6); 641-649

4. 阿南 雅也, 井原 拓哉, 徳田 一貫, 緒方 悠太. 【関節間トレードオフ】動作における運動協調性 理学療法ジャーナル. 2023.05; 57(5); 521-525

5. 二村 昭元. スポーツ外傷・障害診療のための解剖学　第 1 回　身体機能と解剖学 臨床スポーツ医学. 2023.01; 40(1); 80-85

[講演・口頭発表等]

1. Georgina Djameh, Masayo Harada, Keiichi Akita. Cervical vertebrae fusion in elbow knee synostosis (Eks) mutant mice with fibroblast growth factor 9 N143T mutation. The 46th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan 2023.12.07 Kobe, Hyogo

2. Masayo Harada, Keiichi Akita. The mouse vagina develops laterally at the late embryonic stages and elongates caudally after birth. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.06 神戸市，兵庫県

3. Satoru Muro, Shoko Moue, Keiichi Akita. Stratified relationship of the muscle bundles in the levator ani functional parts: Implications for pelvic floor support mechanism. the combined 10th congress of the Asia Pacific International Congress of Anatomists (APICA) and 20th Annual Meeting of the Australian and New Zealand Association of Clinical Anatomists (ANZACA) 2023.12.03 Dunedin, New Zealand

4. Keiichi AKITA, Satoru MURO. Dynamic coordination of the smooth and skeletal muscles in the pelvic floor. the combined 10th congress of the Asia Pacific International Congress of Anatomists (APICA) and 20th Annual Meeting of the Australian and New Zealand Association of Clinical Anatomists (ANZACA) 2023.12.03 Dunedin, New Zealand

5. 辛川 領. Sarcoma reconstruction using a Minimally-invasive flap. PRS Korea 2023 2023.11.10 Seoul, Korea

6. Satoru Muro, Suthasinee Tharnmanularp, Yuichiro Tsukada, Masaaki Ito, Keiichi Akita. Analysis of smooth muscle fiber density in anterior to male rectum. The 17th Annual Congress of the European Association of Clinical Anatomy (EACA) and the 14th Annual Congress of the International Symposium of Clinical and Applied Anatomy (ISCAA) 2023.09.15 Prague, Czech

7. Yuzuki Sugiyama, Satoru Muro, Daisuke Ban, Keiichi Akita. The fusion fascia affects the course of the nerves to the pancreas. The 17th Annual Congress of the European Association of Clinical Anatomy (EACA) and the 14th Annual Congress of the International Symposium of Clinical and Applied Anatomy (ISCAA) 2023.09.15 Prague, Czech

8. Suthasinee Tharnmanularp, Satoru Muro, Akimoto Nimura, and Keiichi Akita. Insights into the aponeurotic attachment of abdomen-thigh adductor muscles to pubis and MRI diagnosis for groin pain. The 17th Annual Congress of the European Association of Clinical Anatomy (EACA) and the 14th Annual Congress of the International Symposium of Clinical and Applied Anatomy (ISCAA) 2023.09.14 Prague, Czech

9. Nimura A, Fukai A. What is the lateral ulnar collateral ligament?; an anatomical study. 15th International congress on shoulder and elbow surgery 2023.09.06 Roma, Italy

10. Mina Nakagawa, Kumiko Yamaguchi, Mitsuyuki Numasawa, Kanako Noritake, Eriko Okada, Eiji Kaneko, Janelle Moross, Jun Tsuruta, Keiichi Akita, Masanaga Yamawaki. Patients as teachers: a novel IPE curriculum . AMEE2023 2023.08.28

11. 辛川 領. Imaging Application for Sarcoma Reconstruction. 5th Congress of Imaging in Reconstructive Microsurgery 2023.08.20 Singapore

12. 辛川 領. High-Precision Reconstructive Surgery with Advanced Visualization Technology. 12th Congress of World Society for Reconstructive Microsurgery 2023.08.18 Singapore

13. 辛川 領. Advances in Sarcoma Reconstruction New Technology and Minimally invasive surgery. 12th Congress of World Society for Reconstructive Microsurgery 2023.08.18 Singapore

14. Takuya Ibara, Koji Fujita, Naoto Watanabe, Ryohei Takada, Kazumasa Miyatake, Akimoto Nimura, Keiichi Akita. Time series for the whole-body synergy of the hip angle during gait in patients with hip osteoarthritis. ISB 2023 Congress XXIX 2023.07.30 FUKUOKA CONVENTION CENTER

15. Masayo Harada, Keiichi Akita. The mouse vagina develops laterally at the late embryonic stages and caudally after birth. The 56th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists 2023.07.23 Sendai, Miyagi

16. 馬上 頌子. Endoscopic Phenotype Analysis of PostoperativeAcute and Chronic Pouchitis in Ulcerative Colitis. 第 78 回　日本消化器外科学会 2023.07.14 函館市，北海道

17. Takuya Ibara, Koji Fujita, Naoto Watanabe, Ryohei Takada, Kazumasa Miyatake, Akimoto Nimura, Keiichi Akita. Synergy for center of mass trajectory in the medial-lateral direction of patients with hip osteoarthritis. ISPGR World Congress 2023.07.09 Brisbane Convention Centre

18. 石川 喜也, 杉山 夕月, 室生 暁, 山根 聖弘, 竹内 将, 浅野 大輔, 渡辺 秀一, 上田 浩樹, 赤星 径一, 小野 宏晃, 工藤 篤, 田中 真二, 秋田 恵一, 田邉 稔. Novel landmarks for SMA left approach based on the anatomical study. 第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会 2023.07.01 東京

19. 杉山 夕月, 室生 暁, 伴 大輔, 秋田 恵一. Morphology of the fusion fascia, nerves, and arteries around the pancreatic head. 第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会 2023.07.01 東京

20. Itsuko Okuda. Objective analysis of age-related changes in the superficial musculoaponeurotic system using computed tomography. Aesthetic Surgery Journal Open Forum, YouTube 2023.07.01 Web

21. Kenro Chikazawa, Ken Imai, Tomoyuki Kuwata, Ryo Konno. . The ideal format to exchange patient information for the next on service team. The 31th international Congress of the European Association for Endoscopic Surgery 2023.06.20 Rome, Italy

22. Keiichi Akita. Dynamic coordination of the smooth and skeletal muscles in the pelvic floor. Songdo International Proctology Symposium 2023 2023.06.17 Seoul, Korea

23. Sultana Farzana, Zhang Chenyang, Okuhara Shigeru, Nagai Shigenori, Azuma Miyuki. 新規の炎症チェックポイント分子である ILDR2 は脳炎において発現量が増加している (A novel immune checkpoint molecule, ILDR2 is upregulated in the inflammatory brain). 口腔病学会雑誌 2023.03.01

24. Akimoto Nimura. Reconsideration of anatomy in the lateral part of elbow joint; what are LCL and LUCL?. 7th FIPAR webinar 2023.02.01 Web

1. 二村 昭元. 肩の解剖ー凍結肩との関連. 第 2 回　ASAHI ECHO BRUSH UP SEMINAR 2023.12.08 Web

2. 辛川 領. 悪性軟部腫瘍切除後の皮弁再建におけるテクノロジー導入の影響. 第 50 回マイクロサージャリー学会学術集会 2023.12.08 名古屋市, 愛知県

3. 辛川 領. ボディスーツとスマートフォンを用いたリンパ浮腫四肢周径測定デバイスの開発. 第 50 回マイクロサージャリー学会学術集会 2023.12.07 名古屋市, 愛知県

4. 近澤 研郎, 今井 賢, 桑田 知之, 今野 良. 病院収入を増収させ、スタッフ枠を増やし、ハード面から行う働き方改革. 第 36 回内視鏡外科学会 2023.12.07 横浜市, 神奈川県

5. 二村 昭元. 肩の解剖ー最近の知見. 第 35 回香川県関節外科セミナー 2023.11.18 高松市, 香川県

6. 山本 凜太郎, 二村 昭元, 秋田 恵一. 停止腱の組成に基づく上腕三頭筋の解剖学的研究. 第 57 回日本作業療法学会 2023.11.11 宜野湾市, 沖縄県

7. 秋田 恵一，中島 康雄，杉山 夕月. 超音波画像による筋内膿瘍の診断と組織学的検索による膿瘍の伸展. 第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会 2023.11.10 熊本市, 熊本県

8. 二村 昭元. セラピストへ伝えたい足関節周辺の詳細な臨床解剖学. Professional Therapy Seminars 2023.10.28 Web

9. 堤 真大, 工藤 慎太郎, 二村 昭元, 秋田 恵一. 関節包の解剖学的特徴に基づいた下肢の関節支持機構 . 第 10 回予防理学療法学会学術大会 2023.10.28 函館市, 北海道

10. 原田 理代. 胎児期の女性生殖管原基異常による男性不妊の機序解明. 公益財団法人アステラス病態代謝研究会第 53 回研究報告会 2023.10.21 千代田区, 東京都

11. 奥田 逸子.　たるみの内部構造を画像診断学的に観る.　日本化粧品技術者会西日本支部第 216 回講演会 2023.10.17 Web

12. 奥田 逸子. 容貌変化に関与する皮下構造物を観る. 第 16 回トータルアンチエイジングセミナー 2023.10.15 浜松町コンベンションホール, 港区, 東京都

13. 二村 昭元, 佐々木 亨, 望月 智之, 浜田 純一郎, 秋田 恵一. 疎性結合組織を含めた烏口上腕靭帯後方部分の解剖. 第 50 回日本肩関節学会 2023.10.14 新宿区, 東京都

14. 二村 昭元. 腱板断裂に役立つ解剖知識のアップデート. 第 50 回日本肩関節学会 2023.10.13 新宿区, 東京都

15. 室生 暁, 二村 昭元, 秋田 恵一. 尿もれ予防に股関節の運動は効くのか、解剖学的に考えてみた. JAAS 年次大会 2023「会いに行ける科学者フェス」 2023.10.09 千代田区, 東京都

16. 秋田 恵一. カダバー・サージカル・トレーニングと解剖学教室. 第 46 回日本産婦人科手術学会 2023.10.01 中央区, 東京都

17. 室生 暁. 卒後 10 年目の解剖学研究者の話. 高大連携プログラム 2023.09.30 文京区, 東京都

18. 近澤 研郎, 今井 賢, 桑田 知之, 今野 良. 子宮頸癌 IA1 に対する、MIS での筋膜外単純子宮全摘術. 第 46 回日本産婦人科手術学会 2023.09.30 中央区, 東京都

19. 近澤 研郎. 臨床医が解剖学的研究を行うことは、実際の手術にも、研究にもメリットがある. 第 46 回日本産婦人科手術学会 2023.09.30 中央区, 東京都

20. 奥田 逸子. 日本人の顔面加齢 —内部構造を画像診断学的に診る—. 第 17 回見た目のアンチエイジング研究会 2023.09.24 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター, 千代田区, 東京都

21. 秋田 恵一. 肩関節. 運動器リハビリテーションのための臨床解剖学講座 2023.09.23 Web

22. 辛川 領. PAP flap を武器にする！. 第 11 回日本乳房オンコプラスティックサージャリ—学会総会 2023.09.21 つくば市, 茨城県

23. 近澤 研郎, 今井 賢, 桑田 知之, 今野 良. 手術教育において、厳しさ · 倫理 · やりがい · 達成感を両立させる. 第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2023.09.14 大津市, 滋賀県

24. 室生 暁. 新しい視点で探る直腸肛門管の解剖. 007 gastrointestinal surgery 2023.09.06 東京都豊島区、Web

25. 堤 真大, 二村 昭元, 宇都宮 啓, 工藤 慎太郎, 秋田 恵一. 股関節周囲組織 〜解剖学的研究の観点から〜 . 第 18 回日本股関節鏡研究会 2023.09.02 広島市, 広島県

26. 二村 昭元. 肩関節の解剖について. 第 15 回日本肩関節理学療法研究会 2023.08.19 足立区, 東京都

27. 二村 昭元. 関節包とその周囲を取り巻く筋 · 腱 · 腱膜そして疎性結合組織. 第 14 回さいとう整形セミナー 2023.08.12 Web

28. 室生 暁, 二村 昭元, 井原 拓哉, 近澤 研郎, 中澤 正孝, 秋田 恵一. 肛門挙筋の支持における内閉鎖筋の重要性. 日本女性骨盤底医学会第 25 回学術集会 （JFPFM2023） 2023.08.05 千代田区, 東京都

29. 劉 トウ, 室生 暁, Suthasinee Tharnmanularp, 秋田 恵一. 女性の尿道を取り囲む平滑筋と骨格筋の３次元的配置. 日本女性骨盤底医学会第 25 回学術集会 （JFPFM2023） 2023.08.05 千代田区, 東京都

30. 近澤 研郎, 今井 賢, 室生 暁, 小澤 利佳, 桑田 知之, 今野 良, 秋田 恵一. vNOTES の腟式操作の教育と解剖. 日本女性骨盤底医学会第 25 回学術集会 （JFPFM2023） 2023.08.05 千代田区, 東京都

31. 近澤 研郎, 今井 賢, 一井 直樹, 桑田 知之, 今野 良. 膀胱子宮靱帯後層切断時の腟側腔開放と, 骨盤神経叢膀胱枝温存の工夫. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2023.07.14 松江市, 島根県

32. 二村 昭元. 層序と組織から考える腱板疎部の解剖. 第 34 回日本整形外科超音波学会 2023.07.08 港区, 東京都

33. 秋田 恵一. 固有背筋. 運動器リハビリテーションのための臨床解剖学講座 2023.07.08

34. 秋田 恵一. カダバー · サージカル · トレーニング解剖学教室側の見方. 第 35 回日本頭蓋底外科学会 2023.07.07 文京区, 東京都

35. 二村 昭元. 骨折治療に役立つ“上肢解剖”. 第 49 回日本骨折治療学会学術集会 2023.07.01 Web

36. 二村 昭元. 肩鎖関節周辺の解剖. 日本スポーツ整形外科学会 2023 2023.06.29 広島市, 広島県

37. 二村 昭元. セラピストへ伝えたい 肘関節周辺の詳細な臨床解剖学. Professional Therapy Seminars 2023.06.17 Web

38. 奥田 逸子. CT· MRI 解析による日本人の顔面加齢性変化. 第 23 回日本抗加齢医学会総会 2023.06.11 Web

39. 二村 昭元. 「関節包」からみた関節解剖の局在性. 第 48 回日本超音波検査学会学術集会 2023.06.10 大阪府, 大阪市

40. 室生 暁, 秋田 恵一. 男性の尿道と肛門管における筋の連続性. 第 32 回骨盤外科機能温存研究会 2023.06.10 中央区, 東京都

41. リュウ トウ, 室生 暁, ターンマヌーラープ スターシニー, 秋田 恵一. 女性の尿道を取り囲む平滑筋と骨格筋組織の三次元的分布の解析. 第 32 回骨盤外科機能温存研究会 2023.06.10 中央区, 東京都

42. 井原 拓哉. 変形性股関節症患者の姿勢制御応答に関する報告. 運動器理学療法学 2023.06.01

43. 奥田 逸子. Superficial musculoaponeurotic system （SMAS）を観る. 2023 年日本臨床形成美容外科医会, 春の勉強会 2023.05.28 千代田区, 東京都

44. 二村 昭元. 肩関節における神経支配. 第 96 回 日本整形外科学会学術集会 2023.05.12 横浜市, 神奈川県

45. 辛川 領. 自家組織乳房再建手術の短期成績における BMI の影響：DPC を用いた大規模リアルワールドデータ研究. 第 66 回日本形成外科学会学術集会 2023 2023.04.26 長崎市, 長崎県

46. 二村 昭元, 野呂瀬 美生, 藤田 浩二. 母指 CM 関節における「靱帯」の解剖学的再考-対立筋の意義と脆弱性. 第 66 回日本手外科学会学術集会 2023.04.21 新宿区, 東京都

47. 二村 昭元. 手関節の解剖. 第 66 回日本手外科学会学術集会 2023.04.20 新宿区, 東京都
48. 原田 理代, 秋田 恵一. 膣の形成機構. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.20 仙台市, 宮城県
49. 西村 優花, 堤 真大, 山本 凜太郎, 江村 健児, 荒川 高光. 腕橈骨筋と方形回内筋の解剖学的関係から再考した伸筋支帯第 1 管に張力を与えうる解剖学的構造. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.19 仙台市, 宮城県
50. 室生 暁, 秋田 恵一. 倫理申請の実際と経験の共有. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.19 仙台市, 宮城県
51. 金 知潤, 室生 暁, 秋田 恵一. 前十字靱帯が示すねじれ構造に関する解剖学的解析. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.19 仙台市, 宮城県
52. 青木 柊太, 室生 暁, 秋田 恵一. 外肛門括約筋後方のねじれ状構造. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.19 仙台市, 宮城県
53. 杉山 夕月, 室生 暁, 伴 大輔, 秋田 恵一. 膵頭部に分布する神経の走行形態への癒合筋膜の影響. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.18 仙台市, 宮城県
54. 山本 凜太郎, 二村 昭元, 秋田 恵一. 停止腱の構成に着目した上腕三頭筋の解剖学的解析. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.18 仙台市, 宮城県
55. 室生 暁, 秋田 恵一. 男性の外尿道括約筋と外肛門括約筋の連続性. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.18 仙台市, 宮城県
56. リュウ トウ, 室生 暁, ターンマヌーラープ スターシニー, 秋田 恵一. 女性の尿道を取り囲む平滑筋と骨格筋組織の 3 次元的分布の解析. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.18 仙台市, 宮城県
57. 堤 真大, 工藤 慎太郎, 二村 昭元, 秋田 恵一. 長趾屈筋と載距突起の解剖学的関係に基づく距踵舟関節の安定化機構. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.18 仙台市, 宮城県
58. 室生 暁. 下肢の筋との関係で見る骨盤底筋群 ～骨盤底の見方を変える 7 つのヒント～. 運動器リハビリテーションのための臨床解剖学講座 第 7 回 股関節①（骨盤底筋群など） 2023.03.12 Web
59. 二村 昭元. セラピストへ伝えたい 肩関節周辺の詳細な神経解剖学. Professional Therapy Seminars 2023.03.04 Web
60. 秋田 恵一. 会陰小体の正体. 札幌医科大学腹腔鏡手術手技講演会 2023.02.11 札幌市, 北海道
61. 深井 敦大, 二村 昭元, 堤 真大, 藤代 瞳, 藤田 浩二 , 今谷 潤也 , 秋田 恵一. 肘関節外側尺側側副靭帯の周囲線維性構造との結合の観点からの解剖学的再考. 第 35 回日本肘関節学会学術集会 2023.02.03 山形市, 石川県
62. 二村 昭元. 上肢の機能解剖に関する最新の知見. 日本手外科学会 2022 年度教育研修会 2023.01.20 Web
63. 二村 昭元. 手 · 肘 · 肩の医師が語るヘルスケア. 在宅医療オンライン (31) 2023.01.17 Web
64. 二村 昭元. 第 5 回 手関節. 運動器リハビリテーションのための臨床解剖学講座 2023.01.14 Web

[受賞]

1. BEST ANATOMICAL SCIENCES PLATFORM PRESENTATION AT 10th APICA and 20th ANZACA, 2023 年 12 月
2. 令和 5 年度 SMF 論文表彰制度奨励賞, 杉山記念財団, 2023 年 12 月

[その他業績]

1. 日常生活空間における疾患スクリーニングを目指して —スマートフォン 1 台で頚髄症（けいずいしょう）のスクリーニングと重症度推定—, 2023 年 06 月
   Digital Health

[社会貢献活動]

1. プレスリリース「日常空間における疾患スクリーニング」について, NHK, おはよう日本、NHK ニュースなど, 2023 年 06 月 06 日 - 2023 年 06 月 13 日

システム発生 · 再生医学

Systems BioMedicine

教授　　淺原弘嗣
特任准教授　内藤雄樹
講師　　栗本遼太
助教　　千葉朋希、松島隆英
特任助教　藤井雄太
博士研究員　内田雄太郎、劉琳、猪爪舞子、芳之内翔生
大学院生　　矢ヶ﨑理紗、千田寿々、瀬賀雅康、中村皓平、森田尚宏、渡辺 奈於
小野大樹、片桐未琴、田口緋郁、宮本和佳
小堤香奈、橋本茉歩、平井玲士、湯本かすみ、渡瀬梨奈

(1)　研究活動

RNA 結合タンパク質ライブラリーを用いたスクリーニングにより、microRNA の新たな制御因子を同定した。
腫瘍抑制 microRNA の新たな制御因子を同定した。
エピゲノムが骨形態形成へ及ぼす機能をマイクロ CT を用いて解析した。
転写因子 Mkx を軸とした腱 · 靭帯組織の発生 · 再生研究
ラボドロイド”まほろ”を用いたクロマチン免疫沈降システムの開発
microRNA の新しい制御機構をハイスループットスクリーニングにより探索する。
骨細胞特異的ノックアウトマウスを用いた骨細胞による骨代謝制御メカニズムの解明
新規 DAMPs タンパク質のスクリーニングと機能解析
ハイスループット顕微鏡システムを用いたタンパク質の動態解析
軟骨の恒常性維持に関わる microRNA を同定した。
レポーターライブラリーを用いた microRNA の標的遺伝子をスクリーニングするシステムを構築した。
CRISPR/Cas9 システムを用いて、microRNA を欠損したマウスを作製し、骨格パターン形成における機能を解析した。
炎症応答に関わる RNA 結合タンパク質や長鎖非コード RNA の作用機序および in vivo における役割の解明

(2)　教育活動

学部教育：学部系統講義「分子遺伝学」と学部実習の「生化学実習」を担当している。遺伝子発現のメカニズムを包括的に理解し、分子生物学を駆使した医学と医療における最先端の研究と臨床に対応できる知識と技術を身に着ける。
研究実習としては、研究実践プログラムやプロジェクトセメスターなどを通して、マイクロアレイによる遺伝子発現解析、細胞ベースでのハイスループットトランスフェクションアッセイなどシステム医学研究に必要な複数のアプローチを身につける。また、システム医学的手法を組み合わせ、発生 · 再生および炎症などを制御する遺伝子ネットワークを探索し、その意義をヒトサンプルや遺伝子改変マウスを作成することで解析、証明する。
大学院教育：修士課程 · 医歯理工学専攻では「発生 · 再生科学」を担当し、ここでは、発生 · 再生 · 生殖医学に関する基本的知識を学び、最先端の研究戦略を理解するプログラムを構成している。
医学と生物学の両面から、十分な情報を得て、この分野において深い洞察力をつけることを目標とする。医歯学総合研究科 · 博士課程においては、遺伝子発現を包括的に解析し、コアネットワークを同定することにより、組織発生のメカニズムとその破綻による疾患の解明を行う、システム医学という概念と戦略および技術の会得を目標とす

る。個の発生を通して、医学生物学的知識を蓄えるだけでなく、まだ解明されていないパラダイムが何であるかを学び、それが明かされる事で期待されるインパクトを想像し、サイエンス教育の本質に迫ることを目的とする。

学部学生の研究教育においては、研究実践プログラムの一環として、新たに、「マイスター講習」として、分子生物学からマウス個体を用いた実験まで、基礎から応用までをカバーした研究トレーニングシステムを設け、基礎研究能力の充実を図った。

(3) 研究業績

[原著]

1. Jaehoon Shin, Shigeru Miyaki, Hiroshi Asahara, Takayuki Akimoto. MicroRNA-140 is not involved in sepsis-induced muscle atrophy. Am J Physiol Cell Physiol. 2023.08; 325(2); C509-C518

2. Yudai Ono, Saundra Schlesinger, Kanako Fukunaga, Shinsei Yambe, Tempei Sato, Takako Sasaki, Chisa Shukunami, Hiroshi Asahara, Masafumi Inui. Scleraxis-lineage cells are required for correct muscle patterning. Development. 2023.05; 150(10);

3. Maiko Inotsume, Tomoki Chiba, Takahide Matsushima, Ryota Kurimoto, Mitsuyo Nakajima, Tomomi Kato, Kana Shishido, Lin Liu, Koichi Kawakami, Hiroshi Asahara. One-step generation of mice with gene editing by Tol2 transposon-dependent gRNA delivery. FEBS Lett. 2023.03;

4. Hiroto Yamamoto, Yutaro Uchida, Ryota Kurimoto, Tomoki Chiba, Takahide Matsushima, Yoshiaki Ito, Maiko Inotsume, Kohei Miyata, Kenta Watanabe, Masaki Inada, Naoki Goshima, Tokujiro Uchida, Hiroshi Asahara. RNA-binding protein LIN28A upregulates transcription factor HIF1 α by posttranscriptional regulation via direct binding to UGAU motifs. J Biol Chem. 2023.01; 299(1); 102791

[書籍等出版物]

1. 松島隆英、淺原弘嗣. 生体の科学. 医学書院, 2023.12

2. 中道亮、淺原弘嗣. 整形 · 災害外科. 金原出版 (株), 2023.07

3. 藤井雄太, 淺原弘嗣. 日本臨牀 81 巻 増刊号 1 号. 日本臨牀社, 2023.01

[講演 · 口頭発表等]

1. Hiroshi Asahara. Athletic performance and Genes. Japan Bone Academy 2023 2023.12.16

2. Lin Liu, Kohei Miyata, Ryo Nakamichi, Tomoki Chiba, Hiroshi Asahara. The regulation of satellite cells by RP58. 第 10 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス 2023.11.24

3. 栗本遼太、宮本和佳、平井玲士、千葉朋希、松島隆英、内田雄太郎、手塚叶子、七野悠一、水戸麻里、岩崎信太郎、淺原弘嗣. Regulation of lung cancer metastasis by the RNA-modifying enzyme. 第 96 回日本生化学会大会 2023.11.01

4. 栗本遼太、宮本和佳、平井玲士、千葉朋希、松島隆英、内田雄太郎、手塚叶子、七野悠一、水戸麻里、岩崎信太郎、淺原弘嗣. Regulation of lung cancer metastasis by the RNA-modifying enzyme. 第 96 回日本生化学会大会 2023.10.31

5. Hiroshi Asahara. Athlete Giftedness and Genetics. Wu Tsai Human Performance Seminar Series 2023.10.13

6. 淺原弘嗣. Athlete Giftedness and Genetics. 大阪大学 WPI のセミナー 2023.09.21

7. 淺原弘嗣. Regulation of tendon-based-motor functions. 第 19 回 Bone Biology Forum 2023.08.18

8. 劉琳、宮田康平、中道亮、千葉朋希、淺原弘嗣. Rp58 による筋サテライト細胞の制御. 第 9 回日本筋学会学術集会 2023.08.18

9. 矢ヶ﨑理紗、千葉朋希、栗本遼太、浅原弘嗣. Mkx ノックアウトラットを用いた Mkx の歯周病における役割の解明. 第 9 回日本筋学会学術集会 2023.08.18

10. 矢ヶ﨑理紗、千葉朋希、栗本遼太、淺原弘嗣. Mkx ノックアウトラットを用いた Mkx の歯周病における役割の解明. 第 41 回日本骨代謝学会学術集会 2023.07.29

11. 劉琳、千葉朋希、浅原弘嗣. 新規コンディショナル Mkx ノックアウトマウスの作製と特性評価. 第 41 回日本骨代謝学会学術集会 2023.07.28

12. Hiroshi Asahara. Well-Being Research in Tendon Function and Homeostasis. The 8th Diabetes Research Innovation Symposium 2023 2023.07.09

13. Yutaro Uchida、Ryota Kurimoto、Tomoki Chiba、Yasuto Takeuchi、Noriko Gotoh、Hiroshi Asahara. Targeting novel RNA binding protein for overcoming treatment resistance of triple negative breast cancer. 第 24 回日本 RNA 学会年会 2023.07.05

14. Ryota Kurimoto、Waka Miyamoto、Maiko Inotsume、Reiji Hirai、Tomoki Chiba、Takahide Matsushima、Yutaro Uchida、Yuta Fujii、Yuki Naito、Yuichi Shichino、Mari Mito、Shintaro Iwasaki、Hiroshi Asahara. Regulation of lung cancer metastasis by the RNA-modifying enzyme. 第 24 回日本 RNA 学会年会 2023.07.05

15. Yutaro Uchida、Ryota Kurimoto、Tomoki Chiba、Yasuto Takeuchi、Noriko Gotoh、Hiroshi Asahara. Post-transcriptional regulation of breast cancer stemness by the novel RNA binding protein. RNA2023 2023.05.31

16. Hiroshi Asahara. Tendon regeneration and functional enhancement for physical performance via Piezo1-Mkx axis. International Symposium on Mechanobiology for Human Health：8 years 2023.03.22

1. 淺原弘嗣. Athlete Giftedness と遺伝子. 第 3 回 COMIT セミナー 2023.12.08

2. 田口 緋郁、松島 隆英、千葉 朋希、淺原 弘嗣. 軟骨細胞における SOX9 発現制御化合物の探索. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.06

3. 小野大樹、猪爪舞子、千葉朋希、川上浩一、淺原弘嗣. Tol2 トランスポゾンを用いた gRNA 導入によるワンステップ遺伝子編集マウスの作製. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.06

4. 片桐未琴、千葉朋希、淺原弘嗣. 長鎖非コード RNA による炎症性サイトカインの発現制御. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.06

5. 片桐未琴、千葉朋希、淺原弘嗣. 長鎖非コード RNA による炎症性サイトカインの発現制御. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.06

6. 瀬賀雅康、千葉朋希、加藤知美、淺原弘嗣. Hox 遺伝子のターゲット遺伝子の包括的探索. 第 10 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス 2023.11.24

7. 内田 雄太郎、栗本 遼太、千葉 朋希、松島 隆英、竹内 康人、後藤 典子、浅原弘嗣. RNA 結合タンパク質 RBPU は転写と転写後調節を coupling させることでトリプルネガティブ乳癌の癌幹細胞性を制御する. 第 10 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス 2023.11.24

8. 松島隆英、渡瀬梨奈、湯本かすみ、淺原弘嗣. 軟骨潤滑成分ルブリシン発現制御化合物の探索. 第 10 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス 2023.11.24

9. 中村皓平、栗本遼太、中道亮、小杉 亮人、関 和彦、淺原弘嗣. 自発的ジャンプ動作下のマウス下腿筋電図測定の確立とその応用. 第 10 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス 2023.11.24

10. 平井玲士、武田昌之、栗本遼太、中道亮、淺原弘嗣. 変形性膝関節症における circular RNA. 第 10 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス 2023.11.24

11. 千葉朋希、片桐未琴、淺原弘嗣. 長鎖非コード RNA による炎症性サイトカインの発現制御. 第 10 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス 2023.11.24

12. 栗本遼太、宮本和佳、平井玲士、手塚叶子、千葉朋希、松島隆英、内田雄太郎、七野悠一、岩崎信太郎、淺原弘嗣. RNA 修飾酵素による新規 mRNA 修飾の可能性と上皮間葉転換制御. 第 10 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス 2023.11.24

13. 渡辺奈於、中道亮、千葉朋希、淺原弘嗣. シングルセル RNA シーケンスによる腱特異的 Piezo1 GOF マウスの解析. 第 10 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス 2023.11.24

14. 淺原弘嗣. Athelete Giftedness と遺伝子. 第 73 回兵庫県糖尿病懇話会 2023.11.11
15. 淺原弘嗣. セッションテーマ：3S07a「臓器リモデリング · 可塑性とその破綻」. 第 96 回日本生化学会大会 2023.11.02
16. 栗本遼太、猪爪舞子、宮本和佳、錦織杏樹、千葉朋希、松島隆英、内田雄太郎、淺原弘嗣. 新規 mRNA 修飾による肺がんの EMT 制御. 第 64 回日本肺癌学会学術集会 2023.11.02
17. 淺原弘嗣. Athletic ability regulated by Genetics. 第 22 回「認識と形成」研究会 2023.10.21
18. 片桐未琴、千葉朋希、淺原弘嗣. 長鎖非コード RNA による炎症性サイトカインの発現制御. RNA フロンティアミーティング 2023.10.20
19. 片桐未琴、千葉朋希、淺原弘嗣. 長鎖非コード RNA による炎症性サイトカインの発現制御. RNA フロンティアミーティング 2023.10.20
20. 栗本遼太、猪爪舞子、宮本和佳、錦織杏樹、千葉朋希、松島隆英、内田雄太郎、淺原弘嗣. RNA 修飾酵素による肺がんの転移制御機構. 第 82 回日本癌学会学術集会 2023.09.23
21. 淺原弘嗣. 腱に紡がれる運動機能とその破綻による関節疾患. 第 43 回日本関節運動学的アプローチ医学会（AKA） 学術集会 2023.09.18
22. 淺原弘嗣. Athlete Giftedness と遺伝子. 第 1 回 東京科学大学（仮称）交流オンラインセミナー 2023.09.11
23. 栗本遼太、山本寛人、内田雄太郎、千葉朋希、松島隆英、内藤雄樹、藤井雄太、芳之内翔成、劉琳、中道亮、浅原弘嗣. 発生、腫瘍及び低酸素下における新規 RNA 制御機構の探索. 第 22 回運動器科学研究会 2023.09.08
24. 渡辺奈於. 腱特異的な Piezo1 GOF マウスにおける 1 細胞レベルのトランスクリプトーム解析. 第 22 回運動器科学研究会 2023.09.08
25. 淺原弘嗣. Athletic giftedness と遺伝子. 第 22 回ロコモティブ—メタボリック症候群研究会 2023.09.07
26. 淺原弘嗣. Athlete Giftedness と遺伝子. 第 2 回スポーツ遺伝学研究会 2023.08.21
27. 淺原弘嗣. 手外科と運動能力を左右する腱の遺 伝子. 第 18 回上肢外科サマーセミナー in Kasaoka 2023.07.29
28. 淺原弘嗣. RNA 階層における軟骨組織発生と恒常性制御機構と治療への応用. 第 41 回日本骨代謝学会学術集会 2023.07.28
29. 淺原弘嗣. 腱に紡がれる運動機能とその破綻による関節疾患. 第 41 回日本骨代謝学会学術集会 2023.07.27
30. 淺原弘嗣. Piezo1-Mkx axis で紡がれる腱を起点とした運動機能の向上と再生. 第 44 回日本炎症 · 再生医学会 2023.07.12
31. 淺原弘嗣. 腱と遺伝子と運動機能. 第 52 回 御茶ノ水整形外科卒後研修セミナー 2023.07.09
32. 千葉朋希、淺原弘嗣. Escort1 による炎症性サイトカインの転写後調節. 第 8 回日本骨免疫学会 2023.06.26
33. 渡辺奈於、猪爪舞子、千葉朋希、川上浩一、浅原弘嗣. Tol2 トランスポゾン依存性 gRNA デリバリーによる遺伝子編集マウスのワンステップ作製. 第 8 回日本骨免疫学会 2023.06.26
34. 片桐未琴、千葉朋希、淺原弘嗣. 長鎖非コード RNA による炎症性サイトカインの発現制御. 第 8 回日本骨免疫学会 2023.06.26
35. 千葉朋希、淺原弘嗣. Hippo 経路による mRNA 転写後調節を介した炎症性サイトカインの発現制御機構の解明. 第 13 回 Orthopedic Research Club 2023.06.03
36. 淺原弘嗣. 腱に紡がれる運動機能とメカノ遺伝子ネットワーク. 第 62 回日本生体医工学会大会 2023.05.19
37. 淺原弘嗣. 腱の紡ぐ運動機能とその破綻による整形外科疾患. 第 96 回日本整形外科学会 2023.05.11
38. 猪爪舞子、千葉朋希、宍戸香奈、加藤知美、赤澤美圭子、北村雅美、中島光代、淺原弘嗣. Tol2 トランスポゾンを用いた gRNA 導入によるワンステップ遺伝子編集マウスの作製. 学術変革 A 領域会議 2023.05.09
39. 淺原弘嗣. 組織 · 時期特異的な複数遺伝子編集マウス作製技術開発. 「認識と形成」分科会 2023.02.24
40. 淺原弘嗣. 腱と運動機能. 第 7 回日本骨免疫学会ウィンタースクール 2023.02.01

[特許]

1. 三次元メカノシグナル細胞培養系を用いて作製した腱／靭帯様人工組織, 特許番号：特許第 7333607 号
2. 三次元メカノシグナル細胞培養系を用いて作製した腱／靭帯様人工組織, 特許番号：特許第 7333607 号

[受賞]

1. 令和 5 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰　科学技術賞　研究部門, 文部科学省, 2023 年 04 月

[その他業績]

1. 乳がんの再発を起こす原因細胞を解明, 2023 年 11 月
   Journal of Clinical Investigation

包括病理学

Comprehensive Pathology

教授
石川文彦
講師
LIANG MINGGAO(リャン　ミンッガオ)
助教
木脇祐子 田口登和子
技官
井上美織
技術補佐員
石橋佐知子 池田真住

(1) 分野概要

包括病理学分野での大きな目標は、白血病・リンパ腫・腫瘍など多くの難治性疾患の理解と克服です。研究では、患者さんが研究の起点となり、研究のゴールも患者さんを助けることです。
疾患とその重症度を見極める病理診断の基盤を活かし、病理＝切片というクラシカルな取り組みを大事にしながら、sequencing, computation, drug discovery に至るまで、専門分野を超えて患者さんを助け支える motivation を共有し、皆で多様な science and technology を取り入れ、研究しています。「疾患克服に挑戦する気持ち＝助ける病理学」を、スタッフから学生まで、世代を超えて共有します。
同じ診断でも、病勢や治療への応答性が異なるのが、ベッドサイドの real world であり、1. Humanized Mouse や patient-derived xenograft と呼称されるシステムで、生体内での正常・疾患いずれもヒト細胞の dynamics を知る、2. 個体から、各組織/臓器、細胞、蛋白、遺伝子、代謝物など、複数の階層を繋ぐように網羅的な計測を行い、data から disease の本質や弱点を見つけ出す、を重要視しています。スタッフは、皆、それぞれに理解したいと願う疾患、助けたいと思う患者さんを思い浮かべ、専門の分野を持っていきます。病理という世界だけで研究するのではなく、多くのコラボレーターと仕事をしており、その方々の元で学ぶことも奨励します。学部生でも大学院生でも医師でも、世界を知る・視る、素晴らしき人に出会う、その繋ぎの役割も担います。また、ビジネスディベロプメントの世界と collaborate することで、新しい治療を開発して患者さんの元へと届ける仕組みについて、国内外で取り組んでいます。共同研究者についても紹介しますので、医科歯科と各所を行き来しながらリサーチすることも、視野を広げ、研究を深め、夢を叶える良い方法かもしれません。

(2) 研究活動

1. ヒト血液・免疫・疾患の再現
上記の通り、患者さんそれぞれに疾患の様子も違えば、それを抑えようとする免疫の力も異なります。免疫は、造血幹細胞から作られ、その過程をマウスに再現しながら、どのような遺伝子があれば、強い免疫を作ることができるか、また、白血病が骨で発生して、どのように全身に拡がり、それを阻止できる治療は何かを研究しています。助ける研究には、多様な考えや研究ツールが必要です。
2. 白血病再発の理解と治療開発
一旦、化学療法などで減少した白血病細胞が再び増えてくる「再発」を根絶するのが、私たちの大きな目標です。

そのために、再発の原因となる細胞を見出し、その中に治療標的を同定して治療を作る。このような取り組みを、多数の患者さんの思いと共に進めてきました。白血病を追い詰めるように連続性を持って研究を進める姿勢と、進めながら、私たちも、変化するテクノロジーを学びつつ、より素晴らしいチームワークを構築する思いを持っています。
3. 骨髄微小環境の可視化
ヒト骨髄における骨髄微小環境の病理学的評価
血液学で知られている骨髄微小環境を光学的顕微鏡でとらえるには何か必要か？ 分子生物学的な側面からもアプローチする。
ランダム変異を用いた骨髄微小環境の構築　～がん微小環境における細胞間相互作用の理解～
これまでの「がん微小環境」に関する多くの報告が主に予後不良のがんそのものを主体とした研究であったことに対し、本研究チームでは、包括的に腫瘍周囲支持細胞による薬剤耐性誘導のメカニズムを解明するために、新たな CRISPR screening 法※ 3 の確立を行いました。
CRISPR-Cas を用いた疾患の治療抵抗性の理解
倉田准教授は、いち早く CRISPR を学び、国際的なリーダーシップを発揮してきました。腫瘍の治療抵抗性など、長年、解きたいと思ってそう出来なかったことに挑戦しています。
大学院生や若手病理医も CRISPR をそれぞれの研究テーマに上手に含めて、研究のレベルアップを図っています。
4. 乳がん、膵内分泌腫瘍、子宮内膜症、脂肪肉腫、悪性中皮腫など、幅広い疾患を対象とする病理学 · 医学の深化。疾患細胞 · 間質の関係性の可視化。

(3) 教育活動

学部教育：病理学総論、各論実習、ＰＢＬ、ブロック型学習、総合診断学実習、ＢＳＬ等により、専門課程第１学年より第４学年に至る４年間を通して教育が行われている。実施にあたっては、人体病理学分野、病院病理部、分子病態検査学分野、難研神経病理部門、歯学部口腔病理学講座の協力のもとに行われている。各論実習の最後に行われる症例検討会、ＣＰＥでは少人数の学生が１症例を担当し、発表会を行い、症例経験を通した病理学の理解をすすめている。

(4) 教育方針

卒後教育：病理学会認定医の資格を取得する事を目的とした病理解剖学、外科病理学の研修を行い、更に関連病院での研修も行っている。ＣＰＣ、臨床各科との症例検討会を通じて、臨床医学に対する理解も深めていくようにしている。研究に関しては、通常の病理学的手法に加えて、免疫病理学、ウイルス学、生化学および分子生物学的手法など各人のテーマに応じて利用し、先端的な研究を行える様に配慮している。

(5) 臨床活動および学外活動

附属病院と連携し、外科材料や生検材料、及び病理解剖で得られた諸臓器について、形態学的な診断を行っている。また、通常の形態学的手法に加えて、免疫組織学的検索も行っている。

(6) 臨床上の特色

診断精度向上の為、分子病理学的検索も含めて診断を行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Sugita K, Onishi I, Nakayama R, Ishibashi S, Ikeda M, Inoue M, Narita R, Oshima S, Shimizu K, Saito S, Sato S, Moriarity BS, Yamamoto K, Largaespada DA, Kitagawa M, Kurata M. Indirect CRISPR screening with photoconversion revealed key factors of drug resistance with cell-cell interactions. Communications biology. 2023.06; 6(1); 582

2. Maruyama S, Furusawa H, Endo S, Kumagai T, Mitsumura T, Shimada S, Yamana T, Sakakibara R, Iijima Y, Shibata S, Honda T, Shirai T, Okamoto T, Tateishi T, Tamaoka M, Kinowaki Y, Ishibashi H, Okubo K, Miyazaki Y. Pulmonary Artery Aneurysm in a Patient with Nontuberculous Mycobacteria Infection. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2023.08; 63(7); 989-992

3. Watabe S, Aruga Y, Kato R, Kawade G, Kubo Y, Tatsuzawa A, Onishi I, Kinowaki Y, Ishibashi S, Ikeda M, Fukawa Y, Akahoshi K, Tanabe M, Kurata M, Ohashi K, Kitagawa M, Yamamoto K. Regulation of 4-HNE via SMARCA4 Is Associated with Worse Clinical Outcomes in Hepatocellular Carcinoma. Biomedicines. 2023.08; 11(8);

4. Yagi K, Ono H, Kudo A, Kinowaki Y, Asano D, Watanabe S, Ishikawa Y, Ueda H, Akahoshi K, Tanaka S, Tanabe M. MGMT is frequently inactivated in pancreatic NET-G2 and is associated with the therapeutic activity of STZ-based regimens. Sci Rep. 2023.05; 13(1); 7535

5. Hata C, Fukawa Y, Motoi T, Kinowaki Y, Akashi T, Ohashi K, Ishikawa Y, Waseda Y, Fujii Y, Kakuta R, Ikeda S, Onishi I. A Primary Kidney Giant Cell Tumor of Soft Tissue Caused Peritoneal Dissemination, Considered to Be Malignant Transformation: A Case Report. Diagnostics (Basel, Switzerland). 2023.02; 13(4);

6. Nonaka Keisuke, Kurata Morito, Tachibana Moriaki, Komatsu Akiko, Shichi Yuuki, Gomi Fujiya, Ishiwata Toshiyuki, Miyamoto Kou, Arai Tomio. 異なる解剖学的部位で免疫グロブリン軽鎖制限の不一致が認められたクローン性B細胞リンパ腫の染色体分析 (Chromosomal analysis of clonally related B-cell lymphomas with discordant immunoglobulin light-chain restrictions at different anatomical sites) Pathology International. 2023.02; 73(2); 100-102

7. Mori S, Ai T, Taguchi T, Negi M, Otomo Y. Aggressive diffuse large B-cell lymphoma manifested by splenic rupture progressed 2 months after transverse myelitis: an autopsy case report. Acute medicine & surgery. 2023.01; 10(1); e822

1. 勝又翔子, 小宮顕, 川井清考, 有川淑恵, 野中美幸, 村形佐知, 齊藤和毅, 中筋貴史, 岩原由樹, 加藤祐己, 木脇祐子, 明石巧, 石川智則, 宮坂尚幸. 精巣腫瘍根治術後 50 日で ICSI により生児獲得した一例とその課題 日本受精着床学会雑誌. 2023.09; 40(2); 293-298

2. 河本 亜美, 木脇 祐子, 大塚 和朗. 【分類不能腸炎 (IBDU) の現状と将来展望】潰瘍性大腸炎の治療経過中に IBDU と診断された 1 例 胃と腸. 2023.06; 58(6); 803-807

3. Itakura Takuji, Sasaki Hirokazu, Hosoya Tadashi, Yamaguchi Taiki, Mimori Erika, Saimon Yukino, Iwai Hideyuki, Umezawa Natsuka, Kawata Daisuke, Kimura Naoki, Kurata Morito, Shimizu Masaki, Yasuda Shinsuke. A novel gain-of-function missense variant in PLCG2 associated with autoinflammation and hypergammaglobulinaemia RHEUMATOLOGY. 2023.04; 62(11); e319-e321

4. 大西 威一郎, 倉田 盛人. 【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 16 章) 血液 · 骨髄　原発性骨髄線維症 病理と臨床. 2023.04; 41(臨増); 247

5. 大西 威一郎, 倉田 盛人. 【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 16 章) 血液 · 骨髄　巨赤芽球性貧血 病理と臨床. 2023.04; 41(臨増); 246

6. 大西 威一郎, 倉田 盛人. 【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 16 章) 血液 · 骨髄　本態性血小板血症 病理と臨床. 2023.04; 41(臨増); 248

7. 木脇 祐子, 倉田 盛人. 【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 16 章) 血液 · 骨髄　形質細胞骨髄腫 (多発性骨髄腫) 病理と臨床. 2023.04; 41(臨増); 245

[講演 · 口頭発表等]

1. Saumya Agrawal, Fumihiko Ishikawa 他. Comparative analysis of cellular response to onset of infection due to SARS-CoV-2 strains . The 46th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan 2023.12.06 兵庫 · 神戸ポートアイランド

2. 中川諒, 石川文彦. Targeting patient-specific anti-apoptotic molecules and cell surface proteins in high-risk leukemia. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.13 東京 · 東京国際フォーラム

3. Saumya Agrawal, Fumihiko Ishikawa 他. Comparative analysis of transcriptome landscape and chromatin conformation in response to onset of infection due to different SARS-CoV-2 strains . The 14th International Workshop on Advanced Genomics (14AGW) 2023.10.04 東京 · 一橋講堂

4. 野上 彩子, 倉田 盛人, 田口 登和子, 小山 祥美, 永野 勝稔, 田中 圭祐, 吉藤 康太, 梅澤 佳央, 市村 直也, 東田 修二, 森 毅彦. 尿セルブロックを用いた出血性膀胱炎起因ウイルスの病理学的同定法の有用性. 日本血液学会学術集会 2023.10.01

5. 大西 威一郎, 倉田 盛人, 大橋 健一. CRISPR screening データベースを用いた、遺伝性乳癌の新たな合成致死因子の探索 (Identification of synthetic lethal genes of hereditary breast cancer using CRISPR screening database). 日本癌学会総会記事 2023.09.01

6. 田村 一洋, 山本 浩平, 渡部 紫織, 川出 玄二, 大西 威一郎, 木脇 祐子, 石橋 佐知子, 池田 真住, 倉田 盛人, 大橋 健一. 肝細胞癌 (HCC) における 4-hydroxynonenal(4-HNE) の臨床病理学的および分子生物学的検討 (Clinicopathological and molecular analysis of 4-hydroxynonenal(4-HNE) in Hepatocellular carcinoma). 日本病理学会会誌 2023.03.01

7. 田村 一洋, 山本 浩平, 渡部 紫織, 川出 玄二, 大西 威一郎, 木脇 祐子, 石橋 佐知子, 池田 真住, 倉田 盛人, 大橋 健一. 肝細胞癌 (HCC) における 4-hydroxynonenal(4-HNE) の臨床病理学的および分子生物学的検討 (Clinicopathological and molecular analysis of 4-hydroxynonenal(4-HNE) in Hepatocellular carcinoma). 日本病理学会会誌 2023.03.01

1. 野上　彩子、倉田　盛人、田口　登和子、小山　祥美、永野 勝稔、田中　圭祐、吉藤康太、梅澤　佳央、市村　直也、東田　修二、森　毅彦. 尿セルブロックを用いた出血性膀胱炎起因ウィルスの病理学的同定法の有用性. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.13 東京

2. 河内 理, 倉田 盛人, 小澤 瑞稀, 新谷 実咲, 石橋 玄, 草野 和生, 進藤 重雄, 大橋 健一. セルブロック作成が診断に有用であった胞巣状軟部肉腫の一例. 共済医報 2023.10.01

3. 倉田 盛人. ランダム変異スクリーニングを利用したがん治療ターゲットの網羅的検索. 日本病理学会会誌 2023.10.01

4. 河内 理, 倉田 盛人, 小澤 瑞稀, 新谷 実咲, 石橋 玄, 草野 和生, 進藤 重雄, 大橋 健一. セルブロック作成が診断に有用であった胞巣状軟部肉腫の一例. 共済医報 2023.10.01

5. 河内 理, 倉田 盛人, 小澤 瑞稀, 新谷 実咲, 石橋 玄, 草野 和生, 進藤 重雄, 大橋 健一. セルブロック作成が診断に有用であった胞巣状軟部肉腫の一例. 共済医報 2023.10.01

6. 常井 薫時, 清水 寛路, 北野 尚樹, 河本 亜美, 竹中 健人, 日比谷 秀爾, 金子 俊, 小林 正典, 福田 将義, 藤井 俊光, 齊藤 詠子, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 木脇 祐子, 小柳 杏莉, 田村 一洋, 大橋 健一, 岩田 乃理子, 山内 慎一, 絹笠 祐介, 岡本 隆一. 反復する嘔吐を契機に小腸内視鏡にて診断した若年小腸腺癌の 2 例. Progress of Digestive Endoscopy 2023.06.01

7. 大西 威一郎, 村岡 香琳, 小柳 杏莉, 木村 剛, 岸田 晶夫, 山本 浩平, 倉田 盛人, 北川 昌伸. CRISPR KO library を用いた脱細胞化骨へのヒト骨髄間葉系細胞株の導入. 日本病理学会会誌 2023.03.01

8. 田中 陽典, 倉田 盛人, 上林 秀孝, Evans 優季, 山本 阿紀子, 大西 威一郎, 山本 浩平, 北川 昌伸. CRISPR library と Context に基づいたデータベーススクリーニングによる MYC 制御因子の同定. 日本病理学会会誌 2023.03.01

9. 木脇 祐子, 福村 由紀, 倉田 盛人, 杉田 佳祐, 山本 浩平, 大西 威一郎, 田口 登和子, 工藤 篤, 橋本 雅司, 大橋 健一. nCounter を用いた膵神経内分泌癌の遺伝子発現解析. 日本病理学会会誌 2023.03.01

10. 田口 登和子, 大西 威一郎, 中村 友彦, 中川 和博, 井上 美織, 倉田 盛人. T 細胞性リンパ腫に対する新規多重蛍光染色を用いた臨床的有用性の検討. 日本病理学会会誌 2023.03.01

11. 辰巳 暁哉, 田中 陽典, 田口 登和子, 山本 浩平, 大西 威一郎, 北川 昌伸, 倉田 盛人. ゲノムワイド CRISPR activation スクリーニングによる NRAS 新規下流遺伝子の同定. 日本病理学会会誌 2023.03.01

12. 韓 知佑, 大西 威一郎, 倉田 盛人, 大橋 健一. データベースを用いた、遺伝性乳がんの新たな合成致死因子の探索. 日本病理学会会誌 2023.03.01

13. 小柳 杏莉, 大西 威一郎, 村岡 香琳, 佐藤 郁恵, 佐藤 信吾, 木村 剛, 山本 浩平, 北川 昌伸, 倉田 盛人, 岸田 晶夫. ヒト間葉系幹細胞を脱細胞化骨内へ定着させる因子の同定. 日本病理学会会誌 2023.03.01

14. 川出 玄二, 山本 浩平, 倉田 盛人, 大西 威一郎, 松木 裕子, 北川 昌伸, 大橋 健一. 脂質過酸化代謝産物の蓄積による DLBCL での Doxorubicin への抵抗性を介した予後不良の誘導. 日本病理学会会誌 2023.03.01

15. 杉田 佳祐, 大西 威一郎, 北川 昌伸, 倉田 盛人. 間接的 CRISPR screening を用いた細胞間相互作用による薬剤耐性責任分子の同定. 日本病理学会会誌 2023.03.01

16. 倉田 盛人. 骨髄病理. 日本病理学会会誌 2023.03.01

17. 木脇 祐子, 福村 由紀, 倉田 盛人, 杉田 佳祐, 山本 浩平, 大西 威一郎, 田口 登和子, 工藤 篤, 橋本 雅司, 大橋 健一. nCounter を用いた膵神経内分泌癌の遺伝子発現解析. 日本病理学会会誌 2023.03.01

18. イパラ・ママティエリ , 福村 由紀, 平林 健一, 川西 彩, 木脇 祐子, 内藤 嘉紀, 仲程 純, 鹿 榕, 八尾 隆史. PRKACA 高発現は肝膵 IOPN の組織形態と浸潤癌合併に関与する. 日本病理学会会誌 2023.03.01

19. 鈴木 達也, 早川 優香, 金子 俊, 竹中 健人, 村川 美也子, 小林 正典, 福田 将義, 木脇 祐子, 竹本 暁, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. クローン病に合併した肉芽腫性肝炎の一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム・抄録集 2023.02.01

[受賞]

1. 学術研究賞（A 演説）, 日本病理学会, 2023 年 11 月

[その他業績]

1. 「新規 CRISPR screening を用いた薬剤耐性の解明」— がん微小環境における細胞間相互作用の理解 —, 2023 年 05 月
   Communications Biology

2. 「新規 CRISPR screening を用いた薬剤耐性の解明」— がん微小環境における細胞間相互作用の理解 —, 2023 年 05 月
   Communications Biology

分子腫瘍医学

Molecular Oncology

教授	田中真二
講師	秋山好光
助教	島田　周
助教	波多野　恵
大学院生	安川紘矢
大学院生	梅村謙太郎
大学院生	蒲池厚志
大学院生	杉本雷造
大学院生	宮田悠佑

(1) 分野概要

悪性腫瘍、特に難治性である「肝がん」「膵がん」「スキルス胃がん」などの克服をめざし「がん」の分子生物学的研究から新規治療法の研究開発まで行なっている。「がん」は勿論がん細胞が生み出すものであるが、疾患としての「がん」は生体内の宿主反応、微小環境など様々な因子の複合体によって成り立っている。即ち癌克服のためには、「がん」という疾患の臨床情報や手術検体に基づいてベンチの basic research を進め、その先進的成果をベッドサイドの translational research へと展開する両輪の研究を推進する必要がある。がんの発生、進展、転移などの分子メカニズムの解明により新規治療法を開発し、次世代の若手研究者育成をめざしている。

(2) 研究活動

1. 難治性がん（肝癌、膵癌、スキルス胃癌など）の分子メカニズム解析
2. 難治性がんの新規分子標的治療の開発
3. 難治性がんのエピゲノム変化を指標とした診断・治療の臨床応用
4. がん幹細胞の解析と治療開発
5. 幹細胞研究による再生医療開発

(3) 教育活動

学部教育では、講義、実習を行っている。テーマは、衛生学、分子腫瘍学である。

(4) 教育方針

大学院では各学生は教室の研究テーマの中から 1 つあるいは 2 つを選んで研究を行う。学生は全員遺伝子工学、生化学実験、細胞培養等の技術を習う。毎週、教室でセミナーを開き、研究の進行状況を発表して討論するとともに、新着の雑誌から重要な論文を紹介する。

(5) 研究業績

[原著]

1. Hatano M, Akiyama Y, Shimada S, Yagi K, Akahoshi K, Itoh M, Tanabe M, Ogawa Y, Tanaka S. Loss of KDM6B epigenetically confers resistance to lipotoxicity in nonalcoholic fatty liver disease-related hepatocellular carcinoma. Hepatology Communications. 2023.10; 7(10); e0277

2. Yamane M, Ishikawa Y, Asano D, Watanabe S, Ueda H, Akahoshi K, Ono H, Kudo A, Tanaka S, Sugiyama Y, Muro S, Akita K, Tanabe M. Surgical anatomy of the dorsal pancreatic artery: Considering embryonic development. Pancreatology. 2023.09; 23(6); 697-703

3. Murota Y, Nagane M, Wu M, Santra M, Venkateswaran S, Tanaka S, Bradley N, Taga T, Tabu K. A niche-mimicking polymer hydrogel-based approach to identify molecular targets for tackling human pancreatic cancer stem cells. Inflammation and Regeneration. 2023.09; 43(1); 46

4. Morimoto K, Ueda H, Asano D, Ishikawa Y, Watanabe S, Akahoshi K, Ono H, Kobayashi M, Okamoto R, Tanaka S, Tanabe M. Incidence and Mechanism of Refractory Postoperative Cholangitis After Hepatectomy with Hepaticojejunostomy. Journal of Gastrointestinal Surgery. 2023.06; 27(8); 1668-1676

5. Yagi K, Shimada S, Akiyama Y, Hatano M, Asano D, Ishikawa Y, Ueda H, Watanabe S, Akahoshi K, Ono H, Tanabe M, Tanaka S. Loss of SFXN1 mitigates lipotoxicity and predicts poor outcome in non-viral hepatocellular carcinoma. Sci Rep. 2023.06; 13(1); 9449

6. Yamamoto Y, Shimada S, Akiyama Y, Tsukihara S, Sugimoto R, Kabashima A, Tokunaga M, Kinugasa Y, Kawakami Y, Tanaka S. RTP4 silencing provokes tumor-intrinsic resistance to immune checkpoint blockade in colorectal cancer. Journal of Gastroenterology. 2023.06; 58(6); 540-553

7. Yagi K, Ono H, Kudo A, Kinowaki Y, Asano D, Watanabe S, Ishikawa Y, Ueda H, Akahoshi K, Tanaka S, Tanabe M. MGMT is frequently inactivated in pancreatic NET-G2 and is associated with the therapeutic activity of STZ-based regimens. Sci Rep. 2023.05; 13(1); 7535

8. Ono H, Murase Y, Yamashita H, Kato T, Asano D, Ishikawa Y, Watanabe S, Ueda H, Akahoshi K, Ogawa K, Kudo A, Akiyama Y, Tanaka S, Tanabe M. RRM1 is mediated by histone acetylation through gemcitabine resistance and contributes to invasiveness and ECM remodeling in pancreatic cancer. International Journal of Oncology. 2023.04; 62(4); 51

9. Ishii T, Akiyama Y, Shimada S, Kabashima A, Asano D, Watanabe S, Ishikawa Y, Ueda H, Akahoshi K, Ogawa K, Ono H, Kudo A, Tanabe M, Tanaka S. Identification of a novel target of SETD1A histone methyltransferase and the clinical significance in pancreatic cancer. Cancer Science. 2023.02; 114(2); 463-476

10. Shimada S, Tanaka S. The chronicles of hepatocellular carcinoma classification: subtyping, modeling and treatment. Hepatology. 2023; in press

1. 丹治 芳明，島田 周，田中 真二. 膵がんにおける最新研究と治療法の展望. BIO Clinica. 2023.10; 38(10); 844-849

2. 谷合 智彦, 島田 周, 秋山 好光, 波多野 恵, 田中 真二. 【臨床医に必要な肝癌 Basic Oncology】がんゲノム　トランスクリプトーム解析に基づく予後不良型肝細胞癌の分子生物学的特徴 肝胆膵. 2023.05; 86(5); 579-585

3. 奈良 篤, 島田 周, 田中 真二. 【臨床医に必要な肝癌 Basic Oncology】免疫微小環境　肝癌のゲノム変異と免疫治療抵抗性の獲得メカニズム 肝胆膵. 2023.05; 86(5); 623-630

4. 谷合 智彦, 島田 周, 秋山 好光, 波多野 恵, 田中 真二. MTM/VETC を形成する高悪性度肝細胞癌同種移植モデルの作製とその分子生物学的特徴および癌免疫微小環境の解明. 肝胆膵. 2023.04; 86(4); 542-543

5. 永田 尚義, 寺井 崇二, 田中 真二. 【マイクロバイオームが切り拓く肝胆膵の新未来】マイクロバイオームの最新トピックス 肝胆膵. 2023.03; 86(3); 413-428

6. 梅村 謙太郎, 島田 周, 田中 真二. 【肝胆膵診療の DX(デジタルトランスフォーメーション) 新時代】肝胆膵診療のデジタル化の現状　肝癌ゲノム研究におけるデジタル化の現状と展望 肝胆膵. 2023.02; 86(2); 191-199

[講演・口頭発表等]

1. Atsushi Nara, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Akira Ito, Shotaro Gan, Hironari Yamashita, Koichiro Morimoto, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Preoperative sarcopenia assessment predicts loss of independence after Pancreaticoduodenectomy (PD) in pancreatic cancer patients. The 3rd International Congress of the Asian Oncology Society 2023.10.20 Yokohama

2. Akira Ito, Keiichi Akahoshi, Shotaro Gan, Atsushi Nara, Koichiro Morimoto, Hironari Yamashita, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Prognostic Impact of Reticular Pattern around Superior Mesenteric Artery in CT Images of Pancreatic Cancer. The 3rd International Congress of the Asian Oncology Society 2023.10.20 Yokohama

3. Shotaro Gan, Daisuke Asano, Akira Ito, Atsushi Nara, Koichiro Morimoto, Hironari Yamashita, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Determining the Indication of Surgery for High grade pNENs. The 3rd International Congress of the Asian Oncology Society 2023.10.20 Yokohama

4. Hiroaki Ono, Keiichi Akahoshi, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. RRM1 is mediated by H3 acetylation through GEM resistance and contributes to invasiveness and ECM remodeling in PDAC. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2023.09.23 Yokohama

5. Hironari Yamashita, Hiroaki Ono, Kotaro Takizawa, Shuichi Watanabe, Kosuke Ogawa, Daisuke Asano, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Yoshimitsu Akiyama, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. PCNA-I1 is identified as a novel therapeutic agent in pancreatic cancer. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2023.09.23 Yokohama

6. Koya Yasukawa, Shu Shimada, Yoshimitsu Akiyama, Shinji Tanaka. Elucidation of immunotherapy resistance in hepatocellular carcinoma: Novel treatment based on lactate metabolism. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2023.09.22 Yokohama

7. Yoshimitsu Akiyama, Shu Shimada, Shinji Tanaka. Overexpression of PADI2 and histone citrullination change in gastric cancer. The 82nd Annual Meting of the Japanese Cancer Association 2023.09.21 Yokohama

8. Masahiro Yamane, Yoshiya Ishikawa, Masaru Takeuchi, Shotaro Gan, Kohei Yagi, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Middle-segment Preserving Pancreatectomy versus Total pancreatectomy: a comparative study of surgical and functional outcomes. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

9. Shotaro Gan, Daisuke Asano, Masaru Takeuchi, Masahiro Yamane, Akira Ito, Atsushi Nara, Koichiro Morimoto, Hironari Yamashita, Kohei Yagi, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. A case of unresectable pancreatic ductal adenocarcinoma (UR-PDAC) in an elderly patient who underwent radical resection after preoperative chemotherapy and survived without recurrence for 1 year. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

10. Atsushi Nara, Keiichi Akahoshi, Akira Ito, Shotaro Gan, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Pancreatic duct stent AMY after pancreaticoduodenectomy is a predictor of pancreatic fistula. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.06.30 Tokyo

11. Akira Ito, Keiichi Akahoshi, Masaru Takeuchi, Masahiro Yamane, Shotaro Gan, Atsushi Nara, Koichiro Morimoto, Munetaka Kimura, Hironari Yamashita, Kohei Yagi, Daisuke Asano, Yoshiya Ishikawa, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Hepatectomy After Pancreatoduodenectomy Has a High Risk of Postoperative Complications. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.06.30 Tokyo

12. Shinji Tanaka. Educational Session：New currents in the field of HBP surgery. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.06.30 Tokyo

13. Shu Tsukihara, Yoshimitsu Akiyama, Shu Shimada, Megumi Hatano, Yusuke Kinugasa, Ken Eto, Shinji Tanaka. Histone H3 lysin 9 methyltransferase SETDB1 promotes gastric carcinogenesis by multiple signaling pathways. Digestive Disease Week 2023 2023.05.10 Chicago

14. A.Nara, K.Akahoshi, H.Ueda, D.Asano, S.Watanabe, Y.Ishikawa, H.Ono, A.Kudo, S.Tanaka, M.Tanabe. Usefulness of the NRSS in Determining the Timing of TAE for Ruptured Hepatocellular Carcinoma. 18th Annual Academic Surgical Congress 2023.02.08 Houston

1. 山根聖弘、石川喜也、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉稔. 膵体尾部切除術後遅発性膵液瘻に関する新知見. 第 15 回膵臓内視鏡外科研究会 2023.11.15 岡山

2. 伊藤　晃、小野宏晃、山根聖弘、竹内　将、鳶翔大郎、 奈良　篤、森本紘一朗、木村宗貴、山下宏成、八木宏平、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、工藤　篤、 田中真二、田邉　稔. 膵癌における Gemcitabine に対する CDK4/6 阻害の影響. JDDW 2023 KOBE 2023.11.04 神戸

3. 梅村謙太郎、秋山好光、島田周、波多野恵、安川紘矢、蒲池厚志、田邉稔、田中真二. 膵癌の新規エピゲノム異常の解明と標的治療の開発. 第 21 回日本消化器外科学会大会、第 31 回日本消化器関連学会週間（JDDW 2023） 2023.11.04 神戸

4. 谷合智彦、島田 周、秋山好光、丹治芳明、赤星径一、池上 徹、田邉 稔、田中真二. 癌微小環境に着目した進行肝細胞癌に対する免疫療法. 第 21 回日本消化器外科学会大会、第 31 回日本消化器関連学会週間（JDDW 2023） 2023.11.02 神戸

5. 矢田圭吾、町頭成郎、長沖優子、吉原宏樹、波多野恵、小澤美和. 米国に学ぶ小児肥満手術普及に向けた道のり. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.21 大宮

6. 石川皓久、波多野恵、稲井郁子、細谷要介、梅原直、長沖優子、谷本英里、長谷川大輔、小澤美和. 一過性甲状腺機能亢進症を合併した組織球性壊死性リンパ節炎の 1 例. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.20 大宮

7. 山下宏成、小野宏、滝澤光太郎、渡邊秀一、小川康介、浅野大輔、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤 篤、秋山好光、田中真二、田邉稔. 膵臓癌に対する新規治療薬としての可能性を秘めた PCNA-I1. 第 82 回日本癌学会総会 2023.09.23 横浜

8. 島田 周、秋山好光、田中真二. 大腸癌では RTP4 遺伝子のサイレンシングが腫瘍細胞内因性の免疫チェックポイント阻害剤耐性を誘導する. 第 82 回日本癌学会学術総会 2023.09.22 横浜

9. 田中真二. シンポジウム 1：「肝癌腫瘍微小環境」基調講演「肝癌腫瘍微小環境」. 第 59 回日本肝癌研究会 2023.07.27 大阪

10. 鳶翔大郎、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉稔. 膵神経内分泌腫瘍肝転移患者の手術適応の探究. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.14 函館

11. 伊藤　晃、小野宏晃、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉稔. 膵癌における Gemcitabine に対する CDK4/6 阻害の影響. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.14 函館

12. 竹内　将、赤星径一、浅野大輔、鳶翔大郎、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、工藤　篤、田中真二、田邉稔. 腹腔鏡下胆嚢摘出術難症例における胆道損傷回避のための当科の手術戦略と ICG 胆道造影併用による今後の展望. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.13 函館

13. 山根聖弘、石川喜也、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉稔. 背側膵動脈の走行経路と分岐形態から推察される形成機序. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

14. 奈良　篤、上田浩樹、清水行栄、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、小野宏晃、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. InBody を用いた術前のサルコペニア評価は、PD 術後の自立性の低下を予測する. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

15. 森本 紘一朗, 工藤 篤, 赤星 径一, 山根 聖弘, 竹内 将, 奈良 篤, 鳶 翔太郎, 伊藤 晃, 山下 宏成, 八木 宏平, 浅野 大輔, 渡辺 秀一, 石川 喜也, 上田 浩樹, 小野 宏晃, 田中 真二, 田邉 稔. 10mm 以下の P-NEN における臨床病理学的特徴と予後. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

16. 山下 宏成, 赤星 径一, 竹内 将, 山根 聖弘, 伊藤 晃, 鳶 翔太郎, 奈良 篤, 木村 宗貴, 森本 紘一朗, 八木 宏平, 浅野 大輔, 石川 喜也, 渡辺 秀一, 上田 浩樹, 小野 宏晃, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. pT1 膵癌における病理学的特徴および予後不良因子について. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. 2023.04.29 東京

17. 渡辺 秀一, 西野 穣, 島田 周, 浅野 大輔, 石川 喜也, 上田 浩樹, 赤星 径一, 小野 宏晃, 工藤 篤, 角田 達彦, 田中 真二, 田邉 稔. ゲノム解析によって得られる系統樹から理解する癌の進展. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. 2023.04.29 東京

18. 谷合 智彦, 島田 周, 秋山 好光, 樺嶋 綾乃, 下川 雅弘, 丹治 芳明, 五十嵐 陽介, 月原 秀, 春木 孝一郎, 赤星 径一, 池上 徹, 田邉 稔, 大木 隆生, 田中 真二. 癌免疫療法時代における外科医の役割　癌微小環境に着目した高悪性度肝細胞癌の分子生物学的特徴及び免疫療法の奏功. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. 2023.04.29 東京

19. 山根聖弘、石川喜也、竹内　将、鳶翔大郎、伊藤　晃、奈良　篤、木村宗貴、山下宏成、森本紘一朗、八木宏平、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、小野宏晃、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 背側膵動脈の分岐形態. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.28 東京

20. 木村宗貴、小野宏晃、田中真二、田邉　稔. 膵臓癌における新規治療薬 Clofarabine の検討. 第 123 回日本外科学会定 2023.04.28 東京

21. 鳶翔大郎、上田浩樹、竹内　将、山根聖弘、伊藤　晃、奈良　篤、森本紘一朗、山下宏成、木村宗貴、八木宏平、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 肝嚢胞治療のベストプラクティス；手術かドレナージか？ . 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.27 東京

[特許]

1. Dominant negative mutants of IRS-1 and uses there of (Tanaka S, Wands JR), 特許番号：United States Patent 6,528,479

2. Compositions and methods for detection and treatment of hepatocellular carcinoma (Tanaka S, MacDonald G), 出願番号：US 61/811,360

[その他業績]

1. 田中真二、「臨床からみた肝がんの分子機序と治療戦略」, 2023 年 01 月
アストラゼネカ社内教育企画、オンライン

2. 「大腸癌における RTP4 サイレンシングによる腫瘍細胞内因性の免疫チェックポイント阻害薬治療抵抗性獲得メカニズムの解明」 —免疫チェックポイント阻害薬の効果予測マーカー、治療ターゲットとして有望な遺伝子 RTP4 の同定—, 2023 年 03 月
Journal of Gastroenterology

3. 光冨徹哉 · 田中真二、司会、シンポジウム「癌免疫療法時代における外科医の役割」, 2023 年 04 月
第 123 回日本外科学会定期学術集会、東京

4. 田中真二、「基礎と臨床の観点から考える抗 PD-L1 抗体/抗 CTLA4 抗体初回処方の期待と課題」, 2023 年 05 月
アストラゼネカ「New Normal な肝細胞がん治療を考える」、東京

5. 田中真二、「基礎と臨床の観点から考える STRiDE レジメン」, 2023 年 05 月
アストラゼネカ「AZ Hepatocellular Carcinoma Seminar in Saitama」、東京

6. 「 非ウイルス性肝細胞がんの特異的予後予測因子 SFXN1 の同定と脂肪毒性に対する耐性機序の解明 」 —　非ウイルス性肝細胞がん予防治療への応用に期待　—, 2023 年 06 月
Scientific Reports

7. 田中真二、司会、口演 20「肝癌 3（基礎）」, 2023 年 06 月
第 59 回日本肝臓学会総会、奈良

8. 田中真二、司会、ポスターセッション 12「アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法 5」, 2023 年 06 月
第 28 回日本肝がん分子標的治療研究会、札幌

9. Shinji Tanaka, Tatsuya Oda, Chair, Workshop 9：The latest translational research for HBP surgery, 2023 年 07 月
The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery,Tokyo

10. 田中真二、司会、研修医セッション 15 「肝臓 · 胆道 1」, 2023 年 07 月
第 78 回日本消化器外科学会総会、函館

11. 竹原徹郎 · 坂元亨宇 · 田中真二、司会、シンポジウム 1「肝癌腫瘍微小環境」, 2023 年 07 月
第 59 回日本肝癌研究会、大阪

12. 田中真二、ランチョンセミナー 2-8：肝細胞癌における腫瘍微小環境から考えるレンバチニブの新たな可能性（エーザイ）「基礎と臨床から紐解く免疫療法時代におけるレンバチニブの役割」, 2023 年 07 月
第 59 回日本肝癌研究会、大阪

13. 田中真二、「基礎と臨床の観点から考える複合免疫療法」, 2023 年 08 月
アストラゼネカ「HCC immuno-Oncology Seminar in Tochigi」、オンライン

14. 秋山好光、座長、ポスター、胃がん · 食道がん (1)、P-1171〜P-1178, 2023 年 09 月
第 82 回日本癌学会学術総会

15. Shinji Tanaka, Luncheon Seminar 4 (AstraZeneca), Consideration of Combined Immunotherapy from Basic and Clinical Research, 2023 年 09 月
The 3rd JSH International Liver Conference, Tokyo

16. 「　NAFLD 関連肝がんにおける脂肪毒性への耐性獲得機序の解明　」 —　新規治療標的として有望な KDM6B-G0S2-ATGL 経路の同定—, 2023 年 10 月
Hepatology Communications

17. 高谷具純 · 山田克彦 · 坂東賢二 · 波多野恵、ファシリテーター、Meet the Expert3、 川村正和「動機づけ面接」のススメ, 2023 年 10 月
第 56 回日本小児内分泌学会学術集会、大宮

18. Shinji Tanaka, Chair, Workshop 12; Surgery & Transplantation, TACE, HAIC & Vascular Interventions, 2023 年 10 月
APASL Oncology 2023, Sendai

19. Shinji Tanaka, Chair, Dan Gabriel Duda; Restore function in a gene that can suppress liver cancer and enhance immunotherapy, 2023 年 11 月
JDDW 2023, Kobe

20. 田中真二、ランチョンセミナー「基礎と臨床の観点から考える複合免疫療法」（アストラゼネカ）, 2023 年 11 月
第 34 回日本消化器癌発生学会総会、群馬

[社会貢献活動]

1. エピゲノム異常がかかわる疾患の今後の治療について, 日本経済新聞社, 日経新聞／日経電子版, 2023 年 05 月 23 日

診断病理学

Surgical Pathology

診断病理学准教授：明石巧（病理部副部長）
助教：大西威一郎、桐村進、新宅洋、國枝純子（病理部）
特任助教：三浦圭子（病理部）
秘書：上野彩子（病理部）

(1) 分野概要

診断病理学分野は、1．病理診断を通じた診療への参加、2．病理解剖を通じた医療行為の検証、3．病理診断医の育成、4．病理形態学的な新しい診断方法の開発という 4 つを目標としている。本学病理関連部門（人体病理学分野、包括病理学分野、形態情報解析学分野、難研神経病理学分野、歯学部口腔病理学分野）及び臨床各科と連携しながら診療、教育、研究活動を行っている。

(2) 研究活動

1) 癌細胞の浸潤 · 非浸潤を識別するマーカーの探索とその病態生理
2) 病理診断に有用な組織学的診断マーカーの開発
3) 悪性中皮腫の臨床病理学的研究
4) IBD の臨床病理学的研究
5) 糸球体疾患の臨床病理学的研究
6) 膵神経内分泌腫瘍の臨床病理学的研究
7) 神経変性疾患の臨床病理学的研究

(3) 教育活動

医学部教育においては手術材料 · 剖検症例を用いて基本的な腫瘍性 · 非腫瘍性疾患の病理を学習する機会を学生に提供し、病態の理解と診断技術の習得に寄与している。卒後教育においては病理専門医の取得、病理学的研究の基盤となる病理組織診断、細胞診断、病理解剖診断の研修を行っている。

(4) 教育方針

肉眼 · 組織形態学的な方法による疾患の診断 · 病態の評価を実践する能力を取得することが基本となる。そして病理診断上の問題点や限界点を抽出、その解決に必要な研究技術を取得、問題解決を通じて新たな病理組織学的な診断方法を開発していくことを目標とする。

(5) 臨床活動および学外活動

人体病理学分野、包括病理学分野、形態情報解析学分野、歯学部口腔病理学分野と連携しながら病理解剖 40 例、細胞診断件 9,517 件、組織診断 11,695 件の診療を行っている。剖検と生検を合わせて臨床病理カンファレンスは約 200 回開催されている。

(6) 臨床上の特色

診断病理学は直接患者に接することないが、患者の病気となっている臓器を形態学的に観察し、腫瘍を中心とした様々な疾患の病理形態学的診断を通じて診療に参加している。腫瘍の悪性度や組織型の診断、進行度の詳細な評価に加えて、分子標的薬に代表される薬物治療においても個々の患者に最も適切な選択を考慮する際に病理組織学的な評価が必須となってきた。このような時代の新しい要求に対しても適切に対応できるよう、人体病理学分野、包括病理学分野と協力し、免疫染色、電子顕微鏡や FISH などの先端技術を用いて各臓器の高度な専門性に対応した診療を行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Kinowaki Y, Fukumura Y, Kawade G, Sugita K, Kinowaki K, Akahoshi K, Kobayashi M, Ono H, Kudo A, Tanabe M, Akashi T, Ohashi K, Kurata M. Gene expression profiling of pancreatic neuroendocrine carcinoma and mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm. Gene. 2023.10;
2. Shintaku H, Gokita K, Oshima T, Suzuki K, Fujii K, Sugaya N, Tomii S, Onishi I, Shimada K, Ohashi K. Pancreatic hamartoma: Possibility of a preoperative diagnosis via endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration biopsy. Diagnostic cytopathology. 2023.09; 51(9); E267-E272
3. Yuka Saeki, Hideaki Miyachi, Keiko Miura, Daijiro Okazaki, Makoto Yamamoto, Yumika Yuki, Michiyo Nakano. Mycosis fungoides with pseudocarcinomatous hyperplasia masquerading as verrucous carcinoma. JAAD Case Rep. 2023.09; 39; 130-134
4. Watabe S, Aruga Y, Kato R, Kawade G, Kubo Y, Tatsuzawa A, Onishi I, Kinowaki Y, Ishibashi S, Ikeda M, Fukawa Y, Akahoshi K, Tanabe M, Kurata M, Ohashi K, Kitagawa M, Yamamoto K. Regulation of 4-HNE via SMARCA4 Is Associated with Worse Clinical Outcomes in Hepatocellular Carcinoma. Biomedicines. 2023.08; 11(8);
5. Yin Y, Sakakibara R, Honda T, Kirimura S, Daroonpan P, Kobayashi M, Ando K, Ujiie H, Kato T, Kichizo Kaga, Mitsumura T, Nakano R, Sakashita H, Matsuge S, Ishibashi H, Akashi T, Hida Y, Morohoshi T, Azuma M, Okubo K, Miyazaki Y. High density and proximity of $CD8^+$ T cells to tumor cells are correlated with better response to nivolumab treatment in metastatic pleural mesothelioma. Thorac Cancer. 2023.07; 14; 1991-2000
6. Yin Y, Sakakibara R, Honda T, Kirimura S, Daroonpan P, Kobayashi M, Ando K, Ujiie H, Kato T, Kaga K, Mitsumura T, Nakano R, Sakashita H, Matsuge S, Ishibashi H, Akashi T, Hida Y, Morohoshi T, Azuma M, Okubo K, Miyazaki Y. High density and proximity of CD8(+) T cells to tumor cells are correlated with better response to nivolumab treatment in metastatic pleural mesothelioma. Thoracic cancer. 2023.07; 14(20); 1991-2000
7. Sugita K, Onishi I, Nakayama R, Ishibashi S, Ikeda M, Inoue M, Narita R, Oshima S, Shimizu K, Saito S, Sato S, Moriarity BS, Yamamoto K, Largaespada DA, Kitagawa M, Kurata M. Indirect CRISPR screening with photoconversion revealed key factors of drug resistance with cell-cell interactions. Communications biology. 2023.06; 6(1); 582
8. Fujiwara S, Kano Y, Maejima Y, Fujioka T, Tamura K, Kirimura S, Miyake S, Okamoto R. Clinical Response of Primary Malignant Pericardial Mesothelioma with Peritoneal Dissemination to Nivolumab. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2023.06;
9. Nakagawa T, Mori H, Uemura N, Onishi I, Oda G. A Case of Breast Cancer With Ulceration of a Reconstructed Nipple Due to Local Recurrence. Cureus. 2023.05; 15(5); e39563
10. Yashima Yuka, Fujioka Tomoyuki, Kubota Kazunori, Mori Mio, Sato Arisa, Oda Goshi, Nakagawa Tsuyoshi, Onishi Iichiroh, Tanaka Mayuko, Tateishi Ukihide. Comparison of the clinical and pathological characteristics of ultrasound-guided biopsy for breast masses and non-mass lesions between 16-gauge spring-loaded core needle biopsy and 12-gauge spring-loaded vacuum-assisted biopsy(タイトル和訳中) Journal of Medical Ultrasonics. 2023.04; 50(2); 205-212

11. Hata C, Fukawa Y, Motoi T, Kinowaki Y, Akashi T, Ohashi K, Ishikawa Y, Waseda Y, Fujii Y, Kakuta R, Ikeda S, Onishi I. A Primary Kidney Giant Cell Tumor of Soft Tissue Caused Peritoneal Dissemination, Considered to Be Malignant Transformation: A Case Report. Diagnostics (Basel, Switzerland). 2023.02; 13(4);

12. Takeshi Namiki, Moe Makiguchi, Shogo Wada, Hind Al-Busani, Makiko Nishida, Tsukasa Ugajin, Keiko Miura, Kota Yokoyama, Naoko Okiyama. The potential value of thallium-201 scintigraphy in the diagnosis of squamous cell carcinoma arising from extensive pyoderma. J Dermatol. 2023.02;

13. Hata C, Fukawa Y, Motoi T, Kinowaki Y, Akashi T, Ohashi K, Ishikawa Y, Waseda Y, Fujii Y, Kakuta R, Ikeda S, Onishi I. A Primary Kidney Giant Cell Tumor of Soft Tissue Caused Peritoneal Dissemination, Considered to Be Malignant Transformation: A Case Report. Diagnostics (Basel, Switzerland). 2023.02; 13(4);

14. Toshiyuki Yamamoto, Keiko Miura, Yoshinobu Eishi. Detection of Propionibacterium acnes in cutaneous lichenoid sarcoidosis in a patient with Blau syndrome. Int J Dermatol. 2023.01;

15. Mori M, Fujioka T, Hara M, Katsuta L, Yashima Y, Yamaga E, Yamagiwa K, Tsuchiya J, Hayashi K, Kumaki Y, Oda G, Nakagawa T, Onishi I, Kubota K, Tateishi U. Deep Learning-Based Image Quality Improvement in Digital Positron Emission Tomography for Breast Cancer. Diagnostics (Basel, Switzerland). 2023.02; 13(4);

16. Yashima Y, Fujioka T, Kubota K, Mori M, Sato A, Oda G, Nakagawa T, Onishi I, Tanaka M, Tateishi U. Comparison of the clinical and pathological characteristics of ultrasound-guided biopsy for breast masses and non-mass lesions between 16-gauge spring-loaded core needle biopsy and 12-gauge spring-loaded vacuum-assisted biopsy. Journal of medical ultrasonics (2001). 2023.01; 50(2); 205-212

1. 勝又翔子, 小宮顕, 川井清考, 有川淑恵, 野中美幸, 村形佐知, 齊藤和毅, 中筋貴史, 岩原由樹, 加藤祐己, 木脇祐子, 明石巧, 石川智則, 宮坂尚幸. 精巣腫瘍根治術後 50 日で ICSI により生児獲得した一例とその課題 日本受精着床学会雑誌. 2023.09; 40(2); 293-298

2. 大西 威一郎, 倉田 盛人. 【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 16 章) 血液 · 骨髄　原発性骨髄線維症 病理と臨床. 2023.04; 41(臨増); 247

3. 大西 威一郎, 倉田 盛人. 【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 16 章) 血液 · 骨髄　巨赤芽球性貧血 病理と臨床. 2023.04; 41(臨増); 246

4. 大西 威一郎, 倉田 盛人. 【病理診断クイックリファレンス　2023】(第 16 章) 血液 · 骨髄　本態性血小板血症 病理と臨床. 2023.04; 41(臨増); 248

[講演 · 口頭発表等]

1. 田村 一洋, 山本 浩平, 渡部 紫織, 川出 玄二, 大西 威一郎, 木脇 祐子, 石橋 佐知子, 池田 真住, 倉田 盛人, 大橋 健一. 肝細胞癌 (HCC) における 4-hydroxynonenal(4-HNE) の臨床病理学的および分子生物学的検討 (Clinicopathological and molecular analysis of 4-hydroxynonenal(4-HNE) in Hepatocellular carcinoma). 日本病理学会会誌 2023.03.01

2. Keiko Miura, Junichi Shiraishi, Yuriko Yukino, Takayuki Fusumae, Mika Fujiwara, Atsushi Oda, Takeshi Namiki. Two cases of heavily pigmented melanocytic neoplasm mimicking pigmented epithelioiid melanocytoma. 第 39 回日本皮膚病理組織学会 2023.04.15 両国 · 東京

1. 齊藤 一真, 小林 正典, 勝田 景統, 村川 美也子, 福田 将義, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一, 田口 登和子, 明石 巧. 直視コンベックス型超音波内視鏡を用いた穿刺生検でのみ診断可能であった超多血性後腹膜腫瘍の 1 例. Progress of Digestive Endoscopy 2023.12.01

2. 石原 健作, 藤原 基裕, 山本 浩平, 横山 みなと, 廣瀬 航平, 相馬 貴彦, 小林 正貴, 中村 祐基, 范 博, 石川 雄大, 内田 裕將, 福田 翔平, 上原 翔, 田中 一, 吉田 宗一郎, 松岡 陽, 明石 巧, 藤井 靖久. 出産 1 ヵ月後に膀胱タンポナーデを契機に発見され, 自然退縮した膀胱原発炎症性筋線維芽細胞腫瘍の 1 例. 泌尿器外科 2023.10.01

3. 榊原 里江, Yin Yuting, 本多 隆行, 桐村 進, 小林 正嗣, 安藤 耕平, 氏家 秀樹, 加藤 達哉, 加賀 基知三, 三ツ村 隆弘, 中野 亮二, 坂下 博之, 松毛 伸一, 石橋 洋則, 明石 巧, 樋田 泰浩, 諸星 隆夫, 東 みゆき, 大久保 憲一, 宮崎 泰成. 悪性胸膜中皮腫に対する治療の最前線　悪性胸膜中皮腫における免疫応答と免疫チェックポイント阻害剤の効果予測因子の解析. 肺癌 2023.10.01

4. 地野 祐輔, 中嶋 裕, 坂田 泰子, 安藤 登, 水口 祐未, 木村 あずさ, 齋藤 ひかり, 櫻井 聖, 桐村 進, 新宅 洋, 伊藤 崇, 大西 威一郎, 國枝 純子, 明石 巧, 大橋 健一. 腺様嚢胞癌、基底細胞腺腫の鑑別困難例における転写因子 EN1 細胞染色の有用性の検討. 日本臨床細胞学会雑誌 2023.10.01

5. 丸田 竜介, 柴田 翔, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成, 桐村 進. 肺腺癌術後再発に対して化学療法中に肺扁平上皮癌を発症した 1 例. 肺癌 2023.08.01

6. 高尾 茉希, 大島 乃里子, 郡 悠介, 嶋田 未知, 尾臺 珠美, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸, 桐村 進. 子宮内膜および卵巣の重複癌におけるミスマッチ修復タンパクの免疫組織化学染色の検討. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会プログラム · 抄録集 2023.07.01

7. 三浦圭子. 教育講演 33 『肉芽腫性疾患にもっと強くなるには』4. 肉芽腫性血管炎. 第 122 回日本皮膚科学会総会 2023.06.03 横浜

8. 三浦圭子. 教育講演 25『みえない皮下脂肪織疾患を極める』1. 脂肪織炎の病理診断を極める. 第 122 回日本皮膚科学会総会 2023.06.02 横浜

9. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

10. 中山 愛梨, 村上 正憲, 敷嶋 さよ, 松原 克典, 村田 真麻, 石井 遼子, 内田 諭, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 横山 みなと, 藤井 靖久, 明石 巧, 山田 哲也. 当院の副腎皮質癌症例を対象にした S-GRAS スコアと予後の関連ついての検討. 日本内分泌学会雑誌 2023.05.01

11. 家村 綾正, 鈴木 友梨, 鎌田 悠子, 水野 裕貴, 山本 くらら, 酢谷 明人, 高澤 啓, 高木 正稔, 西岡 正人, 明石 巧, 岡本 健太郎, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. 生殖細胞系列 VHL 遺伝子異常による遺伝性褐色細胞腫の小児例. 日本内分泌学会雑誌 2023.05.01

12. 山屋 直大, 岸野 充浩, 高橋 麻里絵, 木村 浩一朗, 大山 潤, 中島 聡良, 西村 卓郎, 木脇 裕子, 明石 巧, 立石 宇貴秀. 分節性動脈中膜融解症による血管病変の経時的変化の検討. 日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌 2023.04.01

13. 大西 威一郎, 村岡 香琳, 小柳 杏莉, 木村 剛, 岸田 晶夫, 山本 浩平, 倉田 盛人, 北川 昌伸. CRISPR KO library を用いた脱細胞化骨へのヒト骨髄間葉系細胞株の導入. 日本病理学会会誌 2023.03.01

14. 田中 陽典, 倉田 盛人, 上林 秀孝, Evans 優季, 山本 阿紀子, 大西 威一郎, 山本 浩平, 北川 昌伸. CRISPR library と Context に基づいたデータベーススクリーニングによる MYC 制御因子の同定. 日本病理学会会誌 2023.03.01

15. 木脇 祐子, 福村 由紀, 倉田 盛人, 杉田 佳祐, 山本 浩平, 大西 威一郎, 田口 登和子, 工藤 篤, 橋本 雅司, 大橋 健一. nCounter を用いた膵神経内分泌癌の遺伝子発現解析. 日本病理学会会誌 2023.03.01

16. 田口 登和子, 大西 威一郎, 中村 友彦, 中川 和博, 井上 美織, 倉田 盛人. T 細胞性リンパ腫に対する新規多重蛍光染色を用いた臨床的有用性の検討. 日本病理学会会誌 2023.03.01

17. 辰巳 暁哉, 田中 陽典, 田口 登和子, 山本 浩平, 大西 威一郎, 北川 昌伸, 倉田 盛人. ゲノムワイド CRISPR activation スクリーニングによる NRAS 新規下流遺伝子の同定. 日本病理学会会誌 2023.03.01

18. 韓 知佑, 大西 威一郎, 倉田 盛人, 大橋 健一. データベースを用いた、遺伝性乳がんの新たな合成致死因子の探索. 日本病理学会会誌 2023.03.01

19. 小柳 杏莉, 大西 威一郎, 村岡 香琳, 佐藤 郁恵, 佐藤 信吾, 木村 剛, 山本 浩平, 北川 昌伸, 倉田 盛人, 岸田 晶夫. ヒト間葉系幹細胞を脱細胞化骨内へ定着させる因子の同定. 日本病理学会会誌 2023.03.01

20. 川出 玄二, 山本 浩平, 倉田 盛人, 大西 威一郎, 松木 裕子, 北川 昌伸, 大橋 健一. 脂質過酸化代謝産物の蓄積による DLBCL での Doxorubicin への抵抗性を介した予後不良の誘導. 日本病理学会会誌 2023.03.01

21. 杉田 佳祐, 大西 威一郎, 北川 昌伸, 倉田 盛人. 間接的 CRISPR screening を用いた細胞間相互作用による薬剤耐性責任分子の同定. 日本病理学会会誌 2023.03.01

22. 古川 佳奈子, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 過敏性肺炎における小気道病変に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

23. 加藤 秀, 山本 くらら, 桐村 進, 有泉 陽介, 立石 優美子, 神谷 尚宏, 明石 巧, 大橋 健一. 鼻腔に発生した Ewing 肉腫の 2 例. 日本病理学会会誌 2023.03.01

24. 明石 巧, 古川 あすか, 内田 佳介, 大橋 健一. パラガングリオーマの病理診断における GATA3、サイトケラチン、転写因子 PHOX2B の有用性の比較検討. 日本病理学会会誌 2023.03.01

25. 畑 千菜, 伊藤 崇, 阿部 大数, 田中 洋次, 梅澤 佳央, 大内 史彦, 内田 諭, 明石 巧, 大橋 健一. 下垂体ラトケ嚢胞摘出術を契機に発見された慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫の一例. 日本病理学会会誌 2023.03.01

26. 布川 裕規, 田中 一, 明石 巧, 池田 通, 大橋 健一, 山本 浩平. 淡明細胞型腎細胞癌における腫瘍-腎実質境界部の浸潤様式における臨床病理学的検討. 日本病理学会会誌 2023.03.01

27. 屋富祖 大騎, 山本 くらら, 伊藤 崇, 田中 陽典, 福田 将義, 山口 和哉, 川田 研郎, 春木 茂男, 明石 巧, 大橋 健一. 食道 lymphoepithelioma-like carcinoma の 1 例. 日本病理学会会誌 2023.03.01

28. 加藤 秀, 山本 くらら, 桐村 進, 有泉 陽介, 立石 優美子, 神谷 尚宏, 明石 巧, 大橋 健一. 鼻腔に発生した Ewing 肉腫の 2 例. 日本病理学会会誌 2023.03.01

29. 村島隆之、米永昭智、井上梨紗子、三浦圭子. 苔癬様型皮膚サルコイドーシスの 1 例. 日本皮膚科学会第 905 回東京地方会 2023.02.18 WEB

30. 鈴木 友梨, 家村 綾正, 水野 裕貴, 山本 くらら, 星野 顕宏, 野村 敏大, 酢谷 明人, 前田 佳真, 鎌田 悠子, 屋富祖 大騎, 高澤 啓, 磯田 健志, 高木 正稔, 西岡 正人, 明石 巧, 岡本 健太郎, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. 若年発症褐色細胞腫例における遺伝学的解析の重要性. 日本小児科学会雑誌 2023.02.01

[社会貢献活動]

1. 皮膚病理診断研究会, 福岡大学　病理学講座, コンパニオンミーティングおよび皮膚病理診断セミナー, 2005 年 04 月 17 日 - 現在

2. お茶の水皮膚病理勉強会, 三浦　圭子　, 医学部附属病院 B 棟 5 階症例検討室, 2009 年 04 月 - 現在

シグナル遺伝子制御学

Signal Gene Regulation

准教授　船戸　紀子

(1)　分野概要

主要な研究テーマは、「頭蓋顔面の形態形成における転写調節因子の機能解析」です。頭蓋冠、頭蓋底、顔面骨、顎骨、口蓋の発生機構に関わる転写因子を分子生物学および発生生物学の両面から解明することで、顎頭蓋顔面骨の形態異常や口蓋裂の治療へと研究を展開するのが目標です。

(2)　研究活動

1. 顎顔面および骨の発生に関わる一塩基多型および遺伝子群の転写制御機構
2. 唇顎口蓋裂に関わる遺伝子群の分子機構
3. 創傷治癒および組織再生における基礎的研究

(3)　教育活動

細胞機能を特徴付けるシグナル伝達系の異常と病態との関連を理解し、疾患治療の分子生物学的基盤を学ぶ。細胞増殖と分化を題材に遺伝子発現制御を通じたシグナル伝達系から、顎顔面形態形成と病態を解明する。

特論では、生体の構成単位である細胞は、細胞外の刺激を受け活性化 · 分化 · 増殖 · 細胞死の変化を示す。その際、細胞内では遺伝子の機能に基づいた一連の生化学シグナル反応が生じ、細胞独自の機能を発揮して特徴のある表現型となる。本特論では、細胞の増殖と分化に関与する遺伝子とバイオインフォマティクスについて解説する。

研究実習では、疾患と遺伝子の直接の関連を理解するために、疾患遺伝子の同定 · 検出から、患者での疾患遺伝子の変異の解析と発現の様式を検討する。実験を通じ、病態の理解と遺伝子治療の可能性を考える。遺伝子改変マウスや細胞実験を通じ発生に関わる遺伝子ネットワークを探索し、その意義を解析する。

(4)　教育方針

研究活動に合わせて、リサーチコアセンターにある機器の講習会を業務の一環として行っている。

(5)　研究業績

[講演 · 口頭発表等]

1. 船戸 紀子. DiGeorge 症候群疾患遺伝子 TBX1 は口蓋形成において miR-200–ZEB2 軸を標的にする. 第 65 回歯科基礎医学会学術大会 2023.09.17 東京

2. Noriko Funato, Hiromi Yanagisawa. TBX1 associated with DiGeorge syndrome targets the miR-200–ZEB2 axis. Gordon Research Conference (Human Genetics and Genomics) 2023.07.11 Waterville Valley, NH, United States

[その他業績]

1. 新規トリペプチド、骨芽細胞の分化促進剤および骨形成促進剤, 2023 年
   権利維持（特許番号： 特許第 6989842 号）
   株式会社ニッピ · 国立大学法人 東京医科歯科大学

2. 骨芽細胞の分化促進剤および骨形成促進剤, 2023 年
   権利維持（特許番号：特許第 6860877 号）
   株式会社ニッピ · 国立大学法人 東京医科歯科大学

3. 文部科学省科学研究費補助金　基盤研究 C（新規）, 2023 年 04 月
   「「非症候群性」口唇口蓋裂の発症リスクとなる一塩基多型の統合的解析」　研究代表者　船戸紀子

[社会貢献活動]

1. 歯科基礎医学会 代議員, 歯科基礎医学会, 2016 年 04 月 01 日 - 現在

2. QS Global Academic Survey (QS World University Rankings), 2020 年 - 2023 年

3. Times Higher Education (THE)’s Global Academic Reputation Survey, 2021 年 - 2023 年

4. 科学技術 · 学術政策研究所（NISTEP）科学技術やイノベーション創出の状況の把握を目的とした調査, 2021 年 - 現在

血液内科学

Hematology

教授	森　毅彦
講師	山本　正英、長尾　俊景
助教	梅澤　佳央、吉藤　康太、田中　圭佑
特任助教	坂下　千瑞子
検査部助教	野上　彩子
医員	中牧　尚子、友利　愛奈、佐々木　優弥、 中田　康充、川上　真帆　小川　槙子、秋山　めぐみ
大学院生	本村　鷹多朗、斉藤　真貴子、野口　侑真、迎　純一、 副島　麻衣、長田　有生

(1) 分野概要

当分野は主に、血液内科として医学部附属病院にて、種々の造血器腫瘍、貧血疾患、出血性疾患等の血液疾患に関して、安全で質の高い医療の提供、高度先進医療の開発、優秀な医師の養成等の目標の達成に向けて、抗癌剤治療、分子標的療法、造血幹細胞移植療法等の治療法を主とした診療と、卒後初期および後期研修を担っています。また、血液疾患の病態の理解に基づいた診断法と治療法の基本の修得を目指して、学部学生に講義と診療参加型実習を通じて教育を行っています。さらに、大学院医歯学総合研究科 · 血液内科学分野として、主に博士課程大学院生の教育を行いつつ、治療が困難な血液疾患に対する有効な治療法の開発に向けた基礎研究、臨床研究を行っています.

(2) 研究活動

当科研究室ではこれまでに、主題として「造血細胞の増殖と腫瘍発症に関わる細胞内シグナル伝達機構」や「化学療法剤による造血器腫瘍のアポトーシス誘導制御機構」の解明に重きを置き、様々な研究活動を行ってきました。これらの礎の上に、昨今の分子生物学的、遺伝学的解析法の劇的な進歩を背景として、新たな知見とその発信を目指し、各研究グループで精力的な活動を進めています。

1）難治性 B 細胞腫瘍の新たな分子標的の検索と治療介入法の開発
2）特異的遺伝子変異陽性急性白血病の治療抵抗性に関与する分子機序の解明
3）新しいキメラ抗原受容体（Chimeric Antigen Receptor: CAR）T 細胞技術の開発
4）原発性眼内リンパ腫の病態関連遺伝子異常の解析とその臨床像との関連
5）骨髄増殖性腫瘍の発症 · 薬剤耐性メカニズム · 有効治療薬の発見 · 開発
6）各種造血器腫瘍由来細胞株の樹立、その解析と応用
7）免疫不全患者における新たな感染症の診断法 · 管理法の開発

(3) 教育活動

卒前教育: 医学科 3 年生を対象に血液 · 腫瘍ブロックにおいて血液内科学の基本的事項につき講義を行っている。医学科 5 年生および 6 年生に対して、クリニカルクラークシップ (CC) において卒後教育に効果的につながる教育を意識した診療参加型実習を行っている。感染症対策による制限下でも、診療上の問題解決能力を習得することを目標として、症例検討をベースとした講義やグループワークの中で、血液疾患の診断から治療方針決定までのプロセスを経験できる実践的指導を行っている。また患者さんとの接し方、チーム医療の中での医師の役割とそ

れを果たすことの意義 · 方法についても指導している。

卒後教育: 初期研修では、血液疾患の診療の中で、難治性血液疾患の患者さんとの適切なコミュニケーションの取り方からはじまる全人的治療に関する指導を行っている。実地での診断、治療に必要な血液学の基礎的知識を習得することを目標とし、専攻医には総合内科専門医、血液専門医の取得を視野に入れた指導を行っている。また通常の診療に加え、症例報告をはじめとする学会発表および論文執筆の指導も積極的に行っている。
大学院生を含め自身の疑問の答えを見いだすための基礎研究あるいは臨床研究を立案、遂行することを指導し、高い research mind を有する研究者の育成にも努めている。

(4) 教育方針

(3) で示した通り、血液疾患を学ぶ中で、高い問題解決能力の習得、全人的治療を行うことができる医療人の育成を目標としている。またさらに高い research mind を有する研究者の育成にも努めている。

(5) 臨床活動および学外活動

2023 年の入院患者総数はのべ 434 人で、血液疾患の多岐にわたる。14 床の無菌病室において、急性白血病寛解導入療法や、急性白血病および悪性リンパ腫、多発性骨髄腫に対する移植医療（同種、自家）も積極的に行っている。骨髄移植推進財団、日本臍帯血バンクネットワークの移植施設として認定を受けている他、2019 年には HLA 半合致移植を導入し、CAR-T 療法認定施設となった。移植コーディネーター、看護師、薬剤師、心身医療科をはじめとする他科の先生方とチーム医療を推進し、2023 年は同種造血幹細胞移植 9 例（血縁造血幹細胞移植 2 例、非血縁骨髄移植 4 例、臍帯血移植 3 例）、自家末梢血幹細胞移植 4 例、CAR-T 細胞療法 10 例が施行された。外来に関しては、外来化学療法室にて安全且つ生活の質に重点をおいた通院化学療法を施行している。

(6) 臨床上の特色

CAR-T 療法、難治性造血器悪性腫瘍に対する造血幹細胞移植療法、移植後の網羅的血中ウイルス DNA 量測定による早期診断治療等。

(7) 研究業績

[原著]

1. Motomura, Y; Yoshifuji, K; Tachibana, T; Takase, H; Arai, A; Tanaka, K; Okada, K; Nogami, A; Umezawa, Y; Sakashita, C; Yamamoto, M; Mori, T; Nagao, T. Clinical factors for central nervous system progression and survival in primary vitreoretinal lymphoma BRITISH JOURNAL OF HAEMATOLOGY. 2023.12;

2. Takashi Toya, Kota Mizuno, Masatoshi Sakurai, Jun Kato, Takehiko Mori, Noriko Doki, Shinichi Masuda, Nobuyuki Aotsuka, Shokichi Tsukamoto, Emiko Sakaida, Yuki Nakajima, Shin Fujisawa, Shinichiro Machida, Yasuyuki Aoyama, Hiroki Yokoyama, Katsuhiro Shono, Yoshihiro Hatta, Kensuke Usuki, Keisuke Kataoka, Yoshinobu Kanda. Differential Clinical Impact of Letermovir Prophylaxis According to Graft Sources: a KSGCT Multicenter Retrospective Analysis Blood Adv. 2023.12;

3. Asuka Kono, Manabu Wakamatsu, Yoshihiro Umezawa, Hideki Muramatsu, Hiroki Fujiwara, Dan Tomomasa, Kento Inoue, Keiichiro Hattori, Tetsuo Mitsui, Hidetoshi Takada, Yoshiyuki Minegishi, Yoshiyuki Takahashi, Masahide Yamamoto, Takehiko Mori, Hirokazu Kanegane. Successful treatment of DOCK8 deficiency by allogeneic hematopoietic cell transplantation from alternative donors. Int J Hematol. 2023.10; 118(4); 519-525

4. Fujita S, Kasahara H, Kato J, Koda Y, Shiroshita K, Yamaguchi K, Okayama M, Abe R, Kikuchi T, Shimizu T, Mori T, Kataoka K, Okamoto S. The Impact of Pretransplant Use of Tyrosine Kinase Inhibitors on Allogeneic Stem Cell Transplantation in Patients with Chronic Myeloid Leukemia-A Single-institution Retrospective Study. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2023.10;

5. Onishi Y, Mori T, Yamazaki H, Hiramoto N, Zaimoku Y, Kanaya M, Matsue K, Onizuka M, Aotsuka N, Uchida N, Onodera K, Kanda J, Nakamae H, Yamamoto R, Kuriyama T, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y,

Adult Aplastic Anemia Working Group of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy. Comparison of haploidentical stem cell transplantation with post-transplant cyclophosphamide versus umbilical cord blood transplantation in adult patients with aplastic anemia. Transplantation and cellular therapy. 2023.09; 29(12); 766.e1-766.e8

6. Keisuke Tanaka, Ayako Ichikawa, Natsuka Umezawa, Kouhei Yamamoto, Kota Yoshifuji, Keigo Okada, Ayako Nogami, Yoshihiro Umezawa, Toshikage Nagao, Chizuko Sakashita, Takehiko Mori, Shuji Tohda, Ryuji Koike, Shinsuke Yasuda, Masahide Yamamoto. Lymphoproliferative disorder risk after methotrexate treatment for rheumatoid arthritis. Cancer Sci. 2023.09; 114(9); 3719-3727

7. Shimizu H, Najima Y, Kako S, Tanaka M, Fujiwara SI, Mori T, Usuki K, Gotoh M, Hagihara M, Tsukada N, Oniduka M, Takada S, Sakaida E, Fujisawa S, Onoda M, Aotsuka N, Yano S, Ohashi K, Takahashi S, Okamoto S, Kanda Y, Kanto Study Group for Cell Therapy (KSGCT). Clinical significance of late CMV disease in adult patients who underwent allogeneic stem cell transplant. Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy. 2023.08; 29(12); 1103-1108

8. Kako S, Kimura SI, Wada H, Komiya Y, Nakasone H, Sakurai M, Kato J, Tanaka M, Fujii E, Tachibana T, Yamamoto W, Hagihara M, Watanabe R, Yokota A, Nakano H, Mori T, Nakaseko C, Kanamori H, Okamoto S, Kanda Y. Treatment strategy at the decision for allogeneic transplantation in patients with myelodysplastic syndrome in the era of azacitidine: A KSGCT prospective study. Leukemia research. 2023.08; 133; 107371

9. Okinaka K, Inoue Y, Uchida N, Toya T, Ogawa H, Ozawa Y, Eto T, Mori T, Sugita J, Kondo T, Kato K, Suzuki R, Fukuda T. Clinical characteristics and risk factors of pneumococcal diseases in recipients of allogeneic hematopoietic stem cell transplants in the late phase: A retrospective registry study. Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy. 2023.07; 29(7); 726-730

10. Tomoyasu Jo, Satoshi Yoshihara, Yoshiki Okuyama, Keiko Fujii, Tomoko Henzan, Kaoru Kahata, Rie Yamazaki, Wataru Takeda, Yoshihiro Umezawa, Kentaro Fukushima, Takashi Ashida, Minami Yamada-Fujiwara, Ryo Hanajiri, Noboru Yonetani, Yuma Tada, Yuji Shimura, Hidekazu Nishikii, Norio Shiba, Naoya Mimura, Jun Ando, Takayuki Sato, Yasuhiro Nakashima, Junko Ikemoto, Keita Iwaki, Shin-Ichiro Fujiwara, Masaki Ri, Tokiko Nagamura-Inoue, Ryuji Tanosaki, Yasuyuki Arai. Risk factors for CAR-T cell manufacturing failure among DLBCL patients: A nationwide survey in Japan. Br J Haematol. 2023.07; 202(2); 256-266

11. Harada K, Onizuka M, Mori T, Shimizu H, Seo S, Aotsuka N, Takeda Y, Sekiya N, Kusuda M, Fujihara S, Shiraiwa S, Shono K, Shingai N, Kanamori H, Momoki M, Takada S, Mukae J, Masuda S, Mitani K, Sakaida E, Tomikawa T, Takahashi S, Usuki K, Kanda Y. Prognostic factors for the development of lower respiratory tract infection after influenza virus infection in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation recipients: A KSGCT Multicenter Analysis. International journal of infectious diseases : IJID : official publication of the International Society for Infectious Diseases. 2023.03; 131; 79-86

12. Kanda Y, Mori T, Narita A, Wolter KD, Yoshimatsu H, Nishimura K. Efficacy and safety of equine anti-thymocyte immunoglobulin (eATG) in three Japanese patients with moderate to very severe aplastic anemia: a case series. International journal of hematology. 2023.01; 117(3); 469

13. Yoshihiro Umezawa, Koji Sasaki. Dose optimization of tyrosine kinase inhibitor therapy in chronic myeloid leukemia. Int J Hematol. 2023.01; 117(1); 24-29

1. Hirate T, Kitazawa H, Sakaguchi H, Akita N, Hasegawa C, Yamamoto K, Kutsuna S, Mikita K, Mori T, Hama A, Yoshida N. Cerebral toxoplasmosis developed after unrelated bone marrow transplantation for acute myeloid leukemia. Rinsho ketsueki. 2023; 64(10); 1275-1279

2. Koi S, Nogami A, Fujiwara H, Bando K, Saito M, Osada Y, Tanaka K, Sakashita C, Yoshifuji K, Okada K, Umezawa Y, Nagao T, Yamamoto M, Mori T. Acute promyelocytic leukemia with asymptomatic cerebral hemorrhage. Rinsho ketsueki. 2023; 64(11); 1426-1430

3. Tomoyasu Jo, Tomoko Henzan, Daisuke Tomizawa, Satoru Yoshihara, Kaoru Kahata, Minami Yamada-Fujiwara, Yoshiki Okuyama, Norio Shiba, Keiko Fujii, Yoshihiro Umezawa, Rie Yamazaki, Wataru Takeda, Ryo Hanajiri, Kentaro Fukushima, Naoya Mimura, Junko Ikemoto, Keita Iwaki, Noboru Yonetani, Shin-Ichiro Fujiwara, Masaki Ri, Tokiko Nagamura-Inoue, Ryuji Tanosaki, Yasuyuki Arai.

Manufacturing results of tisagenlecleucel for acute lymphoblastic leukemia: a survey by the CAR-T cell therapy taskforce of the Japan Society of Transfusion Medicine and Cell Therapy. Rinsho Ketsueki. 2023; 64(5); 331-337

[書籍等出版物]

1. 梅澤　佳央. 血液内科 (血液専門医のための模擬テスト）. 科学評論社, 2023.12
2. 田中圭祐、森毅彦. 日本臨床　血液症候群（第三版）後天性異常フィブリノゲン血症. 日本臨床社, 2023.11
3. 吉藤康太、森毅彦. 血液専門医テキスト　同種造血幹細胞移植：合併症（感染症、SOS）. 2023.10
4. 吉藤康太、森毅彦. 血液専門医テキスト　感染症の予防と治療. 2023.10

[総説]

1. 森　毅彦. 好中球減少症 Medical Practice. 2023.02; 40(2); 329

[講演・口頭発表等]

1. Yuka Sugimoto, Keiki Nagaharu, Eiko Oya, Takehiko Mori, et al.. Thrombotic and Bleeding Events in Japanese Adolescent and Young Adult PV and ET: Results from Japanese Multicenter Retrospective Study. 2023.12 San Diego
2. Sanjay Mohan, Stephen T. Oh, Jean-Jacques Kiladjian, Masahiro Takeuchi, Jason Gotlib, Ellen Ritchie, Taizo Shimomura, Paola Guglielmelli, Anthony M. Hunter,Francesca Palandri, Francoise Boyer, Alessandro Rambaldi, Takehiko Mori,Tomoki Ito, Betty Lamothe, Yan-ou Yang, Yi Cui, Francis Seguy, Amanda McBride, Prithviraj Bose. Phase 1/2 Study of the Activin Receptor-like Kinase-2 Inhibitor Zilurgisertib (INCB000928, LIMBER-104) as Monotherapy or With Ruxolitinib in Patients With Anemia due to Myelofibrosis. 65th Annual Meeting of American Society of Hematology, 2023.12 San Diego
3. Satoru Aoyama, Ayako Nogami, Sadakatsu Ikeda, Takehiko Mori. Novel protease-mediated double antigen recognizing Chimeric Antigen Receptor (CAR) enhances the directionality of CAR-T cell activity and improves target cell specificity.. Keystone symposia A4: Emerging Cellular Therapies at the Forefront of Cancer Immunotherapy 2023.01.31

1. 朱田卓史，友利愛奈，梅澤佳央，森　毅彦. 同種骨髄移植後 2 年以上経過し発症した内臓播種性 VZV 感染症. 第 692 回日本内科学会関東地方会 2023.12.09 東京
2. 野上　彩子、青山　慧、北浦　萌、山本　正英、東田　修二. CAR-T 細胞療法後の遷延性血球減少症における免疫学的機構の解明. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.16 長崎
3. 吉藤康太, 貞任大地, 遠矢嵩, 本村鷹多朗, 髙瀬博, 原田結花, 森毅彦, 長尾俊景〓. 原発性眼球内リンパ腫の遺伝子異常は中枢神経浸潤リスクの層別化につながる. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.14 東京
4. 野上　彩子、倉田　盛人、田口　登和子、小山　祥美、永野 勝稔、田中　圭祐、吉藤康太、梅澤　佳央、市村　直也、東田　修二、森　毅彦. 尿セルブロックを用いた出血性膀胱炎起因ウィルスの病理学的同定法の有用性. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.13 東京
5. 岡田啓五、齋藤真貴子、本村鷹多朗、吉藤康太、青山慧、長尾俊景、野上彩子. FLT3-ITD は PDK1 を活性化し、Rsk の N 末端リン酸化と Bim の阻害により AML 細胞の生存を強化する. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.13 東京
6. Eiko ohya, Keiki Nagaharu ,Yuka Sugimoto ,Kohshi Ohishi ,Isao Tawara ,Tomoki Ito ,Akihiko Gotoh, Mika Nakamae ,Fumihiko Kimura,Michiaki Koike ,Keita Kirito ,Hideho Wada ,Kensuke Usuki ,Takayuki Tanaka ,Takehiko Mori ,Satoshi Wakita ,Toshiki Saito ,Akiko Kada ,Akiko Saito M. ,Kazuya Shimoda ,Toshiro Kurokawa ,Akihiro Tomita ,Yoko Edahiro ,Yoshinori Hashimoto ,Hitoshi Kiyoi ,Itaru Matsumura ,Katsuto Takenaka ,Norio Komatsu . Relevance of the treatment and thrombotic/bleeding events in PV and ET; subanalysis of JSH-MPN-R18. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.13 東京

7. Keiki Nagaharu ,Eiko Ohya, Yuka Sugimoto ,Kohshi Ohishi ,Isao Tawara ,Tomoki Ito ,Akihiko Gotoh, Mika Nakamae ,Fumihiko Kimura,Michiaki Koike ,Keita Kirito ,Hideho Wada ,Kensuke Usuki ,Takayuki Tanaka ,Takehiko Mori ,Satoshi Wakita ,Toshiki Saito ,Akiko Kada ,Akiko Saito M. ,Kazuya Shimoda ,Toshiro Kurokawa ,Akihiro Tomita ,Yoko Edahiro ,Yoshinori Hashimoto ,Hitoshi Kiyoi ,Itaru Matsumura ,Katsuto Takenaka ,Norio Komatsu . The identification of predictive parameters for thrombotic events in MPN; sub-analysis of MPN-R18. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.13 東京

8. Yuya Sugimoto, Keiki Nagaharu ,Eiko Ohya,Kohshi Ohishi ,Isao Tawara ,Tomoki Ito ,Akihiko Gotoh, Mika Nakamae ,Fumihiko Kimura,Michiaki Koike ,Keita Kirito ,Hideho Wada ,Kensuke Usuki ,Takayuki Tanaka ,Takehiko Mori ,Satoshi Wakita ,Toshiki Saito ,Akiko Kada ,Akiko Saito M. ,Kazuya Shimoda ,Toshiro Kurokawa ,Akihiro Tomita ,Yoko Edahiro ,Yoshinori Hashimoto ,Hitoshi Kiyoi ,Itaru Matsumura ,Katsuto Takenaka ,Norio Komatsu . Clinical features in AYA PV and ET in Japan; secondary data analysis of JSH-MPN-R18. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.13 東京

9. Satoru Aoyama, Ayako Nogami, Sadakatsu Ikeda, Takehiko Mori. Establishment of novel Chimeric Antigen Receptor (CAR) improving the target-cell-specificity.. The 85th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology 2023.10.13

10. 小川槙子, 田中圭祐, 吉藤康太, 梅澤佳央, 野上彩子, 坂下千瑞子, 長尾俊景, 山本正英, 森毅彦. チロシンキナーゼ阻害薬のみで長期に分子遺伝学的奏功を維持している急性期で発症した慢性骨髄性白血病. 日本血液学会関東甲信越地方会 2023.07.15 山梨

11. 田中　圭祐、金井　光、桑原　宏哉、吉藤　康太、岡田　啓五、梅澤　佳央、野上　彩子、長尾　俊景、坂下　千瑞子、森　毅彦 、山本　正英. Fingolimod 内服中に発生したびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫. 第 63 回　日本リンパ網内系学会学術集会 2023.06.24 大宮

12. 本村 鷹多朗, 吉藤 康太, 貞任 大地, 野上 彩子, 齊藤 真貴子, 岡田 啓五, 青山 慧, 森 毅彦, 長尾 俊景. 新規 GCB-DLBCL 細胞株 TMD13 の樹立と特性評価. 第 63 回日本リンパ網内系学会学術集会 · 総会 2023.06.22 埼玉

13. Tomoya Yokota, Takao Ueno, Yoshihiko Soga, Hiroto Ishiki, Yasuhito Uezono, Takehiko Mori8, Sadamoto Zenda, Yosuke Uchitomi. J-SUPPORT 支持療法 · 緩和治療領域研究ポリシー（粘膜炎）. 日本臨床腫瘍学会第 20 回学術集会 2023.03.17 福岡

14. 野地理夏、森川　亮、森　毅彦、原田浩之、末永光邦、加納嘉人. 頭頸部癌免疫療法におけるリキッドバイオプシーモニタリングの有用性の検討. 日本臨床腫瘍学会第 20 回学術集会 2023.03.17 福岡

15. 大西　　康、森　　毅彦、山﨑　宏人、平本　展大、材木　義隆、金谷　　穣、末永　孝生、鬼塚　真仁、青墳　信之、内田　直之、小野寺　晃一、諫田　淳也、中前　博久、山本　隆介、衛藤　徹也、木村　貴文、一戸　辰夫、熱田　由子. 再生不良性貧血に対する臍帯血移植と PTCY を用いたハプロ移植の比較. 第 45 回日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.12 名古屋

16. 山本　隆介、平本　展大、藤本　亜弓、山﨑　宏人、森　　毅彦、内田　直之、土岐　典子、加藤　　淳 7、小澤　幸泰、太田　秀一、鬼塚　真仁、衛藤　徹也、神田　善伸、福田　隆浩、熱田　由子、大西　　康. 再生不良性貧血における移植後リンパ増殖性疾患の発症リスク因子の検討. 第 45 回日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.12 名古屋

17. 千葉桃子, 田中圭祐, 大内史彦, 八木真梨絵, 金井光, 原田拓実, 初澤紘生, 吉藤康太, 岡田啓吾, 梅澤佳央, 野上彩子, 東田修二, 坂下千瑞子, 長尾俊景, 森毅彦, 山本正英. 中枢神経リンパ腫に対するブスルファンを含む前処置を用いた自家移植の検討. 第 45 回日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.11 名古屋

18. 初澤　紘生, 田中　圭祐, 八木　真理絵, 大内　史彦, 金井　光, 千葉　桃子, 原田　拓実, 吉藤　康太, 岡田　啓吾, 梅澤　佳央, 坂下　千瑞子, 長尾　俊景, 山本　正英, 森　毅彦. Tisagenlecleucel 治療後早期の ウイルス感染症モニタリング. 第 45 回　日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.11 名古屋

[その他業績]

1. 日本学術振興会令和 5 年度研究助成事業（学術研究助成金）(新規）, 2023 年 04 月
研究種目：若手研究（研究代表者：吉藤康太）
研究課題名：原発性眼球内リンパ腫の中枢神経浸潤の機序の解明
課題番号：23K15296

2. 日本学術振興会令和 4 年度科学研究費助成事業（学術研究助成金）（継続）, 2023 年 04 月
   研究種目：基盤研究 (C)（研究代表者：長尾俊景）
   研究課題名：細胞内浸透抗体-CpG-ODN 複合体を用いた難治性 B 細胞リンパ腫治療の可能性
   課題番号：22K08497

3. 日本学術振興会令和 4 年度科学研究助成事業（学術研究助成)(継続）, 2023 年 04 月
   研究種目：基盤研究 (C)(研究代表者：森毅彦）
   研究課題名：造血幹細胞移植後のトキソプラズマ症診断における PCR 法の有用性の検討と臨床応用
   課題番号：22K08472

4. 日本学術振興会令和 4 年度科学研究費助成事業（学術研究助成金）（継続）, 2023 年 04 月
   研究種目：研究活動スタート支援（研究代表者：吉藤康太）
   研究課題名：網羅的遺伝子解析による原発性眼球内リンパ腫の新規バイオマーカー探索
   課題番号：22K20785

5. 日本学術振興会令和 4 年度科学研究費助成事業（学術研究助成金）(継続), 2023 年 04 月
   研究種目：若手研究（研究代表者：野上彩子）
   研究課題名：骨髄不全症における標的オトリ人工抗体開発に向けたネオエピトープ反応性 T 細胞の検出
   課題番号：22K15599

6. 一般社団法人日本血液学会 2023 年度研究助成, 2023 年 09 月
   (研究代表者：野上彩子)
   研究課題名：CAR-T 療法後遷延性血球減少症における免疫病態の解明

[社会貢献活動]

1. 「人材育成」「働き方改革」「新型コロナウイルス対応」について, アステラス製薬株式会社, New era メドフィス, 2022 年 11 月 18 日 - 現在

分子内分泌代謝学

Molecular Endocrinology and Metabolism

教授：山田 哲也
准教授：池田 賢司
講師：小宮 力
助教：辻本 和峰、柴 久美子[1]、村上 正憲
医員：石井 遼子、田口 邦之、白石 織栄、高木 典子、中川 純之介
レジデント：大渕 裕子、笹岡 浩子
特任講師：沼沢 益行[2]
大学院生（博士課程）：竹内 彬、原 一成、堀野 雅人、青木 惇、岡﨑 玲、兼田 稜

[1] 長寿・健康人生推進センター
[2] 統合教育機構

(1) 分野概要

分子内分泌代謝学分野（糖尿病・内分泌・代謝内科）では、「安心かつ良質な専門医療の提供」「独創的な医学研究の推進と高度先進医療の開発」「次世代を担う若手医師・研究者の育成」を教室運営の基本理念としています。内分泌代謝学は、シグナル伝達分子である「ホルモン」による生体の恒常性維持機構とその破綻により発症する病態・疾患に関する学問です。当教室では、糖尿病を中心とする代謝疾患と、視床下部・下垂体疾患あるいは副腎疾患などの特徴的な臨床症状を呈する内分泌疾患に関する診療・研究・教育を担当しています。

診療活動では、地域の中核病院として、増加の一途を辿っている糖尿病などの代謝疾患と内分泌疾患を対象として全国でもトップレベルの医療を提供しています。学内の関連診療科・部門との緊密な連携によるチーム医療の要として、豊富な経験を有する糖尿病専門医あるいは内分泌代謝専門医が、内科学講座として幅広い総合医療と高い専門性に裏打ちされた専門医療を実践しています。教室の関連病院や地域の診療所との医療連携を大切にして、地域医療の向上に貢献するとともに、患者さんの身近に寄り添う優しい医療を提供できるように努めています。大学附属病院の診療科として難治性疾患に対する未来志向型の先進医療にも積極的に取り組んでいます。

研究活動では、大学の研究施設として、難治性疾患に対する新しい診断・治療戦略の開発につながる独創的な研究活動が求められています。当教室では、古典的な生理学や薬理学と分子細胞生物学、発生工学、分子遺伝学などの新しい研究手法とゲノムあるいはエピゲノム、メタボロームなどの網羅的解析法を駆使して、代謝調節機構や生体の恒常性維持機構の解明とその成果を臨床の現場に還元するトランスレーショナルサイエンスを推進しています。学内外の関連病院・関連施設と連携して、糖尿病・内分泌・代謝疾患に関する臨床研究を展開することにより、当教室ブランドの独創的な医学研究と臨床応用を推進していきたいと考えています。

教育活動では、医学部学生の卒前教育、研修医やレジデントあるいは専門医の卒後教育、修士課程・博士課程における大学院教育を通して、次の時代の糖尿病・内分泌・代謝学をリードする人材育成を目標にしています。診療の現場では、充実した初期・後期臨床研修のために多彩な糖尿病・内分泌・代謝疾患を経験する機会を提供し、患者さんの身近に寄り添う人間愛にあふれ、最新の医学知識・技術を有する、次の時代の医学を開拓しようという志の高い医師を育成します。研究の現場では、グローバルな視野とリサーチマインドを有する医学研究者を育成します。人生で最も大切な時期を教室で過ごす若手には、主体的に色々なことにチャレンジして良い経験をしてほしいと願っています。

教室員一同、患者さんに信頼される診療活動と独創的な研究活動を実践すること、次世代の若手医師・研究者には

糖尿病・内分泌・代謝学の魅力を伝えることにより、わが国の内分泌代謝学の発展に貢献したいと考えています。

(2) 研究活動

研究活動

1. 糖尿病とメタボリックシンドロームの成因の解明と新しい治療戦略の開発
2. 熱産生機能とエネルギー代謝調節機構の解明
3. 熱産生脂肪の誘導分子機構の解明
4. メタボリックシンドロームのエピゲノム制御と医学応用
5. ホルモン生産腫瘍の発生機構と病態に関する分子医学的研究

研究テーマ

1）糖尿病とメタボリックシンドロームの成因の解明と新しい治療戦略の開発

我が国は未曾有の高齢社会を迎えつつありますが、それに伴い糖尿病患者数も１０００万人を超えてきております。さらに、過食や運動不足による肥満症・メタボリックシンドロームの増加も看過できない社会問題となっています。これらの疾患は、Common diesase であるだけでなく種々の合併症を引き起こし大きな問題となっています。我々の研究室では、糖尿病・メタボリックシンドロームの成因の解明を行い、根本的な病因に対する新規治療戦略の開発を目指します。

2）熱産生機能とエネルギー代謝調節機構の解明

近年、熱を産生し、エネルギー消費量を増やすことで抗肥満作用および全身の糖代謝・脂質代謝を改善する熱産生脂肪（褐色脂肪細胞とベージュ脂肪細胞）がヒトにおいても存在することが明らかとなっています。肥満や糖尿病の病態では熱産生機能が低下することが知られていますが、個体における代謝は熱産生脂肪だけでなく肝臓・筋肉・神経等の臓器が協調的に機能し、臓器間ネットワークがその調節に必須の役割を担っていることが示されてきました。私達の研究室では個体における熱産生機能とエネルギー代謝調節機構を明らかとして、肥満・糖尿病に対する新規治療開発のターゲットを創出します。

3）熱産生脂肪の誘導分子機構の解明

熱産生脂肪細胞であるベージュ脂肪細胞は、長期の寒冷暴露や運動、糖尿病治療薬である PPAR γアゴニストの投与などによって誘導されることが特徴です。ヒト成人においても寒冷暴露によりベージュ脂肪細胞が誘導されることが報告され、エネルギー消費量や糖代謝の改善に繋がることが報告されています。しかしながら、肥満や加齢にともないベージュ脂肪細胞の誘導が低下することが明らかになっており、誘導低下の分子メカニズムを解明することが重要な課題となっています。私達の研究室では、ベージュ脂肪細胞がヘテロな細胞集団であることに着目し、肥満や加齢に伴うベージュ脂肪細胞の誘導低下の分子メカニズムの解明を目指して研究を行っています。

4）メタボリックシンドロームのエピゲノム制御と医学応用

生活習慣病は環境因子と遺伝素因の複雑な相互作用により発症することが知られていますが、発症機序として、外的要因（環境因子）によりもたらされる後天的なゲノム修飾（DNA メチル化、ヒストンメチル化・アセチル化など）による遺伝子発現制御（エピジェネティクス）が注目されています。胎生期～新生児期の環境因子の影響がどのようにしてエピゲノム記憶されて成人期の生活習慣病の発症に関与するのかそのメカニズムを解明することにより、エピゲノム記憶を標的とする新しい医学応用が期待されます。私達の研究室では、特に DNA メチル化に焦点を当てて、糖尿病やメタボリックシンドロームのエピジェネティクス制御の分子機構に関する研究を推進しています。

5）ホルモン産生腫瘍の発生機構および病態に関する研究

機能性ホルモン産生腫瘍は難治性内分泌疾患から高血圧や糖脂質代謝異常などの生活習慣病に至る広範な疾患の基盤病態を形成します。ホルモン産生腫瘍の発生機構とその病態の解明は内分泌代謝学における重要な研究課題です。当教室では、視床下部・下垂体疾患・副腎疾患を中心とする内分泌疾患を対象とする生化学的、病理学的解析およびゲノム・エピゲノム解析、疫学研究などを通じて、内分泌腫瘍あるいは異所性ホルモン産生腫瘍の新しい検査法・診断法の開発を目指した臨床研究を展開しています。

(3) 教育活動

担当科目：糖尿病、内分泌・代謝学、高血圧

教育方針：当教室では国民的問題とされる糖尿病を中心とする代謝疾患やメタボリックシンドローム、難治性高血圧、ホルモン異常による多彩な症状を呈する視床下部・下垂体・副腎疾患、膵・消化管ホルモン産生腫瘍などの

難治性内分泌疾患の診療を担当しています。
糖尿病 · 代謝疾患や内分泌疾患を対象として、最新の知識に基づく論理的診断と病態生理あるいは生活環境を考慮した全人的医療を実践できる専門医の育成、糖尿病 · 内分泌 · 代謝疾患の成因の解明と新しい診断法 · 治療法の開発、ホルモン産生腫瘍を中心とする内分泌疾患の新しい検査法 · 診断法の開発を目指した基礎 · 臨床研究の推進を実践しています。
以上の臨床活動 · 研究活動を通して、知識、技術、思考力を涵養し、高い専門性と総合力を兼ね備えた医療人 · 医学者の育成を目指しています。

2023 年度の教育実績は以下の通りです。
· 大学院修士課程（人体機能学講義）
· 医学部医学科系別総合講義（糖尿病 · 内分泌 · 代謝）
· 医学部保健衛生学科講義（糖尿病 · 内分泌 · 代謝）
· 歯学部歯学科講義　内科学各論（糖尿病 · 内分泌 · 代謝）
· 歯学部口腔保健学科　医学一般（糖尿病 · 代謝性疾患、内分泌疾患）
· プレクリニカルクラークシップ（PCC）：(2023 年 12 月-2024 年 2 月）
　第 4 学年学生グループを対象に糖尿病 · 内分泌 · 代謝実習を担当。
· OSCE（全身状態とバイタルサイン）を担当
· クリニカルクラークシップ（CC）：(2023 年 4 月-2024 年 3 月）
　第 5 学年または第 6 学年学生（2-3 名）を対象に 2 週間単位で病棟実習を担当。

(4)　教育方針

当科では国民的問題とされる糖尿病などの代謝疾患やメタボリックシンドローム、難治性高血圧、ホルモン異常による多彩な症状を呈する視床下部 · 下垂体 · 副腎疾患、膵 · 消化管ホルモン産生腫瘍などの難治性内分泌疾患の診療を担当しています。糖尿病 · 代謝疾患や内分泌疾患を対象として、最新の知識に基づく論理的診断と病態生理あるいは生活環境を考慮した全人的医療を実践できる専門医の育成を目指しています。研究に関しては、「臓器連関」「熱産生脂肪組織」「エピジェネティクス」「ホルモン産生腫瘍」をキーワードとした糖尿病 · 代謝疾患や内分泌疾患の成因の解明と新しい診断法 · 治療法の開発、ホルモン産生腫瘍を中心とする内分泌疾患の新しい検査法 · 診断法の開発を目指した基礎 · 臨床研究を推進しています。以上の臨床活動 · 研究活動を通して、知識、技術、思考力を涵養し、高い専門性と総合力を兼ね備えた医療人 · 医学者を育成したいと考えています。

(5)　臨床活動および学外活動

1. 診療方針
当科では糖尿病 · 代謝疾患やメタボリックシンドローム、視床下部 · 下垂体疾患や副腎疾患などの内分泌疾患の診療を担当しています。「全身を診る」という医療の原点を常に心掛けて、患者さんの身近に寄り添う優しい全人的医療を提供するとともに、地域の診療所や関連病院の先生方との医療連携を大切にして地域医療の向上に貢献します。

2. 対象疾患
1）糖尿病（1 型、2 型、二次性）
2）内分泌疾患（視床下部 · 下垂体疾患、副腎疾患、甲状腺疾患、カルシウム代謝異常、膵ホルモン産生腫瘍、性腺機能異常）
3）高血圧症（本態性、二次性）
4）肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症

3. 教育認定施設
日本糖尿病学会　認定教育施設
日本内分泌学会　認定教育施設

(6)　臨床上の特色

1. 糖尿病
（1 型、2 型）糖尿病、膵性糖尿病、妊娠糖尿病などを対象として、糖尿病療養指導士（看護師、管理栄養士、薬剤師）を中心とするコメディカルスタッフと連携してトータルケアを行っています。糖尿病専門医による専門的な医療を提供するとともに、関連診療科と連携して、糖尿病合併症の治療 · 評価、患者教育を効率良く行っていま

す。認定教育施設として専門医を育成するとともに、患者さんに充実したケアを行えるようコメディカルスタッフの育成にも力を入れています。
血糖コントロールについては、近年、糖尿病治療薬にも多様なチョイスがあり、病態に応じたきめ細かな治療を行っています。24 時間持続血糖モニタリング（CGM）による最適な血糖コントロールや 1 型糖尿病に対する CSII（インスリンポンプ療法）/SAP（Sensor Augmented Pump）療法などの最新の医療にも積極的に取り組んでいます。
糖尿病合併症には網膜症、腎症、神経障害などの細小血管合併症と心筋梗塞、脳梗塞、足壊疽などの大血管合併症があり、関連診療科と連携して評価 · 治療を行っています。近年、大血管障害の増加が臨床上問題となっていますが、頸動脈エコーや血管内皮機能検査による動脈硬化の早期診断に努めるとともに、血圧 · 脂質管理などの総合的管理により、患者さんの生活の質および健康寿命の確保を目指しています。
患者教育としては、看護師による生活指導およびインスリン自己注射指導、管理栄養士による栄養指導、薬剤師による服薬指導などの療養指導や糖尿病教室などを通して糖尿病に関する知識を深めていただき、自己管理能力の向上に取り組んでいます。効率的な患者指導 · サポートのために、1〜2 週間の教育入院プログラムを準備し、患者さんの病状やスケジュールに合わせて柔軟に対応しています。
2 型糖尿病の患者さんはもとより、専門的治療が必要となる 1 型糖尿病の患者さんも多数通院されています。周辺施設より治療方針の決定や教育入院を目的に御紹介いただいた場合には、評価 · 退院後に紹介元においてフォローアップしていただくように医療連携を積極的に進めています。

2．内分泌疾患

1）副腎疾患

原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、副腎偶発腫瘍、アジソン病、先天性副腎皮質過形成などを対象として、各種内分泌検査と画像診断による副腎腫瘍の良悪性判定や正確なホルモン分泌動態を総合して治療方針を決定しています。
副腎腫瘍については、当科と泌尿器科、放射線科、病理部の連携下に副腎腫瘍治療ユニットを形成しており、当科は副腎腫瘍の術前診断と術後フォローアップを担当しています。
特に、本態性高血圧の 10%程度を占めるとされる原発性アルドステロン症の診療に力を入れており、その治療方針（手術 · 薬物療法）の決定には副腎静脈サンプリングによる正確なアルドステロン過剰産生部位の診断が必須です。当病院では 95 %の成功率（39 症例/2015 年）により、信頼性の高い診療実績をあげています。

2）視床下部 · 下垂体疾患

下垂体腫瘍、クッシング病、アクロメガリー、プロラクチノーマ、視床下部 · 下垂体機能低下症、尿崩症、SIADH などの視床下部 · 下垂体疾患を対象として、ホルモン分泌動態評価および画像検査により正確な診断と的確な治療方針の決定を行っています。下垂体腫瘍性病変については、脳神経外科との緊密な連携の下で術前後の内分泌学的フォローアップを担当しています。

3）膵内分泌腫瘍

インスリノーマやガストリノーマなどの膵内分泌腫瘍を対象として、各種内分泌検査と画像診断に加えて、放射線科の協力の下で選択的動脈内カルシウム注入試験による正確な機能 · 部位診断を行い、肝胆膵外科と連携して診療しています。

(7) 研究業績

[原著]

1. Kawana Y, Imai J, Morizawa YM, Ikoma Y, Kohata M, Komamura H, Sato T, Izumi T, Yamamoto J, Endo A, Sugawara H, Kubo H, Hosaka S, Munakata Y, Asai Y, Kodama S, Takahashi K, Kaneko K, Sawada S, Yamada T, Ito A, Niizuma K, Tominaga T, Yamanaka A, Matsui K, Katagiri H. Optogenetic stimulation of vagal nerves for enhanced glucose-stimulated insulin secretion and β cell proliferation. Nature biomedical engineering. 2023.11;

2. Masuda S, Yamada T, Hanzawa N. Impact of prediabetes with a high risk of diabetes stratified by glycated hemoglobin level on the severity of coronavirus disease 2019 during admission. Diabetology international. 2023.10; 14(4); 372-380

3. Xilin Wu, Elena A B Azizan, Emily Goodchild, Sumedha Garg, Man Hagiyama, Claudia P Cabrera, Fabio L Fernandes-Rosa, Sheerazed Boulkroun, Jyn Ling Kuan, Zenia Tiang, Alessia David, Masanori Murakami, Charles A Mein, Eva Wozniak, Wanfeng Zhao, Alison Marker, Folma Buss, Rebecca S Saleeb, Jackie Salsbury, Yuta Tezuka, Fumitoshi Satoh, Kenji Oki, Aaron M Udager, Debbie L Cohen, Heather Wachtel, Peter J King, William M Drake, Mark Gurnell, Jiri Ceral, Ales Ryska, Muaatamarulain Mustangin, Yin Ping Wong, Geok Chin Tan, Miroslav Solar, Martin Reincke, William E Rainey, Roger S

Foo, Yutaka Takaoka, Sandra A Murray, Maria-Christina Zennaro, Felix Beuschlein, Akihiko Ito, Morris J Brown. Somatic mutations of CADM1 in aldosterone-producing adenomas and gap junction-dependent regulation of aldosterone production. Nat Genet. 2023.06; 55(6); 1009-1021

4. Tatsuya Fukuda, Akiko Fujii, Taro Akihisa, Naoya Otsubo, Masanori Murakami, Tetsuya Yamada, Chisato Maki. Association between Diabetic Peripheral Neuropathy as Measured Using a Point-of-Care Sural Nerve Conduction Device and Urinary Albumin Excretion in Patients with Type 2 Diabetes. J Clin Med. 2023.06; 12(12);

5. Hosoya T, Oba S, Komiya Y, Kawata D, Kamiya M, Iwai H, Miyamoto S, Kataoka M, Tobiume M, Kanno T, Ainai A, Sato H, Hirakawa A, Mitsui Y, Satoh T, Wakabayashi K, Yamada T, Otomo Y, Miyazaki Y, Hasegawa H, Suzuki T, Yasuda S. Apple-shaped obesity: A risky soil for cytokine-accelerated severity in COVID-19. Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America. 2023.05; 120(22); e2300155120

6. Takahashi Kei, Yamada Tetsuya, Hosaka Shinichiro, Kaneko Keizo, Asai Yoichiro, Munakata Yuichiro, Seike Junro, Horiuchi Takahiro, Kodama Shinjiro, Izumi Tomohito, Sawada Shojiro, Hoshikawa Kyoko, Inoue Jun, Masamune Atsushi, Ueno Yoshiyuki, Imai Junta, Katagiri Hideki. Inter-organ insulin-leptin signal crosstalk from the liver enhances survival during food shortages CELL REPORTS. 2023.05; 42(5); 112415

7. Beppu Hiroko, Fukuda Tatsuya, Otsubo Naoya, Kawanishi Tomoko, Ogawa Toshie, Abe Yasutomo, Endo Mariko, Hanawa Tomohide, Sugita Chise, Kikkawa Yoshiaki, Hatakeyama Shuji, Yamada Tetsuya, Wakai Sachiko. Serum chemokine CC-motif ligand 17 is a predictive marker of severe COVID-19 in haemodialysis patients: A retrospective observational study NEPHROLOGY. 2023.04; 28(4); 240-248

8. Nawa N, Numasawa M, Yamaguchi K, Morita A, Fujiwara T, Akita K. Association between the social network of medical students and their academic performance on the anatomy written examination. Anatomical Sciences Education. 2023.01; 16(4); 654-665

9. Mitsuhide Naruse, Masanori Murakami, Takuyuki Katabami, Tomaz Kocjan, Mirko Parasiliti-Caprino, Marcus Quinkler, Matthieu St-Jean, Sam O'Toole, Filippo Ceccato, Ivana Kraljevic, Darko Kastelan, Mika Tsuiki, Jaap Deinum, Edelmiro Menéndez Torre, Troy Puar, Athina Markou, George Piaditis, Kate Laycock, Norio Wada, Marianne Aardal Grytaas, Hiroki Kobayashi, Akiyo Tanabe, Chin Voon Tong, Nuria Valdés Gallego, Sven Gruber, Felix Beuschlein, Lydia Kürzinger, Norlela Sukor, Elena A B Aisha Azizan, Oskar Ragnarsson, Michiel F Nijhoff, Giuseppe Maiolino, Guido Di Dalmazi, Valentina Kalugina, André Lacroix, Raluca Maria Furnica, Tomoko Suzuki. International multicenter survey on screening and confirmatory testing in primary aldosteronism. Eur J Endocrinol. 2023.01; 188(1); 125-134

10. Otsubo Naoya, Fukuda Tatsuya, Beppu Hiroko, Maki Chisato, Yasui Fumihiko, Hanawa Tomohide, Sugita Chise, Murakami Masanori, Yamada Tetsuya, Kohara Michinori, Wakai Sachiko. Reduced antibody response to SARS-CoV-2 in COVID-19 patients with newly diagnosed diabetes: a retrospective observational study BMC ENDOCRINE DISORDERS. 2023.01; 23(1); 5

11. Yoshihiro Niitsu, Chikara Komiya, Akira Takeuchi, Kazunari Hara, Masato Horino, Jun Aoki, Rei Okazaki, Masanori Murakami, Kazutaka Tsujimoto, Kenji Ikeda, Tetsuya Yamada. Increased serum extracellular vesicle miR-144-3p and miR-486a-3p in a mouse model of adipose tissue regeneration promote hepatocyte proliferation by targeting Txnip. PLoS One. 2023; 18(5); e0284989

1. 平澤 麗子, 西谷 里枝, 蘆立 恵子, 川村 光信, 山田 哲也. 高浸透圧高血糖状態を契機に中枢性尿崩症と診断された 2 型糖尿病の 1 例 糖尿病. 2023; 66(10); 750-757

2. 高橋 圭, 山田 哲也, 片桐 秀樹. 【代謝】代謝と臓器 · 疾患　臓器間ネットワークによる代謝制御機構 生体の科学. 2023; 74(5); 388-389

[講演 · 口頭発表等]

1. Masanori Murakami. Single-Nuclei Analysis of Aldosterone-Producing Adenoma. The joint 22nd ENS@T and 2nd COST Harmonis@tion meeting 2023.10.13 Dubrovnik, Croatia

2. Mina Nakagawa, Kumiko Yamaguchi, Mitsuyuki Numasawa, Kanako Noritake, Eriko Okada, Eiji Kaneko, Janelle Moross, Jun Tsuruta, Keiichi Akita, Masanaga Yamawaki. Patients as teachers: a novel IPE curriculum . AMEE2023 2023.08.28

3. Kumiko Yamaguchi, Nobutoshi Nawa, Mitsuyuki Numasawa, Keiichi Akita. Development of an anatomy education program to consolidate learning content. AMEE 2023 2023.08.28 Glasgow, UK

4. 宮 真里, 赤石 雄, 沼沢 益行, 鹿島田 彩子, 岡田 英理子, 鈴木 健嗣, 山脇 正永. AI を活用した表情分析における瞬目頻度と講義満足度との関連. 第 55 回日本医学教育学会大会 2023.07.28 長崎

5. Otsubo Naoya, Fukuda Tatsuya, Maki Chisato, Beppu Hiroko, Hanawa Tomohide, Sugita Chise, Yamada Tetsuya, Wakai SachikoNaoya Otsubo, Tatsuya Fukuda, Chisato Maki, Hiroko Beppu, Tomoko Kawanishi, Toshie Ogawa, Yasutomo Abe, Mariko Endo, Tomohide Hanawa, Chise Sugita, Tetsuya Yamada, and Sachiko Wakai.. Serum chemokine CC-motif ligand 17 is a predictive marker of severe COVID-19 in patients with diabetes.. IDF-WPR Congress 2023/15th Scientific Meeting of AASD 2023 2023.07.21

1. 堀野雅人, 池田賢司, 岡崎玲, 兼田稜, 青木惇, 原一成, 竹内彬, 新津吉博, 村上正憲, 辻本和峰, 小宮力, 山田哲也. 加齢マウスにおける carbonic anhydrase 陽性細胞によるベージュ脂肪細胞誘導機構の解明. 第 44 回日本肥満学会 · 第 41 回日本肥満症治療学会学術集会 2023.11.26

2. 原一成, 村上正憲, 兼田稜, 岡﨑玲, 青木惇, 堀野雅人, 竹内彬, 柴久美子, 辻本和峰, 小宮力, 池田賢司, 山田哲也. 高脂肪食負荷がマウス副腎に及ぼす影響の解明〜Single-nucleus RNA-seq による検討〜. 第 44 回日本肥満学会 · 第 41 回日本肥満症治療学会学術集会 2023.11.26

3. 青木惇, 辻本和峰, 竹内彬, 兼田稜, 岡崎玲, 原一成, 堀野雅人, 村上正憲, 小宮力, 池田賢司, 山田哲也. 時間制限摂食は脂肪細胞の SIRT1 を介して褐色脂肪組織 (BAT) の熱産生機能向上に寄与する. 第 44 回日本肥満学会 · 第 41 回日本肥満症治療学会学術集会 2023.11.26

4. 池田 賢司, 岡崎 玲, 堀野 雅人, 青木 惇, 兼田 稜, 原 一成, 竹内 彬, 村上 正憲, 辻本 和峰, 小宮 力, 山田 哲也. 褐色脂肪細胞に発現するミトコンドリア関連小胞体膜（MAM）分子 PP2A の β サブユニットの機能解析. 第 44 回日本肥満学会 · 第 41 回日本肥満症治療学会学術集会 2023.11.26

5. 岡﨑 玲, 堀野 雅人, 池田 賢司, 兼田 稜, 青木 惇, 原 一成, 竹内 彬, 村上 正憲, 辻本 和峰, 小宮 力, 山田 哲也. Single nucleus RNA sequencing を用いたマウス白色脂肪組織の成熟脂肪細胞誘導機構の解明. 第 44 回日本肥満学会 · 第 41 回日本肥満症治療学会学術集会 2023.11.25

6. 兼田 稜, 辻本 和峰, 平野 瑛子, 木内 英美, 青木 惇, 内田 諭, 村上 正憲, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. 糖尿病性ケトーシスの発症に膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) が寄与したと考えられた 1 例. 日本内科学会第 691 回関東地方会 2023.11.18

7. 井口 晋太朗, 中山 愛梨, 村上 正憲, 岡崎 玲, 敷嶋 さよ, 松原 克典, 村田 真麻, 石井 遼子, 内田 諭, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. 骨端線閉鎖不全を契機に成人で下垂体茎離断症候群と診断した一例. 第 33 回臨床内分泌代謝 Update 2023.11.04

8. 佐伯 浩介, 百瀬 崇, 川崎 元樹, 佐藤 文紀, 櫻田 麻耶, 辻野 元祥, 山田 哲也. COVID-19 罹患後早期に発症した劇症 1 型糖尿病の一例. 第 33 回臨床内分泌代謝 Update 2023.11.04

9. 沼沢 益行, 須永 昌代, 中川 美奈, 中林 潤, 木下 淳博. 教学 IR における統計解析を支援する、Excel 上の簡便な操作で R と連動するツールの開発. 第 55 回日本医学教育学会大会 2023.07.29 長崎

10. 山口 久美子, 那波 伸敏, 沼沢 益行, 秋田 恵一. 学びを定着させる人体解剖学教育プログラムの開発. 第 55 回日本医学教育学会大会 2023.07.28 長崎

11. 中山 愛梨, 村上 正憲, 内田 諭, 原 一成, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. 劇症 1 型糖尿病発症に伴って出現した膵腫大 · 脂肪肝の経過を改善まで経時的に観察しえた 1 例. 日本内科学会第 687 回関東地方会 2023.06.10

12. 敷嶋 さよ, 石井 遼子, 村上 正憲, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. 糖尿病性ケトアシドーシスを契機に先端巨大症の診断に至った 1 例. 日本内科学会第 687 回関東地方会 2023.06.10

13. 中山 愛梨, 村上 正憲, 敷嶋 さよ, 松原 克典, 村田 真麻, 石井 遼子, 内田 諭, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 横山 みなと, 藤井 靖久, 明石 巧, 山田 哲也. 当院の副腎皮質癌症例を対象にした S-GRAS スコアと予後の関連ついての検討. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.03

14. 内田 諭, 中山 愛梨, 敷嶋 さよ, 松原 克典, 村田 真麻, 石井 遼子, 村上 正憲, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. COVID-19 を契機に甲状腺クリーゼおよび 2 系統の血球減少を認めた 1 例. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.01

15. 原 一成, 村上 正憲, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 横山 みなと, 藤井 靖久, 山田 哲也. アルドステロン産生腺腫を対象にした Single Nucleus RNA-seq 解析. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.01

16. 敷嶋 さよ, 石井 遼子, 中山 愛梨, 村田 真麻, 松原 克典, 内田 諭, 村上 正憲, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. チアマゾールによる無顆粒球症に COVID-19 感染による感染性白血球減少を合併したバセドウ病の一例. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.01

17. 青木 惇, 辻本 和峰, 岡崎 玲, 竹内 彬, 新津 吉博, 原 一成, 堀野 雅人, 村上 正憲, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. 時間制限摂餌は脂肪細胞の SIRT1 を介してマウス褐色脂肪組織の機能向上に寄与する. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.01

18. 新津 吉博, 小宮 力, 竹内 彬, 原 一成, 堀野 雅人, 青木 惇, 岡崎 玲, 村上 正憲, 辻本 和峰, 池田 賢司, 山田 哲也. 脂肪組織の再生過程で増加する血中 EV-miRNA は肝細胞の増殖を促進する. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.01

19. 川崎 元樹, 百瀬 崇, 佐藤 文紀, 櫻田 麻耶, 辻野 元祥, 山田 哲也. 2 型糖尿病患者に対するイメグリミンの臨床効果の検討. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.13

20. 與口 健太郎, 石井 秀明, 百瀬 崇, 川崎 元樹, 佐藤 文紀, 櫻田 麻耶, 辻野 元祥, 山田 哲也. 80 歳以上の 2 型糖尿病入院患者における糖尿病治療薬選択についての検討. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.13

21. 西谷 里枝, 塩村 美帆, 山下 亜希, 渡邉 貴子, 山田 哲也, 七里 眞義. 低 Na 血症に対する SGLT2 阻害薬の有用性の検討. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.13

22. 向田 幸世, 百瀬 崇, 川崎 元樹, 佐藤 文紀, 櫻田 麻耶, 辻野 元祥, 本多 泉, 谷口 義実, 山田 哲也. 入院を要した新型コロナウイルス感染症妊婦の臨床的特徴と耐糖能の検討. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.13

23. 辻野 元祥, 西田 賢司, 櫻田 麻耶, 佐藤 文紀, 川崎 元樹, 百瀬 崇, 竹内 結, 小藤 知輝, 石井 秀明, 佐伯 浩介, 向田 幸世, 高村 宏, 貴田岡 正史, 山田 哲也. 今だからこそ考える糖尿病地域連携〜変容する時代や社会に対応する〜　COVID-19 感染拡大下における糖尿病チーム医療および医療連携. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.12

24. 佐伯 浩介, 竹内 結, 百瀬 崇, 川崎 元樹, 佐藤 文紀, 櫻田 麻耶, 辻野 元祥, 畑尾 史彦, 山田 哲也. 当院における高度肥満 2 型糖尿病患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術術後 5 年間の治療成績 (第 2 報). 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.12

25. 重松 嵩朗, 山口 悠, 辻本 和峰, 山田 哲也. 新型コロナウイルスワクチン接種後に膵腫大を呈して発症した劇症 1 型糖尿病の 1 例. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.12

26. 池田 賢司, 堀野 雅人, 岡崎 玲, 新津 吉博, 竹内 彬, 原 一成, 青木 惇, 村上 正憲, 辻本 和峰, 小宮 力, 山田 哲也. 肥満 · 2 型糖尿病においても誘導されるベージュ脂肪細胞サブタイプの同定および分化誘導機構の解明. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.12

27. 小宮 力, 新津 吉博, 竹内 彬, 原 一成, 堀野 雅人, 青木 惇, 岡崎 玲, 村上 正憲, 辻本 和峰, 池田 賢司, 山田 哲也. 脂肪組織の再生過程で増加する血中 EV-miRNA は肝細胞の増殖を促進する. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.12

28. 石井 秀明, 川崎 元樹, 百瀬 崇, 佐藤 文紀, 櫻田 麻耶, 辻野 元祥, 山田 哲也. 2 型糖尿病患者における経口セマグルチドの長期的効果の検討. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.11

29. 福田 達也, 大坪 尚也, 牧 千里, 山田 哲也. DPN Check により診断した糖尿病末梢神経障害は尿中アルブミン排泄量と関連する. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.11

30. 岡崎 玲, 池田 賢司, 青木 惇, 堀野 雅人, 原 一成, 竹内 彬, 新津 吉博, 村上 正憲, 辻本 和峰, 小宮 力, 山田 哲也. Single nucleus RNA sequencing を用いた肥満マウスにおけるベージュ脂肪細胞誘導機構の解明. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.11

31. 辻本 和峰, 竹内 彬, 青木 惇, 岡崎 玲, 原 一成, 堀野 雅人, 新津 吉博, 村上 正憲, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. マウス褐色脂肪組織の PGC-1 α 発現は全身のエネルギー消費の雌雄差に寄与する. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.11

32. 櫻田 麻耶, 佐藤 文紀, 辻野 元祥, 長谷川 行洋, 山田 哲也. 小児科から成人内科に移行した糖尿病症例の検討. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.11

33. 小藤 知輝, 佐伯 浩介, 百瀬 崇, 川崎 元樹, 佐藤 文紀, 櫻田 麻耶, 辻野 元祥, 山田 哲也. 当院における免疫関連副作用による劇症 1 型糖尿病発症の実態調査. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.11

34. 堀野 雅人, 池田 賢司, 岡崎 玲, 青木 惇, 原 一成, 竹内 彬, 新津 吉博, 村上 正憲, 辻本 和峰, 小宮 力, 山田 哲也. 新規脂肪前駆細胞サブタイプに着目した加齢マウスにおけるベージュ脂肪細胞の誘導機構の解明. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 2023.05.11

35. 山田 哲也. 臓器連関による体重調節機構の解明. 日本臨床分子医学会学術総会プログラム · 抄録集 2023.04.15

36. 大坪 尚也, 福田 達也, 張 彦彬, 石橋 史明, 山田 哲也, 門前 幸志郎. 非肥満患者の健診受診者において, 採血と身体測定から得られる指標は, 非アルコール性脂肪性肝疾患を予測しうるか?. 第 120 回日本内科学会講演会 2023.04.15

37. 村上 正憲. 腫瘍内不均一性に着目した原発性アルドステロン症の病態解析. 日本応用酵素協会誌 2023.03.01

38. 櫻田 麻耶, 石井 秀明, 百瀬 崇, 佐藤 文紀, 辻野 元祥, 松田 美奈子, 山田 哲也. 妊娠中期に顕著な代謝性アシドーシスで劇症 1 型糖尿病を発症したが生児を得た 1 例. 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2023.01.28

39. 松原 克典, 村上 正憲, 森 祥子, 内田 諭, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. 糖尿病合併 BMAH 患者におけるメチラポン投与が血糖コントロールに与える影響の検討. 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2023.01.28

40. 佐々木 隆飛, 露木 俊, 鈴木 崇文, 平澤 麗子, 後藤 文男, 石渡 庸夫, 戸坂 俊雅, 蘆立 恵子, 佐々部 正孝, 川村 光信, 山田 哲也. 重症 COVID-19 肺炎治療後にカンジダによる急性胆嚢炎を発症した 2 型糖尿病の 1 例. 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2023.01.28

41. 沼沢 益行, 堀田 晶子, 恒川 幸司. IR をもっと楽に〜ツールに焦点をあてて. 第 84 回医学教育セミナーとワークショップ 2023.01.17 オンライン開催

[Works]

1. Adjacency Matrix を作成する Excel マクロ, コンピュータソフト, 2021 年 08 月 - 現在

[受賞]

1. 日本糖尿病 · 肥満動物学会 若手研究奨励賞（竹内彬）, 日本糖尿病 · 肥満動物学会, 2023 年 02 月
2. 優秀演題賞（中山愛梨）, 第 96 回日本内分泌学会学術総会, 2023 年 06 月
3. 優秀演題賞（青木惇）, 第 96 回日本内分泌学会学術総会, 2023 年 06 月
4. ENSAT Scientific Awards for NAPACA research（村上正憲）, The 22nd ENS@T scientific meeting, 2023 年 10 月
5. 日本肥満学会学術奨励賞 (YIA)　（竹内彬）, 日本肥満学会, 2023 年 11 月

[社会貢献活動]

1. 生活習慣病対策【認知症へのリスクを上げる糖尿病】について（山田哲也）, さくら舎, 単行本書籍（46 判並製）, 2023 年 07 月 10 日

肝胆膵外科学

Hepatobiliary and Pancreatic Surgery

教　授　　田邉　稔
准教授　　工藤　篤 (医療安全管理部)
講　師　　赤星径一
　　小野宏晃
助　教　　上田浩樹
　　石川喜也
　　渡邊秀一
　　浅野大輔
特任助教　菅原俊喬 (10 月～)
大学院生 (医員・レジデントを含む)
　　八木宏平
　　山下宏成
　　石田啓之
　　森本紘一朗
　　木村宗貴
　　伊藤　晃
　　鳶　翔大郎
　　奈良　篤
　　竹内　将
　　山根聖弘
　　小山照央 (4 月～)
　　宮澤　傑 (4 月～)
　　本橋翔平 (4 月～)

(1)　分野概要

肝胆膵領域における良性疾患から高度進行癌まで、多種多様な疾患に対する臨床と研究に勤しみ、国際的競争力のある外科医の養成を行う。

(2)　研究活動

外科臨床上の未解決で重要な問題に対して、基礎的なアプローチも駆使して肝胆膵領域疾患の新しい、有益な診断、治療法の開発を目指す。具体的なプロジェクトは以下のとおりである。
1）肝胆膵悪性腫瘍の発生、浸潤、転移に関する分子生物学的研究
2）肝胆膵悪性腫瘍に対する分子標的治療の開発
3）癌幹細胞に関する研究
4）肝切除適応拡大に関する研究
5）肝微小循環に関する研究
6）肝胆膵外科への鏡視下手術手技に関する研究
7）肝移植と肝保存法の改良
8）神経内分泌腫瘍に対する治療法の開発
9）肝胆膵悪性腫瘍に関する画像診断の開発

10)　肝胆膵悪性腫瘍の PDX モデルの作成

(3)　教育活動

卒前教育：ブロック講義、プレクリニカルクラークシップやクリニカルクラークシップのクルズスにおいて、肝胆膵及び脾の外科的疾患の病態生理、診断、治療について座学の形式で勉強する。また、クリニカルクラークシップにおいては、診療グループの一員として手術、病棟回診、カンファレンスに参加、実臨床を体験する。

卒後教育：肝胆膵外科疾患の検査 · 診断 · 治療計画を自ら立案でき、術者または助手として手術を能動的に遂行できるように研鑽を積む。また、大学院在学中には、上記研究活動を指導医の指導のもと、自らが自律的に実践、学位を習得する。

(4)　教育方針

卒前教育：指導医とマンツーマン体制で可能なかぎり実際の症例に即して、外科医としての一般的、基礎的知識、ついでより実践的知識と段階をおって教育し、知識を習得させる。同時に、患者との接し方、病気告知の問題など具体的事例に即して医師の在り方、モラルを身につけるべく指導する。外科の基本的手技については卒後教育にその主体を委ねることになるが、肝胆膵外科高難度手術を助手として多く経験して臨床経験を積むことを目標とする。
卒後教育：関連病院との連携のもと、高い水準の診察能力を有する外科医を育成することが最大の目的であるが、学生や後輩に対する臨床教育に積極的に関与して教育者としての視点も持てるように指導する。外科専門医、消化器外科専門医が取得可能な研修を行うことのみならず、国際的競争力のある専門医、外科研究者に飛躍できるような意欲を賦与したい。

(5)　臨床活動および学外活動

肝胆膵脾領域の外科的疾患が診療対象であるが、とくに悪性腫瘍に対する手術治療、そしてこれを軸とする集学的治療が中心である。大学の使命として、高度進行癌、難治性癌に対し、ワークステーションを用いた術前シミュレーションや血管合併切除 · 再建を駆使して手術適応の限界に挑んでいる。さらには低侵襲治療として鏡視下手術も発展させる。末期肝疾患患者に対する治療の重要な Option としてまた生体肝移植の適応決定を行う。腹腔鏡下手術においては新たな手術器具および術式の開発を行い、より安全で腹壁破壊を最小限にとどめる reduced port surgery を推進するとともに、進行癌に対してもその低侵襲性を活かし適応拡大を行っている。

(6)　臨床上の特色

2023 年も COVID-19 による手術制限の影響が強く、全手術件数は 184 件 (2019 年は 255 件) で、肝切除 45 件、膵切除 67 件であった。国内トップクラスの high volume 施設であり、特徴有る低侵襲手術から拡大手術まで多種多様な外科的手技を網羅している。
主な肝胆膵外科高難易度手術は

（拡大）肝右葉切除	3 例 （鏡視下 2 例）
（拡大）肝左葉切除	2 例 （鏡視下 2 例）
肝中央 2 区域切除	2 例 （鏡視下 0 例）
外側区域を除く肝区域切除	7 例 （鏡視下 3 例）
肝亜区域切除	2 例 （鏡視下 2 例）

肝部分切除の中で高難度手術と定義されるもの　9 例 （鏡視下 6 例 ロボット 1 例）
その他の肝切除　18 例 （鏡視下 8 例 ロボット 8 例）

拡大胆摘以上の肝切除とリンパ節郭清を伴う胆嚢癌手術　2 例 （鏡視下 2 例）

膵全摘術	4 例 （鏡視下 0 例）
膵頭十二指腸切除	39 例 （鏡視下 2 例 ロボット 10 例）

郭清を伴う膵体尾部切除	12 例 （鏡視下 10 例 ロボット 1 例）
郭清を伴わない膵体尾部切除	11 例 （鏡視下 8 例 ロボット 3 例）
肝膵同時切除	3 例 （鏡視下 0 例）

全症例に占める腹腔鏡手術の割合は半数を超え、腹腔鏡手術は肝切除 · 膵切除とも半数程度で、その症例数は年々増加している。また、2020 年から膵体尾部切除術のみで開始したロボット手術による膵切除は膵頭十二指腸切除術にも適応を広げ、膵頭十二指腸切除術 17 件（昨年 10 件）、膵体尾部切除 10 件（昨年 4 件）を安全に完遂している。また、2023 年度からロボット肝切除も開始し安全に導入が進んでいる。

当科の特徴である神経内分泌腫瘍の治療は手術、薬物療法、放射線療法にまたがり、集学的治療を行うことで成績向上を企図している。昨年で累計初診患者は 900 例を超え、国内で最大数となっている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Wang JJ, Feng J, Gomes C, Calthorpe L, Ashraf Ganjouei A, Romero-Hernandez F, Benedetti Cacciaguerra A, Hibi T, Abdelgadir Adam M, Alseidi A, Abu Hilal M, Rashidian N; International Post-Hepatectomy Liver Failure Study Group. Development and Validation of Prediction Models and Risk Calculators for Post-Hepatectomy Liver Failure and Postoperative Complications using a Diverse International Cohort of Major Hepatectomies. Ann Surg. 2023.12;

2. Endo Y, Shinoda M, Maehara J, Hibi T, Hasegawa Y, Obara H, Kitago M, Ojima H, Tanabe M, Kitagawa Y. Early-onset hepatic veno-occlusive disease after liver transplantation: an institutional experience and analysis of a literature-based cohort. Surg Today. 2023.12;

3. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Miyako Murakawa, Shunsuke Ueyama, Chiaki Maeyashiki, Hideki Watanabe, Akiko Kusano-Kitazume, Ayako Sato, Kozue Uchidate, Takehito Asakawa, Sho Watanabe, Yasuhiro Iizuka, Isamu Shibata, Shinya Oooka, Yuko Karakama, Takashi Fujii, Taro Watabe, Keiichi Akahoshi, Minoru Tanabe, Kento Inada, Tomohiro Mochida, Keiya Watakabe, Taro Shimizu, Jun Tsuchiya, Masato Miyoshi, Fukiko Kitahata-Kawai, Sayuri Nitta, Mina Nakagawa, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto, . Prognostic Significance of C-Reactive Protein in Unresectable Hepatocellular Carcinoma treated with Atezolizumab and Bevacizumab. Hepatol Res. 2023.12; Online ahead of print.;

4. Akahoshi K, Shindoh J, Tanabe M, Watanabe S, Takamizawa H, Eguchi S, Endo I, Kubo S, Taketomi A, Nagano H, Nakamura M, Hasegawa K, Hatano E, Yoshizumi T, Kokudo N. Questionnaire survey of Japanese board-certified expert hepatobiliary and pancreatic surgeons and instructors on the surgical indications for hepatocellular carcinoma. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023.12;

5. Maekawa A, Oba A, Inoue Y, Omiya K, Ono Y, Sato T, Watanabe S, Uchino Y, Kobayashi K, Ito H, Sato Y, Tanabe M, Saiura A, Takahashi Y. Technical Strategy for Pancreatic Body Cancers: A Raison d'etre of Distal Pancreatectomy with Portal Resection. Ann Surg Oncol. 2023.11;

6. PancreasGroup.org Collaborative. Pancreatic surgery outcomes: multicentre prospective snapshot study in 67 countries. British Journal of Surgery. 2023.11;

7. Kentaro Yamada, Toshitaka Yoshii, Mikayo Toba, Atsushi Kudo, Satoru Egawa, Yu Matsukura, Takashi Hirai, Hiroyuki Inose, Kiyohide Fushimi, Atsushi Okawa. Risk Factors for Postoperative Unfavorable Ambulatory Status After Spinal Surgery for Metastatic Spinal Tumor. Spine (Phila Pa 1976). 2023.10; 48(20); 1419-1426

8. Hatano M, Akiyama Y, Shimada S, Yagi K, Akahoshi K, Itoh M, Tanabe M, Ogawa Y, Tanaka S. Loss of KDM6B epigenetically confers resistance to lipotoxicity in nonalcoholic fatty liver disease-related hepatocellular carcinoma. Hepatology Communications. 2023.10; 7(10); e0277

9. Nakamura K, Nagai M, Matsumoto I, Satoi S, Motoi F, Kawai M, Hosouchi Y, Higuchi R, Mizuno S, Ohtsuka T, Akahoshi K, Hakamada K, Unno M, Yamaue H, Nakamura M, Endo I, Sho M. Impact of antithrombotic therapy on postpancreatectomy hemorrhage in 7116 patients: A project study by the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023.10; 30(10); 1161-1171

10. Stuart CM, Kirsch MJ, Zhuang Y, Meguid CL, Sugawara T, Colborn KL, Messersmith W, Lieu C, Gleisner AL, Del Chiaro M, Schulick RD, Meguid RA. Pulmonary metastasectomy is associated with survival after lung-only recurrence in pancreatic cancer. Surgery. 2023.09; 174(3); 654-659

11. Oba A, Del Chiaro M, Fujii T, Okano K, Stoop TF, Wu YHA, Maekawa A, Yoshida Y, Hashimoto D, Sugawara T, Inoue Y, Tanabe M, Sho M, Sasaki T, Takahashi Y, Matsumoto I, Sasahira N, Nagakawa Y, Satoi S, Schulick RD, Yoon YS, He J, Jang JY, Wolfgang CL, Hackert T, Besselink MG, Takaori K, Takeyama Y. "Conversion surgery" for locally advanced pancreatic cancer: A position paper by the study group at the joint meeting of the International Association of Pancreatology (IAP) & Japan Pancreas Society (JPS) 2022. Pancreatology. 2023.09; 23(6); 712-720

12. Yamane M, Ishikawa Y, Asano D, Watanabe S, Ueda H, Akahoshi K, Ono H, Kudo A, Tanaka S, Sugiyama Y, Muro S, Akita K, Tanabe M. Surgical anatomy of the dorsal pancreatic artery: Considering embryonic development. Pancreatology. 2023.09; 23(6); 697-703

13. Ichida A, Kokudo T, Shimada S, Hatano E, Kubo S, Kato Y, Ishikawa Y, Mori A, Baba H, Matsuyama Y, Endo I, Yamaue H, Yamamoto M, Kokudo N, Hasegawa K. Liver Resection for Hepatocellular Carcinoma With Tumor Thrombus in the Inferior Vena Cava or Right Atrium: A Large-scale Multicenter Survey Conducted in Japan. Ann Surg. 2023.09; 278(3); e549-e555

14. Morimoto K, Ueda H, Asano D, Ishikawa Y, Watanabe S, Akahoshi K, Ono H, Kobayashi M, Okamoto R, Tanaka S, Tanabe M. Incidence and Mechanism of Refractory Postoperative Cholangitis After Hepatectomy with Hepaticojejunostomy. J Gastrointest Surg. 2023.08; 27(8); 1668-1676

15. Shiori Watabe, Yukari Aruga, Ryoko Kato, Genji Kawade, Yuki Kubo, Anna Tatsuzawa, Iichiroh Onishi, Yuko Kinowaki, Sachiko Ishibashi, Masumi Ikeda, Yuki Fukawa, Keiichi Akahoshi, Minoru Tanabe, Morito Kurata, Kenichi Ohashi, Masanobu Kitagawa, Kouhei Yamamoto. Regulation of 4-HNE via SMARCA4 Is Associated with Worse Clinical Outcomes in Hepatocellular Carcinoma. Biomedicines. 2023.08; 11(8);

16. Piper M, Ross RB, Hu J, Watanabe S, Knitz M, Mehrotra S, Shulick R, Chiaro MD, Karam SD. Vasculitis, CA19-9, and Perineural Invasion Differentially Predict Response and Surgical Outcome in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma. Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2023.07; 116(3); 627-639

17. Yagi K, Shimada S, Akiyama Y, Hatano M, Asano D, Ishikawa Y, Ueda H, Watanabe S, Akahoshi K, Ono H, Tanabe M, Tanaka S. Loss of SFXN1 mitigates lipotoxicity and predicts poor outcome in non-viral hepatocellular carcinoma. Sci Rep. 2023.06; 13(1); 9449

18. Hirukawa K, Shinoda M, Hasegawa Y, Obara H, Kitago M, Yagi H, Abe Y, Yamada Y, Tanabe M, Kitagawa Y. Long-term outcomes following ABO-incompatible living donor liver transplantation for acute liver failure: a single-center experience of over 20 years. Surg Today. 2023.06;

19. Sugawara T, Rodriguez Franco S, Franklin O, Kirsch MJ, Colborn K, Del Chiaro M, Schulick RD. Management of Localized Small and Large Cell Pancreatic Neuroendocrine Carcinoma in the National Cancer Database. J Am Coll Surg. 2023.05;

20. Sugawara T, Rodriguez Franco S, Sherman S, Torphy RJ, Colborn K, Franklin O, Ishida J, Grandi S, Al-Musawi MH, Gleisner A, Schulick RD, Del Chiaro M. Neoadjuvant Chemotherapy versus Upfront Surgery for Resectable Pancreatic Adenocarcinoma: An Updated Nationwide Study. Ann Surg. 2023.05; 279(2); 331-339

21. Ishida H, Ogura T, Takahashi A, Kitamura K, Miyamoto R, Matsudaira S, Tanabe M, Kanda H, Kawashima Y. Prognostic Value of Peritoneal Lavage Cytology in Potentially Resectable Pancreatic Cancer Stratified by Cytologic Status. Cancer Diagn Progn. 2023.05; 3(3); 338-346

22. Yagi K, Ono H, Kudo A, Kinowaki Y, Asano D, Watanabe S, Ishikawa Y, Ueda H, Akahoshi K, Tanaka S, Tanabe M. MGMT is frequently inactivated in pancreatic NET-G2 and is associated with the therapeutic activity of STZ-based regimens. Sci Rep. 2023.05; 13(1); 7535

23. Ono H, Murase Y, Yamashita H, Kato T, Asano D, Ishikawa Y, Watanabe S, Ueda H, Akahoshi K, Ogawa K, Kudo A, Akiyama Y, Tanaka S, Tanabe M. RRM1 is mediated by histone acetylation through gemcitabine resistance and contributes to invasiveness and ECM remodeling in pancreatic cancer. Int J Oncol. 2023.04; 62(4);

24. Keisuke Okuno, Shuichi Watanabe, Souvick Roy, Mitsuro Kanda, Masanori Tokunaga, Yasuhiro Kodera, Yusuke Kinugasa, Ajay Goel. A liquid biopsy signature for predicting early recurrence in patients with gastric cancer. Br J Cancer. 2023.04; 128(6); 1105-1116

25. Sugawara T, Rodriguez Franco S, Ishida J, Kalra A, Saben JL, Navarrete Galvez K, Kirsch MJ, Al-Musawi MH, Kaplan B, Pomfret EA, Schulick RD, Del Chiaro M. Prevalence and progression of intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas in solid organ transplant recipients: A systematic review. Am J Transplant. 2023.03; 23(3); 429-436

26. Calthorpe L, Rashidian N, Cacciaguerra AB, Conroy PC, Hibi T, Hilal MA, Hoffman D, Park KM, Wang J, Adam MA, Alseidi A; International Post-Hepatectomy Liver Failure Study Group. Using the Comprehensive Complication Index to Rethink the ISGLS Criteria for Post-hepatectomy Liver Failure in an International Cohort of Major Hepatectomies. Ann Surg. 2023.03; 277(3); e592-e596

27. Sugawara T, Rodriguez Franco S, Kirsch MJ, Colborn KL, Ishida J, Grandi S, Al-Musawi MH, Gleisner A, Del Chiaro M, Schulick RD. Evaluation of Survival Following Surgical Resection for Small Nonfunctional Pancreatic Neuroendocrine Tumors. JAMA Netw Open. 2023.03; 6(3); e234096

28. Sugawara T, Rodriguez Franco S, Sherman S, Kirsch MJ, Colborn K, Ishida J, Grandi S, Al-Musawi MH, Gleisner A, Schulick RD, Del Chiaro M. Association of Adjuvant Chemotherapy in Patients With Resected Pancreatic Adenocarcinoma After Multiagent Neoadjuvant Chemotherapy. JAMA Oncol. 2023.03; 9(3); 316-323

29. Woohyung Lee, Dae Wook Hwang, Ho-Seong Han, In Woong Han, Jin Seok Heo, Michiaki Unno, Masaharu Ishida, Hiroshi Tajima, Nobuyuki Nishizawa, Kohei Nakata, Yasuji Seyama, Yoshiya Ishikawa, Ho Kyoung Hwang, Jin-Young Jang, Taeho Hong, Joon Seong Park, Hee Joon Kim, Chi-Young Jeong, Ippei Matsumoto, Hiroki Yamaue, Manabu Kawai, Masayuki Ohtsuka, Shugo Mizuno, Mitsuhiro Asakuma, Yuji Soejima, Teijiro Hirashita, Masayuki Sho, Yutaka Takeda, Jeong-Ik Park, Yong Hoon Kim, Hwa Jung Kim, Hiroki Yamaue, Masakazu Yamamoto, Itaru Endo, Masafumi Nakamura, Yoo-Seok Yoon. Comparison of infectious complications after spleen preservation versus splenectomy during laparoscopic distal pancreatectomy for benign or low-grade malignant pancreatic tumors: A multicenter, propensity score-matched analysis. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023.02; 30(2); 252-262

30. Otsubo T, Kobayashi S, Sano K, Misawa T, Katagiri S, Nakayama H, Suzuki S, Watanabe M, Ariizumi S, Unno M, Tanabe M, Nagano H, Kokudo N, Hirano S, Nakamura M, Shirabe K, Suzuki Y, Yoshida M, Takada Y, Nakagohri T, Horiguchi A, Ohdan H, Eguchi S, Ohtsuka M, Sho M, Rikiyama T, Hatano E, Taketomi A, Fujii T, Yamaue H, Miyazaki M, Yamamoto M, Takada T, Endo I. A nationwide certification system to increase the safety of highly advanced hepatobiliary-pancreatic surgery. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023.01; 30(1); 60-71

1. 栗原正道、江川隆英,、小林正典、大塚和朗、渡邊秀一、赤星径一、田邉　稔、岡本隆一. 金属ステント留置後の繰り返す逆行性胆管炎に対してダックビル型逆流防止金属ステントが奏効した 1 例 日本消化器内視鏡学会雑誌. 2023.04; 65(4); 368-374

[書籍等出版物]

1. 石川喜也、赤星径一、田邉　稔. 消化器内視鏡外科手術バイブル 動画で学ぶハイボリュームセンターの手技　尾状葉を温存した腹腔鏡下肝左葉切除. 株式会社医学書院, 2023.03

2. 工藤　篤. 「医療現場の考え方」　最高裁判所司法研修所　令和 4 年度医療基礎研究会講演録 . 最高裁判所司法研修所発行, 2023.03

3. 工藤　篤. 日本臨牀増刊号 膵臓 · 胆道癌 2023 上 膵臓編 NET に対する治療 外科治療 . 株式会社日本臨牀社 , 2023.02

4. 工藤　篤. 今日の治療指針 私はこう治療している 2023 Vol.65 インスリノーマ、膵消化管ホルモン産生腫瘍. 株式会社医学書院, 2023.01

[総説]

1. 伊藤　晃、上田浩樹、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、赤星径一、小野宏晃、田邉　稔. 胆石症の分類と各種治療法 臨床外科増刊号. 2023.10; 78(11); 230-235
2. 山下宏成、石川喜也、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 肝外側区域切除術: 腹腔鏡下手術 臨床外科増刊号. 2023.10; 78(11); 276-280
3. 浅野大輔、吉野　潤、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、小野宏晃、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 総論 市中病院でもできるビデオ撮影と編集のコツ 臨床外科. 2023.10; 78(10); 1205-1209
4. 加藤智敬、大嶋侑平、高瀬健一郎、渡辺雄一郎、渡邉幸博、岡田克也、合川公康、岡本光順、小山　勇、田邉　稔. 総論 オペ記事に役立つデジタルイラストの作成法 臨床外科. 2023.10; 78(10); 1197-1204
5. 工藤　篤、浅野大輔、石川喜也、上田浩樹、渡邊秀一、赤星径一、小野宏晃、田邉　稔. 膵神経内分泌腫瘍の診断と治療の最前線 消化器外科. 2023.09; 46(9); 935-944
6. 工藤　篤. 医療技術の客観的評価と事故調査制度の改善 医療安全推進. 2023.04; 0001; 30-31
7. 赤星径一、石川喜也、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、小野宏晃、田邉　稔. ロボット肝切除の導入と未来 ロボット支援下肝切除の保険収載と学会基準 臨床外科. 2023.03; 78(3); 329-332
8. 工藤　篤、前川　彩、浅野大輔、石川喜也、上田浩樹、渡邊秀一、赤星径一、小野宏晃、田邉　稔. 神経内分泌腫瘍肝転移の治療方針 消化器外科. 2023.03; 46(3); 295-306
9. 篠田昌宏、板野　理、永野浩昭、田邉　稔、若林 剛. 腹腔鏡下ドナー肝切除　世界的な現状と日本におけるガイドラインの作成 臨床外科. 2023.03; 78(3); 309-313
10. 田邉　稔、赤星径一、小野宏晃、上田浩樹、渡邊秀一、石川喜也、浅野大輔. モノポーラ・ドベーキー型 MT 摂子 (オールインワン多機能手術デバイス) の使用法とコツ 臨床外科. 2023.02; 78(2); 220-224
11. 工藤　篤. PRRT 腫瘍内科. 2023.02; 31(2); 249-254
12. 工藤　篤. ペプチド受容体放射性核種療法の海外および国内臨床試験成績 胆と膵. 2023.01; 44(1); 69-73

[講演・口頭発表等]

1. Minoru Tanabe. Knack for Whipple operation: Anatomy around SMA & SMV. IRCAD 2023.12.07 Taiwan
2. Minoru Tanabe. Basic principles of laparoscopic liver resection: patient selection, OR set up and instruments. IRCAD 2023.11.30 Taiwan
3. Atsushi Nara, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Akira Ito, Shotaro Gan, Hironari Yamashita, Koichiro Morimoto, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Preoperative sarcopenia assessment predicts loss of independence after Pancreaticoduodenectomy (PD) in pancreatic cancer patients. The 3rd International Congress of the Asian Oncology Society 2023.10.20 Yokohama
4. Akira Ito, Keiichi Akahoshi, Shotaro Gan, Atsushi Nara, Koichiro Morimoto, Hironari Yamashita, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Prognostic Impact of Reticular Pattern around Superior Mesenteric Artery in CT Images of Pancreatic Cancer. The 3rd International Congress of the Asian Oncology Society 2023.10.20 Yokohama
5. Shotaro Gan, Daisuke Asano, Akira Ito, Atsushi Nara, Koichiro Morimoto, Hironari Yamashita, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Determining the Indication of Surgery for High grade pNENs. The 3rd International Congress of the Asian Oncology Society 2023.10.20 Yokohama
6. Minoru Tanabe. Operative sifficulty on laparoscopic liver resection: What has changed in the last decade?. 9th Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato Pancreato Biliary Association 2023.09.29 Bangalore, India
7. Hiroaki Ono, Keiichi Akahoshi, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. RRM1 is mediated by H3 acetylation through GEM resistance and contributes to invasiveness and ECM remodeling in PDAC. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2023.09.23 Yokohama

8. Hironari Yamashita, Hiroaki Ono, Kotaro Takizawa, Shuichi Watanabe, Kosuke Ogawa, Daisuke Asano, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Yoshimitsu Akiyama, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. PCNA-I1 is identified as a novel therapeutic agent in pancreatic cancer. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2023.09.23 Yokohama

9. Yuzuki Sugiyama, Satoru Muro, Daisuke Ban, Keiichi Akita. The fusion fascia affects the course of the nerves to the pancreas. The 17th Annual Congress of the European Association of Clinical Anatomy (EACA) and the 14th Annual Congress of the International Symposium of Clinical and Applied Anatomy (ISCAA) 2023.09.15 Prague, Czech

10. Minoru Tanabe. Robotic liver surgery: current status and beyond. ILLS 4th WORLD CONGRESS 2023.09.14 Rome, Italy

11. Minoru Tanabe. Curative surgery and survival. 34th IASGO World Congress 2023.09.11 Verona, Italy

12. Atsushi Kudo, Minoru Tanabe. SP1-3 PRRT will expand surgical indication for panceratic neuroendocrine neoplasms. The 54th Annual Meeting of the Japanese Pancreas Society 2023.07.21 Fukuoka

13. 杉山 夕月, 室生 暁, 伴 大輔, 秋田 恵一. Morphology of the fusion fascia, nerves, and arteries around the pancreatic head. 第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会 2023.07.01 東京

14. Hiroki Ueda, Atsushi Nara, Masaru Takeuchi, Masahiro Yamane, Akira Ito, Koichiro Morimoto, Hironari Yamashita, Kohei Yagi, Daisuke Asano, Yoshiya Ishiakwa, Shuichi Watanabe, Keiichi Akahoshi, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Age and Sarcopenia Are Risk Factors for ADL Decline After Pancreaticoduodenectomy; Our approach to maintain ADLs before and after surgery. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

15. Hiroaki Ono, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Emerging Multidisciplinary Therapies Including PRRT Therapy in Pancreatic Neuroendocrine Neoplasms. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

16. Koichiro Morimoto, Hiroki Ueda, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Keiichi Akahoshi, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Characteristics of refractory postoperative cholangitis after hepatectomy with hepaticojejunostomy: Anastomotic stenosis is not the only cause. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

17. Masahiro Yamane, Yoshiya Ishikawa, Masaru Takeuchi, Shotaro Gan, Kohei Yagi, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Middle-segment Preserving Pancreatectomy versus Total pancreatectomy: a comparative study of surgical and functional outcomes. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

18. Shotaro Gan, Daisuke Asano, Masaru Takeuchi, Masahiro Yamane, Akira Ito, Atsushi Nara, Koichiro Morimoto, Hironari Yamashita, Kohei Yagi, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. A case of unresectable pancreatic ductal adenocarcinoma (UR-PDAC) in an elderly patient who underwent radical resection after preoperative chemotherapy and survived without recurrence for 1 year. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

19. Hironari Yamashita, Hiroaki Ono, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Proliferating cell nuclear antigen (PCNA) plays important role in malignancy of pancreatic cancer and might be the target protein of novel therapeutic drug. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

20. Richard David Schulick, Toshitaka Sugawara, Salvador Rodriguez Franco, Oskar Franklin, Michael J. Kirsch, Kathryn Colborn, Jun Ishida, Marco Del Chiaro. Management of pancreatic neuroendocrine neoplasm in the United States. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

21. Toshitaka Sugawara. Don’t settle. Keep moving. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01

22. Daisuke Asano, Keiichi Akahoshi, Yoshiya Ishikawa, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. How to achieve the negative surgical margin for ICC suspicious of invasion to hilum: with the video of laparoscopic left hepatectomy by hilar dissection approach. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

23. Shuichi Watanabe, Daisuke Asano, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Investigation of recurrence format of single recurrent lesions using genomic analysis. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

24. Yoshiya Ishikawa, Yuzuki Sugiyama, Satoru Muro, Masahiro Yamane, Masaru Takeuchi, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Keiichi Akita, Minoru Tanabe. Novel landmarks for the left posterior approach to the SMA based on the anatomical research. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

25. Arimasa Miyama, Zenichi Morise, Minoru Tanabe, Go Wakabayashi, ILLS-Tokyo collaborator group. International multicenter retrospective Study of liver functional deterioration after liver resection for HCC/CLD patients. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

26. Keiichi Akahoshi, Junichi Shindo, Susumu Eguchi, Itaru Endo, Shoji Kubo, Mitsuo Shimada, Akinobu Taketomi, Hiroaki Nagano, Masafumi Nakamura, Kiyoshi Hasegawa, Etsuro Hatano, Tomoharu Yoshizumi, Minoru Tanabe, Norihiro Kokudo. Questionnaire survey on surgical indications of hepatocellular carcinoma for the board-certified expert surgeons and instructors (hepato-biliary-pancreatic field). The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.06.30 Tokyo

27. Atsushi Nara, Keiichi Akahoshi, Akira Ito, Shotaro Gan, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Pancreatic duct stent AMY after pancreaticoduodenectomy is a predictor of pancreatic fistula. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.06.30 Tokyo

28. Akira Ito, Keiichi Akahoshi, Masaru Takeuchi, Masahiro Yamane, Shotaro Gan, Atsushi Nara, Koichiro Morimoto, Munetaka Kimura, Hironari Yamashita, Kohei Yagi, Daisuke Asano, Yoshiya Ishikawa, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Hepatectomy After Pancreatoduodenectomy Has a High Risk of Postoperative Complications. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.06.30 Tokyo

29. Oskar Franklin, Toshitaka Sugawara, Salvador Rodriguez Franco, Kathryn Colborn, Richard D Schulick, Marco Del Chiaro. Addition and timing of surgery in multiagent chemotherapy treatment of metastatic pancreatic cancer. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.06.30 Tokyo

30. Salvador Rodriguez Franco, Andrii Khomiak, Toshitaka Sugawara, Oskar Franklin, Michael Kirsch, Chiara Croce, Richard D Schulick, Marco Del Chiaro. Optimal perioperative multiagent chemotherapy in resected pancreatic cancer: A high-volume center report. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.06.30 Tokyo

31. Toshitaka Sugawara, Salvador Rodriguez Franco, Oskar Franklin, Chiara Croce, Jun Ishida, Samuele Grandi, Richard D. Schulick, Marco Del Chiaro. Management for resectable and borderline resectable pancreatic adenocarcinoma in University of Colorado Hospital. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.06.30 Tokyo

32. Shigenori Ei, Minoru Kitago, Masahiro Shinoda, Osamu Itano, Minoru Tanabe, Yuko Kitagawa. Report on experiences of conducting clinical and basic research at the University of Heidelberg, Germany -Study abroad life in Europe in the COVID-19 pandemic-. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.06.30 Tokyo

33. Minoru Kitago, Gaku Shimane, Hiroshi Yagi, Yuta Abe, Yasuhi Hasegawa, Shutaro Hori, Masayuki Tanaka, Yutaka Nakano, Minoru Tanabe, Yuko Kitagawa. Two cases of hepatic cystic tumor that was difficult to differentiate from the mucinous cystic tumor of the liver. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.06.30 Tokyo

34. Minoru Tanabe. The Spirit of HBP Surgeons. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.06.30 Tokyo

35. Atsushi Kudo. Advance in treatment strategy for neuroendocrine tumors. The 18th Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons 2023.03.17 Tokyo

36. Minoru Tanabe. Update in Management on Pancreatic Cancer from a Surgeon's Perspective. 11th Annual Scientific Meeting 2023.03.04 Hong Kong

37. K.Akahoshi, A.Nara, A.kudo, H.Ono, S.Watanabe, D.Asano, H.Ueda, Y.Ishikawa, M.Tanabe. Impact of Sunitinib Followed by Liver Resectionf for Metastatic Pancreatic Neuroendocrine Neoplasms. 18th Annual Academic Surgical Congress 2023.02.08 Houston

38. A.Nara, K.Akahoshi, H.Ueda, D.Asano, S.Watanabe, Y.Ishikawa, H.Ono, A.Kudo, S.Tanaka, M.Tanabe. Usefulness of the NRSS in Determining the Timing of TAE for Ruptured Hepatocellular Carcinoma. 18th Annual Academic Surgical Congress 2023.02.08 Houston

1. 小野宏晃. 外科医からみた PRRT の位置づけ. PRRT WEB Seminar 2023.12.20 WEB 開催

2. 小野宏晃. PRRT 診療経験と外科医から見たこれからの NET 集学的治療. 神経内分泌腫瘍 WEB conference in 北海道 2023.12.12 札幌

3. 浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、田邉　稔. 肝胆膵領域における新世代多自由度鉗子の使用経験～もし腹腔鏡手術鉗子に関節があったなら. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会 2023.12.09 横浜

4. 奈良　篤、赤星径一、田邉　稔. 自律性を有する手術用内視鏡把持ロボット技術の開発. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会 2023.12.09 横浜

5. 田邉　稔、石川喜也、森　泰寿、金子弘真、若林　剛、江口　晋、板野　理、篠田昌宏、大塚由一郎、伴　大輔、曽山明彦、中村雅史. 肝臓領域診療ガイドラインの改定と今後の課題. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会 2023.12.09 横浜

6. 石川喜也、山根聖弘、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、田邉　稔. 解剖学的検討に基づいた安全な SMA アプローチ. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会 2023.12.07 横浜

7. 巌　康仁、佐藤公太、佐藤雄哉、赤繁　徹、赤須雅文、米澤博貴、貫井聖人、永嶋一貴、田邉　稔. 肝鎌状間膜一部温存による胃内容排泄遅延予防の可能性. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会 2023.12.07 横浜

8. 上田浩樹. ADL/QOL を維持した担膵癌治療継続のための取り組みー特に制吐など支持療法について. 御茶ノ水消化器がん Web Lecture 2023.12.01 WEB 開催

9. 工藤　篤. 医療安全指標で評価する手術の安全性. 第 18 回医療の質・安全学会学術集会 2023.11.26 神戸

10. 山田賢太郎、吉井俊貴、鳥羽三佳代、工藤　篤、江川　聡、松倉　遊、平井高志、猪瀬弘之、伏見清秀、大川　淳. 転移性脊椎腫瘍手術に対する QI はがん診療拠点病院で良好か？ . 第 18 回医療の質・安全学会学術集会 2023.11.25 神戸

11. 小野宏晃. 膵疾患の研究と今後の展望. 第 7 回御茶ノ水肝胆膵外科フォーラム 2023.11.24 WEB 開催

12. 上田浩樹. 膵切除後の ADL/QOL 維持への取り組み. 第 7 回御茶ノ水肝胆膵外科フォーラム 2023.11.24 WEB 開催

13. 小野宏晃. PRRT の外科医としての使いどころ. PRRT は Game Changer となるのか？ ～東京医科歯科大学病院の見解～ 2023.11.20 WEB 開催

14. 上田浩樹、宮澤　傑、鳫翔大郎、伊藤　晃、奈良　篤、山下宏成、森本紘一朗、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、小野宏晃、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 膵頭十二指腸切除後の ADL 低下とその推移. 第 85 回日本臨床外科学会総会 2023.11.18 岡山

15. 森本紘一朗、赤星径一、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、田邉　稔. 膵内多発 NET の治療戦略. 第 85 回日本臨床外科学会総会 2023.11.17 岡山

16. 田邉　稔. 達人の止血法を伝授！ ーシチュエーションに合わせたデバイス選択ー. 第 85 回日本臨床外科学会総会 2023.11.16 岡山

17. 小山照央、石川喜也、浅野大輔、上田浩樹、渡邊秀一、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 低侵襲膵頭十二指腸切除術における肝十二指腸間膜郭清の定型化—右胃動脈牽引による術野展開—. 第 85 回日本臨床外科学会総会 2023.11.16 岡山

18. 石川喜也、浅野大輔、上田浩樹、 渡邊秀一、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 腹腔鏡下膵体尾部切除で内視鏡外科技術認定医を目指す～当科における定型化と教育体制～. 第 85 回日本臨床外科学会総会 2023.11.16 岡山

19. 犬竹　平、浅野大輔、森本紘一朗、本橋翔平、小山照央、宮澤　傑、鳳翔大郎、伊藤　晃、山下宏成、渡邉秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、田邉　稔. 幽門側胃切除術後の膵体尾部切除術の安全性に関する検討. 第 85 回日本臨床外科学会総会 2023.11.16 岡山

20. 赤星径一、宮澤　傑、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. ロボット膵切除における開腹移行例 · トラブルマネージメントの検討. 第 15 回膵臓内視鏡外科研究会 2023.11.15 岡山

21. 浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 肝門個別処理を伴う腹腔鏡下左葉尾状葉切除の tips. 第 17 回肝臓内視鏡外科研究会 2023.11.15 岡山

22. 浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. Lap RAMP における良好な背側視野展開～テーピングの活用～. 第 15 回膵臓内視鏡外科研究会 2023.11.15 岡山

23. 石川喜也、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. Anterior fissure vein をガイドとした腹腔鏡下肝 S8 背側領域切除. 第 17 回肝臓内視鏡外科研究会 2023.11.15 岡山

24. 石川喜也、杉山夕月、室生　暁、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、秋田恵一、田邉　稔. SMA 左側のリンパ流と Treitz 靭帯を指標とした Artery first approach. 第 15 回膵臓内視鏡外科研究会 2023.11.15 岡山

25. 山根聖弘、石川喜也、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 膵体尾部切除術後遅発性膵液瘻に関する新知見. 第 15 回膵臓内視鏡外科研究会 2023.11.15 岡山

26. 宮澤　傑、赤星径一、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. ロボット支援下肝切除術における肝離断術野展開の工夫. 第 17 回肝臓内視鏡外科研究会 2023.11.15 岡山

27. 赤星径一. Conversion Therapy の最適化を目指した腫瘍学的切除可能性分類確立の重要性. Conversion Therapy Meeting 2023.11.08 WEB 開催

28. 工藤　篤、鳥羽三佳代、森下幸治、西山　暁. 手術ビデオ画像の取り扱い. 第 61 回日本医療 · 病院管理学会学術総会 2023.11.05 東京

29. 赤星径一、進藤潤一、田邉　稔. 薬物療法の進歩が腫瘍学的 · 機能的肝切除適応にもたらした変化の現状と課題. JDDW 2023 KOBE 2023.11.04 神戸

30. 伊藤　晃、小野宏晃、山根聖弘、竹内　将、鳳翔大郎、 奈良　篤、森本紘一朗、木村宗貴、山下宏成、八木宏平、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、工藤　篤、 田中真二、田邉　稔. 膵癌における Gemcitabine に対する CDK4/6 阻害の影響. JDDW 2023 KOBE 2023.11.04 神戸

31. 梅村謙太郎、秋山好光、島田周、波多野恵、安川紘矢、蒲池厚志、田邉稔、田中真二. 膵癌の新規エピゲノム異常の解明と標的治療の開発. 第 21 回日本消化器外科学会大会、第 31 回日本消化器関連学会週間（JDDW 2023） 2023.11.04 神戸

32. 小野宏晃. 膵 · 消化管神経内分泌腫瘍の診断と治療. JDDW 2023 KOBE 2023.11.03 神戸

33. 小野宏晃、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 同時性肝転移を有する膵神経内分泌腫瘍に対する外科切除の有用性と再発リスク因子の解析. JDDW 2023 KOBE 2023.11.03 神戸

34. 山下宏成、小野宏晃、竹内　将、山根聖弘、伊藤　晃、鳳翔大郎、奈良　篤、木村宗貴、森本紘一朗、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、工藤　篤、池田貞勝、田中真二、田邉　稔. 包括的ゲノムプロファイリングに基づいた肝胆膵領域悪性腫瘍に対する横断的な遺伝子変異解析および治療成績. JDDW 2023 KOBE 2023.11.03 神戸

35. 谷合智彦、島田 周、秋山好光、丹治芳明、赤星径一、池上 徹、田邉 稔、田中真二. 癌微小環境に着目した進行肝細胞癌に対する免疫療法. 第 21 回日本消化器外科学会大会、第 31 回日本消化器関連学会週間（JDDW 2023） 2023.11.02 神戸

36. 小野宏晃. PRRT の診療経験とこれからの集学的治療. Gifu PRRT Web Seminar 2023.10.24 WEB 開催

37. 浅野大輔. 安定した肝切除を目指して〜出血への備えと止血の構え. HEMOBISION Web Seminar for HPB 2023.10.23 WEB 開催

38. 浅野大輔、工藤　篤、小野宏晃、赤星径一、鳶翔大郎、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、田中真二、田邉　稔. Hg-NENs(NET-G3/NEC) に対する手術適応の検討. 第 11 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 2023.10.14 宇都宮

39. 小野宏晃、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤　篤、田邉　稔. NEN 肝転移に対する up-front surgery の成績とそれに基づく適応の再考. 第 11 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 2023.10.14 宇都宮

40. 伊藤　晃、小野宏晃、八木宏平、森本紘一朗、山下宏成、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、工藤　篤、田邉　稔. 膵神経内分泌腫瘍において MGMT 発現低下により streptozocin の効果が増強する. 第 11 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 2023.10.14 宇都宮

41. 森本紘一朗、工藤　篤、赤星径一、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、田中真二、田邉　稔. 10mm 以下の膵神経内分泌腫瘍の臨床的特徴と予後. 第 11 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 2023.10.14 宇都宮

42. 山下宏成、小野宏晃、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. GEP-NENs におけるゲノムシークエンス法による横断的な遺伝子変異解析. 第 11 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 2023.10.14 宇都宮

43. 浅野大輔、鳶翔大郎、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 肝転移を伴う NETG2/3 患者における手術適応の検討〜積極的切除経験から導かれたもの〜. 第 11 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 2023.10.14 宇都宮

44. 小山照央、浅野大輔、赤星径一、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、田邉　稔. 診断に苦慮した肝腫瘤. 第 66 回肝癌症例研究会 2023.10.14 東京

45. 工藤　篤. 医療安全活動の現状と新しい取り組み. 日本医療安全推進学会設立記念大会 2023.09.16 東京

46. 田邉　稔. 膵 · 消化管神経内分泌腫瘍 update. 膵 · 消化管神経内分泌腫瘍 update in 奈良 2023.09.05 奈良

47. 赤星径一. 薬物療法新時代における進行肝細胞癌外科的治療戦略. 第 98 回中国四国外科学会総会モーニングセミナー 1 2023.09.01 徳島

48. 赤星径一. 肝癌外科治療における腫瘍学的切除可能性分類の意義. HCC Surgery Meeting 2023.08.29 WEB 開催

49. 石川喜也、山根聖弘、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 背側膵動脈の分岐形態およびその形成機序に関する考察. 第 50 回日本膵切研究会 2023.08.26 東京

50. 赤星径一 、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 進行肝細胞癌に対する薬物療法後肝切除に関する検討. 第 59 回日本肝癌研究会 2023.07.27 大阪

51. 石川喜也、杉山夕月、室生　暁、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔、秋田恵一. 拡大視効果から得られた解剖学的知見〜SMA 左側アプローチにおける新たなランドマーク. 第 54 回日本膵臓学会大会 2023.07.22 福岡

52. 山根聖弘、石川喜也、竹内　将、鳶翔大郎、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、田邉　稔. 中央区域温存膵切除における周術期成績および術後膵機能の検討〜膵全摘術と比較して〜. 第 54 回日本膵臓学会大会 2023.07.22 福岡

53. 小野宏晃、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 進行性膵神経内分泌腫瘍におけるアルキル化剤の薬剤特性に基づく治療適応の探索. 第 54 回日本膵臓学会大会 2023.07.22 福岡

54. 浅野大輔、工藤　篤、小野宏晃、渡邊秀一、八木宏平、鳶翔大郎、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、田中真二、田邉　稔. 外科医が思い描く膵神経内分泌腫瘍とバイオマーカーの展望. 第 54 回日本膵臓学会大会 2023.07.21 福岡

55. 伊藤　晃、赤星径一、渡邊秀一、竹内　将、山根聖弘、鳶翔大郎、奈良　篤、森本紘一朗、木村宗貴、 山下宏成、八木宏平、浅野大輔、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 膵断端膿瘍に対する経乳頭的ドレナージの有用性. 第 54 回日本膵臓学会大会 2023.07.21 福岡

56. 前川　彩、工藤　篤、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、田邉　稔. 機能性膵神経内分泌腫瘍肝転移における内分泌学的局在診断. 第 54 回日本膵臓学会大会 2023.07.21 福岡

57. 大庭篤志、工藤　篤、前川　彩、赤星径一、上田浩樹、石川喜也、渡邊秀一、浅野大輔、井上陽介、高橋祐、田邉　稔. 膵神経内分泌腫瘍の悪性度を予測するタイプ別形態分類の検討. 第 54 回日本膵臓学会大会 2023.07.21 福岡

58. 加藤智敬、工藤　篤、浅野大輔、石川善也、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、田邉　稔、大嶋侑平、高瀬健一郎、渡辺雄一郎、渡邉幸博、岡田克也、合川公康、岡本光順、小山　勇. 膵神経内分泌腫瘍の術後再発予測バイオマーカーとしての門脈腫瘍浸潤分類の有用性. 第 54 回日本膵臓学会大会 2023.07.21 福岡

59. 鳶翔大郎、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉稔. 膵神経内分泌腫瘍肝転移患者の手術適応の探究. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.14 函館

60. 伊藤　晃、小野宏晃、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉稔. 膵癌における Gemcitabine に対する CDK4/6 阻害の影響. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.14 函館

61. 奈良　篤、上田浩樹、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉稔. InBody を用いた術前のサルコペニア評価は、膵頭十二指腸切除術後の自立性の低下を予測する. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.13 函館

62. 竹内　将、赤星径一、浅野大輔、鳶翔大郎、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、工藤　篤、田中真二、田邉稔. 腹腔鏡下胆嚢摘出術難症例における胆道損傷回避のための当科の手術戦略と ICG 胆道造影併用による今後の展望. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.13 函館

63. 赤星径一、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 進行肝細胞癌に対する手術と薬物療法の至適組み合わせ治療戦略に関する検討. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

64. 上田浩樹、森本紘一朗、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 膵頭十二指腸切除後胆管炎をいかにマネジメントするか?肝胆道シンチグラフィに基づいた治療戦略. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

65. 山下宏成、小野宏晃、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉稔. GEP-NENs におけるゲノムシークエンス法による横断的な遺伝子変異解析. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

66. 森本紘一朗、赤星径一、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 膵内に多発する神経内分泌腫瘍の治療適応. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

67. 小野宏晃、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 同時性肝転移を伴う膵神経内分泌腫瘍における外科切除ストラテジー. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

68. 山根聖弘、石川喜也、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉稔. 背側膵動脈の走行経路と分岐形態から推察される形成機序. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

69. 浅野大輔、赤星径一、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 肝内胆管癌に対する肝門個別処理を伴う腹腔鏡下左葉尾状葉切除の tips. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

70. 渡邊秀一、奥野圭佑、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、絹笠祐介、田邉　稔. マイクロ RNA と MSI で胃がん早期再発例を予測する. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

71. 吉井淳一郎、巌　康仁、田邉　稔. 正中弓状靭帯症候群を合併した患者に対する膵切除術における創意工夫. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

72. 石川喜也、山根聖弘、浅野大輔、渡邊秀一 、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. ロボット支援下膵頭十二指腸切除術における左 SMA アプローチを実行するための解剖学的ランドマーク～検討アプローチにおける解剖学的ランドマーク～. 第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.07.12 函館

73. 小野宏晃. PRRT を含む NEN 治療シークエンスおよび実際の治療経験. NETwork Conference in Osaka City 2023 2023.07.10 WEB 開催

74. 小野宏晃. Multidisciplinary drug therapy in pancreatic neuroendocrine tumors/膵神経内分泌腫瘍における集学的な薬物治療. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

75. Keiichi Akahoshi.　Proposal of oncological resectability for advanced hepatocellular carcinoma/進行肝細胞癌における腫瘍学的切除可能性分類の提案.　The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

76. 石川喜也、阿部雄太. Potentiality of hinotori in Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery/hinotori 肝胆膵領域での可能性. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.07.01 Tokyo

77. 小野宏晃. Treatment strategies for pancreatic neuroendocrine tumors/膵神経内分泌腫瘍の治療戦略～外科 · 内科それぞれの視点から～. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery 2023.06.30 Tokyo

78. 伊藤　晃. MEN I 型を背景とした膵消化管神経内分泌腫瘍における手術症例の検討. 第 29 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会 2023.06.17 高知

79. 小山照央、山下大和、野谷啓之、大司俊郎、安野正道、川村　徹、中嶋　昭. “Nuck with endometriosis” を意識した Nuck 管水腫の術式選択. 第 21 回日本ヘルニア学会学術集会 2023.05.26

80. 田邉　稔. 腹腔鏡下肝切除術の総論と変遷. 第 37 回肝臓内視鏡外科ハンズオンセミナー 2023.05.13 東京

81. 奈良　篤、上田浩樹、清水行栄、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 術前 InBody· 握力を用いた膵頭十二指腸切除術後のサルコペニア発症予測に関する検討. 第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 2023.05.09 神戸

82. 赤星径一、鳫翔大郎、、伊藤　晃、奈良　篤、森本紘一朗、山下宏成、木村宗貴、八木宏平、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、工藤　篤、田邉　稔. 大学病院における若手医師の働き方改革に向けた積極的取り組み. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

83. 山下宏成、赤星径一、竹内　将、山根聖弘、伊藤　晃、鳫翔大郎、奈良　篤、木村宗貴、森本紘一朗、八木宏平、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. pT1 膵癌における病理学的特徴および予後不良因子について. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

84. 渡邊秀一、西野　穣、島田　周、浅野大輔、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、角田達彦、田中真二、田邉　稔. ゲノム解析によって得られる系統樹から理解する癌の進展. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

85. 奈良　篤、上田浩樹、清水行栄、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、小野宏晃、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. InBody を用いた術前のサルコペニア評価は、PD 術後の自立性の低下を予測する. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

86. 森本紘一朗、工藤　篤、赤星径一、山根聖弘、竹内　将、奈良　篤、鳫翔大郎、伊藤　晃、山下宏成、八木宏平、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、田中真二、田邉　稔. 10mm 以下の P-NEN における臨床病理学的特徴と予後. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29

87. 延廣拓音、巌　康仁、佐藤公太、赤繁　徹、赤須雅文、横山　健、有賀翔太、吉井淳一郎、 山崎　繁、工藤　篤、田邉　稔. 二次性クッシング症候群による抑うつにより手術時期を逸し，その後急激な転帰を辿った ACTH 産生膵頭部神経内分泌癌の 1 例. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

88. 金原正太朗、巌　康仁、吉井淳一郎、有賀翔太、横山　健、赤須雅文、赤繁　徹、佐藤公太、山崎　繁、田邉　稔. 正中弓状靱帯症候群を合併した膵頭部 IPMN に対し膵頭部内動脈アーケードを温存した膵頭十二指腸切除術を施行した一例. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.29 東京

89. 谷合 智彦, 島田 周, 秋山 好光, 樺嶋 綾乃, 下川 雅弘, 丹治 芳明, 五十嵐 陽介, 月原 秀, 春木 孝一郎, 赤星 径一, 池上 徹, 田邉 稔, 大木 隆生, 田中 真二. 癌免疫療法時代における外科医の役割　癌微小環境に着目した高悪性度肝細胞癌の分子生物学的特徴及び免疫療法の奏功. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. 2023.04.29 東京

90. 田邉　稔、伴　大輔、大塚由一郎、新田浩之、金子弘真、若林　剛. NCD 設立 10 年：肝臓外科の発展への寄与と今後の展望. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.28 東京

91. 山根聖弘、石川喜也、竹内　将、鳫翔大郎、伊藤　晃、奈良　篤、木村宗貴、山下宏成、森本紘一朗、八木宏平、浅野大輔、渡邊秀一、上田浩樹、小野宏晃、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 背側膵動脈の分岐形態. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.28 東京

92. 木村宗貴、小野宏晃、田中真二、田邉　稔. 膵臓癌における新規治療薬 Clofarabine の検討. 第 123 回日本外科学会定 2023.04.28 東京

93. 小野宏晃、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、上田浩樹、赤星径一、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 膵臓癌の抗癌剤耐性における悪性形質獲得に関連する RRM1 遺伝子の機能解析. 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.28 東京

94. 鳫翔大郎、上田浩樹、竹内　将、山根聖弘、伊藤　晃、奈良　篤、森本紘一朗、山下宏成、木村宗貴、八木宏平、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、赤星径一、小野宏晃、工藤　篤、田中真二、田邉　稔. 肝嚢胞治療のベストプラクティス；手術かドレナージか？ . 第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04.27 東京

95. 前川　彩、工藤　篤、田邉　稔. 機能性膵神経内分泌腫瘍肝転移の治療戦略. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.08 長崎

96. 小林正典，田邉稔，岡本隆一. 高齢者 IPMN の手術適応判断における嚢胞径と主膵管拡張の意義. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.07

97. 田邉　稔、浅野大輔、加藤悠太郎. 肝臓領域におけるロボット手術の現況と展望. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.06 長崎

98. 杉山 夕月, 室生 暁, 伴 大輔, 秋田 恵一. 膵頭部に分布する神経の走行形態への癒合筋膜の影響. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.18 仙台市, 宮城県

99. 赤星径一. 薬物療法新時代における進行肝癌外科的治療戦略. TMDU HCC Expert Meeting 2023.03.06 WEB 開催

100. 奈良　篤. 高齢化社会における多角的膵液瘻対策. 第 20 回 ToKyo Bay-area Clinical Oncology Group 2023.03.03 WEB 開催

101. 工藤　篤. 進化する医療安全管理学～病院内のルール作り～. 不眠症診療セミナー～医療安全の観点から～ 2023.02.28 WEB 開催

102. 田邉　稔. 東京医科歯科大学の膵臓外科. 第 7 回南多摩消化器がんフォーラム 2023.02.04 WEB 開催

[受賞]

1. 優秀賞, 伊藤　晃、第 11 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会, 2023 年 10 月

[その他業績]

1. TMDU HCC Expert Meeting, 2023 年 03 月
   田邉　稔、座長、TMDU HCC Expert Meeting、20230306、WEB 開催

2. エキスパートが魅せる、ロボット支援下肝切除術と高難易度腹腔鏡下肝切除術, 2023 年 03 月
   田邉　稔、司会、JSES 公開セミナー（肝臓編）、20230301、WEB 開催

3. 術後合併症に対する IVR· 内視鏡的ドレナージ治療 ①, 2023 年 03 月
   田邉　稔、司会、主題関連、第 59 回日本腹部救急医学会総会、20230309、那覇

4. 膵液瘻に対する取り組み, 2023 年 03 月
   赤星径一、座長、一般演題、第 20 回 ToKyo Bay-area Clinical Oncology Group、20230303、東京

5. 膵神経内分泌腫瘍診療の進歩, 2023 年 04 月
   工藤　篤、司会、ワークショップ、第 109 回日本消化器病学会総会、20230408、長崎

6. 胆道癌診療の現状と切除不能例に対する取り組み, 2023 年 04 月
   田邉　稔、座長、特別講演、BTC&HCC Seminar 2023、20230421、WEB 開催

7. 肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除における新たなアプローチ, 2023 年 04 月
田邉　稔、司会、パネルディスカッション、第 123 回日本外科学会定期学術集会、20230429、東京

8. 「 膵神経内分泌腫瘍における治療効果予測マーカーの解明 」 — ストレプトゾシン療法における MGMT 遺伝子の意義 —, 2023 年 05 月
Scientific reports

9. 血液型不適合移植, 2023 年 06 月
田邉　稔、座長、一般演題、第 41 回日本肝移植学会学術集会、20230601、松山

10. 「 非ウイルス性肝細胞がんの特異的予後予測因子 SFXN1 の同定と脂肪毒性に対する耐性機序の解明 」 — 非ウイルス性肝細胞がん予防治療への応用に期待　—, 2023 年 06 月
Scientific Reports

11. Pleasant Journey Together, 2023 年 06 月
Minoru Tanabe, Moderator, Overseas Honory Members Commendation, The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery, 20230630, Tokyo

12. 困った時の手術の引き出し：肝臓外科, 2023 年 07 月
田邉　稔、司会、教育講演、第 78 回日本消化器外科学会総会、20230712、函館

13. 遺伝子パネル検査 Up to Date 〜当院のデータから考える消化器がんでの検査の意義と展望〜, 2023 年 07 月
田邉　稔、座長、ランチョンセミナー、第 78 回日本消化器外科学会総会、20230712、函館

14. Integrating Traditional Techniques with State-of-the-Art Technology: Exploring a ”Hybrid Approach” in Hepatectomy Procedures, 2023 年 07 月
Minoru Tanabe, Moderator, Special Educational Seminar, The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery, 20230701, Tokyo

15. Liver 12, 2023 年 07 月
Hiroaki Ono, Moderator, Poster, The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Billiary-Pancreatic Surgery, 20230701, Tokyo

16. 肝切除, 2023 年 07 月
田邉　稔、司会、一般演題、第 59 回日本肝癌研究会、20230728、大阪

17. 膵神経内分泌腫瘍のバイオマーカーの展望, 2023 年 07 月
工藤　篤、司会、パネルディスカッション、第 54 回日本膵臓学会大会、20230721、福岡

18. 【総論】大腸癌以外の oligometastasis に対する集学的治療の現状と課題, 2023 年 07 月
工藤　篤、司会、ワークショップ、第 78 回日本消化器外科学会総会、20230713、函館

19. 【肝胆膵】高難度腹腔鏡下肝切除の定型化に向けて , 2023 年 07 月
田邉　稔、司会、ビデオシンポジウム、第 78 回日本消化器外科学会総会、20230714、函館

20. ロボット支援下膵頭十二指腸切除編, 2023 年 08 月
田邉　稔、コメンテーター、第 11 回 HBP-Online-Salon、20230802、WEB 開催

21. 膵臓領域における内視鏡外科手術を熟考する〜Academical view & Team building〜, 2023 年 08 月
田邉　稔、司会、ランチョンセミナー、第 50 回日本膵切研究会、20230826、東京

22. 膵中央切除術の意義と安全性, 2023 年 08 月
田邉　稔、司会、要望演題、第 50 回日本膵切研究会、20230826、東京

23. RPS 手技と工夫における New era : 領域横断, 2023 年 08 月
田邉　稔、コメンテーター、主題、 10th Reduced Port Surgery Forum、20230818、小倉

24. Pancreatic Neuroendocrine Tumors, 2023 年 09 月
Minoru Tanabe, Chair, Scientific Programme, 34th IASGO World Congress, 20230911, Verona

25. PRE-MEETING COURSE ON ROBOTIC SURGERY OF THE LIVER, 2023 年 09 月
Minoru Tanabe, Moderator, ILLS 4th WORLD CONGRESS, 20230913, Rome

26. CY 陽性膵癌における至適治療戦略, 2023 年 10 月
田邉　稔、司会、スポンサードシンポジウム、第 17 回膵癌術前治療研究会、20231007、黒部

27. ポスターセッション 6, 2023 年 10 月
工藤　篤、座長、ポスターセッション 6、第 11 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会、20231014、宇都宮

28. 乳がん · 卵巣がんだけじゃない！ HBOC 関連腫瘍, 2023 年 10 月
工藤　篤、司会、領域横断ワークショップ、第 61 回日本癌治療学会学術集会、20231020、横浜

29. オルガノイドを用いたヒト疾患生物学: がん生物学の高みに挑む, 2023 年 10 月
田邉　稔、司会、招待講演、第 61 回日本癌治療学会学術集会、20231019、横浜

30. Current status of minimally invasive surgery (non-robot) in Asian countries, 2023 年 10 月
Minoru Tanabe, Chair, Symposium, The 3rd International Congress of the Asian Oncology Society, 20231020, Yokohama

31. あとがき ChatGPT 神対応！（後編）, 2023 年 10 月
田邉　稔、臨床外科、第 78 巻第 11 号（増刊号）、20231022

32. NET Next Generation Meeting in TOKYO, 2023 年 10 月
小野宏晃、座長、NET Next Generation Meeting in TOKYO、20231030、東京

33. 消化器 · 一般外科　研修医 · 専攻医　サバイバルブック　術者として経験すべき手技のすべて　序, 2023 年 10 月
田邉　稔、臨床外科、第 78 巻第 11 号（増刊号）、20231022

34. あとがき ChatGPT 神対応！（前編）, 2023 年 10 月
田邉　稔、臨床外科、第 78 巻第 11 号（増刊号）、20231020

35. バイオインフォマティクスに基づく消化器疾患診療の展望, 2023 年 11 月
田邉　稔、司会、総合プログラム、JDDW 2023 KOBE、20231104、神戸

36. その他（臨床）, 2023 年 11 月
工藤　篤、座長、デジタルポスターセッション、JDDW 2023 KOBE、20231104、神戸

37. 手術ビデオ画像の取り扱い, 2023 年 11 月
工藤　篤、座長、公募企画、第 61 回日本医療 · 病院管理学会学術総会、20231105、東京

38. これからの肝細胞癌治療戦略を内科 · 外科で考える, 2023 年 11 月
田邉　稔、総合司会、Conversion Therapy Meeting、20231108、WEB 開催

39. ロボット支援下肝切除術の導入と定型化, 2023 年 11 月
田邉　稔、司会、スポンサードシンポジウム、第 17 回肝臓内視鏡外科研究会、20231115、岡山

40. 腹腔鏡/ロボット膵切除における開腹移行例あるいはトラブルマネージメントを語ろう, 2023 年 11 月
田邉　稔、司会、ワークショップ、第 15 回膵臓内視鏡外科研究会、20231115、岡山

41. 進行肝細胞がんに対する集学的治療戦略, 2023 年 11 月
田邉　稔、司会、シンポジウム、第 85 回日本臨床外科学会総会、20231116、岡山

42. 魅力的な外科であるために必要な施策を考える①, 2023 年 11 月
田邉　稔、司会、総合特別企画、第 85 回日本臨床外科学会総会、20231117、岡山

43. 肝胆膵外科 Part, 2023 年 11 月
田邉　稔、座長、PRRT は Game Changer となるのか？ 〜東京医科歯科大学病院の見解〜、20231120、WEB 開催

44. 生成 AI の現状〜医療現場でどう使う？ 〜, 2023 年 11 月
田邉　稔、座長、Cancer Management Forum 2023、20231121、WEB 開催

45. 膵癌治療の現況と今後の方向性, 2023 年 11 月
田邉　稔、座長、特別講演、第 7 回御茶ノ水肝胆膵外科フォーラム、20231124、WEB 開催

46. 安全文化 · その他, 2023 年 11 月
工藤　篤、座長、ポスター発表、第 18 回医療の質 · 安全学会学術集会、20231125、神戸

47. 第 40 回肝臓内視鏡外科ハンズオンセミナー, 2023 年 11 月
田邉　稔、コースディレクター、第 40 回肝臓内視鏡外科ハンズオンセミナー、20231126、東京

48. THEORETICAL SESSION, 2023 年 11 月
Minoru Tanabe, Chairman, IRCAD, 20231130, Taiwan

49. AI 時代の「医療における生成系 AI の未来像」, 2023 年 11 月
工藤　篤、月間 MEDICAL QOL、No.348、P22〜23、20231101

50. 膵切除後の ADL/QOL 維持への取り組み、膵疾患の研究と今後の展望, 2023 年 11 月
赤星径一、座長、一般講演、第 7 回御茶ノ水肝胆膵外科フォーラム、2023.11.24、WEB 開催

51. THEORETICAL SESSION, 2023 年 12 月
Minoru Tanabe, Chairman, IRCAD,20231202, Taiwan

52. ダヴィンチおよび新規ロボットの特徴、相違, 2023 年 12 月
田邉　稔、司会、JSES ロボット支援手術プロクター教育セミナー、第 36 回日本内視鏡外科学会総会、20231207、横浜

53. ロボット手術における電気メス戦略を考える, 2023 年 12 月
田邉　稔、司会、Educational Symposium、第 36 回日本内視鏡外科学会総会、20231207、横浜

54. 画像支援がもたらす腹腔鏡下 · ロボット支援肝切除術の未来, 2023 年 12 月
田邉　稔、司会、パネルディスカッション、第 36 回日本内視鏡外科学会総会、20231207、横浜

55. 他領域 · 他学会にも勧めたい我が科と私の内視鏡外科テクノロジー, 2023 年 12 月
田邉　稔、司会、ワークショップ、第 36 回日本内視鏡外科学会総会、20231209、横浜

56. 腹腔鏡 · 胸腔鏡手術のトラブルシューティング　肝 · 膵 · 肺, 2023 年 12 月
田邉　稔、司会、JSES 教育セミナーⅡ、第 36 回日本内視鏡外科学会総会、20231209、横浜

[社会貢献活動]

1. 第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会 について, 東海医事新報社, 関東医事新報, 2023 年 03 月 10 日

整形外科学

Orthopaedic and Spinal Surgery

教　授　　吉井 俊貴
講　師　　瀬川 裕子, 平井 高志
助　教　　松倉 遊, 船内 雄生, 森下 真伍, 江川 聡, 佐々木 亨
特任助教　加来 拓実, 吉原 有俊, 高橋 拓也, 天野 祐輔

寄附講座

「整形外傷外科治療開発学講座」
寄附講座 講　師　　王 耀東
助　教　　山田 賢太郎

ジョイントリサーチ講座

「先端技術医療応用学講座」
ジョイントリサーチ講座教授　川端 茂徳
講　師　　星野 優子
助　教　　橋本 淳
非常勤講師　　関原 謙介
非常勤講師　　尾崎 勇
非常勤講師　　源間 信弘

大学院生　品田 良太, 川畑 篤礼, 野呂瀬 美生, 元吉 貴之, GULINAZI ANNIWAER, 田中 雄太, 橋本 泉智, 本橋 正隆, 山田 英莉久, 山本 皓子, LIU TAO, QIAN CHENG, 酒枝 健太郎, 辻野 昭平, 東川 尚人, SU CHEN, 上杉 豪, 高階 祐輔, 竹内 彩子, 宮腰 友里, 塚本 和矢, 菱山 隼, 脇 智彦, 有賀 茜, 梶原 健嗣, 杉浦 沙羅, 田村 聡至, 中村 晧平, 新田 智久, GUI ZHIHENG, YU DAIYANG

(1)　分野概要

当分野は、診療科としては運動器外科学分野と共同して“整形外科”を担当し、診療、教育、研究を行っている。整形外科では、骨 · 軟骨、関節、腱、靭帯、筋などの骨格系や脊髄、末梢神経などの神経系の研究を扱い、これらの外傷、変性、腫瘍、骨系統疾患など多彩な傷病を治療対象としている。

それに対応する広範囲にわたる基礎的研究および、臨床医学として脊椎 · 関節の運動機能の再建、再生医学的手法の臨床応用、人工材料や人工関節の開発、生体力学的アプローチ、動作解析、疼痛の制御、人工知能（AI）利用

の研究が行われている。難病の病態解明とともに最先端診断検査法の開発を目的として、各専門班別の研究、大学関連部門、学外研究施設との共同研究も積極的に行っている。
注：運動器外科学参照

(2) 研究活動

1. 骨軟骨代謝、再生に関する研究
2. 人工材料（骨、神経）の臨床応用に向けての研究
3. 靭帯骨化機序の解明
4. 脊髄磁場計測機器の開発（ジョイントリサーチ講座）
5. 転移性骨脊椎腫瘍の研究
6. 後縦靭帯骨化症手術の臨床研究
7. 脊髄機能モニタリングの臨床研究
8. 手指機能解析手法の開発
9. 非定型大腿骨骨折の病態研究
10. 筋外傷に対する高気圧酸素療法（高気圧治療部）
11. AI 画像研究
12. 後弯症の動作解析
13. 抗菌性インプラントの開発

注：（ ）内は共同研究先

(3) 教育活動

火曜日・木曜日・金曜日の週 3 回、朝 7 時 30 分から Journal Club(JC) を行う。3 回の内訳は、火曜日は整形外科学分野単独、運動器外科学分野との合同で臨床研究論文（木曜日）、基礎研究論文（金曜日）を 1 回ずつとなっている。火曜日には JC のあとで、大学院生の研究の進捗を発表する Research Progress（RP) を適宜行い、直接の指導教員以外からの意見を聞く機会を設けている。この RP は原則英語で行い。論文作成への手助けとしている。また、金曜日には JC のあと臨床研究に関わる RP を診療科としての整形外科全体で行い、基礎研究のみならず、臨床研究に関しても積極的に取り組んでいる。

整形外科の臨床教育としては、専攻医を対象に月 1 回初期研修セミナーを開催し、手術法のハンズオン、基礎研究活動について講義する機会を設けている。また、年 2 回の学内集談会において、英語での症例報告発表を義務付けている。生涯教育としては、年 2 回の卒後研修セミナーを開催し、学内外の同門の卒後教育の機会を設けている。

(4) 教育方針

我が国の整形外科領域の研究は、従来から整形外科専門医が臨床診療に従事する傍ら、基礎研究を自ら手を動かして進めるという点が特徴的である。Surgeon scientist の名の通り、臨床に根差した課題を研究することで、骨・軟骨・神経に関する数々の成果が得られている。私たちの教室でも独自の人工骨や脊髄機能診断機器、スマホを利用した手指機能解析手法を新規に生み出しており、ここ数年は年間に 30〜50 本の英文論文を発表している。

大学院生は基礎研究手法を学ぶと同時に、こうした研究の方向性を身に着けるように指導される。大学院卒業後に臨床診療に携わっても、治療成績をまとめ、将来の診療に役立つような臨床研究を行う姿勢を身に着けることができる。

(5) 臨床活動および学外活動

整形外科学分野と運動器外科学分野から構成される整形外科は、脊椎外科・手外科・骨軟部腫瘍・膝関節外科・股関節外科・整形外傷外科・小児整形外科のすべてにわたって専門性の高い外来診療と手術治療を提供している。40 名以上の整形外科専門医を擁している。

頸椎後縦靭帯骨化症に関しては、前方除圧固定術により良好な成績を得ている、我が国で数少ない施設のうち

の一つである。この領域においては、これまで厚生労働省の難病調査研究における研究代表を務めた経験もあり、全国の脊椎脊髄領域の研究者と協力して臨床研究を推進している。

(6) 臨床上の特色

脊椎脊髄領域では、ナビゲーション、脊髄誘発電位測定の導入などにより安全で確実な除圧と固定が得られ、早期離床と確実な手術成績を得ることを目標にしている。とくに、脊柱靭帯骨化症、成人脊柱変形や骨粗鬆症性椎体骨折の脊柱矯正固定手術、脊髄腫瘍に関しても、積極的に取り組んでいる。また、骨転移外来を持ち、末期がん患者の治療体系化や複雑な多発外傷患者の手術治療にも力を入れている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Tomoyuki Tanaka, Yuri Miyakoshi, Yutaka Kobayashi, Sun Xiaolong, Yu Daiyang, Hiroki Ochi, Shingo Sato, Tsuyoshi Kato, Toshitaka Yoshii, Atsushi Okawa, Philipp Kaldis, Hiroyuki Inose. Regulation of Osteoblast to Osteocyte Differentiation by Cyclin-Dependent Kinase-1. Adv Biol (Weinh). 2023.12; 7(12); e2300136
2. Naoto Watanabe, Takahisa Ogawa, Ryohei Takada, Yusuke Amano, Tetsuya Jinno, Hideyuki Koga, Toshitaka Yoshii, Atsushi Okawa, Kazumasa Miyatake. Association of osteoporosis and high serum homocysteine levels with intraoperative periprosthetic fracture during total hip arthroplasty: a propensity-score matching analysis. Arch Orthop Trauma Surg. 2023.12; 143(12); 7219-7227
3. Motohashi M, Funauchi Y, Adachi T, Fujioka T, Otaka N, Kamiko Y, Okada T, Tateishi U, Okawa A, Yoshii T, Sato S. A New Deep Learning Algorithm for Detecting Spinal Metastases On CT Images. Spine. 2023.12; 49(6); 390-397
4. Hao Ding, Hideyuki Koga, Hiroki Katagiri, Shoichi Hasegawa, Tatushiko Anzai, Mai Katakura, Aritoshi Yoshihara, Masaki Amemiya, Takashi Hoshino, Nobutake Ozeki, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa. Low central sensitisation inventory score is associated with better post-operative outcomes of osteotomy around the knee. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023.12; 31(12); 5896-5904
5. Takuya Takahashi, Hiroyuki Inose, Takashi Hirai, Yu Matsukura, Shingo Morishita, Satoru Egawa, Jun Hashimoto, Kunihiko Takahashi, Toshitaka Yoshii. Factors associated with the time required for CRP normalization in pyogenic spondylitis: A retrospective observational study. N Am Spine Soc J. 2023.12; 17; 100301
6. Norimitsu Wakao, Takeo Furuya, Toshitaka Yoshii, Hideyuki Arima, Yu Yamato, Hiroaki Nakashima, Shiro Imagama, Yasuaki Imajo, Hiroshi Miyamoto, Gen Inoue, Masayuki Miyagi, Shunsuke Kanbara, Yoichi Iizuka, Hirotaka Chikuda, Kei Watanabe, Kazuyoshi Kobayashi, Mikito Tsushima, Masashi Miyazaki, Mitsuru Yagi, Satoshi Suzuki, Masahiko Takahata, Michio Hongo, Masao Koda, Keiji Nagata, Kanji Mori, Akinobu Suzuki, Takashi Kaito, Kenta Murotani, Naohisa Miyakoshi, Hiroshi Hashizume, Yukihiro Matsuyama, Mamoru Kawakami, Hirotaka Haro, . A nationwide multicenter study of the cost effectiveness of five leading drugs for pharmacological management of cervicobrachial symptoms. J Orthop Sci. 2023.12; S0949-2658(23); 00334-2
7. Hiroyuki Inose, Takuya Takahashi, Yu Matsukura, Jun Hashimoto, Kurando Utagawa, Satoru Egawa, Kentaro Yamada, Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii. Factors Associated With Nonunion After Cervical Fusion Surgery. Cureus. 2023.12; 15(12); e50866
8. Yamamoto Kie, Shimura Haruhiko, Suzuki Hidetsugu, Yamada Eriku, Fujita Koji, Nimura Akimoto. Acute osteomyelitis after the physeal injury of the distal phalanx of the hand(Seymour fracture): A report of two cases JOS Case Reports. 2023.12; 2(4); 165-168
9. Shimura Haruhiko, Fujita Koji, Sasaki Toru, Nimura Akimoto. Pediatric olecranon osteochondral fracture with delayed diagnosis: A case report JOS Case Reports. 2023.12; 2(4); 192-194
10. Yuko Segawa, Tetsuya Jinno, Masaaki Matsubara, Yusuke Matsuyama, Takeo Fujiwara, Atsushi Okawa. A cross-sectional study evaluating patients' preferences for Salter innominate osteotomy. J Orthop Sci. 2023.11; 28(6); 1298-1302

11. Sadayuki Ito, Hiroaki Nakashima, Toshitaka Yoshii, Satoru Egawa, Kenichiro Sakai, Kazuo Kusano, Shinji Tsutui, Takashi Hirai, Yu Matsukura, Kanichiro Wada, Keiichi Katsumi, Masao Koda, Atsushi Kimura, Takeo Furuya, Satoshi Maki, Narihito Nagoshi, Norihiro Nishida, Yukitaka Nagamoto, Yasushi Oshima, Kei Ando, Masahiko Takahata, Kanji Mori, Hideaki Nakajima, Kazuma Murata, Masayuki Miyagi, Takashi Kaito, Kei Yamada, Tomohiro Banno, Satoshi Kato, Tetsuro Ohba, Satoshi Inami, Shunsuke Fujibayashi, Hiroyuki Katoh, Haruo Kanno, Masahiro Oda, Kensaku Mori, Hiroshi Taneichi, Yoshiharu Kawaguchi, Katsushi Takeshita, Morio Matsumoto, Masashi Yamazaki, Atsushi Okawa, Shiro Imagama. Deep learning-based prediction model for postoperative complications of cervical posterior longitudinal ligament ossification. Eur Spine J. 2023.11; 32(11); 3797-3806

12. Tharnmanularp S, Muro S, Nimura A, Ibara T, Akita K. Significant relationship between musculoaponeurotic attachment of the abdominal and thigh adductor muscles to the pubis: implications for the diagnosis of groin pain. Anatomical science international. 2023.11; 99(2); 190-201

13. Tsukamoto, K; Matsui, R; Sugiura, Y; Fujita, K. Diagnosis of carpal tunnel syndrome using a 10-s grip-and-release test with video and machine learning analysis JOURNAL OF HAND SURGERY-EUROPEAN VOLUME. 2023.11; 17531934231214661

14. Zhen Qu, Hideyuki Koga, Kunikazu Tsuji, Guo Tang, Yang Yang, Aritoshi Yoshihara, Mai Katakura, Hiroki Katagiri, Kazumasa Miyatake, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Yusuke Nakagawa. Hyaluronic acid sheet transplantation attenuates infrapatellar fat pad fibrosis and pain in a rat arthritis model. J Orthop Res. 2023.11; 41(11); 2442-2454

15. Kentaro Yamada, Toshitaka Yoshii, Mikayo Toba, Atsushi Kudo, Satoru Egawa, Yu Matsukura, Takashi Hirai, Hiroyuki Inose, Kiyohide Fushimi, Atsushi Okawa. Risk Factors for Postoperative Unfavorable Ambulatory Status After Spinal Surgery for Metastatic Spinal Tumor. Spine (Phila Pa 1976). 2023.10; 48(20); 1419-1426

16. Ryosuke Hirota, Yoshinori Terashima, Hirofumi Ohnishi, Toshihiko Yamashita, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Hiroaki Nakashima, Naoki Segi, Sadayuki Ito, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Akihiro Yamaji, Kota Watanabe, Satoshi Nori, Kazuki Takeda, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Nobuyuki Suzuki, Kenji Kato, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Hidetomi Terai, Koji Tamai, Akiyoshi Kuroda, Gen Inoue, Kenichiro Kakutani, Yuji Kakiuchi, Katsuhito Kiyasu, Hiroyuki Tominaga, Hiroto Tokumoto, Yoichi Iizuka, Eiji Takasawa, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Haruki Funao, Yasushi Oshima, Takashi Kaito, Daisuke Sakai, Toshitaka Yoshii, Tetsuro Ohba, Bungo Otsuki, Shoji Seki, Masashi Miyazaki, Masayuki Ishihara, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Prognostic impact of respiratory dysfunction in elderly patients with cervical spinal cord injury and/or fractures: a multicenter survey. Eur Spine J. 2023.10; 32(10); 3522-3532

17. Jun Hashimoto, Yoto Oh, Kouhei Yamamoto, Toshitaka Yoshii, Kazuyuki Fukushima, Masanobu Kitagawa, Atsushi Okawa. Frequency and pathogenesis of periprosthetic atypical femoral fractures associated with total knee arthroplasty: A multicenter prospective study with complementary histopathological and biomechanical analysis. Injury. 2023.10; 111136

18. Yuji Takahashi, Naoya Nishinaka, Kanji Furuya, Takashi Ikeda, Tetsuya Jinno, Atsushi Okawa, Tomoko Sakai. Analysis of in vivo humeral rotation of reverse total shoulder arthroplasty patients during shoulder abduction on the scapular plane with a load. Arthroplasty. 2023.10; 5(1); 51

19. Zhu Ling, Hailati Aini, Shuhei Kajikawa, Jumpei Shirakawa, Kunikazu Tsuji, Yoshinori Asou, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya, Akira Nifuji, Masaki Noda, Yoichi Ezura. Mutation Are Treatable by Alendronate. Pharmaceuticals (Basel). 2023.10; 16(10);

20. Takashi Hirai, Satoru Egawa, Kenichiro Sakai, Hiroaki Onuma, Jun Hashimoto, Kurando Utagawa, Shingo Morishita, Kentaro Yamada, Yu Matsukura, Yoshiyasu Arai, Toshitaka Yoshii. Novel Technique of Anterior Foraminotomy Based on Augmented Reality with Computed Tomography Navigation System: A Case Report. Spine Surg Relat Res. 2023.10; 8(1); 114-117

21. Shingo Morishita, Toshitaka Yoshii, Hiroyuki Inose, Takashi Hirai, Masato Yuasa, Yu Matsukura, Takahisa Ogawa, Kiyohide Fushimi, Junya Katayanagi, Tetsuya Jinno, Atsushi Okawa, Takeo Fujiwara. Perioperative Complications of Laminoplasty in Degenerative Cervical Myelopathy -A Comparative Study

Between Ossification of Posterior Longitudinal Ligament and Cervical Spondylotic Myelopathy Using a Nationwide Inpatient Database. Global Spine J. 2023.09; 13(7); 1956-1963

22. Yu Matsukura, Satoru Egawa, Hiroyuki Inose, Kenichiro Sakai, Kazuo Kusano, Shunji Tsutsui, Takashi Hirai, Kanichiro Wada, Keiichi Katsumi, Masao Koda, Atsushi Kimura, Takeo Furuya, Satoshi Maki, Narihito Nagoshi, Norihiro Nishida, Yukitaka Nagamoto, Yasushi Oshima, Kei Ando, Hiroaki Nakashima, Masahiko Takahata, Kanji Mori, Hideaki Nakajima, Kazuma Murata, Masayuki Miyagi, Takashi Kaito, Kei Yamada, Tomohiro Banno, Satoshi Kato, Tetsuro Ohba, Hiroshi Moridaira, Shunsuke Fujibayashi, Hiroyuki Katoh, Haruo Kanno, Hiroshi Taneichi, Shiro Imagama, Yoshiharu Kawaguchi, Katsushi Takeshita, Masaya Nakamura, Morio Matsumoto, Masashi Yamazaki, Atsushi Okawa, Toshitaka Yoshii. Preoperative Symptom Duration Influences Neurological Recovery and Patient-Reported Outcome Measures After Surgical Treatment of Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament. Spine (Phila Pa 1976). 2023.09; 48(18); 1259-1265

23. Shingo Sato, Hideyuki Tomitori, Atsushi Okawa, Kyoko Akano. Prescription patterns of analgesics in cancer patients with bone metastases in Japan: a retrospective database study. Int J Clin Oncol. 2023.09; 28(9); 1227-1235

24. Yohei Tomaru, Makoto Kamegaya, Takashi Saisu, Yasuhiro Oikawa, Jun Kakizaki, Yuko Segawa, Yuta Tsukagoshi, Hiroshi Kamada, Masashi Yamazaki. Radiologic Changes After 10 Years Postreduction in Developmental Dysplasia of the Hip Treated With Different Reduction Methods and Risk Factors for Osteoarthritis. J Pediatr Orthop. 2023.09; 43(8); e633-e638

25. Aritoshi Yoshihara, Renaud Siboni, Yusuke Nakagawa, Caroline Mouton, Christophe Jacquet, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Romain Seil, Hideyuki Koga. Lateral-medial asymmetry of posterior tibial slope and small lateral tibial plateau articular surface depth are morphological factors of lateral meniscus posterior root tears in ACL-injured patients. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023.09; 31(9); 3594-3603

26. Yamamoto A, Fujita K, Yamada E, Ibara T, Nihey F, Inai T, Tsukamoto K, Kobayashi Y, Nakahara K, Okawa A. Foot characteristics of the daily-life gait in postmenopausal females with distal radius fractures: a cross-sectional study. BMC musculoskeletal disorders. 2023.09; 24(1); 706

27. Kuroiwa T, Sarcon A, Ibara T, Yamada E, Yamamoto A, Tsukamoto K, Fujita K. The Potential of ChatGPT as a Self-Diagnostic Tool in Common Orthopedic Diseases: Exploratory Study. Journal of medical Internet research. 2023.09; 25; e47621

28. Takeo Furuya, Kenichiro Sakai, Toshitaka Yoshii, Masaaki Machino. Conservative Treatment and Surgical Indication of Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament. J Clin Med. 2023.09; 12(17); 5719

29. Shoichi Hasegawa, Yusuke Nakagawa, Aritoshi Yoshihara, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Masaya Hayashi, Hideya Yoshimura, Tsuyoshi Nagase, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Older Age, Poor Preoperative Quadriceps Muscle Strength, and Residual Pain as Risk Factors for Poor Quadriceps Muscle Strength Recovery at 1 Year After ACL Reconstruction: A TMDU MAKS Study of 402 Patients. Orthop J Sports Med. 2023.09; 11(9); 23259671231194593

30. Akiko Yamamoto, Koji Fujita, Eriku Yamada, Takuya Ibara, Fumiyuki Nihey, Takuma Inai, Kazuya Tsukamoto, Yoshiyuki Kobayashi, Kentaro Nakahara, Atsushi Okawa. Foot characteristics of the daily-life gait in postmenopausal females with distal radius fractures: a cross-sectional study. BMC Musculoskelet Disord. 2023.09; 24(1); 706

31. Sara Sugiura, Haruhiko Shimura, Koji Fujita, Takahisa Ogawa, Akimoto Nimura. Comparison of ceftriaxone and cefazolin as prophylactic antibiotics for surgical site infection in orthopedic upper extremity surgery: The nationwide shortage of cefazolin in March 2019. J Orthop Sci. 2023.09; 28(5); 1018-1022

32. Leyang Li, Su Chen, Hiroyuki Yokoyama, Hidetoshi Kaburagi, Takashi Hirai, Kunikazu Tsuji, Mitsuhiro Enomoto, Yoshiaki Wakabayashi, Atsushi Okawa. Remodeling of Neuromuscular Junctions in Target Muscle Following Nerve Regeneration in Mice After Delayed Peripheral Nerve Repair. Neuroscience. 2023.08; 524; 197-208

33. Hiroaki Nakashima, Shiro Imagama, Toshitaka Yoshii, Satoru Egawa, Kenichiro Sakai, Kazuo Kusano, Shinji Tsutsui, Takashi Hirai, Yu Matsukura, Kanichiro Wada, Keiichi Katsumi, Masao Koda, Atsushi Kimura, Takeo Furuya, Satoshi Maki, Narihito Nagoshi, Norihiro Nishida, Yukitaka Nagamoto, Yasushi Oshima, Kei Ando, Masahiko Takahata, Kanji Mori, Hideaki Nakajima, Kazuma Murata, Masayuki Miyagi, Takashi Kaito, Kei Yamada, Tomohiro Banno, Satoshi Kato, Tetsuro Ohba, Hiroshi Moridaira, Shunsuke Fujibayashi, Hiroyuki Katoh, Haruo Kanno, Hiroshi Taneichi, Yoshiharu Kawaguchi, Katsushi Takeshita, Masaya Nakamura, Atsushi Okawa, Masashi Yamazaki. Factors Associated With Loss of Cervical Lordosis After Laminoplasty for Patients With Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: Data From a Prospective Multicenter Study. Spine (Phila Pa 1976). 2023.08; 48(15); 1047-1056

34. Takahisa Ogawa, Ryo Onuma, Morten T Kristensen, Toshitaka Yoshii, Takeo Fujiwara, Kiyohide Fushimi, Atsushi Okawa, Tetsuya Jinno. Association between additional weekend rehabilitation and in-hospital mortality in patients with hip fractures. Bone Joint J. 2023.08; 105-B(8); 872-879

35. Atsuyuki Kawabata, Kenichiro Sakai, Kentaro Yamada, Kurando Utagawa, Jun Hashimoto, Shingo Morishita, Yu Matsukura, Takuya Oyaizu, Takashi Hirai, Hiroyuki Inose, Masaki Tomori, Ichiro Torigoe, Hiroaki Onuma, Kazuo Kusano, Kazuyuki Otani, Yoshiyasu Arai, Shigeo Shindo, Atsushi Okawa, Toshitaka Yoshii. The lower Osteotomy Level is Associated With Decreased Revision Surgery Due to Mechanical Complications After Three-Column Osteotomy in Patients With Adult Spinal Deformity: A Multi-Institutional Retrospective Study. Global Spine J. 2023.08; 21925682231196449

36. Ibara T, Fujita K, Watanabe N, Takada R, Miyatake K, Nimura A, Akita K. Stabilization and compensation strategy of the hip angle during gait in hip-osteoarthritis patients from the perspective of whole-body movement synergy. Gait & posture. 2023.08; 106; 65-71

37. Masahiro Funaba, Tsukasa Kanchiku, Go Yoshida, Masaaki Machino, Hiroki Ushirozako, Shigenori Kawabata, Muneharu Ando, Kei Yamada, Hiroshi Iwasaki, Hideki Shigematsu, Yasushi Fujiwara, Nobuaki Tadokoro, Masahito Takahashi, Shinichirou Taniguchi, Kanichiro Wada, Naoya Yamamoto, Akimasa Yasuda, Shinji Morito, Jun Hashimoto, Tsunenori Takatani, Kazuyoshi Kobayashi, Kei Ando, Kenta Kurosu, Naoki Segi, Hiroaki Nakashima, Kazuyoshi Nakanishi, Katsushi Takeshita, Yukihiro Matsuyama, Shiro Imagama. Impact of Preoperative Motor Status for the Positive Predictive Value of Transcranial Motor-Evoked Potentials Alerts in Thoracic Spine Surgery: A Prospective Multicenter Study by the Monitoring Committee of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. Global Spine J. 2023.08; 21925682231196454

38. Masayuki Miyagi, Gen Inoue, Toshitaka Yoshii, Satoru Egawa, Kenichiro Sakai, Kazuo Kusano, Yukihiro Nakagawa, Takashi Hirai, Kanichiro Wada, Keiichi Katsumi, Atsushi Kimura, Takeo Furuya, Narihito Nagoshi, Tsukasa Kanchiku, Yukitaka Nagamoto, Yasushi Oshima, Hiroaki Nakashima, Kei Ando, Masahiko Takahata, Kanji Mori, Hideaki Nakajima, Kazuma Murata, Shunji Matsunaga, Takashi Kaito, Kei Yamada, Sho Kobayashi, Satoshi Kato, Tetsuro Ohba, Satoshi Inami, Shunsuke Fujibayashi, Hiroyuki Katoh, Haruo Kanno, Masao Koda, Hiroshi Takahashi, Shinsuke Ikeda, Shiro Imagama, Yoshiharu Kawaguchi, Katsushi Takeshita, Morio Matsumoto, Masashi Takaso, Atsushi Okawa, Masashi Yamazaki. Residual Neuropathic Pain in Postoperative Patients With Cervical Ossification of Posterior Longitudinal Ligament. Clin Spine Surg. 2023.07; 36(6); E277-E282

39. Narihito Nagoshi, Toshitaka Yoshii, Satoru Egawa, Kenichiro Sakai, Kazuo Kusano, Shunji Tsutsui, Takashi Hirai, Yu Matsukura, Kanichiro Wada, Keiichi Katsumi, Masao Koda, Atsushi Kimura, Takeo Furuya, Yasunori Sato, Satoshi Maki, Norihiro Nishida, Yukitaka Nagamoto, Yasushi Oshima, Kei Ando, Hiroaki Nakashima, Masahiko Takahata, Kanji Mori, Hideaki Nakajima, Kazuma Murata, Masayuki Miyagi, Takashi Kaito, Kei Yamada, Tomohiro Banno, Satoshi Kato, Tetsuro Ohba, Hiroshi Moridaira, Shunsuke Fujibayashi, Hiroyuki Katoh, Haruo Kanno, Kota Watanabe, Hiroshi Taneichi, Shiro Imagama, Yoshiharu Kawaguchi, Katsushi Takeshita, Masaya Nakamura, Morio Matsumoto, Masashi Yamazaki. Comparison of Surgical Outcomes of Anterior and Posterior Fusion Surgeries for K-line (-) Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: A Prospective Multicenter Study. Spine (Phila Pa 1976). 2023.07; 48(13); 937-943

40. Toyoda H, Terai H, Yamada K, Kato M, Suzuki A, Takahashi S, Tamai K, Yabu A, Iwamae M, Sawada Y, Nakamura H. A decision tree analysis to predict clinical outcome of minimally invasive lumbar decompression surgery for lumbar spinal stenosis with and without coexisting spondylolisthesis and scoliosis. The spine journal : official journal of the North American Spine Society. 2023.07; 23(7); 973-981

41. Fujishiro H, Nimura A, Azumaya M, Hattori S, Hoshi O, Akita K. Anatomical study of the bone morphology of the anterior talofibular ligament attachment. Anatomy & cell biology. 2023.07;

42. Akane Ariga, Seiichi Matsumoto, Taisuke Tanizawa, Keiko Hayakawa, Yusuke Minami, Masanori Saito, Norio Kurosawa, Kyoko Yamashita, Takashi Terauchi, Keisuke Ae. Bone metastases with "false negative" findings on 18F-FDG PET/CT in patients with angiosarcoma: A case series with literature review. Medicine (Baltimore). 2023.07; 102(28); e34196

43. Yoshinao Koike, Masahiko Takahata, Masahiro Nakajima, Nao Otomo, Hiroyuki Suetsugu, Xiaoxi Liu, Tsutomu Endo, Shiro Imagama, Kazuyoshi Kobayashi, Takashi Kaito, Satoshi Kato, Yoshiharu Kawaguchi, Masahiro Kanayama, Hiroaki Sakai, Takashi Tsuji, Takeshi Miyamoto, Hiroyuki Inose, Toshitaka Yoshii, Masafumi Kashii, Hiroaki Nakashima, Kei Ando, Yuki Taniguchi, Kazuhiro Takeuchi, Shuji Ito, Kohei Tomizuka, Keiko Hikino, Yusuke Iwasaki, Yoichiro Kamatani, Shingo Maeda, Hideaki Nakajima, Kanji Mori, Atsushi Seichi, Shunsuke Fujibayashi, Tsukasa Kanchiku, Kei Watanabe, Toshihiro Tanaka, Kazunobu Kida, Sho Kobayashi, Masahito Takahashi, Kei Yamada, Hiroshi Takuwa, Hsing-Fang Lu, Shumpei Niida, Kouichi Ozaki, Yukihide Momozawa, , Masashi Yamazaki, Atsushi Okawa, Morio Matsumoto, Norimasa Iwasaki, Chikashi Terao, Shiro Ikegawa. Genetic insights into ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine. Elife. 2023.07; 12; e86514

44. Naoki Segi, Hiroaki Nakashima, Masaaki Machino, Sadayuki Ito, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Akihiro Yamaji, Kota Watanabe, Satoshi Nori, Kazuki Takeda, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Nobuyuki Suzuki, Kenji Kato, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Hidetomi Terai, Koji Tamai, Eiki Shirasawa, Gen Inoue, Kenichiro Kakutani, Yuji Kakiuchi, Yoichi Iizuka, Eiji Takasawa, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Katsuhito Kiyasu, Hiroyuki Tominaga, Hiroto Tokumoto, Haruki Funao, Yasushi Oshima, Toshitaka Yoshii, Takashi Kaito, Daisuke Sakai, Tetsuro Ohba, Shoji Seki, Bungo Otsuki, Masayuki Ishihara, Masashi Miyazaki, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Prognosis of Cervical Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis-Related Spine Injuries in Elderly Patients: Analyses of Both Fracture and Spinal Cord Injury Without Fracture. Global Spine J. 2023.07; 21925682231186757

45. Takumi Kaku, Yoto Oh, Shingo Sato, Hirotaka Koyanagi, Yuki Funauchi, Takashi Hirai, Masato Yuasa, Yu Matsukura, Toshitaka Yoshii, Tsuyoshi Nakagawa, Satoshi Miyake, Atsushi Okawa. Prevalence of Precursory Signs of Atypical Femoral Fractures in Patients Receiving Bone-Modifying Agents for Bone Metastases: A Cross-Sectional Study. JBMR Plus. 2023.07; 7(7); e10749

46. Inomori Yusuke, Shimura Haruhiko, Wakabayashi Yoshiaki, Fujita Koji, Nimura Akimoto. Tendon rupture after local steroid injection for stenosing tenosynovitis of hand: A report of three cases and literature review JOS Case Reports. 2023.07; 2(2); 19-22

47. Hiroyuki Inose, Tsuyoshi Kato, Yu Matsukura, Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Shigenori Kawabata, Kunihiko Takahashi, Atsushi Okawa. Factors influencing the long-term outcomes of instrumentation surgery for degenerative lumbar spondylolisthesis: a post-hoc analysis of a prospective randomized study. Spine J. 2023.06; 23(6); 799-804

48. Hidenori Suzuki, Masahiro Funaba, Yasuaki Imajo, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Kei Ando, Hiroaki Nakashima, Naoki Segi, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Kota Watanabe, Junichi Yamane, Takeo Furuya, Hideaki Nakajima, Tomohiko Hasegawa, Yoshinori Terashima, Shota Ikegami, Gen Inoue, Takashi Kaito, Satoshi Kato, Japan Association of Spine Surgeons with Ambition (JASA) Study Group:Koji Akeda, Haruki Funao, Ko Hashimoto, Yohei Haruta, Ryosuke Hirota, Yoichi Iizuka, Shiro Imagama, Masayuki Ishihara, Yuji Kakiuchi, Kenichiro Kakutani, Kenji Kato, Kenichi Kawaguchi, Katsuhito Kiyasu, Kosuke Misaki, Masashi Miyazaki, Kazuo Nakanishi, Tetsuro Ohba, Seiji Okada, Yoshito Onoda, Yasushi Oshima, Bungo Otsuki, Daisuke Sakai, Takuya Sakamoto, Munehiro Sakata, Munehiro Sakata, Hirokatsu Sawada, Shoji Seki, Eiki Shirasawa, Nobuyuki Suzuki, Eiji Takasawa, Kazuki Takeda, Norihiko Takegami, Koji Tamai, Hidetomi Terai, Hiroto Tokumoto, Hiroyuki Tominaga, Hitoshi Tonomura, Tomohiro Yamada, Akihiro Yamaji, Toshitaka Yoshii, Atsushi Yunde, Masashi Uehara, Hiroshi Uei. Blunt Cerebrovascular Injury in the Elderly With Traumatic Cervical Spine Injuries: Results of a Retrospective Multi-Center Study of 1512 Cases in Japan. J Neurotrauma. 2023.06; 40(11-12); 1164-1172

49. Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Yusuke Amano, Yoshiko Shirakawa, Nobutake Ozeki, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Decision regret following opening wedge high tibial osteotomy: Older age as a risk factor. Knee. 2023.06; 43; 62-69

50. Yamada E, Fujita K, Watanabe T, Koyama T, Ibara T, Yamamoto A, Tsukamoto K, Kaburagi H, Nimura A, Yoshii T, Sugiura Y, Okawa A. A screening method for cervical myelopathy using machine learning to analyze a drawing behavior. Scientific reports. 2023.06; 13(1); 10015

51. Ibara Takuya, Matsui Ryota, Koyama Takafumi, Yamada Eriku, Yamamoto Akiko, Tsukamoto Kazuya, Kaburagi Hidetoshi, Nimura Akimoto, Yoshii Toshitaka, Okawa Atsushi, Saito Hideo, Sugiura Yuta, Fujita Koji. Screening for degenerative cervical myelopathy with the 10-second grip-and-release test using a smartphone and machine learning: A pilot study DIGITAL HEALTH. 2023.06; 9; 20552076231179030

52. Hiroyuki Inose, Takuya Takahashi, Yu Matsukura, Jun Hashimoto, Kurando Utagawa, Satoru Egawa, Kentaro Yamada, Takashi Hirai, Kunihiko Takahashi, Toshitaka Yoshii. Effect of vitamin D deficiency on surgical outcomes of degenerative cervical myelopathy. N Am Spine Soc J. 2023.06; 15; 100239

53. Eriku Yamada, Koji Fujita, Takuro Watanabe, Takafumi Koyama, Takuya Ibara, Akiko Yamamoto, Kazuya Tsukamoto, Hidetoshi Kaburagi, Akimoto Nimura, Toshitaka Yoshii, Yuta Sugiura, Atsushi Okawa. A screening method for cervical myelopathy using machine learning to analyze a drawing behavior. Sci Rep. 2023.06; 13(1); 10015

54. Takuya Ibara, Ryota Matsui, Takafumi Koyama, Eriku Yamada, Akiko Yamamoto, Kazuya Tsukamoto, Hidetoshi Kaburagi, Akimoto Nimura, Toshitaka Yoshii, Atsushi Okawa, Hideo Saito, Yuta Sugiura, Koji Fujita. Screening for degenerative cervical myelopathy with the 10-second grip-and-release test using a smartphone and machine learning: A pilot study. Digit Health. 2023.06; 9; 20552076231179030

55. Tomoko Sakai, Chisato Hoshino, Masanobu Hirao, Megumi Nakano, Yusuke Takashina, Atsushi Okawa. Rehabilitation of Patients with Post-COVID-19 Syndrome: A Narrative Review. Prog Rehabil Med. 2023.06; 8; 20230017

56. Shoichi Hasegawa, Jae-Sung An, Jun Hino, Yusuke Amano, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake, Hiroki Katagiri, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga, Kunikazu Tsuji. Therapeutic effect of C-type natriuretic peptide on persistent pain in a rat knee arthritis model. J Orthop Surg (Hong Kong). 2023.06; 31(2); 10225536231181708

57. Kenichiro Sakai, Toshitaka Yoshii, Yoshiyasu Arai, Takashi Hirai, Ichiro Torigoe, Hiroyuki Inose, Masaki Tomori, Kyohei Sakaki, Masato Yuasa, Tsuyoshi Yamada, Yu Matsukura, Takuya Oyaizu, Shingo Morishita, Atsushi Okawa. K-Line Tilt is a Predictor of Postoperative Kyphotic Deformity After Laminoplasty for Cervical Myelopathy Caused by Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament. Global Spine J. 2023.05; 13(4); 1005-1010

58. Shuta Ushio, Shigeo Shindo, Kazuyuki Otani, Kazuo Kusano, Norihiko Miyake, Tsuyoshi Yamada, Osamu Nakai, Atsushi Okawa. Predictors of good outcome after anterior decompression and fusion in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament of the thoracic spine. J Orthop Sci. 2023.05; 28(3); 515-520

59. Takuya Takahashi, Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Hiroyuki Inose, Masato Yuasa, Yu Matsukura, Shingo Morishita, Yutaka Kobayashi, Kurando Utagawa, Atsuyuki Kawabata, Jun Hashimoto, Tomoyuki Tanaka, Takayuki Motoyoshi, Motonori Hashimoto, Shigenori Kawabata, Atsushi Okawa. Risk factors for recurrence and regrowth of spinal schwannoma. J Orthop Sci. 2023.05; 28(3); 554-559

60. Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Hiroyuki Inose, Yu Matsukura, Yuki Funauchi, Satoru Egawa, Kurando Utagawa, Jun Hashimoto, Mariko Nishizawa, Kohei Yamamoto, Atsushi Okawa. Intraosseous Aggressive Schwannoma in the Lumbar Spine: A Case Report. Spine Surg Relat Res. 2023.05; 7(3); 288-292

61. Mitsuru Yagi, Nobuyuki Fujita, Tomohiko Hasegawa, Gen Inoue, Yoshihisa Kotani, Seiji Ohtori, Sumihisa Orita, Yasushi Oshima, Daisuke Sakai, Toshinori Sakai, Hiroshi Taneichi, Daisuke Togawa, Kazuo Nakanishi, Hiroaki Nakashima, Toshitaka Yoshii, Masaya Nakamura, Motoki Iwasaki, Masahiko Watanabe, Hirotaka Haro, Tokumi Kanemura, Naobumi Hosogane, . Nationwide Survey of the Surgical Complications Associated with Lateral Lumbar Interbody Fusion in 2015-2020. Spine Surg Relat Res. 2023.05; 7(3); 249-256

62. Alkebaier Aobulikasimu, Tao Liu, Jinying Piao, Shingo Sato, Hiroki Ochi, Atsushi Okawa, Kunikazu Tsuji, Yoshinori Asou. SIRT6-PAI-1 axis is a promising therapeutic target in aging-related bone metabolic disruption. Sci Rep. 2023.05; 13(1); 7991

63. Hiroaki Onuma, Kenichiro Sakai, Yoshiyasu Arai, Ichiro Torigoe, Masaki Tomori, Kyohei Sakaki, Takashi Hirai, Satoru Egawa, Yutaka Kobayashi, Atsushi Okawa, Toshitaka Yoshii. Augmented Reality Support for Anterior Decompression and Fusion Using Floating Method for Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament. J Clin Med. 2023.04; 12(8); 2898

64. Yusuke Nakagawa, Kunikazu Tsuji, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Nobutake Ozeki, Mikio Shioda, Jae-Sung An, Ryu Yoshida, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Association of Infrapatellar Fat Pad Fibrosis at 3 Months After ACL Reconstruction With Short-term Clinical Outcomes and Inflammatory Cytokine Levels in the Synovial Fluid. Orthop J Sports Med. 2023.04; 11(4); 23259671231164122

65. Suzuki Akinobu, Yamada Kentaro, Yabu Akito, Tamai Koji, Takahashi Shinji, Inui Kentaro, Okano Tadashi, Koike Tatsuya, Nakamura Hiroaki. Neck pain and related factors in patients with rheumatoid arthritis MODERN RHEUMATOLOGY. 2023.04; 33(3); 503-508

66. Shuta Ushio, Toshitaka Yoshii, Kazuyuki Otani, Shigeo Shindo, Kouichi Mizuno, Kazuo Kusano, Tsuyoshi Yamada, Hiroyuki Inose, Takashi Hirai, Masato Yuasa, Atsuyuki Kawabata, Osamu Nakai, Atsushi Okawa. Pelvic incidence is a risk factor for lower instrumented vertebra failure in adult spinal deformity patients who underwent corrective fusion terminating at the L5 vertebra. J Orthop Sci. 2023.03; 28(2); 302-307

67. Hiroyuki Inose, Tsuyoshi Kato, Shoichi Ichimura, Hiroaki Nakamura, Masatoshi Hoshino, Shinji Takahashi, Daisuke Togawa, Toru Hirano, Yasuaki Tokuhashi, Tetsuro Ohba, Hirotaka Haro, Takashi Tsuji, Kimiaki Sato, Yutaka Sasao, Masahiko Takahata, Koji Otani, Suketaka Momoshima, Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Kunihiko Takahashi, Atsushi Okawa. Factors affecting the quality of life in the chronic phase of thoracolumbar osteoporotic vertebral fracture managed conservatively with a brace. Spine J. 2023.03; 23(3); 425-432

68. Akane Ariga, Haruhiko Shimura, Koji Fujita, Akimoto Nimura. Anteroinferior plating is an independent factor for decreasing symptomatic implant removal rates after plate fixation for midshaft clavicle fractures. OTA Int. 2023.03; 6(1); e253

69. Hiroki Ushirozako, Go Yoshida, Shiro Imagama, Masaaki Machino, Muneharu Ando, Shigenori Kawabata, Kei Yamada, Tsukasa Kanchiku, Yasushi Fujiwara, Shinichirou Taniguchi, Hiroshi Iwasaki, Hideki Shigematsu, Nobuaki Tadokoro, Masahito Takahashi, Kanichiro Wada, Naoya Yamamoto, Masahiro Funaba, Akimasa Yasuda, Jun Hashimoto, Shinji Morito, Tsunenori Takatani, Kazuyoshi Kobayashi, Kazuyoshi Nakanishi, Kenta Kurosu, Yukihiro Matsuyama. Role of Transcranial Motor Evoked Potential Monitoring During Traumatic Spinal Injury Surgery: A Prospective Multicenter Study of the Monitoring Committee of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. Spine (Phila Pa 1976). 2023.03;

70. Koji Tamai, Hidetomi Terai, Hiroaki Nakamura, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Hiroaki Nakashima, Naoki Segi, Sadayuki Ito, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Akihiro Yamaji, Kota Watanabe, Junichi Yamane, Kazuki Takeda, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Nobuyuki Suzuki, Kenji Kato, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Akiyoshi Kuroda, Gen Inoue, Kenichiro Kakutani, Yuji Kakiuchi, Katsuhito Kiyasu, Hiroyuki Tominaga, Hiroto Tokumoto, Yoichi Iizuka, Eiji Takasawa, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Haruki Funao, Yasushi Oshima, Takashi Kaito, Daisuke Sakai, Toshitaka Yoshii, Tetsuro Ohba, Bungo Otsuki, Shoji Seki, Masashi Miyazaki, Masayuki Ishihara, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Delirium Risk Score in Elderly Patients with Cervical Spinal Cord Injury and/or Cervical Fracture. J Clin Med. 2023.03; 12(6); 2387

71. Kurando Utagawa, Takaei Shin, Hironori Yamada, Hiroki Ochi, Satoko Sunamura, Aiko Unno, Chihiro Akazawa, Masatsugu Ema, Shu Takeda, Atsushi Okawa, Shingo Sato. Three-dimensional visualization of neural networks inside bone by Osteo-DISCO protocol and alteration of bone remodeling by surgical nerve ablation. Sci Rep. 2023.03; 13(1); 4674

72. Naoki Yamamoto, Ryohei Takada, Tetsuya Jinno, Kazumasa Miyatake, Naoto Watanabe, Hideyuki Koga, Toshitaka Yoshii, Kazuyoshi Yagishita, Atsushi Okawa. Wear rate and osteolysis in two types of second-generation annealed highly cross-linked polyethylene in total hip arthroplasty: A retrospective comparative study with a minimum of five years. Orthop Traumatol Surg Res. 2023.02; 109(1); 103147

73. Takuya Takahashi, Toshitaka Yoshii, Kanji Mori, Shigeto Kobayashi, Hisashi Inoue, Kurisu Tada, Naoto Tamura, Takashi Hirai, Nobuhiro Sugimura, Narihito Nagoshi, Satoshi Maki, Keiichi Katsumi, Masao Koda, Kazuma Murata, Kazuhiro Takeuchi, Hiroaki Nakashima, Shiro Imagama, Yoshiharu Kawaguchi, Masashi Yamazaki, Atsushi Okawa. Comparison of radiological characteristics between diffuse idiopathic skeletal hyperostosis and ankylosing spondylitis: a multicenter study. Sci Rep. 2023.02; 13(1); 1849

74. Makoto Kurano, Masahiko Sumitani, Yoshiyuki Akiyama, Masaki Yamada, Daiki Fujimura, Satoshi Yamaki, Kuniyuki Kano, Junken Aoki, Kentaro Hayakawa, Takuya Takahashi, Takashi Hirai, Atsushi Okawa, Haruki Kume, Toru Ogata, Sakae Tanaka, Hirotaka Chikuda, Yutaka Yatomi. Usefulness of lysophosphatidylcholine measurement in the cerebrospinal fluid for differential diagnosis of neuropathic pain: Possible introduction into clinical laboratory testing. Clin Chim Acta. 2023.02; 541; 117249

75. Shun Okuwaki, Toru Funayama, Masao Koda, Fumihiko Eto, Akihiro Yamaji, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Kei Ando, Hiroaki Nakashima, Naoki Segi, Kota Watanabe, Satoshi Nori, Kazuki Takeda, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Nobuyuki Suzuki, Kenji Kato, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Hidetomi Terai, Koji Tamai, Eiki Shirasawa, Gen Inoue, Kenichiro Kakutani, Yuji Kakiuchi, Katsuhito Kiyasu, Hiroyuki Tominaga, Hiroto Tokumoto, Yoichi Iizuka, Eiji Takasawa, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Haruki Funao, Yasushi Oshima, Takashi Kaito, Daisuke Sakai, Toshitaka Yoshii, Tetsuro Ohba, Bungo Otsuki, Shoji Seki, Masashi Miyazaki, Masayuki Ishihara, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Characteristics of the cervical spine and cervical cord injuries in older adults with cervical ossification of the posterior longitudinal ligament. Sci Rep. 2023.02; 13(1); 2689

76. Takahisa Ogawa, Kazuyuki Fukushima, Miyuki Niimi, Haggai Schermann, Takayuki Motoyoshi, Janelle Moross, Motonori Hashimoto, Takashi Hirai, Takeo Fujiwara, Atsushi Okawa, Yoshiro Kurosa, Toshitaka Yoshii. A Comparison of Spinopelvic Alignment and Quality of Life between Farmers and Non-Farmers: A Cross-Sectional Population-Based Study in a Japanese Rural Area. J Clin Med. 2023.02; 12(4); 1393

77. Kyohei Sakaki, Kenichiro Sakai, Yoshiyasu Arai, Ichiro Torigoe, Masaki Tomori, Takashi Hirai, Hiroaki Onuma, Yutaka Kobayashi, Atsushi Okawa, Toshitaka Yoshii. Prospective Comparative Study of Dysphagia after Subaxial Cervical Spine Surgery: Cervical Spondylotic Myelopathy and Posterior Longitudinal Ligament Ossification. J Clin Med. 2023.02; 12(5); 1774

78. Yohei Yamada, Noriaki Yokogawa, Satoshi Kato, Takeshi Sasagawa, Hiroyuki Tsuchiya, Hiroaki Nakashima, Naoki Segi, Sadayuki Ito, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Akihiro Yamaji, Junichi Yamane, Satoshi Nori, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Nobuyuki Suzuki, Kenji Kato, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Hidetomi Terai, Koji Tamai, Akiyoshi Kuroda, Gen Inoue, Kenichiro Kakutani, Yuji Kakiuchi, Katsuhito Kiyasu, Hiroyuki Tominaga, Hiroto Tokumoto, Yoichi Iizuka, Eiji Takasawa, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Haruki Funao, Yasushi Oshima, Takashi Kaito, Daisuke Sakai, Toshitaka Yoshii, Tetsuro Ohba, Bungo Otsuki, Shoji Seki, Masashi Miyazaki, Masayuki Ishihara, Seiji Okada, Shiro Imagama, Kota Watanabe. Effects of Dementia on Outcomes after Cervical Spine Injuries in Elderly Patients: Evaluation of 1512 Cases in a Nationwide Multicenter Study in Japan. J Clin Med. 2023.02; 12(5); 1867

79. Takuma Inai, Yoshiyuki Kobayashi, Chenhui Huang, Koji Fujita, Masahiro Fujimoto, Fumiyuki Nihey, Akiko Yamamoto, Kanako Nakajima, Kentaro Nakahara, Gaku Kutsuzawa, Kenichiro Fukushi, Shoma Kudo. Identification of characteristics of foot position and angle during swing phase in fallers using principal component analysis. Front Bioeng Biotechnol. 2023.02; 11; 1117884

80. Yamada Kentaro, Toyoda Hiromitsu, Hyakumachi Takahiko, Abe Yuichiro, Takahashi Shinji, Suzuki Akinobu, Terai Hidetomi, Nakamura Hiroaki. Less-invasive decompression procedures can reduce risk of reoperation for lumbar spinal stenosis with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis extended to the lumbar segment: analysis of two retrospective cohorts EUROPEAN SPINE JOURNAL. 2023.02; 32(2); 505-516

81. Haruhiko Shimura, Tatsunobu Ikeda, Koji Fujita, Hidetoshi Kaburagi, Akimoto Nimura. Radiation educational program significantly reduces intraoperative fluoroscopy time during locking plate fixation for distal radius fractures. J Orthop Sci. 2023.01; 28(1); 251-254

82. Akane Ariga, Yuji Kohno, Yusuke Nakagawa, Toshifumi Watanabe, Hiroki Katagiri, Toshiyuki Ohara, Mikio Shioda, Nobutake Ozeki, Masaki Amemiya, Atsushi Okawa, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Simultaneous bilateral total knee arthroplasty is safe and effective for patients in different ages. J Orthop Sci. 2023.01; 28(1); 173-179

83. Masahiko Watanabe, Hirotaka Chikuda, Yasushi Fujiwara, Takeo Furuya, Tsukasa Kanchiku, Narihito Nagoshi, Norimitsu Wakao, Toshitaka Yoshii, Toshihiko Taguchi. Japanese Orthopaedic Association (JOA) Clinical practice guidelines on the Management of Cervical Spondylotic Myelopathy,2020 - Secondary publication. J Orthop Sci. 2023.01; 28(1); 1-45

84. Kyohei Sakaki, Toshitaka Yoshii, Yoshiyasu Arai, Ichiro Torigoe, Masaki Tomori, Hiroaki Onuma, Takahisa Ogawa, Akihiro Hirakawa, Kenichiro Sakai, Atsushi Okawa. Effectiveness of Lumbosacral Orthosis After Discectomy for Lumbar Disk Herniation: A Prospective Comparative Study. Spine (Phila Pa 1976). 2023.01; 48(1); 15-20

85. Akane Ariga, Hidetsugu Suzuki, Kazuyuki Fukushima, Koji Fujita. Evaluation of Ulnar Setting of Volar Locking Plates for Distal Radius Fractures Using Modified Skyline View. J Hand Surg Glob Online. 2023.01; 5(1); 17-20

86. Kentaro Yamada, Yusuke Hori, Toshitaka Yoshii, Shunki Iemura, Atsushi Okawa. Pneumothorax by Penetrating Endplate Screw for Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis-Related Thoracolumbar Fracture. Cureus. 2023.01; 15(1); e33440

87. Motoya Kobayashi, Noriaki Yokogawa, Satoshi Kato, Takeshi Sasagawa, Hiroyuki Tsuchiya, Hiroaki Nakashima, Naoki Segi, Sadayuki Ito, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Akihiro Yamaji, Junichi Yamane, Satoshi Nori, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Nobuyuki Suzuki, Kenji Kato, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Hidetomi Terai, Koji Tamai, Akiyoshi Kuroda, Gen Inoue, Kenichiro Kakutani, Yuji Kakiuchi, Katsuhito Kiyasu, Hiroyuki Tominaga, Hiroto Tokumoto, Yoichi Iizuka, Eiji Takasawa, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Haruki Funao, Yasushi Oshima, Takashi Kaito, Daisuke Sakai, Toshitaka Yoshii, Tetsuro Ohba, Bungo Otsuki, Shoji Seki, Masashi Miyazaki, Masayuki Ishihara, Seiji Okada, Shiro Imagama, Kota Watanabe. Risk Factors for Early Mortality in Older Patients with Traumatic Cervical Spine Injuries-A Multicenter Retrospective Study of 1512 Cases. J Clin Med. 2023.01; 12(2); 708

88. Naoki Segi, Hiroaki Nakashima, Masaaki Machino, Sadayuki Ito, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Kota Watanabe, Satoshi Nori, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiko Hasegawa, Tomohiro Yamada, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Nobuyuki Suzuki, Kenji Kato, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Hidetomi Terai, Koji Tamai, Gen Inoue, Eiki Shirasawa, Kenichiro Kakutani, Yoichi Iizuka, Eiji Takasawa, Koji Akeda, Katsuhito Kiyasu, Hiroyuki Tominaga, Hiroto Tokumoto, Haruki Funao, Yasushi Oshima, Toshitaka Yoshii, Takashi Kaito, Daisuke Sakai, Tetsuro Ohba, Shoji Seki, Bungo Otsuki, Masayuki Ishihara, Masashi Miyazaki, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Epidemiology of Cervical Fracture/Cervical Spinal Cord Injury and Changes in Surgical Treatment Modalities in Elderly Individuals During a 10-year Period: A Nationwide Multicenter Study in Japan. Global Spine J. 2023.01; 21925682231151643

89. Isamu Ozaki, Miho Akaza, Taishi Watanabe, Yuki Miyano, Yoshiaki Adachi, Shigenori Kawabata. Detailed magnetoelectric analysis of a nerve impulse propagation along the brachial plexus. Clin Neurophysiol. 2023.01; 145; 129-138

90. Hideki Shigematsu, Go Yoshida, Shinji Morito, Masahiro Funaba, Nobuaki Tadokoro, Masaaki Machino, Kazuyoshi Kobayashi, Muneharu Ando, Shigenori Kawabata, Kei Yamada, Tsukasa Kanchiku, Yasushi Fujiwara, Shinichirou Taniguchi, Hiroshi Iwasaki, Masahito Takahashi, Kanichiro Wada, Naoya Yamamoto, Akimasa Yasuda, Hiroki Ushirozako, Jun Hashimoto, Kei Ando, Yukihiro Matsuyama, Shiro

Imagama. Current Trends in Intraoperative Spinal Cord Monitoring: A Survey Analysis among Japanese Expert Spine Surgeons. Spine Surg Relat Res. 2023.01; 7(1); 26-35

91. Hasegawa S, Yoshimura H, Mochizuki T, Arai R, Akita K, Nimura A. High diagnostic accuracy of magnetic resonance imaging in detecting subscapularis tendon tears by focusing on the most superior portion of the subscapularis tendon. Surgical and radiologic anatomy : SRA. 2023.01; 45(1); 17-24

92. Kota Aritaki, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Akira Yoshizawa, Shohei Hasegawa, Ryosuke Yanagida, Motonori Hashimoto, Takashi Hirai, Kohei Yamaguchi, Ayako Nakane, Toshitaka Yoshii, Atsushi Okawa, Haruka Tohara . Kinematic analysis of chewing and swallowing function after cervical spine surgery European Spine Journal. 2023;

93. Aoyama J, Iha H, Ishikawa M, Sagawa H, Hirai S, Fujita K, Fujii S, Sumita K. A Case of Dural Arteriovenous Fistula Following Cerebral Venous Sinus Thrombosis Associated with the COVID-19 Vaccine. Journal of neuroendovascular therapy. 2023; 18(1); 24-28

1. 牧 聡, 古矢 丈雄, 吉井 俊貴, 大鳥 精司, 山崎 正志, 大川 淳. 【整形外科領域における人工知能 (AI)】機械学習による頸椎後縦靱帯骨化症患者の手術成績の予測モデルの構築 整形 · 災害外科. 2023.09; 66(10); 1145-1148

2. 宇都宮 啓, 堤 真大, 二村 昭元. スポーツ外傷 · 障害診療のための解剖学 (第 7 回)　大腿骨寛骨臼インピンジメント 臨床スポーツ医学. 2023.07; 40(7); 764-768

3. 平井 高志, 榊 経平, 加藤 剛, 富澤 將司, 湯浅 将人, 高橋 拓也, 江川 聡, 松倉 遊, 猪瀬 弘之, 吉井 俊貴, 大川 淳. 腰椎椎間板ヘルニアに対するコンドリアーゼ椎間板内注射　多施設共同研究 Journal of Spine Research. 2023.06; 14(6); 891-896

4. Qu Zhen, Koga Hideyuki, Tsuji Kunikazu, Tang Guo, Yang Yang, Yoshihara Aritoshi, Katakura Mai, Katagiri Hiroki, Miyatake Kazumasa, Nakamura Tomomasa, Sekiya Ichiro, Nakagawa Yusuke. Hyaluronic acid sheet transplantation attenuates infrapatellar fat pad fibrosis and pain in a rat arthritis model JOURNAL OF ORTHOPAEDIC RESEARCH. 2023.05;

5. 川端 茂徳, 佐々木 亨, 橋本 淳, 星野 優子. 【AI· BMI· 新規技術 · デバイスと神経疾患】神経磁界計測による脊髄 · 末梢神経の機能診断 脳神経内科. 2023.05; 98(5); 660-664

6. 坂 なつみ, 二村 昭元. スポーツ外傷 · 障害診療のための解剖学 (第 5 回)　TFCC 損傷 臨床スポーツ医学. 2023.05; 40(5); 538-543

7. 黒田 都, 宮武 和正, 吉井 俊貴, 若林 良明, 大川 淳. 肺血栓塞栓症を契機に診断された Osler-Weber-Rendu syndrome の 1 例 関東整形災害外科学会雑誌. 2023.04; 54(2); 46-49

8. 平井 高志, 吉井 俊貴, 大川 淳, 川口 善治. 【脊椎脊髄領域の画像診断-最新の知識と進歩】成人の脊椎脊髄疾患の画像診断　全脊柱 CT を用いた脊柱靱帯骨化巣局在パターンの評価 整形 · 災害外科. 2023.04; 66(5); 559-566

9. 稲井 卓真, 小林 吉之, 中嶋 香奈子, 沓澤 岳, 工藤 将馬, 二瓶 史行, 中原 謙太郎, 黄 晨暉, 藤田 浩二, 山本 皓子. 転倒経験者と非転倒経験者を判別するための最適な歩行特徴の特定　足部クリアランス測定部位の違いと遊脚期の最大 · 最小クリアランスに着目して 日本転倒予防学会誌. 2023.03; 9(2); 13-24

10. 佐々木 真一, 黒田 浩司, 平井 高志, 湯浅 将人, 大川 淳. 腰椎後方除圧術後再手術症例に対する腰椎側方進入椎体間固定術 (Lateral Lumbar Interbody Fusion) の有用性 臨床整形外科. 2023.03; 58(3); 325-329

11. 井原 拓哉, 安川 詢, 辛島 良介, 藤田 浩二. 深度センサを用いた Scapular dyskinesis 検出手法の確立 デサントスポーツ科学. 2023.02; 44; 156-163

12. 王 耀東，大川 淳. 転倒衝撃吸収床材による脆弱性大腿骨近位部骨折予防効果を検証する CT 有限要素解析モデルの開発 骨折. 2023; 45(1); 276

13. 猪瀬 弘之，加藤 剛，吉井 俊貴，高橋 邦彦，大川 淳. 骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存的治療後の慢性期の生活の質に関与する因子 整形外科. 2023; 74(5); 799-804

14. 志村 治彦, 若林 良明, 山田 哲也, 白川 健, 佐藤 哲也, 藤田 浩二, 新関 祐美, 鈴木 志郎, 鏑木 秀俊, 鈴木 英嗣. 橈骨頭粉砕骨折に対する人工橈骨頭置換術 36 例の治療成績と合併症　平均 37 ヵ月の後ろ向き調査 日本肘関節学会雑誌. 2023; 30(2); 125-128

15. 佐々部 敦, 志村 治彦, 藤田 浩二, 鏑木 秀俊, 二村 昭元. 小児 floating elbow 6 例の治療経験 日本肘関節学会雑誌. 2023; 30(2); 36-39

[書籍等出版物]

1. 王 耀東，大川 淳. Monthy Book Orthopaedics vol.36(no.7) 【非定型大腿骨骨折をひも解く】大川淳 · 王耀東編. 全日本病院出版会, 2023.07

[総説]

1. Tomoko Sakai, Chisato Hoshino, Masanobu Hirao, Megumi Nakano, Yusuke Takashina, Atsushi Okawa. Rehabilitation of Patients with Post-COVID-19 Syndrome: A Narrative Review Progress in Rehabilitation Medicine. 2023.08; 2023(8);

1. 室生 暁, 二村 昭元, 秋田 恵一. 第12回　コアスタビリティー 臨床スポーツ医学. 2023.12; 40(12); 1296-1300
2. 橋本 淳, 川端 茂徳, 佐々木 亨, 足立 善昭, 吉井 俊貴. 【生体磁界計測による脊髄 · 神経 · 筋活動の評価】生体磁界計測を用いた脊髄 · 神経根の神経電気活動の非侵襲的機能評価 臨床神経生理学. 2023.12; 51(6); 668-673
3. 山田 賢太郎. 【整形外科ならではの合併症と知っておきたい併存疾患】(2 章) 脊椎術後に起こりやすい合併症　気道閉塞 整形外科看護. 2023.12; (2023 冬季増刊); 48-54
4. 猪瀬 弘之. 【整形外科ならではの合併症と知っておきたい併存疾患】(7 章) 高齢者によくみられる併存疾患　骨粗鬆症 整形外科看護. 2023.12; (2023 冬季増刊); 196-201
5. 猪瀬 弘之. 【整形外科ならではの合併症と知っておきたい併存疾患】(2 章) 脊椎術後に起こりやすい合併症　移植骨の脱転 · 採骨部の異常 整形外科看護. 2023.12; (2023 冬季増刊); 42-47
6. 王 耀東. 【偽関節治療のエキスパートを目指そう】大腿骨転子下偽関節の治療 関節外科. 2023.11; 42(11); 1276-1286
7. 吉井 俊貴, 橋本 泉智. 【わかればみえる! 脊椎手術術野へのアプローチ】脳表ヘモジデリン沈着症　硬膜の解剖と修復方法 脊椎脊髄ジャーナル. 2023.11; 36(10); 739-745
8. 志村 治彦, 藤田 浩二, 二村 昭元. 【上腕骨骨折の治療戦略】小児上腕骨遠位骨端離開の診断と治療 関節外科. 2023.10; 42(10); 1147-1152
9. 吉原有俊, 古賀英之. 卒後研修講座 半月板損傷に対する手術的治療 整形外科. 2023.10; 74(11); 1189-1195
10. 加来 拓実. 【整形外科外来 Red Flags 2023】骨折 · 脱臼の Red Flags Orthopaedics. 2023.10; 36(10); 9-17
11. 山本 皓子, 藤田 浩二. 整形トピックス　インソール埋め込み型慣性センサを用いた日常歩行の計測 整形外科. 2023.10; 74(11); 1180
12. 藤田 浩二. 【整形外科領域における人工知能 (AI)】手根管症候群検出 AI 整形 · 災害外科. 2023.09; 66(10); 1175-1180
13. 王 耀東. 脛骨顆部骨折に対するプレート固定術 新 OS NEXUS No.7 下肢の骨折手術②膝〜足部. 2023.08; 56-69
14. 藤田 浩二. 【神経 · 筋疾患の超音波検査】手根管症候群 (CTS) の病態と超音波検査 臨床検査. 2023.08; 67(8); 865-869
15. 二村 昭元, Tharnmanularp Suthasinee. 膝蓋骨支持機構の解剖 関節外科. 2023.07; 42(7); 710-715
16. 王 耀東. 非定型大腿骨骨折のサブタイプ分類と臨床応用 Monthy Book Orthopaedics【非定型大腿骨骨折をひも解く】大川淳 · 王耀東編. 2023.07; 36(7); 25-31
17. 加来 拓実, 王 耀東. 骨転移診療における非定型大腿骨骨折の発症リスクと治療 Monthy Book Orthopaedics【非定型大腿骨骨折をひも解く】大川淳 · 王耀東編. 2023.07; 36(7); 76-83
18. 松倉 遊. 専門医のための症例問題トレーニング　脊椎 · 脊髄疾患 整形外科. 2023.06; 74(7); 812-817
19. 川端 茂徳, 佐々木 亨, 橋本 淳, 星野 優子. 【AI· BMI· 新規技術 · デバイスと神経疾患】神経磁界計測による脊髄 · 末梢神経の機能診断 脳神経内科. 2023.05; 98(5); 660-664
20. 江川 聡, 平井 高志. X 線診断 Q&A 整形外科. 2023.05; 74(5); 455-456

21. 川端 茂徳, 橋本 淳, 吉井 俊貴, 大川 淳. 【術中脊髄機能モニタリングの UP TO DATE】脊磁図による脊髄・馬尾・神経根の機能評価 脊椎脊髄ジャーナル. 2023.04; 36(2); 131-134

22. 川端 茂徳, 橋本 淳, 渡部 泰士, 関原 謙介, 足立 善昭, 大川 淳. 【脊椎脊髄領域の画像診断-最新の知識と進歩】脊椎脊髄の画像診断の進歩と最新の知識　脊磁図による脊髄・馬尾・神経根の機能診断 整形・災害外科. 2023.04; 66(5); 501-504

23. 吉井 俊貴. 【最新主要文献とガイドラインでみる　整形外科学レビュー　2023-'24】(I 章) 脊椎　頸・胸椎　脊柱靱帯骨化症に対する診断と治療 整形外科学レビュー. 2023.04; 2023-'24; 8-14

24. 王 耀東, 吉井 俊貴, 大川 淳. ロコモティブシンドロームと骨折に関する今後の課題　非定型大腿骨骨折のサブタイプ分類とその臨床応用 日本整形外科学会雑誌. 2023.04; 97(4); 238-244

25. 佐々木 亨. Vocabulary　神経磁界計測装置 整形外科. 2023.04; 74(4); 368

26. 船内 雄生, 阿江 啓介. 整形外科手術　名人の know-how　ナビゲーションを用いた骨・軟部腫瘍切除 (CATS) 整形・災害外科. 2023.03; 66(3); 232-235

27. 瀬川 裕子. 乳児股関節脱臼 東京小児科医会報. 2023.03; 41(3); 87-90

28. 歌川 蔵人, 平井 高志, 吉井 俊貴. 【しびれ Q&A-ビビッとシビれるクリニカルパール付き!】しびれ診療の Q に答えます!　神経障害性疼痛治療薬とセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬の使い方は? 総合診療. 2023.02; 33(2); 200-203

29. 江川 聡. 【しびれ Q&A-ビビッとシビれるクリニカルパール付き!】しびれ診療の Q に答えます!　頸椎症・腰椎症のしびれの特徴は? 総合診療. 2023.02; 33(2); 150-153

30. 二村 昭元. スポーツ外傷・障害診療のための解剖学　第 1 回　身体機能と解剖学 臨床スポーツ医学. 2023.01; 40(1); 80-85

[講演・口頭発表等]

1. Yoto Oh. Hybrid knee arthrodesis using a Masquelet induced membrane technique for severe periprosthetic joint infection after TKA: a case report. 2nd Japan-Taiwan Exchange Trauma Conference (JT-ETC) 2023.12.02 Taiwan

2. Jun Hashimoto, Shigenori Kawabata, Takashi Hirai, Yu Matsukura, Satrou Egawa, Toshitaka Yoshii. The Incidence and Alert Timing of Spontaneous Electromyogram in Surgery for Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament. 51st Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society (CSRS) 2023.12.01 Las Vegas

3. Go Uesugi, Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Jun Hashimoto, Masashi Yamazaki, Yoshiharu Kawaguchi. The Comparison between Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament and Cervical Spondylotic Myelopathy Patients in Health-Related Quality of Life: a Multicenter Cross-Sectional Study. 51st Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society (CSRS) 2023.12.01 Las Vegas

4. Yu Matsukura, Toshitaka Yoshii, Hiroyuki Inose, Takashi Hirai, Satoru Egawa, Kentaro Yamada, Jun Hashimoto, Kurando Utagawa, Yuri Tamura, Go Uesugi , Atsushi Okawa . Investigation of Risk Factors of C5 Palsy After Anterior Cervical Spine Surgery. 51st Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society (CSRS) 2023.11.30 Las Vegas

5. Motonori Hashimoto, Toshitaka Yoshii, Satoru egawa, Takashi Hirai, Kenichiro Sakai. Comparison of complication frequency after anterior cervical spine surgery - CSM vs OPLL. 51st Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society (CSRS) 2023.11.29 Las Vegas

6. Toshitaka Yoshii, Yu Matsukura, Satoru Egawa, Kenichiro Sakai, Takashi Hirai, Masao Koda, Masashi Yamazaki. Preoperative Symptom Duration Influences Neurological Recovery and Achievement of the Minimal Clinically Important Difference After Surgical Treatment of Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament . 51st Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society (CSRS) 2023.11.29 Las Vegas

7. Motonori Hashimoto, Toshitaka Yoshii, Satoshi Egawa, Takashi Hirai. Imaging Features and Treatment of ossification of the posterior longitudinal ligament in the upper cervical spine. 51st Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society (CSRS) 2023.11.29 Las Vegas

8. Kiminori Hori, Makoto Konishi, Makiko Yamashita, Takashi Kamatani, Kyoko Yamashita, Yuki Funauchi, Keisuke Ae, Shigehisa Kitano, Koichi Matsuda, Tatsuhiko Tsunoda, Koji Ueda. Proteogenomic approach to explore prognostic biomarkers for myxoid liposarcoma. The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2023.09.23 Yokohama

9. Toshitaka Yoshii. Complications of OPLL surgery: incidence and prevention. Neuro Spine Congress 2023 2023.09.22 Korea

10. Koji Fujita. Motion analysis of the hand and Screening diseases . Department of Orthopaedics, National Cheng Kung University 2023.09.14 Tainan City, Taiwan

11. Koji Fujita. Creation of new technologies through medical-engineering collaboration . Department of Biomedical Engineering, National Cheng Kung University 2023.09.14 Tainan City, Taiwan

12. Nimura A, Fukai A. What is the lateral ulnar collateral ligament?; an anatomical study. 15th International congress on shoulder and elbow surgery 2023.09.06 Roma, Italy

13. Yoto Oh. The 2018 AO/OTA Fracture and Dislocation Classification Compendium. AO Trauma Course - Basic Principles of Fracture Management 2023.08 Yokohama

14. Yoto Oh. Ankle fractures—a systematic approach to their fixation. AO Trauma Course - Basic Principles of Fracture Management 2023.08 Yokohama

15. Yoto Oh. Treatment algorithms for the polytrauma patient. AO Trauma Course - Basic Principles of Fracture Management 2023.08 Yokohama

16. Yoto Oh. Implant removal—Why, when, and how?. AO Trauma Course - Basic Principles of Fracture Management 2023.08 Yokohama

17. Takumi Kaku, Yoto Oh. Urethral injury secondary to advanced fragility fracture of the pelvis: a case report. 23rd Pelvic Acetabular Fracture Conference 2023.07.01 Shizuoka

18. Toshitaka Yoshii. Short-term clinical results of total disc replacement and future perspective. The 38th Annual Meeting of the Neurospinal Society of Japan· The 14th Annual Meeting of Asia Spine 2023.06.17 Aichi

19. Ryohei Takada, Naoto Watanabe, Kazumasa Miyatake, Naohiko Sugita, Tetsuya Jinno, Toshitaka Yoshii, Hideyuki Koga. Development of non-invasive augmented reality-based navigation system for total hip arthroplasty. 22nd Annual Meeting of CAOS 2023.06.07 Pattaya, Thailand

20. Yuta Tanaka, Shigenori Kawabata, Toru Sasaki, Jun Hashimoto, Hisato Higashikawa, Yoshiaki Adachi, Taishi Watanabe, Yuki Miyano, Saeri Kaminaka, Yusuke Yamamoto, Hidetoshi Kaburagi, Koji Fujita, Akimoto Nimura, Toshitaka Yoshii, Atsushi Okawa. Evaluation of nerve conduction in patients with ulnar neuropathy at the elbow using magnetoneurography. ISACM and JBBS 2023 2023.05.25 Osaka

21. Hisato Higashikawa, Shigenori Kawabata, Yuta Tanaka, Miho Akaza, Yoshiaki Adachi, Taishi Watanabe, Yuki Miyano, Saeri Kaminaka, Yusuke Yamamoto, Toshitaka Yoshii, Atsushi Okawa. Evaluation of the lumbar spinal nerve activity after stimulation of the femoral nerve and lateral femoral cutaneous nerve using magnetoneurography. ISACM and JBBS 2023 2023.05.25 Osaka

22. Shigenori Kawabata, Jun Hashimoto, Toru Sasaki, Yoshiaki Adachi, Kensuke Sekihara, Taishi Watanabe , Toshitaka Yoshii. Evaluation of the spinal cord and the spinal nerve function by magnetospinography using SQUID sensor. ISACM and JBBS 2023 2023.05.25 Osaka

23. Yoshiaki Adachi, Shigenori Kawabata. Simultaneous recording of biomagnetic signals using SQUIDs and relocatable room-temperature flux sensors. ISACM and JBBS 2023 2023.05.25 Osaka

24. Isamu Ozakia, Miho Akaza, Taishi Watanabe, Yuki Miyano, Yoshiaki Adachi, Shigenori Kawabata. Peripheral Magnetoneurography with a SQUID Biomagnetometer System: Comparison with Surface Electric Potential Recordings. ISACM and JBBS 2023 2023.05.25 Osaka

25. Eriku Yamada, Takuya Ibara, Akiko Yamamoto, Kazuya Tsukamoto, Koji Fujita . Development of a Screening Method for Cervical Myelopathy by Hand Movements Using Machine Learning. XXVIII FESSH-EFSHT CONGRESS 2023.05.12 Italy

26. Koji Fujita, Takuya Ibara, Ryota Matsui, Hideo Saito, Yuta Sugiura. Smartphone-based machine learning algorithm for disease screening with the 10-s grip-and-release test. XXVIII FESSH-EFSHT CONGRESS 2023.05.11 Italy

27. Yoto Oh, Toshitaka Yoshii, Atsushi Okawa. Development of a CT-based finite element analysis model for verifying the effect of shock-absorbing floors on hip fracture prevention. 22nd European Congress of Trauma & Emergency Surgery 2023.05.07 Slovenia

28. Takumi Kaku, Yoto Oh, Toshitaka Yoshii, Atsushi Okawa. Urethral injury secondary to advanced fragility fracture of the pelvis: a case report. 22nd European Congress of Trauma & Emergency Surgery 2023.05.07 Slovenia

29. Yamada K, Yoshii T, Toba M, Egawa S, Matsukura Y, Hirai T, Inose H, Fushimi K, Okawa A. Risk factors for postoperative unexpected ambulatory status after spinal surgery for metastatic spinal tumor.. ISSLS 2023 SPINE WEEK 2023.05.04 Melbourne

30. Yamada K.. Life Expectancy is Poor in Patients with Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis-Related Pyogenic Vertebral Osteomyelitis. ISSLS 2023 SPINE WEEK 2023.05.04 Melbourne

31. Takashi Hirai, Toshitaka Yoshi, Kenichiro Sakai, Yoshiharu Kawaguchi. CSM case treated with salvage LAM after ACDF. ISSLS 2023 SPINE WEEK 2023.05.01 Melbourne, Australia

32. Takashi Hirai, Toshitaka Yoshi, Kenichiro Sakai, Yoshiharu Kawaguchi. Association between clinical symptoms and distribution of OPLL based on prospective nationwide study. ISSLS 2023 SPINE WEEK 2023.05.01 Melbourne, Australia

33. Shigenori Kawabata. Magnetoneurography(MNG) of Peripheral Nerves, brachial plexus and Magnetospinography (MSG). American Clinical Neurophysiology Society 2023 ANNUAL MEETING & COURSES 2023.03.25 Austin,USA

34. Takashi Hirai. Clinical and radiologic evidences in cervical compressive diseases. 13th Annual Meeting of CSRS-AP 2023.03.11 Yokohama

35. Yu Matsukura, Toshitaka Yoshii, Hiroyuki Inose, Takashi Hirai, Satoru Egawa, Kentaro Yamada, Jun Hashimoto, Kurando Utagawa, Yuri Tamura, Go Uesugi , Atsushi Okawa. Investigation of risk factors of C5 palsy after anterior cervical spine surgery. 13th Annual Meeting of CSRS-AP 2023.03.11 Yokohama

36. Kentaro Yamada, Toshitaka Yoshii, Mikayo Toba, Satoru Egawa, Yu Matsukura, Takashi Hirai, Hiroyuki Inose, Kiyohide Fushimi, Atsushi Okawa. Risk factors for postoperative unexpected ambulatory status after spinal surgery for metastatic spinal tumor. 13th Annual Meeting of CSRS-AP 2023.03.11 Yokohama

37. Kanji Mori, Toshitaka Yoshii, Satoru Egawa, Masao Koda, Takeo Furuya, Katsushi Takeshita, Morio Matsumoto, Shiro Imagama , Atsushi Okawa, Masashi Yamazaki. Impact of obesity on cervical ossification of the posterior longitudinal ligament: a nationwide prospective study. 13th Annual Meeting of CSRS-AP 2023.03.10 Yokohama

38. Toshitaka Yoshii. Early experiences and Short-term clinical results of Prestige LP in Japan. 13th Annual Meeting of CSRS-AP 2023.03.10 Yokohama

39. Akimoto Nimura. Reconsideration of anatomy in the lateral part of elbow joint; what are LCL and LUCL?. 7th FIPAR webinar 2023.02.01 Web

40. Yoto Oh. Interactive case presentation: Forearm. AO Trauma Masters Seminar 2023.02 Yokohama

41. Yoto Oh. Bone healing and the effect of patient factors and injury mechanism on fracture management. AO Trauma Course - Basic Principles of Fracture Management 2023.02 Yokohama

42. Yoto Oh. Fixation principles in osteoporotic bone—the geriatric patient. AO Trauma Course - Basic Principles of Fracture Management 2023.02 Yokohama

43. Yoto Oh. Fractures in the growing skeleton—how are they different?. AO Trauma Course - Basic Principles of Fracture Management 2023.02 Yokohama

44. Toshitaka Yoshii. Avoiding the Complications of Instrumented Fixation in Osteoporosis, and their management when they occur. DePuy Synthes Spine Inaugural Asia Pacific Osteoporosis Forum 2023.01.20

1. 吉井 俊貴. 脊椎疾患と神経障害性疼痛 Common diseaseから稀な疾患まで　. Orthopedics Live Symposium 2023.12.14 大宮
2. 瀬川 裕子. 血友病診療への整形外科の関わりについて. Hemophilia Crosstalk For Orthopedist 2023.12.09
3. 二村 昭元. 肩の解剖ー凍結肩との関連. 第 2 回　ASAHI ECHO BRUSH UP SEMINAR 2023.12.08 Web
4. 松倉 遊. 脊椎疾患における神経障害性疼痛〜かかりつけ医のための疼痛管理について〜 . 中野区 Toatal Care Support Seminar 2023.12.04 中野区
5. 酒枝 健太郎, 江川 聡, 橋本 泉智, 上杉 豪, 吉井 俊貴. 骨形成性化合物による in vivo における大腿骨増生効果の検証. 第 42 回 整形外科バイオマテリアル研究会 2023.12.02 三重
6. 豊田 宏光, 寺井 秀富, 山田 賢太郎, 加藤 相勲, 鈴木 亨暢, 高橋 真治, 玉井 孝司, 澤田 雄大, 岩前 真由, 岡村 悠貴, 小林 祐人, 中村 博亮. 変性すべり症や側弯症を合併した腰部脊柱管狭窄症に対する低侵襲除圧術が脊椎アライメントに与える影響. 第 31 回 日本腰痛学会 2023.12.02 徳島
7. 平井 高志, 高橋 拓也, 榊 経平, 富澤 將司, 加藤 剛, 湯浅 将人, 松倉 遊, 森下 真伍, 江川 聡, 橋本 淳, 吉井 俊貴. 高齢者腰椎椎間板ヘルニアに対するコンドリアーゼ椎間板内注射の成績 多施設共同研究. 第 31 回 日本腰痛学会 2023.12.02 徳島
8. 高橋 拓也, 平井 高志, 渡辺 航太, 榊 経平, 坂野 友啓, 高野 裕一, 江口 和, 谷口 優樹, 牧 聡, 青木 保親, 吉井 俊貴, 大鳥 精司. コンドリアーゼ治療と MED に対する後ろ向き比較研究　第 1 報　JSSR 社会保険等システム検討委員会 · プロジェクト委員会共同研究. 第 31 回 日本腰痛学会 2023.12.02 徳島
9. 小柳津 卓哉, 川畑 篤礼, 吉井 俊貴, Schoenecker, Jonathan. マウス腰椎後方固定モデルにおいて、移植骨細胞は内軟骨骨化を引き起こし、骨形成能を有する. 第 31 回 日本腰痛学会 2023.12.02 徳島
10. 蘇 晨, Yan, Mengmeng, 平井 高志, 榎本 光裕, 吉井 俊貴. マウス神経障害性疼痛モデルにおける腰部後根神経節小型ニューロンの経時的な変化. 第 31 回 日本腰痛学会 2023.12.02 徳島
11. Yan, Mengmeng, 蘇 晨, 榎本 光裕, 吉井 俊貴, 平井 高志. 神経損傷マウスにおけるグリア細胞とマクロファージの形態的 · 量的変化について. 第 31 回 日本腰痛学会 2023.12.02 徳島
12. 小沼 博明, 新井 嘉容, 沼野 藤希, 坂井 顕一郎, 友利 正樹, 榊 経平, 小林 裕, 吉井 俊貴. S1 Dual Outer Diameter Screw を用いた腰仙椎後方椎体間固定術の臨床成績の比較検討. 第 31 回 日本腰痛学会 2023.12.02 徳島
13. 田村 聡至, 大谷 和之, 中井 修, 平井 高志, 松倉 遊, 森下 真伍, 高橋 拓也, 吉井 俊貴. 腰椎変性すべり症に対する MIS-TLIF と PLF の治療成績の比較検討. 第 31 回 日本腰痛学会 2023.12.02 徳島
14. 川端 茂徳. 脊髄 · 末梢神経の磁界計測による評価（初学者向け）. 第 53 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2023.12.02 福岡
15. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 鳥羽 三佳代, 江川 聡, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 伏見 清秀, 大川 淳. 転移性脊椎腫瘍に対する脊椎手術後の退院時歩行能力不良の危険因子. 第 31 回 日本腰痛学会 2023.12.01 徳島
16. 橋本 淳, 川端 茂徳, 田中 雄太, 東川 尚人, 佐々木 亨, 足立 善昭, 渡部 泰士, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 高橋 拓也, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 山田 賢太郎, 平井 高志, 吉井 俊貴. 神経磁界計測による脊髄 · 神経根の非侵襲的神経機能評価. 第 53 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2023.12.01 福岡
17. 佐々木 亨, 川端 茂徳, 橋本 淳, 田中 雄太, 東川 尚人, 赤座 実穂, 足立 善昭, 宮野 由貴, 渡部 泰士, 佐藤 慎司, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 吉井 俊貴 . 上肢末梢神経障害に対する神経磁界計測による局所的伝導障害の可視化. 第 53 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2023.12.01 福岡
18. 東川 尚人, 川端 茂徳, 田中 雄太, 赤座 実穂, 足立 善昭, 渡部 泰士, 宮野 由貴, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 吉井 俊貴. 神経磁界計測装置を用いた、大腿神経、伏在神経、外側大腿皮神経刺激後の馬尾の非侵襲的機能評価. 第 53 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2023.12.01 福岡
19. 川端 茂徳. まるわかり！　MNG（神経磁図）による脊髄 · 末梢神経機能評価. 第 53 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2023.11.30 福岡
20. 田中 雄太, 川端 茂徳, 佐々木 亨, 橋本 淳, 東川 尚人, 足立 善昭, 渡部 泰士, 宮野 由貴, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 藤田 浩二, 二村 昭元, 吉井 俊貴 . 神経磁界計測による肘部尺骨神経障害の非侵襲的評価法. 第 53 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2023.11.30 福岡

21. 後迫 宏紀，吉田 剛，今釜 史郎，中島 宏彰，岩崎 博，川端 茂徳，山田 圭，藤原 靖，和田 簡一郎，舩場 真裕，松山 幸弘. 脊髄髄内および髄外腫瘍手術患者に対する Tc-MEP モニタリング成績の経年的変化-JSSR 脊髄 モニタリング委員会多施設前向き研究-. 第 53 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2023.11.30 福岡

22. 平井 高志, 江川 聡, 松倉 遊, 坂井 顕一郎, 小沼 博明, 新井 嘉容, 吉井 俊貴. 頚椎前方アプローチ 外視鏡を用いた教育と Augmented reality による有効で安全な除圧術. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.25 米子, 鳥取

23. 橋本 泉智, 坂井 顕一郎, 江川 聡, 松倉 遊, 平井 高志, 小沼 博明, 榊 経平, 友利 正樹, 鳥越 一郎, 新井 嘉容, 牛尾 修太, 進藤 重雄, 猪瀬 弘之, 大谷 和之, 吉井 俊貴. 頚椎前方手術後における合併症頻度と成績の比較 -CSM VS OPLL-. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.25 米子, 鳥取

24. 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 森下 真伍, 江川 聡, 山田 賢太郎, 橋本 淳, 橋本 泉智, 上杉 豪, 吉井 俊貴. 頚椎前方手術後の C5 麻痺発生のリスク因子の検討. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.25 米子, 鳥取

25. 森下 真伍, 平井 高志, 湯浅 将人, 山田 賢太郎, 松倉 遊, 江川 聡, 橋本 淳, 高橋 拓也, 田村 聡至, 新田 智久, 吉井 俊貴. 両開き式頚椎椎弓形成術における開大椎弓の変化 - 従来法とスーチャーアンカー法の CT 画像比較 -. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.25 米子, 鳥取

26. 牛尾 修太, 進藤 重雄, 大谷 和之, 草野 和生, 三宅 論彦, 川畑 篤礼, 中井 修, 吉井 俊貴. 胸椎後縦靭帯骨化症に対する骨化部浮上による前方除圧固定術の治療成績についての検討. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.25 米子, 鳥取

27. 山田 剛史, 坂井 顕一郎, 榊 経平, 吉井 俊貴 . 環軸椎亜脱臼術後環椎前弓骨折の 3 例. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.25 米子, 鳥取

28. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 鳥羽 三佳代, 工藤 篤, 江川 聡, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 伏見 清秀, 大川 淳. 転移性脊椎腫瘍手術に対する QI はがん診療拠点病院で良好か？ . 第 18 回 医療の質・安全学会学術集会 2023.11.25 神戸

29. 瀬川裕子. 脱臼歴のない幼児期寛骨臼形成不全症例に対してソルター手術は必要か？ —慎重派の立場から—. 第 34 回 日本小児整形外科学会学術集会 2023.11.24 神戸

30. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 工藤 篤, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 大川 淳. 頚椎前方手術後の気道緊急に対する医療従事者の action protocol の構築 - 症例報告システマティックレビュー -. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.24 米子

31. 橋本 泉智, 坂井 顕一郎, 江川 聡, 松倉 遊, 平井 高志, 小沼 博明, 榊 経平, 友利 正樹, 鳥越 一郎, 新井 嘉容, 牛尾 修太, 進藤 重雄, 猪瀬 弘之, 大谷 和之, 吉井 俊貴. 頚椎前方手術 1434 例の術後後上気道障害の頻度と危険因子および再挿管例 13 例の検討. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.24 米子, 鳥取

32. 上杉 豪, 平井 高志, 湯浅 将人, 新田 智久, 田村 聡至, 橋本 淳, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 吉井 俊貴. Cement-augmented fenestrated pedicle screw の短期使用成績. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.24 米子, 鳥取

33. 江川 聡, 平井 高志, 山田 賢太郎, 松倉 遊, 森下 真伍, 橋本 淳, 高橋 拓也, 吉井 俊貴. SAI screw の至適刺入高位の検討. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.24 米子, 鳥取

34. 高橋 拓也, 森 幹士, 井上 久, 平井 高志, 名越 慈人, 牧 聡, 勝見 敬一, 國府田 正雄, 今釜 史郎, 川口 善治, 山崎 正志, 吉井 俊貴. DISH、AS の全脊椎 CT における脊椎前方架橋と矢状面パラメーターとの関連性 -厚労科研脊柱靱帯骨化症研究班・多施設研究- . 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.24 米子, 鳥取

35. 吉田 剛, 後迫 宏紀, 今釜 史郎, 川端 茂徳, 安藤 宗治, 谷口 愼一郎, 山田 圭, 和田 簡一郎, 舩場 真裕, 重松 英樹, 岩崎 博, 橋本 淳, 森戸 伸治, 黒須 健太, 中島 宏彰, 松山 幸弘. 脊柱変形矯正手術における術中神経障害予防 - 脊髄モニタリングを用いた多施設前向き研究. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.24 米子, 鳥取

36. 後迫 宏紀, 吉田 剛, 黒須 健太, 岩崎 博, 和田 簡一郎, 田所 伸朗, 中島 宏彰, 世木 直喜, 高橋 雅人, 川端 茂徳, 橋本 淳, 舩場 真裕, 今釜 史郎, 松山 幸弘. 脊柱変形手術患者に対する Tc-MEP モニタリング成績の経年的変化 - JSSR 脊髄モニタリング委員会多施設前向き研究 -. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.24 米子, 鳥取

37. 坂井 顕一郎, 新井 嘉容, 沼野 藤希, 友利 正樹, 榊 経平, 小沼 博明, 小林 裕, 野田 佑真, 吉井 俊貴 . Overshunting - Associated Myelopathy を合併した頚椎症性脊髄症の 1 例. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.24 米子, 鳥取

38. 角谷 智, 福島 和之, 黒佐 義郎, 松岡 正, 吉井 俊貴. DISH を伴う胸腰椎椎体骨折（新 AO 分類：C N4M2）に対し良好な整復位での固定が難しかった 1 例. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2023.11.24 米子, 鳥取

39. 山本 皓子, 瀬川 裕子, 平井 高志, 鹿島田 健一, 高澤 啓, 我有 茉希, 安達 恵利子, 山口 玲子, 吉井 俊貴. 成人移行期の遺伝子診断で Desbuquois dysplasia の診断に至った両側股関節 · 膝関節脱臼の一例. 第 35 回 日本整形外科学会骨系統疾患研究会 2023.11.24 神戸

40. 及川 泰宏, 柿崎 潤, 佐久間 昭利, 福島 駿, 亀井 敬太, 東 由貴, 瀬川 裕子, 都丸 洋平, 亀ヶ谷 真琴, 西須 孝. 当院における Salter 法の進化：原法から Salter Z、その先へ. 第 34 回 日本小児整形外科学会学術集会 2023.11.24 神戸

41. 佐久間 昭利, 柿崎 潤, 及川 泰宏, 福島 駿, 亀井 啓太, 東 由貴, 瀬川 裕子, 西須 孝, 亀ヶ谷 真琴. テンションバンドプレートによる脚長補正後再拡大の予測因子について. 第 34 回 日本小児整形外科学会学術集会 2023.11.24 神戸

42. 瀬川裕子、柿崎潤、西須孝、及川泰宏、佐久間昭利、亀井敬太、東由貴、福島駿、都丸洋平、亀ヶ谷真琴. 10 歳以上発症のペルテス病に対する治療成績. 第 34 回 日本小児整形外科学会学術集会 2023.11.23 神戸

43. 柿崎 潤, 及川 泰宏, 佐久間 昭利, 瀬川 裕子, 福島 駿, 亀井 敬太, 東 由貴, 都丸 洋平, 西須 孝, 亀ヶ谷 真琴. 不安定型大腿骨頭すべり症の手術　—Modified Dunn Procedure/Open Reduction—. 第 34 回 日本小児整形外科学会学術集会 2023.11.23 神戸

44. 柿崎 潤, 及川 泰宏, 佐久間 昭利, 瀬川 裕子, 福島 駿, 亀井 敬太, 東 由貴, 都丸 洋平, 西須 孝, 亀ヶ谷 真琴. 小児期 · 思春期のスポーツ傷害　—股関節—. 第 34 回 日本小児整形外科学会学術集会 2023.11.23 神戸

45. 福島 駿, 柿崎 潤, 及川 泰宏, 佐久間 昭利, 亀井 敬太, 東 由貴, 瀬川 裕子, 都丸 洋平, 亀ヶ谷 真琴, 西須 孝. 大腿骨頭すべり症に対する in situ pinning 後の脚長不等について. 第 34 回 日本小児整形外科学会学術集会 2023.11.23 神戸

46. 亀井 敬太, 柿崎 潤, 及川 泰宏, 佐久間 昭利, 東 由貴, 福島 駿, 瀬川 裕子, 都丸 洋平, 西須 孝, 亀ヶ谷 真琴. 当院における軟骨無形成症に対する単支柱型創外固定器を用いた下腿骨延長術の成績. 第 34 回 日本小児整形外科学会学術集会 2023.11.23 神戸

47. 吉井 俊貴. 脊椎疾患と神経障害性疼痛 Common disease から稀な疾患まで　. Pain Live Symposium 2023.11.20 WEB

48. 二村 昭元. 肩の解剖ー最近の知見. 第 35 回香川県関節外科セミナー 2023.11.18 高松市, 香川県

49. 瀬川 裕子. 大学で働くということ. 第 13 回 順天堂大学女性研究者研究活動支援シンポジウム 2023.11.18

50. 江川 聡. 頸椎疾患における神経障害性疼痛の特徴. 神経障害性疼痛 Web Seminar ～脊椎ご専門の立場から～ 2023.11.16 オンライン

51. 橋本 淳. 腰椎疾患の神経障害性疼痛と新しい神経機能評価法. 神経障害性疼痛 Web Seminar ～脊椎ご専門の立場から～ 2023.11.14 オンライン

52. 吉井 俊貴. 頸椎疾患の手術治療と神経障害性疼痛. Orthopedics Expert Forum 2023.11.13 広島

53. 山本 凜太郎, 二村 昭元, 秋田 恵一. 停止腱の組成に基づく上腕三頭筋の解剖学的研究. 第 57 回日本作業療法学会 2023.11.11 宜野湾市, 沖縄県

54. 松倉 遊. 腰痛変性疾患の手術治療 ～特に前方手術の有用性について～. Spine Expert Lecture Meeting 2023.11.08 オンライン

55. 岩瀬 遼, 三條 伸夫, 川島 慶之, 吉井 俊貴, 横田 隆徳. 脳表ヘモジデリン沈着症の病型分類の試み. 第 41 回日本神経治療学会学術集会 2023.11.05 港区 高輪

56. 平井 高志, 高橋 拓也, 榊 経平, 富澤 將司, 加藤 剛, 湯浅 将人, 松倉 遊, 森下 真伍, 江川 聡, 吉井 俊貴. 腰椎椎間板ヘルニアによる下肢根性疼痛に対するコンドリアーゼ椎間板内注射 多施設共同研究 . 第 16 回 日本運動器疼痛学会 2023.11.04 富山

57. 田中 雄太, 川端 茂徳, 佐々木 亨, 橋本 淳, 東川 尚人, 足立 善昭, 渡部 泰士, 藤田 浩二, 二村 昭元, 吉井 俊貴. 神経磁界計測装置を用いた腕神経叢障害の非侵襲的評価. 第 16 回日本運動器疼痛学会 2023.11.03 富山

58. 森下 真伍, 平井 高志, 湯浅 将人, 山田 賢太郎, 松倉 遊, 江川 聡, 橋本 淳, 高橋 拓也, 吉井 俊貴. スーチャーアンカーを用いた両開き式頚椎椎弓形成術における開大椎弓の変化—従来法との CT 画像比較— . 第 16 回日本運動器疼痛学会 2023.11.03 富山

59. 吉井 俊貴. 髄膜異常を伴う脳表ヘモジデリン沈着症の診断と治療　-謎の病態に迫る-. 第 31 回 鶴舞脊椎脊髄カンファレンス 2023.11.02 名古屋

60. 王耀東. 整形外傷外科治療に求められる素養と応用力. 第 13 回岡山外傷カンファレンス 2023.11.01 岡山

61. 二村 昭元. セラピストへ伝えたい足関節周辺の詳細な臨床解剖学. Professional Therapy Seminars 2023.10.28 Web

62. 瀬川裕子、神野哲也、柿﨑潤、宮武和正、及川泰宏、高田亮平、橘哲也、天野祐輔. 思春期の寛骨臼形成不全に対する手術治療の適応と成績. 第 50 回 日本股関節学会学術集会 2023.10.27 福岡

63. 天野祐輔, 高田亮平, 宮武和正, 神野哲也, 吉井俊貴, 古賀英之. 3D ポーラスカップを用いた人工股関節全置換術における術中の寛骨臼側インプラント周囲骨折の発生頻度. 第 50 回　日本股関節学会学術集会 2023.10.26

64. 山本 皓子, 二村 昭元, 藤田 浩二. 初発橈骨遠位端骨折患者の日常歩行解析　脆弱性骨折リスク評価における足部評価の有用性. 第 48 回 日本足の外科学会学術集会 2023.10.26 大阪

65. 吉井 俊貴. 脊椎疾患の診断と治療 -common disease から稀な疾患まで-. 第 12 回 ちば運動器疼痛フォーラム 2023.10.25 千葉

66. 吉井 俊貴. 頚椎人工椎間板置換術 -日独米における現状-「人工椎間板の日本導入と初期の成績」. 第 38 回日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.20 つくば

67. 橋本 淳, 平井 高志, 歌川 蔵人, 江川 聡, 松倉 遊, 山田 賢太郎, 猪瀬 弘之, 川端 茂徳, 吉井 俊貴, 大川 淳. 頸椎後縦靱帯骨化症の後方除圧固定術後の骨化肥厚・伸展様式　術後中長期 CT による縦断的評価. 第 38 回日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.20 つくば

68. 瀬川 裕子. 小児血友病患者における関節評価の現状と展望. 第 1 回 小児血友病患者の関節を守る会 2023.10.20

69. 塚本 和矢, 松井 良太, 鏑木 秀俊, 小山 恭史, 井原 拓哉, 山田 英莉久, 山本 皓子, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 杉浦 裕太, 藤田 浩二. 手指動作の動画解析による手根管症候群スクリーニング法の開発. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.20 つくば

70. 白畑 航, 高田 亮平, 渡部 直人, 宮武 和正, 佐藤 彩美, 峯岸 香奈子, 吉井 俊貴, 古賀 英之. 経頭蓋電気運動誘発電位モニタリングを用いた仰臥位と側臥位における人工股関節全置換術中の大腿神経電位の比較. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.20 つくば

71. 古賀 英之, 中村 智祐, 中川 裕介, 大関 信武, 片倉 麻衣, 雨宮 正樹, 星野 傑, 吉原 有俊, 吉井 俊貴, 関矢 一郎. 変形性膝関節症の診療・研究の最前線「膝 OA 進行を予防する centralization 法」. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.20 つくば

72. 大関 信武, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 関矢 一郎. 変形性膝関節症の診療・研究の最前線「MRI 三次元解析による変形性膝関節症の病態解析」. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.20 つくば

73. 藤田 浩二. Computer assisted orthopaedic surgery がもたらす整形外科の次世代診療　運動器疾患スクリーニングのためのアプリケーション開発と社会実装の試み. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.20 つくば

74. 野寄 修平, 井原 拓哉, 安川 洵, 小阪 勇気, 藤田 浩二, 二村 昭元. 二次元画像を用いた立位体前屈評価の自動化. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.20 つくば

75. 安川 洵, 井原 拓哉, 野寄 修平, 藤田 浩二, 二村 昭元. 呼吸中の胸腹部運動の定量的測定法の確立と健常者における呼吸パターンの評価. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.20 つくば

76. 吉井 俊貴. 頚椎 OPLL 手術治療 前向き研究で得られたエビデンス. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

77. 橋本 淳, 川端 茂徳, 歌川 蔵人, 江川 聡, 松倉 遊, 山田 賢太郎, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 吉井 俊貴, 大川 淳. 頸椎後縦靱帯骨化症手術における自発筋電図の発生率と発生タイミング. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

78. 田中 寛来, 田村 友里, 小林 裕, 佐藤 信吾, 吉井 俊貴, 大川 淳, 猪瀬 弘之. Cdk1 による骨芽細胞から骨細胞への分化の制御. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

79. 東川 尚人, 川端 茂徳, 田中 雄太, 赤座 実穂, 足立 善昭, 渡部 泰士, 宮野 由貴, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 吉井 俊貴, 大川 淳. 脊磁図を用いた大腿神経刺激法と外側大腿皮神経刺激法による腰椎部神経活動の評価. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

80. 山本 皓子, 二瓶 史行, 中原 謙太郎, 山田 英莉久, 井原 拓哉, 塚本 和矢, 鏑木 秀俊, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 藤田 浩二. 橈骨遠位端骨折後のドミノ骨折機序の検討　インソール埋込み型慣性センサを用いた日常歩行の長期計測. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

81. 田中 雄太, 川端 茂徳, 佐々木 亨, 橋本 淳, 東川 尚人, 足立 善昭, 渡部 泰士, 藤田 浩二, 二村 昭元, 吉井 俊貴, 大川 淳. 神経磁界計測法を用いた肘部尺骨神経障害の非侵襲的評価. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

82. 塚本 和矢, 鏑木 秀俊, 井原 拓哉, 野呂瀬 美生, 山田 英莉久, 山本 皓子, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 藤田 浩二. 母指 CM 関節症における母指回内機能低下の動的解析. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

83. 宮城 正行, 池田 信介, 井上 玄, 高相 晶士, 吉井 俊貴, 大川 淳, 山崎 正志. 脊柱靱帯骨化症の診療 · 研究の最前線「頸椎後縦靱帯骨化症患者術後の神経障害性疼痛」. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

84. 高橋 洋平, 岡田 英次朗, 和田 簡一郎, 吉井 俊貴, 石川 哲大, 遠藤 照顕, 大場 哲郎, 坂野 友啓, 森 幹士, 加藤 裕幸, 松永 俊二, 竹内 一裕, 渡辺 航太, 山崎 正志, 松本 守雄, 中村 雅也. 脊柱靱帯骨化症の診療 · 研究の最前線「DISH を合併した脊椎損傷 多施設前向き研究」. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

85. 森 幹士, 吉井 俊貴, 今井 晋二, 山崎 正志. 脊柱靱帯骨化症の診療 · 研究の最前線「全脊柱 CT データ AS と DISH の違いを含めて」. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

86. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 大関 信武, 吉井 俊貴. 膝関節領域における最新の再生医療 · 細胞治療「細胞移植による半月板温存治療」. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

87. 井原 拓哉, 山田 英莉久, 山本 皓子, 塚本 和矢, 中川 裕介, 中村 智祐, 二村 昭元, 秋田 恵一, 藤田 浩二. 動画と機械学習を用いた歩行時の膝関節ラテラルスラスト検知モデルの開発と精度検証. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

88. 藤田 浩二, 二村 昭元, 高瀬 宏文, 井上 真伸, 石橋 竹志, 厚東 奈菜, 久保 雅洋, 小阪 勇気, 安川 洵, 野寄 修平, 川田 拓也. 産学連携によるヘルスケアサービスの社会実装の試み. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

89. 後迫 宏紀, 吉田 剛, 黒須 健太, 岩崎 博, 川端 茂徳, 藤原 靖, 和田 簡一郎, 田所 伸朗, 舩場 真裕, 今釜 史郎, 松山 幸弘. ハイリスク脊椎手術患者に対する Tc-MEP モニタリング成績の経年的変化　JSSR 脊髄モニタリング委員会多施設前向き研究. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2023.10.19 つくば

90. 二村 昭元, 佐々木 亨, 望月 智之, 浜田 純一郎, 秋田 恵一. 疎性結合組織を含めた烏口上腕靱帯後方部分の解剖. 第 50 回日本肩関節学会 2023.10.14 新宿区, 東京都

91. 二村 昭元. 腱板断裂に役立つ解剖知識のアップデート. 第 50 回日本肩関節学会 2023.10.13 新宿区, 東京都

92. 佐々木 亨, 望月 智之, 二村 昭元. 神経磁界計測を用いた腕神経叢部における神経活動電流の可視化. 第 50 回 日本肩関節学会学術集会 2023.10.13 新宿区, 東京都

93. 藤田 浩二. 医療現場観察によるニーズ探索と医療機器開発への展開 . BioJapan 2023 2023.10.12 横浜

94. 吉井 俊貴. 脊椎疾患の診断と治療 -common disease から稀な疾患まで-. 第 29 回 江東地区整形外科セミナー 2023.10.11 東京 ハイブリッド

95. 有賀茜、船内雄生、本橋正隆、佐藤信吾. 当院で治療した骨軟部腫瘍 3 例. 第 301 回関東骨軟部腫瘍研究会 2023.10.10 Web

96. 清水 正樹，畠野 真帆，宮岡 双葉， 林 祐子，伊良部 仁，瀬川 裕子，森尾 友宏. TNF 阻害薬開始後に皮疹の増悪を認めた乾癬を合併した慢性非感染性骨髄炎の女児例. 第 51 回 日本臨床免疫学会総会 2023.10.05 東京

97. 猪瀬 弘之, 吉井 俊貴. ビタミン D の充足状況は頸部脊髄症の手術成績に関連するか?. 第 25 回 日本骨粗鬆症学会 2023.10.01 名古屋

98. 平井 高志. 頚椎に関わる疼痛管理を再考する　現代人が抱えるスマホ首に向き合う. Spine & Pine Care Seminar 2023.09.29 京都

99. 猪瀬 弘之, 加藤 剛, 富澤 將司, 福島 和之, 吉井 俊貴. 骨形成促進作用を有する薬剤の効果と役割　ロモソズマブの重症骨粗鬆症に対する効果とその役割. 第 25 回 日本骨粗鬆症学会 2023.09.29 名古屋

100. 山本 皓子, 二瓶 史行, 中原 謙太郎, 山田 英莉久, 井原 拓哉, 塚本 和矢, 鏑木 秀俊, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 藤田 浩二. 橈骨遠位端骨折患者の歩行特徴とドミノ骨折リスク　インソール内臓慣性センサを用いた日常生活の歩行解析. 第 25 回 日本骨粗鬆症学会 2023.09.29 名古屋

101. 高田 亮平、杉田 直彦、天野 祐輔、宮武 和正、神野 哲也、吉井 俊貴、古賀 英之. 非侵襲ピンレス AR ナビゲーション OrthoPanther の成績 · 利点 · 欠点 · 未来. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.23 旭川

102. 片倉 麻衣, 中村 智裕, 大関 信武, 中川 裕介, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 吉井 俊貴, 古賀 英之. 足関節三角靱帯 足関節内側の靱帯や関節包の解剖学的特徴. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.23 旭川

103. 徳本 泰將, 雨宮 正樹, 中村 智祐, 大関 信武, 中川 裕介, 片倉 麻衣, 星野 傑, 吉原 有俊, 関矢 一郎, 吉井 俊貴, 古賀 英之. 内側開大式高位脛骨骨切り術後に著明な膝蓋骨低位と屈曲制限が生じ脛骨粗面移行術を施行した 1 例. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.23 旭川

104. 首藤 孝治, 進藤 重雄, 大谷 和之, 草野 和夫, 三宅 論彦, 牛尾 修太, 川畑 篤礼, 猪森 勇介, 賀来 晨弘, 中井 修, 吉井 俊貴. 脆弱性仙骨骨折により尿閉を呈した症例の検討. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.23 旭川

105. 齊藤 正徳, 阿江 啓介, 松本 誠一, 黒澤 紀雄, 林 直輝, 嶋田 荘太郎, 船内 雄生, 吉井 俊貴. PET-CT で腰椎に偶然見つかった, 悪性腫瘍を強く疑わせる局所浸潤性の強い色素性絨毛結節性滑膜炎の 1 例. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.23 旭川

106. 黒澤 紀雄, 阿江 啓介, 船内 雄生, 齊藤 正徳, 松本 誠一, 吉井 俊貴. USP6 遺伝子再構成の検出で診断された小児の硬膜外発生結節性筋膜炎. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.23 旭川

107. 田中 雄太, 川端 茂徳, 佐々木 亨, 橋本 淳, 東川 尚人, 足立 善昭, 渡部 泰士, 藤田 浩二, 二村 昭元, 吉井 俊貴. 神経磁界計測による革新的な肘部尺骨神経障害評価法の開発. 第 72 回東日本整形災害外科学会 2023.09.22 旭川

108. 有賀 茜、阿江 啓介、谷澤 泰介、早川 景子、船内 雄生、三浪 友輔、齊藤 正徳、黒澤 紀雄、松本 誠一. 術後晩期に腸管穿孔を生じた骨盤発生肉腫 3 例. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.22 旭川

109. 高田亮平, 杉田直彦, 天野祐輔, 宮武和正, 神野哲也, 吉井俊貴, 古賀英之. 非侵襲ピンレス AR ナビゲーション OrthoPanther の成績 · 利点 · 欠点. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.22

110. 杉浦 沙羅, 加来 拓実, 王 耀東, 吉井 俊貴. 足関節果部骨折術後の適切な創部管理は術後深部感染を防ぎ得るのか?. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.22 旭川

111. 加来 拓実, 王 耀東, 吉井 俊貴. 不安定性を伴う脆弱性骨盤輪骨折に遅発性尿道損傷を合併した 1 例. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.22 旭川

112. 野田 佑真, 坂井 顕一郎, 沼野 藤希, 友利 正樹, 榊 経平, 小沼 博明, 小林 裕, 新井 嘉容, 吉井 俊貴. 頸椎症性脊髄症に Overshunting associated myelopathy を合併した一例. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.22 旭川

113. 小沼 博明, 新井 嘉容, 沼野 藤希, 坂井 顕一郎, 友利 正樹, 榊 経平, 小林 裕, 吉井 俊貴. 頸椎前方椎体間固定術におけるスポンジ状人工骨および綿形状人工骨の有用性の比較検討. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.22 旭川

114. 榊 経平, 坂井 顕一郎, 小林 裕, 小沼 博明, 友利 正樹, 沼野 藤希, 野田 佑馬, 井上 眞太郎, 新井 嘉容, 吉井 俊貴. 頸椎可動域の術後成績への影響. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.22 旭川

115. 賀来 晨宏, 草野 和生, 進藤 重雄, 大谷 和之, 三宅 論彦, 牛尾 修太, 川畑 篤礼, 猪森 勇介, 首藤 孝治, 中井 修, 吉井 俊貴. 腰仙椎部椎間孔外病変の診断に神経根造影 CT が有用であった 3 例. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.22 旭川

116. 嶋田 壮太郎, 阿江 啓介, 松本 誠一, 齊藤 正徳, 黒澤 紀雄, 船内 雄生, 吉井 俊貴. 異型紡錘細胞/多形型脂肪性腫瘍の 4 症例. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 2023.09.22 旭川

117. 吉井 俊貴. シンポジウム 9 頚椎椎弓形成術の今（頚椎椎弓形成術はいらない？）「椎弓形成術の適応と限界」. 第 30 回記念日本脊椎 · 脊髄神経手術手技学会学術集会 2023.09.15 東京

118. 荒井 康夫, 川瀬 弘一, 岩中 督, 田中 裕次郎, 水沼 仁孝, 瀬戸 泰之, 隈丸 拓, 平泉 裕, 建部 将広, 平井 高志, 西井 幸信, 平澤 直之, 高見 俊宏, 種市 洋. K コードの分類体系の見直しに関する現状. 第 49 回 日本診療情報管理学会学術大会 2023.09.15 青森

119. 王耀東. 転子下 AFF に対する治療戦略. Stryker’s Trauma Symposium —外傷治療のエキスパートがおくる治療戦略— 2023.09.03

120. 平井 高志, 江川 聡, 松倉 遊, 森下 真伍, 橋本 淳, 高橋 拓也, 山田 賢太郎, 吉井 俊貴. 解剖学的異常構造である硬膜外索状物を伴った脊髄症の 2 例. Summer Forum for Practical Spinal Surgery 2023 2023.08.26 大宮

121. 吉井 俊貴. 最近の脊椎脊髄疾患のトピック —人工椎間板からヘモジデリン沈着症まで—. Summer Forum for Practical Spinal Surgery 2023 2023.08.26 大宮

122. 森下 真伍, 江川 聡, 平井 高志, 松倉 遊, 山田 賢太郎, 橋本 淳, 高橋 拓也, 田村 聡至, 新田 智久, 吉井 俊貴. 胸腰椎に多発した giant calcified hemiated discs の 1 例における病態の考察. Summer Forum for Practical Spinal Surgery 2023 2023.08.26 大宮

123. 小沼 博明, 坂井 顕一郎, 沼野 藤希, 友利 正樹, 榊 経平, 小林 裕, 野田 佑馬, 井上 眞太郎, 小野 裕二郎, 新井 嘉容, 吉井 俊貴. 拡張現実（AR）支援を用いた頚椎後縦靭帯骨化症に対する前方骨化浮上術. Summer Forum for Practical Spinal Surgery 2023 2023.08.26 大宮

124. 榊 経平, 新井 嘉容, 坂井 顕一郎, 沼野 藤希, 友利 正樹, 小沼 博明, 小林 裕, 野田 佑馬, 井上 眞太郎, 小野 裕二郎, 吉井 俊貴. 腰椎椎間板ヘルニアに対する術後外固定の有効性. Summer Forum for Practical Spinal Surgery 2023 2023.08.26 大宮

125. 坂井 顕一郎, 新井 嘉容, 沼野 藤希, 友利 正樹, 榊 経平, 小沼 博明, 小林 裕, 吉井 俊貴. 頚椎前方椎間板除圧固定術に対する術後外固定の有用性. Summer Forum for Practical Spinal Surgery 2023 2023.08.26 大宮

126. 加藤 剛, 藤井 俊一, 猪瀬 弘之, 吉井 俊貴. 急性期骨粗鬆症性椎体骨折に対する当科の治療 Strategy. Summer Forum for Practical Spinal Surgery 2023 2023.08.26 大宮

127. 藤田 浩二. 手指動作解析の疾患スクリーニングへの応用と神経障害性疼痛治療 . 疼痛診療 Up to DATE 2023.08.24 新潟

128. 藤田 浩二. 手指動作解析の疾患スクリーニングへの応用. Hand Surgery Up to Date 2023.08.24 新潟

129. 二村 昭元. 肩関節の解剖について. 第 15 回日本肩関節理学療法研究会 2023.08.19 足立区, 東京都

130. 二村 昭元. 関節包とその周囲を取り巻く筋 · 腱 · 腱膜そして疎性結合組織. 第 14 回さいとう整形セミナー 2023.08.12 Web

131. 吉井 俊貴. 脊椎疾患と神経障害性疼痛 Common disease から稀な疾患まで. Pain Live Symposium 2023.08.03 WEB

132. 川端 茂徳. 経頭蓋刺激 · 運動誘発電位 による術中脊髄モニタリング. 第 10 回術中脳脊髄モニタリングセミナー 2023.07.29 枚方

133. 瀬川 裕子、船内雄生、吉井俊貴、古賀英之、大川淳. 当科における整形外科クラークシップの振り返りと今後の展望. 第 55 回 日本医学教育学会大会 2023.07.29 長崎

134. 平井 高志. 頸椎に関わる疼痛管理　新しい生活様式がもたらした現代病に向き合う. 「新しい生活様式の痛みについて考える」疾患セミナー 2023.07.27 鳥取

135. 吉井 俊貴. 頸椎前方手術における止血 -当科の工夫-. Hemovision Web Seminar for Spine 2023.07.26 WEB

136. 瀬川 裕子. ペルテス病　ーはじめの一歩ー. 第 20 回 千葉小児整形外科セミナー 2023.07.23

137. 小林 由香利, 長岡 孝治, 佐藤 靖祥, 船内 雄生, 久保 花織, 西江 敏和, 岡本 幸子, 高橋 俊二, 垣見 和宏. 肺がんと軟部肉腫におけるネオアンチゲン特異的 TCR の探索とその性質の比較. 第 27 回 日本がん免疫学会総会 2023.07.19 三重

138. 有賀 茜, 阿江 啓介, 谷澤 泰介, 早川 景子, 船内 雄生, 三浪 友輔, 齊藤 正徳, 黒澤 紀雄, 松本 誠一. 術後晩期に腸管穿孔を生じた骨盤発生肉腫 3 例の臨床像. 第 56 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2023.07.14 新宿, 東京

139. 岩田 慎太郎, 押田 輝美, 田仲 和宏, 志村 敬彬, 遠藤 誠, 中村 知樹, 船内 雄生, 平賀 博明, 川井 章, 尾崎 敏文. 骨 · 軟部腫瘍領域における研究への患者 · 市民参画の重要性　JMOG 骨軟部腫瘍グループ患者 · 医療者意見交換会アンケート調査. 第 56 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2023.07.14 新宿, 東京

140. 阿江 啓介, 谷澤 泰介, 早川 景子, 三浪 友輔, 齊藤 正徳, 黒澤 紀雄, 有賀 茜, 白川 さくら, 船内 雄生, 松本 誠一, 川口 智義. 小児肉腫治療における小児 (腫瘍) 科との連携. 第 56 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2023.07.14 新宿, 東京

141. 佐藤 信吾, 船内 雄生, 平井 高志, 松倉 遊, 江川 聡, 加来 拓実, 王 耀東, 大川 淳, 吉井 俊貴. 医歯学融合集学的骨転移診療体制の構築と骨転移リモートキャンサーボードの実践. 第 56 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2023.07.14 新宿, 東京

142. 平井 高志. 頚椎疾患における神経障害性疼痛とその対応〜勤労世代が抱える疼痛について考える〜. 働く人の痛みを考える〜「スマホネック」と「片頭痛」〜 WEB Seminar 2023.07.13 日本橋, 東京

143. 早川景子、阿江啓介、谷澤泰介、三浪友輔、齊藤正徳、黒澤紀雄、有賀茜、白川さくら、松本誠一. 当院における下肢長管骨 intercalary allograft の治療成績. 第 56 回日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2023.07.13 新宿，東京

144. 松本誠一、阿江啓介、谷澤泰介、早川景子、齊藤正徳、三浪友輔、黒澤紀雄、有賀茜、白川さくら、山下享子. 細胞診断および MDM2 免疫染色と FISH 診断を併用した針生検による異型脂肪腫様腫瘍の術前診断. 第 56 回日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2023.07.13 新宿, 東京

145. 谷澤泰介、阿江啓介、松本誠一、早川景子、齊藤正徳、黒澤紀雄、有賀茜、白川さくら. 上肢悪性骨 · 軟部腫瘍の治療：肘関節周囲の軟部肉腫における肘の機能再建/課題.. 第 56 回日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2023.07.13 新宿, 東京

146. 早川景子、阿江啓介、谷澤泰介、三浪友輔、齊藤正徳、黒澤紀雄、有賀茜、白川さくら、松本誠一. 橈骨遠位骨切除を要する手関節再建の治療成績. 第 56 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2023.07.13 新宿, 東京

147. 船内 雄生, 本橋 正隆, 黒澤 紀雄, 齊藤 正徳, 三浪 友輔, 早川 景子, 谷澤 泰介, 松本 誠一, 阿江 啓介. 重粒子線治療を依頼する医師からの，適応拡大の余地に関する検討. 第 56 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2023.07.13 新宿, 東京

148. 有賀 茜, 松本 誠一, 谷澤 泰介, 早川 景子, 船内 雄生, 三浪 友輔, 齊藤 正徳, 黒澤 紀雄, 寺内 隆司, 阿江 啓介. 18F-FDG PET/CT で偽陰性を示す転移性粘液型脂肪肉腫. 第 56 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2023.07.13 新宿, 東京

149. 齊藤 正徳, 阿江 啓介, 谷澤 泰介, 早川 景子, 三浪 友輔, 黒澤 紀雄, 有賀 茜, 白川 さくら, 松本 誠一, 船内 雄生, 大川 淳. 腋窩領域発生軟部肉腫の治療成績. 第 56 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2023.07.13 新宿, 東京

150. 阿江 啓介, 松本 誠一, 谷澤 泰介, 早川 景子, 齊藤 正徳, 三浪 友輔, 黒澤 紀雄, 船内 雄生, 大川 淳. 切除縁獲得の考え方　最新の知見から. 第 56 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2023.07.13 新宿, 東京

151. 二村 昭元. 層序と組織から考える腱板疎部の解剖. 第 34 回日本整形外科超音波学会 2023.07.08 港区, 東京都

152. 都丸 洋平, 西須 孝, 亀ヶ谷 真琴, 佐久間 昭利, 及川 泰宏, 柿崎 潤, 瀬川 裕子. エコー所見から単純性股関節炎と化膿性股関節炎の鑑別は可能か. 第 34 回 日本整形外科超音波学会 2023.07.08 赤坂

153. 平井 高志. 頚椎領域における神経障害性疼痛の診断と治療 〜コロナ時代を振り返り、見えてきたもの〜. 第 2 回 埼玉県央整形外科 Seminar 2023.07.07 上尾

154. 吉原 有俊, 中村 智祐, 大関 信武, 中川 裕介, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 德本 泰將, 関矢 一郎, 古賀 英之. 当院における半月板再建治療. 第 21 回 膝と歩む会 2023.07.04

155. 二村 昭元. 骨折治療に役立つ“上肢解剖”. 第 49 回日本骨折治療学会学術集会 2023.07.01 Web

156. 吉原 有俊 , 中村 智祐, 大関 信武, 中川 裕介, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 古賀 英之. 後外側支持機構 (PLC) 再建、後斜走靱帯 (POL) 再建を併用した後十字靭帯 (PCL) 再建術の臨床成績 . 第 1 回　日本スポーツ整形外科学会 2023.07.01

157. 吉井 俊貴. 患者レジストリを利活用した脊柱靱帯骨化症の臨床研究　AMED 研究. 令和 5 年度 第 1 回 OPLL 班会議 2023.06.30

158. 橋本 淳. 頚椎後縦靱帯骨化症の術後骨化伸展　術後中長期 CT による縦断評価. 令和 5 年度 第 1 回 OPLL 班会議 2023.06.30

159. 王耀東, 加来拓実, 佐藤信吾, 船内雄生, 吉井俊貴. がん患者の骨修飾薬投与と非定型大腿骨骨折—医原性骨折リスクを念頭においた集学的骨転移診療の勧め—. 第 49 回日本骨折治療学会学術集会 2023.06.30 静岡

160. 王耀東, 加来拓実, 吉井俊貴. サーモグラフィーによる pink pulseless hand スクリーニング. 第 49 回日本骨折治療学会学術集会 2023.06.30 静岡

161. 天野祐輔, 王耀東, 加来拓実, 宮武和正, 吉井俊貴. 都心大学病院での高齢者大腿骨近位部骨折治療の検討—重度併存疾患を有する症例集約化と集学的治療の試み—. 第 49 回日本骨折治療学会学術集会 2023.06.30 静岡

162. 平井 高志.　頚椎疾患における神経障害性疼痛とその対応.　日常診療と医療統計に役立つ　Orthopedics Education Seminar 2023.06.29 大阪

163. 二村 昭元. 肩鎖関節周辺の解剖. 日本スポーツ整形外科学会 2023 2023.06.29 広島市, 広島県

164. 王耀東, 吉井俊貴. 転倒衝撃吸収床材の脆弱性大腿骨近位部骨折予防効果を検証する CT 有限要素解析モデルの開発と改良. 第 49 回日本骨折治療学会学術集会 2023.06.29 静岡

165. 加来拓実, 王耀東, 天野祐輔, 吉井俊貴. 大腿骨骨幹部病的骨折 · 切迫骨折に対する髄内釘固定術後の放射線照射適応基準の検討. 第 49 回日本骨折治療学会学術集会 2023.06.29 静岡

166. 宮武 和正, 酒井 朋子, 瀬川 裕子, 星野 ちさと, 平尾 昌之, 高田 亮平, 神野 哲也. 人工股関節全置換術術後における転院予測因子. 第 60 回 日本リハビリテーション医学会学術集会 2023.06.29 福岡

167. 吉井 俊貴. 脊椎疾患と神経障害性疼痛 〜Common disease から稀な疾患まで〜. 地域で取り組む脊椎疾患セミナー 2023.06.26 WEB

168. 杉浦 沙羅, 王 耀東, 吉井 俊貴. 足関節果部骨折術後の厳密な手術創部管理による術後感染予防. 関東整形災害外科学会　月例会 2023.06.24

169. 相羽 早紀，佐々木 亨. 前腕軟部肉腫に対する広範切除後に手指機能を再獲得した 1 例. 関東整形災害外科学会 第 709 回 月例会 2023.06.24 渋谷

170. 瀬川裕子, 柿﨑潤, 及川泰宏, 佐久間昭利, 宮武和正, 山口玲子, 山本皓子, 都丸洋平, 亀ヶ谷真琴, 西須孝. 大腿骨近位部の変形矯正治療に難渋している線維性骨異形成症の 2 例. 第 62 回 小児股関節研究会 2023.06.23 千葉

171. 高橋 拓也, 猪瀬 弘之, 平井 高志, 松倉 遊, 江川 聡, 橋本 淳, 吉井 俊貴. 化膿性脊椎炎における CRP 陰性化までの期間に関連する因子. 第 46 回 日本骨 · 関節感染症学会 2023.06.23 三重

172. 山口玲子、瀬川 裕子、高桑 拓也、 菊池 正悟、日山 鐘浩、 松山 嘉彦、 望月 智之. 当院における超音波を用いた乳児股関節二次検診の短期成績. 第 62 回 小児股関節研究会 2023.06.22 千葉

173. 平井 高志. 頚椎疾患における神経障害性疼痛を再考する　パンデミック下の自粛生活を振り返る. 痛みについて考える Web セミナー 2023.06.19 WEB

174. 二村 昭元.　セラピストへ伝えたい　肘関節周辺の詳細な臨床解剖学.　Professional Therapy Seminars 2023.06.17 Web

175. 藤田 浩二. 神経障害性疼痛のマネジメント〜手指に症状の出る疾患とそのスクリーニングの試みを含めて〜. 整形外科地域連携 WEB カンファ 2023.06.14 土浦

176. 二村 昭元. 「関節包」からみた関節解剖の局在性. 第 48 回日本超音波検査学会学術集会 2023.06.10 大阪府, 大阪市

177. 吉井 俊貴. 頚椎疾患の手術治療　稀な疾患から common disease. 第 120 回 東北整形災害外科学会 2023.06.09 福島

178. 吉井 俊貴. 頚椎人工椎間板置換術. 第 29 回 頸椎人工椎間板手術手技指導 WEB 動画講習会 Prestige LP 2023.06.07 WEB

179. 大谷 泰, 赤座 実穂, 叶内 匡, 夏井 洋和, 川端 茂徳, 渡部 泰士, 宮野 由貴, 足立 善昭, 関原 謙介, 横田 隆徳. 磁場測定による運動単位の電気活動評価. 第 64 回日本神経学会学術大会 2023.05.31 幕張

180. 桑原 宏哉, 上野 太郎, 遠藤 明史, 平井 高志, 山本 浩平, 榛澤 義明, 田中 佑美, 石橋 恵理, 萬 巴里子, 坂巻 泰則, 矢島 祐介, 黒木 大陽, 小池 竜司. ブロックチェーン技術の導入による脊椎症の臨床研究の効率化. 第 64 回 日本神経学会学術大会 2023.05.31 幕張

181. 平井 高志. 当教室で取り組んできた疼痛治療　～腰椎椎間板ヘルニアに対する酵素注入療法と頚椎圧迫性疾患に対する治療を中心に～. つくば腰椎椎間板ヘルニアセミナー 2023.05.30 筑波

182. 平井 高志. 頚椎疾患に生じる神経障害性疼痛～コロナ時代を振り返る～. Miro-Cens 第 2 回 中間報告会 2023.05.27 WEB

183. 平井 高志. 腰椎椎間板ヘルニアの酵素注入療法で見えてきたこと. 第 52 回 日本 IVR 学会総会 2023.05.20 高知

184. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 鳥羽 三佳代, 江川 聡, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 伏見 清秀, 大川 淳. がん拠点病院では非がん拠点病院より転移性脊椎腫瘍に対する術後合併症は少ないか. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.14 横浜

185. 高橋 拓也, 猪瀬 弘之, 吉井 俊貴, 平井 高志, 松倉 遊, 江川 聡, 歌川 蔵人, 橋本 淳, 高橋 邦彦, 大川 淳. 化膿性脊椎炎における治療期間遷延の予測因子. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.14 横浜

186. 王 耀東, 吉井 俊貴, 大川 淳. 非定型大腿骨骨折診療のススメ　サブタイプ別の病態と治療. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.14 横浜

187. 山崎 正志, 國府田 正雄, 高橋 宏, 吉井 俊貴, 大川 淳. 脊椎脊髄病領域における多施設共同研究の現状と未来　「OPLL 研究班による多施設共同研究の道のり　過去 · 現在 · 未来」. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.14 横浜

188. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 中村 智祐, 中川 裕介, 吉井 俊貴, 大関 信武. ここまできた!骨 · 軟骨再生医療の最前線　「半月板損傷を対象とした滑膜幹細胞の多施設共同試験」. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.14 横浜

189. 渡部 直人, 小川 貴久, 高田 亮平, 天野 祐輔, 瀬川 裕子, 神野 哲也, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 大川 淳. 傾向スコアマッチングを用いた骨粗鬆症および高血清ホモシステイン値が人工股関節全置換術の術中骨折に与える影響の考察. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.14 横浜

190. 猪瀬 弘之, 加藤 剛, 吉井 俊貴, 大川 淳. 骨粗鬆症性椎体骨折の治療戦略. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.13 横浜

191. 猪瀬 弘之, 加藤 剛, 平井 高志, 吉井 俊貴, 大川 淳. 骨粗鬆症性椎体骨折後慢性期の QOL 低下に関与する因子. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.13 横浜

192. 吉原 有俊, 雨宮 正樹, 星野 傑, 片倉 麻衣, 中川 裕介, 大関 信武, 中村 智祐, 関矢 一郎, 吉井 俊貴, 大川 淳, 古賀 英之. 術前 MRI 画像所見の組み合わせによる LMPRT の診断精度. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.13 横浜

193. 佐藤 信吾, 船内 雄生, 平井 高志, 松倉 遊, 江川 聡, 加来 拓実, 王 耀東, 吉井 俊貴, 大川 淳. 多診療科で考える脊椎転移の治療　「どこからでも参加可能な骨転移キャンサーボード　骨転移のフルリモートキャンサーボードと遠隔診療への応用」. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.13 横浜

194. 藤原 靖, 渡辺 雅彦, 寒竹 司, 筑田 博隆, 名越 慈人, 古矢 丈雄, 吉井 俊貴, 若尾 典充, 吉田 雅博, 田口 敏彦. 脊椎外科関連の診療ガイドラインの現状と課題　「頸椎症性脊髄症診療ガイドラインの現状と課題」. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.13 横浜

195. 大関 信武, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 関矢 一郎. スポーツ損傷に対する最先端の再生医療 · 細胞治療　「スポーツで生じた半月板変性損傷に対する滑膜幹細胞を併用した修復術」. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.13 横浜

196. 中村 智祐, 關 良太, 吉原 有俊, 雨宮 正樹, 星野 傑, 片倉 麻衣, 中川 裕介, 大関 信武, 関矢 一郎, 吉井 俊貴, 古賀 英之. ACL 再建術時の LM centralization による膝関節回旋制動効果　3 軸加速度計を用いた検討. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.13 横浜

197. 大関 信武, 中村 智祐, 中川 裕介, 星野 傑, 片倉 麻衣, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 大川 淳, 関矢 一郎. 膝関節手術における超音波アシスト技術の開発. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.13 横浜

198. 高田 亮平, 渡部 直人, 宮武 和正, 天野 祐輔, 瀬川 裕子, 神野 哲也, 吉井 俊貴, 古賀 英之. 非侵襲ピンレス AR ナビゲーションシステム Ortho Panther を用いた人工股関節全置換術のカップ設置精度の検討. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.13 横浜

199. 早川 謙太郎, 蔵野 信, 住谷 昌彦, 高橋 拓也, 平井 高志, 秋山 佳之, 緒方 徹, 田中 栄, 矢冨 裕, 筑田 博隆. ヒト脳脊髄液中のリゾホスファチジルコリン濃度測定は, 神経障害性疼痛の原因診断に有用である. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.13 横浜

200. 二村 昭元. 肩関節における神経支配. 第 96 回 日本整形外科学会学術集会 2023.05.12 横浜市, 神奈川県

201. 古賀 英之, 中村 智祐, 中川 裕介, 大関 信武, 吉井 俊貴, 関矢 一郎. 半月板温存治療の進歩と限界　「逸脱半月板に対する centralization 法の効果と問題点」. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.12 横浜

202. 中島 宏彰, 今釜 史郎, 吉井 俊貴, 坂井 顕一郎, 國府田 正雄, 木村 敦, 古矢 丈雄, 名越 慈人, 川口 善治, 大川 淳, 山崎 正志. 頸椎後縦靱帯骨化症に対する椎弓形成術後後彎変形の危険因子　AMED· 厚労科研研究班　多施設前向き調査. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.12 横浜

203. 大関 信武, 中村 智祐, 中川 裕介, 星野 傑, 片倉 麻衣, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 大川 淳, 関矢 一郎. MRI 三次元解析システムを用いた膝関節軟骨厚さ · 軟骨面積率と半月板被覆率の関係. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.12 横浜

204. 平井 高志, 吉井 俊貴, 名越 慈人, 森 幹士, 竹内 一裕, 勝見 敬一, 牧 聡, 大川 淳, 川口 善治. 後縦靱帯骨化症患者の大規模多施設前向き調査による画像的重症と臨床症状との関連. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.12 横浜

205. 松倉 遊, 吉井 俊貴, 江川 聡, 平井 高志, 坂井 顕一郎, 國府田 正雄, 今釜 史郎, 竹下 克志, 松本 守雄, 山崎 正志, 大川 淳. 罹病期間に着目した頸椎後縦靱帯骨化症に対する手術成績の多施設前向き調査. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.12 横浜

206. 江川 聡, 吉井 俊貴, 國府田 正雄, 古矢 丈雄, 木村 敦, 竹下 克志, 松本 守雄, 川口 善治, 今釜 史郎, 大川 淳, 山崎 正志. 頸椎後縦靱帯骨化症術後の C5 麻痺についての検討　AMED· 厚労科研研究班　多施設前向き調査研究. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.12 横浜

207. 船内 雄生, 阿江 啓介, 谷澤 泰介, 早川 景子, 三浪 友輔, 齊藤 正徳, 黒澤 紀雄, 有賀 茜, 松本 誠一. 四肢悪性骨 · 軟部腫瘍の知 · 仁 · 術　「悪性骨 · 軟部腫瘍に対する切除縁評価の有用性 · 限界とその突破に関する考察」. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.12 横浜

208. 阿江 啓介, 谷澤 泰介, 早川 景子, 船内 雄生, 三浪 友輔, 齊藤 正徳, 黒澤 紀雄, 有賀 茜, 松本 誠一. 骨盤の悪性腫瘍を究める「骨盤骨腫瘍の手術合併症とその対策」. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.12 横浜

209. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 鳥羽 三佳代, 江川 聡, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 伏見 清秀, 大川 淳. 転移性脊椎腫瘍に対する脊椎手術後の退院時歩行能力不良の危険因子. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

210. 森下 真伍, 吉井 俊貴, 猪瀬 弘之, 平井 高志, 松倉 遊, 伏見 清秀, 片柳 順也, 小沼 宏樹, 簗瀬 司, 神野 哲也, 大川 淳. 頸椎変性疾患における前方除圧固定術の周術期合併症　全国規模入院データベースを用いた後縦靱帯骨化症と頸椎症性脊髄症の比較. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

211. 志村 治彦, 若林 良明, 白坂 律郎, 山田 哲也, 白川 健, 佐藤 哲也, 藤田 浩二, 新関 祐美, 鈴木 志郎, 鏑木 秀俊, 二村 昭元. 橈骨頭粉砕骨折に対する人工橈骨頭挿入術の中期成績　平均 40.1 ヵ月の術後経過観察. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

212. 王 耀東, 吉井 俊貴, 大川 淳. 転倒衝撃吸収床材は脆弱性大腿骨近位部骨折を予防しうるのか　CT 有限要素解析モデルの開発. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

213. 小林 和克, 佐藤 公治, 今釜 史郎, 松山 幸弘, 安藤 宗治, 和田 簡一郎, 川端 茂徳, 谷口 愼一郎, 吉田 剛, 山田 圭. 高リスク脊椎手術における疾患ごとにわけた Tc-MEPs 波形の特性　日本脊椎脊髄病学会多施設前向き研究. 第 96 回日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

214. 吉田 剛, 後迫 宏紀, 今釜 史郎, 川端 茂徳, 安藤 宗治, 重松 英樹, 山田 圭, 岩崎 博, 和田 簡一郎, 高橋 雅人, 松山 幸弘. 脊柱変形矯正手術における術中神経障害予防　脊髄モニタリングを用いた多施設前向き研究. 第 96 回日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

215. 後迫 宏紀, 吉田 剛, 町野 正明, 今釜 史郎, 安藤 宗治, 岩崎 博, 川端 茂徳, 山田 圭, 藤原 靖, 和田 簡一郎, 松山 幸弘. 脊椎外傷症例に対する術中脊髄モニタリングレスキュー操作の有用性　多施設前向き研究. 第 96 回日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

216. 高橋 雅人, 藤原 靖, 小林 和克, 重松 英樹, 舩場 真裕, 町野 正明, 山田 圭, 岩崎 博, 川端 茂徳, 安藤 宗治, 吉田 剛. 腰仙椎手術における脊髄モニタリングの有効性　日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリングワーキンググループ 6,196 例の解析. 第 96 回日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

217. 舩場 真裕, 寒竹 司, 吉田 剛, 川端 茂徳, 山田 圭, 重松 英樹, 藤原 靖, 岩崎 博, 高橋 雅人, 松山 幸弘, 今釜 史郎. 頸椎手術において術前麻痺症例では MEP による脊髄モニタリングの有用性が向上する　JSSR モニタリング委員会多施設前向き研究. 第 96 回日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

218. 瀬川 裕子、西須 孝、柿崎 潤、及川 泰宏、亀ヶ谷　真琴、都丸 洋平、吉井 俊貴. Perthes 病に対する大腿骨転子部屈曲骨切り術の手術成績. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

219. 杉浦 沙羅, 中川 裕介, 平井 高志, 藤田 浩二, 宮武 和正, 富澤 將司, 白澤 進一, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 大川 淳. 整形外科専門医制度の現状と問題点　「臨床研究医コースにおける研修の実際」. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

220. 白畑 航, 中川 裕介, 中村 智祐, 大関 信武, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀 英之. 人工膝関節置換術患者における術前 CSI 高値は術後 1 年の遺残疼痛に関連する因子である. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

221. 吉田 龍, 中川 裕介, 吉原 有俊, 雨宮 正樹, 片倉 麻衣, 星野 傑, 大関 信武, 中村 智祐, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀 英之. 前十字靱帯再建術後の膝蓋下脂肪体線維化は短期臨床成績を悪化させる. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

222. 星野 傑, 片桐 洋樹, 中村 智祐, 大関 信武, 中川 裕介, 片倉 麻衣, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 吉井 俊貴, 古賀 英之. OWHTO 術後抜釘時における内側コンパートメントの部位別による軟骨変性の評価および軟骨様組織修復に影響を与える因子の検討. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

223. 小川 貴久, 大沼 亮, 末原 義之, 伏見 清秀, 吉井 俊貴, 大川 淳, 神野 哲也. 大腿骨近位部骨折患者における週末のリハビリテーション治療と年齢別 ADL 改善との関連. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

224. 坂井 顕一郎, 新井 嘉容, 鳥越 一郎, 友利 正樹, 榊 経平, 小沼 博明, 小林 裕, 吉井 俊貴, 大川 淳. 頸椎前方椎体亜全摘除圧固定椎体再建における mechanical complication　Rotational 型と translational 型プレートの比較. 第 96 回 日本整形外科学会学術総会 2023.05.11 横浜

225. 平井 高志. 頚椎に関わる疼痛管理を再考する　コロナ禍の自粛生活を振り返り. 痛みの治療を地域で考える会 2023.04.24

226. 二村 昭元, 野呂瀬 美生, 藤田 浩二. 母指 CM 関節における「靱帯」の解剖学的再考-対立筋の意義と脆弱性. 第 66 回日本手外科学会学術集会 2023.04.21 新宿区, 東京都

227. 鏑木 秀俊，船内 雄生，藤田 浩二，二村 昭元. 上肢（手～肘）の骨・軟部腫瘍に対する MRI 診断の正診率の検討. 第 66 回 日本手外科学会学術集会 2023.04.21 新宿, 東京

228. 塚本 和矢，鏑木 秀俊，井原 拓哉，山田 英莉久，山本 皓子，二村 昭元，藤田 浩二. 母指 CM 関節症に伴う母指回内外運動の変化—疾患発症機序の解明を目指してー. 第 66 回 日本手外科学会学術集会 2023.04.21 新宿, 東京

229. 山田 英莉久, 小山 恭史, 鏑木 秀俊, 野呂瀬 美生, 山本 皓子, 田中 雄太, 塚本 和矢, 井原 拓哉, 二村 昭元, 藤田 浩二. 手根管症候群と肩関節疾患における組織へのアミロイド沈着の比較—心アミロイドーシスと の関連. 第 66 回 日本手外科学会学術集会 2023.04.21 新宿, 東京

230. 山田 英莉久, 小山 恭史, 鏑木 秀俊, 野呂瀬 美生, 山本 皓子, 田中 雄太, 塚本 和矢, 井原 拓哉, 二村 昭元, 藤田 浩二. 手根管症候群患者における肩肘症状の原因検索. 第 66 回 日本手外科学会学術集会 2023.04.21 新宿, 東京

231. 山本 皓子, 山田 英莉久, 稲井 卓真, 塚本 和矢, 二瓶 史行, 鏑木 秀俊, 二村 昭元, 中原 謙太郎, 小林 吉之, 藤田 浩二. 橈骨遠位端骨折患者における異なる歩行速度下での歩行解析-転倒 · 骨折予防のための基礎的検証. 第 66 回 日本手外科学会学術集会 2023.04.21 新宿, 東京

232. 塚本 和矢, 松井 良太, 鏑木 秀俊, 小山 恭史, 井原 拓哉, 山田 英莉久, 山本 皓子, 二村 昭元, 杉浦 裕太, 藤田 浩二. 10 秒テストで手根管症候群のスクリーニングは可能か. 第 66 回 日本手外科学会学術集会 2023.04.21 新宿, 東京

233. 田野 敦寛, 若林 良明, 能瀬 宏行, 佐々木 研, 藤田 浩二. 橈骨遠位端骨折患者に対する骨折リエゾンサービス非導入例の事由調査. 第 66 回 日本手外科学会学術集会 2023.04.21 新宿, 東京

234. 二村 昭元. 手関節の解剖. 第 66 回日本手外科学会学術集会 2023.04.20 新宿区, 東京都

235. 田中 雄太, 川端 茂徳, 佐々木 亨, 橋本 淳, 東川 尚人, 足立 善昭, 渡部 泰士, 宮野 由貴, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 鏑木 秀俊, 藤田 浩二, 二村 昭元, 吉井 俊貴, 大川 淳. 絞扼性神経障害に対する新たな挑戦　末梢神経磁界計測による肘部尺骨神経障害の評価. 第 66 回日本手外科学会学術集会 2023.04.20 新宿

236. 山田 哲也, 川端 茂徳, 藤田 浩二, 二村 昭元, 鏑木 秀俊, 佐々木 亨, 田中 雄太, 足立 善昭, 大川 淳. 胸郭出口症候群に対する診断と治療〜原点と挑戦〜　神経磁界計測診断を行った胸郭出口症候群の治療経験. 第 66 回日本手外科学会学術集会 2023.04.20 新宿

237. 田中 雄太, 松井 良太, 塚本 和矢, 山田 英莉久, 小山 恭史, 黒岩 智之, 鏑木 秀俊, 二村 昭元, 杉浦 裕太, 藤田 浩二. 手の機能評価の原点と挑戦「スマートフォンカメラ動画を用いた母指運動における骨格推定の試み」. 第 66 回 日本手外科学会学術集会 2023.04.20 新宿, 東京

238. 志村 治彦, 藤田 浩二, 鏑木 秀俊, 二村 昭元. 小児橈骨骨幹部 · 骨幹端骨折に対する髄内鋼線固定術　術後の成長軟骨板の画像評価. 第 66 回 日本手外科学会学術集会 2023.04.20 新宿, 東京

239. 太田 剛, 藤原 鷹, 横山 裕之, 串田 淑久, 二村 昭元, 藤田 浩二. 橈骨遠位端骨折手術に対する掌側ロッキングプレート設置位置決定の工夫. 第 66 回 日本手外科学会学術集会 2023.04.20 新宿, 東京

240. 佐々木 亨, 白坂 律郎, 菱山 隼, 藤田 浩二. 橈骨遠位端骨折に対する Day Surgery の試みと問題点. 第 66 回日本手外科学会学術集会 2023.04.20 新宿

241. 吉井 俊貴. ハンズオンセミナー 4　頸椎人工椎間板講習会（Prestige LP）. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.15 札幌

242. 王耀東. 非定型大腿骨骨折の病態と治療ーサブタイプ分類の勧めー. 第 21 回 AIM14「非定型骨折の髄内釘治療」 2023.04.15

243. 佐々木 真一, 黒田 浩司, 平井 高志, 湯浅 将人, 大川 淳, 吉井 俊貴. 腰椎後方除圧術後再手術症例に対する腰椎側方経路椎体間固定術の有用性. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.15 札幌

244. 湯浅 将人, 新田 智久, 平井 高志, 高橋 礼季, 魚水 麻里, 島谷 雅之, 吉井 俊貴, 大川 淳. DISH 関連骨折に対する新しいスクリュー軌道固定法の提案　3 次元ロッドベンダーも併用した術式の有用性. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.15 札幌

245. 加藤 剛, 猪瀬 弘之, 藤井 俊一, 平井 高志, 大川 淳, 吉井 俊貴. 骨粗鬆症性椎体骨折に対する経椎弓根的椎体造影 (Vertebrography) および椎体ブロック (Vertebral bock) を用いた治療ストラテジー. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.15 札幌

246. 中島 宏彰, 今釜 史郎, 吉井 俊貴, 坂井 顕一郎, 國府田 正雄, 木村 淳, 古矢 丈雄, 名越 慈人, 川口 善治, 大川 淳, 山崎 正志. 頸椎後縦靱帯骨化症に対する椎弓形成術後の後彎変形と患者立脚型評価　AMED· 厚労科研研究班多施設前向き調査. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.15 札幌

247. 平井 高志, 遠藤 健司, 松倉 遊, 牧 聡, 坂井 顕一郎, 高野 裕一, 宮城 正行, 鈴木 秀和, 渡邉 航太, 酒井 義人, 辻 崇, 赤澤 努, 山縣 正庸, 青田 洋一, 平泉 裕, 大鳥 精司. 脊椎脊髄外科手術の診療報酬新設・改訂に向けた今後の戦略 JSSR 社会保険等システム検討委員会からの提案. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.15 札幌

248. 吉井 俊貴. 骨粗鬆症を有する患者に対する脊椎手術の治療戦略と Fenestrated Screw の有用性. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14 札幌

249. 吉井 俊貴. 頚椎人工椎間板置換術 前方固定術と比較したメリット. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14 札幌

250. 吉井 俊貴, 橋本 泉智, 江川 聡, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 榊 恭平, 友利 正樹, 鳥越 一郎, 坂井 顕一郎, 牛尾 修太, 草野 和生, 大谷 和之, 新井 嘉容, 進藤 重雄, 大川 淳. 頚椎前方手術後の合併症の頻度と特徴 —多施設研究 1434 例の検討—. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14 札幌

251. 猪瀬 弘之, 加藤 剛, 大川 淳. 骨粗鬆症椎体骨折受傷後慢性期の QOL に影響を与える因子. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14 札幌

252. 猪瀬 弘之, 松倉 遊, 橋本 淳, 江川 聡, 平井 高志, 吉井 俊貴, 大川 淳. ビタミン D の充足状況は頚部脊髄症の手術成績に関連するか？ . 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14 札幌

253. 松倉 遊, 吉井 俊貴, 猪瀬 弘之, 平井 高志, 江川 聡, 山田 賢太郎, 橋本 淳, 歌川 蔵人, 田村 友里, 上杉 豪, 大川 淳. 頚椎前方手術後の C5 麻痺発生のリスク因子の検討. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14 札幌

254. 坂井 顕一郎, 吉井 俊貴, 鳥越 一郎, 友利 正樹, 榊 経平, 小沼 博明, 小林 裕, 新井 嘉容, 大川 淳. ACCF 椎体再建における Mechanical Complication　Rotational 型と Translational 型プレートの比較. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14 札幌

255. 角谷 智, 松岡 正, 大川 淳, 吉井 俊貴. 当院における血液培養陽性患者の化膿性脊椎炎合併頻度. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14 札幌

256. 髙橋 拓也, 猪瀬 弘之, 吉井 俊貴, 平井 高志, 松倉 遊, 江川 聡, 歌川 蔵人, 橋本 淳, 高橋 邦彦, 大川 淳. 化膿性脊椎炎治療期間遷延に関する予測因子. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14 札幌

257. 加藤 剛, 藤井 俊一, 猪瀬 弘之, 平井 高志, 大川 淳, 吉井 俊貴. 血液内科との連携を通じた多発性骨髄腫による椎体骨折に対する BKP 経皮的椎体形成術早期治療の有効性. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14 札幌

258. 新井 嘉容, 坂井 顕一郎, 鳥越 一郎, 友利 正樹, 榊 経平, 小沼 博明, 小林 裕, 吉井 俊貴. 真の椎体間固定を目指して　物理的固定から生物学的固定へ. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14 札幌

259. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 鳥羽 三佳代, 江川 聡, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 伏見 清秀, 大川 淳. 転移性脊椎腫瘍に対する脊椎手術後の退院時歩行能力不良の危険因子. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14 札幌

260. 平井 高志. 腰椎椎間板ヘルニア治療の本質に迫る　コンドリアーゼ椎間板内酵素注入療法. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14 札幌

261. 豊田 宏光, 寺井 秀富, 山田 賢太郎, 加藤 相勲, 鈴木 亨暢, 高橋 真治, 玉井 孝司, 藪 晋人, 岩前 真由, 澤田 雄大, 中村 博亮. 腰椎低侵襲除圧術における術後腰痛遺残例を予測する因子の探索　決定木分析を用いた検討. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.14

262. 吉井 俊貴, 細金 直文, 有馬 秀幸, 歌川 蔵人, 石井 賢, 岩崎 幹季, 根尾 昌志, 國府田 正雄, 三原 久範, 渡辺 雅彦, 種市 洋, 金村 徳相. 頚椎人工椎間板手術の合併症調査 —日本脊椎脊髄病学会 新技術データベースの検討—. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

263. 森戸 伸治, 山田 圭, 吉田 剛, 安藤 圭, 小林 和克, 安藤 宗治, 川端 茂徳, 藤原 靖, 岩崎 博, 重松 英樹, 田所 伸朗, 高橋 雅人, 和田 簡一郎, 舩場 真裕, 松山 幸弘, 今釜 史郎. 小児側彎症の矯正手術と術中脊髄モニタリングの現状　脊髄モニタリング委員会多施設前向き研究. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

264. 吉田 剛, 後迫 宏紀, 今釜 史郎, 町野 正明, 川端 茂徳, 安藤 宗治, 谷口 愼一郎, 重松 英樹, 山田 圭, 和田 簡一郎, 高橋 雅人, 舩場 真裕, 岩崎 博, 小林 和克, 松山 幸弘. 成人脊柱変形手術における脊髄モニタリングを用いた神経根障害の予防　JSSR 脊髄モニタリング委員会多施設前向き研究. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

265. 小林 和克, 佐藤 公治, 今釜 史郎, 松山 幸弘, 吉田 剛, 安藤 宗治, 川端 茂徳, 山田 圭, 和田 簡一郎, 谷口 愼一郎, 重松 英樹, 高橋 雅人, 舩場 真裕. 高リスク脊椎手術における疾患毎にわけた Tc-MEPs 波形の特性　日本脊椎脊髄病学会　多施設前向き研究. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

266. 舩場 真裕, 寒竹 司, 吉田 剛, 町野 正明, 安藤 宗治, 川端 茂徳, 山田 圭, 岩崎 博, 重松 英樹, 藤原 靖, 田所 伸朗, 高橋 雅人, 和田 簡一郎, 後迫 宏紀, 松山 幸弘, 今釜 史郎. 胸椎手術において術前筋力低下症例は MEP による脊髄モニタリングの有用性が高まる. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

267. 高橋 雅人, 今釜 史郎, 重松 英樹, 舩場 真裕, 後迫 宏紀, 中西 一義, 町野 正明, 谷口 慎一郎, 川端 茂徳, 安藤 宗治, 松山 幸弘, 吉田 剛. 腰仙椎手術における脊髄モニタリングの有効性　日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリング委員会 6,196 例の解析. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

268. 後迫 宏紀, 吉田 剛, 町野 正明, 今釜 史郎, 安藤 宗治, 岩崎 博, 川端 茂徳, 山田 圭, 藤原 靖, 和田 簡一郎, 高橋 雅人, 山本 直也, 寒竹 司, 田所 伸朗, 重松 英樹, 松山 幸弘. 脊椎外傷症例に対する術中脊髄モニタリングにおける術前麻痺の有無の関与　多施設前向き研究. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

269. 東川 尚人, 川端 茂徳, 田中 雄太, 赤座 実穂, 足立 善昭, 渡部 泰士, 宮野 由貴, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 吉井 俊貴, 大川 淳. 脊磁図を用いた, 大腿神経, 外側大腿皮神経刺激法による馬尾神経の非侵襲的機能評価. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

270. 橋本 淳, 平井 高志, 吉井 俊貴, 歌川 蔵人, 江川 聡, 松倉 遊, 山田 賢太郎, 猪瀬 弘之, 大川 淳. 頸椎後縦靱帯骨化症の後方除圧固定術後の骨化肥厚 · 伸展様式　術後中長期 CT による評価. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

271. 牛尾 修太, 吉井 俊貴, 橋本 泉智, 坂井 顕一郎, 進藤 重雄, 大谷 和之, 草野 和生, 三宅 論彦, 山田 剛史, 中井 修, 猪瀬 弘之, 平井 高志, 松倉 遊, 新井 嘉容, 大川 淳. 頸椎前方除圧手術の術後髄液漏出発生のリスク因子および周術期合併症についての検討. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

272. 橋本 泉智, 吉井 俊貴, 江川 聡, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 小沼 博明, 榊 経平, 友利 正樹, 鳥越 一郎, 坂井 顕一郎, 新井 嘉容, 牛尾 修太, 大谷 和之, 進藤 重雄, 大川 淳. 頸椎前方手術後の嚥下障害と危険因子に関する多施設研究　1434 例の検討. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

273. 森下 真伍, 吉井 俊貴, 猪瀬 弘之, 平井 高志, 松倉 遊, 伏見 清秀, 片柳 順也, 小沼 宏樹, 簗瀬 司, 神野 哲也, 大川 淳. 頸椎後縦靱帯骨化症, 頸椎症性脊髄症に対する前方除圧固定術における周術期合併症. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

274. 橋本 泉智, 吉井 俊貴, 江川 聡, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 小沼 博明, 榊 経平, 友利 正樹, 鳥越 一郎, 坂井 顕一郎, 新井 嘉容, 牛尾 修太, 大谷 和之, 進藤 重雄, 大川 淳. 頸椎前方手術後の上気道合併症と危険因子　多施設 1434 例の検討. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

275. 小沼 博明, 坂井 顕一郎, 鳥越 一郎, 友利 正樹, 榊 経平, 小林 裕, 平井 高志, 松倉 遊, 江川 聡, 橋本 泉智, 山田 剛史, 牛尾 修太, 進藤 重雄, 新井 嘉容, 吉井 俊貴, 大川 淳. 頸椎前方手術における術後 C5(6,7,8) 麻痺 1434 例の検討　頸椎前方多施設共同研究. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

276. 江川 聡, 吉井 俊貴, 国府田 正雄, 古矢 丈雄, 木村 敦, 竹下 克志, 松本 守雄, 川口 善治, 今釜 史郎, 大川 淳, 山崎 正志. 頸椎後縦靱帯骨化症に対する術後の C5 麻痺発生とその経過　AMED· 厚労科研研究班　多施設前向き調査研究. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

277. 名越 慈人, 吉井 俊貴, 國府田 正雄, 古矢 丈雄, 木村 敦, 中島 宏彰, 勝見 敬一, 和田 簡一郎, 平井 高志, 竹下 克志, 渡辺 航太, 松本 守雄, 大川 淳, 山崎 正志, 今釜 史郎. K-line(-) の頸椎後縦靱帯骨化症に対する固定術の治療成績　多施設前向き研究による前方法と後方法の比較. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

278. 高橋 拓也, 吉井 俊貴, 森 幹士, 井上 久, 平井 高志, 杉村 長洋, 名越 慈人, 牧 聡, 勝見 敬一, 國府田 正雄, 竹内 一裕, 今釜 史郎, 川口 善治, 山崎 正志, 大川 淳. DISH と AS における全脊椎 CT の年齢, 性別マッチングによる比較検討　厚労科研脊柱靱帯骨化症研究班 · 多施設研究. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

279. 上杉 豪, 平井 高志, 吉井 俊貴, 橋本 淳, 森 幹士, 名越 慈人, 竹内 一裕, 勝見 敬一, 牧 聡, 中島 宏彰, 山崎 正志, 大川 淳, 川口 善治. 頸椎後縦靱帯骨化症患者と頸椎症性脊髄症患者の健康関連 QOL に関する大施設多施設前向き調査. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

280. 若尾 典充, 古矢 丈雄, 有馬 秀幸, 中島 宏彰, 吉井 俊貴, 今城 靖明, 宮本 裕史, 井上 玄, 神原 俊輔, 海渡 貴司, 橋爪 洋, 山田 宏. 頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物治療の臨床経済研究. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

281. 有馬 秀幸, 金村 徳相, 石井 賢, 池上 章太, 今釜 史郎, 八木 満, 山田 浩司, 大鳥 精司, 吉井 俊貴, 上田 明希, 井上 玄, 細金 直文, 中島 宏彰, 渡邊 慶, 中川 幸洋, 相澤 俊峰, 藤田 順之, 藤田 卓仙, 新村 千江, 種市 洋, 筑田 博隆, 松山 幸弘, 中村 雅也, 波呂 浩孝, 日本脊椎脊髄病学会データベース委員会. 日本脊椎脊髄病学会レジストリー (JSSR-DB) の現状と展望. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

282. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 鳥羽 三佳代, 江川 聡, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 伏見 清秀, 大川 淳. がん診療拠点病院では非がん診療拠点病院より転移性脊椎腫瘍に対する術後合併症は少ないか?. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

283. 平井 高志, 吉井 俊貴, 橋本 淳, 森 幹士, 名越 慈人, 竹内 一裕, 勝見 敬一, 牧 聡, 中島 宏彰, 山崎 正志, 大川 淳, 川口 善治. 全脊椎 CT 大規模多施設研究による頸椎 OPLL の骨化分布パターンの再検証　厚労科研脊柱靱帯骨化症研究班 · JOSL study. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

284. 平井 高志, 松倉 遊, 江川 聡, 佐藤 信吾, 船内 雄生, 猪瀬 弘之, 吉井 俊貴, 大川 淳. 転移性脊椎腫瘍の脊髄麻痺予防を目的とした集学的院内診療体制の構築によるこの 8 年の成果. 第 52 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌

285. 小川 貴久, 重松 英樹, 川崎 佐智子, 石橋 英明, 中川 良, 中川 高志, 吉井 俊貴, 谷口 晃, Segal Neil A., 田中 康仁, 大川 淳. 視力はロコモティブシンドロームの発症に影響するのか?　矯正視力と歩行の安定性. 第 127 回 日本眼科学会総会 2023.04.07

286. 船内雄生. 機能外科と腫瘍外科の両立を目指して〜骨軟部腫瘍領域におけるナビゲーション手術. 第 9 回大分運動器医療セミナー 2023.03.25 大分

287. 黒田 都, 宮武 和正, 吉井 俊貴, 若林 良明, 大川 淳. 肺血栓塞栓症を契機に診断された Osler-Weber-Rendu syndrome の 1 例. 第 63 回 関東整形災害外科学会 2023.03.25 宇都宮

288. 白畑 航, 中川 裕介, 宮武 和正, 中村 智祐, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 吉井 俊貴, 大川 淳, 古賀 英之. 人工関節周囲感染の治療 . 第 63 回 関東整形災害外科学会 2023.03.25 宇都宮

289. 江川 聡, 吉井 俊貴, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 松倉 遊, 歌川 蔵人, 橋本 淳, 上杉 豪, 田村 友里, 石塚 光悦, 大川 淳. 胸腰椎に多発した giant calcified herniated thoracic discs の一例における病態の考察. 第 24 回 圧迫性脊髄症研究会 2023.03.25 名古屋

290. 坂井 顕一郎, 吉井 俊貴, 鳥越 一郎, 友利 正樹, 榊 経平, 小沼 博明, 小林 裕, 新井 嘉容, 大川 淳. Overshunting-associated myelopathy の一例. 第 24 回 圧迫性脊髄症研究会 2023.03.25 名古屋

291. 吉井 俊貴. 靱帯骨化症のイロハから最新まで　頸椎 OPLL 手術治療　最新のエビデンス. 第 63 回 関東整形災害外科学会 2023.03.24 宇都宮

292. 山本 凜太郎, 二村 昭元, 秋田 恵一. 停止腱の構成に着目した上腕三頭筋の解剖学的解析. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.18 仙台市, 宮城県

293. 藤田 浩二. 日常生活空間における疾患スクリーニングの試み. 臨床研究教育学シンポジウム「臨床研究の未来図 〜DX、分散化の活用を考える〜」 2023.03.18 名古屋

294. 藤田 浩二. 手指動作の解析と日常生活空間における疾患スクリーニングへの応用. 東京女子医科大学 整形外科 Expert Web Seminar 2023.03.15 東京

295. 藤田 浩二. 手指に症状の現れる疾患とそのスクリーニングの試み. 地域で整形外科疾患について考える会 2023.03.13 草加

296. 山田賢太郎、吉井俊貴、鳥羽三佳代、工藤篤、松倉遊、平井高志、猪瀬弘之、伏見清秀、大川淳. 転移性脊椎腫瘍手術に対する QI はがん診療拠点病院で良好か？ . 日本医療安全学会 2023 2023.03.10

297. 藤田 浩二. 街と医療のクロスオーバー. 第 3 回 TOKYO WELL CITY 懇話会 2023.03.09 東京

298. 吉井 俊貴. 整形外科領域におけるバイオマテリアル 現状と課題. 東京工業大学 LiHub 会議 2023.03.06 大岡山

299. 二村 昭元.　セラピストへ伝えたい　肩関節周辺の詳細な神経解剖学.　Professional Therapy Seminars 2023.03.04 Web

300. 高田亮平、渡部直人、宮武和正、杉田直彦、神野哲也、吉井俊貴、大川淳、古賀英之. 非侵襲ピンレス AR ナビゲーションシステム OrthoPanther を用いた人工股関節全置換術のカップ設置精度の検討. 第 17 回 日本 CAOS 研究会 2023.03.02 金沢

301. 藤田 浩二. 手指動作解析と日常生活空間における疾患スクリーニングの試み. 第 17 回 CAOS 研究会 2023.03.02 金沢

302. 大川 淳. 専門医療機関に送ってほしい脊椎疾患. TCOA 講演会 2023.02.25

303. 平井 高志. コロナ禍がもたらした現代病とその対応 ～神経障害性疼痛との関わりを知る～. with コロナ時代の痛みの治療 Web セミナー 2023.02.20 八王子

304. 川端茂徳. 脳脊髄術中神経モニタリング認定制度と今後について. 第 8 回日本脳脊髄術中モニタリング研究会 2023.02.19 東京

305. 橋本淳, 川端茂徳, 吉井俊貴, 歌川蔵人, 江川聡, 松倉遊, 山田賢太郎, 平井高志, 猪瀬弘之, 大川淳. 頸椎後縦靭帯骨化症における自発筋電図. 第 8 回日本脳脊髄術中モニタリング研究会 2023.02.19 東京

306. 宮武 和正, 高田 亮平, 渡部 直人, 天野 祐輔, 瀬川 裕子, 神野 哲也, 吉井 俊貴, 大川 淳, 古賀 英之. 人工股関節全置換術術後における転院予測因子. 第 53 回 日本人工関節学会 2023.02.17 横浜

307. 高田 亮平, 渡部 直人, 宮武 和正, 神野 哲也, 瀬川 裕子, 吉井 俊貴, 大川 淳, 古賀 英之. 仰臥位前側方進入法におけるセメントステム導入のノウハウ. 第 53 回 日本人工関節学会 2023.02.17 横浜

308. 渡部 直人, 小川 貴久, 高田 亮平, 天野 祐輔, 神野 哲也, 吉井 俊貴, 大川 淳, 古賀 英之, 宮武 和正. 傾向スコアマッチングを用いた骨粗鬆症および高ホモシステイン血症が人工股関節全置換術術中の人工股関節周囲骨折に与える影響. 第 53 回 日本人工関節学会 2023.02.17 横浜

309. 高田 亮平, 渡部 直人, 宮武 和正, 杉田 直彦, 神野 哲也, 瀬川 裕子, 吉井 俊貴, 大川 淳, 古賀 英之. 非侵襲 AR ナビゲーションシステム Ortho Panther を用いた人工股関節全置換術のカップ設置精度. 第 53 回 日本人工関節学会 2023.02.17 横浜

310. 藤田 浩二. 手の疾患とそのスクリーニングの試み. Bridge Forum –循環器-整形外科医で疼痛コントロールを考える 2023.02.16 旭川

311. 平井 高志. 頚椎疾患に関わる痛みにどうアプローチする？ ～当院の最新治療を踏まえて～. 第 10 回多摩地域の整形外科疾患を考える会　2023.02.15 三鷹

312. 吉井 俊貴. 脊椎疾患と神経障害性疼痛 Common disease から稀な疾患まで　. Pain Management Seminar in Yonago 2023.02.15 鳥取

313. 猪瀬 弘之. 腰椎疾患の病態と治療法. 足立区薬剤師会学術研修会 2023.02.13

314. 田代 共生, 三島 有華, 宮武 和正, 飯田 遥, 栗田 崇史, 松元 一明, 野坂 宜之, 吉井 俊貴, 具 芳明, 若林 健二. リネゾリド長期投与中に術後乳酸アシドーシスを来した 1 例. 日本内科学会 第 684 回関東地方会 2023.02.12 東京

315. 猪瀬 弘之. 骨粗鬆症性椎体骨折の治療戦略. 脆弱性骨折治療連携セミナー 2023.02.10

316. 田中雄太，川端茂徳，佐々木亨, 橋本淳，東川尚人, 足立善昭， 渡部泰士，宮野由貴　上中沙衿, 山本祐輔，鏑木秀俊, 藤田浩二， 二村昭元，吉井俊貴，大川淳. 末梢神経磁界による肘部尺骨神経障害の評価. 第 44 回日本脊髄機能診断学会 2023.02.04 奈良

317. 東川尚人、川端茂徳、田中雄太、赤座美穂、足立善昭、渡部泰士、宮野由貴、上中沙衿、山本祐輔、吉井俊貴、大川淳. 脊磁図を用いた、大腿神経、外側大腿皮神経刺激後の馬尾神経の非侵襲的機能評価. 第 44 回日本脊髄機能診断学会 2023.02.04 奈良

318. 吉井 俊貴. 頚椎前方除圧固定術から人工椎間板置換術への未来. 第 9 回 日本脊椎前方側方進入手術学会 2023.02.04 大阪

319. 志村 治彦, 若林 良明, 白坂 律郎, 山田 哲也, 白川 健, 佐藤 哲也, 藤田 浩二, 新関 祐美, 鈴木 志郎, 鏑木 秀俊. 橈骨頭粉砕骨折に対する人工橈骨頭挿入術 36 例の治療成績. 第 35 回 日本肘関節学会学術集会 2023.02.04 山形

320. 佐々部 敦, 志村 治彦, 藤田 浩二, 鏑木 秀俊, 二村 昭元. 小児肘外傷の診断と治療　小児 floating elbow6 例の治療経験. 第 35 回 日本肘関節学会学術集会 2023.02.03 山形

321. 深井 敦大, 二村 昭元, 堤 真大, 藤代 瞳, 藤田 浩二, 今谷 潤也, 秋田 恵一. 肘関節外側尺側側副靭帯の周囲線維性構造との結合の観点からの解剖学的再考. 第 35 回 日本肘関節学会学術集会 2023.02.03 山形

322. 吉井 俊貴. 脊椎高難度手術における止血の工夫. つくば脊椎手術出血マネジメントセミナー 2023.02.02 つくば

323. 有賀茜、阿江啓介、谷澤泰介、早川景子、三浪友輔、齊藤正徳、黒澤紀雄、白川さくら、松本誠一. 臼蓋破綻により腸管穿孔を生じた骨盤周囲肉腫の術後長期臨床像. 第 6 回日本サルコーマ治療研究学会学術集会 2023.02

324. 齊藤正徳、阿江啓介、谷澤泰介、早川景子、三浪友輔、黒澤紀雄、有賀茜、松本誠一. 骨盤周囲腫瘍に対する、新しい皮膚切開法. 第 6 回日本サルコーマ治療研究学会学術集会 2023.02

325. 猪瀬 弘之. 腰部脊柱管狭窄症へのアプローチを再考する. 地域で整形外科疾患について考える会 2023.01.30

326. 山田 英莉久, 山本 皓子, 鏑木 秀俊, 二村 昭元, 藤田 浩二. 手根管症候群患者の上肢協調運動パターンの変化. 第 37 回 東日本手外科研究会 2023.01.28 秋田

327. 山本 皓子, 山田 英莉久, 塚本 和矢, 鏑木 秀俊, 二村 昭元, 藤田 浩二. 橈骨遠位端骨折術後の身体能力の長期変化に関する検討—ドミノ骨折予防のための予備的検討—. 第 37 回 東日本手外科研究会 2023.01.28 秋田

328. 川端茂徳. 脊磁図 · 末梢神経磁図による脊髄 · 末梢神経障害の評価. Expert Seminar for Innovation 2023.01.24 オンライン

329. 二村 昭元. 上肢の機能解剖に関する最新の知見. 日本手外科学会 2022 年度教育研修会 2023.01.20 Web

330. 二村 昭元. 手 · 肘 · 肩の医師が語るヘルスケア. 在宅医療オンライン (31) 2023.01.17 Web

331. 大川 淳. 整形外科教育と専門医制度ー最近の話題. 大和整形外科講演会 2023.01.15 奈良

332. 二村 昭元. 第 5 回 手関節. 運動器リハビリテーションのための臨床解剖学講座 2023.01.14 Web

333. 松倉 遊. 脊椎変性疾患 · 椎体骨折における保存 · 手術療法. 旭化成企業内研修会 2023.01.12

334. 船内雄生. 整形外科と腫瘍外科の両立を目指して〜骨軟部腫瘍領域におけるナビゲーション手術〜. 第 10 回日本骨盤手術手技研究会学術集会 2023.01.07 東京都

335. 王 耀東, 大川 淳. 転倒衝撃吸収床材による脆弱性大腿骨近位部骨折予防効果を検証する CT 有限要素解析モデルの開発. 骨折 2023.01.01

336. 石塚 光悦, 江川 聡, 吉井 俊貴, 平井 高志, 松倉 遊, 歌川 蔵人, 橋本 淳, 上杉 豪, 田村 友里, 大川 淳. 胸腰椎に多発した giant calcified herniated disc の 1 例における病態の考察. 関東整形災害外科学会月例会 2023

[特許]

1. 生体磁気測定装置, 特許番号：ZL201780047125.1
2. 生体情報計測装置, 特許番号：11612368
3. 生体磁気計測装置, 特許番号：11666261
4. 神経刺激装置、生体情報計測システムおよび生体情報計測システムの刺激発生タイミング設定方法, 特許番号：特許第 7297212 号
5. 神経刺激装置、生体情報計測システムおよび生体情報計測システムの刺激発生タイミング設定方法, 特許番号：特許第 7297212 号
6. 生体情報表示装置、生体情報表示方法及び表示プログラム, 特許番号：特許第 7264377 号
7. 神経刺激装置、生体情報計測システムおよび生体情報計測システムの刺激発生タイミング設定方法 , 特許番号：11666759
8. 生体情報表示装置、生体情報表示方法及び表示プログラム, 特許番号：3824812
9. トロンビン担持止血用シート, 特許番号：ZL202080022290.3
10. ブドウ種子抽出物を含む更年期障害改善剤 （麻生 義則）, 出願番号：P-04044

[受賞]

1. 2023 年度転倒予防学会　優秀論文賞（藤田浩二 · 山本 皓子）, 転倒予防学会, 2023 年
2. 令和 4 年度 整形災害外科研究助成財団「アルケア賞」（山田 英莉久）, 整形災害外科研究助成財団, 2023 年 03 月
3. 東京医科歯科大学 令和 4 年度医師会賞 (田中 寛来）, 東京医科歯科大学, 2023 年 03 月
4. 第 49 回日本骨折治療学会学術集会　学会賞（王 耀東）, 日本骨折治療学会, 2023 年 06 月
5. 第 72 回 東日本整形災害外科学会　若手優秀演題アウォード：股関節 · 腫瘍（有賀 茜）, 東日本整形災害外科学会, 2023 年 09 月
6. 第 72 回 東日本整形災害外科学会 若手優秀演題アウォード：下肢 · 代謝性疾患（杉浦 沙羅）, 東日本整形災害外科学会, 2023 年 09 月
7. メドテックグランプリ KOBE2023 2 位、明治ホールディングス賞、神戸医療産業都市賞（OsteoChemicals 代表：江川 聡）, メドテックグランプリ, 2023 年 10 月
8. 第 16 回 日本運動器疼痛学会 最優秀演題賞（田中 雄太）, 日本運動器疼痛学会, 2023 年 11 月
9. 第 32 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 最優秀演題賞 (小野村賞)（橋本 泉智）, 日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2023 年 11 月
10. CSRS 51st Annual Meeting　2nd Place Resident/Fellow Poster Award（Motonori Hashimoto）, CSRS, 2023 年 11 月
11. 第 53 回日本臨床神経生理学会学術大会　優秀演題賞 (一般ポスター)（東川 尚人）, 日本臨床神経生理学会, 2023 年 12 月

[その他業績]

1. 「頸椎変性疾患術後に起こる嚥下障害の要因を検討」 —　頸椎疾患に対する前方 · 後方アプローチ術前後の嚥下動態解析　—（橋本 泉智 · 平井 高志 · 吉井 俊貴）, 2023 年 03 月
   The Spine Journal
2. 「新しい骨組織透明化技術の開発による骨内神経の 3 次元構造の可視化　」 —　骨内神経による骨代謝調節機構の解明　—（歌川 蔵人 · 大川 淳）, 2023 年 03 月
   Scientific Reports
3. 日常生活空間における疾患スクリーニングを目指して —スマートフォン 1 台で頚髄症（けいずいしょう）のスクリーニングと重症度推定—（藤田 浩二）, 2023 年 06 月
   Digital Health
4. 「日常生活空間における無意識での疾患スクリーニングの実現　」 —　書く動作によって頚髄症 (けいずいしょう) をスクリーニング　—（藤田 浩二, 山田 英莉久, 大川 淳）, 2023 年 06 月
   Scientific Reports
5. 東京医科歯科大学とマジックシールズの共同研究「転倒衝撃吸収床材 『ころやわ』の骨折予防効果の解明」が日本骨折治療学会 学会賞を受賞（王 耀東）, 2023 年 08 月
6. 「ChatGPT が示す自己診断の信頼性の問題点とその改善法」 —　ChatGPT に同じ症状の質問をしても、日によって違う診断を提示される？　—（藤田 浩二, 黒岩 智之）, 2023 年 09 月
   Journal of Medical Internet Research
7. 「手根管症候群スクリーニング手法」の共同研究を開始（藤田 浩二）, 2023 年 10 月
   —
8. Can ChatGPT diagnose your condition? Not yet（藤田 浩二）, 2023 年 10 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. プレスリリース「日常空間における疾患スクリーニング」について（藤田 浩二）, NHK, おはよう日本、NHK ニュースなど, 2023 年 06 月 06 日 - 2023 年 06 月 13 日
2. 「スマホで頸髄症判別」について（藤田 浩二）, メディカルトリビューン, Medical Tribune, 2023 年 06 月 08 日
3. 頚髄症のスクリーニングに関する研究について（藤田 浩二）, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2023 年 06 月 12 日
4. 手のグーパー運動だけで頚髄症を判別　(藤田 浩二 G）, 日本経済新聞社, 日経産業新聞, 2023 年 06 月 19 日
5. 書字動作による頚髄症スクリーニング法の開発 (藤田 浩二 G）, 日本経済新聞所, 日本経済新聞, 2023 年 06 月 30 日
6. 教授就任の抱負及び新オペ室やＥＲセンター等の魅力について（吉井 俊貴）, 株式会社東海医事新報社, 関東医事新報, 2023 年 12 月 11 日 - 2024 年 01 月 20 日

画像診断 · 核医学

Diagnostic Radiology and Nuclear Medicine

教授	立石宇貴秀
准教授	岸野充浩
	北詰良雄（医療情報部准教授）（～９月）
	土屋純一（放射線診断科）
	藤岡友之（先端人工知能医用画像診断学講座）
講師	渡邉亮輔，大山潤（医療情報部講師）， 横山幸太
助教	木村浩一朗, 山鹿絵美, 池田もも，山際健，足立拓也
	福井健一，小澤茜（次世代画像装置開発学講座助教），八嶋夕絵（～９月），勝田玲於奈
医員	露嵜さゆみ，五月女亘，河内美穂，山屋直大，佐藤有紗（～９月），杉﨑健一
レジデント	岩﨑雅子，大田貴之，藤井樹矢（～９月）
大学院生	李若楠，奈良美也子，上道恵，堀井俊宏，髙橋叶衣，芋川智輝，髙橋麻里絵，山田浩文 （教官は併任を含む）

(1) 分野概要

画像診断学 · 核医学には高度の能力が要求されるため、能力を習得するために長期の訓練を要するが、医学的知識の発展を鑑みながら能力の維持も課題となる。また、医療の実践や社会的、政治的環境の変化に対応するため放射線科学的知識や技術のみならず倫理的な知識、技術、能力も同様に維持していく必要がある。地域貢献は放射線診断科の本来業務であり、国際化の時代にグローバルな視点を持って活躍できる人材や、地域医療の担い手である放射線診断専門医師を育成するとともに、教育 · 研究 · 診療活動を通じて、地域的課題の解決に向けた取組みや、高度で先進的な医療を提供するなど、大学としての使命を果敢に果たしていくことに変わりはない。画像診断 · 核医学分野は、医療の基本的理念である「患者本位の医療」や「医療安全管理の徹底」をこれまで以上に推進する方針であり、日常業務にはこのような観点からの能力維持を継続していくことが重要である。

新しい放射線科専門医制度では、2 年間の卒後臨床研修に引き続く日本放射線学会認定研修施設での 3 年間の総合研修の後（卒後 6 年目）に放射線科専門医認定試験の受験資格が得られる。合格後、放射線治療あるいは画像診断に分かれてさらに 2 年間の専門研修の後（卒後 8 年目）に放射線治療専門医あるいは放射線診断専門医の認定試験受験資格が得られる。

画像診断 · 核医学分野は平成 25 年 7 月より、画像診断部門を担当する専門分野として分かれた。ただし、放射線科専門医認定試験は治療 · 診断共通であるため、3 年間の総合研修期間は治療あるいは診断に分かれることなく研修が行われる予定である。日本医学放射線学会の定める専門医研修カリキュラムガイドラインに準拠して約 1 年間の学内研修に続いて約 2 年間の学外関連病院での研修が行われるのが一般的である。現在、本学を総合修練基幹病院として学会認定の修練機関と連携総合修練機関を合わせて 17 の関連病院がある。現在関連施設は増加している。専門研修に入る時点で各分野に所属することになろう。2 年間の専門研修後に全員が放射線治療専門医あるいは放射線診断専門医を目指す。また、ほぼ全員が大学院あるいは社会人大学院に入学し学位取得を目指している。

今般の画像診断は、機器性能向上に伴う撮影高速化により画像処理、読影件数、サーバー保管の負荷が大きくなっている。また、PET/CT、SPECT/CT、PET/MRI などのハイブリッド画像技術の普及により診断方法の多様化が加速している。形態画像のみから代謝 · 血流をモニターする機能画像の併用が基本になるため、複雑な取得データから臨床上有用な情報を抽出 · 分析できる能力を身につけられるよう医師の教育を充実させていくことが重要である。人工知能を応用した画像再構成方法の構築、画像診断補助診断装置の開発を実施している。

遠隔画像診断が良い例であるが、地域貢献としての業務として今日の画像診断は社会的活動に変化してきている。地域が診断医に対して、特定の診療サービスを提供する排他的あるいは第一次的な責任を含む特権を与えている。地域医療の担い手となる医師を育成するとともに、診療活動を通じて先進的な医療を提供するなど、大学としての使命を果敢に果たすべきである。地域医療での画像診断学を取り巻く環境が十分成熟したものとはいえないが、専門職として与えられた特権を行使し、地域社会の発展に寄与するものでなければならず、このような

意識を強く持って業務を遂行すべきであると考えている。

(2) 研究活動

医学研究の成果を臨床で利用するという観点から、診断専門医はその能力を維持するために生涯教育、継続的専門職育成プログラム、医学雑誌、学会活動、インターネットの活用により専門分野の最新研究についていく必要がある。研究結果の解釈とその患者への適用の仕方を認識しておくことが重要であり、研究方法の基本に精通し適切な医療を実践するために専門的視野で広義の教育プログラムを構築していくことも必要である。学術院を効果的に運用し、個々の学部や研究科等の枠を越えた全学的視点に立った、領域横断的な研究活動を実現するための放射線医学的観点を明確化してゆく。また、大学院における教育・研究活動を学部教育へ反映させるとともに、研究成果の更なる向上に向け、企業等との連携強化や外部資金確保対策に積極的に取り組む。北米放射線学会議（RSNA）、欧州放射線学会（ECR）、米国核医学会（SNMMI）、欧州核医学会（EANM）などとの国際協力ネットワークの推進に画像診断・核医学の立場から積極的に取り組み、分野においてもたらされるインパクトや関連実用分野で発展する可能性と言った点についても十分認識した上で研究を推進してゆく。

画像診断学は三次元的構造の器官・組織の形態情報をとらえ診断に供するものである。画像所見の分析とそのリファレンスとなる病理組織との対比について系統立てて整理していくことが習得の上で重要である。中でも CT や MRI を用いたマクロ病理を反映する組織特徴化が疾患の特定に重要である。

また、画像診断学は、血流・代謝情報を経時的に収集・解析することで病態把握に迫ることができる領域である。in vivo の血流を低侵襲的に抽出する方法として造影剤をボーラス注入し解像度の高いマルチスライス CT や高磁場 MRI で経時的に撮影するダイナミックスキャンプロトコルを作成し、in vivo のダイナミック解析がバイオマーカーとして使用できるよう研究を続けている。テクスチャ解析や AI 診断も形態・機能画像に応用され、first order の kurtosis、テンソル解析から high order の NGLCM、NGTDM、GLSZM まで研究対象にしている。in vivo の代謝を低侵襲的に抽出する方法として 3D PET/CT で経時的に撮影するスキャンプロトコルを作成している。マルチトレーサ技術を展開しており、18F-FDG（糖代謝）、11C-コリン（細胞膜代謝）、11C-アセテート（酢酸代謝）、18F-FACBC（アミノ酸代謝）、62/64Cu-ATSM（レドックス）、18F-FAZA（低酸素）、18F-FLT（DNA 合成）、18F-NaF（骨代謝）、68Ga-DOTATATE（ソマトスタチンレセプター）、18F-Fluorobetapir、18F-Flutemetamol、18F-PSMA1007 などが含まれる。これらのマルチトレーサはオンコロジー領域で、多くの癌腫にて有用性が確認されている。PET/CT を使用し多施設共同研究を実施し、撮影方法や判定方法を標準化した検査が必須なため、標準化の実際や方法論も構築し、本邦におけるグローバルな治験に対応しやすくしている。癌研究以外でも心筋血流 PET 製剤の治験実施、新規化合物の開発に力を入れている。機器開発では半導体検出器搭載型 PET/CT の共同開発、DRL を使用した AI 画像作成技術、AI を用いた診断研究を積極的に実施している。

(3) 教育活動

患者と放射線診断医師双方の期待に応えるために医療の中核となる価値、特に共感、能力、自律について知り自ら示していくことが重要である。放射線診断学には高度の能力が要求されるため、能力を習得するために長期の訓練を要するが、医学的知識の発展を鑑みながら能力の維持も課題となる。また、医療の実践や社会的、政治的環境の変化に対応するため放射線科学的知識や技術のみならず倫理的な知識、技術、能力も同様に維持していく必要がある。学部教育では、自ら課題を見つけ探究する姿勢と様々な問題を解決する能力を備えた人材育成に向けて「問題提起」「技法の修得」「専門との連携」の各科目群を展開し、それを踏まえた専門教育を放射線医学の観点から考案し実施する。大学院教育においては、人類の抱える課題にグローバルな視点から統合的に解決できる人材の育成に向け、専門知識の習得に加え、先端的な課題の研究を複数の教員による研究指導体制のもとで実施し、独創的かつ実践的な研究能力を開発する教育を放射線医学の観点から行う。大学院教育にはこのような観点からの能力維持を継続していくことも重要である。

新しい放射線科専門医制度では、2 年間の卒後臨床研修に引き続く日本放射線学会認定研修施設での 3 年間の総合研修の後（卒後 6 年目）に放射線科専門医認定試験の受験資格が得られる。合格後、放射線治療あるいは画像診断に分かれてさらに 2 年間の専門研修の後（卒後 8 年目）に放射線治療専門医あるいは放射線診断専門医の認定試験受験資格が得られる。

腫瘍放射線医学分野は平成 25 年 7 月より、放射線治療部門を担当する腫瘍放射線治療学分野と画像診断部門を担当する画像診断・核医学分野に分かれた。ただし、放射線科専門医認定試験は治療・診断共通であるため、3 年間の総合研修期間は治療あるいは診断に分かれることなく研修が行われる予定である。日本医学放射線学会の定める専門医研修カリキュラムガイドラインに準拠して約 1 年間の学内研修に続いて約 2 年間の学外関連病院での研修が行われるのが一般的である。現在、学会認定の研修機関として 11（都内 5、関東 6）の学外関連病院がある。専門研修に入る時点で各分野に所属することになろう。2 年間の専門研修後に全員が放射線治療専門医あるいは放射線診断専門医を目指す。また、ほぼ全員が大学院あるいは社会人大学院に入学し学位取得を目指している。核

医学分野では密封 · 非密封線源を管理する立場から第 1 種放射線取扱主任者の資格を得て臨床 · 研究に従事するものも多い。

(4) 教育方針

教育研究 · 医療の拠点機能を担うことをその使命とし、社会の発展に寄与する「本学のミッション」を具現化すべく基本方針のもとに教育を実践する。放射線診断専門医が現場で示す行動基準には医の倫理の正式なカリキュラムよりはるかに強い影響力があると考えており、中央診療部門として領域横断的に対応できる人材を育成する。大学病院が抱える課題の解決に取り組んでいける人材やグローバルな視野をもって活躍でき、患者と学生双方の期待に応えるために医療の中核となる価値、特に共感、能力、自律について知り自ら示していけるような人材を育成する。学部教育では、自ら課題を見つけ探究する姿勢と様々な問題を解決する能力を備えた人材育成に向けて、「問題提起」「技法の修得」「専門との連携」の各科目群を展開し、それを踏まえた専門教育を放射線医学の観点から考案し実施する。大学院教育においては、人類の抱える課題にグローバルな視点から統合的に解決できる人材の育成に向け、専門知識の習得に加え、先端的な課題の研究を複数の教員による研究指導体制のもとで実施し、独創的かつ実践的な研究能力を開発する教育を放射線医学の観点から行う。

(5) 臨床活動および学外活動

画像診断

· ＣＴ：放射線診断科として関与する CT は放射線部の 5 台（Dual Energy, コロナ対応 CT, 歯学部 CT 他）と ER 室の 1 台の計 6 台である。
· ＭＲＩ：放射線診断科として関与する MRI は 1.5 テスラ装置 1 台と 3 テスラ装置の 4 台の計 5 台である。
· 超音波検査：放射線診断専門医によりおもに乳腺、腹部領域の検査を行っている。
· 血管造影、Interventional Radiology（IVR）：閉塞性動脈疾患に対する PTA およびステント留置、骨盤内腫瘍に対する動注、ER からの緊急止血などを行っている。胸部領域の CT ガイド下生検、乳腺腫瘤やリンパ節に対する生検を施行している。
· 乳腺領域：乳腺外科との協力のもと、チーム医療としての乳腺画像診断を担っている。マンモグラフィ読影、超音波検査、および MRI、FDG-PET/CT などを組み合わせた質の高い画像診断や、画像ガイド下生検、手術範囲マーキングを行い、乳癌の早期診断、正確な術前診断や、治療方針検討に努めている。
· カンファレンス：領域横断的に各診療科とのカンファレンスを毎日実施している。分野内では毎週金曜日にカンファレンスを実施している。学外で企画されているカンファレンスには適宜参加している。

核医学

· PET 検査は悪性腫瘍を中心に 15〜16 件/日、一般核医学検査は脳 · 心筋 SPECT を中心に 8〜10 件/日行っている。放射線治療計画用 PET/CT と non-FDG tracer の導入を展開している。

(6) 臨床上の特色

画像診断 · 核医学分野は、中央診療部門として依頼科とのパートナーシップを強固にし、依頼科のニーズに応え、領域横断的に臨床活動を実施する診療科であり、大学病院が抱える課題の解決に取り組み、グローバルな視点を持って使命を果敢に果たす責務を負っている。画像診断 · 核医学分野は、大量の画像情報を処理する能力を備え、問題提起、技法の修得、各科との連携を展開し、新たなモダリティー、プローブや造影剤、臨床試験に入念に対応していく特色を有している。

(7) 研究業績

[原著]

1. Motohashi M, Funauchi Y, Adachi T, Fujioka T, Otaka N, Kamiko Y, Okada T, Tateishi U, Okawa A, Yoshii T, Sato S. A New Deep Learning Algorithm for Detecting Spinal Metastases On CT Images. Spine. 2023.12; 49(6); 390-397

2. Tateishi U, Kimura K, Tsuchiya J, Kano D, Watabe T, Nonomura N, Saito K, Yokoyama K, Yamagiwa K, Adachi T, Kojima Y, Yoshida S, Fujii Y. Phase I/IIa trial of 18F-prostate specific membrane antigen (PSMA) 1007 PET/CT in healthy volunteers and prostate cancer patients. Japanese journal of clinical oncology. 2023.12;

3. Kawamura M, Kamomae T, Yanagawa M, Kamagata K, Fujita S, Ueda D, Matsui Y, Fushimi Y, Fujioka T, Nozaki T, Yamada A, Hirata K, Ito R, Fujima N, Tatsugami F, Nakaura T, Tsuboyama T, Naganawa S. Revolutionizing radiation therapy: the role of AI in clinical practice. Journal of radiation research. 2023.11; 65(1); 1-9

4. Ozawa A, Iwasaki M, Yokoyama K, Tsuchiya J, Kawano R, Nishihara H, Tateishi U. Correlation between choline kinase alpha expression and (11)C-choline accumulation in breast cancer using positron emission tomography/computed tomography: a retrospective study. Scientific reports. 2023.10; 13(1); 17620

5. Fujioka Tomoyuki, Kubota Kazunori, Hsu Jen Feng, Chang Ruey Feng, Sawada Terumasa, Ide Yoshimi, Taruno Kanae, Hankyo Meishi, Kurita Tomoko, Nakamura Seigo, Tateishi Ukihide, Takei Hiroyuki. Examining the effectiveness of a deep learning-based computer-aided breast cancer detection system for breast ultrasound Journal of Medical Ultrasonics. 2023.10; 50(4); 511-520

6. Imokawa T, Satoh Y, Fujioka T, Takahashi K, Mori M, Kubota K, Onishi H, Tateishi U. Deep learning model with collage images for the segmentation of dedicated breast positron emission tomography images. Breast cancer (Tokyo, Japan). 2023.08;

7. Fujioka T, Kubota K, Hsu JF, Chang RF, Sawada T, Ide Y, Taruno K, Hankyo M, Kurita T, Nakamura S, Tateishi U, Takei H. Examining the effectiveness of a deep learning-based computer-aided breast cancer detection system for breast ultrasound. Journal of medical ultrasonics (2001). 2023.07; 50(4); 511-520

8. Kitazume Yoshio, Takenaka Kento, Ohtsuka Kazuo, Ozawa Yasuo, Kimura Koichiro, Watanabe Ryosuke, Tsuchiya Junichi, Fujii Toshimitsu, Nagahori Masakazu, Watanabe Mamoru, Tateishi Ukihide. Motility Mapping Quantification Using the Classical Optical Flow Algorithm for Small Bowel Crohn's Disease: Comparison with Balloon-assisted Enteroscopy Findings Magnetic Resonance in Medical Sciences. 2023.07; 22(3); 325-334

9. Kubota Kazunori, Mori Mio, Fujioka Tomoyuki, Watanabe Kaoru, Ito Yuko. 【Ultrasound diagnosis of breast non-mass abnormalities Including diagnosis with other modalities】Magnetic resonance imaging diagnosis of non-mass enhancement of the breast Journal of Medical Ultrasonics. 2023.07; 50(3); 361-366

10. Shun Fujiwara, Yoshihito Kano, Yasuhiro Maejima, Tomoyuki Fujioka, Kazuhiro Tamura, Susumu Kirimura, Satoshi Miyake, Ryuichi Okamoto. Clinical Response of Primary Malignant Pericardial Mesothelioma with Peritoneal Dissemination to Nivolumab. Intern Med. 2023.06;

11. Yamaguchi Y, Tanaka H, Kimura K, Fukuda S, Fukushima H, Waseda Y, Yoshida S, Yokoyama M, Hirakawa A, Tateishi U, Campbell SC, Fujii Y. Prognostic impact of the radiological infiltrative feature of primary renal tumor in metastatic renal cell carcinoma. International journal of urology : official journal of the Japanese Urological Association. 2023.06;

12. Kota Yokoyama, Junichi Tsuchiya, Hiroaki Kawabe, Takahiro Asakage, Ukihide Tateishi. A rare case of primary intraosseous carcinoma of the mandible with perineural extension mimicking neurolymphomatosis on [18F] -FDG PET/CT Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2023.05; 50(6); 1835-1836

13. Yamada A, Kamagata K, Hirata K, Ito R, Nakaura T, Ueda D, Fujita S, Fushimi Y, Fujima N, Matsui Y, Tatsugami F, Nozaki T, Fujioka T, Yanagawa M, Tsuboyama T, Kawamura M, Naganawa S. Clinical applications of artificial intelligence in liver imaging. La Radiologia medica. 2023.05; 128(6); 655-667

14. Ichikawa R, Yokoyama K, Tsuchiya J, Namiki T, Tateishi U. [(18)F] -FDG PET/CT is useful for early detection of Stewart-Treves syndrome, in patients with chronic lymphedema. European journal of nuclear medicine and molecular imaging. 2023.04; 50(9); 2916-2917

15. Kimura K, Yoshida S, Tsuchiya J, Kitazume Y, Waseda Y, Tanaka H, Yokoyama M, Toda K, Yoshimura R, Masaya I, Koga F, Tateishi U, Fujii Y. Novel utility of Vesical Imaging-Reporting and Data System in multimodal treatment for muscle-invasive bladder cancer. European radiology. 2023.04;

16. Yashima Yuka, Fujioka Tomoyuki, Kubota Kazunori, Mori Mio, Sato Arisa, Oda Goshi, Nakagawa Tsuyoshi, Onishi Iichiroh, Tanaka Mayuko, Tateishi Ukihide. Comparison of the clinical and pathological characteristics of ultrasound-guided biopsy for breast masses and non-mass lesions between 16-gauge spring-loaded core needle biopsy and 12-gauge spring-loaded vacuum-assisted biopsy Journal of Medical Ultrasonics. 2023.04; 50(2); 205-212

17. Sato Arisa, Fujioka Tomoyuki, Mori Mio, Oda Goshi, Nakagawa Tsuyoshi, Kubota Kazunori, Tateishi Ukihide. A case in which ultrasonography was useful in differentiating between rib fracture due to compression after biopsy and rib metastasis of breast cancer Journal of Medical Ultrasonics. 2023.04; 50(2); 265-266

18. Oishi K, Arai H, Kuroki H, Fujioka T, Tomita M, Tasaki D, Oi K, Nagaoka E, Fujiwara T, Takeshita M, Yoshizaki T, Someya T, Mizuno T. A prospective randomized controlled study to assess the effectiveness of super FIXSORB WAVE(®) for sternal stabilization after sternotomy. General thoracic and cardiovascular surgery. 2023.03;

19. Yoshida Soichiro, Takahara Taro, Arita Yuki, Toda Kazuma, Kimura Koichiro, Fujiwara Motohiro, Tanaka Hajime, Yokoyama Minato, Matsuoka Yoh, Yoshimura Ryoichi, Fujii Yasuhisa. Patterns of recurrence in genuine and induced oligometastatic castration-resistant prostate cancer treated with progressive sitedirected therapy International Journal of Urology. 2023.02; 30(2); 204-210

20. Hanafusa M, Nawa N, Goto Y, Kawahara T, Miyamae S, Ueki Y, Nosaka N, Wakabayashi K, Tohda S, Tateishi U, Fujiwara T*. Effectiveness of remdesivir with corticosteroids for COVID-19 patients in intensive care unit: a hospital-based observational study. J Med Virol. 2023.01; 95(1); e28168

21. Nara Miyako, Fujioka Tomoyuki, Mori Mio, Aruga Tomoyuki, Tateishi Ukihide. Prediction of breast cancer risk by automated volumetric breast density measurement Japanese Journal of Radiology. 2023.01; 41(1); 54-62

22. Inaba, Y; Hashiuchi, E; Watanabe, H; Kimura, K; Oshima, Y; Tsuchiya, K; Murai, S; Takahashi, C; Matsumoto, M; Kitajima, S; Yamamoto, Y; Honda, M; Asahara, SI; Ravnskjaer, K; Horike, SI; Kaneko, S; Kasuga, M; Nakano, H; Harada, K; Inoue, H. The transcription factor ATF3 switches cell death from apoptosis to necroptosis in hepatic steatosis in male mice NATURE COMMUNICATIONS. 2023.01; 14(1);

23. Zama S, Fujioka T, Yamaga E, Kubota K, Mori M, Katsuta L, Yashima Y, Sato A, Kawauchi M, Higuchi S, Kawanishi M, Ishiba T, Oda G, Nakagawa T, Tateishi U. Clinical Utility of Breast Ultrasound Images Synthesized by a Generative Adversarial Network. Medicina (Kaunas, Lithuania). 2023.12; 60(1);

24. Mori M, Fujioka T, Hara M, Katsuta L, Yashima Y, Yamaga E, Yamagiwa K, Tsuchiya J, Hayashi K, Kumaki Y, Oda G, Nakagawa T, Onishi I, Kubota K, Tateishi U. Deep Learning-Based Image Quality Improvement in Digital Positron Emission Tomography for Breast Cancer. Diagnostics (Basel, Switzerland). 2023.02; 13(4);

25. Yashima Y, Fujioka T, Kubota K, Mori M, Sato A, Oda G, Nakagawa T, Onishi I, Tanaka M, Tateishi U. Comparison of the clinical and pathological characteristics of ultrasound-guided biopsy for breast masses and non-mass lesions between 16-gauge spring-loaded core needle biopsy and 12-gauge spring-loaded vacuum-assisted biopsy. Journal of medical ultrasonics (2001). 2023.01; 50(2); 205-212

1. 久保田 一徳, 八嶋 夕絵, 森 美央, 山鹿 絵美, 佐藤 有紗, 勝田 玲於奈, 藤岡 友之. 【非典型症例と類似疾患を知って Common Disease を極める】その他　乳房　乳癌 臨床放射線. 2023.12; 68(12); 1353-1357

2. 藤岡 友之, 勝田 玲於奈, 山鹿 絵美, 八嶋 夕絵, 立石 宇貴秀. 【放射線科医がもっているべき 超音波検査の知識】乳腺 臨床画像. 2023.11; 39(11); 1232-1240

3. 藤岡 友之, 久保田 一徳. 【これからの乳癌検診はこうなる!】AI を活用したマンモグラフィ検診の未来 Rad Fan. 2023.10; 21(12); 49-52

4. 立石 宇貴秀, 青木 茂樹, 松本 圭一. 【医療情報の利活用で実現する核医学 DX　デジタル化の技術革新がもたらす核医学検査の新展開】J-QIBA における核医学領域の取り組みと将来展望 INNERVISION. 2023.10; 38(11); 68-71

5. 久米 博子, 小泉 伸也, 櫻澤 健一, 本間 香織, 岸野 充浩, 岩井 武尚. 骨盤うっ滞症候群 8 例の治療経験 静脈学. 2023.08; 34(3); 351-356

6. 横山 幸太, 大山 潤, 立石 宇貴秀. 【画像診断医に求められる認知症診断の minimum requirements-疾患修飾薬の到来を見越して-】特徴的画像所見が診断に役立つ認知症 臨床画像. 2023.08; 39(8); 942-953

7. Kaneko Hiroki, Fujiwara Motohiro, Tanaka Hajime, Kimura Koichiro, Yoshida Soichiro, Fujii Yasuhisa. Texture feature analysis using dynamic computed tomography for preoperative risk stratification in upper urinary tract urothelial carcinoma INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY. 2023.07;

8. 久保田 一徳, 藤岡 友之. 【医療と人工知能 (AI)-現在と未来 (前編)】医療と AI　自らの研究で AI を学ぶ Dokkyo Journal of Medical Sciences. 2023.07; 50(1); 9-16

9. 横山 幸太, 土屋 純一, 立石 宇貴秀. 【唾液腺・甲状腺をきわめる】唾液腺・甲状腺の核医学検査 画像診断. 2023.04; 43(6); 556-567

10. 岸野 充浩, 堀井 俊宏, 神田 英一郎, 高橋 麻里絵, 木村 浩一朗, 森下 幸治, 渡邊 亮輔, 足立 拓也, 大山 潤, 立石 宇貴秀. 特発性筋出血寒栓術後の予後不良因子 COVID pandemic 期を含めた検討 日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌. 2023.04; 38(Suppl.); 269

11. 森 美央, 藤岡 友之, 久保田 一徳, 立石 宇貴秀. 乳房構成判定法の検討　乳房の構成と自動解析ソフト 日本乳癌検診学会誌. 2023.03; 32(1); 53-56

12. Sato Arisa, Fujioka Tomoyuki, Mori Mio, Oda Goshi, Nakagawa Tsuyoshi, Kubota Kazunori, Tateishi Ukihide. A case in which ultrasonography was useful in differentiating between rib fracture due to compression after biopsy and rib metastasis of breast cancer JOURNAL OF MEDICAL ULTRASONICS. 2023.02; 50(2); 265-266

13. 横山 幸太, 土屋 純一, 立石 宇貴秀. 【遺伝性腫瘍-放射線科医が担う新たな使命-】消化管の遺伝性疾患の画像診断 臨床画像. 2023.02; 39(2); 147-158

14. Kaneko H., Kimura K., Tanaka H., Chen W., Yoshitomi K., Soma T., Kobayashi M., Fujiwara M., Nakamura Y., Fan B., Ishikawa Y., Fukuda S., Waseda Y., Yoshida S., Yokoyama M., Fujii Y.. Radiomics analysis using dynamic computed tomography for preoperative risk stratification in upper urinary tract urothelial carcinoma EUROPEAN UROLOGY. 2023.02; 83; S711-S712

15. Imokawa Tomoki, Satoh Yoko, Fujioka Tomoyuki, Takahashi Kanae, Mori Mio, Kubota Kazunori, Onishi Hiroshi, Tateishi Ukihide. Deep learning model with collage images for the segmentation of dedicated breast positron emission tomography images BREAST CANCER. 2023.08;

[書籍等出版物]

1. 斎田　幸久, 藤岡　友之, 渡邉　亮輔, 大山　純, 土屋　純一　他 . 300 例で学ぶ読影レポートの流儀　MRI, CT, X 線, PET まで完全理解. 株式会社 Gakken, 2023.01 (ISBN : 978-4-7809-0443-7)

[総説]

1. Fujima N, Kamagata K, Ueda D, Fujita S, Fushimi Y, Yanagawa M, Ito R, Tsuboyama T, Kawamura M, Nakaura T, Yamada A, Nozaki T, Fujioka T, Matsui Y, Hirata K, Tatsugami F, Naganawa S. Current State of Artificial Intelligence in Clinical Applications for Head and Neck MR Imaging. Magnetic resonance in medical sciences : MRMS : an official journal of Japan Society of Magnetic Resonance in Medicine. 2023.10; 22(4); 401-414

2. Hirata K, Kamagata K, Ueda D, Yanagawa M, Kawamura M, Nakaura T, Ito R, Tatsugami F, Matsui Y, Yamada A, Fushimi Y, Nozaki T, Fujita S, Fujioka T, Tsuboyama T, Fujima N, Naganawa S. From FDG and beyond: the evolving potential of nuclear medicine. Annals of nuclear medicine. 2023.09; 37(11); 583-595

3. Ueda D, Kakinuma T, Fujita S, Kamagata K, Fushimi Y, Ito R, Matsui Y, Nozaki T, Nakaura T, Fujima N, Tatsugami F, Yanagawa M, Hirata K, Yamada A, Tsuboyama T, Kawamura M, Fujioka T, Naganawa S. Fairness of artificial intelligence in healthcare: review and recommendations. Japanese journal of radiology. 2023.08; 42(1); 3-15

4. Tatsugami F, Nakaura T, Yanagawa M, Fujita S, Kamagata K, Ito R, Kawamura M, Fushimi Y, Ueda D, Matsui Y, Yamada A, Fujima N, Fujioka T, Nozaki T, Tsuboyama T, Hirata K, Naganawa S. Recent advances in artificial intelligence for cardiac CT: Enhancing diagnosis and prognosis prediction. Diagnostic and interventional imaging. 2023.07;

5. Kubota K, Mori M, Fujioka T, Watanabe K, Ito Y. Magnetic resonance imaging diagnosis of non-mass enhancement of the breast. Journal of medical ultrasonics (2001). 2023.02; 50(3); 361-366

1. Yanagawa Masahiro, Ito Rintaro, Nozaki Taiki, Fujioka Tomoyuki, Yamada Akira, Fujita Shohei, Kamagata Koji, Fushimi Yasutaka, Tsuboyama Takahiro, Matsui Yusuke, Tatsugami Fuminari, Kawamura Mariko, Ueda Daiju, Fujima Noriyuki, Nakaura Takeshi, Hirata Kenji, Naganawa Shinji. New trend in artificial intelligence-based assistive technology for thoracic imaging RADIOLOGIA MEDICA. 2023.08;

2. 藤岡 友之, 久保田 一徳, 立石 宇貴秀.【Women's Imaging 2023　Breast Imaging Vol.18　アフターコロナの乳腺画像診断】乳腺画像診断における AI 技術の進歩　4. 乳腺画像診断 AI の最新トピックス INNERVISION. 2023.07; 38(8); 31-32

3. 藤岡 友之, 石井 佑充, 久保田 一徳, 奈良 美也子, Mengling Feng, Hao Du.【乳癌診断と治療における押さえるべきトレンド】アジア人女性のためのマンモグラフィ読影支援 AI の開発 Rad Fan. 2023.06; 21(7); 22-26

4. 片岡 正子, 井上 謙一, 植田 琢也, 藤岡 友之, 菊池 真理, 山本 陽一朗, 玉城 研太朗, 鈴木 貴, 戸井 雅和.【乳癌診断と治療における押さえるべきトレンド】乳癌学会における AI(artificial intelligence) の活用に向けた取り組み　画像と病理を中心に Rad Fan. 2023.06; 21(7); 17-21

5. 藤岡 友之, 森 美央, 立石 宇貴秀. 用語解説　画像診断 AI(乳腺) Cancer Board of the Breast. 2023.05; 7(2); 132

6. 久保田 一徳, 森 美央, 藤岡 友之.【臨床 MRI を基礎から知る-さまざまな角度から MRI の魅力に迫る-】胸部領域　乳房 臨床画像. 2023.04; 39(4 月増刊); 85-87

7. 渡邉 亮輔, 北詰 良雄.【臨床 MRI を基礎から知る-さまざまな角度から MRI の魅力に迫る-】腹部領域　消化管 臨床画像. 2023.04; 39(4 月増刊); 119-122

8. 大山 潤, 鳥井原 彰, 立石 宇貴秀. 18F-FDG-PET の原理と臨床 小児外科. 47(5); 525-529

[講演 · 口頭発表等]

1. Yoshida Souichirou, Takahara Taro, Arita Yuki, Toda Kazuma, Kimura Koichiro, Fujiwara Motohiro, Tanaka Hajime, Yokoyama Minato, Matsuoka Yoh, Yoshimura Ryoichi, Fujii Yasuhisa. Patterns of recurrence in genuine and induced oligometastatic castration-resistant prostate cancer treated with progressive site-directed therapy. Annual Meeting of the Japanese Urological Association 2023.04.01

2. Kobayashi M., Matsuoka Y., Fukuda S., Kimura K., Fujiwara M., Nakamura Y., Ishikawa Y., Waseda Y., Tanaka H., Yoshida S., Yokoyama M., Fujii Y.. Significance of MRI-ultrasound fusion targeted prostate biopsy for non-index PI-RADS > = 3 lesions in combination with index lesion-targeted biopsy and systematic biopsy. EUROPEAN UROLOGY 2023.02.01

1. 藤岡 友之, 久保田 一徳. 人工知能 (AI) を用いた次世代型乳がん検診への期待. 日本乳癌検診学会学術総会プログラム抄録集 2023.11.01

2. 鈴木 広太郎, 小林 正貴, 長谷川 滉, 木村 浩一朗, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 藤井 靖久. MRI 超音波融合前立腺標的生検におけるアプローチ法による臨床的有意癌の検出能の比較. 日本泌尿器内視鏡 · ロボティクス学会総会 2023.11.01

3. 長谷川 滉, 小林 正貴, 鈴木 広太郎, 木村 浩一朗, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 藤井 靖久. 前立腺癌診断における MRI 超音波融合標的生検の有用性の検討. 日本泌尿器内視鏡 · ロボティクス学会総会 2023.11.01

4. 立石 宇貴秀. 泌尿器科疾患に応用可能な未承認新規 PET 製剤　総論. 日本腎泌尿器疾患予防医学研究会プログラム · 抄録集 2023.07.01

5. 小田 剛史, 原 正武, 林 久美子, 熊木 裕一, 森 美央, 藤岡 友之, 土屋 純一, 中川 剛士, 立石 宇貴秀. 乳がん術前化学療法 non-pCR 症例において残存病変の SUVmax は予後予測因子として有用である. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2023.06.01

6. 片岡 正子, 井上 謙一, 植田 琢也, 藤岡 友之, 菊池 真理, 山本 陽一朗, 玉城 研太朗, 鈴木 貴. 乳癌画像診断における AI(artificial intelligence) の動向と展望. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2023.06.01

7. 鈴木 貴, 山本 陽一朗, 植田 琢也, 玉城 研太朗, 藤岡 友之, 井上 謙一, 菊池 真理, 片岡 正子. 病理における AI(artificial intelligence) の動向と展望. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2023.06.01

8. 小田 剛史, 原 正武, 林 久美子, 熊木 裕一, 森 美央, 藤岡 友之, 土屋 純一, 中川 剛士, 立石 宇貴秀. 乳がん術前化学療法 non-pCR 症例において残存病変の SUVmax は予後予測因子として有用である. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2023.06.01

9. 木村 浩一朗, 岸野 充浩, 山屋 直大, 足立 拓也, 高橋 麻里絵, 渡邉 亮輔, 北詰 良雄, 立石 宇貴秀. 血尿における IVR の役割　ケースシリーズ紹介と文献的考察 (Role of Interventional Radiology in Hematuria: Case Series Presentation and Literature Review). 日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌 2023.04.01

10. 藤岡 友之, 久保田 一徳. Artificial Intelligence による乳房超音波診断　ここまで出来る最新の乳房超音波 AI. 超音波医学 2023.04.01

11. 久保田 一徳, 藤岡 友之. 乳房超音波における AI(人工知能) 活用の展望. 乳腺甲状腺超音波医学 2023.04.01

12. 山屋 直大, 岸野 充浩, 高橋 麻里絵, 木村 浩一朗, 大山 潤, 中島 聡良, 西村 卓郎, 木脇 裕子, 明石 巧, 立石 宇貴秀. 分節性動脈中膜融解症による血管病変の経時的変化の検討. 日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌 2023.04.01

13. 岸野 充浩, 堀井 俊宏, 神田 英一郎, 高橋 麻里絵, 木村 浩一朗, 森下 幸治, 渡邊 亮輔, 足立 拓也, 大山 潤, 立石 宇貴秀. 特発性筋出血寒栓術後の予後不良因子　COVID pandemic 期を含めた検討. 日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌 2023.04.01

14. 川瀬 崇裕, 中港 秀一郎, 山崎 郁郎, 仲地 健一郎, 町田 洋一, 立石 宇貴秀.　下腸間膜動脈瘤に対して isolation+packing 法でコイル塞栓術を試行した 1 例.　日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌 2023.04.01

15. 伊藤 優, 本多 隆行, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 足立 拓也, 藤岡 友之, 宮崎 泰成. 画像診断　間質性肺疾患合併肺癌における薬剤性肺障害の CNN モデルによる予測可能性. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

16. Nakamura Y., Yoshida S., Arita Y., Takeshita R., Kimura K., Aida Y., Asai S., Maezawa Y., Yoshitomi K., Chen W., Soma T., Kobayashi M., Fujiwara M., Fan B., Ishikawa Y., Fukuda S., Waseda Y., Tanaka H., Yokoyama M., Jinzaki M., Fujii Y.. Can we avoid second transurethral resection according to VI-RADS score in patients with high-risk non-muscle-invasive bladder cancer?. EUROPEAN UROLOGY 2023.02.01

[受賞]

1. 優秀ポスター賞, 日本 IVR 学会, 2023 年 05 月

2. 大会長賞 臨床/疾患部門 優秀賞, 第 51 回日本磁気共鳴医学会大会, 2023 年 09 月

3. Cum Laude Award, 2023 年 11 月

ゲノム機能多様性分野

Department of Genomic Function and Diversity

教授　高地　雄太
准教授　西田　奈央
助教　上田　真保子
特任助教　山口　健介

非常勤講師　稲毛　純
非常勤講師　三橋　里美

連携研究員　本田　卓

技術補佐員　井藤　理恵

事務補佐員　岩佐　直美

(1) 分野概要

免疫アレルギー疾患・生活習慣病・癌などの多因子疾患は、個人間の遺伝子配列の違い、すなわち遺伝子多型が積み重なることによって発症に至ります。ゲノムワイド関連解析（GWAS）によって、様々な疾患の感受性遺伝子多型が明らかにされましたが、病態解明は道半ばです。本分野では、ヒトゲノム、エピゲノム、トランスクリプトームなどの様々なビッグデータを用いた解析に、分子生物学的手法を用いた解析を統合することによって、遺伝子多型によってもたらされるゲノム機能の多様性を理解し、多因子疾患の病態解明を行います。また、個人のゲノム情報に基づいた病態や薬剤応答性の予測法を開発し、いわゆるプレシジョン医療の確立を目指します。

(2) 研究活動

1. 多因子疾患の病因メカニズムを明らかにするために、ゲノムワイド関連解析（GWAS）と expression QTL/splicing QTL 解析の統合を行い、特に疾患に関与する選択的スプライシングの網羅的同定を行った。

2. 関節リウマチや全身性エリテマトーデスの疾患感受性領域を明らかにするために、国際研究グループにおける GWAS のメタ解析を進めている。

3. ポリジェニック・リスク・スコアを用いて、関節リウマチの重症化を予測する統計学的モデルを樹立した。

4. ロングリード・シークエンサーを用いて、疾患に関わる構造多型や反復配列多型を明らかにした。

(3) 教育活動

GWAS や eQTL/sQTL データを用いた多因子疾患の病態メカニズムの理解方法について、学部生、大学院生向けに講義を行った。

(4) 教育方針

GWAS や次世代シークエンサーなどの研究手法 · 技術の登場により、疾患に関わる様々なビッグデータが公共利用可能な時代になっています。我々はこれらのビッグデータを独自のアイディアのもとに利活用して、様々な疾患の病態解明につなげることのできる人材を育成します。

(5) 研究業績

[原著]

1. Shichen Chang, Satoru Torii, Jun Inamo, Kinya Ishikawa, Yuta Kochi, Shigeomi Shimizu. Uncovering the Localization and Function of a Novel Read-Through Transcript ' TOMM40-APOE' Cells. 2023.12; 13(1);

2. Ueda, MT. Retrotransposon-derived transcripts and their functions in immunity and disease GENES & GENETIC SYSTEMS. 2023.12; 98(6); 305-319

3. Chisato Ono, Shinya Tanaka, Keiko Myouzen, Takeshi Iwasaki, Mahoko Ueda, Yoshinao Oda, Kazuhiko Yamamoto, Yuta Kochi, Yoshihiro Baba. Upregulated Fcrl5 disrupts B cell anergy causes autoimmune disease Frontiers in Immunology. 2023.09; 14; 276014

4. Mitsui Y, Suzuki T, Kuniyoshi K, Inamo J, Yamaguchi K, Komuro M, Watanabe J, Edamoto M, Li S, Kouno T, Oba S, Hosoya T, Masuhiro K, Naito Y, Koyama S, Sakaguchi N, Standley DM, Shin JW, Akira S, Yasuda S, Miyazaki Y, Kochi Y, Kumanogoh A, Okamoto T, Satoh T. Expression of the readthrough transcript CiDRE in alveolar macrophages boosts SARS-CoV-2 susceptibility and promotes COVID-19 severity. Immunity. 2023.07; 56(8); 1939-1954.e12

5. Nao Otomo, Anas M Khanshour, Masaru Koido, Kazuki Takeda, Yukihide Momozawa, Michiaki Kubo, Yoichiro Kamatani, John A Herring, Yoji Ogura, Yohei Takahashi, Shohei Minami, Koki Uno, Noriaki Kawakami, Manabu Ito, Tatsuya Sato, Kei Watanabe, Takashi Kaito, Haruhisa Yanagida, Hiroshi Taneichi, Katsumi Harimaya, Yuki Taniguchi, Hideki Shigematsu, Takahiro Iida, Satoru Demura, Ryo Sugawara, Nobuyuki Fujita, Mitsuru Yagi, Eijiro Okada, Naobumi Hosogane, Katsuki Kono, Masaya Nakamura, Kazuhiro Chiba, Toshiaki Kotani, Tsuyoshi Sakuma, Tsutomu Akazawa, Teppei Suzuki, Kotaro Nishida, Kenichiro Kakutani, Taichi Tsuji, Hideki Sudo, Akira Iwata, Satoshi Inami, Carol A Wise, Yuta Kochi, Morio Matsumoto, Shiro Ikegawa, Kota Watanabe, Chikashi Terao. Evidence of causality of low body mass index on risk of adolescent idiopathic scoliosis: a Mendelian randomization study. Front Endocrinol (Lausanne). 2023.06; 14; 1089414

6. Fujitani H, Eguchi H, Kochi Y, Arai T, Muramatsu M, Okazaki Y. Rare germline variants in pancreatic cancer and multiple primary cancers: an autopsy study. European journal of cancer prevention : the official journal of the European Cancer Prevention Organisation (ECP). 2023.05; 32(3); 286-297

1. 高地 雄太.【関節リウマチの最新の理解とマネジメント】関節リウマチの遺伝素因 日本内科学会雑誌. 2023.10; 112(10); 1880-1884

2. Tadaka Kosuke, Ueda Mahoko Takahashi, Shichinohe Shintaro, Kida Yurie, Ono Chikako, Matsura Yoshiharu, Watarbe Tokiko, Nakagawa So. Genomic diversity of SARS-CoV-2 can be accelerated by mutations in the nsp14 gene ISCIENCE. 2023.03; 26(3); 106210

[総説]

1. Mahoko Takahashi Ueda. Retrotransposon-derived transcripts and their functions associated with immunity and disease Genes & Genetic Systems. 2023.09; in press;

1. 高地 雄太. 【膠原病　病態治療の新たな潮流】自己免疫疾患のゲノム解析の現状と展望 アレルギーの臨床. 2023.03; 43(3); 157-160

2. 高地 雄太. 【皮膚筋炎とその周辺】炎症性筋疾患と遺伝的素因 皮膚科. 2023.01; 3(1); 1-5

疾患多様性遺伝学

Human Genetics and Disease Diversity

教　　授　田中　敏博
助　　教　永田　有希
助　　教　高橋　健太郎

(1) 研究活動

以下の分野の研究を行っている.
1）ゲノム情報 · メタゲノム情報に基づく生活習慣病の遺伝学的多様性の理解
2）個別医療に資するゲノム診療マーカーの探索
3）薬理遺伝学
4）疾患の遺伝的背景と環境要因との相互作用の解明
5）遺伝統計学およびゲノム創薬手法の開発

(2) 教育方針

十人十色という言葉の通り、人間は多様な生物であり、疾患罹患性 · 治療抵抗性 · 薬剤の副作用発現など、医療の場においてもヒトの多様性が関連する場面は多い。この多様性をゲノム解析、発現情報解析および遺伝統計解析を通じて理解し、それを診療に活用することのできる人材の育成を目指している。

(3) 研究業績

[原著]

1. Mayumi Hangai, Takahisa Kawaguchi, Masatoshi Takagi, Keitaro Matsuo, Soyoung Jeon, Charleston W K Chiang, Andrew T Dewan, Adam J De Smith, Toshihiko Imamura, Yasuhiro Okamoto, Akiko M Saito, Takao Deguchi, Michiaki Kubo, Yoichi Tanaka, Yoko Ayukawa, Toshinari Hori, Kentaro Ohki, Nobutaka Kiyokawa, Takeshi Inukai, Yuki Arakawa, Makiko Mori, Daisuke Hasegawa, Daisuke Tomizawa, Hiroko Fukushima, Yuki Yuza, Yasushi Noguchi, Yuichi Taneyama, Setsuo Ota, Hiroaki Goto, Masakatsu Yanagimachi, Dai Keino, Kazutoshi Koike, Daisuke Toyama, Yozo Nakazawa, Kozue Nakamura, Koichi Moriwaki, Yujin Sekinaka, Daisuke Morita, Shinsuke Hirabayashi, Yosuke Hosoya, Yuri Yoshimoto, Hiroki Yoshihara, Miwa Ozawa, Shinobu Kobayashi, Naho Morisaki, Tshewang Gyeltshen, Osamu Takahashi, Yukinori Okada, Makiko Matsuda, Toshihiro Tanaka, Johji Inazawa, Junko Takita, Yasushi Ishida, Akira Ohara, Catherine Metayer, Joseph L Wiemels, Xiaomei Ma, Shuki Mizutani, Katsuyoshi Koh, Yukihide Momozawa, Keizo Horibe, Fumihiko Matsuda, Motohiro Kato, Atsushi Manabe, Kevin Y Urayama. Genome-wide assessment of genetic risk loci for childhood acute lymphoblastic leukemia in Japanese patients. Haematologica. 2023.10;

2. Sasano T, Ihara K, Tanaka T, Furukawa T. Risk stratification of atrial fibrillation and stroke using single nucleotide polymorphism and circulating biomarkers. PloS one. 2023.10; 18(10); e0292118

3. Takayuki Honda, Katsutoshi Seto, Satoshi Endo, Akira Takemoto, Kousuke Tanimoto, Masashi Kobayashi, Masatake Kitano, Rie Sakakibara, Takahiro Mitsumura, Hironori Ishibashi, Johji Inazawa, Toshihiro Tanaka, Yasunari Miyazaki, Kenichi Okubo. The possibility of mutations of RAS signaling

genes and/or TP53 in combination as a negative prognostic impact on pathological stage I non-small cell lung cancer. Cancer Med. 2023.10; 12(19); 19406-19413

4. Kazunori Aoki, Yukari Nishito, Noriko Motoi, Yasuhito Arai, Nobuyoshi Hiraoka, Tatsuhiro Shibata, Yukiko Sonobe, Yoko Kayukawa, Eri Hashimoto, Mina Takahashi, Etsuko Fujii, Takashi Nishizawa, Hironori Fukuda, Kana Ohashi, Kosuke Arai, Yukihiro Mizoguchi, Yukihiro Yoshida, Shun-Ichi Watanabe, Makiko Yamashita, Shigehisa Kitano, Hiromi Sakamoto, Yuki Nagata, Risa Mitsumori, Kouichi Ozaki, Shumpei Niida, Yae Kanai, Akiyoshi Hirayama, Tomoyoshi Soga, Toru Maruyama, Keisuke Tsukada, Nami Yabuki, Mei Shimada, Takehisa Kitazawa, Osamu Natori, Noriaki Sawada, Atsuhiko Kato, Teruhiko Yoshida, Kazuki Yasuda, Hideaki Mizuno, Hiroyuki Tsunoda, Atsushi Ochiai. Tumor-infiltrating Leukocyte Profiling Defines Three Immune Subtypes of NSCLC with Distinct Signaling Pathways and Genetic Alterations Cancer Research Communications. 2023.06; 13(3); 1026-1040

応用再生医学

Applied Regenerative Medicine

教授：関矢一郎
准教授：片野尚子
講師：大関信武
助教：水野満
プロジェクト助教：遠藤健太郎
特任研究員：高梨希実子
大学院生：三浦雄悟、古岡秀人、谷本貴大、松多誠也
四十物佑介、児玉隼人、目黒智子
目黒智子、渕岡佑亮、日高由貴
研究支援員：浅見あすか、河村清香
技術補佐員：三浦純子、安達早矢、小林恵
特定業務職員：奥村千晶

(1) 分野概要

近年、幹細胞医学 · 再生医学の発展は目覚ましく、グローバル市場の獲得に向けた再生医療等製品の開発競争が行われている。当分野では、既存治療法に対する高い有効性を示す再生医療を実用化する観点から幹細胞医学 · 再生医学の基礎研究を行ない、橋渡し研究を充実させ、その成果を臨床応用し、最終的には産業化まで目指すことを目的とする。

(2) 研究活動

(1) 幹細胞による再生医療の開発
(2) 細胞治療 · 再生医療の実用化 · 産業化
(3) 幹細胞に対する安全性試験
(4) 橋渡し研究
(5) 膝 MRI を 3 次元解析するソフトの開発

(3) 臨床活動および学外活動

変形性膝関節症に対する新規治療法の確立を目的として、基礎研究、橋渡し研究、実用化研究を行なっている。2000 年から 2010 年にかけて、滑膜に由来する間葉系幹細胞（滑膜幹細胞）が軟骨 · 半月板への分化能が高く、移植することで自然治癒過程を促進することを見いだし、低侵襲な鏡視下手術で細胞移植を実施する手法を開発した。これらの基礎研究は高く評価され、2013 年に国家プロジェクト「再生医療の実現化ハイウェイ」（研究代表者：関矢一郎）の 1 つに選定され、患者負担の少ない新たな半月板治療の確立を目指す「滑膜幹細胞による膝半月板再生」研究として長期支援を受けることとなった。文部科学省の支援による中型動物を用いた橋渡し研究を経て、厚生労働省の支援のもと、2017 年 8 月から「自家滑膜幹細胞の半月板損傷を対象とする医師主導治験」を開始した。2019 年 3 月には半月板の断裂部位に滑膜幹細胞を移植する技術に関して、企業と特許ライセンス契約を締結した。次いで、2023 年 1 月に、この細胞移植技術を活用した再生医療等製品の有効性および安全性を検証する臨床第 III 相試験（企業治験）を開始した。
また、第 2 プロジェクトとして、滑膜幹細胞の新たな投与経路による治療法を開発するため、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）再生医療実用化研究事業の支援のもとで、2017 年 12 月から 2020 年 3 月にかけ

て、臨床研究「変形性膝関節症に対する滑膜幹細胞の関節内注射」を実施した。その結果を受けて、2023 年 4 月には、既存治療を対象とした比較試験を医師主導治験として開始した。
さらに第 3 プロジェクト「MRI3 次元解析」では、2015 年から AMED 再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業の支援を受け、企業との共同研究により、膝 MRI のプロトン密度強調画像と T2*強調画像から骨、軟骨、半月板を自動で抽出し、軟骨の厚さを自動で計測することができる MRI3 次元解析ソフトウェアを開発した。2018 年には、本ソフトウェアを用いた解析を想定し、日本人変形性膝関節症 MRI 実態調査「神奈川ひざスタディ」を開始し、地域住民コホートによる MRI データを獲得した。その後、2019 年に 3D 画像解析システムの膝関節解析アプリケーションとして上市された。本ソフトウェアが国内外の整形外科研究 · 診療の現場で広く活用されることを目指し、2022 年からは、国内主要 5 大学とともに本ソフトウェアを用いた機種間誤差を測定する多施設研究を進めている。

(4) 研究業績

[原著]

1. Mitsuru Mizuno, Koki Abe, Takashi Kakimoto, Keiichi Yano, Yukiko Ota, Kengo Tomita, Naoki Kagi, Ichiro Sekiya. Volatile organic compounds and ionic substances contamination in cell processing facilities during rest period; a preliminary assessment of exposure to cell processing operators. Regen Ther. 2023.12; 24; 211-218

2. Hisako Katano, Nobutake Ozeki, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Noriya Okanouchi 1,2, Jo Fujita, Jun Masumoto, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya. Morphological analysis of three-dimensional MR images of patellofemoral joints in asymptomatic subjects Sci Rep. 2023.12; 13(1); 16570

3. Hao Ding, Hideyuki Koga, Hiroki Katagiri, Shoichi Hasegawa, Tatushiko Anzai, Mai Katakura, Aritoshi Yoshihara, Masaki Amemiya, Takashi Hoshino, Nobutake Ozeki, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa. Low central sensitisation inventory score is associated with better post-operative outcomes of osteotomy around the knee. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023.12; 31(12); 5896-5904

4. Zhen Qu, Hideyuki Koga, Kunikazu Tsuji, Guo Tang, Yang Yang, Aritoshi Yoshihara, Mai Katakura, Hiroki Katagiri, Kazumasa Miyatake, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Yusuke Nakagawa. Hyaluronic acid sheet transplantation attenuates infrapatellar fat pad fibrosis and pain in a rat arthritis model. J Orthop Res. 2023.11; 41(11); 2442-2454

5. Ichiro Sekiya, Hisako Katano, Ali Guermazi, Yugo Miura, Noriya Okanouchi, Makoto Tomita, Jun Masumoto, Yoshio Kitazume, Hideyuki Koga, Nobutake Ozeki. Association of AI-determined Kellgren-Lawrence grade with medial meniscus extrusion and cartilage thickness by AI-based 3D MRI analysis in early knee osteoarthritis. Sci Rep. 2023.11; 13(1); 20093

6. Zhu Ling, Hailati Aini, Shuhei Kajikawa, Jumpei Shirakawa, Kunikazu Tsuji, Yoshinori Asou, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya, Akira Nifuji, Masaki Noda, Yoichi Ezura. Mutation Are Treatable by Alendronate. Pharmaceuticals (Basel). 2023.10; 16(10);

7. Aritoshi Yoshihara, Renaud Siboni, Yusuke Nakagawa, Caroline Mouton, Christophe Jacquet, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Romain Seil, Hideyuki Koga. Lateral-medial asymmetry of posterior tibial slope and small lateral tibial plateau articular surface depth are morphological factors of lateral meniscus posterior root tears in ACL-injured patients. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023.09; 31(9); 3594-3603

8. Hideto Furuoka, Kentaro Endo, Ichiro Sekiya. Mesenchymal stem cells in synovial fluid increase in number in response to synovitis and display more tissue-reparative phenotypes in osteoarthritis. Stem Cell Res Ther. 2023.09; 14(1); 244

9. Shoichi Hasegawa, Yusuke Nakagawa, Aritoshi Yoshihara, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Masaya Hayashi, Hideya Yoshimura, Tsuyoshi Nagase, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Older Age, Poor Preoperative Quadriceps Muscle Strength, and Residual Pain as Risk Factors for Poor Quadriceps Muscle Strength Recovery at 1 Year After ACL Reconstruction: A TMDU MAKS Study of 402 Patients. Orthop J Sports Med. 2023.09; 11(9); 23259671231194593

10. Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Yusuke Amano, Yoshiko Shirakawa, Nobutake Ozeki, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Decision regret following opening wedge high tibial osteotomy: Older age as a risk factor. Knee. 2023.06; 43; 62-69

11. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Yusuke Nakagawa, Hiroki Katagiri, Hisako Katano, Makoto Tomita, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. Association between knee cartilage thickness determined by magnetic resonance imaging three-dimensional analysis and the International Cartilage Repair Society (ICRS) arthroscopic grade. Knee. 2023.06; 42; 90-98

12. Shoichi Hasegawa, Jae-Sung An, Jun Hino, Yusuke Amano, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake, Hiroki Katagiri, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga, Kunikazu Tsuji. Therapeutic effect of C-type natriuretic peptide on persistent pain in a rat knee arthritis model. J Orthop Surg (Hong Kong). 2023.06; 31(2); 10225536231181708

13. Amano Y, Ozeki N, Matsuda J, Nakamura T, Nakagawa Y, Sekiya I, Koga H. Augmentation of a Nonanatomical Repair of a Medial Meniscus Posterior Root Tear With Centralization Using Three Knotless Anchors May Be Associated With Less Meniscal Extrusion and Better Compressive Load Distribution in Mid-Flexion Compared With Non-Anatomical Root Repair Alone in a Porcine Knee Model. Arthroscopy : the journal of arthroscopic & related surgery : official publication of the Arthroscopy Association of North America and the International Arthroscopy Association. 2023.05; 39(12); 2487-2498

14. Misaki Yagi, Kentaro Endo, Keiichiro Komori, Ichiro Sekiya. Comparison of the effects of oxidative and inflammatory stresses on rat chondrocyte senescence. Sci Rep. 2023.05; 13(1); 7697

15. Yusuke Nakagawa, Kunikazu Tsuji, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Nobutake Ozeki, Mikio Shioda, Jae-Sung An, Ryu Yoshida, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Association of Infrapatellar Fat Pad Fibrosis at 3 Months After ACL Reconstruction With Short-term Clinical Outcomes and Inflammatory Cytokine Levels in the Synovial Fluid. Orthop J Sports Med. 2023.04; 11(4); 23259671231164122

16. Ozeki N, Mizuno M, Yanada S, Okada T, Kubota R, Kushida Y, Furuoka H, Endo K, Katano H, Nakamura K, Ohya S, Koga H, Sekiya I. Autologous Synovial Mesenchymal Stem Cell Transplantation Suppresses Inflammation Caused by Synovial Harvesting and Promotes Healing in a Micro Minipig Repaired Meniscus Model. Transplantation proceedings. 2023.03; 55(2); 470-480

17. Mizuno M, Matsuda J, Watanabe K, Shimizu N, Sekiya I. Effect of disinfectants and manual wiping for processing the cell product changeover in a biosafety cabinet. Regenerative therapy. 2023.03; 22; 169-175

18. M Isono, H Koga, Y Nakagawa, T Nakamura, I Sekiya, H Katagiri. Inferior Healing Rate in Isolated Meniscal Repair than that in Meniscal Repair with Concomitant ACL Reconstruction Evaluated with MRI. Malays Orthop J. 2023.03; 17(1); 61-69

19. Mizuno Mitsuru, Matsuda Junpei, Watanabe Ken, Shimizu Norio, Sekiya Ichiro. Effect of disinfectants and manual wiping for processing the cell product changeover in a biosafety cabinet. Regenerative Therapy. 2023.03; 22; 169-175

20. Mizuno Mitsuru, Yori Kouichirou, Takeuchi Toshikazu, Yamaguchi Tetsuya, Watanabe Ken, Tomaru Yasuhiro, Shimizu Norio, Sekiya Ichiro. Cross-contamination risk and decontamination during changeover after cell-product processing. Regenerative Therapy. 2023.03; 22; 30-38

21. Nobutake Ozeki, Mitsuru Mizuno, Shinobu Yanada, Takuya Okada, Rei Kubota, Yoshihisa Kushida, Hideto Furuoka, Kentaro Endo, Hisako Katano, Kentaro Nakamura, Shoji Ohya, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya. Autologous Synovial Mesenchymal Stem Cell Transplantation Suppresses Inflammation Caused by Synovial Harvesting and Promotes Healing in a Micro Minipig Repaired Meniscus Model. Transplant Proc. 2023.03; 55(2); 470-480

22. Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake, Toshiyuki Ohara, Mikio Shioda, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Short-Term Outcomes after High Tibial Osteotomy Aimed at Neutral Alignment Combined with Arthroscopic Centralization of Medial Meniscus in Osteoarthritis Patients. J Knee Surg. 2023.02; 36(3); 261-268

23. Akane Ariga, Yuji Kohno, Yusuke Nakagawa, Toshifumi Watanabe, Hiroki Katagiri, Toshiyuki Ohara, Mikio Shioda, Nobutake Ozeki, Masaki Amemiya, Atsushi Okawa, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Simultaneous bilateral total knee arthroplasty is safe and effective for patients in different ages. J Orthop Sci. 2023.01; 28(1); 173-179

1. Ozeki Nobutake, Koga Hideyuki, Nakagawa Yusuke, Katagiri Hiroki, Katano Hisako, Tomita Makoto, Masumoto Jun, Sekiya Ichiro. Association between knee cartilage thickness determined by magnetic resonance imaging three-dimensional analysis and the International Cartilage Repair Society (ICRS) arthroscopic grade KNEE. 2023.06; 42; 90-98

2. Ozeki Nobutake, Mizuno Mitsuru, Yanada Shinobu, Okada Takuya, Kubota Rei, Kushida Yoshihisa, Furuoka Hideto, Endo Kentaro, Katano Hisako, Nakamura Kentaro, Ohya Shoji, Koga Hideyuki, Sekiya Ichiro. Autologous Synovial Mesenchymal Stem Cell Transplantation Suppresses Inflammation Caused by Synovial Harvesting and Promotes Healing in a Micro Minipig Repaired Meniscus Model TRANSPLANTATION PROCEEDINGS. 2023.03; 55(2); 470-480

[総説]

1. 関矢　一郎. 変形性膝関節症予防を目指した滑膜細胞移植による半月板再生 整形・災害外科. 2023.11; 66(12); 1471-147

2. 河野 佑二 , 古賀英之, 関矢一郎. 【バイオ時代におけるリウマチ性疾患の診療】関節リウマチの病態　基礎研究　関節リウマチ膝の滑膜由来間葉系幹細胞 別冊整形外科. 2023.10; 84; 14-20

3. 関矢一郎. 変性半月板損傷に対する再生医療 Precision Medicine（プレシジョン メディシン）. 2023.10; 6(11); 30-34

4. 大関 信武, 古賀 英之, 関矢 一郎. 【変形性関節症の診断と治療–保存的治療から再生医療まで】(VII 章) 変形性膝関節症　変形性膝関節症の発症・進行予防の可能性　滑膜幹細胞移植による半月板の再生医療 整形外科. 2023.05; 74(6); 700-704

5. 大関 信武, 古賀 英之, 関矢 一郎. 変形性膝関節症の発症・進行予防の可能性—滑膜幹細胞移植による半月板の再生医療 臨床雑誌整形外科. 2023.05; 74(6); 700-704

6. 大関信武, 星野傑, 大原敏之, 古賀英之 . プロ野球選手の腰椎分離症症例 臨床スポーツ医学. 2023.05; 40(5); 508-512

7. 中川 裕介, 渡邊 敏文, 中村 智祐, 関矢 一郎, 古賀 英之. 【人工関節における進歩】各種人工関節置換術の中・長期成績　人工膝関節置換術　ジルコニアセラミック大腿骨コンポーネントを用いた日本人向け後方安定型人工膝関節インプラントの中期成績　5 年以上の経過観察 別冊整形外科. 2023.04; (83); 108-117

8. 友 直樹, 千葉 美沙希, 相川 佳子, 臼井 友香里, 伊藤 千裕, 白石 暁子, 大石 裕紀子, 梶原 道子, 関矢 一郎 . O 型赤血球緊急輸血症例を対象とした大量輸血プロトコル (MTP) 運用前/後の輸血量と救命率に関する検討 日本輸血細胞治療学会誌 . 2023.04; 69(2); 311

9. 中川裕介, 渡邊敏文, 中村智祐, 関矢一郎, 古賀英之. ジルコニアセラミック大腿骨コンポーネントを用い た日本人向け後方安定型人工膝関節インプラント ACTIYAS の中期成績：5 年以上のフォローアップ 別冊整形外科. 2023.04; 1(83); 108-117

[講演・口頭発表等]

1. Nobutake Ozeki. Current treatment using stem cell-based meniscus treatment. 1stThe Asian Meniscus Summit 2023.10.05

1. 大関信武. 滑膜由来幹細胞によるオルソバイオロジクス治療. 第 13 回 JAPSAM PRP・幹細胞研究会 2023.12.16 東京都文京区

2. 大関信武. 骨切り単独および併用について. 第 1 回日本膝関節学会 2023.12.09 横浜

3. 関矢一郎. 早期変形性膝関節症の MRI3D 解析. 第 1 回日本膝関節学会 2023.12.08 横浜市

4. 大関信武. 早期変形性膝関節症の鏡視所見：MRI で代用できるか. 第 1 回日本膝関節学会 2023.12.08 横浜

5. 大関信武. 内側半月板後根修復に併用した Centralization の半月板逸脱抑制効果. 第 50 回日本臨床バイオメカニクス学会 2023.11.10 兵庫県姫路市

6. 大関信武. MRI3 次元解析による変形性膝関節症の病態解析. 第 38 回日本整形外科基礎学術集会 2023.10.20

7. 関矢一郎. 細胞移植による半月板温存治療. 第 38 回日本整形外科基礎学術集会 2023.10.19 つくば市

8. 大関信武. プロ野球選手の運動機能低下における医師とトレーナーの連携. 第 50 回日本肩関節学会学術集会 2023.10.13
9. 大関信武. 円板状半月板に対する Centralization. 東日本整形災害外科学会 2023 2023.09.22
10. 大関信武, 古賀　英之, 関矢　一郎. 滑膜幹細胞を用いた半月板再生医療の現状と課題. 第 44 回日本炎症・再生医学会 2023.07.12
11. 大関信武. Osgood-Schlatter 病に対する fusion imaging を用いた超音波アシスト下骨片摘出術. 第 34 回日本整形外科超音波学会 2023.07.08
12. 大関信武. 内側半月板縫合と同時に施行した Capsulodesis の半月板逸脱抑制効果. 日本スポーツ整形外科学会 2023 2023.07.01
13. 関矢一郎. 雲外蒼天〜膝単純レントゲン像から軟骨立体構造を読み解く方法を見いだし、滑膜幹細胞による半月板温存の多施設治験に挑む. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会 2023.06.30 広島市
14. 関矢一郎. 自家滑膜幹細胞注射による変形性膝関節症治療. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会 2023.06.30
15. 遠藤 健太郎, 関矢 一郎. 老化軟骨・半月板細胞を標的とした変形性膝関節症治療薬の開発. 第 13 回 Orthopedic Research Club 2023.06.03
16. 関矢一郎、古賀英之、片野尚子、水野満、遠藤健太郎、中村智祐、吉井俊貴、大関信武. 半月板損傷を対象とした滑膜幹細胞の多施設共同試験. 第 96 回日本整形外科学会学術総会 2023.05.14 神奈川県横浜市
17. 大関信武, 中村智祐, 中川裕介, 星野傑, 片倉麻衣, 雨宮正樹, 吉原有俊, 冨田誠, 古賀英之, 吉井俊貴, 大川淳, 関矢一郎. 膝関節手術における超音波アシスト技術の開発. 第 96 回日本整形外科学会学術総会 2023.05.13
18. 大関信武, 古賀英之, 吉井俊貴, 関矢一郎. スポーツで生じた半月板変性損傷に対する滑膜幹細胞を併用した修復術. 第 96 回日本整形外科学会学術総会 2023.05.13
19. 大関信武, 中村智祐, 中川裕介, 星野傑, 片倉麻衣, 雨宮正樹, 吉原有俊, 古賀英之, 吉井俊貴, 大川淳, 関矢一郎. MRI3 次元解析システムを用いた膝関節軟骨厚さ・軟骨面積率と半月板被覆率の関係. 第 96 回日本整形外科学会学術総会 2023.05.12
20. 関矢一郎. 再生医療法により始まった自家滑膜幹細胞注射による変形性膝関節症治療. 2023.05.11 神奈川県横浜市
21. 水野 満, 阿部 公揮, 柿本 隆志, 関矢 一郎. 安全キャビネット内における人から発生する粒子数と落下菌の相関解析. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都
22. 関矢 一郎、古賀 英之 、片野 尚子、水野 満、遠藤 健太郎、大関 信武. 難治性半月板損傷に対する滑膜幹細胞移植の多施設共同試験. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都
23. 松多 誠也, 遠藤 健太郎, 大関 信武, 水野 満, 片野 尚子, 関矢 一郎. ラット変形性膝関節症モデルへ投与後のヒト滑膜・脂肪由来間葉系幹細胞の液性因子発現の比較. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 宮崎
24. 谷本 貴大, 遠藤 健太郎, 大関 信武, 水野 満, 片野 尚子, 関矢 一郎. 滑膜間葉系幹細胞の損傷軟骨への接着における膜表面微小突起 microspikes の役割の検討. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都
25. 関矢 一郎、古賀 英之 、片野 尚子、水野 満、遠藤 健太郎、大関 信武. 中高年齢者の半月板損傷に対する細胞治療. 第 35 回日本軟骨代謝学会 2023.03.03 横浜
26. 古岡 秀人, 遠藤 健太郎, 関矢 一郎. ラット変形性膝関節症モデルにおける関節液中間葉系幹細胞の数・質的変化の解析. 第 35 回日本軟骨代謝学会 2023.03.03 横浜
27. 中村 智祐, 關 良太, 吉原 有俊, 雨宮 正樹, 星野 傑, 片倉 麻衣, 中川 裕介, 大関 信武, 関矢 一郎, 吉井 俊貴, 古賀 英之. ACL 再建術時の LM centralization による膝関節回旋制動効果　3 軸加速度計を用いた検討. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01
28. 大関 信武, 中村 智祐, 中川 裕介, 星野 傑, 片倉 麻衣, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 大川 淳, 関矢 一郎. MRI 三次元解析システムを用いた膝関節軟骨厚さ・軟骨面積率と半月板被覆率の関係. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01
29. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 中村 智祐, 中川 裕介, 吉井 俊貴, 大関 信武. ここまできた!骨・軟骨再生医療の最前線　半月板損傷を対象とした滑膜幹細胞の多施設共同試験. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

30. 大関 信武, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 関矢 一郎. スポーツ損傷に対する最先端の再生医療 · 細胞治療　スポーツで生じた半月板変性損傷に対する滑膜幹細胞を併用した修復術. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

31. 白畑 航, 中川 裕介, 中村 智祐, 大関 信武, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀 英之. 人工膝関節置換術患者における術前 CSI 高値は術後 1 年の遺残疼痛に関連する因子である. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

32. 関矢 一郎. 再生医療法により始まった自家滑膜幹細胞注射による変形性膝関節症治療. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

33. 吉田 龍, 中川 裕介, 吉原 有俊, 雨宮 正樹, 片倉 麻衣, 星野 傑, 大関 信武, 中村 智祐, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀 英之. 前十字靱帯再建術後の膝蓋下脂肪体線維化は短期臨床成績を悪化させる. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

34. 古賀 英之, 中村 智祐, 中川 裕介, 大関 信武, 吉井 俊貴, 関矢 一郎. 半月板温存治療の進歩と限界　逸脱半月板に対する centralization 法の効果と問題点. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

35. 大関 信武, 中村 智祐, 中川 裕介, 星野 傑, 片倉 麻衣, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 大川 淳, 関矢 一郎. 膝関節手術における超音波アシスト技術の開発. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

36. 吉原 有俊, 雨宮 正樹, 星野 傑, 片倉 麻衣, 中川 裕介, 大関 信武, 中村 智祐, 関矢 一郎, 吉井 俊貴, 大川 淳, 古賀 英之. 術前 MRI 画像所見の組み合わせによる LMPRT の診断精度. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

37. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 中村 智祐, 中川 裕介, 吉井 俊貴, 大関 信武. ここまできた!骨 · 軟骨再生医療の最前線　半月板損傷を対象とした滑膜幹細胞の多施設共同試験. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

38. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 中村 智祐, 中川 裕介, 吉井 俊貴, 大関 信武. ここまできた!骨 · 軟骨再生医療の最前線　半月板損傷を対象とした滑膜幹細胞の多施設共同試験. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

39. 関矢 一郎. 自家滑膜幹細胞の半月板損傷を対象とする医師主導治験の状況、実用化に向けた課題. 2022 年度 神戸再生医療勉強会（第 4 回） 2023.02.17 神戸

40. 大関信武. スポーツマンシップ　-これからのスポーツに大切なこと-. 第 4 回　神奈川学童野球指導者セミナー 2023.01.22 横浜

[社会貢献活動]

1. 関矢一郎. 膝半月板損傷について, ラジオ NIKKEI, ドクターサロン, 2023 年 06 月 13 日 - 2023 年 07 月 11 日

JFCR 腫瘍制御学分野

JFCR Cancer Biology

連携教授　広田　亨
連携教授　斉藤　典子
連携教授　高橋　暁子
連携教授　竹内　賢吾
連携教授　冨田　章弘
連携教授　丸山　玲緒
大学院生　草野　善晴、杉田　裕宣、藤本　亜弓、成田健太郎、松井　紗帆、鎌倉　奈々、鈴木　杏奈、瀬下奈々美、小野寺早紀、田中　久通、楊　雨瀟

(1)　分野概要

連携大学院分野として、公益財団法人がん研究会がん研究所及びがん化学療法センターの６つの研究部門が参加し、がんの基礎的研究及びトランスレーショナル研究を広く推進し、次世代のがん研究を担う若手研究者の養成に注力している。

(2)　研究活動

【広田】がんの細胞病態である染色体不安定性について、発生分子機構と病理学的意義を解明し、それを標的とする治療法を開発する。【斉藤】乳がんにおける非翻訳 RNA のエピジェネティック制御分子メカニズムを解明する。【高橋】がん微小環境における老化細胞の機能を解明する。【竹内】ヒト悪性リンパ腫の病理形態学的・分子生物学的解析を行う。悪性リンパ腫や肺がん等のヒト固形がんにおいて、融合遺伝子を初めとする原因遺伝子を探索し、がん治療の新たな分子標的としての可能性を追究する。【冨田】網羅的遺伝子発現解析をはじめとするゲノム科学技術を用いたがんの解析や細胞生物学的解析を行い、得られた成果を基盤としたがん創薬研究を遂行する。【丸山】患者由来試料やマウスモデルの解析を通じて、がんにおける腫瘍内不均一性の形成機構やその機能的意義を明らかにする。

(3)　教育活動

細胞レベル、組織レベル、個体レベルにおけるがんの病態について、基本的な知識から最新知見を修得する。特に、ゲノム、エピゲノムという階層での病理機構と細胞老化の

病理機構について指導する。悪性リンパ腫や肺がん等のヒトがんの病理学的解析とその原因遺伝子について解説するとともに、その見方を指導する。ナノバイオテクノロジーのがん診断への応用を紹介し、がんの創薬基礎研究の目標と現状を教示する。

(4) 教育方針

最初はまず、研究室メンバーから研究に対する基本的な考え方を学び、安定した結果がえらえるように実験手技を習得する。修士課程では、実験計画を立案・実施し、結果の解釈から次の実験計画を立案する、という研究のサイクルを主体的に回せるようにする。博士課程では、自ら進めた研究のサイクルによって得られた一連の結果を論理的にまとめて、学会で発表することと、原著論文を執筆及び発表するスキルを修得する。両課程を通じて、取り組む研究課題に関する知見は深く理解するとともに、広く腫瘍学、さらには生命科学の専門的知識を修得する。

(5) 研究業績

[原著]

1. Hara, M., Ariyoshi, M., Sano, T., Nozawa, R.S., Shinkai, S., Onami, S., Jansen, I., Hirota, T. and Fukagawa, T. (2023) Centromere/kinetochore is assembled through CENP-C oligomerization. ***Mol Cell.*** 83: 2188-2205. doi: 10.1016/j.molcel.2023.05.023.
2. Mahana, Y., Ariyoshi, M., Nozawa, R-S., Shibata, S., Nagao, K., Obuse, C., and Shirakawa, M. (2023) Structural evidence for protein–protein interaction between the non-canonical methyl-CpG-binding domain of SETDB proteins and C11orf46 ***Structure***. S0969-2126(23)00443-4. doi: 10.1016/j.str.2023.12.001.
3. Kamakura, N., Takahashi, M. and Jo, M. (2023) The toxicity of dysregulated Plk1 activity revealed by its suppressor mutations ***Genes Cells.*** doi: 10.1111/gtc.13032
4. Wakao, S., Saitoh, N., Awazu, A. (2023) Mathematical model of structural changes in nuclear speckle. ***Biophysics and Physicobiology***, 20, e200020. doi: 10.2142/biophysico.bppb-v20.0020
5. Sundararajan, S., Park, H., Kawano, S., Johansson, M., Lama, B., Saito-Fujita, T., Saitoh, N., Arnaoutov, A., Dasso, M., Wang, Z., Keifenheim, D., Clarke D.J., Azuma, Y. Methylated. (2023) histones on mitotic chromosomes promote Topoisomerase IIα function for high-fidelity chromosome segregation. ***iScience***, 26(5):106743. doi: 10.1016/j.isci.2023.106743.
6. Smallwood, K., Watt, K.E.N., Ide, S., Baltrunaite, K., Inskeep, K., Adam, M., Begtrup, A., Bertola, D.R., Cho, M., Demmer, L., Demo, E., Devinsky, O., Gallagher, E., Guillen, M.J. S., Keller-Ramey, J., Keren, B., Ladda, R., Mardy, A., McLaughlin, H., McWalters, K., Person, R., Schnur, R., Skorvanek, M., Slavotinek, A., Sullivan, B.R., Stark, Z., Symonds, J., Wenger, T., Saitoh, N., Whalen, S., Willaert, R., Zech, M., Zeidler, S., Stottmann, R.W., Trainor, P.A.,

Weaver, K. N. (2023) POLR1A variants underlie phenotypic heterogeneity in neural, craniofacial, and cardiac anomalies. ***The American Journal of Human Genetics,*** 110, 1–17. doi: https://doi.org/10.1016/j.ajhg.2023.03.014

7. Chiba, M., Miyata, K., Okawa, H., Tanaka, Y., Ueda, T., Seimiya, H. and *Takahashi, A. YBX1 regulates satellite II RNA loading into small extracellular vesicles and promotes the senescent phenotype. ***International Journal of Molecular Sciences,*** 24(22), 16399, 2023
8. Miyata, K., Zhou, X., Nishio, M., Hanyu, A., Chiba, M., Kawasaki, H., Osako, T., Ohno, S., Ueno, T., Maruyama, R, and *Takahashi, A. Chromatin conformational changes at human satellite II contribute to the senescence phenotype in the tumor microenvironment. ***Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A.***, 120 (32) e2305046120, 2023
9. Misawa, T., Hitomi, K., Miyata, K., Tanaka, Y., Fujii, R., Chiba, M., Loo, T.M., Hanyu, A., Kawasaki, H., Kato, H., Maezawa, Y., Yokote, K., Nakamura, A.J., Ueda, K., Yaegashi, N. and *Takahashi, A. Identification of novel senescent markers in small extracellular vesicles. ***International Journal of Molecular Sciences***, 24 (3), 2421, 2023
10. Takahashi M, Okamoto Y, Kato Y, Shirahama H, Tsukahara S, Sugimoto Y, Tomida A. (2023) Activating mutations in EGFR and PI3K promote ATF4 induction for NSCLC cell survival during amino acid deprivation. ***Heliyon***. 9: e14799.
11. Mezawa, Y., Wang, T., Daigo, Y., Atsushi, T., Miyagi, Y., Yokose, T., Yamashita, T., Yang, L., Maruyama, R., Seimiya, H., Orimo, A. Glutamine deficiency induces class I histone deacetylase activity that mediates TGF-β signaling activation and the myofibroblastic state in carcinoma-associated fibroblasts. ***Cancer Science.*** 114:4376-4387. (2023)
12. Koyama, Y., Okazaki, H., Yang, S., Mezawa, Y., Wang, Z., Sakimoto, M., Ishizuka, A., Ito, Y., Koyama, T., Daigo, Y., Takano, A., Miyagi, Y., Yokose, Tomoyuki., Yamashita, T., Sugahara, K., Hino, O., Yang, L., Maruyama, R., Katakura, Akira., Yasukawa, T., Orimo, A. Increased RUNX3 expression mediates tumor-promoting ability of human breast cancer-associated fibroblasts. ***Cancer Medicine.*** 12:18062-18077 (2023)
13. *Kitajima, H., *Maruyama, R., Niinuma, T., Yamamoto, E., Takasawa, A., Takasawa, K., Ishiguro, K., Suzuki, R., Tsuyada, A., Idogawa, M., Tange, S., Toyota, M., Yoshido, A., Kumegawa, K., Kai, M., Tokino, T., Osanai, M., Nakase, H., Suzuki, H. TM4SF1-AS1 inhibits apoptosis through stress granule formation in cancer cells. ***Cell Death Dis.*** 14, 424 (2023) *contributed equally
14. Miyata, K., Zhou, X., Nishio, M., Hanyu, A., Chiba, M., Kawasaki, H., Osako, T., Takeuchi, K., Ohno, S., Ueno, T., Maruyama, R., Takahashi, A. Chromatin conformational changes at the human satellite II contribute to the senescence phenotype in the tumor microenvironment. ***Proc Natl Acad Sci USA.*** 120, e2305046120 (2023)

15. Kumegawa, K., Yang, L., Miyata, K., Maruyama, R. FOXD1 is associated with poor outcome and maintains tumor-promoting enhancer-gene programs in basal-like breast cancer. ***Front Oncol.*** 13, 1156111 (2023)
16. Tanaka, M., Homme, M., Teramura, Y., Kumegawa, K., Yamazaki, Y., Yamashita, K., Osato, M., Maruyama, R., Nakamura, T. HEY1-NCOA2 expression modulates chondrogenic differentiation and induces mesenchymal chondrosarcoma in mouse. ***JCI insight.*** 8, e160279 (2023)
17. Nakadai, T., Shimada, M., Ito, K., Cevher, MA., Chu, CS., Kumegawa, K., Maruyama, R., Malik S., Roeder, R. Two target gene activation pathways for orphan ERR nuclear receptors. ***Cell Res.*** 33, 165 (2023)
18. Tanaka, M., Chuaychob, S., Homme, M., Yamazaki, Y., Lyu, R., Yamashita, K., Ae, K., Matsumoto, S., Kumegawa, K., Maruyama, R., Qu, W., Miyagi, Y., Yokokawa, R., Nakamura, T. ASPSCR1::TFE3 orchestrates the angiogenic program of alveolar soft part sarcoma. ***Nat Commun.*** 14, 1957 (2023)
19. Saeki, S., Kumegawa, K., Takahashi, Y., Yang, L., Osako, T., Yasen M., Otsuji, K., Miyata, K., Yamakawa, K., Suzuka, J., Sakimoto, Y., Ozaki, Y., Takano, T., Sano, T., Noda, T., Ohno, S., Yao, R., Ueno, T., Maruyama, R. Transcriptomic intratumor heterogeneity of breast cancer patient-derived organoids may reflect the unique biological features of the tumor of origin. ***Breast Cancer Res.*** 25, 21 (2023)
20. Kumegawa, K., Saeki, S., Takahashi, Y., Yang, L., Osako, T., Nakadai, T., Mori, S., Noda, T., Ohno, S., Ueno, T., Maruyama, R. Chromatin profiles identify a novel subgroup of ER-positive breast cancer with reduced accessibility of estrogen receptor responsive elements. ***Br J Cancer.*** 128, 1400 (2023)
21. Nakadai, T., Yang, L., Kumegawa, K., Maruyama, R. ERα K303R mutation reorganizes its binding to FoxA1 regions and induces chromatin opening. ***Mol Biol Rep.*** 50, 1209 (2023)

[総説]

1. Shimozaki, K., Nakayama, I., Hirota, T., Yamaguchi, K. (2023) Current strategy to treat immunogenic gastrointestinal cancers: perspectives for a new era. ***Cells.*** 12, 1049. doi.org/10.3390/cells12071049
2. Qian, J., Zhou, X., Tanaka, K. and *Takahashi, A. Alteration in the chromatin landscape during the DNA damage response: Continuous rotation of the gear driving cellular senescence and aging. ***DNA Repair***, 131, 103572, 2023

[書籍等出版物]

1. Maierdan Palihati、斉藤典子. (2023) ノンコーディング RNA と転写制御. 医学書院「生体の科学」木村宏企画「クロマチンによる転写制御機構の最前線」Vol. 74, No. 3,

p229−233, 2023

2. 周　翔宇、羅智文、高橋暁子. (2023) がん微小環境における老化細胞の新機能 バイオサイエンスとインダストリー　81(4): 300-304
3. 千葉正智、田中陽子、高橋暁子. (2023) 老化細胞が分泌する SASP 因子による細胞競合阻害作用 生化学　95(3): 336-340
4. 周　翔宇、池村美咲、高橋暁子. (2023) 老化細胞による炎症誘導機構 臨床免疫アレルギー科　79(2): 190-196

[講演・口頭発表等]

1. Hirota, T. “How cells enrich Aurora B activity at centromeres in mitosis” 12th Salk Cell Cycle Meeting 2023. 7, La Jolla
2. 広田 亨「最新の染色体研究が教えてくれるヒトがんの分子機構」第31回日本医学会総会 2023.04, 東京都
3. 広田 亨「がん細胞における染色体不安定性の病理機構」大阪大学医学系研究科 第3回病理セミナー 2023.09, オンライン
4. 広田 亨「分子クラスタリングが促進するM期染色体の構築機構」第75回日本細胞生物学会 2023.06, 奈良市
5. Matsui, S., Nozawa, R., Hirota, T. “How HP1-Aurora B complex concentrates to centromeres and ensures mitotic fidelity” 第82回日本癌学会学術総会 2023.09, 横浜市
6. Sako, K., Furukawa, A., Nishimura, Y., Hirota, T. “How HP1 secures binding to the Aurora B complex: a key interaction preventing chromosome segregation errors” 第82回日本癌学会学術総会 2023.09, 横浜市
7. Nozawa, R., Matsui, S., Hirota, T. “Driving force to concentrate Aurora B activity at inner centromeres: A key cellular function ensuring mitotic fidelity” 第82回日本癌学会学術総会 2023.09, 横浜市
8. Kamakura, N., Jo, M., Hirota, T. “How Polo-like kinase 1 regulates kinetochore-microtubule attachments in cancers” 第82回日本癌学会学術総会 2023.09, 横浜市
9. Seshimo, N., Nozawa, R., Furuta, R., Kitagawa, T., Hirota, T. “Oncoprotein E6 derived from specific HPV leads to mitotic defect ECAC in cervical preneoplastic lesion.” 第82回日本癌学会学術総会 2023.09, 横浜市
10. Jo, M., Sampetrean, O., Negoto, T., Kato, U., Saya, H., Hirota, T. “How chromosomal instability involves in glioma: perspectives from a syngenic model” 第82回日本癌学会学術総会 2023.09, 横浜市
11. Kusano, Y., Nozawa, R., Hirota, T. “Chromosomal instability induced by supercoiled DNAs arise during replication” 第82回日本癌学会学術総会 2023.09, 横浜市
12. Suzuki, A., Matsu, S., Hirota, T. “Intervention to mitotic chromosome segregation machinery to conditionally induce aneuploidy” 第82回日本癌学会学術総会 2023.09, 横浜市

13. Negoto, T., Jo, M., Nakamura, H., Morioka, M., Hirota, T. “Chromosome-level abnormalities shape the malignant properties in glioma” 第82回日本癌学会学術総会 2023.09, 横浜市
14. Takahashi, M., Jo, M., Kamakura, N., Kawakita, N., Kato, U., Hirota, T. “A strategy to intervene mitotic kinases to induce mitotic catastrophe in cancer cells” 第82回日本癌学会学術総会 2023.09, 横浜市
15. Kawakita, N., Kamakura, N., Jo, M., Takahashi, M., Hirota, T. “How Plk1 activity is regulated by open/close conformational transition. 第82回日本癌学会学術総会 2023.09, 横浜市
16. 河北暢佳, 鎌倉奈々, 趙民知, 高橋元子, 広田 亨「クロモキネシンKIF4Aの分裂期染色体における活性制御機構」第46回日本分子生物学会年会 2023.12, 神戸市
17. 松井紗帆, 野澤竜介, 広田 亨「ノンコーディングRNAによる染色体分配機構の制御」第46回日本分子生物学会年会 2023.12, 神戸市
18. 堀花那子, 瀬下奈々美, 野澤竜介, 広田 亨「がん細胞における染色体動態の可塑的制御とその病理学的意義」第46回日本分子生物学会年会 2023.12, 神戸市
19. 迫洸佑, 古寺哲幸, 広田 亨「Aurora B複合体へのHP1結合特異性がプロイディ維持を保証する」第46回日本分子生物学会年会 2023.12, 神戸市
20. 鈴木杏奈, 松井紗帆, 広田 亨「セントロメアDNAの転写制御による染色体分配エラーの誘導」第46回日本分子生物学会年会 2023.12, 神戸市
21. 鎌倉奈々, 趙 民知, 広田 亨「Plk1による時空間的な微小管結合制御メカニズムの解明」第46回日本分子生物学会年会 2023.12, 神戸市
22. 髙橋元子, 広田 亨「分子クラスタリングが駆動するM期染色体の構築機構」第46回日本分子生物学会年会 2023.12, 神戸市
23. Matsui, S., Nozawa, R., Hirota, T. “How HP1-Aurora B complex concentrates to centromeres and ensures mitotic fidelity” Cell Dynamics and Chromosomal Stability Workshop, 2023. 8, Atsugi Kanagawa
24. Kamakura, N., Jo, M., Hirota, T. “How Polo-like kinase 1 regulates kinetochore-microtubule attachments in cancers” Cell Dynamics and Chromosomal Stability Workshop, 2023. 8, Atsugi Kanagawa
25. Palihati, M., Tachiwana, H., Ichikawa, Y., Fukuoka, M., Saitoh, N. “Nuclear long non-coding RNAs contribute to 3D genome structure and tumor dormancy in breast cancer” 8th Meeting of the Asian Forum For Chromosome and Chromatin Biology, 2023.11, Bangalore.
26. Saitoh, N. “ELEANOR2 facilitates BRD4-chromatin interaction at the ESR1 locus in ER-positive breast cancer cells” FANTOM6 AUTUMN MEETING, 2023. 10. Online
27. Saitoh, N. “Chromatin Associating ELEANOR Long Non-coding RNAs in Breast Cancer Late Recurrence” FANTOM6 SPRING MEETING, 2023. 2, Milan.
28. Saitoh, N., Tachiwana, H. WChromatin Associating Long Non-coding RNAs in Late Recurrence of Breast Cancer” International Symposium On Chromatin Architecture: Structure And Function (ERATO), 2023, 1. Online
29. 立和名博昭、斉藤典子. 「脱アセチル化阻害感受性な乳がん関連遺伝子群の新規転写活性様式」 第 46 回日本分子生物学会年会 2023. 12,神戸市
30. Ichikawa, Y., Fukuoka, M., Palihati, M., Saitoh, N. “Chromatin associating non-coding RNAs

contribute to tumor dormancy in breast cancer late recurrence” 第 46 回日本分子生物学会年会 2023. 12,神戸市

31. 斉藤典子. 「ER陽性乳がんにおける新規転写機構. 遺伝研研究会-クロマチン・細胞核構造の動的変換とゲノム機能制御 2023. 10,三島市
32. 斉藤典子. 「エストロゲン受容体のエピゲノム制御」第96回日本内分泌学会学術総会 2023. 6, 名古屋市
33. 高橋暁子「老化細胞におけるゲノムの不安定性とエピゲノムの異常」第46回日本分子生物学会大会シンポジウム　2023.12, 神戸
34. 高橋暁子「エピゲノム異常を指標としたがん微小環境の複雑性の理解」第15回In vivo実験医学シンポジウム 2023.11, 東京
35. 高橋暁子「がん微小環境における老化細胞の解析」 第96回日本生化学会シンポジウム 2023.10, 福岡
36. Akiko Takahashi「Tumorigenic Roles of Senescent Cells in the Cancer Microenvironment」SICEM2023 2023.10, ソウル
37. Akiko Takahashi「Epigenetic Alteration of Senescent Stromal Cells in the Cancer Microenvironment」SICS-OMICS Cancer Organoids: Domain Expansion 2023.10, 東京
38. 高橋暁子「細胞老化研究の現状と展望」第2回BVA定例会　2023.10, オンライン
39. 高橋暁子「New Insights into Epigenetic Alteration and SASP in the Cancer Microenvironment」第82回日本癌学会学術総会 2023.9, 横浜
40. 高橋暁子「がん微小環境における細胞老化の新機能」第65回日本歯科基礎医学会学術大会　先端歯学国際教育研究ネットワークシンポジウム 2023.9, 東京
41. 高橋暁子「がん微小環境の老化間質細胞の解析」第31回日本乳癌学会学術総会　シンポジウム 2023.6, 横浜
42. 高橋暁子「細胞外小胞とがん」第27回日本がん分子標的治療学会学術集会 2023.6, 佐賀
43. 高橋暁子「がん微小環境に存在する老化細胞の新機能」第50回日本毒性学会学術年会　シンポジウム 2023.6, 横浜
44. 高橋暁子「老化細胞を標的としたがん克服への挑戦」千里ライフサイエンス新適塾第54回会合 2023.5月, 大阪
45. 高橋暁子「老化細胞が分泌するEVsの機能解析」第7回肺トランスレーショナルメディシン研究会　2023. 3, 東京
46. 高橋暁子「がん微小環境における老化細胞とSASPの機能」エピジェネティック療法研究会　第15回講演会　2023.2, 東京
47. 高橋暁子「細胞老化の基礎機構と肺の病態への関り」第16回愛宕喘息フォーラム 2023.2, 東京
48. 野田智幹，白濱仁深，冨田章弘. 「BRAF V600E変異型メラノーマ細胞におけるシスチン代謝変化とフェロトーシス抵抗性の解析」第27回日本がん分子標的治療学会学術集会，2023.6 佐賀

49. 田中美和, 寺村易予, 本目みずき, 高原智子, 粂川昴平, 山下亨子, 山崎ゆかり, 中村卓郎, 丸山玲緒.「HEY1::NCOA2は転写ネットワークの改変を介して軟骨発生を模倣した間葉性軟骨肉腫の形態形成に寄与する」第112回日本病理学会総会. 2023.4, 下関市
50. 田中美和, 中村卓郎, 丸山玲緒.「CRISPR/dCas9スクリーニングによる骨軟部腫瘍の特性を規定するスーパーエンハンサーの同定」日本ゲノム編集学会第8回大会 2023.6, 江戸川区
51. 田中美和, 粂川昴, 中村卓郎, 丸山玲緒.「HEY1::NCOA2をコアとした転写プログラムと軟骨分化撹乱機構」第16回日本エピジェネティクス研究会年会 2023.6, 千代田区
52. 粂川昂平, 佐伯澄人, 高橋洋子, 楊英麗, 大迫智, 大野真司, 上野貴之, 丸山玲緒.「ER結合領域のクロマチンアクセシビリティが低下している特徴的なER陽性乳がんの同定」 第16回日本エピジェネティクス研究会年会2023.6, 千代田区
53. 尾辻 和尊, 高橋 洋子, 小林 隆之, 佐伯 澄人, 野田 哲生, 大野 真司, 高野 利実, 上野貴之, 丸山 玲緒. 「腫瘍内不均一性の解明による乳癌治療の展望」第31回日本乳癌学会学術総会 2023.6, 横浜市
54. 尾辻 和尊, 高橋 洋子, 小林 隆之, 佐伯 澄人, 野田 哲生, 大野 真司, 高野 利実, 上野貴之, 丸山 玲緒. 「治療経過中に原発巣が急速増大したStage IV授乳期乳癌症例1例のシングルセルトランスクリプトーム解析」第31回日本乳癌学会学術総会 2023.6, 横浜市
55. 宮田憲一. 「エピゲノム制御破綻に起因する腫瘍進展機構の解析」 Workshop on Cancer Research for Well-being 2023 ＠熱海 2023.7, 熱海市
56. 田中美和.「肉腫の発生における融合遺伝子とエンハンサーの相互作用」Workshop on Cancer Research for Well-being 2023 ＠熱海 2023.7, 熱海市
57. Maruyama, R. 「Dissecting intra-tumor heterogeneity in breast cancer」2023年度金沢国際がん生物学シンポジウム 2023.7, 金沢市
58. 粂川昂平.「乳がん臨床検体のシングルセルATAC-seqデータを用いた機能的ゲノム領域の同定の試み」 2023年度 文部科学省 学術変革領域研究 【先端モデル動物支援プラットフォーム】若手支援技術講習会 2023.9, 名古屋市
59. 田中美和.「モデル動物から考える肉腫の発生と悪性化」 2023年度 文部科学省 学術変革領域研究 【先端モデル動物支援プラットフォーム】若手支援技術講習会 2023.9. 名古屋市
60. 柴田智華子, 丸山玲緒. 「癌細胞由来細胞外小胞の特異的解析による膵癌患者における癌悪液質の病態生理解明」 2023年度 文部科学省 学術変革領域研究 【先端モデル動物支援プラットフォーム】若手支援技術講習会 2023.9, 名古屋市
61. 尾辻和尊, 高橋洋子, 小林隆之, 佐伯澄人, 野田哲生, 大野真司, 髙野利実, 鈴木拓, 上野貴之, 丸山玲緒.「時間的・空間的に複数サンプルを取得しシングルセル解析を行ったステージ4乳癌の一例」第82回日本癌学会学術総会 2023.9, 横浜市
62. 鈴鹿淳, 佐伯澄人, 粂川昂平, 上野貴之, 津田真寿美, 田中伸哉, 丸山玲緒.「ハイドロゲルによる脱分化に着目した乳がん細胞の可塑性の解析」第82回日本癌学会学術総会 2023.9, 横浜市

63. 粂川昂平, 佐伯澄人, 高橋洋子, 楊麗英, 大迫智, 野田哲生, 大野真司, 上野貴之, 丸山玲緒.「ER結合領域のクロマチンアクセシビリティが低下している特徴的なER陽性乳がんの同定」 第82回日本癌学会学術総会 2023.9, 横浜市
64. 土屋あい, 粂川昂平, 佐伯澄人, 尾辻和尊, 楊麗英, 鈴鹿淳, 宮田憲一, 高橋洋子, 野田哲生, 大野真司, 井本滋, 上野貴之, 丸山玲緒.「転移能を有する乳がん由来オルガノイドの異種移植における腫瘍内不均一性の評価」 第82回日本癌学会学術総会 2023.9, 横浜市
65. 佐伯澄人,粂川昂平, 高橋洋子, 大迫智, 亜森馬合木特, 尾辻和尊, 宮田憲一, 鈴鹿淳, 尾崎由起範, 高野利美, 野田哲生, 大野真司, 八尾良司, 上野貴之, 丸山玲緒.「乳がん患者由来オルガノイドにおける腫瘍内不均一性 - 共有される細胞状態とユニークな細胞状態の識別」 第82回日本癌学会学術総会 2023.9, 横浜市
66. 宮田憲一, 丸山玲緒.「エピゲノム異常ががん細胞の多様性へ与える影響の解析」 第82回日本癌学会学術総会 2023.9, 横浜市
67. 丸山玲緒, 楊麗英, 粂川昂平.「FOXD1の高発現はトリプルネガティブ乳がんの予後不良と相関する」 第82回日本癌学会学術総会 2023.9, 横浜市
68. 古川貴光, 宮田憲一, 柴田智華子, 楊麗英, 粂川昂平, 佐伯澄人, 三重尭文, 岡本武士, 武田剛志, 春日章良, 佐々木隆, 尾阪将人, 笹平直樹, 野田哲生, 丸山玲緒.「オルガノイドのマルチオミックス解析による膵癌遠隔転移可塑性メカニズムの解明」 第82回日本癌学会学術総会 2023.9, 横浜市
69. Tanaka, M., Baba M., Yokokawa R., Nakamura T., Maruyama R.「Abnormal enhancement of the intracellular trafficking pathway facilitates vascular network in cancer」 第82回日本癌学会学術総会 2023.9, 横浜市
70. Tanaka, M.「Lessons from sarcoma mouse models」IRCMS(熊本大学国際先端医学研究機構)シンポジウムRise of Diversity in Science（多様性と科学の夜明け）2023.9, 熊本市
71. 丸山玲緒.「単一細胞オミクス解析により明らかとなるがん細胞の腫瘍内不均一性」第61回日本癌治療学会学術集会 2023.10, 横浜市
72. 鈴鹿淳, 上野貴之, 津田真寿美, 龔剣萍, 田中伸哉, 丸山玲緒.「ハイドロゲルを用いた脱分化乳がん細胞の誘導および表現型の評価」第45回日本バイオマテリアル学会大会 2023.11, 神戸市
73. 鈴鹿淳, 佐伯澄人, 粂川昂平, 土屋あい, 上野貴之, 津田真寿美, 龔剣萍, 田中伸哉, 丸山玲緒.「ハイドロゲルを用いたがん細胞の脱分化誘導および悪性形質促進機序の解析」 第46回日本分子生物学会年会 2023.12, 神戸市
74. 粂川昂平. 「乳がん臨床検体のシングルセルATAC-seqによるdriver cistromeの同定とその病的意義の解明」 第46回日本分子生物学会年会 2023.12, 神戸市
75. 宮田憲一, 高橋暁子, 丸山玲緒. 「非コードDNA領域のエピゲノム異常がもたらすSASP誘導機構の解析」 第46回日本分子生物学会年会 2023.12, 神戸市
76. 田中美和. 「肉腫の発症における融合遺伝子とエンハンサーの相互作用」 第46回日本分子生物学会年会 2023.12, 神戸市

77. 楊雨瀟, 古川貴光, 丸山玲緒, 宮田憲一. 「膵がん細胞に対する抗がん剤治療へ胸水由来がん関連線維芽細胞が及ぼす効果の解析」 第46回日本分子生物学会年会 2023.12, 神戸市
78. 家里明日美.「チロシンキナーゼ阻害剤レンバチニブはペリサイトを標的として甲状腺未分化癌の増殖を抑制する」 第66回日本甲状腺学会学術集会 2023.12, 金沢市
79. 田中美和. 「肉腫のエンハンサー異常を標的とするエピゲノム編集治療技術の確立」 第14回がんゲノム・エピゲノム、数理統計解析についての勉強会 2023.12, 別府市

[特許]

1. Drugs for prevention/treatment of age-related diseases caused by cellular senescence, test method for age-related diseases and screening method for therapeutic agents
   PCT/JP2023/13722（高橋暁子、宮田憲一）
2. Cancer therapeutic drug, testing method, and screening methods for therapeutic agent
   PCT/JP2023/13723（高橋暁子、宮田憲一）

[社会貢献活動]

1. がん教育講演「生活のしかたと病気」港陽小学校. 2022.2 東京都港区（鎌倉奈々）
2. がん教育講演「がんになる仕組みとその予防」港陽中学校. 2022.2 東京都港区（堀花那子）
3. 講演 「日本分子生物学会におけるダイバーシティの取り組みと変遷.」 第 31 回日本医学会総会. 2023. 4. 東京都千代田区（斉藤典子）
4. AMEDがんシンポジウム しるxしるxみちる がん治療の最前線 がんと老化「老化細胞の研究が拓く新たながん予防・治療の可能性」2023.3, 東京（高橋暁子）
5. 宮田満のバイオ・アメージング〜緊急対談：バイオのあの話題はこれからどうなる？！「老化した細胞が炎症を引き起こすしくみの解明と応用」2023.4, オンライン（高橋暁子）

器官発生 · 創生学分野

教　　授　武部　貴則
助　　教　米山　鷹介
助　　教　関谷　佐智子
プロジェクト助教　佐伯　憲和
プロジェクト助教　森　俊介
特任助教　福永　一朗
特任研究員　大内　梨江
非常勤講師　島田　佳弘
非常勤講師　井口　拓馬
非常勤講師　永井　博文
非常勤講師　金川　幸紀
研究補佐員　前澤　真理
研究補佐員　大津　香苗
研究補佐員　杵渕　明子
技術補佐員　松島　麻悠子
事務補佐員　森　美智子
事務補佐員　鶴岡　真理子
大学院生　徐　澤宇
大学院生　張　暕春
大学院生　山口　仁美
大学院生　河村　峻太郎
大学院生　平井　亜整
大学院生　張　春絵
大学院生　川内　里紗
大学院生　栗原　泰幸
大学院生　市村　健太郎
大学院生　竹内　将

(1)　分野概要

私たちは、多能性幹細胞研究を活用したオルガノイド（Organoid）技術を基軸とすることで、未知の疑問や課題を定義し、全く新たな医学的価値を創造することの可能な、生命科学研究を展開しきたいと考えています。

私たちの身体は、1個の受精卵が繰り返し増殖と分化を繰り返すことにより形成され、最終的に生命体の機能単位である臓器、ひいては、数十兆の細胞からなる個体が形成されます。私たちは、このようなヒト臓器や個体発生における緻密な生物学的プロセスを理解 · 制御を試みることで、その破綻がもたらす疾患の理解と克服 · 移植医療におけるドナーの絶対的不足という臨床課題の解決を目指した研究開発を進めてきました。本分野では、近年研究の進歩が著しい幹細胞生物学や発生生物学における最新知見を駆使することで、ヒト人工多能性幹（iPS）細胞などの幹細胞から数百万もの細胞から構成される複雑な構造を有した臓器の芽（オルガノイド、Organoid）を創出する技術の確立を目指します。最終的に、現在も治療が困難なさまざまな疾患分野において移植医療や創薬応用を通じて、オルガノイドを活用した革新的な治療概念（オルガノイド医学、Organoid Medicine）を次々と実証していくことを目標としています。

(2) 研究活動

私達の研究室では、ヒトの幹細胞より創出したさまざまな臓器の正常 · 疾患オルガノイド（臓器の芽）をツールとして、発生学 · 分子生物学 · 工学 · 遺伝学 · 進化学 · 情報科学 · 物理学 · 化学 · 医学など多分野における学理を結集することにより、次世代のオルガノイド研究領域を牽引するクリエイティブな基礎科学研究を推進します。具体的には、以下に示す大きく 3 つの研究プロセスを通じて、これまでの常識や原理 · 原則に囚われず全く新たな学術 · 医療概念を生み出すことを試みます。

臓器に学ぶ（Learn）：
ヒト臓器発生は、これまで研究ツールが存在しなかったため、その多くの過程がブラックボックスとなっていました。臓器をつくるために役立つ情報を得るために、ヒトオルガノイドを用いて、未解明の臓器発生メカニズムの理解を試みています。

臓器を創る（Creation）：
ヒト臓器は、多様な細胞が、複雑な構造を形成することで機能が成立します。これらの多様性 · 複雑性を培養環境で再現することにより、新たなオルガノイドの創出技術を確立します。

臓器を使う（Prototyping）：
オルガノイドを活用して、創薬や再生医療応用を実現するための基盤技術を開発します。ユニット長が兼務しているシンシナティ小児病院や、タケダ-CiRA プログラムなど、国際性 · 多様性に富む研究チームと連携することで、医療応用の加速を目指します。

(3) 研究業績

[原著]

1. Múnera JO, Kechele DO, Bouffi C, Qu N, Jing R, Maity P, Enriquez JR, Han, Campbell I, Mahe MM, McCauley HA, Zhang X, Sundaram N, Hudson JR, Zarsozo-Lacoste A, Pradhan S, Tominaga K, Sanchez JG, Weiss AAChatuvedi P, Spence JR, Hachimi M, North T, Daley GQ, Mayhew CN, Hu Y, Takebe T, Helmrath MA, Wells JM. Development of functional resident macrophages in human pluripotent stem cell-derived colonic organoids and human fetal colon Cell Stem Cell. 2023.11; 30(11); 1434-1451

2. Reza H, Farooqui Z, Reza A, Conroy C, Iwasawa K, Ogura Y, Okita K, Osafune K, Takebe T. Synthetic augmentation of bilirubin metabolism in human pluripotent stem cell-derived liver organoids Stem Cell Reports. 2023.11; 8(11);

3. Kawakami E, Saiki N, Yoneyama Y, Moriya C, Maezawa M, Kawamura S, Kinebuchi A, Kono T, Funata M, Sakoda A, Kondo S, Ebihara T, Matsumoto H, Togami Y, Ogura H, Sugihara F, Okuzaki D, Kojima T, Deguchi S, Vallee S, McQuade S, Islam R, Natarajan M, Ishigaki H, Nakayama M, Nguyen CT, Kitagawa Y, Wu Y, Mori K, Hishiki T, Takasaki T, Itoh Y, Takayama K, Nio Y, Takebe T. Complement factor D targeting protects endotheliopathy in organoid and monkey models of COVID-19. Cell stem cell. 2023.10; 30(10); 1315-1330.e10

4. Kawakami E, Saiki N, Yoneyama Y, Takayama K, Nio Y, Takebe T. Complement factor D targeting protects endotheliopathy in organoid and monkey models of COVID-19 Cell Stem Cell. 2023.10; 30 (10); 1315-1330

5. Matsuzaki T, Kawano Y, Horikiri M, Shimokawa Y, Yamazaki T, Okuma N, Koike H, Kimura M, Kawamura R, Yoneyama Y, Furuichi Y, Hakuno F, Takahashi SI, Nakabayashi S, Okamoto S, Nakauchi H, . Preparation of mechanically patterned hydrogels for controlling the self-condensation of cells STAR protocols. 2023.07; 4(3); 102471

6. Takahisa Matsuzaki, Yuma Kawano, Momoka Horikiri, Yuko Shimokawa, Takashi Yamazaki, Nao Okuma, Hiroyuki Koike, Masaki Kimura, Ryuzo Kawamura, Yosuke Yoneyama, Yasuro Furuichi, Fumihiko Hakuno, Shin-Ichiro Takahashi, Seiichiro Nakabayashi, Satoshi Okamoto, Hiromitsu Nakauchi, Hideki Taniguchi, Takanori Takebe, Hiroshi Y Yoshikawa. Preparation of mechanically patterned hydrogels for controlling the self-condensation of cells. STAR Protocols. 2023.07; 4(3); 102471

7. Yunheng Wu, Masahiro Oda, Yuichiro Hayashi, Shuntaro Kawamura, Takanori Takebe, Kensaku Mori. Thrombosis region extraction and quantitative analysis in confocal laser scanning microscopic image

sequence in in-vivo imaging Medical Imaging 2023: Biomedical Applications in Molecular, Structural, and Functional Imaging. 2023.05; 12468; 71-77

8. Tamaoki N, Siebert S, Maeda T, Ha NH, Good ML, Huang Y, Vodnala SK, Haro-Mora JJ, Uchida N, Tisdale JF, Sweeney CL, Choi U, Brault J, Koontz S, Malech HL, Yamazaki Y, Isonaka R, Goldstein DS, Kimura M, Takebe T, Zou J, Stroncek DF, Robey PG, Kruhlak MJ, Restifo NP, Vizcardo R.. Self-organized yolk sac-like organoids allow for scalable generation of multipotent hematopoietic progenitor cells from induced pluripotent stem cells Cell Reports Methods. 2023.04; 3(4); 100460
9. Fujii T, Yoneyama Y, Kinebuchi A, Ozeki N, Maeda S, Saiki N, Chen-Yoshikawa TF, Date H, Nishiwaki K, Takebe T. Enteral liquid ventilation oxygenates a hypoxic pig model. iScience. 2023.03; 26(3); 106142
10. Fujii T, Yoneyama Y, Kinebuchi A, Ozeki N, Maeda S, Saiki N, Fengshi Chen-Yoshikawa T.F., Date H, Nishiwaki K, Takebe T. Enteral liquid ventilation oxygenates a hypoxic pig model iScience. 2023.03; 26(3);
11. Kang S, Kimura M, Shrestha S, Lewis P, Lee S, Cai Y, Joshi P, Acharya P, Liu J, Yang Y, Sanchez J, Ayyagari S, Alsberg E, Wells J, Takebe T, Lee M. A Pillar and Perfusion Plate Platform for Robust Human Organoid Culture and Analysis bioRxiv. 2023.03;

[講演・口頭発表等]

1. Takanori Takebe. Organoids for Liver Replacement Therapy. Asian Transplantation Week 2023 2023.11.17
2. Takanori Takebe. Understanding interconnectedness in liver development and disease. Germany EMBO Organoids 2023.10.20
3. Takanori Takebe. Stem cell technology for studying hepatology and hepatitis viruses. 2023 International Hepatitis B Virus Meeting 2023.09.19
4. Yosuke Yoneyama. Modeling human fatty liver diseases with iPSC-derived organoid. Global Regenerative Medicine Trainee Speaker Series 2023.07.27
5. Takanori Takebe. Developmental Origin of the Liver. Society for Developmental Biology (SDB) 2023 annual meeting 2023.07.21 Chicago
6. Takanori Takebe. Promise and Impact of Organoid Medicine. AMED-SCN Showcase Event 2023 2023.07.19
7. Takanori Takebe. Modeling Hepato-biliary-pancreatic Organogenesis in a Dish. The 87th Cold Spring Harbor Laboratory Symposium on Quantitative Biology - Stem Cells 2023.05.31
8. Yosuke Yoneyama. IGFALS regulates non-alcoholic steatohepatits progression in mouse, organoid, and human. Gordon Research Conference “IGF and Insulin System in Physiology and Disease” 2023.03.16
9. Yunheng Wu, Masahiro Oda, Yuichiro Hayashi, Shuntaro Kawamura, Takanori Takebe, and Kensaku Mori. Thrombosis region extraction and quantitative analysis in confocal laser scanning microscopic image sequence in in-vivo imaging. SPIE Medical Imaging 2023 2023.02.20
10. Takanori Takebe. Modeling Hepato-Biliary-Pancreatic Organogenesis. Keystone Symposia 2023.02.08
11. Yosuke Yoneyama. Genotype-Phenotype Association Strategy for Fatty Liver Diseases Using Human iPSC-Derived Organoids. EVIDENT ORGANOID CONFERENCE 2023 2023.02.08
12. Takanori Takebe. Human Organoids Towards Precision Hepatology. The Department of Pediatrics of UTSW and Children’s Medical Center, Scientific conference 2023.01.17
13. Yunheng Wu. Quality Improvement for Low-magnification Optical Microscopic Image in Mouse Cerebral Cortex Imaging. IFMIA2023 2023.01.11

1. 武部貴則. My Medicine-100 億人 100 億通りの実現に向けて. 第 9 回愛仁会リハビリテーション部門学術大会 2023.11.26
2. 武部貴則. オルガノイドを用いた臓器置換術の展望. 第 59 回日本移植学会 2023.09.22

3. 武部貴則. 器官機能再建への展望. 大阪消化器フォーラム講演会 2023.09.15
4. 武部貴則. オルガノイドに関する教育講演. 第 29 回日本遺伝子細胞治療学会学術集会 2023.09.13
5. 武部貴則. 再生医療最前線　〜腸呼吸を含めて.「21 世紀先端医療コンソーシアム」再生医療部会 2023.08.25
6. 武部貴則. ストリート・メディカルが目指す新しい医療. 第 49 回日本看護研究学会学術集会 2023.08.20
7. 武部貴則. オルガノイド医療の可能性. 日本病理学会カンファレンス 2023.08.04
8. 武部貴則. オルガノイド医療の展望. 天王山免疫カンファレンス 2023.07.28 Web
9. 武部貴則. 器官機能再建への展望. 第 32 回日本腎泌尿器疾患予防医学研究会 2023.07.07
10. 武部貴則. オルガノイドを用いた器官創生への展望. 第 31 回日本医学会総会 2023.04.22
11. 河村　峻太郎. ヒト血管化肝臓オルガノイドを用いた薬剤性 TMA 発症機序の解明. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.24
12. 武部貴則. ぶれとずれが研究を加速する！ . 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.24
13. 武部貴則. マイ・メディシン　— オルガノイド技術の先にあるもの. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.24
14. 河村 峻太郎 1, 米山 鷹介 1, 佐伯 憲和 1, 森谷 千春 1, 前澤 真理 1, 岡田 憲樹 2, 佐久間 康成 2, 呉 運恒 3, 森 建策 3, 武部 貴則 1, 4. ヒト血管化肝臓オルガノイドを用いた 薬剤性血栓性微小血管症の発症機序の解明. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.24
15. 米山 鷹介. 新規/新奇研究による難治性疾患克服への挑戦-だから基礎研究は面白い-　哺乳類腸呼吸現象の発見とそれを応用した呼吸補助療法の開発. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01
16. 武部貴則. オルガノイドを用いた毒性研究の新展開. 第 39 回日本毒性病理学会学術集会 2023.01.25

[受賞]

1. 井上学術賞, 井上科学振興財団, 2023 年 02 月
2. ISSCR Outstanding Young Investigator Award, International Society for Stem Cell Research (ISSCR) , 2023 年 02 月
3. ポスター賞（研究部門）, 22 年度卓越大学院プログラムリトリート, 2023 年 03 月
4. ポスター賞（発表部門）, 22 年度卓越大学院プログラムリトリート, 2023 年 03 月
5. 2023 年度持田記念学術賞, 持田記念医学薬学新興財団, 2023 年 11 月
6. 2023 年度日本医師会医学研究奨励賞, 日本医師会, 2023 年 11 月
7. ポスター賞（発表部門）, 23 年度卓越大学院プログラムリトリート, 2023 年 12 月
8. ポスター賞（研究部門）, 23 年度卓越大学院プログラムリトリート, 2023 年 12 月

[その他業績]

1. 「　大動物を用いて腸換気法の有効性を概念実証　」 — 肺機能に依存しない画期的な呼吸補助療法の実現に道！　—, 2023 年 03 月
   iScience
2. ヒト血管オルガノイドを用いた 新型コロナウイルス重症化メカニズムの解明 —補体代替経路を標的とする血管炎の新たな治療薬開発に光—, 2023 年 10 月
   —

[社会貢献活動]

1. 子ども向け科学企画「カガク · ミライ探検隊」取材, 共同通信社, カガク · ミライ探検隊, 2023 年 01 月 12 日 - 2023 年 02 月 28 日
2. 腸から酸素を取り込む「腸呼吸」について, INCLUSIVE 株式会社, ZERONICHI, 2023 年 01 月 12 日 - 現在
3. 小さな臓器：オルガノイド研究が開く未来, 株式会社メディカルノート, 再生医療 PORTAL/Medical note, 2023 年 01 月 15 日 - 2023 年 03 月 31 日
4. 腸を使った呼吸法「EVA 法」開発の経緯や今後の展望, 読売新聞社, 読売新聞, 2023 年 01 月 23 日 - 現在
5. 科学技術力の停滞が指摘される日本の研究環境の課題について, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2023 年 05 月 02 日 - 現在
6. 武部貴則教授の人物像と研究, 読売新聞東京本社, 読売新聞, 2023 年 07 月 31 日 - 2023 年 09 月 01 日
7. ストリート · メディカルについて（Forbes Japan）, リンクタイズ株式会社, Forbes Japan 年末号, 2023 年 11 月 15 日 - 2023 年 12 月 31 日
8. ストリート · メディカルについて（朝日学生新聞）, 朝日学生新聞社, 朝日小学生新聞, 2023 年 12 月 09 日 - 2023 年 12 月 31 日

生物統計学分野

Department of Biostatistics

教授　髙橋　邦彦
講師　安齋　達彦
助教　西田　優紀

(1) 分野概要

生物統計学はデータ科学の側面から医学研究の中心的役割を担っている。本分野では、生物統計学の視点から、医学、歯学、医療にフォーカスしたデータ分析のための方法論を開発し、さらに統計学の応用を通して実践的なM＆D領域研究を推進していく。

(2) 研究活動

1）M&D 分野データ分析のための方法論開発
M&D 分野のデータ分析のための生物統計学的な方法論の開発を行っている。特に地理 · 時間情報を利用した空間疫学研究、感染症サーベイランス · モニタリング、複雑かつ精緻でない医療リアルワールドデータ（RWD）分析、多元的なエビデンスやモデルの統合に向けたメタアナリシス、ダイナミックモデリングなどにおける問題解決のための新たな統計的方法の開発とともに、実践的な応用研究、普及に向けたソフトウェアの開発も進めている。

2）実践的なM＆D領域研究の推進
医学 · 歯学 · 医療分野の専門家と協力し、M&D 領域の研究の発展 · さらなる向上を目指した共同研究を推進している。臨床研究 · 試験、観察研究、基礎実験研究など様々な研究において、研究設計から統計解析まで協業し、実践していく。さらにデータサイエンスとしての視点から、新たな横断的研究の提案と実践、健診 · 検査 · 診療データなど、M＆Dデータの有効的な活用研究の推進も目指している。

(3) 教育活動

【学部】「生物統計学基礎」（科目責任、担当）、「生物統計学応用 I」（科目責任、担当）、「生物統計学応用 II」（科目責任、担当）、「医療と AI· ビックデータ入門」（担当）、「公衆衛生学」（担当）
【大学院】「医療データ科学概論」（科目責任、担当）、「Data Science I（英語）」（科目責任、担当）、「Biostatistics I（生物統計 I）」（科目責任、担当）、「Clinical Biostatistics and Statistical Genetics（臨床 · 遺伝統計学）」（科目責任、担当）、「生物統計学基礎」（科目責任、担当）、「生物統計学応用 I」（科目責任、担当）、「生物統計学応用 II」（科目責任、担当）、「ビッグデータ解析学」（担当）、「先制医療学基礎実習」（担当）、「生物統計学特論」（科目責任、担当）、課題研究

(4) 教育方針

医療分野における実践的な課題の解決をモチベーションとして、数理をベースとした生物統計学的な視点から、研究デザイン、分析方法などのアプローチを開発または適用し、導き出された統計的な結果の解釈を適切に行える力をもった人材を養成する。

(5) 研究業績

[原著]

1. Miya Aishima, Takako Ishikawa, Kasumi Ikuta, Maiko Noguchi-Watanabe, Sayuri Nonaka, Kunihiko Takahashi, Tatsuhiko Anzai, Sakiko Fukui. Unplanned Hospital Visits and Poor Oral Health With Undernutrition in Nursing Home Residents. J Am Med Dir Assoc. 2023.12; 24(12); 1855-1860.e1

2. Endo S, Okamoto T, Kawahara T, Anzai T, Takahashi K, Miyazaki Y. Effect of warm and humid days on the positivity rate of anti-Trichosporon asahii antibody test for the diagnosis of summer-type hypersensitivity pneumonitis. Respiratory investigation. 2023.12; 62(1); 150-156

3. Hao Ding, Hideyuki Koga, Hiroki Katagiri, Shoichi Hasegawa, Tatushiko Anzai, Mai Katakura, Aritoshi Yoshihara, Masaki Amemiya, Takashi Hoshino, Nobutake Ozeki, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa. Low central sensitisation inventory score is associated with better post-operative outcomes of osteotomy around the knee. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023.12; 31(12); 5896-5904

4. Takahiro Ando, Sho Shimada, Jun Sugihara, Koji Takayama, Masayoshi Kobayashi, Yoshihiro Miyashita, Tatsuya Ito, Kaori Okayasu, Shun Tsuyuki, Takehiko Ohba, Masafumi Doi, Hiroaki Saito, Toshihide Fujie, Tomoshige Chiaki, Atsushi Nakagawa, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Sho Shibata, Tomoya Tateishi, Yasunari Miyazaki. Impairment of Social-Related Quality of Life in COVID-19 Pneumonia Survivors: A Prospective Longitudinal Study. J Clin Med. 2023.12; 12(24); 7064

5. Yukako Tani, Takeo Fujiwara, Tatsuhiko Anzai, Katsunori Kondo. Cooking skills, living alone, and mortality: JAGES cohort study. Int J Behav Nutr Phys Act. 2023.11; 20(1); 131

6. Murakami K, Shinozaki N, Kimoto N, Onodera H, Oono F, McCaffrey TA, Livingstone MBE, Okuhara T, Matsumoto M, Katagiri R, Ota E, Chiba T, Nishida Y, Sasaki S. Web-Based Content on Diet and Nutrition Written in Japanese: Infodemiology Study Based on Google Trends and Google Search. JMIR formative research. 2023.11; 7; e47101

7. Yosuke Nakatani, Masateru Takigawa, F Daniel Ramirez, Takashi Nakashima, Clémentine André, Cyril Goujeau, Aline Carapezzi, Tatsuhiko Anzai, Philipp Krisai, Takamitsu Takagi, Tsukasa Kamakura, Vlachos Konstantinos, Ghassen Cheniti, Romain Tixier, Nicolas Welte, Remi Chauvel, Josselin Duchateau, Thomas Pambrun, Nicolas Derval, Frédéric Sacher, Meleze Hocini, Michel Haïssaguerre, Pierre Jaïs. Electrophysiologic Determinants of Isoelectric Intervals on Surface Electrocardiograms During Atrial Tachycardia: Insights From High-Density Mapping. JACC Clin Electrophysiol. 2023.10; 9(10); 2054-2066

8. Mitsuaki Nishikimi, Shinichiro Ohshimo, Jun Hamaguchi, Kenji Fujizuka, Yoshihiro Hagiwara, Tatsuhiko Anzai, Junki Ishii, Yoshitaka Ogata, Toshiyuki Aokage, Tokuji Ikeda, Tsukasa Yagi, Ginga Suzuki, Ken Ishikura, Ken Katsuta, Daisuke Konno, Noriyuki Hattori, Tomoyuki Nakamura, Yosuke Matsumura, Daisuke Kasugai, Hitoshi Kikuchi, Tatsuhiko Iino, Shinichi Kai, Haruka Hashimoto, Takeshi Yoshida, Yumi Igarashi, Takayuki Ogura, Kazuki Matsumura, Keiki Shimizu, Mitsunobu Nakamura, Shingo Ichiba, Kunihiko Takahashi, Nobuaki Shime. High versus low positive end-expiratory pressure setting in patients receiving veno-venous extracorporeal membrane oxygenation support for severe acute respiratory distress syndrome: study protocol for the multicentre, randomised ExPress SAVER Trial. BMJ Open. 2023.10; 13(10); e072680

9. Hiroyuki Inose, Takuya Takahashi, Yu Matsukura, Jun Hashimoto, Kurando Utagawa, Satoru Egawa, Kentaro Yamada, Takashi Hirai, Kunihiko Takahashi, Toshitaka Yoshii. Effect of vitamin D deficiency on surgical outcomes of degenerative cervical myelopathy. N Am Spine Soc J. 2023.09; 15; 100239

10. COVID-19 Host Genetics Initiative. A second update on mapping the human genetic architecture of COVID-19. Nature. 2023.09; 621(7977); E7-E26

11. Yuki Nishida, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Takahide Kozuma, Eiichiro Kanda, Keita Yamauchi, Fuminori Katsukawa. Multimorbidity patterns in the working age population with the top 10% medical cost from exhaustive insurance claims data of Japan Health Insurance Association. PLoS One. 2023.09; 18(9); e0291554

12. Tsubasa Ito, Takahiro Otani, Tatsuhiko Anzai, Takashi Okumura, Kunihiko Takahashi. Potential Biases of the Transmission Risks of COVID-19 estimated by Contact Tracing Surveys in Japan. Epidemiology, Biostatistics, and Public Health. 2023.08;

13. Hiroyuki Inose, Tsuyoshi Kato, Yu Matsukura, Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Shigenori Kawabata, Kunihiko Takahashi, Atsushi Okawa. Factors influencing the long-term outcomes of instrumentation surgery for degenerative lumbar spondylolisthesis: a post-hoc analysis of a prospective randomized study. Spine J. 2023.06; 23(6); 799-804

14. Saeka Takabayashi, Emiko Okada, Takumi Hirata, Hidemi Takimoto, Mieko Nakamura, Satoshi Sasaki, Kunihiko Takahashi, Koshi Nakamura, Shigekazu Ukawa, Akiko Tamakoshi. Nutritional Adequacy Assessment of the Japanese Diet Using the Number of Dishes Compared to Existing Dietary Diversity Indices: A Cross-Sectional Analysis from the 2012 National Health and Nutrition Survey, Japan. J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo). 2023.06; 69(3); 197-205

15. Asuka Hirose, Masakazu Terauchi, Tamami Odai, Ayako Fudono, Kotoi Tsurane, Masaki Sekiguchi, Misako Iwata, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Naoyuki Miyasaka. Investigation of exacerbating factors for postpartum hair loss: a questionnaire-based cross-sectional study. Int J Womens Dermatol. 2023.06; 9(2); e084

16. Mitsuaki Nishikimi, Shinichiro Ohshimo, Wataru Fukumoto, Tatsuhiko Anzai, Kazuo Awai, Takayuki Ogura, Toshikazu Abe, Mamoru Masuda, Kenji Fujizuka, Mitsunobu Nakamura, Michihito Kyo, Kunihiko Takahashi, Nobuaki Shime. Characteristics of the pulmonary opacities on chest CT associated with difficulty in short-term liberation from veno-venous ECMO in patients with severe ARDS. Respir Res. 2023.05; 24(1); 128

17. Ryuya Edahiro, Yuya Shirai, Yusuke Takeshima, Shuhei Sakakibara, Yuta Yamaguchi, Teruaki Murakami, Takayoshi Morita, Yasuhiro Kato, Yu-Chen Liu, Daisuke Motooka, Yoko Naito, Ayako Takuwa, Fuminori Sugihara, Kentaro Tanaka, James B Wing, Kyuto Sonehara, Yoshihiko Tomofuji; Japan COVID-19 Task Force; Ho Namkoong, Hiromu Tanaka, Ho Lee, Koichi Fukunaga, Haruhiko Hirata, Yoshito Takeda, Daisuke Okuzaki, Atsushi Kumanogoh, Yukinori Okada. Single-cell analyses and host genetics highlight the role of innate immune cells in COVID-19 severity. Nat Genet. 2023.05; 55(5); 753-767

18. Shintaro Shimizu, Gen Tanabe, Kairi Hayashi, Hiroshi Churei, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Toshiaki Ueno, Kenji Fueki. Quantitative text analysis of the mechanisms of tooth injury: Analysis of accidents in five sports that occurred in 15years under school control. Dent Traumatol. 2023.04; 39(2); 132-139

19. Hiroyuki Inose, Tsuyoshi Kato, Shoichi Ichimura, Hiroaki Nakamura, Masatoshi Hoshino, Shinji Takahashi, Daisuke Togawa, Toru Hirano, Yasuaki Tokuhashi, Tetsuro Ohba, Hirotaka Haro, Takashi Tsuji, Kimiaki Sato, Yutaka Sasao, Masahiko Takahata, Koji Otani, Suketaka Momoshima, Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Kunihiko Takahashi, Atsushi Okawa. Factors affecting the quality of life in the chronic phase of thoracolumbar osteoporotic vertebral fracture managed conservatively with a brace. Spine J. 2023.03; 23(3); 425-432

20. Nobuyuki Nosaka, Tatsuhiko Anzai, Ryo Uchimido, Yuka Mishima, Kunihiko Takahashi, Kenji Wakabayashi. An anthropometric evidence against the use of age-based estimation of bodyweight in pediatric patients admitted to intensive care units. Sci Rep. 2023.03; 13(1); 3574

21. Masaki Ozawa, Tatsuhiko Anzai, Takashi Yamauchi, Kunihiko Takahashi. Do changes in working hours increase stress in Japanese white-collar workers? Front Public Health. 2023.02; 11; 1076024

22. Kohtaro Kikuchi, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi. The Unusual Increase in Suicides Among Women in Japan During the COVID-19 Pandemic: A Time-series Analysis Until October 2021. J Epidemiol. 2023.01; 33(1); 45-51

23. Yamashita S, Okamoto T, Kawahara T, Tateishi T, Anzai T, Takahashi K, Fushimi K, Miyazaki Y. Database analysis of hypersensitivity pneumonitis in Japan. Respiratory investigation. 2023.01; 61(2); 172-180

[書籍等出版物]

1. Python で実践　生命科学データの機械学習. 羊土社, 2023.03 (ISBN : 978-4758122634)

2. 西田優紀. 肥満や糖尿病はフレイルにも関係している!?. 渋沢栄一記念財団, 2023.03

[総説]

1. 高橋邦彦，大谷隆浩．災害 · 事故時における迅速対応統合プラットフォームの開発 地球環境．2023; 28(2); 187-194

[講演 · 口頭発表等]

1. 西田優紀, 新井崇弘. 潜在クラス分析によるダイエット食品利用者の口コミパターンと満足度の関係性. IDR ユーザフォーラム 2023 2023.12.11 東京
2. 西田優紀, 植村直紀, 安齋達彦, 高橋邦彦, 山内慶太, 勝川史憲. 中高年の肥満者における体重変化がフレイルの進展に及ぼす影響. 第 44 回日本肥満学会 · 第 41 回日本肥満症治療学会学術集会 2023.11.26 仙台
3. 植村直紀, 西田優紀, 勝川史憲. 大規模な健診データを用いた加齢による BMI 変化の検討. 第 44 回日本肥満学会 · 第 41 回日本肥満症治療学会学術集会 2023.11.25 仙台
4. 高橋邦彦．妊娠中の医薬品使用の安全性評価解析手法．第 28 回 日本薬剤疫学会学術総会 シンポジウム 2023.11.17 京都
5. 安齋達彦, 福井敬祐, 伊藤ゆり, 椿広計, 高橋邦彦. COVID-19 流行期間を通じた自殺者数変動に関する検討. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 2023.11.01 つくば
6. 西田優紀, 安齋達彦, 高橋邦彦, 山内慶太, 勝川史憲. 特定保健指導前後の体重減量で期待される HbA1c の改善効果. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 2023.11.01 つくば
7. 清水慎太郎，田邊 元，安齋達彦，外川海斗，林 海里，中禮 宏，髙橋邦彦，上野俊明. 学校スポーツ事故事例のテキストマイニング手法を用いたコレスポンデンス分析　歯牙障害発生の学校種別 · 性別の傾向. 日本安全教育学会 第 24 回奈良大会 2023.09.09 奈良
8. 安齋達彦, 高橋邦彦．オメガ 3 脂肪酸摂取による抑うつスコアの経時測定データを用いたメタアナリシス. 2023 年度統計関連学会連合大会 2023.09.07
9. 林 七夏, 土田 優美, 安齋 達彦, 髙橋 邦彦, 岩城 麻衣子, 宮安 杏奈, 金澤 学. 深層学習を用いた画像認識技術による支台歯形態の評価. 日本デジタル歯科学会第 14 回学術大会．　2023.04.22 神奈川
10. 西田優紀, 勝川史憲. 健康支援のための研究いろは: 公開データを用いた二次分析 リアルワールドデータを活用した二次分析.. 第 24 回日本健康支援学会年次学術大会 2023.03.04 福岡
11. 菊地晃太郎, 安齋達彦, 高橋邦彦．COVID-19 流行下における女性の自殺増加要因：時系列モデルによる解析. 第 33 回日本疫学会学術総会 2023.02.01

[受賞]

1. 企業賞, IDR ユーザフォーラム 2023, 2023 年 12 月

[その他業績]

1. 高額医療費集団 169 万人の全国規模データに基づく慢性疾患の併存パターンの解明 —協会けんぽによる「外部有識者を活用した委託研究事業（第 1 期）」の成果報告—, 2023 年 10 月
   —

[社会貢献活動]

1. 統計の読み方, 日本病院薬剤師会 令和 5 年度 妊婦 · 授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会, 2023 年 11 月 23 日

AI システム医科学分野

Department of AI Systems Medicine

教授: 清水 秀幸
講師: 清水 秀幸
特任助教: 麻生 啓文
特任研究員: 古賀 大介

(1) 分野概要

私たちはバイオインフォマティクスや数理モデリング、そして人工知能といったデータ駆動型生命医学研究により生命の謎を解く、そして未来の医療を創り出すことに挑戦している若いチームです。

(2) 研究活動

「データサイエンスで未来の医療を創る」を合言葉にドライ (生命科学や医療データの解析) に主軸を置きつつもウェット (実験) と融合して今の医学では分からないことを解き明かし、病気の予防 · 診断 · 治療法を創出することを目指しています。

(3) 教育活動

【学部授業】
B1: 医療と AI· ビッグデータ入門
B1: 医学導入
B2: 医療と AI· ビッグデータ応用
B3: 公衆衛生学

【大学院授業】
M1: 医療データ科学概論
D1: AI システム医科学特論
D1: 医療デバイス · システム機器特論
生物統計学応用 II

(4) 研究業績

[原著]

1. Kodama M, Toyokawa G, (20 名省略), Bamba T, Shimizu H, Yoshizumi T, Nakayama KI. Modulation of host glutamine anabolism enhances the sensitivity of small cell lung cancer to chemotherapy Cell Reports. 2023.08; 42(8); 112899

2. Fujinuma S, Nakatsumi H, Shimizu H, Sugiyama S, Harada A, Goya T, Tanaka M, Kohjima M, Takahashi M, Izumi Y, Yagi M, Kang D, Kaneko M, Shigeta M, Bamba T, Ohkawa Y, Nakayama KI. FOXK1 promotes nonalcoholic fatty liver disease by mediating mTORC1-dependent inhibition of hepatic fatty acid oxidation Cell Reports. 2023.05; 42(5); 112530

3. Hozumi H, Shimizu H. Bayesian network enables interpretable and state-of-the-art prediction of immunotherapy responses in cancer patients PNAS Nexus. 2023.04; 2(5); pgad133
4. Hirofumi Aso, Jumpei Ito, Haruka Ozaki, Yukie Kashima, Yutaka Suzuki, Yoshio Koyanagi, Kei Sato. Single-cell transcriptome analysis illuminating the characteristics of species-specific innate immune responses against viral infections. GigaScience. 2023.10; 12; giad086

[書籍等出版物]

1. 大澤 毅. マルチオミクス データ駆動時代の疾患研究. 羊土社, 2023.09 (ISBN : 9784758104135)
2. 小嶋 将平, 渡士 幸一, 渡辺 登喜子, 堀江 真行, 麻生 啓文, 多賀 佳, 川久保 修佑, 塩野谷 果歩. 学習資料　一家に 1 枚 ウイルス. 文部科学省, 2023.03
3. Python で実践　生命科学データの機械学習〜あなたの PC で最先端論文の解析レシピを体得できる！ . 羊土社, 2023.03

[講演 · 口頭発表等]

1. Hideyuki SHIMIZU. Toward personalized cancer treatment through AI drug discovery. 2023.09
2. Hideyuki Shimizu. Toward ultra-fast drug discovery for hundreds of pathogens. Japan America Frontiers of Engineering 2023.07
3. Hideyuki SHIMIZU. Future challenges of AI in oncology. Chugai Cancer Summit 2023.06
4. 清水秀幸. 臨床応用を目指したデータ科学 · AI 創薬研究. 東北大学主催第 1 回医学 AI セミナー 2023.04
5. 清水秀幸. データサイエンスによる小細胞肺がん治療法の確立を目指して. 15th NUJRA special seminar 2023.03

1. ネクストパンデミックを数理情報科学との融合知で防ぐ. 清水 秀幸 2023.11
2. 清水秀幸. AI 創薬によるがんの個別化医療を目指して. 第 82 回日本癌学会学術総会 2023.09
3. 清水秀幸. 医療と AI 入門. 2023.07
4. 麻生啓文, 伊東潤平, 尾崎遼, 鹿島幸恵, 鈴木穣, 小柳義夫, 佐藤佳. ウイルス感染に対する動物種特異的自然免疫応答. 第 17 回ウイルス学キャンプ in 湯河原 2023.06 湯河原
5. 清水秀幸. オンラインによる学生医学研究 · 交流のすゝめ. 第 31 回日本医学会総会 2023.04
6. 清水秀幸. 医療における AI の活用と課題. LabTech Talk 2023.03
7. 清水秀幸. オミクス解析における人工知能技術の活用. 千里ライフサイエンスセミナー T5 2023.02

1. 中新井田, 悠太, 清水 秀幸, 大野 聡, 徳毛 花菜, 尾上 弘光, 岡田 尚樹, 中倉 俊祐, 朝岡 亮, 木内 良明. 機械学習を用いた緑内障 · 白内障同時手術後の視力予測. 第 4 回日本眼科 AI 学会総会 2023.11.23
2. Satoshi Ohno, Saori Uematsu, Shinya Kuroda. OMELET: Multi-omics-based metabolic flux inference for understanding obesity-associated dysregulatory mechanisms in liver glucose metabolism.. Metabolic Engineering 15 2023.06.12

[社会貢献活動]

1. AI を使った創薬への挑戦, 日経ラジオ, 感染症 TODAY, 2023 年 09 月 13 日 - 2023 年 10 月 16 日

医用器材学講座

センサ医工学分野

Department of Biomedical Devices and Instrumentation

教授　三林 浩二
助教　飯谷 健太
助教　市川 健太
非常勤講師　荒川 貴博
非常勤講師　當麻 浩司
非常勤講師　矢野 和義
非常勤講師　岩崎 泰彦
非常勤講師　武田 直也
非常勤講師　土方 亘
非常勤講師　月精 智子

(1) 分野概要

電気化学、機械工学、電子工学、材料工学、生化学など幅広い研究を基盤とし、バイオテクノロジーや情報技術（IT）を組み合わせ、バイオセンサ · バイオオプティクス · バイオ MEMS などの学際融合領域の研究を進めています。有機系材料とデバイス技術を組み合せ、医工学分野での応用を目指した柔らかく生体適合性に優れたセンシングデバイスを構築しています。

(2) 研究活動

1. 体腔への着脱が可能なバイオセンサ「キャビタスセンサ」
生体適合性の機能性高分子と MEMS 技術を融合することで、“ソフトコンタクトレンズ型バイオセンサ”や“マウスガード型バイオセンサ”を開発し、新しい生体計測法を提案しています。

2. 生化学式ガスセンサ「バイオスニファ」と揮発性成分の可視化計測システム「探嗅カメラ」
肝臓の薬物代謝酵素などを用い、感度と選択性に優れたガスセンサ“バイオスニファ”を多数開発し、生体臭診断や健康科学などへの展開を進めています。また、バイオスニファの技術を応用して、空間中のガス分布を画像的にモニタニタリングできる匂いの可視化計測技術“探嗅カメラ”を開発しています。

3. 医療や環境医学のための免疫センサ
光や弾性波などを利用した免疫センサを開発し、生体中の抗原や、環境中の浮遊ダニアレルゲン（Der f 1）などを半連続的に計測する手法を研究しています。

4. 化学エネルギーを利用した「有機エンジン」と「空気バイオ電池」
生体成分をはじめとする化学エネルギーを、直接力学エネルギーに変換する「有機エンジン」や「空気バイオ電池」を開発し、新しい原理に基づくバイオデバイスの研究を行っています。

(3) 教育活動

講義として、医学部保健衛生学科「生体医工学」、 医歯学総合研究科 修士課程「バイオメディカルデバイス理工学-I」、「バイオメディカルデバイス理工学-II」、博士課程「ウエアラブル IoT 技術特論」、「先端バイオセンシング

特論」、「先制医歯理工学概論-I」を担当している。研究室においては、センサ医工学による独創的な新しい計測デバイスの開発をはじめ、新しい検査機器、生体計測システムの研究開発を行っている。

(4) 教育方針

先端医療や生体情報計測に関する基礎技術を学び、研究実習を通してセンサ医工学に基づく生体化学計測、バイオセンシングデバイスの開発及び医療応用研究について研究活動に参加してもらう。担当教員のもとで研究に取り組み、研究活動を通して自ら考えて研究を推進することができるようになることを目標としている。

(5) 研究業績

[原著]

1. Geng Zhang, Yuki Maeno, Kenta Iitani, Takahiro Arakawa, Yasuhiko Iwasaki, Koji Toma, and Kohji Mitsubayashi. Enhanced sensitivity of a fluorometric biosensor for alcohol metabolites with an enzymatic cycling reaction Sensors and Actuators: B. Chemical. 2023.11; 401; 135031
2. Mizuki Sato, Tatsuya Kamiyama, Kenta Iitani, Kazuyoshi Yano, Kohji Mitsubayashi, and Takahiro Arakawa. Wearable Biosensor Utilizing Chitosan Biopolymer for Uric Acid Monitoring Journal of Robotics and Mechatronics. 2023.10; 35(5); 1131-1134
3. Kenta Iitani, Hidehisa Mori, Kenta Ichikawa, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Yasuhiko Iwasaki, Kohiji Mitsubayashi. Gas-Phase Biosensors (Bio-Sniffers) for Measurement of 2-Nonenal, the Causative Volatile Molecule of Human Aging-Related Body Odor Sensors. 2023.06; 23(13); 5857
4. Hidekazu Matsumoto, Keisuke Tomoto, Gentaro Kawase, Kenta Iitani, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Kohiji Mitsubayashi, Keiji Moriyama. Real-time Continuous Monitoring of Oral Soft Tissue Pressure with a Wireless Mouthguard Device for Assessing Tongue Thursting Habits Sensors. 2023.05; 23(11); 5027
5. Kenta Iitani, Kanako Kishima, Yuka Kasuga, Kumi Yokota, Hiroki Nitta, Kohki Onchi, Gentaro Kawase, Kouta Umezawa, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Dzung Viet Dao, Kohji Mitsubayashi. Wireless Unconstrained Monitoring of Intra-oral Temperature Using Thermistor and Telemeter Sealed in Mouthguard Sensors and Materials. 2023.04; 35(4); 1315-1325
6. Koji Toma, Yui Satomura, Kenta Iitani, Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi. Long-range surface plasmon aptasensor for label-free monitoring of vancomycin Biosensors and Bioelectronics. 2023.02; 222; 114959

1. 飯谷 健太, 堀口 勇貴, 藤田 博之, 張 耿, 當麻 浩司, 三林 浩二. 代謝モニタリングのための生化学式蛍光ガスセンサの研究 化学とマイクロ・ナノシステム. 2023.10; 22(2); 26-29
2. Riki Shinohara, Yuuki Hayakawa, Kenta Iitani, and Kohji Mitsubayashi. Image-based parallel measurement of alcohol metabolism-related ethanol and acetaldehyde in exhaled air Journal of Advanced Sciences. 2023.09; 35; 35301-1-35301-3

[書籍等出版物]

1. 飯谷健太, 市川健太, 三林浩二. テクノロジー・ロードマップ 2024-2033. 日経 BP, 2023.11
2. 飯谷 健太, 三林 浩二. 匂い・香りの科学と評価・可視化・応用技術 「第 4 節　バイオ蛍光式ガスセンサ（バイオスニファ）と揮発性成分の定量イメージングシステム」. サイエンス&テクノロジー, 2023.07 (ISBN : 978-4-86428-309-0)

[講演・口頭発表等]

1. Geng Zhang, Shota Suzuki, Kenta Iitani, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi. Biofluorometric gas sensor for continuous monitoring of EtOH vapor from the ear canal. Bio4Apps 2023 2023.12.13 Gold Coast, Australia
2. Shotaro Hiramatsu, Keisuke Tomoto, Kenta Ichikawa, Kenta Iitani, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Dzung Viet Dao, Kohji Mitsubayashi. Wireless mouthguard biosensor with cellulose acetate membrane for measurement of salivary glucose concentration. Bio4Apps 2023 2023.12.13 Gold Coast, Australia

3. Ryotaro Ishida, Kenta Ichikawa, Kenta Iitani, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi. Spatiotemporal gas-mapping of acetaldehydeconcentration by biofluorometric imaging system (Sniff-cam). Bio4Apps 2023 2023.12.13 Gold Coast, Australia

4. Mako Tatemori, Kanako Iwasaki, Kenta Ichiakawa, Kenta Iitani, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi. Biofluorometric biosensing of methanol by using AOD-FALDH enzyme cascade reactions. Bio4Apps 2023 2023.12.13 Gold Coast, Australia

5. Seiya Fujino, Kumi Yokota, Kenta Ichikawa, Kenta Iitani, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Dzung Viet Dao, Kohji Mitsubayashi. Wireless mouthguard thermistor for unconstrained monitoring of intra-oral temperature. Bio4Apps 2023 2023.12.13 Gold Coast, Australia

6. Kenta Iitani, Naoki Mizukoshi, Ye Ming, Kenta Ichikawa, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi. SENSING AND IMAGING OF ACETONE VAPOR BASED ON ENZYMATIC BIOFLUOROMETRY. Bio4Apps 2023 2023.12.13 Gold Coast, Australia

7. Takahiro Arakawa, Riki Ishikawa, Kenta Iitani, Koji Toma, Kohji Mitsubayashi. HEADSET BIO-SNIFFER WITH WIRELESS CMOS CAMERA FOR MONITORING OF ETHANOL VAPOR FROM THE EAR CANAL. Bio4Apps 2023 2023.12.13 Gold Coast, Australia

8. Naoya Takeda, Tsubomi Tomono, Misa Nakaya, Miwa Takano, Kenta Iitani, Kenta Ichikawa, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Yuji Tsuchido, Kohji Mitsubayashi. ENZYME-EMBEDDED ELECTROSPUN POLYMERIC MICROFIBER SENSOR FOR FLUOROMETRIC ETHANOL GAS DETECTION. Bio4Apps 2023 2023.12.13 Gold Coast, Australia

9. Kohji Mitsubayashi, Riki Ishikawa, Shota Suzuki, Kenta Ichikawa, Kenta Iitani. Bio-fluorometric Ear-gas Sensor for Non-invasive Blood Volatile Monitoring. 2023 7th International Conference on Sensors, Materials and Manufacturing 2023.11.22 Chiang Mai, Thai

10. Kenta Iitani, Misa Nakawa, Tsubomi Tomono, Kenta Ichikawa, Yuji Tsuchido, Naoya Takeda, Kohji Mitsubayashi. Biofluorometric ethanol vapor imaging using enzyme-encapsulated electrospun fiber mesh. The 8th International Symposium on Biomedical Engineering & International Workshop on Nanodevice Technologies 2023 2023.11.21 Hiroshima, Japan

11. Kohji Mitsubayashi. Cavitas Biosensors for Non-Invasive Monitoring of Blood Chemicals. 244th ECS meeting 2023.10.08 Gothenburg, Sweden

12. Iitani K, Toma K, Arakawa T, Mitsubayashi K. Enzyme-based fluorometric image-sensing of transdermal gases for monitoring metabolisms. IEEE BioSensors 2023 2023.07.30 London, England

13. Mitsubayashi K. Noninvasive medical sensing in human cavities such as the lacrimal sac. Proteins & Peptides 2023 2023.07.24 Geneva, Switzerland

14. Iitani K, Di H, Zhang G, Toma K, Arakawa T, Mitsubayashi K. A wireless headset biosensor measuring volatile chemicals emitted from the auris externa for monitoring metabolisms. The 22nd International Conference on Solid-state Sensors, Actuators and Microsystems (Transducers 2023) 2023.06.25 Kyoto, Japan

15. Mitsubayashi K, Suzuki S, Ichikawa K, Iitani K, Toma K, Arakawa T. Headset gas sensor for monitoring of blood EtOH. 32nd International Symposium on Industrial Electronics (ISIE) 2023.06.19 Helsinki-Espoo, Finland

16. Toma K, Satomura Y, Iitani K, Arakawa T, Mitsubayashi K. Long-range surface plasmon aptasensor for label-free vancomycin monitoring. 33rd Anniversary World Congress of Biosensors 2023.06.05 Busan, South Korea

17. Iitani K, Suzuki M, Toma K, Arakawa T, Mitsubayashi K. Gas-phase biosensor based on fluorometric imaging by S-ADH (secondary-alcohol dehydrogenase) for breath acetone. 33rd Anniversary World Congress of Biosensors 2023.06.05 Busan, South Korea

18. Zhang G, Suzuki S, Iitani K, Toma K, Arakawa T, Mitsubayashi K. Biofluorometric sensors for monitoring of transcutaneous VOCs from the ear canal. 33rd Anniversary World Congress of Biosensors 2023.06.05 Busan, South Korea

19. Arakawa T, Tomoto K, Iitani K, Toma K, Mitsubayashi K. Mouthguard biosensor covered with cellulose acetate integrated with telemetry system for in-vivo measurement of salivary glucose. 33rd Anniversary World Congress of Biosensors 2023.06.05 Busan, South Korea

20. Iitani K, Tomono T, Nakaya M , Takeda N, Mitsubayashi K. Enzyme and coenzyme-integrated electrospun fiber mesh for biosensing of breath volatiles. 33rd Anniversary World Congress of Biosensors 2023.06.05 Busan, South Korea

21. Mitsubayashi K, Kawase G, Iitani K, Arakawa T, Dao D. Bluetooth wireless mouthguard sensor for real-time measurement of saliva glucose as oral information . 2023 International Conference on Electronics Packaging (ICEP2023) 2023.04.19 Kumamoto, Japan

22. Mitsubayashi K, Zhang G, Iitani K. Biofluorometric gas sensing and imaging for volatile markers. SPIE Future Sensing Technologies 2023 2023.04.18 Yokohama, Japan

23. Iitani K, Mizukoshi N, Zhang G, Mitsubayashi K. Acetone vapor imaging using secondary alcohol dehydrogenase immobilized on a laser-patterned hydrophilic PTFE mesh. SPIE Future Sensing Technologies 2023 2023.04.18 Yokohama, Japan

24. Zhang G, Suzuki S, Iitani K, Mitsubayashi K. Biofluorometric gas-sensing of ear ethanol as transcutaneous monitoring of blood VOCs. SPIE Future Sensing Technologies 2023 2023.04.18 Yokohama, Japan

25. Kohji Mitsubayashi, Kumi Yokota, Kenta Iitani, Dzung Dao, Takahiro Arakawa. Biomedical wireless mouthguard sensor with Dental-MEMS in oral cavity . International Conference on Biomedical Robotics and Biomechatronics - (ICBRB-23) 2023.03.23 Sydney, Australia

26. Kohji Mitsubayashi, K. Yokota, K. Iitani, D.V. Dao, T Arakawa. Wireless mouthguard sensor for saliva glucose in oral cavity . 5th International Conference on BioMedical Technology (ICBMT 2023) 2023.02.25 Da Nang, Vietnum

27. Kenta Iitani, Kohji Mitsubayashi. Real-time biosensors for assessing biochemical conditions of humans. The 9th Joint Symposisum between IBB/TMDU and Chulalongkorn University on ”Biomedical Materials and Engineering” 2023.01.23 Bangkok

28. Kenta Iitani, Zhang Geng, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi. Bio-fluorometric imaging system for volatile organic compounds in breath and transdermal gas. Advances in Functional Materials (AFM-2023) 2023.01.09 Fukuoka, Japan

29. Zhang Geng, Shota Suzuki, Kenta Iitani, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi. Biochemical monitoring of external ear-derived ethanol vapor after drinking. Advances in Functional Materials (AFM-2023) 2023.01.09 Fukuoka, Japan

1. 飯谷健太、市川健太、三林浩二. バイオ蛍光式ガスセンシングによる身体状態の非侵襲的評価. 第 33 回日本 MRS 年次大会 2023.11.14 神奈川

2. 石田遼太郎、ナセデンムニラ、市川健太、飯谷健太、三林浩二. バイオ蛍光による経皮エタノールガス動画像化と手腕部での応用評価. 2023 SAS Symposium 2023.11.09 神奈川

3. 藤野聖也、横田くみ、市川健太、飯谷健太、Dzung Viet Dao、三林浩二. 口腔温の無拘束モニタリングのための無線式マウスガード型温度センサ. 2023 SAS Symposium 2023.11.09 神奈川

4. 蒋屹、市川健太、飯谷健太、三林浩二. アルコール脱水素酵素の還元反応に基づくアセトアルデヒド用バイオセンサ. 2023 SAS Symposium 2023.11.09 神奈川

5. 平松将太郎、郝再晨、市川健太、飯谷健太、三林浩二. 唾液粘性計測のための表面弾性波 (SAW) センサの開発. 2023 SAS Symposium 2023.11.09 神奈川

6. 建守茉胡、前野夕紀、市川健太、飯谷健太、三林浩二. 酵素サイクリング反応に基づくアセトアルデヒドの高感度計測. 2023 SAS Symposium 2023.11.09 神奈川

7. 飯谷健太、水越直樹、張耿、當麻浩司、荒川貴博、三林浩二. 二級アルコール脱水素酵素を用いた呼気中アセトンガスの蛍光イメージセンシング. 第 40 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム 2023.11.06 熊本

8. 市川健太、土方亘、三林浩二. セルフパワード型ウェアラブル咬合力センサの開発. 第 40 回「センサ · マイクロマシンと応用システム」シンポジウム 2023.11.06 熊本

9. 飯谷健太、堀口勇貴、藤田博之、張耿、市川健太、當麻浩司、三林浩二. 呼気や経皮ガス中の揮発性成分の計測とイメージングのためのバイオセンサシステム. TMDU 研究者 · 学生の交流会 (meetUP) 2023.10.27 東京

10. 三林浩二. バイオスニファ (高感度分子認識ガスセンサ) で健康を知る. 日本化学会秋季事業 第 13 回　CSJ 化学フェスタ 2023 2023.10.17 東京

11. 三林 浩二. ケミカルセンサ · バイオセンサ IoT 技術の最新技術動向と社会実装への課題. AndTech セミナー 2023.09.29 on line

12. 三林 浩二. 疾病 · 代謝ガス成分の分子認識センシング (ppt-v) とリアル動画像化. センサ EXPO セミナー 2023.09.14 東京ビックサイト

13. 蒋屹、飯谷健太、市川健太、三林浩二. アルコール脱水素酵素の触媒能 pH 制御による呼気中アセトアルデヒド計測. 2023 電気化学秋季大会 2023.09.11 福岡

14. 林志厚、ナセデンムニラ、飯谷健太、市川健太、三林浩二. バイオ蛍光式ガス動画像化装置を用いた飲酒後の経皮エタノールガスの動態評価 . 2023 電気化学秋季大会 2023.09.11 福岡

15. 三林 浩二. これからの日常医療 · 未病医療のためのウェアラブル · バイオセンシング技術の基礎と最新動向、展望まで. 情報機構セミナー 2023.08.25 on line

16. 飯谷健太、村上正憲、山田哲也、三林浩二. 脂質代謝評価に基づく糖尿病理解のためのバイオ蛍光式生体ガスセンサの研究. 東京医科歯科大学 重点研究領域 全体班会議 2023 2023.07.26 東京

17. 三林　浩二. 非侵襲および無拘束でのウエアラブルバイオ計測. 第 5 回使えるセンサ · シンポジウム 2023 2023.07.20 大阪

18. 佐藤一歩，市川健太，土方亘. 外部電源不要で接触位置検出可能なストレッチャブル人工皮膚の開発. ロボティクス · メカトロニクス講演会 2023 2023.06

19. 生野 友菜, 角田 敬正, 松本 和樹, 伊藤 圭樹, 後居 洋介, 尹 棟鉉, 関口 哲志, 庄子 習一, 飯谷 健太, 土戸 優志, 武田 直也. セルロースナノファイバーゲルを培養足場にした血管組織形成のメカニズム . 第 72 回高分子学会年次大会 2023.05.24 群馬県

20. 青木 佳那絵, 伊藤 成輝, 飯谷 健太, 土戸 優志, 武田 直也. リンカー長の異なる電荷移動錯体をもつエラストマーにおける応力検出と自己修復性の機能評価 . 第 72 回高分子学会年次大会 2023.05.24 群馬県

21. 土戸 優志, 河田 萌花, 田中 和臣, 飯谷 健太, 武田 直也. 二層の多孔性高分子培養基材で実現する腸管上皮組織と腸内細菌の共培養モデルの作製 . 第 72 回高分子学会年次大会 2023.05.24 群馬県

22. 土戸 優志, 河田 萌花, 田中 和臣, 飯谷 健太, 武田 直也. 多孔性セルロース · フィルム/ゼラチン · マイクロファイバー二層基材で実現する腸管上皮組織と腸内細菌の共培養モデルの作製 . 第 83 回分析化学討論会 2023.05.20 富山県

23. 三林 浩二. バイオ蛍光を用いた生体ガス計測と動画像イメージング. 第 133 回研究会「生体ガスセンシング」2023.05.19 on line

24. 飯谷 健太, 堀口 勇貴, 藤田 博之, 張 耿, 市川 健太, 當麻 浩司, 三林 浩二. 代謝モニタリングへ向けた生化学式蛍光バイオセンサの研究. 化学とマイクロ · ナノシステム学会 第 47 回研究会 2023.05.13 宮城

25. 藤田 博之, 堀口 勇貴, 市川 健太, 飯谷 健太, 當麻 浩司, 矢野 和義, 三林 浩二. 楕円集光ミラーを用いたバイオ蛍光式アセトンガスセンサの高感度化. 第 8 回光波センシング技術研究会講演会 2023.05.12 東京

26. 飯谷 健太, 篠原 利樹, ナセデン ムニラ, 三林 浩二. バイオ蛍光式ガスイメージングシステムを用いた皮膚ガス中エタノールの探嗅. 電気化学会第 90 回大会 2023.03.27 宮城県

27. Zhong X,Suzuki S, Zhang G, Iitani K, Arakawa T, Mitsubayashi K. Real-time monitoring of transdermal ethanol vapor from the ear using bio-fluorometric sniffer. 令和 5 年電気学会全国大会 2023.03.17 名古屋

28. 篠原 利樹, 早川 悠暉, 飯谷 健太, 荒川 貴博, 三林 浩二. アルコール代謝の為の呼気二成分のバイオ蛍光同時イメージング. 令和 5 年電気学会全国大会 2023.03.17 名古屋

29. 恩知 滉輝, 大石 琢史, 飯谷 健太, 荒川貴博, 三林 浩二. 唾液中尿酸計測のためのマウスガード型バイオセンサの開発. 令和 5 年電気学会全国大会 2023.03.17 名古屋

30. 蒋 屹, 飯谷 健太, 當麻 浩司, 荒川 貴博, 三林 浩二. アルコール脱水素酵素の還元反応を用いたアセトアルデヒド用バイオ蛍光式ガスセンサ. ライフサポート学会第 32 回フロンティア講演会 2023.03.14 東京

31. 藤田 博之, 青田 崇志, 飯谷 健太, 當麻 浩司, 荒川 貴博, 矢野 和義, 三林 浩二. 経皮エタノールガス計測のためのクライオスタット式ガス濃縮装置を用いた生化学式ガスセンサ. ライフサポート学会第 32 回フロンティア講演会 2023.03.14 東京

32. 飯谷 健太, 土戸 優志, 三林 浩二, 武田 直也. マイクロ繊維を基盤としたバイオ蛍光式ガス感応メッシュ. 生体医歯工学共同研究拠点 2022 年度成果報告会 2023.03.03 神奈川県

33. 成原大衣智，依田信裕，江草宏，市川健太，土方亘，伊藤浩之. 静電誘導型発電シートを用いた咬合力測定装置の開発. 令和 4 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2023.03

34. 佐藤一歩，市川健太，土方亘. 伸縮性を有するセルフパワード人工皮膚の設計. 第 30 回 精密工学会 学生会員卒業研究発表講演会 2023.03

35. 三林 浩二. ウエアラブル型バイオセンサ、超高感度 (ppt-v) 皮膚ガス計測の最新動向と製品開発応用. 『バイオセンサ【WEB セミナー】』 セミナー（NO.230213）主催：(株) R & D 支援センター 2023.02.17 online

36. 三林 浩二. ”匂い及び生体ガスの高感度バイオ蛍光センシング＆イメージング”. 2022 年度 第 5 回「香り · におい · ガスセンサー研究会」 2023.01.16 online

37. 飯谷 健太, 三林 浩二. バイオ蛍光法による呼気 · 経皮ガスの計測とイメージング. 化粧品開発展 2022 2023.01.13 東京都

[特許]

1. 生体ガス計測装置, 特許番号：特許第 7307951 号

2. 生体ガス計測装置, 特許番号：特許第 7307951 号

3. 生体ガス計測装置, 特許番号：特許第 7307951 号

[受賞]

1. 修士課程の部 最優秀賞, 第 21 回 IBB Biofuture Research Encouragement Prize, 2023 年 01 月

2. 優秀ポスター賞, 令和 4 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会, 2023 年 03 月

3. 優秀研究賞, 化学とマイクロ · ナノシステム学会 第 47 回研究会, 2023 年 05 月

4. 優秀ポスター発表賞, セルロースナノファイバーゲルを培養足場にした血管組織形成のメカニズム, 第 72 回高分子学会年次大会, 2023 年 05 月

5. 優秀ポスター発表賞, リンカー長の異なる電荷移動錯体をもつエラストマーにおける応力検出と自己修復性の機能評価, 第 72 回高分子学会年次大会, 2023 年 05 月

6. Young Researchers Poster Award, The 8th International Symposium on Biomedical Engineering & International Workshop on Nanodevice Technologies 2023, 2023 年 11 月

7. ポスター賞, 2023 SAS Symposium, 2023 年 12 月

[その他業績]

1. 研究紹介動画　TMDU Research Activities 2022-2023 Building Better Gas-phase Biosensors for Fight Against Diseases by Kenta Iitani, 2023 年 03 月
https://www.tmd.ac.jp/english/research_activities/Vol-8/iitani/

[社会貢献活動]

1. ガバメントクラウドファンディング（ふるさと納税）, 佐賀県、日本 IDDM, 2017 年 05 月 12 日 - 現在

情報医工学分野

Department of Biomedical Informatics

教授　中島　義和
准教授　小野木　真哉
助教　周　東博
助教　杉野　貴明

(1) 研究業績

[原著]

1. Ishikawa Yuya, Sugino Takaaki, Okubo Kenichi, Nakajima Yoshikazu. Detecting the location of lung cancer on thoracoscopic images using deep convolutional neural networks SURGERY TODAY. 2023.06; 53(12); 1380-1387

2. Onogi Shinya, Nakajima Yoshikazu. Assessment of All-in-focus Image Quality in Shape-from-focus Technique SENSORS AND MATERIALS. 2023.04; 35(4); 1327-1337

3. Zhou Dongbo, Hayakawa Wataru, Nakajima Yoshikazu, Tadano Kotaro. Development of a Wearable Haptic Glove Presenting Haptic Sensation by Electrical Stimulation SENSORS. 2023.01; 23(1);

[総説]

1. 杉野貴明，中島義和. AI を用いた医用画像診断支援 電気学会誌. 2023.04; 143(4); 208-211

[講演・口頭発表等]

1. Dongbo Z, Hengbing Ge, Nakajima Y. Noninvasive and stable organ manipulation forceps with stiffness tunable gripper. The 8th International Symposium on Biomedical Engineering (ISBE 2023) 2023.11.22

2. Jiang P, Onogi S, Yamada K, Nakajima Y. GPT-based operation capturing interface for emergency medicine. The 8th International Symposium on Biomedical Engineering (ISBE 2023) 2023.11.22

3. Sugino T, Kin T, Saito N, Nakajima Y. Automatic nerve detection for ultrasound -guided peripheral nerve blocks using deep convolutional neural networks. The 8th International Symposium on Biomedical Engineering (ISBE 2023) 2023.11.22

4. Takahashi T, Nakashima Y, Kobayashi M, Sugino T, Onogi S, Wada Y, Okumiya Y, OkuboK, Nakajima Y. Pulmonary respiratory classification with intercostal movement by using variance analysis in complex wavelet domain. The 8th International Symposium on Biomedical Engineering (ISBE 2023) 2023.11.22

5. Rathnayake Mudiyanselage Migara Harshaka Bandara Rathnayake, Xu Y, Yonemitsu Y, Shimizu M, Sugino T, Onogi S, Moriyama K, Nakajima Y. Two-level feature points detection of mandibular using 3D U-Net and curvature analysis. The 8th International Symposium on Biomedical Engineering (ISBE 2023) 2023.11.22

6. Nakajima Y, Yashima Y, Onogi S. Navigation error estimation with considering human's discriminative sensitivity in AR surgical navigation. 2023 Computer Assisted Radiology and Surgery International Congress (CARS 2023) 2023.06.22 Munich, Germany

7. Sugino T, Kin T, Saito N, Nakajima Y. Improved segmentation of basal ganglia from MR images using convolutional neural network with crossover-typed skip connection. 2023 Computer Assisted Radiology and Surgery International Congress (CARS 2023) 2023.06.21 Munich, Germany / Online

1. 高橋幸乃，笠原大次郎，杉野貴明，小野木真哉，中 島義和，桝田晃司. 3D-UNet を用いた超音波 3 次元画像中の肝臓血管網の自動抽出. 日本生体医工学会関 東支部若手研究者発表会 2023.12.09

2. 篠田佳織，笠原大次郎，小野木真哉，杉野貴明，中 島義和，桝田晃司. Hessian matrix を用いた超音波 3 次元画像中の血管網抽出のためのパラメータの最適 化に関する検討. 日本生体医工学会関 東支部若手研究者発表会 2023.12.09

3. 石和田 宰弘, 田中 洋次, 小野木 真哉, 中島 義和, 佐藤 陽人, 荒井 雪花, 武井 孝麿, 團 裕之, 青柳 傑, 前原 健寿. 三叉神経痛における三叉神経の形態学的解析. 日本コンピュータ外科学会誌 2023.11.01

4. 高橋 怜史, 中島 康裕, 小林 正嗣, 瀬戸 克年, 杉野 貴明, 小野木 真哉, 和田 洋平, 谷高 幸司, 鈴木 克典, 大久保 憲一, 中島 義和. 複素ウェーブレット空間における分散分析を用いた経時的肋間距離変化に基づく肺呼吸分類. 日本コンピュータ外科学会誌 2023.11.01

5. 笠原 大次郎, 杉野 貴明, 小野木 真哉, 中島 義和, 桝田 晃司. 超音波ボリューム中の線構造抽出における血管径依存性を考慮した 3 次元血管網の自動再構成. 日本コンピュータ外科学会誌 2023.11.01

6. 米満 由奈帆, 上園 将慶, 小笠原 毅, 清水 美里, 杉野 貴明, 中島 義和, 森山 啓司. 曲率による位置合わせを用いた下顎骨の特徴点自動抽出手法開発の試み. 日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集 2023.11.01

7. 笠原 大次郎, 杉野 貴明, 小野木 真哉, 中島 義和, 桝田 晃司. 超音波ボリューム中の線構造抽出における血管径依存性を考慮した 3 次元血管網の自動再構成. 日本コンピュータ外科学会誌 2023.11.01

8. Two-level feature points detection of mandibular using 3D U-Net and curvature analysis. 日本コンピュータ外科学会誌 2023.11.01

9. 高橋 怜史, 中島 康裕, 小林 正嗣, 瀬戸 克年, 杉野 貴明, 小野木 真哉, 和田 洋平, 谷高 幸司, 鈴木 克典, 大久保 憲一, 中島 義和. 複素ウェーブレット空間における分散分析を用いた経時的肋間距離変化に基づく肺呼吸分類. 日本コンピュータ外科学会誌 2023.11.01

10. 杉野貴明. AI を活用した手術方針決定支援. Medtec Japan Webinar 生体医歯工学共同研究拠点の最先端医療技術の紹介 2023.06.06 Online

11. 笠原大次郎，岩崎弘益，杉野貴明，小野木真哉，中 島義和，枝元良広，桝田晃司. Hessian matrix を用いた 3 次元画像処理に基づく血管網の自動抽出および補 正方法の検討. 日本超音波医学会第 96 回学術集会 2023.05.27

12. 小野木 真哉, 杉野 貴明, 周 東博, 中島 義和. 「低侵襲心臓手術-現状と未来-他」　低侵襲治療支援システムの基盤技術開発. 医工学治療 2023.05.01

13. 笠原 大次郎, 岩崎 弘益, 杉野 貴明, 小野木 真哉, 中島 義和, 枝元 良広, 桝田 晃司. Hessian matrix を用いた 3 次元画像処理に基づく血管網の自動抽出および補正方法の検討. 超音波医学 2023.04.01

[受賞]

1. CAS Young Investigator Award 富士フィルムヘルスケア賞（シルバー賞）, 日本コンピュータ外科学会 , 2023 年 12 月

バイオデザイン

Biodesign

教授　池内　真志
講師　石川　大輔
研究員　青山　千裕,　志智　優樹
事務補佐員　中邨　尚子

(1) 分野概要

当研究室は、医学 · 生物学分野の研究および医療を革新することを目指し、トップダウンの微細加工技術によるマイクロデバイスと、分子の自己組織化を利用したボトムアップ技術を融合し、独創的なデバイス及びシステムについて研究を進めています。

(2) 研究活動

(1) メカノ卵胞活性化デバイス
早発卵巣不全に対する新たな治療法として，マイクロニードルアレイによる卵巣刺激を行う手法を考案し，侵襲性を評価した上で，マウス卵巣に対する in vivo マイクロニードルアレイ刺激による卵胞発育促進効果を実証した．また，本手法による卵胞発育促進の機序を解明すべく，マイクロニードルアレイ刺激のメカノトランスダクションを種々の in vitro 系により評価した．
(2) 精子探索 AR 顕微鏡システム
胚培養士が精子を探索する時間を短縮するため，AR 顕微鏡システムは，高速カメラで取得した顕微鏡視野画像から精子検出 · 追跡 · 速度解析を行い，その情報を顕微鏡視野内にマイクロディスプレイで遅延を感じさせることなく重畳表示する．これにより，従来の肉眼のみでの検鏡に比べ，精子の発見速度および発見率を改善できることを示した．
(3) 光駆動超並列セルソータ
細胞集団の中から特定の細胞を選別するセルソータは，細胞を用いる生物学の研究で広く用いられている．しかし，従来のセルソータでは，高速流や染色による細胞への影響が懸念されるほか，経時的観察に基づく細胞選別を行えないという課題がある．そこで，光応答性形状記憶ポリマを用いて，光照射によりアドレス指定の並列ソーティングができる新方式セルソータを開発した．
(4) 超早期感染検査マイクロデバイス & システムの開発
あらゆる現場におけるウィルス感染検査を実施可能なポータブルデバイスの開発を目的とし、装置内への水の添加のみで核酸解析による唾液からのウィルス検査を実施できる新手法を開発した。本手法を小型化し、低侵襲、低コストでの感染検査が可能なマイクロデバイスの開発を行っている。

(3) 教育活動

医歯学総合研究科博士課程医歯学系専攻における特論，演習，研究実習としては，生体材料力学特別講義，生体材料力学演習，生体力学実験を実施している．さらにボーダレス教育の一環として医歯学総合研究科コース特論の中の組織材料工学コースを分担するとともに，生命理工学系専攻においては生体機能材料学特論を分担している．

(4) 教育方針

1. 医歯学系の出身者については，材料の力学的特性についての用語および基礎方程式に関する基本的な知識を身につけ，生体組織の力学的リモデリングや人工材料との力学的適合性の問題点を理解した臨床医，医歯学研究者の育成を目指す.
2. 理工系の出身者については，生体組織の力学特性と機械的機能を有する医療機器についての基本的知識を体得し，安全性と有効性を保証する設計の基本的な技法を理解した医療機器などの開発研究従事者の育成を目指す.

(5) 臨床活動および学外活動

学外活動として，学内 · 学外で開発された物質，材料，デバイスについて，臨床応用を目指しての実用化研究支援や非臨床試験支援を行っている．特に安全性の評価に重要を置き，ベンチテストによる医療機器の耐久性などに関わる機械的安全性試験を実施している．また新規品目で評価方法の定まっていない医療機器などについて第三者的な立場からの試験方法の提案，あるいはガイドラインなどに規程されている規格に準じた試験などの実施を行って，承認申請に至るまでの総合的なサポートを目指している.

物質医工学分野

Department of Material-based Medical Engineering

教　　授	岸田　晶夫
准 教 授	木村　剛
助　　教	橋本　良秀
研究補助員	萩原　萌子
秘　　書	日渡　尚美
非常勤講師	小林　尚俊
非常勤講師	舩本　誠一
非常勤講師	山下　暁立
非常勤講師	田淵　正樹
非常勤講師	根岸　淳
非常勤講師	中村奈緒子
非常勤講師	張　　永巍

大学院生（博士）

藪内　昴平
戸田　翔太
Say Sreypich
鈴木　美加

(1)　分野概要

当分野は、素材であるバイオマテリアルの基礎研究から、広く医工学の知識を集約した治療機器の開発研究まで、「医療への貢献」と「基礎科学の探究」をキーワードに活動しています。

(2)　研究活動

医療および歯科医療に貢献する技術を開発するためには、分子レベルでの設計概念の構築とそれを実現するためのシステム化が必要である。高分子化学、有機化学、物理化学を基盤に、細胞工学、遺伝子工学の技術を用いて具体的な臨床応用を目指した研究を展開している。具体的な対象領域は、新医用材料開発、再生医療、遺伝子治療および治療工学である。

（1）脱細胞化生体組織を用いた再生医療
異種細胞の完全な除去、感染性細菌・ウイルスの除去を目的として生体組織を超高圧処理する新しい処理法を開発し、再生医療のための新しいスキャフォールドとしての応用について研究を行っている。

（2）生体由来材料の加工・高機能化技術の開発
生体由来材料に加工を施すことにより、新たな機能を付与した機能性材料の開発を行っている。具体的には、粉体、ファイバー、ハイドロゲルへの加工や機能分子とのハイブリッド化について研究を進めている。

（3）バイオマテリアルの炎症性評価法の開発
マクロファージは炎症に寄与する炎症型（M1 型）と治癒に寄与する抗炎症型（M2 型）に分極する。In vitro にてマクロファージの分極を指標としたバイオマテリアルの炎症性評価法の開発を行っている。

（4）免疫制御を目指した特異的な細胞捕獲・放出技術の創出

がん免疫治療において、免疫反応を負に制御する制御性 T 細胞（Treg）を除去することで、抗腫瘍免疫応答を増強できることが明らかとなっている。界面科学を基盤として Treg を高効率かつ intact な状態で捕獲 · 回収する技術開発を行っている。

(3) 教育活動

大学院では、医用材料工学特論、応用生体材料学、医歯薬産業技術特論、学部では生体医工学を担当している。医療に貢献する技術について、分子レベルからデバイスまでを対象に、基礎知識から開発に必要な分子設計論までを講義する。

(4) 研究業績

[原著]

1. Naoto Washihira, Mika Murakami, Miho Nakamura, Sho Fujii, Takahide Matsushima, Hiroshi Asahara, Akio Kishida, Tadao Tanabe, Tsuyoshi Kimura, Mako Kobayashi, Masaya Yamamoto. Application of a genetically engineered macrophage cell line for evaluating cellular effects of UV/US-treated poly(ethylene terephthalate) microplastics. Colloids and Surface B: Biointerfaces. 2023.12; 234; 113735

2. Yoshihide Hashimoto, Akitatsu Yamashita, Masaki Tabuchi, Yongwei Zhang, Seiichi Funamoto, Akio Kishida. Fibrin hydrogel layer-anchored pericardial matrix prevents epicardial adhesion in the severe heart adhesion-induced miniature pig model Annals of Biomedical Engineering. 2023.12; 52; 282-291

3. Say sreypich, Mika Suzuki, Yoshihide Hashimoto, Tsuyoshi Kimura, Akio Kishida. Effect of multi arm-PEG-NHS (polyethylene glycol n-hydroxysuccinimide) branching on cell adhesion to modified decellularized bovine and porcine pericardium Journal of Materials chemistry B. 2023.12; (5); 1244-1256

4. Suphatra Hiranphinyophat, Tomoki Hiraoka, Mako Kobayashi, Sho Fujii, Akio Kishida, Tadao Tanabe, Tsuyoshi Kimura, Masaya Yamamoto. Fabrication of polypropylene nanoplastics via thermal oxidation reaction for human cells responsiveness studies Langmuir. 2023.11; 39(44); 15563-15571

5. Kohei Yabuuchi, Mika Suzuki, Chen Liang, Yoshihide Hashimoto, Tsuyoshi Kimura, Kazunari Akiyoshi, Akio Kishida.. Preparation of cholesterol-modified hyaluronic acid nanogel-based hydrogel and the inflammatory evaluation using macrophage-like cells Gels. 2023.10; 9(11); 866

6. Dongzhe Wang, Narintadeach Charoensombut, Kinyoshi Kawabata, Tsuyoshi Kimura, Akio Kishida, Takashi Ushida, Katsuko S. Furukawa. Effect of pressure conditions in uterine decellularization using hydrostatic pressure on structural protein preservation Bioengineering. 2023.07; 10(7); 814

7. Ikuna Kanehara, Hiromasa Yamashita, Sho Fujii, Tsuyoshi Kimura, Masaya Yamamoto and Tadao Tanabe. Nano-sized polyethylene particles produced by nano-second UV laser ablation Lasers in Manufacturing and Materials Processing. 2023.06; 10; 389-399

8. Kosuke Sugawa, Arisa Suzuki, Jotaro Honda, Taiku Yabuki, Hironobu Tahara, Yutaro Hayakawa, Masato Furuya, Hiroki Ikake, Tsuyoshi Kimura, Yasuhiro Kosuge, Satoshi Kurumi, Kouichi Takase, Joe Otsuki. Photothermal therapeutic ability of copper open-shell nanostructures that are effective in second biological transparency window based on symmetry breaking-induced plasmonic properties Journal of Materials Chemistry B. 2023.06; 11; 6837-6852

9. Watcharaphol Tiskratok, Masahiro Yamada, Jun Watanabe, Qu Pengyu, Tsuyoshi Kimura, Hiroshi Egusa. Mechanoregulation of osteoclastogenesis-inducing potentials of fibrosarcoma cell line by substrate stiffness International Journal of Molecular Sciences. 2023.05; 24(10); 8959

10. Watcharaphol Tiskratok, Masahiro Yamada, Jun Watanabe, Nadia Kartikasari, Tsuyoshi Kimura, Hiroshi Egusa. Substrate stiffness controls proinflammatory responses in human gingival fibroblasts. Scientific Reports. 2023.01; 13(1); 1358

[書籍等出版物]

1. Yoshihide Hashimoto. Research and development on therapeutic materials for corneal stromal disease consisting of transparent decellularised porcine corneas. 2023.09

[総説]

1. 岸田晶夫. 組織再生医療の外科 · 代謝栄養学への応用の可能性 外科と代謝 · 栄養. 2023.08; 57(4); 95-99
2. 岸田晶夫. 脱細胞化組織を用いた医療機器の研究開発における動物との関わり オベリスク. 2023.06; 28(2); 16-22

[講演 · 口頭発表等]

1. Mika Suzuki, Tsuyoshi Kimura, Varja cuculuvic, Ruri Ishigaki, Yoshihide Hashimoto, Takahide Matsushima, Hiroshi Asahara, Wataru Nomura, Kishida Akio. Evaluation of immunogenicity of various treated decellularized tissue using gene-modified THP-1. Materials Research Meeting (MRM) 2023 2023.12.16 Kyoto
2. Chen Liang, Tsuyoshi Kimura, Mika Suzuki, Yoshihide Hashimoto, Takahide Matsushima, Hiroshi Asahara, Wataru Nomura, Tadao Tanabe, Masaya Yamamoto, Naoko Nakamura, Akio Kishida. Evaluation of microplastics using Caco-2/THP-1 co-culture. The 3rd Materials Research Meeting (MRM2023) 2023.12.15 Kyoto
3. Ikuna Kanehara, Hiromasa Yamashita, Sho Fujii, Tsuyoshi Kimura, Masaya Yamamoto, Tadao Tanabe. Model samples of nano-sized plastics. The 11th Pacific Rim International Conference on Advanced Materials and Processing 2023.11.21 Korea
4. Mana Kusama, Kazuma Iwasaki, Sho Fujii, Tsuyoshi Kimura, Masaya Yamamoto, Tadao Tanabe. Polymorphism control of glycine crystals by terahertz wave irradiation. The 11th Pacific Rim International Conference on Advanced Materials and Processing 2023.11.21 Korea
5. Kazuma Iwasaki, Mana Kusama, Sho Fujii, Tsuyoshi Kimura, Masaya Yamamoto, Tadao Tanabe. Pyroelectric effect of grown triglycine sulfate crystals. The 11th Pacific Rim International Conference on Advanced Materials and Processing 2023.11.21 Korea
6. Tsuyoshi Kimura, Chen Liang, Mika Suzuki, Yoshihide Hashimoto, Tadao Tanabe, Masaya Yamamoto, Akio Kishida. Evaluation of biological response to materials using intestinal epithelial cells and macrophages. The 11th Pacific Rim International Conference on Advanced Materials and Processing 2023.11.19 Korea
7. Mako Kobayashi, Jun Negishi, Yoshihide Hashimoto, Masaya Yamamoto, Yoshihiro Sasaki, Kazunari Akiyoshi, Tsuyoshi Kimura, Akio Kishida. Matrix-bound nanovesicles (MBVs) extracted from various decellularized tissues for neuroregenerative effects. The 11th Pacific Rim International Conference on Advanced Materials and Processing 2023.11.19 Korea
8. Masaya Yamamoto, Suphatra Hiranphinyophat, Tomoki Hiraoka, Naoto Washihira, Akio Kishida, Sho Fujii, Mako Kobayashi, Tadao Tanabe, Tsuyoshi Kimura. Fabrication of polypropylene nanoplastics via thermal oxidation reaction for human cells responsiveness studies. The 11th Pacific Rim International Conference on Advanced Materials and Processing 2023.11.19 Korea
9. Akio Kishida. Decellularized biological tissues as new biomaterials. The 11th Pacific Rim International Conference on Advanced Materials and Processing 2023.11.19 Korea
10. Akio Kishida. Development of artificial organs using decellularized tissue. 7th APSAO 2023 Congress 2023.09.25 Malaysia
11. Akio Kishida, Hanako Maeda, Moeko Hagiwara, Yoshihide Hashimoto, Mako Kobayashi, Tsuyoshi Kimura. Pro-inflammatory characterization of biomaterials using genetically modified THP-1 cells. 33rd Annual Conference of European Society for Biomaterials 2023.09.04 Davos, Switzerland.
12. Akio Kishida. Is decellularized tissue the same or different from traditional biomaterial?. Biomaterials International 2023 2023.07.30 Hokkaido, Japan
13. Masaya Yamamoto, Mika Murakami, Naoto Washihira, Miho Nakamura, Takahide Matsushima, Hiroshi Asahara, Akio Kishida,Mako Kobayashi, Sho Fujii, Tadao Tanabe, Tsuyoshi Kimura. Evaluation of cellular responses to oxidized poly(ethylene terephthalate) microplastics using a genetically engineered macrophage. Biomaterials International 2023 2023.07.30 Hokkaido, Japan

14. Tsuyoshi Kimura, Mika Suzuki, Yoshihide Hashimoto, Masahiro Okada, Takuya Matsumoto, Naoko Nakamura, Akio Kishida. Development of soft-hard interregional tissue by mineralization of decellularized membrane. Biomaterials International 2023 2023.07.30 Hokkaido, Japan

15. Masaya Yamamoto, Tomoki Hiraoka, Suphatra Hiranphinyophat, Naoto,Washihira, Mako Kobayashi, Akio Kishida, Sho Fujii, Tadao Tanabe, Tsuyoshi Kimura. Fabrication of PP nanoparticles as nano- and microplastic models for cytotoxicity testing. The 13th SPSJ International Polymer Conference 2023.07.18 Hokkaido, Japan

16. Sreypich Say, Yoshihide Hashimoto, Tsuyoshi Kimura, Akio Kishida. Fabrication and characterization of linear and branch PEGNHS to modify the porcine and bovine pericardium. 第 72 回高分子学会年次大会 2023.05.24 群馬県

17. Akio Kishida. Decellularized biological tissue as a novel biomaterial. 熊本大学 博士課程教育リーディングプログラム 最先端研究セミナー 2023.05.17 熊本県

18. Tsuyoshi Kimura, Mika Suzuki, Yoshihide Hashimoto, Masahiro Okada, Takuya Matsumoto, Naoko Nakamura, Akio Kishida. Development of soft-hard interregional tissue using a mineralized dECM membrane. Society For Biomaterials 2023 2023.04.18 USA

19. Yoshihide Hashimoto, Takuya Akizawa, Moeko Hagiwara, Tsuyoshi Kimura, Akio Kishida. Cellular behaviors of human skeletal muscle satellite cells on tissue specific extracellular matrix coating and hydrogels. TERMIS EU 2023 2023.03.28 Manchester, UK

1. 岸田晶夫. 広領域人工臓器の未来と日本人工臓器学会. 第 61 回日本人工臓器学会大会 2023.11.09 東京都

2. 増澤徹, 小野稔, 松宮護郎, 岸田晶夫. NPO オーファンデバイス研究開発の設立. 第 61 回日本人工臓器学会大会 2023.11.09 東京都

3. 橋本良秀, 山下暁立, 田淵正樹, 張永巍, 舩本誠一, 岸田晶夫. フィブリンハイドロゲル固定化脱細胞化マトリクスによる心外膜癒着防止効果. 第 61 回日本人工臓器学会大会 2023.11.09 東京都

4. 秋澤拓弥, 橋本良秀, 木村剛, 岸田晶夫. 異なる脱細胞化で調製した dECM のハイドロゲル形成能と骨格筋幹細胞適合性の評価. 第 61 回日本人工臓器学会大会 2023.11.09 東京都

5. 溝口真司, 木村剛, 橋本良秀, 中村奈緒子, 岸田晶夫. 細胞集合体を用いた脱細胞化腎臓の再細胞化の検討. 第 61 回日本人工臓器学会大会 2023.11.09 東京都

6. 王東喆, 古川克子, 牛田多加志, チェロエンソムバット, ナリンタデチ, 河鰭公祥, 木村剛, 岸田晶夫, 廣田泰, 大須賀穣, 吉野修. 子宮筋腫の再性能を促すことを目的とした子宮の脱細胞化法. 第 61 回日本人工臓器学会大会 2023.11.09 東京都

7. 鈴木美加, 木村剛, 岡田正弘, 松本卓也, 山田将博, 江草宏, 中村奈緒子, 岸田晶夫. 硬-軟境界組織応用を目指した石灰化 dECM 膜の in vivo 骨親和性評価. 第 45 回日本バイオマテリアル学会大会 2023.11.06 兵庫県

8. 戸田翔太, 橋本良秀, 野村渉, 木村剛, 岸田晶夫. マクロファージ凝集体の分極特性と高分子材料に対する応答. 第 45 回日本バイオマテリアル学会大会 2023.11.06 兵庫県

9. 海田こころ, 木村剛, 橋本良秀, 秋吉一成, 佐々木善浩, 岸田晶夫. 高静水圧処理細胞を用いた人工細胞外小胞の調製. 第 45 回日本バイオマテリアル学会大会 2023.11.06 兵庫県

10. 秋澤拓弥, 橋本良秀, 木村剛, 岸田晶夫. 脱細胞化骨格筋ゲルの作成と骨格筋サテライト細胞の増殖 · 分化に及ぼす影響. 第 45 回日本バイオマテリアル学会大会 2023.11.06 兵庫県

11. 梁忱, 木村剛, 萩原萌子, 橋本良秀, 松島隆英, 浅原弘嗣, 野村渉, 田邉匡生, 中村奈緒子, 山本雅哉, 岸田晶夫. マイクロ · ナノプラスチック対する免疫応答を評価するための腸管モデルの構築. 第 72 回高分子討論会 2023.09.26 香川県

12. 小林真子, 山本雅哉, 橋本良秀, 木村剛, 村田梢, 湊谷謙司, 升本英利, 岸田晶夫. 種々の脱細胞化血管上でのヒト iPS 細胞由来血管内皮細胞の挙動. 第 72 回高分子討論会 2023.09.26 香川県

13. 山本雅哉, 平岡知樹, ヒランピンヨーパートスパトラー, 鷲平直人, 小林真子, 岸田晶夫, 藤井翔, 田邉匡生, 木村剛. ポリプロピレンマイクロプラスチックの作製とその免疫応答性の評価. 第 72 回高分子討論会 2023.09.26 香川県

14. 木村剛, 鈴木美加, 岡田正弘, 松本卓也, 高橋宏信, 清水達也, 中村奈緒子, 橋本良秀, 岸田晶夫. 石灰化脱細胞化膜の硬—軟境界組織への応用. 第 72 回高分子討論会 2023.09.26 香川県

15. 鈴木美加, 木村剛, 岡田正弘, 松本卓也, 山田将博, 江草宏, 橋本良秀, 中村奈緒子, 岸田晶夫. 石灰化脱細胞化組織の骨結合性評価. LIFE2023 2023.09.19 新潟県

16. 鈴木美加，木村剛，岡田正弘，松本卓也，山田将博，江草宏, 中村奈緒子，岸田晶夫. 硬-軟境界組織としての応用を目指した石灰化脱細胞化組織の骨結合性評価. LIFE2023 2023.09.18 新潟県

17. 木村剛, 橋本良秀, 松島隆英, 浅原弘嗣, 野村渉, 田邉匡夫, 中村奈緒子, 山本雅哉, 岸田晶夫. 種々の高分子材料に対するマクロファージの炎症応答. 第 52 回医用高分子シンポジウム 2023.07.25 東京都

18. 岸田晶夫. 日本のバイオマテリアルの現状と未来を考える：学術と社会. 「医工学シンポジウム 2023」—医工連携の現在そして未来— 2023.07.22 宮城県

19. 木村剛, 石垣瑠梨, 梁枕, 萩原萌子, 橋本良秀, 松島隆英, 浅原弘嗣, 野村渉, 中村奈緒子, 山本雅哉, 岸田晶夫. 腸管モデルを用いた高分子材料の免疫評価. 第 72 回高分子学会年次大会 2023.05.24 群馬県

20. 鈴木美加，木村剛，岡田正弘，松本卓也，山田将博，江草宏, 中村奈緒子，岸田晶夫. 歯根膜応用を目指した石灰化 dECM 膜の in vivo 骨結合性評価. 日本歯科理工学会 第 82 回学術講演会 2023.04.15 鹿児島県

21. 鈴木美加, 木村剛, 橋本良秀, 岡田正弘, 松本卓也, 高橋宏信, 清水達也, 中村奈緒子, 岸田晶夫. 歯根膜としての応用を目指した片面石灰化脱細胞化膜の調製. 第 22 回 日本再生医療学会総会 2023.03.25 京都府

22. 木村剛, 徳野陽子, 内田健哉, 萩原萌子, 橋本良秀, 岸田晶夫. 生体組織を模擬した 3D 配向コラーゲンナノファイバ構造体の皮膚フラップモデル評価. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都府

23. 徳野陽子, 木村剛, 内田健哉, 萩原萌子, 橋本良秀, 岸田晶夫. 生体組織を模擬した 3D 配向コラーゲンナノファイバ構造体の作製と物性評価. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都府

24. 木村剛, 萩原萌子, 石垣瑠梨, 橋本良秀, 小林真子, 野村渉, 山本雅哉, 岸田晶夫. マクロファージ分極を指標とした種々の脱細胞化組織の生体受容性評価. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都府

25. 溝口真司, 木村剛, 橋本良秀, 中村奈緒子, 岸田晶夫. 細胞集合体と分散細胞の混合灌流による脱細胞化腎臓の再細胞化. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都府

26. 鈴木美加, 木村剛, 橋本良秀, 岡田正弘, 松本卓也, 高橋宏信, 清水達也, 中村奈緒子, 岸田晶夫. 歯根膜としての応用を目指した片面石灰化脱細胞化膜の調製. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都府

27. 中村奈緒子, 山本琉加, 小暮一輝, 木村剛, 岸田晶夫. 脱細胞化歯肉を用いた角化歯肉の再構築. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都府

28. 大沼慎太郎, 田中準一, 馬渕洋, 木村剛, 岸田晶夫, 美島健二. 脱細胞化唾液腺を応用した人工唾液腺の作出. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都府

29. 小林真子, 山本雅哉, 橋本良秀, 木村剛, 村田梢, 湊谷謙司, 升本英利, 岸田晶夫. 種々の異種動物由来脱細胞化血管の内腔表面形状がヒト iPS 細胞由来血管内皮細胞に与える影響. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都府

30. 鈴木美加, 木村剛, 橋本良秀, 岡田正弘, 松本卓也, 高橋宏信, 清水達也, 中村奈緒子, 岸田晶夫. 硬-軟組織への適用を目指した石灰化脱細胞化組織の創製および評価. 第 32 回ライフサポート学会フロティア講演会 2023.03.13 東京都

31. 松浦黎, 木村剛, 岸田晶夫, 中村奈緒子. 脱細胞化腎臓 ECM が血管内皮細胞の接着および局在に与える影響. 第 32 回ライフサポート学会フロンティア講演会 2023.03.13 東京都

32. 鈴木美加, 木村剛, 橋本良秀, 岡田正弘, 松本卓也, 高橋宏信, 清水達也, 中村奈緒子, 岸田晶夫. 石灰化脱細胞化組織の in vivo における骨結合性評価. 第 32 回ライフサポート学会フロンティア講演会 2023.03.13 東京都

33. 石垣瑠梨, 萩原萌子, 橋本良秀, 松島隆英, 浅原弘嗣, 野村渉, 中村奈緒子, 山本雅哉, 木村剛, 岸田晶夫. 合成高分子材料と脱細胞化組織のマクロファージ応答に関する研究. 第 32 回ライフサポート学会フロンティア講演会 2023.03.13 東京都

34. 大橋慶子, 橋本良秀, 萩原萌子, 木村剛, 中村奈緒子, 小林尚俊, 岸田晶夫. ヒト角膜モデル作製を目指した脱細胞化ブタ角膜上でのヒト角膜上皮細胞の気液界面培養. 第 32 回ライフサポート学会フロンティア講演会 2023.03.13 東京都

35. 牛兆為, 鈴木美加, 橋本良秀, 松島隆英, 浅原弘嗣, 中村奈緒子, 木村剛, 岸田 晶夫. 脱細胞化組織の繰り返し伸展後の力学特性. 第 32 回ライフサポート学会フロンティア講演会 2023.03.13 東京都

36. 鈴木美加, 木村剛, 橋本良秀, 岸田晶夫, 高橋宏信, 清水達也, 岡田正弘, 松本卓也, 中村奈緒子. 硬-軟組織構築を目指した石灰化脱細胞化組織の骨親和性評価. 令和 4 年度生体医歯工学共同研究拠点 2023.03.03 東京都

37. 小林真子, 石田直樹, 橋本良秀, 根岸淳, 佐々木善浩, 秋吉一成, 山本雅哉, 木村剛, 岸田晶夫. 脱細胞化脳 · 胎盤由来マトリクス結合型ナノベシクル（MBV）の抽出と神経機能修復への効果検討. 第 35 回代用臓器 · 再生医学研究会総会 日本バイオマテリアル学会北海道ブロック第 7 回研究会 2023.02.18 北海道

[受賞]

1. 第 21 回 IBB BioFuture Research Encouragement Prize 大学院修士課程部門 優秀賞（石垣瑠梨）, 東京医科歯科大学, 2023 年 02 月

2. TMDU-WISE リトリート 2022 卓越博士賞　優秀賞（鈴木美加）, 東京医科歯科大学, 2023 年 02 月

3. 第 35 回代用臓器 · 再生医学研究会総会 日本バイオマテリアル学会北海道ブロック第 7 回研究会 若手優秀発表賞（小林真子）, 2023 年 02 月

4. 第 32 回フロンティア講演会 奨励賞（石垣瑠梨）, ライフサポート学会, 2023 年 03 月

5. 令和 4 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会　優秀ポスター賞（鈴木美加）, 東京医科歯科大学, 2023 年 03 月

6. 第 81 回日本歯科理工学会 株式会社ジーシー賞（鈴木美加）, 日本歯科理工学会, 2023 年 04 月

[その他業績]

1. ナノプラスチックの生体影響を調べるためのモデル試料を作製 ポリプロピレンの高温 · 高圧分解により実現, 2023 年 10 月

—

生命有機化学

Chemical Bioscience

教授　　細谷孝充
准教授　　隅田有人（４月～）
准教授　　丹羽　節（～３月; 非常勤講師 ４月～）
助教　　田口純平
プロジェクト助教　　坂田優希（～3 月; 非常勤講師 ４月～）
技術補佐員　陌間由貴，半矢実保，
田渕仁美（４月～），冨田里美（～３月）
大学院生　　小林瑛宏，奥山拓海，
高橋杏子，中島美穂，
磯田龍志，江蔵大和，
西田茅也人，山中大輔，
張ウティ，趙 文康
外研生　　秋元穂佳，宇都湖菜実
IHRP 高校生 秋庭琉衣（１２月～）

(1) 分野概要

有機合成化学（ものつくり）を基盤として、生命科学現象の解明と制御に有用な分子プローブ（便利な道具）の開発と方法論の開拓を目指している。

(2) 研究活動

（1）ベンザインの新しい発生法と利用法の開発
ベンザインは、ベンゼン環の炭素–炭素結合の一つが三重結合となった高反応性化学種であり、種々の基質と反応させることで、複素環を含む多様な多置換ベンゼン類を容易に構築することができる。我々は、医薬品候補化合物になり得る多様な芳香族化合物の簡便合成を目指し、ベンザインの新しい発生法の開発に取り組むとともに、ベンザインの新しい利用法を開拓している。最近、多置換芳香族合成に有用な 3 位にトリアゼニル基を有するベンザインの発生法の開発に成功した。
（2）歪みアルキンを用いる生体分子の化学修飾法の開発
生体分子を効率良く化学修飾するために、生体内に通常は存在しない（bioorthogonal な）官能基同士が速やかに連結する反応が重要な役割を果たしている。これに対して我々は、高度に歪んだ環状アルキン化合物に着目し、これを用いる生体分子の新たな化学修飾法について研究を行っている。最近、機能性部位を有するシクロオクチン類の合成に有用なジベンゾアザシクロオクチン誘導体の高効率合成法の開発に成功した。
（3）ジアジドプローブ法による薬剤標的タンパク質の解明研究
薬剤や天然有機化合物などの生物活性物質がどのようなメカニズムでその活性を示すのかはよく分かっていないことが多い。我々は以前、芳香族アジドと脂肪族アジドの光反応性の差を見出し、それら官能基を併せ持つ「ジアジドプローブ」の利用により標的タンパク質を捕獲 · 同定する手法（光親和性標識法）を開発した。現在、共同研究により標的タンパク質同定研究を進めている。
（4）アジド基の特性を利用した多分子連結法の開発
アジド基（N_3）は、クリック反応において優れた反応性を示すことから幅広く利用されている官能基である。我々は以前、適切な有機リン化合物によりその反応性を一時的に抑制できることを見出している。また、かさ高い芳香族アジドが、その立体障害にも関わらず著しく高いクリック反応性を示すことも発見した。これらアジド基の特性に基づき、新しい多分子連結法の開発を行っている。
（5）生体内分子イメージングのための PET トレーサー候補化合物の創製

ヒトに適用可能な生体内分子イメージング法である陽電子放射断層撮影（PET）用トレーサー候補化合物の創製を行っている。薬剤そのものの体内動態とその薬剤が相互作用する標的タンパク質をイメージングすることで、各種疾患の治療薬および診断薬開発の効率化に貢献できると考えている。

(3) 研究業績

[原著]

1. Niwa T, Takimoto T, Sakata Y, Hosoya T. Palladium-Catalyzed *ipso*-Borylation of Aryl Halides Promoted by Lewis Acid-Mediated Electrophilic Activation of Aryl(halo)palladium(II) Complex. Org Lett. 2023.11; 25(45); 8173-8177

2. Taguchi J, Okuyama T, Tomita S, Niwa T, Hosoya T. Synthesis of Multisubstituted Aromatics via 3-Triazenylarynes. Org Lett. 2023.09; 25(38); 7030-7034

3. Zhang Z, Niwa T, Watanabe K, Hosoya T. ^{11}C-Cyanation of Aryl Fluorides via Nickel and Lithium Chloride-Mediated C-F Bond Activation. Angew Chem Int Ed Engl. 2023.05; 62(22); e202302956

4. Niwa T, Tahara T, Chase CE, Fang FG, Nakaoka T, Irie S, Hayashinaka E, Wada Y, Mukai H, Masutomi K, Watanabe Y, Cui Y, Hosoya T. Synthesis of ^{11}C-Radiolabeled Eribulin as a Companion Diagnostics PET Tracer for Brain Glioblastoma. Bull Chem Soc Jpn. 2023.03; 96(3); 283-290

5. Dubol M, Immenschuh J, Jonasson M, Takahashi K, Niwa T, Hosoya T, Roslin S, Wikström J, Antoni G, Watanabe Y, Lubberink M, Biegon A, Sundström-Poromaa I, Comasco E. Acute nicotine exposure blocks aromatase in the limbic brain of healthy women: A [^{11}C] cetrozole PET study. Compr Psychiatry. 2023.03; 123; 152381

6. Sakata Y, Nabekura R, Hazama Y, Hanya M, Nishiyama T, Kii I, Hosoya T. Synthesis of Functionalized Dibenzoazacyclooctynes by a Decomplexation Method for Dibenzo-Fused Cyclooctyne-Cobalt Complexes. Org Lett. 2023.02; 25(7); 1051-1055

7. Tabata S, Minoshima M, Kobayashi A, Matsuzawa T, Hosoya T, Yoshida S. Migrative Thioamination of Aryne Intermediates Generated from *o*-Iodoaryl Triflates. Synlett. 2023.02;

8. Kobayashi A, Matsuzawa T, Hosoya T, Yoshida S. Synthesis of benzo[*b*] furans from alkynyl sulfoxides and phenols by the interrupted Pummerer reaction. RSC Adv. 2023.01; 13(2); 839-843

[講演・口頭発表等]

1. Sumida Y. Carbon–Carbon Bond Cleavage of Benzyl Alcohol via Benzophenone-type Organic Photocatalysis. International Joint Symposium 2023 on Synthetic Organic Chemistry The 2nd International Symposium on Digitalization-driven Transformative Organic Synthesis (ISDigiTOS-2) 2023.12.06 Awaji

2. Taguchi J, Kimura K, Okuyama T, Igawa K, Tomooka K, Hosoya T.. Synthesis of Multisubstituted Aromatics via 3-Azidoaryne and 3-Triazenylaryne Species. The 15th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-15) 2023.11.22 Kyoto

3. Ezo Y, Niwa T, Hosoya T. Photoinduced *ipso*-Azidation of 1-Aryltriazenes. The 15th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-15) 2023.11.21 Kyoto

4. Inoue S, Muraoka K, Taguchi J, Tomita S, Takeda H, Doi T, Tachibana K, Kondoh M, Hosoya T, Fujio Y, Okada Y. Development of small molecules that bind to Claudin-5 and control blood-brain barrier. ICoLA 2023 in conjunction with AAVBM 2023.09.15 Korea

5. Takahashi K, Niwa T, Owada-Hirahara S, Tsuda J, Wada Y, Hosoya T, Watanabe Y. Aromatase imaging in the brain with [^{18}F] cetrozole and [^{18}F] iso-cetrozole. World Molecluar Imaging Congress 2023 2023.09.08 Prague, Czech Republic

1. 隅田有人. 可視光励起ホウ素アート錯体による一電子移動型分子変換. 京都大学学術講演会 2023.12.28 京都

2. 奥山拓海，田口純平，冨田里美，細谷孝充. 3-トリアゼニルアライン活性種を経る変換による多置換芳香族の合成. 第 85 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム 2023.11.26 新潟

3. 渡邊賢司，Qiyue Mao，Zhouen Zhang，北岸宏亮、丹羽　節、細谷孝充. 多機能ナノ材料合成のためのクリッカブルな二反応性小型金ナノクラスター. 第 40 回メディシナルケミストリーシンポジウム 2023.11.14 名古屋

4. 田口純平. ボロン酸ジエタノールアミンエステルを鋳型とする近接効果促進型 Huisgen 反応の開発. 創薬等先端技術支援基盤プラットフォーム（BINDS）第五回合成勉強会 2023.10.21 吹田

5. 江蔵大和，丹羽　節，細谷孝充. 光照射による芳香族トリアゼンのアジド化反応. 第 52 回複素環化学討論会 2023.10.13 仙台

6. Zhang Yuting，田口純平，丹羽　節，細谷孝充. ジプロパノールアミンを配位子に有する *o*-ボリルアリールトリフラートからのアライン発生法の開発. 第 52 回複素環化学討論会 2023.10.13 仙台

7. 田口純平，大畠瑶平，丹羽　節，井川和宜，友岡克彦，細谷孝充. ボラート形成による近接効果促進型 Huisgen 反応の開発. 第 52 回複素環化学討論会 2023.10.13 仙台

8. 磯田龍志，丹羽　節，細谷孝充. 金触媒を用いた環化反応による芳香族トリアゼンの新規合成法の開発. 第 39 回有機合成化学セミナー 2023.09.21 淡路

9. 山中大輔，丹羽節，田口純平，隅田有人，細谷孝充. 9-ボラビシクロ [3.3.1] ノナンで保護された α-アミノ酸側鎖におけるクリック反応. 第 39 回有機合成化学セミナー 2023.09.21 淡路

10. 丹羽　節，田原　強，Charles E. Chase，Francis G. Fang，中岡貴義，入江さつき，林中恵美，和田康弘，向井英史，増富健吉，渡辺恭良，崔　翼龍，細谷孝充. 脳膠芽腫のコンパニオン診断用 PET トレーサーとしての [^{11}C] エリブリンの開発. 第 65 回天然有機化合物討論会 2023.09.14 東京

11. 渡邊賢司，丹羽　節，喜井　勲，細谷孝充. インドリジン誘導体を用いた光誘起共有結合切断 · 形成反応の開発. 2023 年光化学討論会 2023.09.05 広島

12. 渡邊賢司，丹羽　節，喜井　勲，細谷孝充. インドリジン誘導体を用いた光誘起共有結合切断 · 形成反応の開発. 日本ケミカルバイオロジー学会第 17 回年会 2023.05.30 大阪

13. 坂田優希，鍋倉涼斗，陌間由貴，半矢実保，西山尚志，喜井 勲，細谷孝充. 環状アルキン－コバルト錯体の新規脱コバルト化法を基盤とした機能性ジベンゾアザシクロオクチン類の簡便合成. 日本ケミカルバイオロジー学会第 17 回年会 2023.05.29 大阪

14. 磯田龍志，丹羽　節，細谷孝充. 1,3-ジアリールトリアゼンの変換による芳香族トリアゼン合成法の開発. 第 84 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム（東京農工大シンポジウム） 2023.05.13 小金井

15. 江蔵大和，丹羽　節，細谷孝充. 1-アリールトリアゼンへの紫外光照射による芳香族アジド合成法の開発. 第 84 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム（東京農工大シンポジウム） 2023.05.13 小金井

16. 井上采人、村岡康介、田口純平、冨田里美、竹田浩之、池田幸樹、土井健史、橘　敬祐、近藤昌夫、細谷孝充、藤尾　慈、岡田欣晃. 血液脳関門を制御して脳内薬物送達を促進する Claudin-5 結合分子の開発. 日本薬学会第 143 年会 2023.03.27 札幌

17. 藤澤玲奈，峰岸元気，丹羽　節，細谷孝充，渡辺恭良，古谷　裕，松浦知和，宮嶋篤志，小林カオル. 新規 B 型肝炎治療候補薬による UGT1A1 及び UGT2B7 を介した薬物間相互作用予測. 日本薬学会第 143 年会 2023.03.26 札幌

18. 田口純平、大畠瑶平、丹羽　節、細谷孝充. ボロン酸とジオールの錯形成による近接効果促進型トリアゾール形成反応の開発. 日本化学会第 103 春季年会 2023.03.23 野田

19. 坂田優希, 鍋倉涼斗, 陌間由貴, 半矢実保, 西山尚志, 喜井　勲, 細谷孝充. 環状アルキン－コバルト錯体の脱錯体化によるジベンゾアザシクロオクチンの高効率合成法の開発. 日本化学会第 103 春季年会 2023.03.23 野田

20. 張ウティ、田口純平、丹羽　節、細谷孝充. *o*-ボリルアリールトリフラート–ジプロパノールアミン錯体を前駆体に用いたアライン発生法の開発. 日本化学会第 103 春季年会 2023.03.22 野田

21. 奥山拓海、田口純平、冨田里美、丹羽　節、細谷孝充. 3-トリアゼニルアライン活性種を経由した多置換芳香族の合成. 日本化学会第 103 春季年会 2023.03.22 野田

22. 西田茅也人、瀧本　正、丹羽　節、細谷孝充. ルイス酸を用いた宮浦ホウ素化反応による 3 位にボリル基を有するアライン前駆体の合成. 日本化学会第 103 春季年会 2023.03.22 野田

23. 山中大輔、丹羽　節、田口純平、細谷孝充. 9-ボラビシクロ [3.3.1] ノナン (9-BBN) を保護基として用いる非天然 α-アミノ酸簡便合成法の開発. 日本化学会第 103 春季年会 2023.03.22 野田
24. 高橋杏子、丹羽　節、田口純平、植草秀裕、細谷孝充. 渡環型炭素-水素結合活性化による [2.2] パラシクロファン誘導体の合成法の開発. 日本化学会第 103 春季年会 2023.03.22 野田
25. 江蔵大和、丹羽　節、細谷孝充. 芳香族アジドのトリアゼニル化による形式的保護法の開発. 日本化学会第 103 春季年会 2023.03.22 野田
26. 磯田龍志、丹羽　節、細谷孝充. 芳香族トリアゼンの新規合成法の開発. 日本化学会第 103 春季年会 2023.03.22 野田
27. 丹羽　節、坂田優希、陌間由貴、半矢実保、細谷孝充. *ortho*-ボリルアリールトリアゼンへの光照射によるアライン発生法の開発. 日本化学会第 103 春季年会 2023.03.22 野田
28. 田中孝周, 田端慎也, 陌間由貴, 坂田優希, 細谷孝充, 吉田　優. 逐次アライン発生による多環式化合物の簡便合成法の開発. 日本化学会第 103 春季年会 2023.03.22 野田
29. 丹羽　節. ホウ素化反応を基盤とする分子プローブ合成戦略. 第 94 回触媒化学融合研究センター講演会 2023.03.10 つくば
30. 丹羽　節. 分子プローブ開発に役立つ新しい反応の開発. 「生体適合化学の進歩」インタラクティブフォーラム 2023.03.03 オンライン

[受賞]

1. 21st IBB BioFuture Encouragement Prize. 大学院修士課程の部　優秀賞（高橋杏子）, 2023 年 01 月
2. 21st IBB BioFuture Encouragement Prize. 学部学生の部　最優秀賞（磯田龍志）, 2023 年 01 月
3. 日本化学会 BCSJ Award Article（Takashi Niwa, Tsuyoshi Tahara, Charles E. Chase, Francis G. Fang, Takayoshi Nakaoka, Satsuki Irie, Emi Hayashinaka, Yasuhiro Wada, Hidefumi Mukai, Kenkichi Masutomi, Yasuyoshi Watanabe, Yilong Cui, Takamitsu Hosoya）, 2023 年 04 月

[その他業績]

1. Biomolecular analyses now have an expanded chemical toolkit, 2023 年 01 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
2. 極めて複雑な合成医薬分子に短寿命核種を導入 —抗がん剤エリブリンの炭素 11 による標識に成功—, 2023 年 03 月
   —
3. 「　多彩な役割をこなすトリアゼニル基を導入したアライン前駆体の開発　」 —　医薬品開発などに有用な多置換ベンゼンの簡便合成法を確立　—, 2023 年 09 月
   Organic Letters

メディシナルケミストリー

Medicinal Chemistry

教授　玉村 啓和
准教授　辻 耕平
助教　小早川 拓也
技術補佐員　高木 弘子
技術補佐員　平山 麻衣子
技術補佐員　亀井 朋恵

大学院生
D3 王 容義 (〜3 月), 石井 貴大
D2 Peter Bolah
D1 三浦 裕太郎, 西村 壮史 (4 月〜), Eric Coffie (10 月〜)
M2 川勝 駿 (〜3 月), 岸原 佑樹 (〜3 月), 篠原 功紀, 望月 聡人, 山本 賢一
M1 黄 学元, 黒田 悠貴 (4 月〜), 早川 開人 (4 月〜), 町田 沙穂 (4 月〜)

学内研究協力者 張 雨萌 (10 月〜), 白 珂楠 (10 月〜)

学外研究協力者　有岡 万里彩 (4 月〜), 石関 悠斗 (4 月〜), 林 厚嗣 (4 月〜)

(1)　分野概要

有機化学や有機合成化学を基盤とする生命現象の解明や制御を目指したケミカルバイオロジー研究や、これらを応用した創薬化学研究、ポストゲノム時代の先端的医薬品化学研究を講義している。本分野では、定期的に文献紹介演習や研究検討会を行い、教育、指導している。

(2)　研究活動

1. 構造固定化テンプレートの創出とドラッグ · ディスカバリー
ペプチド等生理活性化合物中に含まれる官能基 (pharmacophore) を適切に空間配置することを可能にする構造固定化用の創薬テンプレートを創出している。また、受容体、酵素等をターゲットとして、がん、エイズ、アルツハイマー、リウマチ、SARS の治療薬の創製研究を行っている。
2.　蛍光プローブの創製、バイオセンシング、創薬を目指したケミカルバイオロジー研究
酵素、受容体を特異的に認識するバイオ (蛍光) プローブを創出し、イメージング、センシングを含めたケミカルバイオロジー研究を行っている。
3. 受容体や酵素 · リガンド相互作用の解析
受容体や酵素リガンドの分子設計、合成を行い、共結晶化—X 線結晶構造解析による相互作用の解析を行い、リガンドがもたらす構造情報伝達メカニズムを解明する。
4. 亜鉛フィンガーツール、TALEN、CRISPR-Cas9 による遺伝子治療法の開発
ゲノム DNA に対して高い配列特異性で結合する亜鉛フィンガータンパク質、TALEN、CRISPR-Cas9 の遺伝子ターゲティングを利用して、疾病遺伝子の転写調節、酵素反応（切断、組換え、メチル化）などを用いた DNA 修飾による遺伝子治療への展開を行っている。

(3) 教育活動

【演習】
【目的 · 概要】
ペプチド医薬品やバイオ医薬品の開発、およびそれらのシーズとなる基礎研究に関する最新の文献情報とその成果の元となるバックグラウンドに関して報告を行い、研究スキームや実験手法、データ解釈と将来的な展開などに関して討論を行う。
【参加可能プログラム】
大学院講義　随時
研究室文献紹介　日時　毎週木曜日　15:00〜16:30（詳細は後日通知）

【研究実習】
【目的 · 概要】
ペプチド化学、タンパク質工学、進化工学、合成生物学の分野における基礎的な実験技術、データ解析法を習得し、研究テーマの設定から論文発表にいたるまでの各段階で教員との討論を行い、研究能力と科学に関する理論的思考、解釈が行える技術を習得する。成果は博士論文として発表を行う。
【参加可能プログラム】
研究室セミナー　毎週 1 時間程度（詳細は後日通知）
遺伝子機能を制御する人工酵素の開発に関する研究
ペプチド化学に基づく細胞機能制御、解明に関する研究

(4) 教育方針

授業方法
少人数制として、討論を重視して行う。

講義室
メディシナルケミストリー分野　第 3 研究室　（生体材料工学研究所 6 階）

評価方法
講義、演習、実験への参加（出席）状況及び研究内容に基づいて総合的に評価を行う。

(5) 研究業績

[原著]

1. Kohei Tsuji, Takuya Kobayakawa, Takahiro Ishii, Nobuyo Higashi-Kuwata, Chika Azuma, Kouki Shinohara, Yutaro Miura, Kenichi Yamamoto, Soshi Nishimura, Shin-ichiro Hattori, Haydar Bulut, Hiroaki Mitsuya, Hirokazu Tamamura. Exploratory Studies of Effective Inhibitors against the SARS-CoV-2 Main Protease by Halogen Incorporation and Amide Bond Replacement. Chemical and Pharmaceutical Bulletin. 2023.12; 71(12); 879-886

2. Takuya Kobayakawa, Masayuki Amano, Miyuki Nakayama, Kohei Tsuji, Takahiro Ishii, Yutaro Miura, Kouki Shinohara, Kenichi Yamamoto, Masao Matsuoka, Hirokazu Tamamura. Development of anti-HBV agents targeting HBV capsid proteins. RSC Medicinal Chemistry. 2023.10; 14(10); 1973-1980

3. Kohei Tsuji, Takahiro Ishii, Takuya Kobayakawa, Nobuyo Higashi-Kuwata, Kouki Shinohara, Chika Azuma, Yutaro Miura, Hiroki Nakano, Naoya Wada, Shin-ichiro Hattori, Haydar Bulut, Hiroaki Mitsuya, Hirokazu Tamamura. Structure-Activity Relationship Studies of SARS-CoV-2 Main Protease Inhibitors Containing 4-Fluorobenzothiazole-2-carbonyl Moieties. Journal of Medicinal Chemistry. 2023.10; 66(19); 13516-13529

4. Takahiro Ishii, Takuya Kobayakawa, Kouki Matsuda, Kohei Tsuji, Nami Ohashi, Shingo Nakahata, Airi Noborio, Kazuhisa Yoshimura, Hiroaki Mitsuya, Kenji Maeda, Hirokazu Tamamura. Synthesis and evaluation of DAG-lactone derivatives with HIV-1 latency reversing activity. European Journal of Medicinal Chemistry. 2023.08; 256; 115449

5. Kohei Tsuji, Kofi Baffour-Awuah Owusu, Yutaro Miura, Takahiro Ishii, Kouki Shinohara, Takuya Kobayakawa, Akino Emi, Takashi Nakano, Youichi Suzuki, Hirokazu Tamamura . Dimerized fusion inhibitor peptides targeting the HR1–HR2 interaction of SARS-CoV-2 RSC Advances. 2023.03; 13; 8779-8793

6. Nobuyo Higashi-Kuwata, Kohei Tsuji, Hironori Hayashi, Haydar Bulut, Maki Kiso, Masaki Imai, Hiromi Ogata-Aoki, Takahiro Ishii, Takuya Kobayakawa, Kenta Nakano, Nobutoki Takamune, Naoki Kishimoto, Shin-Ichiro Hattori, Debananda Das, Yukari Uemura, Yosuke Shimizu, Manabu Aoki, Kazuya Hasegawa, Satoshi Suzuki, Akie Nishiyama, Junji Saruwatari, Yukiko Shimizu, Yoshikazu Sukenaga, Yuki Takamatsu, Kiyoto Tsuchiya, Kenji Maeda, Kazuhisa Yoshimura, Shun Iida, Seiya Ozono, Tadaki Suzuki, Tadashi Okamura, Shogo Misumi, Yoshihiro Kawaoka, Hirokazu Tamamura, Hiroaki Mitsuya. Identification of SARS-CoV-2 Mpro inhibitors containing P1' 4-fluorobenzothiazole moiety highly active against SARS-CoV-2. Nature Communications. 2023.02; 14(1); 1076

7. Kanako Matsuura, Mizuki Yamaura, Hiromi Sakawaki, Ai Himeno, Yalcin Pisil, Takuya Kobayakawa, Kohei Tsuji, Hirokazu Tamamura, Shuzo Matsushita, Tomoyuki Miura. Sensitivity to a CD4 mimic of a consensus clone of monkey-adapted CCR5-tropic SHIV-MK38C. Virology. 2023.01; 578; 171-179

8. Takuya Kobayakawa, Masaru Yokoyama, Kohei Tsuji, Masayuki Fujino, Masaki Kurakami, Takato Onishi, Sayaka Boku, Takahiro Ishii, Yutaro Miura, Kouki Shinohara, Yuki Kishihara, Nami Ohashi, Osamu Kotani, Tsutomu Murakami, Hironori Sato, Hirokazu Tamamura. Low-molecular-weight anti-HIV-1 agents targeting HIV-1 capsid proteins. RSC Advances. 2023.01; 13(3); 2156-2167

[総説]

1. 玉村 啓和. HIV の研究を基盤とした抗 SARS-CoV-2 剤の創製 MEDCHEM NEWS. 2023.11; 33(4); 187-192

2. 玉村 啓和. 創薬を先導する中分子ペプチド 月刊「細胞」. 2023.07; 55(9); 660-661

[講演・口頭発表等]

1. Takuya Kobayakawa, Chika Azuma, Kenichi Yamamoto, Kohei Tsuji, Hirokazu Tamamura. Development of synthetic strategies for peptidomimetic based on a chloroalkene dipeptide isostere and its application to a cyclic peptide. The 15th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry 2023.11.21 Kyoto

2. Kohei Tsuji, Hirokazu Tamamura, Terrence R. Burke, Jr.. Utilization of a non-specific kinase inhibitor for the development of high-affinity bivalent polo-like kinase 1 polo-box domain inhibitors. The 60th Japanese Peptide Symposium 2023.11.10 Otsu

3. Takuya Kobayakawa, Chika Azuma, Kenichi Yamamoto, Kohei Tsuji, Hirokazu Tamamura. Development of convergent synthesis for peptidomimetic based on a chloroalkene dipeptide isostere and its application to a cyclic peptide. The 60th Japanese Peptide Symposium 2023.11.08 Otsu

4. Kouki Shinohara, Kohei Tsuji, Takahiro Ishii, Takuya Kobayakawa, Nobuyo Higashi-Kuwata, Yutaro Miura, Chika Azuma, Hironori Hayashi, Shin-ichiro Hattori, Haydar Bulut, Shogo Misumi, Hiroaki Mitsuya, Hirokazu Tamamura. Structure-activity relationship studies of novel SARS-CoV-2 main protease inhibitors with potent antiviral activity. The 60th Japanese Peptide Symposium 2023.11.08 Otsu

5. Yutaro Miura, Rongyi Wang, Kohei Tsuji, Yishan Liu, Takuya Kobayakawa, Kazuhisa Yoshimura, Shuzo Matsushita, Shigeyoshi Harada, Hirokazu Tamamura. Combinational use of CD4 mimic with other anti-HIV agents and development of these hybrid molecules. 14th International Peptide Symposium 2023.10.17 Brisbane

6. Hirokazu Tamamura. Anti-SARS-CoV-2 Agents Inspired from HIV Researches. The 13th International Peptide Symposium/The 15th Australian Peptide Conference 2023.10.17 Brisbane

7. Yutaro Miura, Rongyi Wang, Kohei Tsuji, Yishan Liu, Takuya Kobayakawa, Kazuhisa Yoshimura, Shuzo Matsushita, Shigeyoshi Harada, Hirokazu Tamamura. Double target inhibitors of HIV-1 entry based on hybrid molecules of CD4 mimics and HIV-1 gp41-related peptides. 26th Korean Peptide Protein Symposium 2023.07.04 Jeju

8. Takahiro Ishii, Kohei Tsuji, Takuya Kobayakawa, Nobuyo Higashi-Kuwata, Chika Azuma, Kouki Shinohara, Yutaro Miura, Hironori Hayashi, Haydar Bulut, Shogo Misumi, Hiroaki Mitsuya, Hirokazu Tamamura . Design and Synthesis of SARS-CoV-2 Mpro Inhibitors Containing Flurine Atoms and Amide Surrogates. 26th KPPS Annual Symposium 2023.07.03 Jeju

9. Hirokazu Tamamura. Anti-SARS-CoV-2 Agents Based on HIV Researches. The Seoul National University (SNU) seminar 2023.06.30 Korea

10. Takahiro Ishii, Takuya Kobayakawa, Kouki Matsuda, Kohei Tsuji, Nami Ohashi, Kazuhisa Yoshimura, Hiroaki Mitsuya, Kenji Maeda, Hirokazu Tamamura . Structure-Activity Relationship Studies of DAG-lactone Derivatives with HIV-1 Latancy Reversing Activity. 14th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium 2023.06.27 Seoul

11. Hirokazu Tamamura. Development of potent and biostable inhibitors of the main protease of SARS-CoV-2 learned from HIV researches. The 14th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium (AIMECS 2023) 2023.06.27 Korea

12. Yutaro Miura, Rongyi Wang, Kohei Tsuji, Yishan Liu, Takuya Kobayakawa, Kazuhisa Yoshimura, Shuzo Matsushita, Shigeyoshi Harada, Hirokazu Tamamura. Hybrid molecules of CD4 mimic and HIV-1 fusion inhibitors. 14th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium 2023.06.26 Seoul

13. Hirokazu Tamamura. Peptidomimetic-based Anti-SARS-CoV-2 Agents Learned from Anti-HIV Agents. The 17th Chinese International Peptide Symposium 2023.06.14 China

14. Hirokazu Tamamura. Development of Anti-SARS-CoV-2 Agents Learned from Anti-HIV Agents. The 19th Akabori Conference 2023: German-Japanese Symposium on Peptide Science 2023.05.19 Otsu

15. Hirokazu Tamamura. Use of synthetic peptides in infectious diseases research; vaccines, therapeutics and diagnostics. Discovery Research Platforms 2023.03.23 Online

16. Hirokazu Tamamura. Peptide-lead medicinal chemistry: from AIDS to COVID-19. The 9th Joint Symposium between IBB/TMDU and Chulalongkorn University on Biomedical Materials and Engineering 2023.01.23 Thailand

1. 玉村 啓和. 「”海の贈りもの”からの愉しみ— ワクワクする発見？！ —」なんでこいつがアレもってるねん ！？ . 徳島大学薬学部 特別講演会 薬と社会の展望講演会 2023.12.21 徳島

2. 玉村 啓和, 佐藤 裕徳, 横山 勝, 村上 努. HIV Gag をターゲットとした創薬研究. 第 37 回日本エイズ学会学術集会 · 総会 ワークショップ [基礎］Gag の分子生物学と阻害薬研究の最前線 2023.12.03 京都

3. 鍬田 伸好, 辻 耕平, 林 宏典, 石井 貴大, 小早川 拓也, 中野 堅太, 服部 真一朗, 岸本 直樹, 高宗 暢暁, 青木 宏美, Haydar Bulut, Debananda Das, 今井 正樹, 木曽 真紀, 助永 義和, 高松 悠樹, 岡村 匡史, 三隅 将吾, 河岡 義裕, 玉村 啓和, 満屋 裕明 . 抗 SARS-CoV-2 メインプロテアーゼ阻害剤の創薬研究開発. 第 37 回日本エイズ学会学術集会 2023.12.03 京都

4. 小早川 拓也，横山 勝，藤野 真之，金子 萌美，倉上 真樹，朴 清香，大西 立人，小谷 治，辻 耕平，村上 努，佐藤 裕徳，玉村 啓和. HIV-1 カプシドタンパク質の構造を基盤とした低分子型抗 HIV-1 剤の創製研究. 第 40 回メディシナルケミストリーシンポジウム 2023.11.13 名古屋

5. 篠原 功紀，鍬田 伸好，辻 耕平，石井 貴大，小早川 拓也，服部 真一朗，岸本 直樹，高宗 暢暁，三隅 将吾，Haydar Bulut，林 宏典，満屋 裕明，玉村 啓和. COVID-19 の治療薬として強力な抗ウイルス活性を有する新規 SARS-CoV-2 メインプロテアーゼ阻害剤の構造活性相関研究. 第 40 回メディシナルケミストリーシンポジウム 2023.11.13 名古屋

6. 玉村 啓和. アミノ酸、ペプチドからくすり — コロナのくすりも. 第 60 回ペプチド討論会 市民フォーラム 2023.11.11 長浜

7. 小早川 拓也，東 知佳，山本 賢一，渡邉 優基，辻 耕平，玉村 啓和. クロロアルケン骨格を基盤としたペプチドミメティックの 新規合成法の開発とその応用. 第 49 回反応と合成の進歩シンポジウム 2023.11.06

8. 山本 賢一, 小早川 拓也, 東 知佳, 辻 耕平, 玉村 啓和. クロロアルケン型ジペプチドイソスターの新規合成法の開発とその応用研究. 第 67 回日本薬学会関東支部大会 2023.09.16 東京

9. 篠原 功紀, 鍬田 伸好, 辻 耕平, 石井 貴大, 小早川 拓也, 服部 真一郎, 岸本 直樹, 高宗 暢暁, 三隅 将吾, Haydar Bulit, 林 宏典, 満屋 裕明, 玉村 啓和. フッ素化及びチオアミド置換を活用した新規 SARs-CoV-2 メインプロテアーゼ阻害剤の創製. 第 67 回日本薬学会関東支部大会 2023.09.16 東京

10. 西村 壮史, 小早川 拓也, 辻 耕平, 村上 努, 玉村 啓和. HIV-1 外被タンパク質 gp41 を標的とする二価型膜融合阻害剤の創製. 第 67 回日本薬学会関東支部大会 2023.09.16 東京

11. 青木 宏美, 鍬田 伸好, 辻 耕平, 林 宏典, Haydar Bulut, 今井 正樹, 服部 真一朗, 高松 悠樹, 助長 義和, 岡村 匡史, 三隅 将吾, 河岡 義裕, 玉村 啓和, 満屋 裕明. 抗 SARS-CoV-2 メインプロテアーゼ阻害剤 TKB272 の研究開発. 第 31 回日本抗ウイルス療法学会学術集会 · 総会 2023.09.14 横浜

12. 辻 耕平. 抗ウイルス薬の創薬研究 ～HIV 研究から学ぶ SARS-CoV-2 阻害剤の創製～. 第 55 回若手ペプチド夏の勉強会 2023.08.10 宇治

13. 篠原 功紀. フッ素及びチオアミドを用いた SARS-CoV-2 メインプロテアーゼ阻害剤の創製 . 第 55 回若手ペプチド夏の勉強会 2023.08.08 宇治

14. 山本 賢一, 小早川 拓也, 東 知佳, 辻 耕平, 玉村 啓和. クロロアルケン型ジペプチドイソスターの合成法とその生物学的応用 . 第 55 回若手ペプチド夏の勉強会 2023.08.08 宇治

15. 玉村 啓和. HIV 研究から SARS-CoV-2 阻害剤の創製へ. 第 36 回近畿エイズ研究会学術集会 2023.06.10 神戸

16. 山本 賢一, 小早川 拓也, 東 知佳, 渡邉 優基, 辻 耕平, 玉村 啓和 . クロロアルケン型ジペプチドイソスターの合成法の開発とその応用研究. 創薬懇話会 2023 湯河原 2023.06.08 熱海

17. 篠原 功紀, 鍬田 伸好, 辻 耕平, 石井 貴大, 小早川 拓也, 服部 真一朗, 岸本 直樹, 高宗 暢暁, 三隅 将吾、Haydar Bulut, 林 宏典, 満屋 裕明, 玉村 啓和. フッ素置換を基盤とした SARS-CoV-2 メインプロテアーゼ阻害剤の創製. 創薬懇話会 2023 湯河原 2023.06.08 熱海

18. 辻 耕平, 石井 貴大, 小早川 拓也, 鍬田 伸好, 篠原 功紀, 東 知佳, 林 宏典, 三隅 将吾, Haydar Bulut, 岡村 匡史, 満屋 裕明, 玉村 啓和. 抗 HIV 剤から抗 SARS-CoV-2 阻害剤へーメインプロテアーゼ阻害剤の創製. 日本ケミカルバイオロジー学会第 17 回年会 2023.05.31 豊中

19. 篠原 功紀, 鍬田 伸好, 辻 耕平, 石井 貴大, 小早川 拓也, 服部 真一朗, 岸本 直樹, 高宗 暢暁, 三隅 将吾, Haydar Bulut, 林 宏典, 満屋 裕明, 玉村 啓和. フッ素置換およびアミド結合変換による SARS-CoV-2 メインプロテアーゼ阻害剤の創製. 日本薬学会第 143 年会 2023.03.27 札幌

20. 玉村 啓和. 抗 HIV 剤から学ぶ抗 SARS-CoV-2 剤の創薬研究. 日本薬学会第 143 年会 2023.03.26 札幌

21. 辻 耕平. HIV-1 研究を基盤とした SARS-CoV-2 膜融合阻害ペプチドの創製. 日本薬学会第 143 年会 2023.03.26 札幌

22. 辻 耕平. 大学における創薬研究　～抗ウイルス薬の創製を目指して～. 日本薬学会第 143 年会 2023.03.26 札幌

23. 三浦 裕太郎, 王 容義, 辻 耕平, 劉 一山, 小早川 拓也, 吉村 和久, 松下 修三, 原田 恵嘉, 玉村 啓和. ＨＩＶー１侵入阻害剤を指向した低分子化合物ＣＤ４ミミックとｇｐ４１阻害ペプチドを用いたハイブリッド分子の創製. 日本薬学会第 143 年会 2023.03.26 札幌

24. 山本 賢一, 小早川 拓也, 東 知佳, 渡邉 優基, 辻 耕平, 玉村 啓和. クロロアルケン骨格を基盤としたペプチドミメティックの創製とその応用研究. 日本薬学会第 143 年会 2023.03.26 札幌

25. 石井 貴大，小早川 拓也，松田 幸樹，辻 耕平，吉村 和久，満屋 裕明，前田 賢次，玉村 啓和. HIV cure を狙った PKC 活性化剤の創製. 日本薬学会第 143 回年会 2023.03.26 札幌

26. 石井貴大.　HIV cure を指向した DAG-lactone 誘導体の創製.　第 21 回 IBB BioFuture Research Encouragement Prize 研究発表会 2023.01.27 東京

[特許]

1. 抗ＨＩＶ活性を有するＣＤ４ミミック化合物, 特許番号：特許第 7297220 号

[受賞]

1. 21st IBB BioFuture Research Encouragement Prize 研究発表会 大学院修士課程の部 優秀賞 (岸原 佑樹), 国立大学法人 東京医科歯科大学 (TMDU) 生体材料工学研究所 (IBB) , 2023 年 01 月
2. 日本薬学会第 143 年会 学生優秀発表賞 (口頭発表の部)(石井 貴大) , 日本薬学会, 2023 年 03 月
3. The 14th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium (AIMECS 2023) Best Oral Presentation Award (Yutaro Miura), アジア医薬化学連合, 2023 年 06 月
4. 2023 Young Scientist Oral Presentation Certificate (石井 貴大), 26th Korean Peptide Protein Symposium, 2023 年 07 月
5. 第 67 回日本薬学会関東支部大会優秀発表賞 (篠原 功紀) , 日本薬学会, 2023 年 09 月
6. 日本ペプチド学会 第 60 回ペプチド討論会ポスター賞 (篠原 功紀) , 日本ペプチド学会 , 2023 年 11 月

[その他業績]

1. 「HIV-1 潜伏感染再活性化能を有する DAG-ラクトン誘導体の合成と評価」 — HIV 感染症に対する新たな治療法の可能性 —, 2023 年 05 月
   European Journal of Medicinal Chemistry
2. A new, promising weapon in the fight against HIV, 2023 年 06 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
3. 「HBV カプシドタンパク質をターゲットとした抗 HBV 剤の創製」 — B 型肝炎に対する新たな治療薬の可能性 —, 2023 年 08 月
   RSC Medicinal Chemistry
4. 「4-フルオロベンゾチアゾール-2-カルボニル基を有する SARS-CoV-2 メインプロテアーゼ阻害剤の構造活性相関研究」 — 新型コロナウイルスに対する高活性阻害剤 —, 2023 年 09 月
   Journal of Medicinal Chemistry

バイオメカニクス

Biomechanics

教授	梶　弘和
准教授	梨本裕司
助教	堀　武志
技術補佐員	Serge Ostrovidov
技術補佐員	山本　茜
技術補佐員	前島真紀

(1) 分野概要

当分野では、バイオ材料 · 生体に優しいマイクロ · ナノ技術の開発と、それらを基盤として次世代医療を創生することを目指して研究活動を推進している。

(2) 研究活動

1. バイオファブリケーション技術の開発
2. 体内埋込型ドラッグデリバリーデバイスの開発
3. 低侵襲細胞デリバリーシステムの開発
4. 生体模倣システムの開発

(3) 教育方針

診断や治療を目的とした医療デバイス · システム及び関連分野の最新動向を学ぶと共に基礎的知識と技術を習得し、当該分野で自発的に研究を推進できる能力を養うことを目的とする。

(4) 研究業績

[原著]

1. Ramalingam M, Jaisankar A, Cheng L, Krishnan S, Lan L, Hassan A, Sasmazel HT, Kaji H, Deigner HP, Pedraz JL, Kim HW, Shi Z, Marrazza G. Impact of nanotechnology on conventional and artificial intelligence-based biosensing strategies for the detection of viruses. Discover nano. 2023.12; 18(1); 58

2. Nashimoto, Y; Konno, A; Imaizumi, T; Nishikawa, K; Ino, K; Hori, T; Kaji, H; Shintaku, H; Goto, M; Shiku, H. Microfluidic vascular formation model for assessing angiogenic capacities of single islets BIOTECHNOLOGY AND BIOENGINEERING. 2023.12;

3. Nashimoto Y, Konno A, Imaizumi T, Nishikawa K, Ino K, Hori T, Kaji H, Shintaku H, Goto M, Shiku H. Microfluidic vascular formation model for assessing angiogenic capacities of single islets. Biotechnology and bioengineering. 2023.12;

4. Utagawa, Y; Ino, K; Hiramoto, K; Iwase, K; Nashimoto, Y; Honma, I; Shiku, H. Vasculature-on-a-Chip with a Porous Membrane Electrode for In Situ Electrochemical Detection of Nitric Oxide Released from Endothelial Cells ANALYTICAL CHEMISTRY. 2023.11; 95(49); 18158-18165

5. Hashikawa Y, Kato Y, Kaji H, Abe T, Nagai N. A comparative study between a transscleral sustained-release device and eyedrops on intraocular distribution of carteolol hydrochloride. Heliyon. 2023.03; 9(3); e14392

6. Ostrovidov S, Ramalingam M, Bae H, Orive G, Fujie T, Shi X, Kaji H. Latest developments in engineered skeletal muscle tissues for drug discovery and development. Expert opinion on drug discovery. 2023.01; 18(1); 47-63

7. Liu S, Cheng L, Liu Y, Zhang H, Song Y, Park JH, Dashnyam K, Lee JH, Khalak FA, Riester O, Shi Z, Ostrovidov S, Kaji H, Deigner HP, Pedraz JL, Knowles JC, Hu Q, Kim HW, Ramalingam M. 3D Bioprinting tissue analogs: Current development and translational implications. Journal of tissue engineering. 2023.01; 14; 20417314231187113

8. Ostrovidov S, Ramalingam M, Bae H, Orive G, Fujie T, Shi X, Kaji H. Bioprinting and biomaterials for dental alveolar tissue regeneration. Frontiers in bioengineering and biotechnology. 2023; 11; 991821

9. Yamashita K, Ostrovidov S, Raut B, Hori T, Nashimoto Y, Nagai N, Abe T, Kaji H. Minimally Invasive Sub-Retinal Transplantation of RPE-J Cells on a Biodegradable Composite PCL/Collagen Nanosheet. Cell transplantation. 2023; 32; 9636897231165117

10. Yamashita Kazuya, Ostrovidov Serge, Raut Bibek, Hori Takeshi, Nashimoto Yuji, Nagai Nobuhiro, Abe Toshiaki, Kaji Hirokazu. Minimally Invasive Sub-Retinal Transplantation of RPE-J Cells on a Biodegradable Composite PCL/Collagen Nanosheet CELL TRANSPLANTATION. 2023; 32; 9636897231165117

1. 堀 武志, 梶 弘和. 【「未来医療を科学する」】”Organ-on-a-chip”の外科・代謝栄養学への応用の可能性 外科と代謝・栄養. 2023.08; 57(4); 85-87

2. Ostrovidov Serge, Ramalingam Murugan, Bae Hojae, Orive Gorka, Fujie Toshinori, Hori Takeshi, Nashimoto Yuji, Shi Xuetao, Kaji Hirokazu. Molecularly Imprinted Polymer-Based Sensors for the Detection of Skeletal- and Cardiac-Muscle-Related Analytes SENSORS. 2023.06; 23(12); 5625

3. Ostrovidov Serge, Ramalingam Murugan, Bae Hojae, Orive Gorka, Fujie Toshinori, Hori Takeshi, Nashimoto Yuji, Shi Xuetao, Kaji Hirokazu. Molecularly Imprinted Polymer-Based Sensors for the Detection of Skeletal- and Cardiac-Muscle-Related Analytes SENSORS. 2023.06; 23(12);

4. Nashimoto Yuji, Shishido Shotaro, Onuma Kunishige, Ino Kosuke, Inoue Masahiro, Shiku Hitoshi. Oxygen metabolism analysis of a single organoid for non-invasive discrimination of cancer subpopulations with different growth capabilities FRONTIERS IN BIOENGINEERING AND BIOTECHNOLOGY. 2023.05; 11; 1184325

5. Nozawa Kota, Zhang Xuyang, Nakamura Takuo, Nashimoto Yuji, Takahashi Yasufumi, Ino Kosuke, Shiku Hitoshi. Topographical evaluation of human mesenchymal stem cells during osteogenic differentiation using scanning ion conductance microscopy ELECTROCHIMICA ACTA. 2023.05; 449;

6. 梨本 裕司, 堀 武志, 梶 弘和, 伊野 浩介, 珠玖 仁. ミニ組織モデルに対する経血管刺激の電気化学的定量評価 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書. 2023.04; 2022 年度; 109

7. 梨本 裕司, 堀 武志, 梶 弘和, 伊野 浩介, 珠玖 仁. ミニ組織モデルに対する経血管刺激の電気化学的定量評価 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書. 2023.04; 2022 年度; 109

8. 伊藤 千聖, 伊野 浩介, 平本 薫, 梨本 裕司, 珠玖 仁. 【ナノ・マイクロ分析化学の新展開】ガラスナノキャピラリーを用いるイオン電流整流作用におけるイオン濃度の影響の調査 分析化学. 2023.03; 72(3); 117-123

9. Nashimoto Yuji, Mukomoto Rei, Imaizumi Takuto, Terai Takato, Shishido Shotaro, Ino Kosuke, Yokokawa Ryuji, Miura Takashi, Onuma Kunishige, Inoue Masahiro, Shiku Hitoshi. Electrochemical sensing of oxygen metabolism for a three-dimensional cultured model with biomimetic vascular flow BIOSENSORS & BIOELECTRONICS. 2023.01; 219; 114808

10. Fujimoto Kazuya, Erickson Scott, Nakayama Masamune, Ihara Hiroki, Sugihara Kei, Nashimoto Yuji, Nishiyama Koichi, Miura Takashi, Yokokawa Ryuji. Pericytes and shear stress each alter the shape of a self-assembled vascular network LAB ON A CHIP. 2023.01; 23(2); 306-317

11. Ito Chisato, Ino Kosuke, Hiramoto Kaoru, Nashimoto Yuji, Shiku Hitoshi. Effects of Ion Concentration on Ion Current Rectification Using a Glass Nanocapillary BUNSEKI KAGAKU. 2023; 72(3); 117-123

12. Yamashita Kazuya, Ostrovidov Serge, Raut Bibek, Hori Takeshi, Nashimoto Yuji, Nagai Nobuhiro, Abe Toshiaki, Kaji Hirokazu. Minimally Invasive Sub-Retinal Transplantation of RPE-J Cells on a Biodegradable Composite PCL/Collagen Nanosheet CELL TRANSPLANTATION. 2023; 32; 9636897231165117

13. Hori Takeshi, Ito Yuya, Raut Bibek, Ostrovidov Serge, Nashimoto Yuji, Nagai Nobuhiro, Abe Toshiaki, Kaji Hirokazu. Three-dimensional-printed Refillable Drug Delivery Device for Long-term Sustained Drug Delivery to Retina SENSORS AND MATERIALS. 2023; 35(4); 1301-1313

1. 堀 武志, 梶 弘和. “Organ‐on‐a‐chip”の外科・代謝栄養学への応用の可能性 外科と代謝・栄養. 2023.08; 57(4); 85-87

2. Mussel-inspired interfacial ultrathin films for cellular adhesion on the wrinkled surfaces of hydrophobic fluids 2023.06;

3. Ostrovidov Serge, Ramalingam Murugan, Bae Hojae, Orive Gorka, Fujie Toshinori, Hori Takeshi, Nashimoto Yuji, Shi Xuetao, Kaji Hirokazu. Molecularly Imprinted Polymer-Based Sensors for the Detection of Skeletal- and Cardiac-Muscle-Related Analytes SENSORS. 2023.06; 23(12); 5625

4. Engineering Oral Microenvironments Using Microphysiological Systems 2023.04; 35(4); 1293

5. Three-dimensional-printed Refillable Drug Delivery Device for Long-term Sustained Drug Delivery to Retina 2023.04; 35(4); 1301

6. Nashimoto Yuji, Hori Takeshi, Ostrovidov Serge, Katagiri Sayaka, Kaji Hirokazu. Engineering Oral Microenvironments Using Microphysiological Systems SENSORS AND MATERIALS. 2023.04; 35(4); 1293

7. Hori Takeshi, Ito Yuya, Raut Bibek, Ostrovidov Serge, Nashimoto Yuji, Nagai Nobuhiro, Abe Toshiaki, Kaji Hirokazu. Three-dimensional-printed Refillable Drug Delivery Device for Long-term Sustained Drug Delivery to Retina SENSORS AND MATERIALS. 2023.04; 35(4); 1301

[総説]

1. Nashimoto Yuji, Hori Takeshi, Ostrovidov Serge, Katagiri Sayaka, Kaji Hirokazu. Engineering Oral Microenvironments Using Microphysiological Systems SENSORS AND MATERIALS. 2023; 35(4); 1293-1299

[講演・口頭発表等]

1. 梨本 裕司, 堀 武志, 梶 弘和, 伊野 浩介, 珠玖 仁. ミニ組織モデルに対する経血管刺激の電気化学的定量評価. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2023.04.01

2. 梨本 裕司, 堀 武志, 梶 弘和, 伊野 浩介, 珠玖 仁. ミニ組織モデルに対する経血管刺激の電気化学的定量評価. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2023.04.01

3. 梨本 裕司, 堀 武志, 梶 弘和, 伊野 浩介, 珠玖 仁. ミニ組織モデルに対する経血管刺激の電気化学的定量評価. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2023.04.01

4. 阿部 博弥, 梶 弘和. 超柔軟細胞培養基板の確立. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2023.04.01

1. 堀 武志. メッシュシートを用いた培養肉の作製. 第 8 回豊田理研異分野若手交流会 2023.08.07

2. 堀 武志. ヒト栄養膜幹細胞を用いた三次元培養モデルの作製とその利用. 第 41 回日本受精着床学会総会・学術講演会 2023.07.28

3. Takeshi Hori, Hiroaki Okae, Shun Shibata, Yuji Nashimoto, Takahiro Arima, Hirokazu Kaji. In vitro models for the human placental barrier. MPS World Summit 2023 2023.06.27 JW Marriott Hotel Berlin, Berlin, Germany
4. 堀 武志. 人工胎盤モデルの開発. 第 21 回 IBB BioFuture Research Encouragement Prize 研究発表会 2023.01.27
5. Takeshi Hori. Advanced cell culture technologies for drug development. The 9th Joint Symposium between IBB/TMDU and Chulalongkorn University on “Biomedical Materials and Engineering” 2023.01.23

[受賞]

1. 第 21 回 IBB BioFuture Research Encouragement Prize（医歯科学研究助成）, 東京医科歯科大学, 2023 年 01 月

[社会貢献活動]

1. 水田製作所、メッシュによる細胞培養デバイスのサンプル提供開始へ, 日経バイオ, 2023 年 09 月

統合分子疾患科学講座

分子細胞生物学

Molecular Cell Biology

教授　澁谷浩司
准教授　後藤利保
助教　清水幹容

(1) 研究活動

研究内容
WNK1 は腎臓において下流のシグナル分子である SPAK/OSR1 を介してイオン濃度を調節している。WNK1 遺伝子の変異は当経路の過剰な活性化を引き起こし、排出すべきイオンを再吸収してしまうことで、偽性低アルドステロン症Ⅱ型 (PHA Ⅱ) とよばれる遺伝性高血圧症の原因となる。興味深いことに、一部のがんでは WNK1 の発現が転移や再発、生存率の低下と相関関係にあることも知られているが、その分子機構は不明な点が多い。一方、WNK1 遺伝子には神経特異的に発現するアイソフォーム WNK1/HSN2 が存在し、WNK1/HSN2 の変異は遺伝性感覚自律ニューロパチーⅡ型 (HSAN Ⅱ) と呼ばれる神経障害を引き起こす。これまで本疾患の患者において多くの変異体が報告されているが、その機能および発症機構は全く分かっていない。当分野では、以上のような WNK1 の多岐に渡る生物学的機能の解明を目的としている。

研究紹介
HSAN Ⅱは痛み、温度、触覚などの感覚が失われる遺伝性の神経障害であり、大部分の患者が手足の関節が変形する症状を発症する。また、感覚の喪失から傷の痛みを感じることができないため、早期の治療を行わないことが原因で潰瘍を伴うことも知られている。本疾患は神経特異的に発現する WNK1/HSN2 遺伝子の変異が原因とされ、多くの WNK1/HSN2 変異体が報告されているにも関わらず、その機能不全については全く分かっていない。そのため HSAN Ⅱの発症機構を明らかにし、治療法を確立するためにも、患者由来 WNK1/HSN2 変異体の機能の解明が急務となっている。本研究では、実際の患者で報告されている WNK1/HSN2 変異体の生化学的機能および神経分化に対する影響を解析した。

1. WNK1/HSN2 変異体は、正常な WNK1 や WNK1/HSN2 および下流因子 SPAK/OSR1 との結合が阻害されることで、WNK1 シグナル伝達経路を抑制する。
現在、HSAN Ⅱ患者で報告されている WNK1/HSN2 変異は約 20 種類であり、WNK1 遺伝子に神経特異的に挿入されるエキソン領域に生じることで、大部分の C 末側を欠失した deletion mutant を産生することが知られている。一方、WNK1 は C 末端のドメインを介してホモ二量体を形成し、自己リン酸化することで活性化することが報告されている。そこで、WNK1/HSN2 変異体の生化学的機能を明らかにするため、正常な WNK1 や WNK1/HSN2 との結合を免疫沈降により調べたところ、WNK1/HSN2 変異体は WNK1 や WNK1/HSN2 との結合が阻害されることが示された。また、下流因子である SPAK および OSR1 との結合も同様に阻害され、これらの結果から WNK1/HSN2 変異体は神経において WNK1 シグナル伝達経路を活性化できないと推測される。そこで、マウス神経膠芽腫細胞 Neuro2A に WNK1/HSN2 変異体を発現させた際の SPAK/OSR1 のリン酸化を調べたところ、NGF 処理による SPAK/OSR1 のリン酸化レベルの増大が抑制された。したがって、WNK1/HSN2 変異体は正常な WNK1 や WNK1/HSN2 および SPAK/OSR1 との結合が阻害されることで、WNK1 シグナル伝達経路を不活化することが明らかとなった。

2. WNK1/HSN2 変異体は、神経突起の伸長や神経分化を抑制する。
当分野の先行研究により、WNK1 が神経分化を誘導することを明らかにしている (Sato A et al. PLoS One, 2013)。実際に、Neuro2A 細胞に WNK1 を発現することで、NGF 処理による神経突起の伸長および Lhx8、ChAT などのコリン作動性神経分化マーカーの発現が促進され、WNK1/HSN2 を発現させた際にも同様の結果が得られた。一方、WNK1/HSN2 変異体を発現すると、NGF による神経突起の伸長と神経分化マーカーの発現が抑制されることが示された。また、マウス胎児から回収した脳皮質ニューロンを用いて神経突起の伸長を解析したところ、Neuro2A

と同様の結果が得られた。よって、神経膠芽腫だけでなく正常な神経においても WNK1 や WNK1/HSN2 が神経分化を促進し、一方で WNK1/HSN2 変異体は神経分化を抑制することが明らかとなった。

3. WNK1/HSN2 変異体は、GSK3 β と優先的に結合しその機能を阻害するドミナントネガティブ変異体として機能する。
当分野の先行研究では、GSK3 β が WNK1 と共に神経分化を促進することも報告している（PLoS One, 2018）。そこで、GSK3 β に対する WNK1/HSN2 変異体の効果を調べた。まず GSK3 β との結合を調べると、WNK1 および WNK1/HSN2 と GSK3 β の結合が確認でき、WNK1/SN2 変異体はより強固に GSK3 β と結合することが示された。また、WNK1 および WNK1/HSN2 と GSK3 β の結合は WNK1/HSN2 変異体を発現させることで有意に減少したことから、WNK1/HSN2 変異体は GSK3 β と優先的に結合することで、正常な WNK1 や WNK1/HSN2 と GSK3 β の結合を阻害すると示唆される。そこで、GSK3 β による神経分化の促進に WNK1/HSN2 変異体が影響するのか解析を行った。先行研究でも報告したように、GSK3 β を Neuro2A 細胞に発現することで神経突起の伸長およびコリン作動性神経分化マーカーの発現が促進されたが、WNK1/HSN2 変異体を発現させることでこれらの現象が抑えられることが示された。また、マウス胎児から回収した脳皮質ニューロンを用いても同様の結果が得られ、WNK1/HSN2 変異体は GSK3 β と優先的に結合することで、神経分化促進機能を阻害するドミナントネガティブ変異体として機能することが明らかとなった。
以上のように、本研究により HSAN Ⅱを引き起こす WNK1/HSN2 変異体の神経分化における生化学的機能が明らかとなり、HSAN Ⅱ発症機構の解明に寄与すると共に、新規治療薬開発の一助となることが期待される。

(2) 教育方針

細胞内シグナル伝達の分子機構に立脚した先端的基礎医学研究を自立して行える研究者を養成するため、大学院生は分野構成員との技術指導と討議を繰り返した後、独立した研究テーマに携わり、研究を推進していく。この際、分野構成員及び分野外の研究者との討議を引き続き繰り返すことにより幅広い研究視野を養うように指導している。この観点から大学院生を含め分野に所属する研究者は定期的に開催される論文抄読会や研究報告会において発表と討論に参加する機会が設けられている。

(3) 研究業績

[原著]

1. Nishita M, Kamizaki K, Hoshi K, Aruga K, Nishikaku I, Shibuya H, Matsumoto K, Minami Y. Rho family small GTPase Rif regulates Wnt5a-Ror1-Dvl2 signaling and promotes lung adenocarcinoma progression. The Journal of biological chemistry. 2023.09; 299(10); 105248

2. Goto Toshiyasu, Michiue Tatsuo, Shibuya Hiroshi. ccl19 and ccl21 affect cell movements and differentiation in early Xenopus development DEVELOPMENT GROWTH & DIFFERENTIATION. 2023.04; 65(3); 175-189

先端ナノ医工学分野

Department of Advanced Nanomedical Engineering

教授　　内田　智士
講師　　持田　祐希

(1) 分野概要

メッセンジャー RNA (mRNA) 医薬は、新型コロナウイルスワクチンを超えて、他の感染症の予防ワクチン、がん免疫治療、遺伝性疾患治療、再生医療、ゲノム編集治療といった様々な医療応用において期待されている。このような応用では、標的組織、細胞に対して、安全かつ効率的に mRNA を送達するためのナノサイズの薬物送達システム (ナノ Drug Delivery System, ナノ DDS) が重要となる。当研究分野では、ナノ DDS 開発から、その疾患治療応用、社会実装まで、幅広く研究を進めている。

(2) 研究活動

1．ナノ DDS 開発
　独自に開発している高分子ナノ DDS は、汎用されている脂質性ナノ DDS と異なり、生体に対して炎症反応を惹起することなく安全に mRNA を送達することが出来る。一方で、生体内への応用では、酵素分解の抑制や、標的組織への特異的な送達など様々な機能が必要となる。そのために、高分子設計のほか、mRNA を独自の手法で修飾する mRNA 工学を基盤として、新規ナノ DDS を開発している。
2．mRNA ワクチン · 医薬品の応用
　感染症予防ワクチン、がんワクチン、ワクチン以外の mRNA の医薬品としての応用に取り組んでいる。感染症 mRNA ワクチンは、mRNA を搭載している脂質性ナノ粒子に起因する強い副反応が課題である。そこで、脂質性ナノ粒子を用いない mRNA 単体からなるワクチンを開発している。がんワクチンでは、効果の向上が課題であるが、独自の mRNA 工学を用いて、アジュバント機能の向上や、免疫組織選択的な mRNA 送達に取り組んでいる。ワクチン以外の分野では、遺伝性疾患治療、ゲノム編集治療、抗体治療への応用に取り組んでいる。

(3) 教育方針

新型コロナウイルスに対する mRNA ワクチンの成功は、医工学融合の賜物であった。本研究室では、このような医工学融合研究を学び、実践することが目標である。その中で、主体的に研究に取り組むことを重視している。

(4) 研究業績

[原著]

1. Theofilus A Tockary, Saed Abbasi, Miki Matsui-Masai, Akimasa Hayashi, Naoto Yoshinaga, Eger Boonstra, Zheng Wang, Shigeto Fukushima, Kazunori Kataoka, Satoshi Uchida. Comb-structured mRNA vaccine tethered with short double-stranded RNA adjuvants maximizes cellular immunity for cancer treatment. Proc Natl Acad Sci U S A. 2023.07; 120(29); e2214320120

2. Masahito Inagaki, Naoko Abe, Zhenmin Li, Yuko Nakashima, Susit Acharyya, Kazuya Ogawa, Daisuke Kawaguchi, Haruka Hiraoka, Ayaka Banno, Zheyu Meng, Mizuki Tada, Tatsuma Ishida, Pingxue Lyu, Kengo Kokubo, Hirotaka Murase, Fumitaka Hashiya, Yasuaki Kimura, Satoshi Uchida, Hiroshi Abe. Cap

analogs with a hydrophobic photocleavable tag enable facile purification of fully capped mRNA with various cap structures. Nature Communications. 2023.05; 14(1); 2657

3. Makoto Oba, Mika Shibuya, Yuto Yamaberi, Hidetomo Yokoo, Satoshi Uchida, Atsushi Ueda, Masakazu Tanaka. An Amphipathic Structure of a Dipropylglycine-Containing Helical Peptide with Sufficient Length Enables Safe and Effective Intracellular siRNA Delivery. Chemical and Pharmaceutical Bulletin. 2023.03; 71(3); 250-256

1. Yang Wenqian, Miyazaki Takuya, Nakagawa Yasuhiro, Boonstra Eger, Masuda Keita, Nakashima Yuki, Chen Pengwen, Mixich Lucas, Barthelmes Kevin, Matsumoto Akira, Mi Peng, Uchida Satoshi, Cabral Horacio. Block catiomers with flanking hydrolyzable tyrosinate groups enhance in vivo mRNA delivery via pi-pi stacking-assisted micellar assembly SCIENCE AND TECHNOLOGY OF ADVANCED MATERIALS. 2023.12; 24(1); 2170164

[総説]

1. Satoshi Uchida, Chun Yin Jerry Lau, Makoto Oba, Kanjiro Miyata. Polyplex designs for improving the stability and safety of RNA therapeutics. Advanced Drug Delivery Reviews . 2023.08; 199; 114972

1. 内田智士. 中枢神経系を標的とした mRNA 医薬の DDS と治療応用 Drug Delivery System. 2023.03; 38; 125-133

2. 内田智士. mRNA ワクチン，医薬を支える基盤技術と今後の展望 化学と教育. 2023.01; 71(1); 12-15

[講演 · 口頭発表等]

1. Satoshi Uchida. Next-generation mRNA vaccines against infectious diseases and cancer. ”Integrated Science for a Sustainable Society” 14th Indian Scientists Association in Japan (ISAJ) Annual Symposium 2023.11.10

2. Satoshi Uchida, Saed Abbasi, Miki Matsui-Masai, Fumihiko Yasui, Akimasa Hayashi, Theofilus A. Tockary, Shiro Akinaga, Michinori Kohara, Kazunori Kataoka. Naked mRNA Jet Injection into the Skin Enables the Robust Vaccination against SARS-CoV-2 in Mice and Cynomolgus Monkeys. 11th International mRNA Health Conference 2023.10.31

3. Satoshi Uchida. mRNA vaccine development for infectious disease prevention and cancer treatment. The 18th international Symposium of the institute Network for Biomedical Science 2023.10.05

4. Satoshi Uchida, Saed Abbasi, Miki Masai, Akimasa Hayashi, Theofilus Tockary, Shiro Akinaga, Kazunori Kataoka. Small and large animal studies of COVID-19 vaccines based on naked mRNA jet-injection. 日本核酸医薬学会第 8 回年会 2023.07.14

1. 内田智士. mRNA のワクチン、医薬品としての応用. 東京工業大学生命理工学院　東京医科歯科大学難治疾患研究所　教員交流シンポジウム 2023.12.14

2. 内田智士. 新型コロナウイルスワクチンの先にある mRNA ワクチン、医薬品の未来. 第 10 回みずほ医薬 · バイオカンファレンス 2023.12.13

3. 内田智士. 感染症、がんを標的とした次世代 mRNA ワクチンのための技術開発. 第 55 回 日本小児感染症学会総会 · 学術集会 2023.11.25

4. 感染症、がんを標的とした次世代 mRNA ワクチンのための技術開発. 第 45 回日本バイオマテリアル学会大会 2023.11.07

5. mRNA 医薬品のワクチンを超えた中枢神経系疾患治療への展開.　第 41 回日本神経治療学会学術集会 2023.11.05

6. 内田智士. 感染症やがんを標的とした次世代 mRNA ワクチンの開発. 第 12 回 iCONM 学術セミナー 2023.10.13

7. 内田智士. 感染症、がんを標的とした次世代 mRNA ワクチンの開発. 第 14 回日本 RNAi 研究会 2023.09.01

8. 内田智士. 感染症及びがんを標的とした mRNA ワクチンの開発. 2023 年度遺伝子 · デリバリー研究会　夏期セミナー　2023.08.27

9. 内田 智士, Saed Abbasi, 正井 三貴, 林 玲匡, Theofilus Tockary, 秋永 士朗, 片岡 一則. mRNA 単体のジェットインジェクションによる COVID-19 ワクチン. 第 39 回日本 DDS 学会学術集会 2023.07.28
10. 内田智士. mRNA ワクチン、医薬品の基盤技術開発と医療応用. 第 72 回高分子学会年次大会 2023.05.24
11. 内田智士. mRNA ワクチン、医薬品のためのナノ DDS 開発. iSeminar 2023.05.17
12. 内田智士. 今さら聞けない mRNA ワクチンの基礎. 第 97 回日本感染症学会学術集会 2023.04.29
13. 内田智士. mRNA 分子設計に着目した DDS とワクチン. 日本薬学会第 143 年会 2023.03.28
14. 内田智士. mRNA 医薬の再生医療分野への展開とバイオマテリアル. 第 22 回再生医療学会 2023.03.25
15. 内田智士. mRNA ワクチン、医薬における免疫と医用高分子. 第 73 回医用高分子研究会　〜免疫とバイオアダプティブポリマー〜 2023.03.06
16. 内田智士. mRNA ワクチン、医薬品の基盤技術、応用、今後の展望. JSSX-APDD 合同ワークショップ – 今後の医薬品開発促進への薬物動態学の貢献 (第 7 回) 2023.03.03

[その他業績]

1. 「くし型 mRNA」の創成と、がん mRNA ワクチンとして 新たながん治療に繋がるその細胞性免疫力について 〜　米国科学アカデミー紀要 PNAS に掲載　〜, 2023 年 07 月
—

[社会貢献活動]

1. mRNA ワクチンについて, 京都新聞社, 京都新聞, 2023 年 10 月 02 日 - 2023 年 10 月 03 日
2. インフルエンザのワクチン等について, 朝日放送テレビ, 正義のミカタ, 2023 年 10 月 14 日

分子構造情報学

Structural Biology

教　授　　伊藤　暢聡
准教授　　沼本　修孝
助　教　　花園　祐矢

(1) 分野概要

ゲノム配列の決定やプロテオミクスの進歩により、多くのタンパク質の一次配列やその経時的な機能が解明されてきているが、タンパク質はある特定の立体構造をとることにより初めてその機能を発揮する。いわゆるプリオン病が示すように、タンパク質の化学的組成が同じでも、その立体構造が正しくなければ活性を示さないだけでなく疾病と関連することもある。

本分野では、タンパク質を中心に生体高分子の立体構造やそれに関連した物理化学的な性質を研究することを目的としている。また、合理的薬物設計を目指し、タンパク質と低分子化合物の複合体の構造も数多く決定している。X 線結晶解析による立体構造の解析を中心に、分子生物学的手法やコンピュータシミュレーション等も利用してタンパク質の機能発現機構の研究も行っている。一方、数々の生体高分子の立体構造情報（原子座標）が蓄積されつつあり、これと情報科学を結ぶデータベースの構築にも寄与している。こうした研究がこれらのタンパク質を標的とした創薬に結びつくことを目標としている。

(2) 研究活動

当分野では、主に構造生物学の観点から、学内外の研究グループと共同で以下のような研究を展開している。

1. B 細胞共受容体の構造生物学的基盤
2. T 細胞の活性化におけるシグナル伝達機構
3. 核内受容体とリガンド分子間相互作用の分子機構
4. 細胞内シグナル伝達の制御に関わる PDZ ドメイン阻害剤の合理的設計
5. 巨大ヘモグロビンの構造基盤
6. HIV-1 複製抑制機構の分子基盤
7. リン酸化酵素を標的とした合理的薬物設計
8. 超高分解能構造による水素原子を含めた解析
9. 蛋白質立体構造データベースの改善

(3) 教育活動

担当科目：
分子構造学特論、分子構造情報学、プロジェクトセメスター

(4) 教育方針

分子構造学特論
生体高分子の立体構造を探求する構造生物学は、近年めざましい発展を遂げ、膨大な構造情報が蓄積 · 公開されており、また新規の構造も次々と報告されている。本講義は、構造生物学を専門としない学生が、こうした貴重な

成果を理解し、利用できるようにするためのものである。

分子構造情報学
X 線結晶解析を中心に生体高分子の立体構造解析の原理を学ぶ。構造生物学の最新の研究や立体構造情報の創薬への応用などについて、文献研究を通して学ぶ。実際の蛋白質を対象に、試料の大量調製や結晶などを学び、構造決定法やその精密化などの計算的手法も習得する。さらに、得られた構造データの応用方法などについても学ぶ。プロジェクトセメスターについても、同様の方針のもと研究活動の指導を行う。

(5) 研究業績

[原著]

1. Bekker GJ, Numoto N, Kawasaki M, Hayashi T, Yabuno S, Kozono Y, Shimizu T, Kozono H, Ito N, Oda M, Kamiya N. Elucidation of binding mechanism, affinity and complex structure between mWT1 tumor-associated antigen peptide and HLA-A*24:02. Protein Science. 2023.09; 32(10); e4775

2. Akiko Kamegawa, Shota Suzuki, Hiroshi Suzuki, Kouki Nishikawa, Nobutaka Numoto, Yoshinori Fujiyoshi. Structural analysis of the water channel AQP2 by single-particle cryo-EM. J Struct Biol. 2023.06; 215; 107984

3. Daisuke Kozai, Nobutaka Numoto, Kouki Nishikawa, Akiko Kamegawa, Shohei Kawasaki, Yoko Hiroaki, Katsumasa Irie, Atsunori Oshima, Hiroyuki Hanzawa, Kousei Shimada, Yutaka Kitano, Yoshinori Fujiyoshi. Recognition Mechanism of a Novel Gabapentinoid Drug, Mirogabalin, for Recombinant Human α 2 δ 1, a Voltage-Gated Calcium Channel Subunit J Mol Biol. 2023.03; 168049

[総説]

1. Yuya Hanazono, Yu Hirano, Taro Tamada, Kunio Miki. Description of peptide bond planarity from high-resolution neutron crystallography Biophysics and Physicobiology. 2023.09; 20(3); e200035

1. 花園祐矢. 高分解能中性子構造解析によるペプチド平面の再検討 生物物理. 2023.08; 63(4); 205-206

[講演・口頭発表等]

1. Yuya Hanazono, Yu Hirano, Nobutoshi Ito, Taro Tamada, Kunio Miki. Fine structure analysis of protein: Unraveling molecular details through ultra-high-resolution X-ray and neutron crystallography. The 18th International Symposium of the Institute Network for Biomedical Sciences 2023.10.06

2. Xibin Quan, Nobutaka Numoto, Takeshi Tsubata, Nobutoshi Ito. Structure and function analysis of human B cell inhibitory co-receptor CD72. The 23rd Annual Meeting of the Protein Science Society of Japan 2023.07.06

1. 藪野沙彩，沼本修孝，伊藤暢聡，東隆親，織田昌幸. 抗ニトロフェニル（NP）抗体の親和性成熟と安定性低下のトレードオフ　～変異体を用いた要因解析～. 第 2 回日本抗体学会学術大会 2023.12.02

2. Mutsumi Yoshida, Yumi Kitagawa, Masayuki Oda, Nobutaka Numoto, Nobutoshi Ito. 重鎖 CDR3 ループ内ジスルフィド結合が抗原結合や安定性に与える影響. 第 61 回日本生物物理学会年会 2023.11.14 名古屋

3. 沼本修孝, Gert-Jan Bekker, 神谷成敏, 織田昌幸, 伊藤暢聡. PET 分解酵素 Cut190 のアロステリック反応機構に基づく機能向上変異体の合理的設計. 第 23 回日本蛋白質科学会年会 2023.07.07

4. 沼本修孝. 自動測定データの結果をもらった後、どこを見るべきか. SPring-8 ユーザー共同体 (SPRUC) 放射光構造生物学研究会第 16 回研究会 2023.07.06

5. Thilakarathne N.M.Hansaka N., Kagechika Hiroyuki, Fujii Shinya, Ito Nobutoshi, Misawa Takashi, Demizu Yosuke. Diphenylsilane スキャフォールドを用いた非セコステロイド性 VDR リガンドの開発 疎水性コア構造の構造-活性相関. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2023.04.01

機能分子病態学分野

Department of Biomolecular Pathogenesis

教授　　松田　憲之
准教授　　山野　晃史
助教　　小松谷（小谷野）　史香
ポスドク　　小島　和華
ポスドク　　渡辺　藍子
技術補佐員　　山岸（菊池）麗香

＜修士課程＞
荻原　禅
遠藤　龍
澤田　百葉
保科　智之

＜学部生＞
兼松　快

＜短期交流学生＞
伊東　知哉
遅澤　咲文
杵渕　宏紀

秘書　　平野　尚子

(1) 分野概要

本分野は 2022 年に発足した、比較的新しい分野である。
細胞内には様々な機能分子やオルガネラが存在するが、多くはその機能を果たす過程でダメージを受けて、細胞内に蓄積してゆく。正常な細胞機能を維持するためには、このような“損傷を受けた機能分子や損傷オルガネラ”を選択的に除去することが重要である。一方で、生存に必須な機能分子やオルガネラを分解することは極めて危険な行為であり、このプロセスを有益なものにするためには、分解対象を正しく認識 · 識別し、厳密な制御下で分解に導く必要がある。近年、このプロセスの実行因子に関する理解が進むとともに、ヒト疾患との関連性（病態生理学的な意義）が明らかとなってきている。我々はユビキチンとオートファジーに着目しながら、“損傷を受けたタンパク質とオルガネラが細胞内で特異的に識別 · 分解されるメカニズム”と、“そのプロセスの破綻が神経変性疾患を引き起こすメカニズム”の２つを分野のメインテーマに据えて、研究解析を進めている。

(2) 研究活動

当分野の主な研究テーマは以下の通りである
1. 遺伝性潜性パーキンソン病の原因遺伝子 PINK1 と Parkin が連携して損傷ミトコンドリア表面のタンパク質にユビキチンを付加する仕組みの解明
2. ユビキチン化された損傷ミトコンドリアが選択的なオートファジー分解（マイトファジー）に導かれる仕組みと、それが遺伝性パーキンソン病の発症抑制に果たす役割の解明
3. アミノ基の翻訳後修飾に着目した、遺伝性潜性パーキンソン病の原因遺伝子 DJ-1 の分子機能の解析

4. 新たに見出したオートファジー関連因子：BCAS3- C16orf70 複合体の機能喪失がヒト遺伝性神経疾患を引き起こすメカニズムの理解
5. 損傷ミトコンドリア以外のオルガネラ（例えばペルオキシソーム）がオートファジー分解に導かれる仕組みの解明
6. 損傷オルガネラの選択的分解における膜輸送に関わる新規因子の同定と解析

(3) 教育活動

担当科目は以下の通り：医学科歯学科の学部生教育の主題別選択Ⅰ · Ⅱ (Elective Subjects Ⅰ · Ⅱ)、生命科学と技術 (Life science and technology)、医歯学総合研究科の大学院教育の生化学 (Biochemistry)、生命理工学概論 (Introduction to Biomedical Sciences and Engineering)、および疾患生命科学特論 (Biomedical Science)。これら講義（分担）を担当している。また、分野における短期交流学生 · 学部生 · 修士課程学生の研究指導を行なっている。

(4) 教育方針

当分野では、「細胞内で損傷を受けた機能分子や損傷オルガネラが選択的に認識された後に分解されるメカニズム」を細胞生物学、生化学、分子生物学、発生工学などの幅広い研究手法を駆使して理解することを目標としている。さらに、その病態生理学的な意義を明らかにすることで、遺伝性パーキンソン病を含むいくつかの神経変性疾患の発症機構の解明を目指す。
このような理念のもと、短期交流学生 · 医学科の学部生 · 医歯理工保健学専攻の修士課程大学院生 · 生命理工医療科学専攻の博士課程の大学院生、の研究指導を行なっており、各自が「批判的に論文を読み込みながら自ら工夫して先端的な研究を行う能力」を身につけることを目指す。

(5) 研究業績

[原著]

1. Yamano K, Kinefuchi H, Kojima W. Mitochondrial quality control via organelle and protein degradation. Journal of biochemistry. 2023.12;

2. Kurusu R, Fujimoto Y, Morishita H, Noshiro D, Takada S, Yamano K, Tanaka H, Arai R, Kageyama S, Funakoshi T, Komatsu-Hirota S, Taka H, Kazuno S, Miura Y, Koike M, Wakai T, Waguri S, Noda NN, Komatsu M. Integrated proteomics identifies p62-dependent selective autophagy of the supramolecular vault complex. Developmental cell. 2023.07; 58(13); 1189-1205.e11

3. Akabane S, Watanabe K, Kosako H, Yamashita SI, Nishino K, Kato M, Sekine S, Kanki T, Matsuda N, Endo T, Oka T. TIM23 facilitates PINK1 activation by safeguarding against OMA1-mediated degradation in damaged mitochondria. Cell reports. 2023.05; 42(5); 112454

4. Hayashida R, Kikuchi R, Imai K, Kojima W, Yamada T, Iijima M, Sesaki H, Tanaka K, Matsuda N, Yamano K. Elucidation of ubiquitin-conjugating enzymes that interact with RBR-type ubiquitin ligases using a liquid-liquid phase separation-based method. The Journal of biological chemistry. 2023.02; 299(2); 102822

5. Yamano K, Sawada M, Kikuchi R, Nagataki K, Kojima W, Sugihara A, Fujino T, Tanaka K, Hayashi G, Murakami H, Matsuda N. . Optineurin provides a mitophagy contact site for TBK1 activation bioRxiv. 2023.02;

1. 松田 憲之. Parkin から考察するマイトファジー測定系の現状と問題点 実験医学. 2023.03; 41(5); 682-687

[書籍等出版物]

1. 山野 晃史. 選択的オートファジーによるオルガネラ分解. 実験医学（羊土社）, 2023.08

[講演 · 口頭発表等]

1. Koji Yamano. Identification and functional analysis of a folding chaperone for RAB7A GTPase. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.06

1. 遠藤龍、松田憲之、山野晃史. RAB タンパク質の安定化と分解による品質管理. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.07 神戸ポートアイランド

2. 尾勝圭, 山野晃史, 松田憲之, 深井周也. RAB7A シャペロンによる RAB7A 認識の構造基盤. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.07 神戸ポートアイランド

3. 松田憲之、小島和華、山野晃史. ユビキチン依存性マイトファジーの進行過程における TBK1 活性化のメカニズム. 第 15 回 オートファジー研究会 2023.11.28 ナスパニューオータニ、新潟

4. 松田憲之. 遺伝性パーキンソン病の原因因子とプロテオスタシス制御. 第 17 回 日本臨床ストレス応答学会大会 2023.11.18 徳島大学 藤井節郎記念医科学センター

5. 松田 憲之, 小島 和華, 小谷野 史香, 山野 晃史. オルガネラ · ライフ · サイクル　翻訳後修飾とオートファジーを介したミトコンドリアとペルオキシソームの制御機構. 第９６回日本生化学会大会 2023.11.01 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡

6. 小谷野 史香, 山野 晃史, 小迫 英尊, 藤木 幸夫, 田中 啓二, 松田 憲之. p97/VCP-FAF2 はペルオキシソームの分解を制御する. 第９６回日本生化学会大会 2023.10.31 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡

7. 渡辺 藍子, 檜作 洋平, 秋山 芳展, 松田 憲之. YhbO のオキソアルデヒド代謝から推察するパーキンソン病原因因子 DJ-1 の分子機能. 第９６回日本生化学会大会 2023.10.31 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡

8. 荻原 禅, 小澤 有都菜, 鳥海 和也, 王 恬冉, 松田 憲之, 新井 誠. 統合失調症と関与するペントシジンの特性. 第９６回日本生化学会大会 2023.10.31 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡

9. 松田憲之. 遺伝性パーキンソン病の原因因子と細胞内分解. ERATO 水島細胞内分解ダイナミクスプロジェクト シンポジウム 2023.07.31 東京大学　伊藤国際ホール

10. 松田憲之. パーキンソン病発症に関与するミトコンドリア品質管理と細胞死. 第３１回 日本 Cell Death 学会学術集会 2023.07.15 順天堂大学小川秀興講堂

11. 松田憲之. PINK1-PARKIN 介在性マイトファジー. 第９回 がんと代謝研究会 2023.06.01 愛媛県県民文化会館

ゲノム機能情報分野

Department of Functional Genome Informatics

教授　　二階堂　愛
大学院生　田中　柚希
大学院生　脇田　舞子

(1) 分野概要

ゲノム機能情報をこれまでにない規模や精度で計測する分子生物学的技術とデータサイエンス技術の両方を高度なレベルで研究開発できる人材を育成し、次世代の医療を独創的かつ主体的に推進できる人材を輩出します。

(2) 研究業績

[原著]

1. Tsuyuzaki K, Ishii M, Nikaido I. Sctensor detects many-to-many cell-cell interactions from single cell RNA-sequencing data. BMC bioinformatics. 2023.11; 24(1); 420

2. Shima, Y; Skibbe, H; Sasagawa, Y; Fujimori, N; Iwayama, Y; Isomura-Matoba, A; Yano, M; Ichikawa, T; Nikaido, I; Hattori, N; Kato, T. Distinctiveness and continuity in transcriptome and connectivity in the anterior-posterior axis of the paraventricular nucleus of the thalamus CELL REPORTS. 2023.10; 42(10); 113309

3. Ogura Nao, Sasagawa Yohei, Ito Tasuku, Tameshige Toshiaki, Kawai Satomi, Sano Masaki, Doll Yuki, Iwase Akira, Kawamura Ayako, Suzuki Takamasa, Nikaido Itoshi, Sugimoto Keiko, Ikeuchi Momoko. WUSCHEL-RELATED HOMEOBOX 13 suppresses de novo shoot regeneration via cell fate control of pluripotent callus SCIENCE ADVANCES. 2023.07; 9(27); eadg6983

4. Tsuyuzaki Koki, Yamamoto Kentaro, Toyoshima Yu, Sato Hirofumi, Kanamori Manami, Teramoto Takayuki, Ishihara Takeshi, Iino Yuichi, Nikaido Itoshi. WormTensor: a clustering method for time-series whole-brain activity data from C. elegans BMC BIOINFORMATICS. 2023.06; 24(1); 254

5. Takada Hitomi, Sasagawa Yohei, Yoshimura Mika, Tanaka Kaori, Iwayama Yoshimi, Hayashi Tetsutaro, Isomura-Matoba Ayako, Nikaido Itoshi, Kurisaki Akira. Single-cell transcriptomics uncovers EGFR signaling-mediated gastric progenitor cell differentiation in stomach homeostasis NATURE COMMUNICATIONS. 2023.06; 14(1); 3750

6. nnTensor: An R package for non-negative matrix/tensor decomposition. 2023.04;

1. 二階堂 愛. 【病理/組織画像評価法の潮流】単一細胞オミクスと生細胞イメージング Precision Medicine. 2023.07; 6(8); 608-611

2. 二階堂 愛. 【1 細胞解析技術】総論　単一細胞オミクス研究の趨勢 細胞. 2023.06; 55(7); 362-363

3. Nishimura Hiromi, Ikawa Yayoi, Kajikawa Eriko, Shimizu-Mizuno Natsumi, Hiver Sylvain, Tabata-Okamoto Namine, Mori Masashi, Kitajima Tomoya, Hayashi Tetsutaro, Yoshimura Mika, Umeda Mana, Nikaido Itoshi, Kurokawa Mineo, Watanabe Toshio, Hamada Hiroshi. Maternal epigenetic factors in embryonic and postnatal development GENES TO CELLS. 2023.04;

[講演 · 口頭発表等]

1. Identification of gene fusion at the single-cell level from transcriptome data. 2023.01.16

1. 二階堂愛. バイオインフォマティクスとゲノム科学で挑む生命の理解. 理化学研究所生命機能科学研究センター発生 · 再生科学集中レクチャープログラム 2023.08.03
2. 二階堂愛. 基盤モデルに向けたオミクス計測の未来. AI ロボット駆動科学シンポジウム 2023 2023.07.06
3. 二階堂愛. 大規模トランスクリプトームと AI 創薬. 第 66 回日本腎臓学会学術総会 2023.06.09
4. 二階堂愛. 大規模トランスクリプトームと AI 技術による再生医療 · 創薬. 第 22 回日本再生医療学会総会シンポジウム 31 再生医療や創薬開発のためのバイオインフォマティクス 2023.03.25
5. 二階堂愛. ゲノム不安定性を 1 細胞トランスクリプトームから解析する技術. 日本抗加齢医学会 抗加齢ゲノム医学講習会 2023.02.25 福岡
6. 二階堂愛. バイオリソースを活かす 1 細胞トランスクリプトーム技術. NBRP 主催シンポジウム「バイオリソースで解決する 21 世紀の社会課題」 2023.02.23 東京
7. 二階堂愛. 難治疾患克服に必要とされるゲノム科学と AI 技術の開発. 第 7 回兵庫県立こども病院-理研 BDR 合同シンポジウム 2023.01.07

[その他業績]

1. 最前線で胃を守れ ～胃粘膜を保護する幹細胞分化制御のしくみを解明～, 2023 年 06 月
—
2. 芽を生み出すかどうか、植物カルス細胞の分化を運命づける因子をつきとめた 植物の器官再生能力を制御する新たな仕組みを発見 ～農作物の組織培養効率を飛躍的に改善する技術開発に期待～, 2023 年 07 月
—

[社会貢献活動]

1. 理化学研究所での研究室統括と研究センター運営, 2020 年 04 月 01 日 - 現在

理研生体分子制御学分野

RIKEN Molecular and Chemical Somatology

連携教授	谷内　一郎	
連携教授	袖岡　幹子	
連携教授	石垣　和慶	
連携教授	萩原　伸也	
連携教授	田中　元雅	
連携教授	渡邉　力也	
非常勤講師	宮坂　信彦	
非常勤講師	吉岡　広大	
非常勤講師	泉　正範	
非常勤講師	江越　脩祐	
非常勤講師	遠藤　良	
非常勤講師	吉田　英行	
非常勤講師	Nicolas Gailhouste	
非常勤講師	野村　高志	
非常勤講師	田上 俊輔	
非常勤講師	安藤　潤	
大学院生	D3	Nayan Suryawanshi (1 月～9 月)
	D3	Chang Jingjie (1 月～9 月)
	D2	玉井　真悟 (1 月~12 月)
	D1	原田　淳司 (4 月~12 月)
	D1	Qin Zhizhen (10 月~12 月)
	D1	Yuxin Chen (4 月～12 月)

(1)　分野概要

生体分子制御学は、生体機能を制御する低分子有機化合物から高分子タンパク質・糖・ホルモンを対象として、生物有機化学、化学生物学、構造生物学、分子免疫学、分子神経科学の基礎研究、理工異分野融合研究による生体分子の検出法の開発により、医学・生物学への応用を理解する学問分野であり、様々な分野との複合領域研究が行われている。

(2)　研究活動

1. 有機合成化学を基盤とする生体機能制御分子の創製と化学生物学研究
2. 生体機能を調節する生理活性物質の探索、標的同定、作用機作解析研究
3. 生体機能分子を用いた分子細胞病態解析と制御
4. 生体分子による免疫細胞分化の制御機構
5. 神経細胞における生体分子の解析による精神・神経変性疾患研究
6. 感染症・基礎疾患の迅速検出技術の開発から実用化へむけた研究

(3)　教育活動

・理研生体分子制御学

化学生物学、分子免疫学、分子神経科学ならびにその周辺分野における生体分子の役割と制御方法を理解し、専門的な理論と技術をもって介入し、最新技術の知識を修得する。

・理研生体分子制御学特論

化学生物学、有機合成化学、分子細胞病態学、構造生物学、分子免疫学、分子神経科学、1 分子生物物理学に必要な基礎的手法を講義し、生体機能分子を用いた最新の研究成果をもとに講義ならびに討論をする。

(4)　教育方針

生物有機化学、化学生物学、構造生物学、分子免疫学、分子神経科学、1 分子生物物理学の基礎と、医学・生物学への応用を、研究分野の鍵となる生体機能分子に着目し、最先端の研究動向について教育する。

(5)　研究業績

[原著]

1. Chang J, Yamashita M, Padhi AK, Zhang KYJ, Taniuchi I. Impaired tissue homing by the *Ikzf3*^{N159S} variant is mediated by interfering with Ikaros function. ***Front. Immunol,*** 14:1239779. (2023).
2. Endo R, Chen YK, Burke J, Takashima N, Suryawanshi N, Hui KK, Miyazaki T, Tanaka M. Dysregulation of ribosome-associated quality control elicits cognitive disorders via overaccumulation of TTC3. ***Proc Natl Acad Sci USA.*** 120(12): e2211522120 (2023)

[総説]

1. Suryawanshi N, Tanaka M. DISC1 protein aggregates in cerebrospinal fluid as a potential diagnostic biomarker for first-episode psychosis. ***Psychiatry Clin Neurosci.*** 12:630. (2023)

[書籍等出版物]

該当なし

[講演・口頭発表等]

1. Ichiro Taniuchi 「Pathogenesis of immune disorders by dysregulation of the transcription factor function」The 2nd International Symposium of Clinical Immunology. 2023 年 5 月 19 日、Kamakura, Japan.
2. Suryawanshi N, Tanaka M.「Activity-dependent translatome analysis reveals novel non-canonical translation」 RIKEN-A*STAR joint research workshop. 2023 年 11 月 22 日 A*STAR, Singapore, Singapore
3. Shingo Tamai 「Structural and functional properties for the fuzzy coat region of AD-relevant full-length tau strain fibrils」Mini-symposium on amyloids and neurological disease, 2023 年 5 月 17 日 Academia sinica, Genomics Research Center, Taiwan.

[ポスター発表]

1. Shingo Tamai, Takashi Nomura, Ryohei Kojima, Atsushi Yamagata, John W. Burke, Mikako Shirouzu, Takeshi Fukuma, Motomasa Tanaka. 「Disaggregation of AD-fold tau filaments by molecular chaperones」 THE 27TH BIOPHYSICS CONFERENCE, 2023.5.18 (Tzu Chi University, Taiwan)
2. Shingo Tamai, Takashi Nomura, Ryo Fujioka, John W. Burke, Atsushi Yamagata, Mikako Shirouzu, Hiroki Sasaguri, Motomasa Tanaka.「 Structure-dependent seeding activity of tau fibrils」 APPS2023, 2023.11.9 (Tokyo, Japan)
3. 玉井 真悟，野村 高志，児島 亮平，山形 敦史，John W. Burke，白水 美香子，福間 剛士，田中 元雅：「アルツハイマー病型タウ線維におけるファジーコート領域の電荷依存的な構造変化が及ぼす生理学的影響」 第 46 回日本分子生物学会，2023. 12. 7（神戸）
4. 玉井 真悟，野村 高志，藤岡 亮，John W. Burke，山形 敦史，白水 美香子，笹栗 弘貴，田中 元雅：「タウ線維の構造依存的なシーディング活性」 第 46 回日本分子生物学会，2023. 12. 8（神戸）

[特許]

該当なし

[受賞]

1. 玉井 真悟、ポスター発表賞 銅賞
   第 27 回 台湾生物物理学会 年会
   受賞日：2023/5/19

1. 玉井 真悟、ベストポスター賞
   アジア太平洋プリオン研究会 2023
   受賞日：2023/11/10

2. 玉井 真悟、MBSJ2023 サイエンスピッチ優秀発表賞
   第 46 回 日本分子生物学学会 年会
   受賞日：2023/12/7

[その他業績]

該当なし

[社会貢献活動]

該当なし

NCC 腫瘍医科学

NCC Cancer Science

連携教授　荒川 博文、増富 健吉
浜本 隆二、安永 正浩
連携准教授　植村 靖史、古賀 宣勝
非常勤講師　青木 一教（～3 月）
土屋 直人、吉岡 研一
塩谷 文章　関根 圭輔
大木 理恵子（4 月～）
大学院生　D3　荻原 大和、酒井 彬
新海 典夫（～3 月）
白井 隆弘（4 月～）
D2　弥益 有理（4 月～）
M2　淺井 遥圭、眞中 祐哉
加藤 萌、遠藤 承樹
林 大均、山田 拓実（4 月～）
M1　小林 直矢、進藤 昌致（4 月～）

(1)　分野概要

NCC 腫瘍医科学分野は、日本で最大級のがん専門病院・研究所を有するナショナルセンターである国立がん研究センターに設置された講座であり、築地キャンパス及び柏キャンパスを合わせて約 30 の研究室・研究分野を有し、がんの基礎的研究から臨床への橋渡し研究、新規がん予防・診断・治療法開発の基盤研究まで、がん研究におけるほぼすべての領域をカバーする内容のがんの最先端研究を行っている。学生は、この恵まれたがん研究の環境で、自由に希望する研究室を選択し、各専門領域のがん研究に従事することで、がんの最新の知識・実験手法・成果発表に関する教育を受ける。

(2)　研究活動

以下に示す研究活動を行っている。

１．がんの発生要因とそのメカニズムに関する研究
２．がん関連遺伝子の機能とその異常に関する研究
３．がんのゲノム・エピゲノム・プロテオーム解析と個別化医療
４．がんの微小環境
５．がん幹細胞・non-coding RNA・シグナル伝達

６．腫瘍標的分子・ドラッグデリバリー・診断治療法開発

(3)　教育活動

学生はがん研究を行うために必要な知識や技術の習得を目的に、第一線のがん研究者による講義やセミナー、リサーチミーティング、論文抄読会、学会発表等への参加と実践を通じて、将来独立したがん研究者として、がん研究を実践していくための基礎力を養う。また、がん研究を行うにあたって必要な遺伝学、遺伝子工学、生化学、細胞生物学、分子生物学、生理学、実験動物、病理学、ゲノム・エピゲノム・プロテオミクス解析、イメージング、次世代シークエンスなどの実験手法を、各研究グループに所属して、自らの研究テーマを実践していくことで習得する。

(4)　教育方針

学生はがん研究領域における基本的知識及び最新の動向を理解し、実験を行うための基本的手技を習得し、将来のがん研究者・がん研究専門家としての基礎を身につける。また、独自に問題点を見いだし、作業仮説を立て、実験を計画し、結果に対する考察と次の実験への計画立案を行えるようになること、さらには、研究成果をまとめて、学会での発表や論文発表を行えるようになることを目標に教育を行う。

(5)　研究業績

[原著]

1. Ikari N, Arakawa H. Identification of a mitochondrial targeting sequence in cathepsin D and its localization in mitochondria. *Biochemical and Biophysical Research Communications.* Vol.655: 25-34, 2023.
2. Matsuda Y, Ye J, Yamakawa K, Mukai Y, Azuma K, Wu L, Masutomi K, Yamashita T, Daigo Y, Miyagi Y, Yokose T, Oshima T, Ito H, Morinaga S, Kishida T, Minamoto T, Kojima M, Kaneko S, Haba R, Kontani K, Kanaji N, Okano K, Muto-Ishizuka M, Yokohira M, Saoo K, Imaida K, Suizu F. Association of longer telomere length in cancer cells and cancer-associated fibroblasts with worth prognosis. J Natl Cancer Inst. 115: 208-218, 2023.
3. Niwa T, Tahara T, Chase CE, Fang FG, Nakaoka T, Irie S, Hayashinaka E, Wada Y, Mukai H, Masutomi K, Watanabe Y, Cui Y, Hosoya T. Synthesis of 11C-Radiolabeled Eribulin as a Companion Diagnostics PET Tracer for Brain Glioblastoma. Bull Chem Soc Jpn. 96: 283–290, 2023
4. Machino H, Dozen A, Konaka M, Komatsu M, Nakamura K, Ikawa N, Shozu K, Asada K, Kaneko S, Yoshida H, Kato T, Nakayama K, Saloura V, Kyo S, Hamamoto R. Integrative analysis reveals early

epigenetic alterations in high-grade serous ovarian carcinomas. *Exp Mol Med*. 55(10): 2205-2219, 2023

5. Igarashi T, Mazevet M, Yasuhara T, Yano K, Mochizuki A, Nishino M, Yoshida T, Yoshida Y, Takamatsu N, Yoshimi A, Shiraishi K, Horinouchi H, Kohno T, Hamamoto R, Adachi J, Zou L, Shiotani B. An ATR-PrimPol pathway confers tolerance to oncogenic KRAS-induced and heterochromatin-associated replication stress. *Nat Commun*. 4(1): 4991, 2023
6. Ohata H, Shiokawa D, Sakai H, Kanda Y, Okimoto Y, Kaneko S, Hamamoto R, Nakagama H, Okamoto K. PROX1 induction by autolysosomal activity stabilizes persister-like state of colon cancer via feedback repression of the NOX1-mTORC1 pathway. *Cell Rep*. 42(6): 112519, 2023
7. Hayashi T, Takasawa K, Yoshikawa T, Hashimoto T, Sekine S, Wada T, Yamagata Y, Suzuki H, Abe S, Yoshinaga S, Saito Y, Kouno N, Hamamoto R. A discrimination model by machine learning to avoid gastrectomy for early gastric cancer. *Ann Gastroenterol Surg*. 7(6): 913-921, 2023
8. Koganemaru S, Fuchigami H, Yamashita H, Morizono C, Sunakawa H, Kawazoe A, Nakamura Y, Kuboki Y, Shitara K, Yano T, Doi T, Yasunaga M. Quantitative Analysis of the Concentration of Trifluridine in Tumor Hypoxic Regions Using a Novel Platform Combining Functional Endoscopy and Mass Spectrometry. Clin Pharmacol Ther. 115(1):62-7, 2023.
9. Tsumura R, Haruta M, Kuwano M, Yasunaga M. Expansion of mixed immune cells using CD3/CD161 co-stimulation for the treatment of cancer. Sci Rep. 13(1):6803, 2023.
10. Hiranyakorn M, Iwamoto S, Hoshinoo A, Tsumura R, Takashima H, Yasunaga M, Manabe S. Chromatographic analysis of N-glycan profile on therapeutic antibodies using Fc γ RIIIa affinity column chromatography. ACS Omega, 8(18):16513-16518. 2023
11. Fujii T, Ito K, Takahashi K, Aoki T, Takasugi R, Seki T, Iwai Y, Watanabe T, Hirama R, Tsumura R, Fuchigami H, Yasunaga M, Matsuda Y. Bispecific Antibodies Produced via Chemical Site-Specific Conjugation Technology: AJICAP Second-Generation. ACS Med Chem Lett. 14(12):1767-1773.2023.
12. Takashima H, Ohnuki K, Manabe S, Koga Y, Tsumura R, Anzai T, Wang Y, Yin X, Sato N, Shigekawa Y, Nambu A, Usuda S, Haba H, Fujii H, Yasunaga M. Tumor Targeting of 211At-Labeled Antibody under Sodium Ascorbate Protection against Radiolysis. *Mol Pharmaceut*, 20(2):1156-1167, 2023.
13. Fukuoka S, Koga Y, Yamauchi M, Koganemaru S, Yasunaga M, Shitara K, Doi T, Yoshino T, Kuronita T, Elenbaas B, Wahra P, Zhang H, Crowley L, Jenkins MH, Clark A, Kojima T. p70S6K/Akt dual inhibitor DIACC3010 is efficacious in preclinical models of gastric cancer alone and in combination with trastuzumab. *Sci Rep*, 13(1):16017, 2023.
14. Ueda T, Shiina S, Iriguchi S, Terakura S, Kawai Y, Kabai R, Sakamoto S, Watanabe A, Ohara K, Wang B, Xu H, Minagawa A, Hotta A, Woltjen K, Uemura Y, Kodama Y, Seno H, Nakatsura T, Tamada K, Kaneko S. Optimization of the proliferation and persistency of CAR T cells derived from human induced pluripotent stem cells. Nat Biomed Eng. 2023 Jan;7(1):24-37

15. Nakatsuka R, Kato T, Zhang R, Uemura Y, Sasaki Y, Matsuoka Y, Shirouzu Y, Fujioka T, Yamashita H, Hattori F, Nozaki T, Ogata H, Hitomi H. The Induction of Parathyroid Cell Differentiation from Human Induced Pluripotent Stem Cells Promoted Via TGF-α/EGFR Signaling.Stem Cells Dev. 2023 Nov;32(21-22):670-680.
16. Wu L, Gao Y, Xie S, Ye W, Uemura Y, Zhang R, Yu Y, Li J, Chen M, Wu Q, Cui P, Liu H, Mu S, Li Y, Wang L, Liu C, Li J, Zhang L, Jiao S, Zhang G, Liu T. The level of macrophage migration inhibitory factor is negatively correlated with the efficacy of PD-1 blockade immunotherapy combined with chemotherapy as a neoadjuvant therapy for esophageal squamous cell carcinoma. Transl Oncol. 2023 Nov:37:101775.
17. Suzuki, M., Fujimori, H., Wakatsuki, K., Manaka, Y., Asai, H., Hyodo, M., Matsuno, Y., Kusumoto-Matsuo, R., Shiroishi, M., and Yoshioka, K., Genome Destabilization-Associated Phenotypes Arising as a Consequence of Therapeutic Treatment are Suppressed by Olaparib. ***PLoS ONE***, **18** (2023) e0281168.

[総説]

1. Giulivi C, Zhang K, Arakawa H. Recent advances and new perspectives in mitochondrial dysfunction. Scientic Reports. 13: 7977, 2023.
2. Hamamoto R, Takasawa K, Shinkai N, Machino H, Kouno N, Asada K, Komatsu M, Kaneko S. Analysis of super-enhancer using machine learning and its application to medical biology. *Brief Bioinform*. 24(3): bbad107, 2023
3. Koga Y, Takashima H, Koganemaru S. Special Issue: Evaluation of the Antitumor Mechanism of Armed Antibodies. *Pharmaceuticals*, 16:1690, 2023.
4. Fukushima S, Miyashita A, Kuriyama H, Kimura T, Mizuhashi S, Kubo Y, Nakahara S, Kanemaru H, Tsuchiya N, Mashima H, Zhang R, Uemura Y. Future prospects for cancer immunotherapy using induced pluripotent stem cell-derived dendritic cells or macrophages. Exp Dermatol. 2023 Mar;32(3):290-296

[書籍等出版物]

1. Arakawa H. MLOs and control of metabolic pathways. *Uversky V. Droplets of life.* Elsevier. Chapter 14. 431-446, 2023.
2. 浜本　隆二. Medical AI とは, 消化器内視鏡, Vol. 35 No. 12: 1650-1659, 2023.
3. 金子　修三, 浜本　隆二：人工知能技術を駆使したがんゲノム研究への展開と今後の課題, 実験医学増刊「ポスト GWAS 時代の遺伝統計学」, Vol.41 No.7: 193-198, 2023.

[講演・口頭発表等]

（国内学会）

1. 中村　康之、 荒川　博文.　Mieap 液滴の生体内可視化：液滴はどのように腫瘍を抑制するか？ 第 82 回日本癌学会学術総会、横浜、2023 年 9 月.
2. Machitani M, Nomura A, Yamashita T, Yamashita A, Saitoh N, Masutomi K. Maintenance of genome integrity by RNA-dependent RNA polymerase activity of hTERT.　第 46 回日本分子生物学会年会、神戸、 2023 年 12 月
3. Machitani M, Nomura A, Yamashita T, Ueno T, Yamashita A, Taniguchi T, Saitoh N, Kaneko S, Kato Y, Mano H, Masutomi K. Synthetic lethality by inhibition of RNA dependent RNA polymerase activity and the Fanconi anemia/BRCA pathway. 第 82 回日本癌学会学術総会、横浜、2023 年 9 月
4. Machitani M, Nomura A, Yamashita T, Yamashita A, Saitoh N, Masutomi K. R-loop regulation by RNA-dependent RNA polymerase activity of hTERT. 第 24 回日本 RNA 学会年会、那覇、2023 年 7 月
5. 新海　典夫、金子　修三、浅田　健、高澤　建、小松　正明、浜本　隆二. 解析対象サンプル群のマルチオミックス情報及び転写因子公共情報に基づいたがん関連スーパーエンハンサー評価プラットフォームの構築.　第 5 回日本メディカル AI 学会学術集会、東京、2023 年 6 月.
6. 椎野　翔、河野　伸次、高澤　建、浜本　隆二. Machine Learning for Prognosis Prediction in Japanese Breast Cancer Patients: A Retrospective Study. 第 82 回日本癌学会学術総会、横浜、2023 年 9 月.
7. 高澤　建、立石　晶子、河野　伸次、白石　航也、河野　隆志、堀之内　秀仁、浜本　隆二. WES データに基づく Overlapping Group LASSO を用いた肺がん早期再発リスク因子の探索. 第 82 回日本癌学会学術総会、横浜、2023 年 9 月.
8. 小林　和馬、浜本　隆二、Learning Global and Local Features of Normal Brain Anatomy for Unsupervised Abnormality Detection. 第 82 回日本癌学会学術総会、横浜、2023 年 9 月.
9. 東　哲平、高島　大輝、安西　高廣、津村　遼、船坂　千華子、安永　正浩. 血液脳関門が抗体の送達に与える影響の解析.第 39 回日本 DDS 学会学術集会、千葉、2023 年 7 月 27 日
10. 多田　有花、安西　高廣、津村　遼、阿部　由督、安永　正浩. リサイクリング機能に着目した抗体 DDS 製剤の開発.　第 39 回日本 DDS 学会学術集会、千葉、2023 年 7 月 27 日
11. 津村　遼、安西　高廣、高島　大輝、古賀　宣勝、松村　保広、安永　正浩. Development of an antibody-drug conjugate against tissue factor for cancer therapy. 第 82 回日本癌学会学術総会、横浜、2023 年 9 月 21 日

12. 高島　大輝、ヒランヤコン メタニー、岩本 将吾、星野　尾麻子、眞鍋　史乃、安永　正浩. Pharmacokinetic profile of glyco-engineered antibodies. 第 82 回日本癌学会学術総会、横浜、2023 年 9 月 21 日
13. 高島　大輝、大貫　和信、眞鍋　史乃、古賀　宣勝、津村　遼、安西　高廣、YIN Xiaojie、羽場　宏光、藤井　博史、安永　正浩. 能動的標的化を維持管理することが α 線放出核種アスタチン-211 結合抗体の薬効を最大化するために重要である. 第 39 回日本 DDS 学会学術集会、千葉、2023 年 7 月.
14. 津村　遼、安西　高廣、高島　大輝、古賀　宣勝、松村　保広、安永　正浩. 組織因子（tissue factor, TF）に対する抗体抗がん剤複合体の開発. 第 39 回日本 DDS 学会学術集会、千葉、2023 年 7 月.
15. 高橋　真理、多田　康子、中井　仁美、竹島　友美枝、島村　真奈、面矢　吹雪、山岸　康輝、矢野　友規、古賀　宣勝. 国立がん研究センター柏キャンパスにおけるトランスレーショナル研究試料支援体制. 第 8 回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム、千葉、2023 年 7 月.
16. 多田　康子、高橋　真理、中井　仁美、竹島　友美枝、島村　真奈、面矢　吹雪、尾崎　菜緒子、飯野　由貴、山岸　康輝、古賀　宣勝. トランスレーショナル研究における研究試料の品質マネジメントシステム. 第 82 回日本癌学会学術総会、横浜、2023 年 9 月.
17. 津村　遼、安西　高廣、高島　大輝、古賀　宣勝、松村　保広、安永　正浩. 組織因子（tissue factor, TF）に対する抗体抗がん剤複合体の開発. 第 2 回日本抗体学会学術大会、鹿児島、2023 年 12 月.
18. 遠藤　承樹、五十嵐　太一、加藤　萌、矢野　公義、塩谷　文章. DNA 複製速度に影響を及ぼす因子の探索. 第 46 回日本分子生物学会年会、神戸、2023 年 12 月.
19. 加藤 萌、矢野 公義、遠藤 承樹、五十嵐 太一、小林 祥久、塩谷 文章. DNA 複製を介した Osimertinib 耐性メカニズムの解明. 第 46 回日本分子生物学会年会、神戸、2023 年 12 月
20. 松尾理加、淺井遙圭、眞中祐哉、秋葉直輝、松野悠介、吉岡研一. 紫外線 C 波によるクローン進化への影響. 第 66 回日本放射線影響学会、東京、2023 年 11 月.
21. 林 大鈞、海野 研二、荒川 博文、関根 圭輔. Analysis of stroma influence on pancreatic cancer heterogeneity using patient-derived organoid co-culture system.第 82 回日本癌学会学術総会、横浜、2023 年 9 月
22. 林 大鈞、海野 研二、荒川 博文、関根 圭輔. Analysis of pancreatic cancer heterogeneity using single-cell RNA sequencing of patient-derived organoid co-culture system. 第 9 回がんと代謝研究会、愛媛、2023 年 5 月
23. 林 大鈞、海野 研二、荒川 博文、関根 圭輔. Analysis of Pancreatic Cancer Heterogeneity Using Patient-derived Organoid Co-culture System.第 32 回日本がん転移学会学術集会・総会、仙台、2023 年 7 月
24. 小林　直矢、青木　清乃、チン　ヨ、山本　雅大 、塩川　大介、大木　理恵子. 肝臓がんにおける PHLDA family の機能解析. 第 46 回日本分子生物学会年会、神戸、2023 年 12 月.

（海外学会）

1. Machitani M, Nomura A, Yamashita T, Ueno T, Yamashita A, Taniguchi T, Kaneko S, Kato Y, Mano H, Masutomi K. Maintenance of R-loop structures by phosphorylated hTERT to preserve genome integrity. CSHL Meeting-Telomeres & Telomerase-, May 2023

（招待講演）

1. Hirofumi Arakawa. Warburg effect as an anti-apoptotic strategy for cancer cells and membrane-less organelles involved in cardiolipin metabolism.　KSMRM（Korean Society for Mitochondrial Research and Medicine）2023,　Wonju, Korea. September 2023.
2. 荒川　博文. がんの細胞死回避戦略としてのワールブルグ効果とカルジオリピン代謝を制御する Mieap 液滴のがん抑制作用について.　第 31 回日本 Cell Death 学会学術集会、2023 年 7 月.
3. 増富　健吉.、がん幹細胞の機能維持におけるテロメラーゼ酵素の役割. Urology Seminar in 東北信、長野市、2023 年 2 月
4. 浜本　隆二. 実臨床応用を目標とした医療 AI 研究開発. 第 120 回日本内科学会講演会、東京、2023 年 4 月.
5. 浜本　隆二. 医療人工知能の現況と将来の発展. 第 31 回日本医学会総会・会頭特別企画、東京、2023 年 4 月.
6. 浜本　隆二. Cancer research using data-driven AI for clinical application. 第 82 回日本癌学会学術総会・シンポジウム、横浜、2023 年 9 月.
7. 浜本　隆二. AI を用いた医療ビッグデータ解析と臨床応用に向けた取り組み. 第 61 回日本癌治療学会学術集会・特別企画ワークショップ、横浜、2023 年 10 月.
8. 安永　正浩. DDS・分子イメージング・細胞生物学を駆使した 2 重特異性抗体の開発　第 15 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会・総会　共催ランチョンセミナー 3　2023 年 6 月 24 日

細胞分子医学分野

Department of Cellular and Molecular Medicine

准教授　　佐々木　純子

(1) 分野概要

細胞膜リン脂質の一種であるイノシトールリン脂質は、グリセロール骨格に二つのアシル基とイノシトールが結合した構造を持ちます。イノシトール環の 3 ヶ所の水酸基が可逆的なリン酸化を受ける結果、7 種類のリン酸化派生体（PIPs）が生成され、各 PIPs は各々に特有に結合する分子の局在や活性を制御することで、多岐にわたる細胞応答に関与します。一方疎水性部分である二つのアシル基については、組成の異なる多数の分子種が存在することが明らかにされているものの、機能的差異についてはわかっていません。私たちの研究分野では、アシル基組成の違いを含めた PIPs 分子種の機能解明を目指しています。

(2) 研究活動

ヒトやマウスの正常組織ではアラキドン酸を含む PIPs 分子種が多いことが知られていますが、前立腺癌組織では二重結合数の少ない PIPs 分子種の割合が増加することを見出しています。そこで現在私たちは、PIPs 分子種の病態生理的な機能に着目して 3 つの観点から解析を進めています。①細胞増殖や分化 · 運動などの細胞生理応答と PIPs 分子種の関連を明らかにするとともに、②私たちがこれまでに作製してきた PIPs 代謝酵素欠損マウスや疾患モデルマウスを用いて、病態と関連する興味深い PIPs 分子種を見出し、③新たな実験系を開発しながら、病態と関連する PIPs 分子種の結合タンパク質を探索します。

(3) 教育活動

【大学院生の研究課題】

1. 癌と PIPs 分子種
2. 炎症と PIPs 分子種
3. 性分化疾患と PIPs 分子種

(4) 教育方針

各学生に独立した研究テーマを設定し、研究実践を通して実験科学の知識やスキルを指導します。周囲の研究者と協力しながら、新規性、独創性の高い研究の立案、遂行、情報発信ができる科学者の養成を目標としています。

(5) 研究業績

[原著]

1. Tamara A M Chessa, Piotr Jung, Arqum Anwar, Sabine Suire, Karen E Anderson, David Barneda, Anna Kielkowska, Barzan A Sadiq, Ieng Wai Lai, Sergio Felisbino, Daniel J Turnham, Helen B Pearson, Wayne A Phillips, Junko Sasaki, Takehiko Sasaki, David Oxley, Dominik Spensberger, Anne Segonds-Pichon, Michael Wilson, Simon Walker, Hanneke Okkenhaug, Sabina Cosulich, Phillip T Hawkins, Len R Stephens. PLEKHS1 drives PI3Ks and remodels pathway homeostasis in PTEN-null prostate. Mol Cell. 2023.08; 83(16); 2991-3009.e13

2. Dang Minh Tran, Nozomu Yoshioka, Norihisa Bizen, Yukiko Mori-Ochiai, Masato Yano, Shogo Yanai, Junya Hasegawa, Satoshi Miyashita, Mikio Hoshino, Junko Sasaki, Takehiko Sasaki, Hirohide Takebayashi. Attenuated cerebellar phenotypes in Inpp4a truncation mutants with preserved phosphatase activity. Dis Model Mech. 2023.07; 16(7);

3. Akihiro Iguchi, Sho Takatori, Shingo Kimura, Hiroki Muneto, Kai Wang, Hayato Etani, Genta Ito, Haruaki Sato, Yukiko Hori, Junko Sasaki, Takashi Saito, Takaomi C Saido, Tsuneya Ikezu, Toshiyuki Takai, Takehiko Sasaki, Taisuke Tomita. INPP5D modulates TREM2 loss-of-function phenotypes in a β-amyloidosis mouse model. iScience. 2023.04; 26(4); 106375

4. Yusuke Kiyoki, Takayasu Kato, Sakura Kito, Takashi Matsuzaka, Shin Morioka, Junko Sasaki, Kenichi Makishima, Tatsuhiro Sakamoto, Hidekazu Nishikii, Naoshi Obara, Mamiko Sakata-Yanagimoto, Takehiko Sasaki, Hitoshi Shimano, Shigeru Chiba. The fatty acid elongase Elovl6 is crucial for hematopoietic stem cell engraftment and leukemia propagation. Leukemia. 2023.03;

5. Takahito Miyake, Yuichi Inoue, Xinyan Shao, Takehito Seta, Yuto Aoki, Khanh Tien Nguyen Pham, Yuichi Shichino, Junko Sasaki, Takehiko Sasaki, Masahito Ikawa, Yoshiaki Yamaguchi, Hitoshi Okamura, Shintaro Iwasaki, Masao Doi. Minimal upstream open reading frame of Per2 mediates phase fitness of the circadian clock to day/night physiological body temperature rhythm. Cell Rep. 2023.02; 112157

[講演・口頭発表等]

1. 柳井翔吾、佐々木純子、長谷川純矢、佐々木雄彦. ホスファチジルイノシトール-3,4,5-三リン酸（PIP3）は性分化期における精巣形成に必要である. 第 46 回分子生物学会 2023.12.08 神戸, 兵庫

2. 柳井翔吾、佐々木純子、佐々木雄彦. 性維持機構におけるイノシトールリン脂質の機能の解明. 第 20 回生命科学研究会 2023.10.27 東京大学, 東京

3. Yanai, Shogo; Sasaki Junko, Sasaki, Takehiko. The Role of Phospholipid Metabolism in Gonadal Mainte The 18th international Symposium of the institute Network for Biomedical Science 2023.10.06 TMDU, Tokyo

4. Junko Sasaki, Toshiyoshi Yamamoto, Takehiko Sasaki. Phosphoinositide profiling in cancer cells and tissues.. BIOCHEMICAL SOCIETY, The PI3K-AKT-mTOR-PTEN pathway: a new era in basic research and clinical translation 2023.09.14 Barcelona, Spain

5. Junko Sasaki, Takehiko Sasaki. Structural and Functional Dissection of Phosphoinositides. Babraham Institute seminar 2023.09.12

6. Junko Sasaki, Shogo Yanai, Toshiyoshi Yamamoto, Takehiko Sasaki. Structural and Functional Dissection of Phosphoinositides.. University College London seminar 2023.09.11 London, UK

7. Yusuke Kiyoki, Takayasu Kato, Sakura Kito, Takashi Matsuzaka, Shin Morioka, Junko Sasaki, Kenichi Makishima, Tatsuhiro Sakamoto, Hidekazu Nishikii, Naoshi Obara, Mamiko Sakata-Yanagimoto, Takehiko Sasaki, Hitoshi Shimano, and Shigeru Chiba. ELOVL6 regulates engraftment of hematopoietic cells through the PI3K pathway.. The 28th European Hematology Association Congress 2023.06.08 Frankfurt, Germany

8. Aya Toyoshima , Natsuko Noguchi , Junko Sasaki , TakehikoSasaki, Motomu Manabe , Shin-Ichi Osada. Selective blockade of phosphatidylinositol-3 kinase γ suppresses the development of cutaneoussquamous cell carcinoma. FIRST INTERNATIONAL SOCIETIES FOR INVESTIGATIVE DERMATOLOGY MEETING 2023.05.10 Keio Plaza Hotel Tokyo, Japan

領域創成科学分野

Interdisciplinary Sciences

教授　檜枝 光憲　（物理学分野）
教授　柳下 和慶　（フィジカルウェルビーイング分野）
教授　中林　潤　（数学分野）
教授　奈良 雅之　（化学分野）
准教授　徳永 伸一　（数学分野）

(1) 分野概要

医用分光学、物理学、数学、フィジカルウェルビーイング、などといった様々な学問の融合領域の研究を対象とする。

(2) 研究活動

1. 生命分子スペクトル解析学
2.AI による肝臓がん病理組織の画像解析
3. 軟部組織外傷における高気圧酸素環境による治癒促進に関する研究
4. 生命科学におけるネットワーク構造の基礎としてのグラフ理論の諸問題

(3) 教育活動

大学院の講義としては、「時間 · 空間の分子生命科学」を開講している。

(4) 研究業績

[原著]

1. Shunsuke Ohji, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Takehiro Ohmi, Sho Mitomo, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. Kinesiophobia Is Negatively Associated With Psychological Readiness to Return to Sport in Patients Awaiting Anterior Cruciate Ligament Reconstruction. Arthroscopy. 2023.09; 39(9); 2048-2055

2. Naoki Yamamoto, Ryohei Takada, Tetsuya Jinno, Kazumasa Miyatake, Naoto Watanabe, Hideyuki Koga, Toshitaka Yoshii, Kazuyoshi Yagishita, Atsushi Okawa. Wear rate and osteolysis in two types of second-generation annealed highly cross-linked polyethylene in total hip arthroplasty: A retrospective comparative study with a minimum of five years. Orthop Traumatol Surg Res. 2023.02; 109(1); 103147

3. Takehiro Ohmi, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Shunsuke Ohji, Sho Mitomo, Toshiyuki Ohara, Kazuyoshi Yagishita. Biomechanical characteristics of the lower extremities during running in male long-distance runners with a history of medial tibial stress syndrome: a case control study. BMC Musculoskelet Disord. 2023.02; 24(1); 103

4. Airi Kaneko, Junko Taniguchi, Masaru Suzuki, Mitsunori Hieda. Simultaneous Measurements of 4He Confined in an Oriented Porous Membrane by 32 and 100 kHz Tuning Forks Proceedings of the 29th International Conference on Low Temperature Physics (LT29). 2023; (38); 011005

5. Murofushi Koji, Oshikawa Tomoki, Akuzawa Hiroshi, Yamaguchi Daisuke, Hirohata Kenji, Furuya Hidetaka, Mitomo Sho, Kaneoka Koji, Yagishita Kazuyoshi. Trunk muscle activation in side plank exercises with and without external-focus instruction ISOKINETICS AND EXERCISE SCIENCE. 2023; 31(1); 29-36

6. Koji Murofushi, Daisuke Yamaguchi, Koji Kaneoka, Tomoki Oshikawa, Hiroki Katagiri, Kenji Hirohata, Hidetaka Furuya, Sho Mitomo, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. The effectiveness of corrective exercises on the KOJI AWARENESS score and activity-related pain intensity. J Med Invest. 2023; 70(1.2); 208-212

7. Kumiko Kasashi, Ayaka Sato, Mark Stuart, Úna Hollywood, Marina Kawaguchi-Suzuki, Kazuyoshi Yagishita, Takao Akama. The Tokyo 2020 Olympic and Paralympic pharmacy services during the COVID-19 pandemic. J Am Pharm Assoc (2003). 2023; 63(4); 1156-1161

8. Norihiro Kuroki, Kazuyoshi Yagishita, Keiki Shimizu, Sachiko Okuaki, Yuuri Doi, Yuki Arakawa, Tomotsugu Nakano, Takao Akama. Emergency department activities at the Athletes' Village during the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games. Acute Med Surg. 2023; 10(1); e905

[総説]

1. 澤野頼子、奈良雅之. 2 年次における教養化学のカリキュラムについて 東京医科歯科大学教養部研究紀要. 2023.03; (53); 25-34

[講演 · 口頭発表等]

1. Azimjon A. Temurjonov, 宮内雄也, 清水康弘, 伊藤正行, 小林義明, 檜枝光憲, 和田信雄, 松下琢. ナノトンネル中に形成した 1 次元 3He 流体のスピン拡散 II. 第 78 回年次大会（2023 年） 2023.09

2. Azimjon A. Temurjonov, 松下琢, 檜枝光憲, 和田信雄. ナノ多孔体熱交換器の性能評価 II. 第 78 回年次大会（2023 年） 2023.09

3. Azimjon Temurjonov, Yuya Miyauchi, Yasuhiro Shimizu, Masayuki Itoh, Yoshiaki Kobayashi1, Mitsunori Hieda, Nobuo Wada, Taku Matsushita. Spin diffusion of dilute 3He fluid in 4He-precoated 1D nanochannels. International Symposium on Quantum Fluids and Solids, QFS2023 2023.07

4. Azimjon Temurjonov, Taku Matsushita, Mitsunori Hieda, Nobuo Wada. Performance Evaluation of the Nanopore Heat Exchanger. International Symposium on Quantum Fluids and Solids, QFS2023 2023.07

1. 中禮 宏，吉田浩美，杉井麻耶，柘植昂太，佐瀬裕子，永田将司，林 海里，外川海斗，藤野祥子，柳下和慶. 糖質コルチコイドの口腔内局所使用に関する情報共有について. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

2. 外川海斗，中禮 宏，林 海里，高橋優美，清水慎太郎，堀田葉子，原口貴久，立石智彦，柳下知慶，田邊 元，上野俊明. カスタムメイドフェイスガード使用により競技生活を継続できているプロフットサル選手の一例. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜

3. 吉田 龍, 大関 信武, 安斎 健太朗, 池田 達宣, 秀 恵輔, 柳下 和慶, 古賀 英之. ラグビーリーグワン Division3 の 1 チームにおける脳振盪の発生率. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

4. 秀 恵輔, 大関 信武, 安斎 健太朗, 吉田 龍, 池田 達宣, 柳下 和慶, 古賀 英之. コンタクトスポーツにおけるハムストリング付着部損傷. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

5. 高澤 祐治, 赤間 高雄, 柳下 和慶, 近藤 尚知, 大内 洋, 清水 和弘, 河野 一郎. 医学教育とアンチ · ドーピング　医学教育モデル · コア · カリキュラム改訂とスポーツ医学の位置づけ. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

6. 柳下 和慶, 塩田 幹夫, 星野 傑. トレーニング 1　リカバリー　軟部組織外傷に対するアイシングのリカバリーへの影響. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

7. 桜沢貴俊、大久保 淳、干川 祐樹、山下 隼斗、出牛 雅也、小森 慈人、平澤 幸太郎、藤巻 愛子、柳下 和慶. 高気圧環境下における気管チューブのカフ管理方法の比較検討. 第 57 回　日本高気圧環境 · 潜水医学会学術集会 2023.09.22 大田区

8. 平澤　幸太郎. 第 2 種高気圧酸素治療装置における環境圧の変化に伴う実酸素流量の実際. 第 57 回　日本高気圧環境 · 潜水医学会学術集会 2023.09.22 大田区

9. 大久保淳. CLTI 患者における補助療法の実際—レオカーナと HBO 併用—. 第 57 回　日本高気圧環境 · 潜水医学会学術集会 2023.09.22 大田区

10. 沼沢 益行, 須永 昌代, 中川 美奈, 中林 潤, 木下 淳博. 教学 IR における統計解析を支援する、Excel 上の簡便な操作で R と連動するツールの開発. 第 55 回日本医学教育学会大会 2023.07.29 長崎

11. 第 2 種装置を用いた高気圧酸素治療における経鼻チューブ併用が経皮酸素分圧へ及ぼす影響. 第 33 回　日本臨床工学会 2023.07.22 広島市

12. 大久保　淳, 桜沢貴俊, 干川祐樹, 山下隼斗, 出牛雅也, 平澤幸太郎, 藤巻愛子, 小栁津卓哉, 柳下和慶. 高気圧酸素治療とレオカーナを含む集学的治療が有用であった透析 CLTI 患者の一例. 第 22 回　日本高気圧環境 · 潜水医学会関東地方会学術集会 2023.07.01 墨田区

13. 桜沢貴俊, 大久保淳, 干川祐樹, 山下隼斗, 出牛雅也, 小森慈人, 平澤幸太郎, 藤巻愛子, 柳下和慶. 高気圧環境下における気管チューブのカフ管理方法に関する実験的検討. 第 22 回　日本高気圧環境 · 潜水医学会関東地方会学術集会 2023.07.01 墨田区

14. 平澤幸太郎, 桜沢貴俊, 大久保淳, 干川祐樹, 山下隼斗, 出牛雅也, 藤巻愛子, 柳下和慶. 経鼻チューブ併用時の酸素投与方法に関する検討. 第 22 回　日本高気圧環境 · 潜水医学会関東地方会学術集会 2023.07.01 墨田区

15. 奈良雅之、森井尚之、坂本章、宮川拓也、田之倉優. 赤外分光によるトロポニン C の Ca2+配位構造解析—配位子置換が Ca2+配位構造に及ぼす影響. 第 49 回生体分子科学討論会 2023.06.20

16. 中川佳太, 水谷幸嗣, 渡辺数基, 齋藤夏実, 竹村修, 坂庭愛理, 三上理沙子, 城戸大輔, 武田浩平, 小湊広美, 服部淳彦, 岩田隆紀. 糖尿病モデルラットにおける実験的歯周炎の治癒期の網羅的遺伝子発現解析. 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会　2023.05.26 高松

17. 奈良雅之、丸山雄介、服部淳彦、新居田恭弘. 赤外イメージングによるキンギョとメダカのウロコの構造解析. 第 83 回分析化学討論会 2023.05.20

18. 奈良雅之、森井尚之、坂本章、宮川拓也、田之倉優. ATR-FTIR による合成ペプチドアナログの構造解析—配位子置換が Ca2+配位構造に及ぼす影響. 日本化学会第 103 春季年会 2023.03.22

[その他業績]

1. セルフ · スクリーニングテスト KOJI AWARENESS〜KOJI AWARENESS〜, 2023 年 01 月
PLoS One

[社会貢献活動]

1. 高気圧治療の外傷への応用, 共同通信社, 医療面向け企画「医療新世紀」, 2023 年 02 月 17 日 - 現在

2. 中高生のための科学の研究体験実習 (オンライン版）, 2023 年 03 月 28 日

データ科学アルゴリズム設計 · 解析分野

Department of Data Science Algorithm Design and Analysis

教授　坂内　英夫
助教　D I P T A R A M A　H E N D R I A N
助教　K O E P P L　D O M I N I K

(1) 分野概要

データ科学設計 · 解析分野では、M&D 分野において生成される各種シーケンスデータ · センサデータ等の大規模データを迅速に処理 · 分析 · 活用するための手法を研究している。主に文字列 · 系列データに対して、パターン照合 · 検索、特徴抽出 · 発見、データ圧縮 · 圧縮データ処理等、様々な処理を高速かつ省領域に行うアルゴリズムとデータ構造の設計やその性能解析を行っている。また、それらの手法の理論的基盤となる文字列組合せ論の研究も行っている。

(2) 研究活動

本分野では主に以下のテーマについて研究を行なっている
1. パターン照合 · 検索，特徴抽出 · 発見のアルゴリズムとデータ構造
2. データ圧縮 · 圧縮処理のアルゴリズムとデータ構造
3. 文字列組合せ論

(3) 研究業績

[原著]

1. Yuta Fujishige, Yuki Tsujimaru, Shunsuke Inenaga, Hideo Bannai, Masayuki Takeda. Linear-time computation of DAWGs, symmetric indexing structures, and MAWs for integer alphabets Theoretical Computer Science. 2023.09; 973; 114093

2. Aaron Hong, Marco Oliva, Dominik Köppl, Hideo Bannai, Christina Boucher, Travis Gagie. Acceleration of FM-Index Queries Through Prefix-Free Parsing Proc. 23rd International Workshop on Algorithms in Bioinformatics (WABI 2023). 2023.09; 273; 13:1-13:16

3. Kouta Okabe, Takuya Mieno, Yuto Nakashima, Shunsuke Inenaga, Hideo Bannai. Linear-Time Computation of Generalized Minimal Absent Words for Multiple Strings Proc. 30th International Symposium on String Processing and Information Retrieval (SPIRE 2023). 2023.09; 14240; 331-344

4. Hideo Bannai, Jonas Eller. Lyndon Arrays in Sublinear Time Proc. 31st Annual European Symposium on Algorithms (ESA 2023). 2023.09; 274; 14:1-14:16

5. Haruki Ideguchi, Diptarama Hendrian, Ryo Yoshinaka, Ayumi Shinohara. Efficient Parameterized Pattern Matching in Sublinear Space Proceedings of the 30th International Symposium on String Processing and Information Retrieval (SPIRE 2023). 2023.09; 271-283

6. Bannai Hideo, Tomohiro I, Koeppl Dominik. Longest bordered and periodic subsequences INFORMATION PROCESSING LETTERS. 2023.08; 182;

7. Yutaro Numaya, Diptarama Hendrian, Ryo Yoshinaka, Ayumi Shinohara. Identification of Substitutable Context-Free Languages over Infinite Alphabets from Positive Data Proceedings of the 16th International Conference on Grammatical Inference (ICGI 2023). 2023.07; 23-34

8. Hideo Bannai, Mitsuru Funakoshi, Kazuhiro Kurita, Yuto Nakashima, Kazuhisa Seto, Takeaki Uno. Optimal LZ-End Parsing Is Hard Proc. 34th Annual Symposium on Combinatorial Pattern Matching (CPM 2023). 2023.06; 3-11

9. Hideo Bannai, Tomohiro I, Tomasz Kociumaka, Dominik Köppl, Simon J. Puglisi. Computing Longest Lyndon Subsequences and Longest Common Lyndon Subsequences Algorithmica. 2023.04;

10. Inferring Strings from Position Heaps in Linear Time 2023.03; 115-126

11. Benedikt Kirsch-Gerweck, Leonard Bohnenkämper, Michel T Henrichs, Jarno N Alanko, Hideo Bannai, Bastien Cazaux, Pierre Peterlongo, Joachim Burger, Jens Stoye, Yoan Diekmann. HaploBlocks: Efficient Detection of Positive Selection in Large Population Genomic Datasets Molecular Biology and Evolution. 2023.02; 40(3);

12. Yuuki Yonemoto, Yuto Nakashima, Shunsuke Inenaga, Hideo Bannai. Space-Efficient STR-IC-LCS Computation Lecture Notes in Computer Science. 2023.01; 372-384

1. Szymon Grabowski, Dominik Köppl. Space-efficient Huffman codes revisited Information Processing Letters. 2023.01; 179; 106274

[講演 · 口頭発表等]

1. 森竹 涼樹, 熊谷 滉士郎, ディプタラマ ヘンリアン, 吉仲 亮, 篠原 歩. ネックレス文字列上の極小単出現と極大反復出現の計算. 冬の LA シンポジウム 2023.02.01

2. 熊谷 滉士郎, ディプタラマ ヘンリアン, 吉仲 亮, 篠原 歩. EMOW 型ポジションヒープの逆問題. 冬の LA シンポジウム 2023.01.30

医化学分野

Department of Medical Chemistry

教　授　　瀬川　勝盛
助　教　　宮田　佑吾
外国人特別研究員　Sultan Cheryl Sophia
技術補佐員　栗林　梨沙
技術補佐員　西本　萌恵
秘　書　　澤田千賀子

(1) 分野概要

医化学分野では、生化学と分子遺伝学を用いて細胞を理解すること、そしてその先にある生命や疾患を理解することを目指します。

(2) 研究活動

哺乳類細胞の細胞膜は非対称に分布するリン脂質二重層で構成される。すなわち、アミノリン脂質であるホスファチジルセリン (PtdSer) やホスファチジルエタノールアミン (PtdEtn) は細胞質側の内層に局在するのに対し、ホスファチジルコリン (PtdCho) やスフィンゴミエリン (SM) は主に外層に分布する。細胞はダイナミックに細胞膜リン脂質の分布を変化させることで、生体の恒常性を維持する。リン脂質を移層させる分子として、３つのタイプの膜脂質移層分子 （フリッパーゼ、フロッパーゼ、スクランブラーゼ）が存在する。本研究分野では、細胞のさまざまな膜脂質移層分子を同定し、その生理機能と病態学的意義を明らかにする研究を進めている。

(3) 研究業績

[総説]

1. 宮田 佑吾, 瀬川 勝盛. 細胞膜リン脂質の非対称性と脆弱性 Cytometry Research. 2023.04; 32(2); 11-16

生体検査科学講座

形態情報解析学分野

Pathology and Anatomical Sciences

（旧形態 · 生体情報解析学分野）
教授　星　治
助教　藤代　瞳
博士（前期）　瀬下　奈々美、手島　麻貴、船橋　茉由、宍戸　優歩

（旧分子病理検査学分野）
講師（キャリアアップ）　副島　友莉恵
博士 (前期)　髙橋　希、中堀　未依子、藤井　奎称

(1)　分野概要

（旧形態 · 生体情報解析学分野）
形態 · 生体情報解析学分野は、解剖学 · 生理学を主な担当科目としている。解剖学は正常なからだの形態と構造を器官から細胞、分子レベルまで究明するもので、医学の最も基礎的な領域である。生理学は人体の各構成要素がどのようなメカニズムで発現し、全体として統合されているかを追及する教科である。人体全体を科学的にとらえる上で、解剖学と生理学は車の両輪のようなもので、専門科目を学ぶための基盤となる。学生には確固たる基盤が形成され、臨床への橋渡しがうまくいくよう教育を行っている。

（旧分子病理検査学分野）
病理学は疾病の本態を解明する、基礎と臨床の両者にまたがった医学、医療の基本となる学問である。
病理検査学は、組織診、細胞診、免疫組織化学、遺伝子検査、電子顕微鏡等さまざまな検査 · 診断法により、より質の高い病理診断へと繋げる役割を担う学問である。本分野では病理学と病理検査学の両方の側面から疾病の本態を深く探求している。

(2)　研究活動

（旧形態 · 生体情報解析学分野）
電子顕微鏡をはじめとしたさまざまな顕微鏡技術を用いて、生体組織の微細構造を観察し、新たな科学的知見を得ることに主眼をおいて進めている。なかでも原子間力顕微鏡の医生物学分野への応用については、新規のイメージング技術の開発など、先端的な内容の展開を図っている。

（旧分子病理検査学分野）
本分野では病因 · 病態を考察、解明し、更には診断に寄与し得るような検査法の理論や手法を探究、開発するため以下の研究を行っている。
1. 胆管癌の進展に関わる分子病理学的解析および新規治療法の開発
2. 細胞診画像を用いたデジタルコンテンツの作成、AI 画像診断の開発
3. 開発途上国における病理診断 · 病理技術の発展

(3)　教育活動

（旧形態 · 生体情報解析学分野）
検査技術学専攻：人体構造学講義、人体構造学実習、生理学講義、生理学実習、総合講義、卒業研究
看護学専攻：解剖学、生理学

生体検査科学専攻：形態 · 生体情報解析学特論 A、形態 · 生体情報解析学実験 A、形態 · 生体情報解析学特論

（旧分子病理検査学分野）
学部では、病理検査学講義 (Ⅰ , Ⅱ)，病理検査学実習（検査技術学専攻)、病理学（看護学専攻）で基本的な疾病病変の病因 · 病態を学ぶ。
大学院では、より高度な病理専門技術と国際的な広い視野で分子病理学的検査の理論や方法を探究、開発、体系化することを目的として教育 · 研究を行っている。

(4) 教育方針

(旧形態 · 生体情報解析学分野)
１）学部教育
基礎医学の学習や研究を興味をもって学生が能動的に行えるように、学生からフィードバックされる内容を参考に、講義 · 実習の方法を改良しながら教育 · 研究指導に臨んでいる。

２）大学院教育
仮説をたて、それを検証するための実験を行い、結果を考察し、それらを一つの論文としてまとめることができるよう指導する。

（旧分子病理検査学分野）
学際的 · 国際的な視野に立ち、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、自己問題提起 · 解決型、生涯発展型の思考能力をもった医療人を養成すべく以下のような教育を行っている。
1) 学部教育
検査技術学専攻と看護学専攻の 1 年生を対象として、病理学総論として疾病病変の共通の変化、病態の本質、その成因を系統的に論じている。検査技術学専攻ではさらに 2 年生で、病理学各論として主な疾病についてその臓器変化、成因、病理検査における技術や原理について講義している。
検査技術学専攻 2 年生では病理検査学実習において臓器の肉眼観察、基本的な標本作製、観察に加え、各種特殊染色法、免疫組織化学的染色法、細胞診検査、凍結切片作製法などを用いた、疾病の診断、病因 · 病態の解明に寄与しうるような病理学的検査法の実習が組まれている。
その他、検査技術学専攻 3 年次には臨地実習としてとして本学病院病理部において病理検査実習が実施されている。検査技術学専攻 4 年次には卒業研究として研究の進め方や論文のまとめ方などを研究室で実施する。
2) 大学院教育
博士（前期）課程においては、疾病の成因 · 病態、病理像（肉眼的、組織学的、細胞学的及び分子病理学的）を深く追求、理解し疾病の本態を考察する。更に、病因 · 病態の解明や診断に有用な病理学的検査法（免疫組織化学、遺伝子解析、画像解析など）の理論や手法を学び、また、実践の場における検査管理や問題解決能力をも修得させる。各種研究会や学会などにも参加し病理学 · 病理検査学領域における国際的、学際的な研究の現況や展望などについても学んで行く。以上の課程を通して修士論文としての特別研究を完成し、基礎的な研究能力を修得させている。
博士（後期）課程では、国際的にも通用する自立した研究能力が修得できるように、より高度な教育と研究指導、および医学英語学習を行っている。

(5) 臨床活動および学外活動

(旧分子病理検査学分野)
本学病院病理部において、副島は細胞診業務に参画し、大学院生への指導も行っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Fujishiro H, Nimura A, Azumaya M, Hattori S, Hoshi O, Akita K. Anatomical study of the bone morphology of the anterior talofibular ligament attachment. Anatomy & cell biology. 2023.07;

[講演 · 口頭発表等]

1. Fujishiro H, Nimura A, Azumaya M, Hattori S, Hoshi O, Akita K.. Anatomical investigation of the bone morphology of the anterior talofibular ligament attachment of fibula.. 10th APICA Congress 2023.11.30

2. Tejima M, Fujishiro H, Nimura A, Hoshi O, Akita K.. Anatomical investigation of the posterior part of the coracohumeral ligament including loose connective tissues.. 10th APICA Congress 2023.11.30

3. Yurie Soejima and Chiara Raggi. ITGB6-knockout affected biological behavior and gene expression of cholangiocarcinoma cells. The 10th Annual Cholangiocarcinoma Foundation Conference 2023 2023.04.12 Salt Lake City

1. 藤代 瞳, 甲田 祐樹, 赤羽 あゆみ, 市村 直也, 東田 修二, 大川 龍之介. 大学院生に対する採血手技及び接遇教育の効果. 日本医療検査科学会第 55 回大会 2023.10.06 横浜

2. 藤代瞳、甲田祐樹、赤羽あゆみ、市村直也、東田修二、大川龍之介.. 大学院生に対する検査部での採血教育の取り組み.. 第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2023.08.23 奈良

3. 手島麻貴、藤代瞳、二村昭元、星治、秋田恵一.. 烏口上腕靭帯 (CHL) の正常時における解剖学的解析.. 第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2023.08.23 奈良

4. 矢野 哲也, 中嶋 裕, 副島 友莉恵. 低真空走査電子顕微鏡を用いた体腔液中の小細胞癌と悪性リンパ腫の鑑別について. 日本臨床細胞学会雑誌 2023.05.01

5. 星　治、武井　延之. 成長円錐における局所的タンパク合成に伴うリボゾームタンパクの動態. 第 128 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2023.03.20 仙台

6. 深井 敦大, 二村 昭元, 堤 真大, 藤代 瞳, 藤田 浩二, 今谷 潤也, 秋田 恵一. 肘関節外側尺側側副靱帯の周囲線維性構造との結合の観点からの解剖学的再考. 第３５回日本肘関節学会学術集会 2023.02.03

[その他業績]

1. 公益財団法人 平和中島財団 ２０２３ (令和５) 年度　アジア地域重点学術研究助成, 2023 年 04 月
新たな技術（分割転写法）を用いた細胞診断の普及 -ラオスの悪性腫瘍の診断精度向上のために-, 共同研究者

[社会貢献活動]

1. 星　治：日本解剖学会　評議員, 2012 年 04 月 01 日 - 現在

2. 星　治：一般社団法人日本臨床検査学教育協議会 分科会会長（解剖学）, 一般社団法人日本臨床検査学教育協議会, 2015 年 04 月 01 日 - 現在

3. 副島友莉恵，お茶の水会検査同窓会　副会長, 2016 年 04 月 01 日 - 現在

4. 副島友莉恵，2023 年二級臨床検査士資格認定試験「病理学」試験実行委員, 日本臨床検査同学院, 埼玉県立大学, 2023 年 09 月 16 日 - 2023 年 09 月 18 日

5. 副島友莉恵, 2023 年一級臨床検査士資格認定試験「病理学」試験補助 , 日本臨床検査同学院, 2023 年 11 月 10 日 - 2023 年 11 月 12 日

血液・生体システム解析学分野

Hematology and Biophysical Systems Analysis

教授 伊藤　南（〜2023 年 3 月生体機能システム学分野）
准教授　西尾　美和子（〜2023 年 3 月先端血液検査学分野）
助教 本間　達（〜2023 年 3 月生体機能システム学分野）
特別研究員　吉森 真由美 (〜2023 年 5 月、〜2023 年 3 月先端血液検査学分野）
非常勤講師 新井文子（〜2023 年 3 月先端血液検査学分野）
非常勤講師 佐伯久美子（〜2023 年 3 月先端血液検査学分野）
非常勤講師 今留謙一（〜2023 年 3 月先端血液検査学分野）
非常勤講師 中山洋一（〜2023 年 3 月先端血液検査学分野）

(1)　分野概要

＜旧生体機能システム学分野＞
医用生体計測を通して得られる生体情報はわれわれに多くの情報を伝えてくれる。サイバネティクスの創始者として知られるノーバート・ウィーナーは、生体もまたある種の制御システムであることを示唆した。「生体システムのメカニズム」をキーワードにして、私たちは生体情報が示す我々の複雑な生体システムの機能や作用機序を明らかにし、それを利用して生体機能を制御する方法を開発することを目指している。伊藤らは行動解析、ニューロンの電気活動記録、数理モデル解析などを連携させて、視知覚における物体の輪郭線や触感と連合させた面の素材表現の視覚情報処理システムのメカニズムを探っている。本間らは頭部組織における熱伝導モデルを起点として、脳低温療法時の脳の精密な温度管理を可能とする温度制御システムの開発を進めている。

＜旧先端血液検査学分野）
血液検査学、血液学、臨地実習を担当する。血球の産生機構・形態・機能、止血・凝固線溶機構、代表的な血液疾患の病態や臨床像の講義とともに基本的な血液検査学の実習を行っている。大学院では、血液学的、分子遺伝学的手法を駆使し、疾患の早期診断、治療・予防、病態解析に貢献するような分子・遺伝子検査の応用力を身につける。臨床的観察や検査に根ざし、臨床に還元できる研究を行っているが、現在は EBV 陽性 T、NK 細胞腫瘍の病態解明と治療法の開発を中心に研究を展開している。

(2)　研究活動

＜旧生体機能システム学分野＞
1) 視覚情報統合のための生体情報処理システムの数理モデル解析
2) 状況に応じた視覚情報の統合と認知のための神経メカニズムの解明
　我々の視知覚は多様な外部環境下でも安定した外部情報の認知を可能とする柔軟さを持つ一方で刺激本体の特性以外にも周囲の状況、過去の経験や学習より変化するダイナミクスを実現しる。①物体の輪郭線の断片的情報を統合するプロセスと②物体表面の質感認知における視覚情報と触感情報の相互作用を対象にして、大脳皮質視覚野の中間段階の情報処理メカニズムの解明を通して、そうした柔軟な視覚情報処理のメカニズムを明らかにしたいと考えている。特に同一の動物個体において、心理物理学的手法による行動解析と単一細胞記録を主とする電気生理学的な活動の記録を同時に行うことにより、両者の因果関係を明らかにすることで視知覚のメカニズムを解明することを目指している。昨年度より継続してニホンザル 3 頭を用いて素材弁別課題の訓練を行った。素材弁別のカテゴリーを表す参照刺激として 5 種類の素材（金属、布、ジェルシート、木の表皮、毛皮）を選定し、これら 5 種の素材をペダル操作により区別するように訓練した。次の課題として、解答用のペダルの位置を毎日

変更して視認させるようにして、触感情報と視覚情報の関連付けを強化した。これと並行して、本年度は人を研究対象者として、素材感や素材カテゴリーを手掛かりとした探索課題を行い、素材感に注意を向けることによる影響を解析した。
3) 医療支援のための数理モデルを利用した身体情報計測法の開発
　医療，リハビリテ—ションなどに応用可能な生体の機能制御法の開発を目指している。そのために，生体システムの特徴である複数の現象の相互関連を総合的に把握する方法と生体現象の非線形性，個別性，経時変化やその環境条件を表現する数学的方法の研究を行っている。個体差，経時変化、詳細な把握が困難であること等から生じる不確定性に対処するために、生体機能の適応的制御法の研究を行っている。そうした成果の応用として，本年度は引き続き脳低温療法時の脳の温度制御システム開発を進めた。より実際の状況に即したシミュレーションを行うために、局所的な炎症や血行障害の生起を想定したシミュレーション用頭部モデルを用いて、様々な制御則による温度制御を比較検討した。

＜旧先端血液検査学分野＞
1) 造血器腫瘍発症機構の解明と治療法の開発
2) EB ウイルスによる T, NK 細胞腫瘍発症のメカニズムの解明と治療法の開発
3) 造血器腫瘍診断試薬キットの開発
4) 再生医療技術を用いた新規治療法の開発
5) ヒト iPS 細胞由来褐色脂肪細胞の機能解析
　上記をテーマとして、学内では血液内科、小児科、神経内科、ウイルス制御学、再生医療センター、包括病理学、学外では聖マリアンナ医科大学、国立成育医療研究センター研究所、大阪母子医療センターなどと共同研究を行っている。複数企業との共同研究も行っている。

(3) 教育活動

＜旧生体機能システム学分野＞
1) 学部教育　コロナウイルス染症の流行の収束にともない対面での講義、実習を実施した。演習ではメールによる添削指導を継続して実施した。4 年間の担当教科を通じて臨床検査技師に必要な医用工学概論をカバーするとともに、統計学的なデータの取り扱いを修得させることを意図した。臨床検査総合管理学では検査管理法の基礎的な知識や安全管理の基本的な考え方を修得させた。医用システム工学（Ⅰ）では、生理学検査の原理を理解するのに必要な、電気信号の周波数フィルター、電気信号の増幅、生体の電気特性と安全管理について修得させた。実習では実際の電気計測通じて、体験的に知識の応用を学ぶことを目標とした。医学情報処理演習（Ⅰ）ではデータ処理の基礎として、表計算ソフトの利用と平均値を比較する統計処理の原理と方法を修得させた。医用システム情報学（Ⅱ）では医療の IT 化を理解するために必要な、情報科学における情報の取り扱い、コンピュータやネットワークの仕組み、ネットワークでの情報セキュリティー、電子カルテや病院情報システムの仕組みについて基本的な考え方を修得させた。実習では C 言語によるプログラミングを通じて、プログラムのルールを応用、工夫することにより目的の計算処理を達成することを修得させた。医用情報処理演習（Ⅱ）では EBM, 学術情報や文献のデータベースの利用法、２変量の関係を解析する統計処理の原理と方法、生物統計学の特性について修得させた。近年、統計解析が重視される風潮に鑑み、統計検定の手法だけではなく、回帰分析による多変量解析やベイズ推定の考え方についても解説した。専攻主任として総合講義（４学年）を主催した。
2) 大学院教育　研究教育の場を通じて、課題解決の為に自ら知識、技術を系統立てて収集するノウハウを学び、今後国内外の様々な方面で活かせるような力を修得させることを意図した。神経システムを題材とした古典的な英文論文や英文教科書の読解を積極的に行い、生体の仕組みを論理的に理解するための考え方を学ぶ。分野内のゼミ、修士課程および博士課程の特論においては、システム神経科学の基本的な考え方、大脳における視覚情報処理システムの概要、システム神経科学と人工知能の接点について講義します。保健衛生学研究科と合同で実施する「保健医療情報学」では異なる専攻の接点を見いだす貴重な機会ととらえ、幅広い実践的なテーマについて、非常勤講師によるオムニバス形式の講義を主催した。講義中の質疑応答を重視し、グループ討論を取り入れるなどして、学生の参加を促す試みを取り入れた。検査科学専攻の大学院生および全教員による生体検査科学セミナーを年 4 回実施し、専攻全体としての研究力向上に務めた。

＜旧先端血液検査学分野＞
1) 学部教育　血液検査学、血液学を担当する。血球の産生機構 · 形態 · 機能，止血 · 凝固線溶機構、代表的な血液疾患の病態や臨床像の講義とともに基本的な血液検査の実習を行っている。その他、研究の進め方や論文のまとめ方など研究報告の基本を学ぶ特論（卒業研究）並びに血液検査の実習として東京医科歯科大学病院 検査部の協力のもと臨地実習が実施されている。なお、以上の講義、実習は血液検査部、臨床検査医学分野の協力のもとに行われている。
2) 大学院教育　本科目では、血液学的、分子遺伝学的手法を駆使し、疾患の早期診断、治療 · 予防、病態解析に貢献するような分子 · 遺伝子検査の応用力を身につける。特に臨床的観察や検査に根ざし、臨床に還元できる研究を

行っている。大学院生の解明したEBV陽性発症分子機構は、治療薬開発につながっている。研究内容は必ず英語論文にまとめ、その成果を世界に発信できるように指導する。

具体的な教育内容は，1) 疾病，特に血液疾患の成因，病態を深く追求，理解し，疾病の本態を考察する．2) 病因，病態の解明や診断に役立つ細胞 · 分子 · 遺伝子検査，分子 · 遺伝子レベルの情報伝達解明の分子生物学的実験技法、血液学的検査法の理論や技術を習得する。3) 血液病学、血液検査学領域における研究の動向や方法を習得する。4）国内外の学会及び主要国際学術誌に血液検査学、臨床血液病学に関連する研究を発表し、自立して研究できるように、かつ国際的学際的研究のリーダーとしての能力を習得できるようにする。英語論文の読み方、作成セミナーも行う。

(4) 教育方針

＜旧生体機能システム学分野＞
科学技術、医療技術の急速な進歩は医学 · 医療のレベルを著しく向上させるとともに、臨床検査技師が果たす役割も変化させている。管理システムの導入，IT 化，機械化、新しい検出技術の開発、新しい統計情報処理などの導入に伴い，医療 · 生命科学から工学にわたる幅広い領域にまたがる多様な知識や技能が要求されるようになってきており、そうしたニーズに合う人材育成を目指す。
1) 学部教育　臨床検査技師として必要な実務的な技術を身につけるだけでなく、生体情報とその検出技術の背景、原理、システムのメカニズムを良く理解し、既成の技術の利点欠点をよく理解して「応用する」、新しい技術に容易に適用できる人材を育成することを目的とする。医用工学概論に関わる科目を通して、①身体の機能の電気的な性質、②生理検査の原理、③機器類の安全な使用法を理解。修得し、合わせて工学的な見方を学ぶことにより、論理的な思考を促す。
2) 大学院教育　医療の高度化 · 先端化には、基礎的な生命科学研究や技術開発等を通じてその進歩に寄与する、工学と生命科学の橋渡しができる人材が必要です。高度の専門性と多様性を兼ね備えた新しいタイプの臨床検査技師を養成することを目的とする。自ら知識、技術を系統立てて収集すると同時に、新しい課題の設定 · 解決を自律的に行う能力を養成する。また英文による論文や教科書の読解を積極的に進めて、国内外の様々な方面で能力を活かせるような力を養う。

＜旧先端血液検査学分野＞
学際的，国際的な視野に立ち、豊かな人間性と高い倫理観を備え、自己で問題を提起、解決し、生涯発展を続ける医療人を養成する。

(5) 臨床活動および学外活動

＜旧先端血液検査学分野＞
研究：当研究グループは日本医療研究開発機構（AMED）「難治性疾患実用化研究事業」にて、基礎研究として病態解明と新規治療法の開発を行っている。CAEBV 患者会 SHAKE(http: //caebv.com/) を通じ、慢性活動性 EBV 感染病患者支援活動を行っている。

(6) 臨床上の特色

＜旧先端血液検査学分野＞
EBV陽性疾患、特に慢性活動性 EB ウイルス感染症では，特に成人例を専門に診療する唯一の機関として国内外から患者を紹介されている。患者検体の解析を行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Takayuki Inoue, Bin Fu, Miwako Nishio, Miyako Tanaka, Hisashi Kato, Masashi Tanaka, Michiko Itoh, Hajime Yamakage, Kozue Ochi, Ayaka Ito, Yukihiro Shiraki, Satoshi Saito, Masafumi Ihara, Hideo Nishimura, Atsuhiko Kawamoto, Shian Inoue, Kumiko Saeki, Atsushi Enomoto, Takayoshi Suganami, Noriko Satoh-Asahara. Novel Therapeutic Potentials of Taxifolin for Obesity-Induced Hepatic Steatosis, Fibrogenesis, and Tumorigenesis. Nutrients. 2023.01; 15(2);

[講演 · 口頭発表等]

1. Minami Ito,　Risa Sugawar, Sayori Sakamoto, Runa Fujii. Exploring individual differences in the material perception in searching material properties.. 第 4 6 回日本神経科学学会 2023.08.01 Sendai, Miyagi

2. Bin Fu, Miyako Tanaka, Kozue Ochi, Emi Saita, Michiko Itoh, Miwako Nishio, Atsushi Enomoto, Takayuki Inoue, Noriko Satoh-Asahara, Takayoshi Suganami. Natural bioactive flavonoid Taxifolin prevents the development of hepatic steatosis, fibrogenesis and tumorigenesis in a mouse model of NASH. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.01

1. 洲﨑瑛莉, 吉森真由美, 齊藤美緑, 福田笑夏, 大橋彩香, 西尾美和子, 新井文子. CAEBV の EBV 感染細胞由来細胞外小胞は単球のマクロファージへの分化を誘導し HLH の原因となる. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.15

2. 洲﨑瑛莉、吉森真由美、齊藤美緑、福田笑夏、大橋彩香、西尾美和子、新井文子. EB ウイルス陽性 T/NK 腫瘍細胞由来細胞外小胞の単球に対する役割. 第 36 回ヘルペスウイルス研究会 2023.07.07

3. 加藤 久詞, Fu Bin, 田中 都, 西尾 美和子, 菅波 孝祥, 浅原 哲子. 植物由来フラボノイド · タキシフォリンの肥満と脂肪肝/NASH/肝癌の進展抑制作用　褐色脂肪細胞活性化と FGF21 の関与. 日本内分泌学会雑誌 2023.05.01

4. 南川愛莉、熊木優喜、吉森真由美、福田笑夏、新井文子、西尾美和子. 慢性活動性 EB ウイルス病 (CAEBV) 患者由来 iPS 細胞の樹立と評価. 第 22 回 日本再生医療学会 2023.03.23

5. 吉森真由美、大橋彩香、吉岡耕太郎、横田隆徳、清水則夫、西尾美和子、新井文子. 慢性活動性 EB ウイルス病の EBV 由来 microRNA 発現プロファイル解析. 第 31 回 EBV 感染症研究会 2023.03.19

6. 竹ノ内 里早、大橋 彩香、住谷 卓、吉森 真由美、西尾 美和子、清水 則夫、今留 謙一、 新井文子. 慢性活動性 EB ウイルス病に対する BCL2 阻害剤の効果の検討. 第 31 回 EBV 感染症研究会 2023.03.19

7. 下垣里河、三浦かなこ、西尾 美和子、飯島史朗. LPS 誘発性炎症反応における Resistin の役割に関する研究. 第 33 回 生物試料分析科学会 2023.03.04

8. 西尾 美和子. 慢性活動性 EB ウイルス病に対するボルテゾミブの抗腫瘍, 抗炎症効果. 日本応用酵素協会誌 2023.03.01

9. 下垣 里河, 三浦 かなこ, 西尾 美和子, 飯島 史朗. LPS 誘発性炎症反応における Resistin の役割に関する研究. 生物試料分析 2023.02.01

[その他業績]

1. 肥満 · NASH· 肝がんの予防 · 治療に新展開！　【世界初】植物由来タキシフォリンの新規作用を発見, 2023 年 01 月
   —

[社会貢献活動]

1. NISTEP 専門調査員, 文部科学省 科学技術 · 学術政策研究所 科学技術予測センター, 2020 年 04 月 01 日 - 現在

2. 日本再生医療学会 U45 サブメンバー, 2022 年 07 月 21 日 - 現在

3. 日本臨床検査学教育協議会 臨床血液分科会 副会長, 2022 年 08 月 18 日 - 現在

生命情報応用学分野

Clinical Information and Applied Sciences

教　授	角　　勇樹
准教授	赤座　実穂
助　教	河原　智樹
非常勤講師	原　　恵子、有竹　清夏、阿古　美奈、高橋　修、揃田　陽子、 遠藤　順治、市川　由理、足立　善昭、加藤　優子、平光　史朗
博士後期	園原　照隆
博士前期	大重　舞奈、東口　ゆきな、駒走　雄介、下沖　咲良、岡田　梨沙
卒業研究	川村　昂希、垂井　姫依、外里　智美、二宮　惇、 礒　なつみ、上　千尋、佐々木　花、鈴木　明日香、中込　怜那、八角　千晴

(1)　分野概要

生体の営みを、分子 · 細胞レベルから器官レベル、さらには統合されたシステムとしての生体のはたらきを測定 · 解析する生理機能検査法，臨床医学、人の集団としての公衆衛生について研究、教育を行っている。

正式名称は「東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 生命理工医療科学専攻 生命情報応用学分野」です。以前は「生命機能情報解析学」の名称で呼吸、循環、神経の研究、教育を行っていたが、循環器分野が分かれ、2018年保健衛生研究科から医歯学総合研究科に改組する機会に「呼吸器 · 神経系解析学」と改称した。また 2023 年度に生体検査学講座全体の組織改革があり、公衆衛生分野も担当することになり「生命情報応用学分野」に改称した。

(2)　研究活動

研究はそれぞれ独立して行っており、各自が principal investigator である。元来の専門領域、呼吸器内科、神経内科、小児科をベースに発展させている。角は呼吸器分野では新規肺機能検査の臨床的意義，気管支喘息の機序と endotype 分類、肺疾患に対する遺伝子治療、AI を用いた画像診断、臨床診断の研究している。赤座は中枢神経領域では脳波研究、てんかん研究、末梢神経領域では新規末梢神経検査法の開発を行っている。河原は公衆衛生領域の研究を行っている。

(3)　教育活動

教育では臨床医学全般の教育を行うと共に臨床生理機能検査 (肺機能、脳波、末梢神経検査、各種エコーなど) の講義および実習にて理論および技能を修得させている。卒業研究、大学院学生教育では各専門領域分野研究を行う。角は医学科の教育も行っている。

1) 学部学生教育

1 年次には、先端医療技術論の講義を行う。2 年次には臨床病態 1 講義で臨床医学の基礎を教授する。臨床生理検査学 1 の講義と実習では脳波検査、肺機能検査、心電図検査、エコー検査などの生理検査学基礎の他、新たにタスクシフトで臨床検査技師に求められている検体採取や静脈路を確保など基本的臨床行為の理論と実践を行っている習得。2 年次後期、3 年次前期の臨床生理検査学 2 の講義と実習では、さらに高度な神経生理検査、呼吸器系検査、循環器系検査、超音波検査、画像解析、サーモグラフィー、平衡機能検査、眼底検査などの生理機能検査、およびバイタルサインなど基本診察手技、救命救急処置など臨床手技全般の教育を行う。臨床生理検査学 1 および臨床生理検査学 2 は疾患生理機能解析学分野と共同で行っており、少人数グループに分かれて各自が異なったスケジュールでクルズスや実習をアクティブラーニング形式で行う。3 年次後半と 4 年次には卒業研究を行う。卒

業研究では各自に割り当てられた研究テーマを中心に、研究手法全体について指導を行う。4 年次後期に臨地実習の指導を行う。臨地実習では、血液ガス測定を含む呼吸機能検査、脳波検査、誘発電位検査の実技指導を行う。

角は医学科、研修医にも医学教育を行なっている。医学科 1 年生には MIC(Medical Introductory Course) 講義、2 年生には呼吸生理学、3 年生には胸部画像診断、4 年生には胸部 X 線診断のための気管支解剖、5 年生には CC(Clinical Clerkship) で呼吸器疾患異常所見のクルズス、研修医にはイブニングセミナー講義を行っている。さらには全学生への AI 教育にも参画している。文部科学省では「AI 戦略 2019」において、2025 年度を目標年度として、1. 文理を問わず、全ての大学 · 高専生が初級レベルの能力を習得すること、2. 大学 · 高専生が、自らの専門分野への応用基礎力を習得することが掲げられた。本学では、医学 · 歯学分野における数理 ·DS·AI 教育のモデルカリキュラム · 教材を開発し、2021 年度より本学のカリキュラムに組み込むとともに全国の医学部、歯学部へ普及 · 展開することを目指しており全学共通科目に「医療と AI· ビッグデータ入門」を新設し、医学科歯学科では必修その他では自由科目として「医療と AI ビッグデータ応用」を開講した。さらに選択科目としてには「AI 実践演習」を開講した。

2) 大学院教育

大学院前期 (修士) 課程では生体検査科学特論 II、呼吸器 · 神経系解析学演習、呼吸器 · 神経系解析学実習、呼吸器 · 神経系解析学課題研究、生命情報応用学演習、生命情報応用学実習、生命情報応用学課題研究を担当する。生体検査科学特論 II では医療現場において現在行われてる臨床検査について理解を深め、さらに将来へ向けて の研究課題などを考察する力を養うことを目的としている。呼吸器 · 神経系解析学、生命情報応用学分野の各教科では新しい知識や技術を教育するとともに，すでに解明されている領域とそうでない領域を明確にし，いまだ不明な領域を明らかにするための科学的研究態度の修得をめざしている。

大学院後期 (博士) 課程では病態推論特論、生命情報応用学演習、生命情報応用学研究実習を担当している。病態推論特論では検査データから病態を推論するトレーニングを行い，病態の理解ができる人材を要請する。生命情報応用学では、研究のための理論と技術の習得を目指します。 特に、研究領域における最先端の医学知識、解析方法論を学びます。

(4) 教育方針

教育で重要なのは、学習に対するモティベーションをつけることである。特に学部低学年では基礎学習がどのように役立つのかが解らず、重要であるにも関わらず学習意欲が湧かない学生が多い。そのため実習を多くし、early exposure を行なって臨床現場でどのように必要とされるか理解されるように工夫している。学習することを渇望し、乾いた砂に水が染み込むような教育を目指している。

各論としては生理機能検査は患者と直接接して行う臨床の front line であり、特に臨床医学の立場から生理検査について教育している。神経，呼吸，循環、消化器などの臨床生理学的検査、画像診断検査について理論や技術を教え、それらを応用した研究方法を修得させることを目標としている。生理機能検査を行うには、機器の操作、安全対策、生体現象の記録、データの整理 · 解析の技術と知識のみならず，直接人に接する検査であるので、疾病に対しての医学的知識、医療倫理、コミュニケーション能力なども要求される。また患者に対して緊急処置を要する検査結果について、速やかに認識し適切な処置を行える能力を涵養することも重要視している。これらに加え，検査時の患者の急変への対応についても教育している。

(5) 臨床活動および学外活動

呼吸器専門医 · 指導医、アレルギー専門医、内科専門医の角は当院呼吸器内科外来を行っている。また研究会等の世話人や discussant を行っている。次世代の医師養成のため総合研修センターにおける研修医に対するイブニングセミナー講義、M1 での MIC(Medical Introductory Course) 講義、呼吸器内科では CC(M5)、PCC(M4)、呼吸器ブロック講義 (M3)、生理学講義 (M2) 呼吸生理学を担当している。

神経内科医の赤座は、神経内科疾患一般の他、末梢神経障害に精通し、医学部附属病院における末梢神経検査の施行、結果評価の中心的役割を果たしている。

河原は公衆衛生研究データー収集の為、各種調査を行なっている。

精神科医で日本てんかん学会専門医 · 指導医、日本臨床神経生理学会認定医（脳波)、精神保健指定医の原は日本臨床神経生理学会代議員、日本薬物脳波学会評議員、日本てんかん学会評議員理事会幹事を務めている。当院ではてんかん外来を週 1 回行い、セカンドオピニオンも含め、多くの患者の診療にあたっている。また当院脳外科と協力し、週 1 回の脳波カンファレンス、月 1 回の脳波 · てんかんレクチャーを行っている。

(6) 臨床上の特色

角は内科学会総合内科専門医、呼吸器学会指導医かつ専門医、アレルギー学会専門医であり、内科全般の患者診察を行っているが、特に気管支喘息を専門にしている。

赤座は末梢神経機能検査の専門家であり、神経内科患者のほとんどの検査を行なっている。また糖尿病患者における末梢神経障害について臨床研究を行っている。

原はセカンドオピニオンも含め、多くのてんかん患者の診療にあたっている。特に妊よう性のある女性の治療を専門とし、多くのてんかん治療を受けた女性の妊娠出産を助けている。平成 25 年からは産婦人科医師と協力し、てんかん合併妊娠に関する事前コンサルタントを行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Funaita C, Furuie W, Koike F, Oyama S, Endo J, Otani Y, Ichikawa Y, Ito M, Nakamura Y, Komatuzaki K, Hirata A, Miyazaki Y, Sumi Y. Pattern recognition of forced oscillation technique measurement results using deep learning can identify asthmatic patients more accurately than setting reference ranges. Scientific reports. 2023.12; 13(1); 21608

2. Sato S, Akaza M(co-first author), Sasaki T, Tanaka Y, Hashimoto J, Watanabe T, Miyano Y, Kim S, Kaminaka S, Sekihara K, Adachi Y, Kawabata S.. Evaluation of electrical activity at the carpal tunnel area in response to median nerve elbow stimulation using magnetoneurography Clinical Neurophysiolosy. 2023.12; 156; 89-97

3. Tani Y*, Matsuyama Y, Yamaoka Y, Matsukura H, Kawahara T, Fujiwara T. Change of human flourishing during the COVID-19 pandemic in Japan: Results from population-based U-CORONA study. SSM Popul Health. 2023.09; 23; 101430

4. Kanda K, Nishimura H, Koiso T, Takemoto K, Nakagoe K, Yamada T, Takahashi M, Hanafusa M, Kawahara T, Yanagida Y, Kuramochi J, Fujiwara T. Applying negative ions and an electric field to countermeasure droplets/aerosol transmission without hindering communication. Scientific reports. 2023.08; 13(1); 13965

5. Kawahara T, Doi S, Isumi A, Ochi M, Fujiwara T*. Interventions to change parental parenting behaviour to reduce unintentional childhood injury: a randomised controlled trial. Inj Prev. 2023.04; 29(2); 126-133

6. Hanafusa M, Nawa N, Goto Y, Kawahara T, Miyamae S, Ueki Y, Nosaka N, Wakabayashi K, Tohda S, Tateishi U, Fujiwara T*. Effectiveness of remdesivir with corticosteroids for COVID-19 patients in intensive care unit: a hospital-based observational study. J Med Virol. 2023.01; 95(1); e28168

7. Isamu Ozaki, Miho Akaza, Taishi Watanabe, Yuki Miyano, Yoshiaki Adachi, Shigenori Kawabata. Detailed magnetoelectric analysis of a nerve impulse propagation along the brachial plexus. Clin Neurophysiol. 2023.01; 145; 129-138

8. Kajihara Akiko, Morita Takayoshi, Kato Yasuhiro, Konaka Hachiro, Murakami Teruaki, Yamaguchi Yuta, Koyama Shohei, Takamatsu Hyota, Nishide Masayuki, Maeda Yuichi, Watanabe Akane, Nishida Sumiyuki, Hirano Toru, Shima Yoshihito, Narazaki Masashi, Kumanogoh Atsushi. The proliferative activity levels of each immune cell population evaluated by mass cytometry are linked to the clinical phenotypes of systemic lupus erythematosus(タイトル和訳中) International Immunology. 2023.01; 35(1); 27-41

9. Takada Kayoko, Yamamoto Isamu, Sasano Tetsuo, Sumi Yuki. Single nucleotide polymorphisms in paraoxonase 1 and adiponectin are associated with atherosclerotic effects in young healthy subjects(タイトル和訳中) Journal of Medical and Dental Sciences. 2023; 70; 37-47

1. 原恵子. 成人の難治てんかん 波.

2. 原恵子. てんかんと社会—精神科の立場から— Epilepsy.

[書籍等出版物]

1. 赤座実穂. パーキンソン病、認知症.

[講演・口頭発表等]

1. 赤座実穂、大谷泰、叶内匡、川端茂徳、渡部泰士、石田洸樹、宮野由貴、足立善昭、関原謙介、横田隆徳. 磁場測定による運動単位の電気活動評価. 第 52 回日本臨床神経生理学会学術大会 2023.11.24
2. 西村 久明, 花房 真理子, 河原 智樹, 藤原 武男, 小磯 拓哉, 竹元 幸亮, 高橋 応明, 中越 一真, 倉持 仁, 神田 海都, 山田 哲也, 柳田 保子. マイナスイオンと電界を用いた飛沫遮断装置の開発. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2023.04.01
3. 河原 智樹, 那波 伸敏, 藤原 武男. 日本における経済刺激政策および非薬物的介入と COVID-19 死亡率の関連性. Journal of Epidemiology 2023.02.01
4. 原恵子. 脳波判読の基礎. 4th　明後日の会
5. 石塚聖洋、宮崎泰成、須原宏造、岡本師、立石知也、古澤春彦、土屋公威、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、角勇樹、稲瀬直彦. 抗原吸入誘発試験の有効性と安全性の検討. 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会
6. 足立雄太、土屋公威、古澤春彦、内堀健、三ツ村隆弘、佐内文、本多隆行、東盛志、岡本師、立石知也、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、角勇樹、宮崎泰成、稲瀬直彦. 両肺多発浸潤影を呈した間質性肺炎合併肺腺癌の 1 例. 第 171 回日本肺癌学会関東支部会学術集会
7. 内堀健、足立雄太、東盛志、本多隆行、佐内文、三ツ村隆弘、岡本師、立石知也、古澤春彦、土屋公威、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、角勇樹、宮崎泰成、稲瀬直彦. 潰瘍型気管支結核と鑑別を要した肺腺癌の 1 例. 第 172 回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会

[社会貢献活動]

1. 臨床神経生理技術講習会, 臨床神経生理学会, 第 10 回臨床神経生理技術講習会, 東京, 2015 年 04 月 01 日 - 現在

疾患生理機能解析学分野

Department of Clinical and Diagnostic Laboratory Science

教授　　柿沼　晴
准教授　松沢　優
助教　　山口　純司

大学院生
博士課程：(医歯学専攻 · 消化器病態学分野と共同で指導)
土屋 淳、志水 太郎、渡壁 慶也、持田 知洋、稲田賢人

修士課程：
神前 莉音、真田 柊介（2023/4 月より)、千野 響子（2023/4 月より）

卒業研究生:
４年生　倉田 農、佐藤 美緑、平山 星江、山田 華穂、菅 彩香
３年生　生駒 萌香、大嶋 奏羽、小林 竜太郎、関 菜々子、滝澤 美紅、利岡 萌愛

(１)　分野概要

本邦では、肝癌を含めた慢性肝疾患によって、年間約 4 万人が死亡している。現在のところ、致死的肝不全に対する根治的治療法は肝移植のみであるが、絶対的な肝移植ドナーの不足が社会問題となっており、肝癌 · 肝硬変への進展を阻止する治療の開発、及び肝移植以外の治療を確立することは、医学的 · 社会的に、本邦を含め世界的にも大きな問題としてクローズアップされている。同様に胆道 · 膵臓がんでは 50,000 人以上が死亡しており、これらの疾患は依然として早期発見が困難であり、早期発見と進行がんに対する治療法の確立とにむけた進歩が希求されている。
本大学院における生体検査科学講座教室の意義は、次世代の医学 · 検査学のための先進的な基礎を確立することにあり、これら先進性の確保のためには臨床情報に基づく研究の推進、および基礎研究に基づく画期的な診断法 · 治療法の開発であるべきであるとの考えに立ち、2020 年に本分野は創設された。
本分野では、研究面では主として肝臓（柿沼)、消化管（松沢)、心臓（山口）とを基軸として、消化器領域、循環器領域における疾病の病態生理の解明、及び、その知見の臨床検査医学と治療への応用とを主たる研究目的として展開し、医学部保健衛生学科 検査技術学専攻の学部生、大学院医歯学総合研究科の大学院生に対する教育と研究とを担っている。

(２)　研究活動

柿沼は、ヒト iPS 細胞モデルを利用した疾患病態の解析と分子標的の開発、肝胆道疾患の発生 · 進展を制御する細胞間相互作用の解析、オルガノイド培養系を用いた肝胆膵疾患モデルの開発、肝臓の組織再生 · 線維化機構の解析、という視点で、分子生物学的、細胞生物学的アプローチによる研究を中心に、臨床の場から課題を抽出して研究を展開し、最終的には臨床の医療に還元することを目指している。
松沢は、クローン病をはじめとする炎症性腸疾患の病態生理を解明するために、クローン病責任遺伝子の分子病態などに着目し、診断/治療標的分子の開発を目指している。また、分子生物学的、細胞生物学的アプローチによる研究を用いて、腸管免疫を制御する分子機構、免疫細胞と上皮細胞の相互作用を介した細胞死の制御機構を解明すべく、令和 5 年度からは、「革新的先端研究開発支援事業（AMED-PRIME)」に採択されて研究活動を展開している。
山口は、大学院医歯学総合研究科 循環制御内科学分野と緊密な連携のもとに、同分野との共同研究を進めている。研究内容として、心筋リモデリングにおける細胞外小胞の役割の解析、虚血性心疾患や下肢虚血への新規生体材

料の開発を行い、病態の解明と治療開発を目指す。また、非接触モニタリングデバイスを用いた睡眠時無呼吸症候群のスクリーニングや低侵襲一誘導心電図による初期心不全や不整脈の検出など、低侵襲・非接触生体モニタリングデバイスの開発を行っている。心臓・血管関連疾患に関して幅広く研究を展開し、将来的な臨床応用を目指している。

＜主要な研究テーマ＞
(1) ヒト iPS 細胞を利用した疾患病態モデルの創出と分子標的の開発
(2) 消化器・循環器疾患の発生・進展を制御する細胞間相互作用の解析
(3) オルガノイド培養系を用いた消化器系疾患モデルの開発
(4) 消化器系組織幹・前駆細胞の恒常性を調節する分子機構の解明
(5) 肝再生と線維化を制御する分子機構の研究
(6) パネート細胞を基軸とした炎症性腸疾患における分子病態の解明
(7) 消化管細胞の細胞死制御機構の解析
(8) 心筋リモデリングの過程における細胞間相互作用の解析
(9) 生体適合性・吸収性に優れた生体材料を用いた新規虚血治療の開発
(10) 低侵襲・非接触生体モニタリングデバイスの開発

(3) 教育活動

学部教育：医学部保健衛生学科 検査技術学専攻の学生に対して、生命情報応用学分野と共同で、臨床生理機能検査学の講義と実習を分担して行っている。また、臨床病態学、遺伝子染色体検査学の講義についても分担して行っている。最終学年における卒業研究では、大学院教育とも密接な連携を持って、前記の研究テーマに沿って、各自が独自のテーマで研究を推進している。

大学院教育：前記の研究テーマに沿って、各自が独自のテーマで研究を推進している。さらに、消化器病態学分野あるいは循環制御内科学分野と共同で運営する形式で、その大学院博士課程学生を共同で指導している。

(4) 教育方針

学部教育
臨床生理機能検査学、臨床病態学、遺伝子染色体検査学に関する基礎的な知識を習得するとともに、卒業研究では大学院教育と密接な連携を持って、消化器領域あるいは循環器領域の疾患病態生理に関する研究を行い、研究を進めるために必要な基礎的な技能と科学的な思考法とを習得することを目標とする。

大学院教育
消化器疾患領域と循環器疾患領域における、優れた医学研究者を育成することを教育目的とする。広い視野に立ち次世代をリードする研究者を育成することが本分野における大学院教育のゴールである。
分子・細胞レベルから器官までの個々の要素が統合されたシステムとしての生体のはたらきを、解明・解析する手法について学ぶ。特に、消化器領域と循環器領域を中心とする疾患病態生理学を対象とし、疾患生理学理論と、診断に必要な検査技術とを学ぶ。さらに、細胞生物学、分子生物学、再生医学的手法から、新規の病態解明、疾患診断検査法、治療法の開発をめざす研究手法を修得する。

到達目標
①消化器疾患あるいは循環器領域における病態生理解明のための、細胞生物学、分子生物学、再生医学的な研究手法について学ぶ
②消化器領域あるいは循環器領域における臨床生理検査法、画像診断法の理論と技術とを修得する。
③新規の病態解明、疾患診断検査法、治療法の開発をめざす研究手法について学ぶ。

(5) 臨床活動および学外活動

柿沼は東京医科歯科大学病院・消化器内科に協力する形式で、主に肝胆膵疾患の診療に参画している。肝胆膵疾患の診療における、医用工学を駆使した種々の診断技術の開発・実施を行う。さらに、教育関連病院と連携し、消化器病態学分野と共同で運営する形式で、多数の多施設共同研究を行っている。
今年度は、AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）に支援をうける班研究として、肝炎等克服緊急対策研究事業、Ｂ型肝炎創薬実用化等研究事業、次世代がん医療創生研究事業を含む７つの研究班に参画して研究

を遂行した。学会発表、研究業績は下記に示す。
学会活動としては、米国肝臓病学会、日本消化器病学会（評議員）、日本肝臓学会（評議員）、肝細胞研究会を中心として活動を進めており、これらの学術集会、学術誌の運営に協力している。
松沢は、日本免疫学会、日本臨床免疫学会を中心として活動を進めており、これらの学術集会、学術誌の運営に協力している。
山口は米国心臓協会、日本循環器病学会を中心として活動を進めており、これらの学術集会、学術誌の運営に協力している。

(6) 臨床上の特色

柿沼は東京医科歯科大学病院に協力する形式で肝胆膵疾患の診療を行い、専門外来としての「肝炎・肝癌撲滅外来」に参画し、慢性肝炎、肝硬変、肝癌の診療を行っている。
ウイルス性肝炎の治療については特に豊富な治療経験をもち、「お茶の水 liver カンファレンス共同研究」では多くの関連病院の協力も得て、2000 例以上の症例経験を蓄積し、本邦有数の臨床研究となった。本研究により治療効果の正確な予測が可能となることが明らかとなり、さらに、発癌メカニズムと発癌リスクの詳細を解明し、肝硬度測定検査（Elastography）やバイオマーカーを組み合わせた、慢性肝疾患における肝癌スクリーニングプログラムの開発を行っている。
山口は非接触モニタリングデバイスを用いた睡眠時無呼吸症候群のスクリーニングや低侵襲一誘導心電図による初期心不全や不整脈の検出など、低侵襲・非接触生体モニタリングデバイスの開発も行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Yamaguchi J, Takigawa M, Goya M, Yamamoto T, Ikenouchi T, Iwakawa H, Negishi M, Goto K, Shigeta T, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Miyazaki S, Sasano T. Safety verification of a novel irrigation catheter with flexible tip of laser-cut kerfs and contact force sensor. Pacing and clinical electrophysiology : PACE. 2023.12; 46(12); 1536-1545

2. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Miyako Murakawa, Shunsuke Ueyama, Chiaki Maeyashiki, Hideki Watanabe, Akiko Kusano-Kitazume, Ayako Sato, Kozue Uchidate, Takehito Asakawa, Sho Watanabe, Yasuhiro Iizuka, Isamu Shibata, Shinya Oooka, Yuko Karakama, Takashi Fujii, Taro Watabe, Keiichi Akahoshi, Minoru Tanabe, Kento Inada, Tomohiro Mochida, Keiya Watakabe, Taro Shimizu, Jun Tsuchiya, Masato Miyoshi, Fukiko Kitahata-Kawai, Sayuri Nitta, Mina Nakagawa, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto, . Prognostic Significance of C-Reactive Protein in Unresectable Hepatocellular Carcinoma treated with Atezolizumab and Bevacizumab. Hepatol Res. 2023.12; Online ahead of print.;

3. Iwakawa H, Takigawa M, Yamaguchi J, Martin CA, Goya M, Yamamoto T, Amemiya M, Ikenouchi T, Negishi M, Kawamura I, Goto K, Shigeta T, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Miyazaki S, Watanabe H, Sasano T. Superiority of the Combination of Input and Output Parameters to the Single Parameter for Lesion Size Estimation. Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2023.11; 87(12); 1757-1764

4. Ikenouchi T, Takigawa M, Goya M, Yamaguchi J, Martin CA, Yamamoto T, Negishi M, Kawamura I, Goto K, Shigeta T, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Miyazaki S, Sasano T. The effect of half-normal saline irrigation on lesion characteristics in temperature-flow-controlled ablation. Journal of interventional cardiac electrophysiology : an international journal of arrhythmias and pacing. 2023.11;

5. Takigawa M, Yamamoto T, Amemiya M, Martin CA, Ikenouchi T, Yamaguchi J, Negishi M, Goto K, Shigeta T, Nishimura T, Tao S, Miyazaki S, Goya M, Sasano T. Impact of baseline pool impedance on lesion metrics and steam pops in catheter ablation. Journal of cardiovascular electrophysiology. 2023.08; 34(8); 1671-1680

6. Mina Nakagawa, Yasuhiro Asahina, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto. Impact of eradication of hepatitis C virus on liver-related and -unrelated diseases: morbidity and mortality of chronic hepatitis C after SVR. J Gastroenterol. 2023.04; 58(4); 299-310

7. Mina Nakagawa, Yasuhiro Asahina, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto. Correction: Impact of eradication of hepatitis C virus on liver-related and -unrelated diseases: morbidity and mortality of chronic hepatitis C after SVR. J Gastroenterol. 2023.04; 58(4); 311-312

8. Ikenouchi T, Takigawa M, Goya M, Martin CA, Yamamoto T, Yamaguchi J, Goto K, Shigeta T, Nishimura T, Tao S, Miyazaki S, Sasano T. Comparison of lesion characteristics using temperature-flow-controlled versus conventional power-controlled ablation with fixed ablation index. Journal of cardiovascular electrophysiology. 2023.03; 34(4); 908-917

9. Yamaguchi J, Takigawa M, Goya M, Martin CA, Yamamoto T, Ikenouchi T, Shigeta T, Nishimura T, Tao S, Miyazaki S, Sasano T. Comparison of Three Different Approaches to Very High-power Short-duration Ablation using the QDOT-MICRO Catheter. Journal of cardiovascular electrophysiology. 2023.02; 34(4); 888-897

10. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Yasunari Miyazaki, Takahiro Asakage, Shohei Fukuda, Takeshi Namiki, Yoshito Kano, Masashi Nagata, Jun Tsuchiya, Masato Miyoshi, Fukiko Kitahata-Kawai, Sayuri Nitta, Yasuhiro Itsui, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto. Factors associated with liver injury and prognosis in advanced cancer patients treated with immune checkpoint inhibitors. Hepatol Res. 2023.01;

[書籍等出版物]

1. 柿沼　晴. 緊急度 · 重症度からみた 症状別看護過程 第 4 版: +病態関連図　42. 口渇. 医学書院, 2023.10 (ISBN：978-4260053051)

2. 松沢　優、柿沼　晴. 緊急度 · 重症度からみた 症状別看護過程 第 4 版: +病態関連図　43. 腹部膨満（感）. 医学書院, 2023.10

3. 金子　俊、柿沼　晴. 緊急度 · 重症度からみた 症状別看護過程 第 4 版: +病態関連図　44. 吐血. 医学書院, 2023.10

4. 三好　正人、柿沼　晴. 緊急度 · 重症度からみた 症状別看護過程 第 4 版: +病態関連図　45. 下血. 医学書院, 2023.10

5. 松沢　優. γδ腸上皮細胞間リンパ球のエフェクター API5 はパネート細胞死に対する遺伝的感受性を覆隠する . 科学評論社, 2023.06

[講演 · 口頭発表等]

1. Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Masato Miyoshi, Shun Kaneko, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Sei Kakinuma, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto. Factors associated with HCC development and patients' survival in patients with an SVR. The 3rd JSH International Liver Conference 2023.09.07

2. Sei Kakinuma, Keiya Watakabe, Masato Miyoshi, Mina Nakagawa, Yasuhiro Asahina. Functional analysis of TNFAIP3 in murine hepatic stellate cells. The 3rd JSH International Liver Conference 2023.09.07

3. Junji Yamaguchi, Masateru Takigawa, Tasuku Yamamoto, Takashi Ikenouchi, Kentaro Goto, Takatoshi Shigeta, Takuro Nishimura, Susumu Tao, Shinsuke Miyazaki, Masahiko Goya, and Tetsuo Sasano. Impact of the Tip Design on the Efficacy and Safety of RF Application. The 87th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2023) 2023.03.11

4. Junji Yamaguchi, Masateru Takigawa, Tasuku Yamamoto, Takashi Ikenouchi, Kentaro Goto, Takatoshi Shigeta, Takuro Nishimura, Susumu Tao, Shinsuke Miyazaki, Masahiko Goya, and Tetsuo Sasano. Lesion Characteristics of Steam-pops in Very High-power and Short-duration Ablation with QDOT-MICRO Catheter. The 87th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2023) 2023.03.10

1. 土屋淳、三好正人、柿沼晴、志水太郎、渡壁慶也、持田知洋、稲田賢人、金子俊、北畑富貴子、新田沙由梨、村川美也子、中川美奈、朝比奈靖浩、岡本隆一. B 型肝炎ウイルスゲノムの KMT2B 領域への integration による発癌プロセスの解析. Gastro-Plus2023 2023.12.16 東京

2. 持田知洋、三好 正人、朝比奈 靖浩、柿沼 晴. 細胞間相互作用の解析を目的とした iPS 由来星細胞と Hepatocyte による共培養 Spheroid の開発. 第３７回肝類洞壁細胞研究会学術集会 2023.12.15 東京

3. 柿沼　晴. 肝線維化（司会）. 第３７回肝類洞壁細胞研究会学術集会 2023.12.15 東京

4. 土屋淳, 柿沼晴, 朝比奈靖浩. B 型肝炎ウイルスゲノムの MLL4 領域への integration による発癌プロセスの解析. JDDW2023 2023.11.02

5. 松沢 優, Cadwell Ken. The γ δ IEL effector API5 masks genetic susceptibility to Paneth cell death. 日本臨床免疫学会総会プログラム・抄録集 2023.10.01

6. 渡壁 慶也、三好 正人、稲田 賢人、持田 知洋、千野 響子、志水 太郎、土屋 淳、金子 俊、北畑 富貴子、村川 美也子、中川 美奈、朝比奈 靖浩、岡本 隆一、柿沼 晴. 肝星細胞における TNFAIP3 の機能解析. 第 30 回肝細胞研究会 2023.08.25 鹿児島県鹿児島市

7. 柿沼 晴、高見　太郎. 肝再生研究の最前線（司会）. 第 30 回肝細胞研究会 2023.08.24 鹿児島県鹿児島市

8. 志水 太郎、三好 正人、土屋 淳、山田華穂、渡壁 慶也、持田 知洋、稲田 賢人、金子 俊、北畑 富貴子、村川 美也子、中川 美奈、朝比奈 靖浩、 岡本 隆一、 柿沼 晴. 肝疾患研究への応用に向けたヒト iPS 細胞由来肝細胞オルガノイド培養系の確立. 第 30 回肝細胞研究会 2023.08.24 鹿児島県鹿児島市

9. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 村川 美也子, 稲田 賢人, 持田 知洋, 渡壁 慶也, 志水 太郎, 土屋 淳, 三好 正人, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 中川 美奈, 柿沼 晴, 岡本 隆一. 肝細胞癌への応用を目指した抗 CTLA-4 抗体薬における免疫関連有害事象肝障害の特徴と生存期間の解析. 第 59 回日本肝癌研究会 2023.07.27

10. 志水 太郎, 三好 正人, 柿沼 晴. 肝疾患モデルへの応用に向けたヒト iPS 細胞由来肝細胞オルガノイド培養系の確立. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16

11. 渡壁 慶也, 三好 正人, 柿沼 晴, 稲田 賢人, 持田 知洋, 志水 太郎, 土屋 淳, 金子 俊, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 村川 美也子, 井津井 康浩, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 肝星細胞における TNFAIP3 の機能解析. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16

12. 柿沼 晴、朝比奈靖浩. ヒト iPS 細胞疾患モデルを利用した先天性肝線維症の治療標的の探索. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16 奈良県奈良市

13. 柿沼 晴. 肝再生（基礎）司会. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.15 奈良県奈良市

14. 山野 春樹, 中谷 久恵, 中川 竜一, 柿沼 晴, 長澤 正之, 磯田 健志, 高澤 啓, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. 幼児期の造血細胞移植後、思春期・若年成人期に生じた多発性炎症性肝細胞腺腫. 日本内分泌学会雑誌 2023.06.01

[受賞]

1. 令和 5 年度日本学術振興会　基盤研究 C「HBV ゲノム挿入 iPS 細胞と肝癌組織検体を用いた HBV integration による発癌機序の解明」, 日本学術振興会, 2023 年 04 月

2. 令和 5 年度日本学術振興会　基盤研究 C「肝癌オルガノイドを用いた肝癌微小環境中免疫学的プロファイルに関わる病態解明」, 日本学術振興会, 2023 年 04 月

3. 令和 5 年度日本学術振興会　基盤研究 B「ヒト iPS 細胞由来肝星細胞を基軸とした肝星細胞活性化制御機構の解明」, 日本学術振興会, 2023 年 04 月

4. 令和 5 年度日本学術振興会　基盤研究 B「病態を再現するヒト肝臓オルガノイドの創成と肝星細胞脱活性化をめざした細胞種間解析」, 日本学術振興会, 2023 年 04 月

5. 令和 5 年度日本学術振興会　基盤研究 B「ヒト iPS 細胞由来肝細胞オルガノイドの開発と肝線維化・発癌病態モデルの創成」, 日本学術振興会, 2023 年 04 月

6. 令和 5 年度 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究（C)「肝癌オルガノイドを用いた肝癌微小環境中免疫学的プロファイルに関わる病態解明」 , 日本学術振興会, 2023 年 04 月

7. 令和 5 年度日本学術振興会　 挑戦的研究（萌芽）「自己組織化に依存しない多細胞人工発癌オルガノイドモデルの開発と細胞連関解析」, 2023 年 04 月

8. 日本医療研究開発機構 (AMED) 肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業 「新規星細胞培養系創出と iPS 由来星細胞培養系による線維化機構解明」研究代表者：三好正人　研究分担者：柿沼　晴、朝比奈欣治, 日本医療研究開発機構, 2023 年 04 月

9. 令和 5 年度　日本医療研究開発機構 (AMED) 肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業「革新的オルガノイド技術を用いた肝線維化・発がん機構の解明と肝星細胞活性化制御をめざした治療法の創成」 研究代表者：朝比奈靖浩　研究分担者：柿沼　晴、武部貴則、田中真二、疋田隼人 , 日本医療研究開発機構, 2023 年 04 月

10. アステラス病態代謝研究会 2023 年度研究助成金, 公益財団法人アステラス病態代謝研究会, 2023 年 11 月

11. 第 270 回 日本循環器学会関東甲信越地方会 Student Award 優秀賞 「酸化ストレス負荷下において心筋細胞より放出される細胞外小胞の持つ脂肪分化抑制作用について」, 2023 年 12 月

12. 臨床薬理研究振興財団 2023 年度研究奨励金, 公益財団法人 臨床薬理研究振興財団, 2023 年 12 月

臨床分析・分子生物学分野

Clinical Bioanalysis and Molecular Biology

教授：
・2023 年 1 月～12 月：大川　龍之介

准教授：
・2023 年 4 月～12 月：鈴木　喜晴

助教：
・2023 年 1 月～ 4 月：亀田　貴寛
・2023 年 5 月～12 月：吉本　明

非常勤講師：
・2023 年 4 月～12 月：堀内　優奈
・2023 年 4 月～12 月：Dr. Susana DE VEGA
・2023 年 4 月～12 月：谷口 俊介
・2023 年 4 月～12 月：林 千香子
・2023 年 5 月～12 月：亀田　貴寛

大学院生：
（博士前期課程）
・2023 年 1 月～3 月：池永 絢香，荻野　芽生，川口　莉奈，渋谷　茉璃乃，山田　貴子，岡林　若奈，
清水　梨帆，孙　成満，中村　元紀，波木井　優奈，宮腰　恒広

・2023 年 4 月～12 月：川口　莉奈，荻野　芽生，岡林　若奈，清水　梨帆，孙　成満，中村　元紀，
波木井　優奈，宮腰　恒広，齋藤 日菜子，福原 美月，染谷 優和，橋本 大知，
大野 玲菜，佐々木 敏莉，藤里 澪

社会人大学院生：
（博士後期課程）
・2023 年 1 月～12 月：山崎　あずさ，三瓶　雅迪，志村　拓也

卒業研究生：
（4 年生）
・2023 年 1 月～3 月：大熊　彩花，菊池　雄翔，瀬筒　ほの夏，染谷　優和，橋本　大知
・2023 年 4 月～12 月：秋山 葉菜恵，五十嵐 菜緒，田中 瑞稀，又吉 琴子，坂野 千紗都，山田 渚湖

（3 年生）
・2023 年 1 月～3 月：秋山　葉菜恵，五十嵐　菜緒，田中　瑞稀，又吉　琴子
・2023 年 11 月～12 月：赤木 春香，和泉 早希，田中 美咲妃，富樫 ユリナ，青木 智花，光成 叶香

(1)　分野概要

臨床分析・分子生物学分野（2023 年 4 月～）：
大川グループ（旧先端分析検査学分野　～2023 年 3 月まで）は、教員 2 名（教授 1 名、助教 1 名）、大学院生 13

名、学部卒業研究生 4 名で研究活動を行った。当グループでは、臨床検査学の分類における「臨床化学」を教育 · 研究の柱に据え、研究の主テーマは「心血管疾患発症のリスクを予見可能な血清バイオマーカーの開発」とし、研究を支えるに十分な技術の習得および高い精度を持った測定法の開発能力が重要と考えている。研究成果を論文あるいは学会で発表し、社会に還元するという使命とともに、次代の臨床検査を発展的に継続できる人材の育成が何よりも重要である。臨床検査技師養成大学の歴史は比較的浅いため、医療現場で中心的な役割を担える臨床検査技師の育成に加えて、教育 · 研究においても第一線で活躍できる、臨床検査に identity をもった人材の育成を目指している。そのためにも、楽しく研究活動に打ち込むことができる環境作りが大切だと考えている。

鈴木グループ（旧遺伝子細胞検査学分野　～2023 年 3 月まで）は、教員 1 名（准教授）、大学院生 5 名、学部卒業研究生 2 名で、研究 · 教育を展開した。研究に関しては、分子生物学的な解析手法による中枢神経系の髄鞘形成に関する基礎研究を展開しており、2023 年は、3 つの主要プロジェクト「中枢神経系髄鞘形成の分子メカニズムの解明」、「遺伝子改変マウスを用いた神経 · 精神疾患の新規動物モデルの開発」、「細胞外マトリックス分子による新規細胞培養基質 · バイオマテリアルの開発」を中心に各テーマを進めた。教育に関して、2023 年は、生化学、分子生物学の基礎的 · 応用的な内容を盛り込んだ講義や実習を中心に、学部生、大学院の知識や技術、論理的思考の向上に努めた。その他、2023 年は学内での様々な委員会の委員として、本学の管理 · 運営に貢献した。

(2)　研究活動

大川グループ：直接の研究対象はリポ蛋白およびその主要成分であるコレステロールや中性脂肪、構成 · 機能蛋白である各種アポ蛋白、およびその代謝 · 分解産物や代謝に関わる酵素類であるが、これらの詳細な研究を通じて、粥状動脈硬化性疾患の早期病態把握に有用なバイオマーカーを開発することが主要な研究目的である。
具体的には、High-density lipoprotein（HDL）の reverse cholesterol transport、antioxidant ability、および anti-inflammatory effect などの抗粥状動脈硬化能に着目した冠動脈疾患の特異バイオマーカーの開発や、HDL が他のリポタンパクや細胞との相互作用によって、どのように多様化し、その HDL の多様化が上記の性質 · 機能にどのように関わっているかを解析している。また、最近では、赤血球が関与する脂質代謝のメカニズムの解明も行っている。
2023 年は、HDL の主要なタンパクであるアポリポタンパク A-I（apoA-I）のミエロペルオキシダーゼとキマーゼによる同時修飾について着目し、apoA-I の C 末端 Tyr^{100} で切断された断片を 3 種類の質量分析法により同定した。この同定は将来のバイオマーカーとなる可能性が期待される（Lai et al. Biochimie）。また、以前われわれが開発したコレステロール引き抜き能評価法の改良に関する報告も行った（Miyakoshi et al, Bioscience Reports, and Mutsuda et al, Bioscience Reports）。

研究課題
· 心血管疾患発症の残存危険度を評価可能なバイオマーカーの開発
· HDL 多様化の機序および性質 · 機能への影響
· 赤血球関連脂質代謝の分子機構解析

鈴木グループ：中枢神経系ではオリゴデンドロサイトによって髄鞘が形成され、神経のシグナル伝達が正常に機能している。その異常が多発性硬化症や先天性大脳白質形成不全症を初めとする神経疾患を引き起こすことが知られているが、最近では、精神疾患や認知症との因果関係が明らかとなりつつあり、髄鞘研究が、今後の基礎神経科学や脳科学、神経 · 精神疾患の病態理解と治療戦略に新たな展開を齎すものと期待される。当グループでは、中枢神経系の髄鞘形成不全を引き起こす変異型マウスを用いて、細胞レベル、遺伝子レベルでの分子メカニズム解明とその機序に基づく応用研究への展開を目的として研究を進めている。当該年（2023 年）は、これまで解析をしてきた Teneurin-4 欠損マウスの髄鞘阻害後の軸索維持の分子メカニズムを明らかにし、その成果を各専門学会（日本分子生物学会、日本神経化学会、日本ミエリン研究会）にて報告した。さらに疾患由来の Teneurin-4 遺伝子変異に着目し、細胞接着活性におけるそれらの影響を調べて各種専門学会にて報告した。また、新たな疾患動物モデルの開発を目的として、5 系統の遺伝子改変マウスを準備し、目的のマウス作製に努めた。加えて、オリゴデンドロサイトの髄鞘形成における細胞外マトリックス分子の分子機能のメカニズム解明を進め、同様に関連学会にて報告を行った。競争的研究費の申請も積極的に行い、幾つかの公的研究予算と民間研究助成の獲得に至った。

研究課題
· 中枢神経系髄鞘形成の分子メカニズムの解明
· 遺伝子改変マウスを用いた神経 · 精神疾患の新規動物モデルの開発
· 細胞外マトリックス分子による新規細胞培養基質 · バイオマテリアルの開発

(3) 教育活動

（大川）
検査技術学専攻：
分析化学検査学 I、分析化学検査学 II、分析化学検査学 III、卒業研究、Learning Medical English、臨床検査総合管理学（一部)、臨地実習（一部）
大学院：
保健学演習、保健学実習、臨床実践特別演習入門、臨床実践特別演習 I、臨床実践特別演習 II、先端分析検査学演習、研究実習、高度臨床実践特別演習 I、高度臨床実践特別演習 II、先端分析検査学演習、課題研究 臨床分析 · 分子生物学、臨床分析分子生物学演習、Basic Human Pathology for Graduate Students、Advanced Human Pathology for Graduate Students、先制医歯理工学概論 I（日本語）（一部)、先制医歯理工学概論 I（英語）（一部)、生体検査科学特論 I（一部)、臨床検査法開発学特論（一部）

（鈴木）
検査技術学専攻：
生化学、生化学講義、生化学講義（I)、生化学講義（II)、遺伝子 · 染色体検査学講義、生化学実習、遺伝子検査学実習、卒業研究、総合講義（一部）
大学院：
生体検査科学セミナー I、生体検査科学セミナー II、課題研究 臨床分析 · 分子生物学、臨床検査法開発学特論（一部）

（吉本）
検査技術学専攻：
分析化学検査学 I、分析化学検査学 II、分析化学検査学 III、卒業研究、総合講義（一部）

(4) 教育方針

学部教育：（大川）教育分野は分析化学検査学が中心であり、臨床検査現場ではいわゆる一般検査および臨床化学検査領域にあたる。この分野はもっとも自動化が進んでいる分野である。また、放射線同位元素技術学の教育はアイソトープ総合センターの原正幸准教授の協力を得ている。高度専門職業人として検査現場のリーダーあるいは指導者として活躍できる人材の育成のために、あるいは、企業においては検査の知識をベースにしたスペシャリストとして独自の業務を遂行できる人材の育成のために、分析法の原理や特徴および得られた結果の臨床的意義を解釈できる基礎的教育を目指している。それをベースに自ら考え、問題を解決し、さらには発展させていく創造的能力の育成が最終目標である。
（鈴木）学部では検査技術学専攻と看護学専攻の学生を対象とした生化学講義や、検査技術学専攻の学生を対象とした生化学実習や遺伝子 · 染色体検査学講義、遺伝子検査学実習を担当し、臨床検査学として必要な生命現象における分子レベルでの基本原理 · メカニズムの理解習得を目的とした教育に努めている。さらにそれら基礎生命科学に必要となる生化学的 · 分子生物学的解析手法の知識 · 技術も習得できるよう実践的な教育も展開している。さらに卒業研究では当グループで進めている中枢神経系の髄鞘形成の分子メカニズム解明を目指す研究を通して、先行研究に基づく仮説の立て方、遺伝子組換え技術や動物組織からの初代培養等の専門技術、結果の科学的解析、論理的考察といった研究の基礎習得のための徹底的な教育も推し進めている。

大学院教育：（大川）研究の基礎となるのは分析技術である。確かな分析技術なくして、すばらしい研究成果が得られることはありえない。大川グループでは、信頼できる分析技術の重要性を理解し、その技術を習得することを第一の目的とする。次にその技術を基盤として、臨床検査分野で必要とされている新たなバイオマーカーの考案と測定法の開発、および臨床的有用性の評価を目指す。これら一連の研究プロセスを通じて、各種分析技術の習得とその原理、特徴および限界を理解することに加えて、自ら実験を立案し、その実行のために最適な手法を選択できる研究構築能力を育成する。また、学会発表や論文発表を通じて、得られた研究成果を情報として発信する能力を育成する。
（鈴木）この半世紀での分子生物学の進歩は目覚ましく、数多くの生命現象が解明され、臨床応用をはじめとして、人類の発展に多大な貢献をして来た。その進歩は今も留まることなく、様々な新規現象の解明や概念の提唱、解析法の開発が進んでいる。それらのキャッチアップ · 習得に努め、次世代の生命科学研究者の育成を目的として基礎的 · 専門的な教育を展開している。具体的な活動として、当グループで進めている中枢神経系の髄鞘形成の分子メカニズム解明を目指す研究を通して、仮説の立て方や遺伝子組換え技術や遺伝子改変マウスの作製 · 維持、初代培養等の専門技術の習得、結果の科学的解析や論理的考察といった研究を推し進めるために必要なテクニックとノウハウを徹底的に教育している。また、研究室の学生を対象とした勉強会を通して、当グループで展開している研究について最新の学術論文を用いて解説し、自分たちの研究の世界レベルでの位置付けを理解させ、研究に取り組むよう指導している。何よりも学生が高いモチベーションを持って楽しく研究や勉学に励むことができ

る環境作りを心掛けている。

(5) 臨床活動および学外活動

（臨床活動）
附属病院検査部において、大川が検査部の業務に参画している。

（学外活動）
（大川）
· 日本臨床化学会：理事、評議員、あり方検討委員会（委員長）、細則検討委員会（委員）、若手育成委員会（委員）国際交流委員会（委員）、酵素試薬専門委員会（委員）、リポ蛋白専門委員会（委員）
· 日本臨床検査標準協議会：理事
· 日本医療検査科学会：理事、評議員、編集委員会（委員）、国際交流委員（委員）
· 国際糖尿病対策ワーキング（WG リーダー）
· 日本臨床検査医学会：評議員
· 日本臨床検査学教育協議会：評議員、編集委員会（委員）、分科会（臨床化学）（副分科会長）
· 国立大学臨床検査学医教育協議会：将来問題検討 WG（委員）
· Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine (APFCB)：Communication and Publication Committee member
· 日本動脈硬化学会　「HDL 調査検討ワーキンググループ」
· 日本臨床検査同学院：二級臨床検査士（化学）、主任試験員
· 株式会社 医学書院：“検査と技術”、編集協力委員
· 医歯薬出版株式会社：“最新臨床検査学講座 臨床化学検査学”、編集
· 金原出版株式会社：“臨床検査法提要”、編集協力者
· 株式会社メテオ：メディカルオンライン、監修

（鈴木）
· Frontiers in Cell and Developmental Biology：Review Editor
· Frontiers in Cell and Developmental Biology：Topic Editor
· Neurology International：Editorial Board
· Cells：Topical Advisory Panel
· 日本ミエリン研究会：評議員
· 北米神経科学会：一般会員
· 日本分子生物学会：一般会員
· 日本神経化学会：一般会員
· 日本結合組織学会：一般会員

(6) 研究業績

[原著]

1. Masamichi Mikame, Nelson Hirokazu Tsuno, Yoshino Miura, Hideaki Kitazaki, Daisuke Uchimura, Toru Miyazaki, Toru Miyagi, Takayuki Onodera, Wataru Ohashi, Takahiro Kameda, Ryunosuke Ohkawa, Shuichi Kino, Kazuo Muroi. Decreased rate of blood donors with high ABO antibody titers in Japan and the underlying factors: Comparisons between 2010 and 2021. Transfus Apher Sci. 2023.12; 62(6); 103812

2. Azusa Yamazaki, Yoko Nukui, Takahiro Kameda, Ryoichi Saito, Yuki Koda, Naoya Ichimura, Shuji Tohda, Ryunosuke Ohkawa. Variation in presepsin and thrombomodulin levels for predicting COVID-19 mortality. Sci Rep. 2023.12; 13(1); 21493

3. Masamichi Mikame, Nelson Hirokazu Tsuno, Yoshino Miura, Hideaki Kitazaki, Daisuke Uchimura, Toru Miyagi, Toru Miyazaki, Takayuki Onodera, Wataru Ohashi, Takahiro Kameda, Ryunosuke Ohkawa, Shuichi Kino, Kazuo Muroi.. Anti-A and anti-B titers, age, gender, biochemical parameters, and body mass index in Japanese blood donors. Immunohematology. 2023.12; 39(4); 155-165

4. Shao-Jui Lai, Takahiro Kameda, Maasa Morita, Yuka Yamagata, Kaoruko Nishizaka, Yuna Horiuchi, Yukihiro Kobayashi, Yoko Usami, Jun-Jen Liu, Takeshi Kasama, Minoru Tozuka, Ryunosuke Ohkawa. Characterization of novel truncated apolipoprotein A-I in human high-density lipoprotein generated by sequential treatment with myeloperoxidase and chymase. Biochimie. 2023.09; 218; 34-45
5. Tsunehiro Miyakoshi, Yume Mutsuda, Yuna Horiuchi, Takahiro Kameda, Minoru Tozuka, Ryunosuke Ohkawa. Improvement in bilirubin influence on cholesterol efflux capacity evaluation using the immobilized liposome-bound gel beads method. Biosci Rep. 2023.06; 43(6);
6. Yume Mutsuda, Tsunehiro Miyakoshi, Yuna Horiuchi, Takahiro Kameda, Minoru Tozuka, Ryunosuke Ohkawa. Development and validation of novel automatable assay for cholesterol efflux capacity. Biosci Rep. 2023.02; 43(2);
1. 堀内 優奈, 大川 龍之介, 戸塚 実. 無細胞系コレステロール引き抜き能測定法の臨床現場での測定に向けた検討 臨床化学. 2023.04; 52(2); 97-104
2. 大川 龍之介. 【脂質異常症　だれを · どこまで · どのように】HDL のコレステロール引き抜き能の臨床検査への導入にむけて Medical Practice. 2023.01; 40(1); 98-100

[総説]

1. 藤本 一満，大川 龍之介. 臨床化学 日本臨床検査同学院「通信」. 2023.06; 48(夏季); 96

[講演 · 口頭発表等]

1. Hinako Saito, Riko Takahashi, Mio Fujisato, Yukina Hosoda, Chikako Hayashi, Ryunosuke Ohkawa, and Nobuharu Suzuki. The molecular mechanism of axon maintenance after myelination defect. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.08
2. Chisato Banno, Binri Sasaki, Momona Yamada, Keisuke Hamada, Yuji Yamada, Yamato Kikkawa, Motoyoshi Nomizu, Nobuharu Suzuki. Identification of active peptides from the extracellular matrix protein laminin-411 that promotes the formation of myelin membranes in oligodendrocytes. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.08
3. Reina Ono, Riko Takahashi, Hinako Saito, Mio Fujisato and Nobuharu Suzuki. The RNA-Seq analysis in reactive gliosis by the murine genetical dysmyelination. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.07
4. Binri Sasaki, Chikako Hayashi, and Nobuharu Suzuki. Cell adhesion protein teneurin-4 regulates actin polymerization in oligodendrocytes for CNS myelination. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.07
5. Mio Fujisato, Hinako Saito, Riko Takahashi, Reina Ohno and Nobuharu Suzuki. The expression and function of monocarboxylate transporters for the maintenance of unmyelinated small axons in the CNS. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.07
6. Mizuki Fukuhara, Yuki Munakata, Reina Ohno, Nanako Yamada, Momona Yamada, Chikako Hayashi, and Nobuharu Suzuki. Evaluation of cell adhesion activity of mutant teneurin-4 and its effect on the diseases. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.06
7. Miyakoshi T., Horiuchi Y., Araki M., Yonetsu T., Watanabe M., Nakamura M., Kameda T., Yoshimoto A., Ichimura N., Tohda S., Tozuka M., Sasano T., Ohkawa R. Association between CEC measured by immobilized liposome-bound gel beads method and the size of lipid-rich coronary artery plaque. Scientific Session of the American Heart Association 2023.11.09
8. Horiuchi Y., Kameda T., Ogura M., Miida T., Tozuka M., Ohkawa R. Search for standardizable references in cell-free cholesterol efflux assay using immobilized liposome-bound gel beads. the 12th International Congress on Lipid & Atherosclerosis with Asia-Australia Vascular Biology Meeting (ICoLA 2023 in conjunction with AAVBM) 2023.09.15 Seoul
9. Ohkawa R.. Structural and Functional Analysis of Modified HDL. Lunchtime Seminar at Chulalongkorn University 2023.08.18 Bangkok
10. Miyakoshi T., Mutsuda Y., Horiuchi Y., Kameda T., Tozuka M., Ohkawa R. Application of bilirubin oxidase for improvement of false positive error caused by bilirubin on cholesterol efflux capacity assay by immobilize liposome-bound gel beads method. American Association for Clinical Chemistry (AACC) 2023 AACC Annual Scientific Meeting & Clinical Lab Expo 2023.07.24 Anaheim

11. Yamazaki A., Nukui Y., Kameda T., Saito R., Koda Y., Ichimura N., Tohda S., Ohkawa R.. Usefulness of presepsin and thrombomodulin measurements for predicting COVID-19 mortality. American Association for Clinical Chemistry (AACC) 2023 AACC Annual Scientific Meeting & Clinical Lab Expo 2023.07.24 Anaheim

12. Hinako Saito, Riko Takahashi, Mio Fujisato, Yukina Hosoda, Chikako Hayashi, and Nobuharu Suzuki. The molecular mechanism of axonal survival in the murine dysmyelination. 第 66 回日本神経化学会大会 2023.07.08

13. Mizuki Fukuhara, Chikako Hayashi, Yuki Munakata, Reina Ohno, Nanako Yamada, Momona Yamada, and Nobuharu Suzuki. The molecular mechanism of CNS myelination through the cell adhesion of teneurin-4 and its effect on the diseases. 第 66 回日本神経化学会大会 2023.07.08

14. Mikame M., Tsuno N.H., Miura Y., Kitazaki H., Uchimura D., Miyagi T., Miyazaki T., Onodera T., Ohashi W., Kameda T., Ohkawa R., Kino S., Muroi K. Correlation of ABO antibody titers with physiological/biochemical parameters in Japanese blood donors, and comparison between donors of 2010 and 2021. 33rd Regional Congress of the ISBT 2023.06.17 Gothenburg

15. Kawaguchi R., Kameda T., Yoshimoto A., and Ohkawa R. Usefulness of Apolipoprotein B-Depleted Serum in Paraoxonase 1 Assessment. Worldlab EuroMedLab Roma 2023 2023.05.21 Roma

16. Ohkawa R.. Japanese Medical Technology Education - Connection Potential for Cooperation Between Japan and Vietnam Schools/Association -. The Workshop On the Diamond Jubilee Celebration of the 60 years of Da Nang University of Medical Technology and Pharmacy (DUMTP) 2023.04.14 Da Nang City (Vietnam)

1. 山崎 あずさ，市村 直也，東田 修二，大川 龍之介. 新たな測定法による赤血球コレステロール含有量と他の検査項目との関連. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.18 長崎

2. 志村 拓也，森田 賢史，Baasanjav Uranbileg，小野 佳一，大川 龍之介，蔵野 信. パラオキソナーゼ 1 がジアシルリン脂質およびリゾリン脂質変動に与える影響. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.18 長崎

3. 波木井 優奈，山崎 あずさ，川口 莉奈，吉本 明，高橋 純一郎，岡崎 三代，横山 信治，藍 真澄，大川 龍之介. LipoSEARCH® システムを用いた血清中リポタンパクのコリン含有リン脂質解析. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.18 長崎

4. 宮腰 恒広，堀内 優奈，荒木 誠，米津 太志，渡部 芽以，中村 元紀，亀田 貴寛，吉本 明，市村 直也，東田 修二，戸塚 実，笹野 哲郎，大川 龍之介. HDL サブクラスおよび冠動脈内プラークのサイズと無細胞系測定法によるコレステロール引き抜き能の関連. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.18 長崎

5. 大川 龍之介. 臨床検査技師が行う研究活動 ～ こんなメリットがあります！ ～. 福祉局 · 保健医療局 · 東京都立病院機構合同研修「臨床検査」（第 4 回） 2023.11.06 東京

6. 大川 龍之介. 心血管疾患リスクを早期に予測可能なコレステロール引き抜き能測定法の開発と評価. 山内進循環器病研究助成第 4 回研究発表会 2023.10.30 大阪

7. 堀内 優奈，戸塚 実，大川 龍之介. 無細胞系コレステロール引き抜き能の開発 · 改良とその臨床応用. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会　シンポジウム 7 2023.10.29 東京

8. 川口 莉奈，瀬筒 ほの夏，吉本 明，大川 龍之介. アポリポタンパク B 含有リポタンパクが高比重リポタンパク中パラオキソナーゼ 1 活性に与える影響. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会 2023.10.28 東京

9. 清水 梨帆，山崎 あずさ，川口 莉奈，鈴木 喜晴，大川 龍之介. 赤血球コレステロール代謝の解析モデルとして使用する赤芽球系細胞の脂質輸送タンパク解析. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会　学生シンポジウム 1 2023.10.28 東京

10. 孫 成満、亀田 貴寛、大川 龍之介. . 血清中アポリポタンパク複合体 apoA-I/apoA-II ヘテロダイマー測定法の改良と性能評価. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会　学生シンポジウム 1 2023.10.28 東京

11. 亀田 貴寛，加柴 美里，川口 莉奈，吉本 明，大川 龍之介. 血清アミロイド A 修飾低比重リポタンパク (SAA-LDL) における抗酸化能の解析. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会 2023.10.27 東京

12. 吉本 明、森田 賢史、久米 幸夫、吉川 直之 、小野 佳一、大川 龍之介、蔵野 信、矢冨 裕. 尿中クレアチニン測定に及ぼす薬剤の影響の検討. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会 2023.10.27

13. 波木井優奈，山崎あずさ，川口莉奈，亀田貴寛，高橋純一郎，岡崎三代，横山信治，藍真澄，大川龍之介. LipoSEARCH システムを用いた HDL サブクラスのアポリポタンパクの分布の解析. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会 2023.10.27 東京

14. 中村 元紀，渡部 芽以，井口 晃弘，大野 一彦，亀田 貴寛，東田 修二，大川 龍之介. 反応過程近似解析ツール MiRuDa のさらなる有用性の検討—鉄測定における反応非収束の事例—. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会 2023.10.27 東京

15. 山崎 あずさ，渡部 芽以，市村 直也，東田 修二，大川 龍之介. 赤血球コレステロール含有量直接測定法の評価およびヘモグロビン濃度による補正の検討. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会 2023.10.27

16. 山崎 あずさ，市村 直也，東田 修二，大川 龍之介. 赤血球コレステロール含有量を測定するための試料の前処理および安定性に関する検討. 第 55 回日本医療検査科学会年次学術集会 2023.10.06 横浜

17. 宮腰 恒広，山崎 あずさ，川口 莉奈，渡部 芽以，堀内 優奈，亀田 貴寛，吉本 明，市村 直也，東田 修二，戸塚 実，大川 龍之介. 加温処理による血清中 HDL 構造変化と細胞法および無細胞系測定法を用いたコレステロール引き抜き能の解析. 第 55 回日本医療検査科学会年次学術集会 2023.10.06 横浜

18. 藤代 瞳，甲田 祐樹，赤羽 あゆみ，市村 直也，東田 修二，大川 龍之介. 大学院生に対する採血手技及び接遇教育の効果. 第 55 回日本医療検査科学会年次学術集会 2023.10.06 横浜

19. 大川 龍之介. 粥状動脈硬化形成メカニズムの解明およびバイオマーカー探索. 大塚電子株式会社 社内講演会 2023.09.11 大阪

20. 大川 龍之介. 前半戦を振り返って. 臨床検査技師 100 人カイギ第 20 回 2023.08.26 online

21. 藤代 瞳，甲田 祐樹，赤羽 あゆみ，市村 直也，東田 修二，大川 龍之介. 大学院生に対する採血手技及び接遇教育の効果. 第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2023.08.24

22. 秋山 葉菜恵，宮腰 恒広，川口 莉奈，亀田 貴寛，吉本 明，大川 龍之介. THP-1 細胞と BODIPY 標識コレステロールを用いた ABC トランスポーター A1 依存的コレステロール引き抜き能評価法におけるコレステロール添加量に関する検討. 第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2023.08.24

23. 五十嵐 菜緒，川口 莉奈，吉本 明，大川 龍之介. Paraoxonase1 の評価におけるカルシウム再添加血漿およびアポリポタンパク B 含有リポタンパク除去血漿の有用性. 第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2023.08.24

24. 田中 瑞稀, 高橋 和樹, 勝又 寿枝, 小林 美穂, 大川龍之介, 渡部 徹郎. TGF-βによる内皮間葉移行（EndoMT）の段階的遷移に対する影響の検討. 第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2023.08.24

25. 又吉 琴子，清水 梨帆，川口 莉奈，吉本 明，鈴木 喜晴，大川 龍之介. 赤血球の脂質代謝解析モデル細胞の構築を目的としたヒト白血病細胞株を用いた赤芽球系細胞への分化条件の検討. 第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2023.08.24

26. 川口 莉奈，吉本 明，亀田 貴寛，大川 龍之介. ホモシステインチオラクトン添加血清におけるパラオキソナーゼ 1 の評価. 第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2023.08.23

27. 荒木 誠，米津 太志，堀内 優奈，宮腰 恒広，中島 聡良，野田 誠之，益本 寛之，酒井 瑛子，吉川 宏，大森 真理，菅野 義典，松田 祐治，平澤 憲祐，杉山 知代，梅本 朋幸，戸塚 実，大川 龍之介，笹野 哲郎. Association between cholesterol efflux capacity and lipid-rich plaque in coronary plaques assessed by optical coherence tomography. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 2023.08.04 福岡

28. 山崎 あずさ，横山 信治，岡崎 三代，藍 真澄，三宅 修司，高橋 純一郎，亀田 貴寛，市村 直也，東田 修二，大川龍之介. LDL コレステロール濃度算出におけるリポ蛋白 (a) の影響. 第 55 回日本動脈硬化学会総会 · 学術集会 2023.07.26

29. 山崎 あずさ，貫井 陽子，亀田 貴寛，甲田 祐樹，市村 直也，齋藤 良一，東田 修二，大川 龍之介. COVID-19 患者のプレセプシン測定における腎機能の影響. 第 31 回日本臨床化学会関東支部総会 2023.06.03

30. 三瓶 雅迪，三浦 佳乃，北﨑 英晃，内村 大祐，宮崎 孔，宮城 徹，小野寺 孝行，大橋 恒，亀田 貴寛，大川龍之介，津野 寛和，紀野 修一，室井 一男. 献血者における抗 A· 抗 B 抗体価低下の調査〜2010 年と 2021 年の比較および生化学検査結果 · BMI との相関〜. 第 71 回日本輸血 · 細胞治療学会学術総会 2023.05.11

31. 鈴木喜晴、山田桃奈、佐々木敏莉、Susana de Vega. オリゴデンドロサイトの発生 · 分化におけ る ECM タンパク質の機能解析. 第 7 回日本ミエリン研究会発表会 2023.02.11

[受賞]

1. 川口 莉奈，APFCB Young Scientists Award 2023, Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine, 2023 年 05 月
2. 山崎 あずさ，第 55 回日本動脈硬化学会総会 · 学術集会 ポスター優秀賞, 日本動脈硬化学会, 2023 年 07 月
3. 川口 莉奈，第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会 優秀発表賞, 日本臨床検査学教育協議会, 2023 年 08 月
4. 堀内 優奈，ICoLA 2023 in conjunction with AAVBM Travel Grant, The Korean Society of Lipid and Atherosclerosis, 2023 年 09 月
5. 清水 梨帆，第 63 回日本臨床化学会学術集会 JSCC Student Award, 日本臨床化学会, 2023 年 10 月
6. 吉本 明，日本臨床化学会 2023 年度 若手研究者賞, 日本臨床化学会, 2023 年 10 月

[その他業績]

1. 大川　龍之介，公益財団法人 日立財団，2022 年度（第 54 回）倉田奨励金：, 2023 年 03 月
赤血球関連脂質代謝異常の解明と評価法の開発

[社会貢献活動]

1. 大川 龍之介，日本臨床化学会，評議委員, 2015 年 04 月 01 日 - 現在
2. 大川 龍之介，日本臨床化学会，細則委員, 2019 年 04 月 01 日 - 現在
3. 大川 龍之介，日本臨床検査医学会，評議委員, 2019 年 04 月 01 日 - 現在
4. 大川 龍之介，日本医療検査科学会，国際交流委員, 2019 年 04 月 01 日 - 現在
5. 大川 龍之介，日本臨床検査教育協議会，編集委員, 2019 年 05 月 28 日 - 2023 年 05 月 31 日
6. 大川 龍之介，日本臨床検査教育協議会，将来問題検討委員, 2019 年 05 月 28 日 - 現在
7. 大川 龍之介，医歯薬出版株式会社，”最新 臨床検査学講座 臨床化学検査学”，編集, 2020 年 07 月 01 日 - 現在
8. 大川 龍之介，日本臨床検査教育協議会，評議員, 2021 年 04 月 01 日 - 現在
9. 大川 龍之介，日本臨床化学会，国際交流委員, 2021 年 04 月 01 日 - 現在
10. 大川 龍之介，国立大学臨床検査学教育協議会，将来問題検討 WG 委員, 2021 年 04 月 01 日 - 現在
11. Nobuharu Suzuki, Frontiers in Cell and Developmental Biology:Topic Editor, 2021 年 09 月 01 日 - 現在
12. Nobuharu Suzuki, Cells：Topical Advisory Panel, 2021 年 09 月 01 日 - 現在
13. 大川 龍之介，日本医療検査科学会，理事, 2021 年 10 月 10 日 - 現在
14. 大川 龍之介，日本医療検査科学会，編集委員, 2021 年 10 月 10 日 - 現在
15. 大川 龍之介，株式会社医学書院，”検査と技術”，編集協力委員, 2022 年 01 月 01 日 - 現在
16. 大川 龍之介，日本臨床検査同学院，二級臨床検査士，主任試験員, 2022 年 04 月 01 日 - 現在
17. 大川 龍之介，金原出版株式会社，”臨床検査法提要”，編集協力者, 2022 年 05 月 01 日 - 現在
18. 大川 龍之介，日本臨床化学会，若手育成委員会, 2022 年 06 月 18 日 - 現在
19. 大川 龍之介，日本臨床化学会，リポ蛋白専門委員会, 2022 年 10 月 21 日 - 現在
20. Ryunosuke Ohkawa，Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine (APFCB)，Communication and Publication Committee member, 2023 年 02 月 10 日 - 現在
21. 大川 龍之介，日本臨床化学会，酵素試薬専門委員会, 2023 年 04 月 01 日 - 現在
22. 大川 龍之介，日本臨床化学会，あり方検討委員会（委員長）, 2023 年 04 月 01 日 - 現在
23. 大川 龍之介，日本臨床化学会，理事, 2023 年 04 月 01 日 - 現在

24. 大川 龍之介，日本臨床検査標準協議会，理事, 2023 年 07 月 11 日 - 現在
25. 鈴木 喜晴，Frontiers in Cell and Developmental Biology:Review Editor, 2023 年 09 月 01 日 - 現在
26. Nobuharu Suzuki, Neurology International：Editorial Board, 2023 年 09 月 01 日 - 現在

微生物 · 感染免疫解析学分野

Department of Molecular Microbiology and Immunology

教授：齋藤良一
准教授：田中ゆきえ
助教：太田悠介
大学院生（博士）：Samiratu Mahazu、Frederick Ofosu Appiah、永田美香、萩原秀、古屋瑠菜
大学院生（修士）：河村平、松葉美帆、Yikeshan Yalikun、大城音萌子、鈴木彩葉、南菜々子

(1) 分野概要

微生物学は微生物の性質と機能を解する学問であり、それに関わる臨床微生物学は微生物（病原体）によって引き起こされる感染症の診断と治療法の開発を主な目的とする。当分野の教育では、医学微生物学の基礎的な内容を学んだうえで、感染症の起因微生物の分離同定法、薬剤感受性試験などを含む臨床検査の実践的手技を教授している。研究では、病原細菌における抗菌薬耐性化の分子機構やゲノム疫学に関する研究と病原性発現制御機構の研究を国内外の共同研究者と共に行っている。

感染免疫学は、免疫細胞や免疫分子の相互作用、免疫応答の制御機構などを基礎から学び、人体における免疫応答のさまざまな側面を理解したうえで、感染症を含む免疫疾患に関する試験を適切に実施、結果を正確に解釈するスキルを習得することを目的とする。また、研究では、主に移植免疫や難治性ウイルス感染症に焦点を当て、免疫細胞療法や診断法の開発に取り組んでいる。現在、以下の研究概要に示すテーマについて、多施設共同研究を行っている。

(2) 研究活動

微生物学領域：
1. 薬剤耐性菌の進化 · 多様性に関する研究
2. 環境における微生物叢動態と相互作用に関する研究
3. 細菌の環境適応機構に関する研究
4. 病原体検出の迅速化 · 簡易化を目指す研究

以上のテーマについて、本学のガーナ大学野口記念医学研究所海外研究拠点を軸とした国際共同研究のほか、国内の医療機関や国立感染症研究所等とも共同研究を行っている。

感染免疫学領域：
1. 移植後日和見感染症に対する多ウイルス特異的免疫細胞療法に関する研究
2. HTLV-1 関連疾患におけるウイルス特異的細胞傷害性 T 細胞の解析
3. CXCR4 分子拮抗薬を用いた造血幹細胞動員メカニズムについての研究
4. 造血器腫瘍の分子病態解明ならびに新規治療法の開発

以上のテーマについて、本学発生発達病態学分野との共同研究、および多施設共同研究を行っている。

(3) 教育活動

1. 学部

検査技術学専攻：病原体検査学講義 (I)、病原体検査学講義 (II)、病原体検査学実習 (I)、病原体検査学実習 (II)、免疫検査学講義、免疫検査学実習、総合講義、卒業研究

看護学専攻：微生物学
医学科：感染 · 臨床
口腔保健工学：感染予防

2. 大学院
保健学演習 · 実習、研究実習、生体検査科学特論Ⅱ、臨床検査法開発学特論、課題研究

(4) 教育方針

1. 学部教育
病原体検査学講義 (I)· 実習 (I) は医学微生物学（細菌学、真菌学、ウイルス学、免疫学、寄生虫学）の基礎的な内容について保健衛生学科の検査技術学専攻の学生（2 年生）に対して教授している。寄生虫学は国際環境寄生虫病学分野の協力を得ている。微生物学は看護学専攻の学生（2 年生）に対して講義により教授している。病原体検査学講義 (II)· 実習 (II) は、検査技術学専攻の学生（3 年生）に対して、感染症の原因微生物の検出法、薬剤感受性試験、病原微生物の疫学的解析法などについて教授している。免疫検査学講義（2 年生）と免疫検査学実習（3 年生）は免疫治療学分野と輸血 · 細胞治療センターの協力を得ている。

2. 大学院教育
感染症の病原体および病因について最新情報を取得し、病原体の検査法および診断 · 治療への応用について考察する。また細菌学や臨床微生物学、感染免疫学の研究の現況を学び、それらに関わる基礎的な研究能力を修得させ，成果を学会や国際誌に報告できるよう指導している。

(5) 臨床活動および学外活動

臨床活動として、齋藤と太田は当院医学部附属病院にて感染制御部の一部業務（病院内感染制御活動、病原体の遺伝子検査、病原体の分子疫学解析など）を担当した。田中は東京医科歯科大学病院入院患者由来 SARS-CoV-2 ゲノム解析プロジェクトチーム員として業務担当した。
学外活動として、齋藤と太田は国内医療施設の微生物検査を担当する臨床検査技師に対して、検査精度の向上を目指した卒後教育を日本臨床微生物学会、認定臨床微生物検査技師制度審議会等とともに実施した。更に齋藤は公益財団法人国際医療技術財団とともに臨床検査の質向上を目指した事業を JICA 研修生に対して実施した。また齋藤は、日本臨床検査学教育協議会、日本臨床微生物学会、日本嫌気性菌感染症学会の役員として学会運営を行った。

(6) 研究業績

[原著]

1. Azusa Yamazaki, Yoko Nukui, Takahiro Kameda, Ryoichi Saito, Yuki Koda, Naoya Ichimura, Shuji Tohda, Ryunosuke Ohkawa. Variation in presepsin and thrombomodulin levels for predicting COVID-19 mortality. Sci Rep. 2023.12; 13(1); 21493

2. Akira Nishimura, Kazuaki Yokoyama, Takuya Naruto, Chika Yamagishi, Toshihiko Imamura, Hiroto Nakazono, Shunsuke Kimura, Mieko Ito, Maiko Sagisaka, Yukie Tanaka, Jinhua Piao, Yui Namikawa, Masakatsu Yanagimachi, Takeshi Isoda, Akinori Kanai, Hirotaka Matsui, Tomoya Isobe, Aiko Sato-Otsubo, Naoko Higuchi, Akiko Takada, Haruna Okuno, Shoji Saito, Shuhei Karakawa, Shogo Kobayashi, Daisuke Hasegawa, Hiroyuki Fujisaki, Daiichiro Hasegawa, Kazutoshi Koike, Takashi Koike, Shinya Rai, Katsutsugu Umeda, Hideki Sano, Yujin Sekinaka, Atsushi Ogawa, Akitoshi Kinoshita, Norio Shiba, Mizuka Miki, Fumihiko Kimura, Hideki Nakayama, Yozo Nakazawa, Takashi Taga, Tomohiko Taki, Souichi Adachi, Atsushi Manabe, Katsuyoshi Koh, Yasushi Ishida, Junko Takita, Fumihiko Ishikawa, Hiroaki Goto, Tomohiro Morio, Shuki Mizutani, Arinobu Tojo, Masatoshi Takagi. Myeloid/natural killer (NK) cell precursor acute leukemia as a distinct leukemia type. Sci Adv. 2023.12; 9(50); eadj4407

3. Hideyuki Takahashi, Masatomo Morita, Hajime Kamiya, Munehisa Fukusumi, Mitsuru Yasuda, Masatomi Sunagawa, Haruna Nakamura-Miwa, Yuki Ohama, Ken Shimuta, Makoto Ohnishi, Ryoichi Saito, Yukihiro Akeda. Emergence of ciprofloxacin- and penicillin-resistant Neisseria meningitidis isolates in Japan between 2003 and 2020 and its genetic features. Antimicrob Agents Chemother. 2023.11; 67(11); e0074423

4. Yusuke Ota, Isaac Prah, Samiratu Mahazu, Yoshiaki Gu, Yoko Nukui, Ryuji Koike, Ryoichi Saito. Novel insights into genetic characteristics of blaGES-encoding plasmids from hospital sewage Frontiers in Microbiology. 2023.08; 14; 1209195

5. Yusuke Ota, Kazuki Furuhashi, Nachi Hirai, Yuki Nagao, Jinko Ishikawa, Osanori Nagura, Keita Yamashita, Masato Maekawa. Utility of the MBT STAR-Cepha kit in detecting extended-spectrum β-lactamase producers in clinical urine samples and positive blood cultures using matrix-assisted laser desorption/ionization time-of-flight mass spectrometry Journal of Microbiological Methods. 2023.06; 211; 106756

6. Yusuke Ota, Reina Okada, Hideyuki Takahashi, Ryoichi Saito. A mismatch amplification mutation assay for specific detection of ciprofloxacin-resistant Neisseria meningitidis Journal of Infection and Chemotherapy. 2023.05; 29(5); 562-564

7. Yusuke Ota, Reina Okada, Hideyuki Takahashi, Ryoichi Saito. A mismatch amplification mutation assay for specific detection of ciprofloxacin-resistant Neisseria meningitidis. J Infect Chemother. 2023.05; 29(5); 562-564

8. Takatsuki Y., Takahashi Y., Nakajima J., Iwasaki Y., Nagano K., Tani-Sassa C., Yuasa S., Kanehira S., Sonobe K., Nukui Y., Takeuchi H., Tanimoto K., Tanaka Y., Kimura A., Ichimura N., and Tohda S.. Viral load of SARS-CoV-2 Omicron BA.5 is lower than that of BA.2 despite higher infectivity of BA.5. Immunity, Inflammation and Disease. 2023.02; 11; e783

9. Ota Y, Prah I, Mahazu S, Gu Y, Nukui Y, Koike R, Saito R. Novel insights into genetic characteristics of bla(GES)-encoding plasmids from hospital sewage. Frontiers in microbiology. 2023; 14; 1209195

10. Taira Kawamura, Isaac Prah, Samiratu Mahazu, Anthony Ablordey, Ryoichi Saito. Types A and F Clostridium perfringens in healthcare wastewater from Ghana. Appl Environ Microbiol. 2023.12; e0161923

1. 園屋 陽平, 福田 修, 太田 悠介, 齋藤 良一, 住田 善之, 金子 幸弘, 佐田 誠. グラム染色報告での早期の菌種推定が有効な初期抗菌薬の選択に繋がった Lacticaseibacillus paracasei による感染性心内膜炎症例. 日本臨床微生物学会雑誌. 2023.09; 33(4); 275-279

2. 名倉理教、古橋一樹、長尾侑紀、太田悠介、石川仁子、前川真人. 血液培養から検出された Candida 属の CHROMagar Candida を用いた推定と MALDI-TOF MS による同定法の比較検討 日本臨床微生物学会雑誌. 2023; 33(2); 116-120

3. 園屋陽平、福田修、太田悠介、齋藤良一、住田善之、金子幸弘、佐田誠. グラム染色報告での早期の菌種推定が有効な初期抗菌薬の選択に繋がった Lacticaseibacillus paracasei による感染性心内膜炎症例 日本臨床微生物学会雑誌. 2023; in press;

[総説]

1. 齋藤良一. ポストコロナ時代の感染症診療 (第 I 章) 感染症診療総論　検体採取と輸送・保存 診断と治療. 2023.03; 111; 14-17

[講演・口頭発表等]

1. Nishimura A, Sasaki M, Muhaimin R, Tanaka Y, Morio T, Takagi M, Isoda T.. Non-coding RNA transcription and super-enhancer activation facilitate 3D genome structure. 2023.10.04 Tokyo

2. Y Nukui, C Yamamoto, T Inaba, Y Aiso, J Nakajima, S Kanehira, K Sonobe, S Tohda, Y Ota, and R Saito. Genetic Analysis of Antimicrobial Resistant Enterobacteriaceae in Travelers and Patients Who Were Treated Overseas . AMS Microbe 2023 2023.06.15 Houston, TX

3. Y Nukui, C Yamamoto, T Inaba, Y Aiso, J Nakajima, S Kanehira, K Sonobe, S Tohda, Y Ota, R Saito. . Genetic Analysis of Antimicrobial Resistant Enterobacteriaceae in Travelers and Patients Who Were Treated Overseas. ASM microbe 2023.06.05 Houston

4. Yusuke Ota, Isaac Prah, Samiratu Mahazu, Yoshiaki Gu, Ryuji Koike, Ryoichi Saito. Molecular characterization of blaGES-encoding plasmids from hospital sewage in Japan. 33rd European Congress of Clinical. Microbiology and Infectious Diseases 2023.04 Copenhagen, Denmark

5. Miho Matsuba, Yusuke Ota, Samiratu Mahazu, Isaac Prah, Hideyuki Takahashi, Ryoichi Saito. Development of a rapid and simple assay for identification and serotyping of Neisseria meningitidis. The 33rd European Congress of Clinical Microbiology & Infectious Diseases 2023.04 Copenhagen, Denmark

6. Taira Kawamura, Akari Samejima, Yukino Usui, Isaac Prah, Samiratu Mahazu, Yusuke Ota, Ryoichi Saito. Loss of GdpP function leads to reduced vancomycin susceptibility in Clostridioides difficile. The 33rd European Congress of Clinical Microbiology & Infectious Diseases 2023.04 Copenhagen, Denmark

7. Samiratu Mahazu, Isaac Prah, Yusuke Ota, Takaya Hayashi, Masato Suzuki, Yoshihiko Hoshino, Yukihiro Akeda, Toshihiko Suzuki, Tomoko Ishino, Anthony Ablordey, Ryoichi Saito. Chromosomal mcr-3-related lipid A phosphoethanolamine transferases conferring colistin resistance in Aeromonas species from river water samples. The 33rd European Congress of Clinical Microbiology & Infectious Diseases 2023.04

8. Yusuke Ota, Isaac Prah, Samiratu Mahazu, Yoshiaki Gu, Ryuji Koike, Ryoichi Saito. Molecular characterization of blaGES-encoding plasmids from hospital sewage in Japan. The 33rd European Congress of Clinical Microbiology & Infectious Diseases 2023.04 Copenhagen, Denmark

9. Samiratu Mahazu, Isaac Prah, Yusuke Ota, Takaya Hayashi, Masato Suzuki, Yoshihiko Hoshino, Yukihiro Akeda, Toshihiko Suzuki, Tomoko Ishino, Anthony Ablordey, Ryoichi Saito. Chromosomal mcr-3-related lipid A phosphoethanolamine transferases conferring colistin resistance in Aeromonas species from river water samples. The 33rd European Congress of Clinical Microbiology & Infectious Diseases 2023.04 Copenhagen, Denmark

10. Taira Kawamura, Akari Samejima, Yukino Usui, Isaac Prah, Samiratu Mahazu, Yusuke Ota, Ryoichi Saito. Loss of GdpP function leads to reduced vancomycin susceptibility in Clostridioides difficile. The 33rd European Congress of Clinical Microbiology & Infectious Diseases 2023.04 Copenhagen, Denmark

11. Miho Matsuba, Yusuke Ota, Samiratu Mahazu, Isaac Prah, Hideyuki Takahashi, Ryoichi Saito. Development of a rapid and simple assay for identification and serotyping of Neisseria meningitidis. The 33rd European Congress of Clinical Microbiology & Infectious Diseases 2023.04 Copenhagen, Denmark

12. Isaac Prah, Ayaha Suzuki, Samiratu Mahazu, Yusuke Ota, Anthony Ablordy, Ryoichi Saito. Molecular characterization of carbapenem resistant isolates from hospital sewage samples in Ghana. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.04 横浜

13. Samiratu Mahazu, Isaac Prah, Yusuke Ota, Takaya Hayashi, Yoko Nukui, Masato Suzuki, Yoshihiko Hoshino, Yukihiro Akeda, Toshihiko Suzuki, Tomoko Ishino, Anthony Ablordey, Ryoichi Saito. Genetic analysis of carbapenemase-producing Enterobacter cloacae and Klebsiella species . 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.04 横浜

14. Yikeshan Yalikun, Isaac Prah, Samiratu Mahazu, Yusuke Ota, Ryoichi Saito. Genomic and population insight of ESBL-producing Klebsiella pneumoniae from Ghana. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03

15. Yikeshan Yalikun, Isaac Prah, Samiratu Mahazu, Yusuke Ota, Ryoichi Saito. Genomic and population insight of ESBL-producing Klebsiella pneumoniae from Ghana. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03 横浜

1. 太田悠介. 耐性菌のケ〓ノム解析と臨床検査への展開. 令和 5 年度　日臨技中部圏支部研修会　2023.12

2. 貫井陽子、山本千恵、古川恵太郎、稲葉 亨、園部一成、東田修二、 太田悠介、齋藤良一. 海外渡航 · 治療歴のある患者から入院時スクリーニングで分離された薬剤耐性グラム陰性桿菌の分子疫学解析. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.17 長崎

3. 南菜々子、太田悠介、齋藤良一. Neisseria meningitidis の ciprofloxacin 耐性化に関わる分子機構. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.17 長崎

4. 太田悠介、齋藤良一. 16S rRNA アンプリコン解析におけるショート及びロングリード解析パイプラインの比較評価. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.17 長崎

5. 太田悠介、齋藤良一. 16S rRNA アンプリコン解析におけるショート及びロングリード解析パイプラインの比較評価. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11

6. 鈴木彩葉、太田悠介、齋藤良一. ガーナの医療排水由来カルバペネマーゼ産生菌の細菌学的及び遺伝的特性解析. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11

7. 南菜々子、太田悠介、齋藤良一. Neisseria meningitidis の ciprofloxacin 耐性化に関わる分子機構. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11

8. 陳 菲、太田 悠介、具 芳明、小池 竜司、齋藤 良一. 病院排水から分離された GES 型及び IMP 型カルバペネマーゼ産生菌の全ゲノム解析. 第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2023.08.24 奈良

9. 酒井幸音、Isaac Prah、太田悠介、Samiratu Mahazu、具　芳明、東田修二、齋藤良一. 渡航歴無し入院患者由来 NDM- 5 型カルバペネマーゼ Citrobacter koseri のゲノム疫学解析. 第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2023.08.24 奈良

10. 酒井幸音、Isaac Prah、太田悠介、Samiratu Mahazu、具　芳明、東田修二、齋藤良一. 渡航歴無し入院患者由来 NDM- 5 型カルバペネマーゼ Citrobacter koseri のゲノム疫学解析. 第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2023.08 奈良

11. 陳 菲、太田 悠介、具 芳明、小池 竜司、齋藤 良一 . 病院排水から分離された GES 型及び IMP 型カルバペネマーゼ産生菌の全ゲノム解析. 第 17 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2023.08 奈良

12. 太田悠介、具芳明、小池竜司、齋藤良一. 病院排水より分離された GES 型カルバペネマーゼ産生菌のゲノム解析. 第 97 回日本感染症学会総会 · 学術講演会 2023.04 横浜

13. 古屋瑠菜、小川道永、齋藤良一、明田幸宏. 肺炎球菌感染における糖鎖結合タンパクの機能解析. 第 96 回日本細菌学会総会 2023.03.16 姫路

14. 齋藤良一. 学会発表や科学論文のまとめ方のコツ. 第 6 回イムノケミストリーオンラインセミナー 2023.03.09 東京

15. 河村　平、鮫島朱里、臼井雪乃、Isaac Prah, Samiratu Mahazu, 太田悠介、齋藤良一. Clostridioides difficile のバンコマイシン感受性と増殖能に対する c-di-AMP 加水分解酵素の役割. 第 52 回日本嫌気性菌感染症学会総会 · 学術集会 2023.03.04 横浜

16. 河村　平、鮫島朱里、臼井雪乃、Isaac Prah, Samiratu Mahazu, 太田悠介、齋藤良一. Clostridioides difficile のバンコマイシン耐性化機序に関する研究. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.05 横浜

17. 園屋陽平、福田修、太田悠介、齋藤良一、金子幸弘. 血液培養陽性時のグラム染色による推定菌種報告が初期抗菌薬選択の一助となった Lacticaseibacillus paracasei による感染性心内膜炎の 1 例. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.05 横浜

18. 太田悠介、齋藤良一. ミスマッチ PCR 法を用いた Neisseria meningitidis の ciprofloxacin 耐性に関わる gyrA 変異検出法の構築. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.05 横浜

19. 太田悠介、佐々（谷）千尋、東田修二、齋藤良一. 訪問看護事業所の流し台より分離されたイミペネム低感受性 Enterobacter roggenkampii の全ゲノム解析. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.05 横浜

20. 安永慶、太田悠介、齋藤良一. MiniSeq システムによる 16S rRNA V4 領域を標的とした菌叢解析の有用性評価. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.04 横浜

21. 太田悠介、齋藤良一. Ciprofloxacin 耐性 Neisseria meningitidis における gyrA 変異検出用ミスマッチ PCR 法の構築. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03

22. 太田悠介、佐々（谷）千尋、東田修二、齋藤良一. 訪問看護事業所の流し台より分離されたイミペネム 低感受性 Enterobacter roggenkampii の全ゲノム解析. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03

23. 太田　悠介. 臨床検査への応用を見据えた薬剤耐性の新規検査法開発の試み. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03

24. 安永慶、太田悠介、齋藤良一. MiniSeq システムによる 16S rRNA 遺伝子 V4 領域を標的とした菌叢解析の有用性評価. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03

25. Isaac Prah, Ayaha Suzuki, Samiratu Mahazu, Yusuke Ota, Anthony Ablordey, Ryoichi Saito. Molecular characterization of carbapenem resistant isolates from hospital sewage samples in Ghana. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03

26. Samiratu Mahazu, Isaac Prah, Yusuke Ota, Takaya Hayashi, Yoko Nukui, Masato Suzuki, Yoshihiko Hoshino, Yukihiro Akeda, Toshihiko Suzuki, Tomoko Ishino, Anthony Ablordey, Ryoichi Saito. Genetic analysis of carbapenemase-producing Enterobacter cloacae and Klebsiella species. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03

27. 山田華代 1、Alafate Ayibieke1, Samiratu Mahazu1, Isaac Prah, 山田景土, 荻原真二, 太田悠介, 貫井陽子, 東田修二, 齋藤良一. 世界的流行系統のメチシリン耐性 S. epidermidis における薬剤耐性および病原性の解析. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03

28. 松葉美帆、太田悠介、齋藤良一. 迅速簡便な Neisseria meningitidis の同定および血清群別測定系の開発. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03

29. 河村平、鮫島朱里、臼井雪乃、Isaac Prah、Samiratu Mahazu、太田悠介、齋藤良一. Clostridioides difficile のバンコマイシン耐性化機序に関する研究. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03

30. 園屋陽平、福田修、太田悠介、齋藤良一、金子幸弘. 血液培養陽性時のグラム染色による推定菌種報告が初期抗菌薬選択の一助となった Lacticaseibacillus paracasei による感染性心内膜炎の 1 例. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03

31. 山田華代，Alafate Ayibieke，Samiratu Mahazu，Isaac Prah，山田景土，荻原真二，太田悠介，貫井陽子，東田修二，齋藤良一. 世界的流行系統のメチシリン耐性 S. epidermidis における薬剤耐性および病原性の解析. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03 横浜

32. 松葉美帆、太田悠介、齋藤良一. 迅速簡便な Neisseria meningitidis の同定および血清群別測定系の開発. 第 34 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2023.02.03 横浜

[受賞]

1. 山田華代, The Biomedical Research Award (Master's Program), 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科, 2023 年 03 月

[その他業績]

1. 齋藤良一，ガーナにおける伴侶動物由来薬剤耐性菌の実態，ゲノム特性及び伝播様式の包括的理解, 2023 年 04 月
   日本学術振興会　2023 年度 二国間交流事業　共同研究, 研究代表者.

2. 齋藤良一，流行地西アフリカ · ガーナ研究拠点における新興 · 再興感染症基盤研究の推進, 2023 年 04 月
   国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）, 研究分担者.

3. 齋藤良一，一細胞ドロップレット技術による難培養性抗酸菌/薬剤耐性菌の pathogenomics 解析, 2023 年 04 月
   国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）, 研究分担者.

4. 齋藤良一，医療施設の新たな環境整備指針策定に資する微生物叢 · 機能遺伝子の動態解析, 2023 年 06 月
   公益財団法人政策医療振興財団　令和 5 年度研究助成金, 研究代表者.

[社会貢献活動]

1. 齋藤良一，2023 年度お茶の水会検査同窓会　講演, 2023 年 05 月 28 日

2. 齋藤良一，2023 年度 JICA 課題別研修 「臨床検査技術 - 新興 · 再興感染症にも対応できる臨床微生物学 - Clinical Laboratory Technology; Clinical Microbiology for the Diagnosis of Infectious Diseases Including Emerging and Re-emerging Infections」講師, 公益財団法人国際医療技術財団, 2023 年 10 月 25 日

口腔保健学講座

生涯口腔保健衛生学分野

Department of Lifetime Oral Health Care Sciences

教　　授　荒川　真一
講　　師　竹内　康雄
特任助教　遠井　政行
特任助教　新見　ひろみ

(1) 分野概要

我が国は、2007 年から超高齢社会となり、2060 年には国民の 40%が高齢者にとなることが予想されている。また、2013 年度から第 2 次健康日本 21 が開始されたが、5 つの基本方針の一つとして、健康寿命の延伸がある。口腔疾患（特に歯周病）と糖尿病、心臓血管疾患などの全身疾患との関連性が明らかになっている。従って、歯科医療従事者にとして、生涯にわたり国民の健康を維持 · 増進し、健康寿命を延伸させるためには、口腔内疾患の予防と健診による早期発見を行う能力が重要となる。
そこで、口腔疾患予防学の深い学問的知識と高水準の技術の修得を教育の一つの目標とし、また口腔領域のヘルスカウンセリングやヘルスプロモーションの能力を養い、積極的に口腔保健の推進に寄与できる人材の育成を目標とし、教育 · 研究を行っている。
また、健康寿命延伸のためのツールの一つとして、オゾンウルトラファインバブル水、微酸性水といった機能水の殺菌以外の基礎的機能（抗酸化能の亢進、創傷治癒の促進など）の解明、誤嚥性肺炎や菌血症の防止といった臨床応用についての研究も行っている。

(2) 研究活動

1）健康寿命延伸を見据えた機能水の基礎および臨床研究

健康寿命延伸のため、オーラルヘルスプロモーションの効率的な実践が喫緊の課題となっている。歯周治療においても、従来の機械的デブライドメントに加え、局所抗菌療法が行われている。新規の機能水：長期保存性を持つオゾンウルトラファインバブル水（OUFBW）の殺菌能について研究を行い、OUFBW の各種細菌に対する殺菌能と口腔組織に対する高い安全性を確認し、実際に歯周治療の補助的療法として OUFBW を使用した際の臨床的 · 細菌学的効果にを明らかにした。
a. OUFBW の殺菌以外の基礎的機能（抗酸化能の亢進、創傷治癒の促進など）の解明、
b. 誤嚥性肺炎や菌血症の防止、オゾンウルトラファインバブル水を用いた口腔の健康を維持することによる全身状態への影響、がん治療に伴う有害事象の予防法 · 治療効果について研究を実施している。

2）糖尿病患者における歯周ポケット炎症面積（PISA）と HbA1c
との関連性：単施設後方視的観察研究

安定期にある歯周炎患者のうち糖尿病に罹患している患者を対象として、PISA を含む各種歯周炎臨床指標と HbA1c（Hemoglobin A1 C）との関連の比較を行い、両疾患の関係性を解明し、さらには医系歯系における診療情報としての PISA の有用性について検討している。

4）歯科衛生士の技術教育における新しい評価（自己評価 · 到達評価）プログラムの開発

歯科衛生士教育の中で、専門的技術を修得するためには、基本的な技術を積み重ねていく課程が重要である。本研究は、各段階（ステップ）における学生の自己評価と、指導者による評価及びフィードバックを組み合わせることにより、確実な技術を修得するプログラムを開発することを目的とする。各過程における課題の提示および学生の自己評価ができる教材をとして、コンピュータシミュレーションを導入して開発する。

(3) 教育活動

我が国は、超高齢社会に突入しており、2025 年には国民の約 1/3 が高齢者になることが予想されている。また、2013 年度から第 2 次健康日本 21 が開始されたが、5 つの基本方針の一つとして、健康寿命の延伸がある。口腔疾患（特に歯周病）と糖尿病、心臓血管疾患などの全身疾患との関連性が明らかになっている。従って、歯科医療従事者にとして、生涯にわたり国民の健康を維持 · 増進し、健康寿命を延伸させるためには、口腔内疾患の予防と健診による早期発見を行う能力が重要となる。そこで、口腔疾患予防学の深い学問的知識と高水準の技術の修得を教育の一つの目標とし、また口腔領域のヘルスカウンセリングやヘルスプロモーションの能力を養い、積極的に口腔保健の推進に寄与できる人材の育成を目標とする。

担当科目：
口腔保健と専門職、臨床体験実習、保健医療サービス、口腔疾患予防学の基礎、健康教育の基礎 II、臨床口腔保健衛生基礎学、臨床口腔保健衛生応用学 I、歯科衛生過程基礎演習、口腔疾患予防学実習、ヘルスカウンセリング論、臨床口腔保健衛生基礎学実習（微生物学実習）、ヘルスカウンセリング特論、歯科口腔介護、口腔保健衛生臨床実習（発達口腔保健衛生臨床実習、成人口腔保健衛生臨床実習 I 、成人口腔保健衛生臨床実習 II、高齢者口腔保健衛生臨床実習、障害者口腔保健衛生臨床実習）、地域口腔保健衛生臨地実習、特論（卒業研究）、科学英語 II、歯科保存学（歯周病学）、臨床体験実習 1、臨床体験実習 2、包括臨床実習

(4) 教育方針

我が国は、超高齢社会に突入しており、2025 年には国民の約 1/3 が高齢者になることが予想されている。また、2013 年度から第 2 次健康日本 21 が開始されたが、5 つの基本方針の一つとして、健康寿命の延伸がある。口腔疾患（特に歯周病）と糖尿病、心臓血管疾患などの全身疾患との関連性が明らかになっている。従って、歯科医療従事者にとして、生涯にわたり国民の健康を維持 · 増進し、健康寿命を延伸させるためには、口腔内疾患の予防と健診による早期発見を行う能力が重要となる。そこで、口腔疾患予防学の深い学問的知識と高水準の技術の修得を教育の一つの目標とし、また口腔領域のヘルスカウンセリングやヘルスプロモーションの能力を養い、積極的に口腔保健の推進に寄与できる人材の育成を目標とする。

(5) 臨床活動および学外活動

当分野の診療部門では、歯科医師と歯科衛生士が連携をとりながら、口腔疾患の予防、歯周治療と並行したケアおよび治療後のメインテナンス、周術期の口腔健康管理などを行っている。生涯を通して口腔領域の健康、さらには全身の健康を保ち、健康寿命を延伸できるよう個々の患者の生活、身体および口腔内の状態を把握し、歯科衛生士による歯科保健指導と専門的な処置を行っている。

(6) 臨床上の特色

当分野の診療部門では、歯科医師と歯科衛生士が連携をとりながら、口腔疾患の予防、歯周治療と並行したケアおよび治療後のメインテナンス、周術期の口腔健康管理などを行っている。生涯を通して口腔領域の健康、さらには全身の健康を保ち、健康寿命を延伸できるよう個々の患者の生活、身体および口腔内の状態を把握し、歯科衛生士による歯科保健指導と専門的な処置を行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Yuichi Ikeda, Otofumi Chigasaki, Koji Mizutani, Yoshiyuki Sasaki, Norio Aoyama, Risako Mikami, Misa Gokyu, Makoto Umeda, Yuichi Izumi, Akira Aoki, Yasuo Takeuchi. The Potential of a Saliva Test for Screening of Alveolar Bone Resorption healthcare. 2023.06; 11(13); 1822

2. Hayashi S, Takeuchi Y, Hiratsuka K, Kitanaka Y, Toyoshima K, Nemoto T, Aung N, Hakariya M, Ikeda Y, Iwata T, Aoki A. Effects of various light-emitting diode wavelengths on periodontopathic bacteria and gingival fibroblasts: An in vitro study. Photodiagnosis and Photodynamic Therapy. 2023.10; 44; 103860

3. Hirasawa I, Odagiri H, Park G, Sanghavi R, Oshita T, Togi A, Yoshikawa K, Mizutani K, Takeuchi Y, Kobayashi H, Katagiri S, Iwata T, Aoki A. Anti-inflammatory effects of cold atmospheric plasma irradiation on the THP-1 human acute monocytic leukemia cell line. PloS one. 2023.10; 18(10); e0292267

4. Takeuchi Y, Nemoto T, Kitanaka Y, Aoki A, Izumi Y, Iwata T, Arakawa S. Antibacterial activity of lysozyme-chitosan oligosaccharide conjugates on two periodontal bacteria Oral diseases. 2023.08; 30(4); 2728-2735

5. Shiba T, Komatsu K, Watanabe T, Takeuchi Y, Nemoto T, Ohsugi Y, Katagiri S, Shimogishi M, Marukawa E, Iwata T. Peri-implantitis management by resective surgery combined with implantoplasty and Er:YAG laser irradiation, accompanied by free gingival graft: a case report. Therapeutic advances in chronic disease. 2023.06; 14; 20406223231174816

6. Masayuki Tooi, Yuhei Matsuda, Hui Zhong, Shinichi Arakawa. Association between Clinical Periodontal Features and Glycated Hemoglobin in Patients with Diabetes and Controlled Periodontitis: A Cross-Sectional Study. Healthcare (Basel). 2023.04; 11(7);

1. Aoki A, Mizutani K, Mikami R, Ohsugi Y, Kobayashi H, Akizuki T, Taniguchi Y, Takeuchi Y, Katagiri S, Sasaki Y, Komaki M, Meinzer W, Izumi Y, Iwata T. Er:YAG laser-assisted comprehensive periodontal pocket therapy for residual periodontal pocket treatment: A randomized controlled clinical trial Journal of Periodontology. 2023.10; 94(10); 1187-1199

2. 荒川真一. 超高齢社会だからこそ歯科衛生士が知っておきたい 含嗽剤としての新規機能水 日本歯周病学会会誌. 2023.04; 65(1); 26-34

3. 三上 理沙子, 荒川 真一. 最近の歯学　生涯口腔保健衛生　喫煙が歯周病に与える影響と社会経済状況の関わり 口腔病学会雑誌. 2023.03; 90(1); 12

4. Mikami R, Mizutani K, Aoyama N, Matsuura T, Suda T, Takeda K, Saito N, Arakawa S, Izumi Y, Iwata T, Aida J. Income-related inequalities in the association of smoking with periodontitis: a cross-sectional analysis in Tokyo Metropolitan Districts Clinical Oral Investigations. 2023.02; 27(2); 519-528

[総説]

1. Takeuchi Y, Aoki A, Hiratsuka K, Chui C, Ichinose A, Aung N, Kitanaka Y, Hayashi S, Toyoshima K, Iwata T, Arakawa S. Application of different wavelengths of LED lights in antimicrobial photodynamic therapy for the treatment of periodontal disease. Antibiotics (Basel). 2023.11; 12(12);

[講演・口頭発表等]

1. 遠井　政行, 近藤　真啓, 荒川　真一. 閉所ストレス負荷を受けたショウジョウバエは糖質摂食行動を促進させる. 第 46 回日本分子生物学会年会 2023.12.06 神戸

2. Shimizu S, Hayashi K, Takeuchi Y, Tanabe G, Churei H, Kobayashi H, Ueno T, Fueki K. Effect of Administration of Sonicated P. gingivalis on skeletal muscle injury healing using a rat model. . ECSS Paris 2023 2023.07.04 Paris

1. 林 海里，清水慎太郎，竹内康雄，小林宏明，中禮 宏，笛木賢治. 歯周病原細菌の全身波及がスポーツに関連する骨格筋反応に及ぼす影響について. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京

2. 荒川 真一. 咬合や力に関する知識とアプローチ：力のコントロールについての基本知識. 日本歯周病学会第 101 回歯科衛生士教育講演会 2023.11.26 徳島市

3. 林 桜，竹内 康雄，平塚 浩一，北中 祐太郎，豊嶋 啓汰，秤屋 雅弘，岩田 隆紀，青木 章. 各種波長の LED 光照射が *Porphyromonas gingivalis* および歯肉線維芽細胞に及ぼす影響. 第 35 回日本レーザー歯学会総会・学術大会 2023.11.26 東京

4. 林 海里，清水慎太郎，竹内康雄，小林宏明，朱秋爽，李泽群，田邊元，中禮 宏，上野俊明. P. gingivalis 投与が持久性運動後の骨格筋 PGC-1 α および TNF α 発現に与える影響. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会・学術大会 2023.11.19 福岡

5. 林 桜，竹内 康雄，平塚 浩一，北中 祐太郎，豊嶋 啓汰，根本 昂，秤屋 雅弘，池田 裕一，岩田 隆紀，青木 章. 各種波長の LED 光照射が Porphyromonas gingivalis に及ぼす影響. 第 66 回秋季日本歯周病学会学術大会 2023.10.14

6. 平澤 以冬, 小田切 悠, 朴 起里, サンガヴィ・ルタヴィ , 東儀 彰子, 大下 貴也, 吉川 勝徳, 水谷 幸嗣, 竹内 康雄, 小林 宏明, 片桐 さやか, 岩田 隆紀, 青木 章. ヒト由来単球細胞株 THP-1 に対する大気圧プラズマの抗炎症効果. 日本歯周病学会会誌 2023.10.01

7. 荒川 真一. 造血幹細胞移植患者の口腔粘膜炎に対するオゾンウルトラファインバブル水の効果. 第 11 回日本病巣疾患研究会学術集会 2023.09.10 東京

8. 松田真司, 菅谷 勉, 加藤幸紀, 根本英二, 竹内康雄, 山下慶子, 沼部幸博, 西田哲也, 小方頼昌, 申 基哲, 長野孝俊, 両角俊哉, 小松康高, 出分 菜々衣, 後藤亮真, 北村正博, 田口 洋一郎, 高柴正悟, 湯本浩通, 山下明子, 吉永泰周, 吉村篤利, 河口浩之. 全身性疾患への影響を考慮した新たな歯周病重症度検査項目の策定　学会主導型多施設臨床研究 (第二報). 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会 2023.05.27 高松

9. 杉澤 満，荒川 真一. 歯性上顎洞炎に対してオゾンウルトラファインバブル水（OUFBW） を用いた上顎洞洗浄法. 第 24 回日本口腔機能水学会総会・学術大会 2023.03.26 岡山

[受賞]

1. 学会賞（日本メディカルテクノロジー賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月

健康支援口腔保健衛生学

Oral Care for Systemic Health Support

教授　樺沢　勇司
助教　伊藤　奏
大学院生（修士）戸倉詩織

(1)　分野概要

（1）教育
　担当科目、臨床および研究の成果を通し、口腔保健活動に必要な知識と技術を教授する。オーラルメディシン、つまり、周術期口腔機能管理や歯周病と糖尿病など、口腔と全身の関連について教育する。また、顎口腔領域の健康評価について教授するとともに、全身の健康評価指標のひとつであるバイタルサイン測定実習、救急救命活動実習などを通し、基本的な知識と技術を習得させる。口腔の健康と社会格差についての教育も行なう。
　さらに、顎口腔疾患に関する病理、病態、診断と治療について講義し、医科領域の基礎疾患を有する人々の口腔健康教育、口腔疾患予防に関し必要な知識を教授する。

（2）研究
　口腔保健により健康の維持・増進を支援するための研究。特に周術期口腔機能管理についての研究や基礎疾患を有する人の口腔ケアに関する研究や、口腔の健康と社会格差についての研究、FGF-2 を用いた顎骨再生の基礎研究などを通し、人々の健康と幸福に貢献する。

（3）臨床
　口腔の健康を通して全身の健康の維持・増進をはかるために、歯学部附属病院の各外来と連携しながら、口腔ケア外来において、患者の歯科予防処置、口腔保健教育を行う。歯学部附属病院、医学部附属病院の入院患者に対する口腔ケアを行うとともに、看護師や栄養士、薬剤師等多職種と連携を取りながら、チーム医療の一員として患者の状態に合わせた口腔ケアを実践している。

(2)　研究活動

（1）周術期口腔機能管理学の研究
周術期管理学における口腔機能管理の意義について臨床的研究を行っている。
特に口腔外科手術、口腔がん手術後の口腔機能管理、リハビリテーションについて研究を行なっている。

（2）新規口腔清掃、口内炎予防、治療薬の開発
従来の方法よりも効果的な、口腔清掃、口内炎予防および治療方法についての研究を行なっている。

（3）口腔の健康と社会格差についての研究
ライフステージに応じた口腔の健康と社会環境要因に関する研究を行なっている。

(3)　教育活動

担当科目：チーム医療の実践、臨地・臨床実習、口腔外科学・歯科麻酔学，臨床医学Ⅰ，Ⅱ、卒業研究、保健医療サービス、生体材料学、口腔疾患予防基礎・応用学実習、臨床口腔保健衛生実習、歯科診療補助論、他

(４) 教育方針

口腔と全身の健康について貢献できる人材の育成を目的とする。オーラルメディシンや、健康に影響を与える社会環境要因について理解し、口腔保健活動に必要な知識と技術をもとに、人々の健康と福祉に寄与できる歯科衛生士を養成する。

(５) 臨床活動および学外活動

口腔の健康を通して全身の健康の維持・増進をはかるために、歯学部附属病院の各外来と連携しながら、口腔ケア外来において、患者の歯科予防処置、口腔保健教育を行なっている。医学部附属病院の入院患者に対するオーラルマネージメントを行うとともに、看護師や多職種と連携して周術期管理を行なっている。
口腔外科外来・顎顔面外科外来において、さまざまな口腔疾患患者の診断、治療、口腔保健指導等に従事している。

(６) 臨床上の特色

オーラルメディシンの知識に基づき、より高度な専門性をもった周術期口腔機能管理を行なっている。

(７) 研究業績

[原著]

1. Ito K, Tokura S, Takazawa I, Yoshida N, Nakanishi T, Akiyama K, Onuma Y, Adachi T, Harada H, Nojima H, Miura M, Yoshimura R, Kabasawa Y. Clinical investigation of use of Episil® oral solution in oral mucositis during radiotherapy for head and neck cancer. Heliyon. 2023.06; 9(6); e15869
2. Lin YC, Lin PC, Lin PC, Lin CY, Kabasawa Y, Choi YK, Huang HL. Combining augmented and virtual reality simulation training to improve geriatric oral care performance in healthcare assistants: A randomized controlled trial. Digital health. 2023.01; 9; 20552076231203891

[書籍等出版物]

1. 佐藤裕二, 水口俊介, 小笠原正, 菊谷武 監修. 猪越正直, 樺沢勇司, 古屋純一 分担執筆. よくわかる歯科訪問診療. 永末書店, 2023.06 (ISBN：978-4-8160-1426-0)
2. 樺沢勇司. 臨床検査. 医歯薬出版, 2023.01 (ISBN：978-4-263-42631-9)
3. 樺沢勇司. 今日の治療指針　2023. 医学書院, 2023.01 (ISBN：978-4-2600-5035-7)

[講演・口頭発表等]

1. 小澤晴菜、加藤夢乃、伊藤　奏、樺沢勇司. 病院勤務の歯科衛生士における多職種連携と自己効力感との関連の検討. 第８８回口腔病学会学術大会 2023.12.01 東京
2. 加藤夢乃、小澤晴菜、伊藤　奏、樺沢勇司. 施設間比較による歯科衛生士の多職種連携に関わる能力の検証. 第８８回口腔病学会学術大会 2023.12.01 東京
3. 樺沢勇司、伊藤　奏、沖　拓弥. 歯科医院の内外部空間が印象評価に及ぼす影響について. 第８８回　口腔病学会学術大会 2023.12.01 東京
4. 岩淵 佑介, 楠本 康香, 相田 貴絵, 林 佳奈, 鈴木 朋, 星合 泰治, 中村 盛幸, 渡邊 麻里子, 星合 愛子, 篠塚 修, 樺沢 勇司, 前田 茂, 岩本 勉. 齲蝕が感染源となり感染性心内膜炎を発症したダウン症候群患者の１例. 日本障害者歯科学会総会および学術大会プログラム・抄録集 2023.10.01
5. 高松　菜未, 坂口　由季, 宮本　洋子, 東山　香織, 後藤　琴以, 小川　侑希子, 小澤　晴菜, 足達　淑子, 樺沢　勇司, 久保田　一政. 某大学病院における中咽頭癌に対して放射線治療を行った患者への口腔健康管理の１例. 2023.09.18
6. 則武 加奈子, 樺沢 勇司, 濱 洋平, 礪波 健一, 海老原 新, 秀島 雅之, 梅森 幸, 金森 ゆうな, 三木 裕仁, 城戸 大輔, 西山 暁, 新田 浩. 東京医科歯科大学病院歯科医師臨床研修プログラムに新たに導入した研修内容. 第 42 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 2023.07.15 福岡（オンライン）

7. 則武 加奈子, 樺沢 勇司, 濱 洋平, 礪波 健一, 海老原 新, 秀島 雅之, 梅森 幸, 金森 ゆうな, 三木 裕仁, 城戸 大輔, 西山 暁, 新田 浩. 東京医科歯科大学病院歯科医師臨床研修プログラムに新たに導入した研修内容. 日本歯科医学教育学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2023.07.01
8. 安達 和可奈, 立川 敬子, 樺沢 勇司, 丸川 恵理子. 多数歯の永久歯先天性欠如と顎変形症をともなう患者にインプラント治療を行った 1 症例. 日本口腔インプラント学会誌 2023.06.01
9. 高澤 維月, 鈴木 瞳, 杉本 久美子, 樺沢 勇司, 吉田 直美. 本学病棟における口腔ケア実施状況と実践に関連する要因の検討. 口腔病学会雑誌 2023.03.01
10. 伊藤 奏, 樺沢 勇司. 毛の先端形態が異なる歯ブラシの清掃性評価および使用感覚に対する感性評価. 口腔病学会雑誌 2023.03.01

[その他業績]

1. 癌終末期患者に対する多職種連携型の口腔管理の効果の検討, 2023 年 04 月

[社会貢献活動]

1. アメリカ心臓協会（AHA) 救命救急講習会, 日本 ACLS 協会、歯科 · 口腔外科 ECC トレーニングサイト, 2007 年 08 月 26 日 - 現在
2. ブルーリボンキャラバン東京でのブース出展, 東京医科歯科大学、NPO 法人キャンサーネットジャパン, 2017 年 10 月 12 日 - 現在
3. ISO/TC 106 日本委員会 · 分科会委員, 国際標準化機構, 2019 年 04 月 03 日 - 現在
4. 歯とお口の健康, 株式会社ヤクルト本社, リセス, 2023 年 04 月 18 日 - 2023 年 07 月 01 日

口腔疾患予防分野

Department of Preventive Oral Health Care Sciences

(1) 研究業績

[原著]

1. Hitomi Suzuki, Kumiko Sugimoto, Naoko Adachi, Natsumi Tsuchihashi, Ayako Kubota-Miyazawa, Itsuki Takazawa, Naomi Yoshida. A cross-sectional study on eating behavior of nursery school children and parents' perceptions of their children's eating problems Journal of Medical and Dental Sciences. 2023.10; 70; 49-58

2. Naoko Adachi, Kumiko Sugimoto, Kayoko Shinada. Association between tooth loss and adherence to oral maintenance in a dental clinic: A retrospective study more than 20 years. International Journal of Dental Hygiene. 2023.08; 00; 1-8

3. 西 真紀子, 安達 奈穂子, 品田 佳世子, 仲川 隆之, ドーベン・ビルクヘッド . 加工でんぷんスナック製品 (PSSP) とう蝕 ナラティブレビュー (Processed starch snack products(PSSPs) and dental caries: a narrative review) 日本歯科衛生学会雑誌. 2023.08; 18(1); 28-42

4. Liao, SR; Seki, N; Akiyama, M; Shinada, K; Morio, I. Perceived stress and career planning awareness of Japanese and Taiwanese undergraduate dental hygiene students JOURNAL OF DENTAL SCIENCES. 2023.07; 18(3); 1094-1102

[総説]

1. NISHI Makiko, ADACHI Naoko, SHINADA Kayoko, NAKAGAWA Takayuki, BIRKHED Dowen. Processed starch snack products (PSSPs) and dental caries: a narrative review. The Journal of Japan Society for Dental Hygiene. 2023.08; 18(2); 28-42

2. Kanako Toda, Koji Mizutani, Kayoko Shinada. Oral Health Instruction Improves glycaemic Control as Minimally Invasive Periodonral Therapy in Patients with Diabetes:A Systematic Review Journal of Dental Sciences. 2023.01; 11(1); 1-15

[講演・口頭発表等]

1. Kyoko Kajitani, Atsushi Oyama, Naoko Adachi, Kayoko Shinada. A qualitative study of patients' regular dental visits and dental hygienists' involvement. 第 88 回 口腔病学会学術大会 2023.12.02

2. Ran WANG, Yui IWASAKI, Atsushi OHYAMA, Naoko ADACHI, Kayoko SHINADA. Research on oral health and dental examination behavior of foreign students in Japan. 第 88 回 口腔病学会学術大会 2023.12.02

1. 安達 奈穂子. もうむし歯をこわがらない！ あなたのむし歯のなりやすさを予測して簡単に歯を守ろう . 令和のむし歯治療講演会〜歯をまもり削らず管理する手法〜 2023.12.03 新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」

2. 鈴木瞳, 吉田奈永, 杉本久美子, 安達奈穂子, 宮澤絢子, 高澤維月, 吉田直美. 口腔保健学科学生が主導する看護学生との口腔ケアに関する連携教育の効果 —看護学生のフィードバックからの検討—. 第 14 回日本歯科衛生教育学会学術大会 2023.12.02 東京

3. 大山 篤, 品田佳世子, 安達奈穂子, 猪股久美, 久篠奈苗, 江口貴子, 石塚洋一, 杉原直樹, 西埜植規秀, 上條英之. 職域における歯科口腔保健事業の実施状況と課題 —産業看護職を対象とした調査から—. 第 82 回日本公衆衛生学会 2023.10.31 つくば国際会議場
4. 戸田 花奈子, 植野 正之, 鶴田 潤, 品田 佳世子. 歯科衛生士の多職種間実践および認識に関わる要因の検討. 日本歯科衛生学会雑誌 2023.09.24 静岡
5. 小林柚帆, 佐藤南, 安達奈穂子, 品田佳世子. 高校生の自己効力感と口腔保健行動について. 日本歯科衛生学会 第 18 回学術大会 2023.09.17 静岡県
6. 針谷紀羽, 安達奈穂子, 大山 篤, 幡野 紘樹, 小川 真央, 國友 奈々, 岩崎愛女, 品田佳世子. 口腔疾患のリスクアセスメントツールについての歯科衛生士の意識調査. 日本歯科衛生学会 第 18 回学術大会 2023.09.17 静岡県
7. 遠藤 七海, 鈴木 瞳, 杉本 久美子, 安達 奈穂子, 柏木 聖代, 森岡 典子, 高澤 維月, 吉田 奈永, 吉田 直美. 口腔保健学科学生が実施した看護学生への口腔ケアに関する健康教育の効果. 日本歯科衛生学会 第 18 回学術大会 2023.09.17 静岡県
8. 戸田花奈子, 山口浩平, 佐々木周作, 戸原玄, 品田佳世子. 地域在住高齢者を対象とした「先延ばし」傾向と口腔衛生および口腔機能との関連. 医療経済学会第 18 回研究討論会 2023.09.02 千葉
9. 針谷 紀羽, 安達 奈穂子, 大山 篤, 幡野 紘樹, 小川 真央, 國友 奈々, 岩崎 愛女, 品田 佳世子. 口腔疾患のリスクアセスメントツールについての歯科衛生士の意識調査. 日本歯科衛生学会雑誌 2023.08.01
10. 戸田 花奈子, 植野 正之, 鶴田 潤, 品田 佳世子. 歯科衛生士の多職種間実践および認識に関わる要因の検討. 日本歯科衛生学会雑誌 2023.08.01
11. 小林 柚帆, 佐藤 南, 安達 奈穂子, 品田 佳世子. 高校生の自己効力感と口腔保健行動について. 日本歯科衛生学会雑誌 2023.08.01
12. 犬飼 順子, 合場 千佳子, 吉田 直美, 池田 亜紀子, 石黒 梓, 古川 絵理華, 沼部 幸博, 品田 佳世子. 歯科衛生士教育の学校区分および学校定員別実体験レベル解析. 日本歯科医学教育学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2023.07.01
13. 犬飼 順子, 合場 千佳子, 松本 厚枝, 吉田 直美, 池田 亜紀子, 石黒 梓, 古川 絵理華, 沼部 幸博, 品田 佳世子. 歯科衛生士養成機関における教育の実体験レベル解析. 口腔衛生学会雑誌 2023.04.01
14. 廣田 優子, 安達 奈穂子, 品田 佳世子. コロナ禍における食生活の意識とリテラシーとの関連について. 口腔病学会雑誌 2023.03.01

[その他業績]

1. 活躍する歯科衛生士　臨床 · 研究 · 教育の架け橋を目指して, 2023 年 01 月
   日本歯科衛生士会　学生だより 2023 Vol.52
   公益社団法人日本歯科衛生士会

2. NHK World「Doctor's Insight」 , 2023 年 01 月
   Preventive Dentistry #4: Professional Dental Care（2023 年 1 月 3 日〜）出演
3. 公益財団法人富徳会歯科衛生学研究者助成, 2023 年 04 月
   2023 年度歯科衛生教育学研究助成
4. NHK E テレ「チョイス@病気になったとき」, 2023 年 08 月
   まとめスペシャル「歯周病＆歯のセルフケア（2023 年 8 月 20 日放映）出演
5. NHK「あしたが変わるトリセツショー」, 2023 年 09 月
   オトナ仕様の歯磨き術★歯周病＆虫歯シャットアウト (9 月 14 日放映) 出演
6. Health Day Japan ニュース「歯科医院で定期的な口腔メンテナンスを受けている人は歯を失いにくい」, 2023 年 10 月
   小学館 DIME
   https://dime.jp/genre/1668523/

   MSN ニュース
   https://www.msn.com/ja-jp/news/national/%E6%AD%AF%E7%A7%91%E5%8C%BB%E9%99%A2%E3%8

[社会貢献活動]

1. 歯科衛生士研修プログラム, 東京医科歯科大学歯科衛生士総合研修センター, 2018 年 08 月 02 日 - 現在
2. 日本歯科衛生学会学術大会一般演題査読, 2021 年 04 月 - 現在
3. 第 80 回日本公衆衛生学会学術集会一般演題査読, 2021 年 08 月 - 現在
4. 活躍する歯科衛生士　臨床 · 研究 · 教育の架け橋を目指して, 公益社団法人日本歯科衛生士会, 日本歯科衛生士会　学生だより, 2023 年 01 月
5. 歯科衛生や歯磨きに関して, NHK 出版, あしたが変わるトリセツショー, 2023 年 04 月 07 日 - 2023 年 09 月 30 日
6. 諸外国と比較した日本人の予防歯科意識／正しい歯の磨き方, プレジデント社, PRESIDENT Online, 2023 年 04 月 20 日 - 現在
7. リカレント教育を受けてみよう！ , クインテッセンス出版株式会社, 月刊「歯科衛生士」, 2023 年 05 月 01 日 - 2023 年 10 月 01 日
8. 歯のセルフケアとプロフェッショナルケア, NHK, あしたが変わるトリセツショー, 2023 年 05 月 17 日 - 2023年 09 月 14 日
9. 「Int J Dent Hyg」誌発表論文の記事化, ヘルスデージャパン, 「m3」「毎日新聞（Web)」ほか, 2023 年 09 月 14 日 - 現在
10. ポストコロナ時代に向けて、これからの口腔健康管理, クインテッセンス出版株式会社, Quint DENTAL AD Chronicle 2024, 2023 年 11 月 10 日 - 2024 年 02 月 29 日

地域 · 福祉口腔機能管理学分野

Oral Hearth Sciences for Community Welfare

教授　松尾　浩一郎
講師　日高　玲奈
大学院生　田中　美咲
丸山　朋華
杉田　彩実花

(1) 分野概要

【告知】分野の HP ができました！ 詳しくはこちらをご覧ください。
https://www.ohcw-tmd.com/
Vision「超高齢社会を迎える中，多様化した高齢者へ対応できる歯科医療者の育成するための基盤を整えていくこと，および，超高齢社会で活躍できる歯科医療者を多く輩出すること」
Mission「急性期医療から地域 · 福祉の現場で他職種と協働して，口腔のプロフェッショナルとして活躍できる人材を育成するための臨床 · 研究 · 教育を行うこと」
大学院や私たちの活動に興味がある方はお気軽にご連絡ください。

(2) 研究活動

1. 地域在住高齢者へのオーラルフレイル予防プログラムの開発
2. 要介護高齢者の食事モニタリングシステムの開発
3. 自立高齢者を増やすための革新的食品提供システムの開発
4. 脳卒中回復期における口腔機能管理システムの構築
5. がん周術期患者の術後早期口腔機能回復プログラムの開発
6. 多職種連携オーラルマネジメントシステムの開発

研究内容の詳細は分野 HP に掲載しています。こちらをご覧ください。
https://www.ohcw-tmd.com/
また，研究に関する質問，資料請求は，以下のアドレスまで。
matsuo.ohcw アット tmd.ac.jp(アットを@に変換)

(3) 教育活動

口腔保健衛生学専攻：高齢者歯科学/高齢者福祉/介護福祉/歯科補綴学/在宅口腔保健医療/地域口腔保健医療/相談援助演習/相談援助実習/ソーシャルワーク
大学院修士課程：口腔保健福祉学

(4) 教育方針

医療 · 福祉で活躍できる Competency を得られる教育を目指しています
· 医療 · 介護現場で働ける知識 · スキル · 経験
· 他職種へ教育するコミュニケーション能力
· 自己意志をもった活動

· 研究心を有し，国際的な学術活動

(5) 臨床活動および学外活動

東京医科歯科大学病院オーラルヘルスセンター
https://www.tmd.ac.jp/dent_hospital/medical/oral-health.html

日本老年歯科医学会　認定研修施設
日本歯科衛生士会　認定研修施設（高齢者歯科）

日本老年歯科医学会 専門医，指導医，摂食機能療法専門歯科医師
日本障害者歯科学会 専門医，指導医

(6) 臨床上の特色

東京医科歯科大学病院オーラルヘルスセンターにて，入院患者の口腔管理を行う。

(7) 研究業績

[原著]

1. Suzuki H, Furuya J, Nakagawa K, Hidaka R, Nakane A, Yoshimi K, Shimizu Y, Saito K, Itsui Y, Tohara H, Minakuchi S. Factors influencing the selection of oral healthcare providers in multidisciplinary Nutrition Support Team for malnourished inpatients: A cross-sectional study. J Oral Rehabil. 2023.08;

2. Stading M, Miljkovic A, Andersson J, Matsuo K. Bolus rheology of texture adjusted food—Effect of age Journal of Texture Studies. 2023.07;

3. A Sakai, K Matsuo, Y Sekimoto, R Hidaka, A Yoshihara. Changes in oral health status with dental intervention during the acute to subacute stages of stroke Gerodontology. 2023.07;

4. R Hidaka, Y Masuda, K Ogawa, T Tanaka, M Kanazawa, K Suzuki, M Stading, K Iijima, K Matsuo. Impact of oral frailty prevention program with textured lunch gatherings on attitude and behavior towards eating habits and improving oral frailty: The Comprehensive Awareness Modication of Mouth, Chewing And Meal (CAMCAM) program The Journal of Nutrition Health and Aging. 2023.04; 27(5); 340-347

5. R Hidaka, K Matsuo, T Maruyama, K Kawasaki, I Tasaka, M Arai, S Sakoda, K Higuchi, E Jinno, T Yamada and S Minakuchi. Impact of COVID-19 on the Surrounding Environment of Nursing Home Residents and Attitudes towards Infection Control and Oral Health Care among Nursing Home Staff in Japan Journal of Clinical Medcine. 2023.03; 12(5); 1944

6. C Matsuda, T Shimizu, Y Nakayama, M Haraguchi, C Hakuta, R Hidaka, A Nishiyama, T Numayama. Clinical relevance of macroglossia to disease progression in ventilation dependent patients with advanced ALS Neurol Sci . 2023.01; 44(6); 2025-2031

1. 松尾 浩一郎. 口腔機能低下への対応-予防から看取りまで (Part I)　口腔機能低下を改めて考える　口腔機能低下と食と栄養 日本歯科評論. 2023.08; 83(8); 42-48

2. 鈴木啓之，日高玲奈，中川量晴，吉見佳奈子，中根綾子，戸原玄，水口俊介，古屋純一. 多職種連携医療における動画を用いた口腔内評価の有効性の検証 はち · まる · にい · まる. 2023.03; (22); 143-145

3. 田坂 樹, 日高 玲奈, 岩佐 康行, 古屋 純一, 大野 友久, 貴島 真佐子, 金森 大輔, 寺中 智, 松尾 浩一郎. 回復期リハビリテーション病棟における歯科との連携状況　自記式質問票による全国調査 老年歯科医学. 2023.03; 37(4); 312-319

4. 大野 友久, 岩佐 康行, 梅田 慈子, 金森 大輔, 貴島 真佐子, 阪口 英夫, 松尾 浩一郎, 元橋 靖友, 尾崎 研一郎, 水口 俊介, 日本老年歯科医学会病院歯科委員会. 日本老年歯科医学会員が所属する病院の病院長への病院歯科に関する質問紙調査 老年歯科医学. 2023.03; 37(4); 320-328

5. 田坂 樹, 日高 玲奈, 岩佐 康行, 古屋 純一, 大野 友久, 貴島 真佐子, 金森 大輔, 寺中 智, 松尾 浩一郎. 回復期リハビリテーション病棟における歯科との連携状況 —自記式質問票による全国調査— 老年歯科医学. 2023; 37(4); 312-319

[書籍等出版物]

1. 日高玲奈. 歯科衛生士 2023 年 9 月号　REPORT 歯科衛生士として、明日から顎関節症に積極的にかかわってみませんか？ . クインテッセンス出版, 2023.09
2. 日高玲奈，兜森彩日，根橋杏未，島田淳. 歯科衛生士と行う顎関節症治療—第 36 回日本顎関節学会学術大会に向けて—. 医歯薬出版株式会社, 2023.05

[総説]

1. Matsuo K, Palmer JB. Anatomy and physiology of feeding and swallowing: normal and abnormal Clinics in Integrated Care. 2023.02; 16; 100139

1. 松尾 浩一郎. 地域で取り組むオーラルフレイル・口腔機能低下症への対応 東京都歯科医師会雑誌. 2023.03; 71(3); 115-123

[講演・口頭発表等]

1. koichiro matsuo. Multidisciplinary approach to oral health care and dysphagia management. . Annual meeting of Taiwan Association of Disability and Oral Health, 2023.08.06 Taipei
2. koichiro matsuo. Perioperative oral function and hygiene management to prevent postoperative complications. IAGG-AOR 2023 Yokohama 2023.06.15 Yokohama
3. K Matsuo, Y Masuda, R Hidaka, K Ogawa, T Tanaka, M Kanazawa, K Suzuki, M Stading, K Iijima.. Impact of oral frail prevention program including textured lunch gatherings on attitude and behavior for eating habit and oral frailty.. IAGG Asia/Oseania Regional Congress 2023 2023.06.13 Yokohama
4. K Matsuo, Y Masuda, R Hidaka, K Ogawa, T Tanaka, M Kanazawa, K Suzuki, M Stading, K Iijima.. Impact of oral frail prevention program including textured lunch gatherings on attitude and behavior for eating habit and oral frailty.. IAGG Asia/Oseania Regional Congress 2023 2023.06.13 Yokohama
5. Rena Hidaka. Oral health management for patients with stroke. IAGG Asia/Oseania Regional Congress 2023 2023.06.12 Yokohama
6. Rena Hidaka, Itsuki Tasaka, Yasuyuki Iwasa,Tomohisa Ohno,Daisuke Kanamori, Masako Kijima, Satoshi Teranaka, Junichi Furuya, Koichiro Matsuo. Association between oral function and malnutrition in subacute stroke patients admitted to a convalescent rehabilitation unit - a multicenter prospective study –. IAGG Asia/Oseania Regional Congress 2023 2023.06.12 Yokohama
7. koichiro matsuo. Current updates and future directions on basic science/human work for chewing and swallowing in adults,. 3rd World Dysphagia Summit 2023.03.13 San Francisco, California,

1. 日高玲奈. 歯科衛生士と行う顎関節症病態別治療　1. 疾患教育・病態説明. 第 36 回日本顎関節学会総会・学術大会 2023.07.09 東京
2. 西山暁，日高玲奈， 水口一，湯浅秀道，高野直久， 津賀一弘，羽毛田匡，川上哲司， 松香芳三，坂本一郎. 超高齢者の顎関節症とオーラルフレイルとの関連 —東京都内の施設調査より—. 第 36 回日本顎関節学会総会・学術大会 2023.07.08 東京
3. 田中美咲、松尾浩一郎、丸山朋華、坂井鮎、関本愉、日高玲奈. 術期胃がんおよび食道がん患者における術後の経口摂取と口腔機能変化との関連性. . 日本老年歯科医学会 第 34 回学術大会 2023.06.18 横浜
4. 松尾浩一郎.　回復期における歯科の役割と医療連携. 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023.06.18 横浜
5. 日高玲奈，松尾浩一郎，金澤学 ，糸田昌隆 ， 小川康一 ，田中友規 ，飯島勝矢 ，増田裕次. テキストマイニングで探る カムカム健康プログラムの行動変容効果. 日本老年歯科医学会 第 34 回学術大会 2023.06.17 横浜
6. 日高玲奈，田坂樹，岩佐康行，金森大輔， 貴島真佐子，古屋純一，松尾浩一郎. 回復期リハビリテーション病棟に入院中の回復期脳卒中患者における口腔機能と栄養不良の関連性. 第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 2023.05.10 神戸

[受賞]

1. Outstanding Poster Presentation Award At the 12th IAGG Asia, 2023 年 06 月

[その他業績]

1. 公益財団法人博報堂教育財団　第 18 回児童教育実践についての研究助成, 2023 年 04 月
   口腔機能の発達に注目した「ことばの力」支援プログラムの効果検証

[社会貢献活動]

1. 口腔衛生管理指導, 社会福祉法人慈生会「ベタニアホーム」, 2012 年 07 月 31 日 - 現在
2. フレイル予防講座（口から始まる物語）, 中野区立若宮高齢者会館, 2020 年 04 月 03 日 - 現在
3. ドクターごとうの熱血訪問クリニック ラジオ出演, 株式会社メディア · アート · ラッシュ, ドクターごとうの熱血訪問クリニック, 2022 年 12 月 20 日 - 2023 年 03 月 02 日
4. オーラルフレイルについて, 株式会社エフエム富士, ラジオ番組『ACTUS』, 2023 年 01 月 10 日 - 2023 年 01 月 17 日
5. オーラルフレイルについて, 株式会社ハルメク, ハルメク, 2023 年 05 月 02 日 - 2023 年 07 月 10 日
6. オーラルフレイル予防とカムカム健康プログラムについて, 産経新聞社, 産経新聞, 2023 年 10 月 10 日 - 2023 年 10 月 30 日

口腔健康教育学

Oral Health Care Education

教　授　　吉田 直美
助　教　　鈴木　瞳
大学院生　　高澤　維月
大学院生　　吉田　奈永

(1)　研究活動

1) 口腔保健行動に関する研究
　　口腔保健行動、行動変容に関する研究
2) 口腔健康管理に関する研究
　大学生を対象とした歯科疾患予防、口腔健康教育の啓発に関する研究
　　要介護者を対象とした口腔衛生管理に関する研究
3) 多職種連携に関する研究

4) 歯科衛生士の教育における教育手法の研究 · 開発
　　歯科衛生士の卒前卒後教育の手法、成果等に関する研究

(2)　教育方針

人びとの健康づくりに資することを目的に、口腔保健のあり方を包括的に捉え、環境づくり、心身健康を維持 · 増進するための理論と技術を教授し、健康教育の実践能力を培う教育を行う。人と関わる態度、知識、技術を習得するとともに、患者、住民などとの信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。

大学院では、健康教育に関する研究を行い、科学的根拠に基づいた実践を展開することによって、人びとの健康づくりを推進する能力を養う。

担当科目：
歯科衛生学総論、口腔保健と専門職、口腔疾患予防学、臨床体験、健康教育の基礎、健康教育の企画と実践、臨床体験実習、歯科衛生過程の基礎、歯科衛生過程専門演習、チーム医療入門、チーム医療の基礎、チーム医療の実践、口腔機能管理実習、歯科衛生学演習、歯科衛生臨地実習、歯科衛生臨床 · 臨地応用実習、卒業研究、口腔保健エクスターンシップ、保健行動科学、歯科衛生研究、相談援助の基盤と専門職、臨床口腔保健衛生応用学、歯学科混合セミナー、口腔保健福祉学、

(3)　研究業績

[原著]

1. Ayako Kubota-Miyazawa, Kumiko Sugimoto, Yasunari Miyazaki, Yoshimi Sakurai, Meiko Oki, Hitomi Suzuki, Naomi Yoshida. A cross-sectional survey on the status of oral health administration for students in Japanese universities 2022.11;

2. Hoshiai Aiko, Kusumoto Yasuka, Hoshiai Taiji, Kimura Naoki, Ito Yukiko, Yoshida Naomi, Shinozuka Osamu, Iwamoto Tsutomu. Factors Influencing Oral Hygiene Management in Patients with Rheumatoid Arthritis 障害者歯科. 2022.02; 43(1); 7-16

3. Suzuki H, Sugimoto K, Kubota-Miyazawa A, Noritake K, Umemori S, Araki K, Adachi N, Otsuka H, Yoshida N. A survey of oral health status, subjective oral symptoms and oral health behaviors among first-year dental students at a Japanese university. Journal of oral science. 2022.01; 64(1); 85-90

4. Suzuki Hitomi, Sugimoto Kumiko, Kubota-Miyazawa Ayako, Noritake Kanako, Umemori Sachi, Araki Kouji, Adachi Naoko, Otsuka Hiromi, Yoshida Naomi. 日本の大学の歯科学生 1 年生を対象とした口腔健康状態、主観的口腔症状、口腔保健行動の調査 (A survey of oral health status, subjective oral symptoms and oral health behaviors among first-year dental students at a Japanese university) Journal of Oral Science. 2022.01; 64(1); 85-90

5. Kubota-Miyazawa Ayako, Sugimoto Kumiko, Miyazaki Yasunari, Sakurai Yoshimi, Oki Meiko, Suzuki Hitomi, Yoshida Naomi. A cross-sectional survey on the status of oral health administration for students in Japanese universities(タイトル和訳中) Journal of Medical and Dental Sciences. 2022; 69; 21-28

1. 吉田 直美. 日本歯科衛生士会における認定制度の現状と課題 日本歯科医師会雑誌. 2022.09; 75(6); 430-431

2. 山中紗都，吉田直美. 頭頸部がんサバイバーの口腔関連の諸問題とその対処における質的研究 日本歯科衛生学会雑誌. 2022.02; 16(2); 47-58

3. Suzuki Hitomi, Sugimoto Kumiko, Kubota-Miyazawa Ayako, Noritake Kanako, Umemori Sachi, Araki Kouji, Adachi Naoko, Otsuka Hiromi, Yoshida Naomi. A survey of oral health status, subjective oral symptoms and oral health behaviors among first-year dental students at a Japanese university JOURNAL OF ORAL SCIENCE. 2022.01; 64(1); 85-90

[書籍等出版物]

1. 森戸光彦、金澤紀子、吉田直美監修. 歯科衛生士のための口腔機能管理マニュアル 第 2 版 高齢者編. 医歯薬出版株式会社, 2022.07 (ISBN : 978-4-263-42299-1)

2. 鳥山佳則, 田口円裕, 吉田直美, 金澤紀子. 歯科衛生士のための歯科診療報酬入門　2022-2023. 医歯薬出版株式会社, 2022.06 (ISBN : 978-4-263-42296-0)

3. 吉田直美，久保山裕子，山口朱見. 歯科衛生士のための よくわかる在宅療養者の口腔健康管理. 医歯薬出版株式会社, 2022.05

[総説]

1. 吉田 直美, 新田 浩, うさっぱ , 磯村 毅. マンガで学ぶ　はじめよう MI（第 1 回）言い方ひとつで患者さんのやる気が大違い! 歯科衛生士. 2022.04; 46(4); 50

1. 吉田 直美, 新田 浩, うさっぱ , 磯村 毅. マンガで学ぶ　はじめよう MI(第 9 回)　聞き返した内容はズレていても大丈夫!の巻　OARS+EPE(その 5) 歯科衛生士. 2022.12; 46(12); 75-79

2. 吉田 直美, 新田 浩, 磯村 毅. マンガで学ぶ　はじめよう MI(第 8 回)　要約で会話をエスコート!の巻　OARS+EPE(その 4) 歯科衛生士. 2022.11; 46(11); 63-67

3. 吉田 直美, 新田 浩, 磯村 毅. マンガで学ぶ　はじめよう MI(第 7 回)　ありのままの患者さんを受け止めようの巻　OARS+EPE(その 3) 歯科衛生士. 2022.10; 46(10); 67-71

4. 吉田 直美, 新田 浩, うさっぱ , 磯村 毅. マンガで学ぶ　はじめよう MI(第 6 回)　情報提供は患者さんから引き出しながらの巻　OARS+EPE(その 2) 歯科衛生士. 2022.09; 46(9); 65-69

5. 吉田 直美, 新田 浩, うさっぱ , 磯村 毅. マンガで学ぶはじめよう MI(第 5 回)　正したい気持ちを抑えて聞き返そうの巻　OARS+EPE(その 1) 歯科衛生士. 2022.08; 46(8); 67-71

6. 吉田 直美, 新田 浩, うさっぱ , 磯村 毅. マンガで学ぶ　はじめよう MI(第 4 回)　患者さんの中にあるものを引き出そうの巻　PACE(その 2) 歯科衛生士. 2022.07; 46(7); 67-71

7. 吉田 直美, 新田 浩, うさっぱ , 磯村 毅. マンガで学ぶはじめよう MI(第 3 回)　患者さんとするのはレスリングじゃなくダンスの巻 (PACE　その 1) 歯科衛生士. 2022.06; 46(6); 63-67

8. 吉田 直美, 新田 浩, うさっぱ , 磯村 毅. マンガで学ぶ　はじめよう MI(第 2 回)　わかっちゃいるけどやめられない…両価性!の巻 歯科衛生士. 2022.05; 46(5); 49-53

[講演・口頭発表等]

1. 鈴木瞳，杉本久美子，安達奈穂子，吉田直美. 口腔保健衛生学専攻、看護学専攻合同の口腔ケアに関する連携教育の試み. 第８７回口腔病学会学術大会 2022.12.04 東京

2. 高澤維月、鈴木瞳、杉本久美子、樺沢勇司、吉田直美. 本学病棟における口腔ケア実施状況と実践に関連する要因の検討. 第 87 回 口腔病学会学術大会 2022.12.04

3. 鈴木瞳，杉本久美子，安達奈穂子，吉田直美. 口腔保健衛生学専攻・看護学専攻合同の口腔ケアに関する連携教育の試み. 第 87 回 口腔病学会学術大会 2022.12.03

4. 高澤維月，鈴木瞳，杉本久美子，樺沢勇司，吉田直美. 本学病棟における口腔ケア実施状況と実践に関連する要因の検討. 第 87 回 口腔病学会学術大会 2022.12.03

5. 高澤維月，鈴木瞳，杉本久美子，橋爪顕子，矢野貴子，伊藤　奏，安達奈穂子，日高　玲奈，吉田直美. 新入職看護師における口腔ケア関連知識の理解度および口腔ケア研修の効果に関する調査. 第 28 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会 2022.09.23 千葉

1. 池田亜紀子，沼部幸博，吉田直美，松本厚枝，合場千佳子，犬飼順子，石黒　梓，古川絵理華，品田佳世子. 歯科衛生士養成課程教育の現状と将来展望　第２報—臨床・臨地実習による教育内容の分析—. 第１３回日本歯科衛生教育学会学術大会 2022.12.02

2. 石黒梓，沼部幸博，吉田直美，松本厚枝，合場千佳子，犬飼順子，池田亜紀子，古川絵理華，品田佳世子. 歯科衛生士養成課程教育の現状と将来展望　第１報—座学・模型実習・相互実習による教育内容の分析—. 第１３回日本歯科衛生教育学会学術大会 2022.12.02

3. 高澤 維月, 鈴木 瞳, 杉本 久美子, 橋爪 顕子, 矢野 貴子, 伊藤 奏, 安達 奈穂子, 日高 玲奈, 吉田 直美. 新入職看護師における口腔ケア関連知識の理解度および口腔ケア研修の効果に関する調査. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 2022.12.01

4. 吉田直美. 歯科衛生士と歯科技工士の専門資格獲得を啓発する-公益社団法人日本歯科衛生士会における認定歯科衛生士制度について. （一社）日本歯科医学会連合主催 医療職連携委員会フォーラム 2022.11.13

5. 野口 有紀, 藤田 美枝子, 犬飼 順子, 高阪 利美, 吉田 直美, 石井 拓男, 吉田 直樹. COVID-19 流行下における就業歯科衛生士の感染予防対策の実態調査. 日本歯科衛生教育学会雑誌 2022.10.01

6. 石黒 梓, 沼部 幸博, 吉田 直美, 松本 厚枝, 合場 千佳子, 犬飼 順子, 池田 亜紀子, 古川 絵理華, 品田 佳世子. 歯科衛生士養成課程教育の現状と将来展望 (第 1 報)　座学・模型実習・相互実習による教育内容の分析. 日本歯科衛生教育学会雑誌 2022.10.01

7. 池田 亜紀子, 沼部 幸博, 吉田 直美, 松本 厚枝, 合場 千佳子, 犬飼 順子, 石黒 梓, 古川 絵理華, 品田 佳世子. 歯科衛生士養成課程教育の現状と将来展望 (第 2 報)　臨床・臨地実習による教育内容の分析. 日本歯科衛生教育学会雑誌 2022.10.01

8. 江口貴子, 吉田直美, 上條英之. 都道府県歯科衛生士会に おける成人、事業所の歯科 口腔保健事業の従事状況等 に関する調査研究. 第 17 回日本歯科衛生学会 2022.09.18 徳島県（WEB 開催）

9. 加藤夢乃, 鈴木瞳, 杉本久美子, 高原楠旻, 辻美千子 3 森山啓司, 小野卓史, 依田哲也, 吉田直美, 樺沢勇司. 顎変形症患者の顎矯正手術後の口腔ケアと歯科衛生士の関わり. 第 17 回日本歯科衛生学会 2022.09.18 Web 開催

10. 寺前美生、鈴木瞳，杉本久美子，宮澤絢子，吉田直美. 摂食嚥下障害看護認定看護師による口腔ケアに関する取り組みと歯科衛生士との連携に関する調査. 第 17 回日本歯科衛生学会 2022.09.18 Web 開催

11. 田中桜子, 鈴木瞳, 杉本久美子, 高澤維月, 橋爪顕子, 矢野貴子, 伊藤　奏, 安達奈穂子, 日高　玲奈, 吉田直美. 新人看護師における歯科・口腔ケア関連情報の認知度に関する調査. 第 17 回日本歯科衛生学会 2022.09.18 Web 開催

12. 吉田奈永，鈴木瞳，杉本久美子，櫻井芳美，宮澤絢子，田澤立之，吉田直美. 医療系大学新入生のオーラルヘルスリテラシーと口腔保健行動 . 第 17 回日本歯科衛生学会 2022.09.18 Web 開催

13. 加藤夢乃, 鈴木瞳, 杉本久美子, 高原楠旻, 辻美千子，　森山啓司, 小野卓史, 依田哲也, 樺沢勇司, 吉田直美. 顎変形症患者の顎矯正手術後の口腔ケアと歯科衛生士の関わり. . 第 17 回日本歯科衛生学会 2022.09.18 Web 開催

14. 吉田奈永，鈴木瞳，杉本久美子，櫻井芳美，宮澤絢子，田澤立之，吉田直美.. 医療系大学新入生のオーラルヘルスリテラシーと口腔保健行動．. 第 17 回日本歯科衛生学会 2022.09.18 Web 開催
15. 田中桜子，鈴木瞳，杉本久美子，高澤維月，橋爪顕子，矢野貴子，伊藤　奏，安達奈穂子，日高　玲奈，吉田直美．. 新人看護師における歯科 · 口腔ケア関連情報の認知度に関する調査．第 17 回日本歯科衛生学会 2022.09.18 Web 開催
16. 寺前美生、鈴木瞳，杉本久美子，宮澤絢子，吉田直美．. 摂食嚥下障害看護認定看護師による口腔ケアに関する取り組みと歯科衛生士との連携に関する調査.. 第 17 回日本歯科衛生学会 2022.09.18 Web 開催
17. 岡田 昌子, 大城 暁子, 吉田 直美, 品田 佳世子. 歯科衛生士に対する復職支援 · 離職防止等推進事業の展開 第 3 報. 口腔衛生学会雑誌 2022.04.01

[受賞]

1. 第 16 回学術発表賞　口演発表賞, 日本歯科衛生士会, 2022 年 09 月
2. 第 16 回学術発表賞　口演発表賞, 公益社団法人日本歯科衛生士会, 2022 年 09 月

[その他業績]

1. 令和 3 年度厚生労働省補助事業歯科衛生士の臨地実習指導者等講習会第 3 回 , 2022 年 01 月
2. 令和 3 年度厚生労働省補助事業歯科衛生士の臨地実習指導者等講習会第 4 回 , 2022 年 02 月
3. 令和 3 年度歯科衛生推進フォーラム, 2022 年 02 月
4. 第 25 回感染症予防歯科衛生士講習会 , 2022 年 07 月
5. 令和 4 年度認定歯科衛生士研修　医科歯科連携 · 口腔機能管理コース, 2022 年 07 月
6. 認定研修摂食嚥下リハビリテーション, 2022 年 07 月
7. 認定研修　医科歯科連携 · 口腔機能管理, 2022 年 07 月
8. 認定研修　歯科医療安全管理, 2022 年 07 月
9. 令和 4 年度認定歯科衛生士研修　歯科医療安全管理コース, 2022 年 08 月
10. 感染症予防歯科衛生士講習会オンライン研修, 2022 年 08 月
    新型コロナウイルスの来し方行く末、しかにおける院内の感染予防と感染管理、歯科診療所における医療安全管理
11. 第 1 7 回日本歯科衛生学会, 2022 年 09 月
    徳島県にてハイブリッド開催の予定であったが、コロナ感染拡大の影響により Web 配信へ変更した。日本歯科衛生士会の会長として、学会長、大会長とともに管理運営を行った。
12. 令和 4 年度認定歯科衛生士研修　摂食嚥下リハビリテーションコース, 2022 年 09 月
13. 歯科衛生士総合研修センター第 1 回公開オンライン講座　デジタルデンティストリーにおける〓科衛〓〓の役割, 2022 年 09 月
14. 認定研修生活習慣予防（特定保健指導—食生活改善指導担当者研修）, 2022 年 09 月
15. 認定研修　在宅療養指導 · 口腔機能管理, 2022 年 09 月
16. 令和 4 年度認定歯科衛生士研修　糖尿病予防コース, 2022 年 10 月
17. 令和 4 年度厚生労働省補助事業歯科衛生士の臨地実習指導者等講習会第 1 回 , 2022 年 10 月
18. 認定研修　生活習慣病予防（特定保健指導-食生活改善指導担当者研修）, 2022 年 10 月
19. 関東甲信越ブロック研修, 2022 年 10 月
20. 令和 4 年度北海道 · 東北ブロック研修, 2022 年 10 月
21. 令和 4 年度九州沖縄ブロック研修, 2022 年 10 月

22. 認定研修糖尿病予防指導, 2022 年 10 月
23. 令和 4 年度厚生労働省補助事業歯科衛生士の臨地実習指導者等講習会第 2 回 , 2022 年 11 月
24. 令和 4 年度東海北陸ブロック研修, 2022 年 11 月
25. 令和 4 年度中国四国ブロック研修, 2022 年 11 月
26. 歯科衛生士の業務内容見直しに向けた研究（R3 度厚生労働行政推進事業）成果発表, 2022 年 11 月
歯科衛生士総合研修センターオンライン公開シンポジウム
27. 第 67 回日本口腔外科学会総会第 14 回歯科衛生士研究会, 2022 年 11 月
28. 令和 4 年度厚生労働省補助事業歯科衛生士の臨地実習指導者等講習会第 3 回, 2022 年 12 月
29. 令和 4 年度近畿ブロック研修, 2022 年 12 月
30. 令和 4 年度公益社団法人日本歯科衛生士会災害歯科保健歯科衛生士フォーラム, 2022 年 12 月

[社会貢献活動]

1. 学生だより 50 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/g_tayori50.pdf, 2022 年 01 月 15 日 - 現在
2. 歯科衛生だより会報 67 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eiseikaihou_67_2.pdf, 2022 年 02 月 01 日 - 現在
3. 歯科衛生だより（一般向け）68 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/health/hatookuchi_20220401_1.pdf, 2022 年 04 月 01 日 - 現在
4. 歯科衛生だより会報 68 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eiseikaihou_68.pdf, 2022 年 04 月 01 日 - 現在
5. 歯科衛生だより（一般向け）69 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eisei_69_220602.pdf, 2022 年 06 月 01 日 - 現在
6. 歯科衛生だより会報 69 号 , 日本歯科衛生士会, 2022 年 06 月 01 日 - 現在
7. 学生だより 51 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/g_tayori51.pdf, 2022 年 07 月 15 日 - 現在
8. 歯科衛生士のリカレント研修、公開オンライン講座の周知開催予告、センターの活動内容, 日本歯科新聞社, 日本歯科新聞, 2022 年 07 月 26 日 - 2022 年 08 月
9. 歯科衛生だより（一般向け）70 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eisei_70.pdf, 2022 年 08 月 01 日 - 現在
10. 歯科衛生だより会報 70 号, 日本歯科衛生士会, 2022 年 08 月 01 日 - 現在
11. 日本歯科衛生士会会長のバトンを受け取って 1 年が経過して思うこと, 全国行政歯科技術職連絡会, 2022 年 09 月 22 日
12. 歯科衛生だより（一般向け）71 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eisei_71.pdf, 2022 年 10 月 01 日 - 現在
13. 歯科衛生だより会報 71 号, 日本歯科衛生士会, 2022 年 10 月 01 日 - 現在
14. 歯科衛生だより（一般向け）72 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eisei_72.pdf, 2022 年 12 月 01 日 - 現在
15. 歯科衛生だより会報 72 号, 日本歯科衛生士会, 2022 年 12 月 01 日 - 現在

口腔基礎工学分野

Department of Basic Oral Health Engineering

教授　青木　和広
准教授　大木　明子
助教　上條　真吾
非常勤講師
吉岡　文
非常勤講師
二川　浩樹
非常勤講師
尾澤　昌悟

(1) 分野概要

口腔基礎工学分野は、口腔保健学科口腔保健工学専攻の口腔基礎科学分野を前身とし、2015 年 4 月の大学院修士課程の設置に伴って統合再編された 3 分野のうち基礎的領域を担う分野です。2023 年 4 月に大学院博士課程の設置に伴い、生命理工医療科学専攻に再編されました。

研究面では、工学と生物学の融合研究、基礎から臨床への橋渡し研究を通して、 口腔から全身の健康に寄与することを目標にしています。教育面では、基礎分野から、専門分野、統合分野まで幅広く担当しており、人々の幸福に貢献するという目的に徹した医療人を育成します。

(2) 研究活動

研究目標

当分野では、歯科医療技術の発達は歯科技工士の技術進歩や職位の向上にもつながるというコンセプトのもとに、生物学と理工学との融合研究を通じて、非侵襲的な骨造成法の開発、プラーク忌避歯面コート剤の開発、さらに口腔顎顔面補綴装置の装着について評価を行う研究を展開する。

近年、骨芽細胞膜上の RANKL 分子が骨芽細胞初期分化を促進する受容体として働くことが明らかとなったが、この RANKL 分子をターゲットとした新規骨形成促進剤の開発を一つの研究の軸として臨床応用につなげる研究を推進する。また、口腔細菌と全身疾患との関連を明らかにする学際研究を発展させ、患者および人々の Quality of Life 向上のためにどのような寄与ができるかについて検討を行う。さらに、臨床分野との協働によって基礎研究と臨床研究の融合を図り、口腔から全身の健康に寄与する研究を推進する。

研究テーマ

1. 注射法による垂直的骨造成法に必要な足場材料開発
2. ＲＡＮＫＬ分子に結合する新規骨形成促進剤の開発
3. 唾液中の幸福度マーカーの標準化と癌マーカー、口腔内細菌叢との関連解析
4. 3 次元造形法によるエピテーゼ製作法の開発
5. 顎顔面欠損による機能障害に関する治療についての研究
6. 歯型彫刻の客観的評価法の開発

(3) 教育活動

担当授業

【学部教育】

口腔保健学講座

口腔保健学科　口腔保健工学専攻：
第 1 学年
多職種連携Ⅰ、口腔保健と専門職、早期臨床体験実習、人体の構造と機能、感染予防、歯の解剖学、研究体験実習
第 2 学年
口腔医学の基礎、全身疾患と治療の基礎、科学英語Ⅰ、ヘルスプロモーション、グローバル口腔保健工学、感染予防
第 3 学年
グローバル口腔保健工学実習、臨床咬合学、審美修復工学、審美修復工学実習、顎補綴工学、顎補綴工学実習、顔面補綴工学実習、臨床義歯管理工学、インプラント工学実習、卒業研究Ⅰ、再建工学包括臨床実習Ⅰ
第 4 学年
歯科技工士と法律、オーラルアプライアンス工学、スポーツ歯科工学、再建工学包括臨床実習Ⅱ・Ⅲ、卒業研究Ⅱ・Ⅲ、卒業製作

口腔保健工学エクスターンシップ

口腔保健学科　口腔保健衛生学専攻：
第 1 学年
人体の構造と機能Ⅰユニット
第 2 学年
歯・口腔の構造と機能ユニット、薬理学ユニット、薬理学、口腔保健衛生基礎科学実習、臨床口腔保健衛生実習Ⅰ
第 3 学年
歯科薬理・薬剤学、口腔疾患予防応用学実習

歯学科：
第 1 学年　基礎情報医歯学
第 3 学年　生体と薬物
第 6 学年　包括臨床実習（CAD/CAM 実習）

【大学院教育】
大学院医歯学総合研究科 修士課程 医歯理工保健学専攻：
口腔保健工学特論
薬理学

大学院医歯学総合研究科 博士課程 生命理工医療科学専攻：
先端口腔保健工学特論
硬組織研究・骨形態計測学特論
口腔保健学セミナー

(4)　教育方針

口腔保健学の科学的基礎となる人体および顎口腔領域の機能全般ならびに薬理学を含めた疾患との関連について教授し、各器官系の機能を中心に、それを支える構造的基盤および物質的基盤にも言及しながら、総合的な理解を促すよう講義を行う。また、幅広く歯科補綴装置の製作方法および機能回復への役割を深く理解できるよう、実習を通して体験する教育を実施する。さらに、専門での学びの集大成として、卒業研究では学生自らの関心を基に、研究計画の立案から実施、データ分析を行い、論文を作成するまでの一連の過程を体験することにより研究への意欲を培い、再建工学包括臨床実習Ⅱ・Ⅲや卒業製作では基礎実習で修得した技術を総合して、より高度かつ独創的な補綴装置の製作を行い、専門的技能を高める教育を実施する。

(5)　臨床活動および学外活動

大学病院顎顔面補綴外来において、先天的あるいは後天的要因によって顎口腔領域に後遺した欠損を有する患者に対し、機能的、形態的障害の再建および回復のため、顎顔面補綴的リハビリテーションを行っている。口唇裂口蓋裂患者の補綴治療、上顎、下顎、顔面欠損に対する補綴治療、放射線治療後の患者の歯科的問題に対する治療を行っている。大学病院歯科技工部において、顎口腔領域の補綴装置の製作を行っている。

(6) 臨床上の特色

先天的あるいは後天的要因によって顎口腔領域に広範囲の欠損を有する患者に対し、補綴装置による形態的再建を行って機能回復を図ることが臨床上の特色である。また、大学病院歯科技工部と連携して、難度の高い顎口腔領域の補綴装置の製作を行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Aiko Hoshiai, Meiko Oki, Taiji Hoshiai, Toshiaki Iida, Yuka I Sumita, Shigeru Watanabe. Oral Health Management of Three Head and Neck Cancer Patients Performed by Dental Hygienists - A Case Report HEALTH. 2023.12; 15(12);

2. Meiko Oki, Mirai Nakayama, Yumi Tsuchida, Shingo Kamijo, Kazuhiro Aoki. Objective evaluation of tooth carving using homologous models Journal of Dental Education. 2023.11;

3. Katada H, Inokoshi M, Kamijo S, Liu H, Xu K, Kawashita M, Yokoi T, Shimabukuro M, Minakuchi S. Effects of multiple firings on the translucency, crystalline phase, and mechanical strength of highly translucent zirconia. Dent Mater J. 2023.11;

4. Linn Htat H, Takaichi A, Kajima Y, Kittikundecha N, Kamijo S, Hanawa T, Wakabayashi N. Influence of stress-relieving heat treatments on the efficacy of Co-Cr-Mo-W alloy copings fabricated using selective laser melting. Journal of prosthodontic research. 2023.07;

5. Cangyou Xie, Fatma Rashed, Yosuke Sasaki, Masud Khan, Jia Qi, Yuri Kubo, Yoshiro Matsumoto, Shinichi Sawada, Yoshihiro Sasaki, Takashi Ono, Tohru Ikeda, Kazunari Akiyoshi and Kazuhiro Aoki. Comparison of Osteoconductive Ability of Two Types of Cholesterol-Bearing Pullulan (CHP) Nanogel-Hydrogels Impregnated with BMP-2 and RANKL-Binding Peptide: Bone Histomorphometric Study in a Murine Calvarial Defect Model 2023.06; 24(11);

6. Meiko OKI, Maho SHIOZAWA, Shuma AOKI, Yumi TSUCHIDA, Tetsuya SUZUKI, Hidekazu TAKAHASHI. Digitally creating three-dimensional standard shapes of complete dentures by using homologous models: A pilot study Journal of Digital Dentistry. 2023.06; 1(1); 26-32

7. Shibata M, Takahara N, Kaneko T, Oki M, Sasaki Y, Tomomatsu N, Kurasawa Y, Nakakuki K, Yoda T. Risk factors for postoperative facial swelling at 1 week after bimaxillary orthognathic surgery in Class III patients. Journal of stomatology, oral and maxillofacial surgery. 2023.05; 124(5); 101516

8. Shunsuke Takeuchi, Shunsuke Fukuba, Munehiro Okada, Kohei Nohara, Ryo Sato, Daichi Yamaki, Takanori Matsuura, Shu Hoshi, Kazuhiro Aoki, Takanori Iwata. Preclinical evaluation of the effect of periodontal regeneration by carbonate apatite in a canine one-wall intrabony defect model. Regen Ther. 2023.03; 22; 128-135

9. Matsuno H, Li B, Okawara H, Toyoshima Y, Xie C, Khan M, Murakami N, Aoki K, Wakabayashi N. Effect of tension and compression on dynamic alveolar histomorphometry. Journal of the mechanical behavior of biomedical materials. 2023.02; 138; 105666

10. Takahashi K, Amano H, Urano T, Li M, Oki M, Aoki K, Amizuka N, Nakayama KI, Nakayama K, Udagawa N, Higashi N. p57Kip2 is an essential regulator of vitamin D receptor-dependent mechanisms PLOS ONE. 2023.02; 18(2); e0276838

[講演・口頭発表等]

1. Qu Wenrui, Takaichi Atsushi, Kajima Yuka, Kamijo Shingo, Wakabayashi Noriyuki. Effect of build orientation on trueness and adaptation of maxillary complete denture frameworks fabricated by selective laser melting. 令和 5 年度 日本歯科理工学会近畿・中四国地方会セミナー 2023.10.29 大阪

2. Xu K, Inokoshi M, Yoshihara K, Kakehata M, Yashiro H, Takahashi R, Yamatomo M, Kamijo S, Ikeda M, Minakuchi S. Bonding efficacy to femtosecond laser irradiated lithium disilicate glass-ceramic. IADR-ANZ Conference 2023 2023.09.29 Sydney

3. Yuri Kubo, Qi Jia, Cangyou Xie, Yoshiro Matsumoto, Takashi Ono, Tohru Ikeda, and Kazuhiro Aoki. Development of novel anabolic reagents for local bone formation. International Summer Program 2023 2023.08.01 Tokyo, Japan

1. ド・ゴック・ズン・アイン，大木明子，謝倉右，上條真吾，青木和広. エピテーゼ用シリコーン材料における気泡混入に対して粘度調整剤が与える影響. 日本歯科技工学会第 45 回学術大会 2023.11.03 福岡市

2. 安藤 大貴、瀧澤 智美、青木 和広、泉福 英信. 尾静脈投与した *Streptococcus mutans* のラムノースーグルコース多糖類合成能がマウスの臓器へ及ぼす影響. 歯科基礎医学会 2023.09.16 千代田区、東京

3. Jia Qi，Yoshiro Matsumoto，Cangyou Xie， Fatma Rashed，Takashi Ono，Kazuhiro Aoki. Local delivery of bone anabolic agents protects the thin alveolar bone in the murine mechanical orthodontic force model.. 第 41 回 日本骨代謝学会学術集会 2023.07.27 Tokyo, JAPAN

4. 謝　倉右、池田　通、青木　和広. 2 種のコレステロール含有プルラン（CHP）ナノゲルを足場材料とした骨伝導能の 骨形態計測学的解析. 第 43 回日本骨形態計測学会 2023.06.29 札幌

5. 福留 美由紀，大木 明子，藤田 遥，隅田 由香. 放射線性骨壊死による下顎切除後に露出した再建プレートに維持を求めた顔面エピテーゼの 1 例. 日本学顔面補綴学会第 40 回総会・学術大会 2023.06.02 名古屋市

6. 青木 和広. 注射による顎骨造成　骨形成促進剤開発は生物学と理工学との融合研究. 歯界月報 2023.02.01

[社会貢献活動]

1. クラウドファンディング・新たながん検査方法を模索, 産経新聞社, 産経新聞, 2023 年 11 月 22 日 - 2023 年 12 月 12 日

口腔デジタルプロセス学分野

Department of Digital Dentistry

教　授 金澤　学
准教授 岩城 麻衣子
助　教 土田 優美
特別研究員 羽田 多麻木

大学院生（修士）
中山 魅来
林　七夏
PIAO YUANHUA（4 月～）
LI HAOYU（4 月～）

大学院生（博士）
WANG JINGRONG（4 月～）

(1) 分野概要

口腔デジタルプロセス学分野は 2021 年 5 月 1 日に設立された分野であり，デジタルデンティストリーの研究，臨床，教育を担当する分野である．このデジタルデンティストリーは歯科学と工学からなる学際的なフィールドである．口腔デジタルプロセス学分野では，歯科学分野における歯科臨床と工学分野におけるデジタル機器（ハードウェア · ソフトウェア）との間をシームレスに接続し，研究，臨床，教育を行える人材を育成する．

(2) 研究活動

1) ミルド全部床義歯
従来の全部床義歯の製作には，来院回数の多さや歯科医師の技術格差に由来する治療の質のバラツキといった問題，さらにはアクリルレジンを使用することでの耐汚染性の問題などがあった．当分野ではこれらの問題を解決するため， CAD/CAM 技術を応用した義歯製作方法を確立することにより，少ない通院回数，治療の質の均一化，義歯の物性向上を目指してきた．これまでのミルドデンチャーでは，義歯床のみをミリングし，人工歯を後付けしていたことから人工歯接着面の劣化などの問題があった．そこで我々が考案したのは，患者ごとに人工歯が排列されたカスタマイズドディスクを製作し，最初から義歯床と人工歯が一体化された状態でデンチャーをミリングするという方法（TMDU カスタムディスク法）である．このカスタムディスクについては特許を取得し，本学産学連携掛の協力のもと，海外特許にも申請中である．また，2019 年より開始した「CAD/CAM 技術を応用した全部床義歯の前向き臨床研究」において，TMDU カスタムディスク法を用いた結果，従来法での全部床義歯製作よりも費用対効果が改善することが示された．我々が確立したデジタルデンチャー製作法では，口腔内スキャナーを用いた無歯顎顎堤の光学印象に始まり，義歯のデザイン · 製作をコンピュータ上で行うワークフローで行っているが，今後はデンチャーデザインに AI アシストを導入し，さらなるデジタル化を目指している．デジタルデンチャーのミリングに欠かせないミリング用ディスクの開発やミリングマシンの適正条件の検証などについて，ミリングマシンメーカーや切削工具メーカーとの共同研究も行っている．

2) デジタル部分床義歯
デジタル部分床義歯はデジタル全部床義歯に比べ，研究報告も少なく臨床応用が進んでいない．その要因として，部分床義歯には様々な欠損様式や支持様式に対応する必要があり，その要件に応じて様々な形状での金属材料と樹脂材料から構成されていることが一つとして考えられる．レーザー積層造形（SLM）法にてメタルフレームを三次元造形することは可能ではあるが，その後の人工歯排列や重合操作などの製作過程については従来の部分床義

歯の製作手順に沿って行うことになり，すべての工程がデジタル化されているとは言い難い．そこで我々は，全部床義歯の製作で考案した TMDU カスタムディスク法を応用し，患者ごとに排列した既製人工歯と SLM 法により三次元造形したメタルフレームを埋め込んだ，部分床義歯用カスタムプレートを製作する方法を考案した．これにより，人工歯部分とメタルフレーム，義歯床部分を一塊でミリングすることができ，これまでのデジタル部分床義歯の問題点を解決することに成功した．このデジタル部分床義歯は乾式のミリングマシンを用いているが，今後は湿式マシンを用いることにより，あらゆる大きさの部分床義歯の製作が可能になると考えている．今後は，カスタムプレートの適切なデザインの検討や，様々な欠損形態に対応した部分床義歯の製作について検討や評価を行う予定である．

3) インプラントオーバーデンチャー
下顎無歯顎患者に対するインプラントオーバーデンチャー (IOD) は非常に古くから研究が行われており，2002 年にコンセンサス声明が発表されたように，欧米では 1980-90 年代に多くの研究が行われ多数のエビデンスが蓄積されてきた分野である．その中で，我々は 2008 年から東京医科歯科大学附属病院にて臨床研究を始め，現在，患者は 100 症例を超え，長い症例は 10 年以上の経過を追っている．これまでに行ってきた IOD 研究は下記の通りである．

1）ボールアタッチメントを利用した 2-IOD の前向き臨床研究 (2008-)
2）磁性アタッチメントを利用した 2-IOD の通常荷重と即時荷重を比較した RCT (2011-)
3）ミニインプラントを利用したミニ IOD の前向き臨床研究（2013-2014 McGill 大学）
4）1-IOD の前向き臨床研究 (2015-)
5）インプラントを利用した部分床義歯であるインプラントアシステッドパーシャルデンチャー (IARPD) に関する昭和大学との共同臨床研究 (2017-)
6）IOD のインプラント埋入位置の検討や義歯の動きなどに関する模型実験

一方，上顎 IOD に関しては世界的にもあまり臨床研究が行われていない．我々は，これまでに蓄積した下顎 2-IOD のエビデンスや無歯顎補綴に関する知識から，顎堤条件を選択すれば上顎 IOD も 2 本のインプラントで義歯の維持が可能であり，超高齢社会において有効な治療手段になると考えている．今後は，上顎も下顎同様，2 本のインプラントを維持源とした 2-IOD の臨床研究を行い，エビデンスを構築していく予定である．

4）医療機器プログラム
2014 年の「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の施行 により，疾患の診断 · 治療を目的としたソフトウェアが単体で流通することが可能となり，「医療機器プログラム」として規制されることとなった．これにより，医療における様々な分野で医療機器プログラムの開発が進められている．本分野では現在不正咬合の患者に対する口腔筋機能療法や，歯周病治療を支援するアプリケーション（医療機器プログラム）を開発しており，対面診察との相乗効果をはじめとした臨床上の効果を検証する予定である．

(3) 教育活動

学部教育：歯科技工の基礎，全部床義歯製作法，デジタルデンティストリーを中心に以下の講義 · 実習を担当している。

口腔保健学科口腔保健工学専攻について以下の科目を担当した．
1 年生 メディア情報学応用
2 年生 全部床義歯工学，全部床義歯工学実習，歯の形態実習，デジタルデンティストリー基礎
3 年生 高齢者歯科学，プロセスデバイス工学，CAD/CAM システム工学実習，部分床義歯工学実習Ⅱ
4 年生 CAD/CAM システム工学演習，統合実習基礎，統合実習応用，画像解析学，卒業研究Ⅱ，卒業研究Ⅲ

大学院教育：
大学院修士課程の研究指導および講義「口腔保健工学特論」を担当した．
大学院博士課程の研究指導および講義「先端口腔保健工学特論」を担当した．

(4) 教育方針

学部教育：Digital dental technician と Digital dental scientist を育成するために，特にデジタルデンティストリーの分野において最新技術に関する教育を行う．

大学院教育：デジタルデンティストリーの分野において臨床および最新技術に関する専門的な教育を行い、研究を遂行できる能力を身に付ける。

(5) 臨床上の特色

先端歯科診療センター：義歯科の専門医としてデジタルデンティストリー，補綴歯科治療全般を担当している．

義歯科：無歯顎という特殊な口腔内状態に生じた形態的，機能的変化を全部床義歯によって回復し維持するためには，独自な口腔内診査と義歯設計を行わなければならない．具体的には，全部床義歯は口腔内への維持を歯に求められないので，口腔粘膜と義歯床面との唾液を介する付着力に頼らなければならない．全部床義歯にかかる咬合力は義歯床を介して床下粘膜によって支持されるため，義歯床の安定をはかるために上下顎堤の対向関係を考慮し，顎運動と調和した人工歯の配列と咬合様式の付与を行う必要がある．歯および歯の支持組織の欠損による無歯顎者の顔貌の大きな変化を全部床義歯によって回復するにあたり，義歯周囲の筋および関連軟組織の形態や動態との調和を図り，義歯の維持を向上させる形態とする．また歯の喪失および大きな補綴物が口腔内に装着されることによる患者の心理的負担を考慮して応対に注意する必要がある．このような精神状態を含めた全身状態の変化は，口腔粘膜においても変化を生じる可能性が高く，それが義歯の維持，安定の変化，ならびに回復された機能の変化につながる．そのため，定期的リコールを行い，問診や VAS により得られた義歯と機能に対する患者の主観的評価の調査を継続して行い，回復された機能が長期にわたり維持されさらに改善されるよう心がけている．また，当分野独自の評価基準を設け，患者の主観的意見だけでなく EBM に基づいた補綴処置効果の客観的評価も行っている．

(6) 研究業績

[原著]

1. Akiyama Y, Iwaki M, Komagamine Y, Minakuchi S, Kanazawa M. Effect of spindle speed and feed rate on surface roughness and milling duration in the fabrication of milled complete dentures: an in vitro study. Appl Sci. 2023.12; 13(24); 13338

2. Kashiwazaki K, Komagamine Y, Namano S, Park JM, Iwaki M, Minakuchi S, Kanazawa M. Prediction accuracy of incisal points in determining occlusal plane of digital complete dentures. J Adv Prosthodont. 2023.12; 15(6); 281-289

3. Huang Y, Wang J, Zhu L, Liu L, Gao S. The optimal design and three-dimensional finite element analysis of CAD/CAM integrated roach attachment. Heliyon. 2023.12; 16(10);

4. Oki M, Nakayama M, Tsuchida Y, Kamijo S, Aoki K. Objective evaluation of tooth carving using homologous models. J Dent Educ. 2023.11;

5. Kashiwazaki K, Komagamine Y, Shanglin W, Ren X, Hayashi N, Nakayama M, Namano S, Kanazawa M, Minakuchi S. Improvements in Maximum Bite Force with Gum-Chewing Training in Older Adults: A Randomized Controlled Trial. J Clin Med. 2023.10; 12(20);

6. Wang J, Jin C, Dong B, Yue L, Gao S. Fully digital workflow for replicating treatment dentures: A technique for jaw relation transfer and dynamic occlusal adjustment. J Prosthet Dent. 2023.09; 130(3); 288-294

7. Komagamine Y, Kanazawa M, Miyayasu A, Uehara Y, Watanabe M, Sahaprom N, Huyen TBN, Iwaki M, Sato D, Minakuchi S. The effect of single-implant overdentures on cognitive function in older adults: A 3-year follow-up report. Journal of dentistry. 2023.09; 136; 104632

8. Kyaw TT, Abdou A, Arunjaroensuk S, Nakata H, Kanazawa M. Effect of chemical and electrochemical decontamination protocols on single and multiple-used healing abutments: A comparative analysis of contact surface area, micro-gap, micro-leakage, and surface topography. Clin Implant Dent Relat Res. 2023.09; 25(6); 1207-1215

9. Mikami R, Komagamine Y, Aoyama N, Mizutani K, Sasaki Y, Iwata T, Minakuchi S, Kanazawa M. Association between occlusal supports and nutritional status in older adults: A systematic review. J Dent Sci. 2023.09;

10. Komagamine, Y; Suzuki, H; Iwaki, M; Minakuchi, S; Kanazawa, M. Effect of New Complete Dentures and Simple Dietary Advice on Cognitive Screening Test among Edentulous Older Adults: A Randomized Controlled Trial JOURNAL OF CLINICAL MEDICINE. 2023.07; 12(14);

11. Kashiwazaki K, Komagamine Y, Uehara Y, Yamamoto M, Nakai H, Trang BNH, Liu H, Namano S, Tonprasong W, Kanazawa M, Minakuchi S. Effect of gum-chewing exercise on maintaining and improving oral function in older adults: A pilot randomized controlled trial. J Dent Sci. 2023.07;

12. Trang BNH, Kanazawa M, Murakami N, Wakabayashi N, Hada T, Sahaprom N, Komagamine Y, Minakuchi S. Stress distribution of one-piece and two-piece mini-Implant overdentures with various attachment systems and diameters: A finite element analysis. J Prosthodont Res. 2023.07; 67(3); 430-436

13. Oki M, Shiozawa M, Aoki S, Tsuchida Y, Suzuki T, Takahashi H. Digitally creating three-dimensional standard shapes of complete dentures by using homologous models: A pilot study. Journal of Digital Dentistry. 2023.06; 1(1); 26-32

14. Chaiamornsup P, Shiozawa M, Tsuchida Y, Takahashi H. Digital technique for placing markings on removable denture. J Digital Dent. 2023.06; 1(1); 41-44

15. Tsuchida Y, Shiozawa M, Handa K, Takahashi H, Nikawa H. Comparison of the accuracy of different handheld-type scanners in three-dimensional facial image recognition. J Prosthodont Res. 2023.04; 67(2); 222-230

16. Chaiamornsup P, Katheng A, Ha R, Tsuchida Y, Kanazawa M, Uo M, Minakuchi S, Suzuki T, Takahashi H. Effects of build orientation and bar addition on accuracy of complete denture base fabricated with digital light projection: An in vitro study. J Prosthodont Res. 2023.04;

17. R Hidaka, Y Masuda, K Ogawa, T Tanaka, M Kanazawa, K Suzuki, M Stading, K Iijima, K Matsuo. Impact of oral frailty prevention program with textured lunch gatherings on attitude and behavior towards eating habits and improving oral frailty: The Comprehensive Awareness Modication of Mouth, Chewing And Meal (CAMCAM) program The Journal of Nutrition Health and Aging. 2023.04; 27(5); 340-347

18. Jin C, Wang J, Huang Y, Yu P, Xiong Y, Yu H, Gao S. Effects of hydrofluoric acid concentration and etching time on the bond strength of ceramic-coated zirconia. J Adhes Dent. 2023.03; 24(1); 125-136

19. Shin Y, Wada K, Tsuchida Y, Ijbara, Ikeda M, Takahashi H, Iwamoto T. Wear behavior of materials for additive manufacturing after simulated occlusion of deciduous dentition. J Mech Behav Biomed Mater. 2023.02; 138; 105627

20. Shiozawa M, Tsuchida Y, Suzuki T, Takahashi H. Discoloration of fiber-reinforced composite resin disc for computer-aided design/computer-aided manufacturing after immersion in coffee and curry solutions. Dent Mater J. 2023.01; 42(1); 64-71

21. Tabira K, Kawaguchi R, Mine Y, Iwaguro S, Peng TY, Tsuchida Y, Takayama Y, Okazaki S, Taji T, Murayama T. An in vitro study of digital impressions and three-dimensional printed models of orbital defects using mobile devices and monoscopic photogrammetry. J Oral Sci. 2023; 65(2); 127-130

22. Akiyama Y, Kanazawa M, Iwaki M, Hada T, Soeda Y, Otake R, Kashiwazaki K, Komagamine Y, Murakami N, Takaichi A, Wakabayashi N, Minakuchi S. Fabrication of milled removable partial dentures using a custom plate with prefabricated artificial teeth. J Prosthodont Res. 2023.10; 67(4); 647-651

[総説]

1. Kanazawa M. Digital transformation of removable dentures. J Prosthodont Res. 2023.10; 67(4); 7-8

1. 宮安　杏奈, 岩城　麻衣子, 金澤　学. 超高齢社会におけるIODの現在と未来. 日本義歯ケア学会誌. 2023.12; (15); 9-15

2. 宮安　杏奈, 岩城　麻衣子, 金澤　学. インプラントオーバーデンチャー（IOD）の臨床とエビデンス. 東京都歯科医師会雑誌. 2023.08; 71(8); 395-402

3. 羽田 多麻木, 岩城 麻衣子, 金澤 学. 【「デジタルデンチャーの今」】カスタムディスク法によるデジタルデンチャーの製作. 日本歯科技工学会雑誌. 2023.07; 44(2); 77-80

4. 林 七夏, 秋山 洋, 岩城 麻衣子, 金澤 学. カスタムプレート法による部分床義歯の新製. DENTAL DIAMOND 6 月号. 2023.06; 105-106
5. 羽田 多麻木, 岩城 麻衣子, 金澤 学. 【IOS 時代の歯科技工　口腔内スキャナーの基礎知識から補綴装置製作の実際まで】(CHAPTER 4)IOS を用いた補綴治療の実際　IOS を使用したデジタルデンチャーの製作. 歯科技工　別冊. 2023.05; 別冊 (IOS 時代の歯科技工); 131-139
6. 林 七夏, 岩城 麻衣子, 金澤 学. 有床義歯における 3D プリンターの活用と将来展望. 日本歯科理工学会誌 DE. 2023.01; (220); 7-10

[講演 · 口頭発表等]

1. Hada T, Kanazawa M, Iwaki M, Minakuchi S. Effects of printed layer thickness and infill rate on mechanical properties of shape memory materials used in 4D-printed sports mouthguard. International College of Prosthodontists (ICP) 2023, London Symposium. 2023.08.31 London
2. Nakayama M, Li H, Hayashi M, Tsuchida Y, Kanamori Y, Noritake K, Nitta H, Miyayasu A, Iwaki M, Kanazawa M. Quantitative analysis of visual evaluation in abutment tooth for full metal crown. International Summer Program (ISP) 2023, TMDU. 2023.08.02 Tokyo, Japan
3. Qi K, Kanazawa M, Hada T, Sahaprom N, Ren X, Akiyama Y, Minakuchi S. Effect of silanization on SLA resin enhanced by 3Y-TZP nanoparticles. The 101st General Session & Exhibition of the IADR 2023.06.23 Bogota
4. Hayashi N, Akiyama Y, Kashiwazaki K, Komagamine Y, Iwaki M, Minakuchi S, Kanazawa M. Effects of the offset values of fixed part of metal framework on accuracy in milled removable partial denture using custom plate. IAGG Asis/Oceania Regional Congress 2023. 2023.06.14 Yokohama
5. Qi K, Kanazawa K, Soeda Y, Akiyama Y, Hada T, Sahaprom N, Komagamine Y, Iwaki M, Shibata S, Mizokoshi N, Takeyama J, Shinpo H, Okubo C, Minakuchi S. The oral health-related quality of life and patient satisfaction of 3D-printed and conventional complete denture: The interim report of the randomized cross-over clinical trial. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.19 Yokohama
6. Wu S, Kanazawa M, Akiyama Y, Soeda Y, Hada T, Qi K, Sahaprom N, Komagamine Y, Iwaki M, Shibata S, Mizokoshi N, Takeyama J, Shinpo H, Okubo C, Minakuchi S. Comparison of the occlusal contact area and masticatory function between 3D-printed and conventional complete dentures: a randomized, cross-over clinical trial evaluating. the 14th Japan Academy of Digital Dentistry 2023.04.22 神奈川
7. Qi K, Kanazawa M, Hada T, Akiyama Y, Minakuchi S. Evaluation of Degree of Conversion and Mechanical Properties of Modified 3Y-TZP Nanoparticles Reinforced SLA Resin at Different Post-polymerization Conditions. 第 81 回日本歯科理工学会学術講演会 2023.04.15 Tokyo
8. Manabu Kanazawa. Present and future of Digital Complete Denture. 30th Malaysian Dental Association SCATE2023. 2023.02.17
9. Manabu Kanazawa. The cutting edge of digital dentures. Japan Dental Tour 2023: Dentayori in collaboration with JDP 2023.02.15
10. Manabu Kanazawa. The cutting edge of digital dentures. International Academy for Digital Dental Medicine 2023.02.12

1. 川上 ひかる，LI HAOYU，羽田 多麻木，宮安 杏奈，金澤 学. エナメルコンポジットレジンのカスタムディスク法への有効性の評価. 第 88 回 口腔病学会学術大会. 2023.12.01 東京
2. 李 晨媛，和田 敬広，土田 優美，林 海里，田邊 元，上野 俊明，中禮 宏. サイクル荷重耐久性疲労試験を用いた 3D 多層マウスガードと従来型マウスガードの保持力比較. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会. 2023.11.19 福岡
3. 柏﨑 健汰, 駒ヶ嶺 友梨子, Wu Shanglin, Xiangyu Ren, 林 七夏, 中山 魅来, Sahaprom Namano, 安藤 智教, 江村 耕司, 小巻 翔, 菅野 範, 金澤 学, 水口 俊介. ガム咀嚼トレーニングにより高齢者の咬合力が向上するか？ . 2023.10.28
4. 金森ゆうな, 則武加奈子, 土田優美, 岩城麻衣子, 金澤学, 新田浩. 東京医科歯科大学病院研修歯科医による支台歯形成に対する自己評価と定量評価. 第 42 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 2023.07.17 Web 開催

5. 野原　佳織，鬼木　隆行，小林　利彰，二ッ谷　龍大，駒ヶ嶺　友梨子，金澤　学，水口　俊介. 機械的刺激による口腔乾燥の新たな改善方法に関する研究. 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023.06.18 横浜
6. 中山 魅来, 林 七夏, 土田 優美, 金森 ゆうな, 則武 加奈子, 新田 浩, 宮安 杏奈, 岩城 麻衣子, 金澤 学. 支台歯形成における指導歯科医師による評価傾向の定量化. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会． 2023.05.21 神奈川
7. 秋山 洋，金澤 学，岩城 麻衣子，羽田 多麻木， 副田 弓夏，駒ヶ嶺 友梨子，水口 俊介. ミルドデンチャーの切削加工における回転数と送り速度が加工精度と時間に与える影響. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会. 2023.05.20 神奈川
8. 柏﨑 健汰, 駒ヶ嶺 友梨子, Namano Sahaprom, 岩城 麻衣子, 金澤 学, 水口 俊介. 全部床義歯の咬合平面予測における切歯点の予測精度評価. 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会 2023.05.20 神奈川
9. 林 七夏, 土田 優美, 安齋 達彦, 髙橋 邦彦, 岩城 麻衣子, 宮安 杏奈, 金澤 学. 深層学習を用いた画像認識技術による支台歯形態の評価. 日本デジタル歯科学会第 14 回学術大会． 2023.04.22 神奈川
10. 金澤 学． インプラントオーバーデンチャーはどこまで進化したか． 第 15 回日本義歯ケア学会学術大会 2023.01.22

[特許]

1. 有床義歯の製造方法、有床義歯及び有床義歯の製造装置, 特許番号：特許第 7209375 号

[受賞]

1. 最優秀発表賞 , 日本デジタル歯科学会, 2023 年 04 月
2. 研究奨励賞（ネオ製薬工業賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月

[その他業績]

1. 「フルデジタルワークフローでの新規部分床義歯製作方法の開発」 —デジタル技術を用いた新しい部分入れ歯の製作方法—, 2023 年 02 月
Journal of prosthodontic research

[社会貢献活動]

1. 症例に応じた下顎全部床の印象採得（金澤 学）, 高齢者歯科分野医局会講演, Web, 2023 年 01 月 23 日
2. デジタルで変わる全部床義歯の未来（金澤 学）, 徳島県歯科医師会学術講演会, 徳島, 2023 年 01 月 26 日
3. 有床義歯補綴のデジタル化（金澤 学）, 徳島大学特別講演, 徳島, 2023 年 01 月 27 日
4. IFDC Hands-on Bolder molding for mandibular complete dentures（金澤 学）, International Faculty Development Course (IFDC), 東京, 2023 年 02 月 07 日
5. やってみよう！ デジタルデンチャー（金澤 学）, International Faculty Development Course (IFDC), 東京, 2023 年 02 月 07 日
6. TMDU hospital tour（金澤 学）, M's セミナー, Web, 2023 年 02 月 07 日
7. The cutting edge of digital dentures（金澤 学）, International Faculty Development Course (IFDC), 東京, 2023 年 02 月 10 日
8. The cutting edge of digital dentures（金澤 学）, International Academy for Digital Dental Medicine, ソウル, 2023 年 02 月 12 日
9. The cutting edge of digital dentures（金澤 学）, Japan Dental Tour 2023: Dentayori in collaboration with JDP, 東京, 2023 年 02 月 15 日
10. Present and future of Digital Complete Denture（金澤 学）, 30th Malaysian Dental Association SCATE2023, マレーシア, 2023 年 02 月 17 日
11. 硬質裏装材 · 軟質裏装材のポイント！（金澤 学）, トクヤマデンタル & DoctorBook web ハンズオンセミナー, Web, 2023 年 02 月 23 日

12. Present and future of Digital Complete Denture（金澤 学）, TMU 交流会, 東京, 2023 年 03 月 02 日
13. やってみよう！ IAPRD?エビデンスと臨床応用例?（金澤 学）, Hilife Dentrue Academy Denture Cafe, Web, 2023 年 03 月 08 日
14. 金澤教授と学ぶインプラントオーバーデンチャー（金澤 学）, 東京医科歯科大学歯学部同窓会 CDE コース, Web, 2023 年 04 月 09 日
15. 有床義歯補綴のデジタル化（金澤 学）, 大阪大学大学院講義, 大阪, 2023 年 04 月 18 日
16. デジタルデンチャーの現状と展望（金澤 学）, White Cross Web セミナー, Web, 2023 年 04 月 21 日
17. やってみよう！ インプラントオーバーデンチャー-IOD の基礎と臨床-（金澤 学）, Doctorbook 義歯臨床リレーセッション 2023, Web, 2023 年 04 月 27 日
18. 有床義歯補綴のデジタル化（金澤 学）, 長崎大学講義, 長崎, 2023 年 05 月 16 日
19. 医療機器プログラムの歯周病と矯正歯科分野への応用を目指して（金澤 学）, 第 1 回プログラム医療機器 SaMD 勉強会, Web, 2023 年 05 月 17 日
20. 研究不正防止（金澤　学）, 東京医科歯科大学歯学部教職員集会, Web, 2023 年 06 月 13 日
21. 歯科における医療機器プログラム（SaMD）開発, 新潟大学特別講義, 新潟, 2023 年 06 月 28 日
22. 有床義歯補綴のデジタル化, 新潟大学特別講義, 新潟, 2023 年 06 月 29 日
23. Full mouth rehabilitation with digital dentures, iTero webinar, Web, 2023 年 07 月 06 日
24. 東京医科歯科大学口腔保健工学専攻, 夢ナビライブ, Web, 2023 年 07 月 16 日
25. 東京医科歯科大学口腔保健工学専攻, 進路指導担当者説明会, Web, 2023 年 07 月 23 日
26. One day direct denture restorations using hard and soft relining materials, EECD2023, 東京, 2023 年 08 月 22 日
27. 令和 5 年度 全国歯科技工士教育協議会 特別講習会, 全国歯科技工士教育協議会, オンライン開催, 2023 年 10 月 05 日

口腔医療工学分野

Department of Oral Biomedical Engineering

教授　池田　正臣
講師　佐藤　隆明
助教　中川　寿一
助教　塩沢　真穂

(1) 分野概要

最新の情報工学を駆使した歯科技工物製作の理論と実際への理解を深め、新たな技術開発への基礎力を培う。また、歯科技工士のものづくりにおける専門知識や技術を生かして、疾患により失われた機能回復を促し、患者のQOLの維持·向上に寄与するとともに、EBMを考慮した質の高い医療技術を提供できる能力を育成する。また、地域の歯科医療現場のみならず、歯科医療研究·教育機関においても国際的なレベルで貢献でき、新しい材料·技術の臨床応用能力のある専門的歯科医療技術者を養成することを目的とする。現在、歯科医療は、材料の開発と技術の向上に伴い、インプラントやCAD/CAMなどの新しい術式が広く普及している。したがって、これらの歯科技工操作を適切に行うためには、新しい材料と技術に関する知識を十分理解し習得する必要がある。また、得た知識を歯科医師、歯科衛生士に伝え、情報を共有するためには、コミュニケーション能力は必須である。これらを考慮し、技術者の枠にとらわれない向上心を持ったスペシャリストの育成を行う。

(2) 研究活動

1.CAD/CAMシステムを活用した先端技術
2. コンピュータシミュレーションを活用した歯科技工士教育
3.「生活を支える医療」と歯科技工士の関わり
4. 新しく開発された材料の評価

(3) 教育活動

口腔保健工学概論、早期臨床体験実習、歯の形態実習、歯の形態修復演習、う蝕と歯周病、咬合学、臨床咬合学、コミュニケーション学、ヘルスプロモーション、歯冠修復工学基礎、歯冠修復工学基礎演習、歯冠修復工学基礎実習、歯冠修復工学応用、歯冠修復工学応用演習、歯冠修復工学応用実習、全部床義歯工学、全部床義歯工学実習、部分床義歯工学、部分床義歯工学実習Ⅰ、部分床義歯工学実習Ⅱ、グローバル保健工学実習、高齢者歯科工学、歯科技工士と法律、CAD/CAMシステム工学、CAD/CAMシステム工学実習、口腔保健工学特論、口腔保健管理学、オーラルアプライアンス工学、審美修復工学実習、矯正歯科工学、再建工学包括臨床実習Ⅰ、再建工学包括臨床実習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ

(4) 研究業績

[原著]

1. Nami Tsuchiyama, Yukihiko Tamura, Tadamu Gondo, Masaomi Ikeda, Yasushi Shimada. The effect of ions used in bioactive dental materials on proliferation and differentiation of MC3T3-E1 cells Asian Pacific Journal of Dentistry. 2023.10; 23(2); 15-19

2. Tabata T, Nakagawa H, Kobayashi K, Takeuchi A, Fujimori R, Dohi K, Nakamura R, Iwabuchi H, Gondo T, Tsuji Y, Chen X, Sato T, Inoue G, Shimada Y. Diagnosis of occlusal caries using optical coherence tomography in a real clinical situation. Asian Pacific Journal of Dentistry. 2023.10; 23(2); 24-27

3. Kitasako, Y; Tanabe, T; Koeda, M; Momma, E; Hoshikawa, Y; Hoshino, S; Kawami, N; Ikeda, M; Iwakiri, K. Patients with gastroesophageal reflux disease (both reflux oesophagitis and non-erosive reflux disease): Prevalence and severity of erosive tooth wear and saliva properties JOURNAL OF ORAL REHABILITATION. 2023.09; 51(2); 305-312

4. Takaaki Sato, Tomoko Tabata, Koudai Akabane, Mengtian Zhao, Abu Hasan Mohammad Khaled, Noriko Hiraishi, Yasunori Sumi, Junji Tagami, Yasushi Shimada. Noninvasive diagnostic method using optical coherence tomography detected a vulnerable dentin enamel junction created by phosphoric acid etching. Dental Materials Journal. 2023.08; 42(4); 552-558

5. Seung-Hoon Han, Yasushi Shimada, Alireza Sadr, Tomoko Tabata, Hisaichi Nakagawa, Takaaki Sato, Ji-Eun Byun, Sung-Ho Park. Effect of Attenuated Light Through Translucent Zirconia on the Interfacial Adaptation and Polymerization of Resin Cements. The Journal of Adhesive Dentistry. 2023.08; 25(1); 219-230

6. Meiko OKI, Maho SHIOZAWA, Shuma AOKI, Yumi TSUCHIDA, Tetsuya SUZUKI, Hidekazu TAKAHASHI. Digitally creating three-dimensional standard shapes of complete dentures by using homologous models: A pilot study Journal of Digital Dentistry. 2023.06; 1(1); 26-32

7. Patcharanun Chaiamornsup, Maho Shiozawa, Yumi Tsuchida, Hidekazu Takahashi. Digital technique for placing markings on removable denture Journal of Digital Dentistry. 2023.06; 1(1); 41-44

8. Ayaka Sato, Takaaki Sato, Masaomi Ikeda, Tomohiro Takagaki, Toru Nikaido, Junji Tagami, Yasushi Shimada. Influence of different tooth etchants on bur-cut and uncut enamel. Dental Materials Journal. 2023.05; 42(3); 311-318

9. Tsuchida Y, Shiozawa M, Handa K, Takahashi H, Nikawa H. Comparison of the accuracy of different handheld-type scanners in three-dimensional facial image recognition. J Prosthodont Res. 2023.04; 67(2); 222-230

10. Zandinejad A, Khanlar LN, Barmak AB, Ikeda M, Tagami J, Masri R. Shear bond strength of porcelain to milled and stereolithography additively manufactured zirconia with and without surface treatment: An in vitro study. The Journal of prosthetic dentistry. 2023.03;

11. Rose Y Kumagai, Tomohiro Takagaki, Takaaki Sato, Toru Nikaido, Marcelo Giannini, Andre Reis, Junji Tagami. Resin Cement/Enamel Interface: A Morphological Evaluation of the Acid-Base Resistant Zone, Enamel Etching Pattern, and Effect of Thermocycling on the Microshear Bond Strength. The Journal of Adhesive Dentistry. 2023.03; 25(1); 71-78

12. Chen X, Inoue G, Ikeda M, Sadr A, Shimada Y. Time-dependent structural changes and hypermineralisation of artificially demineralised dentine following treatment with silver diammine fluoride and glass ionomer cement. Journal of dentistry. 2023.02; 131; 104452

13. Takaaki Sato, Jirun Sun, Xiaohong Wang, Shozo Takagi, Yoshikazu Teranishi, Go Inoue, Tomohiro Takagaki, Toru Nikaido, Junji Tagami, Yasushi Shimada. Analysis of reaction products on hydroxyapatite created by tooth etchants with different compositions. Journal of Oral Science. 2023.01; 65(1); 53-56

14. Shimizu S, Kusakabe S, Toyama M, Takagaki T, Kitada N, Yamamoto K, Ikeda M, Ichimura Y, Burrow MF, Hotta M, Nikaido T. Bacterial adhesion and antibacterial property of coating materials containing theobromine and S-PRG filler. Dental materials journal. 2023.01; 42(1); 112-120

15. Hoshikawa Yoshimasa, Momma Eri, Kawami Noriyuki, Ikeda Masaomi, Kuribayashi Shiko, Iwakiri Katsuhiko. Starlet システムを使用し追加の手技を併用する高解像度マノメトリー　問題となる食道胃接合部通過障害に関しての正常閾値と診断率 (High-resolution manometry with additional maneuvers using the Starlet system: normative thresholds and diagnostic yields for relevant esophagogastric junction outflow disorders) Esophagus. 2023.01; 20(1); 150-157

16. Akira Yoshizawa, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Motonori Hashimoto, Kota Aritaki, Miki Ishii, Kohei Yamaguchi, Ayako Nakane, Atsuyuki Kawabata, Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Masaomi Ikeda, Atsushi Okawa, Haruka Tohara. Analysis of swallowing function after anterior/posterior surgery for cervical degenerative disorders and factors related to the occurrence of postoperative dysphagia The Spine Journal. 2023;

1. Hoshikawa Yoshimasa, Momma Eri, Hoshino Shintaro, Kawami Noriyuki, Kitasako Yuichi, Ikeda Masaomi, Iwakiri Katsuhiko. Proton Pump Inhibitor Treatment Has Little Effects on Secretion of Saliva in Patients with Proton Pump Inhibitor-Responsive Mild Reflux Esophagitis and Non-Erosive Reflux Disease DIGESTION. 2023.06; 104(3); 187-192
2. 渡邉 友美, 野村 玲奈, 土藏 明奈, 堀 十月, 高橋 明里, 日下部 修介, 高垣 智博, 横矢 隆二, 服部 景太, 岩尾 慧, 藤原 周, 池田 正臣, 二階堂 徹. 施設入居高齢者の訪問歯科診療における歯科衛生士業務の実態調査 日本歯科保存学雑誌. 2023.06; 66(3); 173-178
3. Shin Yujeong, Wada Kanae, Tsuchida Yumi, Ijbara Manhal, Ikeda Masaomi, Takahashi Hidekazu, Iwamoto Tsutomu. Wear behavior of materials for additive manufacturing after simulated occlusion of deciduous dentition JOURNAL OF THE MECHANICAL BEHAVIOR OF BIOMEDICAL MATERIALS. 2023.02; 138; 105627

[総説]

1. 田 端　倫 子 , 中 川　寿 一, Khairul MATIN, 大 槻　昌 幸, 青 木　章, 島 田　康 史. バイオフィルムに関する光干渉断層計（Optical Coherence Tomography：OCT）の研究：総説 日本レーザー歯学会誌. 2023.09; 33(1); 11-17

[講演・口頭発表等]

1. Go Inoue, Masaomi Ikeda, Yasushi Shimada. Composite resin restoration with injection technique on severe eroded teeth. The 71st Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research 2023.11.25 Sendai
2. Xu K, Inokoshi M, Yoshihara K, Kakehata M, Yashiro H, Takahashi R, Yamatomo M, Kamijo S, Ikeda M, Minakuchi S. Bonding efficacy to femtosecond laser irradiated lithium disilicate glass-ceramic. IADR-ANZ Conference 2023 2023.09.29 Sydney
3. Tomoko Tabata, Hisaichi Nakagawa, Takaaki Sato, Go Inoue, Masaomi Ikeda,Yasushi Shimada. Clinical evaluation of optical coherence tomography in the diagnosis of occlusal enamel caries using ICDAS codes. the 2nd General Meeting of Asian-Oceanian Federation of Conservative Dentistry 2023 (ConsAsia 2023) 2023.09.02 Taipei, Taiwan
4. Go Inoue, Hisaichi Nakagawa, Takaaki Sato, Tomoko Tabata, Masaomi Ikeda,Yasushi Shimada . Clinical assessment of diagnosis of enamel caries ICDAS codes using optical coherence tomography. the 2nd General Meeting of Asian-Oceanian Federation of Conservative Dentistry 2023 2023.09.02 Taipei
5. Mustafa Ata ÇAKALOĞLU, Takaaki SATO, Noriko HIRAISHI, Yasushi SHIMADA. NON-INVASIVE EVAULATION OF MARGINAL ADAPTATION OF DENTIN-GLASS IONOMER CEMENT INTERFACE USING SWEPT SOURCE OPTICAL COHERENCE TOMOGRAPHY . The 7th International Congress on Adhesive Dentistry 2023.06.01 Konya, Turkey
6. Hitoshi Miki, Hirofumi Tashiro, Junji Tagami, Tomohiro Takagaki, Keiichi Hosaka, Takaaki Sato, Takashi Hatayama, Yasushi Shimada. Clinical effectiveness of the mono-block direct composite crown restoration. The 7th International Congress on Adhesive Dentistry 2023.06.01 Konya, Turkey
7. Takaaki Sato. Deep caries treatment. UP College of Dentistry – Tokyo Medical and Dental University Research Mini-Symposium, PHILIPPINES MANILA 2023.05.15 Manila, Philippines
8. Xu K, Inokoshi M, Yoshihara K, Ikeda M, Liu H, Minakuchi S. Influence of femtosecond laser irradiation on biaxial flexural strength of lithium disilicate glass-ceramic. 第 81 回日本歯科理工学会学術講演会 2023.04.15 東京

1. 佐藤隆明, 中川寿一, 島田康史, 池田正臣. イオン注入法による表面改質効果がジルコニア接着にもたらす影響. 第 88 回 口腔病学会学術大会 2023.12.02

2. 畑山 貴志, 田端 倫子, 木部 航太, 池田 正臣, 角 保徳, 島田 康史. 新規低重合収縮レジンコアシステムに対する SS-OCT を用いた接着界面解析と根管象牙質への接着性能評価. 第 159 回日本歯科保存学会 2023 年度秋季学術大会 2023.11.12 静岡県浜松市

3. 辻 悠貴子, 平石 典子, 池田 正臣, 宇尾 基弘, 二階堂 徹, 島田 康史. S-PRG フィラー含有 3D プリント樹脂のイオン放出量とその物性評価について. 特定非営利活動法人日本歯科保存学会学術大会プログラムおよび講演抄録集 2023.10.01

4. 松木 優承, 伊田 百美香, 井内 智貴, 内海 雄太, 米倉 和秀, 池田 正臣, 中島 正俊, 保坂 啓一. 新規ワンステップユニバーサルボンドの象牙質接着性と吸水性および機械的強度の評価. 特定非営利活動法人日本歯科保存学会学術大会プログラムおよび講演抄録集 2023.10.01

5. 伊藤 里帆, 高垣 智博, 清水 翔二郎, 池田 正臣, 二階堂 徹. 新規ユニバーサルアドヒーシブを用いた PEEK(Polyetheretherketone) の接着性比較. 接着歯学 2023.09.01

6. 佐藤 隆明, 島田 康史. 1 歯欠損に対する接着ブリッジの生存率とその関連因子の検証：直接法コンポジットレジンと間接法ジルコニアブリッジの比較. 第 77 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会 2023.05.12 岡山

7. 清水 翔二郎, 日下部 修介, 鶴田 はねみ, 高垣 智博, 池田 正臣, 二階堂 徹. テオプロミンおよび S-PRG フィラー含有歯面コーティング材の細菌付着抑制効果. 特定非営利活動法人日本歯科保存学会学術大会プログラムおよび講演抄録集 2023.05.01

8. 石原 洋樹, 米倉 和秀, 池田 正臣, 中島 正俊, 大槻 昌幸, 島田 康史, 保坂 啓一. 各種レジンセメントによる、歯冠象牙質ディスクおよび CAD/CAM コンポジットレジンディスクに対する象牙質微小引張り接着強さ. 特定非営利活動法人日本歯科保存学会学術大会プログラムおよび講演抄録集 2023.05.01

9. 和田敬広, 村田歩夢, 足立桃子, 髙村彩, 中禮宏, 塩沢真穂, 宇尾基弘. 光造形 3D プリンタを用いたスポーツ用フェイスガードのコア材 · クッション材の研究. 国際 · 産学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト-DEJI2MA プロジェクト- 第 1 回公開討論会 2023.03.11

10. 今熊 奈々花, 菅野 魁斗, 池田 正臣, 青木 和広. 幸福度を加味した唾液中癌マーカーの検索. 口腔病学会雑誌 2023.03.01

[受賞]

1. Prof, Dr. NAKABAYASHI AWARD, 2023 年 06 月

寄附講座・寄附研究部門

肝臓病態制御学講座

Department of Liver Disease Control

教授　　朝比奈靖浩

大学院生（消化器病態学分野所属の大学院生に指導協力）
志水太郎, 渡壁慶也, 持田知洋, 稲田賢人

(1) 分野概要

本邦では、肝癌を含めた慢性肝疾患によって、年間約 40,000 人が死亡している。現在のところ、致死的肝不全に対する根治的治療法は肝移植のみであるが、絶対的な肝移植ドナーの不足が社会問題となっており、肝癌 · 肝不全への進展を阻止する治療の開発、及び肝移植以外の治療を確立することは、医学的 · 社会的に、本邦を含め世界的にも大きな問題としてクローズアップされている。

本大学院における臨床教室の意義は次世代の医学 · 医療のための基礎を確立することにあり、これら先進性の確保のためには臨床に基づく研究の推進および基礎研究に基づく画期的な治療法の開発以外にないとの考えに立つ、消化器病態学分野に関連する寄附講座として、前身の分子肝炎制御学講座を継承する形で本講座は設立された。本講座の研究 · 教育 · 臨床活動の多くの部分が消化器病態学分野と共同で運営されている。

(2) 研究活動

研究面では、肝癌の発生 · 進展 · 治療抵抗性に関わる分子機構の解析、ヒト iPS 細胞モデルを利用した疾患病態の解析、肝臓の組織再生 · 線維化機構の解析、肝前駆細胞の分化調節機構の解析、ウイルス学 · 免疫学的アプローチによる研究など、臨床の場から課題を抽出して研究を展開し、最終的には臨床の医療に還元することを目指す。

＜主要テーマ＞
- ゲノム情報を基盤とした肝癌の発生 · 進展 · 治療抵抗性に関わる分子機構と疾患感受性遺伝子の解析
- ヒト iPS 細胞を利用した疾患モデルの開発と疾患病態解析
- 抗線維化療法の開発に向けた肝臓の組織再生 · 線維化機構の解明
- 肝幹 · 前駆細胞の分化 · 増殖を制御する分子機構の解析
- 肝炎ウイルスの自然免疫抵抗性 · 治療抵抗性の機序の解析

(3) 教育活動

消化器病態学分野と共同で運営する形式で、消化器内科分野における医学部医学科学生の卒前教育、臨床研修医の卒後教育に深く関与している。同様に、消化器病態学分野の大学院生を共同で指導している。

(4) 教育方針

本講座は肝疾患に関する優れた臨床医学研究者を育成することを大学院の教育目的とする。広い視野に立ち次世代の肝臓学領域をリードする臨床研究者を育成することが本分野における大学院教育のゴールである。

(5) 臨床活動および学外活動

消化器病態学分野と共同で運営する形式で、主に肝胆膵疾患の外来・入院診療を行っている。本学医学部附属病院における治療の実践を目的とし、医用工学を駆使した種々の診断技術の開発・実施を行う。さらに、教育関連病院と連携し、消化器病態学分野と共同で運営する形式で、多数の多施設共同研究を行っている。今年度は、AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）に支援をうける班研究として、B型肝炎創薬実用化等研究事業、肝炎等克服緊急対策研究事業を含む、8つの研究班に参画して研究を遂行した。なかでも、2019年4月からは本講座が研究代表者、本学の諸講座等に分担研究のご協力をお願いする形で、AMED肝炎等克服実用化研究事業・肝炎等克服緊急対策研究事業「ヒトiPS細胞誘導性肝オルガノイドを用いた革新的疾患モデルの開発および肝線維化と発がんを抑止する治療法の創成」が新規研究班として採択され、新たな肝疾患治療法を開発すべく研究計画を遂行している。学会発表、研究業績は下記に示す。

(6) 臨床上の特色

消化器内科分野と共同して肝胆膵疾患の診療を行い、専門外来として「肝・肝癌撲滅外来」を開設し、慢性肝炎、肝硬変、肝癌の診療を行っている。
ウイルス性肝炎の治療については特に豊富な治療経験をもち、「お茶の水liverカンファレンス共同研究」では多くの関連病院の協力も得て、2000例以上の症例経験を蓄積し、我が国有数の臨床研究となった。本研究により治療効果の正確な予測が可能となることが明らかとなり、さらに、発癌メカニズムと発癌リスクの詳細を解明し、非侵襲的肝硬度測定検査やバイオマーカーを組み合わせた抗ウイルス療法後の肝癌スクリーニングプログラムの開発を行っている。
肝癌診療においては、造影超音波検査やReal-time virtual sonography(RVS: MRI/CTのボリュームデータから施行中の超音波画像と同一断面を表示するシステム)を用いて多角的に肝細胞癌を評価し、安全で確実なラジオ波焼灼療法を行っており、これらの有用性についても報告してきた。
放射線科や肝臓外科とも緊密な連携をもち、様々な選択肢の中から病態に応じた最適な集学的治療を提供している。

＜主要テーマ＞
- 肝癌リスク評価及び肝癌診断に有用な診断・治療技術の開発
- ウイルス学的新知見を踏まえた慢性肝炎、肝癌の進展阻止
- 肝癌に対する新しい治療の試み

(7) 研究業績

[原著]

1. Haruki Uojima, Kadzuki Nakabayashi, Kazumi Yamasaki, Masaya Sugiyama, Norihiro Ishii, Ken Shirabe, Takuya Kyoutou, Koji Ueda, Yoichi Takahama, Nobuharu Tamaki, Masayuki Kurosaki, Hisashi Hidaka, Chika Kusano, Keisuke Amano, Takumi Kawaguchi, Akinobu Taketomi, Satoru Joshita, Takeji Umemura, Miyako Murakawa, Yasuhiro Asahina, Takanori Suzuki, Kentaro Matsuura, Takashi Nishimura, Hiroko Iijima, Kazumasa Sakamoto, Kiyoaki Ito, Sohji Nishina, Keisuke Hino, Hidenori Toyoda, Hiroshi Yatsuhashi, Masayoshi Kage, Masashi Mizokami. New chemiluminescent enzyme immunoassay for quantitative measurement of Mac-2 binding protein glycosylation isomer in chronic liver disease. J Gastroenterol. 2023.12; 58(12); 1252-1260

2. Yuki Tahata, Hayato Hikita, Satoshi Mochida, Nobuyuki Enomoto, Akio Ido, Hidekatsu Kuroda, Daiki Miki, Masayuki Kurosaki, Yoichi Hiasa, Ryotaro Sakamori, Norifumi Kawada, Taro Yamashita, Goki Suda, Hiroshi Yatsuhashi, Hitoshi Yoshiji, Naoya Kato, Taro Takami, Kazuhiko Nakao, Kentaro Matsuura, Yasuhiro Asahina, Yoshito Itoh, Ryosuke Tateishi, Yasunari Nakamoto, Eiji Kakazu, Shuji Terai, Masahito Shimizu, Yoshiyuki Ueno, Norio Akuta, Masanori Miyazaki, Yasutoshi Nozaki, Masayuki Kabayama, Satoshi Sobue, Akihiro Moriuchi, Tomokatsu Miyaki, Takahiro Kodama, Tomohide Tatsumi, Tomomi Yamada, Tetsuo Takehara. Posttreatment liver function, but not baseline liver function stratifies patient

survival after direct-acting antiviral treatment in decompensated cirrhosis with hepatitis C virus. J Gastroenterol. 2023.12; 58(12); 1211-1221

3. Taisei Keitoku, Nobuharu Tamaki, Masayuki Kurosaki, Kento Inada, Sakura Kirino, Naoki Uchihara, Keito Suzuki, Yuki Tanaka, Haruka Miyamoto, Shun Ishido, Michiko Yamada, Tsubasa Nobusawa, Hiroaki Matsumoto, Mayu Higuchi, Kenta Takaura, Shohei Tanaka, Chiaki Maeyashiki, Shun Kaneko, Yutaka Yasui, Yuka Takahashi, Kaoru Tsuchiya, Hiroyuki Nakanishi, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto, Namiki Izumi. Effect of fatty liver and fibrosis on hepatocellular carcinoma development in patients with chronic hepatitis B who received nucleic acid analog therapy. J Viral Hepat. 2023.04; 30(4); 297-302

4. Naoki Ikeda, Hiroaki Kubota, Risa Suzuki, Mitsuki Morita, Ayana Yoshimura, Yuya Osada, Keigo Kishida, Daiki Kitamura, Ayaka Iwata, Satoshi Yotsumoto, Daisuke Kurotaki, Koutarou Nishimura, Akira Nishiyama, Tomohiko Tamura, Takashi Kamatani, Tatsuhiko Tsunoda, Miyako Murakawa, Yasuhiro Asahina, Yoshihiro Hayashi, Hironori Harada, Yuka Harada, Asumi Yokota, Hideyo Hirai, Takao Seki, Makoto Kuwahara, Masakatsu Yamashita, Shigeyuki Shichino, Masato Tanaka, Kenichi Asano. The early neutrophil-committed progenitors aberrantly differentiate into immunoregulatory monocytes during emergency myelopoiesis. Cell Rep. 2023.03; 42(3); 112165

5. Kaneko S, Asahina Y, Nakagawa M, Murakawa M, Miyazaki Y, Asakage T, Fukuda S, Namiki T, Kano Y, Nagata M, Tsuchiya J, Miyoshi M, Kitahata-Kawai F, Nitta S, Itsui Y, Kakinuma S, Okamoto R. Factors associated with liver injury and prognosis in advanced cancer patients treated with immune checkpoint inhibitors. Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology. 2023.01; 53(5); 450-459

6. Shun Ishido, Kaoru Tsuchiya, Yoshihito Kano, Yutaka Yasui, Kenta Takaura, Naoki Uchihara, Keito Suzuki, Yuki Tanaka, Haruka Miyamoto, Michiko Yamada, Hiroaki Matsumoto, Tsubasa Nobusawa, Taisei Keitoku, Shohei Tanaka, Chiaki Maeyashiki, Nobuharu Tamaki, Yuka Takahashi, Hiroyuki Nakanishi, Urara Sakurai, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto, Masayuki Kurosaki, Namiki Izumi. Clinical Utility of Comprehensive Genomic Profiling in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma. Cancers (Basel). 2023.01; 15(3); 719

7. Shokichi Takahama, Sachiyo Yoshio, Yuji Masuta, Hirotomo Murakami, Ryotaro Sakamori, Shun Kaneko, Takashi Honda, Miyako Murakawa, Masaya Sugiyama, Masayuki Kurosaki, Yasuhiro Asahina, Tetsuo Takehara, Victor Appay, Tatsuya Kanto, Takuya Yamamoto. T cell quality. Front Immunol. 2023; 14; 1257113

1. 勝又 理沙, 金子 俊, 小林 正典, 中川 美奈, 勝田 景統, 加藤 祐己, 桐村 進, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 経口胆道鏡にて診断しえた再発肝細胞癌の 1 例 日本消化器内視鏡学会雑誌. 2023.12; 65(12); 2413-2420

[総説]

1. Nanako Hashido, Masanori Kobayashi, Ami Kawamoto, Suguru Mabuchi, Hiromune Katsuda, Kazuo Ohtsuka, Yasuhiro Asahina, Masayoshi Hashimoto, Ryuichi Okamoto. Sphincter of Oddi dysfunction that could not be diagnosed with Rome IV: a case report. Clin J Gastroenterol. 2023.12; 16(6); 913-918

2. Mina Nakagawa, Yasuhiro Asahina, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto. Impact of eradication of hepatitis C virus on liver-related and -unrelated diseases: morbidity and mortality of chronic hepatitis C after SVR. J Gastroenterol. 2023.04; 58(4); 299-310

1. 金子 俊, 村川 美也子, 朝比奈 靖浩. 【ウイルス性肝炎学 2023-最新の病態 · 診断 · 治療情報-】B 型肝炎 治療 新規抗 HBV 薬剤の開発状況 日本臨床. 2023.07; 81(増刊 7); 417-424

2. 中川 美奈, 朝比奈 靖浩. 【ウイルス性肝炎学 2023-最新の病態 · 診断 · 治療情報-】C 型肝炎　ウイルス排除をめざした臨床研究　C 型肝炎の治療と生命予後 日本臨床. 2023.07; 81(増刊 7); 122-128

3. 中川 美奈, 村川 美也子, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. 【肝疾患-診療のチェックポイント 2023】(第 I 部) 診断のチェックポイント (第 7 章)　慢性肝疾患における肝細胞癌診断のチェックポイント 臨床消化器内科. 2023.06; 38(7); 853-859

[講演 · 口頭発表等]

1. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Miyako Murakawa, Ryuichi Okamoto. Liver stiffness stratify the disease progression and hepatocellular carcinoma predictive risk score on chronic hepatitis B patients. JDDW2023 2023.11.03 Kobe_Japan

2. Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Masato Miyoshi, Shun Kaneko, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Sei Kakinuma, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto. Factors associated with HCC development and patients' survival in patients with an SVR. The 3rd JSH International Liver Conference 2023.09.07

1. 土屋 淳, 三好 正人, 柿沼 晴, 志水 太郎, 渡壁 慶也, 持田 知洋, 稲田 賢人, 金子 俊, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. B 型肝炎ウイルスゲノムの KMT2B 領域への integration による発癌プロセスの解析. 第 8 回 Gastro-PLUS 2023.12.16 東京コンファレンスセンター · 品川

2. 持田 知洋, 三好 正人, 朝比奈 靖浩, 柿沼 晴. 細胞間相互作用の解析を目的とした iPS 由来星細胞と Hepatocyte による共培養 Spheroid の開発. 第 37 回肝類洞壁細胞研究会学術集会 2023.12.15 順天堂大学本郷お茶の水キャンパス 7 号館小川秀興講堂

3. 齊藤 一真, 小林 正典, 勝田 景統, 村川 美也子, 福田 将義, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一, 田口 登和子, 明石 巧. 直視コンベックス型超音波内視鏡を用いた穿刺生検でのみ診断可能であった超多血性後腹膜腫瘍の 1 例. 第 117 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2023.12.10 シェーンバッハ · サボー

4. 青鹿 奈南子, 延澤 翼, 金子 俊, 河本 亜美, 村川 美也子, 小林 正典, 福田 将義, 山本 浩平, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 分類不能型免疫不全症に合併した門脈圧亢進症の一例. 日本消化器病学会関東支部第 377 回例会 2023.12.09 海運クラブ

5. 土屋 淳, 柿沼 晴, 朝比奈 靖浩. B 型肝炎ウイルスゲノムの MLL4 領域への integration による発癌プロセスの解析. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

6. 村川美也子, 中川美奈, 朝比奈靖浩. C 型慢性肝疾患における SVR 後の肝発癌および生命予後リスク因子の解析. 第 27 回日本肝臓学会大会（JDDW2023） 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

7. 志水 太郎, 三好 正人, 朝比奈 靖浩. 再生医療への応用に向けたヒト iPS 細胞由来肝細胞オルガノイド長期培養系の確立. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

8. 志水 太郎, 三好 正人, 朝比奈 靖浩. 肝疾患に対する再生医療の New normal　再生医療への応用に向けたヒト iPS 細胞由来肝細胞オルガノイド長期培養系の確立. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

9. 中村 遼太, 森川 亮, 竹中 健人, 清水 寛路, 延澤 翼, 田村 晧子, 藤井 俊光, 齊藤 詠子, 小林 正典, 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 福田 将義, 大塚 和朗. 入院中の難治性潰瘍性大腸炎に対してウパダシチニブが有効であった 3 症例. 日本消化器病学会関東支部第 376 回例会 2023.09.02 海運クラブ

10. 哲翁 春貴, 遠藤 南, 小林 正典, 勝又 理沙, 齊藤 一真, 金子 俊, 村川 美也子, 岡本 隆一, 赤星 径一, 田邊 稔, 石堂 舜, 福田 将義, 大塚 和朗, 勝田 景統, 朝比奈 靖浩. 膵頭部癌の重粒子線治療後に胆道出血を来した一例. 日本消化器病学会関東支部第 376 回例会 2023.09.02 海運クラブ

11. 北畑 富貴子, 朝比奈 靖浩, 柿沼 晴, 稲田 賢人, 持田 知洋, 渡壁 慶也 , 志水 太郎, 土屋 淳, 三好 正人, 金子 俊, 新田 沙由梨, 村川 美也子, 中川 美奈, 田中 真二, 田邊 稔, 前川 伸哉, 榎本 信幸, 岡本 隆一. 代謝要因が関連する肝細胞癌遺伝子変異プロファイルの解析. 第 59 回肝癌研究会 2023.07.28 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)

12. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 村川 美也子, 稲田 賢人, 持田 知洋, 渡壁 慶也, 志水 太郎, 土屋 淳, 三好 正人, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 中川 美奈, 柿沼 晴, 岡本 隆一. 肝細胞癌への応用を目指した抗 CTLA-4 抗体薬における免疫関連有害事象肝障害の特徴と生存期間の解析. 第 59 回日本肝癌研究会 2023.07.27 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)

13. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 進行癌免疫チェックポイント阻害剤治療例における免疫関連有害事象肝障害の特徴と生存期間への影響. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16 奈良県コンベンションセンター

14. 村川 美也子, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. 門脈圧亢進症/肝線維化に関連するメトトレキサート治療前リスク因子の検討. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16 奈良県コンベンションセンター

15. 渡壁 慶也, 三好 正人, 柿沼 晴, 稲田 賢人, 持田 知洋, 志水 太郎, 土屋 淳, 金子 俊, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 村川 美也子, 井津井 康浩, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 肝星細胞における TNFAIP3 の機能解析. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16 奈良県コンベンションセンター

16. 柿沼 晴, 朝比奈 靖浩. ヒト iPS 細胞疾患モデルを利用した先天性肝線維症の治療標的の探索. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16 奈良県コンベンションセンター

17. 朝比奈 靖浩. パネルディスカッション 6 ウイルス肝炎制御（基礎 · 臨床）の未来予想図_司会. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.15 奈良県コンベンションセンター

18. 土屋 淳, 三好 正人, 朝比奈 靖浩. MLL4 領域への B 型肝炎ウイルスゲノム挿入による肝発癌のメカニズムの解析. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.15 奈良県コンベンションセンター

19. 朝比奈 靖浩. B 型肝炎，C 型肝炎の肝発がんと最新の話題. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.15 奈良県コンベンションセンター

20. 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩. SVR 後の肝発癌および生命予後リスク因子の解析. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.15 奈良県コンベンションセンター

21. 日比谷 秀爾, 藤井 俊光, 河本 亜美, 竹中 健人, 福田 将義, 金子 俊, 小林 正典, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 初回治療より 13 年後に再発しクローン病との鑑別を要したアメーバ腸炎の一例. 日本消化器病学会関東支部第 374 回例会 2023.04.22 海運クラブ

22. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 治療前肝障害は免疫関連有害事象肝障害の因子となりうるか？ ～免疫関連有害事象肝障害の特徴とその予測因子に関する検討～. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.08 出島メッセ長崎

消化管先端治療学講座

Department of Advanced Therapeutics for GI Diseases

准教授　永石宇司

(1) 分野概要

本講座は「海外に発信できる画期的な疾患制圧戦略」の構築を目指し、複数企業の支援に基づく先端技術と情報の共有のもと、炎症性腸疾患研究に特化した研究・教育を推進する大学院設置講座として活動している。本講座ではこれら研究・教育活動を通し、独自の視点に基づく難治性炎症性腸疾患の制圧戦略を確立するとともに、次世代の基礎・臨床研究を推進する優れた研究者を育成することを目的とする。

(2) 研究活動

本学消化器病態学講座と連携し、研究成果を最終的に臨床現場に還元する「クリニカル・サイエンス」を追求する。主要な研究テーマは以下の通りである。
・消化管再生医学研究
・炎症性腸疾患の免疫異常の解明と免疫制御療法開発

(3) 教育活動

本学消化器病態学講座スタッフと連携し、同講座の大学院生教育を担う。医学部医学科学生の卒前教育、臨床研修医の卒後教育にも大きく貢献している。

(4) 教育方針

次世代の炎症性腸疾患研究をリードする臨床研究者を育成することが本分野における教育のゴールである。

(5) 臨床活動および学外活動

医学部附属病院において炎症性腸疾患診療にあたる消化器病態学分野と連携し、研究成果にもとづく新しい診断技術・治療技術の実地応用を図る。厚生労働科学研究費補助事業難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」における全国規模の臨床研究を推進している。

(6) 臨床上の特色

炎症性腸疾患臨床においては、以下を推進した。
・炎症性腸疾患に対する新しい再生医療・免疫調節治療技術の確立
・炎症性腸疾患の新しい診断技術開発
・炎症性腸疾患における小腸病変に対する内視鏡治療

(7) 研究業績

[原著]

1. Kentaro Miyamoto, Tomohisa Sujino, Yosuke Harada, Hiroshi Ashida, Yusuke Yoshimatsu, Yuki Yonemoto, Yasuhiro Nemoto, Michio Tomura, Hassan Melhem, Jan Hendrik Niess, Toshihiko Suzuki, Toru Suzuki, Shohei Suzuki, Yuzo Koda, Ryuichi Okamoto, Yohei Mikami, Toshiaki Teratani, Kenji F. Tanaka, Akihiko Yoshimura, Toshiro Sato, Takanori Kanai. The gut microbiota-induced kynurenic acid recruits GPR35-positive macrophages to promote experimental encephalitis. Cell Rep. 2023.08; 42(8); 113005

2. Satoshi Watanabe, Nobuhiko Ogasawara, Sakurako Kobayashi, Sakura Kirino, Masami Inoue, Yui Hiraguri, Sayaka Nagata, Hiromichi Shimizu, Go Ito, Tomohiro Mizutani, Yasuhiro Nemoto, Kiichiro Tsuchiya, Ryuichi Okamoto, Mamoru Watanabe, Shiro Yui. Organoids transplantation as a new modality to design epithelial signature to create a membrane-protective sulfomucin-enriched segment. J Gastroenterol. 2023.04; 58(4); 379-393

3. Daiki Yamada, Yudai Kojima, Akinori Hosoya, Masahiro Suzuki, Taro Watabe, Tadahiko Inoue, Naoya Tsugawa, Takehito Asakawa, Yuki Yonemoto, Michio Onizawa, Yasuhiro Nemoto, Shigeru Oshima, Motoyuki Shimonaka, Keiji Kuba, Junji Ishida, Akiyoshi Fukamizu, Josef M Penninger, Mamoru Watanabe, Ryuichi Okamoto, Takashi Nagaishi. Apelin expression is downregulated in T cells in a murine model of chronic colitis. Biochem Biophys Res Commun. 2023.03; 647; 72-79

[総説]

1. 井上 忠彦, 永石 宇司. 炎症性腸疾患モデルにおける炎症性発癌機構の解析 細胞. 2023.10; 55(12); 1005-1009

2. 永石 宇司, 井上 忠彦, 伏見 萌音, 山田 大貴, 岡本 隆一, 安達 貴弘. 【腸管 IgA の最先端〜明らかになりつつある IgA による腸管微生物叢制御機構とその重要性〜】IgA による回腸免疫恒常性の維持 消化器病学サイエンス. 2023.06; 7(2); 86-89

3. 山田 大貴, 永石 宇司. 【慢性下痢を深く理解する!】慢性下痢の原因となる薬剤 IBD Research. 2023.06; 17(2); 112-115

4. 根本 泰宏. S1P1 受容体を知る 消化器病学サイエンス. 2023.03; 7(1); 28-32

[講演 · 口頭発表等]

1. Mone Fushimi, Tadahiko Inoue, Daiki Yamada, Taro Watabe, Mamoru Watanabe, Ryuichi Okamoto, Takashi Nagaishi. APL downregulation in T cells in the setting of chronic colitis. UEGW2023 2023.10.15 Copenhagen_Denmark

1. 根本 泰宏, 森川 亮, 米本 有輝, 渡辺 守, 岡本 隆一. CD4-CD8 $\alpha\beta$-TCR $\alpha\beta$+T 細胞はアナジー誘導性抗原提示細胞として腸管免疫の恒常性を維持する. 第 60 回日本消化器免疫学会総会 2023.10.06 ホテルイースト 21 東京

2. 米本 有輝, 森川 亮, 根本 泰宏, 永石 宇司, 大島 茂, 岡本 隆一. 腸管粘膜免疫系老化フェノタイプの同定とその制御因子の探索. 第 60 回日本消化器免疫学会総会 2023.10.05 ホテルイースト 21 東京

[受賞]

1. 東京都医師会医学研究奨励賞「Immunoglobulin A-specific deficiency induces spontaneous inflammation specifically in the ileum」 受賞者：永石 宇司, 2023 年 02 月

2. JSIBD 一般研究助成（カテゴリー C2)「新規イメージング技術を用いたニッチにおける腸炎惹起性メモリー T 細胞ダイナミクスの時空間解析」受賞者：根本 泰宏, 日本炎症性腸疾患学会, 2023 年 04 月

茨城県小児· 周産期地域医療学講座
Department of Pediatrics, Perinatal and Maternal Medicine

寄附講座教授　（小児科）髙木正稔
寄附講座講師　（小児科）細川奨（2023 年 9 月 30 日まで）
寄附講座講師　（小児科）石井卓（2023 年 10 月 1 日より）
寄附講座助教　（小児科）森丘千夏子

寄附講座准教授（周産期）石川智則
寄附講座助教　（周産期）中筋貴史（2023 年 9 月 30 日まで）
寄附講座助教　（周産期）齊藤和毅
寄附講座助教　（周産期）郡悠介（2023 年 10 月 1 日より）

（1）分野概要

本講座は 2010 年 4 月に設立された官学連携（現在は産学連携）寄附講座であり、小児科と周産・女性診療科それぞれ 3 名ずつからなる。

東京医科歯科大学病院における小児・周産期医療の充実と、土浦協同病院との連携を基軸とした茨城県内小児 周産期医療の再生が目標である。本講座が中心となり学内周産期診療が充実したことで、2015 年 4 月 1 日に東京都地域周産期母子医療センターに認定された。学生や研修医教育・養成と確保の充実により、小児科、周産 女性診療科ともに医局内医師数は増加し、茨城県内医師不足地域へも派遣を行っている。

また双方向ビデオカンファレンスシステムを導入し、大学と土浦協同病院間の診療・研究・教育面での連携が充実し、文部科学省課題解決型人材養成事業（H26 30 年度）にも採択され、筑波大学と共同で「ＩＴを活用した小児周産期の高度医療人養成」事業を推進した。

茨城県における原発性免疫不全症の新生児マススクリーニングの導入に向けて積極的に取り組み、2022 年度からの実施にいたった。

（2）研究活動

小児科

1. 原発性免疫不全症レジストリを用いたラパマイシンの医師主導治験研究を AMED の支援を受け医師主導治験として実施している。
2. 肺動脈性肺高血圧症（PAH）のレジストリ研究（多施設共同研究）
   ① 先天性心疾患に伴う PAH (JACPHR)：AMED 研究代表施設として進行中である。
   ② 特発性/遺伝性 PAH（JAPHR)：成人でも進行中のレジストリで、研究分担施設として参加している。18 歳未満の小児例を集積中である。
3. 肺動脈性肺高血圧症における BMP9 遺伝子機能解析（基礎研究）

4. 冠動脈瘤をともなう川崎病患者のレジストリ研究（多施設共同臨床研究）
5. 乳児白血病治療法開発：AMED の助成を受け乳児白血病の治療反応性層別化に有用なバイオマーカーを見出した。さらに乳児白血病発症のメカニズム、新規治療法開発に向けて取り組んでいる。
6. 骨髄 NK 前駆細胞性急性白血病の病態解明に取り組み、その成果を 2023 年に発表した。
7. 神経芽腫治療法開発：JCCG の神経芽腫委員として、新規神経芽腫治療法開発に向け取り組んでいる。
8. 子宮内環境による臍帯血および臍帯由来間葉系幹細胞のプロファイル変化についての研究に取り組んでいる。
9. 脳室周囲白質軟化症による脳性麻痺児における乳歯歯髄幹細胞プロファイル変化の検討を行っている。

周産･女性診療科

１．妊娠中の自律神経機能と血管特性の変化（臨床研究）
２．妊娠中の母体脳循環動態の解明（臨床研究）
３．難治疾患合併妊娠の周産期管理に関する臨床的解析（臨床研究）
４．精神疾患合併妊娠における薬物動態に関する研究（臨床研究）
５．母児エピゲノムの体系的解析（臨床研究）
６．生殖機能の温存に主眼を置いた低侵襲婦人科手術の開発
７．生殖医療の提供
８．生殖機能温存のための卵子･胚･卵巣組織凍結、精子凍結

（３）教育活動

小児科

1. 医学科 3･4 年生のブロック講義、PCC 講義
2. 医学科 5･6 年生の臨床実習ディレクター担当
3. Web カンファレンスによる学内外講師の講演
4. 医学科学生少人数グループに対する先天性心疾患 ・ 終末期医療レクチャー

周産 ・ 女性診療科

1. 医学科ブロック講義における産科学 ・ 婦人科学、クリニカルクラークシップでは周産期医学 ・ 婦人科学に関するミニレクチャーを行うと同時に、分娩立会い、処置 ・ 手術への積極的な参加を促した。
2. 初期研修医 ・ 後期研修医には病棟診療グループの一員として分娩、処置、手術に参加してもらった。また外部講師にレクチャーを依頼し、update な知識の習得に努めた。

3. 土浦協同病院との合同カンファレンス、シミュレータを活用した実践教育を行った。

（4）教育方針

小児・周産期医療を専門とする本講座が中心となり、東京医科歯科大学病院における小児·周産期医療の充実を達成してきた。学内周産期診療の充実により、学生および初期研修医の周産期医療の教育は充実し、その結果小児科、周産女性診療科ともに医局内医師数は増加してきた。そのことで、茨城県内医師不足地域への医師派遣も可能となっている。

また土浦協同病院との連携を基軸とした茨城県内小児・周産期医療の再生を達成するために、双方向ビデオカンファレンスシステム/Web カンファレンスを用いて、大学から遠方の土浦協同病院においても教育面の充実を図っている。

これまでの成果が評価された結果、文部科学省課題解決型人材養成事業にも採択され、筑波大学と共同で「ＩＴを活用した小児周産期の高度医療人養成」事業を推進してきた。

（5）臨床活動および学外活動

小児科

1. 日本における原発性免疫不全症診療のセンターとして、様々な疾患に対する造血幹細胞移植を実施している。
2. 2019 年秋からは新生児に対する姑息手術も開始し、良好な結果を得ている。今後さらなる手術数の増加が期待される。
3. 小児肺高血圧症の先進治療施設の一つとして、数多くの小児例に種々の標的治療薬（経口薬、非経口薬）を早期に導入し、患者の肺高血圧症の改善、生活の質の向上を達成している。
4. 東京都小児がん診療連携施設として数多くの小児・AYA がんの診療に取り組んでいる。また CAR-T 細胞療法や HLA ハプロ不一致造血細胞移植など、難治例の移植・細胞療法に取り組んでいる。

周産・女性診療科

1. 2015 年 4 月 1 日に東京都地域周産期母子医療センターに認定され、ハイリスク妊娠の母体搬送を積極的に受け入れた結果、母体搬送の依頼件数、受入れ件数とも倍増した。
2. 生殖医療では、piezoICSI やタイムラプスシステムを導入し、良好な成績を得ている。
3. 腫瘍センターの「がん先端治療部」への改組に合わせて、妊孕性温存を担当する「がん生殖医療ユニットが」開設され、院内のみならず院外からの妊孕性温存症例を積極的に受け入れている。
4. 2022 年 11 月 1 日にリプロダクションセンターを新設し、“今すぐ“または”将来“の妊娠・出産を希望する患者さんに、専門的かつ包括的な生殖医療を実践している。周

産・女性診療科の生殖医療チームを中心に泌尿器科・小児科・遺伝子診療科・心身医療科の 5 つの診療科の専門医や経験豊富なスタッフが、”妊娠成立“に加えて”より安全な分娩“や“出産後の健やかな生活”を治療の目標と考えて、確かな情報のもとに患者さん一人一人に最適な生殖医療を提供している。

（6）臨床上の特色

小児科

1. 重症肺高血圧の小児患者は希少疾患のため、強固な地域医療連携を通じた早期診断および紹介システムを構築している。また経口標的治療薬の早期併用療法の開始、非経口薬エポプロステノールの早期導入と積極的な増量を実践する治療戦略を基本として、臨床症例を蓄積している。
2. 小児がんに対して、臨床試験や難治例に対して造血細胞移植などを用い、医療を行っている。
3. 先天性免疫異常症の診断治療に、基礎的な面からの解析も含め取り組んでいる。
4. 遺伝性疾患の遺伝カウンセリングを実施している。

周産·女性診療科

1. 重度な合併症を有するハイリスク妊婦に対して、胎児と母体の相互関与を鑑みた適切な管理を行い、良好な成績をあげている。
2. 難治性不妊症に対し、周産期予後も考慮した統合的な不妊治療を提供している。
3. 婦人科良性疾患に対して、低侵襲手術を積極的に取り組んでいる。
4. 卵子・胚・卵巣組織凍結および精子凍結を行い、院内・院外からのがん治療後の妊孕性温存のコンサルテーションに応じている。
5. 東京都の「加齢等による妊娠機能の低下を懸念する場合に行う卵子凍結」の調査事業登録医療機関に指定され、ノンメディカルな卵子凍結に対応している。

（7）研究業績

[原著] 小児科

1. Akira Nishimura, Kazuaki Yokoyama, Takuya Naruto, Chika Yamagishi, Toshihiko Imamura, Hiroto Nakazono, Shunsuke Kimura, Mieko Ito, Maiko Sagisaka, Yukie Tanaka, Jinhua Piao, Yui Namikawa, Masakatsu Yanagimachi, Takeshi Isoda, Akinori Kanai, Hirotaka Matsui, Tomoya Isobe, Aiko Sato-Otsubo, Naoko Higuchi, Akiko Takada, Haruna Okuno, Shoji Saito, Shuhei Karakawa, Shogo Kobayashi, Daisuke Hasegawa, Hiroyuki Fujisaki, Daiichiro Hasegawa, Kazutoshi Koike, Takashi Koike, Shinya Rai, Katsutsugu Umeda, Hideki Sano, Yujin Sekinaka, Atsushi Ogawa, Akitoshi Kinoshita, Norio Shiba, Mizuka Miki, Fumihiko Kimura, Hideki Nakayama, Yozo Nakazawa, Takashi

Taga, Tomohiko Taki, Souichi Adachi, Atsushi Manabe, Katsuyoshi Koh, Yasushi Ishida, Junko Takita, Fumihiko Ishikawa, Hiroaki Goto, Tomohiro Morio, Shuki Mizutani, Arinobu Tojo, Masatoshi Takagi. Myeloid/natural killer (NK) cell precursor acute leukemia as a distinct leukemia type. Sci Adv. 2023.12; 9(50); eadj4407

2. Masatoshi Takagi, Akihiro Hoshino, Kristine Bousset, Jule R ¨ oddecke, Hanna Luisa Martin, Iulia Folcut, Dan Tomomasa, Xi Yang, Junya Kobayashi, Naoki Sakata, Kenichi Yoshida, Satoru Miyano, Seishi Ogawa, Seiji Kojima, Tomohiro Morio, Thilo D ¨ ork, Hirokazu Kanegane. Bone Marrow Failure and Immunodeficiency Associated with Human RAD50 Variants. J Clin Immunol. 2023.11; 43(8); 2136-2145
3. Mayumi Hangai, Takahisa Kawaguchi, Masatoshi Takagi, Keitaro Matsuo, Soyoung Jeon, Charleston W K Chiang, Andrew T Dewan, Adam J De Smith, Toshihiko Imamura, Yasuhiro Okamoto, Akiko M Saito, Takao Deguchi, Michiaki Kubo, Yoichi Tanaka, Yoko Ayukawa, Toshinari Hori, Kentaro Ohki, Nobutaka Kiyokawa, Takeshi Inukai, Yuki Arakawa, Makiko Mori, Daisuke Hasegawa, Daisuke Tomizawa, Hiroko Fukushima, Yuki Yuza, Yasushi Noguchi, Yuichi Taneyama, Setsuo Ota, Hiroaki Goto, Masakatsu Yanagimachi, Dai Keino, Kazutoshi Koike, Daisuke Toyama, Yozo Nakazawa, Kozue Nakamura, Koichi Moriwaki, Yujin Sekinaka, Daisuke Morita, Shinsuke Hirabayashi, Yosuke Hosoya, Yuri Yoshimoto, Hiroki Yoshihara, Miwa Ozawa, Shinobu Kobayashi, Naho Morisaki, Tshewang Gyeltshen, Osamu Takahashi, Yukinori Okada, Makiko Matsuda, Toshihiro Tanaka, Johji Inazawa, Junko Takita, Yasushi Ishida, Akira Ohara, Catherine Metayer, Joseph L Wiemels, Xiaomei Ma, Shuki Mizutani, Katsuyoshi Koh, Yukihide Momozawa, Keizo Horibe, Fumihiko Matsuda, Motohiro Kato, Atsushi Manabe, Kevin Y Urayama. Genome-wide assessment of genetic risk loci for childhood acute lymphoblastic leukemia in Japanese patients. Haematologica. 2023.10;
4. Taku Ishii, Nobutoshi Nawa, Shozaburo Doi, Tomohiro Morio, Takeo Fujiwara. Association between the initiation of insurance coverage for fetal echocardiography and mortality from congenital heart disease in infants: An interrupted time series analysis. Paediatr Perinat Epidemiol. 2023.09; 37(7); 607-617
5. Yogi A, Iemura R, Nakatani H, Takasawa K, Gau M, Yamauchi T, Yoshida M, Moriyama K, Ishii T, Hosokawa S, Yamada M, Suzuki H, Kosaki K, Kashimada K, Morio T. BMP2 is a potential causative gene for isolated dextrocardia situs solitus. European journal of medical genetics. 2023.08; 66(9); 104820
6. Nishiyama Y, Mizuki K, Hoshino A, Hirabayashi S, Magara T, Ashiarai M, Miyamoto S, Ono R, Takahashi S, Hosoya Y, Niizato D, Yoshihara H, Nishimura A, Mitsuiki N, Kamiya T, Takasawa K, Kajiwara M, Kanegane H, Morio T, Manabe A, Isoda T, Hasegawa D, Takagi M. Hematopoietic cell transplantation for hematological malignancies in Bloom

syndrome. Pediatric blood & cancer. 2023.08; 70(11); e30655
7. Renata Neves, Blanca De Dios Perez, Rafal Panek, Sumit Jagani, Sophie Wilne, Jayesh M Bhatt, Caterina Caputi, Emilia Cirillo, David J Coman, Gregor D ¨ uckers, Donald L Gilbert, Mary Kay Koenig, Lobna Mansour, Elizabeth McDermott, Micaela Pauni, Claudio Pignata, Susan L Perlman, Oscar Porras, Mariela Betina Porto, Katherine Schon, Pere Soler-Palacin, Sam Nick Russo, Masatoshi Takagi, Marc Tischkowitz, Claire Wainwright, Madhumita Dandapani, Cristine Glazebrook, Mohnish Suri, William P Whitehouse, Robert A Dineen. Development of cancer surveillance guidelines in ataxia telangiectasia: A Delphi-based consensus survey of international experts. Cancer Med. 2023.07; 12(13); 14663-14673
8. Motoi Yamashita, Masae Kuroha, Yuko Kinowawki, Nao Kashiwagi, Kotaro Watanabe, Mika Nagase, Daiki Niizato, Noriko Mitsuiki, Takeshi Isoda, Takahiro Kamiya, Atsuko Arisaka, Motoki Inaji, Kenichi Ohashi, Kohsuke Imai, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi. A SAMD5-SASH1 fusion in solitary infantile myofibromatosis. Pediatr Blood Cancer. 2023.06; 70(6); e30278
9. Haruka Hiroki, Koshi Akahane, Takeshi Inukai, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi. Synergistic effect of combined PI3 kinase inhibitor and PARP inhibitor treatment on BCR/ABL1-positive acute lymphoblastic leukemia cells. Int J Hematol. 2023.05; 117(5); 748-758
10. Yohei Yamaguchi, Susumu Hosokawa, Go Haraguchi, Yusuke Kajikawa, Makito Sakurai, Taku Ishii, Noboru Ando, Tomohiro Morio, Shozaburo Doi, Tetsushi Furukawa. The Anti-Inflammatory Effects and Clinical Potential of Dexmedetomidine in Pulmonary Arterial Hypertension. J Pharmacol Exp Ther. 2023.05; 385(2); 88-94
11. Masanori Yoshida, Kazuhiko Nakabayashi, Wentao Yang, Aiko Sato-Otsubo, Shin-Ichi Tsujimoto, Hiroko Ogata-Kawata, Tomoko Kawai, Keisuke Ishiwata, Mika Sakamoto, Kohji Okamura, Kaoru Yoshida, Ryota Shirai, Tomoo Osumi, Chikako Kiyotani, Yoko Shioda, Keita Terashima, Sae Ishimaru, Yuki Yuza, Masatoshi Takagi, Yuki Arakawa, Toshihiko Imamura, Daisuke Hasegawa, Akiko Inoue, Takako Yoshioka, Shuichi Ito, Daisuke Tomizawa, Katsuyoshi Koh, Kimikazu Matsumoto, Nobutaka Kiyokawa, Seishi Ogawa, Atsushi Manabe, Akira Niwa, Kenichiro Hata, Jun J Yang, Motohiro Kato. Prevalence of pathogenic variants in cancer-predisposing genes in second cancer after childhood solid cancers. Cancer Med. 2023.05; 12(10); 11264-11273
12. Satoshi Miyamoto, Kevin Y Urayama, Yuki Arakawa, Katsuyoshi Koh, Yuki Yuza, Daisuke Hasegawa, Yuichi Taneyama, Yasushi Noguchi, Masakatsu Yanagimachi, Takeshi Inukai, Setsuo Ota, Hiroyuki Takahashi, Dai Keino, Daisuke Toyama, Junko Takita, Daisuke Tomizawa, Tomohiro Morio, Kazutoshi Koike, Koichi Moriwaki, Yuya Sato, Junya

Fujimura, Daisuke Morita, Yujin Sekinaka, Kozue Nakamura, Kazuo Sakashita, Hiroaki Goto, Atsushi Manabe, Masatoshi Takagi. Rare TCF3 variants associated with pediatric B cell acute lymphoblastic leukemia. Pediatr Hematol Oncol. 2023.05; 41(1); 1-7

13. Carolin Escherich, Wenan Chen, Satoshi Miyamoto, Yui Namikawa, Wenjian Yang, David T Teachey, Zhenhua Li, Elizabeth A Raetz, Eric Larsen, Meenakshi Devidas, Paul L Martin, W Paul Bowman, Gang Wu, Ching-Hon Pui, Stephen P Hunger, Mignon L Loh, Masatoshi Takagi, Jun J Yang. Identification of TCF3 germline variants in pediatric B-cell acute lymphoblastic leukemia. Blood Adv. 2023.05; 7(10); 2177-2180
14. Haruka Hiroki, Yuko Ishii, Jinhua Piao, Yui Namikawa, Mitsuko Masutani, Hiroaki Honda, Koshi Akahane, Takeshi Inukai, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi. Targeting Poly(ADP)ribose polymerase in BCR/ABL1-positive cells. Sci Rep. 2023.05; 13(1); 7588
15. Dan Tomomasa, Takeshi Isoda, Noriko Mitsuiki, Kento Inoue, Akira Nishimura, Kazuhiro Uda, Toru Uchiyama, Motoi Yamashita, Takahiro Kamiya, Akifumi Endo, Masatoshi Takagi, Kohsuke Imai, Michiko Kajiwara, Morton J Cowan, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Successful TCR $\alpha\beta$/CD19-Depleted Hematopoietic Cell Transplantation for a Patient With Artemis Deficiency. J Pediatr Hematol Oncol. 2023.03; 45(2); e285-e289
16. Aoi Morishita, Tzu-Wen Yeh, Kouki Tomari, Mihoko Furuichi, Kenichi Kashimada, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi, Kohsuke Imai. Transient immune deficiency accompanied with homozygous CBL rare variant. Pediatr Int. 2023.01; 65(1); e15439
17. Rifat Ara Najnin, Md Rasel Al Mahmud, Md Maminur Rahman, Shunichi Takeda, Hiroyuki Sasanuma, Hisashi Tanaka, Yasuhiro Murakawa, Naoto Shimizu, Salma Akter, Masatoshi Takagi, Takuro Sunada, Shusuke Akamatsu, Gang He, Junji Itou, Masakazu Toi, Mary Miyaji, Kimiko M Tsutsui, Scott Keeney, Shintaro Yamada. ATM suppresses c-Myc overexpression in the mammary epithelium in response to estrogen. Cell Rep. 2023.01; 42(1); 111909
18. Arisa Nakamura, Eriko Adachi, Yohei Matsubara, Taku Ishii, Susumu Hosokawa, Kenichi Kashimada, Kei Takasawa. Monitoring hypoparathyroidism in long QT syndrome detected by ECG screening. Pediatr Int. 2023.01; 65(1); e15481
19. Eisei Tsutsumi, Kai Yamasaki, Yoshiko Nakano, Masatoshi Takagi, Junichi Hara. Acute myeloid leukemia post RAS-associated autoimmune leukoproliferative disease. Pediatr Int. 2023.01; 65(1); e15521
20. Nakamura A, Adachi E, Matsubara Y, Ishii T, Hosokawa S, Kashimada K, Takasawa K. Monitoring hypoparathyroidism in long QT syndrome detected by electrocardiogram screening. Pediatr Int. 2023.01; 65(1); e15481
21. Chida-Nagai A, Masaki N, Maeda K, Sasaki K, Sato H, Muneuchi J, Ochiai Y, Murayama H, Tahara M, Shiono A, Shinozuka A, Kono F, Machida D, Toyooka S, Sugimoto S,

Nakamura K, Akagi S, Kondo M, Kasahara S, Kotani Y, Koizumi J, Oda K, Harada M, Nakajima D, Murata A, Nagata H, Yatsunami K, Kobayashi T, Matsunaga Y, Inoue T, Yamagishi H, Nakagawa N, Ohtani K, Yamamoto M, Ito Y, Hokosaki T, Kuwahara Y, Masutani S, Nomura K, Wada T, Sawada H, Abiko M, Takahashi T, Ishikawa Y, Okada S, Naitoh A, Toda T, Ando T, Masuzawa A, Hoshino S, Kawada M, Nomura Y, Ueno K, Ohashi N, Tachibana T, Cao Y, Ueda H, Yanagi S, Koide M, Mitsushita N, Higashi K, Minosaki Y, Hayashi T, Okamoto T, Kuraishi K, Ehara E, Ishida H, Horigome H, Murakami T, Takei K, Ishii T, Harada G, Hirata Y, Maeda J, Tatebe S, Ota C, Hayabuchi Y, Sakazaki H, Sasaki T, Hirono K, Suzuki S, Yasuda M, Takeda A, Sawai M, Miyaji K, Kitagawa A, Nakai Y, Kakimoto N, Agematsu K, Manabe A, Saiki Y. Use of the index of pulmonary vascular disease for predicting long-term outcome of pulmonary arterial hypertension associated with congenital heart disease. Front Cardiovasc Med. 2023; 10; 1212882

1. 小笠原啓祐，水野朋子，神谷尚宏，平田航，田村友美恵，山内泰輔，鈴木智典，鹿島田彩子，水野裕貴，岡本健太郎，田中陽典，小林大輔，高木正稔，森尾友宏．低ガンマグロブリン血症に対し免疫グロブリン療法を行っている乳児全身性ヒアリン症 日本小児科学会雑誌 . 2023.10; 127(10); 1299-1305
2. 坂川由里歌，友田昴宏，森下あおい，井上健斗，岡野翼，山下基，神谷尚宏，水野朋子，磯田健志，町昌克，高木正稔，金兼弘和，今井耕輔，森尾友宏．造血細胞移植後に生じた選択的低 IgG2 血症の 2 例 日本小児科学会雑誌. 2023.04; 127(4); 599-604
3. 森有弥香，山下基，友政弾，友田昂宏，岡野翼，満生紀子，磯田健志,神谷尚宏，高木正稔,今井耕輔，金兼弘和，森尾友宏. NEMO 異常症に対する骨髄移植後の二次性生着不全に対する移植後シクロホスファミド法を用いた HLA 半合致サルベージ骨髄移植 日本小児血液・がん学会雑誌. 2023.02; 59(5); 420-425

[原著]周産･女性診療科

1. Kidera N, Ishikawa T, Kawamura T, Miyasaka N. Maternal body mass index is not associated with assisted reproductive technology outcomes. Scientific reports. 2023.09; 13(1); 14817
2. Tamaoka S, Saito K, Yoshida T, Nakabayashi K, Tatsumi K, Kawamura T, Matsuzaki T, Matsubara K, Ogata-Kawata H, Hata K, Kato-Fukui Y, Fukami M. Exome-based genome-wide screening of rare variants associated with the risk of polycystic ovary syndrome. Reproductive medicine and biology. 2023.01; 22(1); e12504
3. Ryo Higashide, Kazuki Saito, Nanako Hashido , Tomonori Ishikawa, and Naoyuki Miyasaka. Step-by-step instructions for detecting whirlpool sign in adnexal torsion Journal of Rural Medicine. 2023; 189-193

1. 北野陽子, 郡悠介, 伊田勉. 薬剤師外来を通じて Pembrolizumab を安全に投与できた子宮内膜がんの 1 症例 癌と化学療法. 2023.10; 50(10); 1093-1096
2. 勝又翔子, 小宮顕, 川井清考, 有川淑恵, 野中美幸, 村形佐知, 齊藤和毅, 中筋貴史, 岩原由樹, 加藤祐己, 木脇祐子, 明石巧, 石川智則, 宮坂尚幸. 精巣腫瘍根治術後 50 日で ICSI により生児獲得した一例とその課題 日本受精着床学会雑誌. 2023.09; 40(2); 293-298
3. 山口美夕, 中筋貴史, 間野ちひろ, 齊藤和毅, 大島乃里子, 石川智則, 吉木尚之, 宮坂尚幸. 子宮頸部筋腫に対して術前に尿管ステントを留置し全腹腔鏡下子宮全摘出術(TLH)を施行した 1 例 東京産科婦人科学会会誌. 2023.07; 72(3); 495-500
4. 蓮井美帆, 大村直輝, 門前志歩, 名古満, 羽太優希, 高橋由香里, 向井直子, 遠藤美幸, 工藤祐輔, 小峰祝敏, 伊藤かほり, 有地あかね, 永井美和子, 福島治郎, 本間進, 寺岡香里, 竹村由里, 木寺信之, 佐々木博, 依光毅, 清水康史, 大原基弘, 石川智則, 河村寿宏. タイムラプスで観察された Direct Cleavage 胚・Reverse Cleavage 胚の培養成績ならびに臨床成績ついての検討 日本受精着床学会雑誌. 2023.03; 40(1); 63-68

[書籍等出版物] 小児科

1. 森丘千夏子. 乳児の成長をみる(乳児健診)__小児科診療 86 巻 11 号 成長曲線を書こう__II. 成長曲線__さまざまな活用を! . 診断と治療社, 2023.10

[講演・口頭発表等] 小児科

1. Masatoshi Takagi, Motoi Yamashita, Takahiro Tomoda, Takeshi Isoda, Makiko Egawa, Masayuki Yoshida, Tsutomu Toki, Ko Kudou, Kiminori Terui, Etsuro Ito, Tomohiro Morio. Transient erythroblastopenia by GATA1 variant in female. . Human Genetics Asia 2023 2023.10.14 Tokyo
2. Manabu Sugie, Yusuke Noguchi, Nobutoshi Nawa, Ayako Kashimada, Kazuyuki Ito, Tsutomu Kondo, Satoshi Kusuda, Chikako Morioka, Tomohiro Morio, Kenichi Kashimada. Implication of Acquiring Oxidative Stress Resistance in Chorioamnionitis Leading to Reduced Risk of Severe Retinopathy of Prematurity. FAOPS 2023; The 22nd Congress of the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies 2023.10.09 Tokyo
3. Ryo Aoki, Chikako Morioka, Kikuko Oku, Shigeru Takishima, Yoshihiro Minosaki, Tomonori Ichikawa. Pressure Evaluation of Nasal Continuous Positive Airway Pressure Cannula Using a New Connector and Respiratory Simulator. FAOPS 2023; The 22nd Congress of the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies 2023.10.09 Tokyo
4. Satoshi Miyamoto, Daiki Niizato, Takahiro Kamiya, Takeshi Isoda, Masatoshi Takagi, Shohei Azumi, Shinsuke Hirabayashi, Kenichi Sakamoto, Kenji Kishimoto, Takako

Miyamura, Katsutsugu Umeda, Masakatsu Yanagimachi, Kaori Kanda, Yasuhiro Ikawa, Kenichiro Watanabe, Tatsuo Ichinohe, Hirotoshi Sakaguchi, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Allogenic hematopoietic cell transplantation with alemtuzumab in Asian patients with inborn errors of immunity. ICBMT2023 2023.09.01 Busan

5. Taku Ishii, Keiko Uchida, Susumu Hosokawa, Hidekazu Ishida, Shinichi Takatsuki, Shigetoyo Kogaki, Kei Inai, Hiroyuki Fukushima, Hiroyuki Yamagishi, Shozaburo Doi. Baseline characteristic of pulmonary hypertension patients with congenital heart disease in Japan: Insights from Japanese association of congenital heart disease with pulmonary hypertension registry (JACPHR). PH Korea 2023 with 3rd EASOPH 2023.07.14 Incheon, Korea
6. Masatoshi Takagi. Therapeutic approach for Ataxia Telengiectasia.. The Interntioal Ataxia-Telengiectasia Workshop 2023 2023.03.02 Kyoto
7. Masatoshi Takagi. Infant ALL GWAS study.. iBFM Committee Interim Meeting 2023.01.16 Milan, Italy

1. 三上貴司, 加藤格, 西村聡, 神鳥達哉, 宮村能子, 冨澤大輔, 今村俊彦, 小川誠司, 高木正稔, 滝田順子. 系統転換で再発した KMT2A-AFF1 陽性 AML に特徴的に認められる単球性 MDSC 様の免疫抑制形質. 第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会 2023.09.29 北海道
2. 新里大毅, 磯田健志, 星野顕宏, 西村聡, 友政弾, 鷲尾佳奈, 神谷尚宏, 金兼弘和, 森尾友宏, 高木正稔. 急性骨髄性白血病細胞に RUNX1 バリアントを認めた DNA リガーゼ 4 欠損症. 第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会 2023.09.29 北海道
3. 浪川結衣, 宮本智史, 浦山ケビン, 真部淳, Yang Jung, 高木正稔. 転写因子 TCF3 のバリアントと小児 B-ALL の関連性の解析. 第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会 2023.09.29 北海道
4. 友政弾, 西村聡, 坂田尚己, 坂本謙一, 伊川泰広, 吉田健一, 小川誠司, 高木正稔, 森尾友宏, 金兼弘和. SAP 欠損症に伴うリンパ増殖症における体細胞バリアントの検索. 第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会 2023.09.29 北海道
5. 小林杏珠, 友政弾, 佐倉文祥, 浅野孝基, 土方敦司, 内山徹, 岡田賢, 森尾友宏, 高木正稔, 金兼弘和. 成人期に診断された ADA 欠損症. 第 14 回関東甲信越免疫不全症研究会 2023.09.24 東京
6. 三上貴司, 加藤格, 西村聡, 神鳥達哉, James B.Wing, 浜田聡, 辻本信一, 井上翔太郎, 宮村能子, 富澤大輔, 今村俊彦, 小川誠司, 高木正稔, 滝田順子. 系統転換した KMT2A-AFF1 陽性 AML は単球性 MDSC 様の免疫学的特徴を有する. 第 82 回日本癌学会学術総会 2023.09.23 神奈川
7. 浪川結衣, 宮本智史, 浦山ケビン, 真部淳, Jang Yang, 高木正稔. TCF3 のバリアントは小児 B-ALL 発症の素因となる. 第 82 回日本癌学会学術総会 2023.09.23 神奈川

8. 星野顕宏，高木正稔，友政弾，小林純也，坂田尚己，森尾友宏，金兼弘和. RAD50 欠損症による骨髄不全と免疫異常症. 第 162 回小児血液腫瘍免疫懇話会 2023.09.08 東京(Web)
9. 鈴木拓望，細道純，宮坂尚幸，宮崎泰成，滝敦子，財津崇，毛呂愛香，森丘千夏子，佐藤憲子，小野卓史. 日本人妊婦の閉塞性睡眠時無呼吸症の病態と出生児への影響について. 第 47 回日本女性栄養・代謝学会学術集会 2023.08.24 岡山
10. 野口優輔，杉江学，森丘千夏子，滝敦子，伊藤一之，本多泉，岡崎薫，鹿島田健一. 臍帯由来間葉系幹細胞（UCMSCs）を用いた胎児発育不全におけるプログラミングの時期特異性に関する解析. 第 59 回日本周産期・新生児医学会 2023.07.11 愛知
11. 小川和乃，森丘千夏子，杉江学，伊藤一之，羅ことい,宮坂尚幸，関口将軌. Gitelman 症候群が疑われた母体から出生し，偽性 Bartter 症候群を呈した新生児の一例. 第 59 回日本周産期・新生児医学会 2023.07.11 愛知
12. 伊藤一之，野口優輔，勝碕静香，杉江学，森丘千夏子.生物学的製剤を使用した母体から出生した新生児における免疫能評価. 第 59 回日本周産期・新生児医学会 2023.07.10 愛知
13. 横井碧，高瀬千尋，宮原奏，宮原宏幸，山内建，杉江学，森丘千夏子，近藤乾. 在胎 22 週出生児の生命予後に関わる因子の検討. 第 59 回日本周産期・新生児医学会 2023.07.09 愛知
14. 古野秀裕，星野顕宏，西山洋平，西村聡，宮本智史，神谷尚宏，磯田健志，高木正稔，梶原道子，金兼弘和，森尾友宏. 合併症の有無で対照的な管理を要した重症複合免疫不全症の 2 例. 第 691 回日本小児科学会東京都地方会講話会 2023.07.08 東京
15. 高月晋一，石井卓，細川奨，石田秀和，内田敬子，稲井慶，石崎怜奈，福島裕之，小垣滋豊，山岸敬幸，土井庄三郎. JACPHR registry における小さな欠損孔を伴う肺動脈性高血圧症患者の解析. 第 59 回 日本小児循環器学会学術集会 2023.07.07 神奈川
16. 内田敬子，住友直文，石崎怜奈，福島裕之，石井卓，石田秀和，高月晋一，小垣滋豊，稲井慶，土井庄三郎，山岸敬幸. 先天性心疾患に伴う区域性肺高血圧症に対する薬物治療効果の検討. 第 59 回 日本小児循環器学会学術集会 2023.07.07 神奈川
17. 住友直文，石崎怜奈，内田敬子，高月晋一，石井卓，石田秀和，福島裕之，小垣滋豊，稲井慶，土井庄三郎，山岸敬幸. 二心室修復術後に残存する肺高血圧症の臨床像に関する検討　from Japan CHD-PH registry. 第 59 回 日本小児循環器学会学術集会 2023.07.07 神奈川
18. 池田翔，高井詩織，山口洋平，石井卓，細川奨. 治療経過中に結腸狭窄を認めた軽度大動脈弁狭窄症を伴う心室中隔欠損症例. 第 59 回 日本小児循環器学会学術集会 2023.07.07 神奈川
19. 高井詩織，池田翔，山口洋平，石井卓，細川奨. 当院における小児期発症の肺動脈性肺高血圧症の中・長期予後. 第 59 回 日本小児循環器学会学術集会 2023.07.07 神奈川

20. 石井良，石田秀和，石井卓，内田敬子，高月晋一，細川奨，稲井慶，福島裕之，小垣滋豊，山岸敬之，土井庄三郎．高肺血管抵抗の Fontan 術後患者に対する肺血管拡張薬使用の検討．第 59 回 日本小児循環器学会学術集会 2023.07.07 神奈川
21. 石井卓、山口洋平、細川奨．分割時系列分析による public-access defibrillation の導入と心臓突然死数の関係の検討．第 59 回日本小児循環器学会学術集会 2023.07.06 神奈川
22. 石井卓、内田敬子、石田秀和、細川奨、高月晋一、石崎怜奈、小垣滋豊、福島裕之、稲井慶、山岸敬幸、土井庄三郎．先天性心疾患を伴う肺高血圧症例の多施設症例登録研究 JACPHR．第 59 回日本小児循環器学会学術集会 2023.07.06 神奈川
23. 細川奨，石井卓，永井礼子，内田敬子，石田秀和，小垣滋豊，山岸敬幸，土井庄三郎．我が国における小児特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧症（IPAH/HPAH）患者の治療の現状　Japan PH Registry(JAPHR)．第 59 回 日本小児循環器学会学術集会 2023.07.06 神奈川
24. 石井卓，中村虹輝，金子千夏，山口洋平，細川奨，土井庄三郎．小児肺動脈性肺高血圧症に対する標的治療薬の短期治療効果．第 8 回日本肺高血圧・肺循環学会，第 28 回日本小児肺循環研究会 2023.06.04 兵庫
25. 内田敬子，住友直文，石崎怜奈，福島裕之，石井卓，石田秀和，高月晋一，小垣滋豊，稲井慶，土井庄三郎，山岸敬幸．区域性肺高血圧症に対する肺高血圧治療薬の効果の違い．第 8 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2023.06.04 兵庫
26. 土井庄三郎，石井卓，内田敬子，細川奨，石田秀和，高月晋一，小垣滋豊，稲井圭，福島裕之，山岸敬幸．本邦から世界へ向けた All-Japan 肺高血圧症レジストリの展望　先天性心疾患を伴う肺高血圧症例の多施設症例登録研究 JACPHR．第 8 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2023.06.04 兵庫
27. 家村綾正，鈴木友梨，鎌田悠子，水野裕貴，山本くらら，酢谷明人，高澤啓，高木正稔，西岡正人，明石巧，岡本健太郎，鹿島田健一，森尾友宏．生殖細胞系列 VHL 遺伝子異常による遺伝性褐色細胞腫の小児例．第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.03 愛知
28. 鹿島田彩子，水野朋子，宇田川智宏，細川奨，内田佳介，田中絵里子，小崎健次郎，高木正稔．新規 RNF213 遺伝子 de novo バリアントは全身性の血管縮窄症に関与する．第 65 回日本小児神経学会学術集会 2023.05.27 岡山
29. 山下基，柏木菜緒，神谷尚宏，江口詩織，新里大毅，満生紀子，磯田健志，木脇裕子，稲次基希，今井耕輔，金兼弘和，高木正稔，森尾友宏．全エクソン解析が診断に有用であった軟部組織腫瘍の一例．第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.16 東京
30. 吉野明日香、小笠原啓祐、鎌田悠子、山野春樹、池田翔、高井詩織、下山輝義、伊藤一之、水野裕貴、山口洋平、石井卓、杉江学、森丘千夏子、岡本健太郎、細川奨、小野真、畠井芳穂、森尾友宏．先天性嚢胞性肺疾患に一側肺動脈欠損を合併した新生児の一例．

第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.15 東京

31. 山田拓人, 池田翔, 高井詩織, 山口洋平, 石井卓, 細川奨. 若年発症の心筋症例における致死性不整脈の発生状況の検討. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.15 東京
32. 石橋佑脩, 神谷尚宏, 村越未希, 宇田川智宏, 遠藤明史, 磯田健志, 高木正稔, 金兼弘和, 今井耕輔, 森尾友宏. GATA2 異常症に対する同種造血細胞移植後に膜性腎症を発症し, リツキシマブ治療が奏功した 1 例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京
33. 鈴木友梨, 家村綾正, 水野裕貴, 山本くらら, 星野顕宏, 野村敏大, 酢谷明人, 前田佳真 , 鎌田悠子, 屋富祖大騎, 高澤啓, 磯田健志, 高木正稔 , 西岡正人, 明石巧, 岡本健太郎, 鹿島田健一 , 森尾友宏 . 若年発症褐色細胞腫例における遺伝学的解析の重要性. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京
34. 石井卓. 先天性心疾患を伴う肺高血圧症の病態と治療. 第 267 回日本循環器学会関東甲信越地方会 2023.02.25 東京
35. 花田彩加, 豊福悦史, 山下基, 友田昴宏, 磯田健志, 神谷尚宏, 高木正稔, 金兼弘和, 今井耕輔, 森尾友宏. 染色体構造異常による Wiskott-Aldrich 症候群. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.12 東京
36. 大口郁夫, 西村聡, 山下基, 星野顕宏, 磯田健志, 神谷尚宏, 金兼弘和, 高木正稔, 森尾友宏. 再発急性骨髄性白血病に対してクロファラビンを用いた再移植で寛解を維持した 1 例. 第 45 回 日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.11 愛知
37. 石塚潤子, 持田靖子, 有川淑恵, 石川智則, 神谷尚宏, 磯田健志, 西村聡, 星野顕宏, 高木正稔, 梶原道子, 金兼弘和, 森尾友宏. 思春期の患者 · 家族の妊孕性温存療法における造血細胞移植コーディネーターによる支援. 第 45 回 日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.11 愛知
38. 宮本智史, 西村聡, 星野顕宏, 神谷尚宏, 磯田健志, 梶原道子, 高木正稔, 今井耕輔, 金兼弘和, 森尾友宏 . 先天性免疫異常症に対する同種造血細胞移植. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.11 東京
39. 土井庄三郎, 石井卓, 山岸敬幸, 内田敬子, 細川奨, 石崎怜奈, 石田秀和, 高月晋一, 福島裕之, 稲井慶, 小垣滋豊. 先天性心疾患を伴う肺高血圧症レジストリ JACPHR. 第 24 回日本成人先天性心疾患学会 総会 · 学術集会 2023.01.13 愛媛
40. 石井卓. 肺高血圧に関する新しい情報. 第 24 回日本成人先天性心疾患学会 総会 · 学術集会 2023.01.13 愛媛

[講演 · 口頭発表等]周産·女性診療科

1. 山本奈緒, 尾臺珠美, 郡悠介, 高尾茉希, 大島乃里子, 若菜公雄, 宮坂尚幸. 当院における卵巣上皮性境界悪性腫瘍の臨床的検討. 第 146 回 関東連合産科婦人科学会 総会 · 学術集会 2023.11.26 静岡

2. 光井潤一郎, 石川智則, 宮坂尚幸, 塚本智史. 妊娠期のマウス黄体における脂肪滴の合成と分解に関する研究. 第 68 回日本生殖医学会学術講演会・総会 2023.11.09 石川
3. 熊澤栞, 齊藤和毅, 石川郁乃, 中筋貴史, 岩原由樹, 石川智則. 卵巣過剰刺激症候群における血中 D-dimer 値上昇に関係する因子の解明. 第 68 回日本生殖医学会学術講演会・総会 2023.11.09 石川
4. 野中美幸, 村形佐知, 石川郁乃, 齊藤和毅, 中筋貴史, 岩原由樹, 石川智則, 宮坂尚幸. 胚盤胞凍結前の胞胚腔人工収縮法の違いによる臨床成績の検討. 第 68 回日本生殖医学会学術講演会・総会 2023.11.09 石川
5. 村形佐知, 石川智則, 野中美幸, 岩原由樹, 中筋貴史, 齊藤和毅, 石川郁乃, 有川淑恵, 宮坂尚幸. 化学療法後, 低 AMH 値でも卵子または胚凍結できた 2 症例について. 第 68 回日本生殖医学会学術講演会・総会 2023.11.09 石川
6. 石川智則. 乳癌治療における妊孕性. 御茶ノ水 OncologyForum 2023 2023.10.04 東京
7. 郡悠介. 育児をしながら内視鏡技術認定医を目指せ ～イクドクセミナーの試みを男性ファシリテーターの立場から振り返って～. 第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2023.09.15 滋賀
8. 郡悠介、吉木尚之、 尾茉希、大島乃里子、宮坂尚幸. 腹腔鏡下手術で修復しえた ロボット支援下手術後 ポートサイトヘルニアの 1 例. 第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2023.09.14 滋賀
9. 郡悠介, 大島乃里子, 嶋田未知, 高尾茉希, 尾臺珠美, 若菜公雄, 宮坂尚幸. 当科で施行した初回婦人科悪性腫瘍手術における腹腔ドレーンの意義について. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2023.07.15 島根
10. 大島乃里子, 尾臺珠美, 高尾茉希, 郡悠介, 若菜公雄, 宮坂尚幸. 婦人科悪性腫瘍手術における全自己フィブリン糊の使用評価. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2023.07.15 島根
11. 高尾茉希, 大島乃里子, 郡悠介, 嶋田未知, 尾臺珠美, 若菜公雄, 宮坂尚幸, 桐村進. 子宮内膜および卵巣の重複癌におけるミスマッチ修復タンパクの免疫組織化学染色の検討. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2023.07.15 島根
12. 尾臺珠美, 郡悠介, 嶋田未知, 高尾茉希, 大島乃里子, 若菜公雄, 宮坂尚幸. 多発リンパ節転移を呈した漿液性卵管上皮内癌の 1 例. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2023.07.15 島根
13. 嶋田未知, 若菜公雄, 郡悠介, 高尾茉希, 尾臺珠美, 大島乃里子, 宮坂尚幸, 加藤祐己. 婦人科腫瘍として非典型的な子宮体部低分化腺癌の一例. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2023.07.14 島根
14. 神谷瑞希、郡悠介、大野晴子、大島乃里子、嶋田未知、 高尾茉希、尾臺珠美、若菜公雄、宮坂尚幸. 胃癌 ・卵巣境界悪性腫瘍術後に FDG-PET/CT で高集積を呈し,臍転移が疑われた異物肉芽腫の 1 例. 第 145 回関東連合産科婦人科学会学術集会 2023.06.17

東京

15. 大村直輝，大原基弘，有地あかね，小峰祝敏，工藤祐輔，永井美和子，福島治朗，本間進，寺岡香里，蓮井美帆，竹村由里，木寺信之，佐々木博，依光毅，清水 康史，石川智則，河村寿宏．ヒト卵子における Centrally Located Cytoplasmic Granularity(CLCG) の有無が培養成績および臨床成績に与える影響．第 64 回日本卵子学会学術集会 2023.05.21 茨城
16. 村形佐知，石川智則，野中美幸，岩原由樹，中筋貴史，齊藤和毅，有川淑恵，宮坂尚幸．多前核胚が多発した抗セントロメア抗体陽性の 2 症例について．第 64 回日本卵子学会学術集会 2023.05.21 茨城
17. 尾臺珠美，郡悠介，嶋田未知，高尾茉希，大島乃里子，若菜公雄，宮坂尚幸．性成熟期女性における子宮内膜異型増殖症と子宮体癌症例の臨床的検討．第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会 2023.05.13 東京
18. 高尾茉希，大島乃里子，郡悠介，嶋田未知，尾臺珠美，若菜公雄，宮坂尚幸．子宮内膜および卵巣に類内膜癌を同時に認めた症例の後方視的検討．第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会 2023.05.12 東京
19. 齊藤和毅．National database から見る ART と周産期合併症．フェリング・ファーマ株式会社主催 生殖医療専門医対象 Web live seminar 周産期合併症から ART 治療を再考する 2023.03.17 web
20. 嶋田未知、大島乃里子、 尾茉希、郡悠介、尾臺珠美、若菜公雄、新宅洋、宮坂尚幸．子宮体部と卵巣の類内膜癌でミスマッチ修復タンパクの染色性が異なった重複癌の 1 例．第 404 回東京産科婦人科学会 2023.02.25 東京
21. 石塚潤子，持田靖子，有川淑恵，石川智則，神谷尚宏，磯田健志，西村聡，星野顕宏，高木正稔，梶原道子，金兼弘和，森尾友宏．思春期の患者・家族の妊孕性温存療法における造血細胞移植コーディネーターによる支援．第 45 回 日本造血・免疫細胞療法学会総会 2023.02.11 愛知

[その他業績] 小児科

1. 患者を生きる 「ふたつの虹」願いを込めて（高木正稔), 2023 年 05 月 朝日新聞朝刊
2. 骨髄不全と免疫不全に関わる RAD50 の異常を発見 — 新奇先天性免疫不全症として RAD50 欠損症を提唱 —(高木正稔) , 2023 年 10 月 Journal of Clinical Immunology
3. Researchers identify the variants responsible for a rare and serious disorder(高木正稔), 2023 年 11 月 AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
4. 骨髄/ナチュラルキラー (NK) 前駆細胞性急性白血病は新規の独立した白血病である — 希少白血病の分子遺伝学的基盤の理解と治療法開発 —(高木正稔), 2023 年 12 月 Science Advances

5. 骨髄／ NK 前駆細胞性急性白血病、L-アスパラギナーゼ治療が有効と判明―東京医歯大ほか（高木正稔), 2023 年 12 月 QLifePro
6. ナチュラルキラー前駆細胞急性白血病は「新たな白血病」医歯大が研究Gが発表（高木正稔), 2023 年 12 月 文教速報デジタル版 BUNKYO DIGITAL
7. 骨髄/ナチュラルキラー（NK）前駆細胞性急性白血病は新規の独立した白血病である ―希少白血病の分子遺伝学的基盤の理解と治療法開発（高木正稔）, 2023 年 12 月 日本小児血液・がん学会

[社会貢献活動] 小児科

1. 筑波大学附属小学校（児童の健康管理及び保健指導）（細川奨）, 2020 年 04 月 01 日 - 2023 年 09 月 30 日
2. 東京都小児・AYA がん診療連携協議会委員（高木正稔）, 東京都, 2021 年 04 月 01 日 - 現在
3. 毛細血管拡張性運動失調症の患者について（高木正稔）, 朝日新聞社, 朝日新聞デジタル, 2023 年 03 月 09 日
4. 文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会　委員（細川奨), 文京区役所, 2023 年 07 月 24 日 - 2025 年 07 月 23 日
5. 筑波大学附属小学校 校医（児童の健康管理及び保健指導）（石井卓）　, 筑波大学附属小学校, 2023 年 10 月 01 日 - 現在

[社会貢献活動]周産･女性診療科

1. 一般社団法人日本癌治療学会（小児, 思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドラインの改訂）委員（石川智則）, 一般社団法人日本癌治療学会, 2022 年 02 月 14 日 - 2023 年 02 月 13 日
2. 一般社団法人日本癌治療学会（小児, 思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドラインのシステマティックレビュー）委員（中筋貴史）, 一般社団法人日本癌治療学会, 2022 年 02 月 14 日 - 2023 年 02 月 13 日
3. 一般社団法人日本癌治療学会（小児, 思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドラインのシステマティックレビュー）委員　（齊藤和毅), 一般社団法人日本癌治療学会, 2022 年 02 月 14 日 - 2023 年 02 月 13 日
4. 生殖医療ガイドライン（改訂版）執筆（齊藤和毅）, 一般社団法人　日本生殖医学会, 2023 年 03 月 - 現在
5. 東京都がん対策推進協議会 AYA 世代がんワーキンググループ 委員（石川智則), 東京都, 2023 年 03 月 09 日 - 2024 年 07 月 31 日
6. レコベル座談会　周産期合併症から ART 治療を再考する（齊藤和毅), フェリング・

ファーマ株式会社, レコベル座談会　周産期合併症から ART 治療を再考する, 第一ホテル東京, 2023 年 03 月 23 日

7. 産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編 2026 作成委員会　委員（齊藤和毅）, 公益社団法人　日本産科婦人科学会, 2023 年 05 月 17 日 - 2026 年 06 月 25 日
8. 保険診療を踏まえた生殖医療リスクマネージメントに関する小委員会：委員（齊藤和毅）, 公益社団法人　日本産科婦人科学会, 2023 年 06 月 - 2025 年
9. 本邦における多嚢胞性卵巣症候群の治療指針の検証に関する小委員会：委員（齊藤和毅）, 公益社団法人　日本産科婦人科学会, 2023 年 06 月 - 2025 年
10. J-MELS（母体救命）ベーシックコース 母体救命システムの普及のための講習にて学術・技術指導（郡悠介), 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育病院, 2023 年 10 月 08 日

血管代謝探索講座

Department of Nutrition and Metabolism in Cardiovascular Disease

江川真希子
我有茉希

(1) 分野概要

本講座は、先進倫理医科学分野に関連する寄附研究部門として設立され、教育・研究活動の多くは、大学院医歯学総合研究科先進倫理医科学分野と共同で運営している。
心筋梗塞、脳卒中などの生活習慣病の原因といわれる動脈硬化症の病態解明・治療法の開発、また妊娠・出産が女性の心血管系に及ぼす影響の解明などを主なテーマとし、国際社会で活躍できる専門的知識・能力を持つ優れた研究者や高度専門職業人等の養成の必要性を重視しながら、血管細胞生物学および産科学の立場から研究・教育を展開している。

(2) 研究活動

「血管の炎症」と捉えられている動脈硬化の発症には、血管内皮細胞と白血球の相互作用が重要なプロセスである。そこで本講座では血管炎症反応の初期段階に着目し、動脈硬化症発症の新規メカニズム解明を目指している。具体的には動脈硬化巣形成における好中球の役割や好中球活性化の機序解明、ならびに脂肪摂取後におこる急性炎症反応の機序解明などである。これらの解明から新規創薬ターゲットの探索を目指す。
また別の研究として妊娠・出産が将来の心血管疾患発症に与える影響について検討を行う。妊娠・出産は 10 か月という短期間に劇的な母体循環動態の変化を伴う生理現象であり、正常妊娠・出産であってもその生理環境の変化が母体に与える影響は無視できない。現在まで地域住民を対象とした大規模データを利用して、出産回数など出産が産後女性の長期的健康に与える影響、また妊娠合併症発症者の長期予後の解析などを行ってきた。心血管疾患は日本人女性の死因第 2 位を占めており、出産年齢の高年齢化、少子化が進む我が国において、妊娠・出産イベントが心血管系へ与える影響を解明、またリスク因子を抽出することで、産後女性の長期的な健康管理に役立てられる情報とすることを目指す。
また新たな課題として、遺伝性疾患である家族性高コレステロール血症（FH）女性のより適切な妊娠・出産管理についての検討を行う。FH 女性の妊娠・出産においては、心血管系の評価や妊娠期・授乳期の LDL 値のコントロール、生まれた子の管理など、検討すべき点が多く、また妊娠負荷が長期健康に与える影響については不明な点も多い。これらを FH 女性の視点も大切にしながら検討を行う。

(3) 教育活動

先進倫理医科学分野所属の大学院博士課程学生 1 名に対する研究全般、学会発表、研究論文作成指導を行い、研究倫理や良識を兼ね備えた世界に通用する研究者の育成に取り組んでいる。

(4) 臨床活動および学外活動

本講座スタッフの江川は周産期専門医（母体・胎児）、超音波専門医、および臨床遺伝専門医の資格を有する産科医であるが、それらを活かして周産期外来、遺伝外来を担当している。周産期外来では高血圧症や脂質異常症など合併症を有する妊婦管理を中心に診療にあたり、遺伝外来では周産期遺伝外来を専門とし、出生前検査・着床前検査また遺伝性疾患を有する女性やその家族の妊娠・出産に関する相談などを担当している。
学外活動としては、日本人類遺伝学会評議員・倫理審議委員会委員、日本遺伝カウンセリング学会倫理問題検討委

員会委員、出生前検査認証制度等運営委員会 · 検査精度評価ワーキンググループ構成員、産科医療補償制度原因分析委員会委員、脂質異常症診療ガイド（2023 年版）作成委員として活動をしている。我有は小児科専門医資格 · 内分泌代謝専門医資格を有し、小児科外来と遺伝外来においては小児遺伝領域を中心に担当している。また研究倫理分野でも活動している。

(5) 研究業績

[原著]

1. Yamashita M, Tomoda T, Mizuo A, Isoda T, Egawa M, Yoshida M, Toki T, Kudo K, Terui K, Ito E, Morio T, Takagi M. Transient erythroblastopenia due to a GATA1 variant in an infant female. Pediatric blood & cancer. 2023.12; e30834

2. Yogi A, Iemura R, Nakatani H, Takasawa K, Gau M, Yamauchi T, Yoshida M, Moriyama K, Ishii T, Hosokawa S, Yamada M, Suzuki H, Kosaki K, Kashimada K, Morio T. BMP2 is a potential causative gene for isolated dextrocardia situs solitus. European journal of medical genetics. 2023.08; 66(9); 104820

3. Egawa M, Kanda E, Ohtsu H, Nakamura T, Yoshida M. Hypertensive Disorders of Pregnancy are Associated with Cardiovascular Disease in Middle- and Older-Aged Japanese Women. Journal of atherosclerosis and thrombosis. 2023.01; 30(10); 1420-1426

4. Shizuka Kirino, Analia Yogi, Eriko Adachi, Hisae Nakatani, Maki Gau, Ryosei Iemura, Haruki Yamano, Toru Kanamori, Takayasu Mori, Eisei Sohara, Shinichi Uchida, Kentaro Okamoto, Tomohiro Udagawa, Kei Takasawa, Tomohiro Morio, Kenichi Kashimada. Phenotypic Variation in 46,XX Disorders of Sex Development due to the Fourth Zinc Finger Domain Variant of WT1: A Familial Case Report. Sex Dev. 2023; 17(1); 51-55

1. 米良 健輝, 高尾 茉希, 嶋田 未知, 尾臺 珠美, 寺内 公一, 吉木 尚之, 宮坂 尚幸, 江川 真希子. 未分化胚細胞腫と性腺芽腫を認めた Swyer 症候群の 1 例 東京産科婦人科学会会誌. 2023.10; 72(4); 779-785

[講演 · 口頭発表等]

1. Masayuki Yoshida, Eriko Takamine, Hiroko Kohbata, Sayako Takahashi, Mariko Komine, Yusuke Ebana, Makiko Egawa, Sadakatsu Ikeda, Kana Kobori, Takuto Matura, Atsushi Tajima, Yu Oyama.. Clinical usefulness of multi-gene panel testing in hereditary cancer analysis in Japan -INSIGNIA study. ASHG Annual Meeting 2023 2023.11.01

2. Eriko Adachi, Ryuichi Nakagawa, Atsumi Tsuji-Hosokawa, Maki Gau, Shizuka Kirino, Analia Yogi, Hikase Nakatani, Tomomi Yamaguchi, Masanori Murakami, Toshihiro Tajima, Tomonobu Hasegawa, Tetsuya Yamada, Tomohiro Morino, Osamu Ohara, Kenichi Kashimada. Development of a clinically applicable one-step PCR-based CYP21A2 analysis using long read sequences.. Human Genetics Asia 2023(68th Annual Meeting of Japan Society of Human Genetics/ 14th Asia Pacific Conference on Human Genetics/ 22nd Annual meeting of East Asian Union of human Genetics Societies) 2023.10.14 Tokyo Japan

3. Masatoshi Takagi, Motoi Yamashita, Takahiro Tomoda, Takeshi Isoda, Makiko Egawa, Masayuki Yoshida, Tsutomu Toki, Ko Kudou, Kiminori Terui, Etsuro Ito, Tomohiro Morio. Transient erythroblastopenia by GATA1 variant in female. Human Genetics Asia 2023 2023.10.13

4. Shizuka Kirino, Ryuichi Nakagawa, Kei Takasawa, Maki Gau, Atsumi Tsuji-Hosokawa, Liang Zhao, Josephine Bowles, Peter Koopman, Tomohiro Morio, Kenichi Kashimada.. Application of Cap analysis of gene expression (CAGE) in genetic analysis of mouse sex differentiation. Ninth International Symposium on the Biology of Vertebrate Sex Determination 2023.04.19 Kailua-Kona, HAWAII

5. Satoru Aoyama, Takashi Kamatani, Kousuke Tanimoto, Junko Yokobori, Eriko Takamine, Makiko Egawa, Yuki Kato, Susumu Kirimura, Ichiro Ohnishi, Kouichiro Kimura, Takahiro Asakage, Sadakatsu Ikeda. Case report: Myxofibrosarcoma in the head and neck region with rare TP53 aberration in the background of retinoblastoma.. 2023 the Japanese Society of Medical Oncology Annual Meeting 2023.03.17

1. 江川真希子. 出生前検査に関する世界の現状. 第 9 回日本産科婦人科遺伝診療学会 2023.12.05 名古屋

2. 桐野玄, 中川竜一, 高澤啓, 我有茉希, 鹿島田健一. 機能活性をもつエンハンサーの塩基配列解析は新規性腺発生における転写制御機構を明らかにする. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.21 埼玉

3. 白川詩織, 山野春樹, 家村綾正, 安達恵利子, 中谷久恵, 桐野玄, 我有茉希, 勝屋恭子, 酢谷明人, 市川知則, 森尾友宏, 高澤啓, 鹿島田健一. 双胎同胞の診断を契機に早期介入しえた 21 水酸化酵素欠損症の男児例. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

4. 安達恵利子, 中川竜一, 辻敦美, 我有茉希, 桐野玄, Analia Yogi, 中谷久恵, 高澤啓, 山口智美, 古庄知己, 村上正憲, 田島敏弘, 長谷川泰延, 山田哲也, 森尾友宏, 小原収, 鹿島田健一. 臨床応用可能な One-step PCR を用いた Long read sequence による CYP21A2 解析法の開発と新規構造異常の同定. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会 2023.10.19 埼玉

5. 佐藤梨花子, 高尾茉希, 大島乃里子, 郡悠介, 尾臺珠美, 江川真希子, 若菜公雄, 宮坂尚幸. 若年子宮体癌術後に消化管過誤腫性ポリポーシスを認め, Cowden 症候群と診断された 1 例. 第 406 回東京産科婦人科学会例会 2023.08.25

6. 江川 真希子, 池田 まさみ, 斯波 真理子, 吉田 雅幸. 内科診療における女性患者の周産期歴情報に関する実態調査. 日本動脈硬化学会総会プログラム · 抄録集 2023.07.09 宇都宮

7. 諸隈 史香, 江川 真希子, 西垣 昌和, 浜之上 はるか, 増崎 英明, 三浦 清徳, 小林 朋子, 吉田 雅幸. 出生前検査を含む妊娠 · 出産に関する情報提供サイト「妊知る.jp」の有効性 · 使用感調査. 日本遺伝カウンセリング学会 2023.07.08

8. 桐野玄, 中川竜一, 高澤啓, 我有茉希, 鹿島田健一. 機能活性をもつエンハンサーの塩基配列解析から明らかとなる性腺発生における新規転写制御機構. 第 26 回小児分子内分泌研究会 2023.07.01 北海道

9. 安達 恵利子, 辻 敦美, 中川 竜一, 我有 茉希, 桐野 玄, Yogi Analia, 中谷 久恵, 高澤 啓, 森尾 友宏, 小原 収, 鹿島田 健一. Target Long read sequence による CYP21A2 の新しい解析手法の開発. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.03 名古屋

10. 我有 茉希, 高澤 啓, 山内 泰輔, 水野 朋子, 石渡 久子, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. SGLT2 阻害薬はミトコンドリア糖尿病の治療選択肢になる. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.02 名古屋

11. 桐野 玄, 高澤 啓, 中川 竜一, 山内 建, 我有 茉希, 齋藤 洋子, 安達 恵利子, 中谷 久恵, 神谷 尚宏, 磯田 健志, 梶原 道子, 金兼 弘和, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. 先天性免疫異常症における膵島自己免疫の実態および造血細胞移植の効果. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.02 名古屋

12. 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 江川 真希子, 鳥羽 三佳代, 宮坂 尚幸. 当院における炎症性腸疾患合併妊娠の検討. 日本周産期 · 新生児医学会雑誌 2023.06.01

[社会貢献活動]

1. 産科医療補償制度　原因分析委員会 (江川真希子), 日本医療機能評価機構, 2018 年 04 月 01 日 - 現在

生涯免疫難病学講座

Department of Lifetime Clinical Immunology

寄附講座教授　森　雅亮
寄附講座講師　山本晃央
寄附講座助教　佐々木 広和 (併任)
寄附講座助教　伊良部 仁 (併任)

(1) 分野概要

急速な社会的関心の高まりを受け、移行期医療整備を含む生涯を視野に入れた医療の重要性が指摘され、かつ、平成 27 年から厚生労働難病政策の充実が図られている。一方で、既存大学講座は内科と小児科の枠組みから脱することができない。ことに免疫難病においては、限られた大学病院を中心に小児リウマチ学が発展してきたが、内科との融合どころか、その安定的継承が課題となっている。また、原発生免疫不全症患児が成人後の診療の担い手が不足しており、原発性免疫不全症に合併する自己免疫疾患への対応には、小児科と膠原病科の協力が欠かせない。今まさに時代が求めるものは、我が国の小児リウマチ学を継承し、小児から成人まで膠原病 · リウマチ性疾患などの免疫難病をシームレスに研究 · 教育する体制を確立することである。この時代の要請に応えるために、平成 28 年 4 月に本学大学院医歯学総合研究科に生涯免疫難病学講座（以下、本講座）が寄附講座として開講された。膠原病 · リウマチ内科および小児科の協力を得て、「難病に小児科/内科の枠組みなし」の思想の下、既存講座では達成しえないような免疫難病の研究 · 教育体制の構築を進め、ひいては難病全般の診療と学問の刷新と充実の先駆けとなる新講座となったと確信している。その甲斐もあって、本講座で取り組んでいる「移行期医療」研究は、広く社会に受け入れられるようになり、国の政策の一つとしてとして取り上げるようになってきた。本講座を更新することで、社会の要請に呼応する必要性および義務がある。本講座では、これまでの成果を実臨床に活かしつつ、PID に合併した自己免疫疾患の診療および小児期に診断された PID 患者に対する移行期医療に対するニーズにも応えてゆく責務を果たすべく更なる追求と飛躍を目指して、講座の更新を図ることを画策している。

(2) 研究活動

1）膠原病 · リウマチ内科および小児科の連携による研究 · 教育体制の確立
本講座では、概して小児と成人のリウマチ · 膠原病疾患の相同性あるいは相違性を明確に認識し、「ライフコース (生涯) を通じた難病対策」のための全人的アプローチ法を開発し具現化を図る。リウマチ性疾患では様々な治療戦略が提唱されてきたが、患者背景、とくに年齢を考慮したきめ細かい戦略は提唱されていないのが現状である。小児から成人への移行期には、小児科から内科への担当科/主治医変更、薬物代謝や体格の変化による必要薬物量の変化など、過渡期特有の問題が多々生じうる。また、メトトレキサートをはじめ種々の治療制限をうける挙児希望者や、合併症やコンプライアンスが懸念される高齢者など、それぞれのニーズと問題点に配慮した治療戦略の提唱を引き続き行っていく。

2）小児リウマチ · 膠原病疾患に対するデータベースの構築と解析および成人例との比較検討
本講座が中心となり、これまで本邦では整備されていない小児リウマチ · 膠原病疾患における全国的なデータベース構築の完成を目指す。
とくに、若年性特発性関節炎（以下、JIA）においては、日本小児リウマチ学会の協力の下、500 例規模の登録を目指すとともに、継続的な観察により長期経過を把握することを目的として、既存の成人関節リウマチ（以下、RA）データベース：NinJa (National Database of Rheumatic Disease by iR-net in Japan) と連動したデザインとする。JIA における現状の把握と問題点の抽出を行うと共に、JIA と RA で共通して使用可能な評価指標を確立し、既存の RA 疾患活動性指標の JIA での妥当性を検討する。関節型 JIA 症例では、小児期に激しい活動性を示した

患者を含め、約 30%は drug-free となるため、このような症例の解析をおこなうことで成人例での drug-free の可能性を検討する。成人発症 Still 病は、全身型 JIA が成人期に発症したものと考えられてきたが、相違点も存在する。全身型 JIA では一方遺伝子異常が根底にあると考えられるようになっている。当講座では、コホート調査や体系的遺伝子解析、マイクロビオーム解析などを用いて、JIA の各種病型と、成人発症 Still 病や RA などの関連や病態解析を行い、これらの疾患の再定義を行う。
他の膠原病では、多発性筋炎 · 皮膚筋炎、特に皮膚筋炎では小児および成人期に 2 つの発症ピークがあり、かつ皮膚石灰化などの症状にも差があり、病態の異同が注目される。我が国のコホート研究は、厚生労働省の「指定難病」や「小児慢性特定疾病」の認定のために小児と成人で独立して調査されてきた。国際的には、Euromyositis が多国間にまたがるデータベースを構築している。本講座では、国際的にデータベースと連携する小児から成人までのデータベースを構築し、我が国の筋炎患者と診療の実態を明らかにする。

3）本邦における小児リウマチ · 膠原病患者に関する疫学研究やエビデンスに基づく診断基準 · 重症度分類の適正評価と策定に向けたデータベース研究
本講座は、とくに小児リウマチ · 膠原病疾患に対して、厚生労働科学研究　難治性疾患等政策研究事業（免疫アレルギー疾患等政策研究事業）「移行期 JIA を中心としたリウマチ性疾患における患者の層別化に基づいた生物学的製剤等の適正使用に資する研究」班（研究代表者　森　雅亮）、日本小児リウマチ学会との共同研究として、「本邦における小児および成人移行期リウマチ · 膠原病患者に関する疫学研究やエビデンスに基づく診断基準 · 重症度分類の適正評価と策定に向けたデータベース研究」の運営を開始する。上記 2) に示した NinJa システムを活用し、日本小児リウマチ学会疾患登録制度データおよび小児慢性疾病および指定難病データの臨床的活用を図る。
なかでも、小児リウマチ性疾患で最も多い JIA に対する生物学的製剤使用患者に関する疫学研究を優先的に行い、日本における有効性 · 安全性の評価を継続的に行っていく。若年性皮膚筋炎では、国際炎症性筋疾患分類基準プロジェクト (IMCCP) が提示した炎症性筋疾患の診断基準の検証を、日本人小児皮膚筋炎患者集団を対象に多施設共同調査にて施行し、世界に向けて成果を報告する段階になっている。

4）疾患バイオリソースセンターを活用した全エクソン解析、次世代シークエンス解析、免疫マーカー研究による、小児から成人までにみられる免疫難病疾患全般の病態解明
本講座では、全エクソン解析、次世代シークエンス解析、免疫マーカー研究などの最新技術を有する本学の疾患バイオリソースセンターを活用し、小児から成人までにみられる免疫難病疾患全般（原発性免疫不全症、自己炎症疾患、リウマチ · 膠原病疾患、血管炎症候群）の病態解明に挑み、小児期発症例、小児から成人への移行例、成人発症例について網羅的に解析をおこなう。原発性免疫不全症では 300 以上の責任遺伝子が明らかになっており、全身性エリテマトーデス（以下、SLE）症状や関節炎、血管炎を主体とするような疾患でも遺伝子異常が同定されている。このような知見を生かし、成人におけるリウマチ · 膠原病疾患における遺伝的背景及び発現修飾に光を当てた研究を行う。加えて、原発性免疫不全症の新生児マススクリーニングなど先端的早期診断法の開発と導入にも力を注ぎ、成人期におけるリウマチ · 膠原病疾患と関連について検討を行う。
研究成果の期待される応用としては、① JIA に対するサイトカイン阻害薬の効果判定、②「遺伝子変異を背景とするクリオピリン関連周期性発熱症候群」に対する抗 IL-1 β モノクローナル抗体療法の効果判定、③高サイトカイン血症の成因および発症機序に基づく普遍的な早期診断の確立、④成人膠原病症例における免疫不全症遺伝子の関与の解析、⑤免疫不全を背景とした自己免疫疾患に対する IVIg の効果などがあげられる。

5) 原発性免疫不全症患者を対象とした移行期医療の実施と合併する自己免疫現象 · 自己免疫疾患の診療
原発性免疫不全症の多くは小児で発症し、免疫グロブリン製剤の継続的補充療法を要する場合が多いが、このような患児が成人した後の継続した診療の担い手が不足している。さらには、成人後に発見される原発性免疫不全症や、合併する自己免疫現象 · 自己免疫疾患も稀ではなく、診療科横断的な診療体制が求められている。本施設では積極的に原発性免疫不全患者の移行期医療に取り組んでおり、こうしたアンメットニーズに応えるべく、小児科-膠原病科間のシームレスな診療が行える特質を生かした診療を行ってゆく。

(3)　教育活動

小児から成人まで縦断的に難病を診られるハイブリッドリウマチ医の育成
　これまでの診療体制は、小児と成人で担当が分かれているが、これはあくまで医療者側の都合であった。患者から見れば、同一疾患にもかかわらず、成長してある年齢に達したら担当科、主治医が変わってしまうことに対し、戸惑いと不安、不満を感じるものも少なくない。成人側の担当医も、患者がこれまでどのような経過だったのか、成長期において医学的なこと以外にどのような問題や悩みがあったのか、キャリーオーバー症例に対して RA と同様に接して良いのかなど、対応に苦慮することも多い。そのためにも、当講座が中心となり、小児と成人の両方の治療に精通し、小児と成人の垣根を越えたリウマチ診療のスペシャリストの育成を行い、教育体制を整え、他施設からの研修も引き続き受け入れていく。また、他施設からの相談にも対応できるような相談窓口の設置なども検討していく。

(4) 教育方針

本講座は、膠原病・リウマチ内科および小児科の協力を得て、患者の生涯にわたっての免疫難病の研究・教育・診療体制の統合を推進し、ひいては難病全般の診療と学問の刷新、充実化の先駆けとなる講座をめざすべく動き出している。小児から成人移行期、成人期から高齢者の患者が抱える諸問題の解決を可能とするような小児科、成人科の専門医を育成する。

(5) 臨床活動および学外活動

臨床活動
小児科、膠原病リウマチ内科で連携して小児から高齢者まで、膠原病・リウマチ性疾患の診療を行った。

学外活動

森　雅亮教授が以下における研究代表として活動

＃ AMED 免疫アレルギー疾患実用化研究事業 関節リウマチ (RA) 大規模データベースを用いた、移行期・AYA 世代および妊娠期 RA 患者における疾患特性の異同を内包するライフステージの課題抽出とその解決に資する研究 [研究代表：森雅亮]

＃厚生労働科学研究費補助金 (免疫・アレルギー疾患政策研究事業) 移行期 JIA を中心としたリウマチ性疾患における患者の層別化に基づいた生物学製剤等の適正使用に資する研究 [研究代表：森雅亮]

森　雅亮教授が以下における研究分担者として活動

＃厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 自己免疫疾患に関する調査研究
＃厚生労働省科学研究費補助金　免疫・アレルギー疾患政策研究事業
関節リウマチ診療ガイドラインの改訂による医療水準の向上に関する研究
＃厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業
　強直性脊椎炎に代表される脊椎関節炎の疫学調査・診断基準作成と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究

助教の伊良部仁は以下の研究協力者として活動
＃　厚生労働科学研究費補助金　免疫・アレルギー疾患政策研究事業　移行期 JIA を中心としたリウマチ性疾患における患者の層別化に基づいた生物学的製剤等の適正使用に資する研究

助教の佐々木広和は以下の研究代表者として活動
＃ 文部科学省科学研究費助成事業 若手研究
多発性筋炎の病態における PD-L1 の機能解析及び治療への応用

以上につき、国内外の学会、研究会で研究成果を報告した。

(6) 臨床上の特色

生涯免疫難病学講座は、「子どもから、成人、高齢者まで一生涯にわたり、膠原病・リウマチ性疾患などの『免疫難病』の研究・教育・診療体制の統合を目指す，世界に類をみない大学講座」である。本学の膠原病・リウマチ内科と小児科がタイアップすることにより、従来の講座のみでは達成できなかった、難病患者が抱える諸問題を解決することに努めている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Takuji Itakura, Hirokazu Sasaki, Tadashi Hosoya, Taiki Yamaguchi, Erika Mimori, Yukino Saimon, Hideyuki Iwai, Natsuka Umezawa, Daisuke Kawata, Naoki Kimura, Morito Kurata, Masaki Shimizu, Shinsuke Yasuda. A novel gain-of-function missense variant in PLCG2 associated with autoinflammation and hypergammaglobulinaemia. Rheumatology (Oxford). 2023.11; 62(11); e319-e321

2. Susumu Yamazaki, Kazushi Izawa, Masakazu Matsushita, Akinori Moriichi, Dai Kishida, Hajime Yoshifuji, Ken Yamaji, Ryuta Nishikomori, Masaaki Mori, Takako Miyamae. Promoting awareness of terminology related to unmet medical needs in context of rheumatic diseases in Japan: a systematic review for evaluating unmet medical needs. Rheumatol Int. 2023.11; 43(11); 2021-2030

3. Masaaki Mori, Kanako Yoshizaki, Shinichi Watabe, Mika Ishige, Akinari Hinoki, Takuya Kondo, Tomoaki Taguchi, Hisaya Hasegawa, Tomoko Hatata, Naoyuki Tanuma, Kosuke Kirino, Akihiro Hirakawa, Takuya Naruto, Minoru Imai, Ryuji Koike, Kenichiro Hosoi, Satoshi Kusuda. Safety, efficacy and pharmacokinetics of palivizumab in off-label neonates, infants, and young children at risk for serious respiratory syncytial virus infection: a multicenter phase II clinical trial. Lancet Reg Health West Pac. 2023.10; 39; 100847

4. Masaaki Mori, Tomoyo Matsubara. Overview of Guidelines for the Medical Treatment of Acute Kawasaki Disease in Japan (2020 Revised Version) and Positioning of Plasma Exchange Therapy in the Acute Phase. Pediatr Infect Dis J. 2023.09; 42(9); e328-e332

5. Hidehiko Narazaki, Shinji Akioka, Yuko Akutsu, Mariko Araki, Mikiya Fujieda, Daisuke Fukuhara, Ryoki Hara, Kunio Hashimoto, Seira Hattori, Ren Hayashibe, Tomoyuki Imagawa, Yuzaburo Inoue, Hiroyuki Ishida, Shuici Ito, Yasuhiko Itoh, Tomohiro Kawabe, Toshiyuki Kitoh, Ichiro Kobayashi, Tadashi Matsubayashi, Takako Miyamae, Mao Mizuta, Masaaki Mori, Ayako Murase, Yasuo Nakagishi, Koji Nagatani, Naoko Nakano, Toyoki Nishimura, Tomo Nozawa, Nami Okamoto, Yuka Okura, Hiromi Sawada, Emi Sawanobori, Yuko Sugita, Yujiro Tanabe, Minako Tomiita, Ken-Ichi Yamaguchi, Ryuhei Yasuoka, Koji Yokoyama. Epidemiology conduction of paediatric rheumatic diseases based on the registry database of the Pediatric Rheumatology Association of Japan. Mod Rheumatol. 2023.08; 33(5); 1021-1029

6. Athimalaipet V Ramanan, Pierre Quartier, Nami Okamoto, Ivan Foeldvari, Alberto Spindler, Šárka Fingerhutová, Jordi Antón, Zhongkai Wang, Gabriella Meszaros, Joana Araújo, Ran Liao, Stuart Keller, Hermine I Brunner, Nicolino Ruperto, , . Baricitinib in juvenile idiopathic arthritis: an international, phase 3, randomised, double-blind, placebo-controlled, withdrawal, efficacy, and safety trial. Lancet. 2023.08; 402(10401); 555-570

7. Mari Kamiya, Naoki Kimura, Natsuka Umezawa, Hisanori Hasegawa and Shinsuke Yasuda. Muscle fiber necroptosis in pathophysiology of idiopathic inflammatory myopathies and its potential as target of novel treatment strategy Frontiers in Immunology. 2023.07; 14; 1191815

8. Mariko Mouri, Toru Kanamori, Eriko Tanaka, Kanako Hiratoko, Mariko Okubo, Michio Inoue, Tomohiro Morio, Masaki Shimizu, Ichizo Nishino, Naoko Okiyama, Masaaki Mori. Hepatic veno-occlusive disease accompanied by thrombotic microangiopathy developed during treatment of juvenile dermatomyositis and macrophage activation syndrome: A case report. Mod Rheumatol Case Rep. 2023.06; 7(2); 404-409

9. Shuya Kaneko, Masaki Shimizu, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Koji Yokoyama, Kenji Furuno, Takayuki Tanaka, Kazuyuki Ueno, Shuhei Fujita, Naomi Iwata, Junya Fujimura, Keiji Akamine, Mao Mizuta, Yasuo Nakagishi, Toshinori Minato, Kenichi Watanabe, Anna Kobayashi, Takuya Endo, Katsuhiko Tabata, Masaaki Mori, Tomohiro Morio. Clinical significance of serum cytokine profiles for differentiating between Kawasaki disease and its mimickers. Cytokine. 2023.06; 169; 156280

10. Natsuka Umezawa, Fumitaka Mizoguchi, Yasuhiro Maejima, Naoki Kimura, Hisanori Hasegawa, Tadashi Hosoya, Minoru Fujimoto, Hitoshi Kohsaka, Tetsuji Naka, Shinsuke Yasuda. Leucine-rich alpha-2 glycoprotein as a potential biomarker for large vessel vasculitides. Front Med (Lausanne). 2023.05; 10; 1153883

11. Masaki Shimizu, Kenichi Nishimura, Naomi Iwata, Takahiro Yasumi, Hiroaki Umebayashi, Yasuo Nakagishi, Yuka Okura, Nami Okamoto, Noriko Kinjo, Mao Mizuta, Masato Yashiro, Junko Yasumura, Hiroyuki Wakiguchi, Tomohiro Kubota, Mariko Mouri, Utako Kaneko, Masaaki Mori. Treatment for

macrophage activation syndrome associated with systemic juvenile idiopathic arthritis in Japan. Int J Rheum Dis. 2023.05; 26(5); 938-945

12. Xavier Carbonell-Estrany, Eric Af Simões, Louis J Bont, Bosco A Paes, . Prioritising respiratory syncytial virus prevention in low-income and middle-income countries. Lancet Glob Health. 2023.05; 11(5); e655-e657

13. Shuya Kaneko, Masaki Shimizu, Futaba Miyaoka, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Mao Mizuta, Yasuo Nakagishi, Naomi Iwata, Junya Fujimura, Masaaki Mori, Tomohiro Morio. The dynamics of laboratory markers reflecting cytokine overproduction in macrophage activation syndrome complicated with systemic juvenile idiopathic arthritis. Clin Immunol. 2023.03; 248; 109270

14. Yutaka Kawahito, Akio Morinobu, Yuko Kaneko, Masataka Kohno, Shintaro Hirata, Mitsumasa Kishimoto, Yohei Seto, Takahiko Sugihara, Eiichi Tanaka, Hiromu Ito, Toshihisa Kojima, Isao Matsushita, Keiichiro Nishida, Masaaki Mori, Atsuko Murashima, Hisashi Yamanaka, Takeo Nakayama, Masayo Kojima, Masayoshi Harigai. Drug treatment algorithm and recommendations from the 2020 update of the Japan College of Rheumatology clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis-secondary publication. Mod Rheumatol. 2023.01; 33(1); 21-35

15. Ryosuke Wakatsuki, Masaki Shimizu, Asami Shimbo, Eriko Adachi, Toru Kanamori, Susumu Yamazaki, Tomohiro Udagawa, Kei Takasawa, Kenichi Kashimada, Tomohiro Morio, Masaaki Mori. Atrophic autoimmune thyroiditis complicated with systemic lupus erythematosus. Mod Rheumatol Case Rep. 2023.01; 7(1); 65-67

16. Masaki Shimizu, Hitoshi Irabu, Asami Shimbo, Shuya Kaneko, Masaaki Mori. Monthly intravenous immunoglobulin for refractory intestinal IgA vasculitis. Pediatr Int. 2023.01; e15470

17. Hiromu Ito, Keiichiro Nishida, Toshihisa Kojima, Isao Matsushita, Masayo Kojima, Shintaro Hirata, Yuko Kaneko, Mitsumasa Kishimoto, Masataka Kohno, Masaaki Mori, Akio Morinobu, Atsuko Murashima, Yohei Seto, Takahiko Sugihara, Eiichi Tanaka, Takeo Nakayama, Hisashi Yamanaka, Yutaka Kawahito, Masayoshi Harigai. Non-drug and surgical treatment algorithm and recommendations for the 2020 update of the Japan College of Rheumatology clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis-secondary publication. Mod Rheumatol. 2023.01; 33(1); 36-45

18. Megumi Matsumoto, Susumu Yamazaki, Eisuke Inage, Keisuke Jimbo, Mitsuyoshi Suzuki, Masaaki Mori, Toshiaki Shimizu. TAFRO syndrome in an adolescent with acute hepatitis-like imaging findings. Pediatr Int. 2023; 65(1); e15695

1. 森　雅亮. 新型コロナウイルス · パンデミック下における RS ウイルスをはじめとした感染症の動向および神奈川県におけるコロナ対策の検証. 横須賀市医師会報. 2023.09; (366); 18-20

2. 森　雅亮. 【川崎病の子どもと家族への看護ケア】基礎知識　川崎病急性期での血漿交換治療 小児看護. 2023.08; 46(8); 927　-933

3. 森　雅亮. 巻頭言　野口英世博士ゆかりの旧細菌検査室を訪ねて 小児感染免疫.. 2023.05; 1; 1-3

4. 森　雅亮. リウマチ性疾患の移行期医療. リウマチクリニック. 2023.03;

5. 東 直人, 池田 啓, 柏倉 剛, 加藤 将, 庄田 宏文, 坪井 洋人, 中川 夏子, 深谷 進司, 森 雅亮. 医師 · 患者間でのコミュニケーションを見つめ直す　診療時間の限られたリウマチ医のためのコミュニケーションテクニック 日本リウマチ学会総会 · 学術集会プログラム · 抄録集. 2023.03; 67; 991

6. 山本 晃央. 全身性強皮症マウスモデルにおける CDK4/6 阻害薬の治療効果 リウマチ科. 2023.02; 69(2); 216-223

7. 森　雅亮. 若年性特発性関節炎における疾患活動性評価 リウマチ科. 2023.01; 69(1); 90-94

[書籍等出版物]

1. 梶原　道子. 小児臨床検査ガイド　第３版. 文光堂, 2023.12 (ISBN : 978-4-8306-3047-7)

2. 森　雅亮　他.　日常診療に役立つ小児感染症マニュアル 2023.　東京医学社, 2023.12 (ISBN : 978-4-88563-743-8)

3. Janet E. McDonagh· Rachel S. Tattersall(著) ／川畑 仁人 · 森 雅亮 · 山崎 和子 (監訳). AYA 世代のリウマチ診療 臨床と実践のために. 朝倉書店, 2023.11 (ISBN : 978-4-254-32269-9)
4. 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業BIRTHDAY 症候性先天性サイトメガロウイルス感染症を対象としたバルガンシクロビル治療の開発研究班 (編). 先天性サイトメガロウイルス感染症診療ガイドライン 2023 . 診断と治療社, 2023.10 (ISBN : 978-4-7878-2550-6)
5. 森雅亮. 膠原病 · リウマチ性疾患.　小児科専門医受験のための最速トレーニング 144 問.. 総合医学社, 2023.07 (ISBN : 978-4-88378-947-4)
6. 森雅亮. 小児リウマチ疾患　トシリズマブ治療の理論と実際.. メディカルレビュー社, 2023.03
7. 森　雅亮. 今日の治療薬 2023　解説と便覧. 南江堂, 2023.01 (ISBN : 978-4-524-20334-5)
8. 森　雅亮. 新看護学　14　母子看護　第 13 版. . 医学書院, 2023.01 (ISBN : 9784260050005)
9. 森　雅亮. 慢性活動性 EB ウイルス病とその類縁疾患の診療ガイドライン 2023. 監修 日 本小児感染免疫学会.. 診断と治療社, 2023.01 (ISBN : 9784787825872)
10. 三村 俊英. 森　雅亮. 他 自己免疫疾患に関する調査研究班・成人スチル病分科会. 成人スチル病診療ガイドライン 2017 年版 ［2023 年 Update］. 厚生労働科学研究費補 助金難治性疾患等政策研究事業自己免疫疾患に関する調査研究班 編集. . 診断と治療社, 2023.01 (ISBN : 9784787825865)
11. 森　雅亮. 最新ガイドライン準拠　小児科診療 · 治療指針. 改訂第 3 版. 2023.01
12. 森雅亮. 若年性特発性関節炎. 小児科診療ガイドライン　—最新の診療指針—〈第 5 版〉. 総合医学社, 2023.01
13. 森　雅亮. Part 15: 第 178 リウマチ性疾患/179 章リウマチ性疾患の治療『ネルソン小児科学 原著 第 21 版』. 2023.01

[総説]

1. 森　雅亮. 【こどもの皮膚疾患検査マニュアル】こどもによくみられる膠原病 · 免疫不全症 Derma.. 2023.05; 334; 17-27
2. 森　雅亮. 【新しい時代の小児感染症】原因微生物別　真菌　カンジダ 小児内科. 2023.04; 55(4); 669-672
3. 森　雅亮. 【その道のプロの経験から学ぶ　小児診療のピットフォール】膠原病 · リウマチ疾患 小児科. 2023.02; 64(2); 143-151
4. 森　雅亮. 【分子標的薬を極める】膠原病 · 自己炎症症候群　血管炎症候群 (川崎病, 高安動脈炎,ANCA 関連血管炎など)　小児内科. 2023.02; 55(2); 213-216

[講演 · 口頭発表等]

1. 森　雅亮. RS ウイルス感染症の感染リスクと予防戦略に関する討議. 新規抗 RS ウイルスモノクローナル抗体製剤に関するアドバイザリー会議 2023.12.22 東京都
2. 森　雅亮. 免疫抑制状態にある患者に対する帯状疱疹ワクチンの必要性. GSK 帯状疱疹予防 Web 講演会 in 神奈川 ～帯状疱疹予防に世界初の組換えサブユニットワクチン*～ 2023.12.15 WEB
3. 森　雅亮. 小児肺炎球菌感染症の現状と新規 PCV への期待. 神奈川ワクチン講演会 2023.12.07 横浜市
4. 森　雅亮.　小児肺炎球菌感染症の現状と新規 PCV への期待.　第 465 回相模原市小児科医会月例懇話会 2023.11.29 WEB
5. 森　雅亮. 成人期を意識した小児 SLE 治療マネジメント. 北海道 SLE 移行期セミナー 2023.11.03 札幌市
6. 森　雅亮. 骨粗鬆症治療における顎骨壊死委員会ポジションペーパー 2023 について. Kanagawa RA Bone Health　Age free Conference 6th 2023.10.12 神奈川
7. 森　雅亮. 免疫不全 · ダウン症候群児における Palivizumab 本邦のみの適応追加が成就するまで . シナジス追加適応　本社社員教育企画 2023.10.11 東京
8. 板倉 卓司, 木村 直樹, 佐々木 広和, 細矢 匡, 保田 晋助.　成人膠原病患者における qPCR 法による TRECs/KRECs 定量を用いたリンパ球新生能評価と、その治療前後での比較.　日本臨床免疫学会総会プログラム · 抄録集 2023.10.01

9. 田川 泰寛, 齋藤 鉄也, 岩井 秀之, 野田 聖二, 小宮 陽二, 山本 晃央, 遠藤 健太郎, 古賀 英之, 高原 康弘, 杉本 和隆, 関矢 一郎, 溝口 史高, 保田 晋助. 関節リウマチ滑膜線維芽細胞サブセットにおける IL-6 産生を抑制する転写因子の探索. 日本臨床免疫学会総会プログラム · 抄録集 2023.10.01

10. 齋藤 鉄也, 野田 聖二, 逵日罕 , 山本 晃央, 佐藤 元彦, 田川 泰寛, 遠藤 健太郎, 古賀 英之, 高原 康弘, 杉本 和隆, 関矢 一郎, 保田 晋助. 関節リウマチ滑膜線維芽細胞サブセットのセクレトーム解析による新規バイオマーカーの探索. 日本臨床免疫学会総会プログラム · 抄録集 2023.10.01

11. 森　雅亮. 病態に基づいた川崎病治療の update インフリキシマブ+血漿交換による段階的治療の実用性 . 第 43 回日本川崎病学会 · 学術集会 2023.09.30 大阪

12. 森雅亮. 小児の炎症性筋疾患. 第 65 回日本小児神経学会学術集会 2023.05.26 岡山

13. 東 直人, 池田 啓, 柏倉 剛, 加藤 将, 庄田 宏文, 坪井 洋人, 中川 夏子, 深谷 進司, 森 雅亮.. 医師 · 患者間でのコミュニケーションを見つめ直す　診療時間の限られたリウマチ医のためのコミュニケーションテクニック. 第 67 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.04.25 福岡

14. 川上 美里, 遠藤 信幸, 石崎 克樹, 松村 憲浩, 元永 裕生, 森 翔, 安藤 貴泰, 内田 麻理奈, 川崎 達也, 鈴木 翔太郎, 林 祐子, 櫻井 恵一, 清川 智史, 水島 万智子, 吉岡 耕平, 殿岡 久美子, 高桑 由希子, 今村 充, 山崎 和子, 杉原 毅彦, 永渕 裕子, 大岡 正道, 森 雅亮, 川畑 仁人. 発熱, 複数動脈瘤破裂を同時に呈しエーラスダンロス症候群の孤発例の診断に至った一例 . 第 67 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.04.25 福岡

15. 吉岡 耕平, 山崎 和子, 鈴木 翔太郎, 矢野 裕介, 松村 憲浩, 元永 裕生, 森 翔, 柏戸 桃子, 豊福 悦史, 林 祐子, 櫻井 恵一, 毛利 万里子, 大岡 正道, 川畑 仁人, 森 雅亮. . 難治性肛門周囲膿瘍から壊疽性膿皮症様皮疹を呈した PAPA 症候群の 2 歳男児例. . 第 67 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.04.25 福岡

16. 山崎 和子, 林 祐子, 豊福 悦史, 松村 憲浩, 櫻井 恵一, 吉岡 耕平, 森 翔, 大岡 正道, 森 雅亮, 川畑 仁人.. 大動脈炎,IgA 腎症を合併した若年性乾癬性関節炎の女児例 . 第 67 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.04.25 福岡

17. 矢野 裕介, 山崎 和子, 櫻井 恵一, 森 翔, 石崎 克樹, 松村 憲浩, 林 祐子, 安藤 貴泰, 豊福 悦史, 川崎 達也, 鈴木 翔太郎, 吉岡 耕平, 水島 万智子, 今村 充, 高桑 由希子, 山崎 宜興, 大岡 正道, 森 雅亮, 川畑 仁人. . ステロイド抵抗性の経過を辿った高サイトカイン血症による小葉組織融解伴った成人スチル病の 1 例　. 第 67 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.04.25 福岡

18. 林 祐子, 山崎 和子, 松村 憲浩, 森 翔, 豊福 悦史, 櫻井 恵一, 毛利 万里子, 吉岡 耕平, 大岡 正道, 川畑 仁人, 森 雅亮. . 小児の膠原病および若年性特発性関節炎　経頭蓋超音波カラードプラ法が治療効果判定に有用であった原発性中枢神経系血管炎の女児例. . 第 67 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.04.25 福岡

19. 森 翔, 山崎 和子, 元永 裕生, 林 祐子, 豊福 悦史, 毛利 万里子, 吉岡 耕平, 服部 成良, 伊藤 秀一, 川畑 仁人, 森 雅亮. . 小児の膠原病および若年性特発性関節炎　若年性特発性関節炎に似た経過を示した肩関節滑膜性骨軟骨腫症の男児例. . 第 67 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.04.25 福岡

20. 安藤 貴泰, 大岡 正道, 元永 裕生, 森 翔, 石崎 克樹, 川崎 達也, 鈴木 翔太郎, 松村 憲浩, 豊福 悦史, 林 祐子, 吉岡 耕平, 櫻井 恵一, 水島 万智子, 高桑 由希子, 山崎 和子, 今村 充, 永渕 裕子, 山崎 宜興, 森 雅亮, 川畑 仁人. . サルコイドーシス、その他の疾患　MRI で悪性リンパ腫を疑われたことをきっかけに診断された成人の PAPA 症候群の一例. . 第 67 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.04.25 福岡

21. 鈴木 翔太郎, 後藤 由多加, 川上 美里, 石崎 克樹, 松村 憲浩, 元永 裕生, 森 翔, 安藤 貴泰, 川崎 達也, 豊福 悦史, 林 祐子, 櫻井 恵一, 毛利 万里子, 水島 万智子, 吉岡 耕平, 殿岡 久美子, 高桑 由希子, 今村 充, 山崎 和子, 永渕 裕子, 山崎 宜興, 大岡 正道, 杉原 毅彦, 森 雅亮, 川畑 仁人.. サルコイドーシス、その他の疾患　ベリムマブとシクロスポリンの併用が奏功した TAFRO 症候群様症状を呈した全身性エリテマトーデスの一例.. 第 67 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.04.25 福岡

22. 井上 祐三朗, 酒井 良子, 井上 永介, 光永 可奈子, 清水 正樹, 杉原 毅彦, 田中 孝之, 松下 雅和, 森 雅亮, 吉藤 元, 西小森 隆太, 宮前 多佳子 .. 疫学 1:RA/関節型 JIA の治療　指定難病データを用いた関節型若年性特発性関節炎および高安動脈炎の医療実態の検討.. 第 67 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.04.25 福岡

23. 森　雅亮. ライフステージに合わせたシームレスなリウマチ性疾患患者の管理～小児期 · AYA 世代から挙児可能年齢まで～　小児期～AYA 世代の管理オーバービュー. 第 67 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.04.24 福岡

24. 森　雅亮. 本邦で若年性特発性関節炎に使用できる合成抗リウマチ薬と生物学的製剤　成人との違いは?　. 第 67 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.04.24 福岡

25. 吉岡耕平, 山﨑和子, 元永裕生, 森翔, 米倉桃子, 豊福悦史, 林祐子, 毛利万里子, 森雅亮.. 体重増加不良を主訴とした若年性脊椎関節炎の一例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.16 東京

26. 山﨑和子, 豊福悦史, 吉岡耕平, 林祐子, 森翔, 元永裕生, 森雅亮, 川畑仁人. 若年性突発性関節炎との鑑別を要した Pachydermodactyly の 2 例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.15 東京

27. 山崎 晋, 石川 仁太朗, 佐藤 俊介, 矢賀部 彩音, 武田 翔, 宮野 洋希, 遠山 雄大, 宮田 恵理, 丘 逸宏, 吉田 登, 鈴木 恭子, 清水 正樹, 森 雅亮, 清水 俊明. 若年性皮膚筋炎と全身型若年性特発性関節炎の鑑別にサイトカインプロファイル解析が有用であった 1 例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.15 東京

28. 森翔, 山﨑和子, 長田洋資, 麻生健太郎, 元永裕生, 柏戸桃子, 林祐子, 豊福悦史, 毛利万里子, 吉岡耕平, 川畑仁人, 森雅亮. 心タンポナーデに対しての緊急ドレナージを要した全身性エリテマトーデスの一例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京

29. 金子修也, 宮岡双葉, 真保麻実, 衣良部仁, 高澤啓, 清水正樹, 森雅亮, 森尾友宏.. 組織球性壊死性リンパ節炎の診断における血清中インターフェロンアルフェ値の有用性. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京

30. 林祐子, 山﨑和子, 元永裕生, 森翔, 豊福悦史, 毛利万里子, 吉岡耕平, 川畑仁人, 森雅亮. 小児期および思春期 · 若年成人期発症全身性エリテマトーデスの臨床的特徴. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京

31. 金子 修也 大宮岡 双葉, 真保 麻実, 伊良部 仁, 高澤 啓, 清水 正樹, 森 雅亮, 森尾 友宏. 組織球性壊死性リンパ節炎の診断における血清中インターフェロンアルファ値の有用性. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京

32. 梅澤 夏佳, 藤本 穣, 木村 直樹, 長谷川 久紀, 細矢 匡, 上阪 等, 仲 哲治, 保田 晋助. 大型血管炎の診断　大血管炎のバイオマーカーとしての血清 leucine-rich alpha-2 glycoprotein の有用性. 日本リウマチ学会総会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2023.03.01

33. 杉原 毅彦, 松本 拓実, 竹中 健智, 久保 かなえ, 木村 直樹, 津野 宏隆, 松井 利浩. 関節リウマチの医療費　そのほか　関節リウマチ患者における合併症によるダメージの蓄積. 日本リウマチ学会総会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2023.03.01

34. 大庭 聖也, 細矢 匡, 川田 大介, 庭野 智子, 小宮 陽仁, 佐々木 広和, 神谷 麻理, 山本 晃央, 岩井 秀之, 保田 晋助. COVID-19 関連血栓症と抗リン脂質抗体の関連. 日本リウマチ学会総会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2023.03.01

35. 齋藤 鉄也, 野田 聖二, 田川 泰寛, 山本 晃央, 佐藤 元彦, 高原 康弘, 杉本 和隆, 保田 晋助. 関節リウマチの病因、病態-1　関節リウマチ滑膜線維芽細胞サブセットのセクレトーム解析. 日本リウマチ学会総会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2023.03.01

[その他業績]

1. RS ウイルス感染症予防の進歩, 2023 年 11 月
ラジオ NIKKEI　小児科診療 UP-to-DATE

[社会貢献活動]

1. ①試作品評価、　②協業企業探索における助言, 株式会社ライトニックス, 2022 年 05 月 23 日 - 現在

2. 若年 · 移行期から成長した成人の関節リウマチの治療について　　, アステラス製薬株式会社, 若年期から成人期の関節リウマチ治療を考える, HOTEL ARU KSP , 2023 年 01 月 16 日

3. 小児リウマチ移行期医療の現状と取り組み状況 (全国調査データ), かながわ移行期医療支援センター, 2022 年度移行期医療支援研修会, かながわ県民センター, 2023 年 02 月 01 日

4. 膠原病 · リウマチの移行期医療, 中外製薬株式会社, 第 9 回小児から成人まで免疫難病コンソーシアム, ホテルメトロポリタンエドモンド　Zoom, 2023 年 02 月 09 日

5. 関節リウマチ患者における骨粗鬆症治療について ～チャイルドベアリングエージにおける骨粗鬆症治療～, 旭化成ファーマ株式会社, Kanagawa RA Bone Health Age free Conference 5th, TKP 横浜ランドマークタワー, 2023 年 03 月 09 日

6. VN-0200 Advisory Meeting, 第一三共株式会社, VN-0200 Advisory Meeting, 第一三共株式会社本社　, 2023 年 04 月 19 日

7. RA Conversations in Motion in JCR2023, 日本イーライリリー株式会社, RA Conversations in Motion in JCR2023, 福岡サンパレス, 2023 年 04 月 25 日
8. 免疫不全 · ダウン症候群児における palivizumab　本邦のみの適応追加が成就するまで , アストラゼネカ株式会社, Pediatric Conference in Nagasaki, ホテルモリノ新百合ヶ丘, 2023 年 05 月 30 日
9. 病態に基づいた川崎病治療の update　インフリキシマブ＋血漿交換による段階的治療の実用性, 田辺三菱製薬株式会社, 第 10 回小児リウマチ研究会, AP 品川アネックス, 2023 年 06 月 04 日
10. 川崎病, 日本血液製剤機構, JCOM 2023(JCOM：Japanese Conference on Myositis), 東京コンファレンスセンター, 2023 年 06 月 10 日
11. 若年性特発性関節炎 (JIA) の診断 · 治療 · ケアのポイント, 公益財団法人日本リウマチ財団, 令和 5 年度リウマチ月間リウマチ講演会, 都市センターホテル, 2023 年 06 月 10 日
12. 免疫不全 · ダウン症候群児における palivizumab　本邦のみの適応追加が成就するまで , アストラゼネカ株式会社, 2023 沖縄新生児研究会, 沖縄赤十字病院, 2023 年 06 月 16 日
13. 小児の関節炎の鑑別診断と治療の実際　, あゆみ製薬株式会社, 第 10 回中国四国リウマチ医の会, 岡山コンベンションセンター, 2023 年 06 月 18 日
14. AYA 世代の活動性関節炎に対する JAK 阻害薬の実際, アッヴイ合同会社, 小児アレルギー · 自己免疫疾患セミナー in 新潟 2023, ANA クラウンプラザホテル新潟, 2023 年 06 月 22 日
15. 小児リウマチ性疾患における移行期医療　小児から成人までのシームレスなリウマチ · 膠原病治療を目指して, ブリストル · マイヤーズスクイブ株式会社, 第 39 回リウマチ薬物治療研究会, 京成ホテル ミラマーレ, 2023 年 07 月 07 日
16. リウマチ移行期の話題〜小児から成人へ〜, ヴィアトリス製薬株式会社, リウマチ疾患セミナー in KAWASAKI, WEB, 2023 年 07 月 10 日
17. AYA 世代 SLE 治療の現状と課題, グラクソ · スミスクライン株式会社, 神奈川 AYA 世代 SLE Management Forum, 横浜ベイシェラトンホテル & タワーズ, 2023 年 07 月 11 日
18. 小児から成人移行期関節リウマチにおける生物学的製剤の留意点, 大正製薬株式会社, NZ 社内研修会, TKP ガーデンシティ PREMIUM 横浜西口, 2023 年 08 月 08 日
19. レバチオ社内研修会, ヴィアトリス製薬株式会社, レバチオ社内研修会, ホテルアソシア新横浜, 2023 年 08 月 22 日
20. ID NOW RS ウイルスアドバイザリーボード会議, アボットダイアグノスティクスメディカル株式会社, ID NOW RS ウイルスアドバイザリーボード会議, ベルサール八重洲, 2023 年 09 月 15 日
21. ライフサイクルに応じたリウマチ膠原病治療研究　世話人会, 中外製薬株式会社, 第 6 回ライフサイクルに応じたリウマチ膠原病治療研究会, HOTEL ARU KSP , 2023 年 09 月 16 日
22. 皮膚病変を主症状とした小児膠原病〜診断と治療のコツ〜, アッヴイ合同会社, 第 2 回炎症性皮膚疾患研究会, 日本研修センター心斎橋, 2023 年 09 月 23 日
23. 病態に基づいた川崎病治療の update〜インフリキシマブ＋血漿交換による段階的治療の実用性〜, 田辺三菱製薬株式会社, 第 43 回日本川崎病学会 · 学術集会イブニングセミナー, 国立循環器病研究センター, 2023 年 09 月 30 日
24. 『RS ウイルス感染による新生児、乳児及び幼児を対象としたパリビズマブの多施設医師主導治験（新規ハイリスク患者対象)』に基づく承認申請に関して実施予定の PMDA 面談及びその事前準備会議への参加, アストラゼネカ株式会社, PMDA　, 2023 年 10 月 04 日 - 2023 年 10 月 10 日
25. 免疫不全 · ダウン症候群児における Palivizumab 本邦のみの適応追加が成就するまで , アストラゼネカ株式会社, シナジス追加適応　本社社員教育企画, アストラゼネカ東京本社, 2023 年 10 月 11 日
26. 骨粗鬆症治療における顎骨壊死委員会ポジションペーパー 2023 について, 旭化成ファーマ株式会社, Kanagawa RA Bone Health　Age free Conference 6th, WEB, 2023 年 10 月 12 日
27. 若年性特発性関節炎の病態からみた治療戦略 TNF α の役割とアダリムマブ治療の実際, アッヴィ合同会社, 第 32 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会　ＢＩＯ臨床セミナー 1, TKP ガーデンシティ premium 大宮, 2023 年 10 月 13 日

28. SLE におけるステロイドスペアリング, 旭化成ファーマ株式会社, 第 32 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会ランチョンセミナー 2, TKP ガーデンシティ premium 大宮, 2023 年 10 月 14 日

29. ワクチン · 感染症に関する最新の話題 〜今年度に新規承認あるいは適用が拡大されたワクチンを中心に〜, Meiji Seika ファルマ株式会社, 令和 5 年度 第 6 回 横浜市薬剤師会学術研修会, WEB, 2023 年 10 月 28 日

30. 最近の知見を踏まえた sJIA の病態と治療に関する座談会, ノバルティスファーマ株式会社, 今こそ知りたい、sJIA 診療の最新知見/座談会, ノバルティスファーマ株式会社本社, 2023 年 10 月 29 日

31. 成人期を意識した小児 SLE 治療マネジメント, グラクソ · スミスクライン株式会社, 北海道 SLE 移行期セミナー, 札幌パークホテル, 2023 年 11 月 03 日

32. Symposium 教育セミナー: 免疫不全 · ダウン症候群児における下気道感染のリスクとその管理, サノフィ株式会社, 第 67 回日本新生児成育医学会 · 学術集会, パシフィコ横浜会議センター, 2023 年 11 月 04 日

33. 若年性特発性関節炎　移行期の課題, ノバルティスファーマ株式会社, 一緒に考えよう! 指定難病疾患の移行期医療とチーム支援, WEB, 2023 年 11 月 08 日

34. 小児炎症性腸疾患における小児医療連携とトランジション, アッヴィ合同会社, IBD 小児医療連携セミナー, HOTEL ARU KSP, 2023 年 11 月 20 日

35. イブニングセミナー 2　小児呼吸器感染症診療の展望, アボットダイアグノスティクスメディカル株式会社, 第 55 回日本小児感染症学会総会 · 学術集会, 名古屋国際会議場, 2023 年 11 月 25 日

36. 小児肺炎球菌感染症の現状と新規 PCV への期待, MSD 株式会社, 第 465 回相模原市小児科医会月例懇話会, WEB, 2023 年 11 月 29 日

37. 小児肺炎球菌感染症の現状と新規 PCV への期待, MSD 株式会社, 神奈川ワクチン講演会, 横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ, 2023 年 12 月 07 日

38. 小児 SLE 研究の日本代表になろう!/全身型 JIA と MAS に対する治療, ノバルティスファーマ株式会社, JISEDAI の会, WEB, 2023 年 12 月 10 日

39. 免疫抑制状態にある患者に対する帯状疱疹ワクチンの必要性, グラクソ · スミスクライン株式会社, GSK 帯状疱疹予防 Web 講演会 in 神奈川 〜帯状疱疹予防に世界初の組換えサブユニットワクチン*〜, ホテル ARU KSP, 2023 年 12 月 15 日

40. RS ウイルス感染症の感染リスクと予防戦略に関する討議, サノフィ株式会社, 新規抗 RS ウイルスモノクローナル抗体製剤に関するアドバイザリー会議, サノフィ株式会社本社, 2023 年 12 月 22 日

消化器連携医療学講座

Department of Collaborative Medicine for Gastroenterology and Hepatology (CMGH)

准教授：藤井俊光
講師：竹中健人

(1) 分野概要

本講座は東京医科歯科大学附属病院における消化器内科領域の医療の充実と茨城県などの地域医療を支える消化器内科医の養成や確保を目的に開設された。地域医療では慢性的な医師不足により、消化器内科診療の担い手が不足している。本講座は、消化器病態学分野と共同して、土浦協同病院をはじめとする関連病院との間に構築されてきた情報共有システムと教育研修支援システムによる連携を強化し、双方向の交流を通じて地域医療の向上を目指すものである。

(2) 研究活動

· 生活習慣病に関連する肝疾患についての臨床研究
· 肝胆膵領域における最適化治療の確立
· クローン病小腸病変の評価および治療法の開発
· 人工知能による消化器診療支援技術の開発

(3) 教育活動

消化器病態学分野と共同して、医学部医学科学生、初期研修医、ならびに後期研修医の教育に関与している。また、大学院生への専門知識や技術の教育も行っている。

(4) 教育方針

本講座は、消化器疾患や肝臓疾患に関する優れた臨床医を育成することが大学院の教育目的である。大学院生の教育は医師としてだけではなく、指導医としても十分な知識や技術を取得する目的としている。

(5) 臨床活動および学外活動

消化器病態学分野と共同して、主に消化器内科疾患の外来 · 入院診療を行っている。また、消化器病態学分野と共に土浦協同病院をはじめとした多数の他施設共同研究を行っており、AI 研究においては、東京医科歯科大学の包括連携プログラムを活用し、産学共同研究を行っている。

(6) 臨床上の特色

消化器内科分野と共同して消化器内科領域の診療にあたっている。専門外来として、「肝炎 · 肝癌撲滅外来」や「IBD 外来」を開設し、肝臓疾患や炎症性腸疾患の診療を行っている。ウイルス肝炎に対しては、他施設共同研究として 2000 例以上の症例数をもつ我が国有数の「御茶ノ水 liver カンファレンス共同研究」を行うなど、豊富な治療経験を持っている。また、肝癌診療においては、造影超音波や Real-time virtual sonography を用いて安全で確実なラジオ波熱凝固療法を行っており、その有効性についても報告してきた。また小腸内視鏡検査は世界でもトップクラスの件数を行っており、それを用いたクローン病の病勢評価や狭窄の治療などの有効性を報告してきた。

(7) 研究業績

[原著]

1. Kirino Sakura, Tamaki Nobuharu, Kurosaki Masayuki, Takahashi Yuka, Higuchi Mayu, Itakura Yoshie, Tanaka Yuki, Inada Kento, Ishido Shun, Yamashita Koji, Nobusawa Tsubasa, Matsumoto Hiroaki, Hayakawa Yuka, Kakegawa Tatsuya, Takaura Kenta, Tanaka Shohei, Maeyashiki Chiaki, Kaneko Shun, Yasui Yutaka, Tsuchiya Kaoru, Nakanishi Hiroyuki, Okamoto Ryuichi, Izumi Namiki. Detecting advanced liver fibrosis using ultrasound shear wave velocity measurement in the general population QUANTITATIVE IMAGING IN MEDICINE AND SURGERY. 2023.10; 13(10); 6493-6502

2. Takeshi Ueda, Fumikazu Koyama, Akira Sugita, Hiroki Ikeuchi, Kitaro Futami, Kouhei Fukushima, Riichiro Nezu, Hideki Iijima, Tsunekazu Mizushima, Michio Itabashi, Kazuhiro Watanabe, Keisuke Hata, Takahide Shinagawa, Katsuyoshi Matsuoka, Kento Takenaka, Makoto Sasaki, Manabu Nagayama, Hironori Yamamoto, Masaru Shinozaki, Mikihiro Fujiya, Jun Kato, Yoshitaka Ueno, Shinji Tanaka, Yoshiki Okita, Yoshinari Hashimoto, Taku Kobayashi, Kazutaka Koganei, Motoi Uchino, Hisao Fujii, Yasuo Suzuki, Tadakazu Hisamatsu. Endoscopic Lesions of Postoperative Anastomotic Area in Patients With Crohn's Disease in the Biologic Era: A Japanese Multi-Centre Nationwide Cohort Study. J Crohns Colitis. 2023.12; 17(12); 1968-1979

3. Laurent Peyrin-Biroulet, Jessica R Allegretti, David T Rubin, Brian Bressler, Matthew Germinaro, Kuan-Hsiang Gary Huang, Nicole Shipitofsky, Hongyan Zhang, Rebbecca Wilson, Chenglong Han, Brian G Feagan, William J Sandborn, Julian Panés, Tadakazu Hisamatsu, Gary R Lichtenstein, Bruce E Sands, Axel Dignass ; QUASAR Study Group. Guselkumab in Patients With Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis: QUASAR Phase 2b Induction Study. Gastroenterology. 2023.12; 165(6); 1443-1457

4. Shuji Hibiya, Takashi Fujii, Toshimitsu Fujii, Shinji Suzuki, Mayumi Kondo, Shinya Ooka, Yohei Furumoto, Seishin Azuma, Kei Tanaka, Hitoshi Kurata, Shohei Tanaka, Masayuki Kurosaki, Kazuyoshi Nagayama, Fumihiko Kusano, Yasuhiro Iizuka, Takahiro Kawamura, Hidekazu Ikemiyagi, Shinya Sakita, Tsunehito Yauchi, Hideki Watanabe, Ami Kawamoto, Yusuke Matsuyama, Kazuo Ohtsuka, Ryuichi Okamoto. COVID-19 severity is associated with the risk of gastrointestinal bleeding. BMJ Open Gastroenterol. 2023.11; 10(1); e001199

5. Takayuki Yamamoto, Hiroshi Nakase, Kenji Watanabe, Shinichiro Shinzaki, Noritaka Takatsu, Toshimitsu Fujii, Ryuichi Okamoto, Katsuyoshi Matsuoka, Akihiro Yamada, Reiko Kunisaki, Minoru Matsuura, Hisashi Shiga, Shigeki Bamba, Yohei Mikami, Takahiro Shimoyama, Satoshi Motoya, Takehiro Torisu, Taku Kobayashi, Naoki Ohmiya, Masayuki Saruta, Koichiro Matsuda, Takayuki Matsumoto, Atsuo Maemoto, Yoko Murata, Shinichi Yoshigoe, Shinya Nagasaka, Tsutomu Yajima, Tadakazu Hisamatsu, . Diagnosis and Clinical Features of Perianal Lesions in Newly Diagnosed Crohn's Disease: Subgroup Analysis from Inception Cohort Registry Study of Patients with Crohn's Disease (iCREST-CD). J Crohns Colitis. 2023.08; 17(8); 1193-1206

6. Katsuyoshi Matsuoka, Hajime Yamazaki, Masakazu Nagahori, Taku Kobayashi, Teppei Omori, Yohei Mikami, Toshimitsu Fujii, Shinichiro Shinzaki, Masayuki Saruta, Minoru Matsuura, Takayuki Yamamoto, Satoshi Motoya, Toshifumi Hibi, Mamoru Watanabe, Jovelle Fernandez, Shunichi Fukuhara, Tadakazu Hisamatsu. Association of ulcerative colitis symptom severity and proctocolectomy with multidimensional patient-reported outcomes: a cross-sectional study. J Gastroenterol. 2023.08; 58(8); 751-765

7. Yoshio Kitazume, Kento Takenaka, Kazuo Ohtsuka, Yasuo Ozawa, Koichiro Kimura, Ryosuke Watanabe, Junichi Tsuchiya, Toshimitsu Fujii, Masakazu Nagahori, Mamoru Watanabe, Ukihide Tateishi. Motility Mapping Quantification Using the Classical Optical Flow Algorithm for Small Bowel Crohn's Disease: Comparison with Balloon-assisted Enteroscopy Findings. Magn Reson Med Sci. 2023.07; 22(3); 325-334

8. Kento Takenaka, Ami Kawamoto, Yoshio Kitazume, Toshimitsu Fujii, Yumi Udagawa, Hiromichi Shimizu, Shuji Hibiya, Masakazu Nagahori, Kazuo Ohtsuka, Mamoru Watanabe, Ryuichi Okamoto. Transmural Remission Characterized by High Biologic Concentrations Demonstrates Better Prognosis in Crohn's Disease. J Crohns Colitis. 2023.06; 17(6); 855-862

9. Kento Takenaka, Yoshio Kitazume, Ami Kawamoto, Toshimitsu Fujii, Yumi Udagawa, Ryosuke Wanatabe, Hiromichi Shimizu, Shuji Hibiya, Masakazu Nagahori, Kazuo Ohtsuka, Hiroyuki Sato, Akihiro Hirakawa, Mamoru Watanabe, Ryuichi Okamoto. Serum Leucine-Rich α 2 Glycoprotein: A Novel Biomarker for Transmural Inflammation in Crohn's Disease. Am J Gastroenterol. 2023.06; 118(6); 1028-1035

10. Kaneko Shun, Asahina Yasuhiro, Nakagawa Mina, Murakawa Miyako, Miyazaki Yasunari, Asakage Takahiro, Fukuda Shohei, Namiki Takeshi, Kano Yoshihito, Nagata Masashi, Tsuchiya Jun, Miyoshi Masato, Kitahata-Kawai Fukiko, Nitta Sayuri, Itsui Yasuhiro, Kakinuma Sei, Okamoto Ryuichi. Factors associated with liver injury and prognosis in advanced cancer patients treated with immune checkpoint inhibitors(タイトル和訳中) Hepatology Research. 2023.05; 53(5); 450-459

11. Fujiwara S, Kawamoto A, Motobayashi M, Hibiya S, Takenaka K, Shimizu H, Saito E, Fujii T, Nagahori M, Kawata D, Umezawa N, Hosoya T, Yasuda S, Ohtsuka K, Okamoto R. Hemorrhagic gastric ulcer in a patient with Behcet's disease successfully treated with infliximab. DEN open. 2023.04; 3(1); e196

12. Hayakawa Yuka, Tamaki Nobuharu, Nakanishi Hiroyuki, Kurosaki Masayuki, Tanaka Yuki, Inada Kento, Ishido Shun, Kirino Sakura, Yamashita Koji, Nobusawa Tsubasa, Matsumoto Hiroaki, Kakegawa Tatsuya, Higuchi Mayu, Takaura Kenta, Tanaka Shohei, Maeyashiki Chiaki, Kaneko Shun, Yasui Yutaka, Takahashi Yuka, Tsuchiya Kaoru, Okamoto Ryuichi, Izumi Namiki. 治療抵抗性肝性脳症に対するリファキシミン追加投与の効果 (Add-on Therapeutic Effects of Rifaximin on Treatment-resistant Hepatic Encephalopathy) Internal Medicine. 2023.04; 62(7); 973-978

13. Taisei Keitoku, Nobuharu Tamaki, Masayuki Kurosaki, Kento Inada, Sakura Kirino, Naoki Uchihara, Keito Suzuki, Yuki Tanaka, Haruka Miyamoto, Shun Ishido, Michiko Yamada, Tsubasa Nobusawa, Hiroaki Matsumoto, Mayu Higuchi, Kenta Takaura, Shohei Tanaka, Chiaki Maeyashiki, Shun Kaneko, Yutaka Yasui, Yuka Takahashi, Kaoru Tsuchiya, Hiroyuki Nakanishi, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto, Namiki Izumi. Effect of fatty liver and fibrosis on hepatocellular carcinoma development in patients with chronic hepatitis B who received nucleic acid analog therapy. J Viral Hepat. 2023.04; 30(4); 297-302

14. Tetsuro Shimakami, Hiroko Setoyama, Noriko Oza, Jun Itakura, Shun Kaneko, Masaaki Korenaga, Tadashi Toyama, Junko Tanaka, Tatsuya Kanto. Development of performance indicators for hepatitis countermeasures as a tool for the assessment and promotion of liver cancer prevention in Japan. J Gastroenterol. 2023.03; 58(3); 257-267

15. Shimakami Tetsuro, Setoyama Hiroko, Oza Noriko, Itakura Jun, Kaneko Shun, Korenaga Masaaki, Toyama Tadashi, Tanaka Junko, Kanto Tatsuya. 日本における肝癌予防の評価および推進ツールとしての肝炎対策のためのパフォーマンス指標の開発 (Development of performance indicators for hepatitis countermeasures as a tool for the assessment and promotion of liver cancer prevention in Japan) Journal of Gastroenterology. 2023.03; 58(3); 257-267

16. Saito E, Ohtsuka K, Kawamoto A, Fujii T, Takenaka K, Hibiya S, Shimizu H, Nagahori M, Tomii S, Okamoto R. A case of venous stasis colitis possibly caused by eplerenone. Clinical journal of gastroenterology. 2023.02; 16(1); 69-72

17. Tsuchiya K, Nagahori M, Hanazawa R, Sasaki M, Sato H, Hirakawa A, Anzai T, Takahashi K, Kobayashi Y, Hibiya S, Takenaka K, Watanabe M. Serial daily recording of patient-reported outcomes (PRO2) might predict treatment change in the patients with Ulcerative Colitis. JOURNAL OF CROHNS & COLITIS. 2023.02; 17(1); I316-I317

18. Shun Kaneko, Masayuki Kurosaki, Toshie Mashiba, Hiroyuki Marusawa, Masahiko Kondo, Yuji Kojima, Yasushi Uchida, Hideki Fujii, Takehiro Akahane, Hitoshi Yagisawa, Atsunori Kusakabe, Haruhiko Kobashi, Takehiko Abe, Hideo Yoshida, Chikara Ogawa, Koichiro Furuta, Nobuharu Tamaki, Keiji Tsuji, Tomomichi Matsushita, Namiki Izumi, . Risk factors for hepatocellular carcinoma at baseline and 1 year after initiation of nucleos(t)ide analog therapy for chronic hepatitis B. J Med Virol. 2023.01; 95(1); e28210

19. Kaneko S, Asahina Y, Nakagawa M, Murakawa M, Miyazaki Y, Asakage T, Fukuda S, Namiki T, Kano Y, Nagata M, Tsuchiya J, Miyoshi M, Kitahata-Kawai F, Nitta S, Itsui Y, Kakinuma S, Okamoto R. Factors associated with liver injury and prognosis in advanced cancer patients treated with immune checkpoint inhibitors. Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology. 2023.01; 53(5); 450-459

20. Shokichi Takahama, Sachiyo Yoshio, Yuji Masuta, Hirotomo Murakami, Ryotaro Sakamori, Shun Kaneko, Takashi Honda, Miyako Murakawa, Masaya Sugiyama, Masayuki Kurosaki, Yasuhiro Asahina, Tetsuo Takehara, Victor Appay, Tatsuya Kanto, Takuya Yamamoto. T cell quality. Front Immunol. 2023; 14; 1257113

1. 勝又 理沙, 金子 俊, 小林 正典, 中川 美奈, 勝田 景統, 加藤 祐己, 桐村 進, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 経口胆道鏡にて診断しえた再発肝細胞癌の 1 例 日本消化器内視鏡学会雑誌. 2023.12; 65(12); 2413-2420

2. 勝又 理沙, 金子 俊, 小林 正典, 中川 美奈, 勝田 景統, 加藤 祐己, 桐村 進, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 経口胆道鏡にて診断しえた再発肝細胞癌の 1 例 Gastroenterological Endoscopy. 2023.12; 65(12); 2413-2420

3. 金子 俊, 村川 美也子, 朝比奈 靖浩. 【ウイルス性肝炎学 2023-最新の病態 · 診断 · 治療情報-】B 型肝炎　治療　新規抗 HBV 薬剤の開発状況 日本臨床. 2023.07; 81(増刊 7 ウイルス性肝炎学 2023); 417-424

4. 中川 美奈, 村川 美也子, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. 【肝疾患-診療のチェックポイント 2023】(第 I 部) 診断のチェックポイント (第 7 章)　慢性肝疾患における肝細胞癌診断のチェックポイント 臨床消化器内科. 2023.06; 38(7); 853-859

[総説]

1. Hiroshi Nakase, Motohiro Esaki, Fumihito Hirai, Taku Kobayashi, Katsuyoshi Matsuoka, Minoru Matsuura, Makoto Naganuma, Masayuki Saruta, Kiichiro Tsuchiya, Motoi Uchino, Kenji Watanabe, Tadakazu Hisamatsu, . Treatment escalation and de-escalation decisions in Crohn's disease: Delphi consensus recommendations from Japan, 2021. J Gastroenterol. 2023.04; 58(4); 313-345

1. 藤井 俊光, 岡本 隆一. 【炎症性腸疾患に対する検査法の進歩】Cross-sectional imaging としての MRI と transmural healing 日本消化器病学会雑誌. 2023.11; 120(11); 888-897

2. 竹中 健人, 藤井 俊光, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 【小腸画像診断のトピックス】MR enterography 胃と腸. 2023.11; 58(11); 1491-1498

3. 大塚 和朗, 竹中 健人, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 齊藤 詠子, 田村 皓子, 張 肇豐, 岡本 隆一. 【小腸画像診断のトピックス】新しい小腸画像診断のトピックス 像強調観察 シングルバルーン内視鏡 (NBI,TXI,RDI) 胃と腸. 2023.11; 58(11); 1531-1536

4. 金子 俊, 村川 美也子, 朝比奈 靖浩. 【ウイルス性肝炎学 2023-最新の病態 · 診断 · 治療情報-】B 型肝炎 治療 新規抗 HBV 薬剤の開発状況 日本臨床. 2023.07; 81(増刊 7); 417-424

5. 中川 美奈, 村川 美也子, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. 【肝疾患-診療のチェックポイント 2023】(第 I 部) 診断のチェックポイント (第 7 章)　慢性肝疾患における肝細胞癌診断のチェックポイント 臨床消化器内科. 2023.06; 38(7); 853-859

6. 大塚 和朗, 竹中 健人, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 齊藤 詠子, 岡本 隆一. 【進化し続ける IEE】IEE を使いこなす 小腸内視鏡/カプセル内視鏡 バルーン内視鏡 IEE をどう活用するか 消化器内視鏡. 2023.03; 35(3); 369-372

[講演 · 口頭発表等]

1. Kento Takenaka. Deep neural network for video colonoscopy of ulcerative colitis. JDDW2023 2023.11.04 Kobe_Japan

2. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Miyako Murakawa, Ryuichi Okamoto. Liver stiffness stratify the disease progression and hepatocellular carcinoma predictive risk score on chronic hepatitis B patients. JDDW2023 2023.11.03 Kobe_Japan

3. Marla C. Dubinsky, Geert D'Haens, Olivier Dewit, Pascal Juillerat, Remo Panaccione, Toshimitsu Fujii, Ana P Lacerda, Elena Dubcenco, Samuel Anyanwu, Chirag Doshi, John Liu, Andrew Garrison, Edward V Loftus Jr. Corticosteroid-Sparing Effect of Upadacitinib in Patients With Moderately to Severely Active Crohn's Disease. ACG 2023 - American College of Gastroenterology 2023.10.20 Vancouver_Canada

4. B.Bressler, L.Peyrin-Biroulet, J.R.Allegretti, K.G.Huang, M.Germinaro, N.Shipitofsky, Y.Miao, H.Zhang, M.Bortlik, T.Hlavaty, T.Fujii, B.G.Feagan, B.E.Sands, A.Dignass on behalf of the QUASAR Investigators. The Efficacy of Induction Treatment With Guselkumab in Patients with Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis: Phase 3 QUASAR Induction Study Results at Week 12 by Prior Advanced Therapy History. ACG 2023 - American College of Gastroenterology 2023.10.20 Vancouver_Canada

5. T. Fujii , S. Hibiya , H. Shimizu , A. Kawamoto , K. Takenaka , E. Saito , M. Nagahori , K. Ohtsuka , R. Okamoto. DUAL THERAPY WITH CAROTEGRAST (AJM300: ORAL α 4 INTEGRIN ANTAGONIST) AND BIOLOGICS FOR REFRACTORY ULCERATIVE COLITIS. UEGW2023 2023.10.15 Copenhagen_Denmark

6. Minhu Chen, Xiang Gao, Kenji Watanabe, Toshimitsu Fujii, Jae Hee Cheon, Shu-Chen Wei, Dennis Teng, Ana P Lacerda, Valencia P Remple, Hiroshi Nakase. Efficacy of Induction Upadacitinib Therapy in East Asian Patients With Moderately to Severely Active Crohn’s Disease. UEGW2023 2023.10.15 Copenhagen_Denmark

7. B.Bressler, L.Peyrin-Biroulet, J.R.Allegretti, K.G.Huang, M.Germinaro, N.Shipitofsky, Y.Miao, H.Zhang, M.Bortlik, T.Hlavaty, T.Fujii, B.G.Feagan, B.E.Sands, A.Dignass on behalf of the QUASAR Investigators. The Efficacy of Induction Treatment With Guselkumab in Patients with Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis: Phase 3 QUASAR Induction Study Results at Week 12 by Prior Advanced Therapy History. UEGW2023 2023.10.15 Copenhagen_Denmark

8. Shuij Hibiya, Takashi Fujii, Toshimitsu Fujii, Kazuo Ohtsuka, Ryuichi Okamoto. Severe COVID-19 is associated with risk of lower gastrointestinal bleeding. UEGW2023 2023.10.14 Copenhagen_Denmark

9. A. Kawamoto, K. Takenaka, S. Hibiya, Y. Kitazume, K. Ito, H. Shimizu, T. Fujii, E. Saito, K. Ohtsuka, R. Okamoto. COMBINING LEUCINE-RICH ALPHA-2 GLYCOPROTEIN AND FAECAL BIOMARKERS FOR ACCURATE MONITORING OF SMALL BOWEL ACTIVITY IN CROHN’S DISEASE. UEGW2023 2023.10.14 Copenhagen_Denmark

10. Marc Ferrante, Laurent Peyrin-Biroulet, Axel Dignass, David T. Rubin, Silvio Danese, Geert D’Haens, Kristina Kligys, Sofie Berg, Jasmina Kalabic, Javier Zambrano, Yafei Zhang, Toshimitsu Fujii, and Remo Panaccione. Clinical and Endoscopic Improvements with Risankizumab Induction and Maintenance Dosing Versus Placebo are Observed Irrespective of Number of Prior Failed Biologics. UEGW2023 2023.10.11 Copenhagen_Denmark

11. Marla C. Dubinsky, Geert D’Haens, Olivier Dewit, Pascal Juillerat, Remo Panaccione, Toshimitsu Fujii, Ana P Lacerda, Elena Dubcenco, Samuel Anyanwu, Chirag Doshi, Madhuja Mallick, Andrew Garrison, John Liu, Edward V Loftus Jr. Corticosteroid discontinuation and clinical outcomes in patients with moderately to severely active Crohn’s disease treated with upadacitinib. SGG Swiss congress 2023 2023.09.23 Interlaken_Switzerland

12. Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Masato Miyoshi, Shun Kaneko, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Sei Kakinuma, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto. Factors associated with HCC development and patients’ survival in patients with an SVR. The 3rd JSH International Liver Conference 2023.09.07

13. Marla C. Dubinsky, Geert D’Haens, Olivier Dewit, Pascal Juillerat, Remo Panaccione, Toshimitsu Fujii, Ana P Lacerda, Elena Dubcenco, Samuel Anyanwu, Chirag Doshi, Madhuja Mallick, Andrew Garrison, John Liu, Lena Thin, Edward V Loftus Jr. Corticosteroid discontinuation and clinical outcomes in patients with moderately to severely active Crohn’s disease treated with upadacitinib. AGW2023 2023.09.02 Brisbane_Australia

14. Kaneko Shun, Asahina Yasuhiro, Murakawa Miyako, Okamoto Ryuichi. 慢性B型肝炎患者において肝スティフネスは疾患進行と肝細胞癌予測リスクスコアを層別化する (Liver stiffness stratify the disease progression and hepatocellular carcinoma predictive risk score on chronic hepatitis B patients). 肝臓 2023.09.01

15. Kazuo Ohtsuka, Kento Takenaka, Ryuichi Okamoto. Cutting-edge of clinical practice in SBE. The 105th Congress of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society 2023.05.26 Tokyo_Japan

16. Marla C. Dubinsky, Geert D’Haens, Olivier Dewit, Pascal Juillerat, Remo Panaccione, Toshimitsu Fujii, Ana P. Lacerda, Elena Dubcenco, Samuel Anyanwu, Chirag Doshi, Madhuja Mallick, Andrew Garrison, John Liu, Edward V. Loftus Jr. Corticosteroid Discontinuation and Clinical Outcomes in Patients With Moderately to Severely Active Crohn’s Disease Treated With Upadacitinib. DDW2023 2023.05.09 Washington,D.C._USA

17. Marc Ferrante, Qian Cao, Toshimitsu Fujii, Astrid Rausch, Ezequiel Neimark, Alexandra Song, Kori Wallace, Kristina Kligys, Qing Zhou, Jasmina Kalabic, Brian Feagan. Patients with Moderate-to-Severe Crohn’s Disease with and without Prior Biologic Failure Demonstrate Improved Endoscopic Outcomes with Risankizumab: Results from Phase 3 Induction and Maintenance Trials Marc. DDW2023 2023.05.09 Washington,D.C._USA

18. M.C. Dubinsky, G. D’Haens, O. Dewit, P. Juillerat, R. Panaccione, T. Fujii, A.P. Lacerda, E. Dubcenco, S.Anyanwu, C. Doshi, M. Mallick, A. Garrison, J. Liu, E.V. Loftus Jr.. Corticosteroid discontinuation and clinical outcomes in patients with moderately to severely active Crohn’s disease treated with upadacitinib. 18th Congress of ECCO 2023.03.02 Copenhagen_Denmark

1. 土屋 淳, 三好 正人, 柿沼 晴, 志水 太郎, 渡壁 慶也, 持田 知洋, 稲田 賢人, 金子 俊, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. B 型肝炎ウイルスゲノムの KMT2B 領域への integration による発癌プロセスの解析. 第 8 回 Gastro-PLUS 2023.12.16 東京コンファレンスセンター · 品川

2. 竹中 健人, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 生物学的製剤によるクローン病狭窄性病変の変化. 第 117 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2023.12.10 シェーンバッハ · サボー

3. 青鹿 奈南子, 延澤 翼, 金子 俊, 河本 亜美, 村川 美也子, 小林 正典, 福田 将義, 山本 浩平, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 分類不能型免疫不全症に合併した門脈圧亢進症の一例. 日本消化器病学会関東支部第 377 回例会 2023.12.09 海運クラブ

4. 早川 優香, 福田 将義, 田村 皓子, 森川 亮, 小林 桜子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 藤井 俊光, 大塚 和朗, 山本 くらら, 伊藤 崇, 大橋 健一, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎罹患粘膜に発生した腫瘍における術前生検診断能の検討. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.02 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

5. 田村 皓子, 清水 寛路, 森川 亮, 小林 桜子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 藤井 俊光, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎治療におけるウパダシチニブの使用成績. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.02 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

6. 藤井 俊光, 田村 皓子, 河本 亜美, 森川 亮, 小林 桜子, 日比谷 秀爾, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎における upadacitinib 投与に伴う尋常性痤瘡の解析. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.02 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

7. 藤井 俊光, Brian Bressler, Laurent Peyrin-Biroulet, Jessica R. Allegretti, Kuan-Hsiang G.Huang, Matthew Germinaro, Nicole Shipitofsky, Ye Miao, Hongyan Zhang, 宮崎 由実, Martin Bortlik, Tibor Hlavaty, Brian G.Feagan, Bruce E.Sands, Axel Dignass. 潰瘍性大腸炎患者に対する GUS 導入療法の有効性：QUASAR 第 3 相試験 前治療歴別評価. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.02 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

8. 藤井 俊光, 幡井 裕乙, 新山 勇人, 仲瀬 裕志. ウパダシチニブを投与した中等症から重症の活動性クローン病患者での副腎皮質ステロイドの中止と転帰. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.02 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

9. 藤井 俊光. 【イブニングセミナー 2】IBD Advanced Therapy の study を紐解く. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.01 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

10. 竹中 健人, 河本 亜美, 藤井 俊光, 日比谷 秀爾, 田村 皓子, 森川 亮, 小林 桜子, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. クローン病肛門病変の生物学的製剤に対する内視鏡評価. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.01 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

11. 日比谷 秀爾, 藤井 俊光, 田村 皓子, 小林 桜子, 森川 亮, 河本 亜美, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 5-ASA 不耐をきたした潰瘍性大腸炎患者の臨床的特徴の検討. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.01 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

12. 森川 亮, 藤井 俊光, 田村 皓子, 小林 桜子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. リアルワールドにおける risankizumab のクローン病に対する有効性及び安全性の検討. 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.01 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

13. 青鹿 奈南子, 延澤 翼, 金子 俊, 河本 亜美, 村川 美也子, 小林 正典, 福田 将義, 山本 浩平, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 分類不能型免疫不全症に合併した門脈圧亢進症の一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2023.12.01

14. 竹中 健人. IBD の分子標的治療総論. 2023 年度日本炎症性腸疾患学会医師向け教育セミナー 2023.12 WEB

15. 河本 亜美, 竹中 健人, 岡本 隆一. 血中 · 便中バイオマーカーを用いたクローン病小腸病変の予後予測. JDDW2023 2023.11.04 神戸コンベンションセンター

16. 藤井俊光. 経口 α 4 インテグリン阻害剤のポジショニングと期待. JDDW2023 2023.11.03 神戸コンベンションセンター

17. 藤井 俊光, 青沼 優子, 清水 寛路, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 齊藤 詠子, 竹中 健人, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎に対する carotegrast および biologics の dual therapy の検討. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

18. 藤井 俊光, 佐藤 真弘, 大野 浩太, 久松 理一. クローン病患者における過去に無効であった生物学的製剤数別のリサンキズマブの有効性. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

19. 藤井俊光. 炎症性腸疾患における両立支援の実際と課題. JDDW2023 2023.11.02 神戸コンベンションセンター

20. 中村 遼太, 森川 亮, 竹中 健人, 清水 寛路, 延澤 翼, 田村 晧子, 藤井 俊光, 齊藤 詠子, 小林 正典, 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 福田 将義, 大塚 和朗. 入院中の難治性潰瘍性大腸炎に対してウパダシチニブが有効であった 3 症例. 日本消化器病学会関東支部第 376 回例会 2023.09.02 海運クラブ

21. 哲翁 春貴, 遠藤 南, 小林 正典, 勝又 理沙, 齊藤 一真, 金子 俊, 村川 美也子, 岡本 隆一, 赤星 径一, 田邊 稔, 石堂 舜, 福田 将義, 大塚 和朗, 勝田 景統, 朝比奈 靖浩. 膵頭部癌の重粒子線治療後に胆道出血を来した一例. 日本消化器病学会関東支部第 376 回例会 2023.09.02 海運クラブ

22. 中村 遼太, 森川 亮, 竹中 健人, 清水 寛路, 延澤 翼, 田村 皓子, 藤井 俊光, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 齊藤 詠子, 小林 正典, 金子 俊, 福田 将義, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 入院中の難治性潰瘍性大腸炎に対してウパダシチニブが有効であった 3 症例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2023.09.01

23. 哲翁 春貴, 遠藤 南, 小林 正典, 勝又 理沙, 齊藤 一真, 石堂 舜, 勝田 景統, 金子 俊, 福田 将義, 村川 美也子, 赤星 径一, 田邊 稔, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 膵頭部癌の重粒子線治療後に胆道出血を来した一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2023.09.01

24. 北畑 富貴子, 朝比奈 靖浩, 柿沼 晴, 稲田 賢人, 持田 知洋, 渡壁 慶也 , 志水 太郎, 土屋 淳, 三好 正人, 金子 俊, 新田 沙由梨, 村川 美也子, 中川 美奈, 田中 真二, 田邊 稔, 前川 伸哉, 榎本 信幸, 岡本 隆一. 代謝要因が関連する肝細胞癌遺伝子変異プロファイルの解析. 第 59 回肝癌研究会 2023.07.28 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)

25. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 村川 美也子, 稲田 賢人, 持田 知洋, 渡壁 慶也, 志水 太郎, 土屋 淳, 三好 正人, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 中川 美奈, 柿沼 晴, 岡本 隆一. 肝細胞癌への応用を目指した抗 CTLA-4 抗体薬における免疫関連有害事象肝障害の特徴と生存期間の解析. 第 59 回日本肝癌研究会 2023.07.27 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)

26. 森本 紗生, 田村 皓子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 建人, 清水 寛路, 藤井 俊光, 小林 正典, 金子 俊, 村川 美也子, 福田 将義, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. COVID-19 罹患後にクローン病を新規発症した一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2023.07.01

27. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 進行癌免疫チェックポイント阻害剤治療例における免疫関連有害事象肝障害の特徴と生存期間への影響. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16 奈良県コンベンションセンター

28. 村川 美也子, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. 門脈圧亢進症/肝線維化に関連するメトトレキサート治療前リスク因子の検討. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16 奈良県コンベンションセンター

29. 渡壁 慶也, 三好 正人, 柿沼 晴, 稲田 賢人, 持田 知洋, 志水 太郎, 土屋 淳, 金子 俊, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 村川 美也子, 井津井 康浩, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 肝星細胞における TNFAIP3 の機能解析. 第 59 回日本肝臓学会総会 2023.06.16 奈良県コンベンションセンター

30. 常井 薫時, 清水 寛路, 北野 尚樹, 河本 亜美, 竹中 健人, 日比谷 秀爾, 金子 俊, 小林 正典, 福田 将義, 藤井 俊光, 齊藤 詠子, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 木脇 祐子, 小柳 杏莉, 田村 一洋, 大橋 健一, 岩田 乃理子, 山内 慎一, 絹笠 祐介, 岡本 隆一. 反復する嘔吐を契機に小腸内視鏡にて診断した若年小腸腺癌の 2 例. Progress of Digestive Endoscopy 2023.06.01

31. 竹中 健人, 大塚 和朗. 当施設での PowerSpiral 内視鏡の使用経験. 第 105 回日本消化器内視鏡学会総会 2023.05.26 グランドプリンスホテル新高輪

32. 竹中 健人. 一般演題口演 13「下部：クローン病」_座長. 第 105 回日本消化器内視鏡学会総会 2023.05.25 グランドプリンスホテル新高輪

33. 日比谷 秀爾, 藤井 俊光, 河本 亜美, 竹中 健人, 福田 将義, 金子 俊, 小林 正典, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 初回治療より 13 年後に再発しクローン病との鑑別を要したアメーバ腸炎の一例. 日本消化器病学会関東支部第 374 回例会 2023.04.22 海運クラブ

34. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 治療前肝障害は免疫関連有害事象肝障害の因子となりうるか？ ～免疫関連有害事象肝障害の特徴とその予測因子に関する検討～. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.08 出島メッセ長崎

35. 藤井 俊光，佐藤 真弘，池田 公俊，仲瀬 裕志. 潰瘍性大腸炎におけるウパダシチニブ 30mg 及び 15mg 維持療法のベネフィット比較: 第 III 相 U-ACHIEVE 試験. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.08 出島メッセ長崎

36. 日比谷 秀爾, 藤井 崇, 藤井 俊光. 大規模電子カルテデータを用いた COVID-19 重症度と消化管出血リスク因子の関連. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.08 出島メッセ長崎

37. 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 生物学的製剤治療中のクローン病における Transmural remission の重要性. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.07 出島メッセ長崎

38. 青沼 優子, 日比谷 秀爾, 藤井 俊光, 河本 亜美, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎における 5-ASA 不耐症の臨床的特徴の探索. 第 109 回日本消化器病学会総会 2023.04.06 出島メッセ長崎

39. 渡辺 雅人, 藤原 俊, 村川 美也子, 金子 俊, 小林 正典, 福田 将義, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 山本 浩平, 岡本 隆一. ミコフェノール酸モフェチルが有効であった亜急性昏睡眠型急性肝不全を呈した免疫関連肝障害の一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム・抄録集 2023.04.01

40. 新井 啓介, 日比谷 秀爾, 藤井 俊光, 河本 亜美, 竹中 健人, 福田 将義, 金子 俊, 小林 正典, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 初回治療より 13 年後に再発しクローン病との鑑別を要したアメーバ腸炎の一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム・抄録集 2023.04.01

41. 渡壁 慶也, 三好 正人, 柿沼 晴, 稲田 賢人, 持田 知洋, 志水 太郎, 土屋 淳, 金子 俊, 北畑 富貴子, 新田 沙由梨, 村川 美也子, 井津井 康浩, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 肝星細胞における TNFAIP3 の機能解析. 肝臓 2023.04.01

42. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 肝疾患における有害事象をめぐる諸問題 (薬物性肝障害を含めて)　進行癌免疫チェックポイント阻害剤治療例における免疫関連有害事象肝障害の特徴と生存期間への影響. 肝臓 2023.04.01

43. 村川 美也子, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. 門脈圧亢進症診療の未来予想図 (現状と課題)　門脈圧亢進症/肝線維化に関連するメトトレキサート治療前リスク因子の検討. 肝臓 2023.04.01

44. 藤井 俊光, 藤原 俊, 岡本 隆一. 重症潰瘍性大腸炎に対する内科治療と広域内科外科連携の試み . 第 59 回日本腹部救急医学会総会 2023.03.09 沖縄コンベンションセンター

45. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 免疫チェックポイント阻害剤による消化器系臓器障害　治療前肝障害は免疫関連有害事象肝障害の因子となりうるか?　免疫関連有害事象肝障害の特徴とその予測因子に関する検討. 日本消化器病学会雑誌 2023.03.01

46. 鈴木 達也, 早川 優香, 金子 俊, 竹中 健人, 村川 美也子, 小林 正典, 福田 将義, 木脇 祐子, 竹本 暁, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. クローン病に合併した肉芽腫性肝炎の一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム・抄録集 2023.02.01

47. 橋渡 七奈子, 小林 正典, 馬渕 卓, 金子 俊, 村川 美也子, 福田 将義, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 橋本 正良, 岡本 隆一. 胆道シンチグラフィーでのみ診断可能であった乳頭括約筋機能不全の 1 例. 日本内科学会関東地方会 2023.02.01

48. 岡 瑛子, 杉山 勇太, 河本 亜美, 竹中 健人, 日比谷 秀爾, 小林 正典, 金子 俊, 村川 美也子, 福田 将義, 小田 豊士, 岩田 乃里子, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 腸管狭窄症状で発症した 20 代の原発性小腸癌の一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム・抄録集 2023.02.01

[受賞]

1. JDDW2023 優秀演題賞「難治性潰瘍性大腸炎に対する carotegrast および biologics の dual therapy の検討」受賞者：藤井 俊光, 2023 年 11 月

2. The Best Presenter Award in International Session (JDDW2023)「Liver stiffness stratify the disease progression and hepatocellular carcinoma predictive risk score on chronic hepatitis B patients」受賞者：金子 俊, 2023 年 11 月

[社会貢献活動]

1. 亜細亜大学・田中幹也さんの病状と治療について, TBS, 速報！ ドラフト会議２０２１ The 運命の 1 日, 2022 年 09 月 30 日 - 現在

小児地域成育医療学講座

Department of Child Health and Development

教授 金兼弘和
講師 星野顕宏

(1) 分野概要

急性疾患の医療・小児保健を想定した「小児医療」に加え、慢性期への移行・難治性疾患患者の長期的診療・小児の健全な成育を包括する医療である「成育医療」をその基本理念とし、首都圏郊外中核都市における地域医療に密着した成育医療システムの確立、および次世代医療に対応する小児科医の人材育成を目的としている。

(2) 研究活動

東京都にあり高度専門医療を行う東京医科歯科大学と、小児人口の多い柏市の中核病院である柏市立柏病院の有機的連携を基盤として、調査研究と教育を実施していく。

現在の主なテーマは
1. 柏市における小児医療体制の構築
2. EB ウイルスに易感染性を示す免疫不全症の研究
3. 抗体産生不全症の研究
4. サイトカインストーム症候群、特にマクロファージ活性化症候群の病態解析
5. 若年性特発性関節炎を代表とする小児リウマチ性疾患の病態解析
6. 柏市における小児腎臓病に関するレジストリー研究

(3) 教育活動

大学病院における後期臨床研修医に対して、小児科専門医取得のためのより専門的な臨床教育を幅広く行う。

(4) 教育方針

主に小児科後期研修医〜小児科専門医取得後 2-3 年までの医師を主たる教育対象とし、小児慢性疾患、難病の医療に精通し、次世代成育医療を担う医師を育成することも目標としている。

(5) 臨床活動および学外活動

大学病院においては原発性免疫不全症、血液悪性腫瘍、非悪性血液疾患、悪性固形腫瘍、小児リウマチ性疾患の診断および治療を提供している。
柏市立柏病院においては急性期疾患を中心に小児医療を提供し、近郊の医療施設との病診連携を行い、地域住民

にとって信頼できる小児医療体制の構築を目指している。

(6) 臨床上の特色

大学病院においては原発性免疫不全症や血液腫瘍疾患の診断 · 治療。病態解析を行い、難治疾患に対しては造血細胞移植を行っている。特に原発性免疫不全症はわが国で最多の患者を診療している。
小児リウマチ性疾患については、小児リウマチ中核施設として、小児科、リウマチ膠原病内科、整形外科、眼科が連携して、小児から成人まで、シームレスな膠原病 · リウマチ性疾患の診療を行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Kunihiko Moriya, Kanako Mitsui-Sekinaka, Yujin Sekinaka, Akifumi Endo, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Kohsuke Imai, Shigeaki Nonoyama. Clinical practice guideline for activated phosphatidyl inositol 3-kinase-delta syndrome in Japan. Immunol Med. 2023.12; 46(4); 153-157

2. Aidé Tamara Staines-Boone, Pandiarajan Vignesh, Miyuki Tsumura, Germán de la Garza Fernández, Reva Tyagi, Amit Rawat, Jhumki Das, Dan Tomomasa, Takaki Asano, Atsushi Hijikata, Yuridia Salazar-Gálvez, Hirokazu Kanegane, Satoshi Okada, Saul O Lugo Reyes. Fatal COVID-19 Infection in Two Children with STAT1 Gain-of-Function. J Clin Immunol. 2023.12; 44(1); 20

3. Takuro Nishikawa, Takahiro Tomoda, Aki Nakamura, Jun Nagahama, Akihito Tanaka, Shuji Kanmura, Mari Kirishima, Akihide Tanimoto, Tsubasa Okano, Takahiro Kamiya, Kentaro Okamoto, Susumu Kirimura, Tomohiro Morio, Yasuhiro Okamoto, Hirokazu Kanegane. Case Report: The leopard sign as a potential characteristic of chronic granulomatous disease-associated colitis, unrelated to colitis severity. Front Immunol. 2023.12; 14; 1208590

4. Akira Nishimura, Ramya Uppuluri, Revathi Raj, Venkateswaran Vellaichamy Swaminathan, Yifei Cheng, Rolla F Abu-Arja, Bin Fu, Alexandra Laberko, Michael H Albert, Fabian Hauck, Giorgia Bucciol, Venetia Bigley, Suzanne Elcombe, Gaurav Kharya, Cornelis Jan H Pronk, Claudia Wehr, Bénédicte Neven, Klaus Warnatz, Isabelle Meyts, Tomohiro Morio, Andrew R Gennery, Hirokazu Kanegane. An International Survey of Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for X-Linked Agammaglobulinemia. J Clin Immunol. 2023.11; 43(8); 1827-1839

5. Masatoshi Takagi, Akihiro Hoshino, Kristine Bousset, Jule Röddecke, Hanna Luisa Martin, Iulia Folcut, Dan Tomomasa, Xi Yang, Junya Kobayashi, Naoki Sakata, Kenichi Yoshida, Satoru Miyano, Seishi Ogawa, Seiji Kojima, Tomohiro Morio, Thilo Dörk, Hirokazu Kanegane. Bone Marrow Failure and Immunodeficiency Associated with Human RAD50 Variants. J Clin Immunol. 2023.11; 43(8); 2136-2145

6. Rintaro Ono, Kenichi Sakamoto, Takehiko Doi, Ryu Yanagisawa, Akira Morimoto, Hirokazu Kanegane, Yozo Nakazawa, Yoko Shioda. Dexamethasone palmitate as an etoposide-free treatment for children with hemophagocytic lymphohistiocytosis after hematopoietic cell transplantation. Bone Marrow Transplant. 2023.11; 58(11); 1286-1288

7. Keisuke Ogasawara, Makoto Ono, Keita Tamanuki, Ryosuke Wakatsuki, Kento Inoue, Yoshinori Tateishi, Rentaro Oda, Shogo Shirane, Hiraku Funakoshi, Hirokazu Kanegane, Yoshiho Hatai. Respiratory Symptoms are the First Presentation of Liver Abscess. Pediatr Infect Dis J. 2023.11;

8. Shuya Kaneko, Fumiaki Sakura, Kay Tanita, Asami Shimbo, Ryusuke Nambu, Masashi Yoshida, Shuichiro Umetsu, Ayano Inui, Chizuru Okada, Miyuki Tsumura, Mamiko Yamada, Hisato Suzuki, Kenjiro Kosaki, Osamu Ohara, Masaki Shimizu, Tomohiro Morio, Satoshi Okada, Hirokazu Kanegane. Janus kinase inhibitors ameliorate clinical symptoms in patients with STAT3 gain-of-function. Immunotherapy Advances. 2023.11;

9. Daisuke Kurita, Norio Shiba, Takashi Ohya, Ayako Murase, Yuko Shimosato, Masahiro Yoshitomi, Seira Hattori, Koji Sasaki, Kenichi Nishimura, Shin-Ichi Tsujimoto, Masanobu Takeuchi, Reo Tanoshima, Hirokazu Kanegane, Norihiko Kitagawa, Shuichi Ito. Severe RAS-Associated Lymphoproliferative Disease

Case with Increasing α β Double-Negative T Cells with Atypical Features. J Clin Immunol. 2023.11; 43(8); 1992-1996

10. Asuka Kono, Manabu Wakamatsu, Yoshihiro Umezawa, Hideki Muramatsu, Hiroki Fujiwara, Dan Tomomasa, Kento Inoue, Keiichiro Hattori, Tetsuo Mitsui, Hidetoshi Takada, Yoshiyuki Minegishi, Yoshiyuki Takahashi, Masahide Yamamoto, Takehiko Mori, Hirokazu Kanegane. Successful treatment of DOCK8 deficiency by allogeneic hematopoietic cell transplantation from alternative donors. Int J Hematol. 2023.10; 118(4); 519-525

11. Nishiyama Y, Mizuki K, Hoshino A, Hirabayashi S, Magara T, Ashiarai M, Miyamoto S, Ono R, Takahashi S, Hosoya Y, Niizato D, Yoshihara H, Nishimura A, Mitsuiki N, Kamiya T, Takasawa K, Kajiwara M, Kanegane H, Morio T, Manabe A, Isoda T, Hasegawa D, Takagi M. Hematopoietic cell transplantation for hematological malignancies in Bloom syndrome. Pediatric blood & cancer. 2023.08; 70(11); e30655

12. Akira Morimoto, Yoko Shioda, Kazuko Kudo, Hirokazu Kanegane, Toshihiko Imamura, Katsuyoshi Koh, Yoshiyuki Kosaka, Yuki Yuza, Atsuko Nakazawa, Akiko M Saito, Tomoyuki Watanabe, Yozo Nakazawa. Intensification of treatment with vinca alkaloid does not improve outcomes in pediatric patients with Langerhans cell histiocytosis: results from the JPLSG LCH-12 study. Int J Hematol. 2023.07; 118(1); 107-118

13. Motoi Yamashita, Masae Kuroha, Yuko Kinowawki, Nao Kashiwagi, Kotaro Watanabe, Mika Nagase, Daiki Niizato, Noriko Mitsuiki, Takeshi Isoda, Takahiro Kamiya, Atsuko Arisaka, Motoki Inaji, Kenichi Ohashi, Kohsuke Imai, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi. A SAMD5-SASH1 fusion in solitary infantile myofibromatosis. Pediatr Blood Cancer. 2023.06; 70(6); e30278

14. Ryosuke Wakatsuki, Yoshiho Hatai, Kentaro Okamoto, Shuya Kaneko, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Masaki Shimizu, Hirokazu Kanegane, Makoto Ono. An infant with A20 haploinsufficiency presenting with periodic fever syndrome: A case report. Int J Rheum Dis. 2023.05; 26(5); 973-976

15. Kento Inoue, Satoshi Miyamoto, Dan Tomomasa, Eriko Adachi, Shohei Azumi, Yasuo Horikoshi, Takashi Ishihara, Shinya Osone, Yuta Kawahara, Ko Kudo, Zenichiro Kato, Hidenori Ohnishi, Kenichi Kashimada, Kohsuke Imai, Osamu Ohara, Menno C van Zelm, Morton J Cowan, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Clinical and Genetic Characterization of Patients with Artemis Deficiency in Japan. J Clin Immunol. 2023.04; 43(3); 585-594

16. Dan Tomomasa, Motoi Yamashita, Takahiro Kamiya, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Maternal Gonosomal Mosaicism Causes XIAP Deficiency. J Clin Immunol. 2023.04; 43(3); 525-527

17. Kana Unuma, Dan Tomomasa, Kosuke Noma, Kouhei Yamamoto, Taka-Aki Matsuyama, Yohsuke Makino, Atsushi Hijikata, Shuheng Wen, Tsutomu Ogata, Nobuhiko Okamoto, Satoshi Okada, Kenichi Ohashi, Koichi Uemura, Hirokazu Kanegane. Case Report: Molecular autopsy underlie COVID-19-associated sudden, unexplained child mortality. Front Immunol. 2023.04; 14; 1121059

18. Fumiaki Sakura, Kosuke Noma, Takaki Asano, Kay Tanita, Etsushi Toyofuku, Kentaro Kato, Miyuki Tsumura, Hiroshi Nihira, Kazushi Izawa, Kanako Mitsui-Sekinaka, Ryo Konno, Yusuke Kawashima, Yoko Mizoguchi, Shuhei Karakawa, Seiichi Hayakawa, Hiroshi Kawaguchi, Kohsuke Imai, Shigeaki Nonoyama, Takahiro Yasumi, Hidenori Ohnishi, Hirokazu Kanegane, Osamu Ohara, Satoshi Okada. A complementary approach for genetic diagnosis of inborn errors of immunity using proteogenomic analysis. PNAS Nexus. 2023.04; 2(4); pgad104

19. Dan Tomomasa, Takeshi Isoda, Noriko Mitsuiki, Kento Inoue, Akira Nishimura, Kazuhiro Uda, Toru Uchiyama, Motoi Yamashita, Takahiro Kamiya, Akifumi Endo, Masatoshi Takagi, Kohsuke Imai, Michiko Kajiwara, Morton J Cowan, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Successful TCR α β /CD19-Depleted Hematopoietic Cell Transplantation for a Patient With Artemis Deficiency. J Pediatr Hematol Oncol. 2023.03; 45(2); e285-e289

20. Dirk Roos, Karin van Leeuwen, Manisha Madkaikar, Priyanka M Kambli, Maya Gupta, Vikram Mathews, Amit Rawat, Douglas B Kuhns, Steven M Holland, Martin de Boer, Hirokazu Kanegane, Nima Parvaneh, Myriam Lorenz, Klaus Schwarz, Christoph Klein, Roya Sherkat, Mahbube Jafari, Baruch Wolach, Johan T den Dunnen, Taco W Kuijpers, M Yavuz Köker. Hematologically important mutations: Leukocyte adhesion deficiency (second update). Blood Cells Mol Dis. 2023.03; 99; 102726

21. Rintaro Ono, Miyuki Tsumura, Saho Shima, Yusuke Matsuda, Kenji Gotoh, Yurina Miyata, Yuko Yoto, Dan Tomomasa, Takanori Utsumi, Hidenori Ohnishi, Zenichiro Kato, Naruhiko Ishiwada, Aki Ishikawa, Taizo Wada, Hisashi Uhara, Ryuta Nishikomori, Daisuke Hasegawa, Satoshi Okada, Hirokazu Kanegane. Novel STAT1 Variants in Japanese Patients with Isolated Mendelian Susceptibility to Mycobacterial Diseases. J Clin Immunol. 2023.02; 43(2); 466-478

22. Hirokazu Kanegane. Patient-derived induced pluripotent stem cells underlie the pathogenesis of the diseases. Pediatr Int. 2023.01; 65(1); e15463

23. Takeru Kanazawa, Tatsuyuki Ishida, Madoka Shirai, Daiki Niizato, Takeshi Isoda, Yoshifusa Abe, Hirokazu Kanegane. Wiskott-Aldrich syndrome with normal-sized platelets. Pediatr Int. 2023.01; 65(1); e15453

24. Hirokazu Kobushi, Katsutsugu Umeda, Eitaro Hiejima, Kentaro Kato, Mayumi Sugimoto, Hirokazu Kanegane, Junko Takita. Alemtuzumab-based reduced-intensity conditioning for XIAP deficiency. Pediatr Int. 2023; 65(1); e15576

25. Sara Konishi, Rintaro Ono, Miyuki Tanaka, Ken-Ichi Imadome, Yozo Nakazawa, Hirokazu Kanegane, Daisuke Hasegawa. Cytokine-based disease monitoring in refractory HLH with primary EBV infection. Pediatr Int. 2023; 65(1); e15590

26. Hirokazu Kanegane, Masataka Ishimura, Toshinao Kawai, Satoshi Okada, Nobuaki Okamatsu, Madoka Go, Shinichi Noto. Patient-reported outcomes in patients with primary immunodeficiency diseases in Japan: baseline results from a prospective observational study. Front Immunol. 2023; 14; 1244250

1. 金兼弘和, 友政弾, 谷田けい. Monogenic IBD に対する造血細胞移植 臨床血液. 2023.09; 64(9); 361-369

2. 金兼弘和. 成人における先天性免疫不全症の診察 臨床血液. 2023.08; 64(８); 772-781

3. 金兼弘和. 原発性免疫不全症の最新知見 小児感染免疫. 2023.08; 35(3); 246-257

4. 坂川由里歌, 友田昴宏, 森下あおい, 井上健斗, 岡野翼, 山下基, 神谷尚宏, 水野朋子, 磯田健志, 栁町昌克, 高木正稔, 金兼弘和, 今井耕輔, 森尾友宏. 造血細胞移植後に生じた選択的低 IgG2 血症の 2 例 日本小児科学会雑誌. 2023.04; 127(4); 599-604

5. 森有弥香, 山下基, 友政弾, 友田昂宏, 岡野翼, 満生紀子, 磯田健志, 神谷尚宏, 高木正稔, 今井耕輔, 金兼弘和, 森尾友宏. NEMO 異常症に対する骨髄移植後の二次性生着不全に対する移植後シクロホスファミド法を用いた HLA 半合致サルベージ骨髄移植 日本小児血液・がん学会雑誌. 2023.02; 59(5); 420-425

6. 大林三裕佳 (春日井市民病院/皮膚科), 中村賢人, 古橋卓也, 岩月啓氏, 三宅智子, 平井陽至, 谷田けい, 金兼弘和, 西田徹也, 木村宏, 森田明理. CD8+ α β T 細胞優位型種痘様水疱症リンパ増殖異常症の 1 例 皮膚科の臨床. 2023.02; 65(2); 273-278

[書籍等出版物]

1. 多田歩末, 金兼弘和. 子どもの検査値の判断に困ったら. 金原出版株式会社, 2023.12

2. 多田歩末, 金兼弘和. 子どもの検査値の判断に困ったら . 金原出版株式会社, 2023.12

3. 星野顕宏, 金兼弘和. 原発性免疫不全症候群. 診断と治療社, 2023.10 (ISBN : 978-4-7878-2630-5)

4. 金兼弘和, 森尾友宏. 日本臨牀 (別冊)：「血液症候群（第 3 版）Ⅱ」. 日本臨牀, 2023.10

5. 友政弾, 金兼弘和. 日本臨牀 (別冊)：「血液症候群（第 3 版）Ⅱ」. 日本臨牀, 2023.10

6. 友政弾, 金兼弘和. 日本臨牀 (別冊)：「血液症候群（第 3 版）Ⅱ」. 日本臨牀, 2023.10

7. 友政弾, 金兼弘和. 日本臨牀 (別冊)：「血液症候群（第 3 版）Ⅱ」 . 日本臨牀, 2023.10

8. 渡邉健一郎, 金兼弘和. 遺伝性骨髄不全症診療ガイドライン 2023. 診断と治療社, 2023.06 (ISBN : 978-4-7878-2559-9)

9. 金兼弘和. ネルソン小児科学　原書第 21 版（日本語版）. エルゼビアジャパン株式会社, 2023.06

10. 金兼弘和, 谷田けい. 小児科学　第 11 版. 文光堂, 2023.04 (ISBN : 978-4-8306-3046-0)

[総説]

1. Holm H Uhlig, Claire Booth, Judy Cho, Marla Dubinsky, Anne M Griffiths, Bodo Grimbacher, Sophie Hambleton, Ying Huang, Kelsey Jones, Jochen Kammermeier, Hirokazu Kanegane, Sibylle Koletzko, Daniel Kotlarz, Christoph Klein, Michael J Lenardo, Bernice Lo, Dermot P B McGovern, Ahmet Özen, Lissy de Ridder, Frank Ruemmele, Dror S Shouval, Scott B Snapper, Simon P Travis, Dan Turner, David C Wilson, Aleixo M Muise. Precision medicine in monogenic inflammatory bowel disease: proposed mIBD REPORT standards. Nat Rev Gastroenterol Hepatol. 2023.12; 20(12); 810-828

2. Hirokazu Kanegane, Atsuko Noguchi, Yuki Yamada, Takahiro Yasumi. Rare diseases presenting with hemophagocytic lymphohistiocytosis. Pediatr Int. 2023; 65(1); e15516

1. 黒石奈保, 金津真一, 高園貴弘, 岡本晃直, 冨田章裕, 山永成美, 剣持敬, 江川裕人, 井上健斗, 金兼弘和, 谷口俊文, 奥健志, 菊地勘, 四柳宏. 免疫不全患者における COVID-19 疾病負担 THERAPEUTIC RESEARCH. 2023.12; 44(12); 881-897

[講演・口頭発表等]

1. Hirokazu Kanegane. Flow cytometry use in Primary Immunodeficiency disorders. Mini-symposium: Inborn errors of immunity 2023.10.27 Bangkok

2. Hirokazu Kanegane. NK cell assays. APSID 2023 2023.10.26 Singapore

3. Hirokazu Kanegane. Diagnosis and Management of Primary Atopic Disorder. APAAACI 2023 2023.10.25 Singapore

4. Hirokazu Kanegane. Rare diseases presenting with hemophagocytic lymphohistiocytosis. IEI SCAC 2023 2023.09.15 重慶

5. Satoshi Miyamoto, Daiki Niizato, Takahiro Kamiya, Takeshi Isoda, Masatoshi Takagi, Shohei Azumi, Shinsuke Hirabayashi, Kenichi Sakamoto, Kenji Kishimoto, Takako Miyamura, Katsutsugu Umeda, Masakatsu Yanagimachi, Kaori Kanda, Yasuhiro Ikawa, Kenichiro Watanabe, Tatsuo Ichinohe, Hirotoshi Sakaguchi, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Allogenic hematopoietic cell transplantation with alemtuzumab in Asian patients with inborn errors of immunity. ICBMT2023 2023.09.01 Busan

6. Dan Tomomasa, Tasuku Suzuki, Ichiro Takeuchi, Kimitoshi Goto, Shin-Ichiro Hagiwara, Dai Keino, Satoshi Saida, Takashi Ishige, Takahiro Kudo, Masataka Ishimura, Motohiro Kato, Yoji Sasahara, Tomohiro Morio, Katsuhiro Arai, Hirokazu Kanegane. Clinical and genetic characteristics of IL10RA deficiency patients in Japan. The 2nd International Symposium of Clinical Immunology 2023.05.19 神奈川

7. Hirokazu Kanegane. HLH associated with inborn errors of metablism and familial hemophagocytic lymphohistiocytosis in adult. 2nd National Congress of Inborn Errors of Immunity and National Forum on Pediatric Immunology (IEI China 2023 and FOPI) 2023.04.26 Web 開催

8. Mahnaz Jamee, Hirokazu Kanegane. Lung Surgery in STAT3 loss-of-function mutation: is it advisable?. APSID 2023 2023.04.22 香港

1. 金兼弘和. 10 の徴候からいかに原発性免疫不全症を診断するか. 京都免疫不全フォーラム 2023.12.08 Web 開催

2. 金兼弘和, 遠藤明史, 岡田賢, 大西秀典, 石村匡崇, 西小森隆太, 村松英城, 和田泰三, 今井耕輔, 野々村恵章, 久我敦, 坂本航, Russo-Schwarzbaum Sharon, Liang-Hui Chu, McCoy Barbara, Li Zhaoyang, Yel Leman. 原発性免疫不全症症候群 (PID) 日本人患者を対象に 20%皮下注免疫グロブリン製剤を毎週または遠隔投与した第三相試験. 第 55 回日本小児感染症学会・学術集会 2023.11.26 愛知

3. 新里大毅, 磯田健志, 友政弾, 森尾友宏, 武内寛明, 金兼弘和. 先天性免疫異常症患者における COVID-19 持続感染の過程で異なる変異を認めた SARS-CoV-2 のウイルス学的特徴. 第 55 回日本小児感染症学会・学術集会 2023.11.26 愛知

4. 井上健斗, 友政弾, 中釜悠, 大西秀典, 岡田賢, 武内寛明, 城戸康年, 森尾友宏, 金兼弘和. 抗体産生不完全症患者に対するチキサゲビマブ・シルガビマブの予防効果. 第 55 回日本小児感染症学会・学術集会 2023.11.25 愛知

5. 金兼弘和. 明日へと繋ぐ IEI 診療と研究. PID Web Seminar 2023.11.17 北海道

6. 金兼弘和. 原発性免疫不全症における感染予防と管理. PID 全国 Web 講演会 2023.11.01 Web 開催

7. 古賀友紀, 金兼弘和. Monogenic IBD に対する造血細胞移植. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.14 東京

8. 真保麻実, 金子修也, 伊良部仁, 阿久津裕子, 今井耕輔, 金兼弘和, 清水正樹, 森尾友宏. 小児期発症全身性エリテマトーデスの免疫学的フェノタイプ解析一既存治療への不応性と IL-12/IL-23-Th17 axis の関連について. 第 32 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2023.10.13 埼玉

9. 金兼弘和, 友政弾, 谷田けい. Monogenic IBD に対する造血細胞移植. 第 65 回日本小児血液 · がん学会学術集会 2023.09.30 北海道

10. 新里大毅, 磯田健志, 星野顕宏, 西村聡, 友政弾, 鷲尾佳奈, 神谷尚宏, 金兼弘和, 森尾友宏, 高木正稔. 急性骨髄性白血病細胞に RUNX1 バリアントを認めた DNA リガーゼ 4 欠損症. 第 65 回日本小児血液 · がん学会学術集会 2023.09.29 北海道

11. 三上貴司, 加藤格, 西村聡, 神鳥達哉, 宮村能子, 冨澤大輔, 今村俊彦, 小川誠司, 高木正稔 , 滝田順子. 系統転換で再発した KMT2A-AFF1 陽性 AML に特徴的に認められる単球性 MDSC 様の免疫抑制形質. 第 65 回日本小児血液 · がん学会学術集会 2023.09.29 北海道

12. 友政弾, 西村聡, 坂田尚己, 坂本謙一, 伊川泰広, 吉田健一, 小川誠司, 高木正稔, 森尾友宏, 金兼弘和. SAP 欠損症に伴うリンパ増殖症における体細胞バリアントの検索. 第 65 回日本小児血液 · がん学会学術集会 2023.09.29 北海道

13. 金兼弘和. 全ゲノム解析によって明らかとなった染色体構造異常による Wiskott-Aldrich 症候群. 令和 5 年度エビデンス班会議 「原発性免疫不全症の診断率向上に向けた CD45 陽性細胞を用いたマルチオミックス解析の開発」班 2023.09.27 Web 開催

14. 小林杏珠, 友政弾, 佐倉文祥, 浅野孝基, 土方敦司, 内山徹, 岡田賢, 森尾友宏, 高木正稔, 金兼弘和. 成人期に診断された ADA 欠損症. 第 14 回関東甲信越免疫不全症研究会 2023.09.24 東京

15. 星野顕宏, 高木正稔, 友政弾, 小林純也, 坂田尚己, 森尾友宏, 金兼弘和. RAD50 欠損症による骨髄不全と免疫異常症. 第 162 回小児血液腫瘍免疫懇話会 2023.09.08 東京 (Web)

16. 金兼弘和. 低ガンマグロブリン血症に対する 免疫グロブリン補充療法の新展開. 第 58 回中部日本小児科学会 2023.08.20 愛知

17. 古野秀裕, 星野顕宏, 西山洋平, 西村聡, 宮本智史, 神谷尚宏, 磯田健志, 高木正稔, 梶原道子, 金兼弘和, 森尾友宏. 合併症の有無で対照的な管理を要した重症複合免疫不全症の 2 例. 第 691 回日本小児科学会東京都地方会講話会 2023.07.08 東京

18. 金兼弘和. IEI を疑う 10 の徴候を紐解く. 東北 IEI Web Seminar 2023.07.07 Web 開催

19. 金兼弘和. 日常診療に潜む IEI. 千葉先天性免疫異常症 Web Seminar 2023.06.30 Web 開催

20. 桐野玄, 高澤啓, 中川竜一, 山内建, 我有茉希, 齋藤洋子, 安達恵利子, 中谷久恵, 神谷尚宏, 磯田健志, 梶原道子, 金兼弘和, 鹿島田健一, 森尾友宏. 先天性免疫異常における膵島自己免疫の実態および造血細胞移植の効果. 第 96 回日本内分泌学会学術総会 2023.06.02 愛知

21. 金兼弘和. 原発性免疫不全症と免疫グロブリンに関する講演. 第 2 回国際臨床免疫シンポジウム ランチョンセミナー 2023.05.19 神奈川

22. 山下基, 柏木菜緒, 神谷尚宏, 江口詩織, 新里大毅, 満生紀子, 磯田健志, 木脇裕子, 稲次基希, 今井耕輔, 金兼弘和, 高木正稔, 森尾友宏. 全エクソン解析が診断に有用であった軟部組織腫瘍の一例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.16 東京

23. 中島啓介, 木口智之, 梅原真帆, 長妻美沙子, 金兼弘和, 森尾友宏. 小児新型コロナワクチン接種後の本人および家族の日常生活への影響. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.15 東京

24. 石橋佑脩, 神谷尚宏, 村越未希, 宇田川智宏, 遠藤明史, 磯田健志, 高木正稔, 金兼弘和, 今井耕輔, 森尾友宏. GATA2 異常症に対する同種造血細胞移植後に膜性腎症を発症し，リツキシマブ治療が奏功した 1 例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京

25. 宮岡双葉, 金子修也, 真保麻実, 伊良部仁, 村越未希, 西村聡, 宇田川智宏, 神谷尚宏, 磯田健志, 清水正樹, 金兼弘和, 森尾友宏. 全身型若年性特発性関節炎に合併したマクロファージ活性化症候群に対し，ルキソリチニブが有効であった一例. 第 126 回日本小児科学会学術集会 2023.04.14 東京

26. 金兼弘和. PID とは。PID での診断における課題. PID メディアラウンドテーブル 2023.04.06 東京

27. 森毅彦, 金兼弘和. 日常診療に潜む希少疾患 その症状、本当に感染症だけ？ 「PID は小児だけの病気ではない」. PID エリア講演会 2023.03.29 Web 開催

28. 金兼弘和. 日常診療に潜む希少疾患 〜その症状、本当に感染症だけ？ 〜. PID は小児だけの病気ではない 2023.03.29 東京

29. 金兼弘和. 免疫不全症の診断と治療の Tips. 第 9 回 BUNKYO P.C.C. 2023.03.22 東京

30. 和田泰三, 金兼弘和. Lessons learned from Burton. 第 11 回北陸免疫不全症セミナー 2023.03.10 金沢及び Web 開催

31. 金兼弘和. 明日からの診療に役立つ PID の診断と治療の Tips. 鹿児島 PID Web Seminar 2023.03.03 Web 開催

32. 宮本智史, 新里大毅, 神谷尚宏, 磯田健志, 安積昌平, 平林真介, 坂本謙一, 岸本健治, 宮村能子, 梅田雄嗣, 栁町昌克, 神田香織, 伊川泰広, 渡邉健一郎, 坂口大俊, 森尾友宏, 金兼弘和. 小児先天性免疫異常症におけるアレムツズマブを用いた同種造血細胞移植の後方視解析. 第 45 回 日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.12 愛知

33. 平田浩聖, 堅田有宇, 佐川博貴, 服部高明, 今井耕輔, 豊福悦史, 金子修也, 清水正樹, 宮本尚幸, 八角高裕, 山本正英, 森尾友宏, 横田隆徳, 笹原洋二, 金兼弘和. CLIPPERS 症候群様の脳 MRI 所見を呈した遅発性家族性血球貪食症性リンパ組織球症 3 型の 2 例. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.12 東京

34. 花田彩加, 豊福悦史, 山下基, 友田昴宏, 磯田健志, 神谷尚宏, 高木正稔, 金兼弘和, 今井耕輔, 森尾友宏. 染色体構造異常による Wiskott-Aldrich 症候群. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.12 東京

35. 友政弾, 金兼弘和. 造血細胞移植で治療可能な IBD. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 · 学術総会 2023.02.12 東京

36. 金兼弘和. エバシェルドによる COVID-19 発症抑制. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 · 学術総会 2023.02.12 東京

37. 長濱潤, 西川拓朗, 中村達郎, 中川俊輔, 児玉祐一, 友政弾, 金兼弘和, 岡本康裕. 発症年齢、発症症状が異なる X 連鎖慢性肉芽腫症の 2 例. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 · 学術総会 2023.02.12 東京

38. 金兼弘和. エバシェルドによる COVID-19 発症抑制. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.12 東京

39. 大口郁夫, 西村聡, 山下基, 星野顕宏, 磯田健志, 神谷尚宏, 金兼弘和, 高木正稔, 森尾友宏. 再発急性骨髄性白血病に対してクロファラビンを用いた再移植で寛解を維持した 1 例. 第 45 回 日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.11 愛知

40. 石塚潤子, 持田靖子, 有川淑恵, 石川智則, 神谷尚宏, 磯田健志, 西村聡, 星野顕宏, 高木正稔, 梶原道子, 金兼弘和, 森尾友宏. 思春期の患者 · 家族の妊孕性温存療法における造血細胞移植コーディネーターによる支援. 第 45 回 日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.11 愛知

41. 仁紙千尋, 遠藤明史, 神谷尚宏, 磯田健志, 金兼弘和, 森尾友宏, 今井耕輔. STAT3 機能喪失型高 IgE 症候群の成人例、小児例の比較. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.11 東京

42. 金子修也, 佐倉文祥, 清水正樹, 宮岡双葉, 真保麻実, 岡田千鶴, 伊良部仁, 小崎健次郎, 福島啓太郎, 森雅亮, 岡田賢, 金兼弘和, 森尾友宏. JAK 阻害薬が有効であった機能獲得型 STAT3 変異. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.11 東京

43. 宮本智史, 西村聡, 星野顕宏, 神谷尚宏, 磯田健志, 梶原道子, 高木正稔, 今井耕輔, 金兼弘和, 森尾友宏 . 先天性免疫異常症に対する同種造血細胞移植. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 2023.02.11 東京

44. 友政弾, 平田悠樹, 馬嶋秀考, 今中雄介, 井上祐三朗, 渡邉哲, 亀井克彦, 岡田賢, 金兼弘和. 表在性ならびに侵襲性真菌感染症を診た場合に何を考えるか？ CARD9 欠損症の成人 2 例. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 · 学術総会 2023.02.11 東京

45. 仁平寛士, 日衛嶋栄太郎, 村本雄哉, 塩川雅広, 新井勝大, 工藤孝広, 岩間達, 水落建輝, 十河剛, 梶恵美里, 河合利尚, 笹原洋二, 大西英典, 岡田賢, 金兼弘和, 西小森隆太, 本田吉孝, 滝田順子, 井澤和司, 八角高裕. 抗 integrin $\alpha v \beta 6$ 抗体の小児 IBD における多施設検討. 第 6 回日本免疫不全 · 自己炎症学会 · 学術総会 2023.02.11 東京

46. 金兼弘和. 先天性免疫異常症をどのように診断するか. 第 1 回小児感染症ハイレベルコース「先天性免疫異常症」 2023.01.14 Web 開催

[その他業績]

1. 第 29 回小児血液 · SCT 研究会 世話人会, 2023 年 04 月
   講演会世話人【金兼弘和】

2. 原発性免疫不全症に関する NHK の取材, 2023 年 04 月
   取材対応【金兼弘和】

3. 「COVID-19 に関連した小児突然死の背景にある希少疾患の診断に成功」 — 世界初の分子剖検による LZTR1 変異を有する Noonan 症候群の診断例 —（金兼弘和） , 2023 年 04 月
   Frontiers in Immunology

4. Molecular autopsy sheds light on cause of sudden death of a child with COVID-19, 2023 年 04 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

5. 「 X 連鎖無ガンマグロブリン血症（XLA）に対する造血細胞移植の国際調査結果 」 —造血細胞移植が XLA の代替的な根治治療となりうる—（金兼弘和） , 2023 年 07 月
   Journal of Clinical Immunology

6. 「COVID-19 中和抗体薬 AZD3152 Advisory Board Meeting」における指導 · および助言, 2023 年 07 月
   アドバイザー【金兼弘和】

7. 第 14 回関東甲信越免疫不全症研究会「免疫異常症に対する最近の知見について」, 2023 年 09 月
   研究会海外招聘講演　座長【金兼弘和】

8. 骨髄不全と免疫不全に関わる RAD50 の異常を発見 — 新奇先天性免疫不全症として RAD50 欠損症を提唱 —, 2023 年 10 月
   Journal of Clinical Immunology

9. 骨髄不全と免疫不全に関わる RAD50 の異常を発見 — 新奇先天性免疫不全症として RAD50 欠損症を提唱 —（金兼弘和） , 2023 年 10 月
   Journal of Clinical Immunology

10. Researchers identify the variants responsible for a rare and serious disorder（金兼弘和） , 2023 年 11 月
    AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

11. PID 新規治療薬開発に関する現状および課題のヒアリング, 2023 年 12 月
    アドバイザー【金兼弘和】

[社会貢献活動]

1. NPO 法人 PID つばさの会 代表医療顧問, PID つばさの会, 2022 年 04 月 01 日 - 現在

2. 希少疾患および PID(原発性免疫不全症) について（金兼弘和）, 読売新聞, 読売新聞夕刊, 2023 年 04 月 06 日

3. 希少疾患および PID(原発性免疫不全症) について （金兼弘和） , 日刊現代, 日刊現代, 2023 年 04 月 06 日

4. 新型コロナに関連した小児突然死の背景について（金兼弘和） , NHK, おはよう日本、NHK ニュースなど, 2023 年 04 月 18 日 - 2023 年 04 月 26 日

5. 希少疾患および PID(原発性免疫不全症) について（金兼弘和） , 希少疾患および PID(原発性免疫不全症) について, アピタル, 2023 年 04 月 21 日

6. 希少疾患および PID(原発性免疫不全症) について（金兼弘和） , 株式会社 QLife, Qlife, 2023 年 04 月 21 日

7. 希少疾患および PID(原発性免疫不全症) について （金兼弘和） , 時事通信社, 時事メディカル, 2023 年 05 月 10 日 - 2023 年 05 月 16 日

8. X 連鎖重症複合免疫不全症（X-SCID）における今回の事案の位置づけ、今後の展望について（金兼弘和）, 読売新聞東京本社, 読売新聞, 2023 年 05 月 11 日
9. 原発性免疫不全症（PID）の疾患特性について（金兼弘和） , アサジョ, アサジョ, 2023 年 06 月 07 日
10. 原発性免疫不全症（PID）の疾患特性について（金兼弘和） , CA Media, CA Media, 2023 年 06 月 07 日
11. 新生児マススクリーニングについて（金兼弘和） , NHK, NHK（各ニュース番組、ウェブサイト）, 2023 年 11 月 01 日
12. 拡大新生児マススクリーニングについて（金兼弘和） , NHK, NHK（各ニュース番組、ウェブサイト）, 2023 年 11 月 13 日

肺免疫治療学講座

Department of Pulmonary Immunotherapeutics

准教授　　岡本　師

(1)　分野概要

肺は呼吸を行うことによって常に外界と接しているため、粉塵やアレルゲンなどの異物やウイルスなどの病原体を排除する免疫系が発達している。肺免疫システムを制御して新型コロナ肺炎、気管支喘息、過敏性肺炎 · 肺線維症、肺癌などの難治性呼吸器疾患の治療を開発することが社会的にも望まれている。
本講座の母体となる統合呼吸器病学 · 呼吸器内科においては、上記難治性呼吸器疾患の診療を行なっており、臨床研究 · 基礎研究の実績がある。本講座の研究 · 教育 · 臨床活動の多くの部分が統合呼吸器病学 · 呼吸器内科と共同で運営されている。総合的な教育、研究が進むことによって、有効な治療を開発することを目標とする。

(2)　研究活動

· 新型コロナウイルス肺炎における重症化因子、サイトカインストームを起こす因子を解明し、治療開発を行う。
· 呼吸器内科で担当しているアレルギー疾患先端治療センターとともに研究 · 教育を行い、難治性気管支喘息の治療法を開発する。
· 過敏性肺炎 · 肺線維症の発症機序を免疫学的に解明し治療法を開発する。
· 肺癌、特に間質性肺炎 · 肺線維症合併肺癌における肺免疫システムの役割を明らかにして治療法につながる基礎的データを創造する。特に肺癌 · 悪性胸膜中皮腫臨床検体の中でも末梢血や病理標本等を用いて、腫瘍浸潤性免疫細胞などの腫瘍免疫状態の網羅的な解析を行い、基礎医学のエビデンスを創出する。

(3)　教育活動

呼吸器内科における講義や実習もを担当し、学生および研修医の教育を行っている。また、統合呼吸器病学の大学院生とともに肺免疫に関連する研究を行っている。

(4)　臨床活動および学外活動

本講座の母体となる統合呼吸器病学 · 呼吸器内科において、新型コロナ肺炎、気管支喘息、過敏性肺炎 · 肺線維症、肺癌の診療を行なっており、臨床研究 · 基礎研究の実績がある。

(5)　研究業績

[原著]

1. Endo S, Okamoto T, Kawahara T, Anzai T, Takahashi K, Miyazaki Y. Effect of warm and humid days on the positivity rate of anti-Trichosporon asahii antibody test for the diagnosis of summer-type hypersensitivity pneumonitis. Respiratory investigation. 2023.12; 62(1); 150-156

2. Aoki H, Miyazaki Y, Anzai T, Yokoyama K, Tsuchiya J, Shirai T, Shibata S, Sakakibara R, Mitsumura T, Honda T, Furusawa H, Okamoto T, Tateishi T, Tamaoka M, Yamamoto M, Takahashi K, Tateishi U, Yamaguchi T. Deep convolutional neural network for differentiating between sarcoidosis and lymphoma

based on [(18)F] FDG maximum-intensity projection images. European radiology. 2023.08; 34(1); 374-383

3. Maruyama S, Furusawa H, Endo S, Kumagai T, Mitsumura T, Shimada S, Yamana T, Sakakibara R, Iijima Y, Shibata S, Honda T, Shirai T, Okamoto T, Tateishi T, Tamaoka M, Kinowaki Y, Ishibashi H, Okubo K, Miyazaki Y. Pulmonary Artery Aneurysm in a Patient with Nontuberculous Mycobacteria Infection. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2023.08;

4. Ikeda Tokuji, Ichiba Shingo, Sasaki Takashi, Sato Masaaki, Konoeda Chihiro, Okamoto Tsukasa, Miyazaki Yasunari, Nakajima Jun, Sakamoto Atsuhiro. A case of severe respiratory failure due to interstitial pneumonia successfully bridged to lung transplantation from a brain-dead donor using 109-day veno-arterial extracorporeal membrane oxygenation(タイトル和訳中) Journal of Artificial Organs. 2023.03; 26(1); 84-88

5. Yamashita Shohei, Okamoto Tsukasa, Kawahara Tatsuo, Tateishi Tomoya, Anzai Tatsuhiko, Takahashi Kunihiko, Fushimi Kiyohide, Miyazaki Yasunari. Database analysis of hypersensitivity pneumonitis in Japan(タイトル和訳中) Respiratory Investigation. 2023.03; 61(2); 172-180

6. Tateishi T, Shimada S, Yamana T, Iijima Y, Sakakibara R, Mitsumura T, Shibata S, Honda T, Shirai T, Okamoto T, Tamaoka M, Sasai T, Miyazaki Y. COVID-19 Pneumonia Followed by Anti-signal Recognition Particle Antibody-positive Fibrosing Interstitial Lung Disease: A Case Report. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2023.02; 62(9); 1323-1328

7. Yamashita S, Okamoto T, Kawahara T, Tateishi T, Anzai T, Takahashi K, Fushimi K, Miyazaki Y. Database analysis of hypersensitivity pneumonitis in Japan. Respiratory investigation. 2023.01; 61(2); 172-180

8. Peljto AL, Blumhagen RZ, Walts AD, Cardwell J, Powers J, Corte TJ, Dickinson JL, Glaspole I, Moodley YP, Vasakova MK, Bendstrup E, Davidsen JR, Borie R, Crestani B, Dieude P, Bonella F, Costabel U, Gudmundsson G, Donnelly SC, Egan J, Henry MT, Keane MP, Kennedy MP, McCarthy C, McElroy AN, Olaniyi JA, O'Reilly KMA, Richeldi L, Leone PM, Poletti V, Puppo F, Tomassetti S, Luzzi V, Kokturk N, Mogulkoc N, Fiddler CA, Hirani N, Jenkins G, Maher TM, Molyneaux PL, Parfrey H, Braybrooke R, Blackwell TS, Jackson PD, Nathan SD, Porteous MK, Brown KK, Christie JD, Collard HR, Eickelberg O, Foster EE, Gibson KF, Glassberg M, Kass D, Kropski JA, Lederer D, Linderholm AL, Loyd J, Mathai SK, Montesi SB, Noth I, Oldham JM, Palmisciano AJ, Reichner CA, Rojas M, Roman J, Schluger N, Shea BS, Swigris JJ, Wolters PJ, Zhang Y, Prele CMA, Enghelmayer JI, Otaola M, Ryerson CJ, Salinas M, Sterclova M, Gebremariam TH, Myllärniemi M, Carbone R, Furusawa H, Hirose M, Inoue Y, Miyazaki Y, Ohta K, Ohta S, Okamoto T, Kim DS, Pardo A, Selman M, Aranda AU, Park MS, Park JS, Song JW, Molina-Molina M, Planas-Cerezales L, Westergren-Thorsson G, Smith AV, Manichaikul AW, Kim JS, Rich SS, Oelsner EC, Barr RG, Rotter JI, Dupuis J, O'Connor G, Vasan RS, Cho MH, Silverman EK, Schwarz MI, Steele MP, Lee JS, Yang IV, Fingerlin TE, Schwartz DA, NHLBI Trans-Omics for Precision Medicine (TOPMed) Consortium. Idiopathic Pulmonary Fibrosis Is Associated with Common Genetic Variants and Limited Rare Variants. American journal of respiratory and critical care medicine. 2023.01; 207(9); 1194-1202

9. Okada K, Sakakibara R, Honda T, Mitsumura T, Shibata S, Shirai T, Okamoto T, Furusawa H, Tateishi T, Miyazaki Y. Tolerability of sotorasib for KRAS positive lung adenocarcinoma patient with pre-existing interstitial pneumonia; A case report. Respiratory medicine case reports. 2023; 46; 101929

10. Chida-Nagai A, Masaki N, Maeda K, Sasaki K, Sato H, Muneuchi J, Ochiai Y, Murayama H, Tahara M, Shiono A, Shinozuka A, Kono F, Machida D, Toyooka S, Sugimoto S, Nakamura K, Akagi S, Kondo M, Kasahara S, Kotani Y, Koizumi J, Oda K, Harada M, Nakajima D, Murata A, Nagata H, Yatsunami K, Kobayashi T, Matsunaga Y, Inoue T, Yamagishi H, Nakagawa N, Ohtani K, Yamamoto M, Ito Y, Hokosaki T, Kuwahara Y, Masutani S, Nomura K, Wada T, Sawada H, Abiko M, Takahashi T, Ishikawa Y, Okada S, Naitoh A, Toda T, Ando T, Masuzawa A, Hoshino S, Kawada M, Nomura Y, Ueno K, Ohashi N, Tachibana T, Cao Y, Ueda H, Yanagi S, Koide M, Mitsushita N, Higashi K, Minosaki Y, Hayashi T, Okamoto T, Kuraishi K, Ehara E, Ishida H, Horigome H, Murakami T, Takei K, Ishii T, Harada G, Hirata Y, Maeda J, Tatebe S, Ota C, Hayabuchi Y, Sakazaki H, Sasaki T, Hirono K, Suzuki S, Yasuda M, Takeda A, Sawai M, Miyaji K, Kitagawa A, Nakai Y, Kakimoto N, Agematsu K, Manabe A, Saiki Y. Use of the index of pulmonary vascular disease for predicting long-term outcome of pulmonary arterial hypertension associated with congenital heart disease. Frontiers in cardiovascular medicine. 2023; 10; 1212882

1. 高澤 聖子, 岡本 師, 細谷 龍作, 榊原 里江, 石塚 聖洋, 宮崎 泰成. CEA が異常高値を呈した嚢胞を伴う濾胞性細気管支炎の 1 例 日本呼吸器学会誌. 2023.05; 12(3); 154-159

2. 丸山 総一, 岡本 師, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 玉岡 明洋, 宮崎 泰成. 進行性線維化を伴う間質性肺疾患におけるニンテダニブ投与量の違いによる安全性と有効性 呼吸臨床. 2023.04; 7(4); 1/8-8/8

3. 高澤 聖子, 白井 剛, 河原 達雄, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. 冬季に再燃した抗 Trichosporon asahii 抗体陽性の過敏性肺炎の 1 例 日本呼吸器学会誌. 2023.03; 12(2); 69-73

[講演 · 口頭発表等]

1. 甲斐 文彬, 榊原 里江, 島田 翔, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. EGFR 遺伝子陽性肺扁平上皮癌に対してオシメルチニブが奏功した 1 例. 肺癌 2023.10.01

2. 井上 渉, 古澤 春彦, 島田 翔, 園田 史朗, 榊原 理江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. サルコイドーシス患者の心病変発症様式の検討. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 2023.10.01

3. 丸田 竜介, 古澤 春彦, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 立石 和也, 根岸 美帆, 宮崎 泰成. アミオダロンによる肺障害に対して PMX-DHP を施行した 1 例. アレルギー 2023.09.01

4. 春原 涼, 島田 翔, 佐藤 万瑛, 村川 美也子, 山本 浩平, 園田 史朗, 青木 光, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 岡本 師, 宮崎 泰成. 肺癌治療中に繰り返す免疫介在性肝機能障害 (IMH) にミコフェノール酸モフェチル (MMF) 併用治療が奏功した 1 例. 日本結核 · 非結核性抗酸菌症学会関東支部学会 · 日本呼吸器学会関東地方会合同学会プログラム · 抄録集 2023.09.01

5. 岡本 師, 坂東 政司, 須田 隆文, 冨岡 洋海, 島村 貴史, 安部 豪眞, 花房 真理子, 藤原 武男, 小田嶋 博, 吉原 重美, 高瀬 眞人, 宮崎 泰成. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 · 過敏性肺炎　過敏性肺炎の全国疫学調査 (一次調査) の集計結果. アレルギー 2023.08.01

6. 丸田 竜介, 柴田 翔, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成, 桐村 進. 肺腺癌術後再発に対して化学療法中に肺扁平上皮癌を発症した 1 例. 肺癌 2023.08.01

7. 伊藤 優, 岡本 師, 大場 岳彦, 小林 正芳, 齋藤 弘明, 島田 裕之, 千秋 智重, 筒井 俊晴, 宮崎 泰成. 膠原病 · 自己免疫疾患 · 自己炎症性疾患　関節リウマチ未発症の抗 CCP 抗体陽性間質性肺疾患における臨床的検討. アレルギー 2023.08.01

8. 島村 貴史, 山名 高志, 柴田 翔, 岡本 師, 宮崎 泰成. 鳩糞抽出物による感作を行った過敏性肺炎回復期モデルマウスの作製. アレルギー 2023.08.01

9. 安井 渉, 本多 隆行, 青木 光, 島田 翔, 園田 史朗, 榊原 里江, 柴田 翔, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. SMARCA4 欠損腫瘍の 1 切除例. 気管支学 2023.07.01

10. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

11. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

12. 久保田 夏史, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄をきたした 1 例. 気管支学 2023.05.01

13. 岡田 康平, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. 間質性肺炎合併 KRAS G12C 変異陽性肺癌に Sotorasib を使用した 1 例. 肺癌 2023.04.01

14. 遠藤 駿, 岡本 師, 河原 達雄, 安齋 達彦, 高橋 邦彦, 宮崎 泰成. 抗トリコスポロン · アサヒ抗体を用いた夏型過敏性肺炎と高温多湿との関連の解析. 日本職業 · 環境アレルギー学会雑誌 2023.04.01

15. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

16. 杉原 潤, 柴田 翔, 安東 敬大, 飯島 裕基, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 岡本 師, 島田 翔, 立石 知也, 宮崎 泰成. COVID-19　後遺症　COVID-19 回復期血清におけるサイトカインマルチプレックス解析結果と後遺症の関連. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

17. 久保田 夏史, 島田 翔, 安東 敬大, 杉原 潤, 飯島 裕基, 山名 高志, 榊原 里江, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 柴田 翔, 立石 知也, 宮崎 泰成. COVID-19　後遺症　COVID-19 肺炎罹患 6 ヵ月後の肺野陰影残存と呼吸器後遺症状との関連性の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

18. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 安齋 達彦, 高橋 邦彦, 田上 隆, 宮崎 泰成. COVID-19　治療　レムデシビルとデキサメタゾンの併用は COVID-19 症例の予後に影響を与えたか. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

19. 阿部 瑛子, 榊原 里江, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 柴田 翔, 本多 隆行, 三ツ村 隆弘, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. KRAS 変異陽性肺癌の臨床病理学的特徴と治療経験. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

20. 山下 将平, 岡本 師, 河原 達雄, 立石 知也, 伏見 清秀, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　疫学 · 統計　DPC データベース解析結果から分かった日本における過敏性肺炎の疫学. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

21. 島村 貴史, 古澤 春彦, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 小松崎 恵子, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　膠原病関連肺疾患 · 血管炎 2　顕微鏡的多発血管炎 (MPA) 発症の有無による MPO-ANCA 陽性間質性肺炎の臨床的特徴. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

22. 井上 渉, 立石 知也, 島村 貴史, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　線維性過敏性肺炎に対する抗線維化薬使用例の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

23. 安部 豪眞, 岡本 師, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 祐基, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　線維性過敏性肺炎の肺機能低下と治療反応性を予測する因子の検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

24. 大森 隆広, 花房 真理子, 安東 敬大, 島田 翔, 近藤 信幸, 山下 将平, 岡本 師, 園田 史朗, 宮崎 泰成, 藤原 武男, 倉持 仁. 当院での COVID-19 後遺症の検討　2022 年 7 月から 9 月の発熱外来約 22,000 名の診療の経験から. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

25. 古川 佳奈子, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. 過敏性肺炎における小気道病変に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

26. 石川 氷介, 白井 剛, 宮崎 泰成, 立石 知也, 岡本 師, 古澤 春彦, 三ツ村 隆弘, 本多 隆行, 柴田 翔, 榊原 里江, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 古川 佳奈子. 間質性肺炎に合併した気胸 37 例の臨床的検討. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

27. 岡田 康平, 古澤 春彦, 飯島 裕基, 島田 翔, 山名 高志, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 三ツ村 隆弘, 立石 知也, 岡本 師, 宮崎 泰成. 間質性肺炎診断における Multi-disciplinary discussion(MDD) 再評価の有用性について. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

28. 副島 将史, 岡本 師, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 本多 隆行, 柴田 翔, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. 間質性肺疾患における動態 X 線検査の有用性. 日本呼吸器学会誌 2023.03.01

29. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

30. 御子柴 颯季, 三ツ村 隆弘, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 市中感染型 MRSA による難治性気道感染症の 1 例. 気管支学 2023.03.01

31. 副島 将史, 本多 隆行, 島田 翔, 山名 高志, 飯島 裕基, 榊原 里江, 三ツ村 隆弘, 柴田 翔, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. Sotorasib 投与中にビリルビン著明高値を認め薬剤性肝障害が疑われた 1 例. 日本結核 · 非結核性抗酸菌症学会関東支部学会 · 日本呼吸器学会関東地方会合同学会プログラム · 抄録集 2023.02.01

32. 古川 佳奈子, 立石 知也, 榊原 里江, ミツ村 隆弘, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 間質性肺炎の進行に対する治療開始直後に血球貪食症候群を呈した混合性結合組織病 (MCTD) の一例. アレルギー 2023.02.01

33. 遠藤 駿, 岡本 師, 河原 達雄, 安齋 達彦, 高橋 邦彦, 宮崎 泰成. 高温多湿の気象が夏型過敏性肺炎の発症に与える影響に関する全国の抗トリコスポロン・アサヒ抗体の結果を用いた解析. 日本内科学会雑誌 2023.02.01

診療科・中央診療施設等

高気圧治療部

Hyperbaric Medical Center

部長 · 教授	柳下和慶
講師	小栁津卓哉（2023.4〜）
助教	星野傑
特任助教	雨宮正樹
医員	丹羽康江（2023.7〜）池田達宣（〜2023.6）
非常勤講師	小島泰史, 大原敏之
研究員	堀江正樹，近藤俊宏，密本尚寛
秘書	伊藤清美

(1) 分野概要

高気圧酸素治療は高気圧環境下にて高濃度酸素を吸入する治療法である. 特に溶解型酸素を増大することで、低酸素組織を含めた全身に酸素供給を達成し、各種薬理作用を発揮する. 世界標準の高気圧酸素治療は 2.0〜2.8 気圧にて 60〜90 分間の高濃度酸素を吸入する治療で、100 %酸素吸入（FiO2 100%）では溶解型酸素は 1,500〜2,050 mm Hg に達する. 高気圧酸素治療の適応疾患には、減圧症や一酸化炭素中毒、コンパートメント症候群等の救急疾患のほか，末梢循環不全に伴う虚血性疾患や難治性潰瘍や晩期放射線障害による出血性膀胱炎 · 腸炎、慢性骨髄炎等感染症の慢性疾患があり、また気体の圧縮効果によりイレウスやガス壊疽に対する有効性から、国際的にも確立した治療法として位置付けられている.

本治療部では、全国で発生する多くの減圧症患者を治療しており、減圧症 · 潜水医学として日本を代表する施設である。創傷治癒分野でも高気圧酸素治療は注目を浴びており、軟部組織外傷では急性期において局所の低酸素環境を改善 · 浮腫軽減効果を呈し、修復期において瘢痕組織形成、靭帯組織形成の促進効果による早期治癒を可能とするため、本治療部では軟部組織外傷に対する高気圧酸素治療の臨床に積極的に取り組み、あわせて基礎研究を実践している.

(2) 研究活動

早期競技復帰が望まれるオリンピック選手などのトップアスリート対する高気圧酸素治療の実践と臨床研究を行っている. 東京 2020 オリンピック競技大会や北京 2022 冬季オリンピック競技大会で活躍、メダルを獲得した複数選手が、当治療部にて高気圧酸素治療を実施しており、オリンピックにおける貢献の実績を積んでいる.

スポーツ外傷である軟部組織外傷、骨外傷に対する高気圧酸素治療の基礎的研究も並行して実施している. 特に、打撲によるラット骨格筋損傷モデルでの高気圧酸素治療の有効性メカニズムに関する研究では、学会賞を受賞するなど発展的に研究が進捗している.

また、本治療部の潜水医学の歴史を基礎に、新高圧則における減圧症発症に関する研究や、船上減圧における減圧症等有害事象の研究など、減圧症に関わる各種研究も進めている.

(3) 教育活動

本治療部では特殊治療である高気圧酸素治療の一般的教育のみならず、創傷治癒 · 軟部組織外傷に関連する臨床及び基礎研究の教育や潜水医学に関連する教育を実践している.

(4) 臨床活動および学外活動

2023 年　年間高気圧酸素治療実績
· 患者数：330 人
· 高気圧酸素治療回数：3,957 回

(5) 研究業績

[原著]

1. Shunsuke Ohji, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Takehiro Ohmi, Sho Mitomo, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. Kinesiophobia Is Negatively Associated With Psychological Readiness to Return to Sport in Patients Awaiting Anterior Cruciate Ligament Reconstruction. Arthroscopy. 2023.09; 39(9); 2048-2055

2. Atsuyuki Kawabata, Kenichiro Sakai, Kentaro Yamada, Kurando Utagawa, Jun Hashimoto, Shingo Morishita, Yu Matsukura, Takuya Oyaizu, Takashi Hirai, Hiroyuki Inose, Masaki Tomori, Ichiro Torigoe, Hiroaki Onuma, Kazuo Kusano, Kazuyuki Otani, Yoshiyasu Arai, Shigeo Shindo, Atsushi Okawa, Toshitaka Yoshii. The lower Osteotomy Level is Associated With Decreased Revision Surgery Due to Mechanical Complications After Three-Column Osteotomy in Patients With Adult Spinal Deformity: A Multi-Institutional Retrospective Study. Global Spine J. 2023.08; 21925682231196449

3. Kenichiro Sakai, Toshitaka Yoshii, Yoshiyasu Arai, Takashi Hirai, Ichiro Torigoe, Hiroyuki Inose, Masaki Tomori, Kyohei Sakaki, Masato Yuasa, Tsuyoshi Yamada, Yu Matsukura, Takuya Oyaizu, Shingo Morishita, Atsushi Okawa. K-Line Tilt is a Predictor of Postoperative Kyphotic Deformity After Laminoplasty for Cervical Myelopathy Caused by Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament. Global Spine J. 2023.05; 13(4); 1005-1010

4. Naoki Yamamoto, Ryohei Takada, Tetsuya Jinno, Kazumasa Miyatake, Naoto Watanabe, Hideyuki Koga, Toshitaka Yoshii, Kazuyoshi Yagishita, Atsushi Okawa. Wear rate and osteolysis in two types of second-generation annealed highly cross-linked polyethylene in total hip arthroplasty: A retrospective comparative study with a minimum of five years. Orthop Traumatol Surg Res. 2023.02; 109(1); 103147

5. Takehiro Ohmi, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Shunsuke Ohji, Sho Mitomo, Toshiyuki Ohara, Kazuyoshi Yagishita. Biomechanical characteristics of the lower extremities during running in male long-distance runners with a history of medial tibial stress syndrome: a case control study. BMC Musculoskelet Disord. 2023.02; 24(1); 103

6. Murofushi Koji, Oshikawa Tomoki, Akuzawa Hiroshi, Yamaguchi Daisuke, Hirohata Kenji, Furuya Hidetaka, Mitomo Sho, Kaneoka Koji, Yagishita Kazuyoshi. Trunk muscle activation in side plank exercises with and without external-focus instruction ISOKINETICS AND EXERCISE SCIENCE. 2023; 31(1); 29-36

7. Koji Murofushi, Daisuke Yamaguchi, Koji Kaneoka, Tomoki Oshikawa, Hiroki Katagiri, Kenji Hirohata, Hidetaka Furuya, Sho Mitomo, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. The effectiveness of corrective exercises on the KOJI AWARENESS score and activity-related pain intensity. J Med Invest. 2023; 70(1.2); 208-212

8. Kumiko Kasashi, Ayaka Sato, Mark Stuart, Úna Hollywood, Marina Kawaguchi-Suzuki, Kazuyoshi Yagishita, Takao Akama. The Tokyo 2020 Olympic and Paralympic pharmacy services during the COVID-19 pandemic. J Am Pharm Assoc (2003). 2023; 63(4); 1156-1161

9. Norihiro Kuroki, Kazuyoshi Yagishita, Keiki Shimizu, Sachiko Okuaki, Yuuri Doi, Yuki Arakawa, Tomotsugu Nakano, Takao Akama. Emergency department activities at the Athletes' Village during the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games. Acute Med Surg. 2023; 10(1); e905

[書籍等出版物]

1. 大関 信武, 古賀 英之, 関矢 一郎. 変形性膝関節症の発症 · 進行予防の可能性—滑膜幹細胞移植による半月板の再生医療. 株式会社南江堂, 2023.06

2. 大関信武, 星野傑, 大原敏之, 古賀英之. プロ野球選手の腰椎分離症症例，臨床スポーツ医学 40（5）. 文光堂, 2023.05

[講演 · 口頭発表等]

1. Plasmin activation by tPA or uPA is indispensable for fracture repair.. Orthopaedic Research Society 2023.02.14

2. Progenitor cells derived from iliac crest autograft survive, induce endochondral ossification and contribute to lumbar fusion.. 2023.02.11

1. 小柳津卓哉　川畑篤礼　吉井俊貴. マウス腰椎後方固定モデルにおいて、移植骨細胞は内軟骨骨化を引き起こし、骨形成能を有する. 第 31 回日本腰痛学会 2023.12.02 徳島市

2. 中禮 宏，吉田浩美，杉井麻耶，柘植昂太，佐瀬裕子，永田将司，林 海里，外川海斗，藤野祥子，柳下和慶. 糖質コルチコイドの口腔内局所使用に関する情報共有について. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

3. 外川海斗，中禮 宏，林 海里，高橋優美，清水慎太郎，堀田葉子，原口貴久，立石智彦，柳下知慶，田邊 元，上野俊明. カスタムメイドフェイスガード使用により競技生活を継続できているプロフットサル選手の一例. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜

4. 吉田 龍, 大関 信武, 安斎 健太朗, 池田 達宣, 秀 恵輔, 柳下 和慶, 古賀 英之. ラグビーリーグワン Division3 の 1 チームにおける脳振盪の発生率. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

5. 秀 恵輔, 大関 信武, 安斎 健太朗, 吉田 龍, 池田 達宣, 柳下 和慶, 古賀 英之. コンタクトスポーツにおけるハムストリング付着部損傷. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

6. 高澤 祐治, 赤間 高雄, 柳下 和慶, 近藤 尚知, 大内 洋, 清水 和弘, 河野 一郎. 医学教育とアンチ · ドーピング　医学教育モデル · コア · カリキュラム改訂とスポーツ医学の位置づけ. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

7. 柳下 和慶, 塩田 幹夫, 星野 傑. トレーニング 1　リカバリー　軟部組織外傷に対するアイシングのリカバリーへの影響. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

8. 桜沢貴俊、大久保 淳、干川 祐樹、山下 隼斗、出牛 雅也、小森 慈人、平澤 幸太郎、藤巻 愛子、柳下 和慶. 高気圧環境下における気管チューブのカフ管理方法の比較検討. 第 57 回　日本高気圧環境 · 潜水医学会学術集会 2023.09.22 大田区

9. 平澤　幸太郎. 第 2 種高気圧酸素治療装置における環境圧の変化に伴う実酸素流量の実際. 第 57 回　日本高気圧環境 · 潜水医学会学術集会 2023.09.22 大田区

10. 大久保淳. CLTI 患者における補助療法の実際—レオカーナと HBO 併用—. 第 57 回　日本高気圧環境 · 潜水医学会学術集会 2023.09.22 大田区

11. 第 2 種装置を用いた高気圧酸素治療における経鼻チューブ併用が経皮酸素分圧へ及ぼす影響. 第 33 回　日本臨床工学会 2023.07.22 広島市

12. 大久保　淳, 桜沢貴俊, 干川祐樹, 山下隼斗, 出牛雅也, 平澤幸太郎, 藤巻愛子, 小柳津卓哉, 柳下和慶. 高気圧酸素治療とレオカーナを含む集学的治療が有用であった透析 CLTI 患者の一例. 第 22 回　日本高気圧環境 · 潜水医学会関東地方会学術集会 2023.07.01 墨田区

13. 桜沢貴俊, 大久保淳, 干川祐樹, 山下隼斗, 出牛雅也, 小森慈人, 平澤幸太郎, 藤巻愛子, 柳下和慶. 高気圧環境下における気管チューブのカフ管理方法に関する実験的検討. 第 22 回　日本高気圧環境 · 潜水医学会関東地方会学術集会 2023.07.01 墨田区

14. 平澤幸太郎, 桜沢貴俊, 大久保淳, 干川祐樹, 山下隼斗, 出牛雅也, 藤巻愛子, 柳下和慶. 経鼻チューブ併用時の酸素投与方法に関する検討. 第 22 回　日本高気圧環境 · 潜水医学会関東地方会学術集会 2023.07.01 墨田区

15. Progenitor cells derived from iliac crest autograft survive, induce endochondral ossification, and contribute to lumbar fusion.. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.04.13 札幌市

16. Oyaizu Takuya, Kawabata Atsuyuki, Egawa Satoru, Moore-Lotridge Stephanie, Reese J. Court, Mckee Rachel, Yoshii Toshitaka, Schoenecker Jonathan. 腸骨稜自己移植片由来の前駆細胞は生存し、軟骨内骨化を誘導し、腰椎癒合と関連する (Progenitor cells derived from iliac crest autograft survive, induce endochondral ossification, and contribute to lumbar fusion). Journal of Spine Research 2023.04.01

17. 小島 泰史. 新型コロナ感染症流行下の高気圧酸素治療、潜水. 日本高気圧環境 · 潜水医学会第 6 回近畿地方会学術集会 2023.03.19 オンライン

[その他業績]

1. セルフ · スクリーニングテスト KOJI AWARENESS〜KOJI AWARENESS〜, 2023 年 01 月
   PLoS One

[社会貢献活動]

1. 高気圧治療の外傷への応用, 共同通信社, 医療面向け企画「医療新世紀」, 2023 年 02 月 17 日 - 現在
2. 減圧障害について, 斜里町潜水事故対策委員会, 減圧症（潜水病）に関する講習会, 斜里町, 2023 年 05 月 26 日

義歯科 (専) スポーツ歯科外来

Sports Dentistry

(1) 研究業績

[総説]

1. Tanabe G, Ueno T, Li C, Manka-Malara K, K Janicka J, Togawa K, Hayashi K, Churei H, Gonda T, Suzuki H, Nakajima K, Mizuhashi F, Matsumura H, Maeda Y, Yasui T.. Literature review on the advances and applications of digital dentistry in sports mouthguard fabrication. International Journal of Sports Dentistry. 2023.11; 16(1); 15-23

[講演 · 口頭発表等]

1. Shimizu S, Hayashi K, Takeuchi Y, Tanabe G, Churei H, Kobayashi H, Ueno T, Fueki K. Effect of Administration of Sonicated P. gingivalis on skeletal muscle injury healing using a rat model. . ECSS Paris 2023 2023.07.04 Paris

1. 林 海里，清水慎太郎，竹内康雄，小林宏明，中禮 宏，笛木賢治. 歯周病原細菌の全身波及がスポーツに関連する骨格筋反応に及ぼす影響について. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京

2. 田邊 元, Li Chenyuan, 林 海里, 中禮 宏, 上野 俊明. スポーツマウスガードの 3 次元デジタル造形技術に関する文献レビュー. 日本歯科理工学会誌 2023.12.01

3. 駒澤柚希，田邊 元，蓮沼哲哉，外川海斗，林 海里，中禮 宏 ， 森谷直樹，安井利一，上野俊明. アスリート疲労感と顎口腔領域の自覚症状の連動類似性. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

4. 堀田葉子，林 海里，外川海斗，藤野祥子，高橋優美，清水慎太郎，熊谷彰人，平田憲雄，渡辺和志，根来武史，田邊 元，上野俊明，中禮 宏. 水球中における顎顔面外傷経験に関する分析調査 . 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

5. 中禮 宏，吉田浩美，杉井麻耶，柘植昂太，佐瀬裕子，永田将司，林 海里，外川海斗，藤野祥子，柳下和慶. 糖質コルチコイドの口腔内局所使用に関する情報共有について. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

6. 劉 暢、Thida Aung、Kaung Si Thu、外川海斗，林 海里，田 邊元，上野俊明，佐藤 亮，佐々木幸生，中禮宏. 顎顔面骨折領域の特定における CT スライス厚の影響. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

7. 李 晨媛，和田敬広，土田優美，林 海里，田邊 元，上野俊明，中禮 宏. サイクル荷重耐久性疲労試験を用いた 3D 多層マウスガードと従来型マウスガードの保持力比較. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

8. 林 海里，清水慎太郎，竹内康雄，小林宏明，朱秋爽，李泽群，田邊元，中禮 宏，上野俊明. P. gingivalis 投与が持久性運動後の骨格筋 PGC-1 α および TNF α 発現に与える影響. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

9. 大原 庸子, 中禮 宏, 牧野 さつき, 林 海里, 田邊 元, 近藤 剛史, 永井 晃, 市原 千恵, 小口 亘, 上野 俊明. ブラインドサッカー選手のマウスガード作製前後の意識調査. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

10. 外川海斗，中禮 宏，林 海里，高橋優美，清水慎太郎，堀田葉子，原口貴久，立石智彦，柳下知慶，田邊 元，上野俊明. カスタムメイドフェイスガード使用により競技生活を継続できているプロフットサル選手の一例. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜
11. 清水慎太郎，田邊 元，安齋達彦，外川海斗，林 海里，中禮 宏，髙橋邦彦，上野俊明. 学校スポーツ事故事例のテキストマイニング手法を用いたコレスポンデンス分析　歯牙障害発生の学校種別 · 性別の傾向. 日本安全教育学会 第 24 回奈良大会 2023.09.09 奈良
12. Liu Chang, 林 海里, 外川 海斗, 高橋 優美, 清水 慎太郎, 熊谷 彰人, 中禮 宏. 患者教育のための歯科疾患と治療. 第 7 回　日本メディカルイラストレーション学会学術集会 · 総会 2023.03.05 川崎
13. Liu Chang, 林 海里, 外川 海斗, 高橋 優美, 清水 慎太郎, 熊谷 彰人, 中禮 宏. スポーツ用のマウスガードとフェイスガード. 第 7 回　日本メディカルイラストレーション学会学術集会 · 総会 2023.03.05 川崎
14. 林 海里. 大学から関わるスポーツ歯科 —臨床 · 教育 · 研究における本学の取り組み—. 令和 4 年度 愛知県歯科医師会 臨床スポーツ歯科医認定講習会 2023.03.04 愛知

[受賞]

1. 学会賞（日本メディカルテクノロジー賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月
2. 研究奨励賞（ネオ製薬工業賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月
3. 学会賞（モリタ賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月

検査部

Clinical Laboratory

部　長　東田　修二
副部長　叶内　　匡
助　教（キャリアアップ講師）　野上　彩子
助　教　新田沙由梨
　　落田　美瑛
医　員　青山　尚史

(1)　分野概要

検査部は、病気の診断、治療、予防に関する情報を得るために、血液などの臨床検体を使って検査を行う中央診療部門である。心電図、超音波検査、呼吸機能検査、脳波検査などの生理検査も行っている。

(2)　研究活動

主たる研究テーマとしては「血液疾患の新たな遺伝子検査法」、「造血器腫瘍の分子病態や薬剤感受性の検査法の開発」、「骨髄不全症における標的オトリ人工抗体開発に向けたネオエピトープ反応性 T 細胞の検出」、「細菌の院内伝播監視のための遺伝子型解析」、「筋萎縮性側索硬化症の臨床 · 神経生理学的研究」、「末梢神経障害の新しい電気生理学的診断 · 評価法」、「神経伝導検査の精度管理」、「C 型ウイルス性肝炎の治療の分子メカニズム」、「心エコーによる新たな心機能の解析法」、「新型コロナウイルス変異株の PCR 法による型判定」などがある。

(3)　教育活動

医学部医学科の学生に対し、各領域での講義とプレ · クリニカルクラークシップでの実習を行い、検査の臨床的意義と技術の指導をした。保健衛生学科検査技術学専攻の学生に対しては、各領域での講義と検査部各部門での臨地実習を行い、臨床検査技師としての基本技術の指導を行った。また外部の検査技師専門学校生の病院実習を受け入れ、技術指導を行った。

2023 年は初期臨床研修医 15 名（2 ヶ月もしくは 1 ヶ月）を受け入れ、検体検査、細菌検査、エコーを中心とした生理機能検査の指導を行った。

(4)　臨床活動および学外活動

高度で良質な医療を遂行していく上で臨床検査部門は重要な責務を担っている。正確で迅速な検査を提供し、先進的な検査法を取り入れることにより、最高水準の検査業務も行っている。先進医療として、PCR 法による各種ウイルス DNA の定性、定量検査を行なっている。夜間 · 休日には輸血 • 細胞治療センターとの協力により、緊急検査を行うとともに、迅速な輸血製剤の供給を行っている。細菌検査では MRSA 等の遺伝子型解析を行い、感染制御部とともに院内伝播の監視を行っている。また、オンラインによる最新の病棟別の薬剤感受性情報を提供している。検査部 · 輸血部は 2014 年 6 月に臨床検査室の国際規格である ISO15189 の認定を取得し、2018 年 6 月に病理部を含めて最新版の規格で更新した。これにより当検査部の質が世界水準にあることが認定され、国際的

な治験の導入も可能となっている。また、検査関連学会などを通じて、臨床検査に関する研修会やセミナーで講演を行っている。

(5) 臨床上の特色

臨床各科との協力のもとに、臨床検査の解釈、精度管理、新しい検査法の開発などを行っている。また、臨床検査に関わる各診療科からの問い合わせや相談に応じ、診療支援を行っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Azusa Yamazaki, Yoko Nukui, Takahiro Kameda, Ryoichi Saito, Yuki Koda, Naoya Ichimura, Shuji Tohda, Ryunosuke Ohkawa. Variation in presepsin and thrombomodulin levels for predicting COVID-19 mortality. Sci Rep. 2023.12; 13(1); 21493

2. Noguchi K, Itoh M, Ito C, Tohda S. Effects of MYC Inhibitors on the Growth of Acute Leukaemia Cells. Anticancer research. 2023.07; 43(7); 3023-3028

1. Tanaka Keisuke, Ichikawa Ayako, Umezawa Natsuka, Yamamoto Kouhei, Yoshifuji Kota, Okada Keigo, Nogami Ayako, Umezawa Yoshihiro, Nagao Toshikage, Sakashita Chizuko, Mori Takehiko, Tohda Shuji, Koike Ryuji, Yasuda Shinsuke, Yamamoto Masahide. Lymphoproliferative disorder risk after methotrexate treatment for rheumatoid arthritis CANCER SCIENCE. 2023.06;

2. 福島 紘子, 渡部 芽以, 古城 京花, 阿部 広輝, 松本 大志, 大野 一彦, 市村 直也, 東田 修二. シカリキッド ALP-IFCC 改良試薬の基礎的性能及び酸性ホスファターゼの影響の評価 医療検査と自動化. 2023.06; 48(3); 197-203

3. Takatsuki Yuna, Takahashi Yuta, Nakajima Jun, Iwasaki Yumi, Nagano Katsutoshi, Tani-Sassa Chihiro, Yuasa Sonoka, Kanehira Saki, Sonobe Kazunari, Nukui Yoko, Takeuchi Hiroaki, Tanimoto Kousuke, Tanaka Yukie, Kimura Akinori, Ichimura Naoya, Tohda Shuji. Viral load of SARS-CoV-2 Omicron BA.5 is lower than that of BA.2 despite the higher infectivity of BA.5 IMMUNITY INFLAMMATION AND DISEASE. 2023.02; 11(2); e783

4. 甲田 祐樹, 東田 修二. 骨髄系疾患　反応性 · 腫瘍性の鑑別ポイント 日本検査血液学会雑誌. 2023.02; 24(1); 180-187

5. Hanafusa Mariko, Nawa Nobutoshi, Goto Yuki, Kawahara Tomoki, Miyamae Shigeru, Ueki Yutaka, Nosaka Nobuyuki, Wakabayashi Kenji, Tohda Shuji, Tateishi Ukihide, Fujiwara Takeo. Effectiveness of remdesivir with corticosteroids for COVID-19 patients in intensive care unit: A hospital-based observational study JOURNAL OF MEDICAL VIROLOGY. 2023.01; 95(1); e28168

[書籍等出版物]

1. 東田　修二　他. 標準臨床検査医学. 医学書院, 2023.02

[講演 · 口頭発表等]

1. Miyakoshi T., Horiuchi Y., Araki M., Yonetsu T., Watanabe M., Nakamura M., Kameda T., Yoshimoto A., Ichimura N., Tohda S., Tozuka M., Sasano T., Ohkawa R. Association between CEC measured by immobilized liposome-bound gel beads method and the size of lipid-rich coronary artery plaque. Scientific Session of the American Heart Association 2023.11.09

2. Haruka Kumada, Mai Itoh, and Shuji Tohda. Effects of ferroptosis inducers and inhibitors on growth of acute leukemia cells. 52nd annual scientific meeting, International Society of Experimental Hematology 2023.08.19

3. Mai Itoh, Shuji Tohda. Renin-angiotensin system inhibitors suppress the growth of leukemia cells. 52nd annual scientific meeting, International Society of Experimental Hematology 2023.08.19 New York

4. Miyakoshi T., Mutsuda Y., Horiuchi Y., Kameda T., Tozuka M., Ohkawa R. Application of bilirubin oxidase for improvement of false positive error caused by bilirubin on cholesterol efflux capacity assay by immobilize liposome-bound gel beads method. American Association for Clinical Chemistry (AACC) 2023 AACC Annual Scientific Meeting & Clinical Lab Expo 2023.07.24 Anaheim

1. 山崎 あずさ，市村 直也，東田 修二，大川 龍之介. 新たな測定法による赤血球コレステロール含有量と他の検査項目との関連. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.18 長崎

2. 宮腰 恒広，堀内 優奈，荒木 誠，米津 太志，渡部 芽以，中村 元紀，亀田 貴寛，吉本 明，市村 直也，東田 修二，戸塚 実，笹野 哲郎，大川 龍之介. HDL サブクラスおよび冠動脈内プラークのサイズと無細胞系測定法によるコレステロール引き抜き能の関連. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.18 長崎

3. 野上　彩子、青山　慧、北浦　萌、山本　正英、東田　修二. CAR-T 細胞療法後の遷延性血球減少症における免疫学的機構の解明. 第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023.11.16 長崎

4. 堀内 優奈，戸塚 実，大川 龍之介. 無細胞系コレステロール引き抜き能の開発 · 改良とその臨床応用. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会　シンポジウム 7 2023.10.29 東京

5. 山崎 あずさ，渡部 芽以，市村 直也，東田 修二，大川 龍之介. 赤血球コレステロール含有量直接測定法の評価およびヘモグロビン濃度による補正の検討. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会 2023.10.27

6. 野上　彩子、倉田　盛人、田口　登和子、小山　祥美、永野 勝稔、田中　圭祐、吉藤康太、梅澤　佳央、市村　直也、東田　修二、森　毅彦. 尿セルブロックを用いた出血性膀胱炎起因ウィルスの病理学的同定法の有用性. 第 85 回日本血液学会学術集会 2023.10.13 東京

7. 山崎 あずさ，市村 直也，東田 修二，大川 龍之介. 赤血球コレステロール含有量を測定するための試料の前処理および安定性に関する検討. 第 55 回日本医療検査科学会年次学術集会 2023.10.06 横浜

8. 宮腰 恒広，山崎 あずさ，川口 莉奈，渡部 芽以，堀内 優奈，亀田 貴寛，吉本 明，市村 直也，東田 修二，戸塚 実，大川 龍之介. 加温処理による血清中 HDL 構造変化と細胞法および無細胞系測定法を用いたコレステロール引き抜き能の解析. 第 55 回日本医療検査科学会年次学術集会 2023.10.06 横浜

9. 藤代瞳，甲田祐樹，赤羽あゆみ，市村直也，東田修二，大川龍之介. 大学院生に対する採血手技及び接遇教育の効果. 第 55 回日本医療検査科学会年次学術集会 2023.10.06 横浜

10. 山崎 あずさ，貫井 陽子，亀田 貴寛，甲田 祐樹，市村 直也，齋藤 良一，東田 修二，大川 龍之介. COVID-19 患者のプレセプシン測定における腎機能の影響. 第 31 回日本臨床化学会関東支部総会 2023.06.03

11. 千葉桃子, 田中圭祐, 大内史彦, 八木真梨絵, 金井光, 原田拓実, 初澤紘生, 吉藤康太, 岡田啓吾, 梅澤佳央, 野上彩子, 東田修二, 坂下千瑞子, 長尾俊景, 森毅彦, 山本正英. 中枢神経リンパ腫に対するブスルファンを含む前処置を用いた自家移植の検討. 第 45 回日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2023.02.11 名古屋

スポーツ医学診療センター

Sports Medicine Center

センター長 · 教授　柳下和慶
助教　　星野傑
特任助教　　雨宮正樹
理学療法技師長　廣幡健二
理学療法士　大見武弘, 大路駿介, 川﨑智子（2023.4〜）
非常勤講師　立石智彦, 見供翔
秘書　　伊藤清美

(1) 分野概要

1）スポーツ理学療法部門の設置
「より早く、より高く」をモットーに、早期かつ高いレベルでの競技復帰を目指すリハビリテーションを、患者に合わせたテーラーメード治療として実施致する.
2) 全身的なアプローチ「チーム TMDU によるトータルケア」
スポーツでは筋骨 · 関節の運動器領域の外傷 · 障害だけではなく、呼吸器や循環器、代謝 · ホルモンの問題等の内科的疾患や精神的問題点など、全身に関わる問題を生じうる. 本センターでは「チーム TMDU によるトータルケア」として、全身にわたるスポーツ関連の外傷 · 障害 · 疾患の治療と予防を、各診療科との連携にて実施する.
3) 本学に特徴的な部門や治療を積極的に活用
· 高気圧酸素治療による軟部組織外傷からの早期競技復帰をサポート
· 本学歯学部「スポーツ歯科」との連携にて、歯科外傷の治療や、外傷予防のためのマウスピース · フェイスガードを紹介
· アスリートメンタルケア外来にて、スポーツ選手のメンタルヘルスの維持やケアを実施

(2) 教育活動

スポーツ選手の健康管理，スポーツ外傷の安全対策，競技力向上の 3 側面に関する有効かつ効率的な医 · 歯 · 科学的サポートの在り方を追及し，そのために必要な学識的知識の整理，技能の習得，態度の研鑽を目指した教育を行っている.

○ TMDU SPORTS MEDICINE SYMPOSIUM の開催
アスリートのトータルサポートを実現すべくスポーツ医歯学とスポーツ科学における共通課題を議論することで、関連する医師 · 歯科医師 · 理学療法士 · トレーナー · 研究者の相互理解を深め、協力関係の構築を図ることを目的として開催、2022 年 2 月には、「東京オリンピック · パラリンピック大会のスポーツ医学、医療のレガシー」として、関係者の講演を実施した.

(3) 臨床活動および学外活動

○学外スポーツ団体との連携
· JSC（日本スポーツ振興センター）、JISS（国立スポーツ科学センター）との連携
· JOC（日本オリンピック委員会）活動：JOC 情報 · 医 · 科学専門部会委員として活動
· 日本スケート連盟強化スタッフとしての現場サポート活動

(4) 研究業績

[原著]

1. Hao Ding, Hideyuki Koga, Hiroki Katagiri, Shoichi Hasegawa, Tatushiko Anzai, Mai Katakura, Aritoshi Yoshihara, Masaki Amemiya, Takashi Hoshino, Nobutake Ozeki, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa. Low central sensitisation inventory score is associated with better post-operative outcomes of osteotomy around the knee. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023.12; 31(12); 5896-5904

2. Ryuichi Nakamura, Fumiyoshi Kawashima, Masaki Amemiya, Tomoyuki Shimakawa, Akira Okano. Double-Row Root Repair with Bridging Centralization Using Double Nonsliding Anchors for Medial Meniscus Posterior Root Tear. Arthrosc Tech. 2023.10; 12(10); e1751-e1756

3. Ryuichi Nakamura, Fumiyoshi Kawashima, Masaki Amemiya, Tomoyuki Shimakawa, Akira Okano. Derotational Hybrid Closed-Wedge High Tibial Osteotomy for Knee Osteoarthritis With Patellar Subluxation Caused by Tibial Torsional Deformity. Arthrosc Tech. 2023.10; 12(10); e1687-e1694

4. Shunsuke Ohji, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Takehiro Ohmi, Sho Mitomo, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. Kinesiophobia Is Negatively Associated With Psychological Readiness to Return to Sport in Patients Awaiting Anterior Cruciate Ligament Reconstruction. Arthroscopy. 2023.09; 39(9); 2048-2055

5. Naoki Yamamoto, Ryohei Takada, Tetsuya Jinno, Kazumasa Miyatake, Naoto Watanabe, Hideyuki Koga, Toshitaka Yoshii, Kazuyoshi Yagishita, Atsushi Okawa. Wear rate and osteolysis in two types of second-generation annealed highly cross-linked polyethylene in total hip arthroplasty: A retrospective comparative study with a minimum of five years. Orthop Traumatol Surg Res. 2023.02; 109(1); 103147

6. Takehiro Ohmi, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Shunsuke Ohji, Sho Mitomo, Toshiyuki Ohara, Kazuyoshi Yagishita. Biomechanical characteristics of the lower extremities during running in male long-distance runners with a history of medial tibial stress syndrome: a case control study. BMC Musculoskelet Disord. 2023.02; 24(1); 103

7. Ryuichi Nakamura, Masaki Amemiya, Fumiyoshi Kawashima, Akira Okano. Flexion Contracture in Knee Osteoarthritis Can Be Fully Eliminated by Hybrid Closed Wedge High Tibial Osteotomy Using a Reduction-Insertion-Compression Handle. Arthrosc Tech. 2023.02; 12(2); e247-e253

8. Murofushi Koji, Yamaguchi Daisuke, Kaneoka Koji, Oshikawa Tomoki, Katagiri Hiroki, Hirohata Kenji, Furuya Hidetaka, Mitomo Sho, Koga Hideyuki, Yagishita Kazuyoshi. KOJI AWARENESS スコアおよび活動関連疼痛強度に対する矯正エクササイズの効果 (The effectiveness of corrective exercises on the KOJI AWARENESS score and activity-related pain intensity) The Journal of Medical Investigation. 2023.02; 70(1-2); 208-212

9. Ryuichi Nakamura, Masaki Amemiya, Tomoyuki Shimakawa, Masaki Takahashi, Kazunari Kuroda, Yasuo Katsuki, Akira Okano. Femoral-varus tibial-valgus osteotomy (FVTVO) for neutrally-aligned knee osteoarthritis with severe joint line obliquity enables return to sports activities: A case series study. Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2023.01; 31; 11-17

10. Murofushi Koji, Oshikawa Tomoki, Akuzawa Hiroshi, Yamaguchi Daisuke, Hirohata Kenji, Furuya Hidetaka, Mitomo Sho, Kaneoka Koji, Yagishita Kazuyoshi. Trunk muscle activation in side plank exercises with and without external-focus instruction ISOKINETICS AND EXERCISE SCIENCE. 2023; 31(1); 29-36

11. Koji Murofushi, Daisuke Yamaguchi, Koji Kaneoka, Tomoki Oshikawa, Hiroki Katagiri, Kenji Hirohata, Hidetaka Furuya, Sho Mitomo, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. The effectiveness of corrective exercises on the KOJI AWARENESS score and activity-related pain intensity. J Med Invest. 2023; 70(1.2); 208-212

12. Kumiko Kasashi, Ayaka Sato, Mark Stuart, Úna Hollywood, Marina Kawaguchi-Suzuki, Kazuyoshi Yagishita, Takao Akama. The Tokyo 2020 Olympic and Paralympic pharmacy services during the COVID-19 pandemic. J Am Pharm Assoc (2003). 2023; 63(4); 1156-1161

13. Norihiro Kuroki, Kazuyoshi Yagishita, Keiki Shimizu, Sachiko Okuaki, Yuuri Doi, Yuki Arakawa, Tomotsugu Nakano, Takao Akama. Emergency department activities at the Athletes' Village during the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games. Acute Med Surg. 2023; 10(1); e905

[書籍等出版物]

1. 大関 信武, 古賀 英之, 関矢 一郎. 変形性膝関節症の発症 · 進行予防の可能性—滑膜幹細胞移植による半月板の再生医療. 株式会社南江堂, 2023.06

2. 大関信武, 星野傑, 大原敏之, 古賀英之. プロ野球選手の腰椎分離症症例，臨床スポーツ医学 40（5）. 文光堂, 2023.05

3. 見供翔、大見武弘（坂雅之，大路駿介 編）. 臨床の疑問に答える軟部組織の障害と理学療法. 羊土社, 2023.04 (ISBN : 978-4-7581-0265-0)

[総説]

1. 大見武弘, 古賀英之. 膝関節装具—膝蓋骨不安定症の装具療法 臨床スポーツ医学. 2023.08; 40(9); 942-945

[講演 · 口頭発表等]

1. 大見武弘, 廣幡健二, 見供翔, 大路駿介. 膝前十字靭帯再建術後のスポーツ理学療法：病期別の実践的プログラム 6 ヵ月以降の理学療法 . 膝前十字靭帯再建術後のスポーツ理学療法：病期別の実践的プログラム 2023.12.17

2. 雨宮　正樹. あなたは HTO 派？ DTO 派？ 内側開大式高位脛骨骨切り術における膝蓋大腿関節への対応. 第 1 回日本膝関節学会 2023.12.09 横浜市

3. 雨宮正樹, 中村智祐, 大関信武, 中川裕介, 星野傑, 片倉麻衣, 吉原有俊, 関矢一郎, 柳下和慶, 古賀英之. 外側閉鎖式高位脛骨骨切りにおけるダブルプレートの有効性の検討. 第 1 回日本膝関節学会 2023.12.09

4. 大路駿介, 相澤純也, 廣幡健二, 大見武弘, 川崎智子, 古賀英之, 柳下和慶. ハムストリング腱を用いた前十字靭帯再建術後患者における受傷前レベルへのスポーツ復帰と片脚垂直ジャンプ能力の非対称性との関連：横断研究 . 第一回日本膝関節学会 2023.12.09

5. 中禮 宏，吉田浩美，杉井麻耶，柘植昂太，佐瀬裕子，永田将司，林 海里，外川海斗，藤野祥子，柳下和慶. 糖質コルチコイドの口腔内局所使用に関する情報共有について. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

6. 大見武弘. ランニング障害（MTSS）の既往があるランナーのバイオメカニクス. 第 34 回臨床スポーツ医学会学術集会 2023.11.12 横浜市

7. 外川海斗，中禮 宏，林 海里，高橋優美，清水慎太郎，堀田葉子，原口貴久，立石智彦，柳下知慶，田邊 元，上野俊明. カスタムメイドフェイスガード使用により競技生活を継続できているプロフットサル選手の一例. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜

8. 吉田 龍, 大関 信武, 安斎 健太朗, 池田 達宣, 秀 恵輔, 柳下 和慶, 古賀 英之. ラグビーリーグワン Division3 の 1 チームにおける脳振盪の発生率. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

9. 秀 恵輔, 大関 信武, 安斎 健太朗, 吉田 龍, 池田 達宣, 柳下 和慶, 古賀 英之. コンタクトスポーツにおけるハムストリング付着部損傷. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

10. 高澤 祐治, 赤間 高雄, 柳下 和慶, 近藤 尚知, 大内 洋, 清水 和弘, 河野 一郎. 医学教育とアンチ · ドーピング　医学教育モデル · コア · カリキュラム改訂とスポーツ医学の位置づけ. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

11. 柳下 和慶, 塩田 幹夫, 星野 傑. トレーニング 1　リカバリー　軟部組織外傷に対するアイシングのリカバリーへの影響. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

12. 森山義尚 , 山田拓実 , 島村亮太 , 大見武弘 , 廣澤全紀 , 加藤淳平. 健常高齢者の Functional Reach Test 時の運動パターンと測定中の姿勢との関連. 第 42 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 2023.10.14 大宮市

13. 池松幸二 , 片桐洋樹 , 大見武弘 , 宮崎緑 , 雨宮正樹 , 古賀英之 , 神野哲也 , 酒井朋子. 内側開大式高位脛骨骨切り術前後における非術側外部膝関節内転モーメントの変化率に関与する因子. 第 11 回日本運動器理学療法学会学術大会 2023.10.14 福岡市

14. 大関 信武, 星野 傑, 古賀 英之, 山下 茂雄, 荒川 玲, 長橋 光行. プロ野球選手の運動機能低下における医師とトレーナーの連携. 第 50 回日本肩関節学会学術集会 2023.10.13 新宿区

15. 室伏 広治, 見供 翔, 廣幡 健二, 古谷 英孝, 片桐 洋樹, 金岡 恒治, 原 晋. エリート長距離ランナーにおけるランニング障害発生のコホート調査　KOJI AWARENESS Screening Test による危険因子予測. 日本臨床スポーツ医学会誌 2023.10.01

16. 廣幡 健二. バレエダンサーの足を診る～世界のトップダンサーからアマチュアまで多職種での連携～　クラシックバレエダンサーに対するスポーツ理学療法. 日本足の外科学会雑誌 2023.10.01

17. 室伏 広治, 押川 智貴, 廣幡 健二, 見供 翔, 古谷 英孝, 金岡 恒治. 紙風船を用いた外部意識の有無が, サイドプランク運動中の支持側, 非支持側の肩甲帯, 体幹の筋活動に及ぼす影響. 日本臨床スポーツ医学会誌 2023.10.01

18. 桜沢貴俊、大久保 淳、干川 祐樹、山下 隼斗、出牛 雅也、小森 慈人、平澤 幸太郎、藤巻 愛子、柳下 和慶. 高気圧環境下における気管チューブのカフ管理方法の比較検討. 第 57 回　日本高気圧環境・潜水医学会学術集会 2023.09.22 大田区

19. 平澤　幸太郎. 第 2 種高気圧酸素治療装置における環境圧の変化に伴う実酸素流量の実際. 第 57 回　日本高気圧環境・潜水医学会学術集会 2023.09.22 大田区

20. 大久保淳. CLTI 患者における補助療法の実際—レオカーナと HBO 併用—. 第 57 回　日本高気圧環境・潜水医学会学術集会 2023.09.22 大田区

21. 大路駿介. 前十字靭帯損傷・再建術後のリハビリテーション～受傷前競技レベルへの復帰と再受傷前予防～. encounter スポーツ・運動器セミナー 2023.08.10

22. 第 2 種装置を用いた高気圧酸素治療における経鼻チューブ併用が経皮酸素分圧へ及ぼす影響. 第 33 回　日本臨床工学会 2023.07.22 広島市

23. 大関 信武, 古賀 英之, 中村 智佑, 中川 裕介, 星野 傑, 片倉 麻衣, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 関矢 一郎. Osgood-Schlatter 病に対する fusion imaging を用いた超音波アシスト下骨片摘出術. 第 34 回日本整形外科超音波学会 2023.07.08 港区

24. 大久保　淳, 桜沢貴俊, 干川祐樹, 山下隼斗, 出牛雅也, 平澤幸太郎, 藤巻愛子, 小栁津卓哉, 柳下和慶. 高気圧酸素治療とレオカーナを含む集学的治療が有用であった透析 CLTI 患者の一例. 第 22 回　日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会学術集会 2023.07.01 墨田区

25. 桜沢貴俊, 大久保淳, 干川祐樹, 山下隼斗, 出牛雅也, 小森慈人, 平澤幸太郎, 藤巻愛子, 柳下和慶. 高気圧環境下における気管チューブのカフ管理方法に関する実験的検討. 第 22 回　日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会学術集会 2023.07.01 墨田区

26. 平澤幸太郎, 桜沢貴俊, 大久保淳, 干川祐樹, 山下隼斗, 出牛雅也, 藤巻愛子, 柳下和慶. 経鼻チューブ併用時の酸素投与方法に関する検討. 第 22 回　日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会学術集会 2023.07.01 墨田区

27. 星野傑. ラット筋挫傷モデルにおいて高気圧酸素療法は、アイシングと温熱療法の効果を同時に達成する. 日本スポーツ整形外科学会 2023 2023.06.30 広島市

28. 雨宮　正樹. 外側半月板切除後のスポーツ復帰に向けた再手術例の治療成績. 日本スポーツ整形外科学会 2023 2023.06.30 広島市

29. 星野傑. PJI シリコンモールド鋳型を使用した抗生剤入りセメントインプラントによる人工膝関節骰換 術後感染例の治療成績. 第 46 回日本骨・関節感染症学会 2023.06.24 津市

30. 古谷 英孝, 廣幡 健二, 見供 翔, 田澤 智央, 大森 圭太, 星野 雅洋. 脊柱矯正固定術後患者における日本語版 Lumbar Stiffness Disability Index の臨床的最小重要変化量. 運動器理学療法学 2023.06.01

31. 大路駿介. 膝前部痛症候群 . リハテックリンクセミナー スポーツ理学療法 -リハビリテーションから再受傷予防、パフォーマンス向上まで 2023.05.15

32. 雨宮 正樹. 外側支帯解離術併用の有無による開大式高位脛骨骨切り術後の膝蓋大腿関節の比較. 第 8 回関東 Knee Osteotomy 研究会 2023.01.21 千代田区

33. 大路駿介. 卒後 5 年までにマスターする運動器障害の理学療法ー膝関節編ー . アークメディカルジャパン株式会社研修会 2 2023.01.15

[受賞]

1. 奨励論文, 一般社団法人 理学療法科学会, 2023 年 05 月

[その他業績]

1. セルフ · スクリーニングテスト KOJI AWARENESS〜KOJI AWARENESS〜, 2023 年 01 月
   PLoS One

[社会貢献活動]

1. 高気圧治療の外傷への応用, 共同通信社, 医療面向け企画「医療新世紀」, 2023 年 02 月 17 日 - 現在

輸血・細胞治療センター

Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy

センター長（併）	関矢　一郎（再生医療研究センター 教授）
副センター長（併）	片野　尚子（再生医療研究センター 講師（キャリアアップ））2023 年 3 月 31 日まで
	片野　尚子（再生医療研究センター 准教授）2023 年 4 月 1 日～現在
	梶原　道子（輸血・細胞治療センター 講師）
管理スタッフ (併)	
品質管理責任者	清水　則夫（再生医療研究センター 准教授）2023 年 3 月 31 日まで
	片野　尚子（再生医療研究センター 准教授）2023 年 4 月 1 日～現在
製造管理責任者	水野　満（再生医療研究センター プロジェクト助教）2023 年 4 月 30 日まで
	水野　満（再生医療研究センター 助教）2023 年 5 月 1 日～現在
スタッフ	友田　昂宏（輸血・細胞治療センター 特任助教）
臨床検査技師	大友　直樹（臨床検査技師長）、相川　佳子（臨床検査技師主任）、
	臼井　友香里（臨床検査技師主任）、大石　裕紀子（臨床検査技師主任補佐）、
	伊藤　千裕（臨床検査技師主任補佐）、神山　朋子、千葉　美沙希、白石　暁子、
	藤木　すみれ、福岡　明美、織田　のぞみ、岡崎　江里子、廣瀬　楓花、吉森　真由美
技術補佐員	辻　彩子、河野　ゆり
事務補佐員	草野　純、新開　優香

(1)　分野概要

当センターの目的は、機能不全になった組織、臓器を補助・再生させる医療である＜輸血＞＜細胞治療＞＜再生医療＞を提供することである。

輸血部門には、日本輸血・細胞治療学会認定医、認定輸血検査技師、細胞治療認定管理師が在籍し、輸血検査、血液製剤管理、輸血認証を含む輸血実施までの安全対策、輸血歴管理を担当し、安全で適正な輸血療法と造血幹細胞移植を行っている。

細胞治療センター部門の細胞培養加工施設は、世界最高水準の再生医療・細胞治療の実用化をめざして設置され、日本再生医療学会認定医、上級臨床培養士、臨床培養士が所属し、治験や臨床研究用細胞の加工を実施するとともに、学内外の有益な再生医療技術の実用化を支援している。

(2)　研究活動

【輸血部門】

１）安全で適正な輸血の実施と輸血事故防止対策の検討

適切な輸血検査に基づいた、安全な輸血療法が実施できることを目標として、検査方法、認証システム、副作用軽減目的の院内での製剤加工（製剤の分割・血小板の洗浄）に関する研究を行っている。

２）造血細胞移植を中心とした細胞治療の基礎研究と臨床応用

骨髄バンクや臍帯血バンクを介した非血縁者間を含めた造血幹細胞移植を小児科・血液内科が行っているが、患者およびドナーにとってリスクの少ない移植を行うための、細胞採取・保存に関する、また移植後合併症に関する研究を行い、臨床応用につなげている。

【細胞治療センター部門】

1）第三者由来複数ウイルス特異的 T 細胞治療の開発

Baylor 大学および東京大学医科学研究所との共同研究により、5 ウイルス 11 抗原からの overlapping peptides と至適サイトカインを用いて、5 ウイルス特異的細胞傷害性 T 細胞を樹立する研究を進め、その技術を用いて、2016 年より造血細胞移植後の難治性ウイルス感染症の治療に対して HLA 半合致以上の血縁ドナーから調製した複数ウイルス抗原特異的 T 細胞を用いる臨床研究を行い、これまで 3 症例に対して細胞治療を実施し、2022 年 12 月に再生医療等提供計画の終了届を提出した。

一方、有効かつ迅速なウイルス特異的 T 細胞療法を目指して、予め調製 · 凍結保存された第三者由来複数ウイルス抗原特異的 T 細胞療法の導入を進めており、日本医療研究開発機構研究費「再生医療実用化研究事業」（代表者：森尾友宏 研究開発課題名：造血細胞移植後の治療抵抗性ウイルス感染症に対する第三者由来複数ウイルス特異的 T 細胞療法の開発と研究）の支援をうけ、細胞培養 · 品質検査系の確立と非臨床安全性試験を実施し、2023 年 5 月に特定認定再生医療等委員会での承認後、2023 年 9 月 1 日に厚生科学審議会 · 再生医療等評価部会において第一種再生医療等技術として承認された。その後 9 月より細胞培養を開始し、2024 年に細胞投与を実施する予定である。

2）自家滑膜由来間葉系幹細胞に半月板 · 軟骨再生医療の開発

変形性膝関節症（OA）に対する新規治療法の確立を目的として、滑膜由来間葉系幹細胞（滑膜幹細胞）を用いた低侵襲な細胞移植手法を開発してきた。半月板は再生しづらく、半月板切除術は OA のリスクになることから、一般的には切除術の対象となる半月板損傷の修復後、滑膜幹細胞を修復部に移植し、修復を促進させる治療の確立が望まれている。2017 年から 2019 年にかけて、10 例を対象とした「自家滑膜幹細胞の半月板損傷を対象とする医師主導治験」を実施し、臨床スコアの改善とともに、再鏡視所見が改善した (J.Orthop Sci.2021)。良好な結果を受けて、2022 年 1 月には検証的試験となる企業治験を開始した。また、滑膜幹細胞の新たな投与経路による治療法を開発するため、日本医療研究開発機構（AMED）再生医療研究事業の支援をうけて 2017 年から 2020 年にかけて臨床研究「変形性関節症に対する滑膜幹細胞の関節内注射」（研究代表者：関矢一郎）を実施した。8 膝すべてで臨床スコアの改善を認めた (Scientific Reports 2022)。次いで、2023 年 4 月には AMED 再生医療研究事業（研究代表者：関矢一郎、課題名：変形性膝関節症に対する滑膜幹細胞関節内注射の医師主導治験)）として、二重盲検比較試験を開始した。

3）消化管再生医療の開発

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎 · クローン病）に対する新規治療法の確立を目的として、患者由来内視鏡生検組織を用いた腸上皮オルガノイドの高効率な培養法 · 同オルガノイドの安全性等に関する品質管理法及び工程内管理試験の運用法 · 同オルガノイドを用いた内視鏡的腸上皮幹細胞移植法について、それぞれ開発を行ってきた。これらの開発 · 研究による成果をもとに潰瘍性大腸炎患者を対象とする臨床研究の立案を行い、特定認定再生医療等委員会での審査手続きを実施し、2020 年 2 月には再生医療等安全性確保法 (省令改正後) に基づく第二種再生医療等提供計画として jRCT において公開されている（認定番号 NA81400003)。省令改正等に対する対応につき、計画の一部変更を経て承認済みの提供計画に基づき、基準に適合した患者のリクルートを開始し、移植実施を開始した。

4) 臨床研究 · 医師主導治験等の実践を目的とした細胞培養加工支援の基盤整備促進

再生医療等の臨床研究及び医師主導治験等の実践のために、慶應義塾大学病院内の細胞培養加工施設と連携 · 協力し、輸血 · 細胞治療センター内の細胞培養加工施設を利活用しながら、内部シーズだけでなく、外部シーズも含めた細胞培養、細胞調整の請負可能な体制を整備している。そのために、2021 年 4 月に日本再生医療学会が認定する上級臨床培養士を雇用し、細胞加工受託に必要な書類整備を開始した。2022 年は、特殊な技能を必要とする再生医療等製品の移植実績として、キムリア 11 例、ハートシート 2 例の移植を実施した。本研究は日本医療研究開発機構研究費「再生医療実用化基盤整備促進」（分担研究者：関矢一郎 課題名：東日本における iPS 細胞等臨床研究推進モデル病院の構築、2021 年度～2023 年度）の中で行われている。

5）高感度迅速網羅的ウイルス · 微生物検査法の開発

再生医療研究センターが開発したリアルタイム PCR と固相化試薬を用いた手法を用いて、HSV1,HSV2, VZV,EBV,CMV,HHV6,HHV7,HHV8,BKV,JCV,B19,ADV を迅速 · 高感度にかつ安価に検査するシステムを構築し、東京医科歯科大学病院からの検体の研究的検査を開始した。本検査系が「先進医療」として承認されたことを受け、検査部に技術移転を行い、現在は検査部が研究的検査を受託している。一方、マルチプレックス PCR 法および固相化試薬製造に関する技術を移転し、島津製作所から日和見感染症検査キット（日和見感染症検査ウイルス検出キット）· 島津ダイアグノスティックス社から細胞製剤のウイルス検査キット（VirFinder）が研究用試薬として発売されている。また、病原微生物の定性検査に加え、検出された微生物を固相化した定量検査試薬（定量ストリップ）により迅速に定量することも可能にした。現在、検出対象病原体の種類を増やす取り組みを継続的に実施しており、各種ウイルスに加え、細菌 · 真菌 · 原虫の迅速検査への応用を進めている。マルチプレックス PCR 法を応用したマイコプラズマ検出系（日米欧の三極で特許成立済み）が第 17 改正日本薬局方参考情報記載のバリデーション基準を満たすことを実証した。同特許を日水製薬とタカラバイオにライセンスアウトし、試薬

キットが日水製薬から MycoFinder の名称で、タカラバイオから Takara Mycoplasma detection Kit の名称で販売を開始した。さらに、細菌 · 真菌の検査法である無菌試験法の迅速化を達成するため、リアルタイム PCR 法により細菌 · 真菌リボソーム RNA 遺伝子に存在する共通領域を標的とした網羅的検出系を開発した。本検査法は、細胞加工物の迅速無菌試験に必須なため早期の実用化が求められており、2024 年度中の社会実装を目指した開発を進めている。

(3) 教育活動

【輸血部門】

学内学生（医学科、保健衛生学科検査技術学専攻、同看護学専攻、医歯学総合研究科修士）の教育に加えて、外部学生、日本輸血 · 細胞治療学会認定制度の施設研修の受け入れを行っている。

1) 医学部 医学科 臨床医学導入輸血総論
   プレクリニカルクラークシップ輸血検査実習
2) 医学部 保健衛生学科 免疫検査学講義輸血検査学
   検査技術学専攻臨地実習輸血検査学
3) 医学部 保健衛生学科 看護学専攻 看護の統合と実践実習
4) 昭和医療技術専門学校、新渡戸文化短期大学、東京工科大学、帝京大学、埼玉医科大学臨地実習輸血検査学
5) 日本輸血 · 細胞治療学会 認定輸血検査技師 病院研修
6) 日本輸血 · 細胞治療学会 学会認定 · 臨床輸血看護師 病院研修
7) 医師およびコメディカルを対象とした輸血および造血細胞移植に関する卒後教育

【細胞治療センター部門】

当センターは、2015 年 3 月に改修工事が完了し、細胞調製室 5 室/6 無菌操作等区域の施設、および別棟に教育用施設が設置された。教育用施設には開放系細胞調製室と閉鎖系細胞調製室がそれぞれ 1 室あり、後者にはセルプロセッシングアイソレータが設置されている。本施設は、コールドランに用いるとともに、トレーニングにも使用され、実際にクリーンルームに入室する際の手順や、無菌無塵衣の着脱、環境モニタリングなどの教育を行っている。施設内には監視カメラも設置されており、動線解析なども行えるようになっている。

また、当センターにおける細胞加工工程は基準書及び標準操作手順書 (Standard Operation Procedure: SOP) により定められ、記録 · 管理されている。施設内で作業を実施するものには教育訓練を行うとともに、新しくセンターにおいて細胞調製作業が必要な分野には SOP 構築方法などについて指導を行っている。

(4) 臨床活動および学外活動

【輸血部門】

安全な輸血と造血幹細胞移植を中心とする細胞治療に必要な検査 · 技術を提供している。

① 輸血検査、自己血採血、血液製剤の保管管理を行い、必要に応じ適切な製剤を迅速に供給する。
② 造血幹細胞の採取 · 評価 · 処理保存を行う。
③ 安全な輸血療法および細胞治療のためのシステムや情報を提供する。

【輸血関連 2023 年実績】

1) 血液製剤使用量
   赤血球製剤　11,145 単位 (5,635 バッグ)
   血小板製剤　27,245 単位 (2,311 バッグ)
   新鮮凍結血漿　7,152 単位 (3,414 バッグ)
   同種クリオプレシピテート　928 単位（232 バッグ）
2) 自己血採血と自己血輸血
   自己血採血　186 症例 (238 回，468 単位)
   自己血輸血　162 症例 (389 単位)
   自己クリオプレシピテート作成　50 例、投与 50 例
3) 輸血関連検査
   血液型検査　10,521 件
   赤血球抗体検査　7,542 件
   交差適合試験　8,558 件
4) 時間外輸血への対応
   輸血部門の専任臨床検査技師による 24 時間対応体制

【細胞治療関連 2023 年実績】

1)　造血幹細胞等採取
　自己末梢血幹細胞採取　8 例 9 回
　同種末梢血幹細胞採取　3 例 3 回
　同種骨髄採取　10 例 10 回（骨髄バンクドナーを含む）
2)　造血幹細胞移植（移植細胞の評価 · 保存を実施）
　自己末梢血幹細胞移植　5 例 5 回
　同種末梢血幹細胞移植　3 例 3 回
　同種骨髄移植　10 例 10 回
　同種臍帯血移植　4 例 4 回
3)　CAR-T 療法
① チザゲンレクルユーセル（キムリア ®）関連
　2019 年 10 月にキムリア施設認定を取得
　2023 年自己末梢血単核球採取　12 例 12 回
　ゲンレクルユーセル投与　10 例 10 回
② アキシカブタゲンシロルユーセル（イエスカルタ ®）関連
　2023 年 11 月にイエスカルタ施設認定を取得
　2024 年より単核球採取、投与開始

【再生医療関連 2023 年実績】
1)　医師主導治験「変形性膝関節症に対する滑膜幹細胞関節内注射の医師主導治験」（整形外科）
　対象疾患：変形性膝関節症
　2023 年 4 月に開始した医師主導治験の治験製品（滑膜幹細胞）を投与時まで保管している。
　医師主導治験の治験製品（滑膜幹細胞）の保管：　10 例 10 件
2)　再生医療等製品「ハートシート ®」（心臓血管外科）
　対象疾患：虚血性心疾患による重症心不全
　本治療は、患者自身の骨格筋から採取した細胞を約 2 か月間培養し、シート状に調整したものを心表面に移植するものである。2023 年には、2 例のシート移植を実施した。
　再生医療等製品の調製：　2 例 2 件
3)　PRP 膝関節注射（整形外科）
　対象疾患：変形性膝関節症
　本治療は、患者自身から採取した血液を遠心分離して得られる多血小板血漿（PRP）を、さらに濃縮して自己たんぱく質溶液（APS）を調整し、これを膝関節内に注射することで、変形性膝関節症患者の疼痛緩和を期待するものである。当該再生医療等提供計画は 2020 年 12 月 15 日に関東信越厚生局に受理された。
　臨床研究用の特定細胞加工物（APS（濃縮 PRP））の製造：　8 例 12 件
4)　PRP 股関節注射（整形外科）
　対象疾患：変形性股関節症
　当該再生医療等提供計画は 2021 年 11 月 25 日に関東信越厚生局に受理された。
　自費診療用の特定細胞加工物（APS（濃縮 PRP））の製造：　10 例 10 件
5)　筋 · 腱 · 靭帯損傷 · 障害部への PRP 注射（整形外科）
　対象疾患：筋 · 腱 · 靭帯損傷 · 障害
　当該再生医療等提供計画は 2021 年 12 月 21 日に関東信越厚生局に受理された。
　自費診療用の特定細胞加工物（GPS Ⅲ）の製造：　7 例 7 件
6)　臨床研究「自家腸上皮幹細胞移植による炎症性腸疾患の粘膜再生治療」
　対象疾患：潰瘍性大腸炎
　臨床研究用の特定細胞加工物（自家腸上皮オルガノイド）の製造：2 例 2 件
7)　臨床研究「第三者由来の複数ウイルスに対する抗原特異的 T 細胞を用いた造血細胞移植後の治療抵抗性ウイルス感染症に対する細胞療法」
　対象疾患：造血細胞移植後の治療抵抗性ウイルス感染症
　臨床研究用の特定細胞加工物（第三者由来複数ウイルス特異的 T 細胞）の製造：　4 件

(5)　臨床上の特色

【輸血部門】
　輸血については、救命救急センターの緊急性の高い輸血や、NICU など特殊性の高い輸血に対応している。また、細胞治療については、非血縁者間を含む造血幹細胞移植（血液内科 · 小児科）では、診療科と密接に連携。細胞の採取 · 評価 · 処理 · 保存を輸血部門が主体となって実施している。

【細胞治療センター部門】

細胞治療センターは、2015 年 3 月に施設がリニューアルし、ヒト細胞を安全に処理するための開放系細胞調製室 5 室/6 無菌操作等区域へと拡大した。施設全体を外の環境より陽圧としその状態を維持することにより、外気を完全に遮断できる構造となっており、内部の空気は HEPA フィルターを通過させて感染性因子を含め微粒子を除去している。細胞処理を行う開放系細胞調製室は高度な清浄度が要求されるため、クラス 10,000、＋ 5Pa(Grade B) の環境となっており、実際の細胞処理はクラス 100 以下の安全キャビネット (Grade A) の中で行われる。開放系細胞調製室への入室に際しては全身を覆う無菌無塵衣、マスク、手袋の着用が義務付けられている。汚染しにくく、清掃しやすい構造と機器配置により、構造設備面での基準をクリアしている。当施設は、2015 年 4 月 8 日付けで関東信越厚生局より特定細胞加工物製造届書の承認を受けた（施設番号 FC3150001)。

細胞調製はすべて標準作業手順書 (SOP) に沿って行われ、各工程で品質検査を行い、基準を満たし、微生物の混在のない製品であることを確認している。また各工程では検体をサンプリング保存し、トラックバックできるようになっている。細胞加工については、厚生労働省より「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針」など各種指針が提出されているが、当施設はハード面、ソフト面ともに合致したシステムを構築しており、今後幹細胞医療、再生医療の臨床応用を目指す多科の参入に対応可能である。

また、PRP 関連の細胞加工施設である骨髄移植関連室は、2020 年 11 月 20 日に関東信越厚生局より特定細胞加工物製造届書が受理されている（施設番号 FC3200138)。

(6) 研究業績

[原著]

1. Mitsuru Mizuno, Koki Abe, Takashi Kakimoto, Keiichi Yano, Yukiko Ota, Kengo Tomita, Naoki Kagi, Ichiro Sekiya. Volatile organic compounds and ionic substances contamination in cell processing facilities during rest period; a preliminary assessment of exposure to cell processing operators. Regen Ther. 2023.12; 24; 211-218

2. Hisako Katano, Nobutake Ozeki, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Noriya Okanouchi 1,2, Jo Fujita, Jun Masumoto, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya. Morphological analysis of three-dimensional MR images of patellofemoral joints in asymptomatic subjects Sci Rep. 2023.12; 13(1); 16570

3. Yusuke Nakagawa, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Masafumi Horie, Hiroki Katagiri, Nobutake Ozeki, Toshiyuki Ohara, Ichiro Sekiya, Takeshi Muneta, Toshifumi Watanabe. Mid-term clinical outcomes of a posterior stabilized total knee prosthesis for Japanese patients: A minimum follow-up of 5 years. J Orthop Sci. 2023.11; 28(6); 1325-1330

4. Zhen Qu, Hideyuki Koga, Kunikazu Tsuji, Guo Tang, Yang Yang, Aritoshi Yoshihara, Mai Katakura, Hiroki Katagiri, Kazumasa Miyatake, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Yusuke Nakagawa. Hyaluronic acid sheet transplantation attenuates infrapatellar fat pad fibrosis and pain in a rat arthritis model. J Orthop Res. 2023.11; 41(11); 2442-2454

5. Ichiro Sekiya, Hisako Katano, Ali Guermazi, Yugo Miura, Noriya Okanouchi, Makoto Tomita, Jun Masumoto, Yoshio Kitazume, Hideyuki Koga, Nobutake Ozeki. Association of AI-determined Kellgren-Lawrence grade with medial meniscus extrusion and cartilage thickness by AI-based 3D MRI analysis in early knee osteoarthritis. Sci Rep. 2023.11; 13(1); 20093

6. Nishiyama Y, Mizuki K, Hoshino A, Hirabayashi S, Magara T, Ashiarai M, Miyamoto S, Ono R, Takahashi S, Hosoya Y, Niizato D, Yoshihara H, Nishimura A, Mitsuiki N, Kamiya T, Takasawa K, Kajiwara M, Kanegane H, Morio T, Manabe A, Isoda T, Hasegawa D, Takagi M. Hematopoietic cell transplantation for hematological malignancies in Bloom syndrome. Pediatric blood & cancer. 2023.11; 70(11); e30655

7. Zhu Ling, Hailati Aini, Shuhei Kajikawa, Jumpei Shirakawa, Kunikazu Tsuji, Yoshinori Asou, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya, Akira Nifuji, Masaki Noda, Yoichi Ezura. Mutation Are Treatable by Alendronate. Pharmaceuticals (Basel). 2023.10; 16(10);

8. Aritoshi Yoshihara, Renaud Siboni, Yusuke Nakagawa, Caroline Mouton, Christophe Jacquet, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Romain Seil, Hideyuki Koga. Lateral-medial asymmetry of posterior tibial slope and small lateral tibial plateau articular surface depth are morphological factors of lateral meniscus posterior root tears in ACL-injured patients. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023.09; 31(9); 3594-3603

9. Hideto Furuoka, Kentaro Endo, Ichiro Sekiya. Mesenchymal stem cells in synovial fluid increase in number in response to synovitis and display more tissue-reparative phenotypes in osteoarthritis. Stem Cell Res Ther. 2023.09; 14(1); 244

10. Shoichi Hasegawa, Yusuke Nakagawa, Aritoshi Yoshihara, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Masaya Hayashi, Hideya Yoshimura, Tsuyoshi Nagase, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Older Age, Poor Preoperative Quadriceps Muscle Strength, and Residual Pain as Risk Factors for Poor Quadriceps Muscle Strength Recovery at 1 Year After ACL Reconstruction: A TMDU MAKS Study of 402 Patients. Orthop J Sports Med. 2023.09; 11(9); 23259671231194593

11. Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Yusuke Amano, Yoshiko Shirakawa, Nobutake Ozeki, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Decision regret following opening wedge high tibial osteotomy: Older age as a risk factor. Knee. 2023.06; 43; 62-69

12. Shoichi Hasegawa, Jae-Sung An, Jun Hino, Yusuke Amano, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake, Hiroki Katagiri, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga, Kunikazu Tsuji. Therapeutic effect of C-type natriuretic peptide on persistent pain in a rat knee arthritis model. J Orthop Surg (Hong Kong). 2023.06; 31(2); 10225536231181708

13. Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake, Nobutake Ozeki, Yuji Kohno, Masaki Amemiya, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Comparison of Clinical Outcomes after Revision Anterior Cruciate Ligament Reconstruction using a Bone-patellar Tendon-bone Autograft and that Using a Double-Bundle Hamstring Tendon Autograft. J Knee Surg. 2023.05; 36(6); 613-621

14. Amano Y, Ozeki N, Matsuda J, Nakamura T, Nakagawa Y, Sekiya I, Koga H. Augmentation of a Nonanatomical Repair of a Medial Meniscus Posterior Root Tear With Centralization Using Three Knotless Anchors May Be Associated With Less Meniscal Extrusion and Better Compressive Load Distribution in Mid-Flexion Compared With Non-Anatomical Root Repair Alone in a Porcine Knee Model. Arthroscopy : the journal of arthroscopic & related surgery : official publication of the Arthroscopy Association of North America and the International Arthroscopy Association. 2023.05; 39(12); 2487-2498

15. Misaki Yagi, Kentaro Endo, Keiichiro Komori, Ichiro Sekiya. Comparison of the effects of oxidative and inflammatory stresses on rat chondrocyte senescence. Sci Rep. 2023.05; 13(1); 7697

16. Yusuke Nakagawa, Kunikazu Tsuji, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Nobutake Ozeki, Mikio Shioda, Jae-Sung An, Ryu Yoshida, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Association of Infrapatellar Fat Pad Fibrosis at 3 Months After ACL Reconstruction With Short-term Clinical Outcomes and Inflammatory Cytokine Levels in the Synovial Fluid. Orthop J Sports Med. 2023.04; 11(4); 23259671231164122

17. Dan Tomomasa, Takeshi Isoda, Noriko Mitsuiki, Kento Inoue, Akira Nishimura, Kazuhiro Uda, Toru Uchiyama, Motoi Yamashita, Takahiro Kamiya, Akifumi Endo, Masatoshi Takagi, Kohsuke Imai, Michiko Kajiwara, Morton J Cowan, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Successful TCR $\alpha\ \beta$/CD19-Depleted Hematopoietic Cell Transplantation for a Patient With Artemis Deficiency. J Pediatr Hematol Oncol. 2023.03; 45(2); e285-e289

18. Ozeki N, Mizuno M, Yanada S, Okada T, Kubota R, Kushida Y, Furuoka H, Endo K, Katano H, Nakamura K, Ohya S, Koga H, Sekiya I. Autologous Synovial Mesenchymal Stem Cell Transplantation Suppresses Inflammation Caused by Synovial Harvesting and Promotes Healing in a Micro Minipig Repaired Meniscus Model. Transplantation proceedings. 2023.03; 55(2); 470-480

19. Mizuno M, Matsuda J, Watanabe K, Shimizu N, Sekiya I. Effect of disinfectants and manual wiping for processing the cell product changeover in a biosafety cabinet. Regenerative therapy. 2023.03; 22; 169-175

20. M Isono, H Koga, Y Nakagawa, T Nakamura, I Sekiya, H Katagiri. Inferior Healing Rate in Isolated Meniscal Repair than that in Meniscal Repair with Concomitant ACL Reconstruction Evaluated with MRI. Malays Orthop J. 2023.03; 17(1); 61-69

21. Mizuno Mitsuru, Yori Kouichirou, Takeuchi Toshikazu, Yamaguchi Tetsuya, Watanabe Ken, Tomaru Yasuhiro, Shimizu Norio, Sekiya Ichiro. Cross-contamination risk and decontamination during changeover after cell-product processing. Regenerative Therapy. 2023.03; 22; 30-38

22. Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake, Toshiyuki Ohara, Mikio Shioda, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Short-Term Outcomes after High Tibial Osteotomy Aimed at Neutral Alignment Combined with Arthroscopic Centralization of Medial Meniscus in Osteoarthritis Patients. J Knee Surg. 2023.02; 36(3); 261-268

23. Kawaguchi K, Umeda K, Miyamoto S, Yoshida N, Yabe H, Koike T, Kajiwara M, Kawaguchi H, Takahashi Y, Ishimura M, Sakaguchi H, Hama A, Cho Y, Sato M, Kato K, Sato A, Kato K, Tabuchi K, Atsuta Y, Imai K. Graft-versus-host disease-free, relapse-free, second transplant-free survival in allogeneic hematopoietic cell transplantation for genetic disorders. Bone marrow transplantation. 2023.02;

24. Akane Ariga, Yuji Kohno, Yusuke Nakagawa, Toshifumi Watanabe, Hiroki Katagiri, Toshiyuki Ohara, Mikio Shioda, Nobutake Ozeki, Masaki Amemiya, Atsushi Okawa, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Simultaneous bilateral total knee arthroplasty is safe and effective for patients in different ages. J Orthop Sci. 2023.01; 28(1); 173-179

1. 大友 直樹. 基礎講座　血液粘弾性検査の基本 Medical Technology. 2023.11; 51(11); 1172-1177

2. Ozeki Nobutake, Koga Hideyuki, Nakagawa Yusuke, Katagiri Hiroki, Katano Hisako, Tomita Makoto, Masumoto Jun, Sekiya Ichiro. Association between knee cartilage thickness determined by magnetic resonance imaging three-dimensional analysis and the International Cartilage Repair Society (ICRS) arthroscopic grade KNEE. 2023.06; 42; 90-98

[書籍等出版物]

1. 梶原　道子. 小児臨床検査ガイド　第３版. 文光堂, 2023.12 (ISBN：978-4-8306-3047-7)

2. 大友 直樹. 基礎講座　血液粘弾性検査の基本. 医歯薬出版株式会社, 2023.11

[総説]

1. 関矢　一郎. 変形性膝関節症予防を目指した滑膜細胞移植による半月板再生 整形・災害外科. 2023.11; 66(12); 1471-147

2. 河野 佑二 , 古賀英之, 関矢一郎. 【バイオ時代におけるリウマチ性疾患の診療】関節リウマチの病態　基礎研究　関節リウマチ膝の滑膜由来間葉系幹細胞 別冊整形外科. 2023.10; 84; 14-20

3. 関矢一郎. 変性半月板損傷に対する再生医療 Precision Medicine（プレシジョン メディシン）. 2023.10; 6(11); 30-34

4. 大関 信武, 古賀 英之, 関矢 一郎. 変形性膝関節症の発症・進行予防の可能性—滑膜幹細胞移植による半月板の再生医療 臨床雑誌整形外科. 2023.05; 74(6); 700-704

5. 中川 裕介, 渡邊 敏文, 中村 智祐, 関矢 一郎, 古賀 英之. 【人工関節における進歩】各種人工関節置換術の中・長期成績　人工膝関節置換術　ジルコニアセラミック大腿骨コンポーネントを用いた日本人向け後方安定型人工膝関節インプラントの中期成績　5 年以上の経過観察 別冊整形外科. 2023.04; 1(83); 108-117

6. 大友 直樹, 千葉 美沙希, 相川 佳子, 臼井 友香里, 伊藤 千裕, 白石 暁子, 大石 裕紀子, 梶原 道子, 関矢 一郎. O 型赤血球緊急輸血症例を対象とした大量輸血プロトコル (MTP) 運用前/後の輸血量と救命率に関する検討 日本輸血細胞治療学会誌 . 2023.04; 69(2); 311

[講演・口頭発表等]

1. 関矢一郎. 早期変形性膝関節症の MRI3D 解析. 第 1 回日本膝関節学会 2023.12.08 横浜市

2. 関矢一郎. 細胞移植による半月板温存治療. 第 38 回日本整形外科基礎学術集会 2023.10.19 つくば市

3. 大友 直樹. 臨床検査の精度と信頼性 〜精度保証を達成するための秘訣〜 輸血検査. 日本医療検査科学会第 55 回大会サテライトセミナー 2023.10.06 横浜市

4. 古野秀裕, 星野顕宏, 西山洋平, 西村聡, 宮本智史, 神谷尚宏, 磯田健志, 高木正稔, 梶原道子, 金兼弘和, 森尾友宏. 合併症の有無で対照的な管理を要した重症複合免疫不全症の 2 例. 第 691 回日本小児科学会東京都地方会講話会 2023.07.08 東京

5. 関矢一郎. 雲外蒼天〜膝単純レントゲン像から軟骨立体構造を読み解く方法を見いだし、滑膜幹細胞による半月板温存の多施設治験に挑む. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会 2023.06.30 広島市

6. 関矢一郎. 自家滑膜幹細胞注射による変形性膝関節症治療. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会 2023.06.30

7. 関矢一郎、古賀英之、片野尚子、水野満、遠藤健太郎、中村智祐、吉井俊貴、大関信武. 半月板損傷を対象とした滑膜幹細胞の多施設共同試験. 第 96 回日本整形外科学会学術総会 2023.05.14 神奈川県横浜市

8. 藤田 浩, 池上 正純, 奥田 誠, 梶原 道子, 小山 典久, 鷹野 壽代, 細野 茂春, 松崎 浩史, 玉井 佳子. 2021 年度血液製剤使用実態調査における院内分割製剤の実績　分割製剤検討小委員会からの報告. 日本輸血細胞治療学会誌 2023.05.12

9. 関矢一郎. 再生医療法により始まった自家滑膜幹細胞注射による変形性膝関節症治療. 2023.05.11 神奈川県横浜市

10. 桐野 玄, 高澤 啓, 中川 竜一, 山内 建, 我有 茉希, 齋藤 洋子, 安達 恵利子, 中谷 久恵, 神谷 尚宏, 磯田 健志, 梶原 道子, 金兼 弘和, 鹿島田 健一, 森尾 友宏. 先天性免疫異常症における膵島自己免疫の実態および造血細胞移植の効果. 日本内分泌学会雑誌 2023.05.01

11. 大友 直樹, 千葉 美沙希, 相川 佳子, 臼井 友香里, 伊藤 千裕, 白石 暁子, 大石 裕紀子, 梶原 道子, 関矢 一郎. O 型赤血球緊急輸血症例を対象とした大量輸血プロトコル (MTP) 運用前/後の輸血量と救命率に関する検討. 日本輸血細胞治療学会誌 2023.04.01

12. 相川 佳子, 臼井 友香里, 大石 裕紀子, 白石 暁子, 千葉 美沙希, 伊藤 千裕, 田中 芽, 福岡 明美, 織田 のぞみ, 神山 朋子, 藤木 すみれ, 黒木 佑紀子, 友田 昂宏, 大友 直樹, 梶原 道子. 当院における細胞治療業務への臨床検査技師の関わりと今後の課題. 日本輸血細胞治療学会誌 2023.04.01

13. 水野 満, 阿部 公揮, 柿本 隆志, 関矢 一郎. 安全キャビネット内における人から発生する粒子数と落下菌の相関解析. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都

14. 関矢 一郎、古賀 英之 、片野 尚子、水野 満、遠藤 健太郎、大関 信武. 難治性半月板損傷に対する滑膜幹細胞移植の多施設共同試験. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 京都

15. 松多 誠也, 遠藤 健太郎, 大関 信武, 水野 満, 片野 尚子, 関矢 一郎. ラット変形性膝関節症モデルへ投与後のヒト滑膜 · 脂肪由来間葉系幹細胞の液性因子発現の比較. 第 22 回日本再生医療学会総会 2023.03.23 宮崎

16. 関矢 一郎、古賀 英之 、片野 尚子、水野 満、遠藤 健太郎、大関 信武. 中高年齢者の半月板損傷に対する細胞治療. 第 35 回日本軟骨代謝学会 2023.03.03 横浜

17. 古岡 秀人, 遠藤 健太郎, 関矢 一郎. ラット変形性膝関節症モデルにおける関節液中間葉系幹細胞の数 · 質的変化の解析. 第 35 回日本軟骨代謝学会 2023.03.03 横浜

18. 中村 智祐, 關 良太, 吉原 有俊, 雨宮 正樹, 星野 傑, 片倉 麻衣, 中川 裕介, 大関 信武, 関矢 一郎, 吉井 俊貴, 古賀 英之. ACL 再建術時の LM centralization による膝関節回旋制動効果　3 軸加速度計を用いた検討. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

19. 大関 信武, 中村 智祐, 中川 裕介, 星野 傑, 片倉 麻衣, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 大川 淳, 関矢 一郎. MRI 三次元解析システムを用いた膝関節軟骨厚さ · 軟骨面積率と半月板被覆率の関係. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

20. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 中村 智祐, 中川 裕介, 吉井 俊貴, 大関 信武. ここまできた!骨 · 軟骨再生医療の最前線　半月板損傷を対象とした滑膜幹細胞の多施設共同試験. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

21. 大関 信武, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 関矢 一郎. スポーツ損傷に対する最先端の再生医療 · 細胞治療　スポーツで生じた半月板変性損傷に対する滑膜幹細胞を併用した修復術. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

22. 白畑 航, 中川 裕介, 中村 智祐, 大関 信武, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀 英之. 人工膝関節置換術患者における術前 CSI 高値は術後 1 年の遺残疼痛に関連する因子である. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

23. 関矢 一郎. 再生医療法により始まった自家滑膜幹細胞注射による変形性膝関節症治療. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

24. 吉田 龍, 中川 裕介, 吉原 有俊, 雨宮 正樹, 片倉 麻衣, 星野 傑, 大関 信武, 中村 智祐, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀 英之. 前十字靱帯再建術後の膝蓋下脂肪体線維化は短期臨床成績を悪化させる. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

25. 古賀 英之, 中村 智祐, 中川 裕介, 大関 信武, 吉井 俊貴, 関矢 一郎. 半月板温存治療の進歩と限界　逸脱半月板に対する centralization 法の効果と問題点. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

26. 大関 信武, 中村 智祐, 中川 裕介, 星野 傑, 片倉 麻衣, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 大川 淳, 関矢 一郎. 膝関節手術における超音波アシスト技術の開発. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01

27. 吉原 有俊, 雨宮 正樹, 星野 傑, 片倉 麻衣, 中川 裕介, 大関 信武, 中村 智祐, 関矢 一郎, 吉井 俊貴, 大川 淳, 古賀 英之. 術前 MRI 画像所見の組み合わせによる LMPRT の診断精度. 日本整形外科学会雑誌 2023.03.01
28. 関矢 一郎. 自家滑膜幹細胞の半月板損傷を対象とする医師主導治験の状況、実用化に向けた課題. 2022 年度 神戸再生医療勉強会（第 4 回） 2023.02.17 神戸

[社会貢献活動]

1. （公財）日本臨床検査同学院　免疫血清学技術講習会, 2019 年 - 現在
2. 関矢一郎. 膝半月板損傷について, ラジオ NIKKEI, ドクターサロン, 2023 年 06 月 13 日 - 2023 年 07 月 11 日

歯科衛生保健部

Department of Dental Hygiene

歯科衛生保健部長　：　足達　淑子
副歯科衛生保健部長　：　大沼　由季
主任歯科衛生士　：　釱持　郁
葛西　美樹
宮本　洋子
佐川　かおり

歯科衛生士
赤塚　彩乃
秋山　喜久江
池田　実樹子
和泉　季里
内山　玲菜
小川　侑希子
小澤　晴菜
小西　富代
後藤　あゆ香
齋藤　成未
十川　裕子
髙松　菜未
武田　詩歩
但野　安澄
竹廻　祐希
都築　夏子
永田　幸子
中世古　真希
中西　桃子
中林　美恵
羽田　葉月
日笠　加衣
東山　香織
松本　良恵
森　仁美
矢嶋　陽向
矢萩　彗香
山田　凛

(1)　分野概要

平成 21 年 4 月、それまでの歯科衛生士室から、「歯科衛生保健部」として新たにスタートしました。現在、部長以下 34 名の歯科衛生士で構成され、15 の診療科 · 専門外来を担当し、歯科医師をはじめ他職種と連携し、歯科診療がスムーズに行われるようにサポートしています。
歯科衛生保健部では、一人ひとりの歯科衛生士が、社会における歯科衛生士の役割を考え、深い学問的な知識と技術の向上を追及し、豊かな人間性をもって人に関われる歯科衛生士を目指し、専門職として歯科衛生士の仕事に誇りが持てるよう、環境を整えるべく努力をしています。

(2) 臨床活動および学外活動

都内特別支援学校歯科保健指導
平成 10 年度から実施している活動です。特別支援学校の児童 · 生徒や保護者 · 教諭に対して、養護教諭、学校歯科医と連携を取り、歯科検診、保健指導のみならず、咀嚼などの機能にも目を向けた摂食嚥下指導の健康教育活動を行っています。

(3) 臨床上の特色

口腔疾患の予防と、口腔機能と健康の維持増進をはかる「口腔の健康管理の専門家」として、患者さんの口腔への関心を高め、生涯健口かつ健康に生活できるように支援しています。

(4) 研究業績

[原著]

1. Ito K, Tokura S, Takazawa I, Yoshida N, Nakanishi T, Akiyama K, Onuma Y, Adachi T, Harada H, Nojima H, Miura M, Yoshimura R, Kabasawa Y. Clinical investigation of use of Episil® oral solution in oral mucositis during radiotherapy for head and neck cancer. Heliyon. 2023.06; 9(6); e15869

[書籍等出版物]

1. 島田　康史, 葛西　美樹. 歯科衛生士講座　保存修復学 · 歯内療法学. 永松書店, 2023.04

[講演 · 口頭発表等]

1. 礪波 健一, 梅森 幸, 則武 加奈子, 金森 ゆうな, 葛西 美樹, 小西 富代, 佐川 かおり, 下山 和弘, 新田 浩. 東京医科歯科大学病院歯科ドックの運用状況. ジャパンオーラルヘルス学会誌 2023.12.09 東京

2. 東山 香織, 原口 美穂子, 宮本 洋子, 小澤 晴菜, 足達 淑子, 隅田 由香. 口腔がん術後陽子線治療後に左頬部が口腔と交通した患者へ口腔衛生管理を行なった 1 例. 顎顔面補綴 2023.12.01

3. 日笠　加衣, 坂口　由季, 宮本　洋子, 釼持　郁, 葛西　美樹, 佐川　かおり, 秋山　喜久江, 中西　桃子, 松本　良恵, 足達　淑子. 麻酔管理を受ける患者の術前口腔内スクリーニングに関する現状. 第 40 回日本障害者歯科学会総会および学術大会 2023.11.11 北海道札幌市

4. 日笠 加衣, 足達 淑子, 坂口 由季, 宮本 洋子, 釼持 郁, 葛西 美樹, 佐川 かおり, 秋山 喜久江, 中西 桃子, 松本 良恵. 麻酔管理を受ける患者の術前口腔内スクリーニングに関する現状. 日本障害者歯科学会総会および学術大会プログラム · 抄録集 2023.10.01

5. 高松　菜未, 坂口　由季, 宮本　洋子, 東山　香織, 後藤　琴以, 小川　侑希子, 小澤　晴菜, 足達　淑子, 樺沢　勇司, 久保田　一政. 某大学病院における中咽頭癌に対して放射線治療を行った患者への口腔健康管理の 1 例. 2023.09.18

6. 藤田 秋世, 秀島 雅之, 山口 浩平, 葛西 美樹, 佐川 かおり, 足達 淑子, 鈴木 達, 臼見 莉沙, 中河原 毅, 立石 知也. シート状グミを用いた舌トレーニングが閉塞性睡眠時無呼吸に与える影響. 睡眠口腔医学 2023.09.01

7. 東山香織，原口美穂子，宮本洋子，小澤晴菜，足達淑子，隅田由香. 口腔がん術後陽子線治療後に左頬部が口腔と交通した患者へ口腔衛生管理を行なった 1 例. 日本顎顔面補綴学会第 40 回総会 · 学術大会 2023.06.03 愛知学院大学楠元キャンパス（愛知 · 名古屋市）

8. 深谷　あゆ香, 財津　崇, 有冨　理左, 足達　淑子, 相田　潤. 口臭症国際分類と口臭診療前後での不安の変化について. 第 72 回日本口腔衛生学会学術大会 2023.05.20 大阪国際交流センター

9. 深谷 あゆ香, 財津 崇, 有冨 理左, 足達 淑子, 相田 潤. 口臭症国際分類と口臭診療前後での不安の変化について. 口腔衛生学会雑誌 2023.04.01

[社会貢献活動]

1. 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科口腔衛生専攻同窓会さつき会会長, 東京医科歯科大学, 2012 年 05 月 27 日 - 現在
2. 文京区地域医療連携協議会在宅医療検討部会および文京区地域包括ケア推進委員会医療介護連携部会, 文京区, 2016 年 07 月 24 日 - 現在
3. 歯磨きボランティア, 東京都歯科衛生士会, 2019 年 - 現在

スポーツサイエンス機構

スポーツ医歯学診療センター

Clinical Center for Sports Medicine and Sports Dentistry

医系）
センター長　柳下和慶
講師　高木 俊輔
助教　星野傑
特任助教　雨宮正樹
理学療法技士長　廣幡健二
理学療法士　大見武弘，大路駿介, 川﨑智子
秘書　伊藤清美

歯系）
講師　中禮宏
助教　林海里
医員　外川海斗

(1) 分野概要

スポーツ医歯学診療センターは，本学の医科・歯科分野における特徴的かつ先進的なスポーツ関連分野の連携と相互の活用の拠点となり，スポーツ関連する外傷・障害・疾病の研究および臨床に資することを目的とする部門であり，医系病院）スポーツ医学診療センターおよび歯系病院）スポーツ歯科外来から構成される．

(2) 研究活動

○スポーツ医学診療センター：
スポーツ理学療法部門を中心に，体幹機能評価と体幹機能強化からの早期競技復帰，高レベルパフォーマンス獲得のための様々な研究を行っている．

1）スポーツ選手の早期競技復帰，高レベルパフォーマンスの獲得
　（1）膝前十字靱帯再建術後でのアスレティックリハビリテーションアプローチ
　　体幹機能強化による早期競技復帰と再受傷予防の研究
　（2）オーバーユース，疲労骨折における体幹機能からの評価と治療アプローチ研究
2）新たな体幹機能評価の確立と体幹機能強化の有効性評価
3）動的バランスの評価法開発
4）高気圧酸素治療による早期競技復帰，コンディショニングの獲得
　靭帯損傷，肉離れ等の軟部組織外傷における有効性研究

○スポーツ歯科外来：
競技者やスポーツ愛好家の歯科的健康管理と外傷の安全対策に寄与貢献することを目的として，本分野ではスポーツや運動が人体に与える様々な影響を考究している．

1）スポーツ選手の口腔健康維持増進
　（1）スポーツ選手の口腔保健実態調査
　（2）スポーツ・運動に伴う口腔内環境の変化
　（3）スポーツドリンクおよびサプリメントの口腔に対する影響
2）スポーツ歯科傷害の安全対策
　（1）マウスガード＆フェイスガード材料の改良・開発

（2）マウスガード＆フェイスガードの防護効果の検証と快適性の向上
（3）マウスガード＆フェイスガードの構造と設計ガイドライン
（4）スキューバダイビング用マウスピースの改良・開発
3）咬合と骨格筋制御機能の相関
（1）バイオメカニクス研究による骨格筋出力および力発揮特性の解析
（2）神経生理学的手法によるバックグラウンドメカニズムの検索
4）咬合と身体平衡機能の相関
5）咀嚼・咬合と脳機能の関連性
6）スポーツに関連する歯科疾患・傷害に対する HBO の応用

(3) 教育活動

スポーツ選手の健康管理，スポーツ外傷の安全対策，競技力向上の 3 側面に関する有効かつ効率的な医・歯・科学的サポートの在り方を追及し，そのために必要な学識的知識の整理，技能の習得，態度の研鑽を目指した教育を行っている．

(4) 臨床活動および学外活動

○スポーツ医学診療センター：
スポーツ選手の外傷，障害，疾病を対象に，スポーツ競技復帰を「より早く，より高く」を目指し，本学に特徴的な先進分野との連携にて，総合的な診療を実施する．スポーツ理学療法部門では，個々の選手に合わせたカスタムメードのリハプログラムにて，競技レベルへの復帰を達成し，傷害予防のプログラムを提供するアスリートメンタルケア外来を開設し、スポーツ選手の心のケアを積極的に行っている．
（2023 年 1 月～12 月実績）
スポーツ外来部門患者　2,162 名
スポーツ理学療法部門患者　3,986 名
○スポーツ歯科外来：
スポーツ歯科外来では，スポーツ選手・愛好家の口腔の健康の維持・管理・回復・増進を図ることを目的に，次のような相談・健診・治療を実施している．
1）スポーツ歯科健診＆コンディショニング・アドバイス
2）歯科疾患全般に関する相談・治療
3）歯科領域のスポーツ傷害（外傷・障害）に関する相談・治療
4）カスタムメイド・マウスガードの製作・調整
5）カスタムメイド・フェイスガードの製作・調整

(5) 研究業績

[原著]

1. Shunsuke Ohji, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Takehiro Ohmi, Sho Mitomo, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. Kinesiophobia Is Negatively Associated With Psychological Readiness to Return to Sport in Patients Awaiting Anterior Cruciate Ligament Reconstruction. Arthroscopy. 2023.09; 39(9); 2048-2055

2. Naoki Yamamoto, Ryohei Takada, Tetsuya Jinno, Kazumasa Miyatake, Naoto Watanabe, Hideyuki Koga, Toshitaka Yoshii, Kazuyoshi Yagishita, Atsushi Okawa. Wear rate and osteolysis in two types of second-generation annealed highly cross-linked polyethylene in total hip arthroplasty: A retrospective comparative study with a minimum of five years. Orthop Traumatol Surg Res. 2023.02; 109(1); 103147

3. Takehiro Ohmi, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Shunsuke Ohji, Sho Mitomo, Toshiyuki Ohara, Kazuyoshi Yagishita. Biomechanical characteristics of the lower extremities during running in male long-distance runners with a history of medial tibial stress syndrome: a case control study. BMC Musculoskelet Disord. 2023.02; 24(1); 103

4. Murofushi Koji, Yamaguchi Daisuke, Kaneoka Koji, Oshikawa Tomoki, Katagiri Hiroki, Hirohata Kenji, Furuya Hidetaka, Mitomo Sho, Koga Hideyuki, Yagishita Kazuyoshi. KOJI AWARENESS スコアおよび

活動関連疼痛強度に対する矯正エクササイズの効果 (The effectiveness of corrective exercises on the KOJI AWARENESS score and activity-related pain intensity) The Journal of Medical Investigation. 2023.02; 70(1-2); 208-212

5. Murofushi Koji, Oshikawa Tomoki, Akuzawa Hiroshi, Yamaguchi Daisuke, Hirohata Kenji, Furuya Hidetaka, Mitomo Sho, Kaneoka Koji, Yagishita Kazuyoshi. Trunk muscle activation in side plank exercises with and without external-focus instruction ISOKINETICS AND EXERCISE SCIENCE. 2023; 31(1); 29-36

6. Koji Murofushi, Daisuke Yamaguchi, Koji Kaneoka, Tomoki Oshikawa, Hiroki Katagiri, Kenji Hirohata, Hidetaka Furuya, Sho Mitomo, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. The effectiveness of corrective exercises on the KOJI AWARENESS score and activity-related pain intensity. J Med Invest. 2023; 70(1.2); 208-212

7. Kumiko Kasashi, Ayaka Sato, Mark Stuart, Úna Hollywood, Marina Kawaguchi-Suzuki, Kazuyoshi Yagishita, Takao Akama. The Tokyo 2020 Olympic and Paralympic pharmacy services during the COVID-19 pandemic. J Am Pharm Assoc (2003). 2023; 63(4); 1156-1161

8. Norihiro Kuroki, Kazuyoshi Yagishita, Keiki Shimizu, Sachiko Okuaki, Yuuri Doi, Yuki Arakawa, Tomotsugu Nakano, Takao Akama. Emergency department activities at the Athletes' Village during the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games. Acute Med Surg. 2023; 10(1); e905

[書籍等出版物]

1. 大関 信武, 古賀 英之, 関矢 一郎. 変形性膝関節症の発症・進行予防の可能性—滑膜幹細胞移植による半月板の再生医療. 株式会社南江堂, 2023.06

2. 大関信武, 星野傑, 大原敏之, 古賀英之. プロ野球選手の腰椎分離症症例，臨床スポーツ医学 40（5）. 文光堂, 2023.05

3. 見供翔、大見武弘（坂雅之，大路駿介 編）. 臨床の疑問に答える軟部組織の障害と理学療法. 羊土社, 2023.04 (ISBN：978-4-7581-0265-0)

[総説]

1. Tanabe G, Ueno T, Li C, Manka-Malara K, K Janicka J, Togawa K, Hayashi K, Churei H, Gonda T, Suzuki H, Nakajima K, Mizuhashi F, Matsumura H, Maeda Y, Yasui T.. Literature review on the advances and applications of digital dentistry in sports mouthguard fabrication. International Journal of Sports Dentistry. 2023.11; 16(1); 15-23

1. 大見武弘, 古賀英之. 膝関節装具—膝蓋骨不安定症の装具療法 臨床スポーツ医学. 2023.08; 40(9); 942-945

[講演・口頭発表等]

1. Sentaro Koshida, Takanori Ishii, Hiroshi Churei, Hiroshi Kubota. MEASUREMENT OF HEAD IMPACTS DURING ACTUAL JUDO PRACTICE IN COLLEGE JUDOKAS: A PRELIMINARY STUDY. International Society of Biomechanics Congress 2023 2023.07.31 Fukuoka

2. Shimizu S, Hayashi K, Takeuchi Y, Tanabe G, Churei H, Kobayashi H, Ueno T, Fueki K. Effect of Administration of Sonicated P. gingivalis on skeletal muscle injury healing using a rat model. . ECSS Paris 2023 2023.07.04 Paris

1. 大見武弘, 廣幡健二, 見供翔, 大路駿介. 膝前十字靭帯再建術後のスポーツ理学療法：病期別の実践的プログラム 6 ヵ月以降の理学療法 . 膝前十字靭帯再建術後のスポーツ理学療法：病期別の実践的プログラム 2023.12.17

2. 大路駿介, 相澤純也, 廣幡健二, 大見武弘, 川崎智子, 古賀英之, 柳下和慶. ハムストリング腱を用いた前十字靭帯再建術後患者における受傷前レベルへのスポーツ復帰と片脚垂直ジャンプ能力の非対称性との関連：横断研究 . 第一回日本膝関節学会 2023.12.09

3. 林 海里，清水慎太郎，竹内康雄，小林宏明，中禮 宏，笛木賢治. 歯周病原細菌の全身波及がスポーツに関連する骨格筋反応に及ぼす影響について. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京

4. 駒澤柚希，田邊 元，蓮沼哲哉，外川海斗，林 海里，中禮 宏， 森谷直樹，安井利一，上野俊明. アスリート疲労感と顎口腔領域の自覚症状の連動類似性. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

5. 堀田葉子，林 海里，外川海斗，藤野祥子，高橋優美，清水慎太郎，熊谷彰人，平田憲雄，渡辺和志，根来武史，田邊 元，上野俊明，中禮 宏. 水球中における顎顔面外傷経験に関する分析調査 . 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

6. 中禮 宏，吉田浩美，杉井麻耶，柘植昂太，佐瀬裕子，永田将司，林 海里，外川海斗，藤野祥子，柳下和慶. 糖質コルチコイドの口腔内局所使用に関する情報共有について. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

7. 劉 暢、Thida Aung、Kaung Si Thu、外川海斗，林 海里，田 邊元，上野俊明，佐藤 亮，佐々木幸生，中禮宏. 顎顔面骨折領域の特定における CT スライス厚の影響. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

8. 李 晨媛，和田敬広，土田優美，林 海里，田邊 元，上野俊明，中禮 宏. サイクル荷重耐久性疲労試験を用いた 3D 多層マウスガードと従来型マウスガードの保持力比較. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

9. 林 海里，清水慎太郎，竹内康雄，小林宏明，朱秋爽，李泽群，田邊元，中禮 宏，上野俊明. P. gingivalis 投与が持久性運動後の骨格筋 PGC-1 α および TNF α 発現に与える影響. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

10. 大原 庸子, 中禮 宏, 牧野 さつき, 林 海里, 田邊 元, 近藤 剛史, 永井 晃, 市原 千恵, 小口 亘, 上野 俊明. ブラインドサッカー選手のマウスガード作製前後の意識調査. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会 · 学術大会 2023.11.19 福岡

11. 大見武弘. ランニング障害（MTSS）の既往があるランナーのバイオメカニクス. 第 34 回臨床スポーツ医学会学術集会 2023.11.12 横浜市

12. 外川海斗，中禮 宏，林 海里，高橋優美，清水慎太郎，堀田葉子，原口貴久，立石智彦，柳下知慶，田邊 元，上野俊明. カスタムメイドフェイスガード使用により競技生活を継続できているプロフットサル選手の一例. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜

13. 吉田 龍, 大関 信武, 安斎 健太朗, 池田 達宣, 秀 恵輔, 柳下 和慶, 古賀 英之. ラグビーリーグワン Division3 の 1 チームにおける脳振盪の発生率. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

14. 秀 恵輔, 大関 信武, 安斎 健太朗, 吉田 龍, 池田 達宣, 柳下 和慶, 古賀 英之. コンタクトスポーツにおけるハムストリング付着部損傷. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

15. 高澤 祐治, 赤間 高雄, 柳下 和慶, 近藤 尚知, 大内 洋, 清水 和弘, 河野 一郎. 医学教育とアンチ · ドーピング　医学教育モデル · コア · カリキュラム改訂とスポーツ医学の位置づけ. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

16. 柳下 和慶, 塩田 幹夫, 星野 傑. トレーニング 1　リカバリー　軟部組織外傷に対するアイシングのリカバリーへの影響. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜市

17. 森山義尚 , 山田拓実 , 島村亮太 , 大見武弘 , 廣澤全紀 , 加藤淳平. 健常高齢者の Functional Reach Test 時の運動パターンと測定中の姿勢との関連. 第 42 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 2023.10.14 大宮市

18. 池松幸二 , 片桐洋樹 , 大見武弘 , 宮崎緑 , 雨宮正樹 , 古賀英之 , 神野哲也 , 酒井朋子. 内側開大式高位脛骨骨切り術前後における非術側外部膝関節内転モーメントの変化率に関与する因子. 第 11 回日本運動器理学療法学会学術大会 2023.10.14 福岡市

19. 室伏 広治, 見供 翔, 廣幡 健二, 古谷 英孝, 片桐 洋樹, 金岡 恒治, 原 晋. エリート長距離ランナーにおけるランニング障害発生のコホート調査　KOJI AWARENESS Screening Test による危険因子予測. 日本臨床スポーツ医学会誌 2023.10.01

20. 廣幡 健二. バレエダンサーの足を診る～世界のトップダンサーからアマチュアまで多職種での連携～　クラシックバレエダンサーに対するスポーツ理学療法. 日本足の外科学会雑誌 2023.10.01

21. 室伏 広治, 押川 智貴, 廣幡 健二, 見供 翔, 古谷 英孝, 金岡 恒治. 紙風船を用いた外部意識の有無が, サイドプランク運動中の支持側, 非支持側の肩甲帯, 体幹の筋活動に及ぼす影響. 日本臨床スポーツ医学会誌 2023.10.01

22. 桜沢貴俊、大久保 淳、干川 祐樹、山下 隼斗、出牛 雅也、小森 慈人、平澤 幸太郎、藤巻 愛子、柳下 和慶. 高気圧環境下における気管チューブのカフ管理方法の比較検討. 第 57 回　日本高気圧環境・潜水医学会学術集会 2023.09.22 大田区

23. 平澤　幸太郎. 第 2 種高気圧酸素治療装置における環境圧の変化に伴う実酸素流量の実際. 第 57 回　日本高気圧環境・潜水医学会学術集会 2023.09.22 大田区

24. 大久保淳. CLTI 患者における補助療法の実際—レオカーナと HBO 併用—. 第 57 回　日本高気圧環境・潜水医学会学術集会 2023.09.22 大田区

25. 清水慎太郎，田邊 元，安齋達彦，外川海斗，林 海里，中禮 宏，髙橋邦彦，上野俊明. 学校スポーツ事故事例のテキストマイニング手法を用いたコレスポンデンス分析　歯牙障害発生の学校種別・性別の傾向. 日本安全教育学会 第 24 回奈良大会 2023.09.09 奈良

26. 大路駿介. 前十字靭帯損傷・再建術後のリハビリテーション〜受傷前競技レベルへの復帰と再受傷前予防〜. encounter スポーツ・運動器セミナー 2023.08.10

27. 第 2 種装置を用いた高気圧酸素治療における経鼻チューブ併用が経皮酸素分圧へ及ぼす影響. 第 33 回　日本臨床工学会 2023.07.22 広島市

28. 大久保　淳, 桜沢貴俊, 干川祐樹, 山下隼斗, 出牛雅也, 平澤幸太郎, 藤巻愛子, 小栁津卓哉, 柳下和慶. 高気圧酸素治療とレオカーナを含む集学的治療が有用であった透析 CLTI 患者の一例. 第 22 回　日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会学術集会 2023.07.01 墨田区

29. 桜沢貴俊, 大久保淳, 干川祐樹, 山下隼斗, 出牛雅也, 小森慈人, 平澤幸太郎, 藤巻愛子, 柳下和慶. 高気圧環境下における気管チューブのカフ管理方法に関する実験的検討. 第 22 回　日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会学術集会 2023.07.01 墨田区

30. 平澤幸太郎, 桜沢貴俊, 大久保淳, 干川祐樹, 山下隼斗, 出牛雅也, 藤巻愛子, 柳下和慶. 経鼻チューブ併用時の酸素投与方法に関する検討. 第 22 回　日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会学術集会 2023.07.01 墨田区

31. 古谷 英孝, 廣幡 健二, 見供 翔, 田澤 智央, 大森 圭太, 星野 雅洋. 脊柱矯正固定術後患者における日本語版 Lumbar Stiffness Disability Index の臨床的最小重要変化量. 運動器理学療法学 2023.06.01

32. 大路駿介. 膝前部痛症候群 . リハテックリンクセミナー スポーツ理学療法 -リハビリテーションから再受傷予防、パフォーマンス向上まで 2023.05.15

33. 和田敬広, 村田歩夢, 足立桃子, 髙村彩, 中禮宏, 塩沢真穂, 宇尾基弘. 光造形 3D プリンタを用いたスポーツ用フェイスガードのコア材・クッション材の研究. 国際・産学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト —DEJI2MA プロジェクト—2022 年度公開討論会 2023.03.11 東京

34. Liu Chang, 林 海里, 外川 海斗, 高橋 優美, 清水 慎太郎, 熊谷 彰人, 中禮 宏. 患者教育のための歯科疾患と治療. 第 7 回　日本メディカルイラストレーション学会学術集会・総会 2023.03.05 川崎

35. Liu Chang, 林 海里, 外川 海斗, 高橋 優美, 清水 慎太郎, 熊谷 彰人, 中禮 宏. スポーツ用のマウスガードとフェイスガード. 第 7 回　日本メディカルイラストレーション学会学術集会・総会 2023.03.05 川崎

36. 大路駿介. 卒後 5 年までにマスターする運動器障害の理学療法ー膝関節編ー . アークメディカルジャパン株式会社研修会 2 2023.01.15

[Works]

1. ジュニア期のスポーツマウスガード製作・管理のポイント, 教材, 日本歯科医師会／日歯生涯研修ライブラリー, 2013 年 04 月 - 現在

2. ＜スポーツと歯科（１）＞スポーツやるなら歯医者さんへ, その他, 日本歯科医師会 8020TV, 2015 年 04 月 - 現在

3. ＜スポーツと歯科（２）＞最高のパフォーマンスを生み出すには！？ , その他, 日本歯科医師会 8020TV, 2015 年 04 月 - 現在

4. ＜スポーツと歯科（３）＞マウスガード徹底解説, その他, 日本歯科医師会 8020TV, 2015 年 04 月 - 現在

5. スポーツ活動中の歯・口のけがの防止と応急処置（Web・DVD・YouTube）, 教材, 日本スポーツ振興センター学校安全 WEB、DVD、YouTube, 2016 年 03 月 - 現在

6. スポーツ活動中の歯 · 口のけが防止と応急の処置—中高校生へのアドバイス—（PPT 教材）, 教材, 2021 年 01 月 - 現在
7. 学校でのスポーツ事故を防ぐために—歯 · 口のけが事例分析と予防 10 か条—（WEB、YouTube）, 教材, 日本スポーツ振興センター学校安全 WEB、YouTube, 2021 年 03 月 - 現在

[受賞]

1. 奨励論文, 一般社団法人 理学療法科学会, 2023 年 05 月
2. 学会賞（日本メディカルテクノロジー賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月
3. 研究奨励賞（ネオ製薬工業賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月
4. 学会賞（モリタ賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月
5. 研究奨励賞（大榮歯科産業賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月

[その他業績]

1. セルフ · スクリーニングテスト KOJI AWARENESS〜KOJI AWARENESS〜, 2023 年 01 月 PLoS One

[社会貢献活動]

1. 日本スポーツ歯科医学会 代議員, 日本スポーツ歯科医学会, 2022 年 04 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
2. 高気圧治療の外傷への応用, 共同通信社, 医療面向け企画「医療新世紀」, 2023 年 02 月 17 日 - 現在

スポーツ歯科外来

Sports Dentistry

(1) 研究業績

[総説]

1. Tanabe G, Ueno T, Li C, Manka-Malara K, K Janicka J, Togawa K, Hayashi K, Churei H, Gonda T, Suzuki H, Nakajima K, Mizuhashi F, Matsumura H, Maeda Y, Yasui T.. Literature review on the advances and applications of digital dentistry in sports mouthguard fabrication. International Journal of Sports Dentistry. 2023.11; 16(1); 15-23

[講演・口頭発表等]

1. Shimizu S, Hayashi K, Takeuchi Y, Tanabe G, Churei H, Kobayashi H, Ueno T, Fueki K. Effect of Administration of Sonicated P. gingivalis on skeletal muscle injury healing using a rat model. . ECSS Paris 2023 2023.07.04 Paris

1. 林 海里，清水慎太郎，竹内康雄，小林宏明，中禮 宏，笛木賢治. 歯周病原細菌の全身波及がスポーツに関連する骨格筋反応に及ぼす影響について. 第 88 回口腔病学会学術大会 2023.12.02 東京

2. 田邊 元, Li Chenyuan, 林 海里, 中禮 宏, 上野 俊明. スポーツマウスガードの 3 次元デジタル造形技術に関する文献レビュー. 日本歯科理工学会誌 2023.12.01

3. 駒澤柚希，田邊 元，蓮沼哲哉，外川海斗，林 海里，中禮 宏， 森谷直樹，安井利一，上野俊明. アスリート疲労感と顎口腔領域の自覚症状の連動類似性. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会・学術大会 2023.11.19 福岡

4. 堀田葉子，林 海里，外川海斗，藤野祥子，高橋優美，清水慎太郎，熊谷彰人，平田憲雄，渡辺和志，根来武史，田邊 元，上野俊明，中禮 宏. 水球中における顎顔面外傷経験に関する分析調査 . 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会・学術大会 2023.11.19 福岡

5. 中禮 宏，吉田浩美，杉井麻耶，柘植昂太，佐瀬裕子，永田将司，林 海里，外川海斗，藤野祥子，柳下和慶. 糖質コルチコイドの口腔内局所使用に関する情報共有について. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会・学術大会 2023.11.19 福岡

6. 劉 暢、Thida Aung、Kaung Si Thu、外川海斗，林 海里，田 邊元，上野俊明，佐藤 亮，佐々木幸生，中禮宏. 顎顔面骨折領域の特定における CT スライス厚の影響. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会・学術大会 2023.11.19 福岡

7. 李 晨媛，和田敬広，土田優美，林 海里，田邊 元，上野俊明，中禮 宏. サイクル荷重耐久性疲労試験を用いた 3D 多層マウスガードと従来型マウスガードの保持力比較. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会・学術大会 2023.11.19 福岡

8. 林 海里，清水慎太郎，竹内康雄，小林宏明，朱秋爽，李泽群，田邊元，中禮 宏，上野俊明. P. gingivalis 投与が持久性運動後の骨格筋 PGC-1 α および TNF α 発現に与える影響. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会・学術大会 2023.11.19 福岡

9. 大原 庸子, 中禮 宏, 牧野 さつき, 林 海里, 田邊 元, 近藤 剛史, 永井 晃, 市原 千恵, 小口 亘, 上野 俊明. ブラインドサッカー選手のマウスガード作製前後の意識調査. 日本スポーツ歯科医学会第 34 回総会・学術大会 2023.11.19 福岡

10. 外川海斗，中禮 宏，林 海里，高橋優美，清水慎太郎，堀田葉子，原口貴久，立石智彦，柳下知慶，田邊 元，上野俊明. カスタムメイドフェイスガード使用により競技生活を継続できているプロフットサル選手の一例. 第 34 回 日本臨床スポーツ医学会学術大会 2023.11.11 横浜
11. 清水慎太郎，田邊 元，安齋達彦，外川海斗，林 海里，中禮 宏，髙橋邦彦，上野俊明. 学校スポーツ事故事例のテキストマイニング手法を用いたコレスポンデンス分析　歯牙障害発生の学校種別 · 性別の傾向. 日本安全教育学会 第 24 回奈良大会 2023.09.09 奈良
12. Liu Chang, 林 海里, 外川 海斗, 高橋 優美, 清水 慎太郎, 熊谷 彰人, 中禮 宏. 患者教育のための歯科疾患と治療. 第 7 回　日本メディカルイラストレーション学会学術集会 · 総会 2023.03.05 川崎
13. Liu Chang, 林 海里, 外川 海斗, 高橋 優美, 清水 慎太郎, 熊谷 彰人, 中禮 宏. スポーツ用のマウスガードとフェイスガード. 第 7 回　日本メディカルイラストレーション学会学術集会 · 総会 2023.03.05 川崎
14. 林 海里. 大学から関わるスポーツ歯科 —臨床 · 教育 · 研究における本学の取り組み—. 令和 4 年度 愛知県歯科医師会 臨床スポーツ歯科医認定講習会 2023.03.04 愛知

[受賞]

1. 学会賞（日本メディカルテクノロジー賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月
2. 研究奨励賞（ネオ製薬工業賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月
3. 学会賞（モリタ賞）, 日本スポーツ歯科医学会, 2023 年 11 月

統合研究機構

実験動物センター

Center for Experimental Animals

教授　金井 正美
講師　平手 良和
助教　水野 直彬
助教　鈴木 亨
非常勤講師 (名誉教授)　石野 史敏
非常勤講師　伊藤 日加瑠
非常勤講師　遠藤 墾
大学院生　蓬田 裕

(1)　研究業績

[原著]

1. Ishino F, Itoh J, Irie M, Matsuzawa A, Naruse M, Suzuki T, Hiraoka Y, Kaneko-Ishino T.. Retrovirus-Derived RTL9 Plays an Important Role in Innate Antifungal Immunity in the Eutherian Brain International Journal of Molecular Sciences. 2023.10; 24(19); 14884

2. Mayuko Kano, Naoaki Mizuno, Hideyuki Sato, Takaharu Kimura, Rei Hirochika, Yasumasa Iwasaki, Naoko Inoshita, Hisato Nagano, Mariko Kasai, Hiromi Yamamoto, Tomoyuki Yamaguchi, Hidetaka Suga, Hideki Masaki, Eiji Mizutani, Hiromitsu Nakauchi. Functional calcium-responsive parathyroid glands generated using single-step blastocyst complementation. Proc Natl Acad Sci U S A. 2023.07; 120(28); e2216564120

3. Maki Asami, Brian Y H Lam, Martin Hoffmann, Toru Suzuki, Xin Lu, Naoko Yoshida, Marcella K Ma, Kara Rainbow, Miodrag Gužvić, Matthew D VerMilyea, Giles S H Yeo, Christoph A Klein, Anthony C F Perry. A program of successive gene expression in mouse one-cell embryos. Cell Rep. 2023.01; 42(2); 112023

4. Ito M, Ito H, Miyoshi K, Kanai-Azuma M. Chronic non-discriminatory social defeat stress during the perinatal period induces depressive-like outcomes in female mice. Brain Res. 2023.12; 1825; 148734

5. Maruyama N, Fukunaga I, Kogo T, Endo T, Fujii W, Kanai-Azuma M, Naito K, Sugiura K. Accumulation of senescent cells in the stroma of aged mouse ovary. J Reprod Dev. 2023.12; 69(6); 328-336

6. Melig G, Nobuhisa I, Saito K, Tsukahara R, Itabashi A, Kanai Y, Kanai-Azuma M, Osawa M, Oshima M, Iwama A, Taga T. A Sox17 downstream gene Rasip1 is involved in the hematopoietic activity of intra-aortic hematopoietic clusters in the midgestation mouse embryo. Inflamm Regen. 2023.08; 43(1); 41

7. Yomogita H, Ito H, Hashimoto K, Kudo A, Fukushima T, Endo T, Hirate Y, Akimoto Y, Komada M, Kanai Y, Miyasaka N, Kanai-Azuma M. A possible function of Nik-related kinase in the labyrinth layer of delayed delivery mouse placentas. J Reprod Dev. 2023.02; 69(1); 32-40

[講演・口頭発表等]

1. Takami S, Uemura M, Miyazaki N, Oiki H, Yoshioka T, Nakazawa A, Higashi M, Kanai-Azuma M, Kanai Y, Fujishiro J. Gallbladder wall with reduced Sox17 expression in biliary atresia:gallbladder-dependent

hepatic damage and its better prognosis.. The Pacific Association of Pediatric Surgeons 56th Annual Meeting 2023.09.10 The Westin Hotel Nusa Dua Bali または Online

2. Ito H, Ito M, Miyoshi K, Kanai-Azuma M. Development of a novel depression model in female mice.. The46th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society 2023.08.01 Sendai International Center

3. Gerel Melig,ikuo Nobuhisa,Kiyoka Saito,Ryota Tsukahara,Ayumi Itabashi,Yoshiakira Kanai,Masami Kanai-Azuma,Tetsuya Taga. Rasip1 helps maintenance of hematopoietic activities of mouse embryonic intra-aortic hematopoietic clusters.. The 44th Annual Meeting of the Japanese Society of Inflammation and Regeneration 2023.07.12 City Plaza Osaka

4. Gerel Melig,ikuo Nobuhisa,Kiyoka Saito,Ryota Tsukahara,Ayumi Itabashi,Yoshiakira Kanai,Masami Kanai-Azuma,Tetsuya Taga. Rasip1 gene functioning downstream of Sox17 maintains the hematopoietic cluster-forming cella in E10.5 mouse embryos.. 20th Stem Cell Symposium 2023.05.19 Awaji Yumebutai International Conference Center

1. 宮崎 奈々惠, 高見 尚平, 上村 麻実, 追木 宏宜, Promsut Watcharapon, 曽 詩涵, 新美 智之, 平松 竜司, 平手 良和, 金井 正美, 藤代 準, 金井 克晃. 胆道閉鎖症モデルマウスを用いた胎子胆汁の流れと肝障害の発症機序. 日本小児外科学会雑誌 2023.02.01

2. 曽 詩涵, 太田 考陽, 上村 麻実, 平手 良和, 早川 佳那, 水野 直彬, 柳田 絢加, 平松 竜司, 金井 克晃, 金井 正美. マウス Sox17 遺伝子の alternative プロモーターと胚発生における意義. 第 33 回モロシヌス研究会 2023.11.22 兵庫県丹波篠山市

3. 曽 詩涵、太田 考陽、上村 麻実、宮崎 奈々惠、高見 尚平、追木 宏宜、Watcharapon Promsut、新美 智之、柳田 絢加、平松 竜司、平手 良和、金井 正美、金井 克晃. Sox17 遠位プロモーター領域のマウス胚発生に与える影響. 第 166 回日本獣医学会学術集会 2023.09.05 ライブ配信、オンデマンド配信

4. 宮崎 奈々惠, 高見 尚平, 上村 麻実, 追木 宏宜,Watcharapon Promsut, 曽 詩涵, 新美 智之, 柳田 絢加、平松 竜司, 平手 良和, 金井 正美, 藤代 準, 金井 克晃. 胆道閉鎖症モデル Sox17+/-マウスにおける胆嚢低形成による肝病変発症機序. 第 30 回肝細胞研究会 2023.08.24 鹿児島県　ライカ南国ホール

5. 早川 佳那、中野 有紀、平手 良和、遠藤 墾、末水 洋志、後藤 元人、髙橋 利一、金井 克晃、金井 正美. TRECK 法を用いた子宮内膜上皮置換. 第 70 回日本実験動物学会 2023.05.24 つくば国際会議場

6. 遠藤 墾、大山 夏実、渡邊 恭子、早川 佳那、賴 添賦、中野 有紀、藤岡 慶史、末水 洋志、後藤 元人、高橋 利一、平手 良和、金井 克晃、金井 正美. マウス顆粒膜細胞の除去による卵巣機能不全モデルマウスの作出. 第 70 回日本実験動物学会 2023.05.24 つくば国際会議場

[その他業績]

1. 「ウイルス由来の遺伝子が脳のカビ感染防御に機能する」 ― 哺乳類における自然免疫系※ 1 の強化 ―, 2023 年 10 月
International Journal of Molecular Sciences

東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科年報
2023

医歯学総合研究科博士課程教育委員

委員長　影近弘之
大橋健一
伏見清秀
保田晋助
東　みゆき
井関祥子
戸原　玄
青木和広
岸田晶夫
二階堂　愛
伊藤暢聡
角　勇樹

発　　行　2025年1月
編集・発行　東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科